

2014 年度

授業計画/シラバス



目次・索引

目次

基礎科目				基礎科目			
Christianity and Modern Society	藤原 淳賀	1	ECA(Speaking) I [Level a]	K. J. マクレン	39
ECA(Business)	中川 英幸	2	ECA(Speaking) I [Level a]	G. M. レガラ	40
ECA(Cinema) I [A11]	能町 和子	3	ECA(Speaking) I [Level b]	L. アーノルド	41
ECA(Cinema) I [A11]	メイス みよ子	4	ECA(Speaking) I [Level c]	チェンバレン 暁子	42
ECA(Cinema) I [A11]	吉牟田 聡美	5	ECA(Speaking) I [Level c]	島田 洋子	43
ECA(Cinema) I [A11]	遠藤 由佳里	6	ECA(Speaking) I [Level c]	中川 英幸	44
ECA(Cinema) I [A11]	鈴木 政浩	7	ECA(Speaking) I [Level d]	メイス みよ子	45
ECA(Cinema) I [D] [Level a]	島田 洋子	8	ECA(Speaking) II [A11]	L. アーノルド	46
ECA(Cinema) I [D] [Level b]	中川 英幸	9	ECA(Speaking) II [Level Super a]	M. サベット	47
ECA(Cinema) I [D] [Level c]	メイス みよ子	10	ECA(Speaking) II [Level a]	K. J. マクレン	48
ECA(Cinema) II [A11]	能町 和子	11	ECA(Speaking) II [Level b]	L. アーノルド	49
ECA(Cinema) II [A11]	遠藤 由佳里	12	ECA(Speaking) II [Level c]	島田 洋子	50
ECA(Cinema) II [A11]	鈴木 政浩	13	ECA(Survival English)	チェンバレン 暁子	51
ECA(Cinema) III	メイス みよ子	14	ECA(Survival English)	K. J. マクレン	52
ECA(Culture)A	能町 和子	15	ECA(Test English) A [ALL:Level a]	遠藤 由佳里, メイス みよ子	53
ECA(Culture)B	能町 和子	16	ECA(Test English) A [ALL:Level b]	島田 洋子	54
ECA(Culture)B	遠藤 由佳里	17	ECA(Test English) A [Level a]	メイス みよ子	55
ECA(English Through Songs) A	能町 和子	18	ECA(Test English) A [Level b]	中川 英幸	56
ECA(English Through Songs) A	吉牟田 聡美	19	ECA(Test English) A [Level c]	チェンバレン 暁子	57
ECA(English Through Songs) B	能町 和子	20	ECA(Test English) B [ALL:Level a]	吉牟田 聡美, メイス みよ子	58
ECA(English Through Songs) B	吉牟田 聡美	21	ECA(Test English) B [ALL:Level b]	チェンバレン 暁子, 島田 洋子	59
ECA(Pleasure Reading) A	吉牟田 聡美	22	ECA(Test English) B [Level a]	メイス みよ子	60
ECA(Pleasure Reading) B	吉牟田 聡美	23	ECA(Test English) B [Level b]	島田 洋子	61
ECA(Reading) I [ALL:Level a]	森 容子	24	ECA(Test English) B [Level c]	中川 英幸	62
ECA(Reading) I [ALL:Level b]	吉牟田 聡美, 鈴木 政浩	25	ECA(英語基礎表現) I [A11]	鈴木 政浩, 遠藤 由佳里	63
ECA(Reading) I [Level Super a]	メイス みよ子	26	ECA(英語基礎表現) I [Level Super a]	L. アーノルド	64
ECA(Reading) I [Level a]	島田 洋子, チェンバレン 暁子, 中川 英幸, メイス みよ子	27	ECA(英語基礎表現) I [Level a]	島田 洋子, チェンバレン 暁子, 中川 英幸	65
ECA(Reading) I [Level b]	チェンバレン 暁子, 島田 洋子, 遠藤 由佳里, 中川 英幸	28	ECA(英語基礎表現) I [Level b]	中川 英幸, 島田 洋子, チェンバレン 暁子	66
ECA(Reading) I [Level c]	吉牟田 聡美, 島田 洋子, メイス みよ子, チェンバレン 暁子	29	ECA(英語基礎表現) I [Level c]	遠藤 由佳里, メイス みよ子, 中川 英幸, 能町 和子, チェンバレン 暁子	67
ECA(Reading) I [Level d]	メイス みよ子, 島田 洋子	30	ECA(英語基礎表現) II [A11]	遠藤 由佳里	68
ECA(Reading) II [A11]	鈴木 政浩	31	ECA(英語基礎表現) II [Level Super a]	L. アーノルド	69
ECA(Reading) II [Level Super a]	メイス みよ子	32	ECA(英語基礎表現) II [Level a]	島田 洋子, チェンバレン 暁子	70
ECA(Reading) II [Level a]	島田 洋子, メイス みよ子	33	ECA(英語基礎表現) II [Level b]	中川 英幸, 島田 洋子	71
ECA(Reading) II [Level b]	中川 英幸	34				
ECA(Reading) II [Level c]	吉牟田 聡美, チェンバレン 暁子	35				
ECA(Reading) II [Level d]	島田 洋子	36				
ECA(Speaking) I [A11]	L. アーノルド	37				
ECA(Speaking) I [Level Super a]	M. サベット	38				

基礎科目

ECA(英語基礎表現)Ⅱ〔Level c〕	……	遠藤 由佳里, 中川 英幸	72
ECA(英語基礎表現)Ⅱ〔Level d〕	……	能町 和子	73
ITパスポート講座	……	竹井 潔	74
Special Lecture Series	……	D. バーガー	75
アメリカ文化演習A	……	D. バーガー	76
アメリカ文化演習C	……	D. バーガー	77
イタリア語Ⅰ(初級A)	……	高津 美和	78
イタリア語Ⅱ(初級B)	……	高津 美和	79
イングリッシュ・バイブルA	……	E. D. オズバーン	80
オーストラリア文化演習	……	D. バーガー	81
書き方表現応用講座	……	高桑 佳典子	82
書き方表現応用講座	……	船山 久美	83
カナダ文化演習	……	D. バーガー	84
韓国語Ⅰ(初級A)	……	溝口 カプスン, 金 娜玄	85
韓国語Ⅱ(初級B)	……	溝口 カプスン, 金 娜玄	86
基礎教育入門(書き方)	……	太田 ミユキ, 中島 佐和子, 副田 恵	87
基礎教育入門(書き方)	……	新井 尚子, 上嶋 康道	88
基礎教育入門(書き方)	……	上嶋 康道	89
基礎教育入門(書き方)	……	新井 尚子	90
基礎教育入門(話し方)	……	恩蔵 憲一, 幸田 儔朗, 風見 雅章	91
基礎教育入門(留学生用書き方)	……	中島 佐和子	92
基礎教育入門(留学生用書き方)	……	北村 淳子	93
キャリアデザイン	……	奥 富美子	94
キリスト教音楽史A	……	渡辺 善忠	95
キリスト教音楽史B	……	渡辺 善忠	96
キリスト教カウンセリング論	……	藤掛 明	97
キリスト教概論A	……	菊地 順	98
キリスト教概論A	……	阿部 洋治	99
キリスト教概論A	……	E. D. オズバーン	100
キリスト教概論A	……	石田 学	101
キリスト教概論A	……	山ノ下 恭二	102
キリスト教概論A	……	佐野 正子	103
キリスト教概論A	……	久保島 理恵	104
キリスト教概論A	……	田中 かおる	105
キリスト教概論A	……	藤原 淳賀	106
キリスト教概論A	……	柳田 洋夫	107
キリスト教概論A	……	野島 邦夫	108
キリスト教概論A	……	吉岡 光人	109
キリスト教概論A	……	山口 博	110
キリスト教概論B	……	菊地 順	111
キリスト教概論B	……	阿部 洋治	112
キリスト教概論B	……	E. D. オズバーン	113
キリスト教概論B	……	石田 学	114
キリスト教概論B	……	山ノ下 恭二	115
キリスト教概論B	……	佐野 正子	116
キリスト教概論B	……	久保島 理恵	117
キリスト教概論B	……	田中 かおる	118
キリスト教概論B	……	野島 邦夫	119
キリスト教概論B	……	吉岡 光人	120
キリスト教概論B	……	山口 博	121
キリスト教概論B	……	東野 尚志	122
キリスト教思想史A	……	村瀬 天出夫	123
キリスト教思想史B	……	村瀬 天出夫	124
キリスト教信仰と文化	……	藤原 淳賀	125
キリスト教とアメリカ思想A	……	高橋 義文	126

基礎科目

キリスト教とアメリカ思想B	……	高橋 義文	127
キリスト教とアメリカ文化A	……	森田 美千代	128
キリスト教とアメリカ文化B	……	森田 美千代	129
キリスト教と音楽A	……	渡辺 善忠	130
キリスト教と音楽B	……	渡辺 善忠	131
キリスト教と国際社会B	……	早藤 昌浩	132
キリスト教と心のケア	……	村上 純子	133
キリスト教と自然科学A	……	村瀬 天出夫	134
キリスト教と自然科学B	……	村瀬 天出夫	135
キリスト教と社会科学	……	松原 望	136
キリスト教と政治思想A	……	川添 美央子	137
キリスト教と政治思想B	……	川添 美央子	138
キリスト教と日本思想	……	濱田 辰雄	139
キリスト教と日本社会A	……	柳田 洋夫	140
キリスト教と日本宗教	……	濱田 辰雄	141
キリスト教と美術A	……	喜田 敬	142
キリスト教と美術B	……	喜田 敬	143
キリスト教と福祉活動の実際A	……	吉岡 光人	144
キリスト教と福祉活動の実際B	……	吉岡 光人	145
キリスト教と文学A	……	黒木 章	146
キリスト教と文学B	……	黒木 章	147
キリスト教と法	……	加藤 恵司	148
キリスト教と歴史形成A	……	石田 学	149
キリスト教と歴史形成B	……	石田 学	150
業界・企業研究	……	酒井 俊行	151
業界・企業研究	……	藤井 重隆	152
健康・体力づくり実習A(サッカー)	……	田村 達也	153
健康・体力づくり実習A(テニス)	……	太田 涼	154
健康・体力づくり実習A(トータルスポーツ)	……	和田 雅史	155
健康・体力づくり実習A(ニュースポーツ・トレーニング)	……	神田 良太郎	156
健康・体力づくり実習A(バスケットボール)	……	北澤 太野	157
健康・体力づくり実習A(バドミントン)	……	関 一誠	158
健康・体力づくり実習A(バレーボール)	……	鈴木 由美	159
健康・体力づくり実習B(サッカー)	……	田村 達也	160
健康・体力づくり実習B(テニス)	……	太田 涼	161
健康・体力づくり実習B(ニュースポーツ・トレーニング)	……	神田 良太郎	162
健康・体力づくり実習B(バスケットボール)	……	北澤 太野	163
健康・体力づくり実習B(バドミントン)	……	関 一誠	164
健康・体力づくり実習B(バレーボール)	……	鈴木 由美	165
健康・体力づくり実習B(ライトスポーツ)	……	和田 雅史	166
コンピュータ応用講座A	……	二神 常爾	167
コンピュータ応用講座B	……	二神 常爾	168
生涯スポーツ実習A(エアロビックダンス)	……	鈴木 由美	169
生涯スポーツ実習A(サッカー)	……	田村 達也	170

基礎科目			
生涯スポーツ実習A(テニス)	……	太田 涼	171
生涯スポーツ実習A(バスケットボール)	……	北澤 太野	172
生涯スポーツ実習A(バトミントン)	……	関 一誠	173
生涯スポーツ実習A(バレーボール)	……	鈴木 由美	174
生涯スポーツ実習A(ボールスポーツ)	……	鈴木 直樹	175
生涯スポーツ実習B(エアロビックダンス)	……	鈴木 由美	176
生涯スポーツ実習B(サッカー)	……	田村 達也	177
生涯スポーツ実習B(テニス)	……	太田 涼	178
生涯スポーツ実習B(バスケットボール)	……	北澤 太野	179
生涯スポーツ実習B(バトミントン)	……	関 一誠	180
生涯スポーツ実習B(バレーボール)	……	鈴木 由美	181
生涯スポーツ実習B(ボールスポーツ)	……	鈴木 直樹	182
時事問題演習	……	森脇 健介, 山本 祥弘	183
時事問題演習(P学科用)	……	森脇 健介, 山本 祥弘	184
情報基礎	……	鈴木 省吾	185
情報基礎	……	二神 常爾	186
情報リテラシー	……	竹井 潔	187
スペイン語Ⅰ(初級A)	……	越智 直子	188
スペイン語Ⅰ(初級A)	……	宮内 ふじ乃	189
スペイン語Ⅱ(初級B)	……	越智 直子	190
図表理解	……	森脇 健介, 山本 祥弘	191
図表理解(P学科用)	……	森脇 健介, 山本 祥弘	192
聖書の世界A	……	野島 邦夫	193
聖書の世界B	……	野島 邦夫	194
聖書の中の環境問題	……	村上 公久	195
体育(講義)	……	鈴木 直樹	196
中国語Ⅰ(初級A)	……	閻 子謙	197
中国語Ⅰ(初級A)	……	福田 素子	198
中国語Ⅰ(初級A)	……	新田 小雨子	199
中国語Ⅱ(初級B)	……	閻 子謙	200
中国語Ⅱ(初級B)	……	新田 小雨子	201
ドイツ語Ⅰ(初級A)	……	小谷 哲夫	202
ドイツ語Ⅰ(初級A)	……	宮崎 泰行	203
ドイツ語Ⅰ(初級A)	……	清水 威能子	204
ドイツ語Ⅱ(初級B)	……	宮崎 泰行	205
ドイツ語Ⅱ(初級B)	……	清水 威能子	206
日本国憲法	……	石川 裕一郎	207
日本国憲法	……	安原 陽平	208
日本国憲法(1)	……	武藤 健一	209
日本国憲法(2)	……	武藤 健一	210
日本語1(基礎文法)A	……	木原 郁子	211
日本語1(基礎文法)B	……	内藤 みち	212
日本語1(総合)A	……	木原 郁子	213
日本語1(総合)B	……	木原 郁子	214
日本語1(調査・発表)A	……	木原 郁子, 川口 さち子	215
日本語1(調査・発表)B	……	太田 ミユキ, 内藤 みち	216
日本語1(表現文型)A	……	太田 ミユキ	217
日本語1(表現文型)B	……	太田 ミユキ	218
日本語1(文章表現)A	……	黒崎 佐仁子, 太田 ミユキ	219
日本語1(文章表現)B	……	黒崎 佐仁子, 太田 ミユキ	220
日本語2(音声表現理解)A	……	船山 久美	221
日本語2(音声表現理解)B	……	船山 久美	222

基礎科目			
日本語2(総合)A	……	黒崎 佐仁子	223
日本語2(総合)B	……	黒崎 佐仁子	224
日本語2(調査・発表)A	……	岡村 佳代, 船山 久美	225
日本語2(調査・発表)B	……	岡村 佳代, 黒崎 佐仁子	226
日本語2(文章表現)A	……	内藤 みち, 船山 久美	227
日本語2(文章表現)B	……	内藤 みち, 船山 久美	228
日本語2(文法)A	……	内藤 みち	229
日本語2(文法)B	……	太田 ミユキ	230
日本語3(小説で学ぶ)A	……	棚橋 明美	231
日本語3(小説で学ぶ)B	……	棚橋 明美	232
日本語3(創作で学ぶ)A	……	岡村 佳代	233
日本語3(創作で学ぶ)B	……	岡村 佳代	234
日本語3(調査・発表)A	……	太田 ミユキ	235
日本語3(調査・発表)B	……	川口 さち子	236
日本語3(ドラマで学ぶ)A	……	内藤 みち	237
日本語3(ドラマで学ぶ)B	……	内藤 みち	238
日本語3(ニュースで学ぶ)A	……	船山 久美	239
日本語3(ニュースで学ぶ)B	……	船山 久美	240
日本語3(ビジネス日本語)A	……	木原 郁子	241
日本語3(ビジネス日本語)B	……	木原 郁子	242
話し方表現応用講座	……	川野 一字	243
話し方表現実践演習	……	幸田 儔朗	244
ビジネス日本語対策講座A	……	内藤 みち	245
ビジネス日本語対策講座B	……	内藤 みち	246
フランス語Ⅰ(初級A)	……	石田 明夫	247
フランス語Ⅰ(初級A)	……	小室 康太	248
フランス語Ⅰ(初級A)	……	塩谷 祐人	249
フランス語Ⅱ(初級B)	……	石田 明夫	250
フランス語Ⅱ(初級B)	……	小室 康太	251
フランス語Ⅱ(初級B)	……	塩谷 祐人	252
教養科目・総合科目			
絵本文化	……	上原 里佳	253
演奏形式とその音楽	……	池上 真理子	254
欧米文学	……	三宅 美千代	255
欧米文学	……	塩谷 祐人	256
経済学	……	正上 常雄	257
経済学	……	高橋 聡	258
経済学	……	由川 稔	259
経済学研究	……	柴田 武男	260
言語学	……	文 智暎	261
高齢者保健福祉特論	……	古谷野 亘	262
社会学	……	横山 寿世理	263
社会学	……	新倉 貴仁	264
社会学	……	新津 尚子	265
社会学	……	加藤 敦也	266
社会福祉概論	……	山本 博之	267
障害者福祉特論	……	木下 大生	268
障害児(者)の理解と社会	……	吉田 昌義	269
心理学概論	……	大島 由之	270
児童学研究	……	田澤 薫	271
児童教育学特論	……	永井 理恵子	272
児童福祉特論	……	中谷 茂一	273
政治学	……	森 達也	274
政治学	……	小畑 俊太郎	275
西洋史	……	田中 史高	276
西洋史	……	森 斉丈	277
地球環境論研究	……	村上 公久	278
哲学	……	高橋 章仁	279
哲学	……	鬼頭 葉子	280

教養科目・総合科目			
哲学	……	高橋 章仁	281
日本史	……	川崎 司	282
日本史	……	山田 康弘	283
日本思想	……	清水 正之	284
日本思想文化研究	……	清水 正之	285
発達心理学研究	……	石川 由美子	286
福祉環境学	……	山田 義文	287
文化学	……	坂巻 理恵子	288
文学	……	上宇都ゆりほ	289
文学	……	中島 佐和子	290
ヘルス・プロモーション概論	……	和田 雅史	291
法学	……	宮澤 弘	292
法学	……	齋藤 美沙	293
まちづくり論研究	……	平 修久	294
リスク科学論研究	……	標 宣男	295

政治経済学科			
Civilization & Environment	……	村上 公久	296
E U法	……	倉西 雅子	297
F P入門講座	……	田口 安克	298
アイデンティティの社会学	……	横山 寿世理	299
異文化間コミュニケーション	……	小松崎 利明	300
異文化間コミュニケーション(経営)	……	八木 規子	301
異文化間コミュニケーション(経営)	……	八木 規子	302
インターンシップⅠ(事前学習)	……	酒井 俊行	303
インターンシップⅠ(事前学習)	……	藤井 重隆	304
インターンシップⅡ(実習)	……	酒井 俊行	305
インターンシップⅡ(実習)	……	藤井 重隆	306
オペレーションズ・マネジメント	……	柴田 武男	307
会計学	……	成川 正晃	308
家族社会学	……	横山 麻衣	309
環境法	……	仲田 孝仁	310
環境保全論	……	村上 公久	311
キャリアデザインA	……	萬年山 啓	312
キャリアデザインB	……	萬年山 啓	313
キリスト教社会倫理A	……	菊地 順	314
キリスト教社会倫理A	……	藤原 淳賀	315
キリスト教社会倫理B	……	菊地 順	316
キリスト教社会倫理B	……	藤原 淳賀	317
金融市場論A	……	柴田 武男	318
金融市場論B	……	柴田 武男	319
金融論	……	鈴木 真実哉	320
行政学	……	鈴木 潔	321
行政法	……	仲田 孝仁	322
経営管理	……	金子 毅	323
経営学	……	酒井 祐太郎	324
経営学	……	八木 規子	325
経営史	……	金子 毅	326
経済学	……	大森 達也	327
経済学	……	由川 稔	328
経済学	……	鈴木 真実哉	329
経済学	……	正上 常雄	330
経済学	……	中野 宏	331
経済学	……	高橋 聡	332
経済学史	……	鈴木 真実哉	333
経済政策	……	中野 宏	334

政治経済学科			
憲法(人権)	……	石川 裕一郎	335
憲法(統治)	……	松村 芳明	336
現代社会と社会教育A	……	小池 茂子	337
現代社会と社会教育B	……	小池 茂子	338
現代社会論	……	新倉 貴仁	339
公共政策論	……	鈴木 潔	340
公的扶助論	……	宮寺 良光	341
公務員講座(数的・判断推理)	……	鈴木 潔	342
公務員講座(人文・社会)	……	鈴木 潔	343
公務員講座(専門A)	……	高梨 博和	344
公務員講座(専門B)	……	米澤 貴幸	345
公務員講座(文章理解)	……	大槻 岳	346
公務員講座演習B(数的・判断推理)	……	鈴木 潔	347
公務員講座演習B(人文・社会)	……	鈴木 潔	348
公務員特講(自治体研究A)	……	猪狩 廣美	349
公務員特講(自治体研究B)	……	北川 嘉昭	350
国際金融論	……	柴田 武男	351
国際政治史	……	中村 文子	352
国際政治論	……	小島 かおる	353
国際地域開発論	……	飯島 康夫	354
国際ビジネスの現場A	……	柴田 武男	355
国際ビジネスの現場B	……	柴田 武男	356
国際法	……	山村 恒雄	357
コミュニケーション学	……	小笠原 尚宏	358
コミュニティ・ビジネスの現場	……	瀬名 浩一	359
コミュニティとフィールドワーク	……	庄嶋 孝広	360
コンピュータ応用実習A	……	鈴木 省吾	361
コンピュータ応用実習B	……	二神 常爾	362
コンピュータ応用実習C	……	二神 常爾	363
埼玉地域政策研究	……	大塚 健司	364
財政学	……	正上 常雄	365
自然地理学概説	……	秋山 秀一	366
社会学	……	横山 寿世理	367
社会学	……	新倉 貴仁	368
社会学	……	新津 尚子	369
社会学	……	加藤 敦也	370
社会教育課題研究A	……	安斎 聡子	371
社会教育課題研究B	……	安斎 聡子	372
社会教育計画A	……	安斎 聡子	373
社会教育計画B	……	安斎 聡子	374
社会経済論	……	正上 常雄	375
社会思想	……	土方 透	376
社会心理学	……	山上 真貴子	377
社会調査論	……	横山 寿世理	378
社会福祉施設経営論	……	榊 伴夫	379
社会保障論	……	高橋 聡	380
生涯学習概論A	……	小池 茂子	381
生涯学習概論B	……	小池 茂子	382
商業経営論	……	久保 隆光	383
商法概論	……	佐藤 文彦	384
ジェンダー論(女性学)	……	加藤 敦也	385
情報学	……	河島 茂生	386
情報システム論	……	国分 道雄	387
情報処理	……	国分 道雄	388
情報通信ネットワーク	……	竹井 潔	389
情報と職業	……	渡辺 英人	390
情報メディア史	……	若松 昭子	391
情報リスク論	……	鈴木 省吾	392
情報倫理	……	竹井 潔	393
人文地理学概説	……	飯島 康夫	394

政治経済学科

政治学	谷口 隆一郎	395
政治学	森 達也	396
政治学	森 達也	397
政治学	小畑 俊太郎	398
政治学	森分 大輔	399
政治経済学特論A(財政学の探求)	島村 玲雄	400
政治経済学特論A(日本の裁判を考える)	石川 裕一郎	401
政治経済学特論A(メディア制作)	上田 信一郎	402
政治経済学特講(消費社会論)	横山 寿世理	403
政治経済学特講(西洋政治思想講読A)	高橋 愛子	404
政治経済学特講(西洋政治思想講読B)	高橋 愛子	405
政治経済学特講(法学)	石川 裕一郎	406
西洋史概説A	南 祐三	407
西洋史概説B	南 祐三	408
西洋政治思想史	森分 大輔	409
専門演習A(アイデンティティの社会学)	横山 寿世理	410
専門演習A(環境保全論)	村上 公久	411
専門演習A(企業経済論)	柴田 武男	412
専門演習A(金融論)	鈴木 真実哉	413
専門演習A(経営管理)	金子 毅	414
専門演習A(政治過程論)	高橋 愛子	415
専門演習A(政治哲学)	森分 大輔	416
専門演習A(地域圏研究ロシア)	飯島 康夫	417
専門演習A(日本政治思想史)	吉田 博司	418
専門演習A(比較憲法)	石川 裕一郎	419
専門演習A(平和学)	小松崎 利明	420
専門演習A(法思想史)	加藤 恵司	421
専門演習A(理論社会学)	土方 透	422
専門演習B(アイデンティティの社会学)	横山 寿世理	423
専門演習B(環境保全論)	村上 公久	424
専門演習B(企業経済論)	柴田 武男	425
専門演習B(金融論)	鈴木 真実哉	426
専門演習B(経営管理)	金子 毅	427
専門演習B(政治過程論)	高橋 愛子	428
専門演習B(政治哲学)	森分 大輔	429
専門演習B(地域圏研究ロシア)	飯島 康夫	430
専門演習B(日本政治思想史)	吉田 博司	431
専門演習B(比較憲法)	石川 裕一郎	432
専門演習B(平和学)	小松崎 利明	433
専門演習B(法思想史)	加藤 恵司	434
専門演習B(理論社会学)	土方 透	435
税法概論	田口 安克	436
税務・会計入門	山田 ひとみ	437
組織行動論	小林 一之	438
組織行動論	八木 規子	439
卒業研究(政治経済学)	吉田 博司	440
卒業研究A(アイデンティティの社会学)	横山 寿世理	441
卒業研究A(環境保全論)	村上 公久	442
卒業研究A(企業経済論)	柴田 武男	443
卒業研究A(金融論)	鈴木 真実哉	444
卒業研究A(経営管理)	金子 毅	445
卒業研究A(政治過程論)	高橋 愛子	446
卒業研究A(政治哲学)	森分 大輔	447

政治経済学科

卒業研究A(地域圏研究ロシア)	飯島 康夫	448
卒業研究A(日本政治思想史)	吉田 博司	449
卒業研究A(比較憲法)	石川 裕一郎	450
卒業研究A(平和学)	小松崎 利明	451
卒業研究A(法思想史)	加藤 恵司	452
卒業研究A(理論社会学)	土方 透	453
卒業研究B(アイデンティティの社会学)	横山 寿世理	454
卒業研究B(環境保全論)	村上 公久	455
卒業研究B(企業経済論)	柴田 武男	456
卒業研究B(金融論)	鈴木 真実哉	457
卒業研究B(経営管理)	金子 毅	458
卒業研究B(政治過程論)	高橋 愛子	459
卒業研究B(政治哲学)	森分 大輔	460
卒業研究B(地域圏研究ロシア)	飯島 康夫	461
卒業研究B(日本政治思想史)	吉田 博司	462
卒業研究B(比較憲法)	石川 裕一郎	463
卒業研究B(平和学)	小松崎 利明	464
卒業研究B(法思想史)	加藤 恵司	465
卒業研究B(理論社会学)	土方 透	466
地域経済論	瀬名 浩一	467
地域圏研究(アジア)	江藤 名保子	468
地域圏研究(ロシア・東欧)	飯島 康夫	469
地域社会と生協	大高 研道	470
地誌学概説A	秋山 秀一	471
地誌学概説B	秋山 秀一	472
地方財政	谷 達彦	473
地方自治論	鈴木 潔	474
中小企業論	酒井 俊行	475
哲学概論	大賀 祐樹	476
統計学	松原 望	477
東洋史概説A	赤坂 恒明	478
東洋史概説B	赤坂 恒明	479
都市研究	飯島 康夫	480
日本経済論	大森 達也	481
日本史概説A	東島 誠	482
日本史概説B	上安 祥子	483
日本政治史	吉田 博司	484
日本政治思想史	吉田 博司	485
比較政治学	浅井 亜希	486
秘書学概論	森 久子	487
ビジネス実務	森 久子	488
平和学	小松崎 利明	489
ベンチャービジネス論	関水 信和	490
法学	宮澤 弘	491
法学	尋木 真也	492
法学	齋藤 美沙	493
法学	渡辺 英人	494
法学特論(ジェンダー法A)	武藤 健一	495
法学特論(ジェンダー法B)	武藤 健一	496
法思想史	加藤 恵司	497
法政情報論	渡辺 英人	498
法と実務A	木村 裕二	499
法と実務B	木村 裕二	500
簿記(初級)	澤村 孝夫	501
簿記(初級)	山田 ひとみ	502
簿記(中級)A	山田 ひとみ	503
簿記(中級)B	山田 ひとみ	504
ボランティア概論	川田 虎男	505
マーケティング論	T. アサモア	506
マクロ経済学	由川 稔	507

政治経済学科

マスコミュニケーション論	……	竹田 香織	508
まちづくり学	……	平 修久	509
ミクロ経済学	……	中野 宏	510
民法A(総則・物権)	……	松谷 秀祐	511
民法B(債権)	……	松谷 秀祐	512
民法C(親族・相続)	……	加藤 恵司	513
予備演習A	……	竹井 潔, 土方 透, 森分 大輔, 村上 公久, 八木 規子, 渡辺 英人	514
予備演習B	……	竹井 潔, 土方 透, 森分 大輔, 村上 公久, 八木 規子, 渡辺 英人	515
予備演習C	……	上嶋 康道	516
予備演習C	……	上嶋 康道	517
理論社会学	……	土方 透	518
労働経済論	……	金子 良事	519

コミュニティ政策学科

Civilization & Environment	……	村上 公久	520
F P入門講座	……	田口 安克	521
異文化間コミュニケーション(経営)	……	八木 規子	522
インターンシップ(自主活動)	……	酒井 俊行	523
インターンシップ(自主活動)	……	藤井 重隆	524
インターンシップI(事前学習)	……	酒井 俊行	525
インターンシップI(事前学習)	……	藤井 重隆	526
インターンシップII(実習)	……	酒井 俊行	527
インターンシップII(実習)	……	藤井 重隆	528
オペレーションズ・マネジメント	……	柴田 武男	529
会計学	……	成川 正晃	530
管理学	……	竹井 潔	531
キャリアデザインA	……	上田 信一郎	532
キャリアデザインB	……	上田 信一郎	533
キリスト教社会倫理A	……	菊地 順	534
キリスト教社会倫理B	……	菊地 順	535
近代政治思想	……	森分 大輔	536
金融市場論A	……	柴田 武男	537
金融市場論B	……	柴田 武男	538
金融論	……	鈴木 真実哉	539
業界・企業研究	……	酒井 俊行	540
業界・企業研究	……	藤井 重隆	541
行政学	……	鈴木 潔	542
行政法	……	仲田 孝仁	543
経営学	……	酒井 祐太郎	544
経営学	……	八木 規子	545
経済学	……	由川 稔	546
経済学史	……	鈴木 真実哉	547
憲法(人権)	……	石川 裕一郎	548
憲法(統治)	……	松村 芳明	549
現代社会と社会教育A	……	小池 茂子	550
現代社会と社会教育B	……	小池 茂子	551
公共政策論	……	鈴木 潔	552
公的扶助論	……	宮寺 良光	553
公務員演習I	……	鈴木 潔	554
公務員演習II	……	鈴木 潔	555
公務員講座(数的・判断推理)	……	鈴木 潔	556
公務員講座(人文・社会)	……	鈴木 潔	557

コミュニティ政策学科

公務員講座(専門A)	……	鈴木 潔, 猪狩 廣美, 北 川 嘉昭, 高梨 博和	558
公務員講座(専門B)	……	鈴木 潔, 猪狩 廣美, 佐藤 安夫, 米澤 貴幸	559
公務員講座(文章理解)	……	大槻 岳	560
公務員講座演習B(数的・判断推理)	……	鈴木 潔	561
公務員講座演習B(人文・社会)	……	鈴木 潔	562
公務員特講(自治体研究A)	……	猪狩 廣美	563
公務員特講(自治体研究B)	……	北川 嘉昭	564
国際ビジネスの現場A	……	柴田 武男	565
国際ビジネスの現場B	……	柴田 武男	566
コミュニケーション学	……	小笠原 尚宏	567
コミュニティ・ビジネスの現場	……	瀬名 浩一	568
コミュニティ・ビジネス論	……	瀬名 浩一	569
コミュニティ政策特論A(商学)	……	工藤 幸一	570
コミュニティとフィールドワーク	……	庄嶋 孝広	571
コンピュータ応用実習A	……	鈴木 省吾	572
コンピュータ応用実習B	……	二神 常爾	573
コンピュータ応用実習C	……	二神 常爾	574
埼玉地域政策研究	……	大塚 健司	575
財政学	……	正上 常雄	576
自然地理学概説	……	秋山 秀一	577
社会学	……	横山 寿世理	578
社会学	……	新倉 貴仁	579
社会学	……	新津 尚子	580
社会学	……	加藤 敦也	581
社会教育課題研究A	……	安斎 聡子	582
社会教育課題研究B	……	安斎 聡子	583
社会教育計画A	……	安斎 聡子	584
社会教育計画B	……	安斎 聡子	585
社会経済論	……	正上 常雄	586
社会心理学	……	山上 真貴子	587
社会調査論	……	横山 寿世理	588
社会福祉施設経営論	……	榎 伴夫	589
社会保障論	……	宮寺 良光	590
社会保障論	……	高橋 聡	591
生涯学習概論A	……	小池 茂子	592
生涯学習概論B	……	小池 茂子	593
商業経営論	……	久保 隆光	594
商法概論	……	佐藤 文彦	595
時事問題演習	……	森脇 健介, 山本 祥弘	596
情報学	……	河島 茂生	597
情報検索演習	……	坂内 悟	598
情報システム論	……	国分 道雄	599
情報社会と統計学	……	松原 望	600
情報処理	……	国分 道雄	601
情報通信ネットワーク	……	竹井 潔	602
情報と職業	……	渡辺 英人	603
情報リスク論	……	鈴木 省吾	604
情報倫理	……	竹井 潔	605
人文地理学概説	……	飯島 康夫	606
図表理解	……	森脇 健介, 山本 祥弘	607
政治学	……	森 達也	608
西洋史概説A	……	南 祐三	609
西洋史概説B	……	南 祐三	610
専門演習(コミュニティ政策)	……	瀬名 浩一	611
専門演習I(キリスト教社会倫理)	……	菊地 順	612
専門演習I(公共哲学)	……	谷口 隆一郎	613

コミュニティ政策学科				コミュニティ政策学科			
専門演習Ⅰ(情報学)	……	河島 茂生	614	人間関係論	……	中嶋 励子	672
専門演習Ⅰ(情報倫理)	……	竹井 潔	615	秘書学概論	……	森 久子	673
専門演習Ⅰ(組織行動論)	……	八木 規子	616	ビジネス実務	……	森 久子	674
専門演習Ⅰ(地域社会論)	……	大高 研道	617	ベンチャービジネス論	……	関水 信和	675
専門演習Ⅰ(日本経済論)	……	大森 達也	618	法学	……	渡辺 英人	676
専門演習Ⅰ(法学)	……	渡辺 英人	619	法政情報論	……	渡辺 英人	677
専門演習Ⅰ(まちづくり学)	……	平 修久	620	簿記(初級)	……	澤村 孝夫	678
専門演習Ⅱ(キリスト教社会倫理)	……	菊地 順	621	簿記(初級)	……	山田 ひとみ	679
専門演習Ⅱ(公共哲学)	……	谷口 隆一郎	622	簿記(中級)A	……	山田 ひとみ	680
専門演習Ⅱ(情報学)	……	河島 茂生	623	簿記(中級)B	……	山田 ひとみ	681
専門演習Ⅱ(情報倫理)	……	竹井 潔	624	ボランティア概論	……	川田 虎男	682
専門演習Ⅱ(組織行動論)	……	八木 規子	625	マクロ経済学	……	由川 稔	683
専門演習Ⅱ(地域社会論)	……	大高 研道	626	マスコミュニケーション論	……	竹田 香織	684
専門演習Ⅱ(日本経済論)	……	大森 達也	627	まちづくり学	……	平 修久	685
専門演習Ⅱ(法学)	……	渡辺 英人	628	ミクロ経済学	……	中野 宏	686
専門演習Ⅱ(まちづくり学)	……	平 修久	629	民法A(総則・物権)	……	松谷 秀祐	687
税法概論	……	田口 安克	630	民法B(債権)	……	松谷 秀祐	688
組織行動論	……	小林 一之	631	民法C(親族・相続)	……	加藤 恵司	689
組織行動論	……	八木 規子	632	理論社会学	……	土方 透	690
卒業研究(コミュニティ政策)	……	瀬名 浩一	633	欧米文化学科			
卒業研究(コミュニティ政策)	……	鈴木 潔	634	Academic Listening & Speaking	……	K. O. アンダスン	691
卒業研究Ⅰ(キリスト教社会倫理)	……	菊地 順	635	College Reading Skills	……	D. バーガー	692
卒業研究Ⅰ(公共哲学)	……	谷口 隆一郎	636	College Writing Skills	……	K. O. アンダスン	693
卒業研究Ⅰ(コミュニティ・ビジネス論)	……	瀬名 浩一	637	Intercultural Communication	……	E. D. オズバーン	694
卒業研究Ⅰ(情報学)	……	河島 茂生	638	Speech & Debate A	……	M. サベット	695
卒業研究Ⅰ(情報倫理)	……	竹井 潔	639	Speech & Debate B	……	M. サベット	696
卒業研究Ⅰ(地域社会論)	……	大高 研道	640	TOEFL A	……	中村 香代子	697
卒業研究Ⅰ(日本経済論)	……	大森 達也	641	TOEFL B	……	中村 香代子	698
卒業研究Ⅰ(法学)	……	渡辺 英人	642	TOEIC(初級)A	……	中村 香代子	699
卒業研究Ⅰ(まちづくり学)	……	平 修久	643	TOEIC(初級)B	……	櫻井 智美	700
卒業研究Ⅱ(キリスト教社会倫理)	……	菊地 順	644	TOEIC(中級)A	……	中村 香代子	701
卒業研究Ⅱ(公共哲学)	……	谷口 隆一郎	645	TOEIC(中級)B	……	中村 香代子	702
卒業研究Ⅱ(コミュニティ・ビジネス論)	……	瀬名 浩一	646	アメリカ社会の形成	……	柴田 史子	703
卒業研究Ⅱ(情報学)	……	河島 茂生	647	イスラム文化と近代社会	……	赤坂 恒明	704
卒業研究Ⅱ(情報倫理)	……	竹井 潔	648	イスラム文化の形成	……	赤坂 恒明	705
卒業研究Ⅱ(地域社会論)	……	大高 研道	649	異文化間コミュニケーション	……	小松崎 利明	706
卒業研究Ⅱ(日本経済論)	……	大森 達也	650	異文化間コミュニケーション(経営)	……	八木 規子	707
卒業研究Ⅱ(法学)	……	渡辺 英人	651	異文化理解	……	稲田 敦子	708
卒業研究Ⅱ(まちづくり学)	……	平 修久	652	映画を通して学ぶ文化と英語	……	中村 香代子	709
地域経済論	……	瀬名 浩一	653	英語音声学	……	加曽利 実	710
地域圏研究(アジア)	……	江藤 名保子	654	英語学概論	……	加曽利 実	711
地域圏研究(ロシア・東欧)	……	飯島 康夫	655	英語スピーチ発音法	……	加曽利 実	712
地域社会と生協	……	大高 研道	656	映像文化	……	氏家 理恵	713
地域ビジネスの現場	……	藤井 重隆	657	英米児童文学	……	松本 祐子	714
地誌学概説A	……	秋山 秀一	658	英米文学概論	……	富田 光明	715
地誌学概説B	……	秋山 秀一	659	欧米文化学特論	……	片柳 榮一	716
地誌学特講A	……	平 修久	660	音楽を通して学ぶ文化と英語	……	K. O. アンダスン	717
地誌学特講B	……	大高 研道	661	観光地理	……	秋山 秀一	718
地方財政	……	谷 達彦	662	基礎ゼミA	……	氏家 理恵, 稲田 敦子, 畠山 宗明	719
地方自治論	……	鈴木 潔	663	基礎ゼミB	……	柴田 史子, 加曽利 実, 畠山 宗明	720
中小企業論	……	酒井 俊行	664	キリスト教文化論A	……	E. D. オズバーン	721
哲学概論	……	大賀 祐樹	665	キリスト教文化論B	……	E. D. オズバーン	722
東洋史概説A	……	赤坂 恒明	666	グローバル文化特論	……	畠山 宗明, 稲田 敦子	723
東洋史概説B	……	赤坂 恒明	667	言語学概論	……	D. バーガー	724
日本経済論	……	大森 達也	668	言語とグローバル社会	……	D. バーガー	725
日本史概説A	……	東島 誠	669				
日本史概説B	……	上安 祥子	670				
日本政治史	……	吉田 博司	671				

欧米文化学科

現代アメリカ思想	……	柴田 史子	726
現代アメリカの社会と文化	……	柴田 史子	727
現代英文法	……	小川 隆夫	728
国際社会の基礎知識	……	稲田 敦子	729
国際ボランティア入門A	……	金沢 はるえ	730
国際ボランティア入門B	……	金沢 はるえ	731
埼玉学	……	清水 正之	732
視覚文化	……	畠山 宗明	733
思想と現代世界B	……	鬼頭 葉子	734
社会人のための表現力演習	……	作田 奈苗	735
社会と芸術文化A	……	氏家 理恵	736
社会と芸術文化B	……	畠山 宗明	737
就職に役立つ基礎英語	……	小川 隆夫	738
職場で役立つ基礎英語	……	櫻井 智美	739
児童英語教育(インターンシップⅠ)	……	東 仁美	740
児童英語教育(インターンシップⅡ)	……	東 仁美	741
児童英語教育(カリキュラム・デザイン)	……	東 仁美	742
児童英語教育(理論)	……	小川 隆夫	743
児童英語教育(ワークショップA)	……	A. クラウス	744
児童英語教育(ワークショップB)	……	幡井 理恵	745
西洋美術史	……	瀧井 直子	746
専門演習(Pop Culture)Ⅰ	……	K. O. アンダスン	747
専門演習(Pop Culture)Ⅱ	……	K. O. アンダスン	748
専門演習(アメリカ文化)Ⅰ	……	柴田 史子	749
専門演習(アメリカ文化)Ⅱ	……	柴田 史子	750
専門演習(英語学)Ⅰ	……	加曽利 実	751
専門演習(英語学)Ⅱ	……	加曽利 実	752
専門演習(英米文学)Ⅰ	……	氏家 理恵	753
専門演習(英米文学)Ⅱ	……	氏家 理恵	754
専門演習(キリスト教文化)Ⅰ	……	E. D. オズバーン	755
専門演習(キリスト教文化)Ⅱ	……	E. D. オズバーン	756
専門演習(言語と社会)Ⅰ	……	D. バーガー	757
専門演習(言語と社会)Ⅱ	……	D. バーガー	758
専門演習(国際理解)Ⅰ	……	M. サベット	759
専門演習(国際理解)Ⅱ	……	M. サベット	760
専門演習(児童英語教育)Ⅰ	……	東 仁美	761
専門演習(児童英語教育)Ⅱ	……	東 仁美	762
専門演習(ヨーロッパ史)Ⅰ	……	和田 光司	763
専門演習(ヨーロッパ史)Ⅱ	……	和田 光司	764
卒業研究(Pop Culture)Ⅰ	……	K. O. アンダスン	765
卒業研究(Pop Culture)Ⅱ	……	K. O. アンダスン	766
卒業研究(アメリカ文化)	……	柴田 史子	767
卒業研究(英語学)Ⅰ	……	加曽利 実	768
卒業研究(英語学)Ⅱ	……	加曽利 実	769
卒業研究(英米文学)Ⅰ	……	氏家 理恵	770
卒業研究(英米文学)Ⅱ	……	氏家 理恵	771
卒業研究(キリスト教文化)Ⅰ	……	E. D. オズバーン	772
卒業研究(キリスト教文化)Ⅱ	……	E. D. オズバーン	773
卒業研究(言語と社会)Ⅰ	……	D. バーガー	774
卒業研究(言語と社会)Ⅱ	……	D. バーガー	775
卒業研究(現代ヨーロッパ事情)Ⅱ	……	佐藤 啓介	776
卒業研究(国際理解)Ⅰ	……	M. サベット	777
卒業研究(児童英語教育)Ⅰ	……	東 仁美	778
卒業研究(児童英語教育)Ⅱ	……	東 仁美	779
卒業研究(比較文化)Ⅱ	……	稲田 敦子	780

欧米文化学科

卒業研究(フランス文学)Ⅱ	……	鹿瀬 颯枝	781
卒業研究(ヨーロッパ史)Ⅰ	……	和田 光司	782
卒業研究(ヨーロッパ史)Ⅱ	……	和田 光司	783
大衆文化論	……	畠山 宗明	784
多文化共生論	……	稲田 敦子	785
ドイツ語(総合)	……	小谷 哲夫	786
ドイツ語(総合)	……	清水 威能子	787
ドイツ語講読	……	原 一子	788
南北アメリカと多文化社会	……	増田 直子	789
比較文学	……	氏家 理恵	790
ファンタジー論	……	松本 祐子	791
フランス語(総合)	……	石田 明夫	792
フランス語(総合)	……	塩谷 祐人	793
フランス語講読	……	鹿瀬 颯枝	794
フランス語コミュニケーションA(総合)	……	F. ルテュール	795
フランス語コミュニケーションB(総合)	……	F. ルテュール	796
マスコミュニケーション論	……	竹田 香織	797
ヨーロッパ近現代史	……	和田 光司	798
歴史学の現在	……	和田 光司	799
歴史とグローバル世界A	……	和田 光司	800
歴史とグローバル世界B	……	南 祐三	801
レポート作成法	……	和田 光司	802

日本文化学科

Intercultural Communication	……	E. D. オズバーン	803
異文化間コミュニケーション	……	小松崎 利明	804
映像と文化A	……	山中 剛史	805
映像と文化B	……	山中 剛史	806
教えるための現代文A	……	前田 潤	807
教えるための現代文B	……	前田 潤	808
教えるための古典Ⅰ	……	濱田 寛, 渡辺 正人	809
教えるための古典Ⅱ	……	橘 和久, 渡辺 正人	810
教えるための古典Ⅲ	……	濱田 寛, 渡辺 正人	811
教えるための古典Ⅳ	……	橘 和久, 渡辺 正人	812
韓国語コミュニケーション	……	溝口 カブスン	813
韓国語コミュニケーション	……	金 娜玄	814
韓国文化演習	……	清水 均	815
教職演習B	……	橘 和久	816
キリスト教文化論A	……	柳田 洋夫	817
キリスト教文化論B	……	柳田 洋夫	818
言語学概論	……	D. バーガー	819
言語学特殊講義	……	小林 茂之	820
言語生活	……	内藤 みち	821
言語とグローバル社会	……	D. バーガー	822
言語文化論	……	小林 茂之	823
国際交流と多文化共生	……	黒崎 佐仁子	824
古典読解A	……	網本 尚子	825
古典読解B	……	網本 尚子	826
古典日本語Ⅰ	……	上宇都ゆりほ	827
古典日本語Ⅱ	……	高桑 佳典子	828
こどもと文化	……	寺崎 恵子	829
埼玉学	……	清水 正之	830
書道(初級)	……	小室 陽子	831
書道(中級)	……	小室 陽子	832
身体と表現	……	清水 均	833
心理言語学	……	川手 恩	834
児童文学	……	藤田 のぼる	835
女性学	……	藤田 和美	836
専門演習Ⅰ(言語①)	……	小林 茂之	837
専門演習Ⅰ(言語②)	……	川口 さち子	838

日本文化学科

専門演習Ⅰ(言語③)	黒崎 佐仁子	839
専門演習Ⅰ(比較文化③)	濱田 寛	840
専門演習Ⅰ(文化③)	清水 均	841
専門演習Ⅰ(文化④)	熊谷 芳郎	842
専門演習Ⅰ(文学③)	黒木 章	843
専門演習Ⅰ(歴史・思想①)	東島 誠	844
専門演習Ⅰ(歴史・思想②)	川崎 司	845
専門演習Ⅰ(歴史・思想③)	清水 正之	846
専門演習Ⅰ(歴史・思想④)	村松 晋	847
専門演習Ⅰ(歴史・思想⑤)	柳田 洋夫	848
専門演習Ⅱ(言語①)	小林 茂之	849
専門演習Ⅱ(言語②)	川口 さち子	850
専門演習Ⅱ(言語③)	黒崎 佐仁子	851
専門演習Ⅱ(比較文化③)	濱田 寛	852
専門演習Ⅱ(文化③)	清水 均	853
専門演習Ⅱ(文化④)	熊谷 芳郎	854
専門演習Ⅱ(文学③)	黒木 章	855
専門演習Ⅱ(歴史・思想①)	東島 誠	856
専門演習Ⅱ(歴史・思想②)	川崎 司	857
専門演習Ⅱ(歴史・思想③)	清水 正之	858
専門演習Ⅱ(歴史・思想④)	村松 晋	859
専門演習Ⅱ(歴史・思想⑤)	柳田 洋夫	860
相関文化	村松 晋	861
卒業研究(近現代文化①)Ⅰ	清水 均	862
卒業研究(近現代文化①)Ⅱ	清水 均	863
卒業研究(近現代文化②)Ⅰ	熊谷 芳郎	864
卒業研究(近現代文化②)Ⅱ	熊谷 芳郎	865
卒業研究(近現代文学①)Ⅰ	黒木 章	866
卒業研究(近現代文学①)Ⅱ	黒木 章	867
卒業研究(言語①)Ⅰ	小林 茂之	868
卒業研究(言語①)Ⅱ	小林 茂之	869
卒業研究(言語②)Ⅰ	川口 さち子	870
卒業研究(言語②)Ⅱ	川口 さち子	871
卒業研究(言語③)Ⅰ	黒崎 佐仁子	872
卒業研究(言語③)Ⅱ	黒崎 佐仁子	873
卒業研究(思想①)Ⅰ	清水 正之	874
卒業研究(思想①)Ⅱ	清水 正之	875
卒業研究(思想②)Ⅰ	村松 晋	876
卒業研究(思想②)Ⅱ	村松 晋	877
卒業研究(思想③)Ⅰ	柳田 洋夫	878
卒業研究(思想③)Ⅱ	柳田 洋夫	879
卒業研究(日本文化)Ⅱ	小林 茂之	880
卒業研究(比較文化 アジア②)Ⅰ	濱田 寛	881
卒業研究(比較文化 アジア②)Ⅱ	濱田 寛	882
卒業研究(比較文化 欧米)Ⅱ	菊池 有希	883
卒業研究(歴史①)Ⅰ	東島 誠	884
卒業研究(歴史①)Ⅱ	東島 誠	885
卒業研究(歴史②)Ⅰ	川崎 司	886
卒業研究(歴史②)Ⅱ	川崎 司	887
対照言語学	文 智暎	888
地域と芸術文化	清水 均	889
中国語コミュニケーション	閻 子謙	890
中国語コミュニケーション	福田 素子	891
中国思想	大坊 真伸	892
中国文学	趙 倩倩	893
ナレーション	川野 一字	894
日本語学(音声・音韻)A	棚橋 明美	895
日本語学(音声・音韻)B	棚橋 明美	896
日本語学(文法)A	黒崎 佐仁子	897
日本語学(文法)B	黒崎 佐仁子	898
日本語学概説	小林 茂之	899

日本文化学科

日本語学特殊講義	大江 元貴	900
日本語教育概論	北村 淳子	901
日本語教育実習	川口 さち子	902
日本語教材・教具論	作田 奈苗	903
日本語教授法演習	木原 郁子	904
日本語教授法講義	川口 さち子	905
日本語表現法(ディベート)	近藤 聡	906
日本史概説A	東島 誠	907
日本史概説B	上安 祥子	908
日本思想概説	清水 正之	909
日本思想入門	村松 晋	910
日本史特殊講義	東島 誠	911
日本史の研究(キリスト教史特論)	川崎 司	912
日本史の研究(近世史特論)	上安 祥子	913
日本史の研究(近代史特論)	川崎 司	914
日本史の研究(現代史特論)	川崎 司	915
日本史の研究(源平動乱史特論)	東島 誠	916
日本史の研究(古代史特論)	稲田 奈津子	917
日本史の研究(戦国時代史特論)	東島 誠	918
日本史の研究(中世史特論)	伊川 健二	919
日本史の研究(南北朝動乱史特論)	東島 誠	920
日本事情(文化)	内藤 みち	921
日本の演劇	寺田 詩麻	922
日本の音楽A	鈴木 英一	923
日本の音楽B	鈴木 英一	924
日本の芸能・工芸B	茂山 千三郎	925
日本の芸能・工芸C	山田 理映	926
日本の思想(キリスト教)	村松 晋	927
日本の思想(儒教)	上安 祥子	928
日本の思想(仏教)	高山 秀嗣	929
日本の美術	佐伯 英里子	930
日本のポップ・カルチャー	清水 均	931
日本の民俗	柏木 亨介	932
日本文化概論	清水 均	933
日本文化入門	寺田 詩麻	934
日本文学概説	黒木 章	935
日本文学研究と批評(近現代①)	佐藤 ゆかり	936
日本文学研究と批評(近現代②)	前田 潤	937
日本文学研究と批評(古典①)	高桑 佳與子	938
日本文学研究と批評(古典③)	上宇都ゆりほ	939
日本文学史(近現代)	前田 潤	940
日本文学史(中世・近世)	家永 香織	941
日本文学特殊講義①	家永 香織	942
日本文学特殊講義②	前田 潤	943
日本文学の中のキリスト教A	佐藤 ゆかり	944
日本文学の中のキリスト教B	佐藤 ゆかり	945
比較宗教学	芦名 裕子	946
比較文化特殊講義②	菊池 有希	947
比較文学	氏家 理恵	948
文化交流史(アジアと日本)	濱田 寛	949
文化交流史(欧米と日本)	黒木 章	950
文化人類学	中空 萌	951
文芸(創作)A	藤田 のぼる	952
文芸(創作)B	佐怒賀 直美	953

日本文化学科			
文章表現法	……	太田 ミユキ, 副田 恵,	954
		坂巻 理恵子	
放送文化	……	川野 一字	955
ライフデザイン・良く生きるA	……	清水 均	956
ライフデザイン・良く生きるB	……	清水 均	957
歴史と社会	……	川崎 司	958
児童学科			
英語圏児童文学講読	……	松本 祐子	959
英米児童文学	……	松本 祐子	960
絵本文化論	……	上原 里佳	961
おもちゃ論	……	中村 輝美	962
音楽・合奏指導C	……	山田 裕治, 東海 千浪,	963
		村山 良介	
音楽・合奏指導D	……	山田 裕治, 東海 千浪,	964
		村山 良介	
音楽・器楽C	……	笠井 かほる	965
音楽・器楽C	……	渋谷 みどり	966
音楽・器楽C	……	塚原 晴美	967
音楽・器楽C	……	島崎 美知子	968
音楽・器楽C	……	矢持 真希子	969
音楽・器楽C	……	池上 真理子	970
音楽・器楽D	……	笠井 かほる	971
音楽・器楽D	……	渋谷 みどり	972
音楽・器楽D	……	塚原 晴美	973
音楽・器楽D	……	島崎 美知子	974
音楽・器楽D	……	矢持 真希子	975
音楽・器楽D	……	池上 真理子	976
音楽・器楽D	……	阪 まどか	977
音楽・声楽	……	星野 直子	978
音楽・ハンドベルG	……	本田 晃	979
音楽・ハンドベルH	……	本田 晃	980
音楽A	……	山田 裕治, 前澤 京, 渋谷 みどり, 島崎 美知子, 矢持 真希子, 塚原 晴美, 池上 真理子	981
音楽B	……	井口 太	982
音楽科教育法	……	笠井 かほる	983
海外実習(SAINTS)	……	佐藤 千瀬	984
介護等体験及び事前事後指導	……	吉田 昌義, 高山 法子	985
家庭	……	馬場 由子	986
家庭科教育法	……	馬場 由子	987
家庭支援論	……	佐藤 千瀬	988
学習指導と学校図書館	……	米谷 茂則	989
学校経営と学校図書館	……	小川 三和子	990
学校と教育の歴史／日本教育史	……	石津 靖大	991
学校と教育の歴史／日本教育史	……	石津 靖大	992
学校図書館メディアの構成	……	若松 昭子	993
基礎実習	……	相川 徳孝, 佐治 由美子	994
教育・保育課程論	……	浅見 均	995
教育課程論	……	川瀬 敏行	996
教育原理	……	寺崎 恵子	997
教育社会学	……	小川 洋	998
教育心理学	……	鎌原 雅彦	999
教育心理学特論	……	鎌原 雅彦	1000
教育相談(カウンセリングを含む。)	……	鎌原 雅彦	1001
教育方法論	……	市村 和子, 齋藤 範雄	1002
教職演習A	……	川瀬 敏行	1003
教職演習B	……	齋藤 範雄	1004

児童学科			
教職演習C	……	市村 和子	1005
教職演習E	……	齋藤 範雄	1006
教職演習G	……	市村 和子	1007
教職基礎	……	加藤 実三	1008
教師論	……	佐藤 千瀬	1009
教師論	……	小川 隆夫	1010
キリスト教教育論A	……	森田 美千代	1011
キリスト教人間学A	……	山口 博	1012
キリスト教人間学B	……	山口 博	1013
キリスト教保育論	……	田中 かおる	1014
現代社会と社会教育A	……	小池 茂子	1015
現代社会と社会教育B	……	小池 茂子	1016
子どもの食と栄養A	……	菅原 歩美	1017
子どもの食と栄養B	……	菅原 歩美	1018
子どもの保健A	……	小林 京子	1019
子どもの保健B	……	平田 美佳, 平田 倫生	1020
子どもの保健演習	……	藤城 富美子	1021
算数	……	加々美 健一	1022
算数科教育法	……	齋藤 範雄	1023
社会	……	川瀬 敏行	1024
社会的養護	……	坂本 佳代子	1025
社会的養護内容	……	笹渕 悟	1026
社会福祉	……	本多 勇	1027
障害児保育A	……	坂本 佳代子	1028
障害児保育B	……	田村 すゞか	1029
小学校教育実習	……	川瀬 敏行, 市村 和子,	1030
		齋藤 範雄	
初等国語科教育法	……	市村 和子	1031
初等社会科教育法	……	川瀬 敏行	1032
児童英語教材研究A	……	東 仁美	1033
児童英語教材研究B	……	小川 隆夫	1034
児童家庭福祉	……	田澤 薫	1035
児童学海外研修	……	佐藤 千瀬	1036
児童学概論	……	田澤 薫	1037
児童文化論A	……	田澤 薫	1038
児童文化論B	……	寺崎 恵子	1039
児童文学	……	松本 祐子, 小室 陽子	1040
情報メディアの活用	……	長谷川 幸代	1041
図画工作A	……	喜田 敬	1042
図画工作B	……	山領 直人	1043
図画工作科教育法	……	柴田 和豊	1044
生活	……	市村 和子	1045
生活科教育法	……	市村 和子	1046
生徒指導論(進路指導を含む。)	……	小川 隆夫	1047
専門演習(異文化間教育Ⅰ)	……	佐藤 千瀬	1048
専門演習(異文化間教育Ⅱ)	……	佐藤 千瀬	1049
専門演習(教育心理学Ⅰ)	……	鎌原 雅彦	1050
専門演習(教育心理学Ⅱ)	……	鎌原 雅彦	1051
専門演習(教育文化論Ⅰ)	……	寺崎 恵子	1052
専門演習(教育文化論Ⅱ)	……	寺崎 恵子	1053
専門演習(キリスト教幼児教育Ⅰ)	……	山口 博	1054
専門演習(社会科Ⅰ)	……	川瀬 敏行	1055
専門演習(社会科Ⅱ)	……	川瀬 敏行	1056
専門演習(生涯学習Ⅰ)	……	小池 茂子	1057
専門演習(生涯学習Ⅱ)	……	小池 茂子	1058
専門演習(児童学Ⅰ)	……	田澤 薫	1059
専門演習(児童学Ⅱ)	……	田澤 薫	1060
専門演習(児童福祉実践論Ⅰ)	……	坂本 佳代子	1061
専門演習(児童福祉実践論Ⅱ)	……	坂本 佳代子	1062
専門演習(児童文学Ⅰ)	……	松本 祐子	1063
専門演習(児童文学Ⅱ)	……	松本 祐子	1064

児童学科			
専門演習(造形教育論Ⅰ)	……	喜田 敬	1065
専門演習(造形教育論Ⅱ)	……	喜田 敬	1066
専門演習(保育実践論Ⅰ)	……	相川 徳孝	1067
専門演習(保育実践論Ⅱ)	……	相川 徳孝	1068
相談援助	……	笹渕 悟	1069
卒業研究(異文化間教育Ⅱ)	……	佐藤 千瀬	1070
卒業研究(教育心理学Ⅰ)	……	鎌原 雅彦	1071
卒業研究(教育文化論Ⅰ)	……	寺崎 恵子	1072
卒業研究(教育文化論Ⅱ)	……	寺崎 恵子	1073
卒業研究(算数Ⅱ)	……	佐藤 逸子	1074
卒業研究(社会科Ⅰ)	……	川瀬 敏行	1075
卒業研究(社会科Ⅱ)	……	川瀬 敏行	1076
卒業研究(生涯学習Ⅰ)111	……	小池 茂子	1077
C生用			
卒業研究(生涯学習Ⅰ)112	……	小池 茂子	1078
C生用			
卒業研究(生涯学習Ⅱ)	……	小池 茂子	1079
卒業研究(児童学Ⅰ)	……	田澤 薫	1080
卒業研究(児童学Ⅱ)	……	田澤 薫	1081
卒業研究(児童福祉実践論Ⅰ)	……	坂本 佳代子	1082
卒業研究(児童福祉実践論Ⅱ)	……	坂本 佳代子	1083
卒業研究(児童文学Ⅰ)	……	松本 祐子	1084
卒業研究(児童文学Ⅱ)	……	松本 祐子	1085
卒業研究(造形教育論Ⅰ)	……	喜田 敬	1086
卒業研究(造形教育論Ⅱ)	……	喜田 敬	1087
卒業研究(保育実践論Ⅰ)	……	相川 徳孝	1088
卒業研究(保育実践論Ⅱ)	……	相川 徳孝	1089
体育A	……	鈴木 明	1090
体育A	……	高橋 進	1091
体育B	……	鈴木 明	1092
体育B	……	高橋 進	1093
体育科教育法	……	鈴木 直樹	1094
地域福祉論	……	牛津 信忠	1095
特別活動の理論と方法	……	阿久戸 多喜子	1096
道徳教育の研究	……	市村 和子	1097
読書と豊かな人間性	……	小川 三和子	1098
乳児保育A	……	岸澤 藤子	1099
乳児保育B	……	田村 すゑか	1100
人間福祉の探求	……	古谷野 亘	1101
発達心理学	……	徳井 千里	1102
ファンタジー論	……	松本 祐子	1103
フィールドワーク	……	相川 徳孝	1104
保育・教職実践演習(初等)	……	川瀬 敏行	1105
(小)			
保育・教職実践演習(初等)	……	佐藤 千瀬	1106
(幼)			
保育原理	……	寺崎 恵子	1107
保育実習	……	田澤 薫, 坂本 佳代子	1108
保育実習A	……	相川 徳孝	1109
保育実習B	……	坂本 佳代子	1110
保育実習指導	……	田澤 薫, 坂本 佳代子	1111
保育実習指導A	……	相川 徳孝	1112
保育実習指導B	……	坂本 佳代子	1113
保育実践演習Ⅰ	……	小池 茂子, 丸山 綱男	1114
保育実践演習Ⅱ	……	小池 茂子, 丸山 綱男	1115
保育相談支援	……	上野 直子	1116
保育内容総論	……	相川 徳孝	1117
保育内容の研究・環境	……	丸山 綱男	1118
保育内容の研究・健康	……	鈴木 明	1119
保育内容の研究・言葉	……	上野 直子	1120
保育内容の研究・人間関係	……	横井 紘子	1121
保育内容の研究・表現A	……	相川 徳孝	1122
保育内容の研究・表現B	……	柴田 和豊	1123

児童学科			
幼児指導法の研究	……	奥泉 敦司	1124
幼稚園教育実習	……	相川 徳孝	1125
理科	……	丸山 綱男	1126
理科教育法	……	丸山 綱男	1127
こども心理学科			
インターンシップⅠ	……	竹渕 香織, 大橋 良枝	1128
インターンシップⅡ	……	竹渕 香織, 大橋 良枝	1129
栄養学(食品学を含む。)	……	大江 敏江	1130
応用行動分析入門	……	金谷 京子	1131
家族療法入門	……	村上 純子	1132
体のしくみ・働き	……	小島 龍平, 吉田 俊爾	1133
環境衛生学	……	中村 磐男	1134
学校看護実習	……	齊藤 理砂子	1135
学校健康相談	……	齊藤 理砂子	1136
学校保健概論	……	齊藤 理砂子	1137
学校保健概論(安全を含む。)	……	齊藤 理砂子	1138
聞くアート	……	藤田 明	1139
キャリアデザインA	……	専任教員	1140
キャリアデザインB	……	専任教員	1141
キャリアデザインC	……	専任教員	1142
救急処置並びに実習	……	齊藤 理砂子	1143
教育学	……	石津 靖大	1144
教育心理学	……	金谷 京子	1145
教育相談(カウンセリングを含む。)	……	山田 麻有美	1146
教育測定・評価法	……	大橋 良枝	1147
きょうだい支援	……	村上 純子	1148
キリスト教人間学A	……	佐野 正子	1149
キリスト教人間学B	……	佐野 正子	1150
グリーフケア入門	……	関 正勝	1151
ケアリング実習(日常看護)	……	齊藤 理砂子	1152
健康科学	……	和田 雅史	1153
健康心理学	……	村上 純子	1154
健康相談活動	……	齊藤 理砂子	1155
公衆衛生学	……	中村 磐男	1156
公衆衛生学(予防医学を含む。)	……	中村 磐男	1157
こども学	……	金谷 京子	1158
こども国際協力	……	田島 伸二	1159
こどもの危機対応	……	金谷 京子	1160
コミュニケーションの心理学	……	竹渕 香織	1161
産業心理学	……	大橋 良枝	1162
視覚障害児の教育総論	……	永井 伸幸	1163
肢体不自由児指導法	……	春木 豊	1164
肢体不自由児の心理	……	川間 健之介	1165
肢体不自由児の心理・生理・病理	……	川間 健之介	1166
社会心理学(D用)	……	西村 洋一	1167
障害児(者)心理学	……	石川 由美子	1168
障害児教育総論	……	吉田 昌義, 岡澤 慎一, 金澤 貴之, 川間 健之介, 永井 伸幸, 米田 宏樹	1169
障害児療育論	……	石川 由美子	1170
障害幼児指導法	……	石川 由美子	1171
小児保健学	……	齊藤 理砂子	1172
神経心理学	……	井上 知洋	1173
心理学概論	……	山田 麻有美, 井上 知洋	1174
心理学研究法	……	大橋 良枝	1175
心理学実験実習A	……	山田 麻有美, 井上 知洋, 大橋 良枝	1176

こども心理学科

心理学実験実習B	……	山田 麻有美, 村上 純	1177
		子, 大橋 良枝	
心理学実験を対象としたコ	……	渡辺 正人	1178
ンピュータ実習			
心理検査実習	……	石川 由美子, 井上 知洋	1179
児童心理学	……	山田 麻有美	1180
情報処理演習A	……	渡辺 正人	1181
情報処理演習B	……	渡辺 正人	1182
スピリチュアルケア入門	……	窪寺 俊之, 伊能 忠嗣	1183
スピリチュアルケア論A	……	窪寺 俊之	1184
スピリチュアルケア論B	……	窪寺 俊之	1185
精神保健学	……	助川 征雄	1186
青年心理学	……	藤掛 明	1187
世界のこども	……	寺崎 恵子	1188
専門演習Ⅰ(家族心理学)	……	村上 純子	1189
専門演習Ⅰ(学校保健学・健	……	和田 雅史	1190
康教育学)			
専門演習Ⅰ(公衆衛生学・	……	中村 磐男	1191
環境教育)			
専門演習Ⅰ(子どもの健康)	……	齊藤 理砂子	1192
専門演習Ⅰ(心理療法)	……	大橋 良枝	1193
専門演習Ⅰ(相談心理学)	……	竹渕 香織	1194
専門演習Ⅰ(特別支援教育)	……	井上 知洋	1195
専門演習Ⅰ(特別支援教育)	……	吉田 昌義	1196
専門演習Ⅰ(日本文化学)	……	渡辺 正人	1197
専門演習Ⅰ(発達心理学)	……	金谷 京子	1198
専門演習Ⅰ(ボランティア	……	佐野 正子	1199
とこどものケア)			
専門演習Ⅰ(臨床発達心理	……	石川 由美子	1200
学)			
専門演習Ⅰ(倫理学)	……	原 一子	1201
専門演習Ⅱ(応用心理学)	……	井上 知洋	1202
専門演習Ⅱ(家族心理学)	……	村上 純子	1203
専門演習Ⅱ(公衆衛生学・	……	中村 磐男	1204
環境教育)			
専門演習Ⅱ(子どもの健康)	……	齊藤 理砂子	1205
専門演習Ⅱ(心理療法)	……	大橋 良枝	1206
専門演習Ⅱ(相談心理学)	……	竹渕 香織	1207
専門演習Ⅱ(適応の心理)	……	山田 麻有美	1208
専門演習Ⅱ(日本文化学)	……	渡辺 正人	1209
専門演習Ⅱ(発達心理学)	……	金谷 京子	1210
専門演習Ⅱ(ボランティア	……	佐野 正子	1211
とこどものケア)			
専門演習Ⅱ(臨床発達心理	……	石川 由美子	1212
学)			
専門演習Ⅱ(倫理学)	……	原 一子	1213
卒業研究Ⅰ(応用心理学)	……	井上 知洋	1214
卒業研究Ⅰ(家族心理学)	……	村上 純子	1215
卒業研究Ⅰ(公衆衛生学・	……	中村 磐男	1216
環境教育)			
卒業研究Ⅰ(子どもの健康)	……	齊藤 理砂子	1217
卒業研究Ⅰ(心理療法)	……	大橋 良枝	1218
卒業研究Ⅰ(相談心理学)	……	竹渕 香織	1219
卒業研究Ⅰ(適応の心理)	……	山田 麻有美	1220
卒業研究Ⅰ(日本文化学)	……	渡辺 正人	1221
卒業研究Ⅰ(発達心理学)	……	金谷 京子	1222
卒業研究Ⅰ(ボランティア	……	佐野 正子	1223
とこどものケア)			
卒業研究Ⅰ(臨床発達心理	……	石川 由美子	1224
学)			
卒業研究Ⅰ(倫理学)	……	原 一子	1225
知的障害児指導法	……	吉田 昌義, 吉井 勘人	1226
知的障害児の心理	……	石川 由美子, 井上 知	1227
		洋, 今中 博章	
知的障害児の生理・病理	……	勝二 博亮, 舟橋 敬一	1228
チャイルドライフ・ケア	……	齊藤 理砂子	1229

こども心理学科

聴覚障害児の教育総論	……	金澤 貴之	1230
適応の心理	……	竹渕 香織	1231
日本文化学	……	渡辺 正人	1232
人間行動学実験実習	……	石川 由美子, 井上 知洋	1233
認知心理学	……	井上 知洋	1234
発達心理学概論	……	金谷 京子	1235
非行の心理	……	藤掛 明	1236
病児・障害児の看護実習	……	齊藤 理砂子	1237
病弱児の心理	……	竹田 一則, 岡澤 慎一	1238
病弱児の心理・生理・病理	……	竹田 一則, 岡澤 慎一	1239
福祉学概論	……	牛津 信忠	1240
触れるアート	……	喜田 敬	1241
プレイセラピー入門	……	村上 純子	1242
ヘルス・プロモーション	……	齊藤 理砂子	1243
ヘルス・プロモーション	……	齊藤 理砂子	1244
保健学総論	……	石川 由美子, 齊藤 理砂	1245
		子	
ボランティア実践論	……	渡辺 正人, 佐野 正子,	1246
		助川 征雄	
ボランティア論	……	渡辺 正人, 佐野 正子,	1247
		助川 征雄	
見るアート	……	喜田 敬	1248
免疫学・微生物学	……	一幡 良利	1249
病と健康の科学	……	中村 磐男	1250
ヨーロッパ文化学	……	原 一子	1251
臨床心理学概論	……	藤掛 明	1252
倫理学A	……	原 一子	1253
倫理学B	……	原 一子	1254

人間福祉学科

医療福祉論	……	山本 博之	1255
衛生学入門	……	大江 敏江	1256
介護概論	……	高山 法子	1257
介護技術	……	高山 法子	1258
介護実習	……	高山 法子	1259
カウンセリング論	……	土屋 瑛美	1260
家族社会学	……	横山 麻衣	1261
家族心理学	……	水本 深喜	1262
環境保全論	……	村上 公久	1263
環境保全論	……	村上 公久	1264
教育心理学	……	山本 寿子	1265
キリスト教人間学A	……	阿部 洋治	1266
キリスト教人間学B	……	阿部 洋治	1267
健康心理学	……	須川 聡子	1268
権利擁護と成年後見制度	……	川島 聡	1269
現代社会と福祉	……	牛津 信忠	1270
公衆衛生学	……	中村 磐男	1271
更生保護制度	……	三澤 孝夫	1272
公的扶助論	……	宮寺 良光	1273
公的扶助論	……	宮寺 良光	1274
高齢社会論	……	古谷野 亘	1275
高齢者福祉論A	……	荒井 浩道	1276
高齢者福祉論A/B	……	荒井 浩道	1277
高齢者福祉論B	……	荒井 浩道	1278
コミュニティ心理学	……	長谷川 恵美子	1279
産業心理学	……	真船 浩介	1280
死生学	……	横澤 義夫	1281
社会学	……	横山 麻衣	1282
社会心理学	……	山上 真貴子	1283
社会調査の基礎	……	鷹野 吉章	1284
社会福祉運営管理論	……	早坂 聡久	1285
社会福祉援助技術演習A	……	田村 綾子, 野口 祐子	1286
社会福祉援助技術演習B	……	野口 祐子, 木下 大生	1287
社会福祉援助技術演習C	……	田村 綾子, 荒井 浩道	1288

人間福祉学科

社会福祉援助技術演習D	……	浅沼 太郎	1289
社会福祉援助技術演習E	……	浅沼 太郎	1290
社会福祉援助技術現場実習	……	野口 祐子, 木下 大生,	1291
		牛津 信忠, 中谷 茂一	
社会福祉援助技術現場実習	……	野口 祐子, 木下 大生,	1292
指導Ⅰ		荒井 浩道	
社会福祉援助技術現場実習	……	野口 祐子, 木下 大生,	1293
指導Ⅱ		藤田 孝典	
社会福祉援助技術論A	……	田村 綾子	1294
社会福祉援助技術論B	……	鷹野 吉章	1295
社会福祉援助実習	……	森島 健	1296
社会福祉原論	……	牛津 信忠	1297
社会保障論	……	宮寺 良光	1298
就労支援サービス	……	野口 勝則	1299
障害者福祉論A	……	木下 大生	1300
障害者福祉論A/B	……	木下 大生	1301
障害者福祉論B	……	木下 大生	1302
心理学	……	堀 恭子	1303
心理学研究法	……	岡田 いずみ	1304
心理学実験実習A	……	長谷川 恵美子, 堀 恭子	1305
心理学実験実習B	……	長谷川 恵美子, 堀 恭子	1306
児童福祉論A	……	中谷 茂一	1307
児童福祉論A/B	……	中谷 茂一	1308
児童福祉論B	……	中谷 茂一	1309
人体の構造と機能及び疾病	……	森 秀美	1310
スクールソーシャルワーク	……	天野 敬子	1311
論			
スピリチュアルケア入門	……	窪寺 俊之, 伊能 忠嗣	1312
性格心理学	……	須川 聡子	1313
精神医学	……	高野 覚	1314
精神科リハビリテーション	……	助川 征雄	1315
学			
精神科リハビリテーション	……	助川 征雄	1316
学A			
精神科リハビリテーション	……	助川 征雄	1317
学B			
精神障害者の生活支援ス	……	田村 綾子	1318
テム			
精神保健学	……	高畑 隆	1319
精神保健福祉演習	……	相川 章子	1320
精神保健福祉援助演習(基	……	相川 章子	1321
礎)			
精神保健福祉援助演習(専	……	助川 征雄	1322
門) A			
精神保健福祉援助技術各論	……	児玉 照彰	1323
精神保健福祉援助技術総論	……	助川 征雄	1324
精神保健福祉援助実習指導	……	田村 綾子	1325
A			
精神保健福祉に関する制度	……	相川 章子	1326
とサービス			
生命倫理学	……	川上 祐美	1327
専門演習(カウンセリング	……	長谷川 恵美子	1328
論)Ⅰ			
専門演習(カウンセリング	……	長谷川 恵美子	1329
論)Ⅱ			
専門演習(高齢社会論)Ⅰ	……	古谷野 亘	1330
専門演習(高齢社会論)Ⅱ	……	古谷野 亘	1331
専門演習(子ども家庭論)Ⅰ	……	中谷 茂一	1332
専門演習(子ども家庭論)Ⅱ	……	中谷 茂一	1333
専門演習(社会倫理)Ⅰ	……	阿部 洋治	1334
専門演習(障害者福祉論)Ⅰ	……	木下 大生	1335
専門演習(障害者福祉論)Ⅱ	……	木下 大生	1336
専門演習(生活支援論)Ⅰ	……	田村 綾子	1337
専門演習(生活支援論)Ⅱ	……	田村 綾子	1338
専門演習(精神保健福祉論)	……	相川 章子	1339
I			

人間福祉学科

専門演習(精神保健福祉論)	……	相川 章子	1340
Ⅱ			
専門演習(ソーシャルワー	……	助川 征雄	1341
ク論)Ⅰ			
専門演習(ソーシャルワー	……	助川 征雄	1342
ク論)Ⅱ			
専門演習(地域援助心理学)	……	堀 恭子	1343
Ⅰ			
専門演習(地域援助心理学)	……	堀 恭子	1344
Ⅱ			
専門演習(地域福祉論)Ⅰ	……	牛津 信忠	1345
専門演習(地域福祉論)Ⅱ	……	牛津 信忠	1346
専門演習(福祉環境論)Ⅰ	……	野口 祐子	1347
専門演習(福祉環境論)Ⅱ	……	野口 祐子	1348
相談援助の基盤と専門職	……	田村 綾子	1349
卒業演習(カウンセリング	……	長谷川 恵美子	1350
論)			
卒業演習(学習・教育心理	……	長谷川 恵美子	1351
学)			
卒業演習(高齢者福祉論)	……	古谷野 亘	1352
卒業演習(子ども家庭論)	……	中谷 茂一	1353
卒業演習(生活支援論)	……	田村 綾子	1354
卒業演習(精神保健福祉論)	……	相川 章子	1355
卒業演習(ソーシャルワー	……	助川 征雄	1356
ク論)			
卒業演習(地域福祉論)	……	牛津 信忠	1357
卒業演習(福祉環境論)	……	野口 祐子	1358
卒業演習(福祉倫理)	……	相川 章子	1359
卒業研究(カウンセリング	……	長谷川 恵美子	1360
論)Ⅰ			
卒業研究(カウンセリング	……	長谷川 恵美子	1361
論)Ⅱ			
卒業研究(学習・教育心理	……	堀 恭子	1362
学)Ⅱ			
卒業研究(高齢社会論)Ⅰ	……	古谷野 亘	1363
卒業研究(高齢者福祉論)Ⅱ	……	古谷野 亘	1364
卒業研究(子ども家庭論)Ⅰ	……	中谷 茂一	1365
卒業研究(子ども家庭論)Ⅱ	……	中谷 茂一	1366
卒業研究(障害者福祉論)Ⅰ	……	木下 大生	1367
卒業研究(生活支援論)Ⅰ	……	田村 綾子	1368
卒業研究(生活支援論)Ⅱ	……	田村 綾子	1369
卒業研究(精神保健福祉論)	……	相川 章子	1370
Ⅰ			
卒業研究(精神保健福祉論)	……	相川 章子	1371
Ⅱ			
卒業研究(ソーシャルワー	……	助川 征雄	1372
ク論)Ⅰ			
卒業研究(ソーシャルワー	……	助川 征雄	1373
ク論)Ⅱ			
卒業研究(地域援助心理学)	……	堀 恭子	1374
Ⅰ			
卒業研究(地域福祉論)Ⅰ	……	牛津 信忠	1375
卒業研究(地域福祉論)Ⅱ	……	牛津 信忠	1376
卒業研究(福祉環境論)Ⅰ	……	野口 祐子	1377
卒業研究(福祉環境論)Ⅱ	……	野口 祐子	1378
卒業研究(福祉倫理)Ⅱ	……	阿部 洋治	1379
地域福祉論	……	牛津 信忠	1380
統計学	……	松原 望	1381
人間関係論	……	中嶋 励子	1382
人間福祉総論	……	助川 征雄	1383
人間福祉の探求	……	古谷野 亘	1384
発達心理学A	……	山本 寿子	1385
発達心理学B	……	堀 恭子	1386
福祉英語A	……	森 容子	1387
福祉英語B	……	森 容子	1388
福祉環境論A	……	野口 祐子	1389

人間福祉学科			
福祉環境論B	……	山田 義文	1390
福祉行財政と福祉計画	……	馬場 康德	1391
福祉心理学	……	堀 恭子	1392
法学	……	松村 芳明	1393
保健医療サービス	……	中村 磐男	1394
ボランティア論A	……	川田 虎男	1395
ボランティア論B	……	川田 虎男	1396
リハビリテーション論	……	長谷川 辰男	1397
臨床心理学	……	長谷川 恵美子	1398
レクリエーション論	……	長谷川 辰男	1399

教職課程			
英語科教育法Ⅰ	……	東 仁美	1400
英語科教育法Ⅱ	……	東 仁美	1401
英語科教育法Ⅲ	……	小川 隆夫	1402
英語科教育法Ⅳ	……	小川 隆夫	1403
介護等体験及び事前事後指導	……	吉田 昌義, 高山 法子	1404
教育課程論	……	小川 洋	1405
教育経営	……	村上 純一	1406
教育原理	……	小川 洋	1407
教育社会学	……	小川 洋	1408
教育心理学	……	山本 寿子	1409
教育相談(カウンセリングを含む。)	……	山田 麻有美	1410
教育方法論	……	小川 洋	1411
教職実践演習(中等)	……	小川 洋, 東 仁美, 熊谷 芳郎, 木下 大生	1412
教師論	……	小川 洋	1413
高等学校教育実習	……	中谷 茂一	1414
高等学校教育実習	……	小川 洋	1415
高等学校教育実習	……	東 仁美	1416
高等学校教育実習	……	熊谷 芳郎	1417
公民科教育法	……	小川 洋	1418
国語科教育法Ⅰ	……	熊谷 芳郎	1419
国語科教育法Ⅱ	……	熊谷 芳郎	1420
国語科教育法Ⅲ	……	熊谷 芳郎	1421
国語科教育法Ⅳ	……	熊谷 芳郎	1422
社会科公民的分野教育法	……	石井 昇	1423
社会科授業研究Ⅰ	……	石井 昇	1424
社会科授業研究Ⅱ	……	石井 昇	1425
社会科地理・歴史的分野教育法	……	石井 昇	1426
情報科教育法Ⅰ	……	国分 道雄	1427
情報科教育法Ⅱ	……	国分 道雄	1428
生徒指導論(進路指導を含む。)	……	小川 洋	1429
中学校教育実習	……	小川 洋	1430
中学校教育実習	……	東 仁美	1431
中学校教育実習	……	熊谷 芳郎	1432
地理歴史科教育法	……	小川 洋	1433
特別活動の理論と方法	……	石井 昇	1434
道德教育指導法	……	細戸 一佳	1435
道德教育の研究	……	石井 昇	1436
日本教育史	……	石津 靖大	1437
福祉科教育法Ⅰ	……	中谷 茂一	1438
福祉科教育法Ⅱ	……	中谷 茂一	1439
保健科教育法Ⅰ	……	藤田 和也	1440
保健科教育法Ⅱ	……	藤田 和也	1441

図書館情報学課程			
学習指導と学校図書館	……	米谷 茂則	1442
学校経営と学校図書館	……	小川 三和子	1443
学校図書館メディアの構成	……	若松 昭子	1444

図書館情報学課程			
生涯学習概論	……	小池 茂子	1445
生涯学習概論	……	小池 茂子	1446
資料組織演習(分類)	……	河島 茂生	1447
資料組織演習(目録)	……	榎本 裕希子	1448
資料組織概説(分類)	……	長谷川 幸代	1449
資料組織概説(目録)	……	榎本 裕希子	1450
児童サービス論	……	黒沢 克朗	1451
児童サービス論	……	黒沢 克朗	1452
児童資料論	……	黒沢 克朗	1453
情報検索演習	……	坂内 悟	1454
情報サービス演習A	……	吉田 隆	1455
情報サービス演習B	……	坂内 悟	1456
情報サービス概説	……	吉田 隆	1457
情報サービス論	……	吉田 隆	1458
情報資源組織演習(分類)	……	河島 茂生	1459
情報資源組織演習(目録)	……	榎本 裕希子	1460
情報資源組織論(分類)	……	長谷川 幸代	1461
情報資源組織論(目録)	……	榎本 裕希子	1462
情報メディア史	……	若松 昭子	1463
情報メディアの活用	……	長谷川 幸代	1464
専門資料論	……	岡谷 大	1465
図書及び図書館史	……	若松 昭子	1466
図書館概論	……	若松 昭子	1467
図書館学演習	……	若松 昭子	1468
図書館基礎特論	……	黒沢 克朗	1469
図書館経営論	……	河島 茂生	1470
図書館サービス概論	……	岡谷 大	1471
図書館サービス論	……	岡谷 大	1472
図書館資料論	……	岡谷 大	1473
図書館実習	……	若松 昭子	1474
図書館実習	……	若松 昭子	1475
図書館情報学演習	……	若松 昭子	1476
図書館情報学概論	……	若松 昭子	1477
図書館情報技術論	……	河島 茂生	1478
図書館情報資源概論	……	岡谷 大	1479
図書館情報資源特論	……	岡谷 大	1480
図書館制度・経営論	……	河島 茂生	1481
読書と豊かな人間性	……	小川 三和子	1482
レファレンスサービス演習	……	吉田 隆	1483

社会教育主事課程			
教育経営	……	村上 純一	1484
教育心理学	……	鎌原 雅彦	1485
現代社会と社会教育A	……	小池 茂子	1486
現代社会と社会教育B	……	小池 茂子	1487
社会教育課題研究A	……	安斎 聡子	1488
社会教育課題研究B	……	安斎 聡子	1489
社会教育計画A	……	安斎 聡子	1490
社会教育計画B	……	安斎 聡子	1491
社会教育実習	……	小池 茂子	1492
生涯学習概論A	……	小池 茂子	1493
生涯学習概論B	……	小池 茂子	1494
ジェンダー論(女性学)	……	加藤 敦也	1495
情報と職業	……	渡辺 英人	1496
図書館概論	……	若松 昭子	1497
図書館経営論	……	河島 茂生	1498
図書館情報学概論	……	若松 昭子	1499
図書館制度・経営論	……	河島 茂生	1500

基礎科目

Christianity and Modern Society

INTD-0-115

担当者：藤原 淳賀

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

This class discusses the relationship between Christianity and modern society, especially Japan and the United States.

It also deals with Christian attitudes towards war and peace, and Christian contributions to democracy.

2. 学びの意義と目標

The aims of this class are for students to understand the nature and history of Christianity, to see how Christianity has shaped modern society, and to consider critically appropriate relationship between Christianity and society.

受講生に対する要望

Be active in class discussions.

キーワード

事前学習（予習）

Read appropriate sections of the textbooks prior to the class and to be active in discussions.

復習についての指示

Review the note after the class and have a dialogue with other students.

授業計画

1. Introduction
2. Christianity and Society 1
3. Christianity and Society 2
4. Christianity and Society 3
5. Christian attitude towards War and Peace 1
6. Christian attitude towards War and Peace 2
7. Christian attitude towards War and Peace 3
8. Christianity and Democracy 1
9. Christianity and Democracy 2
10. Christianity and Japan 1
11. Christianity and Japan 2
12. Christianity and Japan 3
13. Christianity and the United States 1
14. Christianity and the United States 2
15. Final Examination

教科書

Roland H. Bainton 『Christian Attitudes Toward War and Peace』 (Abingdon Press) Atsuyoshi Fujiwara 『Theology of Culture in a Japanese Context: A Believers Church Perspective』 (Wipf & Stock) Yasuo Furuya 『History of Japan and Christianity』 (Seigakuin Univ. Press)

評価方法

(1) Presentation: 30% (2) Final Examination: 60% (3) Class Participation: 10%

担当者：中川 英幸

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

ビジネスシーンにおける英会話や電話でのやりとり、電子メールや手紙の読み書きなどのアクティビティを通して、実践的なビジネス英語を学んでいく。

2. 学びの意義と目標

ビジネスのグローバル化にともない、海外で仕事をする人たちだけでなく、日本国内のオフィスに勤務する人たちも英語が必要となってきた。この授業では、典型的なビジネスシーンを想定し、「読み」、「書き」、「聞き」、「話す」という4技能の習得を目標とする。また授業で学習したことを応用し、TOEICなどの資格試験対策にも役立てる。

受講生に対する要望

授業に毎回参加すること。辞書を必ず授業に持参すること。

キーワード

(1) ビジネス英語 (2) リスニング (3) リーディング (4) 語彙、文法 (5) スピーキング

事前学習（予習）

授業で学習予定の章にある、分からない語彙をあらかじめ調べておくこと。

復習についての指示

授業や教科書で学習した語彙や表現をしっかり復習すること。

授業計画

1. 授業オリエンテーション
2. Part I: ビジネス通信の基本 (1. 手紙)
3. Part I: ビジネス通信の基本 (2. ファックス)
4. Part I: ビジネス通信の基本 (3. 電子メール)
5. Part I: ビジネス通信の基本 (4. 電話)
6. Part II: 社交関係の英語 (5. 面会の申し入れ)
7. Part II: 社交関係の英語 (6. ホテルの予約)
8. Part II: 社交関係の英語 (9. レセプションの招待)
9. Part II: 社交関係の英語 (10. アンケートの回答依頼)
10. Part III: 社内の英語 (13. 会議の通知)
11. Part III: 社内の英語 (15. 物品の購入)
12. Part IV: 取引関係の英語 (21. 注文)
13. Part V: 雇用関係の英語 (24. 履歴書)
14. Part V: 雇用関係の英語 (27. 面接)
15. 期末試験

教科書

豊田 暁 『Essentials of Global Business English—ビジネス英語エッセンシャルズ』 (南雲堂)

評価方法

(1) 平常点 (出席、授業態度、小テスト、宿題、課題): 50% (2) 期末試験: 50%

担当者：能町 和子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目/必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

アメリカの映画を用い、英語のコミュニケーション能力を養う。

2. 学びの意義と目標

映画に出てくるさまざまな英語表現を学ぶ。文化背景についても学ぶ。LL機能を用い聞き取り、発音練習も行う。大学生としての基礎英語コミュニケーション能力を養成する。

受講生に対する要望

声に出して英語を読む、覚えた英文をクラスで発表する、ペアワークを行う。以上のアクティビティに積極的に参加して下さい。

キーワード

(1) アメリカ映画 (2) 聴き取り (3) 発音練習 (4) 語彙学習

事前学習（予習）

前もってテキストで学習箇所のあらすじを理解してくる。key vocabularyのプリントを学習してくる。

復習についての指示

授業で配布されたプリントをもとに、学習した語彙を復習する。

授業計画

1. オリエンテーション、1～3章の映画視聴
2. 第1章
3. 第2章
4. 第3章
5. テスト1、4～6章の映画視聴
6. 第4章
7. 第5章
8. 第6章
9. テスト2、7～10章の映画視聴
10. 第7章
11. 第8章
12. 第9章、第10章
13. テスト3、海外ドラマ視聴
14. 発表の会話作成、練習
15. 発表、海外ドラマ視聴

教科書

マイク ホワイト、高瀬 文広、Mike White 『スクール・オブ・ロック（名作映画完全セルフ集スクリーンプレイ・シリーズ）』（スクリーンプレイ）

評価方法

- (1)出席／取組:30% (2)宿題:15%:チャプター毎のkey vocabularyプリント
(3)聴き取り・語彙テスト:30%:3回のテストの平均点 (4)発表:25%

学期末に発表（日本語または英語）をしてもらいます。1つはペアで会話文を作り、暗記してactする。2つめは英語音声の映画・ドラマの紹介。

担当者：メイス みよ子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目/必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

映画に出てくるさまざまな英語表現を学び、リスニングや内容理解のタスクを行う。文化背景についても話し合う。ロールプレイを通し発音練習も行う。

2. 学びの意義と目標

映画に出てくる日常表現を学び、大学生としての基礎コミュニケーション能力の向上に努める。

受講生に対する要望

辞書・テキストを必ず持参してください。

キーワード

(1)リスニング (2)ボキャブラリー (3)表現 (4)文化 (5)台詞の読解

事前学習（予習）

語彙などの予習に積極的に取り組む事を望む。

復習についての指示

語彙の復習、テキストの台詞を読み、意味を確認しておくこと。

授業計画

1. 授業の紹介、映画鑑賞 1～5 章
2. 第1章
3. 第2章
4. 第3章
5. 復習
6. 第4章
7. 第5章
8. 中間試験
9. 映画鑑賞 6～10 章
10. 第6章
11. 第7章
12. 第8章
13. 第9章
14. 第10章
15. まとめ、期末試験

教科書

マイク ホワイト, 高瀬 文広, Mike White 『スクール・オブ・ロック (名作映画完全セリフ集スクリーンプレイ・シリーズ)』 (スクリーンプレイ)

評価方法

(1)宿題:10% (2)授業参加:15% (3)中間試験:25% (4)シネマ感想文:25% (5)期末試験:25%

担当者：吉牟田 聡美

開設期：春学期 必修・選択：選択科目/必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

欧米の映画を用い、英語のコミュニケーション能力を養う。映画に出てくるさまざまな英語表現を学び、文化背景についても話し合う。ロールプレイを通し発音練習も行う。

2. 学びの意義と目標

大学生としての基礎英語コミュニケーション能力を養成する。

受講生に対する要望

毎回の授業に必ず出席し、予習を含めた課題などに積極的に取り組む事を望む。毎回辞書を持参すること。

キーワード

(1)Stick it to the Man. (2)It's our band. (3)We all have a say. (4)You are cool. (5)Your song rocks harder.

事前学習（予習）

毎回、次章をプリントで予習してきてください。教科書を見れば、答えられるものです。

復習についての指示

毎回、プリントを復習してください。理解を確実なものにしましょう。また、小テストの準備にもなります。

授業計画

1. 授業オリエンテーション、映画鑑賞一～五章
2. 第一章
3. 第二章
4. 第三章
5. 第四章
6. 第五章
7. 映画鑑賞 六～十章
8. 第六章
9. 第七章
10. 映画に使用されている音楽を楽しみ、背景を学ぶ
11. 第八章
12. 第九章
13. 第十章
14. Movie Presentation
15. 学期末試験

教科書

マイク・ホワイト 『School of Rock』（スクリーンプレイ社）

評価方法

- (1) 平常点:50%:小テスト、レポート、発表、出席、授業参加 (2) 学期末試験:50%

担当者：遠藤 由佳里

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目/必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

映画School of Rockを教材にして、リスニング／語彙／会話表現を中心に学習する。また、スクリプトを読み、場面描写に使われる表現を学ぶ。MoodleのForumを用いて英語で意見交換する。

2. 学びの意義と目標

立場や場面に応じた英語表現を理解する。自然な速度で話される英語を聞き取り、強弱や抑揚をつけて英語を話せるようにする。授業以外でも自主的に映画を見て英語学習に取り組む姿勢を育てる。

受講生に対する要望

発音練習・会話練習に積極的に取り組む。予習・復習を継続的に行う。

キーワード

(1) リスニング (2) スピーキング (3) 語彙 (4) ライティング

事前学習（予習）

プリントで指示された語句の意味を調べる。

復習についての指示

授業で学習した会話表現／語彙の確認。

授業計画

1. オリエンテーション、Chapter 1～4 視聴
2. Chapter 1
3. Chapter 2
4. Chapter 3
5. Chapter 4
6. Chapter 5～10視聴、Quiz #1
7. Chapter 5
8. Chapter 6
9. Chapter 7、Quiz #2
10. Chapter 8
11. Chapter 9
12. Chapter 10
13. Quiz #3、復習
14. 発表
15. 理解度の確認

教科書

マイク ホワイト（著）高瀬 文広（監修）『スクール・オブ・ロック（名作映画完全セリフ集スクリーンプレイ・シリーズ）』（スクリーンプレイ）

評価方法

(1) 平常点:50%:授業への参加と貢献、課題、発表 (2) 小テスト:15%:語彙・会話表現の小テスト(Quiz)を学期中に3回行う。 (3) 期末試験:35%

担当者：鈴木 政浩

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目/必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

場面に応じた表現を学び、コミュニケーション能力の基礎を養う。Web教材を活用し、主体的かつ受講者の到達度に応じた学習を進める。洋画のセリフを音読する場面を可能な限り設け、生の英語の速度に近い速度で音読できるような練習を進める。

2. 学びの意義と目標

洋画の音声と英語を活用し、音読や語彙、場面に応じた表現などを学ぶ。音読によりリスニング能力の向上やスピーキング能力の基礎を習得する。こうした取組を通じ、在学中だけでなく、社会人になってからの時期にも活用できる語学習得に必要なスキルを身につける。

受講生に対する要望

到達度の違いをカバーするために、助け合いながら授業を進める場面を設けます。各自の到達度によって教材や取組を変えることも考えますが、試験は全員同じ問題となります。

キーワード

(1)洋画 (2)音読 (3)リスニング (4)スピーキング (5)コミュニケーション

事前学習（予習）

語句や表現の下調べ（指示した箇所をテキストから探し出し、意味等を理解する）。

復習についての指示

授業で取り上げた箇所の音読練習、語句・表現の内容理解。授業開始時に前時の振り返りをします。

授業計画

1. オリエンテーション、映画鑑賞Chapter1~5
2. Chapter1
3. Chapter2
4. Chapter3
5. Chapter4
6. Chapter5
7. 中間試験
8. 映画鑑賞Chapter6~10
9. Chapter6
10. Chapter7
11. Chapter8
12. Chapter9
13. Chapter10
14. 音読発表課題
15. 期末試験

教科書

マイク ホワイト（著）高瀬 文広（監修）『スクール・オブ・ロック（名作映画完全セリフ集スクリーンプレイ・シリーズ）』（スクリーンプレイ）

評価方法

(1)平常点:40%:レポート、出席、授業参加度、予習・復習 (2)中間試験:20%:授業中使用したプリント等から出題 (3)期末試験:20%:授業中使用したプリント等から出題 (4)音読発表課題:20%:授業中に学習した表現等の音読発表

評価方法は、受講生の状況を見ながら若干の変更を加える場合があります。基本的に授業中の取組を重視します。

担当者：島田 洋子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

映画に出てくるさまざまな英語表現を学び、リスニングや内容理解のタスクを行う。文化背景についても話し合う。ロールプレイを通し発音練習も行う。

2. 学びの意義と目標

映画に出てくる日常表現を学び、大学生としての基礎コミュニケーション能力の向上に努める。

受講生に対する要望

辞書・テキストを必ず持参してください。

キーワード

(1)リスニング (2)ボキャブラリー (3)表現 (4)文化 (5)台詞の読解

事前学習（予習）

語彙などの予習に積極的に取り組む事を望む。

復習についての指示

語彙の復習、テキストの台詞を読み、意味を確認しておくこと。

授業計画

1. 授業の紹介、映画鑑賞 1～5 章
2. 第1章
3. 第2章
4. 第3章
5. 復習
6. 第4章
7. 第5章
8. 中間試験
9. 映画鑑賞 6～10 章
10. 第6章
11. 第7章
12. 第8章
13. 第9章
14. 第10章
15. まとめ、期末試験

教科書

マイク ホワイト, 高瀬 文広, Mike White 『スクール・オブ・ロック (名作映画完全セリフ集スクリーンプレイ・シリーズ)』 (スクリーンプレイ)

評価方法

(1)宿題:10% (2)授業参加:15% (3)中間試験:25% (4)シネマ感想文:25% (5)期末試験:25%

担当者：中川 英幸

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

映画を授業に取り入れることで、アメリカの日常生活で使われている自然な英語表現やアメリカ文化を学習する。

2. 学びの意義と目標

映画を鑑賞しながら、リスニング力の向上を目指すとともに、英語表現や文法の解説、ロールプレイなどのアクティビティを通して、コミュニケーション能力の向上を目指す。

受講生に対する要望

辞書を必ず授業に持参すること。復習を行い、宿題や課題は必ず期日までに提出すること。

キーワード

(1) リスニング (2) 英語表現 / 会話 (3) アメリカ文化 (4) 語彙
(5) 文法

事前学習（予習）

次の授業で学習するチャプターの英語スクリプトに目を通しておく。

復習についての指示

学習したチャプターの復習問題（授業内で配布）に取り組む。授業で学んだ単語、文法、表現などを必ず復習する。

授業計画

1. 授業オリエンテーション、映画鑑賞 (Ch. 1-5)
2. Chapter 1: Serving Society
3. Chapter 2: The Man
4. Chapter 3: Required Class Project
5. Chapter 4: Creating Musical Fusion
6. Chapter 5: Ticked Off
7. 中間試験
8. 映画鑑賞 (Ch. 6-10)
9. Chapter 6: Field Trip
10. Chapter 7: Stevie Nicks
11. Chapter 8: A Fraud
12. Chapter 9: One Great Rock Show
13. Chapter 10: Encore
14. 期末試験に向けた総復習、課題発表
15. 期末試験

教科書

マイク ホワイト、高瀬 文広、Mike White 『スクール・オブ・ロック（名作映画完全セリフ集スクリーンプレイ・シリーズ）』（スクリーンプレイ）

評価方法

(1) 平常点（宿題、課題、出席、授業態度）:50% (2) 期末試験、中間試験:50%

担当者：メイス みよ子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

映画に出てくるさまざまな英語表現を学び、リスニングや内容理解のタスクを行う。文化背景についても話し合う。ロールプレイを通し発音練習も行う。

2. 学びの意義と目標

映画に出てくる日常表現を学び、大学生としての基礎コミュニケーション能力の向上に努める。

受講生に対する要望

辞書・テキストを必ず持参してください。

キーワード

(1)リスニング (2)ボキャブラリー (3)表現 (4)文化 (5)台詞の読解

事前学習（予習）

語彙などの予習に積極的に取り組む事を望む。

復習についての指示

語彙の復習、テキストの台詞を読み、意味を確認しておくこと。

授業計画

1. 授業の紹介、映画鑑賞 1～5 章
2. 第1章
3. 第2章
4. 第3章
5. 復習
6. 第4章
7. 第5章
8. 中間試験
9. 映画鑑賞 6～10 章
10. 第6章
11. 第7章
12. 第8章
13. 第9章
14. 第10章
15. まとめ、期末試験

教科書

マイク ホワイト, 高瀬 文広, Mike White 『スクール・オブ・ロック (名作映画完全セリフ集スクリーンプレイ・シリーズ)』 (スクリーンプレイ)

評価方法

(1)宿題:10% (2)授業参加:15% (3)中間試験:25% (4)シネマ感想文:25% (5)期末試験:25%

担当者：能町 和子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目/必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

イギリスの映画を用い、英語のコミュニケーション能力を養う。

2. 学びの意義と目標

映画に出てくるさまざまな英語表現を学ぶ。文化背景についても学ぶ。LL機能を用い聞き取り、発音練習も行う。大学生としての基礎英語コミュニケーション能力を養成する。

受講生に対する要望

声に出して英語を読む、覚えた英文をクラスで発表する、ペアワークを行う。以上のアクティビティに積極的に参加して下さい。

キーワード

(1)イギリス映画 (2)聴き取り (3)発音練習

事前学習（予習）

前もってテキストで学習箇所のあらすじを理解してくる。語彙プリントを事前に学習しておく。

復習についての指示

授業で配布されたプリントをもとに、学習した語彙を復習する。

授業計画

1. オリエンテーション、1～3章の映画視聴
2. 第1章
3. 第2章
4. 第3章
5. テスト1、4～6章の映画視聴
6. 第4章
7. 第5章
8. 第6章
9. テスト2、7～10章の映画視聴
10. 第7章
11. 第8章
12. 第9章、第10章
13. テスト3、DVD視聴
14. 会話作成、練習
15. 発表、DVD視聴

教科書

亀山 太一 『アバウト・ア・ボーイ（名作映画完全セリフ集スクリーンプレイ・シリーズ）』（スクリーンプレイ）

評価方法

(1)出席・取り組み:30% (2)宿題:15%:各チャプターの語彙プリント (3)聴き取り・語彙テスト:30%:3回のテストの平均点 (4)発表:25%

学期末に発表（日本語または英語）をしてもらいます。1つはペアで会話を作り、暗記してactする。2つめは英語音声の映画・ドラマの紹介。

担当者：遠藤 由佳里

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目/必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

映画about a boyを教材にして、リスニング／語彙／会話表現を中心に学習する。また、スクリプトを読み、場面描写に使われる表現を学ぶ。MoodleのForumを用いて英語で意見交換する。

2. 学びの意義と目標

立場や場面に応じた英語表現を理解する。自然な速度で話される英語を聞き取り、強弱や抑揚をつけて英語を話せるようにする。授業以外でも自主的に映画を見て英語学習に取り組む姿勢を育てる。

受講生に対する要望

発音練習・会話練習に積極的に取り組む。予習・復習を継続的に行う。

キーワード

(1) リスニング (2) スピーキング (3) 語彙 (4) ライティング

事前学習（予習）

プリントで指示された語句の意味を調べる。

復習についての指示

授業で学習した会話表現／語彙の確認。

授業計画

1. オリエンテーション、Chapter 1～4 視聴
2. Chapter 1
3. Chapter 2
4. Chapter 3
5. Chapter 4
6. Chapter 5～10視聴、Quiz #1
7. Chapter 5
8. Chapter 6
9. Chapter 7、Quiz #2
10. Chapter 8
11. Chapter 9
12. Chapter 10
13. Quiz #3、復習
14. 発表
15. 理解度の確認

教科書

亀山 太一 『アバウト・ア・ボーイ（名作映画完全セリフ集スクリーンプレイ・シリーズ）』（スクリーンプレイ）

評価方法

- (1) 平常点:50%:授業への参加と貢献、課題、発表 (2) 小テスト:15%:語彙・会話表現の小テスト(Quiz)を学期中に3回行う。(3) 期末試験:35%

担当者：鈴木 政浩

開設期：春学期 必修・選択：選択科目/必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

場面に応じた表現を学び、コミュニケーション能力の基礎を養う。Web教材を活用し、主体的かつ受講者の到達度に応じた学習を進める。洋画のセリフを音読する場面を可能な限り設け、生の英語の速度に近い速度で音読できるような練習を進める。

2. 学びの意義と目標

洋画の音声と英語を活用し、音読や語彙、場面に応じた表現などを学ぶ。音読によりリスニング能力の向上やスピーキング能力の基礎を習得する。こうした取組を通じ、在学中だけでなく、社会人になってからの時期にも活用できる語学習得に必要なスキルを身につける。

受講生に対する要望

到達度の違いをカバーするために、助け合いながら授業を進める場面を設けます。各自の到達度によって教材や取組を変えることも考えますが、試験は全員同じ問題となります。

キーワード

(1)洋画 (2)音読 (3)リスニング (4)スピーキング (5)コミュニケーション

事前学習（予習）

語句や表現の下調べ（指示した箇所をテキストから探し出し、意味等を理解する）。

復習についての指示

授業で取り上げた箇所の音読練習、語句・表現の内容理解。授業開始時に前時の振り返りをします。

授業計画

1. オリエンテーション、映画鑑賞Chapter1~5
2. Chapter1
3. Chapter2
4. Chapter3
5. Chapter4
6. Chapter5
7. 中間試験
8. 映画鑑賞Chapter6~10
9. Chapter6
10. Chapter7
11. Chapter8
12. Chapter9, 10
13. 音読発表課題(1)
14. 音読発表課題(2)
15. 期末試験

教科書

亀山 太一（翻訳）『アバウト・ア・ボーイ（名作映画完全セリフ集スクリーンプレイ・シリーズ）』（スクリーンプレイ）

評価方法

(1)平常点:40%:レポート、出席、授業参加度、予習・復習 (2)中間試験:20%:授業中使用したプリント等から出題 (3)期末試験:20%:授業中使用したプリント等から出題 (4)音読発表課題:20%:授業中に学習した表現等の音読発表

評価方法は、受講生の状況を見ながら若干の変更を加える場合があります。基本的に授業中の取組を重視します。

担当者：メイス みよ子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 内容この授業では数本の映画を鑑賞して、英語圏の文化や社会情勢などについて学ぶ。また、映画からだけでなく、インターネットを利用して映画のテーマに関するリサーチを行い、自分の意見を組み立てる。そして、ディスカッションを通してクラスメートとお互いの感想や意見を交換したり、プレゼンテーション、レポートを通して、自分の考えを発表したりする。さらに、映画のシーンを題材にしたリスニング練習や映画についての読解練習も取り入れる。

2. 学びの意義と目標

映画を通して異文化に対する理解を深める。またリサーチした内容をまとめ、自分の考えをしっかりとまとめ発表できることを目標とする。

受講生に対する要望

毎回出席し、積極的にリスニング演習、検索、ディスカッションに参加して下さい。

キーワード

(1)文化背景 (2)インターネット検索 (3)リスニング (4)日常表現
(5)ディスカッション

事前学習（予習）

映画背景の検索とまとめ。

復習についての指示

映画のまとめと語彙表現の復習。

授業計画

1. オリエンテーション、第1作目のリサーチ活動
2. 第1作目の映画鑑賞、内容理解のタスク、ディスカッション、批評
3. 第1作目の映画鑑賞、内容理解のタスク、ディスカッション、批評
4. 第1作目の映画鑑賞、内容理解のタスク、ディスカッション、批評
5. 第1作目の映画鑑賞、内容理解のタスク、ディスカッション、批評
6. レポートのまとめ、第2作目の映画鑑賞、
7. 第2作目の映画鑑賞、内容理解のタスク、ディスカッション、批評、発表
8. 第2作目の映画鑑賞、内容理解のタスク、ディスカッション、批評、発表
9. 第2作目の映画鑑賞、内容理解のタスク、ディスカッション、批評、発表
10. レポートのまとめ、ディスカッション
11. 第3作目の映画鑑賞、内容理解のタスク、ディスカッション、批評
12. 第3作目の映画鑑賞、内容理解のタスク、ディスカッション、批評
13. 第3作目の映画鑑賞、内容理解のタスク、ディスカッション、批評
14. 第3作目の映画鑑賞、内容理解のタスク、ディスカッション、批評
15. レポートのまとめ、ディスカッション

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)リスニング演習:20% (2)小テスト:20% (3)レポート:40% (4)授業参加:20%

担当者：能町 和子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

映画に関する英文を読む。VOAの映画解説を聴く。

2. 学びの意義と目標

初級から中級程度の英文を読みこなせるよう学習していく。VOA放送に出て来るkey vocabulary/idiomの発音と意味を反復練習して身につける。語彙力と読解力の向上を目標とする。

受講生に対する要望

きちんと予習をしてくる。辞書を持参し積極的に辞書を引く。グループワークに積極的に取り組む者の受講を望む。

キーワード

(1) 英文読解 (2) グループワーク (3) ハリウッド映画 (4) 聴き取り

事前学習（予習）

Summaryを読む週は事前に下読みし語彙を調べておく事。VOAを学習する週は指定されたkey vocabularyを使った英文を暗記しておくこと。

復習についての指示

vocabularyの復習。英文の音読と暗記。

授業計画

1. クラスガイダンス、Unit 1を使って学習
2. Unit 2: Movie Summary / Key Vocabulary
3. Unit 2: Listening Exercises / VOA
4. Unit 3: Movie Summary / Key Vocabulary
5. Unit 3: Listening Exercises / VOA
6. Unit 4: Movie Summary / Key Vocabulary
7. Unit 4: Listening Exercises / VOA
8. 中間テスト
9. Unit 5: Movie Summary / Key Vocabulary
10. Unit 5: Listening Exercises / VOA
11. Unit 6: Movie Summary / Key Vocabulary
12. Unit 6: Listening Exercises / VOA
13. Unit 7: Movie Summary / Key Vocabulary
14. Unit 7: Listening Exercises / VOA
15. 期末テスト

教科書

Lander, John. S 『Hollywood English: Movie Review from VOA』 (朝日出版)

評価方法

(1)出席、辞書、取り組み:30%積極的にペアワークやグループワークに参加する事 (2)予習、提出:10% (3)暗記宿題:10% (4)中間テスト:20% (5)期末テスト:30%

辞書を必ず持参する。携帯・スマホなどの端末は使用禁止。

担当者：能町 和子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

映画に関する英文を読む。VOAの映画解説を聴く。

2. 学びの意義と目標

初級から中級程度の英文を読みこなせるよう学習していく。VOA放送に出て来るkey vocabulary/idiomの発音と意味を反復練習して身につける。語彙力と読解力の向上を目標とする。

受講生に対する要望

きちんと予習をしてくる。辞書を持参し積極的に辞書を引く。グループワークに積極的に取り組む者の受講を望む。

キーワード

(1) 英文読解 (2) グループワーク (3) ハリウッド映画 (4) 聴き取り

事前学習（予習）

Summaryを読む週は事前に下読みし語彙を調べておく事。VOAを学習する週は指定されたkey vocabularyを使った英文を暗記してやること。

復習についての指示

vocabularyの復習。英文の音読と暗記。

授業計画

1. クラスガイダンス、Unit 7 を使って学習
2. Unit 8: Movie Summary / Key Vocabulary
3. Unit 8: Listening Exercises / VOA
4. Unit 9: Movie Summary / Key Vocabulary
5. Unit 9: Listening Exercises / VOA
6. Unit 10: Movie Summary / Key Vocabulary
7. Unit 10: Listening Exercises / VOA
8. 中間テスト
9. Unit 11: Movie Summary / Key Vocabulary
10. Unit 11: Listening Exercises / VOA
11. Unit 12: Movie Summary / Key Vocabulary
12. Unit 12: Listening Exercises / VOA
13. Unit 13: Movie Summary / Key Vocabulary
14. Unit 13: Listening Exercises / VOA
15. 期末テスト

教科書

Lander, John. S 『Hollywood English: Movie Review from VOA』 (朝日出版)

評価方法

(1) 出席、辞書、取り組み:30%:積極的にペアワークやグループワークに参加する事 (2) 予習、提出:10% (3) 暗記宿題:10% (4) 中間テスト:20% (5) 期末テスト:30%

辞書を必ず持参する。携帯・スマホなどの端末は使用禁止。

担当者：遠藤 由佳里

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

英米人と日本人のコミュニケーションのしかたを比較した英文エッセイを読み、文化がコミュニケーションに及ぼす影響を理解する。エッセイのテーマについてディスカッションを行い、英語と日本語の相違点と共通点について考える。

2. 学びの意義と目標

言葉の背後にある文化について学び、異文化コミュニケーションが円滑に行えることを目指す。平易な英文で書かれたエッセイを読み、読解力・語彙を身につける。

受講生に対する要望

予習としてテキストを読み要点をまとめて授業に臨んでください。エッセイのテーマについて自分の考えを積極的に述べてください。

キーワード

(1) 異文化コミュニケーション (2) リーディング (3) ライティング
(4) ポキャブラリー

事前学習（予習）

テキストを読み、各段落の内容を要約する。

復習についての指示

語彙、重要構文を復習する。

授業計画

1. イントロダクション、Chapter 1 Age, Status, and Family
2. Chapter 2 Politeness
3. Chapter 3 Feedback
4. Chapter 4 Rituals
5. Chapter 5 Titles
6. Chapter 6 Modesty
7. 中間試験
8. Chapter 9 Proverbs
9. Chapter 10 Idioms
10. Chapter 11 Textbook Language
11. Chapter 12 Comparing
12. Chapter 13 Politically Correct Language
13. Chapter 15 Agreeing, Disagreeing, or Simply Not Knowing
14. Chapter 16 Reflections of Language and Culture
15. 期末試験

教科書

ポール ステイプルトン、大野 公裕, Paul Stapleton 『英米人の考え方、日本人の考え方—ことばに映る文化の違い』 (金星堂)

評価方法

(1) 課題: 30% (2) 授業参加・貢献: 20% (3) 中間試験: 20% (4) 期末試験: 30%

担当者：能町 和子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

英語の歌を使って英語の学習をする。

2. 学びの意義と目標

聞き取りのこつを踏まえた上で、聴き取り、発音を練習する（英語の音を体に取り込む）。歌詞を読み解くことによって、理解力を深める。

受講生に対する要望

授業に積極的に参加すること。グループでの話し合い、歌詞を声に出して読むアクティビティに取り組める者の受講を望む。

キーワード

(1) 英語の歌 (2) 聴き取り練習 (3) 発音練習 (4) 英文読解 (5) 発表

事前学習（予習）

歌詞についての解説文（英文）を読みこなせる様、事前に英語句を調べる。

復習についての指示

テストに備え、語彙とlistening point を復習すること。

授業計画

1. クラスガイダンス、練習問題
2. Unit 1
3. Unit 2
4. Unit 3
5. Review test 1
6. Unit 4
7. Unit 5
8. Unit 6
9. Review test 2
10. グループ発表準備
11. グループ発表準備
12. 発表
13. テキスト以外の曲
14. テキスト以外の曲
15. 発表の評価、テスト

教科書

角山照彦、Capper, Simon 『English with Hit Songs, New Edition-Featuring the "Max Best" CD Compilation-』（成美堂）

評価方法

(1)出席・参加:30%:出席、辞書の持参、授業態度の総合 (2)宿題:10% (3)提出:10%:授業内に歌詞を訳して提出 (4)テスト:30%:学期中3回の聴き取り、語彙のテスト実施 (5)発表:20%:グループで歌に関連する事柄を発表

ユニット3つ終了後と学期末にテストあり。テストはリスニングと語彙の2種類。その他、学期末にはグループ発表あり。

担当者：吉牟田 聡美

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

英語の音楽映像を楽しみながら視聴します。歌詞を聞き取ります。歌詞に用いられている文法のポイントを学習し、意味をつかみ日本語に翻訳します。アーティストや歌の背景的な情報を読み、洋楽に関する知識を深めます。好みのアーティストや曲についてプレゼンテーションします。

2. 学びの意義と目標

目標としているところは、洋楽の一般的な教養を深めます。歌詞を翻訳しBGM代わりに聞いていた時には知りえなかった曲の世界を理解し、堪能します。歌詞を解釈することにより、文法の知識を増強させ、四者択一の読解問題を解くことにより、検定試験にも対応する英語力の育成を目指します。好みの音楽に関してプレゼンテーションを行うことにより、英語による自己表現力を磨きます。

受講生に対する要望

英語力をさらに高めたい人も、英語力には自信のない人も、洋楽を聴くことを楽しんでください。出席・熱意・誠意ある授業参加を重視します。曲目はみなさんのリクエストにより変更します。どうぞリクエストしてください。

キーワード

(1)125,600 minutes (2)Beautiful (3)Greatest love of all is

事前学習（予習）

次の曲をyoutubeなどで聴いてきてください。

復習についての指示

プリントを復習してください。小テストの準備をしてきてください。曲のサビの部分を書けるように、聞いて書いて歌って覚えてください。

授業計画

1. Orientation、アンケート（希望調査）、Seasons of Love
2. 省略される発音、Born This Way-Lady GaGa
3. 音の同化1、I Want You Back-Jackson 5
4. 音の同化2、I Miss You-Miley Cyrus
5. リエゾン1、I Will Always Love You-Whitney Houston
6. Presentation 1
7. リエゾン2、We Can Work It Out-The Beatles
8. 米語の特徴flap t 1 I Want It That Way- Backstreet Boys
9. 注意すべき子音L Beautiful-Christina Aguilera
10. Presentation 2
11. 似た発音の聞き分け（曲は希望調査により決定）
12. 音の脱落1（曲は希望調査により決定）
13. 音の脱落2（曲は希望調査により決定）
14. 米語の特徴flap 2（曲は希望調査により決定）
15. Presentation 3

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)発表点:30% (2)出席点:30% (3)平常点:40%

毎回前回聞いた曲の歌詞の小テストを行います。学期末の筆記試験は行いません。学期中に3回のプレゼンテーションがあります。自分の好きな曲やアーティストについて発表するものです。

担当者：能町 和子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

英語の歌を使って英語の学習をする。

2. 学びの意義と目標

聞き取りのこつを踏まえた上で、聴き取り、発音を練習する（英語の音を体に取り込む）。歌詞を読み解くことによって、理解力を深める。

受講生に対する要望

授業に積極的に参加すること。グループでの話し合い、歌詞を声に出して読むアクティビティに取り組める者の受講を望む。

キーワード

(1) 英語の歌 (2) 聴き取り練習 (3) 発音練習 (4) 英文読解 (5) 発表

事前学習（予習）

歌詞についての解説文（英文）を読みこなせる様、事前に英語句を調べる。

復習についての指示

テストに備え、語彙とlistening point を復習すること。

授業計画

1. クラスガイダンス、練習問題
2. Unit 8
3. Unit 9
4. Unit 10
5. Review test 1
6. Unit 11
7. Unit 12
8. Unit 13
9. Review test 2
10. グループ発表準備
11. グループ発表準備
12. 発表
13. テキスト以外の曲
14. テキスト以外の曲
15. 発表の評価、テスト

教科書

角山照彦、Capper, Simon 『English with Hit Songs, New Edition-Featuring the "Max Best" CD Compilation-』 (成美堂)

評価方法

(1)出席・参加:30%:出席、辞書の持参、授業態度の総合 (2)宿題:10% (3)提出:10%:授業内に歌詞を訳して提出 (4)テスト:30%:学期中3回の聴き取り、語彙のテスト実施 (5)発表:20%:グループで歌に関連する事柄を発表

ユニット3つ終了後と学期末にテストあり。テストはリスニングと語彙の2種類。その他、学期末にはグループ発表あり。

担当者：吉牟田 聡美

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

英語の音楽映像を楽しみながら視聴します。歌詞を聞き取ります。歌詞に用いられている文法のポイントを学習し、意味をつかみ日本語に翻訳します。アーティストや歌の背景的な情報を読み、洋楽に関する知識を深めます。好みのアーティストや曲についてプレゼンテーションします。

2. 学びの意義と目標

目標としているところは、洋楽の一般的な教養を深めます。歌詞を翻訳しBGM代わりに聞いていた時には知りえなかった曲の世界を理解し、堪能します。歌詞を解釈することにより、文法の知識を増強させ、四者択一の読解問題を解くことにより、検定試験にも対応する英語力の育成を目指します。好みの音楽に関してプレゼンテーションを行うことにより、英語による自己表現力を磨きます。

受講生に対する要望

英語力をさらに高めたい人も、英語力には自信のない人も、洋楽を聴くことを楽しんでください。出席・熱意・誠意ある授業参加を重視します。曲目はみなさんのリクエストにより変更します。どうぞリクエストしてください。

キーワード

(1)125,600 minutes (2)Beautiful (3)Greatest love of all is

事前学習（予習）

次の曲をyoutubeなどで聴いてきてください。

復習についての指示

プリントを復習してください。小テストの準備をしてきてください。曲のサビの部分を書けるように、聞いて書いて歌って覚えてください。

授業計画

1. Orientation、アンケート（希望調査）、We are the World
2. 省略される発音、Poker Face-Lady GaGa
3. 音の同化1、Man in the Mirror - Michael Jackson
4. 音の同化2、Wrecking Ball-Miley Cyrus
5. リエゾン1、We're All Alone - Boz Scaggs
6. Presentation 1
7. リエゾン2、Fever - Beyonce
8. 米語の特徴flap t 1 Ain't No Mountain High Enough - Marvin&Tammy
9. 注意すべき子音L Beautiful - Christina Aguilera
10. Presentation 2
11. 似た発音の聞き分け Joyful, Joyful
12. 音の脱落1 （曲は希望調査により決定）
13. 音の脱落2 （曲は希望調査により決定）
14. 米語の特徴flap 2 （曲は希望調査により決定）
15. Presentation 3

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)発表点:30% (2)出席点:30% (3)平常点:40%

毎回前回聞いた曲の歌詞の小テストを行います。学期末の筆記試験は行いません。学期中に3回のプレゼンテーションがあります。自分の好きな曲やアーティストについて発表するものです。

担当者：吉牟田 聡美

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

自分の英語力に合った本を、楽しみながら多読（文章を分析しないで大意を把握する読書法）していく授業です。Graded Readersというレベル別に分かれた本の中から、興味や好みに基づいて本を選び、授業の内外で本を読み進めていきます。読んだ本の記録をつけ、授業中にクラスメートと本の情報・感想の共有をアクティビティを通じて行ないます。読んだ本について英語でプレゼンテーションを行います。

2. 学びの意義と目標

英語で読む習慣を身につけ、自分のペースで読むことにより無理なく自然に英語力を伸ばし、英語で読むことの楽しさ（pleasure of reading）を知ることを目指します。

受講生に対する要望

自分の興味の赴くまま好きな本を読むのがこの授業です。自分のペースで進められます。読むことが苦痛になってはいけません。楽しく読めるレベルの本を選んでください。英語が苦手と感じている人も、英語をさらに磨きたい人も、英語の習熟度と関係なく、英語の本をよむことを楽しみ、自分の世界を広げ見識を深めてもらいたい。講義形式の授業ではなく、学生個人個人が自分のレベルに応じた本を読むことで授業が進んでいきます。積極的な授業参加を望みます。授業の前にリーディングラボで本を二冊借りておいてください。提出物は期限を守るようにしてください。

キーワード

(1)Pleasure in reading (2)Pleasure in sharing (3)Pleasure in presenting

事前学習（予習）

リーディングラボで本を借りておいてください。

復習についての指示

授業で読みかけた本を最後まで読み、読書記録をつけましょう。次回提出してもらいます。

授業計画

1. オリエンテーション／ジャーナル記載方法、ジャンル区分／WPM計測／読書経験／リーディング・ラボ案内
2. 読書とリーディングアクティビティ (1)
3. 読書とリーディングアクティビティ (2)
4. 読書とリーディングアクティビティ (3)
5. 読書とリーディングアクティビティ (4)／プレゼンテーション1準備
6. プレゼンテーション1／読書とリーディングアクティビティ (5)
7. 読書とリーディングアクティビティ (6)
8. 読書とリーディングアクティビティ (7)
9. 読書とリーディングアクティビティ (8)
10. 読書とリーディングアクティビティ (9)／プレゼンテーション2準備
11. プレゼンテーション2／読書とリーディングアクティビティ (10)
12. 読書とリーディングアクティビティ (11)
13. 読書とリーディングアクティビティ (12)
14. 読書とリーディングアクティビティ (13)／プレゼンテーション3準備
15. プレゼンテーション3

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席点:30% (2)平常点:40% (3)発表点:30%

学期末試験は筆記ではなく、プレゼンテーション形式の実技試験になります。

担当者：吉牟田 聡美

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

自分の英語力に合った本を、楽しみながら多読（文章を分析しないで大意を把握する読書法）していく授業です。Graded Readersというレベル別に分かれた本の中から、興味や好みに基づいて本を選び、授業の内外で本を読み進めていきます。読んだ本の記録をつけ、授業中にクラスメートと本の情報・感想の共有をアクティビティを通じて行ないます。読んだ本について英語でプレゼンテーションを行います。

2. 学びの意義と目標

英語で読む習慣を身につけ、自分のペースで読むことにより無理なく自然に英語力を伸ばし、英語で読むことの楽しさ（pleasure of reading）を知ることを目指します。

受講生に対する要望

自分の興味の赴くまま好きな本を読むのがこの授業です。自分のペースで進められます。読むことが苦痛になってはいけません。楽しく読めるレベルの本を選んでください。英語が苦手と感じている人も、英語をさらに磨きたい人も、英語の習熟度と関係なく、英語の本をよむことを楽しみ、自分の世界を広げ見識を深めてもらいたい。講義形式の授業ではなく、学生個人個人が自分のレベルに応じた本を読むことで授業が進んでいきます。積極的な授業参加を望みます。授業の前にリーディングラボで本を二冊借りておいてください。提出物は期限を守るようにしてください。

キーワード

(1)Pleasure in reading (2)Pleasure in sharing (3)Pleasure in presenting

事前学習（予習）

リーディングラボで本を借りておいてください。

復習についての指示

授業で読みかけた本を最後まで読み、読書記録をつけましょう。次回提出してもらいます。

授業計画

1. オリエンテーション／ジャーナル記載方法、ジャンル区分／WPM計測／読書経験／リーディング・ラボ案内
2. 読書とリーディングアクティビティ (1)
3. 読書とリーディングアクティビティ (2)
4. 読書とリーディングアクティビティ (3)
5. 読書とリーディングアクティビティ (4)／プレゼンテーション1準備
6. プレゼンテーション1／読書とリーディングアクティビティ (5)
7. 読書とリーディングアクティビティ (6)
8. 読書とリーディングアクティビティ (7)
9. 読書とリーディングアクティビティ (8)
10. 読書とリーディングアクティビティ (9)／プレゼンテーション2準備
11. プレゼンテーション2／読書とリーディングアクティビティ (10)
12. 読書とリーディングアクティビティ (11)
13. 読書とリーディングアクティビティ (12)
14. 読書とリーディングアクティビティ (13)／プレゼンテーション3準備
15. プレゼンテーション3

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席点:30% (2)平常点:40% (3)発表点:30%

学期末試験は筆記ではなく、プレゼンテーション形式の実技試験になります。

担当者：森 容子

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、スムーズに英文が読めるよう、音読練習も重視する。

2. 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生とし必要な基礎英語読解力を養成する。

受講生に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出することを期待する。

キーワード

(1)ボキャブラリー (2)文法演習 (3)音読 (4)多読 (5)読解

事前学習（予習）

テキストの音読、語彙調べ

復習についての指示

語彙の復習、音読

授業計画

1. オリエンテーション、授業シラバスの説明、ブックレポートについて
2. 第1章の読解、文法演習
3. 第2章の読解、文法演習
4. 第3章の読解、文法演習
5. キャッチアップ
6. 第4章の読解、文法演習
7. 第5章の読解、文法演習
8. 第6章の読解、文法演習
9. キャッチアップ
10. 第7章の読解、文法演習
11. 第8章の読解、文法演習
12. 第9章の読解、文法演習
13. 第10章の読解、文法演習
14. 第11章の読解、文法演習
15. 期末試験

教科書

Sandra Heyer 『More True Stories: A High-Beginning Reader (3rd Edition)』 (Pearson Education ESL)

評価方法

(1) 期末試験:50% (2) 平常点:50%:(小テスト、宿題、授業参加態度)

担当者：吉牟田 聡美, 鈴木 政浩

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この授業では、様々なタイプの記事を読んでいく。読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、スムーズに英文が読めるよう、音読練習も重視する。

2. 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生としての基礎英語読解力を養成する。

受講生に対する要望

辞書は必ず持参してください。積極的に授業に参加し、宿題を忘れないこと。

キーワード

(1)ボキャブラリー (2)文法演習 (3)音読 (4)多読(ブックレポート) (5)読解

事前学習(予習)

教科書のCDを繰り返し聴く。

復習についての指示

教科書の会話／リーディングの音読と文法の復習を行う。

授業計画

1. オリエンテーション、授業シラバスの説明、ブックレポートについて
2. 天候に関する読解練習と語彙の学習
3. 天候に関する読解練習と語彙の学習
4. 文法演習
5. 日常生活に関する読解練習と語彙の学習
6. 日常生活に関する読解練習と語彙の学習
7. 家族に関する読解練習と語彙の学習
8. 家族に関する読解練習と語彙の学習
9. 文法練習
10. 住宅に関する読解練習と語彙の学習
11. 住宅に関する読解練習と語彙の学習
12. ショッピングに関する読解練習と語彙の学習
13. ショッピングに関する読解練習と語彙の学習
14. 外食に関する読解練習と語彙の学習
15. まとめ、期末試験

教科書

S. Iannuzzi & R. Weiss 『Read All About It, Starter』 (Oxford)

評価方法

(1) 期末試験: 50% (2) 平常点: 50%: 授業の作業、小テスト、宿題、授業参加態度

担当者：メイス みよ子

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルを学習する。また、リーディングのテーマに対する自分の意見を正しい英文で書けるようにする。より自然な発音で音読出来るよう、指導していく。

2. 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習、多読の練習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。また、自分の意見を英語で述べる発信型の授業を目指す。

受講生に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出することを期待する。

キーワード

(1)ボキャブラリー (2)文法演習 (3)多読〔ブックレポート〕 (4)読解 (5)ライティング

事前学習（予習）

テキストを数回読んでおくこと。語彙調べの宿題を済ませておくこと。

復習についての指示

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習。

授業計画

1. Orientation, 授業について, Pretest
2. be 動詞, Unit 1: Love at First Sight
3. 一般動詞, Unit 1 challenge
4. 命令文, Unit 2 The Tsunami
5. 現在進行形, Unit 2 challenge
6. 過去形, Unit 3 More Alike Than Different
7. 過去形, Unit 3 challenge
8. 助動詞, Unit 4 Healthy Again
9. 助動詞, Unit 4 challenge
10. 前置詞, Unit 5 If You Have Time
11. 受動態, Unit 5 challenge
12. 受動態, Unit 6 The Buried City
13. To 不定詞, Unit 6 challenge
14. To 不定詞, Review
15. Exam

教科書

Sandra Heyer 『Even More True Stories』 (Pearson Education)

評価方法

(1) 期末試験:50% (2) 平常点:50%:(ブックレポート、オンラインリーディングレポート、授業の作業、小テスト、宿題、参加態度)

担当者：島田 洋子, チェンバレン 暁子, 中川 英幸, メイス みよ子

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、リーディングのテーマに対する自分の意見を正しい英文で書けるようにする。より自然な発音で音読出来るよう、指導していく。

2. 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生とし必要な基礎英語読解力を養成する。

受講生に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出することを期待する。

キーワード

(1)ボキャブラリー (2)文法演習 (3)音読 (4)多読 (ブックレポート) (5)読解

事前学習 (予習)

ボキャブラリーの予習、ECA Goalsの各文法項目を予習しておく。

復習についての指示

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習

授業計画

1. オリエンテーション、授業シラバスの説明、ブックレポートについて、プリテストの実施
2. Unit 1: A Special Teacher / be 動詞について、テキスト練習問題
3. Unit 1: A Difficult Beginning / 一般動詞について、テキスト練習問題
4. Unit 2: For the Love of Children / 命令文について、テキストの練習問題
5. Unit 2: The Test Part 1 & 2 / 現在進行形について、テキストの練習問題
6. Unit 3: Hearts and Hands Build Homes / 過去形について、テキストの練習問題
7. Unit 3: E-Z Home / 過去形について、テキストの練習問題
8. Unit 4: What's Cooking / 助動詞について、テキストの練習問題
9. Unit 4: Knoxville, Tennessee / 助動詞について、テキストの練習問題
10. Unit 5: Dressing Down / 前置詞について、テキストの練習問題
11. Unit 5: Coolhunters / 受動態について、テキストの練習問題
12. Unit 6: No More Pain / 受動態について、テキストの練習問題
13. Unit 6: An Apple a Day / to不定詞について、テキストの練習問題
14. まとめ、to不定詞について、テキストの練習問題
15. 期末試験

教科書

Lori Howard 『Read All About It Book 2 (Oxford Picture Dictionary Series)』 (Oxford Univ Pr (Sd))

評価方法

(1) 期末試験: 50% (2) 平常点: 50% (ブックレポート、授業の作業、小テスト、参加態度、宿題)

担当者：チェンバレン 暁子、島田 洋子、遠藤 由佳里、中川 英幸

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、正しい発音、イントネーションで英文を読めるよう、音読の練習も行う。

2. 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。

受講生に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出することを期待する。

キーワード

(1)ボキャブラリー (2)文法演習 (3)音読 (4)多読（ブックレポート） (5)読解

事前学習（予習）

ボキャブラリーの予習、ECA Goalsの各文法項目を予習しておく。

復習についての指示

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習

授業計画

1. オリエンテーション、授業シラバスの説明、ブックレポートについて、プリテストの実施
2. Unit 1: Money Troubles / be 動詞について、テキスト練習問題
3. Unit 1: Money Troubles / 一般動詞について、テキスト練習問題
4. Unit 2: Seeing Double / 命令文について、テキストの練習問題
5. Unit 2: Seeing Double / 現在進行形について、テキストの練習問題
6. Unit 3: Home Sweet Home / 過去形について、テキストの練習問題
7. Unit 3: Home Sweet Home / 過去形について、テキストの練習問題
8. Unit 4: Food for Thought / 助動詞について、テキストの練習問題
9. Unit 4: Food for Thought / 助動詞について、テキストの練習問題
10. Unit 5: Comfortable Clothing / 前置詞について、テキストの練習問題
11. Unit 5: Comfortable Clothing / 受動態について、テキストの練習問題
12. Unit 5: Comfortable Clothing / 受動態について、テキストの練習問題
13. Unit 6: Heavenly Bodies / to不定詞について、テキストの練習問題
14. Unit 6: Heavenly Bodies / to不定詞について、テキストの練習問題
15. 期末試験

教科書

Sandra Heyer 『EASY TRUE STORIES (2E) STUDENT BOOK + MP3』
(Pearson Education ESL)

評価方法

(1)期末試験:50% (2)平常点:50%:(授業の作業、小テスト、参加態度、宿題)

担当者：吉牟田 聡美，島田 洋子，メイス みよ子，チェンバレン 暁子

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

様々なタイプの記事を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、スムーズに英文が読めるよう、音読練習も重視する。

2. 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生としての基礎英語読解力を養成する。

受講生に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出することを期待する。

キーワード

(1)ボキャブラリー (2)文法演習 (3)音読 (4)多読 (ブックレポート) (5)読解

事前学習 (予習)

ボキャブラリーの予習、ECA Goalsの各文法項目を予習しておく。

復習についての指示

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習

授業計画

1. オリエンテーション、授業シラバスの説明、ブックレポートについて、プリテストの実施
2. be 動詞について、テキスト練習問題
3. 一般動詞について、テキスト練習問題
4. 命令文について、テキストの練習問題
5. 現在進行形について、テキストの練習問題
6. 過去形について、テキストの練習問題
7. 過去形について、テキストの練習問題
8. 助動詞について、テキストの練習問題
9. 助動詞について、テキストの練習問題
10. 前置詞について、テキストの練習問題
11. 受動態について、テキストの練習問題
12. 受動態について、テキストの練習問題
13. to不定詞について、テキストの練習問題
14. to不定詞について、テキストの練習問題
15. まとめ、期末試験

教科書

Sandra Heyer 『Easy True Stories: A Picture-Based Beginning Reader』 (Longman Pub Group)

評価方法

- (1) 期末試験:50% (2) 平常点:50%:授業の作業、小テスト、授業態度

担当者：メイス みよ子, 島田 洋子

開設期：秋学期/春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

様々なタイプの記事を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、スムーズに英文が読めるよう、音読練習も重視する。

2. 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生としての基礎英語読解力を養成する。

受講生に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出することを期待する。

キーワード

(1)ボキャブラリー (2)文法演習 (3)音読 (4)多読 (ブックレポート) (5)読解

事前学習 (予習)

ボキャブラリーの予習、ECA Goalsの各文法項目を予習しておく。

復習についての指示

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習

授業計画

1. オリエンテーション、授業シラバスの説明、ブックレポートについて、プリテストの実施
2. be 動詞について、テキスト練習問題
3. 一般動詞について、テキスト練習問題
4. 命令文について、テキストの練習問題
5. 現在進行形について、テキストの練習問題
6. 過去形について、テキストの練習問題
7. 過去形について、テキストの練習問題
8. 助動詞について、テキストの練習問題
9. 助動詞について、テキストの練習問題
10. 前置詞について、テキストの練習問題
11. 受動態について、テキストの練習問題
12. 受動態について、テキストの練習問題
13. to不定詞について、テキストの練習問題
14. to不定詞について、テキストの練習問題
15. まとめ、期末試験

教科書

Sandra Heyer 『Easy True Stories: A Picture-Based Beginning Reader』 (Longman Pub Group)

評価方法

- (1) 期末試験:50% (2) 平常点:50%:授業の作業、小テスト、授業態度

担当者：鈴木 政浩

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目/必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、スムーズに英文が読めるよう、音読練習も重視する。

2. 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。

受講生に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出することを期待する。

キーワード

(1)ボキャブラリー (2)多読 (3)音読 (4)読解 (5)文法演習

事前学習（予習）

テキストの音読、語彙調べ

復習についての指示

語彙の復習、音読

授業計画

1. オリエンテーション、授業シラバスの説明、ブックレポートについて
2. 第12章の読解、文法演習
3. 第13章の読解、文法演習
4. 第14章の読解、文法演習
5. キャッチアップ、文法演習
6. 第15章の読解、文法演習
7. 第16章の読解、文法演習
8. 第17章の読解、文法演習
9. 第18章の読解、文法演習
10. キャッチアップ
11. 第19章の読解、文法演習
12. 第20章の読解、文法演習
13. 第21章の読解、文法演習
14. 第22章の読解、文法演習
15. 期末試験

教科書

Sandra Heyer 『More True Stories: A High-Beginning Reader (3rd Edition)』 (Pearson Education ESL)

評価方法

(1) 期末試験:50% (2) 平常点:50%:(小テスト、宿題、授業参加態度)

担当者：メイス みよ子

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルを学習する。また、リーディングのテーマに対する自分の意見を正しい英文で書けるようにする。より自然な発音で音読出来るよう、指導していく。

2. 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。

受講生に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出することを期待する。

キーワード

(1)ボキャブラリー (2)文法演習 (3)多読〔ブックレポート〕 (4)読解 (5)ライティング

事前学習（予習）

テキストを読んでおくこと。語彙調べの宿題を済ませておくこと。

復習についての指示

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習。

授業計画

1. Orientation、授業シラバスの説明、Pretest の実施
2. be動詞の復習、Unit 9 Misunderstanding
3. 一般動詞の復習、Unit 9 challenge
4. Unit 10 Flight 5390
5. 時制の復習、Unit 10 challenge
6. 関係代名詞 Unit 11 A Killer in the Back Seat
7. Unit 11 challenge
8. 接続詞、Unit 12 The Treasure Hunt
9. 助動詞の復習、Unit 12 challenge
10. 句動詞の表現、Unit 13 The Plain People
11. 現在完了形、Unit 13 challenge
12. 現在完了形、Unit 14 Does Death Take A Holiday?
13. If を使った条件文、Unit 15 Sucker Day
14. Unit 16 Love Under Siege
15. 期末試験

教科書

Sandra Heyer 『Even More True Stories』（Pearson Education）

評価方法

- (1) 期末試験：50% (2) 平常点：50%：(授業の作業、小テスト、ブックレポート、オンラインリーディングレポート、宿題、参加態度)

担当者：島田 洋子, メイス みよ子

開設期：秋学期/春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、リーディングのテーマに対する自分の意見を正しい英文で書けるようにする。より自然な発音で音読出来るよう、指導していく。

2. 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。

受講生に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出することを期待する。

キーワード

(1)ボキャブラリー (2)文法演習 (3)多読 (ブックレポート) (4)音読 (5)読解

事前学習 (予習)

ボキャブラリーの予習、ECA Goalsの各文法項目を予習しておく。

復習についての指示

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習

授業計画

1. オリエンテーション、授業シラバスの説明、プリテストの実施
2. Unit 7: Friends in Need / be動詞の復習、テキストの練習問題
3. Unit 7: El Nino / 一般動詞の復習、テキストの練習問題
4. Unit 8: Traveling Through Time / 復習
5. Unit 8: Get Out of Your Car / !時制の復習、テキストの練習問題
6. Unit 9: A Woman's Place / 関係代名詞について、テキストの練習問題
7. Unit 9: Encyclopedia of Woman in Science
8. Unit 10: Kudzu / 接続詞について、テキストの練習問題
9. Unit 10: The Real Flower / 助動詞の復習、テキストの練習問題
10. Unit 11: Work for the Future / 句動詞の表現について、テキストの練習問題
11. Unit 11: Make It Your Business
12. Unit 12: Dream Adventures, Scuba Diving / 現在完了について、テキストの練習問題
13. まとめ、現在完了
14. まとめ、Ifを使った条件文について、テキストの練習問題
15. 試験

教科書

Lori Howard 『Read All About It Book 2 (Oxford Picture Dictionary Series)』 (Oxford Univ Pr (Sd))

評価方法

(1) 期末試験: 50% (2) 平常点: 50% (授業の作業、小テスト、参加態度、宿題)

担当者：中川 英幸

開設期：秋学期/春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、正しい発音、イントネーションで英文を読むよう、音読の練習も行う。

2. 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。

受講生に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出することを期待する。

キーワード

(1)ボキャブラリー (2)文法演習 (3)音読 (4)多読(ブックレポート) (5)読解

事前学習(予習)

ボキャブラリーの予習、ECA Goalsの各文法項目を予習しておく。

復習についての指示

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習

授業計画

1. オリエンテーション、授業シラバスの説明、プリテストの実施
2. Unit 7: Mall of America, be動詞の復習
3. Unit 7: Problems in Malls, 一般動詞の復習
4. Unit 8: A New World of Transportation
5. Unit 8: Poetry in Motion, 時制の復習
6. Unit 9: A Different Child, 関係代名詞
7. Unit 9: Circus School,
8. Unit 10: Alex, 接続詞
9. Unit 10: Koko, Gorilla Saves Boy, 助動詞の復習
10. Unit 11: How to Find an Occupation You Love, 句動詞の表現について
11. Unit 11: Dream Benefits
12. Unit 12: Bebe's Early Life現在完了
13. Unit 12: Babe's Dream Comes True, TV Sports Fans, 現在完了
14. Ifを使った条件文, まとめ
15. 、試験

教科書

Lori Howardt (Oxford Picture D 『Read All About It, Book 1』 (Oxford Univ Pr (Sd))

評価方法

(1)期末試験:50% (2)平常点:50%:(授業の作業、小テスト、参加態度、宿題)

担当者：吉牟田 聡美, チェンバレン 暁子

開設期：秋学期/春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルを学習する。また、スムーズに英文が読めるよう、音読練習も重視する。

2. 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。

受講生に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出することを期待する。

キーワード

(1)ボキャブラリー (2)文法演習 (3)音読 (4)多読(ブックレポート) (5)読解

事前学習(予習)

ボキャブラリーの予習、ECA Goalsの各文法項目を予習しておく。

復習についての指示

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習

授業計画

1. オリエンテーション、授業シラバスの説明、プリテストの実施
2. Unit 11: A Problem with Monkeys / be動詞の復習、テキストの練習問題
3. Unit 12: The Kind Waitress一般動詞の復習、テキストの練習問題
4. Unit 13: No More Housework!
5. Unit 14: Alone for 43 Years / 時制の復習、テキストの練習問題
6. Unit 15: The Lawn Chair Pilot / 関係代名詞について、テキストの練習問題
7. Unit 16: Rent-A-Family / 関係代名詞について、テキストの練習問題
8. Unit 17: The Power of Love / 接続詞について、テキストの練習問題
9. Unit 18: I Think I'm Your Mother / 助動詞の復習、テキストの練習問題
10. Unit 19: The Escape from Cuba / 句動詞の表現について、テキストの練習問題
11. Unit 20: The Cheap Apartment / 句動詞の表現について、テキストの練習問題
12. 現在完了、Catch-up
13. 現在完了、まとめ
14. Ifを使った条件文について、まとめ
15. 試験

教科書

Sandra Heyer 『Easy True Stories: A Picture-Based Beginning Reader』 (Longman Pub Group)

評価方法

(1)期末試験:50% (2) 平常点:50%:(授業の作業、小テスト、宿題、授業参加態度)

担当者：島田 洋子

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルを学習する。また、スムーズに英文が読めるよう、音読練習も重視する。

2. 学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生として必要な基礎英語読解力を養成する。

受講生に対する要望

テキスト、辞書は必ず持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を期限内に提出することを期待する。

キーワード

(1)ボキャブラリー (2)文法演習 (3)音読 (4)多読(ブックレポート) (5)読解

事前学習(予習)

ボキャブラリーの予習、ECA Goalsの各文法項目を予習しておく。

復習についての指示

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習

授業計画

1. オリエンテーション、授業シラバスの説明、プリテストの実施
2. Unit 11: A Problem with Monkeys / be動詞の復習、テキストの練習問題
3. Unit 12: The Kind Waitress一般動詞の復習、テキストの練習問題
4. Unit 13: No More Housework!
5. Unit 14: Alone for 43 Years / 時制の復習、テキストの練習問題
6. Unit 15: The Lawn Chair Pilot / 関係代名詞について、テキストの練習問題
7. Unit 16: Rent-A-Family / 関係代名詞について、テキストの練習問題
8. Unit 17: The Power of Love / 接続詞について、テキストの練習問題
9. Unit 18: I Think I'm Your Mother / 助動詞の復習、テキストの練習問題
10. Unit 19: The Escape from Cuba / 句動詞の表現について、テキストの練習問題
11. Unit 20: The Cheap Apartment / 句動詞の表現について、テキストの練習問題
12. 現在完了、Catch-up
13. 現在完了、まとめ
14. Ifを使った条件文について、まとめ
15. 試験

教科書

Sandra Heyer 『Easy True Stories: A Picture-Based Beginning Reader』 (Longman Pub Group)

評価方法

(1)期末試験:50% (2) 平常点:50%:(授業の作業、小テスト、宿題、授業参加態度)

担当者：L. アーノルド

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目/必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目、
中学校教諭一種免許：(共通)必修科目

講義概要

1. 内容

「コミュニケーション・アプローチ」に基づき、学習した文法を活用しながら流暢に会話ができることを主眼におく。会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルの学習に重点をおき、実践的なテーマにおける様々な口語表現や正しい発音を学習しながら会話の練習を行う。

2. 学びの意義と目標

様々な場面において、円滑なコミュニケーションが取れるような英語力を身につけることを目標とする。

受講生に対する要望

毎回参加しよ！

キーワード

(1)コミュニケーション (2)会話 (3)ヴォキャブラリ (4)発音 (5)文法

事前学習（予習）

課題はワークブックのテキスト章「文法、語彙」勉強、完成する。

復習についての指示

テキスト、ワークブックの復習、講師をブログのチェックし、スピーキング練習の参加、スピーキングテストの前に練習する。

授業計画

1. 授業内容説明
2. 生徒達のクラスIDカード作り、挨拶
3. 挨拶・人々の描写、描写の練習・活動
4. スピーキング練習
5. 日課の会話
6. 健康・スポーツの言葉
7. 日課、健康、スポーツ会話の練習・活動
8. スピーキング練習
9. 経験・雑学
10. 経験・雑学の会話
11. 比較対照会話・活動
12. スピーキング練習
13. 中間復習
14. 中間テスト（スピーキング）
15. できることの描写
16. 腕前の描写
17. できること、腕前会話の練習・活動
18. スピーキング練習
19. 時間・日付
20. 好みの選択とお誘い・イベントの会話
21. 好みの選択・お誘い会話の練習・活動
22. スピーキング練習
23. 話・行ふの言葉
24. 話・行ふこと会話の練習・活動
25. ルールのこと・会話
26. スピーキング練習
27. 将来言葉・会話
28. 将来のこと・会話
29. 期末復習
30. 期末試験

教科書

M. ヘルゲセン、S. ブラウン、J. ウィルトシーア 『English Firsthand Success (4E)』 (ピアソン・エデュケーション) M. ヘルゲセン、S. ブラウン、J. ウィルトシーア 『English Firsthand Success Workbook』 (ピアソン・エデュケーション)

評価方法

出席状況・授業態度・課題 25% (80%以上出席が) スピーキング練習の参加 25% スピーキングテスト (2回) 25% 期末試験 25%

担当者：M. サベット

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目、
中学校教諭一種免許：(共通)必修科目

講義概要

1. 内容

この授業では受講生が自分の考えや意見を効果的に英語で表現できるよう指導していく。

2. 学びの意義と目標

様々な場面において実践できるだけの必要な英語運用能力を身につけ、自信をもって英語でコミュニケーションができるようになることを目指す。

受講生に対する要望

語学の授業においては出席が重要である。授業では、学生の積極的な参加が強く求められる。

キーワード

(1)Communication (2)Strategies (3)Culture (4)Fluency (5)Interaction

事前学習 (予習)

Some speaking and discussion activities require prior preparation. Therefore, students are expected to prepare for these activities beforehand.

復習についての指示

Additional writing and listening tasks will be assigned in order to reinforce materials covered in the class.

授業計画

1. Class policy and course introduction
2. Module 1: Personal information
3. Exchanging personal information about self and family
4. Exchanging personal information about school and work
5. Exchanging personal information about friends
6. Summary and review
7. Module Two: Personality traits
8. Talking about personality traits
9. Discussing how we relate to others
10. Discussing how we relate to others
11. Summary and review
12. Module Three: Routines
13. Talking about daily routines
14. Talking about what we do for fun
15. Talking about what we do for fun
16. Summary and review
17. Preparation for mid-term presentation
18. Mid-term presentation
19. Module Four: Expressing opinions and preferences
20. Making comparisons and stating opinions
21. Making comparisons and stating opinions
22. Making comparisons and stating opinions
23. Summary and review
24. Module Five: Asking for and giving advice; making requests
25. Asking for and giving advice when facing difficulty
26. Making requests
27. Making requests
28. Summary and review
29. Preparation for final presentation
30. Final presentation

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)Attendance and participation:40% (2)Homework:30% (3)Presentations:30%

担当者：K. J. マクレン

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目、
中学校教諭一種免許：(共通)必修科目

講義概要

1. 内容

英語学習をするにあたって、「コミュニケーション・アプローチ」を採用する。流暢に話すことと必要な文法を意識することに焦点をあわせる。従って、会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルを強調し、学習する内容に合わせた実践的なテーマを取り入れている。

2. 学びの意義と目標

総合的な目標は、様々な場面において実践できるだけの必要な英語力を身につけるレベルである。

受講生に対する要望

Students should come to class everyday, be prepared and engage actively using English.

キーワード

(1)communication (2)personal experiences (3)free time (4)past experiences (5)future plans

事前学習（予習）

Students should have the homework finished before the next class begins. They should look up new words, read through the next lesson, and can ask the teacher for help outside of class.

復習についての指示

Students should review material covered in a class after class and then try to prepare for the next class. They should review previously learned words, re-read previous material, and consult the teacher if they need further advice.

授業計画

1. Class policy and procedures: classroom English & *Pret est*
2. EF Unit 0: Introductions in English
3. EF Unit 1: Meeting people
4. EF Unit 1 cont: Giving personal information
5. EF Unit 2: Describing people
6. EF Unit 2 cont: Talking about family
7. EF Unit 2 cont: Comparing people and families
8. Issues Unit 1: Appearances
9. Issues Unit 3: Habits
10. EF Unit 3: Daily routines
11. EF Unit 3 cont: Personal schedules
12. Issues Unit 4: Beauty contest
13. Issues Unit 5: Who pays?
14. Review for Mid-term Test
15. Mid-term Test (Speaking)
16. EF Unit 4: Locations
17. EF Unit 4 cont: more locations
18. EF Unit 5: Giving directions
19. EF Unit 5 cont: more directions
20. EF Unit 5 cont: directions and maps
21. Issues Unit 6: Feelings and cultural differences
22. Issues Unit 7: Family Values
23. EF Unit 6: Past events
24. EF Unit 6 cont: Talking about what happened
25. Issues Unit 8: Meeting people online
26. Issues Unit 9: A letter from Grandma
27. EF pages 60-63
28. Review For Final Test
29. Review for Final Test
30. Final Test (Speaking)

教科書

Marc Helgeson, et. al. 『English Firsthand 1, Student Book』 (Pearson Longman) Marc Helgeson, et. al. 『English Firsthand 1, Student Workbook』 (Pearson Longman) Richard Day, et. al. 『Impact Issues 1』 (Pearson Longman)

評価方法

(1)Attendance:20% (2)Homework & Participation:20% (3)Mid-term tests:30% (4)Final Tests:30%

担当者：G. M. レガラ

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目,
中学校教諭一種免許：(共通)必修科目,
小学校教諭一種免許：必修科目

講義概要

1. 内容

This class uses the communicative approach by using functional English in everyday life situations. We will use a variety of activities such as roleplay and writing.

2. 学びの意義と目標

The goal of our class is to be able to communicate confidently and clearly in everyday situations.

受講生に対する要望

Students should be prompt to class and do their homework. Also, students should be open to try different types of activities.

キーワード

(1)communicate (2)personal information (3)interests (4)past experiences (5)future plans

事前学習 (予習)

Students should review the material from the previous class and preview the next topic.

復習についての指示

Students should review the material that has been discussed and expanded in class. Students should do the homework as assigned and bring any questions to the teacher in the next lesson.

授業計画

1. Class introduction: Procedures and grading policy
2. Theme 1: Self-introduction and personal information
3. Formal and informal introductions
4. Using formal and informal introductions
5. How to ask/give personal information
6. Describe your family
7. Mini review of theme unit
8. Theme 2: Routine
9. Asking and answering about schedule
10. Asking and answering about schedule, continued
11. Making plans with someone
12. Making plans with someone, continued
13. Review for midterm
14. Midterm
15. Theme 3: Interests/Free Time
16. Stores - What each store offers
17. Giving directions to places
18. Entertainment, interests/hobbies, shopping
19. Shopping, continued
20. Listening to music
21. Theme 4: Past experiences
22. Personal history
23. Past experiences - childhood
24. Past experiences - junior and senior high school
25. Past vacations
26. Future plans
27. Occupations - What job do you want?
28. Occupations - Job-search, interview
29. Review for final exam
30. Final exam

教科書

Marc Helgesen, Steven Brosn, John Wiltshier 『ENGLISH FIRST HAND (4E) 1: STUDENT BOOK+CD (2)』 (ピアソン・エデュケーション) Marc Helgesen, Steven Brosn, John Wiltshier 『ENGLISH FIRST HAND (4E) 1: WORKBOOK』 (ピアソン・エデュケーション)

評価方法

(1)Tests:40% (2)Class Participation:30% (3)Homework:20% (4)Attendance:10%

担当者：L. アーノルド

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目、
中学校教諭一種免許：（共通）必修科目

講義概要

1. 内容

「コミュニケーション・アプローチ」に基づき、学習した文法を活用しながら流暢に会話ができることを主眼におく。会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルの学習に重点をおき、実践的なテーマにおける様々な口語表現や正しい発音を学習しながら会話の練習を行う。

2. 学びの意義と目標

様々な場面において、円滑なコミュニケーションが取れるような英語力を身につけることを目標とする。

受講生に対する要望

毎回参加しよ！

キーワード

(1)コミュニケーション (2)会話 (3)ヴォキャブラリ (4)発音 (5)文法

事前学習（予習）

課題はワークブックのテキスト章「文法、語彙」勉強、完成する。

復習についての指示

テキスト、ワークブックの復習、講師をブログのチェックし、スピーキング練習の参加、スピーキングテストの前に練習する。

授業計画

1. 授業内容説明
2. 生徒達のクラスIDカード作り、挨拶
3. 挨拶・人々の描写、描写の練習・活動
4. スピーキング練習
5. 日課の会話
6. 健康・スポーツの言葉
7. 日課、健康、スポーツ会話の練習・活動
8. スピーキング練習
9. 経験・雑学
10. 経験・雑学の会話
11. 比較対照会話・活動
12. スピーキング練習
13. 中間復習
14. 中間テスト（スピーキング）
15. できることの描写
16. 腕前の描写
17. できること、腕前会話の練習・活動
18. スピーキング練習
19. 時間・日付
20. 好みの選択とお誘い・イベントの会話
21. 好みの選択・お誘い会話の練習・活動
22. スピーキング練習
23. 話・行ふの言葉
24. 話・行ふこと会話の練習・活動
25. ルールのこと・会話
26. スピーキング練習
27. 将来言葉・会話
28. 将来のこと・会話
29. 期末復習
30. 期末試験

教科書

M. ヘルゲセン、S. ブラウン、J. ウィルトシーア 『English Firsthand Success (4E)』（ピアソン・エデュケーション）
M. ヘルゲセン、S. ブラウン、J. ウィルトシーア 『English Firsthand Success Workbook』（ピアソン・エデュケーション）

評価方法

出席状況、授業態度・課題 25%（80%以上出席が） スピーキング練習の参加 25%スピーキングテスト（2回）25% 期末試験 25%

担当者：チェンバレン 暁子

開設期：秋学期/春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目、
中学校教諭一種免許：(共通)必修科目

講義概要

1. 内容

「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、Speaking & Listeningの練習を行い、自然な英語会話が出来るようにすることを主眼におく。様々な実践的なテーマの中で必要な英語表現や語彙を学んでいく。

2. 学びの意義と目標

様々な場面において、実際に使える英語力を身につけていく。

受講生に対する要望

積極的な授業参加、そして課題や復習を行うこと。

キーワード

(1) Speaking & Listening力の強化 (2) 文法と語彙力の強化

事前学習 (予習)

授業で行うユニットを前もって予習する。また、宿題を行う。

復習についての指示

授業で学んだ様々な表現や語彙を復習する。教科書付属のCDを用いて会話を復習する。

授業計画

1. 授業について、プリテスト
2. Unit 1 Meeting People
3. Unit 1 Countries and Nationalities
4. Unit 2 Family
5. Unit 2 Describing People
6. Unit 3 In a Classroom
7. Unit 3 In an Electronics Store
8. Unit 4 Everyday Activities
9. Unit 4 Places
10. Unit 5 Foods and Drinks
11. Unit 5 Snacks
12. Unit 6 Housing
13. Unit 6 In an Apartment
- 14.スピーキングテスト
15. Unit 7 Free Time Activities
16. Unit 7 Popular Sports
17. Unit 8 Life Events
18. Unit 8 Plans for the Weekend
19. Unit 9 Movies
20. Unit 9 TV Programs
21. Unit 10 Health Problems
22. Unit 10 Getting Better
23. Unit 11 On Vacation
24. Unit 11 Past Events
25. Unit 12 Telephone Language
26. Unit 12 Things to Do
27. まとめ
- 28.スピーキングテスト
29. 総復習
30. 期末試験

教科書

Susan Stempleski/ Lynne Robertson 『Talk Time 1 Student Book with Audio CD』 (Oxford University Press)

評価方法

(1)出席/参加:20% (2)小テスト:20% (3)宿題:20% (4)Speaking Test:20% (5)期末試験:20%

担当者：島田 洋子

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目、
中学校教諭一種免許：(共通)必修科目

講義概要

1. 内容

「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、Speaking & Listeningの練習を行い、自然な英語会話が出来るようにすることを主眼におく。様々な実践的なテーマの中で必要な英語表現や語彙を学んでいく。

2. 学びの意義と目標

様々な場面において、実際に使える英語力を身につけていく。

受講生に対する要望

積極的な授業参加、そして課題や復習を行うこと。

キーワード

(1) Speaking & Listening力の強化 (2) 文法と語彙力の強化

事前学習 (予習)

授業で行うユニットを前もって予習する。また、宿題を行う。

復習についての指示

授業で学んだ様々な表現や語彙を復習する。教科書付属のCDを用いて会話を復習する。

授業計画

1. 授業について、プリテスト
2. Unit 1 Meeting People
3. Unit 1 Countries and Nationalities
4. Unit 2 Family
5. Unit 2 Describing People
6. Unit 3 In a Classroom
7. Unit 3 In an Electronics Store
8. Unit 4 Everyday Activities
9. Unit 4 Places
10. Unit 5 Foods and Drinks
11. Unit 5 Snacks
12. Unit 6 Housing
13. Unit 6 In an Apartment
- 14.スピーキングテスト
15. Unit 7 Free Time Activities
16. Unit 7 Popular Sports
17. Unit 8 Life Events
18. Unit 8 Plans for the Weekend
19. Unit 9 Movies
20. Unit 9 TV Programs
21. Unit 10 Health Problems
22. Unit 10 Getting Better
23. Unit 11 On Vacation
24. Unit 11 Past Events
25. Unit 12 Telephone Language
26. Unit 12 Things to Do
27. まとめ
- 28.スピーキングテスト
29. 総復習
30. 期末試験

教科書

Susan Stempleski/ Lynne Robertson 『Talk Time 1 Student Book with Audio CD』 (Oxford University Press)

評価方法

(1)出席/参加:20% (2)小テスト:20% (3)宿題:20% (4)Speaking Test:20% (5)期末試験:20%

担当者：中川 英幸

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目、
 中学校教諭一種免許：(共通)必修科目、
 小学校教諭一種免許：必修科目

講義概要

1. 内容

「コミュニケーション・アプローチ」に基づき、学習した文法を活用しながら流暢に会話ができることを主眼におく。会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルの習得に重点をおき、実践的なテーマで様々な口語表現や正しい発音を学習しながら、会話の練習を行う。

2. 学びの意義と目標

様々な場面において、円滑なコミュニケーションが取れるための英語力を身につけることを目標とする。

受講生に対する要望

授業に毎回参加すること。辞書を必ず授業に持参すること。

キーワード

(1)スピーキング (2)リスニング (3)発音 (4)語彙、文法 (5)コミュニケーション

事前学習（予習）

授業で学習予定のユニットにある、分からない語彙（単語や表現）をあらかじめ調べておくこと。

復習についての指示

教科書、ワークブックの復習をしっかりと行うこと。

授業計画

1. 授業オリエンテーション、Pre-test
2. Unit 1: Meeting people
3. Unit 1: Meeting people
4. Unit 2: Family
5. Unit 2: Family
6. Unit 3: In a classroom
7. Unit 3: In a classroom
8. Unit 4: Everyday activities
9. Unit 4: Everyday activities
10. スピーキングテスト（1回目）
11. Unit 5: Foods and drinks
12. Unit 5: Foods and drinks
13. Unit 6: Housing
14. Unit 6: Housing
15. Unit 7: Free time activities
16. Unit 7: Free time activities
17. Unit 8: Life events
18. Unit 8: Life events
19. スピーキングテスト（2回目）
20. Unit 9: Movies
21. Unit 9: Movies
22. Unit 10: Health problems
23. Unit 10: Health problems
24. Unit 11: On vacation
25. Unit 11: On vacation
26. Unit 12: Telephone language
27. Unit 12: Telephone language
28. 期末試験に向けた総復習
29. 期末試験に向けた総復習
30. 期末試験

教科書

Susan Stempleski 『Talk Time: Everyday English Conversation : Student Book 1 (Talk Time Series)』 (Oxford Univ Pr (Sd))
 Susan Stempleski, Andy London 『Talk Time 1: Everyday English Conversation Test Booklet』 (Oxford Univ Pr (Sd))

評価方法

(1)平常点（出席、授業態度、小テスト、宿題、課題）:50% (2)スピーキングテスト（2回）:25% (3)期末試験:25%

担当者：メイス みよ子

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目、

中学校教諭一種免許：（共通）必修科目、

小学校教諭一種免許：必修科目

講義概要

1. 内容

「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、Speaking & Listeningの練習を行い、自然な英語会話が出来るようにすることを主眼におく。様々な実践的なテーマの中で必要な英語表現や語彙を学んでいく。

2. 学びの意義と目標

様々な場面において、実際に使える英語力を身につけていく。

受講生に対する要望

積極的な授業参加、そして課題や復習を行うこと。

キーワード

(1) Speaking & Listening力の強化 (2) 文法と語彙力の強化

事前学習（予習）

授業で行うユニットを前もって予習する。また、宿題を行う。

復習についての指示

授業で学んだ様々な表現や語彙を復習する。教科書付属のCDを用いて会話を復習する。

授業計画

1. 授業について、プリテスト
2. Unit 1 Meeting People
3. Unit 1 Countries and Nationalities
4. Unit 2 Family
5. Unit 2 Describing People
6. Unit 3 In a Classroom
7. Unit 3 In an Electronics Store
8. Unit 4 Everyday Activities
9. Unit 4 Places
10. Unit 5 Foods and Drinks
11. Unit 5 Snacks
12. Unit 6 Housing
13. Unit 6 In an Apartment
- 14.スピーキングテスト
15. Unit 7 Free Time Activities
16. Unit 7 Popular Sports
17. Unit 8 Life Events
18. Unit 8 Plans for the Weekend
19. Unit 9 Movies
20. Unit 9 TV Programs
21. Unit 10 Health Problems
22. Unit 10 Getting Better
23. Unit 11 On Vacation
24. Unit 11 Past Events
25. Unit 12 Telephone Language
26. Unit 12 Things to Do
27. まとめ
- 28.スピーキングテスト
29. 総復習
30. 期末試験

教科書

Susan Stempleski/ Lynne Robertson 『Talk Time 1 Student Book with Audio CD』 (Oxford University Press)

評価方法

(1)出席/参加:20% (2)小テスト:20% (3)宿題:20% (4)Speaking Test:20% (5)期末試験:20%

担当者：L. アーノルド

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目/必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

「コミュニケーション・アプローチ」に基づき、学習した文法を活用しながら流暢に会話ができることを主眼におく。会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルの学習に重点をおき、実践的なテーマにおける様々な口語表現や正しい発音を学習しながら会話の練習を行う。

2. 学びの意義と目標

様々な場面において、円滑なコミュニケーションが取れるような英語力を身につけることを目標とする。

受講生に対する要望

毎回参加しよう！

キーワード

(1) コミュニケーション (2) 会話 (3) ヴォキャブラリ (4) 発音 (5) 文法

事前学習（予習）

課題はワークブックのテキスト章「文法、語彙」勉強、完成する。

復習についての指示

テキスト、ワークブックの復習、講師のブログをチェックし、スピーキングテストの前に練習する。

授業計画

1. 授業内容説明
2. 生徒達のクラスIDカード作り、クラスルーム英語、挨拶
3. 挨拶・人々の描写、描写の練習、活動
4. スピーキング練習
5. 位置の描写
6. 方向の言葉
7. 位置、方向会話の練習・活動
8. スピーキング練習
9. 映画・コンサート・他のイベントの会話
10. お誘いの言葉
11. イベントのお誘い会話の練習・活動
12. スピーキング練習
13. 中間復習
14. 中間テスト（スピーキング）
15. 商品の描写
16. 買い物・料金の言葉
17. 商品・買い物の好み、会話の練習・活動
18. スピーキング練習
19. 方法の描写
20. 使用・方法の描写
21. 使用方法の練習・活動
22. スピーキング練習
23. 電話、テキストメッセージの言葉・練習
24. テキストメッセージのこと・練習
25. 過去言葉・会話・活動
26. スピーキング練習
27. 将来言葉・会話
28. 将来予定の会話
29. 期末復習
30. 期末試験

教科書

M. ヘルゲセン、S. ブラウン、J. ウィルトシーア 『English Firsthand 1 (4E)』（ピアソン・エデュケーション）
M. ヘルゲセン、S. ブラウン、J. ウィルトシーア、A. グレイ 『English Firsthand 1 Workbook』（ピアソン・エデュケーション）

評価方法

出席状況、授業態度・課題 25%（80%以上出席が）スピーキング練習の参加 25%スピーキングテスト（2回）25% 期末試験 25%

担当者：M. サベット

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この授業では受講生が自分の考えや意見を効果的に英語で表現できるよう指導していく。

2. 学びの意義と目標

様々な場面において実践できるだけの必要な英語運用能力を身につけ、自信をもって英語でコミュニケーションができるようになることを目指す。

受講生に対する要望

語学の授業においては出席が重要である。授業では、学生の積極的な参加が強く求められる。

キーワード

(1)Communication (2)Strategies (3)Culture (4)Fluency (5)Discussion

事前学習（予習）

Some speaking and discussion activities require prior preparation. Therefore, students are expected to prepare for these activities beforehand.

復習についての指示

Additional writing and listening tasks will be assigned in order to reinforce materials covered in the class.

授業計画

1. Class policy and course introduction
2. Module 1: Discussing past experiences
3. Talking about past experiences, memories, and vacations
4. Talking about personal history
5. Talking about personal history
6. Summary and review
7. Module 2: Home lifestyles
8. Talking about cities, neighborhoods, and living environments
9. Comparing neighborhoods and living environments
10. Comparing neighborhoods and living environments
11. Summary and review
12. Module 3: Culture and tradition
13. Talking about cultures, values, and traditions
14. Talking about cultures, values, and traditions
15. Talking about cultures, values, and traditions
16. Summary and review
17. Preparation for mid-term presentation
18. Mid-term presentation
19. Module 4: Global issues
20. Talking about local and global issues
21. Talking about local and global issues
22. Talking about local and global issues
23. Summary and review
24. Module 5: Future plans
25. Discussing near future plans
26. Discussing long term plans and goals
27. Discussing long term plans and goals
28. Summary and review
29. Preparation for final presentation
30. Final presentation

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)Attendance and participation:40% (2)Homework:30% (3)Presentations:30%

担当者：K. J. マクレン

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

英語学習をするにあたって、「コミュニケーション・アプローチ」を採用する。流暢に話すことと必要な文法を意識することに焦点をあわせる。従って、会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルを強調し、学習する内容に合わせた実践的なテーマを取り入れている。

2. 学びの意義と目標

総合的な目標は、様々な場面において実践できるだけの必要な英語力を身につけるレベルである。

受講生に対する要望

Students should come to class everyday, be prepared and engage actively using English.

キーワード

(1)communication (2)personal experiences (3)free time (4)past experiences (5)future plans

事前学習（予習）

Students should have the homework finished before the next class begins. They should look up new words, read through the next lesson, and can ask the teacher for help outside of class.

復習についての指示

Students should review material covered in a class after class and then try to prepare for the next class. They should review previously learned words, re-read previous material, and consult the teacher if they need further advice.

授業計画

1. Introduction and grading policy
2. EF Unit 7: Talking about jobs
3. EF Unit 7 cont: Job qualifications and skills
4. EF Unit 7 cont: Job skills and dream jobs
5. EF Unit 8: Talking about entertainment
6. EF Unit 8 cont: Inviting and suggesting
7. Issues Unit 10: Fan worship
8. Issues Unit 11: Pet peeves
9. EF Unit 9: Talking about the future
10. EF Unit 9 cont: Future plans
11. EF Unit 9 cont: Making our future timeline
12. Issues Unit 12: Close your eyes and see
13. Issues Unit 14: Get a job
14. Review for Mid-term Test
15. Mid-term Test (Speaking)
16. EF Unit 10: Shopping
17. EF Unit 10 cont: Buying and selling things
18. EF Unit 11: Describing processes
19. EF Unit 11 cont: Sequence makers and imperatives
20. EF Unit 11 cont: Talking about things we can do
21. Issues Unit 15: To tell or not to tell
22. Issues Unit 16: The dream
23. EF Unit 12: Talking about music
24. EF Unit 12 cont: Music trends
25. Issues Unit 17: To have or have not
26. Issues Unit 19: Cloning Cyndi
27. EF pages 112-115
28. Review For Final Test
29. Review For Final Test & *Post-test*
30. Final test (Speaking)

教科書

Marc Helgeson, et. al. 『English Firsthand 1, Student Book』 (Pearson Longman) Marc Helgeson, et. al. 『English Firsthand 1, Student Workbook』 (Pearson Longman) Richard Day, et. al. 『Impact Issues 1』 (Pearson Longman)

評価方法

- (1) Attendance:20% (2) Homework & Participation:20% (3) Mid-term Test:30% (4) Final Test:30%

担当者：L. アーノルド

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

「コミュニケーション・アプローチ」に基づき、学習した文法を活用しながら流暢に会話ができることを主眼におく。会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルの学習に重点をおき、実践的なテーマにおける様々な口語表現や正しい発音を学習しながら会話の練習を行う。

2. 学びの意義と目標

様々な場面において、円滑なコミュニケーションが取れるような英語力を身につけることを目標とする。

受講生に対する要望

毎回参加しよう！

キーワード

(1)コミュニケーション (2)会話 (3)ヴォキャブラリ (4)発音 (5)文法

事前学習（予習）

課題はワークブックのテキスト章「文法、語彙」勉強、完成する。

復習についての指示

テキスト、ワークブックの復習、講師のブログをチェックし、スピーキングテストの前に練習する。

授業計画

1. 授業内容説明
2. 生徒達のクラスIDカード作り、クラスルーム英語、挨拶
3. 挨拶・人々の描写、描写の練習、活動
4. スピーキング練習
5. 位置の描写
6. 方向の言葉
7. 位置、方向会話の練習・活動
8. スピーキング練習
9. 映画・コンサート・他のイベントの会話
10. お誘いの言葉
11. イベントのお誘い会話の練習・活動
12. スピーキング練習
13. 中間復習
14. 中間テスト（スピーキング）
15. 商品の描写
16. 買い物・料金の言葉
17. 商品・買い物の好み、会話の練習・活動
18. スピーキング練習
19. 方法の描写
20. 使用・方法の描写
21. 使用方法の練習・活動
22. スピーキング練習
23. 電話、テキストメッセージの言葉・練習
24. テキストメッセージのこと・練習
25. 過去言葉・会話・活動
26. スピーキング練習
27. 将来言葉・会話
28. 将来予定の会話
29. 期末復習
30. 期末試験

教科書

M. ヘルゲセン、S. ブラウン、J. ウィルトシーア 『English Firsthand 1 (4E)』（ピアソン・エデュケーション）
M. ヘルゲセン、S. ブラウン、J. ウィルトシーア、A. グレイ 『English Firsthand 1 Workbook』（ピアソン・エデュケーション）

評価方法

出席状況・授業態度・課題 25%（80%以上出席が）スピーキング練習の参加 25%スピーキングテスト（2回）25% 期末試験 25%

担当者：島田 洋子

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習するとともに、Speaking & Listeningの練習を行い、自然なテーマの中で必要な英語表現や語彙を学んでいく。

2. 学びの意義と目標

様々な場面において実際に使える英語力を身につけていく。

受講生に対する要望

授業には必ず英和辞典（スマホの辞書は不可）を持参し、予習・復習を行う。

キーワード

(1) Speaking&Listening力の強化 (2) 文法と語彙力の強化

事前学習（予習）

授業で行うユニットを前もって予習する。また、宿題を行う。

復習についての指示

授業で学んだ様々な表現や語彙を復習する。教科書付属のCDを用いて会話を復習する。

授業計画

1. Orientation: Class policy and procedures, Pre-test
2. Unit 1 Jobs
3. Unit 1 Daily activities
4. Unit 2 Current activities
5. Unit 2 Feelings
6. Unit 3 People we admire
7. Unit 3 Cities
8. Unit 4 On the weekend
9. Unit 4 On vacation
10. Unit 5 Entertainment
11. Unit 5 Music
12. Unit 6 A city square
13. Unit 6 Public transportation
14. Mid-term Speaking Test
15. Unit 7 At a supermarket
16. Unit 7 Clothes and colors
17. Unit 8 Shops and stores
18. Unit 8 Places around town
19. Unit 9 Hobbies
20. Unit 9 Indoor exercise
21. Unit 10 Travel plans
22. Unit 10 Trip preparations
23. Unit 11 Quantities
24. Unit 11 Cooking
25. Unit 12 Job skills
26. Unit 12 Artistic talents
27. Review
28. Speaking Test
29. Review
30. Final Exam

教科書

Susan Stempleski 『Talk Time 2: Everyday English Conversation (Talk Time Series)』 (Oxford Univ Pr (Sd))

評価方法

- (1) 出席/参加:20% (2) 小テスト:20% (3) 宿題:20% (4) Speaking Test:20% (5) 学期末試験:20%

担当者：チェンバレン 暁子

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

海外旅行や短期留学などで遭遇するであろう様々なシチュエーションで役に立つ会話や表現を学んでゆく。リスニングや会話練習を行い、英語のコミュニケーション能力を高めるための学習を行う。

2. 学びの意義と目標

海外旅行や短期留学などに役立つ事を目的とした英語のコミュニケーション能力を高める。

受講生に対する要望

積極的な授業参加が求められる。授業で学んだ表現を将来使えるように、予習・復習を必ずおこなうこと。授業には必ず辞書を持参すること。

キーワード

(1)スピーキング (2)リスニング (3)旅行英会話 (4)サバイバル英語 (5)英語コミュニケーション

事前学習（予習）

新しく学ぶユニットの知らない単語の意味を辞書で調べておく。

復習についての指示

ワークブックの課題を行う。授業で新しく学んだ単語や表現を復習する。

授業計画

1. Orientation: Class Policy & Procedure の説明
2. Introduction & Where are you from?
3. Unit 1 What's the purpose of your visit?
4. Unit 2 How much is it?
5. Unit 3 When is your next train?
6. Unit 4 The TV is broken
7. Unit 5 What is there to see?
8. Destination: The United States of America
9. Unit 6 I'd like to rent a snowboard
10. Unit 7 Tell me about your country
11. Unit 8 How was your weekend?
12. Unit 9 Does it hurt?
13. Unit 10 I'd like a cup of coffee
14. The destination: Canada
15. Mid-term Exam & Speech Test
16. Unit 11 Would you like to visit the Temple of Heaven?
17. Unit 12 I want to send an attachment
18. Unit 13 I'd like a chicken sandwich
19. Unit 14 Go straight along this road
20. Unit 15 Have you been to the Great Wall yet?
21. Destination: China
22. Unit 16 Excuse me. Can you help us?
23. Unit 17 I don't think this is right
24. Unit 18 Keep in touch!
25. Unit 19 Did you pack this bag yourself?
26. Unit 20 Are you going snowboarding again?
27. Destination: Australia
28. Speech test, Presentation
29. Presentation
30. Final Exam

教科書

Angela Buckingham/Lewis Lansford 『Passport 2 Student Book』 (Oxford University Press) Angela Buckingham/ Lewis Lansford 『Passport 2 Work Book』 (Oxford University Press)

評価方法

- (1)出席:20% (2)Speech test:20% (3)Presentation:10% (4)中間&期末試験 :50%

担当者：K. J. マクレン

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

海外旅行や短期留学などで遭遇するであろう様々なシチュエーションで役に立つ会話や表現を学んでゆく。リスニングや会話練習を行い、英語のコミュニケーション能力を高めるための学習を行う。

2. 学びの意義と目標

海外旅行や短期留学などに役立つ事を目的とした英語のコミュニケーション能力を高める。

受講生に対する要望

This class will prepare you for life in an English speaking country. As we say its, "sink or swim!" So, you must participate and practice well!

キーワード

(1)Speaking (2)Listening (3)Travel English (4)Daily communication (5)Events

事前学習（予習）

新しく学ぶユニットの知らない単語の意味を辞書で調べておく。

復習についての指示

ワークブックの課題を行う。授業で新しく学んだ単語や表現を復習する

授業計画

1. Orientation: Class Policy & Procedure
2. Introduction & Where are you from?
3. Unit 1 What's the purpose of your visit?
4. Unit 2 How much is it?
5. Unit 3 When is your next train?
6. Unit 4 The TV is broken
7. Unit 5 What is there to see?
8. Destination: The United States of America
9. Unit 6 I'd like to rent a snowboard
10. Unit 7 Tell me about your country
11. Unit 8 How was your weekend?
12. Unit 9 Does it hurt?
13. Unit 10 I'd like a cup of coffee
14. Destination: Canada
15. Mid-term Speech Test
16. Unit 11 Would you like to visit the Temple of Heaven?
17. Unit 12 I want to send an attachment
18. Unit 13 I'd like a chicken sandwich
19. Unit 14 Go straight along this road
20. Unit 15 Have you been to the Great Wall yet?
21. Destination: China
22. Unit 16 Excuse me. Can you help us?
23. Unit 17 I don't think this is right
24. Unit 18 Keep in touch!
25. Unit 19 Did you pack this bag yourself?
26. Unit 20 Are you going snowboarding again?
27. Destination: Australia
28. Final Speech test
29. Review
30. Final Exam

教科書

Angela Buckingham/Lewis Lansford 『Passport 2 Student Book』 (Oxford University Press) Angela Buckingham/Lewis Lansford 『Passport 2 Work Book』 (Oxford University Press)

評価方法

(1)Attendance:20% (2)Participation & Homework:20% (3)Tests:60%

担当者：遠藤 由佳里，メイス みよ子

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

英文法を基礎から徹底的に復習する。繰り返し練習問題を行い、出題の形式に慣れ、より早く問題を解けるよう指導していく。

2. 学びの意義と目標

基本的な文法を身につけ、英語資格テストで高得点を目指す。

受講生に対する要望

短期間で力をつける集中講座なので、毎回の宿題をきちんとやること。辞書は必ず持参すること。

キーワード

(1) 助動詞 (2) 時制 (3) 受動態 (4) 不定詞 (5) 疑問文

事前学習（予習）

テキストの黄色い解説の部分をよく読んでおく。

復習についての指示

確認テストの復習。文法解説を読み、復習する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 現在形
3. 過去形
4. 未来形
5. 現在完了形 part 1
6. 現在完了形 part 2
7. 前半の復習
8. 助動詞 part 1
9. 助動詞 part 2
10. 受動態 part 1
11. 受動態 part 2
12. 疑問文
13. 不定詞と-ing形
14. 後半の復習
15. 期末試験

教科書

マーフィー, William R. Smalzer, Raymond Murphy, 渡辺 雅仁, 田島 祐規子 『マーフィーのケンブリッジ英文法(中級編)』 (Cambridge University Press)

評価方法

(1) 試験: 50% (2) 平常点: 50% (授業の作業、小テスト、宿題、授業参加態度)

担当者：島田 洋子

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

英文法を基礎から徹底的に復習する。繰り返し練習問題を行い、出題の形式に慣れ、より早く問題を解けるよう指導していく。

2. 学びの意義と目標

基本的な文法を身につけ、英語資格テストで高得点を目指す。

受講生に対する要望

短期間で力をつける集中講座なので、毎回の宿題をきちんとやること。辞書は必ず持参すること。

キーワード

(1)助動詞 (2)時制 (3)受動態 (4)不定詞 (5)疑問文

事前学習（予習）

テキストの黄色い解説の部分をよく読んでおく。

復習についての指示

確認テストの復習。文法解説を読み、復習する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 現在形
3. 過去形
4. 未来形
5. 現在完了形 part 1
6. 現在完了形 part 2
7. 前半の復習
8. 助動詞 part 1
9. 助動詞 part 2
10. 受動態 part 1
11. 受動態 part 2
12. 疑問文
13. 不定詞と-ing形
14. 後半の復習
15. 期末試験

教科書

マーフィー, William R. Smalzer, Raymond Murphy, 渡辺 雅仁, 田島 祐規子 『マーフィーのケンブリッジ英文法(中級編)』 (Cambridge University Press)

評価方法

(1)試験:50% (2)平常点:50%:(授業の作業、小テスト、宿題、授業参加態度)

担当者：メイス みよ子

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

基礎文法の習得を中心に授業を進めて行く。英文法 をしっかりマスターできるよう、繰り返し文法演習を行う。英語資格テスト、公務員試験の準備講座として、長文読解演習も行う。基礎力だけでなく、応用力もつけられるよう指導して行く。

2. 学びの意義と目標

英語資格試験で高得点をとれるよう、基礎文法力、読解力をしっかり身につける事を目標とする。

受講生に対する要望

辞書を必ず持参すること。学習に対する意欲、積極性を重視したい。

キーワード

(1) 5 文型 (2) 時制 (3) 能動態／受動態 (4) 条件文／仮定 (5) 不定詞／動名詞

事前学習（予習）

テキストの解説の部分を読んでおく。

復習についての指示

テキストの練習問題の復習

授業計画

1. コースイントロダクション
2. 5 文型
3. 動詞の特性
4. 単文と複文、句と節
5. 文の種類
6. 時制：現在、過去、未来
7. 時制：進行形と完了形
8. 能動態と受動態
9. 条件と仮定
10. 不定詞
11. 復習
12. 分詞
13. 動名詞
14. 語法
15. 復習、期末試験について

教科書

竹前、菊池、秋山、W. オコナー 『Fundamental English for College Students: Rules of Syntax』 (南雲堂)

評価方法

(1) 試験：50% (2) 平常点：50%：(授業の作業、小テスト、宿題、授業参加態度)

担当者：中川 英幸

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

英語の4技能（聴く、話す、読む、書く）習得の礎となる文法を基礎から着実に理解できるように、1回の授業で1つの文法項目を取り上げ、指導する。

2. 学びの意義と目標

文法を理解することで英語力の土台を築き、さらなる英語能力（リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）の向上につながることを目標とし、より理解を増すことで英語嫌いの克服を目指す。

受講生に対する要望

授業には必ず英和辞書を持参する。課題や宿題は必ず行い、期日に提出する。

キーワード

(1)現在形 (2)過去形 (3)未来形 (4)人称代名詞 (5)主語と動詞の一致

事前学習（予習）

テキストに付属のCDを何度も聴く。

復習についての指示

授業でやったところを復習し、宿題や課題に取り組む。

授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 be動詞
3. Unit 2 一般動詞（現在）
4. Unit 3 一般動詞（過去）
5. Unit 4 進行形
6. Unit 5 未来形
7. Unit 6 助動詞
8. Unit 7 名詞・冠詞
9. Unit 8 代名詞
10. Unit 9 前置詞
11. Unit 10 形容詞・副詞
12. Unit 11 比較
13. Unit 12 命令文・感嘆文
14. 総復習
15. まとめ & 学期末試験

教科書

佐藤 哲三 『First Primer 基礎からの英語入門』（南雲堂）

評価方法

(1)学期末試験:50% (2)平常点（小テスト、宿題、課題、出席、授業態度）:50%

担当者：チェンバレン 暁子

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

英語の4技能（聴く、話す、読む、書く）習得の礎となる文法を基礎から着実に理解できるように、1回の授業で1つの文法項目を取り上げ、指導する。

2. 学びの意義と目標

文法を理解することで英語力の土台を築き、さらなる英語能力（リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）の向上につながることを目標とし、より理解を増すことで英語嫌いの克服を目指す。

受講生に対する要望

授業には必ず英和辞書を持参する。課題や宿題は必ず行い、期日に提出する。

キーワード

(1)現在形 (2)過去形 (3)未来形 (4)人称代名詞 (5)主語と動詞の一致

事前学習（予習）

テキストに付属のCDを何度も聴く。

復習についての指示

授業でやったところを復習し、宿題や課題に取り組む。

授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 be動詞
3. Unit 2 一般動詞（現在）
4. Unit 3 一般動詞（過去）
5. Unit 4 進行形
6. Unit 5 未来形
7. Unit 6 助動詞
8. Unit 7 名詞・冠詞
9. Unit 8 代名詞
10. Unit 9 前置詞
11. Unit 10 形容詞・副詞
12. Unit 11 比較
13. Unit 12 命令文・感嘆文
14. 総復習
15. まとめ & 学期末試験

教科書

佐藤 哲三 『First Primer 基礎からの英語入門』（南雲堂）

評価方法

(1)学期末試験:50% (2)平常点（小テスト、宿題、課題、出席、授業態度）:50%

担当者：吉牟田 聡美, メイス みよ子

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け**講義概要****1. 内容**

英文法を基礎から徹底的に復習する。繰り返し練習問題を行い、出題の形式に慣れ、より早く問題を解けるよう指導していく。

2. 学びの意義と目標

基本的な文法を身につけ、英語資格テストで高得点を目指す。

受講生に対する要望

短期間で力をつける集中講座なので、毎回の宿題をきちんとやること。辞書は必ず持参すること。

キーワード

(1) 名詞 (2) 形容詞／副詞 (3) 関係代名詞 (4) if を使った文 (5) 前置詞

事前学習（予習）

テキストの解説の部分をよく読んでおく。

復習についての指示

授業内で行われる確認テストの復習。文法解説を読み、復習する。

授業計画

1. Introduction
2. 冠詞と名詞
3. 冠詞と名詞
4. 代名詞と限定詞
5. 代名詞と限定詞
6. 形容詞と副詞
7. 比較級
8. if と wish
9. 関係詞
10. 間接話法
11. 間接話法
12. 接続詞と 前置詞
13. 前置詞
14. 句動詞
15. 期末試験

教科書

マーフィー, William R. Smalzer, Raymond Murphy, 渡辺 雅仁, 田島 祐規子 『マーフィーのケンブリッジ英文法(中級編)』 (Cambridge University Press)

評価方法

(1) 試験: 50% (2) 平常点: 50%: (授業の課題、小テスト、宿題、授業参加態度)

担当者：チェンバレン 暁子，島田 洋子

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け**講義概要****1. 内容**

英文法を基礎から徹底的に復習する。繰り返し練習問題を行い、出題の形式に慣れ、より早く問題を解けるよう指導していく。

2. 学びの意義と目標

基本的な文法を身につけ、英語資格テストで高得点を目指す。

受講生に対する要望

短期間で力をつける集中講座なので、毎回の宿題をきちんとやること。辞書は必ず持参すること。

キーワード

(1) 名詞 (2) 形容詞／副詞 (3) 関係代名詞 (4) if を使った文 (5) 前置詞

事前学習（予習）

テキストの解説の部分をよく読んでおく。

復習についての指示

授業内で行われる確認テストの復習。文法解説を読み、復習する。

授業計画

1. Introduction
2. 冠詞と名詞
3. 冠詞と名詞
4. 代名詞と限定詞
5. 代名詞と限定詞
6. 形容詞と副詞
7. 比較級
8. if とwish
9. 関係詞
10. 間接話法
11. 間接話法
12. 接続詞と 前置詞
13. 前置詞
14. 句動詞
15. 期末試験

教科書

マーフィー, William R. Smalzer, Raymond Murphy, 渡辺 雅仁, 田島 祐規子 『マーフィーのケンブリッジ英文法(中級編)』 (Cambridge University Press)

評価方法

(1) 試験:50% (2) 平常点:50%: (授業の課題、小テスト、宿題、授業参加態度)

担当者：メイス みよ子

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

基礎文法の習得を中心に授業を進めて行く。英文法をしっかりとマスターできるよう、繰り返し文法演習を行う。英語資格テスト、公務員試験の準備講座として、長文読解演習も行う。基礎力だけでなく、応用力もつけられるよう指導して行く。

2. 学びの意義と目標

資格英語で高得点をとれるよう、基礎文法力、読解力をしっかり身につける事を目標とする。

受講生に対する要望

短期間で力をつける集中講座なので、毎回の宿題をきちんと行うこと。辞書は必ず持参すること。

キーワード

(1)品詞の働き (2)品詞の位置 (3)品詞の意味 (4)形容詞と副詞の違い (5)名詞の種類

事前学習（予習）

テキストの文法ポイントを読んでおく。

復習についての指示

テキストの見直し

授業計画

1. コースイントロダクション
2. 名詞
3. 代名詞
4. 代名詞
5. 疑問詞
6. 形容詞
7. 形容詞
8. 副詞
9. 動詞
10. 関係詞
11. 前置詞
12. 前置詞
13. 接続詞
14. 助動詞
15. まとめ、期末試験

教科書

竹前 文夫 菊地 圭子 秋山 紀子 William F. O'Connor 『大学英語セミナー 品詞のはたらき編』（南雲堂）

評価方法

(1)平常点:50%:(小テスト、宿題、課題、授業参加態度) (2)期末試験:50%

担当者：島田 洋子

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

基礎英文法の習得を中心に授業を進めていく。英文法をしっかりと習得できるように繰り返し文法演習を行う。また英語資格試験、公務員試験の準備講座として、長文読解演習も行う。

2. 学びの意義と目標

英語資格試験等で高得点がとれるように、基礎文法力、読解力をしっかり身につける。授業で習得する文法力、読解力を駆使し、英語運用能力を高める。

受講生に対する要望

授業には必ず出席すること。毎回予習、復習を行ってから授業に参加すること。また宿題もきちんと行うこと。

キーワード

(1) 文法 (2) 語彙 (3) リーディングスキル (4) 英語資格試験対策 (5) 表現方法

事前学習（予習）

学習する文法項目が扱われている教科書の章をあらかじめ読んでおく。

復習についての指示

授業で学習した文法項目をしっかりと復習する。教科書にのっている文法問題、長文読解問題を解きなおす。

授業計画

1. 授業オリエンテーション
2. Unit 13 接続詞 (I)
3. Unit 14 不定詞 (I)・動名詞 (I)
4. Unit 15 受動態
5. Unit 16 現在完了形
6. Unit 17 接続詞 (II)
7. Unit 18 5つの基本文型
8. Unit 19 各種疑問文
9. Unit 20 不定詞 (II)
10. Unit 21 It の特別利用
11. Unit 22 分詞・動名詞 (II)
12. Unit 23 関係代名詞
13. 復習
14. 授業で学習した項目の総復習
15. 期末試験

教科書

佐藤 哲三 『基礎からの英語入門』（南雲堂）

評価方法

(1) 平常点（出席、授業参加態度、宿題、小テスト、授業内作業）：50% (2) 期末試験：50%

担当者：中川 英幸

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

基礎英文法の習得を中心に授業を進めていく。英文法をしっかりと習得できるように繰り返し文法演習を行う。また英語資格試験、公務員試験の準備講座として、長文読解演習も行う。

2. 学びの意義と目標

英語資格試験等で高得点がとれるように、基礎文法力、読解力をしっかり身につける。授業で習得する文法力、読解力を駆使し、英語運用能力を高める。

受講生に対する要望

授業には必ず出席すること。毎回予習、復習を行ってから授業に参加すること。また宿題もきちんと行うこと。

キーワード

(1) 文法 (2) 語彙 (3) リーディングスキル (4) 英語資格試験対策 (5) 表現方法

事前学習（予習）

学習する文法項目が扱われている教科書の章をあらかじめ読んでおく。

復習についての指示

授業で学習した文法項目をしっかりと復習する。教科書にのっている文法問題、長文読解問題を解きなおす。

授業計画

1. 授業オリエンテーション
2. Unit 13 接続詞 (I)
3. Unit 14 不定詞 (I)・動名詞 (I)
4. Unit 15 受動態
5. Unit 16 現在完了形
6. Unit 17 接続詞 (II)
7. Unit 18 5つの基本文型
8. Unit 19 各種疑問文
9. Unit 20 不定詞 (II)
10. Unit 21 It の特別利用
11. Unit 22 分詞・動名詞 (II)
12. Unit 23 関係代名詞
13. 復習
14. 授業で学習した項目の総復習
15. 期末試験

教科書

佐藤 哲三 『基礎からの英語入門』（南雲堂）

評価方法

(1) 平常点（出席、授業参加態度、宿題、小テスト、授業内作業）：50% (2) 期末試験：50%

担当者：鈴木 政浩，遠藤 由佳里

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

リスニング、語彙、リーディング、文法、発音練習を含む総合教材を使い、コミュニケーションに必要な英語の基礎を指導を行う。さらに、映画を使い、自然な表現方法を学ぶ。

2. 学びの意義と目標

Speaking、Reading、Test English等ECA科目を履修するために必要な英語の基礎を身につける。基礎英文法、語彙表現の習得と語彙運用能力の向上を目指し、より自然に表現できることを目標とする。

受講生に対する要望

辞書を持参すること。積極的に授業に参加し、宿題・課題を必ず期限内に提出することを期待する。

キーワード

(1)文法 (2)語彙 (3)リスニング (4)リーディング (5)表現方法・発音

事前学習（予習）

テキスト用CDを何度も聴く。

復習についての指示

テキストの音読。文法の復習を行う。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 自己紹介 / 名詞
3. 家族について / 動詞 / Movie activity #1
4. 大学生活について / 人称代名詞
5. 食べ物について / 疑問詞 / Movie activity #2
6. コンサート／アーティスト / Howから始まる疑問文
7. 復習/Movie activity #3
8. 案内について / 助動詞
9. 日本文化の紹介 / 助動詞 / Movie activity #4
10. ジェスチャーについて / 前置詞
11. 観光案内について / 過去形・現在形・未来形
12. 復習/Movie activity #5
13. 航空券のネット予約について / 現在進行形
14. 復習
15. まとめ、期末試験

教科書

JACETリスニング研究会 『Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング』（南雲堂）

評価方法

(1)試験:50% (2)平常点:50%: (授業の作業、小テスト、宿題、授業参加態度)

担当者：L. アーノルド

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

学習した文法を活用しながら流暢に書くができることを主眼におく。

2. 学びの意義と目標

様々な場面において、書きことが取れるような英語力を身につけることを目標とする。

受講生に対する要望

辞書、授業に参加する、作文の締め切りに提出

キーワード

(1)文章 (2)文法 (3)作文 (4)描写、特徴を述べる (5)ヴォキャブラーリ

事前学習(予習)

課題はテキスト章「文法、語彙」文を練習、完成する。

復習についての指示

テキスト、課題の復習。講師のブログをチェックする。

授業計画

1. 授業内容説明、プリーティンクアンケート
2. be-動詞・品詞のレビュー、文章の説明
3. 位置・辺地の描写、文章練習、作文1の説明、練習
4. 作文1の提出・チェック
5. be-動詞つづく、人物を感じ・感想の描写
6. 人物、動物の描写、文章に副詞の位置を使うこと
7. 人物描写、副詞の位置つづく、作文2の説明、練習
8. 作文2の提出・チェック
9. and, but, or, so・動名詞を作る、趣味・興味について
10. and, but, or, so・動名詞、趣味・興味つづく、節の説明
11. 趣味・興味の節の練習、作文3の説明
12. 作文3の提出、チェック
13. 期末作文のプロジェクト説明
14. 期末作文のチェック
15. 期末作文の提出

教科書

ドロシー E. ゼマック 『Sentence Writing Student Book』(マクミラン・ランゲージハウス?)

評価方法

- (1)出席、課題 50% (80%以上出席が) (2)作文 1、2、3・期末作文 50%

担当者：島田 洋子, チェンバレン 暁子, 中川 英幸

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

リスニング、文法、リーディングを中心に授業を行う。リスニングでは英語圏での使用頻度の高い語彙やイディオムを学習し、文法、リーディングでは検定試験で出題傾向の高い項目やトピックを取り上げることで、学生の要望に応えられる内容にした。

2. 学びの意義と目標

英語の総合的な基礎学力を養成することを目標に、リスニング、文法、リーディングなど多面的に学習し、今後のSpeakingやReading, Test Englishなどのクラスへのスムーズな移行を目指す。さらには自然な英語で自己表現できるようになることを目標とする。

受講生に対する要望

英和辞典を必ず授業に持参する。宿題、課題は必ず行い、期日に提出する。

キーワード

(1)文法 (2)語彙 (3)表現方法／発音 (4)リスニングスキル (5)リーディングスキル

事前学習（予習）

テキストに付属のCDを何度も聴く。

復習についての指示

授業でやったことは必ず復習する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 Personal Correspondence (1) 現在形・現在進行形・1
3. Unit 2 Personal Correspondence (2) 現在形・現在進行形・2
4. Unit 3 Biography (1) 過去形・過去進行形・1
5. Unit 4 Biography (1) 過去形・過去進行形・2
6. Catch-up
7. Unit 5 Events & Festivals 未来形
8. Unit 6 Directions & Locations (1) 前置詞・1
9. Unit 7 Directions & Locations (2) 前置詞・2
10. Unit 8 Directions & Locations (3) There is/are
11. Catch-up
12. Unit 9 Occupations (1) 代名詞
13. Unit 10 Occupations (1) 代名詞/再帰代名詞
14. まとめ
15. 学期末試験

教科書

JACETリスニング研究会 『総合英語パワーアップーリスニングからリーディング BASIC—Power—Up English』 (南雲堂)

評価方法

- (1) 学期末試験:50% (2) 平常点 (小テスト、宿題、課題、出席、授業態度):50%

担当者：中川 英幸，島田 洋子，チェンバレン 暁子

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

教科書の英会話を聞き、内容理解を行う。また基礎的な文法や英語表現を学習する。

2. 学びの意義と目標

英語コミュニケーションに必要とされる基礎的な文法の理解と英語表現の習得を目指す。また学習した内容を実際の会話で使えるようにする。授業では、文法、語彙運用能力の向上を目指す。この講座は、Reading、Speaking、Test Englishの準備講座と位置付ける。

受講生に対する要望

授業には必ず出席すること。また予習、復習をきちんと行ってから参加すること。

キーワード

(1)文法 (2)語彙 (3)表現方法 / 発音 (4)リスニングスキル (5)リーディングスキル

事前学習（予習）

教科書に付属しているCDを何度も聞く。

復習についての指示

教科書の音読、学んだ文法事項の復習を行う。

授業計画

1. 授業オリエンテーション
2. Unit 1 自己紹介（名詞）
3. Unit 2 家族・ペット（動詞）
4. Unit 3 趣味（主語＋動詞＋～）
5. Unit 4 大学生活（人称代名詞）
6. Unit 5 食べ物（疑問詞）
7. Unit 6 コンサート（How＋形容詞 / 副詞～？）
8. Unit 7 道案内（助動詞 can、may、must）
9. Unit 8 日本文化紹介（助動詞 would、could、should）
10. Unit 9 ジェスチャー（前置詞）
11. Unit 10 観光案内（過去形、現在形、未来形）
12. Unit 11 航空券をNetでGet（現在進行形）
13. Unit 12 E-mailを送る（復習）
14. 授業で学習した項目の総復習
15. 期末試験

教科書

JACETリスニング研究会『Forerunner to Power-Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング』（南雲堂）

評価方法

- (1)平常点（出席、授業参加態度、課題、宿題、小テスト、授業内作業）：50% (2)期末試験：50%

担当者：遠藤 由佳里，メイス みよ子，中川 英幸，能町 和子，チェンバレン 暁子

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

教科書の英会話を聞き、内容理解を行う。また基礎的な文法や英語表現を学習する。

2. 学びの意義と目標

英語コミュニケーションに必要とされる基礎的な文法の理解と英語表現の習得を目指す。また学習した内容を実際の会話で使えるようにする。授業では、文法、語彙運用能力の向上を目指す。この講座は、Reading、Speaking、Test Englishの準備講座と位置付ける。

受講生に対する要望

授業には必ず出席すること。また予習、復習をきちんと行ってから参加すること。

キーワード

(1)文法 (2)語彙 (3)表現方法 / 発音 (4)リスニングスキル (5)リーディングスキル

事前学習(予習)

教科書に付属しているCDを何度も聞く。

復習についての指示

教科書の音読、学んだ文法事項の復習を行う。

授業計画

1. 授業オリエンテーション
2. Unit 1 自己紹介 (名詞)
3. Unit 2 家族・ペット (動詞)
4. Unit 3 趣味 (主語+動詞+～)
5. Unit 4 大学生活 (人称代名詞)
6. Unit 5 食べ物 (疑問詞)
7. Unit 6 コンサート (How+形容詞 / 副詞～?)
8. Unit 7 道案内 (助動詞 can、may、must)
9. Unit 8 日本文化紹介 (助動詞 would、could、should)
10. Unit 9 ジェスチャー (前置詞)
11. Unit 10 観光案内 (過去形、現在形、未来形)
12. Unit 11 航空券をNetでGet (現在進行形)
13. Unit 12 E-mailを送る (復習)
14. 授業で学習した項目の総復習
15. 期末試験

教科書

JACETリスニング研究会 『Forerunner to Power-Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング』 (南雲堂)

評価方法

- (1)平常点 (出席、授業参加態度、課題、宿題、小テスト、授業内作業):50%
- (2)期末試験:50%

担当者：遠藤 由佳里

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

リスニング、語彙、リーディング、文法、発音練習を含む総合教材を使い、コミュニケーションに必要な英語の基礎を指導する。

2. 学びの意義と目標

Speaking, Reading, Test English等ECA科目を履修するために必要な英語の基礎を養う。基礎英文法、語彙表現の習得と語彙運用能力の向上を目指し、より自然に表現できることを目標とする。

受講生に対する要望

コミュニケーションに必要な英語の基礎を固めたい学生の受講を望みます。

キーワード

(1)文法 (2)語彙／表現 (3)発音 (4)リーディングスキル (5)リスニングスキル

事前学習（予習）

Reading Sectionを読み、Words & Phrasesの問題に答える。教科書添付のCDを用いてListening Sectionの問題に答える。

復習についての指示

Listening Sectionの復習問題。

授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 13 機内で / 時・天候のIt
3. Unit 14 空港で / 接続詞 / Movie Activity #1
4. Unit 15 ホテル / 不定詞
5. Unit 16 レストランで / 形容詞
6. Unit 17 ショッピング / 頻度を表す副詞 / Movie Activity #2
7. Unit 18 ベースボール / 比較級
8. 理解度の確認 (1)
9. Unit 19 ミュージカル鑑賞 / 現在完了
10. Unit 20 旅行案内 / 受動態(1) / Movie Activity #3
11. Unit 21 トラブル・シューティング / 受動態(2)
12. Unit 22 体調不良 / 分詞 / Movie Activity #4
13. Unit 23 電話での申し込み / 動名詞
14. Unit 24 さよなら、アメリカ! / Review
15. 期末試験

教科書

JACETリスニング研究会『Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング』（南雲堂）

評価方法

- (1)試験:50% (2)平常点:50%:(授業参加、宿題、小テスト)

担当者：L. アーノルド

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

学習した文法を活用しながら流暢に書くができることを主眼におく。

2. 学びの意義と目標

様々な場面において、書きことが取れるような英語力を身につけることを目標とする。

受講生に対する要望

毎回参加しよ！

キーワード

(1)コミュニケーション (2)書きこと (3)作文 (4)文法 (5)ヴォキャブラリ

事前学習(予習)

課題はテキスト章「文法、語彙」文を練習、完成する。

復習についての指示

テキスト、課題の復習。講師のブログをチェックする。

授業計画

1. 授業内容説明
2. 主語、目的語の代名詞・and, but, or, soを作り
3. 文の主語、形容詞・動詞のパターン
4. 節の描写の練習・準備
5. 作文1の提出・チェック
6. 間接の目的語・受動態
7. 正式、日常のこと・メールを書く
8. 節の描写の練習・準備
9. 作文2の提出・チェック
10. 節の別こと、動詞のパターン・tooとnot enoughを作り
11. 節の描写の練習・準備
12. 作文3の提出・チェック
13. 期末作文のプロジェクト説明
14. 期末作文のチェック
15. 期末作文の提出

教科書

ドロシー E. ゼマック 『Sentence Writing Student Book』 (マクミラン・ランゲージハウス)

評価方法

- (1)出席、課題 50% (80%以上出席が) (2)作文1、2、3
・期末作文 50%

担当者：島田 洋子, チェンバレン 暁子

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

リスニング、文法、リーディングを中心に授業を行う。リスニングでは英語圏での使用頻度の高い語彙やイディオムを学習し、文法、リーディングでは検定試験で出題傾向の高い項目やトピックを取り上げることで、学生の要望に応えられる内容にした。いろいろなアクティビティを通し、自然な英語表現を学ぶ

2. 学びの意義と目標

英語の総合的な基礎学力を養成することを目標に、リスニング、文法、リーディングなど多面的に学習し、今後のSpeakingやReading, Test Englishなどのクラスへのスムーズな移行を目指す。さらには自然な英語で自己表現できるようになることを目標とする。

受講生に対する要望

英和辞典は必ず持参する。宿題、課題は必ず行い、期日に提出する。

キーワード

(1)文法 (2)語彙 (3)表現方法／発音 (4)リスニングスキル (5)リーディングスキル

事前学習（予習）

テキストに付属のCDを何度も聴く。

復習についての指示

授業でやったことは必ず復習する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 11 Instructions 命令文
3. Unit 12 Health & Physical Condition Yes/No疑問文
4. Unit 13 Service Requests 現在完了
5. Catch-up
6. Unit 14 Special Orders 疑問詞を用いた疑問文
7. Unit 15 Money 疑問詞Howを用いた疑問文
8. Unit 16 Public Signs 助動詞(1)
9. Unit 17 Sports 助動詞(2)
10. Catch-up
11. Unit 18 History 受動態
12. Unit 19 Sightseeing 原級・比較級；最上級
13. Unit 20 Science 比較級；最上級
14. Catch-up
15. 学期末試験

教科書

JACETリスニング研究会 『総合英語パワーアップーリスニングからリーディング BASIC—Power—Up English』 (南雲堂)

評価方法

(1)学期末試験：50% (2)平常点（小テスト、宿題、課題、出席、授業態度）：50%

担当者：中川 英幸，島田 洋子

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

教科書の英会話を聞き、内容理解を行う。また基礎的な文法や英語表現を学習する。さらにアクティビティを通し、自然な表現方法を学ぶ。

2. 学びの意義と目標

英語コミュニケーションに必要とされる基礎的な文法の理解と英語表現の習得を目指す。また学習した内容を実際の会話で使えるようにする。授業では、文法、語彙運用能力の向上を目指す。この講座は、Reading、Speaking、Test Englishの準備講座と位置付ける。

受講生に対する要望

授業には必ず出席すること。また予習、復習をきちんと行ってから参加すること。

キーワード

(1)文法 (2)語彙 (3)表現方法 / 発音 (4)リスニングスキル (5)リーディングスキル

事前学習（予習）

教科書に付属しているCDを何度も聞く。

復習についての指示

教科書の音読、学んだ文法事項の復習を行う。

授業計画

1. 授業オリエンテーション
2. Unit 13 機内で（時・天候などを表す It）
3. Unit 14 空港で（接続詞）
4. Unit 15 ホテル（不定詞）
5. Unit 16 レストランで（形容詞）
6. Unit 17 ショッピング（頻度を表す副詞）
7. Unit 18 ベースボール（比較級）
8. Unit 19 ミュージカル鑑賞（現在完了形）
9. Unit 20 旅行案内（受動態 1）
10. Unit 21 トラブル・シューティング（受動態 2）
11. Unit 22 体調不良（分詞）
12. Unit 23 電話での申し込み（動名詞）
13. Unit 24 さよなら、アメリカ！（復習）
14. 授業で学習した項目の総復習
15. まとめ・期末試験

教科書

JACETリスニング研究会『Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング』（南雲堂）

評価方法

- (1)平常点（出席、授業参加態度、課題、宿題、小テスト、授業内作業）：50% (2)期末試験：50%

担当者：遠藤 由佳里，中川 英幸

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

教科書の英会話を聞き、内容理解を行う。また基礎的な文法や英語表現を学習する。

2. 学びの意義と目標

英語コミュニケーションに必要とされる基礎的な文法の理解と英語表現の習得を目指す。また学習した内容を実際の会話で使えるようにする。授業では、文法、語彙運用能力の向上を目指す。この講座は、Reading、Speaking、Test Englishの準備講座と位置付ける。

受講生に対する要望

授業には必ず出席すること。また予習、復習をきちんと行ってから参加すること。

キーワード

(1)文法 (2)語彙 (3)表現方法 / 発音 (4)リスニングスキル (5)リーディングスキル

事前学習（予習）

教科書に付属しているCDを何度も聞く。

復習についての指示

教科書の音読、学んだ文法事項の復習を行う。

授業計画

1. 授業オリエンテーション
2. Unit 13 機内で（時・天候などを表す It）
3. Unit 14 空港で（接続詞）
4. Unit 15 ホテル（不定詞）
5. Unit 16 レストランで（形容詞）
6. Unit 17 ショッピング（頻度を表す副詞）
7. Unit 18 ベースボール（比較級）
8. Unit 19 ミュージカル鑑賞（現在完了形）
9. Unit 20 旅行案内（受動態 1） /
10. Unit 21 トラブル・シューティング（受動態 2）
11. Unit 22 体調不良（分詞）
12. Unit 23 電話での申し込み（動名詞）
13. Unit 24 さよなら、アメリカ！（復習）
14. 授業で学習した項目の総復習
15. まとめ・期末試験

教科書

JACETリスニング研究会『Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング』（南雲堂）

評価方法

(1)平常点（出席、授業参加態度、課題、宿題、小テスト、授業内作業）：50% (2)期末試験：50%

担当者：能町 和子

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

教科書の英会話を聞き、内容理解を行う。また基礎的な文法や英語表現を学習する。

2. 学びの意義と目標

英語コミュニケーションに必要とされる基礎的な文法の理解と英語表現の習得を目指す。また学習した内容を実際の会話で使えるようにする。授業では、文法、語彙運用能力の向上を目指す。この講座は、Reading、Speaking、Test Englishの準備講座と位置付ける。

受講生に対する要望

授業には必ず出席すること。、また予習、復習をきちんと行ってから参加すること。

キーワード

(1)文法 (2)語彙 (3)表現方法 / 発音 (4)リスニングスキル (5)リーディングスキル

事前学習（予習）

教科書に付属しているCDを何度も聞く。

復習についての指示

教科書の音読、学んだ文法事項の復習を行う。

授業計画

1. 授業オリエンテーション
2. Unit 13 機内で（時・天候などを表す It）
3. Unit 14 空港で（接続詞）
4. Unit 15 ホテル（不定詞）
5. Unit 16 レストランで（形容詞）
6. Unit 17 ショッピング（頻度を表す副詞）
7. Unit 18 ベースボール（比較級）
8. Unit 19 ミュージカル鑑賞（現在完了形）
9. Unit 20 旅行案内（受動態 1） /
10. Unit 21 トラブル・シューティング（受動態 2）
11. Unit 22 体調不良（分詞）
12. Unit 23 電話での申し込み（動名詞）
13. Unit 24 さよなら、アメリカ！（復習）
14. 授業で学習した項目の総復習
15. まとめ・期末試験

教科書

JACETリスニング研究会『Forerunner to Power - Up English—総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング』（南雲堂）

評価方法

- (1)平常点（出席、授業参加態度、課題、宿題、小テスト、授業内作業）：50%
- (2)期末試験：50%

担当者：竹井 潔

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

情報コース：応用科目

講義概要

1. 内容

情報処理分野で唯一の国家試験である情報処理技術者試験の「ITパスポート試験」で求められる、総合的な知識を幅広く学ぶ。試験の内容は、テクノロジ系（情報技術）、マネジメント系（情報管理）、ストラテジ系（経営全般）の3分野に分かれている。外部講師を招き、講義を行う。

2. 学びの意義と目標

現代の高度情報化社会においては、社会で働く全ての人々が情報技術（Information Technology）を利用することが求められる。ITを十分に活用するためには、事務、営業、技術などの職種に関わらず、すべての職種でITと経営全般に関する知識が必要になる。本講座で「ITパスポート試験」の出題範囲を学び、合格できる知識を習得することで、これからの職業人として必要なITスキルを身につけてもらいたい。

受講生に対する要望

講座で学んだ知識の習得度を確認する上でも、是非とも国家試験である「ITパスポート試験」を受験して欲しい。

キーワード

(1) ITパスポート試験 (2) 職業人として誰もが共通に備えておくべき基本的な知識 (3) 情報技術 (4) 情報管理 (5) 経営全般

事前学習（予習）

今回の講義範囲のテキスト本文に、一度目を通しておくこと。

復習についての指示

毎回の講義で学習した内容について、次の講義までに自宅で「問題集」の該当問題を解き、良く復習しておくこと。

授業計画

1. テクノロジ系/ハードウェア (1)
2. テクノロジ系/ハードウェア (2)
3. テクノロジ系/ハードウェア (3)
4. テクノロジ系/ハードウェア (4)
5. テクノロジ系/ソフトウェア (1)
6. テクノロジ系/ソフトウェア (2)
7. テクノロジ系/システム構成
8. テクノロジ系/第1部 まとめ
9. テクノロジ系/データベース (1)
10. テクノロジ系/データベース (2)
11. テクノロジ系/ネットワーク (1)
12. テクノロジ系/ネットワーク (2)
13. テクノロジ系/情報セキュリティ (1)
14. テクノロジ系/情報セキュリティ (2)
15. テクノロジ系/マルチメディア
16. テクノロジ系/第2部 まとめ
17. テクノロジ系/アルゴリズムとプログラミング (1)
18. テクノロジ系/アルゴリズムとプログラミング (2)
19. マネジメント系/システム開発技術 (1)
20. マネジメント系/システム開発技術 (2)
21. マネジメント系/プロジェクトマネジメントとサービスマネジメント
22. マネジメント系/第3部 まとめ
23. ストラテジ系/企業と法務 (1)
24. ストラテジ系/企業と法務 (2)
25. ストラテジ系/企業と法務 (3)
26. ストラテジ系/企業と法務 (4)
27. ストラテジ系/経営戦略 (1)
28. ストラテジ系/経営戦略 (2)
29. ストラテジ系/第4部 まとめ
30. まとめ 定期試験

教科書

インフォテック・サーブ編 『ここから始めるITパスポート』（インフォテック・サーブ）
インフォテック・サーブ編 『ITパスポート試験問題集』（インフォテック・サーブ）

評価方法

(1) 出席:20% (2) 課題提出:20%:原則は提出点（内容不備は、再提出または減点） (3) 定期試験:60%

担当者：D. バーガー

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

The Special Lecture Series is an interdisciplinary course in English offered in the Japan Studies Program. It is intended for exchange students from Seigakuin's sister schools, but it is also open to Seigakuin students whose English ability is sufficient to be successful in the course. Lectures will be given by a team of Seigakuin professors covering a wide range of topics related to Japanese society and culture, including language, religion, management styles, pop music, art, early childhood education, and the environment. Many of these topics will be dealt with from a comparative perspective.

2. 学びの意義と目標

The purpose of this course is to introduce students, especially exchange students from Seigakuin's sister schools, to a variety of aspects of Japanese society and culture.

受講生に対する要望

Active participation in discussions in English and a willingness to engage with the lecturer and the course content are absolutely essential.

キーワード

(1)Japanese society and culture (2)Japanese art and music
(3)Japanese religion (4)Japanese management (5)Japanese education

事前学習（予習）

Readings on each topic will help students preview the topic of each lecture.

復習についての指示

Short reports will help students review what they have learned.

授業計画

1. Introduction; Lecture & Discussion: Japanese & U.S. Culture
2. Lecture & Discussion: Japanese & U.S. Culture
3. Lecture & Discussion: Japanese Language & Society
4. Lecture & Discussion: Japanese Language & Society
5. Lecture & Discussion: An Introduction to Religion in Japan
6. Lecture & Discussion: Intercultural Understanding
7. Lecture & Discussion: Intercultural Understanding
8. Lecture & Discussion: Japanese and English Pop Music
9. Lecture & Discussion: Japanese and English Pop Music
10. Lecture & Discussion: Japanese-style Management
11. Lecture & Discussion: Japanese-style Management
12. Lecture & Discussion: Japanese and Western Art
13. Lecture & Discussion: Japan and the Environment
14. Lecture & Discussion: Japanese Early Childhood Education
15. Wrap-up; Term Paper Guidance

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)Attendance:20% (2)Class participation:20% (3)Readings:25%:including short reports (4)Term paper:35%

アメリカ文化演習 A

INTD-0-107

担当者：D. バーガー

開設期：秋集中 必修・選択：選択科目 授業回数： 単位数：4単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

Oglethorpe University（提携校）（期間：4週間）ジョージア州アトランタ市にある本学の提携校、オグルソープ大学キャンパス内にある語学機関、Education First（EF）において実践的な英語授業や課外活動をととして英語を集中して学ぶカリキュラムを編成している。研修中は、オグルソープ大学キャンパス内にある大学寮に滞在し、アメリカのキャンパスと生活に触れる体験をする。英語授業は、日本で事前に受けるブレイスメントテストにもとづき、レベル別に受講する。音声に対する理解力に重点を置いたコースで、日常的な意思疎通が明確にできるようになることを目指す。午後や週末には、EFが主催する学内外の課外活動も企画される。

2. 学びの意義と目標

この科目は実際に海外に赴き、授業及び生活をととしてアメリカの歴史や文化を学び、多文化交流を体験、英語力の向上を目指すことを目的としている。

受講生に対する要望

全学科の学部生を対象とし、申込書類審査および日本語と簡単な英語での面接がある。語学力よりも意欲を重視する。

キーワード

(1) 海外研修 (2) 留学 (3) 英語 (4) アメリカ (5) 文化

事前学習（予習）

研修参加決定後、事前準備会2回を開催する。海外研修に出発する前に、研修国について予備知識と心がまえをもって出発できるよう事前準備講座4回が開講される。日程・内容については、研修参加決定後、指示する。

復習についての指示

研修終了後、レポート提出、帰国報告会を実施する。

授業計画

1. 第1回 準備会
2. 第1回 事前準備講座
3. 第2回 事前準備講座
4. 第3回 事前準備講座
5. 第4回 事前準備講座
6. 第2回 準備会
7. 現地研修
8. 現地研修
9. 現地研修
10. 現地研修
11. 現地研修
12. 現地研修
13. 現地研修
14. 現地研修
15. 帰国報告会

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 出発前準備講座・帰国報告会の出席:25% (2) レポートとアンケートの提出:25% (3) 現地研修校での成績:50%

研修終了後秋学期の単位として認定

アメリカ文化演習 C

INTD-0-109

担当者：D. バーガー

開設期：秋集中 必修・選択：選択科目 授業回数： 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

Oglethorpe University (提携校) (期間：2週間) ジョージア州アトランタ市にある本学の提携校、オグルソープ大学キャンパス内にある語学機関、Education First (EF) において実践的な英語授業や課外活動をととして英語を集中して学ぶカリキュラムを編成している。研修中は、オグルソープ大学キャンパス内にある大学寮に滞在し、アメリカのキャンパスと生活に触れる体験をする。英語授業は、日本で事前に受けるブレイスメントテストにもとづき、レベル別に受講する。音声に対する理解力に重点を置いたコースで、日常的な意思疎通が明確にできるようになることを目指す。午後や週末には、EFが主催する学内外の課外活動も企画される。

2. 学びの意義と目標

この科目は実際に海外に赴き、授業及び生活をととしてアメリカの歴史や文化を学び、多文化交流を体験、英語力の向上を目指すことを目的としている。

受講生に対する要望

全学科の学部生を対象とし、申込書類審査および日本語と簡単な英語での面接がある。語学力よりも意欲を重視する。

キーワード

(1) 海外研修 (2) 留学 (3) 英語 (4) アメリカ (5) 文化

事前学習 (予習)

研修参加決定後、事前準備会2回を開催する。海外研修に出発する前に、研修国について予備知識と心がまえをもって出発できるよう事前準備講座4回が開講される。日程・内容については、研修参加決定後、指示する。

復習についての指示

研修終了後、レポート提出、帰国報告会を実施する。

授業計画

1. 第1回 準備会
2. 第1回 事前準備講座
3. 第2回 事前準備講座
4. 第3回 事前準備講座
5. 第4回 事前準備講座
6. 第2回 準備会
7. 現地研修
8. 現地研修
9. 現地研修
10. 現地研修
11. 現地研修
12. 現地研修
13. 現地研修
14. 現地研修
15. 帰国報告会

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出発前準備講座・帰国報告会の出席:25% (2) レポートとアンケートの提出:25% (3) 現地研修校での成績:50%

研修終了後秋学期の単位として認定

イタリア語 I (初級 A)

WLAG-0-122

担当者：高津 美和

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目/選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この授業では、イタリア語の初級文法を学び、簡単な日常会話と作文の練習を行います。教科書に加えてCDやDVDなどの視聴覚教材も活用し、文法・会話・聴解・読解の能力をバランスよく習得することを目指します。

2. 学びの意義と目標

日本に住んでいても、料理、美術、映画、サッカーなど、イタリアの様々な文化に触れる機会が多くあります。「イタリア語」を学ぶことで、魅力的なイタリアの文化をさらに身近に感じることができるでしょう。

受講生に対する要望

イタリア語だけでなくイタリアの文化にも関心のある人の受講を歓迎します。

キーワード

(1)イタリア語 (2)イタリア

事前学習（予習）

事前に教科書に目を通す。

復習についての指示

授業で学んだ新出単語や表現を暗記する。教科書付属のCDを聴いて発音練習する。

授業計画

1. ガイダンス
2. アルファベットと発音
3. 第1課：名詞と形容詞 (1)
4. 第1課：名詞と形容詞 (2)
5. 第1課：名詞と形容詞 (3)
6. 第1課：名詞と形容詞 (4)
7. 第2課：essereとavere (1)
8. 第2課：essereとavere (2)
9. 第2課：essereとavere (3)
10. 第2課：essereとavere (4)
11. 第3課：are動詞 (1)
12. 第3課：are動詞 (2)
13. 第3課：are動詞 (3)
14. 第3課：are動詞 (4)
15. まとめ (第1～3課)
16. 試験とその解説
17. 第4課：ere動詞 (1)
18. 第4課：ere動詞 (2)
19. 第4課：ire動詞 (1)
20. 第4課：ire動詞 (2)
21. 第5課：piacere (1)
22. 第5課：piacere (2)
23. 第5課：piacere (3)
24. 第5課：piacere (4)
25. 第6課：不規則動詞 (1)
26. 第6課：不規則動詞 (2)
27. 第6課：再帰動詞 (1)
28. 第6課：再帰動詞 (2)
29. まとめ (第4～6課)
30. 試験とその解説

教科書

遠藤礼子 『Un piatto d' italiano イタリア語ひとさら』 (白水社)

評価方法

- (1)出席、授業態度、提出物:50% (2)試験:50%

イタリア語Ⅱ（初級B）

WLAG-0-123

担当者：高津 美和

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目/選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

「イタリア語Ⅰ」に引き続き、イタリア語の初級文法を学び、会話・作文・読解の練習を行います。CDやDVDなどの視聴覚教材を活用することによって、聴解力の強化も目指します。

2. 学びの意義と目標

「イタリア語Ⅱ」の履修によって、イタリア語の初級文法の習得が完了します。授業の後半には映画やアニメーションなども教材として取り上げる予定ですが、授業が進むにつれ、その内容をよく理解できるようになるでしょう。

受講生に対する要望

「イタリア語Ⅰ」を履修した学生の受講を望みます。

キーワード

(1) イタリア語 (2) イタリア

事前学習（予習）

事前に配布したプリントに目を通す。

復習についての指示

授業で学んだ新出単語や表現を暗記する。

授業計画

1. ガイダンス
2. 復習：名詞と形容詞
3. 復習：規則動詞（are動詞、ere動詞、ire動詞）
4. 復習：不規則動詞
5. 補助動詞（1）
6. 補助動詞（2）
7. 補助動詞（3）
8. 補助動詞（4）
9. 補助動詞（5）
10. 近過去（1）
11. 近過去（2）
12. 近過去（3）
13. 近過去（4）
14. 近過去（5）
15. まとめ
16. 試験とその解説
17. 半過去（1）
18. 半過去（2）
19. 半過去（3）
20. 半過去（4）
21. 未来（1）
22. 未来（2）
23. 未来（3）
24. 未来（4）
25. 命令法（1）
26. 命令法（2）
27. 命令法（3）
28. 命令法（4）
29. まとめ
30. 試験とその解説

教科書

遠藤礼子 『Un piatto d' italiano イタリア語ひとさら』（白水社）

評価方法

(1) 出席、授業態度、提出物：50% (2) 試験：50%

担当者：E. D. オズバーン

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. Content – This course is a survey of the first major section of the Bible, the Old Testament, in English. An introduction to the Bible in general and the Old Testament in particular will be made, with special attention to their historical significance. Key themes within the Old Testament will then be covered, with emphasis on practical application to the students' personal lives.

2. 学びの意義と目標

2. Learning Objectives ? The primary objectives are to familiarize students with the major themes of the Old Testament and to enable students to discover biblical passages that will help them in life.

受講生に対する要望

Since the course is conducted in English, a minimum TOEFL equivalency score of 350 (paper-based test) is a prerequisite for taking the class.

キーワード

(1)Holy Bible (2)Old Testament (3)prophecy/prophet(s) (4)type(s)

事前学習（予習）

Students are expected to complete the reading assignments from the Bible (Old Testament) and be prepared to discuss the contents in each class.

復習についての指示

Following each lecture, students should revise the notes taken in class and review them, committing to memory the key points. Printed handouts provided in class should also be reviewed.

授業計画

1. Course Introduction: What is the Bible?
2. The Bible's Influence on World History
3. Introduction to the Old Testament
4. The Pentateuch (Five Books of Moses) I: Creation
5. The Pentateuch (Five Books of Moses) II: Man's Fall
6. The Pentateuch (Five Books of Moses) III: Ten Commandments
7. History: Israel as Mankind in Microcosm
8. Poetry & the Wisdom Literature I: Focus on Proverbs
9. Poetry & the Wisdom Literature II: Focus on Proverbs, cont.
10. Poetry & the Wisdom Literature III: Focus on Ecclesiastes
11. Prophecy I: Prophecies about Jesus Christ
12. Prophecy II: Prophecies about Jesus Christ, cont.
13. Types of Jesus Christ as Savior in the Old Testament I
14. Types of Jesus Christ as Savior in the Old Testament II
15. Summary

教科書

Various authors 『NIV Thinline Bible』 (Zondervan)

評価方法

(1)Attendance:20% (2)Reading :20% (3)Chapel Reports:20% (4)Exams:40%

オーストラリア文化演習

INTD-0-110

担当者：D. パーガー

開設期：春集中 必修・選択：選択科目 授業回数： 単位数：4単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

Deakin University（認定校）（期間：5週間） ビクトリア州メルボルンを中心に5つのキャンパスを擁するディーキン大学の附属機関Deakin University English Language Institute (DUELI)において実践的な英語授業や課外活動をととして英語を集中して学ぶカリキュラムを編成している。研修中は、現地家庭にホームステイをし、オーストラリアの生活に触れる体験をする。英語授業は、日本で事前に受けるプレイスメントテストにもとづき、レベル別に受講する。会話、多文化間コミュニケーションスキル、発音、語彙を実践的に学ぶ。週末には、DUELIが主催するオプションの課外活動も企画される。

2. 学びの意義と目標

この科目は実際に海外に赴き、授業及び生活をととして多文化交流を体験し、英語力の向上を目指すことを目的としている。

受講生に対する要望

全学科の学部生を対象とし、申込書類審査および日本語と簡単な英語での面接がある。語学力よりも意欲を重視する。

キーワード

(1)海外研修 (2)留学 (3)英語 (4)オーストラリア (5)文化

事前学習（予習）

研修参加決定後、事前準備会2回を開催する。海外研修に出発する前に、研修国について予備知識と心がまえをもって出発できるよう事前準備講座4回が開講される。日程・内容については、研修参加決定後、指示する。

復習についての指示

研修終了後、レポート提出、帰国報告会を実施する。

授業計画

1. 第1回 準備会
2. 第1回 事前準備講座
3. 第2回 事前準備講座
4. 第3回 事前準備講座
5. 第4回 事前準備講座
6. 第2回 準備会
7. 現地研修
8. 現地研修
9. 現地研修
10. 現地研修
11. 現地研修
12. 現地研修
13. 現地研修
14. 現地研修
15. 帰国報告会

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)出発前準備講座・帰国報告会の出席:25% (2)レポートとアンケートの提出:25% (3)現地研修校での成績:50%

研修終了後春学期の単位として認定

担当者：高桑 佳與子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

漫然と書いていても、文章は上手くなりません。随想文、手紙文、レポート、エントリーシート・・・、楽しい文、真面目な文・・・この講座ではいろいろな文章に対応できる力をつけます。自分が書きたいことは何かという基本を押さえ、言葉・文体の重要性や論の運び方等工夫を凝らして、力のある文章が書けるようにしていきます。なるべく多くの回数書き、添削して返却します。クラス内で発表して学びあう形をとることもあります。年度によって、後半の授業内容は変化させています。レポートの書き方実践として、アンケート用紙を作成しデータを集計した年度。パンフレット作製をした年度もあります。昨年は、社説の解析の後、論説文を書く。また、情報誌の記事を想定、各人が学内取材し文章スタイルを考えて書く。という作業を行いました。

2. 学びの意義と目標

文章力が必要なのは、作家・編集者・研究に携わる者・学生・・・だけではなく、いつの時代でもどの分野でも求められる重要なものです。今、皆さんが持っている「書く力」をレベル・アップしていくこと、読み手の印象に残る文章を書けるようになることがこの講座の目標です。社会へ出てからも役立つ文章力、そしてきちんとした“良い形”で相手に伝わる文章を作成する力を身につけましょう。

受講生に対する要望

基礎教育入門（書き方）の学習を応用発展させたい者、また文章表現を磨きたい者の受講を望みます。

キーワード

(1)文章表現 (2)語彙力 (3)論理構成力 (4)書くことの実践

事前学習（予習）

あらかじめ課題が分かっている場合は、しっかり準備をして臨むと良いものを書けます。

復習についての指示

添削して返却された提出物を書き直すと、さらにより良い文章になります。書き直したものは再提出してみましょう。

授業計画

1. 授業概説 授業アンケート
2. 視点の考察
3. 視点の考察
4. 表現・文体の工夫
5. 表現・文体の工夫
6. 表現・文体の工夫
7. 論理構成の工夫
8. 論理構成の工夫
9. 論理構成の工夫
10. 時事問題に取り組む
11. 時事問題に取り組む
12. 資料収集
13. 取材して書く（1）企画
14. 取材して書く（2）執筆
15. 取材して書く（3）発表

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)課題提出物:100%:授業時に提出したものの評価集計

担当者：船山 久美

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

授業中にテーマについて話し合い、課題作文を書き、その作文へのコメントやアドバイスを受けて、書き直す。このようなプロセスを通して、文章の書き方を実践的に学ぶ。課題の中には、自分でテーマを絞ったり、根拠となる文献資料を集めたり、調査を行う場合もある。

2. 学びの意義と目標

2年生以上の選択科目であり、文章表現の基礎を学んだ学生が、さらに豊かで実践的な文章表現力を身に付けて、円滑な大学生活を送れるようになることがこの講義の目標である。

受講生に対する要望

自分の中でもややしているものを言語化するのは苦しいかもしれませんが、実は楽しいプロセスです。楽しく学んでいきましょう。

キーワード

(1)文章表現力 (2)分かりやすい文章 (3)論理的思考力 (4)能動的読解力 (5)説得力

事前学習（予習）

作文のテーマを予告するので、内容を具体的に考えてくること。

復習についての指示

授業で検討した内容をもとに課題作文を提出すること。

授業計画

1. 授業の進め方についての説明 テーマ1のオリエンテーション
2. 作文1を書く
3. 作文1へのフィードバック
4. テーマ2のオリエンテーション
5. 作文2を書く
6. 作文2へのフィードバック
7. テーマ3のオリエンテーション
8. 作文3を書く
9. 作文3へのフィードバック
10. テーマ4のオリエンテーション
11. 作文4を書く
12. 作文4へのフィードバック
13. テーマ5のオリエンテーション
14. 作文5を書く
15. 作文5へのフィードバック

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)課題提出：70% (2)平常点：30%

担当者：D. バーガー

開設期：秋集中 必修・選択：選択科目 授業回数： 単位数：4単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

University of Victoria (認定校) (期間：3週間) プリティッシュ・コロンビア州の州都であるビクトリア市に広大なキャンパスを擁するビクトリア大学の附置機関University of Victoria English Language Centreの協力によってカナダ文化をテーマにしたカリキュラムを編成している。研修中は、大学寮に滞在し、他国から来た寮内の学生たちと交流を深める。英語授業は、日本で事前に受けるプレースメントテストにもとづき、レベル別に受講する。平日の午前中は、スピーキングとリスニングを重視した実践的な授業を受講する。午後や夕方、週末にはカルチャーアシスタントによる文化体験アクティビティーに参加する。

2. 学びの意義と目標

この科目は実際に海外に赴き、授業及び生活をとおして異文化交流を体験し、英語でカナダ文化について学ぶ。

受講生に対する要望

全学科の学部生を対象とし、申込書類審査および日本語と簡単な英語での面接がある。語学力よりも意欲を重視する。

キーワード

(1) 海外研修 (2) 留学 (3) 英語 (4) カナダ (5) 文化

事前学習（予習）

研修参加決定後、事前準備会2回を開催する。海外研修に出発する前に、研修国について予備知識と心がまえをもって出発できるよう事前準備講座4回が開講される。日程・内容については、研修参加決定後、指示する。

復習についての指示

研修終了後、レポート提出、帰国報告会を実施する。

授業計画

1. 第1回 準備会
2. 第1回 事前準備講座
3. 第2回 事前準備講座
4. 第3回 事前準備講座
5. 第4回 事前準備講座
6. 第2回 準備会
7. 現地研修
8. 現地研修
9. 現地研修
10. 現地研修
11. 現地研修
12. 現地研修
13. 現地研修
14. 現地研修
15. 帰国報告会

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1) 出発前準備講座・帰国報告会の出席:25% (2) レポートとアンケートの提出:25% (3) 現地研修校での成績:50%

研修終了後秋学期の単位として認定

韓国語 I (初級 A)

WLAG-0-126

担当者：溝口 カブスン、金 娜玄

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目/選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

韓国語の正しい発音を指導し、ハングル文字の読み方、書き方を教える。文法については「助詞」に重点を置く。また、韓国の歌を歌う、韓国映画の視聴をするなど、韓国文化に触れる機会を作る。講義形式ではなく、対話を中心とした全員参加型で行う。

2. 学びの意義と目標

以下の能力を養成し、知識を深める。1 韓国語で挨拶や初歩的会話をするための「聞き取り能力」「発言能力」2 「ハングル文字の習得」「助詞に対する知識」3 韓国文化理解の初歩的知識

受講生に対する要望

韓国語について全く知識のない段階からはじまる、入門者を対象とした初級講座である。

キーワード

(1)ハングル文字 (2)韓国語の発音 (3)韓国語文法 (4)現代の韓国

事前学習（予習）

第一部は復習のみ。第二部では、本文の翻訳、単語帳作成を指示する。

復習についての指示

毎回、学習内容から課題を指示する。プリントを配布する場合もある。

授業計画

1. 第1部 ハングル、「アヒラン」の歌
2. 第1課 講義開始にあたって
3. 第2課 ハングルの覚えよう（母音）
4. 第2課 ハングルの覚えよう（子音）
5. 第2課 ハングルの覚えよう（練習）
6. 第3課 ハングルのまとめ（激音濃音）
7. 第3課 ハングルのまとめ（練習）
8. 第3課 ハングルのまとめ（日本語のハングル表記）
9. 第4課 パッチムと基本単語I（解説）
10. 第4課 パッチムと基本単語I（練習）
11. 第4課 パッチムと基本単語I（確認）
12. 第5課 発音の変化と基本単語II（解説）
13. 第5課 発音の変化と基本単語II（練習）
14. 第5課 発音の変化と基本単語II（確認）
15. 第1部の総復習
16. 第2部 自己紹介、「オッパ センガク」の歌
17. 第6課 私は中村です。（例文解説）
18. 第6課 私は中村です。（文法解説）
19. 第6課 私は中村です。（練習）
20. 第6課 私は中村です。（演習）
21. 第7課 故郷はどこですか。（例文解説）
22. 第7課 故郷はどこですか。（文法解説）
23. 第7課 故郷はどこですか。（練習）
24. 第7課 故郷はどこですか。（演習）
25. 第8課 お昼の約束がありますか。（例文解説）
26. 第8課 お昼の約束がありますか。（文法解説）
27. 第8課 お昼の約束がありますか。（練習）
28. 第8課 お昼の約束がありますか。（演習）
29. 第2部の復習
30. 韓国の文化に触れる！

教科書

溝口甲順 『アルギシウン韓国語』（白帝社）

評価方法

(1)定期試験:50% (2)小テスト・提出物:30% (3)授業態度:20%

韓国語Ⅱ（初級B）

WLAG-0-127

担当者：溝口 カブスン、金 娜玄

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目/選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

正確な発音に基づく反復指導をする。特に語彙を増やすことに重点を置く。文法については「語尾変化」に力を入れ、韓国文化の紹介も行う。授業は講義形式ではなく、対話を中心とした全員参加型で行う。

2. 学びの意義と目標

以下の能力を養成し、知識を深める。1 韓国語で簡単な会話をする能力 2 初歩的な文章を読むための「文法知識」 3 韓国文化理解のための基礎知識

受講生に対する要望

「韓国語I」の既履修者及び同程度の知識を持つ者を対象とする。入門レベルに続き、初級レベルを完成させる。

キーワード

(1) 韓国語会話 (2) 韓国語初級文法 (3) 現代の韓国

事前学習（予習）

本文の翻訳、単語帳作成を指示する。韓国語の日記作成。

復習についての指示

毎回、学習内容から課題を指示する。プリントを配布する場合もある。

授業計画

1. 韓国語Iの復習（文字と発音）
2. 韓国語Iの復習（発音の変化）
3. 韓国語Iの復習（文法事項）
4. 第9課 女友達といっしょに行きます。（例文解説）
5. 第9課 女友達といっしょに行きます。（文法解説）
6. 第9課 女友達といっしょに行きます。（練習）
7. 第9課 女友達といっしょに行きます。（演習）
8. 第10課 日曜日には何をなさいますか。（例文解説）
9. 第10課 日曜日には何をなさいますか。（文法解説）
10. 第10課 日曜日には何をなさいますか。（練習）
11. 第10課 日曜日には何をなさいますか。（演習）
12. 第3部 韓国旅行、「モダンブル」の歌
13. 第11課 タクシーに乗るところはどこですか。（例文解説）
14. 第11課 タクシーに乗るところはどこですか。（文法解説1）
15. 第11課 タクシーに乗るところはどこですか。（文法解説2）
16. 第11課 タクシーに乗るところはどこですか。（練習）
17. 第12課 いくらですか。（例文解説）
18. 第12課 いくらですか。（文法解説1）
19. 第12課 いくらですか。（文法解説2）
20. 第12課 いくらですか。（練習）
21. 第13課 私はキムチチゲにします。（例文解説）
22. 第13課 私はキムチチゲにします。（文法解説1）
23. 第13課 私はキムチチゲにします。（文法解説2）
24. 第13課 私はキムチチゲにします。（練習）
25. 第14課 ここがオンドル部屋です。（例文解説）
26. 第14課 ここがオンドル部屋です。（文法解説1）
27. 第14課 ここがオンドル部屋です。（文法解説2）
28. 第14課 ここがオンドル部屋です。（練習）
29. 第3部の総復習
30. 韓国の文化に触れるI

教科書

溝口甲順 『アルギシウン韓国語』（白帝社）

評価方法

(1) 定期試験:50% (2) 小テスト・提出物:30% (3) 授業態度:20%

基礎教育入門(書き方)

INTD-0-101

担当者：太田 ミユキ，中島 佐和子，副田 恵

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

表現法の初級にあたるこの講義では、自己紹介や大学でのノートのとり方から始めて、大学生活で必要とされる表現力の基礎を学んでいく。その上で、自分の考えを論理的に構成し表現する力を育て、レポートや論文の書き方の基礎を身に付けることを目標とする。

2. 学びの意義と目標

相手に正確に意図が伝わるかどうかを十分注意しないまま発信される文章は、時には思わぬ誤解を招くことになる。相手に正確に文意を汲み取ってもらえるよう、常に意識を行き届けさせながら表現することは、自分の思考のありようを論理的に整理することに繋がるであろう。

受講生に対する要望

大学で必要とされる表現力の基礎を学ぶ科目であり、より具体的に言えば、次学期の文章表現法での学びに直結する科目でもある。故に、ぜひ1年生で修得してほしい。

キーワード

(1)表現力 (2)論理的思考 (3)コミュニケーション

事前学習(予習)

テキストの解説部分を読む。また、副教材に指定された日本語検定3級の練習問題集を自習しておくこと。(自習の成果は最終回の試験で確認する)

復習についての指示

授業中に取り組んだ問題で、間違ったところや、わからなかったところを、もう一度、やり直す。宿題となった課題にきちんと取り組む。

授業計画

1. 自己紹介の仕方・ノートのとり方
2. 敬語の基礎
3. 確実な連絡メモ
4. メールの書き方
5. 手紙の書き方
6. 説明のコツ
7. 大学生の調べ方 1
8. 大学生の調べ方 2
9. アンケートのとり方
10. 資料の読み取り
11. プレゼンテーション
12. レポートの書き方 1
13. レポートの書き方 2
14. レポートの書き方 3
15. 試験とまとめ

教科書

橋本 修，福岡 健伸，安部 朋世 『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』(三省堂)日本語検定委員会 『日本語検定公式練習問題集3級 改訂版』(東京書籍)

評価方法

- (1)出席:25% (2)参加態度:25% (3)提出物:25% (4)試験:25%

出席・授業中に出された課題の取り組み姿勢・提出物・学期末の試験により、評価する。ただし、A Hレポートの提出を絶対条件とする。原則として欠席が3分の1を超えた場合は評価しない。

基礎教育入門(書き方)

INTD-0-101

担当者：新井 尚子, 上嶋 康道

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

さまざまな題材を通して総合的な表現力を身につけます。大学では多くの文章を書くことになります。その準備とともに、卒業後にも役立つ文章力の土台作りを目的にします。カリキュラム上の位置づけ：あらゆる科目で必要となる日本語表現の基本を身につける授業です。

2. 学びの意義と目標

(1) 友人など気心の知れた友人など身近な人にだけでなく、他者に向けて事実を分かりやすく述べる力 (2) 同じく他者に向けて自分の考えを明確に述べる力 を付けることを目標とします。

受講生に対する要望

受講についてはいくつかの約束事があります。初回の授業で説明しますから欠席しないようにしてください。ボールペン、ノート持参のこと。電子辞書を持っている人は持ってきてください。

キーワード

(1) 視点の切り替え (2) コミュニケーション (3) 事実と主張

事前学習(予習)

文章を具体的に書くためには知識が必要です。まずは新聞の文章に慣れ親しむことから始めましょう。気になった記事について、感想ではなく、事実のまとめを授業のたびに提出してもらいます。詳しくは初回授業で指示します。

復習についての指示

返却された文章を書きなおしてみることが効果的です。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 既存の文章から学ぶ 1
3. 既存の文章から学ぶ 2
4. 既存の文章から学ぶ 3
5. 事実の記述 1
6. 事実の記述 2
7. 事実の記述 3
8. 事実の記述 4 映像素材
9. 自己の主張を述べる 1
10. 自己の主張を述べる 2
11. 自己の主張を述べる 3
12. 総合演習 1
13. 総合演習 2
14. レポートの書き方
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 平常点:60% (2) 宿題と出席点:20% (3) レポート:20%

基礎教育入門(書き方)

INTD-0-101

担当者：上嶋 康道

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

さまざまな題材を通して総合的な表現力を身につけます。大学では多くの文章を書くことになります。その準備とともに、卒業後にも役立つ文章力の土台作りを目的にします。カリキュラム上の位置づけ：あらゆる科目で必要となる日本語表現の基本を身につける授業です。

2. 学びの意義と目標

(1) 友人など気心の知れた友人など身近な人にだけでなく、他者に向けて事実を分かりやすく述べる力 (2) 同じく他者に向けて自分の考えを明確に述べる力 を付けることを目標とします。

受講生に対する要望

受講についてはいくつかの約束事があります。初回の授業で説明しますから欠席しないようにしてください。ボールペン、ノート持参のこと。電子辞書を持っている人は持ってきてください。

キーワード

(1) 視点の切り替え (2) コミュニケーション (3) 事実と主張

事前学習(予習)

文章を具体的に書くためには知識が必要です。まずは新聞の文章に慣れ親しむことから始めましょう。気になった記事について、感想ではなく、事実のまとめを授業のたびに提出してもらいます。詳しくは初回授業で指示します。

復習についての指示

返却された文章を書きなおしてみることが効果的です。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 既存の文章から学ぶ 1
3. 既存の文章から学ぶ 2
4. 既存の文章から学ぶ 3
5. 事実の記述 1
6. 事実の記述 2
7. 事実の記述 3
8. 事実の記述 4 映像素材
9. 自己の主張を述べる 1
10. 自己の主張を述べる 2
11. 自己の主張を述べる 3
12. レポートの書き方1
13. レポートの書き方2
14. レポートの書き方3
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 平常点:60% (2) 宿題と出席点:20% (3) レポート:20%

基礎教育入門(書き方)

INTD-0-101

担当者：新井 尚子

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この授業では、大学生活、及び卒業後社会で必要となる基本的な言語活動のうち、論理的に書いて伝える力を養います。様々な種類の文章を書く実践を通じて、「書く」ことの基本ルールと文章表現の技術を指導します。原則として、毎回「書く」作業を行い、提出してもらいます。それを講義担当者が添削し、アドバイスを加え返却します。また、社会人に求められる漢字の学習も継続的にを行います。

2. 学びの意義と目標

論理的に考え、言語を使って人に情報を伝えることについて意識的に取り組む姿勢を修得します。講義で学ぶ技術と能力は、社会人となっても役立つレベルを目指します。

受講生に対する要望

基礎教育でもあり、毎時間の講義の積み重ねが能力・技術の習得につながりますので、毎回出席して下さい。加えて、課題には積極的に取り組んで下さい。

キーワード

(1) 日本語 (2) 書きことば (3) 論理 (4) 文章

事前学習(予習)

前授業時に行う指示に従い、課題を作成してもらいます。そのための資料収集も必要です。漢字小テストのための学習も行なって下さい。

復習についての指示

教員が添削した後に返却される課題の訂正箇所を確認し、課題を書き直すことが求められます。

授業計画

1. ガイダンス
2. 文章の種類
3. 正しい文章を書くために(1)・・・表現のルールその1
4. 正しい文章を書くために(2)・・・表現のルールその2
5. 説明文を書く
6. 敬語・敬意表現を学ぶ
7. 案内文を書く
8. 要約する(1)・・・文章を読む
9. 要約する(2)・・・講演を聞く
10. 情報の調べ方
11. テータを読み、考える
12. 自分の意見を述べる
13. レポートを書く(1)
14. レポートを書く(2)
15. 手紙を書く

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席:40% (2) 課題:40% (3) 授業態度:20%

基礎教育入門(話し方)

COMM-0-101

担当者：恩蔵 憲一，幸田 儔朗，風見 雅章

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この講義は1年生を対象に「相手に的確に伝わる話し方」を学ぶものです。文化庁が行った「国語に関する世論調査」によりますと、「最近、日本人の話す力についてどう思うか」という質問に対し、「非常に低下している」「やや低下している」と答えた割合が全体の70%に達しています。また、経団連が行った調査によれば「新入社員の選考で最も重視した点」という問いに対し、「コミュニケーション能力」と答えた割合が80.2%でした。こうしたデータは、私たちに、今、社会は明らかに、「話す力」「聞く力」のさらなる向上を求めていることがわかります。日本人はいわゆる、お喋りは得意でも公の場面で筋道立てて分かりやすく話すことが苦手だといわれています。しかし、今、世界はグローバル化がすすみ、国内はもとより、国際間においても自分の考えや相手の意見を交換し、新たな価値観を見出していくことが重要になっています。つまり、「自分の考えを的確に伝える」「相手の発言を聞く」そして、「自分の意見と相手の意見との違いを明確にし、問題解決のため両者で展望を模索する」能力です。この講義ではこうした「パブリックスピーキング能力」、つまり「一定の時間内に、一定の内容を、筋道立てて話せる力」を身につけることを目的とします。これはゼミでの発表や就職時の面接、さらに社会人になった時など必ず役に立つものです。講師はNHKアナウンサーです。放送で培ったノウハウを駆使し、「発音・発声」の基本から、「話の組み立て方」まで実践トレーニングをとおして学びます。

2. 学びの意義と目標

卒業後、社会に出た時に一番求められるものは「コミュニケーション能力」です。この講義では、その基礎力を身につけることができます。具体的には会議の場で自分の意見を的確に話す力、上司に報告する力、人の話をしっかり聞き、理解する力などです。これらの能力を在学中に獲得すれば、鬼に金棒です。また、結婚披露宴や同窓会などでのスピーチにも活用できます。

受講生に対する要望

講義は毎回、実践形式です。各自の発表を録音やビデオで収録し、視聴点検をします。講評は講師が一方向的にするのではなく、各人の発表についてよかった点、改善点など、皆さんと一緒に考えながらすすめていきます。従って、お互いに積極的な意見交換をお願いします。

キーワード

(1)「話しことば」は音のことば (2)場面と相手意識を持つ (3)話を整理する(組み立て) (4)傾聴力と質問力 (5)「話す」と「聞く」は表裏一体

事前学習(予習)

毎回、講義の最後に翌週の授業内容の概要を伝え、実践トレーニングは話す内容のタイトルを明示しますので、講義当日まで準備をしっかりと行ってください。

復習についての指示

毎回の授業の冒頭で前回の内容の復習をします。また、理解度によっては同じ内容を繰り返すともあります。

授業計画

1. 「話しことばの基本」① ～パブリックスピーキングとは～
2. 「話しことばの基本」② ～「点検!あなたの話しことば」～
3. 話す力① ～書きことばと話しことば～
4. 話す力② ～情報の整理と組み立て～
5. 話す力③ ～具体的に話す～
6. 「きく力」① ～傾聴力を高める～
7. 「きく力」② ～質問力を高める～
8. 「音声表現の基本」 ～発声・発音・韻律～
9. スピーチ① ～人をひきつける話し方～
10. スピーチ② ～意見を述べる～
11. 社会人としてのことば① ～敬語の基本～
12. 社会人としてのことば② ～点検・若者ことば～
13. 総合テスト① ～人前で話す スピーチ～
14. 総合テスト② ～人前で話す スピーチ～
15. 筆記テストとまとめ ～個人の課題と努力目標～

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)スキルの理解度:30% (2)実践での評価:60% (3)取り組みの積極性:10%

話し方スキルの理解度、進捗度や毎回の授業参加の積極性を見て評価する。

基礎教育入門(留学生用書き方)

INTD-0-102

担当者：中島 佐和子

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

◆内容◆自己紹介、敬語の使い方、手紙の作成などから始め、エッセイやレポート、意見文などを書くことで、大学生活で必要とされる表現力の基礎を学んでいく。なるべく多くの文章を書くようにしたい。適宜ドリルなどを併用する。

2. 学びの意義と目標

レポートや論文の書き方の基礎を身に付け、自分の考えを論理的に構成し表現する力を育てることを目標とする。併せて日本文化への理解を深めたい。

受講生に対する要望

授業に積極的に参加し、活発に発言してほしい。当然のことだが、どのような場合でも自分自身の意見を発表すること。

キーワード

(1) 調べる (2) 書く (3) 読む (4) 自分独自の意見

事前学習（予習）

テーマに沿って材料を収集する。

授業計画

1. ガイダンス／自己紹介
2. 敬語の基礎（1）
3. 敬語の基礎（2）
4. 手紙を書く（1）形式を学ぶ
5. 手紙を書く（2）恩師に近況報告を出そう
6. 天声人語を読む（1）書写・難読語・要旨・テーマ
7. 天声人語を読む（2）表記・構造・故事来歴・風習
8. エッセイを書く（1）テーマの設定・材料の収集
9. エッセイを書く（2）構成を考えて書く
10. レポートの書き方（1）テーマの設定・材料の収集
11. レポートの書き方（2）用語・構成・書式・体裁
12. 意見文を書く（1）テーマの設定・材料の収集
13. 意見文を書く（2）構成を考えて書く
14. 自己アピール文を書く
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

復習についての指示

出された課題をする。添削された文章を清書して提出する。

評価方法

(1) 授業態度：30% (2) 提出物：70%

基礎教育入門(留学生用書き方)

INTD-0-102

担当者：北村 淳子

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

表現法の初級にあたるこの講義では、自己紹介や大学でのノートのとり方から始めて、大学生活で必要とされる表現力の基礎を学んでいく。その上で、自分の考えを論理的に構成し表現する力を育て、レポートや論文の書き方の基礎を身に付けることを目標とする。

2. 学びの意義と目標

相手に正確に意図が伝わるかどうかを十分注意しないまま発信される文章は、時には思わぬ誤解を招くことになる。相手に正確に文意を汲み取ってもらえるよう、常に意識を行き届けさせながら表現することは、自分の思考のありようを論理的に整理することに繋がるであろう。

受講生に対する要望

大学で必要とされる表現力の基礎を学ぶ科目であり、より具体的に言えば、次学期の文章表現法での学びに直結する科目でもある。故に、ぜひ1年生で修得してほしい。

キーワード

事前学習（予習）

テキストの解説部分を読む。また、副教材に指定された日本語検定3級の練習問題集を自習しておくこと。（自習の成果は最終回の試験で確認する）

復習についての指示

授業中に取り組んだ問題で、間違ったところや、わからなかったところを、もう一度、やり直す。宿題となった課題にきちんと取り組む。

授業計画

1. 自己紹介の仕方・ノートのとり方
2. 敬語の基礎
3. 確実な連絡メモ
4. メールの書き方
5. 手紙の書き方
6. 説明のコツ
7. 大学生の調べ方 1
8. 大学生の調べ方 2
9. アンケートのとり方
10. 資料の読み取り
11. プレゼンテーション
12. レポートの書き方 1
13. レポートの書き方 2
14. レポートの書き方 3
15. 試験とまとめ

教科書

橋本 修, 福岡 健伸, 安部 朋世 『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』（三省堂）日本語検定委員会 『日本語検定公式練習問題集3級 改訂版』（東京書籍）

評価方法

- (1) 出席:25% (2) 参加態度:25% (3) 提出物:25% (4) 試験:25%

出席・授業中に与えられた課題の取り組み姿勢・提出物・学期末の試験により、評価する。ただし、A・Hレポートの提出を絶対条件とする。原則として欠席が3分の1を超えた場合は評価しない。

キャリアデザイン

CREE-0-201

担当者：奥 富美子

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

自分自身のこれまでと今をみつめ、将来をどう設計していくかを考えることがキャリアデザインです。この科目では、キャリア（＝学生生活、家庭生活を含め、卒業後の職業生活を加えた生き方）について考え、生涯にわたる自分自身のキャリアをデザインするうえで必要な考え方を理論と実践とで学びます。「社会人に授業に参画してもらうプロジェクト・ワーク」を通して、職業理解や社会とつながり、グループによる協働を学習します。自分に興味を持ち、ペアワークやグループワークでの他者からのフィードバックも参考にしながら「自分らしさ」を追求し自信につなげていきましょう。今も卒業後の将来も発揮できる自分の魅力を明らかにして磨いていきましょう。

2. 学びの意義と目標

自己のキャリア形成に重要な能力とは何か、「熟考する・調べる・自分の考えを述べる・他者の考えを聴く」「自らの意思で決断する・行動する」などが大切であることを理解します。毎回、講義と演習（個人ワーク、ペアワーク、グループワーク、発表など）を行います。授業中のこれらの実践を通して、生きる力の基盤となるコミュニケーション力を高めます。様々なワークを通して、自分に興味を持ち、自分の持ち味・強みを明確にします。人の生き方に興味を持ち、自分のキャリアに関心に向け、これからの自分のキャリアビジョンを描きます。社会人も頻りに参加します。「大人と対話する力」を養い、就職活動や卒業後の社会における人とのかかわり方の基礎力づくりをします。

受講生に対する要望

学生生活を充実させ、その延長線上にある職業人生の充実へとつなげるため、授業での取り組み・体験の蓄積によりその力を養います。よって「授業に参画」することが大切です。この科目で何を学べるかは自分次第です。堅苦しく考える必要はありません。「授業に楽しく参画」することで、気づきや学びが得やすくなります。自己との対話・他者との対話を通して自分自身を受け止め、発見や変化を喜び、可能性を広げていく場です。互いを尊重し、強みを引き出しあい、応援し合うクラスをつくっていきましょう。「キャリアファイル」を準備してください。（A4サイズ・2穴・フラットファイル）授業で必要なワークのプリントや資料を収めます。「自分について考えたこと」を可視化し、学びを蓄積していくことで自分の将来設計に役立ちます。就職活動にも活用できるファイルをつくりましょう。授業への出席だけでなく、卒業後の自分、社会で活動している自分を常にイメージしながら、日常生活において、勉強、読書、ボランティア活動、サークル活動、社会人との対話などにも積極的にめざめるようにしてください。

キーワード

(1) 自己分析・自己理解 (2) 将来設計・キャリア (3) コミュニケーション (4) 社会人基礎力 (5) 社会人との交流

事前学習（予習）

毎回、自己PRや気になる新聞記事の発表などミニプレゼンテーションがあります。テーマに基づき準備をしておいてください。

復習についての指示

毎回の授業についてのふりかえりと感想を、授業シートに記述し提出します。各講義は、内容が連続しています。毎回授業で行ったワークのプリントを再読し、学びを定着させておいてください。

授業計画

1. オリエンテーション
2. キャリアとは
3. 自己分析（1） なぜ自己分析か
4. 社会人に学ぶ企業・職業～準備編①
5. 社会人に学ぶ企業・職業～準備編②
6. 自己分析（2） 自分史とモチベーション
7. 自己分析（3） 価値観
8. 生き方研究～書籍から（1）
9. 生き方研究～書籍から（2）
10. 社会が求める力とは（1）
11. 社会が求める力とは（2）
12. 社会人に学ぶ企業・職業～実践編①
13. 社会人に学ぶ企業・職業～実践編②
14. キャリアビジョンと行動計画
15. まとめ 個別面談・レポート提出

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 出席:50% (2) 授業への取り組み:40%:演習・発表・授業時提出物 (3) 期末レポート:10%

キリスト教音楽史 A

CHRI-0-245

担当者：渡辺 善忠

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

(1)キリスト教音楽の歴史を、背景の文化も含めて広い視点で学びます。(2)聖書の言葉を受け継いできた教会の信仰について理解を深めます。「キリスト教音楽史A」では、キリスト教音楽のルーツであるユダヤ教音楽から宗教改革時代までの教会音楽について、聖書解釈と作品の時代背景から論じつつ作品に耳を傾けます。聖書と音楽史との関わりをふまえて音楽を理解することを目的とします。なお、「キリスト教音楽史B」では宗教改革以降の作品を学びますので、通年で受講される方を歓迎致します。参考文献 ・聖書（旧新約聖書両方を用います） ・「キリスト教音楽の歴史」（金澤正剛著／日本キリスト教団出版局 2001年） ・「よくわかるキリスト教の音楽」（長谷川朝雄他著／キリスト新聞社2000年） ・「ユダヤ音楽の旅」（水野信男著／ミルトス 2000年） その他の参考文献については必要に応じてその都度お知らせします。

2. 学びの意義と目標

キリスト教を中心として発展した文化の中で、音楽は大変重要な意味を持っています。聖書の内容を伝えるために音楽がどのように用いられてきたか、教会音楽がどのように発展したかを、歴史的な視点で学びたいと思います。

受講生に対する要望

授業では、曲の歌詞として用いられている聖書の言葉の意味を学びながらCDに耳を傾けますので、コンサートのマナーを含めて学ぶことを願っています。

キーワード

(1)聖書の言葉 (2)音楽表現 (3)ユダヤ教～教会の歴史 (4)時代背景 (5)皆さんの歴史理解

事前学習（予習）

図書館に備えてある音楽辞典で作曲家の生涯を調べたり、CDを試聴してから授業を受けることが望ましいです。

復習についての指示

授業で毎回配布するレジメ（内容の要約）をもとに、作曲家の伝記などで授業内容の理解を深めることが大切です。

授業計画

1. 第1回 ガイダンス
2. 第2回 旧約聖書が書かれた時代の音楽(1)
3. 第3回 旧約聖書が書かれた時代の音楽(2)
4. 第4回 グレゴリオ聖歌(1)
5. 第5回 グレゴリオ聖歌(2)
6. 第6回 ミサ曲の成立と発展(1)
7. 第7回 ミサ曲の成立と発展(2)
8. 第8回 オラトリオの成立と発展(1)
9. 第9回 オラトリオの成立と発展(2)
10. 第10回 レクイエムの成立と発展
11. 第11回 宗教改革直前の教会音楽(1)
12. 第12回 宗教改革直前の教会音楽(2)
13. 第13回 宗教改革時代の教会音楽
14. 第14回 前期のまとめ（総論）
15. 第15回 前期のまとめ（試験）

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)試験:50% (2)出席:30% (3)レポートなど:20%

キリスト教音楽史B

CHRI-0-246

担当者：渡辺 善忠

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

(1)キリスト教音楽の歴史を、背景の文化も含めて広い視点で学びます。(2)聖書の言葉を受け継いできた教会の信仰について理解を深めます。「キリスト教と音楽史B」(後期)では、宗教改革から現代までのキリスト教合唱作品を中心に、教会の歴史・作曲家の信仰・各作品の時代背景の3つの視点から論じつつ、CDによって作品に耳を傾けます。参考文献・聖書(旧新約聖書両方を用います)・「キリスト教音楽の歴史」(金澤正剛著/日本キリスト教団出版局 2001年)・「よくわかるキリスト教の音楽」(長谷川朝雄他著/キリスト新聞社2000年)・「大作作曲家の信仰と生涯」(P.カヴァノー著・吉田幸弘訳/教文館 2000年)その他の参考文献については必要に応じてその都度お知らせします。

2. 学びの意義と目標

キリスト教を中心として発展した文化の中で、音楽は大変重要な意味を持っています。聖書の内容を伝えるために音楽がどのように用いられてきたか、教会音楽がどのように発展したかを、歴史的な視点で学びたいと思います。

受講生に対する要望

授業では、曲の歌詞として用いられている聖書の言葉の意味を学びながらCDに耳を傾けますので、コンサートのマナーを含めて学ぶことを願っています。

キーワード

(1)聖書の言葉 (2)音楽表現 (3)教会の歴史 (4)社会的背景 (5)皆さんの歴史観

事前学習(予習)

図書館に備えてある音楽辞典で作曲家の生涯をたどったり、CDを試聴してから授業を受けることが望ましいです。

復習についての指示

授業で毎回配布するレジメ(内容の要約)をもとに、作曲家の伝記などで授業内容の理解を深めることが大切です。

授業計画

1. 第1回 ガイダンス
2. 第2回 J. S. バッハ(1)
3. 第3回 J. S. バッハ(2)
4. 第4回 G. F. ヘンデル
5. 第5回 M. ハイドンとJ. ハイドン
6. 第6回 A. モーツァルト
7. 第7回 L. V. ベートーヴェン
8. 第8回 F. シューベルト
9. 第9回 F. メンデルスゾーン
10. 第10回 J. ブラームス
11. 第11回 後期ロマン派のキリスト教音楽(1)
12. 第12回 後期ロマン派のキリスト教音楽(2)
13. 第13回 現代のキリスト教音楽
14. 後期のまとめ(総論)
15. 後期のまとめ(試験)

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)試験:50% (2)出席:30% (3)レポートなど:20%

キリスト教カウンセリング論

CHRI-0-255

担当者：藤掛 明

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

現代のキリスト教界にあっては、心理カウンセリングは好意的に迎えられる一方で、信仰とは無関係に一般理論や技術体系が適用されることが多い。本講義では、そうした現状をふまえながら、聖書の示す人間観や世界観に照らし、またキリスト教界の歴史の変遷に照らし、キリスト教信仰と心理カウンセリングの営みがどのように関係し、カウンセリングを用い得るのかについて理解していく。

2. 学びの意義と目標

キリスト教の教理や人間理解を、カウンセリングという新しい観点から眺め直し、その理解を深めることができる。

受講生に対する要望

キリスト教信仰や聖書について、一定の知識や関心があることが望ましい。

キーワード

(1)キリスト教カウンセリング (2)臨床の知 (3)人格障害 (4)依存症 (5)無力感の受容と贖罪信仰

事前学習（予習）

授業計画や、授業内で行なう次回予告を参考に、インターネット等で情報を集めたり、関連資料を読むなどしておくこと。

復習についての指示

配布資料を再読するとともに、授業中紹介する関連書籍や文学作品、また関連聖書箇所などを読むようにすること。

授業計画

1. キリスト教カウンセリングの誕生の歴史
2. 臨床の知としてのカウンセリング（個性という人間理解）
3. 同（相互作用性という人間理解）
4. 同（多義性という人間理解）
5. 自分の弱さの受容とカウンセリング（ストレス反応から）
6. 同（積極思考の落とし穴）
7. 同（カウンセリング事例）
8. 同（対応編）
9. きょうだい関係とカウンセリング
10. 人生の発達段階と信仰
11. SOSサインとカウンセリング
12. 現代社会の病理と信仰（境界性人格障害）
13. 同（自己愛性人格障害）
14. 同（依存症）
15. まとめと試験

教科書

プリントを配布する
なお、参考書として、「ありのままの自分を生きる」（一麦出版社）を勧める。

評価方法

(1)試験:50%:第15回目授業の中で試験を実施。(2)毎授業でのミニレポート:50%:第5回目～14回目授業において、授業終盤で実施。

担当者：菊地 順

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

初めてキリスト教に触れる学生を念頭に置きながら、現代世界の成立において重要な役割を果たしてきたキリスト教の基本的な点について、聖書を中心に学びます。春学期は、初めに現代世界における宗教の意義について考察し、また日本とキリスト教との関係について概観します。その後、旧約聖書に基づいて、キリスト教の背景をなすユダヤ教（イスラエル宗教）の世界について、特にその世界観・人間観、その歴史、及びキリスト教との関連について学びます。

2. 学びの意義と目標

キリスト教は、大学の建学の理念の根幹をなすだけでなく、現代世界の一つの重要な精神文化を担っている宗教ですので、この授業をとおして、大学での学びの基礎を身に付けると同時に、世界や歴史を見る目を養うことを目指します。

受講生に対する要望

初めてキリスト教に触れる人も多いと思いますが、上述したキリスト教を学ぶ意義を理解し、開かれた心をもって授業に臨んでほしいと思います。また、授業で学んだことだけにとどまるのではなく、関心のあるところを自分で深めていく努力をしてほしいと思います。

キーワード

(1)キリスト教 (2)聖書 (3)神 (4)人間 (5)歴史

事前学習（予習）

この授業は基本的にテキストに添って行ないますので、予習としては各授業の項目に従って予めテキストの下読みをしてください。

復習についての指示

復習としてはノートと聖書の内容の確認を中心に行ってください。また自分の関心のあるところを調べ、知識を深めてください。

授業計画

1. 現代世界と宗教—宗教とは何か—
2. 日本とキリスト教—身近にあるキリスト教—
3. キリスト教と礼拝への招き
4. キリスト教の歴史と聖学院の背景
5. 聖書と啓示
6. 人間とは何か(1)
7. 人間とは何か(2)
8. イスラエルの歴史と信仰(1)
9. イスラエルの歴史と信仰(2)
10. イスラエルの歴史と信仰(3)
11. 十戒と律法(1)
12. 十戒と律法(2)
13. 預言者たちの活動(1)
14. 預言者たちの活動(2)
15. 預言者とメシア思想

教科書

日本聖書協会 『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）聖学院キリスト教センター編 『神を仰ぎ、人に仕う—キリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会）聖学院キリスト教センター編 『聖学院の精神と歴史』（聖学院ゼネラル・サービス）

評価方法

- (1)試験:60%:最後の授業時に1回行う (2)出席:20%:3分の2以上出席すること (3)課題:20%:教会出席レポートと全学礼拝レポート
- 以上の3点を総合して成績を出します。ただし、欠席が3分の1以上の人、あるいは課題の未提出者は、試験を受けることができませんので、注意すること。

キリスト教概論 A

CHRI-0-101

担当者：阿部 洋治

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義では、日本におけるキリスト教の歴史に目を向けながら、キリスト教に否定的であった日本社会の問題と、弾圧にもかかわらず信仰を貫いた人々の信仰と生活を学びたい。

2. 学びの意義と目標

弾圧の下にあって信仰を貫いた人々の信仰と生活に思いをめぐらせながら、自分たち自身の生きる意味を思索したい。

受講生に対する要望

ただ知識を学ぶのではなく、自分自身の生き方を探求する姿勢を養ってほしい。

キーワード

(1) 生きる意味 (2) パイオニア (3) 歴史の担い手 (4) 個人の尊厳

事前学習（予習）

指定の教科書を自分で読んでほしい。

復習についての指示

授業で触れたことで興味のあることについて図書館でさらに調べる姿勢をもってほしい。また授業で示唆する図書を自分で読んでほしい。

授業計画

1. はじめに
2. 聖学院の歴史を築いた人々 (1) 二人の宣教師たち
3. (2) 聖学院教育の創始者たち
4. キリシタン時代 (1) 切支丹(キリシタン)のもたらしたもの
5. (2) 秀吉による弾圧
6. (3) 迫害下の信仰者たち 高山右近
7. (4) 迫害下の信者たち 26聖人
8. 開国とキリスト教 (1) ペリー、ハリス、ヘップボーン
9. (2) 宣教師たちの働き
10. (3) 明治政府の弾圧
11. 明治初期のキリスト者 (1) 新島 襄
12. (2) 植村正久
13. (3) 内村鑑三
14. 明治政府とキリスト教 (1) 不敬事件とキリスト教弾圧
15. (2) キリスト教批判

教科書

日本聖書協会 『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）聖学院キリスト教センター編 『神を仰ぎ、人に仕うーキリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会）聖学院キリスト教センター編 『聖学院の精神と歴史』（聖学院ゼネラル・サービス）

評価方法

- (1) 試験:100%

キリスト教概論 A

CHRI-0-101

担当者：E. D. オズバーン

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 内容：この講義では、聖学院大学の教育理念の根底に位置するキリスト教の基礎を紹介します。まず最初に個人個人の人生における宗教の重要性を確認し、同時に日本の歴史と文化における主要な宗教と哲学の役割を概観します。そしてその中から日本人の世界観の中に根差す4つのキーワード：先祖崇拝・年配者の尊重・不浄と清浄（不潔と清潔・穢れとお祓い）・安全と安心（お守り）について考えていきます。次にこの講義では、それぞれの学生が持つ信念や信条に焦点をあて、それぞれが何を信じ、そして何故それを信じるのかについて考え、表現することにチャレンジしてもらいます。さらに、創造主・聖書・罪・救済などの例を挙げながらキリスト教のユニークさを強調しつつ、その教理を概観していきます。そして最後にキリスト教概論Aでは、この講義で学んだ内容が個々の人生にどのように関連していくか、という事について考えてもらうように受講者に訴えて終わりたいと思います。2. カリキュラム上の位置づけ：聖学院大学基礎科目群の必修科目

2. 学びの意義と目標

第一の目的は、一般の宗教と又、キリスト教の概観を、特に日本の環境において重点をおきながら受講者に提供することです。

受講生に対する要望

この講座は日本語と英語、両方によって行われます。結果として学生の英語力は上昇していくと思われそうですが、この講座の主な焦点は受講する内容に在ります。受講者には個々の世界観を広げていくことにチャレンジしてもらい、その内容については学期末レポートにおいても記してもらいます。

キーワード

(1) worldview (世界観) (2) Christianity (キリスト教) (3) Holy Bible (聖書) (4) Nihonism (日本教)

事前学習（予習）

旧約聖書また、教科書『神を仰ぎ人に仕う』の既定の箇所の読書を都度終え、講義で話し合う主要着想点と専門用語に精通することを求められます。

復習についての指示

学生は、各回の講義においてのクラスノートを復習し、主要点の暗記を託されます。

授業計画

1. 宗教とは何か？そしてなぜ宗教が必要なのか？I：世界観
2. 宗教とは何か？そしてなぜ宗教が必要なのか？II：世界観の比較
3. 日本の歴史と文化における宗教I：神道、仏教、儒教の役割
4. 日本の歴史と文化における宗教II：禅と武士道の役割
5. 現代日本文化における宗教：「日本教」
6. 自己認識と宗教：あなたは一体何者で、何を本当に信じ、そして何故それを信じるのか？
7. キリスト教とは何か？そして世界の他の宗教とは何が違うのか？
8. 三位一体のキリスト教の創造神
9. 聖書の目的と意味I：聖書は神の御言葉
10. 聖書の目的と意味II：聖書の権威
11. 漢字に隠された聖書のメッセージ
12. 罪とは何か？：キリスト教における人間とそのジレンマ
13. 救済とは何か？I：さまざまな宗教における答え
14. 救済とは何か？II：キリスト教の福音（ゴスペル）メッセージにおける答え
15. 期末テスト

教科書

日本聖書協会 『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）聖学院キリスト教センター編 『神を仰ぎ、人に仕うーキリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会）聖学院キリスト教センター編 『聖学院の精神と歴史』（聖学院ゼネラルサービス）

評価方法

- (1) 読書レポート：20% (2) 教会出席レポート及び全学礼拝レポート：30% (3) テスト：30% (4) 出席と授業参加：20%

キリスト教概論 A

CHRI-0-101

担当者：石田 学

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この講座は、キリスト教についての基本的な知識を紹介し、聖書の内容を概説します。まずプロテスタント・キリスト教主義の大学で学ぶ意義からはじめ、キリスト教の礼拝、行事などをとりあげ、ついで前期はおもに旧約聖書を紹介します。聖書は、文学、芸術、音楽、思想など文化のあらゆる面で大きな影響を与えてきました。キリスト教主義の大学で学ぶ特権を生かして、キリスト教に触れる機会を持っていただき、キリスト教についての基礎知識を知る機会としていただきたいと思います。

2. 学びの意義と目標

今日、日本人のキリスト教人口比率は1%未満にすぎません。しかし、キリスト教が日本の文化と社会に与えてきた影響は、歴史的に見ても大きいのです。政治、経済、思想、社会の仕組みなどはもちろん、文学や音楽、芸術の分野でもキリスト教抜きには、近代日本を正しく理解することはできません。日本という枠を超えて、世界に目を向けるとき、キリスト教抜きには、世界の歴史と現況を理解することはできないといっても過言ではありません。いろいろな意味において、キリスト教は人類の価値観、文化形成に影響を与え、人類の思想的発展を促してきました。特に西欧社会においては、キリスト教は古代から現代に至るまで、文化と歴史形成において中心的な役割を果たしてきました。ところが、現実には日本でキリスト教はほとんど正しく理解されてはいません。クリスマスやキリスト教式結婚式は広く受け入れられていますが、キリスト教の教え、聖書の内容、倫理観、世界理解などについては残念ながら正しい知識を持つ人はわずかです。講座の終了時にはキリスト教の基本的知識と、聖書の内容についての基礎知識を持つことができます。

受講生に対する要望

なるべく皆さんが興味を持つことのできる内容を心がけますので、皆さんも前向きに受講してください。

キーワード

(1) 礼拝 (2) 聖書 (3) 芸術 (4) 文化 (5) 歴史

事前学習（予習）

1) 教科書の指定箇所を予め読んで来て下さい。2) 聖書を必ず持参して下さい。3) ダウンロードしたファイルに予め目を通しておいてください。授業ではその説明をします。

復習についての指示

1) ワークシートで確認しながら、ダウンロードしたファイルを見直して下さい。

授業計画

1. 序論 (1) : 講座の紹介と講義要領の説明。なぜキリスト教を学ぶのか。
 2. 序論 (2) : キリスト教主義大学で学ぶ意義。本学の精神と課題レポートの説明。
 3. キリスト教礼拝とは：聖書・賛美歌の解説と使い方、キリスト教礼拝の説明。
 4. キリスト教とは何か (1) : キリスト教の伝統と歴史入門。
 5. キリスト教とは何か (2) : 教会の儀式と暦、習慣を知ろう。
 6. 旧約聖書 (1) : 旧約聖書と新約聖書、どう違うか。古代オリエント世界の紹介。
 7. 旧約聖書 (2) : 天地創造と、アブラハム、イサク、ヤコブの物語。
 8. 旧約聖書 (3) : ヨセフ物語前編。売られたヨセフ。
 9. 旧約聖書 (4) : ヨセフ物語後編。神の摂理とは何か。
 10. 旧約聖書 (5) : 出エジプトの物語、前編。神の人モーセ。
 11. 旧約聖書 (6) : 出エジプトの物語、後編。「エクスダス」。
 12. 旧約聖書 (7) : 「十戒」を学ぶ。
 13. 旧約聖書 (8) : 「約束の地」カナン定住とダビデ王の物語。
 14. 旧約聖書 (9) : ソロモンと王国の物語。
 15. 旧約聖書 (10) : その後のイスラエルの歴史と預言者たち。
- 学期末試験

教科書

日本聖書協会 『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）聖学院キリスト教センター編 『神を仰ぎ、人に仕うーキリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会）聖学院キリスト教センター編 『聖学院の精神と歴史』（聖学院ゼネラル・サービス）

評価方法

(1) 学期末試験: 80% : ノート・配布資料持ち込み可での記述式試験。(2) レポート: 10% : 必須課題 (3) 授業内レポート: 10% : 授業時に指示します。

毎回、パワーポイントを用いたプレゼンテーションをおこないます。毎回のプレゼンテーションの内容は、pdfファイル化したものをE-learning の当講座にアップします。皆さんそれぞれダウンロードして、予習・復習に利用して下さい。授業時にはパワーポイントの内容に対応したワークシートを配布します。それをノートとして利用して下さい。

キリスト教概論 A

CHRI-0-101

担当者：山ノ下 恭二

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義ではキリスト教の基礎であるキリスト教の神、聖書について詳しく解説し、旧約聖書の内容を詳しく解説していく。キリスト教に触れるのは初めての学生も多いと考えているので、キリスト教の中心的メッセージを明確にしつつ、特に旧約聖書の中心的な用語についても詳しく解説していく。

2. 学びの意義と目標

キリスト教に初めて触れる学生が、聖書に親しみ、キリスト教の基本的な内容を理解すると共に、自分の生き方を聖書から考えることを目標とする。

受講生に対する要望

授業に遅刻せず、真剣に講義を聴き、全学礼拝レポート、教会礼拝レポートを指定された日時に提出してほしい。

キーワード

(1) 礼拝とは何だ (2) キリスト教の神とは (3) 旧約聖書には何が書いてある (4) 契約とは。戒めとは。 (5) 預言とは何だ

事前学習（予習）

『聖書』『神を仰ぎ、人に仕う』は、毎回、必ず持参すること。
『神を仰ぎ、人に仕う』を予め、読んでくること。

復習についての指示

講義で触れた聖書、教科書、をよく読むこと

授業計画

1. 授業のオリエンテーション
2. キリスト教活動、礼拝について
3. キリスト教の基礎知識
4. キリスト教との出会い
5. 聖書について
6. 創造について（1）
7. 創造について（2）
8. 堕落と滅びについて
9. 族長物語
10. 出エジプト
11. 契約と律法
12. 預言書（1）
13. 預言書（2）
14. 知恵文学（1）
15. 知恵文学（2）

教科書

日本聖書協会 『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）聖学院キリスト教センター編 『神を仰ぎ、人に仕う—キリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会）聖学院キリスト教センター編 『聖学院の精神と歴史』（聖学院ゼネラル・サービス）

評価方法

- (1) 授業出席・態度：40% (2) レポート提出：30% (3) 試験：30%

キリスト教概論 A

CHRI-0-101

担当者：佐野 正子

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

キリスト教の基礎知識と、キリスト教の中心であるイエス・キリストの生涯と教えについて学び、そこから私たちに示されている生き方について、共に考えていく。

2. 学びの意義と目標

キリスト教に初めて触れる学生が、聖書に親しみ、キリスト教の基本的かつ本質的内容を理解するとともに、自分の生き方を見つめ、現代社会をとらえる目を養うことを目標とする。

受講生に対する要望

出席を重視し、授業への積極的な取り組みを期待する。

キーワード

(1) 神の愛 (2) 隣人愛 (3) 赦し

事前学習（予習）

提示される教科書と聖書の箇所をあらかじめ読んでおくこと。

復習についての指示

授業で取り上げた聖書の箇所を繰り返し読み、内容の理解を深めること。

授業計画

1. キリスト教とはなにか、なぜキリスト教を学ぶのか
2. キリスト教の教会、礼拝について
3. 聖書について（1）
4. 聖書について（2）
5. ユダヤ教とキリスト教、メシア待望とキリストの誕生
6. イエス・キリストの生涯
7. イエス・キリストの教え（1）
8. イエス・キリストの教え（2）
9. イエス・キリストの教え（3）
10. イエス・キリストのはたらき（1）
11. イエス・キリストのはたらき（2）
12. イエス・キリストのはたらき（3）
13. イエス・キリストの十字架による死と復活
14. イエス・キリストの弟子たちと教会の誕生
15. まとめ

教科書

日本聖書協会 『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）聖学院キリスト教センター編 『神を仰ぎ、人に仕うーキリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会）聖学院キリスト教センター編 『聖学院の精神と歴史』（聖学院ゼネラル・サービス）

評価方法

- (1) 出席レポート：60% (2) 礼拝レポート：20% (3) 期末レポート：20%

キリスト教概論 A

CHRI-0-101

担当者：久保島 理恵

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義では旧約聖書を扱う。天地創造、アダムとエバ、モーセの十戒など比較的良好に知られているエピソードや人物を取り上げ、実際に共に聖書を読みながら、聖書的信仰の基本的な考え方を学んでいく。そしてさらに、わたしたち自身の人生において直面する諸問題や現代社会のさまざまな課題などとも関連づけながら考察を深めていく。

2. 学びの意義と目標

「神を仰ぎ、人に仕う」という本学のスクール・モットーはキリスト教信仰に貫かれている。従って、本講義はまず自分の学びの場の土台を知るという意味を持っている。キリスト教を知るためには、その正典である聖書の学びが不可欠である。旧約聖書には、キリスト以前の約2000年間の神とイスラエルとの関係が記されているが、それは単なる遠い昔の歴史物語ではなく、人間の本質、世界の存在意義、苦難の意味など、現在のわたしたちが直面している課題が示されている。イスラエルの民は、過去の出来事から現在をとらえ、そして未来への指針を読み取ってきた。わたしたちも旧約聖書を学ぶことでキリスト教への理解を深めると共に、現代社会の諸相をとらえる目を養う機会としたい。

受講生に対する要望

キリスト教についての知識は不問であるが、講義、課題に対する真摯な取り組みを望む。

キーワード

(1)キリスト教 (2)旧約聖書

事前学習（予習）

毎回の授業の最後に、次回取り上げる聖書箇所を提示するので、事前に読んでおくこと。

復習についての指示

毎回の授業の最後に授業レポートの課題を出すので、配布するレポート用紙にまとめて次の授業時に提出すること。また、授業で取り上げた聖書箇所と教科書の当該箇所を読み返すこと。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 礼拝とは(1)
3. 礼拝とは(2)
4. 混沌の中の希望（天地創造）
5. 人間とは（人間の創造）
6. 自由と罪（アダムとエバ）
7. 不平等、不条理の中で（カインとアベル）
8. 世界に対する神の決意（ノアの箱舟）
9. 文明の進歩の果てに（バベルの塔）
10. 「にもかかわらず」の信仰（アブラハム）
11. 神の計画（ヨセフ）
12. くり返し思い出す出来事（出エジプト）
13. 自由な神の民として生きる（十戒）
14. 立ち返る原点を知る（ダビデ）
15. まとめ

教科書

日本聖書協会 『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）聖学院キリスト教センター編 『神を仰ぎ、人に仕う—キリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会）聖学院キリスト教センター編 『聖学院の精神と歴史』（聖学院ゼネラル・サービス）

評価方法

(1) 平常点:25% (2) 授業レポート:25% (3) 礼拝レポート:25% (4) 期末レポート:25%

キリスト教概論 A

CHRI-0-101

担当者：田中 かおる

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この授業は、聖学院大学の建学の精神であるキリスト教への理解を深めることを目的とする。

2. 学びの意義と目標

キリスト教は、現在の私達の日常生活、また明治以降の日本の教育界にもいろいろな形で影響を与えてきた。そういうことを点検しながら、キリスト教に親しみ、聖書のメッセージに直接触れて、理解を深めていきたい。聖書は旧約聖書を取り上げ、そこに示されている人間観とそれに対する神の関わりという視点から学び、今日の社会の問題との接点を共に考えていく。

受講生に対する要望

毎回、聖書を持参すること。

キーワード

(1) 建学の精神 (聖学院の歴史) (2) 日本の教育界への影響 (3) 聖書の人間観 (旧約)

事前学習 (予習)

聖書の該当箇所を読んでおく。

復習についての指示

講義内容を確認する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. キリスト教とは何か (1)
3. キリスト教とは何か (2) …聖学院の歴史
4. キリスト教とは何か (3) …聖書とその舞台
5. 旧約聖書 (1) …天地創造(創世記1章)
6. 旧約聖書 (2) …アダムとエバ(創世記1～3章)
7. 旧約聖書 (3) …カインとアベル(創世記4:1～15)
8. 旧約聖書 (4) …箱舟物語(創世記6～8章)
9. 旧約聖書 (5) …アブラハム とイサク(創世記12章他)
10. 旧約聖書 (6) …ヤコブ(創世記25:19～他)
11. 旧約聖書 (7) …ヨセフとその兄弟たち(創世記37章他)
12. 旧約聖書 (8) …モーセ(1)(出エジプト1章他)
13. 旧約聖書 (9) …モーセ(2)(出エジプト14章他)
14. 旧約聖書 (10) …十戒(出エジプト20:1～17)
15. まとめ

教科書

日本聖書協会 『聖書(新共同訳)』 (日本聖書協会) 聖学院キリスト教センター編 『神を仰ぎ、人に仕うーキリスト教概論 21世紀版』 (聖学院大学出版会) 聖学院キリスト教センター編 『聖学院の精神と歴史』 (聖学院ゼネラル・サービス)

評価方法

- (1) 毎回の小レポート:20% (2) 礼拝レポート :30% (3) 試験:50%

キリスト教概論 A

CHRI-0-101

担当者：藤原 淳賀

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義は、キリスト教に初めて触れる学生諸君が、キリスト教の基本的かつ本質的内容を理解できるようにすることを目的としている。春学期は、聖書について、神について、人生について、キリスト教およびプロテスタンティズムについて概観し、旧約聖書に記された重要な出来事を概観する。

2. 学びの意義と目標

キリスト教の基礎的な内容と旧約聖書について理解することを目標とする。

受講生に対する要望

毎週のクイズが成績の60%を占めるのでよく準備する必要がある。欠席・遅刻をすると単位取得が困難になるので注意をして欲しい。

キーワード

事前学習（予習）

予め定められている読書課題から毎週の授業でクイズ(小テスト)を行うのでその準備をしてくること。

復習についての指示

授業が行われた日の内にノートを見直し、クラスメートと内容確認をして欲しい。

授業計画

1. イントロダクション
2. キリスト教との出会い
3. 聖書について
4. プロテスタンティズムと聖学院
5. 神について
6. 創造・墮落・救済
7. ノアの箱船
8. バベルの塔
9. アブラハム契約
10. 出エジプト1
11. 出エジプト2
12. 十戒
13. ダビデとメシアへの期待
14. 捕囚
15. イスラエルの再建

教科書

日本聖書協会 『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）聖学院キリスト教センター編 『神を仰ぎ、人に仕うーキリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会）聖学院キリスト教センター編 『聖学院の精神と歴史』（聖学院ゼネラル・サービス）

評価方法

- (1) クイズ:60% (2) 試験:40%

キリスト教概論 A

CHRI-0-101

担当者：柳田 洋夫

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

キリスト教は、民主主義や資本主義を柱とするこの近代世界を成立させた原動力であるとともに、私たちに生きる勇気と指針を与えるものでもある。春学期は、初学者にも理解できるキリスト教入門を心がけつつ、キリスト教信仰の概略と旧約聖書について学ぶ。

2. 学びの意義と目標

聖書に親しみ、キリスト教についての基礎知識を習得するとともに、キリスト教によって培われる新しい生き方とは何かについて考察し、それぞれの実践に生かす。

受講生に対する要望

授業には自分なりの問題意識をもって真剣に臨んでほしい。私語や遅刻は授業進行ならびに他の学生への深刻な妨害となるので厳禁とする。

キーワード

(1)キリスト教 (2)旧約聖書

事前学習（予習）

授業においてその都度指示する。

復習についての指示

授業においてその都度指示する。

授業計画

1. キリストと聖書
2. 祈りと礼拝 —「主の祈り」を中心に
3. 三位一体の神・神の国・教会（1）
4. 三位一体の神・神の国・教会（2）
5. プロテスタントとは何か
6. 神の創造と人間の墮罪
7. 神の救済と人間の自己栄化
8. 族長たちの活躍（1）
9. 族長たちの活躍（2）
10. 族長たちの活躍（3）
11. 出エジプトと「十戒」（1）
12. 出エジプトと「十戒」（2）
13. イスラエル王国の盛衰と預言者たち
14. 「ヨブ記」と「詩篇」の世界
15. まとめと試験

教科書

日本聖書協会 『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）聖学院キリスト教センター編 『神を仰ぎ、人に仕うーキリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会）聖学院キリスト教センター編 『聖学院の精神と歴史』（聖学院ゼネラル・サービス）

評価方法

- (1)出席・参加度:40% (2)試験:40% (3)礼拝レポート:20%

出席・参加度、試験、礼拝レポートをすべて満たして単位とする。試験と礼拝レポートの詳細については授業で指示する。出席状況と礼拝レポート提出数が規定に満たない場合は評価の対象としない。

キリスト教概論 A

CHRI-0-101

担当者：野島 邦夫

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

キリスト教の主な教えと聖書の概説がこの講義の内容ですが、それらを全く知らないという方々でもわかるように説明します。指定の教科書「神を仰ぎ、人に仕う」に沿って、まず、「宗教」は皆様のような若い人たちにも必要かどうか、必要であるならどのように必要なのか、さらに、なぜ必要なのがキリスト教かを考えます。そしてキリスト教の経典・聖書の全体を概観した後、本論として、春学期は旧約聖書の大切な箇所を順番に学んでいきます。（秋学期は新約聖書の主な内容を学びます。）具体的なテーマは「授業計画」を見てください。

2. 学びの意義と目標

キリスト教はこの大学の精神的土台です。この大学で初めてキリスト教に触れる方が多いでしょう。「キリスト教国」ではない日本で、若い時キリスト教を知ることは一生の掛け替えのない財産となるにちがひありません。キリスト教は二千年來この世界を導いてきた精神的支柱の一つです。キリスト教を知らなくては、世界の歴史も現代社会の動きもよく理解できないでしょう。音楽を始め芸術の分野でも大きな影響を与えました。しかし、それ以上に重要なことは、キリスト教は皆様の一人ひとりの人生の指針となり拠りどころとなるに違いないということです。キリスト教信仰は単に天国に行けることを約束するだけではなく、葬儀の時にだけ必要なのではなく、生きて悩んでいるその人の支えになるものです。この講義は、キリスト教とその教典（聖書）をなるべくわかりやすく解説して、受講者の皆様にキリスト教を正しく知っていただくことを目指します。

受講生に対する要望

素直な気持ちでキリスト教を知りたいと思っている方々は、どなたでも歓迎します。授業中にも聖書を頻繁に使いますから、必ず聖書の「本」（アプリは不適）を毎回持って来てください。

キーワード

(1)キリスト教 (2)宗教 (3)聖書 (4)神 (5)人生

事前学習（予習）

この講義は、基本的に指定教科書（特に「神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版」）と聖書を用いておこないますので、毎回、指示される箇所を読んでください。その準備によって、授業の楽しさと受ける益が一にも百にもなります。

復習についての指示

毎回、講義内容の詳しいプリントを配布します。講義の後、それを必ず読み返してください。さらに、講義の復習と日本語力の向上を兼ねて、毎回の講義の内容に関係するテーマで、定期的に「小作文」（200字）の時間を取ります。

授業計画

1. はじめに：宗教は誰にとって必要か？
2. 諸宗教とキリスト教
3. 日本とキリスト教
4. 聖書（旧約＋新約）概観
5. キリスト教の神
6. 神は創造者（人間は被造物）
7. 人間の墮落（アダムとエバと、へび）
8. 人間の救済へ（ノアの方舟）
9. 人間の自己神化（バベルの塔）
10. アブラハムと信仰
11. 出エジプト（モーセ 1）
12. 十戒（モーセ 2）
13. 預言者とは
14. 信仰者の苦難と喜び（ヨブ記と詩編から）
15. まとめ

教科書

日本聖書協会 『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）聖学院キリスト教センター編 『神を仰ぎ、人に仕うーキリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会）聖学院キリスト教センター編 『聖学院の精神と歴史』（聖学院ゼネラル・サービス）

評価方法

(1)出席・課題:30% (2)礼拝出席レポート:20% (3)試験:50%

欠席が三分の一以上の人と、課題・レポートの未提出の人は、試験を受けることができません。

キリスト教概論 A

CHRI-0-101

担当者：吉岡 光人

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

キリスト教とはどんな宗教なのかということを学ぶことによって、世界の歴史や現代社会など目に見える世界を理解すること、そして人間存在とは何か、自分とは何か、人を愛するとは何かなど人間が生きてゆく上での基本的な課題に対しても理解を深めることを学ぶ。

2. 学びの意義と目標

旧約聖書を中心に、聖書の宗教観・人間観を学ぶ。

受講生に対する要望

出席を重視する。

キーワード

(1) 聖書の遠い世界を身近に感じよう

事前学習（予習）

今回の授業までに教科書・聖書の該当箇所を読んでくること。

復習についての指示

授業で扱ったテキスト箇所および配布された教材をよく読んで、次の授業に備えること

授業計画

1. キリスト教概論概説
2. 旧約聖書の世界（1）天地創造
3. 旧約聖書の世界（2）墮罪
4. 旧約聖書の世界（3）アブラハム・イサク・ヤコブ物語
5. 旧約聖書の世界（4）ヨセフ物語
6. 旧約聖書の世界（5）出エジプトと十戒
7. 旧約聖書の世界（6）ダビデ王とソロモン王
8. 小テスト
9. 旧約聖書の世界（7）国家滅亡とバビロン捕囚
10. 旧約聖書の世界（8）預言者（1）
11. 旧約聖書の世界（9）預言者（2）
12. 旧約聖書の世界（10）詩編
13. 旧約聖書の世界（11）知恵文学
14. ユダヤ教からキリスト教へ
15. 期末試験

教科書

日本聖書協会 『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）聖学院キリスト教センター編 『神を仰ぎ、人に仕うーキリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会）聖学院キリスト教センター編 『聖学院の精神と歴史』（聖学院ゼネラル・サービス）

評価方法

(1) 出席:30% (2) 礼拝レポート:20% (3) 試験:50%

担当者：山口 博

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

キリスト教の理解を深めるために、学期の前半では、旧約聖書に基づいて、その世界観、人間観、イスラエルの民の歴史を学び、学期の後半では、キリスト教の歴史と文化について学ぶ。

2. 学びの意義と目標

キリスト教に初めて触れる学生が、聖書に親しみ、キリスト教の基本的かつ本質的内容を理解するとともに、自分の生き方を見つめ、現代社会をとらえる目を養うことを目標とする。

受講生に対する要望

授業で投げかける問題に積極的に取り組むことを要望する。

キーワード

(1) 神の愛 (2) 隣人愛 (3) 人権 (4) 共生

事前学習（予習）

予習としては、提示される教科書と聖書の箇所をあらかじめ読んでおくこと。

復習についての指示

復習としては、授業で取り上げた内容について、レポートにまとめること。

授業計画

1. 序
2. 聖書の世界観
3. 聖学院の歴史
4. 聖書の人間観 1
5. 聖書の人間観 2
6. 聖書の人間観 3
7. キリスト教の歴史（1）古代・中世
8. キリスト教の歴史（2）宗教改革
9. キリスト教の歴史（3）近現代
10. キリスト教と社会
11. キリスト教と文化（1）
12. キリスト教と文化（2）
13. キリスト教と美術
14. キリスト教と音楽
15. まとめ

教科書

日本聖書協会 『小型聖書 - 新共同訳』（日本聖書協会）聖学院大学宗教センター 『神を仰ぎ、人に仕う—キリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会）

評価方法

- (1) 出席レポート：60% (2) 礼拝レポート：20% (3) 期末レポート：20%

キリスト教概論B

CHRI-0-102

担当者：菊地 順

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

初めてキリスト教に触れる学生を念頭に置きながら、現代世界の成立において重要な役割を果たしてきたキリスト教の基本的な点について、聖書を中心に学びます。秋学期は、春学期の学びを踏まえ、主にキリスト教の中心をなすイエス・キリストの生涯と教えについて、新約聖書を用いて学びます。また授業では、できるだけ映像なども取り入れて、親しみやすい内容にしたいと思います。

2. 学びの意義と目標

キリスト教は、大学の建学の理念の根幹をなすだけでなく、現代世界の一つの重要な精神文化を担っている宗教ですので、この授業をととして、大学での学びの基礎を身に付けると同時に、世界や歴史を見る目を養うことを目指します。

受講生に対する要望

たえず開かれた心を持って授業に臨んでほしいと思います。また、授業での学びのみならず、自分から積極的に学びを深めてほしいと思います。

キーワード

(1) イエス・キリスト (2) 新約聖書 (3) 神の国 (4) 贖 (あがな) い (5) 十字架

事前学習 (予習)

この授業は基本的にテキストに添って行ないますので、予習としては各授業の項目に従って予めテキストの下読みをしてください。

復習についての指示

復習としてはノートと聖書の内容の確認を中心に行ってください。また授業をととして関心を持ったところを調べ、自分の知識を深めてください。

授業計画

1. イエス・キリストに関する資料—4つの福音書—
2. イエス・キリストの時代背景
3. イエス・キリストの生涯(1)—誕生から幼年時代—
4. イエス・キリストの生涯(2)—公生涯への備え—
5. イエス・キリストの生涯(3)—宣教の開始と弟子たちの召命—
6. イエス・キリストの生涯(4)—山上での説教(1)—
7. イエス・キリストの生涯(5)—山上での説教(2)—
8. イエス・キリストの生涯(6)—山上での説教(3)—
9. イエス・キリストの生涯(7)—弟子たちの派遣—
10. イエス・キリストの生涯(8)—たとえ話—
11. イエス・キリストの生涯(9)—奇跡—
12. イエス・キリストの生涯(10)—論争と対立—
13. イエス・キリストの生涯(11)—十字架への道(1)—
14. イエス・キリストの生涯(12)—十字架への道(2)—
15. 現代にとってキリスト教とは？

教科書

日本聖書協会 『聖書(新共同訳)』 (日本聖書協会) 聖学院キリスト教センター編 『神を仰ぎ、人に仕う—キリスト教概論 21世紀版』 (聖学院大学出版会) 聖学院キリスト教センター編 『聖学院の精神と歴史』 (聖学院ゼネラル・サービス)

評価方法

- (1) 試験:60%:最後の授業で1回行う (2) 出席:20%:3分の2以上出席すること (3) 課題:20%:教会出席と礼拝出席

以上の3点を総合的に判断して成績を出します。ただし、欠席が3分の1以上の人、あるいは課題の未提出者は試験を受けることができませんので、注意すること。

担当者：阿部 洋治

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

旧約聖書から新約聖書の主なトピックを取り上げて、聖書に親しむ手がかりを模索したい。後半ではルターの宗教改革に注目し、聖書が投げかけているメッセージがどのような意味をもっているかを学びたい。

2. 学びの意義と目標

聖書が一つ一つのトピックをとおして語りかけていることが、現代に生きる私たちにどんな意味があるかを体得してほしい。そして神を信じているということのリアリティを実感してほしい。取るに足りない小さな存在がどのように導かれ、用いられ、生かされるかということに目を向けたい。

受講生に対する要望

授業でも、礼拝においても、聖書に親しみ、聖書の語りかけるメッセージに触れることの意義を実感してほしい。

キーワード

(1)実存 (2)生きる意味 (3)人間の弱さと惨めさ (4)十字架 (5)復活

事前学習（予習）

事前に示唆する聖書の箇所を自分で読んで授業に出席すること。

復習についての指示

授業のノートをしっかり取って、特に印象に残ったことについての思索をすること。

授業計画

1. はじめに
2. 聖書とは何か―旧約聖書と新約聖書
3. 天地創造について
4. 人間について
5. 人間の墮落について
6. アブラハムの経験
7. ヨセフの経験
8. イスラエルの苦悩とエジプト脱出
9. バビロン補修の苦悩と解放
10. イエスの教え
11. イエスの十字架の死
12. サウロの回心
13. ルターの苦悩と福音の発見
14. 宗教改革のきっかけ
15. まとめ

教科書

日本聖書協会 『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）聖学院キリスト教センター編 『神を仰ぎ、人に仕う―キリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会）聖学院キリスト教センター編 『聖学院の精神と歴史』（聖学院ゼネラル・サービス）

評価方法

- (1)試験:100%

キリスト教概論B

CHRI-0-102

担当者：E. D. オズバーン

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 内容： この講義は、キリスト教概論Aで最後に学んだ福音（ゴスペル）メッセージの概要を基にして構成していきます。学期の前半はイエス・キリスト：その生涯、死、そして復活；新約聖書に書かれたその主な教え；その神性と神の存在をあらわすために行った数々の奇跡に焦点を当てます。また、聖書のいくつかの内容を概略した後、キリスト教の根本的な教理を要約していきます。学期の後半においては、アメリカにおける民主主義の発展を例として使い、キリスト教が世界の歴史に与えた影響について考えていきます。キリスト教がアメリカの独立宣言・憲法・奴隷解放宣言などに与えた絶大な影響、またアブラハム・リンカーン大統領やマーチン・ルーサー・キング・ジュニア牧師など、歴史上の人物の偉大なスピーチなどに光を当てていきます。また受講生は、過去と現代における日本のキリスト教の概要について学んだ後に、いかにキリスト教が西洋の芸術、文学、音楽などに影響を与えてきたかについても学んでいきます。講義では最後に、この問題の山積した現代における信者として希望、信仰、愛などを例として挙げながら、何故キリスト教を信じるという事が、人間が根源的に必要としているものに最も良くなかった事であるか、という理由のトップ・テンを提示して終えたいと思います。

2. カリキュラム上の位置づけ： 聖学院大学基礎科目群の必修科目

2. 学びの意義と目標

講義の主要な目的は受講者がイエス・キリストの教えに親しむことであり、また、世界の歴史上の影響に注目し、学ぶことです。尚、受講者の個々の人生における福音メッセージの関連を見つめることにあります。

受講生に対する要望

この講座は日本語と英語、両方によって行われます。結果として学生の英語力は上昇していくと思われますが、この講座の主な焦点は受講する内容に在ります。受講者には個々の世界観を広げていくことにチャレンジしてもらい、その内容については学期末レポートにおいても記してもらいます。

キーワード

(1) Jesus Christ (イエス?キリスト) (2) resurrection (復活)
(3) faith (信仰) (4) hope (希望) (5) love (愛)

事前学習（予習）

新約聖書また、教科書『神を仰ぎ人に仕う』の既定の箇所の読書を都度終え、講義で話し合う主要着想点と専門用語に精通することを求められます。

復習についての指示

学生は、各回の講義におけるクラスノートで復習し、主要点の暗記を託されます。

授業計画

1. イエス・キリストの生涯
2. イエス・キリストの死と復活：それらが意味する事
3. イエス・キリストの教えI：山上の説教
4. イエス・キリストの教えII：山上の説教（続き）
5. イエス・キリストの教えIII：主なたとえ話（例：善きサマリア人；種を蒔く人）
6. イエス・キリストの奇跡（例：ラザロを復活させる；嵐を鎮める；悪霊を追い出す）
7. 新約聖書の主な教え（例：黄金律；最も重要な掟）
8. キリスト教が世界史に与えたインパクト（例：アメリカ合衆国）
9. キリスト教が西洋に与えたインパクト：芸術・文学・音楽I
10. キリスト教が西洋に与えたインパクト：芸術・文学・音楽II
11. 日本におけるキリスト教：過去
12. 日本におけるキリスト教：現在
13. キリスト教を信仰する理由I：信仰、希望、そして愛の力
14. キリスト教を信仰する理由II：人生を変える力
15. 期末テスト

教科書

日本聖書協会 『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）聖学院キリスト教センター編 『神を仰ぎ、人に仕うーキリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会）聖学院キリスト教センター編 『聖学院の精神と歴史』（聖学院ゼネラル・サービス）

評価方法

(1) 読書レポート：20% (2) 教会出席レポート及び全学礼拝レポート：30% (3) テスト：30% (4) 出席と授業参加：20%

担当者：石田 学

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この講座では、前半に新約聖書の内容を学びます。イエス・キリストの教えと働き、その生涯と死、復活の意味、そして教会の誕生までを概観します。後半では、キリスト教思想に基づく人間観、歴史観、倫理観などについて、なるべく具体的な話を交えながら、紹介します。基本的にパワーポイントを用いたプレゼンテーションをおこないます。後半ではビデオや映像による資料も用いるようにします。

2. 学びの意義と目標

現代世界は、いろいろな問題が複雑に絡み合い、善悪を単純に判断することのできない世の中です。そのような中で「善く生きる」を主題として、価値観を共に考えてゆきましょう。よりよい社会を築くため、どのような生き方をすべきかを考える手がかりを得ていただけたらと思います。

受講生に対する要望

1) 授業への積極的な参加を期待します。2) 予習・復習を心がけてください。

キーワード

(1)キリスト (2)十字架 (3)復活 (4)人間観 (5)キリスト教倫理

事前学習（予習）

教科書の指定箇所を読んできて下さい。前半は聖書必携です。Elearning のファイルに目を通してください。

復習についての指示

ワークシートとpdfファイルを用いて復習して下さい。

授業計画

1. はじめに：講座の概要説明、イエスとその時代を知ろう。ヘレニズムとローマ帝国
2. イエス・キリストの生涯（1）：クリスマスの出来事。
3. イエス・キリストの生涯（2）：教えと働き、「よいサマリヤ人」のたとえ。
4. イエス・キリストの生涯（3）：愛と憐れみ、「王の裁き」「放蕩息子」のたとえ。
5. イエス・キリストの生涯（4）：十字架と復活（前編）。
6. イエス・キリストの生涯（5）：十字架と復活（後編）。
7. イエス・キリストの生涯（6）：ビデオ鑑賞。
8. パウロの働き：「異邦人」への教会の拡がり。
9. 人間とはなにか：キリスト教的人間観に触れる。
10. 罪とはなにか：キリスト教的罪理解を学ぶ。
11. 「いのち」について考えてみよう：生命倫理と科学技術
12. キリスト教は結婚をどのように考えるか。
13. イエスからキリスト教へ：キリスト教の教えと歴史概略。
14. 真の霊性を求めて：キリスト教のスピリチュアリティ。
15. まとめ：人間の未来と教会の役割。

教科書

日本聖書協会 『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）聖学院キリスト教センター編 『神を仰ぎ、人に仕うーキリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会）聖学院キリスト教センター編 『聖学院の精神と歴史』（聖学院ゼネラル・サービス）

評価方法

(1)学期末試験：80%：ノート・配布資料持ち込み可の記述試験。(2)課題レポート：10%：キリスト教概論共通の必修課題です。(3)授業内レポート：10%：授業内容への応答レポート。授業時に指示します。

授業はパワーポイントを用いて進めます。パワーポイントのデータはpdfファイル化して、Elearningの当講座にアップロードします。各自ダウンロードして予習・復習をしてください。授業時にはワークシートを配布します。それをノートとして利用して下さい。

担当者：山ノ下 恭二

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

キリスト教の基礎である新約聖書の内容に詳しく解説する。イエスの生涯、十字架と復活、教会の成立、ヨーロッパ世界への伝道を解説する。新約聖書の鍵となる言葉、上ノ国、償い、信仰、義、愛、などの用語について解説する。

2. 学びの意義と目標

新約聖書の内容を学生が把握し、イエスが伝えた神の国について、従事者の死と復活について、パウロの伝道と手紙のついて詳しく知ることを目標とする。

受講生に対する要望

授業に遅刻せず、真剣に講義を聴き、全学礼拝レポート、協会礼拝レポートを指定された日時までに提出してほしい。

キーワード

(1)イエスとはどのような人か (2)神の国とは (3)神の国のたとえ話とは (4)十字架とは (5)どうしてキリスト教は広まったのか

事前学習（予習）

授業で予告されている『神を仰ぎ、人に仕う』を予め、読んでく

復習についての指示

講義で触れた聖書・教科書をよく読むこと

授業計画

1. 授業のオリエンテーション
2. 新約聖書の概要、基礎知識
3. イエスの生涯
4. イエスの時代
5. 神の国の福音
6. イエスの活動
7. 神の国のたとえ話（1）
8. 神の国のたとえ話（2）
9. 神の国のたとえ話（3）
10. メシア(キリスト)の十字架の死と復活
11. 教会の誕生
12. 使徒たちの宣教
13. パウロの伝道活動
14. パウロの手紙（1）
15. パウロの手紙（2）

教科書

日本聖書協会 『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）聖学院キリスト教センター編 『神を仰ぎ、人に仕うーキリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会）聖学院キリスト教センター編 『聖学院の精神と歴史』（聖学院ゼネラル・サービス）

評価方法

- (1)授業出席・態度:40% (2)レポート提出:30% (3)試験:30%

キリスト教概論B

CHRI-0-102

担当者：佐野 正子

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

キリスト教の理解を深めるために、学期の前半では、旧約聖書に基づいて、その世界観、人間観、イスラエルの民の歴史を学び、学期の後半では、キリスト教の歴史と文化について学ぶ。

2. 学びの意義と目標

キリスト教に初めて触れる学生が、聖書に親しみ、キリスト教の基本的かつ本質的内容を理解するとともに、自分の生き方を見つめ、現代社会をとらえる目を養うことを目標とする。

受講生に対する要望

授業で投げかける問題に積極的に取り組むことを要望する。

キーワード

(1) 神の愛 (2) 隣人愛 (3) 人権 (4) 共生

事前学習（予習）

予習としては、提示される教科書と聖書の箇所をあらかじめ読んでおくこと。

復習についての指示

復習としては、授業で取り上げた内容について、レポートにまとめること。

授業計画

1. 聖書の世界観：天地創造
2. 聖書の人間観（1）：人間の尊厳
3. 聖書の人間観（2）：人間の墮罪
4. イスラエルの歴史と信仰（1）
5. イスラエルの歴史と信仰（2）
6. イスラエルの歴史と信仰（3）
7. キリスト教の歴史（1）古代・中世
8. キリスト教の歴史（2）宗教改革
9. キリスト教の歴史（3）近現代
10. 聖学院の歴史
11. キリスト教文化（1）
12. キリスト教文化（2）
13. キリスト教美術
14. キリスト教音楽
15. まとめ

教科書

日本聖書協会 『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）聖学院キリスト教センター編 『神を仰ぎ、人に仕うーキリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会）聖学院キリスト教センター編 『聖学院の精神と歴史』（聖学院ゼネラル・サービス）

評価方法

- (1) 出席レポート：60% (2) 礼拝レポート：20% (3) 期末レポート：20%

キリスト教概論B

CHRI-0-102

担当者：久保島 理恵

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義では新約聖書を扱う。イエス・キリストについての証言である新約聖書を実際に共に読みながら、キリストの教え、働き、そして十字架の死と復活という救済の出来事についての理解を深める。キリスト教信仰は、イエスを救い主として信じ告白することである。その信仰の基本的内容を学ぶと同時に、その学びが自分自身について、また自分の生き方について考える良い機会なることを願っている。

2. 学びの意義と目標

本学のバック・ボーンであるプロテスタント・キリスト教は、近代世界の成立に深く関わっている。従って、大学で学ぶ者にとって、キリスト教への理解は文化、学問の基盤として不可欠である。この講義を通して得るキリスト教の理解が、それぞれの専門分野の知識の下支えとなり生かされることを期待している。また、それが単なる学問的知識にとどまらず、それぞれにとって自分の人生の諸問題を照らす光となることを望んでいる。

受講生に対する要望

キリスト教についての知識は不問であるが、講義、課題に対する真摯な取り組みを望む。

キーワード

(1)キリスト教 (2)新約聖書 (3)イエス・キリスト

事前学習（予習）

毎回の授業の最後に、次回取り上げる聖書箇所を提示するので、事前に読んでおくこと。

復習についての指示

毎回の授業の最後に授業レポートの課題を出すので、配布するレポート用紙にまとめて次の授業時に提出すること。また授業で取り上げた聖書箇所と教科書の当該箇所を読み返すこと。

授業計画

1. オリエンテーション
2. イエス・キリストのたとえ話
3. イエス・キリストと出会った人々
4. 神の国
5. 愛とは
6. 罪の問題
7. 十字架への道
8. 十字架の死と復活
9. よみがえりのキリストとの出会い
10. クリスマスの本当の意味（1）
11. クリスマスの本当の意味（2）
12. 聖霊なる神
13. パウロと異邦人伝道
14. 終わりの時を目指して生きる
15. まとめ

教科書

日本聖書協会 『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）聖学院キリスト教センター編 『神を仰ぎ、人に仕うーキリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会）聖学院キリスト教センター編 『聖学院の精神と歴史』（聖学院ゼネラル・サービス）

評価方法

(1)平常点:25% (2)授業レポート:25% (3)礼拝レポート:25% (4)期末レポート:25%

担当者：田中 かおる

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

春学期の授業内容を前提に、新約聖書におけるイエス・キリストのメッセージを学ぶ。

2. 学びの意義と目標

今学期は、イエス・キリストの生涯・教えと業から、聖書のメッセージを学ぶ。また教会の誕生と発展を確認する。更に、神の導きに従った人々の生涯に触れ、キリスト者として歩んだ人々の生き方を学ぶ。

受講生に対する要望

毎回、聖書を持参して欲しい。

キーワード

(1)イエス・キリスト (2)聖書の人間観（新約） (3)神の導きに従った人々

事前学習（予習）

聖書箇所を予告するので、読んでおくこと。

復習についての指示

講義内容を確認する。①講義終了後、小レポートにより振り返る。②ノートによって内容を振り返る。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 新約聖書（1）・・・イエス誕生の背景
3. 新約聖書（2）・・・イエス・キリストの生涯
4. 新約聖書（3）・・・イエス・キリストの教え
5. 新約聖書（4）・・・イエス・キリストの教え（譬話）
6. 新約聖書（5）・・・イエス・キリストの業
7. 新約聖書（6）・・・十字架と復活
8. 新約聖書（7）・・・クリスマス
9. 新約聖書（8）・・・教会の誕生
10. 新約聖書（9）・・・教会の発展
11. 神の導きに従った人々（1）アシジのフランチェスコ
12. 神の導きに従った人々（2）マザー・テレサ
13. 神の導きに従った人々（3）星野富弘
14. 絵本「大切なきみ」から
15. まとめ

教科書

日本聖書協会 『聖書（新共同訳）訳』（日本聖書協会）聖学院キリスト教センター編 『神を仰ぎ、人に仕うーキリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会）聖学院キリスト教センター編 『聖学院の精神と歴史』（聖学院ゼネラル・サービス）

評価方法

- (1) 毎回の小レポート:20% (2) 礼拝レポート:30% (3) 試験:50%

キリスト教概論B

CHRI-0-102

担当者：野島 邦夫

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

キリスト教の主な教えと聖書の概説がこの講義の内容ですが、それらを全く知らないという方々でもわかるように説明します。指定の教科書「神を仰ぎ、人に仕う」に沿って、まず、「宗教」は皆様のような若い人たちにも必要かどうか、必要であるならどのように必要なのか、さらに、なぜ必要なのがキリスト教かを考えます。そしてキリスト教の経典・聖書の全体を概観した後、本論として、秋学期は新約聖書の大切な箇所と、その後現代までのキリスト教の歴史の概略を学んでいきます。（春学期は旧約聖書の主な内容の学びです。）具体的なテーマは「授業計画」を見てください。

2. 学びの意義と目標

キリスト教はこの大学の精神的土台です。この大学で初めてキリスト教に触れる方が多いでしょう。「キリスト教国」ではない日本で、若い時キリスト教を知ることは一生涯の掛け替えのない財産となるにちがひありません。キリスト教は二千年來この世界を導いてきた精神的支柱の一つです。キリスト教を知らなくては、世界の歴史も現代社会の動きもよく理解できないでしょう。音楽を始め芸術の分野でも大きな影響を与えました。しかし、それ以上に重要なことは、キリスト教は皆様の一人ひとりの人生の指針となり拠りどころとなるに違いないということです。キリスト教信仰は単に天国に行けることを約束するだけではなく、葬儀の時にだけ必要なのではなく、生きて悩んでいるその人の支えになるものです。この講義は、キリスト教とその教典（聖書）をなるべくわかりやすく解説して、受講者の皆様にキリスト教を正しく知っていただくことを目指します。

受講生に対する要望

素直な気持ちでキリスト教を知りたいと思っている方々は、どなたでも歓迎します。授業中にも聖書を頻りに使いますから、必ず聖書の「本」（アプリは不適）を毎回持って来てください。

キーワード

(1)キリスト教 (2)聖書 (3)神 (4)イエス・キリスト (5)人生

事前学習（予習）

この講義は、基本的に指定教科書（特に「神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版」）と聖書を用いておこないますので、毎回、指示される箇所を読んでください。その準備によって、授業の楽しさと受ける益が一にも百にもなります。

復習についての指示

毎回、講義内容の詳しいプリントを配布します。講義の後、それを必ず読み返してください。さらに、講義の復習と日本語力の向上を兼ねて、毎回の講義の内容に関係するテーマで、定期的に「小作文」（200字）の時間を取ります。

授業計画

1. はじめに：宗教は誰にとって必要か？
2. 諸宗教とキリスト教
3. 聖書（旧約＋新約）概観
4. イエス・キリストの生涯
5. イエス・キリストの教え（神の国の福音）
6. イエス・キリストの十字架の死と復活
7. ペンテコステ（キリスト教会の誕生）
8. 十二使徒とパウロ（キリスト教の拡大）
9. 古代のキリスト教と教会
10. 中世のキリスト教と教会
11. 宗教改革とその後のキリスト教と教会
12. 日本とキリスト教
13. 現代のキリスト教と教会
14. 希望と喜びに生きる
15. まとめ

教科書

日本聖書協会 『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）聖学院キリスト教センター編 『神を仰ぎ、人に仕うーキリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会）聖学院キリスト教センター編 『聖学院の精神と歴史』（聖学院ゼネラル・サービス）

評価方法

(1)出席・課題:30% (2)礼拝出席レポート:20% (3)試験:50%

欠席が三分の一以上の人と、課題・レポートの未提出の人は、試験を受けることができません。

担当者：吉岡 光人

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

キリスト教とはどんな宗教なのかということを学ぶことによって、世界の歴史や現代社会など目に見える世界を理解すること、そして人間存在とは何か、自分とは何か、人を愛するとは何かなど人間が生きてゆく上での基本的な課題に対しても理解を深めることを学ぶ。

2. 学びの意義と目標

新約聖書を中心に、聖書の宗教観・人間観を学ぶ。

受講生に対する要望

出席を重視する。

キーワード

(1) 聖書の深さを味わおう

事前学習（予習）

今回の授業までに教科書・聖書の該当箇所を読んでくこと。

復習についての指示

授業で扱ったテキスト箇所および配布された教材をよく読んで、
 今回の授業に備えること

授業計画

1. 新約聖書の時代背景
2. 福音書（1）イエスの誕生物語と宣教の開始
3. 福音書（2）イエスの奇跡とその意味
4. 福音書（3）イエスのたとえ話
5. 福音書（4）イエスの受難と復活
6. 使徒言行録
7. 書簡
8. ヨハネの黙示録
9. 小テスト
10. キリスト教会の歴史（1）初代・古代教会
11. キリスト教会の歴史（2）中世～宗教改革期の教会
12. キリスト教会の歴史（3）近代のキリスト教会
13. キリスト教会の歴史（4）現代のキリスト教会
14. キリスト教会の歴史（5）日本のキリスト教会
15. 期末試験

教科書

日本聖書協会 『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）聖学院キリスト教センター編 『神を仰ぎ、人に仕うーキリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会）聖学院キリスト教センター編 『聖学院の精神と歴史』（聖学院ゼネラル・サービス）

評価方法

(1) 出席:30% (2) 礼拝レポート:20% (3) 試験:50%

担当者：山口 博

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

キリスト教の理解を深めるために、学期の前半では、旧約聖書に基づいて、その世界観、人間観、イスラエルの民の歴史を学び、学期の後半では、キリスト教の歴史と文化について学ぶ。

2. 学びの意義と目標

キリスト教に初めて触れる学生が、聖書に親しみ、キリスト教の基本的かつ本質的内容を理解するとともに、自分の生き方を見つめ、現代社会をとらえる目を養うことを目標とする。

受講生に対する要望

授業で投げかける問題に積極的に取り組むことを要望する。

キーワード

(1) 神の愛 (2) 隣人愛 (3) 人権 (4) 共生

事前学習（予習）

予習としては、提示される教科書と聖書の箇所をあらかじめ読んでおくこと。

復習についての指示

復習としては、授業で取り上げた内容について、レポートにまとめること。

授業計画

1. 聖書の世界観：天地創造
2. 聖書の人間観（1）：人間の尊厳
3. 聖書の人間観（2）：人間の墮罪
4. イスラエルの歴史と信仰（1）
5. イスラエルの歴史と信仰（2）
6. イスラエルの歴史と信仰（3）
7. キリスト教の歴史（1）古代・中世
8. キリスト教の歴史（2）宗教改革
9. キリスト教の歴史（3）近現代
10. 聖学院の歴史
11. キリスト教文化（1）
12. キリスト教文化（2）
13. キリスト教美術
14. キリスト教音楽
15. まとめ

教科書

日本聖書協会 『小型聖書 - 新共同訳』（日本聖書協会）聖学院大学宗教センター 『神を仰ぎ、人に仕う—キリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会）

評価方法

- (1) 出席レポート：20% (2) 礼拝・教会レポート：20% (3) 期末レポート：20% (4) ノート：20% (5) プレゼンテーション：20%

キリスト教概論B

CHRI-0-102

担当者：東野 尚志

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

春学期の授業内容を前提として、特にキリスト教信仰の中心をなすイエス・キリストの生涯と教えについて、また十字架と復活の救いについて、新約聖書を通して学ぶ。さらに、教会の誕生と今日まで続くキリスト教会の歴史を概観しつつ、現代におけるキリスト教の影響と可能性を考える。

2. 学びの意義と目標

新約聖書に示されたイエス・キリストの救いと教会の働きを学ぶことを通して、キリスト教信仰の神髄に触れる。また2000年の歴史の中で、キリストと出会い、信仰に導かれた人たちが、どのような証しに生きたかを学ぶことを通して、自らの生き方を問い直す。

受講生に対する要望

必ず、聖書と教科書を持参すること。

キーワード

(1)新約聖書 (2)イエス・キリスト (3)救い (4)教会

事前学習（予習）

あらかじめ指示されたテキストをよく読んで、授業に出席すること。

復習についての指示

授業において、その都度指示する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 新約聖書の時代背景
3. イエス・キリストの生涯
4. イエス・キリストと出会った人たち
5. イエス・キリストの教え（1）
6. イエス・キリストの教え（2）
7. イエス・キリストの働き
8. 十字架と復活（1）
9. 十字架と復活（2）
10. 教会の誕生と使徒たちの働き
11. 古代教会
12. 中世の教会
13. 宗教改革
14. 日本のキリスト教
15. 現代世界とキリスト教

教科書

日本聖書協会 『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）聖学院キリスト教センター編 『神を仰ぎ、人に仕うーキリスト教概論 改訂21世紀版』（聖学院大学出版会）聖学院キリスト教センター編 『聖学院の精神と歴史』（聖学院ゼネラル・サービス）

評価方法

- (1)出席:40% (2)レポート提出:30% (3)試験:30%

キリスト教思想史 A

CHRI-0-216

担当者：村瀬 天出夫

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義では、キリスト教思想の表現であるヨーロッパ文化、特に教会建築、美術、音楽、さらにキリスト教の世界観・自然観を学びます。キリスト教の歴史を概観しつつ、現在にも残るキリスト教建築（ロマネスク、ゴシック）、美術（中世、ルネサンス、バロック、東方教会）、音楽（ルネサンス、バロック、クラシック、ロマン派）を通じて、キリスト教の考え方・世界観を学習します。

2. 学びの意義と目標

キリスト教思想を文化として理解することは、キリスト教の世界観を歴史的に把握するだけでなく、現在の欧米世界を理解するためにも重要なものです。それは同時に、現在私たちが住む日本におけるキリスト教文化の影響を理解することにも通じます。

受講生に対する要望

授業では毎回、出席票に授業内容の感想、疑問、意見を書いてもらいます。素朴な疑問でかまいませんので、質問をぶつけてみてください。積極的な授業参加を求めています。

キーワード

(1)キリスト教文化 (2)建築・美術・音楽・自然科学 (3)世界観

事前学習（予習）

特別な準備は必要ありません。必要なのは、ヨーロッパの建築、美術、音楽、科学、神秘思想といったキリスト教文化への興味、知的好奇心です。

復習についての指示

授業前に毎回、前回のノートを見直してきてください。分からない点があったら、出席票または授業後に質問に来てください。

授業計画

1. イントロダクション
2. キリスト教の歴史 概観 (1)
3. キリスト教の歴史 概観 (2)
4. キリスト教の歴史 概観 (3)
5. キリスト教の教理 概観 (1)
6. キリスト教の教理 概観 (2)
7. キリスト教建築 (1)
8. キリスト教建築 (2)
9. キリスト教美術 (1)
10. キリスト教美術 (2)
11. キリスト教音楽 (1)
12. キリスト教音楽 (2)
13. キリスト教と自然科学 (1)
14. キリスト教と自然科学 (2)
15. 期末試験

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 期末テスト:60% (2) 出席:40%

担当者：村瀬 天出夫

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義では、キリスト教の重要な教理を歴史的に捉えることで、キリスト教思想の多様性を理解することを目指します。神とは誰か、人間とはどのような存在で、どのように生きるべきかといった問題にかんする、キリスト教の考え方（教理）について、それらがどのような歴史的・社会的な背景で生まれ、発展、変化していったのかを学習します。同時に、それらの教理が、カトリック教会やプロテスタント教会の諸宗派でどのように異なるのか、その歴史的な背景も学びます。

2. 学びの意義と目標

キリスト教の思想は、2000年間の間に変化・発展しただけでなく、分裂もしてきました。分裂を経たこの多様性を歴史的に理解することは、現在のキリスト教を理解する助けになります。また、思想の分裂を越えて、さまざまな宗派・宗教の間で対話を進めようとする努力も、現代のキリスト教の重要な問題です。これら分裂と対話の歴史は、さまざまな宗教的な対立が見られる現代社会を理解する助けになります。

受講生に対する要望

授業では毎回、出席票に授業内容の感想、疑問、意見を書いてもらいます。素朴な疑問でかまいませんので、質問をぶつけてみてください。積極的な授業参加を求めています。

キーワード

(1)キリスト教の世界観

事前学習（予習）

特別な準備は必要ありません。必要なのは、キリスト教の考え方への興味、それらの歴史的背景と、現代的な意味への好奇心です。

復習についての指示

授業前に毎回、前回のノートを見直してください。分からない点があったら、出席票または授業後に質問に来てください。

授業計画

1. イントロダクション
2. キリスト教の世界観・歴史観（1）
3. キリスト教の世界観・歴史観（2）
4. 神：創造主・善と悪の根拠
5. 三位一体論：神と子と聖霊
6. キリスト：人と神・十字架の救い主
7. 救済：罪・贖い・神の国
8. 人間：神との関係・地上の生の意味
9. 教会：地上の「集会」
10. サクラメント：秘跡・通過儀礼
11. 奇跡：神の業と魔術
12. 他宗派・他宗教との関係：エキュメニズム・宗教対話
13. 終末論：救済史とその成就
14. まとめ
15. 期末試験

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 期末テスト:60% (2) 出席:40%

キリスト教信仰と文化

CHRI-0-230

担当者：藤原 淳賀

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義のタイトルは「キリスト教と文化」でない。「キリスト教」は既に文化の中にあり、「キリスト教と文化」という問題は、「相対」対「相対」の事柄となる。本講義のタイトルは「キリストと文化」でもない。これは絶対的存在であるキリストと相対的文化との関わりを示すことになる。「キリスト教信仰」という言葉により、私は、既に文化の中にあるキリスト教の本質を表そうとしている。それは絶対的神の啓示により、相対的文化の中で生まれた絶対と相対の「境界線」にある。本講義ではその「キリスト教信仰」と相対的「文化」との関係を、特に文化を变革していくという観点から教会論を中心にして考察していく。

2. 学びの意義と目標

本講義では、学生諸君がキリスト教信仰と文化との関係を理解し、今日の日本文化を形成している要因を批判的に検討する能力を養うことを目標とする。授業の中で毎回、授業レポートを提出してもらう。初めの時期は講義内容のまとめを書いてもらうが、次第に講義に対する君たち自身の考えを記してもらう。提示されたテーゼに同意するのか、あるいは反対するのか、自分がどのように考える根拠は何かを記すことになる。それにより、論理的思考及び批判的思考を養う。

受講生に対する要望

常に建設的かつ批判的に考察し、自分はどのように考えるのか、またその根拠は何かを問うて欲しい。

キーワード

事前学習（予習）

毎回ではないが、読書課題が出されるときによく準備してくること。

復習についての指示

授業が行われた日の内にノートを見直し、クラスメートと内容確認をして欲しい。

授業計画

1. イントロダクション
2. 文化について：ディスカッション
3. キリスト教信仰と文化：歴史的概観
4. H・リチャード・ニーバー「キリストと文化」1
5. H・リチャード・ニーバー「キリストと文化」2
6. H・リチャード・ニーバー「キリストと文化」3
7. P・ティリッヒ「文化の神学」1
8. P・ティリッヒ「文化の神学」2
9. ジョン・H・ヨーダーの文化の神学
10. S・ハワーワスの文化の神学
11. R・ニーバーの社会倫理
12. G・スタッセンの正義の平和作り
13. キリスト教の戦争理解
14. 平和を創り出すということ
15. まとめ

教科書

H・リチャード・ニーバー『キリストと文化』（日本基督教団出版局）グレン・H・スタッセン、デービッド・P・ガッシー『イエスの平和（シャローム）を生きる』（いのちのことば社）パウル・ティリッヒ『文化の神学』（新教出版社）S・ハワーワス『平和を可能にする神の国』（新教出版社）ジョン・ヨーダー『イエスの政治』（新教出版社）鈴木有郷『ラインホルド・ニーバーとアメリカ』（新教出版社）

評価方法

- (1) 授業レポート：10% (2) 試験：90%

担当者：高橋 義文

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

キリスト教とさまざまな思想との交流関係をとくに20世紀アメリカに集中して考察する。その際、20世紀の代表的神学者・知識人ラインホルド・ニーバーの思想を媒介にし、20世紀アメリカのキリスト教、デモクラシー、人種問題、国際政治をめぐるさまざまな思想について検討する。本講義では、1930年までを扱う。

2. 学びの意義と目標

(1)20世紀アメリカの諸思想を概観する。(2)ラインホルド・ニーバーの思想の概要を把握する。(3)ニーバーの視点と交差するアメリカ思想の特質・問題・意義をとらえる。(4)アメリカとは何かをニーバーの視点から考察する。(5)現代日本におけるその意味を考える。

受講生に対する要望

(1)科目への関心を持って履修する。(2)講義に集中する。(3)質問等により積極的に授業に参加する。(4)可能な限り欠席しない。

キーワード

(1)ラインホルド・ニーバー (2)プラグマティズム (3)リベラリズム (4)リアリズム (5)社会福音

事前学習（予習）

次の小レポートのために前回の講義の要点をまとめておく。

復習についての指示

毎回の講義概要およびプリントの内容を確認する。

授業計画

1. 序論 なぜニーバーか
2. プラグマティズム、リベラリズム、リアリズムについて
3. ニーバーの生涯とその影響の概要(1)
4. ニーバーの生涯とその影響の概要(2)
5. ニーバーと第一次世界大戦と平和主義の問題(1)
6. ニーバーと第一次世界大戦と平和主義の問題(2)
7. ニーバーとウィリアム・ジェイムズとプラグマティズム(1)
8. ニーバーとウィリアム・ジェイムズとプラグマティズム(2)
9. ニーバーとウィリアム・ジェイムズとプラグマティズム(3)
10. ニーバーと社会福音運動とリベラリズム(1)
11. ニーバーと社会福音運動とリベラリズム(2)
12. ニーバーと社会福音運動とリベラリズム(3)
13. ニーバーとジョン・デューイとリベラリズム(1)
14. ニーバーとジョン・デューイとリベラリズム(2)
15. 補足 まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 毎回の小レポート:40% (2) 全学礼拝レポート:10% (3) 期末レポート:50%

担当者：高橋 義文

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

キリスト教とさまざまな思想との交流関係をとくに20世紀アメリカに集中して考察する。その際、20世紀の代表的神学者・知識人ラインホルド・ニーバーの思想を媒介にし、20世紀アメリカのキリスト教、デモクラシー、人種問題、国際政治をめぐるさまざまな思想について検討する。本講義では、1930年代以降を扱う。

2. 学びの意義と目標

(1)20世紀アメリカの諸思想を概観する。(2)ラインホルド・ニーバーの思想の概要を把握する。(3)ニーバーの視点と交差するアメリカ思想の特質・問題・意義をとらえる。(4)アメリカとは何かをニーバーの視点から考察する。(5)現代日本におけるその意味を考える。

受講生に対する要望

1. 科目への関心を持って受講する。2. 講義に集中する。3. 参考資料(配布する)を熟読する。

キーワード

(1)ラインホルド・ニーバー (2)リベラリズム (3)リアリズム
(4)マルクス主義 (5)デモクラシーとキリスト教

事前学習(予習)

前回の講義の要点を小レポートにまとめる準備

復習についての指示

講義の内容、プリントの内容を確認する。

授業計画

1. 序論 なぜニーバーか
2. プラグマティズム、リベラリズム、リアリズムについて
3. ニーバーとマルクス主義(1)
4. ニーバーとマルクス主義(2)
5. ニーバーのキリスト教思想の特質(1)
6. ニーバーのキリスト教思想の特質(2)
7. ニーバーのキリスト教思想の特質(3)
8. ニーバーと第二次世界大戦
9. ニーバーとニューディール
10. ニーバーとデモクラシー
11. ニーバーと冷戦
12. ニーバーとヴェトナム戦争
13. ニーバーと人種問題・公民権運動
14. アメリカ史のアイロニー
15. 補足とまとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)小レポート:40%:毎回、授業の初めに前回のポイントについて書く短いレポート (2)全学礼拝レポート:10% (3)期末レポート:50%

担当者：森田 美千代

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

今後数年間にわたって、キリスト教がアメリカ文化に与えた影響を、時代順にみていく予定である。今年度の春学期は、19世紀のアメリカにおいて、キリスト教と文化（生活）との相互関係のドラマがどのように展開されていったかを、ハリエット・ビーチャー・ストウの『アンクル・トムの小屋』を通して学ぶことにする。

2. 学びの意義と目標

アメリカにおけるキリスト教と文化の最初の頃（19世紀頃まで）をしっかりと学んでおくことは、その後のアメリカー20世紀と21世紀を理解するうえで大きな助けになる。

受講生に対する要望

キリスト教とアメリカ文化の深い関わりについて興味と関心を持ち続けることができること。

キーワード

(1)キリスト教 (2)アメリカ文化 (3)ビーチャー家 (4)『アンクル・トムの小屋』 (5)奴隷制度

事前学習（予習）

配布されたプリントを読んで、授業に出席する。

復習についての指示

授業のポイントを書き留めておく。

授業計画

1. はじめに
2. 概説（1）
3. 概説（2）
4. 『アンクル・トムの小屋』を読む 第1章を読む、ディスカッション
5. 第2章を読む、ディスカッション
6. 第3章を読む、ディスカッション
7. 第4章を読む、ディスカッション
8. 第5章を読む、ディスカッション
9. 第6章を読む、ディスカッション
10. 第7章を読む、ディスカッション
11. 第8章を読む、ディスカッション
12. 第9章を読む、ディスカッション
13. 第10章を読む、ディスカッション
14. 第11章を読む、ディスカッション
15. おわりに

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席:30% (2)礼拝レポート:20% (3)期末レポート:50%

授業計画にあるディスカッションとは、定められたテーマについてグループ・ディスカッションをすること、グループで話された内容を他のグループと分かち合うことを指す。

担当者：森田 美千代

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

今後数年間にわたって、キリスト教がアメリカ文化に与えた影響を、時代順にみていく予定である。今年度の秋学期は、19世紀のアメリカにおいて、キリスト教と文化（生活）との相互関係のドラマがどのように展開されていったかを、ハリエット・ビーチャー・ストウの『アンクル・トムの小屋』を通して学ぶことにする。

2. 学びの意義と目標

アメリカにおけるキリスト教と文化の最初の頃（19世紀頃まで）をしっかりと学んでおくことは、その後のアメリカー20世紀と21世紀—のアメリカを理解するうえで大きな助けになる。

受講生に対する要望

キリスト教とアメリカ文化の深い関わりについて興味と関心を持ち続けることができること。

キーワード

(1)キリスト教 (2)アメリカ文化 (3)ビーチャー家 (4)『アンクル・トムの小屋』 (5)奴隷制度

事前学習（予習）

配布されたプリントを読んで、授業に出席する。

復習についての指示

授業のポイントを書き留めておく。

授業計画

1. はじめに
2. 概説（1）
3. 概説（2）
4. 『アンクル・トムの小屋』第11章までの要約
5. 『アンクル・トムの小屋』を読む 第12章を読む、ディスカッション
6. 第13章を読む、ディスカッション
7. 第14章を読む、ディスカッション
8. 第15章を読む、ディスカッション
9. 第16章を読む、ディスカッション
10. 第17章を読む、ディスカッション
11. 第18章を読む、ディスカッション
12. 第19章を読む、ディスカッション
13. 第20章を読む、ディスカッション
14. 第21章を読む、ディスカッション
15. おわりに

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席:30% (2)礼拝レポート:20% (3)期末レポート:50%

授業計画にあるディスカッションとは、定められたテーマについてグループ・ディスカッションをすること、グループで話された内容を他のグループと分かち合うことを指す。

キリスト教と音楽 A

CHRI-0-243

担当者：渡辺 善忠

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

(1) 聖書の言葉が音楽でどのように表現されているかを多面的な視点で学びます。(2) 聖書の言葉を受け継いできた教会の信仰について理解を深めます。「キリスト教と音楽A」(前期)では、旧約聖書に基づいて作曲されたキリスト教合唱曲を中心として、聖書の言葉の解釈・作曲家の信仰・各作品の時代背景の3つの視点から論じつつ、CDによって作品に耳を傾けます。なお、「キリスト教と音楽B」(後期)では新約聖書による作品を学びますので、通年で受講される方を歓迎致します。参考文献・聖書(旧新約聖書両方を用います)・「聖書と音楽」(大野恵正著／新教出版社 2000年)・「よくわかるキリスト教の音楽」(長谷川朝雄他著／キリスト新聞社 2000年)・「大作曲家の信仰と生涯」(P. カヴァノー著・吉田幸弘訳／教文館 2000年)・「教会音楽史と讃美歌学」(横坂康彦著／日本キリスト教団出版局 1993年) その他の参考文献について必要に応じてその都度お知らせします。

2. 学びの意義と目標

キリスト教を中心として発展した文化の中で、音楽は大変重要な意味を持っています。聖書の内容を伝えるために音楽がどのように用いられてきたか、現代に至るまで親しまれている音楽の背景にどのような歴史があるかなどを、古今の名曲に親しみながら学びたいと思います。

受講生に対する要望

授業では、曲の歌詞として用いられている聖書の言葉の意味を学びながらCDに耳を傾けますので、コンサートのマナーを含めて学ぶことを願っています。

キーワード

(1) 聖書の言葉 (2) 音楽表現 (3) 作曲家の時代背景 (4) 教会の歴史 (5) 皆さんの感性

事前学習(予習)

図書館に備えてある音楽辞典で作曲家の生涯を調べたり、CDを試聴してから授業を受けることが望ましいです。

復習についての指示

授業で毎回配布するレジメ(内容の要約)をもとに、作曲家の伝記などで授業内容の理解を深めることが大切です。

授業計画

1. 第1回 ガイダンス
2. 第2回 J.S. バッハ「ロ短調ミサ曲」(1)
3. 第3回 J.S. バッハ「ロ短調ミサ曲」(2)
4. 第4回 J. ハイドン/A. コーブランド「天地創造」(1)
5. 第5回 J. ハイドン/A. コーブランド「天地創造」(2)
6. 第6回 B. ブリテン「ノアの洪水」
7. 第7回 G.F. ヘンデル「エジプトのイスラエル人」
8. 第8回 F. メンデルスゾーン「エリヤ」(1)
9. 第9回 F. メンデルスゾーン「エリヤ」(2)
10. 第10回 T. タリス「エレミヤの哀歌」
11. 第11回 詩編による作品(1)
12. 第12回 詩編による作品(2)
13. 第13回 詩編による作品(3)
14. 第14回 旧約聖書と音楽(前期のまとめ)
15. 第15回 旧約聖書と音楽(試験)

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 試験:50% (2) 出席:30% (3) レポートなど:20%

担当者：渡辺 善忠

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

(1) 聖書の言葉が音楽でどのように表現されているかを多面的な視点で学びます。(2) 聖書の言葉を受け継いできた教会の信仰について理解を深めます。「キリスト教と音楽B」(後期)では、新約聖書に基づいて作曲されたキリスト教合唱曲を中心として、聖書の言葉の解釈・作曲家の信仰・各作品の時代背景の3つの視点から論じつつ、CDによって作品に耳を傾けます。参考文献・聖書(旧新約聖書両方を用います)・「聖書と音楽」(大野恵正著／新教出版社 2000年)・「よくわかるキリスト教の音楽」(長谷川朝雄他著／キリスト新聞社 2000年)・「大作曲家の信仰と生涯」(P. カヴァノー著・吉田幸弘訳／教文館 2000年)・「教会音楽史と讃美歌学」(横坂康彦著／日本キリスト教団出版局 1993年) その他の参考文献について必要に応じてその都度お知らせします。

2. 学びの意義と目標

キリスト教を中心として発展した文化の中で、音楽は大変重要な意味を持っています。聖書の内容を伝えるために音楽がどのように用いられてきたか、現代に至るまで親しまれている音楽の背景にどのような歴史があるかなどを、古今の名曲に親しみながら学びたいと思います。

受講生に対する要望

授業では、曲の歌詞として用いられている聖書の言葉の意味を学びながらCDに耳を傾けますので、コンサートのマナーを含めて学ぶことを願っています。

キーワード

(1) 聖書の言葉 (2) 音楽表現 (3) 作曲家の時代背景 (4) 教会の歴史 (5) 皆さんの感性

事前学習(予習)

図書館に備えてある音楽辞典で作曲家の生涯を調べたり、CDを試聴してから授業を受けることが望ましいです。

復習についての指示

授業で毎回配布するレジメ(内容の要約)をもとに、作曲家の伝記などで授業内容の理解を深めることが大切です。

授業計画

1. 第1回 ガイダンス
2. 第2回 G.F. ヘンデル「メサイア」(1)
3. 第3回 G.F. ヘンデル「メサイア」(2)
4. 第4回 C. フランク「至福」
5. 第5回 J.S. バッハ「マタイ受難曲」(1)
6. 第6回 J.S. バッハ「マタイ受難曲」(2)
7. 第7回 H. シュッツ「ヨハネ受難曲」
8. 第8回 F. メンデルスゾーン「聖パウロ」(1)
9. 第9回 F. メンデルスゾーン「聖パウロ」(2)
10. 第10回 新約聖書とクリスマスの讃美歌
11. 第11回 F. シュミット「七つの封印の書」
12. 第12回 聖書と讃美歌の関わりについて(1)
13. 第13回 聖書と讃美歌の関わりについて(2)
14. 第14回 新約聖書と音楽(後期のまとめ)
15. 第15回 新約聖書と音楽(試験)

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 試験:50% (2) 出席:30% (3) レポートなど:20%

担当者：早藤 昌浩

開設期：春学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

現代の国際社会を規定するさまざまな規範についてキリスト教の視点から分析し、その倫理的・社会的意義について考察する。このため、キリスト教の救済史について学ぶとともに、特に政治経済的側面における国際社会の多様な動きを概観し、キリスト教救済史の視点がどのように国際社会の形成に関与してきたかを学ぶ。

2. 学びの意義と目標

キリスト教における救済史の概要について学び、人間の「管理責任」という視点から、現代国際社会の倫理的支柱についての理解を深める。

受講生に対する要望

授業をよく聞いて、自分の問題として考え、積極的に質問すること（授業中いつでもかまいません）

キーワード

(1) 聖書に見る神の「要請」 (2) 倫理とは (3) 「天になるごとく地にもなさせたまえ」 (4) 国際社会の基礎となる非差別主義 (5) 相互理解の促進

事前学習（予習）

聖書に親しむこと毎日の新聞を読んでおくこと

復習についての指示

配布されたプリントの復習聖書の該当箇所（授業で指定）の熟読

授業計画

1. 国際社会の諸課題
2. キリスト教の救済史（1）
3. キリスト教の救済史（2）
4. キリスト教の救済史（3）
5. キリスト教の救済史（4）
6. 国際機関概観
7. 非差別主義概観
8. 市場経済の課題
9. 国際貿易の合理性
10. 「隣人への施し」とは
11. 環境と経済
12. 現代のバベルの塔も崩壊するのか
13. ではどのような国際社会形成が求められているのか
14. 演習（1）
15. 演習（2）

教科書

聖学院キリスト教センター 『神を仰ぎ、人に仕う—キリスト教概論』（聖学院大学出版会）

評価方法

- (1) キリスト教救済史の理解：25% (2) 現代国際社会の理解：25% (3) 「倫理と実践」の理解：25% (4) 授業への参加状況：25%

キリスト教と心のケア

CHRI-0-256

担当者：村上 純子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義では、「心のケア」とは何か、それとキリスト教はどう関係し、どう取り扱っていくべきなのかを見ていきます。社会的にも「カウンセリング」「心のケア」の重要性が取り上げられることが多いですが、その中には間違った情報や歪曲された考え方も多いのが現状です。この授業はカウンセラーになることを目的としたものではなく、心のケアに関して正しい基礎知識を持つことを目標としています。また、キリスト教的視点から「心のケア」をどう考え、実践していけばいいのかを検証していきます。

2. 学びの意義と目標

この授業を通して、「心のケア」の基礎知識を得ること、またキリスト教の人間観を理解すること、そして各自が自分に対する理解、また他者に対する理解を深めることを目標としています。

受講生に対する要望

なお、ほぼ毎回の授業で、その場で作ったグループによるワークを行います。ワークは必須ですので、積極的に参加してください。

キーワード

(1)心のケア (2)カウンセリング (3)自己理解 (4)他者理解

事前学習（予習）

教科書の指定された箇所を読んでくること

復習についての指示

配布されたプリントをよく読み、書かれている内容を説明できるようにすること

授業計画

1. 「心のケア」の必要性
2. カウンセラーの役割と治療 聴くことの意味
3. カウンセリングのプロセス1（初回面接）
4. カウンセリングのプロセス2（中断と終結）
5. カウンセリングの実践
6. カウンセリング理論1（クライエント中心療法）
7. カウンセリング理論2（精神分析療法）
8. カウンセリング理論3（認知行動療法）
9. カウンセリング理論4（家族療法）
10. 心のケアのいろいろ1（児童期の心のケア）
11. 心のケアのいろいろ2（思春期の心のケア）
12. 心のケアのいろいろ3（グリーフケア）
13. ケアをする人の自己理解
14. 自己理解と他者理解
15. 信仰と心のケア

教科書

國分 康孝 『カウンセリングの原理』（誠信書房）國分 康孝 『カウンセリングの理論』（誠信書房）

評価方法

(1)出席・授業態度:35% (2)ミニレポート:15% (3)学期末試験:50%

キリスト教と自然科学A

CHRI-0-240

担当者：村瀬 天出夫

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

「自然科学」とは私たちを取り囲む自然世界を研究する、さまざまな学問の総称です。物理学、化学、生物学、天文学といった「理系」の学問、「科学」のことです。自然のさまざまな法則を探求しようとするこれら科学は、そもそも自然世界をどのように眺め、理解し、その法則性を見つけ出そうとしているのでしょうか。その一方で「キリスト教」は自然世界をどのように眺め、理解しているのでしょうか。「科学」と「キリスト教」との間に、自然理解の違いはあるのでしょうか。このような問題を考えるために、本講義では自然科学とキリスト教それぞれの「自然観」を明らかにし、両者の歴史的な関係も見ていきます。そこから科学とはそもそもどのような知的な営為なのか、またそれに対してキリスト教はどのような関係にあるかを考えていきます。

2. 学びの意義と目標

本講義では、「科学」という現代社会において大きな価値と影響力をもつ学問体系に「批判的」な視点を持つことを目標とします。「批判的」とは「科学」を「宗教」と比較して、どちらかを優れているものとして賞賛したり、また劣っているものとして「非難」することではありません。「科学」の歴史をみることによって、その自然理解の方法と、その限界を考えることが「批判的」な視点を持つということです。そして、このような「歴史」と「限界」を問うという視点は、ひるがえって「キリスト教」に対しても向けられるものです。両者を「批判的」にみることから「科学」と「キリスト教」、そして私たち一人ひとりの関係を考える視点を磨きます。

受講生に対する要望

「理系」科目の知識は必要ありません。「科学」とは何だろう、「キリスト教」とは何だろう、という興味・問題意識だけが必要です。授業では毎回、出席票に授業内容の感想、疑問、意見を書いてもらいます。素朴な疑問でかまいませんので、質問をぶつけてみてください。積極的な授業参加を求めています。

キーワード

(1)キリスト教と自然科学 (2)科学の歴史

事前学習（予習）

教科書の欄に載せた村上陽一郎『新しい科学論』（講談社ブルーバックス）は、授業内容を理解するためのテキストですので、少しずつでよいので読んでください。他の文献はコピーを配布します。試験でもこれらの文献の内容にかかわる設問が出ます。

復習についての指示

授業前に毎回、前回のノートを見直してきてください。分からない点があったら、出席票のコメント欄で確認するか、授業後に質問に来てください。

授業計画

1. イントロダクション
2. 自然科学とは何か
3. 科学的自然観
4. キリスト教とは何か
5. キリスト教的自然観
6. 古代ギリシアの宇宙
7. 中世キリスト教の宇宙
8. 初期近代の宇宙
9. 自然神学
10. 聖俗革命
11. 古典的物理学像
12. 科学と社会とキリスト教
13. ディスカッション
14. まとめ
15. 期末試験

教科書

村上 陽一郎 『新しい科学論―「事実」は理論をたおせるか（ブルーバックス）』（講談社）村上 陽一郎 『科学史の逆遠近法―ルネサンスの再評価（講談社学術文庫）』（講談社）標 宣男 『科学史の中のキリスト教―自然の法からカオス理論まで』（教文館）

評価方法

(1) 期末テスト:60% (2) 出席:40%

キリスト教と自然科学B

CHRI-0-241

担当者：村瀬 天出夫

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

キリスト教と自然科学はしばしば対立するものと考えられています。キリスト教信仰の「誤り」を否定し、教会の権威に「勝利」することによって、自然科学は成立したと言われます。また、16・17世紀の「科学者」ガリレオ・ガリレイは、「それでも地球は回っている」と言って、地動説を認めないキリスト教会と対立したと考えられています。このようなキリスト教と科学の対立という見方は、ガリレオより数世紀後の19世紀後半に生まれたものです。このことを自然科学の歴史を振り返ることによって学びます。特に近代科学が生まれたとされる「科学革命」の時代、キリスト教の信仰と、自然にかんする学問（自然科学）は調和的な関係にあったこと、ガリレオら当時の自然哲学者（自然科学者）は、信仰と学問の一致を追求していたことを学びます。授業の後半では、現代の自然科学（医学）の考え方や、キリスト教の信仰の関係を学びます。

2. 学びの意義と目標

現在私たちが知っている自然科学の原型は、ヨーロッパの中世・初期近代の時代に、キリスト教世界で生まれた自然理解の方法です。その意味で科学はきわめて特殊な、キリスト教文化の一つとして理解できます。授業では、キリスト教の考え方、信仰、歴史観が、近代科学の発展を推し進めたことを学びます。近代科学の歴史を振り返ることによって、キリスト教（信仰）と科学（知識）が、互いに協力的な関係にあったことを学習します。

受講生に対する要望

授業では毎回、出席票に授業内容の感想、疑問、意見を書いてもらいます。素朴な疑問でかまいませんので、質問をぶつけてみてください。積極的な授業参加を求めています。

キーワード

(1)キリスト教と自然科学 (2)科学の歴史 (3)現代の科学・医学の問題

事前学習（予習）

教科書の欄に載せた村上陽一郎『新しい科学論』（講談社ブルーバックス）は、授業内容を理解するためのテキストですので、少しずつでよいので読んでください。他の文献はコピーを配布します。試験でもこれらの文献の内容にかかわる設問が出ます。

復習についての指示

授業前に毎回、前回のノートを見直してきてください。分からない点があったら、出席票または授業後に質問に来てください。

授業計画

1. イントロダクション
2. キリスト教と科学：対立構造はいつ生まれたか？
3. 古代・中世の自然観：キリスト教と古代ギリシャ哲学の融合（1）
4. 古代・中世の自然観：キリスト教と古代ギリシャ哲学の融合（2）
5. 近代の自然観：「科学革命」論
6. コペルニクス：太陽中心の宇宙
7. ケプラー：世界の調和
8. ガリレオ：学問と教会と権力
9. ニュートン：自然哲学と聖書研究
10. パラケルスス：錬金術と信仰
11. 現代の科学と宗教の接点：ダーウィニズムとキリスト教教会の反応（1）
12. 現代の科学と宗教の接点：ダーウィニズムとキリスト教教会の反応（2）
13. 現代の科学と宗教の接点：医療倫理とキリスト教信仰（1）
14. 現代の科学と宗教の接点：医療倫理とキリスト教信仰（2）
15. 期末試験

教科書

村上 陽一郎 『新しい科学論—「事実」は理論をたおせるか（ブルーバックス）』（講談社）村上 陽一郎 『科学史の逆遠近法—ルネサンスの再評価（講談社学術文庫）』（講談社）標 宣男 『科学史の中のキリスト教—自然の法からカオス理論まで』（教文館）

評価方法

- (1) 期末テスト：60% (2) 出席：40%

担当者：松原 望

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

楽しく愉快的な人生だったら宗教（ただししくは信仰）は要らないし、かえって邪魔でうるさいと考える人は我が国では多いと思います。それはとにかくも、実際には人生はそういうものではありません。一つには、人間は残念ながら完全ではありませんから、そういう人間たちが作っている社会はいろいろと問題をかかえてしまい、それが逆に一人一人の人生に跳ね返ってきます。人が幸福にならなければ、社会は良くなりません。このことは今の現在の時代に限ったことではなく、ずっと大昔からそうです。聖書には何と書いてありますか。イエス・キリストはどう言っていますか。一つでもいいから知しましょう、学びましょう。映画を見ながら。授業ですから自由で強制というのはありません。

2. 学びの意義と目標

毎年、映画により聖書の世界をリアルに体験し、現代にイエス・キリストのメッセージを受け止める。たった一回の人生ですが、人生に永く残るでしょう。また、聖書の知識が役に立つこともあります。

受講生に対する要望

映画の中ですが、イエス・キリストの「声」（日本語で！）に接してその感動を体験してください。これは現代にも通じます。映画そのものよりも、内容を学びましょう。

キーワード

(1) 幸福な人と幸福な社会 (2) 永遠のいのち (3) 「正しさ」の限界 (4) 人の愛と神の愛 (5) 生きがい

事前学習（予習）

前回授業のまとめ、作文提出をお願いしています。

復習についての指示

ときおり、聖書や賛美歌の語句の筆写などをお願いしています。

授業計画

1. 授業の内容説明
2. キリスト教における考え方と社会
3. 聖書を読む（映画鑑賞）
4. 旧約聖書の世界
5. 映画鑑賞（十戒）
6. 続き（正しさと強さ）
7. イエス・キリストの時代
8. 聖書を読む
9. 映画鑑賞（ナザレのイエス）
10. 続き（幸福について語る）
11. 続き（律法は「愛」に基づく）
12. 続き（十字架と復活）
13. キリスト教の歴史と社会
14. 人は大切にされているか
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席:35%:まず出席が重要です。(2) 短い作文:35%:映画に何を感じ、考えましたか。(3) 試験:30%:総括です。
前年の評価 S:20%、A:60%、B:10%でした。

担当者：川添 美央子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

(1)内容 本講義ではキリスト教の成立と展開の歴史を追いつつ、宗教と政治の様々な関係のあり方について考察する。キリスト教は長い歴史の中で、ある時は自らのなかに権力的要素を取り込んだり、あるいは政治権力と密着しすぎること、弱者を抑圧する方向に作用したことが多々あった。しかしまたある時は社会に活力を与えたり連帯を促したり、あるいは権力批判という形で政治の健全性を保ったり、また新しい政治社会のありかたを切り開くことも多かったのである。それぞれの作用のあり方の背後にはどのような思想があり、聖書のどの箇所がいかに解釈されたのか。宗教改革までの歴史を通して考えたい。

2. 学びの意義と目標

本講義を通じて、宗教が関わる様々なニュースを見た時、その背後にある政治と宗教のダイナミズムを読み取ろうとする態度を養ってほしい。また特定の信仰を持っていなくても、宗教が社会を健全化しうる機能を正当に評価できる視点を身に付けてもらいたい。

受講生に対する要望

規律を守って誠実に受講してほしい。また、おそらく毎回、授業内容についてコメントシートを提出してもらうことになるため、理解できた点とできなかった点を明確に記述すること。

キーワード

(1)原始キリスト教 (2)政治思想 (3)中世 (4)カトリシズム (5)プロテスタンティズム

事前学習（予習）

事前にプリントを配布する場合は、それを熟読しておくこと。

復習についての指示

講義ノートをよく読み返しておくこと。関連文献にあたることでできればなおよい。

授業計画

1. イントロダクション
2. イエス
3. イエス
4. 使徒パウロと原始キリスト教
5. 使徒パウロと原始キリスト教
6. ビザンティン帝国の政治思想
7. アウグスティヌス
8. アウグスティヌス
9. 帝権と教権
10. トマス・アキナス
11. トマス・アキナス
12. 宗教改革
13. 宗教改革
14. スアレス
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 定期試験：60% (2) 授業内コメントシート：40%

担当者：川添 美央子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

(1)内容 近代以降、キリスト教は多方面からの挑戦を受けてきた。たとえば啓蒙主義や進化論といった近代科学の隆盛や、ナチズムなどの「国家の神話」に飲み込まれそうになるという危険である。これらの挑戦に対し、キリスト教はどのように応答し、それぞれの時代の社会形成に関わってきたのだろうか。またこの闘いはどのような時に成功し、あるいは失敗してきたのか。本講義ではこれらの問題を、西欧近代思想史に即し、アメリカとドイツのプロテスタント主義の経験や、現代におけるカトリシズムの動きに注目しながら考えてみたい。

2. 学びの意義と目標

学びの目標 本講義を通じて、キリスト教に限らず宗教に関わる様々なニュースを見た時に、その背後にある政治と宗教のダイナミズムを読み取ろうとする視点を養ってほしい。そして特定の信仰を持たなくても、宗教が持つ社会を健全化しうる機能を正に評価できるようになってもらうことを望む。

受講生に対する要望

規律を守り、誠実に受講してほしい。また各回に課されるコメントシートには、理解できた度合いを明確に記述すること。

キーワード

(1)ピューリタニズム (2)ナチズム (3)啓蒙主義 (4)カトリシズム (5)政治思想

事前学習（予習）

事前にプリントを配布する場合は、それを熟読しておくこと。

復習についての指示

講義ノートをよく読み返しておくこと。授業中に紹介する関連文献にあたればなお良い。

授業計画

1. イントロダクション
2. プューリタン革命
3. プューリタン革命
4. アメリカ建国とピューリタニズム
5. 現代アメリカとプロテスタント主義
6. シュライアーマッハー
7. カール＝バルト
8. カール＝バルト
9. ボンヘッファー
10. 宗教と科学
11. 宗教と科学
12. 解放の神学
13. 解放の神学
14. ヨハネ＝パウロ2世
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)定期試験：60% (2)授業内コメントシート：40%

キリスト教と日本思想

CHRI-0-227

担当者：濱田 辰雄

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

明治維新は、日本と日本史にとって特筆すべき大変革の出来事であった。それは古代以来の中国、韓国という同じアジアに属する国々とは違った世界、すなわち西洋世界とふれて新しい国づくりにはいった出来事であった。実際、国の体制は大きく変わった。しかしそこへ至る道筋は紆余曲折の歩みであった。幕末には、尊皇派、倒幕派、攘夷派、開国派などが入り乱れての争いがくり広げられた。そういう中で独特の見識をもって開国・尊皇の方針をつらぬき、それによってついに処刑されたのが吉田松陰である。彼の思想を学びつつ、近代西洋の根本思想の一つとみなされているキリスト教思想とを対比して、近代日本のあり方を考察していきたい。

2. 学びの意義と目標

キリスト教を学び、日本思想を学ぶことにより、自己の生い育った日本とそれ以外の他国とその価値観を知ることになる。自己を相対化しつつ、普遍的な価値観や思想を学ぶ基礎を築く。

受講生に対する要望

キリスト教と日本思想への強い関心を持って授業に臨んで欲しい。

キーワード

事前学習（予習）

本講義の予習は、教科書を繰り返し読むこと。

復習についての指示

復習は講義内容のノートを読み返し、当日の講義の意図がどこにあったかを考える。

授業計画

1. オリエンテーション、幕末という時代
2. 吉田松陰についての概略説明
3. I. 修業時代 1 近親による教育、兵学修業（以下テキストより）
4. I. 修業時代 2 諸国遊歴、東北旅行
5. II. 海外渡航 1 ペリー来航
6. II. 海外渡航 2 下田密航事件、松陰の自首
7. III. 幽囚 1 「幽囚録」、野山獄
8. III. 幽囚 2 「講孟余話」、論争、松下村塾
9. IV. 激発 1 日米修好通商条約問題、献策
10. IV. 激発 2 討幕理論、間部詮勝襲撃計画
11. V. 草莽崛起 1 再入獄、孤立
12. V. 草莽崛起 2 伏見要駕策「義卿が崛起の人なり」
13. VI. 不朽なる神 1 松陰の江戸召喚、死罪の自白
14. VI. 不朽なる神 2 「留魂録」、おわりに一吉田松陰と現代
15. まとめ、試験

教科書

高橋 文博 『吉田松陰（Century Books—人と思想）』（清水書院）

評価方法

(1) 試験：80% (2) レポート：20%

毎回の出席が大前提となる。欠席は減点の対象となる。

キリスト教と日本社会 A

CHRI-0-224

担当者：柳田 洋夫

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1年次でのキリスト教概論の内容をふまえ、キリスト教の日本社会に対する影響や貢献について、時代背景も鑑みながら具体的な人物・事項に即して学ぶ。

2. 学びの意義と目標

キリスト教の日本社会に対する影響や貢献について理解を深めるとともに、この学びを手がかりとして広く宗教と社会との関連についても自ら考えることを目指す。

受講生に対する要望

授業には自分なりの問題意識をもって真剣に臨んでほしい。私語や遅刻は授業進行ならびに他の学生への深刻な妨害となるので厳禁とする。

キーワード

(1) 日本近代とキリスト教 (2) 日本におけるキリスト教の歴史

事前学習（予習）

授業においてその都度指示する。

復習についての指示

授業においてその都度指示する。

授業計画

1. ところ変われば宗教も変わる—和辻哲郎の風土論—
2. キリスト教の迫害と解禁（1）
3. キリスト教の迫害と解禁（2）
4. 聖書はじめて物語（1）
5. 聖書はじめて物語（2）
6. 聖学院の祖・ガルストたち
7. ヘボンとフルベッキ
8. 讃美歌・唱歌・近代化
9. 福沢諭吉
10. 新島襄と新島八重（1）
11. 新島襄と新島八重（2）
12. 熊本バンドと徳富蘇峰
13. 植村正久
14. 奥田和志
15. まとめと試験

教科書

プリントを配布する
【参考文献】鵜沼裕子『史料による日本キリスト教史』（聖学院大学出版会）海老沢有道『日本キリスト教史』（日本キリスト教団出版局）土肥昭夫『日本プロテスタント・キリスト教史』（新教出版社）

評価方法

- (1) 出席・参加度：40% (2) 試験：40% (3) 礼拝レポート：20%

出席・参加度、試験、礼拝レポートすべてを満たして単位とする。試験と礼拝レポートの詳細については授業で指示する。出席状況と礼拝レポート提出数が規定に満たない場合は評価の対象としない。

担当者：濱田 辰雄

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

日本宗教とは何か、という問いに一言で答えることは難しいが、それでもあえて答えるとする、「『神道』を中心としながら『仏教』と習合した民俗宗教」と言える。そしてその内容も形式もキリスト教とは大きく異なる。本講義では両者の違いを意識しつつ、まず教科書に沿って「神道」のあり方を学ぶ。その上でキリスト教と対比しつつ、日本人の宗教のあるべき姿について共に考察を深めていきたい。

2. 学びの意義と目標

キリスト教を学び、日本宗教を学ぶことにより、自己の生い育った日本と、それ以外の他国とその価値観を知ることになる。自己を相対化しつつ、普遍的な価値観や思想を学ぶ基礎を築く。

受講生に対する要望

キリスト教と日本宗教への強い関心を持って授業に臨んで欲しい。

キーワード

事前学習（予習）

本講義の予習は、教科書を繰り返し読む事。

復習についての指示

復習は講義内容のノートを読み返し、当日の講義の意図がどこにあったかを考える。

授業計画

1. オリエンテーション「神道」についての概略説明
2. 第1章 「ない宗教」としての神道（以下テキストより）
3. 第3章 岩と火、原初の信仰対象と閉じられた空間
4. 第4章 日本の神道は創造神のない宗教である
5. 第6章 「ない宗教」神道と「ある宗教」仏教との共存
6. 第7章 人を神として祀る神道
7. 第10章 神道は変化を拒む宗教である
8. 第12章 救済しない宗教
9. 第13章 姿かたちを持たないがゆえの自由
10. 第14章 浄土としての神社空間
11. 第15章 仏教からの脱却をめざした神道理論
12. 第16章 神道は宗教にあらず
13. 第17章 「ない宗教」から「ある宗教」への転換
14. 第18章 神道の戦争史と現在
15. まとめ

教科書

島田 裕巳 『神道はなぜ教えないのか（ベスト新書）』（ベストセラーズ）

評価方法

(1) 試験:80% (2) レポート:20%

毎回の出席が大前提となる。欠席は減点の対象となる。

キリスト教と美術 A

CHRI-0-247

担当者：喜田 敬

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

民族と宗教と美術の関係を通し、美術の何たるかを考える。イタリア、トルコ等で収集した資料を加え、聖書の世界を旅する。本講義は、キリスト教関連科目のひとつであり、教養としてのキリスト教美術に関する知識を広く修得することを目指す。

2. 学びの意義と目標

旧・新約聖書の記された時代の文化、文明を学び、聖書理解の幅を広げることを目指す。

受講生に対する要望

歴史の講義であるため、考えるとともに憶えることが多くある。美術とともに歴史に強い関心のある者の受講を望む。

キーワード

(1)時代 (2)民族 (3)宗教 (4)政治 (5)美術

事前学習（予習）

指定した教科書の箇所を熟読する。

復習についての指示

配布したプリントを再読し、ノートとともにファイルする。

授業計画

1. オリエンテーション
2. フランコ・カンタブリア美術
3. メソポタミア美術
4. エジプト美術
5. エジプト美術
6. 中間試験
7. クレタ美術とミュケナイ美術
8. ギリシア美術
9. ギリシア美術
10. エトルリア美術
11. ローマ美術
12. ローマ美術
13. 初期キリスト教美術
14. ビザンティン美術
15. まとめ

教科書

口語訳もしくは新共同訳 『聖書』（日本聖書協会）高階 秀爾
『カラー版 西洋美術史』（美術出版社）

評価方法

- (1)出席・試験:90% (2)レポート:10%

担当者：喜田 敬

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

「キリスト教と美術A」に引き続き、欧州中世から北方ルネサンスまでのキリスト教造形芸術の図像と歴史を学ぶ。今回は2012年に独、仏、西で収集した資料を講義に加える。本講義は、キリスト教関連科目のひとつであり、教養としてのキリスト教美術に関する知識を広く習得することを目指す。

2. 学びの意義と目標

中世からルネサンス期に至るキリスト教美術の世界に広く親しみ、その魅力に触れることを目標としている。

受講生に対する要望

西洋美術とその歴史に関心のある者の受講を望む。

キーワード

(1)教会 (2)神学 (3)哲学 (4)神話 (5)信仰

事前学習（予習）

指定する教科書の箇所を必ず読むこと。

復習についての指示

配布されたプリントを再読し、その日制作したノートとともにファイルすること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 初期中世美術
3. ロマネスク美術
4. ゴシック美術
5. ゴシック美術
6. 中間試験
7. イタリア初期ルネサンス美術
8. イタリア初期ルネサンス美術
9. 15世紀の北方美術
10. 15世紀の北方美術
11. イタリア盛期ルネサンス美術
12. イタリア初期ルネサンス美術
13. 北方ルネサンス美術
14. 北方ルネサンス美術
15. まとめ

教科書

口語訳もしくは新共同約 『聖書』（日本聖書協会）高階 秀爾
『カラー版 西洋美術史』（美術出版社）

評価方法

- (1)出席・試験:90% (2)レポート:10%

キリスト教と福祉活動の実際 A

CHRI-0-253

担当者：吉岡 光人

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

キリスト教は「神を愛すること」と「隣人を自分のように愛すること」を最も大切にしている。自分を大切にすることを知るためには、自分自身を知ることが必要である。その上で隣人を大切にすることができる。この授業ではこの理解の上に立って、他者を援助するための基本的な知識を学ぶ。

2. 学びの意義と目標

聖書の人間観とパーソナリティ発達理論の両面から、自己及び他者を理解し、適切な関わり方を考える。

受講生に対する要望

出席を重視する。

キーワード

(1)被造物としての人間を理解する (2)自分を愛すること (3)隣人を愛すること

事前学習（予習）

毎回の授業に必要なことは指示する。

復習についての指示

配布された教材を再読し、次回の授業に備えること。

授業計画

1. キリスト教と他者援助との関係
2. 聖書から見た人間理解（1）
3. 聖書から見た人間理解（2）
4. キリスト教的他者援助の歴史（1）
5. キリスト教的他者援助の歴史（2）
6. キリスト教的他者援助の歴史（3）
7. キリスト教的他者援助の歴史（4）
8. キリスト教的他者援助の歴史（5）
9. 小テスト
10. 発達段階における理解（1）乳幼児期
11. 発達段階における理解（2）思春期
12. 発達段階における理解（3）青年期
13. 発達段階における理解（4）壮年期
14. 発達段階における理解（5）老年期
15. 期末試験

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:30%:遅刻・早退も評価の対象とする (2)礼拝レポート:20% (3)期末試験:50%

担当者：吉岡 光人

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. キリスト教の他者援助の歴史を学ぶ2. 「他者のこころを聞く」ための基本的方法を学ぶ3. 病気や障がいを負っている人たちを理解するための基本的知識を学ぶ。

2. 学びの意義と目標

キリスト教会が継承してきた「他者援助」の中で、「聞く」という援助の方法の大切さを知り、それを社会生活の中で活かせるように基本的な方法を身に着ける。

受講生に対する要望

授業への積極的参加。

キーワード

(1)「こころを聞く」ために何をすればよいか (2)自分のこころを偽らずに他者を関わるためには (3)あなたもOK、わたしもOKとなるためには

事前学習（予習）

必要なことは授業中に指示する。

復習についての指示

配布された教材を再読し、次回の授業に備えること

授業計画

1. 自己理解
2. 他者理解
3. 傾聴による援助の実際（1）
4. 傾聴による援助の実際（2）
5. 傾聴による援助の実際（3）
6. 傾聴による援助の実際（4）
7. 傾聴による援助の実際（5）
8. 小テスト
9. 入院患者に対する関わり方
10. 身体障がい者に対する関わり方
11. 精神障がい者に対する関わり方
12. 神経症・依存症の人への関わり方
13. パーソナリティ障がいの人への関わり方
14. 希死念慮を持つ人への関わり方
15. 期末試験

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:30% (2)礼拝レポート:20% (3)試験:50%

担当者：黒木 章

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

〔内容〕遠藤周作の作品を読む。日本の代表的なキリスト教作家遠藤周作の作品にはどんな魅力があり、どんな問題があるかを検証する。

2. 学びの意義と目標

入学後に学んだキリスト教概論などの基礎的な認識や知識を踏まえて各論的に展開する選択必修の応用科目の一つである。ここでの主体的な取り組みと問題発掘から次の年次に置かれているキリスト教の専門科目と卒業研究等につながることを意図した本学の根幹科目である。遠藤周作の作品が日本だけでなく世界中で注目され、さまざまな物議を生んだのはなぜか。日本人キリスト教徒から西洋へ向けての問題提起として時宜を得ていたことと近代日本人の生き方（思考法や態度）と現代世界の宗教的問題を誠実に探求するものであったからと考えられる。ここでは遠藤の小説作りの技法を検証しながらグローバルな社会に生きる我々の課題を考えてみる。

受講生に対する要望

キリスト教大学で学ぶ意義を生かし、他大学ではできない独自の深い人間認識を得るために積極的な取り組みを望む。テキストはそれを扱う1回目の授業前に読了し、課題と問題意識をもって参加すること。

キーワード

(1) グローバル時代の問題 (2) 遠藤周作のキリスト教理解 (3) 時代と環境 (4) 悪・罪・救済 (5) 小説の作り方

事前学習（予習）

・ほぼ毎回各時間のポイントや問題点を記した印刷物を配布し、受講生はそれに書込みなどをして自分の講義ノートを作り予復習に利用してもらう。・対話を心掛けながら参考文献などを紹介する。積極的な参加を期待する。

復習についての指示

前回の講義ノートを手掛かりに問題点の確認・疑問点などを次回フィードバックペーパーで提出するとか質疑応答に生かすこと。授業態度の評価に加える。

授業計画

1. 導入。なぜ遠藤周作の作品を読むか。
2. 『海と毒薬』読解
3. 同 上
4. 同 上
5. 同 上
6. 『沈黙』読解
7. 同 上
8. 同 上
9. 同 上
10. 同 上
11. 『深い河』読解
12. 同 上
13. 同 上
14. 同 上
15. 同 上

教科書

遠藤周作 『海と毒薬』（新潮文庫）遠藤周作 『沈黙』（新潮文庫）遠藤周作 『深い河』（講談社文庫）

評価方法

(1) 授業参加態度:20%:フィードバックペーパーと質疑応答 (2) 小レポート:30%:2回（各1000字程度） (3) 学期末レポート:50%:定期試験に替えるもの

担当者：黒木 章

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

〔内容〕日本近現代を代表する作家夏目漱石の『心』、戦後文学の代表作大岡昇平の『野火』、ノーベル賞作家大江健三郎の『個人的な体験』をキリスト教の観点から問題にしてみる。

2. 学びの意義と目標

入学後に学んだキリスト教についての基礎的な認識や知識を踏まえて各論的に展開するキリスト教関連科目の一つである。ここでの主体的な取組みが次の段階に組まれているキリスト教に関する専門科目や卒業研究につながることを期待されている本学の根幹科目である。約100年前に書かれた『心』は、発表以来日本の半数以上の人々が読み続けてきたのはなぜか。ここで提示された問題が近現代日本人の基本的な問題であり、それは未だに克服されない課題であり続けたからであろう。敗戦で国家や社会が壊滅した状況で生き方の問題を根本的に探求する人間は発狂せざるをえないのか。現代日本を代表する作家大江健三郎がノーベル文学賞を受賞したのはなぜか。これらの問題をキリスト教の観点から問題にすることで意外な発見がある。丁寧な読解によって日本と世界の人々が取り組むべき問題を考える。

受講生に対する要望

ほぼ毎回授業のポイントや問題点を記した印刷物を配布し、参加者はそれに書き込みをするなどして自分の講義ノートを作り、予復習に役立ててもらおう。またそれによってほぼ毎回フィードバックペーパーを提出してもらって質疑応答と対話の材料にってもらおうので、積極的参加を望む。

キーワード

(1) 日本近代文学とキリスト教 (2) 明治期啓蒙運動の問題点 (3) 環境と人間 (4) 自殺あるいは発狂 (5) ノーマルソサイエティ

事前学習（予習）

・作品はそれを扱う1回目の授業が始まるまでに購入・読了して自分なりの問題点をもって参加すること。またほぼ毎回提出してもらおうのフィードバックペーパーをもとに対話を心掛けるので、積極的参加を望む。

復習についての指示

・ほぼ毎回各授業時のポイントや問題点を記した印刷物を配布するので、それに書き込みをして自分の講義ノートを作成し復習に役立ててもらおうとともに次の授業時における質疑応答・対話のものとなるフィードバックペーパーに使ってもらおう。授業態度の評価項目で使う。

授業計画

1. 導入。夏目漱石とキリスト教および『心』を読む意義
2. 『心』読解
3. 同 上
4. 同 上
5. 同 上
6. 大岡昇平とキリスト教および『野火』を読む意義 『野火』読解
7. 『野火』読解
8. 同 上
9. 同 上
10. 同 同
11. 大江健三郎とキリスト教および『個人的な体験』を読む意義
12. 『個人的な体験』読解
13. 同 上
14. 同 上
15. 同 上

教科書

夏目漱石 『心』（新潮文庫）大岡昇平 『野火』（新潮文庫）大江健三郎 『個人的な体験』（新潮文庫）

評価方法

(1) 授業参加態度:20%;フィードバックペーパーと質疑応答 (2) 小レポート:30%;2回（各1000字程度） (3) 学期末レポート:50%;定期試験に替えるもの

担当者：加藤 恵司

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

キリスト教は、聖書を正典としています。もし、聖書以外の文献に権威を置くならば異端、異宗教と言わざるをえません。それに基づいて、前半では聖書の中に表わされた法、法生活、法環境について講義します。19世紀にゾームという学者は「教会法は教会の本質とは矛盾する」という名言を残しました。（第11講目に講義）彼の主張は、聖書は愛の教えのゆえに法律にはなじまないという主張です。ところが、聖書の生活の中には多くの法的な考え方が多く見られます。「法」は正義が価値ですが、愛と正義は、ベクトル的には同じ方向に向いています。ですから、前半では、愛と正義に立脚して聖書の理解を深めます。後半はキリスト教法思想史です。キリスト教会は、多くの歴史的変遷を経てきましたが、特に教会の制度に焦点を当てて考えます。カトリック、プロテスタントの相違、宗教改革によって広がった教派について考えます。教派は、歴史的事情と教会法的な制度と深く関係しているからです。そして、私達の生活の中にもキリスト教、聖書的な発想が多くあることに気がついて欲しいと思います。このような理解は、西欧文化を理解するために役に立つばかりでなく、自分の生き方を再発見できるはずです。

2. 学びの意義と目標

聖書と教会の歴史を追究します。毎回、ノートを取り、それを提出します。ノートをとることの大切さを知ってください。

受講生に対する要望

ノートには、感想、疑問、意見を書いていただきます。きっと、新たな発見があることを確信します。

キーワード

(1) 聖書 (2) 教会

事前学習（予習）

ノート中心なので欠席をしないこと。あらかじめ、指示されたテキストを読んでください。提出されたノートは、次週に返却をしますので注意箇所をよく読んで同じ誤りをしないようにしてください。

復習についての指示

返されたノートを再読してください。

授業計画

1. はじめに/契約と信仰
2. モーセの律法
3. 旧約時代の法生活
4. 預言者の法思想
5. イエス・キリストの法的環境
6. イエス・キリストの裁判
7. パウロの法思想
8. 原始教会と教会法の成立
9. 教父の活躍と教会会議
10. 教会法と魔女裁判、異端審問
11. 宗教改革と改革者の法思想
12. アメリカのキリスト教と法
13. プロテスタント教会法
14. 日本におけるキリスト教と法
15. おわりに

教科書

加藤 恵司 『法・思想・歴史—Legal History』（ジーオー企画出版）日本聖書協会 『小型聖書 - 新共同訳』（日本聖書協会）

評価方法

- (1) ノート:80% (2) 出席:20%

キリスト教と歴史形成 A

CHRI-0-212

担当者：石田 学

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 講座の目的キリスト教は二千年の歴史をとおり、西欧社会と文化の形成に大きな役割を果たしてきました。この講座では、キリスト教がどのような仕方で・どのような意味において、歴史形成に関与してきたかを概観し、そのことを通して、わたしたちが生きている現代の世界を理解する一助にしたいと思います。本講座は、教会のはじまりから西暦1500年までを区切りとして、十四の主題に焦点を当てる仕方で、キリスト教がどのように歴史形成の上で役割を果たしてきたかを概観します。できるだけ多くの画像、図版などを用いて理解の助けとし、楽しみながら学べる工夫をしてゆきます。

2. 学びの意義と目標

西欧の歴史形成は、キリスト教との関わりを抜きには考えることができません。特に、西欧古代後期から近代はじめまでは、西欧世界はキリスト教世界そのものでした。近代から現代にかけての西欧文化・社会は、古代から中世までの西欧社会を基礎としていますので、この時代の歴史形成を知ること、現代を知ることに通じます。今の世界を見るための歴史的な視点を持つことを目指します。

受講生に対する要望

とにかく楽しんで受講して下さい。

キーワード

(1)ローマ帝国 (2)迫害 (3)キリスト教世界 (4)中世ヨーロッパ (5)スコラ哲学

事前学習（予習）

アップロードされたファイルに目を通しておいください。

復習についての指示

pdfファイルとワークシートを用いて復習をしてください。

授業計画

1. 歴史とは何か：「歴史形成」ということの意味。
2. ヘレニズム世界とローマ帝国：キリストの生きた世界
3. キリスト教の原点としてのイエス：何を教え、何を成し遂げたのか
4. 国家とキリスト教（1）：なぜキリスト教は迫害されたか
5. 国家とキリスト教（2）：なぜキリスト教は広まったか
6. 国家とキリスト教（3）：古くて新しい国家と宗教の問題
7. 国家とキリスト教（4）：「キリスト教世界」の成立と展開
8. 西欧古代世界の終わりキリスト教：混沌の時代に教会の果たした役割
9. 古代から中世ヨーロッパへの道のり：アウグスティヌスの生涯と思想
10. 中世ヨーロッパの社会構造と教会：キリスト教的封建社会
11. 写本の話：聖書はどのようにして伝えられたか
12. 「スコラ学」の発展：西ヨーロッパで栄えた学問の方法
13. 石で建てる：大聖堂に込めた信仰と情熱
14. 十字軍とはなんだったのか：キリスト教世界とイスラム世界の不幸な邂逅
15. 天使と悪魔：中世のイメージと表象。学期末試験

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)学期末試験：80%：ノート・配布プリント持ち込み可の記述試験 (2)課題レポート：10%：キリスト教関連科目共通の課題です。 (3)授業内レポート：10%：授業時に指示します。

パワーポイントを用いた講義です。毎回のデータはpdfファイルにしてElearningの当該講座にアップロードします。各自ダウンロードして予習・復習に利用して下さい。授業時にはその時間の内容に合わせてワークシートを用意します。

キリスト教と歴史形成B

CHRI-0-213

担当者：石田 学

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

キリスト教は二千年の歴史をとおり、西欧社会と文化の形成に大きな役割を果たしてきました。この講座では、キリスト教がどのような仕方で・どのような意味において、近代から現代までの歴史形成に関与してきたかを概観します。皆さんが現代に至るまでの世界の歴史をよりよく理解し、そのことを通して現代社会についての認識を深め、よりよい未来を築いてゆく手がかかりとなることを願っています。本講座は、十五世紀から現代までを十五の主題に焦点を当てる仕方で、キリスト教がどのように歴史形成と関係してきたかを学びます。中世に対する対抗文化として生じたルネサンスからはじめ、宗教改革のインパクトを概観しましょう。その上で近代世界の成立から現代までの歴史形成を考えてゆきます。できるだけ多くの画像、図版などを用いて理解の助けとし、かつ楽しむことができるようにしたいと思います。

2. 学びの意義と目標

近代から現代までの歴史形成にキリスト教がどう関与してきたか、その概略を把握できるようにします。日本では欠如しがちな、歴史形成におけるキリスト教の意義と役割を理解することを目指します。

受講生に対する要望

楽しんで受講していただきたいと思います。

キーワード

(1)ルネサンス (2)宗教改革 (3)市民革命 (4)アメリカ合衆国 (5)人権

事前学習（予習）

Elearningにアップロードされたファイルに目を通しておいください。

復習についての指示

pdfファイルとワークシートを用いて復習してください。

授業計画

1. 新たな時代の幕開け:ルネサンスの光と影
2. キリスト教の拡大:大航海時代とキリスト教宣教
3. 中世の黄昏:宗教改革前夜の西ヨーロッパと教会
4. マルティン・ルター（1）:「我ここに立つ」
5. マルティン・ルター（2）:プロテスタント教会の誕生
6. その後のドイツ宗教改革:動乱の時代の教会
7. スイスの宗教改革:ツヴィングリとカルヴァン
8. イングランドの宗教改革:ヘンリ八世からエリザベスへ
9. ピューリタン革命とその結末:市民革命のさきがけ
10. 新大陸アメリカ:人々は新世界に何を夢見たか
11. 北アメリカの独立とその後の歴史:マニフェスト・デスティニー
12. 三十年戦争と啓蒙主義:近代世界とキリスト教
13. 二つの世界大戦とファシズム:教会はどう対応したか
14. 教会の新たな使命:正義と人権のための闘い
15. キリスト教の今と将来:現代教会が果たした役割と、教会の未来

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)学期末試験:80%:ノート・配布プリント持ち込み可の記述試験 (2)課題レポート:10%:キリスト教関連科目共通の必修課題です。 (3)授業内レポート:10%:授業時に指示します。

パワーポイントを用いた講義です。毎回のデータはpdfファイルにしてElearningの当講座にアップロードします。各自ダウンロードして予習・復習に利用して下さい。授業時にはその時間の内容に合わせたワークシートを用意します。

担当者：酒井 俊行

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

就活を意識した場合に、まず押さえておかなければならないのは就活の仕組みを知ることです。昨今の就活においては、無手勝流でチャレンジすることは極めて非効率と言えます。孫子の兵法に言うとおり、百戦を危うくしないためには、敵を知り、己を知らなければなりません。「己を知ること」は自己分析ということですが、ここで「敵を知ること」が『業界・企業分析』の作業ということになります。就職を希望する企業が必ずしも敵ということではありません。しかし相手を知らないでチャレンジすることは無謀ですし、何よりも先方企業に失礼です。本講義では必要最小限の範囲で、皆さんが就活に際してチャレンジする業界・企業に関する研究の方法を学ぶこととします。

2. 学びの意義と目標

就活を意識した場合に、準備しなければならないことがいくつかあります。中でもエントリーシートを書いたり、面接に臨んだりするための準備は周到にしなければなりません。エントリーシートというのは読んで名のごとし。志望先にアプローチするためのツールです。これの書き方によって先に進めるか否かが大きく左右されます。エントリーシートで重要なのは、自己PRと志望の動機がきっちり書けていることです。この授業では志望動機を過不足なく書けるようになるために不可欠な「業界・企業研究」について勉強します。これまでの先輩がたの例を挙げると、遺憾ながら面接を含めて志望動機を相手先によく伝えることが出来なかったケースが多かったと言えます。志望動機をうまく伝えることが出来ないのは、それが全てではありませんが、業界・企業研究が不十分であるからと言っても過言ではありません。そのために、この授業が必要とされるのです。「転ばぬ先の杖」ということがあります。またものごとには必ず「傾向と対策」があります。就活本番での成功を掴み取るために、是非一緒に勉強して行きましょう。

受講生に対する要望

真面目に就活に取り組む意欲の強い学生の受講を希望します。

キーワード

(1)就活の仕組みを知る (2)エントリーシートを知る (3)業界・企業＝敵を知る

事前学習（予習）

格別の準備は必要ありませんが、受講する学生は、並行して、マナー、言葉遣い、一般常識等のシェパアップについても心掛けるようにして下さい。

復習についての指示

実践が大事です。その都度指示する課題が復習になりますので、作業指示は絶対を守りるようにして下さい。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 就活の仕組みを知る
3. 業界・企業研究とエントリーシート・面接
4. 業界研究の必要性
5. さまざまな業界を知る(1)
6. さまざまな業界を知る(2)
7. 企業研究の必要性
8. 企業研究の方法(1)
9. 企業研究の方法(2)
10. 企業研究の方法(3)
11. 働く場としての中堅・中小企業
12. 業界・企業研究実習(1)
13. 業界・企業研究実習(2)
14. 業界・企業研究実習(3)
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)レポート:60%:3回程度のレポート提出を求めます。(2)授業への貢献:40%:出席状況等授業への参加状況进行评估。

担当者：藤井 重隆

開設期：秋学期/春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

自分はどんな仕事をしたいのか、自分に向いている仕事はあるのだろうか、沢山の情報や選択肢の中から自分の納得いく仕事に出会って就職したいものである。この課題に取り組む手法として「履歴書」や「エントリーシート」を書いてみることで自分自身を理解し、求人票や求人情報に触れてみることで企業やその理念、職種や雇用条件などを理解する。そして志望動機を明確にしていくプロセスを体験する。業界や企業は時代の流れに応じて浮沈を繰り返していく。ワークショップを通して疑問点を解消し、業界や企業への理解を深め、合わせて就職の仕組みも学んでいく。

2. 学びの意義と目標

就職活動の前に自分のキャリアデザインをどう考えるかを自分に問う機会とする。また将来、転職や再就職などの事態に遭遇しても新たな職場で自分のキャリア伸ばしていく考え方を持つことの大切さを理解する。

受講生に対する要望

「インターンシップⅠ(事前学習)」、「インターンシップⅡ(実習)」を履修した、または履修予定の学生の履修が望ましい。

キーワード

(1)業界 (2)就職先 (3)エントリー (4)志望動機 (5)キャリア

事前学習（予習）

講義のポイントは講義中に理解できるよう心掛けること。不明点は質問して講義中に理解しておくこと。

復習についての指示

講義内容は復習によって理解を定着させておくこと。

授業計画

1. 「業界研究」の目的、方法とゴール
2. 履歴書、エントリーシートを知る
3. 自分はどんな人間か、何をしたい人間かを考える
4. ワークショップ①理想的な履歴書
5. 求人票、求人情報を知る
6. それぞれの業界はどのような人材を求めているかを考える
7. ワークショップ②志望先の絞り込み
8. 志望動機について考える
9. ワークショップ③志望先の会社内容について納得する
10. 模擬企画プロジェクト
11. 「業界研究」：企業の成長と衰退
12. グループワーク④志望する業界の検討と評価
13. 実業家(先輩)による講演
14. 「業界研究」のまとめ、キャリアデザインと「就業力育成」
15. 提出レポートへのコメントと教員からのフィードバック

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席点:50% (2)レポート:40% (3)受講態度:10%

社会人並の自己管理を求める。15回で完結する内容を組んでいるため全講座出席のこと。遅刻3回で1回欠席扱いとする。

健康・体力づくり実習A(サッカー)

PHED-0-101

担当者：田村 達也

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目，
中学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目，
小学校教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

サッカーとは、ドリブルやパスでボールを前に運びながら相手ゴールにシュートして得点を競い合うスポーツである。その中には、ドリブル、パスといった個人技能だけでなく、グループやチームでどう攻め、守るのかといったグループ、チーム戦術も存在する。そこで、本講義では、受講生がサッカーをより楽しめるようになるために、個人・集団技能やルールについて説明する。

2. 学びの意義と目標

サッカーの楽しさに触れ、生涯においてスポーツを楽しんで、続けていくことの必要性を認識させる。そのために必要な個人・集団技能の習得を図る。また、自立してゲームを行えるように、ルールについても学ぶ。

受講生に対する要望

サッカーについて関心がある者の受講を望む。

キーワード

(1)サッカー (2)生涯スポーツ (3)個人技能 (4)集団技能 (5)グループ・チーム戦術

事前学習(予習)

オリエンテーションの後、すぐに現時点での技能評価のためのゲームを行う可能性がありますので、初日から運動できる服装と体育館シューズを用意してください。また、サッカーは強度の高い運動であるので、日ごろから体力づくりに努めること。

復習についての指示

授業で説明した用語を整理し、次回の授業で活かせるようにすること。

授業計画

1. オリエンテーション&ゲーム
2. 個人技能練習(1)(ドリブル)&ゲーム
3. 個人技能練習(2)(ドリブル)&ゲーム
4. 個人技能練習(3)(ドリブル&パス)&ゲーム
5. 個人技能練習(4)(ドリブル&パス)&ゲーム
6. 集団技能練習(1)(3対1 or 4対1)&ゲーム
7. 集団技能練習(2)(4対2 or 5対3)&ゲーム
8. 集団技能練習(3)(4対4)&ゲーム
9. 集団技能練習(4)(4対4)&ゲーム
10. 8対8ゲーム(1)
11. 8対8ゲーム(2)
12. 11対11リーグ戦(1)
13. 11対11リーグ戦(2)
14. 11対11リーグ戦(3)
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席点:60% (2)テスト:30% (3)技能:10%

健康・体力づくり実習 A (テニス)

PHED-0-101

担当者：太田 涼

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目，
中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目，
小学校教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

【テニス】 スポーツの原点は楽しむこと、遊ぶことである。その点において、私達が生涯を通じて行うスポーツ（生涯スポーツ）は、年齢、性、技能の差を問わず、楽しめること、遊べることが重要となる。そのためには、自らが生活の中にスポーツを習慣化していく姿勢（気持ち）と、スポーツで楽しめる、遊べることのできる能力（体力・技術）が必要となる。本講義では、真剣に楽しむ、一生懸命に遊ぶというスポーツ本来の精神を大切に、テニスを通じて、スポーツの効果（健康の保持・増進、ストレス解消、コミュニケーション促進など）、面白さなどを体験し、生涯においてスポーツを実践していく姿勢・能力を身につけてもらいたい。また、基礎技術を習得し、ラリーを楽しみ、ゲームを通じて心身のリフレッシュを図る。さらにルールやマナーを尊重し、人とのコミュニケーションや協調性を高め人間性の向上に努める。授業前半はそれぞれの技能を高めるための練習を行い、後半はチームを固定して編成しダブルスゲームを中心に行う予定である。準備や審判なども全員で交代して行う。基本的なことから授業を進めていき、生涯スポーツの実現とActive Living!の一助となるような実習を考えています。

2. 学びの意義と目標

生涯に渡ってスポーツを続けることの意義とその実践力を磨く

受講生に対する要望

積極的参加すること

キーワード

(1) テニス (2) 生涯スポーツ (3) コミュニケーション (4) マナー

事前学習（予習）

シラバスを熟読のこと。オリエンテーションでの説明に留意して授業に臨み、内容が段階的に高まっていくので積極的に参加すること。※テニスシューズを必ず用意すること。

復習についての指示

テニスの試合のテレビ観戦

授業計画

1. オリエンテーションと講義のねらい
2. ラケットとボールに慣れる
3. ミニラリーを楽しむ
4. ストロークの技術（フォアハンド、バックハンド）
5. ストロークの技術（フォアハンド、バックハンド）
6. サービスの技術
7. サービスの技術
8. ラリーの応酬
9. ボレーの技術
10. ボレーの技術
11. 簡易ゲームを楽しむ・ルール理解
12. チーム対抗戦
13. チーム対抗戦
14. チーム対抗戦
15. チーム対抗戦

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席:60% (2) 実習点:40%

担当者：和田 雅史

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目、
 中学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目、
 小学校教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

トータルスポーツと題して、身体を動かす楽しさを知ってもらう授業である。運動を通して健康生活を維持していくための基礎的な体力作りを図る。日々の生活にともなう身体活動から、積極的な意味合いとしての複数の運動実践を通しての体力づくりを目指す。通常使われている大学生用のスポーツテストを実施して、各自の体力状況を比較検討したうえで、どのような体力要素に問題があるのかを自らが把握し、この授業を通して維持向上できるように目標設定をする。そして、そのための運動処方を考えていく。授業ごとに自己の授業との関わり方を自己点検し、毎回自己評価を行う。スポーツとは何か、体育授業との関わりは何かを検討しながら、なぜ大学体育の必要性があるのかも授業を通して考えていく。運動の実践では、運動の楽しさを意識しつつ、特定の運動種目にとらわれることなく、複数の異なった運動種目を通して、運動の特性や動きの特性を理解し、自分にとってどのような運動種目に適性があるのか、生涯にわたって継続可能な運動は何であるのかも考えていく。バレーボールやテニスなどのネット型の運動種目とバスケットボールやサッカーなどのゴール型の運動種目のうち数種目を組み合わせながら実践していく。このように、基本的な動き作りや複数の運動種目の実践を通して、どのように自身の体力と運動への意識が変容していくのかを科学的に評価していく。

2. 学びの意義と目標

青年期の健康維持を目指し、運動不足の解消や肥満予防などを目標として、楽しい運動実践の基礎的な処方を習得することにより、生涯にわたっての運動実践が継続されるようになる。身体活動を通して、身体活動の楽しさを感じながら、基礎的な体力の増強が図られる。健康の維持や基礎的な体力の増強が、学生としての日々の学習・研究の遂行を向上させるだけでなく、大学生としての活動範囲を大きく広げていくことができる。また、現在の健康が、現在だけではなく将来を通じて一生にわたって影響していくことを理解し、健康で長命な生活を実現していくことにもなる。体育教育で重要なことは、運動に対するパフォーマンスを高め向上させることよりも、いかに身体への抵抗力を増強し、疾病にかからない基礎的な体力を作ることにある。この授業を通して、運動の方法を学ぶこと、すなわち身体活動や基礎的な体力作りを学ぶことによって、さらには運動の楽しさを知ることによって運動の継続性が生まれる。大学、さらには社会人となってから、今後予想される肥満や生活習慣病に対する予防にも繋がり、健康生活の維持・増進に大きな期待が予想される。

受講生に対する要望

運動を通して、健康の維持を図ろうと考えている人の受講を望む。体力不足や運動経験、体型などによってこれまで運動が苦手な人であっても、意欲的に授業に取り組むことができる者。また、授業を休まず運動を継続できる者の受講を望む。

キーワード

(1) フィットネス (2) 健康維持 (3) 基礎的な体力

事前学習(予習)

事前に予定された運動種目の特性を理解し、基本的なルールを学習しておくこと。

復習についての指示

授業を通じて、どのように関わったか、授業の前と後ではどのように自己変容したかを必ず確認する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. スポーツテスト
3. 運動実践①スナッグゴルフ
4. 運動実践②スナッグゴルフ
5. 運動実践③ミニサッカー
6. 運動実践④ミニサッカー
7. 運動実践⑤テニス
8. 運動実践⑥テニス
9. 運動実践⑦ソフトボール
10. 運動実践⑧ソフトボール
11. 運動実践⑧バスケットボール
12. 運動実践⑨バスケットボール
13. 運動実践⑩バレーボール
14. 運動実践⑪バレーボール
15. まとめ授業全体を通しての自己評価

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 授業に臨む態度：40% (2) 出席：60%

担当者：神田 良太郎

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目、
 中学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目、
 小学校教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

球技や競技スポーツの苦手な人、基礎体力をつけたい人、シェイプアップしたい人などを対象にストレッチ運動、各種体力づくり運動、ボール運動等誰でも気軽に出来る運動を行います。スポーツを楽しむにはまず基礎体力。次に球技や競技スポーツに移るのが自然の流れ。

2. 学びの意義と目標

健康を維持していくためには、食生活と運動が重要です。美食の先には生活習慣病の恐れが出てきます。そこで、毎日一定の運動を継続することが必要になってきます。特別な場所や用具、時間がなくても出来る運動は数多くあります。そのことを理解し、実践することで人生がより豊かになるのです。

受講生に対する要望

・授業に対してまじめに取り組む・積極性と協調性が大切・シューズを用意すること

キーワード

(1)授業に対して欠席をしないで取り組める (2)他との協調性又協力

事前学習(予習)

日ごろから健康に留意し、体力増強に努めること

復習についての指示

柔軟を高めるべく、自宅でもストレッチを行うようにすること

授業計画

1. ストレッチ運動
2. 1人で行う体力づくり運動
3. 体力づくり運動(マシーンを使用したトレーニング)
4. ターゲットバードゴルフ(基本練習、ルールの理解)
5. ターゲットバードゴルフ(ゲーム)
6. ストレッチ運動
7. 2人組で行う体力づくり運動
8. ボールを使った運動
9. ソフトバレーボール(基本練習)
10. ソフトバレーボール(ゲーム)
11. ストレッチ運動
12. 筋力トレーニング
13. 簡易ホッケー(ルール説明、基本練習)
14. 簡易ホッケー(ゲーム)
15. 卓球、フットサル、インディアカ・シャッフルボード、フリスビーなど

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席点:60%:欠席-6点、遅刻・早退-2点 (2)評価点:40%:授業態度、技能面、シューズ等の忘れ
 とにかく授業(何人の種目)に対して真面目に取り組む

健康・体力づくり実習A(バスケットボール)

PHED-0-101

担当者：北澤 太野

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目，
中学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目，
小学校教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

バスケットボールの個人的・集団的な技術・戦術を、「ボールの移動」という課題を基に学習する。授業は、授業計画に記した通りゲーム形式の内容を中心に展開するが、履修者の人数・熟達レベル等によって、出来る限り柔軟に対応していく。安全にゲームを行うための知識の習得と、身体を動かすことの爽快感、他者とのコミュニケーションにより得られる楽しさを味わうことで、生涯スポーツへの志向性を向上させる。

2. 学びの意義と目標

バスケットボールというゲームを通して、自己の身体状況を把握し、ゲーム形式の実践を繰り返すことで、技術的・戦術的な知識を習得する。また、ゲーム様相の変化に気づき、バスケットボールの競技形態、競技特性を理解する。

受講生に対する要望

集団での活動が中心になるので、積極的に参加すること。必ず運動着に着替え、体育館シューズ(バスケットボールシューズが望ましい)を着用すること。

キーワード

(1)バスケットボール (2)ゴール型 (3)ボール操作 (4)ボールを持たないときの動き (5)作戦の立案

事前学習(予習)

これまでのバスケットボール経験を振り返り、まとめておく。

復習についての指示

グループで話し合った内容を、自分自身の経験と照らし合わせ、翌週の話し合い活動で自分なりの見解を発表できるように準備を行う。

授業計画

1. ガイダンス(運動は行わない)
2. チーム分け・ルールの説明・試しのゲーム
3. チーム内ゲーム(「守る」とは?)
4. チーム内ゲーム(「攻める」とは?)
5. チーム内ゲーム(作戦の創出と共有)
6. チーム間ゲーム(相手に応じた作戦の捻出)
7. チーム間ゲーム(相手に応じた作戦の考案)
8. チーム内ゲーム(作戦の模索)
9. チーム間ゲーム(相手に応じた作戦の捻出)
10. チーム間ゲーム(相手に応じた作戦の考案)
11. チーム内ゲーム(作戦の模索)
12. チーム間ゲーム(相手に応じた作戦の捻出)
13. チーム間ゲーム(相手に応じた作戦の考案)
14. リーグ戦
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席状況:60% (2)授業態度:40%

学期末の試験、スキルテスト等は原則実施しない。グループでの話し合い活動を積極的に行い、その話し合いの内容を学習カードにまとめ、毎授業ごと提出することを義務づける。

健康・体力づくり実習A(バドミントン)

PHED-0-101

担当者：関 一誠

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目、
中学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目、
小学校教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

【バドミントン】＜内容＞ 日本には、バドミントンによく似た遊びに「羽根突き」がある。手や足を使って、あるいは、棒や板を使って、台に羽根を植え込んだものを打ち合う遊戯は世界各地で見られる。バドミントンは、こうした遊びが競技化されたもので、名称はイギリスのグロスターシャー州にあるバドミントンに由来している。近代バドミントンのシャトルの動きは、スピーディに変化に富み、その豪快さ、心地よさは、スマッシュに代表される。その一方で、スカートをはいた形状から終速時の減速は大変顕著で、ラリーを続けることがとても容易であり、老若男女、誰でも簡単にプレーを楽しむことが出来る特徴を有している。羽つき遊びから、バドミントン競技に至る技術習得の追体験を実践しながら、技能向上を目指した実習を行う。スケジュール案は授業計画に示したが、実習内容はコート内での活動時間を多くするために、人数・技術レベル等で柔軟に対応する。

2. 学びの意義と目標

・学生として規律ある日常生活をおくこと。・スポーツをする上でのマナーを身につけること。・勝敗に固執することなく、自身の技能・体力の向上を目指すこと。

受講生に対する要望

身体のコンドিশョンを整えて受講すること。

キーワード

(1)健康 (2)スポーツマンシップ (3)ラケットスポーツ (4)ルール
(5)ダブルスのコンビネーション

事前学習(予習)

運動着、運動靴を必ず着用(通学時の服装は不可)健康に留意し、週2日程度は軽い身体活動を行い体力の維持向上に努めること。

復習についての指示

毎回学んだ内容を日常生活で実践し継続すること。

授業計画

1. ガイダンス(授業の進め方、心構え、用具、評価等についての説明)
2. 基本技術の解説と導入I
3. 基本技術の解説と導入II
4. 基本技術I
5. 基本技術II
6. 技能実習(サーブとレシーブ)
7. 技能実習(簡易ゲームI)
8. 技能実習(簡易ゲームII)
9. 簡易ゲームと審判法
10. ダブルスゲームの仕方
11. 競技規則I(サーブフォルト)
12. 競技規則II(ラリーフォルト)
13. ゲームの実際I
14. ゲームの実際II
15. 総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席点:50%:欠席は4回まで。(2)平常点:20%:積極的態、行動を評価する。(3)テスト:30%:実技テストを行う。

健康・体力づくり実習A(バレーボール)

PHED-0-101

担当者：鈴木 由美

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目，
中学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目，
小学校教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

バレーボールの技術・戦術をドリルゲームを用い、さまざまなステップを踏んで段階的・系統的に学習していく。毎回、個人的技能練習～チーム練習～ゲームという流れで学習を進める。

2. 学びの意義と目標

生涯スポーツへの志向性の向上及び、健康への自己教育力を高める。履修者のレディネス(体力差や経験の有無)に応じて、基本的なボール操作から攻撃練習まで幅広く対応することで(1)個々の技能の向上、ゲームの内容をより攻撃性の高いラリーへ深めることで(2)集団技能の向上、さらに(3)身体を動かすことの楽しさ・爽快感を味わい、チームメイトとの協力・コミュニケーションの楽しさを体感することを目標とする。また、ネットの設営、ゲームの運営・管理についても学習する。

受講生に対する要望

経験不問。できるだけ前に関わらず、自分なりの上達やゲームの楽しさを味わうために前向きに授業に取り組むことを履修条件とします。

キーワード

(1)バレーボール (2)技術・戦術・マナー・ルール (3)コミュニケーションスキルの向上

事前学習(予習)

必ず運動着・体育館シューズ着用準備をすること。前回の授業記録に記載した反省や課題を解決するための方法を調べたり考察して授業に臨む。

復習についての指示

その日に授業記録に記載した反省点や課題について整理する。

授業計画

1. ○ガイダンス ○バレーボールとは？
2. ○個人的技能練習 ○ボール操作の基本 ●3対3のミニゲーム
3. ○個人的技能練習 ○ボール操作の基本 ●3対3のミニゲーム
4. 個人的技能練習(パス・サーブ) ●つなぐゲーム(コミュニケーション)
5. 個人的技能練習(パス・サーブ) ●つなぐゲーム(コミュニケーション)
6. ○個人的技能練習(パス・スパイク) ●チャンスボールをセッターへ
7. ○集団的技能練習(チャンスボールからの攻撃) ●チャンスボールをセッターへ
8. ○集団的技能練習(シートレシーブ) ●チャンスボールから攻撃へ
9. ○集団的技能練習(攻撃へのつなぎ) ●攻撃にチャレンジ
10. ○集団的技能練習(速攻への展開) ●速攻を含んだゲームへ
11. ○集団的技能練習(3段攻撃のバリエーション) ●2段トスも含め、様々な攻撃にチャレンジ
12. ●ゲーム(リーグ戦)男女混合
13. ●ゲーム(リーグ戦)男女別
14. ●ゲーム(リーグ戦)男女混合
15. ●ゲーム(リーグ戦)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:75% (2)課題への積極的参加度:15% (3)授業記録:10%

健康・体力づくり実習B(サッカー)

PHED-0-102

担当者：田村 達也

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目,
中学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目,
小学校教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

サッカーとは、ドリブルやパスでボールを前に運びながら相手ゴールにシュートして得点を競い合うスポーツである。その中には、ドリブル、パスといった個人技能だけでなく、グループやチームでどう攻め、守るのかといったグループ、チーム戦術も存在する。そこで、本講義では、受講生がサッカーをより楽しめるようになるために、個人・集団技能やルールについて説明する。

2. 学びの意義と目標

サッカーの楽しさに触れ、生涯においてスポーツを楽しんで、続けていくことの必要性を認識させる。そのために必要な個人・集団技能の習得を図る。また、自立してゲームを行えるように、ルールについても学ぶ。

受講生に対する要望

サッカーについて関心がある者の受講を望む。

キーワード

(1)サッカー (2)生涯スポーツ (3)個人技能 (4)集団技能 (5)グループ・チーム戦術

事前学習(予習)

オリエンテーションの後、すぐに現時点での技能評価のためのゲームを行う可能性がありますので、初日から運動できる服装と体育館シューズを用意してきてください。また、サッカーは強度の高い運動であるので、日ごろから体力づくりに努めること。

復習についての指示

授業で説明した用語を整理し、次回の授業で活かせるようにすること。

授業計画

1. オリエンテーション&ゲーム
2. 個人技能練習(1)(ドリブル)&ゲーム
3. 個人技能練習(2)(ドリブル)&ゲーム
4. 個人技能練習(3)(ドリブル&パス)&ゲーム
5. 個人技能練習(4)(ドリブル&パス)&ゲーム
6. 集団技能練習(1)(3対1 or 4対1)&ゲーム
7. 集団技能練習(2)(4対2 or 5対3)&ゲーム
8. 集団技能練習(3)(4対4)&ゲーム
9. 集団技能練習(4)(4対4)&ゲーム
10. 8対8ゲーム(1)
11. 8対8ゲーム(2)
12. 11対11リーグ戦(1)
13. 11対11リーグ戦(2)
14. 11対11リーグ戦(3)
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席点:60% (2)テスト:30% (3)技能:10%

健康・体力づくり実習B(テニス)

PHED-0-102

担当者：太田 涼

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目、
中学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目、
小学校教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

【テニス】 ※テニスを受講済の者等が望ましい。 スポーツの原点は楽しむこと、遊ぶことである。その点において、私達が生涯を通じて行うスポーツ(生涯スポーツ)は、年齢、性、技能の差を問わず、楽しめること、遊べることが重要となる。そのためには、自らが生活の中にスポーツを習慣化していく姿勢(気持ち)と、スポーツで楽しめる、遊べることのできる能力(体力・技術)が必要となる。本講義では、真剣に楽しむ、一生懸命に遊ぶというスポーツ本来の精神を大切に、テニスを通じて、スポーツの効果(健康の保持・増進、ストレス解消、コミュニケーション促進など)、面白さなどを体験し、生涯においてスポーツを実践していく姿勢・能力を身につけてもらいたい。また、基礎技術を習得し、ラリーを楽しみ、ゲームを通じて心身のリフレッシュを図る。さらにルールやマナーを尊重し、人とのコミュニケーションや協調性を高め人間性の向上に努める。授業前半はそれぞれの技能を高めるための練習を行い、後半はチームを固定して編成しダブルスゲームを中心に行う予定である。準備や審判なども全員で交代で行う。基本的なことから授業を進めていき、生涯スポーツの実現とActive Living!の一助となるような実習を考えています。

2. 学びの意義と目標

生涯に渡ってスポーツを続けることの意義とその実践力を高めること

受講生に対する要望

積極的に参加すること

キーワード

(1)テニス (2)生涯 (3)コミュニケーション (4)マナー

事前学習(予習)

シラバスを熟読のこと。オリエンテーションでの説明に留意して授業に臨み、内容が段階的に高まっていくので積極的に参加すること。※テニスを受講済の者等が望ましい。

復習についての指示

テニスの試合観戦(テレビ中継)

授業計画

1. オリエンテーションと講義のねらい
2. ラケットとボールに慣れる
3. ミニラリーを楽しむ
4. ストロークの技術(フォアハンド、バックハンド)
5. ストロークの技術(フォアハンド、バックハンド)
6. サービスの技術
7. サービスの技術
8. ラリーの応酬
9. ボレーの技術
10. ボレーの技術
11. 簡易ゲームを楽しむ・ルール理解
12. チーム対抗戦
13. チーム対抗戦
14. チーム対抗戦
15. チーム対抗戦

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席点:60% (2)実習点:40%

担当者：神田 良太郎

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目、
 中学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目、
 小学校教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

球技や競技スポーツの苦手な人、基礎体力をつけたい人、シェイプアップしたい人などを対象にストレッチ運動、各種体力づくり運動、ボール運動等誰でも気軽に出来る運動を行います。スポーツを楽しむにはまず基礎体力。次に球技や競技スポーツに移るのが自然の流れ。

2. 学びの意義と目標

健康を維持していくためには、食生活と運動が重要です。美食の先には生活習慣病の恐れが出てきます。そこで、毎日一定の運動を継続することが必要になってきます。特別な場所や用具、時間がなくても出来る運動は数多くあります。そのことを理解し、実践することで人生がより豊かになるのです。

受講生に対する要望

・授業に対してまじめに取り組む・積極性と協調性が大切・シューズを用意すること

キーワード

(1)授業に対して欠席をしないで取り組める (2)他との協調性又協力

事前学習(予習)

日ごろから健康に留意し、体力増強に努めること

復習についての指示

柔軟を高めるべく、自宅でもストレッチを行うようにすること

授業計画

1. ストレッチ運動
2. 1人で行う体力づくり運動
3. 体力づくり運動(マシーンを使用したトレーニング)
4. ターゲットバードゴルフ(基本練習、ルールの理解)
5. ターゲットバードゴルフ(ゲーム)
6. ストレッチ運動
7. 2人組で行う体力づくり運動
8. ボールを使った運動
9. ソフトバレーボール(基本練習)
10. ソフトバレーボール(ゲーム)
11. ストレッチ運動
12. 筋力トレーニング
13. 簡易ホッケー(ルール説明、基本練習)
14. 簡易ホッケー(ゲーム)
15. 卓球、フットサル、インディアカ・シャッフルボード、フリスビーなど

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席点:60%:欠席-6点、遅刻・早退-2点 (2)評価点:40%:授業態度、技能面、シューズ等の忘れ
 とにかく授業(何人の種目)に対して真面目に取り組む

健康・体力づくり実習B(バスケットボール)

PHED-0-102

担当者：北澤 太野

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目，
中学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目，
小学校教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

バスケットボールの個人的・集団的な技術・戦術を、「ボールの移動」という課題を基に学習する。授業は、授業計画に記した通りゲーム形式の内容を中心に展開するが、履修者の人数・熟達レベル等によって、出来る限り柔軟に対応していく。安全にゲームを行うための知識の習得と、身体を動かすことの爽快感、他者とのコミュニケーションにより得られる楽しさを味わうことで、生涯スポーツへの志向性を向上させる。

2. 学びの意義と目標

バスケットボールというゲームを通して、自己の身体状況を把握し、ゲーム形式の実践を繰り返すことで、技術的・戦術的な知識を習得する。また、ゲーム様相の変化に気づき、バスケットボールの競技形態、競技特性を理解する。

受講生に対する要望

集団での活動が中心になるので、積極的に参加すること。必ず運動着に着替え、体育館シューズ(バスケットボールシューズが望ましい)を着用すること。

キーワード

(1)バスケットボール (2)ゴール型 (3)ボール操作 (4)ボールを持たないときの動き (5)作戦の立案

事前学習(予習)

これまでのバスケットボール経験を振り返り、まとめておく。

復習についての指示

グループで話し合った内容を、自分自身の経験と照らし合わせ、翌週の話し合い活動で自分なりの見解を発表できるように準備を行う。

授業計画

1. ガイダンス(運動は行わない)
2. チーム分け・ルールの説明・試しのゲーム
3. チーム内ゲーム(「守る」とは?)
4. チーム内ゲーム(「攻める」とは?)
5. チーム内ゲーム(作戦の創出と共有)
6. チーム間ゲーム(相手に応じた作戦の捻出)
7. チーム間ゲーム(相手に応じた作戦の考案)
8. チーム内ゲーム(作戦の模索)
9. チーム間ゲーム(相手に応じた作戦の捻出)
10. チーム間ゲーム(相手に応じた作戦の考案)
11. チーム内ゲーム(作戦の模索)
12. チーム間ゲーム(相手に応じた作戦の捻出)
13. チーム間ゲーム(相手に応じた作戦の考案)
14. リーグ戦
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席状況:60% (2)授業態度:40%

学期末の試験、スキルテスト等は原則実施しない。グループでの話し合い活動を積極的に行い、その話し合いの内容を学習カードにまとめ、毎授業ごと提出することを義務づける。

健康・体力づくり実習B(バドミントン)

PHED-0-102

担当者：関 一誠

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目、
中学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目、
小学校教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

【バドミントン】＜内容＞ 手や足を使って、棒や板を使って、台に羽根を植え込んだものを打ち合う遊戯は世界各地で見られる。バドミントンは、こうした遊びが競技化されたもので、名称はイギリスのグロスターシャー州にあるバドミントンに由来している。近代バドミントンのシャトルの動きは、スピーディに変化に富み、その豪快さ、心地よさは、スマッシュに代表される。その一方で、スクートをはいった形状から終速時の減速は大変顕著で、ラリーを続けることがとても容易であり、老若男女、誰でもが簡単にプレーを楽しむことが出来る特徴を有している。羽つき遊びから、バドミントン競技に至る技術習得の追体験を実践しながら、技能向上を目指した実習を行う。スケジュール案は授業計画通りであるが、出来る限りコート内にいる時間を多くするために、実習内容は人数・技術レベル等によって柔軟に対応して行う。

2. 学びの意義と目標

・学生として規律ある日常生活をおくこと。・スポーツをする上でのマナーを身につけること。・勝敗に固執することなく、自身の技能・体力の向上を目指すこと

受講生に対する要望

身体のコンドিশョンを整えて受講すること。

キーワード

(1)健康 (2)スポーツマンシップ (3)ラケットスポーツ (4)ルール (5)コンビネーション

事前学習(予習)

運動着、運動靴を必ず着用(通学時の服装は不可)健康に留意し、週2回程度の身体活動を行い、体力の維持向上に努めること。

復習についての指示

毎回学んだ内容を日常生活で実践し継続すること。

授業計画

1. ガイダンス(授業の進め方、心構え、用具、評価等についての説明)
2. 基本技術の解説と導入I
3. 基本技術の解説と導入II
4. 基本技術I
5. 基本技術II
6. 技能実習(サーブとレシーブ)
7. 技能実習(簡易ゲームI)
8. 技能実習(簡易ゲームII)
9. 簡易ゲームと審判法
10. ダブルスゲームの仕方
11. 競技規則I(サーブフォルト)
12. 競技規則II(ラリーフォルト)
13. ゲームの実際I
14. ゲームの実際II
15. 総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席点:50%:欠席は4回まで。(2)平常点:20%:積極的態度、行動を評価。(3)テスト:30%:実技テストを行う。

健康・体力づくり実習B(バレーボール)

PHED-0-102

担当者：鈴木 由美

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目、
中学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目、
小学校教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

バレーボールの技術・戦術をドリルゲームを用い、さまざまなモデルステップを踏んで段階的・系統的に学習していく。毎回、個人的技能練習～チーム練習～ゲームという流れで学習を進める。

2. 学びの意義と目標

生涯スポーツへの志向性の向上と健康への自己教育力の向上。履修者のレディネス(体力差や経験の有無)に応じて、基本的なボール操作から攻撃練習まで幅広く対応することで(1)個々の技能の向上、ゲームの内容をより攻撃性の高いラリーへ深めることで(2)集団技能の向上、さらに(3)身体を動かすことの楽しさ・爽快感を味わい、チームメイトとの協力・コミュニケーションの楽しさを体感することを目標とする。また、ネットの設営、ゲームの運営・管理も学習する。

受講生に対する要望

経験不問。できるだけ前に関わらず、自分なりの上達やゲームの楽しさを味わうために前向きに授業に取り組むことを履修条件とします。

キーワード

(1)バレーボール (2)技術・戦術・マナー・ルール (3)コミュニケーションスキルの向上

事前学習(予習)

必ず、運動着・体育館シューズ着用準備をすること。前回の授業記録に記載した反省や課題を解決するための方法を調べたり考えたりして授業に臨む。

復習についての指示

その日の授業記録に記載した反省や課題の内容について、整理する。

授業計画

1. ○ガイダンス ○バレーボールとは? ●ゲーム
2. ○個人的技能練習 ○ボール操作の基本 ●3対3のミニゲーム
3. ○個人的技能練習 ○ボール操作の基本 ●3対3のミニゲーム
4. 個人的技能練習(パス・サーブ) ●つなぐゲーム(コミュニケーション)
5. 個人的技能練習(パス・サーブ) ●つなぐゲーム(コミュニケーション)
6. ○個人的技能練習(パス・スパイク) ●チャンスボールをセッターへ
7. ○集団的技能練習(チャンスボールからの攻撃) ●チャンスボールをセッターへ
8. ○集団的技能練習(シートレシーブ) ●チャンスボールから攻撃へ
9. ○集団的技能練習(攻撃へのつなぎ) ●攻撃にチャレンジ
10. ○集団的技能練習(速攻への展開) ●速攻を含んだゲームへ
11. ○集団的技能練習(3段攻撃のバリエーション) ●2段トスも含め、様々な攻撃にチャレンジ
12. ●ゲーム(リーグ戦)男女混合
13. ●ゲーム(リーグ戦)男女別
14. ●ゲーム(リーグ戦)男女混合
15. ●ゲーム(リーグ戦)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:75% (2)課題への積極的参加度・習熟度:15% (3)授業記録:10%

健康・体力づくり実習B(ライトスポーツ)

PHED-0-102

担当者：和田 雅史

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目、
中学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目、
小学校教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

ライトスポーツと題して、疾病傾向の者、心身にハンデがある者、肥満、喘息などで軽い運動しかできない学生を対象として、身体を動かす楽しさを知ってもらう授業である。運動を通して健康生活を維持していくための基礎的体力作りを図る。日々の生活にともなう身体活動から、積極的な意味合いとしての複数の運動実践を通しての体力づくりを目指す。各自の体力状況を比較検討したうえで、どのような体力要素に問題があるのかを自らが把握し、この授業を通して維持向上できるように目標設定をする。そして、そのための運動処方を考えていく。授業ごとに自己の授業との関わり方を自己点検し、毎回自己評価を行う。フィットネスとは何か、体育授業との関わりは何かを検討しながら、なぜ大学体育の必要性があるのかも授業を通して考えていく。運動の実践では、運動の楽しさを意識しつつ、特定の運動種目にとらわれることなく、複数の異なった運動種目を通して、運動の特性や動きの特性を理解し、自分にとってどのような運動種目に適性があるのか、生涯にわたって継続可能な運動は何であるのかも考えていく。バレーボールやテニス、卓球などのネット型の運動種目とバスケットボールやサッカー、ハンドボールなどのゴール型の運動種目を数種目を受講者の状況を見た上で組み合わせながら実践していく。このように、基本的な動き作りや複数の運動種目の実践を通してどのように自身の体力と運動への意識が変容していくのかを科学的に評価していく。

2. 学びの意義と目標

青年期の健康維持を目指し、運動不足の解消や肥満予防などを目標として、楽しい運動実践の基礎的処方を習得することにより、生涯にわたっての運動実践が継続されるようになる。身体活動を通して、身体活動の楽しさを感じながら、基礎的体力の増強が図られる。健康の維持や基礎的体力の増強が、学生としての日々の学習・研究の遂行を向上させるだけでなく、大学生としての活動範囲を大きく広げていくことができる。また、現在の健康が、現在だけではなく将来を通じて一生にわたって影響していくことを理解し、健康で長命な生活を実現していくことにもなる。体育教育で重要なことは、運動に対するパフォーマンスを高め向上させることよりも、いかに身体への抵抗力を増強し、疾病にかからない基礎的体力を作ることにある。この授業を通して、運動の方法を学ぶこと、すなわち身体活動の楽しさや基礎的体力作りの処方を学ぶことによって、さらには運動の楽しさを知ることによって運動の継続性が生まれる。大学、さらには社会人となつてから、今後予想される肥満や生活習慣病に対する予防にも繋がり、健康生活の維持・増進に大きな期待が予想される。

受講生に対する要望

運動を通して、健康の維持を図ろうと考えている人の受講を望む。体力不足や運動経験、体型などによってこれまで運動が苦手な人であっても、意欲的に授業に取り組むことができる者。また、授業を休まず運動を継続できる者の受講を望む。少人数クラス編成で実施の予定。

キーワード

(1) ライトスポーツ (2) 健康維持 (3) 基礎的体力

事前学習(予習)

事前に予定された運動種目の特性を理解し、基本的なルールを学習しておくこと。

復習についての指示

授業を通じて、どのように関わったか、授業の前と後ではどのように自己変容したかを必ず確認する。

授業計画

1. オリエンテーション-ライトスポーツの意味
2. 動きの基本と動き作り-歩行や走りの基本
3. 自身の体力状況の把握
4. 自身の体力評価と運動処方
5. ストレッチングの方法と実践
6. 運動実践
7. 運動実践
8. 運動実践
9. 運動実践
10. 運動実践
11. 運動実践
12. 運動実践
13. 運動実践
14. 運動実践
15. まとめ-授業全体を通しての自己評価

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 授業に臨む態度:40% (2) 出席:60%

担当者：二神 常爾

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

情報コース：応用科目

講義概要

1. 内容

ノートパソコンを用いての実習の授業を通して、データベースのソフト「アクセス」を学び、データベースの基本的な考え方を身につけることを目指す。データベースは大量のデータを効率的に整理し、大量のデータの中から必要なデータを速く探す（検索）ことを可能にするが、非常に分かりやすい考え方に基づいている。授業では、代表的なデータベース・ソフトであるマイクロソフト社のアクセスの基本的な機能について、例題を用いながら1つ1つ学習する。アクセスは大量のデータを高速に処理し、データの管理を効率的に行うことができる。アクセスによりデータの検索やデータ同士の関連付けを行うことができる。また、アクセスとエクセルの連携を通して、互いの利点を生かしたデータ処理ができることを学ぶ。授業では1回の授業ごとに1つのテーマについて学習する。毎回プリントを配布する。教師はプロジェクターを用いてデモを行い、各人は教師のデモとプリントに従って、ノートパソコンの操作を行う。質問は随時受け付ける。また、授業内容について理解を深めるために、授業時間内に行う課題を毎回出題する。

2. 学びの意義と目標

インターネットが普及し、IT（情報技術）が進み、グローバル化が進展するとともに、我々は大量のデータを入手できるようになった。同時に、大量のデータを効率的に整理したり、大量のデータの中から必要なデータを迅速かつ正確に探し出すことも求められるようになった。これは社会の様々な状況下で、また様々な組織について当てはまる。例えば、企業の規模が大きくなり、企業の従業員や取引先の数が増大すると、社員や顧客についての大量のデータを管理・維持する技術が必要になる。また、企業が売り上げを伸ばしコストを削減するためには、商品の売れ筋把握や在庫管理などでコンピュータによりデータを管理・処理することが有効である。データベースの技術は、様々な組織のデータの維持、管理、処理などの過程を支える基本技術である。授業では、代表的なデータベース・ソフトであるアクセスの中の様々な機能を学ぶことによって、データ処理の基本技術を学び、データベースの基本的考え方を習得することを目指す。

受講生に対する要望

遅刻・欠席をしないこと

キーワード

(1) アクセス (2) データベース (3) テーブル (4) クエリ (5) クロス集計

事前学習（予習）

オンラインシラバスで授業内容を事前に確認し、参考書があれば該当箇所を読んでおくこと

復習についての指示

授業前に、授業で使うファイルを自分のUSBメモリにコピーして、帰宅してからプリントを見ながら手順を復習すること。

授業計画

1. ガイダンス
2. テーブルの新規作成と主キーの設定
3. テーブルの基本操作
4. 選択クエリと集計クエリ
5. パラメータクエリ・更新クエリ・テーブル作成クエリ
6. 追加クエリと削除クエリ
7. クロス集計クエリとエクスポート・インポート
8. リレーションシップの設定
9. テーブルの結合、演算フィールドの追加
10. フォームの利用
11. レポートの利用(1)
12. レポートの利用(2)
13. マクロの利用
14. テーブルの正規化
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1) 出席:30% (2) 授業中の課題:35% (3) 期末試験:35%

担当者：二神 常爾

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

情報コース：応用科目

講義概要

1. 内容

ノートパソコンを用いて、ホームページ作成の言語であるHTML/XHTMLを学ぶ。テキスト文（文章）の中にタグを挿入することによって、画像の挿入、リンク、表の作成などを行う。また、CSS（カスケディング・スタイル・シート）を合わせて学ぶことにより、文字サイズや文字色、背景色、余白の長さ、行間隔などのレイアウトを自由に設定でき、ホームページの見栄えを向上させることができる。授業での学習により、自らホームページを作成できるようになることを目指す。 ウィンドウズ付属のメモ帳でファイルを編集し、インターネット・エクスプローラーで確認しながら授業を進める。作成したホームページをインターネット上に公開することは行わないが、その手順は説明する。 授業では1回の授業ごとに1つのテーマについて学習する。毎回プリントを配布する。教師はプロジェクターを用いてデモを行い、各人は教師のデモとプリントに従って、ノートパソコンの操作を行う。質問は随時受け付ける。また、授業内容について理解を深めるために、授業時間内に行う課題を毎回出題する。

2. 学びの意義と目標

インターネットの普及とともに、コンピュータや携帯電話などの情報機器は、情報を受け取るための手段だけでなく、自ら情報を発信するための手段となった。ホームページは情報発信のツールとしてブログ、ツイッター、SNSに比べると、古くから知られている。ホームページは、企業や大学などの様々な組織や個人が自らを宣伝するために利用している。授業では、ホームページ作成の技術を学ぶことによって、自己PRの手段の1つとして、自らもホームページを作成できるようになることを目指す。ホームページを作成するためのソフト（ホームページビルダー）も市販されているが、授業ではそれに頼らず、タグとスタイルシートの記述のみでホームページを作成する。ホームページの作成は、ブログやツイッター、SNSなどより新しい情報発信のツールに進むための第一歩と考えることもできる。

受講生に対する要望

遅刻・欠席をしないこと。

キーワード

(1)ホームページ (2)Webページ (3)HTML (4)スタイルシート (5)リンク

事前学習（予習）

オンラインシラバスで授業内容を事前に確認し、参考書があれば該当箇所を読んでおくこと

復習についての指示

授業前に、授業で使うファイルを自分のUSBメモリにコピーして、帰宅してからプリントを見ながら授業で行った手順を復習すること。

授業計画

1. ガイダンス
2. テキストのレイアウト(1)(タグ、タイトル、段落の設定)
3. テキストのレイアウト(2)(フォント、文字の色、背景色)
4. テキストのレイアウト(3)(スタイルシートの利用)
5. 区切り線とリスト、リンクの基本
6. ページの指定位置へのリンクの設定
7. 背景と罫線のデザイン
8. 画像ファイルの基本知識と画像ファイルの挿入の基本
9. 画像ファイルの挿入（文章の回り込み、余白の挿入）
10. 表の作成
11. フォームの作成
12. 2段組みの作成
13. フレームの作成
14. これまで学んだことを生かして課題に取り組む
15. ページの公開とまとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:30% (2)授業中の課題:35% (3)期末試験:35%

生涯スポーツ実習 A (エアロビックダンス)

PHED-0-103

担当者：鈴木 由美

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目，
中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目，
小学校教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

「健康」について学習しながら、エアロビックダンス・筋力コンディショニング運動（自重を使ったトレーニング、バランスボール、パワーヨガなど）・ストレッチなどのいつでもどこでもできる身体作りや調整の方法をわかりやすく学習していきます。エアロビックダンスは、日常にはない動作を沢山盛り込み、思わず身体が動きだるような音楽に合わせて運動する楽しさや爽快感を体感でき、ストレス解消など「心への効き目」も実感できます。また、自分の目的や体調に応じて、運動強度・難易度を選択できるよう複数の動作を提供するので、運動の得意不得意、男女を問わず自分のペースで楽しむことができます。

2. 学びの意義と目標

豊かな人生をデザインするための知恵となる「身体的教養」を高める。生活全般（食事・運動・睡眠）にわたるトータルな視点から自分の身体を知り、健康への自己教育力の向上を目標とします。

受講生に対する要望

服装は、運動に適した伸縮性に富み、動きやすいものを着用し、必ずシューズを着用してください。経験不問。

キーワード

(1) フィットネス (2) 健康への自己教育力の向上 (3) 実践方法

事前学習（予習）

様々なエクササイズを実践できるよう、体調を整えておくこと。その都度出された課題を必ずやること。

復習についての指示

その日の授業記録に記載した反省や課題の内容について整理する。また、解決策や疑問点について調べてみる。

授業計画

1. ガイダンスと基本動作■以降、ストレッチは毎回実施
2. エアロビクス運動とは■エアロビクス（フットワークI）■体脂肪測定
3. 健康を支える要素・運動の必要性和効果■エアロビクス（フットワークII）
4. 自分の身体を知る（体脂肪率測定）■エアロビクス
5. 自分の身体を知る（適性体重・姿勢測定）■エアロビクス
6. 自分に適した運動を知る（運動強度）■ステップエアロビクス
7. 自分に適した運動を知る（運動の種類・頻度）■ステップエアロビクス
8. 筋コンディショニングの必要性和効果■バランスボール
9. ライフスタイルと健康（食生活I）■バランスボール
10. ライフスタイルと健康（食生活II）■パワーヨガ
11. ライフスタイルと健康（休養・休息）■パワーヨガ
12. ライフスタイルチェック■ステップエアロビクス
13. ライフデザイン（ライフスタイルの改善点を考察）■エアロビクス
14. リクエストウィーク（これまでに実施のリクエストエクササイズ）
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 出席:75% (2) 課題への積極的参加度・習熟度:15% (3) 授業記録ノート:10%

生涯スポーツ実習 A (サッカー)

PHED-0-103

担当者：田村 達也

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目，
中学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目，
小学校教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

サッカーとは、ドリブルやパスでボールを前に運びながら相手ゴールにシュートして得点を競い合うスポーツである。その中には、ドリブル、パスといった個人技能だけでなく、グループやチームでどう攻め、守るのかといったグループ、チーム戦術も存在する。そこで、本講義では、受講生がサッカーをより楽しめるようになるために、個人・集団技能やルールについて説明する。

2. 学びの意義と目標

サッカーの楽しさに触れ、生涯においてスポーツを楽しんで、続けていくことの必要性を認識させる。そのために必要な個人・集団技能の習得を図る。また、自立してゲームを行えるように、ルールについても学ぶ。

受講生に対する要望

サッカーについて関心がある者の受講を望む。

キーワード

(1)サッカー (2)生涯スポーツ (3)個人技能 (4)集団技能 (5)グループ・チーム戦術

事前学習 (予習)

オリエンテーションの後、すぐに現時点での技能評価のためのゲームを行う可能性がありますので、初日から運動できる服装と体育館シューズを用意してきてください。また、サッカーは強度の高い運動であるので、日ごろから体力づくりに努めること。

復習についての指示

授業で説明した用語を整理し、次回の授業で活かせるようにすること。

授業計画

1. オリエンテーション&ゲーム
2. 個人技能練習(1) (ドリブル) &ゲーム
3. 個人技能練習(2) (ドリブル) &ゲーム
4. 個人技能練習(3) (ドリブル&パス) &ゲーム
5. 個人技能練習(4) (ドリブル&パス) &ゲーム
6. 集団技能練習(1) (3対1 or 4対1) &ゲーム
7. 集団技能練習(2) (4対2 or 5対3) &ゲーム
8. 集団技能練習(3) (4対4) &ゲーム
9. 集団技能練習(4) (4対4) &ゲーム
10. 8対8ゲーム(1)
11. 8対8ゲーム(2)
12. 11対11リーグ戦(1)
13. 11対11リーグ戦(2)
14. 11対11リーグ戦(3)
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)出席点:60% (2)テスト:30% (3)技能:10%

生涯スポーツ実習 A (テニス)

PHED-0-103

担当者：太田 涼

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目，
中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目，
小学校教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

【テニス】 ※中・上級者、テニス受講者が望ましい。 スポーツの原点は楽しむこと、遊ぶことである。その点において、私達が生涯を通じて行うスポーツ（生涯スポーツ）は、年齢、性、技能の差を問わず、楽しめること、遊べることが重要となる。そのためには、自らが生活の中にスポーツを習慣化していく姿勢（気持ち）と、スポーツで楽しめる、遊べることのできる能力（体力・技術）が必要となる。本講義では、真剣に楽しむ、一生懸命に遊ぶというスポーツ本来の精神を大切に、テニスを通じて、スポーツの効果（健康の保持・増進、ストレス解消、コミュニケーション促進など）、面白さなどを体験し、生涯においてスポーツを実践していく姿勢・能力を身につけてもらいたい。また、基礎技術を習得し、ラリーを楽しみ、ゲームを通じて心身のリフレッシュを図る。さらにルールやマナーを尊重し、人とのコミュニケーションや協調性を高め人間性の向上に努める。授業前半はそれぞれの技能を高めるための練習を行い、後半はチームを固定して編成しダブルスゲームを中心に行う予定である。準備や審判なども全員で交代して行う。基本的なことから授業を進めていき、生涯スポーツの実現とActive Living!の一助となるような実習を考えています。

2. 学びの意義と目標

生涯に渡ってスポーツを続けることの意義とその実践力を高めること

受講生に対する要望

積極的に参加すること

キーワード

(1) テニス (2) 生涯 (3) コミュニケーション (4) マナー

事前学習（予習）

シラバスを熟読のこと。オリエンテーションでの説明に留意して授業に臨み、内容が段階的に高まっていくので積極的に参加すること。※中上級者、テニス受講者が望ましい。

復習についての指示

テニスの試合観戦（テレビ中継）

授業計画

1. オリエンテーションと講義のねらい
2. ストロークの技術（フォアハンド、バックハンド）
3. ストロークの技術（フォアハンド、バックハンド）
4. サービスの技術
5. ボレーの技術
6. ボレーの技術
7. 前衛の技術・戦術
8. ラリーの応酬
9. 徹底した打ち込み
10. 徹底した打ち込み
11. ミニ大会開催
12. ミニ大会開催
13. ミニ大会開催
14. ミニ大会開催
15. ミニ大会開催

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 実習点：60% (2) 出席点：40%

生涯スポーツ実習 A (バスケットボール)

PHED-0-103

担当者：北澤 太野

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目，
中学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目，
小学校教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

バスケットボールの個人的・集団的な技術・戦術を、「ボールの移動」という課題を基に学習する。授業は、授業計画に記した通りゲーム形式の内容を中心に展開するが、履修者の人数・熟達レベル等によって、出来る限り柔軟に対応していく。安全にゲームを行うための知識の習得と、身体を動かすことの爽快感、他者とのコミュニケーションにより得られる楽しさを味わうことで、生涯スポーツへの志向性を向上させる。

2. 学びの意義と目標

バスケットボールというゲームを通して、自己の身体状況を把握し、ゲーム形式の実践を繰り返すことで、技術的・戦術的な知識を習得する。また、ゲーム様相の変化に気づき、バスケットボールの競技形態、競技特性を理解する。

受講生に対する要望

集団での活動が中心になるので、積極的に参加すること。必ず運動着に着替え、体育館シューズ(バスケットボールシューズが望ましい)を着用すること。

キーワード

(1)バスケットボール (2)ゴール型 (3)ボール操作 (4)ボールを持たないときの動き (5)作戦の立案

事前学習(予習)

これまでのバスケットボール経験を振り返り、まとめておく。

復習についての指示

グループで話し合った内容を、自分自身の経験と照らし合わせ、翌週の話し合い活動で自分なりの見解を発表できるように準備を行う。

授業計画

1. ガイダンス(運動は行わない)
2. チーム分け・ルールの説明・試しのゲーム
3. チーム内ゲーム(「守る」とは?)
4. チーム内ゲーム(「攻める」とは?)
5. チーム内ゲーム(作戦の創出と共有)
6. チーム間ゲーム(相手に応じた作戦の捻出)
7. チーム間ゲーム(相手に応じた作戦の考案)
8. チーム内ゲーム(作戦の模索)
9. チーム間ゲーム(相手に応じた作戦の捻出)
10. チーム間ゲーム(相手に応じた作戦の考案)
11. チーム内ゲーム(作戦の模索)
12. チーム間ゲーム(相手に応じた作戦の捻出)
13. チーム間ゲーム(相手に応じた作戦の考案)
14. リーグ戦
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席状況:60% (2)授業態度:40%

学期末の試験、スキルテスト等は原則実施しない。グループでの話し合い活動を積極的に行い、その話し合いの内容を学習カードにまとめ、毎授業ごと提出することを義務づける。

生涯スポーツ実習 A (バドミントン)

PHED-0-103

担当者：関 一誠

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目，
中学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目，
小学校教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

【バドミントン】＜内容＞ 日本には、バドミントンによく似た遊びに「羽根突き」がある。手や足を使って、あるいは、棒や板を使って、台に羽根を植え込んだものを打ち合う遊戯は世界各地で見られる。バドミントンは、こうした遊びが競技化されたもので、名称は、イギリスのグロスターシャー州バドミントンに由来する。競技バドミントンのシャトルの動きは、スピーディに変化に富み、その豪快さ、心地よさは、スマッシュに代表される。その一方で、スカートをはいた形状から終速時の減速が大きくラリーを程よく続けることができる。互いのやりとりのおもしろさは、プレイに熱中せずにはいられないだろう。本授業では、バドミントンの特性を十分に生かしながら技術や知識を個人の教養として身につけてもらうとともに、健康スポーツとして日常の運動習慣の確立、体力の維持・増進、ストレスからの開放等、生涯スポーツとして位置づけることを目的としている。

2. 学びの意義と目標

・学生として規律ある日常生活をおくこと。・スポーツをする上でのマナーを身につけること。・勝敗に固執することなく、自身の技能・体力の向上を目指すこと

受講生に対する要望

身体のコディションを整えて受講すること。

キーワード

(1)健康 (2)スポーツマンシップ (3)ラケットスポーツ (4)ルール
(5)コンビネーション

事前学習（予習）

運動着、運動靴を必ず着用（通学時の服装は不可）健康に留意し、週2日程度の身体活動を行い、体力の維持向上に努めること。

復習についての指示

毎回学んだ内容を日常生活で実践し継続すること。

授業計画

1. ガイダンス（歴史・用品・教材、心構え、評価等についての解説）
2. 個人技能実習（グリップ、ラケットティング・フットワーク動作の講義および実習）
3. 個人技能実習（サーブ、簡易ラリー、スマッシュ、簡易ゲーム、班分け、複数のフライトによるコンビネーションプレー）
4. 基本技術I
5. 基本技術II
6. 技能実習（サーブとレシーブ）
7. 技能実習（簡易ゲームI）
8. 技能実習（簡易ゲームII）
9. 簡易ゲームと審判法
10. ダブルスゲームの仕方
11. 競技規則I（サーブフォルト）
12. 競技規則II（ラリーフォルト）
13. ゲームの実際I
14. ゲームの実際II
15. 総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席点:50%:欠席は4回まで。(2)平常点:20%:積極的態度、行動等を評価する。(3)テスト:30%:実技テストを行う。

生涯スポーツ実習 A (バレーボール)

PHED-0-103

担当者：鈴木 由美

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目,
中学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目,
小学校教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

バレーボールの技術・戦術をドリルゲームを用い、さまざまなモデルステップを踏んで段階的・系統的に学習していく。毎回、個人的技能練習～チーム練習～ゲームという流れで学習を進める。

2. 学びの意義と目標

生涯スポーツへの志向性の向上及び、健康への自己教育力を高める。履修者のレディネス(体力差や経験の有無)に応じて、基本的なボール操作から攻撃練習まで幅広く対応することで(1)個々の技能の向上、ゲームの内容をより攻撃性の高いラリーへ深めることで(2)集団技能の向上、さらに(3)身体を動かすことの楽しさ・爽快感を味わい、チームメイトとの協力・コミュニケーションの楽しさを体感することを目標とする。また、ネットの設営、ゲームの運営・管理についても学習する。

受講生に対する要望

経験不問。できるだけ前に関わらず、自分なりの上達やゲームの楽しさを味わうために前向きに授業に取り組むことを履修条件とします。

キーワード

((1)バレーボール (2)技術・戦術・マナー・ルール (3)コミュニケーションスキルの向上

事前学習(予習)

必ず運動着・体育館シューズ着用準備をすること。前回の授業記録に記載した反省や課題を解決するための方法を調べたり考察して授業に臨む。

復習についての指示

その日に授業記録に記載した反省点や課題について整理する。

授業計画

1. ○ガイダンス ○バレーボールとは?
2. ○個人的技能練習 ○ボール操作の基本 ●3対3のミニゲーム
3. ○個人的技能練習 ○ボール操作の基本 ●3対3のミニゲーム
4. 個人的技能練習(パス・サーブ) ●つなぐゲーム(コミュニケーション)
5. 個人的技能練習(パス・サーブ) ●つなぐゲーム(コミュニケーション)
6. ○個人的技能練習(パス・スパイク) ●チャンスボールをセッターへ
7. ○集団的技能練習(チャンスボールからの攻撃) ●チャンスボールをセッターへ
8. ○集団的技能練習(シートレシーブ) ●チャンスボールから攻撃へ
9. ○集団的技能練習(攻撃へのつなぎ) ●攻撃にチャレンジ
10. ○集団的技能練習(速攻への展開) ●速攻を含んだゲームへ
11. ○集団的技能練習(3段攻撃のバリエーション) ●2段トスも含め、様々な攻撃にチャレンジ
12. ●ゲーム(リーグ戦)男女混合
13. ●ゲーム(リーグ戦)男女別
14. ●ゲーム(リーグ戦)男女混合
15. ●ゲーム(リーグ戦)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:75% (2)課題への積極的参加度:15% (3)授業記録:10%

生涯スポーツ実習 A (ボールスポーツ)

PHED-0-103

担当者：鈴木 直樹

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目，
中学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目，
小学校教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

ゲーム中心の指導アプローチにより、「ゲームを通してゲームでゲームがうまくなる」ようにしていく。また、技能の違い、ゲームの状況判断能力の違いを超え、様々な集団でゲームを楽しむことができるように工夫していく。さらに、授業内で学んだことがいろいろなスポーツ種目に使える力になっていくことができるように配慮していく。

2. 学びの意義と目標

生涯にわたって運動に親しむための「運動とかかわる力」を育成していくことを目指す。授業を通しながら、性別、年齢、体力の違いを超えて運動実践を楽しく行うことができるようになっていくことができることが目標である。

受講生に対する要望

運動着、体育館シューズを持参すること。また、積極的な参加を期待する。

キーワード

(1)ボールゲーム (2)生涯スポーツ (3)ゲーム中心の指導 (4)「いつでも」「どこでも」「誰とでも」 (5)体育

事前学習（予習）

課題を確認し、課題を明確にしておく。

復習についての指示

授業を振り返り、課題をもつ。

授業計画

1. ガイダンス（講義）
2. ネット型ゲーム（バレー、テニス、卓球、キンボールのようなゲーム）1
3. ネット型ゲーム（バレー、テニス、卓球、キンボールのようなゲーム）2
4. ネット型ゲーム（バレー、テニス、卓球、キンボールのようなゲーム）3
5. ネット型ゲーム（バレー、テニス、卓球、キンボールのようなゲーム）4
6. ゴール型ゲームA（サッカー、バスケット、ハンドボールのようなゲーム）1
7. ゴール型ゲームA（サッカー、バスケット、ハンドボールのようなゲーム）2
8. ゴール型ゲームA（サッカー、バスケット、ハンドボールのようなゲーム）3
9. ゴール型ゲームB（ラグビー、アメフトのようなゲーム）1
10. ゴール型ゲームB（ラグビー、アメフトのようなゲーム）2
11. ゴール型ゲームB（ラグビー、アメフトのようなゲーム）3
12. ベースボール型ゲーム（野球、ソフト、クリケットのようなゲーム）1
13. ベースボール型ゲーム（野球、ソフト、クリケットのようなゲーム）2
14. ベースボール型ゲーム（野球、ソフト、クリケットのようなゲーム）3
15. まとめ（レポートの作成）

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)パフォーマンス評価:50%:「運動とかかわる力」に関して授業内で発揮したことを評価の対象とする。(2)授業への取り組み:30%:授業中の態度など(3)まとめのレポート:20%:授業の最終時間に作成をする

授業中における運動や仲間とのかかわり、授業への取り組みが評価対象となる。また、授業の最終時間に学びを振り返り、学習目標の到達状況を確認する。

生涯スポーツ実習B（エアロビックダンス）

PHED-0-104

担当者：鈴木 由美

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目，
中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目，
小学校教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

「健康」について学習しながら、エアロビックダンス・筋力コンディショニング運動（自重を使ったトレーニング、バランスボール、パワーヨガなど）・ストレッチなどのいつでもどこでもできる身体作りや調整の方法をわかりやすく学習していきます。エアロビックダンスは、日常にはない動作を沢山盛り込み、思わず身体が動きだるような音楽に合わせて運動する楽しさや爽快感を体感でき、ストレス解消など「心への効き目」も実感できます。また、自分の目的や体調に応じて、運動強度・難易度を選択できるよう複数の動作を提供するので、運動の得意不得意、男女を問わず自分のペースで楽しむことができます。

2. 学びの意義と目標

豊かな人生をデザインするための知恵となる「身体的教養」を高める。生活全般（食事・運動・睡眠）にわたるトータルな視点から自分の身体を知り、健康への自己教育力の向上を目標とします。

受講生に対する要望

様々なエクササイズに備え、体調を整えておくこと。運動に適した伸縮性に富み、動きやすいものを着用し、必ずシューズを着用してください。経験不問。

キーワード

(1) フィットネス (2) 健康への自己教育力の向上 (3) 実践方法

事前学習（予習）

様々なエクササイズを実践できるよう、体調を整えておくこと。その都度出された課題を必ずやること。

復習についての指示

その日の授業記録に記載した反省や課題の内容について整理し、解決策や疑問点について調べておく。

授業計画

1. 1. ガイダンスと基本動作■以降、ストレッチングは毎回実施
2. エアロビクス運動とは■エアロビクス（フットワークI）■体脂肪測定
3. 健康を支える要素・運動の必要性和効果■エアロビクス（フットワークII）
4. 自分の身体を知る（体脂肪率測定）■エアロビクス
5. 自分の身体を知る（適性体重・姿勢測定）■エアロビクス
6. 自分に適した運動を知る（運動強度）■ステップエアロビクス
7. 自分に適した運動を知る（運動の種類・頻度）■ステップエアロビクス
8. 筋コンディショニングの必要性和効果■バランスボール
9. ライフスタイルと健康（食生活I）■バランスボール
10. ライフスタイルと健康（食生活II）■パワーヨガ
11. ライフスタイルと健康（休養・休息）■パワーヨガ
12. ライフスタイルチェック■ステップエアロビクス
13. ライフデザイン（ライフスタイルの改善点を考察）■エアロビクス
14. リクエストウィーク（これまでに実施のリクエストエクササイズ）
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 出席:75% (2) 課題への積極的参加度・習熟度:15% (3) 授業記録ノート:10%

生涯スポーツ実習B(サッカー)

PHED-0-104

担当者：田村 達也

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目,
中学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目,
小学校教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

サッカーとは、ドリブルやパスでボールを前に運びながら相手ゴールにシュートして得点を競い合うスポーツである。その中には、ドリブル、パスといった個人技能だけでなく、グループやチームでどう攻め、守るのかといったグループ、チーム戦術も存在する。そこで、本講義では、受講生がサッカーをより楽しめるようになるために、個人・集団技能やルールについて説明する。

2. 学びの意義と目標

サッカーの楽しさに触れ、生涯においてスポーツを楽しんで、続けていくことの必要性を認識させる。そのために必要な個人・集団技能の習得を図る。また、自立してゲームを行えるように、ルールについても学ぶ。

受講生に対する要望

サッカーについて関心がある者の受講を望む。

キーワード

(1)サッカー (2)生涯スポーツ (3)個人技能 (4)集団技能 (5)グループ・チーム戦術

事前学習(予習)

オリエンテーションの後、すぐに現時点での技能評価のためのゲームを行う可能性がありますので、初日から運動できる服装と体育館シューズを用意してきてください。また、サッカーは強度の高い運動であるので、日ごろから体力づくりに努めること。

復習についての指示

授業で説明した用語を整理し、次回の授業で活かせるようにすること。

授業計画

1. オリエンテーション&ゲーム
2. 個人技能練習(1)(ドリブル)&ゲーム
3. 個人技能練習(2)(ドリブル)&ゲーム
4. 個人技能練習(3)(ドリブル&パス)&ゲーム
5. 個人技能練習(4)(ドリブル&パス)&ゲーム
6. 集団技能練習(1)(3対1 or 4対1)&ゲーム
7. 集団技能練習(2)(4対2 or 5対3)&ゲーム
8. 集団技能練習(3)(4対4)&ゲーム
9. 集団技能練習(4)(4対4)&ゲーム
10. 8対8ゲーム(1)
11. 8対8ゲーム(2)
12. 11対11リーグ戦(1)
13. 11対11リーグ戦(2)
14. 11対11リーグ戦(3)
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)出席点:60% (2)テスト:30% (3)技能:10%

生涯スポーツ実習B(テニス)

PHED-0-104

担当者：太田 涼

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目、
中学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目、
小学校教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

【テニス】 ※中・上級者が望ましい。 スポーツの原点は楽しむこと、遊ぶことである。その点において、私達が生涯を通じて行うスポーツ(生涯スポーツ)は、年齢、性、技能の差を問わず、楽しめること、遊べることが重要となる。そのためには、自らが生活の中にスポーツを習慣化していく姿勢(気持ち)と、スポーツで楽しめる、遊べることのできる能力(体力・技術)が必要となる。本講義では、真剣に楽しむ、一生懸命に遊ぶというスポーツ本来の精神を大切に、テニスを通じて、スポーツの効果(健康の保持・増進、ストレス解消、コミュニケーション促進など)、面白さなどを体験し、生涯においてスポーツを実践していく姿勢・能力を身につけてもらいたい。 また、基礎技術を習得し、ラリーを楽しみ、ゲームを通じて心身のリフレッシュを図る。さらにルールやマナーを尊重し、人とのコミュニケーションや協調性を高め人間性の向上に努める。授業前半はそれぞれの技能を高めるための練習を行い、後半はチームを固定して編成しダブルスゲームを中心に行う予定である。準備や審判なども全員で交代して行う。基本的なことから授業を進めていき、生涯スポーツの実現とActive Living!の一助となるような実習を考えています。

2. 学びの意義と目標

生涯に渡ってスポーツを続けることの意義とその実践力を高めること

受講生に対する要望

積極的に参加すること

キーワード

(1)テニス (2)生涯スポーツ (3)コミュニケーション (4)マナー

事前学習(予習)

シラバスを熟読のこと。オリエンテーションでの説明に留意して授業に臨み、内容が段階的に高まっていくので積極的に参加すること。※中上級者が望ましい。

復習についての指示

試合観戦(テレビ中継)

授業計画

1. オリエンテーションと講義のねらい
2. ストロークの技術(フォアハンド、バックハンド)
3. ストロークの技術(フォアハンド、バックハンド)
4. サービスの技術
5. サービスの技術
6. ボレーの技術
7. ボレーの技術
8. 前衛の戦術・技術
9. ラリーの応酬
10. 徹底した打ち込み
11. 徹底した打ち込み
12. ミニ大会開催
13. ミニ大会開催
14. ミニ大会開催
15. ミニ大会開催

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)実習点:60% (2)出席点:40%

生涯スポーツ実習B (バスケットボール)

PHED-0-104

担当者：北澤 太野

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目，
中学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目，
小学校教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

バスケットボールの個人的・集団的な技術・戦術を、「ボールの移動」という課題を基に学習する。授業は、授業計画に記した通りゲーム形式の内容を中心に展開するが、履修者の人数・熟達レベル等によって、出来る限り柔軟に対応していく。安全にゲームを行うための知識の習得と、身体を動かすことの爽快感、他者とのコミュニケーションにより得られる楽しさを味わうことで、生涯スポーツへの志向性を向上させる。

2. 学びの意義と目標

バスケットボールというゲームを通して、自己の身体状況を把握し、ゲーム形式の実践を繰り返すことで、技術的・戦術的な知識を習得する。また、ゲーム様相の変化に気づき、バスケットボールの競技形態、競技特性を理解する。

受講生に対する要望

集団での活動が中心になるので、積極的に参加すること。必ず運動着に着替え、体育館シューズ(バスケットボールシューズが望ましい)を着用すること。

キーワード

(1)バスケットボール (2)ゴール型 (3)ボール操作 (4)ボールを持たないときの動き (5)作戦の立案

事前学習(予習)

これまでのバスケットボール経験を振り返り、まとめておく。

復習についての指示

グループで話し合った内容を、自分自身の経験と照らし合わせ、翌週の話し合い活動で自分なりの見解を発表できるように準備を行う。

授業計画

1. ガイダンス(運動は行わない)
2. チーム分け・ルールの説明・試しのゲーム
3. チーム内ゲーム(「守る」とは?)
4. チーム内ゲーム(「攻める」とは?)
5. チーム内ゲーム(作戦の創出と共有)
6. チーム間ゲーム(相手に応じた作戦の捻出)
7. チーム間ゲーム(相手に応じた作戦の考案)
8. チーム内ゲーム(作戦の模索)
9. チーム間ゲーム(相手に応じた作戦の捻出)
10. チーム間ゲーム(相手に応じた作戦の考案)
11. チーム内ゲーム(作戦の模索)
12. チーム間ゲーム(相手に応じた作戦の捻出)
13. チーム間ゲーム(相手に応じた作戦の考案)
14. リーグ戦
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席状況:60% (2)授業態度:40%

学期末の試験、スキルテスト等は原則実施しない。グループでの話し合い活動を積極的に行い、その話し合いの内容を学習カードにまとめ、毎授業ごと提出することを義務づける。

生涯スポーツ実習B (バドミントン)

PHED-0-104

担当者：関 一誠

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目，
中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目，
小学校教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

【バドミントン】＜内容＞ 日本には、バドミントンによく似た遊びに「羽根突き」がある。手や足を使って、あるいは、棒や板を使って、台に羽根を植え込んだものを打ち合う遊戯は世界各地で見られる。バドミントンは、こうした遊びが競技化されたもので、名称は、イギリスのグロスダークシャー州バドミントンに由来する。競技バドミントンのシャトルの動きは、スピーディに変化に富み、その豪快さ、心地よさは、スマッシュに代表される。その一方で、スカートをはいた形状から終速時の減速が大きくラリーを程よく続けることができる。互いのやりとりのおもしろさは、プレイに熱中せずにはいられないだろう。本授業では、バドミントンの特性を十分に生かしながら技術や知識を個人の教養として身につけてもらうとともに、健康スポーツとして日常の運動習慣の確立、体力の維持・増進、ストレスからの開放等、生涯スポーツとして位置づけることを目的としている。

2. 学びの意義と目標

・学生として規律ある日常生活をおくこと。・スポーツをする上でのマナーを身につけること。・勝敗に固執することなく、自身の技能・体力の向上を目指すこと

受講生に対する要望

・身体コンディションを整えて受講すること。

キーワード

(1)健康 (2)スポーツマンシップ (3)ラケットスポーツ (4)ルール
(5)コンビネーション

事前学習（予習）

運動着、運動靴を必ず着用（通学時の服装は不可）健康に留意し、週2日程度は軽い身体活動を行い常に体力の維持向上に努めること。

復習についての指示

前回学んだ内容を日常生活で実践し継続すること。

授業計画

1. ガイダンス（歴史・用品・教材、心構え、評価等についての解説）
2. 個人技能実習（グリップ、ラケットティング・フットワーク動作の講義および実習）
3. 個人技能実習（サーブ、簡易ラリー、スマッシュ、簡易ゲーム、班分け、複数のフライトによるコンビネーションプレー）
4. 審判用語（審判用語学習とシングルス簡易ゲーム）
5. 審判法（審判法の学習とダブルス簡易ゲーム）
6. 審判の実習（審判の学習とダブルスゲーム）
7. 審判の実習（審判の学習とダブルスゲーム）
8. 個人技能実習（複数のフライトによるコンビネーションプレー）
9. ダブルスゲーム
10. ルール解説I
11. ルール解説II
12. 各種フライトの応用技術練習
13. ゲームの実際I
14. ゲームの実際II
15. 総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席点:50%:欠席は4回まで。(2)平常点:20%:積極的態度、行動等を評価する。(3)テスト:30%:実技テストを行う。

生涯スポーツ実習B（バレーボール）

PHED-0-104

担当者：鈴木 由美

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目，
中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目，
小学校教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

バレーボールの技術・戦術をドリルゲームを用い、さまざまなモデルステップを踏んで段階的・系統的に学習していく。毎回、個人的技能練習～チーム練習～ゲームという流れで学習を進める。

2. 学びの意義と目標

生涯スポーツへの志向性の向上及び、健康への自己教育力を高める。履修者のレディネス（体力差や経験の有無）に応じて、基本的なボール操作から攻撃練習まで幅広く対応することで（1）個々の技能の向上、ゲームの内容をより攻撃性の高いラリーへ深めることで（2）集団技能の向上、さらに（3）身体を動かすことの楽しさ・爽快感を味わい、チームメイトとの協力・コミュニケーションの楽しさを体感することを目標とする。また、ネットの設営、ゲームの運営・管理についても学習する。

受講生に対する要望

経験不問。できるだけ前に関わらず、自分なりの上達やゲームの楽しさを味わうために前向きに授業に取り組むことを履修条件とします。

キーワード

（1）バレーボール （2）技術・戦術・マナー・ルール （3）コミュニケーションスキルの向上

事前学習（予習）

必ず着替え・体育館シューズ着用準備をすること。前回の授業記録に記載した反省や課題を解決するための方法を調べたり考察して授業に臨む。

復習についての指示

その日に授業記録に記載した反省点や課題について整理する。

授業計画

1. ○ガイダンス ○バレーボールとは？
2. ○個人的技能練習 ○ボール操作の基本 ●3対3のミニゲーム
3. ○個人的技能練習 ○ボール操作の基本 ●3対3のミニゲーム
4. 個人的技能練習（パス・サーブ） ●つなぐゲーム（コミュニケーション）
5. 個人的技能練習（パス・サーブ） ●つなぐゲーム（コミュニケーション）
6. ○個人的技能練習（パス・スパイク） ●チャンスボールをセッターへ
7. ○集団的技能練習（チャンスボールからの攻撃） ●チャンスボールをセッターへ
8. ○集団的技能練習（シートレシーブ） ●チャンスボールから攻撃へ
9. ○集団的技能練習（攻撃へのつなぎ） ●攻撃にチャレンジ
10. ○集団的技能練習（速攻への展開） ●速攻を含んだゲームへ
11. ○集団的技能練習（3段攻撃のバリエーション） ●2段トスも含め、様々な攻撃にチャレンジ
12. ●ゲーム（リーグ戦）男女混合
13. ●ゲーム（リーグ戦）男女別
14. ●ゲーム（リーグ戦）男女混合
15. ●ゲーム（リーグ戦）

教科書

授業の中で指示する

評価方法

（1）出席：75% （2）課題への積極的参加度：15% （3）授業記録：10%

生涯スポーツ実習B (ボールスポーツ)

PHED-0-104

担当者：鈴木 直樹

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目，
中学校教諭一種免許：(共通)選択必修科目，
小学校教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

ゲーム中心の指導アプローチにより、「ゲームを通してゲームでゲームがうまくなる」ようにしていく。また、技能の違い、ゲームの状況判断能力の違いを超え、様々な集団でゲームを楽しむことができるように工夫していく。さらに、授業内で学んだことがいろいろなスポーツ種目に使える力になっていくことができるように配慮していく。

2. 学びの意義と目標

生涯にわたって運動に親しむための「運動とかかわる力」を育成していくことを目指す。授業を通して、性別、年齢、体力の違いを超えて運動実践を楽しく行うことができるようになっていくことができることが目標である。

受講生に対する要望

運動着、体育館シューズを持参すること。また、積極的な参加を期待する。

キーワード

(1)ボールゲーム (2)生涯スポーツ (3)ゲーム中心の指導 (4)「いつでも」「どこでも」「誰とでも」 (5)体育

事前学習 (予習)

課題を確認し、課題を明確にしておく。

復習についての指示

授業を振り返り、課題をもつ。

授業計画

1. ガイダンス (講義)
2. ネット型ゲーム (バレー、テニス、卓球、キンボールのようなゲーム) 1
3. ネット型ゲーム (バレー、テニス、卓球、キンボールのようなゲーム) 2
4. ネット型ゲーム (バレー、テニス、卓球、キンボールのようなゲーム) 3
5. ネット型ゲーム (バレー、テニス、卓球、キンボールのようなゲーム) 4
6. ゴール型ゲームA (サッカー、バスケット、ハンドボールのようなゲーム) 1
7. ゴール型ゲームA (サッカー、バスケット、ハンドボールのようなゲーム) 2
8. ゴール型ゲームA (サッカー、バスケット、ハンドボールのようなゲーム) 3
9. ゴール型ゲームB (ラグビー、アメフトのようなゲーム) 1
10. ゴール型ゲームB (ラグビー、アメフトのようなゲーム) 2
11. ゴール型ゲームB (ラグビー、アメフトのようなゲーム) 3
12. ベースボール型ゲーム (野球、ソフト、クリケットのようなゲーム) 1
13. ベースボール型ゲーム (野球、ソフト、クリケットのようなゲーム) 2
14. ベースボール型ゲーム (野球、ソフト、クリケットのようなゲーム) 3
15. まとめ (レポートの作成)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)パフォーマンス評価:50%:「運動とかかわる力」に関して授業内で発揮したことを評価の対象とする。(2)授業への取り組み:30%:授業中の態度など(3)まとめのレポート:20%:授業の最終時間に作成をする

授業中における運動や仲間とのかかわり、授業への取り組みが評価対象となる。また、授業の最終時間に学びを振り返り、学習目標の到達状況を確認する。

時事問題演習

CREE-0-101

担当者：森脇 健介，山本 祥弘

開設期：春学期 必修・選択：選択科目/選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本演習では、新聞やテレビなどで報道されるニュースを読み解くための「時事力」を、ニュース時事能力検定（ニュース検定）の公式テキストと問題集を解きながら身につけていきます。問題の出題形式には、授業計画にあるように、「社会・環境」などの5つの類型が存在します。それぞれの分野に応じた公式テキストの読解・問題集の演習を行い、解説を付していくことで総合的な理解力を高めていきます。なお本演習で扱う問題の水準は、ニュース検定準2級程度、すなわち高校から大学・社会人までの過程をつなぐ、総合的かつ基本的な時事に関する知識を問うものとなっています。

2. 学びの意義と目標

「時事力」とは、「（社会的な）様々なテーマを自身の問題としてとらえる習慣が身に付くことにより備わっていく力」とされています。言い換えるなら、時事的な問題を理解するために必要とされるキーワードや、社会の仕組みなどについての知識を身につけるということです。したがって、大学での専門講義を理解するために必要とされる基礎的な知識の習得が、最終的に目指されるべき目標となります。同時に、検定試験に合格するということは、このような教養が身につけていることを、「資格」取得というかたちで証明するということでもあります。時事に関し、社会人になるにあたって前提となる教養が習得済みであることも、この資格を通じて示すことができるということになります。

受講生に対する要望

授業内での問題演習には集中して取り組み、検定試験までの限られた時間を無駄にしないようにしましょう。

キーワード

(1) ニュース検定 (2) 政治経済 (3) 社会問題

事前学習（予習）

日頃から、新聞・テレビニュースなどに触れることを心がけてください。また、公式テキストをあらかじめ読んでおくと、より理解が深まります。

復習についての指示

その日に解いた問題は、復習することによって初めて知識として身につけ、受験直前での負担を減らすことにもつながります。復習に重点を置き、各自で取り組んでください。

授業計画

1. イントロダクション
2. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅰ
3. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅱ
4. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅲ
5. 「暮らし」に関する時事問題Ⅰ
6. 「暮らし」に関する時事問題Ⅱ
7. 「国内政治」に関する時事問題Ⅰ
8. 「国内政治」に関する時事問題Ⅱ
9. 「国内政治」に関する時事問題Ⅲ
10. 「国際問題」に関する時事問題Ⅰ
11. 「国際問題」に関する時事問題Ⅱ
12. 「経済」に関する時事問題Ⅰ
13. 「経済」に関する時事問題Ⅱ
14. 「経済」に関する時事問題Ⅲ
15. まとめと総復習

教科書

日本ニュース時事能力検定（監）『2014年度版 ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編（2級・準2級対応）』（毎日教育総合研究所）日本ニュース時事能力検定（監）『2014年度版 ニュース検定公式問題集（1・2・準2級対応）』（毎日教育総合研究所）

評価方法

(1) 「ニュース時事能力検定」準2級の得点:60%:試験は、6月と9月初旬に実施予定です。受験は評価のための必須条件です。(2) 日頃の取り組み:40%:演習内の作業への取り組みと、その成果も評価します。

時事問題演習 (P学科用)

CREE-0-101

担当者：森脇 健介，山本 祥弘

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本演習では、新聞やテレビなどで報道されるニュースを読み解くための「時事力」を、ニュース時事能力検定（ニュース検定）の公式テキストと問題集を解きながら身につけていきます。問題の出題形式には、授業計画にあるように、「社会・環境」などの5つの類型が存在します。それぞれの分野に応じた公式テキストの読解・問題集の演習を行い、解説を付していくことで総合的な理解力を高めていきます。なお本演習で扱う問題の水準は、ニュース検定準2級程度、すなわち高校から大学・社会人までの過程をつなぐ、総合的かつ基本的な時事に関する知識を問うものとなっています。

2. 学びの意義と目標

「時事力」とは、「（社会的な）様々なテーマを自身の問題としてとらえる習慣が身に付くことにより備わっていく力」とされています。言い換えるなら、時事的な問題を理解するために必要とされるキーワードや、社会の仕組みなどについての知識を身につけるということです。したがって、大学での専門講義を理解するために必要とされる基礎的な知識の習得が、最終的に目指されるべき目標となります。同時に、検定試験に合格するということは、このような教養が身につけていることを、「資格」取得というかたちで証明するということでもあります。時事に関し、社会人になるにあたって前提となる教養が習得済みであることも、この資格を通じて示すことができるということになります。

受講生に対する要望

授業内での問題演習には集中して取り組み、検定試験までの限られた時間を無駄にしないようにしましょう。

キーワード

(1) ニュース検定 (2) 政治経済 (3) 社会問題

事前学習（予習）

日頃から、新聞・テレビニュースなどに触れることを心がけてください。また、公式テキストをあらかじめ読んでおくと、より理解が深まります。

復習についての指示

その日に解いた問題は、復習することによって初めて知識として身につけ、受験直前での負担を減らすことにもつながります。復習に重点を置き、各自で取り組んでください。

授業計画

1. イントロダクション
2. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅰ
3. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅱ
4. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅲ
5. 「暮らし」に関する時事問題Ⅰ
6. 「暮らし」に関する時事問題Ⅱ
7. 「国内政治」に関する時事問題Ⅰ
8. 「国内政治」に関する時事問題Ⅱ
9. 「国内政治」に関する時事問題Ⅲ
10. 「国際問題」に関する時事問題Ⅰ
11. 「国際問題」に関する時事問題Ⅱ
12. 「経済」に関する時事問題Ⅰ
13. 「経済」に関する時事問題Ⅱ
14. 「経済」に関する時事問題Ⅲ
15. まとめと総復習

教科書

日本ニュース時事能力検定（監）『2014年度版 ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編（2級・準2級対応）』（毎日教育総合研究所）日本ニュース時事能力検定（監）『2014年度版 ニュース検定公式問題集（1・2・準2級対応）』（毎日教育総合研究所）

評価方法

(1) 「ニュース時事能力検定」準2級の得点:60%:試験は、6月と9月初旬に実施予定です。受験は評価のための必須条件です。(2) 日頃の取り組み:40%:演習内の作業への取り組みと、その成果も評価します。

担当者：鈴木 省吾

開設期：秋学期/春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

小学校教諭一種免許：必修科目

講義概要

1. 内容

現代の高度情報化社会において、教育現場でも情報を取り扱う基本的な知識と技術は不可欠なものとなっている。大学の学びにおいても、日常的にネットワークを使い、情報を収集し、まとめ、発表する力は授業を受ける上で欠かせない技術である。

2. 学びの意義と目標

コンピュータやネットワークに関する基本的な知識や情報モラル等を理解し、ワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの基本的な操作スキルを身につけることは、教育を行ううえでも重要である。この授業では、教職課程履修者が、パソコンの基本知識・技術を習得し、大学生活及び卒業後に必要な文書作成や正しい情報の取扱ができるようにする。

受講生に対する要望

継続的に実習に参加し、PCになれることが最大の目的である。そのため、出席が必須であるばかりでなく、毎週の課題を完成させ提出することが必要となる。授業では、わからないことを分からないままにしないように、教師への質問は当然歓迎するが、学生間での教えあい、学びあいも推奨している。積極的に周りに話しかけ、授業で最大の成果を得てほしい。

キーワード

(1)実習課題の完成 (2)ビジネスソフト操作の精通 (3)教えあい
(4)積極的な参加

事前学習（予習）

授業で出された課題の反復練習。

復習についての指示

毎回の講義の学習した内容について、次の講義までに自宅で実際にパソコンを使用して、よく復習しておくこと。

授業計画

1. イントロダクション、ワードの概略
2. ワード文書作成の基本
3. ワードにおける作表
4. ワードオブジェクトの利用
5. ワード高度な編集
6. ワード総合問題
7. エクセルの概略、エクセル入力の基本
8. エクセルでの作表・表計算
9. エクセル関数の利用
10. エクセルデータベース機能の利用
11. ワードとエクセルの連携
12. エクセル総合問題
13. パワーポイントの概略、パワーポイントスライド作成
14. パワーポイントオブジェクト、アニメーション昨日の利用
15. パワーポイント総合問題

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)課題:100%:毎週出る課題を完成度と作成時間によって評価する。

出席は評価割合には含まないが、5回の欠席で不合格、遅刻は15分までとし以後は欠席扱い、3回の遅刻で欠席とする。

担当者：二神 常爾

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：保健必修科目、
中学校教諭一種免許：保健必修科目

講義概要

1. 内容

ワード、エクセル、パワーポイントの使い方の基本を習得するために、コンピュータを用いた実習を行う。ソフトの使い方を習得する上で、自分でコンピュータを操作することが重要なので、各人がコンピュータを操作することが授業の中心になる。授業では、コンピュータの操作手順を書いたプリントを配付する。教師のプロジェクターを使ったデモとプリントに従って、各人はコンピュータを操作する。操作を進める中で分からなくなったり、疑問が生じた場合には随時質問を受け付ける。初歩的な質問でも構わない。また、その日学んだことを反復し理解を深めるために、課題を出題するので、各人にコンピュータを使って授業中にやってもらう。

2. 学びの意義と目標

コンピュータが普及している今日、コンピュータを使って文書作成（ワード）、表計算・グラフ作成（エクセル）、プレゼンテーション・資料作成（パワーポイント）ができることは、リテラシー（読み書き能力）として必須である。ソフトを利用してこれらができることは、大学の授業を受ける中でレポートを書いたり、社会人になって教職の仕事をする中で不可欠である。授業では、コンピュータの操作に慣れるとともに、ワード、エクセル、パワーポイントなどのソフトの使い方の基本を習得し、使いこなせるようになることを目標にする。授業では、基本的なことを中心に学ぶが、ワード、エクセル、パワーポイントを日常的に頻繁に使い、細かい操作などについても自分で学び、自分のできることの幅を広げて欲しい。

受講生に対する要望

遅刻・欠席をしないこと

キーワード

(1) ノートパソコン (2) ワード (3) エクセル (4) パワーポイント
(5) リテラシー

事前学習（予習）

オンラインシラバスで授業内容を事前に確認し、参考書があれば該当箇所を読んでおくこと。

復習についての指示

授業前に、授業で使うファイルを自分のUSBメモリにコピーして、帰宅してからプリントを見ながら授業で行った手順を復習すること。

授業計画

1. ガイダンス
2. ワード(1) 文字の入力とファイルの保存
3. ワード(2) 文書作成の基本操作
4. ワード(3) 表の作成
5. ワード(4) 応用テクニック
6. エクセル(1) エクセルの基本操作
7. エクセル(2) セルの表示と印刷の基本
8. エクセル(3) 数式や関数の利用
9. エクセル(4) セル・シート・ブックの操作
10. エクセル(5) グラフの作成
11. パワーポイント(1) パワーポイントの基本操作
12. パワーポイント(2) スライドの編集・スライドショー
13. パワーポイント(3) アニメーション
14. パワーポイント(4) ワード・エクセル・パワーポイントの連携
15. 総合課題

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 出席:30% (2) 授業中の課題:40% (3) 総合課題:30%

担当者：竹井 潔

開設期：春学期集中/秋学期集中 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける。
獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目、
中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目

講義概要

1. 内容

現代の高度情報化社会において情報を取り扱う基本的な知識と技術は不可欠なものとなっている。大学の学びにおいても、日常的にネットワークを使い、情報を収集し、まとめ、発表する力は授業を受ける上で欠かせない技術である。

2. 学びの意義と目標

コンピュータやネットワークに関する基本的な知識や情報モラル等を理解し、ワープロソフトや表計算ソフトの基本的な操作スキルを身につけることは、社会に出てからも重要である。この授業では、パソコン検定3級以上に合格できる知識・技術を身につけることを目標として、大学生活で必要なレポート作成や正しい情報の取扱いができるようにする。

受講生に対する要望

P検定3級以上合格できるように努力すること

キーワード

(1)ワード (2)表計算 (3)コンピュータ知識 (4)ネットワーク (5)情報モラルとセキュリティ

事前学習（予習）

教科書として指定されている教材を用いて、自宅でも学習を進めること。

復習についての指示

教科書として指定されている教材を用いて、自宅でも学習を進めること。

授業計画

1. タイピング
2. コンピュータ知識 (1)
3. コンピュータ知識 (2)
4. ネットワーク(インターネット) (1)
5. ネットワーク(インターネット) (2)
6. 情報モラルと情報セキュリティ (1)
7. 情報モラルと情報セキュリティ (2)
8. ワープロ (1)
9. ワープロ (2)
10. ワープロ (3)
11. 表計算 (1)
12. 表計算 (2)
13. 表計算 (3)
14. ICTを活用した問題解決
15. まとめ P検定試験

教科書

パソコン検定協会事務局 『P検オフィシャル教材『CS-ONE』』（パソコン検定協会事務局）

評価方法

- (1)P検定試験:100%:P検定4級C評価、P検定3級以上S評価

スペイン語 I (初級 A)

WLAG-0-120

担当者：越智 直子

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目/選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この授業では、簡単な日常会話、初歩文法事項の習得をめざします。文法事項は必要最小限におさえ、授業はゆっくり進めていく予定です。また、ビデオ等の視覚教材を通し、生きたスペイン語に接しながら、スペイン語やスペイン語圏の文化、社会等に触れていきます。

2. 学びの意義と目標

現在、スペイン語は世界の国々で、4 億人以上の人々に話されているといわれています。最近では、日本国内でもスペイン語を耳にする機会が多くなりました。ぜひ、皆さんに、新しい言語に挑戦して、世界を広げていただきたいと思います。

受講生に対する要望

積極的に授業に参加するようにして下さい。

キーワード

(1) スペイン語 (2) 名詞 (3) 動詞 (4) ser (5) estar

事前学習（予習）

事前に教科書に目を通すこと。

復習についての指示

CDを聞き、単語、及び基本文を覚えること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. アルファベット、発音
3. アクセント、音節
4. 主語人称代名詞
5. 動詞 ser
6. 文型、国名・国籍
7. 名詞の性と数
8. 定冠詞と不定冠詞
9. 動詞 hay
10. 動詞 estar
11. 形容詞
12. 指示形容詞と指示代名詞
13. ser + 形容詞
14. estar + 形容詞
15. 復習 (1)
16. 復習 (2)
17. 中間試験
18. 動詞 tener
19. 動詞 hacer
20. 天候表現
21. 所有形容詞（前置形）
22. 規則活用動詞（-ar動詞）
23. 規則活用動詞（-er動詞）
24. 規則活用動詞（-ir動詞）
25. 語幹母音変化動詞（e → ie 型）
26. 語幹母音変化動詞（o → ue 型）
27. 語幹母音変化動詞（e → i 型）
28. 復習 (1)
29. 復習 (2)
30. 試験とその解説

教科書

時任まり子 越智直子 中村都珠子 『Mi querido espa?ol 「気ままにスペイン語」』（三修社）

評価方法

(1) 出席日数、平常点：25% (2) 単語テスト、提出物：25% (3) 中間試験、期末試験：50%

スペイン語 I（初級 A）

WLAG-0-120

担当者：宮内 ふじ乃

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目/選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

（1）内容 この授業では、簡単な日常会話、初歩文法事項の習得をめざします。文法事項は必要最小限におさえ、授業はゆっくり進めていく予定です。また、ビデオ等の視覚教材を通し、生きたスペイン語に接しながら、スペイン語やスペイン語圏の文化、社会等に触れていきます。

2. 学びの意義と目標

現在、スペイン語は世界の国々で、4億以上の人々に話されていると言われています。最近では、日本国内でもスペイン語を耳にする機会が多くなりました。ぜひ、皆さんに、新しい言語に挑戦して、世界を広げていただきたいと思います。

受講生に対する要望

積極的に授業に参加するようにしてください。

キーワード

(1)スペイン語 (2)名詞 (3)動詞 (4)ser (5)estar

事前学習（予習）

予習：事前に教科書に目を通すこと。

復習についての指示

復習：CDを聞き、単語、及び基本文を覚えること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. アルファベット、発音
3. アクセント、音節
4. 主語人称代名詞
5. 動詞ser
6. 文型、国名・国籍
7. 名詞の性と数
8. 定冠詞と不定冠詞
9. 動詞hay
10. 動詞estar
11. 形容詞
12. 指示形容詞と指示代名詞
13. ser + 形容詞
14. estar + 形容詞
15. 復習 (1)
16. 復習 (2)
17. 中間試験
18. 動詞tener
19. 動詞haber
20. 天候表現
21. 所有形容詞（前置形）
22. 規則活用動詞（-ar動詞）
23. 規則活用動詞（-er動詞）
24. 規則活用動詞（-ir動詞）
25. 語根母音変化動詞（e→ie 型）
26. 直語根母音変化動詞（o→ue 型）
27. 直語根母音変化動詞（e→i 型）
28. 復習 (1)
29. 復習 (2)
30. 期末試験とその解説

教科書

時任まり子 越智直子 他著 『「気ままにスペイン語」(Mi querido español)』(三修社)

評価方法

(1)出席日数、平常点:25% (2)単語テスト、提出物:25% (3)中間試験、期末試験:50%

スペイン語Ⅱ（初級B）

WLAG-0-121

担当者：越智 直子

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目/選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

「スペイン語Ⅰ」で学んだ基礎をベースに、さらに新しい表現を身に付け、初級文法の取得を目指します。また、映画などに出てくる生き生きとした表現を学び、スペイン語を使って自己表現ができるようにしていきます。また、希望があれば、スペイン語検定の練習問題も授業で取り上げる予定です。

2. 学びの意義と目標

様々な表現や初級文法を取得することにより、歌を訳したり、簡単な手紙、メールなどを書くという楽しみができると思います。

受講生に対する要望

積極的に授業に参加するようにして下さい。

キーワード

(1) スペイン語 (2) 比較級 (3) 不規則動詞 (4) gustar (5) 再帰動詞

事前学習（予習）

事前に教科書に目を通すこと。

復習についての指示

CDを聞き、単語、及び基本文を覚えること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 復習 (1)
3. 復習 (2)
4. Lección 7 (1)
5. Lección 7 (2)
6. Lección 7 (3)
7. Lección 8 (1)
8. Lección 8 (2)
9. Lección 8 (3)
10. Lección 9 (1)
11. Lección 9 (2)
12. Lección 9 (3)
13. 復習 (1)
14. 復習 (2)
15. 中間試験
16. Lección 10 (1)
17. Lección 10 (2)
18. Lección 10 (3)
19. Lección 11 (1)
20. Lección 11 (2)
21. Lección 11 (3)
22. Lección 12 (1)
23. Lección 12 (2)
24. Lección 12 (3)
25. Lección 13 (1)
26. Lección 13 (2)
27. Lección 13 (3)
28. 復習 (1)
29. 復習 (2)
30. 試験とその解説

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席日数、平常点：25% (2) 単語テスト、提出物：25% (3) 中間試験、期末試験：50%

担当者：森脇 健介，山本 祥弘

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目/選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この授業では、図表や統計資料を適切に読み取るために必要となる基本的な知識を学んでいきます。図表や統計資料は、複数の情報が盛り込まれていると同時に、それらの情報が一目で分かるという大変便利なものです。しかし、この便利なツールを使いこなして、そこから情報を読み取るためには、そのための知識が必要になります。たとえば「平均値」・「クロス表」・「相関」といった言葉の意味です。この授業では、図表や統計資料で使われているそうした用語をゼロから身につけるところからはじめます。そしてその上で、我々が自分自身を知るのに役立つような統計資料を読解していきます。

2. 学びの意義と目標

この授業の目標は、①いろいろな図表や統計資料が私たちに語りかけてくる内容を読みとる能力を身につけること、②「科学的」なものの見方を身につけることです。この能力は、政治学・経済学・社会学・経営学など、ありとあらゆる学問分野で共通して役に立つ武器になります。それだけでなく、こうした知識は、日常生活の中でニュースや新聞に出てくる時事問題を客観的に考えるツールにもなります。もちろん、図表や統計資料は、将来仕事でも使用する場面が多々あります。実際、就職試験としてよく使われるSPI試験でも、図表や統計資料の読解は頻りに出題されています。図表や統計資料の理解は、このように様々な用途に「つぶしがきく」ものであり、実用的なスキルでもあります。

受講生に対する要望

自由に「想像力」を働かせることを期待します。

キーワード

(1)統計 (2)資料 (3)図表 (4)社会調査 (5)統計リテラシー

事前学習（予習）

日頃から新聞の世論調査などに注意を払うようにしてください。

復習についての指示

授業で指示します。

授業計画

1. イントロダクション
2. 基本的な計算の復習（1）
3. 基本的な計算の復習（2）
4. 統計や社会調査の基本（1）
5. 統計や社会調査の基本（2）
6. 統計や社会調査の基本（3）
7. 図表・統計資料の読解（1）
8. 図表・統計資料の読解（2）
9. 図表・統計資料の読解（3）
10. 図表・統計資料の読解（4）
11. 図表・統計資料の読解（5）
12. 図表・統計資料の読解（6）
13. 図表・統計資料の読解（7）
14. 図表・統計資料の読解（8）
15. 期末試験

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 期末試験：50% (2) 小テスト等：50%

図表理解 (P学科用)

CREE-0-102

担当者：森脇 健介，山本 祥弘

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この授業では、図表や統計資料を適切に読み取るために必要となる基本的な知識を学んでいきます。図表や統計資料は、複数の情報が盛り込まれていると同時に、それらの情報が一目で分かるという大変便利なものです。しかし、この便利なツールを使いこなして、そこから情報を読み取るためには、そのための知識が必要になります。たとえば「平均値」・「クロス表」・「相関」といった言葉の意味です。この授業では、図表や統計資料で使われているそうした用語をゼロから身につけるところからはじめます。そしてその上で、我々が自分自身を知るのに役立つような統計資料を読解していきます。

2. 学びの意義と目標

この授業の目標は、①いろいろな図表や統計資料が私たちに語りかけてくる内容を読みとる能力を身につけること、②「科学的」なものの見方を身につけることです。この能力は、政治学・経済学・社会学・経営学など、ありとあらゆる学問分野で共通して役に立つ武器になります。それだけでなく、こうした知識は、日常生活の中でニュースや新聞に出てくる時事問題を客観的に考えるツールにもなります。もちろん、図表や統計資料は、将来仕事でも使用する場面が多々あります。実際、就職試験としてよく使われるSPI試験でも、図表や統計資料の読解は頻りに出題されています。図表や統計資料の理解は、このように様々な用途に「つづしがきく」ものであり、実用的なスキルでもあります。

受講生に対する要望

自由に「想像力」を働かせることを期待します。

キーワード

(1)統計 (2)資料 (3)図表 (4)社会調査 (5)統計リテラシー

事前学習（予習）

日頃から新聞の世論調査などに注意を払うようにしてください。

復習についての指示

授業で指示します。

授業計画

1. イントロダクション
2. 基本的な計算の復習 (1)
3. 基本的な計算の復習 (2)
4. 統計や社会調査の基本 (1)
5. 統計や社会調査の基本 (2)
6. 統計や社会調査の基本 (3)
7. 図表・統計資料の読解 (1)
8. 図表・統計資料の読解 (2)
9. 図表・統計資料の読解 (3)
10. 図表・統計資料の読解 (4)
11. 図表・統計資料の読解 (5)
12. 図表・統計資料の読解 (6)
13. 図表・統計資料の読解 (7)
14. 図表・統計資料の読解 (8)
15. 期末試験

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1) 期末試験：50% (2) 小テスト等：50%

担当者：野島 邦夫

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

オリエンテーション、次に聖書の背景（地理的な、歴史的な、また文化的な）を簡潔に説明した後、直ちに聖書の世界に入ります。一般的・抽象的な解説はなるべく避けて、毎回、聖書の中から特に興味深く重要な人物を取り上げて、その生き様を描き、その後そこに込められている教え（とくに、人間の価値について）を学びます。学期の終わりにこれらの教えをまとめて、聖書全体の教え（思想）を学びます。春学期は旧約聖書を学びます。更に具体的な聖書箇所やテーマについては「授業計画」を見てください。

2. 学びの意義と目標

学生の皆様は、やがて社会に出られます。社会生活について期待と不安をもっておられるでしょう。大切なことは主体性を確立しておくこと、言葉を換えれば「人生の背景になるもの」を見つけておくことです。キリスト教は、まさにそのためにあります。死後のことを説明するただけではありません。キリスト教の教えをまとめた本（経典）が聖書です。「聖書」は宗教の経典で二・三千年前に書かれた古文書・・・と聞くと、はじめ誰でもたいてい「読む気が起こらない」と敬遠されるでしょう。しかし、なぜ聖書は二千年もの間ひとに聖めを与え、現代にいたるまで世界に大きな影響をもたらして続けているのでしょうか。それは、聖書にはいつの時代にも変わらない、ひとの生きたい生き様を描かれ、ひとの魂に必要なものが示されているからです。ちよつとした手引きで聖書は面白くてたまらない本になります。読者にひととして生きるための知恵を与え、人とのほんとうのつながりを生みだし、世界を正しく見る視点を教えます。「ちよつとした手引き」ですが、どうしても手引きが必要なのです。この講義の目的はその手引きとなることです。そして、一学期終了するときに、「聖書はおもしろい、聖書はためになる」と受講者に少しでも思っていたことが、この講義の目標です。なお、一年時の「キリスト教概論」程度の聖書知識を前提にしますが、その復習を加えて講義を進めますから、予こし忘れたかなと思う人でも心配いりません。

受講生に対する要望

これは「聖書」そのものを学ぶ授業です。授業中にも聖書を頻繁に使いますから、必ず聖書の「本」（アプリは不適）を毎回持って来ててください。

キーワード

(1)旧約聖書 (2)神の約束 (3)神の厳しさ (4)神の愛 (5)イエス・キリスト

事前学習（予習）

毎回、指示されている聖書箇所を必ず読んできてください。それによって、授業の楽しさと受ける益が一にも百にもなります。

復習についての指示

毎回、講義の詳しいプリントを渡します。それを講義後必ず読み返してください。さらに、講義の復習と日本語力の向上を兼ねて、毎回の講義の内容に関係するテーマで、定期的に「小作文」（200字）の時間を取ります。

授業計画

- はじめに
- 聖書（旧約＋新約）とは何か？（聖書の概観 おさらい）
- アダムとエバ～世界と人間の創造～（創世記 第1、2章）
- 誘うもの 蛇～人間の堕落～（創世記 第3章）
- カインとアベル～最初の殺人～（創世記 第4章）
- ノアと洪水～世界のリセット～（創世記 第6～8章）
- アブラハム～信仰の父～（創世記 第12章）
- ヨセフとユダ～祝福された家系～（創世記 第37、38章）
- モーセとファラオ～出エジプト～（出エジプト記 第12章）
- モーセとアロン～十戒～（出エジプト記 第20章）
- ヨシュア～約束の地を得る～（ヨシュア記 第1章）
- ダビデ～聖人か罪人か～（サムエル記下 第11、12章）
- ヨブ～正しい人も苦しむ～（ヨブ記 第1、2章）
- ダニエル～神の守りとは～（ダニエル書 第3章）
- まとめ

教科書

共同訳聖書実行委員会 『聖書 - 新共同訳』（日本聖書協会）

評価方法

(1)出席・課題:30% (2)礼拝出席レポート:20% (3)試験:50%

欠席が三分の一以上の人と、課題・レポートが未提出の人は、試験を受けることができません。

<div>聖書の世界B</div> <div>CHRI-0-202</div>	
担当者：野島 邦夫	
開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位	
<div>学部教育の関連目標</div> <p>キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける</p>	<div>授業計画</div> <ol style="list-style-type: none"> はじめに 聖書（旧約＋新約）とは何か？（聖書の概観 おさらい） 洗礼者ヨハネ～イエスの先駆者～（ルカによる福音書 第1章） マリヤとヨセフ～イエスの両親～（マタイによる福音書 第1章） イエス・キリスト 1～誕生～（ルカによる福音書 第2章） イエス・キリスト 2～生涯と教え～（ルカによる福音書 第15章） イエス・キリスト 3～十字架の死～（ルカによる福音書 第23章） イエス・キリスト 4～復活と昇天～（ルカによる福音書第24章） ユダ～裏切り者～（マタイによる福音書第26章） ペトロ 1～裏切り～（マタイによる福音書第26章） ペトロ 2～使徒として～（ヨハネによる福音書第21章） パウロ 1～迫害者から使徒に～（使徒言行録 第9章） パウロ 2～世界へ～（使徒言行録 第28章） 聖書全体の教えは何か？ まとめ
<div>カリキュラム上の位置付け</div>	
<div>講義概要</div> <p>1. 内容</p> <p>オリエンテーション、次に聖書の背景（地理的な、歴史的な、また文化的な）を簡潔に説明した後、直ちに聖書の世界に入ります。一般的・抽象的な解説はなるべく避けて、毎回、聖書の中から特に興味深く重要な人物を取り上げて、その生き様を描き、その後そこに込められている教え（とくに、人間の価値について）を学びます。学期の終わりにこれらの教えをまとめて、聖書全体の教え（思想）を学びます。秋学期は新約聖書を学びます。更に具体的な聖書箇所やテーマについては「授業計画」を見てください。</p>	
<p>2. 学びの意義と目標</p> <p>学生の皆様は、やがて社会に出られます。社会生活について期待と不安をもっておられるでしょう。大切なことは主体性を確立しておくこと、言葉を変えれば「人生の背景になるもの」を見つけておくことです。キリスト教は、まさにそのためにあります。死後のことを説明するただけではありません。キリスト教の教えをまとめた本（経典）が聖書です。「聖書」は宗教の経典で二・三千年前に書かれた古文書・・・と聞くと、はじめ誰でもたいてい「読む気が起こらない」と敬遠されるでしょう。しかし、なぜ聖書は二千年もの間ひとに聖めを与え、現代にいたるまで世界に大きな影響をもたらし続けているのでしょうか。それは、聖書にはいつの時代にも変わらない、ひとの生きたい生き様が描かれ、ひとの魂に必要なものが示されているからです。ちよつとした手引きで聖書は面白くてたまらない本になります。読者にひととして生きるための知恵を与え、人とのほんとうのつながりを生みだし、世界を正しく見る視点を教えます。「ちよつとした手引き」ですが、どうしても手引きが必要なんです。この講義の目的はその手引きとなることです。そして、一学期終了するときに、「聖書はおもしろい、聖書はためになる」と受講者に少しでも思っていていただくことが、この講義の目標です。なお、一年時の「キリスト教概論」程度の聖書知識を前提にしますが、その復習を加えて講義を進めますから、予こし忘れたかなと思う人でも心配いりません。</p>	
<div>受講生に対する要望</div> <p>これは「聖書」そのものを学ぶ授業です。授業中にも聖書を頻繁に使いますから、必ず聖書の「本」（アプリは不適）を毎回持って来ててください。</p>	
<div>キーワード</div> <p>(1)新約聖書 (2)イエス・キリスト (3)神の真実さ (4)キリストの恵み (5)神の愛</p>	
<div>事前学習（予習）</div> <p>毎回、指示されている聖書箇所を必ず読んできてください。それによって、授業の楽しさと受ける益が一にも百にもなります。</p>	<div>教科書</div> <p>共同訳聖書実行委員会 『聖書 - 新共同訳』（日本聖書協会）</p>
<div>復習についての指示</div> <p>毎回、講義の詳しいプリントを渡します。それを講義後必ず読み返してください。さらに、講義の復習と日本語力の向上を兼ねて、毎回の内容に関係するテーマで、定期的に「小作文」（200字）の時間を取ります。</p>	<div>評価方法</div> <p>(1)出席・課題:30% (2)礼拝出席レポート:20% (3)試験:50%</p> <p>欠席が三分の一以上の人と、課題・レポートが未提出の人は、試験を受けることができません。</p>

聖書の中の環境問題

CHRI-0-242

担当者：村上 公久

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

「聖書」をテキストとする。最近では「環境問題ブーム」に乗って多くの本や講演があり、今では多くの大学で環境問題に関する各種科目を掲げているが、それらは「地球にやさしい」(?)と装いながらも、実は現在の環境問題そのものを引き起こした原因である「人間中心」のヒューマニズムに由来する環境問題意識に基づいたものである。キリスト教の教典『聖書』は環境問題を考える際の知恵の宝庫である。最近になって、地球環境問題と取り組んでいる科学者たちが環境問題の原因を「ヒトと自然との関係の崩れ」に見始めているが、そのほとんど全てが既に『聖書』の中に記されている。森林科学を中心に地球環境問題の研究をライフ・ワークにしているクリスチャンの自然科学者が「聖書」の中に観た環境問題を取り上げ、21世紀を生きる学生たちと共に考えてみたい。

2. 学びの意義と目標

キリスト教関連科目。聖書の宗教が内包する自然と環境の観方を理解し、自然保護と環境保全について理解を深める。

受講生に対する要望

世界人口の約四分の一を占めるキリスト教徒の人生の「航路図」となってきた『聖書』の中に、地球環境問題の解決の手がかりを見つけよう。

キーワード

(1) 聖書 (2) キリスト教 (3) 創造 (4) 環境保全 (5) 砂漠・森林

事前学習（予習）

世界人口の約四分の一を占めるキリスト教徒の人生の「航路図」となってきた『聖書』をよく読んでおくこと。基礎科目「キリスト教概論」を復習しておくこと。

復習についての指示

各回の講義内容について、関係する聖書箇所参考にし、講義を受けて自分で考えたことを含めて講義記録のノートに記録する。

授業計画

1. 創造 The Creation — 見えるもの と 見えないもの
2. 創造 The Creation と 世界の成り立ち Order of the world
3. 「創造」と「進化仮説」 — 誤った対立の構図 「創造論」対「進化論」
4. 失楽園と自然破壊の始まり
5. 自然と環境
6. 二つの大陸プレートの境目にある聖書地方
7. 砂漠（砂漠）
8. 遊牧と農耕
9. 都市の成立
10. 森林破壊と砂漠の拡大
11. ふたつの審判
12. 偉大なエコロジスト 預言者イザヤ
13. 使徒パウロの環境問題意識
14. 目標がある人生
15. 最後の審判 羊と山羊を裁く — 山羊の国 日本

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席:40% (2) 2回以上の試験と期末試験:60%

欠席回数が講義回数の3分の1を超える者には、単位を認定しない。

担当者：鈴木 直樹

開設期：春学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

小学校教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

高等学校までの保健体育の学習を基礎として、生涯を健康に生きるために必要な人間の身体特性について、様々な角度から学習する。カリキュラム上の位置付け：保育士資格取得のための必修科目

2. 学びの意義と目標

健康の柱である運動・休養・栄養や身体の特性について科学的理論に基づいた幅広い教養を身につけることで、自身の健康だけでなく、まわり（社会）の健康についても、積極的に働きかけるように人になることを期待する。

受講生に対する要望

日ごろから健康や運動・スポーツに関心を持ってほしい。

キーワード

(1)健康とスポーツ (2)生涯スポーツ (3)身体的特性 (4)発達 (5)身体活動

事前学習（予習）

前週に課題を出すので調べてくる。

復習についての指示

課題を適宜指示する。

授業計画

1. 体力低下の問題_新体力テストの結果から
2. 人間の健康と身体活動
3. 心身の発育・発達と運動・スポーツ
4. プレイ論から考える生涯スポーツ
5. ライフステージ別に見た運動・スポーツ（児童・青年期）
6. ライフステージ別に見た運動・スポーツ（中高年・女性）
7. 身体特性を踏まえた学齢期における運動・スポーツ指導
8. 栄養・睡眠・環境と運動・スポーツ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)定期試験:60% (2)ミニレポートorミニテスト:20% (3)授業への取り組み:20%
- (1)講義のまとめとして学習の達成度をペーパーテストにより評価する(2)毎回授業の最後に確認のテストかレポート作成を行う(3)授業への積極性

担当者：閻 子謙

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目/選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 目的 本講義は、日本語を母国語とする学生が「音声言語としての中国語」の基礎を作るのが主な狙いである。2. カリキュラム上の位置づけ 初級段階で、入門的な位置づけである。3. 学びの意義と目標 中国語の知識としてでなく技能として学ぶ場合に、むやみに先を急ぐことは禁物です。必ず今習っていることが確実に身に付くまで、繰り返し練習し、更に誤りを恐れず積極的に声を出すことが必要です。簡単に理解ができ、簡単に習得し、そして気軽に話せるようにするのが目標です。

2. 学びの意義と目標

中国語を初めて学ぶ学生を対象にした講義なので、中国語の基礎、特に発音の基礎を固めることに重点を置きます。「発音編」は教科書を使用せず説明を最小限にとどめ、オリジナルの発音表を参照しつつ、発音の基本と表記・ピンインのルールを丁寧に教えます。誰でも無理なく、中国語に興味を持ち、発音表を頼って自力で正確な中国語を音読出来ることを目標にしています。

受講生に対する要望

より効果的に授業を進められるように、学生の皆様のご協力が欠かせません。休まずに授業に出ることはもちろんですが、やむなく遅刻する場合、授業への影響を配慮し、そっと教室に入り、音を立てず開始の支度してほしいです。

キーワード

(1)教科書と発音表を忘れずに持ってくる。 (2)毎回筆記用具とノートを持参し、ルーズリーフを用意すること。 (3)間違いを恐れず声に出して発音の練習をすること。 (4)授業中携帯をいじらず、私語を控えること。

事前学習（予習）

事前に教科書を読んでおくこと

復習についての指示

前回の授業内容をもう一度おさらいすること。

授業計画

1. ガイダンス
2. 単母音、子音
3. 単母音、子音の確認
4. 複母音
5. 複母音の確認
6. 鼻音
7. 鼻音の確認
8. 発音編の総まとめ
9. 第1課のポイント、本文
10. 第1課トレーニング
11. 第2課のポイント、本文
12. 第2課のトレーニング
13. 第3課のポイント、本文
14. 第3課のトレーニング
15. 第1～3課の復習
16. 第4課のポイント、本文
17. 第4課のトレーニング
18. 第5課のポイント、本文
19. 第5課のトレーニング
20. 第6課のポイント、本文
21. 第6課のトレーニング
22. 第4～6課の復習
23. 第7課のポイント、本文
24. 第7課のトレーニング
25. 第8課のポイント、本文
26. 第8課のトレーニング
27. 第9課のポイント、本文
28. 第9課トレーニング
29. 第7～9課の復習
30. 総復習

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席状況:20% (2)受講態度:40% (3)定期試験:40%

担当者：福田 素子

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目/選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

ピンインという中国語の発音記号とその発音方法を身につけ、さらに基礎語彙・基本のセンテンスを学習する。

2. 学びの意義と目標

中国語の基礎を身につけるとともに、日本語や英語と比較しながら中国語とは（また日本語とは）どのような言語であるかを考える視座を身につける。また外国語を学ぶとはどういうことかを考える。

受講生に対する要望

本講義は、初めて中国語に触れる中国語を母語としない学生を対象とする。

キーワード

(1) 発音 (2) 文法 (3) 異文化理解

事前学習（予習）

各課の新出単語は事前に目を通しておく。

復習についての指示

発音は直された点を忘れず、練習して身につける。学習した単語と構文はそのつど覚えていくこと。

授業計画

1. ガイダンス・中国語とはどのような言語か
2. 発音
3. 発音
4. 発音
5. 発音・挨拶
6. 第一課
7. 第一課
8. 第一課・第二課
9. 第二課
10. 第二課
11. 第三課
12. 第三課
13. 第三課
14. 試験前復習
15. 中間試験
16. 試験解説
17. 第四課
18. 第四課
19. 第四課
20. 第五課
21. 第五課
22. 第五課
23. 第六課
24. 第六課
25. 第六課
26. 第七課
27. 第七課
28. 第七課
29. 復習
30. 授業内テスト

教科書

相原茂／陳淑梅／飯田敦子 『初級テキスト 日中いぶこみ広場』
(朝日出版社)

評価方法

(1) 期末試験:50% (2) 中間試験:25% (3) 小テスト受験:25%:小テスト原則として課の終了ごとに実施。

欠席が十回を越えると、期末試験の受験が出来ない。

中国語 I (初級 A)

WLAG-0-124

担当者：新田 小雨子

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目/選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義は、VT法 (Verbo-Tonal Method) を用い、日本語母語話者の中国語学習者に対する発音指導を行う。使用テキストは基礎文法だけではなく、日常生活の中で使われるさまざまな表現も多く織り込まれている。さらに、異文化コミュニケーションに関する知識もたくさん取り上げられている。言語そのものを学ぶだけでなく、中国とはどんな国か、言語を学ぶことを通して、中国の文化、風習なども知ることができる。

2. 学びの意義と目標

本講義では、会話を中心とし、いろいろな場面に応じた表現を理解した上で、応用できるようにロールプレイによる会話練習を行う。中国語の発音、基礎文法を身につけるだけでなく、簡単な自己紹介、日常の挨拶表現ができるようになることも本講義の目標である。

受講生に対する要望

1) 受動的ではなく主動的な学習態度を取ること。2) 講義中発音練習やロールプレイなどの授業活動に積極的に取り組むこと。3) 目標言語を学ぶ際に、言語だけではなく、その国の文化などにも興味を持つこと。4) 宿題を丁寧に書くことかつ提出期限を守ること。

キーワード

(1) 発音 (2) 日常挨拶表現 (3) 疑問文 (4) 動詞、形容詞述語文

事前学習 (予習)

1) 各課の単語と文型を事前に目を通すこと。2) 単語の意味と読み方を事前に確認すること。

復習についての指示

1) 発音記号 (ピンイン) の読む練習を常に行うこと。2) 既習単語の読み書きを練習すること。3) 既習単語を読み流すのではなく、暗記すること。4) 既習文型を理解し、応用できるように準備しておくこと。

授業計画

1. ガイダンス: 中国語について・簡単な挨拶表現など
2. 発音1: 声調・単母音・複母音
3. 発音2: 声母表・無気音と有気音・そり舌音
4. 発音3: 鼻音を伴う母音・eのヴァリエーションなど
5. 発音4: 3声の変調・[不]の変調・[一]の変調・轻声など
6. まとめ
7. 第1課「こんにちは」: 動詞“是”・名前の言い方・挨拶ことばなど
8. 第1課「こんにちは」: 本文・練習・ドリル
9. 第2課「学校」: 助詞“的”・疑問詞など
10. 第2課「学校」: 本文・練習・ドリル
11. 第3課「新宿」: 動詞述語文・副詞“也”・連動文など
12. 第3課「新宿」: 本文・練習・ドリル
13. 第4課「カメラを買う」: 助動詞の“想”・反復疑問文など
14. 第4課「カメラを買う」: 本文・練習・ドリル
15. 中間テスト・テスト解説
16. 第5課「家族を語る」: 動詞“有”・比較の言い方など
17. 第5課「家族を語る」: 本文・練習・ドリル
18. 第6課「富士山」: 経験を表す表現・助動詞の“要”など
19. 第6課「富士山」: 本文・練習・ドリル
20. 第7課「喫茶店」: 年月日・曜日・時刻の言い方・前置詞など
21. 第7課「喫茶店」: 本文・練習・ドリル
22. 第8課「街」: 前置詞その2“从”“往”・動詞につく“了”など
23. 第8課「街」: 本文・練習・ドリル
24. 第8課「街」: 中国語学習のための基礎知識・練習プリント
25. 第9課「京都」: 動詞の“在”・“是…的”構文など
26. 第9課「京都」: 本文・練習・ドリル
27. 第9課「京都」: 練習プリント
28. 総復習
29. 総復習
30. 期末テスト・テスト解説

教科書

相原茂・陳淑梅・飯田敦子 『初級テキスト 日中いぶこみ広場』 (朝日出版社)

評価方法

(1) 出席率: 30% (2) 試験: 30%: 中間、期末 (3) 平常点: 40%: 受講態度、小テスト、課題など

担当者：閻 子謙

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目/選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 目的 本講義は、日本語を母国語とする学生が「音声言語としての中国語」の基礎を作るのが主な狙いである。2. カリキュラム上の位置づけ 初級段階で、入門的な位置づけである。3. 学びの意義と目標 中国語の知識としてでなく技能として学ぶ場合に、むやみに先を急ぐことは禁物です。必ず今習っていることが確実に身に付くまで、繰り返し練習し、更に誤りを恐れず積極的に声を出すことが必要です。簡単に理解ができ、簡単に習得し、そして気軽に話せるようにするのが目標です。

2. 学びの意義と目標

中国語を初めて学ぶ学生を対象にした講義なので、中国語の基礎、特に発音の基礎を固めることに重点を置きます。「発音編」は教科書を使用せず説明を最小限にとどめ、オリジナルの発音表を参照しつつ、発音の基本と表記・ピンインのルールを丁寧に教えます。誰でも無理なく、中国語に興味を持ち、発音表を頼って自力で正確な中国語を音読出来ることを目標にしています。

受講生に対する要望

より効果的に授業を進められるように、学生の皆様のご協力が欠かせません。休まずに授業に出ることはもちろんですが、やむなく遅刻する場合、授業への影響を配慮し、そっと教室に入り、音を立てず開始の支度してほしいです。

キーワード

(1)教科書と発音表を忘れずに持ってくる。 (2)毎回筆記用具とノートを持参し、ルーズリーフを用意すること。 (3)間違いを恐れず声に出して発音の練習をすること。 (4)授業中携帯をいじらず、私語を控えること。

事前学習（予習）

事前に教科書を読んでおくこと

復習についての指示

前回の授業内容をもう一度おさらいすること。

授業計画

1. ガイダンス
2. 単母音、子音
3. 単母音、子音の確認
4. 複母音
5. 複母音の確認
6. 鼻音
7. 鼻音の確認
8. 発音編の総まとめ
9. 第7課のポイント、本文
10. 第7課トレーニング
11. 第8課のポイント、本文
12. 第8課のトレーニング
13. 第9課のポイント、本文
14. 第9課のトレーニング
15. 第7～9課の復習
16. 第10課のポイント、本文
17. 第10課のトレーニング
18. 第11課のポイント、本文
19. 第11課のトレーニング
20. 第12課のポイント、本文
21. 第12課のトレーニング
22. 第10～12課の復習
23. 第13課のポイント、本文
24. 第13課のトレーニング
25. 第14課のポイント、本文
26. 第14課のトレーニング
27. 第15課のポイント、本文
28. 第15課トレーニング
29. 第13～15課の復習
30. 総復習

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席状況:20% (2)受講態度:40% (3)定期試験:40%

中国語Ⅱ（初級B）

WLAG-0-125

担当者：新田 小雨子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目/選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義の使用テキストは基礎文法だけではなく、日常生活の中で使われるさまざまな表現も多く織り込まれている。さらに、異文化コミュニケーションに関する知識もたくさん取り上げられている。言語そのものを学ぶだけでなく、中国とはどんな国か、言語を学ぶことを通して、中国の文化、風習なども知ることができる。

2. 学びの意義と目標

本講義では、会話を中心とし、いろいろな場面に応じた表現を理解した上で、応用できるようにロールプレイによる会話練習を行う。中国語の発音、基礎文法を身につけるだけでなく、より複雑な自己紹介、日常挨拶表現、旅行などの時に使用される表現を話せることも本講義のねらいである。

受講生に対する要望

1) 受動的ではなく主体的な学習態度を取ること。2) 講義中発音練習やロールプレイなどの授業活動に積極的に取り組むこと。3) 目標言語を学ぶ際に、言語だけではなく、その国の文化などにも興味を持つこと。4) 宿題を丁寧に書くことかつ提出期限を守ること。

キーワード

(1) 発音（声調の正確さ） (2) 疑問文 (3) 前置詞 (4) 助動詞 (5) 補語

事前学習（予習）

1) 各課の単語と文型を事前に目を通すこと。2) 単語の意味と読み方を事前に確認すること。

復習についての指示

1) 既習単語の読み書きを練習すること。2) 既習単語を読み流すのではなく、暗記すること。3) 声調に気を付けながら、各課の会話文を熟読すること。4) 既習文型を理解し、応用できるように準備しておくこと。

授業計画

1. ガイダンス
2. 発音復習
3. 発音復習
4. 基礎文型の復習
5. 基礎文型の復習
6. 基礎文型の復習
7. 第10課「寿司」：主述述語文・助動詞“能”・結果補語
8. 第10課「寿司」：本文・練習・ドリル
9. 第11課「スキー」：助動詞“会”・様態補語など
10. 第11課「スキー」：本文・練習・ドリル
11. 第12課「動物園」：方向補語・動詞の重ね型など
12. 第12課「動物園」：本文・練習・ドリル
13. 第12課「動物園」：中国語学習のための基礎知識・練習プリント
14. まとめ、中間テスト対策
15. 中間テスト
16. 第13課「春休み」：疑問詞の不定用法など
17. 第13課「春休み」：本文・練習・ドリル
18. 第13課「春休み」：練習プリント
19. 第14課「空港の外」：可能補語・“把”構文など
20. 第14課「空港の外」：本文・練習・ドリル
21. 第14課「空港の外」：練習プリント
22. 第15課「ホテル」：選択疑問文・形容詞の重ね型など
23. 第15課「ホテル」：本文・練習・ドリル
24. 第15課「ホテル」：練習プリント
25. 第16課「部屋の中」：“就要～了”・“被”構文など
26. 第16課「部屋の中」：本文・練習・ドリル
27. 第16課「部屋の中」：練習プリント
28. 総復習
29. 総復習・期末テスト対策
30. 期末テスト・テスト解説

教科書

相原茂・陳淑梅・飯田敦子 『初級テキスト 日中いぶこみ広場』（朝日出版社）

評価方法

(1) 出席率:30% (2) 試験:30%:中間、期末 (3) 平常点:40%:受講態度、小テスト、宿題など

ドイツ語 I (初級 A)

WLAG-0-116

担当者：小谷 哲夫

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目/選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

講義の目標及び概要1. 本講義はドイツ語の学習未経験者を対象としたクラスです。アルファベットの読み方から始め単語・文章への読み、そして文法を一つずつ丁寧に学習していきます、ドイツ語の文章読解へと進めていきます。2. カリキュラム上の位置づけ 基礎教育科目のなかの第二外国語の科目で、欧米文化学科の学生は「フランス語」とともに、選択必修科目です。

2. 学びの意義と目標

国際化・情報化の時代の今日、英語以外の外国語を学ぶことは大きな意義があり、欧米の文化をより深く理解する上でも、必須条件であると思います。本講義では、先ず読みの徹底、そして文法と読解へと進みながら、初級ドイツ語を学んでいきます。日常的な表現による易しい文章であれば、自分で辞書を引いて読むことが出来る水準に達することを目標とします。

受講生に対する要望

短期間で語学を習得するには、まず自分で積極的に取り組む必要があります。休まずに、授業に参加して下さい。

キーワード

事前学習（予習）

次の授業に対する予習の内容は毎回指示しますので、必ずやってくること。

復習についての指示

毎回学習した内容の中で、特に重要な部分は必ず指摘しますので、必ず再確認して下さい。

授業計画

1. ガイダンス
2. アルファベット・ドイツ語の単語の発音
3. 前回の続き
4. ビデオ教材の用いた発音練習
5. 同上
6. 同上
7. 第0課 ドイツ語のあいさつ・数詞
8. 第1課 人称代名詞・動詞の現在人称変化等
9. 第1課の練習問題
10. 第2課 名詞の性・語順等
11. 第2課の続き
12. 第2課の練習問題
13. 第3課 定冠詞と名詞の格変化等
14. 第3課の続き
15. 第3課の練習問題
16. 第4課 不定冠詞・所有冠詞等
17. 第4課の続き
18. 第4課の練習問題
19. 第5課 現在人称変化の不規則な動詞（1）等
20. 第5課の続き
21. 第5課の練習問題
22. 第6課 現在人称変化の不規則な動詞（2）等
23. 第6課の続き
24. 第6課の練習問題
25. 第1課から第6課までの文法補足
26. 同上の続き
27. まとめとこれまでの学習内容の理解度の確認
28. 同上の続き
29. 同上の続き
30. 定期試験問題の説明

教科書

秋田 静男 他 『ドイツ語インフォメーション neu2』（朝日出版社）

評価方法

(1) 定期試験：60% (2) 小テスト：20% (3) 出席・授業態度等の平常点：20%

ドイツ語 I (初級 A)

WLAG-0-116

担当者：宮崎 泰行

開設期：春学期 必修・選択：選択科目/選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

ドイツ語未習者を対象にした授業です。今年度から共通の教科書を使い、文字の説明（名前・読み方）から始め、つづりと音の関係等、丁寧に時間をかけて進んでいきたいと思っています。言葉の勉強ですので、文字だけではなく、音や映像も交えドイツ語圏の情報も取り入れながら授業を進めていきたいと思っています。辞書の使い方（記述の約束事・必要な情報の取り出し方・略語の理解の仕方等）も実際に教室で確認しながら進めます。基本的な文法事項の理解や基本的な文の読解のてがかりが得られるようになることを目標にしたいと思います。授業の後半には既習の文法事項を復習しながら、まとまった文を読む練習をしていきます。

2. 学びの意義と目標

まず文法の説明を聞いて理解することから始め、外国語の学びに慣れていきましょう。基礎的なことを覚える努力は何をするにも大切なことだと思います。

受講生に対する要望

こつこつと物事を覚え理解することは時間がかかることですが、大切なことだと思うのでくじけないでつづけてください。

キーワード

事前学習（予習）

語学の授業ですので授業出席が基本になります。授業内容を聞いて理解する、理解したものを応用する練習をする、必要ならば辞書その他の参考資料にあたる、この繰り返しに慣れていきましょう。

復習についての指示

授業中に課題を出すことがありますのでその課題をこなすことが復習につながっていきます。

授業計画

1. アルファベットの紹介 1
2. アルファベットの紹介 2 母音と子音
3. 発音 1 母音 1
4. 発音 2 母音 2
5. 発音 3 子音 1
6. 発音 4 子音 2
7. 発音 5 子音 3 確認・小テスト
8. 実際の文を声に出して読んでみる 数詞の紹介
9. Lektion1-1
10. Lektion1-2
11. Lektion1-3
12. Lektion2-1
13. Lektion2-2
14. Lektion2-3
15. Lektion3-1
16. Lektion3-2
17. Lektion3-3
18. Lektion4-1
19. Lektion4-2
20. Lektion4-3
21. Lektion5-1
22. Lektion5-2
23. Lektion5-3
24. Lektion6-1
25. Lektion6-3
26. 補足1 読本練習1（教材はプリントで配布します）
27. 補足2 読本練習2（教材はプリントで配布します）
28. 補足3 読本練習3（教材はプリントで配布します）
29. 補足4 読本練習4（教材はプリントで配布します）
30. 補足5 読本練習5（教材はプリントで配布します）

教科書

秋田 他 『ドイツ語インフォメーションneu2』（朝日出版社）

評価方法

(1) 中間試験：50% (2) 期末試験：50%

ドイツ語 I (初級 A)

WLAG-0-116

担当者：清水 威能子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目/選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

ドイツ、オーストリア、スイスなどの公用語であるドイツ語を修得する第一歩として、正確な発音や基礎的な文法事項を学び、その応用として実践的な会話練習を行います。また映像などを通して、ドイツ語圏の国の文化、歴史、現代の社会事情も学びます。さらにグループあるいは個人で、ドイツ語圏の都市について調べ、発表してもらいます。

2. 学びの意義と目標

世界の多様な価値観や考え方を学び、将来の選択肢を広げるためには語学力が必要であり、特に今日では外国語でのコミュニケーション能力や、情報活用能力が求められています。この授業は、そのような語学力の修得を目的とし、さらに簡単な自己表現ができるようになること（ドイツ語検定試験5級程度の語学力）を目標とします。また現在のヨーロッパは、各国の独自の文化を尊重しながらも、欧州連合（EU）として協調体制を組んでいます。従ってドイツ語を学び、ドイツ語圏の国の歴史、社会、文化に触れることは、ヨーロッパ全体を理解するための糸口になります。

受講生に対する要望

ノートを取り、ドイツ語を書いて覚えることを求めます。独和辞典も必要ですが、開講時に紹介します。

キーワード

(1) ドイツ語圏の国（ドイツ、オーストリア、スイス） (2) 言語と文化

事前学習（予習）

毎回の指示に従い、テキストやプリントの問題練習、あるいは単語の意味調べなどの課題を行うこと。

復習についての指示

前回の授業の要点をノートで確認し、CDを聴き、内容を理解しながら発音練習を行うこと。ドイツ語の基本表現を暗記すること。

授業計画

1. ガイダンス（ドイツ語とドイツ語圏の国について）
2. アルファベットと発音練習（母音を中心として）
3. 発音練習（変母音を中心として）
4. 発音練習（子音を中心として）
5. 基本的な挨拶表現
6. 1課 動詞の現在人称変化
7. 1課 疑問文と疑問詞
8. 1課 自己紹介と人を紹介する
9. 2課 語順、決定疑問文と答え方
10. 2課 現在形の応用練習、映像によるドイツの町案内
11. 1～2課の復習（テキストの巻末の問題）
12. 3課 定冠詞と名詞の格変化
13. 3課 定冠詞類
14. 3課 数詞と買い物に関する表現
15. 中間試験、映画を通してドイツの文化を学ぶ(1)
16. 映画を通してドイツの文化を学ぶ(2)、4課 不定冠詞
17. 4課 不定冠詞類
18. 4課 否定冠詞を用いた否定文
19. 5課 不規則動詞の現在人称変化(1)
20. 6課 不規則動詞の現在人称変化(2)
21. ドイツ語圏の都市についての発表(1)
22. ドイツ語圏の都市についての発表(2)
23. ドイツ語圏の都市についての発表(3)
24. 6課 人称代名詞
25. 6課 非人称のes
26. 5課 会話文とパートナー練習
27. 6課 会話文とパートナー練習
28. 3～4課の復習（テキストの巻末の問題）
29. 5～6課の復習（テキストの巻末の問題）
30. 理解度の確認

教科書

秋田 静男、江口 陽子、神谷 善弘、河村 麻里子、小林 繁吉、黒澤 優子、森川 元之、中野 有希子、竹村 恭一郎、田村 江里子『ドイツ語インフォメーション neu?』（朝日出版社）

評価方法

- (1) 平常点:20%:授業時の課題達成度などの積極的な姿勢を評価
(2) 発表:20% (3) 中間試験:30% (4) 期末試験:30%

ドイツ語Ⅱ（初級B）

WLAG-0-117

担当者：宮崎 泰行

開設期：春学期 必修・選択：選択科目/選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

ドイツ語I既習者を対象にした授業です。今年度から共通の教科書を使い、ドイツ語Iで学んだ内容を受け、文法事項の学習を続けていきます。言葉の勉強ですので、文字だけではなく、音や映像も交えドイツ語圏の情報も取り入れながら授業を進めていきたいと思います。辞書の使い方（記述の約束事・必要な情報の取り出し方・略語の理解の仕方等）も実際に教室で確認しながら進めることはドイツ語Iと同じですが、さらに使い込みができるよう練習をしましょう。基本的な文法事項の理解や基本的な文の読解さらに磨きをかけましょう。授業の後半で、教科書には掲載されていない受動態、関係代名詞、接続法を説明し、時間がとれば読本練習をして、実際の文を声に出して読む・意味をつかむ訓練をしたいと思います。授業時間に配布するプリントは原則として一回しか配布しませんので注意してください（公欠・忌引きはこの限りではありません）。

2. 学びの意義と目標

ドイツ語Iで習ったことにつづいて他の文法事項を積み上げていきます。こつこつと着実に進んでいけばいくつもある山を越えられます。実際の独文を読む訓練も後半になれば出来ると思います。

受講生に対する要望

一足飛びに目標に近づくことはできません。デジタル的な進み方ではなく、あくまでアナログ的なやり方で進んでいきましょう。こつこつやれば進歩していきます。

キーワード

事前学習（予習）

語学の授業ですので授業出席が基本になります。聞いて理解する、理解したものを応用する練習をする、必要ならば辞書その他の参考資料にあたる、この繰り返しに慣れていきましょう。

復習についての指示

授業中課題を出しますので、それが復習・確認につながっていきます。

授業計画

1. 発音とつづりの規則の復習
2. 名詞の変化の復習
3. 冠詞の変化の復習
4. 現在人称変化の復習
5. Lektion7-1
6. Lektion7-2
7. Lektion7-3
8. Lektion8-1
9. Lektion8-2
10. Lektion8-3
11. 復習と確認
12. Lektion9-1
13. Lektion9-2
14. Lektion9-3
15. Lektion9-4
16. Lektion10-1
17. Lektion10-2
18. Lektion11-1
19. Lektion11-2
20. Lektion12-1
21. Lektion12-2
22. 受動態
23. 関係代名詞
24. 接続法I
25. 接続法II
26. 補足1 読本練習1（教材はプリント配布します）
27. 補足2 読本練習2（教材はプリント配布します）
28. 補足3 読本練習3（教材はプリント配布します）
29. 補足4 読本練習4（教材はプリント配布します）
30. 補足5 読本練習5（教材はプリント配布します）

教科書

秋田 他 『ドイツ語インフォメーションneu2』（朝日出版社）

評価方法

(1) 中間試験:50% (2) 期末試験:50%

ドイツ語Ⅱ（初級Ｂ）		WLAG-0-117
担当者：清水 威能子		
開設期：秋学期 必修・選択：選択科目/選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位		
学部教育の関連目標 大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける		授業計画 1. ガイダンスと発音の復習 2. ドイツ語Ⅰの復習（１～２課）と会話練習 3. ドイツ語Ⅰの復習（１～２課）と会話練習 4. ドイツ語Ⅰの復習（３～４課）と会話練習 5. ドイツ語Ⅰの復習（５～６課）と会話練習 6. ７課 前置詞、オーストリア（ウィーン）の文化を映像で学ぶ 7. ７課 前置詞の応用表現 8. ８課 話法の助動詞 9. ８課 話法の助動詞の応用表現 10. 9課 分離動詞 11. 9課 命令形、時刻の表現 12. 7～9課までの復習（テキストの巻末の問題） 13. ドイツの現代事情を映画で学ぶ(1) 14. ドイツの現代事情を映画で学ぶ(2) 15. 中間試験、10課 形容詞の格変化 16. 10課 形容詞の応用表現 17. 10課 再帰代名詞と再帰動詞 18. 11課 過去人称変化 19. 11課 従属接続詞 20. 12課 現在完了形 21. 12課 現在完了形の応用表現 22. ドイツ語圏の国の現代事情についての発表(1) 23. ドイツ語圏の国の現代事情についての発表(2) 24. ドイツ語圏の国の現代事情についての発表(3) 25. 10～12課までの復習(1)（テキストの巻末の問題） 26. 10～12課までの復習(2)（テキストの巻末の問題） 27. 読解練習(1) 28. 読解練習(2) 29. 読解練習(3) 30. 理解度の確認
カリキュラム上の位置付け		
講義概要 １．内容 ドイツ語Ⅰで学んだ内容を復習しながら、さらに新たな文法事項を学び、その応用として実践的な会話練習を行います。テキストの内容を学んだ後は、読解力を養うためにプリントで平易な文章を読みます。また映像などを通して、ドイツ語圏の国の文化、歴史、現代の社会事情も学びます。最後に、グループあるいは個人で、ドイツ語圏の国の現代事情について調べ、発表してもらいます。		
２．学びの意義と目標 世界の多様な価値観や考え方を学び、将来の選択肢を広げるためには語学力が必要であり、特に今日では外国語でのコミュニケーション能力や、情報活用能力が求められています。この授業は、そのような語学力の修得を目的とし、さらに簡単な自己表現ができるようになること（ドイツ語検定試験４級程度の語学力）を目標とします。また現在のヨーロッパは、各国の独自の文化を尊重しながらも、欧州連合（ＥＵ）として協調体制を組んでいます。従ってドイツ語を学び、ドイツ語圏の国の歴史、社会、文化に触れることは、ヨーロッパ全体を理解するための糸口になります。		
受講生に対する要望 ノートを取り、ドイツ語を書いて覚えることを求めます。独和辞典も必要です。		
キーワード (1) ドイツ語圏の国（ドイツ、オーストリア、スイス） (2) 言語と文化		
事前学習（予習） 毎回の指示に従い、テキストやプリントの問題練習、あるいは単語の意味調べなどの課題を行うこと。		教科書 秋田 静男、江口 陽子、神谷 善弘、河村 麻里子、小林 繁吉、黒澤 優子、森川 元之、中野 有希子、竹村 恭一郎、田村 江里子『ドイツ語インフォメーション neu?』（朝日出版社）
復習についての指示 前回の授業の要点をノートで確認し、CDを聴き、内容を理解しながら発音練習を行うこと。ドイツ語の基本表現を暗記すること。		評価方法 (1) 平常点:20%:授業時の課題達成度などの積極的な姿勢を評価 (2) 発表:20% (3) 中間試験:30% (4) 期末試験:30%

日本国憲法

INTD-0-103

担当者：石川 裕一郎

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目、
中学校教諭一種免許：（共通）必修科目、
小学校教諭一種免許：必修科目

講義概要

1. 内容

教養科目・教職科目としての役割に鑑み、日本国憲法全体を総花的に取り上げるのではなく、「人権総論」「平和主義」（条文でいえば前文と9～14条）に重点を置いて講義を行います。また、条文の細かい解釈にこだわるのではなく、現代日本（と世界）を考える手がかりとしての憲法にこだわりたいと思います。ところで、憲法の条文は、他の法律の条文と比べるとはるかに読みやすいのですが、それだけに一読しただけでは具体的に何が言いたいのかわかりにくいものです。本講義では、こういった憲法のわかりにくさに配慮して、できるだけ最近の具体的な事例を挙げつつ、その内容について平易に解説したいと考えています。なお、できるだけアクチュアルな問題を取り上げたいので、内容は多少変更される可能性があります。また、法に関わるゲストスピーカーの講演または映像作品の鑑賞も2～3回ほど実施する予定です。

2. 学びの意義と目標

憲法の根本目的である「公権力の拘束」（99条）と「幸福追求権の保障」（13条）にこだわりながら、人権保障と統治機構についてバランスよく触れ、（憲）法という視点から政治・経済・社会を考察する能力を身に付けることをめざします。第一には日本国憲法のオーソドックスな通説・判例の理解をめざしますが、資格試験の予備校ではない、大学の講義ですから、それに留まらず、ポストモダニズム、フェミニズム、マルキシズム、マルチカルチュラリズム等から挑戦を受ける「近代」の象徴としての立憲主義の意義を検討する、語本来の意味におけるcritiqueな講義としたと考えています。

受講生に対する要望

本講義の受講者は1年生が多いので、最初から高いことは要求しません。まずはきちんと講義に出席し、聴講することを徹底してほしいと思います。さらに、取り上げる内容も、高校の「政治・経済」や「現代社会」とはまるで違います。求められることは、知識よりも思考です。

キーワード

(1) 法学 (2) 公法学 (3) 憲法学

事前学習（予習）

原則として事前にレジュメを配布するので、必ず目を通しておくことを求められます。毎回かなりの分量なので、ある程度の時間と集中力を必要とします。

復習についての指示

毎回の講義の後で、習得した知識の確認と講義への主体的な取り組み姿勢を評価することを目的としたリアクションペーパーの作成および提出を課し、次の回までに講義内容の理解を定着させることを求められます。

授業計画

- はじめに
- 憲法とは何か：誤認逮捕事件を題材に
- 国民・国家・憲法の関係
- 日本国憲法の構造：人権保障
- 日本国憲法の構造：統治機構
- 公務員と憲法尊重擁護義務（1）：政治家の人権を題材に
- 公務員と憲法尊重擁護義務（2）：公立学校教員の人権を題材に
- 個人の尊重・幸福追求権・公共の福祉
- 平等原則
- 教育権・学問の自由
- 日本国憲法の制定過程
- 平和主義（1）：前史
- 平和主義（2）：日本国憲法制定から冷戦終結まで
- 平和主義（3）：冷戦終結以降から現在まで
- まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 平常点：80%：リアクションペーパーの記述内容によって評価します。(2) 期末試験：20%：場合によっては期末レポートに変更する可能性もあります。

単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりえません。

担当者：安原 陽平

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目、
中学校教諭一種免許：（共通）必修科目、
小学校教諭一種免許：必修科目

講義概要

1. 内容

憲法上保障されている自由・権利・平等、そしてそれらを保障するための統治機構（国会・内閣・裁判所）について学習していきます。できるだけ具体的な事例を扱い、憲法問題が身近なところにも存在するというを確認していきます。

2. 学びの意義と目標

本授業を通して、憲法的な考え方を身につけることを目標とします。そしてその憲法的な考え方で身近な事例を自分自身で考えられるようになることが最終的な目標です。具体的には、自分と異なる考え方を持つ人を尊重することについて真剣に考えられるようになることが本講義の目標です。

受講生に対する要望

授業開始時の知識量は問いませんが、本講義を通して少しでも成長したいという気持ちをもって臨んでください。

キーワード

(1) 自由 (2) 権利 (3) 平等 (4) 教育 (5) 立憲主義

事前学習（予習）

シラバスを参考にして、各回に何を学ぶかを押さえ、授業中に紹介する参考文献の該当箇所を読んでください。

復習についての指示

授業中に配布されたプリントを用いて、各回の学習内容の復習に取り組んでください。また、授業中に紹介した参考文献の該当箇所を読んで復習に取り組んでください。

授業計画

1. ガイダンス 憲法への誘い
2. 憲法と国家、憲法の意義、日本憲法史
3. 象徴天皇制、国民主権、平和主義
4. 基本的人権総論、基本的人権の限界
5. 包括的基本権（幸福追求権）
6. 平等
7. 思想・良心の自由 信教の自由 学問の自由
8. 表現の自由
9. 経済的自由 人身の自由
10. 生存権 労働基本権
11. 教育を受ける権利
12. 国務請求権 参政権 国会
13. 内閣 裁判所
14. 財政 地方自治
15. まとめ 理解度の確認

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 出席・平常点:30%:講義ごとにリアクションペーパーで確認
- (2) 試験:70%

日本国憲法(1)

INTD-0-103

担当者：武藤 健一

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目、
中学校教諭一種免許：(共通)必修科目、
小学校教諭一種免許：必修科目

講義概要

1. 内容

人権を論じられるようになるための最低限の基本原則を押さえた上で、ジェンダー憲法学から問題視される中心的な存在である家族単位主義の問題点を理解するために、法律婚家族のあり方、子どもの人権侵害の象徴的存在である「虐待」(CA)、という2項目にまつわる日本国憲法が関わる人権問題を検討していき(具体的内容は「授業計画」を参照のこと)、そのことによって、家族(単位主義)と人権の関係という人権論において重要な問題点を理解してもらうことが、本講義の内容であり目的です。

2. 学びの意義と目標

日本国憲法の規定を手がかりにしながら、現代日本社会における人権のあり様を検討していきますが、授業担当者の専攻であるジェンダー憲法学(個人単位主義の人権論)から考える日本国憲法論なので、一般的な内容ではなく、学際的に社会学的手法・研究成果も取り上げながら、現実の社会に存在する人権のあり方を探索し、それを理解していくことを目標とする授業となっています。また、法学専攻でもなく法解釈学の基礎を知らない学生からすれば、一般的な日本国憲法の授業によく見られるような各条文の解釈論を展開していくことは難しいと思われるので、それを扱うことはありません。特に卒業後、子どもに関わる職業を選択する学生にとって、子どもの虐待に関する法律論や子どもの人権論は理解しておくことが必要だと思われます。

受講生に対する要望

授業の支障になること以外は何をやっても構いませんが、お喋りや10分以上の遅刻などはまったくもって許されません。また、授業を聴いていないと書けないリアクション=ペーパーを作成してもらうので、意欲のない学生は単位を取得できない可能性が高いことを明言しておきます。教職科目の単位取得のためといった履修目的のみでは、学生の負担が重たい授業であることを充分考慮して下さい。

キーワード

(1)日本国憲法 (2)人権 (3)子どもの人権 (4)子どもの虐待 (5)法律婚家族

事前学習(予習)

授業内容の関係上、事前に学生が予習できる項目は少ないですが、プリント(レジュメ)を見て、自分が知らない言葉があれば、その意味等を調べておくことは最低限要求されます。

復習についての指示

授業内で解答し、添削・返却されるリアクション=ペーパーの内容に関しては、次の授業での解説を踏まえてしっかりと復習しておくこと。

授業計画

1. (0) ガイダンス
2. (1) 法の基本原則
3. (2) 人権の基本的原理
4. (2) 人権の基本的原理
5. (3) 子どもの「虐待」(CA)
6. (3) 子どもの「虐待」(CA)
7. (3) 子どもの「虐待」～虐待防止法
8. (3) 子どもの「虐待」～虐待防止法
9. (3) 子どもの「虐待」～虐待防止法
10. (3) 子どもの「虐待」～家族単位主義の限界
11. (4) 法律婚家族と結婚
12. (4) 法律婚家族と結婚
13. (4) 法律婚家族と結婚
14. (4) 法律婚家族と結婚
15. (5) 試験とその解説

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)授業:67%: リアクション=ペーパーの評価による (2)学期末試験:33%

日本国憲法(2)

INTD-0-103

担当者：武藤 健一

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目、
中学校教諭一種免許：(共通)必修科目、
小学校教諭一種免許：必修科目

講義概要

1. 内容

人権を論じられるようになるための最低限の基本原則を押さえた上で、ジェンダー憲法から問題視される中心的な存在である家族単位主義の問題点を理解するために、法律婚家族のあり方と氏名権(夫婦別姓)、家族のあり方と自己決定権(臓器移植)、という2項目にまつわる日本国憲法が関わる人権問題を検討していく(具体的内容は「授業計画」を参照のこと)、そのことによって、家族(単位主義)と人権の関係という人権論において重要な問題点を理解してもらうことが、本講義の内容であり目的です。

2. 学びの意義と目標

日本国憲法の規定を手がかりにしながら、現代日本社会における人権のあり様を検討していきますが、授業担当者の専攻であるジェンダー憲法から考える日本国憲法論なので、一般的な内容ではなく、学際的に社会的手法・研究成果も取り上げながら、現実の社会に存在する人権のあり方を探求し、それを理解していくことを目標とする授業となっています。また、法学専攻でもなく法解釈学の基礎を知らない学生からすれば、一般的な日本国憲法の授業によく見られるような各条文の解釈論を展開していくことは難しいと思われるので、それを中心的に扱うことはありません。まずは、人権を論じられるようになるための最低限の知識を押さえた上で、ジェンダー憲法から問題視される中心的な存在である家族単位主義の問題点を理解するという目的の達成のために、夫婦別姓と臓器移植の問題、子どもの人権からみた家族単位の問題点、という2項目を学び(具体的内容は「授業計画」を参照のこと)、人権論において重要な現代的な諸問題を理解するという本講義の目的を達成することとします。

受講生に対する要望

授業の支障になること以外は何をやっても構いませんが、お喋りや10分以上の遅刻などはまったくもって許されません。また、授業を聴いていないと書けないリアクション=ペーパーを作成してもらうので、意欲のない学生は単位を取得できない可能性が高いことを明言しておきます。法学科目の単位取得のためといった履修目的のみでは、学生の負担が重たい授業であることを充分考慮して下さい。

キーワード

事前学習(予習)

授業内容の関係上、事前に学生が予習できる項目は少ないですが、プリント(レジュメ)を見て、自分が知らない言葉があれば、その意味等を調べておくことは最低限要求されます。

復習についての指示

授業内で解答し、添削・返却されるリアクション=ペーパーの内容に関しては、次の授業での解説を踏まえてしっかりと復習しておくこと。

授業計画

1. (0) ガイダンス
2. (1) 人権の基本原則
3. (1) 人権の基本原則
4. (1) 人権の基本原則
5. (2) 氏名権と夫婦別姓 ～ 夫婦別姓案
6. (2) 氏名権と夫婦別姓 ～ 海外の姓
7. (2) 氏名権と夫婦別姓 ～ 強制的夫婦同姓
8. (2) 氏名権と夫婦別姓 ～ 人権としての氏名権
9. (2) 氏名権と夫婦別姓 ～ まとめ
10. (3) 臓器移植と家族単位 ～ 脳死
11. (3) 臓器移植と家族単位 ～ 臓器移植法
12. (3) 臓器移植と家族単位 ～ 子どもの臓器移植
13. (3) 臓器移植と家族単位 ～ 自己決定権
14. (3) 臓器移植と家族単位 ～ まとめ
15. (4) 試験とその解説

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 授業: 67% リアクション=ペーパーの評価による (2) 学期末試験: 33%

担当者：木原 郁子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

基礎的な日本語文法を復習し、より上級の文脈において運用できるようにする。(1) 文法が聞いてわかるかどうか確認する。(2) 文法の用法を理解し、用法練習をする。(3) 学んだ文法を使用した表現の練習をする。(4) 各課ごとに文法の確認の小テストを行う。

2. 学びの意義と目標

日本語を母語としない外国人留学生のための授業。大学の講義を受ける上で不可欠な四技能の基礎となる文法能力の養成を目的とする。大学で講義を受けるために必要な基礎的な日本語の文法力を習得し、その定着を諮(はか)り、さらに運用できるようにする。

受講生に対する要望

予習・復習をして、積極的に授業に参加すること。

キーワード

(1) 日本語の文法 (2) 基礎文法 (3) 文法力

事前学習 (予習)

次の週に行う授業のプリントを渡すので、前もって自分でやっておくこと。

復習についての指示

習ったところは復習すること。課が終わるごとに復習テストを行う。習った文法項目を使った作文を課することがある。

授業計画

1. 授業概要、チェックテスト、他動詞・自動詞-1
2. 自動詞-2
3. 自動詞-3
4. 受給表現-1
5. 受給表現-2
6. 受給表現-3、受け身-1
7. 受け身-2
8. 中間テスト・受け身-3
9. 使役・使役受け身-1
10. 使役・使役受け身-2
11. 助詞-「は」と「が」-1
12. 助詞-「は」と「が」-2
13. 助詞の理解-1
14. 助詞の理解-2
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 中間・期末テスト:60% (2) 小テストおよび宿題:20% (3) 授業への参加度:10% (4) 出席率:10%

担当者：内藤 みち

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

基礎的な日本語文法を復習し、より上級の文脈において運用できるようにする。(1) 文法項目が聞いてわかるかどうか確認する。(2) 文法の用法を理解し、用法練習をする。(3) 学んだ文法を使用した表現の練習をする。(4) 各課ごとに文法の確認の小テストを行う。

2. 学びの意義と目標

大学で講義を受けるために必要な基礎的な日本語の文法力を習得し、その定着をはかり、さらに運用できるようにする。

受講生に対する要望

欠席が3分の1を超えた場合は評価しない。予習・復習をすること。課題をきちんと提出すること。

キーワード

(1) 日本語基礎文法 (2) 文法の応用 (3) 文脈 (4) 聞く力

事前学習（予習）

次の週に行う授業のプリントを渡すので、前もって自分でやっておくこと。

復習についての指示

習ったところは復習すること。課が終わるごとに復習テストを行う。習った文法を使った作文を課すことがある。

授業計画

1. 講義概要、チェックテスト、敬語－1
2. 敬語－2
3. 敬語－3
4. の・こと－1
5. の・こと－2
6. 連用修飾節II－1
7. 中間テスト／連用修飾節II－2
8. 連用修飾節II－3、連用修飾節I－1
9. 連用修飾節I－2
10. 連用修飾節I－3、連用修飾節III－1
11. 連用修飾節III－2
12. 連用修飾節III－3
13. 引用節－1
14. 引用節－2
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 中間・期末テスト:60% (2) 小テストおよび宿題:20% (3) 授業への参加度:20%

担当者：木原 郁子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

主に読解教材を使用し、大学レベルの日本語力の基礎的語彙・文型を学ぶとともに、読解内容に関連する日本社会における思考行動様式等、様々な情報・文化に触れる。日本語力向上のために授業外での教材に関連する予習復習課題が毎回課せられる。

2. 学びの意義と目標

大学での学習に必要な日本語力を身につけるためにその基礎力の定着向上をはかる。

受講生に対する要望

授業外学習としての課題以外に、毎回の授業に向けて、読解教材の内容把握・進出語彙の予習復習は各自の日本語能力の向上のために必須となる。

キーワード

(1) 日本語基礎語彙 (2) 日本語基礎文型 (3) 読解 (4) 音声言語理解 (5) 短文作成

事前学習（予習）

各読解教材に入る前には必ずその課の読み物を各自が読み、内容把握・語彙の意味や文型を調べる。また、漢字の読みの予習クイズが各課で実施される。

復習についての指示

学習した語彙・文型を使用しての短文作成、各課の語彙・文型の復習練習問題が課題となる。必要に応じて、学習項目の復習クイズが実施される。

授業計画

1. 授業概要、文体の導入、自己紹介文作成、
2. 読解「日本人の行動様式」①
3. 読解「日本人の行動様式」②
4. 読解「日本のビジネス」①
5. 読解「日本のビジネス」②
6. 音声言語理解「大学生活」①
7. 音声言語理解「大学生活」②
8. 中間試験
9. 読解「環境」①
10. 読解「環境」②
11. 読解「環境」③
12. 読解「異文化理解」①
13. 読解「異文化理解」②
14. 読解「異文化理解」③
15. 音声言語理解「環境と人間」

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 中間試験:30% (2) 期末試験:30% (3) 漢字クイズ:10% (4) 復習クイズ:10% (5) クラスワーク:20%

担当者：木原 郁子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

主に読解教材を使用し、大学レベルの日本語力の基礎的語彙・文型を学ぶとともに、読解内容に関連する日本社会における思考行動様式等、様々な情報・文化に触れる。日本語力向上のために授業外での教材に関連する予習復習課題が毎回課せられる。

2. 学びの意義と目標

大学での学習に必要な日本語力を身につけるためにその基礎力の定着向上をはかる。

受講生に対する要望

授業外学習としての課題以外に、毎回の授業に向けて、読解教材の内容把握・進出語彙の予習復習は各自の日本語能力の向上のために必須となる。

キーワード

(1) 日本語基礎語彙 (2) 日本語基礎文型 (3) 読解 (4) 音声言語理解 (5) 短文作成

事前学習（予習）

各読解教材に入る前には必ずその課の読み物を各自が読み、内容把握・語彙の意味や文型を調べる。また、漢字の読みの予習クイズが各課で実施される。

復習についての指示

学習した語彙・文型を使用しての短文作成、各課の語彙・文型の復習練習問題が課題となる。必要に応じて、学習項目の復習クイズが実施される。

授業計画

1. 授業概要、文体の導入、自己紹介文作成
2. 読解「日本の文化」①
3. 読解「日本の文化」②
4. 読解「日本社会」①
5. 読解「日本社会」②
6. 音声言語理解「働く人々」①
7. 音声言語理解「働く人々」②
8. 中間試験
9. 読解「福祉」①
10. 読解「福祉」②
11. 音声言語理解「福祉」
12. 読解「日本製の品々」①
13. 読解「日本製の品々」②
14. 音声言語理解「日本のモノづくり」①
15. 音声言語理解「日本のモノづくり」②

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 中間試験:30% (2) 期末試験:30% (3) 漢字クイズ:10% (4) 復習クイズ:10% (5) クラスワーク:20%

日本語 1 (調査・発表) A

WLAG-0-144

担当者：木原 郁子，川口 さち子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

大学の授業に必要な口頭発表の表現や、具体的に調査や発表をする方法について学ぶ。発音練習を行うとともに、日本語での発表に慣れるため、学期中に複数回スピーチや発表を行う。あるテーマについて各自調べた内容をまとめて発表したり、そこから自分で考えたことについて発表したりする。また、他の学生の発表を聞いて、質問したり意見を述べたりすることも行い、発表用レジュメの書き方も併せて学ぶ。

2. 学びの意義と目標

日本語での口頭コミュニケーションの障害を取り除き、発表の際の口頭表現能力の向上を目指す。毎回、発音練習をすることで、日本語のリズムに慣れ親しみ、自律した学習が進められるよう導く。その後の大学での活動や就職活動・仕事上のプレゼンテーションの基本となる授業である。

受講生に対する要望

口頭発表のために、毎回発音練習（フレージング練習）をするので、積極的に参加すること。また、発表においては、自分の発表だけでなく、他の学生の発表をきちんと聞くことが大切なので、「良い聞き手」になることを期待する。

キーワード

(1) 口頭発表 (2) 発音練習（フレージング練習） (3) 資料収集の仕方 (4) レジュメの作成方法

事前学習（予習）

資料収集や発表原稿など、毎回なんらかの宿題が課されるので、きちんとこなすこと。自分の原稿は、何度も口頭練習をすること。

復習についての指示

資料収集や発表原稿書きなど、毎回なんらかの宿題が課される。また、授業内で練習した「発音練習シート」を1日に10回程度、口頭練習すること。

授業計画

1. 講義ガイダンス、自己紹介
2. 図書館ツアー
3. 発表1-1「私の大切なもの」原稿作成・練習
4. 発表1-2「私の大切なもの」練習・発表
5. 発表2-1「こちらの方が〇〇〇」導入・資料集め
6. 発表2-2「こちらの方が〇〇〇」資料集め・原稿作成
7. 発表2-3「こちらの方が〇〇〇」原稿作成・練習
8. 発表2-4「こちらの方が〇〇〇」練習・発表
9. 発表3-1「日本の〇〇〇」導入・資料集め
10. 発表3-2「日本の〇〇〇」資料集め・原稿作成
11. 発表3-3「日本の〇〇〇」資料集め・原稿作成
12. 発表3-4「日本の〇〇〇」原稿作成・レジュメ作成
13. 発表3-5「日本の〇〇〇」原稿作成・レジュメ作成・練習
14. 発表3-6「日本の〇〇〇」練習・発表
15. 発表3-7「日本の〇〇〇」発表・まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1) 中間発表:30% (2) 期末発表:40% (3) 平常点（提出物・発音練習・ミニ発表など）:20% (4) 出席:10%
- * 欠席が3分の1以上となる場合、単位は与えられない。

日本語 1 (調査・発表) B

WLAG-0-145

担当者：太田 ミユキ, 内藤 みち

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

大学の授業に必要な口頭発表の表現や、具体的に調査や発表をする方法について学ぶ。発音練習を行うとともに、日本語での発表に慣れるため、学期中に複数回スピーチや発表を行う。あるテーマについて各自調べた内容をまとめて発表したり、そこから自分で考えたことについて発表したりする。また、他の学生の発表を聞いて、質問したり意見を述べたりすることも行い、発表用レジュメの書き方も併せて学ぶ。

2. 学びの意義と目標

日本語での口頭コミュニケーションの障害を取り除き、発表の際の口頭表現能力の向上を目指す。毎回、発音練習をすることで、日本語のリズムに慣れ親しみ、自律した学習が進められるよう導く。その後の大学での活動や就職活動・仕事上のプレゼンテーションなどの口頭表現の基礎となる授業である。

受講生に対する要望

口頭発表のために、毎回発音練習（フレージング練習）をするので、積極的に参加すること。また、発表においては、自分の発表だけでなく、他の学生の発表をきちんと聞くことが大切なので、「良い聞き手」になることを期待する。

キーワード

(1) 口頭発表 (2) 発音練習（フレージング練習） (3) 資料収集の仕方 (4) レジュメの作成方法

事前学習（予習）

資料収集や発表原稿など、毎回なんらかの宿題が課されるので、きちんとこなすこと。自分の原稿は、何度も口頭練習をすること。

復習についての指示

資料収集や発表原稿書きなど、毎回なんらかの宿題が課される。また、授業内で練習した「発音練習シート」を1日に10回程度、口頭練習すること。

授業計画

1. 講義ガイダンス、自己紹介
2. 図書館ツアー
3. 発表1-1「旅行に行くなら○○○」導入・資料集め
4. 発表1-2「旅行に行くなら○○○」資料集め・原稿作成
5. 発表1-3「旅行に行くなら○○○」原稿作成
6. 発表1-4「旅行に行くなら○○○」原稿作成・レジュメ作成・練習
7. 発表1-5「旅行に行くなら○○○」原稿作成・レジュメ作成・練習
8. 発表1-6「旅行に行くなら○○○」練習・発表
9. 発表2-1「新製品を作ろう」導入・資料集め
10. 発表2-2「新製品を作ろう」資料集め・原稿作成
11. 発表2-3「新製品を作ろう」資料集め・原稿作成
12. 発表2-4「新製品を作ろう」原稿作成・レジュメ作成
13. 発表2-5「新製品を作ろう」原稿作成・レジュメ作成・練習
14. 発表2-6「新製品を作ろう」練習・発表
15. 発表2-7「新製品を作ろう」発表・まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1) 中間発表:30% (2) 期末発表:40% (3) 平常点（提出物・発音練習・ミニ発表など）:20% (4) 出席:10%

* 欠席が3分の1以上となる場合、単位は与えられない。

担当者：太田 ミユキ

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 日本語能力の文法事項に焦点を絞り、その意味用法を学び運用できるようにする。2. 日本語能力試験N3、N2レベルの文法項目を学習する。3. 短い読み物や会話表現などを用いることによって、どのように文法項目が使われるのかを理解し日本語の文法力の向上をはかる。4. 文法の用法を理解し練習した後、さらに実際に例文を作成し、理解を深める。5. 課ごとに文法の確認の小テストを行う。6. 中間試験と期末試験を行う。

2. 学びの意義と目標

1. 外国人留学生のための授業で大学の講義を受ける上での不可欠な、四技能の基礎である文法能力の養成のためのものである。2. 大学で講義を受けレポートを書くために必要な基礎的な日本語の文法力の向上とその定着を目指す。

受講生に対する要望

N2レベルの文型は実際の大学の授業やレポート作成によく使われるものが多いので、しっかり学習し身につけてほしい。

キーワード

(1)N3レベルの文型 (2)N2レベルの文型 (3)短文作成 (4)文法力の向上と定着

事前学習（予習）

・予定の部分に使われている言葉は授業の中で説明しないので、事前に意味を調べ、理解しておく。

復習についての指示

・復習クイズに備え復習をしておく。

授業計画

1. ガイダンス・チェックテスト
2. N3レベル文法
3. N3レベル文法
4. N3レベル文法
5. N3レベル文法
6. N2レベル文法 Unit 1 - 1
7. N2レベル文法 Unit 1 - 2
8. 復習
9. 中間試験・短文作成・フィードバック
10. N2レベル文法Unit 2 - 1
11. N2レベル文法Unit 2 - 2
12. N2レベル文法Unit 3 - 1
13. N2レベル文法Unit 3 - 2
14. 復習
15. 総まとめ

教科書

坂本勝信 『日本語能力試験レベルアップトレーニング文法N2』（アルク）

評価方法

(1)中間テスト:25% (2)期末テスト:25% (3)復習クイズ・宿題・短文作成:30% (4)クラスワーク:20%

欠席が3分の1を超える場合は、評価の対象とならない。

日本語 1 (表現文型) B

WLAG-0-139

担当者：太田 ミユキ

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 日本語能力の文法事項に焦点を絞り、その意味用法を学び運用できるようにする。2. 日本語能力試験N3、N2レベルの文法項目を学習する。3. 短い読み物や会話表現などを用いることによって、どのように文法項目が使われるのかを理解し日本語の文法力の向上をはかる。4. 文法の用法を理解し練習した後、さらに実際に例文を作成し、理解を深める。5. 課ごとに文法の確認の小テストを行う。6. 中間試験と期末試験を行う。

2. 学びの意義と目標

1. 外国人留学生のための授業で大学の講義を受ける上での不可欠な、四技能の基礎である文法能力の養成のためのものである。2. 大学で講義を受けレポートを書くために必要な基礎的な日本語の文法力の向上とその定着を目指す。

受講生に対する要望

N2レベルの文型は実際の大学の授業やレポート作成によく使われるものが多いので、しっかり学習し身につけてほしい。

キーワード

(1) N3レベルの文型 (2) N2レベルの文型 (3) 短文作成 (4) 文法力の向上と定着

事前学習（予習）

・予定の部分に使われている言葉は授業の中で説明しないので、事前に意味を調べ、理解しておく。

復習についての指示

・復習クイズに備え復習をしておく。

授業計画

1. ガイダンス・チェックテスト
2. ユニット7
3. ユニット7・復習クイズ
4. ユニット8・復習クイズ
5. ユニット8・復習クイズ
6. ユニット9・復習クイズ
7. ユニット9・復習クイズ
8. まとめ7～9 復習クイズ
9. 中間テストと解説
10. 副詞①
11. 副詞②・復習クイズ
12. 接続の言葉①・復習クイズ
13. 接続の言葉②・復習クイズ
14. 語彙を広げる・復習クイズ
15. 期末テストと解説

教科書

坂本勝信 『日本語能力試験レベルアップトレーニング文法N2』（アルク）

評価方法

(1) 中間テスト:25% (2) 期末テスト:25% (3) 復習クイズ・宿題・短文作成:30% (4) クラスワーク:20%

欠席が3分の1を超える場合は、評価の対象とならない。

日本語 1 (文章表現) A

WLAG-0-146

担当者：黒崎 佐仁子, 太田 ミユキ

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義は、日本語を母語としない外国人留学生が講義レポートを日本語で書けるようになるための基礎力を養成するものである。一文からはじめ、最終的には600～800字の文章を作成する。学生自身の文章作成とともに、日本語の文章の特徴を学習し、日本語における論理的な文章とは何かを学んでいく。

2. 学びの意義と目標

大学での講義レポートや卒業論文に自信を持って臨めるような日本語の文章力を身につけることを学びの目標とする。

受講生に対する要望

「課題をこなす」と考えるのではなく、「どのように書く」とどのように伝わるのか」を考えながら取り組んでもらいたい。

キーワード

(1) 日本語 (2) 書く力 (3) 小論文 (4) 表現力 (5) 思考力

事前学習 (予習)

予習用プリントを配布するため、きちんと丁寧に予習してもらいたい。

復習についての指示

毎時間、課題を出すため、きちんと丁寧に復習してもらいたい。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 「できるだけ書いてみよう」「言葉の地図を作ってみよう」
3. 「順番を考えて書いてみよう」
4. 「理由を考えて書いてみよう」
5. 「イラストを見て書いてみよう」
6. 「論理的に考えて書いてみよう」
7. テスト
8. テストフィードバック
9. 作文の基本 (1) (2)
10. 書きことばの文体 普通体 連用中止形
11. 話し言葉から書き言葉へ
12. 話し言葉から書き言葉へ
13. 正しい構造の文
14. 正しい構造の文
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席:25% (2) 課題:25% (3) 中間試験:25% (4) 期末試験:25%

担当者：黒崎 佐仁子, 太田 ミユキ

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義は、日本語を母語としない外国人留学生が講義レポートを日本語で書けるようになるための基礎力を養成するものである。学生自身の文章作成とともに、日本語の文章の特徴を学習し、日本語における論理的な文章とは何かを学んでいく。また、レポート等の文章のほか、待遇表現を意識した手紙やE-mailの書き方についても学習する。

2. 学びの意義と目標

大学での講義やレポート、更に就職活動や卒業論文に自信を持って臨めるような日本語の文章力を身につけることを学びの目標とする。

受講生に対する要望

「ただ書く」のではなく、「学んだことを生かす」ことを念頭においてほしい。

キーワード

(1) 日本語 (2) 小論文 (3) 書く力 (4) 表現力 (5) メールの書き方

事前学習 (予習)

予習用のプリントを配布するために、きちんと丁寧に勉強してくること。

復習についての指示

毎時間、課題を出すため、きちんと丁寧に課題に取り組むこと。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 「文章を読んで図や表にしてみよう」
3. 「表・グラフ以外のものの内容を読み取ってみよう」
4. 表記のしかた
5. 硬い文章
6. 文章のまとめ
7. 中間テスト
8. フィードバック
9. 図表の提示
10. 数値を示す
11. 引用して書く
12. 引用して書く
13. Eメールの書き方
14. Eメールの書き方
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席:25% (2) 課題:25% (3) 中間試験:25% (4) 期末試験:25%

日本語 2 (音声表現理解) A

WLAG-0-158

担当者：船山 久美

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

大学の講義、テレビやインターネットの動画などを視聴し、音声や映像などの情報を理解して対応したり、自分の言葉でまとめたり、自分の考えが発信できるような日本語のコミュニケーション能力を養成することを目標とする。授業では以下のことを行う。
①聞き取れた音声などの情報から、意味を再構築できるように聴解ストラテジーを学ぶ。②大意をわかりやすく文章にまとめる練習を行う。③語彙を拡大し、文型を定着させるために聞き取りクイズを行う。④理解した情報をもとに自分の考えを発表して話し合う。⑤日本語能力試験1級の聴解・聴読解を意識した練習をする。

2. 学びの意義と目標

留学生が大学での研究・学習生活に支障のない日本語の聴解能力を身につけ、コミュニケーションを通じて日本社会に参加できるようになることがこの授業の目的である。日本語2（音声表現理解）Aでは必要な情報を正確に理解して対応することや、講義を聴いてノートをとるような「受信型」のスキルの習得に重点を置く。

受講生に対する要望

聴解とは各自が学んできた言語知識や背景知識を最大限に活用して、音声から日本語のメッセージを自分の頭の中で再構築する積極的な過程です。様々な音声や映像を、意味ある言葉に結びつけて理解できるように、日々ニュースなどを見て、背景となる知識を増やす努力をしてほしいです。

キーワード

(1) 音声表現 (2) 聴解活動 (3) 聴解ストラテジー (4) ノート・テイキング

事前学習（予習）

単語リストを配布するので単語や表現の予習をすること。予習クイズを行うことがある。

復習についての指示

授業で学んだとに対して復習クイズを行うことがある。

授業計画

1. ガイダンス 聴解能力の自己評価 ペアディクテーション 聴解ストラテジー（反応する）
2. アカデミック・ジャパニーズ 聴解ストラテジー（文法を意識して聞く）
3. 講義を聴く 聴解ストラテジー（文法を意識して聞く）
4. ニュースを視聴する 聴解ストラテジー（情報を選別する）
5. ニュースを視聴する 聴解ストラテジー（情報を選別する）
6. 講義を聴く 聴解ストラテジー（推測する）
7. 講義を聴く 聴解ストラテジー（モニターする）
8. 中間試験
9. ニュースを視聴する 聴解ストラテジー（予測する）
10. ニュースを視聴する 聴解ストラテジー（キーワード）
11. 講義を聴く 聴解ストラテジー（違いに注目する）
12. 講義を聴く 聴解ストラテジー（スキミング）
13. ドラマを見る 聴解ストラテジー（話の展開を予測する）
14. ドラマを見る 聴解ストラテジー（大意をまとめる）
15. 期末試験

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 課題:30%: 予習クイズ、復習クイズを含む (2) 試験:40% (3) 平常点:30%
。 ※欠席が3分の1を超える場合には単位は与えられない。出席が3分の2以上あっても成績不良により不合格になる場合もある。

日本語 2 (音声表現理解) B

WLAG-0-159

担当者：船山 久美

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

大学の講義、ニュース、ドキュメンタリー、ドラマ、バラエティなどの幅広いジャンルの番組を視聴し、正確に理解すると同時に、大意をまとめられるようになることを目指す。背景知識として必要な最新の日本社会の情報や現代日本の若者の考え方について学ぶ。読み解くための能力を養い、見たものに対して自分の考えを発信できるようになることを目指す。授業では以下のことを行う。①聴解のストラテジーを学ぶ。②聞き取った内容の大意を文章にまとめる。③上級の語彙を拡大し、文型を定着させる。④番組の意図を考え、自分がどのように視聴したのか考えてレポートに書く。⑤日本語能力試験1級の聴解・聴読解を意識した練習をする。

2. 学びの意義と目標

留学生が大学での研究・学習生活に支障のない日本語の聴解能力を身につけ、コミュニケーションを通じて日本社会に参加できるようになることがこの授業の目的である。日本語2（音声表現理解）Bでは聞いて理解したことにもとづいて意見を述べたりする「発信型」のスキルの取得に重点を置く。

受講生に対する要望

聴解とは各自が学んできた言語知識や背景知識を最大限に活用して、音声から日本語のメッセージを自分の頭の中で再構築する積極的な過程です。様々な音声や映像を、意味ある言葉に結びつけて理解できるように、日々ニュースなどを見て、背景となる知識を増やす努力をしてほしいです。

キーワード

(1) 音声表現 (2) 聴解活動 (3) 聴解ストラテジー (4) ノート・テイキング (5) メディア・リテラシー

事前学習（予習）

語彙や表現の予習をしてほしい。予習クイズを行うことがある

復習についての指示

授業で視聴した動画の聞き取りテストのための復習をすること。復習クイズを行うことがある。

授業計画

1. ガイダンス 聴解ストラテジー（予測する）
2. 講義を視聴する 聴解ストラテジー（キーワードや数字）
3. 講義を視聴する 聴解ストラテジー（情報の選別）
4. ドキュメンタリーを視聴する、聴解ストラテジー（大意をまとめる）
5. ドキュメンタリーを視聴する
6. ニュース特集を視聴する、聴解ストラテジー（カタカナのことば）
7. ニュース特集を視聴する、聴解ストラテジー（カタカナのことば）
8. 中間試験
9. ドラマを視聴する、聴解ストラテジー（聞き取りにくい音）
10. ドラマを視聴する 聴解ストラテジー（音の変化）
11. 動画を視聴する
12. 動画を視聴する、番組の分析（1）
13. 動画を視聴する、番組の分析（2）
14. まとめ
15. 期末試験

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 課題:30%: 予習クイズ、復習クイズを含む (2) 試験:40% (3) 平常点:30%

※欠席が3分の1を超える場合には単位は与えられない。出席が3分の2以上あっても成績不良により不合格になる場合もある。

担当者：黒崎 佐仁子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

日本語を母語としない留学生の日本語力の伸張を目ざす授業である。特にこの授業では、読解力に力を入れる。リライトされた易しい文章を多読、速読後、原文を読むことによって、しっかりと文章の意味を把握する訓練を行う。

2. 学びの意義と目標

分かる語彙だけを拾うのではなく、精読し、正確に文章の表現しているものを読み取る力を付けることを目標とする。

受講生に対する要望

ただ授業をこなすという態度ではなく、積極的に日本語力を伸長させる努力を期待したい。

キーワード

(1) 日本語 (2) 読解 (3) 多読 (4) 速読 (5) 精読

事前学習（予習）

学ぶ範囲の予習をきちんと丁寧にしていくこと。また、毎時間、語彙試験を行うため、試験勉強も欠かさないこと。

復習についての指示

毎時間、前の時間で学んだ範囲の小テストを行うため、しっかりと復習をしていくこと。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 『走れメロス』（にほんごよむよむ文庫）
3. 『走れメロス』（東京出版）
4. 『走れメロス』（東京出版）
5. 『走れメロス』（東京出版）
6. 『高瀬舟』（にほんごよむよむ文庫）
7. 『高瀬舟』（光村図書）
8. 『高瀬舟』（光村図書）
9. 『高瀬舟』（光村図書）
10. 中間試験
11. 中間試験フィードバック
12. 村上春樹スピーチ『壁と卵』
13. 宮崎駿 インタビューを読む
14. 宮崎駿 インタビューを読む
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 出席：25% (2) 小テスト：5% (3) 中間試験：30% (4) 期末試験：30% (5) 参加態度：10%

担当者：黒崎 佐仁子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

日本語を母語としない留学生の日本語力の伸長を目ざす授業である。新書、エッセー、新聞など多様な文章を読む力を付ける。

2. 学びの意義と目標

分かる語彙だけを拾うのではなく、精読し、正確に文章の表現しているものを読み取る力を付けることを目標とする。

受講生に対する要望

ただ授業をこなすのではなく、能動的に日本語力を伸ばす努力をしてもらいたい。

キーワード

(1) 日本語 (2) 読解 (3) 新書 (4) エッセー (5) 新聞

事前学習（予習）

学ぶ範囲の予習をきちんと丁寧にしていくこと。また、毎時間、語彙試験を行うため、試験勉強も欠かさないこと。

復習についての指示

毎時間、前の時間で学んだ範囲の小テストを行うため、しっかりと復習をしていくこと。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 『優秀なリーダーは「心理学」で人を動かす』『はじめに]
3. 「好きと嫌いの心理と効果的な『第一印象』の与え方」
4. 「好きと嫌いの心理と効果的な『第一印象』の与え方」
5. 「好きと嫌いの心理と効果的な『第一印象』の与え方」
6. 「自分を好きにさせるためのごく日常的な方法」
7. 「自分を好きにさせるためのごく日常的な方法」
8. 「自分を好きにさせるためのごく日常的な方法」
9. 中間試験
10. 中間試験フィードバック
11. 「真っ白な嘘」
12. 「美しさ」
13. 「あした見る夢」
14. 「不調のときの神頼み」
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 出席:25% (2) 小テスト:5% (3) 中間試験:30% (4) 期末試験:30% (5) 参加態度:10%

日本語 2 (調査・発表) A

WLAG-0-154

担当者：岡村 佳代、船山 久美

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

日本語を母語としない留学生が大学で学ぶためのコミュニケーション力、特に口頭発表に関する能力を育成することを目標とする。テーマの見つけ方、情報の探し方、レジュメの書き方、発表や討論の仕方などを学ぶ。自分の関心のあるテーマを見つけ、文献を読んでまとめ、発表し、他者からのコメントを得た後、再び考えてレポートにまとめて提出する。前半は自分PRのスピーチ、後半は文献を読んでまとめる。

2. 学びの意義と目標

自分の考えをまとめ、課題を設定する力、他者にわかるように話す力、相手の話を聞いて理解し、コメントする力をつける。

受講生に対する要望

きちんと出席し、仲間との活動に積極的に参加してほしい。ここで学んだことを自分の専門のゼミや将来の仕事などに応用できる力を養ってほしい。

キーワード

(1)発表 (2)スピーチ (3)コメント (4)引用 (5)情報

事前学習（予習）

該当課の活動テーマを理解し、課題に取りかかる準備をしてくる

復習についての指示

該当課で学んだ内容を応用する課題を行い、提出する

授業計画

1. オリエンテーション
2. 自分を伝える
3. 情報を整理する
4. スピーチの準備をする
5. スピーチをする
6. 情報を探す 図書館オリエンテーション
7. 情報を読んで伝える
8. レジュメを書く
9. ポスター発表の準備をする
10. 発表する、コメントする
11. 発表する、コメントする
12. 情報を引用しながらレポートを書く
13. 内容を検討する
14. 表現形式を検討する
15. まとめ、最終レポートを提出する

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)スピーチ:20% (2)平常点:20%:クラス活動への参加度、課題提出など (3)出席:20% (4)発表:20% (5)レポート:20%:レジュメ、スピーチ原稿を含む

発表当該日に欠席した場合、メイクアップはされない。欠席が三分の一を超える場合は評価しない。

担当者：岡村 佳代，黒崎 佐仁子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

学部留学生の日本語力伸長を目指す。特に、口頭能力の育成を中心に行う。「表現を考える」「練習する」「実践する」「まとめる」「振り返る」を繰り返しながら、日本語で話す力を伸ばしていきたい。

2. 学びの意義と目標

自分ならどのように表現するかを考え、さらに日本語母語話者がどのように表現しているかを観察することで、自分の日本語を見つめ直し、どのような日本語学習が必要であるかを自ら考えられるようになることが目標である。

受講生に対する要望

遅刻や欠席すると、授業に付いていけなくなることを覚えておいてほしい。また、積極的に参加してもらいたい。

キーワード

(1)話す (2)書く (3)まとめる (4)インタビューする (5)報告する

事前学習（予習）

発表のための準備は、それぞれ自宅で行ってほしい。

復習についての指示

インタビュー等終了後には、レポートの提出を求める。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 見たことを報告する
3. 聞いたことを報告する
4. 課題1 準備 練習
5. 課題1 インタビュー1
6. 課題1 報告書の作成
7. 課題1 報告会 課題2 準備 練習
8. 課題2 インタビュー2
9. 課題2 報告書の作成
10. 課題2 報告会
11. 課題3 プロジェクトの構想を練る 原稿作成
12. 課題3 原稿作成 予行練習
13. 課題3 プロジェクトの実施
14. 課題3 報告書の作成
15. 課題3 発表会

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:25% (2)提出物:25% (3)発表:25% (4)授業参加態度:25%

担当者：内藤 みち、船山 久美

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

大学の授業で必要とされる基本的な文章表現を学ぶ。自分の考えを論理的な文章で他者に明確に伝えられるような能力を養成するために授業では以下のことを行う。① 発想力・論理的思考能力養成のためのタスクにより、自分の書きたいことを発見する。② 文章表現のポイントについて学ぶ。③ あるトピックについて自分の考えをまとめて書き、他者の書いたものを読む。④ 書いたものに対してフィードバックする。

2. 学びの意義と目標

留学生が大学での勉強・研究生活に必要なレポート・論文の書き方を学ぶことがこの授業の目的である。具体的には以下の能力により、他者に自分の考えを文章で伝えられるようになることである。① 自分の考えを論理的に説明できるようになる。② 自分の考えをわかりやすく伝えられるようになる。③ 自分の視点・立場を持って文章を書けるようになる。

受講生に対する要望

書くことは決して苦しいことではない。「考える習慣」をつけ、書くことを楽しんでほしい。

キーワード

(1) 文の文法 (2) 論理的思考力 (3) 文章表現力 (4) 読解力 (5) 発想力

事前学習 (予習)

クイズを行うので授業計画で指定された箇所の練習問題を予習してくること。

復習についての指示

授業で課題とした作文を書き、提出することを宿題とする。次の授業でフィードバックするので必ず書いて提出すること。

授業計画

1. ガイダンス 授業の目的と概要の説明 課題作文
2. 作文の基本 (1)
3. 作文の基本 (2)
4. 作文の基本 (3)
5. 作文の基本 (5)
6. まとめ
7. 中間試験
8. テーマを述べる
9. 状況を説明する
10. 意見を述べる (1)
11. 意見を述べる (2)
12. 問題点を述べる
13. 解決策を述べる
14. まとめ
15. 期末試験

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) クイズと課題:35% (2) 試験:50% (3) 平常点:15%

欠席が3分の1を超える場合、単位は与えられない。出席が3分の2以上あっても成績不良により不合格になる場合もある

担当者：内藤 みち、船山 久美

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

日本語 2 (文章表現A) に続き本格的な文章表現を学び、大学で必要とされるレポートを書く能力を養成するために授業では以下のことを行う。① 自分の書きたいことを論理的に書けるようになるための文章表現のルールを学ぶ。② 与えられたテーマについて資料を使いながら短いレポートを書く。③ 自分でテーマを選び、レポートを書く。④ 他者の書いたものを読み、コメントをする。⑤ 自分の書いたレポートのフィードバックを受けて書き直す。

2. 学びの意義と目標

留学生が大学での勉学・研究生活に必要なレポート・論文の書き方を学ぶことがこの授業の目的である。具体的には以下の能力により、他者に自分の考えを文章で伝えられるようになることである。① アカデミックなレポートを書くための文体、表現、構成について学ぶ。② データや文献を引用して自分の考えをサポートできるようになる。③ 自分の視点・立場を持ってレポートを書けるようになる。④ 他者の書いたものを読み、コメントできるようになる。

受講生に対する要望

問題意識を持って「考える習慣」をつけ、書くことを楽しんでほしい。

キーワード

(1) アカデミック・ジャパニーズ (2) 論理的思考力 (3) 文章表現力 (4) 読解力 (5) パラグラフ・ライティング

事前学習 (予習)

該当課のための準備を自宅で行うこと。

復習についての指示

授業で課題とした作文を書き、提出することを宿題とする。次の授業でフィードバックするので必ず書いて提出すること。

授業計画

1. ガイダンス 授業の目的と概要の説明 課題作文
2. レポートの基本 (1)
3. レポートの基本 (2)
4. テーマの提示
5. 目的の提示
6. テーマを考える
7. 情報を調べる
8. 中間発表
9. テーマを絞る
10. アウトラインを書く
11. パラグラフを書く
12. 本文を書く
13. 引用しながら書く
14. 下書き提出
15. フィードバック 最終レポートをオンライン提出

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1) 課題提出: 30% (2) レポート: 40%: 中間発表を含む (3) 出席: 20% (4) 平常点: 10%

欠席が3分の1を超える場合、単位は与えられない。出席が3分の2以上あっても成績不良により不合格になる場合もある。

担当者：内藤 みち

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

留学生が大学の授業を受ける上で必要とされる日本語の基礎力としての文法（N1レベル）の総復習を行う。N1レベルの文法教材を使用し、語彙・文型の導入に加え、数多くの練習問題を解きながらその定着をはかる。

2. 学びの意義と目標

大学で学ぶためのみならず学外の様々な活動においても、より多くの事柄を学び取れるようになるために、必須となる日本語の文法（N1レベル）の定着とその向上を目標とする。

受講生に対する要望

大学入学前に身につけているべき文法の総復習を行うことから、受講者の積極的な学習姿勢が必要である。課題以外に各自が行う予習復習は必須となる。

キーワード

(1) 日本語の基礎文法 (2) 日本語能力試験N1相当の文法力

事前学習（予習）

毎回、授業計画にある学習項目の文型予習クイズを行う。受講生は、各自教材の学習箇所にある文型の予習が必須となる。

復習についての指示

各学習項目の文型復習練習問題が課題となる。

授業計画

1. 授業概要、1課「時間関係」
2. 2課「範囲の始まり・限度」、3課「限定・非限定・付加」
3. 4課「例示」、5課「関連・無関係」
4. 6課「様子」、7課「付随行動」
5. 8課「逆接」、9課「条件」
6. 10課「逆接条件」、11課「目的・手段」
7. 総まとめ①／1課～11課
8. 中間試験
9. 12課「原因・理由」、13課「可能・不可能・禁止」
10. 14課「話題・評価の基準」、15課「比較対照」
11. 16課「結末・最終の状態」、17課「強調」
12. 18課「主張・断定」、19課「評価・感想」
13. 20課「心情・強制的思い」
14. 総まとめ②／12課～20課
15. 期末試験

教科書

友松 悦子, 福島 佐知, 中村 かおり 『新完全マスター文法 日本語能力試験N1』（スリーエーネットワーク）

評価方法

(1) 中間試験：30% (2) 期末試験：30% (3) 予習クイズ：20% (4) クラスワーク：20%

担当者：太田 ミユキ

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

留学生が大学の授業を受ける上で必要とされる日本語の基礎力としての文法（N1レベル相当の文法）の総復習を行う。

2. 学びの意義と目標

日本の大学に入学し日本人と共に日本語で学ぶための基礎力となる文法（N1相当の文法）の定着をはかり、日本語能力試験N1合格およびN1相当の文法力を身につけることを目標とする。

受講生に対する要望

大学入学時に既に身につけているべき文法の総復習を行うことから、この授業を受講するには受講者の積極的な学習姿勢が必要とされる。授業内容の復習は勿論各自で行うことになるが、それ以上に「授業内容の予習」を各自行うことが必要となる。

キーワード

(1) 基礎力としての文法 (2) 日本語能力試験N1相当の文法力

事前学習（予習）

学習項目の文型予習クイズを行う。⇒ 授業計画にある教材の学習箇所にある文型を予習してくること。

復習についての指示

学習項目の文型復習練習問題が課題となる。また、学習した文型を使って学期中に4回、短作文を作成し提出する。

授業計画

1. 「授業概要」と「動詞の意味1」
2. 「動詞の意味2」
3. 「古い言葉を使った言い方」
4. 「もの・こと・ところを使った言い方」
5. 「2つの言葉を組みにする言い方」
6. 「助詞・複合助詞」
7. 「文の組み立て1・2」
8. 中間試験・「文の組み立て3」
9. 「視点を動かさない手段-1 動詞・自・他動詞」
10. 「視点を動かさない手段-3 受身・使役・使役受身」
11. 「視点を動かさない手段-4 てあげる・てもらう・てくれる」
12. 「指示表現『こ・そ・あ』の使い分け」
13. 「『は・が』の使い分け」
14. 接続表現
15. 試験とその解説

教科書

友松悦子 福島佐知 中村かおり 『新完全マスター文法 日本語能力試験N1』（スリーエーネットワーク）

評価方法

- (1) 出席:10% (2) 予習クイズ:20% (3) 中間試験:30% (4) 期末試験:30% (5) 宿題:10%

欠席が3分の1を超える場合、単位は与えられない。

担当者：棚橋 明美

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 内容いろいろな短編小説を通して、日本語の語彙力を高めるとともに文法の多様性を学ぶ。さらに自律学習に向けてのストラテジーの育成を図る。またこの授業では、視聴覚教材を通して作品の時代背景や作者の素顔なども学習していく。各自語彙リストを作成し、読んだ後には読書ノートを記録する。授業内容は、学生の日本語レベルに応じて変更することがある。2. カリキュラム上の位置付け外国人留学生のための日本語授業である。授業内容は、専門的ではなく基本的な内容を扱う。しかし日本語2レベル履修後でないと受講が難しい。

2. 学びの意義と目標

学びの意義と目標留学生が日本人と共に学ぶために必要な日本語力の向上を学習目標とする。日本語の語彙力を培い、日本語文法の多様性に気づき、背景と内容を正しく理解し、日本の小説を楽しむレベルに至ってほしい。

受講生に対する要望

授業内容は、専門的ではなく基本的な内容を扱うが、日本語2レベル履修後でないと受講が難しい。遅刻・欠席をしないこと。授業中はディスカッションなども行うので受身でなく積極的に授業に参加し発言してほしい。

キーワード

(1) 短編小説 (2) 読解ストラテジー (3) 語彙力 (4) 文法の多様性

事前学習（予習）

1つの課題を2～3週かけて取り扱うので、必ず言葉などの予習を行ってから授業に臨むこと。

復習についての指示

読書ノートを提出すること

授業計画

1. ガイダンス・自己紹介、掌編小説（阿刀田高）①
2. 掌編小説（阿刀田高）②
3. 掌編小説（阿刀田高）③ジグソーリーディング
4. 「来訪者」阿刀田高著（予測しながらの読解とディスカッション）
5. 「来訪者」阿刀田高著（予測しながらの読解とディスカッション）
6. 「来訪者」阿刀田高著（予測しながらの読解とディスカッション）
7. 「来訪者」阿刀田高著（予測しながらの読解とディスカッション）
8. 中間テスト
9. 「高瀬舟」森鷗外著（背景理解・読解）
10. 「高瀬舟」森鷗外著（読解）
11. 「高瀬舟」森鷗外著（読解とDVD視聴、ディスカッション）

12. 短編小説①（読解）
13. 短編小説②（読解）
14. 短編小説③（読解とDVD視聴）
15. 期末テスト、まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 中間試験:25% (2) 期末試験:25% (3) 課題（最終・読書ノート・語彙リスト）:20% (4) 出席点:20% (5) 平常点（授業参加度など）:10%

日本語 3 (小説で学ぶ) B

WLAG-0-165

担当者：棚橋 明美

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この授業では、小説を素材にした日本語の読解を行う。本学ではどの学部学科でも、小説が課題図書にあげられることが多く、留学生も日本語の小説を読まなければならない。しかし、小説には特有の文体や文法、表現があり、留学生には読解が難しい。このため、留学生がこれまで学習した実用的な日本語とは違う、小説の特殊な文体、文法、表現を把握し、小説の内容が理解できるようにする。また、読解の副産物として、漢字を学習し、語彙力を高める。

2. 学びの意義と目標

・小説特有の文体や文法、表現を知り、ほかのジャンルと違うことを理解すること。
・小説が読めるようになること。
・漢字力を高めること。
・語彙力を高めること。

受講生に対する要望

外国人留学生のための日本語授業である。日本語2レベル履修後でないと受講が難しい。

キーワード

(1) 日本語 (2) 文体 (3) 文法 (4) 漢字 (5) 語彙

事前学習（予習）

漢字、語彙を十分に予習して来ること。

復習についての指示

予習テストで間違えた、またはわからなかった漢字、語彙を復習してテストに備えること。

授業計画

1. 自己紹介と授業ガイダンス
2. 小説読解
3. 小説読解
4. 小説読解
5. 小説読解
6. 小説読解
7. 小説読解
8. 中間テストと解説、復習
9. 小説読解
10. 小説読解
11. 小説読解
12. 小説読解
13. 小説読解
14. 小説読解
15. 期末テストと解説、復習

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 漢字・語彙予習テスト:25% (2) 中間・期末試験:40% (3) 授業内課題(13回):25% (4) 授業態度・貢献度:10%

遅刻をすると予習テストが受けられず、その分、成績が悪くなる。また、内容理解を深めるため、ディスカッションも行うが、その際の積極的な発言や、他者の意見への傾聴も評価の対象となる。

担当者：岡村 佳代

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義は、日本語を母語としない留学生の日本語による自己表現力の育成、向上を支援するものである。春学期は、新聞への投稿、エッセイ、小論文を書くことを通して、多様な表現形態を学ぶ。これらの作品を可能な限り外部へ投稿することで自己の意見を発信していくことを目指す。

2. 学びの意義と目標

本学における留学生対象の日本語科目では、最高位のレベルにあるクラスなので、アカデミックな文語体表現で自己表現ができることを目標とする。また、日本文化や日本語での表現形式を学びながら、日本語で表現することの楽しさを感じてもらいたい。

受講生に対する要望

文章表現力とディスカッション能力を伸ばすことに意欲と熱意のある学生の履修が望ましい。

キーワード

(1)自己表現力 (2)アカデミックな文語体表現 (3)コミュニケーション能力

事前学習（予習）

エッセイや小論文鑑賞時は、授業前に読んでくこと。

復習についての指示

創作活動の過程における推敲・仕上げ、発表の練習などは宿題となる。課題の期日を守らないと、授業時にクラス全体の迷惑になるので、責任を持った取り組みが大切である。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 新聞の投稿（1） 投書欄を読む、記事を書く準備
3. 新聞の投稿（2） 投稿記事を書く
4. エッセイ（1） エッセイを読む、エッセイを書く準備
5. エッセイ（2） エッセイを書く
6. エッセイ（3） エッセイを読みあう、感想会
7. 小論文（1） コンテスト入賞作品を読む
8. 小論文（2） テーマの検討
9. 小論文（3） テーマに関するインターネット資料検索
10. 小論文（4） 図書館学習 テーマに関する文献資料の検索
11. 小論文（5） アウトラインの作成、発表
12. 小論文（6） 執筆、ピアリーディング・訂正
13. 小論文（7） 執筆、ピアリーディング・訂正
14. 小論文（8） 仕上げる
15. 小論文口頭発表会・まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)創作作品:50% (2)平常点:20% (3)出席率:30%

学期中の欠席率が15回授業の1/3を超えた場合、学期末評価の対象としない。

日本語 3 (創作で学ぶ) B

WLAG-0-171

担当者：岡村 佳代

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義は、日本語を母語としない留学生の日本語による自己表現力の育成、向上を支援するものである。秋学期は、様々な文学的作品を鑑賞し、創作を試みる。作品は可能な限り外部へ投稿し、コンテスト参加も奨励される。

2. 学びの意義と目標

本学における留学生対象の日本語科目では、最高位のレベルにあるクラスなので、様々な形態の文学作品鑑賞と自身の創作活動を通し、自己表現力を高めることを目標とする。また、それらの作品を味わうこと、自ら創作することの楽しさを感じてもらいたい。

受講生に対する要望

創作への意欲と熱意のある学生の履修が望ましい。

キーワード

(1) 自己表現実践 (2) 文芸創作活動 (3) 文学作品鑑賞

事前学習（予習）

鑑賞する文学作品の内容理解や、創作のためのアイデアなどは予習となることがある。

復習についての指示

創作活動の過程における推敲・仕上げ、発表の練習などは宿題となる。課題の期日を守らないと、授業時にクラス全体の迷惑になるので、責任を持った取り組みが大切である。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 詩歌（1） 短歌を読む、つくる
3. 詩歌（2） 俳句・川柳を読む、つくる
4. 詩歌（3） 詩を読む、つくる
5. スピーチ（1） スピーチコンテストを視聴する
6. スピーチ（2） スピーチ原稿を書く
7. スピーチ（3） スピーチ原稿推敲、発表練習
8. スピーチ（4） クラス内スピーチ発表会
9. 掌編小説（1） 掌編小説を読む
10. 掌編小説（2） 掌編小説のアイデアを練る
11. 掌編小説（3） 執筆、ピアリーディング・訂正
12. 掌編小説（4） 執筆、ピアリーディング・訂正
13. 掌編小説（5） 創作した掌編小説の読書会
14. 作品発表会
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 創作作品：50% (2) 平常点：20% (3) 出席率：30%

学期中の欠席率が15回授業の1/3を超えた場合、学期末評価の対象としない。

担当者：太田 ミユキ

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この授業では、「多文化とは何か」「多文化共生とは何か」を留学生だけでなく、日本人学生をも交えたグループで互いに意見を交換し合いながら、思考したものを口頭で表現する。また、各自が関心を持つ多文化社会の実例を調べて発表する。

2. 学びの意義と目標

相互理解を進めるためのコミュニケーションとは何かを体験から学び、思考力と表現力の伸長をめざす。また、社会を構成する一員としての見識を広げ日本社会とのかかわりの可能性を探る。

受講生に対する要望

ディスカッションのための資料を配布するので、ディスカッションの前に熟読しておくこと。また、黙って座っているのではなく、積極的に意見を口にしてもらいたい。また、授業以外の時間も使い調査や資料のまとめを行ってほしい。

キーワード

(1) 多文化共生 (2) 相互理解 (3) ディスカッション (4) コミュニケーション

事前学習（予習）

グループディスカッション及び発表準備、レポート準備には、各自事前準備が必要になる。

復習についての指示

毎回授業終了後に短いクラスレポートの提出を必須とする。

授業計画

1. オリエンテーション・ミニスピーチ
2. 図書館ツアー
3. アイデアゲーム
4. あなたにとって日本の社会とは
5. スピーチ視聴・コメント
6. ディスカッション
7. ディスカッション
8. 調査のテーマ探し、テーマ決定
9. 資料探し
10. 資料まとめ・構成・レジュメ
11. 発表
12. ディスカッション
13. ディスカッション
14. 振り返り・発表内容の修正
15. レポート作成

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 出席点:20% (2) ディスカッション貢献度:20% (3) 提出物（振り返りシート・原稿・レジュメ）:20% (4) 発表:20% (5) 最終レポート:20%

担当者：川口 さち子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

＜内容＞ 留学生が大学の授業において口頭発表・討論を行う力を養成する。内容としては、資料の集め方、アンケートなどの調査の仕方、データ分析とまとめ方、レジュメの作り方、発表や討論の仕方などを学びながら、最終的には、自分の関心のあるテーマについての調査結果を発表し、それをレポートにまとめて提出する。

2. 学びの意義と目標

自分でテーマを探し、適切な調査が行える。調べたことを取捨選択して、レジュメにまとめられる。聞き手に理解してもらえる発表が工夫できる。討論に参加できる。発表における聞き手の重要性を知り役割を果たす。

受講生に対する要望

アンケートやインタビューのテーマ設定をしっかりとすること

キーワード

(1) プレゼンテーション (2) アンケート (インタビュー) (3) 分析 (4) レジュメ (5) 発表

事前学習 (予習)

授業時間以外に、自主的に調査や発表の準備をする必要がある。その途中経過を小発表し、説明用のシートなどを作成する必要がある。

復習についての指示

授業内で注意された課題は必ずもう1度再調査すること。

授業計画

1. 授業説明、自己紹介と関心事について[小発表]
2. 調査計画について[小発表]
3. 調査の基本 (アンケート、インタビュー)、発表構成検討
4. アウトラインについて[小発表]
5. アンケートやインタビューの仕方 調査シート作成準備
6. 調査シートについて[小発表と検討]
7. 調査シート完成
8. 図表の説明の仕方
9. 資料のまとめ方
10. 発表の仕方、質問の仕方と答え方、討論の仕方
11. レジュメの作り方、発音練習
12. 最終発表1 司会と発表
13. 最終発表2 司会と発表
14. 最終発表3 司会と発表
15. まとめ、課題提出

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 発表:40% (2) レポート:20% (3) 課題提出:20% (4) 出席:20%

日本語 3 (ドラマで学ぶ) A

WLAG-0-168

担当者：内藤 みち

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

日本語での会話からなるドラマおよび邦画から、上級・趙上級レベルの文型・語彙や日本的表現・音変化などを習得する。またそれらの視聴覚教材にある日本社会やその背景にある事柄に触れ、それらを学ぶ。

2. 学びの意義と目標

学生のための日本語授業である。大学の講義を聴く力をつけつつ、日本人とスムーズなコミュニケーションを行うために必要な表現を学び、使えるようにする。

受講生に対する要望

ディクテーションおよび語彙や文型の予習・復習等々、個々人の積極的な授業への参加が不可欠となる。

キーワード

(1) 日本語 3 レベル (2) 音声言語理解 (3) ドラマ・邦画 (4) 語彙・文型・表現 (5) 日本社会

事前学習 (予習)

新出語彙・文型の予習をする。教材内容に扱われるキーワードを必要に応じて調べてくる。

復習についての指示

新出語彙・文型・漢字の復習練習問題またはクイズが実施される。必要に応じて解答をディスカッション形式で行い、それらの定着を高める。キーワードに関して調査を行うこともある。

授業計画

1. 授業概要、ニーズ分析・アンケート、視聴覚教材①の語彙・文型導入
2. 視聴覚教材①視聴後内容についてのディスカッション
3. 視聴覚教材①のディクテーション、語彙・文型の復習練習問題および解答
4. 視聴覚教材①のディクテーション、語彙・文型の復習練習問題および解答
5. 視聴覚教材①の復習試験、視聴覚教材②の語彙・文型導入
6. 視聴覚教材②視聴後内容についてのディスカッション
7. 視聴覚教材②のディクテーション、語彙・文型の復習練習問題および解答
8. 視聴覚教材②のディクテーション、語彙・文型の復習練習問題および解答
9. 視聴覚教材②のディクテーション、語彙・文型の復習練習問題および解答
10. 視聴覚教材②のディクテーション、語彙・文型の復習練習問題および解答
11. 視聴覚教材②の復習試験、視聴覚教材③の語彙・文型導入
12. 視聴覚教材③のディクテーション、語彙・文型の復習練習問題および解答
13. 視聴覚教材③のディクテーション、語彙・文型の復習練習問題および解答
14. 視聴覚教材③のディクテーション、語彙・文型の復習練習問題および解答
15. 視聴覚教材③のディクテーション、語彙・文型の復習練習問題および解答

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 試験:60% (2) クイズ:30% (3) クラスワーク等:10%

担当者：内藤 みち

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

日本語での会話からなるドラマおよび邦画から、上級・趙上級レベルの文型・語彙や日本的表現・音変化などを習得する。またそれらの視聴覚教材にある日本社会やその背景にある事柄に触れ、それらを学ぶ。

2. 学びの意義と目標

学生のための日本語授業である。大学の講義を聴く力をつけつつ、日本人とスムーズなコミュニケーションを行うために必要な表現を学び、使えるようにする。

受講生に対する要望

ディクテーションおよび語彙や文型の予習・復習等々、個々人の積極的な授業への参加が不可欠となる。

キーワード

(1) 日本語 3 レベル (2) 音声言語理解 (3) ドラマ・邦画 (4) 語彙・文型・表現 (5) 日本社会

事前学習 (予習)

新出語彙・文型の予習をする。教材内容に扱われるキーワードを必要に応じて調べてくる。

復習についての指示

新出語彙・文型・漢字の復習練習問題またはクイズが実施される。必要に応じて解答をディスカッション形式で行い、それらの定着を高める。キーワードに関して調査を行うこともある。

授業計画

1. 授業概要、ニーズ分析・アンケート、視聴覚教材①の語彙・文型導入
2. 視聴覚教材①視聴後内容についてのディスカッション
3. 視聴覚教材①のディクテーション、語彙・文型の復習練習問題および解答
4. 視聴覚教材①のディクテーション、語彙・文型の復習練習問題および解答
5. 視聴覚教材①の復習試験、視聴覚教材②の語彙・文型導入
6. 視聴覚教材②視聴後内容についてのディスカッション
7. 視聴覚教材②のディクテーション、語彙・文型の復習練習問題および解答
8. 視聴覚教材②のディクテーション、語彙・文型の復習練習問題および解答
9. 視聴覚教材②のディクテーション、語彙・文型の復習練習問題および解答
10. 視聴覚教材②のディクテーション、語彙・文型の復習練習問題および解答
11. 視聴覚教材②の復習試験、視聴覚教材③の語彙・文型導入
12. 視聴覚教材③のディクテーション、語彙・文型の復習練習問題および解答
13. 視聴覚教材③のディクテーション、語彙・文型の復習練習問題および解答
14. 視聴覚教材③のディクテーション、語彙・文型の復習練習問題および解答
15. 視聴覚教材③のディクテーション、語彙・文型の復習練習問題および解答

教科書

瀬川 由美、宮崎 道子 『BJTビジネス日本語能力テスト 読解実力養成問題集』 (スリーエーネットワーク) 瀬川 由美、植松 真由美、北村 貞幸、宮崎 道子 『BJTビジネス日本語能力テスト 聴解・聴読解実力養成問題集』 (スリーエーネットワーク)

評価方法

- (1) 試験:60% (2) クイズ:30% (3) クラスワーク等:10%

日本語 3 (ニュースで学ぶ) A

WLAG-0-166

担当者：船山 久美

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

日本語のテレビや動画のニュースや新聞記事などを通して時事問題を理解し、上級の語彙は表現を習得し、の解読ができるようになることを目指す。授業では①新聞記事の解読と話し合い、②ニュースの解読と話し合いを行う。日本語 3 (ニュースで学ぶ) Aでは教師が選んだ新聞やニュースを解読し、語彙や表現の理解と習得に重点を置く。

2. 学びの意義と目標

留学生が大学での研究・学習生活に支障のない日本語でのメディア解読能力を身につけ、日本社会に参加できるようになることがこの授業の目的である。

受講生に対する要望

今、日本や世界で何が起こっているのかに興味を持ち、新聞やニュースを見て授業に備えるようにしてほしい。

キーワード

(1)新聞、ニュース (2)時事問題 (3)語彙 (4)聴解 (5)読解

事前学習 (予習)

事前に配布したプリントや語彙リストを予習してくること。

復習についての指示

授業で学んだ教材の聞き取り、穴埋め、語彙クイズを行う。

授業計画

1. オリエンテーション レベルチェック
2. 新聞の基礎知識
3. 地震
4. 異常気象
5. 事故
6. 科学技術
7. まとめ
8. 中間試験
9. 調査
10. トラブル
11. 裁判
12. 経済
13. 金融
14. 国際関係
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)クイズ:15% (2)提出物:15% (3)試験:40% (4)平常点:30%

※欠席が3分の1を超える場合、単位は与えられない。出席が3分の2以上あっても成績不良により不合格になる場合もある。

担当者：船山 久美

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

日本語のテレビや動画のニュースや新聞記事などを通して時事問題を理解し、上級の語彙の習得し、メディアが批判的に解読ができるようになることを目指す。日本語 3 (ニュースで学ぶ) Bでは学生自らニュースを選んで分析し、発信する能力の養成に重点を置く。①課題 1 は自分が関心を持つ新聞記事を選び、クラスで発表して話し合い、その後レポートを書く。①課題2は動画ニュースを選び、クラスで発表して話し合い、その後レポートを書く。

2. 学びの意義と目標

留学生が大学での研究・学習生活に支障のない日本語のメディア解読能力を身につけ、日本社会に参加できるようになることがこの授業の目的である。

受講生に対する要望

日頃から新聞やニュースを見てほしい。新聞やニュースが伝えていることを鵜呑みにするのではなく、批判的に解読できるようになってほしい。

キーワード

(1)新聞やニュース (2)時事問題 (3)メディア・リテラシー (4)文章表現力 (5)読解力

事前学習 (予習)

授業中に指示された課題の準備をすること。授業中に使用するので必ず書いてきてください。

復習についての指示

授業の感想やコメントをオンラインレポートで提出すること。

授業計画

1. オリエンテーション レベルチェック
2. メディア・リテラシーとは何か
3. ニュースとは何か
4. 新聞記事の種類・比較
5. ニュースの価値を考える
6. 新聞記事を読んで考える
7. 課題 1 の発表とフィードバック①
8. 課題 1 の発表とフィードバック②
9. 動画ニュースの選び方
10. 動画ニュースを見て考える
11. 動画ニュースの分析の仕方
12. 課題 2 の発表とフィードバック①
13. 課題2の発表とフィードバック②
14. 課題2の発表とフィードバック③
15. 振り返り

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)課題 1 :25% (2)課題 2 :25% (3)提出物:20% (4)平常点:30%

※欠席が3分の1を超える場合、単位は与えられない。出席が3分の2以上あっても成績不良により不合格になる場合もある。

担当者：木原 郁子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

基本的な敬語を復習し、相手との関係（上下・親疎）やいろいろな場面において適切な待遇表現が選択できるように応用練習をする。具体的には、問い合わせや依頼などについて、口頭でのやりとりとメールの書き方を学ぶ。また、仕事や進学の面接場面での対応や、自己アピールの表現についても学習する。また、仕事のための日本語でのコミュニケーションも学ぶ。

2. 学びの意義と目標

日本語での会話をスムーズに運ぶためには、人間関係や場面を考慮して表現を選ばなければならない。本講義では、そのような日本語での潤滑なコミュニケーションのための表現を学び、様々な場面において実際に応用できるようになることを目標とする。

受講生に対する要望

自ら考える姿勢を持ち、授業に真剣に取り組んでほしい。遅刻・欠席をしないこと。

キーワード

(1)待遇表現 (2)コミュニケーション (3)人間関係（上下・親疎）
(4)敬語

事前学習（予習）

敬語・待遇表現の基本事項を予習すること。会話作成・メールを出すなどの宿題を課す。毎回何らかの自宅学習が必要である。

復習についての指示

敬語・待遇表現の学習事項を復習すること。会話作成・メールを出すなどの宿題を課す。毎回何らかの自宅学習が必要である。

授業計画

1. 講義ガイダンス、敬語と待遇表現について
2. 敬語のまとめ(1) 尊敬語・謙譲語
3. 敬語のまとめ(2) 丁寧語・お／ご
4. 日本の会社(1) ビデオ教材
5. 対面や電話での会話(1) 問い合わせる
6. メールを書く(1) 問い合わせる
7. 日本の会社(2) ビデオ教材
8. 中間テスト
9. 対面や電話での会話(2) 目上の人を誘う
10. 対面や電話での会話(3) 依頼する
11. メールを書く(2) 依頼する
12. 電話を受ける・伝言メモを書く
13. 日本の会社(3) ビデオ教材
14. 面接で(1) 自己分析・自己紹介
15. 面接で(2) 自己アピール文を書く

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)テスト:50% (2)授業中の発表と課題の提出:30% (3)平常点（出席、授業への参加度）:20%

* 欠席が3分の1以上となる場合単位は与えられない。

担当者：木原 郁子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

基本的な敬語を復習し、適切な待遇表現ができるように応用練習をする。電話会話や日本語メールの書き方、進学や会社面接での対応や、自己アピールの表現についても学習する。また、社会に出て仕事をするための日本語でのコミュニケーションを学ぶ。

2. 学びの意義と目標

本講義は、大学における日本語力を身につけた留学生のための、卒業後社会に出てからの日本語の使用に対応するものである。日本語での潤滑なコミュニケーションのための表現を学び、大学卒業後社会での様々な場面において、日本語を実際に応用できるようにすることを目標とする。

受講生に対する要望

自ら考える姿勢を持ち、授業に真剣に取り組んでほしい。遅刻・欠席をしないこと。

キーワード

(1)待遇表現 (2)コミュニケーション (3)人間関係 (上下・親疎)
(4)敬語

事前学習 (予習)

敬語・待遇表現の基本事項を予習すること。会話作成・メールを出すなどの宿題を課す。毎回何らかの自宅学習が必要である。

復習についての指示

敬語・待遇表現の学習事項を復習すること。会話作成・メールを出すなどの宿題を課す。毎回何らかの自宅学習が必要である。

授業計画

1. 講義ガイダンス、敬語と待遇表現について
2. 敬語・待遇表現の復習
3. 日本の会社 (1) ビデオ教材
4. 対面や電話での会話 (1) 感謝を伝える
5. メールを書く (1) 感謝を伝える
6. 日本の会社 (2) ビデオ教材
7. 日本の会社 (3) ビデオ教材
8. 中間テスト
9. 対面や電話での会話 (2) 謝る・申し出る
10. メールを書く (2) 謝る・申し出る
11. 日本の就活について
12. 面接で (1) 意見や考えの述べ方の基本
13. 面接で (2) 面接で意見や考えを述べる
14. 日本の会社 (4) ビデオ教材
15. 日本の会社 (5) ビデオ教材

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)テスト:50% (2)授業中の発表と課題の提出:30% (3)平常点 (出席率、授業への参加度):20%

* 欠席が3分の1以上となる場合単位は与えられない。

担当者：川野 一字

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

「少し改まった場で話をする際、どう話せばよいのか、そのためには何が必要なのか」を習得する。課題に対する素材の選び方、その素材の組み立て方、具体例は何か、表現は適切か、制限時間を守れたか（例3分）など、録音再生を随時使用しながら多角的に吟味し、演習で実践する。

2. 学びの意義と目標

この講座は、1年生必修の「基礎教育入門（話し方）」で、授業に対する姿勢、成績ともに良好な2年生以上を対象とするハイレベルの講座である。1年生で培った基礎をもとに、「一定時間内に、整理した形で話が出来、その内容を明確に聞き手に伝えられる応用力」を養うことを目標とする。

受講生に対する要望

与えられた課題について、準備を必ずしておくこと。話の素材を集め、どう組み立てるのが一番効果的か、時間内におさまるか、声に出して試してみたいうえで授業にのぞんでもらいたい。

キーワード

(1) 課題に沿った素材の選択 (2) 話をどう組み立てるか。 (3) 具体例は何か。 (4) 時間内にまとまるか。 (5) 日々の暮らしを掘り下げる。

事前学習（予習）

話す内容を事前にメモでまとめ、声に出して 時間を計るなどの下準備が必要であることは、受講者に対する要望で触れたとおりである。

復習についての指示

教室での実践で指摘された点を生かして、どうまとめるか、真摯に復習をしてもらいたい。合わせて、日々の自分の暮らしを点検して、話のテーマになりそうなことを探してみることも大切である。また自分をどうアピールできるかを、日ごろからメモで良い、まとめておくこと後々非常に役に立つ。

授業計画

1. オリエンテーション 改まった場での話
2. 自分を語る 内容と時間の感覚
3. 発音、発声の基礎 自分の声の特質を知る
4. 私の家族を語る 自分の家族について話す
5. 私の住んでいる町 今住んでいる町について話す
6. 話は具体的に 実例をあげる ある部分は細かく
7. 季節感を表現する 何によって季節を感じるか
8. 私の専攻科目（私の専門） 今学ぶ内容と将来の方向
9. 聞いて質問をする 自分の趣味について話し質問をし合う
10. 敬語の確認と実践 難しいのは謙譲語だ
11. 自分をアピールする 面接で聞かれること 1
12. 自分をアピールする 面接で聞かれること 2
13. 総合復習 課題スピーチに備える
14. 課題スピーチ 積み重ねた力を全開する
15. 課題スピーチ 予備と全体のまとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1) 講義ごとの実践:30% (2) 授業に対する姿勢:10% (3) 課題スピーチ:60%

課題スピーチを重く見るのは当然としても、毎回の講義での実践も重要である。出席だけではなく準備が十分にできていないようでは効果はほとんどないことを承知して欲しい。

話し方表現実践演習

COMM-0-301

担当者：幸田 儔朗

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この講義では新3年生を対象にして「就職活動に役立つ話し方」を学びます。経団連の調査では「新入社員の選考で最も重視した点」という問いに対し、「コミュニケーション能力」と答えた企業の割合が80%に上りました。社会が今、「話す力」「聞く力」のさらなる向上を求めていることがわかります。日本語は論理的に話すのには余り向いていないとも言われます。しかしグローバル化が進む今、国の内外で意見を交換し、新たな価値観を見出していくことが重要になっています。つまり、「自分の考えを的確に伝える」「相手の発言を聞く」そして、「自分の意見と相手の意見との違いを明確にし、問題解決のため両方で展望を模索する」能力です。対面で行う就職面接は企業がその能力を確かめる場と言えます。従って、この講義では「説得力ある話し方」や「面接」での受け答えのノウハウ、さらに、最近、就職試験の際、多くの企業が取り入れている「集団討論」のノウハウ、「小論文の書き方」、など、就職活動に直接役立つ言葉表現を実践形式で徹底的に学んでいきます。さらに、就職試験には必ず出題される「敬語」や「熟語」、更には「時事問題」などを通じて日本語力と常識の向上を図ります。

2. 学びの意義と目標

この講義は「就職対策」に特化した内容にはなっていますが、「分かりやすい話し方」など、広い意味で「オーラルコミュニケーション」の向上に役立つ講義です。さらには「ものの見方」「考え方」などの発想法、それを発表する時の分かりやすい論理展開など多くのヒントが多く含まれています。日本語による的確で分かりやすい音声言語表現は文系理系を問わずあらゆる分野の問題解決に不可欠のものです。一方で口頭で伝える音声言語は文字言語とは異なり、相互性や瞬発力が求められることからそれなりのトレーニングが必要です。この講義での学びの目標は、多様な学習方式を通して自分の考えや意見を他人に対して過不足なく口頭で伝えることのできると同時に、他人の話にきちんと耳を傾ける能力を身につけることです。それによって学生たちは自信を持って社会に臨める筈です。

受講生に対する要望

講義の中心は実践形式です。各自の発表をビデオで収録し、視聴点検をしますが、その際、講師が一方的に講評するのではなく、よかった点、改善点など、全員で一緒に考えながら進めていきます。従って、お互いに積極的な意見交換をお願いします。また、口頭での表現を段階を追いながら向上させてゆく講義の性格上、欠席は効果を半減させ、他の学生の迷惑にもなりますので無欠席をお願いします。

キーワード

(1)「話しことば」は「音のことば」である (2)自分の考えを持つ (3)整理して組み立てて話す (4)好印象なコミュニケーションをはかる (5)日本語力と社会的常識力を獲得する

事前学習（予習）

毎回、講義の最後に翌週の授業内容の概要を伝え、実践トレーニングは話す内容のタイトルを明示しますので、講義当日まで準備をしっかりと行ってください。

復習についての指示

毎回の授業の冒頭で前回の内容の復習をします。また、理解度によっては同じ内容を繰り返すこともあります。

授業計画

1. 説得力ある話し方のために ～情報の整理と組み立て～
2. 点検！自己紹介 ～各自の話し方を点検～
3. 模擬面接① ～自己PR～
4. 模擬面接② ～学生生活で得たもの～
5. 模擬面接③ ～志望理由～
6. 模擬面接④ ～社会的関心事～
7. 模擬面接⑤ ～セールスポイントとエントリーシート～
8. 小論文の書き方① ～文の構成と発想～
9. 小論文の書き方② ～要約と意見発表～
10. 集団討論① ～テーマ 「リーダーの条件」～
11. 集団討論② ～テーマ 「防災に必要なこと」～
12. ビブリオバトルで検証① ～読む・話す・聴く・話し合う～
13. ビブリオバトルで検証② ～読む・話す・聴く・話し合う～
14. ことば常識・敬語と慣用語 ～社会で必要な言葉遣い～
15. 時事問題など テストと対策 ～本番に臨むために～

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)スキルの理解度:30% (2)実践での評価:50% (3)取り組みの積極性:20%
話し方スキルの理解度、進歩度や毎回の授業参加の積極性を見て評価する。

担当者：内藤 みち

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

「ビジネス日本語能力テスト」に向けての授業となる。高いレベルの語彙・文型や敬語などの丁寧な表現以外にも、日本語での会議・商談・電話での対応などの様々なビジネスの場面において、語彙・文法力は十分にあるがビジネスの場での日本語話者と同等のコミュニケーション能力を主にビジネス日本語能力に関する問題を解くことにより身につける。

2. 学びの意義と目標

日本語を使用する社会において、日本語力以外の非言語的情報や常識等を通し、日本語を理解・運用し、日常の特にビジネス活動上の課題に対して適切に行動する能力を身につける。

受講生に対する要望

ビジネス日本語能力テストのJ1・J1+を目指すクラスであるので、日本語能力試験N1に合格している、もしくは、日本語能力がN1相当であることが強いのぞまれる。

キーワード

(1) ビジネス日本語能力テスト (2) ビジネス日本語能力J1、J1+
(3) 日本語で働く

事前学習（予習）

数多くのビジネス日本語能力テストに関連した問題を各自が事前に解いてくることが課せられる。授業では、特に難しい表現・文法・語彙についての解説等々が主になされるので、授業に向けての授業外学習が多くもとめられる。

復習についての指示

学習した表現・文型・語彙の定着に向けての練習問題等が課題となる。

授業計画

1. 授業概要、BJT実力試験
2. ビジネス日本語／漢字①、聴解①
3. ビジネス日本語／漢字②、聴解②
4. ビジネス日本語／漢字③、聴解③
5. ビジネス日本語／文法・語彙①
6. ビジネス日本語／文法・語彙②
7. ビジネス日本語／文法・語彙③
8. 中間試験
9. ビジネス日本語／読解①
10. ビジネス日本語／読解②
11. ビジネス日本語／読解③
12. ビジネス会話①、ビジネス文書①
13. ビジネス会話②、ビジネス文書②
14. ビジネス会話③、ビジネス文書③
15. 総まとめ

教科書

瀬川 由美、宮崎 道子 『BJTビジネス日本語能力テスト 読解実力養成問題集』（スリーエーネットワーク）瀬川 由美、植松 真由美、北村 貞幸、宮崎 道子 『BJTビジネス日本語能力テスト 聴解・聴読解実力養成問題集』（スリーエーネットワーク）

評価方法

(1) 中間試験：30% (2) 期末試験：30% (3) 課題への取り組み：20% (4) クラスワーク：20%

担当者：内藤 みち

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

「ビジネス日本語能力テスト」に向けての授業となる。高いレベルの語彙・文型や敬語などの丁寧な表現以外にも、日本語での会議・商談・電話での対応などの様々なビジネスの場面において、語彙・文法力は十分にあるがビジネスの場での日本語話者と同等のコミュニケーション能力を主にビジネス日本語能力に関する問題を解くことにより身につける。

2. 学びの意義と目標

日本語を使用する社会において、日本語力以外の非言語的情報や常識等を通し、日本語を理解・運用し、日常の特にビジネス活動上の課題に対して適切に行動する能力を身につける。

受講生に対する要望

ビジネス日本語能力テストのJ1・J1+を目指すクラスであるので、日本語能力試験N1に合格している、もしくは、日本語能力がN1相当であることが強いのぞまれる。

キーワード

(1) ビジネス日本語能力テスト (2) ビジネス日本語能力J1, J1+
(3) 日本語で働く

事前学習（予習）

数多くのビジネス日本語能力テストに関連した問題を各自が事前に解いてくることが課せられる。授業では、特に難しい表現・文法・語彙についての解説等々が主になされるので、授業に向けての授業外学習が多くもとめられる。

復習についての指示

学習した表現・文型・語彙の定着に向けての練習問題等が課題となる。

授業計画

1. 授業概要、BJT実力試験
2. ビジネス日本語／漢字①、聴解①
3. ビジネス日本語／漢字②、聴解②
4. ビジネス日本語／漢字③、聴解③
5. ビジネス日本語／文法・語彙①
6. ビジネス日本語／文法・語彙②
7. ビジネス日本語／文法・語彙③
8. 中間試験
9. ビジネス日本語／読解①
10. ビジネス日本語／読解②
11. ビジネス日本語／読解③
12. ビジネス会話①、ビジネス文書①
13. ビジネス会話②、ビジネス文書②
14. ビジネス会話③、ビジネス文書③
15. 総まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 中間試験:30% (2) 期末試験:30% (3) 課題への取り組み:20% (4) クラスワーク:20%

フランス語 I (初級 A)

WLAG-0-118

担当者：石田 明夫

開設期：春学期 必修・選択：選択科目/選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

フランス語を初めて学ぶ学生のための授業です。ですから、ABCから始めてじっくりと、なんども繰返して会話表現、基礎的な文法を教科書にそって学んでいきます。また、DVD付きの教材ですので、フランスの町や生活スケッチを見ることができます。時間の許すかぎり、フランスの音楽コンサートやミュージカルのDVDを用いたいと思っています。生きたフランス語に接し、フランスのさまざまな文化にも触れてもらいたいからです。

2. 学びの意義と目標

外国語を学ぶことの意義は論を待ちませんが、とりわけフランス語は、IOC(国際オリンピック委員会)の第1公用語であり、国際サッカー連盟の略語FIFA(Federation Internationale de Football Association)がフランス語からであることから、その重要性はつとに知られています。ですから、この授業でフランス語の基礎を学ぶことは、世界への窓をほんのわずかでも開けることです。そうすれば、多様な価値観に触れることができ、自己形成に、必ずや役立つと思います。

受講生に対する要望

簡単な言語というものはありません。どんな言語でも、ひとつひとつ覚えていかなければなりません。授業のペースはゆっくりですので、あわてず、丹念に覚えるとよいと思います。疑問に思ったら、フランス語学以外のことも含めて、なんでも質問してください。

キーワード

(1) フランス語 (2) フランス文化 (3) FIFA

事前学習 (予習)

予定の学習箇所を付属のCDとともに音読し、初出の語をノートに書き留めておくこと

復習についての指示

終了した学習箇所の、単語と表現を必ずなんとか音読すること宿題や小テストに対応すること

授業計画

1. 0課 ガイダンス ABC
2. 0課 簡単なあいさつ表現
3. 0課 フランスという国について
4. 1課 国籍を言う。動詞être(英語のbe動詞にあたる)の練習。
5. 1課 自己紹介の練習(職業・名前を言う)
6. 1課 会話文の反復練習
7. 1課 この課の復習(練習問題)
8. 2課 数字1から10までの練習、規則動詞について
9. 2課 否定文の練習
10. 2課 会話文の反復練習
11. 2課 この課の復習(練習問題)
12. 3課 動詞avoir(英語のhave動詞にあたる)の練習
13. 3課 家族、年齢を言う。数字20から60まで。
14. 3課 会話文の反復練習
15. 3課 この課の復習(練習問題)
16. 中間テスト
17. 4課 試験講評 冠詞と疑問詞について
18. 4課 「食べる」「飲む」の表現練習
19. 4課 会話文の反復練習
20. 4課 この課の復習(練習問題)
21. 5課 数字20から60までの練習、形容詞について
22. 5課 所有の表現(「私の」「君の」「彼の」など)
23. 5課 会話文の反復練習
24. 5課 この課の復習(練習問題)
25. 6課 動詞「行く」と「来る」の練習
26. 6課 疑問文の作り方について
27. 6課 会話文の反復練習
28. 6課 この課の復習(練習問題)
29. まとめ(予備日)
30. まとめ(予備日)

教科書

田辺保子ほか 『やさしいサリュ・・・サリュ! 簡略版・・・』
(駿河台出版社)

評価方法

(1) 平常点:30%:授業への参加度、授業態度など (2) 中間及び小テスト:30% (3) 学期末テスト:40%

フランス語 I (初級 A)

WLAG-0-118

担当者：小室 廉太

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目/選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この授業では、フランス語発音の基礎を学びながら、簡単な会話表現を学んでいきます。発音の規則を身につけてゆくと同時に、様々な動詞活用や文法項目を学んでもらいます。文法や動詞活用も口頭で発音することによって、音から覚えるようにしましょう。授業は皆さんの理解を確認しながら、ゆっくりと進めます。フランス語だけでなく、フランス文化や慣習についても随時紹介してゆくつもりです。楽しく、また活気のある授業にしてください。皆さんの積極的な授業参加を期待しています。

2. 学びの意義と目標

・積極的なコミュニケーションがとれるようになる。
・フランス語の発音の基礎が理解できるようになる。
・綴り字と発音の対応が分かるようになる。
・挨拶表現や簡単な質疑応答ができるようになる。
・自己紹介や他者紹介ができ、また理解できるようになる。
・日常の簡単なやりとりがフランス語でできるようになる。
・初級フランス語の文法が理解できるようになる。
・フランス文化についての理解が深まる。

受講生に対する要望

事前に授業で取りあげる課のディアローグをCDで聞いて、文章と発音の対応をよく確かめておいてください。また、各課で小テストを行う予定です。しっかり準備をしておいてください。

キーワード

(1) フランス語 (2) フランス文化 (3) 仏検 (4) 異文化理解 (5) 異文化コミュニケーション

事前学習（予習）

事前に授業で取りあげる課のディアローグをCDで聞いて、文章と発音の対応をよく確かめておいてください。

復習についての指示

各課で練習問題を宿題にしたり、小テストを行う予定です。しっかり準備をしてください。

授業計画

1. ガイダンス 自己紹介 簡単なあいさつ アルファベ
2. 0課 日本語になったフランス語
3. 0課 綴り字の読み方 フランスについて
4. 1課 ディアローグの発音練習 国籍、職業の表現 動詞 ?tre
5. 1課 名詞の性と数 名前の言い方
6. 1課 練習問題 応用問題 文化紹介
7. 2課 ディアローグの発音練習 第一群規則動詞
8. 2課 住んでいる場所、話せる言語、学んでいる学科をいう
9. 2課 否定表現 定冠詞
10. 2課 数1 - 10 練習問題 応用問題 文化紹介
11. 3課 ディアローグの発音練習 動詞 avoir
12. 3課 不定冠詞 家族、年齢、好みに関する表現
13. 3課 不定冠詞の否定形 練習問題 応用問題 文化紹介
14. 1課から3課までのまとめ その①
15. 1課から3課までのまとめ その②
16. 中間テスト
17. 4課 ディアローグの発音練習 様々な不規則動詞
18. 4課 部分冠詞 食べ物、飲み物に関する表現
19. 4課 「～がある」という表現 疑問文と様々な疑問詞
20. 4課 練習問題 応用問題 文化紹介
21. 5課 ディアローグの発音練習 形容詞の性と数
22. 5課 所有形容詞 指示代名詞
23. 5課 モノや人に関する質問とその描写
24. 5課 数20 - 60 練習問題 応用問題 文化紹介
25. 6課 ディアローグの発音練習 動詞 aller と venir
26. 6課 定冠詞の縮約 疑問文の3形式 人称代名詞の強勢形
27. 6課 「～に行く」 「～と来る」という表現 数60 - 100
28. 6課 練習問題 応用問題 文化紹介
29. 4課から6課までのまとめ その①
30. 4課から6課までのまとめ その②

教科書

田辺保子／中野久子／田口啓子／末永朱胤 『やさしいサリュ』
(駿河台出版社)

評価方法

(1) 定期テスト:70% 中間試験と期末試験の合計点 (2) 平常点:30%
% 授業参加態度、小テストや宿題の結果点

フランス語 I（初級 A）

WLAG-0-118

担当者：塩谷 祐人

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目/選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

フランス語をはじめて学ぶ学生のためのクラスです。フランス語の読み方や簡単な会話、文法の基礎を学習します。

2. 学びの意義と目標

新しい語学を身につけることは、それだけ入手できる情報量が増え、自分の世界を広げることにつながります。またフランス語を通じてフランスの文化に触れることで、多様な考え方や、多様なものの見方ができる国際的なセンスを身につけることも目標にしたいと思います。

受講生に対する要望

覚えることを面倒くさがらないこと。知識や能力を身につければ、自分の可能性が広がっていくということを忘れないこと。

キーワード

(1) フランス語 (2) コミュニケーション (3) 異文化理解 (4) 国際社会 (5) ヨーロッパ文化

事前学習（予習）

毎回、「次回の予定」を伝えるので、その項目に目を通しておくこと。ただし、予習よりも復習を大事にすること。

復習についての指示

単語や文法、会話表現を覚えてもらうために小テストを頻繁におこなう予定です。その小テストの準備が授業の復習になります。

授業計画

1. ガイダンス
2. フランス語であいさつ
3. フランス語で自己紹介（名前や職業の言い方）
4. 相手のことを聞く。（例：あなたは学生ですか？）
5. 住んでいる場所や勉強していることなどを言う
6. 数字を覚える
7. 否定文を使えるようにする
8. もっているものや、家族のことを話す
9. 好きな物、嫌いな物を話す
10. 年齢の聞き方、答え方
11. 文法の復習
12. 学習した表現の復習と応用①
13. 学習した表現の復習と応用②
14. 中間試験対策
15. 中間試験
16. 食べる、飲む
17. カフェでの会話、注文の仕方
18. 値段を聞く
19. 人や物を説明してみる
20. 誰？どんな？と聞いてみる
21. 「わたしの〇〇」「彼の〇〇」という言い方
22. 「〇〇へ行く」とフランス語で言ってみる
23. 「〇〇から来た」とフランス語で言ってみる
24. いろいろな疑問文
25. 文法の復習
26. 学習した表現の復習と応用③
27. 学習した表現の復習と応用④
28. 期末試験対策
29. まとめ
30. 学期末試験

教科書

田辺保子、中野久子、田口啓子、末長朱胤 『Salut, tout facile !（やさしいサリュースリュ！簡略版一）』（駿河台出版社）

評価方法

(1) 平常点:30%:授業への取り組みや意欲を評価します。(2) 中間試験、小テスト:30%:授業内に行う小テストと中間試験の合計点数により評価します。(3) 定期試験:40%:学期末におこなう試験の点数で評価します。

フランス語Ⅱ（初級B）

WLAG-0-119

担当者：石田 明夫

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目/選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

基礎のフランス語Iを復習しながら、内容をさらに発展させ、表現の幅を現在から、未来へと広げます。多種・多様な表現を身につけることにより、フランス語の完全な基礎作りを目指します。

付属のDVDはもちろん、いろいろなビデオを駆使して、フランス及びフランス文化の理解にも目を向けるつもりです。

2. 学びの意義と目標

外国語を学ぶことの意義は論を待ちませんが、とりわけフランス語は、IOC(国際オリンピック委員会)の第1公用語であり、国際サッカー連盟の略語FIFA(Fédération Internationale de Football Association)がフランス語からであることから、その重要性はつとに知られています。ですから、この授業でフランス語の基礎を発展させ、世界への窓をさらに開けることです。そうすれば、多様な価値観に触れることができ、自己形成に、必ずや役立つと思います。

受講生に対する要望

フランス語Iを終了していること。簡単な言語というものは存在しません。どんな言語でも、ひとつひとつ覚えていかなければなりません。授業のペースはゆっくりですので、あわてず、丹念に覚えるとよいと思います。疑問に思ったら、フランス語学以外のことも含めて、なんでも質問してください。

キーワード

(1) フランス語 (2) フランス文化 (3) FIFA

事前学習（予習）

授業の予定箇所を指示しますから、必ず、そこに目を通し、単語帳に初出の単語を書き出しておくこと。宿題や小テストに対応すること。

復習についての指示

宿題や小テスト内容をしっかりと確認すること。

授業計画

1. ガイダンス
2. フランス語I(6課まで)の復習
3. 7課 疑問詞について
4. 7課 時間をたずねる。
5. 7課 会話文の反復練習
6. 7課 この課の練習問題
7. 8課 頻度の高い動詞を習得する。
8. 8課 近い未来・近い過去の表現について
9. 8課 会話文の反復練習
10. 8課 この課の練習問題
11. 9課 特殊な動詞表現について
12. 9課 天候表現を学ぶ。
13. 9課 会話文の反復練習
14. 9課 この課の練習問題
15. 中間テスト
16. テスト返却と試験講評
17. 10課 命令形について
18. 10課 場所をたずねる。
19. 10課 会話文の反復練習
20. 10課 この課の練習問題
21. 11課 過去形(1)について
22. 11課 過去の表現を習得する。
23. 11課 会話文の反復練習
24. 11課 この課の練習問題
25. 12課 過去形(2)について
26. 12課 ささまざまな否定表現を学ぶ。
27. 12課 会話文の反復練習
28. 12課 この課の練習問題
29. まとめ(予備日)
30. まとめ(予備日)

教科書

田辺保子ほか 『やさしいサリュ・・・サリュ! 簡略版・・・』
(駿河台出版社)

評価方法

(1) 平常点:30%:授業への参加度、授業態度など (2) 中間試験及び小テスト:30% (3) 学期末テスト:40%

フランス語Ⅱ（初級B）

WLAG-0-119

担当者：小室 廉太

開設期：春学期 必修・選択：選択科目/選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

前期に引き続き、フランス語会話の基礎を学びます。今期は皆さんがフランスに旅行した時に使える表現を学んでいきます。具体的には時刻や買い物に関する表現などを学びます。授業は皆さんの理解を確認しながら、ゆっくりと進めます。フランス語だけでなく、フランス文化や慣習についても随時紹介してゆくつもりです。楽しく、また活気のある授業にしてゆきたいので、皆さんの積極的な授業参加を期待しています。なお、フランス語Ⅱでは、フランス語Ⅰまでとは担当講師や教科書の違いあり、授業進行が異なってきます。詳しくは初回の授業（ガイダンス）の時に説明しますので、必ず出席してください。

2. 学びの意義と目標

・積極的なコミュニケーションがとれるようになる。・旅行で困らない程度の、現在形を用いた日常フランス語会話ができるようになる。・過去表現や未来表現をフランス語で言えるようになる。・フランス文化についての理解が深まる。

受講生に対する要望

フランス語Ⅰの内容を復習しておいてください。また、授業で取りあげる課のディアローグをCDで聞いて、文章と発音の対応をよく確かめておいてください。各課の練習問題を宿題にしたり、動詞活用や単語に関する小テストを行う予定ですので、しっかりと復習をしてください。

キーワード

(1) フランス語 (2) フランス文化 (3) 仏検 (4) 異文化理解 (5) 異文化コミュニケーション

事前学習（予習）

事前に授業で取りあげる課のディアローグをCDで聞いて、文章と発音の対応をよく確かめておいてください。

復習についての指示

各課の練習問題を宿題にしたり、動詞活用や単語に関する小テストを行う予定です。

授業計画

1. ガイダンス / 自己紹介 / 第1課から第6課の復習①
2. 第1課から第6課の復習②
3. 第7課 ディアローグの発音と意味の確認
4. 第7課 「来る」を表す動詞 venir と由来を示す前置詞 de
5. 第7課 「行く」を表す動詞 aller と場所を示す中性代名詞 y
6. 第8課 ディアローグの発音と意味の確認
7. 第8課 注文の表現①：注文を表す動詞 prendre と部分冠詞
8. 第8課 注文の表現②：願望を表す動詞 vouloir
9. 第9課 ディアローグの発音と意味の確認
10. 第9課 さまざまな買物表現
11. 第9課 大きさの比較（比較級と最上級）
12. 第10課 ディアローグの発音と意味の確認
13. 第10課 日常生活の会話① 自分を目的語とした表現
14. 第10課 日常生活の会話② 時間の尋ね方とその応答
15. 第10課 命令文
16. 第7課から第10課のまとめ
17. 中間試験
18. 第11課 ディアローグの発音と意味の確認
19. 第11課 動詞 avoir を用いた過去（複合過去①）
20. 第11課 動詞 être を用いた過去（複合過去②）
21. 第11課 複合過去の否定形と理由を表す表現
22. 第11課 複合過去のまとめ
23. 第12課 ディアローグの発音と意味の確認
24. 第12課 過去の状態を表す表現（半過去①）
25. 第12課 半過去と複合過去との使い分け（半過去②）
26. 第13課 ディアローグの発音と意味の確認
27. 第13課 未来の表現①（近接未来）
28. 第13課 未来の表現②（単純未来）
29. まとめと期末試験対策①
30. まとめと期末試験対策②

教科書

大滝宗定／阪口勝弘 『トゥ・ファシル！』（白水社）

評価方法

- (1) 定期試験：70%： 中間試験と期末試験の合計点 (2) 平常点：30%： 授業参加態度、小テストや宿題の結果点

フランス語Ⅱ（初級B）

WLAG-0-119

担当者：塩谷 祐人

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目/選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

大学教育の前提の基礎となる思考方法や知的技術力をつける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

フランス語Ⅰを終えた学生を対象にしたクラスです。フランス語Ⅰで学んだことを土台にして、さらにフランス語の基礎を続けて学んでいきます。

2. 学びの意義と目標

フランス語Ⅰに続いて、初級レベルのフランス語を終えることを目標にします。フランス語Ⅱまで習得すれば、フランス語の基礎が一通り理解でき、新しい道具としてフランス語を使い、いろいろな情報や楽しみを得る能力が身につくことでしょう。

受講生に対する要望

わからないところは、早めに解決しひとつひとつ積み重ねていくこと。

キーワード

(1) フランス語 (2) フランス文化 (3) ヨーロッパ文化 (4) 異文化理解 (5) 異文化コミュニケーション

事前学習（予習）

授業では毎回、「次回の予定」を伝えるので、その項目に目を通しておくこと。ただし復習の方に重点をおいて学習することを勧めます。

復習についての指示

単語や文法、会話表現を覚えてもらうために小テストを頻繁におこなう予定です。その小テストの準備が授業の復習になります。

授業計画

1. ガイダンス
2. フランス語Ⅰの復習①
3. フランス語Ⅰの復習②
4. 時間の言い方、聞き方
5. 欲しい物を言う
6. レストランで注文する／〇〇を1つ・2つ・3つください
7. 近い未来、近い過去について言う
8. したいこと、できることを言う
9. ものを比較する
10. 「これ」や「あれ」を使った会話
11. 物や人の代わりに代名詞を使ってみる
12. 日常生活をフランス語で話してみる（起きる、寝るなど）
13. 天気について言う
14. 〇〇してください／〇〇しろ／〇〇しましょう
15. 中間試験
16. 場所の説明、道順を聞く
17. 「昨日、〇〇しました」と過去の話をしてみる
18. 「昨日、〇〇に行きました」と過去の話をしてみる
19. 「〇〇しませんでした」「どうして？」という言い方
20. 「〇〇していました」と過去の習慣を言ってみる
21. 「映画が始まったとき、彼は寝ていた」という2種類の過去形
22. 未来について話してみる
23. 「パリに住むつもりです」と将来のことを言ってみる
24. 文法の復習①
25. 文法の復習②
26. 表現の復習と応用①
27. 表現の復習と応用②
28. 期末試験対策
29. まとめ
30. 期末試験

教科書

プリントを配布する
フランス語Ⅰでそれぞれが使用した教科書のつづきになるように、授業ではプリントを準備して配布します。

評価方法

(1) 平常点:30%:授業への参加度や取り組みの熱意を評価します (2) 小テスト、中間試験:30%:小テストと中間試験の合計点で評価をします (3) 期末試験:40%:学期末におこなう試験の点数で評価をします

教養科目・総合科目

担当者：上原 里佳

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

絵本とは、「絵」と「文字」の絶妙なバランスによって成立する極めて特殊な文化であるため、その切り口も多様である。また、そこには物語だけでなく、自然科学、人間の在り方の基盤となる哲学などが、極力単純化された形で展開される。ここでは、絵本の歴史と発展を学びながら、できるだけ多くの絵本に触れその魅力と特徴について考えたい。

2. 学びの意義と目標

この講義は、幅広く深い教養を学ぶ観点から絵本文化を通して子どもの世界を知るための入門的なものである。子ども時代に親しんできた絵本、現代の子どもたち（そして大人たち）が楽しんでいる絵本、世界の絵本を通して、子ども文化の一端を担う「絵本文化」の奥深さについて学ぶ。

受講生に対する要望

久しぶりに触れる絵本の世界から、子ども時代には気づかなかった新たな魅力を新鮮な気持ちで感じとり、その奥深さを考えていきましょう。

キーワード

事前学習（予習）

子ども時代に読んだ絵本の再読も含め、日頃から、絵本に触れる機会を積極的に増やすようにしてください。大学図書館の他に、地元の図書館で検索・リクエストをかけるなど上手に活用しましょう。

復習についての指示

講義で取り上げた絵本は、図書館・書店などを利用し、各自必ず目を通すようにしてください。気になった絵本作家については、授業で紹介したもの以外の絵本も積極的に読むようにすること。

授業計画

1. イントロダクション・アンケート
2. 絵本とは
3. 世界の絵本の歩み 1
4. 世界の絵本の歩み 2
5. 日本の絵本の歩み 1
6. 日本の絵本の歩み 2
7. 子どもの発達と絵本 1
8. 子どもの発達と絵本 2
9. 赤ちゃん絵本 1
10. 赤ちゃん絵本 2
11. 幼児と絵本 1
12. 幼児と絵本 2
13. ナンセンス絵本 1
14. ナンセンス絵本 2
15. 言葉の絵本 1
16. 言葉の絵本 2
17. 文字なし絵本 1
18. 文字なし絵本 2
19. 写真絵本
20. 現代の絵本 1
21. 数・時間・比較の絵本
22. 現代の絵本 2
23. 現代の絵本 3
24. 現代の絵本 4
25. 現代の絵本 5
26. 現代の絵本 6
27. 現代の絵本 7
28. 現代の絵本 8
29. 統括・復習
30. テスト

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:20%:出席は重視します。特別な事情がない限り、途中退室厳禁。(2)コメントペーパー:30%:講義の理解度、積極性を判断するものとして、成績に反映します。(3)期末テスト:50%

復習、期末テストで必要となるので、講義中にノートをとること。最低必須出席日数が大学の規定に満たない場合は期末テストを受けることが出来ません。

演奏形式とその音楽

MUSI-0-101

担当者：池上 真理子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

西洋音楽史の概要を、作曲家、作品を軸としながら、時代背景、社会、文化、宗教など幅広い視点から学んでいきます。各時代の音楽に出来るだけ生きた形で触れられるよう、CD、DVD、画像資料なども多く取り上げます。様々な音楽に触れ、西洋音楽に親しむと同時に、社会・文化的な観点から音楽を学ぶことにより、人間にとって音楽とは何なのか、という本質的な問いを持ち、音楽に対する視野を広げてもらいたいと思います。

2. 学びの意義と目標

「音楽は学ぶものではなく、感覚的に楽しむもの」と思っている人もいるかもしれませんが、しかし、他文化の音楽を真に理解し味わうためには、感覚的な好き嫌いではなく、その音楽の生まれた背景や音楽の文法を学ぶことが不可欠です。西洋において、音楽は古来、精神的素養や学問の対象、あるいはキリスト教の祈りの手段として、非常に知的な土壌の下に発展してきました。そのような多様な音楽のあり方を知ることにより、西洋音楽だけではなく様々な文化の音楽をより深く理解し、楽しめるようになることを目指します。

受講生に対する要望

まずは各時代の音楽に馴染み、親しみを持つことが知的好奇心の出発点です。音楽に対する印象と知識が定着するよう、振り返りシートや小テストを含め、復習や繰り返し学習も随時行いますので、好奇心を持って積極的に学んで下さい。また講義、音楽を聴くマナーとして私語は厳禁です。

キーワード

(1) 西洋音楽 (2) 西洋音楽史 (3) 音楽様式 (4) 作曲家 (5) 音楽作品

事前学習（予習）

授業で取り上げる内容に関して、予め調べたり、音楽を聴いておいて下さい。

復習についての指示

授業で学んだ内容を、ノートや配布資料、音楽などで復習し、定着させて下さい。

授業計画

1. ガイダンス、西洋音楽史の概略
2. 西洋音楽史概略
3. 「音楽とは何か」（古代ギリシャ、古代中国 等の音楽思想）
4. 中世の音楽（1）
5. 中世の音楽（2）
6. ルネサンスの音楽（1）
7. ルネサンスの音楽（2）
8. バロックの音楽（1）
9. バロックの音楽（2）
10. バロックの音楽（3）
11. 楽器の発展と器楽曲（1）
12. 楽器の発展と器楽曲（2）
13. 古典派の音楽（1）
14. 古典派の音楽（2）
15. 古典派の音楽（3）
16. 前半のまとめ
17. 音楽理論と楽譜
18. ロマン派の音楽（1）
19. ロマン派の音楽（2）
20. ロマン派の音楽（3）
21. 20世紀の音楽（1）
22. 20世紀の音楽（2）
23. ポピュラー音楽
24. 映画音楽（1）
25. 映画音楽（2）
26. 日本人と西洋音楽の出会い
27. 日本音楽と西洋音楽（1）
28. 日本音楽と西洋音楽（2）
29. 後半のまとめ
30. まとめ（学期末試験）

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 学期末テスト:60% (2) 授業への取り組み:40%:小テスト、振り返りシート、出席など

担当者：三宅 美千代

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義は、英語圏文学の初心者を対象とした入門的な授業です。各時代の英米文学の作品を取り上げ、英語圏文学の基礎的な知識、作品を生んだ歴史や時代背景についての予備知識を身につけます。さまざまな作家の作品を少しずつ読みながら文学史を概観していきます。作品や時代と関連する映画を上映することもあります。

2. 学びの意義と目標

英語圏文学についての基本的な知識を得ることを目指します。イギリスとアメリカの作品や文学的潮流についてはもちろんのこと、各国内のマイノリティの問題や旧植民地出身の書き手についても触れます。

受講生に対する要望

深く読み、考える意欲を期待します。授業中の私語は厳禁。

キーワード

(1) 英米文学の基礎知識 (2) 文学と時代背景

事前学習（予習）

次週の授業内容にかんする問題を課し、提出してもらう。

復習についての指示

ワークシートの設問をとり、前回の授業内容を復習する。また、授業で紹介した作品は1冊でも多く読みましょう。

授業計画

1. イントロダクション
2. 小説の起源／近代小説の発達
3. フランス革命とロマン派詩人たち
4. 産業革命後の社会変化とイギリス文学①
5. 産業革命後の社会変化とイギリス文学②
6. アメリカン・ルネサンス①
7. アメリカン・ルネサンス ②
8. 関連映画の上映
9. 19世紀までの女性と文学 ①
10. 19世紀までの女性と文学 ②
11. 帝国主義時代の文学 ①
12. 帝国主義時代の文学 ②
13. 第一次世界大戦とモダニズム期の文学①
14. 第一次世界大戦とモダニズム期の文学②
15. 中間試験、Q&A
16. 関連映画の上映
17. ロスト・ジェネレーションの作家たち
18. ハーレム・ルネサンス
19. 世界恐慌、貧困とルポルタージュ文学
20. ディストピア小説
21. 関連映画の上映
22. 小説に書かれた第二次世界大戦
23. マッカーシズムの影響
24. 公民権運動と文学①
25. 公民権運動と文学②
26. 関連映画の上映
27. 植民地独立と文学
28. 移民作家の登場
29. 試験前復習
30. 学期末試験、Q&A

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 中間試験:30%:授業内容の確認。(2) 学期末試験:40%:授業内容の確認＋レポート形式の問題を出題。(3) 提出課題:30%:ワークシート、その他の提出物。

担当者：塩谷 祐人

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

ヨーロッパの文学を中心に扱う講義です。文学の歴史を追っていく文学史の授業ではなく、さまざまな作品の抜粋を実際に読みながら、文学とは何かをみんなで考えていきます。また映画や舞台になった文学作品も扱い、映像で作品をみることもあります。

2. 学びの意義と目標

なによりもヨーロッパの文学に親しむことが目標です。本を読むことが好きな学生はもちろん、いままであまり文学に触れてこなかった学生も、文学とは何かを考え、作品を読む機会にしてください。文学をただストーリーを読むだけのものとしてではなく、人間が想像／創造するものの偉大さ、面白さを味わい、そこから文化を知る手がかりや、文学を通して見ることができるものを考えましょう。文学を通して思考することの大切さを知ることが、想像力を高め、言葉に対する感覚を鋭くし、自分の身の回りで起きていることや周りの人間が考えていることに対する意識を高める機会になるでしょう。

受講生に対する要望

好奇心をもっている学生であることが望ましいです。「すぐに役に立つ」知識や技術を求めるのではなく、考えたり感じたりすることを大切にする学生の受講を望みます。

キーワード

(1) ヨーロッパ文化 (2) フランス文化 (3) 文学 (4) 映画・演劇 (5) 文学理論

事前学習（予習）

授業中に指示する次回扱うテーマや作家、作品について情報を集めたり、作品を実際に読んでみたりしておいてください。

復習についての指示

ノートを作って、授業で扱った作家、テーマ、理論、映像資料などをまとめ、そこに自分なりの感想や考え、疑問を書き込んでいくこと。

授業計画

1. ガイダンス
2. 文学と現実社会の接点
3. フランスの19世紀の作家ユゴーとバルザック
4. 『レ・ミゼラブル』（小説／映画／舞台）
5. 文学と理想社会
6. 15世紀のイギリスの作家トマス・モア
7. 文学と哲学
8. 20世紀のフランスの作家カミュとサルトル
9. 幻想文学
10. 18世紀のドイツの作家ホフマン『砂男』とフロイトの精神分析
11. 19世紀のドイツ語で書く作家カフカ『変身』
12. オッフェンバックのオペラ『ホフマン物語』／『変身』の映像化
13. 文学と言語
14. 20世紀のフランスの作家クノー
15. クノーの小説の映画化『地下鉄のザジ』
16. 20世紀半ばに起きた「新しい小説」
17. 20世紀フランスの作家ロブ＝グリエ『迷路の中で』と映画『去年マリエンバードで』
18. 物語とは何か
19. 20世紀のアルゼンチンの作家コルタサル『石蹴り遊び』
20. 童話と文学
21. 17世紀のフランスの作家ペロー／19世紀のイギリスの作家ワイルドと『幸福の王子』
22. 19世紀のフランスの作家コクトー
23. 映画『ろばと王女』／『美女と野獣』
24. 外国人が書くフランス文学／国民文学とは何か
25. 20世紀のチェコの作家クンデラ、20世紀のハンガリーの作家クリストフ
26. マイナーな作家たち
27. 20世紀のコロンビアの作家ガルシア・マルケス
28. 20世紀のアルゼンチンの作家ボルヘス
29. まとめ
30. 記述試験

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 平常点：40%：授業中のコメントやリアクションペーパーで授業の参加度を判断します。(2) 期末試験：60%：学期末に筆記試験を行い、その点数を評価の基準にします。

担当者：正上 常雄

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

社会福祉主事任用資格：選択科目

講義概要

1. 内容

経済学とは、個人、企業、政府などさまざまな組織が、どのように選択を行い、その選択によって社会の資源がどのように使われるかを研究する学問のことである。経済学について学ぶ前に、トレードオフ、インセンティブ、交換、情報、分配、といった概念を知っておく必要があり、まずは経済学で使われる概念と経済学的な思考をきちんと身に付け、教科書に沿って、経済学の基礎を学んでゆく。経済学的な思考をなるべくやさしく教えてゆくつもりである。簡単すぎてつまらないという人のために、適宜、プリントなどで発展的な学習も行う。

2. 学びの意義と目標

経済学の基礎をきちんと理解し、基本的な知識を身に付けることが、本講義の目標である。経済学にはミクロ経済学とマクロ経済学がある。本講義では、経済学を学ぶために、トレードオフ、インセンティブ、交換、情報、分配などの概念を使って、様々な経済的問題を考えてゆく。経済全体を構成する要素は、家計（消費者）、企業、金融、政府、貿易の5つである。企業は他の4つと密接に関係している。企業のあり方について学ぶことで、経済全体についての考察も深まってゆく。社会に出て、企業で働くときの準備として経済学を学んで欲しい。難しい数式を覚えることより、経済学的な合理的思考を身に付けて欲しい。経済学は難しいと思わずに、賢く生活するための知恵を身に付けることを目標として欲しい。

受講生に対する要望

授業中の私語は厳禁です。その他の授業中のルールについては、最初の授業で相談して決めます。

キーワード

(1)トレードオフ (2)インセンティブ (3)市場 (4)分配 (5)労働

事前学習（予習）

予習としては、教科書の内容を一読しておいて下さい。細かいことは初回の授業で学生の皆さんと相談して決めます。

復習についての指示

復習は、ノートやプリントなどを活用して、自分が理解できている点や理解できていない点をきちんと整理して、次回の授業に活かしてください。

授業計画

1. 大学で履修する経済学の考え方 1
2. 大学で履修する経済学の考え方 2
3. 家計の目的 1
4. 家計の目的 2
5. 企業の目的 1
6. 企業の目的 2
7. 政府の目的 1
8. 政府の目的 2
9. 需要と供給の話 1
10. 需要と供給の話 2
11. 不完全競争市場 1
12. 不完全競争市場 2
13. ミクロ経済学の復習
14. 中間試験
15. マクロ経済学って何？ 1
16. マクロ経済学って何？ 2
17. 短期の経済 1
18. 短期の経済 2
19. 貨幣の影響 1
20. 貨幣の影響 2
21. なぜ国民所得をコントロールするのか？ 1
22. なぜ国民所得をコントロールするのか？ 2
23. IS-LM分析 1
24. IS-LM分析 2
25. 長期の経済 1
26. 長期の経済 2
27. 長期の経済における失業 1
28. 長期の経済における失業 2
29. 長期の経済における政策 1
30. 長期の経済における政策 2 および期末試験

教科書

木暮 太一 『大学で履修する入門経済学が1日でつかめる本 絶対わかりやすい経済学の教科書』（マトマ出版）

評価方法

(1)中間試験:40% (2)期末試験:40% (3)平常点:20%

大学の規定に従い、出席率60%以上を単位取得の条件としています。基本的には中間試験と期末試験の成績で評価します。

担当者：高橋 聡

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

社会福祉主事任用資格：選択科目

講義概要

1. 内容

私たちの日々の経済活動をふりかえると、誰にも強制されず、一人一人が自由に行動しているか見える。しかしよくよく観察してみると、経済には自分の思いや努力とは別の客観的な法則があり、その力が人々を動かしていることがわかる。この法則を知ることが講義の第一のテーマとなる。これに続くテーマは、法則の力を生かして今日の様々な問題(貧困、失業、貿易自由化、財政赤字、少子高齢化など)の処方せんを描いてみることである。これらを行う際、歴史の知恵に学ぶことは有効な学習法といえる。そこで、私たちより先に以上の諸問題に立ち向かった経済学者の思考から学ぶことを通じて、受講者が経済と社会を見る目を養えるような内容とする。

2. 学びの意義と目標

①経済の法則を理解する。②法則を適用した政策論を理解する。
③経済社会の様々な制度(貿易・労働法・財政・金融・社会保障)の意義やしぐみを理解する。

受講生に対する要望

私語をする者には退室を命じる。授業開始後10分経過したら、正当な理由がない限り途中入室を禁じる。良好な学習環境を保つため、これらの違反者には厳しく対応する。講義では、質疑応答を行ったりレポートを書くことを通じて学生が自ら発信する機会をもうける。よって、単に出席するだけでなく、より積極的な受講態度が求められる。

キーワード

(1)市場と政府 (2)経済成長 (3)効率 (4)公正 (5)厚生(幸福)

事前学習(予習)

①教科書の該当する章を読むこと。②新聞やインターネット記事を収集すること。

復習についての指示

①配布したプリントの問題を解くこと。②授業で紹介する本(新書)を読み、レポート作成の準備をすること。

授業計画

1. 経済学の基本用語―市場と政府
2. 経済学の基本用語―家計と企業
3. スミスの経済倫理
4. スミスの経済成長論
5. スミスの保護貿易批判
6. マルサス&リカードと貧困問題
7. マルサス&リカードの貿易論争
8. リカードの自由貿易理論
9. J. S. ミルの功利主義思想
10. J. S. ミルの労働市場政策
11. J. S. ミルと女性の貧困
12. マーシャルの「生活基準」思想
13. マーシャルと人間開発
14. ウエップ夫妻のナショナル・ミニマム
15. ウエップ夫妻の自由貿易政策と福祉
16. 中間試験
17. ケインズとマクロ経済学
18. ケインズと財政政策
19. ケインズと金融政策
20. ケインズ&ベバリッジの社会保障体制
21. ミュルダールと人口減少問題
22. ミュルダールと北欧型福祉社会
23. エスピン＝アンデルセンの福祉資本主義論
24. フリードマンの金融政策
25. フリードマンの福祉国家批判
26. フリードマンの最低所得保障論
27. ロールズの正義論
28. ロールズの格差是正策
29. センの潜在能力論
30. センの福祉の経済学

教科書

小峯敦編 『福祉の経済思想家たち』 (ナカニシヤ出版)

評価方法

(1)中間試験:40% (2)期末試験:40% (3)レポート:20%

担当者：由川 稔

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ、現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：公民必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目、
社会福祉主事任用資格：選択科目

講義概要

1. 内容

経済学は抽象化や理論化という科学的な方法に拠っています。日常生活の中で、しばしば「感情」や「常識」に埋没して見えなくなりしがちな経済現象の「本質」を暴き、そこから新しい経済や人間のあり方などを構想するためです。しかしやり方を間違えると、かえって現実を見る目を曇らせてしまいます。授業では、このバランスを重視したいと思います。

2. 学びの意義と目標

本来、「経済が人間のためにあるのであって、人間が経済のためにあるのではない」はずです。しかし現実の経済は、人間を奴隷化する恐ろしい面も持っています。究極的には、私たちが英知と勇気を持って、少なくとも経済の面で明るい未来を築いていくことが、経済学を学ぶ意義であり、目標であると言えるでしょう。

受講生に対する要望

「経済」と「経済学」の総合的なイントロダクションにし、資格や公務員等の各種試験対策は他に譲りますので、ご注意ください。なお、授業では教科書以外にも、配布資料を準備します。

キーワード

(1)経済 (2)友愛 (3)自由 (4)公正 (5)競争・効率

事前学習（予習）

教科書の予習ポイントは毎回指示します。国内外の政治経済動向に十分注意する姿勢を持ち続けてください。

復習についての指示

復習は絶対に必要です。何度でも、読んで、書いて…、「頭で」というよりもむしろ「身体で」覚えるくらいの意識で臨んでください。

授業計画

1. 経済学とマネーの暴走（1）
2. 経済学とマネーの暴走（2）
3. 経済学とマネーの暴走（3）
4. 経済学とマネーの暴走（4）
5. 経済と法（1）
6. 経済と法（2）
7. 租税と財政の問題（1）
8. 租税と財政の問題（2）
9. 租税と財政の問題（3）
10. 租税と財政の問題（4）
11. 新自由主義（1）
12. 新自由主義（2）
13. ケインズ理論をめぐって（1）
14. ケインズ理論をめぐって（2）
15. ケインズ理論をめぐって（3）
16. ケインズ理論をめぐって（4）
17. ケインズ理論をめぐって（5）
18. ケインズ理論をめぐって（6）
19. 国際経済（1）
20. 国際経済（2）
21. 国際経済（3）
22. 国際経済（4）
23. 消費者行動（1）
24. 消費者行動（2）
25. 消費者行動（3）
26. 消費者行動（4）
27. 生産者行動（1）
28. 生産者行動（2）
29. 生産者行動（3）
30. 生産者行動（4）

教科書

伊藤元重 『はじめての経済学「上」』（日本経済新聞出版社）伊藤元重 『はじめての経済学「下」』（日本経済新聞出版社）

評価方法

(1)受講態度:20%:授業内小テストを含む (2)レポート等:20%:諸提出物 (3)試験:60%

担当者：柴田 武男

開設期：春学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

学問の奥深さを知るとともに、大学院進学希望者に対し大学院授業への準備とする

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

論文作成に何より必要なのは、批判的理解力である。批判的理解力とは、論者の主張をまず正確に理解し、そのうえで論理の矛盾や欠陥を指摘して、内容を的確に評価する知的作業のことである。論文作成に不可欠なものである。徹底した「経済教室」の読み込みと、担当教員を交えた受講者全員との相互の議論で、批判的理解力とは何か、その一端を解き明かしていく。

2. 学びの意義と目標

本講義では、修士論文作成のために必要とされる経済に関する理解力の強化を目標とする。特に、現代的問題関心を幅広くするために、主に日本経済新聞の「経済教室」をテキストとして、そこで展開されるトピックスから理論的背景を説明したい。また、トピックスを議論するなかで、論文執筆のために必要とされる論旨の読解力と批判的理解力も涵養したい。

受講生に対する要望

日本経済新聞を理解したいと思う学生には、最適です。普段から新聞の経済記事に関心を持ち、時事的な問題に触れたいという学生を希望します。

キーワード

(1) 日本経済新聞 (2) 読解力 (3) 時事問題 (4) 経済教室 (5) 批判的理解力

事前学習（予習）

柔らかな思考と権威に挑戦する気構えを期待する。偉い人が日経に書いたから立派だという思いこみを捨ててください。ニコマ連続、三時間ノーストップでやります。知力も体力も要求されません。

復習についての指示

経済用語を確認すること

授業計画

1. 講義の概要についての説明、および担当教員による経済論文の読解の仕方を教示1
2. 講義の概要についての説明、および担当教員による経済論文の読解の仕方を教示2
3. 受講生による「経済教室」のレポート、および担当教員との質疑応答1
4. 受講生による「経済教室」のレポート、および担当教員との質疑応答2
5. 受講生による「経済教室」のレポート、および担当教員との質疑応答3
6. 受講生による「経済教室」のレポート、および担当教員との質疑応答4
7. 受講生による「経済教室」のレポート、および担当教員との質疑応答5
8. 受講生による「経済教室」のレポート、および担当教員との質疑応答6
9. 受講生による「経済教室」のレポート、および担当教員との質疑応答7
10. 受講生による「経済教室」のレポート、および担当教員との質疑応答8
11. 受講生による「経済教室」のレポート、および担当教員との質疑応答9
12. 受講生による「経済教室」のレポート、および担当教員との質疑応答10
13. 受講生による「経済教室」のレポート、および担当教員との質疑応答11
14. 受講生による「経済教室」のレポート、および担当教員との質疑応答12
15. 受講生による「経済教室」のレポート、および担当教員との質疑応答12

教科書

授業の中で指示する
講義担当期間の日本経済新聞掲載の「経済教室」を教材として使用する。

評価方法

(1) 出席点:50% (2) レポート:50%

出席率50%、レポート50%により総合的に評価する。講義において遠慮無く、積極的な発言を高く評価します。

担当者：文 智咲

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義では様々なことばの問題について考える。「ことば」は私たちの生活から切り離すことができないもので、「ことば」を研究していくということは、「ことば」そのものはもちろん、「ことば」を使う人間や、「ことば」を取り巻く社会や文化などにも目を向けるということである。この講義では、主に日本語を中心に具体的な例を通して解説し、ことばの本質的な役割について考察する。

2. 学びの意義と目標

普段何気なく使っていることばについて、これまでと違った視点から考え、ことばの面白さを実感する。

受講生に対する要望

授業内容に即して、あなたの言語（日本語）親に問いかけることがある。内容をより深く理解するために、授業で出された問いかけに対して、自分一人で熟考する時間が必須である。

キーワード

(1)世界の言語 (2)言語の変化 (3)言語と社会

事前学習（予習）

授業計画を参照し、扱われるトピックについて考えてくると。

復習についての指示

前回の授業の対する質問に答えられるようにすること。

授業計画

1. ガイダンス
2. 言語学とは
3. 世界の言語と日本語
4. ことばの特徴（1）
5. ことばの特徴（2）
6. ことばの特徴（3）
7. 文のしくみ（1）
8. 文のしくみ（2）
9. 文のしくみ（3）
10. 文のしくみ（4）
11. ことばの変化（1）
12. ことばの変化（2）
13. 意味とは
14. 意味分析の方法
15. 前半のまとめ
16. ことばとコミュニケーション
17. 敬語（1）
18. 敬語（2）
19. 若者ことば
20. 男ことば女ことば
21. 子供の言語習得
22. 発話と意図
23. 会話のルール
24. 慣用表現
25. 異なる言語を比較する（1）
26. 異なる言語を比較する（2）
27. 日本語教育（1）
28. 日本語教育（2）
29. 後半のまとめ
30. 総まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)学期末試験:50% (2)出席:10% (3)授業中の小課題・小テスト:40%

高齢者保健福祉特論

SWEL-0-401

担当者：古谷野 亘

開設期：春学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

学問の奥深さを知るとともに、大学院進学希望者に対し大学院授業への準備とする

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

高齢者保健福祉の歴史の変遷を、そのときどきの社会的諸条件と関連づけて取り上げ、現状と変化の方向を明らかにする。そしてその上で、最近の学会誌の論文の講読とあわせて、現在の問題とその解決に向けての方策を考究する。

2. 学びの意義と目標

高齢者の保健福祉は現在急速に変化しつつある。介護保険の施行は本質的な変化であったが、制度の改変は今後もさらに続くものと予想される。そこで、高齢者の保健福祉の現在の制度について知るにとどまらず、その成立の背景や条件を正確に理解して、将来の方向を見通す力を獲得することを目指す。

受講生に対する要望

高齢者保健福祉に関心をもち、積極的に授業に参加することを希望する。

キーワード

事前学習（予習）

文献講読の際には当該文献と関連資料を精読するなどの予習が必要になる。

復習についての指示

また全体を通して、積極的な討議への参加と復習が必要である。

授業計画

1. 高齢者保健福祉の歴史から学ぶ： 歴史をみる視点 (1)
2. 歴史をみる視点 (2)
3. 老人ホームの歴史 (1)
4. 老人ホームの歴史 (2)
5. 老人医療費の推移 (1)
6. 老人医療費の推移 (2)
7. ホームヘルプ事業の変遷 (1)
8. ホームヘルプ事業の変遷 (2)
9. 介護保険導入の意味 (1)
10. 介護保険導入の意味 (2)
11. 介護保険導入によってわかった“福祉”の意味 (1)
12. 介護保険導入によってわかった“福祉”の意味 (2)
13. 文献講読と討議： 家族関係の変化と地域高齢者の孤立、“孤独死” (1)
14. 家族関係の変化と地域高齢者の孤立、“孤独死” (2)
15. 地域包括ケアの課題 (1)
16. 地域包括ケアの課題 (2)
17. 介護予防の可能性 (1)
18. 介護予防の可能性 (2)
19. 保健福祉サービスの利用を規定する要因 (1)
20. 保健福祉サービスの利用を規定する要因 (2)
21. 要介護認定の問題 (1)
22. 要介護認定の問題 (2)
23. 介護保険下における老人ホームの経営 (1)
24. 介護保険下における老人ホームの経営 (2)
25. 在宅サービス事業者の課題 (1)
26. 在宅サービス事業者の課題 (2)
27. 高齢者保健福祉サービスを支える人 (1)
28. 高齢者保健福祉サービスを支える人 (2)
29. まとめと課題、総合討論 (1)
30. まとめと課題、総合討論 (2)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 授業への参加度：30% (2) レポート：70%

担当者：横山 寿世理

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

社会福祉主事任用資格：選択科目

講義概要

1. 内容

1. 内容 教科書、雑誌や新聞の記事、ドキュメンタリー番組を補足資料として用いながら、社会学を広く概観する。講義内容を板書でまとめる形で講義を展開する。また、講義内容の定着を図るため、簡単なコメント・シートの提出を課す。2. カリキュラム上の位置づけ この授業は1～4年次の全学年が履修することができる。政治経済学科の学生にとっては専門科目であり、特に地域共生コースの習得を目指す学生にとっては必修科目となる。また、政治経済学科以外の学生にとっては、教養科目となる。

2. 学びの意義と目標

この講義は、社会学的な視点を身につけることを目標とする。社会学的な視点とは、社会において起きている現象を個人的な問題ではなく、「社会問題」として認識する能力である。良い／悪いといった判断から離れて、常識を疑うという姿勢を身につければ、普段意識されない「社会」「社会の仕組み」を受講者自身が実感できるようになるだろう。

受講生に対する要望

講義で紹介されるいろいろなドキュメンタリーや新聞記事などの具体的な社会問題を、どういった教科書に記載されている理論に結びつけられるかを意識して参加して欲しい。また、<u>教科書を授業内でも使用する</u>ので、準備して欲しい。

キーワード

(1)社会学概論 (2)社会 (3)個人 (4)人間関係 (5)コミュニケーション

事前学習（予習）

授業前の予習として、教科書の該当箇所を読んでおくこと。

復習についての指示

講義の板書ノートを見直し・作り直すという復習作業を絶えず行うことを勧める。

授業計画

1. 社会学的な視点: 予言の自己成就
2. 教育社会学 (1)
3. 教育社会学 (2)
4. 産業社会学 (1)
5. 産業社会学 (2)
6. 階級・階層の社会学 (1)
7. 階級・階層の社会学 (2)
8. メディアの社会学 (1)
9. メディアの社会学 (2)
10. 地域の社会学
11. 都市の社会学
12. 社会調査論 (1)
13. 社会調査論 (2)
14. 社会調査論 (3)
15. 家族社会学 (1)
16. 家族社会学 (2)
17. 家族社会学 (3)
18. ジェンダーの社会学
19. セクシュアリティの社会学
20. 行為論
21. 相互行為論
22. アイデンティティの社会学 (1)
23. アイデンティティの社会学 (2)
24. アイデンティティの社会学 (3)
25. 歴史の社会学: マルクス
26. 歴史の社会学 (1): ヴェーバー
27. 歴史の社会学 (2): ヴェーバー
28. 記憶の社会学
29. 理論社会学
30. まとめ

教科書

宇都宮 京子 『よくわかる社会学 (やわからかアカデミズム・わかるシリーズ) (第二版)』 (ミネルヴァ書房)

評価方法

(1) 期末試験: 40% (2) 講義内課題: 60%: 各テーマごとにコメントの提出を課す。

担当者：新倉 貴仁

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

社会福祉主事任用資格：選択科目

講義概要

1. 内容

社会学は、私たちが生きる社会を考える学問です。本講義では、受講者が置かれた状況を考えることから始めます。すなわち、大学といった制度、学生という身分、書物というメディアについて考え、社会学を学ぶための準備をおこなっていきます。そのうえで、第二に、社会学の思考の系譜を学び、その思考に込められた方法と、それぞれの思考が生み出された背景となる社会について考察していきます（学説史）。第三に、現代社会におけるさまざまな社会学の主題群を扱っていきます（概論）。

2. 学びの意義と目標

社会学の概要を把握するとともに、社会学的想像力を養う。大学で学ぶために必要な、読む、考える、書くといった能力を磨く。近現代史の基礎的な知識を学ぶ。

受講生に対する要望

読む、考える、書くという行為を重視する。習得の状況を確認するため、毎週、小テストを課す。講義を通じて、社会学に関連する文献を読み、その書評レポートを課題とする。積極的な参加を望む。

キーワード

(1)近代社会 (2)現代社会 (3)文化 (4)資本主義 (5)都市と共同体

事前学習（予習）

適宜、資料を配布するので、読んでおくこと

復習についての指示

配布したレジュメの内容を確認し、講義での要点について、それぞれ整理しておくこと

授業計画

1. イントロダクション
2. 社会とはいふけれども
3. 大学とはいふ制度か
4. 学生とはいふ存在か
5. 社会学学説史（1） 世俗化と近代社会
6. 社会学学説史（2） 社会学の成立
7. 社会学学説史（3） 産業社会
8. 社会学学説史（4） マルクス
9. 社会学学説史（5） ブルジョワジーの経験
10. 社会学学説史（6） デュルケムとヴェーバー
11. 社会学学説史（7） 第一次世界大戦
12. 社会学学説史（8） 文化社会学と知識社会学
13. 社会学学説史（9） 移民と大衆
14. 社会学学説史（10） 都市社会学
15. 社会学学説史（11） 第二次世界大戦
16. 社会学学説史（12） 現代社会と社会学
17. 人びとの群れ——都市
18. 人びとの群れ——共同体
19. つながりのかたち——知と権力
20. つながりのかたち——複製技術とメディア
21. 生の様式——家庭と家族
22. 生の様式——ジェンダー
23. 生きること——生と死
24. 生きること——自由と所与
25. 現代社会——消費社会
26. 現代社会——グローバル化
27. ミドルクラス——余暇・娯楽・観光
28. ミドルクラス——スポーツ
29. 試験
30. 総括討論、レポート講評

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:40% (2)レポート:30% (3)試験:30%

出席点は、20点を基礎とし、残り20点について、各コマで指示する課題の内容や小テストによって、加点する。

担当者：新津 尚子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

社会福祉主事任用資格：選択科目

講義概要

1. 内容

この講義は「家族」「地域」「ジェンダー」などについて、社会学的に学ぶことを目的とする。また後半（19回目以降）は社会学の歴史についても学ぶ。授業では教科書を用いて講義を行うほか、関連する資料を読んだディスカッションや小レポート作成など、履修者が自分自身で考える機会を設け、確実に知識を身につけることを目指す。

2. 学びの意義と目標

この講義の目標は、毎回の授業を通じて「社会学的な思考を身につける」ことにある。この思考を身につけることによって、「個人的」と思われる問題の中にある社会的な要素や、「社会的」と思われる問題の中にある個人的な要素を理解できるようになる。これにより将来、履修者がさまざまな問題に直面した際、その問題を多角的に考えられるようになるだろう。

受講生に対する要望

私たちを取り囲む身近な「社会」に関心がある者の受講を望む。

キーワード

(1)家族 (2)地域 (3)メディア (4)ジェンダー (5)階層

事前学習（予習）

予習として教科書の当該箇所を読み、概要をつかんでおくこと。

復習についての指示

復習として教科書と講義ノートを見直すこと。不明な点があれば自分で調べたり、質問するなどして解決すること。

授業計画

1. 社会学とは何か（1）
2. 社会学とは何か（2）
3. 家族社会学（1）
4. 家族社会学（2）
5. 地域社会学（1）
6. 地域社会学（2）
7. メディア社会学（1）
8. メディア社会学（2）
9. 階級・階層と社会（1）
10. 階級・階層と社会（2）
11. アイデンティティと社会（1）
12. アイデンティティと社会（2）
13. ジェンダーと社会（1）
14. ジェンダーと社会（2）
15. 国際社会（1）
16. 国際社会（2）
17. 社会運動（1）
18. 社会運動（2）
19. 社会学の歴史とさまざまな研究：社会学の始まり（1）
20. 社会学の歴史とさまざまな研究：社会学の始まり（2）
21. 社会学の歴史とさまざまな研究：デュルケム（1）
22. 社会学の歴史とさまざまな研究：デュルケム（2）
23. 社会学の歴史とさまざまな研究：ヴェーバー（1）
24. 社会学の歴史とさまざまな研究：ヴェーバー（2）
25. 社会学の歴史とさまざまな研究：マートン
26. 社会学の歴史とさまざまな研究：パーソンズ
27. 社会学の歴史とさまざまな研究：シュッツ
28. 社会学の歴史とさまざまな研究：ブルデュー
29. 社会学的想像力
30. まとめ

教科書

宇都宮京子編 『よくわかる社会学』（ミネルヴァ書房）

評価方法

(1)出席:30% (2)講義内に課す提出物など:30% (3)学期末試験:40%

担当者：加藤 敦也

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

社会福祉主事任用資格：選択科目

講義概要

1. 内容

本講義は社会問題を解釈するための方法論ないし理論枠組みとしての社会学の内容を概観していく。授業では、教科書の内容を、雑誌記事や、テレビドラマ、映画、ニュース番組などの映像を補助資料として用い、日常生活における身近な現象がいかに社会学のテーマとして取り上げられ、どのように社会学の対象領域として説明されるかについて解説していく。また、授業中にテーマに応じて小レポート作成やディスカッションを課すことで、社会学の取り扱う問題を自ら考えることを促す。

2. 学びの意義と目標

受講者自身が社会問題を解釈する認知枠組みとして社会的な視点を身につけてもらうことを目標とする。受講者各自はそれぞれ成長してきた過程で問題を解釈する認知の枠組みを身につけてきたはずである。本講義は、その認知のあり方を一つの価値観と見なしながら、その価値観に従うだけでなく、ものごとを社会通念にとらわれず、社会的に理解するための基礎的な知識を身につけてもらいたいと思っている。

受講生に対する要望

他の受講者に迷惑のかかる行為は謹んでほしい。例えば私語厳禁。

キーワード

(1)社会学

事前学習（予習）

授業前の予習としては教科書の該当箇所を読んでおくことが望ましい。

復習についての指示

授業後の復習としては講義をまとめた自筆ノート教科書とあわせて見直すことをすすめる。

授業計画

1. 社会学とは何か（1）
2. 社会学とは何か（2）
3. 社会調査の方法
4. 家族社会学（1）
5. 家族社会学（2）
6. 家族社会学（3）
7. 地域社会学（1）
8. 地域社会学（2）
9. メディア社会学（1）
10. メディア社会学（2）
11. 階級・階層の社会学（1）
12. 階級・階層の社会学（2）
13. アイデンティティと社会学（1）
14. アイデンティティと社会学（2）
15. ジェンダーの社会学（1）
16. ジェンダーの社会学（2）
17. セクシュアリティの社会学
18. エスニシティの社会学
19. 社会運動の社会学（1）
20. 社会運動の社会学（2）
21. 教育社会学（1）
22. 教育社会学（2）
23. 政治社会学
24. 相互行為論、社会構築主義
25. 社会学の歴史：ヴェーバーとデュルケム
26. ヨーロッパの現代：ルーマン、ギデンズ、ブルデュー
27. 日本の社会学史：意味社会学と統合理論
28. 近代と脱近代（1）
29. 近代と脱近代（2）
30. 社会学のまとめ

教科書

宇都宮京子 『よくわかる社会学（第2版）』（ミネルヴァ書房）

評価方法

(1)出席:30% (2)小レポート:30%:授業中に課す (3)定期試験:40%

社会福祉概論

SWEL-0-101

担当者：山本 博之

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本授業では、「社会福祉」を全般的に学ぶ。一口に「社会福祉」といっても、その範囲は非常に広い。授業においては、まず一般的な社会福祉を理解する視点を学び、理念、歴史、思想、制度といった基礎的な内容を学ぶ。その後、対象者や社会問題ごとのテーマを取り上げ、支援の現状について具体的な理解を深める。

2. 学びの意義と目標

本授業は、これから社会福祉/ソーシャルワークについて専門的な学びを行おうとする学生の基礎科目と位置付ける。生活に密接に関わっている社会福祉の基礎とより新しい情報もふまえながら学ぶことを目的とする。

受講生に対する要望

高い集中力と緊張感を維持しながら授業に出席すること。

キーワード

(1) 社会福祉 (2) ソーシャルワーク

事前学習（予習）

日ごろから、社会福祉の関心を持ち、新聞や電子媒体等で社会福祉に関する記事を積極的に目を通すように心がけること。

復習についての指示

授業で学んだ内容をしっかり復習し、整理すること。

授業計画

1. 社会福祉を理解する視点Ⅰ：社会福祉とは
2. 社会福祉を理解する視点Ⅱ：狭義、広義の社会福祉
3. 社会福祉の思想・理念
4. 欧米の社会福祉の歴史
5. 日本の社会福祉の歴史
6. 技術としての社会福祉の展開Ⅰ：近代
7. 技術としての社会福祉の展開Ⅱ：現代
8. 日本の社会保障制度
9. 社会福祉の機関と施設
10. 高齢者と社会福祉Ⅰ：高齢者の心理社会的困窮と社会福祉
11. 高齢者と社会福祉Ⅱ：高齢者福祉の現状と課題
12. 障害者と社会福祉Ⅰ：身体障害者と社会福祉
13. 障害者と社会福祉Ⅱ：知的障害者と社会福祉
14. 障害者と社会福祉Ⅲ：精神障害者と社会福祉
15. 医療と社会福祉Ⅰ：慢性疾患の時代における医療福祉の現状
16. 医療と社会福祉Ⅱ：慢性疾患の時代における医療福祉の課題
17. 低所得者と社会福祉
18. 事例を通じた低所得者支援の現状と課題
19. ホームレス状態にある人と社会福祉
20. 事例を通じたホームレス状態にある人への支援の現状と課題
21. 子どもと社会福祉
22. 事例を通じた子どもへの支援の現状と課題
23. 就労支援と社会福祉
24. 事例を通じた就労支援の現状と課題
25. 社会福祉実践（ソーシャルワーク）における連携
26. 事例を通じた連携の現状と課題
27. 社会福祉専門職に必要とされる価値：社会福祉専門職の倫理
28. 事例を通じた倫理的ジレンマについて
29. まとめ
30. 試験

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 授業に対する積極的参加態度：30% (2) 試験：70%

障害者福祉特論

SWEL-0-403

担当者：木下 大生

開設期：秋学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

学問の奥深さを知るとともに、大学院進学希望者に対し大学院授業への準備とする

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

今や障害者政策の大きな課題とされる施設入所者の地域移行推進の視点から、これまでの障害者政策を顧みる。関係法令の変遷、政策転換の契機となった審議会答申等の資料を手がかりとしつつ、いわゆる「コロニー」と称される大規模収容保護施設が建設されるに至る道のり、収容主義から地域移行への方向転換、障害者自立支援法による計画的・制度的な地域移行推進という流れを確認し、地域移行の必然性を検証する。さらに、今後の地域移行の進展に伴う障害者施設機能の変容を予測する。また、12回の講義を通じて履修者が特に興味を持ったトピックについて、各々文献等を利用し、まとめ、その内容を報告する。それにより研究の方法、研究成果の報告の方法、並びに障害者福祉についての理解を深める。

2. 学びの意義と目標

この講義では、障害のある人たちの「人生とは？」を念頭に置きつつ、主として知的障害者施設入所者の地域移行促進の観点からこれまでの障害者政策を顧み、これらの障害者政策を考える。

受講生に対する要望

キーワード

事前学習（予習）

双方向的な授業とするため、院生から積極的な発言を期待する。そのため、授業前にはシラバスを毎回必ず確認し、テーマについて自分なりに理解を深める作業をしておくこと。

復習についての指示

授業計画

1. 障害者の置かれている状況
2. 障害者の置かれている状況
3. ノーマライゼーション原理の成立と発展
4. ノーマライゼーション原理の成立と発展
5. 国際連合の人権思想の展開
6. 国際連合の人権思想の展開
7. 日本の障害者福祉施策の歴史的展開—概要—
8. 日本の障害者福祉施策の歴史的展開—概要—
9. 大規模保護収容施設実現に至る道のり
10. 大規模保護収容施設実現に至る道のり
11. 日本の施設の整備促進と在宅福祉政策の萌芽
12. 日本の施設の整備促進と在宅福祉政策の萌芽
13. 障害者自立支援法による計画的・制度的な地域移行（1）
14. 障害者自立支援法による計画的・制度的な地域移行（1）
15. 障害者自立支援法による計画的・制度的な地域移行（2）
16. 障害者自立支援法による計画的・制度的な地域移行（2）
17. 現代の障害者福祉の課題（1）
18. 現代の障害者福祉の課題（1）
19. 現代の障害者福祉の課題（2）
20. 現代の障害者福祉の課題（2）
21. 障害者福祉の研究動向（1）
22. 障害者福祉の研究動向（1）
23. 障害者福祉の研究動向（2）
24. 障害者福祉の研究動向（2）
25. 関心のあるトピックに関するプレゼンテーション（1）
26. 関心のあるトピックに関するプレゼンテーション（1）
27. 関心のあるトピックに関するプレゼンテーション（2）
28. 関心のあるトピックに関するプレゼンテーション（2）
29. まとめと課題
30. まとめと課題

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 総合評価：100%

出席、講義への参加姿勢、課題への取り組み姿勢と報告内容から総合的に評価する。

障害児(者)の理解と社会

HUWL-0-101

担当者：吉田 昌義

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

今日、共生社会の形成が求められており、その実現に向けて、障害者の権利条約の批准について障害者の諸制度改革が行われている。今後の共生社会の形成を目指して、一層の視野を広げるために、障害者の社会生活を直視し、その諸問題を明らかにしながら、共生社会のあるべき姿を考える。授業では、講義のほか、各課題に沿った調査等のレポート（約7～8回）を提出・発表し、協議を通して、あるべき姿や、今後の問題解決の方向を検討する。

【共生社会】共生社会とは、これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会である。それは誰もが相互に人格と個性を尊重し支えあい、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会である。

2. 学びの意義と目標

＜学びの意義＞障害者の社会生活における医療・福祉・労働・社会生活等における今日的な諸問題を明らかにし、諸制度等の基本的な考え方を押さえながら、望ましい共生社会の実現に向けた方向を探る。

＜目標＞1 共生社会の実現に向けて、障害の種類や程度により、どのような指導や支援、配慮が必要であるかを理解する。

受講生に対する要望

1 新聞やテレビで報道される障害者問題、児童問題、高齢者問題に関心を持って視聴し、問題の背景や解決方法等について考えて欲しい。2 年齢・性別・障害の有無に限らず、個人の尊厳が尊重され、共に助け合い、一人一人が生き甲斐を持って生活することができる社会とは、どのような社会であるかを、考えて欲しい。3 授業時の飲食・携帯電話、私語は禁止する。

キーワード

(1)障害者 (2)教育・福祉・労働 (3)共生社会

事前学習（予習）

授業の資料は、あらかじめ配布するので、必ず目を通すとともに、重要な事項は調べておくこと。

復習についての指示

配布資料やレポートに眼を通し、授業内容を振り返り、理解を図ること。

授業計画

1. オリエンテーション（授業内容・方法、学習方法等）
2. 障害の理解と教育（視覚障害）
3. 障害の理解と教育（聴覚障害）
4. 障害の理解と教育（知的障害）
5. 障害の理解と教育（肢体不自由）
6. 障害の理解と教育（病弱）
7. 障害の理解と教育（発達障害）
8. 障害児の教育の歴史と今後
9. 障害と医学（胎児診断の問題）講義
10. 障害と医学（リハビリテーション）講義
11. 障害と医学に関する課題とレポート発表・協議
12. 障害者の社会生活（バリアフリー・ユニバーサルデザイン）講義
13. 障害者の社会生活の課題とレポート発表・協議
14. 障害者の社会福祉制度（手帳・年金・施設等）
15. 障害者の社会生活（契約、選挙権、氏名等の筆記等）
16. 障害者の社会生活の課題とレポート発表・協議
17. 障害者の福祉機器
18. 福祉機器に関するレポート発表と協議
19. 障害者と労働（職業訓練、雇用促進・雇用率、最低賃金）
20. 障害者と労働の課題についてのレポート発表・協議
21. 障害者と犯罪（取調べ段階における問題、責任能力、累犯等）
22. 障害者と犯罪に関するレポート発表・協議
23. 戦争と障害者（地雷・枯葉剤等）
24. 薬物と障害者（サリドマイド、水銀中毒等）
25. 差別用語問題
26. いじめ問題、障害者虐待
27. 障害者の理解推進
28. 障害者の理解推進のレポート協議・発表
29. 障害者の権利条約
30. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)レポート:60% (2)試験:40%

成績評価全体に対するコメント1 レポートは必ず提出のこと。

心理学概論

PSYC-0-102

担当者：大島 由之

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

社会福祉主事任用資格：選択科目

講義概要

1. 内容

多くの人が『人のところが読めたらいいのにな』と考えたことがあると思います。「心理学」とは文字通り、「こころ」を「理解」することを目指す「学問」です。物理学や化学と同じように、人のこころの働きやその仕組み―知覚、記憶、対人関係、感情、発達、パーソナリティなど様々な『こころ』を、実験や調査、面接といった科学的な方法を用いて研究を行う学問の1つです。この「心理学概論」では、受講生の興味関心を内容に含めつつ、心理学という学問を広く取り上げ、各分野で研究されている「こころ」の捉え方について紹介し、一緒に学んでいきたいと思います。授業計画や各回の内容は第1回目の講義でのオリエンテーションや授業を進める中で適宜変更していく予定です。基本的には講義が中心ですが、回によってはアンケート形式の心理検査を実施したり、簡単な実験のような内容を含むことがあります。

2. 学びの意義と目標

心理学に関心をもつ最初の一步となるよう、講義を通じて心理学の基本的な知識・考え方を身に付けてもらいたいと考えています。また、講義を通じて、自分自身や周囲の他者の「こころ」を考える機会があると思います。心理学に触れる中で、そういった自己理解・他者理解のきっかけとなるような体験を逃さないよう、授業に参加するように心がけてください。

受講生に対する要望

出席を重視します。欠席数が一定数を越えている場合には、試験を受けても単位が認定されません。第1回目の講義でも説明を行います。事前に欠席・遅刻の予定が分かっている際には事務を通じて所定の連絡を行うよう心がけてください。

キーワード

事前学習（予習）

各回ごとに、次回の内容についてのトピックをまとめたプリントや書籍を紹介する予定です。可能な範囲で目を通すようにしてください。

復習についての指示

試験での成績評価を行うため、各回の配布資料等を保管し、復習が可能なように心がけてください。

授業計画

1. 授業の紹介と評価方法について
2. 「こころを理解する学問」とは？
3. 「ものの見え方・感じ方」の心理学①
4. 「ものの見え方・感じ方」の心理学②
5. 「学びと記憶」の心理学①
6. 「学びと記憶」の心理学②
7. 「対人関係」の心理学①
8. 「対人関係」の心理学②
9. 「気持ちとやる気」の心理学①
10. 「気持ちとやる気」の心理学②
11. 「成長と老い」の心理学①
12. 「成長と老い」の心理学②
13. 「学校」の心理学①
14. 「学校」の心理学②
15. 「性格と個人差」の心理学①
16. 「性格と個人差」の心理学②
17. こころを研究する方法①
18. こころを研究する方法②
19. 「こころの健康」を目指す心理学①
20. 「こころの健康」を目指す心理学②
21. 「こころの不調」の科学①
22. 「こころの不調」の科学②
23. 心理検査とは①
24. 心理検査とは②
25. さまざまな現場での心理学①
26. さまざまな現場での心理学②
27. こころを援助する方法①
28. こころを援助する方法②
29. 心理学の歴史
30. 講義のまとめ・試験

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 出席:50% (2) 期末試験:25% (3) 授業内の提出物:25%:詳細は第1回目に決定予定

第1回目の講義で評価方法の説明を行いますので、受講を考えている場合にはできるだけ出席するようにしてください。

担当者：田澤 薫

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

学問の奥深さを知るとともに、大学院進学希望者に対し大学院授業への準備とする

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

児童学研究では、児童を研究する意味や目的を根本から問い、福祉的な視座に立った児童研究の基礎を学ぶ。福祉学の諸分野の中でも児童福祉は、子ども一人ひとりのしあわせを願い、そのために私たちに出来ることを模索する学問領域である。生まれたときから、あるいは育つ過程でいろいろな困難に出会っても、どの子の育ちもしあわせであってほしいと願う視座に立って研究を進めるためには、まず、子どものしあわせって何だろう、と考えることから始めたい。さらには、そもそも「子ども」という存在の特性をどれだけ客観的に捉えているか、自問する必要があるだろう。そこで本講義では、児童学の視座にたって子どもを研究する際の基本的な観点について学んだあとで、子どもの育ちを援助する保育や教育の実践記録を分析し、子どもの姿や保育・教育・援助の実践から子どもを研究する方法を身につける。

2. 学びの意義と目標

本講義では、児童学の視座にたって子どもを研究する際の基本的な観点について学んだあとで、子どもの育ちを援助する保育や教育の実践記録を分析し、子どもの姿や保育・教育・援助の実践から子どもを研究する方法を身につける。

受講生に対する要望

未記入

キーワード

(1)未記入

事前学習（予習）

配布した論文・資料を指定した授業回までに必ず読み込んでおく。授業での課題報告はレジュメを作成し主体的に準備する。

復習についての指示

.

授業計画

1. はじめに 「児童」を研究すること
2. はじめに 「児童」を研究すること
3. 子どもの捉え方
4. 子どもの捉え方
5. 子どもの時間と発達理解
6. 子どもの時間と発達理解
7. 制度からみる子ども理解
8. 制度からみる子ども理解
9. 子ども理解における記録の意味
10. 子ども理解における記録の意味
11. 保育・教育・援助の実践研究の方法
12. 保育・教育・援助の実践研究の方法
13. 保育・教育・援助の場面記録分析（1）
14. 保育・教育・援助の場面記録分析（1）
15. 保育・教育・援助の場面記録分析（2）
16. 保育・教育・援助の場面記録分析（2）
17. 保育・教育・援助の実践研究分析（1）
18. 保育・教育・援助の実践研究分析（1）
19. 保育・教育・援助の実践研究分析（2）
20. 保育・教育・援助の実践研究分析（2）
21. 保育・教育・援助の実践研究分析（3）
22. 保育・教育・援助の実践研究分析（3）
23. 保育・教育・援助の実践研究分析（4）
24. 保育・教育・援助の実践研究分析（4）
25. 保育・教育・援助の実践研究分析（5）
26. 保育・教育・援助の実践研究分析（5）
27. 保育・教育・援助の実践研究分析（6）
28. 保育・教育・援助の実践研究分析（6）
29. 総括
30. 総括

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)積極的な参加:30% (2)課題報告:30% (3)レポート:40%

担当者：永井 理恵子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

学問の奥深さを知るとともに、大学院進学希望者に対し大学院授業への準備とする

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

西洋および日本の、主として近代の教育史について学ぶ。

2. 学びの意義と目標

この特論では、教育学について、歴史的観点から再考することを目的とする。履修者が教育学を専門としない場合、もしくは十分な教育学の素養が積まれていない場合が予想されるため、教育学の基礎的概念を改めて習得することを目指す。

受講生に対する要望

教育史のみの講義であるので、歴史が苦手な学生には向かない。児童教育学を履修し、Sの成績を取得した者で、教育学に関わる卒業論文執筆を目指す学生の履修を求める。大学院との相乗り科目であるため、講義の水準は非常に高く、速度も速い。

キーワード

(1) 教育学 (2) 子ども (3) 社会 (4) 学校 (幼稚園) (5) 教育思想

事前学習（予習）

指定する教科書とプリントの次週の学習箇所を予習してくる。基本的な単語は各自で用語辞典などを使用して調べてくること。

復習についての指示

教科書とメモを読みなおしてくる。

授業計画

1. 教育学の基礎的概念 1
2. 教育学の基礎的概念 2
3. 教育の多様な場面 1
4. 教育の多様な場面 2
5. 教育、保育、福祉の相互関係 1
6. 教育、保育、福祉の相互関係 2
7. 西洋教育史 1
8. 西洋教育史 2
9. 西洋教育史 3
10. 西洋教育史 4
11. 西洋教育史 5
12. 西洋教育史 6
13. 西洋教育史 7
14. 西洋教育史 8
15. 西洋教育史 9
16. 西洋教育史 10
17. 西洋教育史 11
18. 西洋教育史 12
19. 西洋教育史 13
20. 西洋教育史 14
21. 西洋教育史 15
22. 西洋教育史 16
23. 日本教育史 1
24. 日本教育史 2
25. 日本教育史 3
26. 日本教育史 4
27. 日本教育史 5
28. 日本教育史 6
29. 総括 1
30. 総括 2

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席率:60% (2) 参加の態度:30% (3) 提出物の成果:10%

児童福祉特論

SWEL-0-402

担当者：中谷 茂一

開設期：秋学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

学問の奥深さを知るとともに、大学院進学希望者に対し大学院授業への準備とする

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

児童福祉分野のうち、主に子ども虐待、児童養護、子育て支援、権利擁護、家族、スクールソーシャルワークに関連するテーマを扱い、各受講者の研究に寄与する知見の解説や議論を行う。また、児童福祉のサービスに関して法的根拠やシステムのみでなく、実際の現場に即した具体的な援助方法の参考となる調査結果やヒアリング結果も紹介しながら、科目担当者の権利擁護活動から得られた知見もフィードバックしていく。その中で受講者がそれぞれの立場で活用、実践につながれば幸いである。なお、下記から受講者の研究テーマに関連する事項をなるべく多く扱いながらすすめる。

2. 学びの意義と目標

子どもの福祉に関するその国の理念・サービスの議論と実施状況は次代の社会を占う試金石でもある。現代的な子ども観に基づく新しいサービスを学びながら、これまでの環境の再検討と将来に向けての育児支援の利用をイメージする契機としたい。なお、子ども虐待に関する社会的対応と人々の意識についてあつかう時間を多くとる。

受講生に対する要望

頻繁に発言と小レポートを求める。自分の頭で考え積極的に発言しなければ単位修得はできない。

キーワード

(1)子ども (2)家族 (3)虐待 (4)福祉 (5)子育て支援

事前学習（予習）

次回該当箇所のテキストに目を通す

復習についての指示

当日配付資料の復習

授業計画

1. 子ども家庭福祉における「子ども」観
2. 子ども家庭福祉における「子ども」観
3. 子ども家庭福祉におけるジェンダー問題
4. 子ども家庭福祉におけるジェンダー問題
5. 少子社会と福祉環境
6. 少子社会と福祉環境
7. 「子どもの権利条約」と権利擁護のしくみ
8. 「子どもの権利条約」と権利擁護のしくみ
9. 内外の歴史と子ども家庭福祉観の変遷
10. 内外の歴史と子ども家庭福祉観の変遷
11. 実際のサービスの制度と児童相談所、保育所、児童養護施設などの概要と課題点
12. 実際のサービスの制度と児童相談所、保育所、児童養護施設などの概要と課題点
13. 具体的なサービス内容と課題点
14. 具体的なサービス内容と課題点
15. 子育てサークルなど育児支援の社会的資源
16. 子育てサークルなど育児支援の社会的資源
17. 子ども家庭福祉にたずさわる専門職
18. 子ども家庭福祉にたずさわる専門職
19. 「子ども虐待」をとりまく神話
20. 「子ども虐待」をとりまく神話
21. 「見える虐待」と「見えない虐待」、「優しい虐待」
22. 「見える虐待」と「見えない虐待」、「優しい虐待」
23. 子ども虐待に関する人々の意識とまなざし
24. 子ども虐待に関する人々の意識とまなざし
25. 子ども虐待の社会的対応と限界
26. 子ども虐待の社会的対応と限界
27. スクールソーシャルワークの実際
28. スクールソーシャルワークの実際
29. ディスカッション
30. ディスカッション

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:20% (2)テスト:50% (3)ディスカッション参加状況:30%

担当者：森 達也

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

<テーマ> 政治の基礎知識／政治学の基礎政治という言葉は、私たち自身が当事者であるところの多様な問題を認識し、討議し、意思決定する営みを意味します。そして政治学は、私たちが日々の政治問題を理性的に考え、解決し、判断するのに役立つ道具箱であると同時に、政治という営みそれ自体を批判的に理解するための手段であると言えます。本講義ではまず政治学の基本的な考え方を学び、現代政治の基礎知識を習得しながら、政治学内部の各テーマを順に考察していきます。

2. 学びの意義と目標

政治学がどのような学問領域であるのかを理解すること。身近な問題を政治（学）的に捉え、それに意見を表明し、他者と議論することができるようになること。

受講生に対する要望

高校の「政治・経済」の内容を復習しておくこと。普段からニュースに触れて時事問題に通じておくこと。

キーワード

(1) 政治 (2) 経済 (3) 公共政策 (4) 社会保障 (5) 国際関係

事前学習（予習）

配布プリントを各自でできるかぎり完成させ、次の講義に備えること。

復習についての指示

授業で扱った範囲の教科書・プリントの内容を習得して小テストに備えること。

授業計画

1. 講義の概要と趣旨の説明
2. 政治学とは何か（教科書序章）
3. 民主主義の基本原則（プリント）
4. 政治とは何か（教科書第1章）
5. 各国の政治体制（プリント）
6. 政治体制・比較政治制度論（教科書第2章）
7. 国会の仕組み（プリント）
8. 現代政治学の歴史（教科書第11章）
9. 内閣と行政機構（プリント）
10. 政治過程論（教科書第4章）
11. 現代政治の特質と政党（プリント）
12. 政党・圧力団体・メディア（教科書4・6章）
13. 財政と税（プリント）
14. 政策決定論（教科書第5章）
15. 貨幣・金融と日銀の役割（プリント）
16. 中間試験
17. 映像で見る政治（1）
18. 映像で見る政治（2）
19. 資本主義／社会主義経済（プリント）
20. 政治と経済（教科書第3章）
21. 日本の社会保障制度（プリント）
22. 福祉資本主義レジーム論（教科書第3章）
23. 労働問題と労働市場の変化（プリント）
24. 福祉国家の危機と再編（教科書第3章）
25. 国際社会と国際法（プリント、教科書第9章）
26. 国際機関（プリント）
27. 冷戦と核兵器の問題（プリント、教科書第9・10章）
28. ナショナリズムと民族問題（プリント、映像）
29. 地球環境問題（プリント、教科書第10章）
30. 総括

教科書

加茂利男ほか著 『現代政治学 第4版』（有斐閣）

評価方法

(1) 中間試験:35%:論述問題を含む (2) 最終試験:35%:論述問題を含む (3) 授業内課題:30%:小テスト・コメントシート

担当者：小畑 俊太郎

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

日本では現在、社会構造が大きく変化するなかで、意志決定システムとしての政治制度のあり方も根底から問い直されてきている。日本を含めて現代の多くの国で採用されている政治体制は、一般的に「自由民主主義」と言われる。それは、制度の体系であると同時に理念の体系でもある。本講義では、その思想的基盤と制度的構造を検討することによって、「自由民主主義」についての理解を様々な角度から深めていく。

2. 学びの意義と目標

政治学の基礎的な理論や概念を理解することで、最終的には、政治をめぐる自分なりの課題を発見し、主体的に判断することの出来る教養を身につけることを目標としている。

受講生に対する要望

現代の政治だけでなく、歴史や哲学にも関心があればなお望ましい。

キーワード

(1) 自由主義 (2) 民主主義 (3) 国家 (4) 政党制 (5) 官僚制

事前学習（予習）

授業で扱う予定のテーマについて、事前に新聞や著作などでよく調べておくこと。

復習についての指示

配布したプリントと授業中にとったノートをよく再読すること。

授業計画

1. 政治とは何か(1): 権力
2. 政治とは何か(2): 公共善
3. 自由主義(1): 生命と財産の自由
4. 自由主義(2): 思想と信仰の自由
5. 自由主義(3): 権力の分立
6. 直接民主主義(1): 民主主義の起源
7. 直接民主主義(2): ポリスの政治
8. 直接民主主義(3): 人民主権論
9. 代表制民主主義(1): 二つの代表観
10. 代表制民主主義(2): 保守主義
11. 代表制民主主義(3): 功利主義
12. 自由民主主義(1): 大衆社会の自由
13. 自由民主主義(2): 自由と陶冶
14. 現代の自由民主主義
15. 中間試験
16. 政治制度(1): 大統領制
17. 政治制度(2): 議院内閣制
18. 政治制度(3): 日本の議院内閣制
19. 官僚制(1): 官僚制の合理性と非合理性
20. 官僚制(2): 公務員任用制度
21. 官僚制(3): 日本の行政改革
22. 政党制(1): 政党の構造
23. 政党制(2): 政党制の諸類型
24. 政党制(3): 日本の政党政治
25. 利益団体(1): 利益団体の意義と限界
26. 利益団体(2): 利益団体政治の条件
27. マス・メディア(1): メディアの影響力
28. マス・メディア(2): テレビ報道と政治
29. マス・メディア(3): インターネットと政治
30. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席: 30% (2) 中間試験: 30% (3) 期末試験: 40%

担当者：田中 史高

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この科目では、古代から中世、近世へ、さらに近代、現代へと、年代順にヨーロッパ史上の重要な事象・人物などを論じていきます。毎回、講義内容の概要と図版を載せたプリント（レジュメ）を教室で配布します。また、なるべく毎時10分程度をあてて、視覚教材（ビデオ）を用いる予定です。

2. 学びの意義と目標

西洋史の基本的な認識をつちかう序論的講義です。全部で30回の講義は、毎回こととなるテーマを扱い、西洋史の基本的な流れがつかめるように配列してあります。

受講生に対する要望

毎回の作業内容が多いので、まとめの課題などをためこまずに、なるべく1回1回こまめにこなしていくように努力してください。

キーワード

(1) 国家 (2) 宗教 (3) 社会制度 (4) 戦争 (5) 統合と分化

事前学習（予習）

できれば受講前に、高校世界史の既習者は、その教科書を西洋史関係の部分だけもう一度目を通しておくとよいでしょう。

復習についての指示

毎回授業の最後に10～15分をあてて、配布レジュメに即した授業内容のまとめを作成し提出してもらいます。このまとめは、後日の提出も可としますが、小テスト（全3回）への準備作業もかねています。

授業計画

1. オリエンテーション
2. エーゲ文明
3. 古代スパルタとアテネ
4. ギリシアの古典文化
5. ヘレニズム史
6. 共和政ローマ
7. 帝政ローマ
8. ゲルマン人の移動と部族国家
9. ローマ・カトリック教会の発展
10. 十字軍
11. 封建制と荘園制
12. 中世都市
13. 西欧中世の文化
14. イタリア・ルネサンス
15. 西欧諸国の国王巡行
16. ヨーロッパ世界の拡大
17. 西欧諸国の宗教改革
18. 絶対主義（一般論とロシアの事例）
19. オランダの独立と繁栄
20. 市民革命
21. ナポレオンとその時代
22. 西欧ユダヤ人の歴史
23. ドイツ統一史とドイツ帝国
24. 第一次・第二次産業革命
25. 帝国主義（一般論とイギリスの事例）
26. 第一次世界大戦
27. ファシズムと第二次世界大戦
28. 20世紀の西洋諸文化
29. 20世紀後半の西欧・EU
30. 20世紀後半の東欧

教科書

プリントを配布する
プリントとしては、前記毎回のレジュメのほか、必要に応じて補足的な参考資料類も配布します。

評価方法

(1) 授業の出席点:25% (2) 授業内容のまとめ:25% (3) 小テスト（3回）:50%

担当者：森 斉文

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義は、欧米文化を学ぶ上で基礎となる西洋史の基本的な事象をそれに関連する芸術、文学、文化等の分野にも言及しつつ学習する。また、授業に際して、簡単な授業内レポートを課したり、時間が許せば、ビデオやDVD等の各種AV資料を使用していきたい。また、授業で扱った事項について、自分で分析し、必要な評価を下せるように、授業毎に考えたことや疑問点を書いてもらう。

2. 学びの意義と目標

西洋史は、西洋文化を学ぶ上で必要な基本的知識の宝庫であり、西洋文化がいかにして発展してきたかを知るために必須の分野であるとともに、社会に出たあと、現状を分析し必要な判断をするための基本的知識になるものである。個々の事項を細かく分析することは避け、西洋文化を学ぶ上で必要となるであろう西洋史の基礎知識と歴史の流れをつかむことを目標とする。

受講生に対する要望

講義中の私語は厳禁とする。携帯電話はマナーモード設定すること。

キーワード

(1)歴史 (2)西洋史 (3)欧米文化

事前学習（予習）

毎授業の最後に次回のテーマを発表するので、教科書の該当部分に目を通すことを勧める。大事なところは板書するので、各自プリント、ノート等には書き込み、補足し復習するのが望ましい。

復習についての指示

授業で学んだ人物、事項についてプリント・ノート等を見ながら思い出せるようにするとよい。

授業計画

1. 歴史とは何か？
2. 古代オリエント
3. 地中海世界
4. 古代ギリシア
5. 共和政ローマ
6. 帝政ローマ
7. ローマ帝国の社会とキリスト教
8. ゲルマン世界の誕生
9. 中世ヨーロッパ
10. 十字軍とイスラム世界
11. 中世ヨーロッパの社会
12. キリスト教と世俗君主
13. ヨーロッパ世界の拡大
14. 大航海時代
15. ルネサンス
16. 宗教改革
17. 宗教戦争とウェストファリア条約
18. 絶対王政
19. 英米の革命
20. フランス革命
21. 産業革命と労働問題
22. 帝国主義と民族主義
23. 第一次世界大戦
24. 戦間期のヨーロッパ
25. 第二次世界大戦
26. 東西冷戦の開始から終結まで
27. 欧州統合の歴史
28. 冷戦後の世界
29. ポストコロニアリズムとグローバリズム
30. 現代の世界

教科書

成瀬 治, 佐藤 次高, 木村 靖二, 岸本 美緒, 桑島 良平 『山川世界史総合図録』（山川出版社）

評価方法

- (1)出席点:20% (2)授業内レポート:20% (3)小テスト1:20% (4)小テスト2:20% (5)小テスト3:20%

担当者：村上 公久

開設期：秋学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

学問の奥深さを知るとともに、大学院進学希望者に対し大学院授業への準備とする

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

まず環境史を概観し産業革命以後の環境問題を省みたとともに、特にUnited Nations Conference on the Human Environment（ストックホルム「国連人間環境会議」）1972年から、United Nations Conference on Environment and Development, “UNCED”（リオ・デジャネイロ「国連 地球サミット」）1992年、さらに一連の「地球温暖化防止国際会議」、World Summit on Sustainable Development, “WSSD”（持続可能な開発に関する世界首脳会議 2002年）、およびUnited Nations Conference on Sustainable Development (Rio+20)（「国連持続可能な開発会議（リオ+20）」）2012年 など近年の地球環境問題を巡るアジェンダの変遷とその背景を考察する。

2. 学びの意義と目標

国際化・地球化における地球環境問題への取り組みのあり方を検討する。急速な国際化の進展に伴い、国民国家の枠組みが解消してゆき、世界の担い手がコミュニティ・自治体と超国家機構・国際的組織とに分極してゆく中で、「水と空気に 国境はない」環境問題の解決の方途を、持続的開発（持続的発展）Sustainable Developmentを実現させるための環境政策の視野で考える。

受講生に対する要望

大学院科目を学部の「新総合科目」として開講するので、学部生で履修を希望する者は履修に先立って予め「環境保全論」「環境学」「聖書の中の環境問題」の一つ以上の科目でSまたはAの成績評価を得ておくこと。

キーワード

(1)地球環境問題 (2)Sustainable Development (3)国際化・地球化（グローバル化） (4)「水と空気に 国境はない」 (5)環境政策

事前学習（予習）

農水、経産、外務、環境、各省資料。特に「エネルギー白書」「日本の国際協力」、IBRD, OECD, ADB(Asian Development Bank), UNDP, UNEP 関連資料。

復習についての指示

各回の講義内容について、各自関連する資料を学び、履修者間で講義時間外にもディスカッションを通じて理解を深めること。

授業計画

1. Science について –body of knowledge 知識の体系
2. ふたつのアプローチ –genetic/functional approach
3. 「相の転換」 phase transition
4. 地球環境問題とは何か –環境問題概論
5. 生態学におけるいくつかの重要な概念について
6. 地球環境問題をめぐる理念の変遷 –環境史概観
7. 処方箋『アジェンダ21』 Agenda 21とその背景の検討
8. 環境関連 国際機関・機構
9. 法・制度
10. 持続的（持続的）発展 Sustainable Development
11. 環境はいくらか –環境の経済的評価
12. OECD モデルの検討
13. 事例研究
14. 合意形成の方途、第4セクターの重要性
15. 「全球時代」の地球環境問題と国際的資源管理

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)ディスカッションへの参画（出席を含む）と寄与・貢献:50%：出席を含む (2)レポート:50%

担当者：高橋 章仁

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

哲学は、考えることの大切さを教えてくれる学問である。しかし、受身の姿勢で接していても哲学は何も教えてくれない。自分の頭で考え、主体的に哲学することなくして、豊かな学びは得られない。本講義（春学期）では、近代以降の哲学史の流れを、実際に哲学者が語ったテキストを通じて丹念にたどり、ともに考えながら、なるべくわかりやすく解説していきたいと思っている。なお、一人の哲学者の思想をじっくりと読みたいという人は、秋学期の「哲学」を受講されたい。

2. 学びの意義と目標

取り上げる思想のどれもが、単なる過ぎ去った思想ではなく、現代にも十分通用しうるものを備えており、そこから学ぶべきところは決して少なくないはずである。この講義を通じて、受講者それぞれが、今の、そして、これからの自分の生きる糧となりうるような思想を見つけ出すことを期待している。

受講生に対する要望

テキストを忍耐強く読み進めていくという覚悟をもって受講してほしい。

キーワード

(1) 西洋哲学 (2) 哲学入門

事前学習（予習）

毎回授業の最後に、次回取り上げる哲学者を伝達するので、何らかの哲学史の本などを利用して、その思想に関する予備的な知識を得ておくこと。詳しくは最初の授業のときに指示する。

復習についての指示

授業で提示されたテーマや事柄についてもう一度深く考え、可能なかぎり自分の言葉に置き換える努力してほしい。そうした言語化の作業を通じて、自身の立場や思想を明確にしていくことを求めたい。

授業計画

1. ガイダンスと哲学とは何か
2. 歴史的概観
3. デカルト（１）——近代的自我の確立
4. デカルト（２）——道徳の問題
5. スピノザ・ライプニッツ——デカルトの克服
6. パスカール——理性と信仰
7. イギリス経験論（１）——ロックとバークリ
8. イギリス経験論（２）——ヒューム
9. 功利主義——ベンサムと J. S. ミル
10. カント（１）——理性の特殊な運命
11. カント（２）——義務と定言命法
12. カント（３）——自律とアンチノミー
13. フィヒテ——自我の三原則
14. ドイツ観念論の展開
15. ヘーゲル（１）——弁証法の確立
16. ヘーゲル（２）——自由と歴史
17. ショーペンハウアー——生への意志
18. キルケゴール——実存哲学の誕生
19. ニーチェ（１）——強者の生
20. ニーチェ（２）——ニヒリズムを生きる
21. ハイデガー（１）——現存在と実存
22. ハイデガー（２）——死への存在
23. サルトル（１）——即自存在と対自存在
24. サルトル（２）——対他存在
25. 実存思想概観
26. ヤスパース（１）——交わり
27. ヤスパース（２）——限界状況・その１
28. ヤスパース（３）——限界状況・その２
29. マックス・ウェーバー——責任倫理
30. 理解度の確認

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 学期末試験：70%：教場での論述試験を行う。(2) 平常点：30%：出席・授業態度の他に、状況に応じて小テストを行う。

哲学

PHIL-0-101

担当者：鬼頭 葉子

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義では、西洋哲学の流れを概観しつつ、哲学の「考え方」が、現代日本社会に生きている私たちとどう関わるのかを考えます。哲学は、「昔の偉い人が考えた難しいこと」にとどまらず、私たちが日頃、何かについて考えたり行動したりする時に、何気なく用いている「考える方法」なのです。日常の様々なトピックに関し、その背景にある「哲学思想」—ものごとの考え方・とらえ方—について理解することで、より皆さんは日常の出来事についての考えを深めたり、自分の考え方を明確に意識したりできるようにしましょう。様々な哲学者の思想を取り上げますが、哲学者の名前や概念を暗記することが講義の目的ではありません。先人たちが、彼らが生きた時代における日常的な出来事や素朴な疑問について考え、理由をつけて説明しようとした試み、それが哲学です。この講義においては、皆さん自身が、自らが生きる現代社会において、日常出会う出来事や疑問について考える「哲学者」になってみる体験をすることが第一の目標です。さらに、哲学が時代の流れとともにどのような変化をしてきたのか、その全体的なストーリーやイメージ（哲学史）を自分なりに描けることを第二の目標とします。考えるための材料として、映像や映画を教材に用いることもあります。

2. 学びの意義と目標

本講義では、日常の具体的な出来事、社会問題や文化、また誰もが一度は考えたことがあるような素朴な疑問などを取り上げ、その背景にある「考え方」や「枠組み」として「哲学」を捉えていきます。最終的には皆さんが自分自身の「ものの考え方」をつくっていくことが目標です。皆さんは日頃から多量の情報に接しています。その中で「自分はこのような理由から、こう考える」と論理的に自分の考えを主張することはなかなか困難です。また自分自身が、思い込みや先入観にとらわれていることもあります。「哲学」は、多様な情報や自分自身の思い込みを整理し、その中から根本的な考え方の枠組みを導き出す作業であり、とらわれから自由になって考える訓練でもあります。この講義では、多様な事例や教材を用い、皆さんに考える訓練をしてもらい、考えることによって「自由」を得てもらうことをねらいとしています。多くの人が「当たり前だ」と口をそろえるようなことや、メディアやインターネット上で主張されることがあるもののみにするのではなく、それらを批判的かつ建設的に理解できるよう、情報リテラシーとしての学習目的も有しています。

受講生に対する要望

予備知識は必要ありません。「自分で考える」作業に積極的に取り組んで下さい。皆さんに意見を述べてもらう機会もあります。

キーワード

(1) 西洋哲学 (2) 思想 (3) 倫理学

事前学習（予習）

内容が連続して展開する講義があるので、前回講義の配布プリントを読み返しておくこと。

復習についての指示

講義内に取り扱ったり、紹介したりした参考資料を図書館などで探し、一読すること。講義内容がより深く理解できます。

授業計画

1. ガイダンス（講義の進め方・成績評価の仕方など）
2. 哲学とは何だろうか？
3. プラトン：「正しさ」とは一人が見ていなければ悪いことをする？—
4. アリストテレス：「善さ」とは一善い人ってどんな人？—
5. ギリシャ諸思想：「幸福」とは一犬のように暮らすこと！？—
6. 現代社会との関連—「民主主義」はどこから来たのか？—
7. アウグスティヌス：「人間」とは一人間はどこから来たのか？—
8. 中世の思想：「わたしたち」とは一領主と教会、偉いのは誰？—
9. ルネサンス：「わたし」とは一芸術は自由だ！？—
10. ルター：「信じる」とは一がんばっても救われない？—
11. カルヴァン：「労働」とは一がんばって働いてもいい？—
12. 近代科学：「科学の真理」とは一「それでも地球は回る」？—
13. 現代社会との関連—科学は「信じるもの」？「知るもの」？—
14. デカルト：「人間と動物」とは一人間と動物はどこがちがう？—
15. ホッブス：「国家」とは一皆で作ったお約束—
16. ロック：「市民」とは一私には権利がある—
17. ルソー：「規則」とは一ルールはなぜ守らねばならないのか？—
18. 現代社会との関連—人権はなぜ尊重されねばならないのか？—
19. カント：「理性の自由」とは一本能のまま生きるのは自由？—
20. ミル：「自由」とは一馬鹿なことをするのも自由？—
21. 現代社会との関連—幸福は計算できる？—
22. アダム・スミス：「経済」とは一自由競争はすばらしい？—
23. マルクス：「労働」とは一得しているのは誰？—
24. 現代社会との関連—格差社会ができたのはなぜ？—
25. ニーチェ：「道徳」とは一「よい」こと・「つよい」こと—
26. 現代社会との関連—「正しいこと」って決められる？—
27. アレント：「国家の暴力」とは一「普通の人」が悪人？—
28. 現代社会との関連—なぜ世界では戦争が起り続けているのか？—
29. フーコー：「近代」とは一私は監視されている？—
30. 講義全体のまとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 学期末レポート：40%：インターネットからのコピー&ペーストによる内容であった場合、点数を与えることはできません。(2) 小レポート：30%：講義期間内、計3回実施する予定です。(3) リアクションペーパー：出席状況：30%

リアクションペーパーとは：毎時間終了時、指定した項目にそって自分の考えを用紙に記入し、提出して下さい。

担当者：高橋 章仁

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

哲学は、考えることの大切さを教えてくれる学問である。しかし、受身の姿勢で接していても哲学は何も教えてくれない。自分の頭で考え、主体的に哲学することなくして、豊かな学びは得られない。本講義（秋学期）では、20世紀ドイツの哲学者カール・ヤスパースの『哲学入門』（新潮文庫）を精読し、その思想を解説していく。「入門」を銘打った著作ではあるが、内容は必ずしも平易ではないので、哲学史的な知識をつねに確認しながら、読み進めていくことにしたい。なお、様々な哲学者のテキストを読みたいという人は、春学期の「哲学」を受講されたい。

2. 学びの意義と目標

哲学の正確な知識を身につけることは必要であるが、単なる暗記に終始しては意味がない。テキストの内容理解を深めることはもちろんであるが、自らが主体的に哲学と向き合うことを通じて、哲学することの意義を体感してほしいと思っている。

受講生に対する要望

テキストを忍耐強く読み進めていくという覚悟をもって受講してほしい。

キーワード

(1) 西洋哲学 (2) 哲学入門

事前学習（予習）

次回読み進めることになる箇所を、予め読み込んでおくこと。そして、どこが分かって、どこが分からないかを把握したうえで、授業にのぞんでほしい。

復習についての指示

授業で提示されたテーマや事柄についてももう一度深く考え、可能なかぎり自分の言葉に置き換える努力してほしい。そうした言語化の作業を通じて、自身の立場や思想を明確にしていくことを求めたい。

授業計画

1. ガイダンスと予備的講義
2. 第1講「哲学とは何ぞや」（1）
3. 第1講「哲学とは何ぞや」（2）
4. 第1講「哲学とは何ぞや」（3）
5. 第2講「哲学の根源」（1）
6. 第2講「哲学の根源」（2）
7. 第2講「哲学の根源」（3）
8. 第3講「包括者」（1）
9. 第3講「包括者」（2）
10. 第3講「包括者」（3）
11. 第4講「神の思想」（1）
12. 第4講「神の思想」（2）
13. 第4講「神の思想」（3）
14. 第5講「無制約的な要求」（1）
15. 第5講「無制約的な要求」（2）
16. 第6講「人間」（1）
17. 第6講「人間」（2）
18. 第7講「世界」（1）
19. 第7講「世界」（2）
20. 第8講「信仰と啓蒙」（1）
21. 第8講「信仰と啓蒙」（2）
22. 第9講「人類の歴史」（1）
23. 第9講「人類の歴史」（2）
24. 第10講「哲学する人間の独立性」（1）
25. 第10講「哲学する人間の独立性」（2）
26. 第11講「哲学的な生活態度」（1）
27. 第11講「哲学的な生活態度」（2）
28. 第12講「哲学の歴史」（1）
29. 第12講「哲学の歴史」（2）
30. 理解度の確認

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 学期末試験:70%:教場での論述試験を行う。(2) 平常点:30%:出席・授業態度の他、状況に応じて小テストを行う。

日本史		HIST-0-102
担当者：川崎 司		
開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位		
学部教育の関連目標 専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ	授業計画 1. 「ものづくり日本（1）文明開化～汽笛一声 新橋を～」 2. 「日本の近代化遺産（1）絹から始まった産業革命（2）鉄は国家なり」 3. 「ものづくり日本（2）殖産興業～蕨入りは活動写真で～」 4. 「近代百貨店誕生物語」, 「大正デモクラシーを生んだ米騒動」 5. 「ものづくり日本（3）大正モダン～乗合自動車、帝都を走る～」, 「大学は出たけれど」(小津安二郎監督作品) 6. 「証言の昭和（1）昭和前夜～近代国家の礎～」 7. 「証言の昭和（2）満州事変～非常時日本～」, 「＜小さな旅＞再起の記憶刻んで～横浜山下公園～」 8. 「証言の昭和（3）二・二六事件～国家改造の夢と現実～」, 「“蟹工船” 小林多喜二のメッセージ」 9. 「証言の昭和（4）日中戦争～総動員体制始動～」 10. 「ものづくり日本（4）第二次世界大戦」, 「プロフェッショナル・仕事の流儀 勇気をくれた言葉」 11. 「雨の神宮外苑～学徒出陣、56年目の証言～」 12. 「証言の昭和（5）太平洋戦争開戦～聖戦の名の下に～」 13. 「証言の昭和（6）敗戦～総力戦の果てに～」, 「戦争はなぜ始まり、どう終わるのか」 14. 「鐘の鳴る丘（隆太の巻）」(佐々木啓祐監督作品) 15. 「ものづくり日本（5）焼け跡から～復興・原料は空き缶～」 16. 「子どもたちに伝える戦争」 17. 「鐘の鳴る丘（2）修吉の巻」 18. 「証言の昭和（7）占領と復興～日本の再出発～」 19. 「ものづくり日本（6）独立国としての再出発～銀幕の中の電化製品～」, 「本多宗一郎と安藤百福」 20. 「家電元年、最強営業マンが立つ～勝負は洗濯機～」 21. 「3000万の署名、大国を揺るがす～第五福竜丸が伝えた核の恐怖～」 22. 「ものづくり日本（7）東京オリンピック～新幹線登場～」, 「妻へ贈ったダイニングキッチン～住宅革命の秘密～」 23. 「料理人たち～炎のオリンピック～」, 「東京オリンピック」(市川崑監督作品) 24. 「＜小さな旅＞ふるさとの始発駅～東京上野界わい～」, 「柴田トヨ・くじけないで」 25. 「ものづくり日本（8）昭和元禄～地上147メートル、昭和初の高層ビル～」 26. 「ものづくり日本（9）半導体登場～携帯用ヘッドホンステレオ世界～」 27. 「ものづくり日本（10）ものづくり原点帰郷～バブルとその崩壊、そして未来へ～」 28. 「山田洋二 50年の時が過ぎて（前編）夢を追った時代からバブル崩壊まで」 29. 「山田洋二 50年の時が過ぎて（後編）バブル崩壊から震災まで」 30. 「宮沢賢治の音楽会」	
カリキュラム上の位置付け		
講義概要 1. 内容 時の流れとともに、心象を反映する「ことば」が次々と生み出されてきた。私たちは今、その言葉の海にたゆたいながら、新たなコンパスを探しているところだ。先人の遺した、心に響く言葉を手がかりに、時代を超越した普遍的なるものを求めて〈歴史〉の海原に泳ぎ出よう。自分探しの旅に立とう。新旧の名言を、映像の力を借りながらじっくり味わっていく。		
2. 学びの意義と目標 喜怒哀楽を共にし、歴史から学ぶ喜びを共有したい。視野が広がりが感性がますます磨かれ、人生に輝きが増せば幸いである。		
受講生に対する要望 予習・復習を忘れずに。毎回の小テストに備えること。遅刻厳禁。		
キーワード (1)言葉 (2)仕事(天職) (3)時間		
事前学習（予習） 日頃接する言葉のうち、心に響く「ことば」があれば書き留めて、自分だけの辞典（事典）を作ってみよう。	教科書 授業の中で指示する	
復習についての指示 毎回配布する資料を熟読して試験に備えること。	評価方法 (1)出席状況:25% (2)毎回の小テスト:25% (3)期末試験:25% (4)研究レポート:25%	

日本史	
担当者：山田 康弘	
開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位	
<div>学部教育の関連目標</div> <p>専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ</p>	<div>授業計画</div> <ol style="list-style-type: none"> 1. 戦国の「いくさ」はどうだったのか？（戦国時代（1）） 2. 戦国大名は何のために戦ったのか？（戦国時代（2）） 3. 戦国大名は何に気を使ったのか？（戦国時代（3）） 4. なぜ「天下統一」に向かった？（前編）（戦国時代（4）） 5. なぜ「天下統一」に向かった？（後編）（戦国時代（5）） 6. なぜキリスト教は伝わったのか？（戦国時代（6）） 7. 神父を驚かした戦国人の習慣とは？（戦国時代（7）） 8. 本当の織田信長はどのような人であった？（戦国時代（8）） 9. 織田信長はなぜ死んだのか？（戦国時代（9）） 10. 豊臣秀吉はなぜ朝鮮に出兵したのか？（戦国時代（10）） 11. キリスト教はなぜ禁じられた？（戦国時代（11）） 12. なぜ「終身雇用」が生まれたのか？（江戸時代（1）） 13. 「ボトムアップ」とは何か？（江戸時代（2）） 14. 暴君が出たらどうしたのか？（江戸時代（3）） 15. どうやってキリスト教は復活したのか？（江戸時代（4）） 16. 前半のまとめ 17. 明治の日本人は何に恐怖したのか？（明治時代（1）） 18. 日本はロシアとどう戦ったのか？（前編）（明治時代（2）） 19. 日本はロシアとどう戦ったのか？（後編）（明治時代（3）） 20. ロシアとの戦争は何をもたらしたのか？（明治時代（4）） 21. 南京事件とは何か？（昭和時代（1）） 22. 太平洋戦争はなぜ起きたのか？（昭和時代（2）） 23. 太平洋戦争をどう戦ったのか？（昭和時代（3）） 24. 日本兵はなぜ「玉砕」したのか？（昭和時代（4）） 25. 原爆投下は防げなかったのか？（昭和時代（5）） 26. 「東京裁判」とは何か？（昭和時代（6）） 27. 「靖国問題」とは何か？（昭和時代（7）） 28. なぜ「バブル」は生じたのか？（昭和時代（8）） 29. 平成大不況とは何か？（平成時代） 30. 後半のまとめ
<div>カリキュラム上の位置付け</div>	
<div>講義概要</div> <p>1. 内容</p> <p>戦国時代から現代にいたる日本の歴史をわかりやすく解説していく。まずは、信長や秀吉が活躍した戦国時代をとりあげる。次いで、「終身雇用」などの日本型組織経営システムが生み出された江戸時代や、日本が近代化を推し進めていった明治・大正時代、そして「太平洋戦争」の起きた昭和の時代をとりあげてそれぞれの特徴を検討し、最後に、苦悩する現代日本などを考察しながら、日本の歴史を概観していく。</p> <p>2. 学びの意義と目標</p> <p>「歴史を学ぶ」ということは、単に過去を知ることではなく、現代を知ることである。私たちにとって現代はあまりにも「当たり前」な存在であり、それゆえ、私たちが現代の真の姿を見きわめることは容易ではない。そこで、過去を知り、過去と現代とを比較することで「本当の現代」を知るのである。本講義では、学生諸君が単に過去だけでなく、過去をつうじて現代の「本当の姿」を知るきっかけを得ることができるようにしていく。</p>	
<div>受講生に対する要望</div> <p>講義中に許可なく退出することは認めない。</p>	
<div>キーワード</div> <p>(1)戦国時代 (2)キリスト教 (3)江戸時代 (4)日露戦争 (5)太平洋戦争</p>	
<div>事前学習（予習）</div> <p>毎回、講義の際に配布するプリントに記された「前回のあらすじ」を確認しておくこと。</p>	<div>教科書</div> <p>プリントを配布する 毎回、「前回のあらすじ」や「用語解説」を記したプリントを配布する。</p>
<div>復習についての指示</div> <p>講義で取り上げた歴史上の事件について、「なぜそのような結果になったのか？」「どうすればよかったのか？」といったことを深く考えていくこと。</p>	<div>評価方法</div> <p>(1)期末試験:50% (2)小テスト:50%</p> <p>毎回、講義の終わりの15分くらいを使って、その日の講義内容について的小テストを実施する。なお、欠席・遅刻者は減点の対象となるので注意すること。</p>

担当者：清水 正之

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

日本の思想は、日本列島の上で生成し展開してきた自己意識の歴史でもあります。「哲学」という思想形式をながく持たないできた日本では、思想は学問や宗教として、あるいは文芸や芸術思想という形で、続いてきました。この講義では、そうした思想表現にも目を配りながら、倫理思想を中心に、古代から近代に至る日本の思想の歴史を概観します。日本の思想は、近代以前は、大陸を経由した先進文化・思想の、近世後期以降は、欧米の先進文化・思想の受容によって始まりますが、またその「選択的な」深まりをも示しています。日本の置かれた国際的関係の意味なども、思想の歴史を考えるに、重要なポイントです。

2. 学びの意義と目標

日本の思想の通史であり、入門的かつ基礎的なものです。日本の思想を学ぶことは、自己の内に流れている意識を対象化することでもあります。思想に限らず、歴史、文学史的知識をも得ることが出来るように授業を構成します。そのようにして、日本の思想が何を問題として何を解こうとしたのかを考えてみたいと思います。思想の学習は、思想の原典テキストを読むことが基本ですが、理解を助けるためビデオ等も利用します。

受講生に対する要望

それぞれが日本とは何なのかという問題関心を持っていると思います。それを授業を通して深め、各自の考え方をまとめる機会として積極的な参加を望みます。

キーワード

(1)日本の思想 (2)倫理思想 (3)神道 (4)仏教 (5)儒教

事前学習（予習）

小レポートを題材に、また授業中に意見を述べてもらう機会もつくりまます。授業への積極的参加を望みます。教科書の該当する一章、配付資料を前もって読んでおくこと。

復習についての指示

授業で指摘したポイントに沿って、教科書、配布資料を熟読し、要点をまとめておくこと。。

授業計画

1. はじめに 日本の思想を学ぶ意味 1
2. 日本の思想を学ぶ意味 2
3. 神話の思想 1
4. 神話の思想 2
5. 古代歌謡にみる古代の思想と感性
6. 仏教の受容と展開
7. 古代仏教の思想
8. 平安仏教の思想 1
9. 平安仏教の思想 2
10. 王朝の文化と感性の表現
11. 物語と中世歴史書
12. 浄土教と鎌倉仏教 1
13. 浄土教と鎌倉仏教 2
14. 室町文化と芸道思想
15. キリシタンの伝来
16. キリシタンの伝来と近世の思想
17. 東アジアと儒教・朱子学
18. 朱子学の興隆
19. 反朱子学の思想
20. 武士の思想
21. 国学の思想とその周辺 近世の思想
22. 商人・農民の思想 近世の思想
23. 蘭学・洋学 近世の思想
24. 幕末の思想
25. 幕末・明治の新宗教の思想
26. 啓蒙の思想
27. 西洋受容 キリスト教
28. 近代の思想
29. 日本の思想と今後
30. まとめ

教科書

清水正之 『日本の思想』（放送大学教育振興会）

評価方法

(1)出席点:30% (2)小レポート:40%:授業の内容について最低5回提出を求める (3)期末テスト:30%

担当者：清水 正之

開設期：春学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

学問の奥深さを知るとともに、大学院進学希望者に対し大学院授業への準備とする

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

【キリスト教と日本の宗教的心性】最初のキリスト教と西洋文化との受容の局面を、キリスト教と日本の宗教的心性との出会いとして思想的に考察し、その意味を考えることが、この授業のねらいである。キリシタン宗教思想の伝来は、その後の禁教政策、鎖国政策という形で後世に多大な影響を与えることとなった。キリスト教・一神教は、近世の日本の思想に陰に陽に意識され続ける。キリシタンの思想は、在来のとくに禅仏教との論争という形でまず対峙したが、ついで儒教思想との対峙とすすんだ。キリシタンの伝来から、西洋認識を改めることとなった新井白石とシドッチの対面まで、ほぼ160年が過ぎた。授業では、従来の研究史を振り返りつつキリシタン宗教思想の必須文献によって、その伝来の経緯と意味を考察する。

2. 学びの意義と目標

キリスト教との接触は、同時に、東アジア規模の事件でもあった。明末から清朝における宣教師の活動の歴史、また朝鮮王朝での受容は、儒教的世界とキリスト教との接触・受容・摩擦をへて、遠く現代のキリスト教をめぐる東アジア世界での諸問題とも関わっている。そうした点も視野に入れていきたい

受講生に対する要望

歴史的・思想的な概説とともに、思想資料の読解を重視します。意欲的な参加を望みます。

キーワード

(1) 日本 (2) 宗教的心性 (3) キリシタン (4) キリスト教 (5) 洋学

事前学習（予習）

各自の関心にそう関連図書に目を通しておかれることを望む。参照する原典テキストとして、前もって読解しておくこと。『キリシタン書・排耶書』（岩波日本思想大系第25巻）の中から適宜選ぶ。

復習についての指示

毎回のポイントを600字程度にまとめる

授業計画

1. はじめに キリシタン研究の推移と動向
2. キリシタン伝来の背景
3. 同
4. キリシタン受容の経緯と思想的意味1（神観等）
5. 同
6. キリシタン受容の経緯と思想的意味2（魂論、自由意志論）
7. 同
8. キリシタン思想と日本の宗教・倫理思想1
9. 同
10. キリシタン思想と日本の宗教・倫理思想2
11. 同
12. 排耶蘇の言説（儒教・朱子学とキリシタン）
13. キリシタンの近世日本思想への影響 1
14. 同
15. キリシタンの近世日本思想への影響 2
16. 同
17. 新井白石とシドッチの出会い
18. 同
19. 洋学とキリシタン
20. 同
21. 同
22. 同
23. 朝鮮・中国の思想と天主教（キリスト教）
24. 同
25. 同
26. 東アジアとキリスト教
27. 同
28. 同
29. 同
30. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 出席:30% (2) 小レポート:40%:3回ほど課します (3) 期末レポート:30%

担当者：石川 由美子

開設期：秋学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

学問の奥深さを知るとともに、大学院進学希望者に対し大学院授業への準備とする

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義では、主に発達心理学に関する学術論文を題材に、1. 子どもの発達、2. 発達に影響を及ぼす環境の問題、3. 生き難さを抱える子どもの発達の3つのテーマから、論文を読み解く。文献を読み解くことで、発達概念、発達に関わる現代的課題、その支援方法を理解する。また、実際に発達心理学の研究において利用された研究手法についての学びと理解をこの過程を通して同時に深めていくこととする。

2. 学びの意義と目標

先行研究の検索方法、レビュー、研究手法、研究デザインの枠組みなど、論文の構造的な理解を深め、論文を書くにあたってのメタ認知能力を高める。

受講生に対する要望

キーワード

事前学習（予習）

1から3の領域で、論文の検索、および論文のレビュー、報告まで、できるだけ自主的に繰り返し、実践的な力を身につけることを期待する。

復習についての指示

授業計画

1. オリエンテーションおよび子どもの発達（育ち）の過程とは
2. オリエンテーションおよび子どもの発達（育ち）の過程とは
3. 子どもの発達1 身体的、精神的構造の生物学的成長と成熟を観点にした論文
4. 子どもの発達1 身体的、精神的構造の生物学的成長と成熟を観点にした論文
5. 子どもの発達2 身体的、精神的構造の生物学的成長と成熟を観点にした論文
6. 子どもの発達2 身体的、精神的構造の生物学的成長と成熟を観点にした論文
7. 子どもの発達3 文化的発達 心理学的道具
8. 子どもの発達3 文化的発達 心理学的道具
9. 子どもの発達4 文化的発達 活動と意識
10. 子どもの発達4 文化的発達 活動と意識
11. 発達の影響を及ぼす環境と子どもの発達1 社会的貧困
12. 発達の影響を及ぼす環境と子どもの発達1 社会的貧困
13. 発達の影響を及ぼす環境と子どもの発達2 社会的貧困
14. 発達の影響を及ぼす環境と子どもの発達2 社会的貧困
15. 発達の影響を及ぼす環境と子どもの発達3 育児不安
16. 発達の影響を及ぼす環境と子どもの発達3 育児不安
17. 発達の影響を及ぼす環境と子どもの発達4 こども虐待
18. 発達の影響を及ぼす環境と子どもの発達4 こども虐待
19. 発達の影響を及ぼす環境と子どもの発達5 こども虐待
20. 発達の影響を及ぼす環境と子どもの発達5 こども虐待
21. 生き難さを抱えた子供たちへの理解と対応1 知的障害
22. 生き難さを抱えた子供たちへの理解と対応1 知的障害
23. 生き難さを抱えた子供たちへの理解と対応2 発達障害
24. 生き難さを抱えた子供たちへの理解と対応2 発達障害
25. 生き難さを抱えた子供たちへの理解と対応3 発達障害
26. 生き難さを抱えた子供たちへの理解と対応3 発達障害
27. 生き難さを抱えた子供たちへの理解と対応4 病弱児
28. 生き難さを抱えた子供たちへの理解と対応4 病弱児
29. 講義のまとめ 発達研究の現代的課題と研究方法
30. 講義のまとめ 発達研究の現代的課題と研究方法

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)参加状況:50% (2)課題報告:50%

授業への参加状況50%、課題報告50%により総合的に評価する。

福祉環境学

HUWL-0-102

担当者：山田 義文

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

皆さんはそれぞれに趣味や生きがいをもち、様々な製品やサービス、情報、建物や交通機関などを利用しながら毎日を過ごしていることと思います。しかし、それらを利用した時に不便に感じた経験も少なくないかと思います。その悩みは、障がいを持つ人や高齢者にも全く同じです。福祉環境学の講義では、高齢者や障がいを持つ人に限らず、皆さんも含めた誰にでも便利で快適な環境を実現するための具体的な改善手法に関して考察を重ねてゆきます。

2. 学びの意義と目標

様々な立場の人々が抱くバリアを実体験として捉え、皆さん自身が考える福祉環境像を提言できるよう、体験型の実習も実施します。今後も、常にすべての人々が安全で快適な環境を構築するための大切な意識を持ち続けられるようになることを目標とします。

受講生に対する要望

数値や専門用語などを暗記するのではなく、講義で紹介した事例を身近な環境の中で問題意識を持ちながら各自で検証してください。困ったことや質問などが生じた場合は、気軽に相談してください。グループワークも適宜織り交ぜます。学年や学科の枠を超え、活発に意見交換をしながら相互に高めあえる講義環境づくりに協力してください。

キーワード

(1) 高齢者 (2) 障がい者 (3) 生活環境 (4) バリアフリー (5) ユニバーサルデザイン

事前学習（予習）

シラバスの授業計画の中に含まれる福祉環境に関わる用語の意味や背景を各自で調べ、講義前により深く学びたい部分を明確にしておくこと。

復習についての指示

講義で紹介した事例を身近な環境の中で問題意識を持ちながら各自で見つめ直し、考察を深めてゆくこと。関連する参考図書や新聞記事等の中で紹介されている最新の事例にも目を向けることが望ましい。節目ごとにテーマを決め、各自でリアクションペーパーに考察する機会を設けます。その内容を書画カメラを用いて全体にも紹介します。他の学生の考察内容と比較することを通じ、復習と同時に自身の考察をさらに深めること。

授業計画

1. オリエンテーション スケジュールと講義概要、講義のねらいと成績評価について
2. 福祉環境学を学ぶ意義と社会における位置付け
3. 福祉に関する基本的な考え方
4. ノーマライゼーションの考え方
5. 人間の生活機能と私たちを取り巻く様々なバリアの分析
6. 障がいを持つ人の身体的特性と行動特性に関する基礎的事項
7. 車いすを利用する方々の生活環境
8. 視覚に障がいを持つ方々の生活環境
9. 障がいを持つ方々の生活環境改善 環境整備の方法と事例紹介
10. 実習 障がいを持つ人の立場に立ったキャンパス環境の検証 (1) 実習の意義及び課題の説明と実習
11. 実習 障がいを持つ人の立場に立ったキャンパス環境の検証 (2) プレゼンテーションの作成、改善案の考察、指導、質疑応答
12. 実習 障がいを持つ人の立場に立ったキャンパス環境の検証 (3) 代表学生による発表とまとめ
13. 高齢者の身体的特性と行動特性に関する基礎的事項
14. 高齢者の生活環境 (1) 環境整備の方法
15. 高齢者の生活環境 (2) 事例紹介
16. 高齢の人や障がいを持つ方々への社会的支援
17. 介護保険制度とは
18. 介護保険制度を利用した高齢者住宅改修の現状と課題
19. バリアフリーデザインに関する基本的な考え方
20. ユニバーサルデザインに関する基本的な考え方
21. 身近な製品やサービスに見るユニバーサルデザインのプロセス
22. バリアフリー新法と福祉のまちづくり条例
23. 高齢者の居住環境におけるユニバーサルデザインの適用状況
24. 医療施設におけるユニバーサルデザインの適用状況
25. 実習 身近な環境におけるユニバーサルデザインの達成度に関する検証 (1) 実習の意義及び課題の説明と実習
26. 実習 身近な環境におけるユニバーサルデザインの達成度に関する検証 (2) プレゼンテーションの作成、指導、質疑応答
27. 実習 身近な環境におけるユニバーサルデザインの達成度に関する検証 (3) 代表学生による発表とまとめ
28. 世界の福祉環境 (1) 北欧諸国における社会福祉
29. 世界の福祉環境 (2) ノルウェーにおけるサイン計画と高齢者の居住環境に関する事例
30. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 平常点:30%:考察の深さ、発表、自主的な検証、グループワークの取組 (2) 演習課題に対する取り組み:30%:実習レポート2編 (3) 定期試験:40%:暗記ではなく、独自の独自の分析や考え方を見る。

出席が3分の2以下の場合は、単位を認定しません。

担当者：坂巻 理恵子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

2011年の東日本大震災で、秩序を保ち忍耐を持ってみんなのために尽くす日本人の姿は海外で絶賛されました。私たちは長いこと忘れていた日本人らしさを再認識したように思います。本講義では、当たり前のようにまわりにある日本のよき文化について、言葉・文字という観点から考えます。後半は「和本」といわれる昔の書物を実際に手にとってみたり、出版の仕組みについてもふれてみたいと思っています。また社会にでてからの素養となる基本的な日本語語彙についてのドリル学習、短い文章の作成・添削もあわせてやっていくつもりです。

2. 学びの意義と目標

言葉をとりにくく様々な文化について、これからの学びの糸口をつかむ入門的な授業とします。日本の文化・伝統に興味を持ち理解を深めていくこと。そして自身がこれらを世界に、また後の世代の子供達に伝える担い手であるという自覚をひとりひとりにもってほしいと考えます。

受講生に対する要望

残念なことに毎年三分の一ほどの学生を落とすことになってしまいます。評価は厳しいとってください。きちんと出席し、授業に参加する気持ちのある学生を希望します。

キーワード

事前学習（予習）

毎回ワークの時間を設けます。必ず国語辞典または電子辞書を持参してください。

復習についての指示

授業で取り上げた語彙のプリントの内容はもう一度確認し復習しておくこと。配布するプリントはかなりの分量になります。きちんと整理保管しておくよう心がけてください。

授業計画

1. 授業ガイダンス
2. 言葉の力
3. ものの名称（1）
4. ものの名称（2）
5. 言葉の由来（1）
6. 言葉の由来（2）
7. 日本のしきたり（1）
8. 日本のしきたり（2）
9. 敬語について（1）
10. 敬語について（2）
11. 敬語について（3）
12. 漢字について（1）
13. 漢字について（2）
14. 平仮名・片仮名について（1）
15. 平仮名・片仮名について（2）
16. 物語を生み出す力
17. 日本の神話（1）
18. 日本の神話（2）
19. 日本の昔話（1）
20. 日本の昔話（2）
21. 中間試験（語彙復習テスト）
22. 翻訳ということ（1）
23. 翻訳ということ（2）
24. 本のはなし（1）
25. 本のはなし（2）
26. 本のはなし（3）
27. 本のはなし（4）
28. 本のはなし（5）
29. 本のはなし（6）
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 出席状況:50% (2) 授業時のワーク:20% (3) 中間試験:15% (4) 課題レポート:15%

担当者：上宇都ゆりほ

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

文学作品とは、人間の普遍的な精神活動を基盤として、政治のあり方や人々の暮らしなどの、社会的背景が深く関わって成り立つものである。とすれば、日本の古典文学に触れることを通して、日本の社会のあり方によって今とは異なるもの、反対に、何百年経っても変わらないものがわかるだろう。日本を知るために、文学作品を系統的に辿ってみよう。原文そのものに触れて、当時の人々の思想や暮らしに思いを馳せてみよう。現在の日本や日本人を考える時、日本の古典文学を知ることは、様々な価値観を相対化するための一つの物差しとなるはずである。

2. 学びの意義と目標

文学研究を専門としない学生のための教養としての科目として位置づける。しかし文学を広く見渡し、時代と思想のあり方を考えるために複合的な視野を導入した講義を進める。講義では教科書、プリントの音読を学生自身にでもらう他、授業で取り上げた作品に関する舞台作品のDVDなどを用いて、日本文化の立体的な把握に迫りたい。教科書は毎回学生に音読してもらうので、教科書・参考資料の予習は必須である。また、授業の習熟度を測るために時々小テストを行うので、復習は必ず行うようにしてほしい。様々な時代の古典文学作品について、立体的な視点を通して、当時の社会的背景を考え、日本人の思想の成り立ちを俯瞰し、普遍的な人間の精神に迫ることを目標とする。

受講生に対する要望

教科書の古典作品を原文で音読してもらうので、予習は必ずしておくこと。また、他の学生の迷惑となるので、私語は厳禁する。

キーワード

(1) 日本古典文学 (2) 音読 (3) 日本人の思想 (4) DVD鑑賞とレポート

事前学習（予習）

毎回、教科書や関連するプリントを数名に読んでもらうので、教科書を予習してくる。私語は他の学生の授業妨害行為となるので厳禁する。

復習についての指示

授業中に読めなかった文字やことばについては必ず復習すること。

授業計画

1. 授業概説、古典の色彩
2. 「伊勢物語」を読む（1）
3. 「伊勢物語」を読む（2）
4. 「源氏物語」を読む（1）
5. 「源氏物語」を読む（2）
6. 「今昔物語集」を読む（1）
7. 「今昔物語集」を読む（2）
8. 「宇治拾遺物語」を読む（1）
9. 「宇治拾遺物語」を読む（2）
10. 「大江山伝説」をめぐる作品－「大江山花伝」（1）
11. 「大江山伝説」をめぐる作品－「大江山花伝」（2）
12. 「平家物語」を読む（1）
13. 「平家物語」を読む（2）
14. 「平家物語」を読む（3）
15. 「平家物語」を読む（4）
16. 中間試験
17. 「方丈記」を読む（1）
18. 「方丈記」を読む（2）
19. 「徒然草」を読む（1）
20. 「徒然草」を読む（2）
21. 「曽根崎心中」を読む（1）
22. 「曽根崎心中」を読む（2）
23. 「曽根崎心中」を読む（3）
24. 「曽根崎心中」をめぐる舞台作品鑑賞（1）
25. 「曽根崎心中」をめぐる舞台作品鑑賞（2）
26. 「雨月物語」を読む（1）
27. 「雨月物語」を読む（2）
28. 「雨月物語」を読む（3）
29. まとめ
30. 学期末試験

教科書

小林保治 『あらすじで読む日本の古典』（新人物往来社）

評価方法

(1) 中間試験：30% (2) 学期末試験：30% (3) 小テスト：20% (4) レポート：20%

担当者：中島 佐和子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

明治から現代に至る短編小説を主にした近現代日本文学を講読する。作品を鑑賞し、時代背景を探り、小説技法を学ぶ。人は、自分ひとりで存在しているのではなく、必ず周囲の人々との関係性の中にある。文学を読むということは、様々な関係性を体験することによって他ならない。また文学は時代を映す鏡である。明治から現代に至る道筋を文学でたどる事によって、現在の私たちがどのような位置にいるのかを確認したい。

2. 学びの意義と目標

第一に、文学の楽しさを知ること。次に、様々な文学作品を読むことは、人間関係が希薄化し、いじめや引きこもりが問題になっている今の時代において、他者を思いやり、他者との関わりについて考える絶好の機会となるだろう。自分の今いる場が、唯一絶対のものではないということにも気づくはずである。さらに、明治以降の日本社会について考察し、漢字、語彙、慣用句などの知識を得ることによる日本語能力の増進と、創作技法を分析することによるメディアリテラシー（情報を読み取り発信する能力）の強化を図りたい。文学を通しての人間理解は、どのような専門科目を学ぶ者にも非常に有益である。（取り上げる作家・作品は変更する可能性があります。）

受講生に対する要望

授業を漫然と受けるのではなく、積極的に参加して、発展的な学習をしてほしい。

キーワード

(1)読書の楽しみ (2)人間 (3)歴史 (4)関係性

事前学習（予習）

作品を必ず通読し、通読課題をする。

復習についての指示

授業で学んだ作家の他の作品や同時代の作品を読み、理解を深める。

授業計画

1. ガイダンス
2. 樋口一葉の作品を読む（1）
3. 樋口一葉の作品を読む（2）
4. 樋口一葉の作品を読む（3）
5. 樋口一葉の作品を読む（4）
6. 夏目漱石の作品を読む（1）
7. 夏目漱石の作品を読む（2）
8. 夏目漱石の作品を読む（3）
9. 夏目漱石の作品を読む（4）
10. 芥川龍之介の作品を読む（1）
11. 芥川龍之介の作品を読む（2）
12. 芥川龍之介の作品を読む（3）
13. 芥川龍之介の作品を読む（4）
14. 金子みすゞの作品を読む（1）
15. 金子みすゞの作品を読む（2）
16. 金子みすゞの作品を読む（3）
17. 金子みすゞの作品を読む（4）
18. 宮沢賢治の作品を読む（1）
19. 宮沢賢治の作品を読む（2）
20. 宮沢賢治の作品を読む（3）
21. 宮沢賢治の作品を読む（4）
22. 田村俊子の作品を読む（1）
23. 田村俊子の作品を読む（2）
24. 太宰治の作品を読む（1）
25. 太宰治の作品を読む（2）
26. 太宰治の作品を読む（3）
27. 俵万智の作品を読む（1）
28. 俵万智の作品を読む（2）
29. 俵万智の作品を読む（3）
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)授業態度:10% (2)提出物:60% (3)期末テスト:30%

ヘルス・プロモーション概論

HLTH-0-101

担当者：和田 雅史

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

健康の維持・増進に必要なとされるヘルスプロモーションの基礎的理念を享受する。現代社会に出現している身近な健康課題を取り上げ、その社会的要因に目を向ける。現代科学の到達点と大学教養という概念を視座に入れ考察していく。青年期の健康が、その後の生涯にわたっての健康に影響していることをいしきしつつ、現代社会に出現している青年期の健康課題の中で、主として身近にある健康課題を取り上げ、その健康課題自体を理解するだけではなく、その成立要因や予防の方策などを検討する。時代の変遷とともに、社会構造の変容が見られる。生活は合理化され、省力化が達成され、家庭の生活においても、労働の形態においても大きな変化が見られた。その半面、人間生活においては、身体活動の不足、食生活の内容の変化、ストレス過剰な社会などの生活様式の変化が生まれてきた。その結果、人間の身体の変容や疾病のあり方にも大きな変化が見られるようになってきた。ライフスタイル型の疾病の増加という問題である。これらの疾病の発生要因のうち危険因子（リスクファクター）と呼ばれる要因に着目しつつ講義を展開していく。同時に健康課題の理解に即して、ヒトの身体の学習をすすめていく。ヒトの身体構造（解剖学）と仕組み（生理学）について知ることで、健康課題への関心がより高まることになる。全体を構成する内容としては、簡易な医学知識の切り売りではなく、健康を見据えた健康科学の知識を学ぶ内容である。

2. 学びの意義と目標

健康科学の認識を高めると同時に、今後出現しうる新たな健康課題に対応できうる自主的健康管理能力の育成を図る。健康の意義を明確化し、基礎的健康科学の知識を習得することによって、現在、将来にわたって健康の維持増進が図られることを理解する。現在の健康状況が、将来の健康な生活に密接に関連していること、人生80年代を迎え、あらゆる人々が健康で長命を維持することが重要であるという認識にたって行動できる必要がある。講義を通じて、健康課題の理解だけではなく、自らの健康維持のための処方箋を身につけ、日々の生活の中で実践できるようになり、同時に健康な社会を形成していくための一助を習得することにより、地域や社会に尽力できる健康の基礎的教養を身につけることができる。健康とは目標ではなく、人生をより豊かに過ごすための手段にしか過ぎないことを理解し、健康を維持し増進することによって、はじめて人生の目標に到達できるということを明確にすることができる。

受講生に対する要望

現代社会に出現している健康課題に関心があり、自身の健康を積極的にプロモートする意識があることを望む。また講義ではディスカッションを多用することになるので、積極的な発言、自らが考える態度を求める。

キーワード

(1)ヘルス・プロモーション (2)健康科学 (3)科学的認識 (4)自主的健康管理能力 (5)健康スキル

事前学習（予習）

講義計画を参照し、予定されている講義課題の情報を事前に集めておくこと。

復習についての指示

扱った内容を整理し、次回の講義までに自身の考えをまとめておくこと。

授業計画

1. オリエンテーションーヘルスプロモーションとは
2. 健康の変遷と現代的健康観
3. 青年期の健康課題①背筋力の低下と姿勢の歪み
4. 青年期の健康課題②VDI 作業と近視の増加
5. 青年期の健康課題③顎の縮小と歯の話
6. 青年期の健康課題④生活リズムの変化と体温低下
7. 青年期の健康課題⑤反射力の低下と神経系の発達
8. 青年期の健康課題⑥骨折の増加と骨の話
9. 青年期の健康課題⑦扁平足の増加と身体活動
10. 青年期の健康課題⑧不定愁訴の増加と不安傾向
11. 社会構造の変化と生活習慣病の増加
12. 運動と健康①運動不足病
13. 運動と健康②運動の効果
14. 運動と健康③運動障害
15. 食生活と健康①食生活上の現代的課題
16. 食生活と健康②肥満
17. 食生活と健康③ダイエット
18. 健康mapから見た日本人の食生活
19. 命の食べ方（DVD）
20. 嗜好品摂取と健康
21. 薬物依存と健康被害
22. 精神の健康ー心身症の増加
23. ストレスー現代人の心理的ストレス
24. ストレスー生理学の適応概念
25. アレルギーの増加とアナフィラキシーショック
26. 感染症とウイルス
27. 性感染症①従来型の性感染症
28. 性感染症②AIDSを中心として
29. 社会的権利としての健康権と病気の自己責任制
30. まとめとテスト、テストの解説

教科書

和田雅史 『健康科学ヘルスプロモーションの理念』（犀書房）

評価方法

(1)授業への態度:20% (2)出席点:30% (3)筆記試験:50%

担当者：宮澤 弘

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

社会福祉主事任用資格：選択科目

講義概要

1. 内容

この授業では法的なものの見方や考え方について学んでいきます。法的なものの見方や考え方には様々な理解がありますが、この授業では次に挙げる二つの側面を念頭において問題の解決策を検討するもの、として説明をしていきます。二つの側面とは「問題解決の理由付けや説明がどれも整合していること」、すなわち論理的に矛盾せず説得力を持っていること、そして得ようとしている問題解決の結論について「私たちが信じている道徳や倫理に照らして受け入れられると判断できること」、すなわちその結論が良い結論だと納得できること、の二つを指しています。授業では具体的な裁判例を多数取り上げて説明をしていきますが、法学における理論的な事柄、特に原理や理念についても適宜解説をしていきます。なお、授業期間中に期末試験とは別の、復習をかねた確認テストを数回行います（3回実施予定ですが進捗や理解状況に応じて変更する場合があります）。目的はこれまでの授業の復習（理解度のチェック）であり、仮に結果があまり良くなっても期末試験などで十分に挽回できる、という位置づけです。詳細は授業の第1回目に説明します（1回目に出席できなかった場合には2回目以降の授業終了後などに尋ねてください）。この授業は、今後の専門科目の学習において必要な知識を習得する役割を担うものとの位置づけから、基礎的でありかつ入門的な授業となります。

2. 学びの意義と目標

一見複雑に見える出来事でも法的な思考法に基づいて整理することにより、当該出来事において重要と思われるものを明瞭に捉えることができます。授業の目標として、物事についてある視点を軸に整理して考える態度、そして自己の見解を何らかの根拠に基づいて説明する能力、この二つを身につけることを目標としています。社会では価値観や考え方の様々な異なった人々が共存しています。このような社会の中で紛争が生じたときに、唯一最上の、あるいは絶対的基準による解決方法というものを探し出すことは非常に困難です。しかし法学を学ぶことによって、問題を分析する能力、そして問題解決策を考案する能力を高めることができ、その結果そうした困難な問題への対応力も向上していくのです。社会が複雑化し価値観が多様化している現在、このような法的思考が果たす役割は大きくなっていきます。

受講生に対する要望

社会の様々な問題に関心を持つために新聞を定期的に読んだり夜に放送されるニュース番組などを積極的に視聴して下さい。

キーワード

(1) 法的思考 (2) 問題の論点を抽出し分析する (3) 社会における紛争の解決とは何か (4) 自由と強制 (5) 社会の統合

事前学習（予習）

事前に配布した資料は必ず読んできて下さい。それから講義期間中すべてにわたって言えることですが、社会の様々な問題に日常から関心を持つように心がけてください。

復習についての指示

配布したレジュメは必ず読み返してください。それから授業の中で適宜関連する著書（新書や文庫程度のもの）を紹介しますので、積極的に読み進めてください。関心のあるもの一つでもよいので自ら取り組んで下さい。また、授業内で数回確認テスト（小テスト）を行う予定ですが、このテストは期末試験に臨む場合にも必ず復習をしておいてください。解答と解説は授業中に行います（テスト実施直後の授業で行います）。

授業計画

1. 法へのアプローチ（授業の進め方・成績評価方法の説明を含む）
2. どのような法があるか1（法源）
3. どのような法があるか2（判例というもの）
4. どのような法があるか3（法領域の種類）
5. 法の機能（法の規範的機能と社会的機能）
6. 日本における近代法の継受
7. 日本人の法意識と法文化
8. 法と道徳（社会規範としての法）
9. 自己決定権とパターンリズム1（基本編）
10. 自己決定権とパターンリズム2（事例問題）
11. 自己決定権とパターンリズム3（応用編）
12. 犯罪と刑罰1（刑事法の基礎）
13. 犯罪と刑罰2（刑事法の基礎）
14. 犯罪と刑罰3（裁判員裁判と国民の司法参加）
15. 不法行為と過失1（民事法の基礎）
16. 不法行為と過失2（民事法の基礎）
17. 不法行為と過失3（民事法の基礎）
18. 法と正義1（法的安定性）
19. 法と正義2（正義の四類型・事例問題～分配的正義を題材に）
20. 日本の裁判所（裁判所の組織）
21. 裁判手続1（刑事法）
22. 裁判手続2（民事法）
23. 現代型訴訟（現代社会において司法が担う役割とは何か）
24. 裁判外紛争処理1（基本編）
25. 裁判外紛争処理2（事例問題1）
26. 裁判外紛争処理3（事例問題2）
27. 法の解釈1（法的三段論法）
28. 法の解釈2（解釈の目的と技法）
29. 法律における理屈と人情（論理と倫理の統合的解決）
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 試験:60% (2) 平常点:40%:出席点とは異なります。授業中あるいは次回までに提出する課題や確認テストなどを指します。

担当者：齋藤 美沙

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

社会福祉主事任用資格：選択科目

講義概要

1. 内容

本講義では、様々な法規範の中から、おもに憲法、民法及び刑法を扱います。身近な問題を手がかりに、法・法律の基本的理論や知識を確認していきます。

2. 学びの意義と目標

社会では、法的視点が必要とされる場面が多くあります。本講義では、基本的な法的思考・知識を身につけることを目標とします。

受講生に対する要望

新聞やニュースなどで、法に関する事柄に注意を払うようにして下さい。

キーワード

(1)法学 (2)民法 (3)刑法 (4)憲法 (5)道徳・正義

事前学習（予習）

前週に指示します。

復習についての指示

配布プリントを再読して下さい。必要に応じて参考文献を紹介します。

授業計画

1. ガイダンス
2. 法を学ぶことについて・リーガルマインド
3. 法とは何か
4. 法の分類
5. 民法（総則①）
6. 民法（総則②）
7. 民法（親族）
8. 民法（相続）
9. 刑法（総則①）
10. 刑法（総則②）
11. 刑法（罪①）
12. 刑法（罪②）
13. 裁判の仕組①
14. 裁判の仕組②
15. 身近な法的トラブル①
16. 身近な法的トラブル②
17. 憲法（国民主権・平和主義）
18. 憲法（基本的人権の原理・平等原則）
19. 憲法（精神的自由）
20. 憲法（財産権）
21. 憲法（社会権）
22. 憲法（権力分立）
23. 憲法（国会）
24. 憲法（内閣・裁判所）
25. 法・道徳・正義（法と自由）
26. 法・道徳・正義（アファーマティブ・アクション）
27. 法・道徳・正義（生命倫理①）
28. 法・道徳・正義（生命倫理②）
29. まとめ①
30. まとめ②

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)試験:70% (2)平常点:30%

試験の成績をもとに、出席やリアクションペーパー等を考慮し、総合的に評価します。

担当者：平 修久

開設期：春学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

学問の奥深さを知るとともに、大学院進学希望者に対し大学院授業への準備とする

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

前半は、まちづくりの概要、まちづくりにとって重要な合意形成、まちづくりの基本的進め方である住民参加・協働についてを学ぶ。後半は、関連する分野が幅広い食のまちづくりを取り上げ、文化、交流、コミュニティビジネス、イベント、空間整備、中心市街地活性化、地域振興、産業振興、地域間連携の面から、クラスでのディスカッションを通して、まちづくりを学ぶ。

2. 学びの意義と目標

「都市計画」という行政主導で行うことが多い都市整備に対して、「まちづくり」ということばとその動きが住民の間に広がっている。地方分権、住民と行政との協働といった潮流がまちづくりを後押ししている。量から質の重視、余暇時間の増加、元気な高齢者の増加、スローライフなど、居住地を見直し、居住環境を改善しようとする意識を持った住民が増加し、まちづくりの担い手となっている。本科目では、具体的な事例などを学ぶことにより、まちづくりの意義、効果、あり方、課題などについての理解を深める。また、大学院（政治政策学研究科）の授業であり、社会人を主体とする大学院生に混じって、発表や討議などのあり方も学ぶ。

受講生に対する要望

総合科目の一つであり、聖学院大学における学びをより発展させたい場合や、大学院への進学を志す者はぜひ取得すべき科目である。そのため、4年生を対象とし、原則、GPA3.0以上が履修条件である。

キーワード

(1)まちづくり (2)参加 (3)都市 (4)食

事前学習（予習）

2-15回については事前に提示した関連資料を予習しておくこと。食のまちづくりの発表については、担当の受講生がレジュメ2-4枚を用意して発表を行う。

復習についての指示

毎回、講義ノートをまとめること。

授業計画

1. まちづくりの概要(1)
2. まちづくりの概要(2)
3. まちづくりのプロセス・合意形成
4. 住民参加と協働
5. 食のまちづくり(1)概要
6. 食のまちづくり(2)日本の食
7. 食のまちづくり(3)食文化革命
8. 食のまちづくり(4)食による交流
9. 食のまちづくり(5)コミュニティビジネス
10. 食のまちづくり(6)食のイベント
11. 食のまちづくり(7)食空間
12. 食のまちづくり(8)中心市街地活性化
13. 食のまちづくり(9)食による地域振興
14. 食のまちづくり(10)食による産業振興
15. 食のまちづくり(11)食の地域間連携

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業への参加状況:20%:出席回数に加えて、クラスでのディスカッションへの参加状況を評価する。(2)事例発表:30%(3)レポート:50%

担当者：標 宣男

開設期：春学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

学問の奥深さを知るとともに、大学院進学希望者に対し大学院授業への準備とする

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

リスクにより社会を考えることは、現在では普通のことになりつつある。本講義はリスク論についての一般論を講じるが、これにより、さまざまな危険の存在する社会をリスクという視点から見ることを学ぶとともに、リスク対策の基礎的考えを身につけてもらいたいと思う。

2. 学びの意義と目標

未記入

受講生に対する要望

未記入

キーワード

(1)未記入

事前学習（予習）

授業第一日に配布した、テキストを前もって読んでおき質問などを準備すること。

復習についての指示

授業当日の講義内容を当日配布資料とともに咀嚼し理解を深化させること。

授業計画

1. 序論（現代と「リスク」）
2. リスク対策（リスク・評価＋リスク・管理）の歴史的起源と主要な出来事
3. リスク評価とリスク管理の一般論（1）：リスク評価
4. リスク評価とリスク管理の一般論（2）：リスク管理
5. リスク評価とリスク管理の一般論（3）：リスク管理リスク評価の今後
6. リスク評価リスク管理上の諸手法（1）：リスク・トレードオフについて（1）
7. リスク評価リスク管理上の諸手法（2）：リスク・トレードオフについて（2）
8. リスク評価リスク管理上の諸手法（3）：リスクと便益による意思決定
9. リスク評価リスク管理上の諸手法（3）：リスクコミュニケーション
10. 不確実性が大きい場合のリスク対策（1）：様々な不確実成果のリスク管理
11. 不確実性が大きい場合のリスク対策（2）：「組織事故」的発想によるリスク対策
12. 安全リスク評価およびリスク管理
13. 健康リスクとBSE問題
14. 放射線リスクの考え方
15. 課題とまとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)レポート：100%

政治経済学科

担当者：村上 公久

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

Japan Studies Program (JSP) 科目

講義概要

1. 内容

Culture is a spiritual abstraction or a blueprint of civilization, and civilization is the concrete substance of culture. No civilization was ever established with a small population that could survive within a framework of consuming no more than excessive production out of the ecosystem. People survived within the carrying capacity of nature until civilization was built. Civilization has emerged as the population growth support system. In this course, we will comprehend civilization as a 'man-institution system'. The man-institution system may be carried out under the restraints of man-environment system. It is worthwhile to study cultivation and agriculture as population growth support instruments and to study cities as over population accumulation instruments.

2. 学びの意義と目標

Environmental issues of the world today could be well understood through studying these two instruments. Determination of the expansion limit of the man-institution system and controlling it through study of the man-environment system will provide a suitable strategy for Sustainable Development.

受講生に対する要望

This course is provided only in English. Proficiency in English is requisite for taking the course.

キーワード

(1) Civilization and Culture (2) Civilization Crises (3) Agriculture (4) City (5) Environmental Revolution

事前学習（予習）

No textbook: reading lists, handouts, and visual aids are provided throughout the course

復習についての指示

No textbook: reading lists, handouts, and visual aids are provided throughout the course

授業計画

1. Life and Environment
2. Definition of Life
3. Global Environmental Issues and Civilization Problem
4. Three Civilization Crises
5. Three Civilization Crises (2)
6. Crisis of Modern Civilization (the third crisis)
7. Civilization and Culture (substance, and sketch)
8. Civilization and Culture (2)
9. Civilization and Culture (3)
10. Tool Revolution, Agriculture Revolution
11. Agriculture (population support instrument)
12. City (over population accumulation instrument)
13. Limit of self-domestication of man
14. Limit determination of man-institution system
15. Pursuit of Environmental Revolution

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) class contribution through discussion:30% (2) reading assignments:10% (3) term papers (critical article response paper):30% (4) end-of semester final closed-book exam:30%

担当者：倉西 雅子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

EUは、地域経済圏の構築を出発点としていますが、現在では、政治分野の政策領域にも携わるようになりました。このため、EU法には、多様な目的と領域があり、国際法的な要素と国内法的な要素が混在する、極めてユニークな法体系を構成しています。本講義では、EUと加盟国から成る多層的な法空間の全体像を、わかりやすく体系的に描き出してゆきます。

2. 学びの意義と目標

EU法の大部分は、共通の政策を実施するために制定されています。EU法を学ぶことは、各政策分野と法との具体的な関係を理解することでもあります。本講義では、実社会においても役立つ知識や情報を身に着けることをも目標としています。

受講生に対する要望

普段からヨーロッパに関する知識や情報に多く触れ、講義内容との接点を増やしておくこと。

キーワード

(1) 欧州連合 (2) EU法 (3) 欧州市場 (4) 政策と法 (5) 市場のルール

事前学習（予習）

講義プリントは一週間前に配布しますので、講義までに熟読し、ポイントや疑問点などを整理しておくこと。

復習についての指示

講義後に使用したプリントを再読するとともに、関心の高い事柄については、さらに調べるなどして学習の幅を広げること。

授業計画

1. EU法の概略
2. 欧州経済共同体の成立
3. 通貨協力の始動
4. 欧州市場の形成
5. ユーロの誕生
6. 欧州連合の成立
7. 一次法と二次法
8. EU法と加盟国の国内法
9. EU法の直接効果
10. EUの諸機関その1
11. EUの諸機関その2
12. EU法の立法過程その1
13. EU法の立法過程その2
14. EU法の執行過程
15. EU法の司法過程その1
16. EU法の司法過程その2
17. 関税同盟
18. 通商政策と通商法
19. EUの財政
20. 共通農業政策
21. 産業政策
22. 地域政策
23. 競争法
24. 市場の規制
25. 会社法
26. 労働法
27. 金融政策
28. 共通外交安全保障政策
29. 警察・法務協力
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) レポート: 50%; 試験に変更する可能性もあります。(2) 平常点: 50%; 毎回提出を求めている講義内容をノートしたペーパーが評価対象となります。

担当者：田口 安克

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

ファイナンシャル・プランナー（FP）は、金融、保険、不動産、税金など、「お金」回りの知識を備え、個々人の夢や目標実現のために、将来的な生活設計と一緒に作成し、必要な「お金」の使い方や貯め方などを総合的にアドバイスする職業である。本講義では、FPのもっとも根幹である「お金」について学ぶ。これは、学生生活はもとより、社会人になっても役立つ知識である。「お金」に関する基本的な知識を身につけたのち、FPの初級レベルである3級技能士レベルの金融、保険、税金、不動産の概要を学ぶ。

2. 学びの意義と目標

「お金」に関する知識を高めることで、合理的な選択、トラブル回避、将来的な生活設計が立てられる。くわえて、FP資格取得のための入門的知識が得られる。

受講生に対する要望

FPの仕事に興味を感じたら、資格取得のための勉強もはじめてほしい。

キーワード

(1) お金 (2) ライフプランニング (3) リスク管理 (4) 税金 (5) 金融資産・不動産

事前学習（予習）

事前に指定した教科書の当該箇所を読んでくること。

復習についての指示

小テストでの解説を再読し、各項目の理解を深めること。

授業計画

1. お金を知る
2. お金を使う
3. お金を稼ぐ
4. お金を貯める・増やす
5. お金を借りる
6. お金のトラブル回避
7. 社会参加費用としての税金
8. 万が一のために—社会保険と民間保険
9. ライフプランとお金
10. 金融資産の基礎知識
11. 不動産の基礎知識
12. リスク管理の基礎知識
13. タックスプランニング
14. 相続・事業承継
15. 試験とその解説

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席 :20%:講義開始前に着席していること。(2)発言:20%:講義参加の積極度を見る。(3)小テスト:20%:講義内容の理解度を見る。(4)期末試験:40%

アイデンティティの社会学

SOCI-P-200

担当者：横山 寿世理

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 内容 自己アイデンティティ（＝自我・自分とは何か）を理解するのに役立つ事例をドキュメンタリー番組や新聞記事、エッセイなどを確認しながら、どのような解説が可能かを考える。この解説として、社会学で扱われる種々の自我論を講義で紹介して、事例の考察を深めていく。主に現代の若者論（大学生論）を多く取り扱いながら、社会学を学ぶことになる。2. カリキュラム上の位置づけ この科目は、政治経済学科全学年を対象とした社会学系の専門科目である。

2. 学びの意義と目標

この講義では、人びとがどんな自分になることを要求されてきたのか、その要求がどのように変化したのかを、さまざまなアイデンティティ論を通じて模索する。その上で、自分という人間の形成（変容）やアイデンティティの構造がどのように説明されてきたのかを社会学的自我論を通して、現代社会や社会的事実を理解することを目標とする。

受講生に対する要望

具体例を織り交ぜながら「アイデンティティの社会学」理論を理解することを目指して欲しい。身近な事例と結びつけることを常に意識して、期末レポートのテーマを決めて欲しい。期末レポートについては随時相談に応じるので、諦めずに取り組むことが重要である。

キーワード

(1) アイデンティティ (2) 社会学 (3) 現代の若者 (4) 消費社会 (5) 労働

事前学習（予習）

講義中の板書を参照しながらノートを作成すること。

復習についての指示

ノートを見直し・作り直すという復習作業を絶えず行うことを勧める。

授業計画

1. アイデンティティとは何か
2. いろんなアイデンティティ
3. 現代若者を考える～友だち編～
4. 現代若者を考える～友だち編～
5. 交友関係とアイデンティティ（教科書第2章）
6. 交友関係とアイデンティティ（教科書第2章）
7. 現代若者を考える～教育編～
8. 現代若者を考える～教育編～
9. 多元的世界～社会を認識する方法～（プリント配布）
10. 多元的世界～社会を認識する方法～（プリント配布）
11. 現代若者を考える～メディア編～
12. 現代若者を考える～メディア編～（教科書第10章）
13. 役割と複数化するアイデンティティ（教科書第5章）
14. 役割と複数化するアイデンティティ（教科書第7章・16章）
15. 現代若者を考える～家族編～（第6章）
16. 現代若者を考える～ライフコース編～
17. 印象操作とアイデンティティ（教科書第10章）
18. 印象操作とアイデンティティ（教科書第10章）
19. 前半のまとめ
20. 中間試験
21. 中間試験返却と期末レポートの書き方
22. 現代若者を考える～労働編～（教科書第12～13章）
23. 現代若者を考える～労働編～（教科書第12～13章）
24. 消費社会とアイデンティティ
25. 消費社会とアイデンティティ
26. 流動化するアイデンティティ
27. 集合的記憶とアイデンティティ
28. 持続するアイデンティティ（プリント配布）
29. 持続するアイデンティティ（プリント配布）
30. まとめ

教科書

船津 衛 『自分とは何か―「自我の社会学」入門』（恒星社厚生閣）

評価方法

(1) 講義内課題:30%:講義に関するコメント (2) 中間試験:30%:授業計画1～18回までで扱った「理論」に関する試験 (3) 期末レポート:40%

期末レポートは、講義の内容を参考にして、アイデンティティに関して社会学的な問いを立てて論じる（2000字程度）というものになる。

異文化間コミュニケーション

CMPC-A-301

担当者：小松崎 利明

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

世界中の人々との出会いは、異なる文化との接触でもあります。文化的背景が異なる他者との接触は、その文化に対する無知から、他者との間に誤解や偏見が生まれたり、衝突が起きたり、ときには国と国との関係における摩擦さえ生み出すこともあります。さらに「同じ文化」に属しているはずの他者とのかわりにおいても、同じことが言えます。一方、われわれが日常行っているコミュニケーションのあり方が変わることによって、人々の一般的な行動様式や思考態度に影響がおよび、その集団や社会が共有している「文化」が変容することもあります。この講義では、「文化」や「コミュニケーション」について多面的に学び、そこから、現代社会において文化がわれわれのコミュニケーションをどのように規定しているのか、また逆に、われわれのコミュニケーションのあり方によってどのような文化が生み出されているのかということについて、アクティブラーニングの要素を取り入れつつ考えることを目的とします。

2. 学びの意義と目標

文化について学び、考えることにより、学生一人ひとりが様々な文化的背景をもつ人々との出会いにおいて、より深い他者理解・他者との交流ができるようになることを目指します。

受講生に対する要望

この授業では、「外国についての知識を増やす」ことではなく、むしろ自分が持っている知識や常識を疑う姿勢が求められます。

キーワード

(1)文化 (2)コミュニケーション (3)社会 (4)解釈 (5)メディア

事前学習（予習）

配布資料を読んでおく。

復習についての指示

期末レポート作成の準備として、授業内容をまとめ、ノートを作っておく。

授業計画

1. イントロダクション
2. グローバリゼーション
3. 文化の定義とその諸相
4. 文化と権力
5. コミュニケーション
6. コミュニケーション能力
7. 映像を通じた旅（1）
8. ことばと世界
9. 英語帝国主義
10. 国語と多言語主義
11. 沈黙
12. 身体
13. 映像を通じた旅（2）
14. ステレオタイプ
15. 中間テスト
16. 中間テストの返却と解説（前半のまとめ）
17. 時
18. 記憶と忘却
19. 空間と境界
20. 映像を通じた旅（3）
21. 都市化と管理社会
22. カルチャーショック
23. 異文化接触と解釈
24. 状況と対立
25. アイデンティティと他者
26. 映像を通じた旅（4）
27. メディア
28. 芸術
29. 博物館、戦争、記憶
30. 経済、食、環境、エネルギー

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 平常点:30%:授業への積極的参加とコメントシートの提出 (2) 中間テスト:30% (3) 期末レポート:40%

異文化間コミュニケーション(経営)

MGMT-P-200

担当者：八木 規子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本科目は、経営学的見地からの異文化間コミュニケーション論として、異なる文化背景を持つ人々がともに働く状況を背景として意識しながら、異文化間コミュニケーションを学ぶこととする。異なる文化背景を持つ人々の接触を、衝突や障害としてではなく、豊かな実りある建設的な結果につなげるためには、どのような知識、スキル、態度が必要か、ロール・プレイ、シュミレーション、ケーススタディなど手法を通じて、体験的に学ぶ。

2. 学びの意義と目標

文化、ことに異文化という言葉は、往々にして国民文化の違いを想起させる。しかしながら、文化の違いは、国の境界線の内外にあるばかりでなく、国のなかにも異文化は存在するし、また国の境界線と文化の境界線が重なり合うとも限らない。ところが、日本という国家、文化、言語の重なり合いが強い場に生きる日本人は、こうした文化の境界線の多様性を直感的に理解することが、とても難しい。異文化間コミュニケーションを学ぶことは、異文化が日本の外に存在するだけでなく、この社会のなかにも存在し、我々は多文化社会を生きている、という感受性を高めることに寄与する。そして、多文化社会に生きる感受性を高めることは、国内外を問わず、異なる文化背景から来るひとびとの協同作業を美りの高い建設的なものとする能力向上の前提条件である。体験的学習手法を通じて、学生がこのような建設的な異文化接触の可能性を実感することを目標とする。

受講生に対する要望

異文化間コミュニケーションとは、他者の視点から自分自身を見つめなおすことでもある。それには、自分が快適で居られる領域から一歩踏み出して、未体験の領域に足を踏み入れる必要がある。この科目の受講を通して、学生がそのような勇氣を持つことを期待する。

キーワード

(1)文化 (2)多様性 (3)コミュニケーション (4)相互理解

事前学習(予習)

配布資料等、授業の該当箇所を読み込んでおき、クラス討論に参加できる準備をする。資料は、E-learningシステムにアップロードするので、システムの使い方に習熟すること。

復習についての指示

期末試験に向けたノート整理をしておく。配布資料、授業中で議論したケースの内容(他の学生の発言等)を振り返っておくこと。

授業計画

1. 本科目の進め方について。異文化間コミュニケーションとは何か
2. 文化を生成し伝播する主体としての自己：わたしとは誰か？
3. 文化とはなにか？定性的アプローチ
4. 文化とはなにか？定量的アプローチ
5. 異文化の諸側面：時間と空間
6. 異文化の諸側面：コミュニケーションと意識構造
7. 異文化の諸側面：言語
8. 異文化の諸側面：非言語メッセージ
9. 異文化と経営：企業戦略と企業の異文化対応指向
10. 異文化と経営：交渉
11. シュミレーション：AI社とBigg社
12. 異文化インテリジェンス概論
13. 異文化インテリジェンス：戦略的思考の側面
14. 異文化インテリジェンス：意欲・動機の側面
15. 異文化インテリジェンス：行動の側面
16. シュミレーション：バルーンバ文化を探れ
17. 異文化と経営：リーダーシップ
18. 異文化と経営：意思決定
19. 異文化と経営：多文化チーム
20. 異文化と経営：海外赴任
21. 異文化と経営：本国復帰
22. ケース分析：グローバルリーダー
23. 異文化聴衆に対するプレゼンテーション
24. 文化と政治：世界はグローバル化するのか
25. 文化と政治：日本と多文化主義
26. 複数文化アイデンティティから成る自己モデル
27. マイノリティ経験プロジェクト発表【要出席】-1
28. マイノリティ経験プロジェクト発表【要出席】-2
29. まとめ
30. 期末試験

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業出席・参加点:20% (2)ケース分析:20%:中間試験として (3)マイノリティ経験プロジェクト:30%:提案書5%、発表25% (4)期末試験:30%

異文化間コミュニケーション（経営）

CMPC-A-301

担当者：八木 規子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本科目は、経営学的見地からの異文化間コミュニケーション論として、異なる文化背景を持つ人々がともに働く状況を背景として意識しながら、異文化間コミュニケーションを学ぶこととする。異なる文化背景を持つ人々の接触を、衝突や障害としてではなく、豊かな実りある建設的な結果につなげるためには、どのような知識、スキル、態度が必要か、ロール・プレイ、シュミレーション、ケーススタディなど手法を通じて、体験的に学ぶ。

2. 学びの意義と目標

文化、ことに異文化という言葉は、往々にして国民文化の違いを想起させる。しかしながら、文化の違いは、国の境界線の内外にあるばかりでなく、国のなかにも異文化は存在するし、また国の境界線と文化の境界線が重なり合うとも限らない。ところが、日本という国家、文化、言語の重なり合いが強い場に生きる日本人は、こうした文化の境界線の多様性を直感的に理解することが、とても難しい。異文化間コミュニケーションを学ぶことは、異文化が日本の外に存在するだけでなく、この社会のなかにも存在し、我々は多文化社会を生きている、という感受性を高めることに寄与する。そして、多文化社会に生きる感受性を高めることは、国内外を問わず、異なる文化背景から来るひとびとの協同作業を美りの高い建設的なものとする能力向上の前提条件である。体験的学習手法を通じて、学生がこのような建設的な異文化接触の可能性を実感することを目標とする。

受講生に対する要望

異文化間コミュニケーションとは、他者の視点から自分自身を見つめなおすことでもある。それには、自分が快適で居られる領域から一歩踏み出して、未体験の領域に足を踏み入れる必要がある。この科目の受講を通して、学生がそのような勇氣を持つことを期待する。

キーワード

(1)文化 (2)多様性 (3)コミュニケーション (4)相互理解

事前学習（予習）

配布資料等、授業の該当箇所を読み込んでおき、クラス討論に参加できる準備をする。資料は、E-learningシステムにアップロードするので、システムの使い方に習熟すること。

復習についての指示

期末試験に向けたノート整理をしておく。配布資料、授業中で議論したケースの内容（他の学生の発言等）を振り返っておくこと。

授業計画

1. 本科目の進め方について。異文化間コミュニケーションとは何か
2. 文化を生成し伝播する主体としての自己：わたしとは誰か？
3. 文化とはなにか？定性的アプローチ
4. 文化とはなにか？定量的アプローチ
5. 異文化の諸側面：時間と空間
6. 異文化の諸側面：コミュニケーションと意識構造
7. 異文化の諸側面：言語
8. 異文化の諸側面：非言語メッセージ
9. 異文化と経営：企業戦略と企業の異文化対応指向
10. 異文化と経営：交渉
11. シュミレーション：AI社とBigg社
12. 異文化インテリジェンス概論
13. 異文化インテリジェンス：戦略的思考の側面
14. 異文化インテリジェンス：意欲・動機の側面
15. 異文化インテリジェンス：行動の側面
16. シュミレーション：バルーンバ文化を探れ
17. 異文化と経営：リーダーシップ
18. 異文化と経営：意思決定
19. 異文化と経営：多文化チーム
20. 異文化と経営：海外赴任
21. 異文化と経営：本国復帰
22. ケース分析：グローバルリーダー
23. 異文化聴衆に対するプレゼンテーション
24. 文化と政治：世界はグローバル化するのか
25. 文化と政治：日本と多文化主義
26. 複数文化アイデンティティから成る自己モデル
27. マイノリティ経験プロジェクト発表【要出席】－1
28. マイノリティ経験プロジェクト発表【要出席】－2
29. まとめ
30. 期末試験

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業出席・参加点:20% (2)ケース分析:20%:中間試験として (3)マイノリティ経験プロジェクト:30%:提案書5%、発表25% (4)期末試験:30%

インターンシップ I (事前学習)

INTD-P-300

担当者：酒井 俊行

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この講義では、基本的にインターンシップ実習に出るための事前準備を行います。しかしながら3年生のこの時期、わずか4ヶ月の座学で、全ての準備が可能になるなどとは思わないで下さい。ここでは皆さん1人1人のこれまでの集大成がまず問われます。例えばビジネスマナーやビジネス上の言葉づかいなどを考えてみましょう。社会人としてのマナーや言葉遣いは、決して大学で学ぶものではないはずです。これまで皆さんが生活して来た過程、即ち学校生活、家庭生活、社会生活の中で自然に身に付いているものでなければなりません。いずれにしても、20年分の学習をたった4ヶ月間で修得することなど、端から無理な相談です。無理な話を先刻承知のうえで開講するのがこの講義ということです。その大変さを予めよく理解して受講するよう心掛けて欲しいと思います。

2. 学びの意義と目標

この講義の最終目標は、皆さんをインターンシップ実習に出せるか出せないかの見極めと、社会人として活躍するために足りない能力の自覚を促すことです。したがって本講義において単位を無事取得出来た場合には、一応社会人としてのスタートラインに着くことが認められると理解して下さい。ただ言うまでもなく、ここで単位を取ったからと言ってこれで免許皆伝ということにはなりません。社会に出しても大丈夫であるとの最低限の見極めが出来たということにすぎないわけです。インターンシップは飽くまでも教育の一環です。完璧なパフォーマンスはそもそもインターンシップに出る必要などないわけです。企業やお役所での実習を通じてしっかり鍛えてもらうこそが、その目的です。そうした意味で、本講義はそのための助走路を提供することにとすぎません。

受講生に対する要望

どの講義でもそうなのですが、特にこの講義は短い時間に盛り沢山のことを学びます。したがって1回でも欠席すれば、身に付けるべきことが身に付かないことになります。そのためこの講義の受講生には100%の出席率を求めます。

キーワード

(1)就活の仕組みを知る (2)足らずまいを知る (3)将来設計を描く

事前学習 (予習)

格別の準備は必要ありません。ただこれまでの学生生活において何をしてきたかは、折に触れて整理しておいて下さい。また就活を意識すれば、長髪や茶髪などはそろそろ卒業した方がよいと思います。

復習についての指示

この授業で学んだことはインターンシップ実習に出た時に、有形無形に有効です。その都度、しっかりノートを取り、学んだことをしっかり自分のものにして下さい。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 最近の就活の仕組み
3. 大学生での学びを活かす
4. 自分を分析してみよう
5. S P Iは大丈夫ですか？
6. 自己分析と将来設計：作業
7. 簡単なビジネスマナー(1)
8. 簡単なビジネスマナー(2)
9. 簡単なビジネスマナー(3)
10. ビジネス言語入門～語感トレーニングを中心に(1)
11. ビジネス言語入門～語感トレーニングを中心に(2)
12. ビジネス言語入門～語感トレーニングを中心に(3)
13. 大学生から社会人へ
14. 大学生と就活
15. まとめ：インターンシップを楽しもう！

教科書

塚谷正彦 『大学生の生き方・考え方』 (実教出版)

評価方法

(1)レポート:60%:3~4回レポートを提出 (2)授業への貢献:40%:社会に出るための積極性を評価

インターンシップ I (事前学習)

INTD-P-300

担当者：藤井 重隆

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 内容 インターンシップとは、在学中に就業体験を行うこと。企業などの組織に自分を置き、その組織がかかげる理念や目標に向かって日々の様な活動をしているかを実感することを目的としている。この機会を通じて、自ら社会が求める人材像を理解し、より良いキャリア選択を目指す姿勢を知ることが望ましい。就職活動にも役立つよう「模擬企画プロジェクト」等グループワークや、ビジネスマナーを理解する演習も設けている。2. カリキュラム上の位置付け 夏休み・春休みなどに、民間企業、自治体、特定非営利活動法人(NPO)などでインターンシップとして働くことを希望する学生を対象とする。すなわち、インターンシップ I (実習) 受講のために必要な講義である。

2. 学びの意義と目標

就職活動に際して職場をイメージできることや仕事観を持っていること、また就業体験を通じて自己の気づきの機会を得てエントリーシートの作成、自己紹介や志望動機を述べられることは有利である。少子高齢化、ICTの発展や経済のグローバル化に伴い、産業構造が大きく変わり雇用形態も多様化している。これからの社会を生きていく自分のキャリアデザインを考え、「就業力」をどのように育成していくかを学ぶ機会とした。

受講生に対する要望

本講義の履修生は「就活」の前哨戦という理解で取り組んでほしい。講義の進行に伴い、履修生は「インターンシップに行くのか」「どのような職場で実習するのか」そして最終的に「どこで、いつから、いつまで働くのか」を決定してもらうことになる。遅刻や欠席をしないことは言うまでもないが、担当教員との連絡や、期日を守ると言った責任ある態度で臨んでほしい。

キーワード

(1) インターンシップ (2) 社会人基礎力 (3) ビジネスマナー (4) 就業力 (5) 就活

事前学習 (予習)

講義のポイントを講義中に理解するよう努めること。

復習についての指示

講義中に理解できなかったことや、納得できなかった点などあれば質問して解決すること。復習により理解を定着させていくこと。

授業計画

1. プログラム紹介 : 就活の前哨戦としてのインターンシップ
2. インターンシップの目的とその効果/「就業力」育成に向けて
3. 「就業力」や「社会人基礎力」が必要とされるバックグラウンド
4. 社会に出て働く時、知っておくべきこと、心得ておくべきこと
5. ”安心して働くため” 就職に係る労働法や就業規則を知る
6. ビジネスマナー演習(1) 対面の場合
7. ビジネスマナー演習(2) 文書の場合
8. 「労働生産性」の理解とビジネスの現場におけるICT
9. 模擬企画プロジェクト(1)
10. 企業の「理念」、ビジネス・モラル、「信用」の大切さ
11. 模擬企画プロジェクト(2)
12. 実業家による講演
13. インターンシップに向けての心構え(4年生の体験談)
14. インターンシップに向けての心構え(事前学習のまとめ)
15. 提出レポート(2回)へのコメントと教員からのフィードバック

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席点:50% (2) レポート点:40% (3) 受講態度:10%

社会人並みの自己管理を求める。15回で完結する内容を組んでいするため、全講座出席のこと。遅刻3回で一回欠席扱いとする。

インターンシップⅡ(実習)

INTD-P-300

担当者：酒井 俊行

開設期：秋学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本授業は民間企業、自治体等において正味10日の実務実習を行うプログラムです。この授業を選択する場合は、インターンシップⅠ（事前学習）の単位取得が前提となります。

2. 学びの意義と目標

インターンシップ実習を受けた結果として、就活に際しての業界・企業を選択の判断力が養われます。これまでのケースでは、実際の職場経験を踏むと、より自覚が芽生える様子が大いに窺われます。

受講生に対する要望

実習に行く諸君は大学を代表するわけです。これまでの例では、実習を通じて本学の評価が高まり、就職に即繋がったり、求人票を出してもらえようになったりするなどの効果もみられます。しっかりとした自覚を持って実習に臨むようにして下さい。

キーワード

(1) 業界を知る (2) 仕事を知る (3) ビジネスマナーを学ぶ

事前学習（予習）

インターンシップ先で当日学んだことを必ず復習して、明日の仕事の改善に繋げるよう準備する。

復習についての指示

学んだことを毎日振り返り、特に上手く行かなかったことを念入りに復習する。

授業計画

1. 実習先企業の事前研究 (1)
2. 実習先企業の事前研究 (2)
3. インターンシップ先での実習：日報作成 (1)
4. インターンシップ先での実習：日報作成 (2)
5. インターンシップ先での実習：日報作成 (3)
6. インターンシップ先での実習：日報作成 (4)
7. インターンシップ先での実習：日報作成 (5)
8. インターンシップ先での実習：日報作成 (6)
9. インターンシップ先での実習：日報作成 (7)
10. インターンシップ先での実習：日報作成 (8)
11. インターンシップ先での実習：日報作成 (9)
12. インターンシップ先での実習：日報作成 (10)
13. まとめレポート作成 (1)
14. まとめレポート作成 (2)
15. 報告会での発表

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 実習先事前研究:10% 実習先についての事前調査 (2) 実習:35% 実際の実習 (3) 実習ノート:5% 実習についての日報 (4) 実習レポート:20% 10日間を通じての課題の達成状況、感想等 (5) 報告会:30% 実習レポートを元に、学生・教員等の前で報告

インターンシップⅡ(実習)

INTD-P-300

担当者：藤井 重隆

開設期：秋学期集中/春学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本授業は民間企業、自治体等において正味10日の実務実習を行うプログラムです。この授業を選択する場合は、インターンシップⅠ（事前学習）の単位取得が前提となります。

2. 学びの意義と目標

インターンシップ実習を受けた結果として、就活に際しての業界・企業を選択の判断力が養われます。これまでのケースでは、実際の職場経験を踏むと、より自覚が芽生える様子が大いに窺われます。

受講生に対する要望

実習に行く諸君は大学を代表するわけです。これまでの例では、実習を通じて本学の評価が高まり、就職に即繋がったり、求人票を出してもらえようになったりするなどの効果もみられます。しっかりとした自覚を持って実習に臨むようにして下さい。

キーワード

(1) 業界を知る (2) 仕事を知る (3) ビジネスマナーを学ぶ

事前学習（予習）

インターンシップ先で当日学んだことを必ず復習して、明日の仕事の改善に繋げるよう準備する。

復習についての指示

学んだことを毎日振り返り、特に上手く行かなかったことを念入りに復習する。

授業計画

1. 実習先企業の事前研究(1)
2. 実習先企業の事前研究(2)
3. インターンシップ先での実習：日報作成(1)
4. インターンシップ先での実習：日報作成(2)
5. インターンシップ先での実習：日報作成(3)
6. インターンシップ先での実習：日報作成(4)
7. インターンシップ先での実習：日報作成(5)
8. インターンシップ先での実習：日報作成(6)
9. インターンシップ先での実習：日報作成(7)
10. インターンシップ先での実習：日報作成(8)
11. インターンシップ先での実習：日報作成(9)
12. インターンシップ先での実習：日報作成(10)
13. まとめレポート作成(1)
14. まとめレポート作成(2)
15. 報告会での発表

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 実習先事前研究:10% 実習先についての事前調査 (2) 実習:35% 実際の実習 (3) 実習ノート:5% 実習についての日報 (4) 実習レポート:20% 10日間を通じての課題の達成状況、感想等 (5) 報告会:30% 実習レポートを元に、学生・教員等の前で報告

オペレーションズ・マネジメント

MGMT-P-200

担当者：柴田 武男

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

生産現場などの現実現場のマネジメント及び、生産性改善の手法を、理論面と実践面から講義する。理論においては、業種による手法の相違を学び、実践面においては経済グローバル化の中で顕在化する国内外におけるマネジメントや手法の相違、さらには国境を超えた手法の移転の実践を学ぶ。その目的に適用される科学的手法については、数学的な講義は省き、理論の概念的な説明にとどめる。講義は、4名の実業界出身の講師による、オムニバス方式を採る。第1回から7回までは、自動車産業に勤務した講師が、その実務経験を踏まえて講義する。第8回から15回までは、電子産業に勤務した講師が、グローバルオペレーションに伴う技術移転を主題とする生産管理について講義する。第16回から22回までは、化粧品・繊維産業に勤務した講師が、その実務経験を踏まえて効果的効率化にフォーカスした講義を行う。23回から30回までは、情報産業に勤務した講師が、その実務経験を踏まえて講義する。

2. 学びの意義と目標

現実の現場を如何に管理するか、また現場操業の効率化と生産力アップを如何に達成するかを実践的に学ぶ。講師の勤務した各産業界の違いは何か、そして共通するものは何かを探究して欲しい。またグローバル化の中で欠かせない海外での操業においては、果たして国内での手法が適用可能なのか。どのような点に留意すべきかなど、製造等現実拠点の海外移転に求められる基礎的な知識や情報を身に付けて欲しい。

受講生に対する要望

講義内容をただそのまま学ぶだけでなく、講義の中で関心を持った事項に関連資料などに当たってさらに自ら掘り下げて欲しい。また講義内容で理解できなかった部分は講師に質問、提案などして、積極的に講義に参加する態度を身に付けて欲しい。

キーワード

(1)生産現場マネジメントのポイントは何か (2)国内外の現場におけるマネジメント手法の相違

事前学習（予習）

次回講義テーマに関する関心事項を一つでもあらかじめ調べて、講義に臨むこと。

復習についての指示

講義内容をレビューして、不明な点、疑問点などを次回の講義で質問する。また特に関心ある事項があれば、講義内容の枠を超えた領域をも含めて知識や情報を掘り下げて欲しい。

授業計画

1. 自動車産業を主題とする、生産管理の外観 講師：佐藤貞義
2. 自動車産業を主題とする、生産活動の構成 講師：佐藤貞義
3. 自動車産業を主題とする、工場現場の管理 講師：佐藤貞義
4. 自動車産業を主題とする、市場とのリンク 講師：佐藤貞義
5. 自動車産業を主題とする、サプライチェーンについて 講師：佐藤貞義
6. 自動車産業を主題とする、グローバルオペレーション 講師：佐藤貞義
7. 自動車産業を主題とする生産管理総括 講師：佐藤貞義
8. 電子産業を主題とする、グローバルオペレーションズと技術移転各論1（グローバルオペレーションズとは）講師：肥後照雄
9. 電子産業を主題とする、グローバルオペレーションズと技術移転各論2（技術移転とは）講師：肥後照雄
10. 電子産業を主題とする、グローバルオペレーションズと技術移転各論3（南米での技術移転・アルゼンチン）講師：肥後照雄
11. 電子産業を主題とする、グローバルオペレーションズと技術移転各論4（アフリカでの技術移転・ガーナ）講師：肥後照雄
12. 電子産業を主題とする、グローバルオペレーションズと技術移転各論5（東欧・中欧での技術移転・モルドバほか）講師：肥後照雄
13. 電子産業を主題とする、グローバルオペレーションズと技術移転各論6（アジアでの技術移転・ミャンマーほか）講師：肥後照雄
14. 電子産業を主題とする、グローバルオペレーションズと技術移転各論7（海外への技術の伝え方、まとめなど）講師：肥後照雄
15. 電子産業を主題とする…8（ゲストスピーカー・現役国際ビジネスマンによる発表・討論など）講師：肥後照雄
16. 化粧品・繊維産業を主題とする、オペレーションズマネジメントの進化（効率の追求から効果的効率化へ）講師：舟橋金之介
17. 化粧品・繊維産業を主題とする、業界のしくみとオペレーションズマネジメント 講師：舟橋金之介
18. 化粧品・繊維産業を主題とする、マーケティング活動の重要性 講師：舟橋金之介
19. 化粧品・繊維産業を主題とする、オペレーションズマネジメントに役立つ品質管理 講師：舟橋金之介
20. 化粧品・繊維産業を主題とする、オペレーションズマネジメントに役立つコスト管理と利益管理 講師：舟橋金之介
21. 化粧品・繊維産業を主題とする、オペレーションズマネジメントに役立つ生産管理 講師：舟橋金之介
22. 化粧品・繊維産業を主題とする、グローバルビジネスを推進する上での留意点（地球レベルで考える）講師：舟橋金之介
23. 情報産業関連企業の現場経験による実践的観点より、オペレーション・マネジメントの目的、歴史等を講義する。講師：田中啓二
24. 情報産業を主題とする、オペレーション・マネジメントの要素と管理項目 講師：田中啓二
25. 情報産業を主題とする、いろいろな製品と管理システム 講師：田中啓二
26. 具体的なマネジメントシステム（トヨタ生産方式を例として） 講師：田中啓二
27. 情報産業を主題とする、マネジメントに必要な管理データとは 講師：田中啓二
28. 情報産業を主題とする、企業のグローバル化とマネジメント 講師：田中啓二
29. 情報産業を主題とする、新しいオペレーションズマネジメント（SCMなど） 講師：田中啓二
30. 情報産業を主題とする、これからのオペレーションズマネジメント 講師：田中啓二

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席日数による加点減点:10% (2)課題レポート提出:90%:4人の講師がレポート課題を提示する

出席日数がコマ数の2/3未満は評価対象外

担当者：成川 正晃

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

会計情報は、受託責任を明らかにしたり、意思決定に役立つ情報を提供したり、様々な利害関係者の利害を調整するのに用いられます。このような会計情報の作成原理や、利用方法を学ぶのが会計学です。講義では、なるべく具体的な例を用い、絶えず現実の経済事象を意識できるように工夫して進めていきます。

2. 学びの意義と目標

会計学では、会計情報の作成原理を理解するとともに、その利用方法を学習していきます。したがって、会計学の一端を学習することで、企業人としての基礎を身に付けたことになります。具体的には、企業の各種財務資料の作成から、分析方法まで学習していきます。このことにより、「企業を見る目を養う」というのが会計学を学ぶ目標となります。

受講生に対する要望

簿記を受講済みで、会計について関心がある方の受講を希望します。

キーワード

(1) 会計情報 (2) 企業経営 (3) 経営分析 (4) 連結会計 (5) 国際会計

事前学習（予習）

授業計画を参照し、テキストの該当箇所を読み、疑問点等をまとめておくこと。

復習についての指示

授業内の課題を復習し、各項目について次回までに説明できるようにしておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション/授業の狙い・到達目標/会計情報の役割を理解する
2. 会計情報の果たす役割に影響を与える（法）制度を理解する
3. 企業の財政状態を示す「貸借対照表」を理解する
4. 企業利益の測定と貸借対照表の関係を理解する
5. 企業の経営成績を示す「損益計算書」を理解する
6. 企業のタイプにより貸借対照表の構造が大きく異なることを理解する
7. 商品とは/製品とは/企業の在庫とは
8. 棚卸資産の評価/回転率
9. 有形固定資産とは/減価償却とは
10. 減価償却方法とは/減損処理とは
11. 金融資産の種類/現金とは/預金とは
12. 売上債権とは/売上債権の評価額とは
13. 有価証券の種類/有価証券の評価額とは/保有目的による違いは
14. 負債とは/資本とは
15. まとめ
16. 財務諸表の概要を理解する
17. 損益計算書の構造を理解する
18. 収益認識の基本原則を理解する
19. 営業活動の成果を把握する
20. 会計情報の比較/趨勢分析とは
21. 収益性の分析とは/ROEとは
22. ROEの3分解
23. 個別具体的企業にみるROEの3分解
24. 安全性の分析/流動比率とは
25. 個別具体的企業にみる安全性の分析
26. 企業の利益構造とは/損益分岐点とは
27. 損益分岐図表の2つのタイプとは
28. 外部分析としての損益分岐図表の応用
29. 経営管理のための会計情報の役割
30. まとめ

教科書

谷 武幸、桜井 久勝 『1からの会計』（碩学舎）

評価方法

(1) 試験:60% (2) 課題:40%

担当者：横山 麻衣

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

現代社会における、家族をめぐる問題について総合的に学ぶ。

2. 学びの意義と目標

今日、家族はとても多義的な存在となっており、さまざまな社会問題を理解する上でも不可欠のものとなっている。授業を通して家族をめぐる問題についての基礎を学ぶとともに、今後、家族を形成するにあたって役に立つような知識や考え方を身につけてもらいたい。

受講生に対する要望

・「家族」について問題関心を持っていること。・社会学についてある程度知識があることが望ましい。

キーワード

(1)家族 (2)親密性 (3)近代 (4)多様性

事前学習（予習）

毎回の講義終了後、次回講義テーマについて述べるので、そのテーマについて知りたいことやわからないことについて考えておくこと（適宜授業の中で質問するので、可能な範囲で発言することが望ましい）。

復習についての指示

講義終了後、配布プリントを再読し、①自分が興味関心を抱いた事柄、②その理由について考えておくこと（適宜授業の中で質問するので、可能な範囲で発言することが望ましい）。

授業計画

1. 家族とは（1）
2. 家族とは（2）
3. 家族の類型（1）
4. 家族の類型（2）
5. 性と愛（1）
6. 性と愛（2）
7. 配偶者選択（1）
8. 配偶者選択（2）
9. 結婚の意味と機能（1）
10. 結婚の意味と機能（2）
11. 離婚（1）
12. 離婚（2）
13. 家族とライフサイクル（1）
14. 家族とライフサイクル（2）
15. 家族の危機（1）
16. 家族の危機（2）
17. 家族と役割（1）
18. 家族と役割（2）
19. 家族と勢力（1）
20. 家族と勢力（2）
21. 家族と情緒（1）
22. 家族と情緒（2）
23. 家族と子育て（1）
24. 家族と子育て（2）
25. 家族と介護（1）
26. 家族と介護（2）
27. 家族とネットワーク（1）
28. 家族とネットワーク（2）
29. 家族の変動（1）
30. 家族の変動（2）

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:40% (2)期末試験:50% (3)レポートなど:10%

環境法

LAW-P-200

担当者：仲田 孝仁

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義は、国内の「環境法」について議論する。「環境法」とは、人の健康や生活環境にとって、望ましい環境を保全し、向上させることを目的とし、被害が発生した場合は、被害者の救済を目的とした法体系（あるいは学問体系）をいう。講義の視座として、(1)日本では過去においてどのような公害・環境問題が発生したか、(2)それらの問題が生じた際、立法的な措置は十分であったか、(3)行政は、どのような対応をしたか、(4)公害・環境問題に対して、裁判所による解決は図られたかといった点から様々な法律や諸問題を論ずる。本講義は、「法学」である。講義を受講する際は、できれば法学、憲法、民法といった基本的な科目を履修していることが望ましい。とはいえ、「環境法」の学問としての独自性を強調したいため、講義においては、「環境法」を考える上で必要な他の法律分野の知識は最低限フォローする予定である。

2. 学びの意義と目標

受講者に広く「環境問題」に関心を持っていただきたい。また、諸君が「環境問題」を法的に分析・論証できるレベルまで導くことを目標とする。最終的には、「環境法」の法的枠組みを理解させ、「法」（法律）を用いることで、各人が環境問題への具体的解決策を導くための手がかりを与える（問題点を見つけ出す。法律の施行による効果は実際にあったのかなど。）ことに本講義の意義がある。本講義を履修した後は、難解な「環境法（令）」を自力で読め、各条文の目的や効果を自分で整理し、それらの規定が私たちの実生活や企業活動に及ぼす意味が体系的に理解されることとなる。そのような力は、諸君が社会人となつてからもきつといかせるものである。なお、本講座では履修者諸君に頻りに発言を求めたり、意見をペーパーに書いて頂くこととなる。発言することや、意見を集約し、的確に表現する力もつくこととなる。もちろん、単なる感想ではなく、法的にどのように見るかがポイントとなる。

受講生に対する要望

一人の人間として環境にかかわらない者はいない。ごみを出さない者はいないであろう。また、将来、企業に就職したとしても、「環境」へのかわり方を無視するような企業はありえない（コンプライアンス）。「環境」とのかかわりを日ごろから意識して欲しい。

キーワード

事前学習（予習）

「環境」にかかわる新聞記事、インターネット上の情報など興味があるものを第1回の授業開始時まで、必ず紙面にて持参してください。1人、2点とします。何が問題が事前に考えてみてください。

復習についての指示

初回の講義時に指示する。

授業計画

1. イントロダクション-「環境法」とはいかなる法か？
2. 環境法の歴史（1）-浦安事件、四大公害訴訟について考える
3. 環境法の歴史（2）-「公害法」から「環境法」へ
4. 環境法の構造-「環境基本法」を中心に
5. 環境法の諸原則-予防原則、環境権、持続可能な開発など
6. 個別環境法を考える前に-環境規制の手法、経済的手法について
7. 廃棄物処理法（1）-ごみの種類、総合判断説、京都府おから事件
8. 廃棄物処理法（2）-処理施設の設置、マニフェスト、改善命令など。
9. 個別リサイクル法（1）-容器包装リサイクル法について
10. 個別リサイクル法（2）-家電リサイクル法について
11. 水質汚濁防止法（1）-目的、規制対象、施設、濃度規制
12. 水質汚濁防止法（2）-無過失損害賠償責任、監督手法
13. 大気汚染防止法（1）-種々の規制の仕組みについて
14. 大気汚染防止法（2）-有害大気汚染物質、VOC、自動車排ガス対策
15. 土壌汚染対策法（1）-基本的な仕組みについて（3条調査、要措置区域）
16. 土壌汚染対策法（2）-汚染原因者に対する費用請求、汚染土壌の搬出
17. 野生動植物と法（1）-種の保存法について
18. 野生動植物と法（2）-外来生物法について
19. 水質汚濁と訴訟-水俣病訴訟、見舞金契約から被害者救済法の成立まで
20. 大気汚染と訴訟-四日市ぜんそく訴訟、その他
21. 土壌汚染と訴訟-築地市場の豊洲への移転問題について
22. 不法投棄と訴訟-香川県豊島産業廃棄物不法投棄事件、中坊公平弁護士
23. 廃棄物処理施設と訴訟-千葉県エコテック社事件
24. 環境影響評価法-環境アセスメントの問題点について
25. 化学物質規制とリスク管理-化審法、PRT法
26. 原子力関連法制-なぜ「原子力」は環境法の対象から除外されているのか
27. 公害・環境問題の被害者救済-環境民事訴訟、環境行政訴訟、ADR
28. 地球温暖化対策と法（1）-国際的諸問題（京都議定書、京都メカニズム）
29. 地球温暖化対策と法（2）-国内的対応（地球温暖化対策法、国内排出量取引制度）
30. 総括-福島原発事故を教訓として、その他東日本大震災と瓦礫の処理

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)期末試験:50% (2)小テスト:25% (3)レポート:25%:「環境」にかかわる記事を自分で探し出し、それを「環境法」的に分析させるレポート。

担当者：村上 公久

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

私たちの世界の滅亡を人の死に例えて「核戦争による滅亡を心臓発作による死、環境破壊による滅亡をガン（がん）の進行による死」とすれば、今日全面核戦争の脅威は軽減されつつあるが、自然・環境破壊は急速に進行中である。心臓発作の急死の危険はやや遠のいたが、ガンが進行し体のあちこちに転移して拡大していることがはっきりしてきた。現在、国際機構、各国、自治体、地域の環境問題における最大の政策課題は、「経済成長か、環境か」のディレンマをめぐる合意形成とその妥当性の検討である。この科目では、まず環境史を学び、次に産業革命以後の環境問題を省みた上で、持続可能な（持続可能な）開発(Sustainable Development)を考える。

2. 学びの意義と目標

教養・総合科目「環境学」の内容を基礎として展開する内容を扱う専門科目。この科目は 総合科目「環境学」、基礎科目「聖書の中の環境問題」の講義内容と関連したテーマをさらに より深く扱っているもので、準備として これらの科目を予め履修しておくことが望ましい。

受講生に対する要望

この科目は 総合科目「環境学」、基礎科目「聖書の中の環境問題」の講義内容と関連したテーマをさらに より深く扱っているもので、準備として これらの科目を予め履修しておくことが望ましい。

キーワード

(1)自然保護と環境保全 (2)自然観の変遷 (3)個体群生態学と環境容量 (4)再生産可能な資源 と 枯渇性資源 (5)保続的（持続的）発展

事前学習（予習）

講義の各回については、事前に配布する講義資料をよく学び考えておくこと。この科目は 総合科目「環境学」、基礎科目「聖書の中の環境問題」の講義内容と関連したテーマをさらに より深く扱っているもので、準備として これらの科目を予め履修しておくことが望ましい。「環境学」「聖書の中の環境問題」履修済みの者は、よく復習しておくこと。

復習についての指示

各回の講義内容について、関係する情報・資料を探して参考にし、講義を受けて自分で考えたことを含めて講義記録のノートに記録する。

授業計画

1. 体系的認識の重要性（「何故 大学で学ぶのか」）
2. 自然と環境
3. エコロジーの重要ないくつかの概念（1）
4. エコロジーの重要ないくつかの概念（2）
5. 自然観の変遷（1）
6. 自然観の変遷（2）
7. 「3つの文化型」 man-in-nature の文化（1）
8. 「3つの文化型」 man-in-nature の文化（2）
9. 〔人間－環境〕系（1）
10. 〔人間－環境〕系（2）
11. 21世紀の環境問題 生命圏の全的破壊の危機 「突然」はあるか
12. 環境史（1）
13. 環境史（2）
14. 環境問題の歴史
15. 自然保護運動の歴史
16. 無思慮な悲観論とセンチメンタリズムの危険
17. 個体群生態学と環境容量
18. 「地球温暖化問題」（1）
19. 「地球温暖化問題」（2）
20. 「地球温暖化問題」（3）
21. 自然保護と環境保全 「自然破壊」と「自然保護」の対立、第三の立場「環境保全」
22. 保続的（持続的）社会 Sustainable Societyを考える
23. 再生産可能な資源 と 枯渇性資源（1）
24. 再生産可能な資源 と 枯渇性資源（2）
25. 保続的（持続的）発展Sustainable Development（1）
26. 保続的（持続的）発展Sustainable Development（2）
27. 保続する〔人間－環境〕系をめざして
28. 全球化globalization 中の環境問題
29. 「我々の家」としての地球
30. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:40% (2)2回以上の試験と期末試験:60%

欠席回数が講義回数の3分の1を超える者には、単位を認定しない。資料の探索と資料の理解、プレゼンテーション等のための加工、複数回の個人・チームによるプレゼンテーション、討論、ゼミ参加態度、ゼミへの熱意と貢献等 などを総合的に評価する。

キャリアデザインA

CREE-D-100

担当者：萬年山 啓

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この科目では、学生が、自分の生き方、働き方などを設計できるように、自分のキャリアをデザインする際に必要となる考え方と思考方法について学びます。この科目で扱う自己の興味関心や適性、日本の社会構造や職業、社会が求める能力や技能に対する理解などのテーマは、大学卒業後に社会で活躍するため基礎的な事柄です。

2. 学びの意義と目標

この科目で学ぶことは、学生が自分の将来を見据えて大学生活を有意義に過ごすための起点となり、大学（教育）から職場（社会）への円滑なキャリアチェンジを実現するための基点にもなります。この科目は、「キャリア」を経歴や職業だけでなく、人間の生き方を表現する「ライフキャリア」と捉えて、そうしたキャリアを「デザイン」という未来志向であることを特長とします。多くの学生が大学を最終学歴として社会へ移行することを前提に、社会への移行をスムーズに行うことができるように、大学時代に教養科目・専門科目で得た知識を活用し、社会で活躍するために必要な考え方や技法・能力を身につけていきます。授業では、個人ワークやグループワーク・発表を採り入れ、学生が主体的に行動する形態で実施します。個人ワークでは、与えられた課題について集中して取り組む訓練を積み上げることで、論理的に結論を導く方法を学びます。グループワークでは、コミュニケーションのとり方を学びます。

受講生に対する要望

授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求めます（詳しくは、最初の授業で説明します）。大学から社会への移行を見据えた大学生活を送るために、勉強・社会体験・サークル活動など、大学時代に取り組んで得たことを活かせるようにしてください。

キーワード

(1) 自己理解 (2) 職業理解（仕事理解） (3) 社会人基礎力

事前学習（予習）

授業計画を参照して、それぞれのテーマに関し、用語の意味や概要を理解しておくこと

復習についての指示

配布され、授業で記述したプリントを再読し、授業の理解度を再確認するだけでなく、その後の大学生活に活用すること

授業計画

- はじめに（授業の目的や進め方、履修上の注意点、アイスブレーキング）
- キャリアを知る（キャリアの捉え方と基本的な知識を理解する）
- 自分を知る（1） 性格分析（アセスメントツールを用いて、自分を客観的に見つめる）
- 自分を知る（2） 自己分析（これまでの経験や体験を分析して、自分のことを理解する）
- 自分を知る（3） 能力分析（社会が求める人材像・能力像を理解し、具体的な習得方法を考える）
- 自分を知る（4） 適応分析（社会で活躍するための条件を考え、キャリア挫折をなくす方策を考える）
- 社会と職業を知る（1） 社会を知る（社会や企業の仕組みを理解し、果たすべき役割を考える）
- 社会と職業を知る（2） 産業を知る（1）（日本の産業構造の変化を理解し、将来動向を予測する）
- 社会と職業を知る（3） 産業を知る（2）（現在の日本の産業構造や雇用構造を理解する）
- 社会と職業を知る（4） 職業を知る（業種や職種などを理解し、自己の興味関心を考える）
- 社会と職業を知る（5） 雇用を知る（多様な働き方や社会保障・雇用関係法を理解する）
- 社会人基礎力を高める（1） コミュニケーション力など
- 社会人基礎力を高める（2） 意思決定力など
- 社会人基礎力を高める（3） プレゼンテーション力など
- 自己のキャリアデザインを考える（大学におけるキャリア形成を考える）

教科書

プリントを配布する
毎回、プリントを配布します。課題レポートも、それを基礎にして作成します。

評価方法

(1) 授業への取組:50% (2) ワークへの取組:25%:個人ワークとグループワーク (3) 課題レポート:25%

この授業では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視します。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応します。

担当者：萬年山 啓

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

後期に配賦されるこの科目は、前期で学んだ自己理解・職業理解・ビジネスシーンに必要な基礎的能力などの理解を踏まえながら、内容を一步深めていきます。さらに、大学（教育）から職場（社会）へのキャリアチェンジに向けた準備活動というキャリア教育の観点も加味し、より実践的な内容を学んでいきます。社会で行われていることと大学で学んでいることを関連づけて考えるための方策を示し、社会を視る目を養成します。

2. 学びの意義と目標

この科目では、社会的活動が協働の場であることを理解し、学生がこれまで体験してきた競争の場とは異なる考え方や能力が求められることを意識します。21世紀の「知識基盤社会」において働くとはどういう意義を持ち、どのような人間的資質が求められており、評価されるのかを理解していくのが主眼です。この科目では、日々活動している社会の中で自分を位置付けること、業種・企業・職種を自分の適性や興味・関心と結びつけて理解すること、社会にでてから活動するために必要な能力を具体的にイメージすること、社会や組織で協働することの重要性を理解することなどを目標にしています。この授業でも、個人ワークやグループワークを採り入れます。他人が発する情報をどのように受けとめ、理解するか、さらにそれをどのように伝えていくかを意識しながら、授業を進めます。授業中での行動を通して、学生の「ジェネリックスキル」を育成していきます。この授業に主体的に参加する学生が、自分の「キャリアデザイン」を自分自身の言葉で語り、構築ができるようになることを目指します。

受講生に対する要望

授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求めます（詳しくは、最初の授業で説明します）。社会の動きや大学生の状況などを概説しますので、自分でも、情報を収集し、起こっている事象の原因や今後の成り行きについて考えるようにしてください。

キーワード

(1) 社会の中での自分のあり方 (2) 業種・職種・働き方 (3) 社会に出てから必要な力 (4) 協働するために必要な力

事前学習（予習）

授業計画を参照して、それぞれのテーマに関し、用語の意味や概要を理解しておくこと

復習についての指示

配布され、授業で記述したプリントを再読し、授業の理解度を再確認するだけでなく、その後の大学生活に活用すること

授業計画

- 働く意味について考える（仕事や働き方を選ぶ基準について理解する）
- なりたい自分を創る（自分が大切にしていることが何かを把握する）
- 学生と社会人の違いを認識する（大学で求められることと社会が必要としていることを理解する）
- 業種と企業について理解する（1） 人に対するサービスを中心に
- 業種と企業について理解する（2） 事物に対するサービスを中心に
- 職種について理解する（1） 自分の生活との関わりから職種を理解する
- 職種について理解する（2） 職業の意味と多様性について理解する
- 社会に出てから必要な力を養う（1） 読んで理解する力
- 社会に出てから必要な力を養う（2） 聴いて理解する力
- 社会に出てから必要な力を養う（3） 話して自分を伝える力
- 社会に出てから必要な力を養う（4） 書いて自分を伝える力
- ゲスト・スピーチから学ぶ（キャリア・コンサルタントによる講演）
- 協働するために必要な能力を養う（1） 言葉だけの意思疎通
- 協働するために必要な能力を養う（2） コミュニケーション力
- 協働するために必要な能力を養う（3） 論理的思考と表現

教科書

プリントを配布する
毎回、プリントを配布します。課題レポートも、それを基礎にして作成します。

評価方法

- (1) 授業への取組:50% (2) ワークへの取組:25%:個人ワークとグループワーク (3) 課題レポート:25%

この授業では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視します。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応します。理由のない遅刻や欠席は認めません。

キリスト教社会倫理 A

CHRI-L-300

担当者：菊地 順

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：公民必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目

講義概要

1. 内容

倫理学というのは、平たく言えば、よりよい人間の生き方、あるいはより正しい人間の生き方について考える学問ですが、この授業は、「キリスト教」社会倫理とあるように、それをキリスト教の視点に立って考えるものです。しかし、それはまた同時に、キリスト教「社会倫理」とあるように、それは広く社会に目を向けた中で考察されます。その考察を、今年度は特にキリスト教の歴史の中で、それぞれの時代精神を担いながら生きた人々を取り上げ、その生き方とその意義について考えたいと思います。具体的には、古代、中世、近現代を代表する何人かの人物に注目し、その人たちの精神が現代においてどのように展開されているかを見、その生き方とその意義について考えたいと思います。

2. 学びの意義と目標

この授業では、生き方に関する具体的な事例を学ぶことをとおして、特に人間の尊厳や人格の価値の理解を深める、人生の意義を学び、現代世界に通用する倫理観を身に付けることが目指されています。

受講生に対する要望

倫理という堅苦しい印象を受けるかもしれませんが、人間のよりよい生き方を学ぶものですので、たえず社会に関心を持ち、問題を共有しながら、開かれた心で臨んでほしいと思います。

キーワード

(1)人間 (2)時代 (3)倫理 (道徳) (4)価値 (5)献身

事前学習 (予習)

予習としては、シラバスを読んで授業内容を確認し、予め下調べをしておくこと。

復習についての指示

復習として、毎回授業で配布される講義内容のプリントを読み直すこと。また必要や関心に応じて、自分で調べ、知識を深めること。特に、この授業では復習に重点を置いてください。

授業計画

1. 授業のオリエンテーション
2. キリスト教の歴史観と人間観
3. アウグスティヌスと懐疑主義の克服
4. アシジの聖フランシスコと清貧の思想 (1)
5. アシジの聖フランシスコと清貧の思想 (2)
6. マルティン・ルターに見る個と信仰の世界
7. パスカルに見る人間の偉大さと卑小さ
8. カントと道徳的精神
9. ベンジャミン・フランクリンと合理的精神
10. キルケゴールと実存的苦悩
11. マハトマ・ガンディーと非暴力の思想
12. マザー・テレサと献身の生涯
13. 井深八重と献身の生涯
14. 賀川豊彦とボランティア
15. 3・11以後を生きる

教科書

授業の中で指示する
毎回授業の初めにプリントを配布します。

評価方法

- (1)試験:70% (2)出席:20% (3)課題:10%

以上の3点を総合的に判断して成績を出します。ただし、3分の1以上の欠席者、あるいは課題の未提出者は試験を受ける資格がありませんので、注意すること。

キリスト教社会倫理 A

CHRI-P-200

担当者：藤原 淳賀

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：公民必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目

講義概要

1. 内容

本講義は、国家教会と信仰者教会の違いから来るキリスト教社会倫理を概説し、主要な3つのキリスト教会の立場、およびそれぞれのキリスト教社会倫理の特徴を解説する。また主要なキリスト教社会倫理の問題（民主主義、戦争観）を論じた後、アメリカ合衆国とキリスト教の関係について考察する。また近代におけるキリスト教的「契約」思想について論じる。

2. 学びの意義と目標

本講義は、キリスト教の基礎的知識（キリスト教概論A・B）を持った学生諸君を対象とし、キリスト教的社会倫理の様々な思想と実践、文化価値を理解することを目的とする。

受講生に対する要望

積極的な姿勢を希望する。

キーワード

事前学習（予習）

教科書の指定された箇所を読んでくること。

復習についての指示

教科書とノートを講義後に読み直し、昼食時に友人たちの内容について語るときを持つとよい。

授業計画

1. 序：キリスト教的文化価値
2. 国家教会と信仰者の教会
3. カトリック教会、東方正教会、プロテスタント教会と社会倫理 2
4. キリスト教と民主主義 1
5. キリスト教と民主主義 2
6. キリスト教と民主主義 3
7. 中間試験
8. キリスト教の戦争観と平和観 1
9. キリスト教の戦争観と平和観 2
10. キリスト教の戦争観と平和観 3
11. キリスト教とアメリカ合衆国 1
12. キリスト教とアメリカ合衆国 2
13. キリスト教とアメリカ合衆国 3
14. 13. キリスト教の契約思想と現代社会
15. 期末試験

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 中間試験：50% (2) 期末試験：50%

キリスト教社会倫理B

CHRI-L-300

担当者：菊地 順

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：公民必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目

講義概要

1. 内容

倫理学というのは、平たく言えば、よりよい人間の生き方、あるいはより正しい人間の生き方について考える学問ですが、この授業は、「キリスト教」社会倫理とあるように、それをキリスト教の視点に立って考えるものです。しかし、また同時に、キリスト教「社会倫理」とあるように、それは広く社会に目を向けた中で考察されます。その考察を、秋学期は、人種問題に注目して行いたいと思います。具体的には、一つはアメリカ合衆国における黒人問題を取り上げ、その歴史との歴史について学びます。またヨーロッパにおけるユダヤ人問題にも注目したいと思います。そして、人間の生き方について、特に人間の尊厳とか人格・人権といった価値の尊さについて学びたいと思います。

2. 学びの意義と目標

この授業では、人種問題の学びをとおして、人間の生き方や価値観、特に人間の尊厳とか人格・人権などの価値についての理解を深め、現代世界に通用する倫理を身に付けることが目指されています。

受講生に対する要望

人種問題は、世界中にある問題です。この学びのために、特に人間の尊厳とか人権ということにより敏感となり、社会や世界に広く関心を持ち、開かれた心で授業に臨んでほしいと思います。

キーワード

(1) アフリカ系アメリカ人 (2) 奴隷制度 (3) 人種隔離政策 (4) ユダヤ人 (5) 人格・人権

事前学習（予習）

予習としては、シラバスで授業内容を確認し、下調べをしておくこと。

復習についての指示

復習としては、授業で毎回配布される講義内容のプリントを読み返すこと。また必要と関心に応じて、自分でさらに調べ、知識を深めること。この授業では後者に重点を置いてください。

授業計画

1. 授業のオリエンテーション
2. アメリカの宗教的多元化と右派化
3. アメリカ黒人の歴史
4. フレデリック・ダグラスの生涯と奴隷制度
5. 南北戦争と奴隷解放宣言
6. キリスト教と奴隷制度
7. 再建期と人種隔離制度
8. 黒人たちの戦い
9. M. L. キングと公民権運動
10. マルコムXの戦い
11. ドイツとユダヤ人（1）
12. ドイツとユダヤ人（2）
13. ドイツとユダヤ人（3）
14. スペインとユダヤ人
15. 「世界人権宣言」と現代

教科書

授業の中で指示する
毎回授業の初めにプリントを配布します。

評価方法

- (1) 試験:70% (2) 出席:20% (3) 課題:10%

以上の3点を総合的に判断して成績を出します。ただし、3分の1以上の欠席者、あるいは課題の未提出者は、試験を受ける資格がありませんので、注意すること。

キリスト教社会倫理B

CHRI-P-200

担当者：藤原 淳賀

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：公民必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目

講義概要

1. 内容

本講義は、二千年に亘るキリスト教社会倫理の変遷と、主要なキリスト教思想家の社会倫理について概観する。

2. 学びの意義と目標

本講義は、キリスト教の基礎的知識（キリスト教概論A・B）を持った学生諸君を対象とし、キリスト教的社会倫理の様々な思想と実践を概観することを目的とする。

受講生に対する要望

積極的な姿勢を希望する。

キーワード

事前学習（予習）

教科書の指定された箇所を読んでくること。

復習についての指示

教科書とノートを講義後に読み直し、昼食時に友人たちの内容について語るときを持つとよい。

授業計画

1. 序
2. キリスト教と社会 1：初期のキリスト教
3. キリスト教と社会 2：コンスタンティヌス的転回（国教としてのキリスト教）
4. キリスト教と社会 3：宗教改革、市民革命期のキリスト教
5. キリスト教と社会 4：世俗時代のキリスト教
6. キリスト教と社会 5：まとめ
7. 中間試験
8. アウグスティヌスの社会倫理
9. ルターの社会倫理
10. カルバンの社会倫理
11. ラインホルド・ニーバーの社会倫理
12. H・リチャード・ニーバーの社会倫理
13. カール・バルトの社会倫理
14. スタンリー・ハワーワスの社会倫理
15. 期末試験

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 中間試験：50% (2) 期末試験：50%

金融市場論 A

ECON-P-200

担当者：柴田 武男

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

金融市場論Aは、「金融市場の歴史と制度」をメインテーマに行う。金融市場とは、その名の通り金銭をやり取りする市場であり、その中心的存在が銀行・証券会社・保険会社・投資信託等の金融機関である。したがって、金融市場を明らかにするということは、それら中心的市场参加者である金融機関の役割を明らかにすることでもある。そのために、まず、本講義では都市銀行、地方銀行、信用金庫、信用組合、労働金庫、証券会社、保険会社といった金融機関の解説を歴史的経緯の中で講義する。また、金融市場は近年とくにすさまじい勢いで変貌する市場であり、また、その変化が国民経済に深刻な影響を与えている。一例として、不況の深刻化で中小企業への資金供給が問題となっており、その対応策として中小企業等金融円滑化法案が制定されたことである。本講義では、日本経済新聞を教材の一つとして、金融問題を中心に経済記事を詳細に解説する時間を設ける。また、経済ニュースを中心とした番組「クローズアップ現代」「ガイアの夜明け」「カンブリア宮殿」「NHKスペシャル」なども活用して、できるだけ初学者にも理解できるように講義を心がけたい。

2. 学びの意義と目標

金融市場の変化は凄まじく、過去を振り返る必要も余裕も感じないかも知れないが、現在は過去の延長であるので、過去を学ばないと現在を理解できない。その点から、金融制度の歴史を学ぶことは必要である。ただし、未来は現在の単純な延長ではない。それでも、現在と過去を学ぶことで、未来への展望が開かれるであろう。

受講生に対する要望

90分集中すること講義でのレポートをきちんと書くこと経済用語を自習すること

キーワード

(1) 銀行 (2) 証券会社 (3) 証券市場 (4) 金融商品取引法 (5) グローバリゼーション

事前学習（予習）

日頃の学習態度として、できれば日経新聞の経済記事を毎日少しでも読み続けて欲しい。また、金融市場には専門用語が多いので、各自電子辞書・インターネット等で学習して欲しい。

復習についての指示

配布された資料から、内容を読み返すこと。また、読み返して理解できない内容・用語についてはメール等で質問すること。

授業計画

1. 日本の金融市場の歴史・・・戦前編(1)
2. 日本の金融市場の歴史・・・戦前編(2)
3. 日本の金融市場の歴史・・・戦後編(1)
4. 日本の金融市場の歴史・・・戦後編(2)
5. 日本の金融制度の特徴 総論(1)
6. 日本の金融制度の特徴 総論(2)
7. 日本の銀行制度
8. 海外の銀行制度 特に米国を中心に
9. 日本の証券市場
10. 海外の証券市場 特に米国を中心に
11. アジアの証券市場 特に中国を中心に
12. 地域金融制度 地方銀行・信用金庫・信用組合など
13. 保険会社 損保と生保の違いとは
14. 雑金融 貸金業の問題点
15. 日本の金融市場の歴史的展望と課題

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 出席点:25% (2) レポート:25% (3) 定期末試験:50%

講義では、ミニレポートを課す。評価割合は25%としてあるが、得に優秀レポートにはさらにプラスする。

担当者：柴田 武男

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

金融市場論Bは、「金融市場の理論と現実」をメインテーマに行う。我が国では、出資法と利息制限法という二つの法律を中心に金利規制の体系が構築されているが、深刻な多重債務問題から大きく法律が改正された。ここでは改正貸金業法をとりあげ、改正された経緯を明らかにするとともに、そこから理論と現実の対立関係を具体的に詳述していきたい。2011年6月18日に改正貸金業法が完全施行され、その影響と是非が論じられている。後期の講義では、現在行われている議論をもとに日本の金融市場の問題点と課題を明らかにしていきたい。金融市場はすさまじい勢いで変貌する市場であり、一年、二年遅れの教科書では現実の金融市場を講義できない。したがって、本講義では、講義当日の日本経済新聞を教材の一つとして、金融問題を中心に経済記事を詳細に解説する時間を設ける。また、NHKスペシャルとして話題となった「マネー資本主義」などのテレビ番組も積極的に取り上げて解説していきたい。本講義を通して、金融市場の社会的役割の理解と同時に日経新聞をビジネスツールとして活用する方法まで教授することが目的である。

2. 学びの意義と目標

金融市場の現代的理解は、単に政治経済の知識としてあるのではなく社会人として生活する上で、ローンの利用、保証人問題等で必須の知識である。難解で複雑な金融商品を使いこなすことが期待される。

受講生に対する要望

インターネット環境及びメールへの迅速な対応講義資料はPDFで配布するので、その対応もお願いしたい。

キーワード

(1)日本経済新聞 (2)金融革新 (3)機関投資家 (4)金融市場 (5)デリバティブ

事前学習（予習）

日頃から日経新聞は是非読んで欲しい。また、経済を中心とするテレビ番組等の視聴も期待している。そこで出会う専門用語について、自発的にインターネット等で学習しておくこと。

復習についての指示

配布した教材について理解できない用語については必ず確認すること。それでも理解できない場合は担当教員にメール等で質問すること。

授業計画

1. 金融市場で何が起こっているのか・・・論点の提供 その(1)
2. 金融市場で何が起こっているのか・・・論点の提供 その(2)
3. 経済記事の読み方・・・日経新聞に何が書かれているのか(1)
4. 経済記事の読み方・・・日経新聞に何が書かれているのか(2)
5. テレビ放送から金融市場を学ぶ・・・必見の放送番組とは
6. 銀行市場とその役割 (1) 都市銀行を中心に
7. 銀行市場とその役割 (2) 地域金融機関を中心に
8. 証券市場とその役割 (1) 証券会社を中心に
9. 証券市場とその役割 (2) 機関投資家を中心に
10. 国債市場から日本経済を考える
11. 株式市場から日本経済を考える
12. 証券市場と消費者 われわれの生活に関わる証券市場とは(1)
13. 証券市場と消費者 われわれの生活に関わる証券市場とは(2)
14. 金融市場の理論と現実 まとめ (1)
15. 金融市場の理論と現実 まとめ (2)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席点:25% (2)レポート点:25% (3)定期末スト:50%

授業中に提出するレポートの配点は25%であるが、得に優れたレポートにはプラスする。

担当者：鈴木 真実哉

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

金融に関する基礎概念の修得に力点をおく。その上で、日本における金融現象を中心に、理論、政策、トピックスについて解説する。とくに、1990年代から現在に至るまでの日本金融史上でも稀である大変革期について、その本質と今後の方向性について解説する。たとえば、金融ビッグ・バン、大蔵省の改組、日本銀行法改正、郵便貯金の民営化、不良債権問題、などである。

2. 学びの意義と目標

「金融」に無縁で生活できない現代において、すべての学生に学んでもらいたい科目である。社会科学系統の科目にとして、政治経済学部における両学科学生にとって共通専門科目となっている。現代の人間として知っておくべき知識を提示している。現代に生きる人間として知っておくべき「金融」に関する基礎知識を修得できる。難解な金融現象の理解が深まる。

受講生に対する要望

金融の世界は日々変化している。テキストやその他の書籍ではカバーしきれないものも講義するので、毎回ノートを取る必要がある。

キーワード

(1) 金融の本質と意義 (2) デフレ下の金融 (3) 貨幣の未来

事前学習（予習）

指定する教科書の講義予定箇所をレポート用紙1枚にまとめておくこと。シラバスの講義予定テーマについてテキスト(第1回講義において指定する)の相当箇所をよく読んでおくこと。

復習についての指示

テキストの講義箇所、板書をまとめて、清書ノートを作成しておくこと。

授業計画

1. 金融とは何か
2. 金融とは何か
3. 金融とは何か
4. 金融システム
5. 金融システム
6. 金融市場
7. 金融市場
8. 金融構造
9. 金融構造
10. 貨幣とは何か？
11. 貨幣とは何か？
12. 貨幣とは何か？
13. 貨幣の供給
14. 貨幣の供給
15. 貨幣の供給
16. 貨幣の需要
17. 貨幣の需要
18. 貨幣と利子
19. 貨幣と利子
20. 日本の金融機関
21. 日本の金融市場
22. 日本の金融政策
23. 金融の自由化・国際化
24. 金融の自由化・国際化
25. 不良債権問題
26. 円高
27. 金融界の未来
28. 金融界の未来
29. まとめ
30. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 定期試験:90% (2) 出席状況:10%

定期試験90%には、レポートによる評価を含むこともある。

担当者：鈴木 潔

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

あなたは行政のサービスに満足しているだろうか？ もし不満だとしたら、どうすれば満足できるように変えられるだろうか？ それを知りたいければ、遠回りのようではあるが、行政の基本的な仕組みを知らなければならない。そこで、この講義では、これまでの行政学の蓄積を利用し、現代日本における行政の仕組みと行政の理論を中心に説明する。この講義は、政治学、憲法（統治）、政治過程論、地方自治論、公共政策論などを学習するうえで重要なポイントとなる行政の仕組みに関する知識を提供している。

2. 学びの意義と目標

行政サービスが暮らしの隅々にまで行き渡っている今日では、行政に関する正確かつ体系的な知識を持つことは社会人にとっての基本的素養である。この講義では、受講者が(1)行政の主要な仕組みを理解できるようになること、(2)抽象的な行政の理論を用いて具体的な行政の活動を説明できるようになること、(3)行政を評価し、コントロールするために必要な事柄について考察できるようになることを目標とする。

受講生に対する要望

この講義ではアクティブラーニングを重視する。毎回の講義で実施する小テスト、学期中に複数回実施するレポート報告とディスカッションを通じて、自ら考えをまとめて適切に表現する能力を養う。積極的な態度で授業に臨むこと。

キーワード

(1)公務員制度 (2)内閣制度 (3)官民関係 (4)官僚制論

事前学習（予習）

受講者は、政治・行政に関するテーマについて、書籍、新聞、ニュースなどを利用して情報を収集し、自分が問題意識をもつテーマについて説明できるようにしておくこと。

復習についての指示

毎回の講義で実施する小テストの内容を十分に確認しておくこと。

授業計画

1. 行政学の範囲と学習方法
2. 国家公務員の採用
3. 国家公務員の昇進
4. 国家公務員の退職と天下り
5. 内閣制度の歴史
6. 内閣制度の現在
7. 中央省庁（1）
8. 中央省庁（2）
9. 政官関係
10. 行政ネットワーク（特殊法人、業界団体）（1）
11. 行政ネットワーク（NPO、諮問機関）（2）
12. 行政管理と行政改革
13. 官民関係（民営化、規制緩和）（1）
14. 官民関係（民間委託、NPM）（2）
15. レポートの報告とディスカッション（1）
16. 中央省庁の意思決定方式
17. 予算編成過程
18. 決算と会計検査院
19. 行政責任（1）
20. 行政責任（2）
21. 行政学説史
22. 政策決定論
23. 政策実施論
24. 政策評価論
25. 官僚制論
26. 官僚制批判
27. 官僚制の演繹モデルと帰納モデル
28. レポートの報告とディスカッション（2）
29. 日本の行政システム
30. 学期末試験

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)平常点:50%:授業貢献度、小テスト、出席状況 (2)期末試験:30% (3)レポート:20%

行政法	
担当者：仲田 孝仁	
開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位	
学部教育の関連目標 現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る	授業計画 1. ガイダンス（「行政法」とは？学習する意義。） 2. 行政法の基本構造（法律による行政の原理、公法・私法二元論） 3. 行政の仕組（1）－行政組織法概説（「行政主体」・「行政機関」概念、内閣、「国家行政組織法」概説） 4. 行政の仕組（2）－地方自治法概説 5. 公務員法（国家公務員と地方公務員、人事院、人事委員会、公務員の内定、公務員の任用から退職まで、懲戒・分限処分） 6. 行政立法と行政計画（法規命令と行政規則、浜松市土地区画整理事業計画） 7. 行政裁量（日光太郎杉事件、伊方原発訴訟、マクドナルド事件） 8. 行政手続（1）（行政手続法、申請に対する処分、不利益処分） 9. 行政手続（2）（個人タクシー事件、パブリック・コメント制度） 10. 情報公開・個人情報保護（情報公開法、個人情報保護法） 11. 行政行為（1）－行政行為の概念・類型、命令の行為と形式的行為、許可と特許 12. 行政行為（2）－行政行為の効力・無効と取消（公定力、重大・明白説とは？） 13. 行政行為（3）－取消と撤回・附款（実子あっせん事件、菊田医師事件） 14. 行政の実効性確保の手段（1）（行政代執行法、違法建築物の除去） 15. 行政の実効性確保の手段（2）（レッカー移動） 16. 行政契約・行政指導－公害防止協定、宅地開発要綱 17. 行政救済法総説 18. 損失補償－憲法29項3項、破壊消防、奈良県ため池条例事件 19. 国家賠償（1）－総説・1条責任（公権力責任）、パトカーによる追跡、学校におけるいじめと自殺 20. 国家賠償（2）－2条責任（営造物責任）・賠償と補償の谷間（予防接種禍） 21. 行政不服申立て（1）（「行政不服審査法」の概要について） 22. 行政不服申立て（2）（審査請求について） 23. 行政事件訴訟（1）－総論（行政事件訴訟法、抗告訴訟、取消訴訟） 24. 行政事件訴訟（2）－取消訴訟の対象（取消訴訟の対象となる「処分」とは？） 25. 行政事件訴訟（3）－訴えの利益 26. 行政事件訴訟（4）－取消訴訟の審理手続 27. 行政事件訴訟（5）－取消訴訟以外の抗告訴訟 28. 行政事件訴訟（6）－客観訴訟（住民訴訟、違法な公金の支出をどのように回収するか。） 29. 行政救済法事例式問題演習－トンネル天井板落下事故、防空壕地盤沈下事件 30. これまでの講義のまとめ
カリキュラム上の位置付け 社会福祉主事任用資格：選択科目	
講義概要 1. 内容 本講義では、各種行政活動に共通する通則的な理論である「行政法総論」と、違法な行政活動に対する事後的な権利・利益の救済制度である「行政救済法」とを学ぶ。公務員（事務職、警察官、消防士）として任用された場合は、実際に法律や条例を運用し、また民間企業であれば、行政の規制を受けない業種・業界はないといっても過言ではない。さらに、市民としても、運転免許や営業許可の取得、各種申請・届出、ゴミ収集、年金の給付等行政との関わりは生涯切っても切れないといえる。よって、公務員希望者に限らず、企業に就職し或いは一市民として社会生活を営む上でも「行政法」を学ぶ重要性は極めて高い。本科目は法学であり、法学概論や憲法、民法などの基幹科目との対比では、応用科目に位置する。とはいえ、法学の基礎についても適宜ふれる。諸君の将来の進路とのかかわりでは、各種国家試験や資格試験対策としても必要性がある科目である（むろん、民間企業への就職希望や自営業者でもニーズはある。）。 2. 学びの意義と目標 本講義は、「行政法」の入門的な知識や考え方を履修者に修得させることを主たる目的とする。また、本講義を履修することにより、私たちが一市民としていかに「行政」との法的な関わりが切っても切れないものであるかを認識させる。その上で一国民や市民としての視点から、より望ましい「行政（活動）」のあり方を諸君自身で考えたり、問題提起することができる。実社会に生じる行政上の諸問題（例えば、食品の偽装表示、食の安全性、ストーカー規制、個人情報やプライバシーの保護、原子力規制、建築物規制、薬害の問題などに見られる、国民と行政との法的関係）を法的に考えることができる。諸君は、既に自動車の運転免許を取得しているか？自宅から外に出れば「道路交通法」の規制を受け、道路自体、「道路法」による公的管理に服している（国道と県道）。このように、身近な「行政法」の世界を皆さんに理解していただくことに学びの意義がある。以上に加えて、授業中頻りに発言を求め、ペーパーにて意見を書いていただく機会を持つ。自分の考えを話し相手に正確に伝え、法的に自分の意見を述べる、或いは書き伝える力が自然とつくこととなろう。	
受講生に対する要望 毎回出席することを前提とする。日ごろから「行政」にかかわる話題を、ニュースやインターネット、新聞などのメディアを通じて関心を持って欲しい。	
キーワード	
事前学習（予習） 2013年は、食品のメニューにある食材の偽装であったり、冷凍食品に農薬が混入された事件があった。消費者にとって食の安全は、関心事であるが、食品の安全性が確保されるために「行政」ができることを調べてほしい。	教科書 プリントを配布する
復習についての指示 概ね2週分の内容について、その翌週に小テストを行うので、講義内容について、十分復習しておくこと。1回目の範囲は初回の講義時に指示する。	評価方法 (1) 期末試験：70% 正誤問題、5択の択一式問題、事例式問題からなる。(2) レポート：10% 「行政」にかかわる記事を探し、それを「行政法」的に分析するレポートを課す。(3) 小テスト：20% 講義内容の理解度をみる目的で、「アチーブメント・テスト」を2週に1回の割合で実施する。

担当者：金子 毅

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義では経営における人間の復権をテーマに、経営管理をめぐる様々な問題を管理組織と労務管理の2点から検討する。また、これに基づき、企業経営の国際間比較を行ない、人間を中心とする企業経営が日本においては成立しにくい要因を浮き彫りにする。

2. 学びの意義と目標

机上の理論よりも実践力を養う問題解決を目的とする意義を有する。学習を通して今後の不透明な21世紀アジアを含む世界情勢をシュミレートし、かつ生き抜く上での学知を獲得させることを目標とする。

受講生に対する要望

講義を通して「企業で働く、仕事をする」際の自己の立ち位置を確認するようにしてもらいたい。

キーワード

(1)企業経営 (2)経営家族主義 (3)組織管理 (4)労務管理

事前学習（予習）

配布プリント（A3、2枚程度）の事前の「音読」を通し、発問されると考えられる箇所をつかんでおく。

復習についての指示

配布プリントのアンダーライン、およびカッコ内の語句を中心に概念とその意味や結びつきを捉えながら、ノートに書き記す。

授業計画

1. プロローグ：経営管理とは何か？
2. 企業経営の形1：個人主義による企業経営
3. 企業経営の形2：経営家族主義による企業経営
4. 管理組織1：官僚制組織（行き過ぎた合理化は害のもと）
5. 管理組織2：職能別組織（企業組織は誰のもの1）
6. 管理組織3：事業部制組織（企業組織は誰のもの2）
7. 組織学習1：個人を組織へと適応させていくしくみ1
8. 組織学習2：個人を組織へと適応させていくしくみ2
9. 組織文化：企業統合された会社になじみにくいのはなぜ？
10. イノベーション：企業の中身をいかに変革するか
 11. 消費者志向のマーケティング戦略：売れるものを作れ
 12. 経営資源論：未使用のモノの活用をいかに有効に図るか
 13. 多角化とリストラクチャリング：新たな事業展開の可能性
 14. 能力主義と成果主義1：なじみにくい個人主義1
 15. 能力主義と成果主義2：なじみにくい個人主義
 16. ベンチャー企業：新たな市場需要の創造を図れるかがカギ
 17. NPOとNGO1：ボランティアとスタッフによる管理1
 18. NPOとNGO2：企業利益とどこが異なるのか
 19. 労務管理1：労働組合の誕生（社会主義を旗印とした闘争）
 20. 労務管理2：労働組合対策1（分裂する組合闘争）
 21. 労務管理3：労働組合対策2（労使協調による団体交渉）
 22. 労務管理4：福利厚生による従業員管理1（安全とリスク管理）
 23. 労務管理5：教育訓練の導入（OJT、Off-JTとQC管理）
 24. 労務管理6：従業員福利1（労働科学の研究：大原総研）
 25. 労務管理7：従業員福利2（安全活動の矛盾）
 26. 労務管理8：従業員福利3（ハインリッヒの法則と誤用）
 27. 労務管理9：従業員福利4（健康管理1）
 28. 労務管理10：従業員福利5（健康管理2）
 29. 労務管理11：キャリア・デザイン（働く自分の将来像）
 30. エピローグ：全体の総括、および討議

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)レポート:60% (2)出席:20% (3)参加姿勢:10% (4)感想文:10%

担当者：酒井 祐太郎

開設期：秋学期/春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1 目的：当科目は、企業の経営・管理の体系的知識を基本的レベルから学ぶことを目的とします。現代は企業の時代と呼ぶことができるほど、我々の生活は企業活動なしには成立しません。我々は消費者や労働者という意味でも企業に深くかかわっています。その意味で、企業という組織を多面的に考察することは、社会の構成員としても必須の事と言えよう。実際の講義では、まず我々と企業とが基本的にどのようななかかわりを持つか、企業が社会の中でどのような役割を持って存在しているか、また企業が社会の様々な要因変化にどのように対応してゆくべきかを考える。2 カリキュラム上の位置づけ：入門レベルの授業を考えています。経営学のより専門的な内容の導入としての科目として捉えて頂きたい。

2. 学びの意義と目標

当授業の到達目標は、①経営学の基礎としての専門用語を理解できるようにすること、②経済・経営に関する新聞記事等を理解し、読めるようにすること、③経営学の中の各専門分野をさらに深く学ぶための基礎力と身につけること、④経営学上の財務分析の基礎が自分でできるようにすることである。

受講生に対する要望

経営、経済に関する内容なので、新聞やニュースに関心を持ってほしい。また、授業の内容に基づき、課題を積極的にに行い、理解を深めてほしい。

キーワード

事前学習（予習）

授業時に次の学習内容を告知するので、その内容を参考書等を利用して学習すること。

復習についての指示

テーマごとに課題を課すので、それを復習として行い、理解を深めること。

授業計画

- 履修上の注意、企業の役割、環境変化に対する企業の対応（1）
- 環境変化に対する企業の対応（2）（特に国際関係に関して）
- 企業内の階層と経営者（水平的分業と垂直的分業 1）
- 企業内の階層と経営者（水平的分業と垂直的分業 2）
- 経営組織について（1）ライン組織、ラインアンドスタッフ組織
- 経営組織について（2）事業部制組織 1
- 経営組織について（3）事業部制組織 2、その他の組織の応用形態
- 人的資源管理（1）労働条件（1）
- 人的資源管理（2）労働条件（2）
- 人的資源管理（3）人事制度（1）
- 人的資源管理（4）人事制度（2）
- 企業形態（1）合名会社、合資会社
- 企業形態（2）株式会社（1）
- 企業形態（3）株式会社（2）
- 企業形態（4）株式会社（3）
- 企業形態（5）株式会社（4）
- 所有と経営の分離・一致とは？
- 所有と経営の分離・一致のケーススタディ
- 財務管理の基礎（1）財務管理とは？
- 財務管理の基礎（2）貸借対照表の内容
- 財務管理の基礎（3）損益計算書の内容
- 経営分析の基礎
- 経営分析の基礎 実例分析
- 経営分析の基礎（2）
- マーケティングの基礎（1）製品戦略（2）価格戦略
- マーケティングの基礎（3）広告戦略（4）流通戦略
- マーケティングの基礎（5）消費のパターン等
- 経営戦略の考え方（1）
- 経営戦略の考え方（2）
- まとめ

教科書

上林 憲雄、奥林 康司、園 泰雄、開本 浩矢、森田 雅也、竹林 明『経験から学ぶ経営学入門（有斐閣ブックス）』（有斐閣）

評価方法

- (1) 定期試験：70%：中間試験および期末試験を実施予定 (2) 課題レポート：30%

担当者：八木 規子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

現代の経営学は、複雑、多様化する現実の企業経営に対応すべく、その考察対象を広範にし、また細分化している。経営学の入門編としての本科目は、まず、その全体像を把握することを目指す。経営学の基礎的概念、基本用語、各理論の概要について解説し、経営学の考察対象である企業の特徴・諸側面について学ぶこととする。

2. 学びの意義と目標

経営学の主な研究・考察対象は「企業」である。現在の我々の経済社会は、「企業」に大きく依存し、また影響を受けている。現在の社会現象の多くは、企業との関わりを考慮することなくしては、それらを正しく理解することは困難である。また、企業は、多くの人々の仕事の場である。したがって、企業の仕組みや性質を知ることが、すべてのひとびとにとって重要である。経営学では、企業を理解し、判断するための「見地（ものをみる見方・視点）」を養うことを目標とする。「企業もしくは会社と呼ばれているものは、いったい何なのか」「会社の組織はどうなっていて、それがどのように活動するのか」「企業は、それを取り巻く諸環境とどう結びつき、関わっているか」「どの国の企業もそれぞれ独自性をもつが、日本の企業の特徴は何か」「時代の動きに対応しつつ、望ましい企業経営を行うには、どのようにしたらよいか」これらさまざまな問題について考えていこうとするのが、経営学の目的である。

受講生に対する要望

企業という存在に関心を持ち、企業を継続的、計画的に存在させ、一定の成果を挙げる営み—経営—について多くの学生が興味をもって学んでくれることを要望する。

キーワード

(1) 企業 (2) 組織 (3) 経営

事前学習（予習）

教科書の該当箇所および追加で配布する資料を読み込んでおくこと。追加資料（ケース等）はE-learningシステムにアップロードするので、システムの使い方に習熟すること

復習についての指示

試験は、講義内容をもとに行うので、講義毎にノートまとめておくこと。

授業計画

1. 本科目の進め方について。経営学とは何か
2. 経営学の位置づけ—社会科学における経営学
3. 企業の特徴
4. 企業の分類
5. ケース分析：公企業、第三セクター問題
6. 株式会社の特徴と仕組み
7. 所有と経営の分離
8. ケース分析：所有と経営に関する日本企業の現状
9. 経営学の発生
10. テイラーと科学的管理法
11. フォードとフォードイズム
12. ファヨールと管理過程論
13. 前半まとめ
14. 中間試験
15. 人間関係論
16. 行動科学的管理論—1
17. 行動科学的管理論—2
18. 近代管理論—1
19. 近代管理論—2
20. 企業の組織形態—1
21. 企業の組織形態—2
22. ケース分析：フォードとGM
23. 経営戦略論—1
24. ケース分析：富士フィルム
25. マーケティング
26. ケース分析：ライオン
27. 人事管理
28. ケース分析：富士フィルムと松下電器
29. 後半まとめ
30. 期末試験

教科書

井原 久光 『テキスト経営学—基礎から最新の理論まで（MINERVA TEXT LIBRARY）』（ミネルヴァ書房）

評価方法

(1) 授業出席・参加点：30%：小テスト、ディスカッションへの参加等を含む (2) 中間試験：35% (3) 期末試験：35%

担当者：金子 毅

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

経営史は世界恐慌のさなかの米国で始められた学問である。ここから、机上の理論よりも不況などの危機をビジネスチャンスとして活かすために生き抜く知恵を投影するこの学問の性格が理解される。講義では理論とともに社史を中心とする産業別の企業史を支柱に講義を進める予定である。

2. 学びの意義と目標

机上の理論よりも危機的状況を経営の方向を見定める重要な歴史の裂け目と捉えることで、これをかえてビジネスチャンスとして活かすための生き抜く知恵を学べる。一方向的な授業に終始せず、常に受講生との「対話」を重視し、経営に対する鋭敏な時代感覚を養わせることにしたい。

受講生に対する要望

現在の企業動向を取り上げることがあるので、日経新聞に目を通す習慣をつけておくこと。

キーワード

(1)科学的管理法 (2)フォーディズム (3)人間関係論 (4)企業内教育 (5)個人主義／家族主義

事前学習（予習）

配布プリント（A3、2枚程度）を事前に「音読」し、自分で「読みながら聞く」作業をした上で講義に臨むこと。

復習についての指示

講義での解説を思い出しながら、アンダーラインを付した個所とカッコ内の語句に関する概念とその意味を中心に読み直し、要点をノートに記す。

授業計画

1. プロローグ：なぜ今、経営史なのか
2. 歴史の
3. 基礎理論1：テイラーの科学的管理法
4. 電器産業：松下電器1
5. 基礎理論2：フォーディズムの誕生とその浸透1
6. 電器産業：松下電器2
7. 基礎理論3：フォーディズムの誕生とその浸透2
8. 自動車産業：トヨタ自動車1
9. 基礎理論4：フォーディズムの問題点
10. 自動車産業：トヨタ自動車2
11. 基礎理論5：ホーソン実験と人間関係論
12. 自動車産業：トヨタ自動車3
13. 基礎理論6：マズローの欲求5段階説
14. 家電産業：ソニー1
15. 基礎理論7：デシの自己決定論
16. 家電産業：ソニー2
17. 基礎理論8：企業内教育1
18. 化粧品産業：資生堂1
19. 基礎理論9：企業内教育2
20. 化粧品産業：資生堂2
21. 基礎理論10：個人主義による企業経営
22. 小売業：ダイエー1
23. 基礎理論11：家族主義による経営1
24. 小売業：ダイエー2
25. 基礎理論12：家族主義による経営2
26. 小売業：ユニクロ1
27. 基礎理論13：リスクと安全をめぐる経営史1
28. 小売業：ユニクロ2
29. 基礎理論14：リスクと安全をめぐる経営史2
30. エピローグ：集団討議（経営史から見える日本企業）

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)レポート:60% (2)出席:20% (3)参加:10% (4)感想文:10%

担当者：大森 達也

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：公民必修科目，
中学校教諭一種免許：社会必修科目，
社会福祉主事任用資格：選択科目

講義概要

1. 内容

本講義では、「まんがDE入門 経済学」というのを教科書とし、経済学の基礎、用語および理論等を体系的に学習する。

2. 学びの意義と目標

本講義が経済関連の他の講義全般に対する導入部と位置づけられ、経済学に関する基本的な考え方、用語、ミクロ、マクロの理論などを学習することを目的としている。

受講生に対する要望

漫画を使っていることで、科目として取り組みやすいと考えることが予想されるが、経済学の本格的な入門書であるので、しっかりとした受講態度で臨むこと。

キーワード

(1)経済用語 (2)経済理論 (3)ミクロ経済 (4)マクロ経済

事前学習（予習）

教科書と連動して講義を進めるので、教科書をあらかじめ読んでおくこと。

復習についての指示

試験は、講義したことをもとに行うので、講義毎にノートまとめておくこと。

授業計画

1. 経済学とは
2. ミクロ経済学とマクロ経済学
3. 分業と取引の発生
4. 価格の決定と価格弾力性
5. 消費者と需要の決定
6. 所得と価格の変化を需要
7. 代替財と補完財
8. 労働供給と余暇
9. 生産関数
10. 生産費用と規模の経済
11. 市場均衡とパレート効率性
12. 寡占市場
13. 外部効果と公共財
14. 不確実性と不完全情報
15. まとめ
16. 中間試験
17. マネタリストとケインジアン
18. 産業関連表
19. 国民総生産（GNP）
20. 財政と金融政策
21. 貯蓄と投資の均衡
22. 消費関数
23. 投資の決定
24. 乗数効果（IS曲線）
25. 貨幣市場（LM曲線）
26. ハイパワードマネーと公定歩合
27. 総需要
28. 労働市場と総供給曲線
29. インフレーションと景気循環
30. まとめ

教科書

西村和雄 『まんがDE入門 経済学』（日本評論社）

評価方法

(1)中間試験:35% (2)期末試験:35% (3)ブックレポート:30%:1200文字程度3回×10%

担当者：由川 稔

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：公民必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目、
社会福祉主事任用資格：選択科目

講義概要

1. 内容

経済学は抽象化や理論化という科学的な方法に拠っています。日常生活の中で、しばしば「感情」や「常識」に埋没して見えなくなりしがちな経済現象の「本質」を暴き、そこから新しい経済や人間のあり方などを構想するためです。しかしやり方を間違えると、かえって現実を見る目を曇らせてしまいます。授業では、このバランスを重視したいと思います。

2. 学びの意義と目標

本来、「経済が人間のためにあるのであって、人間が経済のためにあるのではない」はずです。しかし現実の経済は、人間を奴隷化する恐ろしい面も持っています。究極的には、私たちが英知と勇気を持って、少なくとも経済の面で明るい未来を築いていくことが、経済学を学ぶ意義であり、目標であると言えるでしょう。

受講生に対する要望

「経済」と「経済学」の総合的なイントロダクションにし、資格や公務員等の各種試験対策は他に譲りますので、ご注意ください。なお、授業では教科書以外にも、配布資料を準備します。

キーワード

(1)経済 (2)友愛 (3)自由 (4)公正 (5)競争・効率

事前学習（予習）

教科書の予習ポイントは毎回指示します。国内外の政治経済動向に十分注意する姿勢を持ち続けてください。

復習についての指示

復習は絶対に必要です。何度でも、読んで、書いて…、「頭で」というよりもむしろ「身体で」覚えるくらいの意識で臨んでください。

授業計画

1. 経済学とマネーの暴走（1）
2. 経済学とマネーの暴走（2）
3. 経済学とマネーの暴走（3）
4. 経済学とマネーの暴走（4）
5. 経済と法（1）
6. 経済と法（2）
7. 租税と財政の問題（1）
8. 租税と財政の問題（2）
9. 租税と財政の問題（3）
10. 租税と財政の問題（4）
11. 新自由主義（1）
12. 新自由主義（2）
13. ケインズ理論をめぐって（1）
14. ケインズ理論をめぐって（2）
15. ケインズ理論をめぐって（3）
16. ケインズ理論をめぐって（4）
17. ケインズ理論をめぐって（5）
18. ケインズ理論をめぐって（6）
19. 国際経済（1）
20. 国際経済（2）
21. 国際経済（3）
22. 国際経済（4）
23. 消費者行動（1）
24. 消費者行動（2）
25. 消費者行動（3）
26. 消費者行動（4）
27. 生産者行動（1）
28. 生産者行動（2）
29. 生産者行動（3）
30. 生産者行動（4）

教科書

伊藤元重 『はじめての経済学「上」』（日本経済新聞出版社）伊藤元重 『はじめての経済学「下」』（日本経済新聞出版社）

評価方法

(1)受講態度:20%:授業内小テストを含む (2)レポート等:20%:諸提出物 (3)試験:60%

担当者：鈴木 真実哉

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：公民必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目、
社会福祉主事任用資格：選択科目

講義概要

1. 内容

経済学の特有の考え方、理論の構成のし方に力点をおく。なぜ経済学が必要なのか、現実を経済学的にどのように理解できるか、経済社会はどのようにあるべきか、経済的意思決定主体はどのような行動すべきか、などについて解説する。

2. 学びの意義と目標

政治経済学科1年生の必修専門科目であり、他学部の学生にとっては教養科目である。「経済」に無縁ではいられない現代人にとって「生活必須」科目でもあろう。経済学的思考によって、学習以前とは異なる次元から現実をみることができるようになる。また、合理性の経済学的意味が理解できるようになる。☆参考文献 福岡正夫 『経済学入門』（日本経済新聞社）

受講生に対する要望

毎回新しい知識に触れることになるので、必ず十分な復習の時間をとること。板書は全体の構成(毎回の講義における)を理解するのに必要なので、必ずノートにとること。

キーワード

(1)経済学の本質と意義 (2)人間の幸福と経済 (3)稀少性の解決
(4)効率性と公正

事前学習（予習）

シラバスの講義予定テーマについてメモを作成しておくこと。

復習についての指示

板書を中心にノートを整理し、関連書籍によって補充しながら毎回清書ノートをまとめておくこと。

授業計画

1. 経済学とは何か
2. 資源の稀少性と解決（1）
3. 資源の稀少性と解決（2）
4. 生産可能性フロンティア
5. 機会費用（1）
6. 機会費用（2）
7. 消費者の行動（1） 効用と無差別曲線
8. 消費者の行動（2） 予算制約と消費可能領域
9. 消費者の行動（3） 効用最大化
10. 消費者の行動（4） 需要曲線
11. 生産者の行動（1） 生産関数と収入
12. 生産者の行動（2） 費用と費用関数
13. 生産者の行動（3） 利潤最大化
14. 供給曲線
15. 需要と供給——市場（1）
16. 需要と供給——市場（2）
17. マクロ経済学1（生産物市場） 45°線モデル
18. マクロ経済学2（乗数理論）
19. マクロ経済学3（貨幣市場）
20. マクロ経済学4（労働市場）
21. IS曲線
22. LM曲線
23. 総需要曲線
24. 総供給曲線
25. オープンマクロ（1）
26. オープンマクロ（2）
27. オープンマクロ（3）
28. オープンマクロ（4）
29. 経済変動と景気循環
30. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)定期試験:90% (2)出席状況:10%

定期試験の一部を補充する目的のレポートを課する場合もある。

担当者：正上 常雄

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：公民必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目、
社会福祉主事任用資格：選択科目

講義概要

1. 内容

経済学とは、個人、企業、政府などさまざまな組織が、どのように選択を行い、その選択によって社会の資源がどのように使われるかを研究する学問のことである。経済学について学ぶ前に、トレードオフ、インセンティブ、交換、情報、分配、といった概念を知っておく必要があり、まずは経済学で使われる概念と経済学的な思考をきちんと身に付け、教科書に沿って、経済学の基礎を学んでゆく。経済学的な思考をなるべくやさしく教えてゆくつもりである。簡単すぎてつまらないという人のために、適宜、プリントなどで発展的な学習も行う。

2. 学びの意義と目標

経済学の基礎をきちんと理解し、基本的な知識を身に付けることが、本講義の目標である。経済学にはミクロ経済学とマクロ経済学がある。本講義では、経済学を学ぶために、トレードオフ、インセンティブ、交換、情報、分配などの概念を使って、様々な経済的問題を考えてゆく。経済全体を構成する要素は、家計（消費者）、企業、金融、政府、貿易の5つである。企業は他の4つと密接に関係している。企業のあり方について学ぶことで、経済全体についての考察も深まってくる。社会に出て、企業で働くときの準備として経済学を学んで欲しい。難しい数式を覚えることより、経済学的な合理的思考を身に付けて欲しい。経済学は難しいと思わずに、賢く生活するための知恵を身に付けることを目標として欲しい。

受講生に対する要望

授業中の私語は厳禁です。その他の授業中のルールについては、最初の授業で相談して決めます。

キーワード

(1)トレードオフ (2)インセンティブ (3)市場 (4)分配 (5)労働

事前学習（予習）

予習としては、教科書の内容を一読しておいて下さい。細かいことは初回の授業で学生の皆さんと相談して決めます。

復習についての指示

復習は、ノートやプリントなどを活用して、自分が理解できている点や理解できていない点をきちんと整理して、次回の授業に活かしてください。

授業計画

1. 大学で履修する経済学の考え方 1
2. 大学で履修する経済学の考え方 2
3. 家計の目的 1
4. 家計の目的 2
5. 企業の目的 1
6. 企業の目的 2
7. 政府の目的 1
8. 政府の目的 2
9. 需要と供給の話 1
10. 需要と供給の話 2
11. 不完全競争市場 1
12. 不完全競争市場 2
13. ミクロ経済学の復習
14. 中間試験
15. マクロ経済学って何？ 1
16. マクロ経済学って何？ 2
17. 短期の経済 1
18. 短期の経済 2
19. 貨幣の影響 1
20. 貨幣の影響 2
21. なぜ国民所得をコントロールするのか？ 1
22. なぜ国民所得をコントロールするのか？ 2
23. IS-LM分析 1
24. IS-LM分析 2
25. 長期の経済 1
26. 長期の経済 2
27. 長期の経済における失業 1
28. 長期の経済における失業 2
29. 長期の経済における政策 1
30. 長期の経済における政策 2 および期末試験

教科書

木暮 太一 『大学で履修する入門経済学が1日でつかめる本 絶対わかりやすい経済学の教科書』（マトマ出版）

評価方法

(1)中間試験:40% (2)期末試験:40% (3)平常点:20%

大学の規定に従い、出席率60%以上を単位取得の条件としています。基本的には中間試験と期末試験の成績で評価します。

担当者：中野 宏

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：公民必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目、
社会福祉主事任用資格：選択科目

講義概要

1. 内容

モノを作る・買う、モノの価格が上がる・下がる、景気が良くなる・悪くなる、為替レートが円高になる・円安になる等々、学生諸君の身の回りで日々生じている経済的行動や経済現象にはすべて理屈や法則がある。これらの理屈や法則を明らかにし、社会全体を最も望ましい状態に導くにはどうすればよいかを考えるのが経済学である。本講義は「経済学入門」として、①経済学的方法論を習得し、今後学生諸君が経済学系の科目を履修するための基礎付けを行うとともに、②それらを用いて現在の日本経済が抱える諸問題についての理論的な理解を試みる。経済を見る目を養うとともに、経済学が現実の社会の中でどのように機能しているのか、学生諸君には存分に知ってもらいたい。なお、授業計画は予定である。学生諸君の理解度や興味関心をもとに変更されることがある。

2. 学びの意義と目標

将来学生諸君がどのような職業に就こうと、社会に出れば「経済」と付き合わずに済むことは出来ない。景気の動向や、金利・物価・為替レートの動きなどから必要なことを読み取り、あるいはそれらの動きを予想し、仕事に反映させていくことになる。また、少子高齢化・人口減少社会に突入した我が国においては、これまでのような年金に依存した老後は期待すべきもなく、諸君は投資により自らの手帳において老後のための資産形成を行っていかねばならない。今後必要となるのは、テレビや新聞、ネットなどのマスコミ報道を鵜呑みにするのではなく、自分の目で見て自分の考えで決定を行えるような知性と分析道具である。それらを身に付けるために本講義が少しでも役に立てばと願う。

受講生に対する要望

日々報道される経済の動きに関心を持つことが望まれる。

キーワード

(1)国内総生産（GDP） (2)経済成長 (3)貨幣 (4)市場メカニズム (5)為替レート

事前学習（予習）

現実の経済の動きに関心を持たなければ、この授業はよほどつまらないものとなるであろう。まずは指示されたキーワードを自分の手で調べることから始めてみよう。

復習についての指示

経済学の講義は積み重ねで進んでいくため、一度わからなくなるとその後が続かなくなる恐れがある。毎回講義の復習プリントを配布するので、次の講義日までに各自仕上げてくること。

授業計画

1. 経済学とは何か (1)
2. 経済学とは何か (2)
3. 経済学とは何か (3)
4. 経済学とは何か (4)
5. 景気循環と経済成長 (1)
6. 景気循環と経済成長 (2)
7. 景気循環と経済成長 (3)
8. 景気循環と経済成長 (4)
9. 景気循環と経済成長 (5)
10. 景気循環と経済成長 (6)
11. 政府の財政 (1)
12. 政府の財政 (2)
13. 政府の財政 (3)
14. 政府の財政 (4)
15. 貨幣と金融 (1)
16. 貨幣と金融 (2)
17. 貨幣と金融 (3)
18. 貨幣と金融 (4)
19. 需要と供給 (1)
20. 需要と供給 (2)
21. 需要と供給 (3)
22. 需要と供給 (4)
23. 需要と供給 (5)
24. 需要と供給 (6)
25. 政府の役割 (1)
26. 政府の役割 (2)
27. 政府の役割 (3)
28. 政府の役割 (4)
29. 講義のまとめ (1)
30. 講義のまとめ (2)

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)出席:30%:3分の2未満の出席回数の者は成績評価の対象にならない。
(2)レポート:30%:講義期間半ばに1回課題を出す。(3)期末試験:40%

上記評価のほか、質問等授業に積極的に参加しようとする態度や意欲は加点対象となる。自分の存在をアピールして欲しい。

担当者：高橋 聡

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：公民必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目、
社会福祉主事任用資格：選択科目

講義概要

1. 内容

私たちの日々の経済活動をふりかえると、誰にも強制されず、一人一人が自由に行動しているか見える。しかしよくよく観察してみると、経済には自分の思いや努力とは別の客観的な法則があり、その力が人々を動かしていることがわかる。この法則を知ることが講義の第一のテーマとなる。これに続くテーマは、法則の力を生かして今日の様々な問題(貧困、失業、貿易自由化、財政赤字、少子高齢化など)の処方せんを描いてみることである。これらを行う際、歴史の知恵に学ぶことは有効な学習法といえる。そこで、私たちより先に以上の諸問題に立ち向かった経済学者の思考から学ぶことを通じて、受講者が経済と社会を見る目を養えるような内容とする。

2. 学びの意義と目標

①経済の法則を理解する。②法則を適用した政策論を理解する。
③経済社会の様々な制度(貿易・労働法・財政・金融・社会保障)の意義やしぐみを理解する。

受講生に対する要望

私語をする者には退室を命じる。授業開始後10分経過したら、正当な理由がない限り途中入室を禁じる。良好な学習環境を保つため、これらの違反者には厳しく対応する。講義では、質疑応答を行ったリポートを書くことを通じて学生が自ら発信する機会をもうける。よって、単に出席するだけでなく、より積極的な受講態度が求められる。

キーワード

(1)市場と政府 (2)経済成長 (3)効率 (4)公正 (5)厚生(幸福)

事前学習(予習)

①教科書の該当する章を読むこと。②新聞やインターネット記事を収集すること。

復習についての指示

①配布したプリントの問題を解くこと。②授業で紹介する本(新書)を読み、レポート作成の準備をすること。

授業計画

1. 経済学の基本用語―市場と政府
2. 経済学の基本用語―家計と企業
3. スミスの経済倫理
4. スミスの経済成長論
5. スミスの保護貿易批判
6. マルサス&リカードと貧困問題
7. マルサス&リカードの貿易論争
8. リカードの自由貿易理論
9. J. S. ミルの功利主義思想
10. J. S. ミルの労働市場政策
11. J. S. ミルと女性の貧困
12. マーシャルの「生活基準」思想
13. マーシャルと人間開発
14. ウエップ夫妻のナショナル・ミニマム
15. ウエップ夫妻の自由貿易政策と福祉
16. 中間試験
17. ケインズとマクロ経済学
18. ケインズと財政政策
19. ケインズと金融政策
20. ケインズ&ベバリッジの社会保障体制
21. ミュルダールと人口減少問題
22. ミュルダールと北欧型福祉社会
23. エスピン＝アンデルセンの福祉資本主義論
24. フリードマンの金融政策
25. フリードマンの福祉国家批判
26. フリードマンの最低所得保障論
27. ロールズの正義論
28. ロールズの格差是正策
29. センの潜在能力論
30. センの福祉の経済学

教科書

小峯敦編 『福祉の経済思想家たち』 (ナカニシヤ出版)

評価方法

(1)中間試験:40% (2)期末試験:40% (3)レポート:20%

担当者：鈴木 真実哉

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

現代の経済学の教科書は、過去の経済学の偉人たちの業績の集大成である。これを分解して、個々の経済学者の生き方と理論について解説する。現代では、あまり触れられることのない経済学の碩学についてもできるだけとりあげる。時代的には、「経済学」が独立した学問となったとされるアダム・スミスの時代以降である。

2. 学びの意義と目標

様々な経済理論や政策、制度の背景を理解する科目である。選択専門科目ではあるが、多くの学生に受講してもらいたい。経済思想の歴史を学ぶ科目である。現代の経済的発展は多くの過去の偉大な経済学者の努力の上に成り立っている。この科目はこの事実を具体的に理解できるようになっている。その生き方と思想は多大な感銘をもたらすであろう。

受講生に対する要望

現代の経済学に到る経済思想の巨人たちに対して、先入観を持たずに深い敬意と関心をもって受講してもらいたい。

キーワード

(1) 温故知新 (2) 経済と人間の幸福 (3) これからの経済学の方

事前学習（予習）

毎回ミニテーマを示すので次回までにレポート用紙1枚程度にまとめておくこと。シラバスの講義予定テーマについて、全体的なサーベイをして簡単なメモを作成しておくこと。

復習についての指示

舞香の板書を整理し、関連書籍を用いて項目ごとに清書ノートを作成しておくこと。

授業計画

1. 序論
2. アダム・スミスと「導徳感情論」
3. アダム・スミスと「国富論」
4. 限界革命と近代経済学の成立
5. 限界革命と近代経済学の成立
6. ジェヴォンズの経済学
7. ジェヴォンズの経済学
8. メンガーの経済学
9. メンガーの経済学
10. ワルラスの経済学
11. ワルラスの経済学
12. 限界革命の展開
13. 限界革命の展開
14. 限界革命の展開
15. 限界革命の展開
16. ケンブリッジ学派
17. ケンブリッジ学派
18. ケンブリッジ学派
19. 不完全競争理論
20. 貨幣理論と物価の変動
21. ケインズの経済学
22. ケインズの経済学
23. ケインズの経済学
24. シュムペーターの経済学
25. シュムペーターの経済学
26. シュムペーターの経済学
27. ハイエクの政治経済学
28. ハイエクの政治経済学
29. ハイエクの政治経済学
30. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 定期試験: 90% (2) 出席状況: 10%

この評価対象は、授業日数の2/3以上の出席回数をクリアしている受講者に限る。

担当者：中野 宏

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

政府および中央銀行が行う経済政策の理論と事例を学習する。バブル崩壊以降、我が国経済は長らく低迷し、デフレ、財政赤字、少子高齢化、所得格差、国際競争力の低下、エネルギー開発など、様々な問題が顕在化する中、かつてないほど経済政策の重要性は高まっている。本講義では、実際に行われた政策例を取り上げながら、その理論的背景を学習し、これからの日本経済にどのような政策が必要とされるのかを探っていく。最近ようやく日本経済にも明るい兆しが見えてきたとも言われるが、はたして“アベノミクス”は成功するのであろうか。専門科目「経済学」を履修した上で受講すること。なお、授業計画は予定である。学生諸君の理解度や興味関心をもとに変更されることがある。

2. 学びの意義と目標

将来学生諸君がどのような職業に就こうと、社会に出れば「経済」と付き合いに済ますことは出来ない。景気の動向や、金利・物価・為替レートの動きなどから必要なことを読み取り、あるいはそれらの動きを予想し、仕事に反映させていくことになる。また、少子高齢化・人口減少社会に突入した我が国においては、これまでのような年金に依存した老後は期待すべきもなく、諸君は投資により自らの手帳において老後のための資産形成を行っていかねばならない。今後必要となるのは、テレビや新聞、ネットなどのマスコミ報道を鵜呑みにするのではなく、自分の目で見て自分の考えで決定を行えるような知性と分析道具である。それらを身に付けるために本講義が少しでも役に立てばと願う

受講生に対する要望

日々報道される経済の動きに関心を持つことが望まれる。

キーワード

(1) 財政政策 (2) 金融政策 (3) 最適資源配分 (4) 公平な所得配分
(5) 市場の失敗

事前学習（予習）

今回の講義について指示された項目を、各自で調べておくこと。ただし、予習よりは復讐のほうがはるかに重要であると認識せよ。

復習についての指示

経済学の講義は積み重ねで進んでいくため、一度わからなくなるとその後が続かなくなる恐れがある。毎回講義の復習プリントを配布するので、次の講義日までに各自仕上げてくること。

授業計画

1. 経済政策の目的 (1)
2. 経済政策の目的 (2)
3. GDP基礎論 (1)
4. GDP基礎論 (2)
5. 財政のしくみ (1)
6. 財政のしくみ (2)
7. 政府の財政政策 (1)
8. 政府の財政政策 (2)
9. 政府債務 (1)
10. 政府債務 (2)
11. 金融基礎論 (1)
12. 金融基礎論 (2)
13. 中央銀行の金融政策 (1)
14. 中央銀行の金融政策 (2)
15. 費用便益分析基礎論 (1)
16. 費用便益分析基礎論 (2)
17. 厚生経済学の基本定理 (1)
18. 厚生経済学の基本定理 (2)
19. 競争促進政策 (1)
20. 競争促進政策 (2)
21. 課税 (1)
22. 課税 (2)
23. 貿易と関税 (1)
24. 貿易と関税 (2)
25. 市場の失敗 外部性 (1)
26. 市場の失敗 外部性 (2)
27. 市場の失敗 公共財 (1)
28. 市場の失敗 公共財 (2)
29. 講義のまとめ (1)
30. 講義のまとめ (2)

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 出席:30%; 3分の2未満の出席回数の者は成績評価の対象とはならない。(2) 課題:30%; 講義期間半ばに1回レポートを課す。(3) 期末試験:40%

上記評価のほか、質問等授業に積極的に参加しようとする態度や意欲は加点対象となる。自分の存在をアピールして欲しい。

憲法（人権）

LAW-L-200

担当者：石川 裕一郎

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

講義内容が「人権」（日本国憲法でいえば第3章「国民の権利及び義務」）に絞られている分、法解釈に重点を置いた、密度の高い講義を行います。とはいえ、その背景にある政治的・経済的・社会的・文化的諸要素にも相当言及する予定です。ところで、憲法の条文は、他の法律の条文と比べるとはるかに読みやすいのですが、それだけに一読しただけでは具体的に何が言いたいのかわかりにくいものです。本講義では、こういった憲法のわかりにくさに配慮して、できるだけ最近の具体的な事例を挙げつつ、その内容について平易に解説したいと考えています。なお、できるだけアクチュアルな問題を取り上げたいので、内容は多少変更される可能性があります。また、法に関わるゲストスピーカーの講演または映像作品の鑑賞も2～3回ほど実施する予定です。具体的には、内容的に入りやすい刑事手続き上の人権保障（身体的自由）に始まり、人権の一般原則、精神的自由、経済的自由、社会権、参政権、マイノリティの権利等を丁寧に論じてゆくことを考えています。

2. 学びの意義と目標

憲法の一義的目標たる人権保障について学び、人権という視点から政治・経済・社会を考察する能力を身に付けることをめざします。ところで、本講義では第一にオーソドックスな日本国憲法の通説・判例理解をめざしますが、（公務員試験の予備校ではない）大学の講義ですから、それに留まらず、ポストモダニズム、ネオリベラリズム、フェミニズム、マルキシズム、マルチカルチュラルイズム等から挑戦を受ける「近代」の象徴としての立憲主義の意義を検討する、語本来の意味におけるcritiqueな講義としたいと考えています。

受講生に対する要望

本講義の受講者は1年生が多いので、最初から高いことは要求しません。まずはきちんと講義に出席し、聴講することを徹底してほしいと思います。

キーワード

(1) 法学 (2) 公法学 (3) 憲法学

事前学習（予習）

原則として事前にレジュメを配布するので、必ず目を通しておくことを求められます。毎回かなりの分量なので、ある程度の時間と集中力を必要とします。

復習についての指示

毎回の講義の後で、習得した知識の確認と講義への主体的な取り組み姿勢を評価することを目的としたリアクションペーパーの作成および提出を課し、次の回までに講義内容の理解を定着させることを求められます。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 刑事手続上の人権保障(1)
3. 刑事手続上の人権保障(2)
4. 刑事手続上の人権保障(3)
5. 刑事手続上の人権保障(4)
6. 刑事手続上の人権保障(5)
7. 個人の尊重
8. 幸福追求権(1):自己決定権
9. 幸福追求権(2):プライバシー権
10. 公共の福祉
11. 平等原則(1)
12. 平等原則(2)
13. 思想・良心の自由
14. 表現の自由(1)
15. 表現の自由(2)
16. 信教の自由と政教分離原則(1)
17. 信教の自由と政教分離原則(2)
18. 生存権(1)
19. 生存権(2)
20. 労働権(1)
21. 労働権(2)
22. 教育権(1)
23. 教育権(2)
24. 学問の自由と大学自治
25. セクシュアリティ・家族と人権
26. 集団・マイノリティの権利
27. 天皇・皇族と人権
28. 参政権
29. ポストモダンと人権
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 平常点:80%:リアクションペーパーの記述内容によって評価します。(2) 期末試験:20%:場合によっては期末レポートに変更する可能性もあります。

単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。

担当者：松村 芳明

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

憲法の学習事項は通常、①憲法総論、②人権、③統治機構の3領域に分けられる。この講義はそのうち、①③の領域を扱うことに主眼をおき、それに関係する限りで②の領域にも触れることになる。なお、受講者には積極的に授業に参加するよう求めることになる。

2. 学びの意義と目標

大卒社会人として最低限必要な憲法（なかでも総論、統治機構分野）に関する知識を得ることで、憲法や政治に関する問題について自ら思考し判断するための基盤をつくること。

受講生に対する要望

①教科書を毎回持参すること。②積極的に授業に参加すること。③できれば六法も持参すること。

キーワード

(1) 憲法 (2) 統治機構 (3) 日本国憲法 (4) 立憲主義 (5) 平和主義

事前学習（予習）

教科書を読んでくること。

復習についての指示

教科書や授業プリントを読み返しながら授業で学んだ事項についての理解を確認するとともに、意見の分かれる論点について自分なりに考察すること。

授業計画

1. はじめに
2. 憲法とは何か（1）
3. 憲法とは何か（2）
4. 憲法とは何か（3）
5. 憲法の保障と変動
6. 日本憲法史（1）
7. 日本憲法史（2）
8. 国民主権
9. 違憲審査制（1）
10. 違憲審査制（2）
11. 天皇制
12. 平和主義（1）
13. 平和主義（2）
14. 平和主義（3）
15. 中間試験とその解説
16. 権力分立
17. 国会
18. 議院内閣制・大統領制・首相公選制（1）
19. 議院内閣制・大統領制・首相公選制（2）
20. 議院内閣制・大統領制・首相公選制（3）
21. 裁判所（1）
22. 裁判所（2）
23. 地方自治
24. 人権の概念・主体（1）
25. 人権の概念・主体（2）
26. 公共の福祉
27. 新しい人権
28. プライバシー権
29. 法の下での平等
30. 試験とその解説

教科書

洪谷秀樹 『憲法への招待』（岩波書店）

評価方法

(1) 中間試験：40% (2) 期末試験：50% (3) 授業への参加態度：10%

担当者：小池 茂子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

社会教育主事資格：選択必修科目

講義概要

1. 内容

1. 内容 本講義では、高齢者を対象とする教育について取り上げる。子どもの学習を支援する教育原理に対して、1970年代から提唱され始めてきた成人教育学なかんずく高齢者の教育学（gerogogy）理論について論じることとする。尚、本講義で扱う高齢者の範囲は、病的及び加齢によって著しい知的な退行現象を呈している高齢者を除く高齢者とする。2. カリキュラム上の位置づけ 資格取得を目指さない学生の受講ももちろん歓迎する。

2. 学びの意義と目標

成人の生涯発達支援から高齢の特性を理解しそれを踏まえた高齢者を対象とする学習支援の方策について理解する。専門職として（或いは一個人として）、高齢者教育の現代的意義と高齢者に接する際の配慮の視点を受講生が理解することを本講義の目標とする。

受講生に対する要望

遅刻、無断欠席は厳禁とする。

キーワード

(1) 少子高齢化 (2) 老年学 (3) 成人の学習理論 (4) ジェロロジー (5) 加齢と知能

事前学習（予習）

講義の中で紹介する、文献、資料等に事前に目を通して講義に臨むこと。

復習についての指示

毎回、授業の講義ノートの整理をすること。

授業計画

1. 日本社会の高齢化の状況と将来推計
2. 戦前の高齢者の社会的地位（家長制度、尊属優位の民法規定）
3. 1960年代以降のわが国の高齢者を対象とする政策の変遷
4. 高齢期の幸せな生活をめぐる主張（活動理論と離脱理論等）
5. 生涯発達理論について
6. 加齢と知的能力
7. 成人教育学（andragogy）理論—子どもの学習支援とどこが違うのか—
8. 成人後期の発達と危機（高齢期の発達課題・生活課題）
9. 高齢者の特性を活かした教育学（gerogogy）の理論
 10. 高齢者の特性を活かした、有効な学習方法
 11. 高齢者の学習関心・学習要求（1）
 12. 高齢者の学習関心・学習要求（2）
 13. 具体的な教育実践の紹介
 14. 活躍する高齢者紹介
 15. まとめ

教科書

堀薫夫・三輪建二 『生涯学習と自己実現』（放送大学教育振興会）

評価方法

(1) 出席点：25% (2) 平常点：25% (3) 試験：50%

担当者：小池 茂子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

社会教育主事資格：選択必修科目

講義概要

1. 内容

1. 内容 第1に、今日問題になっている青少年の自立と社会性の育成をどのようにするかを巡って展開されている「奉仕活動」の学校教育や社会教育政策の中での奨励をめぐる議論について取り上げる。第2に、人間がよりよく生きていくためには、生にまつわる否定的側面の課題（死・病、対象喪失などをめぐる課題）を直視し考えることの必要を説く「生と死の準備教育」がある。「生と死の準備教育」提唱者たちの理念、教育目的、教育内容を紹介し、生涯教育としての「いのち」を考える教育の可能性について考えていきたい。2. カリキュラム上の位置づけ 資格取得を目的としない学生の受講も歓迎する。

2. 学びの意義と目標

青年期を生きる人間の生をよきものとするため、どのような教育が必要なのかを受講生が自らの課題として考察することを目標とする。

受講生に対する要望

本講義では現代社会の中に存在する青年期の教育を取り巻く課題について取り上げる。そして、そこには正答というものがない。したがって受講生が、あるいは受講生同士が意見の交換を通じて一つ一つの課題について、自分の問題として考えることを期待したい。

キーワード

(1) 青少年非行 (2) ポストモダン (3) 奉仕活動の義務化 (4) シティズンシップ教育 (5) 生と死の準備教育

事前学習（予習）

講義では、教科書を使用しないため、事前に資料を配布して講義を進めていく。そこで毎回の講義に際し、事前に資料に目を通し資料の内容を理解した上で講義に臨むこと。

復習についての指示

講義の中で小レポート課し、学生諸君の意見を求めることが間々ある。課題レポート作成に際しては自分で主体的に問題と向き合い、自分の意見を根拠を示して表明することを常に心がけてほしい。

授業計画

1. オリエンテーション：教育政策の保守化と青少年教育の動向
2. 青少年問題（戦後の青少年非行の変遷）・社会のアノミー化
3. 青少年問題審議会答申に見る青少年問題の今日的動向と教育的課題
4. 教育改革国民会議の中間報告「学校教育における奉仕活動の義務化」をめぐる議論
5. 学校教育における「奉仕活動」の是非をめぐる議論
6. イギリスにおけるシティズンシップ教育
7. 「新しい公共」について～公共哲学の議論にみる「公共」とは～
8. 青少年教育における奉仕活動をめぐる議論のまとめ
9. 「死生学」、「死の準備教育」、「いのちの教育」とは何か
10. わが国における「死の準備教育」
 11. 子どもの「死」をめぐる問題に関する意識調査・結果（1）
 12. 子どもの「死」をめぐる問題に関する意識調査・結果（2）
 13. 学校教育におけるいのちをめぐる教育の理念、目的、カリキュラム
 14. 初等・中等教育学校段階における「死の準備教育－実践事例の紹介－」
 15. まとめ

教科書

授業の中で指示する
講義の中で扱うテーマに関する資料を事前に配布し、それに基づいて講義を行う。

評価方法

- (1) 出席点：25% (2) 平常点：25% (3) レポート点：50%

担当者：新倉 貴仁

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

今年からちょうど100年前、1914年に起きた第一次世界大戦は、日本をふくむ近代社会を大きく変えていく出来事でした。この変化は、第二次世界大戦を経て、高度成長期までつづき、現在の私たちの社会をつくっていきます。本講義では、「量mass」という問題を手掛かりに、第一次世界大戦後から高度成長期までに生じた日本における現代社会への変容を、社会、産業、思想といった側面から、立体的に考えていきます。とりわけ、この時期は、農村から都市への人口流入がすすみ、都市のミドルクラスとよばれる人びとの存在が重要になってきます。本講義では、この人びとの生の様式life styleに注目し、現在の私たちの生のありかたを考えていきます。

2. 学びの意義と目標

基礎科目で習得した知識を総合、応用するものである。現代社会の特徴と、それについて考えるための視角を学ぶ。また、近代日本社会およびその歴史についての基礎的な知識を習得する。

受講生に対する要望

読む、考える、書くという行為を重視する。講師の側で受講者の顔と名前が一致するよう、質疑や対話をしていく。講義への積極的な参加を期待する。

キーワード

(1)消費社会 (2)ミドルクラス (3)量mass (4)政治思想 (5)ナショナリズム

事前学習（予習）

適宜、関連する資料を配布するので、講義までに目を通しておくこと

復習についての指示

配布するレジュメの内容を復習し、関連する文献を読むこと

授業計画

1. イントロダクション
2. 近代社会と現代社会
3. 消費社会変容
4. 文化とはなにか——教養、統制、開発
5. 1920年代（1）——第一次大戦の経験
6. 1920年代（2）——フォードのシステム
7. 1920年代（3）——文化とデモクラシー
8. 1920年代（4）——都市の新中間層
9. 1920年代（5）——吉野作造と文化生活
10. 1920年代（6）——柳田國男と第二の故郷
11. 1930年代（1）——世界恐慌と満洲事変
12. 1930年代（2）——サラリーマンとモダニズム
13. 1930年代（3）——統制と計画
14. 1930年代（4）——国防国家の構想
15. 1930年代（5）——戸坂潤と唯物論研究会
16. 1930年代（6）——三木清と昭和研究会
17. 1950年代（1）——第二次世界大戦の経験
18. 1950年代（2）——復興と再生
19. 1950年代（3）——占領期の知識人
20. 1950年代（4）——丸山眞男とナショナリズム
21. 1950年代（5）——1955年の転回
22. 1950年代（6）——経営とオートメーション
23. 1960年代（1）——大衆社会化と組織の問題
24. 1960年代（2）——安保闘争
25. 1960年代（3）——安保闘争への反省とニュー・レフト
26. 1960年代（4）——イデオロギーの終焉
27. 1960年代（5）——高度成長
28. 1960年代（6）——消費社会の不安
29. 日本における現代社会
30. 総括討論

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:50% (2)レポート:50%

担当者：鈴木 潔

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

公共政策とは、一個人や一企業を超えた多くの人々に関わる公共的問題の解決策のことをいう。A君の就職が決まらないことは私的问题であるが、日本の大学生の就職率が低下することは公共的問題である。当然ながら、私的问题の解決手段と公共的問題の解決手段はかなり異なる。この講義では、公共政策を意図（なぜ）、主体（だれが）、行動（どのように）という観点から読み解いていく。それを通じて公共的問題の本質を理解することを目指す。具体的には、これまでの公共政策学の蓄積を利用し、公共政策がどのように決定され、実施され、評価されているかという公共政策のプロセスを説明する。この講義は、まちづくり学、環境政策論、社会保障論、リスク対策論、社会福祉行政論、公的扶助論、児童福祉論などの個別政策の学習を進めていくうえで、その共通基盤となる公共政策の知識を提供するものである。

2. 学びの意義と目標

受講者が将来どのような職業に就くにせよ、国や自治体の公共政策について、常識的な判断力を持ち合わせておかねばならない。そこで、公共政策が、どのように決定され、実施され、評価されているかを理解し、国や自治体の公共政策の適否を総合的に判断できる能力を身につけることを目標とする。

受講生に対する要望

この講義ではアクティブラーニングを重視する。毎回の講義で実施する小テスト、学期中に複数回実施するレポート報告とディスカッションを通じて、自ら考えをまとめて適切に表現する能力を養う。積極的な態度で授業に臨むこと。

キーワード

(1) 公共政策と公共問題 (2) 政策決定 (3) 政策実施 (4) 政策評価

事前学習（予習）

受講者は、事前に指示される教科書の当該箇所を読み、用語などを調べておくこと。また、公共政策は現実の社会問題の解決に寄与することを志す実践的学問であるから、日ごろから時事問題に関心を払っておくことが求められる。

復習についての指示

毎回の講義で実施する小テストの内容を十分に確認しておくこと。

授業計画

1. イントロダクション
2. 公共政策とは何か（1）公共政策の基本構造
3. 公共政策とは何か（2）公共政策へのアプローチ
4. 公共政策学の系譜（1）第1期・第2期
5. 公共政策学の系譜（2）第3期
6. アジェンダ設定（1）アジェンダ設定理論
7. アジェンダ設定（2）政策決定
8. 政策問題の構造化
9. 公共政策の手段（1）直接供給と直接規制
10. 公共政策の手段（2）誘因およびその他の手段
11. 規範的判断（1）公平、効率性、安全・安心、自由
12. 規範的判断（2）価値の対立と政策の判断基準
13. 政策決定と合理性（1）政策決定の合理化への試み
14. 政策決定と合理性（2）合理的意思決定の限界
15. 政策決定と利益（1）利益調整としての政策決定過程
16. 政策決定と利益（2）利益と政治
17. 政策決定と制度
18. レポートの報告とディスカッション（1）
19. 政策決定とアイディア（1）アイディアの概念、アイディアによる影響
20. 政策決定とアイディア（2）政策へのプロセス
21. 公共政策の実施（1）位置づけと構造、実施の現場
22. 公共政策の実施（2）実施研究のアプローチ
23. 公共政策の評価（1）評価のロジック、政策評価の種類と機能
24. 公共政策の評価（2）政策評価の政治性と参加
25. 公共政策管理のシステム（1）市場メカニズムの活用
26. 公共政策管理のシステム（2）地方分権とガバナンス
27. レポート報告とディスカッション（2）
28. 応用問題（1）国際紛争
29. 応用問題（2）社会保障と税負担
30. 期末試験

教科書

秋吉 貴雄、伊藤 修一郎、北山 俊哉 『公共政策学の基礎（有斐閣ブックス）』（有斐閣）

評価方法

(1) 平常点:50%:授業貢献度、小テスト、出席状況 (2) 期末試験:30% (3) レポート:20%

担当者：宮寺 良光

開設期：春学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

社会福祉主事任用資格：選択科目

講義概要

1. 内容

・公的扶助の概念・貧困・低所得者問題と社会的排除・公的扶助の歴史・生活保護制度の仕組み・生活保護の運営実施体制と関係機関・生活保護の動向・低所得者対策とホームレス対策・自立支援プログラムの意義と実際

2. 学びの意義と目標

・低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズとその実際について理解する。・相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活保護制度に係る他の法制度について理解する。・自立支援プログラムの意義とその実際について理解する。

受講生に対する要望

・出席を単位修得の条件とするため、3分の2以上は出席するようにしてください。・集中講義であるため、長時間受講するのは苦痛を伴うと思うので、お互いにメリハリを付けて取り組みましょう。

キーワード

(1) 貧困・低所得 (2) 生活保護 (3) 自立支援

事前学習（予習）

(1) 講義内容の予習 → 毎回配付する資料を読解してくる

復習についての指示

(1) 講義内容の復習 → 毎回出題する課題に対して、400文字程度のレポートを提出する

授業計画

1. 公的扶助の概念
2. 貧困・低所得者問題と社会的排除
3. 公的扶助の歴史 (1) 海外の歴史
4. 公的扶助の歴史 (2) 日本の歴史
5. 生活保護制度の仕組み (1) 生活保護法の目的・原理
6. 生活保護制度の仕組み (2) 生活保護法の原則
7. 生活保護制度の仕組み (3) 生活保護の種類と内容
8. 生活保護制度の仕組み (4) 生活保護基準と実施要領
9. 生活保護制度の仕組み (5) 保護施設
10. 生活保護制度の仕組み (6) 被保護者の権利と義務・不服申立てと訴訟
11. 生活保護の運営実施体制と関係機関
12. 生活保護の動向
13. 低所得者対策とホームレス対策
14. 自立支援プログラムの意義と実際
15. 貧困・低所得者に対する相談援助活動

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 出席:30% (2) 小レポート:30% (3) 試験:40%

公務員講座(数的・判断推理)

PUSE-L-100

担当者：鈴木 潔

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義は大卒程度の警察官、消防官、一般行政職などの採用試験の合格を目的としている。これらの採用試験は職種により試験出題科目は異なるが、教養試験は全職種の採用試験に共通し、警察官・消防官の採用試験は全国どこでも教養試験のみで第一次の合否が判定されている。教養試験を一般知識分野と一般知能分野とに分け、過去の出題傾向・実際の試験問題を分析した上で、試験合格に必要な水準に無理なく無駄なく達することのできるよう、演習を取り入れながら進めていく。本講義では一般知能分野の核となる判断推理・数的推理・資料解釈を取り上げる。コミュニティ政策学科の「警察官・消防官・一般行政職公務員試験対策プログラム」の最も重要な科目の一つである。

2. 学びの意義と目標

公務員としての基礎知識を身につけ、公務員試験の1次試験を合格する力をつけることが、本講義の目標である。

受講生に対する要望

公務員試験に合格できるかどうかは予習・復習によって決まるといっても過言ではない。公務員試験の合格を目指す学生向けの特別な講座であることを認識し、積極的な態度で授業に臨むこと。

キーワード

(1) 公務員試験 (2) 判断推理 (3) 数的推理 (4) 資料解釈

事前学習(予習)

効率的に知識を習得するため、教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。

復習についての指示

知識の定着を図るため、授業で取り上げた頻出テーマや過去問は必ず復習すること。

授業計画

1. 判断推理 論理
2. 判断推理 対応関係
3. 判断推理 勝敗
4. 判断推理 発言内容
5. 判断推理 順序・手順
6. 判断推理 数値からの推定
7. 判断推理 配置・席順・方位
8. 判断推理 軌跡
9. 判断推理 平面図形の分割・構成
10. 判断推理 投影図・陰影
11. 判断推理 展開図
12. 判断推理 立体の分割・構成
13. 数的推理 整数問題
14. 数的推理 公約数・公倍数
15. 数的推理 方程式の応用
16. 数的推理 速さ・時間・距離
17. 数的推理 比・比例
18. 数的推理 年齢算・仕事算・時計算
19. 数的推理 場合の数・順列・組合せ
20. 数的推理 確率・期待値
21. 数的推理 平面図形(三角形・多角形)
22. 数的推理 立体の体積・容積
23. 資料解釈 図表題(実数・割合)
24. 資料解釈 数表題(実数・割合)
25. 資料解釈 伸び率他
26. 資料解釈 複数の数表・図表題
27. 補足・追加(1)
28. 補足・追加(2)
29. 補足・追加(3)
30. 補足・追加(4)

教科書

資格試験研究会『[大卒程度]警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 数的推理』(実務教育出版) 資格試験研究会『[大卒程度]警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 判断推理』(実務教育出版) 資格試験研究会『[大卒程度]警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 文章理解・資料解釈』(実務教育出版)

評価方法

(1) 試験:100%

中間試験および期末試験の結果で成績をつける。実際の公務員試験の合格ラインを基準に評価する。期末試験は、第16週目に行う。中間試験は、15週目を目安に実施する。

担当者：鈴木 潔

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義は大卒程度の警察官、消防官、一般行政職などの採用試験の合格を目的としている。これらの採用試験は職種により試験出題科目は異なるが、教養試験は全職種の採用試験に共通し、警察官・消防官の採用試験は全国どこでも教養試験のみで第一次の合否が判定されている。教養試験を一般知識分野と一般知能分野とに分け、過去の出題傾向・実際の試験問題を分析した上で、試験合格に必要な水準に無理なく無駄なく達することのできるよう、演習を取り入れながら進めていく。本講義では一般知識分野の人文科学と社会科学を対象にして、特に過去において繰り返し出題されてきた頻出分野を重点的に取扱う。コミュニティ政策学科の「警察官・消防官・一般行政職公務員試験対策プログラム」の最も重要な科目の一つである。

2. 学びの意義と目標

公務員としての基礎知識を身につけ、公務員試験の1次試験を合格する力をつけることが、本講義の目標である。

受講生に対する要望

公務員試験に合格できるかどうかは予習・復習によって決まるといっても過言ではない。公務員試験の合格を目指す学生向けの特別な講座であることを認識し、積極的な態度で授業に臨むこと。

キーワード

(1) 公務員試験 (2) 社会科学 (3) 人文科学

事前学習(予習)

効率的に知識を習得するため、教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。

復習についての指示

知識の定着を図るため、授業で取り上げた頻出テーマや過去問は必ず復習すること。

授業計画

1. 政治「各国の政治制度」
2. 政治「わが国の政策」
3. 政治「選挙制度」
4. 政治「地方自治」
5. 政治「日本国憲法の基本原理」
6. 政治「基本的人権の保障と制約」
7. 政治「国会・内閣」
8. 政治「裁判所・国会の権限」
9. 経済「ミクロ 余剰分析」
10. 経済「ミクロ 消費者行動」
11. 経済「マクロ 経済循環と国民所得」
12. 経済「マクロ 貨幣数量説と物価変動」
13. 経済「国内経済事情」
14. 経済「世界経済事情」
15. 社会・時事「現代社会の諸相」
16. 社会・時事「国際社会の諸相」
17. 日本史「幕藩体制の変遷」
18. 日本史「両世界大戦と日本」
19. 日本史「通史 土地・貨幣・税制」
20. 日本史「通史 文化・仏教・教育史」
21. 世界史「市民革命と産業革命」
22. 世界史「近代国家の成立」
23. 世界史「第二次大戦後の国際政治」
24. 世界史「中国近・現代史」
25. 地理「気候・農林水産業」
26. 地理「地誌 民族と国家」
27. 補足・追加 (1)
28. 補足・追加 (2)
29. 補足・追加 (3)
30. 補足・追加 (4)

教科書

資格試験研究会 『[大卒程度] 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学』(実務教育出版) 資格試験研究会 『[大卒程度] 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 人文科学』(実務教育出版)

評価方法

(1) 試験:100%

中間試験および期末試験の結果で成績をつける。実際の公務員試験の合格ラインを基準に評価する。期末試験は、第16週目に行う。中間試験は、15回目を目安に実施する。

公務員講座(専門A)

PUSE-L-200

担当者：高梨 博和

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この講義は市役所など地方公務員上級試験の合格を目的としている。公務員試験は、教養試験と専門試験から構成され、本講義は専門試験を対象としている。専門試験の科目としては、政治学、行政学、社会政策、社会学、国際関係、憲法、行政法、民法、刑法、労働法、経済原論、財政学、経済史、経済政策と極めて幅広い。過去の出題傾向・実際試験問題を踏まえて、試験合格に必要な水準に無理なく無駄なく達することのできるよう、演習を取り入れながら授業を進める。また、授業の中では、公務員に求められる文章技法や表現方法についても指導を行う。なお、受講生の希望進路を踏まえ、授業内容を適宜変更する場合がある。

2. 学びの意義と目標

公務員としての基礎知識を身につけ、公務員試験の1次試験を合格する力をつけることが、本講義の目標である。

受講生に対する要望

「警察官・消防官・一般行政職公務員試験対策プログラム」の最も重要な科目の一つである。公務員の専門試験科目に関連の深い講義及び秋学期の公務員講座(専門B)も合わせて受講することを強くすすめる。

キーワード

事前学習(予習)

公務員試験の受験を真剣に考えている学生向けの特別の講義であることをわきまえ、事前準備のうえ、積極的に授業に臨むこと。

復習についての指示

授業内容について、自ら確認し、定着を図ること。

授業計画

1. ガイダンス
2. 講義と演習「専門(1):行政学1」
3. 講義と演習「専門(2):社会学1」
4. 講義と演習「専門(1):行政学2」
5. 講義と演習「専門(2):社会学2」
6. 講義と演習「専門(1):行政学3」
7. 講義と演習「専門(2):社会学3」
8. 講義と演習「専門(1):行政学4」
9. 講義と演習「専門(2):社会学4」
10. 講義と演習「専門(1):行政学5」
11. 講義と演習「専門(2):社会学5」
12. 講義と演習「専門(1):行政学6」
13. 講義と演習「専門(2):社会学6」
14. 講義と演習「専門(4):政治学1」
15. 講義と演習「専門(3):財政学1」
16. 講義と演習「専門(4):政治学2」
17. 講義と演習「専門(3):財政学2」
18. 講義と演習「専門(4):政治学3」
19. 講義と演習「専門(3):財政学3」、文章技法・表現方法
20. 講義と演習「専門(4):政治学4」
21. 講義と演習「専門(3):財政学4」、文章技法・表現方法
22. 講義と演習「専門(4):政治学5」
23. 講義と演習「専門(3):財政学5」、文章技法・表現方法
24. 講義と演習「専門(4):政治学6」
25. 講義と演習「専門(3):財政学6」、文章技法・表現方法
26. 講義と演習「専門(5):民法(1)1」
27. 講義と演習「専門(5):民法(1)2」
28. 講義と演習「専門(5):民法(1)3」
29. 講義と演習「専門(5):民法(1)4」
30. 講義と演習「専門(5):民法(1)5」、春学期のまとめ

教科書

東京工学院専門学校『最新最強の地方公務員問題 初級〈'14年版〉』(成美堂出版)＜参考図書として＞資格試験研究会『[大卒程度]警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学』(実務教育出版)

評価方法

(1)授業参加度:50%:出席、質疑応答等 (2)期末試験:50%

授業参加度、期末試験を総合的に評価する

公務員講座(専門B)

PUSE-L-200

担当者：米澤 貴幸

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 内容この講義は市役所など地方公務員上級試験の合格を目的としている。公務員試験は、教養試験と専門試験から構成され、本講義は専門試験を対象としている。専門試験の科目としては、政治学、行政学、社会政策、社会学、国際関係、憲法、行政法、民法、刑法、労働法、経済原論、財政学、経済史、経済政策と極めて幅広い。公務員講座(専門A)に引き続き、過去の出題傾向・実際試験問題を踏まえて、試験合格に必要な水準に無理なく無駄なく達することのできるよう、演習を取入れながら授業を進める。また、授業の中では、公務員に求められる文章技法や表現方法についても指導を行う。なお、受講生の希望進路を踏まえ、授業内容を適宜変更する場合がある。

2. 学びの意義と目標

公務員としての基礎知識を身につけ、公務員試験の1次試験を合格する力をつけることが、本講義の目標である。

受講生に対する要望

「警察官・消防官・一般行政職公務員試験対策プログラム」の最も重要な科目の一つである。公務員の専門試験科目に関連の深い講義及び春学期の公務員講座(専門A)も合わせて受講することを強くすすめる。

キーワード

事前学習(予習)

公務員試験の受験を真剣に考えている学生向けの特別の講義であることをわきまえ、事前準備のうえ、積極的に授業に臨むこと。

復習についての指示

授業内容について、自ら確認し、定着を図ること。

授業計画

1. 秋学期ガイダンス、講義と演習「専門(6):憲法1」
2. 講義と演習「専門(7):マクロ経済1」
3. 講義と演習「専門(6):憲法2」
4. 講義と演習「専門(7):マクロ経済2」
5. 講義と演習「専門(6):憲法3」
6. 講義と演習「専門(7):マクロ経済3」
7. 講義と演習「専門(6):憲法4」
8. 講義と演習「専門(7):マクロ経済4」
9. 講義と演習「専門(6):憲法5」
10. 講義と演習「専門(7):マクロ経済5」
11. 講義と演習「専門(6):憲法6」
12. 講義と演習「専門(8):ミクロ経済1」
13. 講義と演習「専門(6):憲法7」
14. 講義と演習「専門(8):ミクロ経済2」
15. 講義と演習「専門(6):憲法8」
16. 講義と演習「専門(8):ミクロ経済3」
17. 講義と演習「専門(10):行政法1」
18. 講義と演習「専門(9):経営学1」、文章技法・表現方法
19. 講義と演習「専門(10):行政法2」
20. 講義と演習「専門(9):経営学2」、文章技法・表現方法
21. 講義と演習「専門(10):行政法3」
22. 講義と演習「専門(9):経営学3」、文章技法・表現方法
23. 講義と演習「専門(10):行政法4」
24. 講義と演習「専門(9):経営学4」、文章技法・表現方法
25. 講義と演習「専門(11):民法(2)1」
26. 講義と演習「専門(11):民法(2)2」
27. 講義と演習「専門(11):民法(2)3」
28. 講義と演習「専門(11):民法(2)4」
29. 講義と演習「専門(11):民法(2)5」
30. 講義と演習「専門(11):民法(2)6」、秋学期のまとめ

教科書

東京工学院専門学校『最新最強の地方公務員問題 初級〈'14年版〉』(成美堂出版)＜参考図書として＞資格試験研究会『[大卒程度]警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学』(実務教育出版)

評価方法

(1)授業参加度:50%:出席、質疑応答等 (2)期末試験:50%

授業参加度、期末試験を総合的に評価する。

担当者：大槻 岳

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義は大卒程度の警察官、消防官、一般行政職などの採用試験の合格を目的としている。これらの採用試験は職種により試験出題科目は異なるが、教養試験は全職種の採用試験に共通し、警察官・消防官の採用試験は全国どこでも教養試験のみで第一次の合否が判定されている。教養試験を一般知識分野と一般知能分野とに分け、過去の出題傾向・実際の試験問題を分析した上で、試験合格に必要な水準に無理なく無駄なく達することのできるよう、演習を取り入れながら進めていく。本講義では一般知能分野の核となる文章理解を取り上げるとともに、二次試験で課される教養論文の対策にも触れていく。

2. 学びの意義と目標

公務員としての基礎知識を身につけ、公務員試験の1次試験を合格する力をつけることが、本講義の目標である。この講座はコミュニケーション政策学科の「警察官・消防官・一般行政職公務員試験対策プログラム」の最も重要な科目の一つであるので、公務員試験を意識している学生にはぜひ受講してもらいたい。

受講生に対する要望

新しいことを事前に学んでくる必要はありませんが、反復演習を中心とした講義となるので、前回の内容をしっかりと復習することが次の予習となることを自覚して講義に臨んでください。

キーワード

(1)文章読解力 (2)客観的解答力 (3)反復演習 (4)公務員観の養成

事前学習(予習)

前回内容の解法の復習。特に文章理解の四分野に関しては、それぞれの設問に応じた解法があるので、その解法について習得できるように各自のペースに合わせて演習を行ってください。

復習についての指示

授業内で演習した問題の復習。各問題の解答を覚えるのではなく、なぜその選択肢が正解となるのか(なぜその選択肢が不正解となるのか)の根拠を理解するように心がけてください。

授業計画

1. 文章理解 概要解説
2. 論作文 概要解説
3. 文章理解 要旨把握(人文)
4. 文章理解 要旨把握(哲学)
5. 文章理解 内容把握(人文)
6. 論作文演習
7. 文章理解 内容把握(哲学)
8. 文章理解 傍線部問題
9. 文章理解 空欄補充
10. 論作文演習
11. 文章理解 文章整序
12. 資料解釈
13. 文章理解 古文要旨把握
14. 文章理解 古文傍線部問題
15. 文章理解 総合演習
16. 論作文演習
17. 文章理解 英文要旨把握
18. 文章理解 英文内容把握
19. 文章理解 英文空欄補充
20. 論作文演習
21. 文章理解 総合演習
22. 文章理解 総合演習
23. 文章理解 総合演習
24. 論作文演習
25. 文章理解 総合演習
26. 文章理解 総合演習
27. 文章理解 総合演習
28. 論作文演習
29. 文章理解 総合演習
30. 授業内試験を予定

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席点:60% (2)毎回の課題演習:10% (3)学期末テスト:30%

公務員講座演習B(数的・判断推理)

PUSE-L-300

担当者：鈴木 潔

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義は、大卒程度の警察官、消防官、一般行政職などの採用試験に合格することを目的とし、教養試験で出題される一般知識分野(数的・判断推理)を対象に、演習中心の授業形態をとる。過去の採用試験で実際に出題された問題について、受講者による自習を基本としつつ、出題傾向の把握と頻出テーマの解説等を適宜行うこととする。公務員試験対策プログラムの一環であり、公務員講座(数的・判断推理)と並行して履修する学生、過去に同公務員講座を受講した学生、公務員マスター講座(キャリアサポートセンター実施)の受講者のみが本講座を履修することができる。

2. 学びの意義と目標

教養試験のアウトラインを把握するとともに公務員試験の1次試験に合格する実力を養成することを目指す。

受講生に対する要望

公務員試験に合格できるかどうかは予習・復習によって決まるといっても過言ではない。公務員試験の合格を目指す学生向けの特別な講座であることを認識し、積極的な態度で授業に臨むこと。

キーワード

(1) 公務員試験 (2) 判断推理 (3) 数的整理 (4) 資料解釈

事前学習(予習)

効率的に知識を習得するため、教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。

復習についての指示

知識の定着を図るため、授業で取り上げた頻出テーマや過去問は必ず復習すること。

授業計画

1. 判断推理:論理、対応関係
2. 判断推理:勝敗、発言内容
3. 判断推理:順序・手順、数値からの推定
4. 判断推理:配置・席順・方位、軌跡
5. 判断推理:平面図形の分割・構成、投影図・陰影
6. 判断推理:展開図、立体の分割・構成
7. 数的推理:整数問題、公約数・公倍数
8. 数的推理:方程式の応用、速さ・時間・距離
9. 数的推理:比・比例、年齢算・仕事算・時計算
10. 数的推理:場合の数・順列・組合せ、確率・期待値
11. 数的推理:平面図形(三角形・多角形)、立体の体積・容積
12. 資料解釈:図表題(実数・割合)、数表題(実数・割合)
13. 資料解釈:伸び率他、複数の数表・図表題
14. まとめ(1)
15. まとめ(2)

教科書

資格試験研究会『判断推理がみるみるわかる! 解法の玉手箱[改訂版]』(実務教育出版) 資格試験研究会『数的推理がみるみるわかる! 解法の玉手箱[改訂版]』(実務教育出版)

評価方法

(1) 平常点:100%

平常点(出席状況+講義内で適宜実施する小テスト)で総合的に評価する。特に出席状況を重視する。

公務員講座演習B(人文・社会)

PUSE-L-300

担当者：鈴木 潔

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講座は、大卒程度の警察官、消防官、一般行政職などの採用試験に合格することを目的とし、教養試験で出題される一般知識分野(人文・社会)を対象に演習中心の授業形態をとる。過去の採用試験で実際に出題された問題について、受講者による自習を基本としつつ、出題傾向の把握と頻出テーマの解説などを適宜行うこととする。コミュニティ政策学科の「警察官・消防官・一般行政職公務員試験対策プログラム」の一環であり、公務員講座(人文・社会)と並行して履修する学生、過去に公務員講座を受講したことのある学生、公務員試験マスター講座II(キャリアサポートセンター実施)の受講者のみが本講座を受講することができる。

2. 学びの意義と目標

教養試験のアウトラインを把握するとともに公務員試験の1次試験に合格する実力を養成することを目指す。

受講生に対する要望

公務員試験に合格できるかどうかは予習・復習によって決まるといっても過言ではない。公務員試験の合格を目指す学生向けの特別な講座であることを認識し、積極的な態度で授業に臨むこと。

キーワード

(1) 公務員試験 (2) 社会科学 (3) 人文科学

事前学習(予習)

効率的に知識を習得するため、教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。

復習についての指示

知識の定着を図るため、授業で取り上げた頻出テーマや過去問は必ず復習すること。

授業計画

1. 政治(法の基礎理論・基本的人権)
2. 政治(国会・内閣・裁判所・各法律の基本問題)
3. 政治(政治の基礎理論・政治制度)
4. 政治(選挙制度・国際政治)
5. 経済(ミクロ経済学・マクロ経済学)
6. 経済(財政政策・金融政策)
7. 経済(日本と世界の経済事情)
8. 社会・時事(国際社会・国内問題)
9. 日本史(古代～江戸時代)
10. 日本史(近代・現代)
11. 世界史(古代・中世～市民革命と産業革命)
12. 世界史(自由主義・帝国主義～現代社会)
13. 地理(自然地形・気候)
14. 地理(世界の産業・諸地域)
15. まとめ(理解度の確認)

教科書

資格試験研究会『[大卒程度]警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学』(実務教育出版) 資格試験研究会『[大卒程度]警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 人文科学』(実務教育出版)

評価方法

(1) 平常点:70%:授業貢献度、出席等 (2) 試験:30%

担当者：猪狩 廣美

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

最近の地方自治体を取り巻く状況を前提として (1)公務員の仕事の特性 (2)自治体の業務の実際 (3)進路としての公務員等について、実例を題材とする一方、パズセッション等を織り交ぜて理解を深める。

2. 学びの意義と目標

自治体が社会の中でどのような役割を担い、どのような事業を展開しているのか、理解を深めるとともに、その業務を担う地方公務員の取り組みを学ぶことを通して、自らの進路を考える一助としたい。

受講生に対する要望

公務員試験対策プログラムの一環として開講する講座である。なお、現実社会においては、例えば民間企業へ進んだとしても、自治体との関わりは広範であり、その実情を理解することは重要であると考え。進路を選択する力を身につける意味から、公務員志望でない学生にも受講を期待する。

キーワード

(1)統治機構としての地方公共団体 (2)自治とは (3)自治機関としての自治体 (4)自治体の具体的な取り組み (5)自治体職員の使命

事前学習(予習)

開講までに、高等学校の政治経済の教科書を読み返しておきましょう。開講後は、逐次指示します。

復習についての指示

受講後は、内容を取りまとめ、知識として整理するとともに、新聞等マスコミで報道される自治体の取り組みなどにも注意を払い、一人の住民・主権者としての意識を涵養していくことを望みます。

授業計画

1. イントロダクション
2. 地方自治体の役割 (1)
3. 地方自治体の役割 (2)
4. 地方自治体の役割 (3)
5. 自治体の業務 (1)
6. 自治体の業務 (2)
7. 自治体の業務 (3)
8. 自治体の業務 (4)
9. 自治体の業務 (5)
10. 自治体の業務 (6)
11. 自治体の業務 (7)
12. 自治体の業務 (8)
13. 自治体で働くということ (1)
14. 自治体で働くということ (2)
15. 公務員になるために・まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席状況:30% (2)一言メモ提出:30%:毎回の授業の感想メモです (3)レポート:40%:詳細は授業で指示します

公務員特講(自治体研究B)

PUSE-L-300

担当者：北川 嘉昭

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

福祉や教育、防災、街づくりなど、自治体の基幹的な業務に加え、タバコのポイ捨て禁止やレジ袋規制、ゆるキャラやB1グランプリ、ゴミ屋敷対策など、全国自治体の特色ある施策などについて、その背景、期待される効果、課題等をわかりやすく説明する。

2. 学びの意義と目標

地域社会の抱える課題と対策について認識を深めることを通じて、自治体等への就職に対するモチベーションを高めることを目標とする。

受講生に対する要望

地域社会に関心を持ち、新聞もできるだけ目を通してください

キーワード

(1)地域社会 (2)地方自治体 (3)地方公務員 (4)住民福祉 (5)公共サービス

事前学習(予習)

新聞を読み、地域のイベントへ参加に参加するなど、地域社会の出来事や課題に関心をもってください。

復習についての指示

テレビや新聞などで講義に関連した情報に接したとき、自治体や住民はどうすべきかについて、自分なりの考え方をまとめてみてください。

授業計画

1. 地方自治・公共政策について
2. 事例研究(都市計画)
3. 事例研究(道路、再開発、景観)
4. 事例研究(防犯、感染症、ICT等の危機管理)
5. 事例研究(震災対策)
6. 事例研究(子育て支援)
7. 事例研究(教育)
8. 事例研究(高齢者福祉)
9. 事例研究(障害者福祉など)
10. 事例研究(産業振興)
11. 事例研究(地域活性化①)
12. 事例研究(地域活性化②)
13. 事例研究(環境・リサイクル)
14. 事例研究(行政改革)
15. これからの公共サービス、公務員

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)出席:50% (2)レポート:50%

担当者：柴田 武男

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：公民選択科目、
中学校教諭一種免許：社会選択科目

講義概要

1. 内容

ボーダーレスの時代を迎え、実体経済の需要を遥かに越えた大量のマネーが世界を駆け巡っています。ITの進化に伴い証券化商品など国際金融手法は高度化、複雑化しています。マネーの動きは国際情勢に敏感に反応して、たちまち世界の金融市場に影響を与え、各国の金融政策を左右します。それらのメカニズムの基本を講義するのが、本講座の趣旨である。本講座は、それぞれが立場の違う国際金融の専門家三名が講師を務める、オムニバス方式を採用する。講座は、基礎編、応用編1、応用編2の三部構成となり、三名の講師が各部を担当する。基礎的な知識、理論の解説に始まり、各講師がそれぞれの経験を通じた実務現場を、様々な角度から語ることで、変貌する国際金融の姿を立体的かつ動態的に浮き彫りにしてゆきます。日本銀行で金融行政に携わった講師が基礎編を、三菱東京UFJ銀行で外国業務に携わった講師が応用編1を、そして丸紅で国際ビジネスのファイナンスに携わった講師が応用編2をそれぞれ担当する。

2. 学びの意義と目標

我々の生活に欠かせないおカネが、どのような仕組みで流れ、それが仕事や生活にどのような影響を及ぼしているのか、本講座ではグローバル金融のメカニズムの基礎をまず学ぶことになる。金利や為替レートはどのように決められ、またそれらが実体経済にどのようなインパクトを与えるのか。それらの中で果たされる中央銀行、民間金融機関、官民企業などの役割や機能は何かを知る。たとえ国内での仕事に就くにしても、国際金融の基礎的な知識は不可欠であり、グローバル化が進む中で、特に将来ビジネスの世界を目指す人にとり、本講座で学ぶ知識は必須である。

受講生に対する要望

理解が及ばない内容に接した時は、臆せず質問し、あるいは問いかけ、できる限り講義に参加する姿勢が求められる

キーワード

(1)国際金融とグローバリズム (2)国際金融と実体経済 (3)国際金融と日本経済

事前学習（予習）

本講座に関連する世界の話題が、日々マスコミの情報にあふれている。それらを敏感に拾い上げて、講義に臨んで欲しい。その実践によって、講義への興味や理解度は格段に増す。

復習についての指示

講義の内容の中から、自らの興味ある部分を選んで、その中身を自ら調べるなどして掘り下げて欲しい。不明な点などあれば、次の講義時に講師に質問して、さらに理解を深めるように試みる。

授業計画

1. 第1部・基礎編：金融当局の立場から見た国際金融(担当講師：柳沢真人講師（元日本銀行）)
2. 同上
3. 同上
4. 同上
5. 同上
6. 同上
7. 同上
8. 同上
9. 同上
10. 同上
11. 第2部・応用編1：資金供給者の立場から見た国際金融(担当講師：鈴木成高講師（元三菱東京UFJ銀行）)
12. 同上
13. 同上
14. 同上
15. 同上
16. 同上
17. 同上
18. 同上
19. 同上
20. 同上
21. 第3部・応用編2：資金需要者の立場から見た国際金融(担当講師：石橋満講師（元丸紅）)
22. 同上
23. 同上
24. 同上
25. 同上
26. 同上
27. 同上
28. 同上
29. 同上
30. 同上

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)出席日数による加点減点:10% (2)課題レポート提出:90%:3人の講師がそれぞれの最終講義で、レポート課題を提示する
出席日数がコマ数の2/3未満は評価対象外

担当者：中村 文子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

国際政治史では、主権国家が誕生したウエストファリア体制のはじまりから、国家間関係の大きな転換点となった2001年9月11日の同時多発テロまでを見ることで、21世紀の私たちの時代における国家間関係や地球規模の諸問題について、その歴史的背景に迫りながら理解を深める。

2. 学びの意義と目標

現代の国際社会は、戦争、核兵器と軍拡、経済発展と貧困、環境破壊、難民といった地球規模の諸問題に直面している。このような問題を理解するためには、これらを現代の問題としてだけでなく、歴史的問題として認識する必要がある。講義では、現在起こっている様々な地球規模の問題と関連づけながら、国際政治史を学んでいく。

受講生に対する要望

国家間の歴史に興味がある者のみならず、現代の国際社会のあらゆる問題に興味のある者の受講も望む。

キーワード

(1)主権国家 (2)国民国家 (3)世界大戦 (4)冷戦 (5)民族紛争

事前学習（予習）

高校世界史の知識がほとんどなくとも受講可能である。

復習についての指示

その日の授業の内容について、関連する文献、資料を見て確認する。また、常に国際的な時事ニュースにも触れておく。

授業計画

1. 近代主権国家体制の誕生（ウエストファリア体制）
2. ウエストファリア体制の歴史的経緯
3. 絶対主義から二重革命へ（市民革命）
4. 絶対主義から二重革命へ（産業革命）
5. 国民国家の成立
6. 植民地形成と世界の一体化（大航海時代と植民地）
7. 帝国主義とグローバリゼーション（列強による世界の分割）
8. 帝国主義とグローバリゼーション（ヨーロッパ中心主義と人種差別の時代）
9. 列強と帝国（植民地配分と列強の協調・対立）
10. 列強の抗争（ヨーロッパでの列強の協調・対立）
11. 第一次世界大戦（準備された戦争体制）
12. 第一次世界大戦（4つの戦線）
13. 第一次世界大戦（ドイツ帝国の解体）
14. 第一次世界大戦と革命の時代（ロシア革命）
15. 第一次世界大戦と革命の時代（戦後処理とヨーロッパの再建）
16. ファシズムと共産主義の台頭（社会主義と共産主義）
17. ファシズムと共産主義の台頭（ファシズム）
18. 大恐慌期の政治（ドイツ民主主義の終焉とヒトラー）
19. 戦争への道（軍備と賠償）
20. 戦争への道（西ヨーロッパの国際関係の再編）
21. 世界戦争（ドイツの戦争準備）
22. 世界戦争（第二次世界大戦の始まり）
23. 世界戦争（ドイツの侵攻と世界の動き）
24. 第二次世界大戦の終結（ドイツの敗北）
25. 第二次世界大戦の終結（その他の国家の敗北）
26. 第二次世界大戦の終結（戦後処理問題）
27. 冷戦と核の脅威
28. 民族紛争と国際社会
29. テロと国際社会
30. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)期末レポート:80%:レポートの課題は提出締切の1か月前に授業のなかで知らせる。(2)出席:20%:6日間以上欠席の場合、不可とする。

授業態度の悪い者は、出席回数を満たし、レポートが単位取得に必要な水準に達していても、授業中に退席させ、単位は与えない。

担当者：小島 かおる

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：公民選択科目、
中学校教諭一種免許：社会選択科目

講義概要

1. 内容

まず、国際政治の基本概念や理論についての基礎知識をを学び、次に、第二次世界大戦後の国際政治の流れを解説します。また、今日私たちが直面している国際政治上の諸問題について考察します。

2. 学びの意義と目標

今日、国際世界は激動の中にあり、たくさんの解決すべき問題を抱えています。しかし私たちの周囲には多くの情報が氾濫しているため、かえって、様々な現象の基底にある本質をつかむ視点や判断基準を持つことが難しくなっています。本講義の目標は、第一に、国際政治の基礎知識を習得すること。第二に、それらの基礎知識に基づいて、国際政治の諸問題をより深く理解し、自ら考える能力を養うこと。

受講生に対する要望

授業は限られた時間なので、不十分な部分を受講者自身で補って”よいノート”を作ることも授業の課題とします。日頃から、新聞、テレビ、インターネットなどを通じ、国際政治に対する好奇心を養っておいて下さい。

キーワード

(1) 勢力均衡 (2) 国際連合 (3) 冷戦 (4) 第三世界 (5) 軍縮

事前学習（予習）

授業計画を参照し、扱われるテーマについて情報を集めておくこと。

復習についての指示

ノートや配布プリントを再読し、各テーマについて次回までに説明できるようにすること。

授業計画

1. 国際政治論とは何か
2. 国際政治における諸概念
3. 国際政治の諸要因
4. 理想主義と現実主義
5. 国際システム論の展開
6. 国際社会における平和と安全
7. 国際連合
8. 第二次世界大戦後の国際経済体制
9. 冷戦の開始
10. 対外援助
11. 同盟
12. 軍拡
13. 核抑止
14. 第三世界
15. 理解度の確認
16. 国際経済の自由化
17. ヨーロッパ共同体の拡大
18. デタント
19. ドル危機 / ニクソン・ショック
20. 石油危機 / 国際経済戦争
21. サミット
22. 軍縮
23. 第三世界をめぐる諸問題
24. 冷戦の終焉とソ連の解体
25. 民族問題
26. 環境問題
27. 原子力問題
28. テロリズム
29. 相互依存
30. 試験とその解説

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 中間試験：30% (2) 小テスト：30% (3) 期末試験：40%

担当者：飯島 康夫

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

日本や海外の地域開発にかかわる諸問題に親しみ、歴史を通して都市化に対する対処の教訓等を学ぶことである。経済活動の国際化と地方分権化が望まれるなか、地方行政や地域産業の関係者が独自に地域振興の戦略的プランをもち、海外との経済・文化交流に直接関わるが増えるかもしれない。本講義はそのような将来の開発プランナーへの道に興味を持って頂くための一助にもなればと願って開講されるものである。

2. 学びの意義と目標

地域開発のあらましを、概説したものであり、欧米、アジア・アフリカの途上国、旧社会主義圏などを、概観する。選択必修の科目であり、経済学、政治学など、ある程度の、基礎的な科目を履修した後の方が理解しやすいと思われる。 学びの意義と目標については、将来、自治体、NGO、JICAや青年海外協力隊で国内、海外の開発プロジェクト、あるいは、身近なまちづくりを考え、実践していく上での必要な知識を積む一助とする。

受講生に対する要望

関心のあるプロジェクトを詳細に調べていただきたい。

キーワード

(1)開発計画 (2)世界経済

事前学習（予習）

小論は場合によって書き直しをお願いします。指示する基本文献を通読して、基礎的知識を養うこと。

復習についての指示

前回の授業をノートを見ながら、簡潔にまとめていただくこと。

授業計画

1. 1 導入
2. 2 都市・地域開発研究と経済・社会への視点
3. 3 世界経済と地域主義
4. 4 産業集積と都市・地域の発展
5. 5 流通業の集積
6. 6 経済のサービス化と国際労働力移動
7. 7 情報通信技術と産業
8. 8 欧米の都市化
9. 9 途上国の都市化
10. 10 旧共産圏（ソ連・東欧）の都市化
11. 11 中国の都市化
12. 12 アジア太平洋地域と日本の地域関係史
13. 13 日本の地域開発史（戦前）
14. 14 日本の地域開発史（戦後）
15. 15 高度経済成長と公害
16. 16 国土計画と地域間格差
17. 17 プラザ合意（1985年）と空間の再編
18. 18 構造調整と大都市
19. 19 構造調整と地方圏
20. 20 官から民のまちづくり
21. 21 地域調査の方法まとめ
22. 22-6 小論文・レポートの作成方法
23. 文献調査とフィールド
24. 質的調査と量的調査
25. 添削指導、アドバイス
26. レポートのまとめ方
27. ユーラシアランドブリッジと地域開発
28. 中露国境地帯の歴史と開発
29. 豆満江流域の地域開発と安全保障
30. 総まとめ

教科書

姫田光義編 『有斐閣』（有斐閣アルマ）

評価方法

(1)出席:50% (2)レポート・テスト:30% (3)発表:20%

国際ビジネスの現場 A

MGMT-L-400

担当者：柴田 武男

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

春学期開講、15コマを複数の講師が講義する、オムニバス方式の講座である。講師はいずれも、戦後の日本経済を牽引した各種基幹産業に勤務し、主に国際ビジネスの現場で活躍した元ビジネスマンである。講義の内容は、講師たちの実務体験に基づいた生々しい仕事の現場の状況や、各講師の勤務した各産業における全体構造の変遷、現状、そしてそれぞれの産業が抱える問題点や、将来の課題などを語る。また、将来実業界を目指す学生たちに対して、実社会で働く心構えや、ビジネスに対する基本的な考え方など、社会人の先輩としての各講師からのメッセージが送られる。本講座の続編として、秋学期開講の「国際ビジネスの現場B」がある。日本の産業界の実像を把握するために、両講座を継続して受講することが望ましい。

2. 学びの意義と目標

本講座で講師たちの語る内容は、分かりやすい現実論である。実社会とはいかなるところか。仕事の現場では、どのようなことが行われているのか。また海外のビジネスの現場は、国内とどのように違ひ、どのような多様性があるのか。そして、そこで求められるものとは何か。複数の講師たちが語る様々なメッセージを注意深く聴き、自ら咀嚼し、理解できないところは講師に質問する。講義に対するそのような積極的な態度をとることを通じて、必ずや将来の糧となるものが得られるはずである。本講座を受講することで、世界に向けた目を養って欲しい。世界は広く、そこには多様、多彩な活躍の場が待っていることを、是非学んで欲しい。

受講生に対する要望

日々のビジネス世界の動きに関心を持つこと。また各講義の中で、関心を持った事柄をさらに調べて知識を深めること。

キーワード

(1) 仕事の現場を知る (2) ビジネスの基本を知る (3) 世界を見る目を養う (4) 世界の多様性を知る

事前学習（予習）

次回講師の講義テーマに関連し、関心ある事項を調べておくこと。また、講師への質問を準備しておくこと。

復習についての指示

初講を除き、各講師は2コマずつ担当する。各講師の1コマ目の講義内容を復習し、疑問点を2コマ目の講義の際に講師に対して質問すること。

授業計画

1. 国際ビジネスを楽しむ。講師：佐治洋一（元日立製作所）
2. 国際市場における日本の製造業の特徴～最大市場中国での競争を中心事例として～Ⅰ 講師：奥信彦（元コマツ）
3. 国際市場における日本の製造業の特徴～最大市場中国での競争を中心事例として～Ⅱ 講師：奥信彦（元コマツ）
4. エネルギービジネスの国際展開～エネルギー問題解決に挑む民間プロジェクト～Ⅰ 講師：荒川昌佳（元三菱商事）
5. エネルギービジネスの国際展開～エネルギー問題解決に挑む民間プロジェクト～Ⅱ 講師：荒川昌佳（元三菱商事）
6. 消費財・日用品・雑貨等のビジネス現場から、国際交流へのヒントⅠ 講師：富田俊彦（元三井物産）
7. 消費財・日用品・雑貨等のビジネス現場から、国際交流へのヒントⅡ 講師：富田俊彦（元三井物産）
8. 日本の鉄鋼業業界再編と国際競争Ⅰ 講師：植木正憲（元新日本製鉄）
9. 日本の鉄鋼業業界再編と国際競争Ⅱ 講師：植木正憲（元新日本製鉄）
10. 我が国自動車産業のグローバル展開～その現状と課題～Ⅰ 講師：関知耻忠（元日産自動車）
11. 我が国自動車産業のグローバル展開～その現状と課題～Ⅱ 講師：関知耻忠（元日産自動車）
12. 日本の製薬業界の現状～国際社会との関係と課題～Ⅰ 講師：錦織浩治（元山之内製薬）
13. 日本の製薬業界の現状～国際社会との関係と課題～Ⅱ 講師：錦織浩治（元山之内製薬）
14. 日本食品産業の挑戦～日本の食文化を世界に発信～Ⅰ 講師：関原滋彦（元住友商事）
15. 日本食品産業の挑戦～日本の食文化を世界に発信～Ⅱ 講師：関原滋彦（元住友商事）

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1) 出席日数による加点減点:10% (2) 課題レポート提出:90%:7人の講師が、レポート課題提示
出席日数がコマ数の2/3未満は評価対象外

国際ビジネスの現場B

MGMT-L-400

担当者：柴田 武男

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

秋学期開講、15コマを複数の講師が講義する、オムニバス方式の講座である。講師はいずれも、現在の日本経済を牽引する各種基幹産業に勤務し、主に国際ビジネスの現場で活躍した元ビジネスマンである。講義の内容は、講師たちの実務体験に基づいた生々しい仕事の現場の状況や、各講師の勤務した各産業における全体構造の変遷、現状、そしてそれぞれの産業が抱える問題点や、将来の課題などを語る。また、将来実業界を目指す学生たちに対して、実社会で働く心構えや、ビジネスに対する基本的な考え方など、社会人の先輩としての各講師からのメッセージが送られる。本講座は、春学期開講の「国際ビジネスの現場A」の続編である。春学期は主に、戦後経済成長を担った主力産業を取り上げるが、秋学期は比較的新しく台頭し、変貌の只中にある産業を中心に取り上げる。春学期「国際ビジネスの現場A」と本講座を、継続して受講することが望ましい。

2. 学びの意義と目標

本講座で講師たちの語る内容は、分かりやすい現実論である。実社会とはいかなるところか。仕事の現場では、どのようなことが行われているのか。また海外のビジネスの現場は、国内とどのように違うのか。そこで求められるものとは何か。複数の講師たちが語る様々なメッセージを注意深く聴き、自ら咀嚼し、理解できないところは講師に質問する。講義に対するそのような積極的な態度をとることを通じて、必ずや将来の糧となるものが得られるはずである。本講座を受講することで、世界に向けた目を養って欲しい。世界は広く、そこには多様、多彩な活躍の場が待っていることを、学んで欲しい。

受講生に対する要望

日々のビジネス世界の動きに関心を持つこと。また各講義の中で、関心を持った事柄をさらに調べて知識を深めること。

キーワード

(1) 仕事の現場を知る (2) ビジネスの基本を知る (3) 世界を見る目を養う (4) 世界の多様性を知る

事前学習（予習）

次回講師の講義テーマに関連し、関心ある事項を調べておくこと。また、講師への質問を準備しておくこと。

復習についての指示

初講を除き、各講師は2コマずつ担当する。各講師の1コマ目の講義内容を復習し、疑問点を2コマ目の講義の際に講師に対して質問すること。

授業計画

1. 国際ビジネスに生きる 講師：佐治洋一（元日立製作所）
2. 変動する世界の食糧事情1 講師：川村勝司（元双日）
3. 変動する世界の食糧事情2 講師：川村勝司（元双日）
4. 外国為替から国際金融の現場まで1 講師：鶴田孝俊（元三菱東京UFJ銀行）
5. 外国為替から国際金融の現場まで2 講師：鶴田孝俊（元三菱東京UFJ銀行）
6. 地球を守る資源とその循環システムの構築1 講師：坂本行正（元三菱商事）
7. 地球を守る資源とその循環システムの構築2 講師：坂本行正（元三菱商事）
8. ある消費財メーカーの事業構造大転換1生き残りを賭けたデジタル革命下における企業戦略とは 講師：坂部正治（元富士フィルム）
9. ある消費財メーカーの事業構造大転換2生き残りを賭けたデジタル革命下における企業戦略とは 講師：坂部正治（元富士フィルム）
10. グローバリゼーションと日本の航空業界1 講師：伊原隆（元日本航空）
11. グローバリゼーションと日本の航空業界2 講師：伊原隆（元日本航空）
12. ビジネス情報サービスの提供現場とIT技術1 講師：松尾光（元日本経済新聞）
13. ビジネス情報サービスの提供現場とIT技術2 講師：松尾光（元日本経済新聞）
14. 企業のグローバル化～グローバル化の中でいかに企業は生き残るか～1 講師：木村行裕（元東芝）
15. 企業のグローバル化～グローバル化の中でいかに企業は生き残るか～2 講師：木村行裕（元東芝）

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 出席日数により加点減点:10% (2) 課題レポート提出:90%:7人の講師が、レポート課題提示
出席日数がコマ数の2/3未満は評価対象外

担当者：山村 恒雄

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：公民選択科目、
中学校教諭一種免許：社会選択科目

講義概要

1. 内容

私たちが生活している社会には、秩序を維持するためにルール（法）が存在する。国内においては、国家の統治機構が特定の目的をもって憲法や民法、刑法などの国内法を制定し執行している。国際社会には国内社会にあるような全体を統治する機構（政府）は存在しないが、国際社会にも、秩序を維持するためのルールが存在する。それが国際法である。

2. 学びの意義と目標

この科目では、(1)国際法の基本構造について、(2)国家に関する国際法の規則について、(3)国家の領域に関する基本的な事柄とそれに対する国際法の取り組みについて、などの国際法の基本構造を中心に国際法に対する理解を深めていくことを、目的とする。

受講生に対する要望

やさしく講義するとはいえ、難しい内容なので毎回出席する意思のある人を望みます。授業に適当に出席して単位がとれるような科目ではないので、注意してください。

キーワード

(1)領海侵犯 (2)主権侵害 (3)条約 (4)国際連合

事前学習（予習）

初回の講義の際に配布される授業予定表に記載された教科書の該当ページを読んでくること。なお、時事問題を解説に利用するので、新聞などによく目を通しておくこと。

復習についての指示

授業終了後に配布される復習プリントを完成させ、次回授業時に提出できるようにしておくこと。

授業計画

1. ガイダンスおよび国際社会について
2. 国際法の成立について
3. 国際法の発展について
4. 国際法の位置づけ
5. 国際法の法源について
6. 国際慣習法とは何か
7. 条約とは何か
8. 条約の締結について
9. 国際法の主体は何か
10. 国際法の主体としての国家の成立について
11. 国家の基本的権利について
12. 国家の基本的義務について
13. 国家承継について
14. 国家の領域について
15. 国家の領域に対する権限について
16. 海の制度について
17. 国家の権限が及ばない領域について
18. 宇宙空間の法的地位について
19. 国家の外交関係について
20. 国家の領事関係について
21. 外交使節の特権免除について
22. 領事機関の特権免除について
23. 国際犯罪について
24. 国家責任について
25. 国家責任の成立要件について
26. 国家責任の解除について
27. 戦争と法について(1)
28. 戦争と法について(2)
29. 人権と人道について(1)
30. 人権と人道について(2)

教科書

横田洋三編 『国際法入門〔第2版〕』（有斐閣）

評価方法

- (1) 期末試験：80% (2) 出席平常点：20%

コミュニケーション学

SOCI-L-200

担当者：小笠原 尚宏

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

市民力：地域社会およびコミュニティ活動に関わる基礎知識

カリキュラム上の位置付け

コミュニティコース：基幹科目、
情報コース：応用科目

講義概要

1. 内容

私たちは家族、友人、あるいは集団・組織といった多様ななか
わり中で生きている。感情、意思、情報などを交換するコミュニ
ケーションなしに、私たちの生活は成立しない。この講義で
は、「コミュニケーション」という視点を通して私たちの日常生
活を捉え直し、多様な関係性とそのあり方について考える視座の
形成を目的とする。具体的には、(1)コミュニケーション学の基
礎的知識の習得、(2)多様なコミュニケーションの道具（コミュニ
ケーション・ツール）の特質の理解、(3)事例検討による実践的・
実証的なコミュニケーションをめぐる問題解決のための視点と方
法を学ぶ。また、この授業は関連領域の学習に際して必要とな
る「コミュニケーション」を理解するための基礎的内容となる。
また、たとえば地域社会論、家族関係論、組織論、企業論、社会
心理学等の入門としても位置づけられるので、積極的な履修を望
みたい。

2. 学びの意義と目標

個人化、私事化の進行が指摘される現代社会にあって、あらためて「絆」をつなぐコミュニケーションの役割
が重要視されている。つながりや関係性の喪失、コミュニケーション不全といった問題を理解し、さらにはそれ
らを解決していくために必要な基礎的知識の習得を目標としたい。コミュニケーションとは、私たちの日々の生
活の中でごく当たり前に営まれている。しかし、あいさつ、会話、あるいは、しぐさ、といったコミュニケーション
のあり方は、それぞれの社会や文化の中で形成された「暗黙のルール」に基づいて営まれている。それらの
社会的・文化的ルールをひもとくときながら、コミュニケーションの特質を考察する。また、コミュニケーション
は、常に伝わるものであるとは限らない。「伝わらない」経験をした人も多いと思うが、「伝わる」と「伝わら
ない」の違いをみながら、「伝える」ための技法を、具体的な事例を基に考える。これらを通して、コミュニ
ケーションを理解し、身近な問題をコミュニケーション学の視点から捉えることのできる基礎的な能力の形成
を、この授業の目標とする。 コミュニケーション（コミュニケーション障害）が取りざたされ、コミュカ（コミュニケー
ション力）が通称に定められる現代日本社会において、コミュニケーション学の視点を身につけることは、皆さ
んのこれからの大きな意義をもつものと思う。

受講生に対する要望

積極的に考え、悩み、そして答えを自ら導き出していける力をつ
けてもらいたい。そのためには、まず、主体的に授業に参加するこ
と！。これを切に願います。

キーワード

(1) 自我 (2) かかわり (3) メディア (4) 社会変動とコミュニケーション (5) 集合行為

事前学習（予習）

時事問題を事例として取り上げるため新聞に目を通しておくこ
と。また、翌週の学習に関連した資料を配付し、事前課題を課す
場合がある。

復習についての指示

各単元の終了時に、復習課題および小レポート課題を課す。これ
によって講義内容の確実な定着を図ってもらいたい。

授業計画

1. 入門 コミュニケーションとは何か？
2. 現代社会とコミュニケーション
3. コミュニケーション学の基礎(1) コミュニケーションの仕組
みとタイプ
4. コミュニケーション学の基礎(2) 伝わるコミュニケーション
5. コミュニケーション学の基礎(3) 伝わらないコミュニケーシ
ョン
6. コミュニケーション学の基礎(4) 広がるコミュニケーション
7. 人間のコミュニケーション／動物と人間は何が違うのか？
8. 自我とコミュニケーション／自我と他者・自己開示と自己呈
示
9. 対人コミュニケーション(1) 対人コミュニケーションの特徴
10. 対人コミュニケーション(2) 説得・支配・欺瞞・交渉
11. 言語的コミュニケーション／言語・あいさつ・敬語
12. 非言語的コミュニケーション／しぐさ・表情・機械
13. メディアとコミュニケーション(1) 声と文字
14. メディアとコミュニケーション(2) 電信・電波
15. メディアとコミュニケーション(3) ケータイとインターネッ
ト
16. 家族コミュニケーション／家族の絆とその変容
17. 組織コミュニケーション／企業におけるコミュニケーショ
ン
18. コミュニティとコミュニケーション(1) 地域生活のコミュ
ニケーション
19. コミュニティとコミュニケーション(2) 地域共同体からコ
ミュニティへ
20. コミュニティとコミュニケーション(3) ソーシャル・キャ
ピタルを考える
21. ネットワークとコミュニケーション
22. 教育・福祉とコミュニケーション
23. 集合行為とコミュニケーション(1) 世論の形成・うわさ
24. 集合行為とコミュニケーション(2) 社会を築くコミュニケ
ーション
25. 異文化コミュニケーション(1) 他者理解のための作法
26. 異文化コミュニケーション(2) コミュニケーションとジレン
マ
27. 事例検討(1) コミュニケーションを考える
28. 事例検討(2) コミュニケーション不全とその対応(1)
29. 事例検討(3) コミュニケーション不全とその対応(2)
30. まとめ—現代社会におけるコミュニケーション特性と諸課
題

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 期末課題：80% (2) 単元小課題：20%：授業内に課す小レポート課
題
- 期末試験は課さず、期末レポート課題と、および授業・単元の終
了ごとに課す小課題の得点を合計して評価する。

担当者：瀬名 浩一

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

〈内容〉 コミュニティ・ビジネスを創めるには、地域の個性や魅力を再発見し、ビジネスを通じて地域の問題を解決していく意思が不可欠である。 とくに厳しい状況におかれたコミュニティを復活させるためには社会起業が急務である。地域の個性や魅力を再発見し、行政に依存しがちな地域住民や企業の意識を変革し、ビジネスを通じて地域の価値を創造することが不可欠である。コミュニティ・ビジネスの現場を支える経営者など利害関係者には「誰をどのように助けるのか?」「利益をどう使うのか?」など地域経営の実情を聴き、将来諸君が「社会起業家」として独り立ちするために必要な準備について学んでいる。

2. 学びの意義と目標

まちづくり、環境農業、ファンドビジネス、再生可能エネルギー、鉄道輸送力、子供の学習支援、商店街再生など幅広い分野で活躍中の社会起業家の”なま”の話を聞ける。

受講生に対する要望

コミュニティ・ビジネス論、経営学を受講済み、または非営利組織の経営について関心がある者の受講を望む。

キーワード

(1)社会起業家 (2)自助 (3)相互扶助 (4)社会的目的 (5)公民連携 (PPP)

事前学習（予習）

授業計画のタイトルは、2013年に選ばれたものであり、2014年度は当然変わる。授業の初めに、前年度の講演録を配布するので、関連したテーマを予習し講演者への質問を準備しておくこと。

復習についての指示

講演の最後に出題される課題への回答書類（A4 1枚）は、翌週の授業終了時まで（1週間）に教員に提出しなければならない。

授業計画

1. アムステルダム自転車物語
2. 自転車安全走行のルールとマナー
3. 公共交通機関としての路面電車の意義
4. 電動アシスト自転車の開発
5. 蕨市におけるまちづくり連合会の働き
6. 商業施設設置義務駐輪場の整備
7. バス停留所付近の自転車走行帯
8. 公共交通から見た自転車走行の問題点
9. 動画で見るオランダのバス停留所と自転車走行帯
10. まちづくりから見た自転車の活用策
11. 秩父市のまちづくり
12. 川越市のまちづくり
13. 交通事故から見た自転車走行の安全対策
14. 駐輪場整備及び道路構造変更の財政負担
15. コミュニティ投資が創る環境・社会ビジネス

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)課題回答レポート:70%:講師による評価結果の集計 (2)出席回数:30%

コミュニティとフィールドワーク

SOCI-L-300

担当者：庄嶋 孝広

開設期：春学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

市民力：地域社会およびコミュニティ活動に関わる基礎知識

カリキュラム上の位置付け

コミュニティコース：応用科目

講義概要

1. 内容

フィールドワークは、社会調査の一つの方法です。社会学や文化人類学をはじめ様々な学問で活用されるとともに、ビジネスや非営利活動の現場でも有効な方法です。現地社会（コミュニティ）に入り、人々と関係を築きながら、生活を観察したり、話を聞いたり、行事に参加したりして、調査地や調査対象について理解を深めていきます。理論が現実をうまく説明できているかを確認できると同時に、現実をもとに新たな理論を構築していく楽しさがあります。本講義では、コミュニティ現場でのフィールドワーク演習を通じて、フィールドワークの基本を身につけます。

2. 学びの意義と目標

本講義で、フィールドワークの考え方と方法の基本を学ぶことで、卒業論文等で応用してください。また、フィールドワークは、まずもって他者に寄り添い、相手を理解しようとする方法です。社会人となって、他者と信頼関係を築きながら、よりよい職業生活、市民生活を送るうえでも、大いに役立つ作法といえます。

受講生に対する要望

頭も身体もたくさん動かしますので、気力と体力だけは必要ですが、みんなで一緒に楽しく、和気あいあいと行いましょう。

キーワード

(1) 社会調査 (2) コミュニティ (3) フィールドワーク (4) 聴き取り (5) 参与観察

事前学習（予習）

集中講義のため、前日に行ったことをおさらいして臨んでください。

復習についての指示

集中講義のため、作業に遅れがあれば、各自で追いつくようにしてください。

授業計画

1. フィールドワークとは何か？
2. フィールドワークの方法、インタビュー練習
3. 調査地の紹介と事前準備
4. 現地調査・第1日 － ガイドによる調査地案内
5. 現地調査・第1日（つづき） － 1日目のまとめ
6. 現地調査・第2日 － 自由見学
7. 現地調査・第2日（つづき） － 調査項目の整理
8. 現地調査・第2日（つづき） － 聴き取り
9. 現地調査・第2日（つづき） － 参与観察
10. 現地調査・第2日（つづき） － 2日目のまとめ
11. 調査のまとめ
12. レポート作成
13. レポート作成（つづき）
14. グループ発表準備
15. グループ発表

教科書

プリントを配布する
参考文献 佐藤郁哉『フィールドワーク 書を持って街へ出よう』（新曜社）

評価方法

(1) レポート:25% (2) グループ発表:25% (3) 授業態度:25% (4) 出欠:25%

担当者：鈴木 省吾

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

Microsoft Excelの高度な操作法を学ぶ。基礎的な内容の復習からはじめ、Excelの機能を最大限に生かす使い方を習得する。

2. 学びの意義と目標

Excelの基本的な操作を既に学んだ学生が、より有効かつ幅広くExcelを使うために必要となる操作法を学ぶ。単なる表計算を超え、統計処理や文書作成が行えるようにする。社会での実用に耐えうるExcelの操作能力を身につける。

受講生に対する要望

継続的に実習に参加し、PGIになれることが最大の目的である。そのため、出席が必須であるばかりでなく、毎週の課題を完成させ提出することが必要となる。授業では、わからないことを分からないままにしないように、教師への質問は当然歓迎するが、学生間での教えあい、学びあいも推奨している。積極的に周りに話しかけ、授業で最大の成果を得てほしい。

キーワード

(1)実習課題の完成 (2)Excelへの精通 (3)教えあい (4)積極的な参加

事前学習（予習）

授業で出された課題の反復練習。

復習についての指示

実習授業なので、実際に授業内で課題を完成させることが重要となるが、課題ごとの内容は、次の週からの前提になるので、復習を必ず行うこと。

授業計画

1. Excelの概要／データの入力
2. 表の作成・編集・印刷
3. グラフの作成
4. Excel関数
5. ワークシートの活用
6. データベース機能の利用
7. ピボットテーブル
8. マクロの作成
9. Excel VBAプログラミングの基礎
10. Excel VBAプログラミング 1
11. Excel VBAプログラミング 2
12. Excel VBAプログラミング 3
13. 統計処理
14. 文書作成
15. 資料処理

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)課題:100%:毎週出る課題を完成度と作成時間によって評価する。

出席は評価割合には含まないが、5回の欠席で不合格、遅刻は15分までとし以後は欠席扱い、3回の遅刻で欠席とする。

担当者：二神 常爾

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

ノートパソコンを用いての実習により、メール、ブログ、SNS、ツイッターなどの様々なコミュニケーション・ツールを利用してコミュニケーションを行い、それぞれの特徴を理解する。また、グーグルは、近年ネット上で文書ファイルや表計算ファイルや予定表や写真を共有するサービスを提供している。グーグルはネット上で音声通話やチャットを行うサービスも提供している。グーグルが提供しているこの種のサービスを利用して、ネット上でのファイルの共有を行う。授業では1回の授業ごとに1つのテーマについて学習する。毎回プリントを配布する。教師はプロジェクトを用いてデモを行い、各人は教師のデモとプリントに従って、ノートパソコンの操作を行う。各人は二人一組になってメッセージのやり取りやファイルの共有を行う。質問は随時受け付ける。また、授業内容について理解を深めるために、授業時間内に行う課題を出題する。

2. 学びの意義と目標

インターネットやコンピュータ技術の発達とともに、メール、ブログ、ツイッター、SNSなど様々なコミュニケーション・ツールが出現し、多くの人に利用されている。これらのツールの多くは、情報の送り手だけでなく、情報の受け手も情報を発信できる双方向の特徴を持つ。双方向性は便宜性をもたらす一方で、一度発信した情報は回収できないことから、様々な問題が起きている。ルールを守りつつ、これらのツールを使いこなすことは現代社会に生きる我々にとって必要不可欠である。授業ではこれらのツールを実際に利用し、その特徴を習得することを目標とし、ネットについて学習する。また、グーグルはインターネット上で様々なファイルを共有できるサービスを提供している。これらのサービスを利用すれば、従来のメールにファイルを添付して情報をやり取りするという手間を省くことができる。これらのサービスについても学ぶ。

受講生に対する要望

遅刻・欠席をしないこと。

キーワード

(1)Gメール (2) ブログ (3) ツイッター (4) グーグル (5) インターネット

事前学習（予習）

オンラインシラバスで授業内容を事前に確認し、参考書があれば該当箇所を読んでおくこと

復習についての指示

授業前に授業で使うファイルを自分のUSBメモリにコピーして、帰宅してからプリントを見ながら、授業で行った手順を復習すること。

授業計画

1. ガイダンス
2. Gメールのアカウントを取得する
3. メールを送受信を行う
4. ネット上のワープロソフトを利用する
5. ネット上の表計算ソフトを利用する
6. グーグル・カレンダーで予定を共有する
7. グーグル・ピカサで画像ファイルを共有する
8. グーグル・トークで音声通話やチャットを行う
9. ブログで新しい記事を書く
10. ブログでコメントを書く
11. ツイッターでツイートを投稿する、フォロワーになる
12. ツイッターでリスト、ダイレクトメッセージを利用する
13. グーグル・プラス（SNS）を利用する（1）
14. グーグル・プラス（SNS）を利用する（2）
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)出席:30% (2)授業中の課題:35% (3)期末試験:35%

担当者：二神 常爾

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

ノートパソコンを用いた実習を通して、デジタルカメラで撮影した静止画像や動画画像をノートパソコンで編集したり、編集した画像をCDやDVDに書き込む方法について学ぶ。また、自分の音声や音楽CDをこれらの記憶メディアに書き込む方法についても学ぶ。写真の画像や動画画像を編集するソフトにより、パソコン上で写真の明るさ、コントラストを調整したり、トリミングをしたり、縮小する。また、動画画像を短くしたり、動画画像にテキストや音声を挿入する。複数枚の写真を一定の時間間隔で連続して表示するスライドショーを作成する方法も学ぶ。また、イラストや文字などの静止画像を複数枚作成し、一定の時間間隔で表示させ、簡単なアニメーションを作ることも学ぶ。タグを使って速く画像を検索する方法についても学ぶ。授業では1回の授業ごとに1つのテーマについて学習する。毎回プリントを配布する。教師はプロジェクターを用いてデモを行い、各人は教師のデモとプリントに従って、ノートパソコンの操作を行う。質問は随時受け付ける。また、授業内容について理解を深めるために、授業時間内に行う課題を出題する。

2. 学びの意義と目標

デジタル技術の進歩とともに、静止画像や動画画像を記憶する記憶メディアは日進月歩のスピードで大容量になっている。これらの記憶メディアを利用すれば、高精細な画像を再生することが可能である。静止画像や動画画像などの記憶メディアとして、CD、DVD、BD（ブルーレイ・ディスク）などの光ディスクがある。授業では、デジタルカメラにより写真や動画を撮影し、CDやDVDに画像を取り込む方法を学ぶことを通して、マルチメディアに関する基本技術を得得することを目標とする。このような技術は、情報化が急速に進む社会の様々な局面で今後ますます重要になると思われる。これからの社会人にとって必須の技術である。また、スマートフォンなど最新のデジタル機器に付属しているデジタルカメラで撮影した画像をパソコンに取り込んで自分で編集する方法を得得ていれば、画像をブログ、SNS、ホームページなどにアップロードすることも容易にできるであろう。

受講生に対する要望

遅刻・欠席をしないこと。

キーワード

(1) マルチメディア (2) 画像編集 (3) CD (4) DVD (5) デジタルカメラ

事前学習（予習）

オンラインシラバスで授業内容を事前に確認し、参考書があれば該当箇所を読んでおくこと

復習についての指示

授業前に授業で使うファイルを自分のUSBメモリにコピーして、帰宅してからプリントを見ながら、授業で行った手順を復習すること。

授業計画

1. ガイダンス
2. ウィンドウズ・ライブ・フォトギャラリーで静止画像を編集する
3. デジタルカメラで静止画像を撮影し、コンピュータに取り込む
4. 音楽CDを空のCD-Rに書き込む（焼く）
5. 自分の音声をCD-Rに書き込む
6. ウィンドウズ・ライブ・ムービーメーカーで動画画像を編集する
7. デジタルカメラで動画画像を撮影し、コンピュータに取り込む
8. 動画画像にテキストや音声を挿入し、DVD-Rに書き込む
9. 静止画像をもとにスライドショーを作成し、DVD-Rに書き込む
10. パワーポイントで動画を再生する
11. アニメーションGIFで動画を作成する(1)
12. アニメーションGIFで動画を作成する(2)
13. ウィンドウズ・ライブ・フォトギャラリーで画像の検索を行う
14. グーグル・ピカサでコラージュ画像を作成する
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 出席:30% (2) 授業中の課題:35% (3) 期末試験:35%

担当者：大塚 健司

開設期：秋学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

(1) 内容 本講座では、国の制度や施策と地方分権（地域主権）と言われながらも、地方自治体としての埼玉県が、その狭間で各分野において、どのように政策決定してきたか、またますます厳しさを増す財政状況のなかでどう政策展開を図るべきなのか、具体的なケース 事例等を通して、実践的な視点から埼玉県を研究対象にし、問題解決の糸口を探すことを狙いとしている。なお、本講座では、県及び市町村等から講師を招くオムニバス方式で実施する。(2) カリキュラム上の位置づけ 行政系統の専門科目で大学院開設科目である。なお、事業計画は講師の都合により変更することを予め了解ください。

2. 学びの意義と目標

地方行政がどう動いているか、行政を担当している人達等に來てもらい基本的なことから、実践的なことまで学ぶ。

受講生に対する要望

国の動向、それに対する地方自治体の動きなど新聞記事を読んでおくこと。「統計からみた埼玉県のすがた」を読んでおくこと。

キーワード

(1) 少子・高齢社会 (2) 中央集権、地方分権、県の財政構造 (3) 土地政策、環境政策、福祉政策 (4) 農林業政策、労働商工政策 (5) NPO法人

事前学習（予習）

「統計からみた埼玉県のすがた」（編集・発行／埼玉県総務部統計課）を事前に読むこと。

復習についての指示

配布した資料を良く読むこと。

授業計画

1. 埼玉県の現状と自治体を取り巻く状況の変化
2. 埼玉県の財政構造、仕組み
3. 埼玉県の財政構造、仕組み
4. 土地政策（見沼田圃の保全と活用）
5. 土地政策（見沼田圃の保全と活用）
6. 環境政策（リサイクルと廃棄物問題）
7. 環境政策（リサイクルと廃棄物問題）
8. 少子・高齢社会への対応
9. 少子・高齢社会への対応
10. 農業政策
11. 農業政策
12. 労働商工政策
13. 労働商工政策
14. 地域福祉（福祉のまちづくり）
15. 理解度の確認

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1) 毎回のレポート：100%

担当者：正上 常雄

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

目的 財政は我々の税金にかかわる事柄です。我々はなぜ税金を納めなくてはならないのか、財政は何に使われているのか、財政赤字があると何が起きるのかなど、様々な疑問があると思います。我々にとって身近なようでよくわからない財政、新聞では、ギリシャの財政危機とか日本の税と社会保障の一体改革など財政にまつわる様々なトピックが取り上げられています。現実を理解するには、財政の仕組みと本質を理解しなくてはなりません。

2. 学びの意義と目標

この授業ではわかりやすいテキストを使って財政を基礎から学んでいこうと思います。教科書に書いてあることを学ぶだけでなく、現在の財政に関する現実の問題についても色々と議論してみたいと思います。 財政学は公務員試験などでも出題されますので、過去問題などを使いながら、どのような形で出題されているのかも学びます。

受講生に対する要望

授業中の私語は厳禁です。それ以外のルールは、最初の授業で相談して決めます。

キーワード

(1)財政民主主義 (2)租税 (3)公共政策

事前学習（予習）

教科書は初心者向けのやさしいものを選びましたが、もっと詳しい財政についての知識も授業で補完していくつもりです。難しい話はちょっと苦手という人も、まずは教科書を一読してみてください。

復習についての指示

授業では教科書に書かれていることだけでなく、公務員試験などにも対応できるように、専門用語の解説なども行うので、ノートやプリントでしっかり復習して下さい。

授業計画

1. 財政学とは
2. 財政の範囲と規模
3. 財政の3機能
4. 予算と何か
5. 公共財とは
6. 公共財の政治的な選択
7. 国と地方自治体の公共財の供給
8. 地方分権と公共財の供給
9. 社会資本
10. 租税のあり方
11. 税負担の公平
12. 課税の経済効果
13. 租税の帰着
14. 租税による所得再分配
15. 租税体系
16. 累進税と逆進税
17. 所得課税
18. 消費課税
19. 法人課税
20. 公債とは
21. 財政の持続可能性
22. 公債の負担
23. 地方財政の役割
24. 地方財政の資金の流れ
25. 地方交付税
26. 社会保障とは
27. 公的年金
28. 医療保険と介護保険
29. 生活保護
30. 少子高齢化の進展

教科書

上村 敏之 『コンパクト 財政学 第2版』（新世社）

評価方法

(1)中間試験:40% (2)期末試験:40% (3)平常点:20%

大学の規定に従い、出席率60%以上を単位取得の条件とします。基本的に中間試験と期末試験で評価します。

自然地理学概説

TEAT-L-100

担当者：秋山 秀一

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目

講義概要

1. 内容

世界の各地ではいろいろな人々が生活基盤となるその土地の自然環境を理解し、土地に根ざして工夫しながら暮らしています。この授業では、日本、アメリカ、そしてスイスを中心としたヨーロッパ諸国における自然を自然地理学の視点から具体的に取り上げ、学びます。

2. 学びの意義と目標

自然地理学の知識を身につけることは、とても大切なことであり、国際理解度を高めることにも大きく寄与します。そのことは卒業後どのような仕事に就こうと、意義があり重要なことです。実際に海外でのフィールドワークを通して得た自然地理の映像、資料、それに書籍、雑誌、テレビ・ラジオ等のメディアとのかかわりの中から、具体的な話をしていきます。

受講生に対する要望

日頃から自然を意識する人、関心がある人、大好きな人、また、自然を観る目を学び身につけたいと考えたことのある人、そんな人たちの受講を望みます。

キーワード

(1) 国立公園 (2) 水と暮らし (3) 地震 (4) 温泉 (5) ハザードマップ

事前学習（予習）

授業内容に関する復習の小レポート、テキストの次回の授業に関する項目を予習し、関連する情報を集めておくこと。

復習についての指示

配布プリント、テキストの中で授業中に解説したところを再読し、各トピックについて次回までに説明できるようにすること。

授業計画

1. 導入
2. 地形図を読む
3. 地形を読む
4. 自然地理学と暮らし
5. 地震と暮らし
6. 日本の温泉
7. 世界の温泉①
8. 世界の温泉②
9. 海岸の地形
10. 砂漠
11. スイスの自然①
12. スイスの自然②
13. 世界の自然遺産①
14. 世界の自然遺産②
15. まとめ

教科書

秋山 秀一 『スイス道紀行』（芦書房）

評価方法

(1) 日頃の授業への貢献度：30% (2) 出席状況：30% (3) 小レポート、それにまとめとしてのレポート：40%

担当者：横山 寿世理

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：公民必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目、
社会福祉主事任用資格：選択科目

講義概要

1. 内容

1. 内容 教科書、雑誌や新聞の記事、ドキュメンタリー番組を補足資料として用いながら、社会学を広く概観する。講義内容を板書でまとめる形で講義を展開する。また、講義内容の定着を図るため、簡単なコメント・シートの提出を課す。2. カリキュラム上の位置づけ この授業は1～4年次の全学年が履修することができる。政治経済学科の学生にとっては専門科目であり、特に地域共生コースの習得を目指す学生にとっては必修科目となる。また、政治経済学科以外の学生にとっては、教養科目となる。

2. 学びの意義と目標

この講義は、社会学的な視点を身につけることを目標とする。社会学的な視点とは、社会において起きている現象を個人的な問題ではなく、「社会問題」として認識する能力である。良い／悪いといった判断から離れて、常識を疑うという姿勢を身につければ、普段意識されない「社会」「社会の仕組み」を受講者自身が実感できるようになるだろう。

受講生に対する要望

講義で紹介されるいろいろなドキュメンタリーや新聞記事などの具体的な社会問題を、どういった教科書に記載されている理論に結びつけられるかを意識して参加して欲しい。また、教科書を授業内でも使用するので、準備して欲しい。

キーワード

(1)社会学概論 (2)社会 (3)個人 (4)人間関係 (5)コミュニケーション

事前学習（予習）

授業前の予習として、教科書の該当箇所を読んでおくこと。

復習についての指示

講義の板書ノートを見直し・作り直すという復習作業を絶えず行うことを勧める。

授業計画

1. 社会学的な視点: 予言の自己成就
2. 教育社会学 (1)
3. 教育社会学 (2)
4. 産業社会学 (1)
5. 産業社会学 (2)
6. 階級・階層の社会学 (1)
7. 階級・階層の社会学 (2)
8. メディアの社会学 (1)
9. メディアの社会学 (2)
10. 地域の社会学
11. 都市の社会学
12. 社会調査論 (1)
13. 社会調査論 (2)
14. 社会調査論 (3)
15. 家族社会学 (1)
16. 家族社会学 (2)
17. 家族社会学 (3)
18. ジェンダーの社会学
19. セクシュアリティの社会学
20. 行為論
21. 相互行為論
22. アイデンティティの社会学 (1)
23. アイデンティティの社会学 (2)
24. アイデンティティの社会学 (3)
25. 歴史の社会学: マルクス
26. 歴史の社会学 (1) : ヴェーバー
27. 歴史の社会学 (2) : ヴェーバー
28. 記憶の社会学
29. 理論社会学
30. まとめ

教科書

宇都宮 京子 『よくわかる社会学 (やわからかアカデミズム・わかるシリーズ) (第二版)』 (ミネルヴァ書房)

評価方法

(1) 期末試験: 40% (2) 講義内課題: 60%: 各テーマごとにコメントの提出を課す。

担当者：新倉 貴仁

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：公民必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目、
社会福祉主事任用資格：選択科目

講義概要

1. 内容

社会学は、私たちが生きる社会を考える学問です。本講義では、受講者が置かれた状況を考えることから始めます。すなわち、大学といった制度、学生という身分、書物というメディアについて考え、社会学を学ぶための準備をおこなっていきます。そのうえで、第二に、社会学の思考の系譜を学び、その思考に込められた方法と、それぞれの思考が生み出された背景となる社会について考察していきます（学説史）。第三に、現代社会におけるさまざまな社会学の主題群を扱っていきます（概論）。

2. 学びの意義と目標

社会学の概要を把握するとともに、社会学的想像力を養う。大学で学ぶために必要な、読む、考える、書くといった能力を磨く。近現代史の基礎的な知識を学ぶ。

受講生に対する要望

読む、考える、書くという行為を重視する。習得の状況を確認するため、毎週、小テストを課す。講義を通じて、社会学に関連する文献を読み、その書評レポートを課題とする。積極的な参加を望む。

キーワード

(1)近代社会 (2)現代社会 (3)文化 (4)資本主義 (5)都市と共同体

事前学習（予習）

適宜、資料を配布するので、読んでおくこと

復習についての指示

配布したレジュメの内容を確認し、講義での要点について、それぞれ整理しておくこと

授業計画

1. イントロダクション
2. 社会とはいふけれども
3. 大学とはいふ制度か
4. 学生とはいふ存在か
5. 社会学学説史（1） 世俗化と近代社会
6. 社会学学説史（2） 社会学の成立
7. 社会学学説史（3） 産業社会
8. 社会学学説史（4） マルクス
9. 社会学学説史（5） ブルジョワジーの経験
10. 社会学学説史（6） デュルケムとヴェーバー
11. 社会学学説史（7） 第一次世界大戦
12. 社会学学説史（8） 文化社会学と知識社会学
13. 社会学学説史（9） 移民と大衆
14. 社会学学説史（10） 都市社会学
15. 社会学学説史（11） 第二次世界大戦
16. 社会学学説史（12） 現代社会と社会学
17. 人びとの群れ——都市
18. 人びとの群れ——共同体
19. つながりのかたち——知と権力
20. つながりのかたち——複製技術とメディア
21. 生の様式——家庭と家族
22. 生の様式——ジェンダー
23. 生きること——生と死
24. 生きること——自由と所与
25. 現代社会——消費社会
26. 現代社会——グローバル化
27. ミドルクラス——余暇・娯楽・観光
28. ミドルクラス——スポーツ
29. 試験
30. 総括討論、レポート講評

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:40% (2)レポート:30% (3)試験:30%

出席点は、20点を基礎とし、残り20点について、各コマで指示する課題の内容や小テストによって、加点する。

社会学

SOCI-0-101

担当者：新津 尚子

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：公民必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目、
社会福祉主事任用資格：選択科目

講義概要

1. 内容

この講義は「家族」「地域」「ジェンダー」などについて、社会的に学ぶことを目的とする。また後半（19回目以降）は社会学の歴史についても学ぶ。授業では教科書を用いて講義を行うほか、関連する資料を読んだディスカッションや小レポート作成など、履修者が自分自身で考える機会を設け、確実に知識を身につけることを目指す。

2. 学びの意義と目標

この講義の目標は、毎回の授業を通じて「社会的な思考を身につける」ことにある。この思考を身につけることによって、「個人的」と思われる問題の中にある社会的な要素や、「社会的」と思われる問題の中にある個人的な要素を理解できるようになる。これにより将来、履修者がさまざまな問題に直面した際、その問題を多角的に考えられるようになるだろう。

受講生に対する要望

私たちを取り囲む身近な「社会」に関心がある者の受講を望む。

キーワード

(1)家族 (2)地域 (3)メディア (4)ジェンダー (5)階層

事前学習（予習）

予習として教科書の当該箇所を読み、概要をつかんでおくこと。

復習についての指示

復習として教科書と講義ノートを見直すこと。不明な点があれば自分で調べたり、質問するなどして解決すること。

授業計画

1. 社会学とは何か（1）
2. 社会学とは何か（2）
3. 家族社会学（1）
4. 家族社会学（2）
5. 地域社会学（1）
6. 地域社会学（2）
7. メディア社会学（1）
8. メディア社会学（2）
9. 階級・階層と社会（1）
10. 階級・階層と社会（2）
11. アイデンティティと社会（1）
12. アイデンティティと社会（2）
13. ジェンダーと社会（1）
14. ジェンダーと社会（2）
15. 国際社会（1）
16. 国際社会（2）
17. 社会運動（1）
18. 社会運動（2）
19. 社会学の歴史とさまざまな研究：社会学の始まり（1）
20. 社会学の歴史とさまざまな研究：社会学の始まり（2）
21. 社会学の歴史とさまざまな研究：デュルケム（1）
22. 社会学の歴史とさまざまな研究：デュルケム（2）
23. 社会学の歴史とさまざまな研究：ヴェーバー（1）
24. 社会学の歴史とさまざまな研究：ヴェーバー（2）
25. 社会学の歴史とさまざまな研究：マートン
26. 社会学の歴史とさまざまな研究：パーソンズ
27. 社会学の歴史とさまざまな研究：シュッツ
28. 社会学の歴史とさまざまな研究：ブルデュー
29. 社会学的想像力
30. まとめ

教科書

宇都宮京子編 『よくわかる社会学』（ミネルヴァ書房）

評価方法

(1)出席:30% (2)講義内に課す提出物など:30% (3)学期末試験:40%

担当者：加藤 敦也

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：公民必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目、
社会福祉主事任用資格：選択科目

講義概要

1. 内容

本講義は社会問題を解釈するための方法論ないし理論枠組みとしての社会学の内容を概観していく。授業では、教科書の内容を、雑誌記事や、テレビドラマ、映画、ニュース番組などの映像を補助資料として用い、日常生活における身近な現象がいかに社会学のテーマとして取り上げられ、どのように社会学の対象領域として説明されるかについて解説していく。また、授業中にテーマに応じて小レポート作成やディスカッションを課すことで、社会学の取り扱う問題を自ら考えることを促す。

2. 学びの意義と目標

受講者自身が社会問題を解釈する認知枠組みとして社会的な視点を身につけてもらうことを目標とする。受講者各自はそれぞれ成長してきた過程で問題を解釈する認知の枠組みを身につけてきたはずである。本講義は、その認知のあり方を一つの価値観と見なしながら、その価値観に従うだけでなく、ものごとを社会通念にとらわれず、社会的に理解するための基礎的な知識を身につけてもらいたいと思っている。

受講生に対する要望

他の受講者に迷惑のかかる行為は謹んでほしい。例えば私語厳禁。

キーワード

(1)社会学

事前学習（予習）

授業前の予習としては教科書の該当箇所を読んでおくことが望ましい。

復習についての指示

授業後の復習としては講義をまとめた自筆ノート教科書とあわせて見直すことをすすめる。

授業計画

1. 社会学とは何か（1）
2. 社会学とは何か（2）
3. 社会調査の方法
4. 家族社会学（1）
5. 家族社会学（2）
6. 家族社会学（3）
7. 地域社会学（1）
8. 地域社会学（2）
9. メディア社会学（1）
10. メディア社会学（2）
11. 階級・階層の社会学（1）
12. 階級・階層の社会学（2）
13. アイデンティティと社会学（1）
14. アイデンティティと社会学（2）
15. ジェンダーの社会学（1）
16. ジェンダーの社会学（2）
17. セクシュアリティの社会学
18. エスニシティの社会学
19. 社会運動の社会学（1）
20. 社会運動の社会学（2）
21. 教育社会学（1）
22. 教育社会学（2）
23. 政治社会学
24. 相互行為論、社会構築主義
25. 社会学の歴史：ヴェーバーとデュルケム
26. ヨーロッパの現代：ルーマン、ギデンズ、ブルデュー
27. 日本の社会学史：意味社会学と統合理論
28. 近代と脱近代（1）
29. 近代と脱近代（2）
30. 社会学のまとめ

教科書

宇都宮京子 『よくわかる社会学（第2版）』（ミネルヴァ書房）

評価方法

(1)出席:30% (2)小レポート:30%:授業中に課す (3)定期試験:40%

担当者：安斎 聡子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

社会教育主事資格：選択必修科目

講義概要

1. 内容

この授業では、生涯学習支援のための社会教育施設を概観した上で、各施設における活動や運営における課題について把握する。

2. 学びの意義と目標

社会教育主事任用資格取得を目指す受講生においては、社会教育主事の職務上必要となる事項を身につけることを目標とする。
すべての受講生においては、社会教育をめぐる現状を把握し、それらの諸問題について自ら考えられるようになることを目標とする。

受講生に対する要望

授業の一部にグループ討議などを取り入れるので、積極的な参加を希望する。

キーワード

(1)生涯学習 (2)社会教育

事前学習（予習）

受講前の予備知識は特に問わないが、各回授業の範囲の教科書該当ページに目を通し、概要と不明点を確認しておくこと。

復習についての指示

各回の授業内容と、教育・学習活動に関する自分の経験を結びつけて理解を深めること。

授業計画

1. ガイダンス
2. 社会教育における施設の体系
3. 社会教育における施設の作られ方
4. 社会教育における施設（1）
5. 社会教育における施設（2）
6. 社会教育における施設（3）
7. 社会教育における施設（4）
8. 社会教育における施設（5）
9. 社会教育における施設（6）
10. 社会教育における施設（7）
11. 社会教育における施設（8）
12. 社会教育施設をめぐる環境（1）
13. 社会教育施設をめぐる環境（2）
14. 社会教育施設をめぐる環境（3）
15. まとめ

教科書

鈴木 真理、守井 典子 『生涯学習の計画・施設論（シリーズ・生涯学習社会における社会教育）』（学文社）

評価方法

(1)授業内応答:40% (2)期末試験:60%

担当者：安斎 聡子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

社会教育主事資格：選択必修科目

講義概要

1. 内容

春学期の「社会教育課題研究A」をふまえ、社会教育施設における学習機会とそれぞれの特徴、課題を整理する。また、それらの具体的な活動について、受講者自身で資料収集、現地見学等を行い報告をしてもらう。

2. 学びの意義と目標

社会教育主事任用資格取得を目指す受講生においては、社会教育主事の職務上必要となる事項を身につけることを目標とする。
すべての受講生においては、社会教育をめぐる現状を把握し、それらの諸問題について自ら考えられるようになることを目標とする。

受講生に対する要望

受講者自身がそれぞれの視点で社会教育施設における学習機会を確認するとともに、自らの学習・教育活動の経験とあわせて、各施設で展開されている活動の意義を考えられるようになることを希望する。

キーワード

(1)生涯学習 (2)社会教育

事前学習（予習）

受講前の予備知識は特に問わない。授業内報告にあたり、事前に資料収集や現地見学を行い発表内容をまとめること（具体的な方法については授業内で説明する）。

復習についての指示

各回の授業内容と、教育・学習活動に関する自分の経験を結びつけて理解を深めること。

授業計画

1. 前期のまとめと後期のガイダンス
2. 社会教育施設における学習機会（1）
3. 社会教育施設における学習機会（2）
4. 社会教育施設における学習機会（3）
5. 社会教育施設における学習機会（4）
6. 社会教育施設における学習機会（5）
7. 授業内報告（1）
8. 授業内報告（2）
9. 授業内報告（3）
10. 授業内報告（4）
11. 授業内報告（5）
12. 授業内報告（6）
13. 授業内報告（7）
14. 授業内報告（8）
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)授業内応答:10% (2)授業内報告:40%:原則1人1回の報告とする。(3)期末試験:50%:15回目の授業内で実施する。
出席を前提とする。

社会教育計画 A

ADED-L-200

担当者：安斎 聡子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

社会教育主事資格：必修科目

講義概要

1. 内容

この授業では、秋学期の「社会教育計画B」とあわせて、社会教育計画に関する基本的な事項を解説する。社会教育の基本的な理解、社会教育行政の仕組みや施策の現状に関する理解など、社会教育計画に関するさまざまな事項を見ていくこととする。

2. 学びの意義と目標

社会教育主事任用資格取得を目指す受講生においては、社会教育計画の策定にあたり、必要となる事項を身につけることを目標とする。すべての受講生においては、社会教育計画に関する基本事項を理解するとともに、社会教育をめぐる諸問題について自ら考えられるようになることを目標とする。

受講生に対する要望

授業の一部にグループ討議などを取り入れるので、積極的な参加を希望する。

キーワード

(1)生涯学習 (2)社会教育

事前学習（予習）

受講前の予備知識は特に問わないが、各回授業の範囲の教科書該当ページに目を通し、概要と不明点を確認しておくこと。

復習についての指示

各回の授業内容と、教育・学習活動に関する自分の経験を結びつけて理解を深めること。

授業計画

1. ガイダンス
2. 社会教育の概念
3. 社会教育計画の概念（1）
4. 社会教育計画の概念（1）
5. 社会教育における地域
6. 社会教育における施設
7. 社会教育における集団（1）
8. 社会教育における集団（2）
9. 社会教育におけるボランティア（1）
10. 社会教育におけるボランティア（2）
11. 社会教育における参加（1）
12. 社会教育における参加（2）
13. 社会教育における学習プログラム（1）
14. 社会教育における学習プログラム（2）
15. まとめ

教科書

鈴木 真理, 熊谷 慎之輔, 山本 珠美 『社会教育計画の基礎』（学文社）
各回の授業内容と、教育・学習活動に関する自分の経験を結びつけて理解を深めること。

評価方法

(1)授業内応答:40% (2)期末試験:60%:15回目の授業内で実施する。

社会教育計画B

ADED-L-200

担当者：安斎 聡子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

社会教育主事資格：必修科目

講義概要

1. 内容

この授業では、春学期の「社会教育計画A」とあわせて、社会教育計画に関する基本的な事項を解説する。社会教育の基本的な理解、社会教育行政の仕組みや施策の現状に関する理解など、社会教育計画に関するさまざまな事項を見ていくこととする。

2. 学びの意義と目標

社会教育主事任用資格取得を目指す受講生においては、社会教育計画の策定にあたり、必要となる事項を身につけることを目標とする。すべての受講生においては、社会教育計画に関する基本事項を理解するとともに、社会教育をめぐる諸問題について自ら考えられるようになることを目標とする。

受講生に対する要望

授業の一部にグループ討議などを取り入れるので、積極的な参加を希望する。

キーワード

(1)生涯学習 (2)社会教育

事前学習（予習）

受講前の予備知識は特に問わないが、各回授業の範囲の教科書該当ページに目を通し、概要と不明点を確認しておくこと。

復習についての指示

各回の授業内容と、学習・教育活動に関する自分の経験を結びつけて理解を深めること。

授業計画

1. 社会教育における学習者（1）
2. 社会教育における学習者（2）
3. 社会教育における学習支援（1）
4. 社会教育における学習支援（2）
5. 社会教育における学習情報
6. 社会教育における大学
7. 社会教育における連携（1）
8. 社会教育における連携（2）
9. 社会教育における評価（1）
10. 社会教育における評価（2）
11. 社会教育行政の変遷
12. 社会教育計画をめぐる課題（1）
13. 社会教育計画をめぐる課題（2）
14. 社会教育計画をめぐる課題（3）
15. まとめ

教科書

鈴木 真理, 熊谷 慎之輔, 山本 珠美 『社会教育計画の基礎』（学文社）

評価方法

(1)授業内応答:40% (2)期末試験:60%:15回目の授業内で実施する。

社会経済論

ECON-L-300

担当者：正上 常雄

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

マイケル・サンデルは『それをお金で買いますか 市場主義の限界』の中で、全てが市場に支配される現代社会を批判する。市場原理を基礎とする経済学に対する風当たりは非常に強い。経済学的な思考は、道徳的、倫理的な考え方と異なることが多く、多くの人々から非道徳的と非難される。なぜ、経済学は非道徳的な結論を述べるのか、それを知るためには経済学が社会問題について、どのようにアプローチし、それは道徳的なアプローチとどのように異なるのかを知らなければならない。そこで、経済学が社会問題をどのように捉えているのかを通じて、経済学的な思考の可能性と限界を考えるのが社会経済論である。教科書には、挑戦的な意味を込めて、『人でなしの経済理論』を選んだ。経済理論を述べると、なぜか人でなしと呼ばれる理由を考えてみよう。

2. 学びの意義と目標

お金で買えないものがあるのは当然である。だが、なぜ、お金で買えないのか、そのことについて考えてみる機会が少ない。また、医療や介護などについては市場で取引すべきでないという主張も多い。だが、そう主張する人々も、市場を使わないなら、どのように供給し、分配するのか真剣に考察してはいない。経済学的な思考は全てではない。市場には限界があるし、決して良いものではない。だが、それは民主主義と同じである。チャーチルは「民主主義は最悪の政治といえる。これまで試みられてきた、民主主義以外の全ての政治体制を除けばだが」と述べたが、それは市場にも当てはまる。「市場は最悪の経済システムといえる。これまで試みられてきた、市場以外の全ての経済システムを除けばだが」と言えるだろう。市場を絶対視はしないが、市場以外の方法でうまくいかないことも考えつつ、どうすれば、市場をうまく利用できるのか、それを考えるためには、経済学が社会問題をどのように捉えているのかをきちんと理解する必要がある。経済学は社会問題をどのように考察するのかを通じて、経済的思考の特徴と限界を知ることが本講義の目標である。

受講生に対する要望

授業中の私語は厳禁です。その他の授業中のルールについては、最初の授業で相談して決めます。

キーワード

(1)トレードオフ (2)道徳 (3)市場

事前学習（予習）

予習としては、教科書の内容を一読しておいて下さい。細かいことは初回の授業で学生の皆さんと相談して決めます。

復習についての指示

復習は、ノートやプリントなどを活用して、自分が理解できている点や理解できていない点をきちんと整理して、次回の授業に活かしてください。

授業計画

1. 市場と道徳
2. すべてが売り物
3. 市場の役割を考え直す
4. 社会問題へのアプローチ
5. 人命の価値っていかほど？1
6. 人命の価値っていかほど？2
7. 費用便益分析と道徳
8. 取引しようか？1
9. 取引しようか？2
10. 臓器売買は何故禁止されるのか
11. お前のものは俺のもの1
12. お前のものは俺のもの2
13. 知的所有権の保護について
14. 中間試験
15. 持っているなら吸ってはいかが？
16. 喫煙の経済学
17. 選択の自由とパターナリズム
18. 人に迷惑をかけるいとは？
19. 社会的な損得勘定
20. コースの定理と道徳
21. 規制と行動の変化
22. 規制の必要性和規制の失敗
23. 規制とは何か
24. 警告—製品に注意
25. 訴訟社会の功罪
26. 責任は誰に
27. 警告の生み出すもの
28. 解決策などない
29. 社会的問題に対する視点の違い
30. トレードオフとは

教科書

ハロルド・ウィンター、山形浩生 『人でなしの経済理論-トレードオフの経済学』（バジリコ）

評価方法

(1)中間試験:40% (2)期末試験:40% (3)平常点:20%

大学の規定に従い、出席率2/3以上を単位取得の条件としてます。基本的には中間試験と期末試験の成績で評価します。

担当者：土方 透

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

社会とはいかなるものか。それは個人といかなる関係にあるか。本講義では、社会を定式化する諸説の紹介とともに、それらを可能にする学問的基盤を反省的に問う。さらに、このようにして定式化された見地によって、アクチュアルな問題がいかに取り扱われるか、現実の社会問題に言及しつつ、その様態を描出する。問題意識を「わがものとする」ための映像資料など多く用いる予定。

2. 学びの意義と目標

受講生の批判的推察力と、自ら社会を構成する主体としての意識を惹起したい。

受講生に対する要望

講義で展開される議論を、他人事として理解せず、自分の問題として理解できるよう、普段から新聞やニュースで採り上げられるさまざまな問題について、注意をはらっておいていただきたい。

キーワード

(1) 社会 (2) 国家 (3) 個人 (4) 自由 (5) 平和

事前学習（予習）

講義の進行がその積み重ねを前提としているため、毎回の講義で確認された事項を、受講者において次回の講義までに確認してくる作業が予習として求められる。

復習についての指示

講義で展開された議論を、身近なところに応用し、教室での学びを自分の問題として受け取る訓練をすること。

授業計画

1. 社会を観る目
2. 社会を観る目
3. 定式化の諸前提
4. 定式化の諸前提
5. 個と全体
6. 個と全体
7. 市民と国家
8. 市民と国家
9. 社会契約
10. 社会契約
11. 犯罪と刑罰
12. 犯罪と刑罰
13. 市民の救済
14. 市民の救済
15. 自由論の系譜
16. 自由論の系譜
17. 自由からの逃走
18. 自由からの逃走
19. 形式合理性
20. 形式合理性
21. 官僚制
22. 官僚制
23. 国家の暴走
24. 国家の暴走
25. 大衆の反逆
26. 大衆の反逆
27. 集団と狂気
28. 集団と狂気
29. 総括 1
30. 総括 2

教科書

授業の中で指示する
適宜、指示ないし配布する。

評価方法

(1) 出席:30% (2) テスト:40%:受講者の理解状況の確認のために、何度か小テストおよびそのフォローを行う。(3) レポート:30%

担当者：山上 真貴子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

社会心理学と聞いて何を思い浮かべるだろう。人間関係、コミュニケーション、集団関係などのテーマはもちろんだが、人は他者と一緒にいるときにだけ社会と関わっているわけではない。自分について考えるときも、何も考えず自動的に行動するときも、他者は私たちに影響を与えている。この授業では、まず前半に幅広い基礎的な知見を紹介し、後半は具体的なトピック（説得のプロが使うテクニック）を軸に、その知見が実践場面でどう生きるのかについて考えていく。

2. 学びの意義と目標

この授業には、日常生活の中で私たちがどのように考え、感じ、行動しているのかについてのヒントがたくさん含まれている。この授業で学んだことを、自分や他者について考えるとき、人間関係や集団、社会について考えるときに使える知識として、日常に持ち帰ってほしい。

受講生に対する要望

良く分かったつもりでいても、いざ実際に使おうとすると、うまく思い出せなかったりするものです。毎回の課題をきちんとこなしていくことで、使える知識を身につけましょう。

キーワード

事前学習（予習）

毎回配布するプリントの最初に書いてある問いに答えよう。

復習についての指示

毎回の授業で出題される「まとめの問題」に解答（回答）しておくこと。次の授業の最初に解説を行う。

授業計画

1. 社会的生物としての人間（1）
2. 社会的生物としての人間（2）
3. 意識されない過程（1）
4. 意識されない過程（2）
5. 社会の中の私（1）
6. 社会の中の私（2）
7. 他者をとらえる（1）
8. 他者をとらえる（2）
9. さまざまな対人関係（1）
10. さまざまな対人関係（2）
11. コミュニケーション（1）
12. コミュニケーション（2）
13. ソーシャル・ネットワーク（1）
14. ソーシャル・ネットワーク（2）
15. 中間試験
16. 影響力の武器
17. 返報性のルールとは
18. 返報性を使ったテクニック
19. コミットメントと一貫性（1）
20. コミットメントと一貫性（2）
21. 社会的証明とは何か
22. 社会的証明の威力と防衛法
23. 好意—優しい泥棒（1）
24. 好意—優しい泥棒（2）
25. 権威の力（1）
26. 権威の力（2）
27. 希少性（1）
28. 希少性（2）
29. 手っ取り早い影響力
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

（1）平常点：20% （2）中間試験：40% （3）期末試験：40%

社会調査論

SOCI-L-200

担当者：横山 寿世理

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 講義の内容 社会調査とは、社会現象を明らかにすることを目指す手段であり、この科目ではその方法を学ぶ。数的なデータを中心的に使うことになるが、私たちの日常も多くの調査（世論調査や意識調査など）に覆われており、この基礎を学ぶことになる。具体的には、量的調査（アンケート調査）の実施方法とその集計・分析方法を習得することを目指す。また、ただ調査手法を学ぶだけでなく、受講者を調査対象者として、実際に社会調査を模擬的に実施して、集計・分析する。したがって、受講者にとっては、ただ講義を聴いているだけの時間よりも、実際に考えたり、作業をしたりする時間が多くなる。2. カリキュラム上の位置づけ この授業は、全学年の学生を対象とした政治経済学科の専門科目である。

2. 学びの意義と目標

卒業研究や卒業論文執筆のために、アンケート調査を実施できるようにすることを目指す。ただし、アンケート実施のための基礎を丁寧に繰り返し学び、最小限の力でアンケートを作ることを目指す。また、社会調査はたった一人で行うものではなく、他のメンバーと協力することが必要となるため、他者との協調性を身につけるという意義もあるだろう。

受講生に対する要望

毎回ではないが、学期中盤ではグループワークが必要になる（授業計画中に【グループ】と明記）。チーム編成は教員が決めるので、臆せず参加して欲しい。また、moodleにて講義ごとの評価を確認できるようにしているので、スマートフォンやPCでこまめにmoodleにアクセスして欲しい。

キーワード

(1) 調査 (2) 社会調査法 (3) 社会調査実習 (4) 社会学 (5) アンケート

事前学習（予習）

本講義全体が1つの社会調査実習でもあるため、今日の講義で求められること、今日の講義が全体の中のどの位置にあるのかを予想してることが必要となる。

復習についての指示

講義内で課された課題は、次回までもう一度取り組んでおく必要がある。

授業計画

1. 導入
2. 社会調査とは何か
3. 調査結果の解釈（1）：いろんな社会調査の例を知る
4. 調査結果の解釈（2）：社会調査の意義を知る
5. 社会学と社会調査（1）：客観的な論証とは？
6. 社会学と社会調査（2）：『自殺論』から社会調査を考える
7. 社会学と社会調査（3）：社会調査の戦略
8. 社会調査にできること（1）：調査結果から仮説を考える
9. 社会調査にできること（2）：検証できる仮説とは？
10. 社会調査にできること（3）：仮説と調査結果のまとめ
11. 社会調査にできること（4）：仮説と変数との関係
12. 社会調査にできること（5）：変数と質問文との関係
13. 社会調査にできること（6）：質問文の作り方
14. 調査票を作る：調査テーマと仮説を考える【グループ】
15. 調査票を作る：仮説と質問文・回答を考える【グループ】
16. 調査票を作る：プリテストの完成（宿題あり）
17. 集計方法を学ぶ：エディティングとコーディング
18. プリテスト結果の確認と調査票の修正【グループ】
19. 実査
20. エディティングとコーディング【グループ】
21. 実査結果の集計（転記）【グループ】
22. 単純集計
23. クロス集計
24. 集計結果の分析（1）
25. 集計結果の分析（2）
26. 集計結果の分析（3）
27. 集計結果分析の講評とここまでの復習
28. 標本抽出の方法と問題点
29. もう少し深い分析をするための方法
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 講義内課題：50%：評価はmoodleにて確認できるので、学期途中の持ち点を各受講者が確認できる。(2) 報告書：10%：A4用紙2枚以上（図表3枚を含む）、手書き(3) 期末試験：40%

恒常的な出席が重要になる。授業の進捗によってスケジュールは変更するため、詳細な日程や配点、講義内課題の評価については、moodleで確認して欲しい。欠席した場合も、moodleで進捗を確認することができる。

社会福祉施設経営論

MGMT-L-300

担当者：榊 伴夫

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

知の基礎力：政治や社会のしくみの理解

カリキュラム上の位置付け

コミュニティコース：応用科目

講義概要

1. 内容

＜内容＞社会福祉を取り巻く環境が大きく変わりつつあります。社会福祉施設の経営環境も従来の「措置」から「契約」へと転換され、サービスの質の重視、地域福祉の拠点としての施設へ、地域との連携強化など大きく変化してきています。各種施設の多様な経営実態を踏まえ施設の現状と課題を明らかにしつつ施設経営のあるべき姿について学びます。社会福祉施設の歴史、社会保障制度の基礎的理解、経営管理論の基礎、人材育成、福祉サービス従事者に求められる基礎的な知識と理論を学びます。表現力やコミュニケーション能力を高めるため、授業中に対話や意見交換を積極的に行います。

2. 学びの意義と目標

社会福祉施設の経営管理と関連法制度を社会の進展とともに学びます。施設経営の今日的課題をコミュニティとの関連とともに学びます。また、社会福祉施設経営と密接にかかわる社会保障制度の概略や、行政・民間法人の活動の意義と実際を体系的に学ぶとともに、社会福祉事業の運営に資する基礎理論を身につけます。社会福祉施設の経営を学び、広く社会に視野を広げ様々な社会問題に関心を持ち、共助社会の実現に努力する社会人となること。

受講生に対する要望

社会福祉関係以外にも興味を持ち、組織論、管理論など広く勉強して欲しい。

キーワード

(1) 社会福祉の歴史 (2) 組織論 (3) 人材育成論 (4) 施設サービス理論 (5) 社会保障制度

事前学習（予習）

様々な考え方や価値観を尊重するために、福祉施設の経営に関する書物や教科書だけでなく、文化・歴史・文学・芸術などについて幅広く興味を持ち、書物にふれてください。

復習についての指示

教科書や配布されたプリントを再読し、さらに広く研究する分野を選んで課題を明らかにしておくこと。

授業計画

1. 福祉を学ぶ意義
2. 社会福祉経営環境の変化 社会福祉基礎構造改革
3. 社会福祉施設の概要
4. 社会福祉事業・施設の歴史と役割 1
5. 社会福祉事業・施設の歴史と役割 2
6. 社会福祉事業の関連法制度 1
7. 社会福祉事業の関連法制度 2
8. 行政と社会福祉事業の経営管理
9. 経営と管理 人材の育成
10. 組織と管理 1
11. 組織と管理 2
12. 施設サービスの基本的理解・ケースワーク・人間の理解
13. 人事管理・労務管理
14. 組織理論
15. 管理理論
16. 社会保障制度（医療・年金など）の概要
17. 高齢者福祉施設の概要
18. 障害者福祉施設の概要
19. 児童福祉施設・母子福祉施設の概要
20. 生活保護等低所得者施設の概要
21. プレゼンテーション 1
22. プレゼンテーション 2
23. 財務会計・建物・設備管理
24. サービス管理・情報管理・危機管理
25. 記録・仕事の進め方・職場づくり
26. 家族の変容と社会福祉施設の経営管理
27. 地域社会と社会福祉施設
28. 現代社会と社会福祉施設
29. 社会福祉施設経営管理の課題と展望
30. 期末テスト

教科書

宇山勝義・小林 理 『社会福祉事業経営論』（光生館）

評価方法

- (1) プレゼンテーション: 20%: テーマ、方法は別途事前に指示。
(2) 期末試験: 80%: 800字の論文。教科書・ノート持ち込み可。
出席や、積極的な授業参加を前提の総合評価です。

社会保障論

ECON-L-200

担当者：高橋 聡

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

社会福祉主事任用資格：選択科目、
行政コース：応用科目、
コミュニティコース：基幹科目、
社会福祉士国家試験受験資格：必修科目、
精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

2時限連続講義を以下の2部構成とする。①制度・理論編病気、貧困、老後生活、失業、労災など、人生に待ち受ける様々なリスクへの備えであるわが国の社会保障制度のしくみを学ぶ。②歴史・思想編社会保障制度を支える思想と制度構築の歴史を紹介し、これらをふまえて現在の日本社会に起きている問題を考える。大学生である以上、自分とごく近い周囲への関心だけでなく、広い視野から人間と社会に関心を抱き、何かを考えてほしい。

2. 学びの意義と目標

目標 社会保障制度のしくみとその活用法を知ること。今日の日本社会においている諸問題を考えること。意義万事に自己責任を問われ、将来不安の高まる今、社会保障制度の知識は生きるための必須の知恵といえる。そうはいっても、独特の用語や複雑な制度設計は独学では習得しにくいので、この機会にぜひ受講してほしい。

受講生に対する要望

授業に遅刻しないこと。私語をしないこと。講義では、質疑応答やレポート作成を通じて受講者が自ら発信する機会をもうける。よって、単に出席するだけではなく、積極的な受講態度が求められる。

キーワード

(1)医療保険 (2)公的扶助 (3)社会福祉制度 (4)年金 (5)雇用保険・労災保険

事前学習（予習）

教科書の次週の講義ページを指定するので、疑問点を出せるようにしておくこと。

復習についての指示

制度・理論編については、中間試験と期末試験を行う。よって、授業で使ったプリントの穴埋めをきちんと書けるようにすること。歴史・思想編についてはレポートを課す。よって、講義プリントにあげる参考文献に目を通す、新聞や雑誌の記事を収集するなどの準備を日ごろから心がけ、レポート執筆に備えること。

授業計画

1. 社会保障の考え方
2. 保険と税のしくみ
3. 制度・理論1 医療保険(1)
4. 歴史・思想1 カント『啓蒙とは何か』
5. 制度・理論2 医療保険(2)
6. 歴史・思想2 幸福な生(=福祉)とハンセン病国家賠償請求訴訟
7. 制度・理論3 医療保険(3)
8. 歴史・思想3 幸福な生(=福祉)とホームレス自立支援法
9. 制度・理論4 生活保護
10. 歴史・思想4 J.S.ミル『自由論』
11. 制度・理論5 社会福祉制度
12. 歴史・思想5 「最後の福祉」としての刑務所
13. 制度・理論6 社会手当
14. 歴史・思想6 J.S.ミル『女性の隷従』
15. 制度・理論7 年金(1)
16. 歴史・思想7 「格差社会」と女性・子どもの貧困
17. 制度・理論8 年金(2)
18. 歴史・思想8 ミュルダール『人口問題の危機』
19. 制度・理論9 年金(3)
20. 歴史・思想9 少子・高齢化対策の各国比較
21. 制度・理論10 雇用保険
22. 歴史・思想10 ロールズ『正義論』
23. 制度・理論11 労災保険
24. 歴史・思想11 人生前半の社会保障としての教育
25. 制度・理論12 介護保険
26. 歴史・思想12 セン『不平等の再検討』『福祉の経済学』
27. 制度・理論13 社会保障財政(1)
28. 歴史・思想13 潜在能力と福祉—障碍と高齢化を生きる
29. 制度・理論14 社会保障財政(2)
30. 全体の復習

教科書

田中耕太郎・棕野美智子 『はじめての社会保障』（有斐閣）

評価方法

(1)中間・期末試験:60% (2)レポート:30% (3)出席:10%

担当者：小池 茂子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

社会教育を推進する教育行政の専門職員の育成、
多様な分野・領域における社会教育や生涯学習に関する専門的な
知識の習得

カリキュラム上の位置付け

社会教育主事資格：必修科目

講義概要

1. 内容

2006年に改正された教育基本法には生涯学習に関する条項が新設された。生涯学習という言葉がようやく市民権を得られてきたようにも思える一方で、それがどのような理念で、どのような背景から提唱されてきたかについては十分に認知されているとはいえない。そこで、本講義では生涯教育の理念について、どのような背景から理念が提唱され、教育政策に反映されるに至ったか、その社会背景を詳細に取り上げる。また、今日の教育改革の方向性、さらには生涯学習社会とは、どのような社会の実現を目指そうとしているのか、講義を通じて論じることとする。

2. 学びの意義と目標

生涯学習の理念、理念提唱の社会的背景、今日の教育改革と生涯学習推進施策展開における生涯学習施設運営の課題など、広くテーマを設定し、社会教育や生涯学習行政の現場で働く社会教育主事や生涯学習施設の一つである公共図書館に勤務する図書館司書といった、有資格者の専門性につながる事項の理解を目指す。

受講生に対する要望

前回の講義内容を、きっちり復習しながら次週の講義に臨むように準備を行うこと。資格関連科目であるが、積極的な学びを期待する。

キーワード

(1) 社会教育の理念 (2) 生涯教育・生涯学習 (3) 生涯発達論 (4) 発達課題 (5) 学歴社会の是正

事前学習（予習）

毎回、授業時に指定する配布資料を事前に読み込んで授業に臨むこと。

復習についての指示

授業時に配布したプリント等を、その時限のノートと照合させ、各時限の学びの定着化を図ること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 教育の領域(家庭教育、社会教育、学校教育)
3. 社会教育の定義(教育基本法、社会教育法)
4. 生涯教育の理念(1)
5. 生涯教育の理念(2)
6. 生涯教育の理念と社会背景(1)(社会の高齢化、平均余命の伸長)
7. 生涯教育の理念と社会背景(2)(生涯にわたる発達課題の解決に向けて)
8. 生涯教育の理念と社会背景(3)(教育改革と生涯学習体系への移行)
9. 生涯教育の理念と社会背景(4)(急激な社会変化への適応)
10. 生涯教育の理念と社会背景(5)(学校教育をめぐる問題、学歴主義は必要悪か？戦後の青少年の非行など)
11. 生涯教育の理念への批判
12. 今日の教育政策にみる生涯学習振興策
13. 生涯学習時代における社会教育施設の機能と課題(1)
14. 生涯学習時代における社会教育施設の機能と課題(2)
15. まとめ

教科書

鈴木眞理 『生涯学習概論』(樹村房)

評価方法

(1) 出席点:30% (2) 試験:70%

担当者：小池 茂子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

社会教育を推進する教育行政の専門職員の育成、
多様な分野・領域における社会教育や生涯学習に関する専門的な
知識の習得

カリキュラム上の位置付け

社会教育主事資格：必修科目

講義概要

1. 内容

1. 内容本講義では第1に、我が国戦後の社会教育の理念について学ぶ。第2に、生涯学習の理念が教育政策に反映されていく過程を1960年代半ば以降の教育答申等の内容を通して捉える。第3に、社会教育施設として設置された、公民館、公共図書館、博物館活動について成り立ちと機能について取り上げ、生涯学習時代、多様化・高度化する人々の学習ニーズや、まちづくりとの関連において21世紀に求められる諸機能と課題について展望する。2. カリキュラム上の位置付け社会教育主事資格取得の選択必修科目として位置づけられている。(勿論、資格取得を目指さない学生の受講も歓迎する。)

2. 学びの意義と目標

社会教育から生涯学習の時代へと、今日いわれるところの生涯学習振興政策がどのような経緯から生まれて来たのか、また生涯学習社会の実現に向けて、今日の社会教育施設に求められる教育的機能について理解する。

受講生に対する要望

今日の社会の中にある、生涯学習の現場に関心を注ぎながら講義に臨んでほしい。

キーワード

(1) 社会教育 (2) 生涯学習 (3) 公民館 (4) 公共図書館 (5) 博物館

事前学習（予習）

配布資料を事前に読みこんで、毎回の授業に臨むこと。

復習についての指示

授業時に配布した資料を、講義終了後ノートと照合し、学びの内容を定着させること。

授業計画

1. 教育の民主化と社会教育
2. 教育基本法・社会教育法と社会教育
3. 社会教育から生涯学習の理念へ (1) 何が新たな展開として出現したか
4. 社会教育から生涯学習の理念へ (2) 生涯学習と社会教育の違いとは？
5. 生涯学習振興と公民館 (1) 公民館の成り立ちから今日へ
6. 生涯学習振興と公民館 (2) 公民館とコミュニティセンターをめぐる議論
7. まちづくりと公民館活動 (特色ある公民館活動の紹介)
8. 生涯学習振興と公共図書館
9. まちづくりと公共図書館 (指定管理者制度の導入をめぐる議論)
10. まちづくりと図書館 (特色ある図書館活動の紹介)
11. 生涯学習振興と博物館 (1) 博物館の成り立ち
12. 生涯学習振興と博物館 (2) 博物館・学校・地域との連携事業
13. まちづくりと博物館 (特色ある博物館活動の紹介)
14. 指定管理者の導入と社会教育施設をめぐる議論
15. まとめ

教科書

鈴木真理 『生涯学習概論』 (樹村房)

評価方法

(1) 出席点:30% (2) 平常点:20% (3) 試験:50%

担当者：久保 隆光

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義では、主に小売業、卸売業のマーケティング、店舗経営について学びます。生産と消費を結び付ける機能が商業です。現在、日本の商業を取り巻く環境は激化しています。市場のグローバル化、ITの急速な発展、消費行動の多様化、異業種からの市場参入など、これまでにない動きが活発化しています。そこで、こうした動き（外部環境の変化）にいかに関小売業、卸売業が対応しているか、その経営について学んでいきます。講義は主に、商業機能についての理論、つぎに店舗経営の実務、事例研究の3つから構成されます。普段、利用しているコンビニ、スーパー、ファッション・アパレル店、ネット販売等の経営がテーマの講義です。日々の生活に密着している話題が中心です。

2. 学びの意義と目標

つぎの3点をこの講義の到達目標とします。①小売業と卸売業の機能、構造、形態について説明できる。②商業経営の新しい動向と問題点を説明できる。③事例研究を通して、どのように理論が実際の店舗経営に応用されているか説明できる。

受講生に対する要望

普段、利用しているコンビニ、スーパー、ファッションのお店、ネット販売等の経営がテーマの講義です。日々の生活に密着している話題が中心です。毎日の消費活動の裏側に関心を持つように！

キーワード

(1)流通 (2)小売 (3)卸売 (4)競争戦略 (5)サプライ・チェーン・マネジメント

事前学習（予習）

新聞、経済雑誌（例：東洋経済、日経トレンディ）などに目を通し、企業の実例に関心を持つように。前回の講義とのつながりがどこにあるのか予想をたてて講義に臨むように。

復習についての指示

毎回の講義内で解説した専門用語、理論を整理すること。「理解できたこと」、「疑問点」、「次回学びたいこと」を整理し、次の学習につなげること。

授業計画

1. 概要説明 商業とは何か？
2. 流通の機能
3. 商業の機能
4. 小売の機能
5. 小売の構造・形態
6. ケース・スタディー（セブン・イレブンからみる出店計画、店舗運営）
7. ケース・スタディー（セブン・イレブンからみるPOSシステム、配送システム）
8. 卸売の機能
9. 卸売の構造・形態
10. 戦略的マーケティング論
11. 市場戦略、競争戦略論
12. ケース・スタディー（モスバーガー VS マクドナルド）
13. 商業経営の新しい動向： サプライ・チェーン・マネジメント
14. ケース・スタディー（ユニクロ、ZARA、H&M）
15. 全体総括、試験および解説

教科書

授業の中で指示する特定の教科書は使用しません。そのため、講義ごとにプリントを配布します。必要な参考図書、ウェブ・サイトは講義内で紹介します。

評価方法

- (1)最終試験:60% (2)ミニレポート:30% (3)出席状況:10%

講義は社会的空間です。社会的ルールを守らない場合は厳正に対処します。

担当者：佐藤 文彦

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

わが国にとどまらず、世界の経済を中心的に担っているのは株式会社である。本授業では、商法のうち、この株式会社を規整している会社法を中心に解説する。ここでは、会社をはじめとする商人がなぜ世に必要とされ、認められる存在であるのか、そしてなぜ株式会社が、世の起業家に、また世界経済に受け入れられているのかという疑問にはじまり、株式会社制度が抱える法的諸問題を会社法がどのように処理しているのかを主に学んでもらう。

2. 学びの意義と目標

商法を基軸として、民法を基礎とする私法全般にわたる基本的知識とともに、企業実務家としての素養を身に付けてもらうことを目標とする。

受講生に対する要望

真摯に講義に臨む学生を歓迎する。授業では商法、会社法にとどまらず、さまざまな法律の条文を参照する。各自六法を用意すること。

キーワード

(1) 商法の意義 (2) 会社法の意義 (3) 私法の意義 (4) 株式会社「制度」

事前学習（予習）

教科書等により関連事項の全体像を自分なりに理解しておくこと。

復習についての指示

講義で示された条文・制度の内容を教科書等を参考にしながら理解すること。

授業計画

1. ガイダンス
2. 商法・会社法の意義
3. 個人商人、商人としての会社
4. 商人資格要件
5. 絶対的商行為
6. 営業的商行為
7. 商行為法総論
8. 消費者保護法総論
9. 商法が規定する共同事業制度
10. 会社法が規定する各種会社制度
11. 持分制度とは
12. 株式制度とは
13. 会社法の具体的目的
14. 組織法としての会社法
15. 会社の設立
16. 商業登記制度
17. 会社の組織再編行為総論
18. 合併、組織変更
19. 株式交換・移転
20. 事業譲渡、解散、清算
21. 株式・新株予約権の発行
22. 自己株式の取得、社債
23. 会社の機関総説
24. 株主総会
25. 取締役会
26. 取締役、代表取締役
27. 役員等の責任追及制度
28. 監査役（会）、会計監査人、会計参与
29. 委員会設置会社とは
30. 会社の情報開示制度

教科書

山本忠弘ほか編 『やさしい企業法』（嵯峨野書院）

評価方法

- (1) 学期末試験：100%

なお、出席状況・授業態度が悪い場合、これを減点評価要素とする。

ジェンダー論(女性学)

SOCI-P-400

担当者：加藤 敦也

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る。
社会教育を推進する教育行政の専門職員の育成、
多様な分野・領域における社会教育や生涯学習に関する専門的な知識の習得

カリキュラム上の位置付け

社会教育主事資格：選択必修科目

講義概要

1. 内容

女／男という性別の区分は、生物学や医学、脳科学などの説明に還元しきれものではなく、性差を定める社会的背景に応じて意味が変わると考えるのがジェンダー論である。いいかえれば、ジェンダー論は性差に関する認知の枠組みによって編成されている社会を念頭に置き、性差を決め、それを有効にしている権力のあり方を固定的・絶対的なものと見ないとする視点を持つ学問領域である。本講義では、主に現代社会における女性の問題に焦点を当て、それをジェンダー研究の知見から説明していく。

2. 学びの意義と目標

ジェンダー論の視座を理解することにより、女性に対する性差別の問題と現代社会におけるジェンダーに基づく不平等問題、または女性が志向するライフコースの在り方を理解してもらうことを目標とする。

受講生に対する要望

授業内容を理解するためには、配布資料に目を通すだけでなく、概念に関する説明を聴き、またノートに説明された内容を整理しておくことが望まれる。したがって、授業に参加するにあたって、意欲的な態度で臨んでほしい。

キーワード

(1) ジェンダー (2) フェミニズム (3) 性差別 (4) 性暴力 (5) ジェンダー・フリー

事前学習（予習）

開講時に指示する。シラバスのキーワードに従い、関連する書籍や資料に当たることが望ましい。

復習についての指示

各授業時に紹介する女性とジェンダーの問題について、配布資料に沿い、関連する書籍などで調べることを望ましい。

授業計画

1. イントロダクション：ジェンダーとは何か
2. 女性学の歴史①第1次フェミニズムから第2次フェミニズムまで
3. 女性学の歴史②第2次フェミニズムから現代の論点まで
4. 教育とジェンダー：女性と教育
5. 性別役割分業の問題点①家事・育児など再生産労働の問題
6. 性別役割分業の問題点②女性と就労
7. ポルノグラフィと性差別
8. セクシュアルハラスメント
9. DVとデートDV（暴力被害について）
10. 恋愛と女性（若年女性の恋愛意識）
11. セクシュアルマイノリティ
12. 美しさとジェンダー：美の二重基準
13. ファッションと女性（女性向けファッション雑誌の変遷史）
14. ジェンダー・フリーとは何か
15. まとめ

教科書

プリントを配布する
レジュメ、補助資料を配布いたします。

評価方法

- (1) 出席：30% (2) 定期試験：70%

毎回の授業終了時に授業に関するコメントペーパーを提出してもらう。優れたコメントペーパーを書いたものには加点して評価する。

担当者：河島 茂生

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

情報学は、20世紀前半に生まれた学問であり、特に1940年代に端緒を求めることができる。いまやその領域は、文理の垣根を超え広い学問分野を形成するに至っている。情報学は、およそ基礎情報学、情報工学・科学、応用情報学、社会情報学に大別することができる。このうち、本科目では、基礎情報学、社会情報学、情報工学・科学の領域を扱っていく。週2回の授業のうち、1回が基礎情報学および社会情報学の領域を扱い、もう1回が情報工学・科学の分野を扱う。

2. 学びの意義と目標

現代社会は、しばしば情報社会と表現される。毎日のように「情報」という言葉が人々の耳目にとまる。そのような現代社会を学問的に理解することを目指す。

受講生に対する要望

情報学の基礎科目であり、ほかの情報学関連の科目の出発点である。受講を強く勧める。

キーワード

事前学習（予習）

毎回与えられた課題をこなし、授業に臨みたい。

復習についての指示

授業で触れた内容をテキスト等で読み返し、思考を整理することを求める。また、授業課題で間違った箇所に関しては重点的に見直す必要がある。

授業計画

1. 情報学の今日的意義、情報学の種別
2. コンピュータの仕組み1
3. コンピュータの仕組み2
4. コンピュータの仕組み3
5. インターネットの仕組み1
6. インターネットの仕組み2
7. インターネットの仕組み3
8. 情報概念の定義づけ1
9. 情報概念の定義づけ2
10. 人工知能
11. 情報社会論
12. 大規模災害におけるインターネットの役割1
13. 大規模災害におけるインターネットの役割2
14. インターネットと地域社会
15. インターネット産業の構図
16. インターネット時代の著作権
17. 情報セキュリティ
18. インターネット上のコミュニケーション1
19. インターネット上のコミュニケーション2
20. 情報社会のなかで複数化／一元化する人格
21. インターネットに依存する心理
22. Wikipediaの概要
23. Wikipediaの演習
24. SNSの概要
25. SNSの演習
26. Twitterの概要
27. Twitterの演習
28. 情報収集のカスタマイズ化
29. メディア・リテラシー
30. まとめ

教科書

中西 裕 『考える情報学—ディスカッションへのテーマと事例』（樹村房）

評価方法

(1) 試験:100%

ただし、単位修得にあたっては出席数が授業回数の3分の2以上であることを条件とする。

担当者：国分 道雄

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義は情報化社会にあって各種問題を学生が解決するため、その解決方法としてコンピュータを使用して効率的に問題処理できる能力を養うためのものである。社会で現実に存在する代表的な情報システムの特徴を理解し、設計・開発・運用・保守の技術についても修得する。

2. 学びの意義と目標

自ら情報システムを構築・管理できるようになるための技術・知識の基礎として、主に実習を通してプログラミングを習得することを目的とする。講義の最後には各自がオリジナルのプログラムを作成する。

受講生に対する要望

「情報リテラシー」の単位を修得していることが望ましい。

キーワード

事前学習（予習）

今回のキーワードや用語の意味を調べておくこと。

復習についての指示

実習で解けなかった問題や間違えた問題などを、次の講義までによく復習しておくこと。

授業計画

1. 情報システムの概要
2. 基本ソフトとアプリケーションソフト
3. 入力とセンサ
4. 情報システムの信頼性
5. 情報システムのライフサイクル
6. システム開発の工程
7. データ設計
8. 構造化プログラミング
9. プログラミング言語
10. 変数の代入と計算
11. 選択構造
12. 繰り返し構造
13. 関数とサブルーチン
14. 配列変数
15. データ検索アルゴリズム
16. 最大値・最小値アルゴリズム
17. 並べ替えアルゴリズム
18. 画像の表示を行うプログラム
19. 画像が動くプログラム
20. インタラクティブなプログラム
21. じゃんけんゲームの作成
22. ミニロールプレイングゲームの作成
23. ミニアドベンチャーゲームの作成
24. ミサイル発射ゲームの作成
25. 壁打ちテニスゲームの作成
26. ゲームデザインとプログラム設計
27. オリジナルゲームプログラムの作成(1)
28. オリジナルゲームプログラムの作成(2)
29. オリジナルゲームプログラムの作成(3)
30. オリジナルゲームプログラムの作成(4)

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 授業での課題:50% (2) 期末テスト:50%

担当者：国分 道雄

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義は情報化社会にあって情報を科学的に理解するため、情報処理の基礎理論およびコンピュータの構造を学ぶためのものである。コンピュータにおける情報の表し方・情報処理の特徴等の仕組みや働きを学び、内部の概念モデルを把握する。

2. 学びの意義と目標

アプリケーションシステムを利用する場合にも、表面的な操作を覚えるのではなく、内部での動作を科学的に理解することが重要である。自分の操作に統制感を持ち、問題解決のために主体的に利用できる態度と能力を身につける。

受講生に対する要望

「情報リテラシー」の単位を修得していることが望ましい。

キーワード

事前学習（予習）

今回のキーワードや用語の意味を調べておくこと。

復習についての指示

実習で解けなかった問題や間違えた問題などを、次の講義までによく復習しておくこと。

授業計画

1. アナログとデジタル
2. デジタルの情報量
3. N進数
4. 基数変換
5. N進数の小数
6. N進数の演算
7. 論理回路
8. 加算器
9. 補数を用いた引き算
10. コンピュータの機能(1)
11. コンピュータの機能(2)
12. コンピュータの構造(1)
13. コンピュータの構造(2)
14. アセンブリ言語
15. メモリの構造
16. メモリのアドレス
17. 外部記憶装置
18. 平均アクセス時間
19. ファイル・アロケーション・テーブル
20. OSの役割
21. ソフトウェアの働き
22. デジタルデータによる情報の表現(1)
23. デジタルデータによる情報の表現(2)
24. 文字のデジタル化
25. 2進10進数
26. 浮動小数点数
27. データベース(1)
28. データベース(2)
29. 計測・制御
30. コンピュータの未来

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 授業での課題:50% (2) 期末テスト:50%

担当者：竹井 潔

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

現代社会は情報通信ネットワークによるデータ通信に基礎をおく高度情報通信社会となっている。講義ではこのことを踏まえ、情報通信ネットワークの基本的仕組みの理解とともに具体的なネットワークの構築及び設計ができるようにするためその技術と知識について学ぶ。ネットワークの伝送技術及びLAN、インターネットの仕組みや携帯電話・スマートフォン、衛星通信などの問題についても取り扱う。

2. 学びの意義と目標

情報社会では、生活においてもビジネス社会においてもネットワークは不可欠なものとなっている。情報伝達の手段としてのネットワークの基本的な構造や特徴を理解することは、これから情報社会に生きる者にとって必須の基礎知識となる。これらを学ぶことによりネットワーク社会におけるコミュニケーションのあり方について考えてもらいたい。

受講生に対する要望

講義内容は情報通信ネットワークの基本的な事柄である。経営、情報分野を志す多くの学生に履修してほしい。

キーワード

(1)通信ネットワーク (2)LAN (3)インターネット (4)通信サービス (5)伝送技術

事前学習（予習）

授業では、ネットワーク特有の用語や知識が出てくるが、事前に授業で指示された参考文献等で重要用語を調べておくこと。

復習についての指示

授業で十分理解できなかった専門用語や知識について、各自調べておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 情報と通信
3. 通信ネットワークとは
4. 通信ネットワークの歴史
5. 通信方式とネットワークの構成（DTE、DCE等）
6. 通信サービスの歴史
7. 通信サービスの自由化と種類
8. 専用回線サービス、交換回線サービス
9. 総合デジタル通信サービス（ISDN）
10. 衛星通信サービス
11. 移動体通信サービス
12. 携帯電話の通信方式
13. 携帯電話のサービス
14. 伝送方式1 同期方式
15. 伝送方式2 アナログ伝送、デジタル伝送
16. 中間試験
17. 伝送制御手順1 ベーシック制御手順
18. 伝送制御手順2 HDLC手順
19. 誤り制御方式1 水平垂直パリティ検査方式
20. 誤り制御方式2 誤り訂正方式
21. 通信回線の多重化1 周波数多重化、時分割多重化
22. 通信回線の多重化2 PCM多重化、パケット多重化
23. 交換方式1 回線交換方式、蓄積交換方式
24. 交換方式2 フレームリレー方式、ATM交換方式
25. ネットワークアーキテクチャー／OSI
26. LANとは
27. LAN構築の方法
28. インターネット IPアドレス、TCP/IP等
29. 今後のネットワーク社会
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)平常点:20%:出席、課題提出、理解度小テストの実施 (2)中間試験:40% (3)期末試験:40%

担当者：渡辺 英人

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

「情報と職業」高等学校普通教科「情報」教員免許取得を目的とする学生の必修科目である。現代社会におけるさまざまな「活動」にとり「情報」はもっとも重要な要素であると考えられている。この授業では公的機関と情報、民間企業、個人事業における情報など、さまざまな職業と情報について解説し、理解してもらう。授業は毎回マルチメディア教室で行う。受講者全員が一斉に授業を開始し、一斉に終了する。けっして遅刻、欠席しないこと。

2. 学びの意義と目標

社会と情報との関係を具体的な例を使いながら、詳しく説明する。社会の中で生きるために必要不可欠な知識となるように学ぶ。

受講生に対する要望

各種資格試験、就職試験でも必ず役に立つ内容である。積極的に学ぶこと。

キーワード

(1) 社会における情報 (2) 情報化社会に生きる (3) 法、政治、経済、生活と情報

事前学習（予習）

社会教育主事資格、および情報教職免許取得を目的とする学生の必修科目である。評価は教職目的の学生と同じく厳しいものとなる。前週までにテーマと資料を提供するので、復習および予習をすること。

復習についての指示

授業で使用了資料と、授業中に記述したノートに基づいて、清書ノートを作ること。

授業計画

1. 現代社会と情報(1)
2. 現代社会と情報(2)
3. 情報と職業(国内)(1)
4. 情報と職業(国内)(2)
5. 行政と情報(1)
6. 行政と情報(2)
7. 企業活動と情報(1)
8. 企業活動と情報(2)
9. 情報の収集、蓄積、再利用(1)
10. 情報の収集、蓄積、再利用(2)
11. インターネット・ビジネス(1)
12. インターネット・ビジネス(2)
13. 情報化社会と労働環境、労働感(1)
14. 情報化社会と労働環境、労働感(2)
15. 課題作成(1)
16. 課題作成(2)
17. 情報と職業(海外)(1)
18. 情報と職業(海外)(2)
19. 情報化社会の諸問題2(1)
20. 情報化社会の諸問題2(2)
21. 情報化社会の諸問題(1)
22. 情報化社会の諸問題(2)
23. 情報化社会の将来予測(1)
24. 情報化社会の将来予測(2)
25. 課題作成(1)
26. 課題作成(2)
27. 情報化社会とマスメディア(1)
28. 情報化社会とマスメディア(2)
29. 課題作成(1)
30. 課題作成(2)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 授業参加:40% (2) 課題作成:30% (3) 試験:30%

担当者：若松 昭子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

情報メディアの変遷と歴史を概観し、それらの変化が人々の知的活動や社会の状況にどのような影響を与えてきたかを考える。また、知識の体系化を担う図書館が、「知識は一部の人の所有物」という考え方から、「知識は万人の公共財産」という理念に向かって、どのような展開をとげてきたのかを各時代の社会的状況や文化的役割との関わりで考察する。

2. 学びの意義と目標

情報メディアの歴史と変遷は人間の思考パターンやコミュニケーションのあり様をどのように変化させたのか、また様々なメディアを収集・保存し、利用に供する市民のための図書館はどのような発展を経たのかなどに注目し、メディアと人間のかかわりについて理解を深める。

受講生に対する要望

授業への積極的な参加を望む

キーワード

(1)情報メディア (2)図書 (3)図書館 (4)書物

事前学習（予習）

教科書に目を通し、課題をきちんとこなすこと。

復習についての指示

授業内容の理解に努め、与えられた課題をきちんとこなすこと。

授業計画

1. 情報メディア史の意義
2. 文字・記録のはじまり
3. 粘土板と古代の図書館
4. パピルスからパーチメントへ
5. 中世の書物文化と修道院図書館
6. 大学の誕生と書物
7. 印刷術の発明と普及
8. 読書様式の変化
9. 国家形成と国立図書館
10. コーヒーハウスと貸本屋
11. 公共図書館の誕生
12. コンピュータと図書館
13. 日本の図書館と書物文化（1）
14. 日本の図書館と書物文化（2）
15. まとめとディスカッション

教科書

ブリュノ ブラセル、荒俣 宏、Bruno Blasselle、木村 恵一 『本の歴史（「知の再発見」双書）』（創元社）

評価方法

(1)試験:50%:試験に代わるレポートあり (2)小課題:20% (3)授業参加状況:30%:授業態度、授業への取り組みや、ディスカッション時の積極性など

毎回の出席は前提であり、遅刻や欠席は大幅な原点となる

担当者：鈴木 省吾

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

インターネット社会における情報伝達に関わる脅威とその実情や対策を学ぶ。クイズやディスカッションを通して各トピックの理解を深め、日常のPC利用、ネット利用に活かせる知識を身につける。

2. 学びの意義と目標

情報社会に参画する態度を育てる上で、重要なトピックの一つとなる情報リスクについて学ぶ。個人の倫理観のみならず、法規制や技術的対策により情報社会が支えられていることを、授業への積極的な参加を通して理解する。

受講生に対する要望

授業での講義やディスカッションを通して、小論文にまとめたり、クイズによって知識の確認を行ったりする。積極的に授業に参加し、貪欲に知識を吸収するとともに、学生自身が知っていることを持ち寄って貢献してほしい。

キーワード

(1) 授業への積極的参加

事前学習（予習）

教科書の該当箇所を熟読の上授業に臨むこと。

授業計画

1. インターネット社会と情報倫理
2. インターネット社会が抱える問題
3. インターネット上のトラブル
4. インターネット上の脅威
5. 情報セキュリティの技術的対策
6. 情報セキュリティ対策の要点
7. 技術的対策の実際（1）
8. 技術的対策の実際（2）
9. インターネット社会と法
10. 不正アクセス禁止法
11. プロバイダ責任制限法
12. 著作権保護の必要性
13. 著作権保護の課題
14. 個人情報の保護
15. 情報倫理教育へむけて

教科書

会田 和弘, 佐々木 良一, 佐々木 良一 『情報セキュリティ入門—情報倫理を学ぶ人のために—』（共立出版）

復習についての指示

小論文、課題を完成させること。

評価方法

- (1) 小論文:50%:授業内のディスカッションを通して、完成させる
- (2) 課題:50%:クイズ形式で知識の定着を目指す

出席は評価割合に含まないが、5回の出席で不合格とする。遅刻は15分まででそれ以降は欠席扱い。3回の遅刻を欠席1回とみなす。

担当者：竹井 潔

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

◆内容◆「社会における情報」をキーワードに、その「社会性」や「責任」といった問題に関し、ても対応できる人材を養成することを目的とする。講義においては、広い意味での「情報」を扱い、現代社会と情報、情報倫理などを解説する。とくに情報倫理については「時代とともに変化する『情報』」の観点から、学生自身身が情報倫理の変容をどう受け取るべきか、ディスカッション形式で提案させるよう、授業を展開する。

2. 学びの意義と目標

情報倫理は、情報社会の新しい分野である。これからの情報社会を生きていくためには情報倫理は必要条件である。そこで、授業を通して、情報倫理とは何か、その必要性と一緒に考えてみたい。

受講生に対する要望

グループディスカッションの時は積極的に参画すること。またPowerPoint を使ったプレゼンテーションも随時行うので積極的に取り組んでほしい。

キーワード

(1)情報の価値 (2)個人情報 (3)インターネットと情報格差 (4)著作権 (5)情報倫理・情報モラル

事前学習（予習）

事前に授業で指示された参考文献の該当箇所を読み、用語などを調べておくこと。授業では、グループ討論等の時間もあり、指示されたときは、事前に自分の意見をまとめておくこと。

復習についての指示

授業の中でわからなかった箇所、専門用語は、授業のあと各自調べて理解しておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 工業社会から情報社会へ
3. 情報とは
4. 情報の価値
5. 個人情報の価値
6. 個人情報とプライバシー
7. 個人情報 事例研究（1）
8. 個人情報 事例研究（2）
9. 個人情報漏洩の原因と対策
10. インターネットの役割と情報格差
11. 情報のボーダレス化とOECD8原則
12. 社会における情報の役割
13. 情報化による人間生活の変化
14. 情報化による光の側面
15. 情報化による影の側面
16. 中間試験
17. 著作権について
18. 著作権 事例研究（1）
19. 著作権 事例研究（2）
20. 著作権 事例研究（3）
21. 著作権 事例研究（4）
22. 著作権 事例研究（5） 著作権まとめ
23. ネットワークについて
24. 情報社会の課題 インターネット犯罪1
25. インターネット犯罪2
26. インターネットの危険と対策
27. 情報倫理の総合演習
28. 情報倫理の総合演習
29. 情報倫理・情報モラルの構築
30. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)平常点:20%:出席、課題の提出、プレゼンテーション (2)中間試験:40% (3)期末試験:40%

人文地理学概説

TEAT-L-100

担当者：飯島 康夫

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目

講義概要

1. 内容

人文地理学の基本的な考え方を紹介し幅広い分析の視角を提供する。一般に地理学は総合的な科目といわれる。ある地域のことを理解するためにはその地域の自然地形、気候・風土とそれから派生する生活様式、また政治や経済の制度、歴史や文化という知識を総動員させなければその実態が理解できない。この講義は地理学に関係する隣接科学の諸分野（経済や政治、歴史など）をバランスよく配分することに配慮したが、特に世界経済の進展のなかで諸地域がいかなる空間の形成を伴って発展するのかという問題に関心を置いた。本講義は人文地理学の発展過程とそれに伴って生じた諸問題を紹介したうえで制度や歴史、文化的背景の違いのなかで生じる諸都市・地域の発展形態の違いに焦点をあてる。本講義の参加者が諸都市・地域の現象面に埋没することなくその背後にひそむ、より本質的な空間形成の仕組みと地域ごとの差異について理解するよう工夫してみた。

2. 学びの意義と目標

地理学の基礎を学び、現実の地域の調査ができるようになることが望ましい。既存の文献ではなく、自分で判断、分析できるようになること。

受講生に対する要望

地理と歴史は表裏一体のものであるから地域の歴史から現在の姿までの変遷を理解できるようになって欲しい。

キーワード

(1) 地理学史 (2) 情報革命 (3) グローバリゼーション

事前学習（予習）

教科書に書かれていることを指定したところを事前に読んで理解しておくこと。

復習についての指示

前の講義のノートを見て、学んだことを簡潔にまとめること。

授業計画

1. 地理学的发展史
2. 地理学と隣接科学との関係
3. 新古典派地理学のアプローチ
4. 行動・組織論、人文主義のアプローチ
5. マルクス主義的地理学のアプローチ
6. 人文地理の思想
7. 情報ネットワークと空間編成
8. 地域間格差
9. 政治経済システムと都市の空間編成
10. 製造業の空洞化と都市・地域経営
11. 経済のサービス化と都市・地域の空間編成
12. グローバリゼーションと都市・地域政策
13. レポートの添削・指導
14. レポートの書き方、伝え方、プレゼンテーションの方法
15. 総まとめ

教科書

ピーター・ディッケンほか 『立地と空間 上』（古今書院）

評価方法

(1) 出席:50% (2) レポート・小テスト:30% (3) 発表:20%

1. 基準に満たない提出物は再提出させる場合がある2. 調べ方、書き方を学んでください3. 極端に出席回数が少ない場合、評価対象外とする4. 基本文献を指示するので、基礎知識を養うこと

担当者：谷口 隆一郎

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：公民必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目

講義概要

1. 内容

この科目では、現代政治学の主な領域の重要な知識を網羅的に学習します。将来、公共性の高い仕事（公務員職等）に就きたいと考えている学生にとっては、知っておくといテーマと内容が、この講義には含まれています。地方上級・警察・消防・国家IIで出題される政治学の頻出テーマのほぼすべてをカバーします。加えて、この科目の内容は、一般の企業の採用一次試験の対策としても有効です。

2. 学びの意義と目標

聖学院大学政治経済学部で専門的に学ぶ内容（特に、その政治学的基礎）とはどういうものかを知ることができます。そして、公務員試験（地方上級・警察・消防）の政治学の内容をカバーしますので、公務員試験合格を目指す人にとって有益です。

受講生に対する要望

受講生は、(1) 各授業に対応するテキストの箇所（章／節）を予習してきて、(2) 講義を聴き、理解し、質問に答え、(3) 各単元に対応した小テスト（公務員試験にも対応）に回答してもらいます。原則、テキストに沿って講義を進めていきます。ほぼ毎回、授業内レポートを作成してもらいます。

キーワード

(1) 権力 (2) 正当性 (3) 議会政治 (4) イデオロギー (5) 公共と公

事前学習（予習）

テキストの各章を読んで予習する。授業内レポート（BRC：授業内で書き上げる簡単な論述400字程度。BRCについては、オリエンテーションで説明する）の作成を通して予習する。加えて、問題集（『70点で合格！政治学 厳選100問』で予習する。オリエンテーションで、BRCについての別紙シラバスを配布する。

復習についての指示

BRCを再読する。授業内予習時間に書き残した未完成のBRCを授業後に完成させる。それにより、授業後の理解を深める。加えて、問題集（『70点で合格！政治学 厳選100問』で復習する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 政治とは何か
3. 政治学の発展 (1)
4. 政治学の発展 (2)
5. 政治と権力
6. 支配の正当性
7. 権力構造
8. 政治的リーダーシップ
9. 政治思想とイデオロギー
10. デモクラシーの理論
11. 現代社会における国家
12. 近代の議会政治
13. 近代の政治原理
14. 主要諸国の政治制度
15. 【中間試験】
16. 現代の行政国家と官僚
17. 議会と立法過程
18. 選挙制度
19. 政策と政策過程
20. 現代政治と政党
21. 政治社会と政党制
22. 圧力団体と住民運動
23. 現代の政治過程
24. 政治意識と投票行動
25. 政治的コミュニケーション
26. 大衆社会の政治
27. 日本の歴史に見る政治（古代）
28. 日本近現代史と政治（朝鮮半島との関係）
29. 日本近現代史と政治（日清・日露戦争）
30. 【期末試験】

教科書

中村昭雄 『基礎からわかる政治学』（芦書房）TAC公務員講座 『70点で合格！政治学 厳選100問』（TAC出版）

評価方法

(1) 中間試験：20%：穴埋め問題および文章問題（公務員院試験問題）形式 (2) 期末試験：30%：中間試験に準じる (3) BRC（要注意）：50%：各回授業の授業内レポート（BRC）を完成させ、全てを綴じて提出

【要注意】中間・期末試験の両方を受験した受講生だけがBRCの評価を受けることができる。

担当者：森 達也

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：公民必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目

講義概要

1. 内容

＜テーマ＞ 政治の基礎知識／政治学の基礎政治という言葉は、私たち自身が当事者であるところの多様な問題を認識し、討議し、意思決定する営みを意味します。そして政治学は、私たちが日々の政治問題を理性的に考え、解決し、判断するのに役立つ道具箱であると同時に、政治という営みそれ自体を批判的に理解するための手段とも言えます。本講義ではまず政治学の基本的な考え方を学び、現代政治の基礎知識を習得しながら、政治学内部の各テーマを順に考察していきます。

2. 学びの意義と目標

政治学がどのような学問領域であるのかを理解すること。身近な問題を政治（学）的に捉え、それに意見を表明し、他者と議論することができるようになること。

受講生に対する要望

高校の「政治・経済」の内容を復習しておくこと。普段からニュースに触れて時事問題に通じておくこと。

キーワード

(1) 政治 (2) 経済 (3) 公共政策 (4) 社会保障 (5) 国際関係

事前学習（予習）

配布プリントを各自でできるかぎり完成させ、次の講義に備えること。

復習についての指示

授業で扱った範囲の教科書・プリントの内容を習得して小テストに備えること。

授業計画

1. 講義の概要と趣旨の説明
2. 政治学とは何か（教科書序章）
3. 民主主義の基本原則（プリント）
4. 政治とは何か（教科書第1章）
5. 各国の政治体制（プリント）
6. 政治体制・比較政治制度論（教科書第2章）
7. 国会の仕組み（プリント）
8. 現代政治学の歴史（教科書第11章）
9. 内閣と行政機構（プリント）
10. 政治過程論（教科書第4章）
11. 現代政治の特質と政党（プリント）
12. 政党・圧力団体・メディア（教科書4・6章）
13. 財政と税（プリント）
14. 政策決定論（教科書第5章）
15. 貨幣・金融と日銀の役割（プリント）
16. 中間試験
17. 映像で見る政治（1）
18. 映像で見る政治（2）
19. 資本主義／社会主義経済（プリント）
20. 政治と経済（教科書第3章）
21. 日本の社会保障制度（プリント）
22. 福祉資本主義レジーム論（教科書第3章）
23. 労働問題と労働市場の変化（プリント）
24. 福祉国家の危機と再編（教科書第3章）
25. 国際社会と国際法（プリント、教科書第9章）
26. 国際機関（プリント）
27. 冷戦と核兵器の問題（プリント、教科書第9・10章）
28. ナショナリズムと民族問題（プリント、映像）
29. 地球環境問題（プリント、教科書第10章）
30. 総括

教科書

加茂利男ほか著 『現代政治学 第4版』（有斐閣）

評価方法

(1) 中間試験:35%:論述問題を含む (2) 最終試験:35%:論述問題を含む (3) 授業内課題:30%:小テスト・コメントシート

担当者：森 達也

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：公民必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目

講義概要

1. 内容

＜テーマ＞ 政治の基礎知識／政治学の基礎政治という言葉は、私たち自身が当事者であるところの多様な問題を認識し、討議し、意思決定する営みを意味します。そして政治学は、私たちが日々の政治問題を理性的に考え、解決し、判断するのに役立つ道具箱であると同時に、政治という営みそれ自体を批判的に理解するための手段であると言えます。本講義ではまず政治学の基本的な考え方を学び、現代政治の基礎知識を習得しながら、政治学内部の各テーマを順に考察していきます。

2. 学びの意義と目標

政治学がどのような学問領域であるのかを理解すること。身近な問題を政治（学）的に捉え、それに意見を表明し、他者と議論することができるようになること。

受講生に対する要望

高校の「政治・経済」の内容を復習しておくこと。普段からニュースに触れて時事問題に通じておくこと。

キーワード

(1) 政治 (2) 経済 (3) 公共政策 (4) 社会保障 (5) 国際関係

事前学習（予習）

配布プリントを各自でできるかぎり完成させ、次回の講義に備えること。

復習についての指示

授業で扱った範囲の教科書・プリントの内容を習得して小テストに備えること。

授業計画

1. 講義の概要と趣旨の説明
2. 政治学とは何か（教科書序章）
3. 民主主義の基本原則（プリント）
4. 政治とは何か（教科書第1章）
5. 各国の政治体制（プリント）
6. 政治体制・比較政治制度論（教科書第2章）
7. 国会の仕組み（プリント）
8. 現代政治学の歴史（教科書第11章）
9. 内閣と行政機構（プリント）
10. 政治過程論（教科書第4章）
11. 現代政治の特質と政党（プリント）
12. 政党・圧力団体・メディア（教科書4・6章）
13. 財政と税（プリント）
14. 政策決定論（教科書第5章）
15. 貨幣・金融と日銀の役割（プリント）
16. 中間試験
17. 映像で見る政治（1）
18. 映像で見る政治（2）
19. 資本主義／社会主義経済（プリント）
20. 政治と経済（教科書第3章）
21. 日本の社会保障制度（プリント）
22. 福祉資本主義レジーム論（教科書第3章）
23. 労働問題と労働市場の変化（プリント）
24. 福祉国家の危機と再編（教科書第3章）
25. 国際社会と国際法（プリント、教科書第9章）
26. 国際機関（プリント）
27. 冷戦と核兵器の問題（プリント、教科書第9・10章）
28. ナショナリズムと民族問題（プリント、映像）
29. 地球環境問題（プリント、教科書第10章）
30. 総括

教科書

加茂利男ほか著 『現代政治学 第4版』（有斐閣）

評価方法

(1) 中間試験:35%:論述問題を含む (2) 最終試験:35%:論述問題を含む (3) 授業内課題:30%:小テスト・コメントシート

担当者：小畑 俊太郎

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：公民必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目

講義概要

1. 内容

日本では現在、社会構造が大きく変化するなかで、意志決定システムとしての政治制度のあり方も根底から問い直されてきている。日本を含めて現代の多くの国で採用されている政治体制は、一般的に「自由民主主義」と言われる。それは、制度の体系であると同時に理念の体系でもある。本講義では、その思想的基盤と制度的構造を検討することによって、「自由民主主義」についての理解を様々な角度から深めていく。

2. 学びの意義と目標

政治学の基礎的な理論や概念を理解することで、最終的には、政治をめぐる自分なりの課題を発見し、主体的に判断することの出来る教養を身につけることを目標としている。

受講生に対する要望

現代の政治だけでなく、歴史や哲学にも関心があればなお望ましい。

キーワード

(1) 自由主義 (2) 民主主義 (3) 国家 (4) 政党制 (5) 官僚制

事前学習（予習）

授業で扱う予定のテーマについて、事前に新聞や著作などでよく調べておくこと。

復習についての指示

配布したプリントと授業中にとったノートをよく再読すること。

授業計画

1. 政治とは何か(1): 権力
2. 政治とは何か(2): 公共善
3. 自由主義(1): 生命と財産の自由
4. 自由主義(2): 思想と信仰の自由
5. 自由主義(3): 権力の分立
6. 直接民主主義(1): 民主主義の起源
7. 直接民主主義(2): ボリスの政治
8. 直接民主主義(3): 人民主権論
9. 代表制民主主義(1): 二つの代表観
10. 代表制民主主義(2): 保守主義
11. 代表制民主主義(3): 功利主義
12. 自由民主主義(1): 大衆社会の自由
13. 自由民主主義(2): 自由と陶冶
14. 現代の自由民主主義
15. 中間試験
16. 政治制度(1): 大統領制
17. 政治制度(2): 議院内閣制
18. 政治制度(3): 日本の議院内閣制
19. 官僚制(1): 官僚制の合理性と非合理性
20. 官僚制(2): 公務員任用制度
21. 官僚制(3): 日本の行政改革
22. 政党制(1): 政党の構造
23. 政党制(2): 政党制の諸類型
24. 政党制(3): 日本の政党政治
25. 利益団体(1): 利益団体の意義と限界
26. 利益団体(2): 利益団体政治の条件
27. マス・メディア(1): メディアの影響力
28. マス・メディア(2): テレビ報道と政治
29. マス・メディア(3): インターネットと政治
30. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席: 30% (2) 中間試験: 30% (3) 期末試験: 40%

担当者：森分 大輔

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：公民必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目

講義概要

1. 内容

1. 内容 本コースでは、政治的論議において用いられる基本的な概念および、用語の検討を行う。時には、概念的に、時には分析的に、さらには特定の理論家の検討もそこには含まれる。2. カリキュラム上の位置づけ 政治学の入門講座として政治学を学ぶ上での基本的な知識を提供する。

2. 学びの意義と目標

転換期に生きる我々にとって、これらの概念の再検討は避けては通れない。なぜなら、多くの重要な政治的決定が、これらの用語を用いて説明されるからである。したがってコース参加者にはこれら概念を用いた議論が可能になることが目指される。

受講生に対する要望

社会や政治について関心を持つことが望ましい。新聞やテレビなどから入手可能な時事的なニュースについても折を見て触れるので、それらに関する知識を持っていることが求められる。

キーワード

(1)政治 (2)社会 (3)国家 (4)権力

事前学習（予習）

政治学に対する専門的な知識を必要とはしないが、それらに関する積極的な関心を抱いていることが望ましい。1日15分～1時間程度のニュースの視聴が必要である。

復習についての指示

講義後1時間程度の復習をすることを求める。加えて、授業内で示された関連テーマに関する書籍を購読することが望ましい。

授業計画

1. 政治学とは何か1
2. 政治学とは何か2
3. 人間の権利と民主主義について1
4. 人間の権利と民主主義について2
5. 国家の機能1
6. 国家の機能2
7. 国家の機能3
8. 政党1
9. 政党2
10. 政党3
11. 圧力団体1
12. 圧力団体2
13. 圧力団体3
14. 官僚制1
15. 官僚制2
16. 官僚制3
17. 政治的リーダーシップ1
18. 政治的リーダーシップ2
19. 政治的リーダーシップ3
20. 地方自治と政治構造1
21. 地方自治と政治構造2
22. 地方自治と政治構造3
23. 住民参加と参加型民主主義1
24. 住民参加と参加型民主主義2
25. 住民参加と参加型民主主義3
26. 政治の担い手に関する考察1――世論
27. 政治の担い手に関する考察1――ジャーナリズム
28. グローバル化と政治1
29. グローバル化と政治2
30. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:40% (2)中間レポート:30% (3)期末テスト:30%

政治経済学特論 A (財政学の探求)

POSC-P-300

担当者：島村 玲雄

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この授業では、財政の役割や仕組みについて学ぶとともに、日本財政の課題及び問題点について理解を深める。授業形式は、担当者の講義及び授業内で指定する文献の輪読などを行う。また授業最終日までに受講者の関心のある財政学の論点についてレポート作成を予定している。

2. 学びの意義と目標

税金や公務員、社会保障といった我々の生活に深く関係している財政に対して理解を深めることで、実社会に出た後にも意義ある学びである。また知識として覚えるだけでなく、受講者自身が財政に対して問題意識を持てるようになることを目標とする。

受講生に対する要望

豊富な内容を扱うため、受講者にはより授業の理解度を深めに、参考文献などで積極的に自習するを要望する。

キーワード

(1) 税 (2) 財政 (3) 経済学 (4) 社会保障 (5) 政治

事前学習（予習）

授業計画を参照し、参考文献の該当箇所を読み、わからない用語については調べておくこと。

復習についての指示

授業で扱った内容に関して、参考文献や新聞や政府文書で調べ、説明できるようにしておくこと。

授業計画

1. 導入：授業内容の説明、参考文献の紹介等
2. 財政と財政学
3. 予算論
4. 予算論
5. 租税論
6. 租税論
7. 社会保障制度
8. レポート作成に関する講義・まとめ
9. 社会保障制度
10. 社会保障制度
11. 地方財政論
12. 地方財政論
13. 財政赤字と公債
14. 現代財政の課題
15. 現代財政の課題・まとめ

教科書

授業の中で指示する参考文献としていくつか挙げ、一部輪読を行う場合には学生と相談し決めた文献で行う。

評価方法

- (1) 授業内小テスト：30%：授業の進捗状況に応じて行う (2) 学期末レポート：70%

出席回数が2/3未満の場合、レポート提出資格がなくなるため、気をつけてもらいたい。

政治経済学特論 A (日本の裁判を考える)

POSC-P-300

担当者：石川 裕一郎

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

法律学の基礎知識があることを前提に、裁判に関する様々な著作、あるいは判例を丁寧に読解・解釈してゆきます。法解釈の難しさと面白さを存分に味わってください。また、裁判傍聴等のイベント実施も考えています。取り上げる事件・判例は、担当教員の専門との関係上、憲法裁判が多くなります。しかし、「憲法裁判」といっても、元々は種々雑多な民事事件、刑事事件、行政事件です。丁寧に読んでゆけば、堅苦しい日本語で書かれている判決文に記されている事実、当事者の主張、裁判官の判断を通して、生き生きとした人間世界の営みが垣間見える...はず。なお、本講義は少人数のゼミ形式をとることから定員制とし、希望者多数の場合は、希望者の過去の単位修得状況等を参考に選抜を行います。履修希望者は、必ず事前に担当教員に連絡を取るようになしてください。

2. 学びの意義と目標

日本の裁判制度の基本を理解し、あわせてそれが抱える諸問題を考察することにより、日本の政治・経済・社会の諸問題を法的に考える視座を獲得することをめざします。

受講生に対する要望

「特論」科目ですので、演習科目と同様に、受講者が主体的に授業に参加することが強く求められます。

キーワード

(1) 法学 (2) 裁判法学 (3) 訴訟法学 (4) 憲法学

事前学習（予習）

毎回の講義に臨むに当たっては、事前のテキストの読み込みは必須です。また、レジュメの担当が定期的に回ってきます。相応の予習量になります。

復習についての指示

毎回の講義の後の討論内容を踏まえ、自分が準備したプレゼンテーションの内容を補訂し、後に提出することを求めます。

授業計画

1. 導入：授業の進め方・担当分担
2. テキスト輪読・報告・議論
3. テキスト輪読・報告・議論
4. テキスト輪読・報告・議論
5. テキスト輪読・報告・議論
6. テキスト輪読・報告・議論
7. テキスト輪読・報告・議論
8. テキスト輪読・報告・議論
9. テキスト輪読・報告・議論
10. テキスト輪読・報告・議論
11. テキスト輪読・報告・議論
12. テキスト輪読・報告・議論
13. テキスト輪読・報告・議論
14. テキスト輪読・報告・議論
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 平常点：80%：プレゼンテーションの内容と討議への参加状況から評価します。(2) 期末レポート：20%

単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。

担当者：上田 信一郎

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 内容一コミュニケーションメディアの制作。（ワープロレベルで可）Webメディア（ホームページ）作成を通して、情報発信型のコミュニケーション力をつけることを目標とした演習講座。（1）テーマの企画、情報収集 （2）取材インタビュー・撮影 （3）原稿制作 （4）PR・リンク対策 （5）情報更新 などを行います。担当講師が行ってきた、政治経済学部新聞「政経塾」、Webメディア「The Interview」の実績を踏まえて行います。Webサイトの制作はワープロレベルでできるCMS（コンテンツマネジメントシステム。NetCommonsなどの簡易ホームページ制作システム）を使用予定。企画は自由。2. カリキュラム上の位置づけ 単なる知識ではなく、身についたコミュニケーション力を養います。講座全体がアクティブラーニングになっています。

2. 学びの意義と目標

インターネットのWebサイト（ホームページ）による情報伝達は現代でもっとも早く安くできる有効なコミュニケーションメディアです。このような情報発信コミュニケーション力を身につけることは企業においてもその他の活動でも有効です。個人として、大学での活動において、そして就職活動においてもそのスキルは役に立ちます。この講座ではサイト構築が簡易にできるシステムを活用しサイトの内容である企画、インタビューにおける質問力、聞く力、文章を書く力、文章をホームページで表現する力などを身につけます。

受講生に対する要望

技術よりも企画と情報発信のコミュニケーション力を身につけることを主目的にしているため、マスコミやメディアに関する関心を持ち自分でも何か情報発信したい人を歓迎します。

キーワード

(1) テーマ性と問題意識 (2) 取材とインタビュー (3) Webサイト構築 (4) 文章力 (5) 文章の書き方

事前学習（予習）

インターネットの情報発信型のサイトをみて社会と情報発信、メディアへの関心を高めてください。

復習についての指示

Webサイトの見直しチェック

授業計画

1. 私達でも情報発信メディアを持つことができる。
2. Webサイト・CMS（NetCommonsなど）の使い方 1
3. Webサイト・CMS（NetCommonsなど）の使い方 2
4. テーマの企画と情報収集
5. 取材・インタビューとは
6. 取材・インタビューの方法
7. 文章の書き方の基本
8. Webサイト制作企画会議 1
9. Webサイト制作企画会議 2
10. 取材・インタビュー実施
11. 取材・インタビュー原稿、写真まとめ
12. Webサイト制作
13. Webサイト制作
14. Webサイト制作
15. リンク、PR対策

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 作品成果:50% (2) 出席:30% (3) リーダーシップ:20%

政治経済学特講(消費社会論)

POSC-P-300

担当者：横山 寿世理

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 内容 文献講読を行う講義とする。ジョージ・リッツアの「マクドナルド化」や「お客様社会」をテーマに共通文献を決めて、ゼミ形式で講読する。したがって、受講者は自分が担当した箇所のテキストをレジュメにまとめて、報告、質問に対して応答を行う。2. カリキュラム上の位置づけ 政治経済学科の3年生以上対象の科目で、専門演習および卒業研究の修得者が卒業論文執筆に向けて、この消費社会というテーマをより深く学ぶための科目となる。

2. 学びの意義と目標

3. 学びの意義と目標 卒業論文を執筆できるだけの文献読解能力と、論文を執筆するためのスキルと身につけることを目標とする。

受講生に対する要望

基本的に卒業論文を執筆する学生が受講すると想定して、授業を進めるので、卒業論文を執筆して欲しい。

キーワード

(1) 社会学 (2) 消費社会論 (3) アイデンティティの社会学

事前学習(予習)

担当課題への取り組みだけでなく、事前に次回テキストを必ず読み、質問や意見・コメントを用意してくることが求められる。

復習についての指示

他の受講生の報告が、自分の卒業論文にどのような示唆を与えてくれるかを考えて欲しい。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 講読／報告・討論(1)
3. 講読／報告・討論(2)
4. 講読／報告・討論(3)
5. 講読／報告・討論(4)
6. 講読／報告・討論(5)
7. 講読／報告・討論(6)
8. 講読／報告・討論(7)
9. 講読／報告・討論(8)
10. 講読／報告・討論(9)
11. 講読／報告・討論(10)
12. 講読／報告・討論(11)
13. 講読／報告・討論(12)
14. 講読／報告・討論(13)
15. 総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 報告:40% (2) 質疑:60%

卒業研究(アイデンティティの社会学)を受講していることが望ましい。

政治経済学特講(西洋政治思想講読A)

POSC-P-300

担当者：高橋 愛子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講座では、西洋の政治思想に関する高度の専門性をもつ文献を講読する。受講者がそれぞれ分担のうえ、レジュメに基づくプレゼン及び議論を行っていく。卒論執筆指導を伴う。＜カリキュラム上の位置付け＞3年次必修の「卒業研究A」「卒業研究B」を修得済みである4年次生が、さらに自らの研究テーマを掘り下げて学ぼうとする際に高度の専門性を身につけるための場として提供される。

2. 学びの意義と目標

西洋政治思想の諸概念について掘り下げた理解を得、一層掘り下げた議論ができるようになること。特に、大学院進学希望者にとって不可欠となる文献の読解力および論文執筆に必要とされる基礎的な能力を養成することを狙いとする。卒論を完成する。＜受講の条件＞3年次に「卒業研究A」「卒業研究B」を修得済みであること、卒論執筆予定であること（講義担当者の「専門演習」「卒業研究」履修者には限らないが、それ以外の演習履修者の場合には事前にコンタクトをとること）。

受講生に対する要望

独自の研究テーマを持ち、そのテーマに関する専門的文献への積極的な問題意識を持つこと。

キーワード

(1)文献リサーチ (2)アーティクル・レビュー

事前学習（予習）

自らの研究テーマについての明確な問題意識をもつこと。

復習についての指示

議論で指摘された点についてのレポート作成。

授業計画

1. 導入：一学期間の進め方のオリエンテーション、分担の決定
2. 共通テキストの講読・議論
3. 共通テキストの講読・議論
4. 共通テキストの講読・議論
5. 共通テキストの講読・議論
6. 共通テキストの講読・議論
7. 共通テキストの講読・議論
8. 各自の研究テーマのプレゼン・議論
9. 各自の研究テーマのプレゼン・議論
10. 各自の研究テーマのプレゼン・議論
11. 各自の研究テーマのプレゼン・議論
12. 各自の研究テーマのプレゼン・議論
13. 各自の研究テーマのプレゼン・議論
14. 各自の研究テーマのプレゼン・議論
15. 一学期間のまとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席：40% (2)プレゼン：30% (3)小論文：30%

政治経済学特講(西洋政治思想講読B)

POSC-P-300

担当者：高橋 愛子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講座では、西洋の政治思想に関する高度の専門性をもつ文献を講読する。受講者がそれぞれ分担のうえ、レジュメに基づくプレゼン及び議論を行っていく。卒論執筆指導を伴う。＜カリキュラム上の位置付け＞3年次必修の「卒業研究A」「卒業研究B」を修得済みである4年次生が、さらに自らの研究テーマを掘り下げて学ぼうとする際に高度の専門性を身につけるための場として提供される。

2. 学びの意義と目標

西洋政治思想の諸概念について掘り下げた理解を得、一層掘り下げた議論ができるようになること。特に、大学院進学希望者にとって不可欠となる文献の読解力および論文執筆に必要とされる基礎的な能力を養成することを狙いとする。卒論を完成する。＜受講の条件＞3年次に「卒業研究A」「卒業研究B」を修得済みであること、卒論執筆予定であること（講義担当者の「専門演習」「卒業研究」履修者には限らないが、それ以外の演習履修者の場合には事前にコンタクトをとること）。

受講生に対する要望

独自の研究テーマを持ち、そのテーマに関する専門的文献への積極的な問題意識を持つこと。

キーワード

(1)文献リサーチ (2)アーティクル・レビュー

事前学習（予習）

自らの研究テーマについての明確な問題意識をもつこと。

復習についての指示

議論で指摘された点についてのレポート作成。

授業計画

1. 導入：一学期間の進め方のオリエンテーション、分担の決定
2. 共通テキストの講読・議論
3. 共通テキストの講読・議論
4. 共通テキストの講読・議論
5. 共通テキストの講読・議論
6. 共通テキストの講読・議論
7. 共通テキストの講読・議論
8. 各自の研究テーマのプレゼン・議論
9. 各自の研究テーマのプレゼン・議論
10. 各自の研究テーマのプレゼン・議論
11. 各自の研究テーマのプレゼン・議論
12. 各自の研究テーマのプレゼン・議論
13. 各自の研究テーマのプレゼン・議論
14. 各自の研究テーマのプレゼン・議論
15. 一学期間のまとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席：40% (2)プレゼン：30% (3)小論文：30%

担当者：石川 裕一郎

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

原則として「卒業演習（比較憲法）」の履修者を対象とする。より発展的な事例研究を行う授業。ゼミ形式とし、自身の研究の報告と参加者による討論を中心とする。

2. 学びの意義と目標

論理的思考力と文章の書き方を身につけること、またそれをプレゼンテーションする実践力を身につける。

受講生に対する要望

研究テーマを明確にもっていること。また発表と討論に積極的に加わる意欲のある者。

キーワード

(1) 卒論執筆を前提にした研究報告

事前学習（予習）

自身の研究の進捗状況は毎回チェックされるので、報告できるようにしておくこと。また、他の報告者の内容について、質問ができるように予習しておくことも必要となる。

復習についての指示

毎回質疑応答で答えられなかった問いについては、Web上で次回授業までに回答することで復習されたとみなす。

授業計画

1. 授業の進め方（講義）
2. 卒業論文の書き方（講義）
3. 報告と討論
4. 報告と討論
5. 報告と討論
6. 報告と討論
7. 報告と討論
8. 中間総括（講義）
9. 報告と討論
10. 報告と討論
11. 報告と討論
12. 報告と討論
13. 報告と討論
14. 報告と討論
15. 報告と討論

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 平常点:50% (2) 報告:50%

平常点は、普段の議論への参加態度による。

西洋史概説A

TEAT-L-100

担当者：南 祐三

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目

講義概要

1. 内容

「我われが生きているこの世界はどのようにして成立しているのか」という問題意識のもと、西洋世界の歴史について学んでいく。その際、各時代や地域を特徴づける事象に重点を置き、それぞれのつながりを意識しながら時代順に解説していく。西洋史概説Aでは、古代から20世紀初頭までの歴史を取り上げる。なお本講義では、毎回の授業終了時に、講義内容についての確認や疑問点を記したレビューシートを提出してもらい、双方向のやり取りを心掛けたい。また、この提出をもって、出席状況をチェックする。

2. 学びの意義と目標

西洋は、日本にとって近代化のモデルであっただけでなく、長きにわたり、多方面で大きな影響や刺激を与えてくれている存在である。つまり、西洋は我われにとって「他者」であると同時に、自分自身を映し出す鏡でもある。本講義では、このような歴史感覚を養いながら、現代世界の成り立ちを理解することをめざす。

受講生に対する要望

講義中に解説できることは、西洋史のエッセンスの一部分でしかない。疑問に思ったことや関心を持ったことについては、積極的に自ら調べてみてほしい。

キーワード

(1) 西洋史 (2) 国際関係 (3) グローバリゼーション

事前学習（予習）

受講にあたって世界史や西洋史の基礎知識は必須ではないが、興味のあるテーマについて、文献を読むなどして調べておくことが望ましい。

復習についての指示

各回の講義内容の要点を確認するだけでなく、より理解を深めるために、さらに自分で調べてみることを望ましい。

授業計画

1. ガイダンス
2. 先史ヨーロッパと古代オリエント
3. 地中海世界：ギリシアとローマ
4. キリスト教世界の拡大
5. ヨーロッパ中世(1)：封建社会の成立
6. ヨーロッパ中世(2)：封建社会の発展と衰退
7. ルネサンスと宗教改革
8. 海外進出と近世ヨーロッパの国際関係
9. 主権国家体制の形成
10. イギリスの市民革命とアメリカの独立
11. フランス革命からウィーン体制まで
12. 産業革命と社会問題
13. 国民統合とナショナリズム
14. 帝国主義と植民地問題
15. まとめ

教科書

成瀬 治, 佐藤 次高, 木村 靖二, 岸本 美緒, 桑島 良平 『山川世界史総合図録』（山川出版社）

評価方法

- (1) 平常点:40%:出席状況と受講態度 (2) テスト:60%

西洋史概説B

TEAT-L-100

担当者：南 祐三

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目、
中学校教諭一種免許：社会選択科目

講義概要

1. 内容

「我われが生きているこの世界はどのようにして成立しているのか」という問題意識のもと、西洋世界の歴史について学んでいく。その際、各時代や地域を特徴づける事象に重点を置き、それぞれのつながりを意識しながら時代順に解説していく。西洋史概説Bでは、第一次世界大戦から現代までの歴史を取り上げる。なお本講義では、毎回の授業終了時に、講義内容についての確認や疑問点を記したレビューシートを提出してもらい、双方向のやり取りを心掛けたい。また、この提出をもって、出席状況をチェックする。

2. 学びの意義と目標

西洋は、日本にとって近代化のモデルであっただけでなく、長きにわたり、多方面で大きな影響や刺激を与えてくれている存在である。つまり、西洋は我われにとって「他者」であると同時に、自分自身を映し出す鏡でもある。本講義では、このような歴史感覚を養いながら、現代世界の成り立ちを理解することをめざす。

受講生に対する要望

講義中に解説できることは、西洋史のエッセンスの一部分でしかない。疑問に思ったことや関心を持ったことについては、積極的に自ら調べてみてほしい。

キーワード

(1) 西洋史 (2) 国際関係 (3) グローバリゼーション

事前学習（予習）

受講にあたって世界史や西洋史の基礎知識は必須ではないが、興味のあるテーマについて、文献を読むなどして調べておくことが望ましい。

復習についての指示

各回の講義内容の要点を確認するだけでなく、より理解を深めるために、さらに自分で調べてみるのが望ましい。

授業計画

1. ガイダンス
2. 第一次世界大戦(1)：勃発と経過
3. 第一次世界大戦(2)：ロシア革命の衝撃
4. 両大戦間期(1)：ヴェルサイユ体制と平和の模索
5. 両大戦間期(2)：世界恐慌とファシズム
6. 第二次世界大戦(1)：勃発と経過
7. 第二次世界大戦(2)：協力と抵抗
8. 冷戦(1)：戦後処理と国際連合
9. 冷戦(2)：東西陣営の形成
10. 冷戦(3)：デタントとソ連の崩壊
11. ヨーロッパ統合へ(1)：脱植民地化と民族問題
12. ヨーロッパ統合へ(2)：アメリカの覇権と経済のグローバル化
13. ヨーロッパ統合へ(3)：さまざまな統合構想とEUの歩み
14. ヨーロッパ統合へ(4)：包摂と排除
15. まとめ

教科書

成瀬 治, 佐藤 次高, 木村 靖二, 岸本 美緒, 桑島 良平 『山川世界史総合図録』 (山川出版社)

評価方法

- (1) 平常点:40%:出席状況と受講態度 (2) テスト:60%

担当者：森分 大輔

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

古代と中世の政治思想を概観した後、16世紀から19世紀までの政治思想の成立と展開を追う。まず、私達が生きる近代国家のうちにどのような理念がこめられ、またそれがどのような歴史に支えられて成り立ってきたかを考察する。とはいえずらに近代国家を礼賛するのではなく、最初に古代と中世を学ぶことを通じて、近代が置き忘れてきたものについても合わせて目を向けたい。

2. 学びの意義と目標

近代国家を成り立たせている基本的な考え方を学ぶという意味では基礎的な科目である。しかし抽象的な概念が多いため、実際には難しく感じられるかもしれない。必修の「政治学」よりは難しい。

受講生に対する要望

現代の政治への関心のみならず、そこにおいて交わされる政治的議論の内容に対する関心と、それが過去の様々な理論家の議論から組み立てられているという認識をもって講義に臨んでほしい。

キーワード

(1)政治 (2)思想 (3)歴史

事前学習（予習）

事前に取り上げる思想家について指示するので、関連する書籍の目を通しておくこと。

復習についての指示

講義内容を踏まえて、自己の関心を明らかにしておくこと。また疑問については講義内のリアクションペーパーに記載し、疑問のままにしておかないこと。

授業計画

1. イン트로ダクション
2. イン트로ダクション
3. プラトン
4. プラトン
5. アリストテレス
6. アリストテレス
7. 中世の政治思想
8. 中世の政治思想
9. マキャヴェリと共和主義
10. マキャヴェリと共和主義
11. 宗教改革
12. 宗教改革
13. ホッブズ
14. ホッブズ
15. ロック
16. ロック
17. モンテスキュー
18. モンテスキュー
19. ルソー
20. ルソー
21. アメリカ革命とフランス革命
22. アメリカ革命とフランス革命
23. トクヴィル
24. トクヴィル
25. ミル
26. ミル
27. カント
28. カント
29. ヘーゲルと近代社会
30. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:40% (2)レポート:20% (3)期末テスト:40%

専門演習 A (アイデンティティの社会学)

SOCI-P-400

担当者：横山 寿世理

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 内容 自己アイデンティティについての社会的意識を中心に扱う。より具体的には、2人1組で、社会的意識についての課題文（指定教科書の各章）をわかりやすくまとめ直して、他の学生の前で報告して、質問を受け、回答するというゼミ形式で進める。ただし、あまりアイデンティティという概念に固執することなく、社会学を広く概観できるような文献を課題に指定する予定である。2. カリキュラム上の位置づけ 本演習は、政治経済学科112P～113P生2年次必修の専門演習である。

2. 学びの意義と目標

この演習では、自己アイデンティティに関する社会意識について社会的に考察することを目標とする。アイデンティティという概念と、これらの概念が社会的にどのように扱われるかを理解することは異なる。このゼミでは、アイデンティティ概念が社会においてどのように評価され、位置づけられるかを明らかにすることを目指す。

受講生に対する要望

卒業研究（アイデンティティの社会学）履修希望者は、必ずこの専門演習を修得しておいて欲しい。また、moodleを併用して、ゼミの進捗や各ゼミ生の評価を確認できるようにするので、スマートフォンやPCでこまめにアクセスして欲しい。

キーワード

(1)社会学 (2)アイデンティティ (3)他者 (4)集合意識 (5)コミュニケーション

事前学習（予習）

指定された専門書を購入して、課題となった箇所は必ず事前に読んで、質問を用意して参加することを勧める。

復習についての指示

その日のゼミで行われた討論や、その結論がどのようなものであったかを、自分で整理しておいて欲しい。

授業計画

1. オリエンテーションと課題提示
2. 評論文の講読と討論との練習
3. 評論文の講読と討論との練習
4. 評論文のまとめとゼミ報告グループ分け
5. グループ別ゼミ報告・討論（1）
6. グループ別ゼミ報告・討論（1）
7. グループ別ゼミ報告・討論（2）
8. グループ別ゼミ報告・討論（2）
9. グループ別ゼミ報告・討論（3）
10. グループ別ゼミ報告・討論（3）
11. グループ別ゼミ報告・討論（予備）
12. グループ別ゼミ報告・討論（4）
13. グループ別ゼミ報告・討論（4）
14. グループ別ゼミ報告・討論（予備）
15. まとめ

教科書

矢田部 圭介, 山下 玲子 『アイデンティティと社会意識—私のなかの社会/社会のなかの私（叢書現代の社会学とメディア研究）』（北樹出版）

評価方法

(1) 報告への取り組み:40%:報告用レジュメによって評価 (2) 質疑応答:60%:毎回のゼミにおける発言によって評価

専門演習 A (環境保全論)

POSC-P-400

担当者：村上 公久

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この演習ではまず、システム“人間—環境”系の考察を中心に環境史を概観して、環境問題をめぐる理念の変遷を資料により学び、古代から近代まで（地中海文明から近代合理主義まで）の環境論の変遷を辿る。次に、人口の急増と共に急速に生命の環境が劣化した産業革命以降今日までの環境問題を考え、その解決に貢献した先駆者達の歩みを振り返り、21世紀の人類の課題 Sustainable Development 持続的（持続的）開発（地球サミットUNCEDの決議『アジェンダ21』）の可能性を探る。

2. 学びの意義と目標

環境問題の事例研究を通じて、解決への実際的な方途について学び、環境問題にみられるような複雑な問題と取り組み問題解決に挑む模擬経験を積む。

受講生に対する要望

大学の「授業」は、講義と演習（ゼミ）と二つの要素から成る。この科目「専門演習A（環境保全論）」は、講義である専門科目の「環境保全論」で学んだ内容の具体的事例を扱う演習（ゼミ）科目である。履修する予定の者は、予めこの演習科目を履修するための導入と基礎となる本学の環境分野関連科目の中、隔年開講の「環境学」「環境保全論」、また「聖書の中の環境問題」の3科目のうち1科目以上を、履修しておくことが望ましい。

キーワード

(1) 自然保護と環境保全 (2) 自然観の変遷 (3) 個体群生態学と環境容量 (4) 再生産可能な資源 と 枯渇性資源 (5) 持続的（持続的）発展

事前学習（予習）

総合科目「環境学」、専門科目「環境保全論」、キリスト教科目「聖書の中の環境問題」、特にこの演習の前提である「環境保全論」を、準備として予め復習しておくこと。演習開始以降の予習については、各回に指示する。

復習についての指示

各回のゼミ内容について、関係する情報・資料を探して参考にし、講義を受けて自分で考えたことを含めてゼミ記録を作成する。

授業計画

1. 地球環境の劣化の現状（1）
2. 地球環境の劣化の現状（2）
3. 地球環境の劣化の現状（3） レポート
4. 地球環境の劣化の現状（4） 討論
5. 生態学におけるいくつかの重要な概念について（1）
6. 生態学におけるいくつかの重要な概念について（2）
7. 生態学におけるいくつかの重要な概念について（3） 討論
8. 環境問題をめぐる理念の変遷（1）
9. 環境問題をめぐる理念の変遷（2）
10. 環境問題をめぐる理念の変遷（3）
11. 環境問題をめぐる理念の変遷（4） レポート1
12. 環境問題をめぐる理念の変遷（5） レポート2
13. 環境問題をめぐる理念の変遷（6） レポート3
14. 環境問題をめぐる理念の変遷（7） 討論
15. 環境問題をめぐる理念の変遷（8） 討論2

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 出席:40% (2) プレゼンテーションと討論:60%

専門演習 A (企業経済論)

ECON-P-400

担当者：柴田 武男

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

専門演習 A (企業経済論) では、経済情報のアクセス方法とその活用方法を教授する。中心的な情報源は日本経済新聞である。特に日本経済新聞電子版を用いて、インターネット時代に即して情報収集・活用の方法を指示していく。また、ゼミの教材としては『週刊ダイヤモンド』『週刊東洋経済』『週刊エコノミスト』という三大経済誌を活用し、その中から企業経済論に相応しい題材を提供し、議論していく。また、受講者からもこれらの情報媒体から題材提供を指示し、議論していく。本ゼミは、現在日本経済を中心として何が起きているのか、日々起きている現実の経済問題と取り組むことを目的として、日々報道される経済記事の内容が理解でき、他人に解説できる能力を養成することである。

2. 学びの意義と目標

本ゼミの目的は、現在日本経済を中心として何が起きているのか、日々起きている現実の問題と取り組むことである。また、日々報道される経済記事の内容が理解でき、他人に解説できる能力を養成することである。

受講生に対する要望

日々、日本経済新聞など経済記事を日頃から読む習慣を期待している。

キーワード

(1) 日本経済新聞 (2) 週刊エコノミスト (3) 週刊東洋経済 (4) 週刊ダイヤモンド (5) データベース

事前学習 (予習)

ゼミの出席は無遅刻・無欠席をお願いしたい。また、できるだけ政治経済学科主催の講演会および公開講義、AH等のシンポジウムにも積極的に参加できる学生の受講を期待する。

復習についての指示

講義で取り上げたテーマについて、質疑応答で生じた疑問点についてレポートを復習課題とする。

授業計画

1. 教員によるゼミの進め方を解説
2. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論1
3. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論2
4. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論3
5. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論4
6. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論5
7. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論6
8. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論7
9. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論8
10. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論9
11. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論10
12. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論11
13. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論12
14. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論13
15. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論14

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 出席点:50% (2) レポート:50%

担当者：鈴木 真実哉

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

「金融論」に関するテキストを選定し、発表担当者の報告とゼミ員全員による討論という形式をとる。テキストの性格にもよるが、なるべく毎回1～2のテーマに絞って議論をすすめる予定である。テキストの選定は、こちらがいくつかの候補を挙げ、ゼミのメンバーが決定した際に、その中から話し合いによって行う。

2. 学びの意義と目標

テーマの選択、調べ、まとめ、発表を体験的に学ぶ。資料の作成も大切な学びである。この学びが卒業後の社会人としての実力に結びつくことになろう。

受講生に対する要望

毎回、発表者に対する感想、質問を述べる。発表者は、受講者の人数分のレジュメ・資料等を用意すること。

キーワード

(1)共に考える (2)共に学ぶ (3)自らの価値観を形成する (4)調査・資料作成・発表の力の向上

事前学習（予習）

配布用レジュメは〈まとめ〉を1枚〈本文〉につけること。俳諧準備すべき内容が異なるので、2週間前の演習を最後に指示する。

復習についての指示

発表者は他のゼミメンバーよりの感想や質問、指導教員からのコメントをふまえて、提出できるようにまとめておくこと。受講者は、配布されたレジュメ資料を基にまとめて提出できるようにしておくこと。

授業計画

1. 共通テーマの発表（基礎）
2. 個別テーマの発表（基礎）
3. 共通テーマの発表（発展）
4. 個別テーマの発表（発展）
5. 討論大会
6. 金融関連施設見学
7. 金融関連施設見学
8. 見学レポート発表
9. 見学レポート発表
10. 共通テーマの発表（応用）
11. 個別テーマの発表（応用）
12. 討論大会
13. ゲストによるレクチャー
14. ゲストによるレクチャー
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)発表:50% (2)感想・質問:30% (3)出席状況:20%
- 全員への共通レポートを課することもある。

専門演習 A (経営管理)

MGMT-P-400

担当者：金子 毅

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

会社・企業におけるプレゼンテーションの場面を想定してゼミ形式で実施する。具体的には卓越した経営管理を展開した過去の3名の経営者（武藤山治、フランクリン、フォード）の著作を受講生各自が分担を決めて担当し、レジュメの作成とこれに続く発表、討論を行う形式で進めることにしたい。

2. 学びの意義と目標

学びの意義として、受講生が抱きがちな経営管理＝「人間を縛り付け服従させる」という偏見を取り除くことで、原点である「人間」に気づかせ、望ましき運営手法とは何かを再考させることが挙げられる。「就活」「就職後」のプレゼンに不可欠な対人的コミュニケーション・スキルの獲得が目標。

受講生に対する要望

受講生による発表を中心とするため、遅刻や無断欠席は厳禁とします。なお、発表に当たっては日本人とのペアを組むように配慮しているので、留学生の方はふるってご参加下さい。

キーワード

(1)顧客管理 (2)信頼と責任 (3)労務管理 (4)ブランド力

事前学習（予習）

討論への参加に備えて、前回の発表者のレジュメを踏まえ、次の発表者の分担範囲に事前に目を通し、討論の焦点となるポイントを整理しておく。

復習についての指示

予習した内容とつきあわせながら、討論の過程を要約し、次回の討論に関わる重要な論点を自分なりに整理しておく。

授業計画

1. プロローグ：望ましき経営管理に向けて
2. 武藤山治 1：実業という言葉の意味、実業の精神
3. 武藤山治 2：自尊心、自制心
4. 武藤山治 3：自治精神、博愛の精神
5. 武藤山治 4：卑屈心、品性
6. 武藤山治 5：理想、使ふ人、使はれる人
7. 武藤山治 6：責任観念、協同の精神
8. 武藤山治 7：失敗、金儲の秘訣、人生の真意義
9. フランクリン 1：富に至る道 1
10. フランクリン 2：富に至る道 2
11. フォード 1：物より人が大事である 1
12. フォード 2：物より人が大事である
13. フォード 3：余暇の創造こそが大事である 1
14. フォード 4：余暇の創造こそが大事である 2
15. エピローグ：小括

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)レポート:60% (2)出席:20% (3)参加姿勢:10% (4)感想文:10%

専門演習 A (政治過程論)

POSC-P-400

担当者：高橋 愛子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

今日の政治社会が直面するさまざまな問題を理解するためには二つのアプローチが必要とされる。すなわち、政治過程の具体的なダイナミズムについて実証的な認識をもつこと、および、現実政治を理解する際に必要とされる理念的思想的な次元における自分なりの認識のための座標軸をもつことである。以上の基本的な考え方に立ち、本年は、「日本の敗戦後史を考える―丸山眞男を通して」を一つの切り口としながら、共通のテキストを輪読しつつ学び議論をしてゆく。一学期間を通して学んだことを「学期末レポート」として提出することが求められる。

2. 学びの意義と目標

基本的なテキストの読解力を得ること（著者の主張の要点を把握し、発表用のレジュメを作成し、プレゼンを行う）、政治的な課題についての議論の作法を学ぶこと、また、政治にかかわる独自の研究テーマを見出すこと。

受講生に対する要望

1) リアルタイムな時事問題に積極的な関心を持つと同時に、その背景にある問題への思想的な面についての理解にも問題意識を持つ。2) ディスカッションの司会を担当することにより議論の整理のノウハウを身につける。

キーワード

(1) 日本の「戦後」 (2) 丸山眞男 (3) 日本の思想 (4) 未完のプロジェクト

事前学習（予習）

リアルタイムな政治現象に関心を持ち新聞を読む事に加え、各回に予定されるテキストを予め精読すること。

復習についての指示

ゼミで議論になったポイントについての理解を深めるためのレポート作成。

授業計画

1. 導入：一学期間の進め方のオリエンテーション、分担の決定
2. 共通テキストの講読、プレゼン、議論
3. 共通テキストの講読、プレゼン、議論
4. 共通テキストの講読、プレゼン、議論
5. 共通テキストの講読、プレゼン、議論
6. 共通テキストの講読、プレゼン、議論
7. 共通テキストの講読、プレゼン、議論
8. 共通テキストの講読、プレゼン、議論
9. 共通テキストの講読、プレゼン、議論
10. 共通テキストの講読、プレゼン、議論
11. 共通テキストの講読、プレゼン、議論
12. 共通テキストの講読、プレゼン、議論
13. 共通テキストの講読、プレゼン、議論
14. 共通テキストの講読、プレゼン、議論
15. 一学期間のまとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 出席:40% (2) プレゼン:30% (3) 学期末レポート:30%

専門演習 A (政治哲学)

POSC-P-400

担当者：森分 大輔

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

政治哲学の専門演習として、洋の東西にまたがる近・現代の政治理論家のテキストを読み込むことを主眼とする。また、それに関連する議論をおこなうことで参加者の政治学的素養を深める。

2. 学びの意義と目標

これまで身に付けてきた、様々な社会科学的教養を前提として、政治哲学に興味、関心を持つ学生諸君の問題意識を深めることを目的としている。

受講生に対する要望

アカデミックな専門的知識のみならず、それらを現実の問題に適用する能力の獲得を目的とする少人数のゼミ形式授業であることから、時事的問題を議論することで、現実理解能力を鍛えることをねらいとする。受講生にはディスカッション並びに、基礎的文献の講読という二つの課題に対して積極的に取り組む姿勢が求められる。

キーワード

(1) 政治学 (2) 思想 (3) 討論

事前学習（予習）

現実の政治現象に関心を持つだけでなくその理解に必要な政治哲学的観点への関心をもつこと。

復習についての指示

発表、討論内容について自身の考えを整理することが必要とされる。

授業計画

1. 導入：講義計画の説明、担当についての分担
2. 政治理論と現代政治に関する導入
3. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論
4. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論
5. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論
6. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論
7. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論
8. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論
9. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論
10. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論
11. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論
12. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論
13. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論
14. テキストの輪読・各自のプレゼン・議論
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 出席：40% (2) プレゼンテーション：30% (3) 学期末レポート：30%

専門演習 A (地域圏研究ロシア)

ECON-P-400

担当者：飯島 康夫

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

巨大な隣国ロシア、そしてロシアやウクライナなどを育んだ悠久のユーラシアの大地と文化について考察する機会とする。詳細は、学生との相談による。

2. 学びの意義と目標

意義は、ロシアの統治機構や統治の原則の基本を理解することである。目標は、文献を元に現代ロシアの抱える問題を発見し、議論できることである。

受講生に対する要望

出席と積極的な参加を希望する。

キーワード

(1) クレムリン (2) プーチン

事前学習（予習）

新聞やテレビでユーラシア各地で起こっているニュースに慣れ親しむこと基本文献を指示するので通読すること。事前に文献に目を通すこと。

復習についての指示

その都度、前回の議論のまとめを最初にしてもらうこと。

授業計画

1. ロシアの見方
2. ゲームのルール
3. 内政 - プーチンの権力と憲法
4. オガルヒ
5. 大統領府
6. 政策決定過程と安全保障会議
7. メドヴェージェフの存在
8. 多極主義の外交
9. 近い外国
10. 米国
11. 欧州
12. アジアとロシアの関係
13. レポート添削、発表
14. 天然資源とロシアの復活
15. まとめ

教科書

武田 善憲 『ロシアの論理—復活した大国は何を目指すか（中公新書）』（中央公論新社）

評価方法

(1) 出席:70% (2) レポート・発表:30%

専門演習 A (日本政治思想史)

POSC-P-400

担当者：吉田 博司

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

近代日本の政治家及び思想家の研究を紹介しますが、後半は学生諸君にテーマを設定させ、報告・討論となります。

2. 学びの意義と目標

近代日本の政治家及び思想家の研究をととして、政治の本質を学び、現代政治を批判的に洞察する力を養う。

受講生に対する要望

自分でテーマをえらび、報告をまとめることの苦しさと楽しさをまなんでほしい。

キーワード

(1)近代日本、憲政、明治維新、藩閥 (2)超然主義、政党内閣、元老

事前学習（予習）

自分の報告をまとめるばかりでなく、他の学生のテーマに関してしつもんでできるよう準備すること。

復習についての指示

報告にはアドバイス、質問がかかるので、それを下に修正すること。

授業計画

1. 明治維新期の政治家
2. 同
3. 同
4. 同
5. 明治期の政治家
6. 同
7. 同
8. 大正昭和期の政治家
9. 同
10. 同
11. 同
12. 学生報告と討論
13. 同
14. 同
15. 同

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)報告:70% (2)質問:30%
- 報告を重視する。

専門演習 A (比較憲法)

LAW-P-400

担当者：石川 裕一郎

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

憲法に関連するテキストを用い、内容の読解・要約、さらに意見を発表する作業を重ねます。受講者には以下のことが求められます。＊本をたくさん読む。若者に限らず、とにかく現代日本人は本を読まなさ過ぎ。そのため、知識量が圧倒的に少ない状態で議論をし、なんとなく自分の意見（らしきもの）を決めているのが現状です。人間には、活字情報を活用することによって異質な他者を知る・追体験する能力が備わっています。この演習ではその能力を十分に磨いてもらいます。＊現場を多く見る。若者に限らず、とにかく現代日本人は現場を知らなさ過ぎ。そのため、現実を知らない状態で議論をし、なんとなく自分の意見（らしきもの）を決めているのが現状です。人間には、直接その目と耳で触れることによって異質な他者を理解する・共感する能力が備わっています。この演習ではその能力を十分に磨いてもらいます。

2. 学びの意義と目標

具体的な意義と目標は、各受講者のモチベーションに依拠しますが、とにかく事実を観察し、ひたすら読書をし、公権力や社会的権力から一方的に搾取されない賢い市民＝国民＝労働者となることを目指します。

受講生に対する要望

「演習」科目ですので、受講者が主体的に授業に参加する」ことが強く求められます。

キーワード

(1) 演習科目 (2) 法律学 (3) 憲法学 (4) 比較法学

事前学習（予習）

演習科目なので、とりわけプレゼンの準備には各受講者の自発的かつ継続的な相応の分量の予習が求められます。

復習についての指示

プレゼン後においても、卒業研究に向けて相応の分量の復習が求められます。

授業計画

1. 導入：演習の進め方に関する討議及び決定
2. テキスト輪読・発表・議論
3. テキスト輪読・発表・議論
4. テキスト輪読・発表・議論
5. テキスト輪読・発表・議論
6. テキスト輪読・発表・議論
7. テキスト輪読・発表・議論
8. テキスト輪読・発表・議論
9. テキスト輪読・発表・議論
10. テキスト輪読・発表・議論
11. テキスト輪読・発表・議論
12. テキスト輪読・発表・議論
13. テキスト輪読・発表・議論
14. テキスト輪読・発表・議論
15. テキスト輪読・発表・議論

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 平常点：80%：プレゼンテーションの内容と討議への参加状況から評価します。(2) 期末レポート：20%
単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。

専門演習 A (平和学)

ECON-P-400

担当者：小松崎 利明

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

これまでの歴史において、人々は平和をどのように捉え、また平和について何を考えてきたのか、といったテーマについて学び考えることを目的に、平和に関する歴史的・思想的文献を輪読する。

2. 学びの意義と目標

優れた文献を丁寧に読むことによって、これまで積み重ねられてきた知識に対する理解を深め、論理的思考力や生涯学習力を養うことができるようになる。さらに、発表と討論によって、コミュニケーション・スキルや自己管理能力を養い高めることができるようになる。

受講生に対する要望

本を読んで議論することの楽しさを一緒に味わいましょう。

キーワード

(1) 平和 (2) 輪読 (3) 演習

事前学習（予習）

文献の指定箇所を読んでおく。

復習についての指示

授業での討論をふまえ、ノートを作成しておく。

授業計画

1. イントロダクション
2. 文献輪読（学生による発表と討論）
3. 文献輪読（学生による発表と討論）
4. 文献輪読（学生による発表と討論）
5. 文献輪読（学生による発表と討論）
6. 文献輪読（学生による発表と討論）
7. 文献輪読（学生による発表と討論）
8. 文献輪読（学生による発表と討論）
9. 文献輪読（学生による発表と討論）
10. 文献輪読（学生による発表と討論）
11. 文献輪読（学生による発表と討論）
12. 文献輪読（学生による発表と討論）
13. 文献輪読（学生による発表と討論）
14. 文献輪読（学生による発表と討論）
15. 文献輪読（学生による発表と討論）

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 平常点:100%:文献講読、担当箇所の発表内容、討論への参加

専門演習 A (法思想史)

LAW-P-400

担当者：加藤 恵司

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

「法思想史」の講義を基礎として、その内容を更に深める。本年度の主たるテーマとして、法制度の源流に焦点をあて、そこから流れ出す法思想を学んでみたい。

2. 学びの意義と目標

書物、論文を読むことを目標とする。また、与えられた課題を深く追求する。

受講生に対する要望

まじめに出席する。テキストを読む。

キーワード

(1) 法 (2) 思想 (3) 歴史

事前学習（予習）

テキストを要約してレポートする。

復習についての指示

話題になった事柄を調べる。

授業計画

1. テキスト購読・要約
2. テキスト購読・要約
3. テキスト購読・要約
4. テキスト購読・要約
5. テキスト購読・要約
6. テキスト購読・要約
7. テキスト購読・要約
8. テキスト購読・要約
9. テキスト購読・要約
10. テキスト購読・要約
11. テキスト購読・要約
12. テキスト購読・要約
13. テキスト購読・要約
14. テキスト購読・要約
15. テキスト購読・要約

教科書

加藤 恵司 『法・思想・歴史—Legal History』（ジーオー企画出版）

評価方法

- (1) 出席：60% (2) 授業態度：40%

専門演習 A (理論社会学)

SOCI-P-400

担当者：土方 透

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本ゼミナールは、社会現象および社会そのものの相対的把握をめざす、諸アプローチを多角的・多面的に研究する。 1 社会の解明に際して用いられる諸意味体系 (主体、時間、宗教、世界、歴史等) 2 社会的コミュニケーションを可能とする諸メディア (正義、貨幣、愛、信仰、真理等) 3 思想ないし方法論そのものの検討 (M. フーコー、P. ブルデュー、N. ルーマン、ポランニー、ガダマー、J. ハーバーマス、あるいはポスト構造主義、ポスト・モダンと呼ばれる思想家等) 上記三視点を念頭に、ゼミ員との討議のなかで、テーマを絞っていく。

2. 学びの意義と目標

少人数による徹底的な議論である。読み、考え、書き、述べ、さらに考える力を養う。

受講生に対する要望

なにしろ出席すること。なにしろ、読むこと、考えること。

キーワード

事前学習 (予習)

テキストをきちんと読んでくること。必ずレジメを用意してくること。

復習についての指示

課題をこなすこと

授業計画

1. 授業開始時に受講者の目的と希望にあわせて計画をたてる
2. 文献の持ち寄りとオリエンテーション
3. 文献講読
4. 同上
5. 同上
6. 同上
7. 同上
8. 総括
9. 文献の選択
10. 文献講読
11. 同上
12. 同上
13. 同上
14. 同上
15. 総括

教科書

授業の中で指示する
多岐かつ多数にわたる。

評価方法

(1) 出席:50% (2) プレゼンテーション:50%

専門演習B (アイデンティティの社会学)

SOCI-P-400

担当者：横山 寿世理

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 内容 自己アイデンティティについての社会的意識を中心に扱う。より具体的には、1人の報告者が社会的意識についての課題文（指定した教科書の各章）をわかりやすくまとめ直して、他の学生の前で報告して、質問を受け、回答するというゼミ形式で進める。ただし、あまりアイデンティティという概念に固執することなく、社会学を広く概観できるような文献を課題に指定する予定である。2. カリキュラム上の位置づけ政治経済学科112P生～113P生2年次必修の専門演習（ゼミ）である。

2. 学びの意義と目標

この演習では、自己アイデンティティに関する社会的意識について社会的に考察することを目標とする。アイデンティティという概念と、これらの概念が社会や人びとのどのような考え方から形成されるのかについて理解することとは異なるので、後者が現代アイデンティティが現代社会や社会意識を理解するための一つの指標となり得ることに気付いて欲しい。

受講生に対する要望

この演習では、自己アイデンティティに関する社会意識について社会的に考察することを目標とする。アイデンティティという概念と、これらの概念が社会的にどのように扱われるかを理解することとは異なる。このゼミでは、アイデンティティ概念が社会においてどのように評価され、位置づけられるかを明らかにすることを目指す。

キーワード

(1) アイデンティティ (2) 社会学 (3) 他者 (4) 集合意識 (5) コミュニケーション

事前学習（予習）

指定された専門書を購入して、課題となった箇所は必ず事前に読んで、質問を用意して参加することを勧める。

復習についての指示

その日のゼミで行われた討論や、その結論がどのようなものであったかを、自分で整理しておいて欲しい。

授業計画

1. オリエンテーションとグループ分け
2. 報告者別ゼミ報告・討論（1）
3. 報告者別ゼミ報告・討論（2）
4. 報告者別ゼミ報告・討論（3）
5. 報告者別ゼミ報告・討論（4）
6. 報告者別ゼミ報告・討論（5）
7. 報告者別ゼミ報告・討論（6）
8. 報告者別ゼミ報告・討論（7）
9. 報告者別ゼミ報告・討論（8）
10. 報告者別ゼミ報告・討論（9）
11. 報告者別ゼミ報告・討論（10）
12. 報告者別ゼミ報告・討論（11）
13. 報告者別ゼミ報告・討論（12）
14. 報告者別ゼミ報告・討論（予備）
15. まとめ

教科書

小川 伸彦, 山 泰幸 『現代文化の社会学入門—テーマと出会う、問いを深める』（ミネルヴァ書房）

評価方法

(1) 報告への取り組み:40%:報告用レジュメによって評価 (2) 質疑応答:60%:毎回のゼミでの発言によって評価

専門演習B（環境保全論）

POSC-P-400

担当者：村上 公久

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

始めに全員で地球環境問題を扱った英文の報告書（5つの英文報告書）を学び、その中から各自がテーマを選んで、レポートをまとめる。この演習ではまず、システム“人間—環境”系の考察を中心に環境史を概観する。次に、人口の急増と共に急速に生命の環境が劣化した産業革命以降今日までの環境問題を考え、その解決に貢献した先駆者達の歩みを振り返り、自然保護と環境保全という立場の違いの検討を手がかりに21世紀の人類の課題 Sustainable Development 持続的(持続的)開発(地球サミットUNCEDの決議『アジェンダ21』)の可能性を探る。次に複数のグループに分かれてグループ毎に地球環境問題に関わる課題を設定し、解決への提言をまとめる。

2. 学びの意義と目標

専門科目「環境保全論」、「専門演習A（環境保全論）」で得た知見を、グループで提言にまとめ発表する能力の獲得。環境問題の事例研究を通じて、解決への実際的な方途について学び、環境問題にみられるような複雑な問題と取り組み問題解決に挑む模擬経験を積む。

受講生に対する要望

大学の「授業」は、講義と演習（ゼミ）と二つの要素から成る。この科目「専門演習B（環境保全論）」は、講義である専門科目の「環境保全論」で学んだ内容の具体的事例を扱う演習（ゼミ）科目である。履修する予定の者は、予めこの演習科目を履修するための導入と基礎となる本学の環境分野関連科目「環境学」「環境保全論」「聖書の中の環境問題」の3科目のうち1科目以上を、履修しておくことが望ましい。

キーワード

(1) 自然保護と環境保全 (2) 自然観の変遷 (3) 個体群生態学と環境容量 (4) 再生産可能な資源 と 枯渇性資源 (5) 持続的（持続的）発展

事前学習（予習）

総合科目「環境学」、専門科目「環境保全論」、キリスト教科目「聖書の中の環境問題」、特にこの演習の前提である「環境保全論」を、準備として予め復習しておくこと。演習開始以降の予習については、各回に指示する。

復習についての指示

各回のゼミ内容について、関係する情報・資料を探して参考にし、講義を受けて自分で考えたことを含めてゼミ記録を作成する。

授業計画

1. The Club Of Rome : Agenda For The End Of The Century ('84)
2. The Club Of Rome : Agenda For The End Of The Century ('84) -2
3. The Global 2000 Report (1)
4. The Global 2000 Report (2)
5. The Global 2000 Report (3)
6. Our Common Future (1)
7. Our Common Future (2)
8. Our Common Future (3)
9. State Of The World, World Watch Institute
10. World Resources Report (1)
11. World Resources Report (2)
12. World Resources Report (3)
13. テーマを設定してレポートを作成 (1)
14. テーマを設定してレポートを作成 (2)
15. テーマを設定してレポートを作成 (3)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 出席:40% (2) プレゼンテーションと討論:60%

欠席回数が講義回数の3分の1を超える者には、単位を認定しない。資料の探索と資料の理解、プレゼンテーション等のための加工、複数回の個人・チームによるプレゼンテーション、討論、ゼミ参加態度、ゼミへの熱意と貢献等 などを総合的に評価する。

専門演習B(企業経済論)

ECON-P-400

担当者：柴田 武男

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

専門演習B(企業経済論)では、経済情報のアクセス方法とその活用方法を教授する。中心的な情報源は日本経済新聞である。特に日本経済新聞電子版を用いて、インターネット時代に即して情報収集・活用の方法を指示していく。また、ゼミの教材としては『週刊ダイヤモンド』『週刊東洋経済』『週刊エコノミスト』という三大経済誌を活用し、その中から企業経済論に相応しい題材を提供し、議論していく。また、受講者からもこれらの情報媒体から題材提供を指示し、議論していく。本ゼミは、現在日本経済を中心として何が起こっているのか、日々起きている現実の経済問題と取り組むことを目的として、日々報道される経済記事の内容が理解でき、他人に解説できる能力を養成することである。

2. 学びの意義と目標

本ゼミの目的は、現在日本経済を中心として何が起こっているのか、日々起きている現実の問題と取り組むことである。また、日々報道される経済記事の内容が理解でき、他人に解説できる能力を養成することである。

受講生に対する要望

日頃から日本経済新聞など経済記事を読む習慣を期待している。講義のメーリングリストを活用するのでパソコン・メール環境を準備してください。

キーワード

(1) 日経電子版 (2) 週刊東洋経済 (3) 週刊エコノミスト (4) 週刊ダイヤモンド (5) PDFファイル

事前学習(予習)

ゼミの出席は無遅刻・無欠席をお願いしたい。また、できるだけ政治経済学科主催の講演会および公開講義、AH等のシンポジウムにも積極的に参加できる学生の受講を期待する。

復習についての指示

ゼミの質疑応答で生じた疑問点をレポート課題として提出させる。

授業計画

1. 教員によるゼミの進め方を解説
2. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論1
3. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論2
4. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論3
5. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論4
6. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論5
7. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論6
8. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論7
9. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論8
10. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論9
11. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論10
12. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論11
13. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論12
14. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論13
15. ゼミ生が関心のあるトピックをレポートおよびゼミ生全員で議論14

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席点:50% (2) レポート:50%

専門演習B(金融論)

ECON-P-400

担当者：鈴木 真実哉

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

専門演習A(金融論)をうけて、テーマの設定のし方、資料の検索を調べ、調べたものをまとめる、発表する等の能力を向上させることに目標をおく。 毎回、必ず発表の機会がある。その発表についての質疑応答も発表のうちである。

2. 学びの意義と目標

テーマの選択、調べ、まとめ、発表を体験的に学ぶことになる。資料の作成も大切な学びである。これらの学びが、卒業後の社会人としての実力に結びつくことになろう。

受講生に対する要望

毎回、発表者に対する感想、質問を述べる。発表者は、受講者の人数分のレジュメ・資料等を用意すること。

キーワード

(1)共に考える (2)共に学ぶ (3)自らの価値観を形成する (4)調査・資料作成・発表の力の向上

事前学習(予習)

レジュメは、全体のまとめを1枚につけること。発表後は修正したものを提出すること。毎回、準備すべきでないヨガ異なるので2週間前の演習の最後に指示する。

復習についての指示

発表者は、他のゼミメンバーよりの感想や質問、指導教員からのコメントをふまえて、提出できるようにしておくこと。

授業計画

1. 個別発表
2. 個別発表
3. 個別発表
4. 個別発表
5. 個別発表
6. グループ(2～3名)共同発表
7. グループ(2～3名)共同発表
8. 個別発表
9. 個別発表
10. 個別発表
11. 2グループに分かれての全体ディスカッション
12. 個別発表と共同発表
13. 専門演習レポート発表
14. 専門演習レポート発表
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)発表:50% (2)感想・質問:30% (3)出席状況:20%
- 全員への共通レポートを課することもある。

専門演習B(経営管理)

MGMT-P-400

担当者：金子 毅

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

会社・企業におけるプレゼンテーションの場面を想定してゼミ形式で実施する。具体的には卓越した経営管理を展開する現在の経営者（秋武政道）の著作を受講生各自が分担を決めて担当し、レジュメの作成とこれに続く発表、討論形式で進める。なお、まとめとして特別講師による講義を予定している。

2. 学びの意義と目標

学びの意義として、受講生が抱きがちな経営管理＝「人間を縛り付け服従させる」という偏見を取り除くことで、原点となる「人間」に気づかせ、望ましき運営手法とは何かを再考させる点が挙げられる。プレゼンを想定した「就活」「就職後」に不可欠な対人的コミュニケーション・スキルの獲得が目標。

受講生に対する要望

発表を中心とするため、遅刻や無断欠席は厳禁とします。なお、発表にあたっては日本人とのペアを組むように配慮しているので、留学生の方はふるってご参加下さい。

キーワード

(1)顧客管理 (2)お客様の声 (3)労務管理 (4)ブランド力の創造と持続 (5)クレーム処理

事前学習（予習）

討論への参加に備えて、前回の発表者の分担範囲に事前に目を通し、討論の焦点となるポイントを整理しておく。

復習についての指示

予習した内容とつきあわせながら、討論の過程を要約し、次回の討論に関わる重要な論点を自分なりに整理しておく。

授業計画

1. プロローグ：望ましき経営管理を実現するには？
2. 秋武政道1：概要、および序章
3. 秋武政道2：第1章1
4. 秋武政道3：第1章2
5. 秋武政道4：第2章1
6. 秋武政道5：第2章2
7. 秋武政道6：第3章1
8. 秋武政道7：第3章2
9. 秋武政道8：第4章1
10. 秋武政道10：第4章2
11. 秋武政道11：第5章1
12. 秋武政道12：第5章2
13. 秋武政道13：まとめ
14. 特別講師による講義
15. エピローグ：総括（人間のための経営管理とは？）

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)レポート:60% (2)出席:20% (3)参加姿勢:10% (4)感想文:10%

専門演習B(政治過程論)

POSC-P-400

担当者：高橋 愛子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

基本的に、学期の前半は「日本の敗戦後史を考える」に関する共通のテキストを読み、後半は順次、各自が自らの関心に即して選んだテーマについての個別発表とし、各自の研究課題についての進捗状況を報告、議論する。報告と議論を重ねて次年度以降に取り組む「卒業論文」の土台・骨格の形成を図る。学期末に「学期末レポート」の提出が求められる。

2. 学びの意義と目標

基本的なテキストの読解力を得ること（要点を把握し、レジュメを作成し、プレゼンする）、政治的な課題についての議論の作法を学ぶこと、また、独自の研究テーマへの問題意識を深めること。

受講生に対する要望

1) リアルタイムな時事問題に積極的な関心を持つと同時に、その背景にある問題への思想的な面についての理解にも問題意識を持つ。2) ディスカッションの司会を担当することにより議論の整理のノウハウを身につける。

キーワード

(1) 日本の「戦後」 (2) 丸山眞男 (3) 日本の思想 (4) 未完のプロジェクト

事前学習(予習)

リアルタイムな政治現象に関心を持ち新聞を読む事に加え、各回に予定されるテキストを予め精読すること。

復習についての指示

ゼミで議論になったポイントについてのレポート作成。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 共通テキストの講読、議論
3. 共通テキストの講読、議論
4. 共通テキストの講読、議論
5. 共通テキストの講読、議論
6. 共通テキストの講読、議論
7. 共通テキストの講読、議論
8. 共通テキストの講読、議論
9. 各自の研究課題のプレゼン、議論
10. 各自の研究課題のプレゼン、議論
11. 各自の研究課題のプレゼン、議論
12. 各自の研究課題のプレゼン、議論
13. 各自の研究課題のプレゼン、議論
14. 各自の研究課題のプレゼン、議論
15. 一学期間のまとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席:40% (2) プレゼン:30% (3) 学期末レポート:30%

専門演習B(政治哲学)

POSC-P-400

担当者：森分 大輔

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

政治哲学の専門演習として、各人の問題意識にあわせた議論を行うことを主眼に置く。同時に関連する議論をおこなうことで参加者の政治学的素養を深める。

2. 学びの意義と目標

これまでに身に付けてきた、様々な社会科学的教養を前提として、政治哲学に興味、関心を持つ学生諸君の問題意識を深めることを目的としている。

受講生に対する要望

アカデミックな専門的知識のみならず、それらを現実の問題に適用する能力の獲得を目的とする少人数のゼミ形式授業であることから、時事的問題を議論することで、現実理解能力を鍛えることをねらいとする。受講生にはディスカッション並びに、基礎的文献の講読という二つの課題に対して積極的に取り組む姿勢が求められる。

キーワード

(1)政治学 (2)思想 (3)討論

事前学習(予習)

現実の政治現象に関心を持つだけでなくその理解に必要な政治哲学的観点への関心をもつこと。

復習についての指示

発表、討論内容について自身の考えを整理することが必要とされる。

授業計画

1. 導入：講義計画の説明、担当についての分担
2. 各自の関心のあるテーマの選択
3. 各自のプレゼン・議論
4. 各自のプレゼン・議論
5. 各自のプレゼン・議論
6. 各自のプレゼン・議論
7. 各自のプレゼン・議論
8. 各自のプレゼン・議論
9. 各自のプレゼン・議論
10. 各自のプレゼン・議論
11. 各自のプレゼン・議論
12. 各自のプレゼン・議論
13. 各自のプレゼン・議論
14. 各自のプレゼン・議論
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席：40% (2)プレゼンテーション：30% (3)学期末レポート：30%

専門演習B(地域圏研究ロシア)

ECON-P-400

担当者：飯島 康夫

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

476年、西ローマ帝国が滅んだ後、ローマ教会は800年頃から、東の教会から離れ始める。この結果、1054年、東と西の教会は分裂。さて、東ローマ帝国は1453年まで存続。ローマ・カトリック教会を柱とする西欧とギリシア正教会を擁するロシアという対立図式が出来上がる。ルネサンス以降、西欧は目覚しく発展し、やがてロシアは西欧に習い、近代化を進めようとするが、その一方で、もう一つのキリスト教をいただく国としての自負、西欧に劣るはずがないという自信も保ち続ける。西欧より後れているという意識と西欧に優るという意識——これら矛盾した二つの意識がロシア思想史の全体を貫いている。これらを紹介すること。

2. 学びの意義と目標

意義は、ロシアの文化・宗教・習慣について、卒業研究論文の基礎となる論文を提出、加筆、修正の後、一定の推準の理解に深めること。そして、北東アジアの隣国の歴史、宗教、文化について、幅広く理解できるように工夫していることで重なる。とくに、目標としては指示する文献を通じて隣国ロシアの宗教・文化・思想に深く解れて理解すること。

受講生に対する要望

出席と積極的参加を希望する。

キーワード

(1) モンゴルのくびき (2) ロシアの東進

事前学習(予習)

他人の書いた文章を正確に理解し、自分の考えを明快な言葉で表現するのはとても難しい。参加者には、辛抱強く取り組むよう期待する。基本文献を指示するのであらかじめ通読すること。

復習についての指示

ゼミごとに前回の議論のまとめをすること。

授業計画

1. アジア系遊牧民族の西方への移動
2. モンゴルのくびき
3. ロシアの特異性
4. シベリア・極東地域
5. 北東アジアの中でのロシア
6. カムチャツカ半島
7. ロシアの東進の動機
8. 毛皮貿易
9. 中国とロシア
10. 露米会社と北米
11. 参考文献の提示、テーマの掘り下げ
12. レポート作成
13. 添削、指導
14. 発表
15. まとめ

教科書

司馬 遼太郎 『ロシアについて—北方の原形(文春文庫)』(文藝春秋)

評価方法

(1) 出席:70% (2) レポート・発表:30%

専門演習B(日本政治思想史)

POSC-P-400

担当者：吉田 博司

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

近代日本の思想家・政治家について自らテーマを設定し報告するとともに積極的に他の発表に質問をすること。

2. 学びの意義と目標

近代日本の政治家及び思想家の研究をととして、政治の本質を学び、現代政治を批判的に洞察する力を養う。

受講生に対する要望

なるべく多くの文献にあたり、自主的研究の態度を養ってほしい。

キーワード

(1)近代日本、憲政、明治維新、藩閥 (2)超然主義、政党内閣、元老

事前学習(予習)

自分の報告作成ばかりでなく、他学生のテーマについても良い質問ができるよう調べておく。

復習についての指示

報告にはアドバイス、質問があるので、それらを参考に修正をすること。

授業計画

1. 学生の報告・討論
2. 同
3. 同
4. 同
5. 同
6. 同
7. 同
8. 同
9. 同
10. 同
11. 同
12. 同
13. 同
14. 同
15. 同

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)報告:70% (2)質問:30%
- 報告を重視する。

専門演習B(比較憲法)

LAW-P-400

担当者：石川 裕一郎

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

春学期に引き続き、憲法に関連するテキストを用い、内容の読解・要約、さらに意見を発表する作業を重ねます。受講者には以下のことが求められます。＊本をたくさん読む。若者に限らず、とにかく現代日本人は本を読まなさ過ぎ。そのため、知識量が圧倒的に少ない状態で議論をし、なんとなく自分の意見（らしきもの）を決めているのが現状です。人間には、活字情報を活用することによって異質な他者を知る・追体験する能力が備わっています。この演習ではその能力を十分に磨いてもらいます。＊現場を多く見る。若者に限らず、とにかく現代日本人は現場を知らなさ過ぎ。そのため、現実を知らない状態で議論をし、なんとなく自分の意見（らしきもの）を決めているのが現状です。人間には、直接その目と耳で触れることによって異質な他者を理解する・共感する能力が備わっています。この演習ではその能力を十分に磨いてもらいます。

2. 学びの意義と目標

具体的な意義と目標は、各受講者のモチベーションに依拠しますが、とにかく事実を観察し、ひたすら読書をし、公権力や社会的権力から一方的に搾取されない賢い市民＝国民＝労働者となることを目指します。

受講生に対する要望

「演習」科目ですので、受講者が主体的に授業に参加する」ことが強く求められます。

キーワード

(1) 演習科目 (2) 法律学 (3) 憲法学 (4) 比較法学

事前学習（予習）

演習科目なので、とりわけプレゼンの準備には各受講者の自発的かつ継続的な対応の分量の予習が求められます。

復習についての指示

プレゼン後においても、卒業研究に向けて対応の分量の復習が求められます。

授業計画

1. 導入：演習の進め方に関する討議及び決定
2. テキスト輪読・発表・議論
3. テキスト輪読・発表・議論
4. テキスト輪読・発表・議論
5. テキスト輪読・発表・議論
6. テキスト輪読・発表・議論
7. テキスト輪読・発表・議論
8. テキスト輪読・発表・議論
9. テキスト輪読・発表・議論
10. テキスト輪読・発表・議論
11. テキスト輪読・発表・議論
12. テキスト輪読・発表・議論
13. テキスト輪読・発表・議論
14. テキスト輪読・発表・議論
15. テキスト輪読・発表・議論

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 平常点：80%：プレゼンテーションの内容と討議への参加状況から評価します。(2) 期末レポート：20%

単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。

専門演習B(平和学)

ECON-P-400

担当者：小松崎 利明

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

現代世界において平和を実現するためにはどのような取り組みが求められるのか、またそうした取り組みの実例にはどのようなものがあるのか、といったテーマについて学び考えることを目的に、平和に関する現代的な事象を論じた文献を輪読する。

2. 学びの意義と目標

優れた文献を丁寧に読むことによって、これまで積み重ねられてきた知識に対する理解を深め、論理的思考力や生涯学習力を養うことができるようになる。さらに、発表と討論によって、コミュニケーション・スキルや自己管理能力を養い高めることができるようになる。

受講生に対する要望

本を読んで議論することの楽しさを一緒に味わいましょう。

キーワード

(1) 平和 (2) 輪読 (3) 演習

事前学習(予習)

文献の指定箇所を読んでおく。

復習についての指示

授業での討論をふまえ、ノートを作成しておく。

授業計画

1. イントロダクション
2. 文献輪読(学生による発表と討論)
3. 文献輪読(学生による発表と討論)
4. 文献輪読(学生による発表と討論)
5. 文献輪読(学生による発表と討論)
6. 文献輪読(学生による発表と討論)
7. 文献輪読(学生による発表と討論)
8. 文献輪読(学生による発表と討論)
9. 文献輪読(学生による発表と討論)
10. 文献輪読(学生による発表と討論)
11. 文献輪読(学生による発表と討論)
12. 文献輪読(学生による発表と討論)
13. 文献輪読(学生による発表と討論)
14. 文献輪読(学生による発表と討論)
15. 文献輪読(学生による発表と討論)

教科書

松尾秀哉・臼井陽一郎編 『紛争と和解の政治学』(ナカニシヤ出版)

評価方法

- (1) 平常点:100%:文献講読、担当箇所の発表内容、討論への参加

専門演習B(法思想史)

LAW-P-400

担当者：加藤 恵司

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

法思想史の中で、暗黒といわれる西欧の中世から近代の黎明までに焦点をあてる。

2. 学びの意義と目標

書物、論文を読むことを目標とする。また、与えられた課題を深く追求する。

受講生に対する要望

まじめに出席する。テキストを読む。

キーワード

(1)法 (2)思想 (3)歴史

事前学習(予習)

テキストを要約してレポートする。特に、復習は求めない。

復習についての指示

話題になった事柄を調べる。

授業計画

1. テキスト購読・要約
2. テキスト購読・要約
3. テキスト購読・要約
4. テキスト購読・要約
5. テキスト購読・要約
6. テキスト購読・要約
7. テキスト購読・要約
8. テキスト購読・要約
9. テキスト購読・要約
10. テキスト購読・要約
11. テキスト購読・要約
12. テキスト購読・要約
13. テキスト購読・要約
14. テキスト購読・要約
15. テキスト購読・要約

教科書

加藤 恵司 『法・思想・歴史—Legal History』(ジーオー企画出版)

評価方法

(1)出席:60% (2)授業態度:40%

専門演習B (理論社会学)

SOCI-P-400

担当者：土方 透

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

専門演習Aに引き続き、社会現象および社会そのものの相対的把握をめざす、諸アプローチを多角的・多面的に研究する。 1 社会の解明に際して用いられる諸意味体系 (主体、時間、宗教、世界、歴史等) 2 社会的コミュニケーションを可能とする諸メディア (正義、貨幣、愛、信仰、真理等) 3 思想ないし方法論そのものの検討 (M. フーコー、P. ブルデュー、N. ルーマン、ポランニー、ガダマー、J. ハーバーマース、あるいはポスト構造主義、ポスト・モダンと呼ばれる思想家等) 上記三視点を念頭に、ゼミ員との討議のなかで、テーマを絞っていく。

2. 学びの意義と目標

少人数による徹底的な議論である。読み、考え、書き、述べ、さらに考える力を養う。

受講生に対する要望

なにしろ出席すること。なにしろ、読むこと、考えること。

キーワード

事前学習 (予習)

テキストをきちんと読んでくること。必ずレジメを用意してくること。

復習についての指示

課題をこなすこと

授業計画

1. Aの成果をふまえ、計画をたてる
2. 文献の持ち寄りとオリエンテーション
3. 文献講読
4. 同上
5. 同上
6. 同上
7. 同上
8. 総括
9. 文献の選択
10. 文献講読
11. 同上
12. 同上
13. 同上
14. 同上
15. 総括

教科書

授業の中で指示する
多岐かつ多数にわたる。

評価方法

- (1)出席:50% (2)プレゼンテーション:50%

税法概論

LAW-L-200

担当者：田口 安克

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

税金は、私たちの生活のあらゆる面にかかわっている。例えば、サラリーマンは給与から源泉徴収等で所得税や住民税が徴収され、国内の買い物の価格には消費税が含まれ、家や土地を所有している人は市町村に固定資産税を納付する。これら税金は、国や地方公共団体が提供する教育・警察などの公共サービスの財源となり、そのサービスの享受者としても私たちにかかわっている。

本講義では、私たちの生活に深くかかわっている税金に関する法律（税法）のしくみについて、できるだけわかりやすく解説する。税法はどのような考え方がその根底にあるのか、あるいは、所得税法や法人税法といった実際の税法のしくみを解説するだけでなく、税務調査といった税務行政はどのようなものかなど、税金実務についても触れていく予定である。

2. 学びの意義と目標

税法は、税金を徴収する側の国や地方公共団体のためという視点だけでなく、納税者である私たちのためにあるということも理解し、現在のわが国の税法全体の概要を把握する。

受講生に対する要望

入門講座であるため、必須ではないが、財政学、会計学、簿記と関連するので、できうるかぎり、これらも受講してほしい。

キーワード

(1) 租税法律主義 (2) 租税公平主義 (3) 自主課税主義 (4) 応能負担と応益負担 (5) 申告納税と賦課課税

事前学習（予習）

事前に指定した教科書の該当箇所を読んでくること。

復習についての指示

追加プリントを再読し、各項目の理解を深めること。

授業計画

1. 税とは何か
2. 税に関する基本原則と課税制度
3. 税務調査と納税者の権利義務（1）
4. 税務調査と納税者の権利義務（2）
5. 所得税（1）
6. 所得税（2）
7. 所得税（3）
8. 所得税（4）
9. 所得税（5）
10. 法人税（1）
11. 法人税（2）
12. 法人税（3）
13. 法人税（4）
14. 法人税（5）
15. 法人税（6）
16. 消費税（1）
17. 消費税（2）
18. 消費税（3）
19. 相続税・贈与税（1）
20. 相続税・贈与税（2）
21. 相続税・贈与税（3）
22. 相続税・贈与税（4）
23. 地方税（1）
24. 地方税（2）
25. 地方税（3）
26. その他の国税・国際課税（1）
27. その他の国税・国際課税（2）
28. 税務行政等
29. まとめ
30. 試験

教科書

林 仲宣、四方田 彰、角田 敬子、竹内 進 『ガイドンス 税法講義』（税務経理協会）

評価方法

(1) 出席:30%:講義開始時には着席していること (2) 発表:30%:積極的に講義に参加し、理解度を高めてほしい。 (3) 期末試験:40%

担当者：山田　ひとみ

開設期：春学期/秋学期　必修・選択：選択科目　授業回数：2　単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

企業は日々の取引を複式簿記で記録して会計情報を作成して決算を行い、その決算に基づいて所得を計算して納税申告をします。ですから、企業会計の一連の手続を学ぶには、会計と税務の両方について理解することが重要です。会計分野は、「簿記とは何か」からスタートし、企業の会計情報の意義や種類について学びます。税務分野は、わが国の「税金とは何か」からスタートし、主として企業の所得に対して課税される法人税の理論と計算について学びます。

2. 学びの意義と目標

企業会計の一巡を理解し、企業の所得の計算プロセスや法人課税の基礎を理解することができる。会計学・経営学関連科目を学ぶ上でも必要な基礎知識が身に付きます。

受講生に対する要望

簿記・会計初学者でも受講できます。「簿記（初級）」履修後または、同時に履修することをお勧めします。理解度チェックのため、適宜、レポートを提出してもらいます。

キーワード

(1)企業会計 (2)簿記 (3)租税法 (4)会計学 (5)経営学

事前学習（予習）

授業計画を参照し、推薦図書等で該当箇所を確認しておくこと。
推薦図書→(1)『現代会計学（第12版）』（新井清光　著、中央経済社、2011年）(2)『現代税法の基礎知識』（岸田貞夫、柳裕治、他　著、ぎょうせい、2011年）

復習についての指示

配布プリントの再読と、講義中に指示された課題を次回までに終えること。

授業計画

1. ガイダンス（授業の進め方、採点方法について）
2. くらしと会計
3. くらしと租税
4. 株式会社の仕組みと税務・会計（1）
5. 株式会社の仕組みと税務・会計（2）
6. 会計の意義と会計学の研究対象
7. 複式簿記の仕組み（1）仕訳
8. 複式簿記の仕組み（2）貸借対照表
9. 複式簿記の仕組み（3）損益計算書
10. 複式簿記の仕組み（4）簿記一巡
11. 企業会計の仕組み（1）財産法と損益法
12. 企業会計の仕組み（2）棚卸法と誘導法
13. 企業会計の仕組み（3）会計公準
14. 企業会計の仕組み（4）会計原則
15. 企業会計制度（1）会社法
16. 企業会計制度（2）金融商品取引法
17. 企業会計制度（3）法人税法
18. 国際会計基準の取り扱い
19. 租税および租税法の意義
20. 租税法律関係の特色
21. 租税法の基本原則（1）租税法律主義
22. 租税法の基本原則（2）租税公平主義
23. 租税法規について
24. 納税義務について
25. 法人と法人税の意義
26. 法人税の課税根拠
27. 課税所得の計算（1）基礎構造
28. 課税所得の計算（2）益金の額
29. 課税所得の計算（3）損金の額
30. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)提出課題:25% (2)定期試験:25% (3)出席:50%

組織行動論

MGMT-L-200

担当者：小林 一之

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

社会生活では人は集団として行動する事が多々あります。集団の中では集団に影響され、人の行動は一人の時とは幾分違ったものになります。組織行動論では組織の中での個人がどんな行動をとるのか、また組織が持つ特徴などを探ります。更に組織をどう効率的に運営させるかなどを学びます。具体的には人の行動を決める“動機づけ”、“集団の意思決定の特徴”、“組織の活性化を促すリーダーシップ”、“組織論”などについて事例を踏まえわかり易く伝えます。また様々な組織の特徴、その効率的な運用の方法を学ぶため、或いは経営管理のための入門的な位置づけです。応用心理学や他の関連する経営管理手法なども紹介します。

2. 学びの意義と目標

これらの成果は日常生活の中での集団活動にも活用する事が出来ます。また企業の中では重要な経営管理の道具として多く使われていますし、特に大企業ではマネージャーになるための必須の修得項目の一つになっています。本講ではその基本的考え方を理解すること

受講生に対する要望

他の学問の境界で学ぶ事は多くあります。一つ一つ納得して自分の物として下さい。授業中の意見、質問を積極的に行って下さい。

キーワード

(1) 動機づけ理論 (2) 集団の中の個人 (3) リーダーシップ (4) 組織の病気 (5) 組織の活性化

事前学習（予習）

特に予習は必要としませんが、自分が属している家族、サークル、友人仲間などの集団の自分との関わり、問題点など考えるきっかけとして下さい。

復習についての指示

授業で配布されたプリントを機械までに再読する事。また聖学院大の図書館に関連する図書も多くあるので目を通す事を薦めます

授業計画

1. 組織行動論とは
2. 経営への科学の導入 (1)
3. " (2)
4. 人は何に基づいて行動するか
5. 動機づけ理論 (1)
6. " (2)
7. 動機づけ理論の応用
8. 人はなぜ集団に参加するのか
9. 集団の役割、種類
10. 集団行動の特徴
11. 集団の意思決定
12. 集団の最良の意思決定
13. コミュニケーション (1)
14. " (2)
15. リーダーシップ (1)
16. " (2)
17. リーダーシップ理論の応用 (1)
18. " (2)
19. パワー
20. 政治的活動
21. 組織内の葛藤 (1)
22. " (2)
23. 協働と組織
24. 組織の構造
25. 組織のデザイン
26. 組織文化 (1)
27. " (2)
28. コンピテンシー (1)
29. " (2)
30. 予備、まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 出席点:30% (2) 理解力:70%

組織行動論

MGMT-L-200

担当者：八木 規子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

組織行動論は、組織という文脈のなかで、人間が行動する際に見せるさまざまな法則性について学ぶ。個人が、個人として、また、小集団・組織の成員として行動し、認知し、また感情を抱く際にみせるさまざまな法則性に関する理論やフレームワークの習得に基礎を置き、それらの法則性の活用を、実際の組織（大学内のクラブ、企業、非営利団体、等）が直面する諸問題の解決に、どのように適用できるか、ケース・スタディ、ロール・プレイ、グループ・プロジェクト等の学習手法を通じて、身に着ける。

2. 学びの意義と目標

われわれが社会生活を営む上では、いずれかの組織に所属することなしに生きていくことはできない。組織は、個人だけでは達成できない目標を達成しうよう仕組みとして、人類の発明した仕組みの中でも最も価値のあるもののひとつといえる。しかしながら、組織が所期の目標を達成するためには、所属する成員が協力しあうことが重要となる。組織成員の協力を引き出し、目的に向かって成員を動かすためには、さまざまなスキルが必要とされる。組織行動論を学ぶことの意義は、こうしたスキルを身につけるとともに、人間の認知、行動、感情を動かす原理原則を学ぶことで、自分自身と他者をより良く理解することにある。組織行動論の学びを通じて、自らが組織の良き一員となるだけでなく、後年、部下をもったときには、良き上司として、部下を導き、育成する力を磨くことを目標とする。

受講生に対する要望

自分自身と他者をよく理解したいという意欲をもち、学びの実践のために、自分自身のcomfort zoneの外にすこし出て、新しいことに挑戦してほしい。

キーワード

(1) 組織 (2) 小集団 (3) 個人 (4) 行動 (5) 認知

事前学習（予習）

大学のE-learningシステムにアップロードする、各セクションの準備資料(教科書の各章に相当)を読み込み、自分ならどのような対処をするか、クラス討論に参加できる準備をしておくこと。出席・参加点の対象となる小さな宿題を適宜課す予定。準備資料やレポートの参考資料のダウンロード、レポート提出等、E-learningシステムの使用が必須となるので、学生はシステムの使い方に習熟しておくこと。

復習についての指示

授業中に取ったノートを整理しておく。とくに理論やフレームワークを、現実の諸問題にどのように適用できるか。逆に理論やフレームワークの限界はなんなのか、復習しておくことは、試験の良い準備となる。

授業計画

1. 本科目の進め方について。組織行動論とは何か
2. 組織行動論の歴史。科学的研究方法と組織行動論
3. 学習と知識（Kolbのモデル）
4. パーソナリティ：個人レベルでの違い
5. チーム分け発表【要出席】チームプロジェクトの説明
6. 集団行動の基礎
7. チームを理解する
8. 組織文化—1
9. 組織文化—2
10. コミュニケーション
11. コンフリクトと交渉
12. 前半まとめ
13. 中間試験
14. 個人行動の基礎—価値観、態度
15. 個人行動の基礎—認知、学習
16. 動機付けの基本的なコンセプト—動機付けとはなにか、初期の理論
17. 動機付けの基本的なコンセプト—現代の理論、国民文化の影響
18. 動機付け：コンセプトから応用—給与制度設計と動機付け
19. 動機付け：コンセプトから応用—職務再設計
20. 動機付け：コンセプトから応用—多様化する労働力を動機付ける
21. 個人の意思決定
22. パワーと政治
23. リーダーシップ—1
24. リーダーシップ—2
25. 組織構造の基礎
26. 組織変革と組織開発
27. チームプロジェクト発表—1【要出席】
28. チームプロジェクト発表—2【要出席】
29. 後半まとめ
30. 期末試験

教科書

授業の中で指示する
教科書の各章に相当するような準備資料を、事前にE-learningシステムにアップロードしておくので、学生は、授業出席前にそれらをダウンロードすること。

評価方法

(1) 授業出席・参加点:20%:授業中に行う小テストの結果、ディスカッションへの参加、等を含む。(2) 中間試験:30%(3) チームプロジェクト:20%:4～5人のチームに分かれ、学期を通してプロジェクトに取り組む。(4) 期末試験:30%

卒業研究(政治経済学)

POSC-P-400

担当者：吉田 博司

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本卒業研究で扱う具体的なテーマは、受講生との相談の上で決定する。

2. 学びの意義と目標

受講生には一定の読書課題や調査課題が与えられるため、主体的な参加が求められる。文献の講読、報告、討議という一連の作業を経て、既存の社会システムを相対的・批判的に再検討できるようになることを目標とする。

受講生に対する要望

本科目は、政治経済学科で春学期に開講される唯一の「再履修用」ゼミである。履修は、原則として、9月卒業を目指す109P以上の学生に限られる。政治経済学科の専門演習を履修済みのこと（ただし科目は問わない）。

キーワード

(1)政治 (2)経済 (3)社会 (4)法

事前学習（予習）

課題文献を読み、要点をまとめておく。

復習についての指示

クラスでの議論を自らの提出課題・報告課題に反映させてまとめておく。

授業計画

1. イントロダクション(1)
2. イントロダクション(2)
3. 文献講読の技法(1)
4. 文献講読の技法(2)
5. 文献講読の技法(3)
6. 文献講読の技法(4)
7. 文献講読、レジュメの作成技法(1)
8. 文献講読、レジュメの作成技法(2)
9. 文献講読、レジュメの作成技法(3)
10. 文献講読、レジュメの作成技法(4)
11. 文献講読、レジュメの作成技法(5)
12. 文献講読、レジュメの作成技法(6)
13. 文献講読、プレゼンテーションの技法(1)
14. 文献講読、プレゼンテーションの技法(2)
15. 文献講読、プレゼンテーションの技法(3)
16. 文献講読、プレゼンテーションの技法(4)
17. 文献講読、プレゼンテーションの技法(5)
18. 文献講読、プレゼンテーションの技法(6)
19. 課題研究・準備(1)
20. 課題研究・準備(2)
21. 課題研究・調査(1)
22. 課題研究・調査(2)
23. 課題研究・調査(3)
24. 課題研究・調査(4)
25. 課題研究・調査(5)
26. 課題研究・調査(6)
27. 課題研究報告(1)
28. 課題研究報告(2)
29. 総括(1)
30. 総括(2)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)平常点:50% (2)課題提出:50%

卒業研究A (アイデンティティの社会学)

SOCI-P-400

担当者：横山 寿世理

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 内容 このゼミでは、ゼミ生自らが、特定のテーマで社会調査（アンケート調査）の企画、調査票の設計、実査、集計、そして分析、調査結果の報告を実践する。調査対象は学内の学生として、集合調査法によって行うこととする。卒業研究Aでは、どのような調査を行うか（企画・仮説設定・調査票設計）を決め、プリテストを完成するところまでを行う。プリテストは夏休み中に複数人に実施することになる。2. カリキュラム上の位置づけ 政治経済学科112P生3年次春学期開講の必修の演習科目である。

2. 学びの意義と目標

この演習では、専門演習を通じて習得した自己アイデンティティに関する社会意識について社会学的な課題を設定して、それを実証的に明らかにすることを目標とする。アイデンティティという概念と、これらの概念が社会的にどのように扱われるかを理解することとは異なる。このゼミでは、アイデンティティ概念が社会においてどのように評価され、位置づけられるかをゼミ生が主体的に明らかにすることを目指す。

受講生に対する要望

専門科目「アイデンティティの社会学」は、テキスト講読の予備知識を身につけるために事前に受講しておいて欲しい。また、専門科目「社会調査論」は、社会調査の実践のために必ず受講して欲しい。「社会調査論」未受講のまま、ゼミにおいて社会調査実習に臨むのは、非常に困難である。基本的にmoodleを多用するので、ゼミ外でもPCを利用することが必要になる。

キーワード

(1) 社会学 (2) アイデンティティの社会学 (3) 社会調査 (4) アンケート (5) 実証

事前学習（予習）

詳細はmoodleで指示するが、次のゼミ計画を確認して準備をすることが、学期を通じて共通する予習項目である。

復習についての指示

指定された期日までに各ゼミの課題を仕上げて、moodleにアップすることが求められる。

授業計画

1. 社会調査とは
2. 社会調査の企画（先行研究の収集）
3. 社会調査の企画（先行研究の収集）
4. 社会調査の企画（先行研究の収集）
5. 仮説の設定
6. 仮説の設定
7. 中間報告とグループ分け
8. 仮説に基づく質問文と回答の作成【グループ】
9. 仮説に基づく質問文と回答の作成【グループ】
10. 仮説に基づく質問文と回答の作成【グループ】
11. 仮説に基づく質問文と回答の作成【グループ】
12. 進捗状況報告
13. 調査票の設計
14. 調査票の設計：プリテストの完成
15. プリテスト用調査票の印刷

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1) 調査企画と仮説:30% 調査企画（テーマを含む）と仮説の設計 (2) 質問:20% 質問文と回答の作成 (3) プリテスト関連:20% プリテストの完成と印刷への貢献度 (4) その他の課題:30% 各ゼミでの課題

上記の評価項目の詳細な評価はmoodleにて確認すること。

卒業研究 A (環境保全論)

POSC-P-400

担当者：村上 公久

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

始めに全員で地球環境問題を扱った英文の報告書（6つの英文報告書）を学び、その中から各自がテーマを選んで、レポートをまとめる。この演習ではまず、システム“人間—環境”系の考察を中心に環境史を概観する。次に、人口の急増と共に急速に生命の環境が劣化した産業革命以降今日までの環境問題を考え、その解決に貢献した先駆者達の歩みを振り返り、自然保護と環境保全という立場の違いの検討を手がかりに21世紀の人類の課題 Sustainable Development 保続的(持続的)開発(地球サミットUNCEDの決議『アジェンダ21』)の可能性を探る。次に複数のグループに分かれてグループ毎に地球環境問題に関わる課題を設定し、解決への提言をまとめる。

2. 学びの意義と目標

専門科目「環境保全論」、「専門演習（環境保全論）」で得た知見を、グループで提言にまとめ発表する能力の獲得。環境問題の事例研究を通じて、解決への実践的な方途について学び、環境問題にみられるような複雑な問題と取り組み問題解決に挑む模擬経験を積む。

受講生に対する要望

大学の「授業」は、講義と演習（ゼミ）と二つの要素から成る。この科目「卒業研究 A（環境保全論）」は、講義である専門科目の「環境保全論」で学んだ内容の具体的事例を扱う演習（ゼミ）科目である。履修する予定の者は、予めこの演習科目を履修するための導入と基礎となる本学の環境分野関連科目「環境学」「環境保全論」「聖書の中の環境問題」の3科目のうち1科目以上を、履修しておくことが望ましい。

キーワード

(1) 自然保護と環境保全 (2) 自然観の変遷 (3) 個体群生態学と環境容量 (4) 再生産可能な資源 と 枯渇性資源 (5) 保続的（持続的）発展

事前学習（予習）

総合科目「環境学」、専門科目「環境保全論」、キリスト教科目「聖書の中の環境問題」、特にこの演習の前提である「環境保全論」を、準備として予め復習しておくこと。演習開始以降の予習については、各回に指示する。

復習についての指示

各回のゼミ内容について、関係する情報・資料を探して参考にし、講義を受けて自分で考えたことを含めてゼミ記録を作成する。

授業計画

1. The Club Of Rome : Agenda For The End Of The Century ('84)
2. The Club Of Rome : Agenda For The End Of The Century ('84) -2
3. The Global 2000 Report (1)
4. The Global 2000 Report (2)
5. The Global 2000 Report (3)
6. Our Common Future (1)
7. Our Common Future (2)
8. Our Common Future (3)
9. State Of The World, World Watch Institute
10. World Resources Report (1)
11. World Resources Report (2)
12. World Resources Report (3)
13. Agenda 21, UNCD (1)
14. Agenda 21, UNCD (2)
15. Agenda 21, UNCD (3)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 出席 : 40% (2) プレゼンテーションと討論 : 60%

資料の探索と資料の理解、プレゼンテーション等のための加工、複数回の個人・チームによるプレゼンテーション、討論、ゼミ参加態度、ゼミへの熱意と貢献等 などを総合的に評価する。

卒業研究 A (企業経済論)

ECON-P-400

担当者：柴田 武男

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

「卒業研究（企業経済論）」では、金融市場に関する論文作成の指導を行う。まず、関連する論文の読解から初めて、専門論文を読みとる方法を学んで、次に、基本的なテーマの選定、論文の書き方を指導する。原則として、担当教員の金融市場論講義・専門演習を受けた上で選択して欲しい。金融市場というテーマ自体が幅広く、大きいので、銀行とか証券だけがテーマだと選択を狭くするつもりはない。幅広く受講生の関心のあるテーマで自発的に取り組んで欲しい。ただし、日頃新聞の経済記事を読み、日本の企業を取り巻く経営環境についてある程度の知識を有していないと、論文作成は困難であることは留意して欲しい。株式・社債、派遣法など様々な問題に日頃関心を持っている受講者であれば、大歓迎である。

2. 学びの意義と目標

卒業研究はレポート作成を単位認定条件とするので、そのためのテーマ決定、情報収集、作文能力などが育成される。レポート作成記述を身につけることが目標となる。

受講生に対する要望

ゼミでは、ゼミ生相互の議論が重要であるので欠席しないことと議論に積極的に参加して発言することを期待する。メーリングリストを活用するのでパソコン・メール環境を準備してください。

キーワード

(1) 議論への参加 (2) テーマの設定 (3) 情報収集 (4) データベースの利用 (5) 日本経済新聞

事前学習（予習）

無断欠席は認められない。病欠等仕方ないが、必ず連絡をお願いする。主に三年次選択科目となるので、就職活動に関するアドバイスも行うので、就職意識の強い学生を期待する。

復習についての指示

発表したテーマに関して追加的な課題を設定する。

授業計画

1. 最初の数回は、論文読解のコツを教える。
2. 次に、論文のレポート方法を教える。
3. さらに、論文のテーマ選定方法を教える。
4. 最終的に、選定したテーマで論文作成の方法を教える。
5. 確定したテーマでレポートを作成する。
6. 卒業研究レポートの中間報告1
7. 卒業研究レポートの中間報告2
8. 卒業研究レポートの中間報告3
9. 卒業研究レポートの中間報告4
10. 卒業研究レポートの中間報告5
11. 卒業研究レポートの中間報告6
12. 卒業研究レポートの中間報告7
13. 卒業研究レポートの中間報告8
14. 卒業研究レポートの中間報告9
15. 卒業研究レポートの中間報告10

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席点:50% (2) レポート:50%

卒業研究 A (金融論)

ECON-P-400

担当者：鈴木 真実哉

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

専門演習A・Bにおいて学んだことを基礎として、さらに応用的・発展的な学習を進めてゆく。最終的には卒業論文の作成につながるようにする。

2. 学びの意義と目標

自主的なテーマの選択を通じて、自らの学問的な関心領域を決め、一つのテーマについて深く探究する力をつけることができるようになる。

受講生に対する要望

これまでに学んできた学問領域において、自らの関心がどこにあるかを発見してほしい。それを自主的に探究する姿勢をもってほしい。

キーワード

(1) 自主的探究 (2) 積極的姿勢

事前学習（予習）

毎回、発表・報告の主旨を800字程度にまとめて提出すること。また、発表・報告後は修正版を提出すること。

復習についての指示

他のゼミメンバーからの感想・質問、指導教員からのコメントをふまえて提出用レポートを作成すること。

授業計画

1. 1 あらかじめ指定したテーマについての発表（4回程度）
2. 1 あらかじめ指定したテーマについての発表（4回程度）
3. 1 あらかじめ指定したテーマについての発表（4回程度）
4. 1 あらかじめ指定したテーマについての発表（4回程度）
5. 2 自由選択テーマについての発表（3回程度）
6. 2 自由選択テーマについての発表（3回程度）
7. 2 自由選択テーマについての発表（3回程度）
8. 3 グループ共同研究発表（2回程度）
9. 3 グループ共同研究発表（2回程度）
10. 4 集団討論（2回程度）
11. 4 集団討論（2回程度）
12. ゲストによるレクチャー
13. 春学期レポート発表
14. 春学期レポート発表
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 発表:40% (2) レポート:40% (3) 出席状況:20%

積極的、情熱的姿勢を高く評価する。

卒業研究 A (経営管理)

MGMT-P-400

担当者：金子 毅

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

経営管理のベースとなる基本文献の抽出から引用、参考を含めた研究レポート作成に向けた文献研究までを扱う。

2. 学びの意義と目標

発表と討論を通じて、卒業レポートを書く上での基本的な「論文作法」を習得する。卒業レポートを書くための基礎固めを行なう。

受講生に対する要望

受講生には、自分の問題関心を持つように心がけ、講義の中でそれとのすり合わせを行なうつもりで参加してもらいたい。なお、ネット情報からのコピー引用は厳禁とする。

キーワード

(1) 論理的流れ (2) 理論枠組 (3) 文献検索 (4) 文献リストの作成

事前学習（予習）

シラバスに記した手順を参照して、卒業レポートに向けた自己の論点を整理しておく。

復習についての指示

講義で討論した内容や教師からの指摘に基づき、卒業レポートの構成や論点を練り直す。

授業計画

1. プロローグ：経営管理として焦点となるテーマは何か
2. 基本文献の紹介と講読 1
3. 基本文献の紹介と講読 2
4. 基本文献の紹介と講読 3
5. 文献検索の方法
6. 文献検索の実践 1：図書館の探検
7. 文献検索の実践 2：ネットで検索してみよう
8. 文献リストの作成 1：課題でチャレンジ 1
9. 文献リストの作成 2：課題でチャレンジ 2
10. 文献研究 1
11. 文献研究 2
12. 文献研究 3
13. 文献研究 4
14. 文献研究 5
15. エピローグ：小括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) レポート:60% (2) 出席:20% (3) 参加姿勢:10% (4) 感想文:10%

担当者：高橋 愛子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

今日の政治社会が直面するさまざまな問題を理解するためには二つのアプローチが必要とされる。すなわち、政治過程の具体的なダイナミズムについて実証的な認識をもつこと、および、現実政治を理解する際に必要とされる理念的思想的な次元における自分なりの認識のための座標軸をもつことである。以上の基本的な考え方に立ち、本年は、「日本の敗戦後史を考える―丸山眞男を通して」を一つの切り口としながら、共通のテキストを輪読しつつ学び議論をしてゆく。一学期間を通して学んだことを「学期末レポート」として提出することが求められる。＜カリキュラム上の位置づけ＞3年次春学期に位置づけられた必修の演習科目の一つである。

2. 学びの意義と目標

基本的なテキストの読解力を得ること（著者の主張の要点を把握し、発表用のレジュメを作成し、プレゼンを行う）、政治的な課題についての議論の作法を学ぶこと、また、政治にかかわる独自の研究テーマを見出すこと。

受講生に対する要望

1) リアルタイムな時事問題に積極的な関心を持つと同時に、その背景にある問題への思想的な面についての理解にも問題意識を持つ。2) ディスカッションの司会を担当することにより議論の整理のノウハウを身につける。

キーワード

(1) 日本の「戦後」 (2) 丸山眞男 (3) 日本の思想 (4) 未完のプロジェクト

事前学習（予習）

リアルタイムな政治現象に関心を持ち新聞を読む事に加え、各回に予定されるテキストを予め精読すること。

復習についての指示

ゼミで議論になったポイントについての理解を深めるためのレポート作成。

授業計画

1. 導入：講義計画の説明、担当についての分担
2. どのような観点からテーマを位置づけるか
3. テキストの輪読・各自のプレゼン
4. テキストの輪読・各自のプレゼン
5. テキストの輪読・各自のプレゼン
6. テキストの輪読・各自のプレゼン
7. テキストの輪読・各自のプレゼン
8. テキストの輪読・各自のプレゼン
9. テキストの輪読・各自のプレゼン
10. テキストの輪読・各自のプレゼン
11. テキストの輪読・各自のプレゼン
12. テキストの輪読・各自のプレゼン
13. テキストの輪読・各自のプレゼン
14. テキストの輪読・各自のプレゼン
15. テキストの輪読・各自のプレゼン

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 出席：40% (2) プレゼン：30% (3) 学期末レポート：30%

卒業研究 A (政治哲学)

POSC-P-400

担当者：森分 大輔

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

＜内容＞「専門演習（政治哲学）」の延長線上に位置づけられており、本演習履修者は「専門演習」を必修とする。専門演習での学習を前提として、新たなテキストの講読と議論を行う。基本的に、学期の前半は共通のテキストを読み、後半は順次、各自が自らの関心に即して選んだテーマについての個別発表とし、各自の進捗状況を報告、議論する。

2. 学びの意義と目標

基本的なテキストの読解力を得ること（読む、書く、話すという社会科学の必要な基本スキルの習得）、政治学的な関心を深めること、独自の研究テーマへの理解を深めることの三点である。

受講生に対する要望

3年次に位置づけられた必修の演習科目の一つであるという自覚の下、積極的に自身のテーマを追求し、議論に参加することが望まれる。

キーワード

(1) 政治 (2) 思想 (3) 討論

事前学習（予習）

政治に関する積極的な関心を持つのみならず、理論的な視点、継続的に文献に取りかかることのできる忍耐力、自己の思考を提示することへの興味をもち、必要な学習をすることが必要である。

復習についての指示

自身のテーマとの関連をゼミの議論を振り返り反省すること、そしてそれらをまとめることが求められる。あわせて関連書籍の購読をすることが望ましい。

授業計画

1. イントロダクション
2. 共通のテキストの講読・議論
3. 共通のテキストの講読・議論
4. 共通のテキストの講読・議論
5. 共通のテキストの講読・議論
6. 共通のテキストの講読・議論
7. 共通のテキストの講読・議論
8. 共通のテキストの講読・議論
9. 共通のテキストの講読・議論
10. 共通のテキストの講読・議論
11. 共通のテキストの講読・議論
12. 共通のテキストの講読・議論
13. 共通のテキストの講読・議論
14. 共通のテキストの講読・議論
15. 共通のテキストの講読・議論

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席:40% (2) プレゼンテーション:30% (3) 期末レポート:30%

卒業研究 A (地域圏研究ロシア)

ECON-P-400

担当者：飯島 康夫

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

情報氾濫、錯綜する現代社会において、いかに知識を生きた知恵に変える事を意図するものである。

2. 学びの意義と目標

文献の精査、先行研究の批判的考察を実践できるよう創意工夫したものである事。 目標は、難解であっても、自ら考え、咀嚼し、書き、的確に表現できる事である。

受講生に対する要望

大学の学びを知恵の蓄積の基礎とするため、そのための積極的な構えが求められる。

キーワード

(1)国際関係史 (2) 叡智

事前学習（予習）

発表時には、必ずレジュメをゼミ生、教員に配布し、準備しておく事。 また、プレゼンでは、要点を自分の言葉で表現する事。

復習についての指示

発表したものは、後日、文書にして小論の形で残し、提出する事。

授業計画

1. 事前説明
2. 発表テーマの決定
3. グループワーク、ゼミの進め方の検討
4. ゼミ生の発表、コメント
5. 同上
6. 同上
7. 同上
8. 同上
9. 同上
10. 同上
11. 期末小論文テーマ（仮題）について
12. 発表、コメント
13. 同上
14. 学んだ事のまとめ
15. 総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:50% (2)小論文:30% (3)発表:20%

卒業研究 A (日本政治思想史)

POSC-P-400

担当者：吉田 博司

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

近代日本の政治家及び思想家の研究指導をします。学生のテーマ設定、報告、討論の時間です。

2. 学びの意義と目標

歴史に興味をもち、人間への深い洞察を養って下さい。

受講生に対する要望

報告が主体となるので、怠情を克服してほしい。

キーワード

(1)近代日本、憲政、明治維新、藩閥 (2)超然主義、政党内閣、元老

事前学習（予習）

学生報告のプリントを用意させ、事前に調査研究事項を割り当てる。授業後、他からのコメントを照らし合わせる。

復習についての指示

報告のあと、質問、アドバイスを参考に修正する。

授業計画

1. テーマ設定
2. 同
3. 同
4. 資料収集指導
5. 同
6. 以下、学生報告と討論
7. 同
8. 同
9. 同
10. 同
11. 同
12. 同
13. 同
14. 同
15. 同

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)報告:70% (2)質問:30%

卒業研究 A (比較憲法)

LAW-P-400

担当者：石川 裕一郎

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

2年次の「専門演習（比較憲法）」の成果を踏まえ、受講者各々が各自の研究テーマを設定し、調査・研究・発表・討論を重ねることにより、最終的に一定量の論文を完成させます。

2. 学びの意義と目標

具体的な意義と目標は、法律上は「成年」であるところの各受講者のモチベーションに依拠しますが、とにかく事実を観察し、ひたすら読書をし、公権力や社会的権力から一方的に搾取されない賢い市民＝国民＝労働者となることを目指します。

受講生に対する要望

「演習」科目ですので、受講者が主体的に授業に参加する」ことが強く求められます。

キーワード

(1) 演習科目 (2) 法律学 (3) 憲法学 (4) 比較法学

事前学習（予習）

演習科目なので、とりわけプレゼンの準備には各受講者の自発的かつ継続的な相応の分量の予習が求められます。

復習についての指示

プレゼン後においても、卒業研究に向けて相応の分量の復習が求められます。

授業計画

1. 導入：担当の決定
2. 各自の個別テーマの発表・議論
3. 各自の個別テーマの発表・議論
4. 各自の個別テーマの発表・議論
5. 各自の個別テーマの発表・議論
6. 各自の個別テーマの発表・議論
7. 各自の個別テーマの発表・議論
8. 各自の個別テーマの発表・議論
9. 各自の個別テーマの発表・議論
10. 各自の個別テーマの発表・議論
11. 各自の個別テーマの発表・議論
12. 各自の個別テーマの発表・議論
13. 各自の個別テーマの発表・議論
14. 各自の個別テーマの発表・議論
15. 各自の個別テーマの発表・議論

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 平常点：80%：プレゼンテーションの内容と討議への参加状況から評価します。(2) 期末レポート：20%

単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。

卒業研究 A (平和学)

ECON-P-400

担当者：小松崎 利明

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

第一に、各自の卒業研究テーマ・内容の発表・調査報告に対して担当教員が指導を行う。第二に、各自の発表内容について受講者全員で討論を行う。受講者の学修状況や問題関心に応じて、文献講読・輪読を行う場合もある。

2. 学びの意義と目標

各自の発表とそれに対する教員の指導、そして他の受講者との討論を通じて、自分の卒業研究テーマについての新たな気づきを得ること、理解を深めることができるようになる。さらに、自らの情報リテラシーやコミュニケーション・スキルを高めることができるようになる。

受講生に対する要望

自分の無関心と闘い、徐々に想像力の幅を広げていってほしいと思います。

キーワード

(1) 平和

事前学習（予習）

各自の発表の準備を進める。

復習についての指示

毎回の授業での指導・討論を振り返り、自分の調査・発表内容に反映させる。

授業計画

1. イントロダクション
2. 各自の卒業研究テーマ・内容の報告・討論
3. 各自の卒業研究テーマ・内容の報告・討論
4. 各自の卒業研究テーマ・内容の報告・討論
5. 各自の卒業研究テーマ・内容の報告・討論
6. 各自の卒業研究テーマ・内容の報告・討論
7. 各自の卒業研究テーマ・内容の報告・討論
8. 各自の卒業研究テーマ・内容の報告・討論
9. 各自の卒業研究テーマ・内容の報告・討論
10. 各自の卒業研究テーマ・内容の報告・討論
11. 各自の卒業研究テーマ・内容の報告・討論
12. 各自の卒業研究テーマ・内容の報告・討論
13. 各自の卒業研究テーマ・内容の報告・討論
14. 各自の卒業研究テーマ・内容の報告・討論
15. 各自の卒業研究テーマ・内容の報告・討論

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 平常点:100%:発表（複数回）の内容と討論への参加

卒業研究 A (法思想史)

LAW-P-400

担当者：加藤 恵司

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

「法思想史」の講義を基礎として、その内容を更に深める。本年度の主たるテーマとして、法制度の源流に焦点をあて、そこから流れ出す法思想を学んでみたい。

2. 学びの意義と目標

書物、論文を読むことを目標とする。また、与えられた課題を深く追求する。

受講生に対する要望

まじめに出席する。テキストを読む。

キーワード

(1) 法 (2) 思想 (3) 歴史

事前学習（予習）

テキストを要約してレポートする。

復習についての指示

話題になった事柄を調べる。

授業計画

1. テキスト購読・要約
2. テキスト購読・要約
3. テキスト購読・要約
4. テキスト購読・要約
5. テキスト購読・要約
6. テキスト購読・要約
7. テキスト購読・要約
8. テキスト購読・要約
9. テキスト購読・要約
10. テキスト購読・要約
11. テキスト購読・要約
12. テキスト購読・要約
13. テキスト購読・要約
14. テキスト購読・要約
15. テキスト購読・要約

教科書

加藤 恵司 『法・思想・歴史—Legal History』（ジーオー企画出版）

評価方法

- (1) 出席：60% (2) 授業態度：40%

卒業研究 A (理論社会学)

SOCI-P-400

担当者：土方 透

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

専門演習（理論社会学）の成果をふまえ、卒論の完成へ向けて指導を行う。

2. 学びの意義と目標

卒論を仕上げるという作業は、多くの学生にとって最初で最後の論文作成となる。学士号取得にふさわしい能力を身につけたことの証である。

受講生に対する要望

けっしてくじけないこと。

キーワード

事前学習（予習）

ただひたすら勤勉であることを要求する。

復習についての指示

毎回、前回は指摘された点の進捗状況を報告できるように、作業を進めてくること。

授業計画

1. 各自、論文作成へ向けてテーマの選定
2. テーマの検討と文献の選択
3. 文献講読とプレゼンテーション
4. 同上
5. 同上
6. 同上
7. 文献の検討
8. 文献講読とプレゼンテーション
9. 同上
10. 同上
11. 討論
12. 文献講読とプレゼンテーション
13. 同上
14. 同上
15. 同上

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 毎回の報告:20% (2) 卒論:80%

卒業研究B (アイデンティティの社会学)

SOCI-P-400

担当者：横山 寿世理

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 内容 このゼミでは、ゼミ生自らが、特定のテーマで社会調査（アンケート調査）の企画、調査票の設計、実査、集計、そして分析、調査結果の報告を実践する。調査対象は学内の学生として、集合調査法によって行うこととする。卒業研究Bでは、卒業研究Aで完成したプリテスト結果を検討するところから始めて、複数の授業での実査、集計、分析を行う。2. カリキュラム上の位置づけ 政治経済学科112P生3年次春学期開講の必修の演習科目である。

2. 学びの意義と目標

この演習では、専門演習を通じて習得した自己アイデンティティに関する社会意識について社会的な課題を設定して、それを実証的に明らかにすることを目標とする。アイデンティティという概念と、これらの概念が社会的にどのように扱われるかを理解することとは異なる。このゼミでは、アイデンティティ概念が社会においてどのように評価され、位置づけられるかをゼミ生が主体的に明らかにすることを目指す。

受講生に対する要望

専門科目「アイデンティティの社会学」は、テキスト講読の予備知識を身につけるために事前に受講しておいて欲しい。また、専門科目「社会調査論」は、社会調査の実践のために必ず受講して欲しい。「社会調査論」未受講のまま、ゼミにおいて社会調査実習に臨むのは、非常に困難である。基本的にmoodleを多用するので、ゼミ外でもPCを利用することが必要になる。

キーワード

(1) 社会学 (2) アイデンティティの社会学 (3) 社会調査 (4) アンケート (5) 実証

事前学習（予習）

詳細はmoodleで指示するが、次のゼミ計画を確認して準備をすることが、学期を通じて共通する予習項目である。

復習についての指示

指定された期日までに各ゼミの課題を仕上げて、moodleにアップすることが求められる。

授業計画

1. プリテスト結果の検討と調査依頼状の作成
2. 実査用調査票の完成と調査依頼準備
3. 実査対象講義と実査日程の決定
4. 実査用調査票の印刷
5. 実査
6. エディティングとコーディング
7. データ入力完了
8. データ入力完了
9. 単純集計と円グラフ作成
10. クロス集計とグラフ作成
11. 報告書の作成
12. 報告書の提出準備
13. 報告書の提出
14. 報告書の印刷と製本
15. 調査結果の報告会

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1) 調査企画と仮説:30%:調査企画（テーマを含む）と仮説の設計 (2) 質問:20%:質問文と回答の作成 (3) プリテスト関連:20%:プリテストの完成と印刷への貢献度 (4) その他の課題:30%:各ゼミでの課題

上記の評価項目の詳細な評価はmoodleにて確認すること。

卒業研究B（環境保全論）

POSC-P-400

担当者：村上 公久

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

始めに全員で地球環境問題を扱った代表的な報告書を英文の報告書（6つの英文報告書）を含め学び、その中から各自がテーマを選んで、レポートをまとめる。この演習ではまず、システム“人間—環境”系の考察を中心に環境史を概観する。次に、人口の急増と共に急速に生命の環境が劣化した産業革命以降今日までの環境問題を考え、その解決に貢献した先駆者達の歩みを振り返り、自然保護と環境保全という立場の違いの検討を手がかりに21世紀の人類の課題 Sustainable Development 保続的(持続的)開発(地球サミットUNCEDの決議『アジェンダ21』)の可能性を探る。

次に複数のグループに分かれてグループ毎に地球環境問題に関わる課題を設定し、解決への提言をまとめる。

2. 学びの意義と目標

専門科目「環境保全論」で得た知見を、グループで提言にまとめ発表する能力の獲得。環境問題の事例研究を通じて、解決への実際的な方途について学び、環境問題にみられるような複雑な問題と取り組み問題解決に挑む模擬経験を積む。

受講生に対する要望

大学の「授業」は、講義と演習（ゼミ）と二つの要素から成る。この科目「卒業研究B（環境保全論）」は、講義である専門科目の「環境保全論」で学んだ内容の具体的事例を扱う演習（ゼミ）科目である。履修する予定の者は、予めこの演習科目を履修するための導入と基礎となる本学の環境分野関連科目で隔年開講の「環境学」「環境保全論」、また「聖書の中の環境問題」の3科目のうち1科目以上を、履修しておくことが望ましい。

キーワード

(1) 自然保護と環境保全 (2) 自然観の変遷 (3) 個体群生態学と環境容量 (4) 再生産可能な資源と枯渇性資源 (5) 保続的（持続的）発展

事前学習（予習）

総合科目「環境学」、専門科目「環境保全論」、キリスト教科目「聖書の中の環境問題」、特にこの演習の前提である「環境保全論」を、準備として予め復習しておくこと。演習開始以降の予習については、各回に指示する。

復習についての指示

各回のゼミ内容について、関係する情報・資料を探して参考にし、講義を受けて自分で考えたことを含めてゼミ記録を作成する。

授業計画

1. テーマを設定してレポートを作成 (1)
2. テーマを設定してレポートを作成 (2)
3. テーマを設定してレポートを作成 (3)
4. テーマを設定してレポートを作成 (4)
5. テーマを設定してレポートを作成 (5)
6. 地球環境問題について 解決への提言 (1)
7. 地球環境問題について 解決への提言 (2)
8. 地球環境問題について 解決への提言 (3)
9. 解決への提言をパワー・ポイント発表 (1)
10. 解決への提言をパワー・ポイント発表 (2)
11. 「卒業研究」レポート作成の準備 テーマと構成
12. 「卒業研究」レポート作成の準備 資料
13. 「卒業研究」レポート作成 (1)
14. 「卒業研究」レポート作成 (2)
15. 「卒業研究」発表

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 出席:40% (2) プレゼンテーションと討論:60%

資料の探索と資料の理解、プレゼンテーション等のための加工、複数回の個人・チームによるプレゼンテーション、討論、ゼミ参加態度、ゼミへの熱意と貢献等などを総合的に評価する。

卒業研究B（企業経済論）

ECON-P-400

担当者：柴田 武男

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

「卒業研究（企業経済論）」では、金融市場に関する論文作成の指導を行う。まず、関連する論文の読解から初めて、専門論文を読みとる方法を学んで、次に、基本的なテーマの選定、論文の書き方を指導する。原則として、担当教員の金融市場論講義・専門演習を受けた上で選択して欲しい。金融市場というテーマ自体が幅広く、大きいので、銀行とか証券だけがテーマだと選択を狭くするつもりはない。幅広く受講生の関心のあるテーマで自発的に取り組んで欲しい。ただし、日頃新聞の経済記事を読み、日本の企業を取り巻く経営環境についてある程度の知識を有していないと、論文作成は困難であることは留意して欲しい。株式・社債、派遣法など様々な問題に日頃関心を持っている受講者であれば、大歓迎である。

2. 学びの意義と目標

卒業研究はレポート作成を単位認定条件とするので、そのためのテーマ決定、情報収集、作文能力などが育成される。レポート作成記述を身につけることが目標となる。

受講生に対する要望

ゼミでは、ゼミ生相互の議論が重要であるので欠席しないことと議論に積極的に参加して発言することを期待する。メーリングリストを活用するのでパソコン・メール環境を準備してください。

キーワード

(1) 議論への参加 (2) テーマの設定 (3) 情報収集 (4) データベースの利用 (5) 日本経済新聞

事前学習（予習）

無断欠席は認められない。病欠等仕方ないが、必ず連絡をお願いする。主に三年次選択科目となるので、就職活動に関するアドバイスも行うので、就職意識の強い学生を期待する。

復習についての指示

発表したテーマに関して追加的な課題を設定する。

授業計画

1. 最初の数回は、論文読解のコツを教える。
2. 次に、論文のレポート方法を教える。
3. さらに、論文のテーマ選定方法を教える。
4. 最終的に、選定したテーマで論文作成の方法を教える。
5. 確定したテーマでレポートを作成する。
6. 卒業研究レポートの中間報告1
7. 卒業研究レポートの中間報告2
8. 卒業研究レポートの中間報告3
9. 卒業研究レポートの中間報告4
10. 卒業研究レポートの中間報告5
11. 卒業研究レポートの中間報告6
12. 卒業研究レポートの中間報告7
13. 卒業研究レポートの中間報告8
14. 卒業研究レポートの中間報告9
15. 卒業研究レポートの中間報告10

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 出席点:50% (2) レポート:50%

卒業研究B（金融論）

ECON-P-400

担当者：鈴木 真実哉

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

専門演習A・Bにおいて学んだことを基礎として、さらに応用的・発展的な学習を進めてゆく。最終的には卒業論文の作成につながるようにする。

2. 学びの意義と目標

自主的なテーマの選択を通じて、自らの学問的な関心領域を決め、一つのテーマについて深く探究する力をつけることができるようになる。卒業論文の作成にスムーズにいくことができるようになる。

受講生に対する要望

2年間の演習の集大成としてアカデミックな成果を残してもらいたい。卒業研究レポートの提出をもって2年間のゴールとする。

キーワード

(1) 自主的探究 (2) 積極的姿勢

事前学習（予習）

卒業研究発表に向けて最低10件の資料を報告すること。

復習についての指示

他のメンバーからの感想・質問、指導教員からのコメントをふまえて、提出用のレポートを作成すること。

授業計画

1. 1 あらかじめ指定したテーマについての発表（4回程度）
2. 1 あらかじめ指定したテーマについての発表（4回程度）
3. 1 あらかじめ指定したテーマについての発表（4回程度）
4. 1 あらかじめ指定したテーマについての発表（4回程度）
5. 2 自由選択テーマについての発表（3回程度）
6. 2 自由選択テーマについての発表（3回程度）
7. 2 自由選択テーマについての発表（3回程度）
8. 3 グループ共同研究発表（3回程度）
9. 3 グループ共同研究発表（3回程度）
10. 3 グループ共同研究発表（3回程度）
11. 4 集団討論（2回程度）
12. 4 集団討論（2回程度）
13. 卒業研究発表
14. 卒業研究発表
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 卒業研究レポート:40% (2) 発表:40% (3) 出席状況:20%

積極的、情熱的姿勢を高く評価する。

卒業研究B（経営管理）

MGMT-P-400

担当者：金子 毅

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

作成した文献リストをもとに、自己の問題関心に基づく研究レポートを完成させる。

2. 学びの意義と目標

発表と討論を通じて、卒業レポートを書く上での基本的な「論文作法」を習得する。学生自身の問題関心を踏まえた卒業レポートの作成を目標とする。

受講生に対する要望

受講生には、自分の問題関心を持つように心がけ、抗議の中でそれとのすり合わせを行なうつもりで参加してもらいたい。なお、ネット情報からのコピー引用は厳禁とする。

キーワード

(1) 論理の流れ (2) 理論枠組 (3) 文献検索 (4) 文献リストの作成

事前学習（予習）

シラバスに記した手順を参照して、卒業レポートに向けた自己の論点を整理しておく。

復習についての指示

講義で討論した内容や教師からの指摘に基づき、卒業レポートの構成や論点を練り直す。

授業計画

1. プロローグ：研究レポート作成に取り掛かる前に
2. 論文の二つのパターン1：理論研究
3. 論文の二つのパターン2：実証研究
4. 実証研究の二つのパターン1：量的調査
5. 実証研究の二つのパターン2：質的調査
6. サンプル文献購読1：理論
7. サンプル文献購読2：量的調査に基づく実証
8. サンプル文献購読3：質的調査を元とする実証
9. サンプル文献購読4：量的・質的調査を組み合わせた実証
10. 論文の書き方：要旨の作成と章の立て方
11. 註の打ち方、引用と参照の違い
12. 成果報告1
13. 成果報告2
14. 成果報告3
15. エピローグ：総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) レポート:60% (2) 出席:20% (3) 参加姿勢:10% (4) 感想文:10%

卒業研究B（政治過程論）

POSC-P-400

担当者：高橋 愛子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

今日の政治社会が直面するさまざまな問題を理解するためには二つのアプローチが必要とされる。すなわち、政治過程の具体的なダイナミズムについて実証的な認識をもつこと、および、現実政治を理解する際に必要とされる理念的思想的な次元における自分なりの認識のための座標軸をもつことである。以上の基本的な考え方に立ち、前半は、「日本の敗戦後史を考える―丸山眞男を通して」を切り口としながら、共通のテキストを輪読し議論をしてゆく。後半は各自のテーマについての進捗状況を報告し議論する。学期末に各自のテーマについての「小論文」（10,000字）を提出することが求められる。＜カリキュラム上の位置づけ＞3年次秋学期に位置づけられた必修の演習科目の一つである。

2. 学びの意義と目標

基本的なテキストの読解力を得ること（著者の主張の要点を把握し、発表用のレジュメを作成し、プレゼンを行う）、政治的な課題についての議論の作法を学ぶこと、また、独自の研究テーマを「卒業論文」執筆へと掘り下げること。

受講生に対する要望

1) リアルタイムな時事問題に積極的な関心を持つと同時に、その背景にある問題への思想的な面についての理解にも問題意識を持つ。2) ディスカッションの司会を担当することにより議論の整理のノウハウを身につける。

キーワード

(1) 文献リサーチ (2) アーティクル・レビュー

事前学習（予習）

リアルタイムな政治現象に関心を持ち新聞を読む事に加え、各回に予定されるテキストを予め精読すること。

復習についての指示

ゼミで議論になったポイントについての理解を深めるためのレポート作成。

授業計画

1. 導入：講義計画の説明、担当についての分担
2. 共通テキストの輪読・各自のプレゼン
3. 共通テキストの輪読・各自のプレゼン
4. 共通テキストの輪読・各自のプレゼン
5. 共通テキストの輪読・各自のプレゼン
6. 各自の研究課題のプレゼン・議論
7. 各自の研究課題のプレゼン・議論
8. 各自の研究課題のプレゼン・議論
9. 各自の研究課題のプレゼン・議論
10. 各自の研究課題のプレゼン・議論
11. 各自の研究課題のプレゼン・議論
12. 各自の研究課題のプレゼン・議論
13. 各自の研究課題のプレゼン・議論
14. 各自の研究課題のプレゼン・議論
15. 各自の研究課題のプレゼン・議論

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席：40% (2) プレゼン：30% (3) 小論文：30%

卒業研究B(政治哲学)

POSC-P-400

担当者：森分 大輔

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

＜内容＞「専門演習（政治哲学）」の延長線上に位置づけられており、本演習履修者は「専門演習」を必修とする。専門演習での学習を前提として、新たなテキストの講読と議論を行う。基本的に、学期の前半は共通のテキストを読み、後半は順次、各自が自らの関心に即して選んだテーマについての個別発表とし、各自の進捗状況を報告、議論する。

2. 学びの意義と目標

基本的なテキストの読解力を得ること（読む、書く、話すという社会科学の必要な基本スキルの習得）、政治学的な関心を深めること、独自の研究テーマへの理解を深めることの三点である。

受講生に対する要望

3年次に位置づけられた必修の演習科目の一つであるという自覚の下、積極的に自身のテーマを追求し、議論に参加することが望まれる。

キーワード

(1)政治 (2)思想 (3)討論

事前学習（予習）

政治に関する積極的な関心を持つのみならず、理論的な視点、継続的に文献に取りかかることのできる忍耐力、自己の思考を提示することへの興味をもち、必要な学習をすることが必要である。

復習についての指示

自身のテーマとの関連をゼミの議論を振り返り反省すること、そしてそれらをまとめることが求められる。あわせて関連書籍の購読をすることが望ましい。

授業計画

1. イントロダクション
2. 共通のテキストの講読・議論
3. 共通のテキストの講読・議論
4. 共通のテキストの講読・議論
5. 共通のテキストの講読・議論
6. 共通のテキストの講読・議論
7. 共通のテキストの講読・議論
8. 共通のテキストの講読・議論
9. 共通のテキストの講読・議論
10. 共通のテキストの講読・議論
11. 共通のテキストの講読・議論
12. 共通のテキストの講読・議論
13. 共通のテキストの講読・議論
14. 共通のテキストの講読・議論
15. 共通のテキストの講読・議論

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:40% (2)プレゼンテーション:30% (3)期末レポート:30%

卒業研究B（地域圏研究ロシア）

ECON-P-400

担当者：飯島 康夫

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この卒検Bは、大学での学びの総仕上げと言う位置づけである。従って、ゼミ生自らが選んだテーマについて、何をどのように判断し、問題提起し、自らの結論に至ったかを明確に表現できるように構成されている。

2. 学びの意義と目標

学びの総括として、ゼミ生諸君が積極的に知識を系統的に蓄積し、生きた知恵に変えていく訓練をする事にある。目標は、書籍、ネットを含め氾濫する情報社会のなかでしたたかに生き抜いていく知恵の基礎を大学教育で得る事ができるようにする事である。

受講生に対する要望

情報、あるいは、人の意見を鵜呑みにせず、批判的に考察し距離を置いて自らの立場を表現できるようになるように、準備する事。

キーワード

(1)国際関係史 (2)知識から叡智へ

事前学習（予習）

小論、発表のための準備を参考文献を付けて、準備する事。また、レジュメ配布を準備する事。

復習についての指示

発表した内容を文章化する事。自らの立場を根拠づける文献、事実関係等を網羅した小論を提出する事。

授業計画

1. 事前説明
2. グループワークについて
3. テーマ（仮題）の決定
4. 発表、コメント
5. 同上
6. 同上
7. 同上
8. 同上
9. 中間期の小活
10. 各グループ・個人の発表、コメント
11. 同上
12. 期末（学び得た事）の小論について討議
13. 発表、コメント
14. 期末小論の発表、批評
15. 総括

教科書

授業の中で指示する
ゼミ生との相談によって決める。

評価方法

(1)出席:50% (2)小論文:30% (3)発表:20%

卒業研究B（日本政治思想史）

POSC-P-400

担当者：吉田 博司

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

近代日本の政治家及び思想家の研究指導をします。学生のテーマ設定、報告、討論の時間です。

2. 学びの意義と目標

歴史に興味をもち、人間への深い洞察を養って下さい。

受講生に対する要望

報告が主体となるので、怠情を克服してほしい。

キーワード

(1)近代日本、憲政、明治維新、藩閥 (2)超然主義、政党内閣、元老

事前学習（予習）

学生報告のプリントを用意させ、事前に調査研究事項を割り当てる。授業後、他からのコメントを照らし合わせる。

復習についての指示

報告のあと、質問、アドバイスを参考に修正する。

授業計画

1. テーマ設定
2. 同
3. 同
4. 資料収集指導
5. 同
6. 以下、学生報告と討論
7. 同
8. 同
9. 同
10. 同
11. 同
12. 同
13. 同
14. 同
15. 同

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)報告:70% (2)質問:30%

卒業研究B(比較憲法)

LAW-P-400

担当者：石川 裕一郎

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

春学期に引き続き、受講者各々が各自の研究テーマを設定し、調査・研究・発表・討論を重ねることにより、最終的に一定量の論文を完成させます。

2. 学びの意義と目標

具体的な意義と目標は、法律上は「成年」であるところの各受講者のモチベーションに依拠しますが、とにかく事実を観察し、ひたすら読書をし、公権力や社会的権力から一方的に搾取されない賢い市民＝国民＝労働者となることを目指します。

受講生に対する要望

「演習」科目ですので、受講者が主体的に授業に参加する」ことが強く求められます。

キーワード

(1) 演習科目 (2) 法律学 (3) 憲法学 (4) 比較法学

事前学習(予習)

演習科目なので、とりわけプレゼンの準備には各受講者の自発的かつ継続的な相応の分量の予習が求められます。

復習についての指示

プレゼン後においても、卒業研究に向けて相応の分量の復習が求められます。

授業計画

1. 導入:担当の決定
2. 各自の個別テーマの発表・議論
3. 各自の個別テーマの発表・議論
4. 各自の個別テーマの発表・議論
5. 各自の個別テーマの発表・議論
6. 各自の個別テーマの発表・議論
7. 各自の個別テーマの発表・議論
8. 各自の個別テーマの発表・議論
9. 各自の個別テーマの発表・議論
10. 各自の個別テーマの発表・議論
11. 各自の個別テーマの発表・議論
12. 各自の個別テーマの発表・議論
13. 各自の個別テーマの発表・議論
14. 各自の個別テーマの発表・議論
15. 各自の個別テーマの発表・議論

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 平常点:80%:プレゼンテーションの内容と討議への参加状況から評価します。(2) 期末レポート:20%

単なる出席(物理的に教室内に存在すること)だけでは何ら評価の対象となりません。

担当者：小松崎 利明

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

第一に、各自の卒業研究テーマ・内容の発表・調査報告に対して担当教員が指導を行う。第二に、各自の発表内容について受講者全員で討論を行う。受講者の学修状況や問題関心に応じて、文献講読・輪読を行う場合もある。

2. 学びの意義と目標

各自の発表とそれに対する教員の指導、そして他の受講者との討論を通じて、自分の卒業研究テーマについての新たな気づきを得ること、理解を深めることができるようになる。さらに、自らの情報リテラシーやコミュニケーション・スキルを高めることができるようになる。

受講生に対する要望

自分の無関心と闘い、徐々に想像力の幅を広げていってほしいと思います。

キーワード

(1) 平和

事前学習（予習）

各自の発表の準備を進める。

復習についての指示

毎回の授業での指導・討論を振り返り、自分の調査・発表内容に反映させる。

授業計画

1. イントロダクション
2. 各自の卒業研究テーマ・内容の報告・討論
3. 各自の卒業研究テーマ・内容の報告・討論
4. 各自の卒業研究テーマ・内容の報告・討論
5. 各自の卒業研究テーマ・内容の報告・討論
6. 各自の卒業研究テーマ・内容の報告・討論
7. 各自の卒業研究テーマ・内容の報告・討論
8. 各自の卒業研究テーマ・内容の報告・討論
9. 各自の卒業研究テーマ・内容の報告・討論
10. 各自の卒業研究テーマ・内容の報告・討論
11. 各自の卒業研究テーマ・内容の報告・討論
12. 各自の卒業研究テーマ・内容の報告・討論
13. 各自の卒業研究テーマ・内容の報告・討論
14. 各自の卒業研究テーマ・内容の報告・討論
15. 各自の卒業研究テーマ・内容の報告・討論

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1) 平常点:100%:発表（複数回）の内容と討論への参加

卒業研究B（法思想史）

LAW-P-400

担当者：加藤 恵司

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

法思想史の中で、暗黒といわれる西欧の中世から近代の黎明までに焦点をあてる。

2. 学びの意義と目標

書物、論文を読むことを目標とする。また、与えられた課題を深く追求する。

受講生に対する要望

まじめに出席する。テキストを読む。

キーワード

(1)法 (2)思想 (3)歴史

事前学習（予習）

テキストを要約してレポートする。特に、復習は求めない。

復習についての指示

話題になった事柄を調べる。

授業計画

1. テキスト購読・要約
2. テキスト購読・要約
3. テキスト購読・要約
4. テキスト購読・要約
5. テキスト購読・要約
6. テキスト購読・要約
7. テキスト購読・要約
8. テキスト購読・要約
9. テキスト購読・要約
10. テキスト購読・要約
11. テキスト購読・要約
12. テキスト購読・要約
13. テキスト購読・要約
14. テキスト購読・要約
15. テキスト購読・要約

教科書

加藤 恵司 『法・思想・歴史—Legal History』（ジーオー企画出版）

評価方法

(1)出席:60% (2)授業態度:40%

担当者：土方 透

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考力と自発的な調査の結果を他者に伝えるコミュニケーション力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

卒論の完成へ向けて指導を行う。

2. 学びの意義と目標

卒論を仕上げるという作業は、多くの学生にとって最初で最後の論文作成となる。学士号取得にふさわしい能力を身につけたことの証である。

受講生に対する要望

けっしてくじけないこと。

キーワード

事前学習（予習）

ただひたすら勤勉であることを要求する。

復習についての指示

毎回、前回は指摘された点の進捗状況を報告できるように、作業を進めてくること。

授業計画

1. これまでの総括と報告
2. これまでの総括と報告
3. プレゼンテーション
4. 同上
5. 同上
6. 同上
7. 同上
8. プレゼンテーション
9. 同上
10. 同上
11. 中間報告
12. プレゼンテーション
13. 同上
14. 同上
15. 同上

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 毎回の報告：20% (2) 卒論：80%

担当者：瀬名 浩一

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

＜内容＞ 国内では東日本大震災後の被災地域復興、国外では環太平洋パートナーシップ協定（ＴＰＰ）への関わりが注目される。日本で生産年齢人口が半減に向かう時代、巨大複合災害に有効な地域政策手段はどのようなものか。立ち上がるための地域経済協力の先例、ヨーロッパ連合（ＥＵ）では１９９０年代、すでに局所から超国家に渡る様々のレベルで地域問題に取り組む姿勢の転換が起こったが、現在は政府債務問題で、存続の危機にさえさらされている。 初めに日本の首都圏と地方圏の間の地域格差、第２に、中国、インドなどアジア新興国の消費市場の取り込み、第３に「英国病」を克服し国際競争力を取り戻した英国と日本における地域の雇用、所得、成長率、失業率、格差は正策を比較、日本経済の復興政策を探る。最後にEUで起こっている地域連合、権限委譲を参考にＴＰＰの可能性と限界を探る。

2. 学びの意義と目標

地域社会の経済統計数字の見方、グラフの読み方を学び、地域格差が生まれる理由を経済理論を使って考え、最後に経済格差を長引かせないための地域政策の歴史、手段、効果などについて理解できるようにする。

受講生に対する要望

経済学を受講済み、または現代の経済、地域の経済について関心のある者の受講を望む。

キーワード

(1)地域格差 (2)アジア新興国市場 (3)地域的特化 (4)地域活性化政策 (5)コミュニティ経済開発

事前学習（予習）

講義の終わりに次回のテーマを指示するので、授業前１時間の予習をして授業に臨むこと。

復習についての指示

授業3回に1回授業内試験を行うので、授業後1時間の復習を毎回欠かさぬこと

授業計画

1. 生産年齢人口減少時代に遭遇した東日本大震災
2. 東日本大震災は日本の各種制度疲労を断ち切るきっかけとなるか
3. 大都市でも地方でも所得と消費が、同時に沈んでいる
4. 最近１８年間で中小企業数が、日本では１００万社減少、英国では１３０万社増加
5. 日本の金融業は不況業種といわれるが、社会金融分野で活況である
6. 平成の大合併を避けた首都圏の市町村の財政力指数は今後低下せざるを得ない
7. 就業者の加齢・減少が日本の景気を失速させる
8. 成長する中国・インドの消費市場に向けた日本の企業戦略
9. 新興国小売市場の成長と中国における日系小売企業
10. アジア新興国のサービス需要拡大への戦略
11. ジャパンブランドで戦う
12. 地域経済と一国経済の違いは、地域間交易と地域間所得移転を行う政府の役割
13. 地域の生産と雇用を決定する要因は？
14. なぜ、一人当たりの地域所得に差があるのか？
15. 地域的特化と地域間交易を決定する要因は？
16. 経済的要因は地域間人口移動をどの程度説明できるか？
17. 地域失業格差はなぜ持続するのか？
18. 相対的貧困率の国際比較
19. 日本の地域政策の歴史
20. 広域地方計画
21. 地方分権・地域主権
22. 地域産業基盤整備
23. 地域活性化
24. 東日本大震災関連
25. 英国の地域政策の歴史
26. 英国の1980年代の地域政策
27. 英国のコミュニティ経済開発
28. 地域固有の発展
29. 地域政策の評価
30. 試験とその解説

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)授業理解度:40%:授業3回に1回の割合で授業内テストを合計10回行う (2)期末テスト:30% (3)出席:30%

担当者：江藤 名保子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：地理歴史選択科目、
中学校教諭一種免許：社会選択科目

講義概要

1. 内容

本授業では、日中関係や国際関係に言及しながら、中華人民共和国建国（1949年）以降の現代中国の歩みを考察する。多くの日本人の対中認識は、三国志や伝統文化・世界遺産などに代表される古典的中国のイメージ、あるいは目覚ましい経済発展を遂げている地域大国としての中国である。しかし、現在の中国の政治・社会状況は、社会主義国家として建国した時からの制度的連続性を持ち、日本とは著しく異なる政治システムや考え方に基いている。こうした中国の現状を理解するためには、これまでの政治過程を具体的に理解する必要がある。中国との国際協力も国際ビジネスも、対象となる地域・人を理解することから始まる。そのためには中国政治や歴史に対する基礎知識を備えねばならない。この授業ではその知識の一部を蓄えてもらいたい。

2. 学びの意義と目標

第1に、講義への参加をきっかけに中国への関心を高め、正しい知識を獲得し、対中理解を深めることを目標とする。第2に、中国の政治・外交を事例として社会現象を理解するための情報分析、評価の訓練を行う。特に東アジア地域においては、領土問題など現実には「解答のない問題」が存在する。こうした事例を扱いながら、異なる主張・論点を考察し、そのなかから自分なりの結論を得るための論理的思考を育成する。

受講生に対する要望

中国の政治・歴史に関心がある者の受講を望む。

キーワード

(1)現代中国史 (2)中国政治・外交

事前学習（予習）

授業計画を参照し、トピックに関連する情報を集めること。事前に参考資料が指定された場合は読んでおくこと。

復習についての指示

配布プリントを再読し、各項目を説明できるようにしておくこと。

授業計画

1. イントロダクション：授業説明と中国時事問題
2. 政治構造（1）：社会主義と市場経済
3. 政治構造（2）：党、国家、社会
4. 政治構造（3）：中国は民主化するか
5. 歴史（1）：「抗日戦争」
6. 歴史（2）：社会主義の選択
7. 歴史（3）：社会主義改造
8. 歴史（4）：反右派闘争と大躍進
9. 歴史（5）：文化大革命①
10. 歴史（6）：文化大革命②
11. 歴史（7）：改革開放とは
12. 歴史（8）：天安門事件
13. 歴史（9）：江沢民・朱鎔基体制
14. 歴史（10）：胡錦濤・温家宝体制
15. 社会（1）：経済格差と社会保障
16. 社会（2）：社会の諸問題
17. 社会（3）：政治思想・文化
18. 社会（4）：ナショナリズム
19. 外交（1）：内政と外交の連動性
20. 外交（2）：台湾問題
21. 外交（3）：冷戦下の外交戦略
22. 外交（4）：ポスト冷戦における外交戦略
23. 外交（5）：日中歴史問題
24. 外交（6）：領土問題
25. 国際関係（1）：中国とアメリカ
26. 国際関係（2）：中国と東アジア
27. 国際関係（3）：中国と東南アジア
28. 国際関係（4）：中国と中央アジア
29. 国際関係（5）：中国の国際的地位
30. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)平常点:30%:出席を加味する。(2)小テスト:20%:授業内に行う。(3)試験:50%

担当者：飯島 康夫

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：地理歴史選択科目、
中学校教諭一種免許：社会選択科目

講義概要

1. 内容

20世紀初めの反スラヴ主義的動向や20世紀後半の東西冷戦を思い起こせば明らかなように、つい最近まで「ロシア」は、ヨーロッパ各国にとっての、ひいては世界にとっての選択肢の一つであった。親ロシアか否かという問いは、20世紀には大変な重みを持っていたのである。ソ連崩壊以後、しばらくの間ロシアの存在感は希薄になっていたが、昨今では再び大国として力を誇示し始めている。21世紀においても、ロシアを知っていることが無駄になることはまずないであろう。日露交流の歴史を、遡って、詳しく見ていく。

2. 学びの意義と目標

まずは、隣国である大国の歴史の概略を知ることが重要である。また、その意義は、ロシアに関する基本的な知識を獲得してもらうことにある。取り上げられる分野は、歴史、宗教、政治、思想、文学、芸術など、広範囲にわたる。目標は昔のロシアから現代のロシアに至るまでの概略をつかんでもらう事である。

受講生に対する要望

授業に積極的に出席し、楽しんでもらうことである。

キーワード

(1) モンゴルのくびき (2) 上からの近代化

事前学習（予習）

試験では授業で触れたことの中から出題するため、積極的な聴講が必要である。基本文献を指示するので通読すること。

復習についての指示

基本文献を部分ごとに読み、噛み砕き、自らの言葉で理解し表現すること。

授業計画

1. 1) 歴史：ロシア史の概略
2. 2) 宗教：ロシア正教を紹介する（6回）。
3. 3) 思想：西欧主義とスラヴ派との確執等について解説する（6
4. 4) 文学：ドストエフスキー、トルストイ、チャーホフなど
5. 5) その他：時事問題、現代文化、言語などについて。
6. ロシアの地理的拡大
7. ロシアの起源
8. キエフ、ノヴゴロド
9. モンゴルのくびき
10. モスクワ公国
11. ピョートルとペテルブルク帝国
12. エカチェリーナ二世と啓蒙
13. アレクサンドル一世と専制
14. ニコライ一世の専制体制と農奴
15. クリミア戦争とアレクサンドル二世
16. 敗戦と改革
17. 十九世紀末のロシア・ルネサンス
18. アレクサンドル三世と反改革志向
19. ニコライ二世
20. 日露戦争と第一次ロシア革命
21. 第一次大戦とロシア革命
22. 帝政ロシアの地政学
23. レーニンからスターリン
24. 第二次大戦とスターリン体制
25. 冷戦とフルシチョフ
26. ブレジネフから
27. ゴルバチョフ
28. 旧ソ連の崩壊と市場経済移行、エリツィン政権
29. プーチンの新生ロシアの浮上
30. メドベージェフ、プーチンと北方領土

教科書

横手慎二 『日露戦争史』（中央公論社）三浦 清美 『ロシアの源流—中心なき森と草原から第三のローマへ（講談社選書メチエ）』（講談社）

評価方法

(1) 出席：50% (2) レポート・テスト：30% (3) 発表：20%

地域社会と生協

SOCI-L-300

担当者：大高 研道

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

市民力：地域社会およびコミュニティ活動に関わる基礎知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

今日、世界的な金融・財政危機、環境問題、少子高齢化、不安定雇用、地域紛争など、私たちの経済・社会生活はその根幹をゆるがすさまざまな課題に直面している。また、日本を襲った未曾有の大災害、東日本大震災からの復興プロセスは、日本の経済・社会のあり方そのものの見直しをわれわれに迫っているが、震災から3年が経過した今なお、福島放射能問題をはじめ、復興にむけたシナリオは不透明なままである。いまこそ、地域における協同と連帯によってこれらの問題を解決することが求められている。1844年、英国において誕生した非営利の協同組織・事業体である消費生活協同組合（以下、生協）の取り組みは、その後、日本を含む世界中の国々に広がっていった。日本は、とりわけ生協運動が発展した国であり、今日では、組合員数が2,600万人を超え、世帯加入率は約5割にまで達している。本講義では、今日の社会で協同組合、そして生協がどのような位置にあり、私たちの暮らしと社会生活の向上にどのような役割を果たしているのか、その現実と可能性について、地域社会に基盤をいた協同組織・事業体といった観点から学ぶ。本講義は、「生活協同組合コープみらい」による寄附講義である。講義は、ゲストスピーカーによる講義および実践紹介を中心に構成され、現場実習、グループワーク等も実施する予定である。

2. 学びの意義と目標

本講義における学びの意義は、地域生活者としての視点から、自らの暮らしを見つめなおす機会を提供する点にある。商業的世界が日常の生活の隅々を支配している今日、私たちは「消費者」として他者と接する場面が多い。身近な地域の暮らしの現実の中で生成するさまざまな問題（現代的課題）に対応している協同組合（生協）は、商品を媒介としながらも、単なる「消費者」を超えた「生活者」としての視点に立った事業・運動に取り組んでいる。おもに日常的な購買事業・福祉事業の現場経験にもとづく講義は、自ら考え行動するなかで生まれた実践知を学ぶ貴重な機会になるとともに、グループワークおよび2回実施される現場体験を通して、その実践知を共有・体験することもできる。本講義では、地域社会における生協の位置と役割について理解することを第一義的な目的とするが、その学びの先には、「開かれた関係性」のなかに生きる私たち現代人の歩むべき方向性について、一定程度のビジョンを提示できるようにすることをめざしている。

受講生に対する要望

現場実習（店舗体験）および学外活動を各1回、土曜日に実施する。

キーワード

(1) 生協 (2) 地域社会 (3) 食の安全性 (4) 地域福祉 (5) 協同・連帯

事前学習（予習）

毎回の講義の最後に、次回講義のテーマおよびキーワードについて触れるので、最低限の言葉の意味と背景について調べておくこと。

復習についての指示

毎回の講義の最後に①「今回の講義で学んだこと」、②「疑問点/さらに学びたいと思ったこと」の2点を整理してもらおう。各自、そこで生まれた問題意識を大切に、講義資料等をもとに具体的な用語・取り組みについて調べてみる。これらについては、講義の最終回に質疑応答および意見交換の時間を設ける予定である。

授業計画

1. ガイダンス
2. 世界と日本の協同組合
3. 埼玉における生協と地域社会
4. コープみらいの地域福祉とボランティア活動事例報告
5. 購買事業の現場での実践事例報告
6. ボランティア体験
7. 購買事業インターンシップ体験
8. 宅配事業の現場での実践事例報告
9. 農業・水産業・畜産業の現状と生協の今日的課題
10. 商品を通じた社会貢献（環境の取り組み）
11. ユニセフ活動とは何か—ユニセフの取り組みと生協の課題—
12. 食の安全の最前線（品質管理の現場）
13. コープ商品開発の最前線
14. コープみらいの組合員活動の到達点と課題
15. まとめ—地域社会と生協—

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席点：45% (2) 実習レポート：30% (3) 期末レポート：25%

出席カードには①今回の講義で学んだこと、②疑問点/さらに学びたいことを記入してもらい、その内容は出席評価に加味する。

担当者：秋山 秀一

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目

講義概要

1. 内容

世界の各地ではいろいろな人々がそれぞれに、その土地に根ざした暮らしをしています。この授業では世界の各地、とくにアジア諸国と太平洋の島々における人々の暮らしの様子、自然、風土等を、具体的に取り上げながら、地域の今を学んでいきます。

2. 学びの意義と目標

卒業後どのような仕事に就こうと、国際理解を高めることは意義があり、大切なことです。実際に海外でのフィールドワークを通して得た映像、資料、それに、書籍、雑誌、テレビ・ラジオ等のメディアとのかかわりの中から、具体的な話をしていきます。これにより、より理解度を高めることに大きく寄与します。

受講生に対する要望

地図帳を用意し、よく見るように。日頃から、知らない地名が出てきたら、地図帳でその場所を確認するようにしてください。

キーワード

(1) 地域研究 (2) 地図 (3) アジア (4) フィールドワーク (5) 観光写真

事前学習（予習）

授業内容に関する復習の小レポート、テキストの次の授業に關する項目を予習し、関連する情報を集めておくこと。

復習についての指示

配布プリント、テキストの中で授業中に解説したところを再読し、各トピックについて次回までに説明できるようにすること。

授業計画

1. 導入
2. 現代社会と交通
3. 地図を読む
4. アジアの中の日本
5. 韓国
6. ベトナム
7. ミャンマー
8. マレーシア
9. 香港・マカオ
10. 中国・台湾
11. タイ
12. ラオス、カンボジア
13. フィジーと太平洋の島々
14. オーストラリア、ニュージーランド
15. まとめ

教科書

秋山 秀一 『フィールドワークのススメーアジア観光・文化の旅』（学文社）

評価方法

(1) 日頃の授業への貢献度：30% (2) 出席状況：30% (3) 小レポート、それにまとめとしてのレポート：40%

担当者：秋山 秀一

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目、
中学校教諭一種免許：社会選択科目

講義概要

1. 内容

世界の各地ではいろいろな人々がそれぞれに、その土地に根ざした暮らしをしています。この授業では世界の各地、とくにヨーロッパ諸国並びにアメリカ、そして、日本の各地、における人々の暮らしの様子、自然、風土等を、具体的に取り上げながら、地域の今を学び、街歩きの楽しさも修得していきます。

2. 学びの意義と目標

卒業後どのような仕事に就こうと、国際理解を高めることは意義があり、大切なことです。実際に海外でのフィールドワークを通して得た映像、資料、それに、書籍、雑誌、テレビ・ラジオ等のメディアとのかかわりの中から、具体的な話をしていきます。これにより、より理解度を高めることに大きく寄与します。

受講生に対する要望

地図帳を用意し、よく見るように。日頃から、知らない地名が出てきたら、地図帳でその場所を確認するようにしてください。

キーワード

(1)ヨーロッパ (2)アメリカ (3)日本 (4)街歩き (5)フィールドワーク

事前学習（予習）

授業内容に関する復習の小レポート、テキストの次の授業に關する項目を予習し、関連する情報を集めておくこと。

復習についての指示

配布プリント、テキストの中で授業中に解説したところを再読し、各トピックについて次回までに説明できるようにすること。

授業計画

1. 導入
2. メンタルマップ
3. 東京はアフリカだ
4. 国際化の中の日本
5. 日本①
6. 日本②
7. 日本③
8. アメリカ①
9. アメリカ②
10. ヨーロッパ
11. イギリス
12. ロンドン
13. フランス
14. イタリア
15. まとめ

教科書

秋山秀一 『おとなの街歩き』（新典社）

評価方法

(1)日頃の授業への貢献度:30% (2)出席状況:30% (3)小レポート、それにまとめとしてのレポート:40%

担当者：谷 達彦

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

社会福祉、道路、教育、上下水道、ゴミ収集など、住民の生活を支える身近な公的サービスは地方自治体によって提供されている。地方財政は日々の暮らしに密接に関わっているが、財源不足や財政力の地域間格差など多くの問題に直面していることも事実である。また、近年、集権的な財政システムを分権的な財政システムへと転換するために地方分権改革が政策課題となっている。

本講義では、地方財政における基礎的な理論と制度について学習する。具体的には、国と地方自治体の財政関係、地方自治体の予算、地方歳出、地方収入（地方税、地方交付税、国庫補助負担金、地方債）、地方財政健全化、地方自治体の財政分析などについて学ぶ。日本の地方財政の現状と課題を理解し、自治を支える地方財政のあり方について考えていく。

2. 学びの意義と目標

本講義では、地方財政の基礎的な理論や制度について知り、日本の地方財政が直面している課題や今後のあり方について自分なりに考えられるようになることを目標としている。地方財政のあり方は住民の暮らしに深く関わっている。誰もが地域社会を支える住民の1人であり、地方自治体の行財政に住民参加が求められている今日において、地方財政の制度やその基礎にある考え方について学ぶことは重要である。

受講生に対する要望

特になし

キーワード

(1) 地方財政 (2) 財政学 (3) 地方分権 (4) 地方自治

事前学習（予習）

新聞等を読み日頃から地方財政に関心を持つこと

復習についての指示

配布プリントの重要項目について説明できるようにすること

授業計画

1. ガイダンス
2. 地方財政の役割
3. 国と地方の財政関係 (1)
4. 国と地方の財政関係 (2)
5. 地方分権改革 (1)
6. 地方分権改革 (2)
7. 地方自治体の予算 (1)
8. 地方自治体の予算 (2)
9. 地方経費の構造 (1)
10. 地方経費の構造 (2)
11. 少子高齢化と地方財政 (1)
12. 少子高齢化と地方財政 (2)
13. 少子高齢化と地方財政 (3)
14. 公共投資と地域経済
15. 地方収入の構造
16. 地方税の体系
17. 主要な地方税 (1)
18. 主要な地方税 (2)
19. 課税自主権
20. 地方交付税
21. 国庫支出金
22. 地方債
23. 地方財政の健全化
24. 自治体財政の分析
25. 地方公営企業と第3セクター
26. 大都市財政
27. 過疎地域の財政
28. 市町村合併と地方財政
29. 地方財政の国際比較
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 出席及びコメントペーパーの内容:40%:コメントペーパーは教員の指示したテーマについて毎回記入する (2) 小テスト・試験:60%

担当者：鈴木 潔

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この講義では、これまでの地方自治研究の蓄積を利用し、日本の地方自治について（１）制度、（２）機構、（３）政策、（４）管理、（５）住民という視点から説明する。また、フィールドワークとして、受講者が住んでいる市区町村の議会を傍聴し、議論の内容を報告することを行う。この講義は、政治学、行政学、公共政策論などの政治学関係科目のほか、憲法および行政法などの法学系科目を学習するうえで重要なポイントとなる地方自治に関する知識を提供している。

2. 学びの意義と目標

自治体は私たちの日常生活から縁遠い存在であると思われがちだが、自治体の提供する行政サービスの良し悪しは人々の暮らしを大きく左右している。この講義は、受講者が地域における様々な問題や地方自治の仕組みを考察できるようになることを目標とする。

受講生に対する要望

この講義ではアクティブラーニングを重視する。毎回の講義で実施する小テスト、学期中に複数回実施するレポート報告とディスカッションを通じて、自ら考えをまとめて適切に表現する能力を養う。積極的な態度で授業に臨むこと。

キーワード

(1)住民自治と団体自治 (2)地方自治制度 (3)自治体運営 (4)自治体政策

事前学習（予習）

受講者は、政治・行政に関するテーマについて、書籍、新聞、ニュースなどを利用して情報を収集し、自分が問題意識をもつテーマについて説明できるようにしておくこと。

復習についての指示

毎回の講義で実施する小テストの内容を十分に確認しておくこと。

授業計画

1. ガイダンス
2. 地方自治制度の歴史
3. 地方分権改革
4. 大都市制度・都区制度
5. 市町村合併・広域連携
6. 自治体の政治機構
7. 自治体の行政機構
8. 自治体の国際比較
9. 政策体系と総合計画
10. 行政改革と行政評価
11. 立法法務
12. 執行法務
13. 訴訟法務
14. 都市計画
15. 環境政策
16. 廃棄物行政
17. 産業・地域振興
18. 福祉政策
19. レポートの報告とディスカッション（１）
20. 組織管理
21. 地方財政
22. 財務管理
23. 地方公務員制度
24. 人事管理
25. 行政統制とコンプライアンス
26. 住民と自治体
27. コミュニティの自治
28. 自治基本条例
29. レポート報告とディスカッション（２）
30. 学期末試験

教科書

鈴木 潔 『行政上の義務履行確保と訴訟法務「強制する法務・争う法務」』（第一法規株式会社）

評価方法

(1)平常点:50%:授業貢献度、小テスト、出席状況 (2)期末試験:30% (3)レポート:20%

担当者：酒井 俊行

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

わが国では企業数の99.7%が中小企業であり、そうした中小規模の事業所に勤める従業員は全体の76.2%にも及んでいます。これらの比率に見られるように、学生の皆さんは卒業後中小企業に勤務することが多く、また大企業に勤めたとしても色々な局面で中小企業と関係を持たざるをえないことです。したがって想像以上に皆さんにとって、中小企業は身近な存在であるわけです。ところがこのように身近な存在でありながら、中小企業についてどれくらい知っているのでしょうか。この授業では、主に統計面から中小企業を見て行こうと考えています。統計を見ると色々なことが見えて来ます。しかしその前に統計学の基礎、統計の読み解き方、各統計のクセなどを知っていなければ、本当の理解にはつながりません。統計の読み方・見方を身に付けると、社会に出て鬼に金棒です。この授業の受講者は副産物として、統計に関する実用的な知識が得られるよう工夫を図っています。加えて、2014年版の中小企業白書も覗いてみます。中小企業白書に限らず、様々な白書は沢山の情報を提供してくれます。ここでは白書の活用の仕方でも学んでみましょう。そして最後に統計的な事実を確認したうえで、中小企業について理論的な検討もしてみることとします。授業計画だけ見ても、何かとても大変な気がするかもしれませんが、基本的なスタンスとして分かり易さを心がけるつもりですので、安心して受講して下さい。

2. 学びの意義と目標

上述したように、わが国における企業数の99.7%は中小企業です。このように企業の数だけ見ても、中小企業は身近な存在であるはずなのに、意外に“中小企業WHAT?”というのが実態だと思われまふ。この授業を受ける第一の意義は、そうした“WHAT?”をなくすることです。中小企業の在り様を正確に理解し、そのわが国における地位・貢献度を理解してもらうことによって、少しでも“WHAT?”をなくすることが私の期待するところです。第二に、わが国従業員の76.2%が中小事業所に勤めているということです。ということは、皆さんもそうした中小企業に勤めるチャンスが大きいということです。就活に際して業界研究は必須ですが、業界研究に止まらない中小企業研究も極めて大事になるわけです。以上ここまでは2つに限定してこの講義の意義を挙げましたが、この講義はわが国経済の真実を明らかにするためにも重要ということが出来ます。

受講生に対する要望

授業は100%出席しないと意味がありません。教員は皆さんが全て出席することを前提に授業計画を考えています。また皆さんも高い授業料を払っているわけですから、授業をさぼることが如何に損であるかを考えてみて下さい。そのように考えることの出来る諸君を歓迎します。

キーワード

(1)就職先としての中小企業 (2)中小企業の地位 (3)中小企業の意義

事前学習（予習）

特に必要ありません。ただ経済学、統計学、財務等の基本的な知識は必要です。もしそうした基礎が足りなくても心配しないで下さい。その都度一緒に勉強してゆきましょう。

復習についての指示

毎回30分～1時間程度の復習により、知識ベースを確実なものにするようにして下さい。理解度を確認するために抜き打ちで確認テストをすることも考えています。これは皆さんのためです。

授業計画

- オリエンテーション
- 中小企業論をなぜ学ぶのか
- 中小企業の定義を知ろう
- 中小企業を理解するための統計の重要性(1)
- 中小企業を理解するための統計の重要性(2)
- 統計から中小企業を理解しよう(1)：マクロ経済の見方
- 統計から中小企業を理解しよう(2)：企業数・従業員数の地位
- 統計から中小企業を理解しよう(3)：経済活動に占める地位
- 統計から中小企業を理解しよう(4)：大企業との格差
- 統計から中小企業を理解しよう(5)：中小企業の組織化
- 統計から中小企業を理解しよう(6)：景況、生産・出荷・在庫
- 統計から中小企業を理解しよう(7)：設備投資
- 統計から中小企業を理解しよう(8)：輸出入
- 統計から中小企業を理解しよう(9)：物価、雇用・賃金
- 統計から中小企業を理解しよう(10)：企業収益・財務
- 統計から中小企業を理解しよう(11)：資金繰り・倒産、金融
- 統計から中小企業を理解しよう(12)：海外進出
- 統計から中小企業を理解しよう(13)：地域別動向
- 中小企業白書をどう活用するか？
- 中小企業（2014年版）のトピックス(1)
- 中小企業（2014年版）のトピックス(2)
- 中小企業問題の歴史性：中小企業と大企業及び下請問題
- 中小企業と地域経済
- ベンチャービジネス
- グローバル経済下の中小企業
- 中小企業の社会的責任
- 中小企業の金融問題(1)
- 中小企業の金融問題(2)
- 中小企業政策の方向性と新しい中小企業
- まとめ

教科書

商工総合研究所 『図説日本の中小企業2014』（一般財団法人商工総合研究所）

評価方法

- 試験とレポート：60%：2～3回のレポート提出と期末試験で評価
- 授業への貢献：40%：出席状況等授業への貢献度を評価

担当者：大賀 祐樹

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：公民選択必修科目、
中学校教諭一種免許：社会選択必修科目

講義概要

1. 内容

本講義では、狭い意味での哲学の範囲を超えて、隣接する政治哲学、倫理学、法哲学等に関連するテーマも含めて広く論じる。特に、よく知っているつもりでもじっくりと考えると難しいような、自由とはどのようなことなのかということや、多様な価値観を持つ人々の間で一つの正義を実現することはできるのかというテーマなどを中心に据える。毎回PowerPointのスライドを使用し、プリントを配布する予定。

2. 学びの意義と目標

哲学において大切なことは、答えを出すことよりも、問いを立てることである。様々な哲学者がどのような問いを立て、その答えを求めて試行錯誤したのか。その道筋を追うことによって、日常生活においても浮上する様々な問題に対して、自分なりの問いを立て、答えを出す力を養うことを目標とする。

受講生に対する要望

予習・復習に関しては準備学習の項目を参照。

キーワード

(1)正義 (2)自由 (3)現代思想

事前学習（予習）

前の回で紹介した考え方を受けて次の回で批判・展開することが多いので、復習をきっちりとしておくことが同時に予習にもなる。また、次回に扱う思想家の大まかな情報や時代背景などを自主的に調べておくと、より理解をしやすい。

復習についての指示

毎回プリントを配布する予定なので、興味を持った話題があればその点を掘り下げて、自分なりの問題意識やそれに対する答えを考えておく。

授業計画

1. 様々な現代思想
2. 愛と真理について（プラトン）
3. 正義ということばの意味（プラトン、アリストテレス）
4. 社会契約論（ホッブズ、ロック）
5. 人間の自由と道徳（カント）
6. 個人の自由の範囲（ミル、バーリン）
7. 功利主義（ベンサム、ミル）
8. 公正としての正義（ロールズ）
9. リバタリアニズム（ノージック）
10. コミュニタリアニズム（サンデル、テイラー）
11. ポストモダンと社会（フーコー、デリダ）
12. 自由な社会の根拠（ロールズ）
13. プラグマティズム（ローティ）
14. 権利について
15. まとめ

教科書

プリントを配布する
参考書『リチャード・ローティ 1931-2007 リベラル・アイロニストの思想』大賀祐樹、藤原書店『集中講義！アメリカ現代思想』仲正昌樹、NHKブックスその他、毎回の授業内で参考文献を随時紹介する。

評価方法

(1)試験:60%:期末に実施 (2)レポート:30%:中間に実施 (3)出席:10%:最低限以上の出席回数が必要

担当者：松原 望

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：情報を整理・分析し、説明する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(W学科)：基礎科目、
認定心理士認定資格(W学科)：副次科目

講義概要

1. 内容

統計学は情報の学問です。「最強」などと云われていますが、私たちの日常生活を通して学ぶことでより面白い知的世界が広がります。今の社会を生き抜くために必要な情報の基礎知識を学んで、情報社会で豊かで主体的な人生を築きましょう。初心者歓迎。数学知識不要。

2. 学びの意義と目標

統計学を通じてコンピュータ力を高め、情報社会で生き活躍する能力を育てる。就職用お買い得科目。

受講生に対する要望

USBメモリ持参。できれば自宅で添付ファイル受け取り可能に。テキストは購入して下さい。あと、健脚。

キーワード

(1)エクセル (2)数字に強くなる (3)周囲から信頼される知識 (4)データによるディスカッション (5)就職

事前学習(予習)

テキストを事前に10分だけ見ておいてください。「眺める」だけでも有効。

復習についての指示

レポートおよび復習によって、授業内容を深く理解する。自宅でも可能です。

授業計画

1. 少子・高齢化の統計(見方・考え方)
2. なぜ情報が必要か
3. 環境・資源の統計(見方・考え方)
4. 日常生活と情報
5. 経済統計(見方・考え方)
6. 情報産業
7. 地域の統計(見方・考え方)
8. 足で情報を取る
9. 金融・経営の統計(見方・考え方)
10. 情報化の進展
11. 広告・マーケティングの統計(見方・考え方)
12. 情報モラル
13. 教育・心理の統計(見方・考え方)
14. 情報技術(教育)
15. 社会調査の統計(見方・考え方)
16. 情報技術(社会調査)
17. 医療の統計(見方・考え方)
18. 情報技術(医療)
19. 福祉・介護の統計(見方・考え方)
20. 情報技術(福祉・介護)
21. 体育・スポーツの統計(見方・考え方)
22. 情報技術(エンタテインメント)
23. 統計データの扱い方
24. トピック：情報技術者の業務
25. 平均と分散(見方・考え方)
26. トピック：情報技術者の責任
27. 相関関係と相関係数(見方・考え方)
28. トピック：情報産業と法律
29. 回帰方程式と予測(見方・考え方)
30. トピック：情報技術者と人生

教科書

松原望 『はじめよう！統計学超入門』(技術評論社)

評価方法

(1)出席:25%;8割必要 (2)レポート:25%;簡単なもの数回 (3)試験:25%;エクセル、ホームページを利用 (4)熱意:25%;履修したので熱意はあると判断

担当者：赤坂 恒明

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目

講義概要

1. 内容

近代以前のアジア各地域の歴史を取り上げる。特に東アジアについては、国際秩序としての「冊封体制」について具体的に詳論する。また、東洋史をも含む歴史全般に興味を持つ受講者に、自主的にさらに関心を深めていくことができるように、歴史研究の基礎ならびに方法論についても簡単に紹介する。この授業のカリキュラム上の位置づけは、東洋史に関する入門的な位置づけであり、基礎的な講義である。日本史を学ぼうとする学生にも適している。

2. 学びの意義と目標

アジアの多様性を理解すると同時に、歴史事象を正確に把握できるようになる。そして、主観的・独断的な判断をすることなく、それらの歴史の意味を解釈する歴史的思考法を持つことができるようになること。

受講生に対する要望

授業への積極的な参加が望まれる。なお、漢字を読めない留学生には、履修が困難である。

キーワード

(1)歴史 (2)アジア (3)オリエン特 (4)東洋 (5)中華

事前学習（予習）

講義中に指示した内容を、資料・参考文献等によって確認する。

復習についての指示

復習では、授業中に指示された地理や年代等を確認すること。各自の自主的な復習を期待する。

授業計画

1. 序
2. アジアとヨーロッパ
3. 「東洋」という概念
4. 歴史編纂をめぐる諸問題
5. 中華思想
6. 冊封体制論
7. 志賀島出土の金印と、邪馬台国女王 卑弥呼をめぐる諸問題
8. 倭の五王
9. 遣隋使(1) 「日、出ずるところの天子」の国書を見た隋の煬帝の反応と対処
10. 遣隋使(2) 小野妹子が隋の煬帝から授かった返書を紛失した事件について
11. 古朝鮮
12. 高句麗
13. 渤海
14. 古代チベット
15. まとめ

教科書

プリントを配布する
世界地図帳と世界史資料集（高校で用いたものでよい）を持参すること。参考文献等は講義中に紹介する。

評価方法

(1)出席点:10% (2)平常点:10% (3)試験（小テストを含む）:80%

担当者：赤坂 恒明

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目、
中学校教諭一種免許：社会選択科目

講義概要

1. 内容

東アジアの一地域としての日本が他の諸地域といかなる関係にあったか、という問題を中心に、主に近現代の歴史のなかから関連するいくつかの事例をとりあげ、個別に論じる。「日本史」の立場からはしばしば看過される問題を積極的に取り上げ、近代的な国民歴史学によって体系化された「一国史」の枠組についても批判的に分析する。この授業のカリキュラム上の位置づけは、入門的な位置づけの基礎的な講義であり、日本史を学ぼうとする学生にも適している。

2. 学びの意義と目標

「日本史」の枠にとらわれることなく、日本列島の歴史を、より広い視野から見ることができるようになること。近現代の東アジアにおいて日本が関わった具体的な歴史事象を正確に把握するのみならず、体系化された歴史の枠組がいかに我々の同時代的な状況と密接な関係にあるかについても、理解できるようになること。

受講生に対する要望

授業への積極的な参加が望まれる。なお、漢字を読めない留学生には、履修が困難である。

キーワード

(1)歴史 (2)東アジア (3)琉球王国 (4)朝鮮 (5)中国

事前学習（予習）

講義中に指示した内容を、資料・参考文献等によって確認する。

復習についての指示

復習では、授業中に指示された地理や年代等を確認すること。各自の自主的な復習を期待する。

授業計画

1. 序
2. 「オホーツク文化」と東北アジア
3. 「もうひとつの蒙古襲来」：元（モンゴル）軍の樺太（サハリン）侵攻
4. 山丹交易：「鎖国」の江戸時代と清朝を、毛皮と絹が結んだ、北まわりの交易
5. 千島・樺太の先住諸民族と近代日本
6. 琉球王国
7. 「琉球処分」をめぐる日清関係：清朝領となるはずであった先島諸島（八重山・宮古列島）
8. 韓国併合
9. 日本による朝鮮半島の植民地支配（1）第一期
10. 日本による朝鮮半島の植民地支配（2）第二期と第三期
11. 「戦争抛棄二閣スル条約」（パリ不戦条約）と満洲事変
12. 日本の進出と、内蒙古東南部地域におけるモンゴル人
13. 熱河作戦
14. 「支那事変」：盧溝橋事件から「南京大虐殺」へ
15. まとめ

教科書

プリントを配布する
世界地図帳と世界史資料集（高校で用いたものでよい）を持参すること。参考文献等は講義中に紹介する。

評価方法

(1)出席点:10% (2)平常点:10% (3)試験（小テストを含む）:80%

担当者：飯島 康夫

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この講義は近代に入ってから顕著となっている都市化と人々の暮らしの関係を考え、身近な近隣住区にフィールドをおいて、住みよい街とはどんなものかを考察するものである。ある程度、基礎的な政治経済、社会の学びを前提とする。

2. 学びの意義と目標

都市は太古に農耕文明の革命が起きてから、各種の城塞型都市が現れてきた。都市研究では、主に都市の歴史を概観し、現代のわれわれが住むとしにおいて、一市民として自分の街を住みよくするため、気づき、行動するため、知識と歴史上の経験を学ぶことを旨とする

受講生に対する要望

歴史上、様々な都市が現れては消えてきた。都市史の概略を知り、自分の住む町について、突っ込んで究明するような好奇心を持っていたきたい。

キーワード

(1)都市史 (2)世界都市 (3)大都市制度

事前学習（予習）

出席を重視します。また、自らの言葉で表現する力、授業への貢献を重視します。基本文献を指示するので、基礎知識を養うこと。

復習についての指示

前回の講義のノートを見ながら、簡潔に学んだことをまとめてもらいます。

授業計画

1. 導入
2. 都市とは？
3. 欧米先進国の都市化 古代
4. 同上 中世世界と都市同盟
5. 同上 近世と絶対主義
6. 産業革命以降の都市化の歴史
7. 現代世界の都市化
8. 情報化と都市化
9. 経済のサービス化と都市化
10. 都市化と外国人労働者
11. 途上諸国の都市化の特徴
12. 中国の経済発展と都市化の歴史
13. 旧共産圏(旧ソ連・東欧圏)の都市化と市民社会
14. 北東アジア圏と日本の都市化
15. 現地調査方法論

教科書

水内不二雄 『経済・社会の地理学』（有斐閣）

評価方法

(1)出席:50% (2)レポート・小テスト:30% (3)発表:20%

2014年度は実施しない。

担当者：大森 達也

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義では、1990年代の日本経済は、まさに過去の成功の故に、制度的に疲弊し、矛盾を露呈するにいたったと理解し、サブプライム問題以降、混迷する世界経済において日本経済は今後どのような方向に進んでいくか、あるいは、どのように変化するかを、戦後の歴史等を踏まえて考えていくこととする。

2. 学びの意義と目標

本講義では、戦後の日本経済の成立、その発展の軌跡、経済政策あるいは体制上の特徴などについての講義を通じ、日本経済の現状と将来的な展望を得ることを目的とする。

受講生に対する要望

盛りだくさんの内容で、講義のスピードは当然のことながら早くなるので、しっかりした受講姿勢で臨むこと。

キーワード

(1) 資本主義 (2) 戦後日本経済 (3) 産業構造 (4) 貿易構造

事前学習（予習）

内容的に、盛りだくさんなので、事前に文献等を読んでおくこと。

復習についての指示

試験は、講義内容をもとに行われるので、ノートをしっかりとしておくこと。

授業計画

1. はじめに
2. 経済体制とは
3. 古典的資本主義と古典的社会主義
4. 現代混合資本主義
5. 経済体制としての日本型資本主義（歴史的背景）
6. 経済体制としての日本型資本主義（目的、課題）
7. 経済体制としての日本型資本主義（モデルとして）
8. 戦後日本経済の発展過程（戦後復興期）
9. 戦後日本経済の発展過程（高度経済成長期）
10. 戦後日本経済の発展過程（低経済成長期）
11. 戦後日本経済の発展過程（バブル経済へ-1）
12. 戦後日本経済の発展過程（バブル経済へ-2）
13. 戦後日本経済の発展過程（まとめ）
14. 前半講義のまとめ
15. 中間試験14～17
16. 戦後日本経済の発展過程のおさらい
17. 戦後日本経済の成長の仕組み（設備投資競争について）
18. 戦後日本経済の成長の仕組み（その他の企業競争）
19. 産業構造の変化
20. 産業構造の変化（課題）
21. 日本の金融・財政政策（経済政策とは）
22. 日本の金融・財政政策（政策手段に見る日本の特徴）
23. 日本の金融・財政政策（課題）
24. 日本の貿易構造（貿易の意味）
25. 日本の貿易構造（貿易摩擦から経済摩擦へ）
26. 日本の貿易構造（課題）
27. 日本経済：21世紀における課題
28. 日本経済：21世紀における課題
29. 後半講義まとめ
30. 期末試験16～29

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 中間試験：35% (2) 期末試験：35% (3) ブックレポート：30%：1,200文字程度3回×10%

日本史概説A

HIST-J-100

担当者：東島 誠

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目

講義概要

1. 内容

「日本」という国はいつ誕生したのか。おそらく諸君は「縄文時代の日本」や「日本における稲作の始まり」といった表現に、何の違和感もなく慣れ親しんできたことであろう。だが、縄文時代や弥生時代には、まだ「日本」という名の国家は存在しなかった。まずはそのあたりから、諸君の常識、既成の歴史像に、心地よい揺さぶりをかけていきたい。なお、本年度から概説Aでは、中世末、戦国時代までの歴史を扱う。当該期の歴史は2年生以降、「日本史の研究」各特論でより深く掘り下げて学ぶことができる。

2. 学びの意義と目標

結論は一つではない——この講義では時に、対立する学説を諸君に投げかけることがある。どちらがより説得的か？それを判断するのは君たち自身だ。大学の歴史の講義とはじつは、論理的思考力を鍛錬する場なのである。なお、当科目は、日本文化学科の選択必修科目であると同時に、政治経済学部社会科学教職科目でもある。限られた時間数ではあるが、高校までの知識重視の歴史とはひと味違う、「考える歴史」を体験することで、将来教壇に立つ諸君の歴史像が、奥行き豊かなものとなることを願う。

受講生に対する要望

授業効果を高めるため、教室の形状によって、着席できるエリアを制限する。初回講義時の指示にしたがうこと。

キーワード

(1) 日本 (2) 王権 (3) 支配の正当性 (4) 古代 (5) 中世

事前学習（予習）

毎回の授業で扱う基礎用語については、前週のプリントで指示する。事前に調べて予備知識を得たうえで講義に出席すること。

復習についての指示

A4ファイルを用意し、配布プリントを整理した上で、毎回持参すること。各回冒頭に、質問への応答、学生カードの紹介等の復習を行なうほか、折に触れて以前のプリントを参照することができる。

授業計画

1. ガイダンス——頼光物『土蜘蛛草紙』を読み解く
2. 卑弥呼と〈王の身体〉
3. 起源の天皇を考える
4. 「託宣」と「歌謡」——歌われた革命
5. 「唐風」志向と日本的政治
6. 摂関・院政期と「近さ」の権力
7. 頼朝と義仲——その分岐点はなにか
8. 寛喜の飢饉と蒙古襲来——政権のアカウンタビリティ
9. 南北朝BASARAは面白い？
10. 中世後期の東アジア
11. 一揆と「山賊」
12. フロイスの見た戦国日本——「アリエナイ」社会の痕跡
13. 起源としての「印判状」世界
14. 信長は中世を破壊したか
15. 足利義政と豊臣秀吉——近世とは何か

教科書

東島 誠、與那覇 潤 『日本の起源（可能なら2刷以降推奨）』（太田出版）

評価方法

(1) 学期末試験：55% (2) 授業内での提出カード：45%：提出カードの優秀者には、別途加点を行なう。

担当者：上安 祥子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目

講義概要

1. 内容

概説Bでは、近世・近代の歴史を扱う。個々のトピックスそのものを理解するだけでなく、史料を通じてその時代の様相や志向を「考える」、そして時代の流れを把握する、という、学びのプロセスを重視して授業をすすめていきたい。なお、行事などのスケジュールによっては、授業計画にあげたトピックスの順番を入れ替える可能性もあることをあらかじめ承知しておいてもらいたい。

2. 学びの意義と目標

歴史を学ぶということは、記録された個々の事実や、叙述されたストーリーを「覚える」ことではない。さまざまな史料や学説を検討、検証し、より確かにアプローチする方法を模索しながら、その事実を読み解いていく、きわめて論理的な思考力を駆使する作業が必要だ。本講義でも、そうした論理的思考力を養うことを目標としている。なお、当科目は、日本文化学科の選択必修科目であると同時に、政治経済学部社会科学教職科目でもある。将来、教え導く立場に立つ諸君だからこそ、歴史を考えて学ぶ醍醐味を、十分に体験してもらいたい。

受講生に対する要望

予習の内容、あるいは授業で扱う史料から読み取れることなど、諸君に発言を求めることがある。「わかりません」という答えはしないように、予習として指示されたものについては、しっかり調べておくこと。その場で考えるものについては、間違えることをおそれたりためらったりせず、はっきり意見を述べることを。

キーワード

(1)災害 (2)戦争 (3)近世 (4)近代

事前学習（予習）

次回の授業内容に関して、確認しておくべき語句など、基本的には空欄補充形式の予習課題あり。この予習課題は提出はせず、成績にも反映しないが、予備知識や関心をもつことは、授業の理解度を高める。是非、積極的に取り組んで、授業に出席してもらいたい。

復習についての指示

授業でとりあげるトピックスは日本史を学ぶ“手引き”にとらえ、とくに関心を惹かれた内容に関するものから参考文献を読み進めてほしい。そうすることが復習になるとともに、理解を深めることにもつながる。とりわけ、教員免許取得を目指して履修する諸君は、1冊でも多くの参考文献を手にとるよう、意欲的に取り組んでほしい。

授業計画

1. ガイダンスー江戸の“四民”
2. 新しい時代の治者像ー山鹿素行の士道論と「太平記読み」の世界
3. ある名主の苦悩ー救済する人、される人
4. 御所千度参りの波紋
5. 七分積金と江戸の町会所
6. 「ぶらかし」と開国
7. 幕府の「私」と公議輿論
8. 築地梁山泊と改正掛
9. 自由民権運動
10. 1889年2月11日の万歳
11. かみあわない「自主」ー日清戦争、そして日露戦争へ
12. 普選運動
13. 帝都復興
14. “ひきずられる”国論ー満蒙へのまなざし
15. 開戦しない論理、開戦する論理ー日中戦争、そして太平洋戦争へ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)学期末レポート:55% (2)小レポート:45% * 小レポートは60～100字程度を毎回提出。その日の授業内容に関して、10分程度で記述。

※出席回数が、全授業回数の3分の2に達しない場合、評価の対象外。公欠を含む場合も、欠席が全授業回数の2分の1以上になれば、評価の対象外。正当な理由がない遅刻は減点、無断退席は欠席扱いとする。

担当者：吉田 博司

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：地理歴史選択科目，
中学校教諭一種免許：社会選択科目

講義概要

1. 内容

明治、大正、昭和戦前期の政治史をふりかえります。明治維新はなぜ起きたのか。明治憲法はどういう背景で成立したのか。日本の議会政治はどのように発展し、挫折したのか。こうした内容を近代日本の政党政治発展というテーマを根底にすえてみていきます。人物論もあり込み、生きた政治史理解をめざします。政治学系の専門科目ですので、かなり詳細な歴史探求となります。

2. 学びの意義と目標

現代政治の理解は歴史的考察をふまえることで深められるでしょう。歴史は現代なのです。

受講生に対する要望

歴史を学んで何をえられるのかという素朴な疑問を抱く学生が多い。人間の権力欲など歴史をとおして普遍的な行動原理を学んでください。

キーワード

(1)幕藩体制、鎖国、攘夷 (2)講義輿論、自由民権 (3)大正デモクラシー、憲政常道 (4)昭和維新 (5)

事前学習（予習）

講義ポイントを配布するので予習しておく。

復習についての指示

5回の講義後、小テストを含めた復習授業をするので5回分の講義ノートも中心に復習しておく。

授業計画

1. 明治維新と公議輿論
2. 同
3. 同
4. 同
5. 同
6. 復習授業
7. 明治憲法のできるまで
8. 同
9. 同
10. 同
11. 同
12. 復習授業
13. 初期議会と超然主義
14. 同
15. 同
16. 同
17. 政友会の成立
18. 復習授業
19. 桂園時代
20. 同
21. 大正の政変
22. 政党政治化状況
23. 同
24. 復習授業
25. 二大政党時代
26. 同
27. 同
28. 昭和維新
29. 同
30. 復習授業

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)平常点:60% (2)小テスト:40%
- 平常点が重視されます。

担当者：吉田 博司

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

近代日本の政治思想史ですが、思想と時代との関わりを重視しますので、日本近代史と重なる部分があります。また、精神的考察という立場から心理－歴史的な思想史を目指します。具体的には、福澤諭吉の開かれた精神にはじまり、上杉慎吉の閉じた精神（同体思想）、大正デモクラシーの開かれた政治思想（吉野作造）、昭和期における閉じた精神の復活（昭和維新）、近代日本と社会主義思想（山路愛山）、軍国主義下での自由主義の精神（馬場恒吉）、学生の社会運動（新人会）を検討していきます。この科目は政治学系の理論的専門科目ですので、かなり深いレベルの歴史探求となります。

2. 学びの意義と目標

思想史は結局、人間精神の探求です。時代と格闘する人間の根底を見つめましょう。

受講生に対する要望

平常点を重視するので、ノートを取る姿勢が必要です。

キーワード

(1) 独立自尊 (2) 文明 (3) 国体、閉じた社会、開かれた社会、天皇機関説 (4) 社会主義 (5) 民本主義

事前学習（予習）

講義ポイントを配布するので予習しておく。

復習についての指示

5回の講義後、小テストを含めた復習授業をするので、5回分の講義ノートを中心に復習しておく。

授業計画

1. 福沢諭吉
2. 同
3. 同
4. 同
5. 自由民権
6. 復習授業
7. 国体思想
8. 同
9. 同
10. 同
11. 明治社会主義
12. 同
13. 大正デモクラシー
14. 同
15. 同
16. 日本の学生社会運動
17. 同
18. 復習授業
19. 昭和維新
20. 同
21. 国体明徴運動
22. 同
23. コモンセンスの自由主義
24. 復習授業
25. 予備
26. 同
27. 同
28. 同
29. 同
30. 総括復習授業

教科書

吉田 博司 『近代日本の政治精神』（芦書房）

評価方法

(1) 平常点:60% (2) 小テスト:40%

平常点が重視されます。

担当者：浅井 亜希

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

内容) 前半は、講義形式で比較政治学の様々な手法を紹介しつつ、ヨーロッパに関する文献をゼミ形式で講読する。毎回報告者は、担当箇所の内容を要約したレジュメを作成し、発表を行う。後半は、比較政治の事例分析のためのグループワークを中心に行う。各グループは、自らテーマを決めてリサーチし、パワーポイント資料を作成、プレゼンテーションを行う。最後に、各自リサーチした内容をレポートにまとめて提出する。なお、受講者の人数によって内容・進行を適宜変更することがある。カリキュラム上の位置づけ) 「政治学」の受講を前提とする。「比較」に要求される高度な専門性(分析力と批判力)をとりサーチ力を養う。

2. 学びの意義と目標

「比較」するためには「批判」できる精神と能力、客観的な分析力が必要とされる。自らテキストを読み、リサーチし、分析することによって、この力を獲得する。

受講生に対する要望

グループワークを中心とする授業なので、欠席などは周囲に迷惑をかけることになる。それは評価に影響することを頭に入れておくこと。積極的な事前学習とグループワークを楽しむことができる学生が受講してほしい。

キーワード

(1)比較政治 (2)ヨーロッパ

事前学習(予習)

グループワーク、報告(レジュメの作成)に加え、毎回の授業で各受講者に発言を求めため、事前学習に相当の時間が必要となる。

復習についての指示

前半の講義部分はしっかり復習し、グループワークやレポートに生かしてほしい。

授業計画

1. はじめに 授業の進め方
2. 比較政治学の方法 総論(1) なぜ・なにを比較するか
3. 比較政治学の方法 総論(2) どのように比較するか(1)
4. 比較政治学の方法 総論(3) どのように比較するか(2)
5. 比較政治学の方法(1) 政治体制論
6. 比較政治学の方法(2) 政治文化論
7. 比較政治学の方法(3) 政治社会論
8. 比較政治学の方法(4) 政治発展論
9. 比較政治学の方法(5) 政党システム論
10. 比較政治学の方法(6) 政治変動論
11. 比較政治学の方法(7) 新制度論
12. 図書館講習会
13. グループワークの手引き
14. 文献講読・グループワーク(1)
15. 文献講読・グループワーク(2)
16. 文献講読・グループワーク(3)
17. 文献講読・グループワーク(4)
18. 文献講読・グループワーク(5)
19. 文献講読・グループワーク(6)
20. 文献講読・グループワーク(7)
21. 文献講読・グループワーク(8)
22. 文献講読・グループワーク(9)
23. 成果報告準備(1)
24. 成果報告準備(2)
25. 中間報告
26. 成果報告(1)
27. 成果報告(2)
28. フィードバック
29. レポート作成指導
30. まとめ

教科書

羽場 久美子, 羽場 久美子 『EU(欧州連合)を知るための63章(エリア・スタディーズ124)』 (明石書店)

評価方法

(1)コメントペーパー:20% (2)文献報告:20% (3)レポート:20% (4)成果報告:40%

秘書学概論

INTD-L-200

担当者：森 久子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

秘書として必要な知識を学びながら、上司のためだけでなく、組織の一員としての業務や行動について学びます。概論ですが、具体的な業務と結びつけるために、各パートごとに秘書検定2級の過去問題を、小テストとして行います。秘書検定2級を受験する学生には、試験対策にもなります。

2. 学びの意義と目標

秘書の仕事を学ぶことで、組織内外の人間関係を理解し、直ぐに実務に役立つ知識や技能を身に付け、学校から社会へとスムーズに移行する手助けとなる授業です。従って、秘書業務だけでなく、社会人としての基礎知識を身につけることを目標とします。

受講生に対する要望

授業中は、積極的に発言してください。

キーワード

(1)実務 (2)秘書検定 (3)社会人

事前学習（予習）

授業計画を参照し、テキストの該当箇所の読めない漢字や意味を調べてください。テキストに使われている語句は、社会人としての常識です。

復習についての指示

適宜、小テストや課題を提出し、理解度を確認します。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 秘書とは（秘書の歴史・秘書の専門分化）
3. 秘書と急変する企業環境
4. 秘書と会社組織 1（会社とは・会社の種類・組織と役割・重要な会議）
5. 秘書と会社組織 2（秘書の業務形態）
6. 秘書の職務内容
7. 秘書の補佐機能
8. 社会人基礎力
9. ビジネス・マナー
10. 慶弔の知識
11. 秘書に求められる能力
12. 秘書に求められる資質
13. 秘書の資質を高める努力
14. 前半の復習とまとめ
15. 秘書と人間関係 1（コミュニケーションの基本概念）
16. 秘書と人間関係 2（バーバル・コミュニケーションとノンバーバル・コミュニケーション）
17. 言葉づかいの基礎と実践
18. 秘書と人間関係 3（秘書と上司・周囲の人との人間関係）
19. 秘書と情報管理
20. 文書業務
21. レコード・マネジメント
22. 秘書とキャリア
23. これからの企業（グローバル化の中での企業の存続）
24. これからの企業（リスクマネジメント・ダイバーシティマネジメント）
25. 秘書と異文化理解
26. プロトコル
27. ホスピタリティ・これからの秘書
28. 知っておきたい労働基準法の基礎知識
29. 知っておきたい社会保険の基礎知識・財務会計の基礎知識
30. まとめ

教科書

高橋真知子・北垣日出子監修 『秘書概論』（樹村房）

評価方法

(1)試験:50% (2)小テスト:35% (3)出席:15%

担当者：森 久子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

新社会人に求められる事務的知識と技能を学び、就職後、直ぐに役立つように演習を行います。適宜、理解度の確認を小テスト形式で行います。

2. 学びの意義と目標

理論と演習を通して学校から社会へと、スムーズに移行する準備となります。そのために、基本的業務ができることを目標とします。

受講生に対する要望

社会人になるという意識を持って、新社会人に求められている基本的なことを理解してください。

キーワード

(1) 社会人基礎力 (2) マナー (3) 実務

事前学習（予習）

授業計画を参照し、テキスト内の該当箇所の読めない漢字や意味の解らない言葉は、事前に調べておくこと。また、社会や企業の動向を新聞やニュース番組でチェックしておいてください。

復習についての指示

課題をレポートとして作成します。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 社会人基礎力
3. 組織の形態と自分のポジション
4. 身だしなみとビジネスマナー
5. 言葉の使い方—敬語表現の基礎
6. 言葉の使い方—敬語表現の実践
7. 電話の言葉づかひの基礎と実践
8. 来客応対
9. スケジュール管理
10. 会議・会合
11. 出張
12. ファイリング
13. 慶弔の知識
14. 前半の復習とまとめ
15. プロトコール
16. ビジネス文書の機能と種類
17. ビジネス文書作成のポイント
18. ビジネス文書表記の注意点
19. 書式の理解
20. 社外向け文書作成
21. 社内向け文書の作成・議事録
22. 儀礼文書
23. 電子メール
24. ファクス・覚えておきたい語句
25. ビジネス文書の取り扱い
26. グローバル化と異文化理解
27. プレゼンテーションの基礎知識
28. 労働基準法と社会保険の基礎知識
29. 社会人として知っておきたい経営と会計の基礎知識
30. 後半の復習とまとめ

教科書

岡田小夜子・森 久子他 『バイリンガルオフィスプロの基礎』（日本秘書協会）

評価方法

(1) 試験:50% (2) レポート:35% (3) 出席:15%

担当者：小松崎 利明

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

これまで蓄積されてきた平和研究の学問的成果を基礎に、われわれが生きる社会に生起する問題を通して「平和」について考える。ただし、この平和ということば／概念自体が多義的かつ論争的であり、またその平和を実現するための手段や方法も、人や文化、また時代によって多様な姿を見せ、さらには、平和に関する研究があらゆる学問分野を含むがゆえに、包括的に学修することは困難である。したがってこの授業では、「平和とは何か」「平和はどうすれば実現できるのか」といった問いへの「唯一の答え」を「提示する」ことはせず、基本知識の習得と映像資料の視聴をもとにしたディスカッション等、アクティブ・ラーニングによって、学生一人ひとりが自ら平和の諸問題と格闘することを目的とする。

2. 学びの意義と目標

まずは、社会科学の領域において蓄積されてきた平和研究の学問的成果を学び、それを現代世界が抱える諸問題と結びつけて考察する。そこから、自分自身、そして他者との対話を通じて、現代世界における「平和」について多様な視点から考察する技術を習得する。

受講生に対する要望

授業への参加に重点を置いていますので、発言や課題への取り組みは積極的に行ってください。

キーワード

(1) 平和 (2) 戦争 (3) 人間の安全保障 (4) 構造的暴力 (5) 脱成長

事前学習（予習）

毎回事前に配布される資料を読んでおく。

復習についての指示

期末レポートの作成準備を含め、配布資料や参考文献を読み、ワークシートを完成させる。

授業計画

1. 講義概要の説明
2. 平和学を学ぶとは
3. 現代日本の「平和」について考える（1）
4. 現代日本の「平和」について考える（2）
5. ディスカッション「国家はなぜ武力を使うのか？」（1）
6. ディスカッション「国家はなぜ武力を使うのか？」（2）
7. 戦争の歴史について学ぶ（1）
8. 戦争の歴史について学ぶ（2）
9. 軍事力と平和との関係について考える（1）
10. 軍事力と平和との関係について考える（2）
11. ディスカッション「軍事力が必要なのは？」（1）
12. ディスカッション「軍事力が必要なのは？」（2）
13. 人間の安全保障について学ぶ（1）
14. 人間の安全保障について学ぶ（2）
15. 前半のまとめとグループワーク（1）
16. 前半のまとめとグループワーク（2）
17. 暴力と平和との関係について考える（1）
18. 暴力と平和との関係について考える（2）
19. ディスカッション「非暴力とは何もしないこと？」（1）
20. ディスカッション「非暴力とは何もしないこと？」（2）
21. 構造的暴力について学ぶ（1）
22. 構造的暴力について学ぶ（2）
23. 経済と平和との関係について考える（1）
24. 経済と平和との関係について考える（2）
25. ディスカッション「資本主義は平和をもたらすか？」（1）
26. ディスカッション「資本主義は平和をもたらすか？」（2）
27. 脱成長について学ぶ（1）
28. 脱成長について学ぶ（2）
29. 後半のまとめとグループワーク（1）
30. 後半のまとめとグループワーク（2）

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) グループワーク：40%：ワークシートへの取り組みと、グループディスカッションへの参加 (2) 期末レポート：60%

ベンチャービジネス論

MGMT-L-300

担当者：関水 信和

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

当科目はベンチャー企業の現状と問題点やあり方などを学ぶものです。ベンチャー企業と取引をしたり、さらに起業したりする時に役に立ちます。またベンチャー企業経営の勉強を通して、企業と経営の本質について、理解を深められるような授業を行うので、ベンチャー企業と関わりを持たない人にも有意義なはずです。尚、専門科目ではありますが、企業経営における財務ないし法務などとの関係を解説するので、会計や法律などを勉強する意義などが理解できて、それらの科目を勉強するモチベーションが増すはずです。よって財務や法律をまだ勉強していない人にも受講をお勧めします。

2. 学びの意義と目標

企業経営の意義・あり方とリスクをベンチャー企業の経営を通して理解することです。就職先を選ぶ時にも役に立つはずです。また、出席票に記入されたいくつかのコメントに対して、解説を加え、双方向性のある情報交換が行えるように努めています。

受講生に対する要望

知識を増やすというよりも、企業経営の本質を理解することに力点を置いて講義をします。また毎週配布するコメント票に質問ないし意見を記入してください。次週の講義の中で、なるべく回答するようにし、双方向性を持った授業とします。

キーワード

(1)ベンチャー企業 (2)経営 (3)ビジネス (4)知的財産 (5)企業

事前学習（予習）

授業の中で、次回のテーマを説明するので、基礎的事項を勉強し、問題意識を持って受講するようにしてください。

復習についての指示

授業で説明した内容の具体的な事例を文献ないしインターネットなどで調べて、確認するようにしてください。そして配布するコメント票などに記入するように心掛けてください。記入されている質問に対しては、次の講義で回答するようにしています。

授業計画

1. 履修ガイダンス、ベンチャービジネスを勉強する意義など
2. 企業とは、ベンチャー企業とは
3. 企業経営と財務管理・法務管理などとの関係
4. 日本のベンチャー企業の現状
5. 産学連携とベンチャー企業
6. 産学連携の日・米・欧比較
7. 産学連携と知的財産
8. ベンチャー企業の特許戦略 1
9. ベンチャー企業の特許戦略 2
10. ベンチャー企業の資金計画と資本政策 1
11. ベンチャー企業の資金計画と資本政策 2
12. ベンチャー企業の目標と株式上場
13. 事例研究
14. 起業のリスクと意義
15. まとめ、理解度の確認

教科書

プリントを配布する
(毎週)

評価方法

(1)出席:20% (2)平常点(課題など):30%出席票の記述内容を平常点として評価します。(3)期末試験(配布資料・ノート持ち込み可):50%

担当者：宮澤 弘

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：公民必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目、
社会福祉主事任用資格：選択科目

講義概要

1. 内容

この授業では法的なものの見方や考え方について学んでいきます。法的なものの見方や考え方には様々な理解がありますが、この授業では次に挙げる二つの側面を念頭において問題の解決策を検討するもの、として説明をしていきます。二つの側面とは「問題解決の理由付けや説明がどれも整合していること」、すなわち論理的に矛盾せず説得力を持っていること、そして得ようとしている問題解決の結論について「私たちが信じている道徳や倫理に照らして受け入れられると判断できること」、すなわちその結論が良い結論だと納得できること、の二つを指しています。授業では具体的な裁判例を多数取り上げて説明をしていきますが、法学における理論的な事柄、特に原理や理念についても適宜解説をしていきます。なお、授業期間中に期末試験とは別の、復習をかねた確認テストを数回行います（3回実施予定ですが進捗や理解状況に応じて変更する場合があります）。目的はこれまでの授業の復習（理解度のチェック）であり、仮に結果があまり良くなくても期末試験などで十分に挽回できる、という位置づけです。詳細は授業の第1回目に説明します（1回目に出席できなかった場合には2回目以降の授業終了後などに尋ねて下さい）。この授業は、今後の専門科目の学習において必要な知識を習得する役割を担うものとの位置づけから、基礎的でありかつ入門的な授業となります。

2. 学びの意義と目標

一見複雑に見える出来事でも法的な思考法に基づいて整理することにより、当該出来事において重要と思われるものを明瞭に捉えることができます。授業の目標として、物事についてある視点を軸に整理して考える態度、そして自己の見解を何らかの根拠に基づいて説明する能力、この二つを身につけることを目標としています。社会では価値観や考え方の様々な異なった人々が共存しています。このような社会の中で紛争が生じたときに、唯一最上の、あるいは絶対的基準による解決方法というものを探し出すことは非常に困難です。しかし法学を学ぶことによって、問題を分析する能力、そして問題解決策を考案する能力を高めることができ、その結果そうした困難な問題への対応力も向上していくのです。社会が複雑化し価値観が多様化している現在、このような法的思考が果たす役割は大きくなっていきます。

受講生に対する要望

社会の様々な問題に関心を持つために新聞を定期的に読んだり夜に放送されるニュース番組などを積極的に視聴して下さい。

キーワード

(1) 法的思考 (2) 問題の論点を抽出し分析する (3) 社会における紛争の解決とは何か (4) 自由と強制 (5) 社会の統合

事前学習（予習）

事前に配布した資料は必ず読んできて下さい。それから講義期間中すべてにわたって言えることですが、社会の様々な問題に日常から関心を持つように心がけてください。

復習についての指示

配布したレジュメは必ず読み返してください。それから授業の中で適宜関連する著書（新書や文庫程度のもの）を紹介しますので、積極的に読み進めてください。関心のあるもの一つでもよいので自ら取り組んで下さい。また、授業内で数回確認テスト（小テスト）を行う予定ですが、このテストは期末試験に臨む場合にも必ず復習をしておいてください。解答と解説は授業中に行います（テスト実施直後の授業で行います）。

授業計画

1. 法へのアプローチ（授業の進め方・成績評価方法の説明を含む）
2. どのような法があるか1（法源）
3. どのような法があるか2（判例というもの）
4. どのような法があるか3（法領域の種類）
5. 法の機能（法の規範的機能と社会的機能）
6. 日本における近代法の継受
7. 日本人の法意識と法文化
8. 法と道徳（社会規範としての法）
9. 自己決定権とパターンリズム1（基本編）
10. 自己決定権とパターンリズム2（事例問題）
11. 自己決定権とパターンリズム3（応用編）
12. 犯罪と刑罰1（刑事法の基礎）
13. 犯罪と刑罰2（刑事法の基礎）
14. 犯罪と刑罰3（裁判員裁判と国民の司法参加）
15. 不法行為と過失1（民事法の基礎）
16. 不法行為と過失2（民事法の基礎）
17. 不法行為と過失3（民事法の基礎）
18. 法と正義1（法的安定性）
19. 法と正義2（正義の四類型・事例問題～分配的正義を題材に）
20. 日本の裁判所（裁判所の組織）
21. 裁判手続1（刑事法）
22. 裁判手続2（民事法）
23. 現代型訴訟（現代社会において司法が担う役割とは何か）
24. 裁判外紛争処理1（基本編）
25. 裁判外紛争処理2（事例問題1）
26. 裁判外紛争処理3（事例問題2）
27. 法の解釈1（法的三段論法）
28. 法の解釈2（解釈の目的と技法）
29. 法律における理屈と人情（論理と倫理の融会的解決）
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 試験:60% (2) 平常点:40%:出席点とは異なります。授業中あるいは次回までに提出する課題や確認テストなどを指します。

担当者：尋木 真也

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：公民必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目、
社会福祉主事任用資格：選択科目

講義概要

1. 内容

(1) 授業内容 法律というと、弁護士や裁判官が扱うものと思われるかもしれませんが、実際には、私たちはさまざまな法律のうえで日常生活を送っています。たとえば、買物をするとき、大学で勉強するとき、アルバイトをするとき、さらにはただ道を歩いているだけでも法律が関係しています。また、新聞を開いてみると、政治面でも経済面でも国際面でも社会面でも、法律の話がよく出てきます。この講義では、このような日常に関係する法律を素材にしつつ、法的な考え方や重要な法律について勉強していきます。法学のなかでもとくに重要なのが、憲法、民法、刑法です。そのため、この授業ではこれら3つの法を中心に取上げますが、そのほかにも、みなさんの生活に関係する法について随時勉強していきます。(2) カリキュラム上の位置づけ 政治・経済・教育・宗教など、どのような学問を行ううえでも（より大きく言えば人生を送るうえで）、法的な考え方をもっていると物事の理解が深まりますし、また主張に説得力が増します。そのため、法学の基礎の勉強は、他のさまざまな授業を受ける前提として位置づけることができます。

2. 学びの意義と目標

法律というと、堅苦しいイメージをもつ人が多いのではないかと思います。確かに、六法を見ると難しい文書で書かれた条文が並んでいます。しかし、そこに書かれている内容の多くは、実際にはそれほど難しいことを言っているわけではありません。この授業では、法律をより身近なものに感じてもらうため、一見難しい法律をできるだけわかりやすく解説します。この講義は、法的な考え方（リーガル・マインド）の修得を目標として行います。そのため、細かい法律内容を暗記することは求めません。この授業で勉強したことをもとにして、ニュースを見たときなどに法的な視点から問題を考えられるようになってもらいたいと思っています。

受講生に対する要望

授業で間違えることは恥ずかしいことではありません。考えたことや疑問に思うことは、ぜひ教員にぶつけてみてください。そうすることで、その問題に対する理解がより深まるはずです。また、こういうときに役立つ法律を知りたい、こういう法律を勉強したいなど、希望があればいつでも申し出てください。可能な限り授業で取り上げるようにします。普段の日常生活を送りながらも、法律問題にアンテナを立てておいてください。

キーワード

(1) リーガル・マインド (2) 生活のなかの法 (3) 憲法 (4) 民法 (5) 刑法

事前学習（予習）

テレビでも新聞でもインターネットでもよいので、普段から社会問題に目を向け、そのなかで法律がいかなる役割を果たしているのかについて考えてみてください。そのなかで疑問点や気になる点があれば、授業時や授業の前後にぜひ話してほしいと思います。

復習についての指示

まず授業中に、口頭で話したことや疑問点などを、配布資料やノートにメモするようにしておいてください。そのメモをもとに、本やインターネット等を通じてさらに理解を深め、それでも分からない場合には相談していただければと思います。

授業計画

1. ガイダンス
2. 時事：東日本大震災と法
3. 法一般：社会における法
4. 法一般：法の役割
5. 法一般：六法全書
6. 法一般：成年と未成年
7. 憲法：憲法とは
8. 憲法：憲法の基本原理
9. 憲法：自衛隊と在日米軍
10. 憲法：基本的人権
11. 憲法：犯罪者の処遇
12. 中間試験
13. 刑法：刑法とは
14. 刑法：死刑制度
15. 刑法：冤罪
16. 刑法：裁判員制度（講義）
17. 刑法：裁判員制度（演習）
18. 刑法：交通事故
19. 民法：民法とは
20. 民法：交通事故
21. 民法：契約、クーリングオフ
22. 民法：借金と保証人
23. 民法：結婚
24. 労働法：仕事、アルバイト
25. 国際法：国際法とは
26. 国際法：戦争
27. 国際法：国連
28. 国際法：竹島、尖閣諸島、北方領土
29. まとめ
30. 期末試験

教科書

授業の中で指示する
毎回レジュメと資料を配布します。

評価方法

(1) 期末試験：50% (2) 中間試験：25% (3) 平常点：25%

受講生の人数や要望に応じて、小テストやレポートを実施し、評価基準に変更を加える可能性があります。その際は、みなさんに事前に相談します。

担当者：齋藤 美沙

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：公民必修科目，
中学校教諭一種免許：社会必修科目，
社会福祉主事任用資格：選択科目

講義概要

1. 内容

本講義では、様々な法規範の中から、おもに憲法、民法及び刑法を扱います。身近な問題を手がかりに、法・法律の基本的理論や知識を確認していきます。

2. 学びの意義と目標

社会では、法的視点が必要とされる場面が多くあります。本講義では、基本的な法的思考・知識を身につけることを目標とします。

受講生に対する要望

新聞やニュースなどで、法に関する事柄に注意を払うようにして下さい。

キーワード

(1)法学 (2)民法 (3)刑法 (4)憲法 (5)道徳・正義

事前学習（予習）

前週に指示します。

復習についての指示

配布プリントを再読して下さい。必要に応じて参考文献を紹介します。

授業計画

1. ガイダンス
2. 法を学ぶことについて・リーガルマインド
3. 法とは何か
4. 法の分類
5. 民法（総則①）
6. 民法（総則②）
7. 民法（親族）
8. 民法（相続）
9. 刑法（総則①）
10. 刑法（総則②）
11. 刑法（罪①）
12. 刑法（罪②）
13. 裁判の仕組①
14. 裁判の仕組②
15. 身近な法的トラブル①
16. 身近な法的トラブル②
17. 憲法（国民主権・平和主義）
18. 憲法（基本的人権の原理・平等原則）
19. 憲法（精神的自由）
20. 憲法（財産権）
21. 憲法（社会権）
22. 憲法（権力分立）
23. 憲法（国会）
24. 憲法（内閣・裁判所）
25. 法・道徳・正義（法と自由）
26. 法・道徳・正義（アファーマティブ・アクション）
27. 法・道徳・正義（生命倫理①）
28. 法・道徳・正義（生命倫理②）
29. まとめ①
30. まとめ②

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)試験:70% (2)平常点:30%

試験の成績をもとに、出席やリアクションペーパー等を考慮し、総合的に評価します。

担当者：渡辺 英人

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：公民必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目、
社会福祉主事任用資格：選択科目

講義概要

1. 内容

「法を守る精神・法令遵守と責任」「法学」では、みなさんが市民社会に参加するために必要な「ルールと手続き」について学びます。法は人と人とが社会の中でいかに上手に生活していくか、という目的のために存在します。いまから法の意味と目的をよく理解し、責任ある個人、良き市民として、社会に参加してください。将来、どのような職業に就いても、この授業で学んだ内容が、必ず役に立ちます。講義内容の中心は「法の概念」「市民社会の法」「消費者と法」「知的財産権」などです。

2. 学びの意義と目標

法を学ぶことは「生きる」ために必要な知識と心構えそのものです。市民社会に生きる一人として、しっかりと学びましょう。

受講生に対する要望

遅刻、欠席の無いように積極的に授業に参加してください。

キーワード

(1)法を守る精神 (2)「公」と「私」 (3)権利と義務 (4)責任 (5)市民社会に生きる

事前学習（予習）

受講の準備として、前週までに講義で使う資料の配布と参考文献の指示を行います。あらかじめ資料や参考文献等をよく読んで、予習、復習をそれぞれ2時間程度行ってください。

復習についての指示

受講の準備として、前週までに講義で使う資料の配布と参考文献の指示を行います。あらかじめ資料や参考文献等をよく読んで、予習、復習をそれぞれ2時間程度行ってください。

授業計画

1. 法を守る精神： 社会における信頼関係
2. 法を守る精神： 社会（コミュニティ）の形成
3. 法と道徳
4. 法の概念
5. 法の存在形式（法源）
6. 法の種類
7. 法の効力 その範囲と限界
8. 「自然法論」と「法実証主義」
9. 法と道徳（2）
10. 自己決定権
11. 法がめざすもの（法の目的）
12. 罪刑法定主義とデュー・プロセス
13. 法の目的（2）
14. 適法性と違法性
15. 「犯罪」とは何か？
16. 「犯罪」とは何か？（2）
17. モラルの低下した社会に生きる
18. 法の目的（3）
19. 「公」と「私」
20. 「責任」とは何か？
21. 「権利」とは何か？
22. 「正義」とは何か？
23. 「市民社会」に生きる
24. 「法」を守る精神
25. 諸外国の法
26. 諸外国の法（2）
27. 市民社会の法
28. 消費者と法
29. 知的財産権と法（1）
30. 知的財産権と法（2）

教科書

井上 正仁 『ポケット六法 平成26年版』（有斐閣）

評価方法

(1)授業参加：40% (2)課題作成：30% (3)試験：30%

法学特論(ジェンダー法A)

LAW-P-200

担当者：武藤 健一

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

下記にあるような現代の状況を踏まえ春学期は、労働に見られる構造と、最近特に若い人達に増えてきた派遣労働について、統計資料を使いながら、そしてその法制度についての検討を、ジェンダーの観点から講義をします。そして、その内容を踏まえて、各人で意見を持てるように、受講者の皆さんでディスカッションをしてもらいます(予定)。

2. 学びの意義と目標

最近増加し、全体の4割ほどを占めるパートや派遣などの非正規雇用が不安定な状況におかれています。これは、昨今いわれている「格差社会」をもたらす原因でもあります。この不安定な状況におかれている非正規労働者で報道されているのは、ほとんど男性です。しかしながら、非正規労働の今までの流れを見ると、その代表的存在である派遣もパートも、元々多かったのは女性の方です。言い換えれば、日本の社会の中で前から格差社会が存在し、その中で生きてきたのは女性であるとも言えるのです。更に言えば、最近の非正規化の流れで若い世代の人が正社員として就職できないということも由々しき事態です。そこで、この労働の場をジェンダーという側面から検討することで、昨今いわれている非正規労働論や格差社会論が落としてきた側面を理解し、法制度がどうなっているかを学んでいくのが、この授業の内容です。労働におけるジェンダー問題を法学というフィルターを通して考えることをこの講義の目的とします。ただし、法学科目であるにもかかわらず、ジェンダー法学の前提となる社会学の成果を大いに取り入れて、春学期と秋学期に分けて授業を進めることになります(特に統計資料を大いに利用します)。

受講生に対する要望

秋学期の法学特論Bとペアとなっている授業です。しかし、春学期のみの履修でも問題ありません。授業の支障になること以外は何をやっても構いませんが、お喋りや10分以上の遅刻などはまったくもって許されません。授業の最後にリアクション=ペーパーを作成してもらうので、授業をしっかり聴く意欲のない場合は単位を取得できない可能性が高いと断言しておきます。

キーワード

(1)労働 (2)ジェンダー法 (3)派遣労働 (4)非正規労働 (5)労働法

事前学習(予習)

授業内容が最新のものを扱うので、事前に学生が調べたりする予習は不可能ですが、プリント(レジュメ)にあるもので、知らない言葉があれば、事前に調べておくことは必須事項です。

復習についての指示

解答後に添削され返却されるリアクション=ペーパーの内容について、授業での解説を踏まえて復習しておくこと。

授業計画

1. (0) ガイダンス
2. (1) 労働の基本構造 ～ 戦後の労働構造
3. (1) 労働の基本構造 ～ M字型雇用形態
4. (1) 労働の基本構造 ～ M字型雇用形態の変化等
5. (1) 労働の基本構造 ～ 周辺労働・事務・非正規労働
6. (1) 労働の基本構造 ～ 現在の労働構造
7. (1) ディスカッション
8. (2) 派遣労働 ～ 派遣の仕組み
9. (2) 派遣労働 ～ その類型
10. (2) 派遣労働 ～ 不本意派遣
11. (2) 派遣労働 ～ 紹介予定派遣等
12. (2) 派遣労働 ～ 労働者派遣法
13. (2) 派遣労働 ～ 安倍政権と派遣法
14. (2) ディスカッション
15. (3) 試験とその解説

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業:67%:リアクション=ペーパーとディスカッションの評価による (2)学期末試験:33%:ディスカッション試験の予定

法学特論(ジェンダー法B)

LAW-P-200

担当者：武藤 健一

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

下記にあるような現代の状況を踏まえ秋学期は、育児休業と、最近更に増えてきたパート労働について、統計資料を使いながら、そしてその法制度についての検討を、ジェンダーの観点から講義をします。そして、その内容を踏まえて、各人で意見を持てるように、受講者の皆さんでディスカッションをしてもらいます(予定)。

2. 学びの意義と目標

最近増加し、全体の4割ほどを占めるパートや派遣などの非正規雇用が不安定な状況におかれています。これは、昨今いわれている「格差社会」をもたらす原因でもあります。この不安定な状況におかれている非正規労働者で報道されているのは、ほとんど男性です。しかしながら、非正規労働の今までの流れを見ると、その代表的存在である派遣もパートも、元々多かったのは女性の方です。言い換えれば、日本の社会の中で前から格差社会が存在し、その中で生きてきたのは女性であるとも言えるのです。更に言えば、最近の非正規化の流れで若い世代の人が正社員として就職できないということも由々しき事態です。そこで、この労働の場をジェンダーという側面から検討することで、昨今いわれている非正規労働論や格差社会論が落としてきた側面を理解し、法制度がどうなっているかを学んでいくのが、この授業の内容です。労働におけるジェンダー問題を法学というフィルターを通して考えることをこの講義の目的とします。ただし、法学科目であるにもかかわらず、ジェンダー法学の前提となる社会学の成果を大いに取り入れて、春学期と秋学期に分けて授業を進めることになります(特に統計資料を大いに利用します)。

受講生に対する要望

春学期の法学特論Aとペアとなっている授業です。しかし、秋学期のみの履修も可能です。授業の支障になること以外は何をやっても構いませんが、お喋りや10分以上の遅刻などはまったくもって許されません。授業の最後にリアクション=ペーパーを作成してもらうので、授業をしっかりと聴く意欲のない場合は単位を取得できない可能性が高いと断言しておきます。

キーワード

(1)労働 (2)ジェンダー法 (3)パート労働 (4)育児休業 (5)労働法

事前学習(予習)

授業内容が最新のものを扱うので、事前に学生が調べたりする予習は不可能ですが、プリント(レジュメ)にあるもので、知らない言葉があれば、事前に調べておくこと。

復習についての指示

解答後に添削され返却されるリアクション=ペーパーの内容について、授業での解説を踏まえて復習しておくこと。

授業計画

1. (0) ガイダンス
2. (1) パート労働 ～ その類型
3. (1) パート労働 ～ 母親と自発的パート
4. (1) パート労働 ～ 若者と不本意パート
5. (1) パート労働 ～ 103・130万円の壁 (1)
6. (1) パート労働 ～ 103・130万円の壁 (2)
7. (1) パート労働 ～ 性別役割分業の再生産
8. (1) パート労働 ～ オランダのパート労働
9. (1) ディスカッション
10. (2) 育児休業 ～ 出産と退職
11. (2) 育児休業 ～ 育児・介護休業法
12. (2) 育児休業 ～ 男性と育児
13. (2) 育児休業 ～ 海外の育児
14. (2) ディスカッション
15. (3) 試験とその解説

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業:67%:リアクション=ペーパーとディスカッションの評価による (2)学期末試験:33%:ディスカッション試験の予定

担当者：加藤 恵司

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

法思想史は、法とは何か、法の拘束力は必要なのか、正義とは、人権とは、という法理論を内包しながら、政治、経済、社会などに目を向けた幅広い学問である。わが国の近代化は、近代西欧の影響を決定的に受けており、法制度についても同様である。にもかかわらず、西欧の精神的所産に十分な理解をしているとはいえない。そこで、本講義は西欧の法思想に限定する。古代では、オリエントにおける法思想を中心に語り、ギリシャ・ローマの法思想へと展開する。中世では、ローマ法を継承したゲルマン法、教会法に焦点を当てる。現代の法思想の原理的なルーツを探求しながら、将来にどのような法制度が必要であるかを考えてみたい。

2. 学びの意義と目標

法は生活と切り離すことができない。古代から現代にいたる法と思想を講義する。疑問を抱いて学んでほしい。

受講生に対する要望

自らで考える力をつけたい。出席を重視する。

キーワード

(1)法 (2)思想 (3)歴史

事前学習（予習）

テキストを読んでくること。歴史的連続性を保持するためにもノートを取り、積極的に質問、疑問を抱くようにして教室で発表されたい。

復習についての指示

質問、疑問点をまとめて、小レポートとして書き残して、提出されたい。

授業計画

1. 法思想史とはどんな学問か
2. 法・思想・歴史（歴史観）
3. 社会あるところに法あり（先史の法）
4. 古代オリエントの法思想
5. ハムラビ法典
6. 古代イスラエルの法思想I（イスラエル民族）
7. 古代イスラエルの法思想II（旧約時代の法生活）
8. 古代イスラエルの法思想III（イエスと原始教会）
9. 古代ギリシャの法思想I（ソクラテス）
10. プラトンの法思想
11. アリストテレスの法思想
12. ローマの法思想I（十二表法を中心として）
13. ローマの法思想II（万民法を中心として）
14. ローマの法思想III（法典編纂）
15. ゲルマン封建制I（ゲルマン人の移動）
16. ゲルマン封建制II（ローマ法の受容）
17. 教会法の成立I（アウグスチヌス）
18. 教会法の成立II（トマス・アクイナス）
19. 近代法の足音（ルネッサンス）
20. 宗教改革と法思想
21. 市民革命と人権
22. 近代自然法思想
23. 法の支配と法治主義I（イギリス・アメリカ）
24. 法の支配と法治主義II（法治主義との比較）
25. 観念法の法思想I（カント）
26. 観念法の法思想II（ヘーゲル）
27. 法実証主義の法思想I（歴史法学を中心に）
28. 法実証主義の法思想II（自然法の夢はのみつくされた）
29. 自然法の回復時代
30. おわりに

教科書

加藤 恵司 『法・思想・歴史—Legal History』（ジーオー企画出版）

評価方法

(1)出席:50% (2)小レポート:50%

担当者：渡辺 英人

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

「法政情報論」高等学校普通教科「情報」教員免許取得を目的とする学生の必修科目である。現代社会におけるさまざまな「活動」にとり「情報」はもっとも重要な要素であると考えられている。この授業では「法学」「政治学」分野におけるさまざまな「情報」問題について解説し、理解してもらう。授業は毎回マルチメディア教室で行う。受講者全員が一斉に授業を開始し、一斉に終了する。けっして遅刻、欠席しないこと。

2. 学びの意義と目標

法情報、政治情報の発見と分析を行う授業です。この授業で学んだことは、将来、資格試験や就職試験にも必ず役立ちます。予習、復習ともに積極的に取り組んでください。

受講生に対する要望

遅刻、欠席などせず、積極的に参加してください。

キーワード

(1)法と情報 (2)政治と情報 (3)情報化社会に生きる

事前学習（予習）

授業内容に沿った資料を前週までに提供する。資料の熟読など、予習を授業までに行っておくこと。

復習についての指示

授業で使用した資料と、授業中に記述したノートに基づいて、清書ノートを作ること。

授業計画

1. 現代社会における法情報、政治情報(1)
2. 現代社会における法情報、政治情報(2)
3. 情報と法(国内編)(1)
4. 情報と法(国内編)(2)
5. 情報と法(海外編)(1)
6. 情報と法(海外編)(2)
7. 情報化社会と国際法(1)
8. 情報化社会と国際法(2)
9. 情報化社会における犯罪(国内編)(1)
10. 情報化社会における犯罪(国内編)(2)
11. 情報化社会における犯罪(海外編)(1)
12. 情報化社会における犯罪(海外編)(2)
13. 情報化社会とマスメディア(1)
14. 情報化社会とマスメディア(2)
15. 情報と政治行政(1)
16. 情報と政治行政(2)
17. 情報と政治行動(1)
18. 情報と政治行動(2)
19. 情報化社会と個人情報(1)
20. 情報化社会と個人情報(2)
21. 情報公開と情報の保護(1)
22. 情報公開と情報の保護(2)
23. 知的財産権(1)
24. 知的財産権(2)
25. 情報化社会と労働環境、労働感(1)
26. 情報化社会と労働環境、労働感(2)
27. 情報化社会のさらなる法問題、政治問題(1)
28. 情報化社会のさらなる法問題、政治問題(2)
29. 情報化社会の将来予測(1)
30. 情報化社会の将来予測(2)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業への出席:40% (2)課題作成:30% (3)試験:30%

担当者：木村 裕二

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

講義の科目は民法を基本にしますが、民事訴訟・破産・調停などの手続法にも若干踏み込んで取り扱いたいと思います。春学期（A）のテーマは「財産法全体」で、民法総則、物権総論、債権各論の分野を対象にします。

2. 学びの意義と目標

身近な法律問題、普通の人が巻き込まれるかも知れない民事紛争で、民事法がどのように機能しているか、民事法をどう使っていくか。それが本講義の全体を通しての問題意識であり、テーマです。

受講生に対する要望

これから仕事で法律実務に関わる人、資格取得を目指す人などを主な対象に想定します。

キーワード

事前学習（予習）

教科書は指定しないが、講義は内田貴「民法I～IV」（東京大学出版会）に準拠して行うので、各自の必要に応じて適宜（図書館利用などでも）参照すれば、より深く確実な学習が可能になると思う。

復習についての指示

各自の必要に応じて適宜（図書館利用などでも）参考書を参照。

授業計画

1. 紛争と法の機能
2. 条文と判例の読み方
3. 民法の構造と原理
4. 契約と意思表示
5. 人・代理・法人
6. 契約の効力
7. 時効
8. 物と所有権
9. 共有と占有
10. 物権変動
11. 契約の成立、解除
12. 売買、贈与
13. 賃貸借、消費貸借
14. 役務型契約
15. 不法行為

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:50% (2)レポート:50%

担当者：木村 裕二

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

講義の科目は民法を基本にしますが、民事訴訟・破産・調停などの手続法にも若干踏み込んで取り扱いたいと思います。秋学期（B）のテーマは「金融取引」と「家族法」で、債権総論、担保物権、親族・相続の分野を対象にします。

2. 学びの意義と目標

身近な法律問題、普通の人が巻き込まれるかも知れない民事紛争で、民事法がどのように機能しているか、民事法をどう使っていくか。それが本講義の全体を通しての問題意識であり、テーマです。

受講生に対する要望

これから仕事で法律実務に関わる人、資格取得を目指す人などを主な対象に想定します。

キーワード

事前学習（予習）

教科書は指定しないが、講義は内田貴「民法I～IV」（東京大学出版会）に準拠して行うので、各自の必要に応じて適宜（図書館利用などでも）参照すれば、より深く確実な学習が可能になると思う。

復習についての指示

各自の必要に応じて適宜（図書館利用などでも）参考書を参照。

授業計画

1. 債権と金融取引
2. 弁済、相殺
3. 債務不履行
4. 債権譲渡
5. 保証
6. 抵当権
7. 訴訟と強制執行
8. 倒産処理
9. 夫婦
10. 親子
11. 要保護者
12. 相続人
13. 相続財産
14. 遺産分割
15. 遺言

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:50% (2)レポート:50%

簿記（初級）

MGMT-P-200

担当者：澤村 孝夫

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

企業は手元にある資金を利用して商品売買業などの事業を展開し利益を獲得するための活動を行っています。こうした活動を正しく理解するためには、一定の方法で計算・記録・整理するための＜道具＞が必要になります。それが＜簿記＞です。また、簿記は、一定期間の取引活動の状況を取引先、出資者、銀行等の利害関係者に報告する役割も担っています。本講義では、簿記による記帳方法の原理及び記帳プロセスを体系的に学習し、基礎的な経理知識の習得を目指しています。また、日本商工会議所主催の簿記検定試験3級を受験することができます。

2. 学びの意義と目標

企業の経営活動の状況を反映させるために必須とされる簿記の必要性を認識すること。簿記のスキルを身につけることによって過去・現在、そして将来の経営活動状況の良し悪しを知ることができるようにする。

受講生に対する要望

企業の経営活動の実務を常に注視すること。

キーワード

(1) 簿記と道具 (2) 資産・負債・純資産（資本金） (3) 帳簿と記帳方法 (4) 勘定科目 (5) 試算表と決算

事前学習（予習）

企業の取引活動を計算・記録・整理することが必要になるので、計算機が必要になります。従って、講義時には必ず計算機を持参すること。

復習についての指示

問題の反復練習

授業計画

1. 簿記の役割とその種類
2. 資産、負債、純資産、収益、費用の内容
3. 簿記上の取引と仕訳
4. 仕訳帳、総勘定元帳、試算表の作成
5. 現金・預金の処理
6. 小口現金出納帳とインプレストシステム
7. 商品売買と3文法
8. 仕入帳、売上帳、商品有高帳の作成
9. 人名勘定と売掛金・買掛金元帳
10. 手形の種類とその記入方法
11. 手形の割引と裏書譲渡
12. 受取手形記入帳と支払手形記入帳
13. 有価証券の取得と売却
14. その他の債権・債務の処理（I）
15. その他の債権・債務の処理（II）
16. 貸倒れと貸倒引当金の処理
17. 固定資産の取得と売却
18. 減価償却費の計算とその処理
19. 資本金・引出金の処理
20. 税金の種類とその処理
21. 合計残高試算表の作成
22. 決算整理・収益及び費用の繰延
23. 決算整理・収益及び費用の見越
24. 精算表の作成（I）
25. 精算表の作成（II）
26. 損益計算書・貸借対照表の作成
27. 伝票の種類とその作成
28. 総合問題練習（I）
29. 総合問題練習（II）
30. 総合問題練習（III）

教科書

渡辺正直 『最新式段階式 日商簿記検定問題集3級』（実教出版）

評価方法

(1) 定期試験: 60% (2) レポート第1回: 5% (3) レポート第2回: 5% (4) レポート第3回: 5% (5) 出席: 25%

簿記（初級）

MGMT-P-200

担当者：山田 ひとみ

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

会計に関する知識はビジネスパーソンにとって必須といわれています。企業が公表する会計情報は複式簿記にもとづいて作成されており、複式簿記の原理は世界共通です。講義では毎回テーマについて例題を用いて説明した後、練習問題を解答してもらいます。簿記の学習で重要なのは予習よりも復習です。復習と自習のチェックを兼ねて、適宜、ミニテストを行います。

2. 学びの意義と目標

勘定の仕組みを理解して取引を仕訳し、決算の手続きを経て貸借対照表と損益計算書の作成に至るまでの、簿記一巡の手続きを理解することができる（日商簿記3級程度）。「簿記（中級）A」や「簿記（中級）B」履修するための知識を身につけることができる。また、会計学・経営学関連科目を学ぶ上でも必要な基礎知識が身に付きます。

受講生に対する要望

簿記の基礎を学びますので、最初が肝心です。第1回目から第8回目までは休まず出席してください。第9回目以降も、休んだ場合は次回までに必ず自習して下さい。

キーワード

(1) 複式簿記 (2) 企業会計 (3) 財務諸表 (4) 会計学 (5) 経営学

事前学習（予習）

理解が不十分な箇所は、講師に質問するなどして、次回までに理解するようにしましょう。欠席した場合は、テキストの該当箇所の練習問題を必ず解答して下さい。

復習についての指示

講義中に解答した練習問題を、次回までに反復解答練習しましょう。

授業計画

1. ガイダンス（授業の進め方、採点方法）
2. 仕訳（1）
3. 仕訳（2）
4. 転記
5. 試算表（1）
6. 現金・預金
7. 商品売買
8. 小口現金・約束手形
9. 為替手形
10. 手形の裏書・割引
11. その他の期中取引（1）
12. その他の期中取引（2）
13. 有価証券
14. 資本金・税金
15. 試算表（2）
16. 補助簿
17. 決算整理仕訳（1）
18. 決算整理仕訳（2）
19. 決算整理仕訳（3）
20. 決算整理仕訳（4）
21. 決算整理仕訳（5）
22. 決算整理仕訳（6）
23. 8桁精算表（1）
24. 8桁精算表（2）
25. 貸借対照表・損益計算書の作成
26. 伝票・訂正仕訳
27. 総合問題演習（1）
28. 総合問題演習（2）
29. 総合問題演習（3）
30. まとめと試験

教科書

授業の中で指示する
第1回目にテキストを指定します。

評価方法

- (1) ミニテスト:20% (2) 定期試験:30% (3) 出席:50%

簿記(中級) A

MGMT-P-200

担当者：山田 ひとみ

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

中級程度の商業簿記について学習する。商品売買業を主たる業務とする株式会社を前提とした取引の記帳方法の一巡を学びます。講義では毎回テーマについて例題を用いて説明した後、練習問題を解答してもらいます。予習、復習、自習のチェックを兼ねて、適宜、ミニテストを行います。

2. 学びの意義と目標

株式会社が作成する財務諸表を読む力がつき、経営状態を把握できるようになる(日商簿記2級程度)。また、会計学・経営学関連科目を学ぶ上で十分な基礎知識が身に付きます。

受講生に対する要望

「簿記」または「簿記(初級)」の単位取得後、もしくは日商簿記3級合格後に履修して下さい。「簿記(中級)B」の後に履修することもできます。

キーワード

(1)複式簿記 (2)商業簿記 (3)株式会社会計 (4)会計学 (5)経営学

事前学習(予習)

日商簿記検定3級の過去問題集を継続的に解答して、簿記の基礎力をキープしましょう。また、授業計画を参照し、テキストの該当箇所を一読しておきましょう。

復習についての指示

講義中に解答&指示された演習問題を次回までに反復解答練習しましょう。

授業計画

1. 商業簿記の一巡
2. 現金・預金
3. 手形
4. 有価証券
5. 債権・債務
6. 引当金
7. 商品売買
8. 特殊商品売買
9. 株式会社会計(1)株式の発行、税金
10. 株式会社会計(2)社債
11. 株式会社会計(3)剰余金の配当・処分
12. 株式会社会計(4)繰延資産
13. 決算
14. 本支店会計
15. 総合問題と試験

教科書

授業の中で指示する
第1回目の講義でテキストを指定します。

評価方法

- (1)ミニテスト:30% (2)定期試験:40% (3)出席:30%

担当者：山田 ひとみ

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

中級程度の工業簿記と、初歩的な原価計算について学習する。製造業における生産活動の記録方法の一巡を学ぶ。講義では毎回テーマについて例題を用いて説明した後、練習問題を解答してもらいます。予習、復習、自習のチェックを兼ねて、適宜、ミニテストを行います。

2. 学びの意義と目標

製造業の簿記一巡理解と財務諸表を読む力がつき、損益分岐点や利益計画の分析ができるようになる(日商簿記2級程度)。また、会計学・経営学関連科目を学ぶ上で十分な基礎知識が身に付きます。

受講生に対する要望

「簿記」または「簿記(初級)」の単位取得後、もしくは日商簿記3級合格後に履修して下さい。「簿記(中級)A」の前に履修することもできます。

キーワード

(1)工業簿記 (2)原価計算 (3)経営分析 (4)会計学 (5)経営学

事前学習(予習)

授業計画を参照し、テキストの該当箇所を一読しておきましょう。

復習についての指示

講義中に解答&指示された演習問題を次回までに反復解答練習しましょう。

授業計画

1. 工業簿記の一巡
2. 材料費
3. 労務費
4. 経費
5. 個別原価計算(1)
6. 個別原価計算(2)
7. 部門別個別原価計算
8. 総合原価計算(1)基礎
9. 総合原価計算(2)月初仕掛品
10. 総合原価計算(3)減損
11. 標準原価計算(1)基礎
12. 標準原価計算(2)差異分析
13. 直接原価計算(1)基礎
14. 直接原価計算(2)CVP分析、固定分解
15. 総合問題と試験

教科書

授業の中で指示する
第1回目の講義でテキストを指定します。

評価方法

- (1)ミニテスト:30% (2)定期試験:40% (3)出席:30%

ボランティア概論

SOCI-L-300

担当者：川田 虎男

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

市民力：地域社会およびコミュニティ活動に関わる基礎知識

カリキュラム上の位置付け

コミュニティコース：基幹科目

講義概要

1. 内容

講義とゲストスピーカーの話を中心とした内容となります。ボランティアについての基礎的な知識、また実際の活動内容について学びます。受講人数によっては、参加者同士のグループワークも複数回実施する予定です。また、課題レポートでは実際の活動に参加した上での感想と考察が求められますので、講義外でのボランティア活動にも参加していただくことになります。基礎的なボランティアの知識を身につけるものですので、ボランティアの経験の有無は問いません。

2. 学びの意義と目標

東日本大震災においても多くのボランティア活動が注目されていますが、自分たちの日常レベルに落として現代社会におけるボランティアの実情と意義を学びます。「ボランティア=いいこと」という理解ではなく、その問題点も理解した上で、受講生一人一人が自分なりの「ボランティア観」を持てることを目標としています。

受講生に対する要望

参加型の授業が多く、グループワークや発表などがありますので、積極的な参加をお願いします。

キーワード

(1) ボランティア (2) 市民活動 (3) NPO

事前学習（予習）

実際のボランティア活動への参加があるとより学びが深まります。授業では毎回一定程度の分量の振り返りシートの記入をしていただく予定です。

復習についての指示

昨年度も授業での学びから、様々な活動やプロジェクトが生まれました。授業で学んだことを実際の活動に活かせるよう工夫してください。具体的には、ゲストスピーカーの関わる現場やボランティアセンターを活用して、ボランティア活動を体験することを推奨します。知識として学んだことを、「自分の体験」として納得する機会を作ってください。

授業計画

1. オリエンテーション
2. ボランティアの定義と活動分野
3. ボランティア活動者に聞く「バリアフリーマップとボランティア」
4. 市民活動・NPO法人とボランティア
5. 大学生とボランティアI
6. 大学生とボランティアII
7. ワークショップ「ボランティアの種を探す」
8. ボランティアセンターとボランティアコーディネーション
9. 実際のボランティア活動を知るI「災害ボランティア」
10. 実際のボランティア活動を知るII「コミュニティ活動ボランティア」
11. 実際のボランティア活動を知るIII「環境ボランティア」
12. 実際のボランティア活動を知るIV「国際ボランティア」
13. ボランティア活動報告
14. まとめと振り返り
15. 試験

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席:25% (2) 授業への参加度:25% (3) 中間レポート:20%:授業期間中にボランティア体験を行いレポートの提出をしていただきます。 (4) 試験:30%

マーケティング論

MGMT-L-200

担当者：T. アサモア

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

我々を取り巻く環境の進展は、企業の行動や消費者の生活に絶えず間なく影響している。マーケティングで取り扱われている問題は、企業だけでなく、消費者の行動に密接に関連している。さらに、マーケティングは物的商品の関係する企業だけでなく、新たにサービス企業も対象としても研究されるようになってきている。本授業においては、マーケティングの基礎理論も、マーケティング環境を説明するために当然考慮する。企業のマーケティングに力点が置かれるが、消費者行動にも言及する。引用する例の大部分は、日本企業に関するものであるが、様々な国における企業のケースにも触れてみたい。最初の講義へマーケティング論の運営方法及び評価方法について説明する。

2. 学びの意義と目標

マーケティングの基礎理論と事例研究を通じて、社会におけるビジネス活動を結び付けて理解し、マーケティングと企業、消費者の関わりについて理解を深める。

受講生に対する要望

授業内容の予習・復習を積極的に行うこと。

キーワード

(1) 営利組織 (2) 市場 (3) 企業 (4) 経営 (5) 国際化

事前学習（予習）

その都度、授業にて指示を出す。

復習についての指示

その都度、授業にて指示を出す。

授業計画

1. マーケティングとマーケティング論
2. マーケティング・コンセプト
3. マーケティング論の範囲
4. マーケティング論の課題
5. マーケティング展開の事例研究
6. マーケティング論の基本的構造
7. マーケティングの基本構造の事例研究
8. マーケティング戦略の基本
9. 市場対応戦略
10. 市場対応戦略の事例研究
11. 競争対応戦略
12. 競争対応戦略の事例研究
13. ドメイン戦略
14. ドメイン戦略の事例研究
15. 技術対応戦略
16. 技術対応の事例研究
17. マーケティングマネジメントの基本
18. マーケティングマネジメントの事例研究
19. マーケティングミックス戦略
20. 商品戦略の基本
21. 商品開発
22. 商品開発の事例
23. PLCの基本
24. PLC展開の事例研究
25. サービス戦略の基本
26. サービス戦略と商品戦略の枠組み
27. プロモーション戦略の基礎
28. プロモーション展開の事例
29. 流通戦略
30. 価格戦略

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 小テスト: 40%: 授業終了後、毎回行う (2) 臨時試験: 40%: 授業時間中に行う (3) レポート: 20%: 中間レポート
総まとめテストを実施する。成績は、試験の結果及び、出席に基づいて総合的に評価する。

担当者：由川 稔

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

概論的な経済学からまた一步進んで、世の中の経済現象をより理論的に考えてみましょう。特に経済を「マクロ的に」（＝巨視的に）捉えるのが「マクロ経済学」です。金融や、財政や、国際経済の動向等についても、理論に根差した理解に挑戦しましょう。

2. 学びの意義と目標

理論面では、「基礎レベルの習熟」に目標を置きたいと思えます。そしてそれを踏まえて、或る経済現象をどう捉えるべきか、自分の頭で、しかし独り善がりでない考え方で当たっていけるようにする、それがこの授業の意義と目標です。

受講生に対する要望

授業の話をただ聞き流すだけでは、身につけません。試験前の一夜漬けも効果は無いと思います。予習内容や復習内容は授業中に指示しますので、がんばってください。教科書については、一応基本書として1冊指定しますが、授業中に追加で参照を指示したり、配布物が加わることもあります。あらかじめ了解してください。

キーワード

(1)国民所得 (2)GDP、国内総生産 (3)財政 (4)金融 (5)市場経済

事前学習（予習）

範囲や課題等、授業中に指示します。

復習についての指示

範囲や課題等、授業中に指示します。

授業計画

1. マクロ経済学とは何か（1）
2. マクロ経済学とは何か（2）
3. GDPについて（1）
4. GDPについて（2）
5. 三面等価の原則
6. 名目と実質
7. 財市場の分析（1）
8. 財市場の分析（2）
9. 有効需要の原理（1）
10. 有効需要の原理（2）
11. 乗数理論（1）
12. 乗数理論（2）
13. 乗数理論（3）
14. 乗数理論（4）
15. 貨幣市場の分析（1）
16. 貨幣市場の分析（2）
17. 貨幣市場の分析（3）
18. 貨幣市場の分析（4）
19. IS-LM分析（1）
20. IS-LM分析（2）
21. IS-LM分析（3）
22. IS-LM分析（4）
23. 所得と物価水準（1）
24. 所得と物価水準（2）
25. 財政政策と金融政策（1）
26. 財政政策と金融政策（2）
27. インフレとデフレ（1）
28. インフレとデフレ（2）
29. まとめと復習（1）
30. まとめと復習（2）

教科書

中谷巖 『マクロ経済学入門』（日本経済新聞出版社）

評価方法

(1)定期試験:60% (2)受講態度:20%:出席状況や授業内提出物。(3)レポート等:20%:ノートの写しを見せてもらうこともあります。

担当者：竹田 香織

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義では、マスコミュニケーション、マスメディアに関する概念や歴史、現状について理解を整理し、社会における役割や影響、可能性について考察する。

2. 学びの意義と目標

・マスコミュニケーションおよびマスメディアと社会、個人との関わりについて理解を深める。・情報社会を生きる上で、もはや必要不可欠といえる様々なメディアとの接し方について考えることができるようになる。・情報を批判的あるいは建設的に吟味する姿勢を身につける。

受講生に対する要望

「政治学」を受講済みであることが望ましい。

キーワード

(1) マスコミュニケーション (2) マスメディア (3) 情報社会

事前学習（予習）

・メディア、特に新聞に目を通し、ニュースに日々触れること。

復習についての指示

・ノートや配布プリント等を見返し、授業の中で案内する文献を手に取り、授業のポイントが何であったかをおさえておくこと。

授業計画

1. 情報とは何か
2. マスコミュニケーションとは
3. 社会とマスコミュニケーション
4. マスコミュニケーションの影響
5. マスメディアとは
6. マスメディアの歴史と現状（1）新聞
7. マスメディアの歴史と現状（2）放送
8. マスメディアの歴史と現状（3）出版
9. マスメディアの歴史と現状（4）映像・音楽
10. マスメディアの歴史と現状（5）インターネット
11. 広告
12. ジャーナリズム
13. 事故と報道（1）
14. 事故と報道（2）
15. 事件と報道（1）
16. 事件と報道（2）
17. 災害と報道（1）
18. 災害と報道（2）
19. 表現の自由と知る権利
20. プライバシーと表現規制
21. 政治と情報
22. 民主主義と情報
23. 政治とマスメディア
24. インターネットと政治
25. 世論
26. 世論と世論調査
27. マスメディアとジェンダー
28. マスメディアとナショナリズム
29. マスメディアと戦争
30. 総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 平常点:30%:毎回授業後に小テストを行う。授業には主体的に参加すること。(2) 期末試験:70%

担当者：平 修久

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

自分たちのまちは自分たちで良くしようという、生活環境の改善や地域振興という動きが全国で広がっている。このようなまちづくりは、人と人とのつながりを深めるばかりではなく、関わっている人たちの人間的成長ももたらす。また、まちは総合的なものであり、まちづくりを学ぶことは視野を広げ、人生をより豊かなものにすることにつながる。本科目では、背景、定義、分類などのまちづくりの概要、まちづくりの進め方と主な手法、分野別課題と事例、まちづくりの意義や目指すものなどを学ぶ。

2. 学びの意義と目標

身近なまちの問題や課題、まちづくりの意義、内容、手法を理解し、説明できるようになることが学びの目標である。

受講生に対する要望

自分の居住しているまちや大学周辺のまちに対する関心を高め、どのようにしたら、よいまちになるかという意識を持って受講してもらいたい。

キーワード

(1)まちづくり (2)コミュニティ (3)活性化

事前学習（予習）

事前に指示する参考文献や配布物などを読んでおくこと。

復習についての指示

毎回の講義内容を整理し、まとめること。また、授業に関連する課題については、授業内容の理解を深める復習として、期日までに提出すること。

授業計画

1. 1. まちづくりの概要（アイスブレイク）
2. 1. まちづくりの概要（聖学院大学周辺のまちづくり）
3. 1. まちづくりの概要（まちづくりとは）
4. 1. まちづくりの概要（まちづくりの歴史）
5. 1. まちづくりの概要（まちづくりの分類・担い手）
6. 1. まちづくりの概要（まちづくりの分類別事例）
7. 1. まちづくりの概要（まちづくりのプロセス）
8. 1. まちづくりの概要（住民参加と協働）
9. 1. まちづくりの概要（住民参加と協働の進め方）
10. 1. まちづくりの概要（住民参加と協働の事例）
11. 2. 生活環境改善のまちづくり（都市計画・地区計画①）
12. 2. 生活環境改善のまちづくり（都市計画・地区計画②）
13. 2. 生活環境改善のまちづくり（都市計画・地区計画③）
14. 2. 生活環境改善のまちづくり（福祉のまちづくり）
15. 2. 生活環境改善のまちづくり（子育て環境の改善）
16. 2. 生活環境改善のまちづくり（子育て支援の事例）
17. 3. つなげるまちづくり（新しいコミュニティの創造）
18. 3. つなげるまちづくり（新しいコミュニティの創造の事例）
19. 3. つなげるまちづくり（居場所づくり）
20. 3. つなげるまちづくり（郊外住宅地の維持）
21. 4. 活性化のまちづくり（中心市街地活性化）
22. 4. 活性化のまちづくり（中心市街地活性化の事例①）
23. 4. 活性化のまちづくり（中心市街地活性化の事例②）
24. 4. 活性化のまちづくり（中心市街地活性化の事例③）
25. 4. 活性化のまちづくり（食とまちづくり①）
26. 4. 活性化のまちづくり（食とまちづくり②）
27. 4. 活性化のまちづくり（観光まちづくり）
28. 4. 活性化のまちづくり（アニメのまちづくり）
29. 4. 活性化のまちづくり（ゆるキャラ、まち歩き）
30. 5. まとめ（まちづくりの本質）

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:10% (2)授業に関するまとめ:10% (3)課題:40% (4)レポート:40%

担当者：中野 宏

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

ミクロ経済学の基礎および応用理論を学習する。消費者がモノを買う、企業がモノを作る、市場でモノの価格が決まる、政府が課税や規制を行う、など日常的に行われている様々な経済活動の行動法則や決定原理を明らかにすることで、いかなる経済の状態が社会的に最も望ましいのか、またそれを実現するためにはどうすればよいかを探っていく。その過程において、近年の世界的な潮流である規制緩和や公的企業の民営化、自由貿易の推進といった競争促進政策の意義と問題点が明らかにされるであろう。経済学という学問の性質上、少なからず数学を用いるが、必要最小限のものについては折に触れて説明する。専門科目「経済学」を履修した上で受講すること。なお、授業計画は予定である。学生諸君の理解度や興味関心をもとに変更されることがある。

2. 学びの意義と目標

将来学生諸君がどのような職業に就こうと、社会に出れば「経済」と付き合わずに済むことは出来ない。景気の動向や、金利・物価・為替レートの動きなどから必要なことを読み取り、あるいはそれらの動きを予想し、仕事に反映させていくことになる。また、少子高齢化・人口減少社会に突入した我が国においては、これまでのような年金に依存した老後は期待すべきもなく、諸君は投資により自らの手帳において老後のための資産形成を行っていかねばならない。今後必要となるのは、テレビや新聞、ネットなどのマスコミ報道を鵜呑みにするのではなく、自分の目で見て自分の考えで決定を行えるような知性と分析道具である。それらを身に付けるために本講義が少しでも役に立てばと願う。

受講生に対する要望

日々報道される経済の動きに関心を持つことが望まれる。

キーワード

(1) 費用便益分析 (2) 完全競争市場 (3) 厚生経済学の基本定理 (4) 独占市場 (5) 市場の失敗

事前学習（予習）

今回の講義について指示された項目を、各自で調べておくこと。ただし、予習よりは復讐のほうがはるかに重要であると認識せよ。

復習についての指示

経済学の講義は積み重ねで進んでいくため、一度わからなくなるとその後が続かなくなる恐れがある。毎回講義の復習プリントを配布するので、次の講義日までに各自仕上げてくること。

授業計画

1. 資源配分と市場メカニズム (1)
2. 資源配分と市場メカニズム (2)
3. 価格の決定 (1)
4. 価格の決定 (2)
5. 余剰の概念 (1)
6. 余剰の概念 (2)
7. 微分と限界分析 (1)
8. 微分と限界分析 (2)
9. 消費者（家計）の行動 (1)
10. 消費者（家計）の行動 (2)
11. 生産者（企業）の行動 (1)
12. 生産者（企業）の行動 (2)
13. 厚生経済学の基本定理 (1)
14. 厚生経済学の基本定理 (2)
15. 不完全競争の分析 (1)
16. 不完全競争の分析 (2)
17. 政府の市場介入 (1)
18. 政府の市場介入 (2)
19. 政府の市場介入 (3)
20. 政府の市場介入 (4)
21. 市場の失敗 (1)
22. 市場の失敗 (2)
23. 市場の失敗 (3)
24. 市場の失敗 (4)
25. ゲームの理論 (1)
26. ゲームの理論 (2)
27. 消費者（家計）行動再論 (1)
28. 消費者（家計）行動再論 (2)
29. 講義のまとめ (1)
30. 講義のまとめ (2)

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1) 出席:30%: 3分の2未満の出席回数の者は成績評価の対象にならない。
 (2) レポート:30%: 講義期間半ばに1回課題を出す。(3) 期末試験:40%

上記評価のほか、質問等授業に積極的に参加しようとする態度や意欲は加点対象となる。自分の存在をアピールして欲しい。

民法 A (総則・物権)

LAW-P-200

担当者：松谷 秀祐

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

民法は、私人間の法的関係を規律している法律です。本科目は民法の中で第1編総則（第1条から第174条の2）と第2編物権（第175条から第398条の22）を講義の対象とします。しかし、それら全ての条文について説明し、その内容を覚えてもらうことが講義の目的ではありません。まずは基本的な枠組みを把握することを目指して、現在の取引社会において特に必要不可欠な制度・条文について、売買契約を中心とした具体的な事例問題を用いて説明します。

2. 学びの意義と目標

無人島で自給自足生活をしようとする者以外、民法・消費者法と関わりを持たなくてもよい者はいません。自分（たち）が民法・消費者法によって規律されている世界に生きていることを実感し、将来、身の回りに法的な問題が生じたときに、何となくでもよいので、自身で解決の糸口を見出せる能力を身に付けることを目標とします。

受講生に対する要望

講義中の説明でわかりにくい箇所等あれば、遠慮なく質問してください。まずは、「わからないことがあればそのままにせずに、まずは質問してみる。」という習慣を身に付けるようにしてください。

キーワード

(1) 民法 (2) 意思表示 (3) 無効・取消し (4) 物権、不動産登記 (5) 担保物権

事前学習（予習）

翌週分のレジュメも事前に配布するので予めレジュメに目を通した上で講義にのぞむ。

復習についての指示

教科書を読み返す、レジュメの事例問題を解きなおす、講義ノートをもとめる。

授業計画

1. 民法の役割、民法の構造、民法を学ぶ意義
2. 民法総則 (1) : 民法の基本原則
3. 民法総則 (2) : 自然人 (1)
4. 民法総則 (3) : 自然人 (2)
5. 民法総則 (4) : 自然人 (3)
6. 民法総則 (5) : 法人
7. 民法総則 (6) : 法律行為とは、公序良俗
8. 民法総則 (7) : 心裡留保、通謀虚偽表示
9. 民法総則 (8) : 錯誤
10. 民法総則 (9) : 詐欺、強迫
11. 民法総則 (10) : 代理 (1) 代理とは
12. 民法総則 (11) : 代理 (2) 表見代理、無権代理
13. 民法総則 (12) : 条件・期限、時効総説
14. 民法総則 (13) : 消滅時効
15. 民法総則 (14) : 一般条項 (1)
16. 民法総則 (15) : 一般条項 (2)、中間試験
17. 民法総則 (16) : 民法総則のまとめ
18. 物権法 (1) : 「物」とは、物権とは
19. 物権法 (2) : 物権的請求権
20. 物権法 (3) : 不動産物権変動 (1)
21. 物権法 (4) : 不動産物権変動 (2)
22. 物権法 (5) : 不動産物権変動 (3)
23. 物権法 (6) : 動産物権変動
24. 物権法 (7) : 占有権、取得時効
25. 物権法 (8) : 所有権、用益物権
26. 物権法 (9) : 担保物権総説
27. 物権法 (10) : 抵当権
28. 物権法 (11) : 質権、留置権、先取特権
29. 物権法 (12) : 非典型担保
30. 物権法 (13) : 物権法のまとめ

教科書

植田淳 『ミニマム民法（全）70講』（法律文化社）

評価方法

(1) 中間試験: 30% (2) 最終試験: 70%

民法B（債権）

LAW-P-200

担当者：松谷 秀祐

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

民法は、私人間の法的関係を規律している法律です。本科目は、民法の中で第3編債権（第399条から第724条）を講義の対象とします。しかし、それら全ての条文について説明し、その内容を覚えてもらうことが講義の目的では決してありません。まずは、基本的な枠組みを把握することを目標として、現在の取引社会において特に必要不可欠な制度・条文について、売買契約を中心とした具体的な事例問題を用いて説明します。

2. 学びの意義と目標

無人島で自給自足生活をしようとする者以外、民法・消費者法と関わりを持たなくてもよい者はいません。自分（たち）が民法・消費者法によって規律されている世界に生きていることを実感し、将来、身の回りに法的な問題が生じたときに、何となくでもよいので、自身で解決の糸口を見出せる能力を身に付けることを目標とします。

受講生に対する要望

講義中の説明でわかりにくい箇所等あれば、遠慮なく質問してください。まずは、「わからないことがあればそのままにせず、まずは質問してみる。」という習慣を身に付けるようにしてください。

キーワード

(1) 債権 (2) 典型13契約 (3) 不法行為 (4) 債務不履行 (5) 損害賠償

事前学習（予習）

翌週分のレジュメも事前に配布するので予めレジュメに目を通した上で講義にのぞむ。

復習についての指示

教科書を読み返す、レジュメの事例問題を解きなおす、講義ノートをとる。

授業計画

1. 「法学」とは、民法とは、債権法とは
2. 債権各論 (1) : 契約自由の原則、契約拘束力の原則と例外
3. 債権各論 (2) : 契約の分類 (1)
4. 債権各論 (3) : 契約の分類 (2)
5. 債権各論 (4) : 売買契約 (1)
6. 債権各論 (5) : 売買契約 (2)
7. 債権各論 (6) : 売買契約 (3)
8. 債権各論 (7) : 賃貸借契約
9. 債権各論 (8) : 請負契約
10. 債権各論 (9) : 贈与契約
11. 債権各論 (10) : 使用貸借契約
12. 債権各論 (11) : 消費貸借契約
13. 債権各論 (12) : 委任契約
14. 債権各論 (13) : その他の典型契約 (1)
15. 債権各論 (14) : その他の典型契約 (2)
16. 債権各論 (15) : 契約法のまとめ、中間試験
17. 債権各論 (16) : 不法行為 (1)
18. 債権各論 (17) : 不法行為 (2)
19. 債権各論 (18) : 不法行為 (3)
20. 債権総論 (1) : 債権の目的 (1)
21. 債権総論 (2) : 債権の目的 (2)
22. 債権総論 (3) : 債務不履行 (1)
23. 債権総論 (4) : 債務不履行 (2)
24. 債権総論 (5) : 多数当事者の債権関係 (1)
25. 債権総論 (6) : 多数当事者の債権関係 (2)
26. 債権総論 (7) : 債権譲渡
27. 債権総論 (8) : 弁済
28. 債権総論 (9) : 相殺
29. 債権総論 (10) : 債権総論のまとめ
30. 債権法のまとめ

教科書

植田淳 『ミニマム民法（全）70講』（法律文化社）

評価方法

- (1) 中間試験: 30% (2) 最終試験: 70%

民法C(親族・相続)

LAW-P-200

担当者：加藤 恵司

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講座は、民法の家族法に関する講義である。人は両親によって生を受け、家族と生活し、家族に看取られつつ亡くなっていく。家族は最も基本的、自然的な社会集団である。わが国の民法典には、旧民法といわれる法典があり、戸主を中心とする家族制度、家督相続制度があった。もう一つは、敗戦後の新憲法に基づいて、夫婦中心の家族制度、遺産相続制度がある。本講座は後者であるが、旧民法をも意識して学習する。近年の家族形態には、核家族、高齢家族、晩婚・非婚化、少子化の傾向が家族観に変化をもたらしている。「法律は家庭に入らず」という法諺があるが、法律と家族関係は無関係でよいのだろうか。たしかに「夫婦は愛し合うべきである」とか、「子どもを大切に育てよ」とか、「親を敬え」というような道徳観だけでは支えきれずに崩壊していく。裁判によって破綻を決定的にする家族が多く見られる。このような意識を抱きながら講義する。民法では、結婚、離婚など夫婦関係、親子関係を取り扱った「親族編」、相続、遺言などを取り扱った「相続編」を合わせた部分を家族法と称している。法律と現実を見つめ、判例など具体例を挙げながら現代の家族事情を分析してみたい。

2. 学びの意義と目標

人生で出会うであろう出来事について民法に従って学ぶ。判例などを用いて身近に民法を知ることを目指す。

受講生に対する要望

出席すること。予習レポートをしっかりと書いていただきます。リカレントの学生は自由です。六法必携。

キーワード

(1) 家族とは (2) 結婚 (3) 親子 (4) 現代の家族の諸問題 (5) 相続・遺言

事前学習(予習)

予習レポートを書き、提出する。また、項目ごとに問題点のレポートを書き、提出する。

復習についての指示

六法の条文を開いて、講義の内容を思い起こす。

授業計画

1. 家族とは(民法と家族法)
2. 近代家族法の理念
3. 親族の意義
4. 親等について
5. 婚姻の制度と日本国憲法
6. 婚姻の成立
7. 婚姻の効果
8. 現代の婚姻事情
9. 離婚(婚姻の解消)
10. 離婚の法的効果と問題点
11. 現代の離婚の実態
12. 親子法の理念
13. 親子の種類(実子、養子)、
14. 親子の種類(特例実子)
15. 未成年者の保護
16. 親権と親の責任
17. 後見と保佐
18. 現代親子の諸問題(赤ちゃんポスト、人工授精)
19. 現代少子化について
20. 高齢社会と扶養
21. 現代の扶養制度と政策
22. 相続の理念
23. 法定相続と相続人
24. 相続の効力と相続の放棄
25. 相続人の不存在と相続回復請求権
26. 遺産分割をめぐる諸問題
27. 遺言の意義とその方法
28. 遺言の効力と遺留分
29. 相続遺言の現代の諸問題
30. 家族とは何か

教科書

西田 典之、高橋 宏志、能見 善久 『ポケット六法 平成26年版』(有斐閣) 鎌田 薫 『デیلیー六法2014 平成26年版』(三省堂) 民法ノートを配布する。

評価方法

- (1) 出席:30% (2) レポート:70%

予備演習 A

INTD-P-100

担当者：竹井 潔，土方 透，森分 大輔，村上 公久，八木 規子，渡辺 英人

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

大学生生活のなかで授業を効果的に受講するためのガイダンス的授業である。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。

2. 学びの意義と目標

大学での学びにつまずかないように、高校とは違う学習方法・姿勢等を体得し、学習意識や意欲を高めることをめざす。その結果、2年生以降の専門科目や専門演習においてレポートを書いたり発表・議論することが楽に行えるようになるだろう。

受講生に対する要望

1年生の春学期は、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨むようにされたい。欠席は厳禁である。

キーワード

(1) 導入科目 (2) 演習科目

事前学習（予習）

指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。

復習についての指示

授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。

授業計画

1. イントロダクション
2. 図書館ツアー
3. 読解の練習
4. 要約の練習
5. レポートの書き方解説
6. 討論の練習
7. 担当者による発表
8. 担当者による発表
9. 担当者による発表
10. 担当者による発表
11. 担当者による発表
12. 担当者による発表
13. 担当者による発表
14. キャリアガイダンス
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 課題:60% (2) 授業への参加貢献度:40%

予備演習B

INTD-P-100

担当者：竹井 潔，土方 透，森分 大輔，村上 公久，八木 規子，渡辺 英人

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

2年次以降における専門教育を効果的に行うためのガイダンス的授業を実施する。大学で学びを始めるために必要な基礎力を身に付けてもらう。読解力やコミュニケーション能力を身に付け、発表をこなしレポートを書く力を高める訓練をする。具体的な内容は個別の担当者によって異なるが、図書館ツアー、新聞記事や『ニュース検定公式テキスト』を使った要約や発表の練習、それにもとづくディスカッションなどを行う。なお、授業計画のスケジュールは前後する可能性があることを付記しておく。

2. 学びの意義と目標

専門科目や専門演習を選択するためのガイダンスを行い、学習意識や意欲を高めることをめざす。2年生以降の科目においてレポートを書いたり発表・議論をすることが楽に行えるようになることを目標としている。

受講生に対する要望

1年生の秋学期も、大学生活に慣れるうえできわめて重要な時期である。心して臨みたい。欠席は厳禁である。

キーワード

(1) 導入科目 (2) 演習科目

事前学習（予習）

指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、授業に参加することを求める。詳細は各授業で説明する。

復習についての指示

授業で扱った内容を復習し、ほかの授業に活かすことを求める。詳細は各授業で指示する。

授業計画

1. イントロダクション
2. 図書館ツアー：データベース編
3. 自己分析
4. 交流分析
5. 担当者による発表
6. 担当者による発表
7. 担当者による発表
8. 担当者による発表
9. 担当者による発表
10. 担当者による発表
11. 担当者による発表
12. 担当者による発表
13. 担当者による発表
14. キャリアガイダンス
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 課題：60% (2) 授業への参加貢献度：40%

担当者：上嶋 康道

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目/選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

前半は、書き方で学んだ表現技術を生かして個人プレゼンテーションを行います。後半ではグループで問題の解決にあたり、その成果をプレゼンテーションしてもらいます。

2. 学びの意義と目標

「複数の視点を切り替えられるようになる」という目標の達成を、個人プレゼンテーションとグループワークを通して目指します。

受講生に対する要望

どれだけ授業当日までに準備してきたかが重要です。積極的な参加を望みます。

キーワード

(1) 視点の切り替え (2) コミュニケーション (3) 表現力

事前学習（予習）

毎日の新聞に目を通すことが求められます。発表の前には入念な準備が必要です。

復習についての指示

発表の振り返りが求められます。

授業計画

1. オリエンテーション
2. show and tell
3. プレゼンテーションとは
4. 個人プレゼンテーション準備
5. 個人プレゼンテーション
6. 個人プレゼンテーション
7. 個人プレゼンテーション
8. 個人プレゼンテーションとグループワーク
9. グループ発表準備
10. グループ発表準備
11. グループ発表
12. グループ発表準備
13. グループ発表準備
14. グループ発表
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 平常点:80% (2) レポート:20%

演習という科目の性質上、出席が悪いと単位の認定はできません。

担当者：上嶋 康道

開設期：春学期 必修・選択：必修科目/選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

個人プレゼンテーションを行います。後半ではグループで問題の解決にあたり、その成果をプレゼンテーションしてもらいます。

2. 学びの意義と目標

「視点を切り替えられるようになる」という目標の達成を、個人プレゼンテーションとグループワークを通して目指します。

受講生に対する要望

どれだけ授業当日までに準備してきたかが重要です。積極的な参加を望みます。

キーワード

(1) 視点の切り替え (2) コミュニケーション (3) 表現力

事前学習（予習）

毎日の新聞に目を通すことが求められます。発表の前には入念な準備が必要です。

復習についての指示

発表の振り返りが求められます。

授業計画

1. オリエンテーション
2. show and tell
3. プレゼンテーションとは
4. 個人プレゼンテーション準備
5. 個人プレゼンテーション
6. 個人プレゼンテーション
7. 個人プレゼンテーション
8. 個人プレゼンテーションとグループワーク
9. グループ発表準備
10. グループ発表準備
11. グループ発表
12. グループ発表準備
13. グループ発表準備
14. グループ発表
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 平常点:80% (2) レポート:20%

演習という科目の性質上、出席が悪いと単位の認定はできません。

担当者：土方 透

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

現代社会に対する幅広い基礎知識を得て、多角的な視点の存在を知る

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義では、現代の社会学理論が到達した学問的境位を、人間の知の展開として位置づけることを目的とする。講義では、まず人類の思想の歴史的展開を概観する。そのことにより、はじめて最新の理論と呼ばれるものの「新しさ」が明らかになろう。すなわち、思想史上の連続的側面と非連続的側面から、現代の理論というものが理解可能となるわけである。そうした作業を経たうえで、現代社会において、所与のものとして市民権を得た諸思想ならびに諸価値の限界を指摘しつつ、いま考えられる可能な選択肢を提示したい。

2. 学びの意義と目標

大学での勉学で「役に立つ」ことを学ぼうとするのであれば、他の科目を履修することが望ましい。そのような「想定内」の問題に応える教養は、大学での学問とは関係がない。想定外の問題がこれまで指摘されている現代社会にあって、必要なことは、過去の人類の知的な蓄積を学ぶことで、自己の確かな推理力・判断力を養うことである。それが学びの意義であり、それをどのように獲得し、我がものとするかは、各受講者にゆだねる。

受講生に対する要望

本講義では、広範な領域におよぶ知的好奇心と、高度に抽象的な議論に耐えられる能力が要求される。

キーワード

(1)理論 (2)社会 (3)自己言及性 (4)複雑性 (5)システム

事前学習（予習）

なお、講義に際しては、毎回レジメを配布するほか、具体的な時事問題にも触れながら、各トピックスを扱っていく。レジメに目を通した上で参加し、終了後に配布された資料と併せて再読すること。

復習についての指示

前回の議論を、そのつど確認してそのつどの講義に臨んで欲しい。

授業計画

1. 科学の危機：イントロダクション
2. 科学の危機：概要
3. 主観／客観
4. 20世紀初頭の諸科学の危機とパラダイム転換
5. 自然科学における転換
6. 人文科学における転換
7. 社会科学における転換
8. 現代思想の境位
9. 小括
10. 古典的科学観
11. 近代の科学観と社会科学の成立
12. マルクスの科学観
13. ヴェーバーの科学観
14. 社会科学における客観性
15. 客観性問題：存在と当為
16. 規範科学と事実科学
17. 文献解題 1
18. 文献解題
19. 小括
20. 脱構築
21. コスモスと複雑性
22. 部分と全体
23. 客観性と客観化可能性
24. 規範と構造
25. 小括
26. 自己言及性
27. 脱－パラドクス化
28. 自己塑性的社会システム
29. 総括 1
30. 総括 2

教科書

土方 透 『法という現象』（ミネルヴァ書房）
テキストの他、プリントを配布する。

評価方法

(1)出席:30% (2)試験:40%:各ステップにおける受講者の理解状況を確認する意味で、何度か小テストとそのフォローを行う。(3)レポート:30%

議論が毎回積み上げられていくので、出席をすることがすべての評価の前提となる。

担当者：金子 良事

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

社会福祉主事任用資格：選択科目

講義概要

1. 内容

本講義では「労働」に関係する基本的な事柄を賃金を中心に歴史や現在の状況などを踏まえて教えます。社会では誰もが「労働」をしているのであり、それぞれが「労働」についてのイメージを持っています。しかし、その分、雑誌等には十分に考えを煮詰めていない議論も流布しています。折に触れて、そういう言説にも言及します。現代の経済学は統計を利用をします。この講義では「労働統計」は説明しますが、統計学の説明をしませんので、各自「統計学」等で補ってください。

2. 学びの意義と目標

社会に出て働くことの意義はそれぞれ自分で探さなければなりません。本講義では逆に社会の中における「働く（＝労働）」の意味は何かを学び、考えることとなります。最終的に自分で考えながら、白書を読めることを目指します。

受講生に対する要望

教科書は読み物のように書いたものです。一通り読み通してください。

キーワード

(1)賃金 (2)労働統計 (3)労働市場 (4)就職活動

事前学習（予習）

授業では教科書をもとにすすめ、適時プリントを配布しますが、プリントはそのままでは完成していません。講義の内容をプリントに書き込んだり、あるいは別に新しくノートを作るなりして、自分自身の学習を深めてください。

復習についての指示

試験対策としては演習問題の回が重要になります。この復習を徹底してやってください。講義は教科書をもとに話しますが、それ以外のことも含まれています。分からないところなどは適宜、質問してください。

授業計画

1. 二つの賃金（ガイダンス）
2. 二つの賃金
3. 組織と雇用
4. 組織と雇用
5. 賃金に関わる主要プレイヤー
6. 賃金に関わる主要プレイヤー
7. 賃金思想
8. 賃金思想
9. 基本給を中心とした賃金体系
10. 基本給を中心とした賃金体系
11. 雇用類型と組織 内部労働市場の論理
12. 雇用類型と組織 内部労働市場の論理
13. 賃金政策と賃金決定機構
14. 賃金政策と賃金決定機構
15. 社会生活のなかの賃金 賃金格差の諸相
16. 社会生活のなかの賃金 賃金格差の諸相
17. ブラック企業と就職活動
18. ブラック企業と就職活動
19. 労働の需要と供給
20. 労働の需要と供給
21. 労働時間
22. 労働時間
23. 労働統計
24. 労働統計
25. 労働経済白書を読む
26. 労働経済白書を読む
27. 予備
28. 演習問題
29. ボランティアと雇用労働
30. 試験

教科書

金子良事 『日本の賃金を歴史から考える』（旬報社）

評価方法

(1)試験:100%

コミュニティ政策学科

担当者：村上 公久

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

知の基礎力：政治や社会のしくみの理解

カリキュラム上の位置付け

Japan Studies Program (JSP) 科目

講義概要

1. 内容

Culture is a spiritual abstraction or a blueprint of civilization, and civilization is the concrete substance of culture. No civilization was ever established with a small population that could survive within a framework of consuming no more than excessive production out of the ecosystem. People survived within the carrying capacity of nature until civilization was built. Civilization has emerged as the population growth support system. In this course, we will comprehend civilization as a 'man-institution system'. The man-institution system may be carried out under the restraints of man-environment system. It is worthwhile to study cultivation and agriculture as population growth support instruments and to study cities as over population accumulation instruments.

2. 学びの意義と目標

Environmental issues of the world today could be well understood through studying these two instruments. Determination of the expansion limit of the man-institution system and controlling it through study of the man-environment system will provide a suitable strategy for Sustainable Development.

受講生に対する要望

This course is provided only in English. Proficiency in English is requisite for taking the course.

キーワード

(1) Civilization and Culture (2) Civilization Crises (3) Agriculture (4) City (5) Environmental Revolution

事前学習（予習）

No textbook: reading lists, handouts, and visual aids are provided throughout the course

復習についての指示

No textbook: reading lists, handouts, and visual aids are provided throughout the course

授業計画

1. Life and Environment
2. Definition of Life
3. Global Environmental Issues and Civilization Problem
4. Three Civilization Crises
5. Three Civilization Crises (2)
6. Crisis of Modern Civilization (the third crisis)
7. Civilization and Culture (substance, and sketch)
8. Civilization and Culture (2)
9. Civilization and Culture (3)
10. Tool Revolution, Agriculture Revolution
11. Agriculture (population support instrument)
12. City (over population accumulation instrument)
13. Limit of self-domestication of man
14. Limit determination of man-institution system
15. Pursuit of Environmental Revolution

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) class contribution through discussion:30% (2) reading assignments:10% (3) term papers (critical article response paper):30% (4) end-of semester final closed-book exam:30%

担当者：田口 安克

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

ファイナンシャル・プランナー（FP）は、金融、保険、不動産、税金など、「お金」回りの知識を備え、個々人の夢や目標実現のために、将来的な生活設計と一緒に作成し、必要な「お金」の使い方や貯め方などを総合的にアドバイスする職業である。本講義では、FPのもっとも根幹である「お金」について学ぶ。これは、学生生活はもとより、社会人になっても役立つ知識である。「お金」に関する基本的な知識を身につけたのち、FPの初級レベルである3級技能士レベルの金融、保険、税金、不動産の概要を学ぶ。

2. 学びの意義と目標

「お金」に関する知識を高めることで、合理的な選択、トラブル回避、将来的な生活設計が立てられる。くわえて、FP資格取得のための入門的知識が得られる。

受講生に対する要望

FPの仕事に興味を感じたら、資格取得のための勉強もはじめてほしい。

キーワード

(1)お金 (2)ライフプランニング (3)リスク管理 (4)税金 (5)金融資産・不動産

事前学習（予習）

事前に指定した教科書の当該箇所を読んでくること。

復習についての指示

小テストでの解説を再読し、各項目の理解を深めること。

授業計画

1. お金を知る
2. お金を使う
3. お金を稼ぐ
4. お金を貯める・増やす
5. お金を借りる
6. お金のトラブル回避
7. 社会参加費用としての税金
8. 万が一のために—社会保険と民間保険
9. ライフプランとお金
10. 金融資産の基礎知識
11. 不動産の基礎知識
12. リスク管理の基礎知識
13. タックスプランニング
14. 相続・事業承継
15. 試験とその解説

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席：20%：講義開始前に着席していること。(2)発言：20%：講義参加の積極度を見る。(3)小テスト：20%：講義内容の理解度を見る。(4)期末試験：40%

異文化間コミュニケーション(経営)

CMPC-A-301

担当者：八木 規子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

知の基礎力：組織人としてのマナーおよび経営の基礎知識

カリキュラム上の位置付け

ビジネスコース：基幹科目

講義概要

1. 内容

本科目は、経営学的見地からの異文化間コミュニケーション論として、異なる文化背景を持つ人々がともに働く状況を背景として意識しながら、異文化間コミュニケーションを学ぶこととする。異なる文化背景を持つ人々の接触を、衝突や障害としてではなく、豊かな実りある建設的な結果につなげるためには、どのような知識、スキル、態度が必要か、ロール・プレイ、シュミレーション、ケーススタディなど手法を通じて、体験的に学ぶ。

2. 学びの意義と目標

文化、ことに異文化という言葉は、往々にして国民文化の違いを想起させる。しかしながら、文化の違いは、国の境界線の内外にあるばかりでなく、国のなかにも異文化は存在するし、また国の境界線と文化の境界線が重なり合うとも限らない。ところが、日本という国家、文化、言語の重なり合いが強い場に生きる日本人は、こうした文化の境界線の多様性を直感的に理解することが、とても難しい。異文化間コミュニケーションを学ぶことは、異文化が日本の外に存在するだけでなく、この社会のなかにも存在し、我々は多文化社会を生きている、という感受性を高めることに寄与する。そして、多文化社会に生きる感受性を高めることは、国内外を問わず、異なる文化背景から来るひとびとの協同作業を美りの高い建設的なものとする能力向上の前提条件である。体験的学習手法を通じて、学生がこのような建設的な異文化接触の可能性を実感することを目標とする。

受講生に対する要望

異文化間コミュニケーションとは、他者の視点から自分自身を見つめなおすことでもある。それには、自分が快適で居られる領域から一歩踏み出して、未体験の領域に足を踏み入れる必要がある。この科目の受講を通して、学生がそのような勇氣を持つことを期待する。

キーワード

(1)文化 (2)多様性 (3)コミュニケーション (4)相互理解

事前学習(予習)

配布資料等、授業の該当箇所を読み込んでおき、クラス討論に参加できる準備をする。資料は、E-learningシステムにアップロードするので、システムの使い方に習熟すること。

復習についての指示

期末試験に向けたノート整理をしておく。配布資料、授業中で議論したケースの内容(他の学生の発言等)を振り返っておくこと。

授業計画

1. 本科目の進め方について。異文化間コミュニケーションとは何か
2. 文化を生成し伝播する主体としての自己：わたしとは誰か？
3. 文化とはなにか？定性的アプローチ
4. 文化とはなにか？定量的アプローチ
5. 異文化の諸側面：時間と空間
6. 異文化の諸側面：コミュニケーションと意識構造
7. 異文化の諸側面：言語
8. 異文化の諸側面：非言語メッセージ
9. 異文化と経営：企業戦略と企業の異文化対応指向
10. 異文化と経営：交渉
11. シュミレーション：AI社とBigg社
12. 異文化インテリジェンス概論
13. 異文化インテリジェンス：戦略的思考の側面
14. 異文化インテリジェンス：意欲・動機の側面
15. 異文化インテリジェンス：行動の側面
16. シュミレーション：バルーンバ文化を探れ
17. 異文化と経営：リーダーシップ
18. 異文化と経営：意思決定
19. 異文化と経営：多文化チーム
20. 異文化と経営：海外赴任
21. 異文化と経営：本国復帰
22. ケース分析：グローバルリーダー
23. 異文化聴衆に対するプレゼンテーション
24. 文化と政治：世界はグローバル化するのか
25. 文化と政治：日本と多文化主義
26. 複数文化アイデンティティから成る自己モデル
27. マイノリティ経験プロジェクト発表【要出席】-1
28. マイノリティ経験プロジェクト発表【要出席】-2
29. まとめ
30. 期末試験

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業出席・参加点:20% (2)ケース分析:20%:中間試験として (3)マイノリティ経験プロジェクト:30%:提案書5%、発表25% (4)期末試験:30%

インターンシップ(自主活動)

INTD-L-300

担当者：酒井 俊行

開設期：秋学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本授業は原則として、夏休みに実施するインターンシップⅡ（実習）に参加できなかった学生が対象となります。民間企業、自治体等において正味10日の実務実習を行うことが基本条件です。また、この授業を選択する場合は、インターンシップⅠ（事前学習）の単位取得が前提となります。

2. 学びの意義と目標

インターンシップ実習を受けた結果として、就活に際しての業界・企業を選択の判断力が養われます。これまでのケースでは、実際の職場経験を踏むと、より自覚が芽生える様子が大いに窺われます。

受講生に対する要望

実習に行く諸君は大学を代表するわけです。これまでの例では、実習を通じて本学の評価が高まり、就職に即繋がったり、求人票を出してもらえようになったりするなどの効果もみられます。しっかりとした自覚を持って実習に臨むようにして下さい。

キーワード

(1) 業界を知る (2) 仕事を知る (3) ビジネスマナーを学ぶ

事前学習（予習）

インターンシップ先で当日学んだことを必ず復習して、明日の仕事の改善に繋げるよう準備する。

復習についての指示

学んだことを毎日振り返り、特に上手く行かなかったことを念入りに復習する。

授業計画

1. 実習先企業の事前研究 (1)
2. 実習先企業の事前研究 (2)
3. インターンシップ先での実習：日報作成 (1)
4. インターンシップ先での実習：日報作成 (2)
5. インターンシップ先での実習：日報作成 (3)
6. インターンシップ先での実習：日報作成 (4)
7. インターンシップ先での実習：日報作成 (5)
8. インターンシップ先での実習：日報作成 (6)
9. インターンシップ先での実習：日報作成 (7)
10. インターンシップ先での実習：日報作成 (8)
11. インターンシップ先での実習：日報作成 (9)
12. インターンシップ先での実習：日報作成 (10)
13. まとめレポート作成 (1)
14. まとめレポート作成 (2)
15. 報告会での発表

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 実習先事前研究:10% 実習先についての事前調査 (2) 実習:35% 実際の実習 (3) 実習ノート:5% 実習についての日報 (4) 実習レポート:20% 10日間を通じての課題の達成状況、感想等 (5) 報告会:30% 実習レポートを元に、学生・教員等の前で報告

インターンシップ(自主活動)

INTD-L-300

担当者：藤井 重隆

開設期：秋学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本授業は原則として、夏休みに実施するインターンシップⅡ（実習）に参加できなかった学生が対象となります。民間企業、自治体等において正味10日の実務実習を行うことが基本条件です。また、この授業を選択する場合は、インターンシップⅠ（事前学習）の単位取得が前提となります。

2. 学びの意義と目標

インターンシップ実習を受けた結果として、就活に際しての業界・企業を選択の判断力が養われます。これまでのケースでは、実際の職場経験を踏むと、より自覚が芽生える様子が大いに窺われます。

受講生に対する要望

実習に行く諸君は大学を代表するわけです。これまでの例では、実習を通じて本学の評価が高まり、就職に即繋がったり、求人票を出してもらえようになったりするなどの効果もみられます。しっかりとした自覚を持って実習に臨むようにして下さい。

キーワード

(1) 業界を知る (2) 仕事を知る (3) ビジネスマナーを学ぶ

事前学習（予習）

インターンシップ先で当日学んだことを必ず復習して、明日の仕事の改善に繋げるよう準備する。

復習についての指示

学んだことを毎日振り返り、特に上手く行かなかったことを念入りに復習する。

授業計画

1. 実習先企業の事前研究 (1)
2. 実習先企業の事前研究 (2)
3. インターンシップ先での実習：日報作成 (1)
4. インターンシップ先での実習：日報作成 (2)
5. インターンシップ先での実習：日報作成 (3)
6. インターンシップ先での実習：日報作成 (4)
7. インターンシップ先での実習：日報作成 (5)
8. インターンシップ先での実習：日報作成 (6)
9. インターンシップ先での実習：日報作成 (7)
10. インターンシップ先での実習：日報作成 (8)
11. インターンシップ先での実習：日報作成 (9)
12. インターンシップ先での実習：日報作成 (10)
13. まとめレポート作成 (1)
14. まとめレポート作成 (2)
15. 報告会での発表

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 実習先事前研究:10% 実習先についての事前調査 (2) 実習:35% 実際の実習 (3) 実習ノート:5% 実習についての日報 (4) 実習レポート:20% 10日間を通じての課題の達成状況、感想等 (5) 報告会:30% 実習レポートを元に、学生・教員等の前で報告

インターンシップ I (事前学習)

CREE-0-301

担当者：酒井 俊行

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する

カリキュラム上の位置付け

行政コース：応用科目，
コミュニティコース：応用科目，
ビジネスコース：応用科目

講義概要

1. 内容

この講義では、基本的にインターンシップ実習に出るための事前準備を行います。しかしながら3年生のこの時期、わずか4ヶ月の座学で、全ての準備が可能になるなどとは思わないで下さい。ここでは皆さん1人1人のこれまでの集大成がまず問われます。例えばビジネスマナーやビジネス上の言葉づかいなどを考えてみましょう。社会人としてのマナーや言葉遣いは、決して大学で学ぶものではないはずです。これまで皆さんが生活して来た過程、即ち学校生活、家庭生活、社会生活の中で自然に身に付いているものでなければなりません。いずれにしても、20年分の学習をたった4ヶ月間で修得することなど、端から無理な相談です。無理な話を先刻承知のうえで開講するのがこの講義ということです。その大変さを予めよく理解して受講するよう心掛けて欲しいと思います。

2. 学びの意義と目標

この講義の最終目標は、皆さんをインターンシップ実習に出せるか出せないかの見極めと、社会人として活躍するために足りない能力の自覚を促すことです。したがって本講義において単位を無事取得出来た場合には、一応社会人としてのスタートラインに着くことが認められると理解して下さい。ただ言うまでもなく、ここで単位を取ったからと言ってこれで免許皆伝ということにはなりません。社会に出しても大丈夫であるとの最低限の見極めが出来たということにすぎないわけです。インターンシップは飽くまでも教育の一環です。完璧なパフォーマンスはそもそもインターンシップに出る必要などないわけです。企業やお役所での実習を通じてしっかり鍛えてもらうこそが、その目的です。そうした意味で、本講義はそのための助走路を提供するということにすぎません。

受講生に対する要望

どの講義でもそうなのですが、特にこの講義は短い時間に盛り沢山のことを学びます。したがって1回でも欠席すれば、身に付けるべきことが身に付かないことになります。そのためこの講義の受講生には100%の出席率を求めます。

キーワード

(1)就活の仕組みを知る (2)自分の足りないところを知る (3)キャリアプランを描く

事前学習（予習）

格別の準備は必要ありません。ただこれまでの学生生活において何をしてきたかは、折に触れて整理しておいて下さい。また就活を意識すれば、長髪や茶髪などはそろそろ卒業した方がよいと思います。

復習についての指示

この授業で学んだことはインターンシップ実習に出た時に、有形無形に有効です。その都度、しっかりノートを取り、学んだことをしっかり自分のものにして下さい。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 最近の就活の仕組み
3. 大学生での学びを活かす
4. 自分を分析してみよう
5. S P Iは大丈夫ですか？
6. 自己分析と将来設計：作業
7. 簡単なビジネスマナー(1)
8. 簡単なビジネスマナー(2)
9. 簡単なビジネスマナー(3)
10. ビジネス言語入門～語感トレーニングを中心に(1)
11. ビジネス言語入門～語感トレーニングを中心に(2)
12. ビジネス言語入門～語感トレーニングを中心に(3)
13. 大学生から社会人へ
14. 大学生と就活
15. まとめ：インターンシップを楽しもう！

教科書

塚谷正彦 『大学生の生き方・考え方』（実教出版）

評価方法

- (1)レポート:60%:3～4回レポートを提出 (2)授業への貢献:40%:社会に出るための積極性を評価

インターンシップⅠ（事前学習）

CREE-0-301

担当者：藤井 重隆

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する

カリキュラム上の位置付け

行政コース：応用科目，
コミュニティコース：応用科目，
ビジネスコース：応用科目

講義概要

1. 内容

1. 内容 インターンシップとは、在学中に就業体験を行うこと。企業などの組織に自分を置き、その組織がかかげる理念や目標に向かって日々の様な活動をしているかを実感することを目的としている。この機会を通じて、自ら社会が求める人材像を理解し、より良いキャリア選択を目指す姿勢を知ることが望ましい。就職活動にも役立つよう「模擬企画プロジェクト」等グループワークや、ビジネスマナーを理解する演習も設けている。2. カリキュラム上の位置付け 夏休み・春休みなどに、民間企業、自治体、特定非営利活動法人(NPO)などでインターンシップとして働くことを希望する学生を対象とする。すなわち、インターンシップⅠ(実習)受講のために必要な講義である。

2. 学びの意義と目標

就職活動に際して職場をイメージできることや仕事観を持っていること、また就業体験を通じて自己の気づきの機会を得てエントリーシートの作成、自己紹介や志望動機を述べられることは有利である。少子高齢化、ICTの発展や経済のグローバル化に伴い、産業構造が大きく変わり雇用形態も多様化している。これからの社会を生きていく自分のキャリアデザインを考え、「就業力」をどのように育成していくかを学ぶ機会とした。

受講生に対する要望

本講義の履修生は「就活」の前哨戦という理解で取り組んでほしい。講義の進行に伴い、履修生は「インターンシップに行くのか」「どのような職場で実習するのか」そして最終的に「どこで、いつから、いつまで働くのか」を決定してもらうことになる。遅刻や欠席をしないことは言うまでもないが、担当教員との連絡や、期日を守ると言った責任ある態度で臨んでほしい。

キーワード

(1) インターンシップ (2) 社会人基礎力 (3) ビジネスマナー (4) 就業力 (5) 就活

事前学習（予習）

講義のポイントを講義中に理解するよう努めること。

復習についての指示

講義中に理解できなかったことや、納得できなかった点などあれば質問して解決すること。復習により理解を定着させていくこと。

授業計画

1. プログラム紹介 : 就活の前哨戦としてのインターンシップ
2. インターンシップの目的とその効果/「就業力」育成に向けて
3. 「就業力」や「社会人基礎力」が必要とされるバックグラウンド
4. 社会に出て働く時、知っておくべきこと、心得ておくべきこと
5. ”安心して働くため”就職に係る労働法や就業規則を知る
6. ビジネスマナー演習(1)対面の場合
7. ビジネスマナー演習(2)文書の場合
8. 「労働生産性」の理解とビジネスの現場におけるICT
9. 模擬企画プロジェクト(1)
10. 企業の「理念」、ビジネス・モラル、「信用」の大切さ
11. 模擬企画プロジェクト(2)
12. 実業家による講演
13. インターンシップに向けての心構え(4年生の体験談)
14. インターンシップに向けての心構え(事前学習のまとめ)
15. 提出レポート(2回)へのコメントと教員からのフィードバック

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席点:50% (2) レポート点:40% (3) 受講態度:10%

社会人並みの自己管理を求める。15回で完結する内容を組んでいするため、全講座出席のこと。遅刻3回で一回欠席扱いとする。

インターンシップⅡ(実習)

CREE-0-302

担当者：酒井 俊行

開設期：秋学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する

カリキュラム上の位置付け

行政コース：応用科目,
コミュニティコース：応用科目,
ビジネスコース：応用科目,
情報コース：応用科目

講義概要

1. 内容

本授業は民間企業、自治体等において正味10日の実務実習を行うプログラムです。この授業を選択する場合は、インターンシップⅠ（事前学習）の単位取得が前提となります。

2. 学びの意義と目標

インターンシップ実習を受けた結果として、就活に際しての業界・企業を選択の判断力が養われます。これまでのケースでは、実際の職場経験を踏むと、より自覚が芽生える様子が大いに窺われます。

受講生に対する要望

実習に行く諸君は大学を代表するわけです。これまでの例では、実習を通じて本学の評価が高まり、就職に即繋がったり、求人票を出してもらえようになったりするなどの効果もみられます。しっかりと自覚を持って実習に臨むようにして下さい。

キーワード

(1) 業界を知る (2) 仕事を知る (3) ビジネスマナーを学ぶ

事前学習（予習）

インターンシップ先で当日学んだことを必ず復習して、明日の仕事の改善に繋げるよう準備する。

復習についての指示

学んだことを毎日振り返り、特に上手く行かなかったことを念入りに復習する。

授業計画

1. 実習先企業の事前研究 (1)
2. 実習先企業の事前研究 (2)
3. インターンシップ先での実習：日報作成 (1)
4. インターンシップ先での実習：日報作成 (2)
5. インターンシップ先での実習：日報作成 (3)
6. インターンシップ先での実習：日報作成 (4)
7. インターンシップ先での実習：日報作成 (5)
8. インターンシップ先での実習：日報作成 (6)
9. インターンシップ先での実習：日報作成 (7)
10. インターンシップ先での実習：日報作成 (8)
11. インターンシップ先での実習：日報作成 (9)
12. インターンシップ先での実習：日報作成 (10)
13. まとめレポート作成 (1)
14. まとめレポート作成 (2)
15. 報告会での発表

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 実習先事前研究:10%・実習先についての事前調査 (2) 実習:35%・実際の実習 (3) 実習ノート:5%・実習についての日報 (4) 実習レポート:20%・10日間を通じての課題の達成状況、感想等 (5) 報告会:30%・実習レポートを元に、学生・教員等の前で報告

インターンシップⅡ(実習)

CREE-0-302

担当者：藤井 重隆

開設期：秋学期集中/春学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する

カリキュラム上の位置付け

行政コース：応用科目,
コミュニティコース：応用科目,
ビジネスコース：応用科目,
情報コース：応用科目

講義概要

1. 内容

本授業は民間企業、自治体等において正味10日の実務実習を行うプログラムです。この授業を選択する場合は、インターンシップⅠ（事前学習）の単位取得が前提となります。

2. 学びの意義と目標

インターンシップ実習を受けた結果として、就活に際しての業界・企業を選択の判断力が養われます。これまでのケースでは、実際の職場経験を踏むと、より自覚が芽生える様子が大いに窺われます。

受講生に対する要望

実習に行く諸君は大学を代表するわけです。これまでの例では、実習を通じて本学の評価が高まり、就職に即繋がったり、求人票を出してもらえようになったりするなどの効果もみられます。しっかりと自覚を持って実習に臨むようにして下さい。

キーワード

(1) 業界を知る (2) 仕事を知る (3) ビジネスマナーを学ぶ

事前学習（予習）

インターンシップ先で当日学んだことを必ず復習して、明日の仕事の改善に繋げるよう準備する。

復習についての指示

学んだことを毎日振り返り、特に上手く行かなかったことを念入りに復習する。

授業計画

1. 実習先企業の事前研究 (1)
2. 実習先企業の事前研究 (2)
3. インターンシップ先での実習：日報作成 (1)
4. インターンシップ先での実習：日報作成 (2)
5. インターンシップ先での実習：日報作成 (3)
6. インターンシップ先での実習：日報作成 (4)
7. インターンシップ先での実習：日報作成 (5)
8. インターンシップ先での実習：日報作成 (6)
9. インターンシップ先での実習：日報作成 (7)
10. インターンシップ先での実習：日報作成 (8)
11. インターンシップ先での実習：日報作成 (9)
12. インターンシップ先での実習：日報作成 (10)
13. まとめレポート作成 (1)
14. まとめレポート作成 (2)
15. 報告会での発表

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 実習先事前研究:10%・実習先についての事前調査 (2) 実習:35%・実際の実習 (3) 実習ノート:5%・実習についての日報 (4) 実習レポート:20%・10日間を通じての課題の達成状況、感想等 (5) 報告会:30%・実習レポートを元に、学生・教員等の前で報告

オペレーションズ・マネジメント

MGMT-L-200

担当者：柴田 武男

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

生産現場などの現業現場のマネジメント及び、生産性改善の手法を、理論面と実践面から講義する。理論においては、業種による手法の相違を学び、実践面においては経済グローバル化の中で顕在化する国内外におけるマネジメントや手法の相違、さらには国境を超えた手法の移転の実践を学ぶ。その目的に適用される科学的手法については、数学的な講義は省き、理論の概念的な説明にとどめる。講義は、4名の実業界出身の講師による、オムニバス方式を採る。第1回から7回までは、自動車産業に勤務した講師が、その実務経験を踏まえて講義する。第8回から15回までは、電子産業に勤務した講師が、グローバルオペレーションに伴う技術移転を主題とする生産管理について講義する。第16回から22回までは、化粧品・繊維産業に勤務した講師が、その実務経験を踏まえて効果的効率化にフォーカスした講義を行う。23回から30回までは、情報産業に勤務した講師が、その実務経験を踏まえて講義する。

2. 学びの意義と目標

現業の現場を如何に管理するか、また現場操業の効率化と生産力アップを如何に達成するかを実践的に学ぶ。講師の勤務した各産業界の違いは何か、そして共通するものは何かを探究して欲しい。またグローバル化の中で欠かせない海外での操業においては、果たして国内での手法が適用可能なのか。どのような点に留意すべきかなど、製造等現業拠点の海外移転に求められる基礎的な知識や情報を身に付けて欲しい。

受講生に対する要望

講義内容をただそのまま学ぶだけでなく、講義の中で関心を持った事項に関連資料などに当たってさらに自ら掘り下げて欲しい。また講義内容で理解できなかった部分は講師に質問、提案などして、積極的に講義に参加する態度を身に付けて欲しい。

キーワード

(1)生産現場マネジメントのポイントは何か (2)国内外の現場におけるマネジメント手法の相違

事前学習（予習）

次回講義テーマに関する関心事項を一つでもあらかじめ調べて、講義に臨むこと。

復習についての指示

講義内容をレビューして、不明な点、疑問点などを次回の講義で質問する。また特に関心ある事項があれば、講義内容の枠を超えた領域をも含めて知識や情報を掘り下げて欲しい。

授業計画

1. 自動車産業を主題とする、生産管理の外観 講師：佐藤貞義
2. 自動車産業を主題とする、生産活動の構成 講師：佐藤貞義
3. 自動車産業を主題とする、工場現場の管理 講師：佐藤貞義
4. 自動車産業を主題とする、市場とのリンク 講師：佐藤貞義
5. 自動車産業を主題とする、サプライチェーンについて 講師：佐藤貞義
6. 自動車産業を主題とする、グローバルオペレーション 講師：佐藤貞義
7. 自動車産業を主題とする生産管理総括 講師：佐藤貞義
8. 電子産業を主題とする、グローバルオペレーションズと技術移転各論1（グローバルオペレーションズとは）講師：肥後照雄
9. 電子産業を主題とする、グローバルオペレーションズと技術移転各論2（技術移転とは）講師：肥後照雄
10. 電子産業を主題とする、グローバルオペレーションズと技術移転各論3（南米での技術移転・アルゼンチン）講師：肥後照雄
11. 電子産業を主題とする、グローバルオペレーションズと技術移転各論4（アフリカでの技術移転・ガーナ）講師：肥後照雄
12. 電子産業を主題とする、グローバルオペレーションズと技術移転各論5（東欧・中欧での技術移転・モルドバほか）講師：肥後照雄
13. 電子産業を主題とする、グローバルオペレーションズと技術移転各論6（アジアでの技術移転・ミャンマーほか）講師：肥後照雄
14. 電子産業を主題とする、グローバルオペレーションズと技術移転各論7（海外への技術の伝え方、まとめなど）講師：肥後照雄
15. 電子産業を主題とする…8（ゲストスピーカー・現役国際ビジネスマンによる発表・討論など）講師：肥後照雄
16. 化粧品・繊維産業を主題とする、オペレーションズマネジメントの進化（効率の追求から効果的効率化へ）講師：舟橋金之介
17. 化粧品・繊維産業を主題とする、業界のしくみとオペレーションズマネジメント 講師：舟橋金之介
18. 化粧品・繊維産業を主題とする、マーケティング活動の重要性 講師：舟橋金之介
19. 化粧品・繊維産業を主題とする、オペレーションズマネジメントに役立つ品質管理 講師：舟橋金之介
20. 化粧品・繊維産業を主題とする、オペレーションズマネジメントに役立つコスト管理と利益管理 講師：舟橋金之介
21. 化粧品・繊維産業を主題とする、オペレーションズマネジメントに役立つ生産管理 講師：舟橋金之介
22. 化粧品・繊維産業を主題とする、グローバルビジネスを推進する上での留意点（地球レベルで考える）講師：舟橋金之介
23. 情報産業関連企業の現場経験による実践的観点より、オペレーション・マネジメントの目的、歴史等を講義する。講師：田中啓二
24. 情報産業を主題とする、オペレーション・マネジメントの要素と管理項目 講師：田中啓二
25. 情報産業を主題とする、いろいろな製品と管理システム 講師：田中啓二
26. 具体的なマネジメントシステム（トヨタ生産方式を例として） 講師：田中啓二
27. 情報産業を主題とする、マネジメントに必要な管理データとは 講師：田中啓二
28. 情報産業を主題とする、企業のグローバル化とマネジメント 講師：田中啓二
29. 情報産業を主題とする、新しいオペレーションズマネジメント（SCMなど） 講師：田中啓二
30. 情報産業を主題とする、これからのオペレーションズマネジメント 講師：田中啓二

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席日数による加点減点:10% (2)課題レポート提出:90%:4人の講師がレポート課題を提示する

出席日数がコマ数の2/3未満は評価対象外

担当者：成川 正晃

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識

カリキュラム上の位置付け

ビジネスコース：基幹科目

講義概要

1. 内容

会計情報は、受託責任を明らかにしたり、意思決定に役立つ情報を提供したり、様々な利害関係者の利害を調整するのに用いられます。このような会計情報の作成原理や、利用方法を学ぶのが会計学です。講義では、なるべく具体的な例を用い、絶えず現実の経済事象を意識できるように工夫して進めていきます。

2. 学びの意義と目標

会計学では、会計情報の作成原理を理解するとともに、その利用方法を学習していきます。したがって、会計学の一端を学習することで、企業人としての基礎を身に付けたことになります。具体的には、企業の各種財務資料の作成から、分析方法まで学習していきます。このことにより、「企業を見る目を養う」というのが会計学を学ぶ目標となります。

受講生に対する要望

簿記を受講済みで、会計について関心がある方の受講を希望します。

キーワード

(1)会計情報 (2)企業経営 (3)経営分析 (4)連結会計 (5)国際会計

事前学習（予習）

授業計画を参照し、テキストの該当箇所を読み、疑問点等をまとめておくこと。

復習についての指示

授業内の課題を復習し、各項目について次回までに説明できるようにしておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション/授業の狙い・到達目標/会計情報の役割を理解する
2. 会計情報の果たす役割に影響を与える（法）制度を理解する
3. 企業の財政状態を示す「貸借対照表」を理解する
4. 企業利益の測定と貸借対照表の関係を理解する
5. 企業の経営成績を示す「損益計算書」を理解する
6. 企業のタイプにより貸借対照表の構造が大きく異なることを理解する
7. 商品とは/製品とは/企業の在庫とは
8. 棚卸資産の評価/回転率
9. 有形固定資産とは/減価償却とは
10. 減価償却方法とは/減損処理とは
11. 金融資産の種類/現金とは/預金とは
12. 売上債権とは/売上債権の評価額とは
13. 有価証券の種類/有価証券の評価額とは/保有目的による違いは
14. 負債とは/資本とは
15. まとめ
16. 財務諸表の概要を理解する
17. 損益計算書の構造を理解する
18. 収益認識の基本原則を理解する
19. 営業活動の成果を把握する
20. 会計情報の比較/趨勢分析とは
21. 収益性の分析とは/ROEとは
22. ROEの3分解
23. 個別具体的企業にみるROEの3分解
24. 安全性の分析/流動比率とは
25. 個別具体的企業にみる安全性の分析
26. 企業の利益構造とは/損益分岐点とは
27. 損益分岐図表の2つのタイプとは
28. 外部分析としての損益分岐図表の応用
29. 経営管理のための会計情報の役割
30. まとめ

教科書

谷 武幸、桜井 久勝 『1からの会計』（碩学舎）

評価方法

(1)試験:60% (2)課題:40%

担当者：竹井 潔

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識

カリキュラム上の位置付け

ビジネスコース：基幹科目

講義概要

1. 内容

1. 目的 管理は英語のマネジメントのことである。管理は人々が協働して、変化する環境の下で有限な資源を能率よく使って、組織目標を効果的に達成するプロセスである。管理は企業の経営における領域で発展してきたが、あらゆる組織体にも適応されてきている。本講義においては、管理の生成と発展を概観し、管理の原理・原則を学ぶことにより、管理の基礎について理解する。

2. 学びの意義と目標

管理（マネジメント）は社会に出てから様々な場面で必要とされる領域である。講義では企業を対象とした経営における管理の原理・原則を学ぶことにより、管理の新しい領域や課題も検討していきたい。

受講生に対する要望

講義内容は経営管理の基本的な事柄である。経営分野を志す多くの学生に履修してほしい。授業では、グループディスカッションをする機会もあるので、積極的に参画してほしい。

キーワード

(1) マネジメント (2) 経営管理 (3) 管理技術 (IE, QC, VE) (4) 生産管理 (5) 改善と管理

事前学習（予習）

管理の専門用語が多く出てくるので、授業の事前に各自わからない用語は調べて理解しておいてほしい。

復習についての指示

管理の専門用語で、各自わからなかった用語は調べて理解しておいてほしい。また、与えられた課題は内容をよく理解して提出すること。

授業計画

1. 管理とは
2. 管理の原理 1
3. 管理の原理 2
4. 管理の系譜
5. 管理の原点としての伝統的管理論 1
6. 管理の原点としての伝統的管理論 2
7. 管理の人間関係論的アプローチ
8. 管理の組織論的アプローチ
9. 管理の意思決定論的アプローチ
10. 管理の戦略論的アプローチ
11. 管理のリーダーシップ論的アプローチ
12. 管理のモチベーション論的アプローチ
13. 目標による管理
14. ナレッジマネジメント
15. 中間まとめ
16. 組織構造とマネジメント
17. 動態的組織とマネジメント
18. トップマネジメントとミドルマネジメント
19. 改善と管理
20. 管理技術としてのIE, QC, VEの特徴
21. 生産性の考え方、標準時間とその意義
22. 生産管理の概要
23. 品質管理について
24. コスト管理について
25. 改善の手法と進め方1
26. 改善の手法と進め方2
27. 小集団活動とコミュニケーション
28. ブレイクスルー思考について
29. マネジメントの課題
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 平常点:20%:出席、課題提出。理解度小テストの実施 (2) 中間試験:40% (3) 期末試験:40%

キャリアデザインA

CREE-D-100

担当者：上田 信一郎

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1) <内容> キャリアデザインは、広くは人生設計全体に関わりませんが、具体的には将来の進路・職業について、将来になりたいものの、やりたい仕事、自分の適性、職業の現状を考え整理し、目標を企画・設計していくことです。そして、現在学ぶもの、身につけるもの、体験行動すべきテーマを発見・具体化し、目標の設定と行動に移すキッカケとなるものです。また職業紹介に関するビデオを上映し職業理解を進めます。さらにコミュニケーション力、プレゼンテーション力向上のために、就職面接で決め手になる自己PRを取り入れた自己PRプレゼン（みんなの前で話す）を演習します。（アクティブラーニング）(2) <カリキュラム上の位置づけ> キャリアデザインAは自分を知ることが重点に、仕事を知ることと並行して講義を進めます。自分を知ることとは、やりたいこと、なりたいもの、適性、価値観などの自己分析を進めることです。並行して進める仕事を知ることでは、ビデオで仕事の現状を学びます。アクティブラーニングでは自己PRプレゼン、ワークシート記入などを行います。

2. 学びの意義と目標

自分自身のなりたいもの、やりたいことを明確にし、自分のできることのすり合わせの中で、進路を明確にし、目標設定できるようになること。将来の進路目標が設定されるとモチベーションが生まれやる気が出ます。そして今やるべきことの目標設定が出来ます。なりたい職業につくためには身につけなければならない能力・スキルや試験合格が必要だからです。公務員試験、各種資格試験、パソコンスキル、コミュニケーション能力、社会体験などの学習目標を設定しましょう。

受講生に対する要望

自分の将来の夢や希望を作っていきます。自分がやりたいもの、やりがい感が感じられる職業は何か、自分に向いている職業は何かについて考えましょう。自分の適性や能力、やりたいこと発見のため自分を見つめなおしましょう。

キーワード

(1) 自分を知るー自己分析 (2) 職業を知るー職業研究 (3) 仕事のやりがい感 (4) 自分にとっての仕事の選択基準 (5) 職業・生活の安定性

事前学習（予習）

将来の進路を見つけより早い時期に目標を定めることができるようにするため、職業に関する興味のある新聞、テレビ、本をできるだけ読むようにして下さい。

復習についての指示

情報や知識を資料のある図書館やキャリアサポで深めてください。またインターネットで自分自身の関心のある職業情報を調べてください。

授業計画

1. キャリアデザインとは何か
2. 社会で生きる力とコミュニケーション力・マナーの意味
3. 自分と向き合う：やりたいこと、適性、できること、価値観
4. 仕事と自己実現：なりたい自分をイメージする。
5. 自分の適性と職業による適性：適性試験
6. 働く意義とやりがい感とは
7. 仕事の選択基準：自分の価値観、考え方と職業の一致とは
8. 人に役立つ仕事とは：自分の職業選択と仕事のやりがい、仕事の意義との関係を深める。
9. 社会に役立つ仕事とは：自分の職業選択と仕事のやりがい、仕事の意義との関係を深める。
10. 社会人基礎力とは：自分の強みを発見・強化する。①自己表現、行動力、リーダーシップなど
11. 社会人基礎力とは：自分の強みを発見・強化する。②他者理解、傾聴力、人間関係、チームワークなど
12. 資格、スキル、社会体験の習得：就職力育成・能力開発プランづくり
13. 公務員と民間の仕事：法人の種類や民間の業界と職種を知る。
14. キャリアデザインAまとめ 何のために、誰のために、どのように働くか
15. 期末レポート提出・個人面談：自分自身の進路と学生時代の目標設定

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席率:50%:3分の1以上の欠席は単位認定不可 (2)演習・発表:40%:筆記演習、プレゼン演習実施 (3)授業態度:10%:私語、離席減点

出席は学生証による電子入力で、遅刻3回で1回欠席のペナルティとなります。

担当者：上田 信一郎

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

(1) 内容 キャリアデザインAでは比較的「自分を知る」ことを重点に進路目標をたてることを柱にしましたが、キャリアデザインBでは「職業を知る」ことを重点に、自分とのマッチングの可能性を探ります。また、職業を通して社会的な役割をになう意味、職業をもち生きていく力を身につける意味を考えます。職業を紹介するビデオを随時上映します。(2) カリキュラム上の位置づけ 職業について、業種・職種の種類、特性などを知り、職業への関心を高め、自分自身の関心のある仕事発見につなげます。関心のある仕事の発見のためにをリサーチし、仕事のやりがいなどについて、自分が主体的に職業を選択する視点で学び、1人1人全員の前でプレゼン発表するアクティブラーニングを行います。

2. 学びの意義と目標

講義及び演習でのリサーチ発表を通じて、自分の関心のある職業についての業種・職種の内容、職業につくための要件・方法、労働条件、職業につくための競争条件などを調べることを通じて知り、仕事に対するモチベーションを高め、進路を明確にすること。また、アクティブラーニングではリサーチ発表を通してプレゼンテーション力を身につけること。

受講生に対する要望

職業研究を情報収集、身近な人の話を聞くなどしていき、自分のやりたい仕事・進路を具体的に把握していきましょう。

キーワード

(1) 職業研究 (2) 自分の興味のある業種 (3) 自分の適性にあった職種 (4) 公務員と民間 (5) 成長性と安定性

事前学習（予習）

まず自分のやりたい仕事や興味のある仕事について調べることから始めます。そしてその仕事につくための条件を調べましょう。

復習についての指示

関心のある業界・職種についてインターネット、書籍などで更に詳しく調べ、自分の進路・職業の目標を設定できるようにしましょう。

授業計画

1. 社会を知り産業を知り職業を知る。仕事の面白さを知る。
2. 社会と企業の役割。企業組織、部署、職種について
3. 産業構造、雇用構造と業種について
4. 雇用の形態：正社員、非正規雇用とは。
5. ブラック企業とは
6. 業種と仕事の研究—地方公務員の仕事
7. 業種と仕事の研究—流通小売業の仕事
8. 業種と仕事の研究—福祉、医療の仕事
9. 業種と仕事の研究—教育、育児支援、スポーツの仕事
10. 業種と仕事の研究—観光、ホテル、飲食の仕事
11. 業種と仕事の研究—専門店の仕事
12. 業種と仕事の研究—Web、ITの仕事
13. 業種と仕事の研究—商社、貿易、国際ビジネスの仕事
14. キャリアデザインBまとめ自分の興味、適性にあった仕事とは
15. 個人面談：自分自身の進路と学生時代の目標達成状況

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1) 出席率:50%:3分の1以上の欠席単位認定不可 (2) 演習・発表:40% (3) 授業:10%
- 遅刻3回で1回の欠席となるペナルティがあります。演習・発表は職業リサーチ発表中心となります。

キリスト教社会倫理 A

CHRI-L-300

担当者：菊地 順

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：公民必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目

講義概要

1. 内容

倫理学というのは、平たく言えば、よりよい人間の生き方、あるいはより正しい人間の生き方について考える学問ですが、この授業は、「キリスト教」社会倫理とあるように、それをキリスト教の視点に立って考えるものです。しかし、それはまた同時に、キリスト教「社会倫理」とあるように、それは広く社会に目を向けた中で考察されます。その考察を、今年度は特にキリスト教の歴史の中で、それぞれの時代精神を担いながら生きた人々を取り上げ、その生き方とその意義について考えたいと思います。具体的には、古代、中世、近現代を代表する何人かの人物に注目し、その人たちの精神が現代においてどのように展開されているかを見、その生き方とその意義について考えたいと思います。

2. 学びの意義と目標

この授業では、生き方に関する具体的な事例を学ぶことをとおして、特に人間の尊厳や人格の価値の理解を深める、人生の意義を学び、現代世界に通用する倫理観を身に付けることが目指されています。

受講生に対する要望

倫理という堅苦しい印象を受けるかもしれませんが、人間のよりよい生き方を学ぶものですので、たえず社会に関心を持ち、問題を共有しながら、開かれた心で臨んでほしいと思います。

キーワード

(1)人間 (2)時代 (3)倫理 (道徳) (4)価値 (5)献身

事前学習 (予習)

予習としては、シラバスを読んで授業内容を確認し、予め下調べをしておくこと。

復習についての指示

復習として、毎回授業で配布される講義内容のプリントを読み直すこと。また必要や関心に応じて、自分で調べ、知識を深めること。特に、この授業では復習に重点を置いてください。

授業計画

1. 授業のオリエンテーション
2. キリスト教の歴史観と人間観
3. アウグスティヌスと懐疑主義の克服
4. アシジの聖フランシスコと清貧の思想 (1)
5. アシジの聖フランシスコと清貧の思想 (2)
6. マルティン・ルターに見る個と信仰の世界
7. パスカールに見る人間の偉大さと卑小さ
8. カントと道徳的精神
9. ベンジャミン・フランクリンと合理的精神
10. キルケゴールと実存的苦悩
11. マハトマ・ガンディーと非暴力の思想
12. マザー・テレサと献身の生涯
13. 井深八重と献身の生涯
14. 賀川豊彦とボランティア
15. 3・11以後を生きる

教科書

授業の中で指示する
毎回授業の初めにプリントを配布します。

評価方法

- (1)試験:70% (2)出席:20% (3)課題:10%

以上の3点を総合的に判断して成績を出します。ただし、3分の1以上の欠席者、あるいは課題の未提出者は試験を受ける資格がありませんので、注意すること。

キリスト教社会倫理B

CHRI-L-300

担当者：菊地 順

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

キリスト教に基づいた人間性および世界の在り様を理解し、豊かな情操を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：公民必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目

講義概要

1. 内容

倫理学というのは、平たく言えば、よりよい人間の生き方、あるいはより正しい人間の生き方について考える学問ですが、この授業は、「キリスト教」社会倫理とあるように、それをキリスト教の視点に立って考えるものです。しかし、また同時に、キリスト教「社会倫理」とあるように、それは広く社会に目を向けた中で考察されます。その考察を、秋学期は、人種問題に注目して行いたいと思います。具体的には、一つはアメリカ合衆国における黒人問題を取り上げ、その歴史との歴史について学びます。またヨーロッパにおけるユダヤ人問題にも注目したいと思います。そして、人間の生き方について、特に人間の尊厳とか人格・人権といった価値の尊さについて学びたいと思います。

2. 学びの意義と目標

この授業では、人種問題の学びをとおして、人間の生き方や価値観、特に人間の尊厳とか人格・人権などの価値についての理解を深め、現代世界に通用する倫理を身に付けることが目指されています。

受講生に対する要望

人種問題は、世界中にある問題です。この学びのために、特に人間の尊厳とか人権ということにより敏感となり、社会や世界に広く関心を持ち、開かれた心で授業に臨んでほしいと思います。

キーワード

(1) アフリカ系アメリカ人 (2) 奴隷制度 (3) 人種隔離政策 (4) ユダヤ人 (5) 人格・人権

事前学習（予習）

予習としては、シラバスで授業内容を確認し、下調べをしておくこと。

復習についての指示

復習としては、授業で毎回配布される講義内容のプリントを読み返すこと。また必要と関心に応じて、自分でさらに調べ、知識を深めること。この授業では後者に重点を置いてください。

授業計画

1. 授業のオリエンテーション
2. アメリカの宗教的多元化と右派化
3. アメリカ黒人の歴史
4. フレデリック・ダグラスの生涯と奴隷制度
5. 南北戦争と奴隷解放宣言
6. キリスト教と奴隷制度
7. 再建期と人種隔離制度
8. 黒人たちの戦い
9. M. L. キングと公民権運動
10. マルコムXの戦い
11. ドイツとユダヤ人（1）
12. ドイツとユダヤ人（2）
13. ドイツとユダヤ人（3）
14. スペインとユダヤ人
15. 「世界人権宣言」と現代

教科書

授業の中で指示する
毎回授業の初めにプリントを配布します。

評価方法

- (1) 試験:70% (2) 出席:20% (3) 課題:10%

以上の3点を総合的に判断して成績を出します。ただし、3分の1以上の欠席者、あるいは課題の未提出者は、試験を受ける資格がありませんので、注意すること。

担当者：森分 大輔

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る。
知の基礎力：政治や社会のしくみの理解

カリキュラム上の位置付け

行政コース：応用科目

講義概要

1. 内容

古代と中世の政治思想を概観した後、16世紀から19世紀までの政治思想の成立と展開を追う。まず、私達が生きる近代国家のうちにどのような理念がこめられ、またそれがどのような歴史に支えられて成り立ってきたかを考察する。とはいえずらに近代国家を礼賛するのではなく、最初に古代と中世を学ぶことを通じて、近代が置き忘れてきたものについても合わせて目を向けたい。

2. 学びの意義と目標

近代国家を成り立たせている基本的な考え方を学ぶという意味では基礎的な科目である。しかし抽象的な概念が多いため、実際には難しく感じられるかもしれない。必修の「政治学」よりは難しい。

受講生に対する要望

現代の政治への関心のみならず、そこにおいて交わされる政治的議論の内容に対する関心と、それが過去の様々な理論家の議論から組み立てられているという認識をもって講義に臨んでほしい。

キーワード

(1)政治 (2)思想 (3)歴史

事前学習（予習）

事前に取り上げる思想家について指示するので、関連する書籍の目を通しておくこと。

復習についての指示

講義内容を踏まえて、自己の関心を明らかにしておくこと。また疑問については講義内のリアクションペーパーに記載し、疑問のままにしておかないこと。

授業計画

1. イン트로ダクション
2. イン트로ダクション
3. プラトン
4. プラトン
5. アリストテレス
6. アリストテレス
7. 中世の政治思想
8. 中世の政治思想
9. マキャヴェリと共和主義
10. マキャヴェリと共和主義
11. 宗教改革
12. 宗教改革
13. ホッブズ
14. ホッブズ
15. ロック
16. ロック
17. モンテスキュー
18. モンテスキュー
19. ルソー
20. ルソー
21. アメリカ革命とフランス革命
22. アメリカ革命とフランス革命
23. トクヴィル
24. トクヴィル
25. ミル
26. ミル
27. カント
28. カント
29. ヘーゲルと近代社会
30. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:40% (2)レポート:20% (3)期末テスト:40%

金融市場論 A

ECON-L-300

担当者：柴田 武男

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

問題解決力 & 表現力：経営環境の体系的把握と実務知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

金融市場論 A は、「金融市場の歴史と制度」をメインテーマに行う。金融市場とは、その名の通り金銭をやり取りする市場であり、その中心的存在が銀行・証券会社・保険会社・投資信託等の金融機関である。したがって、金融市場を明らかにするということは、それら中心的市场参加者である金融機関の役割を明らかにすることでもある。そのために、まず、本講義では都市銀行、地方銀行、信用金庫、信用組合、労働金庫、証券会社、保険会社といった金融機関の解説を歴史的経緯の中で講義する。また、金融市場は近年とくにすさまじい勢いで変貌する市場であり、また、その変化が国民経済に深刻な影響を与えている。一例として、不況の深刻化で中小企業への資金供給が問題となっており、その対応策として中小企業等金融円滑化法案が制定されたことである。本講義では、日本経済新聞を教材の一つとして、金融問題を中心に経済記事を詳細に解説する時間を設ける。また、経済ニュースを中心とした番組「クローズアップ現代」「ガイアの夜明け」「カンブリア宮殿」「NHKスペシャル」なども活用して、できるだけ初学者にも理解できるような講義を心がけたい。

2. 学びの意義と目標

金融市場の変化は凄まじく、過去を振り返る必要も余裕も感じないかも知れないが、現在は過去の延長であるので、過去を学ばないと現在を理解できない。その点から、金融制度の歴史を学ぶことは必要である。ただし、未来は現在の単純な延長ではない。それでも、現在と過去を学ぶことで、未来への展望が開かれるであろう。

受講生に対する要望

90分集中すること講義でのレポートをきちんと書くこと経済用語を自習すること

キーワード

(1) 銀行 (2) 証券会社 (3) 証券市場 (4) 金融商品取引法 (5) グローバリゼーション

事前学習（予習）

日頃の学習態度として、できれば日経新聞の経済記事を毎日少しでも読み続けて欲しい。また、金融市場には専門用語が多いので、各自電子辞書・インターネット等で学習して欲しい。

復習についての指示

配布された資料から、内容を読み返すこと。また、読み返して理解できない内容・用語についてはメール等で質問すること。

授業計画

1. 日本の金融市場の歴史・・・戦前編(1)
2. 日本の金融市場の歴史・・・戦前編(2)
3. 日本の金融市場の歴史・・・戦後編(1)
4. 日本の金融市場の歴史・・・戦後編(2)
5. 日本の金融制度の特徴 総論(1)
6. 日本の金融制度の特徴 総論(2)
7. 日本の銀行制度
8. 海外の銀行制度 特に米国を中心に
9. 日本の証券市場
10. 海外の証券市場 特に米国を中心に
11. アジアの証券市場 特に中国を中心に
12. 地域金融制度 地方銀行・信用金庫・信用組合など
13. 保険会社 損保と生保の違いとは
14. 雑金融 貸金業の問題点
15. 日本の金融市場の歴史的展望と課題

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 出席点:25% (2) レポート:25% (3) 定期末試験:50%

講義では、ミニレポートを課す。評価割合は25%としてあるが、得に優秀レポートにはさらにプラスする。

担当者：柴田 武男

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識

カリキュラム上の位置付け

ビジネスコース：応用科目

講義概要

1. 内容

金融市場論Bは、「金融市場の理論と現実」をメインテーマに行う。我が国では、出資法と利息制限法という二つの法律を中心に金利規制の体系が構築されているが、深刻な多重債務問題から大きく法律が改正された。ここでは改正貸金業法をとりあげ、改正された経緯を明らかにするとともに、そこから理論と現実の対立関係を具体的に詳述していきたい。2011年6月18日に改正貸金業法が完全施行され、その影響と是非が論じられている。後期の講義では、現在行われている議論をもとに日本の金融市場の問題点と課題を明らかにしていきたい。金融市場はすさまじい勢いで変貌する市場であり、一年、二年遅れの教科書では現実の金融市場を講義できない。したがって、本講義では、講義当日の日本経済新聞を教材の一つとして、金融問題を中心に経済記事を詳細に解説する時間を設ける。また、NHKスペシャルとして話題となった「マネー資本主義」などのテレビ番組も積極的に取り上げて解説していきたい。本講義を通して、金融市場の社会的役割の理解と同時に日経新聞をビジネスツールとして活用する方法まで教授することが目的である。

2. 学びの意義と目標

金融市場の現代的理解は、単に政治経済の知識としてあるのではなく社会人として生活する上で、ローンの利用、保証人問題等で必須の知識である。難解で複雑な金融商品を使いこなすことが期待される。

受講生に対する要望

インターネット環境及びメールへの迅速な対応講義資料はPDFで配布するので、その対応もお願いしたい。

キーワード

(1)日本経済新聞 (2)金融革新 (3)機関投資家 (4)金融市場 (5)デリバティブ

事前学習（予習）

日頃から日経新聞は是非読んで欲しい。また、経済を中心とするテレビ番組等の視聴も期待している。そこで出会う専門用語について、自発的にインターネット等で学習しておくこと。

復習についての指示

配布した教材について理解できない用語については必ず確認すること。それでも理解できない場合は担当教員にメール等で質問すること。

授業計画

1. 金融市場で何が起こっているのか・・・論点の提供 その(1)
2. 金融市場で何が起こっているのか・・・論点の提供 その(2)
3. 経済記事の読み方・・・日経新聞に何が書かれているのか(1)
4. 経済記事の読み方・・・日経新聞に何が書かれているのか(2)
5. テレビ放送から金融市場を学ぶ・・・必見の放送番組とは
6. 銀行市場とその役割 (1) 都市銀行を中心に
7. 銀行市場とその役割 (2) 地域金融機関を中心に
8. 証券市場とその役割 (1) 証券会社を中心に
9. 証券市場とその役割 (2) 機関投資家を中心に
10. 国債市場から日本経済を考える
11. 株式市場から日本経済を考える
12. 証券市場と消費者 われわれの生活に関わる証券市場とは(1)
13. 証券市場と消費者 われわれの生活に関わる証券市場とは(2)
14. 金融市場の理論と現実 まとめ (1)
15. 金融市場の理論と現実 まとめ (2)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席点:25% (2)レポート点:25% (3)定期テスト:50%

授業中に提出するレポートの配点は25%であるが、得に優れたレポートにはプラスする。

担当者：鈴木 真実哉

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識

カリキュラム上の位置付け

ビジネスコース：基幹科目

講義概要

1. 内容

金融に関する基礎概念の修得に力点をおく。その上で、日本における金融現象を中心に、理論、政策、トピックスについて解説する。とくに、1990年代から現在に至るまでの日本金融史上でも稀である大変革期について、その本質と今後の方向性について解説する。たとえば、金融ビッグ・バン、大蔵省の改組、日本銀行法改正、郵便貯金の民営化、不良債権問題、などである。

2. 学びの意義と目標

「金融」に無縁で生活できない現代において、すべての学生に学んでもらいたい科目である。社会科学系統の科目にとりて、政治経済学部における両学科学生にとって共通専門科目となっている。現代の人間として知っておくべき知識を提示している。現代に生きる人間として知っておくべき「金融」に関する基礎知識を修得できる。難解な金融現象の理解が深まる。

受講生に対する要望

金融の世界は日々変化している。テキストやその他の書籍ではカバーしきれないものも講義するので、毎回ノートを取る必要がある。

キーワード

(1) 金融の本質と意義 (2) デフレ下の金融 (3) 貨幣の未来

事前学習（予習）

指定する教科書の講義予定箇所をレポート用紙1枚にまとめておくこと。シラバスの講義予定テーマについてテキスト(第1回講義において指定する)の相当箇所をよく読んでおくこと。

復習についての指示

テキストの講義箇所、板書をまとめて、清書ノートを作成しておくこと。

授業計画

1. 金融とは何か
2. 金融とは何か
3. 金融とは何か
4. 金融システム
5. 金融システム
6. 金融市場
7. 金融市場
8. 金融構造
9. 金融構造
10. 貨幣とは何か？
11. 貨幣とは何か？
12. 貨幣とは何か？
13. 貨幣の供給
14. 貨幣の供給
15. 貨幣の供給
16. 貨幣の需要
17. 貨幣の需要
18. 貨幣と利子
19. 貨幣と利子
20. 日本の金融機関
21. 日本の金融市場
22. 日本の金融政策
23. 金融の自由化・国際化
24. 金融の自由化・国際化
25. 不良債権問題
26. 円高
27. 金融界の未来
28. 金融界の未来
29. まとめ
30. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 定期試験:90% (2) 出席状況:10%

定期試験90%には、レポートによる評価を含むこともある。

担当者：酒井 俊行

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

就活を意識した場合に、まず押さえておかなければならないのは就活の仕組みを知ることです。昨今の就活においては、無手勝流でチャレンジすることは極めて非効率と言えます。孫子の兵法に言うとおり、百戦を危うくしないためには、敵を知り、己を知らなければなりません。「己を知ること」は自己分析ということですが、ここで「敵を知ること」が『業界・企業分析』の作業ということになります。就職を希望する企業が必ずしも敵ということではありません。しかし相手を知らないでチャレンジすることは無謀ですし、何よりも先方企業に失礼です。本講義では必要最小限の範囲で、皆さんが就活に際してチャレンジする業界・企業に関する研究の方法を学ぶこととします。

2. 学びの意義と目標

就活を意識した場合に、準備しなければならないことがいくつかあります。中でもエントリーシートを書いたり、面接に臨んだりするための準備は周到にしなければなりません。エントリーシートというのは読んで名のごとし。志望先にアプローチするためのツールです。これの書き方によって先に進めるか否かが大きく左右されます。エントリーシートで重要なのは、自己PRと志望の動機がきっちり書けていることです。この授業では志望動機を過不足なく書けるようになるために不可欠な「業界・企業研究」について勉強します。これまでの先輩がたの例を挙げると、遺憾ながら面接を含めて志望動機を相手先によく伝えることが出来なかったケースが多かったと言えます。志望動機をうまく伝えることが出来ないのは、それが全てではありませんが、業界・企業研究が不十分であるからと言っても過言ではありません。そのために、この授業が必要とされるのです。「転ばぬ先の杖」ということがあります。またものごとには必ず「傾向と対策」があります。就活本番での成功を掴み取るために、是非一緒に勉強して行きましょう。

受講生に対する要望

真面目に就活に取り組む意欲の強い学生の受講を希望します。

キーワード

(1)就活の仕組みを知る (2)エントリーシートを知る (3)業界・企業＝敵を知る

事前学習（予習）

格別の準備は必要ありませんが、受講する学生は、並行して、マナー、言葉遣い、一般常識等のシェーブアップについても心掛けるようにして下さい。

復習についての指示

実践が大事です。その都度指示する課題が復習になりますので、作業指示は絶対を守りるようにして下さい。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 就活の仕組みを知る
3. 業界・企業研究とエントリーシート・面接
4. 業界研究の必要性
5. さまざまな業界を知る(1)
6. さまざまな業界を知る(2)
7. 企業研究の必要性
8. 企業研究の方法(1)
9. 企業研究の方法(2)
10. 企業研究の方法(3)
11. 働く場としての中堅・中小企業
12. 業界・企業研究実習(1)
13. 業界・企業研究実習(2)
14. 業界・企業研究実習(3)
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)レポート:60%:3回程度のレポート提出を求めます。(2)授業への貢献:40%:出席状況等授業への参加状況を評価。

担当者：藤井 重隆

開設期：秋学期/春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

自分はどんな仕事をしたいのか、自分に向いている仕事はあるのだろうか、沢山の情報や選択肢の中から自分の納得いく仕事に出会って就職したいものである。この課題に取り組む手法として「履歴書」や「エントリーシート」を書いてみることで自分自身を理解し、求人票や求人情報に触れてみることで企業やその理念、職種や雇用条件などを理解する。そして志望動機を明確にしていくプロセスを体験する。業界や企業は時代の流れに応じて浮沈を繰り返していく。ワークショップを通して疑問点を解消し、業界や企業への理解を深め、合わせて就職の仕組みも学んでいく。

2. 学びの意義と目標

就職活動の前に自分のキャリアデザインをどう考えるかを自分に問う機会とする。また将来、転職や再就職などの事態に遭遇しても新たな職場で自分のキャリア伸ばしていく考え方を持つことの大切さを理解する。

受講生に対する要望

「インターンシップⅠ(事前学習)」、「インターンシップⅡ(実習)」を履修した、または履修予定の学生の履修が望ましい。

キーワード

(1)業界 (2)就職先 (3)エントリー (4)志望動機 (5)キャリア

事前学習（予習）

講義のポイントは講義中に理解できるよう心掛けること。不明点は質問して講義中に理解しておくこと。

復習についての指示

講義内容は復習によって理解を定着させておくこと。

授業計画

1. 「業界研究」の目的、方法とゴール
2. 履歴書、エントリーシートを知る
3. 自分はどんな人間か、何をしたい人間かを考える
4. ワークショップ①理想的な履歴書
5. 求人票、求人情報を知る
6. それぞれの業界はどのような人材を求めているかを考える
7. ワークショップ②志望先の絞り込み
8. 志望動機について考える
9. ワークショップ③志望先の会社内容について納得する
10. 模擬企画プロジェクト
11. 「業界研究」：企業の成長と衰退
12. グループワーク④志望する業界の検討と評価
13. 実業家(先輩)による講演
14. 「業界研究」のまとめ、キャリアデザインと「就業力育成」
15. 提出レポートへのコメントと教員からのフィードバック

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席点:50% (2)レポート:40% (3)受講態度:10%

社会人並の自己管理を求める。15回で完結する内容を組んでいるため全講座出席のこと。遅刻3回で1回欠席扱いとする。

担当者：鈴木 潔

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

知の基礎力：政治や社会のしくみの理解

カリキュラム上の位置付け

行政コース：基幹科目

講義概要

1. 内容

あなたは行政のサービスに満足しているだろうか？ もし不満だとしたら、どうすれば満足できるように変えられるだろうか？ それを知りたいければ、遠回りのようではあるが、行政の基本的な仕組みを知らなければならない。そこで、この講義では、これまでの行政学の蓄積を利用し、現代日本における行政の仕組みと行政の理論を中心に説明する。この講義は、政治学、憲法（統治）、政治過程論、地方自治論、公共政策論などを学習するうえで重要なポイントとなる行政の仕組みに関する知識を提供している。

2. 学びの意義と目標

行政サービスが暮らしの隅々にまで行き渡っている今日では、行政に関する正確かつ体系的な知識を持つことは社会人にとっての基本的素養である。この講義では、受講者が(1)行政の主要な仕組みを理解できるようになること、(2)抽象的な行政の理論を用いて具体的な行政の活動を説明できるようになること、(3)行政を評価し、コントロールするために必要な事柄について考察できるようになることを目標とする。

受講生に対する要望

この講義ではアクティブラーニングを重視する。毎回の講義で実施する小テスト、学期中に複数回実施するレポート報告とディスカッションを通じて、自ら考えをまとめて適切に表現する能力を養う。積極的な態度で授業に臨むこと。

キーワード

(1)公務員制度 (2)内閣制度 (3)官民関係 (4)官僚制論

事前学習（予習）

受講者は、政治・行政に関するテーマについて、書籍、新聞、ニュースなどを利用して情報を収集し、自分が問題意識をもつテーマについて説明できるようにしておくこと。

復習についての指示

毎回の講義で実施する小テストの内容を十分に確認しておくこと。

授業計画

1. 行政学の範囲と学習方法
2. 国家公務員の採用
3. 国家公務員の昇進
4. 国家公務員の退職と天下り
5. 内閣制度の歴史
6. 内閣制度の現在
7. 中央省庁（1）
8. 中央省庁（2）
9. 政官関係
10. 行政ネットワーク（特殊法人、業界団体）（1）
11. 行政ネットワーク（NPO、諮問機関）（2）
12. 行政管理と行政改革
13. 官民関係（民営化、規制緩和）（1）
14. 官民関係（民間委託、NPM）（2）
15. レポートの報告とディスカッション（1）
16. 中央省庁の意思決定方式
17. 予算編成過程
18. 決算と会計検査院
19. 行政責任（1）
20. 行政責任（2）
21. 行政学説史
22. 政策決定論
23. 政策実施論
24. 政策評価論
25. 官僚制論
26. 官僚制批判
27. 官僚制の演繹モデルと帰納モデル
28. レポートの報告とディスカッション（2）
29. 日本の行政システム
30. 学期末試験

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)平常点:50%:授業貢献度、小テスト、出席状況 (2)期末試験:30% (3)レポート:20%

行政法

LAW-L-200

担当者：仲田 孝仁

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

社会福祉主事任用資格：選択科目、
行政コース：基幹科目

講義概要

1. 内容

本講義では、各種行政活動に共通する通則的な理論である「行政法総論」と、違法な行政活動に対する事後的な権利・利益の救済制度である「行政救済法」とを学ぶ。公務員（事務職、警察官、消防士）として任用された場合は、実際に法律や条例を運用し、また民間企業であれば、行政の規制を受けない業種・業界はないといっても過言ではない。さらに、市民としても、運転免許や営業許可の取得、各種申請・届出、ゴミ収集、年金の給付等行政との関わりは生涯切っても切れないといえる。よって、公務員希望者に限らず、企業に就職し或いは一市民として社会生活を営む上でも「行政法」を学ぶ重要性は極めて高い。本科目は法学であり、法学概論や憲法、民法などの基幹科目との対比では、応用科目に位置する。とはいえ、法学の基礎についても適宜ふれる。諸君の将来の進路とのかかわりでは、各種国家試験や資格試験対策としても必要性がある科目である（むろん、民間企業への就職希望や自営業者でもニーズはある。）。

2. 学びの意義と目標

本講義は、「行政法」の入門的な知識や考え方を履修者に修得させることを主たる目的とする。また、本講義を履修することにより、私たちが一市民としていかに「行政」との法的な関わりが切っても切れないものであるかを認識させる。その上で一国民や市民としての視点から、より望ましい「行政（活動）」のあり方を諸君自身で考えたり、問題提起することができ、実社会に生じる行政上の諸問題（例えば、食品の偽装表示、食の安全性、ストーカー規制、個人情報やプライバシーの保護、原子力規制、建築物規制、薬害の問題などに見られる、国民と行政との法的関係）を法的に考えることができる。諸君は、既に自動車の運転免許を取得しているか？自宅から外に出れば「道路交差点」の規制をうけ、「道路法」による公的管理に服している（国道と県道）。このように、身近な「行政法」の世界を皆さんに理解していただくことに学びの意義がある。以上に加えて、授業中頻りに発言を求め、ペーパーにて意見を書いていただく機会を持つ。自分の考えを話し相手に正確に伝え、法的に自分の意見を述べる、或いは書き伝える力が自然とつくこととなろう。

受講生に対する要望

毎回出席することを前提とする。日ごろから「行政」にかかわる話題を、ニュースやインターネット、新聞などのメディアを通じて関心を持って欲しい。

キーワード

事前学習（予習）

2013年は、食品のメニューにある食材の偽装であったり、冷凍食品に農薬が混入された事件があった。消費者にとって食の安全は、関心事であるが、食品の安全性が確保されるために「行政」ができることを調べてほしい。

復習についての指示

概ね2週分の内容について、その翌週に小テストを行うので、講義内容について、十分復習しておくこと。1回目の範囲は初回の講義時に指示する。

授業計画

1. ガイダンス（「行政法」とは？学習する意義。）
2. 行政法の基本構造（法律による行政の原理、公法・私法二元論）
3. 行政の仕組（1）行政組織法概説（「行政主体」・「行政機関」概念、内閣、「国家行政組織法」概説）
4. 行政の仕組（2）地方自治法概説
5. 公務員法（国家公務員と地方公務員、人事院、人事委員会、公務員の内定、公務員の任用から退職まで、懲戒・分限処分）
6. 行政立法と行政計画（法規命令と行政規則、浜松市土地区画整理事業計画）
7. 行政裁量（日光太郎杉事件、伊方原発訴訟、マクドナルド事件）
8. 行政手続（1）行政手続法、申請に対する処分、不利益処分
9. 行政手続（2）個人タクシー事件、パブリック・コメント制度
10. 情報公開・個人情報保護（情報公開法、個人情報保護法）
11. 行政行為（1）行政行為の概念・類型、命令の行為と形式的行為、許可と特許
12. 行政行為（2）行政行為の効力・無効と取消（公定力、重大・明白説とは？）
13. 行政行為（3）取消と撤回・附款（実子あっせん事件、菊田医師事件）
14. 行政の実効性確保の手段（1）行政代執行法、違法建築物の除去）
15. 行政の実効性確保の手段（2）（レッカー移動）
16. 行政契約・行政指導－公害防止協定、宅地開発要綱
17. 行政救済法総説
18. 損失補償－憲法29項3項、破壊消防、奈良県ため池条例事件
19. 国家賠償（1）総説・1条責任（公権力責任）、パトカーによる追跡、学校におけるいじめと自殺
20. 国家賠償（2）－2条責任（営造物責任）・賠償と補償の谷間（予防接種禍）
21. 行政不服申立て（1）（「行政不服審査法」の概要について）
22. 行政不服申立て（2）（審査請求について）
23. 行政事件訴訟（1）総論（行政事件訴訟法、抗告訴訟、取消訴訟）
24. 行政事件訴訟（2）取消訴訟の対象（取消訴訟の対象となる「処分」とは？）
25. 行政事件訴訟（3）一訴えの利益
26. 行政事件訴訟（4）取消訴訟の審理手続
27. 行政事件訴訟（5）取消訴訟以外の抗告訴訟
28. 行政事件訴訟（6）客観訴訟（住民訴訟、違法な公金の支出をどのように回収するか。）
29. 行政救済法事例式問題演習－トンネル天井板落下事故、防空壕地盤沈下事件
30. これまでの講義のまとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 期末試験：70% 正誤問題、5 択の択一式問題、事例式問題からなる。(2) レポート：10% 「行政」にかかわる記事を探し、それを「行政法」的に分析するレポートを課す。(3) 小テスト：20% 講義内容の理解度をみる目的で、「アチーブメント・テスト」を2週に1回の割合で実施する。

担当者：酒井 祐太郎

開設期：秋学期/春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

知の基礎力：組織人としてのマナーおよび経営の基礎知識

カリキュラム上の位置付け

ビジネスコース：基幹科目

講義概要

1. 内容

1 目的：当科目は、企業の経営・管理の体系的知識を基本的レベルから学ぶことを目的とします。現代は企業の時代と呼ぶことができるほど、我々の生活は企業活動なしには成立しません。我々は消費者や労働者という意味でも企業に深くかかわっています。その意味で、企業という組織を多面的に考察することは、社会の構成員としても必須の事と言えよう。実際の講義では、まず我々と企業とが基本的にどのようななかかわりを持つか、企業が社会の中でどのような役割を持って存在しているか、また企業が社会の様々な要因変化にどのように対応してゆくべきかを考える。2 カリキュラム上の位置づけ：入門レベルの授業を考えています。経営学のより専門的な内容の導入としての科目として捉えて頂きたい。

2. 学びの意義と目標

当授業の到達目標は、①経営学の基礎としての専門用語を理解できるようにすること、②経済・経営に関する新聞記事等を理解し、読めるようにすること、③経営学の中の各専門分野をさらに深く学ぶための基礎力と身につけること、④経営学上の財務分析の基礎が自分でできるようにすることである。

受講生に対する要望

経営、経済に関する内容なので、新聞やニュースに関心を持ってほしい。また、授業の内容に基づき、課題を積極的にに行い、理解を深めてほしい。

キーワード

事前学習（予習）

授業時に次の学習内容を告知するので、その内容を参考書等を利用して学習すること。

復習についての指示

テーマごとに課題を課すので、それを復習として行い、理解を深めること。

授業計画

- 履修上の注意、企業の役割、環境変化に対する企業の対応（1）
- 環境変化に対する企業の対応（2）（特に国際関係に関して）
- 企業内の階層と経営者（水平的分業と垂直的分業 1）
- 企業内の階層と経営者（水平的分業と垂直的分業 2）
- 経営組織について（1）ライン組織、ラインアンドスタッフ組織
- 経営組織について（2）事業部制組織 1
- 経営組織について（3）事業部制組織 2、その他の組織の応用形態
- 人的資源管理（1）労働条件（1）
- 人的資源管理（2）労働条件（2）
- 人的資源管理（3）人事制度（1）
- 人的資源管理（4）人事制度（2）
- 企業形態（1）合名会社、合資会社
- 企業形態（2）株式会社（1）
- 企業形態（3）株式会社（2）
- 企業形態（4）株式会社（3）
- 企業形態（5）株式会社（4）
- 所有と経営の分離・一致とは？
- 所有と経営の分離・一致のケーススタディ
- 財務管理の基礎（1）財務管理とは？
- 財務管理の基礎（2）貸借対照表の内容
- 財務管理の基礎（3）損益計算書の内容
- 経営分析の基礎
- 経営分析の基礎 実例分析
- 経営分析の基礎（2）
- マーケティングの基礎（1）製品戦略（2）価格戦略
- マーケティングの基礎（3）広告戦略（4）流通戦略
- マーケティングの基礎（5）消費のパターン等
- 経営戦略の考え方（1）
- 経営戦略の考え方（2）
- まとめ

教科書

上林 憲雄、奥林 康司、園 泰雄、開本 浩矢、森田 雅也、竹林 明『経験から学ぶ経営学入門（有斐閣ブックス）』（有斐閣）

評価方法

- (1) 定期試験：70%：中間試験および期末試験を実施予定 (2) 課題レポート：30%

担当者：八木 規子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

知の基礎力：組織人としてのマナーおよび経営の基礎知識

カリキュラム上の位置付け

ビジネスコース：基幹科目

講義概要

1. 内容

現代の経営学は、複雑、多様化する現実の企業経営に対応すべく、その考察対象を広範にし、また細分化している。経営学の入門編としての本科目は、まず、その全体像を把握することを目指す。経営学の基礎的概念、基本用語、各理論の概要について解説し、経営学の考察対象である企業の特徴・諸側面について学ぶこととする。

2. 学びの意義と目標

経営学の主な研究・考察対象は「企業」である。現在の我々の経済社会は、「企業」に大きく依存し、また影響を受けている。現在の社会現象の多くは、企業との関わりを考慮することなくしては、それらを正しく理解することは困難である。また、企業は、多くの人々の仕事の場である。したがって、企業の仕組みや性質を知ることが、すべてのひとびとにとって重要である。経営学では、企業を理解し、判断するための「見地（ものをみる見方・視点）」を養うことを目標とする。「企業もしくは会社と呼ばれているものは、いったい何なのか」「会社の組織はどうなっているか」「企業がどのように活動しているのか」「企業は、それを取り巻く諸環境とどう結びつき、関わっているか」「どの国の企業もそれぞれ独自性をもつが、日本の企業の特徴は何か」「時代の動きに対応しつつ、望ましい企業経営を行うには、どのようにしたらよいか」これらさまざまな問題について考えていこうとするのが、経営学の目的である。

受講生に対する要望

企業という存在に関心を持ち、企業を継続的、計画的に存在させ、一定の成果を挙げる営み—経営—について多くの学生が興味をもって学んでくれることを要望する。

キーワード

(1) 企業 (2) 組織 (3) 経営

事前学習（予習）

教科書の該当箇所および追加で配布する資料を読み込んでおくこと。追加資料（ケース等）はE-learningシステムにアップロードするので、システムの使い方に習熟すること

復習についての指示

試験は、講義内容をもとに行うので、講義毎にノートまとめておくこと。

授業計画

1. 本科目の進め方について。経営学とは何か
2. 経営学の位置づけ—社会科学における経営学
3. 企業の特徴
4. 企業の分類
5. ケース分析：公企業、第三セクター問題
6. 株式会社の特徴と仕組み
7. 所有と経営の分離
8. ケース分析：所有と経営に関する日本企業の現状
9. 経営学の発生
10. テイラーと科学的管理法
11. フォードとフォードイズム
12. ファヨールと管理過程論
13. 前半まとめ
14. 中間試験
15. 人間関係論
16. 行動科学的管理論—1
17. 行動科学的管理論—2
18. 近代管理論—1
19. 近代管理論—2
20. 企業の組織形態—1
21. 企業の組織形態—2
22. ケース分析：フォードとGM
23. 経営戦略論—1
24. ケース分析：富士フィルム
25. マーケティング
26. ケース分析：ライオン
27. 人事管理
28. ケース分析：富士フィルムと松下電器
29. 後半まとめ
30. 期末試験

教科書

井原 久光 『テキスト経営学—基礎から最新の理論まで（MINERVA TEXT LIBRARY）』（ミネルヴァ書房）

評価方法

(1) 授業出席・参加点：30%：小テスト、ディスカッションへの参加等を含む (2) 中間試験：35% (3) 期末試験：35%

担当者：由川 稔

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ、
知の基礎力：市民および職業人としての基本的知識と技能

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：公民必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目、
社会福祉主事任用資格：選択科目

講義概要

1. 内容

経済学は抽象化や理論化という科学的な方法に拠っています。日常生活の中で、しばしば「感情」や「常識」に埋没して見えなくなりしがちな経済現象の「本質」を暴き、そこから新しい経済や人間のあり方などを構想するためです。しかしやり方を間違えると、かえって現実を見る目を曇らせてしまいます。授業では、このバランスを重視したいと思います。

2. 学びの意義と目標

本来、「経済が人間のためにあるのであって、人間が経済のためにあるのではない」はずです。しかし現実の経済は、人間を奴隷化する恐ろしい面も持っています。究極的には、私たちが英知と勇気を持って、少なくとも経済の面で明るい未来を築いていくことが、経済学を学ぶ意義であり、目標であると言えるでしょう。

受講生に対する要望

「経済」と「経済学」の総合的なイントロダクションにし、資格や公務員等の各種試験対策は他に譲りますので、ご注意ください。なお、授業では教科書以外にも、配布資料を準備します。

キーワード

(1)経済 (2)友愛 (3)自由 (4)公正 (5)競争・効率

事前学習（予習）

教科書の予習ポイントは毎回指示します。国内外の政治経済動向に十分注意する姿勢を持ち続けてください。

復習についての指示

復習は絶対に必要です。何度でも、読んで、書いて…、「頭で」というよりもむしろ「身体で」覚えるくらいの意識で臨んでください。

授業計画

1. 経済学とマネーの暴走（1）
2. 経済学とマネーの暴走（2）
3. 経済学とマネーの暴走（3）
4. 経済学とマネーの暴走（4）
5. 経済と法（1）
6. 経済と法（2）
7. 租税と財政の問題（1）
8. 租税と財政の問題（2）
9. 租税と財政の問題（3）
10. 租税と財政の問題（4）
11. 新自由主義（1）
12. 新自由主義（2）
13. ケインズ理論をめぐって（1）
14. ケインズ理論をめぐって（2）
15. ケインズ理論をめぐって（3）
16. ケインズ理論をめぐって（4）
17. ケインズ理論をめぐって（5）
18. ケインズ理論をめぐって（6）
19. 国際経済（1）
20. 国際経済（2）
21. 国際経済（3）
22. 国際経済（4）
23. 消費者行動（1）
24. 消費者行動（2）
25. 消費者行動（3）
26. 消費者行動（4）
27. 生産者行動（1）
28. 生産者行動（2）
29. 生産者行動（3）
30. 生産者行動（4）

教科書

伊藤元重 『はじめての経済学「上」』（日本経済新聞出版社）伊藤元重 『はじめての経済学「下」』（日本経済新聞出版社）

評価方法

(1)受講態度:20%:授業内小テストを含む (2)レポート等:20%:諸提出物 (3)試験:60%

担当者：鈴木 真実哉

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

知の基礎力：政治や社会のしくみの理解

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

現代の経済学の教科書は、過去の経済学の偉人たちの業績の集大成である。これを分解して、個々の経済学者の生き方と理論について解説する。現代では、あまり触れられることのない経済学の碩学についてもできるだけとりあげる。時代的には、「経済学」が独立した学問となったとされるアダム・スミスの時代以降である。

2. 学びの意義と目標

様々な経済理論や政策、制度の背景を理解する科目である。選択専門科目ではあるが、多くの学生に受講してもらいたい。経済思想の歴史を学ぶ科目である。現代の経済的発展は多くの過去の偉大な経済学者の努力の上に成り立っている。この科目はこの事実を具体的に理解できるようになっている。その生き方と思想は多大な感銘をもたらすであろう。

受講生に対する要望

現代の経済学に到る経済思想の巨人たちに対して、先入観を持たずに深い敬意と関心をもって受講してもらいたい。

キーワード

(1) 温故知新 (2) 経済と人間の幸福 (3) これからの経済学の方

事前学習（予習）

毎回ミニテーマを示すので次回までにレポート用紙1枚程度にまとめておくこと。シラバスの講義予定テーマについて、全体的なサーベイをして簡単なメモを作成しておくこと。

復習についての指示

舞香の板書を整理し、関連書籍を用いて項目ごとに清書ノートを作成しておくこと。

授業計画

1. 序論
2. アダム・スミスと「導徳感情論」
3. アダム・スミスと「国富論」
4. 限界革命と近代経済学の成立
5. 限界革命と近代経済学の成立
6. ジェヴォンズの経済学
7. ジェヴォンズの経済学
8. メンガーの経済学
9. メンガーの経済学
10. ワルラスの経済学
11. ワルラスの経済学
12. 限界革命の展開
13. 限界革命の展開
14. 限界革命の展開
15. 限界革命の展開
16. ケンブリッジ学派
17. ケンブリッジ学派
18. ケンブリッジ学派
19. 不完全競争理論
20. 貨幣理論と物価の変動
21. ケインズの経済学
22. ケインズの経済学
23. ケインズの経済学
24. シュムペーターの経済学
25. シュムペーターの経済学
26. シュムペーターの経済学
27. ハイエクの政治経済学
28. ハイエクの政治経済学
29. ハイエクの政治経済学
30. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 定期試験: 90% (2) 出席状況: 10%

この評価対象は、授業日数の2/3以上の出席回数をクリアしている受講者に限る。

憲法（人権）

LAW-L-200

担当者：石川 裕一郎

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

知の基礎力：政治や社会のしくみの理解

カリキュラム上の位置付け

行政コース：応用科目

講義概要

1. 内容

講義内容が「人権」（日本国憲法でいえば第3章「国民の権利及び義務」）に絞られている分、法解釈に重点を置いた、密度の高い講義を行います。とはいえ、その背景にある政治的・経済的・社会的・文化的諸要素にも相当言及する予定です。ところで、憲法の条文は、他の法律の条文と比べるとはるかに読みやすいのですが、それだけに一読しただけでは具体的に何が言いたいのかわかりにくいものです。本講義では、こういった憲法のわかりにくさに配慮して、できるだけ最近の具体的な事例を挙げつつ、その内容について平易に解説したいと考えています。なお、できるだけアクチュアルな問題を取り上げたいので、内容は多少変更される可能性があります。また、法に関わるゲストスピーカーの講演または映像作品の鑑賞も2～3回ほど実施する予定です。具体的には、内容的に入りやすい刑事手続き上の人権保障（身体的自由）に始まり、人権の一般原則、精神的自由、経済的自由、社会権、参政権、マイノリティの権利等を丁寧に論じてゆくことを考えています。

2. 学びの意義と目標

憲法の一義的目標たる人権保障について学び、人権という視点から政治・経済・社会を考察する能力を身に着けることをめざします。ところで、本講義では第一にオーソドックスな日本国憲法の通説・判例理解をめざしますが、（公務員試験の予備校ではない）大学の講義ですから、それに留まらず、ポストモダニズム、ネオリベラリズム、フェミニズム、マルキシズム、マルチカルチュラルイズム等から挑戦を受ける「近代」の象徴としての立憲主義の意義を検討する、語本来の意味におけるcritiqueな講義としたいと考えています。

受講生に対する要望

本講義の受講者は1年生が多いので、最初から高いことは要求しません。まずはきちんと講義に出席し、聴講することを徹底してほしいと思います。

キーワード

(1) 法学 (2) 公法学 (3) 憲法学

事前学習（予習）

原則として事前にレジュメを配布するので、必ず目を通しておくことを求められます。毎回かなりの分量なので、ある程度の時間と集中力を必要とします。

復習についての指示

毎回の講義の後で、習得した知識の確認と講義への主体的な取り組み姿勢を評価することを目的としたリアクションペーパーの作成および提出を課し、次の回までに講義内容の理解を定着させることを求められます。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 刑事手続上の人権保障(1)
3. 刑事手続上の人権保障(2)
4. 刑事手続上の人権保障(3)
5. 刑事手続上の人権保障(4)
6. 刑事手続上の人権保障(5)
7. 個人の尊重
8. 幸福追求権(1):自己決定権
9. 幸福追求権(2):プライバシー権
10. 公共の福祉
11. 平等原則(1)
12. 平等原則(2)
13. 思想・良心の自由
14. 表現の自由(1)
15. 表現の自由(2)
16. 信教の自由と政教分離原則(1)
17. 信教の自由と政教分離原則(2)
18. 生存権(1)
19. 生存権(2)
20. 労働権(1)
21. 労働権(2)
22. 教育権(1)
23. 教育権(2)
24. 学問の自由と大学自治
25. セクシュアリティ・家族と人権
26. 集団・マイノリティの権利
27. 天皇・皇族と人権
28. 参政権
29. ポストモダンと人権
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 平常点:80%:リアクションペーパーの記述内容によって評価します。(2) 期末試験:20%:場合によっては期末レポートに変更する可能性もあります。

単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。

担当者：松村 芳明

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

知の基礎力：政治や社会のしくみの理解

カリキュラム上の位置付け

行政コース：基幹科目

講義概要

1. 内容

憲法の学習事項は通常、①憲法総論、②人権、③統治機構の3領域に分けられる。この講義はそのうち、①③の領域を扱うことに主眼をおき、それに関係する限りで②の領域にも触れることになる。なお、受講者には積極的に授業に参加するよう求めることになる。

2. 学びの意義と目標

大卒社会人として最低限必要な憲法（なかでも総論、統治機構分野）に関する知識を得ることで、憲法や政治に関する問題について自ら思考し判断するための基盤をつくること。

受講生に対する要望

①教科書を毎回持参すること。②積極的に授業に参加すること。③できれば六法も持参すること。

キーワード

(1) 憲法 (2) 統治機構 (3) 日本国憲法 (4) 立憲主義 (5) 平和主義

事前学習（予習）

教科書を読んでくること。

復習についての指示

教科書や授業プリントを読み返しながら授業で学んだ事項についての理解を確認するとともに、意見の分かれる論点について自分なりに考察すること。

授業計画

1. はじめに
2. 憲法とは何か（1）
3. 憲法とは何か（2）
4. 憲法とは何か（3）
5. 憲法の保障と変動
6. 日本憲法史（1）
7. 日本憲法史（2）
8. 国民主権
9. 違憲審査制（1）
10. 違憲審査制（2）
11. 天皇制
12. 平和主義（1）
13. 平和主義（2）
14. 平和主義（3）
15. 中間試験とその解説
16. 権力分立
17. 国会
18. 議院内閣制・大統領制・首相公選制（1）
19. 議院内閣制・大統領制・首相公選制（2）
20. 議院内閣制・大統領制・首相公選制（3）
21. 裁判所（1）
22. 裁判所（2）
23. 地方自治
24. 人権の概念・主体（1）
25. 人権の概念・主体（2）
26. 公共の福祉
27. 新しい人権
28. プライバシー権
29. 法の下での平等
30. 試験とその解説

教科書

洪谷秀樹 『憲法への招待』（岩波書店）

評価方法

(1) 中間試験：40% (2) 期末試験：50% (3) 授業への参加態度：10%

担当者：小池 茂子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

カリキュラム上の位置付け

コミュニティコース：応用科目

講義概要

1. 内容

1. 内容 本講義では、高齢者を対象とする教育について取り上げる。子どもの学習を支援する教育原理に対して、1970年代から提唱され始めてきた成人教育学なかんずく高齢者の教育学（gerogogy）理論について論じることとする。尚、本講義で扱う高齢者の範囲は、病的及び加齢によって著しい知的な退行現象を呈している高齢者を除く高齢者とする。2. カリキュラム上の位置づけ 資格取得を目指さない学生の受講ももちろん歓迎する。

2. 学びの意義と目標

成人の生涯発達の実践から高齢の特性を理解しそれを踏まえた高齢者を対象とする学習支援の方策について理解する。専門職として（或いは一個人として）、高齢者教育の現代的意義と高齢者に接する際の配慮の視点を受講生が理解することを本講義の目標とする。

受講生に対する要望

遅刻、無断欠席は厳禁とする。

キーワード

(1) 少子高齢化 (2) 老年学 (3) 成人の学習理論 (4) ジェロロジー (5) 加齢と知能

事前学習（予習）

講義の中で紹介する、文献、資料等に事前に目を通して講義に臨むこと。

復習についての指示

毎回、授業の講義ノートの整理をすること。

授業計画

1. 日本社会の高齢化の状況と将来推計
2. 戦前の高齢者の社会的地位（家長制度、尊属優位の民法規定）
3. 1960年代以降のわが国の高齢者を対象とする政策の変遷
4. 高齢期の幸せな生活をめぐる主張（活動理論と離脱理論等）
5. 生涯発達理論について
6. 加齢と知的能力
7. 成人教育学（andragogy）理論—子どもの学習支援とどこが違うのか—
8. 成人後期の発達と危機（高齢期の発達課題・生活課題）
9. 高齢者の特性を活かした教育学（gerogogy）の理論
 10. 高齢者の特性を活かした、有効な学習方法
 11. 高齢者の学習関心・学習要求（1）
 12. 高齢者の学習関心・学習要求（2）
 13. 具体的な教育実践の紹介
 14. 活躍する高齢者紹介
 15. まとめ

教科書

堀薫夫・三輪建二 『生涯学習と自己実現』（放送大学教育振興会）

評価方法

(1) 出席点：25% (2) 平常点：25% (3) 試験：50%

担当者：小池 茂子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

社会教育主事資格：選択必修科目、
コミュニティコース：応用科目

講義概要

1. 内容

1. 内容 第1に、今日問題になっている青少年の自立と社会性の育成をどのようにするかを巡って展開されている「奉仕活動」の学校教育や社会教育政策の中での奨励をめぐる議論について取り上げる。第2に、人間がよりよく生きていくためには、生にまつわる否定的側面の課題（死・病、対象喪失などをめぐる課題）を直視し考えることの必要を説く「生と死の準備教育」がある。「生と死の準備教育」提唱者たちの理念、教育目的、教育内容を紹介し、生涯教育としての「いのち」を考える教育の可能性について考えていきたい。2. カリキュラム上の位置づけ 資格取得を目的としない学生の受講も歓迎する。

2. 学びの意義と目標

青年期を生きる人間の生をよきものとするため、どのような教育が必要なのかを受講生が自らの課題として考察することを目標とする。

受講生に対する要望

本講義では現代社会の中に存在する青年期の教育を取り巻く課題について取り上げる。そして、そこには正答というものがない。したがって受講生が、あるいは受講生同士が意見の交換を通じて一つ一つの課題について、自分の問題として考えることを期待したい。

キーワード

(1) 青少年非行 (2) ポストモダン (3) 奉仕活動の義務化 (4) シティズンシップ教育 (5) 生と死の準備教育

事前学習（予習）

講義では、教科書を使用しないため、事前に資料を配布して講義を進めていく。そこで毎回の講義に際し、事前に資料に目を通し資料の内容を理解した上で講義に臨むこと。

復習についての指示

講義の中で小レポート課し、学生諸君の意見を求めることが間々ある。課題レポート作成に際しては自分で主体的に問題と向き合い、自分の意見を根拠を示して表明することを常に心がけてほしい。

授業計画

1. オリエンテーション：教育政策の保守化と青少年教育の動向
2. 青少年問題（戦後の青少年非行の変遷）・社会のアノミー化
3. 青少年問題審議会答申に見る青少年問題の今日的動向と教育的課題
4. 教育改革国民会議の中間報告「学校教育における奉仕活動の義務化」をめぐる議論
5. 学校教育における「奉仕活動」の是非をめぐる議論
6. イギリスにおけるシティズンシップ教育
7. 「新しい公共」について～公共哲学の議論にみる「公共」とは～
8. 青少年教育における奉仕活動をめぐる議論のまとめ
9. 「死生学」、「死の準備教育」、「いのちの教育」とは何か
10. わが国における「死の準備教育」
 11. 子どもの「死」をめぐる問題に関する意識調査・結果（1）
 12. 子どもの「死」をめぐる問題に関する意識調査・結果（2）
 13. 学校教育におけるいのちをめぐる教育の理念、目的、カリキュラム
 14. 初等・中等教育学校段階における「死の準備教育―実践事例の紹介―」
 15. まとめ

教科書

授業の中で指示する
講義の中で扱うテーマに関する資料を事前に配布し、それに基づいて講義を行う。

評価方法

- (1) 出席点：25% (2) 平常点：25% (3) レポート点：50%

担当者：鈴木 潔

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

行政コース：基幹科目

講義概要

1. 内容

公共政策とは、一個人や一企業を超えた多くの人々に関わる公共的問題の解決策のことをいう。A君の就職が決まらないことは私的问题であるが、日本の大学生の就職率が低下することは公共的問題である。当然ながら、私的问题の解決手段と公共的問題の解決手段はかなり異なる。この講義では、公共政策を意図（なぜ）、主体（だれが）、行動（どのように）という観点から読み解いていく。それを通じて公共的問題の本質を理解することを目指す。具体的には、これまでの公共政策学の蓄積を利用し、公共政策がどのように決定され、実施され、評価されているかという公共政策のプロセスを説明する。この講義は、まちづくり学、環境政策論、社会保障論、リスク対策論、社会福祉行政論、公的扶助論、児童福祉論などの個別政策の学習を進めていくうえで、その共通基盤となる公共政策の知識を提供するものである。

2. 学びの意義と目標

受講者が将来どのような職業に就くにせよ、国や自治体の公共政策について、常識的な判断力を持ち合わせておかねばならない。そこで、公共政策が、どのように決定され、実施され、評価されているかを理解し、国や自治体の公共政策の適否を総合的に判断できる能力を身につけることを目標とする。

受講生に対する要望

この講義ではアクティブラーニングを重視する。毎回の講義で実施する小テスト、学期中に複数回実施するレポート報告とディスカッションを通じて、自ら考えをまとめて適切に表現する能力を養う。積極的な態度で授業に臨むこと。

キーワード

(1) 公共政策と公共問題 (2) 政策決定 (3) 政策実施 (4) 政策評価

事前学習（予習）

受講者は、事前に指示される教科書の当該箇所を読み、用語などを調べておくこと。また、公共政策は現実の社会問題の解決に寄与することを志す実践的学問であるから、日ごろから時事問題に関心を払っておくことが求められる。

復習についての指示

毎回の講義で実施する小テストの内容を十分に確認しておくこと。

授業計画

1. イントロダクション
2. 公共政策とは何か（1）公共政策の基本構造
3. 公共政策とは何か（2）公共政策へのアプローチ
4. 公共政策学の系譜（1）第1期・第2期
5. 公共政策学の系譜（2）第3期
6. アジェンダ設定（1）アジェンダ設定理論
7. アジェンダ設定（2）政策決定
8. 政策問題の構造化
9. 公共政策の手段（1）直接供給と直接規制
10. 公共政策の手段（2）誘因およびその他の手段
11. 規範的判断（1）公平、効率性、安全・安心、自由
12. 規範的判断（2）価値の対立と政策の判断基準
13. 政策決定と合理性（1）政策決定の合理化への試み
14. 政策決定と合理性（2）合理的意思決定の限界
15. 政策決定と利益（1）利益調整としての政策決定過程
16. 政策決定と利益（2）利益と政治
17. 政策決定と制度
18. レポートの報告とディスカッション（1）
19. 政策決定とアイディア（1）アイディアの概念、アイディアによる影響
20. 政策決定とアイディア（2）政策へのプロセス
21. 公共政策の実施（1）位置づけと構造、実施の現場
22. 公共政策の実施（2）実施研究のアプローチ
23. 公共政策の評価（1）評価のロジック、政策評価の種類と機能
24. 公共政策の評価（2）政策評価の政治性と参加
25. 公共政策管理のシステム（1）市場メカニズムの活用
26. 公共政策管理のシステム（2）地方分権とガバナンス
27. レポート報告とディスカッション（2）
28. 応用問題（1）国際紛争
29. 応用問題（2）社会保障と税負担
30. 期末試験

教科書

秋吉 貴雄、伊藤 修一郎、北山 俊哉 『公共政策学の基礎（有斐閣ブックス）』（有斐閣）

評価方法

(1) 平常点:50%:授業貢献度、小テスト、出席状況 (2) 期末試験:30% (3) レポート:20%

担当者：宮寺 良光

開設期：春学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

社会福祉主事任用資格：選択科目、
行政コース：基幹科目、
コミュニティコース：応用科目

講義概要

1. 内容

・公的扶助の概念・貧困・低所得者問題と社会的排除・公的扶助の歴史・生活保護制度の仕組み・生活保護の運営実施体制と関係機関・生活保護の動向・低所得者対策とホームレス対策・自立支援プログラムの意義と実際

2. 学びの意義と目標

・低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズとその実際について理解する。・相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活保護制度に係る他の法制度について理解する。・自立支援プログラムの意義とその実際について理解する。

受講生に対する要望

・出席を単位修得の条件とするため、3分の2以上は出席するようにしてください。・集中講義であるため、長時間受講するのは苦痛を伴うと思うので、お互いにメリハリを付けて取り組みましょう。

キーワード

(1) 貧困・低所得 (2) 生活保護 (3) 自立支援

事前学習（予習）

(1) 講義内容の予習 → 毎回配付する資料を読解してくる

復習についての指示

(1) 講義内容の復習 → 毎回出題する課題に対して、400文字程度のレポートを提出する

授業計画

1. 公的扶助の概念
2. 貧困・低所得者問題と社会的排除
3. 公的扶助の歴史 (1) 海外の歴史
4. 公的扶助の歴史 (2) 日本の歴史
5. 生活保護制度の仕組み (1) 生活保護法の目的・原理
6. 生活保護制度の仕組み (2) 生活保護法の原則
7. 生活保護制度の仕組み (3) 生活保護の種類と内容
8. 生活保護制度の仕組み (4) 生活保護基準と実施要領
9. 生活保護制度の仕組み (5) 保護施設
10. 生活保護制度の仕組み (6) 被保護者の権利と義務・不服申立てと訴訟
11. 生活保護の運営実施体制と関係機関
12. 生活保護の動向
13. 低所得者対策とホームレス対策
14. 自立支援プログラムの意義と実際
15. 貧困・低所得者に対する相談援助活動

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 出席:30% (2) 小レポート:30% (3) 試験:40%

担当者：鈴木 潔

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

公務員試験対策プログラム科目

講義概要

1. 内容

公務員試験の教養試験は、社会科学、人文科学、自然科学、数的・判断推理、文章理解・資料解釈など出題範囲が幅広いため、要領よく集中して学習をすることが求められる。この講義は、大卒程度の警察官、消防官、一般行政職などの採用試験に合格することを目的とする。そこで、次のことを行う。（１）受講生が教養試験の演習問題を実際に解くことで実力の養成を図る。（２）指定された範囲の中から受講生自身が演習問題を選び、予習したうえで、講義で他の学生に解説する。学生同士で教え合うことを基本とし、教員はそれを支援する。コミュニティ政策学科の「警察官・消防官・一般行政職公務員試験対策プログラム」の一環であり、公務員試験の受験を志す受講者に対して開講されている。他の公務員講座関係の講義も併せて受講することを強く勧める。

2. 学びの意義と目標

教養試験のアウトラインを把握するとともに公務員試験の1次試験に合格する実力を養成することを目指す。受講生の苦手分野を中心に過去問に取り組むことにより実力の底上げを図る。

受講生に対する要望

公務員試験の合格を目指す学生向けの演習であることを認識し、積極的な態度で授業に臨むこと。

キーワード

(1) 地方公務員試験 (2) 警察官 (3) 消防官 (4) 一般行政職 (5) 教養試験

事前学習（予習）

理解を深めるため、指定された範囲の中から受講生自身が演習問題を選び、予習したうえで、講義で他の学生に解説すること。

復習についての指示

知識の定着を図るため、授業で取り上げた頻出テーマや過去問は必ず復習すること。

授業計画

1. イントロダクション
2. 演習問題I
3. 演習問題II
4. 演習問題III
5. 演習I～IIIの復習
6. 演習問題IV
7. 演習問題V
8. 演習問題VI
9. 演習IV～VIの復習
10. 演習問題VII
11. 演習問題VIII
12. 演習問題IX
13. 演習VII～IXの復習
14. まとめ
15. 最終試験とその解説

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 平常点:70%:授業貢献度、出席状況 (2) 試験:30%

担当者：鈴木 潔

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

公務員試験対策プログラム科目

講義概要

1. 内容

公務員試験の教養試験は、社会科学、人文科学、自然科学、数的・判断推理、文章理解・資料解釈など出題範囲が幅広いため、要領よく集中して学習をすることが求められる。この講義は、大卒程度の警察官、消防官、一般行政職などの採用試験に合格することを目的とする。そこで、次のことを行う。（１）受講生が教養試験の演習問題を実際に解くことで実力の養成を図る。（２）指定された範囲の中から受講生自身が演習問題を選び、予習したうえで、講義で他の学生に解説する。学生同士で教え合うことを基本とし、教員はそれを支援する。コミュニティ政策学科の「警察官・消防官・一般行政職公務員試験対策プログラム」の一環であり、公務員試験の受験を志す受講者に対して開講されている。他の公務員講座関係の講義も併せて受講することを強く勧める。

2. 学びの意義と目標

教養試験のアウトラインを把握するとともに公務員試験の1次試験に合格する実力を養成することを目指す。受講生の苦手分野を中心に過去問に取り組むことにより実力の底上げを図る。

受講生に対する要望

公務員試験の合格を目指す学生向けの演習であることを認識し、積極的な態度で授業に臨むこと。

キーワード

(1) 地方公務員試験 (2) 警察官 (3) 消防官 (4) 一般行政職 (5) 教養試験

事前学習（予習）

理解を深めるため、指定された範囲の中から受講生自身が演習問題を選び、予習したうえで、講義で他の学生に解説すること。

復習についての指示

知識の定着を図るため、授業で取り上げた頻出テーマや過去問は必ず復習すること。

授業計画

1. イントロダクション
2. 演習問題I
3. 演習問題II
4. 演習問題III
5. 演習I～IIIの復習
6. 演習問題IV
7. 演習問題V
8. 演習問題VI
9. 演習IV～VIの復習
10. 演習問題VII
11. 演習問題VIII
12. 演習問題IX
13. 演習VII～IXの復習
14. まとめ
15. 最終試験とその解説

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 平常点:70%:授業貢献度、出席状況 (2) 試験:30%

公務員講座(数的・判断推理)

PUSE-L-100

担当者：鈴木 潔

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

公務員試験対策プログラム科目

講義概要

1. 内容

本講義は大卒程度の警察官、消防官、一般行政職などの採用試験の合格を目的としている。これらの採用試験は職種により試験出題科目は異なるが、教養試験は全職種の採用試験に共通し、警察官・消防官の採用試験は全国どこでも教養試験のみで第一次の合否が判定されている。教養試験を一般知識分野と一般知能分野とに分け、過去の出題傾向・実際の試験問題を分析した上で、試験合格に必要な水準に無理なく無駄なく達することのできるよう、演習を取り入れながら進めていく。本講義では一般知能分野の核となる判断推理・数的推理・資料解釈を取り上げる。コミュニティ政策学科の「警察官・消防官・一般行政職公務員試験対策プログラム」の最も重要な科目の一つである。

2. 学びの意義と目標

公務員としての基礎知識を身につけ、公務員試験の1次試験を合格する力をつけることが、本講義の目標である。

受講生に対する要望

公務員試験に合格できるかどうかは予習・復習によって決まるといっても過言ではない。公務員試験の合格を目指す学生向けの特別な講座であることを認識し、積極的な態度で授業に臨むこと。

キーワード

(1) 公務員試験 (2) 判断推理 (3) 数的推理 (4) 資料解釈

事前学習（予習）

効率的に知識を習得するため、教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。

復習についての指示

知識の定着を図るため、授業で取り上げた頻出テーマや過去問は必ず復習すること。

授業計画

1. 判断推理 論理
2. 判断推理 対応関係
3. 判断推理 勝敗
4. 判断推理 発言内容
5. 判断推理 順序・手順
6. 判断推理 数値からの推定
7. 判断推理 配置・席順・方位
8. 判断推理 軌跡
9. 判断推理 平面図形の分割・構成
10. 判断推理 投影図・陰影
11. 判断推理 展開図
12. 判断推理 立体の分割・構成
13. 数的推理 整数問題
14. 数的推理 公約数・公倍数
15. 数的推理 方程式の応用
16. 数的推理 速さ・時間・距離
17. 数的推理 比・比例
18. 数的推理 年齢算・仕事算・時計算
19. 数的推理 場合の数・順列・組合せ
20. 数的推理 確率・期待値
21. 数的推理 平面図形（三角形・多角形）
22. 数的推理 立体の体積・容積
23. 資料解釈 図表題（実数・割合）
24. 資料解釈 数表題（実数・割合）
25. 資料解釈 伸び率他
26. 資料解釈 複数の数表・図表題
27. 補足・追加 (1)
28. 補足・追加 (2)
29. 補足・追加 (3)
30. 補足・追加 (4)

教科書

資格試験研究会 『[大卒程度] 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 数的推理』 (実務教育出版) 資格試験研究会 『[大卒程度] 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 判断推理』 (実務教育出版) 資格試験研究会 『[大卒程度] 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 文章理解・資料解釈』 (実務教育出版)

評価方法

(1) 試験:100%

中間試験および期末試験の結果で成績をつける。実際の公務員試験の合格ラインを基準に評価する。期末試験は、第16週目に行う。中間試験は、15週目を目安に実施する。

担当者：鈴木 潔

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

公務員試験対策プログラム科目

講義概要

1. 内容

本講義は大卒程度の警察官、消防官、一般行政職などの採用試験の合格を目的としている。これらの採用試験は職種により試験出題科目は異なるが、教養試験は全職種の採用試験に共通し、警察官・消防官の採用試験は全国どこでも教養試験のみで第一次の合否が判定されている。教養試験を一般知識分野と一般知能分野とに分け、過去の出題傾向・実際の試験問題を分析した上で、試験合格に必要な水準に無理なく無駄なく達することのできるよう、演習を取り入れながら進めていく。本講義では一般知識分野の人文科学と社会科学を対象にして、特に過去において繰り返し出題されてきた頻出分野を重点的に取扱う。コミュニティ政策学科の「警察官・消防官・一般行政職公務員試験対策プログラム」の最も重要な科目の一つである。

2. 学びの意義と目標

公務員としての基礎知識を身につけ、公務員試験の1次試験を合格する力をつけることが、本講義の目標である。

受講生に対する要望

公務員試験に合格できるかどうかは予習・復習によって決まるといっても過言ではない。公務員試験の合格を目指す学生向けの特別な講座であることを認識し、積極的な態度で授業に臨むこと。

キーワード

(1) 公務員試験 (2) 社会科学 (3) 人文科学

事前学習(予習)

効率的に知識を習得するため、教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。

復習についての指示

知識の定着を図るため、授業で取り上げた頻出テーマや過去問は必ず復習すること。

授業計画

1. 政治「各国の政治制度」
2. 政治「わが国の政策」
3. 政治「選挙制度」
4. 政治「地方自治」
5. 政治「日本国憲法の基本原理」
6. 政治「基本的人権の保障と制約」
7. 政治「国会・内閣」
8. 政治「裁判所・国会の権限」
9. 経済「ミクロ 余剰分析」
10. 経済「ミクロ 消費者行動」
11. 経済「マクロ 経済循環と国民所得」
12. 経済「マクロ 貨幣数量説と物価変動」
13. 経済「国内経済事情」
14. 経済「世界経済事情」
15. 社会・時事「現代社会の諸相」
16. 社会・時事「国際社会の諸相」
17. 日本史「幕藩体制の変遷」
18. 日本史「両世界大戦と日本」
19. 日本史「通史 土地・貨幣・税制」
20. 日本史「通史 文化・仏教・教育史」
21. 世界史「市民革命と産業革命」
22. 世界史「近代国家の成立」
23. 世界史「第二次大戦後の国際政治」
24. 世界史「中国近・現代史」
25. 地理「気候・農林水産業」
26. 地理「地誌 民族と国家」
27. 補足・追加 (1)
28. 補足・追加 (2)
29. 補足・追加 (3)
30. 補足・追加 (4)

教科書

資格試験研究会 『[大卒程度] 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学』(実務教育出版) 資格試験研究会 『[大卒程度] 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 人文科学』(実務教育出版)

評価方法

(1) 試験:100%

中間試験および期末試験の結果で成績をつける。実際の公務員試験の合格ラインを基準に評価する。期末試験は、第16週目に行う。中間試験は、15回目を目安に実施する。

公務員講座(専門A)

PUSE-L-200

担当者：鈴木 潔、猪狩 廣美、北川 嘉昭、高梨 博和

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

公務員試験対策プログラム科目

講義概要

1. 内容

この講義は市役所など地方公務員上級試験の合格を目的としている。公務員試験は、教養試験と専門試験から構成され、本講義は専門試験を対象としている。専門試験の科目としては、政治学、行政学、社会政策、社会学、国際関係、憲法、行政法、民法、刑法、労働法、経済原論、財政学、経済史、経済政策と極めて幅広い。過去の出題傾向・実際試験問題を踏まえて、試験合格に必要な水準に無理なく無駄なく達することのできるよう、演習を取り入れながら授業を進める。また、授業の中では、公務員に求められる文章技法や表現方法についても指導を行う。なお、受講生の希望進路を踏まえ、授業内容を適宜変更する場合がある。

2. 学びの意義と目標

公務員としての基礎知識を身につけ、公務員試験の1次試験を合格する力をつけることが、本講義の目標である。

受講生に対する要望

「警察官・消防官・一般行政職公務員試験対策プログラム」の最も重要な科目の一つである。公務員の専門試験科目に関連の深い講義及び秋学期の公務員講座(専門B)も合わせて受講することを強くすすめる。

キーワード

事前学習(予習)

公務員試験の受験を真剣に考えている学生向けの特別の講義であることをわきまえ、事前準備のうえ、積極的に授業に臨むこと。

復習についての指示

授業内容について、自ら確認し、定着を図ること。

授業計画

1. ガイダンス
2. 講義と演習「専門(1):行政学1」
3. 講義と演習「専門(2):社会学1」
4. 講義と演習「専門(1):行政学2」
5. 講義と演習「専門(2):社会学2」
6. 講義と演習「専門(1):行政学3」
7. 講義と演習「専門(2):社会学3」
8. 講義と演習「専門(1):行政学4」
9. 講義と演習「専門(2):社会学4」
10. 講義と演習「専門(1):行政学5」
11. 講義と演習「専門(2):社会学5」
12. 講義と演習「専門(1):行政学6」
13. 講義と演習「専門(2):社会学6」
14. 講義と演習「専門(4):政治学1」
15. 講義と演習「専門(3):財政学1」
16. 講義と演習「専門(4):政治学2」
17. 講義と演習「専門(3):財政学2」
18. 講義と演習「専門(4):政治学3」
19. 講義と演習「専門(3):財政学3」、文章技法・表現方法
20. 講義と演習「専門(4):政治学4」
21. 講義と演習「専門(3):財政学4」、文章技法・表現方法
22. 講義と演習「専門(4):政治学5」
23. 講義と演習「専門(3):財政学5」、文章技法・表現方法
24. 講義と演習「専門(4):政治学6」
25. 講義と演習「専門(3):財政学6」、文章技法・表現方法
26. 講義と演習「専門(5):民法(1)1」
27. 講義と演習「専門(5):民法(1)2」
28. 講義と演習「専門(5):民法(1)3」
29. 講義と演習「専門(5):民法(1)4」
30. 講義と演習「専門(5):民法(1)5」、春学期のまとめ

教科書

東京工学院専門学校『最新最強の地方公務員問題 初級〈'14年版〉』(成美堂出版)＜参考図書として＞資格試験研究会『[大卒程度]警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学』(実務教育出版)

評価方法

(1)授業参加度:50%:出席、質疑応答等 (2)期末試験:50%

授業参加度、期末試験を総合的に評価する

公務員講座(専門B)

PUSE-L-200

担当者：鈴木 潔，猪狩 廣美，佐藤 安夫，米澤 貴幸

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

公務員試験対策プログラム科目

講義概要

1. 内容

1. 内容この講義は市役所など地方公務員上級試験の合格を目的としている。公務員試験は、教養試験と専門試験から構成され、本講義は専門試験を対象としている。専門試験の科目としては、政治学、行政学、社会政策、社会学、国際関係、憲法、行政法、民法、刑法、労働法、経済原論、財政学、経済史、経済政策と極めて幅広い。公務員講座(専門A)に引き続き、過去の出題傾向・実際試験問題を踏まえて、試験合格に必要な水準に無理なく無駄なく達することのできるよう、演習を取入れながら授業を進める。また、授業の中では、公務員に求められる文章技法や表現方法についても指導を行う。なお、受講生の希望進路を踏まえ、授業内容を適宜変更する場合がある。

2. 学びの意義と目標

公務員としての基礎知識を身につけ、公務員試験の1次試験を合格する力をつけることが、本講義の目標である。

受講生に対する要望

「警察官・消防官・一般行政職公務員試験対策プログラム」の最も重要な科目の一つである。公務員の専門試験科目に関連の深い講義及び春学期の公務員講座(専門A)も合わせて受講することを強くすすめる。

キーワード

事前学習(予習)

公務員試験の受験を真剣に考えている学生向けの特別の講義であることをわきまえ、事前準備のうえ、積極的に授業に臨むこと。

復習についての指示

授業内容について、自ら確認し、定着を図ること。

授業計画

1. 秋学期ガイダンス、講義と演習「専門(6):憲法1」
2. 講義と演習「専門(7):マクロ経済1」
3. 講義と演習「専門(6):憲法2」
4. 講義と演習「専門(7):マクロ経済2」
5. 講義と演習「専門(6):憲法3」
6. 講義と演習「専門(7):マクロ経済3」
7. 講義と演習「専門(6):憲法4」
8. 講義と演習「専門(7):マクロ経済4」
9. 講義と演習「専門(6):憲法5」
10. 講義と演習「専門(7):マクロ経済5」
11. 講義と演習「専門(6):憲法6」
12. 講義と演習「専門(8):ミクロ経済1」
13. 講義と演習「専門(6):憲法7」
14. 講義と演習「専門(8):ミクロ経済2」
15. 講義と演習「専門(6):憲法8」
16. 講義と演習「専門(8):ミクロ経済3」
17. 講義と演習「専門(10):行政法1」
18. 講義と演習「専門(9):経営学1」、文章技法・表現方法
19. 講義と演習「専門(10):行政法2」
20. 講義と演習「専門(9):経営学2」、文章技法・表現方法
21. 講義と演習「専門(10):行政法3」
22. 講義と演習「専門(9):経営学3」、文章技法・表現方法
23. 講義と演習「専門(10):行政法4」
24. 講義と演習「専門(9):経営学4」、文章技法・表現方法
25. 講義と演習「専門(11):民法(2)1」
26. 講義と演習「専門(11):民法(2)2」
27. 講義と演習「専門(11):民法(2)3」
28. 講義と演習「専門(11):民法(2)4」
29. 講義と演習「専門(11):民法(2)5」
30. 講義と演習「専門(11):民法(2)6」、秋学期のまとめ

教科書

東京工学院専門学校『最新最強の地方公務員問題 初級〈'14年版〉』(成美堂出版)＜参考図書として＞資格試験研究会『[大卒程度]警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学』(実務教育出版)

評価方法

(1)授業参加度:50%:出席、質疑応答等 (2)期末試験:50%

授業参加度、期末試験を総合的に評価する。

公務員講座(文章理解)

PUSE-L-200

担当者：大槻 岳

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

公務員試験対策プログラム科目

講義概要

1. 内容

本講義は大卒程度の警察官、消防官、一般行政職などの採用試験の合格を目的としている。これらの採用試験は職種により試験出題科目は異なるが、教養試験は全職種の採用試験に共通し、警察官・消防官の採用試験は全国どこでも教養試験のみで第一次の合格が判定されている。教養試験を一般知識分野と一般知能分野とに分け、過去の出題傾向・実際の試験問題を分析した上で、試験合格に必要な水準に無理なく無駄なく達することのできるよう、演習を取り入れながら進めていく。本講義では一般知能分野の核となる文章理解を取り上げるとともに、二次試験で課される教養論文の対策にも触れていく。

2. 学びの意義と目標

公務員としての基礎知識を身につけ、公務員試験の1次試験を合格する力をつけることが、本講義の目標である。この講座はコミュニケーション政策学科の「警察官・消防官・一般行政職公務員試験対策プログラム」の最も重要な科目の一つであるので、公務員試験を意識している学生にはぜひ受講してもらいたい。

受講生に対する要望

新しいことを事前に学んでくる必要はありませんが、反復演習を中心とした講義となるので、前回の内容をしっかりと復習することが次の予習となることを自覚して講義に臨んでください。

キーワード

(1)文章読解力 (2)客観的解答力 (3)反復演習 (4)公務員観の養成

事前学習(予習)

前回内容の解法の復習。特に文章理解の四分野に関しては、それぞれの設問に応じた解法があるので、その解法について習得できるように各自のペースに合わせて演習を行ってください。

復習についての指示

授業内で演習した問題の復習。各問題の解答を覚えるのではなく、なぜその選択肢が正解となるのか(なぜその選択肢が不正解となるのか)の根拠を理解するように心がけてください。

授業計画

1. 文章理解 概要解説
2. 論作文 概要解説
3. 文章理解 要旨把握(人文)
4. 文章理解 要旨把握(哲学)
5. 文章理解 内容把握(人文)
6. 論作文演習
7. 文章理解 内容把握(哲学)
8. 文章理解 傍線部問題
9. 文章理解 空欄補充
10. 論作文演習
11. 文章理解 文章整序
12. 資料解釈
13. 文章理解 古文要旨把握
14. 文章理解 古文傍線部問題
15. 文章理解 総合演習
16. 論作文演習
17. 文章理解 英文要旨把握
18. 文章理解 英文内容把握
19. 文章理解 英文空欄補充
20. 論作文演習
21. 文章理解 総合演習
22. 文章理解 総合演習
23. 文章理解 総合演習
24. 論作文演習
25. 文章理解 総合演習
26. 文章理解 総合演習
27. 文章理解 総合演習
28. 論作文演習
29. 文章理解 総合演習
30. 授業内試験を予定

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席点:60% (2)毎回の課題演習:10% (3)学期末テスト:30%

公務員講座演習B(数的・判断推理)

PUSE-L-300

担当者：鈴木 潔

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

公務員試験対策プログラム科目

講義概要

1. 内容

本講義は、大卒程度の警察官、消防官、一般行政職などの採用試験に合格することを目的とし、教養試験で出題される一般知識分野(数的・判断推理)を対象に、演習中心の授業形態をとる。過去の採用試験で実際に出題された問題について、受講者による自習を基本としつつ、出題傾向の把握と頻出テーマの解説等を適宜行うこととする。公務員試験対策プログラムの一環であり、公務員講座(数的・判断推理)と並行して履修する学生、過去に同公務員講座を受講した学生、公務員マスター講座(キャリアサポートセンター実施)の受講者のみが本講座を履修することができる。

2. 学びの意義と目標

教養試験のアウトラインを把握するとともに公務員試験の1次試験に合格する実力を養成することを目指す。

受講生に対する要望

公務員試験に合格できるかどうかは予習・復習によって決まるといっても過言ではない。公務員試験の合格を目指す学生向けの特別な講座であることを認識し、積極的な態度で授業に臨むこと。

キーワード

(1) 公務員試験 (2) 判断推理 (3) 数的整理 (4) 資料解釈

事前学習(予習)

効率的に知識を習得するため、教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。

復習についての指示

知識の定着を図るため、授業で取り上げた頻出テーマや過去問は必ず復習すること。

授業計画

1. 判断推理:論理、対応関係
2. 判断推理:勝敗、発言内容
3. 判断推理:順序・手順、数値からの推定
4. 判断推理:配置・席順・方位、軌跡
5. 判断推理:平面図形の分割・構成、投影図・陰影
6. 判断推理:展開図、立体の分割・構成
7. 数的推理:整数問題、公約数・公倍数
8. 数的推理:方程式の応用、速さ・時間・距離
9. 数的推理:比・比例、年齢算・仕事算・時計算
10. 数的推理:場合の数・順列・組合せ、確率・期待値
11. 数的推理:平面図形(三角形・多角形)、立体の体積・容積
12. 資料解釈:図表題(実数・割合)、数表題(実数・割合)
13. 資料解釈:伸び率他、複数の数表・図表題
14. まとめ(1)
15. まとめ(2)

教科書

資格試験研究会『判断推理がみるみるわかる! 解法の玉手箱[改訂版]』(実務教育出版) 資格試験研究会『数的推理がみるみるわかる! 解法の玉手箱[改訂版]』(実務教育出版)

評価方法

(1) 平常点:100%

平常点(出席状況+講義内で適宜実施する小テスト)で総合的に評価する。特に出席状況を重視する。

公務員講座演習B(人文・社会)

PUSE-L-300

担当者：鈴木 潔

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

公務員試験対策プログラム科目

講義概要

1. 内容

本講座は、大卒程度の警察官、消防官、一般行政職などの採用試験に合格することを目的とし、教養試験で出題される一般知識分野(人文・社会)を対象に演習中心の授業形態をとる。過去の採用試験で実際に出題された問題について、受講者による自習を基本としつつ、出題傾向の把握と頻出テーマの解説などを適宜行うこととする。コミュニティ政策学科の「警察官・消防官・一般行政職公務員試験対策プログラム」の一環であり、公務員講座(人文・社会)と並行して履修する学生、過去に公務員講座を受講したことのある学生、公務員試験マスター講座II(キャリアサポートセンター実施)の受講者のみが本講座を受講することができる。

2. 学びの意義と目標

教養試験のアウトラインを把握するとともに公務員試験の1次試験に合格する実力を養成することを目指す。

受講生に対する要望

公務員試験に合格できるかどうかは予習・復習によって決まるといっても過言ではない。公務員試験の合格を目指す学生向けの特別な講座であることを認識し、積極的な態度で授業に臨むこと。

キーワード

(1) 公務員試験 (2) 社会科学 (3) 人文科学

事前学習(予習)

効率的に知識を習得するため、教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。

復習についての指示

知識の定着を図るため、授業で取り上げた頻出テーマや過去問は必ず復習すること。

授業計画

1. 政治(法の基礎理論・基本的人権)
2. 政治(国会・内閣・裁判所・各法律の基本問題)
3. 政治(政治の基礎理論・政治制度)
4. 政治(選挙制度・国際政治)
5. 経済(ミクロ経済学・マクロ経済学)
6. 経済(財政政策・金融政策)
7. 経済(日本と世界の経済事情)
8. 社会・時事(国際社会・国内問題)
9. 日本史(古代～江戸時代)
10. 日本史(近代・現代)
11. 世界史(古代・中世～市民革命と産業革命)
12. 世界史(自由主義・帝国主義～現代社会)
13. 地理(自然地形・気候)
14. 地理(世界の産業・諸地域)
15. まとめ(理解度の確認)

教科書

資格試験研究会『[大卒程度]警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学』(実務教育出版) 資格試験研究会『[大卒程度]警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 人文科学』(実務教育出版)

評価方法

- (1) 平常点:70%:授業貢献度、出席等 (2) 試験:30%

担当者：猪狩 廣美

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

行政コース：基幹科目,
PUPR-SUBJ

講義概要

1. 内容

最近の地方自治体を取り巻く状況を前提として (1)公務員の仕事の特性 (2)自治体の業務の実際 (3)進路としての公務員等について、実例を題材とする一方、パズセッション等を織り交ぜて理解を深める。

2. 学びの意義と目標

自治体が社会の中でどのような役割を担い、どのような事業を展開しているのか、理解を深めるとともに、その業務を担う地方公務員の取り組みを学ぶことを通して、自らの進路を考える一助としたい。

受講生に対する要望

公務員試験対策プログラムの一環として開講する講座である。なお、現実社会においては、例えば民間企業へ進んだとしても、自治体との関わりは広範であり、その実情を理解することは重要であると考え。進路を選択する力を身につける意味から、公務員志望でない学生にも受講を期待する。

キーワード

(1)統治機構としての地方公共団体 (2)自治とは (3)自治機関としての自治体 (4)自治体の具体的な取り組み (5)自治体職員の使命

事前学習(予習)

開講までに、高等学校の政治経済の教科書を読み返しておきましょう。開講後は、逐次指示します。

復習についての指示

受講後は、内容を取りまとめ、知識として整理するとともに、新聞等マスコミで報道される自治体の取り組みなどにも注意を払い、一人の住民・主権者としての意識を涵養していくことを望みます。

授業計画

1. イントロダクション
2. 地方自治体の役割 (1)
3. 地方自治体の役割 (2)
4. 地方自治体の役割 (3)
5. 自治体の業務 (1)
6. 自治体の業務 (2)
7. 自治体の業務 (3)
8. 自治体の業務 (4)
9. 自治体の業務 (5)
10. 自治体の業務 (6)
11. 自治体の業務 (7)
12. 自治体の業務 (8)
13. 自治体で働くということ (1)
14. 自治体で働くということ (2)
15. 公務員になるために・まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席状況:30% (2)一言メモ提出:30%:毎回の授業の感想メモです (3)レポート:40%:詳細は授業で指示します

公務員特講(自治体研究B)

PUSE-L-300

担当者：北川 嘉昭

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

行政コース：基幹科目，
PUPR-SUBJ

講義概要

1. 内容

福祉や教育、防災、街づくりなど、自治体の基幹的な業務に加え、タバコのポイ捨て禁止やレジ袋規制、ゆるキャラやB1グランプリ、ゴミ屋敷対策など、全国自治体の特色ある施策などについて、その背景、期待される効果、課題等をわかりやすく説明する。

2. 学びの意義と目標

地域社会の抱える課題と対策について認識を深めることを通じて、自治体等への就職に対するモチベーションを高めることを目標とする。

受講生に対する要望

地域社会に関心を持ち、新聞もできるだけ目を通してください

キーワード

(1)地域社会 (2)地方自治体 (3)地方公務員 (4)住民福祉 (5)公共サービス

事前学習（予習）

新聞を読み、地域のイベントへ参加に参加するなど、地域社会の出来事や課題に関心をもってください。

復習についての指示

テレビや新聞などで講義に関連した情報に接したとき、自治体や住民はどうすべきかについて、自分なりの考え方をまとめてみてください。

授業計画

1. 地方自治・公共政策について
2. 事例研究（都市計画）
3. 事例研究（道路、再開発、景観）
4. 事例研究（防犯、感染症、ICT等の危機管理）
5. 事例研究（震災対策）
6. 事例研究（子育て支援）
7. 事例研究（教育）
8. 事例研究（高齢者福祉）
9. 事例研究（障害者福祉など）
10. 事例研究（産業振興）
11. 事例研究（地域活性化①）
12. 事例研究（地域活性化②）
13. 事例研究（環境・リサイクル）
14. 事例研究（行政改革）
15. これからの公共サービス、公務員

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)出席:50% (2)レポート:50%

国際ビジネスの現場 A

MGMT-L-400

担当者：柴田 武男

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

春学期開講、15コマを複数の講師が講義する、オムニバス方式の講座である。講師はいずれも、戦後の日本経済を牽引した各種基幹産業に勤務し、主に国際ビジネスの現場で活躍した元ビジネスマンである。講義の内容は、講師たちの実務体験に基づいた生々しい仕事の現場の状況や、各講師の勤務した各産業における全体構造の変遷、現状、そしてそれぞれの産業が抱える問題点や、将来の課題などを語る。また、将来実業界を目指す学生たちに対して、実社会で働く心構えや、ビジネスに対する基本的な考え方など、社会人の先輩としての各講師からのメッセージが送られる。本講座の続編として、秋学期開講の「国際ビジネスの現場B」がある。日本の産業界の実像を把握するために、両講座を継続して受講することが望ましい。

2. 学びの意義と目標

本講座で講師たちの語る内容は、分かりやすい現実論である。実社会とはいかなるところか。仕事の現場では、どのようなことが行われているのか。また海外のビジネスの現場は、国内とどのように違に、どのような多様性があるのか。そして、そこで求められるものとは何か。複数の講師たちが語る様々なメッセージを注意深く聴き、自ら咀嚼し、理解できないところは講師に質問する。講義に対するそのような積極的な態度をとることを通じて、必ずや将来の糧となるものが得られるはずである。本講座を受講することで、世界に向けた目を養って欲しい。世界は広く、そこには多様、多彩な活躍の場が待っていることを、是非学んで欲しい。

受講生に対する要望

日々のビジネス世界の動きに関心を持つこと。また各講義の中で、関心を持った事柄をさらに調べて知識を深めること。

キーワード

(1)仕事の現場を知る (2)ビジネスの基本を知る (3)世界を見る目を養う (4)世界の多様性を知る

事前学習（予習）

次回講師の講義テーマに関連し、関心ある事項を調べておくこと。また、講師への質問を準備しておくこと。

復習についての指示

初講を除き、各講師は2コマずつ担当する。各講師の1コマ目の講義内容を復習し、疑問点を2コマ目の講義の際に講師に対して質問すること。

授業計画

1. 国際ビジネスを楽しむ。講師：佐治洋一（元日立製作所）
2. 国際市場における日本の製造業の特徴～最大市場中国での競争を中心事例として～Ⅰ 講師：奥信彦（元コマツ）
3. 国際市場における日本の製造業の特徴～最大市場中国での競争を中心事例として～Ⅱ 講師：奥信彦（元コマツ）
4. エネルギービジネスの国際展開～エネルギー問題解決に挑む民間プロジェクト～Ⅰ 講師：荒川昌佳（元三菱商事）
5. エネルギービジネスの国際展開～エネルギー問題解決に挑む民間プロジェクト～Ⅱ 講師：荒川昌佳（元三菱商事）
6. 消費財・日用品・雑貨等のビジネス現場から、国際交流へのヒントⅠ 講師：富田俊彦（元三井物産）
7. 消費財・日用品・雑貨等のビジネス現場から、国際交流へのヒントⅡ 講師：富田俊彦（元三井物産）
8. 日本の鉄鋼業業界再編と国際競争Ⅰ 講師：植木正憲（元新日本製鉄）
9. 日本の鉄鋼業業界再編と国際競争Ⅱ 講師：植木正憲（元新日本製鉄）
10. 我が国自動車産業のグローバル展開～その現状と課題～Ⅰ 講師：関知耻忠（元日産自動車）
11. 我が国自動車産業のグローバル展開～その現状と課題～Ⅱ 講師：関知耻忠（元日産自動車）
12. 日本の製薬業界の現状～国際社会との関係と課題～Ⅰ 講師：錦織浩治（元山之内製薬）
13. 日本の製薬業界の現状～国際社会との関係と課題～Ⅱ 講師：錦織浩治（元山之内製薬）
14. 日本食品産業の挑戦～日本の食文化を世界に発信～Ⅰ 講師：関原滋彦（元住友商事）
15. 日本食品産業の挑戦～日本の食文化を世界に発信～Ⅱ 講師：関原滋彦（元住友商事）

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)出席日数による加点減点:10% (2)課題レポート提出:90%:7人の講師が、レポート課題提示
出席日数がコマ数の2/3未満は評価対象外

国際ビジネスの現場B

MGMT-L-400

担当者：柴田 武男

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

秋学期開講、15コマを複数の講師が講義する、オムニバス方式の講座である。講師はいずれも、現在の日本経済を牽引する各種基幹産業に勤務し、主に国際ビジネスの現場で活躍した元ビジネスマンである。講義の内容は、講師たちの実務体験に基づいた生々しい仕事の現場の状況や、各講師の勤務した各産業における全体構造の変遷、現状、そしてそれぞれの産業が抱える問題点や、将来の課題などを語る。また、将来実業界を目指す学生たちに対して、実社会で働く心構えや、ビジネスに対する基本的な考え方など、社会人の先輩としての各講師からのメッセージが送られる。本講座は、春学期開講の「国際ビジネスの現場A」の続編である。春学期は主に、戦後経済成長を担った主力産業を取り上げるが、秋学期は比較的新しく台頭し、変貌の只中にある産業を中心に取り上げる。春学期「国際ビジネスの現場A」と本講座を、継続して受講することが望ましい。

2. 学びの意義と目標

本講座で講師たちの語る内容は、分かりやすい現実論である。実社会とはいかなるところか。仕事の現場では、どのようなことが行われているのか。また海外のビジネスの現場は、国内とどのように違うのか。そこで求められるものとは何か。複数の講師たちが語る様々なメッセージを注意深く聴き、自ら咀嚼し、理解できないところは講師に質問する。講義に対するそのような積極的な態度をとることを通じて、必ずや将来の糧となるものが得られるはずである。本講座を受講することで、世界に向けた目を養って欲しい。世界は広く、そこには多様、多彩な活躍の場が待っていることを、学んで欲しい。

受講生に対する要望

日々のビジネス世界の動きに関心を持つこと。また各講義の中で、関心を持った事柄をさらに調べて知識を深めること。

キーワード

(1) 仕事の現場を知る (2) ビジネスの基本を知る (3) 世界を見る目を養う (4) 世界の多様性を知る

事前学習（予習）

次回講師の講義テーマに関連し、関心ある事項を調べておくこと。また、講師への質問を準備しておくこと。

復習についての指示

初講を除き、各講師は2コマずつ担当する。各講師の1コマ目の講義内容を復習し、疑問点を2コマ目の講義の際に講師に対して質問すること。

授業計画

1. 国際ビジネスに生きる 講師：佐治洋一（元日立製作所）
2. 変動する世界の食糧事情1 講師：川村勝司（元双日）
3. 変動する世界の食糧事情2 講師：川村勝司（元双日）
4. 外国為替から国際金融の現場まで1 講師：鶴田孝俊（元三菱東京UFJ銀行）
5. 外国為替から国際金融の現場まで2 講師：鶴田孝俊（元三菱東京UFJ銀行）
6. 地球を守る資源とその循環システムの構築1 講師：坂本行正（元三菱商事）
7. 地球を守る資源とその循環システムの構築2 講師：坂本行正（元三菱商事）
8. ある消費財メーカーの事業構造大転換1生き残りを賭けたデジタル革命下における企業戦略とは 講師：坂部正治（元富士フィルム）
9. ある消費財メーカーの事業構造大転換2生き残りを賭けたデジタル革命下における企業戦略とは 講師：坂部正治（元富士フィルム）
10. グローバリゼーションと日本の航空業界1 講師：伊原隆（元日本航空）
11. グローバリゼーションと日本の航空業界2 講師：伊原隆（元日本航空）
12. ビジネス情報サービスの提供現場とIT技術1 講師：松尾光（元日本経済新聞）
13. ビジネス情報サービスの提供現場とIT技術2 講師：松尾光（元日本経済新聞）
14. 企業のグローバル化～グローバル化の中でいかに企業は生き残るか～1 講師：木村行裕（元東芝）
15. 企業のグローバル化～グローバル化の中でいかに企業は生き残るか～2 講師：木村行裕（元東芝）

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 出席日数により加点減点:10% (2) 課題レポート提出:90%:7人の講師が、レポート課題提示
出席日数がコマ数の2/3未満は評価対象外

コミュニケーション学	
SOCI-L-200	
担当者：小笠原 尚宏	
開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位	
学部教育の関連目標 市民力：地域社会およびコミュニティ活動に関わる基礎知識	授業計画 1. 入門 コミュニケーションとは何か？ 2. 現代社会とコミュニケーション 3. コミュニケーション学の基礎(1)コミュニケーションの仕組みとタイプ 4. コミュニケーション学の基礎(2)伝わるコミュニケーション 5. コミュニケーション学の基礎(3)伝わらないコミュニケーション 6. コミュニケーション学の基礎(4)広がるコミュニケーション 7. 人間のコミュニケーション／動物と人間は何が違うのか？ 8. 自我とコミュニケーション／自我と他者・自己開示と自己呈示 9. 対人コミュニケーション(1)対人コミュニケーションの特徴 10. 対人コミュニケーション(2)説得・支配・欺瞞・交渉 11. 言語的コミュニケーション／言語・あいさつ・敬語 12. 非言語的コミュニケーション／しぐさ・表情・機械 13. メディアとコミュニケーション(1)声と文字 14. メディアとコミュニケーション(2)電信・電波 15. メディアとコミュニケーション(3)ケータイとインターネット 16. 家族コミュニケーション／家族の絆とその変容 17. 組織コミュニケーション／企業におけるコミュニケーション 18. コミュニティとコミュニケーション(1)地域生活のコミュニケーション 19. コミュニティとコミュニケーション(2)地域共同体からコミュニティへ 20. コミュニティとコミュニケーション(3)ソーシャル・キャピタルを考える 21. ネットワークとコミュニケーション 22. 教育・福祉とコミュニケーション 23. 集合行為とコミュニケーション(1)世論の形成・うわさ 24. 集合行為とコミュニケーション(2)社会を築くコミュニケーション 25. 異文化コミュニケーション(1)他者理解のための作法 26. 異文化コミュニケーション(2)コミュニケーションとジレンマ 27. 事例検討(1)コミュニケーションを考える 28. 事例検討(2)コミュニケーション不全とその対応(1) 29. 事例検討(3)コミュニケーション不全とその対応(2) 30. まとめ—現代社会におけるコミュニケーション特性と諸課題
カリキュラム上の位置付け コミュニティコース：基幹科目、 情報コース：応用科目	
講義概要 1. 内容 私たちは家族、友人、あるいは集団・組織といった多様ななかで わり中で生きている。感情、意思、情報などを交換するコミュニ ケーションなしに、私たちの生活は成立しない。この講義で は、「コミュニケーション」という視点を通して私たちの日常生 活を捉え直し、多様な関係性とそのあり方について考える視座の 形成を目的とする。具体的には、(1)コミュニケーション学の基 礎的知識の習得、(2)多様なコミュニケーションの道具(コミュニ ケーション・ツール)の特質の理解、(3)事例検討による実践的・ 実証的なコミュニケーションをめぐる問題解決のための視点と方 法を学ぶ。また、この授業は関連領域の学習に際して必要とな る「コミュニケーション」を理解するための基礎的内容となる。 また、たとえば地域社会論、家族関係論、組織論、企業論、社会 心理学等の入門としても位置づけられるので、積極的な履修を望 むたい。	
2. 学びの意義と目標 個人化、私事化の進行が指摘される現代社会にあって、あらためて「絆」をつなぐコミュニケーションの役割 が重要視されている。つながりや関係性の喪失、コミュニケーション不全といった問題を理解し、さらにはそれ らを解決していくために必要な基礎的知識の習得を目標としたい。コミュニケーションとは、私たちの日々の生 活の中でごく当たり前に営まれている。しかし、あいさつ、会話、あるいは、しぐさ、といったコミュニケーション のあり方は、それぞれの社会や文化の中で形成された「暗黙のルール」に基づいて営まれている。それらの 社会的・文化的ルールをひもとくときながら、コミュニケーションの特質を考察する。また、コミュニケーション は、常に伝わるものであるとは限らない。「伝わらない」経験をした人も多いと思うが、「伝わる」と「伝わら ない」の違いをみながら、「伝える」ための技法を、具体的な事例を基に考える。これらを通して、コミュニ ケーションを理解し、身近な問題をコミュニケーション学の視点から捉えることのできる基礎的な能力の形成 を、この授業の目標とする。 コミュニケーション(コミュニケーション障害)を取りざたされ、コミュカ(コミュニケー ション力)が過剰に求められる現代日本社会において、コミュニケーション学の視点を身につけることは、皆さ んのこれからの大きな意義をもつものと思う。	
受講生に対する要望 積極的に考え、悩み、そして答えを自ら導き出していける力をつ けてもらいたい。そのためには、まず、主体的に授業に参加するこ と！。これを切に願います。	
キーワード (1)自我 (2)かかわり (3)メディア (4)社会変動とコミュニケーション (5)集合行為	
事前学習(予習) 時事問題を事例として取り上げるため新聞に目を通しておくこ と。また、翌週の学習に関連した資料を配付し、事前課題を課す 場合がある。	教科書 授業の中で指示する
復習についての指示 各単元の終了時に、復習課題および小レポート課題を課す。これ によって講義内容の確実な定着を図ってもらいたい。	評価方法 (1)期末課題:80% (2)単元小課題:20%:授業内に課す小レポート課 題 期末試験は課さず、期末レポート課題と、および授業・単元の終 了ごとに課す小課題の得点を合計して評価する。

担当者：瀬名 浩一

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識

カリキュラム上の位置付け

コミュニティコース：応用科目

講義概要

1. 内容

〈内容〉 コミュニティ・ビジネスを創めるには、地域の個性や魅力を再発見し、ビジネスを通じて地域の問題を解決していく意思が不可欠である。とくに厳しい状況におかれたコミュニティを復活させるためには社会起業が急務である。地域の個性や魅力を再発見し、行政に依存しがちな地域住民や企業の意識を変革し、ビジネスを通じて地域の価値を創造することが不可欠である。コミュニティ・ビジネスの現場を支える経営者など利害関係者には「誰をどのように助けるのか?」「利益をどう使うのか?」など地域経営の実情を聴き、将来諸君が「社会起業家」として独り立ちするために必要な準備について学んでいる。

2. 学びの意義と目標

まちづくり、環境農業、ファンドビジネス、再生可能エネルギー、鉄道輸送力、子供の学習支援、商店街再生など幅広い分野で活躍中の社会起業家の”なま”の話を聞ける。

受講生に対する要望

コミュニティ・ビジネス論、経営学を受講済み、または非営利組織の経営について関心がある者の受講を望む。

キーワード

(1)社会起業家 (2)自助 (3)相互扶助 (4)社会的目的 (5)公民連携 (PPP)

事前学習（予習）

授業計画のタイトルは、2013年に選ばれたものであり、2014年度は当然変わる。授業の初めに、前年度の講演録を配布するので、関連したテーマを予習し講演者への質問を準備しておくこと。

復習についての指示

講演の最後に出題される課題への回答書類（A4 1枚）は、翌週の授業終了時まで（1週間）に教員に提出しなければならない。

授業計画

1. アムステルダム自転車物語
2. 自転車安全走行のルールとマナー
3. 公共交通機関としての路面電車の意義
4. 電動アシスト自転車の開発
5. 蕨市におけるまちづくり連合会の働き
6. 商業施設設置義務駐輪場の整備
7. バス停留所付近の自転車走行帯
8. 公共交通から見た自転車走行の問題点
9. 動画で見るオランダのバス停留所と自転車走行帯
10. まちづくりから見た自転車の活用策
11. 秩父市のまちづくり
12. 川越市のまちづくり
13. 交通事故から見た自転車走行の安全対策
14. 駐輪場整備及び道路構造変更の財政負担
15. コミュニティ投資が創る環境・社会ビジネス

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)課題回答レポート:70%:講師による評価結果の集計 (2)出席回数:30%

担当者：瀬名 浩一

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識

カリキュラム上の位置付け

コミュニティコース：基幹科目

講義概要

1. 内容

＜内容＞ 行政に依存しがちな住民・企業・団体の意識を変革し、ビジネスを通じて地域の価値を創造することが求められている。近隣を対象とするコミュニティ・ビジネスから始まり、地域、国、世界と拡大するそれぞれの空間規模で直面する社会問題を解決するための持続可能なビジネス（ソーシャル・ビジネス）となることが期待される。日本でも高齢者介護、子育て支援、医療、演劇、教育、環境、自然エネルギー、交通などの分野で育っている。それに伴い我々の働き方も、今までのように公共団体、企業などに終身雇用されるのではなく、将来起業して経営者として自立することが目標になってきた。チャンスを生かすためには、社会経済論、NPO経済論、起業論などを学ぶ必要がある。

2. 学びの意義と目標

起業のための組織作り、資金調達、地域への根付き方などを実践的に学べる。

受講生に対する要望

経営学を受講済み、または非営利組織の経営に関心のある方。

キーワード

(1)安全配慮義務（リスクマネジメント） (2)社会変革のためのマネジメント (3)地域力 (4)社会金融制度 (5)公民連携（PPP）

事前学習（予習）

講義の終わりに次回のテーマとキーワードを指示するので、毎回1時間の予習をして授業に臨むこと。3回ごとに小テストをするので毎回復習1時間を欠かさぬこと。

復習についての指示

授業3回に1回の割合で、授業内テストを行うので、毎週授業後1時間の復習を欠かさぬこと。

授業計画

1. コミュニティを支えるビジネス
2. 非営利組織と営利組織の競争と連携
3. 安全配慮義務（リスクマネジメント）
4. 高齢者介護ビジネス
5. 社会的協同組合の可能性
6. 介護老人施設の決算
7. 子育て支援ビジネス
8. 日本赤十字社の経営改革
9. コミュニティ・ホスピタルの挑戦
10. 医療NPOに関する日米税制の比較
11. マーケティングに挑戦するNPO
12. 社会変革のためのマネジメント
13. フェア・トレード・カンパニー
14. 日英比較から見たコミュニティ再生政策
15. 産業力にこだわる日本
16. 地域力を引き出す英国
17. 日本の地域力を引き出す試みⅠ（演劇）
18. 日本の地域力を引き出す試みⅡ（教育）
19. 日本の地域力を引き出す試みⅢ（農業）
20. 日本の地域力を引き出す試みⅣ（自然エネルギー）
21. 日本の地域力を引き出す試みⅤ（路面電車）
22. 地域金融とコミュニティの新しい関係づくり
23. まちづくり基本計画策定の趣旨
24. まちの特性
25. 市民アンケート
26. まちの目標とビジョン
27. まちづくりの基本方針
28. 3つの重点事業
29. 実施に向けた取り組み
30. 試験とその解説

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)授業理解度:40%:授業3回に1回の割合で授業内試験を行う。
- (2)期末テスト:30% (3)出席回数:30%

担当者：工藤 幸一

開設期：春学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

商学は、一般的に「商あるいは商活動」あるいは「商業」に関する学問だと考えられてきた。しかし、アメリカにおいて登場したマネジメント論、マーケティング論の進展をうけ、わが国においても生産から消費までを社会的な視点から体系的に研究する「流通論」が登場した。このことから商学も「流通活動」を研究対象とすることから流通科学の視点から講義を展開する。流通は、消費者ニーズの多様化・個性化、さらに情報ネットワークの基盤整備などにより、その機能も高度化・複雑化し社会的役割も大きく変化している。近年は小売業の廃業によりシャッター商店街が問題になり地域社会における商業の社会的・経済的役割の再検討が求められていることやネットスーパーなど高齢化社会に対応した小売形態も視野に講義を進める。

2. 学びの意義と目標

本講では、流通についての基礎的機能・基本的事柄について現代的理解をすることを目指すと同時にコミュニティにおける商業施設・機能の重要性や高齢化社会に対応した小売形態の必要性について理解する。地域政策やコミュニティ研究の関連科目として欠くことができないと考える。

受講生に対する要望

集中講義であることから、欠席すると講義が繋がらなくなり講義関連のVTRの視聴も大切なので欠席しないことが必要である。単位認定試験は講義ノートの持ち込みを可とするので毎日の講義のノートの作成・整理が重要である。

キーワード

(1)流通機能 (2)マーケティング (3)流通国際化 (4)消費者主義
(5)コミュニティ

事前学習(予習)

集中講義のため毎日の講義の復習に重点が置かれる。しかし、履修登録者は、日ごろより新聞の社会欄のニュースや経済欄に目を通す。さらに日常利用している小売業(コンビニ等)の商品構成や陳列レイアウトを注意して見ることを心がける。

復習についての指示

集中講義のため毎日の講義の復習に重点が置かれる。理論的、実践的な理解のためにケースを取り上げることが多くなるので、講義ノートを作成・整理することが重要となる。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 市場経済のしくみ
3. 企業の経営
4. 流通と商業の機能
5. 経済主体、市場
6. 流通機構
7. 小売業の形態
8. 流通のマーケティング
9. 物流の機能
10. 流通の国際化
11. 流通政策
12. 商業倫理
13. 消費者主義
14. コミュニティにおける商業
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)試験:100%

担当者：庄嶋 孝広

開設期：春学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

市民力：地域社会およびコミュニティ活動に関わる基礎知識

カリキュラム上の位置付け

コミュニティコース：応用科目

講義概要

1. 内容

フィールドワークは、社会調査の一つの方法です。社会学や文化人類学をはじめ様々な学問で活用されるとともに、ビジネスや非営利活動の現場でも有効な方法です。現地社会（コミュニティ）に入り、人々と関係を築きながら、生活を観察したり、話を聞いたり、行事に参加したりして、調査地や調査対象について理解を深めていきます。理論が現実をうまく説明できているかを確認できると同時に、現実をもとに新たな理論を構築していく楽しさがあります。本講義では、コミュニティ現場でのフィールドワーク演習を通じて、フィールドワークの基本を身につけます。

2. 学びの意義と目標

本講義で、フィールドワークの考え方と方法の基本を学ぶことで、卒業論文等で応用してください。また、フィールドワークは、まずもって他者に寄り添い、相手を理解しようとする方法です。社会人となって、他者と信頼関係を築きながら、よりよい職業生活、市民生活を送るうえでも、大いに役立つ作法といえます。

受講生に対する要望

頭も身体もたくさん動かしますので、気力と体力だけは必要ですが、みんなで一緒に楽しく、和気あいあいと行いましょう。

キーワード

(1) 社会調査 (2) コミュニティ (3) フィールドワーク (4) 聴き取り (5) 参与観察

事前学習（予習）

集中講義のため、前日に行ったことをおさらいして臨んでください。

復習についての指示

集中講義のため、作業に遅れがあれば、各自で追いつくようにしてください。

授業計画

1. フィールドワークとは何か？
2. フィールドワークの方法、インタビュー練習
3. 調査地の紹介と事前準備
4. 現地調査・第1日 － ガイドによる調査地案内
5. 現地調査・第1日（つづき） － 1日目のまとめ
6. 現地調査・第2日 － 自由見学
7. 現地調査・第2日（つづき） － 調査項目の整理
8. 現地調査・第2日（つづき） － 聴き取り
9. 現地調査・第2日（つづき） － 参与観察
10. 現地調査・第2日（つづき） － 2日目のまとめ
11. 調査のまとめ
12. レポート作成
13. レポート作成（つづき）
14. グループ発表準備
15. グループ発表

教科書

プリントを配布する
参考文献 佐藤郁哉『フィールドワーク 書を持って街へ出よう』（新曜社）

評価方法

(1) レポート:25% (2) グループ発表:25% (3) 授業態度:25% (4) 出欠:25%

担当者：鈴木 省吾

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識

カリキュラム上の位置付け

情報コース：基幹科目、
高等学校教諭一種免許：情報選択科目

講義概要

1. 内容

Microsoft Excelの高度な操作法を学ぶ。基礎的な内容の復習からはじめ、Excelの機能を最大限に生かす使い方を習得する。

2. 学びの意義と目標

Excelの基本的な操作を既に学んだ学生が、より有効かつ幅広くExcelを使うために必要となる操作法を学ぶ。単なる表計算を超え、統計処理や文書作成が行えるようにする。社会での実用に耐えうるExcelの操作能力を身につける。

受講生に対する要望

継続的に実習に参加し、PCになれることが最大の目的である。そのため、出席が必須であるばかりでなく、毎週の課題を完成させ提出することが必要となる。授業では、わからないことを分からないままにしないように、教師への質問は当然歓迎するが、学生間での教えあい、学びあいも推奨している。積極的に周りに話しかけ、授業で最大の成果を得てほしい。

キーワード

(1)実習課題の完成 (2)Excelへの精通 (3)教えあい (4)積極的な参加

事前学習（予習）

授業で出された課題の反復練習。

復習についての指示

実習授業なので、実際に授業内で課題を完成させることが重要となるが、課題ごとの内容は、次の週からの前提になるので、復習を必ず行うこと。

授業計画

1. Excelの概要／データの入力
2. 表の作成・編集・印刷
3. グラフの作成
4. Excel関数
5. ワークシートの活用
6. データベース機能の利用
7. ピボットテーブル
8. マクロの作成
9. Excel VBAプログラミングの基礎
10. Excel VBAプログラミング 1
11. Excel VBAプログラミング 2
12. Excel VBAプログラミング 3
13. 統計処理
14. 文書作成
15. 資料処理

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)課題:100%:毎週出る課題を完成度と作成時間によって評価する。

出席は評価割合には含まないが、5回の欠席で不合格、遅刻は15分までとし以後は欠席扱い、3回の遅刻で欠席とする。

コンピュータ応用実習B

INFO-L-200

担当者：二神 常爾

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識

カリキュラム上の位置付け

情報コース：基幹科目，
高等学校教諭一種免許：情報選択科目

講義概要

1. 内容

ノートパソコンを用いての実習により、メール、ブログ、SNS、ツイッターなどの様々なコミュニケーション・ツールを利用してコミュニケーションを行い、それぞれの特徴を理解する。また、グーグルは、近年ネット上で文書ファイルや表計算ファイルや予定表や写真を共有するサービスを提供している。グーグルはネット上で音声通話やチャットを行うサービスも提供している。グーグルが提供しているこの種のサービスを利用して、ネット上でのファイルの共有を行う。授業では1回の授業ごとに1つのテーマについて学習する。毎回プリントを配布する。教師はプロジェクターを用いてデモを行い、各人は教師のデモとプリントに従って、ノートパソコンの操作を行う。各人は二人一組になってメッセージのやり取りやファイルの共有を行う。質問は随時受け付ける。また、授業内容について理解を深めるために、授業時間内に行う課題を出題する。

2. 学びの意義と目標

インターネットやコンピュータ技術の発達とともに、メール、ブログ、ツイッター、SNSなど様々なコミュニケーション・ツールが出現し、多くの人に利用されている。これらのツールの多くは、情報の送り手だけでなく、情報の受け手も情報を発信できる双方向の特徴を持つ。双方向性は便宜性をもたらす一方で、一度発信した情報は回収できないことから、様々な問題が起きている。ルールを守りつつ、これらのツールを使いこなすことは現代社会に生きる我々にとって必要不可欠である。授業ではこれらのツールを実際に利用し、その特徴を習得することを目標とし、ネットについて学習する。また、グーグルはインターネット上で様々なファイルを共有できるサービスを提供している。これらのサービスを利用すれば、従来メールにファイルを添付して情報をやり取りするという手間を省くことができる。これらのサービスについても学ぶ。

受講生に対する要望

遅刻・欠席をしないこと。

キーワード

(1)Gメール (2) ブログ (3) ツイッター (4) グーグル (5) インターネット

事前学習（予習）

オンラインシラバスで授業内容を事前に確認し、参考書があれば該当箇所を読んでおくこと

復習についての指示

授業前に授業で使うファイルを自分のUSBメモリにコピーして、帰宅してからプリントを見ながら、授業で行った手順を復習すること。

授業計画

1. ガイダンス
2. Gメールのアカウントを取得する
3. メールを送受信を行う
4. ネット上のワープロソフトを利用する
5. ネット上の表計算ソフトを利用する
6. グーグル・カレンダーで予定を共有する
7. グーグル・ピカサで画像ファイルを共有する
8. グーグル・トークで音声通話やチャットを行う
9. ブログで新しい記事を書く
10. ブログでコメントを書く
11. ツイッターでツイートを投稿する、フォロワーになる
12. ツイッターでリスト、ダイレクトメッセージを利用する
13. グーグル・プラス（SNS）を利用する（1）
14. グーグル・プラス（SNS）を利用する（2）
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:30% (2)授業中の課題:35% (3)期末試験:35%

コンピュータ応用実習C

INFO-L-200

担当者：二神 常爾

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識

カリキュラム上の位置付け

情報コース：基幹科目，
高等学校教諭一種免許：情報選択科目

講義概要

1. 内容

ノートパソコンを用いた実習を通して、デジタルカメラで撮影した静止画像や動画画像をノートパソコンで編集したり、編集した画像をCDやDVDに書き込む方法について学ぶ。また、自分の音声や音楽CDをこれらの記憶メディアに書き込む方法についても学ぶ。写真の画像や動画画像を編集するソフトにより、パソコン上で写真の明るさ、コントラストを調整したり、トリミングをしたり、縮小する。また、動画画像を短くしたり、動画画像にテキストや音声を挿入する。複数枚の写真を一定の時間間隔で連続して表示するスライドショーを作成する方法も学ぶ。また、イラストや文字などの静止画像を複数枚作成し、一定の時間間隔で表示させ、簡単なアニメーションを作ることも学ぶ。タグを使って速く画像を検索する方法についても学ぶ。授業では1回の授業ごとに1つのテーマについて学習する。毎回プリントを配布する。教師はプロジェクターを用いてデモを行い、各人は教師のデモとプリントに従って、ノートパソコンの操作を行う。質問は随時受け付ける。また、授業内容について理解を深めるために、授業時間内に行う課題を出題する。

2. 学びの意義と目標

デジタル技術の進歩とともに、静止画像や動画画像を記憶する記憶メディアは日進月歩のスピードで大容量になっている。これらの記憶メディアを利用すれば、高精細な画像を再生することが可能である。静止画像や動画画像などの記憶メディアとして、CD、DVD、BD（ブルーレイ・ディスク）などの光ディスクがある。授業では、デジタルカメラにより写真や動画を撮影し、CDやDVDに画像を取り込む方法を学ぶことを通して、マルチメディアに関する基本技術を得得することを目標とする。このような技術は、情報化が急速に進む社会の様々な局面で今後ますます重要になると思われる。これからの社会人にとって必須の技術である。また、スマートフォンなど最新のデジタル機器に付属しているデジタルカメラで撮影した画像をパソコンに取り込んで自分で編集する方法を得得ていれば、画像をブログ、SNS、ホームページなどにアップロードすることも容易にできるであろう。

受講生に対する要望

遅刻・欠席をしないこと。

キーワード

(1) マルチメディア (2) 画像編集 (3) CD (4) DVD (5) デジタルカメラ

事前学習（予習）

オンラインシラバスで授業内容を事前に確認し、参考書があれば該当箇所を読んでおくこと

復習についての指示

授業前に授業で使うファイルを自分のUSBメモリにコピーして、帰宅してからプリントを見ながら、授業で行った手順を復習すること。

授業計画

1. ガイダンス
2. ウィンドウズ・ライブ・フォトギャラリーで静止画像を編集する
3. デジタルカメラで静止画像を撮影し、コンピュータに取り込む
4. 音楽CDを空のCD-Rに書き込む（焼く）
5. 自分の音声をCD-Rに書き込む
6. ウィンドウズ・ライブ・ムービーメーカーで動画画像を編集する
7. デジタルカメラで動画画像を撮影し、コンピュータに取り込む
8. 動画画像にテキストや音声を挿入し、DVD-Rに書き込む
9. 静止画像をもとにスライドショーを作成し、DVD-Rに書き込む
10. パワーポイントで動画を再生する
11. アニメーションGIFで動画を作成する(1)
12. アニメーションGIFで動画を作成する(2)
13. ウィンドウズ・ライブ・フォトギャラリーで画像の検索を行う
14. グーグル・ピカサでコラージュ画像を作成する
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 出席:30% (2) 授業中の課題:35% (3) 期末試験:35%

担当者：大塚 健司

開設期：秋学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

行政コース：応用科目、
コミュニティコース：応用科目

講義概要

1. 内容

（１）内容 本講座では、国の制度や施策と地方分権（地域主権）と言われながらも、地方自治体としての埼玉県が、その狭間で各分野において、どのように政策決定してきたか、またますます厳しさ増す財政状況のなかでどう政策展開を図るべきなのか、具体的なケース 事例等を通して、実践的な視点から埼玉県を研究対象にし、問題解決の糸口を探すこと を狙いとしている。なお、本講座では、県及び市町村等から講師を招くオムニバス方式で実施する。（２）カリキュラム上の位置づけ 行政系統の専門科目で大学院開設科目である。なお、事業計画は講師の都合により変更することを予め了解ください。

2. 学びの意義と目標

地方行政がどう動いているか、行政を担当している人達等に來てもらい基本的なことから、実践的なことまで学ぶ。

受講生に対する要望

国の動向、それに対する地方自治体の動きなど新聞記事を読んでおくこと。 「統計からみた埼玉県のすがた」を読んでおくこと。

キーワード

(1) 少子・高齢社会 (2) 中央集権、地方分権、県の財政構造 (3) 土地政策、環境政策、福祉政策 (4) 農林業政策、労働商工政策 (5) NPO法人

事前学習（予習）

「統計からみた埼玉県のすがた」（編集・発行／埼玉県総務部統計課）を事前に読むこと。

復習についての指示

配布した資料を良く読むこと。

授業計画

1. 埼玉県の現況と自治体を取り巻く状況の変化
2. 埼玉県の財政構造、仕組み
3. 埼玉県の財政構造、仕組み
4. 土地政策（見沼田圃の保全と活用）
5. 土地政策（見沼田圃の保全と活用）
6. 環境政策（リサイクルと廃棄物問題）
7. 環境政策（リサイクルと廃棄物問題）
8. 少子・高齢社会への対応
9. 少子・高齢社会への対応
10. 農業政策
11. 農業政策
12. 労働商工政策
13. 労働商工政策
14. 地域福祉（福祉のまちづくり）
15. 理解度の確認

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1) 毎回のレポート：100%

担当者：正上 常雄

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

知の基礎力：政治や社会のしくみの理解

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

目的 財政は我々の税金にかかわる事柄です。我々はなぜ税金を納めなくてはならないのか、財政は何に使われているのか、財政赤字があると何が起きるのかなど、様々な疑問があると思います。我々にとって身近なようでよくわからない財政、新聞では、ギリシャの財政危機とか日本の税と社会保障の一体改革など財政にまつわる様々なトピックが取り上げられています。現実を理解するには、財政の仕組みと本質を理解しなくてはなりません。

2. 学びの意義と目標

この授業ではわかりやすいテキストを使って財政を基礎から学んでいこうと思います。教科書に書いてあることを学ぶだけでなく、現在の財政に関する現実の問題についても色々と議論してみたいと思います。 財政学は公務員試験などでも出題されますので、過去問題などを使いながら、どのような形で出題されているのかも学びます。

受講生に対する要望

授業中の私語は厳禁です。それ以外のルールは、最初の授業で相談して決めます。

キーワード

(1)財政民主主義 (2)租税 (3)公共政策

事前学習（予習）

教科書は初心者向けのやさしいものを選びましたが、もっと詳しい財政についての知識も授業で補完していくつもりです。難しい話はちょっと苦手という人も、まずは教科書を一読してみてください。

復習についての指示

授業では教科書に書かれていることだけでなく、公務員試験などにも対応できるように、専門用語の解説なども行うので、ノートやプリントでしっかり復習して下さい。

授業計画

1. 財政学とは
2. 財政の範囲と規模
3. 財政の3機能
4. 予算と何か
5. 公共財とは
6. 公共財の政治的な選択
7. 国と地方自治体の公共財の供給
8. 地方分権と公共財の供給
9. 社会資本
10. 租税のあり方
11. 税負担の公平
12. 課税の経済効果
13. 租税の帰着
14. 租税による所得再分配
15. 租税体系
16. 累進税と逆進税
17. 所得課税
18. 消費課税
19. 法人課税
20. 公債とは
21. 財政の持続可能性
22. 公債の負担
23. 地方財政の役割
24. 地方財政の資金の流れ
25. 地方交付税
26. 社会保障とは
27. 公的年金
28. 医療保険と介護保険
29. 生活保護
30. 少子高齢化の進展

教科書

上村 敏之 『コンパクト 財政学 第2版』（新世社）

評価方法

(1)中間試験:40% (2)期末試験:40% (3)平常点:20%

大学の規定に従い、出席率60%以上を単位取得の条件とします。基本的に中間試験と期末試験で評価します。

担当者：秋山 秀一

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

知の基礎力：政治や社会のしくみの理解

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目

講義概要

1. 内容

世界の各地ではいろいろな人々が生活基盤となるその土地の自然環境を理解し、土地に根ざして工夫しながら暮らしています。この授業では、日本、アメリカ、そしてスイスを中心としたヨーロッパ諸国における自然を自然地理学の視点から具体的に取り上げ、学びます。

2. 学びの意義と目標

自然地理学の知識を身につけることは、とても大切なことであり、国際理解度を高めることにも大きく寄与します。そのことは卒業後どのような仕事に就こうと、意義があり重要なことです。実際に海外でのフィールドワークを通して得た自然地理の映像、資料、それに書籍、雑誌、テレビ・ラジオ等のメディアとのかかわりの中から、具体的な話をしていきます。

受講生に対する要望

日頃から自然を意識する人、関心がある人、大好きな人、また、自然を観る目を学び身につけたいと考えたことのある人、そんな人たちの受講を望みます。

キーワード

(1) 国立公園 (2) 水と暮らし (3) 地震 (4) 温泉 (5) ハザードマップ

事前学習（予習）

授業内容に関する復習の小レポート、テキストの次回の授業に関する項目を予習し、関連する情報を集めておくこと。

復習についての指示

配布プリント、テキストの中で授業中に解説したところを再読し、各トピックについて次回までに説明できるようにすること。

授業計画

1. 導入
2. 地形図を読む
3. 地形を読む
4. 自然地理学と暮らし
5. 地震と暮らし
6. 日本の温泉
7. 世界の温泉①
8. 世界の温泉②
9. 海岸の地形
10. 砂漠
11. スイスの自然①
12. スイスの自然②
13. 世界の自然遺産①
14. 世界の自然遺産②
15. まとめ

教科書

秋山 秀一 『スイス道紀行』（芦書房）

評価方法

(1) 日頃の授業への貢献度：30% (2) 出席状況：30% (3) 小レポート、それにまとめとしてのレポート：40%

担当者：横山 寿世理

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ、市民力：地域社会およびコミュニティ活動に関わる基礎知識

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：公民必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目、
社会福祉主事任用資格：選択科目、
コミュニティコース：基幹科目

講義概要

1. 内容

1. 内容 教科書、雑誌や新聞の記事、ドキュメンタリー番組を補足資料として用いながら、社会学を広く概観する。講義内容を板書でまとめる形で講義を展開する。また、講義内容の定着を図るため、簡単なコメント・シートの提出を課す。2. カリキュラム上の位置づけ この授業は1～4年次の全学年が履修することができる。政治経済学科の学生にとっては専門科目であり、特に地域共生コースの習得を目指す学生にとっては必修科目となる。また、政治経済学科以外の学生にとっては、教養科目となる。

2. 学びの意義と目標

この講義は、社会学的な視点を身につけることを目標とする。社会学的な視点とは、社会において起きている現象を個人的な問題ではなく、「社会問題」として認識する能力である。良い／悪いといった判断から離れて、常識を疑うという姿勢を身につければ、普段意識されない「社会」「社会の仕組み」を受講者自身が実感できるようになるだろう。

受講生に対する要望

講義で紹介されるいろいろなドキュメンタリーや新聞記事などの具体的な社会問題を、どういった教科書に記載されている理論に結びつけられるかを意識して参加して欲しい。また、<u>教科書を授業内でも使用する</u>ので、準備して欲しい。

キーワード

(1)社会学概論 (2)社会 (3)個人 (4)人間関係 (5)コミュニケーション

事前学習（予習）

授業前の予習として、教科書の該当箇所を読んでおくこと。

復習についての指示

講義の板書ノートを見直し・作り直すという復習作業を絶えず行うことを勧める。

授業計画

1. 社会学的な視点: 予言の自己成就
2. 教育社会学 (1)
3. 教育社会学 (2)
4. 産業社会学 (1)
5. 産業社会学 (2)
6. 階級・階層の社会学 (1)
7. 階級・階層の社会学 (2)
8. メディアの社会学 (1)
9. メディアの社会学 (2)
10. 地域の社会学
11. 都市の社会学
12. 社会調査論 (1)
13. 社会調査論 (2)
14. 社会調査論 (3)
15. 家族社会学 (1)
16. 家族社会学 (2)
17. 家族社会学 (3)
18. ジェンダーの社会学
19. セクシュアリティの社会学
20. 行為論
21. 相互行為論
22. アイデンティティの社会学 (1)
23. アイデンティティの社会学 (2)
24. アイデンティティの社会学 (3)
25. 歴史の社会学: マルクス
26. 歴史の社会学 (1) : ヴェーバー
27. 歴史の社会学 (2) : ヴェーバー
28. 記憶の社会学
29. 理論社会学
30. まとめ

教科書

宇都宮 京子 『よくわかる社会学 (やわらかアカデミズム・わかるシリーズ) (第二版)』 (ミネルヴァ書房)

評価方法

(1) 期末試験: 40% (2) 講義内課題: 60%: 各テーマごとにコメントの提出を課す。

担当者：新倉 貴仁

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ、
市民力：地域社会およびコミュニティ活動に関わる基礎知識

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：公民必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目、
社会福祉主事任用資格：選択科目、
コミュニティコース：基幹科目

講義概要

1. 内容

社会学は、私たちが生きる社会を考える学問です。本講義では、受講者が置かれた状況を考えることから始めます。すなわち、大学といった制度、学生という身分、書物というメディアについて考え、社会学を学ぶための準備をおこなっていきます。そのうえで、第二に、社会学の思考の系譜を学び、その思考に込められた方法と、それぞれの思考が生み出された背景となる社会について考察していきます（学説史）。第三に、現代社会におけるさまざまな社会学の主題群を扱っていきます（概論）。

2. 学びの意義と目標

社会学の概要を把握するとともに、社会学的想像力を養う。大学で学ぶために必要な、読む、考える、書くといった能力を磨く。近現代史の基礎的な知識を学ぶ。

受講生に対する要望

読む、考える、書くという行為を重視する。習得の状況を確認するため、毎週、小テストを課す。講義を通じて、社会学に関連する文献を読み、その書評レポートを課題とする。積極的な参加を望む。

キーワード

(1)近代社会 (2)現代社会 (3)文化 (4)資本主義 (5)都市と共同体

事前学習（予習）

適宜、資料を配布するので、読んでおくこと

復習についての指示

配布したレジュメの内容を確認し、講義での要点について、それぞれ整理しておくこと

授業計画

1. イントロダクション
2. 社会とはいふけれども
3. 大学とはいふ制度か
4. 学生とはいふ存在か
5. 社会学学説史（1） 世俗化と近代社会
6. 社会学学説史（2） 社会学の成立
7. 社会学学説史（3） 産業社会
8. 社会学学説史（4） マルクス
9. 社会学学説史（5） ブルジョワジーの経験
10. 社会学学説史（6） デュルケムとヴェーバー
11. 社会学学説史（7） 第一次世界大戦
12. 社会学学説史（8） 文化社会学と知識社会学
13. 社会学学説史（9） 移民と大衆
14. 社会学学説史（10） 都市社会学
15. 社会学学説史（11） 第二次世界大戦
16. 社会学学説史（12） 現代社会と社会学
17. 人びとの群れ——都市
18. 人びとの群れ——共同体
19. つながりのかたち——知と権力
20. つながりのかたち——複製技術とメディア
21. 生の様式——家庭と家族
22. 生の様式——ジェンダー
23. 生きること——生と死
24. 生きること——自由と所与
25. 現代社会——消費社会
26. 現代社会——グローバル化
27. ミドルクラス——余暇・娯楽・観光
28. ミドルクラス——スポーツ
29. 試験
30. 総括討論、レポート講評

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:40% (2)レポート:30% (3)試験:30%

出席点は、20点を基礎とし、残り20点について、各コマで指示する課題の内容や小テストによって、加点する。

社会学

SOCI-0-101

担当者：新津 尚子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ、
市民力：地域社会およびコミュニティ活動に関わる基礎知識

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：公民必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目、
社会福祉主事任用資格：選択科目、
コミュニティコース：基幹科目

講義概要

1. 内容

この講義は「家族」「地域」「ジェンダー」などについて、社会学的に学ぶことを目的とする。また後半（19回目以降）は社会学の歴史についても学ぶ。授業では教科書を用いて講義を行うほか、関連する資料を読んだディスカッションや小レポート作成など、履修者が自分自身で考える機会を設け、確実に知識を身につけることを目指す。

2. 学びの意義と目標

この講義の目標は、毎回の授業を通じて「社会学的な思考を身につける」ことにある。この思考を身につけることによって、「個人的」と思われる問題の中にある社会的な要素や、「社会的」と思われる問題の中にある個人的な要素を理解できるようになる。これにより将来、履修生がさまざまな問題に直面した際、その問題を多角的に考えられるようになるだろう。

受講生に対する要望

私たちを取り囲む身近な「社会」に関心がある者の受講を望む。

キーワード

(1)家族 (2)地域 (3)メディア (4)ジェンダー (5)階層

事前学習（予習）

予習として教科書の当該箇所を読み、概要をつかんでおくこと。

復習についての指示

復習として教科書と講義ノートを見直すこと。不明な点があれば自分で調べたり、質問するなどして解決すること。

授業計画

1. 社会学とは何か（1）
2. 社会学とは何か（2）
3. 家族社会学（1）
4. 家族社会学（2）
5. 地域社会学（1）
6. 地域社会学（2）
7. メディア社会学（1）
8. メディア社会学（2）
9. 階級・階層と社会（1）
10. 階級・階層と社会（2）
11. アイデンティティと社会（1）
12. アイデンティティと社会（2）
13. ジェンダーと社会（1）
14. ジェンダーと社会（2）
15. 国際社会（1）
16. 国際社会（2）
17. 社会運動（1）
18. 社会運動（2）
19. 社会学の歴史とさまざまな研究：社会学の始まり（1）
20. 社会学の歴史とさまざまな研究：社会学の始まり（2）
21. 社会学の歴史とさまざまな研究：デュルケム（1）
22. 社会学の歴史とさまざまな研究：デュルケム（2）
23. 社会学の歴史とさまざまな研究：ヴェーバー（1）
24. 社会学の歴史とさまざまな研究：ヴェーバー（2）
25. 社会学の歴史とさまざまな研究：マートン
26. 社会学の歴史とさまざまな研究：パーソンズ
27. 社会学の歴史とさまざまな研究：シュッツ
28. 社会学の歴史とさまざまな研究：ブルデュー
29. 社会学的想像力
30. まとめ

教科書

宇都宮京子編 『よくわかる社会学』（ミネルヴァ書房）

評価方法

(1)出席:30% (2)講義内に課す提出物など:30% (3)学期末試験:40%

担当者：加藤 敦也

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ、市民力：地域社会およびコミュニティ活動に関わる基礎知識

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：公民必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目、
社会福祉主事任用資格：選択科目、
コミュニティコース：基幹科目

講義概要

1. 内容

本講義は社会問題を解釈するための方法論ないし理論枠組みとしての社会学の内容を概観していく。授業では、教科書の内容を、雑誌記事や、テレビドラマ、映画、ニュース番組などの映像を補助資料として用い、日常生活における身近な現象がいかに社会学のテーマとして取り上げられ、どのように社会学の対象領域として説明されるかについて解説していく。また、授業中にテーマに応じて小レポート作成やディスカッションを課すことで、社会学の取り扱う問題を自ら考えることを促す。

2. 学びの意義と目標

受講者自身が社会問題を解釈する認知枠組みとして社会的な視点を身につけてもらうことを目標とする。受講者各自はそれぞれ成長してきた過程で問題を解釈する認知の枠組みを身につけてきたはずである。本講義は、その認知のあり方を一つの価値観と見なしながら、その価値観に従うだけでなく、ものごとを社会通念にとらわれず、社会的に理解するための基礎的な知識を身につけてもらいたいと思っている。

受講生に対する要望

他の受講者に迷惑のかかる行為は謹んでほしい。例えば私語厳禁。

キーワード

(1)社会学

事前学習（予習）

授業前の予習としては教科書の該当箇所を読んでおくことが望ましい。

復習についての指示

授業後の復習としては講義をまとめた自筆ノート教科書とあわせて見直すことをすすめる。

授業計画

1. 社会学とは何か（1）
2. 社会学とは何か（2）
3. 社会調査の方法
4. 家族社会学（1）
5. 家族社会学（2）
6. 家族社会学（3）
7. 地域社会学（1）
8. 地域社会学（2）
9. メディア社会学（1）
10. メディア社会学（2）
11. 階級・階層の社会学（1）
12. 階級・階層の社会学（2）
13. アイデンティティと社会学（1）
14. アイデンティティと社会学（2）
15. ジェンダーの社会学（1）
16. ジェンダーの社会学（2）
17. セクシュアリティの社会学
18. エスニシティの社会学
19. 社会運動の社会学（1）
20. 社会運動の社会学（2）
21. 教育社会学（1）
22. 教育社会学（2）
23. 政治社会学
24. 相互行為論、社会構築主義
25. 社会学の歴史：ヴェーバーとデュルケム
26. ヨーロッパの現代：ルーマン、ギデンズ、ブルデュー
27. 日本の社会学史：意味社会学と統合理論
28. 近代と脱近代（1）
29. 近代と脱近代（2）
30. 社会学のまとめ

教科書

宇都宮京子 『よくわかる社会学（第2版）』（ミネルヴァ書房）

評価方法

(1)出席:30% (2)小レポート:30%:授業中に課す (3)定期試験:40%

担当者：安斎 聡子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

社会教育主事資格：選択必修科目

講義概要

1. 内容

この授業では、生涯学習支援のための社会教育施設を概観した上で、各施設における活動や運営における課題について把握する。

2. 学びの意義と目標

社会教育主事任用資格取得を目指す受講生においては、社会教育主事の職務上必要となる事項を身につけることを目標とする。
すべての受講生においては、社会教育をめぐる現状を把握し、それらの諸問題について自ら考えられるようになることを目標とする。

受講生に対する要望

授業の一部にグループ討議などを取り入れるので、積極的な参加を希望する。

キーワード

(1)生涯学習 (2)社会教育

事前学習（予習）

受講前の予備知識は特に問わないが、各回授業の範囲の教科書該当ページに目を通し、概要と不明点を確認しておくこと。

復習についての指示

各回の授業内容と、教育・学習活動に関する自分の経験を結びつけて理解を深めること。

授業計画

1. ガイダンス
2. 社会教育における施設の体系
3. 社会教育における施設の作られ方
4. 社会教育における施設（1）
5. 社会教育における施設（2）
6. 社会教育における施設（3）
7. 社会教育における施設（4）
8. 社会教育における施設（5）
9. 社会教育における施設（6）
10. 社会教育における施設（7）
11. 社会教育における施設（8）
12. 社会教育施設をめぐる環境（1）
13. 社会教育施設をめぐる環境（2）
14. 社会教育施設をめぐる環境（3）
15. まとめ

教科書

鈴木 真理、守井 典子 『生涯学習の計画・施設論（シリーズ・生涯学習社会における社会教育）』（学文社）

評価方法

- (1)授業内応答:40% (2)期末試験:60%

担当者：安斎 聡子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

社会教育主事資格：選択必修科目

講義概要

1. 内容

春学期の「社会教育課題研究A」をふまえ、社会教育施設における学習機会とそれぞれの特徴、課題を整理する。また、それらの具体的な活動について、受講者自身で資料収集、現地見学等を行い報告をしてもらう。

2. 学びの意義と目標

社会教育主事任用資格取得を目指す受講生においては、社会教育主事の職務上必要となる事項を身につけることを目標とする。
すべての受講生においては、社会教育をめぐる現状を把握し、それらの諸問題について自ら考えられるようになることを目標とする。

受講生に対する要望

受講者自身がそれぞれの視点で社会教育施設における学習機会を確認するとともに、自らの学習・教育活動の経験とあわせて、各施設で展開されている活動の意義を考えられるようになることを希望する。

キーワード

(1)生涯学習 (2)社会教育

事前学習（予習）

受講前の予備知識は特に問わない。授業内報告にあたり、事前に資料収集や現地見学を行い発表内容をまとめること（具体的な方法については授業内で説明する）。

復習についての指示

各回の授業内容と、教育・学習活動に関する自分の経験を結びつけて理解を深めること。

授業計画

1. 前期のまとめと後期のガイダンス
2. 社会教育施設における学習機会（1）
3. 社会教育施設における学習機会（2）
4. 社会教育施設における学習機会（3）
5. 社会教育施設における学習機会（4）
6. 社会教育施設における学習機会（5）
7. 授業内報告（1）
8. 授業内報告（2）
9. 授業内報告（3）
10. 授業内報告（4）
11. 授業内報告（5）
12. 授業内報告（6）
13. 授業内報告（7）
14. 授業内報告（8）
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)授業内応答:10% (2)授業内報告:40%:原則1人1回の報告とする。(3)期末試験:50%:15回目の授業内で実施する。
出席を前提とする。

社会教育計画 A

ADED-L-200

担当者：安斎 聡子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

社会教育主事資格：必修科目

講義概要

1. 内容

この授業では、秋学期の「社会教育計画B」とあわせて、社会教育計画に関する基本的な事項を解説する。社会教育の基本的な理解、社会教育行政の仕組みや施策の現状に関する理解など、社会教育計画に関するさまざまな事項を見ていくこととする。

2. 学びの意義と目標

社会教育主事任用資格取得を目指す受講生においては、社会教育計画の策定にあたり、必要となる事項を身につけることを目標とする。すべての受講生においては、社会教育計画に関する基本事項を理解するとともに、社会教育をめぐる諸問題について自ら考えられるようになることを目標とする。

受講生に対する要望

授業の一部にグループ討議などを取り入れるので、積極的な参加を希望する。

キーワード

(1)生涯学習 (2)社会教育

事前学習（予習）

受講前の予備知識は特に問わないが、各回授業の範囲の教科書該当ページに目を通し、概要と不明点を確認しておくこと。

復習についての指示

各回の授業内容と、教育・学習活動に関する自分の経験を結びつけて理解を深めること。

授業計画

1. ガイダンス
2. 社会教育の概念
3. 社会教育計画の概念（1）
4. 社会教育計画の概念（1）
5. 社会教育における地域
6. 社会教育における施設
7. 社会教育における集団（1）
8. 社会教育における集団（2）
9. 社会教育におけるボランティア（1）
10. 社会教育におけるボランティア（2）
11. 社会教育における参加（1）
12. 社会教育における参加（2）
13. 社会教育における学習プログラム（1）
14. 社会教育における学習プログラム（2）
15. まとめ

教科書

鈴木 真理, 熊谷 慎之輔, 山本 珠美 『社会教育計画の基礎』（学文社）

各回の授業内容と、教育・学習活動に関する自分の経験を結びつけて理解を深めること。

評価方法

(1)授業内応答:40% (2)期末試験:60%:15回目の授業内で実施する。

社会教育計画B

ADED-L-200

担当者：安斎 聡子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

社会教育主事資格：必修科目

講義概要

1. 内容

この授業では、春学期の「社会教育計画A」とあわせて、社会教育計画に関する基本的な事項を解説する。社会教育の基本的な理解、社会教育行政の仕組みや施策の現状に関する理解など、社会教育計画に関するさまざまな事項を見ていくこととする。

2. 学びの意義と目標

社会教育主事任用資格取得を目指す受講生においては、社会教育計画の策定にあたり、必要となる事項を身につけることを目標とする。すべての受講生においては、社会教育計画に関する基本事項を理解するとともに、社会教育をめぐる諸問題について自ら考えられるようになることを目標とする。

受講生に対する要望

授業の一部にグループ討議などを取り入れるので、積極的な参加を希望する。

キーワード

(1)生涯学習 (2)社会教育

事前学習（予習）

受講前の予備知識は特に問わないが、各回授業の範囲の教科書該当ページに目を通し、概要と不明点を確認しておくこと。

復習についての指示

各回の授業内容と、学習・教育活動に関する自分の経験を結びつけて理解を深めること。

授業計画

1. 社会教育における学習者（1）
2. 社会教育における学習者（2）
3. 社会教育における学習支援（1）
4. 社会教育における学習支援（2）
5. 社会教育における学習情報
6. 社会教育における大学
7. 社会教育における連携（1）
8. 社会教育における連携（2）
9. 社会教育における評価（1）
10. 社会教育における評価（2）
11. 社会教育行政の変遷
12. 社会教育計画をめぐる課題（1）
13. 社会教育計画をめぐる課題（2）
14. 社会教育計画をめぐる課題（3）
15. まとめ

教科書

鈴木 真理、熊谷 慎之輔、山本 珠美 『社会教育計画の基礎』（学文社）

評価方法

(1)授業内応答:40% (2)期末試験:60%:15回目の授業内で実施する。

社会経済論

ECON-L-300

担当者：正上 常雄

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

知の基礎力：組織人としてのマナーおよび経営の基礎知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

マイケル・サンデルは『それをお金で買いますか 市場主義の限界』の中で、全てが市場に支配される現代社会を批判する。市場原理を基礎とする経済学に対する風当たりは非常に強い。経済学的な思考は、道徳的、倫理的な考え方と異なることが多く、多くの人々から非道徳的と非難される。なぜ、経済学は非道徳的な結論を述べるのか、それを知るためには経済学が社会問題について、どのようにアプローチし、それは道徳的なアプローチとどのように異なるのかを知らなければならない。そこで、経済学が社会問題をどのように捉えているのかを通じて、経済学的な思考の可能性と限界を考えるのが社会経済論である。教科書には、挑戦的な意味を込めて、『人でなしの経済理論』を選んだ。経済理論を述べると、なぜか人でなしと呼ばれる理由を考えてみよう。

2. 学びの意義と目標

お金で買えないものがあるのは当然である。だが、なぜ、お金で買えないのか、そのことについて考えてみる機会は少ない。また、医療や介護などについては市場で取引すべきでないという主張も多い。だが、そう主張する人々も、市場を使わないなら、どのように供給し、分配するのか真剣に考察してはいない。経済学的な思考は全てではない。市場には限界があるし、決して良いものではない。だが、それは民主主義と同じである。チャーチルは「民主主義は最悪の政治といえる。これまで試みられてきた、民主主義以外の全ての政治体制を除けばだが」と述べたが、それは市場にも当てはまる。「市場は最悪の経済システムといえる。これまで試みられてきた、市場以外の全ての経済システムを除けばだが」と言えるだろう。市場を絶対視はしないが、市場以外の方法でうまくいかないことも考えつつ、どうすれば、市場をうまく利用できるのか、それ考えるためには、経済学が社会問題をどのように捉えているのかをきちんと理解する必要がある。経済学は社会問題をどのように考察するのかを通じて、経済的思考の特徴と限界を知ることが本講義の目標である。

受講生に対する要望

授業中の私語は厳禁です。その他の授業中のルールについては、最初の授業で相談して決めます。

キーワード

(1) 中間試験:40% (2) 期末試験:40% (3) 平常点:20% (1) トレードオフ (2) 道徳 (3) 市場

事前学習（予習）

予習としては、教科書の内容を一読しておいて下さい。細かいことは初回の授業で学生の皆さんと相談して決めます。

復習についての指示

復習は、ノートやプリントなどを活用して、自分が理解できている点や理解できていない点をきちんと整理して、次回の授業に活かしてください。

授業計画

1. 市場と道徳
2. すべてが売り物
3. 市場の役割を考え直す
4. 社会問題へのアプローチ
5. 人命の価値っていかほど？1
6. 人命の価値っていかほど？2
7. 費用便益分析と道徳
8. 取引しようか？1
9. 取引しようか？2
10. 臓器売買は何故禁止されるのか
11. お前のものは俺のもの1
12. お前のものは俺のもの2
13. 知的所有権の保護について
14. 中間試験
15. 持っているなら吸ってはいかが？
16. 喫煙の経済学
17. 選択の自由とパターナリズム
18. 人に迷惑をかけないとは？
19. 社会的な損得勘定
20. コースの定理と道徳
21. 規制と行動の変化
22. 規制の必要性和規制の失敗
23. 規制とは何か
24. 警告—製品に注意
25. 訴訟社会の功罪
26. 責任は誰に
27. 警告の生み出すもの
28. 解決策などない
29. 社会的問題に対する視点の違い
30. トレードオフとは

教科書

ハロルド・ウィンター、山形浩生 『人でなしの経済理論-トレードオフの経済学』（バジリコ）

評価方法

(1) 中間試験:40% (2) 期末試験:40% (3) 平常点:20%

大学の規定に従い、出席率2/3以上を単位取得の条件としてます。基本的には中間試験と期末試験の成績で評価します。

担当者：山上 真貴子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識

カリキュラム上の位置付け

情報コース：応用科目

講義概要

1. 内容

社会心理学と聞いて何を思い浮かべるだろう。人間関係、コミュニケーション、集団関係などのテーマはもちろんだが、人は他者と一緒にいるときにだけ社会と関わっているわけではない。自分について考えるときも、何も考えず自動的に行動するときも、他者は私たちに影響を与えている。この授業では、まず前半に幅広い基礎的な知見を紹介し、後半は具体的なトピック（説得のプロが使うテクニック）を軸に、その知見が実践場面でどう生きるのかについて考えていく。

2. 学びの意義と目標

この授業には、日常生活の中で私たちがどのように考え、感じ、行動しているのかについてのヒントがたくさん含まれている。この授業で学んだことを、自分や他者について考えるとき、人間関係や集団、社会について考えるときに使える知識として、日常に持ち帰ってほしい。

受講生に対する要望

良く分かったつもりでいても、いざ実際に使おうとすると、うまく思い出せなかったりするものです。毎回の課題をきちんとこなしていくことで、使える知識を身につけましょう。

キーワード

事前学習（予習）

毎回配布するプリントの最初に書いてある問いに答えよう。

復習についての指示

毎回の授業で出題される「まとめの問題」に解答（回答）しておくこと。次の授業の最初に解説を行う。

授業計画

1. 社会的生物としての人間（1）
2. 社会的生物としての人間（2）
3. 意識されない過程（1）
4. 意識されない過程（2）
5. 社会の中の私（1）
6. 社会の中の私（2）
7. 他者をとらえる（1）
8. 他者をとらえる（2）
9. さまざまな対人関係（1）
10. さまざまな対人関係（2）
11. コミュニケーション（1）
12. コミュニケーション（2）
13. ソーシャル・ネットワーク（1）
14. ソーシャル・ネットワーク（2）
15. 中間試験
16. 影響力の武器
17. 返報性のルールとは
18. 返報性を使ったテクニック
19. コミットメントと一貫性（1）
20. コミットメントと一貫性（2）
21. 社会的証明とは何か
22. 社会的証明の威力と防衛法
23. 好意—優しい泥棒（1）
24. 好意—優しい泥棒（2）
25. 権威の力（1）
26. 権威の力（2）
27. 希少性（1）
28. 希少性（2）
29. 手っ取り早い影響力
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 平常点:20% (2) 中間試験:40% (3) 期末試験:40%

社会調査論

SOCI-L-200

担当者：横山 寿世理

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

市民力：地域社会およびコミュニティ活動に関わる基礎知識

カリキュラム上の位置付け

コミュニティコース：応用科目

講義概要

1. 内容

1. 講義の内容 社会調査とは、社会現象を明らかにすることを目指す手段であり、この科目ではその方法を学ぶ。数的なデータを中心的に使うことになるが、私たちの日常も多くの調査（世論調査や意識調査など）に覆われており、この基礎を学ぶことになる。具体的には、量的調査（アンケート調査）の実施方法とその集計・分析方法を習得することを目指す。また、ただ調査手法を学ぶだけでなく、受講者を調査対象者として、実際に社会調査を模擬的に実施して、集計・分析する。したがって、受講者にとっては、ただ講義を聴いているだけの時間よりも、実際に考えたり、作業をしたりする時間が多くなる。

2. カリキュラム上の位置づけ この授業は、全学年の学生を対象とした政治経済学科の専門科目である。

2. 学びの意義と目標

卒業研究や卒業論文執筆のために、アンケート調査を実施できるようにすることを目指す。ただし、アンケート実施のための基礎を丁寧に繰り返し学び、最小限の力でアンケートを作ることを目指す。また、社会調査はたった一人で行うものではなく、他のメンバーと協力することが必要となるため、他者との協調性を身につけるという意義もあるだろう。

受講生に対する要望

毎回ではないが、学期中盤ではグループワークが必要になる（授業計画中に【グループ】と明記）。チーム編成は教員が決めるので、臆せず参加して欲しい。また、moodleにて講義ごとの評価を確認できるようにしているので、スマートフォンやPCでこまめにmoodleにアクセスして欲しい。

キーワード

(1) 調査 (2) 社会調査法 (3) 社会調査実習 (4) 社会学 (5) アンケート

事前学習（予習）

本講義全体が1つの社会調査実習でもあるため、今日の講義で求められること、今日の講義が全体の中のどの位置にあるのかを予想してることが必要となる。

復習についての指示

講義内で課された課題は、次回までもう一度取り組んでおく必要がある。

授業計画

1. 導入
2. 社会調査とは何か
3. 調査結果の解釈（1）：いろんな社会調査の例を知る
4. 調査結果の解釈（2）：社会調査の意義を知る
5. 社会学と社会調査（1）：客観的な論証とは？
6. 社会学と社会調査（2）：『自殺論』から社会調査を考える
7. 社会学と社会調査（3）：社会調査の戦略
8. 社会調査にできること（1）：調査結果から仮説を考える
9. 社会調査にできること（2）：検証できる仮説とは？
10. 社会調査にできること（3）：仮説と調査結果のまとめ
11. 社会調査にできること（4）：仮説と変数との関係
12. 社会調査にできること（5）：変数と質問文との関係
13. 社会調査にできること（6）：質問文の作り方
14. 調査票を作る：調査テーマと仮説を考える【グループ】
15. 調査票を作る：仮説と質問文・回答を考える【グループ】
16. 調査票を作る：プリテストの完成（宿題あり）
17. 集計方法を学ぶ：エディティングとコーディング
18. プリテスト結果の確認と調査票の修正【グループ】
19. 実査
20. エディティングとコーディング【グループ】
21. 実査結果の集計（転記）【グループ】
22. 単純集計
23. クロス集計
24. 集計結果の分析（1）
25. 集計結果の分析（2）
26. 集計結果の分析（3）
27. 集計結果分析の講評とここまでの復習
28. 標本抽出の方法と問題点
29. もう少し深い分析をするための方法
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 講義内課題：50%：評価はmoodleにて確認できるので、学期途中の持ち点を各受講者が確認できる。(2) 報告書：10%：A4用紙2枚以上（図表3枚を含む）、手書き(3) 期末試験：40%

恒常的な出席が重要になる。授業の進捗によってスケジュールは変更するため、詳細な日程や配点、講義内課題の評価については、moodleで確認して欲しい。欠席した場合も、moodleで進捗を確認することができる。

社会福祉施設経営論

MGMT-L-300

担当者：榊 伴夫

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

知の基礎力：政治や社会のしくみの理解

カリキュラム上の位置付け

コミュニティコース：応用科目

講義概要

1. 内容

＜内容＞社会福祉を取り巻く環境が大きく変わりつつあります。社会福祉施設の経営環境も従来の「措置」から「契約」へと転換され、サービスの質の重視、地域福祉の拠点としての施設へ、地域との連携強化など大きく変化してきています。各種施設の多様な経営実態を踏まえ施設の現状と課題を明らかにしつつ施設経営のあるべき姿について学びます。社会福祉施設の歴史、社会保障制度の基礎的理解、経営管理論の基礎、人材育成、福祉サービス従事者に求められる基礎的な知識と理論を学びます。表現力やコミュニケーション能力を高めるため、授業中に対話や意見交換を積極的に行います。

2. 学びの意義と目標

社会福祉施設の経営管理と関連法制度を社会の進展とともに学びます。施設経営の今日的課題をコミュニティとの関連とともに学びます。また、社会福祉施設経営と密接にかかわる社会保障制度の概略や、行政・民間法人の活動の意義と実際を体系的に学ぶとともに、社会福祉事業の運営に資する基礎理論を身につけます。社会福祉施設の経営を学び、広く社会に視野を広げ様々な社会問題に関心を持ち、共助社会の実現に努力する社会人となること。

受講生に対する要望

社会福祉関係以外にも興味を持ち、組織論、管理論など広く勉強して欲しい。

キーワード

(1) 社会福祉の歴史 (2) 組織論 (3) 人材育成論 (4) 施設サービス理論 (5) 社会保障制度

事前学習（予習）

様々な考え方や価値観を尊重するために、福祉施設の経営に関する書物や教科書だけでなく、文化・歴史・文学・芸術などについて幅広く興味を持ち、書物にふれてください。

復習についての指示

教科書や配布されたプリントを再読し、さらに広く研究する分野を選んで課題を明らかにしておくこと。

授業計画

1. 福祉を学ぶ意義
2. 社会福祉経営環境の変化 社会福祉基礎構造改革
3. 社会福祉施設の概要
4. 社会福祉事業・施設の歴史と役割 1
5. 社会福祉事業・施設の歴史と役割 2
6. 社会福祉事業の関連法制度 1
7. 社会福祉事業の関連法制度 2
8. 行政と社会福祉事業の経営管理
9. 経営と管理 人材の育成
10. 組織と管理 1
11. 組織と管理 2
12. 施設サービスの基本的理解・ケースワーク・人間の理解
13. 人事管理・労務管理
14. 組織理論
15. 管理理論
16. 社会保障制度（医療・年金など）の概要
17. 高齢者福祉施設の概要
18. 障害者福祉施設の概要
19. 児童福祉施設・母子福祉施設の概要
20. 生活保護等低所得者施設の概要
21. プレゼンテーション 1
22. プレゼンテーション 2
23. 財務会計・建物・設備管理
24. サービス管理・情報管理・危機管理
25. 記録・仕事の進め方・職場づくり
26. 家族の変容と社会福祉施設の経営管理
27. 地域社会と社会福祉施設
28. 現代社会と社会福祉施設
29. 社会福祉施設経営管理の課題と展望
30. 期末テスト

教科書

宇山勝義・小林 理 『社会福祉事業経営論』（光生館）

評価方法

- (1) プレゼンテーション：20%：テーマ、方法は別途事前に指示。
(2) 期末試験：80%：800字の論文。教科書・ノート持ち込み可。
出席や、積極的な授業参加を前提の総合評価です。

社会保障論

ECON-L-200

担当者：宮寺 良光

開設期：春学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

社会福祉主事任用資格：選択科目、
行政コース：応用科目、
コミュニティコース：基幹科目、
社会福祉士国家試験受験資格：必修科目、
精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

・現代社会における社会保障制度の課題・社会保障の概念や対象およびその理念・社会保障の歴史・社会保障の財源と費用・社会保険と社会扶助の関係・社会保障制度の体系・社会保障制度の概要（年金保険・医療保険・介護保険・労働保険・その他社会手当）・公的保険制度と民間保険制度の関係・諸外国における社会保障制度の概要

2. 学びの意義と目標

・現代社会における社会保障制度の課題（少子高齢化と社会保障制度の関係を含む。）について理解する。・社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程も含めて理解する。・公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。・社会保障制度の体系と概要について理解する。・年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容について理解する。・諸外国における社会保障制度の概要について理解する。

受講生に対する要望

・出席を単位修得の条件とするため、3分の2以上は出席するようにしてください。・集中講義であるため、長時間受講するのは苦痛を伴うと思うので、お互いにメリハリを付けて取り組みましょう。

キーワード

(1)人口の少子・高齢化 (2)皆保険・皆年金 (3)介護保険 (4)労働保険 (5)国際比較

事前学習（予習）

(1)講義内容の予習 → テキストを読解してくる

復習についての指示

(1)講義内容の復習 → 毎回出題する課題に対して、400文字程度のレポートを提出する

授業計画

1. 現代社会における社会保障制度の課題 (1) 人口動態の変化、少子・高齢・人口減少社会
2. 現代社会における社会保障制度の課題 (2) 労働・雇用環境の変化
3. 現代社会における社会保障制度の課題 (3) 少子高齢・人口減少社会・政治・経済的な問題と社会保障の課題
4. 社会保障の概念や対象およびその理念
5. 社会保障の歴史 (1) 欧米における歴史的展開
6. 社会保障の歴史 (2) 日本における歴史的展開
7. 社会保障の財源と費用 (1) 社会保障の財源及び給付費
8. 社会保障の財源と費用 (2) 国民負担率と財源・費用に関する国家的課題
9. 社会保険と社会扶助の関係 (1) 社会保険の概念と範囲
10. 社会保険と社会扶助の関係 (2) 社会扶助の概念と範囲
11. 社会保障制度の体系
12. 年金保険制度 (1) 年金保険制度の沿革と概要
13. 年金保険制度 (2) 国民年金
14. 年金保険制度 (3) 厚生年金・共済年金
15. 年金保険制度 (4) 年金制度をめぐる最近の動向
16. 医療保険制度 (1) 医療保険制度の沿革と最近の動向
17. 医療保険制度 (2) 国民健康保険
18. 医療保険制度 (3) 健康保険と共済組合制度
19. 医療保険制度 (4) 後期高齢者医療制度
20. 介護保険制度 (1) 創設の経緯
21. 介護保険制度 (2) 介護保険制度の概要
22. 介護保険制度 (3) 介護保険制度をめぐる最近の動向
23. 労働保険制度 (4) 労働保険制度の沿革と最近の動向
24. 労働保険制度 (1) 労災保険
25. 労働保険制度 (2) 雇用保険
26. 社会手当制度
27. 公的保険制度と民間保険制度の関係 (1) 民間保険に期待される役割
28. 公的保険制度と民間保険制度の関係 (2) 民間保険の概要
29. 諸外国における社会保障制度の概要 (1) 社会保障の国際比較
30. 諸外国における社会保障制度の概要 (2) 先進諸国における社会保障制度の概要

教科書

唐鎌直義 『脱貧困の社会保障』（旬報社）

評価方法

(1)出席:30% (2)小レポート:30% (3)試験:40%

社会保障論

ECON-L-200

担当者：高橋 聡

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

社会福祉主事任用資格：選択科目、
行政コース：応用科目、
コミュニティコース：基幹科目、
社会福祉士国家試験受験資格：必修科目、
精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

2時限連続講義を以下の2部構成とする。①制度・理論編病気、貧困、老後生活、失業、労災など、人生に待ち受ける様々なリスクへの備えであるわが国の社会保障制度のしくみを学ぶ。②歴史・思想編社会保障制度を支える思想と制度構築の歴史を紹介し、これらをふまえて現在の日本社会に起きている問題を考える。大学生である以上、自分とごく近い周囲への関心だけでなく、広い視野から人間と社会に関心を抱き、何かを考えてほしい。

2. 学びの意義と目標

目標 社会保障制度のしくみとその活用法を知ること。今日の日本社会においている諸問題を考えること。意義万事に自己責任を問われ、将来不安の高まる今、社会保障制度の知識は生きるための必須の知恵といえる。そうはいっても、独特の用語や複雑な制度設計は独学では習得しにくいので、この機会にぜひ受講してほしい。

受講生に対する要望

授業に遅刻しないこと。私語をしないこと。講義では、質疑応答やレポート作成を通じて受講者が自ら発信する機会をもうける。よって、単に出席するだけではなく、積極的な受講態度が求められる。

キーワード

(1)医療保険 (2)公的扶助 (3)社会福祉制度 (4)年金 (5)雇用保険・労災保険

事前学習（予習）

教科書の次週の講義ページを指定するので、疑問点を出せるようにしておくこと。

復習についての指示

制度・理論編については、中間試験と期末試験を行う。よって、授業で使ったプリントの穴埋めをきちんと書けるようにすること。歴史・思想編についてはレポートを課す。よって、講義プリントにあげる参考文献に目を通す、新聞や雑誌の記事を収集するなどの準備を日ごろから心がけ、レポート執筆に備えること。

授業計画

1. 社会保障の考え方
2. 保険と税のしくみ
3. 制度・理論1 医療保険(1)
4. 歴史・思想1 カント『啓蒙とは何か』
5. 制度・理論2 医療保険(2)
6. 歴史・思想2 幸福な生(=福祉)とハンセン病国家賠償請求訴訟
7. 制度・理論3 医療保険(3)
8. 歴史・思想3 幸福な生(=福祉)とホームレス自立支援法
9. 制度・理論4 生活保護
10. 歴史・思想4 J.S.ミル『自由論』
11. 制度・理論5 社会福祉制度
12. 歴史・思想5 「最後の福祉」としての刑務所
13. 制度・理論6 社会手当
14. 歴史・思想6 J.S.ミル『女性の隷従』
15. 制度・理論7 年金(1)
16. 歴史・思想7 「格差社会」と女性・子どもの貧困
17. 制度・理論8 年金(2)
18. 歴史・思想8 ミュルダール『人口問題の危機』
19. 制度・理論9 年金(3)
20. 歴史・思想9 少子・高齢化対策の各国比較
21. 制度・理論10 雇用保険
22. 歴史・思想10 ロールズ『正義論』
23. 制度・理論11 労災保険
24. 歴史・思想11 人生前半の社会保障としての教育
25. 制度・理論12 介護保険
26. 歴史・思想12 セン『不平等の再検討』『福祉の経済学』
27. 制度・理論13 社会保障財政(1)
28. 歴史・思想13 潜在能力と福祉—障碍と高齢化を生きる
29. 制度・理論14 社会保障財政(2)
30. 全体の復習

教科書

田中耕太郎・棕野美智子 『はじめての社会保障』（有斐閣）

評価方法

(1)中間・期末試験:60% (2)レポート:30% (3)出席:10%

担当者：小池 茂子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

社会教育主事資格：必修科目、
公務員試験対策プログラム科目

講義概要

1. 内容

2006年に改正された教育基本法には生涯学習に関する条項が新設された。生涯学習という言葉がようやく市民権を得られてきたようにも思える一方で、それがどのような理念で、どのような背景から提唱されてきたかについては十分に認知されているとはいえない。そこで、本講義では生涯教育の理念について、どのような背景から理念が提唱され、教育政策に反映されるに至ったか、その社会背景を詳細に取り上げる。また、今日の教育改革の方向性、さらには生涯学習社会とは、どのような社会の実現を目指そうとしているのか、講義を通じて論じることとする。

2. 学びの意義と目標

生涯学習の理念、理念提唱の社会的背景、今日の教育改革と生涯学習推進施策展開における生涯学習施設運営の課題など、広くテーマを設定し、社会教育や生涯学習行政の現場で働く社会教育主事や生涯学習施設の一つである公共図書館に勤務する図書館司書といった、有資格者の専門性につながる事項の理解を目指す。

受講生に対する要望

前回の講義内容を、きっちり復習しながら次週の講義に臨むように準備を行うこと。資格関連科目であるが、積極的な学びを期待する。

キーワード

(1) 社会教育の理念 (2) 生涯教育・生涯学習 (3) 生涯発達論 (4) 発達課題 (5) 学歴社会の是正

事前学習（予習）

毎回、授業時に指定する配布資料を事前に読み込んで授業に臨むこと。

復習についての指示

授業時に配布したプリント等を、その時限のノートと照合させ、各時限の学びの定着化を図ること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 教育の領域（家庭教育、社会教育、学校教育）
3. 社会教育の定義（教育基本法、社会教育法）
4. 生涯教育の理念（1）
5. 生涯教育の理念（2）
6. 生涯教育の理念と社会背景（1）（社会の高齢化、平均余命の伸長）
7. 生涯教育の理念と社会背景（2）（生涯にわたる発達課題の解決に向けて）
8. 生涯教育の理念と社会背景（3）（教育改革と生涯学習体系への移行）
9. 生涯教育の理念と社会背景（4）（急激な社会変化への適応）
10. 生涯教育の理念と社会背景（5）（学校教育をめぐる問題、学歴主義は必要悪か？戦後の青少年の非行など）
11. 生涯教育の理念への批判
12. 今日の教育政策にみる生涯学習振興策
13. 生涯学習時代における社会教育施設の機能と課題（1）
14. 生涯学習時代における社会教育施設の機能と課題（2）
15. まとめ

教科書

鈴木眞理 『生涯学習概論』（樹村房）

評価方法

- (1) 出席点：30% (2) 試験：70%

担当者：小池 茂子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

社会教育主事資格：必修科目、
公務員試験対策プログラム科目

講義概要

1. 内容

1. 内容本講義では第1に、我が国戦後の社会教育の理念について学ぶ。第2に、生涯学習の理念が教育政策に反映されていく過程を1960年代半ば以降の教育答申等の内容を通して捉える。第3に、社会教育施設として設置された、公民館、公共図書館、博物館活動について成り立ちと機能について取り上げ、生涯学習時代、多様化・高度化する人々の学習ニーズや、まちづくりとの関連において21世紀に求められる諸機能と課題について展望する。2. カリキュラム上の位置付け社会教育主事資格取得の選択必修科目として位置づけられている。(勿論、資格取得を目指さない学生の受講も歓迎する。)

2. 学びの意義と目標

社会教育から生涯学習の時代へと、今日いわれるところの生涯学習振興政策がどのような経緯から生まれて来たのか、また生涯学習社会の実現に向けて、今日の社会教育施設に求められる教育的機能について理解する。

受講生に対する要望

今日の社会の中にある、生涯学習の現場に関心を注ぎながら講義に臨んでほしい。

キーワード

(1) 社会教育 (2) 生涯学習 (3) 公民館 (4) 公共図書館 (5) 博物館

事前学習（予習）

配布資料を事前に読みこんで、毎回の授業に臨むこと。

復習についての指示

授業時に配布した資料を、講義終了後ノートと照合し、学びの内容を定着させること。

授業計画

1. 教育の民主化と社会教育
2. 教育基本法・社会教育法と社会教育
3. 社会教育から生涯学習の理念へ (1) 何が新たな展開として出現したか
4. 社会教育から生涯学習の理念へ (2) 生涯学習と社会教育の違いとは？
5. 生涯学習振興と公民館 (1) 公民館の成り立ちから今日へ
6. 生涯学習振興と公民館 (2) 公民館とコミュニティセンターをめぐる議論
7. まちづくりと公民館活動 (特色ある公民館活動の紹介)
8. 生涯学習振興と公共図書館
9. まちづくりと公共図書館 (指定管理者制度の導入をめぐる議論)
10. まちづくりと図書館 (特色ある図書館活動の紹介)
11. 生涯学習振興と博物館 (1) 博物館の成り立ち
12. 生涯学習振興と博物館 (2) 博物館・学校・地域との連携事業
13. まちづくりと博物館 (特色ある博物館活動の紹介)
14. 指定管理者の導入と社会教育施設をめぐる議論
15. まとめ

教科書

鈴木真理 『生涯学習概論』 (樹村房)

評価方法

(1) 出席点:30% (2) 平常点:20% (3) 試験:50%

担当者：久保 隆光

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識

カリキュラム上の位置付け

ビジネスコース：応用科目

講義概要

1. 内容

本講義では、主に小売業、卸売業のマーケティング、店舗経営について学びます。生産と消費を結び付ける機能が商業です。現在、日本の商業を取り巻く環境は激化しています。市場のグローバル化、ITの急速な発展、消費行動の多様化、異業種からの市場参入など、これまでにない動きが活発化しています。そこで、こうした動き（外部環境の変化）にいかに関小売業、卸売業が対応しているか、その経営について学んでいきます。講義は主に、商業機能についての理論、つぎに店舗経営の実務、事例研究の3つから構成されます。普段、利用しているコンビニ、スーパー、ファッション・アパレル店、ネット販売等の経営がテーマの講義です。日々の生活に密着している話題が中心です。

2. 学びの意義と目標

つぎの3点をこの講義の到達目標とします。①小売業と卸売業の機能、構造、形態について説明できる。②商業経営の新しい動向と問題点を説明できる。③事例研究を通して、どのように理論が実際の店舗経営に応用されているか説明できる。

受講生に対する要望

普段、利用しているコンビニ、スーパー、ファッションのお店、ネット販売等の経営がテーマの講義です。日々の生活に密着している話題が中心です。毎日の消費活動の裏側に関心を持つように！

キーワード

(1)流通 (2)小売 (3)卸売 (4)競争戦略 (5)サプライ・チェーン・マネジメント

事前学習（予習）

新聞、経済雑誌（例：東洋経済、日経トレンディ）などに目を通し、企業の実例に関心を持つように。前回の講義とのつながりがどこにあるのか予想をたてて講義に臨むように。

復習についての指示

毎回の講義内で解説した専門用語、理論を整理すること。「理解できたこと」、「疑問点」、「次回学びたいこと」を整理し、次の学習につなげること。

授業計画

1. 概要説明 商業とは何か？
2. 流通の機能
3. 商業の機能
4. 小売の機能
5. 小売の構造・形態
6. ケース・スタディー（セブン・イレブンからみる出店計画、店舗運営）
7. ケース・スタディー（セブン・イレブンからみるPOSシステム、配送システム）
8. 卸売の機能
9. 卸売の構造・形態
10. 戦略的マーケティング論
11. 市場戦略、競争戦略論
12. ケース・スタディー（モスバーガー VS マクドナルド）
13. 商業経営の新しい動向： サプライ・チェーン・マネジメント
14. ケース・スタディー（ユニクロ、ZARA、H&M）
15. 全体総括、試験および解説

教科書

授業の中で指示する特定の教科書は使用しません。そのため、講義ごとにプリントを配布します。必要な参考図書、ウェブ・サイトは講義内で紹介します。

評価方法

- (1)最終試験:60% (2)ミニレポート:30% (3)出席状況:10%

講義は社会的空間です。社会的ルールを守らない場合は厳正に対処します。

担当者：佐藤 文彦

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識

カリキュラム上の位置付け

ビジネスコース：基幹科目

講義概要

1. 内容

わが国にとどまらず、世界の経済を中心的に担っているのは株式会社である。本授業では、商法のうち、この株式会社を規整している会社法を中心に解説する。ここでは、会社をはじめとする商人がなぜ世に必要とされ、認められる存在であるのか、そしてなぜ株式会社が、世の起業家に、また世界経済に受け入れられているのかという疑問にはじまり、株式会社制度が抱える法的諸問題を会社法がどのように処理しているのかを主に学んでもらう。

2. 学びの意義と目標

商法を基軸として、民法を基礎とする私法全般にわたる基本的知識とともに、企業実務家としての素養を身に付けてもらうことを目標とする。

受講生に対する要望

真摯に講義に臨む学生を歓迎する。授業では商法、会社法にとどまらず、さまざまな法律の条文を参照する。各自六法を用意すること。

キーワード

(1)商法の意義 (2)会社法の意義 (3)私法の意義 (4)株式会社「制度」

事前学習（予習）

教科書等により関連事項の全体像を自分なりに理解しておくこと。

復習についての指示

講義で示された条文・制度の内容を教科書等を参考にしながら理解すること。

授業計画

1. ガイダンス
2. 商法・会社法の意義
3. 個人商人、商人としての会社
4. 商人資格要件
5. 絶対的商行為
6. 営業的商行為
7. 商行為法総論
8. 消費者保護法総論
9. 商法が規定する共同事業制度
10. 会社法が規定する各種会社制度
11. 持分制度とは
12. 株式制度とは
13. 会社法の具体的目的
14. 組織法としての会社法
15. 会社の設立
16. 商業登記制度
17. 会社の組織再編行為総論
18. 合併、組織変更
19. 株式交換・移転
20. 事業譲渡、解散、清算
21. 株式・新株予約権の発行
22. 自己株式の取得、社債
23. 会社の機関総説
24. 株主総会
25. 取締役会
26. 取締役、代表取締役
27. 役員等の責任追及制度
28. 監査役（会）、会計監査人、会計参与
29. 委員会設置会社とは
30. 会社の情報開示制度

教科書

山本忠弘ほか編 『やさしい企業法』（嵯峨野書院）

評価方法

(1)学期末試験：100%

なお、出席状況・授業態度が悪い場合、これを減点評価要素とする。

時事問題演習

CREE-0-101

担当者：森脇 健介，山本 祥弘

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本演習では、新聞やテレビなどで報道されるニュースを読み解くための「時事力」を、ニュース時事能力検定（ニュース検定）の公式テキストと問題集を解きながら身につけていきます。問題の出題形式には、授業計画にあるように、「社会・環境」などの5つの類型が存在します。それぞれの分野に応じた公式テキストの読解・問題集の演習を行い、解説を付していくことで総合的な理解力を高めていきます。なお本演習で扱う問題の水準は、ニュース検定準2級程度、すなわち高校から大学・社会人までの過程をつなぐ、総合的かつ基本的な時事に関する知識を問うものとなっています。

2. 学びの意義と目標

「時事力」とは、「（社会的な）様々なテーマを自身の問題としてとらえる習慣が身に付くことにより備わっていく力」とされています。言い換えるなら、時事的な問題を理解するために必要とされるキーワードや、社会の仕組みなどについての知識を身につけるということです。したがって、大学での専門講義を理解するために必要とされる基礎的な知識の習得が、最終的に目指されるべき目標となります。同時に、検定試験に合格するということは、このような教養が身につけていることを、「資格」取得というかたちで証明するということでもあります。時事に関し、社会人になるにあたって前提となる教養が習得済みであることも、この資格を通じて示すことができるということになります。

受講生に対する要望

授業内での問題演習には集中して取り組み、検定試験までの限られた時間を無駄にしないようにしましょう。

キーワード

(1) ニュース検定 (2) 政治経済 (3) 社会問題

事前学習（予習）

日頃から、新聞・テレビニュースなどに触れることを心がけてください。また、公式テキストをあらかじめ読んでおくと、より理解が深まります。

復習についての指示

その日に解いた問題は、復習することによって初めて知識として身につけ、受験直前での負担を減らすことにもつながります。復習に重点を置き、各自で取り組んでください。

授業計画

1. イントロダクション
2. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅰ
3. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅱ
4. 「社会・環境」に関する時事問題Ⅲ
5. 「暮らし」に関する時事問題Ⅰ
6. 「暮らし」に関する時事問題Ⅱ
7. 「国内政治」に関する時事問題Ⅰ
8. 「国内政治」に関する時事問題Ⅱ
9. 「国内政治」に関する時事問題Ⅲ
10. 「国際問題」に関する時事問題Ⅰ
11. 「国際問題」に関する時事問題Ⅱ
12. 「経済」に関する時事問題Ⅰ
13. 「経済」に関する時事問題Ⅱ
14. 「経済」に関する時事問題Ⅲ
15. まとめと総復習

教科書

日本ニュース時事能力検定（監）『2014年度版 ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編（2級・準2級対応）』（毎日教育総合研究所）日本ニュース時事能力検定（監）『2014年度版 ニュース検定公式問題集（1・2・準2級対応）』（毎日教育総合研究所）

評価方法

(1) 「ニュース時事能力検定」準2級の得点：60%：試験は、6月と9月初旬に実施予定です。受験は評価のための必須条件です。(2) 日頃の取り組み：40%：演習内の作業への取り組みと、その成果も評価します。

担当者：河島 茂生

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識

カリキュラム上の位置付け

情報コース：基幹科目

講義概要

1. 内容

情報学は、20世紀前半に生まれた学問であり、特に1940年代に端緒を求めることができる。いまやその領域は、文理の垣根を超え広い学問分野を形成するに至っている。情報学は、およそ基礎情報学、情報工学・科学、応用情報学、社会情報学に大別することができる。このうち、本科目では、基礎情報学、社会情報学、情報工学・科学の領域を扱っていく。週2回の授業のうち、1回が基礎情報学および社会情報学の領域を扱い、もう1回が情報工学・科学の分野を扱う。

2. 学びの意義と目標

現代社会は、しばしば情報社会と表現される。毎日のように「情報」という言葉が人々の耳目にとまる。そのような現代社会を学問的に理解することを目指す。

受講生に対する要望

情報学の基礎科目であり、ほかの情報学関連の科目の出発点である。受講を強く勧める。

キーワード

事前学習（予習）

毎回与えられた課題をこなし、授業に臨みたい。

復習についての指示

授業で触れた内容をテキスト等で読み返し、思考を整理することを求める。また、授業課題で間違った箇所に関しては重点的に見直す必要がある。

授業計画

1. 情報学の今日的意義、情報学の種別
2. コンピュータの仕組み1
3. コンピュータの仕組み2
4. コンピュータの仕組み3
5. インターネットの仕組み1
6. インターネットの仕組み2
7. インターネットの仕組み3
8. 情報概念の定義づけ1
9. 情報概念の定義づけ2
10. 人工知能
11. 情報社会論
12. 大規模災害におけるインターネットの役割1
13. 大規模災害におけるインターネットの役割2
14. インターネットと地域社会
15. インターネット産業の構図
16. インターネット時代の著作権
17. 情報セキュリティ
18. インターネット上のコミュニケーション1
19. インターネット上のコミュニケーション2
20. 情報社会のなかで複数化／一元化する人格
21. インターネットに依存する心理
22. Wikipediaの概要
23. Wikipediaの演習
24. SNSの概要
25. SNSの演習
26. Twitterの概要
27. Twitterの演習
28. 情報収集のカスタマイズ化
29. メディア・リテラシー
30. まとめ

教科書

中西 裕 『考える情報学—ディスカッションへのテーマと事例』（樹村房）

評価方法

(1) 試験:100%

ただし、単位修得にあたっては出席数が授業回数の3分の2以上であることを条件とする。

情報検索演習

INFO-L-300

担当者：坂内 悟

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識

カリキュラム上の位置付け

情報コース：基幹科目，
高等学校教諭一種免許：情報選択科目

講義概要

1. 内容

二次情報をはじめとする各種情報資源を対象とする情報検索の基礎知識を身に付ける。電子ジャーナルを含むデータベース等の各種情報源について、その特性を理解し代表的な図書検索や雑誌記事検索等の検索システムの操作方法、活用方法を演習により習得する。インターネット検索について、サーチエンジンの基礎知識を身に付け、情報検索における活用方法を理解する。また、パスファインダー作成演習を通じ様々な情報源を活用した情報サービス提供の基本を習得する。

2. 学びの意義と目標

図書館司書として仕事をするための情報サービスについて理解する。情報サービスにおける情報検索についてその特性を理解し、演習を通じ実践的な情報検索能力を身につける。

受講生に対する要望

WindowsおよびInternet Explorerが操作できることを前提とした講義を行う。漢字、英字や記号の半角入力等を含めWindowsおよびInternet Explorerの基本的操作をできるようにしておくこと。教科書を毎回持参すること。

キーワード

(1) 二次情報 (2) 索引 (3) 論理演算 (4) OPAC (5) 雑誌記事

事前学習（予習）

次回講義に予定している内容に該当する教科書のUNITについて一読し、不明点を明らかにしておくこと。

復習についての指示

演習については、同様の課題についての的確に資料を探すことができるように、講義で指導した方法で特に難しいと感じた課題については、可能な限り類似の課題で演習を行うこと。

授業計画

1. 情報検索とは何か
2. データベースの構造と索引作成
3. 検索の基本方針、検索語とフィールド
4. 論理演算、様々な検索機能（トランケーション等）、検索結果の出力と評価
5. 図書検索システム演習
6. 図書検索システム演習
7. 図書検索システム演習
8. 図書検索システム演習
9. 雑誌記事検索システム演習
10. 雑誌記事検索システム演習
11. 雑誌記事検索システム演習
12. 雑誌記事検索システム演習
13. インターネット検索（サーチエンジン）
14. パスファインダー演習
15. パスファインダー演習

教科書

安形 輝，大谷 康晴 『情報検索演習（JLA図書館情報学テキストシリーズ 2-6）』（日本図書館協会）

評価方法

- (1) 期末試験：70% (2) 出席点＋平常点：30%

担当者：国分 道雄

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識

カリキュラム上の位置付け

情報コース：基幹科目，
高等学校教諭一種免許：情報必修科目

講義概要

1. 内容

本講義は情報化社会にあって各種問題を学生が解決するため、その解決方法としてコンピュータを使用して効率的に問題処理できる能力を養うためのものである。社会で現実に存在する代表的な情報システムの特徴を理解し、設計・開発・運用・保守の技術についても修得する。

2. 学びの意義と目標

自ら情報システムを構築・管理できるようになるための技術・知識の基礎として、主に実習を通してプログラミングを習得することを目的とする。講義の最後には各自がオリジナルのプログラムを作成する。

受講生に対する要望

「情報リテラシー」の単位を修得していることが望ましい。

キーワード

事前学習（予習）

今回のキーワードや用語の意味を調べておくこと。

復習についての指示

実習で解けなかった問題や間違えた問題などを、次の講義までによく復習しておくこと。

授業計画

1. 情報システムの概要
2. 基本ソフトとアプリケーションソフト
3. 入力とセンサ
4. 情報システムの信頼性
5. 情報システムのライフサイクル
6. システム開発の工程
7. データ設計
8. 構造化プログラミング
9. プログラミング言語
10. 変数の代入と計算
11. 選択構造
12. 繰り返し構造
13. 関数とサブルーチン
14. 配列変数
15. データ検索アルゴリズム
16. 最大値・最小値アルゴリズム
17. 並べ替えアルゴリズム
18. 画像の表示を行うプログラム
19. 画像が動くプログラム
20. インタラクティブなプログラム
21. じゃんけんゲームの作成
22. ミニロールプレイングゲームの作成
23. ミニアドベンチャーゲームの作成
24. ミサイル発射ゲームの作成
25. 壁打ちテニスゲームの作成
26. ゲームデザインとプログラム設計
27. オリジナルゲームプログラムの作成(1)
28. オリジナルゲームプログラムの作成(2)
29. オリジナルゲームプログラムの作成(3)
30. オリジナルゲームプログラムの作成(4)

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 授業での課題:50% (2) 期末テスト:50%

担当者：松原 望

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

知の基礎力：市民および職業人としての基本的知識と技能

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：情報選択科目、
情報コース：応用科目

講義概要

1. 内容

統計学は情報の学問です。「最強」などと云われていますが、私たちの日常生活を通して学ぶことでより面白い知的世界が広がります。今の社会を生き抜くために必要な情報の基礎知識を学んで、情報社会で豊かで主体的な人生を築きましょう。初心者歓迎。数学知識不要。

2. 学びの意義と目標

統計学を通じてコンピュータ力を高め、情報社会で生き活躍する能力を育てる。就職用お買い得科目。

受講生に対する要望

USBメモリ持参。できれば自宅で添付ファイル受け取り可能に。テキストは購入して下さい。あと、健脚。

キーワード

(1)エクセル (2)数字に強くなる (3)周囲から信頼される知識 (4)データによるディスカッション (5)就職

事前学習（予習）

テキストを事前に10分だけ見ておいてください。「眺める」だけでも有効。

復習についての指示

レポートおよび復習によって、授業内容を深く理解する。自宅でも可能です。

授業計画

1. 少子・高齢化の統計（見方・考え方）
2. なぜ情報が必要か
3. 環境・資源の統計（見方・考え方）
4. 日常生活と情報
5. 経済統計（見方・考え方）
6. 情報産業
7. 地域の統計（見方・考え方）
8. 足で情報を取る
9. 金融・経営の統計（見方・考え方）
10. 情報化の進展
11. 広告・マーケティングの統計（見方・考え方）
12. 情報モラル
13. 教育・心理の統計（見方・考え方）
14. 情報技術（教育）
15. 社会調査の統計（見方・考え方）
16. 情報技術（社会調査）
17. 医療の統計（見方・考え方）
18. 情報技術（医療）
19. 福祉・介護の統計（見方・考え方）
20. 情報技術（福祉・介護）
21. 体育・スポーツの統計（見方・考え方）
22. 情報技術（エンタテインメント）
23. 統計データの扱い方
24. トピック：情報技術者の業務
25. 平均と分散（見方・考え方）
26. トピック：情報技術者の責任
27. 相関関係と相関係数（見方・考え方）
28. トピック：情報産業と法律
29. 回帰方程式と予測（見方・考え方）
30. トピック：情報技術者と人生

教科書

松原望 『はじめよう！統計学超入門』（技術評論社）

評価方法

(1)出席:25%;8割必要 (2)レポート:25%;簡単なもの数回 (3)試験:25%;エクセル、ホームページを利用 (4)熱意:25%;履修したので熱意はあると判断

担当者：国分 道雄

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識

カリキュラム上の位置付け

情報コース：基幹科目、
高等学校教諭一種免許：情報必修科目

講義概要

1. 内容

本講義は情報化社会にあって情報を科学的に理解するため、情報処理の基礎理論およびコンピュータの構造を学ぶためのものである。コンピュータにおける情報の表し方・情報処理の特徴等の仕組みや働きを学び、内部の概念モデルを把握する。

2. 学びの意義と目標

アプリケーションシステムを利用する場合にも、表面的な操作を覚えるのではなく、内部での動作を科学的に理解することが重要である。自分の操作に統制感を持ち、問題解決のために主体的に利用できる態度と能力を身につける。

受講生に対する要望

「情報リテラシー」の単位を修得していることが望ましい。

キーワード

事前学習（予習）

今回のキーワードや用語の意味を調べておくこと。

復習についての指示

実習で解けなかった問題や間違えた問題などを、次の講義までによく復習しておくこと。

授業計画

1. アナログとデジタル
2. デジタルの情報量
3. N進数
4. 基数変換
5. N進数の小数
6. N進数の演算
7. 論理回路
8. 加算器
9. 補数を用いた引き算
10. コンピュータの機能(1)
11. コンピュータの機能(2)
12. コンピュータの構造(1)
13. コンピュータの構造(2)
14. アセンブリ言語
15. メモリの構造
16. メモリのアドレス
17. 外部記憶装置
18. 平均アクセス時間
19. ファイル・アロケーション・テーブル
20. OSの役割
21. ソフトウェアの働き
22. デジタルデータによる情報の表現(1)
23. デジタルデータによる情報の表現(2)
24. 文字のデジタル化
25. 2進10進数
26. 浮動小数点数
27. データベース(1)
28. データベース(2)
29. 計測・制御
30. コンピュータの未来

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 授業での課題:50% (2) 期末テスト:50%

担当者：竹井 潔

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識

カリキュラム上の位置付け

情報コース：基幹科目，
高等学校教諭一種免許：情報必修科目

講義概要

1. 内容

現代社会は情報通信ネットワークによるデータ通信に基礎をおく高度情報通信社会となっている。講義ではこのことを踏まえ、情報通信ネットワークの基本的仕組みの理解とともに具体的なネットワークの構築及び設計ができるようにするためその技術と知識について学ぶ。ネットワークの伝送技術及びLAN、インターネットの仕組みや携帯電話・スマートフォン、衛星通信などの問題についても取り扱う。

2. 学びの意義と目標

情報社会では、生活においてもビジネス社会においてもネットワークは不可欠なものとなっている。情報伝達の手段としてのネットワークの基本的な構造や特徴を理解することは、これから情報社会に生きる者にとって必須の基礎知識となる。これらを学ぶことによりネットワーク社会におけるコミュニケーションのあり方について考えてもらいたい。

受講生に対する要望

講義内容は情報通信ネットワークの基本的な事柄である。経営、情報分野を志す多くの学生に履修してほしい。

キーワード

(1)通信ネットワーク (2)LAN (3)インターネット (4)通信サービス (5)伝送技術

事前学習（予習）

授業では、ネットワーク特有の用語や知識が出てくるが、事前に授業で指示された参考文献等で重要用語を調べておくこと。

復習についての指示

授業で十分理解できなかった専門用語や知識について、各自調べておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 情報と通信
3. 通信ネットワークとは
4. 通信ネットワークの歴史
5. 通信方式とネットワークの構成（DTE、DCE等）
6. 通信サービスの歴史
7. 通信サービスの自由化と種類
8. 専用回線サービス、交換回線サービス
9. 総合デジタル通信サービス（ISDN）
10. 衛星通信サービス
11. 移動体通信サービス
12. 携帯電話の通信方式
13. 携帯電話のサービス
14. 伝送方式1 同期方式
15. 伝送方式2 アナログ伝送、デジタル伝送
16. 中間試験
17. 伝送制御手順1 ベーシック制御手順
18. 伝送制御手順2 HDLC手順
19. 誤り制御方式1 水平垂直パリティ検査方式
20. 誤り制御方式2 誤り訂正方式
21. 通信回線の多重化1 周波数多重化、時分割多重化
22. 通信回線の多重化2 PCM多重化、パケット多重化
23. 交換方式1 回線交換方式、蓄積交換方式
24. 交換方式2 フレームリレー方式、ATM交換方式
25. ネットワークアーキテクチャー／OSI
26. LANとは
27. LAN構築の方法
28. インターネット IPアドレス、TCP/IP等
29. 今後のネットワーク社会
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)平常点:20%:出席、課題提出、理解度小テストの実施 (2)中間試験:40% (3)期末試験:40%

担当者：渡辺 英人

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

社会教育を推進する教育行政の専門職員の育成、
多様な分野・領域における社会教育や生涯学習に関する専門的な
知識の習得

カリキュラム上の位置付け

社会教育主事資格：選択必修科目、
情報コース：基幹科目、
高等学校教諭一種免許：情報必修科目

講義概要

1. 内容

「情報と職業」高等学校普通教科「情報」教員免許取得を目的とする学生の必修科目である。現代社会におけるさまざまな「活動」にとり「情報」はもっとも重要な要素であると考えられている。この授業では公的機関と情報、民間企業、個人事業における情報など、さまざまな職業と情報について解説し、理解してもらう。授業は毎回マルチメディア教室で行う。受講者全員が一斉に授業を開始し、一斉に終了する。けっして遅刻、欠席しないこと。

2. 学びの意義と目標

社会と情報との関係を具体的な例を使いながら、詳しく説明する。社会の中で生きるために必要不可欠な知識となるように学ぶ。

受講生に対する要望

各種資格試験、就職試験でも必ず役に立つ内容である。積極的に学ぶこと。

キーワード

(1) 社会における情報 (2) 情報化社会に生きる (3) 法、政治、経済、生活と情報

事前学習（予習）

社会教育主事資格、および情報教職免許取得を目的とする学生の必修科目である。評価は教職目的の学生と同じく厳しいものとなる。前週までにテーマと資料を提供するので、復習および予習をすること。

復習についての指示

授業で使用了資料と、授業中に記述したノートに基づいて、清書ノートを作ること。

授業計画

1. 現代社会と情報(1)
2. 現代社会と情報(2)
3. 情報と職業(国内)(1)
4. 情報と職業(国内)(2)
5. 行政と情報(1)
6. 行政と情報(2)
7. 企業活動と情報(1)
8. 企業活動と情報(2)
9. 情報の収集、蓄積、再利用(1)
10. 情報の収集、蓄積、再利用(2)
11. インターネット・ビジネス(1)
12. インターネット・ビジネス(2)
13. 情報化社会と労働環境、労働感(1)
14. 情報化社会と労働環境、労働感(2)
15. 課題作成(1)
16. 課題作成(2)
17. 情報と職業(海外)(1)
18. 情報と職業(海外)(2)
19. 情報化社会の諸問題2(1)
20. 情報化社会の諸問題2(2)
21. 情報化社会の諸問題(1)
22. 情報化社会の諸問題(2)
23. 情報化社会の将来予測(1)
24. 情報化社会の将来予測(2)
25. 課題作成(1)
26. 課題作成(2)
27. 情報化社会とマスメディア(1)
28. 情報化社会とマスメディア(2)
29. 課題作成(1)
30. 課題作成(2)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 授業参加:40% (2) 課題作成:30% (3) 試験:30%

情報リスク論

INFO-L-400

担当者：鈴木 省吾

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識

カリキュラム上の位置付け

情報コース：基幹科目、
高等学校教諭一種免許：情報選択科目

講義概要

1. 内容

インターネット社会における情報伝達に関わる脅威とその実情や対策を学ぶ。クイズやディスカッションを通して各トピックの理解を深め、日常のPC利用、ネット利用に活かせる知識を身につける。

2. 学びの意義と目標

情報社会に参画する態度を育てる上で、重要なトピックの一つとなる情報リスクについて学ぶ。個人の倫理観のみならず、法規制や技術的対策により情報社会が支えられていることを、授業への積極的な参加を通して理解する。

受講生に対する要望

授業での講義やディスカッションを通して、小論文にまとめたり、クイズによって知識の確認を行ったりする。積極的に授業に参加し、貪欲に知識を吸収するとともに、学生自身が知っていることを持ち寄って貢献してほしい。

キーワード

(1) 授業への積極的参加

事前学習（予習）

教科書の該当箇所を熟読の上授業に臨むこと。

復習についての指示

小論文、課題を完成させること。

授業計画

1. インターネット社会と情報倫理
2. インターネット社会が抱える問題
3. インターネット上のトラブル
4. インターネット上の脅威
5. 情報セキュリティの技術的対策
6. 情報セキュリティ対策の要点
7. 技術的対策の実際（1）
8. 技術的対策の実際（2）
9. インターネット社会と法
10. 不正アクセス禁止法
11. プロバイダ責任制限法
12. 著作権保護の必要性
13. 著作権保護の課題
14. 個人情報の保護
15. 情報倫理教育へむけて

教科書

会田 和弘, 佐々木 良一, 佐々木 良一 『情報セキュリティ入門—情報倫理を学ぶ人のために—』（共立出版）

評価方法

- (1) 小論文:50%:授業内のディスカッションを通して、完成させる
- (2) 課題:50%:クイズ形式で知識の定着を目指す

出席は評価割合に含まないが、5回の出席で不合格とする。遅刻は15分まででそれ以降は欠席扱い。3回の遅刻を欠席1回とみなす。

担当者：竹井 潔

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識

カリキュラム上の位置付け

情報コース：基幹科目、
高等学校教諭一種免許：情報必修科目

講義概要

1. 内容

◆内容◆「社会における情報」をキーワードに、その「社会性」や「責任」といった問題に関し、ても対応できる人材を養成することを目的とする。講義においては、広い意味での「情報」を扱い、現代社会と情報、情報倫理などを解説する。とくに情報倫理については「時代とともに変化する『情報』」の観点から、学生自身身が情報倫理の変容をどう受け取るべきか、ディスカッション形式で提案させるよう、授業を展開する。

2. 学びの意義と目標

情報倫理は、情報社会の新しい分野である。これからの情報社会を生きていくためには情報倫理は必要条件である。そこで、授業を通して、情報倫理とは何か、その必要性と一緒に考えてみたい。

受講生に対する要望

グループディスカッションの時は積極的に参画すること。またPowerPoint を使ったプレゼンテーションも随時行うので積極的に取り組んでほしい。

キーワード

(1)情報の価値 (2)個人情報 (3)インターネットと情報格差 (4)著作権 (5)情報倫理・情報モラル

事前学習（予習）

事前に授業で指示された参考文献の該当箇所を読み、用語などを調べておくこと。授業では、グループ討論等の時間もあり、指示されたときは、事前に自分の意見をまとめておくこと。

復習についての指示

授業の中でわからなかった箇所、専門用語は、授業のあと各自調べて理解しておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 工業社会から情報社会へ
3. 情報とは
4. 情報の価値
5. 個人情報の価値
6. 個人情報とプライバシー
7. 個人情報 事例研究（1）
8. 個人情報 事例研究（2）
9. 個人情報漏洩の原因と対策
10. インターネットの役割と情報格差
11. 情報のボーダレス化とOECD8原則
12. 社会における情報の役割
13. 情報化による人間生活の変化
14. 情報化による光の側面
15. 情報化による影の側面
16. 中間試験
17. 著作権について
18. 著作権 事例研究（1）
19. 著作権 事例研究（2）
20. 著作権 事例研究（3）
21. 著作権 事例研究（4）
22. 著作権 事例研究（5） 著作権まとめ
23. ネットワークについて
24. 情報社会の課題 インターネット犯罪1
25. インターネット犯罪2
26. インターネットの危険と対策
27. 情報倫理の総合演習
28. 情報倫理の総合演習
29. 情報倫理・情報モラルの構築
30. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)平常点:20%:出席、課題の提出、プレゼンテーション (2)中間試験:40% (3)期末試験:40%

人文地理学概説

TEAT-L-100

担当者：飯島 康夫

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

知の基礎力：政治や社会のしくみの理解

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目

講義概要

1. 内容

人文地理学の基本的な考え方を紹介し幅広い分析の視角を提供する。一般に地理学は総合的な科目といわれる。ある地域のことを理解するためにはその地域の自然地形、気候・風土とそれから派生する生活様式、また政治や経済の制度、歴史や文化という知識を総動員させなければその実態が理解できない。この講義は地理学に関係する隣接科学の諸分野（経済や政治、歴史など）をバランスよく配分することに配慮したが、特に世界経済の進展のなかで諸地域がいかなる空間の形成を伴って発展するのかという問題に関心を置いた。本講義は人文地理学の発展過程とそれに伴って生じた諸問題を紹介したうえで制度や歴史、文化的背景の違いのなかで生じる諸都市・地域の発展形態の違いに焦点をあてる。本講義の参加者が諸都市・地域の現象面に埋没することなくその背後にひそむ、より本質的な空間形成の仕組みと地域ごとの差異について理解するよう工夫してみた。

2. 学びの意義と目標

地理学の基礎を学び、現実の地域の調査ができるようになることが望ましい。既存の文献ではなく、自分で判断、分析できるようになること。

受講生に対する要望

地理と歴史は表裏一体のものであるから地域の歴史から現在の姿までの変遷を理解できるようになって欲しい。

キーワード

(1) 地理学史 (2) 情報革命 (3) グローバリゼーション

事前学習（予習）

教科書に書かれていることを指定したところを事前に読んで理解しておくこと。

復習についての指示

前の講義のノートを見て、学んだことを簡潔にまとめること。

授業計画

1. 地理学の発展史
2. 地理学と隣接科学との関係
3. 新古典派地理学のアプローチ
4. 行動・組織論、人文主義のアプローチ
5. マルクス主義的地理学のアプローチ
6. 人文地理の思想
7. 情報ネットワークと空間編成
8. 地域間格差
9. 政治経済システムと都市の空間編成
10. 製造業の空洞化と都市・地域経営
11. 経済のサービス化と都市・地域の空間編成
12. グローバリゼーションと都市・地域政策
13. レポートの添削・指導
14. レポートの書き方、伝え方、プレゼンテーションの方法
15. 総まとめ

教科書

ピーター・ディッケンほか 『立地と空間 上』（古今書院）

評価方法

(1) 出席:50% (2) レポート・小テスト:30% (3) 発表:20%

1. 基準に満たない提出物は再提出させる場合がある2. 調べ方、書き方を学んでください3. 極端に出席回数が少ない場合、評価対象外とする4. 基本文献を指示するので、基礎知識を養うこと

担当者：森脇 健介，山本 祥弘

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この授業では、図表や統計資料を適切に読み取るために必要となる基本的な知識を学んでいきます。図表や統計資料は、複数の情報が盛り込まれていると同時に、それらの情報が一目で分かるという大変便利なものです。しかし、この便利なツールを使いこなして、そこから情報を読み取るためには、そのための知識が必要になります。たとえば「平均値」・「クロス表」・「相関」といった言葉の意味です。この授業では、図表や統計資料で使われているそうした用語をゼロから身につけるところからはじめます。そしてその上で、我々が自分自身を知るのに役立つような統計資料を読解していきます。

2. 学びの意義と目標

この授業の目標は、①いろいろな図表や統計資料が私たちに語りかけてくる内容を読みとる能力を身につけること、②「科学的」なものの見方を身につけることです。この能力は、政治学・経済学・社会学・経営学など、ありとあらゆる学問分野で共通して役に立つ武器になります。それだけでなく、こうした知識は、日常生活の中でニュースや新聞に出てくる時事問題を客観的に考えるツールにもなります。もちろん、図表や統計資料は、将来仕事でも使用する場面が多々あります。実際、就職試験としてよく使われるSPI試験でも、図表や統計資料の読解は頻繁に出題されています。図表や統計資料の理解は、このように様々な用途に「つぶしがきく」ものであり、実用的なスキルでもあります。

受講生に対する要望

自由に「想像力」を働かせることを期待します。

キーワード

(1)統計 (2)資料 (3)図表 (4)社会調査 (5)統計リテラシー

事前学習（予習）

日頃から新聞の世論調査などに注意を払うようにしてください。

復習についての指示

授業で指示します。

授業計画

1. イントロダクション
2. 基本的な計算の復習（1）
3. 基本的な計算の復習（2）
4. 統計や社会調査の基本（1）
5. 統計や社会調査の基本（2）
6. 統計や社会調査の基本（3）
7. 図表・統計資料の読解（1）
8. 図表・統計資料の読解（2）
9. 図表・統計資料の読解（3）
10. 図表・統計資料の読解（4）
11. 図表・統計資料の読解（5）
12. 図表・統計資料の読解（6）
13. 図表・統計資料の読解（7）
14. 図表・統計資料の読解（8）
15. 期末試験

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1) 期末試験：50% (2) 小テスト等：50%

担当者：森 達也

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ、
 知の基礎力：市民および職業人としての基本的知識と技能

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：公民必修科目、
 中学校教諭一種免許：社会必修科目

講義概要

1. 内容

＜テーマ＞ 政治の基礎知識／政治学の基礎政治という言葉は、私たち自身が当事者であるところの多様な問題を認識し、討議し、意思決定する営みを意味します。そして政治学は、私たちが日々の政治問題を理性的に考え、解決し、判断するのに役立つ道具箱であると同時に、政治という営みそれ自体を批判的に理解するための手段であると言えます。本講義ではまず政治学の基本的な考え方を学び、現代政治の基礎知識を習得しながら、政治学内部の各テーマを順に考察していきます。

2. 学びの意義と目標

政治学がどのような学問領域であるのかを理解すること。身近な問題を政治（学）的に捉え、それに意見を表明し、他者と議論することができるようになること。

受講生に対する要望

高校の「政治・経済」の内容を復習しておくこと。普段からニュースに触れて時事問題に通じておくこと。

キーワード

(1) 政治 (2) 経済 (3) 公共政策 (4) 社会保障 (5) 国際関係

事前学習（予習）

配布プリントを各自でできるかぎり完成させ、次回の講義に備えること。

復習についての指示

授業で扱った範囲の教科書・プリントの内容を習得して小テストに備えること。

授業計画

1. 講義の概要と趣旨の説明
2. 政治学とは何か（教科書序章）
3. 民主主義の基本原理（プリント）
4. 政治とは何か（教科書第1章）
5. 各国の政治体制（プリント）
6. 政治体制・比較政治制度論（教科書第2章）
7. 国会の仕組み（プリント）
8. 現代政治学の歴史（教科書第11章）
9. 内閣と行政機構（プリント）
10. 政治過程論（教科書第4章）
11. 現代政治の特質と政党（プリント）
12. 政党・圧力団体・メディア（教科書4・6章）
13. 財政と税（プリント）
14. 政策決定論（教科書第5章）
15. 貨幣・金融と日銀の役割（プリント）
16. 中間試験
17. 映像で見る政治（1）
18. 映像で見る政治（2）
19. 資本主義／社会主義経済（プリント）
20. 政治と経済（教科書第3章）
21. 日本の社会保障制度（プリント）
22. 福祉資本主義レジーム論（教科書第3章）
23. 労働問題と労働市場の変化（プリント）
24. 福祉国家の危機と再編（教科書第3章）
25. 国際社会と国際法（プリント、教科書第9章）
26. 国際機関（プリント）
27. 冷戦と核兵器の問題（プリント、教科書第9・10章）
28. ナショナリズムと民族問題（プリント、映像）
29. 地球環境問題（プリント、教科書第10章）
30. 総括

教科書

加茂利男ほか著 『現代政治学 第4版』（有斐閣）

評価方法

(1) 中間試験:35%:論述問題を含む (2) 最終試験:35%:論述問題を含む (3) 授業内課題:30%:小テスト・コメントシート

西洋史概説A

TEAT-L-100

担当者：南 祐三

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

知の基礎力：政治や社会のしくみの理解

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目

講義概要

1. 内容

「我われが生きているこの世界はどのようにして成立しているのか」という問題意識のもと、西洋世界の歴史について学んでいく。その際、各時代や地域を特徴づける事象に重点を置き、それぞれのつながりを意識しながら時代順に解説していく。西洋史概説Aでは、古代から20世紀初頭までの歴史を取り上げる。なお本講義では、毎回の授業終了時に、講義内容についての確認や疑問点を記したレビューシートを提出してもらい、双方向のやり取りを心掛けたい。また、この提出をもって、出席状況をチェックする。

2. 学びの意義と目標

西洋は、日本にとって近代化のモデルであっただけでなく、長きにわたり、多方面で大きな影響や刺激を与えてくれている存在である。つまり、西洋は我われにとって「他者」であると同時に、自分自身を映し出す鏡でもある。本講義では、このような歴史感覚を養いながら、現代世界の成り立ちを理解することをめざす。

受講生に対する要望

講義中に解説できることは、西洋史のエッセンスの一部分でしかない。疑問に思ったことや関心を持ったことについては、積極的に自ら調べてみてほしい。

キーワード

(1) 西洋史 (2) 国際関係 (3) グローバリゼーション

事前学習（予習）

受講にあたって世界史や西洋史の基礎知識は必須ではないが、興味のあるテーマについて、文献を読むなどして調べておくことが望ましい。

復習についての指示

各回の講義内容の要点を確認するだけでなく、より理解を深めるために、さらに自分で調べてみるのが望ましい。

授業計画

1. ガイダンス
2. 先史ヨーロッパと古代オリエント
3. 地中海世界：ギリシアとローマ
4. キリスト教世界の拡大
5. ヨーロッパ中世(1)：封建社会の成立
6. ヨーロッパ中世(2)：封建社会の発展と衰退
7. ルネサンスと宗教改革
8. 海外進出と近世ヨーロッパの国際関係
9. 主権国家体制の形成
10. イギリスの市民革命とアメリカの独立
11. フランス革命からウィーン体制まで
12. 産業革命と社会問題
13. 国民統合とナショナリズム
14. 帝国主義と植民地問題
15. まとめ

教科書

成瀬 治, 佐藤 次高, 木村 靖二, 岸本 美緒, 桑島 良平 『山川世界史総合図録』（山川出版社）

評価方法

- (1) 平常点：40%：出席状況と受講態度 (2) テスト：60%

西洋史概説B

TEAT-L-100

担当者：南 祐三

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

知の基礎力：政治や社会のしくみの理解

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目、
中学校教諭一種免許：社会選択科目

講義概要

1. 内容

「我々が生きているこの世界はどのようにして成立しているのか」という問題意識のもと、西洋世界の歴史について学んでいく。その際、各時代や地域を特徴づける事象に重点を置き、それぞれのつながりを意識しながら時代順に解説していく。西洋史概説Bでは、第一次世界大戦から現代までの歴史を取り上げる。なお本講義では、毎回の授業終了時に、講義内容についての確認や疑問点を記したレビューシートを提出してもらい、双方向のやり取りを心掛けたい。また、この提出をもって、出席状況をチェックする。

2. 学びの意義と目標

西洋は、日本にとって近代化のモデルであっただけでなく、長きにわたり、多方面で大きな影響や刺激を与えてくれている存在である。つまり、西洋は我われにとって「他者」であると同時に、自分自身を映し出す鏡でもある。本講義では、このような歴史感覚を養いながら、現代世界の成り立ちを理解することをめざす。

受講生に対する要望

講義中に解説できることは、西洋史のエッセンスの一部分でしかない。疑問に思ったことや関心を持ったことについては、積極的に自ら調べてみてほしい。

キーワード

(1) 西洋史 (2) 国際関係 (3) グローバリゼーション

事前学習（予習）

受講にあたって世界史や西洋史の基礎知識は必須ではないが、興味のあるテーマについて、文献を読むなどして調べておくことが望ましい。

復習についての指示

各回の講義内容の要点を確認するだけでなく、より理解を深めるために、さらに自分で調べてみることを望ましい。

授業計画

1. ガイダンス
2. 第一次世界大戦(1)：勃発と経過
3. 第一次世界大戦(2)：ロシア革命の衝撃
4. 両大戦間期(1)：ヴェルサイユ体制と平和の模索
5. 両大戦間期(2)：世界恐慌とファシズム
6. 第二次世界大戦(1)：勃発と経過
7. 第二次世界大戦(2)：協力と抵抗
8. 冷戦(1)：戦後処理と国際連合
9. 冷戦(2)：東西陣営の形成
10. 冷戦(3)：デタントとソ連の崩壊
11. ヨーロッパ統合へ(1)：脱植民地化と民族問題
12. ヨーロッパ統合へ(2)：アメリカの覇権と経済のグローバル化
13. ヨーロッパ統合へ(3)：さまざまな統合構想とEUの歩み
14. ヨーロッパ統合へ(4)：包摂と排除
15. まとめ

教科書

成瀬 治、佐藤 次高、木村 靖二、岸本 美緒、桑島 良平 『山川世界史総合図録』（山川出版社）

評価方法

(1) 平常点：40%：出席状況と受講態度 (2) テスト：60%

専門演習(コミュニティ政策)

LCPO-L-300

担当者：瀬名 浩一

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識。
問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識。
市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

バブル経済崩壊後の日本経済は、国際競争力の低下、デフレ状況から抜け出せない。デフレの正体は、「人口の波」なのかマクロ政策なのか？ その解決策を、若者、女性、外国人、地域等に探る。

2. 学びの意義と目標

1、デフレ脱出策が理解できる。2、社会資本整備のため、公民連携でどのように問題解決を図れるか学べる。

受講生に対する要望

授業計画を参照し、扱われるトピックスに関する新聞記事などで情報を集めておくこと

キーワード

(1)デフレ (2)公民連携

事前学習(予習)

授業計画を参照し、扱われるトピックスについて新聞等で情報を集めておくこと

復習についての指示

配布資料を再読し、次回までに説明できるようにしておくこと

授業計画

1. 学びの進め方
2. デフレからの脱出
3. 貿易では勝ったが通貨で負けた
4. 内需の不振
5. 首都圏の動向
6. 地方圏の動向
7. 人口の波
8. 人口減少を生産性向上で補えるか？
9. 若者への所得移転策
10. 女性の就労支援策
11. 外国人観光客の増加策
12. 高齢者対策
13. マクロ政策の可能性Ⅰ
14. マクロ政策の可能性Ⅱ
15. 自分のコミュニティの問題発見Ⅰ
16. 自分のコミュニティの問題発見Ⅱ
17. 公民連携の形態
18. 市民ファイナンスの形態
19. 路面電車事業
20. 動物公園
21. 高齢者介護用集合住宅
22. 太陽光発電事業
23. 研究計画の発表Ⅰ
24. 研究計画の発表Ⅱ
25. 研究計画の発表Ⅲ
26. 論文の発表Ⅰ
27. 論文の発表Ⅱ
28. 論文の発表Ⅲ
29. 論文の評価
30. 専門演習の総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)発表力:40% (2)出席率:30% (3)期末レポート:30%

専門演習 I (キリスト教社会倫理)

LCPO-L-200

担当者：菊地 順

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識。
問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識。
市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この授業では、キリスト教社会倫理に関連する人物や思想に、テキストや映像をとおして触れてもらい、それぞれの世界を学ぶことをとおして、人間の生き方について考えます。具体的には、アメリカで1950年代後半から60年代に活躍したマーティン・ルーサー・キングを中心に、その戦い、生き方、思想について学びます。

2. 学びの意義と目標

春学期は、キングの背景と、キングの活動の原点ともなったモンゴメリーでの戦いを中心に学びます。そのことをとおし、その背後にあるキリスト教の精神を尋ねつつ、人間の生き方や価値観、特に人間の尊厳とか人格・人権などについて考えます。

受講生に対する要望

日本人にはあまりなじみのない人種問題を扱いますが、そこには人類に共通な普遍的問題があります。アメリカの歴史や黒人問題、また人間そのものに関心を寄せる人に受講してほしいと思います。また、授業では、学びつつ、議論しつつ、授業をしていきますので、積極的に参加してください。

キーワード

(1) マーティン・ルーサー・キング (2) アフリカ系アメリカ人 (黒人) (3) 人種隔離政策 (4) 非暴力 (5) 人権

事前学習 (予習)

予習としては、読むことが中心となりますので、予め配布されたプリントを下読みし、特に英文は必ず下調べをしておくこと。

復習についての指示

復習としては、学んだ内容をまとめ、整理し、必要に応じて調べ、レポートの作成に備えること。

授業計画

1. 授業のオリエンテーション
2. アメリカ最南部の世界
3. 1950年代のアメリカ
4. キングの背景—家族・教会・教育
5. キングの戦い—モンゴメリーでのバス・ボイコット運動 (1)
6. キングの戦い—モンゴメリーでのバス・ボイコット運動 (2)
7. キングの非暴力思想 (1)
8. キングの非暴力思想 (2)
9. キングの非暴力思想 (3)
10. キングとローザ・パークス
11. 公民権運動への備え
12. キングと公民権運動の戦い・前半 (1)
13. キングと公民権運動の戦い・前半 (2)
14. キングと公民権運動の戦い・前半 (3)
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する
プリントを配布します。またプリント以外にも映像等を用いて授業を行います。

評価方法

- (1) 出席:50% (2) レポート:50%

授業に積極的に参加することを重視します。また最後にレポートを書いてもらいます。その総合的判断で成績を出します。

専門演習 I (公共哲学)

LCPO-L-200

担当者：谷口 隆一郎

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識。
問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識。
市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

現代の市民社会とその政策を考えるに当たって、各コミュニティが帰属する、社会の各領域に内在する規範と、コミュニティがどう関係するかを理解することはとても重要です。私の「公共倫理」の概念を手がかりに、プラグマティズム的思考に即しつつ、コミュニティの新しい政治学の出来（しゅつたい）の経緯と動向について学びます。公共倫理（コミュニティ間の倫理）、民主的市民精神、多元多文化と寛容、市場の公共性、社会政策にとってのコミュニティの意味、コミュニタリアニズム対リベラリズム論争、等の諸問題と諸課題を取り上げます。（1）1年かけて、公共哲学、政治哲学、政治理論、社会理論等に関する多くの文献を精読・精解する。（2）文献をレジメにまとめ報告・議論する。（3）卒業論文のテーマにつながるトピックを決め、ゼミ・レポートを書く。

2. 学びの意義と目標

（1）公共・民主的市民精神・公共倫理の諸問題と諸課題についての理解を深めることにあります。そのために、それらに関して、世界の大学の公共哲学の授業で読まれている良質な内容の多くの文献を精読していきます。（2）将来、公共性の高い仕事（公務員職等）に就きたいと考えている学生にとっては、知っておくといくテーマと内容が、この講義には含まれているのみならず、現代政治状況を根底から理解するために不可欠な視点が数多く盛り込まれています。コミュニティをどう捉えるかによって、政策への取り組みの考え方がどのように異なるのか、等について整理して学ぶことができます。（3）論理的に思考することにより、徹底的に日本語能力と思考力を鍛えます。思考力さえ鍛えておけば、それをどんな知識の運用にも役立たせることができます。

受講生に対する要望

私の「倫理学」「公共哲学」を併せて履修すること。予習・復習をすること。研究したり合宿に高原へ行ったりと楽しくゼミをやりたいと考えています。

キーワード

(1) 公共 (2) 公共倫理 (3) 領分主権 (4) コミュニティ (5) コミュニタリアニズム

事前学習（予習）

授業の中で指示した文献や資料を事前に読む。指定テキストを各自読み進める。

復習についての指示

当番制でBRC（授業内レポート）を作成する。各授業で、担当者は前回の授業のBRCを人数分配する。各自、BRCを読むことで理解を新たにする。また、作成者は配布したBRCへの質疑応答を行う。オリエンテーションで、BRCについての別紙シラバスを配布する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う
3. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う
4. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う
5. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う
6. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う
7. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う
8. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う
9. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う
10. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う
11. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う
12. ゼミ生による発表
13. ゼミ生による発表
14. ゼミ生による発表
15. まとめ

教科書

山脇直司 『公共哲学からの応答：3.11の衝撃の後で』（筑摩書房）
その他、授業内でプリントを配布したり、入手する資料を指示したりする。

評価方法

(1) 授業参加度（研究報告）：50%： 毎回の授業への積極的参加および研究報告・レジメ等 (2) 研究成果（小論文）：50%： ゼミ論文に対する評価

専門演習 I (情報学)

LCPO-L-200

担当者：河島 茂生

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識。
問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識。
市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

サーチエンジンやSNS、マイクロブログ(Twitter)、ネットゲーム、電子書籍などを取り上げながら、情報社会が抱えている問題を意識化することを目指す。授業のスタイルは、雑誌記事や新書、一般書など、比較的手軽に読める文献を参照しながら議論を行う。演習テーマに沿った内容であれば、受講生の経験・調査に基づいた発表・報告も可とする。また、本演習で取り上げる文献を受講生自身が提案しても構わない。なお、授業内で受講生に発表・報告を求めるが、その際はレジュメを準備することが必要となる。

2. 学びの意義と目標

インターネット技術によって支えられている情報社会は、利便性と同時に負の側面も抱えている。本授業では、情報社会の問題を発見できるように議論していきたい。

受講生に対する要望

欠席は厳禁である。また、本ゼミの履修者には、3年次を終えるまでに科目「情報学」の履修を強く求める。

キーワード

事前学習（予習）

指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、ゼミに関わる必要がある。

復習についての指示

授業で扱った内容を復習し、自分の関心のあるテーマに引きつけて考えることを求める。

授業計画

1. 情報社会への眼差し(ガイダンス・含)
2. サーチエンジンの権力
3. 情報収集の変容
4. ネットゲーム依存
5. ネット帝国主義
6. ネットと知性
7. 教科書『考える情報学』にもとづくディスカッション
8. 教科書『考える情報学』にもとづくディスカッション
9. 教科書『考える情報学』にもとづくディスカッション
10. 教科書『考える情報学』にもとづくディスカッション
11. 教科書『考える情報学』にもとづくディスカッション
12. 教科書『考える情報学』にもとづくディスカッション
13. 教科書『考える情報学』にもとづくディスカッション
14. 教科書『考える情報学』にもとづくディスカッション
15. 外部施設の見学

教科書

中西 裕 『考える情報学—ディスカッションへのテーマと事例』
(樹村房)

評価方法

- (1)口頭発表:80% (2)ディスカッションへの参加度:20%

専門演習 I (情報倫理)

LCPO-L-200

担当者：竹井 潔

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識。
問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識。
市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

工業社会から情報社会へと変遷してきた中で、「情報倫理」ということが近年いわれだした。「情報倫理」は今後あらゆる「情報」を扱う上で必要となる。そこで、「情報倫理」がなぜ必要となってきたのか、情報とは何か、現代社会と情報のかかわりの中で、情報の価値を問いかけていきたい。私たちは、次第に情報ネットワーク社会を前提とした情報社会の中で生活をしてきているが、情報社会をとりまく光と闇の部分の認識し、情報化によって便益を受けている面と、問題が生じてきた情報社会の課題を検討していきたい。

2. 学びの意義と目標

情報社会における諸課題、情報倫理の必要性について理解し、課題を形成していく

受講生に対する要望

「情報倫理」を平行履修することが望ましい。演習は必ず出席し、グループワークやグループディスカッションに積極的に参画すること。

キーワード

(1)情報倫理 (2)BAG (3)企業倫理 (4)経営

事前学習（予習）

事前に指示する参考図書を読んで用語などを調べておくこと。発表演習には事前に発表資料を作成してくること。

復習についての指示

演習でできなかった箇所や理解できなかった専門用語は各自調査して十分に理解しておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション
2. BAG（ビジネスゲーム）
3. BAG（ビジネスゲーム）演習1
4. BAG（ビジネスゲーム）演習2
5. BAG（ビジネスゲーム）演習3
6. BAG（ビジネスゲーム）演習4
7. BAG（ビジネスゲーム）演習5
8. BAG（ビジネスゲーム）演習6
9. 情報倫理 課題研究1
10. 情報倫理 課題研究2
11. 情報倫理 課題研究3
12. 情報倫理 課題研究4
13. 情報倫理 課題研究5
14. 情報倫理 課題研究6
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)演習:40%:課題提出、発表演習 (2)レポート:60%

専門演習 I (組織行動論)

LCPO-L-200

担当者：八木 規子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識。
問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識。
市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

前期は、経営とはなにか？という問いに対する助走として、組織とは何か？とくに企業組織とはなにか？を身近な例を使いながらゼミ生とともに学んでいく。

2. 学びの意義と目標

経営とは、会社の経営者や管理職だけが理解すればよい、というものではない。むしろ、組織の成員のひとりひとり、また、いわゆる会社組織に属さない人間、たとえば家庭人となることを選んだ個人にも重要なことがらである。むしろ、経営というものがより良い方向に向かっていくためには、組織の上層の人間だけでなく、すべての社会の成員が、経営的なものの考え方に慣れ親しんでいくことが重要である。

受講生に対する要望

自分自身と他者をよく理解したいという意欲をもち、学びの実践のために、自分自身のcomfort zoneの外にすこし出て、新しいことに挑戦してほしい。

キーワード

(1)組織 (2)小集団 (3)個人 (4)経営

事前学習（予習）

事前にE-learning systemにアップロードされた資料を読んでおき、クラス・ディスカッションに参加する準備をしておくこと。
宿題の課題資料もE-learning systemにアップロードするので、学生はシステムの使用に習熟すること。

復習についての指示

クラスで話し合われた内容（他の参加者の発言等）をふり返り、ノートにまとめておくこと。

授業計画

1. イントロダクション：自己紹介と目標設定
2. 組織とはなにか？あなたの周りの組織
3. あなたが組織でやってきたこと
4. 組織のリーダーに何を期待するか
5. 図書館を使いこなす
6. 自分とは誰か？
7. 自分のやる気を出すには？
8. 中間発表：チームプロジェクト進行状況
9. チームのやる気を出すには？－1
10. チームのやる気を出すには？－2
11. チーム別の課題1に関する討論
12. チーム別の課題2に関する討論
13. チーム別の課題3に関する討論
14. まとめ
15. チームプロジェクト発表

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)宿題:50%:10%×5回 (2)チームプロジェクト:50%:中間進行状況と期末発表

専門演習 I (地域社会論)

LCPO-L-200

担当者：大高 研道

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識。
問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識。
市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

生活の個別化が進み、家族や地域社会を取り巻く環境も様変わりを見せる中、就業、結婚、子育て、福祉、教育など、社会のあらゆる場面において発生する諸問題や不安の増大を背景に「危機の時代」が叫ばれつつある。その「危機感」を高めている重要な要素のひとつが「関係性の希薄化」であるという認識のもと、本演習では、「人と人がつながる現代的な形」について考えたい。

演習は、おもにコミュニティ活動の実践と文献講読・討論によって構成される。前者は、宮原駅コンコース緑化活動を実施する。後者は、地域社会を規定している「現代社会」そのものが抱える問題点（雇用やニート問題、子ども犯罪、いじめ、引きこもり、高齢化社会、女性の社会的地位、結婚・離婚問題など）について、テキストをもとに各自が興味のあるテーマを設定して報告・議論する。その上で、現代的課題を解決する舞台として期待されている「地域社会（コミュニティ）」の可能性と課題について検討する。

2. 学びの意義と目標

現代社会は、人とつながりにくい社会だといわれている。しかし、私たちは決して1人で生きていけない。人と、社会と、どのようにつながるのか。地域社会（コミュニティ）について学ぶということは、現代社会、そして未来社会において、私たちがどのように（他者とともに）生きるかを考えることに他ならない。演習を通して、最終的には、現代における社会的諸問題を解決する舞台として期待されている「地域社会（コミュニティ）」のすむ方向性を、「現代的協同（人とつながる現代的な形）」をキーワードに検討する。とりわけ、地域を基盤に活動する新しい協同の形として注目されるNPO、社会的企業等の協同実践が展開するための可能性と課題について、一定程度のヴィジョンが提起できるようになることを目指す。

受講生に対する要望

・「NPO論」と「地域社会論」を履修すること。・時事ニュースを取り上げて解説・議論することがあるので新聞等に目を通しておくこと。

キーワード

(1) 地域社会 (2) NPO (3) 社会的排除 (4) 社会的企業 (5) 現代的協同性

事前学習（予習）

・次回テキストの該当箇所は必ず読み、分からない用語等は事前に調べておくこと。報告者は前日までにレジュメを提出すること。

復習についての指示

・各自、ゼミ終了後、①「学んだこと」、②「疑問に思ったこと/さらに学びたいこと」の2点を整理しておくこと。これらについては、ゼミの冒頭に共通討論の場を設ける。

授業計画

1. 地域社会論演習について
2. コミュニティ活動の理論と実践
3. コミュニティ活動の実践(1)
4. コミュニティ活動の実践(2)
5. コミュニティ活動の実践(3)
6. 報告の基礎と技法 (1)
7. 報告の基礎と技法 (2)
8. コミュニティ活動の実践(4)
9. 調査報告(1)
10. 調査報告(2)
11. 調査報告(3)
12. 調査報告(4)
13. 調査報告(5)
14. コミュニティ活動の実践(5)
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席点:70%:報告内容および討論への参加状況（積極性）を含む。(2) レポート:30%

専門演習 I (日本経済論)

LCPO-L-200

担当者：大森 達也

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識。
問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識。
市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本演習では、1990年代に入るまで順調な経済成長を持続してきた日本経済の特徴を、欧米経済先進国との制度的な比較から理解すると共に、90年代の「失われた10年」を経て、21世紀を迎えた今日においてもまだ問題を抱える日本経済についての講義、ディスカッションを通して、各自考えることをする。

2. 学びの意義と目標

本演習では、日本経済の基礎知識を、各自深めることから始め、卒業研究で取り扱う問題に対する意識を高めることを目的とする。

受講生に対する要望

秋学期にある「日本経済論」を履修すること。また、15回の講義で、日本経済の基礎を概観するので、しっかりと勉強をすること。

キーワード

(1) 日本経済 (2) 市場経済 (3) 現在資本主義 (4) 失われた10年

事前学習（予習）

日本経済に関する書籍を前もって読み、講義の問題提起に対して発言できるように準備しておくこと。

復習についての指示

各時間の後、ノートをまとめておくこと。

授業計画

1. はじめに
2. 市場経済の特徴
3. 現代資本主義の特徴
4. 戦後復興期から高度成長期まで
5. 石油危機にはじまる低成長期
6. 経済成長の仕組み(1)
7. 経済成長の仕組み(2)
8. 日本的市場競争の仕組み(銀行グループ)
9. 日本的市場競争の仕組み(日本的経営)
10. 円高不況からバブルへ(背景)
11. 円高不況からバブルへ(政策対応)
12. 「失われた10年」の意味
13. 「失われた10年」における政策対応
14. 「失われた10年」の間の世界の変化
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) ノート: 75%: 15回 × 5% (2) ブックレポート: 25%: 1, 200文字程度
1回

専門演習 I (法学)

LCPO-L-200

担当者：渡辺 英人

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識。
問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識。
市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

「法」を学ぶことは社会の中で生きるための最も重要な基礎知識である。この授業では大学生として必ず知っていなければならない「社会のルール」その根本概念について解説し、理解してもらう。2014年度のテーマは「生活の中から見た法と行政」。消費者保護に関する法や行政を学ぶ。新聞やテレビ等のニュース報道で、従来では考えられなかった事件や事故を耳にする。なぜ、このような問題が発生するのか、いっしょに検討してみよう。生活者の視点で社会を確認してみよう。

2. 学びの意義と目標

生活の中から見た法と行政を学ぶ。これは生きるために必要な知識となる。

受講生に対する要望

積極的に参加する学生のみ参加して欲しい。

キーワード

(1)生活の中から見た法と行政 (2)消費者保護法 (3)消費者保護行政

事前学習（予習）

前週までにゼミ資料を配付するので、復習のみならず、資料の読みこみなど予習をすること。

復習についての指示

授業で使用了資料と、授業中に記述したノートを基にして、清書ノートを作ること。

授業計画

1. 現代社会と法（その種類と仕組み）
2. 法と道徳
3. 法が強制的であるということ
4. 法の機能
5. 「犯罪」とは何か？
6. 現代社会と裁判制度
7. デュー・プロセスについて
8. 消費者を守る法
9. 研究報告
10. 研究報告
11. 研究報告
12. 研究報告
13. 研究報告
14. 研究報告
15. 研究報告

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)授業参加:40% (2)発表:30% (3)課題作成:30%

専門演習Ⅰ（まちづくり学）

LCPO-L-200

担当者：平 修久

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識。
問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識。
市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

自分たちのまちは自分たちで良くしようという動きが全国的に広がっている。何気なく毎日を過ごしている身近なまちをもう一度見直し、埋もれている価値を再発見し、それをまちづくりに活かす動きも各地で見られる。あるいは、まちの問題を自ら市民が取り組む動きも起きている。そこで、本演習では、具体的なまちの課題を取り上げ、実際のまちづくり活動を行う。授業の性格上、グループ作業があると同時に、学外で行うこともある。また、キャンパス内で行うほたる祭りに参加し、イベントの運営方法などを学ぶ。

2. 学びの意義と目標

身近な大学周辺のまちを題材に、まちの見方、問題などへの対応方法を学ぶとともに、実際のまちづくりを体験することにより、考える力と行動する力を身につけること。

受講生に対する要望

グループ作業などに積極的に関わることを期待する。

キーワード

(1)まちづくり (2)自然 (3)地域活動

事前学習（予習）

事前に、教科書の指定箇所を読んでおくこと。

授業計画

1. ガイダンス
2. まちづくり活動（コンコース緑化活動の準備）
3. まちづくり活動（コンコース緑化活動の準備）
4. まちづくり活動（コンコース緑化活動の準備）
5. 法まちづくり活動（コンコース緑化の実施）
6. まち探検
7. まち探検まとめ
8. ほたる祭り準備
9. コンコース緑化（花代えなど）
10. レジメの作成方法について
11. まちづくりに関する本の輪読
12. まちづくりに関する本の輪読
13. まちづくりに関する本の輪読
14. まちづくり活動（コンコース緑化活動の後片付け）
15. まちづくり活動（コンコース緑化活動の振り返り）

教科書

田村明 『まちづくりの実践』（岩波新書）

復習についての指示

グループワークやフィールドワークの場合は、振り返りを行い、輪読の場合は、指定箇所を再度読み直す。

評価方法

- (1)出席:30% (2)グループワーク:20% (3)AH感想文:10% (4)発表:15%
(5)レポート:25%

専門演習Ⅱ（キリスト教社会倫理）

LCPO-L-300

担当者：菊地 順

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識。
問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識。
市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この授業では、キリスト教社会倫理に関連する人物や思想に、テキストや映像をとおして触れてもらい、それぞれの世界を学ぶことをとおして、人間の生き方について考えます。具体的には、アメリカで1950年代後半から60年代に活躍したマーティン・ルーサー・キングを中心に、その戦い、生き方、思想について学びます。

2. 学びの意義と目標

秋学期は、1964年と65年に公民権法等が成立しますが、それに至るまでのキングたちの戦い（公民権運動）を中心に学びます。また、同時代に生きたキングと関連のある指導者たちについても学びます（特にケネディとマルコムX）。この学びをとおして、人間の生き方や価値観、特に人間の尊厳とか人格・人権などについて考えたいと思います。

受講生に対する要望

授業は、学びつつ、議論しつつ、進められますので、積極的に参加してください。

キーワード

(1) マーティン・ルーサー・キング (2) 公民権運動 (3) 非暴力 (4) 人間の尊厳 (5) アメリカン・ドリーム

事前学習（予習）

予習としては、読むことが中心となりますので、予め配布されたプリントを下読みし、特に英文は必ず下調べをしておくこと。

復習についての指示

復習としては、学んだ内容をまとめ、整理し、必要に応じて調べ、レポートの作成に備えること。

授業計画

1. 授業のオリエンテーション
2. キングと公民権運動の戦い・後半（1）
3. キングと公民権運動の戦い・後半（2）
4. キングと公民権運動の戦い・後半（3）
5. キングとケネディ兄弟（1）
6. キングとケネディ兄弟（2）
7. ワシントン大行進（1）—その背景と意義—
8. ワシントン大行進（2）—”I have a dream”
9. キングとノーベル平和賞（1）
10. キングとノーベル平和賞（2）
11. 公民権法の成立（1）
12. 公民権法の成立（2）
13. キングとマルコムX（1）
14. キングとマルコムX（2）
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 出席:50% (2) レポート:50%

授業に積極的に参加することを重視します。また最後にレポートを書いてもらいます。その総合的判断で成績を出します。

専門演習Ⅱ（公共哲学）

LCPO-L-300

担当者：谷口 隆一郎

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識。
問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識。
市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

現代の市民社会とその政策を考えるに当たって、各コミュニティが帰属する、社会の各領域に内在する規範と、コミュニティがどう関係するかを理解することはとても重要です。私の「公共倫理」の概念を手がかりに、プラグマティズム的思考に即しつつ、コミュニティの新しい政治学の出来（しゅったい）の経緯と動向について学びます。公共倫理（コミュニティ間の倫理）、民主的市民精神、多元多文化と寛容、市場の公共性、社会政策にとってのコミュニティの意味、コミュニタリアニズム対リベラリズム論争、等の諸問題と諸課題を取り上げます。（1）1年かけて、公共哲学、政治哲学、政治理論、社会理論等に関する多くの文献を精読・精解する。（2）文献をレジメにまとめ報告・議論する。（3）卒業論文のテーマにつながるトピックを決め、ゼミ・レポートを書く。

2. 学びの意義と目標

（1）公共・民主的市民精神・公共倫理の諸問題と諸課題についての理解を深めることにあります。そのために、それらに関して、世界の大学の公共哲学の授業で読まれている良質な内容の多くの文献を精読していきます。（2）将来、公共性の高い仕事（公務員職等）に就きたいと考えている学生にとっては、知っておくといくテーマと内容が、この講義には含まれているのみならず、現代政治状況を根底から理解するために不可欠な視点が数多く盛り込まれています。コミュニティをどう捉えるかによって、政策への取り組みの考え方がどのように異なるのか、等について整理して学ぶことができます。（3）論理的に思考することにより、徹底的に日本語能力と思考力を鍛えます。思考力さえ鍛えておけば、それをどんな知識の運用にも役立たせることができます。

受講生に対する要望

私の「倫理学」「公共哲学」を併せて履修すること。予習・復習をすること。研究したり合宿に高原へ行ったりと楽しくゼミをやりたいと考えています。

キーワード

(1) 公共 (2) 公共倫理 (3) 領分主権 (4) コミュニティ (5) コミュニタリアニズム

事前学習（予習）

授業の中で指示した文献や資料を事前に読む。指定テキストを各自読み進める。

復習についての指示

当番制でBRC（授業内レポート）を作成する。各授業で、担当者は前回の授業のBRCを人数分布する。各自、BRCを読むことで理解を新たにする。また、作成者は配布したBRCへの質疑応答を行う。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う
3. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う
4. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う
5. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う
6. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う
7. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う
8. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う
9. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う
10. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う
11. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う
12. ゼミ生による発表
13. ゼミ生による発表
14. ゼミ生による発表
15. まとめ

教科書

山脇直司 『公共哲学からの応答：3.11の衝撃の後で』（筑摩書房）
ジュヌヴィエーヴ・フジ・ジョンソン 『核廃棄物と熟議民主主義：倫理的政策分析の可能性』（新泉社）
その他、授業内でプリントを配布したり、入手する資料を指示したりする。

評価方法

- (1) 授業参加度（研究報告）：50%： 毎回の授業への積極的参加および研究報告・レジメ等 (2) 研究成果（小論文）：50%： ゼミ論文に対する評価

専門演習Ⅱ（情報学）

LCPO-L-300

担当者：河島 茂生

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識。
問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識。
市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

授業の内容は、専門演習Ⅰ（情報学）で学んだ知識をもとにして、受講生がみずからの関心の深いテーマを選び、そのテーマの先行研究をまとめ上げることである。受講生は、資料をきちんと調べ文献を読みデータを整理したうえで、複数回の口頭発表を行う。

2. 学びの意義と目標

どのような卒業後の進路を歩むにせよ、しばしば既存の資料を調べることが必要とされる。本授業ではその基礎づくりを目指す。

受講生に対する要望

欠席は厳禁である。また、本ゼミの履修者には、3年次を終えるまでに科目「情報学」の履修を強く求める。

キーワード

事前学習（予習）

指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、ゼミに関わる必要がある。

復習についての指示

ディスカッションでなされた内容を踏まえ、みずからの次回の発表を改善しなければならない。

授業計画

1. 文献調査の進め方（ガイダンス・含）
2. データベースの活用方法
3. 文献調査報告
4. 文献調査報告
5. 文献調査報告
6. 文献調査報告
7. 文献調査報告
8. 文献調査報告
9. 文献調査報告
10. 文献調査報告
11. 文献調査報告
12. 文献調査報告
13. 文献調査報告
14. 文献調査報告
15. 外部施設の見学

教科書

中西 裕 『考える情報学—ディスカッションへのテーマと事例』（樹村房）

評価方法

- (1) 口頭発表：80% (2) ディスカッションへの参加度：20%

専門演習Ⅱ（情報倫理）

LCPO-L-300

担当者：竹井 潔

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識。
問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識。
市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

社会から情報社会へと変遷してきた中で、「情報倫理」ということが近年いわれた。『情報倫理』は今後あらゆる「情報」を扱う上で必要となる。そこで、「情報倫理」がなぜ必要となってきたのか、情報とは何か、現代社会と情報のかかわりの中で、情報の価値を問いかけていきたい。私たちは、次第に情報ネットワーク社会を前提とした情報社会の中で生活をしてきているが、情報社会をとりまく光と闇の部分認識し、情報化によって便益を受けている面と、問題が生じてきた情報社会の課題を検討していきたい。

2. 学びの意義と目標

情報社会における諸課題、情報倫理の必要性について理解し、課題を形成していく

受講生に対する要望

コミュニティ情報系の科目の履修をすることが望まれる。

キーワード

(1) 情報社会における諸課題 (2) 情報倫理

事前学習（予習）

事前に指示する参考図書を読んで用語などを調べておくこと。発表演習には事前に発表資料を作成してくること。演習は必ず出席し、積極的に参画すること。

復習についての指示

演習でできなかった箇所や理解できなかった専門用語は各自調査して十分に理解しておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 課題研究 1
3. 課題研究 2
4. 課題研究 3
5. 課題研究 4
6. ビジネスマネジメントゲームによる企業活動と情報社会の理解
7. ビジネスマネジメントゲーム演習 1
8. ビジネスマネジメントゲーム演習 2
9. ビジネスマネジメントゲーム演習 3
10. 企業活動と情報社会の課題
11. 情報社会における倫理的課題
12. テーマの形成
13. テーマの検討 1
14. テーマの検討 2
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 演習：40%：課題提出・発表演習 (2) レポート：60%

専門演習Ⅱ（組織行動論）

LCPO-L-300

担当者：八木 規子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識。
問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識。
市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

後期は、経営とはなにか？という問いについて、日本の実業界、ビジネスマンの中で広く読まれている、ドラッカーの『マネジメント：基本と原則【エッセンシャル版】』を読みながら、考えていく。日本では著名なドラッカーであるが、米国のビジネススクールではほとんど取り上げられていないのが現状である。どうしてこのような違いが生じるのか、について触れることは、「経営を科学することは可能か？」というもうひとつの問いにつながる。本演習では、この二つの問いに関して、ゼミ生と共に考えを深めていきたい。

2. 学びの意義と目標

経営とは、会社の経営者や管理職だけが理解すればよい、というものではない。むしろ、組織の成員のひとりひとり、また、いわゆる会社組織に属さない人間、たとえば家庭人となることを選んだ個人にも重要なことである。むしろ、経営というものがより良い方向に向かっていくためには、組織の上層の人間だけでなく、すべての社会の成員が、経営的なものの考え方に慣れ親しんでいくことが重要である。経営とは何かを学ぶに際し、日本で広く読まれているドラッカーの書籍を読み通すことは、就職活動において、実業界のひとびとと同じ言語で経営を語ることににつながる。また、就職活動を待たずとも、サークル活動やアルバイト先での経験にも経営の考え方は役に立つ。本演習は、さまざまな場に採用できる「基本と原則」としての経営の考え方を学ぶことを目標とする。

受講生に対する要望

卒業後、どんな職についても、あるいはつかなくても、経営／マネジメントは、みなさんの一生を左右する事象です。二年後の自分、就職するかどうかということなのか、経営／マネジメントの視点から一緒に考えてみましょう。

キーワード

(1) 経営 (2) 組織 (3) 科学的研究方法 (4) 仕事 (5) マネジャー

事前学習（予習）

教科書の該当箇所および追加で配布する資料を読んでおくこと。事前に出される宿題について、自分の考えをE-learningシステム上のフォーラムに書き込むこと。学生はシステムの使い方に習熟しておくことが必要

復習についての指示

授業中に取ったノートを整理しておく。

授業計画

1. はじめに。マネジメントの役割
2. 企業の成果
3. 公的機関の成果
4. 仕事と人間
5. 社会的責任
6. Part 1まとめ
7. マネジャー
8. マネジメントの技能
9. マネジメントの組織
10. Part 2まとめ
11. トップマネジメント
12. マネジメントの戦略
13. Part 3まとめ
14. マネジメントのパラダイムは変わったか？
15. 全体まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1) 宿題：70：7%×10回 (2) 期末レポート：30%

専門演習Ⅱ（地域社会論）

LCPO-L-300

担当者：大高 研道

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識。
問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識。
市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

生活の個別化が進み、家族や地域社会を取り巻く環境も様変わりを見せる中、就業、結婚、子育て、福祉、教育など、社会のあらゆる場面において発生する諸問題や不安の増大を背景に「危機の時代」が叫ばれつつある。その「危機感」を高めている重要な要素のひとつが「関係性の希薄化」であるという認識のもと、本演習では、「人と人がつながる現代的な形」について考えたい。

演習Ⅱでは、演習Ⅰで醸成された問題意識・関心をもとに、各自が興味を持った（さらに深めたいと思った）課題を選び、調査・報告する。併せて、『コンコース緑化活動報告書』作成、および問題解決主体としてのNPOや社会的企業の現地調査（資料収集やヒアリング）を行う。

2. 学びの意義と目標

現代社会は、人とつながりにくい社会だといわれている。しかし、私たちは決して1人で生きていけない。人と、社会と、どのようにつながるのか。地域社会（コミュニティ）について学ぶということは、現代社会、そして未来社会において、私たちがどのように（他者とともに）生きるかを考えることに他ならない。演習を通して、最終的には、現代における社会的諸問題を解決する舞台として期待されている「地域社会（コミュニティ）」のすすむ方向性を、「現代的協同（人とつながる現代的な形）」をキーワードに検討する。とりわけ、地域を基盤に活動する新しい協同の形として注目されるNPO、社会的企業等の協同実践が展開するための可能性と課題について、一定程度のヴィジョンが提起できるようになることを目指す。

受講生に対する要望

・「NPO論」と「地域社会論」を履修すること。・時事ニュースを取り上げて解説・議論することがあるので新聞等に目を通しておくこと。

キーワード

(1) 地域社会 (2) NPO (3) 社会的排除 (4) 社会的企業 (5) 現代的協同性

事前学習（予習）

・報告担当者には、前の週のゼミで、①報告テーマ、②キーワードについて発表してもらう。参加者は、関連するニュースを読み、分からない用語等は事前に調べてくること。報告者は前日までにレジュメを提出すること。

復習についての指示

・各自、ゼミ終了後、①「学んだこと」、②「疑問に思ったこと/さらに学びたいこと」の2点を整理しておくこと。これらについては、次回ゼミの冒頭に共通討論の場を設ける。

授業計画

1. 演習の課題と方法
2. 現代コミュニティの諸課題—各自の問題関心—
3. 個別調査報告(1)
4. 個別調査報告(2)
5. 個別調査報告(3)
6. 個別調査報告(4)
7. NPO・社会的企業ヒアリング調査
8. NPO・社会的企業の実際
9. グループ調査報告(1)
10. グループ調査報告(2)
11. 調査レポートの作成指導(1)
12. 調査レポートの作成指導(2)
13. 報告書作成・製本作業(1)
14. 報告書作成・製本作業(2)
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席点:70%:報告内容および討論への参加状況（積極性）を含む。(2) レポート:30%

専門演習Ⅱ（日本経済論）

LCPO-L-300

担当者：大森 達也

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識。
問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識。
市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本演習では、専門演習Ⅰで学んだ日本経済の抱える問題に関する基礎知識をもとに、各自、レポート課題を設定した上で、それぞれの課題に関する文献を読み、発表、そして発表に対するクラスディスカッションを行ないつつ、レポート（レジメを含む）をまとめることを目的としている。

2. 学びの意義と目標

本演習では、卒業研究Ⅰ及びⅡで、10,000字程度のレポートをまとめることになるが、そのためのレジメの作成をすることを目的としている

受講生に対する要望

日本経済における自分の関心事項をはっきりさせること。そのためには、幅広く文献調査をし、知識を蓄えることが求められる。

キーワード

(1) 文献調査 (2) 発表 (3) レポート作成

事前学習（予習）

3週サイクルで、文献調査、内容の発表となっている。十分に時間をかけ、準備することが望まれる。

復習についての指示

次の発表に向けて、終わったサイクルがどうであったかを振り返ること。

授業計画

1. 問題の整理
2. 予定課題の発表
3. 予定課題に関する文献調査(1)
4. 文献内容の発表(1)
5. 文献内容の発表(2)
6. 予定課題に関する文献調査(2)
7. 文献内容の発表(3)
8. 文献内容の発表(4)
9. 予定課題に関する文献調査(3)
10. 文献内容の発表(5)
11. 文献内容の発表(6)
12. レポートの発表(1)
13. レポートの発表(2)
14. レポートの発表(3)
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) ディスカッション:30% (2) 発表:30% (3) 期末レポート:40%:4,000字程度

専門演習Ⅱ（法学）

LCPO-L-300

担当者：渡辺 英人

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識。
問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識。
市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

「法」を学ぶことは社会の中で生きるための最も重要な基礎知識である。この授業では大学生として必ず知っていなければいけない「社会のルール」その根本概念について解説し、理解してもらう。2014年度のテーマは「生活の中から見た法と行政」。消費者保護に関する法や行政を学ぶ。新聞やテレビ等のニュース報道で、従来では考えられなかった事件や事故を耳にする。なぜ、このような問題が発生するのか、いっしょに検討してみよう。生活者の視点で社会を確認してみよう。

2. 学びの意義と目標

生活の中から見た法と行政を学ぶ。これは生きるために必要な知識となる。

受講生に対する要望

積極的に参加する学生のみ参加して欲しい。

キーワード

(1)生活の中から見た法と行政 (2)消費者保護法 (3)消費者保護行政

事前学習（予習）

前週までにゼミ資料を配付するので、復習のみならず、資料の読みこみなど予習をすること。

復習についての指示

授業で使用了資料と、授業中に記述したノートを基にして、清書ノートを作ること。

授業計画

1. 現代社会と法（その種類と仕組み）
2. 法と道徳
3. 法が強制的であるということ
4. 法の機能
5. 「犯罪」とは何か？
6. 現代社会と裁判制度
7. デュー・プロセスについて
8. 消費者を守る法
9. 研究報告
10. 研究報告
11. 研究報告
12. 研究報告
13. 研究報告
14. 研究報告
15. 研究報告

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)授業参加:40% (2)発表:30% (3)課題作成:30%

専門演習Ⅱ（まちづくり学）

LCPO-L-300

担当者：平 修久

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識。
問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識。
市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

自分たちのまちは自分たちで良くしようという動きが全国的に広がっている。身近なまちを見直し、まちの価値を再発見し、それをまちづくりに活かす動きも各地で見られる。あるいは、まちの問題を市民が取組む動きも起きている。そこで、本演習では、大学周辺で実施されているみつばちプロジェクトを学ぶとともに、キャンパス内で類似プロジェクトを置行う場合の企画書を作成する。授業の性格上、学外で行うこともある。なお、他のまちの課題を取り上げ、調査・検討する可能性もある。

2. 学びの意義と目標

身近な大学周辺のまちを題材に、まちの見方、問題などへの対応方法を学ぶことにより、考える力を身につけること。

受講生に対する要望

グループ作業などに積極的に関わることを期待する。

キーワード

(1)まちづくり (2)自然 (3)食 (4)活性化

事前学習（予習）

事前に、教科書の指定箇所を読んでおくこと。グループ作業については、事前に分担した内容を調べておくこと。

復習についての指示

グループ作業の場合は、毎回振り返りを行い、輪読の場合は、指定箇所を再度読み直す。

授業計画

1. ガイダンス
2. 聖学院ミツバチプロジェクト
3. まちづくりに関する本の輪読
4. まちづくりに関する本の輪読
5. まちづくりに関する本の輪読
6. まちづくりに関する本の輪読
7. 聖学院ミツバチプロジェクト
8. 聖学院ミツバチプロジェクト
9. 聖学院ミツバチプロジェクト
10. 聖学院ミツバチプロジェクト
11. 中間発表
12. 聖学院ミツバチプロジェクト
13. 聖学院ミツバチプロジェクト
14. 聖学院ミツバチプロジェクト
15. 最終発表、まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席:30% (2)グループワーク:20% (3)AH感想文:10% (4)発表:15%
(5)レポート:25%

税法概論

LAW-L-200

担当者：田口 安克

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

知の基礎力：組織人としてのマナーおよび経営の基礎知識

カリキュラム上の位置付け

ビジネスコース：基幹科目

講義概要

1. 内容

税金は、私たちの生活のあらゆる面にかかわっている。例えば、サラリーマンは給与から源泉徴収等で所得税や住民税が徴収され、国内の買い物の価格には消費税が含まれ、家や土地を所有している人は市町村に固定資産税を納付する。これら税金は、国や地方公共団体が提供する教育・警察などの公共サービスの財源となり、そのサービスの享受者としても私たちにかかわっている。

本講義では、私たちの生活に深くかかわっている税金に関する法律（税法）のしくみについて、できるだけわかりやすく解説する。税法はどのような考え方がその根底にあるのか、あるいは、所得税法や法人税法といった実際の税法のしくみを解説するだけでなく、税務調査といった税務行政はどのようなものかなど、税金実務についても触れていく予定である。

2. 学びの意義と目標

税法は、税金を徴収する側の国や地方公共団体のためという視点だけでなく、納税者である私たちのためにあるということも理解し、現在のわが国の税法全体の概要を把握する。

受講生に対する要望

入門講座であるため、必須ではないが、財政学、会計学、簿記と関連するので、できうるかぎり、これらも受講してほしい。

キーワード

(1) 租税法律主義 (2) 租税公平主義 (3) 自主課税主義 (4) 応能負担と応益負担 (5) 申告納税と賦課課税

事前学習（予習）

事前に指定した教科書の該当箇所を読んでくること。

復習についての指示

追加プリントを再読し、各項目の理解を深めること。

授業計画

1. 税とは何か
2. 税に関する基本原則と課税制度
3. 税務調査と納税者の権利義務（1）
4. 税務調査と納税者の権利義務（2）
5. 所得税（1）
6. 所得税（2）
7. 所得税（3）
8. 所得税（4）
9. 所得税（5）
10. 法人税（1）
11. 法人税（2）
12. 法人税（3）
13. 法人税（4）
14. 法人税（5）
15. 法人税（6）
16. 消費税（1）
17. 消費税（2）
18. 消費税（3）
19. 相続税・贈与税（1）
20. 相続税・贈与税（2）
21. 相続税・贈与税（3）
22. 相続税・贈与税（4）
23. 地方税（1）
24. 地方税（2）
25. 地方税（3）
26. その他の国税・国際課税（1）
27. その他の国税・国際課税（2）
28. 税務行政等
29. まとめ
30. 試験

教科書

林 仲宣，四方田 彰，角田 敬子，竹内 進 『ガイドンス 税法講義』（税務経理協会）

評価方法

(1) 出席:30%:講義開始時には着席していること (2) 発表:30%:積極的に講義に参加し、理解度を高めてほしい。 (3) 期末試験:40%

組織行動論

MGMT-L-200

担当者：小林 一之

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

知の基礎力：組織人としてのマナーおよび経営の基礎知識

カリキュラム上の位置付け

ビジネスコース：基幹科目

講義概要

1. 内容

社会生活では人は集団として行動する事が多々あります。集団の中では集団に影響され、人の行動は一人の時とは幾分違ったものになります。組織行動論では組織の中での個人がどんな行動をとるのか、また組織が持つ特徴などを探ります。更に組織をどう効率的に運営させるかなどを学びます。具体的には人の行動を決める“動機づけ”、“集団の意思決定の特徴”、“組織の活性化を促すリーダーシップ”、“組織論”などについて事例を踏まえわかり易く伝えます。また様々な組織の特徴、その効率的な運用の方法を学ぶため、或いは経営管理のための入門的な位置づけです。応用心理学や他の関連する経営管理手法なども紹介します。

2. 学びの意義と目標

これらの成果は日常生活の中での集団活動にも活用する事が出来ます。また企業の中では重要な経営管理の道具として多く使われていますし、特に大企業ではマネージャーになるための必須の修得項目の一つになっています。本講ではその基本的考え方を理解すること

受講生に対する要望

他の学問の境界で学ぶ事は多くあります。一つ一つ納得して自分の物として下さい。授業中の意見、質問を積極的に行って下さい。

キーワード

(1) 動機づけ理論 (2) 集団の中の個人 (3) リーダーシップ (4) 組織の病気 (5) 組織の活性化

事前学習（予習）

特に予習は必要としませんが、自分が属している家族、サークル、友人仲間などの集団の自分との関わり、問題点など考えるきっかけとして下さい。

復習についての指示

授業で配布されたプリントを機械までに再読する事。また聖学院大の図書館に関連する図書も多くあるので目を通す事を薦めます

授業計画

1. 組織行動論とは
2. 経営への科学の導入 (1)
3. " (2)
4. 人は何に基づいて行動するか
5. 動機づけ理論 (1)
6. " (2)
7. 動機づけ理論の応用
8. 人はなぜ集団に参加するのか
9. 集団の役割、種類
10. 集団行動の特徴
11. 集団の意思決定
12. 集団の最良の意思決定
13. コミュニケーション (1)
14. " (2)
15. リーダーシップ (1)
16. " (2)
17. リーダーシップ理論の応用 (1)
18. " (2)
19. パワー
20. 政治的活動
21. 組織内の葛藤 (1)
22. " (2)
23. 協働と組織
24. 組織の構造
25. 組織のデザイン
26. 組織文化 (1)
27. " (2)
28. コンピテンシー (1)
29. " (2)
30. 予備、まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 出席点:30% (2) 理解力:70%

組織行動論

MGMT-L-200

担当者：八木 規子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

知の基礎力：組織人としてのマナーおよび経営の基礎知識

カリキュラム上の位置付け

ビジネスコース：基幹科目

講義概要

1. 内容

組織行動論は、組織という文脈のなかで、人間が行動する際に見せるさまざまな法則性について学ぶ。個人が、個人として、また、小集団・組織の成員として行動し、認知し、また感情を抱く際にみせるさまざまな法則性に関する理論やフレームワークの習得に基礎を置き、それらの法則性の活用を、実際の組織（大学内のクラブ、企業、非営利団体、等）が直面する諸問題の解決に、どのように適用できるか、ケース・スタディ、ロール・プレイ、グループ・プロジェクト等の学習手法を通じて、身に着ける。

2. 学びの意義と目標

われわれが社会生活を営む上では、いずれかの組織に所属することなしに生きていくことはできない。組織は、個人だけでは達成できない目標を達成しうよう仕組みとして、人類の発明した仕組みの中でも最も価値のあるもののひとつといえる。しかしながら、組織が所期の目標を達成するためには、所属する成員が協力しあうことが重要となる。組織成員の協力を引き出し、目的に向かって成員を動かすためには、さまざまなスキルが必要とされる。組織行動論を学ぶことの意義は、こうしたスキルを身につけるとともに、人間の認知、行動、感情を動かす原理原則を学ぶことで、自分自身と他者をより良く理解することにある。組織行動論の学びを通じて、自らが組織の良き一員となるだけでなく、後年、部下をもったときには、良き上司として、部下を導き、育成する力を磨くことを目標とする。

受講生に対する要望

自分自身と他者をよく理解したいという意欲をもち、学びの実践のために、自分自身のcomfort zoneの外にすこし出て、新しいことに挑戦してほしい。

キーワード

(1) 組織 (2) 小集団 (3) 個人 (4) 行動 (5) 認知

事前学習（予習）

大学のE-learningシステムにアップロードする、各セクションの準備資料(教科書の各章に相当)を読み込み、自分ならどのような対処をするか、クラス討論に参加できる準備をしておくこと。出席・参加点の対象となる小さな宿題を適宜課す予定。準備資料やレポートの参考資料のダウンロード、レポート提出等、E-learningシステムの使用が必須となるので、学生はシステムの使い方に習熟しておくこと。

復習についての指示

授業中に取ったノートを整理しておく。とくに理論やフレームワークを、現実の諸問題にどのように適用できるか。逆に理論やフレームワークの限界はなんなのか、復習しておくことは、試験の良い準備となる。

授業計画

1. 本科目の進め方について。組織行動論とは何か
2. 組織行動論の歴史。科学的研究方法と組織行動論
3. 学習と知識（Kolbのモデル）
4. パーソナリティ：個人レベルでの違い
5. チーム分け発表【要出席】チームプロジェクトの説明
6. 集団行動の基礎
7. チームを理解する
8. 組織文化—1
9. 組織文化—2
10. コミュニケーション
11. コンフリクトと交渉
12. 前半まとめ
13. 中間試験
14. 個人行動の基礎—価値観、態度
15. 個人行動の基礎—認知、学習
16. 動機付けの基本的なコンセプト—動機付けとはなにか、初期の理論
17. 動機付けの基本的なコンセプト—現代の理論、国民文化の影響
18. 動機付け：コンセプトから応用—給与制度設計と動機付け
19. 動機付け：コンセプトから応用—職務再設計
20. 動機付け：コンセプトから応用—多様化する労働力を動機付ける
21. 個人の意思決定
22. パワーと政治
23. リーダーシップ—1
24. リーダーシップ—2
25. 組織構造の基礎
26. 組織変革と組織開発
27. チームプロジェクト発表—1【要出席】
28. チームプロジェクト発表—2【要出席】
29. 後半まとめ
30. 期末試験

教科書

授業の中で指示する
教科書の各章に相当するような準備資料を、事前にE-learningシステムにアップロードしておくので、学生は、授業出席前にそれらをダウンロードすること。

評価方法

(1) 授業出席・参加点:20%:授業中に行う小テストの結果、ディスカッションへの参加、等を含む。(2) 中間試験:30%(3) チームプロジェクト:20%:4～5人のチームに分かれ、学期を通してプロジェクトに取り組む。(4) 期末試験:30%

卒業研究(コミュニティ政策)

LCPO-L-400

担当者：瀬名 浩一

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識。
問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識。
市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

「コミュニティ・ビジネスの現場」の授業を履修し、まちづくり、福祉、環境等の分野でビジネスを起業した経営者、利害関係者の講演を聞き、「誰を助けるのか」、「何をしているのか」を知り、身近なコミュニティでの起業可能性についてレポートにまとめる。

2. 学びの意義と目標

1、住民の合意形成の取り型、組織の作り方、資金調達の方法など公民連携の有効性を学べる。2、研究計画を立て、その成果を整理し、プレゼンテーションし、論文にまとめる。

受講生に対する要望

「コミュニティ・ビジネス論」か「地域経済論」を履修すること。

キーワード

((1)まちづくり (2)福祉 (3)再生可能エネルギー (4)起業

事前学習(予習)

授業計画を参照し、扱われるトピックスについて新聞などで情報を集めておくこと

復習についての指示

資料を再読し、次回までに説明できるようにしておくこと

授業計画

1. 学びの進め方
2. 事例調査「子育てネットワーク」
3. 事例調査「ワーカーズ・コレクティブ」
4. 事例調査「社会を変えるを仕事にする」
5. 福祉ビジネスの現状と課題
6. 農業の再生
7. 自然エネルギーの地産地消
8. 路面電車を利用した街づくり
9. 秩父の地域経営
10. 川越の地域経営
11. 商店街の再生
12. まちづくり会社の現状
13. 埼玉の起業支援
14. コミュニティビジネスの資金調達
15. 自分のコミュニティでの問題発見Ⅰ
16. 自分のコミュニティでの問題発見Ⅱ
17. 卒業研究計画の作成Ⅰ
18. 卒業研究計画の作成Ⅱ
19. 卒業研究計画の作成Ⅲ
20. 中間報告Ⅰ
21. 中間報告Ⅱ
22. 中間報告Ⅲ
23. 論文作成と最終発表Ⅰ
24. 論文作成と最終発表Ⅱ
25. 論文作成と最終発表Ⅲ
26. 論文提出と評価Ⅰ
27. 論文提出と評価Ⅱ
28. 論文提出と評価Ⅲ
29. 卒業研究の総括Ⅰ
30. 卒業研究の総括Ⅱ

教科書

授業の中で指示する
「コミュニティ・ビジネス論」の講演録を配布する。

評価方法

(1)発表力:40% (2)出席率:30% (3)論文内容:30%

卒業研究(コミュニティ政策)

LCPO-L-400

担当者：鈴木 潔

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識。
問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識。
市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

住民が日々の生活を営むコミュニティ（地域社会）は、市町村と密接な関係にある。市町村は単なる国の出先機関ではなく、住民のニーズや思いを受けとめて政策に反映する権能を持つ地方政府だからである。受講生が自ら居住する市町村の政策について調査を行い、政策の改善に向けた提言を作成する。

2. 学びの意義と目標

市町村及びコミュニティ関係者へのインタビューなど実態調査を行うことで事実を的確に把握する能力を身に付ける。また、ゼミでの討議を通じて課題を整理し、問題解決を考察する能力を養う。

受講生に対する要望

大切なことは「何を知るか」ではなく「いかに知るか」である。問題解決の方法論を共に学ぼう。また、卒業研究用のノートを購入し、授業中の議論を振り返ることができるように十分にメモを取ることを。

キーワード

(1)政策 (2)コミュニティ (3)市町村

事前学習（予習）

毎回何らかの課題を出すので、その内容を事前に調べておくこと。

復習についての指示

ノートや配布資料を使って振り返りを行うこと。

授業計画

1. 卒業研究の目的と進め方
2. 実態調査の方法
3. 研究対象の検討 1
4. 研究対象の検討 2
5. 文献調査・報告 1
6. 文献調査・報告 2
7. 文献調査・報告 3
8. 文献調査・報告 4
9. 企画書素案の発表
10. 企画書素案の修正 1
11. 企画書素案の修正 2
12. 共同調査
13. 実態調査・報告 1
14. 実態調査・報告 2
15. 実態調査・報告 3
16. 実態調査・報告 4
17. 実態調査のとりまとめ
18. 共同調査
19. 追加文献調査・報告 1
20. 追加文献調査・報告 2
21. 卒業研究レポートの作成
22. 卒業研究レポートの中間発表
23. 卒業研究レポートの修正 1
24. 卒業研究レポートの修正 2
25. 追加文献調査・報告 3
26. 追加文献調査・報告 4
27. 卒業研究レポートの最終発表 1
28. 卒業研究レポートの最終発表 2
29. 卒業研究レポートの最終発表 3
30. 卒業研究の振り返り

教科書

高根正昭 『創造の方法学』（講談社）

評価方法

(1)授業貢献度：70% (2)卒業レポート：30%

卒業研究Ⅰ（キリスト教社会倫理）

LCPO-L-300

担当者：菊地 順

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識。
問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識。
市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この授業では、キリスト教倫理に関連する人物や思想に、テキストや映像をとおして触れてもらい、それぞれの世界を学ぶことをとおして、人間の生き方について考えます。具体的には、アメリカで1950年代から60年代に活躍したマーティン・ルーサー・キングたちの活動を踏まえ、その後のアメリカにおける人種問題を学びます。

2. 学びの意義と目標

春学期は、公民権法成立後のキングの活動を学びます。それは、一方ではベトナム戦争に対する反戦運動であり、他方では貧困撲滅のための戦いでしたが、それをおしてみられるアメリカ社会の悪の構造と、それに対するキングの戦いを学び、キングとその運動の意義について考えます。

受講生に対する要望

授業は、学びつつ、議論しつつ、進められますので、積極的に参加してください。

キーワード

(1) マーティン・ルーサー・キング (2) ベトナム戦争 (3) 貧困問題
(4) 悪の構造 (5) 贖罪

事前学習（予習）

予習として、読むことが中心となりますので、予め配布されるプリントを下読みし、特に英文は必ず下調べをしておくこと。

復習についての指示

復習としては、学んだことをまとめ、整理し、必要に応じて調べ、レポート作成に備えること。

授業計画

1. 授業のオリエンテーション
2. アメリカとベトナム戦争
3. キングと反戦運動（1）
4. キングと反戦運動（2）
5. キングと貧困撲滅運動（1）
6. キングと貧困撲滅運動（2）
7. キングの死（1）—その背景—
8. キングの死（2）—その意味—
9. キングの見たアメリカ社会の悪の構造（1）
10. キングの見たアメリカ社会の悪の構造（2）
11. キング後のアメリカ（1）
12. キング後のアメリカ（2）
13. キング後のアメリカ（3）
14. キング後のアメリカ（4）
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する
プリントを配布します。またプリント以外にも映像等を用いて授業を行います。

評価方法

(1) 出席:50% (2) レポート:50%

授業に積極的に参加することを重視します。また最後にレポートを書いてもらいます。その総合的な判断で成績を出します。

卒業研究Ⅰ（公共哲学）

LCPO-L-300

担当者：谷口 隆一郎

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識。
問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識。
市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

現代の市民社会とその政策を考えるに当たって、各コミュニティが帰属する、社会の各領域に内在する規範と、コミュニティがどう関係するかを理解することはとても重要である。私の「公共倫理」の概念を手がかりに、プラグマティズム的思考に即しつつ、コミュニティの新しい政治学の出来（しゅつたい）の経緯と動向について学ぶ。公共倫理（コミュニティ間の倫理）、民主的市民精神、多元多文化と寛容、市場の公共性、社会政策にとってのコミュニティの意味、コミュニティアリズム対リベラリズム論争、等の諸問題と諸課題を取り上げる。（1）1年かけて、公共哲学、政治哲学、政治理論、社会理論等に関する多くの文献を精読・精解する。（2）文献をレジメにまとめ報告・議論する。（3）卒業論文のテーマにつながるトピックを決め、ゼミ・レポートを書く。

2. 学びの意義と目標

（1）公共・民主的市民精神・公共倫理の諸問題と諸課題についての理解を深めることにある。そのために、それらに関して、世界の大学の公共哲学の授業で読まれている良質な内容の多くの文献を精読していく。（2）将来、公共性の高い仕事（公務員職等）に就きたいと考えている学生にとっては、知っておくというテーマと内容が、この講義には含まれているのみならず、現代政治状況を根拠から理解するために不可欠な視点が数多く盛り込まれている。コミュニティをどう捉えるかによって、政策への取り組みの考え方がどのように異なるのか、等について整理して学ぶことができる。（3）論理的に思考することにより、徹底的に日本語能力と思考力を鍛える。思考力さえ鍛えておけば、それをどんな知識の運用にも役立たせることができる。

受講生に対する要望

私の「倫理学」「公共哲学」を併せて履修すること。予習・復習をすること。研究したり合宿に高原へ行ったりと楽しくゼミをやりたいと考えている。

キーワード

(1) 公共 (2) 公共倫理 (3) 領分主権 (4) コミュニティ (5) コミュニタリアニズム

事前学習（予習）

授業の中で指示した文献や資料を事前に読む。指定テキストを各自読み進める。

復習についての指示

当番制でBRC（授業内レポート）を作成する。各授業で、担当者は前回の授業のBRCを人数分配する。各自、BRCを読むことで理解を新たにする。また、作成者は配布したBRCへの質疑応答を行う。オリエンテーションで、BRCについての別紙シラバスを配布する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う
3. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う
4. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う
5. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う
6. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う
7. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う
8. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う
9. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う
10. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う
11. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う
12. ゼミ生による発表
13. ゼミ生による発表
14. ゼミ生による発表
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する
授業内でプリントを配布したり、入手する資料を指示したりする。

評価方法

(1) 授業参加度（研究報告）：50%： 毎回の授業への積極的参加および研究報告・レジメ等 (2) 研究成果（小論文）：50%： ゼミ論文に対する評価

卒業研究Ⅰ（コミュニティ・ビジネス論）

EACL-A-302

担当者：瀬名 浩一

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識。
問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識。
市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

今までゼミでまとめた「コミュニティ・ビジネスの現場」の講演録『コミュニティ・ビジネスが社会を救う』『コミュニティを復活させるビジネス』『コミュニティ・ファンドの募集』を輪読し、自分が興味を持つプロジェクトを選択し、民間企業、NPO、住民と公共がいかに連携してコミュニティが直面する問題を解決してきたかを具体的ケースに則して研究する。

2. 学びの意義と目標

プロジェクトに参加する住民の合意形成のあり方、組織の作り方、資金調達の方法などを学ぶことにより公民連携（PPP）の有効性を学べる。

受講生に対する要望

「コミュニティ・ビジネス論」を履修すること。

キーワード

(1) まちづくり (2) 福祉 (3) 再生可能エネルギー (4) 地域経営 (5) 起業

事前学習（予習）

授業計画を参照し、扱われるトピックについて新聞等で情報を集めておくこと。

復習についての指示

配布プリントを再読し、各トピックについて次回までに説明できるようにすること。

授業計画

1. 卒業研究Ⅰの学び方
2. 子育てネットワーク
3. ワーカーズ・コレクティブ
4. 「社会を変える」を仕事とする
5. 福祉ビジネスの現状と課題
6. 棚田の再生
7. 自然エネルギーの地産地消
8. 路面電車を利用した街づくり
9. 秩父の地域経営
10. 川越の地域経営
11. 商店街の再生
12. まちづくり会社の現状と課題
13. 埼玉の起業支援
14. コミュニティ・ビジネスの資金調達
15. 卒業研究Ⅰの総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 発表力:20% (2) 討論力:20% (3) 出席率:30% (4) 期末レポート:30%

卒業研究Ⅰ（情報学）

LCPO-L-300

担当者：河島 茂生

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識。
問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識。
市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

授業の内容は、専門演習Ⅰ・Ⅱ（情報学）で培った知識をもとにして、受講生がみずから選んだテーマを調査していくことである。受講生は、まず調査の設計を行い、実際に調査を開始する。また、本格的なプレゼンテーションの技法も扱う。受講生は、プレゼンテーションソフトを使い、複数回の口頭発表を行う。

2. 学びの意義と目標

どのような卒業後の進路を歩むにせよ、既存の資料を単に読むだけでは他者の真似事しかできない。専門演習Ⅱ（情報学）で先行研究を調べたが、卒業研究Ⅰ（情報学）では受講生が独自の情報を掴むことを目指す。また、他者に伝わるプレゼンテーションの技法の体得を目指す。

受講生に対する要望

欠席は厳禁である。また、本ゼミの履修者には、3年次を終えるまでに科目「情報学」の履修を強く求める。

キーワード

事前学習（予習）

指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、ゼミに関わる必要がある。

復習についての指示

ディスカッションの内容を踏まえ、みずからの次回の発表を改善しなければならない。

授業計画

1. 調査の進め方（ガイダンス・含）
2. プレゼンテーションソフトウェアの使い方
3. インタビュー調査、アンケート調査、内容分析など
4. 調査設計報告
5. 調査設計報告
6. 調査設計報告
7. 調査設計報告
8. 調査設計報告
9. 調査結果報告
10. 調査結果報告
11. 調査結果報告
12. 調査結果報告
13. 調査結果報告
14. 調査結果報告
15. 外部施設見学

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 口頭発表：80% (2) ディスカッション：20%

卒業研究Ⅰ（情報倫理）

LCPO-L-300

担当者：竹井 潔

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識。
問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識。
市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

工業社会から情報社会へと変遷してきた中で、「情報倫理」ということが近年いわれだした。「情報倫理」は今後あらゆる「情報」を扱う上で必要となる。そこで、「情報倫理」がなぜ必要となってきたのか、情報とは何か、現代社会と情報のかかわりの中で、情報の価値を問いかけていきたい。私たちは、次第に情報ネットワーク社会を前提とした情報社会の中で生活をしてきているが、情報社会をとりまく光と闇の部分認識し、情報化によって便益を受けている面と、問題が生じてきた情報社会の課題を検討していきたい

2. 学びの意義と目標

情報社会における諸課題、情報倫理の必要性について理解し、課題を形成していく。

受講生に対する要望

自分の研究テーマについて、積極的に取り組むこと。また、発表演習担当のときに無断欠席は厳禁である。

キーワード

(1) 情報社会における諸課題 (2) 情報倫理

事前学習（予習）

事前に指示する参考図書を読んで用語などを調べておくこと。発表演習には事前に発表資料を作成してくること。演習は必ず出席し、積極的に参画すること。

復習についての指示

演習でできなかった箇所や理解できなかった専門用語は各自調査して十分に理解しておくこと。

授業計画

1. 情報社会と課題形成
2. 情報社会における最近のキーワード
3. キーワードの調査・確認 1
4. キーワードの調査・確認 2 発表
5. 情報社会における問題点・課題の洗い出し 1
6. 情報社会における問題点・課題の洗い出し 2 発表
7. 情報社会における課題の分類・整理 1
8. 情報社会における課題の分類・整理 2
9. 情報社会における倫理的課題の検討・討議 1
10. 情報社会における倫理的課題の検討・討議 2
11. 情報社会における倫理的課題の検討・討議 3
12. 情報社会における倫理的課題の検討・討議 4
13. 情報社会における倫理的課題の検討・討議 5
14. 情報倫理とその課題
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 演習：40%：課題提出、発表演習 (2) 期末レポート：60%

卒業研究Ⅰ（地域社会論）

LCPO-L-300

担当者：大高 研道

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識。
問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識。
市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

卒業研究の中心テーマは、現代的課題克服の主体研究である。グローバル化する現代社会において噴出している労働問題・生活問題の現実を、自分なりの観点から検討した「専門演習」を踏まえて、より具体的な解決主体としての市民・コミュニティ（組織）のあり方、可能性について検討することがその内容となる。本演習では、まず「専門演習」での学びを通して醸成された知見にもとづいて選択されたテキストを題材に、各自関心のある課題を取り上げ、自由に報告・議論する。その上で、卒業レポートのテーマを確定し、調査方法論および論文執筆の基本的技法について学ぶ。

2. 学びの意義と目標

最終的には、地域を基盤に活動を展開する新しい協同の形として注目されるNPOや市民社会組織の可能性について、各自が関心のある領域において一定程度のヴィジョンを提起できるようになることを目指す。その集大成のひとつとして位置づけられるのが、「卒業研究レポート」である。今学期の学びは、卒業研究レポート作成にむけて問題関心を具体化し、理論化するための基盤を形成するとともに、大学生活を通じた学びを省察的に検討し、意義づけるための重要な機会をも提供するであろう。

受講生に対する要望

・「NPO論」と「地域社会論」を履修すること。・時事ニュースを取り上げて解説・議論することがあるので新聞等に目を通しておくこと。

キーワード

(1) 地域社会 (2) NPO (3) 社会的企業 (4) 社会的排除 (5) 現代的協同性

事前学習（予習）

・次回テキストの該当箇所は必ず読み、分からない用語等は事前に調べてくること。報告者は前日までにレジュメを提出すること。

復習についての指示

・各自、ゼミ終了後、①「学んだこと」、②「疑問に思ったこと/さらに学びたいこと」の2点を整理しておくこと。これらについては、次回ゼミの冒頭に共通討論の場を設ける。

授業計画

1. 卒業研究について
2. 調査方法論
3. 調査課題・対象の焦点化にむけて(1)
4. 調査課題・対象の焦点化に向けて(2)
5. 文献購読・報告
6. 文献購読・報告
7. 文献購読・報告
8. 文献購読・報告
9. 文献購読・報告
10. 調査方法論の再確認
11. 調査領域・調査事例の選定
12. 個別報告
13. 個別報告
14. 個別報告
15. まとめと反省

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席点:70%:報告内容および討論への参加状況（積極性）を含む。(2) レポート:30%

卒業研究Ⅰ（日本経済論）

LCPO-L-300

担当者：大森 達也

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識。
問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識。
市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

卒業研究Ⅰの目的は、専門演習Ⅱで選んだ各自の課題についての卒業研究レポートを作成する準備を進めることである。

2. 学びの意義と目標

研究レポート作成を通じて、それぞれの問題意識を高めるという意義もあるが、同時に、「報連相」の重要性を理解することを目的としている。

受講生に対する要望

各自、調査・研究の自己管理を徹底すること。

キーワード

(1) 研究計画 (2) 文献調査

事前学習（予習）

研究レポート作成を目的としているため、個別テーマごとの指導が重要とならざるを得ないので、各自、調査・研究の時間を充分にとること。

復習についての指示

個別指導に従い、各自、発表後に問題点を整理し、次回につなげる。

授業計画

1. 目的と進め方
2. 研究計画書の作成
3. 研究計画書の発表(1)
4. 研究計画書の発表(2)
5. 文献リストの作成
6. 文献調査の発表(1)
7. 文献調査の発表(2)
8. 中間発表(1)
9. 中間発表(2)
10. 研究計画書の変更と発表(1)
11. 文献リストの変更と発表(1)
12. 追加文献調査の発表(1)
13. 追加文献調査の発表(2)
14. 中間発表(3)
15. 中間発表(4)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 研究計画書作成:15% (2) 文献リスト作成:15% (3) 発表:30% (4) 中間レポート:40%

卒業研究Ⅰ（法学）

LCPO-L-300

担当者：渡辺 英人

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識。
問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識。
市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

「法」を学ぶことは社会の中で生きるための最も重要な基礎知識である。この授業では大学生として必ず知っていなければいけない「社会のルール」その根本概念について解説し、理解してもらう。2014年度のテーマは「生活の中から見た法と行政」。消費者保護に関する法や行政を学ぶ。新聞やテレビ等のニュース報道で、従来では考えられなかった事件や事故を耳にする。なぜ、このような問題が発生するのか、いっしょに検討してみよう。生活者の視点で社会を確認してみよう。

2. 学びの意義と目標

生活の中から見た法と行政を学ぶ。これは生きるために必要な知識となる。

受講生に対する要望

積極的に参加する学生のみ参加して欲しい。

キーワード

(1)生活の中から見た法と行政 (2)消費者保護法 (3)消費者保護行政

事前学習（予習）

前週までにゼミ資料を配付するので、復習のみならず、資料の読みこみなど予習をすること。

復習についての指示

授業で使用了資料と、授業中に記述したノートに基づいて、清書ノートを作ること。

授業計画

1. 現代社会と法（その種類と仕組み）
2. 法と道徳
3. 法が強制的であるということ
4. 法の機能
5. 「犯罪」とは何か？
6. 現代社会と裁判制度
7. デュー・プロセスについて
8. 消費者を守る法
9. 研究報告
10. 研究報告
11. 研究報告
12. 研究報告
13. 研究報告
14. 研究報告
15. 研究報告

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)授業参加:40% (2)発表:30% (3)課題作成:30%

卒業研究Ⅰ（まちづくり学）

LCPO-L-300

担当者：平 修久

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識。
問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識。
市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

大学周辺地域を対象にして、活性化計画もしくはまちの改善計画を検討する。具体的内容を取上げ、詳細な計画を作成する。これらの作業を通して、計画作成の流れを学ぶ。

2. 学びの意義と目標

専門演習で修得した知識、作業経験を活かし、さらに、まちづくりに関する知識を深める。まちに対する観察力を深め、フィールドワークを行うことにより、考える力を身につけること。

受講生に対する要望

地域活性化計画づくりに積極的に参画するとともに、まちに対する視野を拡大してもらいたい。

キーワード

(1)まちづくり (2)フィールドワーク (3)地域活性化

事前学習（予習）

事前に、教科書の指定部分を読んでおくこと。グループ作業に際しては、担当する内容を事前に調べておくこと。

復習についての指示

地域計画づくりに関しては、毎回振り返りを行い、輪読の場合は、指定箇所を再度読み直し、発表の場合はコメントをまとめる。

授業計画

1. ガイダンス
2. 活性化計画づくり
3. 活性化計画づくり
4. 活性化計画づくり
5. 活性化計画づくり
6. 活性化計画づくり
7. 輪読
8. 輪読
9. 輪読
10. 輪読
11. 図書館ガイダンス
12. 卒業研究レポートづくり
13. 卒業研究レポートづくり
14. 卒業研究レポートづくり
15. 卒業研究レポートづくり

教科書

大江正章 『地域のカー・食・農・まちづくり』（岩波新書）

評価方法

(1)出席:30% (2)グループ作業:20% (3)輪読:20% (4)レポート:30%

担当者：菊地 順

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識。
問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識。
市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この授業では、キリスト教倫理に関連する人物や思想に、テキストや映像をとおして触れてもらい、それぞれの世界を学ぶことをとおして、人間の生き方について考えます。具体的には、これまでは黒人問題を中心に見てきましたが、秋学期は、前半ではユダヤ人問題へと目を転じ、その歴史を学びながら、改めて人間の尊厳と人権について考えます。また後半では、人権の思想について学びを深め、最後に日本の状況について検討したいと思います。

2. 学びの意義と目標

秋学期は、ヨーロッパにおけるユダヤ人問題を中心にしながら、改めて人権について考えたいと思います。そして、そのおこととおして、人間の生き方について、理解を深めたいと思います。

受講生に対する要望

授業は、学びつつ、議論しつつ、進められますので、積極的に参加してください。

キーワード

(1)反ユダヤ主義 (2)ユダヤ人問題 (3)基本的人権 (4)憲法 (5)人間の尊厳

事前学習（予習）

予習としては、読むことが中心となりますので、予め配布されるプリントを下読みし、特に英文は必ず下調べをしておくこと。

復習についての指示

復習としては、学んだ内容をまとめ、整理し、必要に応じて調べ、レポートの作成に備えること。

授業計画

1. 授業のオリエンテーション
2. 古代世界と反ユダヤ主義
3. キリスト教とユダヤ教
4. ヨーロッパにおけるユダヤ人の歴史（1）
5. ヨーロッパにおけるユダヤ人の歴史（2）
6. ヨーロッパにおけるユダヤ人の歴史（3）
7. ヨーロッパにおけるユダヤ人の歴史（4）
8. ヨーロッパにおけるユダヤ人の歴史（5）
9. 基本的人権の歴史（1）
10. 基本的人権の歴史（2）
11. 基本的人権の理念（1）
12. 基本的人権の理念（2）
13. 基本的人権と日本（1）
14. 基本的人権と日本（2）
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する
プリントを配布します。またプリント以外にも映像等を用いて授業を行います。

評価方法

- (1)出席:50% (2)レポート:50%

授業に積極的に参加することを重視します。また第五にレポートを書いてもらいます。その総合的な判断で成績を出します。

卒業研究Ⅱ（公共哲学）

LCPO-L-400

担当者：谷口 隆一郎

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識。
問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識。
市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

現代の市民社会とその政策を考えるに当たって、各コミュニティが帰属する、社会の各領域に内在する規範と、コミュニティがどう関係するかを理解することはとても重要である。私の「公共倫理」の概念を手がかりに、プラグマティズム的思考に即しつつ、コミュニティの新しい政治学の出来（しゅったい）の経緯と動向について学ぶ。公共倫理（コミュニティ間の倫理）、民主的市民精神、多元多文化と寛容、市場の公共性、社会政策にとってのコミュニティの意味、コミュニタリアニズム対リベラリズム論争、等の諸問題と諸課題を取り上げる。（1）1年かけて、公共哲学、政治哲学、政治理論、社会理論等に関する多くの文献を精読・精解する。（2）文献をレジメにまとめ報告・議論する。（3）卒業論文のテーマにつながるトピックを決め、ゼミ・レポートを書く。

2. 学びの意義と目標

（1）公共・民主的市民精神・公共倫理の諸問題と諸課題についての理解を深めることにある。そのために、それらに関して、世界の大学の公共哲学の授業で読まれている良質な内容の多くの文献を精読していく。（2）将来、公共性の高い仕事（公務員職等）に就きたいと考えている学生にとっては、知っておくというテーマと内容が、この講義には含まれているのみならず、現代政治状況を根拠から理解するために不可欠な視点が数多く盛り込まれている。コミュニティをどう捉えるかによって、政策への取り組みの考え方がどのように異なるのか、等について整理して学ぶことができる。（3）論理的に思考することにより、徹底的に日本語能力と思考力を鍛える。思考力さえ鍛えておけば、それをどんな知識の運用にも役立たせることができる。

受講生に対する要望

私の「倫理学」「公共哲学」を併せて履修すること。予習・復習をすること。研究したり合宿に高原へ行ったりと楽しくゼミをやっていきたいと考えている。

キーワード

(1) 公共 (2) 公共倫理 (3) 領分主権 (4) コミュニティ (5) コミュニタリアニズム

事前学習（予習）

授業の中で指示した文献や資料を事前に読む。指定テキストを各自読み進める。

復習についての指示

当番制でBRC（授業内レポート）を作成する。各授業で、担当者は前回の授業のBRCを人数分布する。各自、BRCを読むことで理解を新たにする。また、作成者は配布したBRCへの質疑応答を行う。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う
3. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う
4. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う
5. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う
6. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う
7. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う
8. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う
9. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う
10. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う
11. 公共哲学に関する文献を精読し、レジメを作成して、報告を行う
12. ゼミ生による発表
13. ゼミ生による発表
14. ゼミ生による発表
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する
授業内でプリントを配布したり、入手する資料を指示したりする。

評価方法

(1) 授業参加度（研究報告）：50%： 毎回の授業への積極的参加および研究報告・レジメ等 (2) 研究成果（小論文）：50%： ゼミ論文に対する評価

卒業研究Ⅱ（コミュニティ・ビジネス論）

EACL-A-401

担当者：瀬名 浩一

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識。
問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識。
市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

〈内容〉「コミュニティ・ビジネスの現場」を履修し、まちづくり、福祉、環境、などコミュニティ・ビジネスの現場を支える経営者、利害関係者の講演から、コミュニティ・ビジネスの現場では「誰を助けるのか?」、「何をしているのか?」など地域経営の実情を知る。また、将来「社会起業家」として独り立ちするために必要な起業家精神・組織づくり・資金調達などについて知りえた内容を手がかりとして、自分の住んでいる地域についてコミュニティ・ビジネスの起業可能性を1万字以上のレポートに纏める。

2. 学びの意義と目標

2年生での専門演習、3年生春学期での卒業研究を踏まえて、研究内容を整理し、今後の研究計画を立て、フィールドワークなどを行い、パワーポイントでプレゼンテーションし、討論者などからの質問に答え、卒業研究論文を纏める。

受講生に対する要望

「コミュニティ・ビジネスの現場」を履修すること。

キーワード

(1) ソーシャル・ビジネス (2) 社会起業家 (3) 社会的責任 (4) コミュニティ投資 (5) ソーシャル・バンク

事前学習（予習）

自分の研究内容、発表計画を見直し、扱うトピックについて新聞等で情報を集めておくこと。

復習についての指示

自分の研究テーマ、内容と他の人の研究テーマ、内容との関連についても関心を持つこと。

授業計画

1. 卒業研究Ⅱの学び方
2. 卒業研究小論文と研究計画の発表
3. 卒業研究小論文と研究計画の発表
4. 卒業研究小論文と研究計画の発表
5. 卒業研究小論文と研究計画の発表
6. 卒業研究小論文と研究計画の発表
7. 卒業研究小論文と研究計画の発表
8. 卒業研究Ⅱ小論文の発表
9. 卒業研究Ⅱ小論文の発表
10. 卒業研究Ⅱ小論文の発表
11. 卒業研究Ⅱ小論文の発表
12. 卒業研究Ⅱ小論文の発表
13. 卒業研究Ⅱ小論文の発表
14. 卒業研究Ⅱ小論文の発表
15. 卒業研究Ⅱの総括

教科書

小笠原 喜康 『新版 大学生のためのレポート・論文術（講談社現代新書）』（講談社）

評価方法

- (1) 研究計画:20% (2) プレゼンテーション:30% (3) 論文内容:50%

卒業研究Ⅱ（情報学）

LCPO-L-400

担当者：河島 茂生

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識。
問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識。
市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

授業の内容は、専門演習Ⅰ（情報学）からの一連のゼミナールで培った知識をもとにして、受講生がみずから選んだテーマを調査し、その仕上げを行うことである。受講生は、卒業研究Ⅰ（情報学）に引き続き、実際に調査を行う。また、口頭発表に加えて、文書で研究結果をまとめる。

2. 学びの意義と目標

卒業研究Ⅰ（情報学）に引き続き、卒業研究Ⅱ（情報学）では受講生が独自の情報を掴むことを目指す。また、他者に伝えられる書き言葉を身につけることを目的とする。

受講生に対する要望

欠席は厳禁である。また、本ゼミの履修者には、3年次を終えるまでに科目「情報学」の履修を強く求める。

キーワード

事前学習（予習）

指定された課題をこなし、口頭発表時には配布資料を作成されたい。また授業外の学習を絶えず行いながら、ゼミに関わっていただきたい。

復習についての指示

ディスカッションでなされた内容を踏まえ、みずからの次回の発表・文書を改善しなければならない。

授業計画

1. ガイダンス
2. 調査結果報告（口頭発表中心）
3. 調査結果報告（口頭発表中心）
4. 調査結果報告（口頭発表中心）
5. 調査結果報告（口頭発表中心）
6. 調査結果報告（口頭発表中心）
7. 調査結果報告（口頭発表中心）
8. 調査結果報告（文書をもとにしたディスカッション）
9. 調査結果報告（文書をもとにしたディスカッション）
10. 調査結果報告（文書をもとにしたディスカッション）
11. 調査結果報告（文書をもとにしたディスカッション）
12. 調査結果報告（文書をもとにしたディスカッション）
13. 調査結果報告（文書をもとにしたディスカッション）
14. 調査結果報告（文書をもとにしたディスカッション）
15. 学外施設見学

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 口頭発表: 30% (2) 論文・レポート: 50% (3) ディスカッション: 20%

卒業研究Ⅱ（情報倫理）

LCPO-L-400

担当者：竹井 潔

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識。
問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識。
市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

工業社会から情報社会へと変遷してきた中で、「情報倫理」ということが近年いわれだした。「情報倫理」は今後あらゆる「情報」を扱う上で必要となる。そこで、「情報倫理」がなぜ必要となってきたのか、情報とは何か、現代社会と情報のかかわりの中で、情報の価値を問いかけていきたい。私たちは、次第に情報ネットワーク社会を前提とした情報社会の中で生活をしてきているが、情報社会をとりまく光と闇の部分認識し、情報化によって便益を受けている面と、問題が生じてきた情報社会の課題を検討していきたい

2. 学びの意義と目標

情報社会における諸課題、情報倫理の必要性について理解し、課題を形成していく。

受講生に対する要望

自分の研究テーマについて、積極的に取り組むこと。また、発表演習担当のときに無断欠席は厳禁である。

キーワード

(1) 情報倫理 (2) 情報社会と諸課題

事前学習（予習）

事前に指示する参考図書を読んで用語などを調べておくこと。発表演習には事前に発表資料を作成してくること。演習は必ず出席し、積極的に参画すること。

復習についての指示

演習でできなかった箇所や理解できなかった専門用語は各自調査して十分に理解しておくこと。

授業計画

1. 情報社会と課題形成
2. 個別研究テーマの形成
3. 個別研究テーマの研究計画書作成
4. 個別研究テーマの調査 1
5. 個別研究テーマの発表 1
6. 個別研究テーマの調査 2
7. 個別研究テーマの発表 2
8. 個別研究テーマの調査 3
9. 個別研究テーマの発表 3
10. 個別研究テーマの調査 4
11. 個別研究テーマの発表 4
12. 個別研究テーマの調査 5
13. 個別研究テーマの発表 5
14. 総合発表
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 演習：40%：課題提出、発表演習 (2) 期末レポート：60%

卒業研究Ⅱ（地域社会論）

LCPO-L-400

担当者：大高 研道

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識。
問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識。
市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本卒業研究の共通テーマは、現代的課題克服の主体研究である。グローバル化する現代社会において噴出している労働問題・生活問題の中で、自分なりの関心から選択した「現代的課題」をより深く掘り下げ、その解決主体としての市民・コミュニティ（組織）のあり方と可能性について検討することがその内容となる。具体的には、設定したテーマ（課題）についての多面的な観点からの検討を通して、関連する領域において活動を展開する市民社会組織（NPO、社会的企業、協同組合、ボランティア団体等）調査を実施する。その成果を報告してもらい、最終的には卒業研究レポートとしてまとめてもらう。

2. 学びの意義と目標

卒業研究を通して、地域を基盤に活動を展開する新しい協同の形として注目されるNPOや市民社会組織の可能性について、各自が関心のある領域において一定程度のヴィジョンを提起できるようになることを目指す。その集大成のひとつとして位置づけられるのが、「卒業研究レポート」である。「卒業研究」を通じた学びは、自身の生涯にわたる社会への問題意識・関心の基本的スタンスを醸成するうえでも、重要な意義を有しているであろう。

受講生に対する要望

・「NPO論」と「地域社会論」を履修すること。・時事ニュースを取り上げて解説・議論することがあるので新聞等に目を通しておくこと。

キーワード

(1) 地域社会 (2) NPO (3) 社会的企業 (4) 社会的排除 (5) 現代的協同性

事前学習（予習）

・報告者は、前回報告で指摘された箇所の修正および新たに執筆した箇所の要旨をまとめたレジュメ等を準備し、事前に提出すること。報告を担当しないものも、毎回、簡単な卒レポ進行状況を報告すること。

復習についての指示

・ゼミでの検討会をとおして指摘された修正点等は、その週のうちに加筆・修正すること。次回ゼミの冒頭に、簡単な進行状況の報告をしてもらう。

授業計画

1. 卒業研究レポート執筆にむけて
2. 調査方法論の再確認
3. 調査テーマの検討・確定
4. 個別報告(1)
5. 個別報告(2)
6. 共同調査
7. 個別報告(3)
8. 個別報告(4)
9. 個別報告(5)
10. 共同調査
11. 卒業研究レポート草稿の検討I
12. 卒業研究レポート草稿の検討II
13. 現代社会における「コミュニティの担い手」を考えるI
14. 現代社会における「コミュニティの担い手」を考えるII
15. まとめと反省

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席点:70%:報告内容および討論への参加状況（積極性）を含む。(2) レポート:30%

卒業研究Ⅱ（日本経済論）

LCPO-L-400

担当者：大森 達也

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識。
問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識。
市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

卒業研究Ⅱの目的は、卒業研究Ⅰで進めてきた卒業研究レポート準備をさらに進め、卒業研究レポートを完成することである。

2. 学びの意義と目標

研究レポート作成を通じて、それぞれの問題意識を高めるという意義とともに、「報連相」の重要性を理解することにある。

受講生に対する要望

各自、調査・研究の自己管理を手一定すること。

キーワード

(1) 研究計画 (2) 文献調査 (3) レポート発表

事前学習（予習）

研究レポート作成を目的としているため、個別テーマごとの指導が重要とならざるを得ない。各自、調査・研究の時間を充分にとることが重要となる。

復習についての指示

個別指導に従い、各自、発表後に問題点を整理し、最終の研究レポートに反映すること。

授業計画

1. 研究計画書の変更と発表 (2)
2. 文献リストの変更と発表 (2)
3. 追加文献調査の発表 (3)
4. 追加文献調査の発表 (4)
5. 中間発表 (5)
6. 中間発表 (6)
7. 研究計画書の変更と発表 (3)
8. 文献リストの変更と発表 (3)
9. 追加文献調査の発表 (5)
10. 追加文献調査の発表 (6)
11. 最終研究発表 (1)
12. 最終研究発表 (2)
13. 最終研究発表 (3)
14. まとめ (1)
15. まとめ (2)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 中間発表: 20% (2) 最終発表: 30% (3) 研究レポート: 50%: 10,000字程度

担当者：渡辺 英人

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識。
問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識。
市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

「法」を学ぶことは社会の中で生きるための最も重要な基礎知識である。この授業では大学生として必ず知っていなければいけない「社会のルール」その根本概念について解説し、理解してもらう。2014年度のテーマは「生活の中から見た法と行政」。消費者保護に関する法や行政を学ぶ。新聞やテレビ等のニュース報道で、従来では考えられなかった事件や事故を耳にする。なぜ、このような問題が発生するのか、いっしょに検討してみよう。生活者の視点で社会を確認してみよう。

2. 学びの意義と目標

生活の中から見た法と行政を学ぶ。これは生きるために必要な知識となる。

受講生に対する要望

積極的に参加する学生のみ参加して欲しい。

キーワード

(1)生活の中から見た法と行政 (2)消費者保護法 (3)消費者保護行政

事前学習（予習）

前週までにゼミ資料を配付するので、復習のみならず、資料の読みこみなど予習をすること。

復習についての指示

授業で使用了資料と、授業中に記述したノートに基づいて、清書ノートを作ること。

授業計画

1. 現代社会と法（その種類と仕組み）
2. 法と道徳
3. 法が強制的であるということ
4. 法の機能
5. 「犯罪」とは何か？
6. 現代社会と裁判制度
7. デュー・プロセスについて
8. 消費者を守る法
9. 研究報告
10. 研究報告
11. 研究報告
12. 研究報告
13. 研究報告
14. 研究報告
15. 研究報告

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)授業参加:40% (2)発表:30% (3)課題作成:30%

卒業研究Ⅱ（まちづくり学）

LCPO-L-400

担当者：平 修久

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識。
問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識。
市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

一人ひとりの受講生の興味のあるまちづくり、あるいはまちの問題・課題について各自研究を行う。テーマとしては、(1)都市問題、(2)地域コミュニティの活性化・維持、(3)食によるまちづくり、(4)観光まちづくり、(5)安全なまちづくり、(6)福祉のまちづくり、(7)まちの環境保全・再生・創造、(8)まちのイベントなどを想定している。

2. 学びの意義と目標

自ら課題を設定し、調査し、レポートを作成できるようにすること。

受講生に対する要望

主体的に課題に取り組むとともに、他の受講生の課題や取り組み方法にも関心を持ち、自らの卒業研究レポートづくりに役立ててもらいたい。

キーワード

(1)まちづくり

事前学習（予習）

事前に、配布資料を読んでおくこと。レポートの発表に関しては、その内容をまとめ、準備しておくこと。

復習についての指示

発表の場合はコメントをまとめ、講義の場合はノートをまとめる。

授業計画

1. 公共政策の概要 1
2. まちづくりレポートの発表 1
3. まちづくりレポートの発表 2
4. まちづくりレポートの発表 3
5. 公共政策の概要 2
6. 公共政策の概要 3
7. 公共政策の概要 4
8. 卒業研究レポートの中間発表 1
9. 卒業研究レポートの中間発表 2
10. 卒業研究レポートの中間発表 3
11. 政策評価 1
12. 政策評価 2
13. 卒業研究レポートの最終発表 1
14. 卒業研究レポートの最終発表 2
15. 卒業研究レポートの最終発表 3

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:30% (2)授業への参加度合い:10% (3)発表:20% (4)レポート:40%

担当者：瀬名 浩一

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

知の基礎力：組織人としてのマナーおよび経営の基礎知識

カリキュラム上の位置付け

コミュニティコース：基幹科目

講義概要

1. 内容

＜内容＞ 国内では東日本大震災後の被災地域復興、国外では環太平洋パートナーシップ協定（ＴＰＰ）への関わりが注目される。日本で生産年齢人口が半減に向かう時代、巨大複合災害に有効な地域政策手段はどのようなものか。立ち上がるための地域経済協力の先例、ヨーロッパ連合（ＥＵ）では１９９０年代、すでに局所から超国家に渡る様々のレベルで地域問題に取り組む姿勢の転換が起こったが、現在は政府債務問題で、存続の危機にさえさらされている。 初めに日本の首都圏と地方圏の間の地域格差、第２に、中国、インドなどアジア新興国の消費市場の取り込み、第３に「英国病」を克服し国際競争力を取り戻した英国と日本における地域の雇用、所得、成長率、失業率、格差は正策を比較、日本経済の復興政策を探る。最後にEUで起こっている地域連合、権限委譲を参考にＴＰＰの可能性と限界を探る。

2. 学びの意義と目標

地域社会の経済統計数字の見方、グラフの読み方を学び、地域格差が生まれる理由を経済理論を使って考え、最後に経済格差を長引かせないための地域政策の歴史、手段、効果などについて理解できるようにする。

受講生に対する要望

経済学を受講済み、または現代の経済、地域の経済について関心のある者の受講を望む。

キーワード

(1)地域格差 (2)アジア新興国市場 (3)地域的特化 (4)地域活性化政策 (5)コミュニティ経済開発

事前学習（予習）

講義の終わりに次回のテーマを指示するので、授業前１時間の予習をして授業に臨むこと。

復習についての指示

授業3回に1回授業内試験を行うので、授業後1時間の復習を毎回欠かさぬこと

授業計画

1. 生産年齢人口減少時代に遭遇した東日本大震災
2. 東日本大震災は日本の各種制度疲労を断ち切るきっかけとなるか
3. 大都市でも地方でも所得と消費が、同時に沈んでいる
4. 最近１８年間で中小企業数が、日本では１００万社減少、英国では１３０万社増加
5. 日本の金融業は不況業種といわれるが、社会金融分野で活況である
6. 平成の大合併を避けた首都圏の市町村の財政力指数は今後低下せざるを得ない
7. 就業者の加齢・減少が日本の景気を失速させる
8. 成長する中国・インドの消費市場に向けた日本の企業戦略
9. 新興国小売市場の成長と中国における日系小売企業
10. アジア新興国のサービス需要拡大への戦略
11. ジャパンブランドで戦う
12. 地域経済と一国経済の違いは、地域間交易と地域間所得移転を行う政府の役割
13. 地域の生産と雇用を決定する要因は？
14. なぜ、一人当たりの地域所得に差があるのか？
15. 地域的特化と地域間交易を決定する要因は？
16. 経済的要因は地域間人口移動をどの程度説明できるか？
17. 地域失業格差はなぜ持続するのか？
18. 相対的貧困率の国際比較
19. 日本の地域政策の歴史
20. 広域地方計画
21. 地方分権・地域主権
22. 地域産業基盤整備
23. 地域活性化
24. 東日本大震災関連
25. 英国の地域政策の歴史
26. 英国の1980年代の地域政策
27. 英国のコミュニティ経済開発
28. 地域固有の発展
29. 地域政策の評価
30. 試験とその解説

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)授業理解度:40%:授業3回に1回の割合で授業内テストを合計10回行う (2)期末テスト:30% (3)出席:30%

地域圏研究(アジア)

POSC-L-200

担当者：江藤 名保子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

知の基礎力：政治や社会のしくみの理解

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：地理歴史選択科目、
中学校教諭一種免許：社会選択科目

講義概要

1. 内容

本授業では、日中関係や国際関係に言及しながら、中華人民共和国建国（1949年）以降の現代中国の歩みを考察する。多くの日本人の対中認識は、三国志や伝統文化・世界遺産などに代表される古典的中国のイメージ、あるいは目覚ましい経済発展を遂げている地域大国としての中国である。しかし、現在の中国の政治・社会状況は、社会主義国家として建国した時からの制度的連続性を持ち、日本とは著しく異なる政治システムや考え方に基いている。こうした中国の現状を理解するためには、これまでの政治過程を具体的に理解する必要がある。中国との国際協力も国際ビジネスも、対象となる地域・人を理解することから始まる。そのためには中国政治や歴史に対する基礎知識を備えねばならない。この授業ではその知識の一部を蓄えてもらいたい。

2. 学びの意義と目標

第1に、講義への参加をきっかけに中国への関心を高め、正しい知識を獲得し、対中理解を深めることを目標とする。第2に、中国の政治・外交を事例として社会現象を理解するための情報分析、評価の訓練を行う。特に東アジア地域においては、領土問題など現実には「解答のない問題」が存在する。こうした事例を扱いながら、異なる主張・論点を考察し、そのなかから自分なりの結論を得るための論理的思考を育成する。

受講生に対する要望

中国の政治・歴史に関心がある者の受講を望む。

キーワード

(1)現代中国史 (2)中国政治・外交

事前学習（予習）

授業計画を参照し、トピックに関連する情報を集めること。事前に参考資料が指定された場合は読んでおくこと。

復習についての指示

配布プリントを再読し、各項目を説明できるようにしておくこと。

授業計画

1. イントロダクション：授業説明と中国時事問題
2. 政治構造（1）：社会主義と市場経済
3. 政治構造（2）：党、国家、社会
4. 政治構造（3）：中国は民主化するか
5. 歴史（1）：「抗日戦争」
6. 歴史（2）：社会主義の選択
7. 歴史（3）：社会主義改造
8. 歴史（4）：反右派闘争と大躍進
9. 歴史（5）：文化大革命①
10. 歴史（6）：文化大革命②
11. 歴史（7）：改革開放とは
12. 歴史（8）：天安門事件
13. 歴史（9）：江沢民・朱鎔基体制
14. 歴史（10）：胡錦濤・温家宝体制
15. 社会（1）：経済格差と社会保障
16. 社会（2）：社会の諸問題
17. 社会（3）：政治思想・文化
18. 社会（4）：ナショナリズム
19. 外交（1）：内政と外交の連動性
20. 外交（2）：台湾問題
21. 外交（3）：冷戦下の外交戦略
22. 外交（4）：ポスト冷戦における外交戦略
23. 外交（5）：日中歴史問題
24. 外交（6）：領土問題
25. 国際関係（1）：中国とアメリカ
26. 国際関係（2）：中国と東アジア
27. 国際関係（3）：中国と東南アジア
28. 国際関係（4）：中国と中央アジア
29. 国際関係（5）：中国の国際的地位
30. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)平常点:30%:出席を加味する。(2)小テスト:20%:授業内に行う。(3)試験:50%

地域圏研究(ロシア・東欧)

POSC-L-200

担当者：飯島 康夫

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

知の基礎力：政治や社会のしくみの理解

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：地理歴史選択科目、
中学校教諭一種免許：社会選択科目

講義概要

1. 内容

20世紀初めの反スラヴ主義的動向や20世紀後半の東西冷戦を思い起こせば明かなように、つい最近まで「ロシア」は、ヨーロッパ各国にとっての、ひいては世界にとっての選択肢の一つであった。親ロシアか否かという問いは、20世紀には大変な重みを持っていたのである。ソ連崩壊以後、しばらくの間ロシアの存在感は希薄になっていたが、昨今では再び大国として力を誇示し始めている。21世紀においても、ロシアを知っていることが無駄になることはまずないであろう。日露交流の歴史を、遡って、詳しく見ていく。

2. 学びの意義と目標

まずは、隣国である大国の歴史の概略を知ることが重要である。また、その意義は、ロシアに関する基本的な知識を獲得してもらうことにある。取り上げられる分野は、歴史、宗教、政治、思想、文学、芸術など、広範囲にわたる。目標は昔のロシアから現代のロシアに至るまでの概略をつかんでもらう事である。

受講生に対する要望

授業に積極的に出席し、楽しんでもらうことである。

キーワード

(1) モンゴルのくびき (2) 上からの近代化

事前学習(予習)

試験では授業で触れたことの中から出題するため、積極的な聴講が必要である。基本文献を指示するので通読すること。

復習についての指示

基本文献を部分ごとに読み、噛み砕き、自らの言葉で理解し表現すること。

授業計画

- 1) 歴史：ロシア史の概略
- 2) 宗教：ロシア正教を紹介する(6回)。
- 3) 思想：西欧主義とスラヴ派との確執等について解説する(6)
- 4) 文学：ドストエフスキー、トルストイ、チャーホフなど
- 5) その他：時事問題、現代文化、言語などについて。
6. ロシアの地理的拡大
7. ロシアの起源
8. キエフ、ノヴゴロド
9. モンゴルのくびき
10. モスクワ公国
11. ピョートルとペテルブルク帝国
12. エカチェリーナ二世と啓蒙
13. アレクサンドル一世と専制
14. ニコライ一世の専制体制と農奴
15. クリミア戦争とアレクサンドル二世
16. 敗戦と改革
17. 十九世紀末のロシア・ルネサンス
18. アレクサンドル三世と反改革志向
19. ニコライ二世
20. 日露戦争と第一次ロシア革命
21. 第一次大戦とロシア革命
22. 帝政ロシアの地政学
23. レーニンからスターリン
24. 第二次大戦とスターリン体制
25. 冷戦とフルシチョフ
26. ブレジネフから
27. ゴルバチョフ
28. 旧ソ連の崩壊と市場経済移行、エリツィン政権
29. プーチンの新生ロシアの浮上
30. メドベージェフ、プーチンと北方領土

教科書

横手慎二 『日露戦争史』(中央公論社) 三浦 清美 『ロシアの源流—中心なき森と草原から第三のローマへ(講談社選書メチエ)』(講談社)

評価方法

(1) 出席:50% (2) レポート・テスト:30% (3) 発表:20%

地域社会と生協

SOCI-L-300

担当者：大高 研道

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

市民力：地域社会およびコミュニティ活動に関わる基礎知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

今日、世界的な金融・財政危機、環境問題、少子高齢化、不安定雇用、地域紛争など、私たちの経済・社会生活はその根幹をゆるがすさまざまな課題に直面している。また、日本を襲った未曾有の大災害、東日本大震災からの復興プロセスは、日本の経済・社会のあり方そのものの見直しをわれわれに迫っているが、震災から3年が経過した今なお、福島放射能問題をはじめ、復興にむけたシナリオは不透明なままである。いまこそ、地域における協同と連帯によってこれらの問題を解決することが求められている。1844年、英国において誕生した非営利の協同組織・事業体である消費生活協同組合（以下、生協）の取り組みは、その後、日本を含む世界中の国々に広がっていった。日本は、とりわけ生協運動が発展した国であり、今日では、組合員数が2,600万人を超え、世帯加入率は約5割にまで達している。本講義では、今日の社会で協同組合、そして生協がどのような位置にあり、私たちの暮らしと社会生活の向上にどのような役割を果たしているのか、その現実と可能性について、地域社会に基盤をいた協同組織・事業といった観点から学ぶ。本講義は、「生活協同組合コープみらい」による寄附講義である。講義は、ゲストスピーカーによる講義および実践紹介を中心に構成され、現場実習、グループワーク等も実施する予定である。

2. 学びの意義と目標

本講義における学びの意義は、地域生活者としての視点から、自らの暮らしを見つめなおす機会を提供する点にある。商業的世界が日常の生活の隅々を支配している今日、私たちは「消費者」として他者と接する場面が多い。身近な地域の暮らしの現実の中で生成するさまざまな問題（現代的課題）に対応している協同組合（生協）は、商品を媒介としながらも、単なる「消費者」を超えた「生活者」としての視点に立った事業・運動に取り組んでいる。おもに日常的な購買事業・福祉事業の現場経験にもとづく講義は、自ら考え行動するなかで生まれた実践知を学ぶ貴重な機会になるとともに、グループワークおよび2回実施される現場体験を通して、その実践知を共有・体験することもできる。本講義では、地域社会における生協の位置と役割について理解することを第一義的な目的とするが、その学びの先には、「開かれた関係性」のなかに生きる私たち現代人の歩むべき方向性について、一定程度のビジョンを提示できるようにすることをめざしている。

受講生に対する要望

現場実習（店舗体験）および学外活動を各1回、土曜日に実施する。

キーワード

(1) 生協 (2) 地域社会 (3) 食の安全性 (4) 地域福祉 (5) 協同・連帯

事前学習（予習）

毎回の講義の最後に、次回講義のテーマおよびキーワードについて触れるので、最低限の言葉の意味と背景について調べておくこと。

復習についての指示

毎回の講義の最後に①「今回の講義で学んだこと」、②「疑問点/さらに学びたいと思ったこと」の2点を整理してもらおう。各自、そこで生まれた問題意識を大切に、講義資料等をもとに具体的な用語・取り組みについて調べてみる。これらについては、講義の最終回に質疑応答および意見交換の時間を設ける予定である。

授業計画

1. ガイダンス
2. 世界と日本の協同組合
3. 埼玉における生協と地域社会
4. コープみらいの地域福祉とボランティア活動事例報告
5. 購買事業の現場での実践事例報告
6. ボランティア体験
7. 購買事業インターンシップ体験
8. 宅配事業の現場での実践事例報告
9. 農業・水産業・畜産業の現状と生協の今日的課題
10. 商品を通じた社会貢献（環境の取り組み）
11. ユニセフ活動とは何か—ユニセフの取り組みと生協の課題—
12. 食の安全の最前線（品質管理の現場）
13. コープ商品開発の最前線
14. コープみらいの組合員活動の到達点と課題
15. まとめ—地域社会と生協—

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席点：45% (2) 実習レポート：30% (3) 期末レポート：25%

出席カードには①今回の講義で学んだこと、②疑問点/さらに学びたいことを記入してもらい、その内容は出席評価に加味する。

担当者：藤井 重隆

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識

カリキュラム上の位置付け

コミュニティコース：応用科目、
ビジネスコース：基幹科目

講義概要

1. 内容

地域にはどんなビジネスがあるのだろうか。人が成長して社会に貢献するように、企業も成長して地域社会に、日本に、さらには世界に貢献していくものである。この講座では本学の近くで様々なビジネスを展開している企業を主に、その企業で働くビジネスパーソン6人から「事業内容」「沿革」「理念」などを聴き、聴いた内容をグループで討議・マトメ・発表してもらい理解を定着させる。講演者としては販売店関係、流通、メーカー、イベント、メディア関係企業など6社を予定している。

2. 学びの意義と目標

少子高齢化、グローバルエコノミーの進行、地球温暖化やシェール革命、さまざまな要因で地域ビジネスは変わっていく。これからはICT＝情報通信技術の進化によって市場や商品やサービスも変化し地域は姿を変えていく。就職と言う視点を織り込みながら、人・モノ・金の動きの変化によって盛衰を繰り返す地域ビジネスの現場を考えていく。

受講生に対する要望

2020年の東京オリンピックなど国際的なビッグイベントに向けて首都圏は大きく姿を変えていく。人・モノ・金がダイナミックに動き出し、身の回りにあるビジネスにも変化が起きる。10年、20年と言う時の流れと共に地域ビジネスがどの様に変化してきたか、そしてこれからどのように変化しそうかを考えてもらいたい。

キーワード

(1)コミュニティ・ビジネス (2)少子高齢化 (3)女性労働力 (4)オリンピック (5)スマートシティー

事前学習（予習）

ビジネスパーソンの講演を聴いたら翌週の講義までに講演のポイントを整理して発表できるようにしておくこと。

復習についての指示

ビジネスパーソンの講演を聞いたり、グループディスカッションを行った後は要点をメモするようにすること。

授業計画

1. プログラム紹介
2. ビジネスパーソンの講演①
3. 講演①の内容についてグループで討議し、発表する
4. ビジネスパーソンの講演②
5. 講演②の内容についてグループで討議し、発表する
6. ビジネスパーソンの講演③
7. 講演③の内容についてグループで討議し、発表する
8. ビジネスパーソンの講演④
9. 講演④の内容についてグループで討議し、発表する
10. ビジネスパーソンの講演⑤
11. 講演⑤の内容についてグループで討議し、発表する
12. ビジネスパーソンの講演⑥
13. 講演⑥の内容についてグループで討議し、発表する
14. 全体的なまとめ
15. 提出したレポートへのコメントと講師からのフィードバック

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席点:50% (2)受講態度:30% (3)レポート点:20%

担当者：秋山 秀一

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

知の基礎力：政治や社会のしくみの理解

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目

講義概要

1. 内容

世界の各地ではいろいろな人々がそれぞれに、その土地に根ざした暮らしをしています。この授業では世界の各地、とくにアジア諸国と太平洋の島々における人々の暮らしの様子、自然、風土等を、具体的に取り上げながら、地域の今を学んでいきます。

2. 学びの意義と目標

卒業後どのような仕事に就こうと、国際理解を高めることは意義があり、大切なことです。実際に海外でのフィールドワークを通して得た映像、資料、それに、書籍、雑誌、テレビ・ラジオ等のメディアとのかかわりの中から、具体的な話をしていきます。これにより、より理解度を高めることに大きく寄与します。

受講生に対する要望

地図帳を用意し、よく見るように。日頃から、知らない地名が出てきたら、地図帳でその場所を確認するようにしてください。

キーワード

(1)地域研究 (2)地図 (3)アジア (4)フィールドワーク (5)観光写真

事前学習（予習）

授業内容に関する復習の小レポート、テキストの次の授業に關する項目を予習し、関連する情報を集めておくこと。

復習についての指示

配布プリント、テキストの中で授業中に解説したところを再読し、各トピックについて次回までに説明できるようにすること。

授業計画

1. 導入
2. 現代社会と交通
3. 地図を読む
4. アジアの中の日本
5. 韓国
6. ベトナム
7. ミャンマー
8. マレーシア
9. 香港・マカオ
10. 中国・台湾
11. タイ
12. ラオス、カンボジア
13. フィジーと太平洋の島々
14. オーストラリア、ニュージーランド
15. まとめ

教科書

秋山 秀一 『フィールドワークのススめーアジア観光・文化の旅』（学文社）

評価方法

(1)日頃の授業への貢献度:30% (2)出席状況:30% (3)小レポート、それにまとめとしてのレポート:40%

担当者：秋山 秀一

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

知の基礎力：政治や社会のしくみの理解

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目、
中学校教諭一種免許：社会選択科目

講義概要

1. 内容

世界の各地ではいろいろな人々がそれぞれに、その土地に根ざした暮らしをしています。この授業では世界の各地、とくにヨーロッパ諸国並びにアメリカ、そして、日本の各地、における人々の暮らしの様子、自然、風土等を、具体的に取り上げながら、地域の今を学び、街歩きの楽しさも修得していきます。

2. 学びの意義と目標

卒業後どのような仕事に就こうと、国際理解を高めることは意義があり、大切なことです。実際に海外でのフィールドワークを通して得た映像、資料、それに、書籍、雑誌、テレビ・ラジオ等のメディアとのかかわりの中から、具体的な話をしていきます。これにより、より理解度を高めることに大きく寄与します。

受講生に対する要望

地図帳を用意し、よく見るように。日頃から、知らない地名が出てきたら、地図帳でその場所を確認するようにしてください。

キーワード

(1)ヨーロッパ (2)アメリカ (3)日本 (4)街歩き (5)フィールドワーク

事前学習（予習）

授業内容に関する復習の小レポート、テキストの次の授業に關する項目を予習し、関連する情報を集めておくこと。

復習についての指示

配布プリント、テキストの中で授業中に解説したところを再読し、各トピックについて次回までに説明できるようにすること。

授業計画

1. 導入
2. メンタルマップ
3. 東京はアフリカだ
4. 国際化の中の日本
5. 日本①
6. 日本②
7. 日本③
8. アメリカ①
9. アメリカ②
10. ヨーロッパ
11. イギリス
12. ロンドン
13. フランス
14. イタリア
15. まとめ

教科書

秋山秀一 『おとなの街歩き』（新典社）

評価方法

(1)日頃の授業への貢献度:30% (2)出席状況:30% (3)小レポート、それにまとめとしてのレポート:40%

担当者：平 修久

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：地理歴史選択科目、
中学校教諭一種免許：社会選択科目

講義概要

1. 内容

地誌学は、ある特定した地域内における地理的事象を自然・人文両方の見地から研究する学問である。本講義では、都市の形成過程、見方、発展・衰退要因という概論を踏まえた後、東京について、空間的な発展・変遷の歴史の観点から学ぶ。平安時代から江戸時代と、明治時代以降に分け、前者について時代の流れを踏まえて学び、後者については分野別に学ぶ。

2. 学びの意義と目標

地理学の重要な対象の一つである都市について、発展と変遷という歴史的事象とその背景などの理解を深めることが、本講義の学びの目的である。

受講生に対する要望

日本史の概略を復習しておくこと

キーワード

(1)都市 (2)江戸 (3)東京 (4)歴史 (5)発展

事前学習（予習）

事前に、配布物をよく読み、専門用語については調べておくこと。

復習についての指示

授業ノートをまとめるとともに、配布物を読み直すこと。

授業計画

1. 都市とは何か
2. 都市の形成過程
3. 都市の見方（人口の意味）
4. 都市の発展・衰退要因
5. 東京の地理
6. 東京の発展史（平安時代から江戸時代1）
7. 東京の発展史（平安時代から江戸時代2）
8. 東京の発展史（平安時代から江戸時代3）
9. 東京の明治時代以降の発展（都市整備1）
10. 東京の明治時代以降の発展（都市整備2）
11. 東京の明治時代以降の発展（都市整備3）
12. 東京の明治時代以降の発展（交通）
13. 東京の明治時代以降の発展（行政制度）
14. 東京の明治時代以降の発展（生活文化）
15. 東京の明治時代以降の発展（産業）

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席点:20% (2)課題・小テスト:30% (3)期末テスト:50%

担当者：大高 研道

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

獲得した専門的知見を用いて現代社会の多様な問題を分析・調査する力を得る

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：地理歴史選択科目、
中学校教諭一種免許：社会選択科目

講義概要

1. 内容

1 内容 本講義では、アイルランド・イギリスを取り上げて、その歴史・社会・文化・自然について学ぶ。世界をリードしてきたイギリスの歴史や風土について学ぶことは、それ自体として興味のあるテーマではあるが、本講義ではアイルランドの視点に立った「アイルランド・イギリス研究」に取り組みたい。とくに、「北アイルランド紛争はなぜおきたのか？」という主題への究明を通して、両国間の歴史や文化への影響についてともに考えたい。

2. 学びの意義と目標

一般的な歴史や地理について学ぶだけでなく、まずはその地域に住む人々の暮らしや文化に親しみ身近な存在として感じること、そして異文化交流の可能性を主体的に考えることが主目的となる。また、教職科目であるため、自発的に関心のある国・地域について調べ、伝える（教える）能力の向上も重要な学びの目的である。

受講生に対する要望

・多様な文化・実践・経験からの学びの一環として、可能な限りAH講演会企画等にも積極的に参加することが望ましい。関連企画については講義の中で随時紹介する。

キーワード

(1)アイルランド (2)イギリス (3)北アイルランド問題 (4)和解
(5)地域づくり

事前学習（予習）

・時事ニュースを取り上げて解説・議論することがあるので新聞等に目を通しておくこと。・毎回の講義の最後に、次回講義のテーマおよびキーワードについて触れるので、最低限の言葉の意味と背景について調べておくこと。

復習についての指示

・毎回の講義終了後、①「学んだこと」、②「疑問に思ったこと/さらに学びたいこと」の2点を整理しておくこと。これらについては、次回講義の冒頭に、前回講義の復習・解説という形で質疑応答・意見交換の時間を設ける。

授業計画

1. アイルランド・イギリス研究の射程
2. アイルランド・イギリスの地理・自然・文化
3. アイルランドからみたイギリス
4. アイルランドとジャガイモ
5. プロテスタント支配とカトリック弾圧
6. カトリックナショナリズムの台頭とアイルランド独立運動
7. プレゼンテーション (1)
8. プレゼンテーション (2)
9. アイルランド独立運動と南北分断
10. 血の日曜日事件Bloody Sunday (1)
11. 血の日曜日事件Bloody Sunday (2)
12. 北アイルランド紛争
13. 和解と地域づくり
14. 平和合意へ—国際社会における北アイルランドの位置と未来—
15. まとめ—和解にむけて—

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)レポート:70% (2)プレゼンテーション:30%

・毎回の出席が前提となる。それゆえ、出席したからといって成績に出席点が加算されることはない。ただし、欠席は減点の対象となる。・教職課程科目であることをも念頭におき、発表の技法向上のためのプレゼンテーションを実施する。

担当者：谷 達彦

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

行政コース：基幹科目

講義概要

1. 内容

社会福祉、道路、教育、上下水道、ゴミ収集など、住民の生活を支える身近な公的サービスは地方自治体によって提供されている。地方財政は日々の暮らしに密接に関わっているが、財源不足や財政力の地域間格差など多くの問題に直面していることも事実である。また、近年、集権的な財政システムを分権的な財政システムへと転換するために地方分権改革が政策課題となっている。

本講義では、地方財政における基礎的な理論と制度について学習する。具体的には、国と地方自治体の財政関係、地方自治体の予算、地方歳出、地方収入（地方税、地方交付税、国庫補助負担金、地方債）、地方財政健全化、地方自治体の財政分析などについて学ぶ。日本の地方財政の現状と課題を理解し、自治を支える地方財政のあり方について考えていく。

2. 学びの意義と目標

本講義では、地方財政の基礎的な理論や制度について知り、日本の地方財政が直面している課題や今後のあり方について自分なりに考えられるようになることを目標としている。地方財政のあり方は住民の暮らしに深く関わっている。誰もが地域社会を支える住民の1人であり、地方自治体の行財政に住民参加が求められている今日において、地方財政の制度やその基礎にある考え方について学ぶことは重要である。

受講生に対する要望

特になし

キーワード

(1) 地方財政 (2) 財政学 (3) 地方分権 (4) 地方自治

事前学習（予習）

新聞等を読み日頃から地方財政に関心を持つこと

復習についての指示

配布プリントの重要項目について説明できるようにすること

授業計画

1. ガイダンス
2. 地方財政の役割
3. 国と地方の財政関係 (1)
4. 国と地方の財政関係 (2)
5. 地方分権改革 (1)
6. 地方分権改革 (2)
7. 地方自治体の予算 (1)
8. 地方自治体の予算 (2)
9. 地方経費の構造 (1)
10. 地方経費の構造 (2)
11. 少子高齢化と地方財政 (1)
12. 少子高齢化と地方財政 (2)
13. 少子高齢化と地方財政 (3)
14. 公共投資と地域経済
15. 地方収入の構造
16. 地方税の体系
17. 主要な地方税 (1)
18. 主要な地方税 (2)
19. 課税自主権
20. 地方交付税
21. 国庫支出金
22. 地方債
23. 地方財政の健全化
24. 自治体財政の分析
25. 地方公営企業と第3セクター
26. 大都市財政
27. 過疎地域の財政
28. 市町村合併と地方財政
29. 地方財政の国際比較
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 出席及びコメントペーパーの内容:40%:コメントペーパーは教員の指示したテーマについて毎回記入する (2) 小テスト・試験:60%

担当者：鈴木 潔

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

市民力：地域社会を支えるために必要な知識

カリキュラム上の位置付け

行政コース：基幹科目

講義概要

1. 内容

この講義では、これまでの地方自治研究の蓄積を利用し、日本の地方自治について（１）制度、（２）機構、（３）政策、（４）管理、（５）住民という視点から説明する。また、フィールドワークとして、受講者が住んでいる市区町村の議会を傍聴し、議論の内容を報告することを行う。この講義は、政治学、行政学、公共政策論などの政治学関係科目のほか、憲法および行政法などの法律学系科目を学習するうえで重要なポイントとなる地方自治に関する知識を提供している。

2. 学びの意義と目標

自治体は私たちの日常生活から縁遠い存在であると思われがちだが、自治体の提供する行政サービスの良し悪しは人々の暮らしを大きく左右している。この講義は、受講者が地域における様々な問題や地方自治の仕組みを考察できるようになることを目標とする。

受講生に対する要望

この講義ではアクティブラーニングを重視する。毎回の講義で実施する小テスト、学期中に複数回実施するレポート報告とディスカッションを通じて、自ら考えをまとめて適切に表現する能力を養う。積極的な態度で授業に臨むこと。

キーワード

(1)住民自治と団体自治 (2)地方自治制度 (3)自治体運営 (4)自治体政策

事前学習（予習）

受講者は、政治・行政に関するテーマについて、書籍、新聞、ニュースなどを利用して情報を収集し、自分が問題意識をもつテーマについて説明できるようにしておくこと。

復習についての指示

毎回の講義で実施する小テストの内容を十分に確認しておくこと。

授業計画

1. ガイダンス
2. 地方自治制度の歴史
3. 地方分権改革
4. 大都市制度・都区制度
5. 市町村合併・広域連携
6. 自治体の政治機構
7. 自治体の行政機構
8. 自治体の国際比較
9. 政策体系と総合計画
10. 行政改革と行政評価
11. 立法法務
12. 執行法務
13. 訴訟法務
14. 都市計画
15. 環境政策
16. 廃棄物行政
17. 産業・地域振興
18. 福祉政策
19. レポートの報告とディスカッション（１）
20. 組織管理
21. 地方財政
22. 財務管理
23. 地方公務員制度
24. 人事管理
25. 行政統制とコンプライアンス
26. 住民と自治体
27. コミュニティの自治
28. 自治基本条例
29. レポート報告とディスカッション（２）
30. 学期末試験

教科書

鈴木 潔 『行政上の義務履行確保と訴訟法務「強制する法務・争う法務」』（第一法規株式会社）

評価方法

(1)平常点:50%:授業貢献度、小テスト、出席状況 (2)期末試験:30% (3)レポート:20%

担当者：酒井 俊行

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

知の基礎力：組織人としてのマナーおよび経営の基礎知識

カリキュラム上の位置付け

ビジネスコース：基幹科目

講義概要

1. 内容

わが国では企業数の99.7%が中小企業であり、そうした中小規模の事業所に勤める従業員は全体の76.2%にも及んでいます。これらの比率に見られるように、学生の皆さんは卒業後中小企業に勤務することが多く、また大企業に勤めたとしても色々な局面で中小企業と関係を持たざるをえないということです。したがって想像以上に皆さんにとって、中小企業は身近な存在であるわけです。ところがこのように身近な存在でありながら、中小企業についてどれくらい知っているのでしょうか。この授業では、主に統計面から中小企業を見て行こうと考えています。統計を見ると色々なことが見えて来ます。しかしその前に統計学の基礎、統計の読み解き方、各統計のクセなどを知っていなければ、本当の理解にはつながりません。統計の読み方・見方を身に付けると、社会に出て鬼に金棒です。この授業の受講者は副産物として、統計に関する実用的な知識が得られるよう工夫を図っています。加えて、2014年版の中小企業白書も覗いてみます。中小企業白書に限らず、様々な白書は沢山の情報を提供してくれます。ここでは白書の活用の仕方でも学んでみましょう。そして最後に統計的な事実を確認したうえで、中小企業について理論的な検討もしてみることにします。授業計画だけ見てしまうと、何かとても大変な気がするかもしれませんが、基本的なスタンスとして分かり易さを心がけるつもりですので、安心して受講して下さい。

2. 学びの意義と目標

上述したように、わが国における企業数の99.7%は中小企業です。このように企業の数だけ見ても、中小企業は身近な存在であるはずなのに、意外に“中小企業WHAT?”というのが実態だと思われまふ。この授業を受ける第一の意義は、そうした“WHAT?”をなくすることです。中小企業の在り様を正確に理解し、そのわが国における地位・貢献度を理解してもらうことによって、少しでも“WHAT?”をなくすることが私の期待するところです。第二に、わが国従業員の76.2%が中小事業所に勤めているということです。ということは、皆さんもそうした中小企業に勤めるチャンスが大きいということです。就活に際して業界研究は必須ですが、業界研究に止まらない中小企業研究も極めて大事になるわけです。以上ここまでは2つに限定してこの講義の意義を挙げましたが、この講義はわが国経済の真実を明らかにするために重要ということが出来ます。

受講生に対する要望

授業は100%出席しないと意味がありません。教員は皆さんが全て出席することを前提に授業計画を考えています。また皆さんも高い授業料を払っているわけですから、授業をさぼることが如何に損であるかを考えてみて下さい。そのように考えることの出来る諸君を歓迎します。

キーワード

(1)就職先としての中小企業 (2)中小企業の地位 (3)中小企業の意義

事前学習（予習）

特に必要ありません。ただ経済学、統計学、財務等の基本的な知識は必要です。もしそうした基礎が足りなくても心配しないで下さい。その都度一緒に勉強してゆきましょう。

復習についての指示

毎回30分～1時間程度の復習により、知識ベースを確実なものにするようにして下さい。理解度を確認するために抜き打ちで確認テストをすることも考えています。これは皆さんのためです。

授業計画

- オリエンテーション
- 中小企業論をなぜ学ぶのか
- 中小企業の定義を知ろう
- 中小企業を理解するための統計の重要性(1)
- 中小企業を理解するための統計の重要性(2)
- 統計から中小企業を理解しよう(1)：マクロ経済の見方
- 統計から中小企業を理解しよう(2)：企業数・従業員数の地位
- 統計から中小企業を理解しよう(3)：経済活動に占める地位
- 統計から中小企業を理解しよう(4)：大企業との格差
- 統計から中小企業を理解しよう(5)：中小企業の組織化
- 統計から中小企業を理解しよう(6)：景況、生産・出荷・在庫
- 統計から中小企業を理解しよう(7)：設備投資
- 統計から中小企業を理解しよう(8)：輸出入
- 統計から中小企業を理解しよう(9)：物価、雇用・賃金
- 統計から中小企業を理解しよう(10)：企業収益・財務
- 統計から中小企業を理解しよう(11)：資金繰り・倒産、金融
- 統計から中小企業を理解しよう(12)：海外進出
- 統計から中小企業を理解しよう(13)：地域別動向
- 中小企業白書をどう活用するか？
- 中小企業（2014年版）のトピックス(1)
- 中小企業（2014年版）のトピックス(2)
- 中小企業問題の歴史性：中小企業と大企業及び下請問題
- 中小企業と地域経済
- ベンチャービジネス
- グローバル経済下の中小企業
- 中小企業の社会的責任
- 中小企業の金融問題(1)
- 中小企業の金融問題(2)
- 中小企業政策の方向性と新しい中小企業
- まとめ

教科書

商工総合研究所 『図説日本の中小企業2014』（一般財団法人商工総合研究所）

評価方法

- 試験とレポート：60%：2～3回のレポート提出と期末試験で評価
- 授業への貢献：40%：出席状況等授業への貢献度を評価

担当者：大賀 祐樹

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

知の基礎力：政治や社会のしくみの理解

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：公民選択必修科目、
中学校教諭一種免許：社会選択必修科目

講義概要

1. 内容

本講義では、狭い意味での哲学の範囲を超えて、隣接する政治哲学、倫理学、法哲学等に関連するテーマも含めて広く論じる。特に、よく知っているつもりでもじっくりと考えてみると難しいような、自由とはどのようなことなのかということや、多様な価値観を持つ人々の間で一つの正義を実現することはできるのかというテーマなどを中心に据える。毎回PowerPointのスライドを使用し、プリントを配布する予定。

2. 学びの意義と目標

哲学において大切なことは、答えを出すことよりも、問いを立てることである。様々な哲学者がどのような問いを立て、その答えを求めて試行錯誤したのか。その道筋を追うことによって、日常生活においても浮上する様々な問題に対して、自分なりの問いを立て、答えを出す力を養うことを目標とする。

受講生に対する要望

予習・復習に関しては準備学習の項目を参照。

キーワード

(1)正義 (2)自由 (3)現代思想

事前学習（予習）

前の回で紹介した考え方を受けて次の回で批判・展開することが多いので、復習をきっちりとしておくことが同時に予習にもなる。また、次回に扱う思想家の大まかな情報や時代背景などを自主的に調べておくと、より理解をしやすい。

復習についての指示

毎回プリントを配布する予定なので、興味を持った話題があればその点を掘り下げて、自分なりの問題意識やそれに対する答えを考えておく。

授業計画

1. 様々な現代思想
2. 愛と真理について（プラトン）
3. 正義ということばの意味（プラトン、アリストテレス）
4. 社会契約論（ホッブズ、ロック）
5. 人間の自由と道徳（カント）
6. 個人の自由の範囲（ミル、バーリン）
7. 功利主義（ベンサム、ミル）
8. 公正としての正義（ロールズ）
9. リバタリアニズム（ノージック）
10. コミュニタリアニズム（サンデル、テイラー）
11. ポストモダンと社会（フーコー、デリダ）
12. 自由な社会の根拠（ロールズ）
13. プラグマティズム（ローティ）
14. 権利について
15. まとめ

教科書

プリントを配布する
参考書『リチャード・ローティ 1931-2007 リベラル・アイロニストの思想』大賀祐樹、藤原書店『集中講義！アメリカ現代思想』仲正昌樹、NHKブックスその他、毎回の授業内で参考文献を随時紹介する。

評価方法

(1)試験:60%:期末に実施 (2)レポート:30%:中間に実施 (3)出席:10%:最低限以上の出席回数が必要

東洋史概説 A

TEAT-L-200

担当者：赤坂 恒明

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

知の基礎力：政治や社会のしくみの理解

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目

講義概要

1. 内容

近代以前のアジア各地域の歴史を取り上げる。特に東アジアについては、国際秩序としての「冊封体制」について具体的に詳論する。また、東洋史をも含む歴史全般に興味を持つ受講者に、自主的にさらに関心を深めていくことができるように、歴史研究の基礎ならびに方法論についても簡単に紹介する。この授業のカリキュラム上の位置づけは、東洋史に関する入門的な位置づけであり、基礎的な講義である。日本史を学ぼうとする学生にも適している。

2. 学びの意義と目標

アジアの多様性を理解すると同時に、歴史事象を正確に把握できるようになる。そして、主観的・独断的な判断をすることなく、それらの歴史の意味を解釈する歴史的思考法を持つことができるようになること。

受講生に対する要望

授業への積極的な参加が望まれる。なお、漢字を読めない留学生には、履修が困難である。

キーワード

(1) 歴史 (2) アジア (3) オリエン特 (4) 東洋 (5) 中華

事前学習（予習）

講義中に指示した内容を、資料・参考文献等によって確認する。

復習についての指示

復習では、授業中に指示された地理や年代等を確認すること。各自の自主的な復習を期待する。

授業計画

1. 序
2. アジアとヨーロッパ
3. 「東洋」という概念
4. 歴史編纂をめぐる諸問題
5. 中華思想
6. 冊封体制論
7. 志賀島出土の金印と、邪馬台国女王 卑弥呼をめぐる諸問題
8. 倭の五王
9. 遣隋使(1) 「日、出ずるところの天子」の国書を見た隋の煬帝の反応と対処
10. 遣隋使(2) 小野妹子が隋の煬帝から授かった返書を紛失した事件について
11. 古朝鮮
12. 高句麗
13. 渤海
14. 古代チベット
15. まとめ

教科書

プリントを配布する
世界地図帳と世界史資料集（高校で用いたものでよい）を持参すること。参考文献等は講義中に紹介する。

評価方法

(1) 出席点：10% (2) 平常点：10% (3) 試験（小テストを含む）：80%

担当者：赤坂 恒明

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

知の基礎力：政治や社会のしくみの理解

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目、
中学校教諭一種免許：社会選択科目

講義概要

1. 内容

東アジアの一地域としての日本が他の諸地域といかなる関係にあったか、という問題を中心に、主に近現代の歴史のなかから関連するいくつかの事例をとりあげ、個別に論じる。「日本史」の立場からはしばしば看過される問題を積極的に取り上げ、近代的な国民歴史学によって体系化された「一国史」の枠組についても批判的に分析する。この授業のカリキュラム上の位置づけは、入門的な位置づけの基礎的な講義であり、日本史を学ぼうとする学生にも適している。

2. 学びの意義と目標

「日本史」の枠にとらわれることなく、日本列島の歴史を、より広い視野から見ることができるようになること。近現代の東アジアにおいて日本が関わった具体的な歴史事象を正確に把握するのみならず、体系化された歴史の枠組がいかに我々の同時代的な状況と密接な関係にあるかについても、理解できるようになること。

受講生に対する要望

授業への積極的な参加が望まれる。なお、漢字を読めない留学生には、履修が困難である。

キーワード

(1)歴史 (2)東アジア (3)琉球王国 (4)朝鮮 (5)中国

事前学習（予習）

講義中に指示した内容を、資料・参考文献等によって確認する。

復習についての指示

復習では、授業中に指示された地理や年代等を確認すること。各自の自主的な復習を期待する。

授業計画

1. 序
2. 「オホーツク文化」と東北アジア
3. 「もうひとつの蒙古襲来」：元（モンゴル）軍の樺太（サハリン）侵攻
4. 山丹交易：「鎖国」の江戸時代と清朝を、毛皮と絹が結んだ、北まわりの交易
5. 千島・樺太の先住諸民族と近代日本
6. 琉球王国
7. 「琉球処分」をめぐる日清関係：清朝領となるはずであった先島諸島（八重山・宮古列島）
8. 韓国併合
9. 日本による朝鮮半島の植民地支配（1）第一期
10. 日本による朝鮮半島の植民地支配（2）第二期と第三期
11. 「戦争抛棄二関スル条約」（パリ不戦条約）と満洲事変
12. 日本の進出と、内蒙古東南部地域におけるモンゴル人
13. 熱河作戦
14. 「支那事変」：盧溝橋事件から「南京大虐殺」へ
15. まとめ

教科書

プリントを配布する
世界地図帳と世界史資料集（高校で用いたものでよい）を持参すること。参考文献等は講義中に紹介する。

評価方法

(1)出席点：10% (2)平常点：10% (3)試験（小テストを含む）：80%

担当者：大森 達也

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識

カリキュラム上の位置付け

ビジネスコース：基幹科目

講義概要

1. 内容

本講義では、1990年代の日本経済は、まさに過去の成功の故に、制度的に疲弊し、矛盾を露呈するにいたったと理解し、サブプライム問題以降、混迷する世界経済において日本経済は今後どのような方向に進んでいくか、あるいは、どのように変化するかを、戦後の歴史等を踏まえて考えていくこととする。

2. 学びの意義と目標

本講義では、戦後の日本経済の成立、その発展の軌跡、経済政策あるいは体制上の特徴などについての講義を通じ、日本経済の現状と将来的な展望を得ることを目的とする。

受講生に対する要望

盛りだくさんの内容で、講義のスピードは当然のことながら早くなるので、しっかりした受講姿勢で臨むこと。

キーワード

(1) 資本主義 (2) 戦後日本経済 (3) 産業構造 (4) 貿易構造

事前学習（予習）

内容的に、盛りだくさんなので、事前に文献等を読んでおくこと。

復習についての指示

試験は、講義内容をもとに行われるので、ノートをしっかりとしておくこと。

授業計画

1. はじめに
2. 経済体制とは
3. 古典的資本主義と古典的社会主義
4. 現代混合資本主義
5. 経済体制としての日本型資本主義（歴史的背景）
6. 経済体制としての日本型資本主義（目的、課題）
7. 経済体制としての日本型資本主義（モデルとして）
8. 戦後日本経済の発展過程（戦後復興期）
9. 戦後日本経済の発展過程（高度経済成長期）
10. 戦後日本経済の発展過程（低経済成長期）
11. 戦後日本経済の発展過程（バブル経済へ-1）
12. 戦後日本経済の発展過程（バブル経済へ-2）
13. 戦後日本経済の発展過程（まとめ）
14. 前半講義のまとめ
15. 中間試験14～17
16. 戦後日本経済の発展過程のおさらい
17. 戦後日本経済の成長の仕組み（設備投資競争について）
18. 戦後日本経済の成長の仕組み（その他の企業競争）
19. 産業構造の変化
20. 産業構造の変化（課題）
21. 日本の金融・財政政策（経済政策とは）
22. 日本の金融・財政政策（政策手段に見る日本の特徴）
23. 日本の金融・財政政策（課題）
24. 日本の貿易構造（貿易の意味）
25. 日本の貿易構造（貿易摩擦から経済摩擦へ）
26. 日本の貿易構造（課題）
27. 日本経済：21世紀における課題
28. 日本経済：21世紀における課題
29. 後半講義まとめ
30. 期末試験16～29

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 中間試験：35% (2) 期末試験：35% (3) ブックレポート：30%：1,200文字程度3回×10%

日本史概説A

HIST-J-100

担当者：東島 誠

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

知の基礎力：政治や社会のしくみの理解

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目、
日本語教員養成課程：選択必修科目

講義概要

1. 内容

「日本」という国はいつ誕生したのか。おそらく諸君は「縄文時代の日本」や「日本における稲作の始まり」といった表現に、何の違和感もなく慣れ親しんできたことであろう。だが、縄文時代や弥生時代には、まだ「日本」という名の国家は存在しなかった。まずはそのあたりから、諸君の常識、既成の歴史像に、心地よい揺さぶりをかけていきたい。なお、本年度から概説Aでは、中世末、戦国時代までの歴史を扱う。当該期の歴史は2年生以降、「日本史の研究」各特論でより深く掘り下げて学ぶことができる。

2. 学びの意義と目標

結論は一つではない——この講義では時に、対立する学説を諸君に投げかけることがある。どちらがより説得的か？それを判断するのは君たち自身だ。大学の歴史の講義とはじつは、論理的思考力を鍛錬する場なのである。なお、当科目は、日本文化学科の選択必修科目であると同時に、政治経済学部社会科学教職科目でもある。限られた時間数ではあるが、高校までの知識重視の歴史とはひと味違う、「考える歴史」を体験することで、将来教壇に立つ諸君の歴史像が、奥行き豊かなものとなることを願う。

受講生に対する要望

授業効果を高めるため、教室の形状によって、着席できるエリアを制限する。初回講義時の指示にしたがうこと。

キーワード

(1) 日本 (2) 王権 (3) 支配の正当性 (4) 古代 (5) 中世

事前学習（予習）

毎回の授業で扱う基礎用語については、前週のプリントで指示する。事前に調べて予備知識を得たうえで講義に出席すること。

復習についての指示

A 4 ファイルを用意し、配布プリントを整理した上で、毎回持参すること。各回冒頭に、質問への応答、学生カードの紹介等の復習を行なうほか、折に触れて以前のプリントを参照することができる。

授業計画

1. ガイダンス——頼光物『土蜘蛛草紙』を読み解く
2. 卑弥呼と〈王の身体〉
3. 起源の天皇を考える
4. 「託宣」と「歌謡」——歌われた革命
5. 「唐風」志向と日本的政治
6. 摂関・院政期と「近さ」の権力
7. 頼朝と義仲——その分岐点はなにか
8. 寛喜の飢饉と蒙古襲来——政権のアカウンタビリティ
9. 南北朝BASARAは面白い？
10. 中世後期の東アジア
11. 一揆と「山賊」
12. フロイスの見た戦国日本——「アリエナイ」社会の痕跡
13. 起源としての「印判状」世界
14. 信長は中世を破壊したか
15. 足利義政と豊臣秀吉——近世とは何か

教科書

東島 誠、與那覇 潤 『日本の起源（可能なら2刷以降推奨）』（太田出版）

評価方法

(1) 学期末試験：55% (2) 授業内での提出カード：45%：提出カードの優秀者には、別途加点を行なう。

日本史概説B		HIST-J-100
担当者：上安 祥子		
開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位		
<div>学部教育の関連目標</div> <p>知の基礎力：政治や社会のしくみの理解</p>	<div>授業計画</div> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスー江戸の“四民” 2. 新しい時代の治者像ー山鹿素行の士道論と「太平記読み」の世界 3. ある名主の苦悩ー救済する人、される人 4. 御所千度参りの波紋 5. 七分積金と江戸の町会所 6. 「ぶらかし」と開国 7. 幕府の「私」と公議輿論 8. 築地梁山泊と改正掛 9. 自由民権運動 10. 1889年2月11日の万歳 11. かみあわない「自主」ー日清戦争、そして日露戦争へ 12. 普選運動 13. 帝都復興 14. “ひきずられる”国論ー満蒙へのまなざし 15. 開戦しない論理、開戦する論理ー日中戦争、そして太平洋戦争へ 	
<div>カリキュラム上の位置付け</div> <p>高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目、 中学校教諭一種免許：社会必修科目、 日本語教員養成課程：選択必修科目</p>		
<div>講義概要</div> <p>1. 内容</p> <p>概説Bでは、近世・近代の歴史を扱う。個々のトピックスそのものを理解するだけでなく、史料を通じてその時代の様相や志向を「考える」、そして時代の流れを把握する、という、学びのプロセスを重視して授業をすすめていきたい。なお、行事などのスケジュールによっては、授業計画にあげたトピックスの順番を入れ替える可能性もあることをあらかじめ承知しておいてもらいたい。</p>		
<p>2. 学びの意義と目標</p> <p>歴史を学ぶということは、記録された個々の事実や、叙述されたストーリーを「覚える」ことではない。さまざまな史料や学説を検討、検証し、より確かにアプローチする方法を模索しながら、その事実を読み解いていく、きわめて論理的な思考力を駆使する作業が必要だ。本講義でも、そうした論理的思考力を養うことを目標としている。なお、当科目は、日本文化学科の選択必修科目であると同時に、政治経済学部 of 社会科教職科目でもある。将来、教え導く立場に立つ諸君だからこそ、歴史を考えて学ぶ醍醐味を、十分に体験してもらいたい。</p>		
<div>受講生に対する要望</div> <p>予習の内容、あるいは授業で扱う史料から読み取れることなど、諸君に発言を求めることがある。「わかりません」という答えはしないように、予習として指示されたものについては、しっかり調べておくこと。その場で考えるものについては、間違えることをおそれたりためらったりせず、はっきり意見を述べることを。</p>	<div>キーワード</div> <p>(1)災害 (2)戦争 (3)近世 (4)近代</p>	
<div>事前学習（予習）</div> <p>次回の授業内容に関して、確認しておくべき語句など、基本的には空欄補充形式の予習課題あり。この予習課題は提出はせず、成績にも反映しないが、予備知識や関心をもつことは、授業の理解度を高める。是非、積極的に取り組んで、授業に出席してもらいたい。</p>		
<div>復習についての指示</div> <p>授業でとりあげるトピックスは日本史を学ぶ“手引き”にとらえ、とくに関心を惹かれた内容に関するものから参考文献を読み進めてほしい。そうすることが復習になるとともに、理解を深めることにもつながる。とりわけ、教員免許取得を目指して履修する諸君は、1冊でも多くの参考文献を手にとるよう、意欲的に取り組んでほしい。</p>	<div>教科書</div> <p>プリントを配布する</p>	<div>評価方法</div> <p>(1)学期末レポート:55% (2)小レポート:45%：＊小レポートは60～100字程度を毎回提出。その日の授業内容に関して、10分程度で記述。</p> <p>※出席回数が、全授業回数の3分の2に達しない場合、評価の対象外。公欠を含む場合も、欠席が全授業回数の2分の1以上に達すれば、評価の対象外。正当な理由がない遅刻は減点、無断退席は欠席扱いとする。</p>

担当者：吉田 博司

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

知の基礎力：政治や社会のしくみの理解

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：地理歴史選択科目，
中学校教諭一種免許：社会選択科目

講義概要

1. 内容

明治、大正、昭和戦前期の政治史をふりかえります。明治維新はなぜ起きたのか。明治憲法はどういう背景で成立したのか。日本の議会政治はどのように発展し、挫折したのか。こうした内容を近代日本の政党政治発展というテーマを根底にすえてみていきます。人物論もおり込み、生きた政治史理解をめざします。政治学系の専門科目ですので、かなり詳細な歴史探求となります。

2. 学びの意義と目標

現代政治の理解は歴史的考察をふまえることで深められるでしょう。歴史は現代なのです。

受講生に対する要望

歴史を学んで何をえられるのかという素朴な疑問を抱く学生が多い。人間の権力欲など歴史をとらえて普遍的な行動原理を学んでください。

キーワード

(1)幕藩体制、鎖国、攘夷 (2)講義輿論、自由民権 (3)大正デモクラシー、憲政常道 (4)昭和維新 (5)

事前学習（予習）

講義ポイントを配布するので予習しておく。

復習についての指示

5回の講義後、小テストを含めた復習授業をするので5回分の講義ノートも中心に復習しておく。

授業計画

1. 明治維新と公議輿論
2. 同
3. 同
4. 同
5. 同
6. 復習授業
7. 明治憲法のできるまで
8. 同
9. 同
10. 同
11. 同
12. 復習授業
13. 初期議会と超然主義
14. 同
15. 同
16. 同
17. 政友会の成立
18. 復習授業
19. 桂園時代
20. 同
21. 大正の政変
22. 政党政治化状況
23. 同
24. 復習授業
25. 二大政党時代
26. 同
27. 同
28. 昭和維新
29. 同
30. 復習授業

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)平常点:60% (2)小テスト:40%
- 平常点が重視されます。

人間関係論

SOCI-L-200

担当者：中嶋 励子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

市民力：地域社会およびコミュニティ活動に関わる基礎知識

カリキュラム上の位置付け

コミュニティコース：基幹科目、
情報コース：基幹科目

講義概要

1. 内容

私達は日頃、さまざまな他者と関わりながら、そして、社会の動きに関わる行動をとりながら生活している。このような他者との関係や社会の動きに関わる行動について、実証的データに基づく社会心理分野の研究事例を紹介しながら、授業を進めていく。

2. 学びの意義と目標

・対人関係、コミュニケーション、ストレスとストレス対処、リスク認知、災害心理学などについて、社会心理学の基礎知識を習得する。・先行研究事例で用いられている主な研究方法や測定尺度と分析について、基本的な部分を理解する。

受講生に対する要望

・授業への出席は厳守すること。遅刻・早退・授業中の私語には厳禁。・中間・期末課題は、指示する内容・締切を厳守すること。・授業内で、グループでの話し合いをする場合、積極的に参加することを求める。

キーワード

(1)人間関係 (2)コミュニケーション (3)対人認知 (4)社会心理学
(5)リスクと災害

事前学習（予習）

翌週の授業内容に関連する資料（新聞記事等）を配布する場合、事前に読むこと。翌週の授業内容に関連する身近な事例を考えてくること。

復習についての指示

その週の授業内容の主要な点は、授業内で提出を求めるコメントのテーマとして提示するので、その内容を復習しておくこと。特に、自分自身の経験や、自分の周囲、社会で起きていることと授業内容に関連づけて、まとめること。中間・期末課題レポートには、授業内容の理解度をみるので、授業内容を復習しながら取り組むこと。

授業計画

1. 授業ガイダンス：授業の進め方など講義ガイダンス
2. 人は他者に出会ったときどのように推論するか
3. 人は他者をどのようにタイプ分けするか
4. ステレオタイプの問題点とその低減
5. 魅対人的影響
6. 人間関係が作業に及ぼす影響
7. 作業の能率・疲労
8. ヒューマン・エラー
9. コミュニケーションとは何か・言語によるコミュニケーション
10. 言語によるコミュニケーションの事例
11. 非言語によるコミュニケーション
12. 非言語によるコミュニケーションの事例
13. 説得と態度変容
14. 消費者の心理と行動
15. 消費行動に影響を与える要因
16. 消費行動の測定方法と事例
17. うわさが伝わる背景
18. インターネット・コミュニケーションとうわさの事例
19. パニックとは：集団パニックが起きやすい状況
20. パニックの研究事例
21. リスク認知：人はどのように危険を認知し、行動するのか
22. リスク認知：リスクのものとさしと人々の認知
23. 災害心理学：災害前の心理と行動
24. 災害心理学：災害後の心理と行動
25. 大災害と人々の社会心理
26. ストレスとは何か・ストレス・コーピング
27. 社ストレス・コーピングの具体例
28. 社会心理学の主な研究方法：実験法・観察法
29. 社会心理学の主な研究方法：質問紙法、尺度について
30. 授業のまとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)平常点:40%：・毎回の授業内に提出を求めるコメント・ペーパーの内容により評価 (2)課題レポート:60%:中間レポート及び期末レポートの内容により評価を行う

課題レポートの内容と提出方法、提出期限は授業内で提示することを厳守すること。

秘書学概論

INTD-L-200

担当者：森 久子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

知の基礎力：組織人としてのマナーおよび経営の基礎知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

秘書として必要な知識を学びながら、上司のためだけでなく、組織の一員としての業務や行動について学びます。概論ですが、具体的な業務と結びつけるために、各パートごとに秘書検定2級の過去問題を、小テストとして行います。秘書検定2級を受験する学生には、試験対策にもなります。

2. 学びの意義と目標

秘書の仕事を学ぶことで、組織内外の人間関係を理解し、直ぐに実務に役立つ知識や技能を身につけ、学校から社会へとスムーズに移行する手助けとなる授業です。従って、秘書業務だけでなく、社会人としての基礎知識を身につけることを目標とします。

受講生に対する要望

授業中は、積極的に発言してください。

キーワード

(1)実務 (2)秘書検定 (3)社会人

事前学習（予習）

授業計画を参照し、テキストの該当箇所の読めない漢字や意味を調べてください。テキストに使われている語句は、社会人としての常識です。

復習についての指示

適宜、小テストや課題を提出し、理解度を確認します。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 秘書とは（秘書の歴史・秘書の専門分化）
3. 秘書と急変する企業環境
4. 秘書と会社組織 1（会社とは・会社の種類・組織と役割・重要な会議）
5. 秘書と会社組織 2（秘書の業務形態）
6. 秘書の職務内容
7. 秘書の補佐機能
8. 社会人基礎力
9. ビジネス・マナー
10. 慶弔の知識
11. 秘書に求められる能力
12. 秘書に求められる資質
13. 秘書の資質を高める努力
14. 前半の復習とまとめ
15. 秘書と人間関係 1（コミュニケーションの基本概念）
16. 秘書と人間関係 2（バーバル・コミュニケーションとノンバーバル・コミュニケーション）
17. 言葉づかいの基礎と実践
18. 秘書と人間関係 3（秘書と上司・周囲の人との人間関係）
19. 秘書と情報管理
20. 文書業務
21. レコード・マネジメント
22. 秘書とキャリア
23. これからの企業（グローバル化の中での企業の存続）
24. これからの企業（リスクマネジメント・ダイバーシティマネジメント）
25. 秘書と異文化理解
26. プロトコル
27. ホスピタリティ・これからの秘書
28. 知っておきたい労働基準法の基礎知識
29. 知っておきたい社会保険の基礎知識・財務会計の基礎知識
30. まとめ

教科書

高橋真知子・北垣日出子監修 『秘書概論』（樹村房）

評価方法

(1)試験:50% (2)小テスト:35% (3)出席:15%

担当者：森 久子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

知の基礎力：組織人としてのマナーおよび経営の基礎知識

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

新社会人に求められる事務的知識と技能を学び、就職後、直ぐに役立つように演習を行います。適宜、理解度の確認を小テスト形式で行います。

2. 学びの意義と目標

理論と演習を通して学校から社会へと、スムーズに移行する準備となります。そのために、基本的業務ができることを目標とします。

受講生に対する要望

社会人になるという意識を持って、新社会人に求められている基本的なことを理解してください。

キーワード

(1) 社会人基礎力 (2) マナー (3) 実務

事前学習（予習）

授業計画を参照し、テキスト内の該当箇所の読めない漢字や意味の解らない言葉は、事前に調べておくこと。また、社会や企業の動向を新聞やニュース番組でチェックしておいてください。

復習についての指示

課題をレポートとして作成します。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 社会人基礎力
3. 組織の形態と自分のポジション
4. 身だしなみとビジネスマナー
5. 言葉の使い方—敬語表現の基礎
6. 言葉の使い方—敬語表現の実践
7. 電話の言葉づかいの基礎と実践
8. 来客応対
9. スケジュール管理
10. 会議・会合
11. 出張
12. ファイリング
13. 慶弔の知識
14. 前半の復習とまとめ
15. プロトコール
16. ビジネス文書の機能と種類
17. ビジネス文書作成のポイント
18. ビジネス文書表記の注意点
19. 書式の理解
20. 社外向け文書作成
21. 社内向け文書の作成・議事録
22. 儀礼文書
23. 電子メール
24. ファクス・覚えておきたい語句
25. ビジネス文書の取り扱い
26. グローバル化と異文化理解
27. プレゼンテーションの基礎知識
28. 労働基準法と社会保険の基礎知識
29. 社会人として知っておきたい経営と会計の基礎知識
30. 後半の復習とまとめ

教科書

岡田小夜子・森 久子他 『バイリンガルオフィスプロの基礎』（日本秘書協会）

評価方法

(1) 試験:50% (2) レポート:35% (3) 出席:15%

ベンチャービジネス論

MGMT-L-300

担当者：関水 信和

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識

カリキュラム上の位置付け

ビジネスコース：応用科目

講義概要

1. 内容

当科目はベンチャー企業の現状と問題点やあり方などを学ぶものです。ベンチャー企業と取引をしたり、さらに起業したりする時に役に立ちます。またベンチャー企業経営の勉強を通して、企業と経営の本質について、理解を深められるような授業を行うので、ベンチャー企業と関わりを持たない人にも有意義なはずです。尚、専門科目ではありますが、企業経営における財務ないし法務などとの関係を解説するので、会計や法律などを勉強する意義などが理解できて、それらの科目を勉強するモチベーションが増すはずです。よって財務や法律をまだ勉強していない人にも受講をお勧めします。

2. 学びの意義と目標

企業経営の意義・あり方とリスクをベンチャー企業の経営を通して理解することです。就職先を選ぶ時にも役に立つはずです。また、出席票に記入されたいくつかのコメントに対して、解説を加え、双方向性のある情報交換が行えるように努めています。

受講生に対する要望

知識を増やすというよりも、企業経営の本質を理解することに力点を置いて講義をします。また毎週配布するコメント票に質問ないし意見を記入してください。次週の講義の中で、なるべく回答するようにし、双方向性を持った授業とします。

キーワード

(1)ベンチャー企業 (2)経営 (3)ビジネス (4)知的財産 (5)企業

事前学習（予習）

授業の中で、次回のテーマを説明するので、基礎的事項を勉強し、問題意識を持って受講するようにしてください。

復習についての指示

授業で説明した内容の具体的な事例を文献ないしインターネットなどで調べて、確認するようにしてください。そして配布するコメント票などに記入するように心掛けてください。記入されている質問に対しては、次の講義で回答するようにしています。

授業計画

1. 履修ガイダンス、ベンチャービジネスを勉強する意義など
2. 企業とは、ベンチャー企業とは
3. 企業経営と財務管理・法務管理などとの関係
4. 日本のベンチャー企業の現状
5. 産学連携とベンチャー企業
6. 産学連携の日・米・欧比較
7. 産学連携と知的財産
8. ベンチャー企業の特許戦略 1
9. ベンチャー企業の特許戦略 2
10. ベンチャー企業の資金計画と資本政策 1
11. ベンチャー企業の資金計画と資本政策 2
12. ベンチャー企業の目標と株式上場
13. 事例研究
14. 起業のリスクと意義
15. まとめ、理解度の確認

教科書

プリントを配布する
(毎週)

評価方法

(1)出席:20% (2)平常点(課題など):30%出席票の記述内容を平常点として評価します。(3)期末試験(配布資料・ノート持ち込み可):50%

担当者：渡辺 英人

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ、
知の基礎力：市民および職業人としての基本的知識と技能

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：公民必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目、
社会福祉主事任用資格：選択科目

講義概要

1. 内容

「法を守る精神・法令遵守と責任」「法学」では、みなさんが市民社会に参加するために必要な「ルールと手続き」について学びます。法は人と人が社会の中でいかに上手に生活していくか、という目的のために存在します。いまから法の意味と目的をよく理解し、責任ある個人、良き市民として、社会に参加してください。将来、どのような職業に就いても、この授業で学んだ内容が、必ず役に立ちます。講義内容の中心は「法の概念」「市民社会の法」「消費者と法」「知的財産権」などです。

2. 学びの意義と目標

法を学ぶことは「生きる」ために必要な知識と心構えそのものです。市民社会に生きる一人として、しっかりと学びましょう。

受講生に対する要望

遅刻、欠席の無いように積極的に授業に参加してください。

キーワード

(1)法を守る精神 (2)「公」と「私」 (3)権利と義務 (4)責任 (5)市民社会に生きる

事前学習（予習）

受講の準備として、前週までに講義で使う資料の配布と参考文献の指示を行います。あらかじめ資料や参考文献等をよく読んで、予習、復習をそれぞれ2時間程度行ってください。

復習についての指示

受講の準備として、前週までに講義で使う資料の配布と参考文献の指示を行います。あらかじめ資料や参考文献等をよく読んで、予習、復習をそれぞれ2時間程度行ってください。

授業計画

1. 法を守る精神： 社会における信頼関係
2. 法を守る精神： 社会（コミュニティ）の形成
3. 法と道徳
4. 法の概念
5. 法の存在形式（法源）
6. 法の種類
7. 法の効力 その範囲と限界
8. 「自然法論」と「法実証主義」
9. 法と道徳（2）
10. 自己決定権
11. 法がめざすもの（法の目的）
12. 罪刑法定主義とデュー・プロセス
13. 法の目的（2）
14. 適法性と違法性
15. 「犯罪」とは何か？
16. 「犯罪」とは何か？（2）
17. モラルの低下した社会に生きる
18. 法の目的（3）
19. 「公」と「私」
20. 「責任」とは何か？
21. 「権利」とは何か？
22. 「正義」とは何か？
23. 「市民社会」に生きる
24. 「法」を守る精神
25. 諸外国の法
26. 諸外国の法（2）
27. 市民社会の法
28. 消費者と法
29. 知的財産権と法（1）
30. 知的財産権と法（2）

教科書

井上 正仁 『ポケット六法 平成26年版』（有斐閣）

評価方法

(1)授業参加：40% (2)課題作成：30% (3)試験：30%

担当者：渡辺 英人

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識

カリキュラム上の位置付け

情報コース：基幹科目、
高等学校教諭一種免許：情報必修科目

講義概要

1. 内容

「法政情報論」高等学校普通教科「情報」教員免許取得を目的とする学生の必修科目である。現代社会におけるさまざまな「活動」にとり「情報」はもっとも重要な要素であると考えられている。この授業では「法学」「政治学」分野におけるさまざまな「情報」問題について解説し、理解してもらう。授業は毎回マルチメディア教室で行う。受講者全員が一斉に授業を開始し、一斉に終了する。けっして遅刻、欠席しないこと。

2. 学びの意義と目標

法情報、政治情報の発見と分析を行う授業です。この授業で学んだことは、将来、資格試験や就職試験にも必ず役立ちます。予習、復習ともに積極的に取り組んでください。

受講生に対する要望

遅刻、欠席などせず、積極的に参加してください。

キーワード

(1)法と情報 (2)政治と情報 (3)情報化社会に生きる

事前学習（予習）

授業内容に沿った資料を前週までに提供する。資料の熟読など、予習を授業までに行っておくこと。

復習についての指示

授業で使用了資料と、授業中に記述したノートに基づいて、清書ノートを作ること。

授業計画

1. 現代社会における法情報、政治情報(1)
2. 現代社会における法情報、政治情報(2)
3. 情報と法(国内編)(1)
4. 情報と法(国内編)(2)
5. 情報と法(海外編)(1)
6. 情報と法(海外編)(2)
7. 情報化社会と国際法(1)
8. 情報化社会と国際法(2)
9. 情報化社会における犯罪(国内編)(1)
10. 情報化社会における犯罪(国内編)(2)
11. 情報化社会における犯罪(海外編)(1)
12. 情報化社会における犯罪(海外編)(2)
13. 情報化社会とマスメディア(1)
14. 情報化社会とマスメディア(2)
15. 情報と政治行政(1)
16. 情報と政治行政(2)
17. 情報と政治行動(1)
18. 情報と政治行動(2)
19. 情報化社会と個人情報(1)
20. 情報化社会と個人情報(2)
21. 情報公開と情報の保護(1)
22. 情報公開と情報の保護(2)
23. 知的財産権(1)
24. 知的財産権(2)
25. 情報化社会と労働環境、労働感(1)
26. 情報化社会と労働環境、労働感(2)
27. 情報化社会のさらなる法問題、政治問題(1)
28. 情報化社会のさらなる法問題、政治問題(2)
29. 情報化社会の将来予測(1)
30. 情報化社会の将来予測(2)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)授業への出席:40% (2)課題作成:30% (3)試験:30%

簿記（初級）

MGMT-L-200

担当者：澤村 孝夫

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

知の基礎力：組織人としてのマナーおよび経営の基礎知識

カリキュラム上の位置付け

ビジネスコース：基幹科目

講義概要

1. 内容

企業は手元にある資金を利用して商品売買業などの事業を展開し利益を獲得するための活動を行っています。こうした活動を正しく理解するためには、一定の方法で計算・記録・整理するための＜道具＞が必要になります。それが＜簿記＞です。また、簿記は、一定期間の取引活動の状況を取引先、出資者、銀行等の利害関係者に報告する役割も担っています。本講義では、簿記による記帳方法の原理及び記帳プロセスを体系的に学習し、基礎的な経理知識の習得を目指しています。また、日本商工会議所主催の簿記検定試験3級を受験することができます。

2. 学びの意義と目標

企業の経営活動の状況を反映させるために必須とされる簿記の必要性を認識すること。簿記のスキルを身につけることによって過去・現在、そして将来の経営活動状況の良し悪しを知ることができるようにする。

受講生に対する要望

企業の経営活動の実務を常に注視すること。

キーワード

(1) 簿記と道具 (2) 資産・負債・純資産（資本金） (3) 帳簿と記帳方法 (4) 勘定科目 (5) 試算表と決算

事前学習（予習）

企業の取引活動を計算・記録・整理することが必要になるので、計算機が必要になります。従って、講義時には必ず計算機を持参すること。

復習についての指示

問題の反復練習

授業計画

1. 簿記の役割とその種類
2. 資産、負債、純資産、収益、費用の内容
3. 簿記上の取引と仕訳
4. 仕訳帳、総勘定元帳、試算表の作成
5. 現金・預金の処理
6. 小口現金出納帳とインプレストシステム
7. 商品売買と3文法
8. 仕入帳、売上帳、商品有高帳の作成
9. 人名勘定と売掛金・買掛金元帳
10. 手形の種類とその記入方法
11. 手形の割引と裏書譲渡
12. 受取手形記入帳と支払手形記入帳
13. 有価証券の取得と売却
14. その他の債権・債務の処理（I）
15. その他の債権・債務の処理（II）
16. 貸倒れと貸倒引当金の処理
17. 固定資産の取得と売却
18. 減価償却費の計算とその処理
19. 資本金・引出金の処理
20. 税金の種類とその処理
21. 合計残高試算表の作成
22. 決算整理・収益及び費用の繰延
23. 決算整理・収益及び費用の見越
24. 精算表の作成（I）
25. 精算表の作成（II）
26. 損益計算書・貸借対照表の作成
27. 伝票の種類とその作成
28. 総合問題練習（I）
29. 総合問題練習（II）
30. 総合問題練習（III）

教科書

渡辺正直 『最新式段階式 日商簿記検定問題集3級』（実教出版）

評価方法

(1) 定期試験: 60% (2) レポート第1回: 5% (3) レポート第2回: 5% (4) レポート第3回: 5% (5) 出席: 25%

簿記（初級）

MGMT-L-200

担当者：山田 ひとみ

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

知の基礎力：組織人としてのマナーおよび経営の基礎知識

カリキュラム上の位置付け

ビジネスコース：基幹科目

講義概要

1. 内容

会計に関する知識はビジネスパーソンにとって必須といわれています。企業が公表する会計情報は複式簿記にもとづいて作成されており、複式簿記の原理は世界共通です。講義では毎回テーマについて例題を用いて説明した後、練習問題を解答してもらいます。簿記の学習で重要なのは予習よりも復習です。復習と自習のチェックを兼ねて、適宜、ミニテストを行います。

2. 学びの意義と目標

勘定の仕組みを理解して取引を仕訳し、決算の手続きを経て貸借対照表と損益計算書の作成に至るまでの、簿記一巡の手続きを理解することができる（日商簿記3級程度）。「簿記（中級）A」や「簿記（中級）B」履修するための知識を身につけることができる。また、会計学・経営学関連科目を学ぶ上でも必要な基礎知識が身に付きます。

受講生に対する要望

簿記の基礎を学びますので、最初が肝心です。第1回目から第8回目までは休まず出席してください。第9回目以降も、休んだ場合は次回までに必ず自習して下さい。

キーワード

(1) 複式簿記 (2) 企業会計 (3) 財務諸表 (4) 会計学 (5) 経営学

事前学習（予習）

理解が不十分な箇所は、講師に質問するなどして、次回までに理解するようにしましょう。欠席した場合は、テキストの該当箇所の練習問題を必ず解答して下さい。

復習についての指示

講義中に解答した練習問題を、次回までに反復解答練習しましょう。

授業計画

1. ガイダンス（授業の進め方、採点方法）
2. 仕訳（1）
3. 仕訳（2）
4. 転記
5. 試算表（1）
6. 現金・預金
7. 商品売買
8. 小口現金・約束手形
9. 為替手形
10. 手形の裏書・割引
11. その他の期中取引（1）
12. その他の期中取引（2）
13. 有価証券
14. 資本金・税金
15. 試算表（2）
16. 補助簿
17. 決算整理仕訳（1）
18. 決算整理仕訳（2）
19. 決算整理仕訳（3）
20. 決算整理仕訳（4）
21. 決算整理仕訳（5）
22. 決算整理仕訳（6）
23. 8桁精算表（1）
24. 8桁精算表（2）
25. 貸借対照表・損益計算書の作成
26. 伝票・訂正仕訳
27. 総合問題演習（1）
28. 総合問題演習（2）
29. 総合問題演習（3）
30. まとめと試験

教科書

授業の中で指示する
第1回目にテキストを指定します。

評価方法

(1) ミニテスト:20% (2) 定期試験:30% (3) 出席:50%

簿記(中級) A

MGMT-L-300

担当者：山田 ひとみ

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

知の基礎力：組織人としてのマナーおよび経営の基礎知識

カリキュラム上の位置付け

ビジネスコース：応用科目

講義概要

1. 内容

中級程度の商業簿記について学習する。商品売買業を主たる業務とする株式会社を前提とした取引の記帳方法の一巡を学びます。講義では毎回テーマについて例題を用いて説明した後、練習問題を解答してもらいます。予習、復習、自習のチェックを兼ねて、適宜、ミニテストを行います。

2. 学びの意義と目標

株式会社が作成する財務諸表を読む力がつき、経営状態を把握できるようになる（日商簿記2級程度）。また、会計学・経営学関連科目を学ぶ上で十分な基礎知識が身に付きます。

受講生に対する要望

「簿記」または「簿記（初級）」の単位取得後、もしくは日商簿記3級合格後に履修して下さい。「簿記(中級) B」の後に履修することもできます。

キーワード

(1)複式簿記 (2)商業簿記 (3)株式会社会計 (4)会計学 (5)経営学

事前学習（予習）

日商簿記検定3級の過去問題集を継続的に解答して、簿記の基礎力をキープしましょう。また、授業計画を参照し、テキストの該当箇所を一読しておきましょう。

復習についての指示

講義中に解答&指示された演習問題を次回までに反復解答練習しましょう。

授業計画

1. 商業簿記の一巡
2. 現金・預金
3. 手形
4. 有価証券
5. 債権・債務
6. 引当金
7. 商品売買
8. 特殊商品売買
9. 株式会社会計（1）株式の発行、税金
10. 株式会社会計（2）社債
11. 株式会社会計（3）剰余金の配当・処分
12. 株式会社会計（4）繰延資産
13. 決算
14. 本支店会計
15. 総合問題と試験

教科書

授業の中で指示する
第1回目の講義でテキストを指定します。

評価方法

(1)ミニテスト:30% (2)定期試験:40% (3)出席:30%

簿記(中級) B

MGMT-L-300

担当者：山田 ひとみ

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

知の基礎力：組織人としてのマナーおよび経営の基礎知識

カリキュラム上の位置付け

ビジネスコース：応用科目

講義概要

1. 内容

中級程度の工業簿記と、初歩的な原価計算について学習する。製造業における生産活動の記録方法の一巡を学ぶ。講義では毎回テーマについて例題を用いて説明した後、練習問題を解答してもらいます。予習、復習、自習のチェックを兼ねて、適宜、ミニテストを行います。

2. 学びの意義と目標

製造業の簿記一巡理解と財務諸表を読む力がつき、損益分岐点や利益計画の分析ができるようになる(日商簿記2級程度)。また、会計学・経営学関連科目を学ぶ上で十分な基礎知識が身に付きます。

受講生に対する要望

「簿記」または「簿記(初級)」の単位取得後、もしくは日商簿記3級合格後に履修して下さい。「簿記(中級)A」の前に履修することもできます。

キーワード

(1)工業簿記 (2)原価計算 (3)経営分析 (4)会計学 (5)経営学

事前学習(予習)

授業計画を参照し、テキストの該当箇所を一読しておきましょう。

復習についての指示

講義中に解答&指示された演習問題を次回までに反復解答練習しましょう。

授業計画

1. 工業簿記の一巡
2. 材料費
3. 労務費
4. 経費
5. 個別原価計算(1)
6. 個別原価計算(2)
7. 部門別個別原価計算
8. 総合原価計算(1) 基礎
9. 総合原価計算(2) 月初仕掛品
10. 総合原価計算(3) 減損
11. 標準原価計算(1) 基礎
12. 標準原価計算(2) 差異分析
13. 直接原価計算(1) 基礎
14. 直接原価計算(2) CVP分析、固定分解
15. 総合問題と試験

教科書

授業の中で指示する
第1回目の講義でテキストを指定します。

評価方法

- (1)ミニテスト:30% (2)定期試験:40% (3)出席:30%

ボランティア概論

SOCI-L-300

担当者：川田 虎男

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

市民力：地域社会およびコミュニティ活動に関わる基礎知識

カリキュラム上の位置付け

コミュニティコース：基幹科目

講義概要

1. 内容

講義とゲストスピーカーの話を中心とした内容となります。ボランティアについての基礎的な知識、また実際の活動内容について学びます。受講人数によっては、参加者同士のグループワークも複数回実施する予定です。また、課題レポートでは実際の活動に参加した上での感想と考察が求められますので、講義外でのボランティア活動にも参加していただくことになります。基礎的なボランティアの知識を身につけるものですので、ボランティアの経験の有無は問いません。

2. 学びの意義と目標

東日本大震災においても多くのボランティア活動が注目されていますが、自分たちの日常レベルに落として現代社会におけるボランティアの実情と意義を学びます。「ボランティア=いいこと」という理解ではなく、その問題点も理解した上で、受講生一人一人が自分なりの「ボランティア観」を持てることを目標としています。

受講生に対する要望

参加型の授業が多く、グループワークや発表などがありますので、積極的な参加をお願いします。

キーワード

(1) ボランティア (2) 市民活動 (3) NPO

事前学習（予習）

実際のボランティア活動への参加があるとより学びが深まります。授業では毎回一定程度の分量の振り返りシートの記入をしていただく予定です。

復習についての指示

昨年度も授業での学びから、様々な活動やプロジェクトが生まれました。授業で学んだことを実際の活動に活かせるよう工夫してください。具体的には、ゲストスピーカーの関わる現場やボランティアセンターを活用して、ボランティア活動を体験することを推奨します。知識として学んだことを、「自分の体験」として納得する機会を作ってください。

授業計画

1. オリエンテーション
2. ボランティアの定義と活動分野
3. ボランティア活動者に聞く「バリアフリーマップとボランティア」
4. 市民活動・NPO法人とボランティア
5. 大学生とボランティアI
6. 大学生とボランティアII
7. ワークショップ「ボランティアの種を探す」
8. ボランティアセンターとボランティアコーディネーション
9. 実際のボランティア活動を知るI「災害ボランティア」
10. 実際のボランティア活動を知るII「コミュニティ活動ボランティア」
11. 実際のボランティア活動を知るIII「環境ボランティア」
12. 実際のボランティア活動を知るIV「国際ボランティア」
13. ボランティア活動報告
14. まとめと振り返り
15. 試験

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席:25% (2) 授業への参加度:25% (3) 中間レポート:20%:授業期間中にボランティア体験を行いレポートの提出をしていただきます。 (4) 試験:30%

担当者：由川 稔

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

知の基礎力：政治や社会のしくみの理解

カリキュラム上の位置付け

行政コース：基幹科目
ビジネスコース：基幹科目

講義概要

1. 内容

概論的な経済学からまた一步進んで、世の中の経済現象をより理論的に考えてみましょう。特に経済を「マクロ的に」（＝巨視的に）捉えるのが「マクロ経済学」です。金融や、財政や、国際経済の動向等についても、理論に根差した理解に挑戦しましょう。

2. 学びの意義と目標

理論面では、「基礎レベルの習熟」に目標を置きたいと思えます。そしてそれを踏まえて、或る経済現象をどう捉えるべきか、自分の頭で、しかし独り善がりでない考え方で当たっていけるようにする、それがこの授業の意義と目標です。

受講生に対する要望

授業の話をただ聞き流すだけでは、身につけません。試験前の一夜漬けも効果は無いと思います。予習内容や復習内容は授業中に指示しますので、がんばってください。教科書については、一応基本書として1冊指定しますが、授業中に追加で参照を指示したり、配布物が加わることもあります。あらかじめ了解してください。

キーワード

(1)国民所得 (2)GDP、国内総生産 (3)財政 (4)金融 (5)市場経済

事前学習（予習）

範囲や課題等、授業中に指示します。

復習についての指示

範囲や課題等、授業中に指示します。

授業計画

1. マクロ経済学とは何か（1）
2. マクロ経済学とは何か（2）
3. GDPについて（1）
4. GDPについて（2）
5. 三面等価の原則
6. 名目と実質
7. 財市場の分析（1）
8. 財市場の分析（2）
9. 有効需要の原理（1）
10. 有効需要の原理（2）
11. 乗数理論（1）
12. 乗数理論（2）
13. 乗数理論（3）
14. 乗数理論（4）
15. 貨幣市場の分析（1）
16. 貨幣市場の分析（2）
17. 貨幣市場の分析（3）
18. 貨幣市場の分析（4）
19. IS-LM分析（1）
20. IS-LM分析（2）
21. IS-LM分析（3）
22. IS-LM分析（4）
23. 所得と物価水準（1）
24. 所得と物価水準（2）
25. 財政政策と金融政策（1）
26. 財政政策と金融政策（2）
27. インフレとデフレ（1）
28. インフレとデフレ（2）
29. まとめと復習（1）
30. まとめと復習（2）

教科書

中谷巖 『マクロ経済学入門』（日本経済新聞出版社）

評価方法

(1)定期試験:60% (2)受講態度:20%:出席状況や授業内提出物。(3)レポート等:20%:ノートの写しを見せてもらうこともあります。

担当者：竹田 香織

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：情報コミュニケーションに関する知識

カリキュラム上の位置付け

情報コース：応用科目

講義概要

1. 内容

本講義では、マスコミュニケーション、マスメディアに関する概念や歴史、現状について理解を整理し、社会における役割や影響、可能性について考察する。

2. 学びの意義と目標

・マスコミュニケーションおよびマスメディアと社会、個人との関わりについて理解を深める。・情報社会を生きる上で、もはや必要不可欠といえる様々なメディアとの接し方について考えることができるようになる。・情報を批判的あるいは建設的に吟味する姿勢を身につける。

受講生に対する要望

「政治学」を受講済みであることが望ましい。

キーワード

(1) マスコミュニケーション (2) マスメディア (3) 情報社会

事前学習（予習）

・メディア、特に新聞に目を通し、ニュースに日々触れること。

復習についての指示

・ノートや配布プリント等を見返し、授業の中で案内する文献を手に取り、授業のポイントが何であったかをおさえておくこと。

授業計画

1. 情報とは何か
2. マスコミュニケーションとは
3. 社会とマスコミュニケーション
4. マスコミュニケーションの影響力
5. マスメディアとは
6. マスメディアの歴史と現状（1）新聞
7. マスメディアの歴史と現状（2）放送
8. マスメディアの歴史と現状（3）出版
9. マスメディアの歴史と現状（4）映像・音楽
10. マスメディアの歴史と現状（5）インターネット
11. 広告
12. ジャーナリズム
13. 事故と報道（1）
14. 事故と報道（2）
15. 事件と報道（1）
16. 事件と報道（2）
17. 災害と報道（1）
18. 災害と報道（2）
19. 表現の自由と知る権利
20. プライバシーと表現規制
21. 政治と情報
22. 民主主義と情報
23. 政治とマスメディア
24. インターネットと政治
25. 世論
26. 世論と世論調査
27. マスメディアとジェンダー
28. マスメディアとナショナリズム
29. マスメディアと戦争
30. 総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 平常点:30%:毎回授業後に小テストを行う。授業には主体的に参加すること。(2) 期末試験:70%

担当者：平 修久

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

市民力：地域社会およびコミュニティ活動に関わる基礎知識

カリキュラム上の位置付け

行政コース：応用科目,
コミュニティコース：基幹科目

講義概要

1. 内容

自分たちのまちは自分たちで良くしようという、生活環境の改善や地域振興という動きが全国で広がっている。このようなまちづくりは、人と人とのつながりを深めるばかりではなく、関わっている人たちの人間的成長ももたらす。また、まちは総合的なものであり、まちづくりを学ぶことは視野を広げ、人生をより豊かなものにすることにつながる。本科目では、背景、定義、分類などのまちづくりの概要、まちづくりの進め方と主な手法、分野別課題と事例、まちづくりの意義や目指すものなどを学ぶ。

2. 学びの意義と目標

身近なまちの問題や課題、まちづくりの意義、内容、手法を理解し、説明できるようになることが学びの目標である。

受講生に対する要望

自分の居住しているまちや大学周辺のまちに対する関心を高め、どのようにしたら、よいまちになるかという意識を持って受講してもらいたい。

キーワード

(1)まちづくり (2)コミュニティ (3)活性化

事前学習（予習）

事前に指示する参考文献や配布物などを読んでおくこと。

復習についての指示

毎回の講義内容を整理し、まとめること。また、授業に関連する課題については、授業内容の理解を深める復習として、期日までに提出すること。

授業計画

1. 1. まちづくりの概要（アイスブレイク）
2. 1. まちづくりの概要（聖学院大学周辺のまちづくり）
3. 1. まちづくりの概要（まちづくりとは）
4. 1. まちづくりの概要（まちづくりの歴史）
5. 1. まちづくりの概要（まちづくりの分類・担い手）
6. 1. まちづくりの概要（まちづくりの分類別事例）
7. 1. まちづくりの概要（まちづくりのプロセス）
8. 1. まちづくりの概要（住民参加と協働）
9. 1. まちづくりの概要（住民参加と協働の進め方）
10. 1. まちづくりの概要（住民参加と協働の事例）
11. 2. 生活環境改善のまちづくり（都市計画・地区計画①）
12. 2. 生活環境改善のまちづくり（都市計画・地区計画②）
13. 2. 生活環境改善のまちづくり（都市計画・地区計画③）
14. 2. 生活環境改善のまちづくり（福祉のまちづくり）
15. 2. 生活環境改善のまちづくり（子育て環境の改善）
16. 2. 生活環境改善のまちづくり（子育て支援の事例）
17. 3. つなげるまちづくり（新しいコミュニティの創造）
18. 3. つなげるまちづくり（新しいコミュニティの創造の事例）
19. 3. つなげるまちづくり（居場所づくり）
20. 3. つなげるまちづくり（郊外住宅地の維持）
21. 4. 活性化のまちづくり（中心市街地活性化）
22. 4. 活性化のまちづくり（中心市街地活性化の事例①）
23. 4. 活性化のまちづくり（中心市街地活性化の事例②）
24. 4. 活性化のまちづくり（中心市街地活性化の事例③）
25. 4. 活性化のまちづくり（食とまちづくり①）
26. 4. 活性化のまちづくり（食とまちづくり②）
27. 4. 活性化のまちづくり（観光まちづくり）
28. 4. 活性化のまちづくり（アニメのまちづくり）
29. 4. 活性化のまちづくり（ゆるキャラ、まち歩き）
30. 5. まとめ（まちづくりの本質）

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:10% (2)授業に関するまとめ:10% (3)課題:40% (4)レポート:40%

担当者：中野 宏

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

知の基礎力：政治や社会のしくみの理解

カリキュラム上の位置付け

行政コース：応用科目
ビジネスコース：基幹科目

講義概要

1. 内容

ミクロ経済学の基礎および応用理論を学習する。消費者がモノを買う、企業がモノを作る、市場でモノの価格が決まる、政府が課税や規制を行う、など日常的に行われている様々な経済活動の行動法則や決定原理を明らかにすることで、いかなる経済の状態が社会的に最も望ましいのか、またそれを実現するためにはどうすればよいかを探っていく。その過程において、近年の世界的な潮流である規制緩和や公的企業の民営化、自由貿易の推進といった競争促進政策の意義と問題点が明らかにされるであろう。経済学という学問の性質上、少なからず数学を用いるが、必要最小限のものについては折に触れて説明する。専門科目「経済学」を履修した上で受講すること。なお、授業計画は予定である。学生諸君の理解度や興味関心をもとに変更されることがある。

2. 学びの意義と目標

将来学生諸君がどのような職業に就こうと、社会に出れば「経済」と付き合わずに済むことは出来ない。景気の動向や、金利・物価・為替レートの動きなどから必要なことを読み取り、あるいはそれらの動きを予想し、仕事に反映させていくことになる。また、少子高齢化・人口減少社会に突入した我が国においては、これまでのような年金に依存した老後は期待すべきもなく、諸君は投資により自らの手帳において老後のための資産形成を行っていかねばならない。今後必要となるのは、テレビや新聞、ネットなどのマスコミ報道を鵜呑みにするのではなく、自分の目で見て自分の考えで決定を行えるような知性と分析道具である。それらを身に付けるために本講義が少しでも役に立てばと願う。

受講生に対する要望

日々報道される経済の動きに関心を持つことが望まれる。

キーワード

(1) 費用便益分析 (2) 完全競争市場 (3) 厚生経済学の基本定理 (4) 独占市場 (5) 市場の失敗

事前学習（予習）

今回の講義について指示された項目を、各自で調べておくこと。ただし、予習よりは復讐のほうがはるかに重要であると認識せよ。

復習についての指示

経済学の講義は積み重ねで進んでいくため、一度わからなくなるとその後が続かなくなる恐れがある。毎回講義の復習プリントを配布するので、次の講義日までに各自仕上げてくること。

授業計画

1. 資源配分と市場メカニズム (1)
2. 資源配分と市場メカニズム (2)
3. 価格の決定 (1)
4. 価格の決定 (2)
5. 余剰の概念 (1)
6. 余剰の概念 (2)
7. 微分と限界分析 (1)
8. 微分と限界分析 (2)
9. 消費者（家計）の行動 (1)
10. 消費者（家計）の行動 (2)
11. 生産者（企業）の行動 (1)
12. 生産者（企業）の行動 (2)
13. 厚生経済学の基本定理 (1)
14. 厚生経済学の基本定理 (2)
15. 不完全競争の分析 (1)
16. 不完全競争の分析 (2)
17. 政府の市場介入 (1)
18. 政府の市場介入 (2)
19. 政府の市場介入 (3)
20. 政府の市場介入 (4)
21. 市場の失敗 (1)
22. 市場の失敗 (2)
23. 市場の失敗 (3)
24. 市場の失敗 (4)
25. ゲームの理論 (1)
26. ゲームの理論 (2)
27. 消費者（家計）行動再論 (1)
28. 消費者（家計）行動再論 (2)
29. 講義のまとめ (1)
30. 講義のまとめ (2)

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1) 出席:30%:3分の2未満の出席回数の者は成績評価の対象にならない。
- (2) レポート:30%:講義期間半ばに1回課題を出す。
- (3) 期末試験:40%

上記評価のほか、質問等授業に積極的に参加しようとする態度や意欲は加点対象となる。自分の存在をアピールして欲しい。

民法 A (総則・物権)

LAW-L-200

担当者：松谷 秀祐

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識

カリキュラム上の位置付け

ビジネスコース：応用科目

講義概要

1. 内容

民法は、私人間の法的関係を規律している法律です。本科目は民法の中で第1編総則（第1条から第174条の2）と第2編物権（第175条から第398条の22）を講義の対象とします。しかし、それら全ての条文について説明し、その内容を覚えてもらうことが講義の目的では決してありません。まずは基本的な枠組みを把握することを目指して、現在の取引社会において特に必要不可欠な制度・条文について、売買契約を中心とした具体的な事例問題を用いて説明します。

2. 学びの意義と目標

無人島で自給自足生活をしようとする者以外、民法・消費者法と関わりを持たなくてもよい者はいません。自分（たち）が民法・消費者法によって規律されている世界に生きていることを実感し、将来、身の回りに法的な問題が生じたときに、何となくでもよいので、自身で解決の糸口を見出せる能力を身に付けることを目標とします。

受講生に対する要望

講義中の説明でわかりにくい箇所等あれば、遠慮なく質問してください。まずは、「わからないことがあればそのままにせずに、まずは質問してみる。」という習慣を身に付けるようにしてください。

キーワード

(1) 民法 (2) 意思表示 (3) 無効・取消し (4) 物権、不動産登記 (5) 担保物権

事前学習（予習）

翌週分のレジュメも事前に配布するので予めレジュメに目を通した上で講義にのぞむ。

復習についての指示

教科書を読み返す、レジュメの事例問題を解きなおす、講義ノートをもとめる。

授業計画

1. 民法の役割、民法の構造、民法を学ぶ意義
2. 民法総則 (1) : 民法の基本原則
3. 民法総則 (2) : 自然人 (1)
4. 民法総則 (3) : 自然人 (2)
5. 民法総則 (4) : 自然人 (3)
6. 民法総則 (5) : 法人
7. 民法総則 (6) : 法律行為とは、公序良俗
8. 民法総則 (7) : 心裡留保、通謀虚偽表示
9. 民法総則 (8) : 錯誤
10. 民法総則 (9) : 詐欺、強迫
11. 民法総則 (10) : 代理 (1) 代理とは
12. 民法総則 (11) : 代理 (2) 表見代理、無権代理
13. 民法総則 (12) : 条件・期限、時効総説
14. 民法総則 (13) : 消滅時効
15. 民法総則 (14) : 一般条項 (1)
16. 民法総則 (15) : 一般条項 (2)、中間試験
17. 民法総則 (16) : 民法総則のまとめ
18. 物権法 (1) : 「物」とは、物権とは
19. 物権法 (2) : 物権的請求権
20. 物権法 (3) : 不動産物権変動 (1)
21. 物権法 (4) : 不動産物権変動 (2)
22. 物権法 (5) : 不動産物権変動 (3)
23. 物権法 (6) : 動産物権変動
24. 物権法 (7) : 占有権、取得時効
25. 物権法 (8) : 所有権、用益物権
26. 物権法 (9) : 担保物権総説
27. 物権法 (10) : 抵当権
28. 物権法 (11) : 質権、留置権、先取特権
29. 物権法 (12) : 非典型担保
30. 物権法 (13) : 物権法のまとめ

教科書

植田淳 『ミニマム民法（全）70講』（法律文化社）

評価方法

(1) 中間試験: 30% (2) 最終試験: 70%

民法B（債権）

LAW-L-200

担当者：松谷 秀祐

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識

カリキュラム上の位置付け

ビジネスコース：応用科目

講義概要

1. 内容

民法は、私人間の法的関係を規律している法律です。本科目は、民法の中で第3編債権（第399条から第724条）を講義の対象とします。しかし、それら全ての条文について説明し、その内容を覚えてもらうことが講義の目的では決してありません。まずは、基本的な枠組みを把握することを目標として、現在の取引社会において特に必要不可欠な制度・条文について、売買契約を中心とした具体的な事例問題を用いて説明します。

2. 学びの意義と目標

無人島で自給自足生活をしようとする者以外、民法・消費者法と関わりを持たなくてもよい者はいません。自分（たち）が民法・消費者法によって規律されている世界に生きていることを実感し、将来、身の回りに法的な問題が生じたときに、何となくでもよいので、自身で解決の糸口を見出せる能力を身に付けることを目標とします。

受講生に対する要望

講義中の説明でわかりにくい箇所等あれば、遠慮なく質問してください。まずは、「わからないことがあればそのままにせず、まずは質問してみる。」という習慣を身に付けるようにしてください。

キーワード

(1) 債権 (2) 典型13契約 (3) 不法行為 (4) 債務不履行 (5) 損害賠償

事前学習（予習）

翌週分のレジュメも事前に配布するので予めレジュメに目を通した上で講義にのぞむ。

復習についての指示

教科書を読み返す、レジュメの事例問題を解きなおす、講義ノートをとる。

授業計画

1. 「法学」とは、民法とは、債権法とは
2. 債権各論 (1) : 契約自由の原則、契約拘束力の原則と例外
3. 債権各論 (2) : 契約の分類 (1)
4. 債権各論 (3) : 契約の分類 (2)
5. 債権各論 (4) : 売買契約 (1)
6. 債権各論 (5) : 売買契約 (2)
7. 債権各論 (6) : 売買契約 (3)
8. 債権各論 (7) : 賃貸借契約
9. 債権各論 (8) : 請負契約
10. 債権各論 (9) : 贈与契約
11. 債権各論 (10) : 使用貸借契約
12. 債権各論 (11) : 消費貸借契約
13. 債権各論 (12) : 委任契約
14. 債権各論 (13) : その他の典型契約 (1)
15. 債権各論 (14) : その他の典型契約 (2)
16. 債権各論 (15) : 契約法のまとめ、中間試験
17. 債権各論 (16) : 不法行為 (1)
18. 債権各論 (17) : 不法行為 (2)
19. 債権各論 (18) : 不法行為 (3)
20. 債権総論 (1) : 債権の目的 (1)
21. 債権総論 (2) : 債権の目的 (2)
22. 債権総論 (3) : 債務不履行 (1)
23. 債権総論 (4) : 債務不履行 (2)
24. 債権総論 (5) : 多数当事者の債権関係 (1)
25. 債権総論 (6) : 多数当事者の債権関係 (2)
26. 債権総論 (7) : 債権譲渡
27. 債権総論 (8) : 弁済
28. 債権総論 (9) : 相殺
29. 債権総論 (10) : 債権総論のまとめ
30. 債権法のまとめ

教科書

植田淳 『ミニマム民法（全）70講』（法律文化社）

評価方法

(1) 中間試験: 30% (2) 最終試験: 70%

民法C（親族・相続）

LAW-L-200

担当者：加藤 恵司

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

問題解決力&表現力：経営環境の体系的把握と実務知識

カリキュラム上の位置付け

ビジネスコース：応用科目

講義概要

1. 内容

本講座は、民法の家族法に関する講義である。人は両親によって生を受け、家族と生活し、家族に看取られつつ亡くなっていく。家族は最も基本的、自然的な社会集団である。わが国の民法典には、旧民法といわれる法典があり、戸主を中心とする家族制度、家督相続制度があった。もう一つは、敗戦後の新憲法に基づいて、夫婦中心の家族制度、遺産相続制度がある。本講座は後者であるが、旧民法をも意識して学習する。近年の家族形態には、核家族、高齢家族、晩婚・非婚化、少子化の傾向が家族観に変化をもたらしている。「法律は家庭に入らず」という法諺があるが、法律と家族関係は無関係でよいのだろうか。たしかに「夫婦は愛し合うべきである」とか、「子どもを大切に育てよ」とか、「親を敬え」というような道徳観だけでは支えきれずに崩壊していく。裁判によって破綻を決定的にする家族が多く見られる。このような意識を抱きながら講義する。民法では、結婚、離婚など夫婦関係、親子関係を取り扱った「親族編」、相続、遺言などを取り扱った「相続編」をあわせた部分を家族法と称している。法律と現実を見つめ、判例など具体例を挙げながら現代の家族事情を分析してみたい。

2. 学びの意義と目標

人生で出会うであろう出来事について民法に従って学ぶ。判例などを用いて身近に民法を知ることを目指す。

受講生に対する要望

出席すること。予習レポートをしっかりと書いていただきます。リカレントの学生は自由です。六法必携。

キーワード

(1)家族とは (2)結婚 (3)親子 (4)現代の家族の諸問題 (5)相続・遺言

事前学習（予習）

予習レポートを書き、提出する。また、項目ごとに問題点のレポートを書き、提出する。

復習についての指示

六法の条文を開いて、講義の内容を思い起こす。

授業計画

1. 家族とは（民法と家族法）
2. 近代家族法の理念
3. 親族の意義
4. 親等について
5. 婚姻の制度と日本国憲法
6. 婚姻の成立
7. 婚姻の効果
8. 現代の婚姻事情
9. 離婚（婚姻の解消）
10. 離婚の法的効果と問題点
11. 現代の離婚の実態
12. 親子法の理念
13. 親子の種類（実子、養子）、
14. 親子の種類（特例実子）
15. 未成年者の保護
16. 親権と親の責任
17. 後見と保佐
18. 現代親子の諸問題（赤ちゃんポスト、人工授精）
19. 現代少子化について
20. 高齢社会と扶養
21. 現代の扶養制度と政策
22. 相続の理念
23. 法定相続と相続人
24. 相続の効力と相続の放棄
25. 相続人の不存在と相続回復請求権
26. 遺産分割をめぐる諸問題
27. 遺言の意義とその方法
28. 遺言の効力と遺留分
29. 相続遺言の現代の諸問題
30. 家族とは何か

教科書

西田 典之、高橋 宏志、能見 善久 『ポケット六法 平成26年版』（有斐閣）鎌田 薫 『デیلیー六法2014 平成26年版』（三省堂）民法ノートを配布する。

評価方法

(1)出席:30% (2)レポート:70%

担当者：土方 透

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

知の基礎力：市民および職業人としての基本的知識と技能

カリキュラム上の位置付け

情報コース：応用科目

講義概要

1. 内容

本講義では、現代の社会学理論が到達した学問的境位を、人間の知の展開として位置づけることを目的とする。講義では、まず人類の思想の歴史的展開を概観する。そのことにより、はじめて最新の理論と呼ばれるものの「新しさ」が明らかになろう。すなわち、思想史上の連続的側面と非連続的側面から、現代の理論というものが理解可能となるわけである。そうした作業を経たうえで、現代社会において、所与のものとして市民権を得た諸思想ならびに諸価値の限界を指摘しつつ、いま考えられる可能な選択肢を提示したい。

2. 学びの意義と目標

大学での勉学で「役に立つ」ことを学ぼうとするのであれば、他の科目を履修することが望ましい。そのような「想定内」の問題に答える叡智は、大学での学問とは関係がない。想定外の問題がこれまで指摘されている現代社会にあって、必要なことは、過去の人類の知的な蓄積を学ぶことで、自己の確かな推理力・判断力を養うことである。それが学びの意義であり、それをどのように獲得し、我がものとするかは、各受講者にゆだねる。

受講生に対する要望

本講義では、広範な領域におよぶ知的好奇心と、高度に抽象的な議論に耐えられる能力が要求される。

キーワード

(1)理論 (2)社会 (3)自己言及性 (4)複雑性 (5)システム

事前学習（予習）

なお、講義に際しては、毎回レジメを配布するほか、具体的な時事問題にも触れながら、各トピックスを扱っていく。レジメに目を通した上で参加し、終了後に配布された資料と併せて再読すること。

復習についての指示

前回の議論を、そのつど確認してそのつどの講義に臨んで欲しい。

授業計画

1. 科学の危機：イントロダクション
2. 科学の危機：概要
3. 主観／客観
4. 20世紀初頭の諸科学の危機とパラダイム転換
5. 自然科学における転換
6. 人文科学における転換
7. 社会科学における転換
8. 現代思想の境位
9. 小括
10. 古典的科学観
11. 近代の科学観と社会科学の成立
12. マルクスの科学観
13. ヴェーバーの科学観
14. 社会科学における客観性
15. 客観性問題：存在と当為
16. 規範科学と事実科学
17. 文献解題 1
18. 文献解題
19. 小括
20. 脱構築
21. コスモスと複雑性
22. 部分と全体
23. 客観性と客観化可能性
24. 規範と構造
25. 小括
26. 自己言及性
27. 脱－パラドクス化
28. 自己塑性的社会システム
29. 総括 1
30. 総括 2

教科書

土方 透 『法という現象』（ミネルヴァ書房）
テキストの他、プリントを配布する。

評価方法

(1)出席:30% (2)試験:40%:各ステップにおける受講者の理解状況を確認する意味で、何度か小テストとそのフォローを行う。(3)レポート:30%

議論が毎回積み上げられていくので、出席をすることがすべての評価の前提となる。

欧米文化学科

担当者：K. O. アンドスン

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

This course is designed to provide students with opportunities to learn the necessary academic vocabulary and intermediate to advance level English listening and speaking skills that will serve as the foundation for further preparatory work as they prepare to study abroad in a university environment.

2. 学びの意義と目標

The purpose of this course is to help students develop critical thinking and be able to formulate and discuss their views and ideas.

受講生に対する要望

Students should fully prepare and finish any homework or presentations before they are due and they are encouraged to consult with the teacher outside of class if they need help.

キーワード

(1)belonging to a group (2)gender roles (3)media and society (4)crime and criminals (5)cultural change

事前学習（予習）

Students should have homework done and be totally prepared for presentations and class discussions before the next class and should consult the teacher outside of class when they need help.

復習についての指示

Students should review what they have covered in class and take comments on their classwork under consideration in preparing for future classes.

授業計画

1. Course Introduction: TOEFL Listening: vocabulary building
2. word lists and learning strategies
3. focus on the family: marriage
4. focus on the family: marriage, cont.
5. focus on the family: home life
6. focus on the family: home life, continued
7. comparison of Japanese, American, etc., family life
8. groupthink: what is it?
9. groupthink: how does it affect family life?
10. groupthink: how does it affect family life?, continued
11. groupthink: how does it affect family life?, continued
12. cultural values: gender roles and education
13. cultural values: gender roles and education, cont.
14. cultural values: gender roles and education, cont.
15. cultural values: gender roles and education, cont.
16. midterm exam
17. gender issues in society: the world
18. gender issues in society: American society
19. gender issues in society: Japanese, etc. society
20. cultural change: why do cultures change?
21. cultural change: how do cultures change?
22. cultural change: is change positive or negative?
23. presentations
24. presentations
25. global issues: war and peace
26. global issues: war and peace
27. global issues: environmental concerns
28. global issues: environmental concerns, cont.
29. global issues: becoming "global citizens"
30. final exam

教科書

Kim Sanabria 『Academic Listening Encounters Life in Society Student Book』 (Cambridge University Press)

評価方法

(1)attendance:20% (2)class participation:15% (3)presentation:25% (4)two exams:40%

College Reading Skills

ENGL-A-402

担当者：D. バーガー

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

This is an introductory course in reading for academic purposes; in other words, students will learn reading skills they will need to be successful in a university or community college class in an English-speaking country. In order to read successfully, students must increase their vocabulary, so vocabulary building is one of the major focuses of the course. In addition, students will discuss and write about what they have read in order to learn to think more critically.

2. 学びの意義と目標

This course is particularly important for students who wish to study abroad. It goes together with the fall semester College Writing Skills course to help students learn two of the most important skills they will need to study abroad.

受講生に対する要望

Attending every class, doing homework on time, and participating actively in class are absolutely essential.

キーワード

(1)Reading (2)Academic purposes (3)Vocabulary (4)Study Abroad (5)College-level

事前学習（予習）

We will preview the material in class and follow up with regular homework.

復習についての指示

Quizzes and exams, as well as follow-up in class, will help students review what they have learned.

授業計画

1. Course introduction: Academic Reading Focus 1: Psychology
2. Pre-reading, reading strategies
3. Reading comprehension
4. Vocabulary learning
5. Review: Talking and writing about reading
6. Academic Reading Focus 2: Computers/Information Technology
7. Pre-reading, reading strategies
8. Reading comprehension
9. Vocabulary learning
10. Review: Talking and writing about reading
11. Academic Reading Focus 3: Sociology
12. Pre-reading, reading strategies
13. Reading comprehension
14. Vocabulary learning
15. Review: Talking and writing about reading
16. Academic Reading Focus 4: Geology
17. Pre-reading, reading strategies
18. Reading comprehension
19. Vocabulary learning
20. Review: Talking and writing about reading
21. Academic Reading Focus 5: Humanities
22. Pre-reading, reading strategies
23. Reading comprehension
24. Vocabulary learning
25. Review: Talking and writing about reading
26. Academic Reading Focus 6: Science
27. Pre-reading, reading strategies
28. Reading comprehension
29. Vocabulary learning
30. Review: Talking and writing about reading

教科書

Cheryl Benz 『College Reading Book 1 (256 pp) (Houghton Mifflin English for Academic Success)』 (センゲージ・ラーニング)

評価方法

- (1) Attendance:10%:出席状況 (2) Class participation:30%:授業での参加態度
(3) Homework:20%:宿題 (4) Quizzes:20%:小テスト (5) Final exam:20%:期末試験

担当者：K. O. アンダスン

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 内容: この授業では英語論文を書くために必要な技能を修得する。段落の組み立て方、文章のまとめ方、時間的順位、原因と結果、比較と対象などを論文中にどのように用いまとめ、立証的な論文を作成するかを学ぶ。また他人の文章、考えの盗用の危険性を強調し、MLA Handbook for Writers of Research Paper, Sixth Edition を用い研究方法、出典文献の使い方なども身につける。2. カリキュラム上の位置づけ: 海外で学ぶこと、英語論文を書くことを計画している学生対象。注) TOEFL換算スコア380点以上の学生対象3. 学びの意義と目標: 自身の考えをまとめ調査・研究し論理的な論文の書き方を学び、将来に役立てる。

2. 学びの意義と目標

The purpose of this class is to help student improve their writing skills through learning how to brainstorm and organize their ideas; better understand writing structure in English and practice writing on assigned themes; improve essays through self-editing, peer review and consultations with the teacher; and learning how to use and cite sources as specified by the MLA Handbook. The ultimate goal of this class is to raise students' writing ability enough to gain higher scores on tests of English needed for studying overseas.

受講生に対する要望

Students should always come prepared to class and should meet deadlines. They should be willing to work with other students in editing their own or other students' papers. They should also be willing to revise their papers as needed to improve their essays.

キーワード

(1)structure and organization (2)chronological order (3)process essays (4)cause and effect essays (5)comparison/contrast essays

事前学習（予習）

予習を必ず行い、宿題は必ず締め切り厳守で提出する。遅刻をせず毎回の授業への出席を心がける。

復習についての指示

Students should read the teachers' comments on their work carefully, understand them, and be able to discuss the ideas in their completed ideas.

授業計画

1. types of sentences
2. types of sentences, continued
3. types of sentences, continued
4. from paragraph to essay
5. from paragraph to essay, continued
6. from paragraph to essay, continued
7. chronological order: process essays
8. process essays, continued
9. process essays, continued
10. process essays, continued
11. process essays, continued
12. cause and effect essays
13. cause and effect essays, continued
14. cause and effect essays, continued
15. cause and effect essays, continued
16. cause and effect essays, continued
17. comparison/contrast essays
18. comparison/contrast essays continued
19. comparison/contrast essays, continued
20. comparison/contrast essays, continued
21. comparison/contrast essays, continued
22. paraphrase and summary
23. paraphrase and summary, continued
24. paraphrase and summary, continued
25. paraphrase and summary, continued
26. argumentative essays
27. argumentative essays, continued
28. argumentative essays, continued
29. argumentative essays, continued
30. review for the final exam

教科書

Alice Oshima and Ann Hogue 『Writing Academic English, Fourth Edition』 (Pearson/Longman 2006)

評価方法

(1)attendance:10% (2)homework:30% (3)quizzes :30% (4)final exam :30%

担当者：E. D. オズバーン

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

グローバル世界で活躍するための力：異文化に対する理解と共生の姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：英語選択科目、
中学校教諭一種免許：英語選択科目、
Japan Studies Program (JSP) 科目

講義概要

1. 内容

Content – This course introduces the fundamental principles of intercultural communication through the integration of concepts from the fields of social psychology, cultural anthropology, and communication theory. Particular emphasis is placed upon comparative culture, with the focus being upon Japan and America and the role that culture plays in the communication process between individuals from these two dynamic, yet very different, countries. 2. Role in the Curriculum ? The course is designed specifically for exchange students in the Japan Studies Program (JSP), but it is also available as an elective to regular students who are highly motivated.

2. 学びの意義と目標

Learning Objectives – The primary objectives are to familiarize students with the cultural influences on communication between Japanese and Americans and to apply the principles learned to the students' lives.

受講生に対する要望

Since the course is conducted entirely in English, a minimum TOEFL equivalency score of 380 (paper-based test) is a prerequisite for taking the class.

キーワード

(1)culture (2)intercultural (3)values (4)verbal & nonverbal communication (5)global community

事前学習（予習）

Students are expected to complete the weekly textbook reading assignments and be prepared to discuss the contents in each class.

復習についての指示

After each lecture, students should revise the notes taken in class and review them, committing to memory the key points.

授業計画

1. Course Introduction & Overview: What is culture?
2. Culture Variance: How do cultures differ?
3. Dimensions of Culture: Adler, Hofstede I
4. Dimensions of Culture: Adler, Hofstede II
5. Dimensions of Culture: Trompenaars & Hall
6. Dimensions of Culture: The GLOBE Study I
7. Dimensions of Culture: The GLOBE Study II
8. Cultural Values & Attitudes: Rokeach & Inglehart
9. Subcultures
10. Comparison of National Cultural Groups
11. Comparison of Japanese & American Culture I
12. Comparison of Japanese & American Culture II
13. Comparison of Japanese & American Culture III
14. MIDTERM EXAM
15. Culture & Perception
16. Culture & Language I
17. Culture & Language II
18. Cultural Code Words: Japanese I
19. Cultural Code Words: Japanese II
20. Intercultural Communication Theories
21. Cultural Differences in Communication
22. Culture & Nonverbal Communication I
23. Culture & Nonverbal Communication II
24. Cultural Biases
25. Culture Shock I
26. Culture Shock II
27. Intercultural Competence I
28. Intercultural Competence II/INTEGRATION PAPER DUE
29. Japanese & Americans Working Together
30. FINAL EXAM

教科書

Jandt, Fred E. 『An Introduction to Intercultural Communication (7th ed.)』 (SAGE Publications, Inc.)

評価方法

(1)attendance :15% (2)reading assignments :20% (3)term paper :35% (4)exams :30%

担当者：M. サベット

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：英語必修科目、
中学校教諭一種免許：英語必修科目

講義概要

1. 内容

This course focuses on writing and giving speech. Skills such as how to start and end a speech are taught. Students will be given many opportunities to give speeches in front of their classmates.

2. 学びの意義と目標

- (1) (全般) 聴衆の前でのスピーキング・スキルを上達させる。
- (2) (言語) 英語で自分の考えを表現できる能力を上達させる。
- (3) (文化) 英語と日本語におけるスピーキングの違いの理解を深める。

受講生に対する要望

Students should be able to give speeches in front of others, keeping in mind skills taught during the course.

キーワード

(1)public speaking (2)body language (3)intonation (4)content (5)ending

事前学習（予習）

Giving a speech requires preparation and students must write the main body of their speech before coming to class.

復習についての指示

Students are required to prepare for their speeches and come to class prepared.

授業計画

1. Class Introduction; Part I: The Physical Message
2. Class Introduction; Part I: The Physical Message
3. Informative Speech; Gestures
4. Informative Speech; Gestures
5. Speech #1
6. Layout Speech; Voice Inflection
7. Layout Speech; Voice Inflection
8. Demonstration Speech
9. Demonstration Speech
10. PartII: The Story Message; The Introduction
11. PartII: The Story Message; The Introduction
12. Speech #2
13. Persuasive Speech (Introduction)
14. Persuasive Speech (Introduction)
15. The Body; Transitions and Sequencers
16. The Body; Transitions and Sequencers
17. Persuasive Speech (Body)
18. Persuasive Speech (Body)
19. The Conclusion; Persuasive Speech
20. The Conclusion; Persuasive Speech
21. Speech #3
22. PartIII: The Visual Message
23. PartIII: The Visual Message
24. Making Visual Aids; Explaining Visual Aids
25. Making Visual Aids; Explaining Visual Aids
26. Part IV: Preparation for full presentation
27. Part IV: Preparation for full presentation
28. Part IV: Preparation for full presentation
29. Part IV: Preparation for full presentation
30. Final Speech

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)attendance:20% (2)mini speeches:60% (3)final speech:20%

Speech & Debate B

ENGL-A-302

担当者：M. サベット

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：英語必修科目、
中学校教諭一種免許：英語必修科目

講義概要

1. 内容

Speech & Debate B focuses on debating skills in English. Students start with simple debates and then slowly move to more difficult topics.

2. 学びの意義と目標

The goals of the course are: Speech and Debate Bは、英語のディベート・スキルに重きを置く。このコースの目標:1. (general) to improve general debating skills; that is, effectively arguing for or against a proposition;2. (language) to improve your ability to express your opinions in English;3. (culture) to gain a better understanding of the importance of the exchange of ideas and opinions in a free society. 1. (全般) 効果的な議論および主張への反論をするためのディベート・スキルを上達させる。2. (言語) 英語で自分の意見を主張できる能力を上達させる。3. (文化) 自由社会において自分の考えおよび見解を意見交換することが、いかに重要であるかという理解を深める。

受講生に対する要望

Students should be able to express their opinions clearly.

キーワード

(1)Debate (2)Data (3)Research (4)Discussion (5)Opinion

事前学習（予習）

Students are required to do research and collect data before each debate. Must work as a team and contribute to their group.

復習についての指示

Students must search for data and information in order to be ready for next debate.

授業計画

1. Class Introduction: opinions
2. Class Introduction: opinions
3. Agreeing and Disagreeing
4. Agreeing and Disagreeing
5. Explaining Your Opinion
6. Explaining Your Opinion
7. Preparation for debate #1
8. Debate #1
9. Supporting Your Opinion
10. Supporting Your Opinion
11. Organizing Your Opinion
12. Organizing Your Opinion
13. The “1AC”
14. Preparation for debate #2
15. Debate #2
16. Refuting Explanations
17. Refuting Explanations
18. Tennis Debate
19. Tennis Debate
20. Challenging Supports
21. Preparation for Debate #3
22. Debate #3
23. Organizing Your Refutation: the “1NC”
24. Organizing Your Refutation: the “1NC”
25. Debating an Opinion: Rebuttal Speeches
26. Debating an Opinion: Rebuttal Speeches
27. Preparation for formal debate during test week
28. Preparation for formal debate during test week
29. Preparation for formal debate during test week
30. Final Debate

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)Attendance:20% (2)Participation:40% (3)Preparation:20%
(4)Final Debate:20%

担当者：中村 香代子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

TOEFL Testの対策講座です。大変難易度の高いiBT Test受験に向け、ITP形式問題の練習から始めて徐々に力をつけていきます。中でも分量の多いReading・Listeningセクションに重点を置き、正確に解答するための練習を重ねながら、iBTのWritingにも対応できる確かな文法力習得を目指します。また多岐に亘るアカデミック英語を理解するため、語彙力を伸ばす訓練も試みます。

2. 学びの意義と目標

高難度のTOEFL iBTの導入として短めのListeningやReading演習を繰り返し、クラス終了時にはTOEFL ITPで高得点を得られるだけのスピードと内容理解力アップを目指します。また総合的な英語力向上も目指します。

受講生に対する要望

授業で集中して問題に取り組む姿勢と毎回の復習が必要です。

キーワード

(1) TOEFL Test (2) ITP & iBT (3) 学術分野語彙 (4) リスニング演習 (5) リーディング演習

事前学習（予習）

文法演習に備えて今までの知識を再確認し、よくわかっていない点などを授業で質問できるよう整理しておくこと。

復習についての指示

語彙の復習を毎回きちんとすること。また授業中に行った演習問題中の知らない語彙や表現も拾い出して整理、復習すること。文法プリントは授業後すぐに復習し、不明な点をなくしておくように。

授業計画

1. オリエンテーション、Placement Test
2. Voc. 1 - Listening、5文型、Reading 1
3. Voc. 1 - Reading、他動詞と自動詞、Listening 1
4. Voc. 2 - Listening、知覚・使役動詞、Reading 2
5. Voc. 2 - Reading、時制、Listening 2
6. Voc. 3 - Listening、時制、Reading 3
7. Voc. 3 - Reading、受動態・能動態、Listening 3
8. Voc. 4 - Listening、不定詞・動名詞・分詞、Reading 4
9. Voc. 4 - Reading、不定詞・動名詞・分詞、Listening 4
10. Voc. 5 - Listening、助動詞、Writing 1
11. TOEFL ITP 模試1回、答え合わせと解説
12. Voc. 5 - Reading、助動詞、Reading 5
13. Voc. 6 - Listening、不定詞、Listening 5
14. Voc. 6 - Reading、iBT Reading 問題に挑戦
15. iBT Listening & Reading 問題に挑戦
16. Voc. 7 - Listening、不定詞、Listening 6
17. Voc. 7 - Reading、動名詞、Reading 6
18. TOEFL ITP 模試2回、答え合わせと解説
19. Voc. 8 - Listening、動名詞、Listening 7
20. Voc. 8 - Reading、分詞、Reading 7
21. Voc. 9 - Listening、分詞、Listening 8
22. Voc. 9 - Reading、分詞、Reading 8
23. Voc. 10 - Listening、名詞、Listening 9
24. Voc. 10 - Reading、名詞、Reading 9
25. Voc. 11 - Listening、代名詞、Listening 10
26. Voc. 11 - Reading、代名詞、Reading 10
27. Voc. 12 - Listening、Speaking
28. Writing 2
29. Voc. 12 - Reading、iBT Reading 問題に挑戦
30. 今学期のまとめと確認

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1) 授業参加：20% (2) 単語テスト：40% (3) 定期試験：40%

担当者：中村 香代子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

TOEFL iBT Testの対策講座です。難易度が高い iBT Testで少しでも得点を伸ばすために、Listening・Reading・Speaking・Writingの各分野の特徴をつかみ、中でも分量の多いReading・Listeningセクションに重点を置き、正確に解答するための練習を重ねます。また多岐に亘るアカデミック英語を理解するため、語彙力を伸ばす訓練も試みます。

2. 学びの意義と目標

最終目標として難易度の高いTOEFL iBT に対応できるスピードと内容理解力を目指します。また総合的な英語力向上も目指します。

受講生に対する要望

TOEFL iBTのListening、Reading問題は確かにかなり難しく分量も多いですが、丁寧に解説しますので一緒に頑張っていきましょう！またSpeakingとWritingの授業では、間違いを恐れず積極的に取り組みましょう。

キーワード

(1) TOEFL iBT (2) 学術分野語彙 (3) リスニング演習 (4) リーディング演習 (5) ライティング演習

事前学習（予習）

毎回取り組むpassage writingの課題をあらかじめ考えて書いてみる。

復習についての指示

語彙の復習を毎回きちんとすること。また授業中に行った演習問題中の知らない語彙や表現も拾い出して整理、復習すること。

授業計画

1. オリエンテーション、Placement Test
2. Voc. 1 - Listening、Passage Writing、Reading 1
3. Voc. 1 - Reading、Passage Writing、Listening 1 & 2
4. Voc. 3 - Listening、Passage Writing、Reading 2
5. Voc. 3 - Reading、Passage Writing、Listening 3 & 4
6. TOEFL iBT ①模試、答え合わせと解説
7. Voc. 5 - Listening、Passage Writing、Reading 3
8. Voc. 5 - Reading、Passage Writing、Listening 5 & 6
9. Voc. 6 - Listening、Passage Writing、Reading 4
10. Voc. 6 - Reading、Passage Writing、Listening 7
11. Voc. 7 - Listening、Passage Writing、Writing
12. Voc. 7 - Reading、TOEFL iBT ②模試、答え合わせと解説
13. Voc. 9 - Listening、Passage Writing、Reading 5
14. Voc. 9 - Reading、Passage Writing、Listening 8
15. 単語テスト、Reading 演習問題
16. Voc. 11 - Listening、Passage Writing、Listening 9
17. Voc. 11 - Reading、Passage Writing、Reading 6
18. TOEFL iBT ③模試、答え合わせと解説
19. Voc. 14 - Listening、Passage Writing、Listening 10
20. Voc. 14 - Reading、Passage Writing、Reading 7
21. Voc. 18 - Listening、Passage Writing、Listening 11
22. Voc. 18 - Reading、Passage Writing、Reading 8
23. Voc. 19 - Listening、Passage Writing、Listening 12
24. Voc. 19 - Reading、Passage Writing、Reading 9
25. Voc. 20 - Listening、Passage Writing、Listening 13
26. TOEFL iBT ④模試、答え合わせと解説
27. Voc. 20 - Reading、Passage Writing、Reading 10
28. Voc. 29 - Listening、Passage Writing、Listening 14
29. Voc. 29 - Reading、Passage Writing、Speaking
30. 今学期のまとめと確認

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1) 授業参加：20% (2) 練習模試結果：30% (3) 定期試験：50%

TOEIC (初級) A

ENGL-A-101

担当者：中村 香代子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

TOEICテストに初めて挑戦する人や400～500点を目指したい人を対象とするクラスです。TOEICテストの形式や各パートの解答のコツを学ぶのはもちろんですが、項目別の文法復習や頻出単語学習を丁寧に行いながら、リスニング・リーディング演習も重ねていきます。

2. 学びの意義と目標

TOEICテストの傾向と分量に慣れ、スピーディに解答できるよう練習してゆきます。また将来仕事にも使える全般的な英語力を育成するため、語彙力、文法力、読解力の向上も図ります。

受講生に対する要望

丁寧に少しずつ進めてゆきますので、文法練習や長文速読に苦手意識のある人も諦めずに最後まで一緒に頑張りましょう。予習復習をコツコツやり通せば、きっとTOEICのスコアアップにつながります。また受講者には積極的にTOEIC-IPを受験していただきたいと思います。

キーワード

(1)TOEIC (2)文法力向上 (3)単語力増強 (4)リスニング演習 (5)リーディング演習

事前学習（予習）

単語や文法の宿題をきちんとやっておくこと。

復習についての指示

授業で終わった単語と、教科書に出てきた知らない語彙や表現を復習しておくこと。また文法問題を復習して十分理解できていない所を見つけ出し、次回の授業で質問できるよう準備しておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション ・ TOEICテストとは？
2. Unit 1 Listening、 5文型・動詞の種類
3. Unit 1 Reading、 5文型・動詞の種類
4. Unit 2 Listening、 名詞・代名詞
5. Unit 2 Reading、 名詞・代名詞
6. Unit 3 Listening、 形容詞・副詞・比較
7. Unit 3 Reading、 形容詞・副詞・比較
8. Unit 4 Listening、 前置詞
9. Unit 4 Reading、 前置詞
10. Unit 5 Listening、 接続詞
11. Unit 5 Reading、 接続詞
12. Unit 6 Listening、 不定詞・動名詞
13. Unit 6 Reading、 不定詞・動名詞
14. TOEIC Half Test ・ 答え合わせと解説
15. 単語復習、いままでの復習試験と解説
16. Unit 7 Listening、 時制
17. Unit 7 Reading、 時制
18. Unit 8 Listening、 助動詞
19. Unit 8 Reading、 助動詞
20. Unit 9 Listening、 分詞・分詞構文
21. Unit 9 Reading、 分詞・分詞構文
22. Unit 10 Listening、 関係詞
23. Unit 10 Reading、 関係詞
24. Unit 11 Listening、 関係詞
25. Unit 11 Reading、 仮定法
26. Unit 12 Listening、 仮定法
27. Unit 12 Reading、 Double Passages
28. TOEIC 模試 (Part 1 - Part 5) と解説
29. TOEIC 模試 (Part 6 - Part 7) と解説
30. 今学期のまとめと確認

教科書

大賀 リエ, Terry L. Browning, Ann N. Greason, William J. Benfield 『TOEICテスト:オン・ターゲット〈Book1〉』 (南雲堂)

評価方法

(1)出席・授業参加:20% (2)単語テスト:40% (3)定期試験:40%

担当者：櫻井 智美

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

TOEICとはTest of English for International Communicationの略称で、ビジネスシーンで必要とされる英語運用能力を証明するために利用されることが多い。TOEICには興味があるが、どう勉強を始めたらいいいのかわからない学生や、英語の基礎をもう一度初めから学習したい学生を対象とする。TOEICを受験するために必要な知識と共に、基本的な文法や単語を中心に学習する。また、TOEICの学習と共に、基礎的な英会話能力の向上も目指す。

2. 学びの意義と目標

1. TOEICの出題形式と内容を知ること。2. 基本的な文法問題を7割正解すること。3. 単語を毎回10個覚えること。

受講生に対する要望

1. 授業に出席・参加すること。2. 単語クイズのための自主学習をすること。3. 中間試験や期末試験は時間をかけて準備すること。4. TOEIC-IPを受験すること。

キーワード

事前学習（予習）

授業で次の予告をするので、予告された部分に目を通すこと。

復習についての指示

毎回単語のクイズを行うので、授業で学んだ単語や熟語を復習すること。

授業計画

1. オリエンテーション・模擬テスト
2. S V 文型
3. S V C 文型
4. S V O 文型
5. 形容詞と副詞
6. S V O O 文型
7. S V O C 文型
8. 主語と動詞
9. 名詞と代名詞
10. 否定文と疑問文
11. 過去形
12. 冠詞と名詞
13. 進行形
14. 復習・試験対策
15. 中間試験
16. 試験の解説・復習
17. 未来の表現
18. 助動詞
19. 疑問視を使った疑問文
20. 前置詞と名詞
21. 不定詞
22. 動名詞と不定詞
23. 接続詞
24. 比較級と最上級
25. 比較のいろいろ
26. 受け身の表現
27. 重要表現いろいろ
28. 完了と結果
29. 試験対策・復習
30. 期末試験

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 授業への出席・参加:30% (2) 単語クイズ:30% (3) 中間試験:20%
(4) 期末試験:20%

担当者：中村 香代子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

TOEICテストはリスニング4パート・リーディング3パートからなり、正確な英語知識と素早い判断力が要求されますが、パターンに習熟し、不得意分野を訓練することで得点アップが可能です。この授業では文法力と語彙力を高めながら、実際のTOEICテストで得点を伸ばすための練習を重ねて行きます。またテストに出やすい語彙を含んだリスニング・リーディング練習にも多く挑戦します。

2. 学びの意義と目標

TOEICテストの特徴をつかみ、点数向上を目指します。またテスト準備にとどまらず、将来に役立つ実践的で総合的なリスニング・リーディング力の習得も目指します。

受講生に対する要望

TOEICテストは表面的なコツだけでは太刀打ちできません。根気強く集中して授業内容に取り組める受講者を望みます。また受講生には積極的にTOEIC-IPを受験していただきたいと思います。

キーワード

(1)TOEIC (2)文法力向上 (3)単語力増強 (4)リスニング演習 (5)リーディング演習

事前学習（予習）

単語プリント・文法問題プリントを見直し、勉強しておくこと。また復習してもわからなかった所を見つけ出し、次回の授業で質問できるよう整理しておくこと。

復習についての指示

授業で学習した文法問題をきちんと復習し、解き方を理解する。単語プリントのみでなく、演習問題中の知らなかった単語や熟語を整理して習得する。

授業計画

1. オリエンテーション、TOEIC Mini Test と解説
2. 5文型・動詞 説明、Chap 1 Listening、単語、Part 1 練習
3. 5文型・動詞 演習、Chap 1 Reading、単語、Part 7 練習
4. 5文型・動詞 演習、Chap 2 Listening、単語、Part 1 練習
5. 5文型・動詞 演習、Chap 2 Reading、単語、Part 7 練習
6. 名詞・代名詞 説明、Chap 3 Listening、単語、Part 6 練習
7. 名詞・代名詞 演習、Chap 3 Reading、単語、Part 7 練習
8. 名詞・代名詞 演習、Chap 4 Listening、単語、Part 1 練習
9. 名詞・代名詞 演習、Chap 4 Reading、単語、Part 7 練習
10. 接続詞・前置詞 説明、Chap 5 Listening、単語、Part 6 練習
11. 接続詞・前置詞 演習、Chap 5 Reading、単語、Part 7 練習
12. 接続詞・前置詞 演習、Chap 6 Listening、単語、Part 2 練習
13. 接続詞・前置詞 演習、Chap 6 Reading、単語、Part 7 練習
14. Total Strategy Half Test、答え合わせと解説
15. 単語復習、いままでの復習試験と解説
16. 不定詞・動名詞 説明、Chap 7 Listening、単語、Part 2 練習
17. 不定詞・動名詞 演習、Chap 7 Reading、単語、Part 7 練習
18. 不定詞・動名詞 演習、Chap 8 Listening、単語、Part 2 練習
19. 不定詞・動名詞 演習、Chap 8 Reading、単語、Part 7 練習
20. 分詞・分詞構文 説明、Chap 9 Listening、単語、Part 3 練習
21. 分詞・分詞構文 演習、Chap 9 Reading、単語、Part 7 練習
22. 分詞・分詞構文 演習、Chap 10 Listening、単語、Part 3 練習
23. 分詞・分詞構文 演習、Chap 10 Reading、単語、Part 5 練習
24. 受動態 説明と演習、Chap 11 Listening、単語、Part 7 練習
25. 英作文演習①、Chap 11 Reading、単語、Part 3 練習
26. 英作文演習②、Chap 12、単語、Part 3 練習
27. Double Passage 演習、Chap 13
28. TOEIC 模試 (Part 1 - Part 5) と解説
29. TOEIC 模試 (Part 6 -Part 7) と解説
30. 今学期のまとめと確認

教科書

石井隆之、山口修、馬渡秀孝、松村優子、Thomas Koch 『Total Strategy for the TOEIC Test』 (成美堂)

評価方法

(1)出席・授業態度:20% (2)単語テスト:40% (3)定期試験:40%

担当者：中村 香代子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

TOEICテストはリスニング4パート・リーディング3パートからなり、正確な英語知識と素早い判断力が要求されますが、パターンに習熟し不得意分野を訓練することで得点アップが可能です。この授業では文法力と語彙力を高めながら、実際のTOEICテストで得点を伸ばすための練習を重ねて行きます。またテストに出やすい語彙を含んだリスニング・リーディング練習にも多く挑戦します。

2. 学びの意義と目標

TOEICテストの特徴をつかみ、点数向上を目指します。またテスト準備にとどまらず、将来に役立つ実践的で総合的なリスニング・リーディング力の習得も目指します。

受講生に対する要望

TOEICテストは表面的なコツだけでは太刀打ちできません。根気強く集中して授業内容に取り組める受講者を望みます。また受講者には積極的にTOEIC-IPを受験していただきたいと思います。

キーワード

(1)TOEIC (2)文法力向上 (3)単語力増強 (4)リスニング演習 (5)リーディング演習

事前学習（予習）

単語プリント・文法問題プリントを見直し、勉強しておくこと。また復習してもわからなかった所を見つけ出し、次回の授業で質問できるよう整理しておくこと。

復習についての指示

授業で学習した文法問題をきちんと復習し、解き方を理解する。単語プリントのみでなく、演習問題中の知らなかった単語や熟語を整理して習得する。

授業計画

1. オリエンテーション、TOEIC 1/4 Test と解説
2. 形容詞・副詞 説明、Chap 1 Listening、単語、Part 4 練習
3. 形容詞・副詞 演習、Chap 1 Reading、単語、Part 7 練習
4. 形容詞・副詞 演習、Chap 2 Listening、単語、Part 4 練習
5. 形容詞・副詞 演習、Chap 2 Reading、単語、Part 7 練習
6. 時制・助動詞 説明、Chap 3 Listening、単語、Part 6 練習
7. 時制・助動詞 演習、Chap 3 Reading、単語、Part 7 練習
8. 時制・助動詞 演習、Chap 4 Listening、単語、Part 4 練習
9. 時制・助動詞 演習、Chap 4 Reading、単語、Part 7 練習
10. 関係詞 説明、Chap 5 Listening、単語、Part 6 練習
11. 関係詞 演習、Chap 5 Reading、単語、Part 7 練習
12. 関係詞 演習、Chap 6 Listening、単語、Part 5 練習
13. 関係詞 演習、Chap 6 Reading、単語、Part 7 練習
14. Complete Tactics Half Test、答え合わせと解説
15. 単語復習、いままでの復習試験と解説
16. 仮定法 説明、Chap 7 Listening、単語、Part 5 練習
17. 仮定法 演習、Chap 7 Reading、単語、Part 7 練習
18. 仮定法 演習、Chap 8 Listening、単語、Part 5 練習
19. 仮定法 演習、Chap 8 Reading、単語、Part 7 練習
20. 疑問詞 説明と演習、Chap 9 Listening、単語、Part 6 練習
21. 文法重要項目演習、Chap 9 Reading、単語、Part 7 練習
22. 文法重要項目演習、Chap 10 Listening、単語、Part 6 練習
23. 文法重要項目演習、Chap 10 Reading、単語、Part 7 練習
24. 英作文演習①、Chap 11 Listening、単語、Part 6 練習
25. 英作文演習②、Chap 11 Reading、単語、Part 7 練習
26. 英作文演習③、Chap 12、単語
27. Double Passage 演習、Chap 13
28. TOEIC 模試 (Part 1 - Part 5) と解説
29. TOEIC 模試 (Part 6 - Part 7) と解説
30. 今学期のまとめと確認

教科書

石井隆之、山口修、馬渡秀孝、John Eidswick、Thomas Koch 『Complete Tactics for the TOEIC Test』 (成美堂)

評価方法

(1)出席・授業態度:20% (2)単語テスト:40% (3)定期試験:40%

アメリカ社会の形成

AMER-A-201

担当者：柴田 史子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

現代世界により意味でも悪い意味でも大きな影響力を及ぼしているアメリカ合衆国の歴史を学んでいく。政治史や偉人の物語だけでなく、社会、経済、外交を視野に入れることで、多角的なアメリカ理解を目指す。

2. 学びの意義と目標

様々な視点から書かれた資料を読み解き、分析する洞察力をつけることによって、グローバル世界で自分なりの考えを持って活躍できる力をつける。

受講生に対する要望

毎回テキストを持参すること。

キーワード

(1) アメリカ (2) 歴史 (3) 多文化 (4) マイノリティ (5) 民主主義

事前学習（予習）

テキストを読んでくること

復習についての指示

講義ノートの整理をすること授業中に紹介された書籍、映像その他の資料に当たること

授業計画

1. はじめに
2. 歴史とは何か
3. 「新世界」の国アメリカ
4. 大航海時代
5. 「アメリカ」の誕生
6. イギリス領北アメリカの発展
7. アメリカ革命
8. 連邦共和国の形成
9. 西部の発展
10. 北部と南部
11. 南北戦争
12. 西部開発と先住民の運命
13. 移民の国アメリカ（1）
14. 移民の国アメリカ（2）
15. 産業社会の形成
16. 都市化と都市文化の開花
17. 中間テスト
18. 資本主義社会の改革と福祉国家の形成
19. アメリカ外交の伝統
20. 戦争と平和—第一次世界大戦
21. 黄金の20年代
22. 1930年代
23. 第二次世界大戦
24. 第二次世界大戦後の世界
25. 冷戦時代のアメリカ
26. 1960年代
27. 差別廃止の成果と限界
28. あらたな保守主義の台頭
29. グローバル化の進展と覇権国アメリカの盛衰
30. まとめ

教科書

有賀貞 『ヒストリカルガイドUSAアメリカ』（山川出版社）

評価方法

- (1) 平常点:30%:出席状況と提出物で判断する (2) 中間テスト:30%
(3) 期末テスト:40%

イスラム文化と近代社会

HIST-A-302

担当者：赤坂 恒明

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

グローバル世界で活躍するための力：異文化に対する理解と共生の姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

「ヨーロッパにおけるイスラム文化」を主題として、異文化接触に関する諸問題について考察します。まず、イスラム教についての基礎知識を確認した上で、歴史的に見たキリスト教文化とイスラム文化との接触によって生じた相互関係について、近代ヨーロッパ文明に少なからぬ影響を与えた中世の地中海地域、および、現在に至るまでイスラムの影響が強い旧ソ連の諸地域、バルカン半島に焦点をあてて個別に論じます。次に、現代の西欧におけるイスラム諸問題を概観します。そして、最後に、近現代ヨーロッパにおける対イスラム認識として「オリエンタリズム」を取り上げる予定です。なお、本講義では、時事的な問題をも積極的に取りあげる予定ですので、授業計画は国際状況の変化等により若干変更されることもあります。この授業のカリキュラム上の位置づけは、他宗教・異文化に対する理解を深める、やや専門的な側面もある講義です。教養を高めるために宗教・民族文化・歴史等を学ぼうとする学生にも適しています。

2. 学びの意義と目標

ヨーロッパ文化に与えたイスラム文化の重要性と、キリスト教文化とは異なるヨーロッパの地域文化の存在について理解を深め、他宗教・異文化に関する国際的な視野を持つこと。

受講生に対する要望

多くの受講者には、なじみの薄い分野の講義となると思われますので、特に、授業への積極的な参加が望まれます。

キーワード

(1)宗教 (2)文化 (3)イスラム教 (4)民族問題 (5)オリエンタリズム

事前学習（予習）

講義中に指示した内容を、資料・参考文献等によって確認してください。

復習についての指示

復習では、授業中に指示された地理や年代等を確認するようにしてください。

授業計画

1. 序
2. イスラム教についての基礎知識
3. イスラム文化が中世ヨーロッパ文化に与えた影響についての概観
4. シチリア王国(1) ルッジェーロII世と地理学者イドリースー
5. シチリア王国(2) フリードリヒII世
6. ロシアにおけるイスラム(1) ヴォルガ=ウラル地方
7. ロシアにおけるイスラム(2) 北コーカサス
8. 南コーカサスにおけるイスラム (1) アゼルバイジャン
9. 南コーカサスにおけるイスラム (2) アルメニア問題
10. バルカン半島におけるイスラム(1) 小説「ドリナの橋」をめぐって
11. バルカン半島におけるイスラム(2) 旧ユーゴスラヴィアのイスラム教徒
12. 現代西欧におけるイスラム諸問題(1) 労働者移民の移住
13. 現代西欧におけるイスラム諸問題(2) 移住者の定着と社会問題
14. 「オリエンタリズム」の虚実
15. まとめ

教科書

プリントを配布する
授業に世界地図帳と世界史資料集（高校で用いたものでよい）を持参してください。参考文献等は講義中に紹介します。

評価方法

(1)出席点:10% (2)平常点:20% (3)試験（小テストを含む）:70%

イスラム文化の形成

HIST-A-201

担当者：赤坂 恒明

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

グローバル世界で活躍するための力：異文化に対する理解と共生の姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義では、まず、イスラーム教に関する基礎を、キリスト教・ユダヤ教と比較しつつ明らかにします。また、イスラーム教徒の生活の規範となっている「イスラーム法」についても具体的な事例を紹介します。次に、古代ギリシア・インド・中国・エジプトなどの諸文化の要素を摂取・融合して形成・発展したイスラーム文化の諸相を取り上げ、イスラーム文化が近代以前のヨーロッパ文化に与えた影響の世界史的意義について論じます。なお、本講義では、「忘れられたキリスト教」とも呼ばれる東方キリスト教諸派についても概観します。なぜなら、例えばネストリウス派キリスト教徒がイスラーム文化の成立に重要な役割を果たしたことから明らかなように、東方キリスト教諸派はイスラームと密接な関係を持っているからです。本授業のカリキュラム上の位置づけは、概説で、入門的な講義です。イスラーム教に関する基礎知識を身につけ、他宗教・異文化に対する関心を養う基礎的な講義です。

2. 学びの意義と目標

世界史上におけるイスラーム文化の重要性についての認識を深めることができるようになること。イスラーム教に関する最低限の基礎を説明できるようになること。

受講生に対する要望

多くの受講者には、なじみの薄い分野の講義となると思われますので、特に、授業への積極的な参加が望まれます。

キーワード

(1)宗教 (2)文化 (3)文明 (4)歴史 (5)イスラム

事前学習（予習）

講義中に指示した内容を、資料・参考文献等によって確認してください。

復習についての指示

復習では、授業中に指示された地理や年代等を確認するようにしてください。

授業計画

1. 序
2. 六信(1) 神、天使、預言者
3. 六信(2) 啓典、来世、天命
4. 五行
5. イスラーム法
6. ムハンマド（マホメット）とイスラーム教の成立
7. ムハンマド死後のイスラーム教の発展
8. スンナ派とシーア派
9. 東方キリスト教諸派の概観
10. イスラーム以前の西アジアにおける学術
11. アッバース朝期におけるイスラーム文明の発展
12. イスラーム哲学と新プラトン主義ギリシア哲学
13. イスラーム世界における実用的学問の展開
14. 中世ヨーロッパへの影響
15. まとめ

教科書

プリントを配布する
授業に世界地図帳と世界史資料集（高校で用いたものでよい）を持参してください。参考文献等は講義中に紹介します。

評価方法

(1)出席点:10% (2)平常点:20% (3)試験（小テストを含む）:70%

異文化間コミュニケーション

CMPC-A-301

担当者：小松崎 利明

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

グローバル世界で活躍するための力：異文化に対する理解と共生の姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：英語選択科目、
中学校教諭一種免許：英語選択科目、
日本語教員養成課程：選択必修科目

講義概要

1. 内容

世界中の人々との出会いは、異なる文化との接触でもあります。文化的背景が異なる他者との接触は、その文化に対する無知から、他者との間に誤解や偏見が生まれたり、衝突が起きたり、ときには国と国との関係における摩擦さえ生み出すこともあります。さらに「同じ文化」に属しているはずの他者とのかわりにおいても、同じことが言えます。一方、われわれが日常行っているコミュニケーションのあり方が変わることによって、人々の一般的な行動様式や思考態度に影響がおよび、その集団や社会が共有している「文化」が変容することもあります。この講義では、「文化」や「コミュニケーション」について多面的に学び、そこから、現代社会において文化がわれわれのコミュニケーションをどのように規定しているのか、また逆に、われわれのコミュニケーションのあり方によってどのような文化が生み出されているのかということについて、アクティブラーニングの要素を取り入れつつ考えることを目的とします。

2. 学びの意義と目標

文化について学び、考えることにより、学生一人ひとりが様々な文化的背景をもつ人々との出会いにおいて、より深い他者理解・他者との交流ができるようになることを目指します。

受講生に対する要望

この授業では、「外国についての知識を増やす」ことではなく、むしろ自分が持っている知識や常識を疑う姿勢が求められます。

キーワード

(3) 期末レポート:40% (1) 文化 (2) コミュニケーション (3) 社会
(4) 解釈 (5) メディア

事前学習（予習）

配布資料を読んでおく。

復習についての指示

期末レポート作成の準備として、授業内容をまとめ、ノートを作っておく。

授業計画

1. イントロダクション
2. グローバリゼーション
3. 文化の定義とその諸相
4. 文化と権力
5. コミュニケーション
6. コミュニケーション能力
7. 映像を通じた旅（1）
8. ことばと世界
9. 英語帝国主義
10. 国語と多言語主義
11. 沈黙
12. 身体
13. 映像を通じた旅（2）
14. ステレオタイプ
15. 中間テスト
16. 中間テストの返却と解説（前半のまとめ）
17. 時
18. 記憶と忘却
19. 空間と境界
20. 映像を通じた旅（3）
21. 都市化と管理社会
22. カルチャーショック
23. 異文化接触と解釈
24. 状況と対立
25. アイデンティティと他者
26. 映像を通じた旅（4）
27. メディア
28. 芸術
29. 博物館、戦争、記憶
30. 経済、食、環境、エネルギー

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 平常点:30%:授業への積極的参加とコメントシートの提出 (2) 中間テスト:30% (3) 期末レポート:40%

異文化間コミュニケーション（経営）

CMPC-A-301

担当者：八木 規子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

グローバル世界で活躍するための力：異文化に対する理解と共生の姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：英語選択科目、
中学校教諭一種免許：英語選択科目、
日本語教員養成課程：選択必修科目

講義概要

1. 内容

本科目は、経営学的見地からの異文化間コミュニケーション論として、異なる文化背景を持つ人々がともに働く状況を背景として意識しながら、異文化間コミュニケーションを学ぶこととする。異なる文化背景を持つ人々の接触を、衝突や障害としてではなく、豊かな実りある建設的な結果につなげるためには、どのような知識、スキル、態度が必要か、ロール・プレイ、シュミレーション、ケーススタディなど手法を通じて、体験的に学ぶ。

2. 学びの意義と目標

文化、ことに異文化という言葉は、往々にして国民文化の違いを想起させる。しかしながら、文化の違いは、国の境界線の内外にあるばかりでなく、国のなかにも異文化は存在するし、また国の境界線と文化の境界線が重なり合うとも限らない。ところが、日本という国家、文化、言語の重なり合いが強い場に生きる日本人は、こうした文化の境界線の多様性を直感的に理解することが、とても難しい。異文化間コミュニケーションを学ぶことは、異文化が日本の外に存在するだけでなく、この社会のなかにも存在し、我々は多文化社会を生きている、という感受性を高めることに寄与する。そして、多文化社会に生きる感受性を高めることは、国内外を問わず、異なる文化背景から来るひとびとの協同作業を美りの高い建設的なものとする能力向上の前提条件である。体験的学習手法を通じて、学生がこのような建設的な異文化接触の可能性を実感することを目標とする。

受講生に対する要望

異文化間コミュニケーションとは、他者の視点から自分自身を見つめなおすことでもある。それには、自分が快適で居られる領域から一歩踏み出して、未体験の領域に足を踏み入れる必要がある。この科目の受講を通して、学生がそのような勇氣を持つことを期待する。

キーワード

(1)文化 (2)多様性 (3)コミュニケーション (4)相互理解

事前学習（予習）

配布資料等、授業の該当箇所を読み込んでおき、クラス討論に参加できる準備をする。資料は、E-learningシステムにアップロードするので、システムの使い方に習熟すること。

復習についての指示

期末試験に向けたノート整理をしておく。配布資料、授業中で議論したケースの内容（他の学生の発言等）を振り返っておくこと。

授業計画

1. 本科目の進め方について。異文化間コミュニケーションとは何か
2. 文化を生成し伝播する主体としての自己：わたしとは誰か？
3. 文化とはなにか？定性的アプローチ
4. 文化とはなにか？定量的アプローチ
5. 異文化の諸側面：時間と空間
6. 異文化の諸側面：コミュニケーションと意識構造
7. 異文化の諸側面：言語
8. 異文化の諸側面：非言語メッセージ
9. 異文化と経営：企業戦略と企業の異文化対応指向
10. 異文化と経営：交渉
11. シュミレーション：AI社とBigg社
12. 異文化インテリジェンス概論
13. 異文化インテリジェンス：戦略的思考の側面
14. 異文化インテリジェンス：意欲・動機の側面
15. 異文化インテリジェンス：行動の側面
16. シュミレーション：バルーンバ文化を探れ
17. 異文化と経営：リーダーシップ
18. 異文化と経営：意思決定
19. 異文化と経営：多文化チーム
20. 異文化と経営：海外赴任
21. 異文化と経営：本国復帰
22. ケース分析：グローバルリーダー
23. 異文化聴衆に対するプレゼンテーション
24. 文化と政治：世界はグローバル化するのか
25. 文化と政治：日本と多文化主義
26. 複数文化アイデンティティから成る自己モデル
27. マイノリティ経験プロジェクト発表【要出席】－1
28. マイノリティ経験プロジェクト発表【要出席】－2
29. まとめ
30. 期末試験

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業出席・参加点:20% (2)ケース分析:20%:中間試験として (3)マイノリティ経験プロジェクト:30%:提案書5%、発表25% (4)期末試験:30%

異文化理解

CMPC-A-201

担当者：稲田 敦子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

グローバル世界で活躍するための力：異文化に対する理解と共生の姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：英語必修科目、
中学校教諭一種免許：英語必修科目、
日本語教員養成課程：選択必修科目

講義概要

1. 内容

私たちにとってはあたりまえであり、とくに何の疑問もいかなかったことがらが、他の文化圏の人びとにおいては、非常な驚きであるということがある。このクラスでは、比較文化の手法を用いながら、文化の枠組みと人間の行動・深層心理との関係性を具体的事例をとりあげながら比較検討していくこととする。学科の基礎科目であり、選択科目として1年次から4年次まで履修することができる。なお、教職資格を取得する際には、1年次からの必修科目である。

2. 学びの意義と目標

国際化がますます進んでいる現在、異文化と触れる機会が多くなってきている。異なる文化との相互理解は、お互いから深く学びあい、共存しようとする人間の生き方にとって大切なことである。本講義はこうした認識が得られることを目標とする。

受講生に対する要望

主体性をもってそれぞれのテーマや事例研究に取り組むことを希望します。

キーワード

(1) 異文化との相互理解 (2) 異文化交流の事例研究 (3) 異文化衝突の事例研究 (4) 言葉と文化 (5) 異文化における個と集団

事前学習（予習）

事前に配布している「講義ノート」に提示された課題の内容を調べ、また事例研究の新聞記事を準備しておくこと。

復習についての指示

各事例研究の実にレポートによるまとめを行う。

授業計画

1. 異文化理解へのウォーミング・アップ
2. 異文化交流の歴史的背景（1）ーロゼッタ・ストーン
3. 異文化交流の歴史的背景（2）ーヒエログリフ
4. 異文化交流の歴史的背景（3）ー失われた文字
5. 異文化交流の歴史的背景（4）ーシルク・ロード
6. ；あたりまえを問い直す事例研究（1）
7. ；あたりまえを問い直す事例研究（2）
8. ；あたりまえを問い直す事例研究（3）
9. 異文化への先入観
10. 先入観と深層心理（1）
11. 先入観と深層心理（2）
12. 深層心理と文化心理学
13. 異文化と価値観（1）
14. 異文化と価値観（2）
15. 異文化における個と集団（1）
16. 異文化における個と集団（2）
17. 異文化における「居場所」（1）
18. 異文化における「居場所」（2）
19. アイデンティティをめぐる諸問題（1）
20. アイデンティティをめぐる諸問題（2）
21. 異文化におけるコミュニケーション（1）
22. 異文化におけるコミュニケーション（2）
23. 異文化衝突の事例研究（1）
24. 異文化衝突の事例研究（2）
25. 異文化交流の事例研究（1）
26. 異文化交流の事例研究（2）
27. 異文化理解教育（1）
28. 異文化理解教育（2）
29. 異文化理解教育における今後の課題
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) ブックレポート:20% (2) 事例研究:20% (3) テーマ別レポート:30% (4) 授業への参加度:30%

映画を通して学ぶ文化と英語

ENGL-A-201

担当者：中村 香代子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この授業では数本の映画を通して、アメリカ社会の抱える問題や文化について学びます。また各映画のテーマに関するインターネットでの調べ学習やディスカッションを通して理解を深め、プレゼンテーションを通して自分の考えをまとめて発信する練習をします。さらに映画シーンのリスニング練習やロール・プレイ、会話表現学習も行います。

2. 学びの意義と目標

映画を通して異文化に対する理解を深め、楽しみながら英語表現能力を向上させることを目標としています。

受講生に対する要望

生きた会話表現を学びたい人や異文化に興味のある人の受講を望みます。映画を数回にわたって観てゆくため、きちんと出席することが受講の前提です。

キーワード

(1)異文化理解 (2)映画 (3)英語会話表現 (4)ロールプレイ (5)ディスカッション

事前学習（予習）

課題プリントの調べ学習や発表の準備をきちんとこなしておくこと。

復習についての指示

毎回授業で習う英語表現や単語をしっかりと復習して覚えること。またロールプレイテスト用に選んだシーンだけでなく、各シーンをよく音読してイントネーションや発音などを練習すること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 映画1－（1） 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ（調べ学習、ディスカッション、リスニング練習など）
3. 映画1－（2） 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ
4. 映画1－（3） 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ
5. 映画1－（4） 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ
6. 映画1－（5） 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ
7. 映画1－（6） Roll Play Test ・ Idiom Quiz、残りを鑑賞
8. 映画2－（1） 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ
9. 映画2－（2） 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ
10. 映画2－（3） 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ
11. 映画2－（4） 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ
12. 映画2－（5） 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ
13. 映画2－（6） Roll Play Test ・ Idiom Quiz、残りを鑑賞
14. 映画3－（1） 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ
15. 映画3－（2） 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ
16. 映画3－（3） 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ
17. 映画3－（4） 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ
18. 映画3－（5） 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ
19. 映画3－（6） 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ
20. 映画3－（7） Roll Play Test ・ Idiom Quiz、残りを鑑賞
21. 映画4－（1） 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ
22. 映画4－（2） 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ
23. 映画4－（3） 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ
24. 映画4－（4） 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ
25. 映画4－（5） 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ
26. 映画4－（6） Roll Play Test ・ Idiom Quiz、残りを鑑賞
27. プレゼンテーション（1）
28. プレゼンテーション（2）
29. 英語5－（1） 鑑賞
30. 英語5－（2） 鑑賞

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)参加・課題提出:20%:ディスカッションへの積極的参加を重視 (2)プレゼンテーション:20% (3)ロールプレイテスト:30% (4)英語表現テスト:30%

担当者：加曾利 実

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

グローバル世界で活躍するための力：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：英語選択科目、
中学校教諭一種免許：英語選択科目

講義概要

1. 内容

英語を学習する際、最も大切な事は、日本では、とかく軽視されがちな発音を学ぶことです。幾ら一生懸命、英語を学習しても、自分の発音が英米のネイティブ・スピーカーに通じなかったり、誤解されてしまうのでは、長期間の学習は、結局、徒労となってしまう。そうならない様にするには、音声学習の重要性を認識することが一番です。また、発音を良くすると、自然に聴解力もアップして来ます。テキストで、英語音声学の基礎理論（発音器官・母音・子音・音の結合・強勢・イントネーション等）を学習すると同時に、DVD教材を用いて英語らしい発音・リズムを身につける練習を行います。主としてアメリカ英語を対象とし、必要に応じてイギリス英語等や、様々な種類の英語についても触れます。CALL(L L)教室を使用します。最初の授業の時に、プリントで授業の詳細について説明します。

2. 学びの意義と目標

言語は、相手に通じて初めて意味を持ちます。英語音声学の基本理論を学び、実際にネイティブ・スピーカーに通じる発音の習得を目指します。つまり、ネイティブ・スピーカーの言う事を正しく理解できるようになり、また自らの意思をネイティブ・スピーカーに正しく伝えられるようになります。アメリカ英語(とイギリス英語)を中心に講義を進めて行きます。

受講生に対する要望

音声学は、英語学習の中核を成す基礎科目なので、1-2年次生の間に履修することを勧めます。言語学習は、相手に通じることを目的とします。また、受講前に予習を、受講後には、復習をする「学習習慣」を身に付けて下さい。

キーワード

(1)英語学習の中核を成す基礎科目 (2)ネイティブに通じる発音の習得 (3)実学としての英語学習 (4)英語らしい発音とリズム (5) L L 教室、CD教材、DVD教材

事前学習（予習）

毎回、必ず10頁程度、テキストを予習して、ノートに重要点を纏めておいて下さい。予習・復習ノートを作成、提出してもらい、評価の一部とします。

復習についての指示

復習を励行して下さい。毎回、授業後、なるべく早いうちに、学習した項目をノートに纏めて復習しましょう。復習を何回か繰り返すと、記憶に定着します。

授業計画

1. イントロダクション
2. 英語音声学入門
3. 英語音声学の基礎理論 (1)
4. 英語音声学の基礎理論 (2)
5. 英語音声学の基礎理論 (3)
6. 英語音声学の基礎理論 (4)
7. 英語音声学の基礎理論 (5)
8. 子音の発音・理論と練習 (1)
9. 子音の発音・理論と練習 (2)
10. 子音の発音・理論と練習 (3)
11. 子音の発音・理論と練習 (4)
12. 子音の発音・理論と練習 (5)
13. 母音の発音・理論と練習 (1)
14. 母音の発音・理論と練習 (2)
15. 母音の発音・理論と練習 (3)
16. 母音の発音・理論と練習 (4)
17. 母音の発音・理論と練習 (5)
18. 音の結合 (1)
19. 音の結合 (2)
20. 音の結合 (3)
21. リダクション
22. 強勢
23. 強形発音と弱形発音 (1)
24. 強形発音と弱形発音 (2)
25. 強形発音と弱形発音 (3)
26. 合成名詞
27. イントネーション (1)
28. イントネーション (2)
29. イントネーション (3)
30. 総合練習・まとめ

教科書

御園和夫、平坂文男 『コミュニケーション主体の英語音声学』（和広出版）

評価方法

(1)出席及び態度:20% (2)予習・復習ノート:10% (3)発音テスト:10% (4)中間試験:30% (5)期末試験:30%

担当者：加曾利 実

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

グローバル世界で活躍するための力：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：英語必修科目、
中学校教諭一種免許：英語必修科目

講義概要

1. 内容

英語学に関する様々な分野、即ち音韻論・形態論・統語論・英語史等について概観します。統語論においては、伝統文法・アメリカ構造主義文法・生成変形文法を中心に講義します。本講義の一大特徴は、イギリスの著名な学者の朗読によって、古英語や中英語の貴重な発音を聞いたり、実際に発音してみることが出来ることです。最初の授業時に、プリントで授業の詳細について説明します。

2. 学びの意義と目標

現代というグローバル化の時代にあって、英語に関する様々な知識が、必須となって来ています。英語を学習、研究、教育する者ならば、知っておかなければならない知識を網羅します。

受講生に対する要望

ある程度、英語基礎力の付いた2-4年次生に履修することをお勧めします。Word Formation(語形成)や古(いにしえ)の英語音声などに関心のある学生に履修して欲しい。特に、教職課程履修者にお勧めします。

キーワード

(1)英語学の必須知識 (2)音韻論・形態論・統語論・英語史 (3)伝統文法 (4)アメリカ構造主義文法 (5)生成変形文法

事前学習(予習)

毎回、10頁程度予習しましょう。テキストを予習して、ノートに重要点を纏めておいて下さい。予習・復習ノートは、提出してもらい、評価の一部とします。

復習についての指示

毎回、受講後すぐに、学習した項目を復習しましょう。復習を何回か繰り返すと、記憶に定着します。

授業計画

1. イントロダクション
2. 英語学の諸分野
3. 国際語としての英語
4. 英語の音構造 1
5. 英語の音構造 2
6. 英語の音構造 3
7. 英語の語構造 1
8. 英語の語構造 2
9. 英語の語構造 3
10. 英語の文構造:伝統文法 1
11. 英語の文構造:伝統文法 2
12. 英語の文構造:アメリカ構造主義 1
13. 英語の文構造:アメリカ構造主義 2
14. 英語の文構造:生成変形文法 1
15. 英語の文構造:生成変形文法 2
16. 英語の文構造:生成変形文法 3
17. 英語の意味構造 1
18. 英語の意味構造 2
19. インド・ヨーロッパ語族
20. 英語の歴史:古英語 1
21. 英語の歴史:古英語 2
22. 英語の歴史:古英語 3
23. 英語の歴史:中英語 1
24. 英語の歴史:中英語 2
25. 英語の歴史:近代英語 1
26. 英語の歴史:近代英語 2
27. アメリカ英語 1
28. アメリカ英語 2
29. 英語の未来像
30. 総合的まとめ

教科書

石黒 昭博 『現代の英語学』(金星堂)町田 健 『言語世界地図』(新潮社)

評価方法

- (1)出席及び態度:20% (2)予習・復習ノート:10% (3)中間試験:35%
(4)期末試験:35%

担当者：加曾利 実

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

ネイティブ・スピーカーに通じる英語の表現力と聴解力を身につけるためには、まず基本的な発声法と英語の発音ができなければなりません。ネイティブ・スピーカーとコミュニケーションを行ったり、人前でスピーチを行うためには、自然な英文を覚え、スピーキング力とリスニング力をアップさせて行くことが効果的です。 米国独立宣言や米国大統領の演説を用いて、現代日本社会で生きて行くためには必須の「民主主義の本質」を学ぶと同時に、実用的な英会話教材により、スピーチの発音法を練習します。 CALL (L L) 教室を使用します。最初の授業時に、プリントで授業の詳細について説明します。

2. 学びの意義と目標

生きた英語表現を身につけるための理論と実践を行います。発音練習を行いながら、機能語を中心とする「演説に基づく表現力とリスニングのポイント」を学習し、実践力を養います。

受講生に対する要望

本授業は、できれば春学期の「英語音声学」を履修した後に、履修した方が、より効果的に学習できます。「英語音声学」との違いは、呼吸法・解剖学的考察・省略発音などといった「応用理論の実践」にあります。

キーワード

(1) 英語音声学の実践・応用 (2) 呼吸を中心とした解剖学入門 (3) 日米比較音声学 (4) 省略発音英語・実用英会話 (5) 大統領の演説の練習

事前学習（予習）

毎回、テキストを5頁程度予習し、配布プリントも熟読し、添付のCDを聞いて、練習してから、授業に望んで下さい。予習・復習ノートを提出してもらい、評価の一部とします。

復習についての指示

復習を励行して下さい。毎回、授業後、早期に復習し、何回か繰り返すと、記憶が定着します。

授業計画

1. 英語学習について
2. 呼吸法・発声法
3. 音声学的見地からの解剖学 1
4. 音声学的見地からの解剖学 2
5. 音声学的見地からの解剖学 3
6. 日米比較音声学 1
7. 日米比較音声学 2
8. 日米比較音声学 3
9. 省略発音英語 1
10. 省略発音英語 2
11. 省略発音英語 3
12. リンカーン大統領の演説の分析と練習 1
13. リンカーン大統領の演説の分析と練習 2
14. リンカーン大統領の演説の分析と練習 3
15. リンカーン大統領の演説の分析と練習 4
16. ケネディ大統領の演説の分析と練習 1
17. ケネディ大統領の演説の分析と練習 2
18. ケネディ大統領の演説の分析と練習 3
19. ケネディ大統領の演説の分析と練習 4
20. キング牧師の演説の分析と練習 1
21. キング牧師の演説の分析と練習 2
22. キング牧師の演説の分析と練習 3
23. キング牧師の演説の分析と練習 4
24. 実用英会話の分析と練習 1
25. 実用英会話の分析と練習 2
26. 実用英会話の分析と練習 3
27. 実用英会話の分析と練習 4
28. 実用英会話の分析と練習 5
29. 英語発音のブラッシュアップ方法
30. 総合練習・まとめ

教科書

荒井 良雄 編、尾崎 寔 注釈『英語名演説集』（英光社）
『新装版 日本国憲法』（講談社（学術文庫 2201））

評価方法

- (1) 出席及び態度:20% (2) 予習・復習ノート:10% (3) 発音テスト:10% (4) 中間試験:30% (5) 期末試験:30%

担当者：氏家 理恵

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義は、映画作品を社会的・文化的な視点から分析していく授業である。「映像の世紀」と呼ばれた20世紀が過ぎ去った現在、映画もその技術的・理論的發展によって、単なる娯楽として片づけられない地位を映像文化のなかで占めるに至った。総合芸術である映画の「読み方」を知るとともに、映画が培ってきた映像文化の特徴と、その社会的・政治的・経済的功罪を振り返り、さらに映画の限界と可能性を考察していくことが本講義の目的である。

2. 学びの意義と目標

本講義によって映像の持つ「力」を知り、ちまたに満ちあふれている映像を客観的に分析する力を養う。また、映画が理論を併せ持った研究分野として確立していることを踏まえ、受講後も映画鑑賞の際に役立つような、映画を「読む」ための知識を獲得する。

受講生に対する要望

映画・映像そのものだけでなく、欧米の歴史や社会・文化などの知識を持って映像作品を分析することが望まれる。

キーワード

(1)映像文化 (2)映画 (3)映画分析 (4)映画理論

事前学習（予習）

映画に興味のある意欲的な学生の受講を希望する。授業内容に沿ったテーマでレポートを2回課すので、学期中になるべく異なるジャンルの作品を10作品以上は自主的に観てほしい。

復習についての指示

授業の復習は必ず行うこと。

授業計画

1. イントロダクション
2. 映画の構成要素＝批評要素
3. 映画の誕生
4. 初期映画の特徴
5. 物語装置としての映画
6. モンタージュ理論
7. カメラとレンズ
8. カメラアイとショットI
9. カメラアイとショットII
10. 映画の色
11. 光のコントロール—照明
12. 映画の音
13. 映画の時間・物語の時間
14. 現実と虚構—映像の力
15. ニュース映画—現実か虚構か
16. SFXとVFX—虚構の映像化
17. 映画の政治性1—映像の政治的利用
18. 映画の政治性2—映画と戦争
19. 戦争映画
20. 映画の社会性1—ステレオタイプ
21. 映画の社会性2—政治的正しさとタブー
22. 西部劇
23. 映画のなかの黒人・黒人監督
24. 映画のなかの女性・女性監督
25. 映画のなかの同性愛
26. 映画の経済学—映画産業
27. 映画賞と映画祭
28. アニメーション
29. リメイク作品
30. まとめ—これからの映画の課題

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)ミニッツノート:30% (2)小テスト:20% (3)作品分析レポート:30% (4)期末レポート:20%

担当者：松本 祐子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：英語選択科目、
中学校教諭一種免許：英語選択科目

講義概要

1. 内容

この授業では、必ずしも読者を子どもと想定していたわけではなく、昔話からイギリス児童文学の始まりに至るまでの流れ、以後の児童文学に決定的な影響を与えた古典的作品の意味、ファンタジーとリアリズムの果たす役割、さらには現代の児童文学の抱える諸問題について触れながら、英米児童文学の歴史と概要を学んでいく。

2. 学びの意義と目標

長い歴史を持つ英米児童文学は数々のベストセラーを産み出し、また、近年も多くの映像作品の原作となるなど、豊かな物語の宝庫である。一般には名前だけしか知られていないような名作の本当の姿を知ること、人間性についてのより深い知識と教養を身につけることが目標である。

受講生に対する要望

できるだけ多くの作品を読んでほしい。

キーワード

(1) 昔話 (2) ファンタジー (3) エヴリディ・マジック (4) リアリズム

事前学習（予習）

最初の授業で配布する読書リストにしたがって、授業で扱う作品を読んでおくこと。授業時に指示されたレポートはきちんと提出すること。

復習についての指示

授業時のノートを整理しておくこと。

授業計画

1. 授業説明
2. 伝承文芸：昔話（1）
3. 伝承文芸：昔話（2）
4. 伝承文芸：イギリスの妖精（1）
5. 伝承文芸：イギリスの妖精（2）
6. 伝承文芸：マザーグース（1）
7. 伝承文芸：マザーグース（2）
8. イギリス児童文学の始まりと児童文学の分類
9. 近代ファンタジー：ルイス・キャロル（1）
10. 近代ファンタジー：ルイス・キャロル（2）
11. 家庭小説：オルコット
12. 家庭小説：バーネット（1）
13. 家庭小説：バーネット（2）
14. 動物ファンタジー：ベアトリクス・ポター
15. 動物ファンタジー：マイケル・ボンド、A. A. ミルン
16. エヴリディ・マジックの世界：ネズビット
17. エヴリディ・マジックの世界：トラヴァース
18. エヴリディ・マジックの世界：メアリ・ノートン（1）
19. エヴリディ・マジックの世界：メアリ・ノートン（2）
20. ハイ・ファンタジー：C. S. ルイス
21. ハイ・ファンタジー：トールキン
22. ハイ・ファンタジー：ル・グウィン
23. ハイ・ファンタジー：フィリップ・プルマン
24. 現代のリアリズム児童文学：カニグズバーグ
25. 〈人形〉の物語：ゴッデン
26. 〈人形〉の物語：シルヴィア・ウォー
27. 現代の魔法：ローリング
28. 現代の魔法：ダイアナ・ウィン・ジョーンズ
29. 魔法と現実の間：ルイス・サッカー
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1) 期末試験：40% (2) 学期末レポート：30% (3) 課題レポート：20%
(4) 出席：10%

英米文学概論

EALI-A-201

担当者：富田 光明

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：英語必修科目、
中学校教諭一種免許：英語必修科目

講義概要

1. 内容

英米文学概論とは、英米文学全体にわたって大要を述べたものであり、非常に広範囲に及ぶものである。常に文学とは何であるのかを意識して学ぶことが大切である。本講義の英米文学概論は、受講者諸君が今後英米文学作品に触れる折に、必要とされる知識及び英米人の価値観・人生観などを学び、文学をより身近なものにするためである。

2. 学びの意義と目標

この講義は概論ではあるが、文学史的な性質を含むのであるので、時代的・文化的背景を理解し、常に文学とは何かというテーマを意識し、授業に参加してもらいたい。基本的にはテキストを使用するが、主要作品については必要なときにはプリントなどで補充をし、より深い理解を学生が得るように指導する。

受講生に対する要望

英米文学概論は、日本文学と同様に人間の心を観察し、それを文学で表現したのであるから、あまり英米文学概論を難しく考えないこと。

キーワード

(1)古典主義とは (2)ロマン主義とは (3)リアリズムとは (4)ピューリタンとは (5)ヘレニズムとヘブライズム

事前学習（予習）

次週学ぶ章を毎回予告しておくので、講義に出席する学生は、事前に必ず目を通し、自分なりのキーワードを探しておくこと。
このような作業をすることは、学生が問題意識を持って講義に参加し、興味をより増すことになる。

復習についての指示

授業で学んだ章で、教師が強調した箇所をもう一度思い出しながらかみ直すと、おのずとその章のキーワードが明確になってくる。これらのキーワードの集合体はその授業の全体像となり、より理解力が増すこととなる。

授業計画

1. 文学とは
2. 文学史とは
3. 英国の成立
4. 英国文化史の概要
5. 英文学史の概要
6. 英文学の特質
7. 英国文化史の概要
8. ヘレニズムとヘブライズム
9. 古典主義とロマン主義
10. ギリシャ・ローマ神話と聖書
11. 英文学とキリスト教
12. 英文学の形態について
13. 主要な英詩の作品について (1)
14. 同上 (2)
15. 主要なエッセイについて
16. 米国の成立
17. 新世界を求めて
18. 自由を求めて
19. ビューリタンと文学
20. 南部気質
21. 米文学とは
22. 初期の時代の米文学
23. アメリカ・ロマン主義
24. ロマン主義の主要作家とその作品 (1)
25. 同上 (2)
26. 同上 (3)
27. 鍍金時代とは
28. リアリズムの胎動
29. 20世紀について
30. 試験とその解説

教科書

須藤 信雄、繁尾 久 『教養としての英米文学』（南雲堂）

評価方法

(1)授業参加意欲:30%:問題意識をもって授業に参加すること (2)レポート:25%:まとめる能力を調べる (3)試験:35%:理解し、復習したか否かを問う (4)出席:10%

担当者：片柳 榮一

開設期：春学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

学問の奥深さを知るとともに、大学院進学希望者に対し大学院授業への準備とする。
人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく教養を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

【アメリカ・ヨーロッパ・日本・キリスト教文化学への誘い】アメリカ、ヨーロッパ、日本それぞれの文化の基礎をなす思想を、広い歴史的視野のなかで大局的に理解するための研究入門となることを目指す。7人の担当者が2回ずつ、それぞれの分野の基本的なテーマについて、研究の視点、研究の意義、研究の方法等に触れながら講義する。（コーディネーター：高橋義文）

2. 学びの意義と目標

アメリカ、ヨーロッパ、日本の思想研究の一端に触れ、研究の意義や方法について学び、受講者自身の研究のための示唆を得る。

受講生に対する要望

各担当者から指示・配布される文献を熟読する。質問・意見等をもって積極的に授業に参加する。

キーワード

(1)アメリカ文化 (2)ヨーロッパ文化 (3)日本文化 (4)キリスト教と文化

事前学習（予習）

担当教員の指示に従う。

復習についての指示

担当教員から指示・配布される文献を熟読し、それぞれの分野の課題や問題の理解に努める。その具体的な内容と分量は、それぞれの担当教員の指示による。

授業計画

1. 日本の「自然と人間」－自然観の比較思想・近代以前
2. 日本の「自然と人間」－自然観の比較思想・近代以後
3. アメリカの宗教－建国期
4. アメリカの宗教－20世紀
- 5.
- 6.
7. 近代を切り開いたルターの良心概念
8. 日本国憲法に引き継がれた近代良心概念
9. 近代民主主義
10. 近世フランスの寛容思想 - ポリテューク派（16世紀）
11. 近世フランスの寛容思想 - ピエール・ペール（17世紀）
12. 「歴史を考える」とはどういうことか
13. 日本のなかの中国、中世のなかの近代
- 14.
15. まとめと総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席率・レポート:100%

出席率とレポートにより総合的に評価する。

担当者：K. O. アンドラス

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

10のエピソードから成るThe History of Rock and Roll のDVDを教材とする。各エピソードで紹介される音楽を聴き、英語の歌詞の意味や表現、さらに歴史的背景や文化を学ぶ。DVDの内容に関する宿題を課し、またエピソードごとに小テストも行う。

2. 学びの意義と目標

英語の歌詞の意味を多方面から分析し、理解力を養う。The purpose of this course is to learn and understand the history behind rock music, the cultural attitudes behind the music (including negative attitudes such as racism), and to come to a better appreciation of not only rock, but also music of other genres and other countries and cultures.

受講生に対する要望

Students should attend every class, be on time, have their homework prepared before each class, be diligent in preparing for quizzes and exams, and be willing to ask and answer questions in class discussions of popular music.

キーワード

(1)the blues, R and B, rockabilly (2)the British Invasion, soul music (3)glam rock, punk, new wave (4)contemporary music

事前学習（予習）

予習は必ずしてくる。授業時には必ず辞書を持って来ること。遅刻をせず、全授業に出席し、積極的に参加する。

復習についての指示

Students should conduct research outside of class to find out more about the kinds of music and musicians covered in class and to study how these kinds of music and musicians have affected both national and world culture.

授業計画

1. introduction to the class; episode 1: Rock and Roll Explodes
2. episode 1, continued
3. episode 1, continued
4. episode 2: Good Rockin' Tonight
5. episode 2, continued
6. episode 3: Britain Invades America, America Fights Back
7. episode 3, continued
8. episode 3, continued
9. episode 4: The Sounds of Soul
10. episode 4, continued
11. episode 4, continued
12. episode 5: Plugging In
13. episode 5, continued
14. episode 5, continued
15. episode 6: My Generation
16. episode 6, continued
17. episode 6, continued
18. episode 7: Guitar Heroes
19. episode 7, continued
20. episode 7, continued
21. episode 8: The 70s: Have a Nice Decade
22. episode 8, continued
23. episode 8, continued
24. episode 9: Punk
25. episode 9, continued
26. episode 9, continued
27. episode 10: Up from the Underground
28. episode 10, continued
29. episode 10, continued
30. review for the final exam

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)attendance :10% (2)homework:30% (3)quizzes:30% (4)final exam:30%

担当者：秋山 秀一

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人格と主体性：現代世界におけるグローバルな考察力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

日本を訪れる外国人の数が年間1000万人を超えました。いま、旅を楽しむ、観光を学ぶことの重要性が以前にも増して高まってきました。この授業では、日本の各地、並びに、ヨーロッパ、アメリカ、アジアの諸国における観光地理について学び、街歩きの楽しさも修得していきます。フィルムツーリズム（映画と観光）、観光写真についても、具体的な話をします。

2. 学びの意義と目標

卒業後どのような仕事に就こうと、国際理解、異文化理解を深めることは大切であり、重要なことです。この授業では実際に国内及び海外でのフィールドワークを通して得た映像、資料を活用します。それに、雑誌、テレビ等のメディアとのかかわりの中から、具体的な話をしていきます。出演した番組を事例に、テレビ、ラジオの旅番組の制作についての具体的な話もします。この授業を通して国際理解、異文化理解を深め、より理解度を高めることができるものと確信しています。

受講生に対する要望

旅行会社、ホテル、行政、テーマパーク、メディアなど観光関連業界への就職を考えたことがある人、旅が好きな人などで、フィールドワークがいい人、とくに大歓迎です。授業を通して旅の楽しさを学び、実際に旅をしてほしいと思います。

キーワード

(1) フィルムツーリズム (2) フィールドワーク (3) 観光写真 (4) 異文化理解 (5) 旅の文化

事前学習（予習）

授業内容に関する復習の小レポート、テキストの次の授業に關する項目を予習し、関連する情報を集めておくこと。

復習についての指示

配布プリント、テキストの中で授業中に解説したところを再読し、各トピックについて次回までに説明できるようにすること。

授業計画

1. 導入
2. 旅と観光について
3. 旅と観光の歴史①
4. 旅と観光の歴史②
5. 観光のデータを読む①
6. 観光で地域振興
7. 観光立国ニッポン①
8. 観光立国ニッポン②
9. 旅番組について①
10. 旅番組について②
11. 旅番組の現場から①
12. 旅番組の現場から②
13. 旅を楽しむ①
14. 旅を楽しむ②
15. 日本の世界遺産①
16. 日本の世界遺産②
17. 海外の世界遺産①
18. 海外の世界遺産②
19. 海外の世界遺産③
20. 海外の世界遺産④
21. 映画と観光①
22. 映画と観光②
23. 映画と観光③
24. 映画と観光④
25. 観光写真①
26. 観光写真②
27. 観光と地理
28. 旅をつくる①
29. 旅をつくる②
30. まとめ

教科書

秋山秀一 『フィールドワークのススメ～アジア観光・文化の旅』（学文社）

評価方法

(1) 日頃の授業への貢献度：30% (2) 出席状況：30% (3) 小レポート、それにまとめとしてのレポート：40%

担当者：氏家 理恵， 稲田 敦子， 畠山 宗明

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける。
 表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。
 表現力・リテラシー：考え抜くための批判的な思考力を身につける。
 表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本科目は、大学での学びに必要な基礎力を身につけ、2年生以降の専門科目や演習科目に備えるための演習科目です。秋学期の基礎ゼミBと連続して受講することになります。基礎ゼミAでは、特に、読む力と考える力の習得のため、テキストの読解方法や、読解に必要な予備知識の習得、批判的な思考の方法、統計情報の読解や処理方法などを学びます。あわせて、図書館の使い方の実践的ガイダンスや、大学での学びを将来の自分の生活にいかすためのレクチャーも実施します。

2. 学びの意義と目標

本科目をととして、学びに必要な読解力と思考力と同時に、日常的に文章を読む習慣そのものが身につくようになることが目標です。最終的には、大学で調査・研究をおこなうのに必要な、やや難易度の高い文章を読みこなせるようになることが目標です。

受講生に対する要望

毎回の講義内で、様々な課題に取り組むほか、講義の外でも多くの課題に継続的に取り組んでもらいますので、積極的な取組を期待します。また、講義内で積極的に発言することを望みます。

キーワード

(1) 読み方 (2) 考え方 (3) 初年次教育 (4) 論理的思考

事前学習（予習）

小テストの回は、授業内で配布する用語集や教科書をもとに、予習をしてください。また、各講義は内容が連続しているので、教科書にもとづいた次回内容の予習をしてください。

復習についての指示

各講義は内容が連続しているので、教科書にもとづいた前回内容の復習をしてください。

授業計画

1. ガイダンス
2. ノートを取る (1)
3. 小テスト1 (学びの基礎用語) / ノートを取る (2)
4. 文章に読んだ足跡をつける
5. 小テスト2 (学びの基礎用語) / 文章を段落ごとに要約する (1)
6. 文章を段落ごとに要約する (2)
7. 小テスト3 (学びの基礎用語) / 文章全体の要旨を作成する (1)
8. 文章全体の要旨を作成する (2)
9. 小テスト4 (学びの基礎用語) / 図書館を使う
10. 全体ガイダンス (学びを社会に生かす) 1
11. 小テスト5 (学びの基礎用語) / 新聞の読み比べ
12. 全体ガイダンス (学びを社会に生かす) 2
13. 小テスト6 (論理トレーニング) / グラフ・画像を読む (1)
14. グラフ・画像を読む (2)
15. 小テスト7 (論理トレーニング) / 総合演習

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 小テスト: 30%: 全7回の合計 (2) 平常点: 70%: 参加態度、課題への取組など

担当者：柴田 史子，加曾利 実，畠山 宗明

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける。
 表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。
 表現力・リテラシー：考え抜くための批判的な思考力を身につける。
 表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本科目は、大学での学びに必要な基礎力を身につけ、2年生以降の専門科目や演習科目に備えるための演習科目です。春学期の基礎ゼミAとあわせて受講することになります。基礎ゼミBでは、特に、調べる力と書く力の習得のため、図書館の使い方や、情報の調べ方、レポートの作成法などを学びます。あわせて、大学での学びを将来の自分の生活にいかすためのレクチャー・アクティビティーも実施します。

2. 学びの意義と目標

本科目をととして、学びに必要な調査力や書く力と同時に、日常的に文章を読む習慣そのものが身につくようになることが目標です。最終的には、他の科目でも応用できるような、大学生としてふさわしいレポートを書けるようになることを目指します。

受講生に対する要望

講義の内外で、様々な課題に取り組んでもらうため、積極的な取組を期待します。また、講義内で、積極的に発言するようにしましょう。

キーワード

(1)書く力 (2)調べる力 (3)初年次教育

事前学習（予習）

小テストの回は、授業内で配布する用語集や教科書をもとに、予習をしてください。また、各講義は内容が連続しているので、教科書にもとづいた次回内容の予習をしてください。

復習についての指示

各講義は内容が連続しているので、教科書にもとづいた前回内容の復習をしてください。

授業計画

1. ガイダンス
2. 短い文章を書く
3. 小テスト1（社会人の基礎用語）／論理的なつながりを表現する
4. 全体ガイダンス（学びを社会に生かす）2
5. 小テスト2（社会人の基礎用語）／段落と論理の関係を学ぶ
6. 段落から章立てを構成する（1）
7. 小テスト3（社会人の基礎用語）／段落から章立てを構成する
8. レポートのための図書館ガイダンス
9. 小テスト4（社会人の基礎用語）／感想文や作文とレポートの違い
10. 課題を設定する
11. 小テスト5（社会人の基礎用語）／資料の調べ方
12. 全体ガイダンス（学びを社会に生かす）2
13. 小テスト6（社会人の基礎用語）／総合演習（レポートの中間評価）
14. 総合演習（レポートの準備）
15. 小テスト7（社会人の基礎用語）／総合演習（レポートの準備）

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)小テスト:20%:全7回の合計 (2)期末レポート:40% (3)平常点:40%:授業への参加態度、課題の提出状況など

キリスト教文化論 A

CHRI-A-301

担当者：E. D. オズバーン

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく教養を身に付ける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

内容：この講義は、キリスト教文化論Bと連結した講座で、キリスト教が、世界の様々な領域において貢献してきた歴史上の事実
に焦点を当て考えていきます。第一の重点は、キリスト教の世界
観が政治体制と市民の自由・権利解放にどのように影響を及ぼし
たかに着目し、次に一般的文化、又、大衆文化の分野に目を移
し、そして、後半は特にアメリカ合衆国における影響を概観して
いきます。2. カリキュラムの位置づけ：キリスト教文化論講義
は、欧米文化学科の必修科目で、聖学院大学の基礎講義の一つで
す。

2. 学びの意義と目標

第一の目的は、キリスト教があらゆる分野で成してきた著しい貢
献が、今日受講者個人個人の気づかなかった領域に至っても大い
に関係していることを認識することができるように導くもので
す。

受講生に対する要望

講義は日本語と英語の両言語を用いて進められます。付随的、又、
必然的に受講者は英語力上達の学びの場となりますが、主眼は講義
内容です。

キーワード

(1)worldview (世界観) (2)Christianity (キリスト教) (3)cultu
re (文化) (4)happiness (幸福) (5)civil rights (民権)

事前学習 (予習)

既定の読書を都度終え、講義の予習としてその中の主要着想点と
専門用語に精通することを求められます。

復習についての指示

学生は、各回の講義においてのクラスノートを復習し、主要点の
暗記を託されます。

授業計画

1. キリスト教的世界観の梗概
2. キリスト教と政府 I:自由と民主主義
3. キリスト教と政府 II:奴隷制度廃止
4. キリスト教と政府 III:アメリカ合衆国における市民権運動
5. 芸術におけるキリスト教のインパクト (強い影響)
6. 建築におけるキリスト教のインパクト
7. 音楽におけるキリスト教のインパクト
8. 文学におけるキリスト教のインパクト
9. 映画におけるキリスト教のインパクト I
10. 映画におけるキリスト教のインパクト II
11. キリスト教の祭日、言葉、記号
12. キリスト教と大衆文化 (ポップカルチャー) I
13. キリスト教と大衆文化 II
14. キリスト教と大衆文化 III
15. 期末テスト

教科書

『聖書』 (日本聖書協会)

評価方法

- (1)読書レポート:10% (2)全学礼拝レポート及び教会出席レポート
:30% (3)中間テスト:15% (4)期末テスト:15% (5)授業出席:30%

キリスト教文化論B

CHRI-A-302

担当者：E. D. オズバーン

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく教養を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 内容：この講義は、キリスト教概論A及びBに続く講座として設けられた科目で、キリスト教が世界にもたらした深遠なる影響の概観を学び探ります。“もし、イエス・キリストが降誕していなかったら？”という仮説質問から始まり、講義は、イエス・キリストの存在しなかった仮説を設け進み、そして、イエス・キリストとキリスト教徒が歴史を通して人類に建設的に影響を及ぼした多くの領域の輪郭を描いていきます。特に人間の尊厳と人権の領域についても学びます。2. カリキュラム上の位置づけ：キリスト教文化論講義は、欧米文化学科の必修科目で、聖学院大学の基礎講義の一つです。

2. 学びの意義と目標

第一の（基本的）目的は、キリスト教の遍在する影響を包括的、又、個人的、両観点から探索し学びます。

受講生に対する要望

講義は、日本語と英語の両言語を用いて進められます。付随的、又、必然的に受講者は英語力上達の学びの場となりますが、主眼は、講義内容です。

キーワード

(1)worldview（世界観）(2)creationism（創造論）(3)morality（道徳）(4)ethics（倫理）(5)(human) rights（人権／権利）

事前学習（予習）

既定の読書を都度終え、講義の予習としてその中の主要着想点と専門用語に精通することを求められます。

復習についての指示

学生は、各回の講義においてのクラスノートを復習し、主要点の暗記を託されます。

授業計画

1. イエス・キリストが降誕していなかったら？ 世の中はどう変わっていたであろうか？
2. 世界観と宗教 I：概観
3. 世界観と宗教 II：二例——無神論 対 キリスト教唯一神論
4. ダーウィンの進化論 対 キリスト教の天地創造論：両者の論理的結果
5. 人間の生命の尊厳
6. キリスト教の女性に対する尊厳の向上
7. キリスト教道徳と倫理 I
8. キリスト教道徳と倫理 II
9. 中間テスト
10. 教育におけるキリスト教の強い影響：普遍的教育と大学
11. キリスト教の慈愛と利他主義 I：病院と医療施設、チャリティーとボランティア・グループ
12. 現代科学とキリスト教の関係
13. 労働階級と経済におけるキリスト教の影響
14. キリスト教と人権
15. 期末テスト

教科書

『聖書』（日本聖書協会）

評価方法

- (1)読書レポート:10% (2)全学礼拝レポート、及び教会出席レポート:30% (3)中間テスト:15% (4)期末テスト:15% (5)授業出席:30%

担当者：畠山 宗明，稲田 敦子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格と主体性：現代世界におけるグローバルな考察力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

近年、グローバル・またグローバル化という語がよく言われるようになってきている。しかしその内容は明確でないまま使われていることが多いのが実情といえるだろう。自分が常識だと思っていること（ミクロからマクロまで）が、他の地域の人にとっては、そうではなかったという経験が、身近なものとして語られることも多い。この科目は、個別的な事例と普遍的な事象がどのようにかかわっているのか、現代社会の仕組みや特質、そこに生きる人々の考え方や価値観など、現代社会で起きているさまざまな事例を取り上げ、その原因を調べ、背景を検討することにより、グローバル化の具体的な意味と意義を学ぶことを目標としている。

2. 学びの意義と目標

国際社会で活躍するなかで、基礎となるグローバル化の考え方や視点を具体的な事例を検討するなかで、身につけることが、第一の目標である。さらに、目に見える領域だけではなく、その奥にある深層心理の部分にも光をあてて、多様な事例の検討をグループワークにより深め、視野を広げていくことを第二の目標としている。

受講生に対する要望

世界の様々な事例を扱うので、それらに対して広く関心を持ってほしい。また、異文化を学び、広い視野を身につけることで、さまざまな先入観を相対化してほしい。

キーワード

(1) グローバル (2) 異文化 (3) 民族 (4) 産業

事前学習（予習）

参考文献などは適宜指示する。

復習についての指示

授業で紹介する事例はそのごく一部となるので、残りの部分に関して自ら調査・学習してほしい。

授業計画

1. イントロダクション
2. 多文化統合のゆるやかな試み：EU
3. 多文化統合のゆるやかな試み：EUの移民問題
4. 新聞にみる事例研究・民族問題
5. 新聞にみる事例研究・異文化衝突
6. 文化とグローバル産業 グローバル時代の文化①
7. 表現に現れる異文化 グローバル時代の文化②
8. アメリカのグローバリズム：アメリカとグローバル社会①
9. 多民族国家としてのアメリカ：アメリカとグローバル社会②
10. 映画で見るグローバル社会：中東、アフリカ地域
11. 映画で見るグローバル社会：ロシア・中東地域
12. 映画で見るグローバル社会：アジア
13. グローバル時代の日本①
14. グローバル時代の日本②
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 期末レポート：40% (2) ミニレポート：30% (3) 出席：30%

期末レポートと平常点により評価するが、そのほか適宜ミニレポートを実施する（ブックレポートの場合もある）。

言語学概論

LING-A-202

担当者：D. パーガー

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

グローバル世界で活躍するための力：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

日本語教員養成課程：選択必修科目

講義概要

1. 内容

この授業は言語学の入門講座である。言語の色々な様式（話したことば、手話、書き言葉）、人間の言語は動物のコミュニケーション手段とどのように異なるか等、われわれの言語知識の構成要素などを含む言語の本質を考察することから始まる。次に、人間の脳の言語機能についての簡単な紹介に続き、形態論、統語論、意味論、音声学、音韻論という言語研究の主な分野をそれぞれ順に概説する。最後に、言語がどのように変化するか、人間がどのように言語を習得するかについて紹介する。一般的な人間の言語だけではなく、言語の普遍的な特性と各言語がどのようにその特性を実現するかを理解するために日本語と英語を始め、様々な世界の諸言語（ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、ポントック語、チカソー語、トルコ語、アカン語等々）の事例を考察する。

2. 学びの意義と目標

この授業を通して言語学の理解を深めると同時に、普段、無意識的に用いる言語の性質を認識することを望んでいる。

受講生に対する要望

言語の本質について関心がある者の受講を望む。

キーワード

(1)形態論 (2)統語論 (3)意味論 (4)音声学・音韻論 (5)言語習得

事前学習（予習）

前回と当日の授業のキーワードの一覧を参照すること。

復習についての指示

講義を聞きながら記入したワークシートを復習すること。小テストのためにキーワードとワークシートを復習すること。

授業計画

1. 授業紹介、言語の本質
2. 言語について何が分かっているか（講義とディスカッション）
3. 言語知識：音体系・意味の知識、言語知識の創造性（講義とディスカッション）
4. 言語知識：文法の知識、記述文法、規範文法（講義とディスカッション）
5. 言語普遍性：文法の発達、手話：言語生得の証拠（講義とディスカッション）
6. 動物の「言語」（講義とディスカッション）
7. 人間の脳：脳の2つの側面、一側化の証拠、失語症の研究（講義とディスカッション）
8. 人間の脳：分離脳、一側化の他の証拠（講義とディスカッション）
9. 言語の文法的側面 I：形態論 — 語の構造（講義とディスカッション）
10. 形態論（講義とディスカッション）
11. 形態論、グループワーク：形態論に関する問題を解決する
12. 言語の文法的側面 II：統語論 — 言語の文型（講義とディスカッション）
13. 統語論（講義とディスカッション）
14. 統語論、グループワーク：統語論に関する問題を解決する
15. 言語の文法的側面 III：意味論 — ことばの意味（講義とディスカッション）
16. 意味論（講義とディスカッション）
17. 意味論、グループワーク：意味論に関する問題を解決する
18. 言語の文法的側面 IV：音声学 — 言語の音（講義とディスカッション）
19. 音声学（講義とディスカッション）
20. 音声学（講義とディスカッション）
21. 音声学、グループワーク：音声学に関する問題を解決する
22. 言語の文法的側面 V：音韻論 — 言語の音型（講義とディスカッション）
23. 音韻論（講義とディスカッション）
24. 音韻論、グループワーク：音韻論に関する問題を解決する
25. 言語変化：音変化の規則性、音韻変化（講義とディスカッション）
26. 言語変化：形態変化、統語変化（講義とディスカッション）
27. 言語変化：語彙変化、借用語、グループワーク：言語変化に関する問題を解決する
28. 言語習得：幼児言語習得の段階（講義とディスカッション）
29. 言語習得：言語習得の生物学的基盤、「生得説」（講義とディスカッション）
30. 言語習得：「臨界期仮説」、第2言語習得理論、グループワーク：言語習得に関する問題を解決する

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)出席状況：10% (2)授業での参加態度：10% (3)ワークシート：30% (4)小テスト：25% (5)期末試験：25%

言語とグローバル社会

LING-A-201

担当者：D. パーガー

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

グローバル世界で活躍するための力：言語を通して異文化と社会に関わる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

日本語教員養成課程：選択必修科目

講義概要

1. 内容

この授業は社会言語学の分野に位置づけられ、グローバルな観点から捉えた言語と社会の研究に関する入門的な授業である。比較言語・比較社会というグローバルな視点で日本語やアメリカ英語を始めとし、又、他言語も、どのように社会の中で使われているかを学ぶ。主な課題は（１）どのように言語が個人的、社会的なアイデンティティを表しているか（なまり、方言、言語偏見等）、（２）どのように人間関係が言語的に表われているか（丁寧表現、敬意表現等）、（３）社会変化と言語変化はどんな関係があるか（性差別語、非性差別語変革を含む差別語等）である。言語と社会の関係を理論的、実践的に解明する。

2. 学びの意義と目標

言語と社会の研究の主な課題を概観することを通して、受講生は社会的関係において自分の母語や言語全般の役割をグローバル理解することが目標である。

受講生に対する要望

言語の社会的役割に関心がある者、ただ単に授業に座って聴くだけでなく、積極的に他学生と講義内容についてディスカッションをしたい者の受講を望む。

キーワード

(1)言語変種 (2)危機言語 (3)丁寧語・敬語 (4)差別語 (5)言語とジェンダー

事前学習（予習）

配布された授業計画を確認し、各課題のプリントを読むこと。

復習についての指示

小テストのために各課題のプリントを復習すること。

授業計画

1. 「言語に関する誤った通念か、事実か?」という調査により春学期の内容を考える（グループワーク）
2. 言語変種：国語、公用語、標準語、共通語」（グループワークとディスカッション）
3. 言語変種：方言、なまり、言語使用域」（グループワークとディスカッション）
4. 言語変種：標準語と方言、言語偏見と言語不平等」（グループワークとディスカッション）
5. 言語偏見と言語不平等」（グループワークとディスカッション）
6. 二言語使用、ダイグロシア（二言語変種使い分け）」（グループワークとディスカッション）
7. 多言語日本：アイヌ語、琉球諸言語、方言」
8. 危機言語と言語復興：アイヌ語と琉球諸言語の例（グループワークとディスカッション）
9. 危機言語と言語復興：アイヌ語と琉球諸言語の例
10. 危機言語と言語復興：ハワイ語とアメリカ先住民の諸言語の例
11. 危機言語と言語復興：ハワイ語とアメリカ先住民の諸言語の例
12. 「礼儀正しい」についての異なった考え方（グループワークとディスカッション）
13. 発話行為（グループワークとディスカッション）
14. ポライトネス理論（丁寧さ）：レイコフとリーチ（グループワークとディスカッション）
15. ポライトネス理論：ブラウンとレヴィンソン（グループワークとディスカッション）
16. ポライトネス理論：ブラウンとレヴィンソン（グループワークとディスカッション）
17. 世界の敬語：日本語と他言語の比較（グループワークとディスカッション）
18. 謝罪の発話行為（グループワークとディスカッション）
19. 謝罪：日本語と英語の比較（グループワークとディスカッション）
20. 言語変化
21. 日本とアメリカ社会で差別されているグループに対する用語の発展
22. 日本における差別語：「部落」、障害を持つ人（グループワークとディスカッション）
23. 日本における差別語：ガイドライン
24. 英語圏における差別語：ガイドライン
25. 英語圏における差別語：文法的性
26. 言語とジェンダー：性差別語と非性差別語変革（グループワークとディスカッション）
27. 非性差別語変革
28. 英語圏における差別語：包括語
29. 英語の聖書訳における包括語
30. 春学期の内容をまとめる：「言語に関する神話…」の再検討（グループワークとディスカッション）

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席状況:10% (2)授業での参加態度:30% (3)小テスト:30% (4)期末試験:30%

現代アメリカ思想

AMER-A-302

担当者：柴田 史子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：考え抜くための批判的な思考力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

アメリカ社会形成の土台となった思想、アメリカ文化を支えている思想、アメリカをアメリカたらしめている「生きられた思想」をとりあげ、それぞれの思想のエッセンスとなる資料に当たりながら学んでいく。また、それらの思想を表現する北米の小さな博物館を紹介していく。講義は二部構成とし、第一部で現代の思想を、第二部ではその源流となる思想を扱う。

2. 学びの意義と目標

Social Activismという側面からアメリカの思想を捉えようとしている。現代アメリカの社会運動を理解するために知っておくべき、普通のアメリカ人の精神性を扱う科目である。

受講生に対する要望

授業に主体的に関わり、積極的に発言すること

キーワード

(1)アメリカ (2)思想 (3)social activism

事前学習（予習）

現代社会で起きていることにつねにアンテナを張ること

復習についての指示

授業で配布されたプリントを読み直し、理解を深めること

授業計画

1. はじめに
2. 保守主義①政治的保守
3. 保守主義②宗教的保守
4. リベラリズム①政治的リベラル
5. リベラリズム②宗教的リベラル
6. 生命倫理①
7. 生命倫理②
8. 環境正義
9. 文化戦争①
10. 文化戦争②
11. 戦争と平和
12. 中間テスト
13. 神の国①メインライン教会
14. 神の国②宗教的少数派
15. 神の国③世俗社会
16. 人権の思想①
17. 人権の思想②
18. 建国の思想①
19. 建国の思想②
20. 進歩の思想①「明白な運命」
21. 進歩の思想②フロンティア学説
22. 進歩の思想③進化論
23. 社会改革の思想①
24. 社会改革の思想②
25. プラグマティズム①
26. プラグマティズム②
27. WASP性を超えて—RACE
28. WASP性を超えて—ETHNICITY
29. WASP性を超えて—GENDER
30. おわりに

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)平常点:30%:出席と提出物 (2)中間テスト:30% (3)期末テスト:40%

現代アメリカの社会と文化

AMER-A-202

担当者：柴田 史子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人格と主体性：現代世界におけるグローバルな考察力を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：英語選択科目、
中学校教諭一種免許：英語選択科目

講義概要

1. 内容

アメリカの政治、経済、宗教、文化、社会問題などの多岐にわたる分野をカバーする。映像や写真等でアメリカ文化に触れると同時に、文化地図の作成を行ったり、グループワークを行ったりする。

2. 学びの意義と目標

目に見える現象を生じさせている文化的、社会的要因を探る姿勢を身につけることによって、物事を冷静にとらえ判断する力をつけることを目指す。

受講生に対する要望

アメリカおよび世界についての情報にアンテナをはること

キーワード

(1) social activism (2) 保守主義 (3) 富と貧困 (4) ジェンダー
(5) 多様性と統一性

事前学習（予習）

前回の課題をやってくること

復習についての指示

講義ノートをまとめること

授業計画

1. はじめに
2. Social Activism—21世紀の草の根運動
3. —20世紀の草の根運動（1）
4. —20世紀の草の根運動（2）
5. 宗教集団と社会活動
6. 人種・民族集団の結束
7. 経済的利益集団の活動
8. 市民運動と住民運動
9. アメリカ社会の仕組み（1）
10. アメリカ社会の仕組み（2）
11. イロクォイ連邦の貢献
12. 約縁社会の源流（1）—地域共同体
13. 約縁社会の源流（2）—政党と圧力団体
14. 中間テスト
15. アメリカの芸術と文化（1）—食文化
16. アメリカの芸術と文化（2）—大衆文化
17. 富と貧困（1）—成功物語
18. 富と貧困（2）—貧困とエスニシティ
19. 富と貧困（3）—貧困の文化
20. 多様性と統一性—移民たちの体験（1）
21. —移民たちの体験（1）
22. —帰化条件と帰化テスト
23. —ジェンダーと家族
24. 文化の継承（1）
25. 文化の継承（2）
26. 現代アメリカの課題（1）
27. 現代アメリカの課題（2）
28. 現代アメリカの課題（3）
29. 現代アメリカの課題（4）
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 平常点:30%:出席状況と授業内の提出物で判断する (2) 中間テスト:30% (3) 期末テスト:40%

担当者：小川 隆夫

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：英語必修科目、
中学校教諭一種免許：英語必修科目

講義概要

1. 内容

本講義は、四半世紀にわたり世界中の英語学習者にコミュニケーションに「使える」文法書として利用されてきたテキストを用い、専門用語に依存した文法解説を最小限にとどめ、直観による理解を推進するイラストや平易な例文を用いて、英文法を基礎から学ぶ。英文法が苦手な受講生にもわかりやすい内容である。

2. 学びの意義と目標

コミュニケーションのための活きた英文法を学び、文法知識を整理することで、自信を持って英語で話す力と書く力を身につけることができる。各種試験や教職や就職にも役立つ。

受講生に対する要望

英文法を基礎から総復習したいという熱意ある者の受講を望む。

キーワード

(1)コミュニケーションのための英文法 (2)使える英文法 (3)直観による理解の推進 (4)活きた英語 (5)話す力と書く力

事前学習（予習）

毎回、指定ページの予習をすること。

復習についての指示

授業の復習をし、次回の復習テストに備えること。

授業計画

1. コミュニケーション英文法の学習法と現在形
2. 現在形
3. 現在形
4. 過去形
5. 過去形と現在完了形
6. 現在完了形
7. 現在完了形と受動態
8. 受動態と動詞の形
9. 未来表現
10. 法助動詞と命令文
11. 法助動詞と命令文
12. there と it
13. 助動詞
14. 疑問文
15. 疑問文と間接話法
16. -ingと「to+動詞の原形」
17. go, get, do, make, have （基本的な動詞を用いた表現）
18. 代名詞と所有格
19. 代名詞と所有格
20. a と the
21. a と the
22. 限定詞と代名詞
23. 限定詞と代名詞
24. 形容詞と副詞
25. 形容詞と副詞
26. 語順
27. 接続詞と節
28. 前置詞
29. 前置詞と句動詞
30. 理解度の確認

教科書

Raymond Murphy, William R. Smalzer, 渡辺 雅仁, 田島 祐規子
『マーフィーのケンブリッジ英文法(初級編)』 (Cambridge University Press)

評価方法

(1)出席点:20% (2)復習テスト:20%:毎回行う。(3)中間テスト:30% (4)期末テスト:30%

復習テストは毎回、授業の冒頭に行うため、遅刻をしたものは受けることができない。

国際社会の基礎知識

EACL-A-103

担当者：稲田 敦子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく教養を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この科目は、国際社会・現代社会で活躍する人間として、最低限必要な基礎知識を身につけるため、世界の地理、国際社会の仕組み、世界情勢、現代社会の特質、現代人の考え方や心理、価値観や、国際社会の土台となっている歴史や伝統について、総論的に学ぶ科目です。ただし、座学で知識として学ぶだけではなく、新聞を活用したりしながら能動的な作業も行います。

2. 学びの意義と目標

状況グローバル化した国際社会で活躍するのに最低限必要な基礎知識・教養や、国際社会を見渡す視野を身につけることが第一の目標です。それと同時に、そうした知識を活用し、クリエイティブな課題を達成することで、社会人として不可欠な創造性・グループ活動力・能動的な調査力などを身につけることが、第二の目標です。

受講生に対する要望

現代の社会で何が起こっているのか、関心を持ち、主体的に授業に参加して下さい。

キーワード

(1)現代社会の問題 (2)異文化との共生 (3)国際社会の伝統 (4)生活文化 (5)多文化共生の課題

事前学習（予習）

小テストがあるため、前もって予習しておくこと。

復習についての指示

後半の課題作業に向けて、資料を読み込んでおくこと。

授業計画

1. イントロダクション
2. 世界の地理（1）
3. 世界の地理（2）
4. 国際社会の伝統と仕組み（1）
5. 国際社会の伝統と仕組み（2）
6. 国際社会と現代社会の課題（1）
7. 国際社会と現代社会の課題（2）
8. 事例研究・新聞記事民族問題
9. 事例研究・新聞記事人物編
10. 国際社会・現代社会で何を題材にするか？
11. 国際社会・現代社会で問題を引き起こす要因は何か？
12. 国際社会・現代社会の問題の解決に何が有効か？
13. 課題作成のためのグループ作業（1）
14. 課題作成のためのグループ作業（2）
15. まとめと課題の報告

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 期末課題:40% (2) 小テスト:40% (3) 平常点:20%

国際ボランティア入門A

INTL-A-201

担当者：金沢 はるえ

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人格と主体性：現代世界において求められる行動力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

なぜ、国際ボランティアが必要とされているのかを理解してもらうため、開発途上国がどんな問題を抱えているのか、私たちの生活とどのようなつながりがあるのかということを、ワークショップ形式で考えていきます。また、こうした問題に対して、私たちに何ができるかを考えていきます。途上国の人々と協力・共生していくために、私たちに何ができるかを考えていきます。国際ボランティアとして関わりたいと思っている学生に、ゲストから話を聞き、ボランティアの多様なあり方を紹介します。また、現在自分の持つ資格や、将来就く職業が、国際ボランティアへの一歩を踏み出すきっかけとなるように、と考えています。そのため、途上国の抱える問題や問題解決の基本的な視点を学んでいきたいと思っています。

2. 学びの意義と目標

途上国の人々と協力・共生していくために、私たちに何ができるかを考えていきます。国際ボランティアとして関わりたいと思っている学生に、ゲストから話を聞き、ボランティアの多様なあり方を紹介します。また、現在自分の持つ資格や、将来就く職業が、国際ボランティアへの一歩を踏み出すきっかけとなるように、と考えています。そのため、途上国の抱える問題や問題解決の基本的な視点を学んでいきたいと思っています。

受講生に対する要望

「国際ボランティア入門B」と同様に、入門的な位置づけです。私たちの生活と途上国のつながりやその問題を理解し、ボランティアとしての関わりを積極的に考えてほしいと思います。

キーワード

(1) 援助・支援・協力 (2) ボランティアの定義 (3) ボランティア支援の方法 (4) 持続可能な開発 (5) 人間の安全保障

事前学習（予習）

ワークショップ形式で議論をするので、国際協力に関心を持ち、自分の考えが言えるようにしておくこと

復習についての指示

授業で学んだことをプリントの指示に従い復習すること

授業計画

1. ボランティアとは・タイのバーン村を援助するか？
2. タイ・バーン村 (1) アイコの援助について
3. タイ・バーン村 (2) ロールプレイ 村の生活と問題
4. タイ・バーン村 (3) プロジェクトを選ぶ
5. ボランティアの定義 (1) 非営利性
6. ボランティアの定義 (2) 自発性
7. ボランティアの定義 (3) 公共性
8. ボランティアの定義 (4) 先駆性
9. 国際ボランティアの実際（ゲスト）
10. 支援の方法と実際
11. 持続可能な開発について
12. 人間の安全保障について
13. ミレニアム開発目標（MDGs）に向けて
14. 国際ボランティアの実際（ゲスト）
15. まとめ

教科書

プリントを配布する
参考文献『ボランティア～もうひとつの情報社会』金子郁容、岩波新書

評価方法

- (1) 出席状況：30%：3分の2以上の出席と積極的参加度 (2) レポート：60% (3) 授業の課題：10%

出席については、毎回の出席が大前提となり、やむを得ない事情がある時も、3分の2以上出席しないと単位は認められません。レポートも授業に出席しないと書けないものがあるので注意すること

国際ボランティア入門B

INTL-A-301

担当者：金沢 はるえ

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人格と主体性：現代世界において求められる行動力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

なぜ、国際協力が必要とされているのかを理解してもらうため、開発途上国が抱えている人権・環境・開発と、その根本にある貧困とはどういうことなのかを、ワークショップ形式で考えていきます。また、こうした問題に対し、国際ボランティアがどのような活動をし、どのように問題解決をしているのかを紹介していきます。

2. 学びの意義と目標

開発途上国の人々と協力・共生していくために、私たちに何ができるかを考えていきたいと思います。そのために、国際協力に関わりたいと思っている学生に、異文化理解や貧困について、また自立のための支援のあり方を自分のことと関わらせて考えてほしいと思います。

受講生に対する要望

「国際ボランティア入門A」と同様に、入門的な位置づけです。国際協力の対象となる、開発途上国の抱える問題と、それに取り組む支援のあり方を学んでいきます。国際協力や問題解決に関心のある学生に主体的に学んでほしいと考えています。

キーワード

(1)異文化理解 (2)豊かさ貧しさ (3)援助・支援・協力 (4)開発 (5)問題解決

事前学習（予習）

ワークショップ形式で議論をするので、国際協力に関心を持ち、自分の考えが言えるようにしておいてください。

復習についての指示

授業で学んだことをプリントの指示に従い復習すること

授業計画

1. 世界の現状～格差・貧困について～
2. 世界の子どもたち～難民の子ども～
3. 世界の子どもたち～児童労働～
4. 途上国の生活～フォトランゲージ～
5. 誰を援助するか～途上国の男性・女性・子ども・政府～
6. 国際ボランティアの実際（ゲスト）
7. 豊かさ・貧しさの見方・考え方～ランキング・ウェビング～
8. 援助の見方・考え方～誰が援助するか～
9. 開発の見方・考え方～プロジェクトを選ぶ～
10. 国際ボランティアの実際（ゲスト）～自立のための支援とは～
11. 自立へのエンパワメント～識字教育と問題解決～
12. 主体的な参加とは～参加のはしご～
13. 問題分析とシステム思考～貧困の悪循環～
14. 国際ボランティアの実際（ゲスト）
15. フェアトレード～民衆交易とは～

教科書

プリントを配布する
参考文献『ボランティア もうひとつの情報社会』金子郁容、岩波新書

評価方法

(1)出席状況:30%:3分の2以上の出席と積極的参加度 (2)レポート:60% (3)授業での課題:10%
出席については、毎回の出席が大前提となります。レポートも授業に出席しないと書けないものがあるので注意すること

担当者：清水 正之

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人格と主体性：人文学の基礎的・多面的理解に基づく教養を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

人は地域の中で生まれ、育ち、生活をしています。同時に、生活のなかで、場所的限定をこえて、人間の生き方を考えもします。現代では、生活の場自体が、通有の世界的な問題や状況（人権、経済的困窮など）のなかにあります。地域に生きることと、他方でのグローバル化、そうしたなかに生きる私たちを、埼玉・北関東という場をてがかりに考えていく授業です。

2. 学びの意義と目標

地域という場にまずは、視点を設定して、現代のグローバル化した時代に生きるとはどういうことかを、歴史、文学、思想、言語、芸術等の多様な視点から、考え、大学でまなぶことの意味を、具体的な事象をふまえつつ、大きく広く考えていくことをめざします。

受講生に対する要望

オムニバル形式の授業です。必ずや関心を引く主題があろうかと思えます。地域の問題をふまえながら、私たちが学ぶ意味を考える機会です。積極的な参加を希望します。

キーワード

(1) 埼玉 (2) 北関東 (3) 地域 (4) グローバル化 (5) 郊外

事前学習（予習）

さまざまな埼玉学という書籍が出版されています。それらを読むことも参考になります。またグローバル化についての書籍多くでています。目を通しておくとよいでしょう。

復習についての指示

授業で得た知識や視点を、日常の生き方、あり方とむすびつけながら、書籍、メディア等でえたものと、連関させ考える、あるいは調べる、足を運ぶ、ということが復習になるでしょう。

授業計画

1. はじめに・埼玉のイメージ 授業のオリエンテーション 清水正之
2. 新しい郊外の風景 畠山宗明
3. 映像から見た戦後日本と埼玉 畠山宗明
4. 義経の結婚一河越氏から見た鎌倉幕府の誕生 東島誠
5. 盆栽とフランス 鹿瀬颯枝
6. 埼玉の隠れキリシタン 清水均
7. 文学における郊外の表徴 黒木章
8. 知られざる埼玉人ー共生思想の先駆者・石川三四郎 稲田敦子
9. 戦後新教育をリードした川口 熊谷芳郎
10. 川西実三と埼玉ー新渡戸・内村門下の“理想主義”官僚村松晋
11. さいたまから世界へー映画と通じた地域活性・情報発信氏家理恵
12. 埼玉在住外国人の方々から見た日本 黒崎佐仁子
13. ルール・ド・フランスの歴史的位相ーフランスからさいたまへ 和田光司
14. 躍動する埼玉・明日の埼玉 特別外部講師
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する
最初のガイダンスで指示する参考書・資料等、および各回の配布プリントを使用する。

評価方法

(1) 出席:30% (2) 小レポート:30%:各回ごとに授業の小レポートを提出します。 (3) 期末レポート:40%

視覚文化

TART-A-302

担当者：畠山 宗明

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

絵画などの芸術作品、映画や漫画、写真などのメディア機器に共通しているのは、それらが「見ること」にかかわっているということである。人間の五感の中でも、「視覚」は特に文化に大きくかかわっている。「見ること」がどのように文化を形成していくのか？この講義では、さまざまな視覚文化を分析しながら、「見ること」と文化のかかわりを考えていく。

2. 学びの意義と目標

大学での学びに限らず、社会生活においてもっとも重要なのは、言語を通じたコミュニケーションです。しかし、今日の情報メディアは言語以外の感覚を大いに活用しています。この授業では「視覚」をてがかりに、現代社会におけるコミュニケーションのあり方を深く学んでいきます。

受講生に対する要望

当該分野に関心を持ってもらうことが何よりも望ましい。

キーワード

(1) 視覚文化 (2) 映画 (3) 写真 (4) 絵画

事前学習（予習）

映画や写真、漫画など扱うジャンルが決まっているので、題材となるメディアのおおまかな歴史について、図書館やインターネットなどで調査しておくのが望ましい。

復習についての指示

授業で論じた作品に実際に触れてみる。さらに授業で出たキーワードについて図書館やインターネットで調査するなどが望ましい。

授業計画

1. イントロダクション
2. 視覚と文化(1) 視覚文化の歴史①
3. 視覚と文化(2) 視覚文化の歴史②
4. 視覚と文化(3) 現在の視覚文化①
5. 視覚と文化(4) 現在の視覚文化②
6. 遠近法の冒険(1) 遠近法の歴史
7. 遠近法の冒険(2) 遠近法の歴史
8. 遠近法の冒険(3) 遠近法の歴史
9. 視覚が文化になるとき(1) 近代の視覚文化
10. 視覚が文化になるとき(2) 写真と絵画
11. 視覚が文化になるとき(3) 写真文化の誕生
12. 視覚が文化になるとき(4) 絵画から挿絵へ
13. 視覚が文化になるとき(5) 挿絵からマンガへ
14. 20世紀の視覚文化(1) 映画と20世紀の視覚文化①
15. 20世紀の視覚文化(2) 映画と20世紀の視覚文化②
16. 映像の文法(1) 映像の文法
17. 映像の文法(2) 映画史① 映画の誕生
18. 映像の文法(3) 映画史② 物語映画の誕生まで
19. 映像の文法(4) 映画史③ サイレント映画の全盛期
20. 映像の文法(5) 映画史④ トーキー映画と映像文法の完成
21. 映像の文法(6) 参考上映
22. 映画と表現(1) 映画にとって表現とは何か？
23. 映画と表現(2) 映画における時間表現① サスペンス
24. 映画と表現(3) 映画における時間表現② 芸術映画
25. 様々な視覚文化(1) マンガと映画①
26. 様々な視覚文化(2) マンガと映画②
27. 様々な視覚文化(3) 映画とアニメーション
28. 現代の視覚文化(1) 日常に広がる視覚文化①
29. 現代の視覚文化(2) 日常に広がる視覚文化②
30. 全体のまとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1) 期末レポート:60%:学期末に期末レポートを提出
- (2) 出席:20%
- (3) 小レポート:20%:その回に提出する小レポートを適宜実施

担当者：鬼頭 葉子

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人格と主体性：現代世界におけるグローバルな考察力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義では、現代世界における社会や日常の出来事を取り上げ、それらについて「自分で考える」ことを習得します。教師が「これが正しい答えだ」と教えることはありません。皆さん自身が、様々な事柄に関して、自分なりの理由に基づいて「わたしはこう思う」と主張できるよう、「考える方法」を提示していきます。倫理学や社会哲学と呼ばれる学問をベースにしなが主として三つの項目に沿って講義を進めます。映像や映画を教材に用いることもあります。第一に、「わたし」は、どのようなことが好き（嫌い）で、何に価値をおいているのか、自分自身について問いかけの取り組みを行います。例えば「学校に行くのはなぜか」、「ブランド物は好きか嫌いかなど、常日頃の自分自身の意識や行動規範を深く掘り下げ、思い込みやとらわれを解いてみて下さい。第二に、「わたし」が、特定の「だれか」に対してどのようにふるまうのかを考えていきます。「だれか」は人間であるとは限りません。例えば動物や、自分とは異なる生活様式の人とどう接するのかを考えます。第三に、「わたし」が、不特定の「だれか」（＝社会）に対してどう考え、行動するのかについて、現代の格差社会や労働問題を取り上げ考察していきます。

2. 学びの意義と目標

本講義では、日本あるいは様々な国において、現代世界が抱える問題を具体的にに取り上げ、その背景にある「考え方」や「枠組み」として「思想」を捉えていきます。最終的には皆さんが自分自身の「考え方」をつくっていくことをねらいとしています。皆さんは日頃から多量の情報に接しています。その中で「自分はこのような理由から、こう考える」と論理的に自分の考えを主張することは困難であり、考える訓練を必要とします。この講義では、多様な事例や教材を用い、皆さんに考える訓練をしてもらいます。多くの人が「当たり前だ」と口をそろえるようなことや、メディアやインターネット上で主張されることがらをうのみにするのではなく、それらを批判的かつ建設的に理解できるよう、情報リテラシーとしての学習目的も有しています。

受講生に対する要望

予備知識は必要ありません。「自分で考える」作業に積極的に取り組んで下さい。皆さんに意見を述べてもらう機会もあります。

キーワード

(1) 思想 (2) 現代社会 (3) 倫理学 (4) 社会哲学

事前学習（予習）

内容が連続して展開する講義があるので、前回講義の配布プリントを読み返しておくこと。

復習についての指示

講義内に取り扱ったり、紹介したりした参考資料を図書館などで探し、一読すること。講義内容がより深く理解できます。

授業計画

1. ガイダンス（講義の進め方・成績評価の仕方について）
2. 思想とは何か？－論理的に考える方法－
3. I. わたしのこと－なぜ学校に行くのだろうか？－
4. I. わたしのこと－多様な「学校」のかたち：映像を見て①－
5. I. わたしのこと－多様な「学校」のかたち：映像を見て②－
6. I. わたしのこと－映像教材から、映画評を書いてみよう－
7. I. わたしのこと－「健康」ってすばらしい？－
8. I. わたしのこと－「ブランド物」は好きですか？－
9. I. わたしのこと－恋愛したいですか？－
10. I. わたしのこと－結婚したいですか？－
11. I. わたしのこと－さまざまな「結婚」のあり方－
12. II. わたしとあなた－見えない何かを信じますか？－
13. II. わたしとあなた－動物は「モノ」ですか？－
14. II. わたしとあなた－ペットと家畜は何がちがうの？－
15. II. わたしとあなた－豚はペット？家畜？：映像を見て①－
16. II. わたしとあなた－豚はペット？家畜？：映像を見て②－
17. II. わたしとあなた－犬のしつけは何のため？：映像を見て－
18. II. わたしとあなた－生命を選択できますか？－
19. II. わたしとあなた－人生はデザインできますか？－
20. II. わたしとあなた－「健常」で「正常」な人なんているの？－
21. II. わたしとあなた－病氣や障がい是不自由ですか？－
22. III. わたしと社会－「バリアフリー」がいい？：映像を見て－
23. III. わたしと社会－「ニート」は努力不足なの？－
24. III. わたしと社会－働くのは何のため？－
25. III. わたしと社会－労働はつらいよ？－
26. III. わたしと社会－働くことは義務か権利か？－
27. III. わたしと社会－「おもてなし」ってすばらしい？－
28. III. わたしと社会－「スマイルはゼロ円」でいいの？－
29. III. わたしと社会－「安心で安全な暮らし」は可能？－
30. 講義全体のまとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 学期末レポート:40%:インターネットからのコピー＆ペーストした内容のレポートには点数を与えられません。(2) 小レポート:30%:講義期間中、計3回実施する予定です。(3) リアクションペーパー・出席状況:30%

リアクションペーパーとは：指定された設問に対し考えたことを書き込む形式の用紙を配布します。記入し、毎時間終了時に提出して下さい。

社会人のための表現力演習

CREE-A-101

担当者：作田 奈苗

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この授業では、大学生活、および卒業後社会で必要となる言語技術のうち、会話または文書によって適切にコミュニケーションをとる技術を学ぶ。最も重視するのは敬語の使い方である。まず、正しい敬語の文法を確認し、口頭および筆記によるドリルによって、すらすらと話せ、書けるように訓練する。また、その運用について、書きことば話し言葉ともに、具体的な実践練習を行う。

2. 学びの意義と目標

・必要な場面で適切で流暢な敬語が使えるようになること。・社会人として恥ずかしくないメールが書けるようになること。

受講生に対する要望

この授業は座って講義を聴くだけの授業ではない。文法ドリルをしたり、会話練習やロールプレイなどの活動を行ったりする。語学科目のつもりで臨んでほしい。

キーワード

(1) 日本語 (2) 敬語 (3) 文法 (4) コミュニケーション (5) メール

事前学習（予習）

Moodle上の教材に目を通しておくこと。毎回授業の始め10分で敬語の復習テストをするので、準備すること。

復習についての指示

毎回授業の始め10分で敬語の復習テストをするので、復習すること。

授業計画

1. コミュニケーションと敬語／尊敬語と謙譲語の違い
2. 尊敬語の文法／尊敬語で報告する
3. 謙譲語の文法／謙譲語で報告する
4. 「する」「ている」「できる」の表現／案内する
5. 「くれる」と「もらう」の表現／依頼する
6. 丁寧語と謙譲語IIの文法／説明する
7. 名詞と形容詞の敬語／ほめる
8. 身内と敬語／ビジネスの電話会話
9. 目上に対する特別な注意／目上の人と話す
10. 恩恵表現の活用／文法復習
11. 文法中間テスト／メールの書き方の基本
12. 会話とメール（1）－問い合わせ
13. 会話とメール（2）－依頼
14. 会話とメール（3）－案内、お知らせ
15. 期末テストと解説、復習

教科書

プリントを配布する
教材はMoodle上にアップロードしておく。

評価方法

(1) 復習テスト(13回):30% (2) 授業内課題(13回):30% (3) 中間・期末試験:40%
合計60点以上を単位取得の条件とする。

担当者：氏家 理恵

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

ヨーロッパの芸術文化についての基礎的・外観的な講義である。現在のアメリカ・ヨーロッパ文化を形成している背景としての歴史や社会・思潮を確認し、現代の様々な事象から芸術文化を見ていく。

2. 学びの意義と目標

ヨーロッパ文化圏の芸術文化についての基礎的な知識を学ぶ。社会や政治、歴史や地理、生活や風俗など、さまざまな角度から、現代ヨーロッパにつながる芸術文化の諸相について専門用語を使いながら説明できるようにする。また、2年次以上の文科系専門科目を受講するための土台とする。

受講生に対する要望

この科目は1年次対象の欧米文化学科必修専門科目である。2年次以上の専門科目履修のための基礎知識を確認する講義なので、それを自覚しながら受講してほしい。

キーワード

(1) 芸術文化 (2) ヨーロッパ文化 (3) ヨーロッパ社会 (4) イギリス文化 (5) 文化研究

事前学習（予習）

大きなテーマごとに予習課題を課す。また、事前に配布したプリントについては授業前に読んでおくこと。

復習についての指示

テーマごとに小テストを行う。また、期末レポートはそれぞれ、授業の復習課題なので、テーマごとにポイントをまとめておくこと。

授業計画

1. イントロダクション
2. 欧米文化とは？
3. 歴史 1
4. 歴史 2
5. 地理 1
6. 地理 2
7. 宗教と芸術文化 1
8. 宗教と芸術文化 2
9. 美術 1
10. 美術 2
11. 美術 3
12. 建築 1
13. 建築 2
14. 庭園
15. 工芸・デザイン 1
16. 工芸・デザイン 2
17. 文学 1
18. 文学 2
19. 文学 3
20. 音楽 1
21. 音楽 2
22. ファッション 1
23. ファッション 2
24. スポーツ文化
25. オリンピック
26. 食文化と芸術 1
27. 食文化と芸術 2
28. 万国博覧会
29. 社会と芸術
30. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 平常点:40% (2) 課題:30% (3) 期末レポート:30%

担当者：畠山 宗明

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

芸術は日常的な社会活動とは全く切り離されたものと理解されがちである。しかし、作品に値段がついたり表現が規制されたりするのは、芸術もまたさまざまな社会的実践の一つであるということの意味している。また芸術活動の中には、積極的に社会との関わりを目指すものもある。この講義では、そのような芸術と社会の関わりを様々な観点から検討してみたい。

2. 学びの意義と目標

この授業では、①芸術と社会、②社会に向かう芸術、③制度としての芸術という三つのテーマを中心に考えてみたい。これらのアプローチを通じて、ある作品を取り巻いていた社会環境を知るだけでなく、芸術そのものが持っている社会的性格を理解することが、この講義の目標である。

受講生に対する要望

この授業では、「なぜ芸術はわからないものなのか」、という問題にも立ち入っていきたいと思っているので、芸術の「わからなさ」の前に尻込みしている学生も、怖がらずに受講して欲しい。

キーワード

((1) 芸術 (2) アート (3) 前衛

事前学習（予習）

授業で次の予告を行い、参考文献の指示などもその時に行う。

復習についての指示

授業でプリントを配布するので、その内容や掲載されている参考文献を図書館で調べるなどして欲しい。

授業計画

1. イントロダクション
2. 「芸術」とは何だろうか？
3. 現代社会の中の芸術
4. 芸術と芸術家
5. 芸術とテクノロジー
6. 芸術の歴史(1) 宗教としての芸術
7. 芸術の歴史(2) 芸術と権力
8. 絵画を「読む」
9. 近代社会の中の芸術(1) 世俗化する芸術
10. 近代社会の中の芸術(2) 芸術家と個の誕生
11. 近代社会の中の芸術(3) 美術館と植民地主義
12. 近代社会における芸術の役割(1) リアリズム
13. 近代社会における芸術の役割(2) ゴシック・リヴァイヴァル
14. 19世紀芸術と20世紀大衆文化(1)
15. 19世紀芸術と20世紀大衆文化(2)
16. 「わからない」芸術の誕生？ 印象派以降の芸術について
17. 印象派の誕生
18. 鉄道と近代テクノロジー
19. 近代芸術における「表現」(1) 後期印象派
20. 近代芸術における「表現」(2) 象徴主義、表現主義
21. 20世紀芸術へ：マティスとピカソ
22. テクノロジーの芸術：未来派とロシア前衛芸術
23. 芸術の外へ：ダダイズムとバウハウス
24. シュルレアリスムと無意識の発見
25. 非西洋圏における芸術
26. 大衆文化時代の芸術(1) 抽象表現主義とハプニング
27. 大衆文化時代の芸術(2) ポップ・アート
28. ポストモダンと芸術
29. ポストモダン芸術とクール・ジャパン
30. 全体のまとめ

教科書

高階 秀爾『近代絵画史—ゴヤからモンドリアンまで (上) (中公新書 (385))』(中央公論新社)高階 秀爾『近代絵画史—ゴヤからモンドリアンまで (下) (中公新書 (386))』(中央公論新社)
プリント以外の参考文献に関しては、まず高階 秀爾『近代絵画史—ゴヤからモンドリアンまで (上)(下)』(中公新書)が授業にかかわる中でもっとも広い範囲を扱っている。その他の個別のテーマに関しては、適宜指示する。

評価方法

(1) 期末レポート:40% (2) 出席:30% (3) ミニツレポート:30%

期末レポートが大きな評価基準となるが、その他出席も考慮する。また、授業後にミニツレポート(その場で提出する小レポート)の提出を求める場合がある。

就職に役立つ基礎英語

ENGL-A-204

担当者：小川 隆夫

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人格と主体性：社会人としての倫理観と働く力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義では、就職ですぐに役立つような英語を基礎からしっかりと学んでいく。常にビジネス場面を意識し、まず10の文法をマスターし、使いまわしができる10のフレーズを覚える。次にテーマごとにリスニングとリーディングを攻略し、海外出張のシーン別に使えるスピーキング力を鍛えていく。

2. 学びの意義と目標

生き残りをかけて外資企業と合併する企業や、ビジネスチャンスを海外に求める企業が増加し、ビジネスの場は日本国内から世界へと広がっている。英語はもはや仕事の上での必須条件になりつつある。ビジネスでは情報伝達など実際の目標があって行われるため、言葉の使い方での摩擦が起きないような英語の基礎的な使い方を学ぶ。また、職場で日常的に使う英語を合わせて学び、即戦力となるようにする。

受講生に対する要望

基礎から、しっかり力をつけるため28の単元に分かれている。予習、復習を欠かさず行って授業に臨み、根気強く学んでほしい。

キーワード

(1) ビジネスで使う文法 (2) ビジネスで使うフレーズ (3) ニュース英語 (4) ビジネスシーンの会話表現

事前学習（予習）

毎回、指定ページを読み、予習をして授業に臨むこと。

復習についての指示

復習を欠かさず行い、授業でやった内容を自分のものにしていくこと。次回の授業で小テストを行い理解度をチェックする。

授業計画

1. オリエンテーション10の必須文法 品詞と文型の復習
2. 品詞と文型及び時制
3. 完了形はこれだけ覚えよう
4. 5つの「助動詞」のイメージをつかもう
5. 動詞を名詞にする!? 不定詞と動名詞
6. ~ing, ~edなどの分詞と比較をマスターしよう
7. 関係詞と仮定法で文章を洗練させる
8. 使いまわせるフレーズ ①依頼
9. ②通知
10. ③報告
11. ④確認
12. ⑤催促・リマインダー
13. ⑥提案・アドバイス ⑦指示・命令 ⑧指摘
14. ⑨拒否・辞退 ⑩反論
15. 復習と試験
16. リスニングとリーディング攻略 ①政治 ②犯罪
17. ③テロリズム ④マーケット
18. ⑤ビジネス
19. ⑥経済
20. ⑦環境
21. ⑧社会
22. ⑨医療・健康 ⑩ストレス
23. シーン別にスピーキング力を鍛える ①空港・機内
24. ②ホテル
25. ③移動手段
26. ④電話
27. ⑤会議・プレゼンテーション
28. ⑦食事 ⑧ビジネスランチ・ディナー、パーティー
29. ⑨買い物と観光 ⑩トラブル対処
30. 総まとめと試験

教科書

大島 さくら子 『もし海外出張まで、あと1カ月しかなかったら!? ビジネス英語4週間集中プログラム——会話、リスニング、文法を一気に学ぶ!』 (ダイヤモンド社)

評価方法

(1) 出席・授業貢献:20% (2) 小テスト:20% (3) 中間試験:30% (4) 期末試験:30%

職場で役立つ基礎英語

ENGL-A-205

担当者：櫻井 智美

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人格と主体性：現代世界において求められる行動力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

将来会社で遭遇するであろう場面を設定し、その各場面が必要とされる英語の知識とスキルを身につけると共に、日本で就職活動を行う際の知識やビジネスマナーにも触れる。具体的には就職活動で必要とされる履歴書の書き方や面接、そして入社してからの電話対応など、学生である主人公の物語に沿って学習する。また、簡単なビジネスレターやメールの作成にも取り組む。リスニングとリーディング、会話を中心にスキルアップを目指し、会話においては基本的な表現のビジネス・コミュニケーションについて活動を交えながら習得する。

2. 学びの意義と目標

国際社会において、英語の需要は益々高まっている。異文化を理解し受け入れる柔軟な態度や、世界とコミュニケーションを図ることができる能力が必要とされている。これは日本の会社でも例外ではない。この授業では、リスニング力とリーディング力を強化し、会話力の向上へつなげていくことを目標とする。職場で良く使われる簡単に基礎的な英語表現を習得し、的確に失礼のない対応ができることを目指す。

受講生に対する要望

授業への出席と参加を望む。

キーワード

事前学習（予習）

授業で次の予告をするので、予告された内容に目を通すこと。

復習についての指示

毎回単語のクイズを行うので、授業で学んだ単語や熟語を復習すること。

授業計画

1. ガイダンス
2. 就職活動1：履歴書を書く①
3. 就職活動1：履歴書を書く②
4. 就職活動2：就職申し込みの手紙を書く①
5. 就職活動2：就職申し込みの手紙を書く②
6. 復習
7. 就職活動3：面接の手はずを整える①
8. 就職活動3：面接の手はずを整える②
9. 就職活動4：面接①
10. 就職活動4：面接②
11. 採用通知①
12. 採用通知②
13. 復習
14. 中間試験
15. 試験解説
16. 入社日①
17. 入社日②
18. 仕事への準備①
19. 仕事への準備②
20. 電話1：電話に対応する①
21. 電話1：電話に対応する②
22. 復習
23. 電話2：伝言を受ける①
24. 電話2：伝言を受ける②
25. 電話3：面会の予約をする①
26. 電話3：面会の予約をする②
27. 復習
28. プレゼンテーション
29. プレゼンテーション・復習
30. 期末試験

教科書

城由紀子 『やさしいオフィス英語』（成美堂）

評価方法

(1) 授業への出席・参加：25% (2) プレゼンテーション：25% (3) 中間試験：25% (4) 期末試験：25%

児童英語教育（インターンシップⅠ）

ENGE-A-302

担当者：東 仁美

開設期：春学期集中/秋学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

グローバル世界で活躍するための力：教育分野において物事を教える力を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校英語指導者資格：必修科目

講義概要

1. 内容

1. 内容児童英語教育の授業実習をする。さいたま市立小学校での英語活動及び放課後居場所事業「おもしろ英語クラブ」での授業を担当する。週1回の授業実習のほかに、指導案作成、教材作り、模擬授業など週2～3回の事前指導がある。

2. 学びの意義と目標

児童英語教育科目の集大成として、英語のみで1時間の授業を指導する力をつけていく。

受講生に対する要望

「学生」ではなく、公教育の場で「指導者」としてふるまい、責任を持った行動をしてほしい。児童英語教育の他科目をできるだけ多く履修し、小学校英語の理論と実践を身に付けた上でインターンシップⅠを履修してほしい。英検二級程度の英語力を持った学生の履修が望ましい。

キーワード

(1) 授業実習 (2) 英語活動 (3) 指導案作成 (4) 模擬授業

事前学習（予習）

指導案作成、英語台本作成、教材作成の各段階で事前指導を受け、事前授業を行う。

復習についての指示

実習終了後、速やかに実習レポートを作成し、提出する。

授業計画

1. 事前指導事後指導を含めて60時間の実習を課する。実習までに指導案作成、教材作成、模擬授業などの事前指導を行う。
2. 授業実習
3. 授業実習
4. 授業実習
5. 授業実習
6. 授業実習
7. 授業実習
8. 授業実習
9. 授業実習
10. 授業実習
11. 授業実習
12. 授業実習
13. 授業実習
14. 授業実習
15. 授業実習

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 実習：60% (2) レポート：20% (3) 事前事後指導：20%

児童英語教育（インターンシップⅡ）

ENGE-A-401

担当者：東 仁美

開設期：秋学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

グローバル世界で活躍するための力：教育分野において物事を教える力を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校英語指導者資格：選択科目

講義概要

1. 内容

1. 内容児童英語教育の授業実習をする。さいたま市立小学校での英語活動及び放課後居場所事業「おもしろ英語クラブ」での授業を担当する。週1回の授業実習のほかに、指導案作成、教材作り、模擬授業など週2～3回の事前指導がある。

2. 学びの意義と目標

児童英語教育科目の集大成として、英語のみで1時間の授業を指導する力をつけていく。

受講生に対する要望

「学生」ではなく、公教育の場で「指導者」としてふるまい、責任を持った行動をしてほしい。児童英語教育の他科目をできるだけ多く履修し、小学校英語の理論と実践を身に付けた上でインターンシップⅡを履修してほしい。英検二級程度の英語力を持った学生の履修が望ましい。

キーワード

(1) 授業実習 (2) 英語活動 (3) 指導案作成 (4) 模擬授業

事前学習（予習）

指導案作成、英語台本作成、教材作成の各段階で事前指導を受け、事前授業を行う。

復習についての指示

実習終了後、速やかに実習レポートを作成し、提出する。

授業計画

1. 事前指導事後指導を含めて60時間の実習を課する。実習までに指導案作成、教材作成、模擬授業などの事前指導を行う。
2. 授業実習
3. 授業実習
4. 授業実習
5. 授業実習
6. 授業実習
7. 授業実習
8. 授業実習
9. 授業実習
10. 授業実習
11. 授業実習
12. 授業実習
13. 授業実習
14. 授業実習
15. 授業実習

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 実習：60% (2) レポート：20% (3) 事前事後指導：20%

児童英語教育(カリキュラム・デザイン)

ENGE-A-202

担当者：東 仁美

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

グローバル世界で活躍するための力：教育分野において物事を教える力を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校英語指導者資格：必修科目

講義概要

1. 内容

新学習指導要領では、5・6年生で年間35時間の外国語活動が必修化された。学校英語教育が大きな転換期を迎えている中で小学校で英語を教える指導者が益々求められている。この授業では、公立小学校での英語活動の基礎知識を身につけ、カリキュラム作りに必要な学習目標、学習内容、指導方法などを研究していく。「Hi, friends!」の教材研究を通して、実際に単元計画と1時間の指導案を作成することを課題とする。

2. 学びの意義と目標

公立小学校での外国語活動必修化への動きに対して、最新の動向を把握しつつ、指導者として今何をすべきかを検証していく。

受講生に対する要望

参加型の授業である。教壇に立って教えることに積極的に取り組んでほしい。

キーワード

(1) 小学校英語教育 (2) 外国語活動 (3) 指導案作成 (4) 模擬授業

事前学習（予習）

40ポケット程度のファイルを用意すること。文献を読む宿題やレポート作成の課題がかなり多いが、教える立場で授業に臨んで欲しい。グループでの指導計画作成、授業準備を協力して行うこと。

復習についての指示

返却されたレポートの見直しを行うこと。模擬授業後のフィードバックを参考に自身の指導力を振り返ること。

授業計画

1. 小学校における英語教育の意義
2. 小学生の特徴と英語活動のあり方、進め方
3. 学習指導要領とカリキュラムづくり
4. 教材研究、指導法
5. 学習指導案の作成
6. アクティビティの指導方法
7. 環境づくりと指導技術
8. 評価方法
9. 指導者に求められる資質
10. 小中連携
11. 諸外国の小学校英語教育
12. 英語特区、研究開発学校の取り組み
13. イマージョン教育、私立小学校の英語教育
14. クラスルームイングリッシュの活用
15. プレゼンテーション

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』（東洋館出版社）
文部科学省『Hi, friends! 1』（東京書籍）
文部科学省『Hi, friends! 2』（東京書籍）

評価方法

- (1) 出席、参加:30% (2) レポート:20% (3) プレゼンテーション:30%
(4) 学期末課題:20%

児童英語教育(理論)

ENGE-A-201

担当者：小川 隆夫

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

グローバル世界で活躍するための力：教育分野において物事を教える力を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校英語指導者資格：必修科目

講義概要

1. 内容

小学校外国語活動及び児童英語教育についての概要や背景となる理論を学ぶ。また実施に関わる様々な要素や教育環境についても理解を深める。授業は講義のほか、経験的に学んでいくグループワークを実施する。児童英語教育科目の中の入門的な講座である。

2. 学びの意義と目標

児童英語の概要と共に、幼い子供及び小学校児童に教えるという観点から、「自分の学び」とともに「教える」という視点と責任感が求められる。

受講生に対する要望

「教える」ことを学ぶ以上、他者と積極的にかかわり学びを共有しながら共に成長していこうとする意識を持って参加すること。

キーワード

(1) 小学校外国語活動の目的、理念 (2) 母語習得と第二言語習得
(3) 指導者の資質と能力 (4) 4技能の指導 (5) 指導技術

事前学習（予習）

前時に指示された教科書の指定箇所及びプリントを読んでから授業に臨むこと。

復習についての指示

振り返りカードに記入し、次授業に備える。

授業計画

1. イントロダクション 外国語活動の目的と目標
2. 関連分野から見る外国語活動の意義と方向性
3. 指導者の役割、資質と研修
4. 教材・テキストの構成と内容
5. 指導目標、年間指導計画の立て方と具体例
6. 言語材料と4技能の指導
7. 教材研究①
8. 教材研究②
9. 指導法と指導技術
10. 教材・教具の活用法
11. 評価の在り方、進め方
12. 外国語活動の成果、課題と今後の展望
13. プレゼンテーション
14. グループプレゼン
15. 学びの総括

教科書

文部科学省 『Hi, friends! 1』 (東京書籍) 文部科学省 『Hi, friends! 2』 (東京書籍) 樋口 忠彦, 加賀田 哲也, 泉 恵美子, 衣笠 知子 『小学校英語教育法入門』 (研究社)

評価方法

(1) 出席:20% (2) レポート:20% (3) プレゼンテーション:30% (4) 期末テスト:30%

担当者：A. クラウス

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

グローバル世界で活躍するための力：教育分野において物事を教える力を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校英語指導者資格：必修科目

講義概要

1. 内容

Teaching English to children is different from teaching English to older learners. Teachers need techniques and methods specifically for children. In this class, you will learn about these methods and the theories behind them. You will also have a chance to polish your classroom language and your teaching skills by preparing activities, songs, and picture books to present to classmates. Halloween and Christmas activities will also be included, as well as online resources.

2. 学びの意義と目標

The goals are learning how children learn languages and learning methods to teach languages to children.

受講生に対する要望

Students are expected to read about the topics, pass daily quizzes on material presented in the class before, and practice presenting activities designed for children.

キーワード

(1)teaching methods (2)children (3)teaching materials

事前学習（予習）

Before class, students will prepare activities to present.

復習についての指示

After class, students will read materials distributed in preparation for a quiz in the next class.

授業計画

1. Introduction to teaching children
2. Classroom language
3. Warm-up activities
4. Warm-up activities (Student presentation 1)
5. Lesson planning
6. Activities using pictures
7. What is Halloween?
8. Halloween activities
9. The importance of listening
10. Activities for teaching listening. TPR
11. Materials for teaching children 1
12. Materials for teaching children 2
13. Online resources 1
14. Online resources 2
15. Songs and chants
16. Songs and chants (Student presentation 2)
17. Activities for teaching speaking
18. Teaching dialogs
19. Multiple intelligence theory
20. Teaching to different learning styles
21. Activities using cards 1
22. Activities using cards 2
23. What is Christmas? Christmas songs
24. Christmas activities
25. Picture books 1
26. Picture books 2
27. Theme-based lessons
28. Teaching reading and writing
29. Picture books (Student presentation 3)
30. Picture books (Student presentation 3) cont.

教科書

松香洋子 『小学生は英語が大好き —72 Activities 1 基礎編』
(松香フォニックス研究所)

評価方法

(1)attendance:20% (2)presentations:50% (3)quizzes:20% (4)assignments:10%

児童英語教育(ワークショップB)

ENGE-A-204

担当者：幡井 理恵

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

グローバル世界で活躍するための力：教育分野において物事を教える力を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校英語指導者資格：必修科目

講義概要

1. 内容

小学校における英語指導は、必修化から教科化へと刻々と進化している。それゆえに指導者もその流れを敏感に感じ取り、柔軟に対応出来る力を身につける必要がある。本講義では、小学校外国語活動を指導するにあたり必要な理論、指導法の知識を得るとともに、教育現場で役立つ具体的な活動の実践演習を行う。

2. 学びの意義と目標

教師として教壇に立つ前に、小学校で使用頻度の高い教材について十分に把握することや、子供の反応を知っておくことは大切である。現場での事例を知り、学生間で議論を交わしながら、小学校外国語活動の様々な事項にも柔軟に対応できる力を身に付けることを目標とする。

受講生に対する要望

話にしっかり耳を傾け、積極的な講義への参加を期待する。講義においては、小学校英語指導に関わる事柄を紹介し、学生間の意見交換も行うため、全講義出席を基本とする。

キーワード

(1) 小学校外国語活動 (2) 子供のための指導法 (3) 教師の発話 (4) 歌、絵本、活動 (5) ティーム・ティーチング

事前学習（予習）

テキストの指定箇所を目を通してから授業に臨むこと。

復習についての指示

各回で配布された資料及びその内容をポートフォリオにまとめ、演習で使った教材なども含めてファイリングする。レポートが課された場合は、期日までに仕上げて提出すること。

授業計画

1. 自らの英語習得を振り返る
2. 小学校外国語活動の変遷とこれから
3. 子どもの言語習得
4. 英語教授法
5. 子どもたちのための効果的な英語教授法
6. Classroom English
7. Teacher Talkとジェスチャー
8. TPR
9. 歌とチャンツ
10. 絵本の活用とストーリーテリング
11. 語彙学習に有効な活動
12. 低学年の指導—理論と実践
13. 中学年の指導—理論と実践
14. Hi friends!1に見る小学校英語活動分析
15. Hi friends!1を使用した実践
16. Hi friends!2に見る小学校英語活動分析
17. Hi friends!2を使用した実践
18. 文字指導とその意義
19. フォニックス
20. 授業の組み立て方と運営
21. Team Teaching
22. Team Teaching実践
23. 評価
24. 小学校外国語活動と中学校英語の接続
25. 研究実践発表 1
26. 研究実践発表振り返り 1
27. 研究実践発表 2
28. 研究実践発表振り返り 2
29. まとめ
30. 期末試験 または レポート提出及び解説

教科書

文部科学省 『Hi, friends! 1』 (東京書籍) 文部科学省 『Hi, friends! 2』 (東京書籍)

評価方法

- (1) 出欠及び授業への参加:30% (2) ポートフォリオ:20% (3) 実践発表:30% (4) 試験またはレポート:20%:授業進度により学期の後半で指示する。

*毎回の出席が前提となるため、欠席は減点の対象とする。*授業では活発な意見交換や討議を実施するため、参加意欲が見られない場合は減点の対象とする。*ポートフォリオについては、A4のファイルに講義内で作成及び使用したものをファイリングし、試験またはレポートと共に求める。

担当者：瀧井 直子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義では、古代ギリシアから20世紀までの西洋美術を時代にそってみていきます。対象とする地域はヨーロッパと北アメリカ、また取り上げる美術は絵画だけでなく、彫刻、建築、装飾美術など多岐にわたります。講義は具体的な作品に焦点をあてながら進め、美術の作り手と受け手、作品の形態、作品が作られた時代の社会や文化背景などの諸問題について考察します。

2. 学びの意義と目標

西洋美術の歴史を学ぶことを通して、今後各自の専門的関心を深めるための基礎を養うことができます。様々な美術作品に親しむと同時に、その背後に宿っているメッセージを読み解く力を身につけましょう。なお、配布プリント以外に高階秀爾監修『カラー版 西洋美術史』（美術出版社）も参考にしてください。

受講生に対する要望

講義中の私語、居眠りを厳禁します。講義では短時間ながらも討論の時間を設けることがありますので、積極的に参加してください。また、展覧会や講義で紹介する文献を見ることで、具体的な作品を心に刻みつけてください。

キーワード

(1)美術史 (2)西洋美術 (3)作品の作り手と受け手 (4)美術作品に親しむ (5)読み解く力

事前学習（予習）

配布プリントなどの指定箇所を読み、疑問点などを整理しておくこと。

復習についての指示

配布プリント、ノートを再読すること。課題が出された際には、期限内に提出できるように取り組むこと。また、講義中に指示した作品などについては次回までに暗記すること。

授業計画

1. イントロダクション
2. 古代ギリシアの美術と建築 (1)
3. 古代ギリシアの美術と建築 (2)
4. 古代ローマの美術
5. ビザンティン美術
6. ロマネスクの美術と建築
7. ゴシックの美術と建築
8. ルネサンスの美術 (1)
9. ルネサンスの美術 (2)
10. 北方ルネサンスの美術
11. バロックの美術
12. ロココの美術
13. 講義のまとめ (1)
14. 中間試験
15. 新古典主義の美術
16. ロマン主義の美術 (1)
17. ロマン主義の美術 (2)
18. 写実主義
19. 印象主義
20. ポスト印象主義 (1)
21. ポスト印象主義 (2)
22. 世紀末芸術と象徴主義の美術 (1)
23. 世紀末芸術と象徴主義の美術 (2)
24. 近現代の彫刻
25. キュビズム
26. ダダイスムとシュルレアリスムの美術
27. 抽象表現主義
28. ポップ・アート
29. 講義のまとめ (2)
30. 期末試験

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席、授業態度:15% (2)リアクション・シートの内容:25% (3)中間試験:30% (4)期末試験:30%

専門演習 (Pop Culture) I

EACL-A-201

担当者：K. O. アンダスン

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける。
表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。
表現力・リテラシー：考え抜くための批判的な思考力を身につける。
表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける。

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

このゼミでは、外国の映画を通してその国の文化を学ぶ。13本の短編映画（日本語字幕付き）を鑑賞する。フランス映画3本、イタリア映画1本、イギリス映画6本、カナダ映画2本、日本映画1本。以外について反す時に用いられる語彙を学びいくつかの短い映画評論を読む。映画の登場人物、映画撮影法、ストーリーが繰り広げられている場所や映画のテーマなどについて検証する。映画のストーリーと自分の経験などを重ね合わせ話し合う。Students must also, over the four semesters of the seminar, write a long essay in English on a topic related to cinema, according to the MLA handbook.

2. 学びの意義と目標

外国映画を通して、他国の文化を学ぶ。The purpose of this class is to make students more aware of the themes and techniques of world cinema and to reflect on these themes and how they are expressed through the art of cinema.

受講生に対する要望

Students should come to class on time, always have their homework done by the deadline, be willing to participate in discussions about the film and to write about them, and be willing to consult the teacher about their essays outside of class.

キーワード

(1)characters, actors (2)flashbacks, foreshadowing (3)cineamatography, film scores (4)animation, expression

事前学習（予習）

Students should read through all material on a film handed out by the teacher before watching the film; conduct research on the filmmaker, the actors, etc.; and be prepared to give opinions about films in class.

復習についての指示

After watching a film, students should be willing to discuss the film with other students and later the teacher and then be willing to write essays on the films to clarify their views of the films.

授業計画

1. Crin Blanc (White Mane)
2. Crin Blanc (White Mane)
3. Le Ballon Rouge (The Red Balloon)
4. Les Mistons (The Brats)
5. Les Mistons (The Brats)
6. Anna of Milan (from Ieri, oggi, domani)
7. Anna of Milan (from Ieri, oggi, domani)
8. Communication Problems (from Faulty Towers)
9. Communication Problems (from Faulty Towers)
10. The Snowman/Father Christmas
11. The Snowman /Father Christmas
12. Crac!
13. Crac!
14. The Man Who Planted Trees
15. review for the final exam

教科書

Hiromi Akimoto / Mayumi Hamada 『Casablanca: Cool and Unforgettable English』 (Macmillan Language House) Mayumi Hamada, Hiromi Akimoto 『Roman Holiday』 (Macmillan Language House)

評価方法

(1)attendance:10% (2)homework:30% (3)quizzes:30% (4)final exam:30%

専門演習 (Pop Culture) II

EACL-A-301

担当者：K. O. アンドスン

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける。
表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。
表現力・リテラシー：考え抜くための批判的な思考力を身につける。
表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける。

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

このゼミは2012年度秋学期、専門演習 (Pop Culture) I の継続授業である。In this course we will continue watching short films and then progress to three longer films: Casablanca, The Third Man, and Roman Holiday.

2. 学びの意義と目標

The purpose of this course is to go from watching and commenting on short films to watching and commenting on longer films and go further and deeper in discussing the historical background and underlying themes of the films.

受講生に対する要望

Students are expected to bring their textbooks to every class and to have their homework ready for each class. They should be willing and ready to discuss the various themes and ideas expressed by various scenes in the longer films.

キーワード

(1) animation; satire (2) mysteries; romance (3) biography, history (4) World War II

事前学習 (予習)

Students should read over and understand all questions connected to films before class. For the longer films, they should watch their own DVD copies at home and familiarize themselves with the actors, the lines of script, and the background history behind the scenes.

復習についての指示

After watching scenes in the longer films, the students should review the scripts they have read and discussed in class and relate what they have learned to their own personal lives.

授業計画

1. Cinderella (from Revolting Rhymes)
2. Cinderella (from Revolting Rhymes)
3. The Soldier and Death
4. The Adventure of the Abbey Grange
5. The Adventure of the Abbey Grange
6. The Van Gogh Dream (from Yume)
7. The Van Gogh Dream (from Yume)
8. Casablanca introduction and research
9. Casablanca reports
10. Casablanca
11. Casablanca
12. Casablanca
13. Casablanca
14. Casablanca
15. Review for the final exam

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) attendance :10% (2) homework:30% (3) quizzes:30% (4) final exam:30%

専門演習(アメリカ文化)Ⅰ

EACL-A-201

担当者：柴田 史子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける。
表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。
表現力・リテラシー：考え抜くための批判的な思考力を身につける。
表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける。

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

アメリカ合衆国は”nation of joiners”（グループに加入する人々によって創られた国）であると言われる。本演習では、アメリカ社会の礎となった集団、運動、クラブについて学ぶことを通して、アメリカ社会・アメリカ文化、そして現代社会のあり方を多面的、立体的に捉えていく。テキストは日本語と英語（プリントを配付）を併用し、テキストの要約、翻訳や発表を行なう。

2. 学びの意義と目標

1年半の演習科目を通して、日本語・英語の文献を読む力、自分で問題を発見・設定する力、レポートを書く力、発表しディスカッションする力といった社会人に必要な基本的な力を身につけることを目指す。その第一歩として本演習では、英語の基礎を学びなおすことと、情報収集と収集した情報の分析に重点を置く。

受講生に対する要望

授業への積極的な参加を通して、学びの仲間を作って欲しい

キーワード

(1) アメリカ (2) 草の根 (3) 共同体 (4) 生活文化

事前学習（予習）

配布されたプリントを事前に読み、百科事典等で予備知識を得て授業に参加すること発表する場合にはレジュメを用意すること

復習についての指示

学んだことを自分の言葉でまとめること

授業計画

1. ガイダンス
2. 日本語文献の講読
3. 日本語文献の講読
4. 英語文献の講読
5. 英語文献の講読
6. 日本語文献の講読
7. 日本語文献の講読
8. 英語文献の講読
9. 英語文献の講読
10. 日本語文献の講読
11. 日本語文献の講読
12. 日本語文献の講読
13. 英語文献の講読
14. 英語文献の講読
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 平常点:80%:出席状況と討論への参加で判断する (2) 提出物:20%

専門演習(アメリカ文化)Ⅱ

EACL-A-301

担当者：柴田 史子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける。
表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。
表現力・リテラシー：考え抜くための批判的な思考力を身につける。
表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける。

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

アメリカ合衆国は”nation of joiners”（グループに加入する人々によって創られた国）であると言われる。本演習では、アメリカ社会の礎となった集団、運動、クラブについて学ぶことを通して、アメリカ社会・アメリカ文化、そして現代社会のあり方を多面的、立体的に捉えていく。テキストは日本語と英語（プリントを配付）を併用し、各回担当者を決めてテキストの要約、翻訳や発表を行なう。

2. 学びの意義と目標

1年半の演習科目を通して、日本語・英語の文献を読む力、自分で問題を発見・設定する力、レポートを書く力、発表しディスカッションする力といった社会人に必要な基本的な力を身につけることを目指す。特に本演習では、問題発見と論理構成の訓練を行なう。

受講生に対する要望

関連分野に対してアンテナを張り、視野を広げることを期待する。また、卒業研究で取り組むテーマを見つける努力をすること。

キーワード

(1) アメリカ (2) 草の根 (3) 共同体 (4) 食文化

事前学習（予習）

文献の分からない用語は辞書や百科事典で調べた上で授業に出席すること。

復習についての指示

授業ノート、資料、下調べメモの管理をしっかりとすること

授業計画

1. ガイダンス
2. 日本語文献の講読
3. 日本語文献の講読
4. 日本語文献の講読
5. 英語文献の講読
6. 英語文献の講読
7. 日本語文献の講読
8. 日本語文献の講読
9. 英語文献の講読
10. 英語文献の講読
11. 日本語文献の講読
12. 日本語文献の講読
13. 英語文献の講読
14. 英語文献の講読
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 平常点:80% (2) 提出物:20%

専門演習(英語学) I

EACL-A-201

担当者：加曾利 実

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける。
表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。
表現力・リテラシー：考え抜くための批判的な思考力を身につける。
表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける。

カリキュラム上の位置付け

日本語教員養成課程：選択必修科目

講義概要

1. 内容

人間と言語の関係を中核として、言語と文化の本質に係わる諸問題を考えて行きます。言語習得理論に関するテキストを輪読し、英語語学習が、どの様にあるべきかについてディスカッションします。また、もし希望者がいれば、英語音声、英文法、英語句読法、その他の英語基礎事項について総合的に学習します。最初の授業時に、プリントで授業の詳細について説明します。

2. 学びの意義と目標

本ゼミでは、言語習得理論、インド・ヨーロッパ語族などについての、やさしい英文で書かれた入門書を輪読しながら、言語と文化の様々な問題について議論を深化させていきたいと思っています。

受講生に対する要望

言語習得理論、印欧祖語について学習しますので、英語の基礎学力のある学生を望みます。また、予習・復習を励行して下さい。

キーワード

(1)言語習得理論 (2)言語学習理論 (3)インド・ヨーロッパ語族
(4)日米比較文化論

事前学習(予習)

毎回、全員に当たるので、授業前に配布プリント及びテキストを熟読し、よく予習しておくこと。予習・復習ノートを提出してもらい、評価の一部とします。

復習についての指示

復習も、必ず励行して下さい。毎回、授業後、学習事項を復習しましょう。また、復習を何回か繰り返すと、より効果的に記憶に残ります。

授業計画

1. イントロダクションと英語基礎力確認調査
2. テキスト輪読：言語習得理論と英語学習理論 1
3. テキスト輪読：言語習得理論と英語学習理論 2
4. テキスト輪読：言語習得理論と英語学習理論 3
5. テキスト輪読：言語習得理論と英語学習理論 4
6. テキスト輪読：言語習得理論と英語学習理論 5
7. テキスト輪読：言語習得理論と英語学習理論 6
8. テキスト輪読：言語習得理論と英語学習理論 7
9. テキスト輪読：言語習得理論と英語学習理論 8
10. テキスト輪読：言語習得理論と英語学習理論 9
11. テキスト輪読：言語習得理論と英語学習理論 10
12. テキスト輪読：言語習得理論と英語学習理論 11
13. テキスト輪読：言語習得理論と英語学習理論 12
14. テキスト輪読：言語習得理論と英語学習理論 13
15. 総合的なまとめ

教科書

Sheila Chevallier 『First Steps to Linguistics』(三修社)安河内 哲也 『できる人の勉強方』(中経出版)

評価方法

(1)出席及び態度:20% (2)予習・復習ノート:10% (3)課題レポート:30% (4)期末試験:40%

専門演習(英語学)Ⅱ

EACL-A-301

担当者：加曾利 実

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける。
表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。
表現力・リテラシー：考え抜くための批判的な思考力を身につける。
表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける。

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

専門演習(英語学)Ⅰを踏まえて、人間と言語と文化の関係・本質に係わる諸問題について考えて行きます。テキストを輪読しながら、英語の読解力を養成します。専門演習(英語学)Ⅱでは、インド・ヨーロッパ語族と言語の系統・類型学について学びます。最初の授業時に、プリントで授業の詳細について説明します。

2. 学びの意義と目標

やさしい英文で書かれた入門書を輪読しながら、言語習得理論を中心として、英語学や言語学について議論を深化させていきたいと思います。

受講生に対する要望

主として英語学に関心のある学生を望みます。専門演習(英語学)Ⅱでは、「インド・ヨーロッパ語族」をテーマとします。

キーワード

(1)インド・ヨーロッパ語族 (2)日米比較文化論

事前学習(予習)

毎回、全員が当たるので、テキストの翻訳が出来るように予習し、準備をしておいて下さい。適宜、予習・復習ノートを提出してもらい、これを評価の一部とします。

復習についての指示

毎回、授業後、学習事項を復習して下さい。また、繰り返し復習すると、確実に記憶に定着します。

授業計画

1. イントロダクション
2. テキストの輪読：インド・ヨーロッパ語族 1
3. テキストの輪読：インド・ヨーロッパ語族 2
4. テキストの輪読：インド・ヨーロッパ語族 3
5. テキストの輪読：インド・ヨーロッパ語族 4
6. テキストの輪読：インド・ヨーロッパ語族 5
7. テキストの輪読：インド・ヨーロッパ語族 6
8. テキストの輪読：インド・ヨーロッパ語族 7
9. テキストの輪読：インド・ヨーロッパ語族 8
10. テキストの輪読：インド・ヨーロッパ語族 9
11. テキストの輪読：インド・ヨーロッパ語族 10
12. テキストの輪読：インド・ヨーロッパ語族 11
13. テキストの輪読：インド・ヨーロッパ語族 12
14. テキストの輪読：インド・ヨーロッパ語族 13
15. 総合的なまとめ

教科書

Sheila Chevallier 『First Steps to Linguistics』(三修社)2
1世紀研究会 『新・民族の世界地図』(文藝春秋)

評価方法

(1)出席及び態度:20% (2)予習・復習ノート:10% (3)課題レポート:30% (4)期末試験:40%

専門演習(英米文学)Ⅰ

EACL-A-201

担当者：氏家 理恵

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける。
表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。
表現力・リテラシー：考え抜くための批判的な思考力を身につける。
表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける。

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

英米文学作品や文化論からの抜粋を読んだり、映像作品を観たりしながら、物語を「読み」、その作品を生み出した文化や社会について理解を進める。前半は文献講読を中心とし、後半は発表を中心としたディスカッション形式です。事前に決めた担当者に分担部分についてのまとめ・解説・情報・コメントなどを発表してもらい、その後は発表を受けてのディスカッションとなる。なお、取り上げるテキストは参加者の関心に応じて決定する。

2. 学びの意義と目標

作品の分析方法を学ぶと同時に、作品を題材とした発表の仕方・レジュメの書き方・レポートの書き方などを身につけることも目的とする。物語の「読み方」を学び、また、その背景にある思想や文化、歴史などについて調べ、考察する力を養う。また、ディスカッションを通して自分の意見を積極的に発言することに慣れ、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を高める。

受講生に対する要望

この科目はこれから2年間にわたる＜ゼミ＞の最初のものであるので、それを自覚し、積極的に参加してほしい。

キーワード

(1) 英米文学 (2) 英米文化 (3) 映像文化 (4) 物語分析 (5) 比較文化

事前学習（予習）

毎回読む部分の予習は必ずすること。知らない用語・言い回しは調べておくこと。発表にあたっては内容・ポイントをまとめるだけでなく、調べたことも含めて発表レジュメを作成すること。

復習についての指示

自分の発表やレポートに活かせるように、授業で学んだ発表のポイント、レジュメ作成やレポート作成のポイントを常にまとめておくこと。

授業計画

1. イントロダクション
2. 文学作品・文化を「読む」とは？
3. レジュメ・資料の作り方
4. 文献講読 1
5. 文献講読 2
6. 文献講読 3
7. 文献講読 4
8. 文献講読 5
9. 前半のまとめとゼミ発表のポイント
10. 発表 1
11. 発表 2
12. 発表 3
13. 発表 4
14. 発表 5
15. まとめ—専門演習Ⅱに向けて

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 平常点:30% (2) 課題:20% (3) 発表:30%:レジュメ作成含む (4) 期末レポート:20%

専門演習(英米文学)Ⅱ

EACL-A-301

担当者：氏家 理恵

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける。
表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。
表現力・リテラシー：考え抜くための批判的な思考力を身につける。
表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける。

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

前半は「専門演習Ⅰ」で作成したレポートの合評会とレポート作成に関する文献購読、後半は「専門演習Ⅰ」に引き続き発表を行う。後半は事前に決めた担当者による発表と、発表を受けてのディスカッションですすめる。担当者は内容のまとめ・調べてきたこと・分析・コメントをレジュメを作成した上で発表する。

2. 学びの意義と目標

「専門演習Ⅰ」では、原文で作品を鑑賞しながらレジュメの作り方や発表の仕方を学んだが、Ⅱではさらに調べ物の仕方、引用の仕方、論理的な文章の書き方を学ぶ。特にレポートについては、専門演習Ⅰで作成したレポートを合評しあうことで、レポートを書くコツ・読むコツを知り、アウトラインの組み立てや説得力のある文章・表現に慣れるようにする。

受講生に対する要望

ゼミに積極的に参加してほしい。

キーワード

(1)英米文学 (2)英米文化 (3)映像文化 (4)物語分析 (5)ナルニア国物語

事前学習(予習)

予習は必ずしてくること。発表にあたってはテーマを設定し、問題意識をもって必要な情報を調べ、分析・考察を加えたうえで発表すること。発表レジュメをワープロで作成すること。

復習についての指示

合評用のレポート、講読文献、発表資料は事前に読み、授業時には自分の評価やコメントを発言できるように、常に準備しておくこと。

授業計画

1. イントロダクション: レポートの書き方と読み方
2. 専門演習Ⅰレポート合評会 1
3. 専門演習Ⅰレポート合評会 2
4. 専門演習Ⅰレポート合評会 3
5. 専門演習Ⅰレポート合評会 4
6. 専門演習Ⅰレポート合評会 5
7. レポート総評と作成の諸注意
8. 発表 1
9. 発表 2
10. 発表 3
11. 発表 4
12. 発表 5
13. 発表のまとめ・総評
14. 発表総評と分析・考察の諸注意
15. 卒業研究に向けて

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)平常点:30% (2)課題:20% (3)発表:30%:レジュメ作成含む (4)期末レポート:20%

専門演習(キリスト教文化)Ⅰ

EACL-A-201

担当者：E. D. オズバーン

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける。
表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。
表現力・リテラシー：考え抜くための批判的な思考力を身につける。
表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける。

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 内容：この講義は、生徒のキリスト教信仰の教義の理解をより深めると共に、また、聖書の教えがどのようにそれぞれの人生にかかわるものであるかを思考してゆくものです。「人生の意義とは」、「この世での自己の存在の意味とは」、あるいは、「幸福とは」といった現実的疑問をキリスト教的観点より話し合います（討論します）。聖書参照、また、全四肢なく生まれながらも充実し意義深い人生を歩んでいるオーストラリア人のニック・ブイチチ著より彼の人生とその証しを参照します。2. カリキュラムの位置づけ：この講義は欧米文化学部秋学期に専門演習講義を必修かつパスすることが2年次に適当とされる講義です。

2. 学びの意義と目標

キリスト教の理解を深めると同時に、クラスのディスカッションにおいて自己表現の経験を通して、学生自身の自己内面探求を大きな目標とします。

受講生に対する要望

この講義は日本語と英語によって行われます。必然的に学生の英語力は向上されますが、講義の第一焦点は講義内容にあります。

キーワード

(1)キリスト教 (2)人生 (3)夢

事前学習（予習）

既定の読書宿題を終え、講義の内のクラスディスカッションにおいて積極的参加を期待します。

復習についての指示

学生はクラスディスカッションのその日の内容を復習し、個人の生活・人生にどのように関係付けられるかを熟考し、まとめておくこと、尚、次回のクラスにおいて明確に述べられることを期待されます。

授業計画

1. イントロダクション
2. 一般的世界観とは何か？
3. キリスト教的世界観 I
4. キリスト教的世界観 II
5. 聖書と貴方／あなた（現実的生活）I
6. 聖書と貴方／あなた（現実的生活）II
7. 聖書と貴方／あなた（現実的生活）III
8. ディスカッション ブイチチ著書 I
9. ディスカッション ブイチチ著書 II
10. ディスカッション ブイチチ著書 III
11. ディスカッション ブイチチ著書 IV
12. ディスカッション ブイチチ著書 V
13. ディスカッション ブイチチ著書 VI
14. ブイチチの人生の原理 /道義、信念、基礎
15. 期末レポート

教科書

ニック・ブイチチ 『それでも僕の人生は「希望」でいっぱい』（三笠書房）

評価方法

- (1)授業出席:30% (2)授講参加態度:30% (3)読書レポート:15% (4)期末レポート:25%

専門演習(キリスト教文化)Ⅱ

EACL-A-301

担当者：E. D. オズバーン

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける。
表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。
表現力・リテラシー：考え抜くための批判的な思考力を身につける。
表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける。

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 内容：この講義は専門演習（キリスト教文化）Ⅰの履修後に基づき続く講義です。イエス・キリストそしてキリスト教が世界にもたらした道徳、倫理、自由と民主主義、女性の地位向上、慈善事業、また大衆文化（美術、音楽、文学、テレビ・映画等）に深い影響を探究していきます。特定の焦点としてイエスの教えに強く影響を受けた、レンブラント、トルストイ、ドストエフスキー、新渡戸稲造、ガンジー、マザー・テレサ、またマーティン・ルーサー・キング・ジュニア牧師等の歴史的人物をあげ検討します。2. カリキュラム上の位置づけ：講義は専門演習（キリスト教文化）Ⅰ 続く科目であり、欧米文化部の3年次の春学期に受講が適切とされます。

2. 学びの意義と目標

学びの意義と目標：世界におけるキリスト教の影響力の深層理解を提供することが第一目標です。また、この講義に関連するトピックにおいてのプレゼンテーションと研究論文の準備行程を学ぶ場でもあります。

受講生に対する要望

この講義は日本語と英語によって行われます。必然的に学生の英語力は向上されますが、講義の第一焦点は講義内容にあります。

キーワード

(1)Christianity（キリスト教）(2)historical influence（歴史的影響）(3)role models（模範的な人）

事前学習（予習）

既定の読書を都度終えることと、その読書内容に関してクラス・ディスカッションに積極的参加を期待します。

復習についての指示

学生は、各回の講義においてのクラスノートを復習し、主要点の暗記を託されます。

授業計画

1. イントロダクション
2. 世界におけるキリスト教の衝撃的影響 I
3. 世界におけるキリスト教の衝撃的影響 II
4. 世界におけるキリスト教の衝撃的影響 III
5. 世界におけるキリスト教の衝撃的影響 IV
6. 世界におけるキリスト教の衝撃的影響 V
7. 焦点：レンブラント
8. 焦点：トルストイ
9. 焦点：ドストエフスキー
10. 口頭発表
11. 焦点：新渡戸稲造
12. 焦点：ガンジー
13. 焦点：マーティン・ルーサー・キングJr. 牧師
14. 焦点：マザー・テレサ
15. 期末論文

教科書

フィリップ・ヤンシー 『だれも書かなかったイエス』（いのちのことば社）

評価方法

- (1)授業出席:20% (2)受講参加態度 :15% (3)読書レポート:20%
(4)PPT発表:20% (5)期末論文 :25%

担当者：D. パーガー

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける。
表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。
表現力・リテラシー：考え抜くための批判的な思考力を身につける。
表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける

カリキュラム上の位置付け

日本語教員養成課程：選択必修科目

講義概要

1. 内容

この演習では言語と社会に関するいくつかの研究課題を調べる。この課題は専門科目の「言語とグローバル社会」／「Language in Society」と並行するが、専門演習I、卒業研究I、IIではこの調べを続けるので、各課題をより深く追求することができる。専門演習Iでは、『言語学的に言えば??ことばにまつわる「常識」をつくがえす』（原作『Language Myths』）から選択された章を読み、話し合い、言語に関する神話（誤った通念）や思い違いに焦点が当てられる。「言語」と「社会」を人間の普遍的な現象として受け止め、また、特定の「言語」や「社会」を取り上げ、比較する。特に英語と日本語がその社会的関係においてどのような役割を果たすかを比較する。

2. 学びの意義と目標

この演習の目的は広く信じられている言語に関する誤解をより理解することである。この誤解は他者に関する誤解に導くこともあり、他者との交流に悪影響を及ぼす可能性がある。この授業を通して、学生は言語と社会の相互関係をより理解できるようになる。

受講生に対する要望

英語圏の社会と日本の社会の言語使用について関心がある者の受講を望む。

キーワード

(1)言語に関する神話 (2)言語偏見 (3)なまり (4)標準語 (5)方言

事前学習（予習）

ディスカッションに積極的に参加するために、プリントを事前に読むこと。

復習についての指示

各章について独自の研究を行い、書面と口頭で発表すること。

授業計画

1. 授業紹介、言語に関する神話（誤った通念）か、事実か：アンケート
2. アンケートに関するディスカッション；言語偏見と言語変種の本質的平等：「言語に優劣はあるの？」を読み、話し合う
3. 「言語に優劣はあるの？」に関するディスカッション；レポート・発表の仕方
4. 「言語に優劣はあるの？」の要約＋言語偏見や言語変種の本質的平等についての独自の研究発表
5. 女性の言語使用に対する性差別的な誤った通念：「女は男よりおしゃべりってホント？」を読み、話し合う
6. 女性の言語使用に対する性差別的な誤った通念：「女は男よりおしゃべりってホント？」に関するディスカッション
7. 「女は男よりおしゃべりってホント？」の要約＋女性の言語使用に対する性差別的な誤った通念についての独自の研究発表
8. なまり、標準変種、方言：「自分以外はみんななまっている！」を読み、話し合う
9. なまり、標準変種、方言：「自分以外はみんななまっている！」に関するディスカッション
10. 「自分以外はみんななまっている！」の要約＋なまりや標準変種や方言についての独自の研究発表
11. 最終研究レポートの書き方・発表の仕方・パワーポイントの作り方
12. 若者の日本語（英語、中国語など）が乱れている：「最近の子どもは読み書きができない!？」を読み、話し合う
13. 若者の日本語（英語、中国語など）が乱れている：「最近の子どもは読み書きができない!？」に関するディスカッション
14. 「最近の子どもは読み書きができない!？」の要約＋感想
15. 専門演習I最終研究レポートの口頭発表

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席状況:15% (2)授業での参加態度:15% (3)各章についての要約、独自の研究レポート:20% (4)その口頭発表:10% (5)最終研究レポートと口頭発表:40%

専門演習(言語と社会)Ⅱ

EACL-A-301

担当者：D. パーガー

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける。
表現力・リテラシー：文章や文化現象を読み解く力を身につける。
表現力・リテラシー：考え抜くための批判的な思考力を身につける。
表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける。

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この演習では言語と社会に関する具体的な研究課題を調べる。この課題は専門科目の「言語とグローバル社会」／「Language in Society」と並行するが、専門演習Ⅰと同様に、より深く追求することができる。専門演習Ⅱでは、方言と標準語という言語変種、またはなまりについて研究する。特に英語と日本語がその社会的関係においてどのような役割を果たすかを比較する。受講生はそれぞれの課題を研究し、研究発表をすることが求められている。

2. 学びの意義と目標

この演習の目的は専門演習Ⅰと同様に、広く信じられている言語に関する誤解をより理解することである。専門演習Ⅱにおいて、英語と日本語の標準変種と標準外の変種（イギリス英語とアメリカ英語や共通語を含む）を比較する。同時に、標準外の言語変種に関する偏見による負の役割を考慮する。

受講生に対する要望

英語圏の社会と日本の社会の言語使用について関心がある者の受講を望む。

キーワード

(1) 方言 (2) 標準語 (3) イギリス英語 (4) アメリカ英語 (5) 言語偏見

事前学習（予習）

ディスカッションに積極的に参加するために、プリントを事前に読むこと。

復習についての指示

各章について独自の研究を行い、書面と口頭で発表すること。

授業計画

1. 授業紹介、専門演習Ⅱの課題の紹介：方言と標準語の基本知識 (1)
2. 方言と標準語：基本知識 (2)；図書館データベースなどの紹介
3. 方言と標準語：基本知識 (3)；レポート・発表の仕方
4. 方言と標準語：基本知識 (4)
5. 英語の変種：イギリス英語、アメリカ英語 (1)
6. 英語の変種：イギリス英語、アメリカ英語 (2)
7. 日本語の変種：標準語と共通語
8. 日本語の変種：標準語、共通語、方言
9. 英語の変種についての独自の研究発表
10. 言語偏見：「言語的不平等と社会的な不平等」に関するディスカッション
11. 「言語的不平等と社会的な不平等」に関するディスカッション
12. 言語偏見：「They Speak Really Bad English . . .」に関するディスカッション (1)
13. 「They Speak Really Bad English . . .」に関するディスカッション (2)
14. 「They Speak Really Bad English . . .」に関するディスカッション (3)
15. 専門演習Ⅱ最終研究レポートの口頭発表

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 出席状況：15% (2) 授業での参加態度：15% (3) 各課題についての独自の研究レポート：20% (4) その口頭発表：10% (5) 最終研究レポートと口頭発表：40%

専門演習(国際理解) I

EACL-A-201

担当者：M. サベット

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける。
表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。
表現力・リテラシー：考え抜くための批判的な思考力を身につける。
表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 自らの文化、歴史、社会の基本的要素の知識を深める。2. コミュニケーションとは何か、そして自らの文化や歴史が、どのように人との接し方に影響を与えるかについて理解を深める。3. コミュニケーションと国際理解のバリアについて考える。4. コミュニケーション能力と国際理解の知識、スキル、考え方を身に付けることを目標とする。5. 他の国の人々や文化に理解と尊敬と責任を表す。

2. 学びの意義と目標

Students will have a deeper understanding of their own culture while at the same time show respect and understanding for other cultures.

受講生に対する要望

Class participation and research on assigned topics are required.

キーワード

(1)Culture (2)Communication (3)Understanding (4)Identity
(5)Global

事前学習（予習）

Students must gather information and data in order to be prepared for discussions in the classroom.

復習についての指示

Students will be asked to do further reading and research on topics discussed in the class.

授業計画

1. Introduction to the course
2. Meaning of culture
3. Meaning of culture
4. Meaning of communication
5. Meaning of communication
6. Influence of culture on communication
7. Meaning of identity
8. Barriers to communication; stereotyping
9. Barriers to communication; prejudice
10. Eliminating barriers through empathy
11. Eliminating barriers through respect and reflection
12. Becoming familiar with major global issues
13. Becoming familiar with major global issues
14. Presentation
15. Presentation

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)Attendance:15% (2)Participation:15% (3)Presentations:30%
(4)Final Report:40%

専門演習(国際理解)Ⅱ

EACL-A-301

担当者：M. サベット

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける。
表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。
表現力・リテラシー：考え抜くための批判的な思考力を身につける。
表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける。

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

差別的な行動を認識し、それを拒否することが、グローバル志向の人になるための鍵である。多様性と一体性の利点を分析することが、社会の平等と公平性を促進することの基本である。この演習は、独自の背景や文化的価値観により人々に偏見を持っていることを気づかせます。世界中の過去と現在の差別的政策を学ぶ。

2. 学びの意義と目標

この演習の目的は、人々は意図的にまたは意図せずに、どのように、なぜ差別をしてしまうのかを理解し、偏見をもたずに、文化や行動(行為)を分析するためのスキルを身に付けることである。

受講生に対する要望

研究をし、積極的にクラスの議論に参加する者を望む。

キーワード

(1)ステレオタイプ (2)差別 (3)体性 (4)多様性 (5)価値観

事前学習(予習)

プレゼンテーション、授業の予習、トピックに関する研究が必要である。

復習についての指示

プレゼンテーション及び議論においては、継続的な研究が必要である。

授業計画

1. Introduction to the course
2. Presentation fundamentals
3. Discussion: news and current events
4. Discrimination: education and social status
5. Discrimination: race and nationality
6. Discrimination: gender and age
7. Diversity and its benefits
8. Discussion: news and current events
9. Family and values
10. Perspectives and values in societies
11. Perspectives and values in societies
12. Preparation for final presentation
13. Final presentation
14. Final presentation
15. Final presentation

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)Participation:30% (2)Presentations:30% (3)Final Report : 40%

専門演習(児童英語教育)Ⅰ

EACL-A-201

担当者：東 仁美

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける。
表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。
表現力・リテラシー：考え抜くための批判的な思考力を身につける。
表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける。

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

小学校での外国語活動が必修化され、早期英語教育に対する関心が高まっている。専門演習Ⅰでは、入門書を読み合わせしながら、児童英語教育の理論と実践を学んでいく。英語教育への興味を高めるために、小学校英語に限らず、幼稚園、民間の英語教室、中高の英語の授業の見学などのフィールドワークの課題を課す。また、小グループで英語学習のテーマを決め、自らを学習者のサンプルとしてプロジェクトを遂行することを通して、効果的な英語学習法を考察していく。

2. 学びの意義と目標

児童英語教育の基礎的な資料を読み、自分の興味分野への知的好奇心を高めていく。また、プレゼンテーションやグループディスカッションの力もつけていく。

受講生に対する要望

ペアやグループでのプロジェクトを通して協同学習の在り方を学んでほしい。

キーワード

(1) 小学校英語教育 (2) 外国語活動必修化 (3) 学習指導要領 (4) 早期英語教育

事前学習(予習)

テキストの該当箇所を事前に読んでくる。発表担当者はレジュメを作成し、発表の事前指導を受けること。

復習についての指示

授業レポートをまとめて、提出する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. なぜ、子どもたちに英語を教えるのか
3. 外国語学習者としての子どもたち
4. コミュニカティブ・ランゲージ・ティーチング
5. 4技能を伸ばす指導
6. 語彙指導
7. 文法指導
8. 目標とする発音モデル
9. 子どもたちへの発音指導
10. 市販教材の活用
11. 内容中心の指導
12. ゲーム、物語と学国語学習
13. リズム、ライム、メロディーを活用した指導
14. 子どものための評価
15. まとめ

教科書

シーラ・リクソン, 小林 美代子, 八田 玄二, 宮本 弦, 山下 千里 『チュートリアルで学ぶ新しい「小学校英語」の教え方』(玉川大学出版部)

評価方法

(1) 出席、授業への貢献:20% (2) レポート:20% (3) ブックレビュー:30% (4) プレゼンテーション:30%

専門演習(児童英語教育)Ⅱ

EACL-A-301

担当者：東 仁美

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける。
表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。
表現力・リテラシー：考え抜くための批判的な思考力を身につける。
表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける。

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

文献の読み合わせをしながら、子どもが英語を学ぶことを理論と実践の両面から考えていく。授業は担当者による発表と活動の紹介の形で進める。発表者はレジメを準備し、事前に決められた分担部分についてのまとめ、解説を行なう。小学校、幼稚園、民間の英語教室及び中高の英語科の授業を見学するフィールドワークを課題として行い、授業の中で授業見学の報告を行う。学期中に各自興味のある文献を一冊読み、ブックレビューをまとめる。ブックレビュー集を作成することにより、英語教育の様々な分野の情報交換をし、卒業研究のテーマ決定の題材としていく。

2. 学びの意義と目標

卒業研究での研究テーマを決めていくプロセスとして、専門演習Ⅱでは小学校英語教育についての知識を深め、自分の興味分野を絞り込んでいく。

受講生に対する要望

割り当てられた発表は責任を持って取り組むこと。ディスカッションには積極的に参加してほしい。

キーワード

(1) 小学校英語教育 (2) ブックレビュー (3) 英語活動 (4) 外国語活動

事前学習(予習)

発表の担当者は事前にレジメを提出し、発表内容について指導を受けること。テキストの該当箇所を事前に読んで授業に参加すること。

復習についての指示

授業見学のレポートには、ハンドアウトなども添付し、クラスで発表できるよう詳細にまとめておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 子どもが英語を学ぶとは
3. 学びを中心にした英語の授業
4. コミュニケーション活動としてのリスニングとスピーキング
5. リスニングのアクティビティ
6. スピーキングのアクティビティ
7. 子どもの外国語学習におけるリタラシー能力の発達
8. リーディングのアクティビティ
9. ライティングのアクティビティ
10. 子どもの外国語学習における語彙習得と文法学習
11. 語彙習得のためのアクティビティ
12. 文法習得のためのアクティビティ
13. 子どもの外国語学習の目標、測定、評価
14. 図書館オリエンテーション
15. ブックレビュー発表

教科書

アレン玉井光江 『小学校英語の教育法 理論と実践』(大修館書店)

評価方法

- (1) 出席、参加:40% (2) プレゼンテーション:30% (3) レポート:30%

専門演習(ヨーロッパ史)Ⅰ

EACL-A-201

担当者：和田 光司

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける。
表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。
表現力・リテラシー：考え抜くための批判的な思考力を身につける。
表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける。

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この授業では、「砂糖の世界史」をテキストにし、各学生がその中のから関心がある部分を選択して発表する。このテキストは現在史学界で注目されている世界システム論の入門書としては最適であり、それにより現代の歴史学の発想方法に触れることができるであろう。

2. 学びの意義と目標

レジュメの作成、およびプレゼンテーションに慣れる。この段階は入門と位置づける。

受講生に対する要望

自発性を持って受講すること

キーワード

(1)ヨーロッパ (2)歴史 (3)プレゼンテーション

事前学習(予習)

発表者は自分の担当分の発表を準備する。レジュメを作成しリハーサルを行っておく。担当に当たっていない学生は次回該当箇所を読んでおく。

復習についての指示

他学生や教員からのコメントを参考にして、再度レジュメを作り直す。また反省点に注意し、もう一度自分でプレゼンテーションを行ってみること。

授業計画

1. オリエンテーション1
2. オリエンテーション2
3. オリエンテーション3
4. 教科書の内容を各自発表1
5. 教科書の内容を各自発表2
6. 教科書の内容を各自発表3
7. 教科書の内容を各自発表4
8. 教科書の内容を各自発表5
9. 教科書の内容を各自発表6
10. 教科書の内容を各自発表7
11. 教科書の内容を各自発表8
12. 教科書の内容を各自発表9
13. 教科書の内容を各自発表10
14. 教科書の内容を各自発表11
15. 教科書の内容を各自発表12

教科書

川北 稔 『砂糖の世界史 (岩波ジュニア新書)』 (岩波書店)

評価方法

- (1)平常点:40% (2)授業内発表:60%

専門演習(ヨーロッパ史)Ⅱ

EACL-A-301

担当者：和田 光司

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける。
表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。
表現力・リテラシー：考え抜くための批判的な思考力を身につける。
表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける。

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この授業では、専門演習Ⅰの延長線上にプレゼンテーション能力の一層の向上を図る。第二次世界大戦についてすでに通達した小テーマから各学生関心がある部分を選択して発表する。同じテーマを様々な角度より眺めることにより、歴史的視点の多様性、重層性を学んでいく。また、専門演習Ⅰからさらに進んで、細かい評価表により学生相互に批評を行うことにより、プレゼンテーション能力をより発展させる。

2. 学びの意義と目標

プレゼンテーション技術の向上。相互評価による他者からの批判に柔軟に対応しうる人格性の養育、複史的歴史理解力の養成

受講生に対する要望

主体性をもってプレゼンテーションに取り組んでほしい

キーワード

(1)ヨーロッパ (2)歴史 (3)プレゼンテーション (4)第二次世界大戦

事前学習(予習)

自分の発表の準備を行う。構想を立て、資料を集め、読み、分析し、レジュメを作成する。発表の前にリハーサルを行う。また第二次世界大戦の通史やTV番組、映画などでこの分野に親しむ。

復習についての指示

他学生からの評価をもとに、反省点に注意してレジュメを作成し直す。また同様に自分でもう一度プレゼンテーションを試みる。

授業計画

1. オリエンテーション1
2. オリエンテーション2
3. オリエンテーション3
4. 各自自分のテーマを発表1
5. 各自自分のテーマを発表2
6. 各自自分のテーマを発表3
7. 各自自分のテーマを発表4
8. 各自自分のテーマを発表5
9. 各自自分のテーマを発表6
10. 各自自分のテーマを発表7
11. 各自自分のテーマを発表8
12. 各自自分のテーマを発表9
13. 各自自分のテーマを発表10
14. 各自自分のテーマを発表11
15. 各自自分のテーマを発表12

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)平常点:40% (2)授業内発表:60%

卒業研究 (Pop Culture) I

EACL-A-302

担当者：K. O. アンダスン

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける。
表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。
表現力・リテラシー：考え抜くための批判的な思考力を身につける。
表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける。

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

Casablanca, 『The Third Man』についてより深く調査・研究し、オーラル・レポートと小論文の書き方を学ぶことに重きを置く。This course is a continuation of Semmon Enshu I and II (Pop Culture I and II).

2. 学びの意義と目標

調査・研究方法と小論文の書き方を学ぶ。Students should become aware of World War II and how it influenced the making of Casablanca, The Third Man, and Roman Holiday. they should be able to compare all three long films with each other and compare and contrast the protagonists and antagonists of the three films.

受講生に対する要望

Students should come to class on time, turn in all homework on time, and be willing and able to participate in both class discussions and in consultations with the teacher about their essays.

キーワード

(1)World War II: Vienna (2)refugees; expatriates (3)cinematography (4)script writing vs. filming

事前学習（予習）

Students should prepare for class by watching DVD scenes at home and familiarizing themselves with the history behind the scenes, the meaning of the script, and the techniques involved in filming.

復習についての指示

After watching a scene, students should be prepared to discuss such concepts as foreshadowing, flashback, metaphor, motivation, etc., in relation to the films and their own lives.

授業計画

1. Casablanca
2. Casablanca, continued
3. Casablanca, continued
4. Casablanca, continued
5. Casablanca, continued
6. Casablanca, continued
7. Casablanca, continued
8. Casablanca, continued
9. Casablanca, continued
10. The Third Man, introduction and research
11. The Third Man, oral reports
12. The Third Man, continued
13. The Third Man, continued
14. The Third Man, continued
15. Review for the final exam

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)attendance :10% (2)homework:30% (3)quizzes:30% (4)final exam:30%

卒業研究 (Pop Culture) II

EACL-A-401

担当者：K. O. アンドラス

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける。
表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。
表現力・リテラシー：考え抜くための批判的な思考力を身につける。
表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける。

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この卒業研究は2012年度秋学期卒業研究Iの継続である。In this course students will finish watching the final long film, Roman Holiday, and also finally wrap up the writing and revision of their long essays on themes related to the cinema.

2. 学びの意義と目標

It is hoped that the process, over four seminars, will have sharpened students' critical thinking, deepened their knowledge and awareness of world film, and help them reflect on their own culture and that of others.

受講生に対する要望

Students are expected to prepare for Roman Holiday homework by watching their DVDs at home before class, familiarizing themselves with the material, and be able to discuss the scenes in class. They will also be expected to satisfactorily finish writing their long film essays and turn them in.

キーワード

(1)World War II; postwar Italy (2)Rome; expatriates; royalty (3)the lives of princesses (4)freedom and responsibility

事前学習（予習）

Students should be familiar with each scene and the script before they come to class in order to discuss the scenes. They should conduct research on background history in order to better understand the film.

復習についての指示

After watching a scene, students should review the scenes they have watched and go over the script again to confirm their understanding of the film and to better appreciate the art in the making of the film.

授業計画

1. The Third Man discussion
2. The Third Man discussion, continued
3. The Third Man, continued
4. Roman Holiday introduction and background research
5. Roman Holiday DVD viewing
6. Roman Holiday DVD viewing, homework chapters 1-3
7. Roman Holiday, episodes 1,2,3, continued
8. Roman Holiday, episodes 1,2,3 continued
9. Roman Holiday, episodes 4,5,6 continued
10. Roman Holiday, episodes 4,5,6 continued
11. Roman Holiday episodes 7,8,9 continued
12. Roman Holiday episodes 7,8,9
13. Roman Holiday episodes 10,11,12
14. Roman Holiday episodes 10, 11, 12 continued
15. review for the final exam

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)attendance :10% (2)homework:30% (3)quizzes:30% (4)final exam:30%

卒業研究(アメリカ文化)

EACL-A-302

担当者：柴田 史子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける。
表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。
表現力・リテラシー：考え抜くための批判的な思考力を身につける。
表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける。

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

アメリカ社会、アメリカ文化の範囲で各自が選んだテーマで4000字程度の研究レポートを執筆する。進捗状況を報告し、質疑応答をすることを通して、批判への免疫力をつけ、また討論や説得の仕方を習得する。

2. 学びの意義と目標

アカデミックな論文の書き方を習得し、卒業論文への準備をすると共に、プレゼンテーションの技能を身につけることを目指す。

受講生に対する要望

1つのテーマを粘り強く追究すること。

キーワード

(1)アメリカ (2)nation of joiners (3)草の根の集団 (4)民主主義 (5)生活文化

事前学習（予習）

自分のテーマについて毎週報告できるように、各自で調査を進めること

復習についての指示

報告に対して受けたコメントや批判を書きとめ、参考にすること

授業計画

1. レポート・論文の書き方についての講義
2. レポートのテーマの発表と質疑応答
3. 参考文献の見つけ方
4. 目次の提出と質疑
5. レポートの進捗状況報告
6. レポートの進捗状況報告
7. レポートの進捗状況報告
8. レポート第一章口頭発表
9. レポートの進捗状況報告
10. レポートの進捗状況報告
11. レポートの進捗状況報告
12. レポートの進捗状況報告
13. レポートの進捗状況報告
14. レポートの進捗状況報告
15. レポートの進捗状況報告
16. レポート第二章口頭発表
17. レポートの進捗状況報告
18. レポートの進捗状況報告
19. レポートの進捗状況報告
20. レポートの進捗状況報告
21. レポートの進捗状況報告
22. レポートの進捗状況報告
23. レポートの進捗状況報告
24. レポート第三章口頭発表
25. レポートの進捗状況報告
26. レポートの進捗状況報告
27. レポートの進捗状況報告
28. レポートの進捗状況報告
29. 最終稿の確認
30. レポート集制作

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)平常点:20% (2)口頭発表:30%:4回 (3)中間レポート:10%:冬季休暇明けに提出 (4)卒業研究レポート:40%

卒業研究(英語学)Ⅰ

EACL-A-302

担当者：加曾利 実

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける。
表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。
表現力・リテラシー：考え抜くための批判的な思考力を身につける。
表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける。

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

卒業研究(英語学)Ⅰでは、やさしい英文で書かれた日米比較文化論についての入門書を輪読しながら、言語と思想を中心とした議論を深化させていきたいと思っています。最初の授業時に、プリントで授業の詳細について説明します。

2. 学びの意義と目標

日本と英語の日米比較文化論ですから、特に、英語と日本語の言語的・思想的構造の異同について解説・議論します。

受講生に対する要望

原則として、テキストの輪読形式で授業を進めていきます。卒業研究は、いわば「学業の仕上げ」と言えます。

キーワード

(1) 日米比較文化論 (2) 経験主義と理性主義 (3) 言語と思考

事前学習(予習)

毎回、全員に当たるので、各自、予習・復習ノートを作成し、テキストを翻訳しておいて下さい。このノートは、提出してもらい、評価の一部とします。

復習についての指示

復習も、励行して下さい。授業後、なるべく早期に復習すること。繰り返し復習すると、より効果的に記憶に定着します。

授業計画

1. オリエンテーション
2. テキストの輪読：日米比較文化論 1
3. テキストの輪読：日米比較文化論 2
4. テキストの輪読：日米比較文化論 3
5. テキストの輪読：日米比較文化論 4
6. テキストの輪読：日米比較文化論 5
7. テキストの輪読：日米比較文化論 6
8. テキストの輪読：日米比較文化論 7
9. テキストの輪読：日米比較文化論 8
10. テキストの輪読：日米比較文化論 9
11. テキストの輪読：日米比較文化論 10
12. テキストの輪読：日米比較文化論 11
13. テキストの輪読：日米比較文化論 12
14. テキストの輪読：日米比較文化論 13
15. 総合的なまとめ

教科書

坂本ナンシー、坂本 示洋 『Polite Fictions in Collision』(金星堂)

評価方法

(1) 出席及び態度:20% (2) 予習・復習ノート:10% (3) 課題レポート:30% (4) 期末試験:40%

卒業研究(英語学)Ⅱ

EACL-A-401

担当者：加曾利 実

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける。
表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。
表現力・リテラシー：考え抜くための批判的な思考力を身につける。
表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける。

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

卒業研究(英語学)Ⅰで学んだ日米比較文化論を深化させて行きます。更に、ソシュールの構造主義言語学について学んだり、日本国憲法の英語版を読んで、民主主義の本質を考究します。最初の授業の時に、プリントで授業の詳細について説明します。

2. 学びの意義と目標

日米比較文化論、ソシュールの言語思想、英語での日本国憲法の知識を得ることは、人間と言語の本質を考察する上で欠くことのできない、現代日本人必須の知識です。

受講生に対する要望

卒業研究は、いわば「学業の仕上げ」と言えます。青春時代は、二度と来ません。頭の柔らかい間に、学問に励んで下さい。

キーワード

(1) 日米比較文化論 (2) ソシュール理論 (3) 英語で日本国憲法を読む

事前学習(予習)

毎回、全員に当たります。テキスト及びプリント教材を熟読し、必ず予習して、授業に臨みましょう。予習・復習ノートを出してもらい、これを評価の一部とします。

復習についての指示

必ず復習を励行すること。毎回、授業終了後、なるべく早期に復習をして下さい。繰り返し復習すると、より効果的に記憶に定着します。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 日米比較文化論 1
3. 日米比較文化論 2
4. 日米比較文化論 3
5. 日米比較文化論 4
6. 日米比較文化論 5 およびソシュール理論 1
7. 日米比較文化論 6 およびソシュール理論 2
8. 日米比較文化論 7 およびソシュール理論 3
9. 日米比較文化論 8 およびソシュール理論 4
10. 日米比較文化論 9 およびソシュール理論 5
11. 英語で日本国憲法を読む 1
12. 英語で日本国憲法を読む 2
13. 英語で日本国憲法を読む 3
14. 英語で日本国憲法を読む 4
15. 総合的なまとめ

教科書

丸山圭三郎 『言葉とは何か』(ちくま学芸文庫) 『新装版 日本国憲法』(講談社学術文庫2201) 坂本ナンシー、坂本 示洋 『Polite Fictions in Collision』(金星堂)

評価方法

(1) 出席及び態度:20% (2) 予習・復習ノート:10% (3) 課題レポート:30% (4) 期末試験:40%

卒業研究(英米文学)Ⅰ

EACL-A-302

担当者：氏家 理恵

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける。
表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。
表現力・リテラシー：考え抜くための批判的な思考力を身につける。
表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける。

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

「専門演習」に引き続き、前半はレポート合評会、後半は発表とディスカッションを行う。発表する際には事前にレジュメを作成し、担当部分のまとめ・調べてきたこと・考察を述べてもらう。なお、各自の卒業研究テーマについても発表する機会を持ち、ディスカッションを通してそれぞれの研究テーマ決定への足掛りとする。

2. 学びの意義と目標

「専門演習」Ⅰ・Ⅱでは、作品を読みながら作品分析に慣れると共にレジュメの作り方や発表の仕方を身につけた。「卒業研究Ⅰ」では、引き続きレジュメやレポートの書き方、プレゼンテーションの仕方の指導を行う。また、授業最終時までには各自の卒業研究テーマを決定し、簡単な研究計画とレポート・卒業論文への準備をする期間とする。

受講生に対する要望

ゼミに積極的に参加してほしい。

キーワード

(1)英米文学 (2)英米文化 (3)映像文化 (4)物語分析 (5)ナルニア国物語

事前学習（予習）

予習は必ずしてくること。発表にあたってはあらすじ・ポイントをまとめるだけでなく、調べたことも含めて発表レジュメをワープロで作成すること。

復習についての指示

合評用のレポート、講読文献、発表資料は事前に読み、授業時には自分の評価やコメントを発言できるように、常に準備しておくこと。

授業計画

1. イントロダクション
2. レポート合評会 1
3. レポート合評会 2
4. レポート合評会 3
5. レポート合評会 4
6. 研究の進め方について－理論と方法
7. 研究テーマ発表 1
8. 研究テーマ発表 2
9. 発表とディスカッション 1
10. 発表とディスカッション 2
11. 発表とディスカッション 3
12. 発表とディスカッション 4
13. 卒業研究アウトライン発表 1
14. 卒業研究アウトライン発表 2
15. まとめ－卒業研究Ⅱ・卒業論文に向けて

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)平常点 :30% (2)課題 :20% (3)発表 :30%:レジュメ作成含む
(4)期末レポート :20%

卒業研究(英米文学)Ⅱ

EACL-A-401

担当者：氏家 理恵

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける。
表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。
表現力・リテラシー：考え抜くための批判的な思考力を身につける。
表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける。

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

<ゼミ>での学びの集大成として、卒業研究レポートとその論集を作成する。まず、「卒業研究I」で作成した各自の卒業研究テーマに関するレポートを題材にして、アウトライン作成・引用の仕方・注の書き方・画像の使い方など、全員に共通する注意事項をお互いに添削しながら確認する。また、数本ずつ合評をしていき、それぞれの課題を明らかにする。最後に、書式や表現なども含め、説得力のある論理的なレポート作成をするためのポイントの最終確認をしながら、卒業研究レポートを完成させる。

2. 学びの意義と目標

これまで学んできたさまざまな知識とテクニックを駆使し、各自の研究テーマを深化させ、卒業研究レポートの完成を目指す。

受講生に対する要望

ディスカッション中心となるので意欲的な参加を希望する。また、2年間のゼミの集大成としての卒業研究レポートの完成に向けて努めてほしい。

キーワード

(1) 英米文学 (2) 英米文化 (3) 映像文化 (4) 物語分析 (5) 社会と文化

事前学習（予習）

卒業研究レポートの合評会に向けて、お互いのレポートのチェックを随時行うこと。自分の卒業研究レポートの完成に向けて、自分の分析・考察を入れ、オリジナリティをできるだけ出せるように常に考えていること。

復習についての指示

合評会で確認したレポートのポイントに基づきながら卒業研究レポートを作成すること。最終レポートは原稿用紙換算20枚以上を目指す。

授業計画

1. インTRODクシヨナー卒業研究経過報告
2. アウトライン再確認
3. レポート完成までの諸注意
4. 卒業研究Iレポート合評会 1
5. 卒業研究Iレポート合評会 2
6. レポート的な文章表現について
7. 卒業研究Iレポート合評会 3
8. 卒業研究Iレポート合評会 4
9. 卒業研究Iレポート合評会 5
10. レポート・論文の書式について（確認）
11. レポート再提出と総評
12. 個別面談1／相互コメント作成
13. 個別面談2／相互コメント作成
14. 最終レポート提出と相互チェック
15. 論集作成

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 平常点:30% (2) 課題:30% (3) 期末レポート:40%

卒業研究(キリスト教文化)Ⅰ

EACL-A-401

担当者：E. D. オズバーン

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける。
表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。
表現力・リテラシー：考え抜くための批判的な思考力を身につける。
表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける。

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. この講義は、卒業研究Ⅰと卒業研究Ⅱから成り立っています。クラスの必修書物・印刷物とディスカッションは、学生のキリスト教とその文化に関連する個々のトピックスにおいて、興味や構想を深め発展させてゆきます。学生は、学術研究行程と論文の原理を学び、また、続く卒業研究Ⅱでの学生のそれぞれの課題を学期末に決定することを目標とします。2. カリキュラムの位置づけ：この講義は、秋学期において欧米文化科の3年次に有効なものであり、専門演習・シリーズで学んだ手法を基礎とするものです。卒業研究は、3年次の必修科目であり、科目の終了が義務づけられています。

2. 学びの意義と目標

講義の主要目的は、キリスト教とその文化の学術研究を進め、学術研究制作と論文の基本原則を学びます。

受講生に対する要望

学生は、密接な関連講義である「専門演習」を好結果をもっての終了を必要とし、大学レベルの研究のチャレンジを期待されるものとします。

キーワード

(1) 論文テーマ

事前学習（予習）

学生は指定された教材の読書を都度終えること、個々のトピックスのリサーチを図書館等で進めること。これに続き、グループ・ディスカッションにおいてそれぞれ週ごとのリサーチ発表を求められます。

復習についての指示

学生は、プレゼンテーション効果を高める為に用いるMSパワーポイント操作の習得を義務づけられます。

授業計画

1. イントロダクション
2. クリスマスライフの逆説Ⅰ
3. クリスマスライフの逆説Ⅱ
4. クリスマスライフの逆説Ⅲ
5. 逆説的に生きるⅠ
6. 逆説的に生きるⅡ
7. 逆説的に生きるⅢ
8. 逆説的に生きるⅣ
9. 神の人間捜索Ⅰ
10. 神の人間捜索Ⅱ
11. パワーポイント発表の準備
12. PPT発表
13. 学術論文トピック選択/学術研究Ⅰ執行
14. 学術研究Ⅱ執行
15. 最終レポート

教科書

ケント・キース 『それでもなお、人を愛しなさい? 人生の意味を見つけるための逆説の10カ条』（早川書房：新装改訂版）
印刷物；プリント

評価方法

(1) 出席及び授業参加／態度：30% (2) 必修書物：20% (3) パワーポイント(PPT)による発表：20% (4) 最終レポート：30%

卒業研究(キリスト教文化)Ⅱ

EACL-A-302

担当者：E. D. オズバーン

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける。
表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。
表現力・リテラシー：考え抜くための批判的な思考力を身につける。
表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける。

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. この講義は、卒業研究Ⅰに続く講義であり、学生はそれぞれの興味に従って、トピックを選択し、その課題において深層・綿密な研究を進め、クラスにおいてその途中経過報告、また、成果をクラスディスカッションで発表します。最終的論文結果は、各学生の学期末の学術研究論文として提出されます。2. カリキュラムの位置づけ：この講義は、春学期において欧米文化科の4年次に受けることができ、専門演習・シリーズと卒業研究Ⅰで学んだ手法を基礎とするものです。卒業研究は、4年次の必修科目であり、科目の終了が義務付けられています。

2. 学びの意義と目標

講義の主要目的は、キリスト教とその文化の学術研究を進め、また、各論文の適切な構成を持った論文結果を口頭表現することによって、学生が課題においてのより深い知識を進展させていくことにあります。

受講生に対する要望

学生は、密接な関連講義である「専門演習」を好結果をもっての終了を必要とし、大学レベルの研究のチャレンジを期待されるものとします。

キーワード

(1) 学術研究

事前学習（予習）

学生は指定された教材の読書を都度終えること、個々のトピックのリサーチを図書館等で進めること。これに続き、グループ・ディスカッションにおいてそれぞれ週ごとのリサーチ発表を求められます。

復習についての指示

計画的に授業外で個人的に学術研究を進めていく義務と、その中間レポートの提出義務があります。

授業計画

1. イントロダクション
2. 研究課題選択の概観
3. 学術研究指導 I
4. 学術研究指導 II
5. 学術研究指導 III
6. 論文様式の指針 I
7. 論文様式の指針 II
8. 中間レポート&ディスカッション I
9. 中間レポート&ディスカッション II
10. 中間レポート&ディスカッション III
11. 中間レポート&ディスカッション IV
12. 中間レポート&ディスカッション V
13. 学術研究論文
14. PPT準備発表
15. (論文)発表

教科書

プリントを配布する
印刷物・プリント：“欧米文化科論文ガイドライン・指針”

評価方法

(1)出席及び授業参加／態度:30% (2)中間レポート:10% (3)最終学術論文:40% (4)クラスでのパワーポイント(PPT)研究論文発表:20%

卒業研究(言語と社会) I

EACL-A-302

担当者：D. パーガー

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける。
表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。
表現力・リテラシー：考え抜くための批判的な思考力を身につける。
表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける。

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

このゼミでは言語と社会に関する具体的な研究課題を調べる。この課題は専門科目の「言語とグローバル社会」／「Language in Society」と並行するが、専門演習I、IIと同様に、より深く追求することができる。卒業研究Iの主要課題は危機言語と言語復興である。主に、アイヌ語、琉球語、ハワイ語、アメリカ先住民の諸言語を始め、それぞれの社会において英語と日本語がその言語の危機状態に貢献する役割を果たすことを研究する。受講生は各課題について研究し、書面でも口頭でも発表する。学期末にその課題の中から1つ選び、または専門演習I、IIに調べたテーマを続き、研究レポートを書き、その結果を口頭で発表することが求められる。

2. 学びの意義と目標

この演習の目的は、まず、日本は多言語社会であることを紹介することである。そして、日本とアメリカの危機言語についての理解を深めることである。国の結束に対する標準語の良い影響、または言語的や民族的多様性に対する標準語の悪影響を調べる。

受講生に対する要望

英語圏の社会と日本の社会の言語使用について関心がある者の受講を望む。

キーワード

(1)危機言語 (2)言語復興 (3)アイヌ語 (4)琉球語 (5)ハワイ語

事前学習(予習)

ディスカッションに積極的に参加するために、プリントを事前に読むこと。

復習についての指示

各章について独自の研究を行い、書面と口頭で発表すること。

授業計画

1. 授業紹介、卒業研究Iの課題の紹介：少数言語、危機言語、言語死、言語復興
2. 危機言語、言語復興；(宿題)アイヌ民族、アイヌ語についての情報を集める
3. アイヌ語の例
4. 北海道旧土人保護法、アイヌ文化振興法
5. アイヌ語についての独自の研究発表；(宿題)琉球諸島、琉球語についての情報を集める
6. 琉球語の例
7. 琉球語の例
8. 琉球語についての独自の研究発表；(宿題)ハワイ諸島、ハワイ語についての情報を集める
9. ハワイ語の例
10. ハワイ語の例
11. ハワイ語についての独自の研究発表；(宿題)アメリカ先住民、その言語についての情報を集める
12. アメリカ先住民の諸言語の例
13. アメリカ先住民の諸言語の例
14. アメリカ先住民の諸言語の例
15. 卒業研究I最終研究レポートの口頭発表

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席状況:15% (2)授業での参加態度:15% (3)それぞれの課題についてのレポート:20% (4)その口頭発表:10% (5)最終研究レポートと口頭発表:40%

卒業研究(言語と社会)Ⅱ

EACL-A-401

担当者：D. パーガー

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける。
表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。
表現力・リテラシー：考え抜くための批判的な思考力を身につける。
表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

卒業研究Ⅱの主要課題は差別語である。主に、日本とアメリカ社会における人種・民族差別語、性差別語、包括語（男女包括語）について研究する。特に英語と日本語がその社会的関係においてどのような役割を果たすかを比較する。受講生はこれまでのゼミと同様に、各課題について研究し、書面でも口頭でも発表する。学期末にその課題の中から1つ選ぶか、または専門演習Ⅰ、Ⅱ、卒業研究Ⅰで調べたテーマを引き続き調べ、研究レポートを書き、その結果を口頭で発表することが求められている。卒業論文を書きたい学生はテーマを選び、研究を今学期中に始めるべきである。

2. 学びの意義と目標

この授業の目的は社会における差別を考慮することである。日本とアメリカの社会で差別されている人々（女性を含む）を調べる。また、私たちの言語使用はその人々の存在を認めたり否定したりして、平等、または不平等な扱いに貢献する可能性があることを考慮する。

受講生に対する要望

英語圏の社会と日本の社会の言語使用について関心がある者の受講を望む。

キーワード

(1)差別語 (2)非差別語 (3)人種差別語 (4)性差別語 (5)男女包括語

事前学習（予習）

ディスカッションに積極的に参加するために、プリントを事前に読むこと。

復習についての指示

各章について独自の研究を行い、書面と口頭で発表すること。

授業計画

1. 授業紹介、卒業研究Ⅱの課題の紹介：差別語とは何か？
2. 日本固有の差別問題：部落差別と差別語
3. 部落差別と差別語、先住民に対する差別語
4. 先住民に対する差別語、障がいを持つ人に対する差別語
5. 障がいを持つ人に対する差別語
6. その他の差別語
7. アフリカ系の人々に対する英語の差別語・非差別語変革 (1)
8. アフリカ系の人々に対する英語の差別語・非差別語変革 (2)
9. 差別語についての独自の研究
10. 性差別語と男女包括語変革：日本語の例 (1)
11. 性差別語と男女包括語変革：日本語の例 (2)
12. 性差別語と男女包括語変革：英語の例 (1)
13. 性差別語と男女包括語変革：英語の例 (2)
14. 性差別語と男女包括語変革：英語の例 (3)
15. 卒業研究Ⅱ最終研究レポートの口頭発表

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席状況：15% (2)授業での参加態度：15% (3)それぞれの課題についてのレポート：20% (4)その口頭発表：10% (5)最終研究レポートと口頭発表：40%

卒業研究(現代ヨーロッパ事情)Ⅱ

EACL-A-401

担当者：佐藤 啓介

開設期：春学期集中 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける。
表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。
表現力・リテラシー：考え抜くための批判的な思考力を身につける。
表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける。

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

専門演習で身につけた知識と技術を用いて、実際に自分で関心のあるテーマを選び、卒業研究Ⅰで準備してきた研究レポートの完成を目指します。卒業研究Ⅱでは、卒業論文の執筆が可能になるために、大きなテーマを一つの文章にまとめる文章技法、人に伝える表現技法など、文章指導を重視します。

2. 学びの意義と目標

これまで体験することのなかった「まとまった分量の研究」を遂行できる力と技術を習得し、それによって、社会人として求められる調査力・考察力・発表力・文章力と、国際人として求められるグローバルな視点を養うことを目指します。

受講生に対する要望

研究およびその成果発表は、長期的な準備が必要なため、計画的に取り組むようにしてください。

キーワード

(1)研究レポート (2)卒業論文

事前学習(予習)

発表については、直前でできる作業ではないので、中期的～長期的な計画を立てて、自分の立てたテーマを調べてほしい。また、発表についても配布資料の作成など、丁寧な準備が望まれる。

復習についての指示

自分の発表・レポートだけでなく、他人のそれに対しても寄せられたコメント・批判を振り返り、それを自分の研究レポートに反映させ、研究を修正することが望まれる。

授業計画

1. イントロダクション
2. 表現力を鍛える(1): プレゼン技術の向上
3. 表現力を鍛える(2): ディスカッション技術の向上
4. 各自の研究報告(1)
5. 各自の研究報告(2)
6. 各自の研究報告(3)
7. 相互に報告内容を批判しあう(1)
8. 相互に報告内容を批判しあう(2)
9. 各自の最終報告(1)
10. 各自の最終報告(2)
11. 各自の最終報告(3)
12. 各自の最終報告(4)
13. 各自の最終報告(5)
14. ゼミの総まとめ(1)
15. ゼミの総まとめ(2)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)発表点:30% (2)研究レポート:50% (3)議論への参加度:20%

担当者：M. サベット

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける。
表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。
表現力・リテラシー：考え抜くための批判的な思考力を身につける。
表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける。

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この演習では、世界が直面している、貧困、森林破壊、教育の欠如などの根本的な問題を紹介し、その根原因について学ぶ。そして、これらに関連する問題は、住んでいる場所に関わらず、人々にどのような影響を及ぼすのかを学ぶ。

2. 学びの意義と目標

この演習の目的は、複雑な経済的・社会的な問題を理解することである。世界は狭くなっており、任意の行動または不作為が全世界に影響を及ぼすことを理解する。

受講生に対する要望

研究をし、積極的にクラスの議論に参加する者を望む。

キーワード

(1)教育 (2)貧困 (3)環境 (4)気候変動 (5)人権

事前学習（予習）

議論をするにあたり、事前にデータ収集をし、研究をしておく必要がある。

復習についての指示

議論のトピックは関連性があるため、継続的な研究が必要である。

授業計画

1. Introduction to the course
2. Human development
3. Poverty and health
4. Poverty and education
5. Poverty and changing societies
6. The United Nations
7. Human rights
8. Child labor
9. Human trafficking
10. Environment; deforestation
11. Environment; climate change
12. Environment; pollution and health-related issues
13. Preparation for final presentation
14. Final presentation
15. Final presentation

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)Participation:30% (2)Presentations:30% (3)Final report:40%

卒業研究(児童英語教育)Ⅰ

EACL-A-302

担当者：東 仁美

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける。
表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。
表現力・リテラシー：考え抜くための批判的な思考力を身につける。
表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける。

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 内容専門演習で勉強してきた英語教育の分野から、自分の関心のある分野を探し出し、その先行研究を始める。学期末課題としてそれらをレポートにまとめ、研究課題を見つけ、文献研究を進めていく。

2. 学びの意義と目標

演習を通して、各自の研究テーマを決定し、卒業研究レポートの骨子を明確にしていく。

受講生に対する要望

卒業研究Ⅱでの卒業研究レポート作成につながるよう、積極的に演習に参加してほしい。

キーワード

(1) 英語教育 (2) 小中連携 (3) 指導法

事前学習(予習)

文献を読み込むことに慣れてほしい。授業で扱う文献は前週の授業で配布するので、必ず目を通しておくこと。また、文献発表後のディスカッションに積極的に参加すること。

復習についての指示

文献のレビューを毎回書き、提出する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 早期英語教育
3. 英語教育の小中連携
4. アジア諸国の早期英語教育
5. バイリンガル教育
6. 効果的な英語学習法
7. 図書館オリエンテーション
8. ブックレビュー発表
9. ブックレビュー発表
10. 絵本の読み聞かせの効用
11. 音読の効果の検証
12. 英語学習の動機付け
13. 文法指導
14. 卒業研究レポート 概要発表
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 授業への出席、参加:30% (2) ブックレビュー:20% (3) プレゼンテーション:20% (4) レポート:30%

担当者：東 仁美

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける。
表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。
表現力・リテラシー：考え抜くための批判的な思考力を身につける。
表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける。

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

文献購読をしながら、卒業研究レポートのテーマ選び、研究方法の指導、論文作成にとりかかる。英語教育学の分野の中から、自分が興味を持てるテーマを選び、資料検索、データ集めを個別指導を交えながら行っていく。

2. 学びの意義と目標

専門演習、卒業研究のまとめとして、自分のテーマを深めるとともに卒論執筆に向けての準備をする。

受講生に対する要望

2年間のゼミのまとめとして、最も興味がある分野を選び、納得のいくレポートをまとめてほしい。

キーワード

(1)英語教育 (2)言語習得理論 (3)文献研究 (4)小学校外国語活動

事前学習（予習）

参考文献を積極的に検索し、資料を読み込む。自分のテーマを掘り下げて研究していくこと。

復習についての指示

レポートの添削指導の後には、修正レポートを作成し、再度提出する。

授業計画

1. 演習の概説
2. テーマ設定
3. 論文の書き方
4. 資料検索
5. テーマ発表、討論（1）
6. テーマ発表、討論（2）
7. テーマ発表、討論（3）
8. 論文作成指導（1）
9. 論文作成指導（2）
10. 中間報告、討論（1）
11. 中間報告、討論（2）
12. 中間報告、討論（3）
13. プレゼンテーション（1）
14. プレゼンテーション（2）
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席、参加:30% (2)プレゼンテーション:30% (3)レポート:40%

卒業研究(比較文化)Ⅱ

EACL-A-401

担当者：稲田 敦子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける。
表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。
表現力・リテラシー：考え抜くための批判的な思考力を身につける。
表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける。

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

比較文化論を問題関心の領域とし、「専門演習」および「卒業研究」Iでとりあげた文献を終身にして、論文の主題を決定し、章立ての内容をつめる。これまでの演習の集大成として、ゼミ論文集を作成するため、各履修者の主題に関しての個別指導、中間発表、草稿の執筆を経て、論文を完成する研究態度が身につくようにしたい。

2. 学びの意義と目標

比較文化の専門演習および卒業研究の集大成として、各自の問題意識の醸成を促進するとともに、論文を作成する基本作業としての資料検索および草稿段階の論理構成を学び、論文を完成させることを目標とする。

受講生に対する要望

主体性をもって、テーマ発表および論文作成に取り組むことを希望します。

キーワード

(1)論文作成の基本作業 (2)ブックレポート作成 (3)レジュメ作成法 (4)比較文化の資料検索 (5)比較文化の事例研究

事前学習(予習)

テーマ発表に向けて、事前の資料検索およびブックレポートを確実に行うこと。

復習についての指示

テーマ発表のあと、ミニレポートを作成すること。

授業計画

1. 演習の概略
2. 論文作成の基本作業(1)
3. 論文作成の基本作業(2)
4. 主題をめぐる資料検索
5. 各主題をめぐるブックレポート(1)
6. 各主題をめぐるブックレポート(2)
7. 各主題をめぐるブックレポート(3)
8. テーマ別事例研究(1)
9. テーマ別事例研究(2)
10. テーマ別事例研究(3)
11. 基礎知識確認
12. レポート集準備作業
13. レポート集作成・製本(1)
14. レポート集作成・製本(2)
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)テーマ別レポート:50% (2)プレゼンテーション:25% (3)授業への参加度:25%

卒業研究(フランス文学)Ⅱ

EACL-A-401

担当者：鹿瀬 颯枝

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける。
表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。
表現力・リテラシー：考え抜くための批判的な思考力を身につける。
表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける。

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この授業は、講義科目ではなく専門演習後の総仕上げとなる「卒業研究」ですから、引き続き、各人の適性と実力を考慮しながら、進めていきます。既に「専門演習（フランス文学）」の終了前に各人の卒業研究テーマが提出されていますので、変更のない限り、それに沿って指導していきます。それぞれが関心を持ったテーマについて十分に研究が成されるよう、参考文献などの紹介、レポート添削、中間発表などを充実させます。全員が満足のいくような研究レポートを仕上げられるように願っています。

2. 学びの意義と目標

専門演習で学んだことから個別に研究テーマを決めたので、研究レポートの完成を目指すと同時に一步先の卒業論文への意識を高めたいと思います。

受講生に対する要望

「卒業研究Ⅱ」は、卒業研究レポートを仕上げることを最優先させましょう。

キーワード

(1) フランス語 (2) フランス文化 (3) フランス文学 (4) 舞台芸術
(5) 卒業研究レポート

事前学習（予習）

1) 卒業研究レポートの仕上げに向けて全力投球しましょう。2) 部分的にでも仕上がったものを毎回提出すること。

復習についての指示

1) 卒業研究レポートの仕上げに向けて全力投球しましょう。
2) 部分的にでも提出し、チェックしてもらったものを完成させていくこと。

授業計画

1. 研究レポート仕上げに向けて個別指導（1）
2. 個別指導（2）
3. 口頭発表&コメント（1）
4. 口頭発表&コメント（2）
5. 口頭発表&コメント（3）
6. 研究レポート提出開始&添削（1）
7. 研究レポート提出開始&添削（2）
8. 研究レポート提出開始&添削（3）
9. 全員の研究レポート提出最終締切
10. 「卒業研究レポート集」のコピー&誤植チェック（1）
11. 「卒業研究レポート集」のコピー&誤植チェック（2）
12. 「卒業研究レポート集」のコピー&誤植チェック（3）
13. 「卒業研究レポート集」の製本
14. 「卒業研究レポート集」全員に配布
15. 総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 授業出席：40% (2) 研究発表：20% (3) 研究レポート：40%

卒業研究(ヨーロッパ史)Ⅰ

EACL-A-302

担当者：和田 光司

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける。
表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。
表現力・リテラシー：考え抜くための批判的な思考力を身につける。
表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける。

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

(内容) 本講義では、専門演習で養成したプレゼンテーション能力を基礎として、これの実践的發展を志す。従来と同様細かい評価表により学生相互に批評を行う。また実社会での基礎スキルと見なされているパワーポイントの習得に努める。テーマとしては、各学生が欧米文化の中から自らの関心に合うものを自由に選択し、各自の知的関心を高める。

2. 学びの意義と目標

パワーポイント技術の習得、歴史研究方法の理解、自由研究による自発的問題発見、解決能力の向上

受講生に対する要望

書籍、テレビ、インターネットなどを通して自分独自の関心を掘り下げることができるよう、努力してほしい。

キーワード

(1) プレゼンテーション (2) 自由研究 (3) 欧米文化

事前学習(予習)

自分の発表の準備を行う。構想を立て、資料を集め、読解し、分析し、発表原稿を作りパワーポイントを作成する。また発表前にリハーサルを行う。

復習についての指示

他学生からのコメントをもとに、発表原稿、パワーポイントを作成し直す。もう一度プレゼンテーションを試みる。

授業計画

1. オリエンテーション、パワーポイント実習 1
2. オリエンテーション、パワーポイント実習 2
3. オリエンテーション、パワーポイント実習 3
4. 各自自由発表、レポート指導、1
5. 各自自由発表、レポート指導、2
6. 各自自由発表、レポート指導、3
7. 各自自由発表、レポート指導、4
8. 各自自由発表、レポート指導、5
9. 各自自由発表、レポート指導、6
10. 各自自由発表、レポート指導、7
11. 各自自由発表、レポート指導、8
12. 各自自由発表、レポート指導、9
13. 各自自由発表、レポート指導、10
14. 各自自由発表、レポート指導、11
15. 各自自由発表、レポート指導、12

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 平常点:40% (2) 授業内発表:60%

卒業研究(ヨーロッパ史)Ⅱ

EACL-A-401

担当者：和田 光司

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける。
表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける。
表現力・リテラシー：考え抜くための批判的な思考力を身につける。
表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける。

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

(内容) 本講義では、卒業研究Ⅰに続いてプレゼンテーション能力の一層の実践的發展を志す。特に卒業レポート作成により文章力の向上を目指す。また他ゼミとの交流発表会により、より開かれた形でのプレゼンテーションの機会を持つ。

2. 学びの意義と目標

自由研究による知的関心の育成、問題解決能力の向上、文書作成技術の涵養、オープンな場での発表による対社会的なコミュニケーション力の向上

受講生に対する要望

就業力とも直結するような段階になるので、チャレンジ精神をもって取り組んでほしい。

キーワード

(1) 自由研究 (2) プレゼンテーション (3) レポート執筆 (4) 調査

事前学習(予習)

卒業レポート作成のための準備、調査、草稿執筆、研究発表のためのレジュメ、パワーポイント作成

復習についての指示

教員からの指示に基づき、レポートの訂正。発表後、反省点に従いレジュメ、パワーポイントの修正、自分でプレゼンテーションを再度試みる。

授業計画

1. 自由発表、レポート指導、1
2. 自由発表、レポート指導、表2
3. 自由発表、レポート指導、3
4. 自由発表、レポート指導、4
5. 自由発表、レポート指導、5
6. 自由発表、レポート指導、6
7. 自由発表、レポート指導、7
8. 自由発表、レポート指導、8
9. 自由発表、レポート指導、9
10. 自由発表、レポート指導、10
11. 自由発表、レポート指導、11
12. 自由発表、レポート指導、12
13. 自由発表、レポート指導、13
14. 自由発表、レポート指導、14
15. 自由発表、レポート指導、15

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 平常点:40% (2) 卒業レポート:40% (3) 研究発表:20%

担当者：畠山 宗明

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

大衆文化とは、映画や漫画、ポピュラー音楽などの、商業的な成功をおさめた文化を指す。それらは、しばしば商業主義や質の悪さと結び付けられる。しかし大衆文化というものは、様々な時代の人々が、よりよい社会を夢見る中で生まれてきたものでもある。この授業では、大衆文化を突き動かしてきたさまざまな要因を、歴史的に概観し分析していきたい。

2. 学びの意義と目標

空気のように当たり前に周りにあるせいで、あまり意識することのない大衆文化の歴史や背景を学ぶことで、現代の文化を広い視野から眺めることができるようになること、また大衆文化を学ぶことで、グローバル時代の文化のありかたを学ぶことが本講義の目的である。

受講生に対する要望

現在の大衆文化だけでなくその歴史にも興味を持ち、今ある文化を歴史的ダイナミズムの結果として捉える視点を手に入れて欲しい。

キーワード

(1)大衆文化 (2)アメリカ (3)映画 (4)ポピュラー音楽

事前学習（予習）

授業中に次の内容を予告するので、下に挙げた参考文献を中心に、該当する部分を予め予習しておくことが望ましい。

復習についての指示

配布したプリントやそこで示されている参考文献を元に、インターネットや図書館で調査を行うこと。

授業計画

1. イントロダクション
2. 大衆文化とは？(1) 参考上映：『天使にラブソングを』
3. 大衆文化とは？(2) メロディーとリズム
4. 大衆文化の歴史(1) 「大衆の時代」の始まり
5. 大衆文化の歴史(2) 映画とジャズ
6. 大衆文化の歴史(3) チャップリンとルイ・アームストロング
7. 大衆文化とアメリカ(1) なぜアメリカなのか？
8. 大衆文化とアメリカ(2) アメリカの歴史と特徴
9. 大衆文化とアメリカ(3) アメリカ文化としての大衆文化
10. 大衆文化の歴史(4) 20世紀初頭のアメリカ
11. 大衆文化の歴史(5) 大衆文化と都市：ジャズ・エイジの文化
12. 大衆文化の歴史(6) ニューディール時代の文化
13. 日本の大衆文化におけるアメリカ文化の影響(1)
14. 日本の大衆文化におけるアメリカ文化の影響(2)
15. 前半まとめ
16. 多文化時代の大衆文化 20世紀後半の大衆文化について
17. グローバル時代の大衆文化(1) ビートルズについて①
18. グローバル時代の大衆文化(2) ビートルズについて②
19. 戦後アメリカ文化における「個」(1) 不良少年たち
20. 戦後アメリカ文化における「個」(2) ロックンロールの登場
21. 戦後アメリカ文化におけるマイノリティ(1) 黒人音楽の歴史
22. 戦後アメリカ文化におけるマイノリティ(2) ブルースとソウル
23. 消費の時代の大衆文化(1) カウンター・カルチャーの登場①
24. 消費の時代の大衆文化(2) カウンター・カルチャーの登場②
25. 現代の大衆文化(1) パンクとレゲエ
26. 現代の大衆文化(2) マイケル・ジャクソンと商品化される「個」
27. 大衆文化と芸術：宮崎駿について
28. 現代日本の大衆文化①
29. 現代日本の大衆文化②
30. 全体のまとめ

教科書

授業の中で指示する教科書は指定しないが、参考文献としては大和田 俊之著『アメリカ音楽史 ミンストレル・ショウ、ブルースからヒップホップまで』（講談社選書メチエ）、ロバート・スクラー著『アメリカ映画の文化史—映画がつくったアメリカ』（講談社学術文庫）などがある。その他演歌やビートルズに関するものなど参考文献は随時提示する。

評価方法

- (1)期末レポート:60% (2)ミニッツレポート:20% (3)出席:20%

期末レポートが大きな判断基準となるが、授業後にミニッツレポートの提出を求める場合がある。

担当者：稲田 敦子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

グローバル世界で活躍するための力：異文化に対する理解と共生の姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

日本語教員養成課程：選択必修科目

講義概要

1. 内容

多文化との出会いは、新しい認識の出発となる。この講義では、目に見える文化の領域だけではなく、その奥にある深層心理の部分にも光をあて事例研究をとおして、文化をめぐるはばかりくまた深い問題をををを検討し、問題意識の醸成をはかる。

2. 学びの意義と目標

多様な文化のあり方を検討することにより、自己以外の他者や、自文化を取り巻く異文化を認識することによって、現代社会におけるグローバルな視点を育成することを目指している。

受講生に対する要望

主体性をもって、それぞれのテーマや事例研究に取り組むことを希望します。

キーワード

(1)多文化共生の意味と視点 (2)グローバルな視点 (3)文化の重層性 (4)偏見の構造 (5)多文化共生への道

事前学習（予習）

事前に配布している〈講義ノート〉の課題にとりくむこと。

復習についての指示

各講義の基礎知識のフィードバックを確認する。

授業計画

1. 文化とは何か
2. 文化の重層性（1）
3. 文化の重層性（2）
4. 多文化共生の意味と視点（1）
5. 多文化共生の意味と視点（2）
6. 「国境を越えるもの・越えないもの」（1）
7. 「国境を越えるもの・越えないもの」（2）
8. 「12人の怒れる男たち」（1）
9. 「12人の怒れる男たち」（2）と陪審制
10. 「12人の優しい日本人」（1）
11. 「12人の優しい日本人」（2）と裁判員制度
12. 個人意識と集団意識（1）
13. 個人意識と集団意識（2）
14. 人間形成をめぐる事例研究（1）
15. 人間形成をめぐる事例研究（2）
16. 民族問題をめぐる事例研究（1）
17. 民族問題をめぐる事例研究（2）
18. 偏見の構造（1）
19. 偏見の構造（2）
20. マイノリティの事例研究（1）
21. マイノリティの事例研究（2）
22. タブーとは
23. タブーの意味と文化装置
24. 言葉のタブー（1）
25. 言葉のタブー（2）
26. 死生観をめぐる比較文化（1）
27. 死生観をめぐる比較文化（2）
28. 多文化共生への道（1）
29. 多文化共生への道（2）
30. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)事例研究:20% (2)ブックレポート:20% (3)期末レポート:30%
(4)授業への参加度:30%

ドイツ語(総合)		WLAG-A-202
担当者：小谷 哲夫		
開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位		
学部教育の関連目標 表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける	授業計画 1. ガイダンス 2. 第1課 動詞の現在人称変化/練習問題 3. 同上の続き 4. 第2課 名詞の性・格と冠詞の変化/練習問題 5. 同上の続き 6. 第3課 不規則動詞と名詞の複数形/練習問題 7. 同上の続き 8. 第4課 人称代名詞/練習問題 9. 同上の続き 10. 第5課 所有冠詞・否定冠詞・指示代名詞/練習問題 11. 同上の続き 12. 第6課 前置詞/練習問題 13. 同上の続き 14. 第7課 分離動詞と非分離動詞/練習問題 15. 同上の続き 16. 第8課 再帰代名詞と再帰動詞/練習問題 17. 同上の続き 18. 第9課 形容詞の格変化と比較変化/練習問題 19. 同上の続き 20. 第10課 話法の助動詞と未来の助動詞/練習問題 21. 同上の続き 22. 第11課 副文と命令形/練習問題 23. 第12課 過去形/練習問題 24. 第13課 現在完了形/練習問題 25. 同上の続き 26. 第14課 zu 不定詞/練習問題 27. 受動文/練習問題 28. 関係代名詞/練習問題 29. 同上の続き 30. 定期試験問題の説明	
カリキュラム上の位置付け		
講義概要 1. 内容 1. 本講義はドイツ語I・IIで学習したドイツ語をブラッシュ・アップするために、ドイツ語の作文練習をします。また、文法も一から再確認していきます。更に、I・IIで学習できなかった文法内容も学習していきます。2. カリキュラム上の位置づけ 基礎教育科目のなかの第二外国語の科目であり、ドイツ語I・IIを学んだ学生が、更に具体的にドイツ語の文章に触れ、より深くドイツ語を理解するための選択必修科目です。3. 学びの意義と目標 ドイツ語の作文練習を通して、これまでのドイツ語を「知っている」というレベルから「使える」レベルに高め、更には、日本語とドイツ語の表現法の違いも理解出来ることとなります。また、それは文法内容の再確認にもつながります。文章構造を詳しく捉えることは、一年次での学習内容とは大きな隔たりがあるかもしれませんが、本講義をもってしてドイツ語の総合的な理解に結び付けていきます。		
2. 学びの意義と目標 独作文を通してより深くドイツ語の文章構造や特徴が理解できるようになります。		
受講生に対する要望 休まず、積極的に授業に参加して下さい。独作文は間違えることを恐れずに必ず自分でやってきて下さい。各文章は授業中に全て詳しく説明していきますので、先ずは自分で取り組んで下さい。		
キーワード		
事前学習（予習） ほぼ毎回予習の内容を指示しますので、必ずやってきてもらいます。	教科書 池内宣夫 『ドイツ語表現への誘い〈新訂版〉』（郁文堂）	
復習についての指示 各回で学習した文法と作文の再確認。特に注意しなければならない箇所は、必ず指摘します。	評価方法 (1) 定期試験:40% (2) 中間試験:30% (3) 出席・授業態度等の平常点:30%	

ドイツ語(総合)		WLAG-A-202
担当者：清水 威能子		
開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位		
<div>学部教育の関連目標</div> <p>表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける</p>		
<div>カリキュラム上の位置付け</div>		
<div>講義概要</div> <div>1. 内容</div> <p>ドイツ語ⅠとⅡで学んだ基礎知識を確認し、未だ学んでいない文法事項を補いながら、読解練習、会話とリスニング、ドイツ語圏の国の文化理解といった3つの柱を軸に多面的に言語と文化を学びます。それにより、ドイツ語検定試験対策や留学・旅行の準備などに対応できる、実用的なドイツ語の総合的運用能力を養成します。さらにグループあるいは個人で、ドイツ語圏の国の最新の情報を収集し、発表してもらいます。</p>	<div>授業計画</div> <div>1. ガイダンス、ドイツのメルヘンの紹介</div> <div>2. グリム兄弟の生涯と時代背景</div> <div>3. ハウフのメルヘンを読む『コウノトリになったカリフ』(1課と2課)</div> <div>4. 『コウノトリになったカリフ』(3課)</div> <div>5. 『コウノトリになったカリフ』(4課)(zu不定詞)</div> <div>6. 『コウノトリになったカリフ』(4課)</div> <div>7. グリムのメルヘンを読む『漁夫とその妻』(5課)</div> <div>8. 『漁夫とその妻』(6課)(形容詞の比較級、最上級、名詞化)</div> <div>9. 『漁夫とその妻』(6課)</div> <div>10. 『漁夫とその妻』(7課)(現在完了形の復習と過去完了形)</div> <div>11. 『漁夫とその妻』(7課)</div> <div>12. 『漁夫とその妻』(8課)</div> <div>13. メルヘンの法則、グリム童話(白雪姫)(1)</div> <div>14. グリム童話(白雪姫)(2)</div> <div>15. グリム童話とディズニー映画との比較考察</div> <div>16. 中間試験、ライン川流域の街と物語(ドイツ・ロマン派の物語)</div> <div>17. ハウフのメルヘンを読む『鼻の小人』(9課)(受動態)</div> <div>18. 『鼻の小人』(9課)</div> <div>19. 『鼻の小人』(10課)(関係代名詞)</div> <div>20. 『鼻の小人』(10課)</div> <div>21. 『鼻の小人』(11課)(話法の助動詞の過去形、現在完了形)</div> <div>22. 『鼻の小人』(11課)</div> <div>23. 『鼻の小人』(12課)(接続法1式)</div> <div>24. 『鼻の小人』(12課)(接続法2式)</div> <div>25. 『鼻の小人』(12課)</div> <div>26. ドイツ語圏の国の最新情報についての発表(1)</div> <div>27. ドイツ語圏の国の最新情報についての発表(2)</div> <div>28. ドイツ語圏の国の最新情報についての発表(3)</div> <div>29. ベルリンの壁の崩壊とドイツ再統一</div> <div>30. 理解度の確認</div>	
<div>2. 学びの意義と目標</div> <p>世界の多様な価値観や考え方を学び、将来の選択肢を広げるためには語学力が必要であり、特に今日では外国語でのコミュニケーション能力や、情報活用能力が求められています。この授業は、そのような社会的要請に応えられるように、1)日常生活においてドイツ語で自己表現ができ(ドイツ語検定試験3級程度の語学力)、2)中級程度のドイツ語の文意を、辞書を用いて理解でき、3)異文化との比較から、日本の文化や社会に対する多角的な視点を獲得できることを目標とします。</p>		
<div>受講生に対する要望</div> <p>ノートを取り、ドイツ語を書いて覚えることを求めます。独和辞典も必要です。</p>		
<div>キーワード</div> <p>(1)ドイツ語圏の国(ドイツ、オーストリア、スイス)(2)言語と文化</p>		
<div>事前学習(予習)</div> <p>毎回の指示に従い、単語の意味を調べながらテキストを読んでおく、あるいはプリントの問題練習などの課題を行うこと。</p>	<div>教科書</div> <p>清水 威能子他『童話で学ぶ初級ドイツ語文法読本』(朝日出版社)</p>	
<div>復習についての指示</div> <p>前回の授業の要点をノートで確認し、内容を理解しながら発音練習を行うこと。ドイツ語の基本表現を暗記すること。</p>	<div>評価方法</div> <p>(1)平常点:20%:授業時の課題達成度などの積極的な姿勢を評価 (2)発表:20%(3)中間試験:30%(4)期末試験:30%</p>	

担当者：原 一子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

4年次生を対象とする、大学・大学院共通の科目である。「ドイツ語(総合)」または「ドイツ語コミュニケーション」を修得済みか、同等以上の学力があると担当者が認めた者が履修できる。文法の復習を希望する学生が多いことから、例年、初めの5、6回は『ABCドイツ語文法読本』によって文法をざっとさらった後、ドイツ語の平易な文献を1、2冊講読している。受講者数が少ないので、学力、卒業論文などのテーマ、興味・関心に応じて、学生と相談の上、時間配分や教材を決めている。2冊目の教材としては、過去には、易しいドイツ語の民話集、ヤスパーズ『歴史の起源と目標』の中から受講生に興味のあるテーマ、ニーチェ『ツァラトゥストラ』などを選んだ。受講生の学力、自宅での勉強量、熱心さによって、進む速度や分量に変化が見られる。

2. 学びの意義と目標

ドイツ語のより高度な文献を多読することによって語学力を磨くことが本授業の目標である。大学院生と一緒にドイツ語の文法を復習し、文献を多読することで、ドイツ語の総合的学力の向上を図る。大学院進学を志す者にも益すること大である。

受講生に対する要望

大学院との共通科目ゆえに当然のことながら、毎回全員がテキストを下読みして授業に臨むことは必須である。少人数の授業なので、受講者の意欲そのものが学びの成果に結びつくとも言える。

キーワード

(1) ドイツ語文法 (2) ドイツ語文献

事前学習(予習)

読本の日本語訳、文法問題など、自宅での予習は不可欠である。自宅での学習が疎かになると授業が成り立たないことを理解し、自宅ですしでも多く学習して授業に臨むことを期待する。

復習についての指示

練習問題が十分に出来ていなかった部分などについて、自主的に、文法事項を重点的に復習することは必須である。授業でも学生一人一人に復習の課題を課す。

授業計画

1. 授業の進め方の説明、教材の選択、担当者の決定
2. 『ABCドイツ語文法読本』による文法の復習
3. 『ABCドイツ語文法読本』による文法の復習
4. 『ABCドイツ語文法読本』による文法の復習
5. 『ABCドイツ語文法読本』による文法の復習
6. 『ABCドイツ語文法読本』による文法の復習
7. 1冊目のテキスト講読
8. 1冊目のテキスト講読
9. 1冊目のテキスト講読
10. 1冊目のテキスト講読
11. 1冊目のテキスト講読
12. 1、ないし2冊目のテキスト講読
13. 1、ないし2冊目のテキスト講読
14. 1、ないし2冊目のテキスト講読
15. 1、ないし2冊目のテキスト講読

教科書

大岩信太郎 『ABCドイツ語文法読本』(三修社)

評価方法

(1) 出席率:30% (2) 課題の修得度:70%

期末試験を行うか否かは受講者数によって決定する。

南北アメリカと多文化社会

AMER-A-303

担当者：増田 直子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

グローバル世界で活躍するための力：異文化に対する理解と共生の姿勢を深める

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：英語選択科目、
中学校教諭一種免許：英語選択科目

講義概要

1. 内容

難民や頭脳流出などの人の移動が現在世界規模で起こっている。移住の理由、移住先でのコミュニティの成立、ホスト社会との関係、多様な人から成り立つ多文化社会の問題と可能性について、アメリカ・カナダの事例を中心に学ぶ。また、南米日系人の日本への逆流といった日本の事例も取り上げる。

2. 学びの意義と目標

多人種・多民族の存在が社会のあり方にどのような影響を及ぼしているかを理解し、その意義を説明できるようにする。

受講生に対する要望

移民や外国人問題など関連のニュースや新聞記事に日頃から関心を持つこと。

キーワード

(1) 移民・移住 (2) 多文化主義 (3) 多文化社会

事前学習（予習）

事前に指示された用語を調べておくこと。

復習についての指示

配布プリントを再読し、各トピックについて次回までに説明できるようにする。

授業計画

1. 導入ー人口構成、国勢調査
2. アメリカの国土
3. アメリカへの移民の流れ（１）「旧移民」
4. アメリカへの移民の流れ（２）「新移民」
5. アメリカへの移民の流れ（３）移民制限
6. 日系アメリカ人（１）排斥
7. 日系アメリカ人（２）強制立ち退きから補償運動へ
8. 『ミリキタニの猫』→レポート
9. 戦後アメリカ社会と人種・民族的マイノリティ（１）
10. 戦後アメリカ社会と人種・民族的マイノリティ（２）
11. 黒人公民権運動
12. 『ローザ・パークス物語』→レポート
13. 先住アメリカ人
14. アジア系アメリカ人
15. ヒスパニック/ラティーノ・ラティーナ
16. 同時多発テロとアメリカのムスリム
17. 性の解放と性をめぐる論争
18. ステレオタイプ（１）映画に見られる黒人像
19. ステレオタイプ（２）映画に見られる日本人像
20. 博物館・記念碑をめぐるマイノリティの記憶
21. 同化の概念と多文化主義
22. 多民族国家カナダ
23. 日系カナダ人
24. カナダの先住民
25. カナダの多文化主義
26. ケベック（１）フランス系カナダ人
27. ケベック（２）現代のケベックをめぐる問題
28. 南米日系人（１）南米での経験
29. 南米日系人（２）日本への逆流
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 期末試験：50% (2) レポート：40% (3) その他：10%

比較文学

EAL I-A-301

担当者：氏家 理恵

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義では、英語と日本語で書かれた韻文（詩・短歌・俳句など）を分析し比較することによって、それぞれの独自性とお互いの類似性を考察していく。歴史・リズム・形式・題材・イメージ・修辞法などさまざまな比較要素について概観するとともに、なるべく多くの作品を実際に鑑賞していく。

2. 学びの意義と目標

自分の好きな詩や歌の歌詞などが、日本古来の韻文の伝統を継承しつつ西洋詩の影響を受けながら発展してきたことを再確認し、またグローバルな視点から日本の短歌や俳句をとらえ直すことによって、世界文学における日本の位置づけを知る。比較という視点を通して、韻文についてばかりでなく日欧の歴史・文学・文化についての知識を高める。

受講生に対する要望

日本文学・外国文学を問わず詩や歌詞が好きな学生、興味があるという意欲的な学生の受講を希望する。自らも多くの作品例を探して分析することで、授業に積極的に参加してほしい。また、この科目は欧米文化学科・日本文学文化学科の2年以上の専門科目でもあるので、日本と欧米の文学的・文化的基礎知識がある程度あることが受講の前提条件となるだろう。

キーワード

(1) 比較文学 (2) 韻文 (3) 英詩 (4) 比較文化

事前学習（予習）

大きなテーマごとに予習課題を出すので、しっかりと取り組むこと。また、興味がある詩や歌詞を意識し、レポートに向けて事例収集をすること。

復習についての指示

テーマ毎に大きなまとめを自分でしておくこと。それぞれのテーマに関する作品例を随時集めること。

授業計画

1. イン트로ダクション
2. 詩の修辞法Iーイメージ
3. イメージ比較1ー植物
4. イメージ比較1 続ー春の花
5. 韻文形式の比較：日本の韻文
6. 韻文形式の比較：英米詩
7. 英詩のリズム
8. 韻ー日本の「韻文」は「韻」文か
9. イメージ比較2ー色
10. イメージ比較2ー作品例から
11. 韻文史比較1
12. 韻文史比較2
13. 西洋詩の翻訳と新体詩の誕生
14. 日本の詩と英語の詩は同じ？
15. イメージ比較3ー動物
16. 和歌の修辞法
17. 短歌と連歌と狂歌
18. 俳句の修辞法
19. 俳句と川柳
20. TankaとHaiku
21. イメージ比較4ー自然現象その他
22. リズム比較
23. 文語定型詩と口語自由詩
24. 浪漫主義とロマン主義
25. 象徴主義とモダニズム
26. 詩の修辞法IIー比喩表現
27. 詩の修辞法IIIー対照表現
28. 現代短歌・現代俳句・現代詩
29. 比較文学の可能性ー韻文比較を例に
30. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) ミニツツノート・小テスト：30% (2) 課題：30% (3) 中間レポート：20% (4) 期末レポート：20%

担当者：松本 祐子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この授業では、まず、神話・伝説・昔話の中にファンタジーの源流を探り、次に、魔法の生き物、ファンタジーの空間、ファンタジーの時間、異形のものたち（ヴァンパイア、人造人間、不老不死）、魔法使いと魔女など、様々な項目ごとにファンタジー作品の分析を試みる。また、おとぎ話、児童文学を下敷きにしたディズニー映画をその原作と比較しつつ、ディズニー映画の人気の理由とその功罪について考える。

2. 学びの意義と目標

「夢とおとぎの国への逃避」といったような一般的なファンタジーのイメージに疑問を投げかけ、むしろ、人間の本質を見つめ、現実を生きる力を身につけるためのファンタジーの在り方について考えたい。

受講生に対する要望

毎回のミニレポートの他、3本のレポートを書いてもらうが、提出期限に遅れないように、よく準備をしてレポートを作成してほしい。

キーワード

(1) 神話・伝説 (2) ファンタジーの空間 (3) ファンタジーの時間
(4) 不老不死・生命創造 (5) 魔法

事前学習（予習）

授業内で毎回配布するレジュメをよく読み、扱われる作品を読んでおくこと。ほぼ1ヶ月に1本の提出となるレポート執筆のために、各自の具体的なテーマ探し、資料集めが必要である。

復習についての指示

毎回の授業の最後に出す課題をきちんと提出すること。

授業計画

1. ファンタジーとは何か
2. 神話・伝説：ファンタジーの原型
3. 神話・伝説：予言の意味
4. 神話・伝説：ギリシャ神話（1）
5. 神話・伝説：ギリシャ神話（2）
6. 神話・伝説：北欧神話（1）
7. 神話・伝説：北欧神話（2）
8. 神話・伝説：アーサー王伝説
9. ファンタジーの生き物：ドラゴン（1）
10. ファンタジーの生き物：ドラゴン（2）
11. ファンタジーの生き物：ユニコーン、その他
12. ファンタジーの空間：現実から異世界への移動法
13. ファンタジーの空間：異世界の物語
14. ファンタジーの空間：ディズニーランド
15. ファンタジーの空間：おとぎ話とディズニー・アニメ（1）
16. ファンタジーの空間：おとぎ話とディズニー・アニメ（2）
17. ファンタジーの空間：日常の中の魔法
18. ファンタジーの空間：「私」の中の「他人」
19. ファンタジーの空間：夢
20. ファンタジーの空間：バーチャル・リアリティー
21. ファンタジーの時間：過去と未来
22. ファンタジーの時間：時間旅行の方法
23. 異形のものたち：ヴァンパイア（1）
24. 異形のものたち：ヴァンパイア（2）
25. 異形のものたち：人造人間（1）
26. 異形のものたち：人造人間（2）
27. 異形のものたち：不老不死
28. 魔法使いと魔女
29. 魔法の食べ物
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 毎回の課題&出席：20% (2) 第一レポート：25% (3) 第二レポート：25% (4) 第三レポート：30%

フランス語(総合)

WLAG-A-201

担当者：石田 明夫

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

『フランス語 II』までに学習した知識をフルに活用し、本物のフランス文化に直接触れてみましょう。ここでは、フランスのヴァリエテ(いわゆるシャンソン)、ロック、R&B、ラップ、レゲエなどフランスのポップ・ミュージックと、フランスのミュージカル(『星の王子様』『ノートルダムの鐘つき男』『1789年 バスチーユの恋人達』を用意しています)をDVDで鑑賞し、そのテキストを読みます。また、気に入った曲を歌えるようになります。また、韻文ばかりではなく、フランスを紹介した簡単な散文も、随時取り入れます。

2. 学びの意義と目標

★フランス語の歌詞を聴き、発音し、口語的表現を覚え、文法の復習をすることにより、基本的なレベル(仏検4・3級)に達することができます。また、フランスの大衆文化(ポップ・カルチャー)についての知識が深まり、フランスひいてはヨーロッパについてポピュラーな視点を獲得でき、ヨーロッパに関連する講義を履修する上で役立つと思います。★フランス語を学ぶことの重要性は論を待ちませんが、フレンチ・ポップスでフランス語を学ぶことの意義はポップ・ミュージックの歌や歌手(あるいはグループ名)を覚えることにあります。これから出会うかもしれないフランス語圏の人たちと、その知識を活用して、覚えた歌を歌ったり、好きな歌手や歌を話題にしたり、一緒にyoutubeを見たり、生きたコミュニケーションが楽しめるからです。

受講生に対する要望

★フランスの文化(音楽、映画、小説、食など)に関心のある学生、あるいは関心を持ちたいと思っている学生を望みます。★メディア(新聞、ラジオ、テレビ、インターネット)を通して、フランス情報にいつもアンテナを張っておくことが重要です。

キーワード

(1)ヴァリエテ (2)ポップ・フランス

事前学習(予習)

1回の授業で読む歌詞テキストの量は、詩形式で15行くらいです。予習指定した箇所の新出の単語を必ず辞書で調べておいてください。

復習についての指示

文法の練習問題は、復習用の宿題とします。

授業計画

1. ガイダンス / フランスの音楽事情について / ライブコンサートのDVDを鑑賞
2. ライブコンサートを鑑賞し、その中からテキスト曲を指定(Voulzyの曲を予定)。
3. 歌詞テキストを読み、内容について考察する。ライブコンサートを見て、テキスト曲を指定(Amel BentのR&Bを予定)。
4. 歌詞テキストの読解。ライブコンサートを見て、テキスト曲を指定(Noahのレゲエを予定)。
5. 歌詞テキストの読解。ライブコンサートを見て、テキスト曲を指定(G. Blancの曲を予定)。
6. 歌詞テキストの読解。ライブコンサートを見て、テキストを指定(Manauのケルト神話のラップを予定)。
7. 歌詞テキストの読解。人気アーティストから、テキストを指定(Tina Arenaの曲を予定)。
8. 歌詞テキストの読解。レゲエ歌手Tonton Davidの曲を紹介。テキストを指定。
9. 歌詞テキストの読解。ミュージカルを鑑賞。
10. ミュージカル1を鑑賞し、テキストを読む(1)。
11. ミュージカル1を鑑賞し、テキストを読む(2)。
12. ミュージカル1を鑑賞し、テキストを読む(3)。
13. ミュージカル1を鑑賞し、テキストを読む(4)。
14. ミュージカル1を鑑賞し、テキストを読む(5)。
15. ミュージカル1を鑑賞し、テキストを読む(6)。
16. ミュージカル1全編を鑑賞し、内容について話し合い、感想を提出する。
17. 夏の音楽祭のライブコンサートを見て、歌詞テキストを読む(1)。
18. 夏の音楽祭のライブコンサートを見て、歌詞テキストを読む(2)。
19. ミュージカルの希望が多ければ、ミュージカル2を鑑賞。さもない場合はポップスを紹介。
20. ミュージカル2を鑑賞し、テキストを読む。または他のテキストの読解(1)。
21. ミュージカル2を鑑賞し、テキストを読む。または他のテキストの読解(2)。
22. ミュージカル2を鑑賞し、テキストを読む。または他のテキストの読解(3)。
23. ミュージカル2を鑑賞し、テキストを読む。または他のテキストの読解(4)。
24. ミュージカル2を鑑賞し、テキストを読む。または他のテキストの読解(5)。
25. ミュージカル2を鑑賞し、テキストを読む。または他のテキストの読解(6)。
26. ミュージカル2を鑑賞し、テキストを読む。または他のテキストの読解(7)。
27. 人気アーティストの紹介。その歌詞テキストを読解する(1)。
28. 人気アーティストの紹介。その歌詞テキストを読解する(2)。
29. まとめ(予備日)
30. まとめ(予備日)

教科書

プリントを配布する
プリントの歌詞テキストは、読みやすいようになるべく多くの「注」を付けてあります。

評価方法

(1)平常点:30%:授業への参加度、授業態度など (2)発表点:20%:指定箇所の音読と訳の発表 (3)宿題提出点:10%:文法の練習問題 (4)学期末テスト:40%

フランス語(総合)

WLAG-A-201

担当者：塩谷 祐人

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

フランス語IおよびIIを終了した学生が対象です。週に2回の講義のうち、1回はフランス語IとIIで学んだ文法を復習をしつつ、新しく単語や表現を覚えていきます。そして次の1回はプリントを使い、フランスの観光スポットや文化を題材にした文を読みながら、講読の力をつけていきます。

2. 学びの意義と目標

内容にもあるように、この授業の目標は二つあります。ひとつは、すでに学習したフランス語ですが、忘れていることも多いと思うので、それを思い出し定着させること。そしてもうひとつは、辞書を使って、フランス語を読む能力を身につけることです。フランス語で書かれたものを自らの知識にできるように、正確に読む練習をしていきましょう。またフランスについて書かれたものを読むことで、フランスの文化や歴史を知り、相対的な考え方を身につけることで、日常生活を豊かで知的なものにしていくことも目的のひとつと考えています。

受講生に対する要望

必ず予習・復習ができる学生のみ履修してください。

キーワード

(1) フランス語 (2) フランス文化 (3) 比較文化 (4) ヨーロッパ文化 (5) 異文化理解

事前学習(予習)

配布するプリントを前もって訳してきてもらいます。必ず辞書を使って単語の意味を調べ、文法事項の確認をしてください。

復習についての指示

予習でわからなかったところや間違えていたところを授業で修正し、間違えた理由や、正しい訳の作り方をチェックしてください。

授業計画

1. ガイダンス (フランス語の読み方)
2. 冠詞や名詞の性の復習と応用
3. フランスのお菓子に関する読み物①
4. -er動詞の復習と応用
5. フランス映画に関する読み物①
6. avoir、否定文の復習と応用
7. フランスの社会問題に関する読み物①
8. ?treや所有形容詞の復習と応用
9. フランスの観光名所に関する読み物①
10. 形容詞の復習と応用
11. フランス料理に関する読み物①
12. aller、venirや命令法の復習と応用
13. フランスの芸術に関する読み物①
14. -ir動詞や比較級の応用
15. フランスのお菓子に関する読み物②
16. faireや目的語の復習と応用
17. フランス映画に関する読み物②
18. devoir、pouvoirなどの復習と応用
19. フランスの社会問題に関する読み物②
20. 複合過去の復習と応用
21. フランスの観光名所に関する読み物②
22. 半過去の復習と応用
23. フランス料理に関する読み物②
24. 未来形の復習と応用
25. フランスの芸術に関する読み物②
26. 文法の総復習①
27. 文法の総復習②
28. フランスの雑誌、新聞記事を読んでみる①
29. フランスの雑誌、新聞記事を読んでみる②
30. 期末試験

教科書

斎藤昌三 『le fran?ais facile (ル・フランセ・ファシル)』 (白水社)

評価方法

(1) 平常点:50% (2) 試験:50%

平常点は授業中にしてもらった発表や、他の学生が行った発表に対する質問、コメント、また小テストなどで判断します。試験は学期末試験(中間試験はありません)の点数で判断します。

担当者：鹿瀬 颯枝

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：文章や文化現象を読解する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

先行きが不安な今日、政治的ペシミズムと心理的ペシミズムが入り混じるなか、若者たちの孤独や絶望感は、19世紀初頭に若者たちが罹っていた《世紀病Mal du siècle》を思い起こさせます。1834年、23歳のAlfred de MussetがLorenzaccioを通して描いた永遠の青年像をともに読み解いていきましょう。《生きにくさdifficulté d'être》の源をともに考えてみたいと思います。さらには、時間の許す限り、2008年度ノーベル文学賞受賞作家J.M.G. Le Clézioの長編大作からLe Chercheur d'Orを抜粋で、あるいは短編集から一編平易なテキストを取り上げたいと思いますが、開講時に受講生と相談して決めます。

2. 学びの意義と目標

「フランス語講読」は、《生きにくさ》を生き抜かねばならない現代社会の青年像をテーマにテキスト選びをしていますので、名作を通してフランス語の学びと同時に、共に生きるということについても考えていきます。

受講生に対する要望

大学院の「原書講読（フランス語）」と同じレベルでスタートするクラスなので、学部4年生に総仕上げのフランス語授業として参加してほしいと願っています。

キーワード

(1) フランス語 (2) ミュッセ (3) 『ロレンザッチョ』 (4) ル・クレジオ (5) 『黄金探索者』

事前学習（予習）

予習として、少なくとも次回の講読部分を辞書を用いて和訳をしておきましょう。少々難解でも試みてみましょう。

復習についての指示

授業で講読した箇所を原文のみで読解できるか復習をしておきましょう。

授業計画

1. フランス語の実力テスト
2. フランス語の講読に必要な基本的文法事項
3. フランス語の講読に必要な基本的文法事項
4. Alfred de Musset, Lorenzaccio 講読（1）
5. 講読（2）
6. 講読（3）
7. 講読（4）
8. 講読（5）
9. 講読（6）
10. 講読（7）
11. まとめ
12. Le Clézio, Le Chercheur d'Or 講読（1）
13. 講読（2）
14. 講読（3）
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1) 授業出席：60% 積極的授業参加が最小限の条件です (2) 発表：20% (3) テスト：20%

フランス語コミュニケーションA (総合)

WLAG-A-301

担当者：F. ルテュール

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本年のクラスは、??Moi, je... communication?? (株式会社アルマ出版社) を教科書として使用します。フランス語会話の基礎を様々な状況に応じて、例えば、自己紹介から日常生活会話まで、実際にフランスにいるかのように、フランスの友人たちと、あるいは家族と話しているかのように、学んでいきましょう。この教科書は、18課で構成されています。各課の内容は、一 テキスト、会話一 文法、語彙の紹介&説明一 書く、聴く、話すことを中心とした練習問題と進んでいき、各項目ごとに終了すると、復習ができるようになっています。CDやDVDも使用しますので、オーラルの理解力、会話練習にも役立つことでしょう。

2. 学びの意義と目標

フランス語を基礎から学びながら、簡単な日常会話ができるようにする。自己紹介や趣味、さまざまな場面を設定しての(電話の受け方、レストラン、買い物、旅行等々)会話の練習。現在形、過去形、未来形の習得。

受講生に対する要望

積極的に話しましょう。

キーワード

(1)興味を持って (2)楽しみながら (3)積極的に

事前学習(予習)

前もって語彙について調べる、練習問題を解く、わからないところを質問できるようにしておく、授業に余裕をもって楽しく入っていけると思います。

復習についての指示

発音を確認しながら音読の練習。

授業計画

1. Introduction?: このテキストの使い方 + le?on 0?: フランス語の基礎
2. Le?on 1?: 自己紹介をする
3. Le?on 2?: 今住んでいるところや出身地について話す
4. Le?on 3?: 交通手段について話す
5. Le?on 4?: アルバイトについて話す
6. Le?on 5?: ペットなどについて話す
7. Le?on 6?: 科目・先生について話す
8. Le?on 6?: 科目・先生について話す
9. Le?on 7?: 食べ物について話す
10. Le?on 7?: 食べ物について話す
11. Le?on 8?: 家事について話す
12. Le?on 9?: 家族について話す
13. Le?on 9?: 家族について話す
14. Le?on 10?: クラブ活動について話す
15. Le?on 10?: クラブ活動について話す
16. Le?on 11?: 習慣について話す
17. Le?on 11?: 習慣について話す
18. Le?on 12?: 週末の過ごし方について話す
19. Le?on 13?: 時間について話す
20. Le?on 13?: 時間について話す
21. Le?on 14 : 休暇中の活動について話す
22. Le?on 15?: 経験について話す
23. Le?on 15?: 経験について話す
24. Le?on 16?: 地理について話す
25. Le?on 17?: 天候について話す
26. Le?on 17?: 天候について話す
27. Le?on 18?: 過去について話す
28. Le?on 18?: 過去について話す
29. テスト
30. まとめ

教科書

Bruno Vannieuwenhuysse, etc. 『Moi, je... communication』(株式会社アルマ出版)

評価方法

(1)テスト:50%:学年末にテストを1回 (2)出席:25% (3)授業態度:25%

フランス語コミュニケーションB (総合)

WLAG-A-302

担当者：F. ルテュール

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：他者とのコミュニケーション力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本年のクラスは、??Moi, je... communication?? (株式会社アルマ出版社) を教科書として使用します。フランス語会話の基礎を様々な状況に応じて、例えば、自己紹介から日常生活会話まで、実際にフランスにいるかのように、フランスの友人たちと、あるいは家族と話しているかのように、学んでいきましょう。この教科書は、18課で構成されています。各課の内容は、一 テキスト、会話一 文法、語彙の紹介&説明一 書く、聴く、話すことを中心とした練習問題と進んでいき、各項目ごとに終了すると、復習ができるようになっています。CDやDVDも使用しますので、オーラルの理解力、会話練習にも役立つことでしょう。

2. 学びの意義と目標

フランス語を基礎から学びながら、簡単な日常会話ができるようにする。自己紹介や趣味、さまざまな場面を設定しての(電話の受け方、レストラン、買い物、旅行等々)会話の練習。現在形、過去形、未来形の習得。

受講生に対する要望

積極的に話しましょう。

キーワード

(1)興味を持って (2)楽しみながら (3)積極的に

事前学習 (予習)

前もって語彙について調べる、練習問題を解く、わからないところを質問できるようにしておく、授業に余裕をもって楽しく入っていけると思います。

復習についての指示

発音を確認しながら音読の練習。

授業計画

1. Introduction?: このテキストの使い方 + le?on 0?: フランス語の基礎
2. Le?on 1?: 自己紹介をする
3. Le?on 2?: 今住んでいるところや出身地について話す
4. Le?on 3?: 交通手段について話す
5. Le?on 4?: アルバイトについて話す
6. Le?on 5?: ペットなどについて話す
7. Le?on 6?: 科目・先生について話す
8. Le?on 6?: 科目・先生について話す
9. Le?on 7?: 食べ物について話す
10. Le?on 7?: 食べ物について話す
11. Le?on 8?: 家事について話す
12. Le?on 9?: 家族について話す
13. Le?on 9?: 家族について話す
14. Le?on 10?: クラブ活動について話す
15. Le?on 10?: クラブ活動について話す
16. Le?on 11?: 習慣について話す
17. Le?on 11?: 習慣について話す
18. Le?on 12?: 週末の過ごし方について話す
19. Le?on 13?: 時間について話す
20. Le?on 13?: 時間について話す
21. Le?on 14 : 休暇中の活動について話す
22. Le?on 15?: 経験について話す
23. Le?on 15?: 経験について話す
24. Le?on 16?: 地理について話す
25. Le?on 17?: 天候について話す
26. Le?on 17?: 天候について話す
27. Le?on 18?: 過去について話す
28. Le?on 18?: 過去について話す
29. テスト
30. まとめ

教科書

Bruno Vannieuwenhuyse, etc 『"Moi, je... communication"』 (株式会社アルマ出版)

評価方法

(1)テスト:50%:学年末にテストを1回 (2)出席:25% (3)授業態度:25%

担当者：竹田 香織

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人格と主体性：社会人としての倫理観と働く力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義では、マスコミュニケーション、マスメディアに関する概念や歴史、現状について理解を整理し、社会における役割や影響、可能性について考察する。

2. 学びの意義と目標

・マスコミュニケーションおよびマスメディアと社会、個人との関わりについて理解を深める。・情報社会を生きる上で、もはや必要不可欠といえる様々なメディアとの接し方について考えることができるようになる。・情報を批判的あるいは建設的に吟味する姿勢を身につける。

受講生に対する要望

「政治学」を受講済みであることが望ましい。

キーワード

(1) マスコミュニケーション (2) マスメディア (3) 情報社会

事前学習（予習）

・メディア、特に新聞に目を通し、ニュースに日々触れること。

復習についての指示

・ノートや配布プリント等を見返し、授業の中で案内する文献を手に取り、授業のポイントが何であったかをおさえておくこと。

授業計画

1. 情報とは何か
2. マスコミュニケーションとは
3. 社会とマスコミュニケーション
4. マスコミュニケーションの影響
5. マスメディアとは
6. マスメディアの歴史と現状（1）新聞
7. マスメディアの歴史と現状（2）放送
8. マスメディアの歴史と現状（3）出版
9. マスメディアの歴史と現状（4）映像・音楽
10. マスメディアの歴史と現状（5）インターネット
11. 広告
12. ジャーナリズム
13. 事故と報道（1）
14. 事故と報道（2）
15. 事件と報道（1）
16. 事件と報道（2）
17. 災害と報道（1）
18. 災害と報道（2）
19. 表現の自由と知る権利
20. プライバシーと表現規制
21. 政治と情報
22. 民主主義と情報
23. 政治とマスメディア
24. インターネットと政治
25. 世論
26. 世論と世論調査
27. マスメディアとジェンダー
28. マスメディアとナショナリズム
29. マスメディアと戦争
30. 総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 平常点:30%:毎回授業後に小テストを行う。授業には主体的に参加すること。(2) 期末試験:70%

ヨーロッパ近現代史

EURO-A-202

担当者：和田 光司

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

(内容) この授業はもうひとつの「ヨーロッパ文明の形成」とセットで、ヨーロッパ史の大まかな流れを追いながら、各時代の基本的な事件、社会的特徴を解説する。ヨーロッパ中世と近世（5世紀から18世紀まで）は、もうひとつの「ヨーロッパ文明の形成」で私が講義する予定である。それに続く近代と現代（19、20世紀）を扱うのが、この「ヨーロッパ近現代史」である。理解の助けのため視聴覚教材も用いる。なお「ヨーロッパ文明の形成」を受講していなくても受講可能である。

2. 学びの意義と目標

近現代のヨーロッパはまさに現代社会の揺籃の地である。この時代の歴史を学ぶことにより、市民社会の成り立ちや産業化、ファシズム、共産主義など、現代世界を構成している社会的・政治的・経済的・文化的諸要素について基礎的知識を獲得することを目的とする。

受講生に対する要望

教科書は授業毎に参照するので、必ず購入すること。

キーワード

(1)歴史 (2)ヨーロッパ (3)近代 (4)現代

事前学習（予習）

今回の授業内容に関し、教科書に目を通し、要点を把握しておく。

復習についての指示

前回の授業内容をもう一度復習し、初回からの全体的な流れの中で再度把握し、各回の授業内容を総合的理解へと導く

授業計画

1. 序論
2. 18世紀の社会と文化
3. アメリカ独立革命
4. フランス革命
5. フランス革命の原理
6. ナポレオン
7. 19世紀前半のヨーロッパ
8. ロマン主義
9. 産業革命
10. 産業革命の影響
11. 産業革命の影響（続）
12. 産業革命の影響
13. 19世紀後半の文化
14. 帝国主義時代のヨーロッパ1
15. 帝国主義時代のヨーロッパ2
16. 世紀末文化
17. 第一次世界大戦
18. 大戦後の世界
19. ロシア革命
20. 大衆社会の成立
21. 大恐慌とその文化的影響
22. 全体主義の出現
23. 第二次世界大戦1
24. 第二次世界大戦2
25. 冷戦下のヨーロッパ1
26. 冷戦下のヨーロッパ2
27. 冷戦の終結
28. EU統合1
29. EU統合2
30. 予備

教科書

成瀬 治, 佐藤 次高, 木村 靖二, 岸本 美緒, 桑島 良平 『山川世界史総合図録』（山川出版社）

評価方法

- (1)平常点:60% (2)学期末レポート:40%

担当者：和田 光司

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

(内容) この授業は歴史学の入門ではなく、既に一通りの通史の知識がある者が一段上の歴史的な考え方を学ぶことを目的とする。書店に行けば、いつも多くの歴史の本を目にする。また、歴史に関心があり、歴史の議論をする人は多い。戦争や教科書問題について語る学生も多い。しかし、それらの本や言葉のすべてが、真に信頼に足るものであろうか。「学問」としての歴史学とは、いったいどのようなものであろうか。この授業の目的は、「歴史」や「歴史学」について考えることである。注意してほしいことは、この授業では、ヨーロッパの具体的な歴史の流れ（「通史」と言う）について学ぶことはしない。この授業で扱うのは、人間にとって歴史とは何か、人間は歴史をどのように考えてきたか、学問としての「歴史学」はどのように生まれたのか、歴史は科学か、歴史における真実とは何か。どのようにしたら、その真実に到達できるのか、歴史学は今どうなっているのか、どのような主題が関心が持たれているのか、といった問題である。

2. 学びの意義と目標

歴史を本格的に学びたいという学生のために、方法論的知識を与える。教育や記憶など日常的に話題になっている歴史・歴史学をめぐる議論に対し批判力を育成する。

受講生に対する要望

日頃よりTV・新聞などの歴史学に関する記事・番組などに関心を持って接しておくこと。

キーワード

(1) 歴史学 (2) グローバリゼーション (3) 社会史 (4) 歴史教育

事前学習（予習）

指示される項目について調査しておく。

復習についての指示

各授業後、参考文献を自分で当たり、理解を深める。

授業計画

1. 序、ギリシャの歴史観とユダヤの歴史観
2. 世界史の成立
3. 進歩という考え方
4. 近代歴史学の成立
5. 近代歴史学の問題点
6. 近代歴史学の反省
7. 社会史の誕生
8. 環境と歴史
9. 歴史人口学
10. 家族史
11. 女性史
12. 死の歴史
13. 民衆文化
14. ソシアビリテ
15. カーニバルと反乱
16. 地域史
17. 世界史をどう書くか
18. マルクス主義と史的唯物論
19. マックス・ウーバー
20. ウォーラーステインの「世界システム論」
21. グローバル・ヒストリー
22. 歴史と記憶1
23. 歴史と記憶2
24. 歴史教育と教科書1
25. 歴史教育と教科書2
26. ポストコロニアリズム1
27. ポストコロニアリズム2
28. カルチャラル・スタディーズ1
29. カルチャラル・スタディーズ2
30. 総括

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 平常点:60% (2) 期末レポート:40%

歴史とグローバル世界 A

HIST-A-101

担当者：和田 光司

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

現代社会に生きるうえで、「グローバリゼーション」という言葉を聞かない日はありません。しかし、グローバリゼーションとは実際のところなんなのでしょうか。私たちの暮らしにどのように関わっているのでしょうか。この授業では、人やモノ、資本や情報が地球規模で行き交うようになった歴史と、人々への影響をたどります。毎回の授業で提出していただくレスポンスシート（講義内容の要約、疑問点等をまとめていただきます）、トピックごと的小テストおよび期末テストが課題となります。

2. 学びの意義と目標

高校世界史等で学んだ歴史上のさまざまなできごとを、グローバルな観点から見直し、国境を越えたつながりを意識した視点を身につけることを目標とします。それによって、現代社会のさまざまな問題を広い視野で考えることができるようになるでしょう。

受講生に対する要望

受け身で受講するのではなく、歴史上のさまざまなできごとの空間的・時間的相互関係やプロセスを思考する態度でのぞんでください。

キーワード

(1) 歴史 (2) グローバリゼーション (3) 西洋史 (4) 世界史

事前学習（予習）

歴史のなかで関心のあるできごとや人物などに関連する本を読んで下さい。

復習についての指示

授業では教科書とプリントを併用します。講義内容を復習し、歴史の流れを意識しながら次の講義にのぞんでください。

授業計画

1. ガイダンス グローバルな世界を歴史のなかでよみとく
2. 古代地中海世界 (1) ギリシャとローマ
3. 古代地中海世界 (2) ふたつのヨーロッパ
4. 古代地中海世界 (3) イスラームとキリスト教
5. 13世紀世界システム (1) イタリア商人たち
6. 13世紀世界システム (2) イスラーム商人たち
7. 13世紀世界システム (3) 国際都市・中国
8. 大航海時代 (1) ヨーロッパの大西洋・アジア進出
9. 大航海時代 (2) 主権国家の成立
10. 大航海時代 (3) アジア世界の大航海時代
11. まとめ (1)
12. 近代世界システムの形成 (1) 産業革命
13. 近代世界システムの形成 (2) 植民地進出と世界市場
14. 近代世界システムの形成 (3) 欧米における政治体制の変化とその世界的拡大
15. 帝国主義の時代 (1) 力によって分割される世界
16. 帝国主義の時代 (2) 帝国主義の背景
17. 帝国主義の時代 (3) 帝国主義との闘い
18. 第一次世界大戦 (1) 帝国主義の衝突
19. 第一次世界大戦 (2) 戦争と革命
20. 第一次世界大戦 (3) 帝国主義戦争は終わったか
21. 第二次世界大戦 (1) 世界経済恐慌
22. 第二次世界大戦 (2) 帝国主義とアジア
23. 第二次世界大戦 (3) 大戦の経緯と終結
24. まとめ (2)
25. 冷戦 (1) 東西対立
26. 冷戦 (2) 第三世界
27. 冷戦 (3) 東西世界の社会と文化
28. 現在のグローバリゼーション (1) 政治の多極化と経済の一体化
29. 現在のグローバリゼーション (2) 開発と貧困
30. まとめ (3)

教科書

成瀬 治, 佐藤 次高, 木村 靖二, 岸本 美緒, 桑島 良平 『山川世界史総合図録』 (山川出版社)

評価方法

- (1) 平常点: 50%: 受講態度およびレスポンスシート (2) レポート: 50%

担当者：南 祐三

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

グローバル世界で活躍するための力：歴史への理解と洞察力を深める

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

我われが生きているこの世界は、どのような出来事や思想を背景にして「いま」に至っているのか。本講義では、現代ヨーロッパ世界に注目し、その特徴である「統合」や「越境」、「協調」などの事象に焦点を当てる。とりわけ、「フランスからみたヨーロッパ統合」という視点から、グローバル世界の成り立ちと課題について検討する。

2. 学びの意義と目標

歴史を学ぶことは、つねに「自分が生きている世界の仕組みを知る」ことにつづる。本講義では、EUによるヨーロッパ統合の歴史的背景や、その成果と課題について学んでいくなかで、現代世界の仕組みを把握するための広い視野を養うことをめざす。

受講生に対する要望

受講にあたって、ヨーロッパ統合の歴史についての基礎知識は必須ではないが、わからないことは積極的に自分で調べようとする態度で臨んでほしい。

キーワード

(1)西洋史 (2)グローバリゼーション (3)ヨーロッパ統合 (4)国際関係

事前学習（予習）

各回の講義におけるポイントは何であったか、という点をしっかり意識しながら、できるだけ自分で文献を探して読んでほしい。

復習についての指示

講義中にこちらが強調したことを復習するだけでなく、そのなかで疑問として残った点について、自分なりに調べてみてほしい。

授業計画

1. ガイダンス
2. 古代史にみる「統合」「越境」「協調」
3. 中世史にみる「統合」「越境」「協調」
4. 大航海時代と近代世界システム
5. 近代国民国家の誕生
6. フランスからみた第一次世界大戦(1)：19世紀の国際秩序
7. フランスからみた第一次世界大戦(2)：大戦の経過
8. フランスからみた第一次世界大戦(3)：大戦が与えた衝撃
9. トピック(1)：第一次世界大戦開戦100周年
10. 両大戦間期ヨーロッパ(1)：ヴェルサイユ体制とドイツ問題
11. 両大戦間期ヨーロッパ(2)：共産主義とファシズム
12. 両大戦間期ヨーロッパ(3)：集団安全保障体制と宥和政策
13. フランスからみた第二次世界大戦(1)：対独協力
14. フランスからみた第二次世界大戦(2)：対独抵抗
15. フランスからみた第二次世界大戦(3)：ヨーロッパの失脚
16. トピック(2)：ファシズムの問題
17. 戦後ヨーロッパとフランス(1)：戦後処理と肅清裁判
18. 戦後ヨーロッパとフランス(2)：冷戦体制の樹立と対立の激化
19. 戦後ヨーロッパとフランス(3)：植民地問題
20. 戦後ヨーロッパとフランス(4)：経済成長と社会変動
21. フランスからみたヨーロッパ統合(1)：さまざまな統合構想
22. フランスからみたヨーロッパ統合(2)：仏独協調の歴史
23. フランスからみたヨーロッパ統合(3)：EU発足までの歩み
24. フランスからみたヨーロッパ統合(4)：EUの進展
25. ヨーロッパ統合の課題(1)：過去の清算
26. ヨーロッパ統合の課題(2)：排除と差別
27. ヨーロッパ統合の課題(3)：移民問題
28. ヨーロッパ統合の課題(4)：グローバル化とナショナリズム
29. トピック(3)：現代の極右勢力
30. まとめ（テスト）

教科書

成瀬 治, 佐藤 次高, 木村 靖二, 岸本 美緒, 桑島 良平 『山川世界史総合図録』（山川出版社）

評価方法

- (1) 平常点:50%:受講態度およびレスポンスシート (2) レポート:50%

レポート作成法

EACL-A-104

担当者：和田 光司

開設期：春学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

表現力・リテラシー：自分を表現するための文章力・表現力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

入学前準備課題として、レポート課題を実際に作成しながら、大学生生活に不可欠な学問的能力である文章・レポートの書き方を身につける科目です。レポートを書くとは具体的にどのようなことを意味しているのでしょうか。それは「書くことを通じて考える」ことであり、また書籍、文献、資料などを活用することにより、自己の興味・関心を客観的に位置づけ表現することです。履修者は個別指導を受けながら、欧米文化に関するさまざまなテーマを自分で設定し、実際にレポートを完成させます。

2. 学びの意義と目標

大学生活を始めるにあたり必要なスキルであるレポートの書き方の基本を学ぶこと、そして欧米文化に対する漠然とした興味・関心を具体的な学びに結びつけることによって、意欲と目的意識を持って大学生活が始められるよう、準備することが本授業の目標です。

受講生に対する要望

入学前に実施する科目ですので、一般の学生は受講できないので注意してください。

キーワード

(1) レポート (2) 読む力 (3) 書く力 (4) 入学前教育

事前学習（予習）

通信添削を通して指示された様々な課題に取り組んでください。

復習についての指示

添削されて返却された課題を確認し、自分の課題の問題点を振り返るようにしてください。

授業計画

1. テーマの設定
2. テーマの設定
3. 目次・章立ての設定
4. 資料の検索のしかた
5. 資料の検索の実際
6. 文献の引用のしかた
7. 個別指導・添削指導 1
8. 個別指導・添削指導 2
9. 個別指導・添削指導 3
10. 個別指導・添削指導 4
11. 個別指導・添削指導 5
12. 個別指導・添削指導 6
13. 個別指導・添削指導 7
14. 個別指導・添削指導 8
15. レポートの評価

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) レポート:60% (2) 平常点:40%:取組の準備に対する態度

日本文化学科

Intercultural Communication

CMPC-A-302

担当者：E. D. オズバーン

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

Japan Studies Program (JSP) 科目

講義概要

1. 内容

Content – This course introduces the fundamental principles of intercultural communication through the integration of concepts from the fields of social psychology, cultural anthropology, and communication theory. Particular emphasis is placed upon comparative culture, with the focus being upon Japan and America and the role that culture plays in the communication process between individuals from these two dynamic, yet very different, countries. 2. Role in the Curriculum ? The course is designed specifically for exchange students in the Japan Studies Program (JSP), but it is also available as an elective to regular students who are highly motivated.

2. 学びの意義と目標

Learning Objectives – The primary objectives are to familiarize students with the cultural influences on communication between Japanese and Americans and to apply the principles learned to the students' lives.

受講生に対する要望

Since the course is conducted entirely in English, a minimum TOEFL equivalency score of 380 (paper-based test) is a prerequisite for taking the class.

キーワード

(1)culture (2)intercultural (3)values (4)verbal & nonverbal communication (5)global community

事前学習（予習）

Students are expected to complete the weekly textbook reading assignments and be prepared to discuss the contents in each class.

復習についての指示

After each lecture, students should revise the notes taken in class and review them, committing to memory the key points.

授業計画

1. Course Introduction & Overview: What is culture?
2. Culture Variance: How do cultures differ?
3. Dimensions of Culture: Adler, Hofstede I
4. Dimensions of Culture: Adler, Hofstede II
5. Dimensions of Culture: Trompenaars & Hall
6. Dimensions of Culture: The GLOBE Study I
7. Dimensions of Culture: The GLOBE Study II
8. Cultural Values & Attitudes: Rokeach & Inglehart
9. Subcultures
10. Comparison of National Cultural Groups
11. Comparison of Japanese & American Culture I
12. Comparison of Japanese & American Culture II
13. Comparison of Japanese & American Culture III
14. MIDTERM EXAM
15. Culture & Perception
16. Culture & Language I
17. Culture & Language II
18. Cultural Code Words: Japanese I
19. Cultural Code Words: Japanese II
20. Intercultural Communication Theories
21. Cultural Differences in Communication
22. Culture & Nonverbal Communication I
23. Culture & Nonverbal Communication II
24. Cultural Biases
25. Culture Shock I
26. Culture Shock II
27. Intercultural Competence I
28. Intercultural Competence II/INTEGRATION PAPER DUE
29. Japanese & Americans Working Together
30. FINAL EXAM

教科書

Jandt, Fred E. 『An Introduction to Intercultural Communication (7th ed.)』 (SAGE Publications, Inc.)

評価方法

(1)attendance :15% (2)reading assignments :20% (3)term paper :35% (4)exams :30%

異文化間コミュニケーション

CMPC-A-301

担当者：小松崎 利明

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

国際理解力：日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする

カリキュラム上の位置付け

日本語教員養成課程：選択必修科目

講義概要

1. 内容

世界中の人々との出会いは、異なる文化との接触でもあります。文化的背景が異なる他者との接触は、その文化に対する無知から、他者との間に誤解や偏見が生まれたり、衝突が起きたり、ときには国と国との関係における摩擦さえ生み出すこともあります。さらに「同じ文化」に属しているはずの他者とのかわりにおいても、同じことが言えます。一方、われわれが日常行っているコミュニケーションのあり方が変わることによって、人々の一般的な行動様式や思考態度に影響がおよび、その集団や社会が共有している「文化」が変容することもあります。この講義では、「文化」や「コミュニケーション」について多面的に学び、そこから、現代社会において文化がわれわれのコミュニケーションをどのように規定しているのか、また逆に、われわれのコミュニケーションのあり方によってどのような文化が生み出されているのかということについて、アクティブラーニングの要素を取り入れつつ考えることを目的とします。

2. 学びの意義と目標

文化について学び、考えることにより、学生一人ひとりが様々な文化的背景をもつ人々との出会いにおいて、より深い他者理解・他者との交流ができるようになることを目指します。

受講生に対する要望

この授業では、「外国についての知識を増やす」ことではなく、むしろ自分が持っている知識や常識を疑う姿勢が求められます。

キーワード

(1)文化 (2)コミュニケーション (3)社会 (4)解釈 (5)メディア

事前学習（予習）

配布資料を読んでおく。

復習についての指示

期末レポート作成の準備として、授業内容をまとめ、ノートを作っておく。

授業計画

1. イントロダクション
2. グローバリゼーション
3. 文化の定義とその諸相
4. 文化と権力
5. コミュニケーション
6. コミュニケーション能力
7. 映像を通じた旅（1）
8. ことばと世界
9. 英語帝国主義
10. 国語と多言語主義
11. 沈黙
12. 身体
13. 映像を通じた旅（2）
14. ステレオタイプ
15. 中間テスト
16. 中間テストの返却と解説（前半のまとめ）
17. 時
18. 記憶と忘却
19. 空間と境界
20. 映像を通じた旅（3）
21. 都市化と管理社会
22. カルチャーショック
23. 異文化接触と解釈
24. 状況と対立
25. アイデンティティと他者
26. 映像を通じた旅（4）
27. メディア
28. 芸術
29. 博物館、戦争、記憶
30. 経済、食、環境、エネルギー

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 平常点:30%:授業への積極的参加とコメントシートの提出 (2) 中間テスト:30% (3) 期末レポート:40%

担当者：山中 剛史

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

写真や映画にとどまらず、テレビやネットなど、多様な進歩を遂げながら極めて広範囲に使用されている映像。しかし、例えば明治の人々はどのように映像を理解し受容していたのか。視覚文化の歴史的様相を横目に据えつつ、視覚＝イメージと視覚装置の発展が、近代化の中で如何様な位置を占め表象されてきたのかを概観しながら、複製芸術としての映像の持つ特性と、現在にいたる映像作品の可能性を改めて読解する。応用系として3～4年志向。（授業計画予定は変更される場合もある）

2. 学びの意義と目標

本講義では、写真や映画など19世紀より輸入・発展した各メディアが、種々の文化的コンテキストの中で如何に扱われてきたかを再検証していく。視覚的イメージのあり方と複製技術であることの意味など、ヴィジュアル文化全盛の今日、映像文化をその原初から改めて逆照射することによって、現代日本文化における映像作品の諸問題を改めて考えさせることになるだろう。

受講生に対する要望

文化論や文学、美術などのつながりにおいてより深く視覚的文化について考えたい学生の受講を望む。

キーワード

(1) 映像表現 (2) 遠近法 (3) 映画史 (4) 近代芸術 (5) 複製芸術

事前学習（予習）

普段から講義で紹介する関連文献に目を通し、実作に触れる機会を多く持つこと。日常的に「映像」を考えながら見るという姿勢を身につけておく。

復習についての指示

板書や配布プリントを再読し自分なりの授業ノートをまとめること。また不定期に実施する小レポートは、出題翌週に提出ですが、講義を反芻しながら疎かにせず時間をかけて執筆して下さい。

授業計画

1. ガイダンス
2. 遠近法と近代的視覚の編成
3. 写真の発明
4. 視覚のスペクタクル
5. 写真と時間性
6. 映画の時間＝運動
7. 映画における時空間表象
8. 日本における映画輸入
9. 純映画劇運動の芸術思想（1）
10. 純映画劇運動の芸術思想（2）
11. ドイツ表現主義の影響
12. 複製芸術としての映像メディア（1）
13. 複製芸術としての映像メディア（2）
14. モンタージュと映像言語
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 期末レポート：70% (2) 小レポート：30%

出席点について：毎回の出席は前提であり出席点はない。ただし全講義回数の2/3以上の出席を単位取得の最低条件とする。

担当者：山中 剛史

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

写真や映画にとどまらず、テレビやネットなど、多様な進歩を遂げながら極めて広範囲に使用されている映像。視覚文化の歴史的様相を横目に据えつつ、視覚＝イメージと視覚装置の発展が如何様に表象されてきたのかを概観しながら、現在にいたる映像作品の可能性を改めて読解していくために、その変遷する映像芸術の歴史的様相を芸術思潮のうちに主題化し、葛藤を繰り返しながら映像的結実へといたった過程を、個々の作品を実見することで跡付け検証する。応用系として3～4年生向。（授業計画予定は変更される場合もある）

2. 学びの意義と目標

本講義では、写真や映画などの各メディアが、第二次大戦後の文化的コンテクストの中で如何に扱われてきたかを具体的に再検証していく。戦後、TVなどのマスメディアが浸透する中で、とりわけ実験的な前衛映画作品が、その後のいかに大衆化されていったのかを検証することで、ヴィジュアル文化全盛の今日改めて映像作品の孕む諸問題と可能性について見つめ直し、思考する眼を養っていききたい。

受講生に対する要望

文化論や文学、美術などのつながりにおいてより深く視覚的文化について考えたい学生に向いています。

キーワード

(1)表象文化 (2)メディア史 (3)前衛芸術 (4)戦後社会 (5)芸術思潮

事前学習（予習）

普段から講義で紹介する関連文献に目を通し、実作に触れる機会を多く持つこと。日常的に「映像」を考えながら見るという姿勢を身につけておく。

復習についての指示

板書や配布プリントを再読し自分なりの授業ノートをまとめること。また不定期に実施する小レポートは、出題翌週に提出ですが、講義を反芻しながら疎かにせず時間をかけて執筆して下さい。

授業計画

1. ガイダンス
2. 日本映画の戦後
3. 啓蒙手段としてのメディア
4. 高度経済成長とメディアの転換
5. ヌーヴェルヴァーグ運動
6. 戦後アヴァンギャルドの展開
7. ダダ・シュルレアリスムの映画
8. 個人映画の勃興
9. フィルム・アンデパンダンの活動
10. 前衛の物語的展開（1）
11. 前衛の物語的展開（2）
12. 寺山修司の映像戦略
13. ヴィデオの可能性
14. MVとCM
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)期末レポート:70% (2)小レポート:30%

出席点について：毎回の出席は前提であり出席点はない。ただし全講義回数の2/3以上の出席を単位取得の最低条件とする。

担当者：前田 潤

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

実践力：学校教育について学び、教育水準の向上と課題解決能力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

◆教員採用試験の「現代文」読解問題を念頭に置きながら、現代日本語で記されたあらゆるジャンルの文章読解力の向上を目標として講義を行う。領域横断的な文章素材を扱うことを通じて、文学・芸術はもちろん、社会思想・メディア・情報・身体・紛争・共同体といった重要な現代的問題系に関する思考を深めるとともに、「国語」教育に携ろうとする者として必要な、総合的な日本語操作能力の獲得を目指す。中学校・高等学校教科書、各種副読本、大学入学試験問題など、幅広い素材を対象テキストとする。◆教職課程履修者のための科目。2年生以上で、「教科教育法Ⅰ」を取得したものか、並行履修しているものが受講できる。◆教員採用試験の要求する「現代文」文章読解能力の水準を把握するとともに、「国語」教員として最低限必要な文章表現力の獲得を目標とする。

2. 学びの意義と目標

多領域に向けて開かれた現代日本語の文章を読解できる能力を養うことが講義の目的となる。また、大学入試センター試験問題を含めて、高校・大学の入学試験問題を批判的に検討できる読解能力を身につけることを目標とする。

受講生に対する要望

自己の能力を磨く意欲を持って授業に臨んで欲しい。

キーワード

(1) 現代文 (2) 入試問題 (3) 読解技術 (4) 作題 (5) リテラシー

事前学習（予習）

次回の内容に関する予習を指示する場合がある。

復習についての指示

各回完結の授業となるため、前回の内容に関する毎回の復習を奨励する。

授業計画

1. ガイダンス（「現代文」の輪郭と臨界）
2. 「現代文」入門編（1） 評論
3. 「現代文」入門編（2） 小説
4. 言語論
5. 身体論
6. 絵画論
7. 写真論
8. メディア論
9. 共同体論
10. 資本主義論
11. 国際社会論
12. 文芸批評
13. 小説（1）
14. 小説（2）
15. 韻文

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 出席・受講姿勢：50% (2) 最終テスト：50%

教えるための現代文B

TEAT-J-200

担当者：前田 潤

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

実践力：学校教育について学び、教育水準の向上と課題解決能力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

◆受講者が、やがて教員として教壇に立つことを想定しながら、教材分析能力・問題作成能力・文章解説能力・授業構成能力など、教員としては是非とも必要な能力の育成を目標として講義を行う。対象テキストの十分な理解を前提とした上で、それをいかに「教材」として用い、「授業」を作ってゆくのかということを実践的に学んでゆく講座となる。多数者の前で「授業」する能力の育成が目標となるため、教材研究過程の公開、模擬授業の実践など、多様な学びのプロセスを通じて、自己の思考の論理性や表現能力を客観化し、日本語操作能力の向上の足場をしっかりと築いてもらいたい。◆教職課程履修者のための科目。2年生以上で、「教科教育法II」を取得したものか、並行履修しているものが受講できる。◆現代日本語で書かれた文章素材の味読と分析を通じて、小学校から高等学校の教壇に至るまで、徹底した教材研究と授業準備が教員と学生（生徒）の有意義な対話を作り出してゆくものであることを学んでほしい。

2. 学びの意義と目標

教育教材の作成・編集、板書・発問の基礎、集団管理の方法などの諸視点を踏まえ、「現代文」講義が実践できる「教員能力」の育成を目指す。

受講生に対する要望

班による教材選定・作成と、模擬授業の実践が講義の中心となるため、自ら「議論」に参加する意欲を持って臨むこと。

キーワード

(1)教材作成 (2)模擬授業 (3)入試 (4)パフォーマンス (5)板書

事前学習（予習）

模擬授業を実践してもらうので、事前の教材研究が必要になる。

復習についての指示

各担当者により配布された教材を読み込んでゆく作業が重要である。

授業計画

1. ガイダンス
2. 高等学校教材としての「現代文」 評論編(1)
3. 高等学校教材としての「現代文」 評論編(2)
4. 高等学校教材としての「現代文」 評論編(3)
5. 教材としての「小説」(1)
6. 教材としての「小説」(2)
7. 教材としての「小説」(3)
8. 現代日本語文章能力養成のための「小論文」(1)
9. 現代日本語文章能力養成のための「小論文」(2)
10. 現代日本語文章能力養成のための「小論文」(3)
11. 教材研究のススメ 散文編
12. 教材研究のススメ 韻文編
13. 授業計画書執筆作法(1)
14. 授業計画書執筆作法(2)
15. 問題研究 大学入試センター試験

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席・模擬授業:50% (2)最終テスト:50%

教えるための古典Ⅰ

TEAT-J-100

担当者：濱田 寛、渡辺 正人

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

実践力：学校教育について学び、教育水準の向上と課題解決能力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この科目で学ぶ「古典」とは日本と中国の古典文学である。2人の担当者が7時間ずつ講義を行い、それぞれ8時間目に「中間試験」を実施する。前半の古文では、用言を中心に古典文法の基礎を学習し、演習として『竹取物語』を読む。中国古典では、基本的な漢文の語法を学習し、その演習として「散文」作品の読解を行う。文学史に関連して、より専門的な事項についても丁寧な解説を行う予定である。

2. 学びの意義と目標

将来、生徒たちに教えるためには、古典の豊かな世界を楽しむことができるようになってこそ魅力的な授業が可能になろう。

受講生に対する要望

講義で学んだ内容は教壇に立つ上で必須の知識となる。自主的な学習は前提である。

キーワード

(1)文語文法 (2)用言の活用 (3)漢文訓読 (4)諸子百家

事前学習（予習）

シラバスを参照して講義内容に関わるテーマについて教科書・プリントの予習をすること／具体的には教場にて指示

復習についての指示

自主課題プリント配付予定

授業計画

1. 古典文法入門
 2. 動詞（1）（四段活用動詞）
 3. 動詞（2）（上一段・上二段活用動詞、下一段・下二段活用動詞）
 4. 動詞（3）（変格活用動詞）
 5. 形容詞・形容動詞
 6. 演習『竹取物語』（1）
 7. 演習『竹取物語』（2）
 8. 古典分野中間試験
 9. 漢文訓読概説（1）
 10. 漢文訓読概説（2）
 11. 漢文訓読概説（3）
 12. 儒家の思想／『論語』
 13. 儒家の思想／『孟子』
 14. 儒家の思想／『荀子』
 15. 道家の思想／『老子』
- * 定期試験にて学期末試験を実施

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 中間試験：50%：第8週に実施 (2) 学期末試験：50%：定期試験に実施

教えるための古典Ⅱ

TEAT-J-200

担当者：橋 和久，渡辺 正人

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

実践力：学校教育について学び、教育水準の向上と課題解決能力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

前半の「漢文」では、「韻文」を中心に扱う。具体的には『詩経』から唐詩までの中国の韻文の史的展開と具体的な作品に即した鑑賞を行う。その他、詩の朗読も積極的に取り入れていく。後半の「古文」では、助動詞を中心に古典文法の基礎を学習し、演習として『徒然草』を読む。

2. 学びの意義と目標

人に教える為には、教授法の技術を磨く前に、まず自らの学力を養わなければならない。古典の豊かな世界を楽しむことができるようになって、始めて魅力的な授業も可能になろう。文法もまた同じことが言えよう。

受講生に対する要望

講義で学んだ内容は教壇に立つ上で必須の知識となる。自主的な学習は前提である。また、毎回必ず辞書を持参すること。

キーワード

(1) 近体詩・平仄式 (2) 詩の朗読 (3) 助動詞の用法

事前学習（予習）

シラバスを参照して講義内容に関わるテーマについて教科書・プリントの予習をすること／具体的には教場にて指示

復習についての指示

その日に学んだことを確実に身に着けていくよう復習を行うこと。あやふやな事柄は必ず辞書を引いて確認する習慣を身に着けよう。

授業計画

1. 中国古典詩概説
2. 古体詩概説（1）
3. 古体詩概説（2）
4. 近体詩概説（1）
5. 近体詩概説（2）
6. 近体詩概説（3）
7. 近体詩概説（4）
8. 漢文分野中間試験
9. 助動詞概説、過去の助動詞
10. 完了の助動詞、推量の助動詞（1）
11. 推量の助動詞（2）、伝聞・推定の助動詞
12. 打消・打消推量の助動詞
13. 断定の助動詞、尊敬の助動詞
14. 演習『徒然草』（1）
15. 演習『徒然草』（2） * 定期試験にて期末試験を実施

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 中間試験：50%：第8週に実施 (2) 学期末試験：50%：定期試験期間に実施
全講義に出席する必要がある。欠席の場合はMoodleなどで講義内容を確認すること。

教えるための古典Ⅲ

TEAT-J-300

担当者：濱田 寛，渡辺 正人

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

実践力：学校教育について学び、教育水準の向上と課題解決能力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

前半の「漢文」は、「史書」を中心に扱う。具体的には『春秋』三伝の比較対照を行いつつ「春秋の義」について学び、また高等学校の教材として定番ともいえる『史記』について、知見を深めたい。後半の「古文」は、助詞を中心に古典文法の基礎を学習し、演習として『伊勢物語』を読む。

2. 学びの意義と目標

人に教える為には、教授法の技術を磨く前に、まず自らの学力を養わなければならない。古典の豊かな世界を楽しむことができるようになって、始めて魅力的な授業も可能になろう。

受講生に対する要望

講義で学んだ内容は教壇に立つ上で必須の知識となる。自主的な学習は前提である。

キーワード

(1) 紀伝体・編年体 (2) 史記 (3) 助詞の用法

事前学習（予習）

シラバスを参照して講義内容に関わるテーマについて教科書・プリントの予習をすること／具体的には教場にて指示

復習についての指示

その日に学んだことを確実に身に着けていくよう復習を行うこと。あやふやな事柄は必ず辞書を引いて確認する習慣を身に着けよう。

授業計画

1. 中国史書概説
2. 『春秋』読解演習(1)
3. 『春秋』読解演習(2)
4. 『史記』読解演習(1)
5. 『史記』読解演習(2)
6. 『史記』読解演習(3)
7. 『史記』読解演習(4)
8. 漢文分野中間試験
9. 助詞概説、格助詞
10. 接続助詞
11. 副助詞
12. 係助詞
13. 終助詞・間投助詞
14. 演習『伊勢物語』(1)
15. 演習『伊勢物語』(2) * 定期試験にて期末試験を実施

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 中間試験：50%：第8週に実施 (2) 学期末試験：50%：定期試験期間に実施

教えるための古典Ⅳ

TEAT-J-300

担当者：橋 和久、渡辺 正人

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

実践力：学校教育について学び、教育水準の向上と課題解決能力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この科目で学ぶ「古典」とは、日本と中国の古典文学である。2人の担当者が7時間ずつ講義を行い、読解力を養う。日本の古典では、和歌の修辭法や敬語法について学習し、演習として『古今和歌集』・『新古今和歌集』・『枕草子』を読む。後半の漢文では、中国文学史を軸に、史書や文言小説など、様々な作品を鑑賞する。また、日本における漢文学の歴史についても、頼山陽『日本外史』などの鑑賞を通じて理解を深めていく。

2. 学びの意義と目標

人に教える為には、教授法の技術を磨く前に、まず自らの学力を養わなければならない。古典の豊かな世界を楽しむことができるようになって、始めて魅力的な授業も可能になろう。

受講生に対する要望

講義で学んだ内容は教壇に立つ上で必須の知識となる。自主的な学習は前提である。

キーワード

(1)和歌 (2)敬語法 (3)中国文学史 (4)日本文学史

事前学習（予習）

シラバスを参照して講義内容に関わるテーマについて教科書・プリントの予習をすること／具体的には教場にて指示

復習についての指示

その日に学んだことを確実に身に付けていくよう復習を行うこと。あやふやな事柄は必ず辞書を引いて確認する習慣を身に付けよう。

授業計画

1. 和歌の修辭法（1）
2. 和歌の修辭法（2）
3. 演習『古今和歌集』・『新古今和歌集』
4. 敬語法（1）
5. 敬語法（2）
6. 演習『枕草子』（1）
7. 演習『枕草子』（2）
8. 古典分野中間試験
9. 中国文学史（1）
10. 中国文学史（2）
11. 中国文学史（3）
12. 中国文学史（4）
13. 日本漢文学史（1）
14. 日本漢文学史（2）
15. 日本漢文学史（3） * 定期試験にて期末試験を実施

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)中間試験：50%：第8週に実施 (2)学期末試験：50%：定期試験期間に実施

韓国語コミュニケーション

CCOM-J-100

担当者：溝口 カブスン

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

表現力・コミュニケーション力：的確なコミュニケーション能力を育てる

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：国語必修科目、
中学校教諭一種免許：国語必修科目

講義概要

1. 内容

正確な発音に基づく反復指導をする。特に、語彙を増やすこと発話力に重点を置く。文法事項の復習も併行して行う。また、韓国の現代社会・文化を理解するための映像教材を積極的に活用していく。

2. 学びの意義と目標

以下の能力を養成し、知識を深める。1 韓国語で簡単な日常会話をすること 2 そのために必要な言語知識を身に付けること 3 韓国の現代社会・文化に対する理解を深めること

受講生に対する要望

韓国語I履修者を対象にする。意思疎通が自由に行えるレベルにコミュニケーション能力を高める。

キーワード

(1) 韓国語会話 (2) 韓国語の作文 (3) 韓国の文化

事前学習（予習）

韓国語の日記発表準備

授業計画

1. STEP 1 1 基本の文字を覚えましょう、基本会話I
2. 2 文字はこれで全部です、基本会話II
3. 3 パッチムと発音の変化、基本会話III
4. STEP 2 1 ホテルで名前を聞かれました
5. 2 フロントで時間をたずねました
6. 3 街で場所をたずねました
7. 4 友達の誘いをことわりました
8. 5 地下鉄に乘りました
9. 6 タクシーで観光をすすめられました
10. 7 メニュー選びに迷いました
11. 8 料理の感想を聞かれました
12. 9 伝統茶は種類が豊富です
13. 10 お茶を飲みながら話をしました
14. 11 市場で買い物をしました
15. 12 待ってくださいと言われました
16. 13 ショッピングに行きました
17. 14 警備員に注意されました
18. 15 商品をすすめられました
19. 16 値段の交渉をしました
20. 17 エステに行きました
21. 18 明日の予定を話しました
22. 19 劇場に行きました
23. 20 ロビーで話をしました
24. STEP 3 HOTEL／ホテル・TOWN／街中
25. TRANSPORTATION／交通・RESTAURANT／レストラン
26. TEAROOM／茶房・MARKET／市場
27. SHOPPING 1・2／買い物
28. AESTHETIC／エステ・THEATER／劇場
29. 韓国の現代社会に触れるI
30. 韓国の現代社会に触れるII

教科書

溝口甲順 『入門ドリル 書いて簡単！韓国語』（一藝社）

復習についての指示

毎回、学習内容から課題を指示する。プリントを配布する場合もある。

評価方法

(1) 発表・レポート:60% (2) 小テスト・提出物:30% (3) 授業態度:10%

韓国語コミュニケーション

CCOM-J-200

担当者：金 娜玄

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

表現力・コミュニケーション力：的確なコミュニケーション能力を育てる

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：国語必修科目、
中学校教諭一種免許：国語必修科目

講義概要

1. 内容

韓国語Ⅰまたは韓国語Ⅱを履修した学生を対象にする。会話を中心としながら、やや複雑な文型が理解できるように指定したテキストにそって学習していき、中でも特にコミュニケーションを養うところに重点をおく。合わせて、言語の背景にある文化や社会などの知識を広げていくために映像などの資料を通してより理解を深めていく。

2. 学びの意義と目標

韓国語Ⅰ、Ⅱで学んだ文法および表現を練習しながら、さらにレベルを高め、文化の理解度の深めて「書く」「話す」「読む」「聞く」力を伸ばす。

受講生に対する要望

積極的に授業に取り組んでほしい。

キーワード

(1) 韓国の文化 (2) 発音 (3) 聞き取り (4) 文章の理解度 (5) 日常会話

事前学習（予習）

会話の練習の際、より楽しめることができるように、指定したテキストの単語や発音などは事前に予習してほしい。

復習についての指示

学習が終わったら文章や単語などは必ず暗誦し、韓国人と会話の際、自然に話せるように自分のものにするように復習してほしい。

授業計画

1. 授業のガイダンス、『大韓民国』について
2. 第1課 韓国語の勉強にきました
3. ソウルの観光のスポーツ
4. 第2課 鐘路で下宿しようと思います
5. 慶州(新羅の都)の観光スポーツ
6. 第3課 少し教えていただけますか
7. 仮面劇、舞踊、国楽について
8. 第4課 湿気が多くてとても蒸し暑いです
9. 韓国の伝統的な家屋について
10. 第5課 大好きな韓国の食べ物は何ですか
11. キムチの作り方や韓食について
12. 第6課 忙しければ今度の土曜日旅行に行きませんか
13. 族譜について
14. 第7課 景福宮と仁寺洞に行った覚えがあります
15. 俳優、伊原剛志
16. 朱蒙(高句麗の始祖、総集編)
17. 第8課、サンウさんに聞いてみるがあります
18. 李朝王朝の最後の太子妃 『李方子』
19. 第9課 何を作るのですか
20. ナザレ園日本妻
21. 第10課 話がはやくて聞き取れません
22. 日韓併合への道
23. 第11課 何を聞いていますか
24. 徴兵制度について
25. 第12課 着てみてもいいですか
26. 新韓流 (NHK作成、60分)
27. 第13課 顔をみたらむくんでいますね。
28. 結婚や礼儀作法などについて
29. 第14課 何号線に乗らなければなりませんか
30. 総合的な感想や発表

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 授業の参加度:30% (2) 会話の発表や小テスト:40% (3) 期末テスト:30%

韓国文化演習

CCOM-J-300

担当者：清水 均

開設期：秋学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

国際理解力：日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1、本学と提携関係にある韓国啓明大学校の夏季セミナー（KLCC・3週間）に参加して、認定される科目である。午前中は韓国語を学び、午後は伝統的な韓国文化を体験する。韓国語のクラスは初級からの学びが可能である。また午後の韓国文化の体験学習は、韓国茶道、伝統演劇・音楽・舞踏・技術・武道、現地訪問など多彩なプログラムが用意されており、通例の留学では経験しがたいほどに豊富な内容になっている。2、3週間の寮生活を通して、韓国文化の理解を深め、韓国の学生たちと交流を深めることが出来るのも魅力のひとつであろう。

2. 学びの意義と目標

「海外文化交流研修（アジア）」を経験してから、翌年この科目を履修するも良いし、その逆もありうる。いずれにせよ、近くて遠い国といわれた韓国との関係改善は、次代を担う若者たちの相互理解から始まるといえる。

受講生に対する要望

研修中は本学の学生であることを忘れずに行動してほしい。啓明大学校での詳細が決定次第、募集に入るので、掲示に気をつけてほしい。費用は、昨年は個人負担は26万円ほどであった。

キーワード

(1) 韓国文化 (2) 韓国語 (3) 国際交流 (4) 海外体験

事前学習（予習）

研修先の指示、基準に従う。

復習についての指示

研修先の指示、基準に従う。

授業計画

1. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う
2. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う
3. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う
4. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う
5. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う
6. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う
7. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う
8. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う
9. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う
10. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う
11. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う
12. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う
13. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う
14. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う
15. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う
16. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う
17. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う
18. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う
19. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う
20. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う
21. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う
22. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う
23. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う
24. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う
25. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う
26. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う
27. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う
28. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う
29. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う
30. 研修先である韓国啓明大学校のプログラムに従う

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 本学における事前準備講座：10% (2) 現地研修の出席状況：60%
(3) 事後レポート：30%

担当者：橋 和久

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

実践力：学校教育について学び、教育水準の向上と課題解決能力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

近年、公立高校などにおいて「漢文の教え方がわからない」という教員が増加傾向にある。そこで本講義では教材研究の方法及びそれをもとにした漢文の授業の仕方について学んでいく。また、可能であれば模擬授業も行う。

2. 学びの意義と目標

実際に教壇に立った際に困らないように、漢文教材の研究法と教授の方法を実践的に学んでいく。また、「自分ならどう研究するか・どう教えるか」という意識を常に持ち、自分なりのスタイルを身につけられることを最終的な目標とする。

受講生に対する要望

漢文に興味のある者の受講を望む。

キーワード

事前学習（予習）

演習の際に用いる発表資料について、入念な準備を求める。

復習についての指示

演習発表について、評価できる点や改善すべき点をまとめておくこと。なお、他の受講者の発表についても同様のことをする。

授業計画

1. ガイダンス
2. 教材研究方法演習準備（1）
3. 教材研究方法演習準備（2）
4. 教材研究方法演習準備（3）
5. 教材研究方法演習準備（4）
6. 教材研究方法演習（1）
7. 教材研究方法演習（2）
8. 教材研究方法演習（3）
9. 教材研究方法演習（4）
10. 教材研究方法演習（5）
11. 教材研究方法演習（6）
12. 教材研究方法演習（7）
13. 教授法演習（1）
14. 教授法演習（2）
15. 総括

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 演習:80% (2) 平常点:20%

キリスト教文化論 A

CHRI-A-301

担当者：柳田 洋夫

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

世界の歴史や現状を知るために、宗教についてのある程度の理解が必要不可欠であることは言うまでもない。また、日本人は「無宗教」であるというが、ほんとうにそうであろうか。この授業においては、宗教学的アプローチを援用しつつ、宗教とは何かについて考えていきたい。

2. 学びの意義と目標

宗教一般についての基本的理解を得るとともに、特にキリスト教と文化との関連について学び考察する。

受講生に対する要望

授業には自分なりの問題意識をもって真剣に臨んでほしい。私語や遅刻は授業進行ならびに他の学生への深刻な妨害となるので厳禁とする。

キーワード

(1)キリスト教と文化 (2)キリスト教と諸宗教 (3)民俗と宗教

事前学習（予習）

授業においてその都度指示する。

復習についての指示

授業においてその都度指示する。

授業計画

1. 宗教の「始まり」について
2. 宗教・呪術・科学
3. さまざまな宗教のかたち
4. 何を信じるのか－宗教的实在観について
5. 宗教から見た人間－宗教的人間観について
6. 宗教から見た世界－宗教的世界観について（1）
7. 宗教から見た世界－宗教的世界観について（2）
8. 宗教儀礼・修行について（1）
9. 宗教儀礼・修行について（2）
10. 宗教集団について
11. 民俗と宗教の深層①折口信夫
12. 民俗と宗教の深層②柳田國男
13. キリスト教と文化（1）
14. キリスト教と文化（2）
15. まとめと試験

教科書

プリントを配布する
【参考文献】脇本平也『宗教学入門』岸本英夫『宗教学』A・E・マクグラス『キリスト教神学入門』

評価方法

- (1)出席・参加度:40% (2)試験:40% (3)礼拝レポート:20%

出席・参加度・礼拝レポートの三つを満たして単位とする。試験と礼拝レポートの詳細については授業で指示する。礼拝レポート提出数が規定に満たない場合は評価の対象としない。

担当者：柳田 洋夫

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

「神学こそは、およそ人が学びたいと願うものの中で最も魅力的なものだ」とイギリスの神学者A・E・マクグラスは言う。キリスト教神学は、欧米文化のみならず日本文化の深層からの理解にも資するものである。この授業においては、キリスト教神学について、また、人格・人権思想へのキリスト教の貢献について学ぶ。

2. 学びの意義と目標

キリスト教神学思想についての基礎的理解を得ることによって、神学や哲学についての文献や議論にある程度対応できるようになるとともに、抽象的な問題にも自ら積極的に挑む姿勢を身につける。

受講生に対する要望

授業には自分なりの問題意識をもって真剣に臨んでほしい。私語や遅刻は授業進行ならびに他の学生への深刻な妨害となるので厳禁とする。

キーワード

(1)キリスト教と文化 (2)キリスト教神学 (3)キリスト教と諸思想

事前学習（予習）

授業においてその都度指示する。

復習についての指示

授業においてその都度指示する。

授業計画

1. 「神学」とそのよりどころ
2. 神はどのようにして知られるか—啓示と自然—
3. 神学と諸思想（1）神学と哲学との微妙な関係
4. 神学と諸思想（2）ロマン主義・マルクス主義
5. 神学と諸思想（3）フェミニズム・ポストモダニズム
6. 神学と諸思想（4）解放の神学・黒人神学
7. 神についての探求（1）
8. 神についての探求（2）
9. 神と創造
10. イエス・キリストとは誰のことか
11. 聖霊と「霊性」
12. 救いとは何か（1）
13. 救いとは何か（2）
14. 「終末」について
15. まとめと試験

教科書

プリントを配布する
【参考文献】A・E・マクグラス『キリスト教神学入門』

評価方法

(1)出席・参加度:40% (2)試験:40% (3)礼拝レポート:20%

出席・参加度・試験・礼拝レポートをすべて満たして単位とする。試験と礼拝レポートの詳細については授業で指示する。出席状況と礼拝レポート提出数が規定に満たない場合は評価の対象としない。

言語学概論

LING-A-202

担当者：D. パーガー

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

中学校教諭一種免許：国語選択科目、
日本語教員養成課程：選択必修科目

講義概要

1. 内容

この授業は言語学の入門講座である。言語の色々な様式（話したことば、手話、書き言葉）、人間の言語は動物のコミュニケーション手段とどのように異なるか等、われわれの言語知識の構成要素などを含む言語の本質を考察することから始まる。次に、人間の脳の言語機能についての簡単な紹介に続き、形態論、統語論、意味論、音声学、音韻論という言語研究の主な分野をそれぞれ順に概説する。最後に、言語がどのように変化するか、人間がどのように言語を習得するかについて紹介する。一般的な人間の言語だけではなく、言語の普遍的な特性と各言語がどのようにその特性を実現するかを理解するために日本語と英語を始め、様々な世界の諸言語（ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、ポントック語、チカソー語、トルコ語、アカン語等々）の事例を考察する。

2. 学びの意義と目標

この授業を通して言語学の理解を深めると同時に、普段、無意識的に用いる言語の性質を認識することを望んでいる。

受講生に対する要望

言語の本質について関心がある者の受講を望む。

キーワード

(1)形態論 (2)統語論 (3)意味論 (4)音声学・音韻論 (5)言語習得

事前学習（予習）

前回と当日の授業のキーワードの一覧を参照すること。

復習についての指示

講義を聞きながら記入したワークシートを復習すること。小テストのためにキーワードとワークシートを復習すること。

授業計画

1. 授業紹介、言語の本質
2. 言語について何が分かっているか（講義とディスカッション）
3. 言語知識：音体系・意味の知識、言語知識の創造性（講義とディスカッション）
4. 言語知識：文法の知識、記述文法、規範文法（講義とディスカッション）
5. 言語普遍性：文法の発達、手話：言語生得の証拠（講義とディスカッション）
6. 動物の「言語」（講義とディスカッション）
7. 人間の脳：脳の2つの側面、一側化の証拠、失語症の研究（講義とディスカッション）
8. 人間の脳：分離脳、一側化の他の証拠（講義とディスカッション）
9. 言語の文法的側面 I：形態論 — 語の構造（講義とディスカッション）
10. 形態論（講義とディスカッション）
11. 形態論、グループワーク：形態論に関する問題を解決する
12. 言語の文法的側面 II：統語論 — 言語の文型（講義とディスカッション）
13. 統語論（講義とディスカッション）
14. 統語論、グループワーク：統語論に関する問題を解決する
15. 言語の文法的側面 III：意味論 — ことばの意味（講義とディスカッション）
16. 意味論（講義とディスカッション）
17. 意味論、グループワーク：意味論に関する問題を解決する
18. 言語の文法的側面 IV：音声学 — 言語の音（講義とディスカッション）
19. 音声学（講義とディスカッション）
20. 音声学（講義とディスカッション）
21. 音声学、グループワーク：音声学に関する問題を解決する
22. 言語の文法的側面 V：音韻論 — 言語の音型（講義とディスカッション）
23. 音韻論（講義とディスカッション）
24. 音韻論、グループワーク：音韻論に関する問題を解決する
25. 言語変化：音変化の規則性、音韻変化（講義とディスカッション）
26. 言語変化：形態変化、統語変化（講義とディスカッション）
27. 言語変化：語彙変化、借用語、グループワーク：言語変化に関する問題を解決する
28. 言語習得：幼児言語習得の段階（講義とディスカッション）
29. 言語習得：言語習得の生物学的基盤、「生得説」（講義とディスカッション）
30. 言語習得：「臨界期仮説」、第2言語習得理論、グループワーク：言語習得に関する問題を解決する

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)出席状況：10% (2)授業での参加態度：10% (3)ワークシート：30% (4)小テスト：25% (5)期末試験：25%

言語学特殊講義

LING-J-300

担当者：小林 茂之

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

日本語教員養成課程：選択必修科目

講義概要

1. 内容

アングロサクソン時代の古英語の文法を学び、代表的な古英語文献を原文で講読する。英語文化圏における古典を読み、キリスト教のブリテン島への伝来と普及、ブリテン島に入植したヴァイキングとアングロサクソン人との言語接触・文化融合について考える。また、入門的な演習形式で原文講読の練習をする。

2. 学びの意義と目標

古英語を通して歴史言語学の基礎的知識と文化・歴史・宗教的背景を総合的に学ぶとともに、日英の古典の比較研究の視点を養い、日本人の視点からの人文学研究の基礎的知識と方法を身に付け、卒業研究や人文学系大学院への進学など、研究の発展を図る。

受講生に対する要望

日本と同じ島国である英国が、どのような文化・歴史・宗教的背景を持っているかについて関心をもって、日本の歴史や文化との比較を試み、共通性や差異について考察を深めてほしい。

キーワード

(1) 歴史言語学 (2) 古英語 (3) キリスト教の伝来と普及 (4) アングロサクソン文化 (5) ヴァイキング

事前学習（予習）

毎回、教科書の講読箇所を読んでくることが理想的であるが、それができない場合には、講読後に内容を確認することを望む。なお、講読では日本語訳や対訳をプリントで予習用に配布する。

復習についての指示

教科書の内容を把握して、古英語の知識を身に付ける。また、日本の古典や歴史・文化との比較について考察してみる。

授業計画

1. 導入 (1)
2. 導入 (2)
3. Ch. 1
4. Ch. 2
5. Ch. 3. 1-3. 2
6. Ch. 3. 3-3. 4
7. Ch. 4
8. Ch. 5
9. Ch. 6
10. Ch. 7
11. Ch. 8
12. Ch. 9
13. Ch. 10
14. Ch. 11
15. Ch. 12
16. Ch. 13
17. Ch. 14
18. Ch. 15
19. 古英語原文講読 (1)
20. 古英語原文講読 (2)
21. 古英語原文講読 (3)
22. 古英語原文講読 (4)
23. 古英語原文講読 (5)
24. 古英語原文講読 (6)
25. 古英語原文講読 (7)
26. 古英語原文講読 (8)
27. 古英語原文講読 (9)
28. 古英語原文講読 (10)
29. 予備日
30. まとめ

教科書

Peter S. Baker 『Introduction to Old English』 (Wiley-Blackwell)
受講者が各自に教科書を入手することが望ましいが、教科書の確保が難しい場合には授業の進行に応じてコピーを配布する。

評価方法

(1) レポート: 40% (2) 出席: 30% (3) 授業態度: 30%: 授業中の応答や入門的な演習を含む。
報告・討議は、授業参加度として評価する。

担当者：内藤 みち

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

実践力：日本語教育に携わることのできる能力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

日本語の特徴的表現に対する外国人の理解や受けとめ方を通しその特質を学んだり、日常使用している日本語を様々な角度から分析し話者の属性や対話対象との人間関係等の規則性を捉えていく社会言語学的内容となる。特定の日本語表現に対する諸外国の人々の理解や異なるコミュニティに属する日本人の受けとめ方については主に読み物を通し触れていくが、受講生自身の言語活動もその特質を導き出す分析対象となる。

2. 学びの意義と目標

日本語母語話者の言語意識や言語活動から日本語の特質やその規則性を見出ししていくことにより、日本語が話される社会の規則性に触れていく。日本語の表現を通し、属しているコミュニティや話し手と聴き手の人間関係を導き出したり、社会背景の変化をみる。

受講生に対する要望

日本語以外の言語を学んだ経験や、外国語にに通じているとより理解に易しい。日本語やその規則性に興味を持ち、積極的に身のまわりで使用されている表現に目を向けてほしい。

キーワード

(1) 日本語のコード (2) 集団語 (3) 非言語コミュニケーション (4) 言語と文化 (5) 言語変化

事前学習（予習）

日本語表現等を拾い出し考察する事前課題がある。

復習についての指示

授業内容に関する復習練習問題がなされ、その解答をディスカッション形式で行う。授業内容で扱った言語表現や言語活動の身のまわりでの使用を取り上げ考察する復習がある。

授業計画

1. 授業概要、「ファティック」
2. 「察し」
3. 「集団語／属性」(1)
4. 「集団語／属性」(2)
5. 非言語コミュニケーション(1)
6. 非言語コミュニケーション(2)
7. 言語と文化(1)
8. 中間試験
9. 言語と文化(2)
10. 言語変化(1)／語彙
11. 言語変化(2)／文法
12. 言語変化(3)／音声
13. 「対称詞」
14. 「自称詞」
15. 総まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1) 中間試験：40% (2) 期末試験：40% (3) クラスワーク等：20%

言語とグローバル社会

LING-A-201

担当者：D. パーガー

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

実践力：日本語教育に携わることのできる能力を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：国語選択科目、
中学校教諭一種免許：国語選択科目、
日本語教員養成課程：選択必修科目

講義概要

1. 内容

この授業は社会言語学の分野に位置づけられ、グローバルな観点から捉えた言語と社会の研究に関する入門的な授業である。比較言語・比較社会というグローバルな視点で日本語やアメリカ英語を始めとし、又、他言語も、どのように社会の中で使われているかを学ぶ。主な課題は（１）どのように言語が個人的、社会的なアイデンティティを表しているか（なまり、方言、言語偏見等）、（２）どのように人間関係が言語的に表われているか（丁寧表現、敬意表現等）、（３）社会変化と言語変化はどんな関係があるか（性差別語、非性差別語変革を含む差別語等）である。言語と社会の関係を理論的、実践的に解明する。

2. 学びの意義と目標

言語と社会の研究の主な課題を概観することを通して、受講生は社会的関係において自分の母語や言語全般の役割をグローバル理解することが目標である。

受講生に対する要望

言語の社会的役割に関心がある者、ただ単に授業に座って聴くだけでなく、積極的に他学生と講義内容についてディスカッションをしたい者の受講を望む。

キーワード

(1)言語変種 (2)危機言語 (3)丁寧語・敬語 (4)差別語 (5)言語とジェンダー

事前学習（予習）

配布された授業計画を確認し、各課題のプリントを読むこと。

復習についての指示

小テストのために各課題のプリントを復習すること。

授業計画

1. 「言語に関する誤った通念か、事実か?」という調査により春学期の内容を考える（グループワーク）
2. 言語変種：国語、公用語、標準語、共通語」（グループワークとディスカッション）
3. 言語変種：方言、なまり、言語使用域」（グループワークとディスカッション）
4. 言語変種：標準語と方言、言語偏見と言語不平等」（グループワークとディスカッション）
5. 言語偏見と言語不平等」（グループワークとディスカッション）
6. 二言語使用、ダイグロシヤ（二言語変種使い分け）」（グループワークとディスカッション）
7. 多言語日本：アイヌ語、琉球諸言語、方言」
8. 危機言語と言語復興：アイヌ語と琉球諸言語の例（グループワークとディスカッション）
9. 危機言語と言語復興：アイヌ語と琉球諸言語の例
10. 危機言語と言語復興：ハワイ語とアメリカ先住民の諸言語の例
11. 危機言語と言語復興：ハワイ語とアメリカ先住民の諸言語の例
12. 「礼儀正しい」についての異なった考え方（グループワークとディスカッション）
13. 発話行為（グループワークとディスカッション）
14. ポライトネス理論（丁寧さ）：レイコフとリーチ（グループワークとディスカッション）
15. ポライトネス理論：ブラウンとレヴィンソン（グループワークとディスカッション）
16. ポライトネス理論：ブラウンとレヴィンソン（グループワークとディスカッション）
17. 世界の敬語：日本語と他言語の比較（グループワークとディスカッション）
18. 謝罪の発話行為（グループワークとディスカッション）
19. 謝罪：日本語と英語の比較（グループワークとディスカッション）
20. 言語変化
21. 日本とアメリカ社会で差別されているグループに対する用語の発展
22. 日本における差別語：「部落」、障害を持つ人（グループワークとディスカッション）
23. 日本における差別語：ガイドライン
24. 英語圏における差別語：ガイドライン
25. 英語圏における差別語：文法的性
26. 言語とジェンダー：性差別語と非性差別語変革（グループワークとディスカッション）
27. 非性差別語変革
28. 英語圏における差別語：包括語
29. 英語の聖書訳における包括語
30. 春学期の内容をまとめる：「言語に関する神話…」の再検討（グループワークとディスカッション）

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席状況:10% (2)授業での参加態度:30% (3)小テスト:30% (4)期末試験:30%

担当者：小林 茂之

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

中学校教諭一種免許：国語選択科目、
日本語教員養成課程：選択必修科目

講義概要

1. 内容

英語は、多くの日本人にとってももっとも身近な外国語である。しかし、英語はもともとブリテン島にやってきたゲルマン系部族の弱小な方言に過ぎず、世界語に発展するまでの過程には、歴史的変遷に伴う多くの変化が起きた。16Cに現代英語(PDE)に近い初期近代英語(EModE)が成立し、現代でも一般的に用いられる英語訳聖書中で最も古い欽定訳聖書(KJV)は、初期近代英語による傑出した作品である。欽定訳聖書(1611)に至るまでの歴史やその後の現代英語訳聖書までの英訳聖書の変遷を通して、現代日本人の人文的教養にとっても重要な聖書の言語文化史的意義を取り上げる。

2. 学びの意義と目標

聖書の英語訳を通して聖書の言語文化史的意義を学ぶ。キリスト教が日本に再びもたらされた幕末から明治初期、イギリスからアメリカに渡り、ブラウンなどの主にアメリカ人宣教師が日本にもたらした英訳聖書のルーツを学ぶことを通して、言語研究の動機が聖書理解、生きる意味の思索に結びつければ理想的である。また、演習的な課題を通して、歴史言語学的視点を身に付け、人文の素養を深める。

受講生に対する要望

近代日本にもたらされた英訳聖書の言語文化史的意義について関心をもつ。また、日本語訳聖書の日本語にも関心を高めるとともに、その言葉の中に生きる意味を見出しましょう。

キーワード

(1)言語史 (2)英語聖書 (3)古英語 (4)中英語 (5)現代英語

事前学習(予習)

テキストを事前に読んでおく。

復習についての指示

積極的に発展的読書をする。また、発展的読書を通して、レポートの準備をする。

授業計画

1. 導入1：英語の歴史（チョーサーまで）
2. 導入2：英語の歴史（欽定訳聖書・シェイクスピアまで）
3. テキスト：序章
4. テキスト：第1章
5. テキスト：古英語・中英語文法入門
6. テキスト：第2章
7. テキスト：第3章(1)
8. テキスト：第3章(2)
9. テキスト：第4章(1)
10. テキスト：第4章(2)
11. テキスト：第5章(1)
12. テキスト：第5章(2)
13. テキスト：第6章(1)
14. テキスト：第6章(2)
15. テキスト：第7章(1)
16. テキスト：第7章(2)
17. テキスト：第8章(1)
18. テキスト：第8章(2)
19. テキスト：第9章(1)
20. テキスト：第9章(2)
21. テキスト：第10章(1)
22. テキスト：第10章(2)
23. テキスト：第11章(1)
24. テキスト：第11章(2)
25. テキスト：第12章
26. テキスト：第13章
27. テキスト：第14章
28. テキスト：第15章
29. 予備日
30. 予備日

教科書

寺澤盾 『聖書でたどる英語の歴史』（大修館書店）

評価方法

(1)レポート:40% (2)出席:30% (3)授業態度:30%:課題や討論への積極性が含まれる。
報告・討議は、授業参加度として評価する。

担当者：黒崎 佐仁子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

国際理解力：日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この授業では、「多文化とは何か」「多文化共生とは何か」を少人数グループで互いに意見を交換し合いながら、物事を見る視点には多様性があることを学んでいく。

2. 学びの意義と目標

答えのない問題について、意見を交わしながら、最善案を導くというプロセスを学ぶことを目標とする。この学びによって思考力と表現力が伸長されるはずである。

受講生に対する要望

授業はディスカッションや発表を中心に進めるため、黙って座っているのではなく、積極的に意見を口にしてもらいたい。

キーワード

(1) ディスカッション (2) 多文化共生 (3) 異文化体験 (4) 国際交流 (5) 移民問題・人種差別問題

事前学習（予習）

発表やディスカッションのための資料を配布するため、授業前に熟読しておくこと。

復習についての指示

授業終了時に、振り返りシートの提出を義務付ける。また、ディスカッションのテーマが終わるたびに小レポートを提出すること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 他者の視点を考える
3. 留学生になったつもりでスピーチコンテスト
4. 留学生になったつもりでスピーチコンテスト
5. 異文化体験ゲーム
6. グループディスカッション
7. グループディスカッション
8. 「青い目 茶色い目」
9. 移民受け入れ あなたならどうする？
10. 日本のニューカマー問題
11. 海外の移民問題
12. グループディスカッション
13. グループディスカッション
14. 差別？区別？
15. 「やさしい日本語」を考える

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 出席：25% (2) 振り返りシート：10% (3) 小レポート：10% (4) 発表・最終レポート：30% (5) 参加度：25%

担当者：網本 尚子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この授業では、主に平安時代の代表的な文学作品のいくつかを読み味わう。単に現代語訳するだけでなく、読解に際して必要な古語や文法の知識を深めるとともに、平安時代の風俗や考え方についての講義を通して、古典を学ぶ上で最低限覚えておくべき常識を身につける。

2. 学びの意義と目標

私たちと同じ日本人が、平安時代にどのように生活し、どのような物の考え方をしていたのかを知ることによって、現代と古典の世界がかけ離れたものではなく、現代は昔の日本の延長上に成立していることを理解する。また、平安時代と現代との相違点や共通点について考察し、双方の根底に横たわる、日本人としての共通認識や常識について理解を深めることを目標とする。

受講生に対する要望

現代語訳や古語の意味などをただ暗記するだけでなく、作品について積極的に自分でも調べ、主体的に自分の考えを持つようにしてもらいたい。

キーワード

(1) 古典文学 (2) 平安文学

事前学習（予習）

授業で取り上げる作品について、辞典・事典・高校の教科書・参考書などで、あらかじめ下調べしておくこと。

復習についての指示

試験では、ノート・プリントの持ち込みを許可するので、ノート整理は毎回きちんとしておくこと。

授業計画

1. ガイダンス・日本語の言葉遊び
2. 和歌 1 女性歌人の詠んだ恋の歌
3. 和歌 2 百人一首に見られる恋の歌 その1
4. 和歌 3 百人一首に見られる恋の歌 その2
5. 伊勢物語 1 伊勢物語とは？井筒の女の物語
6. 伊勢物語 2 伊勢物語に描かれた恋愛
7. 伊勢物語 3 伊勢物語を題材とした能
8. 枕草子 1 清少納言の経歴。清少納言と紫式部
9. 枕草子 2 すばらしい女性とは？
10. 枕草子 3 宮中の楽しい思い出
11. 源氏物語 1 紫式部の経歴。紫式部の処世術。
12. 源氏物語 2 桐壺更衣の生き方
13. 源氏物語 3 桐壺更衣の受けたいじめと桐壺帝の愛情
14. 源氏物語 4 光源氏の女性遍歴と紫上の苦悩
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 出席点:15%:授業日数の三分の二以上出席 (2) 平常点:15%:授業後に提出する感想文や、宿題の内容で評価 (3) 試験:70%

欠席・遅刻・早退・学生証忘れなどは、出席点減点の対象とする。受講態度が悪い（私語・居眠り・ノートを取らない・課題にまじめに取り組まないなど）場合は、平常点を減点する。

担当者：網本 尚子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この授業では、主に中世の代表的な文学作品のいくつかを読み味わう。単に現代語訳するだけではなく、読解に際して必要な古語や文法の知識を深めるとともに、その時代の風俗や考え方についての講義を通して、古典を学ぶ上で最低限覚えておくべき常識を身につける。

2. 学びの意義と目標

私たちと同じ日本人が、中世においてどのように生活し、どのような物の考え方をしていたのかを知ることによって、現代と古典の世界がかけ離れたものではなく、現代は昔の日本の延長上に成立していることを理解する。また、中世と現代との相違点や共通点について考察し、双方の根底に横たわる、日本人としての共通認識や常識について理解を深めることを目標とする。

受講生に対する要望

現代語訳や古語の意味などをただ暗記するだけでなく、作品について積極的に自分でも調べ、主体的に自分の考えを持つようにしてもらいたい。

キーワード

(1) 古典文学 (2) 中世文学 (3) 古典芸能

事前学習（予習）

授業で取り上げる作品について、辞典・事典・高校の教科書・参考書などで、あらかじめ下調べしておくこと。

復習についての指示

試験では、ノート・プリントの持ち込みを許可するので、ノート整理は毎回きちんとしておくこと。

授業計画

1. ガイダンス・陰陽師安倍晴明
2. 今昔物語 1 平安末期の人々の生活
3. 今昔物語 2 平安末期の小悪党
4. 今昔物語 3 芥川龍之介『藪の中』と今昔物語
5. 芥川龍之介の『藪の中』 1
6. 芥川龍之介の『藪の中』 2
7. 平家物語 1 あらすじ
8. 平家物語 2 敦盛最期
9. 平家物語 3 那須与一の大勝負
10. 徒然草 1 徒然草と平家物語。兼好法師の生い立ち
11. 徒然草 2 兼好法師の無常観
12. 徒然草 3 兼好法師の女性観
13. 平家物語と能。能初心者のための鑑賞講座
14. 狂言の鑑賞
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 出席点:15%:授業日数の三分の二以上出席 (2) 平常点:15%:授業内で行う復習問題、宿題の内容で評価 (3) 試験:70%

欠席・遅刻・早退・学生証忘れなどは、出席点減点の対象とする。受講態度が悪い（私語・居眠り・ノートを取らない・課題にまじめに取り組まないなど）場合は、平常点を減点する。

古典日本語Ⅰ

WLAG-0-128

担当者：上宇都ゆりほ

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：国語選択科目、
中学校教諭一種免許：国語選択科目、
日本語教員養成課程：選択必修科目

講義概要

1. 内容

『蜻蛉日記』の講読を通して、古典作品を理解する上で必要な基礎知識として、特に古典文法を習熟する。また作者である道綱母の苦悩を通して、平安時代の恋愛・結婚観や、当時の文化的背景など幅広く時代思潮を知る。藤原摂関家全盛時代の基盤を作った藤原兼家の人物像をめぐる舞台作品も参考として鑑賞する。

2. 学びの意義と目標

本講座は、古典研究（言語・文学・歴史・文化等）を目指す2年生以上の選択科目である。さらに日文学の学生にとっては、第2外国語の選択必修科目であり、さらに教職を目指すものにとっては「教えるための古典」と並行履修をしてそこで学んだことの習熟をはかる科目でもある。それぞれの履修目的に応じて各自の到達目標を設定し、授業に臨んでほしい。古典文法が苦手という学生は多い。古典文法を覚えるだけの授業は、おそらく古典文学の魅力は大いに削いでしまったのではないかと。本講義では、古典文法を最初から学び直し、古典文法を正確に理解することが正確な古典読解の第一歩として重要であることを再認識することを第一目標とする。しかし単なる暗記としての文法ではなく、生きた言語としての古典文学を通して理解するために、平安時代の貴族階級の女性によって創作された日記文学である『蜻蛉日記』を通して、当時の恋愛・結婚観や時代背景の読解も第二の目標として設定する。

受講生に対する要望

小テストを行い、習熟度を高める。文法・教材としての『蜻蛉日記』の教科書は忘れずに持参すること。辞書もあったほうが便利だろう。私語は厳禁する。

キーワード

(1) 古典文法 (2) 日記文学 (3) 平安時代の社会的背景

事前学習（予習）

まず古典になれること。テキストを繰り返し音読し、古語辞書を引いて口語訳を試みること。語学の勉強と同じで、予習・復習が大切である。古語辞典か電子辞書を持参して授業に臨む事。

復習についての指示

動詞の活用から始まり、次回学ぶ文法について予習として指示する。また授業の中で学んだ文法について、次の授業で小テストとして習熟度を確認するので、授業で学んだ文法を復習すること。

授業計画

- 『蜻蛉日記』と日記文学—歴史的仮名遣いと五十音図
- 動詞の活用（1）
- 動詞の活用（2）
- 動詞の活用（3）
- 動詞の活用（4）
- 動詞の活用（5）
- 動詞の活用（6）
- 動詞の活用（7）
- 動詞の活用（8）
- 動詞の活用（9）
- 動詞の活用（10）
- 藤原兼家の人物像をめぐる（1）
- 藤原兼家の人物像をめぐる（2）
- 動詞の復習
- 動詞の復習
- 中間試験
- 形容詞の活用（1）
- 形容詞の活用（2）
- 形容動詞の活用（1）
- 形容動詞の活用（2）
- 用言の総復習
- 用言の総復習
- 過去の助動詞
- 打消・打消推量の助動詞
- 完了の助動詞
- 推量の助動詞（1）
- 推量の助動詞（2）
- 受身・尊敬・自発・可能の助動詞
- 断定・希望・伝聞・推定・比況の助動詞
- まとめ

教科書

角川書店 『蜻蛉日記（角川ソフィア文庫—ビギナーズ・クラシックス）』（角川グループパブリッシング）井島正博／伊藤博美／仲島ひとみ 『詳説 古典文法』（ちくま書房）

評価方法

(1) 中間試験：30% (2) 学期末試験：30% (3) 小テスト・レポート：40%

古典日本語Ⅱ

WLAG-0-129

担当者：高桑 佳與子

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：国語選択科目、
中学校教諭一種免許：国語選択科目

講義概要

1. 内容

古典文法の習熟を図っていきます。『紫式部日記』という古典作品の中でもかなり手応えのある文章を読んでいくことで、古典の文法・読解力をつけていきます。授業内容は、もう一度古典文法の基礎や、動詞・助動詞レベルから学習し、敬語の解説も随時加えながら、無理なく深化させていきます。『紫式部日記』を読解することにより、紫式部が仕えた彰子（一条天皇中宮）や、権力者藤原道長（彰子の父）などの姿をとらえていきます。また、そのきらびやかな生活を見つめる紫式部の眼差しから「作家紫式部」への理解も深めていきます。

2. 学びの意義と目標

古典作品を、自力で辞書を引きながら適切に読解できる文法力を養うことが目標です。『紫式部日記』を読むことによって平安文学の頂点を極めた紫式部の体験した世界を知ること。当時の上流貴族の生活・行事や、冊子作りなど日常生活の描写は、歴史的にも価値のあるものです。また、紫式部の精神を理解することは、『源氏物語』を始めとし、その後の日本文学に流れる精神への理解につながります。幅広い古典作品へアプローチする力を高めるための講座になります。

受講生に対する要望

古典研究を目指す学生、教職希望の学生の古典日本語の習熟を図る講座で、「古典日本語」を履修済みの学生を対象としています。日本文学の第2外国語の選択必修科目になります。

キーワード

(1) 古典日本語 (2) 古典文法 (3) 紫式部日記 (4) 平安貴族の生活

事前学習（予習）

『紫式部日記』の配布プリントを利用してノートを作り、自分で辞書を引いて、口語訳をする。また、文法の教科書は該当部分を読んでおくとよい。

復習についての指示

まとめの講義を利用しながら復習を行うとよい。

授業計画

1. 授業概説
2. 秋のけは入り立つままに 歴史的仮名遣い 文・文節
3. 渡殿の戸口の局に見出せば 単語・品詞の種類
4. 九日、菊の綿を 動詞（1）
5. 御帳の東おもては 動詞（2）
6. 御いだきの御髪おろしたてまつり 動詞（3）
7. 午の時に、空晴れて 動詞（4）
8. 動詞のまとめ
9. 五日の夜は 形容詞・形容動詞（1）
10. 十月十余日までと 形容詞・形容動詞（2）
11. 行幸ちかくなりぬとて 副詞・連体詞
12. おそろしかるべき夜の御酔ひなめりと見て 接続詞・感動詞
13. 中間試験
14. 宮の御前聞こしめすや 助動詞（1）
15. 入らせたまふべきことも近うなりぬれど 助動詞（2）
16. 御前の池に、水鳥どもの 助動詞（3）
17. ころみに、物語をとって見れど 助動詞（4）
18. 師走の二十九日に参る 助動詞（5）
19. 宮の内侍ぞ 助動詞（6）
20. 和泉式部といふ人こそ 助動詞（7）
21. 丹波の守の北の方をば 助動詞（8）
22. 助動詞まとめ
23. 清少納言こそ、したり顔に 助詞（1）
24. よろずのこと、人によりてことごととなり 助詞（2）
25. それ、心よりほかのわが面影をば 助詞（3）
26. 助詞のまとめ
27. さまよう、すべて人はいかに 敬語（1）
28. 左衛門の内侍といふ人はべり 敬語（2）
29. いかに、いまは言忌みしはべらじ まとめ
30. まとめ

教科書

井島 正博 著，伊藤 博美 著，仲島 ひとみ 『詳説 古典文法』（ちくま書房）

評価方法

(1) 授業時提出物：20%：授業時発表含む (2) 中間試験：40% (3) 期末試験：40%

担当者：寺崎 恵子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

こどもは育つ者である。その育つ過程に、おとなはどのように関わってきたのだろうか。育ち・育ての文化のありようを把握したい。また、こどもは、私たちおとなの目にどのように映る人たちだろうか？日々の暮らしのなかでの、こどもとおとなとの〈目交〉を文化として把握したい。このような問題意識をもって、広義の〈こども〉のおもしろさを把握したい。

2. 学びの意義と目標

こどもを把握することは、私たちが自分自身の生き方を確認することでもある。こどもとの関わりのなかで、自分自身について新たな発見が起こることがある。それが、この学びのおもしろさであり、学びの意義である。こどもの文化のありようを把握して、こどもに関する言説を冷静にとらえて、自身の子ども観を表現することを学びの目標とする。

受講生に対する要望

日常生活のなかの、ちょっとした不思議や変化をおもしろがったり驚いたりする感性をみがくことを心がけてほしい。また、こどもが触れるものごとをていねいに理解することを心がけてほしい。

キーワード

(1)育ち・育ての文化 (2)こどもの生活世界 (3)子どもの権利 (4)ライフサイクルと子ども期 (5)子どもと大人の関係構造

事前学習（予習）

配布プリントをよく読んで、わからないところに印をつける。

復習についての指示

授業の内容と小レポートの内容、そして配布資料とをあわせて、充実したノートを作成する。ノート作成の要点について、初回に説明する。

授業計画

1. こどもとおとな（問題提起）
2. こどもの原風景（1） 子ども期について
3. こどもの原風景（2） わらわらとしていること
4. 母なるものと父なるもの
5. 食べること・食べられること
6. 旅すること・冒険すること
7. こども組の役割
8. こどもの時間・こどもの空間
9. こどもと言葉
10. 話す と 語る
11. 見る と 見える
12. 伝承とこども：児童文化財の意味
13. 遊ぶこども
14. 家庭とこども：理想的な親子関係とは？
15. こどもとおとな（まとめ）

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)小レポート:75%:各回5点×15回 (2)期末課題:25%:初回に出題する
期末課題の書式と取り組み方について、初回に説明する。

担当者：清水 正之

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

人は地域の中で生まれ、育ち、生活をしています。同時に、生活のなかで、場所的限定をこえて、人間の生き方を考えもします。現代では、生活の場自体が、通有の世界的な問題や状況（人権、経済的困窮など）のなかにあります。地域に生きることと、他方でのグローバル化、そうしたなかに生きる私たちを、埼玉・北関東という場をてがかりに考えていく授業です。

2. 学びの意義と目標

地域という場にまずは、視点を設定して、現代のグローバル化した時代に生きるとはどういうことかを、歴史、文学、思想、言語、芸術等の多様な視点から、考え、大学でまなぶことの意味を、具体的な事象をふまえつつ、大きく広く考えていくことをめざします。

受講生に対する要望

オムニバル形式の授業です。必ずや関心を引く主題があろうかと思えます。地域の問題をふまえながら、私たちが学ぶ意味を考える機会です。積極的な参加を希望します。

キーワード

(1) 埼玉 (2) 北関東 (3) 地域 (4) グローバル化 (5) 郊外

事前学習（予習）

さまざまな埼玉学という書籍が出版されています。それらを読むことも参考になります。またグローバル化についての書籍多くでています。目を通しておくとよいでしょう。

復習についての指示

授業で得た知識や視点を、日常の生き方、あり方とむすびつけながら、書籍、メディア等でえたものと、連関させ考える、あるいは調べる、足を運ぶ、ということが復習になるでしょう。

授業計画

1. はじめに・埼玉のイメージ 授業のオリエンテーション 清水正之
2. 新しい郊外の風景 畠山宗明
3. 映像から見た戦後日本と埼玉 畠山宗明
4. 義経の結婚―河越氏から見た鎌倉幕府の誕生 東島誠
5. 盆栽とフランス 鹿瀬颯枝
6. 埼玉の隠れキリシタン 清水均
7. 文学における郊外の表徴 黒木章
8. 知られざる埼玉人―共生思想の先駆者・石川三四郎 稲田敦子
9. 戦後新教育をリードした川口 熊谷芳郎
10. 川西実三と埼玉―新渡戸・内村門下の“理想主義”官僚村松晋
11. さいたまから世界へ―映画と通じた地域活性・情報発信氏家理恵
12. 埼玉在住外国人の方々から見た日本 黒崎佐仁子
13. ルール・ド・フランスの歴史的位相―フランスからさいたまへ 和田光司
14. 躍動する埼玉・明日の埼玉 特別外部講師
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する
最初のガイダンスで指示する参考書・資料等、および各回の配布プリントを使用する。

評価方法

(1) 出席:30% (2) 小レポート:30%:各回ごとに授業の小レポートを提出します。 (3) 期末レポート:40%

書道(初級)

TART-J-100

担当者：小室 陽子

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

実践力：実体験の中での文化に接し、身体知としての文化の取得に努める

カリキュラム上の位置付け

中学校教諭一種免許：国語必修科目

講義概要

1. 内容

書は文字を素材にした創造芸術です。先人の残してくれた素晴らしい文化遺産である中国や日本の古典を教材として、正しく美しい文字を学び、書くための場としたい。講義では、筆順、書技、理論等を学び、実技においては、漢字、仮名を毛筆を主とし硬筆を含めた課題作成を通して、文字そのものについても考えていきたい。又、漢詩（七言絶句）を作成することを通して、新しい観点から文字に触れることにより、より一層書への関心を高めたい。更に、各書体の特徴をより正確に理解するためにその書体での作品を制作します。

2. 学びの意義と目標

書写・書道の指導が必要な中・高等学校の教職を志す学生自身が、文字に関する知識を高めるとともに、毛筆で書くことへの抵抗感をなくし、教壇に立った時に生徒が楽しく筆で紙とむきあえるようにし、よりよい生徒指導ができるようにしたい。

受講生に対する要望

文字を素材にしての実技を主体にした講座です。文字に対して一点の意義、一画（一線）の位置づけ等を意識的に見直すことを通して文字を書くことの意義を考えていきたい。展覧会などに積極的に出向き、書に対する感性を高めてほしい。又、漢詩（七言絶句）を作成するので、文字へのより一層の興味を持ってほしい。

キーワード

(1)実技講座 (2)漢字 (3)かな (4)作品制作 (5)漢詩（七言絶句）作詩

事前学習（予習）

授業計画を参照し、扱われる書体等について、大まかな情報を収集しておくことを望む。実技が主なので、書道用具を必ず持参、書くことに専念してほしい。

復習についての指示

授業で配布されたプリントを改めて読み直し、書体の特徴を理解しておくこと。

授業計画

1. 講師と学生の自己紹介 ・ 講義の進め方 ・ 評価方法
2. 文房四房、永字八法、氏名揮毫
3. 執筆法、用筆法
4. 書体の変遷
5. 篆書の成立、特徴、石鼓文の鑑賞 ・ 臨書
6. 篆書 ・ 泰山刻石の鑑賞 ・ 臨書
7. 隸書の成立、特徴、曹全碑の鑑賞 ・ 臨書
8. 隸書 ・ 乙英碑の鑑賞 ・ 臨書
9. 草書の成立、特徴、十七帖の鑑賞 ・ 臨書
10. 草書 ・ 十七帖の臨書
11. 行書の成立、特徴、趙孟頫行書千字文の鑑賞 ・ 臨書
12. 行書 ・ 蘭亭序の鑑賞と臨書
13. 行書 ・ 蘭亭序の全臨(1)
14. 行書 ・ 蘭亭序の全臨(2)
15. 楷書の成立、特徴 ・ 九成宮醴泉銘の鑑賞 ・ 臨書
16. 楷書 ・ 九成宮醴泉銘の臨書
17. 楷書 ・ 孔子廟堂碑の鑑賞 ・ 臨書、硬筆
18. 楷書 ・ 孔子廟堂碑の臨書、雁塔聖教序の鑑賞 ・ 臨書
19. 楷書 ・ 雁塔聖教序の臨書 ・ 楷書作品制作
20. 楷書作品制作 ・ 鑑賞
21. 漢詩作詩(1)
22. 漢詩作詩(2)
23. 仮名の成立、いろは歌
24. 仮名、毛筆 ・ 硬筆
25. 仮名、仮名の基本用筆
26. 平安時代の古筆に学ぶ
27. 高野切第三種、鑑賞 ・ 臨書
28. 高野切第三種、臨書
29. 仮名作品制作
30. 仮名作品制作 ・ 鑑賞

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)実技課題:50%:時間毎の実技課題の評価 (2)課題提出状況:10%:時間毎の実技課題提出状況 (3)授業態度:20%:取り組み方 (4)授業準備:10%:用具の準備なども加味 (5)出席状況:10%

書道（中級）

TART-J-100

担当者：小室 陽子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

実践力：実体験の中での文化に接し、身体知としての文化の取得に努める

カリキュラム上の位置付け

中学校教諭一種免許：国語選択科目

講義概要

1. 内容

正しく美しい文字を書くことに加えて、中級では楷書を主として行書・草書・隷書・仮名の各書体をより確実な筆づかいで書けるようにし、意に沿った筆づかいを身につけるようにしたい。そのために、初級では臨書の中で形臨を主体に行ってきたが、中級では、意臨をも含めた臨書ができるようにすることを目標とします。さらに、一つの古典を少し長く臨書することによって、より確実な筆づかいを身につけるとともに、書くことに対する集中力を養い、細部まで見られる観察眼を身につけていきたい。又、漢詩を理解することによって古典的な作品の理解が進むこととなるので、漢詩を作詩し新たな面からの鑑賞眼を養うようにしたい。

2. 学びの意義と目標

各書体で作品を創作することによって、より高度な技術を身につけるとともに確実にその書体を理解し、さまざまな能力や興味関心を持った生徒のより良い指導に活かせる素養を身につけることを目標とします。

受講生に対する要望

この授業は書道初級を履修した学生が受講するものとします。

キーワード

(1)実技講座 (2)古典の臨書 (3)創作 (4)漢詩（七言絶句）作詩

事前学習（予習）

授業計画を参照し、扱われるテーマに沿った書体等の特徴を、展覧会などに積極的に出向くなどして収集しておくことを望む。実技時間が長くなります。書道用具を必ず持参し書くことへの集中力を持続させてほしい。

復習についての指示

学びから作品創作への方途を時間毎に練り上げていくことを心がけてほしい。

授業計画

1. 楷書 ・ 九成宮醴泉銘 臨書
2. 九成宮醴泉銘 臨書
3. 九成宮醴泉銘 臨書
4. 九成宮醴泉銘 臨書
5. 九成宮醴泉銘 臨書
6. 九成宮醴泉銘 臨書
7. 楷書作品創作
8. 楷書作品創作 ・ 鑑賞
9. 行書 ・ 蘭亭序 臨書
10. 蘭亭序 臨書
11. 蘭亭序 臨書
12. 蘭亭序 臨書
13. 草書 ・ 十七帖 臨書
14. 十七帖 臨書
15. 十七帖 臨書 草書作品創作
16. 草書作品創作 ・ 鑑賞
17. 漢詩 作詩
18. 漢詩 作詩
19. 隷書 ・ 曹全碑 臨書
20. 曹全碑 臨書
21. 曹全碑 臨書
22. 曹全碑 臨書
23. 隷書作品創作
24. 隷書作品創作 ・ 鑑賞
25. 仮名 ・ 高野切 臨書
26. 高野切 臨書
27. 高野切 臨書
28. 高野切 臨書
29. 仮名作品創作
30. 仮名作品創作 ・ 鑑賞

教科書

欧陽 詢 『九成宮醴泉銘[唐・欧陽詢/楷書]（中国法書選 31）』（二玄社）

評価方法

(1)実技課題:60%:時間毎の実技課題の評価 (2)課題提出状況:10%:時間毎の実技課題提出状況 (3)授業態度:20%:取り組み方 (4)出席状況:10%

担当者：清水 均

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

表現力・コミュニケーション力：的確なコミュニケーション能力を育てる

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

人は何らかの意味において「表現」行為をするものであり、「表現」はあらゆる意味において「身体」活動を伴うものである。言い換えれば、人は生きている限り「身体」による「表現」をし続ける存在であるといえる。本講座では、こうした「人間の生の営み」を「文化」という観点において捉えようとするものである。今年度は特に「嗅覚」に焦点をあて、「香り」に対する鋭敏な感性を持ちつつ、「香り」と「嗅覚」がどのような「表現」を生成しているかについて学ぶ。

2. 学びの意義と目標

この講座は「選択必修科目B群」に配置される科目である。「B群」科目は「体験と実践」を重視するものであるが、この講座は、「身体と表現＝人の営み」という「文化」の根底的な部分に触れるものであるから、受講後には「生きるということ」そのものに対する意識が変革されることになるであろう。

受講生に対する要望

講座の中の何回かはゲスト講師として嶋本静子先生をお招きする。「香り」の専門家である先生の授業を受けられるということは滅多にない絶好の機会であるので、是非ともこの機会を有効に生かしてほしい。

キーワード

(1) 身体 (2) 表現 (3) 嗅覚 (4) 香り

事前学習（予習）

適宜課す「小課題」については、「宿題」として授業外において作成しなければならないものを含む。提出については、内容は勿論のこと、形式にも留意してきちんとしたレポートを提出してもらいたい。

復習についての指示

「小課題」のうち、ほぼ毎回課す「授業の振り返り」については授業外において記述することを求める。

授業計画

1. ガイダンス・導入
2. 「身体と表現」について考える
3. フィールドワーク - 「香り」を実感する
4. 「嗅覚」「香り」についての「表現」の実例①
5. 「嗅覚」「香り」についての「表現」の実例②
6. 「香り」とは何か
7. 「香り」を実感するワークショップ①
8. 「香り」を実感するワークショップ②
9. 「香り」と文学①
10. 「香り」と文学②
11. 「香り」と文学③
12. 「香り」と文学④
13. 「香り」と文学⑤
14. 「香り」と文学⑥
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 小課題:50% (2) 最終レポート:50%

担当者：川手 恩

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

日本語教員養成課程：選択必修科目

講義概要

1. 内容

本講義では、言語使用や言語行為、コミュニケーションを言語学と心理学の両方向から分析し、言葉の仕組みを理解していく。この目的を達成するため、「心理言語学の基本的な概念」「動物のコミュニケーション」「言語と思考」「母語の習得」「音声と単語の認知」「文と文章の理解」「言語と脳」「言語とジェスチャー」そして「第二言語学習」という九つの心理言語学の研究分野のテーマに焦点をあて授業を進めていく。

2. 学びの意義と目標

本講義では、日常生活でどこにでも見受けられるようなやり取りをコミュニケーションと位置づけ、それを心理言語学的視点より分析し、実社会生での様々な状況や場面におけるコミュニケーションの成り立ちを理解することを目的とする。また様々な研究分野にも精通し学習することの楽しさや大切さ、そしてすばらしさを見出すことも目的である。

受講生に対する要望

クラスに積極的に参加できるという。

キーワード

(1)心理言語学 (2)コミュニケーション (3)言語とところ (4)言語と脳 (5)学習することの楽しさ

事前学習（予習）

授業計画を参照し、決められた範囲を予習する。与えられたプリントを読んでおく。

復習についての指示

それぞれのトピックの研究課題をこなし、問題形式で内容を把握していく。

授業計画

1. コース内容の説明とニーズ分析
2. 心理言語学へのアプローチ
3. 動物のコミュニケーション
4. 動物のコミュニケーション
5. 動物のコミュニケーション
6. 言語と思考：対人的思考
7. 言語と思考：帰納的&演繹的思考
8. 母語の習得（1）：音声知覚の発達
9. 母語の習得（2）：単語の発達
10. 復習とクイズ1
11. 音声と単語の認知：単語機能の多様性と意味の特徴
12. 文と文章の理解：チョムスキーと生成文法
13. 文の構造と理解：統語解析モデル
14. 文の構造と理解：統語解析モデル
15. 文の構造と理解：統語解析モデル
16. 統語解析モデル復習と確認
17. 文と文章の理解：ワーキングメモリー
18. 言語と脳（1）：母語習得の臨界期
19. 言語と脳（2）：ビデオ前半とディスカッション
20. 言語と脳（3）：ビデオ後半とディスカッション
21. 復習とクイズ2
22. クイズのフィードバックと理解確認
23. レポートの書き方
24. 失語症研究の流れ
25. 失語症患者における文発話の障害
26. 第二言語習得（1）：第二言語習得研究の流れ
27. 第二言語習得（2）：第二言語習得の理論モデル
28. 第二言語習得（3）：日英比較の観点から
29. プレゼンテーションと質疑応答（ディスカッション）
30. プレゼンテーションと質疑応答（ディスカッション）

教科書

重野純（編）『言語とところ-心理言語学の世界を探検する-』（新曜社）

評価方法

(1)クラス参加：40% (2)期末レポート：30% (3)プレゼンテーション：10% (4)復習クイズ：20%：持ち込み可

担当者：藤田 のぼる

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

●一口に「児童文学」といっても、童話、小説、詩、絵本、ノンフィクションといったジャンルがあり、これを数ヶ月間の講義でこなすのは難題です。が、あえて欲張ってそれをやってみたくと思っています。ですからこの講義はかなり駆け足の進行になります。●全体は大きく三部に分かれ、第一部（児童文学に描かれた子ども）では、さまざまな角度から作品の中の子ども像を中心に、児童文学作品を紹介していきます。第二部（不思議の形、テーマを深める）では、テーマ、方法、思想などの角度から作品を紹介していきます。これらを通して、児童文学がなにを、どのように描いているのかをみてもらいます。●第三部のテーマは、「（児童）文学を読むということ、読者にとってどのような行為なのか」ということについて考えるということです。特に児童文学の場合、それを読むことが子どもにとって無条件に「良いこと」とされ、場合によっては強制されたりもするわけですが、本とは、物語とはどのようなものなのかを、皆さんの子ども時代の体験なども合わせながら考えていきたいと思います。

2. 学びの意義と目標

児童文学は、第一義には子どもの読者に向けて書かれたものですが、今子ども時代と訣別しようとしている時期に、児童文学に触れることには格別の意義があると思います。また、大人として、さまざまな場で子どもと対峙する機会に、児童文学というアイテムが大きな役割を果たすと思います。

受講生に対する要望

講義で紹介された作品を、この機会に自主的になるべく多く読んでほしいと思います。

キーワード

(1) 児童文学 (2) 文学 (3) 子ども (4) ファンタジー (5) 読書

事前学習（予習）

テキストに沿った形の講義は後半からになりますが、事前に少しずつ読んでおいてください。

復習についての指示

講義の中で紹介された作品について、努めて実際に読むこと。最低1冊は読んで、感想をレポートとして提出してもらいます。

授業計画

1. 始めに～児童文学の講義を始めるにあたって
2. 児童文学に描かれた子ども1～学校の中の子ども
3. 児童文学に描かれた子ども2～家族の中の子ども
4. 児童文学に描かれた子ども3～社会の中の子ども
5. 児童文学に描かれた子ども4～成長する子ども
6. 児童文学に描かれた子ども5～発見する子ども
7. 児童文学に描かれた子ども6～冒険する子ども
8. 児童文学に描かれた子ども7～闘う子ども
9. 児童文学に描かれた子ども8～さまざまな子ども像
10. 不思議の形～いろいろなファンタジー
11. 不思議の形～ファンタジーの方法1
12. 不思議の形～ファンタジーの方法2
13. 不思議の形～ファンタジーの方法3
14. 不思議の形～ファンタジーの方法4
15. テーマを深める1～「生」と「死」をめぐる
16. テーマを深める2～「愛」について
17. テーマを深める3～「特別」の人たち
18. テーマを深める4～「戦争」に迫る
19. 子どもと読書の問題をめぐる
20. 子どもの「読書離れ」を考える1～内因と外因
21. 子どもの「読書離れ」を考える2～「建前の児童文学」
22. 子どもの「読書離れ」を考える3～児童文学の流れ
23. 「読書」の意味を考える1～〈物語〉と〈小説〉
24. 「読書」の意味を考える2～〈物語〉をめぐる
25. 「読書」の意味を考える3～〈小説〉をめぐる
26. 「読書」の意味を考える4～読書という行為の固有性
27. 今、求められる児童文学とは1～〈情報性〉ということ
28. 今、求められる児童文学とは2～〈仕掛け〉と〈入口〉
29. 今、求められる児童文学とは3～子どもたちの「現実感覚」
30. まとめ

教科書

藤田のぼる 『児童文学への3つの質問』（てらいんく）

評価方法

(1) レポート:70% (2) 出席:15% (3) 提出物:15%

担当者：藤田 和美

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

女性学とは、既存の知や文化を、ジェンダー（性別）の視点から読み直し、読みかえるものである。近代以降の女性解放運動から現代の女性学研究、更には男性学研究までの学問の成立の歴史的過程をたどりながら、その成果を学び、性・結婚・労働・文化・芸術・メディア・教育・健康・スポーツなど、現代の私達を取り巻く諸問題について考える。授業は講義を中心に進めるが、グループ学習もおこなう。ビデオなどの視聴覚教材も利用する。毎回授業時に感想を提出してもらう。

2. 学びの意義と目標

女性学は研究のための研究ではなく、性差別からの解放を訴えた社会運動と、多分野の学問研究の知見が連動して形成された実践的、かつ学際的な学問研究である。各研究分野における理論的枠組みや方法論などを参考に、女性であれ、男性であれ、性別にかかわらず私達一人一人が〈自分らしさ〉を大切にして主体的に考え、行動することができるような性と生のあり方を探る。現代日本におけるジェンダー問題に対する認識を深め、男女共同参画社会の実現に向けて、私たちは具体的にどうすれば良いのか、社会において何が必要かを様々な角度から検討する。

受講生に対する要望

授業中の飲食、私語、携帯閲覧を禁じる。 学びに対する主体的な取り組みや、授業中の積極的な発言を期待する。

キーワード

(1)ジェンダー (2)性差別 (3)性別役割分業 (4)男女共同参画 (5)多様性

事前学習（予習）

授業計画を参照し、扱われるトピックについて新聞等で情報を集めておくこと。

復習についての指示

配布プリントを再読し、関連する文献を読むこと。

授業計画

1. ジェンダーとは何か(1)
2. ジェンダーとは何か(2)
3. 異文化における女性・男性(1)
4. 異文化における女性・男性(2)
5. 性の多様性(1)
6. 性の多様性(2)
7. 近代化とジェンダー(1)
8. 近代化とジェンダー(2)
9. 慣習とジェンダー(1)
10. 慣習とジェンダー(2)
11. 労働とジェンダー(1)
12. 労働とジェンダー(2)
13. 労働とジェンダー(3)
14. 労働とジェンダー(4)
15. 文化・芸術におけるジェンダー(1)
16. 文化・芸術におけるジェンダー(2)
17. メディアの中の女性像・男性像(1)
18. メディアの中の女性像・男性像(2)
19. スポーツとジェンダー(1)
20. スポーツとジェンダー(2)
21. 家族関係をめぐる諸問題(1)
22. 家族関係をめぐる諸問題(2)
23. 家族関係をめぐる諸問題(3)
24. 家族関係をめぐる諸問題(4)
25. 教育とジェンダー(1)
26. 教育とジェンダー(2)
27. 男女共同参画社会に向けて
28. グループ・ディスカッション
29. 発表
30. 発表、講評

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業時の感想:30% (2)宿題:20% (3)レポート:40% (4)発表:10%

専門演習 I (言語①)

JPCL-J-200

担当者：小林 茂之

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

日本語教員養成課程：選択必修科目

講義概要

1. 内容

日本と同じように、大陸から離れて独自の文化的発達を遂げてきた英国の言語文化史を日本との比較的观点から言語研究的価値を見直し、シェイクスピア、チョーサー、ベオウルフなどの日本でも翻訳を通じて知られている作品から選んで、教科書の記述や翻訳で内容を補いながら、原典を部分的に読んでみる。また、担当者による報告、討議を行う。

2. 学びの意義と目標

言語史研究を行う上で、テキストの作品的価値を知ることが人文学的に重要な意義がある。いくつかの初期英語のテキスト講読の導入し、テキスト・言語の基本的な特徴を知る。さらに、卒業研究に向けて研究の動機を高める。

受講生に対する要望

日本語学概論・言語文化論・言語学特殊講義の未履修者は、春学期と秋学期にそれらを履修する。

キーワード

(1)言語史 (2)言語文化論 (3)シェイクスピア (4)チョーサー (5)ベオウルフ

事前学習（予習）

授業の進行に合わせて、教科書を読んでくる。なお、教科書は販売が遅れるなど、入手が困難な場合、コピーを配布する。

復習についての指示

関連書を読み、内容を確認したり、知識を広げる。

授業計画

1. 第1章（教科書）
2. 第2章（教科書）
3. 第3章（教科書）
4. 第4章（教科書）
5. 第5章（教科書）
6. 第7章（教科書）
7. 第8章（教科書）
8. 第9章（教科書）
9. テキスト講読
10. テキスト講読
11. テキスト講読
12. テキスト講読
13. テキスト講読
14. テキスト講読
15. テキスト講読

教科書

武内信一 『英語文化史を知るための15章』（研究社）

評価方法

(1)出席:40% (2)授業参加:20%:テキスト講読における演習の担当を含む。 (3)期末レポート:40%

演習内容については、受講者の希望を考慮して決める。報告・討議は、授業参加度として評価する。

専門演習 I (言語②)

JPCL-J-200

担当者：川口 さち子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

日本語教員養成課程：選択必修科目

講義概要

1. 内容

卒業研究 I のゼミとの合同授業である。本演習では、課題を言語にしぼり、教材を分析しながら、日本語の特徴を探っていく。そして言葉の研究に必要な基礎知識を身につけ、自分の身の周りの事象から日本語の問題点を見つけ出す力をつけてほしい。最初は、3年生に前学期に取り組んだ内容を発表してもらい、このゼミでどんな研究をするのかを学ぶ。後半では、いくつかの課題の中から興味あるものを選んでテーマに沿った調査・発表の方法を身につけることを目標とする。

2. 学びの意義と目標

・課題にしたがってデータ検索や調査を行う方法を学ぶ第一歩である。
・身の周りの事象に疑問を持ち、問題点をみつけ出す力をつけること。

受講生に対する要望

発表の際は、レジュメを作成する。発表の前に、文献にあたって十分調べる。課題の提出物は必ず出すこと。発表があたっているものは、無断欠席をしないこと。

キーワード

(1) 日本語の特徴 (2) 調査方法 (3) データ収集 (4) 検索方法の習得 (5) 言語分析

事前学習（予習）

発表の際は、レジュメを作成する。発表の前に、文献にあたって十分調べる。

復習についての指示

他の発表者の発表を見て、いろいろ学び、取り入れること。

授業計画

1. 演習へのガイダンス
2. 上級生の発表を聞く
3. 上級生の発表を聞く
4. いくつかの課題テーマから関心のあるものを選ぶ
5. 図書館ツアー：データ検索・調査の方法を学ぶ
6. 途中経過発表
7. 調査・発表その1・文献講読
8. 調査・発表その2・文献講読
9. 調査・発表その3・文献講読
10. 自分自身の関心あるテーマを決める
11. 調査・発表その4・文献講読
12. 調査・発表その5・文献講読
13. レポート作成準備
14. レポート作成準備
15. 最終レポート発表と提出

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 調査発表・レポートの内容:60% (2) 討論への参加度:20% (3) 出席状況:20%

専門演習 I (言語③)

JPCL-J-200

担当者：黒崎 佐仁子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

日本語教員養成課程：選択必修科目

講義概要

1. 内容

普段何気なく耳にし、口に出している日本語の多様性に目を向ける。ことばを通して、性・世代・集団・地域・心理・書きことば・話しことばなどのバラエティを学ぶ。

2. 学びの意義と目標

ことばの位相性を学ぶことで、ことばから社会を見る目を養い、多角的にものを見、思考できるようになることを目標とする。

受講生に対する要望

発表、質疑応答、ディスカッションの形式で進める。積極的に参加し、発言してほしい。

キーワード

(1) 日本語力 (2) コミュニケーション力 (3) 多様性 (4) バラエティ (5) 位相性

事前学習（予習）

発表者は十分な発表準備を行うこと。発表者以外は、教科書を熟読してくること。

復習についての指示

発表者は、自分の発表に対する振り返りレポートを提出すること。発表者以外は、発表者に対するコメントシートを作成すること。

授業計画

1. ガイダンス
2. 「ことばって何？」「日本語のバリエーション」
3. 「敬語とタメ語の言語学」「日本語は変り続ける」
4. 「言葉のあいまい性と日本語の発音」「文字はココロの眼と指で読む」
5. 「ことばの「常識」「俗説」と日本語研究」
6. 「ことばの「常識」「俗説」と日本語研究」
7. 「平成の言語変化」
8. 「平成の言語変化」
9. 「いまどきの命名」
10. 「いまどきの命名」
11. 「災害とことば」
12. 「災害とことば」
13. 「医療のことば」
14. 「医療のことば」
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席:25% (2) 発表:30% (3) 振り返りレポート:10% (4) 期末レポート:25% (5) コメントシート:10%

専門演習 I (比較文化③)

JPCL-J-200

担当者：濱田 寛

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

古典学の基本をテキストの「輪読」形式の演習を通して学ぶ。対象とするテキストは田中大秀『竹取翁物語解』の版本を使用する。変体仮名の読解演習も併せて行う予定である。

2. 学びの意義と目標

比較文化の研究を目標とする本ゼミにおける、基礎的・技術的な事項を学ぶ。本演習で修得する知識・技術は卒業研究での自律的な研究のための基礎力に相当する。

受講生に対する要望

継続的な努力と忍耐。そしてそれを支える情熱。

キーワード

(1) 古典学／古文・漢文 (2) 比較文学 (3) 比較文化

事前学習（予習）

演習発表の準備には相当の時間を要する

復習についての指示

演習発表において指摘を受けた箇所についての追加調査を「事後報告」として提出する

授業計画

1. ・ガイダンス
2. ・演習方法の解説
3. ・模擬演習(1)／担当教員による模擬演習
4. ・模擬演習(2)／担当教員による模擬演習
5. ・演習発表(1)
6. ・演習発表(2)
7. ・演習発表(3)
8. ・演習発表(4)
9. ・演習発表(5)
10. ・演習発表(6)
11. ・演習発表(7)
12. ・演習発表(8)
13. ・演習発表(9)
14. ・演習発表(10)
15. 総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 演習発表：80% (2) 積極性：20%

積極性とは演習における傾聴・発言に対する評価をいう。演習形式の授業では、演習に「参加」する姿勢が問われる。出席をもって単位が保証される訳では無い。

専門演習 I (文化③)

JPCL-J-200

担当者：清水 均

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

ある社会学者が「〈物語〉について考えることで私たちは世界の変化とそのしくみについて考えることができるし、逆に世界のしくみとその変化を考えることで、物語たちの魅力を徹底的に引き出すことができる」と述べている。ここには「物語」・「想像力」・「世界のしくみ」における往還構造が示されているが、本ゼミではこの視座に立って、「物語」を通じて私たちの立ち位置を追究していく。

2. 学びの意義と目標

現代の「想像力」を分析することを通じて、私たちがどのような世界に存在しているのかを考える。また、そのことを通じて、世界（社会）に対する批評的な視座を獲得することを目指す。

受講生に対する要望

まずは研究の方法とゼミ形式での授業を体得することを通じて自らの研究テーマを発見してもらいたい。

キーワード

(1)現代文化 (2)想像力 (3)物語 (4)サブカルチャー (5)ポップカルチャー

事前学習（予習）

自らの発表の準備は当然「間にあわせ」では充実した発表に繋がらない。持続的な準備の経過を「研究ノート」に記述することを求める。

復習についての指示

各授業時における発表に対して、感想・見解・質問を「発表シート」に記述し、毎授業時に提出する。

授業計画

1. ガイダンス：ゼミ形式の授業の方法について
2. 研究発表に向けてのプレゼンテーション
3. 研究発表に向けてのプレゼンテーション
4. 研究発表に向けてのプレゼンテーション
5. 研究発表(1)
6. 研究発表(1)
7. 研究発表(1)
8. 研究発表(1)
9. 研究発表(1)
10. 研究発表(2)
11. 研究発表(2)
12. 研究発表(2)
13. 研究発表(2)
14. 研究発表(2)
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席:50% (2)最終レポート:30% (3)研究ノート:10% (4)発表シート:10%

専門演習 I (文化④)

JPCL-J-200

担当者：熊谷 芳郎

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

日本の子どもが置かれた状況、創りだした文化、歩んだ歴史を振り返り、複数で課題を担当して資料収集や発表を行い、その発表内容を基にした研究討議を行う。また、上級生の研究発表をその準備から関わり、研究会の運営の仕方を学ぶとともに、大学での「学び」について具体的なイメージを持つ。そのような活動の中から、各自が自分なりの課題を見出していく。見出した課題について、ここで学んだ方法を用いて資料を捜し、ブックレポートを作成する。

2. 学びの意義と目標

大学におけるゼミナール形式の授業を初めて体験するという状況を踏まえ、研究の基礎技能について理解していくことを一番の目標とする。世界は完成し閉じたものではなく、今も動き回っているものである。子どもと教育、どちらも身近な存在ではあるが、あまり考えたことの無い人も多だろう。そのような自分の足元を見直すことで、日本を含めたアジアの文化について、それぞれが自分なりの課題意識を持ってこの後の大学での「学び」に関する視点を見つけていくことと目指したい。さらに、このゼミでの活動を通して、資料の探し方やまとめ方、発表の仕方を理解していくことを目指す。

受講生に対する要望

担当した課題について、自分が皆に知らせるんだという意識をもって資料収集や発表に臨んでほしい。

キーワード

(1) 基礎技能の習得 (2) 資料収集の仕方 (3) 資料の読み方・まとめ方 (4) 発表の仕方 (5) 研究討議の仕方

事前学習（予習）

担当した課題論文を読んでまとめ、発表用の資料を作成する。

復習についての指示

研究討議を通じて学んだ内容を整理しておく。

授業計画

1. 授業に関するガイダンス、および子どもをめぐる状況について討議。
2. 図書館ガイダンス
3. 発表の基礎を学ぶ（1）
4. 発表の基礎を学ぶ（2）
5. 発表の基礎を学ぶ（3）
6. 発表の基礎を学ぶ（4）
7. 発表の基礎を学ぶ（5）
8. 担当した課題について発表と、発表内容についての研究討議 1。
9. 担当した課題について発表と、発表内容についての研究討議 2。
10. 担当した課題について発表と、発表内容についての研究討議 3。
11. 担当した課題について発表と、発表内容についての研究討議 4。
12. 担当した課題について発表と、発表内容についての研究討議 5。
13. 担当した課題について発表と、発表内容についての研究討議 6。
14. 担当した課題について発表と、発表内容についての研究討議 7。
15. 授業の総括と、演習Ⅱに向けての留意事項の確認。

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 課題レポートと発表：40% (2) 討議への参加状況：20% mood!でのディスカッションを含む。 (3) 最終レポート：40%

専門演習 I (文学③)

JPCL-J-200

担当者：黒木 章

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

島崎藤村の『破戒』と田山花袋の『蒲団』を読む。演習の形で研究の方法等を学ぶ文学入門である。ここでは文学研究のアプローチ法として幾つかの代表的な先行文献等を読んでそれと自分の主体的な読みとを重ねて問題を把握し、今後の自分の研究方法を探るための基礎訓練をする。

2. 学びの意義と目標

次に予定されている演習や卒業研究・卒業論文執筆に繋げるようにする。『破戒』は日本近代文学の可能性を開き、『蒲団』はその可能性を歪めたと言われて久しい。だが、現代の我々からみて本当にそのように言えるのだろうか。作品と周辺の事情を再検討して日本近代文学特に自然主義文学の問題を探究する。

受講生に対する要望

・参加人数にもよるが、3つのグループに分けて、我々の読み、作者の問題、同時代評と代表的な論文、という角度から問題提起して共通認識を作り、それぞれの角度からのレポートを相互に批判・討議し、最後に各自のレポートを作成してもらう。レポートと相互討議がもっとも重要になる。

キーワード

(1) 藤村と花袋 (2) ロマン主義文学・自然主義文学 (3) 環境と人間 (4) 芸術 (文学) の創造 (5) 日本近代文学

事前学習 (予習)

日本近代の小説を読んでとにかく楽しみたい人や将来作家になりたい人など参加の動機はさまざまでよいが、やや高度で専門的な取組みを目指すので、討議参加のための予習・レジュメ作りは必須。

復習についての指示

討議と参考文献等の処理の仕方、レポートの作り方などその都度みられる。

授業計画

1. 導入。運営方法の確認
2. 『破戒』読解
3. 同 上
4. 同 上
5. 同 上
6. 同 上
7. 同 上
8. 『蒲団』読解
9. 同 上
10. 同 上
11. 同 上
12. 同 上
13. 『破戒』と『蒲団』をめぐる批評の検討
14. 同 上
15. 同 上

教科書

島崎藤村 『破戒』 (新潮文庫) 田山花袋 『蒲団』 (新潮文庫)

評価方法

(1) 授業参加態度:40%:討議への積極的参加 (2) 小レポート:30%:討議と参考文献等の取組み (3) 学期末レポート:30%:定期試験に替えるもの

専門演習 I (歴史・思想①)

JPCL-J-200

担当者：東島 誠

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

歴史・思想の文献から、比較的取り組みやすいものを選び、発表してもらう。文献を読んで初めて出会った言葉や考え方を丁寧に調べ、不明点や疑問点を率直に出してほしい。必ずやそこに、新しい、未解決の問題が立ち現れるはずである。そんな体験をしてほしいし、それが可能なゼミである。

2. 学びの意義と目標

いよいよ卒業研究へとつながる専門的な研究のスタートである。とは言えまだ2年生。まずはレジュメを作成するなど、研究発表の練習をしよう。その際、辞書を引く労を惜しんではならない。専門性の高い辞書を引き、調べることの大切さを学ぶのが、この段階での最終的な目標となる。

受講生に対する要望

発表準備は、遅くも2週間前には始めること。

キーワード

(1)国史大辞典 (2)日本史大事典 (3)学外図書館の利用 (4)NDL-OPAC (5)cinii

事前学習（予習）

発表の前の週に、発表に使用する基本研究文献をメンバーに配布する。これは、参加者が事前に文献に目を通した上で発表を聞くことで、理解を深め、討論に参加しやすくするためである。

復習についての指示

当ゼミでは、毎回の発表者が作成した配布資料を半年間蓄積すると、極めて分厚いファイルになる。常にファイルを見かえしながら、蓄積型の学びを進めて行ってほしい。

授業計画

1. ガイダンス
2. 図書館オリエンテーション
3. レジュメ作成法～先輩のレジュメに学ぶ
4. 学生による発表
5. 学生による発表
6. 学生による発表
7. 学生による発表
8. 学生による発表
9. 学生による発表
10. 学生による発表
11. 学生による発表
12. 学生による発表
13. 学生による発表
14. 学生による発表
15. 学生による発表

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席、発表、議論への参加:50% (2)学期末レポート:50%

担当者：川崎 司

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 内容 原則として「日本近現代の歴史・思想」を対象とするが、特に範囲は設けない。自由なテーマで伸び伸びと研究を楽しんでもらいたい。

2. 学びの意義と目標

2. カリキュラム上の位置づけ 考える力、読む力、書く力、聞く力、調べる力、発表する力を身につける場となり、こころ豊かな感性を研く場ともなれば幸いである。3. 学びの意義と目標 研究発表を積み重ねていくうちに、ゼミ生同士の友情が芽生えていけば、これ以上の喜びはない。皆さんの、真実を見つめる目と、優しい手と、温かい心が永遠であることを祈る。

受講生に対する要望

研究発表は全員必須。守るように。

キーワード

(1) 着実 (2) 誠実 (3) 融和

事前学習（予習）

予め配られた発表者からのレジュメに従って予習をし授業に臨むこと。

復習についての指示

発表者は終了後に、内容を補足してレポートを提出すること。

授業計画

1. …ゼミ生の発表を中心に進める。
2. …ゼミ生の発表を中心に進める。
3. …ゼミ生の発表を中心に進める。
4. …ゼミ生の発表を中心に進める。
5. …ゼミ生の発表を中心に進める。
6. …ゼミ生の発表を中心に進める。
7. …ゼミ生の発表を中心に進める。
8. …ゼミ生の発表を中心に進める。
9. …ゼミ生の発表を中心に進める。
10. …ゼミ生の発表を中心に進める。
11. …ゼミ生の発表を中心に進める。
12. …ゼミ生の発表を中心に進める。
13. …ゼミ生の発表を中心に進める。
14. …ゼミ生の発表を中心に進める。
15. …ゼミ生の発表を中心に進める。

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席状況：33% (2) 発表内容：33% (3) 研究レポート：34%

専門演習 I (歴史・思想③)

JPCL-J-200

担当者：清水 正之

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

専門で日本の思想・歴史を学ぶ学生のために、必須の日本思想のテキストを読みます。本年度は、近代では内村鑑三の『代表的日本人』、近代以前では、親鸞など、比較的短いテキスト読みながら、原典を読むことの意味、ノート作成法、参考資料の調べ方を、学びます。その他の基本的文献をゼミ生との相談で選びます。それとあわせて、各自の卒業研究に向けての取り組みの手がかりをえられるようにしたいと思います。発表形式の授業です。

2. 学びの意義と目標

専門の卒業演習への準備的演習です。歴史・思想文献を自らの読みをふかめ、課題を解く態度をつくることです。

受講生に対する要望

発表と意見交換を主としますので、自らの問題意識を深め、異なる意見に耳をかたむけることによって、意欲的な参加を望みます。

キーワード

(1) 日本の思想 (2) 宗教 (3) 文学 (4) 芸術 (5) 政治・経済

事前学習（予習）

それぞれどのようなことに興味をもち考えているかを話し合い、相応しい文献や史料を共に探す方法や情報を参加者の皆と考えながら進める。決められた頁数を予習し各回のポイントを纏めておくこと。

復習についての指示

その日のテキストを、授業で指示されたポイントに沿って、よみなおし、自らの考えを要領よくまとめておくこと。

授業計画

1. はじめに
2. 日本の宗教思想 1
3. 日本の宗教思想 2
4. 日本の文学と思想 1
5. 日本の文学と思想 2
6. 日本の芸術と思想 1
7. 日本の芸術と思想 2
8. 民俗と思想 1
9. 民俗と思想 2
10. 政治と思想 1
11. 政治と思想 2
12. 経済と思想
13. 自然観と思想
14. 伝統と近代
15. まとめ

教科書

内村鑑三 『代表的日本人』（岩波書店（岩波文庫版））

評価方法

- (1) 出席:50% (2) 発表:30% (3) レポート:20%

専門演習Ⅰ（歴史・思想④）

JPCL-J-200

担当者：村松 晋

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

美術・文学から「宗教」に至るまで、広い意味での〈作品〉を、時代の中で読み解くことを目指す。「相関文化」「日本思想入門」に共感してくれた人の参加を歓迎する。

2. 学びの意義と目標

「歴史・思想」分野における「ものの考え方」〈調べ方〉、宗教や民俗へのアプローチの仕方など、研究の初歩を会得してもらいたい。まずは共通のテキストを講読する形式ですすめる予定であるが、参加者の顔ぶれにより、臨機応変に対応したい。

受講生に対する要望

時代の「陰」に眼を向けられるようになること。「小さき者」「名もなき者」が育んだ〈文化〉への眼差しを育てること。〈アジア〉を場として「日本」を問い質すこと。

キーワード

(1) 日本史 (2) 宗教 (3) 思想 (4) 民俗 (5) 芸術

事前学習（予習）

レポーターは発表前に教員の事前指導を受けること。参加者はレジュメに予め眼を通した上でゼミに参加すること。

復習についての指示

事後は討論の結果をふまえ期末レポートを提出すること。なお本ゼミでの「発表」は、このレポート提出をもって初めて完結する。

授業計画

1. はじめに—オリエンテーション—
2. 研究の手立て その1—ゼミとは何か—
3. 研究の手立て その2—テーマはどうやって決めるのか—
4. 研究の手立て その3—何を使って調べるか／図書館の使い方—
5. 研究の手立て その4—レジュメの作り方—
6. テキスト講読のオリエンテーション その1
7. テキスト講読のオリエンテーション その2
8. 参加者によるレポート
9. 参加者によるレポート
10. 参加者によるレポート
11. 参加者によるレポート
12. 参加者によるレポート
13. 参加者によるレポート
14. 参加者によるレポート
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 発表内容:50% (2) 授業参加:50%

上記を勘案して評価する。「ゼミは決して休まない」気概で参加してほしい。

担当者：柳田 洋夫

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

担当者の主たる研究対象は明治期以降の日本のキリスト教であるが、そもそも日本人の生き方あり方をテキストに即して探求する「日本倫理思想史」の学びを志してきた。よって、＜日本人の心の歴史＞に関わることならば、時代・ジャンルを問わず、受講者の希望も鑑みて一緒に勉強していきたい。とりあえずは共通のテキストを決めて、それを一緒に読み進めながら、各自が探求すべきテーマを考えていきたい。

2. 学びの意義と目標

テキストの読解力を養うとともに、発表や討論を通して日本の思想や精神について、キリスト教というグローバルな視点も援用しつつ、より深く理解することを目指す。

受講生に対する要望

自分なりの目的意識をもって真剣に臨んでほしい。また、発表や討論に積極的に参加し、質問なども遠慮せずにしてほしい。

キーワード

(1)日本の思想 (2)日本人の生き方・あり方 (3)キリスト教と日本人

事前学習（予習）

授業においてその都度指示する。

復習についての指示

授業においてその都度指示する。

授業計画

1. ガイダンス
2. 発表と討議
3. 発表と討議
4. 発表と討議
5. 発表と討議
6. 発表と討議
7. 発表と討議
8. 発表と討議
9. 発表と討議
10. 発表と討議
11. 発表と討議
12. 発表と討議
13. 発表と討議
14. 発表と討議
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:40% (2)発表と討議への参加度と内容:40% (3)レポート:20%

専門演習Ⅱ（言語①）

JPCL-J-300

担当者：小林 茂之

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

日本語教員養成課程：選択必修科目

講義概要

1. 内容

現代統語論の基礎的な概念や分析法を教科書を通して学ぶ。また、必要に応じて、日本語やその他の言語の具体的な統語論的分析を取り上げる。担当者による演習方式での報告の後、参加者全員で検討する。

2. 学びの意義と目標

現代統語論における思考法を学び、論理力を高める。また、基礎力を充実させることによって、発展的な研究に取り組む準備をする。さらに、卒業研究に向けて、基礎的な研究技能を身に付ける。

受講生に対する要望

日本語学概説を履修済みであることが望ましいが、未履修者は秋学期に受講する。春学期には言語文化論を履修する。

キーワード

(1) 統語論 (2) ミニマリスト (3) 一致 (4) 分離投射 (5) 移動

事前学習（予習）

教科書を読み準備した上で授業に参加する。

授業計画

1. 導入
2. Ch. 3
3. Ch. 3
4. Ch. 4
5. Ch. 4
6. Ch. 5
7. Ch. 5
8. Ch. 6
9. Ch. 6
10. Ch. 7
11. Ch. 7
12. Ch. 8
13. Ch. 8
14. Ch. 9
15. Ch. 9

教科書

アンドリュー・ラドフォード 『[新版]入門ミニマリスト統語論』（研究社）大門正幸 『「主語」とは何か？英語と日本語を比べて』（風媒社）

復習についての指示

関連書を読み、さまざまな統語現象に知識を広げる。

評価方法

- (1) 出席：40% (2) 授業参加度：20%：担当箇所を決める場合を含む。
(3) 期末レポート：40%

報告・討議は、授業参加度として評価する。

専門演習Ⅱ（言語②）

JPCL-J-300

担当者：川口 さち子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

日本語教員養成課程：選択必修科目

講義概要

1. 内容

現代語の問題点を扱う。前期に引き続きインターネットを使ったり、参考文献に当たったりして、資料探索の方法を学ぶ・受講生の関心あるテーマを取り上げて、参考文献を読み、ディスカッションを行う。・実際に身の回りの言語事象を取り上げ、用例などを集め分析を行う。・卒業研究Ⅱのゼミと合同授業を行う。

2. 学びの意義と目標

専門演習Ⅰでは、共通課題を扱い、資料探索の基礎的なところを扱った。専門演習Ⅱでは、実例を集め、分析できる力を養う。〈目標〉自分の身の回りの事象から用例を集め分析できる力をつけること、自分のテーマをみつけて、研究していくという姿勢を身につけることが目標である。

受講生に対する要望

欠席3分の1を超えたものは評価しない。課題の提出物は必ず出すこと。発表が当たっているものは、無断欠席をしないこと。

キーワード

(1) 言語分析 (2) 参考文献の収集 (3) 調査 (4) データ分析

事前学習（予習）

発表が当たっているものは、レジュメを準備する。無断欠席をしないこと。文献にあたり、十分準備すること。

復習についての指示

ほかの発表者の発表を見て学び、自分の研究方法にも取り入れること。

授業計画

1. ことばに関するエピソード、研究という視点
2. 調査の仕方、資料の検索方法、資料の扱い方を学ぶ
3. 各自研究テーマの発表1
4. 各自研究テーマの発表2
5. 先行研究について調べ、発表1
6. 先行研究について調べ、発表2
7. 採取データ中間発表1
8. 採取データ中間発表2
9. 参考文献講読
10. 採取データ分析と発表1
11. 採取データ分析と発表2
12. 参考文献講読
13. 最終発表1
14. 最終発表2
15. 最終発表3・最終レポート提出

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 調査・発表レポートの内容:60% (2) 討論への参加度:20% (3) 出席状況:20%

専門演習Ⅱ（言語③）

JPCL-J-300

担当者：黒崎 佐仁子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

日本語教員養成課程：選択必修科目

講義概要

1. 内容

現代日本語のあり方や多文化共生社会で求められる「ことば」のあり方への関心を高め、自らの疑問点を明確にし、調査計画を立て、調査を実施し、その結果から根拠を求める練習をする。さらに、調査結果や独自の考察を発表し、演習参加者からの質疑に答えることで、口頭能力の伸長を目指す。ディスカッション形式となるため、互いに学び合う意識を常に忘れず、積極的に参加してもらいたい。

2. 学びの意義と目標

何に興味があるのかを見つめ、どのような資料を収集し、データを得ることで、結論を導学ぶ。

受講生に対する要望

調査目標や調査資料を自ら設定し、基準を定め、分析を行うという一連の作業を行い、「研究をする」ことを楽しんでもらいたい。

キーワード

(1)発表 (2)ディスカッション (3)論文 (4)資料 (5)論拠

事前学習（予習）

発表前には十分な準備を行うこと。

復習についての指示

発表後には、振り返りシートを提出すること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 「外国人への情報提供の在り方を考える」
3. 「「やさしい日本語」とは」
4. 「「やさしい日本語」の有効性を検証する」
5. 文献の検索を学ぶ
6. 「「やさしい日本語」を使う」
7. 「「やさしい日本語」を使う」
8. 論文レビュー
9. 論文レビュー
10. 論文レビュー
11. 論文レビュー
12. 発表
13. 発表
14. 発表
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席:20% (2)発表:25% (3)提出資料:25% (4)最終レポート:20% (5)参加態度:10%

専門演習Ⅱ（比較文化③）

JPCL-J-300

担当者：濱田 寛

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

日本語教員養成課程：選択必修科目

講義概要

1. 内容

古典学の基本をテキストの「輪読」形式の演習を通して学ぶ。対象とするテキストは和文・漢文に対する受講生の理解度を踏まえて選定する。

2. 学びの意義と目標

比較文化の研究を目標とする本ゼミにおける、基礎的・技術的な事項を学ぶ。本演習で修得する知識・技術は卒業研究での自律的な研究のための基礎力に相当する。

受講生に対する要望

継続的な努力と忍耐。そしてそれを支える情熱。

キーワード

(1) 古典学 (2) 古文 (3) 漢文

事前学習（予習）

演習発表の準備に相当の時間を要する

授業計画

1. ・ガイダンス
2. ・演習発表概説
3. ・模擬演習発表(1)／担当教員による模擬発表
4. ・模擬演習発表(2)／担当教員による模擬発表
5. ・演習発表(1)
6. ・演習発表(2)
7. ・演習発表(3)
8. ・演習発表(4)
9. ・演習発表(5)
10. ・演習発表(6)
11. ・演習発表(7)
12. ・演習発表(8)
13. ・演習発表(9)
14. ・演習発表(10)
15. 総括

教科書

授業の中で指示する

復習についての指示

演習発表において指摘を受けた箇所についての追加調査を「事後報告」として提出する

評価方法

- (1) 演習発表：80% (2) 積極性：20%

積極性とは演習における傾聴・発言に対する評価をいう。演習形式の授業では、演習に「参加」する姿勢が問われる。出席をもって単位が保証される訳では無い。

専門演習Ⅱ（文化③）

JPCL-J-300

担当者：清水 均

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

「専門演習Ⅰ」の内容を継続、発展させる。即ち、「専門演習Ⅰ」で発見した自らの研究テーマを更に深化させることを目指す。ただし、この段階では、必ずしもそのテーマをもって最終テーマとして決定することは求めない。

2. 学びの意義と目標

現代の「想像力」を分析することを通じて、私たちがどのような世界に存在しているのかを考える。また、そのことを通じて、世界（社会）に対する批評的な視座を獲得することを目指す。

受講生に対する要望

「専門演習Ⅰ」で取り組んだことを反省的に振り返り、修正点を明確にした上で授業に臨んでほしい。

キーワード

(1) 現代文化 (2) 想像力 (3) 物語 (4) サブカルチャー (5) ポップカルチャー

事前学習（予習）

自らの発表の準備は当然「間に合わせ」では充実した発表に繋がらない。持続的な準備の経過を「研究ノート」に記述することを求める。

復習についての指示

各授業時における発表に対して、感想・見解・質問を「発表シート」に記述し、毎授業時に提出する。

授業計画

1. ガイダンス：授業方法の説明、発表スケジュールの決定
2. 研究発表に向けてのプレゼンテーション
3. 研究発表に向けてのプレゼンテーション
4. 研究発表に向けてのプレゼンテーション
5. 研究発表（1）
6. 研究発表（1）
7. 研究発表（1）
8. 研究発表（1）
9. 研究発表（1）
10. 研究発表（2）
11. 研究発表（2）
12. 研究発表（2）
13. 研究発表（2）
14. 研究発表（2）
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 出席：50% (2) 最終レポート：30% (3) 研究ノート：10% (4) 発表シート：10%

専門演習Ⅱ（文化④）

JPCL-J-300

担当者：熊谷 芳郎

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

このゼミでは、＜子どもの眼から日本の文化を見直す＞ことを目指す。まず、共通のテーマを決めて、資料を全員で読み進める。その間、一人ひとりが自分のテーマを見つけていく手助けをする。その活動を通して、資料収集の仕方や資料の読み方、レポートのまとめ方や論文の書き方を学んでいく。そして、各自が自分なりのテーマを見つけ、それぞれが研究を進めていく、その基礎力を身につけることを目指す。その成果は、卒研Ⅱの最後に、研究発表会での発表の場につながっていくだろう。

2. 学びの意義と目標

演習Ⅰで学んできたことを確認した上で、ここでの学びを研究の基礎として、それぞれの研究テーマを見つけていって欲しい。自分の子ども時代を振り返ったときに浮かんでくる素朴な疑問から出発して、教育という文化の背後にあるものに迫ってほしい。したがって、この演習では、次の点を目指とする。1 さまざまな資料の検討を通して、研究をする上での基礎力を身につける。2 それぞれが自分のテーマを見つけ、課題を設定する。3 それぞれの研究を深めていく。

受講生に対する要望

担当した課題の発表や、研究討議には積極的に参加してほしい。その体験が、研究の基礎技能の確立を促すはずである。

キーワード

(1)子どもの文化 (2)共通課題 (3)研究の基礎技能 (4)研究討議
(5)各自の課題発見

事前学習（予習）

授業で指定する資料について研究の基礎を実践してもらう。そのため、発表準備に2～3週間かけるつもりでほしい。

復習についての指示

発表後に、研究討議を踏まえて再度まとめなおしてほしい。そのために1時間程度の学習が必要である。

授業計画

1. 授業に関するガイダンス、および子どもの文化に関する討議。
2. 前回の討議内容の整理確認と、共通課題の決定。
3. ＜子どもの眼から日本の文化を見直す＞ことの意義について講義と、講義を受けての討議。
4. 個々の研究関連図書についての発表と、発表に基づく研究討議 1。
5. 個々の研究関連図書についての発表と、発表に基づく研究討議 2。
6. 個々の研究関連図書についての発表と、発表に基づく研究討議 3。
7. 個々の研究関連図書についての発表と、発表に基づく研究討議 4。
8. 個々の研究関連図書についての発表と、発表に基づく研究討議 5。
9. 個々の研究関連図書についての発表と、発表に基づく研究討議 6。
10. 個々の研究関連図書についての発表と、発表に基づく研究討議 7。
11. 個々の研究関連図書についての発表と、発表に基づく研究討議 8。
12. 個々の研究関連図書についての発表と、発表に基づく研究討議 9。
13. 個々の研究関連図書についての発表と、発表に基づく研究討議 10。
14. 個々の研究関連図書についての発表と、発表に基づく研究討議 11。
15. 授業の総括と、卒研Ⅰに向けての留意事項の確認。

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)課題に関する発表:40% (2)研究討議への参加状況:20% (3)最終レポート:40%

専門演習Ⅱ（文学③）

JPCL-J-300

担当者：黒木 章

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

・夏目漱石の前期三部作『三四郎』『それから』『門』を読む。作品を精読しながら主題や登場人物が抱える問題を周辺の状況（作家自身・社会問題・文学批評一般）を考えながら、近代文学研究の具体的な訓練をする。

2. 学びの意義と目標

・「演習Ⅱ」では、研究のための資料探しなど初歩的な取り組みをしたが、ここでは一歩踏み込む研究の方法を習得する。・この段階で自分の研究法を着実に習得し、次に配置される「卒業研究」に向けて各参加者が目差す研究方法によって卒業論文作成ができるようにする。・参加者をグループに分けて、それぞれの作品について次の3つの角度から報告・討議する。（1）作品論—同時代評・先行文献の把握と批評。（2）作家論—作品と漱石の周辺事情の関連確認。（3）我々の鑑賞という角度から作品を把握しながら我々の読みを提示する。・夏目漱石が提示した問題は現代の我々が取り組むべき問題でもある。日本文学学科の学生が漱石文学に触れることは必須の学びであり、大学院に進むとか中高の国語科教員、日本語教員を目差す人には特にそうである。

受講生に対する要望

専門演習は大学生活の華。ここでの取り組みは将来の生き方を左右し、生涯の友人を得られるので、楽しく積極的な対話・討議が求められる。積極的な取り組みを特に望む。

キーワード

(1) 前期三部作 (2) 明治の人間 (3) 漱石の課題 (4) 小説研究の基礎 (5) 自己表現

事前学習（予習）

・積極的な対話・討議によって楽しいゼミにしたいので、毎回十分準備して参加することが必須。・レジュメを作成する際には事前に担当教員の指導・助言をうけること。

復習についての指示

・自分のレポートに対するメンバーの意見や先行文献を再度検討し一歩深めたレポートを重ね、それがまた次の討議の材料になる。

授業計画

1. 導入と演習方法の確認
2. 『三四郎』
3. 同 上
4. 同 上
5. 同 上
6. 『それから』
7. 同 上
8. 同 上
9. 同 上
10. 『門』
11. 同 上
12. 同 上
13. 同 上
14. 同 上
15. まとめ

教科書

夏目漱石 『三四郎』（新潮文庫）夏目漱石 『それから』（新潮文庫）夏目漱石 『門』（新潮文庫）

評価方法

(1) 授業参加態度：40%：レポートと討議、説得力 (2) 小レポート：30%：討議結果の生かし方 (3) 学期末レポート：30%：定期試験に替えるもの

専門演習Ⅱ（歴史・思想①）

JPCL-J-300

担当者：東島 誠

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

古文書・古記録などの「史料」には、いまだ誰も論じていない未発見・未解明の事実が、それこそ無数に埋蔵されている。歴史上の事実を構成していくには、根拠、すなわち「史料」が必要であり、そこから説得力ある議論を導き出すにはどのような手続きが必要なのか、それを実践的に学ぶゼミである。

2. 学びの意義と目標

専門演習Ⅱでは、「史料」をもとに自分で歴史像を描き出す、初めての体験をしてみよう。そのために必要な指導を、初めの第一歩から行なっていきたい。先輩たちが証明してきたように、ゼミとは本来、日々新しい学説が生産される現場である。まずは『緑聖文化』第5・6・7号に公表されている、当ゼミの先輩たちの卒論を読んでみよう。そして、ぜひそれに続いてほしい。

受講生に対する要望

発表準備は、遅くも2週間前には始めること。

キーワード

(1)国史大辞典 (2)日本史大事典 (3)学外図書館の利用 (4)NDL-OPAC (5)cinii

事前学習（予習）

発表の前の週に、発表に使用する基本研究文献をメンバーに配布する。これは、参加者が事前に文献に目を通した上で発表を聞くことで、理解を深め、討論に参加しやすくするためである。

復習についての指示

当ゼミでは、毎回の発表者が作成した配布資料を半年間蓄積すると、極めて分厚いファイルになる。常にファイルを見かえしながら、蓄積型の学びを進めて行ってほしい。

授業計画

1. ガイダンス
2. 図書館オリエンテーション
3. レジューメ作成法～先輩のレジューメに学ぶ
4. 学生による発表
5. 学生による発表
6. 学生による発表
7. 学生による発表
8. 学生による発表
9. 学生による発表
10. 学生による発表
11. 学生による発表
12. 学生による発表
13. 学生による発表
14. 学生による発表
15. 学生による発表

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席、発表、議論への参加:50% (2)学期末レポート:50%

専門演習Ⅱ（歴史・思想②）

JPCL-J-300

担当者：川崎 司

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 内容 「専門演習Ⅱ」の成果を発展させつつ、〈歴史〉から、この世に流れる普遍的な法則をつかみとり、視野の広いしなやかな歴史観を織り込み、新たな〈自分史〉を着実に刻んでいくことを願っている。範囲は原則として「日本近現代史」とするが、〈歴史〉という大きなフィールドの中からテーマを選び、伸び伸びと〈研究〉を楽しんでもらいたい。

2. 学びの意義と目標

密度の濃やかな「発表」「討論」を通し、自らの研究テーマを確定していく。

受講生に対する要望

研究発表は全員必須。守るように。

キーワード

(1) 着実 (2) 誠実 (3) 融和

事前学習（予習）

予め配られた発表者からのレジュメに従って予習をし授業に臨むこと。

復習についての指示

発表者は終了後に、内容を補足してレポートを提出すること。

授業計画

1. …ゼミ生の発表を中心に進める。
2. …ゼミ生の発表を中心に進める。
3. …ゼミ生の発表を中心に進める。
4. …ゼミ生の発表を中心に進める。
5. …ゼミ生の発表を中心に進める。
6. …ゼミ生の発表を中心に進める。
7. …ゼミ生の発表を中心に進める。
8. …ゼミ生の発表を中心に進める。
9. …ゼミ生の発表を中心に進める。
10. …ゼミ生の発表を中心に進める。
11. …ゼミ生の発表を中心に進める。
12. …ゼミ生の発表を中心に進める。
13. …ゼミ生の発表を中心に進める。
14. …ゼミ生の発表を中心に進める。
15. …ゼミ生の発表を中心に進める。

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席状況：33% (2) 発表内容：33% (3) 研究レポート：34%

専門演習Ⅱ（歴史・思想③）

JPCL-J-300

担当者：清水 正之

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

卒業演習にすむ最後のしあげの演習です。各自の問題意識にそった発表形式です。日本の思想に関わるものがテーマですが、生命倫理や、環境倫理を、思想や哲学からといていくこともこのゼミの内容に合致します。

2. 学びの意義と目標

専門的に思想を学び卒業論文・卒業レポートを完成させるための準備をととのえます。思想をまなぶ方法と態度をしっかりとしたものとするを目標としています。

受講生に対する要望

1学期でほぼ2回の発表を行ってもらい、討論します。各自の問題意識をふかめるため、意欲的な参加を望みます。

キーワード

(1)日本の思想 (2)卒業論文 (3)卒業レポート (4)研究法 (5)思想研究有

事前学習（予習）

発表形式のゼミですので、意欲的な参加を希望します。自分の発表についてレジメを作成し、発表前に参加者に配布する。参加者は前もってレジメを読んでおく。

復習についての指示

毎回の発表についての意見を次回までに800字ほどにまとめる。

授業計画

1. はじめに
2. 日本思想の諸問題 1
3. 日本思想の諸問題 2
4. 日本思想の諸問題 3
5. 日本思想の諸問題 4
6. 主題から見た日本の思想 1
7. 主題から見た日本の思想 2
8. 主題から見た日本の思想 3
9. 主題から見た日本の思想 4
10. 日本思想の問題の歴史的位置づけ 1
11. 日本思想の問題と歴史的位置づけ 2
12. 日本思想の問題と歴史的位置づけ 3
13. 日本思想の問題と歴史的位置づけ 4
14. 日本思想の研究法
15. まとめと反省

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席:30% (2)発表:50% (3)期末レポート:20%

専門演習Ⅱ（歴史・思想④）

JPCL-J-300

担当者：村松 晋

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

「歴史・思想（宗教を含む）」の分野から関心のあるテーマを自由に選び（要相談）、広い意味での〈作品〉の読み方・読み抜き方を学ぶ。特定の思想家・宗教家あるいは作家における狭義の〈作品〉を「歴史・思想」の視点から立体的に読み直したいという学生も、もちろん支援する。

2. 学びの意義と目標

「専門演習Ⅱ」での学びをふまえ、テーマ設定の仕方、文献の探し方、さらにその〈読み解き方〉を身につけていくことを目標にする。

受講生に対する要望

〈学び〉を深めるためには〈共に〉学ぶことが不可欠である。豊かで実りある時間を積極的に創り上げようとする姿勢を求めたい。

キーワード

(1) 日本史 (2) 宗教 (3) 思想 (4) 民俗 (5) 芸術

事前学習（予習）

発表者はテーマ設定と参考文献について教員の事前指導を受けること。参加者はレジュメに予め眼を通した上でゼミに参加すること

復習についての指示

事後は討論の結果をふまえ期末レポートを提出すること。なお本ゼミでの「発表」は、このレポート提出をもって初めて完結する。

授業計画

1. はじめに—オリエンテーション—
2. 研究の手立て その1—いかにテーマを絞るか—
3. 研究の手立て その2—何を読んで深めるか—
4. 研究の手立て その3—どうやって伝えるか—
5. 研究発表
6. 研究発表
7. 研究発表
8. 研究発表
9. 研究発表
10. 研究発表
11. 研究発表
12. 研究発表
13. 研究発表
14. 研究発表
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 発表内容:50% (2) 授業参加:50%

上記3つを勘案して評価する。なお全授業回数の三分の一以上を欠席した者は授業参加を放棄したと見なす。

専門演習Ⅱ（歴史・思想⑤）

JPCL-J-300

担当者：柳田 洋夫

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

担当者の主たる研究対象は明治期以降の日本のキリスト教であるが、そもそも日本人の生き方あり方をテキストに即して探求する「日本倫理思想史」の学びを志してきた。よって、＜日本人の心の歴史＞に関わることならば、時代・ジャンルを問わず、受講者の希望も鑑みて一緒に勉強していきたい。専門演習Ⅰの学びをふまえつつ、共通のテキストと一緒に読み進めながら、各自が探求すべきテーマを考えていきたい。

2. 学びの意義と目標

専門演習Ⅰの学びをふまえつつ、さらなるテキストの読解力また考察力を養うとともに、発表や討論を通して日本の思想や精神について、キリスト教というグローバルな視点も援用しつつ、より深く理解することを目指す。

受講生に対する要望

自分なりの目的意識をもって真剣に臨んでほしい。また、発表や討論に積極的に参加し、質問なども遠慮せずにしてほしい。

キーワード

(1)日本の思想 (2)日本人の生き方・あり方 (3)キリスト教と日本人

事前学習（予習）

授業においてその都度指示する。

復習についての指示

授業においてその都度指示する。

授業計画

1. ガイダンス
2. 発表と討議
3. 発表と討議
4. 発表と討議
5. 発表と討議
6. 発表と討議
7. 発表と討議
8. 発表と討議
9. 発表と討議
10. 発表と討議
11. 発表と討議
12. 発表と討議
13. 発表と討議
14. 発表と討議
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:40% (2)発表と討議への参加度と内容:40% (3)レポート:20%

担当者：村松 晋

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

国際理解力：日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

「日本文化」とは何だろうか。「日本」にしかない文化」というものは存在するのだろうか。否、そもそも「『日本文化』とは何か」を問い、それを探り当てようとする試みに、積極的な意義はあるのだろうか。本講義では、私たちの身の回りに息づく諸文化を、世界史的な文脈をも考慮しつつ、多角的かつ重層的な観点から問い質すことにより、上記の問いかけに対する一つの場を提示することを目的としている。

2. 学びの意義と目標

「日本」「日本文化」「日本人」等々を問い質すための、具体的な場を獲得すること。「小さきもの」「名も無きもの」が奏でる〈文化〉に眼を向け、「ヒーロー」でなく「敗者」の哀歎にこそ耳を傾けられるようになってほしい。

受講生に対する要望

入門科目として、1・2年次（なるべく1年次）の受講が望ましい

キーワード

(1) 日本文化 (2) 日本史 (3) 宗教 (4) 民俗 (5) 比較文化

事前学習（予習）

授業計画を参照し、「ライフデザイン」における私の推薦図書に眼を通しておくこと。

復習についての指示

講義後はその日のうちにレジュメを読み直し理解を深め、次回までに前講義の最後で投げかけられた問いを考えてくること

授業計画

1. 何を学ぶか—オリエンテーション—
2. 「日本」を問い直す—「日本史」をめぐる様々なイメージ—
3. アジアのなかの日本その1—竹をめぐる諸文化—
4. アジアのなかの日本その2—『竹取物語』をめぐる文化誌—
5. アジアのなかの日本その3—「竹取の翁」とはどういう人か—
6. 「日本文化史」の陰に その1—差別問題を考える—
7. 「日本文化史」の陰に その2—芸能と差別—
8. 「日本文化」を問う その1—「江戸の歌舞伎」と「明治の歌舞伎」—
9. 「日本文化」を問う その2—創り出された「日本文化」—
10. 「日本文化」を問う その3—「日本語」と軍隊—
11. 文化とは何か その1—生活者の目線から—
12. 文化とは何か その2—欧米人の日本滞在記が問いかける世界—
13. 文化とは何か その3—明日を問うための資料論
14. 残された課題「文化的多元主義」について—
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 試験:100%

期末試験によって評価する。全授業回数の三分の一以上欠席した者には期末試験の受験資格を与えない。遅刻等の扱いは初回の授業で説明する。

卒業研究(近現代文化①) I

JPCL-J-300

担当者：清水 均

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

「物語」分析を中心にゼミでの研究を進める。ただし、「物語」とは「想像力（欲望）」を基底として発生するものであり、それゆえ研究対象は小説、童話、昔話、映画、ドラマ、マンガ、アニメ、ゲームといったジャンルに留まらず、メディア、風俗、流行、スポーツ、お笑い、音楽、ファッション等々、広い範囲に及ぶ。

2. 学びの意義と目標

「文化を考えると世界における自分自身の位置を見定めることである」と論じた批評家がいるが、文化を研究することは、何らかの意味で「自分自身への問いかけ」をすることでもある。そして、自分自身が常に変化し更新し続けるものであるとすれば、文化もまた我々の新たな体験として捉え直され続けることとなる。その意味で、研究を通じて、学生個々の発想と感性が試されると同時にそれが生かされることになり、ひいてはそれが大学卒業後の、人生の大いなる糧となるはずである。

受講生に対する要望

この段階では研究テーマを明確にし、卒業論文への可能性を見定めてほしい。

キーワード

(1)現代文化 (2)想像力 (3)物語 (4)サブカルチャー (5)ポップカルチャー

事前学習（予習）

自らの発表の準備は当然「間に合わせ」では充実した発表には繋がらない。持続的な準備の経過を「研究ノート」に記述することを求める。

復習についての指示

各授業時における発表に対して、感想・見解・質問を「発表シート」に記述し、毎授業時に提出する。

授業計画

1. ガイダンス
2. プレゼンテーション:各自の研究段階を確認する
3. プレゼンテーション:各自の研究段階を確認する
4. プレゼンテーション:各自の研究段階を確認する
5. 研究発表
6. 研究発表
7. 研究発表
8. 研究発表
9. 研究発表
10. 研究発表
11. 研究発表
12. 研究発表
13. 研究発表
14. 研究発表
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:50% (2)最終レポート:30% (3)研究ノート:10% (4)発表シート:10%

卒業研究(近現代文化①)Ⅱ

JPCL-J-400

担当者：清水 均

開設期：秋学期/春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

「卒業研究Ⅰ」の継続、発展を図る。大学での専門的な研究の総仕上げとしてレポート30枚（原稿用紙換算）以上を執筆することを課す。卒業論文を執筆する者はそのベースを作り上げることにあり、それ以外の者にとっては研究の「証」を得ることになる。

2. 学びの意義と目標

このゼミで「卒業研究Ⅱ」を履修し終えるということは、卒業後の人生において、時代や社会を眼差す力を獲得することになるはずである。

受講生に対する要望

自らがこの大学を卒業することの意味の一端を、研究の仕上げを成し遂げることで明確に意識してほしい。

キーワード

(1)現代文化 (2)想像力 (3)物語 (4)サブカルチャー (5)ポップカルチャー

事前学習（予習）

基本的に卒業論文の執筆を目標に、持続的な研究を進めてもらう。その証として「研究ノート」を作成してもらうことになる。

復習についての指示

各授業時における発表に対して、感想・見解・質問を「発表シート」に記述し、毎授業時に提出する。

授業計画

1. ガイダンス
2. 研究発表 1
3. 研究発表 1
4. 研究発表 1
5. 研究発表 1
6. 研究発表 1
7. 研究発表 1
8. 研究発表 2
9. 研究発表 2
10. 研究発表 2
11. 研究発表 2
12. 研究発表 2
13. 研究発表 2
14. まとめ 1
15. まとめ 2

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:40% (2)最終レポート:40% (3)研究ノート:10% (4)発表シート:10%

卒業研究(近現代文化②) I

JPCL-J-300

担当者：熊谷 芳郎

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

各自が関心のあるテーマの先行研究論文を実際に読み解き、その内容を参加者に紹介するとともに、自分なりの解釈と見解を述べることによって、参加者全体でディスカッションを行う。中には、まだ自分の問題が明確になっていない場合もあるであろうが、ともに実践記録や論文を読み進めることによって、自分の取り組むべき課題を発見していくことを目指す。

2. 学びの意義と目標

目の前の出来事の背後にどのような思想が横たわっているのか、それを見抜く目を養ってほしい。そのような体験を通じて、文化研究の基本的な研究姿勢を学び取ることにつながるであろう。

受講生に対する要望

演習Ⅱでつけた研究課題を少しずつ深めるつもりで臨んでほしい。

キーワード

(1) 各自の研究課題 (2) 先行研究 (3) 発表 (4) 研究討議 (5) 研究の深化

事前学習（予習）

自分の選んだテーマについてほぼ1ヶ月に1回程度の資料報告をしてほしい。そのため、発表に合わせたペースで論文を読み解いてもらう。

復習についての指示

研究討議を踏まえて、次の発表までに発表内容を整理しなおす。

授業計画

1. 文化を研究することの意味について講義と、討議。
2. 図書館ガイダンス
3. 各自の研究テーマに関する発表・討議 1。
4. 各自の研究テーマに関する発表・討議 2。
5. 各自の研究テーマに関する発表・討議 3。
6. 各自の研究テーマに関する発表・討議 4。
7. 各自の研究テーマに関する発表・討議 5。
8. 各自の研究テーマに関する発表・討議 6。
9. 各自の研究テーマに関する発表・討議 7。
10. 各自の研究テーマに関する発表・討議 8。
11. 各自の研究テーマに関する発表・討議 9。
12. 各自の研究テーマに関する発表・討議 10。
13. 各自の研究テーマに関する発表・討議 11。
14. ゼミ研究発表会準備・運営
15. 各自の研究テーマに関する発表・討議 12。

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 課題に関する発表：50% (2) 研究討議への参加状況：30% (3) 最終レポート：20%

担当者：熊谷 芳郎

開設期：秋学期/春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

各自が関心のあるテーマの先行研究論文を実際に読み解き、その内容を参加者に紹介するとともに、自分なりの解釈と見解を述べることによって、参加者全体でディスカッションを行う。中には、まだ自分の問題が明確になっていない場合もあるであろうが、ともに実践記録や論文を読み進めることによって、自分の取り組むべき課題を発見していくことを目指す。最終的に学びの総括として研究発表会での発表、および最終レポートの完成につなげる。

2. 学びの意義と目標

目の前の出来事の背後にどのような思想が横たわっているのか、それを見抜く目を養ってほしい。そのような体験を通じて、文化研究の基本的な研究姿勢を学び取ることにつながるであろう。

受講生に対する要望

研究課題を少しずつ深めていく意識を持ち続けてほしい。

キーワード

(1) 各自の研究課題 (2) 発表 (3) 研究討議 (4) 研究の深化 (5) 研究発表会

事前学習（予習）

1ヶ月に1回のペースで研究発表を行えるよう、自分の課題に関する先行研究論文を読んでいく。

復習についての指示

研究討議の内容を踏まえてまとめなおすとともに、これまでの発表内容と結合させていく。

授業計画

1. 研究を体系化することについて講義
2. 各自の研究テーマに関する発表・討議
3. 各自の研究テーマに関する発表・討議
4. 各自の研究テーマに関する発表・討議
5. 各自の研究テーマに関する発表・討議
6. 各自の研究テーマに関する発表・討議
7. 各自の研究テーマに関する発表・討議
8. 各自の研究テーマに関する発表・討議
9. 各自の研究テーマに関する発表・討議
10. 各自の研究テーマに関する発表・討議
11. 各自の研究テーマに関する発表・討議
12. 各自の研究テーマに関する発表・討議
13. 各自の研究テーマに関する発表・討議
14. 研究発表会での研究発表
15. 「学び」の総括、および卒業論文に向けての留意事項の確認。

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 授業での発表:30% (2) 研究討議への参加状況:20% (3) 研究発表会での発表:20% (4) 最終レポート:30%

卒業研究(近現代文学①) I

JPCL-J-300

担当者：黒木 章

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

漱石と鴎外の文学を中心に1910（明治43）年問題を考える。専門演習に続き本格的な文学研究に取り組むために配置される科目である。1910年は大逆事件・日韓併合など日本近代史の上でも重要な出来事があり、近代文学史の上でも自然主義に抗して耽美派（谷崎や荷風）や白樺派（武者小路や志賀）が登場するなど重要な展開がみられる。ここでは漱石と鴎外の幾つかの小説類を比較しながら読み、この年の前後に発表された重要な文学評論等を重ねて文学と社会の問題を考える。

2. 学びの意義と目標

2010年は大逆事件や日韓併合100年の年として記憶されなければならない。日韓両国でもさまざまな記念行事がありその後も領土問題や戦時中の慰安婦問題が強く提起されて片づく兆しもみえない。大逆事件と日韓併合のことに深く関わった森鴎外のように漱石はどのような態度をとっているかを細かく検証することによって日本近代とは何だったのか、文学者（知識人）の責任とは何なのか、時代状況を確認しながら考える。

受講生に対する要望

日本の近代とは何なのかを問うことになるので、多角的で鋭い考察力を求められるが、絶対面白いはずである。積極的参加を望む。

キーワード

(1) 1910年問題 (2) 大逆事件 (3) 官吏と文学者 (4) 漱石と?外の文学 (5) 「時代閉塞の現状」

事前学習（予習）

・演習は配布プリントと参加者の発表で展開するので、歴史と文学・社会と文学という基本的な問題に研ぎ澄まされたセンスと主体的で意識的な取り組みが必要である。

復習についての指示

・各回とも相互討議が柱になる。自分の発言と参加者の発言とのを踏まえて、次の発言に生かさなければならない。

授業計画

1. 導入。問題の提起「1910年問題とは何か」。
2. 1910年の日本の文学と社会について
3. 1910年前後の漱石と?外
4. 同 上
5. 同 上
6. 鴎外と二つの出来事
7. 鴎外の作品『あそび』『沈黙の塔』その他の読解
8. 同 上
9. 同 上
10. 漱石の作品と評論読解
11. 同 上
12. 同 上
13. 谷崎・荷風・武者小路・志賀・啄木登場の意味
14. 同 上
15. 同 上

教科書

授業の中で指示する
参考文献等は適宜授業の中で紹介する。

評価方法

(1) 授業参加態度:40% (2) 小レポート:30%:2回 (3) 学期末レポート:30%

卒業研究(近現代文学①)Ⅱ

JPCL-J-400

担当者：黒木 章

開設期：秋学期/春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

担当者が始めの3回程度を使って森鷗外研究の例を示す。その後参加者が各自の取り組みを報告し、それをめぐって討議することを繰返す。参加者は学期中に何度か発表・報告をする。

2. 学びの意義と目標

参加者が任意に取組む作品や作家の問題をそれぞれに提示し、それをもとに相互討議を行うことで問題や考察の深化を目差す。これによって参加者が研究方法を身につけて卒業論文が作成できるようにする。

受講生に対する要望

大学生活の集大成としての卒業論文の作成はその後の生き方に重要な意味を持つ。この演習の発表と相互の討議は自分の課題の発見、自分の長所・短所の確認に役立つ。いわば学問研究という方法による自立のための基礎作りになるので、誠実な取り組みが求められる。

キーワード

(1) 文学研究とはどういうことか (2) 自己確認 (3) 主体と課題 (4) 表現力 (5) 喜び

事前学習（予習）

・報告・発表ではレジュメ等の印刷物を作り事前に参加者全員に配布しなければならない。もちろん、レジュメ等を作成する際には内容や問題点について担当者の指導を受けなければならない。

復習についての指示

・自分の報告・発表と参加者の意見をもとに討議されたことをうけて、さらに整理・深化させた報告・発表を繰返すので、復習は必須である。

授業計画

1. 担当者による森鷗外研究の例示
2. 同 上
3. 同 上
4. 参加者の発表と討議
5. 同 上
6. 同 上
7. 同 上
8. 同 上
9. 同 上
10. 同 上
11. 同 上
12. 同 上
13. 同 上
14. 同 上
15. 講評とまとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 授業参加態度:30%:発表と討議
- (2) 小レポート:30%:点検・整理
- (3) 学期末レポート:40%

卒業研究(言語①) I

JPCL-J-300

担当者：小林 茂之

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

日本と同じように、大陸から離れて独自の文化的発達を遂げてきた英国の言語文化史を日本との比較的观点から言語史研究的価値を見直し、シェイクスピア、チョーサー、ベオウルフなどの日本でも翻訳を通じて知られている作品から選んで、翻訳で内容を補いながら、原典を部分的に読んでみる。また、担当者による報告、討議を行う。

2. 学びの意義と目標

言語史研究を行う上で、テキストの作品的価値を知ることは人文学的に重要な意義がある。いくつかの初期英語のテキスト講読の導入し、テキスト・言語の基本的な特徴を知る。さらに、卒業レポート、卒業論文の作成に向けて研究の方向性を確定する。

受講生に対する要望

日本語学概論・言語文化論・言語学特殊講義の未履修者は、春学期と秋学期にそれらを履修する。

キーワード

(1)言語史 (2)言語文化論 (3)シェイクスピア (4)チョーサー (5)ベオウルフ

事前学習（予習）

授業の進行に合わせて、教科書を読んでくる。なお、教科書は入手が困難な場合、コピーを配布する。

復習についての指示

関連書を読み、内容を確認したり、知識を広げる。

授業計画

1. 第1章（教科書）
2. 第2章（教科書）
3. 第3章（教科書）
4. 第4章（教科書）
5. 第5章（教科書）
6. 第7章（教科書）
7. 第8章（教科書）
8. 第9章（教科書）
9. テキスト演習
10. テキスト演習
11. テキスト演習
12. テキスト演習
13. テキスト演習
14. テキスト演習
15. テキスト演習

教科書

武内信一 『英語文化史を知るための15章』（研究社）

評価方法

(1)出席:40% (2)授業参加:20%:担当箇所や初歩的なテキストの演習を (3)期末レポート:40%
報告・討議は、授業参加度として評価する。

担当者：小林 茂之

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

担当者による教科書の分担部分の報告の後、参加者全員で検討する。さらに、比較統語論・通時統語論におけるパラメータの中で、最近研究が進められてきた空主語パラメータに関する論文などを講読し、討議する。

2. 学びの意義と目標

日本語の言語現象を英語と比較し、比較統語論の基礎を学び、その発展として空主語パラメータに関する現在までの研究の流れと最新の研究成果を学び、具体的統語現象について分析する基礎を養う。さらに、卒業レポート、卒業論文に向けて、基礎的な研究技能を身に付ける

受講生に対する要望

日本語学概説・言語文化論の未履修者は、春学期にそれらを履修する。また、受講者は言語学特殊講義も履修することで、データを解析する技能も修得することが望ましい。

キーワード

(1)空主語 (2)パラメータ (3)虚辞 (4)空代名詞 (5)コーパス

事前学習（予習）

指定された教科書以外に、資料を配布するので、授業の進行に合わせて読んでくる。

復習についての指示

論文を理解するための関連解説書を読み、データを集めるなど、自発的な研究活動を行う。

授業計画

1. 導入
2. 教科書講読・演習
3. 教科書講読・演習
4. 教科書講読・演習
5. 教科書講読・演習
6. 教科書講読・演習
7. 教科書講読・演習
8. 教科書講読・演習
9. 教科書講読・演習
10. 論文講読・演習
11. 論文講読・演習
12. 論文講読・演習
13. 論文講読・演習
14. 論文講読・演習
15. 予備日

教科書

アンドリュース・ラドフォード『[新版]入門ミニマリスト統語論』（研究社）Ian Roberts『Diachronic Syntax』（Oxford University Press）

評価方法

- (1)出席:40% (2)授業参加度:20% (3)期末レポート:40%

報告・討議は、授業参加度として評価する。

卒業研究(言語②) I

JPCL-J-300

担当者：川口 さち子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

敬語・文法・語彙・アクセントなどを含む現代語のゆれ、日本語と外国語との比較対照などを扱う。テーマを各自決めて、実例を採取・分析し、発表・質疑応答を行う。分析する資料は、テレビ番組、雑誌、新聞、小説、アンケート調査、インタビューなど自由に選ぶこととする。専門演習Ⅰのゼミとの合同授業を行う。

2. 学びの意義と目標

・卒業研究Ⅱに結びつくように自分のテーマを見つけ、更に深めていくこと。・課題を与えられてレポートを書くという形式ではなく、自分のテーマをみつけて、地道に研究していくという姿勢を身につけること。

受講生に対する要望

発表があたっているものは、無断欠席をしないこと。止むを得ず、欠席するときは、前もって連絡すること。

キーワード

(1) 言語分析 (2) 実例やデータの収集と分析 (3) 調査 (4) 研究とは (5) 参考文献

事前学習（予習）

休まないこと。発表の際は、文献に十分あたり、レジュメを準備する。課題の提出物は必ず出す。発表があたっているものは、無断欠席をしない。止むを得ず、欠席するときは、前もって連絡すること。

復習についての指示

ほかの発表者の発表を見て学び、自分の研究にも取り入れること。

授業計画

1. 各自の前学期の研究テーマ・論文の取り組み方について
2. 各自の前学期の研究テーマ・論文の取り組み方について
3. 各自の今期のテーマ発表（1）
4. 各自の今期のテーマ発表（2）
5. 先行研究調べ
6. 先行研究発表
7. 中間発表（1）・文献講読
8. 中間発表（2）・文献講読
9. 中間発表（3）・文献講読
10. 文献講読
11. 文献講読
12. 文献講読
13. 最終発表1
14. 最終発表2
15. 最終発表3・最終レポート提出

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 調査・発表レポートの内容:60% (2) 討論への参加度:20% (3) 出席状況:20%

卒業研究(言語②)Ⅱ

JPCL-J-400

担当者：川口 さち子

開設期：秋学期/春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

「卒業研究I」に引き続き、敬語・文法・語彙・アクセントなどを含み現代語のゆれ、日本語と外国語との比較対照などを扱う。テーマを各自決めて、実例を採取・分析し、発表・質疑応答を行う。分析する資料は、テレビ番組、雑誌、新聞、小説、アンケート調査、インタビューなど自由に選ぶこととする。

2. 学びの意義と目標

「卒業研究I」で扱ったテーマを各自深め、ある程度まとまった論文を書き、卒業レポートおよび卒業論文へのステップとなるようにしたい。

受講生に対する要望

発表が当たっているものは無断欠席しないこと。やむを得ず、欠席する場合は、前もって連絡すること。次の卒業レポートとしてまとめられるようにテーマは確定しておくこと。

キーワード

(1) 論文とは (2) 言語分析 (3) 調査 (4) データ収集と分析 (5) 研究

事前学習（予習）

休まないこと。発表の際は、文献に十分あたり、レジュメを準備する。課題の提出物は必ず出す。発表が当たっているものは、無断欠席をしない。止むを得ず、欠席するときは、前もって連絡すること。講読している文献は前もって目を通して置く。特に留学生の場合は、読み方を調べておくこと。

復習についての指示

ほかの発表者の発表から学び、自分の研究・分析に反映させる。

授業計画

1. 前学期の各自のレポート内容紹介
2. 今学期の各自の研究計画発表 1
3. 今学期の各自の研究計画発表 2
4. 今学期の各自の研究計画発表 3
5. 先行研究調べ
6. 先行研究調べ
7. 文献購読
8. 中間発表 1
9. 中間発表 2
10. 中間発表 3
11. 文献購読
12. 文献購読
13. 最終発表 1
14. 最終発表 2
15. 最終発表 3・最終レポート提出

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 調査発表・最終レポートの内容:60% (2) 討論への参加度:20%
(3) 出席状況:20%

卒業研究(言語③) I

JPCL-J-300

担当者：黒崎 佐仁子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

自らの疑問点を明確にし、調査計画を立て、調査を実施し、その結果から根拠を求める練習をする。

2. 学びの意義と目標

卒業研究IIに結びつくテーマを見つけること、更に、どのような資料で根拠を求めるかを各自で考えていく。

受講生に対する要望

自主的に、そして能動的に取り組んでもらいたい。

キーワード

(1)卒業論文 (2)研究 (3)ディスカッション (4)発表 (5)まとめ

事前学習（予習）

発表前には十分な準備をすること。

復習についての指示

発表後に、振り返り小レポートを提出すること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 興味・関心を考える
3. 参考文献の発表
4. 参考文献の発表
5. 参考文献の発表
6. テーマ発表（1）
7. テーマ発表（2）
8. テーマ発表（3）
9. 発表（1）
10. 発表（2）
11. 発表（3）
12. 発表（4）
13. 発表（5）
14. 発表（6）
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席:25% (2)発表:25% (3)提出物:20% (4)最終レポート:20%
(5)参加態度:10%

担当者：黒崎 佐仁子

開設期：秋学期/春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

卒業論文を執筆することを目標に、自らの興味を明確にし、研究の目的、資料、データ、論拠の求め方を学ぶ。

2. 学びの意義と目標

論拠とオリジナリティという二つを満たす研究を行うことを目標とする。

受講生に対する要望

最後まで諦めずに頑張ってもらいたい。

キーワード

(1)卒業論文 (2)発表 (3)ディスカッション (4)論拠 (5)表現力

事前学習（予習）

発表の為に、十分な準備をしてくること。

復習についての指示

発表後は、振り返り小レポートを提出すること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 発表（1）（2）
3. 発表（3）（4）
4. 発表（5）（6）
5. 論文の書き方
6. 論文の書き方
7. 発表（1）（2）
8. 発表（3）（4）
9. 発表（5）（6）
10. 発表まとめ（1）
11. 発表まとめ（2）
12. 発表まとめ（3）
13. 発表まとめ（4）
14. 発表まとめ（5）
15. 発表まとめ（6）

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席:20% (2)発表:30% (3)提出物:10% (4)最終レポート:30%
(5)参加態度:10%

卒業研究(思想①) I

JPCL-J-300

担当者：清水 正之

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

各自が、卒業研究にむけて、日本の思想、文化に関わる諸問題から、各自がテーマを設定できるよう、発表と討論を中心にすすめます。またテーマに沿った参考資料の探し方、その扱い方を、学んでいきます。

2. 学びの意義と目標

卒業論文、卒業レポートの完成をめざして、各自の調べ考察する対象の理解と、研究法を学び身につける。

受講生に対する要望

大学生活の成果となるような卒業研究の形を学び、準備するものです。意欲的な参加を望みます。

キーワード

(1) 日本の思想 (2) 卒業論文 (3) 卒業レポート (4) 研究方法

事前学習（予習）

意欲的に参加・出席し、発表の技法や態度を学んでください。各回の発表者の予告につき前もって考え、各回とも次回までに800字ほどの意見、感想をまとめておく。

復習についての指示

発表者は、討論を経て修正したレジメを再提出する。参加者は、発表についての見解を800字程度にまとめて翌週提出すること。

授業計画

1. はじめに
2. 卒業研究の課題のたてかた 1
3. 卒業研究の課題のたてかた 2
4. 思想関係資料の調べ方 1
5. 思想関係資料の調べ方 2
6. 思想関係資料の調べ方 3
7. 課題発表の実際 1
8. 課題発表の実際 2
9. 課題発表の実際 3
10. 課題発表の実際 4
11. 課題の発展 1
12. 課題の発展 2
13. 課題の発展 3
14. 課題の発展 4
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席:30% (2) 発表:40% (3) 期末レポート:30%

卒業研究(思想①)Ⅱ

JPCL-J-400

担当者：清水 正之

開設期：秋学期/春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

思想をテーマに卒業研究をまとめる学生のための演習形式の授業です。各自の問題関心に沿った発表と、それに対する参加者の意見発表や討論を中心にすすめます。

2. 学びの意義と目標

卒業研究を仕上げるための準備的な位置づけの授業です。卒業研究を仕上げ、自己表現を完全にちかづけるための目標設定、方法、態度、論理構成などを学びます。

受講生に対する要望

意欲的な参加を望みます。

キーワード

(1)日本の思想 (2)卒業論文 (3)卒業レポート (4)研究方法

事前学習（予習）

卒業研究は文章と思考による自己表現の一つです。積極的に授業参加して下さい。ほぼ毎回各自の発表レジメ(A4 二枚程度)を作成しておく。

復習についての指示

発表者は、討論を経て修正した発表のレジメを次回までに守成して再提出。参加者は800字ほどの発表への意見を纏めたものを提出する。

授業計画

1. はじめに ー卒業研究の意義
2. 問題の設定 1
3. 問題の設定 2
4. 問題の設定 3
5. 問題の設定の再考と補完史料の充実
6. 問題の展開 1
7. 問題の展開 2
8. 問題の展開 3
9. 問題展開と論理構成
10. 論理構成の検討 1
11. 論理構成の検討 2
12. 論理構成の検討 3
13. 資料の再検討 1
14. 資料の再検討 2
15. まとめ ー卒業研究の完成をめざして

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席:30% (2)発表:40% (3)レポート:30%

卒業研究(思想②) I

JPCL-J-300

担当者：村松 晋

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

参加者各自が、専門演習II（思想②）で取り組んだテーマを発展させることを目的とする。対象領域も専門演習IIのそれに準ずる。

2. 学びの意義と目標

卒業研究Ⅱ、さらには卒業論文につなげ得る成果を手にすること。

受講生に対する要望

〈進路〉を含め、「いかに生きるか」を自問しながら研究計画を立案してほしい。

キーワード

(1) 日本史 (2) 宗教 (3) 思想 (4) 民俗 (5) 芸術

事前学習（予習）

発表者はテーマ設定と参考文献について教員の事前指導を受けること。参加者はレジュメに予め眼を通した上でゼミに参加すること。

復習についての指示

事後は討論の結果をふまえて期末レポートを提出すること。なお本ゼミでの「発表」は、このレポート提出をもって初めて完結する。

授業計画

1. はじめに—オリエンテーション—
2. 研究の手立て その1—専門演習から卒業研究へ—
3. 研究の手立て その2—自分を見つめるということ—
4. 研究の手立て その3—真の自分のテーマを発見する—
5. 研究発表
6. 研究発表
7. 研究発表
8. 研究発表
9. 研究発表
10. 研究発表
11. 研究発表
12. 研究発表
13. 研究発表
14. 研究発表
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 発表内容:50% (2) 授業参加:50%

上記を勘案して評価する。なお全授業回数の三分の一以上を欠席した者は、授業参加を放棄したと見なす。

卒業研究(思想②)Ⅱ

JPCL-J-400

担当者：村松 晋

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

最終学年の最後のゼミとして、名実ともに大学生活を総括する学びの場である。一人でも多くの人に、卒業論文を書いてほしいと希っている。

2. 学びの意義と目標

上記に尽きている。本学で学んでよかったと思えるような学びの集大成を、ゼミ生どうして共有したい。

受講生に対する要望

できる限り卒業論文に挑戦してほしい。

キーワード

(1)日本史 (2)宗教 (3)思想 (4)民俗 (5)芸術

事前学習（予習）

発表者はテーマ設定と参考文献について教員の事前指導を受けること。参加者はレジュメに予め眼を通した上でゼミに参加すること。

復習についての指示

事後は討論の結果をふまえ期末レポートを提出すること。

授業計画

1. はじめに—大学生活を総括するために—
2. 卒業論文とは何か その1
3. 卒業論文とは何か その2
4. 研究発表
5. 研究発表
6. 研究発表
7. 研究発表
8. 研究発表
9. 研究発表
10. 研究発表
11. 研究発表
12. 研究発表
13. 研究発表
14. 研究発表
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)発表内容:50% (2)授業参加:50%

上記を勘案して評価する。全授業数の三分の一以上を欠席した者は、授業参加を放棄したとみなす。

卒業研究(思想③) I

JPCL-J-300

担当者：柳田 洋夫

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

担当者の主たる研究対象は明治期以降の日本のキリスト教であるが、そもそもは日本人の生き方あり方をテキストに即して探求する「日本倫理思想史」の学びを志してきた。よって、＜日本人の心の歴史＞に関わることならば、時代・ジャンルを問わず、一緒に勉強していきたい。

2. 学びの意義と目標

専門演習での学びをふまえつつ、それぞれのテーマのまとめに取りかかるための準備をする。テキストの読解力を養うとともに、発表や討論を通して日本の思想や精神をより深く理解する。さらに、これまで学んだこと、考えたことをしっかりとしたかたちにまとめることができるようになることを目指す。

受講生に対する要望

自分なりの目的意識をもって真剣に臨んでほしい。また、発表や討論に積極的に参加し、質問なども遠慮せずにしてほしい。

キーワード

(1)日本の思想 (2)日本人の生き方・あり方 (3)キリスト教と日本人

事前学習（予習）

授業においてその都度指示する。

復習についての指示

授業においてその都度指示する。

授業計画

1. ガイダンス
2. 発表と討議
3. 発表と討議
4. 発表と討議
5. 発表と討議
6. 発表と討議
7. 発表と討議
8. 発表と討議
9. 発表と討議
10. 発表と討議
11. 発表と討議
12. 発表と討議
13. 発表と討議
14. 発表と討議
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:40% (2)発表と討議への参加度と内容:40% (3)レポート:20%

担当者：柳田 洋夫

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

担当者の主たる研究対象は明治期以降の日本のキリスト教であるが、そもそもは日本人の生き方あり方をテキストに即して探求する「日本倫理思想史」の学びを志してきた。よって、＜日本人の心の歴史＞に関わることならば、時代・ジャンルを問わず、一緒に勉強していきたい。

2. 学びの意義と目標

卒業研究Ⅰでの学びをふまえつつ、それぞれのテーマの最終的まとめに向けて準備する。これまで学んだこと、考えたことをしっかりとしたかたちにまとめることができるようになることを目指す。

受講生に対する要望

自分なりの目的意識をもって真剣に臨んでほしい。また、発表や討議に積極的に参加し、質問なども遠慮せずにしてほしい。

キーワード

(1)日本の思想 (2)日本人の生き方・あり方 (3)キリスト教と日本人

事前学習（予習）

授業においてその都度指示する。

復習についての指示

授業においてその都度指示する。

授業計画

1. 導入
2. 発表と討議
3. 発表と討議
4. 発表と討議
5. 発表と討議
6. 発表と討議
7. 発表と討議
8. 発表と討議
9. 発表と討議
10. 発表と討議
11. 発表と討議
12. 発表と討議
13. 発表と討議
14. 発表と討議
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:40% (2)発表と討議への参加度と内容:40% (3)レポート:20%

卒業研究(日本文化)Ⅱ

JPCL-J-400

担当者：小林 茂之

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

『菊と刀』はアメリカの文化人類学者ルース・ベネディクトによって書かれた名著である。この演習では、抄訳版を読んで、ルースの捉えた日本文化を理解するキーワードについて意見を交わす。担当者を決める場合がある。また、参加者が自発的な研究発表を行う。

2. 学びの意義と目標

日本文化の理解のキーワードを検討することを通して、日本文化に対する客観的な理解を深める。また、発表・討論を通して、人文学的研究態度を身に付ける。

受講生に対する要望

身の回りの文化を発見する姿勢と洞察力を磨くよう心掛ける。

キーワード

(1) 日本文化 (2) 思 (3) 義理 (4) 人情 (5) 徳

事前学習（予習）

内容を把握して演習に参加する。

復習についての指示

関連書を読み、思考を深める。

授業計画

1. 導入
2. Ch. 1
3. Ch. 2
4. Ch. 3
5. Ch. 4
6. Ch. 5
7. Ch. 6
8. Ch. 7
9. Ch. 8
10. Ch. 9
11. Ch. 10
12. Ch. 11
13. Ch. 12
14. Ch. 13
15. 研究発表

教科書

ルース・ベネディクト 『菊と刀』（IBCパブリッシング）

評価方法

(1) 出席：40% (2) 授業参加度：20%：担当箇所への取り組みや応答を含む。 (3) 期末レポート：40%
報告・討議は、授業参加度として評価する。

卒業研究(比較文化 アジア②) I

JPCL-J-300

担当者：濱田 寛

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

日本と中国に関わる「比較文化」「比較文学」を対象とした演習である。また、広く「東アジア」における文化現象の考察も対象とする。上記の条件において、受講生の自由なテーマによる調査・研究発表を行う。演習発表後には成果としてのレポート報告を行う。必要な情報をどのようにして習得すべきか。またその情報をいかに活かすか。そしてそれをいかに提示するべきか。研究発表に不可欠な事項を、各自のテーマを考察する過程を通して学ぶ。

2. 学びの意義と目標

必要な情報をどのようにして習得すべきか。またその情報をいかに活かすか。そしてそれをいかに提示するべきか。研究発表に不可欠な事項を、各自のテーマを考察する過程を通して学ぶ。

受講生に対する要望

「比較」研究を行うためには相当な学習量が必要となる。地道な努力が不可欠であり、それを求めるであろう。果敢な挑戦を期待する。

キーワード

事前学習（予習）

演習発表の事前準備

復習についての指示

学期末レポート作成のための事後調査

授業計画

1. ・ガイダンス
2. ・演習発表準備講義(1)
3. ・演習発表準備講義(2)
4. ・演習発表準備講義(3)
5. ・演習発表(1)
6. ・演習発表(2)
7. ・演習発表(3)
8. ・演習発表(4)
9. ・演習発表(5)
10. ・演習発表(6)
11. ・演習発表(7)
12. ・演習発表(8)
13. ・演習発表(9)
14. ・演習発表(10)
15. 総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 演習発表: 30% (2) 積極性: 20% (3) 学期末レポート: 50%

演習発表は卒業論文執筆を前提として進める。

卒業研究(比較文化 アジア②)Ⅱ

JPCL-J-400

担当者：濱田 寛

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

卒業論文執筆に向けた実践的な指導を行う。授業の形態は「演習発表(個人発表)」が中心となる。問題の所在、調査の方法、結論に到る考察の在り方、等々について詳細な検討を行うため、発表担当者には十全な準備を求めることになる。90分の授業運営については、60分程度の発表、30分程度の質疑応答で構成する。30分に満たない、あるいは準備不足の発表については再度の発表を設定することになる。各自2回の発表担当を目指したい。

2. 学びの意義と目標

卒業研究Ⅰの成果を踏まえて、卒業論文／卒業レポート作成のための継続的な調査・研究・発表のスタイルの確立を目標とする。大学生活最後のゼミとして、「発表」の方法についても徹底的なブラッシュアップを行う。

受講生に対する要望

演習発表は卒業論文執筆を前提として進める。

キーワード

事前学習(予習)

演習発表準備

授業計画

1. ガイダンス
2. 演習発表
3. 演習発表
4. 演習発表
5. 演習発表
6. 演習発表
7. 演習発表
8. 演習発表
9. 演習発表
10. 演習発表
11. 演習発表
12. 演習発表
13. 演習発表
14. 演習発表
15. 総括

教科書

授業の中で指示する

復習についての指示

学期末レポート作成のための事後調査

評価方法

(1) 演習発表:30% (2) 積極性:20% (3) 学期末レポート:50%

演習発表の準備のために放課後の研究室開放日を設定する予定である。また、発表担当以外の学生諸君は演習における積極的な参加によって自分自身の問題意識を磨き上げる場として自覚を促したい。

卒業研究(比較文化 欧米)Ⅱ

JPCL-J-400

担当者：菊池 有希

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

ゼミの最終段階である卒業研究Ⅱにおいては、各自が主体的に選択した論題に取り組んでもらい、一定の結論を導き出してもらうことになる。ゼミは、発表及び討議を通じて、最後に提出してもらう卒業レポート（原稿用紙30枚以上）をブラッシュアップし完成させるためのプロセスとなるであろう。

2. 学びの意義と目標

卒業レポートは、卒業論文を書かない学生にとっては、大学での専門的な学びの一応の集大成として位置づけられるものである。これに真剣に取り組む経験は、大学卒業後の各自の人生において、必ずや何らかのかたちで指針を与えてくれるものとなるはずである。

受講生に対する要望

積極的に学ぶ姿勢を見せてほしい。

キーワード

事前学習（予習）

発表に向けては周知な準備が要求される。

復習についての指示

授業時に指示する。

授業計画

1. ガイダンス
2. 発表及び討議
3. 発表及び討議
4. 発表及び討議
5. 発表及び討議
6. 発表及び討議
7. 発表及び討議
8. 発表及び討議
9. 発表及び討議
10. 発表及び討議
11. 発表及び討議
12. 発表及び討議
13. 発表及び討議
14. 発表及び討議
15. 総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 卒業レポート:50% (2) 発表:25% (3) 授業参加度:25%

卒業研究(歴史①) I

JPCL-J-300

担当者：東島 誠

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

各自が関心のあるテーマの先行研究論文を、複数読み比べることが、一つの基本文献に取り組んできた「専門演習」と、最も異なる点である。複数の論者の〈差異〉を追究することで、必ずや第三の新しい論が立ち現れてくるであろう。それが卒業論文への第一歩である。まだ自分のなかで問題が明確になっていない場合でも、ともに図書館を渉猟することによって、ぜひとも自分の取り組むべきテーマを発見してほしい。

2. 学びの意義と目標

専門演習Ⅱで、実際に「史料」をもとに歴史を考える端緒についたわけだが、つづく卒業研究Ⅰでは、これまでの歴史家がどのように「史料」から歴史を考えてきたか、数多くの論文に触れてほしい。取り組むべきテーマを発見したとき、先人たちはその問題をどのように考えようとしたのか、に学んでほしい。そして、その作業を追体験することを通じて、よりよい問題解決の方法を自ら模索してほしい。

受講生に対する要望

発表準備は、遅くも2週間前には始めること。

キーワード

(1)古文書 (2)古記録 (3)学外図書館の利用 (4)NDL-OPAC (5)cinii

事前学習（予習）

発表の前の週に、発表に使用する基本研究文献をメンバーに配布する。これは、参加者が事前に文献に目を通した上で発表を聞くことで、理解を深め、討論に参加しやすくするためである。

復習についての指示

当ゼミでは、毎回の発表者が作成した配布資料を半年間蓄積すると、極めて分厚いファイルになる。常にファイルを見かえしながら、蓄積型の学びを進めて行ってほしい。

授業計画

1. ガイダンス
2. 先輩の論文を読む
3. レジューメ作成法～先輩のレジューメに学ぶ
4. 学生による発表
5. 学生による発表
6. 学生による発表
7. 学生による発表
8. 学生による発表
9. 学生による発表
10. 学生による発表
11. 学生による発表
12. 学生による発表
13. 学生による発表
14. 学生による発表
15. 学生による発表

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席、発表、議論への参加:50% (2)学期末レポート:50%

卒業研究(歴史①)Ⅱ

JPCL-J-400

担当者：東島 誠

開設期：秋学期/春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

各自の関心に基づく自由発表の指導を通じて、卒業論文を完成させるために必要な調査力・分析力の鍛錬を行なう。議論に参加すること、議論を組み立てていくことの、難しさと楽しさを味わってほしい。4年生はいよいよ卒業論文を書き上げる年次であるが、春学期の段階では、まだテーマを絞り過ぎないほうがよい。幅広い研究文献や史料に触れる豊かな時間としてほしい。

2. 学びの意義と目標

自分の研究を論文にまとめるという作業は、自分の中だけで完結する営みでは決してない。研究論文は、それを読む人があってはじめて研究論文たりうるといってよい。つまり論文とは、パブリックなものなのである。卒業研究Ⅱの演習の場は、自分の主張が、自分とは異なる価値観を持つ他の参加者に届くかどうかを試す、絶好のチャンスである。同じ趣味や関心を持つものにしか通じない、〈隠語〉の世界に閉じこもってはいならない。そのような意味で、この訓練は卒業後、社会に出て役立ててほしい。

受講生に対する要望

発表準備は、遅くも2週間前には始めること。3年生（秋学期）は日本史特殊講義と連携して進めるため、併せて受講すること。

キーワード

(1)古文書 (2)古記録 (3)学外図書館の利用 (4)NDL-OPAC (5)cinii

事前学習（予習）

発表の前の週に、発表に使用する基本研究文献をメンバーに配布する。これは、参加者が事前に文献に目を通した上で発表を聞くことで、理解を深め、議論に参加しやすくするためである。

復習についての指示

当ゼミでは、毎回の発表者が作成した配布資料を半年間蓄積すると、極めて分厚いファイルになる。常にファイルを見かえしながら、蓄積型の学びを進めて行ってほしい。

授業計画

1. ガイダンス
2. 先輩の論文を読む
3. レジューメ作成法～先輩のレジューメに学ぶ
4. 学生による発表
5. 学生による発表
6. 学生による発表
7. 学生による発表
8. 学生による発表
9. 学生による発表
10. 学生による発表
11. 学生による発表
12. 学生による発表
13. 学生による発表
14. 学生による発表
15. 学生による発表

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席、発表、議論への参加:50% (2)学期末レポート:50%

卒業研究(歴史②) I

JPCL-J-300

担当者：川崎 司

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 内容 「専門演習」で身につけた実力を発揮する時がいよいよ来た。たとえテーマを決めかねていても、迷いの歳月は決してむだにはならない。一生懸命求めれば、必ず自分の道が見えてくる。

2. 学びの意義と目標

2. カリキュラム上の位置づけ 「卒業論文」の作成が当面の目標となる。就職など諸活動との調和を計りたい。3・学びの意義と目標 「卒業論文」には相当の時間と集中力を要する。一時も早いスタートを望む。

受講生に対する要望

研究発表は全員必須。守るように。

キーワード

(1) 着実 (2) 誠実 (3) 融和

事前学習（予習）

ゼミ生全員が、質疑応答・討論に積極的に参加する心構えをもって授業に臨むこと。

復習についての指示

発表者は終了後に、内容を補足してレポートを提出すること。

授業計画

1. …「卒業論文」に向けての発表を中心に進める。
2. …「卒業論文」に向けての発表を中心に進める。
3. …「卒業論文」に向けての発表を中心に進める。
4. …「卒業論文」に向けての発表を中心に進める。
5. …「卒業論文」に向けての発表を中心に進める。
6. …「卒業論文」に向けての発表を中心に進める。
7. …「卒業論文」に向けての発表を中心に進める。
8. …「卒業論文」に向けての発表を中心に進める。
9. …「卒業論文」に向けての発表を中心に進める。
10. …「卒業論文」に向けての発表を中心に進める。
11. …「卒業論文」に向けての発表を中心に進める。
12. …「卒業論文」に向けての発表を中心に進める。
13. …「卒業論文」に向けての発表を中心に進める。
14. …「卒業論文」に向けての発表を中心に進める。
15. …「卒業論文」に向けての発表を中心に進める。

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席状況：33% (2) 発表内容：33% (3) 研究レポート：34%

卒業研究(歴史②)Ⅱ

JPCL-J-400

担当者：川崎 司

開設期：秋学期/春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 内容 大学における学びの総仕上げとして、できれば全員が「卒業論文」に挑んでもらいたい。就職活動とは決して行き違うことはない。〈社会〉もあなたが「大学」という恵まれた天地で何を学んできたのか注目している。

2. 学びの意義と目標

2. カリキュラム上の位置づけ 「卒論論文」の作成とは、自分を徹底して見つめる作業だ。その切実な体験があるかどうか。あなたは人生の分岐点にさしかかっている。今こそ未知の世界へと進み出ようではないか。

受講生に対する要望

これまで以上の緊張感をもって発表に臨むこと。

キーワード

(1) 着実 (2) 誠実 (3) 融和

事前学習（予習）

互いに励まし合い、入念な準備をもって授業に臨むこと。

復習についての指示

発表者は終了後に修正を加え、清書して提出すること。

授業計画

1. …「卒業論文」を前提とした発表を中心に進める。
2. …「卒業論文」を前提とした発表を中心に進める。
3. …「卒業論文」を前提とした発表を中心に進める。
4. …「卒業論文」を前提とした発表を中心に進める。
5. …「卒業論文」を前提とした発表を中心に進める。
6. …「卒業論文」を前提とした発表を中心に進める。
7. …「卒業論文」を前提とした発表を中心に進める。
8. …「卒業論文」を前提とした発表を中心に進める。
9. …「卒業論文」を前提とした発表を中心に進める。
10. …「卒業論文」を前提とした発表を中心に進める。
11. …「卒業論文」を前提とした発表を中心に進める。
12. …「卒業論文」を前提とした発表を中心に進める。
13. …「卒業論文」を前提とした発表を中心に進める。
14. …「卒業論文」を前提とした発表を中心に進める。
15. …「卒業論文」を前提とした発表を中心に進める。

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席状況:33% (2) 発表内容:33% (3) 研究レポート:34%

担当者：文 智咲

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

日本語教員養成課程：選択必修科目

講義概要

1. 内容

日本語と外国語、主に韓国語を中心に対照する。音声・文字・語彙・文法・言語行動等について、日本語との類似点、相違点を考えていく。また、その応用として日本語教育にどのように生かしていくかを考察する。

2. 学びの意義と目標

・対照言語学の方法を学ぶ。・外国語と日本語を比べることによって、日本語の特徴を理解する。

受講生に対する要望

韓国語の学習経験は必要としない。

キーワード

(1)対照研究 (2)日本語学 (3)韓国語学 (4)日本語教育

事前学習（予習）

授業計画を参照し、扱われるトピックについて考えてくること。

復習についての指示

配布プリントを再読し、各トピックについて次回までに説明できるようにすること。

授業計画

1. ガイダンス
2. 対照言語学とは
3. 対照言語学の方法
4. 韓国語のしくみ
5. 音声の比較 1
6. 音声の比較 2
7. 文字の比較 1
8. 文字の比較 2
9. 語彙の比較 1
10. 語彙の比較 2
11. 文法の比較 1
12. 文法の比較 2
13. 文法の比較 3
14. 文法の比較 4
15. 文法の比較 5
16. 前半のまとめ
17. 助詞 1
18. 助詞 2
19. 語順 1
20. 語順 2
21. 敬語 1
22. 敬語 2
23. 慣用表現 1
24. 慣用表現 2
25. 言語行動 1
26. 言語行動 2
27. 言語行動 3
28. 対照言語学の応用 1
29. 対照言語学の応用 2
30. 総まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)学期末試験:50% (2)出席:10% (3)授業中の小課題・小テスト:40%

担当者：清水 均

開設期：春学期集中 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

表現力・コミュニケーション力：的確なコミュニケーション能力を育てる

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

いまや世界的な人気を得ている「盆栽」について、これを文化として学び、実践と体験をする講座である。「大宮盆栽美術館」のご協力を得て、様々な専門家による様々な視点から盆栽文化を学ぶことになるが、特にフィールドワークや実際に盆栽に触れるという体験的な内容においては、これまでにない「文化体験」を得ることになるであろう。授業は夏期集中形式で行い、計5～6日の日数で実施する。場所は大学だけでなく、大宮盆栽町で実施する。

2. 学びの意義と目標

現代における大学の存在意義において、「地域における大学の役割」という視点を欠かすことはできない。日本文化学科では「埼玉学」と並び、この講座を設置することでそのような課題に取り組んでいるが、「大宮盆栽美術館」をはじめとする関係の方々による授業を受けることは、受講生が「体験」として「地域」を学ぶことに繋がるものである。望むらくは、その「体験」をいかした形で、「伝統的でもあり国際的でもある盆栽文化」の発信地である大宮盆栽町に深く関与する働き手となる学生となってほしい。

受講生に対する要望

夏休み期間を利用した集中講義形式で行う。ほとんどが大宮盆栽町における授業となり、また、実習も行われるので、交通費、実習費が多少必要となる。受講者には全ての授業に出席することを求めるが、その上で、他では体験できない内容が展開されるので、この機会を十分に利用してもらいたい。

キーワード

(1) 盆栽文化 (2) ローカル（地域） (3) グローバル (4) 体験 (5) 実践

事前学習（予習）

「授業日誌」において「翌日の授業目的」を記述する。

復習についての指示

毎日の授業後に、その日の授業内容についての振り返りを「授業日誌」に記述する。

授業計画

1. ガイダンス
2. I、盆栽村という場①－大宮盆栽美術館見学
3. I、盆栽村という場②－盆栽村の歴史
4. I、盆栽村という場③－盆栽村と周辺フィールドワーク
5. II、盆栽とは何か①－盆栽の種類と樹形
6. II、盆栽とは何か②－盆栽の飾り
7. III、盆栽の歴史と文化①－盆栽の歴史
8. III、盆栽の歴史と文化②－浮世絵と盆栽
9. IV、世界の中の盆栽①－盆栽を世界に広める
10. IV、世界の中の盆栽②－新しい盆栽文化を目指して
11. IV、世界の中の盆栽③－盆栽世界大会に向けての取り組み
12. V、盆栽に触れる・盆栽を育てる①
13. V、盆栽に触れる・盆栽を育てる②
14. V、盆栽に触れる・盆栽を育てる③
15. V、盆栽に触れる・盆栽を育てる④

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1) 授業日誌の作成：50% (2) 最終レポート：50%

中国語コミュニケーション

CCOM-J-100

担当者：閻 子謙

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

国際理解力：日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1、目的 初級の段階を終え、更に一段と上のレベルの中国語を学ぶ学生を対象とする。2、カリキュラム上の位置づけ 発音の正確さ、ピンインのマスターを確認しつつ、積極的に話し、楽しい中国語を味わう中級に相当する科目である。

2. 学びの意義と目標

改革開放政策に転じて以来、中国は大きな変貌を遂げた。市場経済を導入したことによって、社会の構造が激しく変化し、中国人でさえも、暫く中国から離れていて帰国すると、まるで異国へ来たかのような印象を持つと言う。地理的に近く、交流の歴史も長いお隣の国である中国と、そこで暮らす人々の生活習慣、価値観に触れ、最新知識を増やし、更に中国語の力を伸ばすことを目標とする。問答形式を基本スタンスとして、教師と学生の会話や学生同士の練習が主です。耳と口などを駆使する一連の作業を通して基本文型習熟させることが狙いです。形を変えて何回でも繰り返して話すことがポイントです。

受講生に対する要望

間違いを恐れず恥ずかしがらず積極的に授業に参加することが大事です。

キーワード

(1) 四声を意識して発音すること。(2) 発音表に基づいて自己チェックすること。(3) テンポを上げて滑らかに音読すること。

事前学習（予習）

事前に教科書を読んでおくこと

授業計画

1. ガイダンス
2. 発音復習
3. 発音確認テスト
4. 第一課（ポイント）
5. 第一課（トレーニング）
6. 第二課（ポイント）
7. 第二課（トレーニング）
8. 第三課（ポイント）
9. 第三課（トレーニング）
10. 第四課（ポイント）
11. 第四課（トレーニング）
12. 第五課（ポイント）
13. 第五課（トレーニング）
14. 読解確認テスト
15. 第六課（ポイント）
16. 第六課（トレーニング）
17. 第七課（ポイント）
18. 第七課（トレーニング）
19. 第八課（ポイント）
20. 第八課（トレーニング）
21. 第九課（ポイント）
22. 第九課（トレーニング）
23. 第十課（ポイント）
24. 第十課（トレーニング）
25. 第十一課（ポイント）
26. 第十一課（トレーニング）
27. 第十二課（ポイント）
28. 第十二課（トレーニング）
29. 中国語作文演習
30. 総合応用練習

教科書

授業の中で指示する

復習についての指示

前回の授業内容をおさらいすること。

評価方法

(1) 出席状況：20% (2) 受講態度：40% (3) 定期試験：40%

担当者：福田 素子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

国際理解力：日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

授業内容：中国語文法初級の学習を継続しながら、中国の時事問題に関する簡単な文章を読み、それらのトピックについて中国語で語り合う。加えて、雑誌や映画などに触れて、生の中国語に触れる機会も持つ。

2. 学びの意義と目標

聞く・話す能力はもちろんのこと、中国語話者のものの考え方、コミュニケーションをとる時に留意する点についても身につけていきたい。

受講生に対する要望

この授業は、中国語初級Ⅰまたは初級Ⅱまでを履修した者を対象とする。中日辞書を携帯すること。

キーワード

(1) 中国語 (2) 話す (3) 聞き取り (4) 会話

事前学習（予習）

課題となる文章の単語で、意味の分からないところは調べておくこと。

復習についての指示

会話に必要な最低限の単語と構文（人称代名詞や基礎的な動詞、簡単な挨拶）は各自復習しておいてほしい。また、積極的にコミュニケーションに参加する心構えが必要である。

授業計画

1. ガイダンス
2. 文法復習
3. 文法復習
4. 文法復習
5. 文章読解
6. 文章読解
7. ディスカッション
8. 練習
9. 文章読解
10. 文章読解
11. ディスカッション
12. 練習
13. 文章読解
14. 文章読解
15. ディスカッション
16. 練習
17. 文章読解
18. 文章読解
19. ディスカッション
20. 練習
21. 文章読解
22. 文章読解
23. ディスカッション
24. 練習
25. レポート課題文を読む
26. レポート課題文を読む
27. レポート課題文を読む
28. ディスカッション
29. ディスカッション
30. レポート課題解説

教科書

プリントを配布する
受講者の学習到達度や希望をもとにテキストを選択する。

評価方法

(1) レポート：50% (2) 小テスト受験：50%：一つの文章を読み終わるごとに小テストを行う。

中国思想

PHIL-J-200

担当者：大坊 真伸

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

国際理解力：日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：国語選択科目、
中学校教諭一種免許：国語選択科目

講義概要

1. 内容

全30回の講義のうち、半分を中国思想、半分を漢文訓読の授業に充当する。(1) 本年度の講義は中国思想の代表「諸子百家」を扱う。授業時数が限られている為、当該思想の特徴的なものを紹介する。(2) 日本文化学科の学生が多いことを鑑み、日本文化に関連が深い事柄を紹介していく。日本文化にも中国思想が影響を与えていることを理解する。(3) 漢文訓読の基礎を学ぶ。

2. 学びの意義と目標

中国の思想に触れてもらうため日本語訳を読み、その日本語訳から漢文（原文）を読解するような授業を行う。中国思想の特徴、正確な漢文訓読を講義の目的とするが、漢文読解についてはあまり枝葉末節に拘らないようにしたい。

受講生に対する要望

初めから漢文をスラスラ読める人間はいないので、あまり気を張らずに受講してほしい。間々、漢字について触れることもあるので、漢和辞典は必携とする。

キーワード

(1) 中国思想 (2) 中国哲学 (3) 諸子百家 (4) 先秦諸子 (5) 漢文

事前学習（予習）

次回授業予定の中国思想について予習しておくことが望ましい。

復習についての指示

今年度は“（入試によく出る）漢文重要単語”を家庭学習として課す。詳細は初回授業時に説明する。また、漢文句形の確認テストを行う。プリント沢山なので、専用フォルダ必須！

授業計画

1. 【諸子百家】ガイダンス
2. 〈漢文〉ガイダンス
3. 【諸子百家】孔子
4. 〈漢文〉返り点・送り仮名・書き下し文
5. 【諸子百家】『論語』
6. 〈漢文〉助字・返読文字
7. 【諸子百家】孟子の思想(1)
8. 〈漢文〉再読文字
9. 【諸子百家】孟子の思想(2)
10. 〈漢文〉否定文(1)～(3)
11. 【諸子百家】荀子の思想
12. 〈漢文〉否定文(4)～(5)
13. 【諸子百家】韓非子について
14. 〈漢文〉否定文(6)～(7)
15. 【諸子百家】『墨子』「兼愛・非攻」
16. 〈漢文〉疑問形
17. 【諸子百家】『老子』「無為自然」・『莊子』(1)
18. 〈漢文〉反語形
19. 【諸子百家】『莊子』(2)
20. 〈漢文〉使役形・受身形
21. 【諸子百家】『列子』あれこれ(1)
22. 〈漢文〉仮定形・比較形・選択形
23. 【諸子百家】『列子』あれこれ(2) (日本文学との関わりを中心に)
24. 〈漢文〉抑揚系・限定形・累加形・感嘆形
25. 【諸子百家】『孫子』兵法(1) (&兵法七書)
26. 〈漢文〉入試問題にチャレンジ!!
27. 【諸子百家】『孫子』兵法(2)・『呉子』「少数精鋭主義」
28. 【諸子百家】四書・五経入門
29. 日本儒学概説～内村鑑三『代表的日本人』～
30. 総括及び確認試験

教科書

菊池隆雄、村山敬三 『基礎から解釈へ漢文必携』（ピアソン桐原）

評価方法

(1) 単語小テスト:50%:漢文重要単語 (2) 句形小テスト :50%:漢文重要句形

担当者：趙 情情

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

国際理解力：日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：国語必修科目、
中学校教諭一種免許：国語必修科目

講義概要

1. 内容

中国古典小説の歴史について講義し、六朝志怪・志人小説、唐代伝奇小説、宋・明・清の白話小説などの代表的な作品を選読することを通して、広く中国古典の世界に親しむ。

2. 学びの意義と目標

中国古典小説の展開と文学的特徴について理解を深める。また、原典講読を通じて漢文訓読の基礎を養い、関連辞書・工具書の使い方及び資料調査の方法などを習得する。

受講生に対する要望

漢和辞典必携。詳しくは授業中に指示する。

キーワード

(1) 志怪・志人小説 (2) 唐代伝奇小説 (3) 白話小説 (4) 漢文訓読

事前学習（予習）

資料に関する予習 教場にて適宜指示する

復習についての指示

教場にて適宜指示する

授業計画

1. ガイダンス
2. 中国古典小説概論(1)
3. 中国古典小説概論(2)
4. 中国古典小説概論(3)
5. 中国古典小説概論(4)
6. 中国古典小説概論(5)
7. 牛眠地・馬塚(1)
8. 牛眠地・馬塚(2)
9. 売胡粉女子(1)
10. 売胡粉女子(2)
11. 清溪廟神(1)
12. 清溪廟神(2)
13. 公的盧
14. 太傅在京口
15. 『古鏡記』「大業十三年夏六月」条(1)
16. 『古鏡記』「大業十三年夏六月」条(2)
17. 白娘子永鎮雷峯塔(1)
18. 白娘子永鎮雷峯塔(2)
19. 白娘子永鎮雷峯塔(3)
20. 白娘子永鎮雷峯塔(4)
21. 畫皮(1)
22. 畫皮(2)
23. 畫皮(3)
24. 畫皮(4)
25. 聶小倩(1)
26. 聶小倩(2)
27. 聶小倩(3)
28. 聶小倩(4)
29. 聶小倩(5)
30. 総括

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 予習・復習:30% (2) 学期末レポート:50% (3) 積極性:20%

担当者：川野 一字

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

表現力・コミュニケーション力：的確なコミュニケーション能力を育てる

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

文章をいかに正確に分かりやすく、伝えるかの訓練のための実践講座である。音声表現に欠かせない発音・発声、アクセント、イントネーションの基礎をしっかりと学び、随筆、小説、お知らせ文などで練習を重ねながら、音声表現の基礎の確立を目指す。

2. 学びの意義と目標

広い意味でのコミュニケーション論の一環であり、文章の内容をわかりやすく伝える音声表現の基礎である。その文章表現の練習として、随筆、小説、詩、ナレーション原稿、お知らせ文など様々な題材にふれ、それぞれの特徴をつかみながら表現の基礎を学ぶ。口の正しい開き方にもとずいたはっきりとした発音、姿勢を正した腹式呼吸法による声量のある発声、そして何よりも間、ポーズの大事なことを理解し、意味の区切りにもとずく間の取り方を習得することを目指す。

受講生に対する要望

事前にプリントを渡すので必ず下読みをしてくること。声に出して練習する事が肝心である。原則として次週の文章は講師の私が実際に声を出して例示するので、それにもとずいて自分でも下読みをすると良い。授業に出ていきなり読んでもうまくはゆかない。事前の準備はどうしても必要である。

キーワード

(1)発音・発声、腹式呼吸 (2)イントネーション (3)ポーズ、間 (ま) が大事 (4)下読みが大切だ (5)聞き手を意識しよう

事前学習（予習）

事前に指示するプリントの下読みを徹底すること。

復習についての指示

他の学生の読みを聞いて参考にし、良い点は取り入れること聞くことも重要だと認識すること

授業計画

1. オリエンテーション
2. 発音・発声・イントネーション
3. まず読んでみよう
4. お知らせ・アナウンス文 1
5. お知らせ・アナウンス文 2
6. 随筆 1
7. 随筆 2
8. 随筆 3
9. 随筆 4
10. 小説を読む 1
11. 小説を読む 2
12. 小説を読む 3
13. ナレーション原稿 1
14. ナレーション原稿 2
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 日常の読み:30% (2) 授業への姿勢:10% (3) 課題表現:60%

担当者：棚橋 明美

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

実践力：日本語教育に携わることのできる能力を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：国語選択科目、
中学校教諭一種免許：国語選択科目、
日本語教員養成課程：選択必修科目

講義概要

1. 内容

日本語教育の観点から、日本語音声学・音韻論の基礎を学ぶ。
「あいうえお」など単音の発音について、規範的な発音法を学び、自分自身の発音との差異を考える。そのために、実際に発音したり音声を聞いたりして、積極的に音声の微妙な違いや自分の調音部位の状態を発見するような活動を行う。また、日本語の発音記号の書き方を身につける。試験は、日本語教育能力検定試験の出題内容も視野に入れ、筆記と聴解の両方を課す。

2. 学びの意義と目標

日本語教育の観点から、日本語音声学・音韻論の中の単音（分節音）についての知識と応用を学ぶ。日本人にとっては、自分の発音を客観的かつ論理的に考えること、外国人にとっては、日本語の発音を論理的に知ることが目標である。

受講生に対する要望

出席率100%をめざしてほしい（休むと分からなくなり、興味を失うことになるので注意）。後期の「日本語学（音声・音韻）B」の受講が望ましい。実際に声を出して自分やクラスメートの発音を確かめることが重要なので、恥ずかしがらずに声をだしてみしてほしい。

キーワード

(1) 規範的発音 (2) 日本語教育 (3) 声を出す (4) 発見 (5) 考える楽しさ

事前学習（予習）

発見を重視するので、予習はせず、先入観なしに授業に臨むことで、好奇心を持って発見してほしい。

復習についての指示

復習シートを渡すので、必ずやること。また、手鏡などをみながら発音して、自分の口の動きを観察してほしい。

授業計画

1. 言語音を作る仕組み 音声について
2. 音素と異音 有声音と無声音
3. 母音
4. 子音－1
5. 子音－2
6. 子音－3
7. 子音－4
8. 子音－5
9. 子音－6
10. 子音－7
11. 特殊音素
12. 母音の無声化 聴解練習
13. 復習 聴解練習
14. 復習 聴解練習
15. 試験とその解説

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 期末テスト:50% (2) 出席と参加:30% (3) 授業態度:10% (4) 復習小テスト:10%

出席率70%を割ったものは、期末テストを受けられない。

担当者：棚橋 明美

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

実践力：日本語教育に携わることのできる能力を身につける

カリキュラム上の位置付け

日本語教員養成課程：選択必修科目

講義概要

1. 内容

日本語のアクセント・イントネーション・リズムなどの韻律（プロソディー）について学習する。実際の音声を聞いたり発音してみたりすることで、アクセントやイントネーションなどの韻律特徴をとらえ、体系化して考えることを学ぶ。規範とされる韻律体系と自分の発音や他の人の発音との差異について、実際に発音してみて確かめる。日本語教育能力検定試験の出題内容も視野に入れ、試験問題なども扱う。

2. 学びの意義と目標

日本語教育の視点から、日本語音声学・音韻論の中の韻律（プロソディー）についての知識と応用を学ぶ。日本人にとっては、自分の発音を客観的かつ論理的に考えること、外国人にとっては、日本語の発音を論理的に知ることが目標である。

受講生に対する要望

出席率100%をめざしてほしい（休むと分からなくなり、興味を失うことになるので注意）。前期の「日本語学（音声・音韻）A」の受講がのぞましい。出席率100%をめざしてほしい（休むと分からなくなり、興味を失うことになるので注意）。

キーワード

(1)規範的発音 (2)日本語教育 (3)発見 (4)学ぶ楽しさ (5)バリエーション

事前学習（予習）

授業の中で指示した教科書をよく読んで復習してもらいたい。復習シートを渡すので、必ずやること。また、実際に発音して、自分の話し方を観察してほしい。

復習についての指示

授業の中で指示した教科書をよく読んで復習してもらいたい。復習シートを渡すので、必ずやること。また、実際に発音して、自分の話し方を観察してほしい。

授業計画

1. イントロダクション 韻律（プロソディー）とは？
2. イントネーションー1
3. イントネーションー2
4. イントネーションー3
5. フットとフォーカス
6. アクセントー1
7. アクセントー2
8. アクセントー3
9. アクセントー4
10. アクセントー5
11. アクセントー6
12. アクセントとイントネーション復習
13. まとめ1 実習1
14. まとめ2 実習2
15. 試験とその解説

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)期末テスト:50% (2)出席と参加:30% (3)授業態度:10% (4)復習小テスト:10%
出席率70%を割った者は、期末テストを受けられない。

担当者：黒崎 佐仁子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

実践力：日本語教育に携わることのできる能力を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：国語選択科目、
中学校教諭一種免許：国語選択科目、
日本語教員養成課程：選択必修科目

講義概要

1. 内容

この授業では、普段意識せずに使用している日本語を見直し、日本語がどのような文法から成り立っているのかを学んでいく。日本語の文法は「命題」と「モダリティ」から成ると言われているが、「文法A」では特に「命題」に重きを置く。また、「文法A」では主に単文を扱う。

2. 学びの意義と目標

日本語を客観的に観察し、分析し、説明する力をつけることを目標とする。

受講生に対する要望

言語に興味がある者の受講を歓迎する。また、授業内での積極的な意見交換ができればなおよい。

キーワード

(1)日本語 (2)言語 (3)日本語学 (4)文法 (5)日本語教員養成課程

事前学習（予習）

毎回、用語などに関する予習課題を提示する。

授業計画

1. 文法を考えるということ
2. 単語とは
3. 品詞とは
4. 品詞を考える（活用）
5. 格の問題
6. 自動詞と他動詞
7. ボイス（1）受け身
8. ボイス（2）使役
9. やりもらい
10. アスペクト「～ている」
11. テンス「～る」「～た」
12. 空間に関する表現
13. 意志に関する表現
14. 解釈の多義性
15. 否定と文の解釈

教科書

森山 卓郎 『ここからはじまる日本語文法』（ひつじ書房）

復習についての指示

授業で取り上げた文法項目は、返却されたワークシートを用いて、必ず復習しておくこと。

評価方法

(1)出席:25% (2)宿題・課題の提出:20% (3)中間レポート:10% (4)期末テスト:40% (5)授業参加度:5%:発表などの授業内活動のこと

担当者：黒崎 佐仁子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

実践力：日本語教育に携わることのできる能力を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：国語選択科目、
中学校教諭一種免許：国語選択科目、
日本語教員養成課程：選択必修科目

講義概要

1. 内容

この授業では、普段意識せずに使用している日本語を見直し、日本語がどのような文法から成り立っているのかを学んでいく。日本語の文法は「命題」と「モダリティ」から成ると言われているが、「文法B」では特に「モダリティ」に重きを置く。また、「文法A」では主に単文を扱ったが、「文法B」では複文についても考察していく。

2. 学びの意義と目標

日本語を客観的に観察し、分析し、説明する力をつけることを目標とする。

受講生に対する要望

積極的な態度で授業に臨んでいただきたい。言語に興味がある者の受講を歓迎する。

キーワード

(1) 日本語 (2) 文法 (3) 複文 (4) モダリティ (5) 助詞

事前学習（予習）

毎時間、数個の課題を提示する。その課題に取り組むことで予習を行ってほしい。

復習についての指示

毎時間始めにワークシートの返却を行うため、ワークシートを元に自主的にきちんと丁寧な復習を行ってほしい。

授業計画

1. 文法とは？
2. モダリティ 断定と不確定 医者「インフルエンザらしいですね」→「インフルエンザのようですね」
3. モダリティ 断定と不確定 天気予報「明日は雨でしょう」
4. モダリティ 疑問文 「彼はどこにいるかどうかかわからない」→「彼はどこにいるかわからない」
5. モダリティ 意志 「じゃあ、ぼくがやるつもりだ」→「じゃあ、ぼくがやる」
6. 終助詞 「いい天気ですね」「そうです」→「そうですね」
7. 主語と「は」と「が」
8. 「象は鼻が長い」「僕はうなぎだ」
9. とりたて 「女の子だけ来た」「女の子しか来なかった」
10. 単文と複文
 11. 複文 「て」節
 12. 複文 条件文 「雨が降るとこの傘を差しなさい」→「雨が降ったらこの傘を差しなさい」
 13. 複文 逆接 「急いでいるのは分かるのに、車は使うな」→「急いでいるのは分かるが、車は使うな」
 14. 名詞修飾 「内の関係」「外の関係」
 15. 談話とテキスト

教科書

森山 卓郎 『ここからはじまる日本語文法』（ひつじ書房）

評価方法

(1) 出席:25% (2) 課題:25% (3) 中間レポート:10% (4) 期末レポート:30% (5) 参加態度:10%

担当者：小林 茂之

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：国語必修科目、
中学校教諭一種免許：国語必修科目、
日本語教員養成課程：選択必修科目

講義概要

1. 内容

現代言語学は、科学の一分野として認識されるようになった。これは、チョムスキーによる生成文法と呼ばれる言語研究が言語学の主流の一つを占めるようになったためである。本講義では、現在アメリカの代表的知識人の一人であるチョムスキーについて紹介し、彼が確立した生成文法が何を問題とし、説明してきたかを概説する。そして、生成文法が研究対象とする母語話者の言語知識とは何であるかを、受講者のほとんどの母語である日本語と、言語の普遍性の観点から日本人にとってもっとも知られている外国語である英語のデータに基づいて、教科書の構成に従いながら解説し、歴史言語学の導入を補足して、人文学的な言語学の伝統も体験する。

2. 学びの意義と目標

多くの受講者にとって母語の日本語と身近な外国語である英語との比較を通して、現代言語学のスタンダードな考え方を学ぶ。また、現代知性の代表の一人としてのチョムスキーと現代言語学の典型である生成言語学を具体例を通して理解し、大学生レベルの現代言語学・言語哲学・認知科学に関する人文的教養を身に付ける。

受講生に対する要望

毎回、ハンダウト（プリント）も配布される。また、出席票を兼ねたリアクションペーパーに授業内容に即した簡単な問いに取り組んでほしい。発展的読書の案内があるので、受講者は発展的読書に取り組んでほしい。また、教科書の予習・復習が望まれる。

キーワード

(1)言語 (2)音声・音韻 (3)文法 (4)語彙 (5)意味

事前学習（予習）

講義時に配布するハンダウト（プリント）に、次回の教科書の予習ページが示されるので、それにしたがって教科書を予習する。

復習についての指示

期末のレポートの準備を含めて、発展的読書をする。また、講義で取り上げない部分を復習時に補う。

授業計画

1. チョムスキーの学問と思想 (1)
2. チョムスキーの学問と思想 (2)
3. 第1章 ことばの研究 (1)
4. 第1章 ことばの研究 (2)
5. 第1章 ことばの研究 (3)
6. 第1章 ことばの研究 (4)
7. 第2章 ことばの獲得 (1)
8. 第2章 ことばの獲得 (2)
9. 第2章 ことばの獲得 (3)
10. 第2章 ことばの獲得 (4)
11. 第3章 音としてのことば (1)
12. 第3章 音としてのことば (2)
13. 第3章 音としてのことば (3)
14. 第3章 音としてのことば (4)
15. 第4章 語彙と辞書 (1)
16. 第4章 語彙と辞書 (2)
17. 第4章 語彙と辞書 (3)
18. 第4章 語彙と辞書 (4)
19. 第5章 文の仕組み (1)
20. 第5章 文の仕組み (2)
21. 第5章 文の仕組み (3)
22. 第5章 文の仕組み (4)
23. 第6章 語の意味と文の意味 (1)
24. 第6章 語の意味と文の意味 (2)
25. 第6章 語の意味と文の意味 (3)
26. 第6章 語の意味と文の意味 (4)
27. 補足：歴史言語学入門（ラテン語・古英語）
28. 予備日
29. 予備日
30. まとめ

教科書

井上和子・他 『生成言語学入門』（大修館書店）

評価方法

(1)レポート:40% (2)出席:40% (3)授業参加度:20%:出席票を兼ねたリアクションペーパーの課題を提出することを含む。

授業参加度には、出席票を兼ねたリアクションペーパーの授業の内容理解のための課題への取り組みを含む。

担当者：大江 元貴

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

日本語教員養成課程：選択必修科目

講義概要

1. 内容

この講義では、私達人間が日常の中でことばをどのように使い、理解しているのかということ、主に「語用論」という言語学の一分野から考察する。まず前半では、語用論とはどのようなことを扱う学問なのかを概観するために、基礎的概念と諸理論について紹介する。それぞれの概念や理論に対する理解を深めるために、トピック毎に日本語における事例をとりあげ、考察を行う。後半は、語用論と関連する分野の事例研究をとりあげ、語用論の応用と展開について講義する。具体的には、コミュニケーションの中で現れることばの分析、日本語と他言語の言語使用の比較分析、日本語学習者の発話行為に関する分析をとりあげる。

2. 学びの意義と目標

本講義は、日常のことばのやりとりの裏に潜む原理を理解し、受講生一人一人が自分の普段のことばの使用を振り返ることで、ことばに対する洞察を深めることを目標とする。言語使用に関する諸原理に対する理解を深めることで、日常におけるコミュニケーションがより円滑で豊かなものになることが期待される。また、他言語における言語使用や日本語学習者の言語使用に関する事例を観察し、言語間の違いや習得の困難さを理解することで、多言語・多文化社会を生きる上で必要となる異文化理解を得る一助となるような授業を目指す。

受講生に対する要望

授業中に適宜ディスカッションを行うので、主体的に参加すること

キーワード

(1) 語用論 (2) コミュニケーション (3) 日本語学習者 (4) 言語対照

事前学習（予習）

各トピックに関わる事前の小課題を課すことがあるので、次回授業時までに取り組んでおくこと

復習についての指示

(1) 各回のトピックにおける重要概念については、自分で説明できるようになっておくこと (2) 毎回の講義後に、トピックに関わる具体例を集める課題や、トピックをさらに深める小課題を課すので、次回授業時までに取り組んでおくこと

授業計画

1. 語用論とは何か (1)一文、文脈、発話
2. 語用論とは何か (2)一意味論との関係
3. 「ここ、痛いですか？—そこは痛くありません」：直示 (1)—ことばと指示
4. 「先生が息子を褒めてくれた」「彼が横に座ってきた」：直示 (2)—ことばと視点
5. 「彼は来年大学を卒業する」→『彼は今大学生である』：前提と含意
6. 「辞書持ってますか？」→『辞書を貸してほしい』：推意
7. 「約束は守ります」「窓を閉めてください」：発話行為理論 (1)—発話内行為
8. 「なんだか寒いなあ」：発話行為理論 (2)—間接的発話行為
9. 「今何してるの？—君と話してる」「明日何するの？—一月に行くんだ」：グライスの会話の公理 (1)—量の公理・質の公理
10. 「何食べたい？—僕は小学3年生だよ」「何飲んでるの？—H2O」：グライスの会話の公理 (2)—関係の公理・様態の公理
11. 「この方程式解ける？—僕は小学3年生だよ」：グライスの会話の公理 (3)—会話の公理を破るということ
12. 「ほんの数分でいいので、お時間いただけないでしょうか」：ポライトネス理論 (1)—ネガティブポライトネス
13. 「その髪型かわいいね」：ポライトネス理論 (2)—ポジティブポライトネス
14. 「髪を乾かしてあげる」「お手紙を読ませていただく」：ポライトネス理論 (3)—現代日本語におけるポライトネス意識
15. 「私、眠いんだよ」「??君、眠いんだよ」：情報のなわ張り理論 (1)—終助詞「よ」
16. 「??私、眠いんだね」「君、眠いんだね」：情報のなわ張り理論 (2)—終助詞「ね」
17. 前半部のまとめと後半部の導入
18. 「紅茶飲みますか？—紅茶ねえ/紅茶か」：談話分析 (1)—会話で相手のことばを繰り返すということ
19. 「そんなの別に全然欲しくないし…」：談話分析 (2)—いいさし文①
20. 「ちょっとお伺いしたいんですけど…」：談話分析 (3)—いいさし文②
21. 「わしは東京生まれじゃ」「わたくしは東京生まれですの」：役割語と発話キャラクタ (1)—自称詞と終助詞
22. 「おや、財布が落ちてるぞ」「ほう、それは面白いね」：役割語と発話キャラクタ (2)—感嘆詞
23. 「I/you/(s)he」と「私/あなた/彼(女)」：英語との比較 (1)—代名詞の切り分け方から見る日本語の特徴
24. 「John is happy」と「ジョンは嬉しいって」：英語との比較 (2)—伝達性から見る日本語の特徴
25. 「もしもし、私は王さんです」：中国語との比較 (1)—名乗り方から見る日本語の特徴
26. 「痛っ!」「熱っ!」：中国語との比較 (2)—叫び方から見る日本語の特徴
27. 「あなたも一緒に行きたいですか?」：日本語学習者の発話行為に関する分析 (1)—勧誘
28. 「私に日本語を教えられますか?」：日本語学習者の発話行為に関する分析 (2)—依頼
29. 「先生は上手に教えましたね」：日本語学習者の発話行為に関する分析 (3)—褒め
30. 全体のまとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 学期末試験:50% (2) 授業中のディスカッションと課題への取り組み:30% (3) 出席:20%

担当者：北村 淳子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

日本語教員養成課程：必修科目

講義概要

1. 内容

本講義では、日本語教育の現状及び歴史を理解した上で、英語・国語教育との比較における日本語教育の特色、日本語の音声、文法、文字・表記、語彙、日本語教育と関わりのある社会言語学、心理学を概観する。また、教師としての心構えについても考える。いくつかのテーマについては、講師が課題を出し、何人かの学生を指名し、レポートを書かせる。指名された学生の一人は、レポートの内容についてクラスに報告する。

2. 学びの意義と目標

日本語教育に必要な基礎的知識を得ること。

受講生に対する要望

一年次及び二年次の受講が望ましい。日本語教員養成課程の科目であるが、教職課程をとる学生にもすすめたい。

キーワード

(1) 外国語としての日本語 (2) 他文化への理解 (3) 自文化の発見

事前学習（予習）

授業の前に、当日学習する教科書の当該箇所を読んでおくこと。用語なども調べておく。

復習についての指示

学習した内容と自らが発見したことをまとめる。

授業計画

1. 日本語を学ぶ人、教える人
2. 同上
3. 多文化共生と日本語教育
4. 同上
5. 年少者日本語教育
6. 同上
7. 日本語教育の歴史
8. 同上
9. 同上
10. 日本語教育の特色
11. 同上
12. 言語としての日本語
13. 同上
14. 日本語の音声
15. 同上
16. 日本語の文法
17. 同上
18. 同上
19. 同上
20. 同上
21. 文字・表記
22. 同上
23. 語彙
24. 同上
25. 社会言語学—ことばと社会のかかわり—
26. 同上
27. 心理学—学ぶということのメカニズム—
28. 同上
29. 日本語教師の心構え
30. 同上

教科書

高見澤孟 監修 『新・はじめての日本語教育1』（アスク）

評価方法

(1) レポートの内容:10% (2) 教室内発表の内容:10% (3) 授業態度:10% (4) 試験:70%

出席時間数が全体の3分の2に満たない者は評価しない。

日本語教育実習

JPLI-J-300

担当者：川口 さち子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

実践力：日本語教育に携わることのできる能力を身につける

カリキュラム上の位置付け

日本語教員養成課程：必修科目

講義概要

1. 内容

・外国人学生に日本語を教えるための実践的な力を養う。1 教室内作業 1) 教科書の各課の指導項目を把握・分析し、各項目の導入方法およびドリルや会話等の練習方法を学び、教案が立てられるようにする。2) 指導項目にあった、教材が作成できるようにする。3) 模擬授業を行い、実際の教壇に立てるようにする。2 現場実習…夏休みの2週間を使い、実際に日本語教育機関で見学および教壇実習を行う。見学ノート・教壇実習の教案およびそのレポート・日本語教育機関での実習を終えてのレポートを作成、提出する。※このほかに、本学の日本語授業にボランティアとして入ってもらうことがある。また、現場実習へ行く前に自主トレーニングを行ってもらう予定である。

2. 学びの意義と目標

・日本語教授法演習を終了し、いよいよ実践への応用となる段階である。・この科目を履修することにより、現場で実際に教えられる力を身につけてほしい。

受講生に対する要望

教案を何度も書き、練り上げて、模擬授業を行う。また無断欠席した者は評価の対象としない。課題が十分にできない場合は、現場実習に参加できないことがある。

キーワード

(1) 日本語教育 (2) 実習 (3) 教案作成 (4) 教材作成 (5) 模擬授業

事前学習（予習）

履修者にはほぼ毎回発表してもらう。取り組みが不十分な者は、現場実習に参加できないことがあるので、発表者はレジュメ・教案を十分に準備すること。

復習についての指示

本学の日本語授業に参加観察してもらうことがある。その場合は、見学レポートを提出する。実習校での現場実習に参加する前に、教科書に再度目を通し、各課の文型・新出語彙は整理しておくこと。

授業計画

1. 講義概要・実習とは・教案作成の方法・予備テスト
2. 『みんなの日本語I・II』の構成および各課の指導項目の把握・分析
3. 『みんなの日本語I・II』の構成および各課の指導項目の把握・分析・教案作成準備
4. ラフ教案作成・発表
5. 文型教案詳細発表
6. 模擬授業（文型）
7. 模擬授業（文型）
8. 模擬授業（文型）
9. 漢字教案作成
10. 模擬授業（漢字）
11. 模擬授業（漢字）
12. 模擬授業（漢字）
13. 模擬授業（漢字）・聴解教案作成
14. 模擬授業（聴解）
15. 模擬授業仕上げ

教科書

スリーエーネットワーク編 『みんなの日本語初級I 第2版 本冊』（スリーエーネットワーク）スリーエーネットワーク編 『みんなの日本語初級II 第2版 本冊』（スリーエーネットワーク）学校法人KCP学園KCP地球市民日本語学校編 『新装版1日15分の漢字練習 初級～初中級 上』（アルク）学校法人KCP学園KCP地球市民日本語学校編 『新装版1日15分の漢字練習 初級～初中級 下』（アルク）

評価方法

(1) 教案と発表：40% (2) 討論への参加度：10% (3) 出席状況：10% (4) 実習校での評価：20% (5) 実習レポート・見学レポート：20%

担当者：作田 奈苗

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

実践力：日本語教育に携わることのできる能力を身につける

カリキュラム上の位置付け

日本語教員養成課程：選択科目

講義概要

1. 内容

この授業では、日本語を教えるときの効果的な教材の選び方、使い方、及び、作り方について考える。日本語教師は、学習者のレベルや学習目的に合わせた的確な教材を用意できなければならない。そのため、教材選択の留意点を学び、また、どんなものが教材の素材になり得るかを学ぶ。さらに、その素材をもとに実際の教材を作成し、利用する実践力を身につける。授業では講義だけではなく実際の教材作成に取り組み、それを発表し互いに検討する。

2. 学びの意義と目標

・学習者のレベルや学習目的に合わせた教材を選んだり作ったりできるようになること。・インターネット、印刷物等の様々なメディアの中から教材として使える素材を入手し、それを利用した教材を作れるようになること。

受講生に対する要望

日本語教員養成課程関係科目である。日本語教育概論、教授法講義で学んだ知識を生かし、教授法演習、教育実習へと進むための準備を行う。したがって、日本語教育概論及び日本語教授法講義を履修していることが望ましい。日本語教育に関する前提知識がなければ、課題作成にも取り組めず、単位取得は難しい。

キーワード

(1)日本語教育 (2)教材 (3)作成

事前学習（予習）

Moodle上の教材に目を通しておくこと。課題の教材を完成させ、発表する準備をしておくこと。原則的に発表の割り当てられた日に発表できなければ、評価されない。

復習についての指示

課題の教材を完成させ、発表する準備をしておくこと。発表後、批評をもとに、作成した課題の教材を修正し、よりよいものに改善すること。

授業計画

1. 教材の役割、レベル・ニーズに合わせた教材選び・教材作り
2. コントロールされた日本語—初級読解教材を作る
3. 語彙・文型の導入とドリル（1）—絵カードの作成—ネットで素材を集める
4. 語彙・文型の導入とドリル（2）—絵カード活用例の発表
5. 文法練習（1）—文法練習問題の作成—Word、Excelの利用
6. 文法練習（2）—文法練習問題例の発表
7. デモンストレーション（1）—動画の利用—PowerPointの利用
8. デモンストレーション（2）—デモンストレーション教材の発表
9. 初級作文教材（1）—作文教材の作成
10. 初級作文教材（2）—作文教材例の発表
11. 生教材（1）—マンガ、雑誌などの利用
12. 生教材（2）—生教材を使った授業活動の発表
13. ネット上にある日本語学習サイト（1）
14. スマートフォン、タブレット端末と日本語教育
15. ネット上にある日本語学習サイト（2）—教材分析（発表）

教科書

スリーエーネットワーク 『みんなの日本語 初級I 第2版 本冊』（スリーエーネットワーク）
Moodle上で授業レジメを配布する。

評価方法

- (1)教材作成(6回):20% (2)発表と教材の改作(6回):40% (3)レポート(2回):20% (4)出席率:20%
合計60点以上を単位取得の条件とする。

日本語教授法演習

JPLI-J-200

担当者：木原 郁子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

実践力：日本語教育に携わることのできる能力を身につける

カリキュラム上の位置付け

日本語教員養成課程：必修科目

講義概要

1. 内容

「外国人に対する日本語」の教え方の基礎を学ぶ。いろいろな日本語教科書の特徴を調べる。教科書として『みんなの日本語』を用い、日本語文法を「文型」という観点から学ぶ。アセンブリアワーに行われる実習報告会（例年10月または11月に実施）、留学生弁論大会（開催される場合は11月頃）への参加とレポート作成は、この授業の一環として必須事項とするのでスケジュールを空けておくこと。また、入試日などの大学休校日を利用して、日本語学校の授業見学を行う予定である。

2. 学びの意義と目標

「外国人に対する日本語の教師」になるための心構えをつくり、必要な基礎知識を身につける。受講資格は、「日本語教授法講義」を履修済みであること。また、この演習の単位を取得しなければ、「日本語教育実習」の履修の資格は得られない。

受講生に対する要望

日本語教師志望でない学生も受け入れるが扱いは志望者と区別しない。授業は演習形式で進められ、課題も多く課せられるので覚悟して臨むこと。主体的・積極的に取り組んでほしい。

キーワード

(1) 日本語の教え方 (2) 教科書分析 (3) 文法・文型分析 (4) 教科書『みんなの日本語』 (5) 日本語教師

事前学習（予習）

教科書『みんなの日本語』で文型分析をするが、発表担当でない課についても、事前に目を通して、何を教えるのかを考えておくこと。

復習についての指示

文型分析した課の語彙や文型について、復習する。導入の仕方を復習したり、授業内で扱えなかった文型についても各自で、導入方法を考えること。分からないことは、次の授業で質問し、疑問を無くす努力をすること。

授業計画

1. 日本語教授法についての概説
2. 教科書分析 (1) 『みんなの日本語I』
3. 教科書分析 (2) 『サバイバル・ジャパニーズ』
4. 教科書分析 (3) 『S F J』
5. 教科書分析 (4) 『B e s y People』
6. 文型分析 (1) 『みんなの日本語I』 1課・2課
7. 文型分析 (2) 『みんなの日本語I』 3課・4課
8. 文型分析 (3) 『みんなの日本語I』 5課・6課
9. 文型分析 (4) 『みんなの日本語I』 7課・8課
10. 文型分析 (5) 『みんなの日本語I』 9課・10課
11. 文型分析 (6) 『みんなの日本語I』 11課・12課
12. 文型分析 (7) 『みんなの日本語I』 13課
13. 文型分析 (8) 『みんなの日本語I』 14課
14. 文型分析 (9) 『みんなの日本語I』 15課・16課
15. 文型分析 (10) 『みんなの日本語I』 17課
16. 文型分析 (11) 『みんなの日本語I』 18課・19課
17. 文型分析 (12) 『みんなの日本語I』 20課
18. 文型分析 (13) 『みんなの日本語I』 21課
19. 文型分析 (14) 『みんなの日本語I』 22課
20. 文型分析 (15) 『みんなの日本語I』 23課
21. 文型分析 (16) 『みんなの日本語I』 24課
22. 文型分析 (17) 『みんなの日本語I』 25課
23. 文型分析 (18) 『みんなの日本語I』 まとめ
24. 文型分析 (19) 『みんなの日本語II』 26課
25. 文型分析 (20) 『みんなの日本語II』 27課
26. 文型分析 (21) 『みんなの日本語II』 28課
27. 文型分析 (22) 『みんなの日本語II』 29課
28. 文型分析 (23) 『みんなの日本語II』 30課
29. 文型分析 (24) 『みんなの日本語II』 31課
30. まとめと復習

教科書

スリーエーネットワーク 『みんなの日本語 初級I 第2版 本冊』 (スリーエーネットワーク) スリーエーネットワーク 編著 『みんなの日本語 初級II 第2版 本冊』 (スリーエーネットワーク)

評価方法

(1) 期末試験: 60% (2) 課題と授業への参加度: 20% (3) 出席率: 20%

期末試験50%以上の得点、出席率70%以上、かつ課題提出率100%を単位取得の条件とする。

担当者：川口 さち子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

実践力：日本語教育に携わることのできる能力を身につける

カリキュラム上の位置付け

日本語教員養成課程：必修科目

講義概要

1. 内容

まず、いろいろな外国語教授法を学んだ上で、初級・中上級の指導法、4技能（聞く・話す・読む・書く）の指導法、教材の使い方などを中心に学んでいく。（1）各種教授法を学ぶ際は、ビデオを視聴したり、受講生に模擬学生になってもらい、外国語のモデル授業を行い、それについて討論を行う。また、数名の学生を指名してレポートを書いてもらう。担当者は、授業内で発表し、その後質疑応答を行う。（2）＜期末レポート＞指定したいくつかの課題の中から選び、「期末レポート」を書き、期末最後の講義時間に提出する。

2. 学びの意義と目標

・日本語教員養成のための科目である。日本語教育概論をとった上で履修すること。この講義で、教授法の全体的なことを学び、日本語教授法演習へと進む。・第2言語としての日本語を外国人に教えるとはどういうことかということを学び、実際の現場で応用できるようにする。

受講生に対する要望

外国語のモデル授業を体験したり、ビデオ視聴を行ったりして、観察レポートを書いてもらうので欠席しないこと。欠席を3分の1を超えた場合は評価しない。

キーワード

(1)日本語教育 (2)教授法 (3)第2言語習得 (4)文型の導入 (5)教室活動

事前学習（予習）

外国語のモデル授業を行うので欠席しないこと。教授法を理解するにはこの体験が重要である。また、数名の学生を指名してレポートを書かせる。担当者は、授業内で発表し、その後質疑応答を行う。指定したページは読んでおく。

復習についての指示

習ったことを使って教材作成をしてもらうことがある。

授業計画

1. 外国語教授法の歴史
2. オーディオリンガル・メソッドとは 1
3. オーディオリンガル・メソッドとは 2
4. トータルフィジカルレスポンスとは 1 体験授業
5. トータルフィジカルレスポンスとは 2 体験授業
6. サイレントウェイとは 1 体験授業
7. サイレントウェイとは 2 体験授業
8. ヴェルボトナル法とは
9. コミュニカティブアプローチとは1
10. コミュニカティブアプローチとは2
11. 教師中心の教育から学習者主体の教育へ
12. ニーズ、シラバス、カリキュラム：コースデザイン 1
13. ニーズ、シラバス、カリキュラム：コースデザイン 2
14. 初級の文型と文法用語
15. 「話す」ための教室活動 1
16. 「話す」ための教室活動 2
17. 「書く」ための教室活動 1
18. 「書く」ための教室活動 2
19. 「聞く」ための教室活動 1
20. 「聞く」ための教室活動 2
21. 「読む」ための教室活動 1
22. 「読む」ための教室活動 2
23. 初級指導法 1文型の導入と教材・教具
24. 初級指導法 2 文型の導入と教材・教具
25. 初級指導法 3文型の導入と教材・教具
26. 初級指導法 4文型の導入と教材・教具
27. 視聴覚教材 ビデオ・DVD教材の実際 1
28. 視聴覚教材 ビデオ・DVD教材の実際 2
29. 中・上級指導法と教材 1
30. 中・上級指導法と教材 2

教科書

小林 ミナ 『日本語教育能力検定試験に合格するための教授法 37』（アルク）

評価方法

- (1) 期末レポート:50% (2) 授業内発表:20% (3) 討論への参加度:10%
(4) 観察レポート:10% (5) 出席状況:10%

日本語表現法（ディベート）

COMM-J-100

担当者：近藤 聡

開設期：春学期集中 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

表現力・コミュニケーション力：的確なコミュニケーション能力を育てる

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：国語必修科目、
中学校教諭一種免許：国語必修科目

講義概要

1. 内容

アカデミック・ディベートは、論点整理と再構造化を繰り返し訓練するトレーニングです。現在の国語科教育は、アカデミック・ディベートを「アーギュメント教育」「論理的思考力の向上」を目的にして、以前より導入するようになりました。しかし、十分に普及しているとはいえません。本授業は、受講者がディベートとディベート学習の両方を知ることを目指しています。

2. 学びの意義と目標

授業の目標は次の2点です。1. 受講者全員がディベートをできるようにする。2. 国語科教育におけるディベート学習を知る。ディベートはトレーニングですから、明確な方法および指導事項があります。方法と指導事項を明示しながら、各自がディベートをおこなえるように指導します。ディベートには様々な形式があります。今回は、トレーニング効果の高い2通りの形式でおこないます。また、ディベートの授業実践において、「反駁」学習は意義がありながら、指導が最も困難であるとされてきました。この点を克服した国語科教育の最新の授業プランを、実際に体験して学びます。将来、受講者が、国語科教育の現場に立つ際に、理論と実践の両面で役立つ授業を目指しています。

受講生に対する要望

授業は、基本的にワークショップ型です。個人およびグループでの演習とディベートゲームで授業は進行します。各自が能動的に学習に取り組む必要があります。課題を締め切りまでにきちんとこなし、遅刻や欠席がないようにしてください。

キーワード

(1)ディベート (2)アーギュメント教育 (3)国語科教育

事前学習（予習）

授業時に指示します。

復習についての指示

授業時に指示します。

授業計画

1. ディベートの四条件を知る
2. 反駁を学ぶ（1）：演習「反駁を書く①」
3. 反駁を学ぶ（2）：演習「反駁を書く②」
4. 反駁を学ぶ（3）：反駁エンドレスゲーム「反駁を繰り返す」
5. 反駁を学ぶ（4）：演習「反駁を振り返る」
6. ストラテジーを学ぶ：演習「反駁を想定して立論を作る」
7. 演習「三・三（さん・さん）ディベート」
8. 演習「ディベートの『判定』方法を学ぶ」
9. 演習「ディベート学習の『評価』方法を学ぶ」
10. ディベートの技術を用いたメディアリテラシー学習を知る（1）
11. ディベートの技術を用いたメディアリテラシー学習を知る（2）
12. 国語科教育におけるリベラルアーツの位置づけを考察する
13. 流布している各種のディベート教材を知り、批正する
14. 演習「ディベート学習の『授業プラン』を提案する」
15. ディベートおよびディベート学習の「総括」

教科書

近藤 聡 『反駁ゲームが楽しいディベート授業（ネットワーク双書）』（学事出版）

評価方法

(1)筆記試験：70% (2)課題・演習等：30%

担当者：東島 誠

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

日本語教員養成課程：選択必修科目

講義概要

1. 内容

「日本」という国はいつ誕生したのか。おそらく諸君は「縄文時代の日本」や「日本における稲作の始まり」といった表現に、何の違和感もなく慣れ親しんできたことであろう。だが、縄文時代や弥生時代には、まだ「日本」という名の国家は存在しなかった。まずはそのあたりから、諸君の常識、既成の歴史像に、心地よい揺さぶりをかけていきたい。なお、本年度から概説Aでは、中世末、戦国時代までの歴史を扱う。当該期の歴史は2年生以降、「日本史の研究」各特論でより深く掘り下げて学ぶことができる。

2. 学びの意義と目標

結論は一つではない——この講義では時に、対立する学説を諸君に投げかけることがある。どちらがより説得的か？それを判断するのは君たち自身だ。大学の歴史の講義とはじつは、論理的思考力を鍛錬する場なのである。なお、当科目は、日本文化学科の選択必修科目であると同時に、政治経済学部社会科学教職科目でもある。限られた時間数ではあるが、高校までの知識重視の歴史とはひと味違う、「考える歴史」を体験することで、将来教壇に立つ諸君の歴史像が、奥行き豊かなものとなることを願う。

受講生に対する要望

授業効果を高めるため、教室の形状によって、着席できるエリアを制限する。初回講義時の指示にしたがうこと。

キーワード

(1) 日本 (2) 王権 (3) 支配の正当性 (4) 古代 (5) 中世

事前学習（予習）

毎回の授業で扱う基礎用語については、前週のプリントで指示する。事前に調べて予備知識を得たうえで講義に出席すること。

復習についての指示

A4ファイルを用意し、配布プリントを整理した上で、毎回持参すること。各回冒頭に、質問への応答、学生カードの紹介等の復習を行なうほか、折に触れて以前のプリントを参照することができる。

授業計画

1. ガイダンス——頼光物『土蜘蛛草紙』を読み解く
2. 卑弥呼と〈王の身体〉
3. 起源の天皇を考える
4. 「託宣」と「歌謡」——歌われた革命
5. 「唐風」志向と日本的政治
6. 摂関・院政期と「近さ」の権力
7. 頼朝と義仲——その分岐点はなにか
8. 寛喜の飢饉と蒙古襲来——政権のアカウンタビリティ
9. 南北朝BASARAは面白い？
10. 中世後期の東アジア
11. 一揆と「山賊」
12. フロイスの見た戦国日本——「アリエナイ」社会の痕跡
13. 起源としての「印判状」世界
14. 信長は中世を破壊したか
15. 足利義政と豊臣秀吉——近世とは何か

教科書

東島 誠、與那覇 潤 『日本の起源（可能なら2刷以降推奨）』（太田出版）

評価方法

(1) 学期末試験：55% (2) 授業内での提出カード：45%：提出カードの優秀者には、別途加点を行なう。

日本史概説B		HIST-J-100
担当者：上安 祥子		
開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：2単位		
学部教育の関連目標 人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける	授業計画 1. ガイダンスー江戸の“四民” 2. 新しい時代の治者像ー山鹿素行の士道論と「太平記読み」の世界 3. ある名主の苦悩ー救済する人、される人 4. 御所千度参りの波紋 5. 七分積金と江戸の町会所 6. 「ぶらかし」と開国 7. 幕府の「私」と公議輿論 8. 築地梁山泊と改正掛 9. 自由民権運動 10. 1889年2月11日の万歳 11. かみあわない「自主」ー日清戦争、そして日露戦争へ 12. 普選運動 13. 帝都復興 14. “ひきずられる”国論ー満蒙へのまなざし 15. 開戦しない論理、開戦する論理ー日中戦争、そして太平洋戦争へ	
カリキュラム上の位置付け 日本語教員養成課程：選択必修科目		
講義概要 1. 内容 概説Bでは、近世・近代の歴史を扱う。個々のトピックスそのものを理解するだけでなく、史料を通じてその時代の様相や志向を「考える」、そして時代の流れを把握する、という、学びのプロセスを重視して授業をすすめていきたい。なお、行事などのスケジュールによっては、授業計画にあげたトピックスの順番を入れ替える可能性もあることをあらかじめ承知しておいてもらいたい。		
2. 学びの意義と目標 歴史を学ぶということは、記録された個々の事実や、叙述されたストーリーを「覚える」ことではない。さまざまな史料や学説を検討、検証し、より確かにアプローチする方法を模索しながら、その事実を読み解いていく、きわめて論理的な思考力を駆使する作業が必要だ。本講義でも、そうした論理的思考力を養うことを目標としている。なお、当科目は、日本文化学科の選択必修科目であると同時に、政治経済学部 of 社会科教職科目でもある。将来、教え導く立場に立つ諸君だからこそ、歴史を考えて学ぶ醍醐味を、十分に体験してもらいたい。		
受講生に対する要望 予習の内容、あるいは授業で扱う史料から読み取れることなど、諸君に発言を求めることがある。「わかりません」という答えはしないように、予習として指示されたものについては、しっかり調べておくこと。その場で考えるものについては、間違ふことをおそれたりためらったりせず、はっきり意見を述べる。	キーワード (1)災害 (2)戦争 (3)近世 (4)近代	
事前学習（予習） 次回の授業内容に関して、確認しておくべき語句など、基本的には空欄補充形式の予習課題あり。この予習課題は提出はせず、成績にも反映しないが、予備知識や関心をもつことは、授業の理解度を高める。是非、積極的に取り組んで、授業に出席してもらいたい。		
復習についての指示 授業でとりあげるトピックスは日本史を学ぶ“手引き”にとらえ、とくに関心を惹かれた内容に関するものから参考文献を読み進めてほしい。そうすることが復習になるとともに、理解を深めることにもつながる。とりわけ、教員免許取得を目指して履修する諸君は、1冊でも多くの参考文献を手にとるよう、意欲的に取り組んでほしい。	教科書 プリントを配布する	
	評価方法 (1)学期末レポート:55% (2)小レポート:45%：*小レポートは60～100字程度を毎回提出。その日の授業内容に関して、10分程度で記述。 <small>※出席回数が、全授業回数の3分の2に達しない場合、評価の対象外。公欠を含む場合も、欠席が全授業回数の2分の1以上に達すれば、評価の対象外。正当な理由がない遅刻は減点、無断退席は欠席扱いとする。</small>	

日本思想概説

PHIL-J-100

担当者：清水 正之

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

日本語教員養成課程：選択必修科目

講義概要

1. 内容

日本の思想は、日本列島の上で生成し展開してきた自己意識の歴史でもあります。「哲学」という思想形式をながく持たないできた日本では、思想は学問や宗教として、あるいは文芸や芸術思想という形で、続いてきました。この講義では、そうした思想表現にも目を配りながら、倫理思想を中心に、古代から近代に至る日本の思想の歴史を概観します。今年度は、人間の関係性をどう見てきたか、を中心に、自然観や神・超越観を、日本の思想のなかに探っていきたいと思います。

2. 学びの意義と目標

日本の思想の通史であり、入門的かつ基礎的なものです。日本の思想を学ぶことは、自己の内に流れている意識を対象化することでもあります。思想に限らず、歴史、文学史的知識をも得ることが出来るように授業を構成します。そのようにして、日本の思想が何を問題として何を解こうとしたのかを考えてみたいと思います。思想の学習は、思想の原典テキストを読むことが基本ですが、理解を助けるためビデオ等も利用します。

受講生に対する要望

それぞれが日本とは何なのかという問題関心を持っていると思います。それを授業を通して深め、各自の考え方をまとめる機会として積極的な参加を望みます。

キーワード

(1)日本の思想 (2)倫理思想 (3)神道 (4)仏教 (5)儒教

事前学習（予習）

小レポートを題材に、また授業中に意見を述べてもらう機会もつくりまします。授業への積極的参加を望みます。教科書の該当する一章、配付資料を前もって読んでおくこと。

復習についての指示

授業で指摘したポイントに沿って、教科書、配布資料を熟読し、要点をまとめておくこと。。

授業計画

1. はじめに 日本の思想を学ぶ意味 1
2. 日本の思想を学ぶ意味 2
3. 神話の思想 1
4. 神話の思想 2
5. 古代歌謡にみる古代の思想と感性
6. j ほとけのイメージ 仏教の受容と展開
7. 古代仏教の思想
8. 平安仏教の思想 1
9. 平安仏教の思想 2
10. 王朝の文化と感性の表現
11. 物語と中世歴史書
12. 中世の思想 浄土教と鎌倉仏教 1
13. 中世の思想 浄土教と鎌倉仏教 2
14. 室町文化と芸道思想
15. 日本人とキリスト教 キリシタンの伝来
16. キ日本人とキリスト教 リシタンの伝来と近世の思想
17. 東アジアの思想と儒教・朱子学
18. 近世の世界観 朱子学の興隆
19. 近世の世界観 反朱子学の思想
20. 武士の思想
21. 国学の思想とその周辺 近世の思想
22. 商人の思想 近世の思想
23. 近世の文芸・芸術と思想
24. 農民の思想 近世の思想
25. 幕末の思想
26. 幕末・明治の新宗教
27. 啓蒙の思想
28. 西洋受容とキリスト教
29. 近代の思想・近代の哲学
30. まとめ

教科書

清水正之 『日本の思想』（放送大学教育振興会）

評価方法

(1)出席点:30% (2)小レポート:40%:最低五回提出のこと (3)期末テスト:30%

担当者：村松 晋

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

日本語教員養成課程：選択必修科目

講義概要

1. 内容

先人の営んできた思想・思考の歴史には、皆さんが自己と自己をとりまく社会とを批判的に問い質し、借り物でない独自の視点を構築していくために学ぶべきことがらが、数多く散りばめられている。本講義では通史的に、その主要なものを提示することで、皆さんの「常識」に創造的なゆさぶりをかけてみたいと思っている。

2. 学びの意義と目標

これまでに教え込まれた「知識」を主体的に検証し、自分なりのものの見方を構築していくきっかけを手に入れること。

受講生に対する要望

「『歴史』は嫌い、『思想』は難しい」と考えている人にこそ受講してもらいたい。文字通り「入門科目」であるため1、2年次の受講が望ましい。

キーワード

(1) 日本思想史 (2) 宗教 (3) 仏教 (4) 神道 (5) 近代

事前学習（予習）

授業計画を参照し、「ライフデザイン」における私の推薦図書に眼を通しておくこと。

復習についての指示

講義後はその日のうちにレジュメを読み直し理解を深め、次回までに前講義の最後で投げかけられた問いを考えてくること。

授業計画

1. 何を学ぶか—オリエンテーション—
2. 「無文字社会」の人々とその思想
3. 「遺物」に託された祈りの世界
4. 「カミ」をめぐる文化誌
5. 仏教を受け容れた人々—「罪の意識」の芽生え—
6. 「百姓」＝「農民」とされた訳—差別問題を考える—
7. 「見棄てられた人々」と共に—親鸞の深さと新しさ—
8. 歴史と思想の関係 その1—「転換の時代」の意味を問う—
9. 歴史と思想の関係 その2—「弱者」の目線から—
10. 歴史と思想の関係 その3—創られた「江戸時代」イメージ—
11. 「大日本帝国」を創った思想 その1—「祝祭日」の企図—
12. 「大日本帝国」を創った思想 その2—国家と教育—
13. 君たちはどう生きるか その1—「いのち」への祈り—
14. 君たちはどう生きるか その2—〈現代〉への眼—
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 期末試験：100%

期末試験によって評価する。全授業回数の三分の一以上欠席した者には期末試験の受験資格を与えない。遅刻等の扱いは初回の授業で説明する。

担当者：東島 誠

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

講義&演習をミックスした形式で実施する。具体的には、歌川国芳の戯画や鳥山石燕の妖怪画を教材とした、江戸時代の「くずし字」読解、また戦国大名をはじめとする中世古文書の読解を、初歩から手ほどきする。

2. 学びの意義と目標

〔目標〕歴史資料館や博物館で目にする「くずし字」を読めるようになる。〔意義〕古文書などの「一次史料」には、いまだ誰も論じていない未発見・未解明の事実が、それこそ無数に埋蔵されている。この講義では、「史料」を読む力を初歩から養成しながら、歴史家が歴史を再構成していくプロセスの醍醐味を、多角的に学び、体験していただくことになる。

受講生に対する要望

くずし字事典の携行が望ましい。詳しくは初回授業時に指示する。

キーワード

(1)古文書 (2)戦国時代 (3)くずし字 (4)江戸時代 (5)錦絵

事前学習（予習）

負担にならない分量の毛筆のくずし字を自宅学習することで、実力アップを目指す。

復習についての指示

A 4 ファイルを用意し、配布プリントを整理した上で、毎回持参すること。各回冒頭に、質問への応答、学生カードの紹介等の復習を行なうほか、折に触れて以前のプリントを参照することがある。

授業計画

1. ガイダンス：歴史を「考える」ってそういうことだったのか！
2. 江戸時代の絵と字を「読む」(1)
3. 古文書入門(1)
4. 江戸時代の絵と字を「読む」(2)
5. 古文書入門(2)
6. 江戸時代の絵と字を「読む」(3)
7. 古文書入門(3)
8. 江戸時代の絵と字を「読む」(4)
9. 古文書入門(4)
10. 江戸時代の絵と字を「読む」(5)
11. 古文書入門(5)
12. 江戸時代の絵と字を「読む」(6)
13. 古文書入門(6)
14. 江戸時代の絵と字を「読む」(7)
15. 前半のまとめ
16. 力試し1+解説
17. 江戸時代の絵と字を「読む」(8)
18. 古文書実践編(1)
19. 江戸時代の絵と字を「読む」(9)
20. 古文書実践編(2)
21. 江戸時代の絵と字を「読む」(10)
22. 古文書実践編(3)
23. 江戸時代の絵と字を「読む」(11)
24. 古文書実践編(4)
25. 江戸時代の絵と字を「読む」(12)
26. 古文書実践編(5)
27. 江戸時代の絵と字を「読む」(13)
28. 古文書実践編(6)
29. 後半のまとめ
30. 力試し2+解説

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)力試しのうち高得点のほう:60% (2)力試しのうち低得点のほう:10% (3)授業内での提出カード:30%:提出カードの優秀者には、別途加点を行なう。

二度の力試しのうち、得点率の高い方を6、低い方を1の割合で加重して評価する。

担当者：川崎 司

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 内容 自らの〈研究〉を通して得た晴れやかな感動を少しでも心の奥に届けることで、若い皆さんがその命の内に《神》から恵まれた〈賜物〉を発見し、未来の開拓者になっていくきっかけになればと願っている。

2. 学びの意義と目標

2. カリキュラムの位置づけ キリスト教入門の科目として位置づけ、〈永遠の生命〉とは何か一緒に考えていきたい。3. 学びの意義と目標 私たちの先達の〈信仰〉に想いを寄せながら、明日をより良く生きるための新たな手がかりを見いだし、波高いこの世のあるべき姿について考えを深めていきたい。

受講生に対する要望

予習・復習を忘れずに。毎回の小テストに備えること。遅刻厳禁。

キーワード

(1)永遠の命 (2)信仰 (3)開拓者

事前学習（予習）

折にふれ「聖書のことば」を書きとめる習慣を身につけてもらいたい。

復習についての指示

毎回配布する資料を熟読して試験に備えること。

授業計画

1. 「フランシスコ・ザビエル」
2. 「私は“愛”を信じます・高山右近」, 「初女さんのおむすび〜岩木山麓・ぬくもりの食卓〜」
3. 「島原の乱」
4. 「天草四郎時貞」(大島渚監督作品)
5. 「聖書を読んだサムライたちI〜龍馬をめぐる五人の男たち〜」
6. 「聖書を読んだサムライたちII〜世界に羽ばたいた四人の男たち〜」
7. 「学問と情熱・未来へ贈る人物伝 新島襄」
8. 「聖書を読んだサムライたち〜時代を駆け抜けた三人のなでしこたち〜」
9. 「血と火の生涯・山室軍平」, 「死戦を越えて〜賀川豊彦物語(1)」(山田典吾監督作品)
10. 「死戦を越えて〜賀川豊彦物語(2)」
11. 「塩狩峠(1)」(中村登監督作品)
12. 「塩狩峠(2)」, 「三浦綾子の足跡〜むなしさの果てに〜」
13. 「永遠のふるさと〜唱歌・童謡から賛美歌へ〜」
14. 「この子を残して(1)」(木下恵介監督作品)
15. 「この子を残して(2)」

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席状況:25% (2)毎回の小テスト:25% (3)期末試験:25% (4)研究レポート:25%

日本史の研究(近世史特論)

HIST-J-200

担当者：上安 祥子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

江戸時代に生きた、さまざまな人びとの生活感覚を垣間見ることが出来る多様な史料にふれ、江戸という時代と社会の意識や志向、社会情勢を読み解く。まずは、史料を目にする、そして史料に接することに慣れる、ということからはじめて、調べる、読む、考える、といった手順をふんで、歴史を研究する基礎的な作業を体験し、学ぶ。取り扱う史料は、文献だけではなく、地図や図譜などもあり、適宜、画像を映写する。また、史料を実際に手にとる機会も、設ける予定である。なお、文献史料は、原文と読み下し文を配布プリントに併記し、読み方や意味などは、授業時間内に確認・理解できるよう、授業をすすめる。

2. 学びの意義と目標

史料は、なんらかの〈情報〉を発信している。その〈情報〉には、人や書物などに媒介され、運ばれるだけではなく、人と人との、〈情報〉に媒介され、社会的な関係をつくりあげていく、という側面がある。そのような関係の諸相を読み解く作業を通じて、〈覚える〉ものとしてではなく、〈思考する〉ものとして、歴史に向き合う姿勢を身に付けることを目指している。

受講生に対する要望

* 予習課題、あるいは授業で扱う史料から読み取れることなど、発言を求めた際、「わかりません」という答えはしないように、予習として指示されたものについては、しっかり準備しておくこと。その場で考えるものについては、間違えることをおそれたりためらったりせずに、はっきり意見を述べること。
* 辞書や文献などに書かれていることを探し出してわかった気になるのではなく、ほんとうにそうか？なぜそうなのか？といった問題意識をもってもらいたい。

キーワード

(1) 歴史を〈思考する〉 (2) 江戸時代

事前学習（予習）

次回の授業内容に関して課題を出すので、簡略に答えられるように(指名する)準備をして、授業に出席すること。なお、準備した答えが、修正を必要とする内容であっても、成績評価には関係ない。

復習についての指示

* 史料の内容について、キー・ワードや大意を復習すること。* 参考文献を読み進めること。

授業計画

1. ガイダンス
2. 近世人の〈世界〉認識
3. オランダ商館に集う人びと
4. 長崎屋に集う人びと
5. 「素人」、地図を売る
6. 伊勢参り、そのついでにどこへ行く？－江戸時代の旅と観光(1)
7. 江戸へ出頭、そのついでにどこへ行く？－江戸時代の旅と観光(2)
8. 『政談』の写本
9. 和算の世界
10. 魚めづる殿様、虫めづる殿様、鳥めづる殿様
11. 偕楽園主人とは誰か
12. 旅する団十郎－天保改革の一側面(1)
13. 奮闘する江戸町奉行－天保改革の一側面(2)
14. 「古本翁」、情報を売る
15. 「馬鹿」も「あほう」もランク付け

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 学期末レポート: 55% (2) 小レポート: 45% * 小レポートは60～100字程度を毎回提出。その日の授業内容に関して、10分程度で記述。

※出席回数が、全授業回数の3分の2に達しない場合、評価の対象外。公欠を含む場合も、欠席が全授業回数の2分の1以上になれば、評価の対象外。正当な理由がない遅刻は減点、無断退席は欠席扱いとする。

担当者：川崎 司

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 内容 過去は未来のためにある。知ることを学ぶことによって、私たちは誤りのない〈歴史〉を次の世代へ送り届ける役割を担っている。歴史の傍観者であっては決してならない。自ら主体的に参加していかなければならない。本授業では、日本近代史に焦点を当て、国家を絶対的な基準とするテキストには十分に書かれていない、これまで見過ごされてきた出来事や人物にも光を当てるなど、様々な視点や視座から検証を重ね、すでに出来上がってしまった〈歴史〉を見直したい。

2. 学びの意義と目標

2. カリキュラム上の位置づけ これまで学んできたテキストの枠を超えて、歴史の見方をより深めていく。3. 学びの目標 〈歴史〉を創ってきた無数の人々の記憶の中に、明日をよりよく生きるための新たな手がかりを見いだし、波高いこの世を乗り越えていくエネルギーとしたい。

受講生に対する要望

予習・復習を忘れずに。毎回の小テストに備えること。遅刻厳禁。

キーワード

(1) 志 (2) 理想 (3) 言葉 (4) 人生訓

事前学習（予習）

第1回目に授業の概要を明らかにした後、次回のテーマを伝え資料を配布するので、最後まで予習を怠りなく続けること。

復習についての指示

授業毎に出される復習としての「課題」に真剣に取り組み、次の授業への足がかりを築く習慣をつけること。

授業計画

1. 「洪庵のたいまつ」司馬遼太郎, 「緒方洪庵・天然痘との闘い〜医は仁術なり〜」
2. 「高杉晋作〜時代を変えた男の魅力〜」, 「獄舎の出会いが生んだ吉田松陰の思想」
3. 「坂本龍馬の生涯」
4. 「黒鉄ヒロシが語る勝海舟」, 「津田梅子〜“アラウンド20”の悩み〜」
5. 「山内昌之が語る西郷隆盛と大久保利通」, 「福澤諭吉〜そして文明の海原へ〜」
6. 「夏目漱石〜懊悩する魂〜」, 「関川夏央が語る正岡子規」
7. 「夏目漱石〜人間を押す文学〜」
8. 「板垣死すとも自由は死せず〜日本に国会を誕生させた不朽の名言〜」
9. 「自由民権 東北で始まる」
10. 「田中正造と野に叫ぶ人々」
11. 「東と西をつなぐ〜内村鑑三と新渡戸稲造」
12. 「恋女房おりょう 龍馬を語る」, 「子規と律〜闘病7年の記録〜」
13. 「〔坂の上の雲〕二〇三高地」
14. 「〔坂の上の雲〕敵艦見ゆ」
15. 「真珠湾からの帰還〜軍神と捕虜第一号〜」

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席状況:25% (2) 毎回の小テスト:25% (3) 期末試験:25% (4) 研究レポート:25%

日本史の研究(現代史特論)

HIST-J-200

担当者：川崎 司

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 内容 「昭和」という時代を象徴する存在であった昭和天皇が、運命の岐路に立って何を思い何を決断したのかを記録した映像『昭和天皇の時代』（保阪正康監修）をテキストに、NHK制作の最新映像も参考にして、激動の20世紀を振り返り、歴史の真相に少しでも迫りたい。

2. 学びの意義と目標

2. カリキュラム上の位置づけ 春学期の『日本史の研究（近代史特論）』と密接に繋がっているため、できれば併せて受講してもらいたい。3. 学びの意義と目標 逆境や困難にも負けず生き抜いた私達の先輩の〈想い〉に寄り添いながら、真実を見つめる眼を養い、この世のあるべき姿を見極め、明日への確かな歩みを進めるための糧としたい。

受講生に対する要望

予習、復習を忘れずに。毎回の小テストに備えること。遅刻厳禁。

キーワード

(1)天皇（皇室） (2)戦争 (3)庶民

事前学習（予習）

毎授業に配布する資料を精読し、「課題」に真剣に取り組み、また次回の授業テーマについての予習を怠りなく続け、学期末のテスト・レポートに成長の証しを遺してほしい。

復習についての指示

毎回配布する資料を熟読して試験に備えること。

授業計画

1. 「昭和天皇の時代（1）摂政宮 皇太子裕仁」
2. 「第0次世界大戦・日露戦争～渦巻いた列強の思惑～」
3. 「昭和天皇の時代（2）若き天皇の誕生」
4. 「昭和天皇の時代（3）天皇 沈黙の時代」
5. 「さかのぼり日本史・日中戦争、満州事変」、「池上彰の戦争を考える～戦争はなぜ始まり、どう終わるのか～」
6. 「昭和天皇の時代（4）運命の決断」
7. 「日本人はなぜ戦争へと向かったのか（1）“外交敗戦”孤立への道」
8. 「日本人はなぜ戦争へと向かったのか（2）陸軍、暴走のメカニズム」
9. 「日本人はなぜ戦争へと向かったのか（3）熱狂はこうして作られた」
10. 「日本人はなぜ戦争へと向かったのか（4）開戦、リーダーたちの迷走」
11. 「日本のいちばん長い日」（岡本喜八監督作品）
12. 「靖国神社」
13. 「昭和天皇の時代（5）人間天皇の出發」
14. 「昭和天皇の時代（6）新しい国づくり」
15. 「昭和天皇・二つの「独白録」」、「太陽The Sun」（アレクサンドル・ソクーロフ監督作品）

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席状況:25% (2)毎回の小テスト:25% (3)期末試験:25% (4)研究レポート:25%

担当者：東島 誠

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

鎌倉幕府の成立はじつは1192年ではない、などとして顔で語っている人がある。何とも周回遅れな議論だ。「鎌倉幕府の成立はいつか」が重要なのではない。「鎌倉幕府の成立を何年と見ることによって、そこからどのような新しい歴史像が立ち現れてくるのか」が重要なのである。その意味で、本講義は、全く新しい鎌倉幕府成立史を提示することになる。

2. 学びの意義と目標

時代の転換期・変革期に注目する新設科目の一つ。また、諸君が書店で手に取ることのできる歴史書の舞台裏、つまり〈史料から歴史を描き出す現場〉へと案内する講義でもある。今に遺された古文書や日記、文学作品などから歴史を研究する手続きを、初歩から学ぶことを目標とする。

受講生に対する要望

授業効果を高めるため、教室の形状によって、着席できるエリアを制限する。初回講義時の指示にしたがうこと。

キーワード

(1)伊勢国 (2)武蔵国 (3)飢饉 (4)中世国家 (5)女性史

事前学習(予習)

毎回の授業で扱う基礎用語については、前週のプリントで指示する。事前に調べて予備知識を得たうえで講義に出席すること。

復習についての指示

A4ファイルを用意し、配布プリントを整理した上で、毎回持参すること。各回冒頭に、質問への応答、学生カードの紹介等の復習を行なうほか、折に触れて以前のプリントを参照することがある。

授業計画

1. ガイダンス——大河ドラマ『平清盛』再考
2. 平氏政権をどう捉えるか
3. 頼朝の挙兵
4. 鴨長明の見た災害
5. 情報線としての富士川合戦
6. 頼朝か義仲か
7. 飢饉と二つの十月宣旨
8. 伊勢・伊賀の乱
9. 義経の結婚
10. 頼朝と義経と範頼と
11. 1186年、鎌倉幕府の誕生
12. 比企尼と武蔵国
13. 尼將軍再考
14. 中世国家論再考
15. 学期末のまとめ

教科書

授業の中で指示する
目下、教科書となる書籍を準備中であるが、刊行が秋学期に間に合わない場合は、適宜プリントを使用する。

評価方法

(1)学期末のまとめ:55% (2)授業内での提出カード:45%:提出カードの優秀者には、別途加点を行なう。

担当者：稲田 奈津子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

鎌倉時代初期に成立した説話集『古事談』には、平安時代後期を中心に、多彩な話題が掲載されている。歴史的事実に即した内容もあれば、史実とは異なる虚構や怪異譚なども含まれている。しかしそこには、平安時代の具体像を彷彿とさせる様々な要素が散りばめられている。本講義では、『古事談』所載の説話を糸口に、平安時代の文化・社会・精神などが窺われるトピックスを取りあげ、関連史料と読み比べるなど歴史学的に検討を加えることを通して、時代の雰囲気をつ捉えていきたい。

2. 学びの意義と目標

ある出来事が、伝えるメディアによってそれぞれ異なる切り口で語られるのは、今も昔も同じである。本授業では、『古事談』の説話を基本にしつつ、関連する歴史史料と読み比べていくことで、平安社会の具体像に迫るとともに、それぞれの史料（メディア）の性格も考えていきたい。こうした作業を通して、史料読解や史料批判など、歴史史料の基本的なとりあつかい方を学ぶとともに、ひとつのメディアを鵜呑みにしない批判的精神を養い、問題を発見し解決するための論理的な思考過程を身につけることを目指す。

受講生に対する要望

授業では画像を多く提示するので、積極的に教室前方に着席してほしい。また史料の読み上げを基礎として授業を進めるが、流暢さではなく取り組みの姿勢を評価するので、古文の苦手な人や留学生も臆せず参加してほしい。

キーワード

(1) 日本古代史 (2) 平安時代 (3) 『古事談』 (4) 貴族社会 (5) 信仰

事前学習（予習）

次回講義に関連するプリントを配布するので、事前に目を通しておくこと。授業中に指名して史料を音読してもらう。

復習についての指示

授業は配布プリントを中心に進めるので、プリントを読みなおして復習すること。

授業計画

1. ガイダンス（1）—『古事談』について—
2. ガイダンス（2）—花山帝の出家の真相—
3. 内裏焼亡と神鏡（1）
4. 内裏焼亡と神鏡（2）
5. 三舟の才—有能な官人たち—（1）
6. 三舟の才—有能な官人たち—（2）
7. 除目—人事の悲喜劇—（1）
8. 除目—人事の悲喜劇—（2）
9. 天皇の死と皇位継承（1）
10. 天皇の死と皇位継承（2）
11. 説話からみる出土文字資料（1）
12. 説話からみる出土文字資料（2）
13. 貴族と信仰の世界（1）
14. 貴族と信仰の世界（2）
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1) 学期末試験：40% (2) 提出カード：40%：毎時間提出、優秀者には加点あり
(3) 授業での発言：20%：史料の音読ほか、ランダムに指名する

担当者：東島 誠

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

2011年3月の東日本大震災直後に電力供給不足が問題となった際、東日本と西日本の電源周波数の相違が話題になったことを覚えている諸君も多いであろう。この場合の東と西の境目は、おおむね静岡県の富士川と新潟県の糸魚川を結ぶラインになっており、地質学上のフォッサマグナ（中央地溝帯）とほぼ一致している。じつは中世日本の東西の境目もほぼこれと重なっており、特に駿東地域（現静岡県東部）は、鎌倉時代より駿河守護権が及びにくい国境地帯としての性格が濃く、戦国時代には、北条氏・今川氏・武田氏に三方を囲まれながら、誰もが決定的にこの地を掌握できない支配の〈間隙〉地帯として、独特の歴史をたどった。この地域の戦国時代史を主に古文書を素材として復元することで、中世の終焉と徳川政治の起源までを描き出す。あわせて戦国大名の古文書を読解し活用するための、初歩のトレーニングとなることを願っている。

2. 学びの意義と目標

時代の転換期・変革期に注目する新設科目の一つ。また、諸君が書店で手に取ることのできる歴史書の舞台裏、つまり〈史料から歴史を描き出す現場〉へと案内する講義でもある。今に遺された古文書や日記、文学作品などから歴史を研究する手続きを、初歩から学ぶことを目標とする。

受講生に対する要望

授業効果を高めるため、教室の形状によって、着席できるエリアを制限する。初回講義時の指示にしたがうこと。

キーワード

(1)国境 (2)古文書 (3)戦国大名 (4)商人 (5)郷村

事前学習（予習）

毎回の授業で扱う基礎用語については、前週のプリントで指示する。事前に調べて予備知識を得たうえで講義に出席すること。

復習についての指示

A 4 ファイルを用意し、配布プリントを整理した上で、毎回持参すること。各回冒頭に、質問への応答、学生カードの紹介等の復習を行なうほか、折に触れて以前のプリントを参照することがある。

授業計画

1. イントロダクション——日本列島に国境線を引く
2. 国境を越えられない男女——ある詠銭遊女和歌から
3. 逃げ出した家族の行方——北条家朱印状から
4. 戦国大名発給文書の基礎① 判物と印判状
5. 戦国大名発給文書の基礎② 書状
6. 明応政変の前後——北条早雲と北川殿をめぐる人の連鎖
7. 敗戦の記憶——戦国大名今川氏のトラウマ
8. 検地と「案内者」——駿東郡誕生のころ
9. 権利文書の乱発と「神慮」——「かな目録追加」から
10. 戦国大名と商人——武田信玄の駿府制圧から甲相一和まで

11. 国境地帯の郷村——泉郷をめぐる人びと
12. 「満足たるべく候」——戸倉合戦の前後
13. 埋め立てられる〈間隙〉——徳川氏の河東支配
14. 天下人と神格化の論理
15. 学期末のまとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)学期末のまとめ:55% (2)授業内での提出カード:45%:提出カードの優秀者には、別途加点を行なう。

担当者：伊川 健二

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義では中世の日本において外国の窓口となった、または外国における日本の窓口となった主要な港町を概観する。港町は、国内のみならず国内外を結ぶ歴史の現場である。城下町ほどの華やかさもなければ、京都、奈良のような大寺院もないが、異なる文化が混じり合う、独特の空間を形成している。また、現在では、その多くが一定程度観光地としての役割を担っている。それらの町々の概要を確認するとともに、交流史上果たした役割を、史料や写真、地図をまじえて解き明かす。

2. 学びの意義と目標

対外関係は、日本のみならず、韓半島、中国、南ヨーロッパなど関係する多くの国々に残されている史料を読み解く必要のある領域である。港町という具体的な素材をもとに、そのことの楽しさと困難を学ぶ。

受講生に対する要望

本講義でとりあげる港町を訪れた経験のある方もない方もいるだろう。高校などで日本史を履修した方もそうでない方もいよう。基礎からそれぞれの港の世界観までを、規定時間内で扱うつもりでいるので、気楽に聴講していただきたい。

キーワード

(1) 港町 (2) 中世 (3) 文化交流 (4) 対外関係史 (5) アジア

事前学習（予習）

各港の位置を事前に確認しておくとう理解の助けになるでしょう。

復習についての指示

配布プリントは、整理して毎回持参してください。各回冒頭に、質問への応答、学生カードの紹介等の復習を行なうほか、折に触れて以前のプリントを参照することがある。

授業計画

1. ガイダンス
2. 博多
3. 寧波—中世日中関係の窓口
4. 赤間関、兵庫、堺—瀬戸内の諸港
5. 対馬の諸港—日朝関係の最前線
6. 三浦—韓半島の港町
7. 那覇—沖縄（琉球）の港町
8. 府内—大友宗麟と南蛮貿易の港
9. 上川、双嶼—中国島嶼の密貿易港
10. マカオ—ポルトガル人居留区の過去と現在
11. 長崎の諸港—和蘭の世界
12. マニラと浦賀—日西関係と関東地方
13. ゴア—インドの港
14. リスボン—他の諸港との比較のために
15. 学期末のまとめ

教科書

プリントを配布する
参考文献の情報は適宜共有する。

評価方法

(1) 学期末のまとめ: 60%: 具体的には試験（持ち込み可）を想定している。(2) 授業内での提出カード: 40%: 提出カードの優秀者には、別途加点を行なう。

日本史の研究(南北朝動乱史特論)

HIST-J-200

担当者：東島 誠

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

東洋史学者内藤湖南には、今日の日本を知るには、応仁の乱以後の歴史を知っていれば十分、とする著名な講演（1921年）がある。戦国時代以前の中世は近代とはまったく異質な社会であった、とするその大胆な仮説の一方、現代社会は再び中世に向かっているかのようであり、中世史ブームが再燃しつつある。本講義では、網野善彦が「民族史的転換」と呼んだ南北朝時代を掘り下げていく。

2. 学びの意義と目標

時代の転換期・変革期に注目する新設科目の一つ。また、諸君が書店で手に取ることのできる歴史書の舞台裏、つまり〈史料から歴史を描き出す現場〉へと案内する講義でもある。今に遺された古文書や日記、文学作品などから歴史を研究する手続きを、初歩から学ぶことを目標とする。

受講生に対する要望

授業効果を高めるため、教室の形状によって、着席できるエリアを制限する。初回講義時の指示にしたがうこと。

キーワード

(1) 中世 (2) 禅宗 (3) 東アジア (4) 一揆 (5) 天皇

事前学習（予習）

教科書はあくまで講義の出発点であり、終着点ではない。「きわめて平易で軽妙な語り口」（編集者A氏）で、毎回10頁程度と負担も少ないので、かならず事前に読んだ上で授業に臨むこと。

復習についての指示

A 4 ファイルを用意し、配布プリントを整理した上で、毎回持参すること。各回冒頭に、質問への応答、学生カードの紹介等の復習を行なうほか、折に触れて以前のプリントを参照することがある。

授業計画

1. ガイダンス——可能態としての中世
2. 内藤湖南の「近代」とフロイスの「中世」
3. 中世に向かう現代——あなたも君も14世紀人？
4. 史料と展開
5. 妄想と打算——双面の後醍醐天皇
6. 史料と展開
7. 東アジア史のなかの1349－50年
8. 史料と展開
9. 1367年、二人の公方の死
10. 史料と展開
11. ある禅僧の諦念——あまりに日本的な……作法
12. 史料と展開
13. 主体なき14世紀と天皇
14. 史料と展開
15. 学期末のまとめ

教科書

東島 誠 『選書日本中世史 2 自由にしてケンカラン人々の世紀（講談社選書メチエ）』（講談社）

評価方法

(1) 学期末のまとめ:55% (2) 授業内での提出カード:45%:提出カードの優秀者には、別途加点を行なう。

担当者：内藤 みち

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

国際理解力：日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

日常目にしている日本の伝統的な事物を取り扱う。それら事物の「色」や用いられる「鮑」「鯛」などの持つ意味や、「節句」「土俵祭り」「凧」「障子」の由来や、「地名」「家紋」等に含まれる意味などを学ぶ。

2. 学びの意義と目標

日本文化にある事物の意味や規則性学ぶことを目標とする。国内に目を向けることにより、グローバル社会の中において、日本のみならず異文化の中にもそれぞれの文化独特の規則性や意味があることを意識しコミュニケーションをはかれるようになると考える。

受講生に対する要望

授業で導き出された日本的事物の意味や規則性を持つものを身のまわりから見つけ出し考察していく姿勢や興味を持ってもらいたい。

キーワード

(1) 色の持つ意味 (2) 伝統的事物 (3) 祭事 (4) 地名・人名・家紋 (5) 年中行事

事前学習（予習）

各講義内容で扱う事物や、授業内容の規則性・意味を持つ事物を見つめ考察することを予習とする。

復習についての指示

既習の授業内容に関する復習練習問題がなされ、その解答をディスカッション形式で行う。各講義内容で扱う事物や、授業内容の規則性・意味を持つ事物を見つめ考察することを復習とする。

授業計画

1. 授業概要、「文化」について
2. 「色」
3. 「和紙」で作られている物（1）
4. 「和紙」で作られている物（2）
5. 「伊ワイ」（1）
6. 「伊ワイ」（2）
7. 中間試験
8. 「地名」（1）
9. 「地名」（2）
10. 「人名・家紋」
11. 「クリスマス」
12. 「正月」
13. 「和菓子」
14. 「年中行事」（1）
15. 「年中行事」（2）

教科書

ミニマル+ブロックバスター 『イラストでよくわかる 日本のしきたり』（彩図社）

評価方法

- (1) 中間試験：40% (2) 期末試験：40% (3) クラスワーク等：20%

日本の演劇

TART-J-200

担当者：寺田 詩麻

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

日本の中世・近世に誕生し発展した芸能である、能・狂言・文楽（人形浄瑠璃）・歌舞伎のなりたちと特性について、後半は歌舞伎中心となりますが、教科書と、必要に応じてプリント教材・映像資料を使いながら解説します。

2. 学びの意義と目標

・日本文学・文化の専門・選択科目です。・演劇はどのような文化においても、その文化の中で生きている人間の思考を表現する方法として重要です。能・狂言・文楽・歌舞伎は何百年もの間、昔の人たちの生活や思考のありさまをよく伝える演劇として、現在もさかんに上演されています。近年、これらの芸能は文化的な重要性を広く認められるようになり、20代から40代の役者も多く、同世代の観客を集めようと意欲的な公演を行っています。この授業が興味を持つきっかけになればと考えています。

受講生に対する要望

興味を持った、見たい芸能の公演を自分で調べて、劇場などで見ることを強くおすすめします。教室で学んでいるだけでよくわからなくても、実際の舞台を見ると納得できることが多くあります。

キーワード

(1) 伝統芸能 (2) 歌舞伎 (3) 能 (4) 狂言 (5) 文楽

事前学習（予習）

授業中で扱う伝統芸能の内容と歴史について、インターネットなどを用いて事前知識を得ておくこと。また、後半の歌舞伎についてはあらかじめ教科書の該当項目を読んでおくこと。

復習についての指示

配布するプリントや教科書を用いて学習内容を整理し、期末に提出するレポートの項目を考えておくこと。じょじょに執筆が始まればなお良い。

授業計画

1. ガイダンス
2. 中世から近世の日本と演劇—能・狂言・文楽・歌舞伎—
3. 能（1）—能舞台・装置・装束・身体動作—
4. 能（2）—能の主要作品の内容・舞台—
5. 狂言（1）—人物の描写など—
6. 狂言（2）—その舞台—
7. 中世の能・狂言以外の芸能
8. 文楽（1）—人形浄瑠璃の起こり—
9. 文楽（2）—近松門左衛門と竹本義太夫—
10. 文楽（3）—近松以降の人形浄瑠璃—
11. 文楽（4）—他の芸能とのかかわり—
12. 歌舞伎（1）—はじまりから元禄以前—
13. 歌舞伎（2）—元禄歌舞伎・和事と荒事—
14. 歌舞伎（3）—大坂の歌舞伎—
15. 歌舞伎（4）—江戸の歌舞伎・文化文政以前—
16. 歌舞伎（5）義太夫狂言のドラマ（1）
17. 歌舞伎（6）義太夫狂言のドラマ（2）
18. 歌舞伎（7）江戸の歌舞伎—四代目鶴屋南北（1）—
19. 歌舞伎（8）江戸の歌舞伎—四代目鶴屋南北（2）—
20. 歌舞伎（9）歌舞伎十八番と歌舞伎の古典化
21. 歌舞伎（10）江戸から明治へ—河竹黙阿弥（1）—
22. 歌舞伎（11）江戸から明治へ—河竹黙阿弥（2）—
23. 歌舞伎（12）江戸から明治へ—黙阿弥の周辺（1）—
24. 歌舞伎（13）江戸から明治へ—黙阿弥の周辺（2）—
25. 歌舞伎（14）明治の歌舞伎—団菊の時代—
26. 歌舞伎（15）大正から昭和の歌舞伎—団菊以後—
27. 歌舞伎（16）明治から昭和初期の歌舞伎—新歌舞伎（1）—
28. 歌舞伎（17）明治から昭和初期の歌舞伎—新歌舞伎（2）—
29. 歌舞伎（18）昭和戦後の歌舞伎
30. 現代の歌舞伎・文楽／まとめ

教科書

古井戸秀夫 編 『新潮日本文学アルバム 歌舞伎』（新潮社）

評価方法

(1) 小レポート:30%:出席カードに毎回感想・疑問などを記す (2) 小テスト:20%:重要キーワードの確認。半期のうち4~5回予定 (3) レポート:50%:期末に提出。9つの題目の内、任意の3つを選択

この授業は春学期2時限連続授業を予定しています。間で休み時間は充分取りますが、よく考えて選択してください。

日本の音楽 A

TART-J-200

担当者：鈴木 英一

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

指導要領に和楽器が導入され、メディアに津軽三味線などの若き邦楽ミュージシャンが取り上げられ、現在は小さな邦楽ブームといえる状態にある。これは日本音楽が「見直された」結果であろうか、あるいは若者たちが耳慣れない音楽を新たに「発見」した状況なのであろうか。それとも伝統音楽の変質か。日本音楽の存在価値を見極めてみたい。「A」では主に近世以前の音楽を中心に扱い、各ジャンルについて随時補足する。

2. 学びの意義と目標

まず重層的な日本の伝統音楽を紹介する。雅楽・能楽・浄瑠璃・近世三味線音楽・洋楽流入…現代音楽まで、各時代の代表的な音楽が今なおライブで聞くことができるのが日本文化の特異性である。これらを実際に鑑賞し、それぞれのジャンルの特殊性と音楽としての普遍性を検証することを目標とする。さらに講師は邦楽演奏家でもあるので、授業の中で実際に和楽器や歌唱を体験させることも考えており、今まで培ってきた音楽観を問い直してもらいたいと思う。

受講生に対する要望

授業内で感性を研ぎ澄まし、伝統音楽が紛れもなく現代音楽の一ジャンルであることを認識してもらいたい。講義はパフォーマンスとしての音楽を念頭に置いているので、受講生も出席カードやレポートでパフォーマンスしてください。

キーワード

(1) 音楽とは何か (2) 歌と言霊 (3) 外来音楽の日本化 (4) 歌謡と器楽 (5) 現代の邦楽ブーム

事前学習（予習）

予告する音楽について問題意識を持っておくこと。

復習についての指示

学習した音楽について、自分の好きなジャンルとの相違を認識してもらいたい。

授業計画

1. ○貴族の歌謡
2. ○庶民の歌謡
3. ○宗教的な歌謡
4. ○劇歌謡
5. ○セリフ術としての歌謡
6. ○洋楽の影響を受けた歌謡
7. ○津軽三味線I
8. ○津軽三味線II
9. ○和太鼓I
10. ○和太鼓II
11. ○歌舞伎音楽I
12. ○歌舞伎音楽II
13. ○西洋音楽との融合
14. ○現代に生きる伝統音楽I
15. ○現代に生きる伝統音楽II

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 期末レポート:70% (2) 平常点:20% (3) 出席:10%

担当者：鈴木 英一

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

指導要領に和楽器が導入され、メディアに津軽三味線の若き邦楽ミュージシャンが取り上げられ、現在は小さな邦楽ブームといえる状態にある。これは日本音楽が「見直された」結果であろうか、あるいは若者たちが耳慣れない音楽を新たに「発見」した状況なのだろうか。それとも伝統音楽の変質か。日本音楽の存在価値を見極めてみたい。「B」では近世以降の劇場音楽を中心に扱う。

2. 学びの意義と目標

重層的な日本の伝統音楽を紹介する。雅楽・能楽・近世三味線音楽・洋楽流入…現代音楽まで、各時代の代表的な音楽が、いまなおライブで聞くことができるのが日本文化の特異性である。これらを実際に鑑賞し、それぞれのジャンルの特殊性と、音楽としての普遍性を検証することを主な目標とする。さらに講師は邦楽の演奏家でもあるので、授業の中で実際に和楽器や歌唱を体験させることも考えており、今まで培ってきた音楽観を問い直してもらいたいと思う。

受講生に対する要望

「B」では現代と繋がり深い伝統音楽を学ぶので、ぜひ一度は演奏会に出かけて欲しい。講義ではパフォーマンスとしての音楽を念頭に置いているので、受講生も出席カードやレポートでパフォーマンスして欲しい。

キーワード

(1) 歌舞伎音楽 (2) 津軽三味線 (3) 和太鼓 (4) 西洋音楽との融合
(5) 不易流行

事前学習（予習）

とにかく数多くの伝統音楽を試聴しておいてください。

復習についての指示

学習した音楽を理論化してみてください。

授業計画

1. ○雅楽
2. ○能・狂言
3. ○人形浄瑠璃
4. ○歌舞伎
5. ○雑藝
6. ○近代演劇
7. ○津軽三味線I
8. ○津軽三味線II
9. ○和太鼓I
10. ○和太鼓II
11. ○歌舞伎下座音楽I
12. ○歌舞伎下座音楽II
13. ○西洋音楽との融合
14. ○伝統音楽の再生I
15. ○伝統音楽の再生II

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) レポート:70% (2) 平常点:20% (3) 出席:10%

担当者：茂山 千三郎

開設期：春学期集中 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

実践力：実体験の中での文化に接し、身体知としての文化の取得に努める

カリキュラム上の位置付け

日本語教員養成課程：選択必修科目

講義概要

1. 内容

日本の伝統芸能の中で、最もシンプルかつ基礎となる芸能「狂言」を通し古典芸能の伝承を知る。・歴史、演技論、発声法、台本の分析、解釈、衣装分析、能舞台の機能と理論の解説。・基礎の演技「構え・歩み」から一曲の狂言の演技実習で衣装の着付けも含め、上演完成を目標とする。

2. 学びの意義と目標

日本の「伝統芸能」の姿を知ること、私たちがどのような文化を育んできたか、そして、現在の私たちにとってどのような意味を持つのかを理解する。更には、実演を通して、「文化を体験すること」「文化を創造すること」という、アクティブラーニングを実践する。

受講生に対する要望

白足袋（靴下）の着用。実習の授業では、動ける服装で参加のこと。授業の一環として、実際の狂言舞台を鑑賞してもらう。

キーワード

(1) 伝統芸能 (2) 文化理解 (3) 文化体験

事前学習（予習）

実習科目なので、各時間で発見した課題・問題点を自分なりに克服しておくこと。台本を覚えること。

復習についての指示

演技実習では、その日行った台本の読み、演技のおさらいをしておくことが求められる。

授業計画

1. 伝統芸能論 狂言
2. 伝統芸能論 狂言
3. 伝統芸能論 狂言
4. 学外実習
5. 学外実習
6. 能狂言比較
7. 能狂言比較
8. 狂言演技論
9. 台本分析
10. 台本分析
11. 発声
12. 台本読み
13. 台本読み
14. 台本読み
15. 謡実習
16. 謡実習
17. 謡実習
18. 型の稽古
19. 型の稽古
20. 型の稽古
21. 狂言の動きの稽古
22. 狂言の動きの稽古
23. 狂言の動きの稽古
24. 狂言の動きの稽古
25. 狂言の動きの稽古
26. 狂言の動きの稽古
27. 狂言の動きの稽古
28. 着付け実習
29. 総合稽古
30. 総合稽古

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 狂言実習の評価 :60% (2) 狂言鑑賞レポート:20% (3) 最終レポート:20%

担当者：山田 理映

開設期：春学期 必修・選択：選択科目/選択必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

実践力：実体験の中での文化に接し、身体知としての文化の取得に努める

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

いけ花（華道）がなぜ日本の伝統文化であるのか、その歴史や美意識を実技を取り入れながら学ぶ。それぞれの作品から感性を豊かにする。実際に花をいける際には、その都度実習費として1000円程度の費用がかかる予定である。

2. 学びの意義と目標

海外の人々に日本の代表的な文化として紹介されているのがいけ花であり、もっとも身近な伝統文化である。いけ花から日本の奥深い文化の視野を広げて行って欲しい。型の有る作品の中から自らの個性を生かす。

受講生に対する要望

回数を重ねる事で理解していく事なので、積極的に受講して欲しい。準備や片付け等は責任を持って行う。

キーワード

(1) 伝統文化 (2) 様式的美 (3) 歴史 (4) 日本の四季 (5) 花の扱い

事前学習（予習）

グループを作り責任を持って実技などの準備をする。

復習についての指示

作品の管理をきちんとし、感想をまとめる。

授業計画

1. いけ花の誕生から成立 基礎知識
2. 基礎知識 基本花型 1
3. 基礎知識 基本花型 2
4. 基礎知識 基本花型 3
5. 基礎知識 基本花型 4
6. 基礎知識 基本花型 5
7. 基礎知識 基本花型 6
8. 様式的美 花材に合った花型で生ける 1
9. 様式的美 花材に合った花型で生ける 2
10. 様式的美 花材に合った花型で生ける 3
11. まとめ (1)
12. 様式的美 花材に合った花器に生ける 1
13. 様式的美 花材に合った花器に生ける 2
14. 様式的美 花材に合った花器に生ける 3
15. まとめ (2)

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 出席:50% (2) 実技:30% (3) レポート:20%

日本の思想(キリスト教)

RELI-J-200

担当者：村松 晋

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

キリスト教をめぐって繰り広げられた、思想・宗教史上の数あるドラマについて多角的な視点から考察を加えることにより、「キリスト教」ならびに「日本史」へのイメージを刷新し、その実像に迫る手立てを獲得してもらう。さらに「3.11」以後の歴史を生きる皆さんが、〈生きることの意味〉を主体的に考えていけるような授業を心がけていく。

2. 学びの意義と目標

日本の歴史・思想・宗教、特に近代日本の思想史・文学史を視ていくための新しい視点を獲得し、上記領域への関心を深めていくこと。

受講生に対する要望

「相関文化」「日本思想入門」を併せて受講することが望ましい。なお学生の皆さんからの質問等に応じ、授業計画に変更が生じる場合がある。

キーワード

(1)日本史 (2)キリスト教 (3)宗教 (4)思想 (5)近代日本文学

事前学習(予習)

授業計画を参照し、「ライフデザイン」の私の推薦図書に眼を通しておくこと。

復習についての指示

講義後はその日のうちにレジュメを読み直し理解を深め、次回までに前講義の最後で投げかけられた問いを考えてくること。

授業計画

1. 何を学ぶか—オリエンテーション—
2. 「キリスト教史」を問い直す
3. ザビエル以前のこと
4. ザビエルは、なぜ日本に来たか
5. ザビエルは、日本で何をしたか
6. ザビエルたちの言動は、なぜ人びとのところをつかんだか
7. ザビエルの日本伝道は、世界に何をもたらしたか
8. ザビエルの意外な「遺産」
9. 近代日本のキリスト教を問い直す
10. 明治のキリスト者 その1—その出自と内面世界—
11. 明治のキリスト者 その2—「世代交代」を促したもの—
12. 明治のキリスト者 その3—100年前の日本のすがた—
13. 近代日本のキリスト教の課題
14. 現代日本とキリスト教—キリスト教からの問い—
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 期末試験：100%

期末試験によって評価する。全授業数の三分の一以上欠席した者には期末試験の受験資格を与えない。遅刻等の扱いについては初回に説明する。

日本の思想(儒教)

RELI-J-200

担当者：上安 祥子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

日本の近世という時代、〈公共性への志向〉という思潮が立ち現れてくる。経済や政治を論じる言説として、積極的に現実の社会とかかわりをもっていた儒教は、その思潮を構成する、主なものの一つに数えられる。日本の思想家たちが、いかなることを問題として見出し、それを解決するために、いかなることを、儒教の概念や理論を用いていかに表現したのか、という分析視角を設定して、その思潮をたどっていく。

2. 学びの意義と目標

現代社会がどう変わり、またどう変えていくことが出来るのか、それを過去に学ぶことができるテーマとして、〈公共性〉を取り上げている。したがって、近世という過去の時代における〈公共性〉観念の形成を理解するだけではなく、未来に向けた〈公共性〉構築という、現代的な課題としてとらえ直し、ひとりひとりが、その課題に向き合うきっかけを得ることを目指している。また、直面する問題の解決方法が模索され、選択される思想形成の経緯をたどることを通じて、論理的思考力を鍛えていくことも、重要な目標である。

受講生に対する要望

予習課題など、発言を求めた際、「わかりません」という答えはしないように、予習として指示されたものについては、しっかり準備しておくこと。その場で考えるものについては、間違えることをおそれたりためらったりせずに、はっきり意見を述べること。

キーワード

(1) 公共性

事前学習(予習)

* 授業の冒頭で、前回の授業で提出した小レポートの内容を紹介し、論点を整理するので、配布したプリントやノートを見直したうえで、授業に出席すること。* 配布プリントに、“予習”というコーナーを設け、たとえば調べておくべき用語などを指示するので、それらの課題に取り組み、答えを出しておくこと。

復習についての指示

配布プリントにある、“今回のPOINT&復習”のコーナーの、空欄補充をしておくこと。

授業計画

1. ガイドダンスー意図を読む
2. 「乱」とは何か
3. 「共に善に落ちたところ」
4. 「私情」から「至情」へ
5. 徂徠学のかがやき？ー丸山眞男氏の学説をめぐって(1)
6. 「めんめんこう」に悩む
7. なぜ「道」はつくられるのか
8. なぜ「道」は開かれるのか
9. 時代をこえる悩み
10. 「公理」という約束
11. 朱子学≠“朱子学”ー丸山眞男氏の学説をめぐって(2)
12. 「偕楽」と「共楽」
13. 「国家を謀る」
14. 試される『新論』
15. まとめと試験

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 学期末試験:55% (2) 小レポート:45% * 小レポートは60~100字程度を毎回提出。その日の授業内容に関して、10分程度で記述。

※出席回数が、全授業回数の3分の2に達しない場合、評価の対象外。公欠を含む場合も、欠席が全授業回数の2分の1以上になれば、評価の対象外。正当な理由がない遅刻は減点、無断退席は欠席扱いとする。

日本の思想(仏教)

RELI-J-200

担当者：高山 秀嗣

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義では、日本の歴史上における仏教の推移過程についてさまざまな角度から検討を行っていく。日本仏教史の流れを概観することで、仏教を取り巻く周辺状況である日本の思想や文化などについても視野を広げて学びを深めていくことを目的とする。基本は講義形式を取るが、授業への参加も適宜求めていく。

2. 学びの意義と目標

日本仏教史を通史的に概観することにより、日本仏教が社会のさまざまな分野と関わりながら展開してきたことを具体的に学んでいく。また授業に積極的に取り組むことにより、調べ学習や発表の練習などにもなる。

受講生に対する要望

出席は重視する。

キーワード

(1) 宗教 (2) 仏教 (3) 思想 (4) 文化 (5) 日本

事前学習（予習）

教科書は授業開始までに通読しておきたい。各回の内容はあらかじめ提示するので、予習を行った上で授業に臨むこと。また、講義・討論などにも積極的に取り組みたい。

復習についての指示

教科書および配布プリントの内容は、レポートと深くかかわる。精読の必要がある。

授業計画

1. 日本仏教史概観
2. 仏教伝来
3. 聖徳太子
4. 奈良仏教
5. 平安仏教・1
6. 平安仏教・2
7. 鎌倉仏教・1
8. 鎌倉仏教・2
9. 鎌倉仏教・3
10. 室町仏教
11. 近世仏教
12. 近代仏教
13. 現代仏教
14. 現代の宗教状況
15. 講義のまとめ

教科書

廣澤隆之 『図説あらすじでわかる 日本の仏教とお経』（青春出版社）

評価方法

- (1) レポート:50% (2) 出席:30% (3) 授業への取り組み:20%

日本の美術

TART-J-200

担当者：佐伯 英里子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

授業のねらいと概要 日本美術の大きな流れは、他の文化領域と同様、常に外来の刺激を受け(近代以前は主に中国、以降は西欧諸国)その摂取消化を繰り返してきた。しかしそこには常に独自の日本の受容の姿勢、日本的な嗜好の選択が働いていたといえよう。本講義では、そうした外来と和との融合相克のなかで、一貫して変わらず続いてきた日本美術の実態を明らかにすることを目標に、絵画史を中心に概観する。

2. 学びの意義と目標

日本美術に関する基礎的知識を習得するとともに、美術作品を単に感覚的に受け止めることから一歩進んで、表現の背後にある意味を読み解き、より深く鑑賞することにより、現在の問題意識ともリンクさせて考える力を養うことができるようになる。

受講生に対する要望

美術館や博物館見学等、できる限り実作品に触れて、自ら感じ考える機会を持ってほしい。また、日本美術の理解に役立つ、日本の歴史に関する概説的知識を身につけることが望ましい。

キーワード

(1) 伝統と創造 (2) 日本人の美意識 (3) 和と漢 (4) 和と洋

事前学習(予習)

授業計画を参照し、該当する箇所の教科書部分に目を通しておく。

復習についての指示

授業内のスライドやビデオ及び配付資料を参考としながら、授業内容のポイントを整理し、まとめる。

授業計画

1. 授業概要と参考文献紹介
2. 縄文と弥生
3. 奈良時代の美術 1 法隆寺を中心に
4. 奈良時代の美術 2 薬師寺を中心に
5. 奈良時代の美術 3 東大寺を中心に
6. 平安時代の美術 1 密教美術
7. 平安時代の美術 2 絵巻物
8. 平安時代の美術 3 浄土教美術
9. 鎌倉時代の美術 1 運慶と快慶
10. 鎌倉時代の美術 2 肖像画
11. 鎌倉時代の美術 3 縁起絵巻
12. 室町時代の美術 1 禅宗美術
13. 室町時代の美術 2 禅宗美術
14. 室町時代の美術 3 お伽草紙
15. 総括
16. 安土桃山時代の美術 1 障壁画
17. 安土桃山時代の美術 2 城郭建築
18. 江戸時代の美術 1 琳派
19. 江戸時代の美術 2 写生派
20. 江戸時代の美術 3 浮世絵
21. 江戸時代の美術 4 狩野派
22. 近代の美術 1 洋画と日本画
23. 近代の美術 2 大正期
24. 近代の美術 3 昭和初期
25. 現代の美術 1 戦後日本画
26. 現代の美術 2 戦後洋画
27. 現代の美術 3 漫画とアニメ
28. 日本美術の可能性
29. 総括
30. 試験とその解説

教科書

辻 惟雄, 泉 武夫 『日本美術史ハンドブック』(新書館)

評価方法

(1) 小レポート:40% (2) 試験:40% (3) 授業態度:20%:出席状況と学習意欲

担当者：清水 均

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

「文化」は私たちにとって何らかの価値や意味があるとされる。特に、私たちの日々の営みと地続きの地平に存在するポップ・カルチャーは、意識的にも無意識的にも私たちの生活様式や生活感情そのものに価値や意味をもたらすものであるといえ、私たちは嫌でもポップ・カルチャーの影響下にあるといえる。この授業ではそうした視点に立って、2000年代（0年代）を中心とした想像力、表現力の有り様を検証することを通じて、私たちの現在地を確認してみたい。

2. 学びの意義と目標

昨今、日本のポップ・カルチャーは「クール・ジャパン」として海外からも注目されているが、その実態を批評的に検証することで、学生個々の生の現場というものを確認してもらいたい。

受講生に対する要望

カリキュラム上では「文化」の領域に設定されているが、「文化」そのものの意味を問うことを目指しているので、どのジャンルに関心を持つ学生にも、あるいは他学科の学生にも「文化学」の基礎として受講してもらいたい。

キーワード

(1) ポップカルチャー (2) サブカルチャー (3) 想像力 (4) 共同体 (5) 共生

事前学習（予習）

・授業ノートの作成（用語集作成等）を毎授業後に記述することを求める。2～3回程度提出してもらう。・授業用配布プリントの熟読。

復習についての指示

授業ノートの作成。授業で扱うコンテンツに対する自身の見解と授業の説明をまとめ、ノートに記述する。2～3回程度提出してもらう。

授業計画

1. 授業ガイダンス及び導入（現代日本の時代の分岐点解説）
2. I：高度経済成長の終焉前後（1）キャッチコピー
3. I：高度経済成長の終焉前後（2）マンガ表現
4. I：高度経済成長の終焉前後（3）ウルトラマンの問題
5. I：高度経済成長の終焉前後（4）大衆音楽
6. I：高度経済成長の終焉前後（5）テレビドラマと映画表現
7. I：高度経済成長の終焉前後（6）ウォークマンの意義
8. I：高度経済成長の終焉前後（7）村上春樹の変容
9. I：高度経済成長の終焉前後（8）現代文学とここまでのまとめ
10. II：0年代の想像力へ（1）社会学からみた90年代以降
11. II：0年代の想像力へ（2）大衆音楽の変容
12. II：0年代の想像力へ（3）新世紀エヴァンゲリオンの問題
13. II：0年代の想像力へ（4）デス・ノートの問題
14. II：0年代の想像力へ（5）下妻物語の問題①
15. II：0年代の想像力へ（6）下妻物語の問題②
16. II：0年代の想像力へ（7）けいおん!!と涼宮ハルヒの問題
17. II：0年代の想像力へ（8）クレヨンしんちゃんの問題
18. II：0年代の想像力へ（9）昭和ノスタルジーと人生リセット願望
19. II：0年代の想像力へ（10）サマーウォーズの問題
20. II：0年代の想像力へ（11）ラストフレンズの問題
21. III：現代ポップ・カルチャーの可能性（1）学生の見解を共有する
22. III：現代ポップ・カルチャーの可能性（1）学生の見解を共有する
23. III：現代ポップ・カルチャーの可能性（1）学生の見解を共有する
24. III：現代ポップ・カルチャーの可能性（2）村上春樹「1Q84」を中心に
25. III：現代ポップ・カルチャーの可能性（2）村上春樹「1Q84」を中心に
26. III：現代ポップ・カルチャーの可能性（2）村上春樹「1Q84」を中心に
27. III：現代ポップ・カルチャーの可能性（3）魔法少女まどか☆マギカ
28. III：現代ポップ・カルチャーの可能性（3）魔法少女まどか☆マギカ
29. III：現代ポップカルチャーの可能性（4）平成仮面ライダー
30. III：現代ポップカルチャーの可能性（5）共同体と共生の課題

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席:50% (2) 最終レポート:30% (3) 小課題:10% (4) 授業ノート:10%

日本の民俗

FOLK-J-200

担当者：柏木 亨介

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

日本の人びとはどのようにして暮らし、どのような場面で喜び、悲しんできたのか。そして、その気持ちをどのようなかたちで表現してきたのか。本講義では、そうした日常生活の歴史について民俗という文化概念を通して考える。具体的には、都市や農村の社会構造、年中行事（盆・正月、祭り）、人生儀礼（婚姻、出産、葬送儀礼）等の現在と過去のあり方を見比べて、日常生活の移り変わりを検討する。

2. 学びの意義と目標

私たちの生活を改めて振り返る機会をもち、その知識と思考枠組みを再認識する。そうすることで、異なる文化的背景をもつ人びとと交流する際、お互いの考え方や行動を相対的に捉え、尊重しあうことができる。

受講生に対する要望

本講義で取り上げる事例は、授業の性質上、全国各地の代表的な民俗にならざるをえない。みなさんの出身地の民俗について、積極的に情報提供してほしい。

キーワード

(1) 民俗・伝統・伝承 (2) 日常生活 (3) 地域社会 (4) 歴史

事前学習（予習）

講義で取り上げるテーマについて、自身が実際に見聞きしたことを思い出しておくこと。講義のなかで紹介する事例と比較することで、民俗の地域性や時代性がわかり、民俗学の奥深さが楽しめる。

復習についての指示

講義で得た知識をもとに、自分が暮らす地域社会のそれについて詳しく調べる。そうすることで、自分とは世代の異なる人びとの暮らし方について認識を深めることができる。

授業計画

- ガイダンス（講義の目的と進め方について）
- 民俗学の概要
- 歴史と民俗（1）
- 歴史と民俗（2）
- 農山漁村の社会構造と暮らしぶり（1）
- 農山漁村の社会構造と暮らしぶり（2）
- 農山漁村の社会構造と暮らしぶり（3）
- 農山漁村の社会構造と暮らしぶり（4）
- イエと家族（1）
- イエと家族（2）
- 婚姻儀礼（1）
- 婚姻儀礼（2）
- 産育儀礼（1）
- 産育儀礼（2）
- 葬送儀礼（1）
- 葬送儀礼（2）
- 盆と正月（1）
- 盆と正月（2）
- 節句（1）
- 節句（2）
- 暮らしのなかの神々と祭り（1）
- 暮らしのなかの神々と祭り（2）
- 暮らしのなかの神々と祭り（3）
- 暮らしのなかの神々と祭り（4）
- 口頭伝承（1）
- 口承伝承（2）
- 東アジアの民俗文化（1）
- 東アジアの民俗文化（2）
- 現代社会のなかの民俗（1）
- 現代社会のなかの民俗（2）

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 出席点：30% (2) レポート：70%

担当者：清水 均

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

「日本文化」を学ぶことについての導入講座である。日本文化学科では「語学・文学系統」「歴史・思想系統」「文化論・比較文化系統」の三つの柱を立て、「日本文化研究」へのアプローチ方法の目安を示唆しているが、本講座においては、この三つの柱を枠組みとし、それぞれの系統の専任の教員によるオムニバス形式の授業を展開する中で、「日本文化」に関する基礎的な学びをしてもらうこととなる。

2. 学びの意義と目標

4年間にわたる本学日本文化学科での学びの基礎であり、その後の各自の具体的な研究目標を見定めるきっかけを掴んでほしい。その後の方向性に変更、修正がなされることに何ら問題はないが、「日本文化」を捉える上での広い視野を確保する姿勢を身につけてほしい。

受講生に対する要望

オムニバス形式の授業の利点を生かし、各系統における研究の違いと、根底に流れる共通性をしっかりと捉えてほしい。

キーワード

(1) 日本文化 (2) 語学・文学 (3) 歴史・思想 (4) 文化論・比較文化

事前学習（予習）

3回実施される「まとめ」に向けて予習をしておくこと。

復習についての指示

毎回の授業内容をノートにまとめ、提出できるようにしておくこと。

授業計画

1. ガイダンス・導入
2. 語学・文学(1) 小林
3. 語学・文学(2) 川口
4. 語学・文学(3) 黒崎
5. 語学・文学(4) 黒木
6. まとめ①
7. 歴史・思想(1) 東島
8. 歴史・思想(2) 川崎
9. 歴史・思想(3) 清水（正）
10. 歴史・思想(4) 柳田
11. まとめ②
12. 文化論・比較文化(1) 濱田
13. 文化論・比較文化(2) 熊谷
14. 文化論・比較文化(3) 清水（均）
15. まとめ③

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席:50% (2) まとめ:25% (3) 提出物:25%

担当者：寺田 詩麻

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

日本語教員養成課程：選択必修科目

講義概要

1. 内容

世界の芸能のなかでもユニークな位置を占める日本の古典芸能、とくに能・狂言・文楽（人形浄瑠璃）・歌舞伎を中心にとりあげます。・演じられているありさま（芸態）を見てそれぞれの芸能の（とくに形態上の）特徴を把握する・その上で、よく上演されるいくつかの作品の内容を、映像資料を見ながら理解する以上2つを目標とします。

2. 学びの意義と目標

・日本文化学科の選択必修科目の1つ。1・2年での習得を原則としますが、それ以上の学年でも受講することができます。・グローバル化する社会の中で必要なのは英語力だけではなく、英語を話すその人の教養だろうと思われます。内外にわたる仕事をしている日本人が、伝統芸能について問われて答えられないことが多いと聞きます。また将来的に大学で日本文化を専攻したと自己紹介する場合、日本固有の文化としての伝統芸能について問われることがあるでしょう。そうした時のために、この科目があなたの手助けになればよいと思います。

受講生に対する要望

機会があれば、授業で紹介する「伝統芸能」に属する芸能を、実際の舞台で1度は見てほしい。

キーワード

(1) 伝統芸能 (2) 能 (3) 狂言 (4) 文楽 (5) 歌舞伎

事前学習（予習）

毎回の授業で扱う芸能の大まかな歴史や上演内容を、インターネットなどを活用して事前に調べておくに役に立つはずです。

復習についての指示

授業で使用する映像資料はあくまで観劇の代用です。メモを取りながら見て下さい。毎回配布するプリントを各自利用しながら、授業中に見せる映像の内容を自分なりに整理してまとめておくといいと思います。

授業計画

1. ガイダンス
2. 日本の文学史と芸能史
3. 日本の伝統芸能 雅楽
4. 日本の伝統芸能 能
5. 日本の伝統芸能 能周辺の民俗芸能
6. 日本の伝統芸能 狂言（1）
7. 日本の伝統芸能 狂言（2）
8. 日本の伝統芸能 文楽（1）
9. 日本の伝統芸能 文楽（2）
10. 日本の伝統芸能 文楽（3）
11. 日本の伝統芸能 歌舞伎（1）
12. 日本の伝統芸能 歌舞伎（2）
13. 日本の伝統芸能 歌舞伎（3）
14. 日本の伝統芸能 落語・講談など
15. 全体のまとめ・試験

教科書

プリントを配布する
作品内容をまとめ、重要な語句を穴埋めする形式のプリントを毎回配ります。

評価方法

(1) 小レポート:40%:出席カードに授業の感想・疑問などを毎回記す (2) 試験:60%:期末の小論文試験

日本文学概説

JLIT-J-100

担当者：黒木 章

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：国語必修科目、
中学校教諭一種免許：国語必修科目、
日本語教員養成課程：選択必修科目

講義概要

1. 内容

日本近代文学入門。輪切り近代文学史。1868年の明治維新以来の日本近代の作品をおおよそ10年ごとに輪切りにしてその年々に発表された小説類を読んで、作品の時代背景や作家自身の課題を重ねながら講読し、日本近代文学史の大枠をつかめるようにする。読みたいと思っていても大学入学以前には時間がなくて読めなかったような小説類は多いと思う。それらをとにかく読んでみよう、作品の内部にはどんな問題があるのか、なぜ話題にされるべき作品なのかなどを理解する。

2. 学びの意義と目標

よく話題にされてきたものでありながら、未だ読んだことがないような代表的で有名な作品を読んで、文学する楽しみや読みの醍醐味を味わう。作品によって駆け足になったり精読になったりするが、小説読みの技術や方法を身につける。中高の国語教員免許取得を希望する人には選択必修科目である。

受講生に対する要望

ほぼ毎回授業のポイントや問題点を記した印刷物を配布するので、授業中にそれに必要なことを記入して自分の講義ノートを作り予復習に役立ててもらう。またほぼ毎回フィードバックペーパーを配布して質疑応答の材料にする。積極的な参加を望む。

キーワード

(1) 日本近代文学史 (2) 時代と作品 (3) 想像と創造 (4) 表現と意味 (5) 作家と作品

事前学習（予習）

・各時間のポイントや用語などを記して配布する印刷物に書き込み等をして自分の講義ノートを作り、予復習に役立てる。・扱う作品類は事前に読了し、課題をもって参加しなければならない。

復習についての指示

担当者はフィードバックペーパーや質疑応答で復習と予習を確認しながら授業参加態度の評価の項で考慮する。

授業計画

1. 導入。扱う作品の簡単な解説と問題点の提示。授業展開法の確認等
2. 福沢諭吉『学問のすずめ』（1871）読解
3. 同 上
4. スコット著坪内逍遙訳『春風情話』（1880）読解
5. 同 上
6. 森鷗外『舞姫』（1890）読解
7. 同 上
8. 同 上
9. 小試験
10. 泉鏡花『高野聖』（1900）読解
11. 同 上
12. 同 上
13. 谷崎潤一郎『青刺』（1910）読解
14. 同 上
15. 同 上
16. 武者小路実篤『友情』（1919）読解
17. 同 上
18. 同 上
19. 小試験
20. 予備 2回の小試験講評と今後の勉強法について
21. 太宰治『走れメロス』（1940）読解太
22. 同 上
23. 同 上
24. 大岡昇平『野火』（1950）読解
25. 同 上
26. 同 上
27. 大江健三郎『孤独な青年の休暇』（1960）読解
28. 同 上
29. 同 上
30. 定期試験

教科書

進行状況を見ながらその都度安価な文庫本を指示する。入手困難な『西洋道中膝栗毛』と『情海波瀾』は印刷物で配布する。

評価方法

(1) 授業参加態度:30%:フィードバックペーパーと質疑応答 (2) 小試験:30%:1回 (3) 期末試験:40%

日本文学研究と批評(近現代①)

JLIT-J-200

担当者：佐藤 ゆかり

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：国語選択科目、
中学校教諭一種免許：国語選択科目

講義概要

1. 内容

日本の近現代の著名な作家による名作短篇・中篇小説を採り上げ、学生の発表を中心に、講義とディスカッション、映像との比較等を交えて進める。なお、履修者人数によっては、採り上げる作品を変更する場合もある。

2. 学びの意義と目標

日本の近現代文学作品の解釈と鑑賞を通して、作家、作品、時代背景、同時代評、表現技法、文学史的背景、先行論文等も含めた基本的、総合的な研究方法を学ぶ。目標は、(1) 近現代文学の精読と、基本的、総合的な研究方法の習得、(2) 自分の意見を、根拠をもって論述すること、(3) 卒業論文の執筆に役立つ基礎的な近現代文学の知識の習得、である。精読し、調査し、レジメにまとめ、発表するという流れは、情報収集、読み解き、探索、発信という、日常にも役立つと思われる。

受講生に対する要望

文学作品に興味を持つ学生。授業中採り上げる作品は必ず読んで、熱心に取り組める学生の受講を希望する。演習発表中心の授業であるから、担当箇所の作品精読、調査、レジメの作成、それについて発表があるので、その点を留意すること。

キーワード

(1) 近現代日本文学の研究手法 (2) 近現代小説精読 (3) 演習発表の方法 (4) 映像と小説の比較 (5) 他者の意見を聴く

事前学習(予習)

授業中採り上げる作品は必ず読んで、自分の意見をまとめてくること。

復習についての指示

授業内で採り上げた小説について、読んでくること。レジメを見直し、自分の意見をまとめること。

授業計画

1. 近現代文学を読むとは？ 1
2. 資料を使う
3. 横光利一『春は馬車に乗って』 1
4. 同 2
5. 同 3
6. 芥川龍之介『魔術』 1
7. 同 2 映像とディスカッション
8. 国木田独步『春の鳥』 1
9. 同 2
10. 同 3 まとめとディスカッション
11. 有島武郎『小さき者へ』 1
12. 同 2
13. 同 3 まとめとディスカッション
14. 川端康成『伊豆の踊子』 1
15. 同 2
16. 同 3
17. 同 4 まとめとディスカッション
18. 同 5 映像と文学
19. 宮沢賢治『セロ弾きのゴーシュ』 1
20. 同 2
21. 同 3 まとめとディスカッション
22. 同 4 映像と文学
23. 中島敦『山月記』 1
24. 同 2
25. 同 3 まとめとディスカッション
26. 吉本ばなな『キッチン』 1
27. 同 2
28. 同 3 まとめとディスカッション
29. 同 4 映像と文学
30. 総まとめとディスカッション

教科書

プリントを配布する
プリントはなくさないように。

評価方法

(1) レポート:50% (2) 発表:30% (3) 平常点:20%

出席が3分の2以下の者は単位を認定しない。

担当者：前田 潤

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：国語選択科目、
中学校教諭一種免許：国語選択科目

講義概要

1. 内容

◆芥川龍之介を中心とする大正・昭和期の「短編小説」を主な考察対象としながら、「文学」にアプローチする多様な視点や方法論（文学理論）に触れると共に、資料の探し方＋使い方、立論に至るまでの正しい手続きなど、近現代文学研究の基礎を学ぶ。各テキストの成立過程の検証を通じて、文学作品がどのような文化・社会的条件のもとで、どのような歴史的限界を背負って誕生するのかをつぶさに検討する。◆文学研究・文化研究の基礎を学ぶ講座である。◆この講義では、近現代の文学テキストを精読し、先行する他者の見解を整理した上で、意識的に自己の意見形成をはかる訓練をしてもらいたいと考えている。意見を「作り」、わかりやすく「伝達する」ことを前提として、テキストを丁寧に「読む」講座である。

2. 学びの意義と目標

短編小説を精読し、文学テキストへの多様なアプローチの仕方を学ぶことを通じて、学生が自らの主題と方法とを模索する契機としたい。

受講生に対する要望

何篇かの短編小説を自ら読む必要があるため、そのつもりで。ほぼ毎回の授業で意見・感想などを提出してもらう予定である。必ず初回の授業に出席のこと。

キーワード

(1) 芥川龍之介 (2) 筒井康隆 (3) ベトナム (4) 短編小説 (5) 研究方法

事前学習（予習）

対象となる幾つかの文学テキストについては、講義前に読了しておく必要がある。プリントで配布するものもある。初回授業で指示するため、初回授業には必ず出席のこと。

復習についての指示

とにかくテキストを読み返すこと。

授業計画

1. ガイダンス
2. 明治期の青年と「修学旅行」（1）（芥川龍之介）
3. 明治期の青年と「修学旅行」（2）（芥川龍之介）
4. 「紺珠十編」の謎（芥川龍之介）
5. 小説言説の中の「夢」（1）（芥川龍之介）
6. 小説言説の中の「夢」（2）（芥川龍之介）
7. 大正期雑誌の人気獲得戦略（1）（芥川・菊池寛）
8. 大正期雑誌の人気獲得戦略（2）（芥川・菊池寛）
9. 「小説」を成立させる技術をめぐる（1）（芥川龍之介）
10. 「小説」を成立させる技術をめぐる（2）（芥川龍之介）
11. 「小説」を成立させる技術をめぐる（3）（三浦哲郎）
12. 「小説」を成立させる技術をめぐる（4）（三浦哲郎）
13. 「小説」を成立させる技術をめぐる（5）（筒井康隆）
14. 「小説」を成立させる技術をめぐる（6）（筒井康隆）
15. 「小説」を成立させる技術をめぐる（7）（筒井康隆）
16. 「小説」を成立させる技術をめぐる（8）（筒井康隆）
17. 「死」の暗号は解読できるのか？（1）（芥川龍之介）
18. 「死」の暗号は解読できるのか？（2）（芥川龍之介）
19. ベトナム戦争の表象（1）
20. ベトナム戦争の表象（2）
21. 戦争・村上春樹の訳業（1）
22. 戦争・村上春樹の訳業（2）
23. 戦争を見る目（1）（開高健）
24. 戦争を見る目（2）（開高健）
25. ベトナム戦争と小説（1）（開高健）
26. ベトナム戦争と小説（2）（開高健）
27. 従軍体験と小説（1）（島尾敏雄）
28. 従軍体験と小説（2）（J・D・サリンジャー）
29. 写真と小説（1）
30. 写真と小説（2）

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席・受講姿勢:50% (2) 最終試験:50%

日本文学研究と批評(古典①)

JLIT-J-200

担当者：高桑 佳與子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：国語選択科目、
中学校教諭一種免許：国語選択科目

講義概要

1. 内容

歌物語の代表作として広く知られる『伊勢物語』を講読していきます。授業では、作品の大きな魅力である主人公、色好みの貴公子・在原業平の人間像をつかんでいきます。また、業平の生きた時代背景や風俗習慣も確認していきます。二条の後や伊勢の齋宮との許されない恋や、惟喬親王等との交流の中で詠まれた心打つ和歌の数々。『伊勢物語』は、それら業平の歌にまつわる話に、業平以外の人々の歌にまつわる物語も取り込みつつ、全体として業平の「みやびの世界」が形成されていることを学んでいきます。作品中の和歌の重要性に注目して、口語訳・解釈は詳細に考察していきます。

2. 学びの意義と目標

同時代成立の和歌集『古今集』との関連等を考察しながら、「歌物語」としての独自の性格を明らかにしていきます。また、教職を目指す学生の古典対応力の増強も目標としています。『伊勢物語』は、『源氏物語』をはじめとして、能楽・歌舞伎にも影響を及ぼし、屏風など絵画の題材にもなっています。後世の日本文化との関係、発展を考える上で重要な作品です。古来の文人墨客が愛した国民的物語—『伊勢物語』を知ることは、現代人の教養という面でも意義深いことです。

受講生に対する要望

一般教養として古典知識を身につけたい学生、教職科目受講者で古典対応力増強をめざす学生の受講を望みます。

キーワード

(1)平安文学 (2)歌物語 (3)和歌 (4)在原業平 (5)みやび

事前学習（予習）

辞書を引いて自分の口語訳をしてみること。物語のクライマックスを形成する和歌の訳は、ぜひ参考書を見ないでチャレンジしてほしい。

復習についての指示

授業ノートをつくり、内容をまとめていくこと。授業で提示した資料等を調べ、ノートのまとめに加えるとよい。

授業計画

1. 作品概説 伊勢物語誕生の背景
2. " 色好み在原業平
3. 冒頭章段 1段
4. " 2段
5. 業平と二条の後関係章段 3段
6. " 4段
7. " 5段
8. " 6段
9. " まとめ
10. 東下り関係章段 7段
11. " 8段
12. " 9段
13. " 9段
14. " まとめ
15. 東国物語 10段
16. 15回までの復習：和歌の技巧について
17. 伊勢斎宮関係章段 69段
18. " 70段
19. " 71段
20. " 72段 まとめ
21. 筒井筒の章段 23段
22. "
23. 筒井筒と他作品の比較 古今集
24. " 大和物語
25. " まとめ
26. 歌物語について
27. 惟喬親王関係章段 82段
28. "
29. "
30. まとめ 125段

教科書

石田 穰二 『伊勢物語—付現代語訳（角川ソフィア文庫（SP5））』（角川学芸出版）

評価方法

(1)授業時提出物:40% (2)授業時発表:10% (3)期末試験:50%

日本文学研究と批評(古典③)

JLIT-J-200

担当者：上宇都ゆりほ

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：国語選択科目、
中学校教諭一種免許：国語選択科目

講義概要

1. 内容

「平家物語」を読んでみよう。現代語訳やわかりやすい解説もついていた教科書を用いるので、初めて軍記文学を読む学生にとっても、「平家物語」の世界に取り組みやすいであろう。授業は演習形式を取るので、授業参加者が各々の視点から、自由に作品世界にアプローチし、聞いている学生についても、各々が様々な視点から興味を持ち、疑問点などをディスカッションすることを期待している。

2. 学びの意義と目標

2年生以上が選択できる文学系統の科目である。本講座では、古典作品の解釈・研究のために、辞書を片手に自力で古典作品を読み解き、さらに作品の背景に広がる世界を調査研究する方法を身につける。自らの興味に従って、自由な視点から作品の背景を調べ、時代背景を学び、軍記文学の世界を読み解いていく力を養成する。授業は学生による発表形式を取ることで、発表を聞いてどのような問題点を見出すか、学生各々のディスカッションする力を養う。

受講生に対する要望

自分の自由な興味に従って発表してほしい。発表の順番や方法については、最初の講義において順番を決め、また図書館で書籍の探し方を指導するので、初回は必ず出席すること。

キーワード

(1) 平家物語 (2) 学生参加型 (3) 調査研究

事前学習（予習）

参加型の授業であるから、担当者は十分に準備をして授業に臨むこと。自分の担当する箇所はもちろんのことであるが、他の発表者が担当する箇所についても、教科書を読んで予習すること。他のものもあらかじめ音読して予習し、古文に慣れ親しむこと。

復習についての指示

発表者の発表形式や内容について、自分の発表に取り入れるべき点を復習すること。

授業計画

1. 「平家物語」概説と発表順番の決定、図書館にて調べ方の説明
2. 貴族から武士へ
3. 武士とは何か①
4. 武士とは何か②
5. 巻第一「人の世のはかないさだめ」・「赤い恐怖の少年密偵団」
6. 巻第一「怨念を超えた女の友情」①
7. 巻第一「怨念を超えた女の友情」②
8. 巻第一「平家打倒をもくろむ陰謀」
9. 巻第二「父清盛の横暴をいさめる重盛の政治観」①
10. 巻第二「父清盛の横暴をいさめる重盛の政治観」②
11. 巻第三「孤島に独り残され半狂乱になった俊寛」①
12. 巻第三「孤島に独り残され半狂乱になった俊寛」②
13. 巻第四「宗盛をあざむき主君の恨みを晴らした競」
14. 巻第四「宇治橋の死闘と宇治川渡河作戦の敢行」
15. 巻第五「妖怪をにらみかえして退散させた清盛」
16. 巻第六「仲国、想夫恋を奏でる小督」
17. 巻第六「注いだ水が沸騰する高熱で清盛悶死す」
18. 巻第七「俊成に形見の歌を託して都落ちする忠度」
19. 巻第八「威風堂々と都の使者を引見する頼朝公」
20. 巻第九「宇治川の先陣争い」
21. 巻第九「主従二騎で挑む最後の一戦」
22. 巻第九「熊谷直実、息子ほどの敦盛を涙ながらに討つ」
23. 巻第十「自決をはばむ妻子への確執」
24. 巻第十一「扇を射落とす神業の一矢」・手柄を競い合う主従の確執
25. 巻第十一「八歳の天皇、祖母に抱かれ海底の都へ」・「猛将教経と知将知盛、壮絶な戦死を遂げる」
26. 巻第十二「義経暗殺計画の失敗」①
27. 巻第十二「義経暗殺計画の失敗」②
28. 灌頂の巻「法皇の突然の見舞いに尼姿を恥じる建礼門院」①
29. 灌頂の巻「法皇の突然の見舞いに尼姿を恥じる建礼門院」②
30. まとめ

教科書

角川書店 『平家物語（角川ソフィア文庫—ビギナーズ・クラシックス）』（角川書店）

評価方法

- (1) レポート: 60% (2) 発表内容: 40%

日本文学史(近現代)

JLIT-J-200

担当者：前田 潤

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：国語必修科目、
中学校教諭一種免許：国語必修科目

講義概要

1. 内容

◆内容 明治初期から平成に至るまでの日本文学の歩みを概観する。画期的な意味を持つ文学作品や文学者の動向に触れ、その歴史的位置を確認すると共に、同時代の文化社会の中でそれらがどのような役割を果たしていたのかに言及する。特に政治や労働運動、活字出版メディアの史的展開と文学言説との関わりについては詳しく見取り図を引いてゆきたい。授業では項目を挙げるだけの解説は避け、記憶に残るような鮮烈な文学者の言動を紹介したいと考えている。◆カリキュラム上の位置づけ 国語科教員資格取得者としての必修科目。もちろん、資格取得を目指さない学生も受講できる。近現代の日本文学や日本文化に関心のある人にふさわしい科目である。

2. 学びの意義と目標

「近代文学」という制度発生の歴史過程を注視し、「近代文学」が他領域とどのような影響関係のもとで変貌してきたのかについて学ぶことを通じて、「歴史」を相対化し、「現代」を対象化するまなざしを育みたい。

受講生に対する要望

自分が何に興味を持つ存在であるのかという「問い」を持って講義に臨んで欲しい。

キーワード

(1)近代文学 (2)現代文学 (3)近代日本 (4)小説 (5)歴史

事前学習（予習）

授業中紹介してゆく作品の幾つかを、自ら手に取り読んでみて欲しい。

復習についての指示

各回完結型の講義ではあるが、近代文学史の流れを体系的に把握するためには、講義内容の連続性に配慮し、前回の内容を復習しながらついてきて欲しい。

授業計画

1. ガイダンス
2. 近代小説の起源
3. 「浮雲」の実験
4. 「たけくらべ」の文体
5. 「舞姫」の論じ方
6. 「阿部一族」は剽窃文学か
7. 「郊外」の発見
8. 「自然」をめぐる紆余曲折
9. 自己文学と自虐文学
10. 「坊っちゃん」語りの構造
11. 「三四郎」と「青年」
12. 「心」をめぐる論争
13. 革新者・正岡子規
14. 「家族」の文学・志賀直哉と疫病
15. 労働争議と大正文学
16. 職業作家としての芥川龍之介
17. 関東大震災と近代日本文学
18. 谷崎潤一郎の「転向」
19. 「新感覚」の実態
20. 「蟹工船」再考
21. 「人間失格」の「奥行き」
22. 「戦後」文学の可能性
23. 巨人・松本清張
24. 1965・ベトナム・開高健
25. 村上龍の軌跡
26. 1995・村上春樹の「転回」
27. 村上春樹と長編小説
28. 都市・ファッション・ノベル
29. 「詩人」としての津島佑子
30. 長野まゆみと桜庭一樹

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席・受講姿勢:50% (2)最終試験:50%

担当者：家永 香織

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：国語選択科目、
中学校教諭一種免許：国語選択科目

講義概要

1. 内容

中世・近世（時代というなら鎌倉時代から江戸時代まで）の文学作品を取り上げる。それまで貴族階級がほぼ独占していた文化形成の場に、まず武士階級が、そして町人階級が参入していく時期であり、俗っぽさ・人間臭さ・猥雑さ・生活感など王朝文化には見られない特徴が現れると同時に、王朝文化に対する遥かなるあこがれも見出せる時代である。雅やかな王朝文化とは違ったおもしろさを味わってほしい。

2. 学びの意義と目標

中世・近世の文学作品から著名な作品、重要な作品を中心に選んで取り上げる。同時に、さほど著名ではなくとも、おもしろく読める作品にも触れる。各々の作品の独自性を明らかにすると同時に、他の作品との関連や、文学史の中でその作品がどのような位置を占めるかといった視点も大切にして読解を進める。多くの作品に触れる中で、日本古典文学がいかに多様で奥深いかを知って欲しい。

受講生に対する要望

ノートをしっかりとることを心がけて欲しい。テストはノートのみ持ち込み可とする。板書を写すのみでは不十分。講義をきちんと聞き、重要だと思ったことは、たとえ板書されなくてもノートに書くようにしよう。また、疑問が生じたら積極的に質問して欲しい。授業内容に直接関することでなくても、できる限り答え、授業をきっかけにして自分なりに関心の対象を広げていくことを手助けしたい。

キーワード

(1)文学史 (2)中世文学 (3)近世文学

事前学習（予習）

作品の概要について、文学辞典などで確認をしておく。図書館1階にある『日本古典文学大辞典』（岩波書店）、『日本古典文学大事典』（明治書院）などを活用して欲しい。

復習についての指示

ノートの見直しと整理をすること。ノートを見直す過程で、疑問点が見つかったら、次の授業の際に積極的に質問して欲しい。

授業計画

1. 文学史とは
2. 中世の韻文（和歌）－王朝和歌から中世和歌へ
3. 中世の韻文（和歌）－藤原定家と後鳥羽院（1）
4. 中世の韻文（和歌）－藤原定家と後鳥羽院（2）
5. 中世の韻文（和歌）－藤原定家と後鳥羽院（3）
6. 中世の散文（評論）－無名草子
7. 中世の散文（軍記）－平家物語
8. 中世の散文（日記）－建礼門院右京大夫集（1）
9. 中世の散文（日記）－建礼門院右京大夫集（2）
10. 中世の散文（日記）－とはずがたり（1）
11. 中世の散文（日記）－とはずがたり（2）
12. 中世の散文（随筆）－方丈記
13. 中世の散文（随筆）－徒然草（1）
14. 中世の散文（随筆）－徒然草（2）
15. 中世の散文（説話）－発心集
16. 中世の散文（説話）－宇治拾遺物語（1）
17. 中世の散文（説話）－宇治拾遺物語（2）
18. 中世の散文（説話）－今物語
19. 連歌から俳諧へ
20. 近世の韻文（俳諧）－松尾芭蕉
21. 近世の韻文（俳諧）－与謝蕪村・小林一茶
22. 近世の散文（小説）－近世の小説概論
23. 近世の散文（小説）－井原西鶴（1）
24. 近世の散文（小説）－井原西鶴（2）
25. 近世の散文（小説）－井原西鶴（3）
26. 近世の散文（人形浄瑠璃・歌舞伎）－近松門左衛門（1）
27. 近世の散文（人形浄瑠璃・歌舞伎）－近松門左衛門（2）
28. 近世の散文（小説）－読本
29. 近世の散文（小説・落語）－パロディと笑話
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)期末試験:60% (2)平常点:40%:6月頃に1回行うノート点検、数回提出してもらった振り返りシートの内容も加味する。

日本文学特殊講義①

JLIT-J-300

担当者：家永 香織

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

和歌を抜きにして、日本文学を語ることはできない。しかし和歌は難しくてわかりにくい、とっつきにくい、と思われがちである。そこで本講義では、和歌単体ではなく、散文（物語・日記・説話など普通の文章）に取り込まれた和歌を取り上げ、和歌が散文の中でどのように機能しているか、という観点で、和歌を読み解いていきたい。平安～鎌倉時代の物語・日記・説話・歌集など11作品を取り上げるので、多様な作品を読む楽しみも感じてもらえると思う。様々な作品を読みながら、和歌のおもしろさを味わって欲しい。

2. 学びの意義と目標

たった一首の和歌があることによって、物語の主人公の性格が明らかになったり、場面が劇的に盛り上がったりすることもある。また、一首の和歌に基づいて、物語や説話が生まれることもある。物語・日記・説話の中で、和歌がどのような役割を果たしているかを読み解くことを目標とする。

受講生に対する要望

ノートをしっかりとることを心がけて欲しい。テストはノートのみ持ち込み可とする。板書を漫然と写すだけでは不十分。講義をきちんと聞き、重要だと思ったことは、板書されなくてもノートに書くようにして欲しい。また、疑問が生じたら積極的に質問して欲しい。授業に直接関係しないことでも可能な限り答え、受講者が授業をきっかけに関心を広げていくことを手助けしたい。

キーワード

(1) 物語と和歌 (2) 軍記と和歌 (3) 日記と和歌 (4) 説話と和歌

事前学習（予習）

作品の概要を文学辞典などで確認しておく。図書館1階にある『日本古典文学大辞典』（岩波書店）や『日本古典文学大事典』（明治書院）などを活用して欲しい。

復習についての指示

ノートの見直しと整理をする。ノートを見直す過程で疑問点が見つかったら、次の授業の際に質問して欲しい。

授業計画

1. 古典和歌の基礎知識
2. 物語と和歌－『虫めづる姫君』（1）
3. 物語と和歌－『虫めづる姫君』（2）
4. 物語と和歌－『虫めづる姫君』（3）
5. 物語と和歌－『虫めづる姫君』（4）
6. 物語と和歌－『はいずみ』（1）
7. 物語と和歌－『はいずみ』（2）
8. 物語と和歌－『はいずみ』（3）
9. 物語と和歌－『はいずみ』（4）
10. 物語と和歌－『艶詞（恋づくし）』（1）
11. 物語と和歌－『艶詞（恋づくし）』（2）
12. 物語と和歌－『艶詞（恋づくし）』（3）
13. 物語と和歌－『艶詞（恋づくし）』（4）
14. 軍記と和歌－『平家物語』（1）
15. 軍記と和歌－『平家物語』（2）
16. 日記と和歌－『蜻蛉日記』（1）
17. 日記と和歌－『蜻蛉日記』（2）
18. 日記と和歌－『更級日記』（1）
19. 日記と和歌－『更級日記』（2）
20. 日記と和歌－『讃岐典侍日記』（1）
21. 日記と和歌－『讃岐典侍日記』（2）
22. 歌論書－『俊賴髓脳』（1）
23. 様々な形態の和歌－『源順集』
24. 歌論書－『俊賴髓脳』（2）
25. 説話と和歌－『今昔物語集』（1）
26. 説話と和歌－『今昔物語集』（2）
27. 説話と和歌－『今昔物語集』（3）
28. 説話と和歌－『今物語』（1）
29. 説話と和歌－『今物語』（2）
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 期末テスト:60% (2) 平常点:40%: 6月頃に1度行うノート点検、数回提出してもらい振り返りシートの内容も加味する。

担当者：前田 潤

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

◆天災の発生が、同時代の社会・文学にどのような影響を与えてきたのかについて、多角的に考察する。「東日本大震災」の余波から議論を始め、「関東大震災」および「阪神淡路大震災」の発生が、小説を「書く」ことや「読む」こと、また、新聞雑誌に連載中の小説や各種刊行物にどのような影響を与えたのかをつぶさに検討する。同時に、多くの文学作品の中絶・変貌・誕生と深く関わる、震災直下のメディア状況や、罹災社会の混乱を考察する。「例外状況」と「文学」ソフトという観点から、戦争と文学との関わりについても言及する。なお、授業では映像資料を活用する。◆専門領域への知を深化させてゆく契機となる講座である。◆小説の言葉が、現実とどのように関わりながら編成されてゆくのかを知ると共に、震災被害の実態や社会・文化への影響、復興の問題点などについても学んでゆく。

2. 学びの意義と目標

地震と文学との距離をめぐって思考することを通じて、「出来事」の重みに触れると共に、「出来事」が「構成」されるものでもあることをも知って欲しい。

受講生に対する要望

「地震」そのものについて学ぶ授業ではなく「地震」が「われわれ」に何をもたらすか、という点について考える授業であることを知っておいて貰いたい。被災者と非被災者を共に「当事者」とする地点から講義する。初回の授業には必ず参加すること。

キーワード

(1)地震 (2)復興 (3)震災 (4)例外状況 (5)戦争

事前学習（予習）

授業で扱う全ての文学テキストを読む必要は無いが、村上春樹の「震災」小説など、時間をかけて取り上げる2～3篇の作品については読んでもらいたい。また、班分けをして班ごとに報告してもらう場合もある。

復習についての指示

毎回の講義内容の整理と、紹介したテキストに触れることが重要。

授業計画

1. ガイダンス
2. 「東日本大震災」への視点(1) 「被災」の周辺から
3. 「東日本大震災」への視点(2) 初期報道の問題点
4. 「東日本大震災」への視点(3) 文化領域への蚕食
5. 「東日本大震災」への視点(4) 被災と「モラル」をめぐって
6. 天災と「共同体」をめぐる思考(1)
7. 天災と「共同体」をめぐる思考(2)
8. 予告された「震災」の記憶 高嶋哲夫「TUNAMI」
9. 震災発生と情報停滞（阪神淡路大震災）
10. 報道と「震災」の輪郭（阪神淡路大震災）
11. 復興と作家のボランティア実践(1)（田中康夫）
12. 復興と作家のボランティア実践(2)（田中康夫）
13. 震災とコミック
14. 「暴力」としての「震災」(1)（村上春樹）
15. 「暴力」としての「震災」(2)（村上春樹）
16. 震災直後の社会心理と救済(1)（宮本輝）
17. 震災直後の社会心理と救済(2)（宮本輝）
18. 災害ユートピア(1)（9・11）
19. 災害ユートピア(2)（ハリケーンカトリナ）
20. 「例外状態」と絶滅収容所の記録(1)
21. 「例外状態」と絶滅収容所の記録(2)
22. 震災と戦争(1)（小田実）
23. 震災と戦争(2)（小田実）
24. 物語的機縁としての「震災」(1)（東野圭吾）
25. 物語的機縁としての「震災」(2)（東野圭吾）
26. 震災直下の大正期メディア(1)（関東大震災）
27. 震災直下の大正期メディア(2)（関東大震災）
28. 震災の視覚像（竹久夢二）
29. 大正期婦人雑誌の変貌（菊池寛）
30. 震災モラトリアムと小説言説（村上浪六）

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席・受講姿勢:50% (2)最終試験:50%

日本文学の中のキリスト教A

CHRI-J-200

担当者：佐藤 ゆかり

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：国語選択科目、
中学校教諭一種免許：国語選択科目

講義概要

1. 内容

講義形式で、キリスト教の影響を受けた作家、芥川龍之介、太宰治、正宗白鳥の小説を採り上げ、キリスト教との関わりについて学ぶ。なお、小レポート（5回を予定）を課す。授業終了時に、語られた〈物語〉を通して、何を、どのように考えたのか、〈文学〉〈キリスト教〉の両面から述べることにする。なお、採り上げる作品は、一部変更する場合もある。

2. 学びの意義と目標

日本の近現代文学における「文学とキリスト教」、さらに「文学と宗教」というテーマについて理解を深める。目標は、(1) 近現代文学の精読と、基本的、総合的な研究方法の習得、(2) 近現代文学に見られる、作家とキリスト教との関わり方に対する知識の習得、(3) 日本におけるキリスト教の受容の問題についての基礎的知識の習得、である。日本の作家がキリスト教をどのように受容したのかは、その時代の、その作家だけの問題ではなく、現在の一人一人の問題でもある。その意味で、複数の作家の関わりを知ること、いろいろなケースを知ることでもあり、視野を広げることにつながると考える。

受講生に対する要望

文学作品に興味を持つ学生、授業中採り上げる作品は必ず読んで、熱心に取り組める学生、文学とキリスト教に興味を持つ学生の受講を希望する。

キーワード

(1) 日本文学とキリスト教 (2) 近現代小説精読 (3) 日本におけるキリスト教の受容 (4) 太宰治 (5) 芥川龍之介

事前学習（予習）

授業中採り上げる作品は必ず読んで、自分の意見をまとめておくこと。

復習についての指示

授業内で採り上げた小説について、読んでくること。

授業計画

1. 近現代文学とキリスト教
2. 太宰治『駈込み訴へ』 1
3. 同 2
4. 芥川龍之介『奉教人の死』 1
5. 同 2
6. 芥川龍之介『きりしとほろ上人伝』 1
7. 同 2
8. 芥川龍之介『神神の微笑』 1
9. 同 2
10. 芥川龍之介『おぎん』 1
11. 同 2
12. 正宗白鳥『何処へ』より 1
13. 同 2
14. 同 3
15. 日本文学とキリスト教のこれから

教科書

プリントを配布する
プリントはなくさないように。

評価方法

(1) レポート:50% (2) 小レポート:20% (3) 平常点:30%

欠席3分の1を超える場合、単位は認定しない。

日本文学の中のキリスト教B

CHRI-J-200

担当者：佐藤 ゆかり

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：国語選択科目、
中学校教諭一種免許：国語選択科目

講義概要

1. 内容

講義形式で、クリスチャン作家（カトリック）遠藤周作の長編小説『深い河』を全編精読し、文学とキリスト教の関わり、遠藤の提示した日本におけるキリスト教の受容の問題について考える。なお、小レポート（5回を予定）を課す。授業終了時に、語られた〈物語〉を通して、何を、どのように考えたのか、〈文学〉〈キリスト教〉の両面から述べることにする。

2. 学びの意義と目標

日本の近現代文学における「文学とキリスト教」、さらに「文学と宗教」というテーマについて理解を深める。目標は、（1）近現代文学の精読と基本的、総合的な研究方法の習得、（2）近現代文学に見られる、作家とキリスト教の関わり方に対する知識の習得、（3）日本におけるキリスト教の受容の問題についての基礎的知識の習得、である。日本の作家がキリスト教をどのように受容したのかは、その時代の、その作家だけの問題ではなく、現在の一人一人の問題でもある。その意味で、遠藤周作が提起した課題を、作品を通して考えることは、思考をさらに深めることにつながると考える。

受講生に対する要望

文学作品に興味を持つ学生、授業中に採り上げる作品は必ず読んで、熱心に取り組める学生、文学とキリスト教に興味を持つ学生の受講を希望する。

キーワード

(1) 日本文学とキリスト教 (2) 近現代小説精読 (3) 日本におけるキリスト教の受容 (4) 遠藤周作 (5) 『深い河』

事前学習（予習）

授業中採り上げる作品は必ず読んで、自分の意見をまとめておくこと。

復習についての指示

授業内で採り上げた部分を再読し、自分の意見をまとめておくこと。

授業計画

1. キリスト教と近現代文学 遠藤周作の場合
2. 一章 磯辺の場合
3. 二章 説明会
4. 三章 美津子の場合
5. 四章 沼田の場合
6. 五章 木口の場合
7. 六章 河のほとりの町
8. 七章 女神
9. 八章 失いしものを求めて
10. 九章 河
11. 十章 大津の場合
12. 十一章 まことに彼は我々の病を負い
13. 十二章 転生
14. 十三章 彼は醜く威厳もなく
15. 『深い河』総まとめ

教科書

遠藤周作 『深い河』（講談社文庫）

評価方法

- (1) レポート:50% (2) 小レポート:20% (3) 平常点:30%
- 欠席3分の1を超える場合、単位は認定しない。

比較宗教学

RELI-J-200

担当者：芦名 裕子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

国際理解力：日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 内容宗教学は1870年頃、マックス・ミュラーによって提唱された新しい学問である。しかし、神学など、経典研究を中心とする学問の歴史はすでに確立していた。そこで、まず、宗教学の基礎を講義し、世界の宗教を比較宗教学の視点から学んでいく。さらに、アジアの宗教にも焦点を置き、比較考察する。また、私たち日本人の宗教観を世界の諸宗教と比較しながら、再考察し、身近な信仰についても考えてみよう。イスラム教・ヒンズー教・道教など世界の宗教を調査から裏づけられた概説をする。パチカンの内部に迫るDVDによる授業（1回） 2. カリキュラムの位置づけ宗教学の基礎を学ぶ。宗教への興味を喚起する。

2. 学びの意義と目標

宗教学の基礎を学び、諸宗教の経典や内容を修得し、グローバルな視野を獲得する。日本人の宗教を考え、身近な信仰についてもそのルーツ等を探る。

受講生に対する要望

欠席しないようにお願いします。欠席した場合、教科書で必ず復習してください。私語厳禁。

キーワード

(1)アジアの宗教 (2)中国宗教 (3)ユダヤ教 (4)キリスト教 (5)イスラム教

事前学習（予習）

1回2コマの欠席は大きいので、欠席しないように体調等を整える。

復習についての指示

講義で暗記するように指示された項目をきちんと暗記する。講義で紹介した著作を図書館で確認する。

授業計画

1. プロローグ（可能な限り出席のこと）
2. 比較宗教学とは何か
3. 宗教学の基礎
4. 宗教学の方法
5. キリスト教概説
6. キリスト教（カトリック）
7. ユダヤ教と日本
8. ユダヤ教概説
9. イスラム教
10. 仏教概説
11. チベット仏教
12. ヒンズー教
13. 中国宗教（道教1）
14. 道教2 儒教
15. 中国仏教
16. アメリカの宗教
17. アメリカ新宗教（1）
18. アメリカ新宗教（2）
19. 日本仏教
20. アジアの宗教
21. 日本人の信仰（七福神など）
22. キーワード学習
23. プロテスタント神学
24. レポートの書き方等の説明
25. 日本古代宗教
26. 奈良・京都の宗教を考える
27. ヨーロッパの宗教（DVD使用）
28. 日本の新宗教
29. 基礎知識テスト
30. レポートテスト

教科書

芦名裕子 『楽しい宗教学』（三恵社）

評価方法

(1)基礎テスト:50% (2)レポート:50%

出席回数は参考にします。最低出席回数10回(20回中)。

比較文化特殊講義②

CMPC-J-300

担当者：菊池 有希

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

国際理解力：日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本授業では、幕末・維新时期から明治期までの我が国の知識人の西洋体験の意味について考察してゆく。

2. 学びの意義と目標

近代日本の知識人は、それぞれの時代状況において、それぞれのやり方で「西洋」を「発見」し、「日本」を「発見」してきた。彼らのその知的な営みから、近代以降の日本が内包する諸問題について、一定の理解を得ることを目標とする。

受講生に対する要望

学ぶ意欲のある者の受講を望む。

キーワード

(1) 洋行 (2) 近代化／西洋化／文明開化 (3) 文明／文化 (4) 日本への回帰 (5) 複眼的思考

事前学習（予習）

事前にプリントなどを配布した場合、目を通しておくこと。

復習についての指示

授業中に指示する。

授業計画

1. イントロダクション
2. 福澤諭吉の西洋体験（1）
3. 福澤諭吉の西洋体験（2）
4. 福澤諭吉の西洋体験（3）
5. 福澤諭吉の西洋体験（4）
6. 栗本錦雲の西洋体験（1）
7. 栗本錦雲の西洋体験（2）
8. 栗本錦雲の西洋体験（3）
9. 栗本錦雲の西洋体験（4）
10. 久米邦武の西洋体験（1）
11. 久米邦武の西洋体験（2）
12. 久米邦武の西洋体験（3）
13. 久米邦武の西洋体験（4）
14. 成島柳北の西洋体験（1）
15. 成島柳北の西洋体験（2）
16. 成島柳北の西洋体験（3）
17. 成島柳北の西洋体験（4）
18. 森鷗外の西洋体験（1）
19. 森鷗外の西洋体験（2）
20. 森鷗外の西洋体験（3）
21. 森鷗外の西洋体験（4）
22. 夏目漱石の西洋体験（1）
23. 夏目漱石の西洋体験（2）
24. 夏目漱石の西洋体験（3）
25. 夏目漱石の西洋体験（4）
26. 永井荷風の西洋体験（1）
27. 永井荷風の西洋体験（2）
28. 永井荷風の西洋体験（3）
29. 永井荷風の西洋体験（4）
30. 試験及びその解説

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 試験：50% (2) コメントシート：50%

担当者：氏家 理恵

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

国際理解力：日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義では、英語と日本語で書かれた韻文（詩・短歌・俳句など）を分析し比較することによって、それぞれの独自性とお互いの類似性を考察していく。歴史・リズム・形式・題材・イメージ・修辭法などさまざまな比較要素について概観するとともに、なるべく多くの作品を実際に鑑賞していく。

2. 学びの意義と目標

自分の好きな詩や歌の歌詞などが、日本古来の韻文の伝統を継承しつつ西洋詩の影響を受けながら発展してきたことを再確認し、またグローバルな視点から日本の短歌や俳句をとらえ直すことによって、世界文学における日本の位置づけを知る。比較という視点を通して、韻文についてばかりでなく日欧の歴史・文学・文化についての知識を高める。

受講生に対する要望

日本文学・外国文学を問わず詩や歌詞が好きな学生、興味があるという意欲的な学生の受講を希望する。自らも多くの作品例を探して分析することで、授業に積極的に参加してほしい。また、この科目は欧米文化学科・日本文学文化学科の2年以上の専門科目でもあるので、日本と欧米の文学的・文化的基礎知識がある程度あることが受講の前提条件となるだろう。

キーワード

(1) 比較文学 (2) 韻文 (3) 英詩 (4) 比較文化

事前学習（予習）

大きなテーマごとに予習課題を出すので、しっかりと取り組むこと。また、興味がある詩や歌詞を意識し、レポートに向けて事例収集をすること。

復習についての指示

テーマ毎に大きなまとめを自分でしておくこと。それぞれのテーマに関する作品例を随時集めること。

授業計画

1. イントロダクション
2. 詩の修辭法Iーイメージ
3. イメージ比較1ー植物
4. イメージ比較1 続ー春の花
5. 韻文形式の比較：日本の韻文
6. 韻文形式の比較：英米詩
7. 英詩のリズム
8. 韻ー日本の「韻文」は「韻」文か
9. イメージ比較2ー色
10. イメージ比較2ー作品例から
11. 韻文史比較1
12. 韻文史比較2
13. 西洋詩の翻訳と新体詩の誕生
14. 日本の詩と英語の詩は同じ？
15. イメージ比較3ー動物
16. 和歌の修辭法
17. 短歌と連歌と狂歌
18. 俳句の修辭法
19. 俳句と川柳
20. TankaとHaiku
21. イメージ比較4ー自然現象その他
22. リズム比較
23. 文語定型詩と口語自由詩
24. 浪漫主義とロマン主義
25. 象徴主義とモダニズム
26. 詩の修辭法IIー比喩表現
27. 詩の修辭法IIIー対照表現
28. 現代短歌・現代俳句・現代詩
29. 比較文学の可能性ー韻文比較を例に
30. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) ミニッツノート・小テスト：30% (2) 課題：30% (3) 中間レポート：20% (4) 期末レポート：20%

担当者：濱田 寛

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

国際理解力：日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする

カリキュラム上の位置付け

日本語教員養成課程：選択必修科目

講義概要

1. 内容

遣隋使・遣唐使に関連する資料を読み、「文化交流史」を人的・物的交流の側面から考察する。基本的な文献操作の手法を学び、専門演習・卒業研究における各自の研究課題への確かな方法論を身につける。

2. 学びの意義と目標

日本および中国の文献に対する理解を深めるとともに、基礎的な読解力の涵養を目指し、あわせて「問題発見」に至る「考え方」を修得する。

受講生に対する要望

漢文に対する苦手意識のある学生の挑戦を期待する。

キーワード

(1) 遣隋使／遣唐使

事前学習（予習）

講義に先行して資料を配付する予定である。事前に確認すべき箇所を適宜教場で提示する。

復習についての指示

漢文資料に対する理解度が本講義の成功の重要なポイントとなる。各自の理解に応じた復習は必須である。教場で適宜指示する。

授業計画

1. ガイダンス
2. 遣隋使をめぐる諸問題(1)
3. 遣隋使をめぐる諸問題(2)
4. 遣隋使をめぐる諸問題(3)
5. 遣隋使をめぐる諸問題(4)
6. 遣隋使をめぐる諸問題(5)
7. 遣隋使をめぐる諸問題(6)
8. 遣隋使をめぐる諸問題(7)
9. 遣隋使をめぐる諸問題(8)
10. 遣唐使をめぐる諸問題(1)
11. 遣唐使をめぐる諸問題(2)
12. 遣唐使をめぐる諸問題(3)
13. 遣唐使をめぐる諸問題(4)
14. 遣唐使をめぐる諸問題(5)
15. 遣唐使をめぐる諸問題(6)
16. 遣唐使をめぐる諸問題(7)
17. 遣唐使をめぐる諸問題(8)
18. 遣唐使をめぐる諸問題(9)
19. 遣唐使をめぐる諸問題(10)
20. 遣唐使をめぐる諸問題(11)
21. 遣唐使をめぐる諸問題(12)
22. 遣唐使をめぐる諸問題(13)
23. 遣唐使をめぐる諸問題(14)
24. 遣唐使をめぐる諸問題(15)
25. 遣唐使以後の文化交流(1)
26. 遣唐使以後の文化交流(2)
27. 遣唐使以後の文化交流(3)
28. 遣唐使以後の文化交流(4)
29. 遣唐使以後の文化交流(5)
30. 総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 平常点:50%:小レポート等 (2) 学期末レポート:50%

文化交流史(欧米と日本)

INTD-J-100

担当者：黒木 章

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

国際理解力：日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする

カリキュラム上の位置付け

日本語教員養成課程：選択必修科目

講義概要

1. 内容

最初の文部大臣森有礼の思想と行動を通じて日本の近代化の問題を考える。森有礼は、幕末に秘密留学生として英国に渡り、文明の根底にある「人間の問題」を探究する必要があることに気づく。そして明治維新の際帰国した後、米国小弁務使、清国大使、英国大使になったが、この間彼の一貫する関心は「国民教育」の問題である。明治期の教育行政の担い手となった彼の言動にどのような問題があったのかを検証する。

2. 学びの意義と目標

夏目漱石が講演「現代日本の開化」で言ったように、日本の近代化は黒船来航に象徴される欧米列強との出会いによって始まったといえる。森有礼の幕末秘密留学に係る僅か数年の体験は彼の思想形成とその後の生き方に重要な意味を持ち、そのことが憲法発布の当日の朝暗殺される事態に深く関わるようである。ここでは特に明治初期の国民教育の問題を巡ってあらわになる日本人の持つ可能性と挫折を考えることになる。このことは現代の我々の課題を逆照射することを意図している。

受講生に対する要望

グローバルな視点で日本文化を考えるという科目設置の理念に沿って、森有礼の場合を具体的に検証しながら人間と社会・歴史と文化の問題を考える。この科目は他学科の学生にも開放されているので、比較文化や比較思想などに興味を持つ人には学びの成果は大きいはずであるので、日本の近代史や異文化交流に興味を持つ学生の積極的な参加を望む。

キーワード

(1) 秘密留学 (2) 英国とグラバー兄弟 (3) 新生社 (4) 明六雑誌と妻妾論 (5) 倫理・修身

事前学習（予習）

・ほぼ毎回資料や授業の問題点を記した印刷物を配布して展開し、受講生はそれに書き込みをして自分の講義ノートを作るだけでなく、予復習に役立ててもらう。

復習についての指示

・ほぼ毎回配布・回収するフィードバックペーパーによって予復習の状態をみる。例えば授業中に紹介する参考書や文献を読んでいるかどうか等授業参加態度の評価にする。

授業計画

1. 導入。森有礼を問題にする意図の説明と彼の生涯の概説
2. 黒船来航と日本の内外の事情
3. 同 上
4. 馬関戦争と薩英戦争
5. 同 上
6. 秘密留学の事情と意図
7. 同 上
8. 英米での学び
9. 同 上
10. 同 上
11. 同 上
12. 帰国とアメリカ小弁務使時代
13. 同 上
14. 同 上
15. 帰国と『明六雑誌』
16. 「妻妾論」と結婚をめぐる問題
17. 同 上
18. 清国公使と英国公使時代
19. 自由民権運動・静岡事件をめぐる問題
20. 同 上
21. 同 上
22. 国民教育をめぐる問題
23. 同 上
24. 同 上
25. 同 上
26. 同 上
27. 暗殺とその後の国民教育の展開
28. 同 上
29. 同 上
30. まとめ

教科書

授業の中で指示する
・ほぼ毎回配布する印刷物によって展開する。

評価方法

(1) 授業参加態度:30%:フィードバックペーパーと質疑応答 (2) 小レポート:20%:学期途中で1回課す (3) 期末レポート:50%:定期試験に替わるもの

担当者：中空 萌

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

国際理解力：日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

文化人類学と聞くと、世界中の民族の風変わりな慣習（そしてそれらは一見現代日本に住む私たちとは何の関係もなさそうです）を寄せ集めるだけの、マニアックな分野と思われるかもしれませんが、しかし実際のところ、そのような「異文化」を対象として人類学者が取り組んできたのは、自分たちとは異なる考え方や行動様式の持ち主をいかに理解するのかという、グローバル化した現代社会にとっても重要な課題だったりします。自分とは異なる共同体に属する「他者」をフェアーに理解するためには、自分自身の何気ない振る舞いや思考を距離を置いて眺める訓練をし、自分の文化にとっての常識が必ずしも全ての人にとっての常識ではないということを知る必要があります。自分の文化にとっての当たり前の前提を相対化することなしには、他の人々にとっての当たり前の前提を受け入れることなどできないからです。この講義では、文化人類学における基本的な文化理解の理論と方法の解説、さまざまな「異文化」の映像の視聴、そして性、食、家族、交換といった日常的な（それでいて人間にとって普遍的な）トピックについての「異文化」と「自文化」の比較を通して、文化人類学を貫くこうした知的態度について学んでいきます。さらに講義の後半には、開発、人権といった文化間の接触が問題となる現代的な課題についても扱い、どのようにしたら多文化間の理解と対話の可能性が拓けるのか、文化人類学の立場から考えてみたいと思います。

2. 学びの意義と目標

日常的な場面においても「異文化との接触」が増加している現代日本社会において、他者との共生、共存が大事だとよく言われます。宗教や文化を異にする人々が互いの違いを認め合いながら共に生きる、というのは素晴らしいことではあるけれど、同時にとても難しいことでもあります。自分とは異なる思考や行動様式の持ち主に接したときに、「文化が違うから到底理解することなどできない」と理解を放棄するのではなく、また「違いは表面的なものに過ぎず、同じ人間だから根底ではつながっているはずだ」と理想主義に走るのではなく、まず相手がどのように世界を見ているのかを冷静に観察・理解した上で、自分と何が違って何が同じなのかを見極め、対話のための手がかりを得る現実的な態度こそが重要になります。自社会とは遠く離れた場所に暮らす人々の文化に魅了され、彼らのことをよく知ろうと試行錯誤を繰り返してきた文化人類学者が醸成した理論や方法には、こうした態度を得るためのヒントが多く隠されています。その一部について知ること、グローバル化した社会でどう生きるのかを考える契機を得てほしいと思います。

受講生に対する要望

表面的な学説や概念の知識の習得だけではなく、人類学的な問題の切り取り方、文化を考えるセンスを身につけてほしいと思います。

キーワード

(1) 相対化 (2) 他者理解 (3) 比較 (4) フィールドワーク (5) 普遍主義と相対主義

事前学習（予習）

事前に次回のプリントを配布した場合には、それに目を通し、自分の身近な事例を使って考えを深めてくること。

復習についての指示

各回の授業で配布するプリントを再読し、また学期末のレポートのための文献を読み進めておくこと。

授業計画

1. ガイダンス
2. 文化人類学的なものの見方とは
3. 文化人類学の歴史（1）
4. 文化人類学の歴史（2）
5. フィールドワークと他者理解（1）
6. フィールドワークと他者理解（2）
7. 性差：男らしさと女らしさ（1）
8. 性差：男らしさと女らしさ（2）
9. 親族関係：「家族」とは何か（1）
10. 親族関係：「家族」とは何か（2）
11. 生と死：なぜ死が怖いのか（1）
12. 生と死：なぜ死が怖いのか（2）
13. 医療：「病」とは何か（1）
14. 医療：「病」とは何か（2）
15. 儀礼と宗教（1）
16. 儀礼と宗教（2）
17. アニミズムとシャーマニズム（1）
18. アニミズムとシャーマニズム（2）
19. 「人間」というカテゴリー：「個人」のなりたち（1）
20. 「人間」というカテゴリー：「個人」のなりたち（2）
21. 文化人類学からみた経済：市場交換と贈与交換（1）
22. 文化人類学からみた経済：市場交換と贈与交換（2）
23. 開発と文化（1）
24. 開発と文化（2）
25. 民族科学と西洋科学（1）
26. 民族科学と西洋科学（2）
27. 文化相対主義と人権（1）
28. 文化相対主義と人権（2）
29. これまでのまとめ
30. レポートの書き方

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 出席点：30% (2) 授業後のリアクションペーパー：30% (3) 学期末のレポート：40%

担当者：藤田 のぼる

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

実践力：実体験の中での文化に接し、身体知としての文化の取得に努める

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

●この授業は文学作品創作の実習を行います。授業者の専門が児童文学なので、参考にするのは児童文学が多くなりますが、それぞれの創作作品は児童文学に限らず、自由な素材、テーマで書いてもらいます。「創作」が果たして学べるものかどうかという疑問があるかと思いますが、創作のタネはそれぞれの心の中に意外に潜んでいるもので、それにどのような手順でどのように形を与えてやるかを学ぶということになるでしょう。●具体的には、「読む」と「書く」との両方を通して、学んでいきます。最終的にそれぞれ自分のオリジナル作品をしあげることを目標とします。授業の進め方については、受講者の数や希望、提出された作品の傾向などによってかなり変更するケースもありますが、一応の予定として掲げておきます。なお、授業の性格上、受講人数には限定がありますので、事前の掲示など注意してください。また、第1回目の授業は、最大限休まないようにしてください。

2. 学びの意義と目標

・文学作品を、創作という立場から分析、観賞する。・実際に創作活動を通して、文学の表現について考える。

受講生に対する要望

なんといっても、この授業は最終的にそれぞれのオリジナル作品を完成させるのがゴールなので、そこをめざしてがんばってもらいます。

キーワード

(1)創作 (2)文学 (3)表現

事前学習(予習)

作品を読むことは授業内で消化しますが、書くことは宿題になりますので、相応の時間を要します。

復習についての指示

授業で紹介された作品は、なるべく読むようにしてください。

授業計画

1. 始めに～授業の進め方について、前年度作品を読む
2. レッスン1～作文を書こう
3. 作文を読む～「設定」ということ
4. レッスン2～〇〇のつもりになって
5. 作品を読む1～一人称と三人称
6. レッスン3～「視点」ということ
7. レッスン4～会話文
8. 作品を読む2～会話文を生かす
9. 作品を読む3～他大学作品
10. レッスン5～絵本に文をつける
11. 作品を読む4～展開を考える
12. 自作の構想について
13. レッスン6～原稿の書き方
14. 作品を読む5
15. レッスン7～映像を文章に
16. 作品の一次提出
17. 提出作品の個別指導A
18. 提出作品の個別指導B
19. 作品を読む6
20. 作品を読む7
21. 短編の書き方
22. 提出作品の問題点1
23. 提出作品の問題点2
24. 提出作品の問題点3
25. 作品最終提出
26. 提出作品を読む1
27. 提出作品を読む2
28. 提出作品の回覧と感想1
29. 提出作品の回覧と感想2
30. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)提出作品:80% (2)出席:10% (3)提出物:10%

担当者：佐怒賀 直美

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

実践力：実体験の中での文化に接し、身体知としての文化の取得に努める

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

・この授業は俳句創作の実習を行います。授業者は俳句の実作者なので、実作はもちろん、句会や吟行会などを通して、俳句の楽しさや奥深さを体験的に学んでいきます。五七五、十七音という短い言葉の中に潜む広大無辺な世界に、受講者が実作者として飛び込むことになります。・具体的には、句会が中心となります。句会とは、各自が作った俳句を持ち寄り、好きな作品を選び合い、互いに鑑賞や批評をし合う場です。ですから、まずは出席をすることと、俳句を提出することが基本となります。最終的には、句会に提出した俳句を中心に合同句集を制作します。なお、授業の性格上、受講人数には制限がありますので、事前の掲示などに注意してください。・第1回の授業では、俳句の基本についての講義をしますので、極力出席してください。

2. 学びの意義と目標

・俳句作品を、実作者という立場から分析・鑑賞する。・実作・句会・吟行会などの体験を通して、俳句表現、ひいては文学表現について考える。

受講生に対する要望

・能力や資格は不要。俳句は誰にでもできます。この授業では、出席することと俳句を作ることが二大原則です。とにかく意欲を持って参加することを望みます。

キーワード

(1)創作 (2)文学 (3)表現 (4)連衆

事前学習(予習)

原則として、毎回の句会提出用の俳句(3～5句)は宿題となります。

復習についての指示

句会に提出された作品をあらためて鑑賞し直したり、自分の俳句を参加者の批評等を参考に推敲することが大切です。

授業計画

1. 講義：俳句の基本について
2. 吟行会①：まずは俳句を作る(春の句)
3. 句会①：吟行会の句
4. 句会②：春の句一その1
5. 句会③：春の句一その2
6. 吟行会②：初夏の句を作る
7. 句会④：吟行会の句
8. 句会⑤：夏の句一その1
9. 句会⑥：夏の句一その2
10. 句会⑦：夏の句一その3
11. 句会⑧：夏の句一その4
12. 吟行会③：夏の句を作る
13. 句会⑨：吟行会の句
14. 句会⑩：最後の句会
15. 合同句集鑑賞会

* 合同句集原稿提出

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)提出作品:30% (2)出席:20% (3)提出物:20% (4)活動状況:30%

担当者：太田 ミユキ、副田 恵、坂巻 理恵子

開設期：秋学期/春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

表現力・コミュニケーション力：的確な自己表現力を育てる

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：国語必修科目、
中学校教諭一種免許：国語必修科目

講義概要

1. 内容

文章表現力を養い高めるためには、まずもって、文章表現のための基本的な方法を習得しておくことが大事となる。その方法を、前学期の「基礎教育入門（書き方）」で学んだことを基礎にして、ひたすら読みひたすら書くことで身に付けようというのが、本科目のコンセプトである。具体的な進め方としては、毎回始めに若干の説明をおこなった後、時間の限りワークシートや小論文を作成する作業をおこなってもらう。また、各自が事前に準備した学びに基づく小論文を作成する回も設けるたい。すべて個人作業である。毎回提出した課題は、採点して次回に返却する。（ワークシート・原稿用紙は、毎回こちらで用意する）

2. 学びの意義と目標

本科目は、大学生として相応しいレポート・小論文を書くための土台となる基礎力を身につけることを目的とするものである。さまざまな記事を読んだ上で、事実を客観的に説明する、自身の考えを論理的に記述するなどの技法を大学初年次に習得しておくことは、上級学年に進級してゆくにつれて比重を増してくる専門的な学びにおいて、大きな意味を持ってくるであろう。

受講生に対する要望

辞書を持参してくることが望ましい。

キーワード

(1)文章読解力 (2)論理的思考 (3)表現力

事前学習（予習）

初回に具体的に授業計画のプリントを配布するので、その計画に従って、事前に調べたり読んだりしておくこと。

復習についての指示

回目の課題作成につながってゆくように、返却された課題に付されたコメントや添削にしっかり目を通しておくこと。

授業計画

1. 導入
2. 文章構成練習
3. 実作練習①
4. 実作練習②
5. 実作練習③
6. 実作練習④
7. 実作練習⑤
8. 実作練習⑥
9. 実作練習⑦
10. 実作練習⑧
11. 実作練習⑨
12. 実作練習⑩
13. 実作練習⑪
14. 実作練習⑫
15. 総括

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)提出物:70% (2)出席:30%

毎回作成した課題（ワークシート・小論文）を提出してもらい、それを採点したものを集成して評点をつける。したがって、未提出の回があると評点に大きく影響するので、遅刻・欠席には特に注意すること。毎回、課題に取り組むことが試験なので、特に学期末試験はおこなわない。

担当者：川野 一字

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

表現力・コミュニケーション力：的確なコミュニケーション能力を育てる

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

現代の放送を理解するため、とりわけテレビ放送を理解するために映像の歴史をふりかえる。映像の始まりから発展、そして記録映画、芸術的映画、現代のテレビ放送へとつながる流れをたどる。その中で映像が果たした役割、社会に与えた影響、またそうした映像製作で培われた力が初期ののテレビ放送を支えてきた背景を理解する。そして今 放送はどのような役割をにない、時代をどのように伝えているか。通信（IT）との融合はどう進み、これからどう発展してゆくのか。随時映像を視聴しながら、そのつど小論文にまとめてゆく。

2. 学びの意義と目標

全科に共通する、社会情報、コミュニケーション論の基礎の一つである本講では、批判的な目で情報を受けとめ、自ら情報を発信することも視野に入れて学ぶ。そのため毎時間の小論文作成を重視している。聴取した音声情報、視聴した映像情報をどう受けとめたか。その情報のポイントはなにか。ポイントを表現するための題材の選び方は適切だろうか。等々、放送素材を吟味しながら、映像を、放送を見る目を養ってゆく。小論文の作成はそうした力をつけるための格好の方法でもある。文章力向上のための講座を強く意識している。

受講生に対する要望

1時限目と2時限目がセットになった講座であり、毎回必ず2時限続けて出席することを要請する。回によって多少の違いはあるが、ほぼ1時限目は試験、または視聴、2時限目に小論文作成を予定している。

キーワード

(1)映像の始まり (2)映像の発展と人々の期待 (3)テレビ放送の開始 (4)テレビと通信 (5)デジタルメディア

事前学習（予習）

講座の初めのころ、推薦図書を提示する。

復習についての指示

この講座では復習が重要である。必要な場合は文章の添削もしながら、小論文の質を高めてゆきたい。

授業計画

1. 映像の歴史 1 映像の始まり
2. 映像の歴史 1 映像の始まり
3. 映像の歴史 2 映像の発展
4. 映像の歴史 2 映像の発展
5. ラジオ放送の開始
6. ラジオ放送の開始
7. 戦後日本の復興とテレビ
8. 戦後日本の復興とテレビ
9. テレビ放送の初期
10. テレビ放送の初期
11. テレビ放送の発展
12. テレビ放送の発展
13. メディアの課題 テレビと通信の融合
14. メディアの課題 テレビと通信の融合
15. テレビが映し出す現代社会 1
16. テレビが映し出す現代社会 1
17. テレビが映し出す現代社会 2
18. テレビが映し出す現代社会 2
19. テレビが映し出す現代社会 3
20. テレビが映し出す現代社会 3
21. テレビが映し出す現代社会 4
22. テレビが映し出す現代社会 4
23. テレビと日本文化
24. テレビと日本文化
25. テレビと日本文化
26. テレビと日本文化
27. デジタルテレビの発展
28. デジタルテレビの発展
29. 課題論文作成
30. 課題論文作成

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)日常の小論文:30% (2)授業への姿勢:10% (3)課題論文の作成:60%

ライフデザイン・良く生きるA

CREE-J-100

担当者：清水 均

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講座は学生個々の「キャンパスデザイン」「キャリアデザイン」の充実を願うと同時に、生涯にわたる「ライフデザイン」をイメージしてもらい、それぞれの人生が「良く生きる」といえるような充実したものとなってほしいという願いをこめた講座である。学科カリキュラムにおける「専門基礎科目」に位置する必修科目である。即ち、日本文化学科の学生として卒業するためには履修が絶対に欠かせない科目ということである。

2. 学びの意義と目標

大学で過ごす数年間が人生にとって非常に大切な時間であることは言うまでもない。特に他者とのコミュニケーション力を養成することは生涯にわたって自己を生かす上で必須の要件となるので、是非とも身につけておいてほしい。一方、「読書記録」においては、記述作業を通じて、「読み」の力を養成するとともに、自己を内省する手がかりを掴んでほしい。

受講生に対する要望

上記の目標を達成するために、授業形態は基本的に「参加型」の形式をとる。

キーワード

(1)キャンパスデザイン (2)キャリアデザイン (3)コミュニケーション (4)読書 (5)ビブリオバトル

事前学習（予習）

「私の読書記録」を作成し、毎授業ごとに経過報告を提出する。最終的には「課題図書」「自由図書」から各2冊以上、合計5冊以上の書籍を読むことを義務づける。

復習についての指示

「授業シート」に毎回の授業についての感想、見解を記述する。

授業計画

1. ガイダンス及び教務指導
2. コミュニケーションワーク - 他者を感じる・話す力/聞く力-
3. 大学生としての学びと生活① - マナーを学ぶ-
4. 大学生としての学びと生活② - フィールドワークとプレゼンテーションの方法を学ぶ-
5. 図書館ツアー①
6. 図書館ツアー②
7. キャンパスデザインとは-上級生の話を聞き、自分のキャンパスデザインを考える-
8. キャリアデザインとは-「社会人基礎力」について学ぶ-
9. グループワーク
10. グループワーク
11. ビブリオバトルに向けて①-ガイダンス-
12. ビブリオバトルに向けて②-推薦図書を決める-
13. ビブリオバトル-準決勝-
14. ビブリオバトル-決勝-
15. まとめ（テスト形式）

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:50% (2)読書記録:25% (3)授業シート、ワークシート:25%

担当者：清水 均

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

「ライフデザイン」は、学生個々の「キャンパスデザイン」「キャリアデザイン」の充実とともに、生涯にわたる「ライフデザイン」をイメージし、それぞれの人生が「良く生きる」といえるような充実したものとなってほしいという願いをこめて実施される講座である。「ライフデザイン B」では、「キャリア」を意識してそれぞれのキャンパスライフをどのように組み立てるかをデザインする。また、日本文化学科の学生としてどのような専門研究をするかという方向づけのヒントとなるプログラムを実施する。

2. 学びの意義と目標

「キャンパスデザイン」「キャリアデザイン」を具体的に描き、これから先の学生生活の目標をつかむ。

受講生に対する要望

授業には自分なりの目的意識をもって真剣に臨んでほしい。私語や遅刻は授業進行ならびに他の学生への深刻な妨害となるので厳禁とする。

キーワード

(1) ライフデザイン (2) キャンパスデザイン (3) キャリアデザイン

事前学習（予習）

「読書記録」は適宜記述、提出し、最終的に5枚を提出すること。

復習についての指示

その時間に学んだことに関する「授業シート」を作成し、提出する。

授業計画

1. ガイダンスならびに春学期の振り返り
2. 専門研究への導入①小林・川口
3. 専門研究への導入②黒崎・東島
4. 専門研究への導入③川崎・村松
5. 専門研究への導入④清水（正）・熊谷
6. 専門研究への導入⑤清水（均）及びキャリアガイダンス
7. キャリアデザインプログラム①
8. キャリアデザインプログラム②
9. キャリアデザインプログラム③
10. キャリアデザインプログラム④
11. キャリアデザインプログラム⑤
12. キャリアデザインプログラム⑥
13. キャリアデザインプログラム⑦
14. キャリアデザインプログラム⑧
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席・参加度:25% (2) 「私の読書記録」:25% (3) 授業内容に関する提出物:25% (4) 最終課題:25%

担当者：川崎 司

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人格力・課題解決力：人文学をふまえた専門的知識と倫理観を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

喜びと怒りと哀しみと楽しさと、繰り返され積み重ねられていく「歴史」の姿。そこに刻まれた「社会」の諸相。誰もが限られた時の中で躍動し輝きを放つ。いとおいしい日常の営み。父母や祖父母の世代に起きたことが、さまざまに関連し合って今日の「社会」ができていく。その間に語り継がれてきた「歴史」の映像に五感を傾け、そこに流れている普遍的なるものを探究し、歪んだ自己満足を排し、明日をよりよく生きるための指針としたい。

2. 学びの意義と目標

1945年の終戦記念の日を起点とし、以後の復興から繁栄の道を駆け上った67年を、歴史的・社会的な見地からじっくり見つめてみる。現在の暮らしの原点を探し、その間に何が生まれて何が喪われていったのかを、遺された映像記録の中から共に検証していきたい。

受講生に対する要望

予習と復習を忘れずに。毎回の小テストに備えること。遅刻厳禁。

キーワード

(1)日常 (2)絆 (3)心遣い (4)過去・現在・未来

事前学習（予習）

毎授業に配布する資料を精読し「課題」に真剣に取り組み、また次回の授業テーマについての予習を怠りなく続け、学期末のテスト・レポートに成長の証しを遺してほしい。

復習についての指示

毎回配布する資料を熟読して試験に備えること。

授業計画

1. 「世界恐慌と太平洋戦争 昭和元～20年 1926～1845」
2. 「『蟹工船』 ～小林多喜二のメッセージ」
3. 「私は貝になりたい（1）」
4. 「私は貝になりたい（2）」、「韓国・朝鮮人戦犯の悲劇」
5. 「第五福竜丸（1）」
6. 「第五福竜丸（2）」「第五福竜丸が伝えた核の恐怖」
7. 「核なき世界を ～物理学者・湯川秀樹」
8. 「愛と怒りと ～映画監督・木下恵介」
9. 「二十四の瞳（1）」
10. 「二十四の瞳（2）」
11. 「名もなく貧しく美しく（1）」
12. 「名もなく貧しく美しく（2）」、「父と子 ～続・名もなく貧しく美しく」
13. 「キューボラのある街（1）」
14. 「キューボラのある街（2）」、「北朝鮮に帰ったジュナ～ある在日朝鮮人家族の50年」
15. 「ALWAYS 三丁目の夕日（1）」
16. 「ALWAYS 三丁目の夕日（2）」
17. 「ALWAYS 続・三丁目の夕日（1）」
18. 「ALWAYS 続・三丁目の夕日（2）」、「懐かしの昭和 神武景気から60年安保へ」
19. 「映像の戦後60年 焼け野原・ゼロからの再生 1945～1960」
20. 「映像の戦後60年 疾走する日本・光と影 1960～1975」
21. 「東京オリンピック」、「オリンピックへの道 ～平和への聖火」
22. 「映像の戦後60年 経済大国ニッポン 1975～1990」
23. 「映像の戦後60年 混迷の時代・人々は生きる 1990～2005」
24. 「おくりびと（1）」
25. 「おくりびと（2）」
26. 「ALWAYS 三丁目の夕日 ’64（1）」
27. 「ALWAYS 三丁目の夕日 ’64（2）」
28. 「若者たち」
29. 「若者はゆく」
30. 「めぐみー引き裂かれた家族の30年」

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席状況:25% (2)毎回の小テスト:25% (3)期末試験:25% (4)研究レポート:25%

児童学科

担当者：松本 祐子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

グローバルな視点を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

イギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリア等、英語圏の優れた児童文学作品を取り上げ、訳読する。今回は、イギリスの作家サマセット・モームが書いた童話“The Princess September”を読む。

2. 学びの意義と目標

日本の英語教育は、現在、コミュニケーション力が重視されているが、文法の知識なしに正しく英語を読み書きすることはできない。また、英文を日本語に置き換えることで、英語と日本語の構造の根本的な違いがわかり、文化や思考方法の違いも見えてくる。作品に描かれる文化的背景についても学びながら、英語で物語を読む達成感を味わってほしい。

受講生に対する要望

必ず予習をして授業に臨むこと。

キーワード

(1) 英語と日本語の代名詞 (2) 英文の構造 (3) イギリス的ユーモア (4) 英米児童文学

事前学習（予習）

毎回、必ず予習をしてくること。

復習についての指示

授業で確認した新しい文法事項、構文などをよく見直しておくこと。

授業計画

1. 英文和訳のポイント説明
2. 訳読と解説
3. 訳読と解説
4. 訳読と解説
5. 訳読と解説
6. 訳読と解説
7. 訳読と解説
8. 訳読と解説
9. 訳読と解説
10. 訳読と解説
11. 訳読と解説
12. 訳読と解説
13. 訳読と解説
14. 訳読と解説
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 予習状況と出席：70% (2) 期末試験：30%

担当者：松本 祐子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

児童文化についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この授業では、必ずしも読者を子どもと想定していたわけではなく、昔話からイギリス児童文学の始まりに至るまでの流れ、以後の児童文学に決定的な影響を与えた古典的作品の意味、ファンタジーとリアリズムの果たす役割、さらには現代の児童文学の抱える諸問題について触れながら、英米児童文学の歴史と概要を学んでいく。

2. 学びの意義と目標

長い歴史を持つ英米児童文学は数々のベストセラーを産み出し、また、近年も多くの映像作品の原作となるなど、豊かな物語の宝庫である。一般には名前だけしか知られていないような名作の本当の姿を知ること、人間性についてのより深い知識と教養を身につけることが目標である。

受講生に対する要望

できるだけ多くの作品を読んでほしい。

キーワード

(1) 昔話 (2) ファンタジー (3) エヴリディ・マジック (4) リアリズム

事前学習（予習）

最初の授業で配布する読書リストにしたがって、授業で扱う作品を読んでおくこと。授業時に指示されたレポートはきちんと提出すること。

復習についての指示

授業時のノートを整理しておくこと。

授業計画

1. 授業説明
2. 伝承文芸：昔話（1）
3. 伝承文芸：昔話（2）
4. 伝承文芸：イギリスの妖精（1）
5. 伝承文芸：イギリスの妖精（2）
6. 伝承文芸：マザーグース（1）
7. 伝承文芸：マザーグース（2）
8. イギリス児童文学の始まりと児童文学の分類
9. 近代ファンタジー：ルイス・キャロル（1）
10. 近代ファンタジー：ルイス・キャロル（2）
11. 家庭小説：オルコット
12. 家庭小説：バーネット（1）
13. 家庭小説：バーネット（2）
14. 動物ファンタジー：ベアトリクス・ポター
15. 動物ファンタジー：マイケル・ボンド、A. A. ミルン
16. エヴリディ・マジックの世界：ネズビット
17. エヴリディ・マジックの世界：トラヴァース
18. エヴリディ・マジックの世界：メアリ・ノートン（1）
19. エヴリディ・マジックの世界：メアリ・ノートン（2）
20. ハイ・ファンタジー：C. S. ルイス
21. ハイ・ファンタジー：トールキン
22. ハイ・ファンタジー：ル・グウィン
23. ハイ・ファンタジー：フィリップ・プルマン
24. 現代のリアリズム児童文学：カニグズバーグ
25. 〈人形〉の物語：ゴッデン
26. 〈人形〉の物語：シルヴィア・ウォー
27. 現代の魔法：ローリング
28. 現代の魔法：ダイアナ・ウィン・ジョーンズ
29. 魔法と現実の間：ルイス・サッカー
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1) 期末試験：40% (2) 学期末レポート：30% (3) 課題レポート：20% (4) 出席：10%

担当者：上原 里佳

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

児童文化についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

幼稚園教諭一種免許：選択科目、
保育士資格：選択科目

講義概要

1. 内容

子どもが出会う物語世界の入口にある絵本との出会いは、大人との共同作業によって用意されることから、大人をもう一度、人間の原点である＜子ども＞世界へと誘う働きもしている。子どもの絵本体験とは何かを探りつつ、優れた絵本から、子どもの世界の文法、さらに大人にとっての意味もとらえていきたい。カリキュラム上の位置づけ：絵本文化を通して子どもの感じ方の特性や大人と子どもの関係の原基を探る、子どもの世界を知るための入門的講義である。

2. 学びの意義と目標

児童学科専門科目群「児童文化系統」の選択科目。幼稚園教諭免許状資格科目（選択）、保育士資格科目（選択）としても指定されており、絵本文化を通して子どもの感じ方の特性や大人と子どもの関係の原基を探る、子どもの世界を知るための入門的講義である。子どもが「描かれた世界」をどう受けとめ、どのように心を養っていくのか、そこに「絵本」という媒体や大人はどう関わるのか、保育・教育現場で用いることも考慮しつつ絵本が作り出す＜場＞の意味と可能性を学んでほしい。

受講生に対する要望

復習、期末テストで必要となるので、講義中にノートをとること。また、最低必須出席日数は、大学の規定にしたがい、それに満たない場合は期末テストを受けることが出来ません。

キーワード

事前学習（予習）

日ごろから、図書館・書店等を利用して絵本に触れる機会をつくること。特に図書館はリクエストをかければ古い絵本も見ることができますので、上手に活用しましょう。

復習についての指示

授業で取り上げた絵本は、図書館・書店などで、実際に手にしてみる。実際に子どもに接する機会がある人は、読み聞かせをして彼らの反応を観察すること。

授業計画

1. イントロダクション・アンケート・絵本とは
2. 絵本の誕生
3. 絵本の歴史
4. 子どもの発達と絵本
5. 赤ちゃん絵本
6. 幼児と絵本
7. ナンセンス絵本
8. 言葉の絵本・3つのカテゴリー
9. 文字なし絵本
10. 写真絵本
11. 数・時間・比較の絵本
12. 現代の絵本1
13. 現代の絵本2
14. 総括、復習
15. テスト

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:20%:出席は重視します。特別な事情がない限り、途中退出厳禁。(2)コメントペーパー:30%:講義の理解度、積極性を判断するものとして、成績に反映します。(3)期末テスト:50%

担当者：中村 輝美

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

児童文化についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

子どもにとっておもちゃとはどんな存在なのだろうか。古くから子どもの遊びと深い関わりを持つおもちゃについて、この授業では次の3点について、おもちゃの歴史や学生自身の成長過程を振り返りながら探っていききたい。まず、「子どもの遊びにおけるおもちゃの特性・役割について」みていく。ここでは、子どもの年齢発達について押さえながら、具体的に現在子どもたちに遊ばれているおもちゃを取り上げ、さらに学生自身の過去のおもちゃ遊びの経験を振り返ることでも確認していききたい。次に、「子どもたちのおもちゃ遊びの種類や変遷について」である。昔から変わらずあるもの、時代の変化に伴って増えたもの、時代や場所によっておもちゃそのもの又は遊びの方法が変化したものなど様々だが、日本のおもちゃの歩み（江戸時代から平成にかけて）だけでなく、保育や教育に影響を及ぼした海外のおもちゃについても触れていききたい。最後に、「現代社会におけるおもちゃの特徴や課題について」である。子どもを取り巻く環境の変化や現代社会の特徴について取り上げ、おもちゃは時代に反映されることを確認し、今のおもちゃやこれからのおもちゃのあり方について学生たちと意見交換しながら考えを深めていききたい。

2. 学びの意義と目標

この講義を通して、上記の講義内容で記した「子どもの遊びにおけるおもちゃの特性・役割について」「子どもたちのおもちゃ遊びの種類や変遷について」「現代社会におけるおもちゃの特徴や課題について」といったことを基に、子どもとおもちゃのかかわりについて考えることは勿論のことであるが、将来保育者・教育者として又は一人の大人として子どもとかわるべきとき、どのようなおもちゃを選択し提供できるかといった知見を身につけていくことを目標とする。また、特に20世紀から21世紀にわたるおもちゃの歴史や日本のおもちゃと世界のおもちゃにおける共通点を確認し、様々なおもちゃを使った遊びのスタイルや各国の豊かなおもちゃ文化といったものも理解し、おもちゃ遊びの多様さ・面白さと役割について積極的に自分なりの考えを持ち、受講生同士でお互いに発表したり語り合ったりなど表現する姿勢も身につけてほしい。

受講生に対する要望

子どもの発達など、子どもに関する基本的な考え方を事前に押さえておいてもらいたい。

キーワード

(1)おもちゃの歴史 (2)子どもの発達とおもちゃ (3)子どもの遊び (4)おもちゃの役割 (5)児童文化財

事前学習（予習）

おもちゃ売り場や身近にある施設、おもちゃ美術館などを利用して市販や手作りに関わらず様々なおもちゃに触れておくこと。

復習についての指示

授業で紹介したおもちゃについても上記の施設を利用し、実物を見つけて触れておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション
2. おもちゃの役割・分類について（その1）
3. おもちゃの役割・分類について（その2）
4. 玩具文化史（その1）
5. 玩具文化史（その2）
6. 玩具文化史（その3）
7. 玩具文化史（その4）
8. ままごと玩具にかかわる探究
9. 魔法少女シリーズにかかわる探究
10. ヒーロー・ロボットにかかわる探究
11. おもちゃとキャラクターについて
12. 日本の郷土玩具について
13. 手づくりおもちゃについて
14. おもちゃの安全性について
15. 本授業のまとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)授業態度:20% (2)授業内提出物:40%:毎回提示する課題に対して書いてもらうアクションペーパーを含む。(3)課題レポート:40%

担当者：山田 裕治，東海 千浪，村山 良介

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

オーケストラ(管弦楽)、ブラスバンド(吹奏楽)で主たる、弦楽器、管楽器、打楽器の実技習得を中心に、15回の授業でどのように演奏技術が蓄積されていくか、選曲した楽曲の音楽作りが成されていくかを学ぶ。合奏の編成は、それぞれの楽器群(弦楽器、管楽器、打楽器)に分かれたアンサンブル(小編成同属器楽合奏)を軸に、オーケストラ(管弦楽全体合奏)も演奏する。16回目に行われる演奏会形式公開試験(発表)に向かって、演奏会(試験)当日の準備や段取り、ひととの関わりも含め、その一連の事柄に対応する柔軟さを、経験を通して学ぶ。

2. 学びの意義と目標

幼稚園、保育園、特に小学校の教育現場からの合奏指導の要望に応える為に、オーケストラ(弦楽器、管楽器、打楽器)や小編成の楽器群(前述)のアンサンブルを中心に、楽器奏法と、他人(ひと)といかに音や心を合奏の中で合わせるかを学ぶ。さらに、一つの演奏会が創られていく過程と意味を学ぶ。

受講生に対する要望

実技を伴うので、欠席しないこと。積極的に授業に参加すること。

キーワード

(1)音楽教育 (2)合奏 (3)弦楽器、管楽器、打楽器の奏法 (4)音楽による人とのかかわり

事前学習(予習)

楽譜を読めるように努力してくること。テキストとして渡された譜面を読んでくこと。

復習についての指示

自分の得手、不得手を把握して、次の授業に繋げること。

授業計画

1. 沢山の種類の楽器の中から、担当の楽器を決める。
2. 弦、管、打楽器に分かれて、楽器の扱いを覚える。
3. 基礎的な演奏法を学び、初歩の練習曲を演奏する。(1)
4. 基礎的な演奏法を学び、初歩の練習曲を演奏する。(2)
5. 基礎的な演奏法を学び、初歩の練習曲を演奏する。(3)
6. 基礎的な演奏法を学び、初歩の練習曲を演奏する。(4)
7. 管弦楽曲と小編成器楽合奏曲の譜読みをし、練習する。(1)
8. 管弦楽曲と小編成器楽合奏曲の譜読みをし、練習する。(2)
9. 管弦楽曲と小編成器楽合奏曲の譜読みをし、練習する。(3)
10. 管弦楽曲と小編成器楽合奏曲の譜読みをし、練習する。(4)
11. 各曲の音楽作りを深める。(1)
12. 各曲の音楽作りを深める。(2)
13. 各曲の音楽作りを深める。(3)
14. 各曲の音楽作りを深める。(4)
15. 管弦楽曲を全体で合わせ、練習する。

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席点:75% (2)試験点:25%

担当者：山田 裕治，東海 千浪，村山 良介

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

オーケストラ(管弦楽)、ブラスバンド(吹奏楽)の主たる、弦楽器、管楽器、打楽器の中から担当する楽器を選び、15回の授業でどのように演奏技術が習得されていくか、課題として選曲した楽曲の音楽作りがいかに成されていくかを学ぶ。合奏の編成はオーケストラ(弦楽器、管楽器、打楽器)と、それぞれの楽器群(前述)に分かれたアンサンブル(小編成同属器楽合奏)で演奏する。16回目に行われる演奏会形式公開試験(発表)に向かって演奏会(試験)当日の準備や段取り、ひととの関わりも含め、その一連の事柄に対応する柔軟さを、経験を通して学ぶ。

2. 学びの意義と目標

幼稚園、保育園、特に小学校の教育現場からの要望に応える為に、それぞれの合奏編成(オーケストラ、アンサンブル)を中心に、楽器奏法と、他人(ひと)といかに音や心を合奏の中で合わせるかを学ぶ。さらに、一つの演奏会が創られていく過程と意味を学ぶ。

受講生に対する要望

実技を伴うので、欠席しないこと。積極的に授業に参加すること。

キーワード

(1)音楽教育 (2)合奏 (3)弦楽器、管楽器、打楽器の奏法 (4)音楽による人とのかかわり

事前学習(予習)

楽譜を読めるように努力してくること。テキストとして渡された譜面を読んでくこと。

復習についての指示

自分の得手不得手を把握して、次の授業に繋げること。

授業計画

1. 沢山の種類の楽器の中から、担当の楽器を決める。
2. 弦、管、打楽器に分かれて、楽器の扱いを覚える。
3. 基礎的な演奏法を学び、初歩の練習曲を演奏する。(1)
4. 基礎的な演奏法を学び、初歩の練習曲を演奏する。(2)
5. 基礎的な演奏法を学び、初歩の練習曲を演奏する。(3)
6. 基礎的な演奏法を学び、初歩の練習曲を演奏する。(4)
7. 管弦楽曲と小編成器楽合奏曲の譜読みをし、練習する。(1)
8. 管弦楽曲と的小编成器楽合奏曲の譜読みをし、練習する。(2)
9. 管弦楽曲と的小编成器楽合奏曲の譜読みをし、練習する。(3)
10. 管弦楽曲と的小编成器楽合奏曲の譜読みをし、練習する。(4)
11. 各曲の音楽作りを深める。(1)
12. 各曲の音楽作りを深める。(2)
13. 各曲の音楽作りを深める。(3)
14. 各曲の音楽作りを深める。(4)
15. 管弦楽曲を全体合奏で練習する。

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席点:75% (2)試験点:25%

担当者：笠井 かほる

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

保育士資格：選択科目

講義概要

1. 内容

音楽活動をとおり感性豊かな表現がこどもたちと楽しくできるような保育者、あるいは小学校教員を目指し、そのために必要な音楽的基礎技能を習得する。おもにピアノ演奏の習得を通し、音楽に関する基礎知識、読譜、歌唱伴奏法を学ぶ。

2. 学びの意義と目標

実習や保育、教育現場で応用できる実践的なコード伴奏の習得はピアノの初心者、経験者に差なく学習でき、幼児教育、小学校の教材の伴奏のみならず、即興、ポップスなどの弾き歌いに発展できる。演習を通じて音楽を学生自身が楽しめることの大切さを感じ取ることを目標とする。

受講生に対する要望

演習科目であり、グループ、個人的な指導も時間に制限があるため、効率よい授業、おたがいの向上のために、事前の練習は必須である。

キーワード

(1) 豊かな感性と表現力 ・ (2) コード伴奏の習得 (3) 歌唱の伴奏 (4) 保育、教育現場での応用 法

事前学習（予習）

コードネームによる伴奏は演奏能力に見合った即興、応用ができるが、基本をマスターするまでに、一定の練習が必要であり、楽曲演奏能力を高めるためにも、学生自身が自覚をもった練習をして、授業に臨むこと。

復習についての指示

保育・教職現場などでのレパートリーになるよう復習を心掛けてほしい。

授業計画

1. オリエンテーション、保育や教育現場での音楽の位置づけ
2. 基礎的な楽典、読譜、リズム
3. ピアノの構造、奏法、タッチ、音色について
4. 保育現場での歌唱教材の表現、歌唱法、発声
5. 実習で使える教材のピアノ演習、コードの基礎
6. 実習で使える教材のピアノ演習、コードの基礎
7. 実習で使える教材のピアノ演習、コードの基礎
8. コード伴奏による教材の演習、歌詞理解と作曲者について
9. 中間テスト
10. コード伴奏による教材の演習、歌詞理解と作曲者について
11. 保育、教育現場での教材の弾き歌いと楽曲について
12. 保育、教育現場での教材の弾き歌いと楽曲について
13. コード伴奏によるポップスの弾き歌いへの応用
14. コード伴奏によるポップスの弾き歌いへの応用
15. ポップス曲の弾き歌い期末テスト

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1) 出席：25% (2) 平常点、学習量：25% (3) 中間テスト：25% (4) 期末テスト：25%

担当者：渋谷 みどり

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

保育士資格：選択科目

講義概要

1. 内容

音楽Aで学んだ音楽理論とピアノ演奏の基礎を更に深め、それぞれの進度に相応した課題に取り組み、ピアノ演奏のレベルアップを目指す。

2. 学びの意義と目標

小学校、幼稚園、保育所では子供の歌の指導やピアノ伴奏をはじめとして、いろいろな場面でピアノによる音楽表現が必要とされる。この授業では、ピアノによる音楽表現の技能取得と音楽性の向上を目指す。

受講生に対する要望

予め渡した課題が練習してあることを前提として授業を進めるので、毎回少しずつでも積極的に練習してくることを希望する。

キーワード

(1)ピアノ (2)音楽

事前学習（予習）

渡した課題を練習して授業に臨むこと。弾けない場合は何がわからないのかを明確にしておくこと。

復習についての指示

授業時に注意した箇所を練習して、次回までに弾けるようにすること

授業計画

1. ピアノの進度をチェックして、課題や目標を決める
2. ピアノ演奏の基礎（1）曲の中でのいろいろな音符の弾き方①
3. ピアノ演奏の基礎（2）曲の中でのいろいろな音符の弾き方②
4. ピアノ演奏の基礎（3）曲の中でのいろいろな音符の弾き方③
5. ピアノ演奏の基礎（4）ペダルの使い方
6. ピアノ演奏の実践（1）曲の構成や音楽用語について①
7. ピアノ演奏の実践（2）曲の構成や音楽用語について②
8. ピアノ演奏の実践（3）自分がイメージする演奏表現を考える①
9. ピアノ演奏の実践（4）自分がイメージする演奏表現を考える②
10. ピアノ演奏のまとめ（1）まとめでの発表の曲を決める
11. ピアノ演奏のまとめ（2）譜読みの確認
12. ピアノ演奏のまとめ（3）演奏の表現①曲の構成や音楽用語
13. ピアノ演奏のまとめ（4）演奏の表現②どのように弾きたいか考える
14. ピアノ演奏のまとめ（5）曲の仕上げ
15. まとめ クラスメイトの前で演奏する

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)平常点と出席点:50% (2)まとめと発表:50%

出席点について：毎回練習してきたうえでの出席が大前提であり、単なる出席だけでは成績に加算されない。

担当者：塚原 晴美

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

保育士資格：選択科目

講義概要

1. 内容

小学校教諭、幼稚園教諭、保育士になる為に必要な弾き歌いの基礎的技能を習得する

2. 学びの意義と目標

楽譜を読むために必要な基本知識を理解し、音楽的表現活動を展開、実践できるようにする。ピアノ伴奏による弾き歌いの技術を学ぶ。

受講生に対する要望

実技の習得を目的とする授業なので、十分な練習を伴う準備をして臨む事。

キーワード

(1)教諭 (2)保育士 (3)弾き歌い (4)ピアノ (5)コード

事前学習（予習）

課題曲の練習

復習についての指示

指摘された点の修正練習

授業計画

1. 各学生のレベル調査・テキストの指示
2. 基礎理論：音程と音階
3. 基礎理論：コードネームの概要
4. 保育現場で日常歌われる童謡：根音による弾き歌い
5. 保育現場で日常歌われる童謡：メジャーコードによる弾き歌い
6. 短調、マイナーコード
7. セブンスコード：日常生活の歌
8. セブンスコード：季節の歌Ⅰ
9. セブンスコード：季節の歌Ⅱ
10. 主要三和音、スリーコードの付け方
11. スリーコードの応用
12. その他のコード
13. ピアノソロ曲演習Ⅰ
14. ピアノソロ曲演習Ⅱ
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席数:30% (2)努力点:30% (3)習熟度:20% (4)発表:20%

担当者：島崎 美知子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

保育士資格：選択科目

講義概要

1. 内容

保育の現場や教育の現場における、ピアノの活用の基礎を学ぶ。それぞれの進捗についてチェックし、それぞれに相応しい課題に取り組む。課題については、レベルを徐々に上げて行くことになる。また幅も広げて行く。そして個々のニーズにも合わせる（就職試験など）。

2. 学びの意義と目標

ピアノの実技や理論的知識、リズム感を学ぶ事によって保育及び教育の現場で、子供達の伴奏及び音楽的活動をスムーズに行なえるようにする。なお実習や就職試験にも備える事になる。

受講生に対する要望

毎回課題をできる限り練習する。待ち時間も理論の習得や人のレッスンも参考にすることが望ましい。

キーワード

(1)読符力 (2)リズム感 (3)曲を仕上げる力 (4)伴奏に必要なコードなど理論的知識 (5)伴奏に必要なアンサンブル力

事前学習（予習）

与えられた課題をしっかりと読符して、できる限り弾けるように練習する。

復習についての指示

レッスンで注意を受けた事をチェックしながら練習に励む。同じ事を次の週に注意されないようにする。

授業計画

1. 音楽Aの復習を取り入れつつ過去の各々の経験から生じる音楽的、技術的能力の調査。それぞれに相応しい課題を考える。
2. 調査に基づいて各自の力量に合った課題を決める。実習のある者は、その準備も行なう。
3. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的な知識も増やして行く。(1)
4. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的な知識も増やして行く。(2)
5. 姿勢、手の形、リズム感をチェックしながら、それぞれのニーズにあった課題をこなしていく。(1)
6. 姿勢、手の形、リズム感をチェックしながら、それぞれのニーズにあった課題をこなしていく。(2)
7. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける (1)
8. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける (2)
9. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける (3)
10. 連弾などのアンサンブルや、自己又は他の人の歌に合わせて弾く練習をしていく。(1)
11. 連弾などのアンサンブルや、自己又は他の人の歌に合わせて弾く練習をしていく。(2)
12. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(1)
13. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(2)
14. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(3)
15. まとめ。発表。音楽的知識の確認。

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 毎回のレッスンに望む姿勢と準備:60%:注意に対する改善 (2) 最後の発表:30%:人前で出せる実力 (3) 音楽的知識:10%:興味を持って吸収したか

欠席は減点の対象になる

担当者：矢持 真希子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

保育士資格：選択科目

講義概要

1. 内容

保育および教育の現場におけるピアノ活用の基礎、応用。それぞれの進度に応じて、弾き歌い、移調奏、初見奏、アレンジなどの課題にも取り組んでももらいます。小学校教諭を目指す学生には楽典の課題も出します。

2. 学びの意義と目標

現場に出た時に、個々に可能な最大限のピアノ活用の手段を一緒に考え、目標を設定します。

受講生に対する要望

周りに影響されことなく、自分の目標を見据えて努力してほしいと思います。

キーワード

(1)ピアノ (2)アレンジ (3)伴奏 (4)楽典

事前学習（予習）

授業の中で指示します。

復習についての指示

授業の中で指示します。

授業計画

1. 一例：希望進路の確認・課題曲の選択
2. 1曲目レッスン
3. 1曲目レッスンおよび2曲目指示
4. 1曲目の弾き歌いの訓練
5. 1曲目仕上げ・2曲目練習方法の助言
6. 2曲目レッスン
7. 2曲目レッスンおよび3曲目指示
8. 2曲目弾き歌いの訓練・移調奏の説明
9. 2曲目移調奏の訓練
10. 2曲目移調奏の訓練および3曲目指示
11. 2曲目移調奏の訓練
12. 2曲目仕上げ・3曲目練習方法の助言
13. 3曲目レッスン
14. 3曲目レッスンおよび1曲目、2曲目の復習
15. 全3曲の仕上げ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席：40% (2)授業に取り組む姿勢：60%

担当者：池上 真理子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

保育士資格：選択科目

講義概要

1. 内容

小学校、幼稚園、保育園等の教育現場において必要なピアノの基礎技能を習得する。授業形態は、基本的に個人レッスンで、各学生のレベルや目的に即した課題を与え、読譜、演奏技術、表現法、コード、音楽の知識など、必要な技能がしっかりと身につくよう指導する。

2. 学びの意義と目標

幼児期、学童期の音楽教育は、子供たちにとって一生の心の糧となり得る、とても大切なものである。その中でも、音域が広く、メロディーと和音を自在に操ることのできるピアノは、最も広く使われる楽器であり、歌や活動の伴奏役として、教員はそれを有意義に活用することが求められる。それに際して必要な演奏技術、表現法、音楽の知識等をしっかりと学び、現場できちんと生かせるような技能を身につけること、そして何より音楽の喜び、楽しさを子供たちに伝えることができるような豊かな音楽体験を積み重ねることが、本講義の目標である。

受講生に対する要望

実技が中心の科目なので、レッスンで注意されたことを基に、毎回課題をしっかりと練習し、準備してくること。どのようなレベルの人でも、小さな積み重ねで着実に力が付いていくので、目標をしっかりと持って、日々の練習を大切にしてほしい。

キーワード

(1)ピアノ (2)音楽教育 (3)教職 (4)弾き歌い

事前学習（予習）

与えられた課題を、しっかりと譜読みし、練習してくること。わからない箇所はレッスンで質問すること。

復習についての指示

レッスンで注意されたことをきちんと振り返り、出来なかった箇所を中心にしっかりと練習すること。

授業計画

1. レベル・チェック、目標設定、課題決定
2. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ（1）
3. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ（2）
4. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ（3）
5. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む（1）
6. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む（2）
7. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む（3）
8. 前半のまとめ
9. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす（1）
10. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす（2）
11. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす（3）
12. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく（1）
13. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく（2）
14. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく（3）
15. まとめ（発表）

教科書

授業の中で指示する
各学生のレベル、目的に即した課題を指示する

評価方法

(1)発表:70%:最後の授業内で、仕上げた課題を発表する (2)平常点・出席:30%:出席は重視する

担当者：笠井 かほる

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

保育士資格：選択科目

講義概要

1. 内容

音楽活動をとおり感性豊かな表現がこどもたちと楽しくできるような保育者、あるいは小学校教員を目指し、そのために必要な音楽的基礎技能を習得する。おもにピアノ演奏の習得を通し、音楽に関する基礎知識、読譜、歌唱伴奏法を学ぶ。

2. 学びの意義と目標

実習や保育、教育現場で応用できる実践的なコード伴奏の習得はピアノの初心者、経験者に差なく学習でき、幼児教育、小学校の教材の伴奏のみならず、即興、ポップスなどの弾き歌いに発展できる。演習を通じて音楽を学生自身が楽しめることの大切さを感じ取ることを目標とする。

受講生に対する要望

演習科目であり、グループ、個人的な指導も時間に制限があるため、効率よい授業、おたがいの向上のために、事前の練習は必須である。

キーワード

(1) 豊かな感性と表現力 ・ (2) コード伴奏の習得 (3) 歌唱の伴奏 (4) 保育、教育現場での応用 法

事前学習（予習）

コードネームによる伴奏は演奏能力に見合った即興、応用ができるが、基本をマスターするまでに、一定の練習が必要であり、楽曲演奏能力を高めるためにも、学生自身が自覚をもった練習をして、授業に臨むこと。

復習についての指示

保育・教職現場などでのレパートリーになるよう復習を心掛けてほしい。

授業計画

1. オリエンテーション、保育や教育現場での音楽の位置づけ
2. 基礎的な楽典、読譜、リズム
3. ピアノの構造、奏法、タッチ、音色について
4. 保育現場での歌唱教材の表現、歌唱法、発声
5. 実習で使える教材のピアノ演習、コードの基礎
6. 実習で使える教材のピアノ演習、コードの基礎
7. 実習で使える教材のピアノ演習、コードの基礎
8. コード伴奏による教材の演習、歌詞理解と作曲者について
9. 中間テスト
10. コード伴奏による教材の演習、歌詞理解と作曲者について
11. 保育、教育現場での教材の弾き歌いと楽曲について
12. 保育、教育現場での教材の弾き歌いと楽曲について
13. コード伴奏によるポップスの弾き歌いへの応用
14. コード伴奏によるポップスの弾き歌いへの応用
15. ポップス曲の弾き歌い期末テスト

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1) 出席：25% (2) 平常点、学習量：25% (3) 中間テスト：25% (4). 期末テスト：25%

担当者：渋谷 みどり

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

保育士資格：選択科目

講義概要

1. 内容

音楽・器楽Cを受講していない場合は、器楽Cと同じ。器楽Cを受講済の場合は、授業計画の中のピアノ演奏の基礎は確認程度にして実践を中心に進める。

2. 学びの意義と目標

小学校、幼稚園、保育所では子供の歌の指導やピアノ伴奏をはじめとして、いろいろな場面でピアノによる音楽表現が必要とされる。この授業では、ピアノによる音楽表現の技能取得と音楽性の向上を目指す。

受講生に対する要望

予め渡した課題が練習してあることを前提として授業を進めるので、毎回少しずつでも積極的に練習してくることを希望する。

キーワード

(1)ピアノ (2)音楽

事前学習（予習）

渡した課題を練習して授業に臨むこと。弾けない場合は何がわからないのかを明確にしておくこと。

復習についての指示

授業時に注意した箇所を練習して、次回までに弾けるようにすること

授業計画

1. ピアノの進度をチェックして、課題や目標を決める
2. ピアノ演奏の基礎（1）曲の中でのいろいろな音符の弾き方①
3. ピアノ演奏の基礎（2）曲の中でのいろいろな音符の弾き方②
4. ピアノ演奏の基礎（3）曲の中でのいろいろな音符の弾き方③
5. ピアノ演奏の基礎（4）ペダルの使い方
6. ピアノ演奏の実践（1）曲の構成や音楽用語について①
7. ピアノ演奏の実践（2）曲の構成や音楽用語について②
8. ピアノ演奏の実践（3）自分がイメージする演奏表現を考える①
9. ピアノ演奏の実践（4）自分がイメージする演奏表現を考える②
10. ピアノ演奏のまとめ（1）まとめでの発表の曲を決める
11. ピアノ演奏のまとめ（2）譜読みの確認
12. ピアノ演奏のまとめ（3）演奏の表現①曲の構成や音楽用語
13. ピアノ演奏のまとめ（4）演奏の表現②どのように弾きたいか考える
14. ピアノ演奏のまとめ（5）曲の仕上げ
15. まとめ クラスメイトの前で演奏する

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)平常点と出席点:50% (2)まとめと発表:50%

出席点について：毎回練習してきたうえでの出席が大前提であり、単なる出席だけでは成績に加算されない。

担当者：塚原 晴美

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

保育士資格：選択科目

講義概要

1. 内容

小学校教諭、幼稚園教諭、保育士になる為に必要な弾き歌いの基礎的技能を習得する

2. 学びの意義と目標

楽譜を読むために必要な基本知識を理解し、音楽的表現活動を展開、実践できるようにする。ピアノ伴奏による弾き歌いの技術を学ぶ。

受講生に対する要望

実技の習得を目的とする授業なので、十分な練習を伴う準備をして臨む事。

キーワード

(1)教諭 (2)保育士 (3)弾き歌い (4)ピアノ (5)コード

事前学習（予習）

課題曲の練習

授業計画

1. 各学生のレベル調査・テキストの指示
2. 基礎理論：音程と音階
3. 基礎理論：コードネームの概要
4. 保育現場で日常歌われる童謡：根音による弾き歌い
5. 保育現場で日常歌われる童謡：メジャーコードによる弾き歌い
6. 短調、マイナーコード
7. セブンスコード：日常生活の歌
8. セブンスコード：季節の歌Ⅰ
9. セブンスコード：季節の歌Ⅱ
10. 主要三和音、スリーコードの付け方
11. スリーコードの応用
12. その他のコード
13. ピアノソロ曲演習Ⅰ
14. ピアノソロ曲演習Ⅱ
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

復習についての指示

指摘された点の修正練習

評価方法

(1)出席数:30% (2)努力点:30% (3)習熟度:20% (4)発表:20%

担当者：島崎 美知子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

保育士資格：選択科目

講義概要

1. 内容

保育の現場や教育の現場における、ピアノの活用の基礎を学ぶ。それぞれの進捗についてチェックし、それぞれに相応しい課題に取り組む。課題については、レベルを徐々に上げて行くことになる。また幅も広げて行く。そして個々のニーズにも合わせる（就職試験など）。

2. 学びの意義と目標

ピアノの実技や理論的知識、リズム感を学ぶ事によって保育及び教育の現場で、子供達の伴奏及び音楽的活動をスムーズに行なえるようにする。なお実習や就職試験にも備える事になる。

受講生に対する要望

毎回課題をできる限り練習する。待ち時間も理論の習得や人のレッスンも参考にすることが望ましい。

キーワード

(1)読符力 (2)リズム感 (3)曲を仕上げる力 (4)伴奏に必要なコードなど理論的知識 (5)伴奏に必要なアンサンブル力

事前学習（予習）

与えられた課題をしっかりと読符して、できる限り弾けるように練習する。

復習についての指示

レッスンで注意を受けた事をチェックしながら練習に励む。同じ事を次の週に注意されないようにする。

授業計画

1. 音楽Aの復習を取り入れつつ過去の各々の経験から生じる音楽的、技術的能力の調査。それぞれに相応しい課題を考える。
2. 調査に基づいて各自の力量に合った課題を決める。実習のある者は、その準備も行なう。
3. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的な知識も増やして行く。(1)
4. 基本的な姿勢や手の形をチェックしながら課題とする曲をレッスンして行く。音楽的な知識も増やして行く。(2)
5. 姿勢、手の形、リズム感をチェックしながら、それぞれのニーズにあった課題をこなしていく。(1)
6. 姿勢、手の形、リズム感をチェックしながら、それぞれのニーズにあった課題をこなしていく。(2)
7. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける。(1)
8. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける。(2)
9. 実習にそなえて、いろいろな童謡を手がける。コードの知識も学んでいく。余裕のある者は自由曲も手がける。(3)
10. 連弾などのアンサンブルや、自己又は他の人の歌にあわせて弾く練習をしていく。(1)
11. 連弾などのアンサンブルや、自己又は他の人の歌にあわせて弾く練習をしていく。(2)
12. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(1)
13. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(2)
14. これまでの弱点を補いつつ、まとめの発表に向かって課題をこなして行く。(3)
15. まとめ。発表。音楽的知識の確認。

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 毎回のレッスンに望む姿勢と準備:60%:注意に対する改善 (2) 最後の発表:30%:人前で出せる実力 (3) 音楽的知識:10%:興味を持って吸収したか

欠席は減点の対象になる

担当者：矢持 真希子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

保育士資格：選択科目

講義概要

1. 内容

保育および教育の現場におけるピアノ活用の基礎、応用。それぞれの進度に応じて、弾き歌い、移調奏、初見奏、アレンジなどの課題にも取り組んでももらいます。小学校教諭を目指す学生には楽典の課題も出します。

2. 学びの意義と目標

現場に出た時に、個々に可能な最大限のピアノ活用の手段を一緒に考え、目標を設定します。

受講生に対する要望

周りに影響されことなく、自分の目標を見据えて努力してほしいと思います。

キーワード

(1)ピアノ (2)アレンジ (3)伴奏 (4)楽典

事前学習（予習）

授業の中で指示します。

復習についての指示

授業の中で指示します。

授業計画

1. 一例：希望進路の確認・課題曲の選択
2. 1曲目レッスン
3. 1曲目レッスンおよび2曲目指示
4. 1曲目の弾き歌いの訓練
5. 1曲目仕上げ・2曲目練習方法の助言
6. 2曲目レッスン
7. 2曲目レッスンおよび3曲目指示
8. 2曲目弾き歌いの訓練・移調奏の説明
9. 2曲目移調奏の訓練
10. 2曲目移調奏の訓練および3曲目指示
11. 2曲目移調奏の訓練
12. 2曲目仕上げ・3曲目練習方法の助言
13. 3曲目レッスン
14. 3曲目レッスンおよび1曲目、2曲目の復習
15. 全3曲の仕上げ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席:40% (2)授業に取り組む姿勢:60%

担当者：池上 真理子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

保育士資格：選択科目

講義概要

1. 内容

小学校、幼稚園、保育園等の教育現場において必要なピアノの基礎技能を習得する。授業形態は、基本的に個人レッスンで、各学生のレベルや目的に即した課題を与え、読譜、演奏技術、表現法、コード、音楽の知識など、必要な技能がしっかりと身につくよう指導する。

2. 学びの意義と目標

幼児期、学童期の音楽教育は、子供たちにとって一生の心の糧となり得る、とても大切なものである。その中でも、音域が広く、メロディーと和音を自在に操つることのできるピアノは、最も広く使われる楽器であり、歌や活動の伴奏役として、教員はそれを有意義に活用することが求められる。それに際して必要な演奏技術、表現法、音楽の知識等をしっかりと学び、現場できちんと生かせるような技能を身につけること、そして何より音楽の喜び、楽しさを子供たちに伝えることができるような豊かな音楽体験を積み重ねることが、本講義の目標である。

受講生に対する要望

実技が中心の科目なので、レッスンで注意されたことを基に、毎回課題をしっかりと練習し、準備してくること。どのようなレベルの人でも、小さな積み重ねで着実に力が付いていくので、目標をしっかりと持って、日々の練習を大切にしてほしい。

キーワード

(1)ピアノ (2)音楽教育 (3)教職 (4)弾き歌い

事前学習（予習）

与えられた課題を、しっかりと譜読みし、練習してくること。わからない箇所はレッスンで質問すること。

復習についての指示

レッスンで注意されたことをきちんと振り返り、出来なかった箇所を中心にしっかりと練習すること。

授業計画

1. レベル・チェック、目標設定、課題決定
2. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ（1）
3. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ（2）
4. 読譜と演奏技術の基礎を学ぶ（3）
5. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む（1）
6. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む（2）
7. 読譜、技術の基礎を確実にしながら、課題に取り組む（3）
8. 前半のまとめ
9. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす（1）
10. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす（2）
11. 読譜、技術を基にして、より豊かな表現力をめざす（3）
12. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく（1）
13. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく（2）
14. まとめの発表へ向け、課題を仕上げていく（3）
15. まとめ（発表）

教科書

授業の中で指示する
各学生のレベル、目的に即した課題を指示する

評価方法

(1)発表:70%:最後の授業内で、仕上げた課題を発表する (2)平常点・出席:30%:出席は重視する

担当者：阪 まどか

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

保育士資格：選択科目

講義概要

1. 内容

ピアノ曲の表現法やコード、童謡の弾き歌いの演奏技術を養う。基本は個人レッスンで、個々のレベルに応じそれぞれに相応しい課題を与え、レパートリーの拡大に努める。

2. 学びの意義と目標

保育や教育の現場の様々な場面において音楽は欠かせないものであり、その中でピアノは大きな役割を果たしている。その際指導者には、活動をスムーズに行うための演奏技術が要求される。この授業では、様々な現場で対応できるピアノの基礎的な技術と表現法を身につけることを目標とする。

受講生に対する要望

実技の授業であるため、レッスンに向けての個人練習をまじめに取り組むこと。

キーワード

(1)ピアノ (2)音楽 (3)弾き歌い (4)コード

事前学習（予習）

毎回課題を与えるので次回のレッスンまでにしっかりと取り組んでくること。

復習についての指示

授業で指摘されたことを必ず復習し、理解しておくこと。一度仕上げた曲はレパートリーとするため、忘れないよう練習しておくこと。

授業計画

1. ガイダンス（レベルチェック、曲決め等）
2. ピアノ演奏の実践①（個々の進度に合わせたレッスンを行う）
3. ピアノ演奏の実践②（以下同じ）
4. ピアノ演奏の実践③
5. ピアノ演奏の実践④
6. ピアノ演奏の実践⑤
7. ピアノ演奏の実践⑥
8. ピアノ演奏の実践⑦
9. ピアノ演奏の実践⑧
10. ピアノ演奏の実践⑨
11. ピアノ演奏の実践⑩（発表に向けての課題曲選定）
12. ピアノ演奏の実践⑪（発表に向けての課題曲の練習）
13. ピアノ演奏の実践⑫（発表に向けての課題曲の練習）
14. ピアノ演奏の実践⑬（発表に向けての課題曲の練習）
15. まとめ（発表）

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席・学習態度:50% (2)発表:50%

出席点について：毎回の出席は大前提であり、それゆえ出席しているからといって成績が上がるわけではない。ただし、欠席、無断遅刻は減点の対象となる。

担当者：星野 直子

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

保育士資格：選択科目

講義概要

1. 内容

保育および教育・介護等の現場で、声を使った音楽表現をすることができるよう、歌唱表現の基礎（ソルフェージュ）と応用（こどもの歌の歌唱）を学ぶ。

2. 学びの意義と目標

子供に歌を歌ってあげること・子供と一緒に歌うことは、音楽教育の中で最も大切な要素である。大学での学びを終え、将来それぞれの現場に出たときに、自信を持って歌を歌ったり指導ができるようになることを目標とする。

受講生に対する要望

音楽（声楽）は実技である。授業に出席し、積極的な姿勢で毎時間授業を受けて欲しい。楽しく歌えるようになるには、その準備（予習・復習）も必要である。

キーワード

(1) こどもの歌 (2) 声の出し方 (3) 歌い方 (4) 音楽の基礎（読譜力と表現法）

事前学習（予習）

与えられた課題の予習をして、授業を受けること。

復習についての指示

復習小テスト（授業で学んだ内容の確認）を、次週に毎回行なう。何度も繰り返し練習することにより、より良い表現を伴う歌が自然に歌えるようになるので、必ず授業の復習をすること。

授業計画

1. 授業の進め方について
2. 発声法について
3. ソルフェージュ（リズム1）と応用（こどもの歌）
4. ソルフェージュ（リズム2）と応用（こどもの歌）
5. ソルフェージュ（リズム3）と応用（こどもの歌）
6. ソルフェージュ（リズム4）と応用（こどもの歌）
7. ソルフェージュ（リズムあそび1）と応用（こどもの歌）
8. ソルフェージュ（リズムあそび2）と応用（こどもの歌）
9. ソルフェージュ（リズムあそび3）と応用（こどもの歌）
10. ソルフェージュ（リズムあそび4）と応用（こどもの歌）
11. ソルフェージュと歌唱表現1
12. ソルフェージュと歌唱表現2
13. ソルフェージュと歌唱表現3
14. 授業で学んだことの発表
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する
必要なものは、随時プリントを配布する。

評価方法

(1) 出席:35% (2) 積極性:35% (3) 理解度:30%

出席することが前提である。欠席は減点の対象となる。

担当者：本田 晃

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

近年、キリスト教の幼稚園・小学校、公立小学校などにおいて、ハンドベル活動がさかんになってきており、ハンドベルの基礎的な技術指導ができる教師が求められている。この授業の目的の一つである。また、ハンドベルは固有の演奏形態を持ち、ひとりひとりがそれぞれに与えられた担当責任を果たしながら、お互いの音を聴き合い、そして響き合いながら、みんなで一つの音楽を創り上げていく楽器である。その実践を通して、お互いを認め合う事の大切さを学ぶことも目的の一つである。ハンドベルの演奏技術の基礎をふまえ、深く学ぶ。

2. 学びの意義と目標

本講義では、実践を通じて、お互いを認め合う事の大切さを学び、ハンドベルの基礎的な技術指導を自ら体験し、会得する事を目標とする。

受講生に対する要望

ひとりひとりに違う役割が与えられる授業である。積極的に参加する事。

キーワード

(1)ハンドベルに慣れる (2)ハンドベルを楽しむ (3)ハンドベル音楽をみんなで創る

事前学習（予習）

月間讃美歌プリントと手袋、資料、楽譜を忘れないで持参する事。

復習についての指示

授業で得た知識、実技のポイントなどを確認しておく事。

授業計画

1. ハンドベル入門 基礎知識 1
2. ハンドベル入門 基礎知識 2
3. ハンドベルの基本的な演奏法を学ぶ 基本演奏法 1
4. 基本演奏法 2
5. 基本演奏法 3
6. 基本演奏法 4
7. 基本演奏法 5
8. 基本演奏法 6
9. ハンドベルの基本／展開 合奏 1
10. 合奏 2
11. 合奏 3
12. 合奏 4
13. 合奏 5
14. 合奏 6
15. 合奏 7（まとめ）

教科書

授業の中で指示する
必要なものは随時、プリントを配布する。

評価方法

(1)出席:35% (2)授業態度 関心 意欲:35% (3)学期末テスト:30%

実技を伴うので、欠席しない事。準備、片付けも含め、積極的に授業に参加する事。学期に一度、全学礼拝での讃美奉鐘を行う予定。

担当者：本田 晃

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

近年、キリスト教の幼稚園・小学校、公立小学校などにおいて、ハンドベル活動がさかんになってきており、ハンドベルの基礎的な技術指導ができる教師が求められている。この授業の目的の一つである。また、ハンドベルは固有の演奏形態を持ち、ひとりひとりがそれぞれに与えられた担当責任を果たしながら、お互いの音を聴き合い、そして響き合いながら、みんなで一つの音楽を創り上げていく楽器である。その実践を通して、お互いを認め合う事の大切さを学ぶことも目的の一つである。ハンドベルの演奏技術の基礎をふまえ、より一層深く学ぶ。

2. 学びの意義と目標

本講義では、実践を通して、お互いを認め合う事の大切さを学びながら、ハンドベルの演奏技術の基礎をふまえ、指導技術を会得する事を目標とする。

受講生に対する要望

楽しい授業であるので、集中して、積極的に参加する事。

キーワード

(1)ハンドベルを体験しよう (2)ハンドベルを楽しもう (3)ハンドベル音楽をみんなで創ろう

事前学習（予習）

月間讃美歌のプリント、手袋、資料、楽譜を忘れないで持参する事。

復習についての指示

授業で得た知識、技術的な内容を確認しておく事。

授業計画

1. ハンドベル入門 基礎知識（構造と歴史） 1
2. 基礎知識 2
3. 基礎演奏法 1
4. 基礎演奏法 2
5. 基礎演奏法 3（合奏 1）
6. 基礎演奏法 4（合奏 2）
7. 基礎演奏法 5（合奏 3）
8. 基礎演奏法 6（合奏 4）
9. 基礎演奏法 7（合奏 5）
10. 基礎演奏法 8（合奏 6）
11. 基礎演奏法 9（合奏 7）
12. 基礎演奏法 10（合奏 8）
13. 基礎演奏法 11（合奏 9）
14. 基礎演奏法 12（合奏 10）
15. 基礎演奏法 13（合奏 11）まとめ

教科書

授業の中で指示する
必要に応じて随時プリントも配布する。

評価方法

(1)出席:35% (2)授業態度 関心 意欲:35% (3)学期末テスト:30%

実技を伴うので、欠席しない事。準備、片付けを含め積極的に参加する事。学期に一度、全学礼拝での讃美奉鐘をする予定。

担当者：山田 裕治，前澤 京，渋谷 みどり，島崎 美知子，矢持 真希子，塚原 晴美，池上 真理子

開設期：秋学期/春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校教諭一種免許：必修科目，
幼稚園教諭一種免許：選択必修科目，
保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

小学校、幼稚園、保育園などでの音楽表現活動に必要なとなる基本的な知識と技術を学ぶ。1 クラスを半分に分け、理論の講義とピアノの演奏指導を平行して行い、ピアノはさらに少人数のグループに分け個人指導を行う。教材は小学校で扱う教材を含め、受講者のレベルに適したものを取り上げる。音楽理論では音符の読み方や長さなどの基本的な内容から始め、楽譜を読んでピアノ演奏をするのに必要な知識を項目別に習得する。

2. 学びの意義と目標

保育の現場での音楽表現活動にはピアノ（鍵盤楽器）の演奏が不可欠であり、そのためには取り上げる楽曲を弾きこなすだけの演奏技術が必要である。また楽曲を演奏するためには、楽譜を読み楽譜からさまざまな情報を読み取らなければならない。この授業ではピアノ演奏において必要な基本的な演奏技術と理論を身につけることを目標にする。さらに小学校一種免許、幼稚園教諭一種免許、保育士資格を取得するためにも必要な基礎的な知識と演奏技術を習得する。

受講生に対する要望

授業時間に対し内容が多いので、特に復習をしっかりとし疑問点を残さないようにしてほしい

キーワード

(1) スキルを身につける自覚を持つ (2) 疑問点をわからないままにしない (3) ピアノは繰り返し練習

事前学習（予習）

1. 授業時に配布するプリントを指示に従って実践する2. 次回のレッスン曲の練習

復習についての指示

1. 配布プリントによる講義内容の復習2. レッスン曲の練習

授業計画

1. ガイダンス・ピアノレッスンのクラス分け
2. ピアノ演奏の基礎(1)・音部記号と譜表
3. ピアノ演奏の基礎(2)・音名と変化記号
4. ピアノ演奏の基礎(3)・音符と休符
5. ピアノ演奏の基礎(4)・拍子
6. ピアノ演奏の実践(1)・さまざまなリズム
7. ピアノ演奏の実践(2)・反復記号と発想記号
8. ピアノ演奏の実践(3)・小テスト
9. ピアノ演奏の実践(4)・音程
10. ピアノ演奏の実践(5)・長音階
11. ピアノ演奏の実践(6)・短音階
12. ピアノ演奏のまとめ(1)・関係調
13. ピアノ演奏のまとめ(2)・三和音
14. ピアノ演奏のまとめ(3)・コードネームとカデンツ
15. 総括

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) ピアノ実技:50% (2) 期末試験:30% (3) 小テスト:10% (4) 平常点:10%:出席・課題提出

担当者：井口 太

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校教諭一種免許：必修科目、
幼稚園教諭一種免許：選択必修科目、
保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

幼児の音楽的表現を引き出し育てるために必要な音楽的知識や技術を習得する。特に歌唱力の基礎、コードネームの知識、各種の打楽器の取り扱いなどを中心とする。幼児の音楽的な発達を踏まえた歌唱教材の研究と指導法、手遊びや手合わせ遊びなどの習得も課題とする。

2. 学びの意義と目標

1 幼児の音楽指導に必要な基礎的理論・表現技術を身につける。2 範唱・伴奏などの能力を高める。3 幼児の表現のモデルとなるよう、自ら音楽愛好の心情を高める。

受講生に対する要望

ピアノ・声楽の基礎を学んでいること。また、授業には受け身でなく、積極的に参加すること

キーワード

(1) 幼児の音楽指導の基礎

事前学習（予習）

授業計画を参照し、関係の情報に目を通しておくこと。

復習についての指示

実施した演習内容について繰り返し練習しマスターすること。

授業計画

1. リズム譜を読む
2. ギターの基礎を学ぶ①
3. ギターの基礎を学ぶ②
4. 0歳から2歳児のわらべうた
5. 3. 4. 5歳児のわらべうた
6. サウンド・オブ・ミュージックの鑑賞①
7. サウンド・オブ・ミュージックの鑑賞②
8. ピアノ上でコードの根音をつけて弾く
9. コードを応用した様々な伴奏パターン
10. 手作り楽器を作ろう 手遊びの実践①
11. ブームワッカーを使って遊ぼう 手遊びの実践②
12. 身近な素材を使った音楽
13. 集団遊びの実践
14. オペレッタを上演しよう
15. 音楽劇「スイミー」を創作しよう まとめ

教科書

細田 淳子、笹井 邦彦、西海 聡子、悠木 昭宏 『かんたんメソッド コードで弾きうたい (4038)』 (河合楽器製作所・出版事業部)

評価方法

(1) 取り組みの状況:50% (2) 表現力:30% (3) 意欲:20%

担当者：笠井 かほる

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校教諭一種免許：必修科目、
幼稚園教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

基本的な音楽理論、歌唱、器楽、鑑賞の指導法を学び、小学校学習指導要領に沿って、小学校各学年の教科書に内容を演習する。

2. 学びの意義と目標

小学校学習指導要領の音楽科の目標及び内容を理解し、指導できる能力を身に着ける。音楽を通して「表現する」楽しさを子どもたちと共有できる授業が行えることを目標とする。

受講生に対する要望

半期で内容が多い授業のため復習、教科書の熟読、共通教材の弾き歌いの練習が必要である。

キーワード

(1)小学校学習指導要領 (2)歌唱指導法 (3)器楽 (4)鑑賞 (5)指導案作成

事前学習（予習）

教科書を熟読、共通教材を練習しておく

復習についての指示

授業に対応した教科書の部分を熟読共通教材の引き歌い

授業計画

1. オリエンテーション・小学校音楽の授業のふりかえり
2. 小学校学習指導要領音楽科の目標及び内容の理解
3. 音楽理論・発声法
4. 1年の教科書内容・共通教材
5. 2年の教科書内容・共通教材
6. 3年の教科書内容・共通教材
7. 中間テスト
8. 指導案の作成
9. 鑑賞の各学年の目標と内容
10. 鑑賞教材の指導法
11. 鑑賞教材の指導法
12. 模擬授業4年の共通教材
13. 模擬授業5年の共通教材
14. 模擬授業6年の共通教材
15. 期末試験、共通教材の演奏・まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席「:15% (2)平常点:10% (3)中間期末テスト:55% (4)指導案作成:10% (5)模擬授業:10%

、

担当者：佐藤 千瀬

開設期：秋学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

グローバルな視点を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

アメリカ合衆国ジョージア州アトランタにある、聖学院アトランタ国際学校 (SAINTS) で、約2週間の研修を行う。多文化の混在するアメリカ社会の中にある「SAINTS」には、普段家庭では英語、日本語、その他2種以上の言語を使用している、多言語多文化の中で日常を過ごす子どもたちが多く通っている。このような生活環境にある子どもたちに対して、「SAINTS」では日本の教育・保育を活かしながら、バイリンガル教育、異文化間教育・保育が行われている。特に英語と日本語という2つの言語、異なった文化を、それぞれ尊重しながら受容していく過程で、子どもたちもお互い同士のかわり合いの中から、お互いを認め合って育ち合っている。

2. 学びの意義と目標

SAINTSでの教育・保育実践のなかでの実習を通して、日本国内での実習とはまた違った多くのことに気づき、学ぶことが目的である。

受講生に対する要望

この科目を履修するためには、4年次秋学期の履修登録の時点で、下記の要件を満たしていなければならない。(1) 春学期までの必修科目と「幼稚園教育実習」・「保育・教職実践演習(初等)」を除く幼稚園教諭一種免許状取得に必要な科目(資格必修科目)の単位を全て取得していること。(2) 「幼稚園教育実習」の単位を取得しているか、取得見込みであること。(3) 卒業要件をすでに満たしていること。なお、希望者が多数の場合は面接を行い選抜をすることとなる。

キーワード

(1)海外実習 (2)SAINTS (3)バイリンガル教育 (4)異文化間教育 (5)保育・教育

事前学習(予習)

プリントを事前に読み、まとめること。計画的に実習準備(手続き、教材準備等)に取り組むこと。

復習についての指示

英語、特に保育英語、英会話を復習すること。バイリンガル教育について復習し、質問をまとめること。教材研究をすること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. バイリンガル
3. 子どもの母語の発達
4. バイリンガル教育の理論
5. 家庭で育てるバイリンガル
6. Two-Way Immersion
7. アトランタの歴史1
8. アトランタの歴史2
9. 事前指導 海外実習の手続き
10. 事前指導 保育英語教材
11. 事前指導 保育英語教材
12. 事前指導 教材研究
13. 事前指導 英会話
14. SAINTSでの実習
15. SAINTSでの実習
16. SAINTSでの実習
17. SAINTSでの実習
18. SAINTSでの実習
19. SAINTSでの実習
20. SAINTSでの実習
21. SAINTSでの実習
22. SAINTSでの実習
23. SAINTSでの実習
24. SAINTSでの実習
25. SAINTSでの実習
26. SAINTSでの実習
27. SAINTSでの実習
28. SAINTSでの実習
29. 事後指導
30. 事後指導

教科書

プリントを配布する

評価方法

事前・事後指導、実習日誌をもとに総合的に評価する。

介護等体験及び事前事後指導

TEAT-0-404

担当者：吉田 昌義、高山 法子

開設期：通年集中 必修・選択：選択科目/教職科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

保育者・教師として必要な知識・技能を実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：（共通）選択科目、
中学校教諭一種免許：（共通）必修科目、
小学校教諭一種免許：必修科目

講義概要

1. 内容

小学校及び中学校の義務教育の教員免許状を申請しようとするときには、「介護等体験特例法」に基づく介護等の体験に関する証明書の添付が義務づけられた。この法律は「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連携の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者や高齢者等に対する介護、介助や、これらの人達との交流等の体験を行わせること」を目的としている。「介護等体験」において留意しなければならないことは、福祉施設に出かけて介助を行えば、自ずと「思いやり」や「やさしさ」が身につくものではないということである。様々な人びとのかかわりのなかで、常に「相手の立場に立って物事を考える」姿勢が求められている。事前事後指導では、福祉サービス利用者の立場に立った介護の在り方について考えるとともに、人間の尊厳を守るための具体的な介護実践を学ぶ。※2201教室は、土足厳禁であるので、上履きを用意しておくこと。また、介護技術の演習を数回行なう予定である。その際、動きやすい服装で参加すること。

2. 学びの意義と目標

＜学びの意義＞1教員を目指す者が、介護等体験を行うことにより、視野を拡げ、個人の尊厳及び社会連携に関する認識を深める。2高齢者や障害者とのかかわりの基本を学び、介護等体験を通して具体的に経験する。＜目標＞①介護等体験を行うに当たって必要とされる、最小限の基本的な知識や技能等を学ぶ。②教員を目指す者が、個人の尊厳及び社会連携の理念に関する認識を深め、教員としての資質を考え、今後の大学生活で身につけておくべきことを追究する。

受講生に対する要望

キーワード

事前学習（予習）

事前に教科書を読み、内容の理解に努めることまた、介護等体験に行く前から、教員（社会人）として、望ましい姿を考え、適切な言動に努めること。

復習についての指示

介護等体験で出会った高齢者・障害者・指導員などの関係者等との関わりを振り返り、介護等体験の意義や、本授業の概要にあるように「個人の尊厳及び社会連携の理念に関する認識を深めること。

授業計画

1. 社会福祉施設における「介護等体験の意義」 特別支援学校における「介護等体験の意義」（高山）
2. コミュニケーション（高山）
3. 事例を通して考える（受容と共感）（高山）
4. 事例を通して考える（個別性）（高山）
5. 社会福祉施設の目的及び原則（高山）
6. 福祉施設利用者の理解（高山）
7. 高齢者疑似体験（高山）
8. 基本介護技術（移動・食事・着脱）（高山）
9. 介護等体験の始まり 教員に求められるもの（吉田）
10. 障害とは 障害の種類と教育の場・指導内容（吉田）
11. 知的障害の理解と指導（吉田）
12. 自閉症の理解と指導（吉田）
13. 通常の学級における障害児への配慮（吉田）
14. 人権について 介護等体験に行くに当たって（吉田）
15. 介護等体験の振り返り、事後指導（9月）

教科書

全国特別支援学校長会 『フィリア』（ジアース教育新社）全国社会福祉協議会 『よくわかる社会福祉施設』（全国社会福祉協議会出版部）

評価方法

- (1)出席状況・コメント・受講態度:50% (2)実習態度・実習記録:50%

家庭

SOCI-C-143

担当者：馬場 由子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校教諭一種免許：必修科目

講義概要

1. 内容

自分の生活と持続可能な地球環境の関わりを考える学習を通し、生活者としての自覚と判断力、実践力を育てる。持続可能な地球環境の視点を取り入れた「サステナブルクッキング」等の授業実践も紹介する。主体的に判断し、行動できる生活者を育てる授業実践を基に、実習や模擬授業も行う。

2. 学びの意義と目標

家庭科の学びを通して未来を担う自立した生活者を育てることを目指す。調理や裁縫を生活者に必要な技や知恵として評価し直し、かしこい消費者として「選ぶ目」と「作る手」を育てる。家庭科教育の基本理念を理解し、指導案作成や模擬授業を通し、実践力を養う。

受講生に対する要望

指導要領と教科書の精読。授業は学びの種を蒔くこと。生きることを楽しむ中で、毎日の生活が教材研究。アンテナをたてて情報収集し、引き出しを増やす。家庭科を通して子ども達に伝えたいことを考える。

キーワード

(1) 自分の理念をもつ (2) 家庭科で育てたい力を考える (3) 子どもと共に学びをつくる (4) 学びの意味を考える (5) 持続可能な地球環境の視点をもつ

事前学習（予習）

・指導要領と家庭科の教科書を精読し、特徴をつかんでおく。・家庭科で育てたい力を日々の生活の中で探しておく。・裁縫用具、調理実習用エプロンと三角巾を準備しておく。

復習についての指示

・リアクションペーパーをファイルしてポートフォリオ作成すること。・講義で出された課題は次週に提出すること。

授業計画

1. 授業ガイダンス、家庭科教育の基本理念
2. 学校教育における家庭科の位置と意義
3. 選ぶ目を育てる（D身近な消費生活と環境）
4. C快適な衣服と住まいの指導内容
5. 裁縫実習（針刺し制作）
6. B日常の食事と調理の基礎の指導内容
7. サステナブルクッキング
8. 調理実習（ご飯炊き）
9. サステナブルライフ（A家庭生活と家族）
10. 指導案の作成方法と評価
11. 模擬授業①グループ毎にテーマ設定と教材研究
12. 模擬授業②指導案作成
13. 模擬授業③授業実践
14. これからの家庭科教育の課題と展望
15. まとめと試験

教科書

桜井 純子 『小学校わたしたちの家庭科（5・6）』（開隆堂出版）
文部科学省、文科省= 『小学校学習指導要領解説 家庭編』（東洋館出版社）馬場 由子 『新版「身近な消費生活と環境」教師用』（地域教材社）

評価方法

(1) 出席:15% (2) リアクションペーパー:30% (3) 提出物:15% (4) 模擬授業:20% (5) 試験:20%

毎回提出するリアクションペーパーで出席確認。学んだことを記録し、自分の考えを書いて提出することが基本。生活レポート（B4用紙1枚）を書き、1人1回発表予定。

担当者：馬場 由子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校教諭一種免許：必修科目、
幼稚園教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

A家庭生活と家族、B日常の食事と調理の基礎、C快適な衣服と住まい、D身近な消費生活と環境の指導内容を関連させて学びをつくり、持続可能な地球環境に配慮しながら生活を楽しく豊かにする知恵と技を育てる。自分の考えや判断を生かして主体的に生きるための作手を育てるとともに、実践力育成のための題材開発や模擬授業も行う。

2. 学びの意義と目標

指導要領に理念の共有が謳われた生きる力を家庭科は実践的に育むことができる。生きる力には思考力と判断力、それを実行する知恵と技が不可欠。消費者基本法で選択する権利を保障されても、自分で作ることが出来なければ買えない。未来の担う自立した生活者として生きる力という車の両輪である選ぶ目と作手を育てる。

受講生に対する要望

授業は学びの種を蒔くこと。生きることを楽しむ中で、毎日の生活が教材研究。アンテナをたてて情報収集して引き出しを増やす。日常生活の中で知恵と技を磨き、選ぶ目と作手を育てる。

キーワード

(1)選ぶ目と作手 (2)学びの適時性 (3)協働 (4)条件思考力 (5)毎日の生活が教材研究

事前学習（予習）

・指導要領と教科書を精読し、特徴をつかむこと・運針、ボタン付け、ミシンの扱い等裁縫関連の練習をすること・野菜や果物の皮むき等包丁使いの練習をすること

復習についての指示

・リアクションペーパーをファイルしてポートフォリオを作成すること・講義で出された課題は次週に提出すること

授業計画

1. 学習指導要領と教科書の検討
2. 生きる力を育てる年間指導計画作成
3. 作手を育てる①（りんごの皮むきコンクール）
4. 選ぶ目を育てる①（エシカルファッション）
5. 作手を育てる②（ミシン実習）
6. 選ぶ目を育てる②（我が家のだし新聞）
7. 作手を育てる③（みそ汁作り）
8. 作手を育てる④（プリン実習）
9. 選ぶ目を育てる③（情報を読む）
10. 生きる力を育てるオリジナル題材開発
11. 模擬授業①テーマ設定と教材研究
12. 模擬授業②指導案作成
13. 模擬授業③授業実践
14. 家庭科教育と今日的課題
15. まとめと試験

教科書

桜井 純子 『小学校わたしたちの家庭科（5・6）』（開隆堂）文部科学省 『小学校学習指導要領家庭編』（東洋館出版）馬場 由子 『新版「身近な消費生活と環境」教師用』（地域教材社）

評価方法

(1)出席:15%:授業に参加し学ぶことが基本 (2)リアクションペーパー:30%:授業内に学んだことを記録 (3)提出物:15%:課題は期限内に提出 (4)模擬授業:20%:指導案作成と模擬授業の完成度 (5)試験:20%:学びの総括

毎回提出するリアクションペーパーで出席確認。学んだことを記録し、自分の考えを書いて提出することが基本。

担当者：佐藤 千瀬

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

本講義は、家庭の意義とその機能、子育て家庭を取り巻く社会的状況等について概説する。また、子育て家庭の支援体制、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について学ぶ。

2. 学びの意義と目標

(1) 家庭の意義とその機能について理解する。(2) 子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。(3) 子育て家庭の支援体制について理解する。(4) 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。

受講生に対する要望

授業内で課題・小テスト・グループワークに取り組むことが多くあるため、丁寧に取り組むこと。 ロールプレイ、グループワーク、グループディスカッション等に積極的に参加すること。

キーワード

(1) 家庭 (2) 子育て支援 (3) 連携 (4) 保育所 (5) 保育士

事前学習（予習）

・課題に取り組むこと

復習についての指示

・授業で視聴した事例の分析をすること・グループワーク等のまとめをすること・小テストの準備をすること・子育てマップを作成すること

授業計画

1. オリエンテーション 家庭の意義と機能
2. 家庭支援の必要性 保育士等が行う家庭支援の原理
3. 家庭生活を取り巻く社会的状況1
4. 家庭生活を取り巻く社会的状況2
5. 家庭生活を取り巻く社会的状況3
6. 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進
7. 子育て支援の実践例
8. 子育て支援の実践例
9. 子育て家庭の福祉を図るための社会資源
10. 保育所入所児童の家庭への支援
11. 子育て支援サービスの概要
12. 要保護児童及びその家庭に対する支援 関係機関との連携
13. 地域の子育て家庭への支援1
14. 地域の子育て家庭への支援2
15. 子育て支援サービスの課題

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 平常点:30%:出席点ではない。(2) 出席票・課題:20% (3) 小テスト:25% (4) レポート:25%
毎回の出席が前提となる。遅刻等は減点の対象となる。

学習指導と学校図書館

TEAT-0-212

担当者：米谷 茂則

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

学校図書館司書教諭資格：必修科目

講義概要

1. 内容

学習指導と学校図書館とのかかわりを考えていくとともに、児童生徒の情報活用能力育成のための指導の基本を理解する。司書教諭資格取得に資する5科目のうちの1科目である。

2. 学びの意義と目標

児童生徒自らが学習テーマを設定し、学校図書館機能を駆使してテーマに適したメディアを収集、選択して調べ、まとめ、自分の考えをも含めて発表までできる能力を育成することができるような指導能力を身につけることが目標である。

受講生に対する要望

小学校免許取得の場合は国語科又は社会科の指導法科目を、中学・高校免許取得の場合は免許教科指導法科目を先に履修しているか、この科目と並行して履修していることが望ましい。

キーワード

(1)教育課程の展開 (2)情報活用能力の育成 (3)調べ学習の学習過程 (4)学校図書館機能 (5)司書教諭の創造性

事前学習（予習）

調べ学習の体験について、プリントにもとづいて、想起し発表できるようにすること。構想メモにもとづいて学習指導案を作成し、検討会にて発表できるようにしておくこと。

復習についての指示

毎回の授業内容をふりかえり、自分で考えたことをメモしておくこと。振り返り記録の提出あり。

授業計画

1. 「学習指導と学校図書館」科目の学習内容およびアクティブラーニング要素についてのガイダンス
2. 教育課程の展開と学校図書館
3. 教育方法としての調べ学習、課題学習、課題研究
4. 情報活用能力の育成、その計画と方法
5. 調べ学習、課題学習、課題研究の学習過程
6. 小学校、中学校、高等学校における調べ学習の実践例および体験の発表
7. 調べ学習において自分の考えをどのように形成させるのか【授業の振り返り記録の提出1回目】
8. 調べ学習、課題学習、課題研究の学習指導案の作成
9. 情報活用能力の育成に対応した学校図書館メディアの選択
10. 情報サービス／読書学習の課題
11. 学校図書館機能と司書教諭の創造性
12. 学校図書館へのいざないから教科や総合学習にて使うようになるまで
13. 学習指導案の検討会：履修者全員分の学習指導案を話し合いによって検討していく
14. マンガ読書からマンガ読書学習へ
15. 講義全体のまとめ【授業の振り返り記録の提出2回目】【学習指導案の提出】

教科書

プリントを配布する
必要に応じてプリントを配布するので整理しておき、次回以後の授業に持参すること。プリントの解説については、メモなどを記しておくこと。

評価方法

- (1)発表等:20%:授業への積極的対応 (2)振り返り記録:20%:2回の提出 (3)学習指導案:60%

第1回は必ず出席のこと。第1回を含め12回以上の出席が最終レポート・学習指導案提出の条件である。遅刻をしないこと。3回の遅刻で1回の欠席とみなす。出席条件を満たし、最終課題を提出したことで単位が認定されるということではない。評価方法3項目の内容が重要である。

担当者：小川 三和子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

学校図書館司書教諭資格：必修科目

講義概要

1. 内容

司書教諭資格取得の必修5科目のうちの1つ。学校図書館の理念、教育行政と学校図書館、学校図書館経営、司書教諭の任務、学校図書館メディアの構成と管理、学校図書館活動等について理解し、司書教諭として学校図書館経営をする上での課題を考察する。

2. 学びの意義と目標

学校図書館の意義と役割を理解し、司書教諭として学校図書館経営の方針をもち、学校図書館に関する諸計画を策定し、勤務校の学校図書館活用や読書指導の推進役になるための資質を養う。

受講生に対する要望

講義が中心となるが、作業や討論も取り入れるので、進んで学習に取り組んで欲しい。欠席した場合は、出席者に授業内容を聞いておくこと。

キーワード

(1)学習・情報センター (2)読書センター (3)学校図書館経営 (4)学校図書館メディア (5)知識基盤社会

事前学習（予習）

学習指導要領を読んだり学校図書館や教育に関する書籍や新聞記事を読んだりして、今日の教育課題に関心をもち学校図書館経営の素地を養う。

復習についての指示

ノートを整理し、知識として理解したことと、今後も考察していくべきこととを明確にする。

授業計画

1. 学校図書館の意義と理念、役割
2. 学校図書館の歴史
3. 学校図書館の国際的な動向
4. 教育行政と学校図書館
5. 図書館ネットワーク
6. 学校図書館経営
7. 学校図書館経営
8. 学校図書館の施設・設備
9. 司書教諭の任務と職務
10. 学校図書館メディアの構成
11. 学校図書館メディアの選択・収集
12. 学校図書館メディアの管理・提供
13. 学校図書館活動
14. 評価試験
15. さまざまな図書館・まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)提出物:60% (2)評価テスト:40% 14回目に行い、最終回に解説をする。

出席が本学の規定に満たない者は、単位取得不可。提出物と評価試験とを併せ、総合的に評価する。

学校と教育の歴史／日本教育史

TEAT-0-301

担当者：石津 靖大

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目、

小学校教諭一種免許：選択科目、

幼稚園教諭一種免許：選択科目

講義概要

1. 内容

学校と教育の歴史について、ヨーロッパの古典思想から近代の教育思想までを概観し、近代の学校、とくに義務教育の成り立ちについての理解を深める。ついで、日本における教育思想と学校制度について概観する。教育のありようは、それぞれの地域の政治・経済・文化など社会的環境に深く根ざしている。講義では、教育の思想や制度、学校教育について、それぞれの社会的背景を視野に入れ、教育について多様な観点からその有りようを考えていく能力を養う。

2. 学びの意義と目標

1) ギリシア・ローマの思想と教育及びキリスト教成立の意義とその後の影響を理解できる。2) 西洋近代の学校教育の歴史及びルソーなどの近代教育思想について理解する。3) 日本の教育史の流れを理解し、近代日本の学校教育の成り立ちを理解する。4) 我が国の教育の諸課題について、思想的及び制度的な観点から考えを深められる。5) 現代の教育思想と教育制度について理解できる。学校と教育の歴史における基本的事項の理解が得られることを目指す。そして、それらの事項の整理をすることによって、世界と日本の教育の流れと現代の課題を知ることを目指す。

受講生に対する要望

教職科目なので、教育の資質向上に関心を持って、授業に臨んでほしい。

キーワード

(1) 教育思想 (2) 学校教育 (3) 学習指導要領

事前学習（予習）

授業計画を参照し扱われる内容の章節について、教職教養の教育図書や教育新聞等によって知識を得ておく。

復習についての指示

授業での教材を再読し基本的で重要な用語・人名について、教職教養用の教育用語集等によって確認しノート整理する。

授業計画

1. 古典時代と教育（ギリシア・ローマの哲学と教育）
2. 中世ヨーロッパの思想と教育（大学教育の始まりとルネッサンスの思想）
3. 啓蒙思想と教育（ルソーとペスタロッチを中心に）
4. 近代の学校教育（義務教育制度の成立を中心に）
5. 新しい教育思想と学校教育（デューイを中心に）
6. 日本近世社会と教育（藩校と寺子屋教育）
7. 近世後期の教育（幕末の蘭学・国学を中心に）
8. 明治期の西欧教育制度と思想の需要
9. 明治公教育の完成と教育勅語体制
10. 新しい教育運動（大正期の学校教育）
11. 戦時下の学校教育（国家主義の台頭から学校教育の崩壊まで）
12. 戦後の教育改革（アメリカ教育使節団報告と学校教育改革）
13. 高度経済成長と学校教育（四六答申などを中心に）
14. 現代学校教育の課題（新しい学力観を中心に）
15. これからの学校と教育（学習指導要領などを中心に）

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 授業への参加状況：30% (2) 提出課題：30% (3) 定期試験：40%

学校と教育の歴史／日本教育史

TEAT-0-301

担当者：石津 靖大

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目、

小学校教諭一種免許：選択科目、

幼稚園教諭一種免許：選択科目

講義概要

1. 内容

学校と教育の歴史について、ヨーロッパの古典思想から近代の教育思想までを概観し、近代の学校、とくに義務教育の成り立ちについての理解を深める。ついで、日本における教育思想と学校制度について概観する。教育のありようは、それぞれの地域の政治・経済・文化など社会的環境に深く根ざしている。講義では、教育の思想や制度、学校教育について、それぞれの社会的背景を視野に入れ、教育について多様な観点からその有りようを考えていく能力を養う。

2. 学びの意義と目標

1) ギリシア・ローマの思想と教育及びキリスト教成立の意義とその後の影響を理解できる。2) 西洋近代の学校教育の歴史及びルソーなどの近代教育思想について理解する。3) 日本の教育史の流れを理解し、近代日本の学校教育の成り立ちを理解する。4) 我が国の教育の諸課題について、思想的及び制度的な観点から考えを深められる。5) 現代の教育思想と教育制度について理解できる。学校と教育の歴史における基本的事項の理解が得られることを目指す。そして、それらの事項の整理をすることによって、世界と日本の教育の流れと現代の課題を知ることを目指す。

受講生に対する要望

教職科目なので、教育の資質向上に関心を持って、授業に臨んでほしい。

キーワード

(1) 教育思想 (2) 学校教育 (3) 学習指導要領

事前学習（予習）

授業計画を参照し扱われる内容の章節について、教職教養の教育図書や教育新聞等によって知識を得ておく。

復習についての指示

授業での教材を再読し基本的で重要な用語・人名について、教職教養用の教育用語集等によって確認しノート整理する。

授業計画

1. 古典時代と教育（ギリシア・ローマの哲学と教育）
2. 中世ヨーロッパの思想と教育（大学教育の始まりとルネッサンスの思想）
3. 啓蒙思想と教育（ルソーとペスタロッチを中心に）
4. 近代の学校教育（義務教育制度の成立を中心に）
5. 新しい教育思想と学校教育（デューイを中心に）
6. 日本近世社会と教育（藩校と寺子屋教育）
7. 近世後期の教育（幕末の蘭学・国学を中心に）
8. 明治期の西欧教育制度と思想の需要
9. 明治公教育の完成と教育勅語体制
10. 新しい教育運動（大正期の学校教育）
11. 戦時下の学校教育（国家主義の台頭から学校教育の崩壊まで）
12. 戦後の教育改革（アメリカ教育使節団報告と学校教育改革）
13. 高度経済成長と学校教育（四六答申などを中心に）
14. 現代学校教育の課題（新しい学力観を中心に）
15. これからの学校と教育（学習指導要領などを中心に）

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 授業への参加状況:30% (2) 提出課題:30% (3) 定期試験:40%

学校図書館メディアの構成

TEAT-0-211

担当者：若松 昭子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

学校図書館司書教諭資格：必修科目

講義概要

1. 内容

1. 内容 学校図書館の利用者が必要としている様々な情報メディアの特性とその効果的な収集方法、また、日本十進分類法、件名標目表、日本目録規則、書誌ユーティリティ、オンライン目録などを用いた効率的な資料組織化の理論と方法を学ぶ。2. カリキュラム上の位置づけ 学校図書館司書教諭の資格科目・児童学科の専門科目

2. 学びの意義と目標

学校図書館における適切な資料の選択・収集とその体系化は、学校教育の中心となりうる充実した学校図書館を創造するための基盤である。授業では、学校教育に必要とされる多様な情報メディアの特性を理解し、資料選択の理念と効果的な収集の方法、さらにそれらを有効に活用するための組織化の理論について理解する。また、実際に組織化を体験することによって、資料組織化の具体的な技法を体得できるようにする。

受講生に対する要望

授業は演習的な要素も含まれているため課題は必ずやってくるのが重要です。

キーワード

(1)学校図書館 (2)学校図書館メディア (3)メディア構成 (4)資料組織

事前学習（予習）

教科書によく目を通し、与えられた課題はきちんとこなすこと。

復習についての指示

与えられた課題をきちんとやってくること。

授業計画

1. 学校図書館メディアの種類
2. メディアの選択と収集
3. 開架式と配列
4. 分類（1）NDCの構成と特徴
5. 分類（2）補助表とその働き-1
6. 分類（3）補助表とその働き-2
7. 分類（4）分類規程
8. 図書記号と別置記号
9. 件名標目表
10. 目録（1）目録の歴史と種類
11. 目録（2）アクセスポイント
12. 目録（3）NCRと記述の実際
13. 機械化と標準化
14. 書誌ユーティリティとネットワーク
15. まとめと総合演習

教科書

「シリーズ学校図書館学」編集委員会 『学校図書館メディアの構成（シリーズ学校図書館学 第2巻）』（全国学校図書館協議会）

評価方法

(1)試験:40%:試験に代わるレポートになる場合もあり (2)小課題:30% (3)授業参加状況:30%:授業態度、授業への取り組み姿勢や積極性など

毎回の出席は前提であり、遅刻や欠席な大幅な原点となるので注意すること。

担当者：相川 徳孝，佐治 由美子

開設期：秋学期/春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

保育者・教師として必要な知識・技能を実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

幼稚園教諭一種免許：必修科目

講義概要

1. 内容

この授業では実際の保育現場での観察実習が中心となる。幼稚園での子どもの姿を観察することにより子どもの発達の様子や保育者が遊びや発達を支えるためにどのような援助をしているのかを自分なりに考えることを中心に進める

2. 学びの意義と目標

子どもの行為や行動、また保育者の援助行為の意味を自分なりに捉え、それを文章として第三者に伝えることと子ども理解を深めることと保育者（教師）となるための自己課題を各自が見出すこと。

受講生に対する要望

子どもから学ぶという姿勢を持つことと、子どもの生活の場に入るという自覚をもって参加すること。

キーワード

(1) 幼稚園の役割を知る (2) 遊びから学ぶ (3) 子どもの発達

事前学習（予習）

授業や実習に行く前に実習ハンドブックを熟読し、日誌の記録等についてのポイントを把握しておくこと。

復習についての指示

授業時におこなった子どもの観察記録や日誌の記入について、指摘されたことは次回の授業までに訂正しておくこと。

授業計画

1. 幼稚園の役割
2. 幼稚園教育要領について
3. 遊びを通した学びについて
4. 実習オリエンテーション
5. 見学すること・観察することの意味
6. 子どもの活動記録と考察について
7. 実習日誌の記入方法(1)
8. 実習日誌の記入方法(2)
9. 実習日誌の記入方法(3)
10. 実習生として求められるマナー(1)
11. 実習生として求められるマナー(2)
12. 事後指導(1)
13. 事後指導(2)
14. 実習の振り返りと自己課題
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 実習評価：70% (2) 事後指導：15% (3) レポート：15%

実習の前の事前指導、実習後の事後指導をすべて受けていることが前提である。またレポートや日誌を期日までに提出することが求められる。

担当者：浅見 均

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

幼稚園教諭一種免許：必修科目、
保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

保育の基本と計画、指導計画の種類と役割、保育における計画の
史的変遷から、教育・保育の課程の編成及び、長期、短期の具
体的な指導計画の立て方などについて学んでいく。

2. 学びの意義と目標

1、保育内容の充実、質の向上に資する保育の計画と評価の理
解。2、教育・保育の課程の編成、指導計画の作成の具体的理
解。3、計画、実践、省察・評価、改善のプロセスの全体構造を
捉え、理解する。

受講生に対する要望

幼稚園教諭一種免許及び保育士資格取得希望者の受講を望む 授
業中の私語厳禁 携帯はスイッチを切って鞆にしまっておくこと

キーワード

(1)幼稚園教諭・保育士 (2)教育課程 (3)保育課程 (4)指導計画の
作成・内容 (5)教員に求められる資質・能力

事前学習（予習）

前時の学習内容を基に、グループ討議、報告を実施することが
ある。

復習についての指示

授業後、教科書・プリント等で学習内容について振り返ってお
く。

授業計画

1. 幼児教育・保育の基本と計画
2. 教育課程・保育課程の歴史（変遷）
3. 幼稚園教育と教育課程
4. 保育所保育と保育課程
5. 教育課程の編成
6. 幼稚園における長期指導計画の作成・実施
7. 幼稚園における短期指導計画の作成・実施
8. 保育課程の編成
9. 保育所における長期指導計画の作成・実施
10. 保育所における短期指導計画の作成・実施
11. 幼稚園・保育所実習での指導案作成の実際
12. 教育課程・保育課程・指導課程の評価・改善
13. 幼稚園・保育所と小学校の連携
14. 今日のカリキュラム研究
15. まとめ

教科書

浅見均・田中正浩 編著 『子どもの育ちを支える 教育課程・保
育課程論』（大学図書出版）

評価方法

(1)出席・参加態度度:20%:授業への積極的な参加態度を評価します (2)レポート:
20%:授業の理解度を評価します (3)試験:60%:全授業を振り返り理解度を評価しま
す

出席・参加態度については、毎回の出席が前提となる。欠席・遅刻及び
授業態度が悪い場合は、減点対象。上記を基準に総合的に判断する。

担当者：川瀬 敏行

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校教諭一種免許：必修科目、
幼稚園教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

学習指導要領の改訂、教育課程の基本及び編成と実施、各教科等に共通する指導計画・指導案の作成と内容、教師の資質と役割、学級経営の基本、課題等について学ぶ。

2. 学びの意義と目標

学校教育では、教職員が協力して適切に教育課程の編成・実施をしていくことによって学校の教育目標の実現が図られている。「教育課程論」は、教員の資格取得及び教職を目指す人にとって基本となるものであり、重要である。教育課程の基本とその中心的な役割を担っていく教員の資質についての理解を目標とする。

受講生に対する要望

小学校教諭一種免許取得希望者の受講を望む。

キーワード

(1)教職 (2)教育課程 (3)小学校学習指導要領 (4)指導計画の作成・内容 (5)教員に求められる資質・能力

事前学習（予習）

前時の学習内容を基に、グループ協議、報告を実施することがある。

復習についての指示

授業後、教科書・プリント等で学習内容について確認をしておく。

授業計画

1. 教育課程の基本について
2. 学習指導要領の改訂について
3. 学習指導要領改訂の経過と特色について
4. 教育課程に関する法令について
5. 教育課程の編成及び実施について（1）
6. 教育課程の編成及び実施について（2）
7. 授業時数等の決定と日課表の作成について
8. 教育課程実施上の配慮事項について
9. 教育課程編成の手順と評価について
10. 各教科等の指導計画の作成と内容の取扱いについて
 11. 教育課程の実施と教員に求められる資質・能力（1）
 12. 教育課程の実施と教員に求められる資質・能力（2）
 13. よりよい授業の創造と各教科等に共通する学習指導案の作成
 14. 学級経営と教師の役割、地域・保護者との連携について
 15. まとめ

教科書

文部科学省、文科省= 『小学校学習指導要領解説 総則編』（東洋館出版社）

評価方法

(1)出席・参加態度:40% (2)レポート:10% (3)試験:50%

出席・参加態度については、毎回の出席が前提となる。欠席・遅刻及び授業態度が悪い場合は、減点対象。上記を基準に総合的に判断します。

担当者：寺崎 恵子

開設期：秋学期/春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校教諭一種免許：必修科目、
幼稚園教諭一種免許：必修科目

講義概要

1. 内容

人間として生きるには、教育は不可欠である。「教育とはなにか」という問いへの即答は難しいが、古来、人々は、教育に人間としての生き方を問うてきた。子どもの学力や学習意欲に関する課題、子どもの生活に関する教育的なケアの必要性、あるいは、異校種間連携の課題など、多方面から活発になされている教育論議は、私たちの生き方への問いである。この講義では、こうした事情をふまえて、人々が子どもの教育に望んできたことの内容を理解したうえで、これからの教育のあり方を考察したい。

2. 学びの意義と目標

複雑にみえる教育論議の状況を、思い込みにとらわれずに冷静に把握する力を培うことを、学びの目標とする。教育に関する議論は、現代に特有な課題を取り上げているが、実は、教育の歴史のなかに深く根差している。この学びの意義は、その根をたどって課題の内実を理解することにある。

受講生に対する要望

全回を通じて、各自、学びの意義と目標を確認することになる。その確認を、各回の小レポート作成によって行う。思い込みにとらわれず、他者の意見をききながら、自分自身の教育観を自身の生き方としてとらえることを望む。

キーワード

(1) 広義の教育 (2) ライフサイクル (3) 発達観 (4) 学びと教え (5) 協同的な学びの可能性

事前学習（予習）

教育に関連することを新聞記事などから探して、その内容をノートに記録する。やり方の詳細を、初回に説明する。

復習についての指示

ノートの整理をしながら、学習内容を確認する。不明な点があれば、用語辞典（教科書）などで調べて補完する。やり方の詳細を、初回に説明する。

授業計画

1. 教育の原義（1）
2. 教育の原義（2）
3. ライフサイクル論と発達観
4. イニシエーションと異校種間連携
5. 「教え」の関係構造（1）
6. 「教え」の関係構造（2）
7. 教育主体と学習主体
8. 観察というまなざし
9. 「子どもの理性」について
10. 直観教授について
11. 教材の意義
12. 学校の時間の特性
13. 学習集団と競争意識
14. 個人的な学びと協同的な学び
15. 教育の可能性

教科書

広岡義之 『教職をめざす人のための教育用語・法規』（ミネルヴァ書房）

評価方法

(1) 小レポート:75%:各回5点×15回 (2) 期末課題:15%:初回に出題する。 (3) ノート:10%

小レポートの記述状況によっては、書き直しを求めることがある。また、期末課題に計画的に取り組むことを望む。

担当者：小川 洋

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校教諭一種免許：必修科目、
幼稚園教諭一種免許：必修科目

講義概要

1. 内容

教育に関するさまざまな現象を、質問紙調査、聞き取り調査あるいは統計などを用いて、その背景にあるものを解明しようとする研究分野である。近代以降、教育が学校という組織によって担われるようになると、学校教育の果たす社会的な役割がひじょうに大きくなる。時にそれは、関係者に過剰な期待を持たせたり過剰な負担を与えたりする。その結果しばしば教育には、「問題」が見出され、マスメディアや政治家たちによって争点化される。「問題」をどのように社会的に理解できるのか、研究事例などの紹介をとおして、考えてもらうことを中心とする。

2. 学びの意義と目標

将来、子どもの保育あるいは教育に携わる学生たちには、社会の見方をしっかり身に付けてほしい。一般的な常識とは異なる内容もあるはずだが、自分の見方に拘らず、広い視野に立つように授業を役立ててもらいたい。

受講生に対する要望

高校までの「社会」科の授業とはまったく異なります。先入観を持たずに授業に臨んでください。

キーワード

(1) 家族・家庭 (2) 学歴 (3) 少年非行 (4) 貧困

事前学習（予習）

各テーマで2、3回の授業を構成します。初回の授業を提示する各テーマのキーワードなどについて、予備的な学習をすること。

復習についての指示

ひとつのテーマが終了する度に、学習内容をまとめること。そのなかから一つのテーマを選んでレポートを作成してもらう。

授業計画

1. ガイダンス（教員としての素養としての教育社会学）
2. 教育の見方（1）－経済学と社会学
3. 教育の見方（2）－社会学の理論
4. 学歴と階層移動（1）－努力の報われる社会か
5. 学歴と階層移動（2）－エリート教育
6. 逸脱行為（1）－逸脱の理論
7. 逸脱行為（2）－統計の見方（少年非行を中心に）
8. 教育家族（1）－家族とはなにか
9. 教育家族（2）－戦前から戦後へ
10. 教育家族（3）－教育とジェンダー
11. 貧困と子どもの教育（1）
12. 貧困と子どもの教育（2）
13. 貧困と子どもの教育（3）
14. 学校選択と地域社会
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 通常の学習活動：40%：出席、授業中の作業など (2) レポート：30%：授業中に説明する1本のレポート (3) 期末テスト：30%

担当者：鎌原 雅彦

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

子どもの発達・心理についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

社会教育主事資格：必修科目，
小学校教諭一種免許：必修科目，
幼稚園教諭一種免許：必修科目，
保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

子どもの学習と発達に関する教育心理学の基礎的な知識について、学習する。特に学ぶ主体としての子どもの視点から教育心理学的知見を整理する。授業中に簡単なデモンストレーションや調査、話し合いを行い、その結果についてや小レポートの提出を求める。

2. 学びの意義と目標

教育的な仕事をする上で必要となる知識を獲得するだけでなく、教育心理学的なものの見方を習得することを目標とする。

受講生に対する要望

授業時、模擬実験、小グループでの討論等を行うので積極的な参加を望む。

キーワード

(1)教育心理学 (2)学習

事前学習（予習）

次回テーマについて、テキスト該当部分をみるなりして、自分なりの考えをまとめる。

復習についての指示

授業の内容について、疑問点を明確にする。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 学習の基礎としての記憶 1
3. 学習の基礎としての記憶 2
4. 知識獲得としての学習
5. 問題解決としての学習
6. 学習の基礎としての条件づけ 1
7. 学習の基礎としての条件づけ 2
8. 学習への動機づけ
9. 学習の評価
10. 個人差と人格
11. 成熟と学習
12. 初期学習
13. 認知発達と学習
14. 自己の発達と学習
15. 総括と試験

教科書

鎌原雅彦・竹綱誠一郎 『やさしい教育心理学第3版』（有斐閣）

評価方法

- (1)試験:70% (2)出席と小レポート:30%

担当者：鎌原 雅彦

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

子どもの発達・心理についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校教諭一種免許：必修科目

講義概要

1. 内容

教員採用試験問題を題材とし、具体的な問題の解説を通して、教職教養としての教育心理学の知識を学ぶ。

2. 学びの意義と目標

学びの意義と目標 教員採用試験を念頭に、教職教養としての教育心理学の知識を整理し、教育心理学的知見の体系的に理解することを目標とする。

受講生に対する要望

あらかじめ問題を課すので、積極的に調べて、授業に参加してください。

キーワード

(1)教育心理学 (2)学習 (3)発達

事前学習（予習）

予め配布する資料について調べておく。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 学習の理論
3. 記憶
4. 学習法
5. 動機づけ
6. 教授学習
7. 発達の原理
8. 発達段階
9. 初期学習
10. 人格
11. 適応
12. 精神衛生
13. 知能
14. 教育評価
15. 総括

教科書

プリントを配布する

復習についての指示

授業の内容を整理し、疑問点を明確にする。

評価方法

(1)試験:70% (2)出席と発表:30%

教育相談(カウンセリングを含む。)

TEAT-C-253

担当者：鎌原 雅彦

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校教諭一種免許：必修科目、
幼稚園教諭一種免許：必修科目

講義概要

1. 内容

教育相談及びカウンセリング（心理療法）や精神保健について基礎的な知識について学習するとともに、適応上の諸問題について概観する。授業中に簡単な実習や調査、話し合いを行い、その結果についてや小レポートの提出を求める。

2. 学びの意義と目標

教育的な仕事をする上で必要となる知識を獲得するだけでなく、自己理解を通して相談にあたる基本的態度を習得することを目標とする。

受講生に対する要望

授業時、簡単な実習、小グループでの討論等を行うので積極的な参加を望む。

キーワード

(1)教育相談 (2)心理療法 (3)精神障害

事前学習（予習）

次回テーマについて、テキスト該当部分をみたりして、自分なりの考えをまとめる。

復習についての指示

授業の内容について、疑問点を明確にする。

授業計画

1. 教育相談の役割
2. 人格の理論
3. 人格検査一質問紙法
4. 人格検査一投影法
5. 精神・行動の障害の概念
6. 感情障害・不安障害
7. 人格障害
8. 発達障害
9. 非社会的問題行動
10. 反社会的問題行動
11. 来談者中心療法
12. 行動療法
13. 認知療法
14. 学校カウンセリング
15. 総括と試験

教科書

大芦治 『教育相談・学校精神保健の基礎知識第2版』（ナカニシヤ出版）

評価方法

- (1)試験:70% (2)出席と小レポート:30%

担当者：市村 和子，齋藤 範雄

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校教諭一種免許：必修科目，
幼稚園教諭一種免許：必修科目

講義概要

1. 内容

本講義は、カリキュラム構成や教育の方法に関する基礎的・基本的な理論を学ぶことで、授業づくりを行うために必要な知識を習得することができるようにする。また、教育メディアについて学び、演習を通して実践的な技能を身に付けることができるようにする。

2. 学びの意義と目標

幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状の取得のための科目であり、「児童学概論」「教育原理」「発達心理学」「児童教育学」「基礎実習」等の授業、幼稚園や小学校での実習と深く関連している。授業を通して、発問・指示・板書・説明等の教授スキルやメディアの活用方法を身に付け、実践に生かすことができるようにする。

受講生に対する要望

「先生」と呼ばれる職業を目指す者として、どのような態度で授業に臨めばよいか常に考えて参加すること。

キーワード

(1)授業 (2)カリキュラム (3)教授スキル (4)子ども理解

事前学習（予習）

前時に予告された内容について調べておくこと

復習についての指示

本時の学習内容の整理（プリント、ノート等）

授業計画

1. オリエンテーション、学校・教室・授業とは何か
2. 教育の変遷について
3. カリキュラムについて
4. 学習指導要領について
5. 子ども理解について
6. 授業スキル(1)
7. 授業スキル(2)
8. 授業スキル(3)
9. 評価について
10. 教育メディアの種類と活用について
11. 教育メディア演習(1)
12. 教育メディア演習(2)
13. 教育メディア演習(3)
14. 今日の学校の課題について
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席状況・参加態度:50%:積極的な発言をすること (2)理解度の確認:50%:随時小テスト、課題レポート実施
毎回の出席が大前提である。欠席・遅刻は減点の対象となる。

担当者：川瀬 敏行

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

教職の基本的な知識を研究する専門科目である。教職における専門教養「社会」を取り上げ、その基礎的研究及び傾向対策研究をする。

2. 学びの意義と目標

小学校教員としての専門教養「社会」の基礎及び採用試験の傾向と対策を研究し、合格を目指していく。

受講生に対する要望

小学校教員採用試験の合格を目指し、努力する者の受講を望む。

キーワード

(1)小学校教員採用 (2)専門教養「社会」の基礎的研究 (3)専門教養「社会」の傾向対策研究

事前学習（予習）

専門教養「社会」の過去問を十分研究しておくこと。

復習についての指示

授業後、教科書、参考書等で学習内容について確認しておくこと。

授業計画

1. 小学校専門教養「社会」の基礎的研究（1）
2. 小学校専門教養「社会」の基礎的研究（2）
3. 小学校専門教養「社会」の基礎的研究（3）
4. 小学校専門教養「社会」の基礎的研究（4）
5. 小学校専門教養「社会」の基礎的研究（5）
6. 小学校専門教養「社会」の基礎的研究（6）
7. 小学校専門教養「社会」の基礎的研究（7）
8. 小学校専門教養「社会」の傾向対策研究（1）
9. 小学校専門教養「社会」の傾向対策研究（2）
10. 小学校専門教養「社会」の傾向対策研究（3）
11. 小学校専門教養「社会」の傾向対策研究（4）
12. 小学校専門教養「社会」の傾向対策研究（5）
13. 小学校専門教養「社会」の傾向対策研究（6）
14. 小学校専門教養「社会」の傾向対策研究（7）
15. まとめ

教科書

東京アカデミー 『教員採用試験参考書〈6〉小学校全科〈2015年度〉（オープンセサミシリーズ）』（ティーエーネットワーク）
東京アカデミー 『小学校全科〔2015年度〕（オープンセサミ・シリーズ）』（ティーエーネットワーク）

評価方法

- (1)出席・参加態度:50% (2)理解度の確認:50%

毎回出席が大前提である。欠席・遅刻は減点対象。

教職演習 B

TEAT-G-252

担当者：齋藤 範雄

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

小学校算数科の指導に課題のある教材について指導法の研究をする。教育実習に向けて、指導案の作成や授業展開の仕方について学ぶ。教員採用試験に向けて、算数・数学の基礎演習を行う。

2. 学びの意義と目標

小学校算数科でつまづきやすい課題について、児童の実態に合わせた指導法等の研究を行う。教育実習に向けて指導案作りや授業の留意点を身につける。教員採用試験の傾向にあわせ基礎演習を行う。

受講生に対する要望

教材や指導法を意欲的に研究し、幅広く算数指導ができることを目指す。また、教育実習に向け、積極的に授業に参加する。教員採用試験を目指す受講生。

キーワード

(1)教材研究 (2)教育実習 (3)教員採用試験

事前学習（予習）

カリキュラムの内容に合わせ、教科書等の予習をして授業に臨むこと。

復習についての指示

教科書だけではなく、配布されたプリント等を確実に身につけるようにする。

授業計画

1. オリエンテーション、診断テスト
2. 算数科授業の教材研究（数と計算）
3. 算数科授業の教材研究（量と測定）
4. 算数科授業の教材研究（図形）
5. 算数科授業の教材研究（数量関係）
6. 算数科授業の問題解決学習（1）
7. 算数科授業の問題解決学習（2）
8. 算数科学習指導案の作成
9. 算数科模擬授業の実践と研究（1）
10. 算数科模擬授業の実践と研究（2）
11. 教員採用試験に向けての基礎演習（1）
12. 教員採用試験に向けての基礎演習（2）
13. 教員採用試験に向けての基礎演習（3）
14. 教員採用試験に向けての基礎演習（4）
15. まとめ

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編（平成20年8月）』（東洋館出版社）

評価方法

(1)出席状況・授業態度:40% (2)指導案・模擬授業:30% (3)確認テスト:30%:期末試験の他、随時小テストを実施する
毎回出席することを前提とし、積極的な授業態度を期待したい。

担当者：市村 和子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

公立小学校教員採用試験を受験し、その合格を目指すところの3年生を対象とした教職演習である。特に一般教養「国語」と教職教養「教育原理」を中心に取り組む。

2. 学びの意義と目標

教員採用試験の傾向と現状を把握し、小学校教員を目指すうえで必要な一般教養や教職教養の基本的な知識を学ぶ。と同時に、教員として必要な資質や適性を高めることを目指す。

受講生に対する要望

教員採用試験を受験し、必ず教員になるという強い意志と、そのための努力を惜しまない学生の受講を願う。

キーワード

(1)教員採用試験 (2)一般教養 (3)教育原理 (4)教育への情熱

事前学習（予習）

小テスト（その都度指示）に向けての学習

復習についての指示

本時の学習内容の整理

授業計画

1. 教員採用試験に向けて
2. 一般教養（国語）の傾向と対策（1）
3. 一般教養（国語）の傾向と対策（2）
4. 一般教養（国語）の傾向と対策（3）
5. 一般教養（国語）の傾向と対策（4）
6. 一般教養（国語）の傾向と対策（5）
7. 教職教養（教育原理）の傾向と対策（1）
8. 教職教養（教育原理）の傾向と対策（2）
9. 教職教養（教育原理）の傾向と対策（3）
10. 教職教養（教育原理）の傾向と対策（4）
11. 教職教養（教育原理）の傾向と対策（5）
12. 教職教養（教育原理）の傾向と対策（6）
13. 教職教養（教育原理）の傾向と対策（7）
14. 教職教養（教育原理）の傾向と対策（8）
15. まとめ

教科書

東京アカデミー 『教員採用試験参考書〈1〉教職教養I教育原理・教育史〈2015年度〉（オープンセサミシリーズ）』（ティーエーネットワーク）

評価方法

(1)出席状況・参加態度:50%:積極的に発言すること。(2)理解度の確認:50%:随時小テストを実施する。

毎回出席が大前提である。欠席・遅刻は減点の対象となる。

担当者：齋藤 範雄

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

小学校教員として必要な算数・数学の基礎知識を確認するとともに、教員採用試験の傾向と対策の研究をする。

2. 学びの意義と目標

算数・数学の基礎知識を身につけるとともに、教員採用試験の傾向（模擬授業を含む）を研究し、合格を目指す。

受講生に対する要望

受け身の態度で授業に参加するのではなく、自分の実力アップを目指して積極的に臨むこと。また、疑問を生じたときには遠慮せずに質問すること。（質問ノート等の利用）

キーワード

(1) 教員採用試験 (2) 実践演習 (3) 模擬授業の実践

事前学習（予習）

カリキュラムの内容に合わせ、教科書等の予習をして授業に臨むこと。

復習についての指示

教科書だけではなく、配布されたプリント等を確実に理解できるようにする。

授業計画

1. オリエンテーション、診断テスト
2. 教員採用試験に向けての実践演習（学習指導要領）
3. 教員採用試験に向けての実践演習（数・式・計算）（1）
4. 教員採用試験に向けての実践演習（数・式・計算）（2）
5. 教員採用試験に向けての実践演習（方程式・不等式）（1）
6. 教員採用試験に向けての実践演習（方程式・不等式）（2）
7. 教員採用試験に向けての実践演習（関数）（1）
8. 教員採用試験に向けての実践演習（関数）（2）
9. 教員採用試験に向けての実践演習（図形）（1）
10. 教員採用試験に向けての実践演習（図形）（2）
11. 教員採用試験に向けての実践演習（図形）（3）
12. 教員採用試験に向けての実践演習（確率）（1）
13. 教員採用試験に向けての実践演習（確率）（2）
14. 算数科模擬授業実践と研究（1）
15. 算数科模擬授業実践と研究（2）

教科書

東京アカデミー 『2015年度教員採用試験参考書（6）小学校全科』（ティーエーネットワーク）

評価方法

(1) 出席状況:20% (2) 授業態度:30% (3) 模擬授業:20% (4) 確認テスト:30%:期末試験の他、随時小テストを実施する

日々の授業態度が実力を培うことになるので、毎回出席することを前提とし、積極的な授業態度を期待したい。

担当者：市村 和子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

公立小学校教員採用試験を受験する4年生を対象とした教職演習である。特に面接・論文・課題作文、模擬授業を中心に取り組む。

2. 学びの意義と目標

教員採用試験の傾向と現状を把握し、面接試験や論文試験に必要な知識を学ぶ。また、社会人として必要な所作やマナーも同時に身に付ける。

受講生に対する要望

教員採用試験合格のための努力を惜しまず、指導を素直に受け入れることのできる学生の受講を望む。

キーワード

(1)公立小学校教員採用試験 (2)教育への情熱 (3)論文・面接・模擬授業

事前学習（予習）

前時に与えられた課題に対する自分なりの解答・意見等

復習についての指示

指摘された内容事項についての修正

授業計画

1. 教員採用試験に向けて
2. 教員採用試験の基礎的研究・演習（1）
3. 教員採用試験の基礎的研究・演習（2）
4. 教員採用試験の基礎的研究・演習（3）
5. 教員採用試験の基礎的研究・演習（4）
6. 教員採用試験の基礎的研究・演習（5）
7. 教員採用試験の基礎的研究・演習（6）
8. 教員採用試験の傾向と対策研究（1）
9. 教員採用試験の傾向と対策研究（2）
10. 教員採用試験の傾向と対策研究（3）
11. 教員採用試験の傾向と対策研究（4）
12. 教員採用試験の傾向と対策研究（5）
13. 教員採用試験の傾向と対策研究（6）
14. 教員採用試験の傾向と対策研究（7）
15. 教員採用試験対策のまとめ

教科書

プリントを配布する
本演習専用のファイルを用意し、配布されたプリントをきちんと綴じ込み、毎時間持参すること。

評価方法

(1)出席状況:20% (2)参加態度:50% (3)理解度の確認:30%

毎回出席が大前提である。欠席・遅刻等は減点の対象となる。

担当者：加藤 実三

開設期：秋学期/春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

聞くこと・話すこと・読むこと・書くことを統合して「書く力」の向上を目指します。学習の材料は、毎日の生活のあちこちに存在します。身近にあるさまざまな言葉を拾い上げ取り出し、「正しい日本語の基準って何だろう?」「言葉って案外面白い」ということなどを追究していく予定です。可能なら、受講生が自ら話材を提供したりグループワークをしたりすることも考えています。できるだけ児童学科の学生に必要な事項、あるいは児童学科の学生として関心のある内容を選びます。

2. 学びの意義と目標

言葉は他とのコミュニケーションの道具であると共に、自己の思考を整理したり深めたりする役割を持っています。この機能は、家庭・保育園・幼稚園・学校などを通じていっそう高められ、社会人としての重要な素養の一部となり、あらゆる社会の基盤をなしていきます。他の授業や就職などの際に役立つための、言語活動の基礎を養うことを目標とします。

受講生に対する要望

疑問はしっかり先生に質問し確かめておくなど、主体的な学習姿勢を望みます。

キーワード

(1)言葉への関心 (2)文章力アップ (3)確かな情報 (4)子どもに関わる仕事 (5)問題意識・意見・意志

事前学習（予習）

小論課題のキーワードは2週間前に伝えるので、しっかり調べておくこと。次週の課題を提示するので、予め調べておくこと。

復習についての指示

返却されたプリントはどこがどう間違えたのか、確認しておくこと。文章の添削事項やコメントをよく読み、次回に活かすこと。

授業計画

1. 授業ガイダンス（実践問題を含む）
2. 自己紹介文を書く。
3. 話し言葉と書き言葉の違いを知る。
4. 中学生の作文を添削する。
5. 略語の効用（元の形や利便性を考える）
6. 小論文を書く（1回目）
7. 漢字パズルに挑戦。
8. 敬語の難しさ（仕組みの一端を知る）
9. ことわざ・慣用句の使い方。
10. 小論文を書く（2回目）
11. 四字熟語に慣れる。
12. 日本の文化（物の数え方など）
13. 感想文を書く。お礼状の書き方の基礎。
14. ビジネス会話を考える。
15. 就職試験問題への挑戦。難読漢字に挑戦。

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)小論文:50% (2)出席状況:20% (3)参加意欲:20% (4)提出物:10%

担当者：佐藤 千瀬

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

子どもに向き合う者としての倫理観を養う

カリキュラム上の位置付け

小学校教諭一種免許：必修科目、
幼稚園教諭一種免許：必修科目、
保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

本講義では、保育者の役割と倫理、保育士・幼稚園教諭の制度的な位置づけ、保育士・幼稚園教諭の専門性、保育者の協働、保育者の専門職的成長について概説する。

2. 学びの意義と目標

(1) 保育者の役割と倫理について理解する。(2) 保育士・幼稚園教諭の制度的な位置づけを理解する。(3) 保育士・幼稚園教諭の専門性について考察し、理解する。(4) 保育者の協働について理解する。(5) 保育者の専門職的成長について理解する。

受講生に対する要望

毎回の授業で課題・小テストに取り組むことが多くあるため、計画的に丁寧に取り組むこと。出席票を丁寧に記入すること。グループワークに積極的に取り組むこと。

キーワード

(1) 保育士 (2) 幼稚園教諭 (3) 役割 (4) 専門性 (5) 協働

事前学習（予習）

・課題に取り組むこと

復習についての指示

・授業で視聴した事例の分析をすること・小テストの準備をすること

授業計画

1. オリエンテーション 保育者の役割1
2. 保育者の役割2ー保育士
3. 保育者の役割3ー幼稚園教諭
4. 保育者の役割4
5. 保育士・幼稚園教諭の制度的位置づけ
6. 保育者の倫理
7. 保育士・幼稚園教諭の専門性1ー養護と教育 資質・能力
8. 保育士・幼稚園教諭の専門性2ー知識・技術及び判断
9. 保育士・幼稚園教諭の専門性3ー保育の省察と自己評価
10. 保育者の協働1ー保育と保護者支援にかかわる協働
11. 保育者の協働2ー保護者及び地域社会との協働
12. 保育者の協働3ー専門職間、専門機関及び家庭的保育者等との連携
13. 保育・教育の実践例
14. 保育者の専門職的成長
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 平常点:30%:出席点ではない。(2) 出席票:20% (3) 小テスト:20% (4) 冬休み課題:10% (5) 最終試験:20%

毎回の出席が前提となる。遅刻等は減点の対象となる。

担当者：小川 隆夫

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

子どもに向き合う者としての倫理観を養う

カリキュラム上の位置付け

小学校教諭一種免許：必修科目、
幼稚園教諭一種免許：必修科目、
保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

「教育は人にある」といわれる。施設・設備が整備され、すぐれた教材・教具が開発された今日においても、教師の重要性にかわりわない。最近、特に学校での事故や生徒の自殺問題で、世間の教師に対する関心は強いものになっている。本講義では、教師の仕事、役割、教師観や職場としての学校などについて学び、望ましい資質能力とは何かと人権を尊重した望ましい教師の姿を考える。

2. 学びの意義と目標

子どもの好む教師、親の求める教師、教師の考える望ましい教師、校長・行政者の求める望ましい教師を考えながら、教師とは何かを追及することに学びの価値がある。本講義を通して教育活動に従事する魅力に触れ、教師の道を目指そうとする気持ちが確かなものになることを期待する。

受講生に対する要望

教職志望者が、資質向上を図り、真摯に取り組むことを望む。

キーワード

(1)教師の仕事 (2)資質能力 (3)望ましい教師 (4)人権尊重 (5)目指す教師像

事前学習（予習）

テキストの指定ページを読んで授業に臨むこと。毎回、新聞から教育関連の記事を1つ選んで、メモをとり意見が言えるようにして授業に臨むこと。

復習についての指示

配布プリント及びテキストの学習箇所の復習をする。常日頃から新聞に目を通し、社会情勢や教育関連の記事に関心を持つ。

授業計画

1. オリエンテーション 教師の日常生活
2. 授業をつくる
3. 授業から学ぶ
4. カリキュラムをデザインする
5. 子どもを育む
6. 生涯を教師として生きる
7. 同僚とともに学校を創る
8. 教職の専門性
9. 時代の中の教師
10. 教師の仕事とジェンダー
11. 教育改革と教師の未来
12. 教師研究へのアプローチ
13. プレゼンテーション
14. プレゼンテーション
15. 授業の確認とまとめ

教科書

秋田 喜代美、佐藤 学 『新しい時代の教職入門（有斐閣アルマ）』（有斐閣）

評価方法

- (1)出席・授業貢献:20% (2)プレゼン:20% (3)レポート1回:20%
(4)中間テスト:20% (5)期末テスト:20%

担当者：森田 美千代

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

子どもに向き合う者としての倫理観を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

今年度は、ホーレス・ブッシュネル著『キリスト教養育』を読み、そのなかに出てくるキリスト教教育に関するいろいろな基本的考え方を学ぶことにする。

2. 学びの意義と目標

このコースでブッシュネルの『キリスト教養育』をしっかりと学ぶことは、キリスト教教育の一つの重要な理論をマスターすることであり、そして、そのことは、現在実際におこなわれているキリスト教教育を観察したり評価する時の一つの有効な視点を提供してくれることになる。

受講生に対する要望

キリスト教と教育学の両分野に関心を持ち続けることができること。

キーワード

(1)キリスト教 (2)教育 (3)ホーレス・ブッシュネル (4)『キリスト教養育』 (5)家庭と教会

事前学習（予習）

配布されたプリントを読んで、授業に出席する。

復習についての指示

授業のポイントを書き留めておく。

授業計画

1. はじめに
2. 『キリスト教養育』のエッセンスの解説（1）
3. 同上（2）
4. 同上（3）
5. キリスト教養育とは何か（1）
6. 同上（2）
7. 同上（3）、ディスカッション
8. 家庭—その有機的一体性（1）
9. 同上（2）
10. 同上（3）、ディスカッション
11. 教会—幼児洗礼（1）
12. 同上（2）、ディスカッション
13. 『キリスト教養育』論争（1）
14. 同上（2）
15. おわりに

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:30% (2)定められたテーマについてのレスポンス・ペーパー:30% (3)期末レポート:40%

担当者：山口 博

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

子どもに向き合う者としての倫理観を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義は、キリスト教と幼児教育を研究するにあたり「人間実存の神秘への導入」(inducting)を重視しつつ聖書を学び、複雑な現代の諸問題を、キリスト教倫理学の領域で考察したい。

2. 学びの意義と目標

それは、キリスト教の立場から社会問題に即答や解答を与える倫理的な宣言(ethical pronouncement)としてではなく、人間のおかれている倫理的状況を、キリスト教の啓示の下に分析・洞察(analysis reflection)を加えるものである。

受講生に対する要望

積極的に受講してください。

キーワード

(1)人 (2)神 (3)主 (4)生 (5)死

事前学習(予習)

毎回の講義で、聖書の文章を英文と邦文で読みます。あらかじめ該当箇所を通読しておいてください。

復習についての指示

配布プリントとノートをまとめてください。

授業計画

1. 序 キリスト教と幼児教育
2. キリスト教人間観(1)ー神を知り、人間を知るー創世記1章27節
3. キリスト教人間観(2)ーアダムとふさわしい助け手ー創世記2章7節
4. キリスト教人間観(3)ー愛の表現としての契約ー創世記12章1-2節
5. キリスト教人間観(4)ー罪についてー創世記3章9-12節
6. キリスト教人間観(5)ー救いについてーローマ8章28節
7. 労働と職業 ー創世記2章15節ー
8. 結婚 ーマタイ19章6節ー
9. 家族 ーエペソ5章33-6章1節ー
10. 死 ーピリピ3章10-11節ー
11. キリスト教と文学 ーヨハネ1章1-14節ー
12. キリスト教と科学 ーヨハネ8章32節ー
13. キリスト教と政治 ーマルコ12章13-17節ー
14. 個人と共同体 ーエペソ4章14-16節ー
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:20% (2)プリント問題への回答:20% (3)全学礼拝と教会レポート:20% (4)ノートおよびプリント提出:20% (5)プレゼンテーション:20%

担当者：山口 博

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

子どもに向き合う者としての倫理観を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義は、「人間実存の神秘への導入」(inducting)を重視しつつ聖書を学び、複雑な現代社会の諸問題を、キリスト教社会倫理学の領域で考察したい。

2. 学びの意義と目標

それは、キリスト教の立場から社会問題に即答や解答を与える倫理的な宣言(ethical pronouncement)としてではなく、人間のおかれている倫理的状況を、キリスト教の啓示の下に分析・洞察(analysis reflection)を加えるものである。

受講生に対する要望

積極的に受講してください。

キーワード

(1)人 (2)神 (3)主 (4)生 (5)死

事前学習(予習)

毎回の講義で、聖書の文章を英文と邦文で読みます。あらかじめ該当箇所を通読しておいてください。

復習についての指示

配布プリントとノートをまとめてください。

授業計画

1. 序 キリスト教と幼児教育(続)
2. 聖書解釈の歴史(1) 原始教会 マタイ13章31節マタイ5章13-14節
3. 聖書解釈の歴史(2) 古代教会 ルカ10章30-35節
4. 聖書解釈の歴史(3) 中世カトリック教会 ロマ3章9-18節
5. 聖書解釈の歴史(4) 宗教改革 ロマ3章21-31節
6. 聖書解釈の歴史(5) 正統主義 ヨハネ1章1-13節
7. 聖書解釈の歴史(6) 啓蒙主義 創世記6章11-22節
8. 聖書解釈の歴史(7) 歴史哲学的解釈・宗教史学派 ピリピ2章6-11節
9. 聖書解釈の歴史(8) 本文批評・文献批評・様式史・編集史 ヨブ記1章20-22節
10. 生き方に学ぶ(1) ペテロの召命 マタイ16章16節
11. 生き方に学ぶ(2) パウロの回心 Iコリ2章1-2節
12. 生き方に学ぶ(3) アウグスティヌス ロマ13章13-14節
13. 生き方に学ぶ(4) 宗教改革者ルターとカルヴァン ロマ5章1-5節
14. 生き方に学ぶ(5) 聖学院と関わった宣教師達ヘブル11章8節
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:20% (2)プリント問題への回答:20% (3)全学礼拝と教会レポート:20% (4)ノートおよびプリント提出:20% (5)プレゼンター諸人:20%

担当者：田中 かおる

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

保育士資格：選択科目

講義概要

1. 内容

本講義では、キリスト教保育の基盤となることを確認し、考察することを目的とする。手順としては、以下のように進める。まず、キリスト教が日本の幼児教育にもたらした影響を確認する。次に、キリスト教保育の基盤である聖書における人間観を確認し、更にイエス・キリストの生涯とその意味を確認し、キリスト教への理解を深める。その上で、保育の現場と聖書のメッセージとが、どのようにかわるのかを、実際の保育事例と照らし合わせながら考察し、キリスト教保育とは何かを考える。

2. 学びの意義と目標

保育内容と聖書のメッセージとの関連を確認しながら、キリスト教保育の視点を学ぶ。

受講生に対する要望

毎回、聖書を持参すること。

キーワード

(1)日本の幼児教育界への影響 (2)聖書の人間観(旧新約) (3)イエス・キリストの子ども理解 (4)キリスト教の行事(三大祭り)

事前学習(予習)

該当する聖書箇所をあらかじめ読んでくること。

復習についての指示

講義内容の確認①小レポートによる振り返り②ノートによる振り返り

授業計画

1. オリエンテーション
2. 日本のキリスト教幼児教育・保育の歴史
3. キリスト教の行事(三大祭り他)
4. 聖書の人間観(1)天地創造物語(絵本)
5. 聖書の人間観(2)アダムとエバ
6. 聖書人間観(3)カインとアベル
7. 聖書の人間観(4)箱舟物語(絵本)
8. 聖書の人間観(5)十戒
9. 聖書の人間観(6)神を仰ぎ人に仕える
10. イエス・キリスト(1)生涯(ビデオ)
11. イエス・キリスト(2)教え(ビデオ)
12. イエス・キリスト(3)業(絵本)
13. イエス・キリスト(4)子ども理解
14. 『キリスト教幼児教育指針』から学ぶ
15. まとめ

教科書

キリスト教保育連盟『新キリスト教保育指針』(キリスト教保育連盟)

評価方法

- (1)毎回の小レポート:20% (2)礼拝:30% (3)課題レポート:50%

担当者：小池 茂子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

今日的課題についての知識・教養を身につける

カリキュラム上の位置付け

社会教育主事資格：選択必修科目

講義概要

1. 内容

1. 内容 本講義では、高齢者を対象とする教育について取り上げる。子どもの学習を支援する教育原理に対して、1970年代から提唱され始めてきた成人教育学なかんずく高齢者の教育学（gerogogy）理論について論じることとする。尚、本講義で扱う高齢者の範囲は、病的及び加齢によって著しい知的な退行現象を呈している高齢者を除く高齢者とする。2. カリキュラム上の位置づけ 資格取得を目指さない学生の受講ももちろん歓迎する。

2. 学びの意義と目標

成人の生涯発達支援から高齢の特性を理解しそれを踏まえた高齢者を対象とする学習支援の方策について理解する。専門職として（或いは一個人として）、高齢者教育の現代的意義と高齢者に接する際の配慮の視点を受講生が理解することを本講義の目標とする。

受講生に対する要望

遅刻、無断欠席は厳禁とする。

キーワード

(1) 少子高齢化 (2) 老年学 (3) 成人の学習理論 (4) ジェロロジー (5) 加齢と知能

事前学習（予習）

講義の中で紹介する、文献、資料等に事前に目を通して講義に臨むこと。

復習についての指示

毎回、授業の講義ノートの整理をすること。

授業計画

1. 日本社会の高齢化の状況と将来推計
2. 戦前の高齢者の社会的地位（家長制度、尊属優位の民法規定）
3. 1960年代以降のわが国の高齢者を対象とする政策の変遷
4. 高齢期の幸せな生活をめぐる主張（活動理論と離脱理論等）
5. 生涯発達理論について
6. 加齢と知的能力
7. 成人教育学（andragogy）理論—子どもの学習支援とどこが違うのか—
8. 成人後期の発達と危機（高齢期の発達課題・生活課題）
9. 高齢者の特性を活かした教育学（gerogogy）の理論
 10. 高齢者の特性を活かした、有効な学習方法
 11. 高齢者の学習関心・学習要求（1）
 12. 高齢者の学習関心・学習要求（2）
 13. 具体的な教育実践の紹介
 14. 活躍する高齢者紹介
 15. まとめ

教科書

堀薫夫・三輪建二 『生涯学習と自己実現』（放送大学教育振興会）

評価方法

(1) 出席点：25% (2) 平常点：25% (3) 試験：50%

担当者：小池 茂子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

今日の課題についての知識・教養を身につける

カリキュラム上の位置付け

社会教育主事資格：選択必修科目

講義概要

1. 内容

1. 内容 第1に、今日問題になっている青少年の自立と社会性の育成をどのようにするかを巡って展開されている「奉仕活動」の学校教育や社会教育政策の中での奨励をめぐる議論について取り上げる。第2に、人間がよりよく生きていくためには、生にまつわる否定的側面の課題（死・病、対象喪失などをめぐる課題）を直視し考えることの必要を説く「生と死の準備教育」がある。「生と死の準備教育」提唱者たちの理念、教育目的、教育内容を紹介し、生涯教育としての「いのち」を考える教育の可能性について考えていきたい。2. カリキュラム上の位置づけ 資格取得を目的としない学生の受講も歓迎する。

2. 学びの意義と目標

青年期を生きる人間の生をよきものとするため、どのような教育が必要なのかを受講生が自らの課題として考察することを目標とする。

受講生に対する要望

本講義では現代社会の中に存在する青年期の教育を取り巻く課題について取り上げる。そして、そこには正答というものがない。したがって受講生が、あるいは受講生同士が意見の交換を通じて一つ一つの課題について、自分の問題として考えることを期待したい。

キーワード

(1) 青少年非行 (2) ポストモダン (3) 奉仕活動の義務化 (4) シティズンシップ教育 (5) 生と死の準備教育

事前学習（予習）

講義では、教科書を使用しないため、事前に資料を配布して講義を進めていく。そこで毎回の講義に際し、事前に資料に目を通し資料の内容を理解した上で講義に臨むこと。

復習についての指示

講義の中で小レポート課し、学生諸君の意見を求めることが間々ある。課題レポート作成に際しては自分で主体的に問題と向き合い、自分の意見を根拠を示して表明することを常に心がけてほしい。

授業計画

1. オリエンテーション：教育政策の保守化と青少年教育の動向
2. 青少年問題（戦後の青少年非行の変遷）・社会のアノミー化
3. 青少年問題審議会答申に見る青少年問題の今日的動向と教育的課題
4. 教育改革国民会議の中間報告「学校教育における奉仕活動の義務化」をめぐる議論
5. 学校教育における「奉仕活動」の是非をめぐる議論
6. イギリスにおけるシティズンシップ教育
7. 「新しい公共」について～公共哲学の議論にみる「公共」とは～
8. 青少年教育における奉仕活動をめぐる議論のまとめ
9. 「死生学」、「死の準備教育」、「いのちの教育」とは何か
10. わが国における「死の準備教育」
11. 子どもの「死」をめぐる問題に関する意識調査・結果（1）
12. 子どもの「死」をめぐる問題に関する意識調査・結果（2）
13. 学校教育におけるいのちをめぐる教育の理念、目的、カリキュラム
14. 初等・中等教育学校段階における「死の準備教育－実践事例の紹介－」
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する
講義の中で扱うテーマに関する資料を事前に配布し、それに基づいて講義を行う。

評価方法

- (1) 出席点：25% (2) 平常点：25% (3) レポート点：50%

子どもの食と栄養 A

HLTH-C-211

担当者：菅原 歩美

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

小児の健全な発育・発達には、適切な栄養摂取や食習慣の形成が必要不可欠である。本講義では、栄養学の基礎的な知識を身につけ、その上で小児の特徴について理解することを目的とする。また、食育とは何かを学び、得た知識を小児やその保護者にどのように伝えていくかを考察する。カリキュラム上の位置付け：保育士資格取得のための必修科目

2. 学びの意義と目標

基礎栄養を学び、子どもの食だけでなく、保護者や自身の食生活についても考えられるようにする。

受講生に対する要望

討論やロールプレイには積極的に参加するように。私語は慎むように。

キーワード

(1) 食生活と栄養 (2) 食育

事前学習（予習）

教科書に沿った授業を行うので、シラバスに沿った項目を事前に読んでくること。

復習についての指示

保育士として、授業で取り上げた内容について保護者に説明できるようにしておくこと。

授業計画

1. 子どもの健康と食生活の意義
2. 栄養に関する基礎知識 1
3. 栄養に関する基礎知識 2
4. 栄養に関する基礎知識 3
5. 調理実習（基本の食卓）
6. 食育の基本と内容 1
7. 食育の実践（準備 1）
8. 食育の実践（準備 2）
9. 食育の実践（準備 3）
10. 食育の実践（発表会）
11. 生涯発達と食生活
12. 妊娠期・授乳期の食生活
13. 子どもの発育・発達と食生活
14. 調理実習（お弁当作り）
15. 総括と試験

教科書

堤 ちはる, 土井 正子 『子育て・子育てを支援する子どもの食と栄養』（萌文書林）

評価方法

(1) 出席:15% (2) 授業内発表:15% (3) 中間レポート:20% (4) 期末試験:50%

子どもの食と栄養B

HLTH-G-212

担当者：菅原 歩美

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

小児の健全な発育・発達には、適切な栄養摂取や食習慣の形成が必要不可欠である。本講義では、まず保育者である自身の食生活について振り返る。その上で、各ライフステージに応じた栄養や食生活についての理解を深める。カリキュラム上の位置付け：保育士資格取得のための必修科目

2. 学びの意義と目標

ライフステージに応じた栄養と食生活を学ぶことで、子どもの生涯にわたる健康づくりをサポートできる力を身につける。

受講生に対する要望

討論やロールプレイには積極的に参加すること。私語は慎むこと。

キーワード

(1) ライフステージごとの食生活 (2) 疾病管理

事前学習（予習）

教科書に沿った授業を行うので、事前に教科書を読むこと。箇所は授業で指定する。

復習についての指示

授業で学んだ内容を、保護者に相談された際に正しく説明できるよう、自分の言葉で話せるようにしておくこと。

授業計画

1. 子どもの発育・発達と食生活
2. 乳児期の食生活－乳汁栄養－
3. 乳児期の食生活－人工栄養－（調乳実習）
4. 乳児期の食生活－離乳食－
5. 離乳期・幼児期の食生活 1
6. 離乳期・幼児期の食生活 2
7. 離乳期・幼児期の食生活 3
8. 調理実習（離乳食）
9. 乳汁栄養に関するまとめと中間試験
10. 学童期・思春期の栄養と食生活
11. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 1
12. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 2
13. 調理実習（アレルギー対応おやつ）
14. 家庭や児童福祉施設における食育
15. 総括と試験

教科書

堤 ちはる, 土井 正子 『子育て・子育てを支援する子どもの食と栄養』（萌文書林）

評価方法

(1) 出席:15% (2) 授業内発表:15% (3) 中間試験:30% (4) 期末試験:40%

子どもの保健 A

HESC-C-212

担当者：小林 京子

開設期：秋学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

1. 内容:子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を知り、子どもの心身の発達や生理機能・運動機能の発達と生活の中での発育・発達支援、子どもの病気や事故の特徴とその予防方法等の基礎を理解する。2. カリキュラム上の位置づけ:保育士資格を取得するための必修科目である。子どもの保健に関する基礎的な科目である。

2. 学びの意義と目標

保育における子どもの健康の意味を認識し、保育実践における保健活動の重要性を理解する。子どもの心身の健康問題の原因が、養育環境や養育方法にあることを認識し、それらの問題に適切に対処し、保健活動を通して子どもやその家族を支援できるようになる基礎を習得する。また、子どもの病気や事故の特徴についての基礎を理解する。

受講生に対する要望

これまでの学びを活用しながら積極的に講義、グループワークに臨んで下さい。

キーワード

(1)小児保健 (2)母子保健 (3)子どもの生活 (4)保健活動

事前学習（予習）

これまでの学習を想起しながら授業に臨んでください。

復習についての指示

これまでの学びを振り返っておきましょう。

授業計画

1. 小児保健の意義
2. 小児保健とは
3. 子どもの生活と健康
4. 子どもの生活と健康
5. 子どもの栄養
6. 子どもの栄養
7. 子どもの事故と安全
8. 子どもの事故と安全
9. 母子保健
10. 母子保健
11. 保健活動
12. 保健活動
13. グループワーク
14. グループワーク
15. 試験と総括

教科書

竹内義博、大矢紀昭編 『よくわかる子どもの保健 やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ』（ミネルヴァ書房）加藤忠明、岩田力著 『図表で学ぶ子どもの保健＜1＞』（健帛社）

評価方法

(1)筆記試験:60% (2)グループワーク参加度:10% (3)講義参加度:30%

子どもの保健B

HESC-C-213

担当者：平田 美佳，平田 倫生

開設期：春学期集中/秋学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

健康な子どもの心身の発達や生理機能・運動機能の発達、生活のなかでの発達・発達支援について理解する。また、子どもの病気の特徴やその予防、病気や障がいを持った子どもの理解とその支援、医療現場での保育の重要性や医療と保育の連携について学ぶ。カリキュラム上の位置づけ：小児保健に関する「子どもの保健A」や「子どもの保健実習」と連動する。

2. 学びの意義と目標

保育における子どもの健康の維持・増進の意味を理解するとともに、保育士の役割の重要性について認識する。子どもがかかりやすい病気、子どもに多い症状、子ども特有の心身の変調の表現を理解することで、保育現場で子どもの病気予防、早期発見、早期対処ができるような基礎知識を習得する。また、子どもの発達・発達や健康問題は家庭環境や家庭での養育方法と密接にかかわっていることを理解し、子どものみならず家族を支援できるように基礎知識を習得する。さらに、医療現場における病気や障がいを持った子どもについての理解を深め、病院や施設における子どもの権利を守った生活の保障と支援、医療と保育の連携の重要性に理解する。

受講生に対する要望

この科目は将来子どもを対象とする専門職に就くものにとっては、大変重要な内容です。授業に参加するだけでなく、授業内容に関連した社会の動きや日常的に見かける子どもたちの様子にも関心を持つように心がけて履修してください。

キーワード

(1)子ども (2)成長・発達 (3)病気・障がい (4)予防・支援 (5)専門職の責務

事前学習（予習）

子ども時代の自分の経験・それまでの学習内容と重ね合わせ、興味や疑問・関心を持って授業に臨んでください。

復習についての指示

授業の復習は確実にを行い、そのときに疑問に感じた部分については、次の授業で確実に質問して、自ら疑問を解決するようにしてください。

授業計画

1. 子どもの発達・発達とその支援 1
2. 子どもの発達・発達とその支援 2
3. 子どもの発達・発達とその支援 3
4. 子どもの病気の特徴 1
5. 子どもの病気の特徴 2
6. 子どもの病気の特徴 3
7. 子どもの病気とその予防 1
8. 子どもの病気とその予防 2
9. 子どもの病気とその予防 3
10. 病気や障がいを持った子どもの理解と支援 1
11. 病気や障がいを持った子どもの理解と支援 2
12. 病気や障がいを持った子どもの理解と支援 3
13. 医療現場における保育の役割と重要性 1
14. 医療現場における保育の役割と重要性 2
15. 医療現場で働くさまざまな職種と多職種連携

教科書

母子保健事業団 『母子健康手帳』（母子保健事業団）竹内 義博、大矢 紀昭 『よくわかる子どもの保健[第2版]（やわらかアカデミズム・「わかる」シリーズ）』（ミネルヴァ書房）

評価方法

- (1)試験:100%

子どもの保健演習

HESC-C-214

担当者：藤城 富美子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

テキストと演習で基本的理論と援助の手順と方法を学び、理論や実技が保育現場で活用できるようにする。また、子ども自身が自らの健康を意識し実践できるようにするためにどのような援助が考えられるか、グループワーク演習で考え発表する（健康教育の実演）

2. 学びの意義と目標

＜目標＞保育者として、子どもの自身の健康の保持・増進を助めるための援助法を学び、実践可能な実技を身に着ける。＜意義＞著しい成長発達を遂げる乳幼児期の基本的理解や対応を学ぶ意義は大きい。加えて、子どもの成長発達する過程において、病気やけがなど様々な傷害を想定し対応できるようにする。

受講生に対する要望

・保育現場に出た時に最低限子どもの生命の保持ができるように、危機的状況を想定し命の大切さを学んでほしい。・グループワーク学習を通し、共有・協働の関係が円滑に行えるように刺激し合う。

キーワード

(1) 保育保健 (2) 子どもの発達発達 (3) 養護 (4) 子どもの病気・感染症 (5) 健康教育

事前学習（予習）

グループ演習を中心に進めるため、グループ評価になる。互いに協働する姿勢をもつ。毎回赤ちゃん人形を使い演習。その際の扱いは尊重の姿勢を持つこと

復習についての指示

テキストに沿って行う

授業計画

1. 子ども健康と保健活動の意義（保健計画・多職種との連携）
2. 子どもの発達（身体機能の発達と評価）計測の演習
3. 子どもの発達（運動機能発達と評価）遠城寺式の演習
4. 子どもの発達（生理機能の発達と評価）生理機能演習
5. 小テスト（子どもの発達発達のまとめ）演習の確認
6. 子どもの養護の仕方（哺乳・離乳・冷凍母乳）
7. 子どもの養護の仕方（沐浴・着脱・おむつ交換）
8. 子どもの養護の方法（抱き方・おんぶの仕方）
9. 健康教育の発表
10. 子どもに多くみられる病気と対応（健康観察・感染症）
11. 保育室の環境整備と衛生管理
12. 子どもの事故と安全対策（SIDS）
13. 救急救命法（AED操作）演習
14. 障害や医療的ケアを必要としている子どもや家族の支援
15. 試験と総括

教科書

大西文子 『子どもの保健演習』（中山書店）日本保育園保健協議会 『子どもの病気 ホームケア』（日本保育園保健協議会）プリントを配布する

評価方法

(1) 試験:40% (2) 小テスト:10%:グループ協働の演習 (3) 平常点:30%:演習の積極性 授業態度 身だしなみ (4) 出席:10% (5) 健康教育:10%

算数

MATH-C-141

担当者：加々美 健一

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校教諭一種免許：必修科目、
幼稚園教諭一種免許：選択必修科目、
保育士資格：選択科目

講義概要

1. 内容

小学校算数科学習指導要領に準拠した内容を、数学的な意味を考えさせながら領域別に指導する。発展的な内容も随時取り入れ、意欲や関心を高めるために実験や体験学習も実施する。カリキュラム上の位置づけ：小免の必修科目、幼免においては選択必修、保育士資格は選択科目となる。

2. 学びの意義と目標

4領域(数と計算、量と測定、図形、数量関係)にわたる学習内容の本質的な意味を理解し、楽しく、分かりやすい指導方法の基礎・基本を学ぶ。

受講生に対する要望

楽しく、分かりやすい算数の指導方法を学びたいものの受講を望む。

キーワード

(1)学習指導要領 (2)教材研究 (3)楽しい算数 (4)分かる算数

事前学習（予習）

予定表に記載されている内容について、学習指導要領解説を用いて調べる。

復習についての指示

授業当日の課題を解くなどして、学習内容について確認しておく。

授業計画

1. オリエンテーション、学習指導要領と算数科（1）
2. 学習指導要領と算数科（2）
3. 算数科の学習内容と研究＜数と計算（1）＞
4. 算数科の学習内容と研究＜数と計算（2）＞
5. 算数科の学習内容と研究＜数と計算（3）＞
6. 算数科の学習内容と研究＜量と測定（1）＞
7. 算数科の学習内容と研究＜量と測定（2）＞
8. 算数科の学習内容と研究＜量と測定（3）＞
9. 算数科の学習内容と研究＜図形（1）＞
10. 算数科の学習内容と研究＜図形（2）＞
11. 算数科の学習内容と研究＜数量関係（1）＞
12. 算数科の学習内容と研究＜数量関係（2）＞
13. 算数科の学習内容と研究＜数量関係（3）＞
14. 問題演習
15. 試験

教科書

文部科学省、文科省= 『小学校学習指導要領解説 算数編』（東洋館出版社）

評価方法

- (1)試験:50% (2)レポート:20% (3)出席・参加態度:30%

算数科教育法

SUBP-C-255

担当者：齋藤 範雄

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校教諭一種免許：必修科目、
幼稚園教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

算数科のねらいを明確に捉えるとともに数学を創る立場から算数科の教材を研究し、学ぶ意欲を高める授業のあり方を身につける。

2. 学びの意義と目標

算数指導の基礎・基本を理解するとともに、算数・数学を学習する楽しさやよさを感じ、授業実践に結びつけた力を身につける。

受講生に対する要望

小学校一種免許取得希望者の受講を望む。

キーワード

(1)学習指導要領 (2)教材研究 (3)算数的活動・数学的活動 (4)数学的な思考力・表現力

事前学習（予習）

授業前に教科書を読み、内容を理解しておくこと。

復習についての指示

授業後、学習内容について確認しておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション、学習指導要領と算数科
2. 算数科教育のねらい（1）
3. 算数科教育のねらい（2）
4. 算数科授業の展開と教材研究（数と計算）
5. 算数科授業の展開と教材研究（量と測定）
6. 算数科授業の展開と教材研究（図形）
7. 算数科授業の展開と教材研究（数量関係）
8. 算数科授業の展開と問題解決学習（1）
9. 算数科授業の展開と問題解決学習（2）
10. 算数科授業の展開と問題解決学習（3）
11. 算数科授業の展開と問題解決学習（4）
12. 数学的な思考力・表現力のまとめ
13. 評価について
14. 算数科授業の実施に向けて
15. まとめ

教科書

文部科学省、文科省= 『小学校学習指導要領解説 算数編』（東洋館出版社）

評価方法

(1)出席状況:30% (2)参加態度:40% (3)理解度の確認:30%:期末試験の他に、随時レポートを課す予定。

出席状況・理解度の確認は固より、日々の授業に積極的に参加、発言等の態度を重視する。

担当者：川瀬 敏行

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校教諭一種免許：必修科目

講義概要

1. 内容

小学校社会科の目標や各学年の学習内容を中心に取り上げる。そのほか、学習指導要領と社会科、社会科教育の歩み、小・中学校社会科の関連、課題等についても研究する。

2. 学びの意義と目標

小学校社会科の目標や学習内容を中心に学び、小学校教員免許取得で求められる基本的なことについての理解を目標とする。

受講生に対する要望

小学校教諭一種免許資格取得希望者の受講を望む。

キーワード

(1)小学校社会科 (2)社会科教育の歩み (3)社会科の目標 (4)社会科の学習内容と課題

事前学習（予習）

教育全般、社会科教育に関する情報を集め、「新聞を読んで」のレポート提出及び発表の準備をしておくこと。

復習についての指示

「新聞を読んで」の発表から、教育全般及び社会科授業に参考になる事柄について、「社会」授業内容との関連を確認しておくこと。

授業計画

1. 授業計画及び「社会科」について
2. 社会科教育の歩み（1）
3. 社会科教育の歩み（2）
4. 学習指導要領と社会科
5. 社会科の目標について
6. 社会科の学習内容と研究＜3・4年（1）＞について
7. 社会科の学習内容と研究＜3・4年（2）＞について
8. 社会科の学習内容と研究＜3・4年（3）＞について
9. 社会科の学習内容と研究＜5年（1）＞について
10. 社会科の学習内容と研究＜5年（2）＞について
11. 社会科の学習内容と研究＜6年（1）＞について
12. 社会科の学習内容と研究＜6年（2）＞について
13. 社会科のまとめと課題研究（1）
14. 社会科のまとめと課題研究（2）
15. 試験とその解説

教科書

文部科学省、文科省= 『小学校学習指導要領解説 社会編』（東洋館出版社）

評価方法

(1)出席・参加態度:30% (2)レポート:20% (3)試験:50%

出席・参加態度については、毎回の出席が前提となる。欠席・遅刻及び授業態度が悪い場合、減点対象。上記を基準に総合的に判断します。

社会的養護

SWEL-G-212

担当者：坂本 佳代子

開設期：秋学期/春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

本来、子どもは家庭において養育されるものと捉えられています。しかし、古来より少なくない人数の子どもが、家庭以外で育てられてきている歴史があります。今、我々の時代にそれら家庭以外の養育形態を「社会的養護」という言葉で表現し、意味づけています。この講義では、1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。2. 社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解する。3. 社会的養護の制度や実施体系について理解する。4. 社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について理解する。5. 社会的養護の現状と課題について理解する。以上を主たる目標として、学ぶものとします。この中で、東日本大震災によって社会的養護分野ではどのような課題が生じ、何が変わってきたかについても学んでいきたいと考えています。

2. 学びの意義と目標

児童の問題は社会状況との関係で生じてくることを学んでほしい。すなわち、現在の大きな課題である虐待についても、被虐待児童と虐待をしてしまう親の双方が支援対象であることを認識してほしい。

受講生に対する要望

保育士という対人援助を目指す学生は、日々の自身の態度が重視される。このことを実践するためにも、授業中はきちんとした心構えと態度で臨んでほしい。

キーワード

(1)里親 (2)児童相談所 (3)措置 (4)虐待 (5)自立支援

事前学習（予習）

常に、自治問題に関心を持ち続け「社会的養護」関係の話題がピックアップできるようにしてください。

復習についての指示

毎回授業時に質疑応答（ディスカッション）し、理解度について確認する。

授業計画

1. 社会的養護の理念と概念
2. 児童家庭福祉
3. 児童家庭福祉の一分野としての社会的養護
4. 社会的養護の歴史の変遷
5. 児童の権利擁護と社会的養護
6. 社会的養護の制度と法体系
7. 社会的養護の専門職・実施者
8. 里親制度
9. 里親・里子の現状と方向性
10. 施設養護の基本原則
11. 施設養護の実例 I
12. 施設養護の実例 II
13. 被措置児童の虐待防止
14. 被措置児童の自立支援
15. 倫理の確立

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)試験:50% (2)出席状況:20% (3)授業参加態度:30%

社会的養護内容

SWEL-G-213

担当者：笹瀬 悟

開設期：秋学期/春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

1 内容 本講義では、先ず社会的養護における児童の権利養護やその仕組み、児童の生存発達保障、保育士の倫理と責務、児童養護の体系と児童福祉施設の概要、各種児童施設の暮らし、保育士の専門性に関わる知識と援助技術、それにソーシャルワーク技術の活用等について、さらに社会的養護内容の課題と展望についても学ぶ。（詳細は、開講時に説明する）カリキュラム上の位置づけ：社会的養護内容は、保育士養成のカリキュラムの中で、専門課程の基礎となる科目である。

2. 学びの意義と目標

この講義では、「利用児や現場から学ぶ」という一貫した姿勢をもって進めていくので、受講生は、社会的養護内容の専門的な知識だけでなく、具体的な援助技術や多様な考え方を身につけることができると思う。子どもを育てることは、第一義的には両親の責務であるが、それが果しにくい状況にある家庭が増えていることが現代社会の課題となっている。児童施設に入所している子どもやその家族に表面化していることが、普通の家族の中にも潜んでいる事が見えてくるのである。それは、児童施設で暮らす子どもに限らず、すべての子どもに対する社会的養護が必要な時代にあることを物語っている。従って、社会的養護内容を学ぶことは、子どもの権利や家庭や社会の在り方について理解を深めることにつながる。本講義を通して、社会的養護内容を学んだ学生諸君が、保育所だけでなく、各種児童施設において、また、地域住民の一人として児童福祉を支え、子どもの最善の利益を守る主体となり、その実現に向けて働きかけてくれることを、心から願っている。

受講生に対する要望

”私は児童学科だから、乳幼児や児童のことしかわかりません”という姿勢では、通用しないことを知っておいてください。また、専門家を目指す学びをしていきましょう。

キーワード

(1)子どもの最善の利益 (2)保育士の専門性とは？ (3)ソーシャルワーク

事前学習（予習）

必ず授業計画を事前に見て、各テーマに関連した語句（キーワード）やトピックについて、出来るだけ情報を集めること。講義終了直前に、次回の講義テーマについて触れるので、確認しておくこと。プリント・資料を保存するファイル2冊用意の事。

復習についての指示

配布したプリントを再読して、理解を深めておくこと。毎講義後に「課題演習」が出されるので、自宅ですべて、翌週までに提出発表できるように準備しておくこと。

授業計画

1. 社会的養護における児童の権利養護（大学での単位の意味・子どもの最善の利益・意見表明権・エンパワメント）
2. 生存と発達の保障（児童自立支援計画書・ICFエコマップ・障碍の構造的な理解）
3. 子どもの権利を守る仕組みについて（子どもの権利ノート・苦情解決の仕組み・第三者評価制度・運営適正化委員会）
4. 保育士の倫理及び責務（支援者の子ども観・生命倫理・オンブズパーソン・守秘義務・ノーマリゼーション）
5. 児童養護の体系と児童福祉施設の概要（児童養護施設・要保護児童・措置制度から利用契約制度へ・ユニットケア）
6. （その2）乳児院と母子生活支援施設での暮らし（担当保育制・措置変更、養護の連続性、愛着形成）
7. （その3）重症心身障害児施設での暮らし（大島の分類、レスパイトサービス、PTとOT、バイタルサイン）
8. （その4）肢体不自由児施設と児童自立支援施設での暮らし（リハビリとは？・CP・勤務体制・少年審判・保護処分）
9. （その5）発達障害児と情緒障害児短期治療施設での暮らし（発達障害・不登校・SST・愛着障害）
10. （その6）知的障害児施設と自閉症児施設での暮らし（知的障害とは？・IQの理解の仕方・自閉症とは？・自閉症の文化）
11. 里親制度について（里親の種類と里親養護の特徴・実実告知・特別養子縁組制度）
12. 保育士の専門性に関わる知識と援助技術（トラウマ・断続勤務・家族再統合・試し行動・マリトリートメント）
13. 児童福祉施設のこれから（課題演習3事例と講義）（施設内虐待・入浴介助のリスク・コミュニケーション能力）
14. 社会的養護の課題と展望（課題演習4事例）（家族団壊とは？・出生前診断・アドミッションケア・リービングケア）
15. まとめ、定期試験

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)授業内定期試験:80%:第15講時に実施 (2)出席点A:10%:15~14回出席 10% 13~12回出席 8% 11~10回出席 6% (3)出席点B:10%:講義後、自分の意見、感想、疑問等記入した人、課題レポート提出

社会福祉

SWEL-C-111

担当者：本多 勇

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

社会福祉主事任用資格：選択科目、
保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

社会福祉は、現代社会において私たちの生活を支える社会制度の一つです。この講義では、その社会福祉に関する基礎的知識および技術について学びます。

2. 学びの意義と目標

学びの意義は、子どもの育ちと暮らしを支える保育士として、現代社会における社会福祉の知識と技術についての基礎的理解を深める、ということです。学びの目標は、(1)現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷、(2)社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性、(3)社会福祉の制度や実施体系等、(4)社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組み、(5)社会福祉の動向と課題について、の5つの“柱”について理解します。その上で、保育士／児童福祉専門職として、社会福祉のクライアント（養護児童、障害者、要介護高齢者、貧困者等）を「社会的弱者」として捉えるのではなく、そこにある生活課題を社会における問題として認識できるようにします。

受講生に対する要望

・新聞・テレビ・インターネット等の社会福祉に関する報道や、自分の住んでいる地域での社会福祉に関連する制度や問題に、関心を持ちましょう。・『社会福祉小六法』や『社会福祉用語辞典』を参考書として用意しておくことと理解が深まります。・（ミネルヴァ書房、中央法規出版など）・質問・意見を積極的に発言すること（思ったこと、考えたことを言葉で表現しましょう）。・授業中の私語はしないこと。音を出さないこと。ゲームやスマホ・ケータイなどで内職しないこと。・かばんは机の上に置かないこと。・フラットファイル等で、配布したプリント等は綴じてまとめておくこと。

キーワード

(1) 社会のなかの生活 (2) 社会関係 (3) 制度、法律 (4) 支援（援助）の方法 (5) ソーシャルワーク

事前学習（予習）

テキストの該当箇所を事前に読んで理解をすすめておくことが望ましい。

復習についての指示

毎回プリント（レジュメ、資料）を配布するので整理し、理解をすすめる。あわせてテキストに目を通し、理解を深める。

授業計画

1. （社会福祉の意義と歴史の変遷 1）イントロダクション 社会福祉とは？
2. （社会福祉の意義と歴史の変遷 2）社会福祉の理念と概念
3. （社会福祉の意義と歴史の変遷 3）社会福祉の歴史の変遷
4. （社会福祉と児童家庭福祉 1）社会福祉の一分野としての児童家庭福祉
5. （社会福祉と児童家庭福祉 2）児童の人権擁護と社会福祉
6. （社会福祉と児童家庭福祉 3）家庭支援と社会福祉
7. （社会福祉制度と実施体系 1）社会福祉の制度と法体系
8. （社会福祉制度と実施体系 2）社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設等
9. （社会福祉制度と実施体系 3）社会福祉の専門職・実施者、社会保障及び関連制度
10. （相談援助・利用者保護 1）相談援助の意義と原則
11. （相談援助・利用者保護 2）相談援助の方法と技術
12. （相談援助・利用者保護 3）情報提供と第三者評価、利用者の権利擁護と苦情解決
13. （社会福祉の動向 1）少子高齢化社会への対応、在宅福祉・地域福祉の推進
14. （社会福祉の動向 2）チームアプローチとネットワーク、諸外国の動向
15. （期末試験）あらためて、社会福祉とは？

教科書

新・保育士養成講座編集委員会 『新保育士養成講座 第4巻 社会福祉』（全国社会福祉協議会）

評価方法

- (1) リアクションペーパー:40%:与えられた課題についてしっかり書いてください。
- (2) 期末テスト:60%:試験の概要は授業中に伝えます。

出席時のリアクションペーパー提出40%及び期末テスト60%で評価する。保育士養成必修科目のため15回全出席が原則。毎回リアクションペーパーを提出してもらう。

障害児保育 A

TEAT-C-216

担当者：坂本 佳代子

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

この講義では、障害のある子どもの保育についての歴史的変遷や障害理解等について学んでいくものです。現在、インクルーシブな保育が当然のものとされ、障害のある子どもも無い子どもも共に育つ取り組みが試行され実践されるようになってきました。その中では一人一人に望ましい保育実践を行うための取り組みが工夫されなくてはなりません。このような統合保育とは別に、障害別に病院や施設等の専門機関で保育を受けている子ども達も少なからずいる現状です。このように、様々な機関で実践されている障害児保育について広く体系的に学んでいきます。また、生まれた直後に障害があるかどうかはわからないことが多く、養育者はどのような過程で子どもの障害に気づいていくのか、その時の子どもと養育者の支援はどのように整備されているのかについても学んでいくこととします。上記の学習過程によって、日本の障害児保育の現状と課題について体系的に把握できるようにします。

2. 学びの意義と目標

・障害を負って生きることの苦しさを洞察できるようになること。
・多様な障害があることを理解すること。
・支援は子どものみならず、家族支援も重要であることを理解すること。
・支援は個別の状況によって異なることを理解する。

受講生に対する要望

障害については身近でない場合には、かなり理解が難しい。それだけに授業内容をしっかりと理解してほしい。

キーワード

(1)障害って何 (2)普通って何 (3)障害受容 (4)早期発見早期療育 (5)障害手帳

事前学習（予習）

身近な地域において、どのような障害児保育実践がおこなわれているかについて、関心を持ち、情報入手等をするように心がけてください。

復習についての指示

毎回授業の初めに、前回の内容について質問します。

授業計画

1. 障害の概念と内容
2. 障害者自立支援法と児童福祉法
3. 障害児・者福祉サービス
4. 障害児教育・福祉の歴史的変遷
5. 障害児保育の基本
6. 相談機関
7. 保護者や家族に対する理解と支援
8. 職員間の協働
9. 肢体不自由児、視覚・聴覚障害児等の理解と援助
10. 知的障害児の理解と援助
11. 発達障害児の理解と援助(1)
12. 発達障害児の理解と援助(2)
13. アセスメントと個別支援計画
14. 地域の専門機関等との連携及び個別の支援計画の作成
15. 個別支援計画作成

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)試験:50% (2)出席状況:20% (3)授業参加態度:30%

担当者：田村 すゝか

開設期：秋学期/春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

特別な支援を必要とする障害のある子どもについて理解し、保育現場での支援の在り方について様々な面から考える。障害の発見から療育のシステム、統合保育や就学に至る流れなど、現状と課題について学ぶ。カリキュラム上の位置づけ：障害児保育のための基礎知識、援助方法を学ぶ。

2. 学びの意義と目標

①様々な障害についての基本的な知識を得て、保育上の留意点について理解する②障害がある子どもの保育にかかわる医療や福祉、教育などの現状と課題について知る③障害がある子どもたちが集団保育の場で他児と育ちあう保育実践について考える④障害がある子どもの保護者・家族支援について考える

受講生に対する要望

保育士資格のための必修授業であるが、特別支援教育が進む現代においては障害がある子どもと現場で接することは珍しいことではなくなっているため、幼稚園・小学校の教員免許取得予定の学生の受講も歓迎する。

キーワード

(1)障害児の保育 (2)特別支援 (3)統合保育 (4)療育

事前学習（予習）

授業計画を参照し、該当の項目について事前に教科書に目を通しておくこと。

復習についての指示

毎回授業の始めにプリントで前回の振り返りを行う。そのために事前に自分で復習をしておくことを推奨する。

授業計画

1. オリエンテーション 障害がある子どもの保育について考える
2. 子どもが発達する道すじ
3. 障害の発見から療育・統合保育へのシステム
4. 障害がある子どもの理解と保育の実際①
5. 障害がある子どもの理解と保育の実際②
6. 障害がある子どもの理解と保育の実際③
7. 障害がある子どもの理解と保育の実際④
8. 障害がある子どもの理解と保育の実際⑤
9. 障害がある子どもの理解と保育の実際⑥
10. 発達のアセスメント（発達検査、質問紙、観察法）
 11. 統合保育について
 12. 保護者への支援・きょうだいへの支援
 13. 保育計画（クラス指導計画と個別支援計画）
 14. 就学への道すじ
 15. 総括と試験

教科書

星山麻木 『障害児保育ワークブック』（萌文書林）

評価方法

(1)受講状況:25% (2)レポート:25%:最初の授業で指示する (3)試験:50%

小学校教育実習

TEAT-C-383

担当者：川瀬 敏行，市村 和子，齋藤 範雄

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：5単位

学部教育の関連目標

保育者・教師として必要な知識・技能を実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校教諭一種免許：必修科目

講義概要

1. 内容

小学校教育実習は、実際の小学校の学校現場で授業をし、児童理解につとめ、様々な人間関係を学ぶ場である。そのため、事前指導をし、実習終了後に事後指導を行う。 * 教育実習(実習校で4週間)

2. 学びの意義と目標

小学校の教育実習は、小学校の教員を志望する学生が、大学の教職課程で習得した知識・技能を基礎として、小学校において教師に求められる職務の一端を実地に学ぶところに意義がある。実際に小学校において、児童の発達段階に応じたコミュニケーションの取り方などの生徒指導、教科等の授業観察や授業実践、教室掲示や学級事務などの学級経営等の力をつけることを目標にしている。

受講生に対する要望

実習校では実習生としての立場を自覚し、指導や助言を素直に受け、実りある経験となるよう意欲的に誠意をもって取り組むことを望む。

キーワード

(1)実習の意義と心構え (2)児童の発達特性 (3)指導案と指導技術 (4)実習日誌

事前学習(予習)

あいさつ・服装などへの配慮等をはじめ実習への心構え、授業実践等、実習に向けた準備に真剣に取り組むこと。

復習についての指示

事前指導の内容を反復しての理解、実習の反省等をよく行い、毎日の実習日誌の整理、終了後の報告書の作成、今後の学習の課題の整理などができるようにすること。

授業計画

1. 事前指導 1
2. 事前指導 2
3. 事前指導 3
4. 事前指導 4
5. 事前指導 5
6. 事前指導 6
7. 事前指導 7
8. 事後指導 1
9. 事後指導 2
10. 事後指導 3
11. 事後指導 4
12. 事後指導 5
13. 事後指導 6
14. 事後指導 7
15. 事後指導 8

* 教育実習(実習校で4週間)

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席・参加態度:30% (2)実習校からの報告:50%:実習校の評価、巡回訪問での情報 (3)実習日誌・報告書:20%:実習日誌、報告書、成果と改善策

出席・参加態度については、毎回の出席の前提となる。欠席及び参加の態度が悪い場合は減点の対象となる。

担当者：市村 和子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校教諭一種免許：必修科目、
幼稚園教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

小学校国語科の授業について事例研究を行う。いくつかの教材を基に、教材研究の手順や教材分析の仕方を知り、学習指導案の作成や模擬授業等をととして授業の進め方を学ぶ。

2. 学びの意義と目標

小学校国語科の目標及び内容を理解するとともに、授業実践についての基本的な考え方や指導方法を学び、「国語科の授業づくり」ができる力を身に付ける。また、自らの言語感覚を養い、国語に対する関心を深めることができるようにする。

受講生に対する要望

小学校で習う漢字（1006文字）の読み書きと、書き順については確実に身に付けること。

キーワード

(1)学習指導要領 (2)教材研究 (3)指導案作成 (4)模擬授業

事前学習（予習）

次時に扱う教材は必ず読んでおくこと。小テストを受けるにあたっては必ず学習すること。

復習についての指示

学習指導要領を繰り返し読むこと。文字（平仮名、片仮名、漢字）が正しい書き順、字体で書けるように練習すること。

授業計画

1. オリエンテーション、小学校国語科について
2. 学習指導要領について
3. 言語活動について
4. 教材研究、教材分析の仕方
5. 事例研究（文学教材の指導）
6. 事例研究（説明文教材の指導）
7. 事例研究（作文指導）
8. 指導計画の立て方について
9. 学習指導案の作成（1）
10. 学習指導案の作成（2）
11. 模擬授業（1）
12. 模擬授業（2）
13. 模擬授業（3）
14. 評価について
15. 小学校国語科教育法のまとめ

教科書

文部科学省 『小学校学習指導要領解説国語編』（東洋館出版）

評価方法

(1)出席状況・参加態度:30% (2)指導案作成・模擬授業:40% (3)理解度の確認:30%:随時小テストを実施する。
毎回出席が大前提である。欠席・遅刻等は減点の対象となる。

初等社会科教育法

SUBP-C-254

担当者：川瀬 敏行

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校教諭一種免許：必修科目、
幼稚園教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

専門科目「社会」で学んだことを基に、小学校社会科授業の事例研究及び各自が学習指導案の作成、模擬授業の実践をし、小学校の社会科指導について研究する。

2. 学びの意義と目標

学校において、授業はもっとも重要な教育活動である。教科の一つである社会科授業の実践に結び付く力を身に付けていくことを目標とする。

受講生に対する要望

小学校一種免許資格取得希望者の受講を望む。

キーワード

(1) 小学校学習指導要領と社会科 (2) 小学校社会科授業研究 (3) 社会科学学習指導案の作成と研究 (4) 社会科模擬授業と研究

事前学習（予習）

「新聞記事から」のレポート提出及び模擬授業の実施に向けた準備をしておく。

復習についての指示

教育、教育時事、社会科指導内容に結び付く新聞記事を集めておく。

授業計画

1. 学習指導要領と小学校社会科
2. 小学校社会科授業の実際と授業研究（1）
3. 小学校社会科授業の実際と授業研究（2）
4. 社会科学学習指導案作成の基本と事例研究
5. 社会科学学習指導案作成の実際と研究（1）
6. 社会科学学習指導案作成の実際と研究（2）
7. 社会科学学習指導案作成の実際と研究（3）
8. 社会科模擬授業計画と学習指導案の作成
9. 社会科模擬授業の実施と研究（1）
10. 社会科模擬授業の実施と研究（2）
11. 社会科模擬授業の実施と研究（3）
12. 社会科模擬授業の実施と研究（4）
13. 社会科模擬授業の実施と研究（5）
14. 社会科模擬授業の実施と研究（6）
15. まとめ

教科書

文部科学省、文科省= 『小学校学習指導要領解説 社会編』（東洋館出版社）

評価方法

(1) 出席・参加態度：35% (2) レポート：15% (3) 指導案作成・模擬授業：50%

出席・授業態度については、毎回の出席が前提となる。欠席・遅刻及び授業態度が悪い場合、減点対象。上記を基準に総合的に判断します。

担当者：東 仁美

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

学習指導要領の改訂に伴い、第5、6学年で年間35時間の外国語活動が必修化された。この授業では、学級担任として英語活動を指導するために必要な小学校英語の基礎知識を身に付ける。また、教材研究を通して、1時間の指導案を組み立てる力をつけていく。学期末課題として、単元計画・指導案を作成し、模擬授業を行う。

2. 学びの意義と目標

公立小学校で行われている英語活動の目標、内容を十分に理解し、学級担任として英語活動の指導ができるようにする。

受講生に対する要望

児童学科の選択必修科目であるが、小学校教員免許取得希望者は是非履修してほしい。

キーワード

(1) 小学校英語教育 (2) 外国語活動 (3) 英語活動 (4) 学習指導要領 (5) 教材研究

事前学習（予習）

授業では小学校英語の基礎知識と教材研究を扱う。この授業を通して担任として英語活動の授業を行う自信をつけてほしい。小学校教師になるという強い意識を持って、授業に参加することを希望する。

復習についての指示

返却されたレポート課題は添削箇所を確認し、小学校外国語活動の必要な知識を理解しておくこと。

授業計画

1. 英語活動の現状と課題
2. カリキュラム開発・年間指導計画
3. 総合的な学習の時間
4. 学習目標・学習内容
5. 指導法・教材
6. 単元計画・指導案の作成
7. 外国語活動の教材
8. 指導者の形態
9. 歌・チャンツ
10. 絵本
11. 自作教材
12. クラスルーム・イングリッシュ
13. 私立小学校での英語教育、イマージョン教育
14. 模擬授業（1）
15. 模擬授業（2）

教科書

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』（東洋館出版社）文部科学省 『Hi, friends! 1』（東京書籍）

評価方法

- (1) 出席、参加:20% (2) レポート:30% (3) プレゼンテーション:30% (4) 期末課題:20%

担当者：小川 隆夫

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

小学校外国語活動（英語）及び児童英語の概要や理論と実践を学び、コミュニケーション能力の素地、国際理解教育と英語活動の関係などを明らかにしていく。また、数多くの実践例を参考にしながら、次世代を担う児童のための英語活動のありかたを考え、レッスンプランを作成しマイクロティーチングをする。ここではフィードバック手法などについても学び、教師同士が高めあえる授業についても考える。また、オリジナルのアクティビティを考え、プレゼンテーションを行う。

2. 学びの意義と目標

英語活動の意義、目標を十分に理解し、知識、情報、指導技術を生かし、現場で率先して実践できるようにする。

受講生に対する要望

毎回行う、アクティビティに積極的に取り組み自分のものにして欲しい。マイクロティーチングやプレゼンテーションには入念なりハースルをして臨むこと。

キーワード

(1)児童英語教材 (2)指導案 (3)マイクロティーチング (4)アクティビティ

事前学習（予習）

小学校英語活動は教科化を目前に常に新聞やマスコミに取り上げられている。新たな情報を得るために日頃から情報を集めること。前もって渡すプリントを読んでから、授業に参加すること。

復習についての指示

マザーグースやチャンツなどは常に復習し、身につけること。指導案作成やアクティビティ作成など授業の課題を着実にこなして提出すること。

授業計画

1. オリエンテーション及び小学校外国語活動の目標及び教員としての資質
2. 国際理解教育と外国語活動
3. 英語のリズムとマザーグース
4. 児童の心をつかむ教材と実践的指導法
5. 言語習得理論と実践
6. 児童英語教材の分析と応用
7. 小学校英語活動の評価と教材の選択
8. 単元計画と指導案作成
9. フィードバックとその手法
10. マイクロティーチング
11. マイクロティーチング
12. マイクロティーチング
13. アクティビティ・プレゼンテーション
14. アクティビティ・プレゼンテーション
15. 授業の確認とまとめ

教科書

小川 隆夫、松香 洋子 『高学年のための小学校英語 「先生、英語やろうよ! 2」 CD付』 (mpi)文部科学省 『Hi, friends! 2』 (東京書籍)

評価方法

- (1)授業への貢献度:20% (2)レポート:20% (3)アクティビティ:20% (4)プレゼンテーション:20% (5)マイクロティーチング:20%

担当者：田澤 薫

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

現代社会の子どもの育ちや子育てをめぐる状況と、それに対する日本の児童家庭福祉の制度や実施体系等について学ぶ。児童家庭福祉を形づくっている法制度を知り、児童家庭福祉の機関や施設の現場での運用を理解する。カリキュラム上の位置づけ：児童家庭福祉の関連科目を学ぶうえで必要な知識を取得する基礎科目である。「保育実習」を履修するための前提となる科目である。

2. 学びの意義と目標

児童家庭福祉の骨組みを学んでいく中で、児童を取りまく諸問題について社会の動きに関心を持ち、保育者として求められる児童家庭福祉の考え方を身につけることをねらいとする。

受講生に対する要望

保育士になる意識をもって、授業に臨んでください。本授業の内容を理解したうえで「保育実習」に臨んでほしいと願っています。レスポンスシートを出席参加の確認・授業の振り返りに活用してください。

キーワード

(1)児童福祉 (2)児童福祉法 (3)保育士

事前学習（予習）

次の授業回の該当章の教科書を一読しておく。

授業計画

1. 児童家庭福祉の理念と概念
2. 児童家庭福祉と子どもの人権の歴史の変遷
3. 現代社会と児童家庭福祉
4. 児童家庭福祉の一分野としての保育
5. 児童家庭福祉の制度と法体系
6. 児童家庭福祉行財政と実施機関
7. 児童福祉施設と児童福祉の事業（1）
8. 児童福祉施設と児童福祉の事業（2）
9. 少子化と多様な保育ニーズ・子育て支援
10. 児童虐待防止
11. 母子保健と児童の健全育成
12. 社会的養護・非行への対応と支援
13. 障害のある児童への支援
14. 児童家庭福祉の専門職
15. 総括と試験

教科書

松本 園子 『児童福祉を学ぶ—子どもと家庭に対する支援』（ななみ書房）

復習についての指示

授業でこまめに取ったノートをもとめる。ノートに照らしながら該当部分の教科書を使って復習を行う。（特に、遅刻・欠席・居眠り等、集中して聴けない時間があった場合には、補う必要があります）

評価方法

- (1)出席・参加:30%:レスポンスシートへの記入内容で判断する
- (2)試験:70%

担当者：佐藤 千瀬

開設期：秋学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

グローバルな視点を身につける

カリキュラム上の位置付け

保育士資格：選択科目

講義概要

1. 内容

国際化の進展に伴い、子どもの問題も海外諸事情を勘案し、それらとの連環における学習が不可避とされている。この場合の学習は、海外情報の収集および実地体験に分けて考えることが出来る。前者は、関連する学科目の講義・演習において行われるが、本学科目は受講者に実地体験の機会を提供するものである。本年度の児童学海外研修は、オーストラリア、アデレードのフリンダース大学で行われ、児童学科の教員が同行する予定である。なお本研修は、国際センターの協力を得て、同センターとの連携のもとに行われる。

2. 学びの意義と目標

オーストラリアの保育・教育等について、英語による講義と実践を通して学ぶこと。(1)教育用玩具を運動能力と知的発達の観点からとらえ、子ども達がおもちゃで遊ぶことによって何を学ぶかを見る。(2)子ども達に人気が高い集団ゲームや活動を、社会性のためのレッスンの例として見る。(3)幼い子どもを持つ家庭にホームステイをし、子どもと家族の関わり方を学ぶ。(4)幼稚園からレセプションの間までの初期の学校教育を考える。

受講生に対する要望

引率者の指示に従い団体行動に協力すること。英語、特に英会話の練習をしておくこと。

キーワード

(1)児童学海外研修 (2)オーストラリア (3)保育・教育

事前学習（予習）

・英語の学習・発表、部分実習の準備

復習についての指示

・課題に取り組むこと

授業計画

1. オリエンテーション
2. 事前指導
3. 事前指導
4. 事前指導
5. 事前指導
6. 事前指導
7. 事前指導
8. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
9. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
10. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
11. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
12. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
13. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
14. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
15. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
16. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
17. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
18. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
19. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
20. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
21. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
22. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
23. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
24. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
25. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
26. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
27. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
28. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
29. オーストラリア（フリンダース大学）での研修
30. 事後指導

教科書

授業の中で指示する

評価方法

事前・事後指導とフリンダース大学からの評価をもとに総合的に評価する。

担当者：田澤 薫

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

子どもに学問的なまなざしを向け、子どもを研究の対象として捉えるとはどういうことか。その具体的な視点と方法について、多様な角度から学ぶ。子どもをめぐる様々な場面での子どもと大人の関わりを考える。カリキュラム上の位置づけ：児童学科に入り、子どもという存在や保育・教育のことを学び始める入り口に立って、子どもに学問的な視点を向けるきっかけとなる授業である。

2. 学びの意義と目標

子どもを対象として見つめる視座を理解する。併せて、子どもについて学ぶにはいろいろな方法論があることを知り、今後の様々な領域での児童学の学びにつながる関心と意欲が得られることをねらいとする。

受講生に対する要望

毎回の授業でレスポンスシートに課題を記入することで、出席確認、受講者・講義者双方の振り返りに活用しています。レスポンスシートに積極的に取り組んでください。

キーワード

(1)子ども (2)児童学 (3)子ども観 (4)保育 (5)学校教育

事前学習（予習）

授業回のテキストに目を通してから授業に臨みましょう。レスポンスシートにコメントを書いて返却します。毎回の授業前に読み活かしましょう。

復習についての指示

授業ノートを整理しましょう。テキストに含まれる資料は、授業で扱った箇所以外の部分も必ず読み込みましょう。参考文献を数多く紹介します。積極的に読みましょう。

授業計画

1. 子どものイメージと理解
2. 制度にたちあがられた子ども
3. 子ども学のはじまり
4. 子ども観と社会制度
5. 子どもの目、大人の目
6. 子どもの理解、大人の理解
7. 保育という視点
8. 学校と子ども
9. 赤ちゃん絵本にみる子どもの認知
10. 不適切な養育と子ども
11. 絵本の力
12. 子どもの自尊
13. 児童学における記録の意味
14. 省察すること
15. 試験と総括

教科書

授業の中で指示する
初回授業に全回分のテキストプリントを配布します。予備はありません。記名の上、毎回の授業で活用して下さい。

評価方法

- (1)出席と参加:50%:レスポンスシートの記入内容で確認します
- (2)試験:50%

担当者：田澤 薫

開設期：秋学期/春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

児童文化についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

幼稚園教諭一種免許：必修科目、
保育士資格：選択科目

講義概要

1. 内容

子どもを取り巻く文化的環境を様々な観点から学ぶ。子どもにとっての遊びや遊び空間の意味と役割、子どもとモノの関わり、子どもと物語の出会い、環境の変化による子ども文化の変化等を探ることで、子どもと社会の関わりを考える視点を養う。

2. 学びの意義と目標

子どもと社会とのかかわりを「文化」という視点から学ぶことで、子どもへの関心を具体的かつ意識的に捉える面白さを味わいたい。授業で紹介する絵本・紙芝居・折り紙等の児童文化財に親しみ、それらを子どもたちに提供する技能についても関心をもって学びたい。

受講生に対する要望

授業では毎回、絵本や紙芝居の児童文化財を紹介します。また、出席確認に折り紙を活用します。これらの作品に触れるだけでなく、子どもの傍らにいる大人になるための実践技能を身につけることにも意識を向けてほしいと思います。

キーワード

(1)児童文化 (2)児童文化財 (3)遊び (4)生育儀礼 (5)子どもの主体性

事前学習（予習）

子ども時代を振り返ること、今関心をもっていることを意識化することに、授業を手がかりとして取り組んでください。シラバスを参考に、教科書の該当箇所を読んでから授業に臨むことを勧めます。

復習についての指示

教科書の該当箇所を必ず一読すること。授業ノートをまとめること。

授業計画

1. 子どもの世界をのぞく視点
2. 子どもと遊び（1） 遊びの意味
3. 子どもと遊び（2） 子どもの遊び
4. 子どもとモノ（1） 子ども服
5. 子どもとモノ（2） おもちゃ
6. 子どもとモノ（3）人形
7. 子どもとモノ（4）たからもの
8. 子どもとモノ（5）食べ物
9. 伝承文化と子ども（1）生育儀礼
10. 伝承文化と子ども（2）年中行事
11. 子どもとことば（1）わらべうた
12. 子どもとことば（2）紙芝居
13. 子どもとことば（3）絵本
14. 子どもとことば（4）おはなし
15. 試験と総括

教科書

皆川 美恵子、武田 京子 『児童文化—子どものしあわせを考える 学びの森』（ななみ書房）

評価方法

- (1)出席・参加:30% (2)試験:70%

担当者：寺崎 恵子

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

児童文化についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

幼稚園教諭一種免許：必修科目、
保育士資格：選択科目

講義概要

1. 内容

私たちは、子どものしあわせな生を育む。それが、育てる者として引き受けている役割であり責任である。では、私たちにとって、子どもの生活・文化に関わることの真意とはなんだろうか。そこで、私たちは遊びに注目して、児童文化のあり方を考えたい。遊びは、文化が生まれるところである。フレーベルは、遊びは人生の鏡である、と述べている。遊びにおいて、私たちは、既知と未知とを結んで記憶を継ぎ、文化を編み出して伝え合う。遊びは、参加者が互いのあいだを感じてコミュニケーションが起る親交・共同の場である。こうした遊びの性質について、協同で考察を深めたい。カリキュラム上の位置づけ：児童学科で学ぶことを強く望んでいる人のための入門として位置づける。

2. 学びの意義と目標

「（大人が）子どもの目線に立つ」と言われる。このとき、子ども期を過ごした人に〈子ども〉はどのように現れてくるだろうか。この〈子ども〉を確認して、今を生きる子どもを理解するときの観点を多く持つことを、学びの意義とする。協同的な学びを通じて自分自身の視野が広がるよろこびを感受し、その過程をていねいに記録して考察する力を身につけることを、学びの目標とする。

受講生に対する要望

参加してみて、意外な自分を発見することがある。また、友だちの意外なところに気づくこともある。その意外性を大切にしてほしい。はじめはちょっとした勇気があるかもしれないが、思い切って参加することを望む。

キーワード

(1)参加と役割 (2)コミュニケーション (3)あいだをもつ (4)伝え合う (5)記録する

事前学習（予習）

今回の内容に関して教科書を中心に調査する。

復習についての指示

返却されたレポートを見直して、必要な加筆や修正を行う。

授業計画

1. 子どもと大人…伝承をめぐる
2. 伝承遊びの特質
3. 遊びの分類
4. 遊び研究（1） ジャンケン
5. 遊び研究（2） 呼びかける・つながる
6. 遊び研究（3） とばす
7. 遊び研究（4） まわる
8. 遊び研究（5） はじく
9. 遊び研究（6） ころがす
10. 遊び研究（7） 困む
11. 遊び研究（8） 追いかける
12. 遊び研究（9） 触れる
13. 遊び研究（10） 渡す
14. 研究成果の発表
15. まとめ…遊びの伝承性について

教科書

小川清実 『子どもに伝えたい伝承あそび』（萌文書林）

評価方法

(1) レポート：80%：6点×11回 7点×2回（第8，10回） (2) 研究成果発表：10% (3) 期末レポート：10%
各回提出のレポートの書式と評価のポイントについて、初回に説明する。

担当者：松本 祐子，小室 陽子

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校教諭一種免許：必修科目，
幼稚園教諭一種免許：選択必修科目，
保育士資格：選択科目

講義概要

1. 内容

この授業では、国語の三つの領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に焦点を合わせ、テーマを意識して物語を読む、的確な表現で形式の整ったエッセーを書く、日本の神話や昔話を聞いて簡潔に要約する、グループごとに工夫を凝らした魅力的なブックトークを行うなど、基本的な国語力を身につける。カリキュラム上の位置づけ：小免希望の学生は、国語科教育法を履修する前に、必ずこの科目を取っておくこと。

2. 学びの意義と目標

児童文学、神話、昔話など、様々な物語を材料として、読解力を養い、正しい言葉遣いで文章を書く力を身につける。さらに、保育者・教員として、子どもたちに読ませたい物語を自分で選び、魅力的なプレゼンテーションで紹介する能力を身につけることを目標とする。

受講生に対する要望

この授業は小免の必修、保育士・幼免の選択科目である。小免希望の学生は、国語科教育法を履修する前に必ずこの科目を取っておくこと。

キーワード

(1)大人とは？ 子どもとは？ (2)ブックトーク (3)日本の神話
(4)日本の昔話

事前学習（予習）

授業時に指示する作文課題は必ず提出すること。ブックトーク発表のための作品選び、構想作り、シナリオ作り、グループ練習など、じゅうぶん準備をしておくこと。

復習についての指示

授業で扱った作品を読んでおくこと。

授業計画

1. 授業説明。大人とは？ 子どもとは？
2. 子どものままでいたい？：『ピーター・パン』『くまのプーさん』『星の王子さま』
3. ブックトークとは何か？
4. 大人の時間、子どもの時間：『モモ』
5. 悪い子たち：『長くつしたのピッピ』『窓ぎわのトットちゃん』
6. 死ぬってどういうこと？：『夏の庭』『ずっとずっとだいすきだよ』
7. チョコレートの魅力：『チャーリーとチョコレート工場』『チョコレート・アンダーグラウンド』
8. 日本の神話（1）
9. 日本の神話（2）
10. 日本の昔話
11. ブックトーク発表（1）
12. ブックトーク発表（2）
13. ブックトーク発表（3）
14. 書写（1）
15. 書写（2）

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)期末試験:50% (2)ブックトーク発表:20% (3)ブックトークのレポート:10% (4)提出物:10% (5)出席:10%

情報メディアの活用

TEAT-0-214

担当者：長谷川 幸代

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

学校図書館司書教諭資格：必修科目

講義概要

1. 内容

学校図書館における、さまざまな資料活用の意義と方法について学ぶ。

2. 学びの意義と目標

現在、多様な情報メディアがあふれ、何を選択しどのように扱うかという教育は非常に重要なものである。情報メディアについての歴史や特性を理解し、教育に必要な資料の活用方法を身につけ、学校図書館司書として効果的な情報提供ができることを目標とする。

受講生に対する要望

身の回りの情報メディアに興味をもってほしい。情報を上手に選択するスキルを身につけてほしい。

キーワード

(1) 学校図書館 (2) 情報メディア (3) 司書教諭

事前学習（予習）

教科書に目を通す。

復習についての指示

授業のキーワードや紹介されたメディアに目を通す。課題が出た場合は、課題をこなす。

授業計画

1. 情報メディアの概要と歴史
2. 学校教育における情報メディアの活用
3. 情報メディアの種類と特性
4. 情報メディアの選択と管理
5. コンピュータの教育利用（1）
6. コンピュータの教育利用（2）
7. インターネットの教育利用
8. 情報メディアの活用事例（1）
9. 情報メディアの活用事例（2）
10. 司書教諭とその他の連携
11. 支援を要する児童生徒への活用
12. 情報メディアの活用と知的財産権
13. 情報モラルと個人情報保護
14. 情報メディアにかかわるトラブルと対策
15. まとめ

教科書

シリーズ学校図書館学編集委員会・編 『情報メディアの活用（シリーズ学校図書館学5）』（全国学校図書館協議会）

評価方法

(1) レポート:50% (2) 試験:50%

3分の2以上の出席が必須です。

担当者：喜田 敬

開設期：秋学期/春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校教諭一種免許：必修科目、
幼稚園教諭一種免許：選択必修科目、
保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

造形教育の歴史は、各時代の思潮とともに変化を遂げてきた。本講義では、現場で必要とされる造形技法を学ぶとともに、造形教育の望ましい在り方について考える。

2. 学びの意義と目標

喜びを持って子どもたちと、造形活動を通じ接する事のできる指導者の養成を目標とする。

受講生に対する要望

子どもたちにとって、造形表現は楽しいということを念頭に受講してもらいたい。

キーワード

(1)見る (2)触れる (3)感じる (4)作る (5)考える

事前学習（予習）

予習のため配布するプリントを読むこと。

復習についての指示

授業で感じた質問、疑問、意見など書き出し、次回発言できるようにする。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 造形教育の歴史
3. 世界の造形教育とその理念
4. 幼児の発達と幼児画の特徴
5. 材料体験について
6. フロッタージュ制作
7. フロッタージュ制作
8. スパッタリング制作
9. スパッタリング制作
10. コラージュ制作
11. フォトコラージュ制作
12. 絵遊び（実習に向けて）
13. 絵遊び（実習に向けて）
14. 絵画鑑賞
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席・制作:80% (2)テスト:20%

担当者：山領 直人

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校教諭一種免許：必修科目、
幼稚園教諭一種免許：選択必修科目、
保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

色彩と造形を、必要な基本的知識と制作の具体的説明に沿って行う3ないし4つの課題制作を軸とした、自らの造形活動への関心と意欲を高めることによって、幼児／児童に対する積極的な教育活動への起点となる実技科目である

2. 学びの意義と目標

色彩と造形を、学生自らの経験として実践的に学び、基本的な造形教育に関わる知識を獲得すると同時に自身の感性と想像力を再認識することで、幼児、児童への共感しながら学習指導のできる力を養成する

受講生に対する要望

意欲的に楽しみましょう。体調を整えて参加して下さい。

キーワード

(1)意欲と集中力

事前学習（予習）

課題への構想を練る等の事前準備を求める場合があります。

復習についての指示

課題はそれぞれが何らかの関連性を持って配置されています。経験を積み重ねる意識を持って参加して下さい。

授業計画

1. 授業概要説明／アンケート／第1課題説明
2. 課題1：色を遊ぶ-1（透明水彩実習-1）
3. 課題1：色を遊ぶ-2（透明水彩実習-2）
4. 課題1：色を遊ぶ-3（発見とレイアウト／台紙枠の作成）
5. 課題1：色を遊ぶ-4（透明水彩実習仕上げと講評）
6. 課題2：木をつくろう-1（構造の発見と展開：針金工作）
7. 課題2：木をつくろう-2（コラージュ）
8. 課題2：木をつくろう-3（仕上げ）
9. 課題3：色とイメージ-1（色彩の基礎知識／説明）
10. 課題3：色とイメージ-2（トレースと転写作業）
11. 課題3：色とイメージ-3（アクリル絵具彩色&仕上げ）
12. 課題3：色とイメージ-4（イメージの採取／互評会）
13. 課題4：石の制作-1（紙粘土による造形）
14. 課題4：石の制作-2（透明水彩による着色／仕上げ／撮影）
15. まとめ：制作レポート作成／授業全体総括&作品返却

教科書

プリントを配布する
講義内容と課題に沿ってプリントを配布します。また出来上がった受講者全員の制作物を撮影もしくはスキャンニングの上、プリントを制作し配布します。A4サイズのクリアファイル（20ポケット）を各自用意し持参して下さい。

評価方法

- (1)第1課題:20% (2)第2課題:20% (3)第3課題:25% (4)第4課題:25%
(5)授業参加度:10%

課題は全て完成し、提出することが評価の際の基本要件です。欠席等での作業の遅れは教員がサポートしますが、基本的には各自で工夫し取り戻して参加していくことが必要となります。

担当者：柴田 和豊

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校教諭一種免許：必修科目、
幼稚園教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

子どもたちにとってなぜ造形的な表現活動が大切かを考えるとともに、図画工作科の授業例を具体的に考える。そのために、図画工作科の歴史、目標、内容、指導法および評価について考察した上で、学習指導要領が定める内容領域に対応した造形活動と授業づくりに実際に取り組む。

2. 学びの意義と目標

小学校教育の中で図画工作科が有する意義と、実際の授業の構想と進め方について理解を深めること、また、授業者自身が造形表現に親しむことの大切さに気づいていくことを目標とする。

受講生に対する要望

子どもたちの表現活動の基本は「楽しく」ということであることを踏まえて、受講者一人ひとりが造形表現の楽しさを実感できるよう、概論的部分と表現活動の実際を有機的に関連づけながら進めるので、図画工作や美術が苦手であった人も不安をもたずに受講してほしい。

キーワード

(1) 子ども (2) 造形表現 (3) コミュニケーション (4) 授業づくり
(5) 学習指導

事前学習（予習）

最初に図画工作科の学習指導要領に目を通しておくこと。その後は授業で指示するプリント資料に目を通すとともに、用具・材料などを適正に準備すること。

復習についての指示

学習した内容について、単元ごとに、よかったこと・改善すべきことなどを自分の視点で整理すること。

授業計画

1. 図画工作科の現代の方向性について
2. 図画工作科・美術教育の歩み
3. 学習指導要領について 1 A 表現
4. 学習指導要領について 2 B 鑑賞
5. 学習指導要領について 3 共通事項、言語活動
6. 造形活動の多様性 一視覚的タイプと触覚的タイプ
7. 触覚性を重視した造形の実例 一紙粘土作りと作品製作一
8. 自然と触れ合う造形 一自然素材を用いた造形遊び一
9. 子どもたちの内面と造形活動の関わり 一視覚性を中心に一
10. 描画による感情表現の実例 一なぐり描き一
11. 鑑賞について
12. 評価について
13. 模擬授業 1
14. 模擬授業 2
15. まとめ・教育の意味の再確認

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 出席:20%:欠席が4回以上は評価の対象外 (2) 提出物:50% (3) 試験:30%

担当者：市村 和子

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校教諭一種免許：必修科目、
幼稚園教諭一種免許：選択必修科目、
保育士資格：選択科目

講義概要

1. 内容

生活科新設の経緯と趣旨、生活科の目標及び内容構成等についての概要を学ぶ。また、授業の構想の仕方や教材の開発等について、具体的な活動や体験、実践事例等とおして学ぶ。

2. 学びの意義と目標

平成元年(1989)に小学校低学年に新設された生活科の経緯とその背景、趣旨について正しく理解するところに学ぶ意義がある。生活科の授業を展開するに当たっての教師の役割、子どもの思いや願いを予測することの大切さに気づく感性を養いたい。

受講生に対する要望

学習ルールを守り、マナー向上に留意すること。小グループでの活動を行うため、対人関係力の育成に努めること。

キーワード

(1)具体的な活動や体験 (2)子どもの思いや願い (3)気づき (4)幼小の連携

事前学習（予習）

次時の予告内容について調べておくこと

授業計画

1. オリエンテーション、生活科新設の経緯と趣旨
2. 生活科の目標について
3. 生活科の内容について
4. 生活科の指導計画について
5. 生活科における教材開発、環境構成
6. 事例研究（「遊び」の授業）
7. 事例研究（「ものの製作」の授業）
8. 事例研究（「探検」の授業）
9. 授業の見方、教師の役割について
10. 授業参観
11. 探検活動（身近な自然）
12. 探検活動（公共物、公共施設）
13. 探検活動のまとめ、情報交換
14. 幼稚園と小学校の連携について
15. 生活科教育のまとめ

教科書

文部科学省、文科省= 『小学校学習指導要領解説 生活編』（日本文教出版）

復習についての指示

本時の授業内容の整理（プリント、ノート等）

評価方法

(1)出席状況、参加態度:30% (2)レポート:30% (3)テスト:40%:予告した上で適宜実施する

毎回出席が大前提である。欠席・遅刻等は減点の対象となる。

担当者：市村 和子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校教諭一種免許：必修科目、
幼稚園教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

授業「生活」で学んだ生活科の目標や内容理解を基に、具体的な授業づくりに取り組む。一人一人が学習指導案作成や教材作成、模擬授業をととして授業の進め方を実践的に学ぶ。

2. 学びの意義と目標

生活科の学習の特質を理解するとともに、子どもの思いや願いを生かした「生活科の授業づくり」ができる力を身に付ける。また、生活科における子どもの学び、教師の役割等について自分なりの考察ができるようにする。

受講生に対する要望

子どもの学びは、生活に根ざしたものであることを理解し、自らも自分を取り巻く環境に興味・関心をもち、積極的に関わるよう心がけてほしい。

キーワード

(1)子どもの思いや願い (2)指導案作成 (3)模擬授業 (4)評価

事前学習（予習）

学習指導要領をよく読むこと。模擬授業のための準備をしっかりとやること。

復習についての指示

毎回の授業のポイントを整理すること（ノート、プリント等）

授業計画

1. オリエンテーション、生活科の意義と特質
2. 生活科の目標及び内容
3. 生活科の学習指導
4. 生活科の評価方法
5. 指導計画の作成(1)
6. 指導計画の作成(2)
7. 学習指導案の作成(1)
8. 学習指導案の作成(2)
9. 授業観察の方法
10. 教材作成(1)
11. 教材作成(2)
12. 模擬授業(1)
13. 模擬授業(2)
14. 模擬授業(3)
15. 生活科から総合的な学習の時間へ

教科書

文部科学省、文科省 『小学校学習指導要領解説 生活編』（日本文教出版）

評価方法

(1)出席状況、参加態度:30% (2)指導案作成、模擬授業等:50% (3)テスト:20%

毎回出席が大前提である。欠席・遅刻等は減点の対象となる。

生徒指導論（進路指導を含む。）

TEAT-0-208

担当者：小川 隆夫

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目、
中学校教諭一種免許：（共通）必修科目、
小学校教諭一種免許：必修科目、
幼稚園教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

生徒指導は、児童が自分自身を見つめ、よりよく成長していくことを援助する指導のことである。また、生徒指導は授業、学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事、給食、掃除、休み時間などのすべての活動を通して行われることから、実際の学校生活の様々な場面を想定し、援助や指導方法、教師の立場や適切な行動などについて話し合う。

2. 学びの意義と目標

児童は集団生活の中で人と関わりながら歩んでいる。その中では適度な人間関係を保ちながら、困った時も切り抜けていく力を要求される。生徒指導を学ぶ意義は、日常生活の中で児童を援助、指導するうえでの具体的な指針が得られることである。生徒指導の基本的な考え方を身につけることにより、一人ひとりの良さを伸ばし、様々な場面での説得力ある対応ができ、解決していく力がつくことを目標とする。

受講生に対する要望

いじめや自殺など社会での生徒指導への関心が高い。受講生は新聞を読み、世の中で起きている事件や事故、教育関連のニュースなどに目を向けて欲しい。

キーワード

(1)児童理解 (2)いじめ (3)問題行動 (4)家庭の生徒指導 (5)教育相談と進路指導

事前学習（予習）

テキストの指定ページを読んで授業に臨む。新聞から、教育関係の記事を選び。自分の意見を加えたプレゼンができるようにしておく。

復習についての指示

テキストの指定ページの復習をする。日常的に新聞に目を通すこと。

授業計画

1. 生徒指導の意義と役割
2. 適応と発達
3. 生徒理解の方法
4. 学校の生徒指導
5. 懲戒と体罰
6. 問題行動
7. いじめ・不登校
8. 校内暴力と家庭内暴力
9. 家庭の生徒指導
10. 教育相談と進路指導・カウンセリング
11. 生徒指導と特別支援教育
12. 教職科目としての生徒指導論
13. プレゼンテーション
14. プレゼンテーション
15. 授業の確認とまとめ

教科書

楠本 恭久、篠田 輝子、佐々木 史之、久我 隆一、高島 翠、藤田 主一、齋藤 雅英 『新 生徒指導論12講』（福村出版）

評価方法

(1)出席と貢献:20%:小プレゼンを含む (2)レポート:20% (3)プレゼンテーション:30% (4)期末テスト:30%

専門演習(異文化間教育Ⅰ)

CHLD-G-291

担当者：佐藤 千瀬

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

「異文化間教育」とは、「2つ以上の文化の狭間で生活する人を対象にして、その人間形成や発達について、他者との関係性を通して把握すること」であり、その教育を考えるものである。具体例として、日本に住む外国人の子ども、海外に住む日本人の子ども、国際結婚の子どもを対象とした研究が挙げられる。本演習では、異文化間教育に関する各自の関心のある基礎文献を講読し、発表とディスカッションを行う。また、世界の保育・教育や現状にも目を向け、多様な保育・教育方法や教材、各国の課題を、体験や映像を含めて学ぶ。

2. 学びの意義と目標

・基礎文献の講読方法及び文献の収集方法、発表方法、レポート作成方法を学ぶ。・日本や世界の現状を知ること、自分自身の枠組みに気づき、多角的に考える。

受講生に対する要望

共通の基礎知識を得るために、「異文化間教育」（講義）を履修することが望ましい。

キーワード

(1)異文化間教育 (2)文化 (3)外国人の子ども (4)世界の保育・教育

事前学習（予習）

発表3回分の準備を計画的にすること。

復習についての指示

発表でのディスカッションをもとに、調べ直し最終レポートをまとめること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 資料の収集方法とテーマの決定 文献の講読方法とまとめ方
3. 異文化間教育とは 異文化間教育の実践例
4. 発表とディスカッション
5. 発表とディスカッション
6. 発表とディスカッション
7. 発表とディスカッション
8. 発表とディスカッション
9. 発表とディスカッション
10. 異文化間教育の実践例
11. 発表とディスカッション
12. レポート作成方法
13. 発表とディスカッション
14. 発表とディスカッション
15. 海外の遊び/絵本 まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1) 平常点:40% (2) 発表:45% (3) レポート:15%

専門演習(異文化間教育Ⅱ)

CHLD-C-391

担当者：佐藤 千瀬

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本演習では、異文化間教育に関する各自の関心のあるテーマを見つけ、文献を講読し、発表とディスカッションを行う。

2. 学びの意義と目標

「専門演習(異文化間教育Ⅰ)」での学びを受けて、さらにそれを深め発展させることが最大のねらいである。・文献リストの作成方法、文献の講読方法及びまとめ方、発表方法、レポート作成方法を学ぶ。・各自の関心のあるテーマとともに、日本や世界の現状を知ること、自分自身の枠組みを広げ、多角的に考える。

受講生に対する要望

パワーポイントを使用した発表準備が求められる。

キーワード

(1)異文化間教育 (2)文化 (3)外国人の子ども (4)世界の保育・教育

事前学習(予習)

発表3回分の準備を計画的にすること。

復習についての指示

発表でのディスカッションをもとに調べ直し、最終レポートをまとめること。

授業計画

1. オリエンテーション テーマの決定
2. 文献の講読方法とまとめ方 発表方法
3. 発表とディスカッション
4. 発表とディスカッション
5. 発表とディスカッション
6. 世界の保育・教育
7. 世界の文化
8. 発表とディスカッション
9. 発表とディスカッション
10. 発表とディスカッション
11. 発表とディスカッション
12. 文献収集と文献リストの作成 レポート作成方法
13. 発表とディスカッション
14. 発表とディスカッション
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)平常点:40% (2)発表:45% (3)レポート:15%

専門演習(教育心理学Ⅰ)

CHLD-C-291

担当者：鎌原 雅彦

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

子どもの発達や学習についての心理学的研究の基礎的な資料をグループで講読、討論する。これをもとに、調べたいテーマを決定し、実際に調査を行い、結果をまとめる。

2. 学びの意義と目標

子どもの発達や学習に関する問題の理解を深めるとともに、自ら疑問を持ち、これを調べるための教育心理学的な研究方法の基礎を身につけることを目的とする。

受講生に対する要望

議論に積極的に参加してください。

キーワード

(1)教育心理学 (2)調査 (3)実験

事前学習(予習)

配布資料について、内容をまとめる。

復習についての指示

討論をもとに、自らの考えを整理する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 教育心理学的研究例の概要
3. 教育心理学的研究例の発表と討議(1)
4. 教育心理学的研究例の発表と討議(2)
5. 教育心理学的研究例の発表と討議(3)
6. 調査計画の発表と討議(1)
7. 調査計画の発表と討議(2)
8. グループによるテーマの決定
9. 調査の方法について(1)
10. 調査の方法について(2)
11. 調査の実際(1)
12. 調査の実際(2)
13. 結果のまとめ(1)
14. 結果のまとめ(2)
15. 報告

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)レポート:60% (2)出席と発表:40%

専門演習(教育心理学Ⅱ)

CHLD-C-391

担当者：鎌原 雅彦

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

専門演習Ⅰに引き続き、教育心理学的研究の方法論について学習し、グループでの調査研究を行い、結果をまとめる。

2. 学びの意義と目標

教育心理学的な研究方法論の理解を深め、卒業研究を行うための基礎的知識を習得する。

受講生に対する要望

議論に積極的に参加してください。

キーワード

(1)教育心理学 (2)調査 (3)実験

事前学習(予習)

配布資料について、内容をまとめる。

復習についての指示

討論をもとに、自らの考えを整理する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 教育心理学的研究方法の概要
3. 実験的研究例の発表と討議
4. 調査的研究例の発表と討議
5. 観察的研究例の発表と討議
6. 面接的研究例の発表と討議
7. 個別計画の発表と討議
8. グループによるテーマの決定
9. 研究の方法について(1)
10. 研究の方法について(2)
11. 研究の実際(1)
12. 研究の実際(2)
13. 結果のまとめ(1)
14. 結果のまとめ(2)
15. 報告

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)レポート:60% (2)出席と発表:40%

担当者：寺崎 恵子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

倉橋惣三『育ての心』を読む。保育・教育の方法は、時代の変化に応じて改変される。けれども、その基底にある思想は、たとえ時代が変わっても「こころ」として受け継がれている。それを確認する。

2. 学びの意義と目標

学びの意義ゼミの仲間とともに一つの文献を読み通すことを通じて、それぞれの教育観や子ども観を互いに認めあうことにある。学びの目標日ごろなんとなく感じていたことを読んだことに結びつけて考えることができるようにする。また、仲間の意見を聞きあい、互いに意見を述べあうことができる雰囲気をつくる。

受講生に対する要望

初回時に、読み方について助言をする。それを活用して、たくさん、考えごとをしてきてほしい。

キーワード

(1) 育てることの原義 (2) 子ども観 (3) 子どもの生活世界 (4) 遊び心 (5) 主体性と自発性

事前学習（予習）

指定の箇所について、報告の準備をする

復習についての指示

話題になったことに関することを調査して考察する

授業計画

1. はじめに…演習の進め方について
2. 『育ての心』を読む（1）
3. 『育ての心』を読む（2）
4. 『育ての心』を読む（3）
5. 『育ての心』を読む（4）
6. 『育ての心』を読む（5）
7. 『育ての心』を読む（6）
8. 中間まとめ
9. 『育ての心』を読む（7）
10. 『育ての心』を読む（8）
11. 『育ての心』を読む（9）
12. 『育ての心』を読む（10）
13. 『育ての心』を読む（11）
14. 『育ての心』を読む（12）
15. まとめ

教科書

倉橋 惣三, 津守 真, 森上 史朗 『育ての心〈上〉』（倉橋惣三文庫）（フレーベル館）倉橋 惣三, 津守 真, 森上 史朗 『育ての心〈下〉』（倉橋惣三文庫）（フレーベル館）

評価方法

- (1) 報告:40% (2) ディスカッション:40% (3) 期末課題:20%

担当者：寺崎 恵子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

ルソー『エミール』のなかに、子どもにとって手作業が大切であることについて述べたところがあった。手は第二の脳である、という話があるが、子どもの生活も私たちの生活も、手を使うことに成り立っている。手を動かして物を作ることのおもしろさについて、創作玩具に着目して考える。

2. 学びの意義と目標

学びの意義専門演習Ⅰの発展的演習である。前演習で学んだことを、実際の事物において確認をする。学びの目標基本的な研究の手法を学んで、卒業研究に活用する力を養う。

受講生に対する要望

ものを作ることにについて、作り方を知ることにとどまらず、作る過程に生まれるところを感受してほしい。

キーワード

(1)手のポイエーシス (2)興味・関心 (3)形と色 (4)自然と作為 (5)遊び

事前学習（予習）

次回の内容に必要な調査をする。

授業計画

1. 演習の進め方
2. 手をつかう (1)
3. 手をつかう (2)
4. 手をつかう (3)
5. つくること (1)
6. つくること (2)
7. つくること (3)
8. つくること (4)
9. 中間まとめ
10. 遊ぶこと (1)
11. 遊ぶこと (2)
12. 遊ぶこと (3)
13. 遊ぶこと (4)
14. 遊ぶこと (5)
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

復習についての指示

ディスカッションの内容をふりかえって、それについての考察をまとめる。

評価方法

(1)報告:40% (2)ディスカッション:40% (3)期末課題:20%

担当者：山口 博

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義は、キリスト教幼児教育を研究するにあたり、「人間実存の神秘への導入」(inducting)を重視しつつ聖書を学び、複雑な現代の諸問題を、キリスト教倫理学の領域で考察したい。

2. 学びの意義と目標

それは、キリスト教の立場から諸問題に即答や解答を与える倫理的な宣言(ethical pronouncement)としてではなく、人間のおかれている倫理的状況を、キリスト教の啓示の下に分析・洞察(analysis reflection)を加えるものである。

受講生に対する要望

積極的に受講してください。

キーワード

(1)人 (2)神 (3)主 (4)生 (5)死

事前学習(予習)

講義で、聖書の文章をげ読みます。あらかじめ該当箇所を通読しておいてください。プレゼンテーションの準備が必要になります。

復習についての指示

ノートをまとめてください。

授業計画

1. 序
2. プレゼンテーションとディスカッション
3. プレゼンテーションとディスカッション
4. プレゼンテーションとディスカッション
5. プレゼンテーションとディスカッション
6. プレゼンテーションとディスカッション
7. プレゼンテーションとディスカッション
8. プレゼンテーションとディスカッション
9. プレゼンテーションとディスカッション
10. プレゼンテーションとディスカッション
11. プレゼンテーションとディスカッション
12. プレゼンテーションとディスカッション
13. プレゼンテーションとディスカッション
14. プレゼンテーションとディスカッション
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:20% (2)プリント問題への回答:20% (3)全学礼拝と教会レポート:20% (4)ノートおよびプリント提出:20% (5)プレゼンテーション:20%

専門演習(社会科Ⅰ)

CHLD-C-291

担当者：川瀬 敏行

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

社会科指導に必要と思われる内容について、「社会科とは何か」「社会科はどうあるべきか」といった問題意識の観点に立ち、1 社会科の本質 2 社会科の内容 3 社会科学学習指導論 4 社会科の授業実践 などから適宜課題を取り上げ、演習と研究をする。なお、現地見学・学習を行う予定である。

2. 学びの意義と目標

社会科教育、社会科指導における基礎的な内容について学び、教師を目指す資質を向上させる。

受講生に対する要望

社会科に関心を持ち、小学校教員を目指して、しっかり努力していく者の受講を望む。

キーワード

(1) 小学校社会科教育 (2) 社会科指導における基礎基本 (3) 小学校現地見学・現地学習

事前学習（予習）

授業の中で指示された点については、次回までに予習し、準備をしておくこと。

復習についての指示

授業後、学習した内容については確認し、確実に習得していきけるようにしていくこと。

授業計画

1. ガイダンス、授業計画等について
2. 社会科教育、社会科指導における基礎基本
3. 選択課題に基づく演習・協議 1
4. 選択課題に基づく演習・協議 2
5. 選択課題に基づく演習・協議 3
6. 選択課題に基づく演習・協議 4
7. 選択課題に基づく演習・協議 5
8. 現地見学・学習計画
9. 現地見学・学習
10. 現地見学・学習のまとめ
11. 選択課題に基づく演習・協議 6
12. 選択課題に基づく演習・協議 7
13. 選択課題に基づく演習・協議 8
14. 選択課題に基づく演習・協議 9
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 出席状況:30% (2) レポート:20% (3) 学期末課題:50%
- 上記を基準に総合的に判断します。

専門演習(社会科Ⅱ)

CHLD-C-391

担当者：川瀬 敏行

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

専門演習（社会科Ⅰ）の継続で行う。社会科授業の基盤となる学習内容の研究、学習指導案の作成、授業研究等から選択課題に基づく演習・協議をし、研究を深める。現地見学・現地学習も取り入れ、研究協議する。

2. 学びの意義と目標

社会科教育・社会科指導において、教師に求められる資質・能力の基礎を養成する。教師の専門性の向上に結び付けていくことを目指す。

受講生に対する要望

専門演習（社会科Ⅰ）を受講済みで、小学校教員を目指す学生の受講を望む。

キーワード

(1)小学校社会科教育 (2)社会科の授業づくり (3)小・中学校社会科と学習内容研究 (4)小学校現地見学・現地学習

事前学習（予習）

課題を選定、研究し発表の準備をする。

復習についての指示

発表について全体で協議し、指摘・指導された点については、再度確認、修正する。

授業計画

1. ガイダンス、授業計画について
2. 選択課題に基づく演習・協議・研究 1
3. 選択課題に基づく演習・協議・研究 2
4. 選択課題に基づく演習・協議・研究 3
5. 選択課題に基づく演習・協議・研究 4
6. 選択課題に基づく演習・協議・研究 5
7. 現地見学・学習計画
8. 現地見学・学習
9. 現地見学・学習のまとめ
10. 選択課題に基づく演習・協議・研究 6
11. 選択課題に基づく演習・協議・研究 7
12. 選択課題に基づく演習・協議・研究 8
13. 選択課題に基づく演習・協議・研究 9
14. 選択課題に基づく演習・協議・研究 10
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席状況:30% (2)レポート:20% (3)課題研究:50%
- 上記を基準に総合的に判断します。

専門演習(生涯学習Ⅰ)

CHLD-C-291

担当者：小池 茂子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 内容人間を育てる場は、家庭教育や学校教育だけではない。近代公教育制度が整備される前にも、人間は学校に行かなくても一人前の人間としての、人格を形成や知識・技能あるいは社会性を身につけてきた。それは、社会が人間を人間として育て、成長させる担い手として大きな教育的機能を果たしてきたからである。本演習では、「社会の中にある教育力」に注目し、子どもにとって、大人に管理されない遊び空間としての社会や、成長後も人間に感化を与え続ける社会、そのような社会の持つ教育的機能について、先ずは考えていく。また、今日の日本社会における教育をめぐる問題を『学ぶこと・学ばないこと』のテキスト購読と討論を通じて考えていく。さらに、春休みに入った2月には、生涯学習センターや国際子ども図書館などを見学し、学校教育の外で子どもや親が参与できる学びの機会について学ぶ。

2. 学びの意義と目標

本演習では、「社会の中にある教育力」に注目し、子どもにとって、大人に管理されない遊び空間としての社会やそこでの営みが子どもの成長・発達にいかなる意味を有するのかについて理解する。また、改正教育基本法第10条において、子育てをしている親への支援策を国や地方公共団体が行うことが求められているが、学校や家庭の外で、子どもたちと親たちのためにどのような学びや遊びの機会（また、そのための施設）が用意されているのかについて理解する。

受講生に対する要望

自ら、学びを深めていくための地道な努力を怠らないよう心がけてほしい。ゼミに所属するメンバー同士が、相互に助け合いながら、また、切磋琢磨しながら学びを深めていけるよう心掛けてほしい。自分で好きなテーマを選んで掘り下げていく姿勢を大切にしてほしい。人の意見を聞き、自分の意見をそれに交え話し合うことを期待する。（教員採用試験を受ける人も歓迎。）

キーワード

(1) 社会の教育力 (2) 遊びと子ども (3) 学歴社会の是非 (4) 子ども図書館 (5) 生涯学習センター

事前学習（予習）

毎回指定された、テキスト、資料を熟読し、わからない概念や用語については事前に調べ学習を持って、演習に参加すること。

復習についての指示

毎回の演習で取り上げた課題について、もう一度再考を行い、自分の中で咀嚼し、理解が不明確な点あるいは疑問を抱いた事柄については、次の演習時に、改めて質問できるようにすること。

授業計画

1. 図書館ツアー（資料の場所と、探し方の習得）
2. 社会が持つ教育力とは何か（講義）
3. 子どもと社会教育（1）：子どもが生きられる場～遊びの創造とアジュール～
4. 子どもと社会教育（2）：子どもが生きられる場～遊びの創造とアジュール～
5. 子どもと社会教育（3）：子どもが生きられる場～遊びの創造とアジュール～
6. 『学ぶこと・学ばないこと』の講読と検討（1）
7. 『学ぶこと・学ばないこと』の講読と検討（2）
8. 『学ぶこと・学ばないこと』の講読と検討（3）
9. 『学ぶこと・学ばないこと』の講読と検討（4）
10. 『学ぶこと・学ばないこと』の講読と検討（5）
11. 『学ぶこと・学ばないこと』の講読と検討（6）
12. 各自の関心事について発表と質疑応答（1）
13. 各自の関心事について発表と質疑応答（2）
14. 台東区立生涯学習センター、国際子ども図書館（上野）の見学ツアー
15. まとめ

教科書

鈴木眞理 『学ぶこと・学ばないこと』（学文社）

評価方法

(1) 出席点：50% (2) 平常点：50%

専門演習(生涯学習Ⅱ)

CHLD-C-391

担当者：小池 茂子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1 内容 1) 各受講生が、テキストを批判的に読むという学問研究の基礎的技法について学ぶ。2) レポートの書き方について学ぶ。2 カリキュラム上の位置づけ 卒業研究へのプロセスとして考えている。

2. 学びの意義と目標

1. 人の書いた論説文の趣旨を把握し、書かれた内容を批判的に考察する力を身につける 2. レポート作成の基本的作法を身につける

受講生に対する要望

発表資料の準備をつうじて仲間と共に確認し合い、意見の交換等を持って授業に参加することを希望する。

キーワード

(1)テキスト批評 (2)レポートの書き方 (3)文献・資料の探し方

事前学習(予習)

指定された資料、テキストの箇所について、わからない事項については可能な限り事前に調べて演習に臨むこと。

復習についての指示

授業の中で指定された課題を毎回必ず仕上げて、次回の授業に臨むこと。

授業計画

1. ガイダンス
2. テキスト批評について学ぶ
3. 岩波ブックレット「父親になる父親をする」の講読と内容検討(1)
4. 岩波ブックレット「父親になる父親をする」の講読と内容検討(2)
5. 岩波ブックレット「父親になる父親をする」の講読と内容検討(3)
6. 岩波ブックレット「父親になる父親をする」の講読と内容検討(4)
7. 岩波ブックレット「父親になる父親をする」の講読と内容検討(5)
8. 岩波ブックレット「父親になる父親をする」の講読と内容検討(6)
9. レポート作成の基礎(1)
10. レポート作成の基礎(2)
11. レポート作成の基礎(3)
12. レポート作成の基礎(4)
13. レポート作成の基礎(5)
14. レポート作成の基礎(6)
15. まとめ

教科書

河野哲也 『レポート・論文の書き方入門』(慶應義塾大学出版会)

評価方法

(1)出席点:40% (2)平常点:60%

担当者：田澤 薫

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

子どもをめぐる様々な場面に目を向けながら、子どもを研究の対象として捉えることを意味を考える。特に絵本・幼年童話を題材とし、子どもの発達や子どもの遊びの場面を考慮した選書の方法や、読み語りを実践的に学ぶことを通した児童研究を行う。

2. 学びの意義と目標

子どもを軸として調べたり考えたりする際の基本的な姿勢や手法を、実際の演習を通して身につける。子どもを研究の対象として考えることの面白さ、深さ、広さを感じる。子ども研究の入り口に立って、調べて分かったことを伝え合う楽しみを味わう。子どもの視点を考慮した絵本の選書・読み語りができるようになる。

受講生に対する要望

「子ども」「子どもに関わること」に関心をもって調べたり考えたりする面白さを味わってください。絵本・幼年童話に関心をもって、自分でも味わい、その楽しさを他者に伝えることに取り組んでみましょう。

キーワード

(1)子ども (2)児童学 (3)絵本 (4)幼年童話

事前学習(予習)

子どもに関する自分の関心に向き合しましょう。課題報告のための自主的な調査・研究と発表準備が必要です。事前に配布した資料はしっかり読みましょう。絵本発表は、よく下読みをして臨んでください。

復習についての指示

配布資料や参考文献を積極的に読みましょう。発表した絵本について紹介資料を作成してください。

授業計画

1. 子どもへのまなざし・絵本へのまなざし
2. 子どもの育ちと絵本(1)赤ちゃんの発達と絵本
3. 子どもの育ちと絵本(2)2・3歳児の発達
4. 子どもの育ちと絵本(3)2歳児の絵本
5. 子どもの育ちと絵本(4)3歳児の
6. 子どもの育ちと絵本(5)4・5歳児の発達
7. 子どもの育ちと絵本(6)4歳児の絵本
8. 子どもの育ちと絵本(7)日本昔話絵本
9. 子どもの育ちと絵本(8)外国の昔話絵本
10. 子どもの育ちと絵本(9)絵本と再話
11. 子どもの育ちと絵本(10)科学の絵本
12. 子どもの育ちと絵本(11)5歳児の絵本
13. 子どもの育ちと絵本(12)5歳児の絵本
14. 絵本の楽しみを彩るもの
15. 総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席参加:40% (2)課題発表:30% (3)レポート:30%

専門演習(児童学Ⅱ)

CHLD-C-391

担当者：田澤 薫

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

専門演習(児童学Ⅰ)の学習内容と踏まえ、さらに受講者各々の問題意識に沿って子どもと絵本をめぐる様々な主題に取り組むことで、子どもを研究の対象として捉えることの意味を考える。

2. 学びの意義と目標

子どもを軸として調べたり考えたりする際の基本的な姿勢や手法を、実際の演習を通して身につける。子どもを研究の対象として考えることの面白さ、深さ、広さを感じる。子ども研究に取り組みながら、調べて分かったことを伝え合う楽しみを味わう。

受講生に対する要望

実習や他の授業とも関連付けながら、自分の関心を探っていきましょう。

キーワード

(1)子ども (2)発達 (3)絵本

事前学習(予習)

自分の研究テーマを確定させて、教員と相談した方法で取り組み、報告するための準備をすることが必要です。

復習についての指示

研究発表ごとに、次に研究を進めていく方向性を確認しましょう。

授業計画

1. 子どもと絵本について考える視点
2. 子どもと絵本について考える方法(1)
3. 子どもと絵本について考える方法(2)
4. 研究報告(1)
5. 研究報告(2)
6. 研究報告(3)
7. 研究報告(4)
8. 研究報告(5)
9. 研究報告(6)
10. 研究報告(7)
11. 研究報告(8)
12. 研究報告(9)
13. 研究報告(10)
14. 研究報告(11)
15. 総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席・参加:30%:積極的な発言を求めます (2)研究発表:40%:自分の発表当番の回に向けて、よく準備して報告してください (3)レポート:30%

専門演習(児童福祉実践論Ⅰ)

CHLD-G-291

担当者：坂本 佳代子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本演習では、保育を必要とする乳幼児、養護に欠ける児童、心身に障害をもつ児童等様々な対象への支援を実践していくにはどのようにしていったらよいのでしょうか。ボランティア等の実践を通して方法論をさぐっていきます。テーマは各自設定し、調べた結果や実践の体験報告を行い、受講生相互の討論のなかで、学習を深めていきます。

2. 学びの意義と目標

・児童福祉の体系を理解すること・児童福祉施設のそれぞれの役割を理解する・児童福祉を実践的に学ぶこと

受講生に対する要望

学生同士での質疑応答が進められるように、心がけてください。

キーワード

(1) 児童福祉法 (2) 児童福祉施設 (3) 社会的養護 (4) 児童相談所 (5) 福祉事務所

事前学習(予習)

身近な地域での児童福祉実践、ボランティア活動情報等の入手方法を探ってください。

復習についての指示

授業の最後に、振り返りを行う。

授業計画

1. 児童福祉の分野と対象
2. 実践活動の方法論
3. 実践体験
4. 事例研究の進め方
5. レポート発表
6. レポート発表
7. 児童福祉施設見学
8. レポート発表
9. レポート発表
10. レポート発表
11. 児童福祉施設見学
12. レポート発表
13. レポート発表
14. レポート発表
15. 児童福祉実践についてのまとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 課題実践:50% (2) 提出物:30% (3) 授業態度:20%

専門演習(児童福祉実践論Ⅱ)

CHLD-C-391

担当者：坂本 佳代子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本演習では、ボランティア等の実践を通して、実践的に児童福祉の現状を学んでいきます。一つの実践から、普遍的な要素と個別的要素を見極めていく力量を培います。テーマは各自設定し、調べた結果や実践の体験報告を行い、受講生相互の討論のなかで、学習を深めていきます。

2. 学びの意義と目標

・児童福祉の体系を理解すること・児童福祉施設のそれぞれの役割を理解する・児童福祉の実践者としての力量を高める・現状と今後の課題を見出していく

受講生に対する要望

学生同士での質疑応答が進められるように、心がけてください。

キーワード

(1)児童福祉法 (2) ICF (3) 要保護児童 (4) 措置と契約 (5) 自己覚知

事前学習(予習)

身近な地域での児童福祉実践、ボランティア活動を積極的に実践してください。

復習についての指示

授業の最後に、振り返りを行う。

授業計画

1. 児童福祉施設の体系
2. 児童福祉施設での実践留意事項
3. 実践体験
4. 事例研究の進め方
5. レポート討議
6. レポート討議
7. 事例研究の進め方
8. レポート討議
9. レポート討議
10. 事例研究の進め方
11. レポート討議
12. レポート討議
13. 事例研究の進め方
14. レポート討議
15. 児童福祉実践のまとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)課題実践:50% (2)提出物:30% (3)授業態度:20%

専門演習(児童文学Ⅰ)

CHLD-C-291

担当者：松本 祐子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

初回の授業で、各自「小中学生に勧めたい物語ベスト10」のリストを用意してくる。その中から特に1冊を選び、毎回、一人ずつ、自分の選んだ作品について分析、発表する。ディスカッションを可能にするため、受講者全員がその作品を読んでくこと。発表とディスカッションを中心に、毎回、読書会のスタイルで授業を進める。卒業研究、卒業論文へと続く最初のゼミであり、最終的にきちんと研究論文を書くことができるようになるための基礎力を養う。

2. 学びの意義と目標

このゼミは、保育者、小学校教員を目指す学生たちの国語力向上を目的とする。様々な児童文学作品を通して、母国語である日本語についての理解を深めてゆきたい。

受講生に対する要望

毎回の読書会に積極的に参加できるよう、課題図書は必ず読んでおくこと。

キーワード

(1) レポートの書き方 (2) レジュメの書き方 (3) 日本語文章表現 (4) 読書リスト (5) 読書会

事前学習(予習)

初回授業で、各自、読書リストを提出。読書会の課題図書を毎回、必ず読んでくこと。自分の発表時にはレジュメを作成し、当日の午前中に提出すること。

復習についての指示

読書会発表後は、レポートを作成して提出すること。

授業計画

1. 授業説明、及び、各自の今学期の課題作品発表
2. 日本語表現、レポートの書き方について(1)
3. 日本語表現、レポートの書き方について(2)
4. 日本語表現、レポートの書き方について(3)
5. 読書会①
6. 読書会②
7. 読書会③
8. 読書会④
9. 読書会⑤
10. 読書会⑥
11. 読書会⑦
12. 読書会⑧
13. 読書会⑨
14. 読書会⑩
15. レポート発表

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 読書会発表:40% (2) 学期末レポート:30% (3) 平常点:30%

専門演習(児童文学Ⅱ)

CHLD-C-391

担当者：松本 祐子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

小学校教科書、文学作品、新聞、インターネットなど、様々なメディアから国語的課題を見つけ出し、分析・考察しながら、母国語である日本語の理解を深めてゆく。授業の後半は、教育実習準備のため、実際に模擬授業、ブックトークなど、実践的な発表力を身につける練習をする。

2. 学びの意義と目標

社会人としての教養と日本語力を身につけること、また、幼稚園・小学校教諭を目指す学生たちの国語力を向上させることを目標とする。

受講生に対する要望

毎回、指示された課題にじゅうぶん準備をして授業に臨むこと。

キーワード

(1)句会 (2)ブックトーク (3)国語模擬授業 (4)キャラクター作り

事前学習(予習)

ゼミの前半は、毎回、様々な課題を出すので、初回授業で配布する予定表に従って予習してくる。後半は、国語の模擬授業とブックトークを行ってもらうので、発表者はじゅうぶん用意してくる。

復習についての指示

国語力向上のために各自で必要な読書・新聞購読などを行うこと。

授業計画

1. 授業説明
2. ブックトークについて
3. 俳句を作る
4. 難しい言葉クイズ
5. 作文課題を考える
6. 相棒キャラクターを作る
7. 〈おまえ〉は悪い言葉か？
8. 金子みすずの「わたしと小鳥とすずと」(1)
9. 金子みすずの「わたしと小鳥とすずと」(2):替え歌を作ろう
10. 国語模擬授業
11. 国語模擬授業
12. 国語模擬授業
13. ブックトーク発表
14. ブックトーク発表
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)模擬授業・ブックトークの発表:30% (2)毎回の課題&出席:70%

専門演習(造形教育論Ⅰ)

CHLD-C-291

担当者：喜田 敬

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

就学前好きであった造形活動が、小学校入学後嫌いになる例が、多く報告されている。その原因として、作品に対する教師の評価や、生徒の認知発達による、他者との比較などがあげられる。では、保育現場での造形活動には、全く問題はないのか。幼児期の造形体験・造形教育の望ましい在り方とは如何なるものか。本授業では、造形教育の歴史と現状を中心にこの点を考える。

2. 学びの意義と目標

作者である子どもの心を知る知性と感性を身につける。

受講生に対する要望

保育、教育現場における造形に関心のある学生の受講を望む。

キーワード

(1)時代 (2)文化 (3)子ども (4)芸術 (5)遊び

事前学習（予習）

予習用に配布するプリントは必ず読むこと。

復習についての指示

授業ノートを再読し、配布されたプリントとファイルすること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 江戸市民文化と欧州絵画
3. 印象派の画家たち
4. 近代美術教育の成立
5. チゼックと児童絵画
6. 日本の造形教育
7. 臨画
8. 自由画
9. 幼児の発達と描画
10. 幼児画の特徴
11. 幼児の描画活動と保育者
12. アメリカ
13. イギリス
14. フランス
15. まとめ

教科書

プリントを配布する
プリントを配布する。

評価方法

(1)出席・レポート:80% (2)ディスカッション:20%

専門演習(造形教育論Ⅱ)

CHLD-C-391

担当者：喜田 敬

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

保育者は、園児の描画活動を指導すべきではない、と考える幼稚園は日本では少なくない。「これまでの教育論が、知的な領域と情的な領域に人間の心を分化し、知的教育が推進されるために情的な育成が阻害されるという二元論に立つことが多かった」ことも、その理由の一つであろう。だが、「造形的な活動は単に行うとか表出とか、経験、記録のみにとどまってしまって、芸術的な感動とか思いの表現に入らないで」よいのか。専門演習Ⅱでは、内外の造形教育の研究と実践から、保育造形の望ましい在り方を探る。

2. 学びの意義と目標

造形教育とは何か。知識の蓄積とともに、考える習慣を身につける。

受講生に対する要望

ディスカッションには積極的に参加するように。

キーワード

(1) 保育者 (2) 園 (3) 子ども (4) 造形 (5) 文化

事前学習（予習）

予習のために配布するプリントを読んでおくこと。

復習についての指示

ノートをまとめ、配布資料をファイルする。

授業計画

1. オリエンテーション。
2. 子どもの絵、大人の絵
3. 透視画法
4. 色相、明度、彩度
5. 光
6. DBAE
7. DBAEの実技体験
8. ディスカッション「DBAEの可能性と問題点」
9. 造形教育と性差
10. マンガと保育者
11. 日本アニメの歴史。アニメーション黎明期
12. アニメーション現代
13. サブカルチャーとファインアートと子どもたち
14. ディスカッション「造形教育の望ましい在り方」
15. まとめ

教科書

プリントを配布する
プリントを配布する。

評価方法

(1) 制作：40% (2) レポート：40% (3) 発表：20%

担当者：相川 徳孝

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この演習ではさまざまな幼稚園・保育所で行われている保育について、多角的に見つめ、保育者として求められている役割や乳幼児に相応しい教材とはどのようなものかについて考えていく。

2. 学びの意義と目標

子ども理解の上に、実際に子どもたちが興味や関心をもつ教材にはどのようなものがあるのかを考え、作製していく。

受講生に対する要望

子どもに対する興味や関心があり、保育を多角的な視点で見ることを考えたい学生であってほしい。

キーワード

(1)子どもの発達理解 (2)保育所と幼稚園の違い (3)教材研究 (4)提示方法

事前学習(予習)

幼稚園や保育所でよく使われる教材や発達に即した絵本等について調べておくこと。

復習についての指示

他の授業ですでに学んだ幼稚園、保育所の役割や子どもの発達のプロセスについて正しく理解しておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション
2. いろいろな保育教材について
3. 子どもの発達と保育教材
4. 保育教材製作のための計画書作成
5. 保育教材製作(1)
6. 保育教材製作(2)
7. 保育教材製作(3)
8. 保育教材製作(4)
9. 保育教材製作(5)
10. 指導案作成
11. 模擬保育(1)
12. 模擬保育(2)
13. 模擬保育(3)
14. 模擬保育からの今後の自己課題について
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)教材作製:50% (2)模擬保育:25% (3)討論の参加度:25%

ただ楽しいも教材を作るということではなく、それを通して何を育てたいか、明確にし、取り組むこと。

専門演習(保育実践論Ⅱ)

CHLD-C-391

担当者：相川 徳孝

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本演習は、「専門演習(保育実践論Ⅰ)」の延長線上にあり、前演習で取り組んだ教材研究を具体的な保育の内容にどのように取り入れていけばよいのか、そのためにはどのような保育者の働きが必要となるのか等について実践していく。

2. 学びの意義と目標

ここでは遊びの意味や理解、子どもの行動の意味を考えること、さらには保育者の援助方法について保育事例を多く取り上げながら討論を重ね、各自の保育観を構築していくことを目標としている。

受講生に対する要望

保育を多角的な視点でみることを学んでほしい。

キーワード

(1)子どもの生活 (2)遊びを通した学び (3)保育者の援助 (4)指導計画

事前学習(予習)

各自の実践から保育についての実践記録をまとめ、討論ができるように準備すること。

復習についての指示

授業時に取り上げた事例研究において、問題点と子ども同士、子どもと保育者のかかわりをまとめておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 保育研究の方法について
3. 事例研究の意義
4. 事例研究の方法(1)
5. 事例研究の方法(2)
6. 事例研究の方法(3)
7. 事例研究発表(1)
8. グループ討論(1)
9. 事例研究発表(2)
10. グループ討論(2)
11. 事例研究発表(3)
12. グループ討論(3)
13. 事例研究発表(4)
14. グループ討論(4)
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)事例レポート:50% (2)子ども理解:25% (3)文章表現:25%

各自のレポートにおいて他者につたわる内容であるか、考察ができていかがポイントとなる。

相談援助

TEAT-G-212

担当者：笹渕 悟

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

1 内容 相談援助とは、様々な悩みや問題を抱え、それを解決するために援助を求めて来談した人と、一定の訓練と経験を経た職業的専門家である援助者との間の心理的コミュニケーションを通じて行われる援助の事である。まず、相談援助の概要や意義から入り、その理論について考察し、相談援助の方法や技術についての理解を深め、具体的な展開についても学びつつ、様々な相談援助の場面での事例分析を行っていく。2 カリキュラム上の位置づけ 相談援助によって、来談者に起きることが期待される変化は、来談者の悩みや問題の解決だけでなく、自己実現や個人としての生き方をも含んでいるので、児童学科の基礎科目を終了した段階が望ましい。

2. 学びの意義と目標

希薄化した家族関係や地域社会とのつながりから、狭い限られた人間関係に悩まされ、傷ついている子どもや大人も少なくない時代。相談援助を学ぶことで、これを学んだ者にしかできないことは何か？を考えつつ、相談援助者の存在理由と一緒に求めている。子どものこと、障害児者のこと、高齢者のことをよく知らないし、現場体験も乏しい受講生が少なくないと思うので、演習科目である本講義では、相談援助の基礎的な理論や方法だけでなく、将来、福祉の現場でも応用できる援助技術の習得を目指したい。そのために、①様々な対人援助の理論と具体的な援助技術を身につけること ②社会資源の活用に関心、地域の福祉力を高める力をつけること ③現場から学べる人であって欲しい。以上の3点を目標に授業を進めていくので、全力でぶつかって欲しい。

受講生に対する要望

子ども達の健やかな育ちを支え、親や地域の育児力を高めるためにも、相談援助の技術を習得して欲しい。

キーワード

(1)事例分析 (2)専門職との連携 (3)社会資源の活用と創出 (4)ケースワークとグループワーク

事前学習（予習）

授業計画を必ず読んで、必要な語句やトピックについて情報を集めておく。初めて接する専門用語がたくさん出てくるので、ぜひ予習はやって欲しいですね。

復習についての指示

講義で使ったプリント・資料を再読して、専用のファイルに収納すること。出題された「課題演習」をやって、次週までに提出発表出来るようにしておくこと。

授業計画

1. 相談援助の意義と機能（オリエンテーション・DV・QOL・社会資源）
2. 相談援助理論（児童の権利宣言・保育所保育指針・不登校・ノーマライゼーション）
3. 相談援助とソーシャルワーク（COS・リッチモンド・セツルメント・自立とは）
4. 相談援助の方法と理解（相談援助の過程・アウトリーチ・傾聴・スーパービジョン・コンサルテーション）
5. 相談援助の環境と技術（相談援助の対象・援助技術・傾聴ボラ・OJT／offJT）
6. 相談援助の具体的展開（ケースワークの諸原則・吃音相談とその具体的対応例）
7. ケースワークの具体的展開（バイスティックの7原則・自己覚知・ホームスタート・ベテるの家）
8. グループワークを活用した相談援助（その1）Gコノプカ・成瀬悟策の動作法・カウンセリング）
9. グループワークを活用した相談援助（その2）アルコール依存症・グループワークの構成要素・ADA）
10. グループワークの具体的展開（グループワークの諸原則・合計特殊出生率・GWの展開過程・
 11. 相談援助における記録と評価（記録のとり方・書き方・評価と所見・説明責任）
 12. 多様な専門職との連携（児童施設の専門職・職員間の連携・行政機関の専門職）
 13. 社会資源の活用・調整・開発（保育領域を超える問題・ひとり親家庭・MSW・保護司）
 14. 相談援助の課題と展望（事例分析）（子育て不安・わが町の社会資源活用例・ロールプレイ・フィールドワーク・ホームヘルパー）
 15. まとめ（授業内試験）

教科書

プリントを配布する・配布するプリント・資料を収納する専用ファイルを2冊用意しておくこと。

評価方法

(1)授業内試験:80%:第15講時に実施 (2)出席点:10%:15~14回 10% 13~12回 8% 11~10回 6% (3)授業への参加度:10%:意見、感想、疑問等記入&レポート課題提出

卒業研究(異文化間教育Ⅱ)

CHLD-C-491

担当者：佐藤 千瀬

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

これまでの学習の集大成として、それぞれの研究テーマを論文（レポート）にまとめることを目標とする。研究計画を立て、先行研究をまとめ、実際に様々な研究方法を使って、自分のテーマに沿った情報収集をし、得られた結果をまとめ、発表する。授業は、それぞれの経過報告とディスカッションで進められる。

2. 学びの意義と目標

・研究計画の立て方、先行研究の整理の方法、研究方法の実際、研究のまとめ方及び発表方法を学ぶ。・卒業論文（レポート）の書き方を学ぶ。

受講生に対する要望

計画的に取り組むこと。

キーワード

(1)異文化間教育 (2)卒業論文（レポート） (3)文化 (4)外国人の子ども (5)世界の保育・教育

事前学習（予習）

発表（経過報告）3回分の準備及び卒業論文（レポート）の執筆を計画的に進めること。

復習についての指示

発表でのディスカッションをもとに修正し、卒業論文（レポート）にまとめること。

授業計画

1. 先行研究の発表
2. 先行研究の発表
3. 先行研究の発表
4. 異文化間教育の実践例
5. 世界の保育・教育
6. 経過報告とディスカッション
7. 経過報告とディスカッション
8. 経過報告とディスカッション
9. 世界の遊び・教材
10. 世界の文化
11. 研究成果の発表
12. レポート作成について
13. 研究成果の発表
14. 研究成果の発表
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)平常点:40% (2)発表:45% (3)レポート:15%

卒業研究(教育心理学Ⅰ)

CHLD-C-392

担当者：鎌原 雅彦

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

教育心理学的研究について自らテーマを設定し、研究計画を立案し、個別に調査研究を行う。

2. 学びの意義と目標

自ら教育心理学的な研究を計画、実施することを通して、教育心理学の方法論及び人に対する教育心理学的な見方を習得する。

受講生に対する要望

議論に積極的に参加してください。

キーワード

(1)教育心理学 (2)調査 (3)実験

事前学習（予習）

配布資料について、内容をまとめる。

復習についての指示

討論をもとに、自らの考えを整理する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 個別研究計画の発表と討議 (1)
3. 個別研究計画の発表と討議 (2)
4. 個別研究計画の発表と討議 (3)
5. 個別研究計画の発表と討議 (4)
6. 個別研究計画の発表と討議 (5)
7. 個別研究計画の実施と討議 (1)
8. 個別研究計画の実施と討議 (2)
9. 個別研究計画の実施と討議 (3)
10. 個別研究計画の実施と討議 (4)
11. 個別研究計画の実施と討議 (5)
12. データ解析法概説 (1)
13. データ解析法概説 (2)
14. データ解析法実習 (1)
15. データ解析法実習 (2)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)レポート:60% (2)出席と発表:40%

担当者：寺崎 恵子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

専門演習Ⅱの内容をさらに発展させる。創作玩具と教育のかかわりあいについてさらに考察を深める。作って遊ぶことにある遊び心を表現する可能性を考えたい。そのために、ワークショップの手法がもつ可能性をさらに考えてみたい。

2. 学びの意義と目標

学びの意義作って遊ぶことについて学ぶことは、作り方や遊び方の理解にとどまらない。作ることや遊ぶことのセンスを研ぎたい。学びの目標ゼミの仲間がそれぞれもっているセンスを、互いに認めあい、それを表現することばを見出す。

受講生に対する要望

ふだんの生活における遊び心を大切にしてほしい。

キーワード

(1)遊び心 (2)工夫することの意味 (3)表現することの意味 (4)ワークショップの可能性 (5)協同性と学び

事前学習（予習）

次回の内容に必要なことを調査する

復習についての指示

ディスカッションの内容をふりかえりながら、まとめる

授業計画

1. 卒業研究の進め方
2. 作ることと遊ぶこと（1）
3. 作ることと遊ぶこと（2）
4. 作ることと遊ぶこと（3）
5. 作ることと遊ぶこと（4）
6. 作ることと遊ぶこと（5）
7. 中間まとめ
8. ワークショップの可能性（1）
9. ワークショップの可能性（2）
10. ワークショップの可能性（3）
11. ワークショップの可能性（4）
12. ワークショップの可能性（5）
13. 子どもの感性をひらく（1）
14. 子どもの感性をひらく（2）
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)報告:40% (2)ディスカッション:40% (3)期末課題:20%

担当者：寺崎 恵子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

ゼミ生それぞれが、関心のある内容を研究にまとめる。また、その研究を仲間とともに共有できるようにする。

2. 学びの意義と目標

学びの意義これまでの学びの総まとめとしての研究である。自身のあり方をふりかえりながら、学んだことを社会でも活かしていくわざを見出す。学びの目標最終学年であることをふまえて、これまでのこととこれからのことをじっくりと考えながら結びつける。

受講生に対する要望

生活のなかのちょっとしたおもしろさに気づくようなセンスを研いでほしい。

キーワード

(1)研究の方法 (2)研究のまとめ方 (3)研究の発表 (4)課題の発展性 (5)子どもとの生活を考える

事前学習（予習）

次回の学習に必要なことを調査する

復習についての指示

各回の内容をふりかえって、まとめる

授業計画

1. 卒業研究の進め方
2. 研究の方法（1）
3. 研究の方法（2）
4. 研究の方法（3）
5. 研究のまとめ方（1）
6. 研究のまとめ方（2）
7. 研究のまとめ方（3）
8. 中間まとめ
9. 研究の発表方法（1）
10. 研究の発表方法（2）
11. 研究の発表方法（3）
12. 研究の発表方法（4）
13. 研究成果の理解（1）
14. 研究成果の理解（2）
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)報告:40% (2)ディスカッション:40% (3)期末課題:20%

卒業研究(算数Ⅱ)

CHLD-G-491

担当者：佐藤 逸子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

各自のテーマに沿った研究を深めていき、発表しあって不足を補い、より精査されたものにして提出する

2. 学びの意義と目標

卒業研究Ⅰで計画した内容を基に研究を継続し、深めて、最終的にレポートにまとめて完成することを目標とする

受講生に対する要望

研究は早めに進めていくこと

キーワード

(1)問題意識をもつこと

事前学習（予習）

各自のテーマに沿って十分な準備をすること

復習についての指示

レポート発表時に指摘されたことや不十分だったところを補う

授業計画

1. オリエンテーション（卒業研究に関する注意事項など）
2. 場面指導の実際と検討 1
3. 場面指導の実際と検討 2
4. 場面指導の実際と検討 3
5. 場面指導のまとめ
6. 算数・数学基礎知識の復習
7. 数学Ⅰ・A重要定理の確認と実習
8. 卒業研究に向けてテーマの最終決定
9. 卒業研究に向けて調査と文献検索 1
10. 卒業研究に向けて調査と文献検索 2
11. 各自の卒業研究の進捗状況の報告と討論 1
12. 各自の卒業研究の進捗状況の報告と討論 2
13. 卒業研究作成（目次の作成）
14. 卒業研究作成（内容の完成）
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)レポート:70% (2)発表と討議への参加:30%

卒業研究(社会科Ⅰ)

CHLD-G-392

担当者：川瀬 敏行

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

地理的分野、歴史的分野、公民的分野など、広く社会科教育に関係する内容の中から、各自が研究題材項目を選択する。選択した項目について調査研究を進め、その報告を全体で協議し、研究を深める。

2. 学びの意義と目標

社会科教育について、これまで学んできたことを基盤に、各自が研究テーマをもち、十分な調査と研究から、大学での集大成としての卒業研究に結び付けていくことを目指す。

受講生に対する要望

研究テーマに基づく十分な調査研究を行い、成果に結び付けていくことを望む。

キーワード

(1)社会科 (2)卒業研究の進め方 (3)調査研究計画 (4)現地調査
(5)調査研究の中間報告

事前学習（予習）

報告者は、前回、指摘・指導を受けた箇所の修正をした新たなレジュメ等を準備すること。報告しない者も進行状況について簡単に伝える。

復習についての指示

ゼミで検討し、指摘された点については、再度、調査研究しておく。

授業計画

1. 卒業研究の進め方
2. 取り上げたい調査研究について
3. 調査研究計画の発表・協議（1）
4. 調査研究計画の発表・協議（2）
5. 調査研究計画の発表・協議（3）
6. 調査研究テーマについて報告・協議（1）
7. 現地調査（1）
8. 調査研究テーマについて報告・協議（2）
9. 現地調査（2）
10. 調査研究中間発表・協議（1）
11. 調査研究中間発表・協議（2）
12. 調査研究中間発表・協議（3）
13. 調査研究中間発表・協議（4）
14. 調査研究中間発表・協議（5）
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席状況:30% (2)研究協議参加状況:20% (3)調査活動・研究報告:50%

上記を基準に総合的に判断します。

卒業研究(社会科Ⅱ)

CHLD-C-491

担当者：川瀬 敏行

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

卒業研究(社会科Ⅰ)で各自取り組んだ研究を継続し、協議を通して深化させる。その成果を卒業研究としてまとめ、発表する。

2. 学びの意義と目標

各自の研究テーマについて、十分な調査研究と全員での協議により、社会科教育に結び付けることができるようにするとともに教育者・社会人としての資質の向上に資する。

受講生に対する要望

卒業研究をしっかりとめて、大学で学んだことの成果の一つとして今後に生かせるようにする。

キーワード

(1)社会科 (2)地域調査・地域研究 (3)研究報告・発表

事前学習(予習)

報告者は、調査・研究した内容をわかりやすくまとめ、発表できるよう準備しておく。

復習についての指示

研究協議の中で指摘された点、指導を受けた点については、再度調査・修正をして卒業研究としてまとめる。

授業計画

1. 卒業研究テーマの発表と進め方について
2. 研究中間報告・協議(1)
3. 研究中間報告・協議(2)
4. 研究中間報告・協議(3)
5. 研究中間報告・協議(4)
6. 現地調査
7. 研究報告・協議(5)
8. 研究報告・協議(6)
9. 研究報告・協議(7)
10. 研究報告・協議(8)
11. 研究報告のまとめと発表に向けて
12. 卒業研究の発表・協議(1)
13. 卒業研究の発表・協議(2)
14. 卒業研究の発表・協議(3)
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席状況:30% (2)研究協議参加状況 :20% (3)研究報告・発表 :50%

卒業研究(生涯学習Ⅰ)111C生用

CHLD-C-392

担当者：小池 茂子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1 内容 各受講生が、研究テーマを設定して研究を深める。テーマ設定の方法、研究方法、研究成果のまとめ方を身につけることをねらいとしている。また、研究仲間とのかかわりあい研究を進めるには不可欠であることを確認する。2 カリキュラム上の位置づけ 卒業論文作成へ向けたプロセスとして考えている。

2. 学びの意義と目標

1. 各自、研究テーマを追究する力を身につける。研究は決して独りよがり成り立つものではないことを互いに皆で確認し、科学的かつ普遍性をもつ研究の在り方とは何かについて学ぶことを目指したい。2. 卒業論文作成を念頭に置き、論文執筆の基礎と、各自が研究テーマの掘り起こしを目指す。

受講生に対する要望

発表資料の準備をつうじて仲間と共に確認し合い、意見の交換等を持って授業に参加することを希望する。

キーワード

(1) レポート作成の基礎 (2) 論文の書き方 (3) 文献・資料の探し方

事前学習（予習）

指定された資料、テキストの箇所について、わからない事項については可能な限り事前に調べて演習に臨むこと。

復習についての指示

授業の中で指定された課題を毎回必ず仕上げて、次回の授業に臨むこと。

授業計画

1. ガイダンス
2. 論文作成の基礎 (1)
3. 論文作成の基礎 (2)
4. 論文作成の基礎 (3)
5. 各人の関心に基づく発表テーマの設定 (1)
6. 各人の関心に基づく発表テーマの設定 (2)
7. 発表の準備 (1)
8. 発表の準備 (2)
9. 発表の準備 (3)
10. 発表の準備 (4)
11. 各自の関心に基づく発表と検討 (1)
12. 各自の関心に基づく発表と検討 (2)
13. 各自の関心に基づく発表と検討 (3)
14. 各自の関心に基づく発表と検討 (4)
15. まとめ

教科書

河野哲也 『レポート・論文の書き方入門』（慶應義塾大学出版会）

評価方法

- (1) 出席点：40% (2) 平常点：60%

担当者：小池 茂子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 内容各受講生が、研究テーマを設定して研究を深める。テーマ設定の方法、研究方法、研究成果のまとめ方を身につけることをねらいとしている。また、研究仲間とのかかわりあい研究を進めるには不可欠であることを確認する。2. カリキュラム上の位置づけ 卒業論文作成へ向けたプロセスとして考えている。

2. 学びの意義と目標

1. 各自、研究テーマを追究する力を身につける。研究は決して独りよがり成り立つものではないことを互いに皆で確認し、科学的かつ普遍性をもつ研究の在り方とは何かについて学ぶことを目指す。2. 卒業論文作成を念頭に置き、論文執筆の基礎と、各自が研究テーマの掘り起こしを目指す。

受講生に対する要望

発表資料の準備をつうじて仲間と共に確認し合い、意見の交換等を持って授業に参加することを希望する。

キーワード

(1) レポート作成 (2) 論文の書き方 (3) 文献・資料の探し方

事前学習（予習）

指定された資料、テキストの箇所について、わからない事項については可能な限り事前に調べて演習に臨むこと。

復習についての指示

授業の中で指定された課題を毎回必ず仕上げて、次回の授業に臨むこと。

授業計画

1. ガイダンス
2. 論文の書き方（1）
3. 論文の書き方（2）
4. 論文の書き方（3）
5. 各自の研究テーマの発表と検討（1）
6. 各自の研究テーマの発表と検討（2）
7. 発表に向けての準備（1）
8. 発表に向けての準備（2）
9. 発表に向けての準備（3）
10. 発表に向けての準備（4）
11. 各自の研究の発表と検討（1）
12. 各自の研究の発表と検討（2）
13. 各自の研究の発表と検討（3）
14. 各自の研究の発表と検討（4）
15. まとめ

教科書

河野哲也 『レポート・論文の書き方入門』（慶應義塾大学出版会）

評価方法

- (1) 出席点：40% (2) 平常点：60%

卒業研究(生涯学習Ⅱ)

CHLD-G-491

担当者：小池 茂子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 内容これまでの学習の集大成として、それぞれの研究テーマを論文にまとめることを目標とする。秋学期開講科目であるので、最初、テーマ設定と研究の進め方（方法論）について共通の指導を行うが、後半は個人指導を中心に進める。2. カリキュラム上の位置づけ児童学科専門科目で、「卒業研究(生涯学習Ⅰ)」に続く、選択必修科目である。

2. 学びの意義と目標

研究計画の立て方、先行研究の整理の方法、研究方法の実際、研究のまとめ方及び発表方法を学び、かつ、卒論を執筆する学生のために、個人指導も併せて行う。

受講生に対する要望

特別研究休暇の関係で、本科目は秋学期に開講される。そこで秋学期の開講までに、本学における4年間の学びの総まとめとして、何を研究テーマとしたいのか、各自がテーマに基づいて自主的な学びを進めておくように希望する。

キーワード

(1) 卒論テーマ設定の仕方 (2) 研究方法 (3) 資料の収集の仕方 (4) 論文構成の立て方

事前学習（予習）

発表（経過報告）の準備及び卒業論文（レポート）の執筆を授業時間以外にも計画的に進めること。

復習についての指示

各回に指導された事項を踏まえて、新たな学びを自主的に積み上げて、発表の内容を進化させること。

授業計画

1. 卒業研究テーマの設定の仕方
2. 卒業研究テーマの発表と内容の検討（1）
3. 卒業研究テーマの発表と内容の検討（2）
4. 研究方法についての指導（1）
5. 研究方法についての指導（2）
6. 各自のテーマに基づく研究の経過報告と個別指導
7. 各自のテーマに基づく研究の経過報告と個別指導
8. 各自のテーマに基づく研究の経過報告と個別指導
9. 各自のテーマに基づく研究の経過報告と個別指導
10. 各自のテーマに基づく研究の経過報告と個別指導
11. 各自のテーマに基づく研究の経過報告と個別指導
12. 各自のテーマに基づく研究の経過報告と個別指導
13. 各自のテーマに基づく研究の経過報告と個別指導
14. 各自のテーマに基づく研究の経過報告と個別指導
15. 各自のテーマに基づく研究の経過報告と個別指導

教科書

河野哲也 『レポート・論文の書き方入門』（慶應義塾大学出版会）

評価方法

- (1) 出席点：40% (2) 平常点：60%

卒業研究(児童学Ⅰ)

CHLD-C-392

担当者：田澤 薫

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

専門演習(児童学Ⅱ)の学習内容と踏まえ、さらに受講者各々の問題意識に沿って子どもと絵本・児童文化財をめぐる様々な主題に取り組むことで、子どもを研究の対象として捉えることの意味を考える。

2. 学びの意義と目標

子どもを軸として調べたり考えたりする際の基本的な姿勢や手法を、実際の演習を通して身につける。子どもを研究の対象として考えることの面白さ、深さ、広さを感じる。自分の問題関心を深める方法論を選んで子ども研究に取り組みながら、調べて分かったことを伝え合う楽しみを味わう。

受講生に対する要望

自分らしい取り組み内容を見つけていきましょう。

キーワード

(1)子ども (2)発達 (3)絵本 (4)児童文化財

事前学習(予習)

自分の研究テーマを確定させて、教員と相談した方法で取り組み、報告するための準備をすることが必要です。

復習についての指示

研究発表ごとに、研究してきたことを振り返り、研究を進めるために次に行うことを考えましょう。

授業計画

1. 研究方法の学習(1)
2. 研究方法の学習(2)
3. 研究報告と討議(1)
4. 研究報告と討議(2)
5. 研究報告と討議(3)
6. 研究報告と討議(4)
7. 研究報告と討議(5)
8. 研究報告と討議(6)
9. 研究報告と討議(7)
10. 研究報告と討議(8)
11. 研究報告と討議(9)
12. 研究をまとめる方法(1)
13. 研究をまとめる方法(2)
14. 研究をまとめる方法(3)
15. 総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席・参加:30%:積極的な発言を求めます。(2)研究発表:40%:発表の当番回に向けて、よく準備をして報告してください。(3)レポート:30%

卒業研究(児童学Ⅱ)

CHLD-C-491

担当者：田澤 薫

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

卒業研究(児童学Ⅰ)で取り組んだ受講生各々の卒業研究を発展させ、子どもと絵本等の児童文化財を研究の対象と捉えた活動の成果を「卒業研究レポート」としてまとめ、発表する。

2. 学びの意義と目標

子どもを軸とした自らの関心に沿って、調べたり実践したりすることを通して考えることの具体的な方法を実践的に習得する。子ども研究の面白さ、奥深さ、難しさを体験的に学ぶ。自ら取り組んだ成果を大切に扱い、まとめ、人に伝える手法を実践しながら身につける。受講生同士の成果に関心をもって尊重しあい、学びあう経験をする。

受講生に対する要望

自分の関心に沿って、沢山の絵本等児童文化財に触れてきたと思います。その提供方法・技能についても、意識的に習得したいと思います。

キーワード

(1)子ども (2)発達 (3)絵本 (4)児童文化財

事前学習(予習)

自分の研究テーマを確定させて、教員と相談した方法で取り組み、報告するための準備をすることが必要です。

復習についての指示

卒業研究レポートにまとめるために、協議した内容を文章にまとめておくことが必要です。

授業計画

1. 卒業研究の方向性
2. 研究報告と討議(1)
3. 研究報告と討議(2)
4. 研究報告と討議(3)
5. 研究報告と討議(4)
6. 研究報告と討議(5)
7. 研究報告と討議(6)
8. 研究報告と討議(7)
9. 研究を発表する方法(1)
10. 研究を発表する方法(2)
11. 研究発表を聞いて自分の研究を豊かにする方法
12. 卒業研究の発表と討議(1)
13. 卒業研究の発表と討議(2)
14. 卒業研究の発表と討議(3)
15. 総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席参加:25% (2)研究発表:25% (3)卒業研究レポート:50%

卒業研究(児童福祉実践論Ⅰ)

CHLD-C-392

担当者：坂本 佳代子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

専門演習(児童福祉実践論Ⅱ)で学んだことを発展させる。研究テーマの設定方法、研究方法、そして研究成果発表の方法を身につけたい。

2. 学びの意義と目標

児童福祉実践Ⅱで培ってきた現場との触れ合いから、自身が課題意識を持っていることは何かを明確化させる。その課題に取り組む方法を学び、自主的な研究を進めるための基本を身につけることを目的とする。

受講生に対する要望

自身の考察を皆の前で発表する体験で、更に考察が進展するようお互いに高めあう姿勢を養成してほしい。

キーワード

事前学習(予習)

次回までの課題について資料収集・調査をする。

復習についての指示

進展状況報告へのコメントをふまえて、考察を深める。

授業計画

1. 卒業研究のテーマ設定(1)
2. 卒業研究のテーマ設定(2)
3. 卒業研究の方法(1)
4. 卒業研究の方法(2)
5. 卒業研究の方法(3)
6. 卒業研究レジメの作成(1)
7. 卒業研究レジメの作成(2)
8. レポートにそって討議(1)
9. レポートにそって討論(2)
10. レポートにそって討論(3)
11. レポートにそって討論(4)
12. レポート発表(1)
13. レポート発表(2)
14. レポート発表(3)
15. レポート発表(4)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)卒業研究レポート:50% (2)討論:25%:高めあう討論実践 (3)発表:25%:工夫と態度

卒業研究(児童福祉実践論Ⅱ)

CHLD-C-491

担当者：坂本 佳代子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

卒業研究(児童福祉実践論Ⅰ)で各自取り組んだ研究を継続し、協議を通して深化させる。その成果を卒業研究としてまとめ、発表する。

2. 学びの意義と目標

各自の研究テーマについて、十分な実践及び研究と全員での協議により、対人援助者としての資質を高めることを目指す

受講生に対する要望

卒業研究をしっかりとめて、大学で学んだことの成果の一つとして今後に生かせるようにする。

キーワード

(1)児童福祉法 (2)障害者総合支援法 (3)研究報告・発表

事前学習(予習)

報告者は、実践研究した内容をわかりやすくまとめ、発表できるよう準備しておく。

復習についての指示

研究協議の中で指摘された点、指導を受けた点については、再度修正をして卒業研究としてまとめる。

授業計画

1. 卒業研究テーマの発表と進め方について
2. 研究中間報告・協議(1)
3. 研究中間報告・協議(2)
4. 研究中間報告・協議(3)
5. 研究中間報告・協議(4)
6. 現地調査
7. 研究報告・協議(5)
8. 研究報告・協議(6)
9. 研究報告・協議(7)
10. 研究報告・協議(8)
11. 研究報告のまとめと発表に向けて
12. 卒業研究の発表・協議(1)
13. 卒業研究の発表・協議(2)
14. 卒業研究の発表・協議(3)
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席状況:30% (2)研究協議参加状況 :20% (3)研究報告・発表 :50%

卒業研究(児童文学Ⅰ)

CHLD-C-392

担当者：松本 祐子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

このゼミは、毎回のテーマに合った作品を各自が持ち寄り、ディスカッションを行う形で授業を進める。

2. 学びの意義と目標

様々な児童文学を通して、日本語の豊かな語彙・運用力を身につけ、教員を目指す社会人として、自分の考えを自分の言葉で発表できるようになることを目標とする。

受講生に対する要望

テーマを意識した読書を心がけ、設定されたテーマに関わる作品を探せるようにしてほしい。

キーワード

(1) テーマ別読書会

事前学習（予習）

毎回のディスカッションテーマに合わせて、各自が作品を選び、レジュメを用意してくる。学期末に卒業研究レポートのレジュメを提出してもらうので、各自、準備を進めておくこと。

復習についての指示

毎回のディスカッションで扱った作品についてレポートを作成してもらう。

授業計画

1. 授業説明
2. 論文のレジュメ作成方法について
3. ディスカッション(1) 家族
4. ディスカッション(2) 友情
5. ディスカッション(3) 動物
6. ディスカッション(4) 恋
7. ディスカッション(5) 冒険
8. ディスカッション(6) 魔法
9. ディスカッション(7) 不老不死
10. ディスカッション(8) クリスマス
11. 百人一首
12. 句会
13. 卒業研究レジュメ発表
14. 卒業研究レジュメ発表
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 毎回の課題&出席:60% (2) 学期末レポート:30% (3) 卒業研究レジュメ:10%

卒業研究(児童文学Ⅱ)

CHLD-C-491

担当者：松本 祐子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

これまでの学習の集大成として、それぞれの研究テーマを論文にまとめる。授業は、それぞれの論文作成の経過報告とディスカッションで進められる。

2. 学びの意義と目標

保育者・教員を目指す社会人として、自分自身の考えを的確な表現力で文章化する力を身につけることを目標とする。

受講生に対する要望

最終的な卒業研究レポート作成のため、各自で研究を進めていくこと。

キーワード

事前学習（予習）

卒業研究レポート作成を進めるのと並行して、ゼミメンバーの研究テーマについて、全員がディスカッションに参加できるように、扱われる作品等を読んでくこと。

復習についての指示

ディスカッションを通して学んだことを踏まえて、卒業研究レポートを修正しながら完成させること。

授業計画

1. 受講者各自の論文テーマ発表
2. 経過報告とディスカッション
3. 経過報告とディスカッション
4. 経過報告とディスカッション
5. 経過報告とディスカッション
6. 経過報告とディスカッション
7. 経過報告とディスカッション
8. 経過報告とディスカッション
9. 経過報告とディスカッション
10. 経過報告とディスカッション
11. 経過報告とディスカッション
12. 経過報告とディスカッション
13. 卒業研究レポート発表
14. 卒業研究レポート発表
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 毎回のディスカッションと出席：40% (2) 卒業研究レポート：60%

卒業研究(造形教育論Ⅰ)

CHLD-G-392

担当者：喜田 敬

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本授業では、卒業論文、卒業研究、卒業制作のうち一つを選び研究する。定期的に研究、制作の経過報告を行う。

2. 学びの意義と目標

卒業論文、卒業研究、卒業制作に向けた資料収集、調査、試作を進め、「卒業研究II」の準備を行う。

受講生に対する要望

研究意欲を損なわせるので、欠席はしないこと。

キーワード

(1)観察 (2)鑑賞 (3)発見 (4)言語化 (5)共有

事前学習（予習）

授業計画を参照し、授業に備える。

復習についての指示

配布資料の再読と、与えられた課題を必ず行うこと。

授業計画

1. 卒業論文・卒業研究・卒業制作の進め方について
2. レジメの書き方、発表の仕方
3. 参考文献について
4. テーマ設定（1）
5. テーマ設定（2）
6. 資料収集
7. 資料収集
8. 研究計画、制作計画レポート作成
9. 研究計画、制作計画レポート制作
10. 制作構想および研究経過に関する発表・ディスカッション
11. 制作構想および研究経過に関する発表・ディスカッション
12. 制作構想および研究経過に関する発表・ディスカッション
13. 制作構想および研究経過に関する発表・ディスカッション
14. 制作構想および研究経過に関する発表・ディスカッション
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席・発表:80% (2)レポート:20%

卒業研究(造形教育論Ⅱ)

CHLD-C-491

担当者：喜田 敬

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

卒業論文、卒業研究レポート、卒業制作の指導を行う。卒業制作を選択した受講者は、制作意図、教育効果等に関する説明文書を作品に添付する。

2. 学びの意義と目標

卒業論文、卒業研究ないし卒業制作を通し、独自の視点から児童教育に造形教育が果たす役割について考えることを目標としている。

受講生に対する要望

担当者との面会の時間を多く作ってもらいたい。

キーワード

(1) 熟視 (2) 熟読 (3) 冷静 (4) 発見 (5) 報告

事前学習（予習）

授業計画を参照し、授業に備える。

復習についての指示

指導された内容の整理をする。

授業計画

1. 「卒業研究Ⅱ」の進め方について
2. 卒業制作説明
3. 卒業研究レポート作成説明
4. 卒業制作・卒業研究レポート
5. 卒業制作・卒業研究レポート
6. 卒業制作・卒業研究レポート
7. 経過報告
8. 経過報告
9. 卒業制作・卒業研究レポート
10. 卒業制作・卒業研究レポート
11. 卒業制作・卒業研究レポート
12. 研究発表
13. 制作発表
14. 研究発表
15. 制作発表

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 研究・制作発表:80% (2) 出席:20%

卒業研究(保育実践論Ⅰ)

CHLD-G-392

担当者：相川 徳孝

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

「卒業研究」は「専門演習（保育実践論Ⅰ、Ⅱ）」の延長線上にあり、いままで学んできたことを基に各自が研究テーマを決め、集大成することを目指すものである。

2. 学びの意義と目標

各自の子どもや保育に対する興味から自己課題、研究方法について見出すことを目標とする。

受講生に対する要望

保育を多角的に考察することと実際に子どもとかかわるフィールドをもっていることが望まれる。

キーワード

(1)実践研究 (2)子ども理解 (3)遊びを通した学び

事前学習（予習）

基礎実習と保育所実習、施設実習の日報をまとめておくこと。

復習についての指示

討論を通して明確となった課題をまとめていくこと。

授業計画

1. オリエンテーション
2. いろいろな保育方法
3. 幼稚園教育要領について
4. 保育所保育指針について
5. 事例研究(1)
6. 事例研究(2)
7. 事例研究(3)
8. 事例研究(4)
9. 事例研究(5)
10. 事例研究(6)
11. 事例研究(7)
12. 保育者の援助について
13. 遊びを通した学びの意義
14. 子どもの生活と環境構成
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)事例レポート:80% (2)討論の参加度:20%

各自の実践をまとめ、それを第三者に説明し、柔軟な視点で自分の保育をみつめられるかがポイント。

卒業研究(保育実践論Ⅱ)

CHLD-C-491

担当者：相川 徳孝

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

課題探求力・問題解決力・表現力、コミュニケーション力、記述力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

習を通して提出されたレポートをそれぞれが個別的に検討するとともに、全員での討論材料として提供し、互いに討論し合いながら授業を進めていく

2. 学びの意義と目標

演いままで行ってきたことを基に各自が研究テーマを決め、卒業研究として集大成することを目指すものであり、多角的な角度から子どもを見つめ、保育者として必要な実践力を養うことを目標とする。

受講生に対する要望

子どもに関するフィールドを持っていることが望まれる。

キーワード

(1)子ども理解 (2)実践研究 (3)私の保育

事前学習（予習）

各自の興味や関心にしたがってレポートをまとめ、それを土台に討論できるように準備すること。

復習についての指示

討論を通して見えてきた他者の保育者の視点、保育の課題についてまとめること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 各自のテーマ設定について
3. テーマ設定発表
4. レポート作成（1）
5. レポート作成（2）
6. レポート作成（3）
7. レポート発表中間発表
8. レポート作成（1）
9. レポート作成（2）
10. レポート作成（3）
11. レポート発表と討論（1）
12. レポート発表と討論（2）
13. レポート発表と討論（3）
14. 保育の今日的課題
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)実践レポート:80% (2)保育実践:20%

担当者：鈴木 明

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校教諭一種免許：必修科目、
幼稚園教諭一種免許：選択必修科目、
保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

教師として子どもの心身の発育の知識をふまえた上で、幼児・児童期の運動あそび・身体運動の重要性を理解し、その取り組み方をさぐる。内容としては走・跳の運動、身近なものを利用したゲーム遊び、ボール遊び、かくらべ、表現、リズム遊びなどを取り上げる。カリキュラム上の位置づけ：幼稚園、小学校指導要領をベースに教師としてそれらの内容を扱いながら、子ども達の健やかな成長を促していくために適切な働きかけができるようになることを目的とする。

2. 学びの意義と目標

幼児、児童期（小学校低学年）の運動遊びや身体運動が個人の成長において身体発育のみならず、身体技能、心理、社会面などあらゆる面において有効であることは既知のことである。これらの運動技術に慣れ親しみながら、競争したり勝負の結果に着目することだけでなく、子ども達がその過程を楽しみ、さらにそこから気づきにより自らの身体活動の技術やゲームのルールを改善できるというようなポジティブな方向性に連なる活動に発見や喜びを見出すにはどうするかを発見できることを目標とする。

受講生に対する要望

常日ごろから体を動かすとともに、運動と健康の関連について意識してください。

キーワード

(1)運動遊び (2)運動技能 (3)幼児と運動 (4)からだのしくみ (5)運動と健康

事前学習（予習）

からだを動かすことの大切さ、楽しさを学ぶためにまず自分自身の体を健康に保つこと。授業内容のルール等はあらかじめ調べておくこと。

復習についての指示

自身の日常生活に反映させてください。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 体ほぐしの特性と実践
3. 体ほぐしの実践と指導のあり方
4. 体ほぐしの実践と指導のあり方 ロールプレイ
5. 歩・走・跳の運動の特性、楽しみ方、目標、評価
6. 歩・走・跳の運動の実践（かけっこ、リレーなど）
7. 歩・走・跳の運動の実践（幅跳び、ゴム跳び、ケンパ等）
8. ゲームあそびの特性と指導のあり方 ボールゲームの特性
9. ボールゲームの実践（ボール投げゲーム）
10. ボールゲームの実践（ボール投げゲーム）
11. ボールゲームの実践（ボール投げゲーム）
12. ボールゲームの実践（ボール蹴りゲーム）
13. ボールゲームの実践（ボール蹴りゲーム）
14. ボールゲームの実践（ボール蹴りゲーム）
15. 春学期まとめ

教科書

授業の中で指示する
授業時にプリントを配布。

評価方法

(1) 授業への意欲:50%:与えられた課題を持っていかに授業に取り組んで (2) レポート:40%:課題に対しての理解度 (3) 出席点:10%:実技種目はまず出席

運動の得意、不得意は問いません。いかにその授業に対して真剣に取り組んでいるかを評価します。

担当者：高橋 進

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校教諭一種免許：必修科目、
幼稚園教諭一種免許：選択必修科目、
保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

教師として子どもの心身の発育の知識を踏まえた上で、幼児・児童期の運動あそび・身体運動の重要性を理解し、それらへの取り組み方をさぐる。内容としては走・跳・投の基本的な運動、身近なものを利用したゲーム遊び、ごっこ遊び、劇遊び、ボール遊び、かくらべ、表現、リズム遊びなどを取り上げる。更に、既述した運動や遊びに必要な遊具や用具についての造詣を深めるとともに、その活用の仕方についても指導実践の中で理解を進める。カリキュラム上の位置づけ： 幼児、児童期の健全なる発育発達のために必要不可欠な身体運動の知識を得るための基礎となるべき授業内容である。

2. 学びの意義と目標

幼児、児童期の運動遊びや身体運動が個人の成長において身体発育のみならず、身体技能、心理、社会面などあらゆる面において有効であることは既知のことである。この時期は個人の人生をより豊かなものにしていく基盤づくりとして非常に重要な時期でもある。保育所保育指針、幼稚園教育要領、並びに小学校学習指導要領をベースに、教師・保育士の立場としてそれらの内容を扱いながら、子どもたちの健やかな成長を促していくために適切な働きかけができるようになることを目的とする。

受講生に対する要望

本授業は、児童期、学童期における体育の重要生に触れる重要な科目である。真摯な態度で受講することを望む。

キーワード

(1) 身体表現に関する知識・技術 (2) 健康と運動 (3) 子どもの体力と健康 (4) 生涯体育 (5) 楽しい体育

事前学習（予習）

小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針などに書かれている、「体育」「健康」「身体表現に関する知識や技術」などの「ねらい」や「内容」について、予め理解しておくこと。また、平成22年7月22日付厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知『「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」の一部改正の要旨を理解すること。

復習についての指示

毎時間課題を【ミニレポート】出すことになるので、しっかりと授業内容を把握し、提出を怠らないようにする。また、指導計画の立案、指導案作成についてのポイントも各授業で説明するので、レポートに反映することを心掛ける。

授業計画

1. オリエンテーション・運動遊び、身体運動の位置づけ
2. 体ほぐしの特性と実践
3. 体ほぐしの実践と指導のあり方
4. ごっこ遊び、劇遊びの実践と指導のあり方
5. 歩・走・跳の運動の特性、楽しみ方、目標、評価
6. 歩・走・跳の運動の実践（鬼遊びなど）
7. 歩・走・跳の運動の実践（かけっこ、リレーなど）
8. 歩・走・跳の運動の実践（縄遊びを中心に）
9. 歩・走・跳の運動の実践（幅跳び、ゴム跳び、ケンパ等）
10. ゲーム遊びの特性と指導のあり方。ボールゲームの特性
11. ボールゲームの実践（ボール投げゲーム）
12. ボールゲームの実践（ネット型）
13. ボールゲームの実践（ボール蹴りゲーム・ゴール型）
14. ボールゲームの実践（野球型）
15. 春学期のまとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 課題レポート:70% (2) 試験:30%

* 15回全出席することを前提に評価を考える。

担当者：鈴木 明

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校教諭一種免許：必修科目、
幼稚園教諭一種免許：選択必修科目、
保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

教師として子どもの心身の発育の知識をふまえた上で、幼児・児童期の運動あそび・身体運動の重要性を理解し、その取り組み方をさぐる。内容としては走・跳の運動、身近なものを利用したゲーム遊び、ボール遊び、かくらべ、表現、リズム遊びなどを取り上げる。カリキュラム上の位置づけ：幼稚園、小学校指導要領をベースに教師としてそれらの内容を扱いながら、子ども達の健やかな成長を促していくために適切な働きかけができるようになることを目的とする。

2. 学びの意義と目標

幼児、児童期（小学校低学年）の運動遊びや身体運動が個人の成長において身体発育のみならず、身体技能、心理、社会面などあらゆる面において有効であることは既知のことである。これらの運動技術に慣れ親しみながら、競争したり勝負の結果に着目することだけでなく、子ども達がその過程を楽しみ、さらにそこからの気づきにより自らの身体活動の技術やゲームのルールを改善できるというようなポジティブな方向性に運べる活動に発見や喜びを見出すにはどうするかを発見できることを目標とする。

受講生に対する要望

常日ごろから体を動かすとともに、運動と健康の関連について意識してください。

キーワード

(1)運動遊び (2)運動技能 (3)幼児と運動 (4)からだのしくみ (5)運動と健康

事前学習（予習）

からだを動かすことの大切さ、楽しさを学ぶためにまず自分自身の体を健康に保つこと。授業内容のルール等はあらかじめ調べておくこと。

復習についての指示

自身の日常生活に反映させてください。

授業計画

1. ゲーム遊びの実践（鬼あそび）
2. ゲーム遊びの実践（用具を使った鬼あそび）
3. ゲーム遊びの実践と指導 ロールプレイ
4. ゲーム遊びの実践と指導 ロールプレイ
5. ゲーム遊びの実践と指導 ロールプレイ
6. 器械や器具を使つての運動遊びの特性（鉄棒など）
7. 器械や器具を使つての運動遊びの実践（マット運動等）
8. 器械や器具を使つての運動遊びの実践（跳び箱、平均台など）
9. 用具を操作する運動遊びの特性と実践（縄跳びなど）
10. 用具を操作する運動遊びの特性と実践（フープなど）
11. 力試しの運動
12. 表現リズム遊びの特性
13. 表現リズム遊びの実践（リズム遊びなど）
14. 表現リズム遊びの実践（模倣遊びなど）
15. 1年間のまとめ

教科書

授業の中で指示する
授業時にプリントを配布。

評価方法

(1)授業への意欲:50%:いかに授業に取り組んでいるか (2)レポート:40%:課題に対する理解度 (3)出席点:10%:実技種目は必ず出席

運動の得意、不得意は問いません。いかにその授業に対して真剣に取り組んでいるかを評価します。

担当者：高橋 進

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校教諭一種免許：必修科目、
幼稚園教諭一種免許：選択必修科目、
保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

教師として子どもの心身の発育の知識を踏まえた上で、幼児・児童期の運動あそび・身体運動の重要性を理解し、それらへの取り組み方をさぐる。内容としては走・跳の運動、身近なものを利用したゲーム遊び、ごっこ遊び、劇遊び、ボール遊び、かくらべ、表現、リズム遊びなどを取り上げる。更に、秋学期については、指導実践・模擬授業の実施についても力を入れて授業を展開していくこととなる。指導実践や模擬授業後については、指導・授業の振り返りを行い、授業評価やモニタリングの重要性の理解を深める。カリキュラム上の位置づけ： 幼児、児童期の健全なる発育発達のために必要不可欠な身体運動の知識を得るための基礎となるべき授業内容である。

2. 学びの意義と目標

幼児、児童期の運動遊びや身体運動が個人の成長において身体発育のみならず、身体技能、心理、社会面などあらゆる面において有効であることは既知のことである。この時期は個人の人生をより豊かなものにしていく基盤づくりとして非常に重要な時期でもある。保育所保育指針、幼稚園教育要領、並びに小学校学習指導要領をベースに、教師・保育士の立場としてそれらの内容を扱いながら、秋学期については、計画的、効果的に子どもたちの健やかな成長を促していくために適切な働きかけが、指導実践や、模擬授業をとおしてできるようになること、あるいは指導や授業を正しくモニタリングでき得る資質の育成を目的とする。

受講生に対する要望

本授業は、児童期、学童期における体育の重要生に触れる重要な科目である。真摯な態度で受講することを望む。

キーワード

(1) 身体表現に関する知識・技術 (2) 健康と運動 (3) 子どもの体力と健康 (4) 生涯体育 (5) 楽しい体育

事前学習（予習）

小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針などに書かれている、「体育」「健康」「身体表現に関する知識や技術」などの「ねらい」や「内容」について、予め理解しておくこと。

復習についての指示

毎時間課題を【ミニレポート】出すことになるので、しっかりと授業内容を把握し、提出を怠らないようにする。また、指導計画の立案、指導案作成についてのポイントも各授業で説明するので、レポートに反映することを心掛ける。

授業計画

1. ゲーム遊び・ごっこ遊び・劇遊びの指導実践・模擬授業（鬼遊びも含む）
2. ゲーム遊びの指導実践・模擬授業（用具を使った鬼遊び）
3. ゲーム遊びの指導実践・模擬授業（縄遊び）
4. 器械や器具を使つての運動遊びの特性（教育機器の取り扱いを含む）
5. 器械や器具を使つての運動遊びの指導実践・模擬授業（1）
6. 器械や器具を使つての運動遊びの指導実践・模擬授業（2）
7. 用具を操作する運動遊びの指導実践・模擬授業（1）
8. 用具を操作する運動遊びの指導実践・模擬授業（2）
9. 力試しの運動の特性
10. 力試しの運動の指導実践・模擬授業
11. 表現リズム遊びの特性
12. 表現リズム遊びの指導実践・模擬授業（1）
13. 表現リズム遊びの指導実践・模擬授業（2）
14. 授業成果発表【プレゼンテーション】
15. 総まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 課題レポート:30% (2) 指導計画・指導案:20% (3) 模擬授業・指導実践:30% (4) 授業成果発表:20%
- * 15回全出席することを前提に評価を考える。

体育科教育法

SUBP-C-258

担当者：鈴木 直樹

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校教諭一種免許：必修科目、
幼稚園教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

講義を通して授業づくりをする上での基盤を構築したうえで、実技を通して、各運動領域の特性を理解し、実践上の視点を明らかにしていく。その上で、実際に指導案を作成し、討議を行い、体育の指導についての理解を深めていく。また、近年、反省的実践家としての教師が強く求められているように、常に授業改善しながら、よりよい授業づくりに向けて努力ができる資質を養う必要がある。これが、いわゆる「授業の省察力」ということになる。この力を身につける為に、模擬授業を通し、授業分析を演習する。

2. 学びの意義と目標

本講義のテーマは、体育授業づくりの視点とその活用である。また、本講義では、体育授業実践に触れながら自らの身体を問い、体育における、教師の児童と関わる素地を育成することが目的である。その為、次の各項目を学習の目標とする。1) 体育の学習観を捉えなおし、授業づくりの基盤を確立することができる。2) 体育授業実践上の教師としての構えを身につけ、教材研究を通し、カリキュラム論的な視点をもった授業づくりができる。3) 体育授業づくりの視点を明確にし、単元計画を立案し、指導案の作成ができる。

受講生に対する要望

講義と実技を行うので、運動のできる服装を準備して下さい。その際、小学校の教員が体育の授業に臨むうえでふさわしい服装として下さい。また、授業中に学習指導案を作成しますので、ノートパソコンをもっている人は持参して下さい。

キーワード

(1) 体育の授業づくり (2) 模擬授業 (3) 学習指導案 (4) 授業観察

事前学習（予習）

教科書を読んでおくこと。

授業計画

1. 小学校体育の方向性について体育の歴史の変遷を踏まえながら理解する。
2. 小学校の運動領域編成と学びの系統性について理解する。
3. 運動のおもしろさや魅力について実技を通して理解する。
4. 学習指導案の書き方について理解し、作成する。(1)
5. 体育における様々な学習形態について方法的側面と組織側面から知り、その長所と短所を理解する。
6. 体育における子どもの視点に立った学習過程について理解する。
7. 体育の授業づくりの手順を理解し、教材研究の進め方を理解する。
8. 学習指導案の書き方について理解し、作成する。(2) & 現在、求められる体育の学習評価の在り方について理解する。
9. 「体づくり運動」の模擬授業及び授業分析の演習を行う。
10. 「器械運動系」の模擬授業及び授業分析の演習を行う。
11. 「陸上運動系」の模擬授業及び授業分析の演習を行う。
12. 模擬授業の振り返りを行い、指導の改善点について明確にする。
13. 「ボール運動系」の模擬授業及び授業分析の演習を行う。
14. 「表現運動系」の模擬授業及び授業分析の演習を行う。
15. 「保健」の模擬授業及び、授業のまとめのワークショップを行う。

教科書

鈴木直樹・梅澤秋久・鈴木聡・松本大輔 『学び手の視点から創る
小学校の体育授業』（大学教育出版）

復習についての指示

教科書とノートを活用して振り返りを行う。

評価方法

(1) ミニレポート:25%:授業時に作成 (2) 授業観察・分析:20% (3)
学習指導案:20% (4) 授業実践:15% (5) 期末レポート:20%

出席回数が授業全体の2/3未満である場合には欠席とし、評価の対象としない。

担当者：牛津 信忠

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

今日的課題についての知識・教養を身につける

カリキュラム上の位置付け

社会福祉主事任用資格：選択科目、
保育士資格：選択科目、
社会福祉士国家試験受験資格：必修科目、
精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

・ 地域福祉の基本的考え方を次の内容に沿って講義していく。1 人権尊重、2 権利擁護、3 自立支援、4 地域生活支援、5 地域移行、6 社会的包摂等を含む（順番は理解度に即して変更されることがある）・ 地域福祉の主体と対象について理解する。・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。

2. 学びの意義と目標

地域福祉は現今社会福祉〔広義〕の主要分野となっている。我々の地域生活の課題に住民として主体的に取組み、解決のために行動することが求められる故である。現時点においてこうした意味を持つ地域福祉を、その具体的課題に応じて深く理解し、我々が地域住民ないし市民として果たすべき事柄を身に着けていくことを、さらに地域生活を通して実践できるようになることを目標にする。

受講生に対する要望

積極的に予習・復習をするなかで、上記目標に掲げた地域意識を養い、市民性を主体性へ向かって解放していくことを求める。

キーワード

(1)地域福祉 (2)インクルージョン、エクスクルージョン (3)バリアフリー、ユニバーサルデザイン (4)ノーマライゼーション (5)住民主体

事前学習（予習）

各項目ごとの関連文献やマスコミ記事等に触れ、地域に対する認識を深めておくことが望ましい、さらに授業時に配布するレジュメを用いて、毎回授業を振り返り、知識の確実化、関連事項の考察をすること。

復習についての指示

毎回配布するプリントを、前もって読み理解を深めておくこと。この予習で感じた問題意識を基礎にして授業を受け、その問題意識への応答を文面として次の授業の前に提出する（授業終了時に上記応答用のコメント用紙を配布する）。

授業計画

1. 地域福祉の基本的考え方；人権尊重
2. 地域福祉の基本的考え方；権利擁護
3. 地域福祉の基本的考え方；自立支援
4. 地域福祉の基本的考え方；地域生活支援
5. 地域福祉の基本的考え方；地域移行
6. 地域福祉の基本的考え方；社会的包摂等
7. 地域福祉の主体と対象（1）
8. 地域福祉の主体と対象（2）
9. 地域福祉の主体と対象（3）
10. 地域福祉に係る組織・団体の役割と実際（1）
11. 地域福祉に係る組織・団体の役割と実際（2）
12. 地域福祉に係る専門職の役割と実際（1）
13. 地域福祉に係る専門職の役割と実際（2）
14. 地域福祉の技術（1）
15. 地域福祉の技術（2）

教科書

プリントを配布する
主としてスライドショー（パワーポイントによる）授業。

評価方法

(1)授業出席回数:20%;毎回座席票にて出席をとる。(2)授業態度・積極性:10%;座席票で確認し、本人の授業態度を評価。(3)復習・予習小テスト:20%;復習小テストを行う。(4)学期末レポート:50%;授業全体を対象にレポート課題を課す。
授業において配布されたプリントを読み前もって授業の予習をしておくこと。

特別活動の理論と方法

TEAT-0-302

担当者：阿久戸 多喜子

開設期：春学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校教諭一種免許：必修科目、
幼稚園教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

◎小学校教育課程の三領域のうちの一つである「特別活動」について受講者の体験を振り返り、この科目の指導の意味を捉え直す
◎小学校教育課程における特別活動の位置づけを確認し「総合的な学習」との違いを明確にしながら「学級活動」「児童会活動」「クラブ活動」「学校行事」の理論と実際の授業の進め方を理解する

2. 学びの意義と目標

実際の授業を想定した指導計画を立て、自ら模擬授業を行い、学校現場で効果的に実践できる資質や能力、態度を育てる

受講生に対する要望

◎「特別活動」とはいかなる授業であるか、受講者の体験を振り返って整理しておくこと◎教職課程必修科目であることの意味と重要性を認識して受講すること

キーワード

(1) 望ましい集団活動の展開

事前学習（予習）

指導案立案の予習として実践事例検索をしておくこと効果的である

復習についての指示

授業日ごとに、前時の学習内容確認の単元テストを行う。鍵となる基本用語の意味等、理解ができていないか復習しておくこと

授業計画

1. ガイダンス、受講者の「特別活動」体験を振り返ってのディスカッションと発表による検証
2. 特別活動教科制への歴史をたどる
3. 日本の教育の課題と特別活動の果たす役割の確認
4. 特別活動の目標の認識
5. 学校教育課程における特別活動の位置づけの確認
6. 特別活動の4つの内容とそれぞれの特質を知る
7. 特別活動の評価の考え方とその扱いについて
8. 特別活動の授業者の資質向上のための指導技術例（工作・実演等のグループ発表）
9. 学級活動の指導と進め方（実践例を参考に質疑・応答）
 10. 児童会活動の指導と進め方（同 上）
 11. クラブ活動の指導と進め方（同 上）
 12. 学校行事の指導と地域交流の実践（同 上）
 13. 実践授業例の検索・検討、指導計画立案
 14. 各自の指導案に基づく模擬授業
 15. まとめ、仕上げのテスト、都道府県採用試験の過去問に取り組む

教科書

文部科学省、文科省= 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』（東洋館出版社）

評価方法

(1) 単元テスト:50% (2) 授業出席率:30% (3) 指導案立案:20%

担当者：市村 和子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校教諭一種免許：必修科目、
幼稚園教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

小学校における「道徳の時間」の指導過程や指導方法について事例研究を行う。また、いくつかの資料を基に資料分析の仕方や学習指導の展開の仕方を知り、学習指導案の作成、模擬授業等をとおして授業の進め方を学ぶ。

2. 学びの意義と目標

小学校における道徳教育や「道徳の時間」の目標及び内容を理解するとともに、「道徳の時間」の指導過程や指導方法を学び、学習指導を構想する力を身に付けることができる。

受講生に対する要望

自らの道徳的実践力の向上に努めてほしい。

キーワード

(1)学習指導要領 (2)資料分析 (3)学習指導案 (4)模擬授業 (5)道徳的実践力

事前学習（予習）

道徳の資料について事前に読んだり、資料となりうる事例について探したりすること。

復習についての指示

毎回の授業のポイントを整理すること。

授業計画

1. オリエンテーション、「道徳とは何か」
2. 読み物資料紹介
3. 学習指導要領について（1）
4. 学習指導要領について（2）
5. 事例研究（1）
6. 事例研究（2）
7. 資料分析（1）
8. 資料分析（2）
9. 学習指導案の作成（1）
10. 学習指導案の作成（2）
11. 模擬授業準備（授業を効果的に進めるための資料作成）
12. 模擬授業（1）
13. 模擬授業（2）
14. 模擬授業（3）
15. 小学校における道徳教育のまとめ

教科書

文部科学省 『小学校学習指導要領解説道徳編』（東洋館出版社）

評価方法

(1)出席状況・参加態度:30% (2)指導案作成・模擬授業:40% (3)理解度の確認:30%:随時小テストを実施する。

毎回出席が大前提である。欠席・遅刻等は減点の対象となる。

読書と豊かな人間性

TEAT-0-213

担当者：小川 三和子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

学校図書館司書教諭資格：必修科目

講義概要

1. 内容

司書教諭資格取得の必修5科目のうちの1つ。読書の意義と目的、発達段階に応じた読書指導、子どもと本を結ぶための方法、各教科等における読書指導などについて考察したり、様々な読書活動を体験したりする。講義だけでなく、作業や体験、実習、討論などを取り入れた学習を展開する予定である。

2. 学びの意義と目標

読書センターとしての学校図書館の役割を理解し、勤務校の読書指導計画を策定し、読書活動推進の要となる司書教諭としての資質を身に付ける。また、さまざまな読書活動を率先垂範できる実践力を養う。

受講生に対する要望

作業や体験、実習、討論などを多く取り入れるので、進んで学習に取り組み、欠席した場合は、出席者に必ず授業内容や次の授業の準備等を確認しておくこと。

キーワード

(1)読書センター (2)読書指導 (3)読書活動 (4)学習・情報センター (5)司書教諭の役割

事前学習（予習）

多くの児童書に親しんで欲しい。児童書を選択して持参することを課す授業が何回かあるので、その都度必要な児童書を準備すること。

復習についての指示

ノートを整理し、知識として学んだことと今後も考察していくべきことを明確にする。

授業計画

1. 読書の意義と目的・多様な読書資料
2. 発達段階に応じた読書指導
3. 読書環境の整備と読書材の提供・紹介
4. 読書環境の整備と読書材の提供・紹介・ポップ作り
5. 子どもと本を結ぶための方法・ブックトーク等
6. 子どもと本を結ぶための方法・読み聞かせ
7. 子どもと本を結ぶための方法・アニメーション・読書会
8. 子どもと本を結ぶための方法・ビブリオバトル
9. 子どもと本を結ぶための方法・全校で取り組む読書活動
10. 各教科等における読書指導
11. 各教科等における読書指導
12. 個に応じた読書と指導
13. 学校経営と読書教育・年間計画・司書教諭の役割
14. 評価試験
15. 地域社会との連携・まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)学習の準備:30% (2)提出物:30% (3)評価試験:40%

出席が本学の規定に満たない者は、単位取得不可。提出物、実習の準備、評価試験とを併せ、総合的に評価する。

担当者：岸澤 藤子

開設期：秋学期/春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

乳児保育とは、3歳未満児を対象とした保育を指す。人としての土台を作るこの大切な時期に、私達はどのように子どもと関わったらいのだろうか。本講義では、養護と教育が一体となった保育の具体的な内容を学び、これまでに蓄積された知識、理論、技術を習得していく。なお、具体的に乳児の姿を理解するために、視聴覚教材を利用する。カリキュラムの位置づけ：これまでに他科目で学んだことも、「乳児保育」という分野において統合していくことが望まれる。

2. 学びの意義と目標

乳児保育が必要とされる社会的背景を説明できるようになる。また、乳児保育の現状と課題を理解し考えを深める。さらに、乳児保育の理念と歴史の変遷及び役割について学ぶ。加えて、それぞれの発表を通して乳児と信頼関係を築くために必要な保育技術を身につける。

受講生に対する要望

自ら進んで実際に乳児と触れ合う機会を持つこと。また、授業の中で手作り玩具と手遊びの発表を行うので準備しておくこと。

キーワード

(1)乳児保育の理念と歴史の変遷 (2)乳児保育の役割と機能 (3)乳児保育の現状と課題 (4)3歳未満児の生活と遊び (5)保育技術の向上

事前学習（予習）

自らすすんで、実際に乳児と触れ合う機会を持つこと。また、授業の中で、手作り玩具と手遊びの発表を行うので準備をしておくこと。

復習についての指示

乳児の月齢に応じた手遊びを、自信を持って楽しくできるように復習しておくこと

授業計画

1. 乳児保育とは
2. 赤ちゃんの誕生
3. 乳児保育が求められる社会的背景
4. 乳児保育の現状
5. 乳児保育の歴史の変遷
6. 乳児院における乳児保育
7. 家庭的保育等における乳児保育
8. 保育所における乳児保育
9. 保育所における乳児保育の実践
10. 乳児や家庭をとりまく環境と子育て支援の場
11. 個々の発達を促す遊び
12. 児童福祉法、児童福祉施設最低基準
13. 労働基準法、育児・介護休業法
14. 保育所保育指針～改定のポイント
15. まとめ

教科書

志村聡子 『はじめて学ぶ乳児保育』（同文書院）

評価方法

- (1)受講状況:20% (2)提出物:20% (3)発表:20% (4)筆記試験:40%

担当者：田村 すゝか

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

3歳未満の子どもを対象として保育にあたるために必要な理論と知識を学ぶ。特に「乳児保育B」では(1)乳児期の子どもの発育と発達及びその援助(2)乳児保育の実践にあたるためのポイント(計画と記録)(3)保護者・保育者・地域との連携の3点を柱として講義を行う。カリキュラムの位置づけ：「乳児保育A」とは学習領域を分けて講義を行う。

2. 学びの意義と目標

人生の土台を作る大切な時期にある0～2歳児の心と体の発達を理解し、月齢に応じてその育ちを支える保育者としての基礎を作る。また、様々な発達状況・家庭環境にある乳児に対する関わりなど、実践場面で想定される保育についても具体的に学ぶ。

受講生に対する要望

実際に乳幼児と関わる機会を作り、学んだことを体感できるよう努めてほしい。また、平素からニュースなどの報道に接することによって、乳幼児や保護者が置かれている現状を把握できるよう期待している。

キーワード

(1)人生の基礎の形成期 (2)乳幼児の発育と発達 (3)保護者の理解と支援 (4)保育者の連携・他職種との連携

事前学習（予習）

授業計画を参照して該当する項目に関して教科書に事前に目を通す。

復習についての指示

各回最初に前回の復習を兼ねたプリントを行うことで知識の定着を図る。そのため、前回のノートに頼らずにプリントに記入できるよう、各回のポイントについて復習しておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 赤ちゃんの誕生（妊娠から胎児期、誕生まで）
3. 子どもの心と体の発達（1）（人間の赤ちゃんの誕生）
4. 子どもの心と体の発達（2）（出生～3カ月まで）
5. 子どもの心と体の発達（3）（生後4カ月～8カ月まで①）
6. 子どもの心と体の発達（4）（生後4カ月～8カ月まで②）
7. 子どもの心と体の発達（5）（生後9カ月～15カ月まで）
8. 子どもの心と体の発達（6）（生後15カ月～2歳まで）
9. 子どもの心と体の発達（7）（2歳児）
10. 子どもの心と体の発達（まとめ）
11. 保護者との連携・保護者への支援
12. 発達の遅れと援助
13. 地域との連携 子どもの健康と安全
14. 乳児保育の計画と評価
15. 総括と試験

教科書

吉長 真子、志村 聡子 『はじめて学ぶ乳児保育』（同文書院）

評価方法

(1)受講状況:25% (2)レポート:25%:最初の授業で指示する (3)試験:50%

人間福祉の探求

HUWL-G-261

担当者：古谷野 亘

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

今日的課題についての知識・教養を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

大学院人間福祉学研究科の教員が輪番で教壇に立ち、最先端の研究の成果を紹介する。講義は、人間福祉学研究科が扱う「福祉学分野」「児童学分野」「臨床死生学・スピリチュアルケア分野」の中から1回ごとに異なるテーマで行われる。

2. 学びの意義と目標

人間福祉学の最先端の研究の成果を知るとともに、研究することの意味と楽しさを理解する。

受講生に対する要望

毎回講義に出席して、各教員の研究への取り組みを知り、研究することの楽しさにふれてほしい。

キーワード

(1)

事前学習（予習）

今回の担当教員の著作に目を通しておくとよい。

復習についての指示

毎回の講義を振り返り、自分の意見をまとめる復習が必要。

授業計画

1. 研究するということ
2. 福祉理論のなかの地域福祉的要素
3. 高齢社会とユニバーサルデザイン
4. 高齢社会の元気高齢者
5. 精神保健福祉研究（イギリスのリカバリーリサーチ）
6. 精神保健福祉における新たな支援関係：プロシューマーの萌芽とうねり
7. 健康と環境
8. 生きにくさを抱える子どもの現代的課題：出生前診断と障がい児
9. 子どもを研究する視座
10. 子ども虐待とネグレクト
11. 近代教育思想家の理論に学ぶ教育哲学
12. 児童文学に見る子どもと他者
13. 対人援助職のメンタルヘルス
14. 自殺予防
15. 死の臨床とスピリチュアルケア

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席点:60% (2)レポート:40%

担当者：徳井 千里

開設期：秋学期/春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

子どもの発達・心理についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校教諭一種免許：必修科目、
幼稚園教諭一種免許：必修科目、
保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

1. 内容：乳幼児期・児童期を中心に、青年期・成人期・老人期にわたる人間の生涯発達の過程とその原則についての基礎知識を習得する。そのうえで、子どもの豊かで健やかな発達に関わる経験と環境、人との関係性等の要因のありかたを理解し、子どもの成長発達を促し、初期の社会生活を支える役割に必要とされる考え方や視点、人間観を身につける。さらに、子どもをめぐる現代社会の情勢を知り、家族への支援や、関係する機関との連携の手だてについての知識を得る。2. カリキュラム上の位置づけ：保育士資格新カリキュラムにおける「保育の心理学」に該当する。

2. 学びの意義と目標

幼児期・児童期の子どもの成長を導き支える役割の職種を志すにあたり、発達の原理とプロセスを理解することは不可欠であり、またそれをふまえたうえで、ひとりひとりの子どもの個性を尊重する視点を身につけることが重要である。

受講生に対する要望

教科書だけでなく、ニュースや新聞などで報道される現代の子どもたちを取り巻く問題について、敏感な関心をもって欲しい。

キーワード

(1)子どもの発達 (2)子育て支援

事前学習（予習）

毎回の講義内容に関する教科書の該当箇所を事前に指示するので、基礎的な知識や用語、理論について予習しておくこと。講義の冒頭でミニテストを実施する。

復習についての指示

配布したレジュメ、参考記事、返却したミニテストを再読しておくこと。重要ポイントなので、一部は期末テストでも出題される。カレントな時事問題に関するレポート課題も課すので、日頃から子どもをめぐる報道記事を切り抜き、コピーしておくとうい。

授業計画

1. 発達を学ぶということ ～子どもを理解するために
2. 新生児期・乳児期の子ども ～赤ちゃんって、どんなことをしているの？
3. 幼児期の子ども ～保育園・幼稚園時代の子どもたち
4. 身体・運動機能の成熟と発達 ～体の発育と成長、動く能力
5. 遊びの発達 ～遊びのなかでの育ち
6. 認知機能の発達 ～感じる、知る、考える、わかる
7. 言語機能とコミュニケーションの発達 ～ことばの獲得と相手と通じ合うということ
8. 児童期の子ども ～小学生が経験すること
9. 学習機能の発達 ～読み書きや計算ができるようになるしくみ
10. 感情・社会性の発達 ～人との関わりの中で育つ心
11. 思春期から成年期、老年期 ～大人になり、年をとっていく生涯
12. 家族関係の発達 ～親になること、家族の子育てを支援する
13. 発達の多様性 ～個性を大切にしながら、必要な支援を
14. 現代社会における発達 ～子どもと家族をとりまく現実
15. 理解度の確認（学期末試験）

教科書

本郷一夫（編著）『保育の心理学I・II』（建ぱく社）

評価方法

(1)出席:20% (2)ミニテスト:20%:予習の確認として毎回の講義のなかで実施します (3)レポート:20%:期間中、複数回課題を出します (4)中間・期末テスト:40%

担当者：松本 祐子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

児童文化についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この授業では、まず、神話・伝説・昔話の中にファンタジーの源流を探り、次に、魔法の生き物、ファンタジーの空間、ファンタジーの時間、異形のものたち（ヴァンパイア、人造人間、不老不死）、魔法使いと魔女など、様々な項目ごとにファンタジー作品の分析を試みる。また、おとぎ話、児童文学を下敷きにしたディズニー映画をその原作と比較しつつ、ディズニー映画の人気の理由とその功罪について考える。

2. 学びの意義と目標

「夢とおとぎの国への逃避」といったような一般的なファンタジーのイメージに疑問を投げかけ、むしろ、人間の本質を見つめ、現実を生きる力を身につけるためのファンタジーの在り方について考えたい。

受講生に対する要望

毎回のミニレポートの他、3本のレポートを書いてもらうが、提出期限に遅れないように、よく準備をしてレポートを作成してほしい。

キーワード

(1) 神話・伝説 (2) ファンタジーの空間 (3) ファンタジーの時間
(4) 不老不死・生命創造 (5) 魔法

事前学習（予習）

授業内で毎回配布するレジュメをよく読み、扱われる作品を読んでおくこと。ほぼ1ヶ月に1本の提出となるレポート執筆のために、各自の具体的なテーマ探し、資料集めが必要である。

復習についての指示

毎回の授業の最後に出す課題をきちんと提出すること。

授業計画

1. ファンタジーとは何か
2. 神話・伝説：ファンタジーの原型
3. 神話・伝説：予言の意味
4. 神話・伝説：ギリシャ神話（1）
5. 神話・伝説：ギリシャ神話（2）
6. 神話・伝説：北欧神話（1）
7. 神話・伝説：北欧神話（2）
8. 神話・伝説：アーサー王伝説
9. ファンタジーの生き物：ドラゴン（1）
10. ファンタジーの生き物：ドラゴン（2）
11. ファンタジーの生き物：ユニコーン、その他
12. ファンタジーの空間：現実から異世界への移動法
13. ファンタジーの空間：異世界の物語
14. ファンタジーの空間：ディズニーランド
15. ファンタジーの空間：おとぎ話とディズニー・アニメ（1）
16. ファンタジーの空間：おとぎ話とディズニー・アニメ（2）
17. ファンタジーの空間：日常の中の魔法
18. ファンタジーの空間：「私」の中の「他人」
19. ファンタジーの空間：夢
20. ファンタジーの空間：バーチャル・リアリティー
21. ファンタジーの時間：過去と未来
22. ファンタジーの時間：時間旅行の方法
23. 異形のものたち：ヴァンパイア（1）
24. 異形のものたち：ヴァンパイア（2）
25. 異形のものたち：人造人間（1）
26. 異形のものたち：人造人間（2）
27. 異形のものたち：不老不死
28. 魔法使いと魔女
29. 魔法の食べ物
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 毎回の課題&出席：20% (2) 第一レポート：25% (3) 第二レポート：25% (4) 第三レポート：30%

担当者：相川 徳孝

開設期：秋学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

保育者・教師として必要な知識・技能を実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

保育士資格：選択科目

講義概要

1. 内容

学生の自主的なボランティア活動等の体験を実践レポートとしてまとめ、対象理解や子どもとかわる大人として求められる役割、現場環境について理解をしていく。

2. 学びの意義と目標

この授業は子どもの生活の場に自主的に参加し、生活を共にすることを通して体験したことをレポートや討議等の方法を通して整理、理論化し、子どもに対する理解や現場環境の理解を深めていくことを目的とする。

受講生に対する要望

この授業を受講しようとする学生は以下の条件を満たしていなければならない。
・集中講義出席以前にフィールドにおける実践体験をもつこと。
・集中講義に出席し、定められたプログラムを経験すること。

キーワード

(1) フィールド (2) 対象理解 (3) 専門職に対する使命感・責任感
(4) 文章表力

事前学習（予習）

フィールドにおける実践体験をしておくこと。

復習についての指示

討論等で指摘されたことをレポートとしてまとめること。

授業計画

1. フィールドワークとは何か？
2. 実践の理論化とはどういう営みか？（1）
3. 実践の理論化とはどういう営みか？（2）
4. 実践の場における情報交換（1）
5. 実践の場における情報交換（2）
6. 実践の場における情報交換（3）
7. 記録の整理（1）
8. 記録の整理（2）
9. 記録の整理（3）
10. 記録の整理（4）
11. 体験と記録に基づくグループ討議（1）
12. 体験と記録に基づくグループ討議（2）
13. 体験と記録に基づくグループ討議（3）
14. 発表
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する
授業の中で参考となる図書や資料を提示していく。

評価方法

- (1) 体験記録：50% (2) レポート発表：50%

保育・教職実践演習(初等)(小)

TEAT-C-452

担当者：川瀬 敏行

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校教諭一種免許：必修科目

講義概要

1. 内容

教職課程における全学年を総括し自己分析を行っていくものである。これまで蓄積してきた「履修カルテ」等の記録、学外活動の経験等を基にこれまで培ってきた能力の確認(自己分析)及び不足部分(知識・技能・態度など)の補完をする。具体的には、学習指導力、生徒指導力、学級経営力、協働力などの教員としての資質・能力を確認し、自己の目指す教師像を明確にする。※演習として、グループ学習・討論、ロールプレイング、事例研究、フィールドワーク、教材研究、指導案作成、模擬授業等を取り入れていく。

2. 学びの意義と目標

教職課程の集大成として4年生の秋学期に位置付け、学生が教員になる上で自己の課題を自覚し、不足する知識や技能等を補い、その定着を図る演習等を通して、教職生活をより円滑にスタートできるようにする。

受講生に対する要望

履修カルテ等の記録から自分の力を総括し、不足している点を補って、望ましい教師に向けて具体的に力をつける努力を望む。

キーワード

(1)教師の責任感 (2)社会性 (3)学習指導力 (4)生徒指導力 (5)学級経営力

事前学習(予習)

前時の課題に対する自分なりの解答・意見・準備等。

復習についての指示

指摘された内容事項についての修正

授業計画

1. 履修カルテから自己分析
2. 教科等の指導力 1
3. 教科等の指導力 2
4. 教科等の指導力 3
5. 教科等の指導力 4
6. 教科等の指導力 5
7. 児童生徒理解と学級経営 1
8. 児童生徒理解と学級経営 2
9. 児童生徒理解と学級経営 3
10. 児童生徒理解と学級経営 4
11. 社会性や対人関係 1
12. 社会性や対人関係 2
13. 社会性や対人関係 3
14. 社会性や対人関係 4
15. 教師初日の対応

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席、討論への参加度:30% (2)指導案・模擬授業:30% (3)レポート:40%
毎回の出席が大前提である。欠席・遅刻は減点の対象となる。

担当者：佐藤 千瀬

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校教諭一種免許：必修科目

講義概要

1. 内容

大学4年間の幼稚園教職課程の学びを総括し、これまで蓄積してきた「履修カルテ」や実習日誌を基に幼稚園教諭として必要な知識技能を修得したことを確認し、不足している知識技能については補完をしていく。

2. 学びの意義と目標

大学4年間の学びと実習・実践を通して学んだことを総合的に学習することを目的とし、幼稚園教諭を目指す上での自己課題を明確にしていく。不足している知識・技能については補完をし、卒業後に幼稚園教諭として従事する上で必要な資質や能力を高めていく。

受講生に対する要望

履修カルテや実習記録を見直し、各自の不足している点は何か、そのためにどのような学びをしたらよいのかを各自が見出してほしい。

キーワード

(1)子ども理解 (2)実践力 (3)保育技能 (4)教師としての使命感と責任感

事前学習（予習）

履修カルテや実習記録からの自己課題を明確にしておくこと。

復習についての指示

授業や模擬保育等で指摘されたことをまとめておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション（授業の説明、履修カルテから自己分析）
2. 幼稚園教諭としての職務
3. 保護者との対応について
4. 遊びを通した学びについて
5. 安全管理について
6. 子ども理解
7. 指導案作成について
8. 模擬保育とグループ討議①
9. 模擬保育とグループ討議②
10. 模擬保育とグループ討議③
11. 模擬保育とグループ討議④
12. 模擬保育とグループ討議⑤
13. 模擬保育とグループ討議⑥
14. 幼稚園教諭として求められる力
15. まとめ

教科書

プリントを配布する
必要に応じプリントを配布する。

評価方法

- (1)自己課題レポート:10% (2)授業内試験:20% (3)模擬保育:50%
(4)課題レポート:20%

毎回の出席が大前提である。

保育原理

TEAT-C-111

担当者：寺崎 恵子

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

社会福祉主事任用資格：選択科目、
保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

保育は、育つ者と育てる者とのあいだの、細やかで大きな関わりあいにある。倉橋惣三は『育ての心』のなかで、「世の中にこんな楽しい心があろうか。それは明るい世界である。温かい世界である。」と保育の世界を述べた。私たちは、保育の基礎を、子どもと大人との〈目交（まなかひ）〉に注目して理解したい。日々の生活のなかで両者が互いに見つめあうところに、保育の楽しさ、明るさ、そして温かさを感じる。そうした基本を大切にしたいからである。カリキュラム上の位置づけ：保育士資格科目のうち、保育の本質と目的を把握することを目的としている科目である。保育についての基本的知識を習得して、基本的な視点を学ぶための入門として位置づけている。

2. 学びの意義と目標

保育士資格科目のうち、「保育の本質・目的に関する科目」のひとつである。保育の世界に身をもってかかわるには、ゆたかな感受性としなやかな思考力をもって、学び得たことを保育実践に活かしていこうとする意欲が求められる。その意欲を確認することに、学びの意義がある。保育の世界は、「育ち・育てる」の基本形を長く保持してきた。また、時代の変化に応じた保育の知恵とわざをもっている。こうした保育の基本・基礎を理解することに学びの目標を置く。

受講生に対する要望

日常生活のなかで、季節の移ろいを感じたり、ちょっとした物事の変化に気づいたり、小さな不思議をおもしろいと思ったりすることを、大切にしてほしい。

キーワード

(1) 子育ての習俗 (2) 発達過程 (3) 子育てと生活環境 (4) 子ども理解 (5) 保育の課題

事前学習（予習）

配布プリントをよく読む。プリントの内容が次回的小レポートの課題になることもある。

復習についての指示

充実したノートをつくる。大いに用語辞典（教科書）を活用してほしい。

授業計画

1. 保育の原義
2. 「育つ・育てる」の関係のありかた
3. 産育の習俗 (1) …誕生のときを迎える
4. 産育の習俗 (2) …七歳になるときを迎える
5. 発達の過程 (1) …ものに触れて世界を知る
6. 発達の過程 (2) …ことばの発展と世界のひろがり
7. 保育の場…子育ての環境を考える
8. 保育の時間…子どもの生活を考える
9. 保育の内容と方法 (1) …個と集団、そして共同性を考える
10. 保育の内容と方法 (2) …過程と成果、そして子ども理解のあり方
11. 保育の課程…計画・実践・記録・評価、そして省察
12. 保育の思想と歴史 (1)
13. 保育に思想と歴史 (2)
14. 保育における課題…子育て支援と連携のあり方考える
15. 保育の可能性

教科書

森上 史朗、柏女 霊峰 『保育用語辞典』（ミネルヴァ書房）

評価方法

(1) 小レポート:70%:各回5点×14回 (2) 期末課題:20% (3) ノート:10%

小レポートの記述状況によっては、書き直しを求める。

保育実習

TEAT-C-381

担当者：田澤 薫，坂本 佳代子

開設期：通年 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：4単位

学部教育の関連目標

保育者・教師として必要な知識・技能を実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

保育士資格取得に必要な必修の実習を行う。カリキュラム上の位置づけ：「保育実習」を履修するための前提となる科目の単位が取得できていることが、履修の資格である。必ず「保育実習指導」と併せて履修すること。また保育士資格取得に必要な選択必修科目である「保育実習A」または「保育実習B」を履修する前提となる科目である。

2. 学びの意義と目標

これまでに行ってきた保育、福祉、養護等に関する講義・演習での学習を基礎とし、保育所・居住型施設の現状や児童の日常、保育士のはたらき等を体験的に学ぶ。保育士を目指すうえでの自己の課題を見つけ、さらに保育専門職の役割を総合的に理解する。

受講生に対する要望

健康管理を充分に行い、欠席・遅刻・早退のない実習が実施できるようにしましょう。

キーワード

(1) 保育所 (2) 居住型施設 (3) 保育士

事前学習（予習）

実習で学びたいことを整理し、日々の実習目標を立てる。

復習についての指示

一日の実習を振り返り、実習日誌を記入する。その日の自己課題に向き合い、翌日の実習目標を立てる。

授業計画

1. 保育所における実習
2. 保育所における実習
3. 保育所における実習
4. 保育所における実習
5. 保育所における実習
6. 保育所における実習
7. 保育所における実習
8. 保育所における実習
9. 保育所における実習
10. 保育所における実習
11. 保育所における実習
12. 居住型施設における実習
13. 居住型施設における実習
14. 居住型施設における実習
15. 居住型施設における実習

教科書

授業の中で指示する
児童学科実習委員会編「保育実習の手引き」保育所保育指針

評価方法

(1) 保育所実習評価：30% (2) 保育所実習日誌：20% (3) 施設実習評価：30% (4) 施設実習日誌：20%

担当者：相川 徳孝

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

保育者・教師として必要な知識・技能を実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

保育士資格：選択必修科目

講義概要

1. 内容

保育実習を履修した学生が各自の実習体験を振り返り、新たな自己課題を持って保育実習に参加する。

2. 学びの意義と目標

保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。また各自が準備した教材をもとに指導計画を立て、それをもとに保育を展開していくことを通して発達に合った指導方法や実践力を高めていく。子どもと共に生活する中で家庭支援の在り方についても学んでいく。

受講生に対する要望

外部の保育所に実習生として参加するという真摯な態度で臨むこと。

キーワード

(1) 保育所実習 (2) 保育所保育指針 (3) 指導計画 (4) 保育技術 (5) 家庭支援

事前学習（予習）

乳幼児の発達について学んでおくこと

授業計画

1. 実習についてのオリエンテーション
2. 保育所実習
3. 保育所実習
4. 保育所実習
5. 保育所実習
6. 保育所実習
7. 保育所実習
8. 保育所実習
9. 保育所実習
10. 保育所実習
11. 保育所実習
12. 保育所実習
13. 保育所実習
14. 保育所実習
15. 保育所実習

教科書

授業の中で指示する
児童学科実習委員会編「保育実習の手引き」保育所保育指針

復習についての指示

実習日誌から自己課題を見出していく。

評価方法

- (1) 実習評価：70% (2) 実習日誌：30%

担当者：坂本 佳代子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

保育者・教師として必要な知識・技能を実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

保育士資格：選択必修科目

講義概要

1. 内容

保育士資格取得に必要な必修の実習を行う。カリキュラム上の位置づけ：「保育実習B」を履修するための前提となる科目の単位が取得できていることが、履修の資格である。

2. 学びの意義と目標

これまでに行ってきた保育、福祉、養護等に関する講義・演習での学習を基礎とし、保育実習で学んだ保育所・居住型施設の現状を踏まえる。保育士を目指すうえでの自己の課題を見つけ、さらに保育専門職の役割を総合的に理解する。

受講生に対する要望

健康管理を充分に行い、欠席・遅刻・早退のない実習が実施できるようにしましょう。

キーワード

(1)通所施設 (2)児童館 (3)児童発達支援センター (4)保育士 (5)児童福祉法

事前学習（予習）

実習で学びたいことを整理し、日々の実習目標を立てる。

復習についての指示

一日の実習を振り返り、実習日誌を記入する。その日の自己課題に向き合い、翌日の実習目標を立てる。

授業計画

1. 通所施設における実習
2. 通所施設における実習
3. 通所施設における実習
4. 通所施設における実習
5. 通所施設における実習
6. 通所施設における実習
7. 通所施設における実習
8. 通所施設における実習
9. 通所施設における実習
10. 通所施設における実習
11. 通所施設における実習
12. 通所施設における実習
13. 通所施設における実習
14. 通所施設における実習
15. 通所施設における実習

教科書

授業の中で指示する
児童学科実習委員会編「保育実習Bの手引き」保育士倫理綱領

評価方法

- (1)施設実習評価:60% (2)施設実習日誌:40%

保育実習指導

TEAT-C-382

担当者：田澤 薫，坂本 佳代子

開設期：通年 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

保育者・教師として必要な知識・技能を実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

保育士資格取得に必要な必修の実習を行うための事前学習、保育所での実習、居住型施設での実習、事後学習を行う。必ず「保育実習」と併せて履修すること。・学生要覧に記されている前提科目の単位が取得できていることが、履修の条件である。・保育士資格取得に必要な選択必修科目である「保育実習A」または「保育実習B」を履修する前提となる科目である。

2. 学びの意義と目標

これまでに行ってきた保育、福祉、養護等に関する講義・演習での学習を基礎とし、保育所・居住型施設の現状や児童の日常、保育士のはたらき等を体験的に学ぶ。保育士を目指すうえで自分の課題を見つけ、さらに保育専門職の役割を総合的に理解する。

受講生に対する要望

初めての学外実習である「保育実習」に臨むための授業です。実習につながる緊張感のもとでの受講を望みます。チャイムが鳴り終わった際に着席していない人は遅刻です。

キーワード

(1) 保育実習 (2) 保育所 (3) 居住型施設 (4) 保育士倫理綱領 (5) 保育所保育指針

事前学習（予習）

初回の授業までに保育所保育指針を読み込んでおく。施設に関連する保育・福祉用語を調べて実習に臨むこと。特に自分が実習する施設種については調べておくこと。

復習についての指示

授業ノートをまとめる。授業で指示した課題に誠実に取り組み提出日時を厳守する。

授業計画

1. 保育実習について
2. 実習生個人調書（1）
3. 実習先オリエンテーションについて
4. 実習日誌について
5. 保育所実習の実際（1）
6. 保育所実習の実際（2）
7. 部分実習と保育指導案
8. 責任実習と保育指導案
9. 保育所実習の振り返り・お礼状について／事後指導面談
10. 居住型施設への準備／事後指導面談
11. 個別の実習課題と実習生個人調書
12. 居住型施設と保育所との相違について／事後指導面談
13. 居住型施設の種類と特徴（1）／事後指導面談
14. 居住型施設の種類と特徴（2）／事後指導面談
15. 居住型施設実習の実際（健康面）／事後指導面談
16. 居住型施設実習の実際（コミュニケーション）／事後指導面談
17. 居住型施設実習の実際（多職種連携）／事後指導面談
18. 実習先オリエンテーションについて／事後指導面談
19. 実習日誌について（1）／事後指導面談
20. 実習日誌について（2）／事後指導面談
21. 居住型施設実習の振り返り・お礼状等／事後指導面談
22. 実習教材の発表（1）／事後指導面談
23. 実習教材の発表（2）／事後指導面談
24. 実習教材の発表（3）／事後指導面談
25. 実習教材の発表（4）／事後指導面談
26. 実習教材の発表（5）／事後指導面談
27. 保育士の資質と適性
28. 個別実習課題の振り返り（1）／事後指導（個人面談）
29. 個別実習課題の振り返り（2）／事後指導（個人面談）
30. 実習報告会

教科書

授業の中で指示する
児童学科実習委員会編「保育実習の手引き」を初回授業で配布する。

評価方法

(1) 事前学習課題（保育所）：30% (2) 事後学習課題（保育所）：20% (3) 事前学習課題（居住型施設）：30% (4) 事後学習課題（居住型施設）：20%

課題はペン書きとする。提出日時に遅れた場合は減点する。事前学習課題を全て提出していないと実習は実施できません。

保育実習指導 A

TEAT-C-484

担当者：相川 徳孝

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

保育者・教師として必要な知識・技能を実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

保育士資格：選択必修科目

講義概要

1. 内容

保育実習を履修した学生を対象に、いままでの実習体験を踏まえさらに保育所について理解を深めるための実習を行うための事前指導、事後指導を行う。

2. 学びの意義と目標

いままでの実習、そして他の授業で学んだことを土台とし、保育所実習において各自が立てた指導計画のもと保育士の役割を担うことを通して子ども理解、保育実践力、保育士の職業倫理等、保育について総合的に学び、保育現場における自己課題を見出していく。

受講生に対する要望

いままでの実習の総括をするという真摯な気持ちをもって参加すること。また、決められたルールに従って受講すること。

キーワード

(1) 保育所保育 (2) 保育所保育指針 (3) 保育実践力 (4) 生活と遊び (5) 職業倫理と子ども観

事前学習（予習）

各自の自己課題を明確にしておくこと。また保育技術について（手遊び、ピアノ、その他の保育内容に含むこと）きちんと習得していること。

復習についての指示

実習日誌の記入から翌日の実習目標を見出すこと。

授業計画

1. 授業についてのガイダンス
2. 実習における自己課題（実習日誌）
3. 実習生調書記入について
4. 保育所保育指針について
5. 保育所保育の実際（乳児）①
6. 保育所保育の実際（幼児）②
7. 指導案について①
8. 指導案について②
9. 実習日誌について
10. 保育実習の振り返り
11. 個別事後指導①
12. 個別事後指導②
13. 個別事後指導③
14. 個別事後指導④
15. 保育士倫理綱領について

教科書

授業の中で指示する
児童学科実習委員会編「保育実習の手引き」保育実習（保育所実習）における実習日誌

評価方法

- (1) 事前指導レポート：60% (2) 事後指導レポート：40%

担当者：坂本 佳代子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

保育者・教師として必要な知識・技能を実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

保育士資格：選択必修科目

講義概要

1. 内容

通所施設実習について理解を深め、実践力を養う

2. 学びの意義と目標

この授業を保育実習Bと共に履修しなければならない。保育士養成の最終仕上げの実習指導である。これまで学んだ知識や実践の総まとめとしての意味を持つ。

受講生に対する要望

主体的に実習施設について調べ、自分の求めている情報を体系的に入手すること。

キーワード

(1)通所施設 (2)保育士

事前学習（予習）

保育実習Bの手引きを事前に読み込んでおくこと

復習についての指示

提出物は期限を守って提出のこと

授業計画

1. 保育実習ガイダンス
2. 実習先の確認 備考欄を理解する
3. 実習先について理解を深める
4. 保育実習Bに当たっての留意事項 1
5. 保育実習に当たっての留意事項 2
6. 保育実習に当たっての留意事項 3
7. 保育実習に当たっての留意事項 4
8. 実習生調書記載の留意事項
9. 実習生調書記載
10. 保育実習に当たっての留意事項 5
11. 保育実習に当たっての留意事項 6
12. 保育士会倫理綱領の理解
13. 通所型施設実習の振り返り＜個人面談＞
14. 通所型施設実習の振り返り＜個人面談＞
15. 通所型施設実習の振り返り＜個人面談＞

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業参加態度:50% (2)授業出席:20% (3)提出物:30%

保育実践演習 I

TEAT-G-218

担当者：小池 茂子、丸山 綱男

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

本演習では現代的課題である「少子高齢化」に焦点を当て授業を行う。春学期は各自ないしグループ毎に、提示されたトピック（少子高齢化の実体とそれを生み出した背景、少子社会の問題、現代女性の結婚と出産に関する意識、なぜ国や自治体を挙げての子育て支援が必要なのか等について講義を行う。また、各自の問題意識に照らして取り組むテーマを設定し、資料収集・調査・分析を行いレポートにまとめる。

2. 学びの意義と目標

各自の問題意識に照らして取り組むテーマを設定し、資料収集・調査・分析を行い、パワーポイントやビデオを用いてグループで発表し、各発表について受講者が相互に協議・検討を加えることで、現代的課題について専門職としての理解を深め視野を広げ、適切な指導が出来るようになることを目指す。

受講生に対する要望

保育実践演習は、主体的に問題を見つけ、それを解決に導くための問題解決型学習である。グループ毎の課題研究と発表に向けた準備において、積極的な姿勢で臨むことを期待したい。

キーワード

(1) 少子高齢社会 (2) 子育て支援 (3) 問題解決型学習

事前学習（予習）

自分たちの発表で扱うテーマについては、常に新聞や書籍などに注意を向け資料を収集したりすることを期待したい。

復習についての指示

講義の内容、他のグループの発表内容など、自らの知識の及ばない内容があった場合は、それらについて改めて調べなおすことを期待したい。

授業計画

1. ガイダンス
2. 図書館ツアー
3. 少子高齢社会と保育における現代的課題（講義1）
4. 少子高齢社会と保育における現代的課題（講義2）
5. 少子高齢社会について（研究テーマの提示・決定とグループ分け）
6. 発表準備
7. 発表準備
8. 発表準備
9. 発表準備
10. グループ別発表
11. グループ別発表
12. グループ別発表
13. グループ別発表
14. 課題レポートの書き方（講義）
15. 春学期のまとめ・課題レポート提出

教科書

河野哲也 『レポート・論文の書き方入門』（慶応大学出版会）

評価方法

(1) 出席点:30%:基礎実習、介護等体験、病欠、忌引き等による欠席も公欠扱いにならない。(2) 平常点:20% (3) 発表・レポート評価:50%

保育実践演習Ⅱ

TEAT-G-218

担当者：小池 茂子、丸山 綱男

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

本演習は、保育士をめざす学生に対して、現代の幼児を取り巻く環境の中で、社会問題化している幼児虐待をテーマとする。保育士としての虐待防止の責務と専門性に関連させながら子育て支援、家庭支援等を論議する。演習では、テーマ毎のグループを作り、保育士としての対応を話し合って成果を発表する。また、演習を通して、仲間とのディスカッション、よりよい解決策の模索等、能動的に問題解決をする力を高める。カリキュラムの位置づけ保育士資格取得のための必須科目

2. 学びの意義と目標

現代社会において、子どもの最善の利益を保障するために保育の果たす役割を問い直し、保育をめぐる諸問題を幼児虐待という切り口から論議する。演習形式では学生が主役であり、調べる・論理立てる・説明することを通して自己表現力とコミュニケーション力を身につけることを習得する。また、演習から新しい知識を得て、自分の取り組む問題に対しよりいっそう関心を深めることもねらいとする。将来保育士として様々な困難にぶつかったときの問題解決の視点や力を身につけることを目標とする。

受講生に対する要望

・演習では、自身の研究意欲を高める場として積極的に発言することが求められる。
・意見交換で自己表現力とコミュニケーション力をつけるようにする。

キーワード

(1) 幼児虐待 (2) 子育て支援 (3) 家庭支援 (4) グループ討議 (5) 発表

事前学習（予習）

グループ討議に入る前には、事前に様々な情報収集を行って、理論と現実の両面から保育の現状を把握すること。また、各自で課題に対する考察を重ね表現する力を養っておくこと。

復習についての指示

講義等で配布された資料を活用して、情報収集を深めること。グループ討議で指摘されたこと等は、必ず見直して解決策を模索すること。

授業計画

1. オリエンテーション 保育をめぐる現代的な課題（講義）
2. 幼児虐待について（講義）
3. 子育て支援と保育について（講義）
4. 家庭支援と保育について（講義）
5. 各自のテーマ設定のための文献検索等
6. テーマ発表とグルーピング
7. グループ討議
8. グループ討議
9. グループ討議
10. グループ討議・発表準備
11. ゼミ内で発表会
12. ゼミ内で発表会
13. ゼミ内で発表会
14. ゼミ内で発表会
15. 演習のまとめ 課題レポート提出

教科書

プリントを配布する
適宜プリント類を配布します。

評価方法

- (1) 出席:30% (2) 討議・発表:30% (3) 課題レポート:40%

保育相談支援

TEAT-G-215

担当者：上野 直子

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

保育相談支援とは、子どもの保育の専門性を有する保育士が、保育に関する専門的知識や技術を背景として、保護者が支援を求めている子育ての問題や課題に対して、保護者の思いを受けとめながら、安定した親子関係や養育力の向上を目指して行う子どもの養育（保育）に関する相談、助言、行動見本の提示、その他の援助業務を指します。そこで、保育相談支援の基本と実践力をつけるため、以下の4つの目標達成に向けて、学生相互でのグループ活動等を通して学んでいきます。（1）保育相談支援の意義と原則について理解する。（2）保護者支援の基本を理解する。（3）保育相談支援の実践を学び、内容や方法を理解する。（4）保育所等児童福祉施設における保護者支援の実践について理解する。

2. 学びの意義と目標

保護者の支援には、保護者の思いに気付く経験が重要です。ロールプレイやグループディスカッションを通じて、保護者の気持ちになってみることで、よりよい支援の手掛かりを考えていきましょう。

受講生に対する要望

ディスカッションには積極的な参加を求めています。実際の支援場面においては、幅広い支援の在り方が求められますので、この授業を通じて、様々な思いを巡らせる経験をしていただければと思っています。

キーワード

(1) 保護者支援 (2) コミュニケーション (3) 相談・助言 (4) ロールプレイ

事前学習（予習）

授業では毎回ディスカッションの時間を設定。事前にテーマを提示しますので、準備学習して下さい（A4用紙1枚程度）。授業終了後、感想をまとめ、提出を求めています。

復習についての指示

授業ノートを整理すること、提出課題に記載されたコメント、授業時に指定した教科書の該当箇所などを読み返し、学習の振り返りを行ってください。

授業計画

1. 保育者に対する保育相談支援の意義
2. 保育の特性と保育士の専門性を生かした支援
3. 子どもの最善の利益と福祉の重視
4. 子どもの成長の喜びの共有
5. 保護者の養育力の向上に資する支援
6. 信頼関係を基本とした受容的かわり、自己決定、秘密保持の尊重
7. 地域の資源の活用と関係機関等との連携・協力
8. 保育に関する保護者に対する指導
9. 保育者支援の内容
10. 保育者支援の方法と技術
11. 保育者支援の計画、記録、評価、カンファレンス
12. 保育所における保育相談支援の実践
13. 保育所における特別な対応を要する家庭への支援
14. 児童養護施設等要保護児童の家庭に対する支援
15. 障害児施設、母子生活支援施設等における保育相談支援

教科書

柏女霊峰／橋本真紀 編著 『保育相談支援』（ミネルヴァ書房）

評価方法

(1) 出席状況：20%：授業態度なども含む (2) 提出課題・ディスカッションへの参加：40%：毎回の課題実施状況などを含む (3) 学期末評価：40%

学期末にはテストあるいは学期末レポートを実施の予定です。

保育内容総論

TEAT-C-112

担当者：相川 徳孝

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

幼稚園教諭一種免許：必修科目、
保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

幼稚園教育要領と保育所保育指針から保育の基本を学び、それぞれの領域の保育内容を総合的に理解していく。カリキュラム上の位置づけ 本授業は幼稚園教諭免許状及び保育士資格を取得する際の、「教育課程及び指導法に関する科目」「保育の内容・方法の理解に関する科目」として設定されているものであり、十分な理解が求められている内容である。

2. 学びの意義と目標

幼稚園教育要領と保育所保育指針を通して幼稚園と保育所の役割と実際の保育内容についての理解を深めるとともに子どもの発達や教育課程、保育課程、その他の指導計画について学ぶ。

受講生に対する要望

子どもの保育の土台となるものであるから、主体的に学ぶ姿勢を持って参加すること。

キーワード

(1) 幼稚園教育要領 (2) 保育所保育指針 (3) 領域と保育内容 (4) 指導計画

事前学習（予習）

幼稚園教育要領と保育所保育指針をよく読むこと。

復習についての指示

それぞれの授業での学びのポイントを正しく理解し、忘れないよう積み重ねておくこと。

授業計画

1. 幼稚園・保育所における保育の基本
2. 幼稚園教育要領と保育所保育指針
3. 保育内容と領域の意義について
4. 0歳から2歳児の発達と保育内容
5. 3歳から5歳児の発達と保育内容
6. 保育内容の変遷
7. 保育における遊びの意義
8. 教育課程と保育課程
9. 指導計画の意義
10. 家庭・地域・小学校との連携について
11. 保育の多様な展開（1）
12. 保育の多様な展開（2）
13. 保育者の専門性と資質向上
14. 今後の保育ニーズについて
15. まとめ

教科書

文部科学省，文科省＝，厚生労働省，厚労省＝『幼稚園教育要領・保育所保育指針 原本（平成20年告示）』（チャイルド本社）

評価方法

- (1) 試験：80% (2) レポート：20%

レポート課題等の提出は期限を守ること。

担当者：丸山 綱男

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

幼稚園教諭一種免許：必修科目、
保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

幼稚園教育要領、保育所保育指針には、その基本として、保育は「環境を通して行う」ものであることが明示されている。本授業では、幼児期の特性を踏まえた「保育環境」の理解を深めるとともに、保育者が子どもと共に環境を構成することを想定して実体験を通して学ぶ。その実体験は、幼児のはたらきかけによって多様な変化をみせる可塑性に富んだもの、応答性の要素を持つものは何かを探る。カリキュラム上の位置づけ保育所保育士、幼稚園教諭を志望する学生の資格取得のための必須科目である。

2. 学びの意義と目標

何か物を準備するなど「環境」を用意すれば、子どもがかかわるのではないかという思い違いがある。保育者が子どもと共に心動かされるような環境を構成していかなければ、子どもが主体的にかかわろうとはしない。本授業では、幼児一人ひとりの発達に即した発達の方向性に向かって幼児が経験してほしいことなど、保育者の「ねがい」を環境の中にいかに埋め込むべきか、環境構成のあり方等について実体験を通して習得する。

受講生に対する要望

免許・資格取得のための必須科目ではあるが、幼児の豊かな育ちを支える専門性を磨くよう受講してほしい。

キーワード

(1)領域「環境」 (2)人的環境 (3)自然環境 (4)物的環境 (5)社会的環境

事前学習（予習）

領域「環境」の理解を深めるために、授業前毎に、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」を熟読して、理論と授業を通じた実践の一体化を図る。

復習についての指示

レポート作成等を通して、授業中に学んだことや実体験したことを整理し、新たな文献等にも当たって講義内容の充実を図る。

授業計画

1. オイエンテーション 保育での「環境」とは
2. 幼稚園教育要領・保育所保育指針の「環境」のとらえ方
3. 保育における「環境の構成」とは
4. 人的環境としての保育者・友
5. 自然環境？ 身近な植物にふれる、草花を取り入れる活動
6. 自然環境？ 生命の営みにふれる活動（飼育・栽培）
7. 自然環境？ 植物を使った活動
8. 物的環境？ 園庭の自然や遊具とのかかわる活動
9. 物的環境？ 身の回りの物に愛着をもち遊ぶ活動
10. 物的環境？ 数量・図形・文字・標識へふれる活動
11. 社会的環境 地域・行事にかかわる活動
12. 安全対策と環境
13. 課題の整理と討議（グループ毎）
14. 課題のまとめと発表（総括）
15. 試験

教科書

秋田 喜代美、安見 克夫、増田 時枝 『保育内容「環境」（新時代の保育双書）』（みらい）

評価方法

(1)出席：50%:休まず出席 (2)授業態度:20%:授業に集中する (3)提出物:30%:レポート、作品等

担当者：鈴木 明

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

幼稚園教諭一種免許：必修科目、
保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

本講義では、幼稚園教育要領や保育所保育指針に示されている内容を中心に、健康な幼児を育てるということで、特に幼児教育での健康の領域の指導のため、基礎となる理論と、それを踏まえた実践のあり方について学ぶ。カリキュラム上の位置づけ：心身の健康に関する領域として、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うこととする。

2. 学びの意義と目標

幼児期における健康な健康習慣の確立は、その後に続く児童期、青年期へと発育発達していくための基礎がつくれる重要な時期である。その点を意識しながら保育士として、発達過程に即した子どもの理解、総合的な指導・援助が行える実践的な力の習得し、健康な幼児を育てるための指導とは何かについてとらえていきたい。

受講生に対する要望

健康問題について、常日頃から関心を持ってください。

キーワード

(1)乳幼児の健康管理 (2)心身の発育と発達 (3)生活習慣 (4)指導計画 (5)保育指針

事前学習（予習）

常に新聞記事等をよく読んで、事前に知らせた授業内容と関連するもので、最近どのようなことが問題になっているかを調べておくこと。

復習についての指示

授業で学んだことに対して課題を出し、その結果について質疑応答します。

授業計画

1. 『幼児の健康』（健康観の変遷、乳幼児の健康と環境）
2. 『幼児のからだの発達』（発育と発達）
3. 『心の発達と健康（1）』（知覚と認知）
4. 『心の発達と健康（2）』（生活習慣の発達）
5. 『幼児と運動』（運動遊びの意義・運動技能の獲得）
6. 『幼児の保健（1）』（幼児の栄養・休養・睡眠）
7. 『幼児の保健（2）』（幼児の病気や事故）
8. 『幼児の健康と家庭教育』（幼児の生活習慣と家庭）
9. 『領域「健康」の内容』（幼児教育と健康・指導の基本）
10. 『領域「健康」の指導の仕方（1）』（教育の位置づけ・運動と指導の仕方）
 11. 『領域「健康」の指導の仕方（2）』（生活習慣と指導の仕方）
 12. 『指導計画と指導の実践例』（年間・月案・週案・日案の実践例）
 13. 『幼児の健康管理』（健康管理・日常の観察・環境の整備）
 14. 保育所保育指針での保育内容の構成
 15. 保育の計画と評価

教科書

授業の中で指示する
初回の授業時に参考図書も含めて指示します。

評価方法

(1)試験:50%:授業で学んだことの点検 (2)ショートテスト:40%:毎事業時に確認のテストを行う (3)授業意欲:10%:授業時の質疑応答

担当者：上野 直子

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

幼稚園教諭一種免許：必修科目、
保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

保育者としての基盤となる幼稚園教育要領・保育所保育指針の「言葉」の領域では、『経験したこと考えたことを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現すること』がねらいになっています。そこで、この授業ではこれらの幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「言葉」についての知識を深めるとともに、乳幼児期からの言葉の発達過程を学び、人間にとっての言葉とその機能に関しての理解を深めます。並行して、言葉の発達と関わる保育教材についての知識と技術についての学びを深めたいと思います（絵本、わらべ歌、手遊び歌、言葉遊びなど）。保育者として、子どものことばの発達に寄与するような保育実践をめざし、教材・保育指導案を作成してみましょう。

2. 学びの意義と目標

この授業では、乳幼児期の言葉の発達を学ぶことが中心になります。この時期の言葉の獲得はその後の人間の成長・発達にとって大変に意味深いものである。ことばの持つ意味を改めて考え直し、人間にとっての言葉を獲得することの意義、人が思考すること、人と人とのコミュニケーションについて考える機会を持っていただきたいと思います。

受講生に対する要望

受講者の皆さんが聞くだけ、板書だけの授業にならないように、ノートの作成を積極的に行っていただきたいと思います。教材作成などを通じて、子どものことばの発達を注意深く観察し、子どもが人との間でことばを獲得する過程を学んでいきましょう。

キーワード

(1)言語発達 (2)コミュニケーション

事前学習（予習）

「ことば」に関連する個別教材ノート作成を行います。講義の内容を整理し、授業計画に沿って個人の学習計画を立てて、教材作成を行います。

復習についての指示

授業ノートと個別教材ノートの整理を行ってください。授業ノートの積み重ねが、実習や実際の保育活動において、子どものことばの発達をとらえる際の手掛かりとなり、個別教材ノートが教材作成のヒントとなると思います。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「言葉」について
3. ことばの発達過程について（ことばの前のことば）
4. ことばの発達過程について（一次のことば）
5. ことばの発達過程について（二次のことば）
6. 遊びと言葉 1
7. 遊びと言葉 2
8. 文字との出会い
9. ことばの問題と援助
10. 子どもが「ことば」を楽しむ活動とは（絵本研究）
11. 発表
12. ことばを促す保育教材作り・指導案作成（その1）
13. 発表
14. ことばを促す保育教材作り・指導案作成（その2）
15. 発表・まとめ

教科書

秋田 喜代美、野口 隆子 『保育内容 言葉（新保育シリーズ）』（光生館）

評価方法

- (1)出席:30%:授業態度も含みます。(2)演習など:70%:小テスト、個別教材ノート、課題、発表など
- 上記のことを踏まえて、総合的に評価したいと思います。

保育内容の研究・人間関係

TEAT-G-312

担当者：横井 紘子

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

幼稚園教諭一種免許：必修科目、
保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている保育内容の領域のうち、人とかかわりに関する領域「人間関係」について学ぶ。この領域では、他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養うことがめざされる。本講義では、乳幼児期の人間関係の発達や特性について理解すると同時に、人とかかわる力の育ちを支える保育者の役割について実践的に考えていく。

2. 学びの意義と目標

人とかかわりが希薄化していると言われる昨今、人間関係について多角的に考えることの意義は大きい。人とかかわる力の重要性・必要性を認識し、自己省察を通し、自分がめざす保育者のありようを考えることを目標とする。

受講生に対する要望

授業中での気づきや疑問、驚きを大切にし、自分で考える時間や身近な他者と話し合う時間をもって欲しい。

キーワード

(1) 保育内容 (2) 人間関係 (3) 自我の発達 (4) 自己と他者 (5) 遊び

事前学習（予習）

幼稚園教育要領解説および保育所保育指針解説書の人間関係に関わる領域の文章を読んでおくことが望ましい

復習についての指示

授業での学びを自らの実習体験や日常生活と結びつけて考えていくことを期待する

授業計画

1. 保育の基本と領域「人間関係」
2. 乳幼児期の人間関係の発達と特性①
3. 乳幼児期の人間関係の発達と特性②
4. 乳幼児期の人間関係の発達と特性③
5. 領域「人間関係」の歴史的変遷
6. 入園期の心の安定と人間関係
7. 3歳児の人間関係(1) 保育者との関係
8. 3歳児の人間関係(2) 友だちへの思い
9. 4歳児の人間関係(1) さまざまな葛藤
10. 4歳児の人間関係(2) 葛藤を超えて
11. 5歳児の人間関係(1) 仲間関係の深まり
12. 5歳児の人間関係(2) 協同的な遊び
13. 地域社会におけるさまざまな人とかかわり
14. 「気になる子」をめぐっての人間関係
15. まとめ—人間関係を捉える視点

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 平常点:30% (2) 課題:20% (3) 期末レポート:50%

欠席回数が三回を超える場合は評価に反映する

担当者：相川 徳孝

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

幼稚園教諭一種免許：必修科目、
保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」における表現の内容を理解すると同時に共に生活する子どもと保育者が「表現者として育つ」ことに視点をあて、理論と実践の両面から授業を展開していく。

2. 学びの意義と目標

子どもの表現方法について学び、「表現とは何か」「子どもなりの表現を受容することとは」「表現する力を育てるとはどういうことなのか」を考えていく。また、保育者自身も表現者であることを目指し、ピアノや手遊び等の保育技術も重視していく。

受講生に対する要望

各自の保育技術を高めていくこと

キーワード

(1)子どもの表現 (2)保育者の表現 (3)表現に必要な保育技術

事前学習（予習）

初回の授業時に配布されたピアノの課題に取り組むこと。

復習についての指示

授業時に配布した楽譜や手遊び等の実技内容については正しく覚え、指名されてもできるようにしておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 保育の基本と領域「表現」について
3. 幼稚園教育要領における「表現」
4. 保育所保育指針における「表現」
5. 子どもの発達と表現
6. 歌の伴奏とコードについて
7. 子どもの表現(1)歌唱
8. 子どもの表現(2)わらべ歌遊び
9. 子どもの表現(3)動きのリズム
10. 子どもの表現(4)身体表現
11. 指導計画について
12. 総合的な表現活動としての劇活動(1)
13. 総合的な表現活動としての劇活動(2)
14. 総合的な表現活動としての劇活動(3)
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)試験とレポート:80% (2)各自の表現:20%

担当者：柴田 和豊

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

幼稚園教諭一種免許：必修科目、
保育士資格：必修科目

講義概要

1. 内容

「保育所保育指針」や「幼稚園教育要領」に記されている「いろいろな物の美しさなどに対する豊かな感性を持つ」「感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ」「生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ」などの諸点を実現するために、子どもたちの造形的発達の特性と造形活動についての多面的な学習を通して、幼児の造形表現についての理論的視点と実践的能力の育成を図る。また、子どもたちの表現活動の基本は「楽しく」ということであることを踏まえて、受講者一人ひとりが造形表現の楽しさと大切さが実感できるよう、理論的部分と表現活動の実際を有機的に関連づけながら進める。

2. 学びの意義と目標

子どもたちの存在の大切さを実感させてくれる子どもたちの様々な表現を受けとめることができるようになること、またその前提として、保育者、授業者自身もまた表現者であることに気づき、自分自身の課題としても表現活動に取り組めるようになることを目標とする。

受講生に対する要望

遊びのようなかたちから造形表現の多様性と可能性を考えていくので、かつて図画工作や美術が苦手であった人も心配せずに受講してほしい。

キーワード

(1) こども (2) あそび (3) コミュニケーション (4) 自己表現 (5) 表現方法

事前学習（予習）

最初に幼稚園教育要領と保育所保育指針における表現についての記述を読んでおくこと。その後は授業で指示するプリント資料に目を通すとともに、用具・材料などを適正に準備すること。

復習についての指示

学習した内容について、単元ごとに、よかったこと・改善すべきことなどを自分の視点で整理すること。

授業計画

1. オリエンテーションー造形表現の大切さと多様性
2. 保育所保育指針と造形表現
3. 幼稚園教育要領と造形表現
4. 触覚的な表現1ー粘土を中心に
5. 触覚的な表現2ー紙・布・自然物を中心に
6. 触覚的な表現3ー人工物を中心に
7. 視覚的な表現1ー児童画の登場（その歩みと意義）
8. 視覚的な表現2ー子どもの描画の特徴
9. 視覚的な表現3ーなぐり描きの体験
10. 子どもたちの生活と造形表現ー装飾
11. 子どもたちの生活と造形表現ーコミュニケーション
12. 表現の総合性
13. 模擬授業1
14. 模擬授業2
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席:20%:欠席が4回を越えると評価外 (2) 提出物:50% (3) 試験:30%

担当者：奥泉 敦司

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

保育者に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

幼稚園教諭一種免許：必修科目、
保育士資格：選択科目

講義概要

1. 内容

幼児理解の理論や方法（幼稚園教育要領・保育所保育指針における「指導」の概念、幼児理解の理論、方法論等）について概説し、幼児理解に関する基本的な理論と方法論の理解を目指す。本講義では、幼児の発達の特質、幼児理解の理論と方法論を踏まえたうえで、ビデオ視聴等を通して、観察法等の方法論の実際を学ぶ。また、具体的な幼児の事例を分析することを通して、幼児理解を深め、幼児理解の留意点等について学ぶ。

2. 学びの意義と目標

・様々な実践例を視聴することを通して、幼児理解、保育・教育に関する自身の枠組みを広げる。・講義で学んだ内容をもとに、適切な情報を収集し、クラスメイトと協力して創意工夫をした発表（模擬保育）を行う。

受講生に対する要望

毎回の授業で課題・小テストに取り組むことが多くあるため、計画的に丁寧に取り組むこと。「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」の学習が必要となる。

キーワード

(1) 指導計画 (2) 幼稚園教育要領 (3) 保育所保育指針 (4) 幼児理解 (5) 行事

事前学習（予習）

・指導計画を収集し分析すること・発表準備をすること

復習についての指示

・小テストの準備をすること・授業で視聴した事例の分析をすること・エピソード記録を作成すること・発表のフィードバックをもとにレポートを作成すること

授業計画

1. オリエンテーション 幼児理解の方法—観察 事例分析と幼児理解の留意点
2. 幼稚園教育要領における指導計画
3. 保育所保育指針における指導計画
4. 長期の指導計画と短期の指導計画
5. 幼児理解の方法—記録
6. 幼児の生活における行事の捉え方・扱い方
7. 事例分析 発表準備
8. 家庭・地域との連携
9. 幼保小の連携
10. 事例分析 発表準備
11. 事例発表
12. 事例発表
13. 事例発表
14. 事例発表
15. 多様な実践例

教科書

文部科学省 『幼稚園教育要領解説—平成20年10月』（文部科学省）厚生労働省 『保育所保育指針解説書（平成20年）』（厚生労働省）文部科学省 『幼稚園教育要領—平成20年告示』（文部科学省）厚生労働省 『保育所保育指針—平成20年告示』（厚生労働省）

評価方法

(1) 平常点:30%:出席点ではない。(2) 小テスト:30% (3) 指導計画分析・記録・出席票:20% (4) 発表:10% (5) レポート:10%
毎回の出席が前提。欠席は減点の対象となる。

幼稚園教育実習

TEAT-C-481

担当者：相川 徳孝

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：4単位

学部教育の関連目標

保育者・教師として必要な知識・技能を実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

幼稚園教諭一種免許：必修科目

講義概要

1. 内容

幼稚園で3週間の実習を行うことを目的とした科目であり、すでに履修している基礎実習を土台とし、外部の幼稚園に実習生として指導を受けながら実習していく。授業内容としては子どもに対する具体的な援助方法、教材研究を中心に実習に向けての事前準備を中心に進めていく。

2. 学びの意義と目標

実習を通して保育者としての使命感と子どもに対する理解を深め、各自の資質の向上をはかることや、子どもの発達に適した対応ができる実践的な力を養う。また、実習後の事後指導において自己課題を見出すことも学びの目標である。

受講生に対する要望

命を預かる場の実習に行くという自覚を持って参加すること。

キーワード

(1) 幼稚園と保育者の役割 (2) 教材研究 (3) 援助方法 (4) 記録

事前学習（予習）

基礎実習終了後の個別指導において確認した各自の自己課題に取り組むこと。また、実習で生かせる保育実技（手遊び、ピアノ等）を準備しておくこと。

復習についての指示

授業時に提示された課題について、同じ間違いをしないように自分のものとしておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 幼稚園教育要領の理解
3. 実習における自己課題
4. 年齢別の指導について(1)
5. 年齢別の指導について(2)
6. 年齢別の指導について(3)
7. 各自の実習内容と指導案作成について
8. 実習日誌の記入について(1)
9. 実習日誌の記入について(2)
10. 幼稚園実習
11. 幼稚園実習
12. 幼稚園実習
13. 事後指導(1)
14. 事後指導(2)
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 実習評価:80% (2) 事前準備:10% (3) 事後指導:10%

実習に行くためにどのような事前準備をしたか、また実習でそれを生かすことができたかが重要なポイントとなる。

理科

SCED-C-141

担当者：丸山 綱男

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校教諭一種免許：必修科目

講義概要

1. 内容

本授業では、学習指導要領を参照しながら、小学校理科教育の目標、内容についての基本的な理解を図る。自然の対象の特性や児童の構築する見方や考え方に基づく「A物質・エネルギー」「B生命・地球」の違いを認識した上で、児童の興味・関心や新たな知的探求心をどのように高めるべきか、理科が配当されている学年の観察・実験を体験する。また、実験器具の基本操作を正しく習得し、安心・安全な理科指導法を身につける。

2. 学びの意義と目標

児童においても学ぶ意義と有用性をはっきりと認識できれば、学ぼうとはしないことは自明である。理科において実感を伴った理解を図るためには、学習内容と日常生活とを関連付ける学習を行うことが有効である。本授業も、受講生自身が自然の事物・現象に対する問題解決によって得た知識を、身近な自然や日常生活につなげる教材研究等を意欲的に行うことが重要になる。理科のA・B区分の特徴を把握し、理科教材や理科授業についての見識を深め、何より受講生自身が楽しい理科を創り上げることがねらいである。また、理科として現代社会における環境問題にふれ、理科を通して人間活動と身の回りの環境に対する科学的な認識を形成させること、人間活動を含めた自然事象に対する豊かな感受性を養わせること等、理科指導の充実を図る。

受講生に対する要望

- ・小学校の理科指導に必要な基本的な技能と、心構えを学ぶこと。
- ・理科好きな子どもの育成を願って、進んで観察・実験をすること。

キーワード

(1)小学校理科の目標 (2)学習内容A・B区分 (3)観察・実験の体験 (4)事故防止

事前学習（予習）

授業終了時に次時の課題を通知するので、学習指導要領の目標と内容を何度も読み返して、課題の見通しをもって授業に臨むこと。

復習についての指示

児童の発達段階を念頭に入れた観察・実験や科学的な見方や考え方が体験できたのかをレポート作成を通して問い直し、論理的に整理することを積み重ねること。

授業計画

1. オリエンテーション 小学校理科の概要
2. 小学校学習指導要領解説「理科編」の目標について
3. 小学校理科の学習内容（「A物質・エネルギー」「B生命・地球」）
4. 小学校理科観察・実験の安全指導について
5. 小学校第3学年理科の観察・実験？ 植物・こん虫
6. 小学校第3学年理科の観察・実験？ 風やゴムの働き
7. 小学校第4学年理科の観察・実験？ 電気の働き
8. 小学校第4学年理科の観察・実験？ 月と星
9. 小学校第5学年理科の観察・実験？ 植物の発芽、成長、結実
10. 小学校第5学年理科の観察・実験？ 電流の働き
11. 小学校第6学年理科の観察・実験？ 水溶液の性質
12. 小学校第6学年理科の観察・実験？ 人の体のつくりと働き
13. 事故防止・薬品管理・廃棄物処理について
14. 理科と環境教育について
15. まとめと期末試験

教科書

文部科学省、文科省=『小学校学習指導要領解説 理科編—平成20年8月』（大日本図書）
適宜プリントも配布します。

評価方法

- (1)出席:30% (2)授業態度:20% (3)提出物:30% (4)試験:20%

理科教育法

SUBP-C-256

担当者：丸山 綱男

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教師に必要な知識・技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校教諭一種免許：必修科目、
幼稚園教諭一種免許：選択必修科目

講義概要

1. 内容

理科の指導を苦手とする小学校教員が年々増える傾向が見られ、理科教育の見直しが強く問われている。そのような課題のある中、児童が自然の事物・現象に感動し、驚き、好奇心や興味を持って理科の面白さが実感できる授業はどうあるべきか、事例を通して実体験する。本授業は小学校教員として魅力ある理科授業を展開する指導力を身につけることをめざして実施するものである。そのため講義だけでなく、実践的な内容として理科学習指導案の作成とその模擬授業を取り入れる。なお、授業を支える安全面に配慮した理科の教科経営についても学ぶ

2. 学びの意義と目標

将来の小学校理科授業者として理科授業の設計が適切にできるかどうかによって、児童の科学的な見方や考え方をどの程度伸張できるか責任は重い。授業を実施する前にあらかじめ授業過程や学習指導の仕方を構想・設計するためには豊富な実践的経験が必要である。本授業では児童に理科学習の成立を確実に保障するために、実践事例を学んだ上で授業の方向を確かなものとする学習指導案を作成する。模擬授業でその効果を検証して、理科実践力を習得する。理科が好きになりその面白さをいきいきと児童に伝えられる豊かな専門的力をもち、実践的な指導力を備えた質の高い教員の養成を目標とする。また観察・実験を充実させるために、安全で使いやすい理科室等の理科経営も学ぶ。

受講生に対する要望

・児童に理科を学ぶことの意義や有用性を実感させる指導を確立する。
・実験器具の適切な扱いに熟知して、安全な観察・実験に心がける。

キーワード

(1)問題解決学習 (2)身の回りの物 (3)理科学習指導案 (4)評価
(5)教科経営

事前学習（予習）

学習指導要領解説理科編の目標と内容、系統性、A・B区分の特徴の理解を深め、その趣旨が教科書にどのように表記されているのか分析をする。学習指導案は、インターネットでも入手できるので資料とするのもよい。

復習についての指示

学習指導案の「案」が示す通り、実践した後に批判検討を加えたら、問題点を修正加筆し、案が一義的に定義できるようにする。

授業計画

1. オリエンテーション 小学校学習指導要領解説「理科編」のねらい
2. 小学校理科授業の現状と課題
3. 理科授業における問題解決学習（場の構成）
4. 理科授業の事例演習？ 小学校第3学年「電気を通す物」
5. 小学校3年「電気を通す物」の発展授業の構想
6. 授業の事例演習？ 小学校第6学年「ものの燃え方」
7. 理科の授業構想と授業評価の視点
8. 理科学習指導案作成上の留意点
9. 理科学習指導案の作成実習？
 10. 理科学習指導案の作成実習？
 11. 学習指導案に基づく模擬授業の準備
 12. 模擬授業の実践と省察？
 13. 模擬授業の実践と省察？
 14. 理科の安全を柱とした教科経営
 15. まとめと試験

教科書

文部科学省、文科省=『小学校学習指導要領解説 理科編—平成20年8月』（大日本図書）
適宜プリントを配布します。

評価方法

(1)出席:20% (2)指導案作成の参加:30% (3)リアクションペーパー:30% (4)試験:20%

こども心理学科

インターンシップⅠ

CREE-D-200

担当者：竹渕 香織, 大橋 良枝

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

各自の学びを通じて、自己の生き方・考え方を探求し、進路との関係を考える

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

インターンシップとは、在学中に自らの専門や将来のキャリアに関連した就業体験をすることである。幼稚園や保育園、施設、カウンセリングセンターなどの相談機関、または一般企業に研修生として働くことで、実際に施設や企業がどのような理念や目的を持って活動しているかを体験することを目的としている。この機会を通じ、自らの適性や社会が求める人材について知ることで、よりよいキャリア選択をするための準備をすることが望ましい。また、社会人として求められる基本的知識やマナーも学ぶ。

2. 学びの意義と目標

「就業体験をすること」「自分の適性を知ること」「仕事とは何か、働くこととはどういうことかを知ること」「自分の適性を知ること」を目的とする。インターンシップに参加するための、基本的な知識の習得と準備をする。

受講生に対する要望

インターンシップに参加することではなく、「参加した経験をどう活かすか」ということを目標を持つこと。演習に積極的に参加すること。基本的に欠席は認めない。

キーワード

(1) キャリア (2) 自己洞察 (3) ビジネスマナー

事前学習（予習）

興味のある分野の仕事について情報収集をしておく。

復習についての指示

インターンシップⅡ（実習）にむけ、ビジネスマナーを習得する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. インターンシップに参加する目的・目標を明確化しよう
3. 自分の興味、適性を知ろう
4. 人に関わる仕事、人を支える仕事には何が必要とされるのか
5. 働くときに知っておくべきこと、心得ておくこと
6. ビジネスマナー演習（身だしなみ・ふるまい）
7. ビジネスマナー演習（言葉）
8. ビジネスマナー演習（文書・電話）
9. ビジネスマナー演習（人間関係）
10. 講演（保育士・幼稚園教諭）
11. 講演（カウンセラー）
12. 講演（一般企業）
13. インターンシップに向けての心構え（再度目的・目標を確認）
14. インターンシップに向けての心構え（スケジュール確認）
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席:30% (2) 平常点:30%:演習への参加、小レポート (3) 学期末レポート:40%

インターンシップⅡ

CREE-D-300

担当者：竹渕 香織，大橋 良枝

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

各自の学びを通じて、自己の生き方・考え方を探求し、進路との関係を考える

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

保育園や幼稚園、福祉施設、相談機関、民間企業、自治体、NPOなどでの実習を行う。この実習に参加できる者はインターンシップⅠ（事前学習）を受講し単位認定を受け、2年終了時でのGDPが2.0以上ある学生である。実習期間は原則として夏休み期間中の10日間である。なお、実習前に行なわれる準備講座に必ず参加すること。

2. 学びの意義と目標

就職活動期間を前に、社会人として働くイメージを体験的に身につけ、就職活動に役立てる。社会適応のための基本的な素養を身につける。

受講生に対する要望

職場で働くという点を考え、社会人としてふさわしい態度を保ち、礼儀正しい立ち振る舞いができるように、ビジネスマナーには注意して欲しい。実習終了後、報告会などで口頭発表をすることがあるので、実習の振り返りとまとめをきちんとしておくこと。

キーワード

(1)実習 (2)ビジネスマナー

事前学習（予習）

インターンシップⅠで学んだ内容の復習。できれば、ビジネスマナーの本を読むなど意識を高めておいてほしい。

復習についての指示

実習ノートの記入。

授業計画

1. 準備講座（6月予定）
2. 各自インターンシップ先での実習・・・実習先での所定の書式での実習ノート作成
3. 各自インターンシップ先での実習・・・実習先での所定の書式での実習ノート作成
4. 各自インターンシップ先での実習・・・実習先での所定の書式での実習ノート作成
5. 各自インターンシップ先での実習・・・実習先での所定の書式での実習ノート作成
6. 各自インターンシップ先での実習・・・実習先での所定の書式での実習ノート作成
7. 各自インターンシップ先での実習・・・実習先での所定の書式での実習ノート作成
8. 各自インターンシップ先での実習・・・実習先での所定の書式での実習ノート作成
9. 各自インターンシップ先での実習・・・実習先での所定の書式での実習ノート作成
10. 各自インターンシップ先での実習・・・実習先での所定の書式での実習ノート作成
11. 各自インターンシップ先での実習・・・実習先での所定の書式での実習ノート作成
12. 実習のまとめレポート作成
13. 実習のまとめレポート作成
14. 実習のまとめレポート作成
15. 実習のまとめレポート作成

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)実習終了後レポート:50% (2)実習ノート:50%

実習期間中には毎日実習ノートを書いて、指導者に提出しコメントを記載の上押印をもらう。

栄養学(食品学を含む。)

HLTH-D-100

担当者：大江 敏江

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：保健必修科目、
中学校教諭一種免許：保健必修科目

講義概要

1. 内容

本講義は、①三大栄養素（糖質、タンパク質、脂質） ②微量栄養素（ビタミン、ミネラル） ③その他の栄養成分（水分や食物繊維など）について、その構造と消化・吸収・代謝システム、体内での機能、さらに、どのような食品に多く含まれどのように摂取することが好ましいかについて、理解できるように構成されている。また、栄養素の摂取量と消費量のバランス、体内での過剰状態や不足状態についても概説する。

2. 学びの意義と目標

1. 食品と身体の双方に存在する栄養素の性質や機能に関する基礎知識を得ることができる。2. 健康な身体づくりのための、効率的な栄養素の摂取法を理解できる。3. 栄養素の摂取と消費のバランスが成長期の心身の健康・栄養状態に与える影響について、健康教育を実施し得る基盤をつくる。以上により、栄養学の基礎的知識を整理すると共に、健康の維持・増進と疾病予防における食の重要性を理解し、子ども期の健康の維持・増進に働きかける保健科教諭の実践的な技能を身につける。

受講生に対する要望

予習、復習をしっかり行いながら授業に参加することを望む。

キーワード

(1) 栄養素 (2) 消化 (3) 吸収 (4) 食事 (5) 健康

事前学習（予習）

次週の教科書の該当箇所を読む。

復習についての指示

(1) 授業ノート、教科書、配布プリントの順に読み返し理解する。
(2) 重要と指摘された箇所はよく復習する。(3) 小テストは返却後復習し、よく理解する。

授業計画

1. 栄養と健康（目標1）
2. 栄養素の消化・吸収・代謝（目標1）
3. 糖質とは何か（目標1）
4. 糖質の機能と効率的な摂取法（目標2）
5. タンパク質とは何か（目標1）
6. タンパク質の機能と効率的な摂取法（目標2）
7. 脂質とは何か（目標1）
8. 脂質の機能と効率的な摂取法（目標2）
9. ビタミンの必要性（目標1）
10. ミネラルの必要性（目標1）
11. 水分・食物繊維の必要性（目標1）
12. 栄養素の摂取量と消費量のバランス（目標2、3）
13. 日本人の食事摂取基準と食事バランスガイド（目標2、3）
14. 幼児期・学童期・思春期の栄養学（目標1、2、3）
15. まとめ（目標1、2、3）

教科書

吉田 勉 『わかりやすい栄養学』（三共出版）

評価方法

(1) 受講態度：20% (2) 授業内小テスト：20% (3) 中間テスト：30% (4) 期末テスト：30%
60%以上を合格とする。

応用行動分析入門

PSYC-D-300

担当者：金谷 京子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、
「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(D学科)：選択科目

講義概要

1. 内容

応用行動分析は、人間を中心とした生物全般の諸活動を環境と個体の相互作用の側面から探求し、行動に関する因果関係を解明しようとする行動分析学を応用して、広く人間の行動をその人の利益や社会の利益になるように変容させること目的としている。まず行動分析の理論を理解した上で、応用行動分析の手法を学んでいき、望ましい行動の獲得や問題行動の軽減など、日常生活のなかでの行動変容の応用を考えていく。

2. 学びの意義と目標

応用行動分析の原理を理解し、日常生活のなかで起きている現象を分析してみる。日常生活で変容させたい行動を構造化して新たな行動が獲得できるように工夫してみる。

受講生に対する要望

行動分析関係の用語を事前に事典等で調べておく。

キーワード

事前学習（予習）

応用行動分析に関する文献を購読しておくこと。専門用語を調べておくこと。

復習についての指示

ノートを整理し、不明な点を調べておくこと。

授業計画

1. 行動分析学とは
2. 応用行動分析の基本的考え方
3. 新しい行動の獲得
4. 問題行動の消去
5. 行動目標の立て方
6. データの収集とグラフ化
7. 単一事例の実験デザイン
8. 随伴操作、結果操作
9. 強化について
- 10.シェイピングによる行動形成
- 11.機能分析
- 12.行動変容の般化
- 13.発達障がい児支援への応用
- 14.自己の行動管理への応用
- 15.教室での実践例

教科書

P.A. アルパート・A.C. トルートマン著 『はじめての応用行動分析』（二瓶社）

評価方法

(1)試験:80% (2)レポート提出:10% (3)受講状況:10%

家族療法入門

PSYC-D-200

担当者：村上 純子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、
「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

家族心理学、家族療法の基礎を学び、人間関係や家族関係の問題の理解に役立てる。個人の心理、家族システムとしての機能、さらには家族を取り巻く社会システムなど、多角的に見ていく。また実際のケースを提示し、グループディスカッションを行うことで、家族療法をより深く理解できるようにする。

2. 学びの意義と目標

「家族」は人間理解をする上で無視することのできない要素である。家族心理学の学びを通して、より深い人間理解を養い、現実生活に役立つ、知識を身につけることを目標とする。

受講生に対する要望

授業から何を学び取っていくかは自分次第です。その意識を持って授業に臨んでください。特にグループディスカッションには積極的に参加してください。

キーワード

(1) 家族療法 (2) 家族心理学 (3) ライフサイクル (4) ジェノグラム

事前学習（予習）

各回、文献の指定された箇所を読んでくること

復習についての指示

配布されたプリントをよく読み、書かれている内容を説明できるようにすること

授業計画

1. 家族とは何か
2. 家族療法の理論と基礎 (1)
3. 家族療法の理論と基礎 (2)
4. 家族療法の理論と基礎 (3)
5. 家族のライフサイクルと危機 (1) 結婚、夫婦
6. 家族のライフサイクルと危機 (2) 幼児期、児童期の家族
7. 家族のライフサイクルと危機 (3) 思春期、青年期の家族
8. 家族のライフサイクルと危機 (4) 成人期、老年期の家族
9. 家族療法の実際
10. 家族の諸問題と家族療法
11. ジェノグラムの基礎
12. ジェノグラムの作成と活用 (1)
13. ジェノグラムの作成と活用 (2)
14. ジェノグラムの活用
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席・授業態度：20% (2) 課題：40% (3) 学期末試験：40%

体のしくみ・働き

HLTH-D-100

担当者：小島 龍平，吉田 俊爾

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：保健必修科目，
中学校教諭一種免許：保健必修科目

講義概要

1. 内容

本講義は、保健科教諭として健康教育を行っていく上で、重要な細胞の構造、生命を維持するための機能（植物性機能）と外界の変化に反応するための機能（動物性機能）を人体の生理機能から学ぶ構成としている。

2. 学びの意義と目標

1. 骨格の構造と働きが理解できる。2. 細胞の構造、生命を維持するための機能（植物性機能）である、心・脈管系、呼吸器系、消化器系や腎・泌尿器系の解剖学的構造を把握し、それらに関連した機能を理解できる。3. 外界の変化に反応するための機能（動物性機能）を構成する、感覚機能、運動機能およびそれらを統御する中枢神経機能や内分泌機能を、疾患とも関連付けて理解できる。4. 動物性機能に関わる神経・筋・感覚器の構造について理解できる。以上のことから、健康教育を行う教員の基本的な知識である体のしくみと働きを理解し、健康の維持増進のための複雑な事象を科学的にとらえる態度を育てる。人体を統合的に知識を構築する。

受講生に対する要望

ノートを手帳にとること。特に、板書の図や、授業中に大切な箇所と強調したことはメモする。疑問点は質問をするなど、授業に積極的に参加すること。

キーワード

(1) 食と健康 (2) 食育

事前学習（予習）

授業計画を参照し、教科書の該当箇所を、予め読んで疑問点などメモしておくこと。

復習についての指示

授業中に示されたキーワードや大切だと強調した箇所は復習して、理解を確実にすること。なお、疑問点はメモして、教科書や参考書で調べ、それでも不明な点は次回に質問すること。小テストを実施する。

授業計画

1. 保健科教諭にとっての解剖学・生理学とは
2. 骨格および骨の働き
3. 心臓および脈管系の構造と働き
4. 気管支および肺の構造と働き
5. 消化管の構造と働き
6. 肝臓・胆のう・膵臓の構造と働き
7. 腎臓の構造と働き
8. 尿管・膀胱の構造と働き
9. 代謝と体温
10. 内分泌系の構造と機能
11. 神経の興奮と伝達のしくみ
12. 脳の構造と機能
13. 末梢神経系の構造と機能
14. 感覚器官の構造と機能
15. 筋の構造・筋収縮と運動制御のしくみ

教科書

吉岡利忠、菊川忠裕他 『生物・解剖生理学』（理工図書）

評価方法

- (1) 授業への参加状況・課題作成：60% (2) 定期試験・レポート：20%
(3) 小テスト：20%

担当者：中村 馨男

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：保健必修科目、
中学校教諭一種免許：保健必修科目

講義概要

1. 内容

本講義は、水、空気、食品、日光、住居など、我々の周囲の環境と健康との関係について概説した上で、放射能の問題、公害の問題から環境汚染と健康の問題、および地球環境問題と健康の問題まで理解できるように構成している。

2. 学びの意義と目標

1. 水と健康の問題を理解できる。2. 食品と健康の問題を理解できる。3. 住居と健康の問題を理解できる。4. 放射能と健康の問題を理解できる5. 公害と健康の問題を理解できる。6. 地球環境問題への理解が深まる。以上の学びを通して、健康と環境との関わりを学び、保健科教諭に期待される健康維持や健康増進のための基礎知識を身につける。

受講生に対する要望

教科書を必ず準備してほしい（「公衆衛生学」と共通）。ノートを必ず取ること。遅刻・欠席をしない、教室の前列に着席すること。机上に、雑誌、スマートフォン、飲食物など、講義に関係ない物は置かないこと。

キーワード

(1) 上下水道・衛生設備と健康 (2) 食中毒の原因と予防 (3) 住居・職場・学校・施設の環境衛生 (4) 公害・環境汚染の原因・被害・対策 (5) 地球環境問題の種類、原因と対策

事前学習（予習）

教科書の該当範囲については、予め、目を通しておくこと。

復習についての指示

講義中に強調した箇所、キーワード、終了時の小テスト、および、返却された前回の小テストで出来なかった箇所は、よく復習しておく。

授業計画

1. 環境と健康
2. 水と健康、上水道普及と感染症
3. 上水処理法と水道水の水質基準
4. 下水道の目的と下水処理法
5. し尿処理と廃棄物処理
6. 食中毒(1)微生物を原因とする食中毒
7. 食中毒(2)自然毒および化学物質
8. 住居の環境衛生(1)温熱条件・熱中症
9. 住居の環境衛生(2)二酸化炭素・一酸化炭素・換気
10. 電離放射線、紫外線、マイクロ波、レーザー光
11. 環境の化学的条件
12. 公害と環境汚染(1)（環境基本法・大気汚染）
13. 公害と環境汚染(2)（水質汚濁と公害病）
14. 地球環境問題（温暖化、オゾン層破壊ほか）
15. まとめ

教科書

鈴木庄亮・久道茂 『シンプル衛生公衆衛生学』（南江堂）
教科書は、「公衆衛生学（予防医学を含む）」と共通

評価方法

- (1) 授業への参加度および課題へ取り組み:20%:積極性、着席位置
(2) 毎回の小テスト:30% (3) 定期試験:50%
- 講義の終わりに、毎回、小テストを実施する。

学校看護実習

HLTH-D-200

担当者：齊藤 理砂子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義では、日常的な看護の基礎技術の習得を目的として演習を行う。身体的なニーズに加え、心理的、社会的なニーズをも念頭に置いた看護について理解できるように授業を展開する。

2. 学びの意義と目標

1. 子どもにおこりやすい日常的な症状について、総合的に判断し、そのケアをするための基礎知識を身につける。2. 授業計画に示した内容について、基本的な技術を展開することができる。3. 授業計画に示した内容について、説明することができる。

受講生に対する要望

予鈴になるまでに、身支度を整え、所定の位置に着いていること。実習のため、30分以上の遅刻は、1時限分の欠席とみなします。

キーワード

(1) 日常看護 (2) ケアリング (3) 学校看護

事前学習（予習）

事前に指示される内容について調べておくこと。

復習についての指示

指示された内容について学習すること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 感染予防（消毒、滅菌、手洗い）
3. 環境整備（交換、ベッドメイキング）
4. バイタルサインⅠ（意識、呼吸、脈）
5. バイタルサインⅡ（体温、血圧）
6. 活動と休息Ⅰ（移乗・移送、松葉杖歩行援助）
7. 活動と休息Ⅱ（体位交換）
8. 排泄（排泄介助、オムツ交換）
9. 清潔・衣生活（全身清拭、足浴、寝衣交換など）
10. 栄養と食事Ⅰ（食事介助、口腔ケア、経管栄養法）
11. 与薬法（経口、直腸、血管内、粘膜からの与薬法）
12. 電法（温電法、冷電法）
13. 医療的ケアの援助
14. まとめⅠ（感染予防・環境整備・バイタルサイン・活動と休憩）
15. まとめⅡ（排泄・清潔・衣生活・栄養と食事・与薬法・電法・医療的ケア）

教科書

大吉 三千代, 東郷 美香子, 平松 則子, 鈴木 美和, 川島 みどり
『ビジュアル基礎看護技術ガイド』（照林社）

評価方法

(1) 取り組みの態度:50% (2) 実技試験:50%

学校健康相談

HLTH-D-300

担当者：齊藤 理砂子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：保健選択科目

講義概要

1. 内容

現代の社会背景の中で、いじめや不登校、薬物乱用、性の逸脱行動、生活習慣病、新たな感染症の出現等、児童生徒の健康の維持・増進を阻害する深刻な要因が増加している。児童生徒の心身の健康問題にいち早く気づくことができ、適切な対応に結び付けられるように、健康相談の基礎・基本を学ぶ。講義及びロールプレイングを取り入れた演習を行う。

2. 学びの意義と目標

1. 児童生徒の心身の健康課題の現状と背景について理解する。
2. 学校における健康相談の基本的な考え方とその進め方について理解する。3. 健康相談に必要な基本的な技術を身につける。

受講生に対する要望

積極的に授業に参加すること

キーワード

(1)健康相談 (2)面接の仕方 (3)子どもの健康課題 (4)子どもの健康課題の背景

事前学習（予習）

事前に指示される内容について調べておくこと。

復習についての指示

指示された内容について学習すること。

授業計画

1. オリエンテーション 学校における健康相談とは（目標1）
2. 児童生徒の健康課題の現状と背景：生活習慣、感染症等（目標1）
3. 児童生徒の健康課題の現状と背景：いじめ、不登校、自殺、薬物乱用、摂食障害、非行等（目標1）
4. 健康相談に必要な資質・能力・技能（目標2）
5. 健康相談における支援体制づくり（目標2）
6. 健康相談の進め方：基本的対応（目標2）
7. 面接の仕方と子どもへのアプローチ：面接の目的と種類、方法（目標3）
8. 面接の仕方と子どもへのアプローチ：話の聴き方、遊戯療法の種類と応用（目標3）
9. 健康相談の進め方、ロールプレイング：生活習慣、喫煙、薬物乱用（目標2、3）
10. 健康相談の進め方、ロールプレイング：心身症、児童虐待（目標2、3）
11. 健康相談の進め方、ロールプレイング：PTSD、自傷行為（目標2、3）
12. 健康相談の進め方、ロールプレイング：発達障害（目標2、3）
13. 健康相談の記録と事例研究（目標2）
14. 健康相談の評価（目標2）
15. 健康相談を行うための一連の流れを振り返る：問題把握、アセスメント、対応、評価（目標2、3）

教科書

文部科学省、文科省= 『教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応』（少年写真新聞社）文部科学省 『教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引き』（〃）

評価方法

- (1)テスト:50% (2)まとめのレポート:50%

学校保健概論

HLTH-D-200

担当者：齊藤 理砂子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：保健必修科目、
中学校教諭一種免許：保健必修科目

講義概要

1. 内容

本講義は、学校保健の目的・意義、関係法規等を概説した上で、学校保健計画、学校環境衛生、救急処置活動等の学校保健全般に関わることを理解できるように構成されている。さらに、子ども期における発育発達と健康課題、それらを踏まえた保健管理、健康教育について学習し、実態に応じた学校保健活動が展開できるように必要な知識や技術を学べるように構成されている。

2. 学びの意義と目標

1. 学校保健の意義、制度、領域について説明できる。2. 学校保健の関係法規について理解できる。3. 学校保健にかかわる組織、関係機関、関係職員の役割を理解し、説明できる。4. 学校保健の構造と関わる組織について考えることができる。5. 学校保健推進の方法を理解し、必要なプレゼンテーション能力を身につける。以上により、子ども期の身体的な健康に携わる者として学校保健について理解し、さらに今日的課題について考察し、保健管理、健康教育につなげた実践が展開できるようになるための基礎力を身に付ける。

受講生に対する要望

積極的に授業に参加すること

キーワード

(1) 学校保健 (2) 保健管理 (3) 児童生徒の健康課題 (4) 児童生徒の発育発達 (5) 学校保健組織活動

事前学習（予習）

事前に指示される内容について調べておくこと。

復習についての指示

指示された内容について学習すること。

授業計画

1. ガイダンス（目標1）
2. 学校保健概説Ⅰ（歴史の変遷・意義・関連法規）（目標1. 2）
3. 学校保健概説Ⅱ（領域構造）（目標4）
4. 児童生徒の発育発達と健康課題（目標3）
5. 学校保健計画 法的根拠と意義・内容（目標2）
6. 健康観察 意義（目標3）
7. 健康診断 意義、法的根拠、方法指導（目標2. 3）
8. 疾病管理 疾病の基礎知識（目標1. 3）
9. 感染症予防 感染症の基礎知識、種類、処置（目標1. 3）
10. 感染症予防 感染症の基礎知識、種類、処置（目標1. 3）
11. 学校環境衛生 法的根拠、学校環境衛生検査の実際（目標1. 2. 3）
12. 学校健康相談活動 学校医・学校歯科医・養護教諭の行う健康相談（目標1. 3）
13. 学校安全計画・危機管理 児童生徒の災害の実態・安全教育（目標1. 3. 4）
14. 学校保健組織活動 意義・組織（教職員・児童生徒・地域）（目標4）
15. まとめ（学校保健の今日的課題）（目標1. 2. 3. 4）

教科書

教員養成系大学保健協議会 『学校保健ハンドブック』（ぎょうせい）

評価方法

(1) 課題発表：30% (2) 授業振り返りレポート：20% (3) まとめのレポート：50%

学校保健概論（安全を含む。）

HLTH-D-200

担当者：齊藤 理砂子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：保健必修科目、
中学校教諭一種免許：保健必修科目

講義概要

1. 内容

本講義は、学校保健の目的・意義、関係法規等を概説した上で、学校保健計画、学校環境衛生、救急処置活動等の学校保健全般に関わることを理解できるように構成されている。さらに、子ども期における発育発達と健康課題、それらを踏まえた保健管理、健康教育について学習し、実態に応じた学校保健活動が展開できるように必要な知識や技術を学べるように構成されている。

2. 学びの意義と目標

1. 学校保健の意義、制度、領域について説明できる。2. 学校保健の関係法規について理解できる。3. 学校保健にかかわる組織、関係機関、関係職員の役割を理解し、説明できる。4. 学校保健の構造と関わる組織について考えることができる。5. 学校保健推進の方法を理解し、必要なプレゼンテーション能力を身につける。以上により、子ども期の身体的な健康に携わる者として学校保健について理解し、さらに今日的課題について考察し、保健管理、健康教育につなげた実践が展開できるようになるための基礎力を身に付ける。

受講生に対する要望

積極的に授業に参加すること

キーワード

(1)学校保健 (2)保健管理 (3)児童生徒の健康課題 (4)児童生徒の発育発達 (5)学校保健組織活動

事前学習（予習）

事前に指示される内容について調べておくこと。

復習についての指示

指示された内容について学習すること。

授業計画

1. ガイダンス（目標1）
2. 学校保健概説Ⅰ（歴史の変遷・意義・関連法規）（目標1. 2）
3. 学校保健概説Ⅱ（領域構造）（目標4）
4. 児童生徒の発育発達と健康課題（目標3）
5. 学校保健計画 法的根拠と意義・内容（目標2）
6. 健康観察 意義（目標3）
7. 健康診断 意義、法的根拠、方法指導（目標2. 3）
8. 疾病管理 疾病の基礎知識（目標1. 3）
9. 感染症予防 感染症の基礎知識、種類、処置（目標1. 3）
10. 感染症予防 感染症の基礎知識、種類、処置（目標1. 3）
11. 学校環境衛生 法的根拠、学校環境衛生検査の実際（目標1. 2. 3）
12. 学校健康相談活動 学校医・学校歯科医・養護教諭の行う健康相談（目標1. 3）
13. 学校安全計画・危機管理 児童生徒の災害の実態・安全教育（目標1. 3. 4）
14. 学校保健組織活動 意義・組織（教職員・児童生徒・地域）（目標4）
15. まとめ（学校保健の今日的課題）（目標1. 2. 3. 4）

教科書

教員養成系大学保健協議会 『学校保健ハンドブック』（ぎょうせい）

評価方法

(1)課題発表:30% (2)授業振り返りレポート:20% (3)まとめのレポート:50%

担当者：藤田 明

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける。
「こども期」の発達に影響する環境や文化を学び、学習と発達を支援する技能を修得する

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

我々は多種多様な音に囲まれて生きている。その多様な音の中で音楽は、人の心を落ち着かせ、安らぎを与えてくれる。本講義は、沢山のクラシック音楽に触れる機会を提供していく。また、これらの曲をとおして“聞くアート”を味わい楽しめるようになることを目指している。

2. 学びの意義と目標

今まで無意識に聞いていたであろう音楽を使い方によって心に影響を与える多くの内容を含んでいることに気が付く。と同時に、音楽によって感動する心を豊かにしていくことを目的とする。

受講生に対する要望

キーワード

(1) 音楽と心 (2) 安らぎ

事前学習（予習）

授業計画を参照し、次の授業で鑑賞する曲について調べておく。

復習についての指示

授業で鑑賞した曲の感想をノートにまとめておく。

授業計画

1. 授業の進め方について説明する。
2. 気持ちが自然に弾んでくるような音楽について学び、それに適した音楽を鑑賞する(1)
3. 気持ちが自然に弾んでくるような音楽について学び、それに適した音楽を鑑賞する(2)
4. 気持ちが自然に弾んでくるような音楽について学び、それに適した音楽を鑑賞する(3)
5. 気持ちが自然に弾んでくるような音楽について学び、それに適した音楽を鑑賞する(4)
6. 心に安らぎを与え、また、心に落ち着きを与えるような音楽について学び、それに適した音楽を鑑賞する(1)
7. 心に安らぎを与え、また、心に落ち着きを与えるような音楽について学び、それに適した音楽を鑑賞する(2)
8. 心に安らぎを与え、また、心に落ち着きを与えるような音楽について学び、それに適した音楽を鑑賞する(3)
9. 心に安らぎを与え、また、心に落ち着きを与えるような音楽について学び、それに適した音楽を鑑賞する(4)
10. 心に安らぎを与え、また、心に落ち着きを与えるような音楽について学び、それに適した音楽を鑑賞する(5)
11. 気持ちがおおらかになるような、また、豪華な気分になるような音楽について学ぶとともに、それに適した音楽を鑑賞する(1)
12. 気持ちがおおらかになるような、また、豪華な気分になるような音楽について学ぶとともに、それに適した音楽を鑑賞する(2)
13. 気持ちがおおらかになるような、また、豪華な気分になるような音楽について学ぶとともに、それに適した音楽を鑑賞する(3)
14. 気持ちがおおらかになるような、また、豪華な気分になるような音楽について学ぶとともに、それに適した音楽を鑑賞する(4)
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 試験:40% (2) ノート提出:30% (3) 出席:30%

担当者：専任教員

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する、
各自の学びを通じて、自己の生き方・考え方を探求し、進路との関係を考える

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

キャリアデザインは、自分自身の生き方を見つめ、将来をどのようにに設計していくのかを考える科目である。当科目の構成設計にあたっては、1. 人間関係形成能力、2. 情報活用能力、3. 将来設計能力、4. 意思決定能力の育成を目標とした。本演習では、初年次の学習であることも考慮し、様々な人々とのコミュニケーションを図るプログラムを遂行し、生き方に関する考え方をお互いに理解し合う機会をもつこと、さらには自己理解を深め、学習への意欲を喚起していくことを目指していく。

2. 学びの意義と目標

1. さまざまな人生観や体験をもつ教員の話に傾聴し、人の面白さ、人を大切にすることの重要性を学ぶ。2. 話の内容を調べてみる、まとめてみる、その人がどんなことに心を動かされているかを推論してみることを通して、情報収集のための基礎力を養う。3. 学生個々が、推論したことを語る場は、人が人の話を傾聴し、それぞれの個を生きあう場でもある。「場の臨床的機能」のメタ認知的枠組みを身体的に感じ取ることができる。4. 以上から人を信頼し、人に面白さを発見し、人との関わりをもつことへの動機をもち続けられること、自己の特性や課題を見つけることを通して人間形成力の基盤を養う。

受講生に対する要望

それぞれの話題提供について、皆さんなりに調べたり、まとめたり、推論したりするためのプログレスノートを用意してほしい（A4サイズ）。各テーマごとに面白いと思ったキーワードは、自分なりにどんどん調べてほしい。そこで蓄積されたものが、皆さんの将来設計に役立つものになるように学びを蓄積しよう。積極的にディスカッションに参加しよう。

キーワード

(1) 情報検索 (2) 学科理念 (3) 心 (4) 感動

事前学習（予習）

毎週のプログレスノートの記入、関心を持った用語については、情報ツールなどを利用しつつ各自積極的に調べ、プログレスノートにまとめておく。

復習についての指示

毎週のプログレスノートの記入、関心を持った用語については、情報ツールなどを利用しつつ各自積極的に調べ、プログレスノートにまとめておく。

授業計画

1. 学科理念および教育課程について（学生の学びの期待調査・私の夢）
2. ノートの取り方、図書館オリエンテーション
3. 人を大切にするということ（映像資料をもとに）
4. 人のところに寄り添う（教員の話）
5. これまでの学びのまとめ（アドバイザークラス）
6. キリスト教教育で大切にしていること（教員の話）
7. 困難を抱える人に向き合う（教員の話）
8. カウンセリングは誰にでもできる？（教員の話）
9. これまでの学びのまとめ（アドバイザークラス）
10. 気になる免許・資格について
11. 体と心（教員の話）
12. 心が動くとき～深い話～（教員の話）
13. 人はなぜ悩むのか（教員の話）
14. こどもに心動かされて（教員の話）
15. まとめ：グループワーク、学びの期待調査

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 授業内で課された課題と授業内での取り組み態度（プログレスノート含む）：60% (2) 講話時のレポート：40%

担当者：専任教員

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を習得する、
各自の学びを通じて、自己の生き方・考え方を探求し、進路との関係を考える

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

こども心理学科での科目の学びや、紹介される職業の概要を聞き、興味がわいたものについて積極的に情報を集め、分析する力を育てる。また、聞いた話をもとに、各自が興味を持った内容やテーマについて、中グループに分かれ、さらに細かく学ぶ。

2. 学びの意義と目標

キャリアデザインAに引き続き、人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力を育てる。

受講生に対する要望

好奇心をもとう推論し検討しよう

キーワード

(1)キャリアデザイン (2)自己発見 (3)コミュニケーション

事前学習（予習）

興味を持った仕事について、情報収集をする。

復習についての指示

興味をもった内容、調べた内容をプログレスノートにまとめる。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 卒業後の仕事 臨床心理士・カウンセラー
3. 卒業後の仕事 療育・保育
4. 卒業後の仕事 特別支援教育
5. 振り返りとまとめ（全体）
6. 卒業後の仕事 保健科教育
7. 卒業後の仕事 公務員
8. 卒業後の仕事 一般企業
9. 振り返りとまとめ（全体）
10. 中グループセッション①
11. 中グループセッション②
12. 中グループセッション③
13. 中グループセッション④
14. 中グループセッション⑤
15. まとめ（ノート提出）

教科書

プリントを配布する
ノートを準備すること。毎回の講義、グループでの学びについて記録し、資料を整理する。ルーズリーフは不可。

評価方法

- (1) 平常点:50%:出席・参加度 (2) ノート作成:50%

担当者：専任教員

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

各自の学びを通じて、自己の生き方・考え方を探求し、進路との関係を考える

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

キャリアデザインCは、中グループ活動に重点を置く。中グループはキャリアデザインBに引き続き、受講者の関心に従って選択されるものであり、進学・公務員・心理士の仕事のグループ、子ども関係の仕事のグループ、一般企業就職のグループに分かれるものとする。

2. 学びの意義と目標

こども心理学科卒業後にどのような進路があるか、そのために大学在学時に何を学ばなくてはならないのか、具体的なイメージを持つことを目指す。

受講生に対する要望

当該の進路イメージを持ち、特に中グループに関しては、いずれかのグループを積極的に選んでほしい。

キーワード

(1)進路 (2)就職 (3)進学 (4)専攻

事前学習（予習）

大学卒業後のイメージを持つべく、情報収集を行うこと。

復習についての指示

各グループにおいて課題が課される。

授業計画

1. ガイダンス及びグループ希望調査
2. アドバイザーグループ
3. 中グループ
4. 中グループ
5. 中グループ
6. 小グループ
7. 中グループ
8. 中グループ
9. 中グループ
10. 小グループ
11. 中グループ
12. 中グループ
13. 中グループ
14. 中グループ報告会
15. アドバイザーグループとまとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)授業への参加度：100%

救急処置並びに実習

HLTH-D-200

担当者：齊藤 理砂子

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：保健必修科目、
中学校教諭一種免許：保健必修科目

講義概要

1. 内容

本講義と実習では、学校における児童生徒の傷病知識、救急処置や対応技術を教授する。心肺蘇生法、AEDを用いた除細動の技術も習得できるように構成されている。

2. 学びの意義と目標

1. 保健科教諭として、医療的及び教育的側面から救急処置の過程を理解し、的確な判断と処置ができる 2. 学校救急処置活動の基本的な知識を習得する。3. 学校救急処置の技術を体得する。4. 心肺蘇生法、AED除細動器の取り扱いを体得する。5. 校種別の傷病の特徴を知り、対応できる。6. 学校救急処置過程に準じて児童生徒の対応ができる。以上により、子ども期の健康の維持・増進に働きかける保健科教諭の実践的な技能を身につける。

受講生に対する要望

予鈴になるまでに、身支度を整え、所定の位置に着いていること。

キーワード

(1)救急処置 (2)学校救急処置 (3)けがの対応 (4)病気の対応

事前学習（予習）

事前に指示される内容について調べておくこと。

復習についての指示

指示された内容について学習すること。

授業計画

1. オリエンテーション（授業の進め方の説明）
2. 学校救急処置過程 保健室来室時の対応（目標1）
3. 学校救急体制（校内役割と組織図等作成）（目標1. 2）
4. 学校救急処置の基本（目標1. 2）
5. けが・病気の対応（1）小学校（目標1. 3. 5）
6. けが・病気の対応（2）中学校（目標1. 3. 5）
7. 心肺蘇生法・AEDを用いた除細動演習（1）こどもの場合（目標4）
8. 心肺蘇生法・AEDを用いた除細動演習（2）大人の場合（目標4）
9. けが・傷の処置（1）中学校・高校に多いけが（目標5）
10. けが・傷の処置（2）止血・包帯演習（目標5. 6）
11. けが・傷の処置（3）骨折等固定演習（目標5. 6）
12. 内科的訴えの対応（目標6）
13. 専門医による講義（目標1～6）
14. 総合シミュレーション（目標1～6）
15. まとめ（目標1～6）

教科書

プリントを配布する
プリントを配布する。

評価方法

(1)筆記試験:50% (2)実技試験:50%

担当者：石津 靖大

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける。
「こども期」の発達に影響する環境や文化を学び、学習と発達を支援する技能を修得する

カリキュラム上の位置付け

社会福祉主事任用資格：選択科目

講義概要

1. 内容

現代の日本の教育と学校の実態を整理することから始める。次に近代学校の成立を見て、学校の役割・機能について考えてみる。さらに、教科書の歴史を通して、教育と学校の役割・機能について考える。学校教育から一転して、日本の子育ての習俗についてあれこれ見て、教育観を幅広く考えてみる。これを導入として、人の特徴や発達とのかかわりで教育を考えてみる。そして、教育市場大きな影響を与えたルソーとペスタロッチの教育思想を学習する

2. 学びの意義と目標

1) 日本の教育と学校の現状を整理して理解できる。2) 教育と学校の役割・機能と課題について考えを深める。3) 教育学校教育だけでなく、幅広く子育ての視点から考える。4) 教育とは何かを、人の発達や特徴との官界から考える。5) 教育と学校についての基本的事項を知ること目標とする。

受講生に対する要望

学校に関する内容が多いので、教職課程の履修希望者の受講を望む。

キーワード

(1) 教育問題 (2) 学校教育 (3) 人の発達 (4) 子育ての習俗

事前学習（予習）

授業計画を参照し扱われる章節について、教養的な教育図書や教育新聞等によって知識や情報を得ておく。

復習についての指示

授業での教材を再読し重要な用語・事項について、教職用の教育用語集などによって確認しノート整理する。

授業計画

1. 授業の目的・内容・方法について
2. 現代の教育の実態
3. 現代の教育の実態
4. 学校の役割・機能Ⅰ
5. 学校の役割・機能Ⅱ
6. 教科書とその歴史Ⅰ
7. 教科書とその歴史Ⅱ
8. 子育ての習俗の教育観Ⅰ
9. 子育ての習俗の教育観Ⅱ
10. 教育とは何か-人の特徴とのかかわり-
11. 教育とは何か-教育の目的とは-
12. ルソーの教育思想
13. ペスタロッチの教育思想
14. 教育と学校の任務
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 授業への参加状況:30% (2) 提出課題:30% (3) 定期試験:40%

担当者：金谷 京子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける。
「こども期」の発達に影響する環境や文化を学び、学習と発達を支援する技能を修得する

カリキュラム上の位置付け

社会教育主事資格：必修科目、
認定心理士認定資格(D学科)：選択科目

講義概要

1. 内容

教育心理学は、教育過程における諸現象を心理学的観点から解明し、教育を効果的に行うための方法を見出すことを目的とした学問である。本講義では、教育心理学の研究の流れを学んだ上で、様々な研究知見の解説を通して学習、授業過程、測定と評価、教師と児童の関係、人格、適応、発達の分野について学ぶ。学び方のコツに関するDVDを視聴しながら、「学習」の方法について理解を深める。

2. 学びの意義と目標

1) 子どもの発達と学習の過程に関する心理学的な基礎知識を習得する。2) それらの知識を実際の子どもの理解を深めるために利用することができる。3) 子どもの発達と学習の状態に応じた、適切な指導・支援の方法について自らで考え、現代の教育現場における課題の解決を考える。

受講生に対する要望

専門用語についてこまめに調べるようにしてください

キーワード

(1) 学習 (2) 教育と心理 (3) 動機づけ (4) 教育評価

事前学習（予習）

事前に教科書を読み、単元の予習をしておく。関連する研究知見を調べてみる。

復習についての指示

ノートをまとめて復習し、理解を深める。

授業計画

1. 教育心理学の目指すもの・どのように教えるか
2. どのように学ぶか、学習とは
3. 知識獲得
4. 記憶
5. 問題解決
6. 学習と動機づけ
7. 効力感と無気力感
8. 原因帰属
9. 学級集団と人間関係
10. 教師と生徒
11. 教育測定と評価
12. 測定・評価の方法
13. 人格と適応
14. 成長と発達
15. まとめと評価

教科書

北尾倫彦ほか 『コンパクト教育心理学』（北大路書房）鎌原雅彦・竹網誠一郎 『やさしい教育心理学』（有斐閣アルマ）

評価方法

- (1) 発表、小レポート等:20% (2) 試験:80%

教育相談(カウンセリングを含む。)

TEAT-G-253

担当者：山田 麻有美

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける。
「こども期」の発達に影響する環境や文化を学び、学習と発達を支援する技能を修得する

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目、
中学校教諭一種免許：保健必修科目、
認定心理士認定資格(D学科)：選択科目

講義概要

1. 内容

生徒がもつ教育上の諸問題や悩みや困難を解決し、よく適応させ、人格の成長を援助するために教師が行なう教育相談活動のための基本的な態度(カウンセリング・マインド)を実践的に習得できるよう計画されている。具体的には、教育相談の意義や現状を踏まえた上で、受講生が、サイコドラマの手法を用いて生徒や保護者に対する態度やコミュニケーションスキルを実践的且つ段階的に身につけられるように構成されている。

2. 学びの意義と目標

1) 教育相談の意義、方法について理解する 2) 児童生徒との信頼関係の形成について理解する 3) 児童生徒への適切な指導方法について理解する 4) 保護者との信頼関係の形成について理解する 5) 保護者への適切な指導方法について理解する 6) 学級場面における児童生徒理解について理解する以上により、教師が生徒に助言や援助を行う時、一方的に指導するという態度ではなく、児童生徒の様々な心の動きを察知し、適切に対応しようとするカウンセリングマインドを行い、児童生徒にとってよりよい指導のできる教師、また保護者や地域社会からは信頼される教師を目指す。

受講生に対する要望

積極的に学ぶ姿勢・態度をもって講義に臨むこと

キーワード

事前学習(予習)

毎回提示する予習課題に沿って予習してください

復習についての指示

毎回提示する復習課題に沿って復習してください

授業計画

1. 教育相談の概説(目標1)
2. 教育相談の意義とカウンセリングマインド(目標1)
3. 教育相談の進め方と関係諸機関との連携(目標1)
4. 教育相談を行うための自己理解(目標1)
5. 児童生徒との信頼関係形成のための態度(目標2)
6. 児童生徒との信頼関係形成のためのコミュニケーション(目標2)
7. 児童生徒との信頼関係維持のためのコミュニケーション(目標2)
8. 児童生徒への適切な指導助言を行うためのコミュニケーション(目標3)
9. 保護者との信頼関係形成のための態度(目標4)
10. 保護者との信頼関係形成のためのコミュニケーション(目標4)
11. 保護者との信頼関係維持のためのコミュニケーション(目標4)
12. 保護者への適切な指導助言を行うためのコミュニケーション(目標5)
13. 学級場面における児童生徒理解(目標6)
14. 学級場面における課題解決(目標6)
15. 理解度の確認(目標1～6)

教科書

プリントを配布する
参考書・参考資料等は、授業の中で指示する。

評価方法

(1) 授業における発表、小レポート等:30% (2) 理解度:70%

担当者：大橋 良枝

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ。
「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(D学科)：基礎科目、
認定心理士認定資格(D学科)：副次科目

講義概要

1. 内容

前半の講義の中で、身近な現象を題材として、測定学の基礎を押さえた上で、現場における心理測定と評価の位置づけを学ぶ。その後、実際にそれぞれの関心に基づいて、測定と評価の実習を行い、その習熟度から授業評価がなされる。

2. 学びの意義と目標

心理統計学の基礎となる測定学の理解に加え、測定法を身に付け実行できるようになることを目指す。また、教育における評価の活用方法と禁忌について理解することを目指す。

受講生に対する要望

心理学実験実習を履修していること。

キーワード

(1)測定 (2)評価 (3)尺度 (4)記述統計と推測統計

事前学習（予習）

指定された教科書の予習箇所を熟読しておくこと。

授業計画

1. 測定学概論—身の回りにある測定
2. 測定と評価の嘘と本当—測定法と評価法の活用と限界
3. 母集団と標本の関係—推定
4. 推定のために—平均・偏差・分布
5. 教育評価—フィードバック
6. 教育場面における測定と評価①
7. 教育場面における測定と評価②
8. 心理臨床場面における測定と評価①
9. 心理臨床場面における測定と評価②
10. より高度な統計—t検定 分散分析 回帰分析
11. より高度な統計の実践—演習①
12. より高度な統計の実践—演習②
13. 調査実習①
14. 調査実習②
15. まとめ

教科書

吉田 寿夫 『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』（北大路書房）

復習についての指示

配布プリントを再読し、授業内容をよく理解すること。

評価方法

(1)出席:70% (2)調査実習を通して作成される最終レポート:30%

担当者：村上 純子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、
「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

障害や病気のある児童への特別な配慮は、親や教師が気遣って行なっているが、当事者のきょうだいにも支援が必要なことが多々ある。本講義では、きょうだいが持ちうる悩みと人間的成長の可能性（得がたい経験）について理解し、きょうだい支援の在り方や方法について、「きょうだい支援の会」の活動などを参考に考えていく。

2. 学びの意義と目標

「きょうだい」そして家族の存在は、障害や病気のある児童を支援する上で重要である。きょうだい支援の学びを通して、より深い人間理解を養い、実生活に役立つ、知識を身につけることを目標とする。

受講生に対する要望

授業の中で、自ら学びとろうとする意識が重要です。特にグループディスカッションには積極的に参加してください。

キーワード

(1) きょうだい (2) 障害児 (3) 支援 (4) 家族

事前学習（予習）

各回、文献の指定された箇所を読んでくること

復習についての指示

配布されたプリントをよく読み、書かれている内容を説明できるようにすること

授業計画

1. きょうだいとは
2. 病気の子どもを取り囲む環境
3. 家族のライフサイクルと病気
4. きょうだいの心理
5. 病気、障害の告知
6. 親支援の方法と実践
7. きょうだい支援の方法と実践（1）
8. きょうだい支援の方法と実践（2）
9. きょうだい支援の方法と実践（3）
10. きょうだい支援の方法と実践（4）
11. きょうだい支援の方法と実践（5）
12. きょうだい支援の社会的資源（1）
13. きょうだい支援の社会的資源（2）
14. きょうだい支援の社会的資源（3）
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 出席・授業態度：20% (2) 課題レポート：40% (3) 学期末試験：40%

担当者：佐野 正子

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

こどもの人格と人権を尊重するゆるぎない価値観を持って社会貢献ができることを学ぶ

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

キリスト教の視点から、「愛」（アガペー）をキーワードに、神から愛されている存在として、人間が他者との関わりの中でいかに生きるべきかという問題を考え、人間についての理解を深めていく。

2. 学びの意義と目標

キリスト教人間学は3年生必修科目として、聖学院大学のキリスト教教育の中心科目である。人間についての理解を深めることによって、主体性を確立し、人間としての成熟をめざす。

受講生に対する要望

熱心に授業に取り組み、授業中に出される課題や質問に関して、大いに応答してほしい。

キーワード

(1) 愛（アガペー） (2) 隣人愛 (3) 共生 (4) 個の役割

事前学習（予習）

予習としては、提示した資料をあらかじめ読んでおくこと。

復習についての指示

復習としては、授業で取り扱われた聖書や資料を繰り返し読み、授業の内容の理解を深めること。

授業計画

1. 序：人間とはなにかーディスカッション・発表
2. かけがえのない個の自覚
3. 共同体における個の役割
4. 自分らしく生きる
5. 愛（アガペー）について
6. 隣人愛について
7. 愛によるつながり
8. 共に生きる
9. 愛と勇気
10. 良心について
11. 主体性の確立
12. 人間の罪と弱さ
13. ゆるしについて
14. 授業の振り返りーディスカッション・発表
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席レポート：60% (2) 学期末レポート：20% (3) 礼拝レポート：20%

担当者：佐野 正子

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

こどもの人格と人権を尊重するゆるぎない価値観を持って社会貢献ができることを学ぶ

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

キリスト教の視点から、人間とはなにかという問題を、「人格」、「人権」、「自由」、「平等」、「いきがい」、「いのちの尊厳」などさまざまな観点から学び、人間のあるべき姿、なるべき姿を求めつつ、人間理解を深めていく。

2. 学びの意義と目標

キリスト教人間学は、3年生必修科目として、聖学院大学のキリスト教教育の中心科目である。人間とはなにかについて学ぶことによって、神と他者との関係の中で、自己理解を深め、人間としての成熟をめざす。

受講生に対する要望

熱心に授業に出席し、自己の成長につながるために、出される課題に大いに取り組んでほしい。

キーワード

(1) 人格 (2) 人権 (3) 自由

事前学習（予習）

予習としては、提示された資料をあらかじめ読んでおくこと。

復習についての指示

復習としては、授業で取り扱われた聖書や資料所を繰り返し読み、授業の理解を深めること。

授業計画

1. 人生の土台
2. 人格とはなにか
3. 人格の完成
4. 人権について
5. サーバントリーダーシップについて
6. 聖学院の歴史
7. 聖学院のスクールモットー
8. 自由と責任
9. 平等について
10. 幸福について
11. クリスマスの意味
12. いのちの尊厳
13. 生きがいについて
14. 授業の振り返り—ディスカッション・発表
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席レポート:60% (2) 学期末レポート:20% (3) 礼拝レポート:20%

グリーフケア入門

PANT-D-200

担当者：関 正勝

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

こどもの人格と人権を尊重するゆるぎない価値観を持って社会貢献ができることを学ぶ

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

現代文明は科学技術に支えられた文明であると言えます。科学技術は小さな手段・努力で最大の結果を私達の生活世界にもたらしてくれています。そのため私達は科学技術への全幅とまではいなくとも大きな信頼を置いて生きています。そのようにして科学技術は私達の欲望を肥大化させています。そのことで科学技術のメリット・デメリットが顕在化しています。それは結果第一主義による過程（プロセス）や手段・方法の軽視です。そして「旬」の感覚の喪失があります。ハウス栽培によって季節に関係なく食べたい野菜や果物が生産され、私達の欲望を充たしてくれています。聖書は「何事にも時があり、天の下の出来事にはすべて定められた時がある」（コヘレトの言葉）、と語って、美しさは「時に適って」美しいと言います。科学技術文明は私達の生活世界からネガティブなものを排除して、快適で便利な生活を築き上げようとして、苦しみや悲しみそして死をさえあたかも無いかの如く、隠蔽しています。その結果私達は共感したり、共苦する力を失ってしまっているように思います。グリーフケアは喪失経験に向かい合い寄り添うこととは、どのようなことであり、それが私達の成熟をもたらすといわれる意味を尋ねる仕事また研究であると思います。

2. 学びの意義と目標

科学技術はバスケやデカルトの「人間は考える葦」・「我思うが故に我在り」の精神に支えられて近現代文明を築きあげてきたように思います。現代における科学技術の陥穽（その典型は科学技術の安全神話に支えられた原子力発電と福島第一原発の事故）に直面して「科学の知」に対して「臨床の知」が新しく求められております。哲学者の中村雄二郎は『臨床の知とは何か』で、「科学の知」が得意とする論理性・客観性・普遍性によって見失っている「関係の相互性」「いのちのリアリティ」は「臨床の知」によって新たに把握されることになるであろう、と主張しています。私は「科学の知」は説明の言葉であり、「臨床の知」は理解の言葉であり、with「によって形成される言葉である」と考えております。グリーフワークは、まさに「関係の相互性」また「生きられた現実のリアリティ」をどのように私達一人ひとりが回復し、取り戻すかという作業に他ならないでありましょう。本講義の内容としては『臨床の知とは何か』やM. プーパーの思想殊に「我と汝」などに学びながら、死やホスピスなどの問題を取り上げ、さらに子どもを亡くした親たちの集まり「ちいさな風の会」を主宰されている若林一美の著書『死別の悲しみを越えて』（岩波）、「悲しみを越えて生きる」（講談社）を読みながら、受講生との対話を重視した授業内容としたい、と願っています。

受講生に対する要望

教員の一方的な講義ではないので、受講生の皆さんの積極的な授業への参加と貢献を期待しています。毎回リアクションペーパーを提出してもらおう。

キーワード

(1) 科学技術文明の中での生と死 (2) 科学の知と臨床の知 「説明の言葉」と「理解の言葉」 (3) 悲嘆に向かう「我思うが故に我在り」～「わたしは痛む苦しむ故に我在り」 (4) 健康観 態度か状態か (5) 現代における生と死 脳死・臓器移植を巡って

事前学習（予習）

経験の言葉化に各自が努めること。それぞれが一週間の自分と社会、また世界に起こった出来事を心に留めて授業に出席することを希望します。

復習についての指示

今日の授業で話し合われたことを各自の生活世界に照らし合わせて振り返ること。この講義はただ知識を自分のうちに蓄積することを目的とはしないで、各自が「考える」ことを目指したいので、振り返りとその内容の記憶と他者とのコミュニケーションをこそ「復習」のポイントにしたい、と思います。

授業計画

1. 講義への導入（1） グリーフワークとは何か。
2. 講義への導入（2） 経験の分かち合い。受講者の確認。
3. 「科学の知」とは何であったか。 何を得て、何を失ったか。
4. 「臨床の知」を巡って。 『臨床の知とは何か』を読む。（1）
5. 「臨床の知とは何か」（2）
6. 宮澤賢治の作品から『狼森と策森、盗森』、『セロ弾きのゴーシュ』など
7. 『悲しみを越えて生きる』からプロローグ 「生きる」ために知っておきたいこと
8. 同書 第1章 「失うこと」ことで得るもの 死と対峙して見えてくるもの
9. 同書 第2章 「愛する人」の死に学ぶ -NHKスペシャル『河辺家のホスピス日記』から
10. 『河辺家のホスピス日記』からグループディスカッション 「別れの時間」をどう過ごせばよいのだろうか
11. 『悲しみを越えて生きる』第3章 「慰めの言葉」の持つ両面性ー 励ましと傷つき
12. 同書 第4章 生きる力は何処から。 信頼の絆がもたらす力
13. 同書 終章 「死」や「悲しみ」と向き合う時
14. 生命倫理の学びから（1） 現代はいのちの豊かさが大切にされているか 現代の健康観を問う「普通とは何か」・「障病とは何か」
15. 生命倫理の学びから（2） 現代の死 脳死は「人間の死か」 まとめ

教科書

若林 一美 『「悲しみ」を越えて生きる（講談社ニューハードカバー）』（講談社）

評価方法

- (1) 授業への出席・貢献度:30%;教員の一方的な講義ではなく履修者の経験の共有化を築くため (2) 講義ごとのリアクションペーパー:30%;履修者からの短いコメント (3) 期末のテスト:40%;テストあるいはレポート（考慮中）

講義は一人ひとりの経験の共有化を目指すので、成績評価も相互評価を目指したい。

ケアリング実習(日常看護)

HLTH-D-200

担当者：齊藤 理砂子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義では、日常的な看護の基礎技術の習得を目的として演習を行う。身体的なニーズに加え、心理的、社会的なニーズをも念頭に置いた看護について理解できるように授業を展開する。

2. 学びの意義と目標

1. 子どもにおこりやすい日常的な症状について、総合的に判断し、そのケアをするための基礎知識を身につける。2. 授業計画に示した内容について、基本的な技術を展開することができる。3. 授業計画に示した内容について、説明することができる。

受講生に対する要望

予鈴になるまでに、身支度を整え、所定の位置に着いていること。実習のため、30分以上の遅刻は、1時限分の欠席とみなします。

キーワード

(1) 日常看護 (2) ケアリング (3) 学校看護

事前学習（予習）

事前に指示される内容について調べておくこと。

復習についての指示

指示された内容について学習すること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 感染予防（消毒、滅菌、手洗い）
3. 環境整備（交換、ベッドメイキング）
4. バイタルサインⅠ（意識、呼吸、脈）
5. バイタルサインⅡ（体温、血圧）
6. 活動と休息Ⅰ（移乗・移送、松葉杖歩行援助）
7. 活動と休息Ⅱ（体位交換）
8. 排泄（排泄介助、オムツ交換）
9. 清潔・衣生活（全身清拭、足浴、寝衣交換など）
10. 栄養と食事Ⅰ（食事介助、口腔ケア、経管栄養法）
11. 与薬法（経口、直腸、血管内、粘膜からの与薬法）
12. 電法（温電法、冷電法）
13. 医療的ケアの援助
14. まとめⅠ（感染予防・環境整備・バイタルサイン・活動と休憩）
15. まとめⅡ（排泄・清潔・衣生活・栄養と食事・与薬法・電法・医療的ケア）

教科書

大吉 三千代, 東郷 美香子, 平松 則子, 鈴木 美和, 川島 みどり
『ビジュアル基礎看護技術ガイド』（照林社）

評価方法

(1) 取り組みの態度:50% (2) 実技試験:50%

担当者：和田 雅史

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

現代社会に出現する青少年期の健康課題を取り上げる。社会構造や生活様式の変化とともに、子どもの発育発達や疾病構造に変化が起きていることに着目し、その成立要因の解明や予防の具体的方法について論じていく。特に学びの場である学校における教育保健学的観点から検討を加える。時代とともに、生活構造の変化によって私達の生活様式も変容していく。しかしながらその結果として身体の異常や歪みの出現、そして新たな疾病構造の変容をもたらした。ここでは、日々の身体活動や遊びのありかた、食生活の内容と食べ方、そして心のあり方やストレスの状況など精神の健康という様々な要因によって影響を受けているという視点から、子どもの身体の現状を考えていく。従来、教育生理学の分野で研究されてきた「学齢期シンドローム」と呼ばれる子ども達の現状に目を向け、その研究成果を視野に入れて、子どもの健康問題を考えていく。必ずしも簡易な医学的知識だけを享受することだけではなく、また予防教育という観点からだけではなく、子どもに即して健康の科学的認識を高めることにより、自己の健康をいかにして向上させることができるのか、また社会的にどのような子どもの健康や生命を守ることができるのかを検討していく。講義では、子どもの生活現状に着目しつつ、なるべく身近にある子どもの健康課題を取り上げていく。

2. 学びの意義と目標

現代社会に出現する個々の健康課題を理解すると同時に、今後予想される新たな健康課題にも対応できるように科学的認識の育成を図る。学校を中心として、地域、家庭が子ども達の健康の維持増進を図るヘルスプロモーションスクールを構想することにより、将来受講者自身が活動していく場を想定し、その位置づけの一助になると考えられる。同時に受講者自身の健康維持を図ることにより、健康で長命な生涯を継続できる方法を考えていく。歴史的に見ても健康は、常に「病気の自己責任制」という考え方で、健康や生命は社会的に守られなくてはならないという「健康権」の狭間で論じられることが多かった。各自が、健康や疾病に対し、どのような意識で臨むかによって、今後の社会全体のあり方にも関わる内容でもある。社会を構成していく一員として、健康な社会を形成していく責任がそこには存在するのである。同様に個人生活においても近い将来には親となり、子を持つ立場になることを踏まえ、健康で豊かな発育発達と、子どもの健康を補完していく意識と知識を持たなくてはならず、授業を通してそれらの育成を図ることが可能となる。

受講生に対する要望

子どもの発育発達、青少年期の身体や健康問題に関心があり、健康の維持・増進をプロモートしようとする明確な意思があることを期待する。講義では、ディスカッションなどを多用することになるので、自らが考えること、積極的に発言することが重要である。

キーワード

(1)健康課題 (2)ヘルスプロモーション (3)予防 (4)教育保健 (5)科学的認識

事前学習（予習）

授業計画を参照し、講義で扱われる内容について、事前に情報を集めて、授業に臨むこと。

復習についての指示

講義で扱った内容を検討し、次回の講義までに自身の考えをまとめておく。

授業計画

1. オリエンテーションー青少年期の健康課題
2. ライフスタイルの変化と身体への影響
3. 生活リズムの変化と身体異常
4. 自然環境の変化と健康
5. 遊びや運動の変化と発育発達
6. 運動不足が及ぼす身体への影響
7. 運動の効果と運動障害
8. 食生活の変化と健康課題
9. 肥満とその予防
10. ダイエット形態誤認
11. アレルギーの増加とその背景
12. 感染症と予防対策
13. 現代生活と精神の健康
14. 青少年期のストレス
15. まとめとテスト、およびその解説

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)授業への姿勢:20% (2)出席:30% (3)筆記試験:50%

担当者：村上 純子

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、
「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(D学科)：選択科目

講義概要

1. 内容

健康には「肉体的、精神的、社会的、霊的」の4つの側面がある（WHOの定義による）。本授業では、健康生活に関わる心理（主に精神的・社会的側面）の基本的理解を深め、さらに健康生活（健康維持行動）を構築、支援するための心理学的理論を学習する。また、健康教育に関する教材を作成することにより、実践に関しての理解を深めていく。

2. 学びの意義と目標

人間にとっての健康とはいかなるものか、健康心理学が目指すもの（健康の回復・維持・増進・疾病の予防を考え、生活習慣や行動などの改善をはかり、生活を豊かにしていくこと）を理解し、実践する手がかりを学ぶ。

受講生に対する要望

授業の中で紹介する参考資料などを用いて、知識と理解を深めるよう努力して欲しい。また、グループで健康教育に関わる教材を作成するので、そこに積極的に参加することを望む。

キーワード

(1)健康心理学 (2)ストレス (3)健康行動 (4)生涯発達

事前学習（予習）

各回、文献の指定された箇所を読み、キーワードについて調べてくる

復習についての指示

配布されたプリントをよく読み、書かれている内容を説明できるようにすること

授業計画

1. 健康と病気、その理解
2. 健康心理学の基礎理論
3. 健康行動とリスク
4. 生涯発達と健康
5. ストレスと健康
6. ストレスと対処方法
7. 健康とパーソナリティ
8. 生活習慣と健康①
9. 生活習慣と健康②
10. ネット社会と健康
11. 健康心理学的アセスメント
12. 健康教育① 教材作成計画
13. 健康教育② 教材作成
14. 健康教育③ 教材完成
15. 期末まとめと課題

教科書

日本健康心理学会 『健康心理学概論』（実務教育出版）

評価方法

(1)授業の出席・態度:20% (2)健康教材作成:40% (3)期末試験:40%

健康相談活動

HLTH-D-300

担当者：齊藤 理砂子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

現代の社会背景の中で、いじめや不登校、薬物乱用、性の逸脱行動、生活習慣病、新たな感染症の出現等、児童生徒の健康の維持・増進を阻害する深刻な要因が増加している。児童生徒の心身の健康問題にいち早く気づくことができ、適切な対応に結び付けられるように、健康相談の基礎・基本を学ぶ。講義及びロールプレイングを取り入れた演習を行う。

2. 学びの意義と目標

1. 児童生徒の心身の健康課題の現状と背景について理解する。
2. 学校における健康相談の基本的な考え方とその進め方について理解する。3. 健康相談に必要な基本的な技術を身につける。

受講生に対する要望

積極的に授業に参加すること

キーワード

(1)健康相談 (2)面接の仕方 (3)子どもの健康課題 (4)子どもの健康課題の背景

事前学習（予習）

事前に指示される内容について調べておくこと。

復習についての指示

指示された内容について学習すること。

授業計画

1. オリエンテーション 学校における健康相談とは（目標1）
2. 児童生徒の健康課題の現状と背景：生活習慣、感染症等（目標1）
3. 児童生徒の健康課題の現状と背景：いじめ、不登校、自殺、薬物乱用、摂食障害、非行等（目標1）
4. 健康相談に必要な資質・能力・技能（目標2）
5. 健康相談における支援体制づくり（目標2）
6. 健康相談の進め方：基本的対応（目標2）
7. 面接の仕方と子どもへのアプローチ：面接の目的と種類、方法（目標3）
8. 面接の仕方と子どもへのアプローチ：話の聴き方、遊戯療法の種類と応用（目標3）
9. 健康相談の進め方、ロールプレイング：生活習慣、喫煙、薬物乱用（目標2、3）
10. 健康相談の進め方、ロールプレイング：心身症、児童虐待（目標2、3）
11. 健康相談の進め方、ロールプレイング：PTSD、自傷行為（目標2、3）
12. 健康相談の進め方、ロールプレイング：発達障害（目標2、3）
13. 健康相談の記録と事例研究（目標2）
14. 健康相談の評価（目標2）
15. 健康相談を行うための一連の流れを振り返る：問題把握、アセスメント、対応、評価（目標2、3）

教科書

文部科学省、文科省=『教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応』（少年写真新聞社）文部科学省『教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引き』（〇）

評価方法

- (1)テスト:50% (2)まとめのレポート:50%

担当者：中村 馨男

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：保健必修科目、
中学校教諭一種免許：保健必修科目

講義概要

1. 内容

健康の維持増進に働きかけるための基礎となる公衆衛生に関する知識を身につけるため、本講義は、はじめに健康の概念から、保健衛生統計の意義とその理解の仕方まで概説する。次に、公衆衛生学では重要なテーマである感染症とその予防方法について解説し、疫学とは何であるのかについて理解できるように構成している。最後に、現代大きな問題となっている生活習慣病について触れ、成人保健の今日的課題が理解できるように構成している。

2. 学びの意義と目標

1. 健康の定義、健康指標、および予防医学の概念について理解できる。2. 保健衛生統計について理解できる。3. 感染症とその予防について理解できる。4. 疫学の概念について理解できる。5. 成人保健について、生活習慣病とその予防、衛生行政の観点から理解できる。以上の学びを通して、健康と環境との関わりの深さを学び、保健科教諭に期待される健康維持や健康増進のための基礎知識を身につける。

受講生に対する要望

ノートを必ず取る習慣を身につける。教室のなるべく前の方に着席する。机の上に、雑誌、スマートフォン、飲食物等、講義に関係ない物は置かないこと。

キーワード

(1)健康指標、人口静態、人口動態 (2)一次予防と二次予防 (3)疫学とその方法 (4)生活習慣病とその予防 (5)保健衛生行政と保健医療サービス

事前学習（予習）

教科書を必ず購入（「環境衛生学」と共通）し、次回の該当箇所を読んでおくこと。

復習についての指示

講義中のキーワード、前回復習問題の誤答箇所、当日の復習問題の疑問点などは復習のこと

授業計画

1. 健康の定義、健康指標、予防医学の概念
2. 人口静態統計・人口動態統計
3. 出生と死亡の動向
4. 生命表と平均余命・平均寿命
5. 医の倫理
6. 感染症とその予防
7. 免疫と予防接種、消毒
8. AIDSと性感染症
9. 疫学 1. 疫学とは何か
10. 疫学 2. 記述疫学と分析疫学
11. 生活習慣病とその予防
12. 健康増進、成人保健、老人保健
13. 地域保健、保健衛生行政
14. 医療保障、保健医療サービス
15. まとめ

教科書

鈴木 庄亮 『シンプル衛生公衆衛生学 2014』（南江堂）

評価方法

- (1)受講態度:20%:積極性、座席位置を含む (2)各回復習問題:30%
(3)期末テスト:50%

講義の終わりに、毎回、小テストを実施する。

担当者：中村 馨男

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：保健必修科目、
中学校教諭一種免許：保健必修科目

講義概要

1. 内容

健康の維持増進に働きかけるための基礎となる公衆衛生に関する知識を身につけるため、本講義は、はじめに健康の概念から、保健衛生統計の意義とその理解の仕方まで概説する。次に、公衆衛生学では重要なテーマである感染症とその予防方法について解説し、疫学とは何であるのかについて理解できるように構成している。最後に、現代大きな問題となっている生活習慣病について触れ、成人保健の今日的課題が理解できるように構成している。

2. 学びの意義と目標

1. 健康の定義、健康指標、および予防医学の概念について理解できる。2. 保健衛生統計について理解できる。3. 感染症とその予防について理解できる。4. 疫学の概念について理解できる。5. 成人保健について、生活習慣病とその予防、衛生行政の観点から理解できる。以上の学びを通して、健康と環境との関わりの深さを学び、保健科教諭に期待される健康維持や健康増進のための基礎知識を身につける。

受講生に対する要望

ノートを必ず取る習慣を身につける。教室のなるべく前の方に着席する。机の上に、雑誌、スマートフォン、飲食物等、講義に関係ない物は置かないこと。

キーワード

(1)健康指標、人口静態、人口動態 (2)一次予防と二次予防 (3)疫学とその方法 (4)生活習慣病とその予防 (5)保健衛生行政と保健医療サービス

事前学習（予習）

教科書を必ず購入（「環境衛生学」と共通）し、次回の該当箇所を読んでおくこと。

復習についての指示

講義中のキーワード、前回復習問題の誤答箇所、当日の復習問題の疑問点などは復習のこと

授業計画

1. 健康の定義、健康指標、予防医学の概念
2. 人口静態統計・人口動態統計
3. 出生と死亡の動向
4. 生命表と平均余命・平均寿命
5. 医の倫理
6. 感染症とその予防
7. 免疫と予防接種、消毒
8. AIDSと性感染症
9. 疫学 1. 疫学とは何か
10. 疫学 2. 記述疫学と分析疫学
11. 生活習慣病とその予防
12. 健康増進、成人保健、老人保健
13. 地域保健、保健衛生行政
14. 医療保障、保健医療サービス
15. まとめ

教科書

鈴木 庄亮 『シンプル衛生公衆衛生学 2014』（南江堂）

評価方法

- (1)受講態度:20%:積極性、座席位置を含む (2)各回復習問題:30%
(3)期末テスト:50%

講義の終わりに、毎回、小テストを実施する。

担当者：金谷 京子

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ。
「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(D学科)：選択科目

講義概要

1. 内容

本講義では、こどもに関する歴史から現代のこどもの問題について言及し、こどもが社会のなかで心身ともに健やかに育ち、学び、遊び、参加していくにはどのようにしていったらよいか、こどもの視点を大切にしながら考えていく。ことにこどもの心理的側面に言及し、心理学からみたこどもについて学ぶ。各自が調査したことをグループで議論しながら発表する体験も行う。

2. 学びの意義と目標

こどもについて様々な知識を得ることに留まるのではなく、「こどもとはなにか」「こどもが健全に育っていくためにいかにするべきか」について考えていけるようにする。こどもの内面（心理）に着目しながらこどもにアプローチする視点をもつ。現代のこどもの問題について意見を述べられるようにする

受講生に対する要望

日ごろからこどもと接する機会を多くもっておいてください。

キーワード

(1) こどもの心理 (2) こどもと遊び (3) 現代社会とこども

事前学習（予習）

課題を事前に調べてまとめノートを作成する。

復習についての指示

各授業でテーマとなった課題について、調べておく。

授業計画

1. こどもの起源とこどもを取り巻く社会の変化
2. 現代のこどもの問題と背景
3. 現代のこどもの問題への対応
4. 子どもの権利条約
5. こどもと遊び、こどもと保育
6. こどもと教育・福祉
7. こどもと医療・保健
8. 心理学からみたこども
9. こどもの心理特性
10. こどもと発達心理
11. こどもと教育心理
12. こどもと社会心理
13. こどもと消費心理
14. こどもと臨床心理
15. まとめと評価

教科書

授業の中で指示する
特に教科書は使わず、単元に応じてプリントを配布する。【参考書】子ども資料年鑑。日本子ども家庭総合研究所。KTC中央出版

評価方法

(1) 発表:10%:グループワークでの発表 (2) レポート:70% (3) 試験:20%

担当者：田島 伸二

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける。
「こども期」の発達に影響する環境や文化を学び、学習と発達を支援する技能を修得する

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

21世紀の世界を生きるためには国際協力活動が不可欠である。これは世界中の国々が、政治・経済・文化・教育・環境など日常生活や社会生活で、密接に深く結びついているからに他ならない。子ども国際協力の講義では、この国際の協力の中でも、特に子どもたちの文化や教育活動の現状をさまざまな文化や教育の具体的な事例を通じて、実感的におもしろく世界を理解できるように、また実際に国際教育関係で働くときに役にたつ理論やスキルをワークショップのスタイルで講義したい。一方的なものでなくおもしろく刺激的な双方向の実践的授業を行いたい。多くの情報をもとに自分で考え、自分の力で実行や課題などできる国境を超える能力を養成したい。

2. 学びの意義と目標

(1) 国際協力活動を学ぶことは、自分が生きている世界への視野を大きく広げ、多様な価値観や豊かな創造性などを獲得するのに役立つ。とくに子どもたちへの国際教育や文化活動を理解することは、将来の職業としても、家庭人としても、地球人としてのありかたから考えても非常に重要な講義となろう。(2) 目標は子ども国際協力の世界を、頭でよく理解すると同時に、社会で実践できる力を多彩に形成することを目標にしている。とくに絵地図分析のワークショップを開催できる能力を身につけると、どのような機会にでも自由に活用できるようになるので、問題解決に対処できるたくましい力を養成したい。

受講生に対する要望

近年、海外での国際協力活動への興味が減じている傾向があるが、まずこの分野が非常におもしろく刺激的な分野であることを体験やワークショップを通じて伝えたい。大いなる好奇心をもって、多様な文化や価値観を学ぶことが、人生や社会を豊かにしたい受講者ならば本望である。授業で学んだことを是非、社会で実際に役立てたい学生も大歓迎

キーワード

(1)国際協力や児童文化活動への好奇心 (2)異文化体験に向けて積極的な態度養成 (3)子どもの想像性や創造性を広げる (4)豊かなコミュニケーションの獲得 (5)国境を超える知恵やスキルの養成

事前学習（予習）

1. 配布資料や授業で指示のネット情報やTV番組での学習 2. 毎回、次回までの学習課題を出すので、それを踏まえて事前学習として講義を進める。

復習についての指示

前回の授業要旨と、調べたことや自分の意見などを自由に加えて提出する。

授業計画

1. はじめに子ども国際協力とはなにか？私の国際協力活動から
2. アジア地域で行ってきた教育協力や文化活動の実践（映像を見せながら）
3. グループ別絵地図分析ワークショップ（問題や提案の視覚化）
4. 絵地図分析の理論と実際をマスターする（個人とグループ別）
5. アジア・太平洋地域の文化教育活動がなぜおもしろいのか？
6. 子どもに向けての教育活動と創作活動の実際と課題
7. 国境を越えて、だれにもできる、子どもたちへの創作活動
8. どこでも役にたつコミュニケーションとはなにか？そのスキル
9. 識字教育（リテラシー）とはなにか、その課題と実践
10. 平和・環境活動の理論と子どもたちへの平和・環境活動を求めて
11. 子ども国際協力で役立つ楽しい教材制作ー1
12. 子ども国際協力で役立つ実際の教材制作ー2
13. 学生自身の自分の生き方について絵地図ワークショップ
14. 学生による諸活動や製作物についてプレゼンテーション
15. 未来へ伝えたいもの&まとめ

教科書

授業の中で指示する
参考資料として、環境絵本「大亀ガウディの海」の日本語版、英語版（希望者によって）をワークショップの中で使う。授業の中で具体的に購入について指示する。

評価方法

- (1) レポート:50% (2) 出席:30% (3) 学習態度:20%

期末考査は、新たな課題提出によってレポート形式で行う

こどもの危機対応

SOCI-D-100

担当者：金谷 京子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける。
「こども期」の発達に影響する環境や文化を学び、学習と発達を支援する技能を修得する

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

こどもにとっての危機をもたらす要因には、災害、事故、疾病、虐待、貧困、いじめ、事件、家庭崩壊、環境破壊などさまざまある。これらの危機にこどもが出遭ったときにこどもの心にもたらされる衝撃は大きい。こうした危機に出遭ったときに大人はどうケアしたらよいのか、また、このような危機を回避する、あるいは被害を最小にとどめるにはどうしたらよいのか検討していく。

2. 学びの意義と目標

1. 天災や人災に対する危機意識をもつ 2. こどもの危機予知ができるようにしていく 3. リスクマネジメントを学ぶ 4. 危機に出遭ったこどもの心理とケアについて理解する

受講生に対する要望

グループワークに際し、積極的にグループ内の役割を果たすようにしてください

キーワード

(1)災害とこども (2)現代社会とこどもの危機

事前学習（予習）

グループワーク課題を調べてくる

復習についての指示

他のグループの発表課題についてもまとめてみる

授業計画

1. 災害とは
2. 天災と人災
3. 災害時のこどものケア
4. 事故とこども
5. 事故防止
6. 疾病とこども
7. 虐待とこども
8. 虐待予防
9. 学校といじめ
10. いじめの分析
11. こどもの貧困
12. リスクマネジメント
13. リスクマネジメント・危機予知
14. こどものこころのケア
15. まとめと評価

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)課題発表：20% (2)レポート：60% (3)出席状況：20%

担当者：竹渕 香織

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ。
「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(D学科)：選択科目

講義概要

1. 内容

コミュニケーションを人間形成、社会的影響、適応改善等の視点から学習し、併せてコミュニケーションスキルを習得するためのグループワークを体験する。※「認定心理士」資格では、「選択科目h」（社会心理学・産業心理学）に区分される科目である。

2. 学びの意義と目標

人間は、他者とのコミュニケーションの中で生きている。良好な人間関係や信頼関係の形成に有効なコミュニケーションについて、多角的に学ぶ。またコミュニケーションの技能を修得し、実践する手がかりを学ぶ。

受講生に対する要望

演習やワークを行うので積極的に参加すること

キーワード

(1)コミュニケーション (2)自己認識

事前学習（予習）

授業計画を参照し、扱われるトピックスについて情報を収集しておく。

復習についての指示

各トピックスについてキーワード、概要をまとめておく。

授業計画

1. ガイダンス
2. コミュニケーションとは何か
3. コミュニケーションの構成要素
4. 非言語的コミュニケーション①
5. 非言語的コミュニケーション②
6. 自己認識・対人関係とコミュニケーション①
7. 自己認識・対人関係とコミュニケーション②
8. アサーティブなコミュニケーション
9. コミュニケーションによる人間形成
10. 説得的コミュニケーション
11. マスコミュニケーション①
12. マスコミュニケーション②
13. 文化とコミュニケーション①
14. 文化とコミュニケーション②
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 平常点:60%:出席、ディスカッションやワーク等への参加度
- (2) 学期末試験:40%

担当者：大橋 良枝

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、
「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(D学科)：選択科目

講義概要

1. 内容

講義形式。講師が用意した事例資料と講義資料を用いる。小レポートの提出を求め、習熟度が評価される。

2. 学びの意義と目標

職業、産業心理臨床について、集団心理学的、個人心理学的観点から接近し、これらを理解することを目指す。また現代の社会的問題についてもとりあげ、その発生要因・介入方法について心理学的に理解する。

受講生に対する要望

身の回りの集団に対して関心を払って観察をしてみしてほしい。

キーワード

(1) 集団力動と個人力動 (2) アイデンティティ (3) 集団所属 (4) ライフイベント

事前学習（予習）

事前に指定された図書読んでおくことが望ましい。また、授業計画を参照し、扱われるキーワードを調べておくこと。

復習についての指示

配布プリントを再読し、次のレポート作成に備えること。

授業計画

1. 産業心理学概論
2. 個人と集団①(集団力動と個人力動)
3. 個人と組織②(集団病理と個人病理)
4. 個人と組織③(協働と競争)
5. 個人と組織④(リーダーシップとワークグループ)
6. 個人にとっての職業①(自我同一性発達と職業選択)
7. 個人にとっての職業②(忠誠心発達)
8. 個人にとっての職業③(中年期危機)
9. 個人にとっての職業④(女性のキャリア)
10. 産業心理臨床①(ストレスコーピング・ソーシャルサポート)
11. 産業心理臨床②(鬱と自殺)
12. 産業心理臨床③(リーダーシップとエディプス葛藤)
13. 現代の問題①
14. 現代の問題②
15. まとめ

教科書

プリントを配布する
ISEN978-4990422509 小谷英文著 「ダイナミック・コーチングー個人と組織の変革ー」 PAS心理教育研究所出版部を事前に読んでおくことが望ましい。

評価方法

- (1) 出席:70% (2) 3回の小レポート提出、期末試験:30%

視覚障害児の教育総論

TEAT-D-200

担当者：永井 伸幸

開設期：秋学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける。
「こども期」の発達に影響する環境や文化を学び、学習と発達を支援する技能を修得する

カリキュラム上の位置付け

特別支援学校教諭一種免許：必修科目

講義概要

1. 内容

視覚障害は視力、視野、色覚等の視機能の永続的低下である。視覚障害を生理的、知覚心理学的に理解するには、視機能や視知覚特性の基本的な理解が必要である。また、聴覚や触覚の特性の理解も必要である。そうした知覚、生理の基礎を踏まえた上で視覚障害と関連の深い代表的な眼疾患について学び、加えて彼らに対する教育課程並びに指導法の在り方を探り、理解を深める。

2. 学びの意義と目標

1) 視覚系の構造、機能、病態生理を理解できる。2) 視覚障害の概念、定義、分類を理解できる。3) 視覚障害の心理特性を理解できる。4) 視覚障害教育の課程、内容、指導方法について具体的に理解できる。これらを通して、特別支援教育に携わる教育者にとって必要となる視覚障害児への心理・生理・病理に関する知識を得、また、教育的な技能を身につけることで、教育の場で実際に技能を活用できる教員の育成を図る。

受講生に対する要望

視覚障害の児童生徒への教育に必要な内容で。講義にしっかりと集中してほしい。

キーワード

(1)心理特性 (2)視覚系の生理・病理 (3)教育制度・カリキュラム編成 (4)指導方法

事前学習（予習）

視覚系の構造と機能については、事前学習として調べておくこと。

復習についての指示

講義内容についてはその都度、各自、振り返り、理解が不足している部分については復習してほしい。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 視覚障害の生理・病理 (1) 視覚系の構造
3. 視覚障害の生理・病理 (2) 視機能 (視力、視野等)
4. 視覚障害の生理・病理 (3) 視覚障害と眼疾患
5. 視覚障害児の心理 (1) 心理的適応
6. 視覚障害児の心理 (2) 聴覚と空間概念
7. 視覚障害児の心理 (3) 触覚と体性感覚
8. 視覚障害児の就学の基準と学びの場
9. 視覚障害特別支援学校 (盲学校) における教育の特徴 (カリキュラム編成を含む)
10. 視覚障害児の指導法 (1) 視覚障害と点字
11. 視覚障害児の指導法 (2) 視覚障害と歩行
12. 視覚障害児の指導法 (3) 弱視児に対する指導の配慮
13. 視覚障害児の指導法 (4) 弱視児に対する拡大の方策
14. 重複障害児の指導
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 授業態度 (発表、小レポート) : 30% (2) テスト : 70%

肢体不自由児指導法

TEAT-D-200

担当者：春木 豊

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける。
「こども期」の発達に影響する環境や文化を学び、学習と発達を支援する技能を修得する

カリキュラム上の位置付け

特別支援学校教諭一種免許：必修科目

講義概要

1. 内容

肢体不自由教育では、児童生徒の障害が重度・重複化してきている。本講義内容は、歴史的概観を通して、肢体不自由児の現在の重度・重複化した児童生徒の教育的ニーズが把握できるように構成している。また、教育課程編成に関する基本的考え方を述べた上で、各教科の指導、自立活動での支援など具体的な指導法が身につく構成としている。最後に、個別のニーズに配慮しながら指導計画を立案し、また多職種との連携を視野にいれた教育実践ができるための基本的な内容を伝える講義構成としている。

2. 学びの意義と目標

1) 肢体不自由教育の歴史の概観を通して肢体不自由児の特別な教育ニーズを理解できる。2) 特別支援教育（肢体不自由）の教育課程を理解できる。3) 具体的な指導方法を学び、指導計画および個別の指導計画の立案ができる。4) 他職種との連携を視野にいれた肢体不自由児の教育の必要性を理解できる。これらを通して、特別支援教育に携わる教育者にとって必要となる肢体不自由児への教育に関する技能を身につけ、教育の場で技能を実際に活用できる教員の育成を図る。

受講生に対する要望

肢体不自由児者にかかわる機会を積極的に持つようにしてほしい。

キーワード

(1) 肢体不自由 (2) 特別支援教育 (3) 自立活動 (4) 多職種との連携

事前学習（予習）

授業計画を参照し、扱われるトピックについて新聞等で情報を集めておく。

復習についての指示

配布プリント等を参照し、授業内容をA4 1枚程度に要約し、理解を深めるようにすること。

授業計画

1. 肢体不自由教育の発展と特徴
2. 肢体不自由の子どもと特別な教育的ニーズ
3. 肢体不自由児と教育相談
4. 肢体不自由児に対応した教育課程編成の基本的な考え方について
5. 肢体不自由児に対応した教育課程編成 特別支援学校
6. 肢体不自由児に対応した教育課程編成 特別支援学級、通級による指導
7. 各教科等の指導の工夫（幼稚部、教材研究を含む）
8. 各教科等の指導の工夫（小学部・中学部、教材研究を含む）
9. 各教科等の指導の工夫（高等部、教材研究を含む）
10. 進路指導と職業教育について
11. 自立活動 肢体不自由児にとっての自立の意味、ねらいと内容
12. 自立活動 ICF関連モデルの活用と個別指導計画
13. 自立活動 個別指導計画の立案（事例を通して）
14. 個別指導計画に基づいた模擬講義
15. 医療領域との連携による医療的ケアまとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 講義内容に関するテスト:60% (2) レポート:40%

肢体不自由児の心理

PSYC-D-200

担当者：川間 健之介

開設期：春学期集中 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける。
「こども期」の発達に影響する環境や文化を学び、学習と発達を支援する技能を修得する

カリキュラム上の位置付け

特別支援学校教諭一種免許：必修科目

講義概要

1. 内容

本講義内容は、まず初めに運動障害（肢体不自由）が生じる発生機序を生理・病理学的に理解し、また、運動障害を引き起こす疾患についての理解ができるように構成されている。その上で、障害が発達に及ぼす心理的影響と、中途障害の場合の自己概念の変容がもたらす心理的影響が理解できる。運動障害（肢体不自由）児へのアセスメントの基礎を学び支援を考えることが出来る構成としている。

2. 学びの意義と目標

1) 運動機能に関して生理学的に理解し、運動機能障害（肢体不自由）をもたらし病理解をできる。2) 運動機能障害（肢体不自由）をもたらし疾患について理解できる。特に脳性まひについての理解ができる。3) 運動機能障害（肢体不自由）が及ぼす子どもの心理的発達への影響を理解できる。4) 運動機能障害（肢体不自由）が及ぼす人格への影響を理解できる。5) 運動機能障害（肢体不自由）のアセスメントと支援の方法について理解できる。これらを通して、特別支援教育に携わる教育者にとって必要となる肢体不自由児の心理特性に関する知識を得、教育の場で知識を実際に活用できる教員の育成を図る。

受講生に対する要望

特別支援教諭を目指す者として、学ぶ姿勢に責任をもって望んでほしい。

キーワード

(1) 肢体不自由とは (2) 中枢神経系・末梢神経系の理解 (3) 脳性麻痺 (4) 心理特性の理解 (5) 支援の実際

事前学習（予習）

授業で指示された用語等は、事前に調べる事

復習についての指示

講義内容を振り返り、疑問に思った内容をについては、再度、復習する。

授業計画

1. 肢体不自由とは
2. 運動機能の障害 中枢神経系・末梢神経系の構造と働き
3. 運動機能の障害 肢体不自由の発生機序について
4. 肢体不自由を起こす疾患 脳性疾患、脊椎・脊髄疾患、骨疾患、関節疾患、形態異常等
5. 肢体不自由を起こす疾患 脳性まひについて
6. 運動障害が子どもの発達に及ぼす影響 運動と認知
7. 運動障害が子どもの発達に及ぼす影響 社会性
8. 脳性まひ児の認知特性
9. 言語・パーソナリティー・学力
10. 中途障害者の心理過程
11. リハビリテーションプロセスとその課題
12. 運動障害のアセスメントについて 医学的側面からの把握
13. 運動障害のアセスメントについて 心理的・教育的側面からの把握
14. 運動障害児の支援について（1）視知覚の特性に配慮した教科指導
15. 運動障害児の支援について（2）身体を通したコミュニケーション指導

教科書

長崎 勤、前川 久男 『障害理解のための心理学 シリーズ 障害科学の展開 障害をととしての人間理解、共に生きるための障害支援（シリーズ障害科学の展開—障害をととしての人間理解、共に生きるための障害支援）』（明石書店）宮本 信也、竹田 一則 『障害理解のための医学・生理学 シリーズ 障害科学の展開 障害をととしての人間理解、共に生きるための障害支援（シリーズ 障害科学の展開—障害をととしての人間理解、共に生きるための障害支援）』（明石書店）

評価方法

- (1) 講義内容に関するテスト:60% (2) 課題レポート:40%

肢体不自由児の心理・生理・病理

PSYC-D-200

担当者：川間 健之介

開設期：春学期集中 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける。
「こども期」の発達に影響する環境や文化を学び、学習と発達を支援する技能を修得する

カリキュラム上の位置付け

特別支援学校教諭一種免許：必修科目

講義概要

1. 内容

本講義内容は、まず初めに運動障害（肢体不自由）が生じる発生機序を生理・病理学的に理解し、また、運動障害を引き起こす疾患についての理解ができるように構成されている。その上で、障害が発達に及ぼす心理的影響と、中途障害の場合の自己概念の変容がもたらす心理的影響が理解できる。運動障害（肢体不自由）児へのアセスメントの基礎を学び支援を考えることが出来る構成としている。

2. 学びの意義と目標

1) 運動機能に関して生理学的に理解し、運動機能障害（肢体不自由）をもたらし病理を理解できる。2) 運動機能障害（肢体不自由）をもたらし疾患について理解できる。特に脳性まひについての理解ができる。3) 運動機能障害（肢体不自由）が及ぼす子どもの心理的発達への影響を理解できる。4) 運動機能障害（肢体不自由）が及ぼす人格への影響を理解できる。5) 運動機能障害（肢体不自由）のアセスメントと支援の方法について理解できる。これらを通して、特別支援教育に携わる教育者にとって必要となる肢体不自由児の心理特性に関する知識を得、教育の場で知識を実際に活用できる教員の育成を図る。

受講生に対する要望

特別支援教諭を目指す者として、学ぶ姿勢に責任をもって望んでほしい。

キーワード

(1) 肢体不自由とは (2) 中枢神経系・末梢神経系の理解 (3) 脳性麻痺 (4) 心理特性の理解 (5) 支援の実際

事前学習（予習）

授業で指示された用語等は、事前に調べる事

復習についての指示

講義内容を振り返り、疑問に思った内容をについては、再度、復習する。

授業計画

1. 肢体不自由とは
2. 運動機能の障害 中枢神経系・末梢神経系の構造と働き
3. 運動機能の障害 肢体不自由の発生機序について
4. 肢体不自由を起こす疾患 脳性疾患、脊椎・脊髄疾患、骨疾患、関節疾患、形態異常等
5. 肢体不自由を起こす疾患 脳性まひについて
6. 運動障害が子どもの発達に及ぼす影響 運動と認知
7. 運動障害が子どもの発達に及ぼす影響 社会性
8. 脳性まひ児の認知特性
9. 言語・パーソナリティ・学力
10. 中途障害者の心理過程
11. リハビリテーションプロセスとその課題
12. 運動障害のアセスメントについて 医学的側面からの把握
13. 運動障害のアセスメントについて 心理的・教育的側面からの把握
14. 運動障害児の支援について（1）視知覚の特性に配慮した教科指導
15. 運動障害児の支援について（2）身体を通したコミュニケーション指導

教科書

長崎 勤、前川 久男 『障害理解のための心理学 シリーズ 障害科学の展開 障害をとらえる人間理解、共に生きるための障害支援（シリーズ障害科学の展開—障害をとらえる人間理解、共に生きるための障害支援）』（明石書店）宮本 信也、竹田 一則 『障害理解のための医学・生理学 シリーズ 障害科学の展開 障害をとらえる人間理解、共に生きるための障害支援（シリーズ 障害科学の展開—障害をとらえる人間理解、共に生きるための障害支援）』（明石書店）

評価方法

- (1) 講義内容に関するテスト:60% (2) 課題レポート:40%

担当者：西村 洋一

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、
「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(D学科)：選択科目

講義概要

1. 内容

社会心理学分野は自己、他者、そして集団やコミュニティにおいて生起する諸問題について、実証科学的な視点から分析していくことを目指している。講義では、個人の行動から組織の行動、群集行動や国民全体の行動まで社会学的視点から解説していく。

2. 学びの意義と目標

社会心理学の幅広い知識・技術を学ぶだけでなく、それらに基づいて、自ら研究を計画し、データを収集・解析し、論文を作成する実証研究を実際に推進できる力を身につける。日常の出来事を自ら積極的に捉え直し、実際の諸問題の問題解決に取り組む力を伸ばしていく。

受講生に対する要望

授業に関連する新聞記事に目を通して情報収集しておく。 関連用語を事典で調べておく。

キーワード

(1) 自己 (2) 対人認知 (3) 対人魅力 (4) 社会的影響 (5) インターネット利用

事前学習（予習）

参考書等を用いて講義内容に関連するテーマについてあらかじめ調べておくこと。

復習についての指示

講義内容をまとめた上で関心を持ったことや疑問点について調べ、自ら深めること。

授業計画

1. 社会心理学とは?
2. 社会心理学の歴史的な実験
3. 社会の中の個人①
4. 社会の中の個人②
5. 対人認知と行動①
6. 対人認知と行動②
7. コミュニケーション
8. 集団過程
9. 集合現象
10. 集団と組織
11. 文化と人間の心理①
12. 文化と人間の心理②
13. 文化と人間の心理③
14. 社会現象・社会問題の心理
15. 社会問題への対応

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) レポート:20%:講義日ごとに実施 (2) 期末試験:80%

レポートは講義への参加度を測るものとして実施するため、講義内容に関連して発せられる「問い」を重視し、評価を行う。

障害児(者)心理学

PSYC-D-200

担当者：石川 由美子

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、
「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(D学科)：選択科目

講義概要

1. 内容

障害の概念及び、障害がおよぼす心理的影響の理解。それぞれの障害の物語を通して、障害とともに生きる人の心理・行動特性の形成過程を理解し、その支援の方法を学習する。また、それぞれの障害の物語を通し、障害があるから単に支援が必要である存在という短絡的な理解ではなく、障害があるからこそ導かれる人格形成があるというスピリチュアルな気づきに繋げる。※「認定心理士」資格では、「選択科目g」（臨床心理学・人格心理学）に区分される科目である。

2. 学びの意義と目標

本講義は、障害の概念および障害が及ぼす心理的影響を学んだ後、主要な障害を持つ事例の物語を通して、各障害の心理・行動特性を学ぶことができるように構成している。この学びによって障害とともに生きる人々に対しての心理的配慮を要する心理的ケアの基盤を学ぶことができる。

受講生に対する要望

障害があるから、ではない。生きているということがかけがえのないことである。その基盤の上での学びであってほしい。

キーワード

(1)障害とは (2)物語 (3)心理特性 (4)行動特性

事前学習（予習）

講義で指示した用語等について、調べてきてほしい。

復習についての指示

物語、心理特性、行動特性というキーワードをもとに、各講義内容を振り返ってほしい。

授業計画

1. 障害とは（障害と生きるかたちの視点（文化・社会、他者—自己）
2. 障害が及ぼす心理的影響
3. 視覚障害のAさんの物語
4. 視覚障害の心理特性・行動特性と支援
5. 聴覚障害のBさんの物語
6. 聴覚障害の心理特性・行動特性と支援
7. 肢体不自由のCさんの物語
8. 肢体不自由の心理特性・行動特性と支援
9. 病弱のDさんの物語
10. 病弱の心理特性・行動特性
11. 知的障害のEさんの物語
12. 知的障害の心理特性・行動特性とその支援
13. 発達障害のFさんの物語
14. 発達障害の心理特性・行動特性とその支援
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する
【参考書】「障害児心理入門」（井澤信三・小島道夫生著／ミネルヴァ書房.）、「発達障害の臨床心理学」（東條吉邦・大六一志・丹野吉彦編著.／東京大学出版会）

評価方法

(1)講義内容の知識確認テスト:60% (2)授業内での発言と参加態度:20% (3)ミニレポート課題:20%

障害児教育総論

TEAT-D-100

担当者：吉田 昌義，岡澤 慎一，金澤 貴之，川間 健之介，永井 伸幸，米田 宏樹

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける。
「こども期」の発達に影響する環境や文化を学び、学習と発達を支援する技能を修得する

カリキュラム上の位置付け

特別支援学校教諭一種免許：必修科目

講義概要

1. 内容

特別支援教育・障害児教育の歴史的展開を概観するとともに、特別支援教育が目指すべき教育制度・実践について講義する。さらに、特別支援教育の現状について障害種別ごとに定義や診断、就学、教育の概要を理解し、全体像を把握する。

2. 学びの意義と目標

1) 特別支援教育の目指すべき目標・理念について理解することができる。2) 特別支援教育体制における学校経営、学級経営、指導の実際を知ることができる。3) 特別支援教育に関する法律・制度等を理解することができる。4) 特別支援教育の現状について、障害種別ごとに概要を理解し、述べることができる。これらを通して、障害の概要及び特別支援教育全体を理解し、教育者にとって基盤となる知識ならびに価値観と、人格の育成を図る。

受講生に対する要望

障害のある子どもの教育の現状と問題点を知識として得るだけでなく、自らの問題意識へと発展させていくことを期待する。

キーワード

事前学習（予習）

テキストの指定された箇所を事前に読んでおくこと。

復習についての指示

配布される資料を見直し、授業内容についての理解と考察を深めておくこと。

授業計画

1. 特別支援教育の歴史と理念（担当：米田）
2. 特別支援教育制度の成果と限界（担当：米田）
3. 特別な教育的ニーズとインクルーシブ教育の提起（担当：米田）
4. 日本的インクルーシブ教育としての特別支援教育（担当：吉田）
5. 特別支援教育コーディネーター、個別的教育支援計画、校内支援体制（保護者支援を含む）（担当：吉田）
6. 学校教育法、同施行規則、同施行令（学校教育制度、就学指導、学習指導要領等）（担当：吉田）
7. 障害児の教育の概要（特別支援学校、特別支援学級、通級による指導、通常学級；個別教育支援計画、個別指導計画（担当：吉田）
8. 障害種別ごとの教育の概要（視覚障害）（担当：永井）
9. 障害種別ごとの教育の概要（聴覚障害）（担当：金澤）
10. 障害種別ごとの教育の概要（知的障害）（担当：吉田）
11. 障害種別ごとの教育の概要（肢体不自由）（担当：川間）
12. 障害種別ごとの教育の概要（病弱・身体虚弱）（担当：岡澤）
13. 障害種別ごとの教育の概要（重複障害）（担当：岡澤）
14. 障害種別ごとの教育の概要（発達障害）（担当：吉田）
15. 理解推進（担当：吉田）

教科書

吉田 昌義，鳥居 深雪 『特別支援教育基礎論（放送大学教材）』（放送大学教育振興会）

評価方法

- (1) 課題レポート：20% (2) 講義内容の確認テスト：80%

障害児療育論

TEAT-D-200

担当者：石川 由美子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける。
「こども期」の発達に影響する環境や文化を学び、学習と発達を支援する技能を修得する

カリキュラム上の位置付け

特別支援学校教諭一種免許：必修科目

講義概要

1. 内容

本講義は、主に障害のある幼児に対する療育と指導の方法について学ぶことを目的とする。講義は、以下のように構成されている。まず第一に、障害幼児の療育と指導方法を学ぶ基盤として、健常乳幼児の生活について生活習慣および遊びの観点から学ぶ。第二に、幼児期の子どもの発達特徴と集団生活という環境の特性を理解したうえで、保育所保育指針・幼稚園教育要領から、発達を促す環境構成とその指導の要領を学ぶことで、インクルーシブ教育の中での障害幼児の生活とその支援について考察を深める。そして第三に、教育的ニーズのある幼児に対する個別支援計画の立案と、具体的な指導に結びつく教材等について学ぶ。最後に、障害を理解するうえでの基本知識及び療育に必要なケアの方法、具体的指導方法を学ぶ。

2. 学びの意義と目標

1) 乳幼児期の子どもの生活習慣に関する知識を学びまた遊びの意義について理解できる。2) 乳幼児期の子どもの生活環境について保育所保育指針・幼稚園教育要領から学ぶことができる。3) 教育課程編成の基本的な考え方と障害児への保育の考え方を理解できる。4) 障害児のケアのための基礎知識と実際の指導法について具体的に学ぶ。以上の学習により特別支援教諭に求められる、乳幼児期に必要なケアと指導の具体的方法について学ぶことができる。同時に、これらを通して、特別支援教育に携わる教育者にとって必要となる乳幼児期の子どもの生活に関する知識、生活にかかわる活動への援助、そしてケアに関する具体的な技能を身につけ、教育の場で技能を実際に活用できる教員の育成を図る。

受講生に対する要望

障害幼児に焦点を当てた授業は、本講義だけである。幼児期の支援は、特別支援教育では、基本をなすものである。しっかりと学んでほしい。

キーワード

(1)子どもとは (2)乳幼児期の子どもの生活理解 (3) I C F (4) 幼稚園教育要領・保育所保育指針とは (5)障害幼児の理解と支援

事前学習（予習）

学習しなければならない内容が多い講義であるため、指示された事前学習は、確実にして講義に出席してください

復習についての指示

講義後、理解が不十分と思われた内容については、復習をすること。

授業計画

1. オリエンテーション、子どもの健康の概念、乳幼児期の子どもの生活（1）食事・排泄
2. 乳幼児期の子どもの生活（2）衣服・清潔
3. 乳幼児期の子どもの生活（3）睡眠、生活習慣についてのまとめ
4. 乳幼児期の子どもの生活（4）遊び
5. ICFにおける障害の捉え方、「共生社会の形成」へ向けてのインクルーシブ教育システムの構築の意義（主に幼児教育において）
6. 保育所保育指針および幼稚園教育要領に描かれる保育および障害保育
7. 教育課程編成の基本的な捉え方および障害児への保育の考え方
8. 保育形態と障害児保育
9. 保育の中での障害児への援助（地域連携、多職種連携など）
10. 保育の中での支援：自然主義アプローチについて（教育的ニーズとその個別支援計画）
11. 障害幼児の発達を支える教材：絵本等の活用と支援計画について
12. 障害についての生理・病理的知識の理解（1）中枢・末梢神経系についての理解、知的障害・発達障害等
13. 障害についての生理・病理的知識の理解（2）てんかん
14. 障害児のケアおよび指導法（1）生活習慣
15. 障害児のケアおよび指導法（2）遊び

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)講義内容に関する知識の確認テスト：60% (2)子どもの遊びに関する課題レポート：40%

障害幼児指導法

TEAT-D-200

担当者：石川 由美子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける。
「こども期」の発達に影響する環境や文化を学び、学習と発達を支援する技能を修得する

カリキュラム上の位置付け

特別支援学校教諭一種免許：必修科目

講義概要

1. 内容

本講義は、主に障害のある幼児に対する療育と指導の方法について学ぶことを目的とする。講義は、以下のように構成されている。まず第一に、障害幼児の療育と指導方法を学ぶ基盤として、健常乳幼児の生活について生活習慣および遊びの観点から学ぶ。第二に、幼児期の子どもの発達特徴と集団生活という環境の特性を理解したうえで、保育所保育指針・幼稚園教育要領から、発達を促す環境構成とその指導の要領を学ぶことで、インクルーシブ教育の中での障害幼児の生活とその支援について考察を深める。そして第三に、教育的ニーズのある幼児に対する個別支援計画の立案と、具体的な指導に結びつく教材等について学ぶ。最後に、障害を理解するうえでの基本知識及び療育に必要なケアの方法、具体的指導方法を学ぶ。

2. 学びの意義と目標

1) 乳幼児期の子どもの生活習慣に関する知識を学びまた遊びの意義について理解できる。2) 乳幼児期の子どもの生活環境について保育所保育指針・幼稚園教育要領から学ぶことができる。3) 教育課程編成の基本的な考え方と障害児への保育の考え方を理解できる。4) 障害児のケアのための基礎知識と実際の指導法について具体的に学ぶ。以上の学習により特別支援教諭に求められる、乳幼児期に必要なケアと指導の具体的方法について学ぶことができる。同時に、これらを通して、特別支援教育に携わる教育者にとって必要となる乳幼児期の子どもの生活に関する知識、生活にかかわる活動への援助、そしてケアに関する具体的な技能を身につけ、教育の場で技能を実際に活用できる教員の育成を図る。

受講生に対する要望

障害幼児に焦点を当てた授業は、本講義だけである。幼児期の支援は、特別支援教育では、基本をなすものである。しっかりと学んでほしい。

キーワード

(1)子どもとは (2)乳幼児期の子どもの生活理解 (3) I C F (4) 幼稚園教育要領・保育所保育指針とは (5)障害幼児の理解と支援

事前学習（予習）

学習しなければならない内容が多い講義であるため、指示された事前学習は、確実にして講義に出席してください

復習についての指示

講義後、理解が不十分と思われた内容については、復習をすること。

授業計画

1. オリエンテーション、子どもの健康の概念、乳幼児期の子どもの生活（1）食事・排泄
2. 乳幼児期の子どもの生活（2）衣服・清潔
3. 乳幼児期の子どもの生活（3）睡眠、生活習慣についてのまとめ
4. 乳幼児期の子どもの生活（4）遊び
5. ICFにおける障害の捉え方、「共生社会の形成」へ向けてのインクルーシブ教育システムの構築の意義（主に幼児教育において）
6. 保育所保育指針および幼稚園教育要領に描かれる保育および障害保育
7. 教育課程編成の基本的な捉え方および障害児への保育の考え方
8. 保育形態と障害児保育
9. 保育の中での障害児への援助（地域連携、多職種連携など）
10. 保育の中での支援：自然主義アプローチについて（教育的ニーズとその個別支援計画）
 11. 障害幼児の発達を支える教材：絵本等の活用と支援計画について
 12. 障害についての生理・病理的知識の理解（1）中枢・末梢神経系についての理解、知的障害・発達障害等
 13. 障害についての生理・病理的知識の理解（2）てんかん
 14. 障害児のケアおよび指導法（1）生活習慣
 15. 障害児のケアおよび指導法（2）遊び

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)講義内容に関する知識の確認テスト：60% (2)子どもの遊びに関する課題レポート：40%

担当者：齊藤 理砂子

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：保健必修科目、
中学校教諭一種免許：保健必修科目

講義概要

1. 内容

本講義は、学童・思春期のこどもの健康問題に重点を置き、特徴的な感染症や慢性疾患を取り上げ、それらの病態生理やこどもの心理、支援について概説する。これらの学習を通じて、体調不良を訴えてくるこどもの支援や慢性疾患、障がいを持って学校に通学しているこどもの支援について実践できる能力を養う。

2. 学びの意義と目標

1. こどもの身体的機能を理解する。2. 学校感染症の特徴と支援について説明できる。3. こどもの主なアレルギー疾患の特徴と支援について説明できる。4. こどもの主な慢性疾患の病態と支援について説明できる。5. こどもの眼疾患、耳鼻咽喉頭疾患の病態と支援について説明できる。以上により、こども期の健康の維持・増進に働きかけるための実践的な知識・技能を身につける。

受講生に対する要望

積極的に授業に参加し、現場に活かせるよう知識を習得してください。

キーワード

(1)小児保健 (2)こどもの健康課題

事前学習（予習）

事前に指示される内容について調べておくこと。

復習についての指示

指示された内容について学習すること。

授業計画

1. こどもの身体の解剖生理①（筋骨格・目・耳・歯）（目標1）
2. こどもの身体の解剖生理②（内臓の生理機能）（目標1）
3. こどもの健康状態の把握（目標1）
4. 学校感染症①（第1種－エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱等）（目標2）
5. 学校感染症②（第2種－インフルエンザ〈鳥インフルエンザを除く〉、百日咳等）
6. 学校感染症③（第3種－コレラ、細菌性赤痢等）（目標2）
7. こどものアレルギー疾患①（気管支喘息、アトピー性皮膚炎）（目標3）
8. こどものアレルギー疾患②（食物アレルギー、アナフィラキシーショック）（目標3）
9. こどもの腎疾患①（糸球体腎炎・尿路感染症）（目標4）
10. こどもの腎疾患②（ネフローゼ症候群・尿検査）（目標4）
11. こどもの心疾患①（先天性心疾患）（目標4）
12. こどもの心疾患②（川崎病・不整脈と心電図）（目標4）
13. こどもの糖尿病と肥満（目標4）
14. こどもの眼疾患・耳鼻咽喉疾患（目標5）
15. 小児保健学のまとめ（目標1～5）

教科書

衛藤 隆 『新世紀の小児保健』（日本小児医事出版社）

評価方法

(1)授業への参加及び筆記試験：60% (2)定期試験：40%

担当者：井上 知洋

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ。
「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(D学科)：選択科目

講義概要

1. 内容

認知・行動・情動といった人間の心の働き、および脳の損傷によって生じるその障害についての基礎心理学的な知識や考え方を学ぶ。また、その障害に対するリハビリテーションなどの介入方法の考え方や具体的な方法についても合わせて学ぶこととする。

2. 学びの意義と目標

心理学の生物学的な基盤について、特に人間の心の働きの不調を理解する上で役立つ知識を身につけることができる。

受講生に対する要望

基本的な概念や用語の予習・復習を行い、覚える努力をすることが必要となる。知的的好奇心旺盛な姿勢を期待する。

キーワード

(1)知覚・認知 (2)感情・意欲・動機づけ (3)障害 (4)リハビリテーション

事前学習（予習）

講義に先だち、各回のテーマと用語について事前に調べておくこと。

復習についての指示

基本的な概念や用語の復習を行い、覚える努力をすること。

授業計画

1. ガイダンス
2. 神経心理学の目的と方法
3. 脳の解剖学的基礎
4. 知覚・認知① 視覚失認
5. 知覚・認知② 聴覚失認
6. 空間 半側空間無視
7. 行為 失行
8. 記憶① 短期記憶障害・ワーキングメモリ障害
9. 記憶② エピソード記憶障害・意味記憶障害・手続き記憶障害
10. 言語① 失語
11. 言語② 失読・失書・計算障害
12. 注意障害・実行機能障害
13. 感情、意欲、動機づけの障害
14. 神経心理学に基づくリハビリテーション
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)発表、小レポート:60% (2)試験:40%

心理学概論

PSYC-0-102

担当者：山田 麻有美, 井上 知洋

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ。
心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ。
「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

社会福祉主事任用資格：選択科目、
認定心理士認定資格(D学科)：基礎科目

講義概要

1. 内容

本講義では、初めて心理学を学ぶ人が、実証科学としての心理学を深く理解することを目的に、心理学の歴史、知覚とはなにか、学習と記憶のメカニズム、思考と推理の心理学的過程、人の行動と動機づけ・情動との関連、個人の多様性ないし個人差などの代表的な研究を紹介し、心理学の基礎的な考え方を講義していく。
※「認定心理士」資格では、「基礎科目a」（心理学概論）に区別される科目である。

2. 学びの意義と目標

心理学という学問の考え方や実証科学としての研究の方法などを学び、心理学の学びの基礎の形成を目指す。

受講生に対する要望

各回の学びを確実にしてください

キーワード

事前学習（予習）

授業終了時に指示する課題に沿って行なうこととする。

復習についての指示

授業開始時に前回の授業内容の確認を行うので準備しておくこと。

授業計画

1. 講義の進め方
2. 心理学とは何か
3. 心理学の学問的背景と科学としての心理学の目標
4. 私たちの心に入ってくるものとは？—私たちが見えている世界—
5. 知覚の限界
6. 私たちの心にとどまるものとは？—学習と学習—
7. 心の中にあるものの使い方①—思考と推論—
8. 心の中にあるものの使い方②—言語の使用—
9. なぜ私たちはそうするのか—動機と情動—
 10. 発達
 11. 個人差
 12. 物事がうまくいかないと感じる時
 13. 人と人のかかわり
 14. 心理学の目的
 15. まとめと理解度の確認

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席状況による評価 (10%) :10% (2)参加度評価:30%:授業に出される質問への応答や課題に対する評価 (3)理解度確認による評価:60%:最終回に行なう

担当者：大橋 良枝

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、
「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(D学科)：基礎科目

講義概要

1. 内容

①人の心と行動を実証的に研究する論理はどうなっているのか、②1世紀余にわたる心理学の研究の歴史のなかでその論理はどのような変遷をへて現在のようになってきたのか、そして、③今、心理学は、研究方法論の百花繚乱期をむかえているが、実験法から質的研究法まで、どのような方法論と技法が何を明らかにするためにどのように使われているかを紹介する。

2. 学びの意義と目標

自然科学と違って、心という科学的に非常に扱いにくい対象が、どうすれば科学になりうるのかを知ることが、受講生自らが、心についての妥当な認識を深めることにもつながるようになるために、心理学の多彩な研究法の背後にある研究の方法論（論理）を理解する。

受講生に対する要望

事前に、心理学概論と心理学実験演習、測定と評価を受講していることが望ましい。

キーワード

(1) 妥当性・信頼性

事前学習（予習）

授業計画を参照し、扱われるトピックについて調べておくこと。

復習についての指示

配布プリントを再読し、理解を深めておくこと。

授業計画

1. ガイダンス
2. 因果関係の検討：実験室実験法
3. モデル検討：モデル論的アプローチ
4. 質問紙調査法
5. 心理尺度構成法
6. 観察法一般
7. フィールドワーク：ethnomethodologyとgrounded theory
8. 教育的介入法
9. アクションリサーチ
10. 事例介入研究
11. 心理検査法
12. 生理心理学的研究法
13. 比較心理学的方法
14. 心理学研究法のとまとめ
15. 心理学研究法と心理学研究の今後の展開

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 出席：40% (2) 期末試験：60%

心理学実験実習 A

PSYC-D-100

担当者：山田 麻有美, 井上 知洋, 大橋 良枝

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(D学科)：基礎科目

講義概要

1. 内容

心理学の基礎的な実験としてよく知られているものを取り上げる。知覚・認知・社会などの領域を中心に、実験・調査方法について、実験者（調査者）及び被験者（回答者）として参加体験する。実験器具の関係で、20名程度のグループに分かれて実習する。※「認定心理士」資格では、「基礎科目c」（心理学実験実習）に区分される科目である。

2. 学びの意義と目標

心理学における実験的研究の基礎を習得する。そのため、心理学の基礎実験・実習を経験するとともに、得られたデータを分析・考察してレポートに毎回まとめることを通じて、実験的技法・実証的手法の体系的な知識を確実に身につける。

受講生に対する要望

真摯な実験態度を望みます

キーワード

事前学習（予習）

毎回配布する次週の実験資料をもとに準備学習を行ってください

復習についての指示

実験後の課題を行ってください

授業計画

1. ガイダンス①
2. ガイダンス②
3. レポートのまとめ方①
4. レポートのまとめ方②
5. ミュラーリヤー①
6. ミュラーリヤー②
7. 結果処理方法指導および図表の記述方法指導①
8. 結果処理方法指導および図表の記述方法指導②
9. 触二点域①
10. 触二点域②
11. 重量弁別①
12. 重量弁別②
13. 両側性転移①
14. 両側性転移②
15. 系列位置効果①
16. 系列位置効果②
17. ストループ効果①
18. ストループ効果②
19. 古典的条件付け①
20. 古典的条件付け②
21. ワーキングメモリ①
22. ワーキングメモリ②
23. 要求水準①
24. 要求水準②
25. 好悪の条件付け①
26. 好悪の条件付け②
27. 集団式知能検査（京大NX）①
28. 集団式知能検査（京大NX）②
29. まとめ①
30. まとめ②

教科書

授業の中で指示する
【参考書】授業の中で指示する。

評価方法

(1) 出席状況：20% (2) レポート：80%

心理学実験実習B

PSYC-D-200

担当者：山田 麻有美, 村上 純子, 大橋 良枝

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、
「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(D学科)：基礎科目

講義概要

1. 内容

心理学の基礎的な実験のうち、やや応用的なものを取り上げる。知覚・認知・社会などの領域を中心に、実験・観察・調査等の方法について、実験・実習の実験者および研究対象者として参加体験する。実験器具の関係で、20名程度のグループに分かれて実習する。※「認定心理士」資格では、「基礎科目c」（心理学実験実習）に区分される科目である。

2. 学びの意義と目標

心理学における実験的研究の基礎を習得する。そのため、心理学の基礎実験・実習を経験するとともに、得られたデータを分析・考察してレポートに毎回まとめることを通じて、実験的技法・実証的手法の体系的な知識を確実に身につける。

受講生に対する要望

真摯な実験態度を望みます

キーワード

事前学習（予習）

毎回配布する次週の実験資料をもとに準備学習を行ってください

復習についての指示

実験後の課題を行ってください

授業計画

1. ガイダンス①
2. ガイダンス②
3. 心的回転①
4. 心的回転②
5. 仮現運動①
6. 仮現運動②
7. 概念学習①
8. 概念学習②
9. ゲーム理論①
10. ゲーム理論②
11. パーソナルスペース①
12. パーソナルスペース②
13. 生理指標①
14. 生理指標②
15. 脳計測①
16. 脳計測②
17. 半構造化面接法（K-J法による質問構成）①
18. 半構造化面接法（K-J法による質問構成）②
19. 半構造化面接法（面接実施）①
20. 半構造化面接法（面接実施）②
21. ビデオによる児童観察（観察基準の構成）①
22. ビデオによる児童観察（観察基準の構成）②
23. ビデオによる児童観察（観察実施）①
24. ビデオによる児童観察（観察実施）②
25. グループによる自由実験計画①
26. グループによる自由実験計画②
27. グループによる自由実験実施①
28. グループによる自由実験実施②
29. まとめ①
30. まとめ②

教科書

授業の中で指示する
【参考書】授業の中で指示する。

評価方法

(1)出席状況：20% (2)レポート：80%

心理学実験を対象としたコンピュータ実習

PSYC-D-100

担当者：渡辺 正人

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、
「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(D学科)：基礎科目、
認定心理士認定資格(D学科)：副次科目

講義概要

1. 内容

実習を中心として、データの整理・分析を行う。※「認定心理士」資格では、「基礎科目b」（心理学研究法）に区分される科目である。

2. 学びの意義と目標

心理学で行う実験で得られた各種のデータを、表計算ソフトを用いて集計し整理する方法を習得し、整理した実験の結果を表やグラフで表し、実験結果の考察に利用できる形で出力することができ、コンピューターを用いて心理学実験実習のレポートが作成する技術を身につけることが目的である。また、特に統計処理の際に、実際に直面しやすい困難として、統制の問題、標本数の問題などについても扱う。

受講生に対する要望

実習が多いので、集中して参加すること。

キーワード

(1)統計 (2)表計算ソフト (3)レポート作成

事前学習（予習）

各授業で使用するデータの準備、作業の確認。

復習についての指示

授業内で理解できなかったところは必ず確認しておくこと

授業計画

1. ガイダンス
2. エクセルの使用基本
3. 理論① 統制の問題と χ^2 二乗検定
4. 実習① 統制の問題と χ^2 二乗検定
5. ディスカッション① 統制の問題
6. 理論② 標本数の少ない計画と累積度数図相関
7. 実習② 標本数の少ない計画と累積度数図相関
8. ディスカッション② 標本数の問題
9. 実習③ 仮想データを用いた、t検定
10. 実習④ 仮想データを用いたANOVA
11. 実習⑤ 仮想データを用いたピアソンの積算相関
12. 実習⑥ 仮想データを用いた因子分析
13. 実習⑦ 仮想データを用いた単回帰分析
14. 実習⑧ 仮想データを用いた重回帰分析
15. まとめ

教科書

深谷 澄男、伊藤 尚枝、喜田 安哲 『心理学データのエクセル統計』（北樹出版）

評価方法

- (1) 各実習での作業に関する習熟度：100%

心理検査実習

PSYC-D-300

担当者：石川 由美子、井上 知洋

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(D学科)：選択科目

講義概要

1. 内容

子どものこころの発達や障害を理解する上で、心理検査は欠かすことのできない重要な道具である。本実習では、子どもの発達の評価に関連する基本的な心理検査について、講義と実習を通して学ぶ。また実際の事例の検討から検査結果の解釈の方法や、それを子どもの支援につなげる方法について学習する。子どもの発達とその障害に関する科目を履修し、基礎知識を習得していることが望ましい。

2. 学びの意義と目標

心理検査の目的と意義を理解し、正しく実施・採点を行うことができる。また、検査結果をもとに子どもの特性を分析・把握し、支援方法を考えることができる。

受講生に対する要望

検査の実習を多く取り入れるため、それらに積極的に参加すること。実習の前に、それぞれの検査の基本的な内容について調べておくことが望ましい。

キーワード

(1)心理検査 (2)言語発達検査 (3)知能検査 (4)認知機能検査

事前学習（予習）

各実習の事前に内容や用語等について調べておくことが望ましい。

復習についての指示

各実習の事後にレポートをまとめて提出すること。

授業計画

1. ガイダンス
2. 心理検査の歴史的背景
3. 心理検査の目的、方法、倫理的配慮
4. 言語発達検査（PVT-R絵画語い発達検査）①講義と実習
5. 言語発達検査（PVT-R絵画語い発達検査）②解釈とレポートの書き方
6. 知能検査（田中ビネー知能検査V）①講義と実習
7. 知能検査（田中ビネー知能検査V）②解釈とレポートの書き方
8. 知能検査（WISC-IV知能検査）①講義と実習
9. 知能検査（WISC-IV知能検査）②解釈とレポートの書き方
10. 知能検査（WISC-IV知能検査）②解釈とレポートの書き方
11. 認知機能検査（K-ABC心理教育アセスメントバッテリー）②解釈とレポートの書き方
12. 認知機能検査（DN-CAS認知評価システム）①講義と実習
13. 認知機能検査（DN-CAS認知評価システム）②解釈とレポートの書き方
14. 事例による学習
15. まとめ

教科書

前川 久男、梅永 雄二、中山 健 『発達障害の理解と支援のためのアセスメント』（日本文化科学社）

評価方法

(1)出席、実習、発表等の授業への参加の程度：60% (2)毎回の課題レポート：40%

担当者：山田 麻有美

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ。
「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(D学科)：選択科目

講義概要

1. 内容

こどもは、家庭・学校・職場などの集団の中で生きていく存在である。多様な社会文化的環境において、こども、特に児童は経験を積み重ね、独自の生き方を模索する。心身の成熟とともに個人差をもたらす、認知的・情動的・社会的な要因について学ぶ。※「認定心理士」資格では、「選択科目f」（教育心理学・発達心理学）に区分される科目である。

2. 学びの意義と目標

児童期の発達段階においてどのような課題が存在するか、また、その課題の達成のために、児童がどのような能力や資源を有しているか学ぶ。

受講生に対する要望

各回の学びを確実にしてください

キーワード

(1)発達理論 (2)発達課題 (3)愛着

事前学習（予習）

毎回出される予習課題を行って、講義の臨むこと

授業計画

1. ガイダンス
2. 発達理論①（エリクソンの発達理論）
3. 発達理論②（ピアジェの発達理論）
4. 児童期の発達課題と児童期の発達過程総論
5. 知的発達概論
6. 児童の学習
7. 愛着と人間関係—児童にとっての愛着
8. 対人関係の発達概論
9. 児童のコミュニケーションの発達
10. 児童を取り巻く環境
11. 教師と児童の関係
12. 児童のメンタルヘルス
13. 学校における児童の支援
14. 社会における児童の支援
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

復習についての指示

各回の授業の初めに、前回の確認を行うので、準備をしておくこと

評価方法

- (1)レポート:20% (2)試験:80%

情報処理演習 A

PSYC-D-200

担当者：渡辺 正人

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、
「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(D学科)：基礎科目、
認定心理士認定資格(D学科)：副次科目

講義概要

1. 内容

前半は初歩の統計学の理論とデータの提示の仕方について、また論文の書き方について学ぶ。また後半では、グループ演習の形式で、関心のある事項についてデータ収集・処理し、レポート化することとパワーポイントを用いたプレゼンテーションを行うことを課す。※「認定心理士」資格では、「基礎科目b」（心理学研究法）に区分される科目である。

2. 学びの意義と目標

心を数量化、情報化するという手続きを身につけるのに必要な知識、技術の基礎を身につける。また、心理学の論文において、数量化・情報化されたデータをどのように提示することが求められているかについても学習する。

受講生に対する要望

実習作業が多いので集中して受講すること。

キーワード

(1) 情報処理

事前学習（予習）

基本的操作は事前に確認しておくこと。

復習についての指示

授業で習うことだけでなく、何度も授業外で改訂を繰り返して、よりよい図化が可能なように習熟すること。

授業計画

1. ガイダンス
2. 情報処理概論① 測定の妥当性と信頼性・尺度の種類
3. 情報処理概論② 記述統計学①
4. 情報処理概論③ 記述統計学②
5. 情報処理理論④ 推定統計学①
6. 情報処理理論⑤ 推定統計学②
7. データの情報化① グラフとデータの関係
8. データの情報化② グラフの作成
9. 心理学論文の書き方①
10. 心理学論文の書き方②
11. 情報処理実習①（実際にグループで計画を立て、データを収集処理し、レポート化したうえで、プレゼンテーション）
12. 情報処理実習②
13. 情報処理実習③
14. 情報処理実習④
15. 発表会とまとめ

教科書

授業の中で指示する
【参考書】授業内で指示する。

評価方法

(1) 毎回、その時間の課題提出をし、その到達度などから総合的に評価：100%

情報処理演習B

PSYC-D-200

担当者：渡辺 正人

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、
「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(D学科)：基礎科目、
認定心理士認定資格(D学科)：副次科目

講義概要

1. 内容

理論の座学と並行して、教員が用意した仮想データや実際のデータをエクセルで処理することを重ねる。また、その結果については毎回レポートにまとめ、処理したデータを表現する能力を磨いていく。※「認定心理士」資格では、「基礎科目b」（心理学研究法）に区分される科目である。

2. 学びの意義と目標

心理学に必要な基礎的な統計処理をコンピューターで行うことができるようになること。具体的には、記述統計データのグラフ化、基礎的な推定統計（t検定、ANOVA、 χ^2 二乗検定、ピアソンの積算相関係数）の理解、使用、表現を身につけることである。

受講生に対する要望

実習作業が多いので集中して受講すること。

キーワード

(1) 情報処理

事前学習（予習）

基本的な操作は事前に確認しておくこと

復習についての指示

授業で習うことだけでなく、何度も授業外で改訂を繰り返して、よりよい図化が可能なように習熟すること。

授業計画

1. ガイダンス
2. 情報処理演習Aの復習テスト—記述統計データグラフ化の実施
3. テスト解説—記述統計データのグラフ化の復習
4. 推定統計学概説①
5. 推定統計学概説②
6. 理論① t検定の理論と表現方法
7. 実習① エクセルを用いたt検定の実際
8. 理論② ANOVAの理論と表現方法
9. 実習② エクセルを用いたANOVAの実際
10. 理論③ χ^2 二乗検定の理論と表現方法
11. 実習③ エクセルを用いた χ^2 二乗検定の実際
12. 理論④ ピアソンの積算相関係数の理論と表現方法
13. 実習④ エクセルを用いたピアソンの積算相関係数の実際
14. そのほか高度な統計手法とSPSS
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する
【参考書】授業内で指示する。

評価方法

(1) 毎回、その時間の課題提出をし、その到達度などから総合的に評価:100%

スピリチュアルケア入門

PANT-D-100

担当者：窪寺 俊之、伊能 忠嗣

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

こどもの人格と人権を尊重するゆるぎない価値観を持って社会貢献ができることを学ぶ

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

今、スピリチュアルケアに対する看護、介護、医療、教育などの分野で関心が高まっています。高齢者、病人、学生へのケアの質が問われ、従来の身体的病気や障害の治療だけでは十分人々のいのちを守り、高めることができないからです。人間のたましいに触れるケアを通じていのちを守り、支え、励ますことが求められています。スピリチュアルケアは従来の身体的、心理的、社会的ケアに加えて、いのちの深みにふれるケアです。人が人としていきるために全存在を支えることで、人のいのちの質は高まっていきます。この授業はスピリチュアルケアとは何か、どのような歴史的背景をもっているか、実際にどのような形でなされるのかなどについて、入門段階から臨床現場でのケアを紹介します。

2. 学びの意義と目標

スピリチュアルケア入門は受講生にスピリチュアルケアとは何かを最初に理解してもらいます。スピリチュアルケアの入門的知識と理解をもって貰います。また、スピリチュアリティ、ケア、ケアギバーなどの専門用語を丁寧に説明し、受講生にスピリチュアルケアの本質、特徴、必要性、実践方法などを講義します。従来行なわれてきた心理カウンセリング、ソーシャルワークなどの違いを明確にして、スピリチュアルケアの本質を明らかにします。また、ケアギバーが備えるべき資質、教育などについても触れます。この授業の学びは、受講生にスピリチュアルケアの意味をしっかりと理解してもらい、自分もケアに参加したいと願ってもらい、将来、スピリチュアルケアに参加する人を育てたいのが目標です。

受講生に対する要望

1. スピリチュアルケアについての基本的知識を身につける2. 自分のスピリチュアリティに気づき、人のスピリチュアルペインやニーズへの感性をもつ3. 人への愛、謙遜、信仰を養う

キーワード

(1)スピリチュアルケア (2)超越性 (3)究極性 (4)愛、謙遜、信仰

事前学習（予習）

教科書を読んでくる。教科書の予習箇所は毎回の授業の時に指示する。

復習についての指示

自分の考えをまとめること、出来るだけ自分自身の考え方を尊重するように務める。

授業計画

1. スピリチュアルケアの必要性、現場からの必要性
2. スピリチュアルケアの内容、本質（臨床現場の視点）
3. スピリチュアルケアの制度（医療制度、病院内での役割）
4. スピリチュアルケアワーカーの資質
5. スピリチュアルケアワーカーの役割
6. スピリチュアルケアワーカーと患者の関係性
7. スピリチュアルケアワーカーの養成
8. スピリチュアルケアと「愛されていること」
9. スピリチュアルケアと「芸術」
10. スピリチュアルケアと「目に見えるもの」
11. スピリチュアルケアと「自分をゆるし、自分を愛すること」
12. スピリチュアルケアと「祈ること」
13. スピリチュアルケアと「楽しいこと」
14. スピリチュアルケアと「愛」
15. 最終回まとめ

教科書

窪寺 俊之 『スピリチュアルケア入門』（三輪書店）

評価方法

(1)授業出席:50% (2)提出物:30% (3)授業中の発言:20%

成績評価全体に対するコメント授業参加が重要です。授業の現場で学ぶことが多いので、欠席しないように注意しましょう。

スピリチュアルケア論 A

PANT-D-300

担当者：窪寺 俊之

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

こどもの人格と人権を尊重するゆるぎない価値観を持って社会貢献ができることを学ぶ

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

医療、看護、介護の領域で、患者や家族のQOLにとってスピリチュアルケアの重要性が叫ばれている。人の「いのち」の根底が揺れ動く時、人の魂の問題であるスピリチュアリティが問題になる。ここでは、医療、看護、介護でのスピリチュアルケアの必要性・歴史的歩み・本質などを概観しながら、日本のスピリチュアルケアの現在を明らかにする。その上で、子どもにとってのスピリチュアルケアとは何かまたその具体化への問題を検討する。

2. 学びの意義と目標

学びの意義本講義を受講することで、子ども期にある人々のQOLにとってのスピリチュアルケアの重要性を理解し、子ども期の人々への支援を学ぶことができる。目標1. スピリチュアリティとは何かを理解することができる。2. 医療、看護、介護でのスピリチュアルケアの必要性・歴史的歩み・本質を理解する。3. 現在において子どもにとってのスピリチュアルケアの必要性について考えることができる。

受講生に対する要望

スピリチュアリティ、ケアなど、普段あまり意識してこなかった概念の学びとなると思うが、実は学生個々人の身近な問題でもある。傾聴し感じ取る姿勢をもって受講してほしい。

キーワード

(1) QOL (2) スピリチュアリティ (3) スピリチュアルケア (4) スピリチュアルケアワーカー

事前学習（予習）

エリザベス・ジョンストン・ティラー『スピリチュアルケア』（医学書院）を予習してくる。

復習についての指示

授業で触れた内容について、その都度、ノートにまとめわからない用語については、調べて書き込んでおくようにすること。

授業計画

1. スピリチュアルケアの必要性、歴史的背景
2. スピリチュアルケアの本質I（何が問題になっているのか）
3. スピリチュアルケアの本質II（心理的ケア、宗教的ケアとの比較）
4. スピリチュアルケアの理論（村田理論、谷山理論など）
5. スピリチュアリティとは何か（スピリットが示すもの）
6. スピリチュアリティと危機（スピリチュアルティの覚醒）
7. スピリチュアルケアと癒し、救い
8. スピリチュアルケアの本質III（超越性、究極性、癒し、自分らしさ）
9. ケアギヴァーの問題（動機、人格、資質、訓練など）
10. スピリチュアルケアワーカーに誰になるのか
11. スピリチュアルケアのネットワークを作る
12. スピリチュアルケアワーカーが居るメリット
13. スピリチュアルケアの先行研究
14. スピリチュアルケアの研究手法
15. まとめ

教科書

窪寺俊之『スピリチュアルケア入門』（三輪書店）窪寺俊之『スピリチュアルケア学序説』（三輪書店）窪寺俊之『スピリチュアルケア学概説』（三輪書店）DDウィリアムズ、窪寺俊之訳『魂への配慮』（日本基督教団出版局）島蘭進『スピリチュアリティの興隆』（岩波書店）

評価方法

- (1) 提出物（レポート）：50% (2) 出席：30% (3) 授業での貢献度：20%

スピリチュアルケア論B

PANT-D-300

担当者：窪寺 俊之

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

こどもの人格と人権を尊重するゆるぎない価値観を持って社会貢献ができることを学ぶ

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

自然・文化・民俗・宗教のスピリチュアリティを取りあげ、その特徴を明らかにし、臨床での応用について考える。受講生が臨床で出会う子ども・患者・家族・死に近づく人のケースを取りあげて、スピリチュアルケアの可能性を考える。また、スピリチュアルケアの実現化のための制度・人材養成・報酬のことにも触れる。

2. 学びの意義と目標

学びの意義スピリチュアルケア論Aに引き続き、スピリチュアルケアの臨床的応用について学ぶことができる。そのために、先行研究に触れ、研究的視点を身につけることができる。目標1. 自然・文化・民俗・宗教のスピリチュアリティを取りあげ、その特徴を理解できる。2. 子ども・患者・家族・死に近づく人のケースを取りあげて、スピリチュアルケアの可能性を理解できる。3. スピリチュアルケアの実現化のための制度・人材養成・報酬などについて具体的に考えることができるようになる。4. 先行研究の読み解きから、応用的研究の視点を身につけることができる。

受講生に対する要望

専門的な内容を深く掘り下げるため、参考文献を各自、読み込んでおいてほしい。

キーワード

(1)スピリチュアリティ（自然・文化・民俗・宗教）(2)先行研究論文 (3)先行研究論文分析 (4)制度・人材養成・報酬

事前学習（予習）

春学期「スピリチュアルケア論A」の継続。エリザベス・ジョンストン・ティラー『スピリチュアルケア』（医学書院）を使用。

復習についての指示

文献の読み込みと理解をその都度まとめておくこと。

授業計画

1. 自然・文化・民俗・スピリチュアリティ
2. 自然・文化・民俗・宗教のスピリチュアリティ
3. 事例からの学び（こども）
4. 事例からの学び（家族）
5. 事例からの学び（患者）
6. 事例からの学び（死にゆく人々）
7. 研究論文の執筆入門I、先行研究論文の読解I
8. 研究論文の執筆入門II、先行研究論文の読解II
9. 研究論文の執筆入門III、先行研究論文の読解III
10. 先行研究論文の分析I
11. 先行研究論文の分析II
12. 先行研究論文の分析III
13. 分析のまとめと発表
14. スピリチュアルケアの実現化のための制度・人材養成・報酬などについて
15. 全体のまとめ

教科書

窪寺俊之『スピリチュアルケア入門』（三輪書店）窪寺俊之『スピリチュアルケア学序説』（三輪書店）窪寺俊之『スピリチュアルケア学概説』（三輪書店）DDウィリアムズ、窪寺俊之訳『魂への配慮』（日本基督教団出版局）ルース・L・コップ『愛する人が死にゆくとき』（相川書房）L・フィッシュ、J・シェリー、窪寺俊之、共訳『看護のなかの宗教的ケア』（すぐ書房）

評価方法

(1)提出物（レポート）：50% (2)出席：30% (3)授業での貢献度：20%

担当者：助川 征雄

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：保健必修科目、
中学校教諭一種免許：保健必修科目、
社会福祉主事任用資格：選択科目、
認定心理士認定資格(D学科)：選択科目、
認定心理士認定資格(D学科)：副次科目

講義概要

1. 内容

本講義は、子ども期における各精神疾患の特徴やアセスメントの方法について概説した上で、精神科治療の基本的な考え方や治療体系、心理療法、認知行動療法等を含めた治療支援活動についても触れる。また、学校における精神保健活動や教職員のメンタルヘルスについて理解できるように構成している。

2. 学びの意義と目標

1. 精神保健の定義と健康に対する意義を理解できる。2. 子ども期に発症しやすい精神疾患とその治療の現状について理解できる。3. 幼児期・学童期・青年期に初めて診断される子ども期の精神疾患の特徴と療育のあり方について理解できる。4. 精神科治療の基本知識について理解できる。5. 学校における精神保健について理解できる。6. 職場のメンタルヘルスについて理解できる。以上を通して、精神的な健康を保持するための環境や文化について知った上で、学校保健について深く考察できるようになる。幅広く人間という存在を理解できるような保健科教員を目指す。

受講生に対する要望

精神保健(メンタルヘルス)が、障がい者だけではなく誰にとっても大切なことをしっかり受け止めること。

キーワード

(1)精神保健福祉の歴史 (2)ライフサイクルと精神保健 (3)医学モデルからリカバリーモデルへ

事前学習(予習)

2回目から、毎回、資料を配布するので、あらかじめ通読するなど予習をし、質問も適宜準備して授業に臨むこと。

復習についての指示

毎回、資料等を読み直し、わからない専門用語などは、その日のうちに調べておくこと。適宜、関連した宿題も課す。

授業計画

1. 精神保健の定義と意義(目標1)
2. 子ども期の精神疾患(気分障害の特徴や治療について)(目標2)
3. 子ども期の精神疾患(統合失調症の特徴と治療について)(目標2)
4. 子ども期の精神疾患(不安障害の特徴と治療について、子どものPDSと環境との関連に)
5. 子ども期の精神疾患(心身症の特徴と治療について)(目標2)
6. 子ども期の精神疾患(パーソナリティ障害の特徴と治療について)(目標2)
7. 子ども期の精神疾患(物質関連障害の特徴と治療について)(目標2)
8. 幼児期・学童期・青年期に初めて診断される子ども期の精神疾患の特徴と療育(目標3)
9. 精神科治療の基礎知識 精神科治療の基本的な考え方、精神科の治療体系、薬物療法(向精神薬)と治療支援活動(目標4)
10. 精神科治療の基礎知識 心理療法、認知行動療法、リハビリテーション等(目標4)
 11. 学校における精神保健(学校保健統計からみた精神保健の問題)(目標5)
 12. 学校における精神保健(精神保健相談)(目標5)
 13. 学校における精神保健(精神保健指導への取り組み)(目標5)
 14. 学校における精神保健(保護者への対応、地域との連携、危機対応)(目標5)
 15. 職場のメンタルヘルス(教職員のメンタルヘルスについて)(目標6)

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)授業内レポート:40% (2)定期試験及びレポート:60%

担当者：藤掛 明

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

専門にとらわれない柔軟な思考を身につけ、他学科の授業を聴講する際の基礎を学ぶ。
心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ。
「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(D学科)：選択科目

講義概要

1. 内容

(1) 青年期に起こりがちな心理的問題や、関連した社会病理現象をとりあげ、その理解や援助・解決の道筋を考える。(2) 同時に青年期にある自分自身を洞察し、実際のアセスメント技法を体験しながら、体感的に学ぶことを心がける。※「認定心理士」資格では、「選択科目f」(教育心理学・発達心理学)に区分される科目である。

2. 学びの意義と目標

時代とともに変化し、多様化してきている青年期の心理的課題について概要を知ることができる。また、青年期にある自分自身について深く知ることができる。

受講生に対する要望

一般的な知識で満足することなく、たえず自分自身に重ね、自己分析していく姿勢が必要となる。

キーワード

(1) 自我同一性 (2) 自己実現 (3) 発達課題 (4) 心理テスト

事前学習(予習)

授業計画や、授業内で行う次回予告を参考に、インターネット等で情報を集めたり、関連資料を読むなどしておくこと。

復習についての指示

配付資料を再読するとともに、授業で配布する復習用資料(授業新聞)を使って、授業の中心点を考え、他の学生の意見を読むなどすること。

授業計画

1. 青年期と青年心理学
2. 自分自身を考える(行動スタイル)
3. 自分自身を考える(いろいろな自分; SCT)
4. 自分自身を考える(深層の自分; 描画テスト)
5. 自分自身を考える(自我同一性)
6. 自分自身を考える(自己実現)
7. 前半のまとめ
8. 家族を考える(きょうだい関係)
9. 家族を考える(家族の機能)
10. 友だち関係を考える
11. 学校を考える
12. 仕事を考える
13. 恋愛を考える
14. 昔の自分を考える(早期回想)
15. 全体のまとめ

教科書

プリントを配布する
毎回関連資料等を配布する。【参考書】授業の中で指示する。

評価方法

(1) ミニテスト:25%:適宜授業内で行なう (2) 授業態度:25% (3) 授業内テスト:50%:最終授業内で行なう

担当者：寺崎 恵子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける。
「こども期」の発達に影響する環境や文化を学び、学習と発達を支援する技能を修得する

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

こどもは、やがておとなになる。その過程には文化が関わっている。こどもの生活世界は、時代や住んでいるところによって様々である。それは、その国や地域の歴史や政治・経済、そして風土に影響されると同時に、それらに影響を及ぼしているからである。こどもとおとなの関わりあいのかたちに、こどもの生活世界を把握する。

2. 学びの意義と目標

学びの意義は、こども理解の基本を文化の観点から理解することにある。多様な生活世界をありように「こどもであること」の共通点を見出すことに、こども理解の基本をとらえたい。 学びの目標は、こどもが育つ過程に触れる人として、自身のあり方を誠実にことばで表わして伝える力を養うことにある。

受講生に対する要望

子どもの生活世界に触れるには、細やかで大らかなセンスが求められる。受講生それぞれが、センスに研ぎをかけることを望む。

キーワード

(1) こどもとおとなの関わりあい (2) こどもの生活世界 (3) こども期とこども観 (4) 遊びと学び (5) こどもとして生きる権利

事前学習（予習）

配布資料をよく読んで、わからないところに印をつける。

復習についての指示

授業内容と小レポートの内容、そして配布資料をあわせて、充実したノートを作成する。

授業計画

1. こどもとおとな（問題提起）
2. こどもの生活世界
3. 家族のなかのこども（1） … 生まれる
4. 家族のなかのこども（2） … 大きくなる
5. 家族のなかのこども（3） … 一人前になる
6. 家族のなかのこども（4） … 家族のかたち
7. 学びのなかのこども（1） … 知と技の習得
8. 学びのなかのこども（2） … 文字を知る
9. 学びのなかのこども（3） … 学校で学ぶ
10. 遊びのなかのこども（1） … 役に立つ遊び
11. 遊びのなかのこども（2） … ノンセンス
12. 遊びのなかのこども（3） … オニに出会う
13. 遊びのなかのこども（4） … 冒険する
14. こども理解とこども観
15. こどもとおとな（まとめ）

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 小レポート：70%：5点×14回 (2) 期末課題：20% (3) ノート：10%
期末課題のテーマを初回に提示して、取り組み方を説明する。

専門演習 I (家族心理学)

CHCL-D-200

担当者：村上 純子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

心理学、人間理解、家族に関する研究テーマの中で、自らの問題意識を高め、それに関するトピックスを調査、レポート作成、発表する。

2. 学びの意義と目標

心理学および、人間理解、家族に関する基礎を学び、自らの関心事をあきらかにすること、研究方法の基礎を身につけることが目的である。卒業研究にむけての土台となる演習である。

受講生に対する要望

授業内での発表とディスカッションを重視します。積極的に参加してください。

キーワード

(1) 心理学的研究 (2) 家族心理学

事前学習（予習）

担当者は文献を読み、レジメを準備し発表に備えること。担当に関わらず全員文献を読むこと。

復習についての指示

授業内容を振り返り、自らの研究レポート作成に生かすこと。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 研究とは
3. 文献の調べ方
4. 研究レポートの書き方
5. 文献講読とディスカッション (1)
6. 文献講読とディスカッション (2)
7. 文献講読とディスカッション (3)
8. 文献講読とディスカッション (4)
9. 研究レポート作成 (1)
10. 研究レポート作成 (2)
11. レポート発表と討議 (1)
12. レポート発表と討議 (2)
13. レポート発表と討議 (3)
14. レポート発表と討議 (4)
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 出席・授業態度:50% (2) 研究レポート:50%

専門演習Ⅰ（学校保健学・健康教育学）

CHCL-D-200

担当者：和田 雅史

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

学校における児童生徒の発達という視点から、子ども達の健康や安全について考えていきたい。学校保健あるいは健康教育の基礎的知識を学び、現代的課題について皆で論じていきたい。学生自身が興味を持った研究テーマを設定し、自分自身で調べ、まとめ、発表する。これらの過程を大切に、実際の体験を通して、学校保健学領域の今日的課題に対する研究を深めていく。

2. 学びの意義と目標

学校保健学あるいは学校健康教育学領域の文献を読み合いながら、その領域の現代的課題に関する知識を身につける。また、今日の健康課題について、自分自身の興味関心に基づいてテーマ設定し、自身の調べ学習、まとめ、発表を通して、自身の研究をまとめていく。ここでは、調べ学習、調査の方法、論文のまとめ方、プレゼンテーションの方法など、学生として必要な表現スキルの方法もあわせて学んでいくことができる。

受講生に対する要望

将来、教員を目指している学生、教職を履修している学生はこの講座を必ず志望して欲しいと考えていますが、他の学生においても現代社会に出現している健康課題に関心がある者は自分自身の関心を一つの目標とし、積極的に志望して欲しい。

キーワード

(1) 学校保健 (2) 健康教育 (3) 表現スキル

事前学習（予習）

テーマに沿って、事前に調べ学習をしておくことが望ましい。

復習についての指示

各授業で扱った内容をまとめておくことが望まれる。

授業計画

1. 学校における健康・安全とは
2. 学校保健や健康教育に関する課題
3. 学校保健や健康教育に関する文献を紹介
4. 東北震災を学校保健の立場から考える
5. 各自の研究テーマを設定
6. 各自が関心を持った研究テーマを発表する
7. 各自の研究テーマに沿って調べ・まとめる
8. 各自の研究テーマに沿って調べ・まとめる
9. 各自の研究テーマに沿って調べ・まとめる
10. 各自の研究テーマに沿って調べ・まとめる
11. 各自の研究テーマに沿って調べ・まとめる
12. 各自のまとめを発表－討論
13. 各自のまとめを発表－討論
14. 各自のまとめを発表－討論
15. まとめと今後の課題についての討論

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 授業への参加度：60% (2) 発表：40%

専門演習Ⅰ（公衆衛生学・環境教育）

CHCL-D-200

担当者：中村 磐男

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

学びの範囲は、公衆衛生学、環境衛生学、予防医学、環境保健および環境教育など、周辺領域を含めれば健康（保健）・医療・福祉・環境の分野に及ぶ。課題を設定し、それについて調べ、レポートを作成し、プレゼンテーションをおこなう。レポート作成およびプレゼンテーションのために、パソコンも利用する。

2. 学びの意義と目標

どのような立場や職場に置かれても、仕事や研究の目標を明確に文章化（レポート）し、さらに、結果を報告（レポート、プレゼンテーション）する作業は必要、不可欠である。学びの内容を深めることとともに具体的な学習・作業を通して、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法を習得する。

受講生に対する要望

さまざまな課題に興味を持ち、積極的に学習に取り組んでほしい。

キーワード

(1) テーマの設定 (2) 文献検索・文献調査 (3) レポートの書き方
(4) プレゼンテーションの方法 (5) パソコンの利用

事前学習（予習）

毎回、予習課題を提示する。

復習についての指示

毎回、復習課題または宿題を提示する。

授業計画

1. 専門演習の進め方
2. 課題の決め方
3. 文献・資料の探し方と調べ方
4. インターネットの利用と限界・注意点
5. レポートの書き方、まとめ方
6. プレゼンテーション（発表）のしかた 1.
7. プレゼンテーション（発表）のしかた 2.
8. 発表
9. 課題の設定（後半）
10. リサーチクエスションの設定
11. 文献・資料調査
12. 発表準備 1.
13. 発表準備 2.
14. 発表
15. 専門演習Ⅱに向けて、今後の課題

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 学習態度：30%：課題への取り組み、積極性 (2) レポート：40% (3) プレゼンテーション：30%

専門演習Ⅰ（子どもの健康）

CHCL-D-200

担当者：齊藤 理砂子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

現在は、少子化時代であり、子ども一人ひとりの存在がますます大切になってきています。しかし、子どもを取り巻く周囲では、様々な問題が起きています。本講義では、子どもが健やかに成長していくためには、どのような生活環境が望ましいのか、そしてどのようなことを大切にしていけるのかについて学習します。現代を生きる子どもたちの健康問題や課題、そして、それらの対処法、支援方法について、学生たちが主体となって、考察し、ディスカッションを行います。

2. 学びの意義と目標

1. 現代を生きる子どもたちにとって、心身ともに健やかに成長していくためには、どのような生活環境が望ましいのかについて考え、理解を深める。2. 「子どもの健康」という広いテーマから、興味がある課題を自ら見つけ出し、今後の学習、研究活動につなげていく。

受講生に対する要望

子どもの健康問題とその対処法、支援方法に興味がある学生が望ましいです。

キーワード

(1)子どもの身体的な課題 (2)子どもの社会的な課題 (3)子どもの心理的な課題

事前学習（予習）

日常的に、子どもの諸問題に対する興味・関心を持つように努める。事前に指示した内容について学習する。

復習についての指示

指示された内容について学習する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 子どもの生活実態
3. 子どもの生活習慣
4. 子どもの体力・運動能力の現状
5. 子どもの身体的な課題
6. 子どもの社会的な課題
7. 子どもの心理的な課題
8. 子どもの遊び
9. 子どもとメディア
10. 子どもの食生活、食育
11. 子どもを取り巻く諸問題1（テーマ設定）
12. 子どもを取り巻く諸問題2（発表レジュメ作成）
13. 子どもを取り巻く諸問題3（発表、プレゼンテーション準備）
14. 子どもを取り巻く諸問題4（発表会）
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)学習態度:50% (2)グループ発表:50%

専門演習 I (心理療法)

CHCL-D-200

担当者：大橋 良枝

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

こども心理学科専門科目の2年間のゼミの基礎段階にあたります。心理療法とは何か（カウンセリングとの違い、心理療法の歴史、現在心理療法がどのように行われているかなど）というテーマを軸に、文献にあたったり、関心事について調べる方法を学んだりしていきます。

2. 学びの意義と目標

心理療法とは何かのイメージをつかむことと、基本的な文献読解能力及び、資料収集能力をつけていくことが目標となります。これは、専門演習Ⅱの基礎力となります。また、英語の文献に触れることに対する抵抗をなくしていくことも目標とします。

受講生に対する要望

専門書に限らず、古典小説に関心を向け、読んでみてください。

キーワード

(1)心理療法 (2)カウンセリング (3)神経症 (4)人格障害 (5)精神分析

事前学習（予習）

授業計画を参照し、資料収集、プレゼンテーション等、必要な準備を行うこと。担当教員の助けが必要な場合は、必ず事前にアポイントメントをとること。

復習についての指示

ゼミノートを作り、授業での学びと疑問を毎回まとめること。

授業計画

1. ガイダンス
2. ビデオ鑑賞—グロリアと三人のセラピスト
3. 三人のセラピストについて調べたことを発表する 1
4. 三人のセラピストについて調べたことを発表する 2
5. 三人のセラピストについて文献で知る 1
6. 三人のセラピストについて文献で知る 2
7. 三人のセラピストについて文献で知る 3
8. 心理療法の歴史について資料を読む 1
9. 心理療法の歴史について資料を読む 2
10. 心理療法の歴史について資料を読む 3
11. 心理療法の歴史について分かったことを発表する 1
12. 心理療法の歴史について分かったことを発表する 2
13. カウンセリングとの違いについて話し合う
14. 現在の心理療法の適用について発表する
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業への参加度:70%:出席点を含む (2)発表内容とまとめレポートの評価:30%

専門演習 I (相談心理学)

CHCL-D-200

担当者：竹瀬 香織

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

相談、すなわちカウンセリングや広義の援助活動について習得した知見をもとに、各自が自分の興味があるテーマを決定し、関連した文献を収集し、その内容をレポートする。お互いの発表に意見を述べ、議論する。

2. 学びの意義と目標

各自の興味ある研究分野を取り上げ、文献を収集し研究計画を立てることができるようにする。講師の個々への助言指導のもとに、研究の進め方を学ぶ。

受講生に対する要望

自ら調べ、討論に参加する積極性を持つこと

キーワード

(1)相談 (2)カウンセリング (3)支援

事前学習 (予習)

関連情報、先行研究、文献を収集する。

授業計画

1. ガイダンス
2. 研究分野の検討①
3. 研究分野の検討②
4. 文献収集と検討①
5. 文献収集と検討②
6. 文献収集と検討③
7. 各自の研究発表①
8. 各自の研究発表②
9. 各自の研究発表③
10. 研究テーマの検討①
11. 研究テーマの検討②
12. 各自の研究発表の再検討①
13. 各位の研究発表の再検討②
14. 各自の研究発表の再検討③
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

復習についての指示

議論で得られた点をもとに、研究デザインを修正する。

評価方法

(1)平常点:30%:出席、討論への参加度 (2)発表:30% (3)レポート:40%

専門演習 I (特別支援教育)

CHCL-D-200

担当者：井上 知洋

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

子どもの心理学に関する基礎的な理論についての理解を深めながら、それらが実際に応用されている分野（学習支援など）のあり方に、文献購読を通して触れていきます。各回につき担当者を決め、日本語文献の要約と発表、ならびにその内容についての討議を行います。

2. 学びの意義と目標

心理学の知見がどのように蓄積され、どのように生かされているのかについて、文章を読み、まとめる中で学ぶことを目標とする。また、新たに疑問をもったり、自分なりに考えたりすることができるようになることを目標とする。

受講生に対する要望

疑問をもったことについて主体的に学ぼうとする姿勢と、積極的な議論への参加を期待します。

キーワード

(1) 認知心理学 (2) 神経心理学 (3) 特別支援教育 (4) 文献購読

事前学習（予習）

担当の文献を読み、資料をまとめること。他の人の担当分についても、事前に読んでおくことが望ましい。

復習についての指示

毎回の発表を聞いてメモをとり、情報を整理しておくこと。

授業計画

1. イントロダクション
2. 文献の読み方、資料の作り方 (1)
3. 文献の読み方、資料の作り方 (2)
4. 文献購読 (1) : 要約・発表・討議
5. 文献購読 (2) : 要約・発表・討議
6. 文献購読 (3) : 要約・発表・討議
7. 文献購読 (4) : 要約・発表・討議
8. 文献購読 (5) : 要約・発表・討議
9. 中間まとめ
10. 文献購読 (6) : 要約・発表・討議
11. 文献購読 (7) : 要約・発表・討議
12. 文献購読 (8) : 要約・発表・討議
13. 文献購読 (9) : 要約・発表・討議
14. 文献購読 (10) : 要約・発表・討議
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 授業への参加:20%:質問など (2) 発表:30% (3) 課題レポート:50%:中間・期末

専門演習 I (特別支援教育)

CHCL-D-200

担当者：吉田 昌義

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

知的障害児や肢体不自由児の指導に当たって、指導内容の選択と指導方法を考え、授業分析とともに、必要な教材教具を作成していくことが重要である。このことを踏まえ、紙を用いた教材の作成実技（紙箱、凧、折り紙、こま、彩色封筒等）を学ぶ。

2. 学びの意義と目標

紙は日常生活で多く用いられ、紙を用いた作品は生活の中で活用されている。こうした作品を児童生徒とともに作る中で、創造力や手指の巧緻性を養ったり、完成した作品を生活の中で活かすことは、人間形成に大きな意義がある。本授業では、知的障害や肢体不自由の児童生徒の指導では、素材の選択や指導上で様々な工夫が必要であることを理解する。また、実技の能力を養う。

受講生に対する要望

生活の中にある紙の製品に関心を持ち、製作工程、製作の工夫などを掴み取ってほしい。

キーワード

(1) 紙を用いた教材

事前学習（予習）

素材や材料、工程などの迷った点については、インターネット等で調べ、制作に活かすこと。

復習についての指示

製作途中で不明な点は、必ず、インターネットや図書で調べておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 教材作成の意義、教材の種類
3. 紙を素材とした教材作成1-1
4. 紙を素材とした教材作成1-2
5. 紙を素材とした教材作成1-3
6. 紙を素材とした教材分析1-4
7. 紙を素材とした教材分析1-5
8. 紙を素材とした教材作成2-1
9. 紙を素材とした教材作成2-2
10. 紙を素材とした教材作成2-3
11. 紙を素材とした教材作成2-4
12. 紙を素材とした教材分析2-5
13. 紙を素材とした教材分析2-6
14. 紙を素材とした教材分析2-7
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 実技作品：60% (2) レポート：40%

専門演習 I (日本文化学)

CHCL-D-200

担当者：渡辺 正人

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

文化から読み解く心意や心理を取り扱う。この専門演習では柳田國男の『遠野物語』を読み解きながら、テキストにあらわれた心意と人間の関係についてを考える。特にテキストにあらわされたものは、身体性が無いので、それらの身体的な「場」を復元しながら読んでみたい。

2. 学びの意義と目標

専門演習なので、まずは発表とは何かを学び、資料の作成法や発表について身につけることを目標とする。

受講生に対する要望

想像力をもって取り組んでほしい。

キーワード

(1) 日本文化 (2) 心意 (3) 民俗 (4) 身体性

事前学習 (予習)

テキストを事前に熟読しておくこと。

復習についての指示

発表をもとに、さらにテキストを読み込んでおく。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 遠野物語とはなにか
3. テキストから心意・心理を読み解く練習 1
4. テキストから心意・心理を読み解く練習 2
5. 発表
6. 発表
7. 発表
8. 発表
9. 発表
10. 発表
11. 発表
12. 発表
13. 発表
14. 発表
15. まとめ

教科書

柳田 国男 『遠野物語 (集英社文庫)』 (集英社)

評価方法

(1) 発表:50% (2) 資料:50%

専門演習 I (発達心理学)

CHCL-D-200

担当者：金谷 京子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

こどもの発達の基礎知識について文献で学ぶと共に実際の観察やこどもとのふれあいを通してこどものための発達支援について考えていく。学内や学外での子どもへのアプローチ実践を通して子どもの行動特徴を理解する

2. 学びの意義と目標

時間軸でこどもの変化を見る目をもつとともに、こどもにとっての環境の変化について考えられるようにしていく。発達に応じたこどもの接し方を学ぶ。

受講生に対する要望

自己課題を設定できるように、こどもに関する関心は何か整理してみてください。こどもに接する活動に積極的に参加してください。

キーワード

(1) 発達 (2) 発達と遊び (3) 発達支援

事前学習 (予習)

自己課題が設定できるように、多数の文献を検索しておく。

授業計画

1. ガイダンス
2. 発達心理学関連文献購読
3. 文献購読
4. 文献購読
5. 文献購読
6. 小テスト
7. 文献購読
8. 文献購読
9. 自己課題の設定・調査法について
10. 学外実践
11. 文献調査結果の発表
12. 文献調査結果の発表
13. 文献調査結果の発表
14. 自己課題の振り返り
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する
保育の心理学 I II 本郷一夫編 建帛社

復習についての指示

他のゼミ生の発表を聞いて、自己課題を整理しなおす。

評価方法

(1) レポート:60% (2) 発表:30% (3) 活動参加:10%

専門演習 I (ボランティアとこどものケア)

CHCL-D-200

担当者：佐野 正子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

こどもについての理解を深める学びをし、こどもを取り巻く環境に目を向け、震災等の人生の危機にであったこどもの心のケアについて学ぶ。

2. 学びの意義と目標

こどもについて理解を深め、こどもとの関わり方やこどもの心のケアの仕方を修得することを目標とする。また演習を通して、こどもに関する課題について自ら調べ考える基本的な手法を身につける。さらにボランティアを実践することにより、実際にこどもたちと触れ合い、こどもたちの心とつながることによって、他者と関わること・他者のために生きることの喜びを経験する。最後にこの学びと経験をレポートにまとめ、互いに分かち合う。

受講生に対する要望

積極的な演習への取り組みを期待する。

キーワード

(1) こども (2) 心のケア (3) 発達 (4) 遊び (5) おもちゃ

事前学習 (予習)

こどもに関する課題に取り組み、自主的な調査・研究と発表準備をおこなう。

復習についての指示

取り組んだ課題について、さらに理解を深め、レポートにまとめる。

授業計画

1. オリエンテーション (授業の進め方、目標)
2. こどもを取り巻く環境
3. こどもの発達 (1)
4. こどもの発達 (2)
5. こどもの遊び (1)
6. こどもの遊び (2)
7. こどものおもちゃ (1)
8. こどものおもちゃ (2)
9. 絵本の読み聞かせ (1)
10. 絵本の読み聞かせ (2)
11. こどもと震災
12. こどもの心のケア (1)
13. こどもの心のケア (2)
14. こどもボランティア
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 出席レポート:60% (2) 課題レポート:40%

専門演習 I (臨床発達心理学)

CHCL-D-200

担当者：石川 由美子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

臨床発達心理学の領域において扱われている現代的課題について輪読してみる。その過程を通して、学生さん自身が興味を持った事柄を自分自身で調べ、まとめ、発表してみる。以上のことを実際に体験しながら、臨床発達心理学領域の今日的課題に対する知識を深める。

2. 学びの意義と目標

臨床発達心理学領域の図書を輪読することで、その領域の現代的課題に関する知識を身につける。また、現代的課題について、学生自身の調べる、まとめる、発表する行為を通して、自身の学問に対する動機を発見することができる。

受講生に対する要望

自分自身が関心をもつ事柄とは何かを自分に問い、関心が向くテーマについて探索したいという好奇心がもてるように積極的に調べる行動を起こしてほしい。

キーワード

(1)臨床発達心理学 (2)動機とは (3)調べるとは (4)まとめるとは (5)発表するとは

事前学習（予習）

図書館での検索方法を学び、実際に体験し、興味を持った文献を選び出せるようにしておくこと。

復習についての指示

各授業で関心を持った事柄を、調べる、まとめる、そして発表する練習に力を入れてほしい。

授業計画

1. 図書館に行ってみる
2. 図書館に行ってみる、文献の検索方法を知る
3. 臨床発達心理学に関する本を輪読する。
4. 臨床発達心理学に関する本を輪読する。
5. 臨床発達心理学に関する本を輪読する。
6. 各自が関心を持ったキーワードについて発表する。
7. 各自のキーワードをもとに文献を調べ・文献を読み・まとめる
8. 各自のキーワードをもとに文献を調べ・文献を読み・まとめる
9. まとめた結果を発表する。
10. まとめた結果を発表する。
11. 各自が調べた文献からさらに関心を持った事柄を調べ・まとめる。
12. 各自が調べた文献からさらに関心を持った事柄を調べ・まとめる。
13. 発表する。
14. 発表する。
15. まとめとプレゼンテーションの技法について知ろう。

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)授業への参加度：60% (2)発表：40%

専門演習 I (倫理学)

CHCL-D-200

担当者：原 一子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

倫理学の草創期、ギリシアの明るい知性に触れる。ソクラテスの弟子プラトンの『ソクラテスの弁明』を通して法と正義の問題を考え、『饗宴』からはギリシアの愛の思想を学び、真の教育とは何かを考える。テキストの精読によって内容を正しく理解するとともに、資料検索、レジュメ作成の仕方、発表の仕方、質疑応答の仕方などを学ぶ。毎週、担当者に分担当所についての発表をして貰い、履修者全員が討論をして、内容の一層深い解釈を試みる。

2. 学びの意義と目標

「倫理学」を学ぶ者にとっては、その基本文献を精読し思想を正しく理解することはぜひとも必要なことである。先哲から生き方や考え方を学び価値観を確立することができれば、それは一生の財産となることであろう。深く考え、それを表現する力を培うことは、人生をより善く生きる上にも、就職にも益すること大の筈である

受講生に対する要望

演習科目であることから当然のことながら、欠席・遅刻は許されない。担当者が欠席するとゼミが成り立たなくなるので、毎回出席して担当部分の課題をこなすこと。「倫理学A」「倫理学B」を履修済であるか、併せて履修することが望ましい。

キーワード

(1) 倫理学 (2) ソクラテス (3) プラトン (4) 『ソクラテスの弁明』 (5) 『饗宴』

事前学習 (予習)

毎週、自宅でテキストを読み、必要な資料の検索をしたり、関連の書籍を読んだりして思索を深め、それをレジュメにまとめて授業に臨む。

復習についての指示

毎回の授業で進んだテキストの箇所について要約・コメントをして提出する。

授業計画

1. はじめにー演習の進め方
2. ソクラテスの生涯と思想
3. プラトンの生涯と思想
4. ソクラテスとプラトン
5. 『ソクラテスの弁明』講読 1
6. 『ソクラテスの弁明』講読 2
7. 『ソクラテスの弁明』講読 3
8. 『ソクラテスの弁明』講読 4
9. 『ソクラテスの弁明』講読 5
10. 『饗宴』講読 1
11. 『饗宴』講読 2
12. 『饗宴』講読 3
13. 『饗宴』講読 4
14. 『饗宴』講読 5
15. 総括

教科書

プラトーン/田中美知太郎訳 『ソクラテスの弁明 (新潮文庫)』 (新潮社) プラトン/山本光雄訳 『饗宴ー恋について (角川ソフィア文庫)』 (角川書店)

評価方法

- (1) 課題およびレポート: 50% (2) 出席率: 30% (3) 受講態度: 20%

専門演習Ⅱ（応用心理学）

CHCL-D-300

担当者：井上 知洋

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

心の情報処理のプロセスやメカニズムに関する基礎的な理論とその応用分野（学習支援など）について、主に文献の購読と紹介から理解を深める。また各回につき担当者を決め、自ら選んだ文献についての要約を発表し、その内容についての討議を行う。

2. 学びの意義と目標

自分が興味をもったトピックについて書籍や論文、インターネット等から情報を集められること、またそのトピックについて自ら問いを立て、心理学的な方法を用いて検証する方法を考えられるようになることを目標とする。

受講生に対する要望

疑問をもったことについて主体的に学ぼうとする姿勢と、積極的な議論への参加を期待します。

キーワード

(1) 心理学研究 (2) 応用心理学 (3) 文献紹介

事前学習（予習）

自ら文献を選び、入手し、読み込んだ上で資料をまとめること。

復習についての指示

他の人の発表を聞き、情報を整理し、疑問を抱くこと。

授業計画

1. イントロダクション
2. 文献の読み方、資料の作り方 (1)
3. 文献の読み方、資料の作り方 (2)
4. 文献の読み方、資料の作り方 (3)
5. 文献紹介 (1)：発表・討議
6. 文献紹介 (2)：発表・討議
7. 文献紹介 (3)：発表・討議
8. 文献紹介 (4)：発表・討議
9. 文献紹介 (5)：発表・討議
10. 問いの立て方と検証方法 (1)
11. 問いの立て方と検証方法 (2)
12. 問いの立て方と検証方法 (3)
13. 問いの立て方と検証方法 (4)
14. 問いの立て方と検証方法 (5)
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 授業への参加（質問など）：20% (2) 発表：30% (3) 課題レポート：50%

専門演習Ⅱ（家族心理学）

CHCL-D-300

担当者：村上 純子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

専門演習Ⅰに引き続き、心理学、人間理解、家族に関する研究テーマの中で、自らの問題意識を高め、それに関するトピックスを調査、レポート作成、発表する。

2. 学びの意義と目標

心理学および、人間理解、家族に関する基礎を学び、自らの関心事をあきらかにすること、研究方法の基礎を身につけることが目的である。卒業研究にむけての土台となる演習である。

受講生に対する要望

授業内での発表とディスカッションを重視します。積極的に参加してください。

キーワード

(1) 心理学的研究 (2) 家族心理学

事前学習（予習）

担当者は文献を読み、レジメを準備し発表に備えること。担当に関わらず全員文献を読むこと。

復習についての指示

授業内容を振り返り、自らの研究レポート作成に生かすこと。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 研究論文とは
3. 研究テーマの選定
4. 文献講読とディスカッション (1)
5. 文献講読とディスカッション (2)
6. 文献講読とディスカッション (3)
7. 文献講読とディスカッション (4)
8. 文献講読とディスカッション (5)
9. 研究小論文作成 (1)
10. 研究小論文作成 (2)
11. 小論文発表と討議 (1)
12. 小論文発表と討議 (2)
13. 小論文発表と討議 (3)
14. 小論文発表と討議 (4)
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席・授業態度:50% (2) 研究レポート:50%

専門演習Ⅱ（公衆衛生学・環境教育）

CHCL-D-300

担当者：中村 磐男

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

専門演習1.の学びを深めるとともに、図書・文献の調べ方、レポートの作成についても、学びを深める。課題は、専門演習1.の継続・発展でもよいが、新たなテーマに取り組んでみてもよいであろう。レポート作成およびプレゼンテーションのために、パソコンのスキルの向上も図る。

2. 学びの意義と目標

大学における学びの目標の一つは、自ら、何をどのように学ぶかを会得することであろう。3年生の春学期は、そのような意味でも、大学における学びの、一つの転換点であると思う。そのことを意識して、取り組んでほしい。文献や資料の読みとり方、発表（プレゼンテーション）の方法などについても習得してほしい。

受講生に対する要望

自ら調べ、積極的に学ぶ態度を身につけてほしい。

キーワード

(1) レポートとはなにか。(2) 論文とはなにか。(3) 参考資料・文献 (4) 引用文献

事前学習（予習）

毎回、予習課題を提示する。

復習についての指示

毎回、復習課題または宿題を提示する。

授業計画

1. 専門演習1の振り返りと、研究課題の選択
2. 研究課題とリサーチ・クエスチョン
3. 文献・資料調査
4. 研究計画の作成
5. 研究経過の報告とコメント 1.
6. 研究経過の報告とコメント 2.
7. 研究経過の報告とコメント 3.
8. 中間発表（プレゼンテーション）
9. 研究経過の報告とコメント 4.
10. 研究経過の報告とコメント 5.
11. 研究経過の報告とコメント 6.
12. 発表準備 1.
13. 発表準備 2.
14. 発表・プレゼンテーション 1.
15. 発表・プレゼンテーション 2.

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 学習態度:30%:課題への取り組み、積極性 (2) レポート:40% (3) プレゼンテーション:30%

専門演習Ⅱ（子どもの健康）

CHCL-D-300

担当者：齊藤 理砂子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

専門演習Ⅰで学んだ子どもの健康課題を基礎に、本講義では、現代を生きる子どもたちの健康課題を解決していくための方法について考え、研究活動につなげていく。

2. 学びの意義と目標

様々な文献による情報収集、討論を通して、自分なりの研究課題を探索する。

受講生に対する要望

研究活動のスタートとして、文献検索、ディスカッション等、積極的に行ってください。

キーワード

(1) 小児保健学 (2) 学校保健 (3) ヘルスプロモーション (4) 文献検索方法 (5) 研究課題探索

事前学習（予習）

授業計画に沿った内容について、予め学習しておく

復習についての指示

授業で学んだこと、気づいたことをまとめる

授業計画

1. オリエンテーション
2. 研究とは1
3. 研究とは2
4. 文献検索、文献調査方法（1）
5. 文献検索、文献調査方法（2）
6. 文献の読み方（1）
7. 文献の読み方（2）
8. ディスカッションの仕方
9. 資料のつくり方
10. 文献購読（1）
11. 文献購読（2）
12. 文献購読（3）
13. 研究テーマを考える（1）
14. 研究テーマを考える（2）
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 授業への参加:50% (2) 発表:30% (3) 課題レポート:20%

専門演習Ⅱ（心理療法）

CHCL-D-300

担当者：大橋 良枝

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

こども心理学科専門科目の2年間のゼミの基礎段階にあたります。専門演習Ⅰに続き、心理療法とは何か（カウンセリングとの違い、心理療法の歴史、現在心理療法がどのように行われているかなど）というテーマを軸に、文献にあたったり、関心事について調べる方法を学んだりしていきます。

2. 学びの意義と目標

心理療法についての理解を深め、関心と疑問を積極的に持てるようになること。そのための学びを能動的に進めることができるようになることが目標となります。これは、卒業研究の基礎力となります。また、英語の文献を利用していくことも目標とします。

受講生に対する要望

専門書に限らず、古典小説に関心を向け、読んでみてください。

キーワード

(1)心理療法 (2)カウンセリング (3)神経症 (4)人格障害 (5)精神分析

事前学習（予習）

授業計画を参照し、資料収集、プレゼンテーション等、必要な準備を行うこと。担当教員の助けが必要な場合は、必ず事前にアポイントメントをとること。

復習についての指示

ゼミノートを作り、授業での学びと疑問を毎回まとめること。

授業計画

1. ガイダンス
2. 事例検討Ⅰ（遊戯療法）
3. 事例理解Ⅰ-1
4. 事例理解Ⅰ-2
5. 事例検討Ⅱ（青年期心理療法）
6. 事例理解Ⅱ-1
7. 事例理解Ⅱ-2
8. 事例理解Ⅲ（成人期心理療法）
9. 事例理解Ⅲ-1
10. 事例理解Ⅲ-2
11. 事例研究法Ⅰ
12. 事例研究法Ⅱ
13. 事例分析Ⅰ
14. 事例分析Ⅱ
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 授業への参加度：70% (2) レポート・発表の評価：30%

専門演習Ⅱ（相談心理学）

CHCL-D-300

担当者：竹瀬 香織

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

相談、すなわちカウンセリングや広義の援助活動について、専門演習Ⅰ（相談心理学）の学習内容を踏まえ、習得した知見をもとに、さらに各々の問題意識に沿って主題に取り組む。関連した文献や資料を収集し、その内容をレポートする。お互いの発表に意見を述べ、議論する。

2. 学びの意義と目標

カウンセリングや相談についてそれぞれ興味ある事柄を調査・分析し考える際の基本的な姿勢や手法を、実際の演習を通して身につける。調べて分かったことを伝え合い、意見の交換をする楽しみを味わう。

受講生に対する要望

専門演習Ⅰ（相談心理学）を受講していること。自らの発表に際して、予め内容をまとめ、配布資料を作成しておく。

キーワード

事前学習（予習）

関連情報、先行研究、文献を収集する。

復習についての指示

議論で得られた点をもとに、研究デザインを修正する。

授業計画

1. ガイダンス
2. 調査・研究方法について①
3. 調査・研究方法について②
4. 研究報告①
5. 研究報告②
6. 研究報告③
7. 研究報告④
8. 研究報告⑤
9. 中間まとめ・振り返り
10. 研究報告⑥
11. 研究報告⑦
12. 研究報告⑧
13. 研究報告⑨
14. 研究報告⑩
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) レポート・発表：70% (2) 討議への参加：30%

専門演習Ⅱ（適応の心理）

CHCL-D-300

担当者：山田 麻有美

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

専門演習Ⅰ（適応の心理）で得た心理学の基本的な知識とその考え方をもとに、心理学的な問題に関する理解をさらに深め、各自の興味関心のある分野を発見することを目指す。具体的には、毎回、受講生は、各自の興味関心を持つテーマを取り上げ、そのテーマに沿った文献を収集し、読み解き、要点をまとめてレポートすることが求められる。またレポートされる内容について全員で討議し、心理学的に考える力を養っていく。また、レポートの内容の討議を通して、創造的な思考ができるようになることが期待される。

2. 学びの意義と目標

本演習での学びを通して、心理学的な問題をより深く理解するため、各自の興味関心のある分野や課題に関する文献を収集し、読み解き、要点をまとめる過程を通して、現代を生きる社会人の資質として必須の、情報の収集とその整理法とを身につけていく。

受講生に対する要望

地道で粘り強い学習態度を期待します

キーワード

事前学習（予習）

発表者は、あらかじめ発表内容をまとめ、発表の前週に資料として配布してください。発表資料は、当日までに全員が読み、各自の疑問や意見を整理してください。

復習についての指示

当日の発表内容と討議内容とに標題をつけ、600～800字にまとめてください。

授業計画

1. 演習の進め方
2. 文献収集における図書館の利用の仕方
3. 文献収集の実際（1）
4. 文献収集の実際（2）
5. 文献講読（1）
6. 文献講読（2）
7. 研究論文の講読（1）
8. 研究論文の講読（2）
9. 研究論文の講読（3）
10. 各自の研究分野に関する討議（1）
11. 各自の研究分野に関する討議（2）
12. 各自の研究分野に関する討議（3）
13. 各自の研究分野の発表（1）
14. 各自の研究分野の発表（2）
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 発表内容: 50% (2) 討議への参加: 40% (3) レポート: 10%

専門演習Ⅱ（日本文化学）

CHCL-D-300

担当者：渡辺 正人

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

文化から読み解く心意や心理を取り扱う。この専門演習では各自のテーマに従って、調査・考察・発表を行う。基本的には発表を中心に行う。

2. 学びの意義と目標

専門演習なので、まずは発表とは何かを学び、資料の作成法や発表について身につけることを目標とする。

受講生に対する要望

想像力をもって取り組んでほしい。

キーワード

(1) 日本文化 (2) 心意 (3) 民俗 (4) 身体性

事前学習（予習）

資料を事前に熟読しておくこと。

復習についての指示

発表をもとに、さらに資料を読み込んでおく。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 文化と心意との関係を考える
3. 発表
4. 発表
5. 発表
6. 発表
7. 発表
8. 発表
9. 発表
10. 発表
11. 発表
12. 発表
13. 発表
14. 発表
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 発表:50% (2) 資料:50%

専門演習Ⅱ（発達心理学）

CHCL-D-300

担当者：金谷 京子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

専門演習Ⅰで学んだことを基に、自己課題をさらに深めて遂行していく。こどもの発達のメカニズムの探求と同時に、こどもの物的、人的環境の問題や不適応や障害の問題にも目を向けていく。また、こどもから大人へと成長とともに起こる発達の問題についても学び、発達支援の方法を考える。

2. 学びの意義と目標

1) 実践を通して得られた知見と文献を通して得られた知見を統合整理する 2) 自分なりに発達に応じた支援法を考えてみる 3) 他のゼミ生の発表を聞き、情報交換、意見交換ができるようにする

受講生に対する要望

積極的にさまざまな年齢のこどもや成人と支援の観点から関わってみる体験をしてください。

キーワード

(1)生涯発達 (2)発達支援 (3)環境問題

事前学習（予習）

自己課題に関する文献検索あるいは実地調査しておく

復習についての指示

課題発表後の整理をする

授業計画

1. オリエンテーション
2. 調査法について、自己課題の設定
3. 課題研究発表
4. 課題研究発表
5. 課題研究発表
6. 学外実践活動
7. 課題研究発表
8. 課題研究発表
9. 課題研究発表
10. 学外実践活動
11. 課題研究発表
12. 課題研究発表
13. 課題研究発表
14. 課題研究発表
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)レポート:70% (2)発表:20% (3)活動参加:10%

専門演習Ⅱ（ボランティアとこどものケア）

CHCL-D-300

担当者：佐野 正子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

専門演習Ⅰの学びを踏まえて、さらにこどもについての理解を深める学びをし、こどもを取り巻く環境に目を向け、震災等の人生の危機にであったこどもの心のケアについて学ぶ。特に、こどもの発達と遊びについて深く学び、各自研究テーマを決めて発表し、ディスカッションをする。

2. 学びの意義と目標

こどもについて理解を深め、こどもとの関わり方やこどもの心のケアの仕方を修得することを目標とする。また演習を通して、こどもに関する課題について自ら調べ考える基本的な手法を身につける。さらにボランティアを実践することにより、実際にこどもたちと触れ合い、こどもたちの心とつながることによって、他者と関わること・他者のために生きることの喜びを経験する。最後にこの学びと経験をレポートにまとめ、互いに分かち合う。

受講生に対する要望

積極的な演習への取り組みを期待する。

キーワード

(1) こども (2) 心のケア (3) 発達 (4) あそび

事前学習（予習）

こどもに関する課題に取り組み、自主的な調査・研究と発表準備をおこなう。

復習についての指示

取り組んだ課題について、さらに理解を深め、レポートにまとめる。

授業計画

1. オリエンテーション（授業の進め方、目標）
2. こどもの発達と遊び（1）
3. こどもの発達と遊び（2）
4. こどもの発達と遊び（3）
5. こどもの心のケアと遊び（1）
6. こどもの心のケアと遊び（2）
7. こどもの心のケアと遊び（3）
8. 研究発表のテーマ決め
9. 図書館での調査
10. レジュメの書き方、発表の仕方
11. 遊びに関する学生の発表、ディスカッション（1）
12. 遊びに関する学生の発表、ディスカッション（2）
13. 遊びに関する学生の発表、ディスカッション（3）
14. 遊びに関する学生の発表、ディスカッション（4）
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 出席レポート:60% (2) 課題レポート:40%

専門演習Ⅱ（臨床発達心理学）

CHCL-D-300

担当者：石川 由美子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

専門演習Ⅱでは、Ⅰでの学びを踏まえ、実際に子どもの生活（遊び活動）に触れる機会を設け、定型発達の子どもの育ちについて考察する。また、Ⅰの内容を発展させつつ、文献の検索、講読、研究の方法、手法などを学ぶ。

2. 学びの意義と目標

子どもの育ちを子どもと共に活動することで自ら体験し、発達および発達段階の理論を自らの体験と統合することで、真の学びとは、研究とは何かを自らに問える機会とする。

受講生に対する要望

子どもたちとの活動体験も積極に取り入れるため、子どもの安全、遊びへの対応、保護者への接し方など、学びまた気を引き締めて臨んでほしい。

キーワード

(1) 育ちとは、発達とは (2) 発達の理論 (3) 学習と遊び

事前学習（予習）

子どもの保健・健康に関する学習の振り返りと発達心理学関連の学習の振り返りを各自、行なっておくこと。

復習についての指示

毎回の講義の振り返りノート作成し、気になった用語、テーマについてはそのつど、復習して置くこと。

授業計画

1. 子どもの育ちとは、発達とは
2. 発達の理論 1
3. 発達の理論 2
4. 子どもの遊び
5. 学習と遊び
6. 遊び活動参加への注意事項
7. 遊び体験
8. 遊び体験
9. 遊び体験
10. 遊び体験
11. 遊び体験
12. 遊び体験
13. 遊び体験
14. まとめ
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 授業への参加度：80%：子どもとの活動への取り組みと計画の内容文献購読への取り組み (2) 課題レポート：20%

専門演習Ⅱ（倫理学）

CHCL-D-300

担当者：原 一子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

「専門演習Ⅰ」での『ソクラテスの弁明』『饗宴』に続く3冊目の文献として、ヴィクトール・E・フランクルの『夜と霧』を講読する。心理学者であったフランクルが、ナチス強制収容所からいかにして生還できたのか、人間が生きては如何なることなのか、限界状況と人間の実存について共に考え、掘り下げる。テキストの精読によって内容を正しく把握するとともに、資料検索、レジュメ作成の仕方、発表の仕方、質疑応答の仕方などを学ぶ。毎週、担当者に分担箇所についての発表をして貰い、履修者全員が討論をして、内容の一層深い解釈を試みる。

2. 学びの意義と目標

「倫理学」を学ぶ者にとっては、その基本文献や、人間の生き方を深く考えさせる名著を精読することはぜひとも必要なことである。人生の先達から生き方や考え方を学び価値観を確立することができれば、それは一生の財産となることであろう。深く考え、それを表現する力を培うことは、人生をより善く生きる上にも、就職にも益すること大の筈である。

受講生に対する要望

演習科目であることから当然のことながら、欠席・遅刻は許されない。担当者が欠席するとゼミが成り立たなくなるので、毎回出席して担当部分の課題をこなすこと。「倫理学A」「倫理学B」を履修済であるか、併せて履修することが望ましい。

キーワード

(1) 倫理学 (2) プラトン (3) 『饗宴』 (4) ヴィクトール・E・フランクル (5) 『夜と霧』

事前学習（予習）

毎週、自宅でテキストを読み、必要な資料の検索をしたり、関連の書籍を読んだりして思索を深め、それをレジュメにまとめて授業に臨む。

復習についての指示

毎週の授業で進んだテキストの箇所について要約・コメントをして提出する。

授業計画

1. はじめに一演習の進め方・分担
2. 『饗宴』講読 1
3. 『饗宴』講読 2
4. 『饗宴』講読 3
5. 『饗宴』講読 4
6. ソクラテスの生き方と教育
7. ギリシア的愛とキリスト教的愛
8. 『夜と霧』講読 1
9. 『夜と霧』講読 2
10. 『夜と霧』講読 3
11. 『夜と霧』講読 4
12. 『夜と霧』講読 5
13. 『夜と霧』講読 6
14. 限界状況と人間の実存
15. 総括

教科書

プラトン/ 山本光雄 『饗宴 - 恋について』（角川ソフィア文庫）（角川書店）フランクル/ 池田香代子 『夜と霧』（みすず書房）

評価方法

- (1) 課題およびレポート: 50% (2) 出席: 30% (3) 受講態度: 20%

卒業研究Ⅰ（応用心理学）

CHCL-D-300

担当者：井上 知洋

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(D学科)：その他

講義概要

1. 内容

関心のある研究テーマについてレビューレポートを作成する。この取り組みを通じてテーマに関する相談を重ね、次年度の「卒業研究Ⅱ」の準備とする。

2. 学びの意義と目標

各自の関心を研究テーマへと集約することができる。研究の課題や方法に見通しを持つことができる。

受講生に対する要望

各自の関心について適切な方法（研究論文、書籍、インターネット等）で調べ、情報を整理することが必要となる。

キーワード

(1)心理学研究 (2)応用心理学 (3)文献購読 (4)研究の技法

事前学習（予習）

関連する文献を複数読み、資料をまとめること。

復習についての指示

他の人の発表を聞き、情報を整理しておくこと。

授業計画

1. ガイダンス
2. 問題意識から研究テーマへ
3. 資料の探し方
4. 論文の読み方
5. 情報の整理の仕方
6. 専門的な文章の書き方
7. レポート中間報告会①
8. レポート中間報告会②
9. レポート中間報告会③
10. プレゼンテーションの方法①
11. プレゼンテーションの方法②
12. レポート発表会①
13. レポート発表会②
14. レポート発表会③
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席、発表等の授業への参加程度:60% (2)課題レポート:40%

卒業研究Ⅰ（家族心理学）

CHCL-D-300

担当者：村上 純子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(D学科)：その他

講義概要

1. 内容

研究目的、参考文献の検索、先行研究の吟味、そして独自の研究デザインについて具体的に学ぶ。さらに家族心理学の分野において、各受講者が自分の関心あるテーマを選択し、研究レポートおよび研究活動を行い、その経過と結果を発表し全体で検討する。

2. 学びの意義と目標

自分自身の関心のあるテーマに取り組み、研究レポートおよび研究活動を仕上げるプロセスを通し、独自の発想や想像を養い、調査研究を実践していく力を身につけ、知識の獲得と自らの視点の確立を目指す。

受講生に対する要望

各自のテーマや目的に応じての学習であるため、授業外での学習が重要となる。自らのテーマに関する資料を積極的に集め、知識の幅を広げられるよう積極的に参加すること。さらに授業時に積極的にディスカッションし、その議論を自らの研究に活かすことを期待する。

キーワード

事前学習（予習）

各自の研究テーマに沿って、研究論文作成のための下準備を行うこと。

復習についての指示

各回において、指摘のあった研究論文作成上の改善点を再度振り返り次回以降に生かすこと。

授業計画

1. ガイダンス
2. 研究論文とは？ 研究論文の書き方、まとめ方について
3. 研究経過報告とディスカッション①
4. 研究経過報告とディスカッション②
5. 研究経過報告とディスカッション③
6. 研究経過報告とディスカッション④
7. 研究経過報告とディスカッション⑤
8. 中間発表（講義およびディスカッション）
9. 研究経過報告とディスカッション⑥
10. 研究経過報告とディスカッション⑦
11. 研究経過報告とディスカッション⑧
12. 研究経過報告とディスカッション⑨
13. 研究経過報告とディスカッション⑩
14. 研究経過報告とディスカッション⑪
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 授業中への出席・参加姿勢:50% (2) レポート・発表:50%

卒業研究Ⅰ（公衆衛生学・環境教育）

CHCL-D-300

担当者：中村 磐男

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

3年生の後半は、大学における学びの前半が終わる時期である。いままでの学びの中で、各自、関心や興味を持てる課題が発見できたと思う。専門演習で培った知識やスキルを駆使して、研究を深めたい。

2. 学びの意義と目標

卒業論文の作成を目標に、課題を選び、研究を進め、論文作成へと近づくことを目標としたい。

受講生に対する要望

研究課題を深めること、広げること、双方のバランスを意識して、研究を進めてほしい。

キーワード

(1)論文となる条件 (2)論文の読み方 (3)文献ノートの作成 (4)論文の書き方 (5)テーマ（課題）を巡る視点

事前学習（予習）

毎週、資料・文献を読み、必要な要点をメモする。論文作成を進める。

復習についての指示

指摘のあった改善点について、再度、検討するとともに、論文作成を進める。

授業計画

1. 研究・論文課題の検討 1.
2. 研究・論文課題の検討 2.
3. 研究・論文の「目的」の確認
4. 研究・論文作成の予定を作成
5. 研究・論文作成経過の報告とコメント 1.
6. 研究・論文作成経過の報告とコメント 2.
7. 研究・論文作成経過の報告とコメント 3.
8. 中間発表
9. 研究・論文作成経過の報告とコメント 4.
10. 研究・論文作成経過の報告とコメント 5.
11. 研究・論文作成経過の報告とコメント 6.
12. 発表準備1.
13. 発表準備2.
14. 発表・プレゼンテーション1.
15. 発表・プレゼンテーション2.

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)課題への取り組み:30% (2)プレゼンテーション:30% (3)レポート:40%

卒業論文作成を目標にしたい。

卒業研究Ⅰ（子どもの健康）

CHCL-D-300

担当者：齊藤 理砂子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

専門演習Ⅱで学んだことを発展させるため、研究テーマの設定方法、調査・分析方法、研究成果の発表方法を学ぶ

2. 学びの意義と目標

研究テーマの設定方法、調査・分析方法、研究成果の発表方法について、知識を修得する

受講生に対する要望

積極的に研究活動に取り組むこと

キーワード

(1)小児保健学 (2)調査方法 (3)研究方法 (4)学校保健学 (5)ヘルスプロモーション

事前学習（予習）

授業計画に沿って、予め学習しておくこと

復習についての指示

授業で気がついたこと、学んだことをまとめる

授業計画

1. オリエンテーション
2. 研究の進め方
3. 研究テーマの設定 1
4. 研究テーマの設定 2
5. 研究方法 1
6. 研究方法 2
7. 研究方法 3
8. 考察 1
9. 考察 2
10. 考察 3
11. 研究のまとめ方 1
12. 研究のまとめ方 2
13. 研究成果の発表方法
14. 発表会
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)学習態度:50% (2)発表内容:50%

卒業研究Ⅰ（心理療法）

CHCL-D-300

担当者：大橋 良枝

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

各自の関心に従って、心理療法に関する問題を選び、調査のうえ発表し、卒業論文の準備を始める。

2. 学びの意義と目標

卒業論文執筆の第一段階である。自分の関心と問題意識を明確にするために、発表の場を利用する力をつけること。

受講生に対する要望

担当教員にアポイントをとって、積極的に相談にくること。

キーワード

(1)心理療法 (2)病態水準 (3)発達段階 (4)技法論・過程論

事前学習（予習）

発表の準備のための、調査等。

復習についての指示

発表を経てレポート、論文を修正。

授業計画

1. 学期末レポートの返却と解説
2. 卒業論文テーマの検討Ⅰ
3. 卒業論文テーマの検討Ⅱ
4. 口頭発表の進め方、レポート・論文制作の進め方の説明
5. 担当者による発表 1
6. 担当者による発表 2
7. 担当者による発表 3
8. 担当者による発表 4
9. 担当者による発表 5
10. 担当者による発表 6
11. 担当者による発表 7
12. 担当者による発表 8
13. 担当者による発表 9
14. 担当者による発表 10
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 授業参加度：70% (2) 最終レポート：30%

卒業研究Ⅰ（相談心理学）

CHCL-D-300

担当者：竹瀬 香織

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(D学科)：その他

講義概要

1. 内容

各自が自分の興味があるテーマを決定し、関連した文献を収集し、その内容をレポートする。

2. 学びの意義と目標

相談、すなわちカウンセリングや広義の援助活動について習得した知見を基に、各自の興味ある研究分野を取り上げ、文献を収集し研究計画を立てることができるようにする。講師の個々への助言指導をもとに、研究の進め方を学ぶ。

受講生に対する要望

自らの発表に際して、予め内容をまとめ、配布資料を作成しておく。

キーワード

事前学習（予習）

関連情報、先行研究、文献を収集する。

復習についての指示

議論で得られた点をもとに、研究デザインを修正する。

授業計画

1. ガイダンス
2. 研究分野の検討①
3. 研究分野の検討②
4. 文献収集と検討①
5. 文献収集と検討②
6. 文献収集と検討③
7. 各自の研究発表①
8. 各自の研究発表②
9. 各自の研究発表③
10. 研究テーマの検討①
11. 研究テーマの検討②
12. 研究方法の検討①
13. 研究方法の検討②
14. 研究方法の検討③
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 個人発表とレポート：80% 総合評価 (2) 討議への参加度：20%

卒業研究Ⅰ（適応の心理）

CHCL-D-300

担当者：山田 麻有美

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(D学科)：その他

講義概要

1. 内容

各自が自分の興味があるテーマを決定し、関連した文献を収集し、その内容をレポートする。

2. 学びの意義と目標

適応や不適応について習得した知見を基に、各自の興味ある研究分野を取り上げ、文献を収集し研究計画を立てることができるようにする。講師の個々への助言指導を基に、研究の進め方を学ぶ。

受講生に対する要望

自らの発表に際して、予め内容をまとめ、配布資料を作成しておく。

キーワード

事前学習（予習）

発表者は、あらかじめ発表内容をまとめ、発表の前週に資料として配布してください。発表資料は、当日までに全員が読み、各自の疑問や意見を整理してください。

復習についての指示

毎回、発表内容と討議内容を600～800字にまとめてください。

授業計画

1. ガイダンス
2. 研究分野の検討①
3. 研究分野の検討②
4. 文献収集と検討①
5. 文献収集と検討②
6. 文献収集と検討③
7. 各自の研究方法発表①
8. 各自の研究方法発表②
9. 各自の研究方法発表③
10. 研究テーマの検討①
11. 研究テーマの検討②
12. 研究方法の検討①
13. 研究方法の検討②
14. 研究方法の検討③
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席と討議を中心とした授業への関与度、数回の個人発表とレポート:100%:総合評価

卒業研究Ⅰ（日本文化学）

CHCL-D-300

担当者：渡辺 正人

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

文化から読み解く心意や心理を取り扱う。この専門演習では各自のテーマに従って、調査・考察・発表を行う。基本的には発表を中心に行う。

2. 学びの意義と目標

卒業研究なので、特に論文を読む力を身につけたい。

受講生に対する要望

想像力をもって取り組んでほしい。

キーワード

(1) 日本文化 (2) 心意 (3) 民俗 (4) 身体性

事前学習（予習）

資料を事前に熟読しておくこと。特に指示された論文は読んでおくこと。

復習についての指示

発表をもとに、さらに資料を読み込んでおく。また、関連の論文を探す努力も欲しい。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 文化と心意との関係を考える
3. 発表
4. 発表
5. 発表
6. 発表
7. 発表
8. 発表
9. 発表
10. 発表
11. 発表
12. 発表
13. 発表
14. 発表
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 発表:50% (2) 資料:50%

卒業研究Ⅰ（発達心理学）

CHCL-D-300

担当者：金谷 京子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(D学科)：その他

講義概要

1. 内容

①発達心理学に関する研究書を読み解きながら、こどもから高齢者に至る発達に関連する研究分野を調べ、関心のある研究テーマを見つけていく。②各自の研究分野に関連したデータ収集の方法を学ぶ。③研究計画の立て方を、事例を見ながら学習する。

2. 学びの意義と目標

①発達心理学の基礎を踏まえた上で、発達および発達支援についてさらに関心を深め、研究の視点を定めていく。②自らが研究したい分野についてのデータ収集の方法を身に付ける。③研究計画の立て方を理解する。④研究計画・データ収集の結果を発表できるようにする。

受講生に対する要望

発達心理関係の文献を読んでおくこと。発表用のレジュメを作成し、配布できるように準備しておく。

キーワード

(1)生涯発達 (2)発達研究 (3)質的研究 (4)事例研究

事前学習（予習）

発達研究に関わる文献購読をしておくこと

授業計画

1. ガイダンス
2. 参考文献の読み解き、問題意識から研究テーマの設定へ
3. 事例研究、質的研究について
4. 研究計画の立て方
5. 資料の探し方
6. 情報の整理の仕方
7. 専門的な文章の書き方
8. 課題研究中間報告会①
9. 課題研究中間報告会②
10. 課題研究中間報告会③
11. プレゼンテーションの方法①
12. プレゼンテーションの方法②
13. 課題研究発表会①
14. 課題研究発表会②
15. 課題研究発表会③

教科書

授業の中で指示する

復習についての指示

自己の課題研究の振り返りをする

評価方法

(1)出席と討議を中心とした授業への関与度、数回の個人発表とレポート:100%:統合評価

卒業研究Ⅰ（ボランティアとこどものケア）

CHCL-D-300

担当者：佐野 正子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

専門演習ⅠとⅡの学びを踏まえて、さらにこどもについての理解を深める学びをし、こどもを取り巻く環境に目を向け、震災等の人生の危機にであったこどもの心のケアについて学ぶ。特に、こどもの発達とおもちゃ、絵本について深く学び、各自研究テーマを決めて発表し、ディスカッションをする。

2. 学びの意義と目標

こどもについて理解を深め、こどもとの関わり方やこどもの心のケアの仕方を修得することを目標とする。また演習を通して、こどもに関する課題について自ら調べ考える基本的な手法を身につける。さらにボランティアを実践することにより、実際にこどもたちと触れ合い、こどもたちの心とつながることによって、他者と関わること・他者のために生きることの喜びを経験する。最後にこの学びと経験をレポートにまとめ、互いに分かち合う。

受講生に対する要望

積極的な演習への取り組みを期待する。

キーワード

(1) こども (2) 心のケア (3) こどもの発達 (4) おもちゃ (5) 絵本

事前学習（予習）

こどもに関する課題に取り組み、自主的な調査・研究と発表準備をおこなう。

復習についての指示

取り組んだ課題について、さらに理解を深め、レポートにまとめる。

授業計画

1. オリエンテーション（授業の進め方、目標）
2. こどもの発達とおもちゃ（1）
3. こどもの発達とおもちゃ（2）
4. こどもの発達とおもちゃ（3）
5. おもちゃの作成
6. こどもの発達と絵本（1）
7. こどもの発達と絵本（2）
8. こどもの発達と絵本（3）
9. 絵本の読み聞かせ
10. 研究発表のテーマ決め、図書館での調査研究
11. 学生の発表、ディスカッション（1）
12. 学生の発表、ディスカッション（2）
13. 学生の発表、ディスカッション（3）
14. 学生の発表、ディスカッション（4）
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 出席レポート:60% (2) 課題レポート:40%

卒業研究Ⅰ（臨床発達心理学）

CHCL-D-300

担当者：石川 由美子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(D学科)：その他

講義概要

1. 内容

臨床発達心理学に関するテーマで研究をする動機をもつ学生を対象に、実際に興味のあるテーマを見つける、そのテーマに関する文献を検索して、テーマに関する先行研究をまとめ発表することで、自分の研究デザインのイメージをもつ。以上の2点を通して実際に自らのデザインを作成しその計画を発表し、修正する過程を学ぶ。

2. 学びの意義と目標

研究をしようとするテーマに沿った文献検索ができる。検索した文献から、先行研究における研究の動向、研究手法およびデータ分析の方法と結果の読み取りなどができるようになる。研究デザインを立てる事ができる。

受講生に対する要望

専門演習Ⅰ、Ⅱにおいて文献検索の仕方などをしっかり学んでおくこと。これまで受講した臨床発達心理学に関連する講義内容を復習しておくこと。

キーワード

(1)研究デザイン (2)研究手法 (3)先行研究についての理解

事前学習（予習）

文献検索および文献の内容等は、事前に行い講義に臨むこと。

復習についての指示

授業のプロセスの中で必要な文献等は、事前に準備しておくこと。

授業計画

1. 授業の進め方、ガイダンス
2. 検索したテーマごとの文献の整理とまとめ①
3. 検索したテーマごとの文献の整理とまとめ②
4. まとめた文献の概要、研究手法、分析の方法、結果の読みとりなどについて発表する①
5. まとめた文献の概要、研究手法、分析の方法、結果の読みとりなどについて発表する②
6. 研究テーマにしたい領域の研究動向をまとめる①
7. 研究テーマにしたい領域の研究動向をまとめる②
8. 研究動向について発表する①
9. 研究動向について発表する②
10. 研究デザインを立てる①
11. 研究デザインを立てる②
12. 研究デザインの発表と修正①
13. 研究デザインの発表と修正②
14. 研究デザインの発表と修正・まとめ①
15. 研究デザインの発表と修正・まとめ②

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)研究テーマごとにまとめたものおよび発表の内容、研究デザインの提出:100%:総合評価

卒業研究Ⅰ（倫理学）

CHCL-D-300

担当者：原 一子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

資料収集・分析・考察を深め、発表する力を養う

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

「専門演習」での学びを手掛かりに、各自が自分のテーマを見つけ、それを一層掘り下げ、論文に纏められるように訓練する。まずは、1時間に2人ずつの学生が発表を担当し、教員やゼミ仲間から受けた質問やコメントをもとに、次回の発表に向けてより完成度の高い論旨、構成、原稿を準備する。これを繰り返しながら卒業論文を完成させる力を養う。併せて、文献検索の仕方、引用・脚注のつけ方・プレゼンテーションの仕方なども学ぶ。

2. 学びの意義と目標

自分で見つけたテーマについて、思索し、読書し、討論して、卒業論文に纏め上げることは、学力の向上のためには勿論、自己の精神を鍛える上でも極めて実り多い作業である。この精神的充実は一生の宝となるはずである。「卒業研究」では卒業論文を完成させるために必要な、総合的学力・徹底して考え抜く力・明快な論旨を構築する力を涵養する。

受講生に対する要望

演習科目であることから当然のことながら、欠席・遅刻は許されない。担当者が欠席するとゼミが成り立たなくなるので、毎回必ず出席して担当部分の課題をこなすこと。

キーワード

(1) 研究テーマの設定 (2) 文献検索 (3) 論旨

事前学習（予習）

毎週、自己のテーマについて、自宅での資料検索、読書、レジュメ作成は必須である。

復習についての指示

教員やゼミ仲間指摘された問題点を整理し、次回のための準備学習に備える。

授業計画

1. 演習の進め方、発表分担の決定
2. テーマの見つけ方、文献検索、レジュメ作成の方法
3. 第1回発表1
4. 第1回発表2
5. 第2回発表1
6. 第2回発表2
7. 第3回発表1
8. 第3回発表2
9. 第4回発表1
10. 第4回発表2
11. 第5回発表1
12. 第5回発表2
13. 第6回発表1
14. 第6回発表2
15. 総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 発表内容:30% (2) レポート:20% (3) 討論への参加度:20% (4) 出席率:30%

知的障害児指導法

TEAT-D-200

担当者：吉田 昌義，吉井 勘人

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける。
「こども期」の発達に影響する環境や文化を学び、学習と発達を支援する技能を修得する

カリキュラム上の位置付け

特別支援学校教諭一種免許：必修科目

講義概要

1. 内容

本授業では、特別支援学校や特別支援学級の実践課程の編成を知るとともに、各教科等の指導計画を学ぶことができるように構成している。次に、具体的な指導案の作成や指導方法についての知識や技能を深める構成とし、最後に、事例を通して個別の指導計画に理解を深められるように構成している。これらを通して、特別支援学校教諭として実践的に教育に携われる能力の育成を目指す。

2. 学びの意義と目標

1) 知的障害教育の実践課程の編成について、学部ごとの特色を理解できる。2) 実践課程と指導計画について理解できる。3) 知的障害児の指導方法について理解できる。4) 計画に関する理解を深め、指導案の作成や指導技術を学び、授業の評価の基本を理解する。これらを通して、特別支援教育に携わる教育者にとって必要となる知的障害児への教育に関する技能を身につけ、教育の場で技能を実際に活用できる教員の育成を図る。

受講生に対する要望

知的障害や自閉症に関する図書を読んで理解を深めておくことまた特別支援学校等のボランティアに参加すること

キーワード

(1) 領域・教科を合わせた指導 (2) 生活単元学習 (3) 作業学習 (4) 教科別の指導 (5) 自立活動

事前学習（予習）

学習指導要領と解説を読んで、基礎的な理解をしておくこと。障害児に関するニュースや新聞記事等をつかんでおくこと

復習についての指示

学習内容をまとめ、要点を押さえておくこと

授業計画

1. オリエンテーションおよび知的障害教育の指導法の特徴（担当：吉田）
2. 知的障害特別支援学校や特別支援学級の実践課程編成と学習指導要領（領域・教科、教科別、領域別）
3. 指導計画の作成と指導案① 領域・教科を合わせた指導（日常生活の指導）
4. 指導計画の作成と指導案② 領域・教科を合わせた指導（日常生活の指導）の続き
5. 指導計画の作成と指導案③ 領域・教科を合わせた指導（生活単元学習）（担当：吉井）
6. 指導計画の作成と指導案④ 領域・教科を合わせた指導（生活単元学習）の続き
7. 指導計画の作成と指導案⑤ 領域・教科を合わせた指導（生活単元学習）の続き
8. 指導計画の作成と指導案⑥ 領域・教科を合わせた指導（作業学習）（担当：吉田）
9. 指導計画の作成と指導案⑦ 領域・教科を合わせた指導（作業学習）の続き（担当：吉田）
10. 指導計画の作成と指導案⑧ 領域・教科を合わせた指導（作業学習）の続き（担当：吉田）
11. 指導計画の作成と指導案⑨ 教科別の指導 国語（担当：吉井）
12. 指導計画の作成と指導案⑩ 教科別の指導 算数（担当：吉井）
13. 指導計画の作成と指導案⑪ 教科別の指導 国語・算数・音楽の教科書（担当：吉田）
14. 領域別の指導：道徳、特別活動、自立活動（担当：吉井）
15. 個別の指導計画と学習指導案（担当：吉田）

教科書

文部科学省 『特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説（総則等編）』（海文堂）文部科学省 『特別支援学校幼稚部・小学部・中学部学習指導要領解説 総則編』（教育出版）文部科学省 『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編』（海文堂）

評価方法

(1) 発表、小レポート等:60% (2) 試験:40%

知的障害児の心理

PSYC-D-200

担当者：石川 由美子, 井上 知洋, 今中 博章

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける。
「こども期」の発達に影響する環境や文化を学び、学習と発達を支援する技能を修得する

カリキュラム上の位置付け

特別支援学校教諭一種免許：必修科目

講義概要

1. 内容

本授業は、第一に知的障害の概念に関する基礎的知識を学び、第二に知的障害児の認知、行動、社会性および情動に関する特性を学ぶ。第三に支援に必要となる心理アセスメントの概略を学んだ上で、第四に、支援の実践を学ぶことができる構成とした。このことにより、知的障害の心理特性を理解した上でのより実践的な発達支援ができる教師を養成したい。

2. 学びの意義と目標

1) 知的障害に関する基礎知識を身につけることができる。2) 知的障害児の認知的特徴、行動的特徴、社会性および情動の特徴について理解できる。3) 知的障害児の二次障害について理解できる。4) 知的障害児に対する心理アセスメントについて理解できる。5) 知的障害児の認知発達、社会性および情動発達への支援に関する知識を得ることができる。これらを通して、特別支援教育に携わる教師に必要な知的障害児の心理特性とその支援を学ぶことができる。

受講生に対する要望

基本的概念や用語など、覚える努力が必要となる。ノート、資料のファイリングなど、各自で自分にあった整理方法、学習方法を考えてください。

キーワード

(1) 知的障害 (2) 心理特性 (3) 心理アセスメント (4) 支援方法

事前学習（予習）

各回の授業内容に関する基本的概念や用語について事前に調べておくこと。

復習についての指示

配られた資料等の整理を通して、理解の確認をしておくこと。

授業計画

1. 知的障害に関する基礎知識 (1) 障害の概念および定義①日本の定義の変遷、②AAMR (アメリカ精神遅滞学会) の定義
2. 知的障害に関する基礎知識 (2) 知的障害の分類
3. 知的障害児の認知的特徴 (1) 視覚、聴覚
4. 知的障害児の認知的特徴 (2) 言語、学習
5. 知的障害児の行動的特徴
6. 知的障害児の社会性および情動の特徴
7. 知的障害と二次障害 (心身症および行為障害等を含む)
8. 知的障害に対する心理アセスメント (1) 知能に関するアセスメント (ビネー式知能検査、WISC、K-ABC、DN-CAS)
9. 知的障害に対する心理アセスメント (2) 発達に関するアセスメント (津守稲毛式、KIDS、遠城寺式、PVT検査)
10. 知的障害に対する心理アセスメント (3) 社会適応に関するアセスメント (S-M式社会能力検査、ヴァインランド社会成熟尺度等)
11. 知的障害児の認知発達に関する支援 (1) ことばの発達支援、絵本を利用した発達支援
12. 知的障害児の認知発達に関する支援 (2) コンピュータを利用した視覚認知支援、読み書きに関する発達支援
13. 知的障害児の社会性および情動発達に関する支援
14. 知的障害および知的障害の二次障害への対応
15. 全体の振り返り

教科書

梅谷 忠勇, 堅田 明義 『知的障害児の心理学』 (田研出版) 小池 敏英, 北島 善夫 『知的障害の心理学—発達支援からの理解』 (北大路書房)

評価方法

(1) 授業における発表、小レポート等: 60% (2) 試験: 40%

知的障害児の生理・病理

HLTH-D-100

担当者：勝二 博亮，舟橋 敬一

開設期：秋学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける。
「こども期」の発達に影響する環境や文化を学び、学習と発達を支援する技能を修得する

カリキュラム上の位置付け

特別支援学校教諭一種免許：必修科目

講義概要

1. 内容

本授業では、まず知的障害の定義および類型と、定義に関連する病態生理学的所見について、ライフサイクル別に講述する。また脳機能の発達に関する講義を通して知的障害の病態生理特性について理解を深める。さらに知的障害に関連する発達障害、てんかんに代表される合併疾患についても触れる。その後、それぞれの特徴から教育的支援を進める際に配慮すべき点や支援の対象とすべき点などについて講義する。

2. 学びの意義と目標

1) 知的障害について、病態生理学的側面をライフサイクルの観点から理解できる。2) 知的障害に関連する発達障害、合併疾患等について病態生理学的側面から理解できる。3) 医学的側面の理解にとどまらず、実際の教育的支援に生かすための病態生理学的特性を理解することができる。これらを通して、本学が期待する特別支援教育に携わる教育者に必要な個体発生から青年期に至る子ども期の障害の生理・病理的な知識を得ることで、実際のケアや教育的支援ができる教員の育成を図る。

受講生に対する要望

教育実践とのつながりを意識しながら、主体的に学び取る姿勢で授業に臨むこと。

キーワード

(1) 知的障害の定義 (2) 知的障害の病態生理 (3) 脳機能の発達 (4) 発達障害の病態生理 (5) 教育支援

事前学習（予習）

各回のキーワードについて参考書などで調べておくことが望ましい。

復習についての指示

基礎的な概念や専門用語が多く出てくるため、事典をあたるなどしてそれらを覚えるように努力すること。

授業計画

1. オリエンテーション（担当：舟橋）
2. 知的障害の定義（担当：舟橋）
3. 知的障害の類型（担当：舟橋）
4. ライフサイクルと障害（担当：舟橋）
5. 知的障害の病態生理（1）出生前の障害（担当：舟橋）
6. 知的障害の病態生理（2）胎生期の障害（担当：舟橋）
7. 知的障害の病態生理（3）周生期の障害（担当：舟橋）
8. 知的障害の病態生理（4）出生後の障害（担当：舟橋）
9. 脳機能の発達（1）胎生期から幼児期（担当：勝二）
10. 脳機能の発達（2）児童期から青年期（担当：勝二）
11. てんかんの病態生理（担当：勝二）
12. 発達障害の病態生理（1）自閉症スペクトラム障害（担当：勝二）
13. 発達障害の病態生理（2）学習障害・注意欠陥多動性障害（担当：勝二）
14. 知的障害・発達障害への教育的支援（担当：勝二）
15. まとめ（担当：勝二）

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 講義内容に関するテスト:60% (2) レポート:40%

担当者：齊藤 理砂子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

こどもの人格と人権を尊重するゆるぎない価値観を持って社会貢献ができることを学ぶ

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本授業では、学校保健の事例を広い視点で捉え、子どもの健康とその促進のための問題解決に向けたディスカッションを行う。心理・保健・特別支援教育などいろいろな視点から、現代を生きる子どもたちの健康課題とその解決方法、学校保健について学ぶ。

2. 学びの意義と目標

1. 学校保健の今日的課題について多面的に考察できる。2. 子どもの可能性を発見し、適切な教育や援助につながる問題解決思考が身につく。3. 子どもをめぐる健康問題を表層的に捉えるのではなく多面的に深く捉えることの重要性に気づくことができる。

受講生に対する要望

グループディスカッションに積極的に参加してください。

キーワード

(1) 児童生徒の健康課題 (2) 児童生徒の発達課題

事前学習（予習）

事前に指示される内容について調べておくこと。

復習についての指示

指示された内容について学習すること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 現代社会における児童生徒の健康の諸問題：事例の解説
3. 現代社会における児童生徒の健康の諸問題：事例の問題解決へ向けた小グループディスカッション
4. 現代社会における児童生徒の健康の諸問題：小グループディスカッションでの検討結果の発表
5. 学校での「いじめ・不登校」問題と児童生徒の健康についての事例の検討：事例の解説
6. いじめ・不登校問題についての問題解決へ向けた小グループディスカッション
7. 学校での「いじめ・不登校」問題と児童生徒の健康についての事例の検討：小グループディスカッションでの検討結果の発表
8. 発達障害児の学校保健に関する諸問題の検討：事例の解説
9. 発達障害児の学校保健に関する諸問題の検討：事例の問題解決へ向けた小グループディスカッション
10. 発達障害児の学校保健に関する諸問題の検討：事例の問題解決へ向けた小グループディスカッション結果の発表
11. 児童生徒の心身の健康と学校保健をめぐる諸問題の検討：事例の解説
12. 児童生徒の心身の健康と学校保健をめぐる諸問題の検討：事例の問題解決へ向けた小グループディスカッション
13. 児童生徒の心身の健康と学校保健をめぐる諸問題の検討：事例の問題解決へ向けた小グループディスカッション結果の発表
14. まとめと振り返り1
15. まとめと振り返り2

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席状況：70% (2) 課題レポート：30%

聴覚障害児の教育総論

TEAT-D-200

担当者：金澤 貴之

開設期：秋学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける。
「こども期」の発達に影響する環境や文化を学び、学習と発達を支援する技能を修得する

カリキュラム上の位置付け

特別支援学校教諭一種免許：必修科目

講義概要

1. 内容

本授業では、まず聴覚障害教育の歴史および教育制度、ならびに実際の指導方法について講義する。また、聴覚障害児童生徒の認知、言語、コミュニケーションの発達といった個体的側面について概観する。加えて聴覚障害とその概念、聞こえの仕組み、聴覚障害の発見と診断、その後の聴覚補償に至るまでの聴覚障害に関する基礎的内容を概観する。

2. 学びの意義と目標

1) 聴覚障害児教育の歴史やその具体的な指導法について言語発達を軸に理解できる。2) 聴覚障害に関する基本的概念と聴覚障害児の発達に関する基礎的知識を理解できる。3) 聴覚障害児教育が直面する今日的課題について論考し、理解を深める。これらを通して、特別支援教育に携わる教育者にとって必要となる聴覚障害児への教育的な技能を身につけ、また心理・生理・病理に関する知識を得ることで、教育の場で実際に技能を活用できる教員の育成を図る。

受講生に対する要望

特別支援教諭を目指すために必要な講義である。教師として自らの学ぶ姿勢を問い直しながら講義を受けてほしい。

キーワード

(1)聴覚障害教育の歴史 (2)聴覚特別支援学校 (3)教育制度 (4)指導法

事前学習（予習）

学習指導要領については事前に目を通しておくこと。

復習についての指示

講義内容の振り返りは、毎回の講義後、各自怠ることのないように心掛けること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 聴覚障害とその概念
3. 聴覚障害教育の歴史
4. 聴覚障害に関わる教育制度：カリキュラム編成
5. 聴覚特別支援学校（聾学校）の組織と教育の概要
6. 聴覚障害児の指導法（1）口話法による言語指導
7. 聴覚障害児の指導法（2）キュード・スピーチ、指文字、手話
8. 聴覚障害児の指導法（3）手話言語環境における言語指導
9. 聴覚障害の生理・病理（1）聞こえの仕組み
10. 聴覚障害の生理・病理（2）発見・診断・分類
11. 聴覚障害と聴覚補償
12. 聴覚障害の心理（1）認知機能の発達
13. 聴覚障害の心理（2）言語発達
14. 聴覚障害とコミュニケーション
15. 聴覚障害と社会生活

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業における発表、小レポート等:60% (2)試験:40%

担当者：竹淵 香織

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、
「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(D学科)：選択科目

講義概要

1. 内容

各臨床分野での事例を取り上げ紹介する。また、それぞれのトピックスについてグループでのディスカッションを行う。※「認定心理士」資格では、「選択科目g」（臨床心理学・人格心理学）に区分される科目である。

2. 学びの意義と目標

メンタルヘルスのひとつの大きな指標として「適応」「不適応」を学ぶ。「適応」の状態を理解するとともに、諸領域における「不適応」の状態を臨床心理学的に明らかにする。

受講生に対する要望

特になし

キーワード

(1) 適応 (2) 不適応 (3) 適応支援

事前学習（予習）

授業計画を参照し、扱われるトピックスについて新聞等で情報を収集しておく。

復習についての指示

学んだトピックスに関してキーワード、概要をまとめておく。

授業計画

1. ガイダンス
2. 「適応」「不適応」とは
3. 適応障害とは
4. 学校不適応①
5. 学校不適応②
6. 学習不適応①
7. 学習不適応②
8. 職場不適応①
9. 職場不適応②
10. 結婚不適応
11. 中年期の不適応
12. 老年期の不適応
13. 非行の心理臨床、アルコールと薬物依存・乱用
14. 自殺問題
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 平常点:40%:出席、ディスカッションやワーク等への参加度
- (2) 学期末試験:60%

担当者：渡辺 正人

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける。
「こども期」の発達に影響する環境や文化を学び、学習と発達を支援する技能を修得する

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

日本の文化の歴史と、その特性を中心に日本の文化を学ぶ。具体的には、民俗・芸術・宗教などを取り上げながら、その成立と特性を学び、それらが「日本人の心性」の形成にどのように関与してきたかを考える予定である。

2. 学びの意義と目標

文化は、こころのゆりかごである。文化が違えば、ものの見方や感じ方は異なる。この授業では、日本文化の特性や感性について学ぶ。基本的な日本文化の特徴と心性の関係を理解することが目標である。

受講生に対する要望

身の回りの事例に注意しながら受講すると心意との関係は分かりやすいのではないかと思います。

キーワード

(1) 日本文化 (2) 民俗 (3) 稲作文化 (4) 神仏

事前学習（予習）

Moodleに用語確認の小テストを載せておくので、それによって用語の確認を行うこと。

復習についての指示

Moodleに授業のまとめの小テストや記入シートを載せておくので、それによって授業のまとめを行うこと。

授業計画

1. 日本文化の成り立ち（歴史編） 1
2. 日本文化の成り立ち（歴史編） 2
3. 日本文化の成り立ち（歴史編） 3
4. 日本文化の成り立ち（歴史編） 4
5. 日本文化の成り立ち（民俗編） 1
6. 日本文化の成り立ち（民俗編） 2
7. 日本文化の成り立ち（民俗編） 3
8. 日本文化の成り立ち（民俗編） 4
9. 日本文化の成り立ち（宗教編） 1
10. 日本文化の成り立ち（宗教編） 2
11. 日本文化の成り立ち（宗教編） 3
12. 日本文化の成り立ち（宗教編） 4
13. 日本文化の心性性 1
14. 日本文化の心性性 2
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 小テスト:30% (2) 授業シート:30% (3) まとめレポート:40%

人間行動学実験実習

PSYC-D-100

担当者：石川 由美子, 井上 知洋

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(D学科)：基礎科目

講義概要

1. 内容

子どものころや行動に関する心理学的な研究の方法について学ぶことを目標とする。本実習では、特に行動観察法、発話分析法、知能検査法、発達検査法を扱う。各回の始めにそれぞれの基本的な方法について講義を通して学び、その後実習を通してそれらの技法を習得する。※「認定心理士」資格では、「基礎科目c」（心理学実験・実習）に区分される科目である。

2. 学びの意義と目標

心理学研究の技法を学ぶことに加えて、教育や保育の現場で実際に子どもとかかわり合い、行動を観察し、その意味を考え理解するのに役立つ視点を養うことができる。

受講生に対する要望

子どものことばや行動の背後にある意味（意思）を理解しようとする姿勢を持って臨むこと。

キーワード

(1) 行動観察 (2) 発話分析 (3) 知能検査 (4) 発達検査

事前学習（予習）

各実習の事前に内容や用語等について調べておくことが望ましい。

復習についての指示

各実習の事後にレポートをまとめて提出すること。

授業計画

1. ガイダンス
2. 心理学とその方法①
3. 心理学とその方法②
4. 実験実習の心構え
5. 実験実習の心構え
6. 研究レポートのまとめ方
7. 研究レポートのまとめ方
8. 行動観察法（時間見本法）①講義と実習
9. 行動観察法（時間見本法）①講義と実習
10. 行動観察法（時間見本法）②実習のまとめとレポートの書き方
11. 行動観察法（時間見本法）②実習のまとめとレポートの書き方
12. 行動観察法（時間見本法）③データの収集とグラフ化
13. 行動観察法（時間見本法）④一事例の実験デザイン
14. 発話分析法①講義と実習
15. 発話分析法①講義と実習
16. 発話分析法②実習のまとめとレポートの書き方
17. 発話分析法②実習のまとめとレポートの書き方
18. 知能検査法（DAMグッドイナフ人物画知能検査）①講義と実習
19. 知能検査法（DAMグッドイナフ人物画知能検査）①講義と実習
20. 知能検査法（DAMグッドイナフ人物画知能検査）②解釈とレポートの書き方
21. 知能検査法（DAMグッドイナフ人物画知能検査）②解釈とレポートの書き方
22. 発達検査法（KIDS乳幼児発達スケール）①講義と実習
23. 発達検査法（KIDS乳幼児発達スケール）①講義と実習
24. 発達検査法（KIDS乳幼児発達スケール）②解釈とレポートの書き方
25. 発達検査法（KIDS乳幼児発達スケール）②解釈とレポートの書き方
26. 発達検査法（遠城寺式乳幼児分析的発達検査）①講義と実習
27. 発達検査法（遠城寺式乳幼児分析的発達検査）①講義と実習
28. 発達検査法（遠城寺式乳幼児分析的発達検査）②解釈とレポートの書き方
29. 発達検査法（遠城寺式乳幼児分析的発達検査）②解釈とレポートの書き方
30. 総括

教科書

授業の中で指示する
【参考書】授業の中で指示する。

評価方法

(1) 授業への参加の程度：60%：出席、実習、発表等 (2) 毎回の課題レポート：40%

担当者：井上 知洋

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、
「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(D学科)：選択科目

講義概要

1. 内容

「わかる」、「思う」、「考える」、「感じる」といった人の心のはたらきとそのメカニズムについて、これまでの心理学研究による知見をもとに学習する。また、それらのはたらきと日常生活との関連や、それらのはたらきが子どもの中でどのように発達していくかについてもあわせて学ぶこととする。

2. 学びの意義と目標

子どもの心や行動を、それらのはたらきやメカニズムという側面から理解するための新しい視点を身につけることができる。

受講生に対する要望

基本的な概念や用語の予習・復習を行い、覚える努力をすることが必要となる。

キーワード

(1) 認知 (2) 知覚 (3) 情報処理 (4) 発達

事前学習（予習）

講義に先だち、各回のテーマと用語について事前に調べておくこと。

復習についての指示

基本的な概念や用語の復習を行い、覚える努力をすること。

授業計画

1. ガイダンス
2. 認知心理学とは何か
3. 感覚・知覚① 視覚
4. 感覚・知覚② 聴覚
5. 記憶
6. 注意
7. 言語
8. 知識の獲得
9. 問題解決・思考
10. 日常認知
11. 認知工学
12. 認知障害
13. 子どもの認知とその発達① 乳児期・幼児期
14. 子どもの認知とその発達② 児童期・青年期
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 発表、小レポート:60% (2) 試験:40%

発達心理学概論

PSYC-D-200

担当者：金谷 京子

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、
「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(D学科)：基礎科目、
認定心理士認定資格(D学科)：副次科目

講義概要

1. 内容

人間の行動や心的な諸機能の発達、どのような過程をたどるものか、また、どのようなメカニズムによってもたらされるのか、生涯発達の視点から人間の発達について学習する。また、発達の諸相と原理を理解した上で、心理職としてできる発達支援についても考えていく。

2. 学びの意義と目標

生涯発達の観点から、人間の誕生から死に至るまで変化の諸相を理解し、発達支援の実践にむすびつけるにはいかにしたらよいかわかり、考察していけるようにする。発達のメカニズムを考えながら、発達の課題について理解していく。

受講生に対する要望

自分の過去を振り返り、年齢によってどのような変化が生じたか思い起こしておいてください。

キーワード

(1)生涯発達 (2)発達支援

事前学習（予習）

単元ごとに教科書、参考書を読んでくること。子どもの観察を心がけ、子どもの成長・発達に関心をもつこと。【参考書】「図解雑学 発達心理学」（山下富美代編著／ナツメ社）、「エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学」（岡本依子ほか／新曜社）

復習についての指示

講義ノートを整理し、復習しておくこと。

授業計画

1. 発達理論から学ぶ発達心理学の視点
2. 発達の諸相を学ぶ—生命の誕生
3. 発達の諸相を学ぶ—胎児期の発達
4. 発達の諸相を学ぶ—乳児期の発達
5. 発達の諸相を学ぶ—幼児期の発達
6. 発達と遊び
7. 発達の諸相を学ぶ—児童期の発達
8. 発達の諸相を学ぶ—青年期の発達
9. 発達の諸相を学ぶ—成人・老年期の発達
10. 発達のメカニズムを学ぶ—運動・操作の発達
11. 発達のメカニズムを学ぶ—認知・言語の発達
12. 発達のメカニズムを学ぶ—情動・社会性の発達
13. 発達支援の原理
14. 発達支援の方法
15. 発達心理学と保育・教育・福祉

教科書

本郷一夫 『保育心理学Ⅰ・Ⅱ』（建帛社）

評価方法

(1)レポート:20% (2)試験:80%

非行の心理

PSYC-D-300

担当者：藤掛 明

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、
「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(D学科)：選択科目

講義概要

1. 内容

非行や犯罪の事例やそれを取り上げた文学作品などを適宜紹介し、受講者が主体的に参加し、考えることが出来るようにする。

2. 学びの意義と目標

非行の心理について、臨床心理学の観点から、理解する。心理アセスメントや心理カウンセリングの実際についても、一般の心理臨床との違いを明確にする。また、非行に限らず、行動化を伴う心理臨床（依存症など）についてもあわせて取り上げる。

受講生に対する要望

臨床心理学全般の基礎知識があることが望ましい。

キーワード

(1) 非行カウンセリング (2) 心理アセスメント (3) 矯正施設（少年院、少年鑑別所） (4) 依存症 (5) 人格障害

事前学習（予習）

授業計画に沿って該当する教科書記事を読んでおくこと。また、関連事項をインターネットなどで調べておくこと。

復習についての指示

教科書や配付資料を再読するとともに、授業で指定するトピックを次回までに説明できるようにしておくこと。

授業計画

1. 非行の臨床心理学（薬物乱用事例と不登校事例を検討する）
2. 非行の臨床心理学（映画「トイ・ストーリー」から行動化型の心理を学ぶ）
3. 非行の臨床心理学（旧約聖書・モーセの生涯から、非行や犯罪の意味を学ぶ）
4. 非行心理の理解（へたり込み型と強行突破型）
5. 「いきがり」と「おちゃらけ」の心理機制
6. 「いじっぱり」と「顔色うかがい」の心理機制
7. 非行関連システム（警察、司法、矯正、保護）
8. 非行カウンセリングの方法
9. 非行の心理アセスメントの方法
10. 非行事例の検討（任意・外来）
11. 非行事例の検討（施設内）
12. 非行と家族の機能
13. 非行と依存症
14. 非行と人格障害
15. 全体のまとめ

教科書

藤掛 明 『非行カウンセリング入門』（金剛出版）

評価方法

(1) 適宜授業内で行なうミニテスト:25% (2) 授業態度:25% (3) 最終授業内で、授業内テスト:50%

病児・障害児の看護実習

HESC-D-200

担当者：齊藤 理砂子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義は、急性期の症状を訴える人の看護技術、慢性期の疾患を持った人に対する看護技術について概説した上で、実際に特別な健康ニーズを持つ子どもに対して支援ができるようになるために、看護技術の演習を行う。

2. 学びの意義と目標

1. 急性期の症状を訴える人に対する看護技術を習得する。2. 慢性期の疾患を持った人に対する看護技術を習得する。3. 特別なケアを要する子どもの看護技術、医療的ケアを習得する。以上により、特別な健康ニーズをもつ子どもの健康の維持・増進に働きかける保健科教諭の実践的な技能を身につける。

受講生に対する要望

予鈴になるまでに、身支度を整え、所定の位置に着いていること。実習のため、30分以上の遅刻は、1時限分の欠席とみなします。

キーワード

(1) 病児の看護 (2) 障害児の看護 (3) 特別なケアを要する子どもの看護 (4) 看護技術

事前学習（予習）

事前に指示される内容について調べておくこと。

復習についての指示

指示された内容について学習すること。

授業計画

1. 急性期の症状を訴える人の看護技術（発熱）（目標1）
2. 急性期の症状を訴える人の看護技術（腹痛）（目標1）
3. 急性期の症状を訴える人の看護技術（頭痛）（目標1）
4. 急性期の症状を訴える人の看護技術（嘔気、嘔吐）（目標1）
5. 急性期の症状を訴える人の看護技術（呼吸困難）（目標1）
6. 急性期の症状を訴える人の看護技術（痙攣）（目標1）
7. 慢性期の疾患を持った人に対する看護技術（気管支喘息）（目標2）
8. 慢性期の疾患を持った人に対する看護技術（アレルギー性皮膚炎）（目標2）
9. 慢性期の疾患を持った人に対する看護技術（先天性心疾患）（目標2）
10. 慢性期の疾患を持った人に対する看護技術（糖尿病）（目標2）
11. 慢性期の疾患を持った人に対する看護技術（腎臓病）（目標2）
12. 慢性期の疾患を持った人に対する看護技術（てんかん）（目標2）
13. 心理的ニーズの充足と援助技術（目標1. 2）
14. 特別なケアを要する子どもの看護技術、医療的ケア（目標3）
15. まとめ（目標1. 2. 3）

教科書

中桐他 『最新看護学 学校で役立つ看護後術』（東山書房）

評価方法

(1) 実技及び実習レポート:70% (2) 定期試験:30%

病弱児の心理

PSYC-D-200

担当者：竹田 一則，岡澤 慎一

開設期：秋学期集中 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける。
「こども期」の発達に影響する環境や文化を学び、学習と発達を支援する技能を修得する

カリキュラム上の位置付け

特別支援学校教諭一種免許：必修科目

講義概要

1. 内容

授業は、到達目標を1から7まで設定し、病弱に関わる生理、病理機能とその教育的配慮、病弱に関わる主な疾患の理解、入院・治療が及ぼす心理的影響、子どもの発達期から見た心理的影響、健康行動理論の理解まで達成できるように構成している。

2. 学びの意義と目標

1) 病弱・虚弱の定義が理解できる。2) 脳の構造と機能が理解できる。3) 体温・呼吸・摂食などの機能およびその教育的支援について理解できる。4) 疾患と病気の意味の違いを理解する。病弱・虚弱の原因となる主要な疾患について理解できる。5) 入院・治療など生活環境の変化が病弱児の心理に大きく影響することが理解できる。6) 子どもの発達（認知）水準が疾患の理解や治療活動への参加に影響すること、またどのような心理的反応が生じやすいかを理解できる。ターミナル期の子どもの心理が理解できる。7) 健康行動理論を学ぶことで、健康と心理の関係を理解できる。これらを通して、特別支援教育に携わる教育者にとって必要となる病弱児の心理特性に関する知識を得、教育の場で知識を実際に活用できる教員の育成を図る。

受講生に対する要望

専門的知識を学ぶため、学習に取り組む意識をきちんと維持して講義に臨んでいただきたい。

キーワード

(1) 病弱・虚弱の定義の理解 (2) 脳の構造と機能の理解 (3) 高次脳機能障害 (4) 原因疾患の理解 (5) 心理特性

事前学習（予習）

病児に対する意識を高めるために図書館で、病児に関する図書を検索しあらかじめ読み、各自、イメージを持って授業に望むこと。

復習についての指示

授業で学んだ内容で、理解が不十分と思われる部分の振り返りを確実にすること。

授業計画

1. 病弱・虚弱児とは 定義、疾患と病気の違い
2. 脳の構造と機能 (1) 中枢神経系の構造
3. 脳の構造と機能 (2) 中枢神経系の機能
4. 脳の構造と機能 (3) 高次脳機能障害
5. てんかん (1) 概要
6. てんかん (2) 教育的対応の実際
7. 体温・呼吸・摂食の生理と病理
8. 摂食の仕組みとその障害 教育的対応の実際
9. 主要な疾患の理解 アレルギー疾患、糖尿病・肥満、腎疾患
10. 主要な疾患の理解 心疾患、悪性新生物、心身症等
11. 発達段階からみた病弱児の心理：幼児期、学童期、青年期
12. 入院・治療が子どもに及ぼす心理的影響 (1)
13. 入院・治療が子どもに及ぼす心理的影響 (2) 事例でのミニグループ・ワーク
14. ターミナル期の子どもの心理
15. 健康行動理論（心理モデルについて）健康信念モデル、社会的認知理論（変化のステージモデル）、自己効力感

教科書

Karen Glanz, Frances Marcus Lewis, Barbara K. Rimer, 曾根智史, 渡部 基, 湯浅 資之, 鳩野 洋子 『健康行動と健康教育—理論、研究、実践』（医学書院）

評価方法

- (1) テスト:60% (2) レポート:40%

病弱児の心理・生理・病理

PSYC-D-200

担当者：竹田 一則，岡澤 慎一

開設期：秋学期集中 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける。
「こども期」の発達に影響する環境や文化を学び、学習と発達を支援する技能を修得する

カリキュラム上の位置付け

特別支援学校教諭一種免許：必修科目

講義概要

1. 内容

授業は、到達目標を1から7まで設定し、病弱に関わる生理、病理機能とその教育的配慮、病弱に関わる主な疾患の理解、入院・治療が及ぼす心理的影響、子どもの発達期から見た心理的影響、健康行動理論の理解まで達成できるように構成している。

2. 学びの意義と目標

1) 病弱・虚弱の定義が理解できる。2) 脳の構造と機能が理解できる。3) 体温・呼吸・摂食などの機能およびその教育的支援について理解できる。4) 疾患と病気の意味の違いを理解する。病弱・虚弱の原因となる主要な疾患について理解できる。5) 入院・治療など生活環境の変化が病弱児の心理に大きく影響することが理解できる。6) 子どもの発達（認知）水準が疾患の理解や治療活動への参加に影響すること、またどのような心理的反応が生じやすいかを理解できる。ターミナル期の子どもの心理が理解できる。7) 健康行動理論を学ぶことで、健康と心理の関係を理解できる。これらを通して、特別支援教育に携わる教育者にとって必要となる病弱児の心理特性に関する知識を得、教育の場で知識を実際に活用できる教員の育成を図る。

受講生に対する要望

専門的知識を学ぶため、学習に取り組む意識をきちんと維持して講義に臨んでいただきたい。

キーワード

(1) 病弱・虚弱の定義の理解 (2) 脳の構造と機能の理解 (3) 高次脳機能障害 (4) 原因疾患の理解 (5) 心理特性

事前学習（予習）

病児に対する意識を高めるために図書館で、病児に関する図書を検索しあらかじめ読み、各自、イメージを持って授業に望むこと。

復習についての指示

授業で学んだ内容で、理解が不十分と思われる部分の振り返りを確実にすること。

授業計画

1. 病弱・虚弱児とは 定義、疾患と病気の違い
2. 脳の構造と機能 (1) 中枢神経系の構造
3. 脳の構造と機能 (2) 中枢神経系の機能
4. 脳の構造と機能 (3) 高次脳機能障害
5. てんかん (1) 概要
6. てんかん (2) 教育的対応の実際
7. 体温・呼吸・摂食の生理と病理
8. 摂食の仕組みとその障害 教育的対応の実際
9. 主要な疾患の理解 アレルギー疾患、糖尿病・肥満、腎疾患
10. 主要な疾患の理解 心疾患、悪性新生物、心身症等
11. 発達段階からみた病弱児の心理：幼児期、学童期、青年期
12. 入院・治療が子どもに及ぼす心理的影響 (1)
13. 入院・治療が子どもに及ぼす心理的影響 (2) 事例でのミニグループ・ワーク
14. ターミナル期の子どもの心理
15. 健康行動理論（心理モデルについて）健康信念モデル、社会的認知理論（変化のステージモデル）、自己効力感

教科書

Karen Glanz, Frances Marcus Lewis, Barbara K. Rimer, 曾根智史, 渡部 基, 湯浅 資之, 鳩野 洋子 『健康行動と健康教育—理論、研究、実践』（医学書院）

評価方法

- (1) テスト:60% (2) レポート:40%

担当者：牛津 信忠

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

こどもの人格と人権を尊重するゆるぎない価値観を持って社会貢献ができることを学ぶ

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

・現代社会における福祉制度の意義や理念、さらに歴史を理解する。
・現代社会における福祉状況について理解する。
・福祉原理の理論と思想について理解する。
・福祉政策におけるニーズと資源について理解する。
・福祉政策の課題について理解する。（講義の進め方・順番は理解度の状況に応じて変更されることがある）

2. 学びの意義と目標

現代社会における福祉とは、単に狭義の弱者救済ではなく、人間生活を総合的に問題状況から解放する施策と技術の中核とした支援の充足・調整策である。その制度状況へ道を歴史的、思想的に理解し、福祉学への導入をしていきたい。加えて技術論についての基本視点をも概説したい。

受講生に対する要望

初めて福祉学に触れる方々は、思想的接近に戸惑うかもしれない。しかし、じっくりと授業に参加し、考えながら授業を受け止めていってほしい。出席を重んじ、また授業内の小テストを通じてその日の授業の復習をしてゆくことを望む

キーワード

(1) ノーマライゼーション (2) バリアフリー (3) 基本的な生活ニーズ (4) 生活構造 (5) 絆と寄り添い

事前学習（予習）

授業の初めに指示する参考文献、福祉小六法の関連箇所を、事前に読み、授業に臨むこと。授業時に配布するレジュメの内、語られず残された箇所について次回までに理解を深め、問題意識を持って授業に臨むこと。

復習についての指示

授業のレジュメと参考文献等を照合させ、毎回、必ず復習すること。3回に一度、授業終了10分前に実施する小テストをその間の授業の復習に役立てること。

授業計画

1. 福祉制度の現在（1）
2. 福祉の歴史（1）
3. 福祉の歴史（2）
4. 福祉の歴史（3）
5. 福祉政策への道
6. 福祉政策への展開（1）
7. 福祉政策への道（2）
8. 福祉思想（1）
9. 福祉思想（2）
10. 福祉の原理
11. 福祉のニーズ論（1）
12. 福祉のニーズ論（2）
13. 福祉資源（1）
14. 福祉資源（2）
15. 福祉政策の課題

教科書

授業の中で指示する
毎回授業概要のプリントを配る。これに講義において重要とされた内容を書き込んだり、またマーカーチェックをしたりして拡大・深化した福祉理解へ進んでほしい。

評価方法

(1) 出席:20%:コミュニケーションのために毎回名表により出席を取る。(2) 小テスト:20%:数回の小テストにより復習の機会を作る。(3) 学期末テスト:60%:授業全体を対象とし、知識のみならず、思考の力をも重視する。

触れるアート

FART-D-100

担当者：喜田 敬

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける。
「こども期」の発達に影響する環境や文化を学び、学習と発達を支援する技能を修得する

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

(1)〈内容〉 人の感覚器官の中で触覚は視覚や聴覚に比べ日ごろ取り上げられることが少ない。しかし、こどもが生まれてすぐに利用する感覚器官は、口の周りの触覚である。そしてその後も、気温や湿度など多くの情報を触れることを通して取り入れている。近年この触れることを媒介とした芸術や身体で感じることをアートと捉える動きがある。本講義では、紹介し解説する芸術作品についての知識を得るだけでなく、様々な素材に実際に触れることを通して、より深く理解することができるようにしていく。また、感触を味わい楽しむ芸術や絵本などに触れる機会を提供していきたい。

2. 学びの意義と目標

ものに触れる感覚を通し、新しいじぶんを発見し、また新しい世界を発見する。

受講生に対する要望

作ることに興味のある学生の受講を希望する。

キーワード

(1)見る (2)触れる (3)感じる (4)作る (5)考える

事前学習（予習）

配布したプリントを読んでおくこと。

復習についての指示

授業内容を記録、整理する。

授業計画

1. 五感について
2. 触覚
3. フロッタージュ (1)
4. フロッタージュ (2)
5. 張子作り (1)
6. 張子作り (2)
7. 張子作り (3)
8. 新聞紙動物 (1)
9. 新聞紙動物 (2)
10. 新聞紙動物 (3)
11. 新聞紙動物 (4)
12. 積木の研究
13. 秋岡芳夫の世界
14. 触れる絵本
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席・作品:80% (2)レポート:20%

プレイセラピー入門

PSYC-D-200

担当者：村上 純子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、
「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

プレイセラピーとは、子どもにとっての遊びの意味、心理療法としての理論など、基礎的なことを学ぶ。またグループプロジェクトを通して、子どもたちを心理的に援助する手段を自分たちで考え、形にすることを学ぶ。

2. 学びの意義と目標

プレイセラピーの実際として、子どもとの関わり方の基本的な態度、具体的な方法論などを知り、子どもをより深く理解し、関わるができるようになることを目標とする。

受講生に対する要望

子どもとのかかわりについて、今までの経験や行動観察などをまとめて発表する場などを設けるので、積極的に発言し、授業に参加してください。

キーワード

(1) プレイセラピー (2) 遊び (3) アセスメント (4) 心理療法

事前学習（予習）

各回、文献の指定された箇所を読んでくること

復習についての指示

配布されたプリントをよく読み、書かれている内容を説明できるようにすること

授業計画

1. 子どもと心理臨床
2. プレイセラピーの歴史と発展
3. 子どもの発達と遊び (1)
4. 子どもの発達と遊び (2)
5. プレイセラピーの理論
6. プレイセラピーの基本 (1)
7. プレイセラピーの基本 (2)
8. プレイセラピーの実際 (1)
9. プレイセラピーの実際 (2)
10. プレイセラピーの実際 (3)
11. プレイセラピーの実際 (4)
12. グループプロジェクト (1)
13. グループプロジェクト (2)
14. グループプロジェクト (3)
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席・授業態度:30% (2) 課題:20% (3) 学期末試験:50%

担当者：齊藤 理砂子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

ヘルスプロモーションは現代社会において、自他ともに健康を保持増進していく上で重要な役割を担う。健康の保持増進を図る上での政策、組織的取り組みや地域での活動、個々の適切な生活行動を選択できるための健康教育など、ヘルスプロモーションの基本的な理念と方法を学ぶ。

2. 学びの意義と目標

ヘルスプロモーションの基本的な概念や理論について説明できる。また、わが国の健康課題を理解し、地域や学校におけるヘルスプロモーションの具体的な活動について知り、実践につなげることができる。

受講生に対する要望

自分自身の健康とも結びつけて積極的に授業に参加し、現場に活かせるよう知識を習得してください。

キーワード

(1)ヘルス・プロモーション (2)健康課題 (3)健康の概念

事前学習（予習）

事前に指示される内容について調べておくこと。

復習についての指示

指示された内容について学習すること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 現代社会と健康（健康の概念）
3. 健康社会と健康（健康課題）
4. ヘルスプロモーションの概念
5. ヘルスプロモーションの方法
6. 日本におけるヘルスプロモーション
7. 地域におけるヘルスプロモーション1
8. 地域におけるヘルスプロモーション2
9. 学校教育におけるヘルスプロモーション1
10. 学校教育におけるヘルスプロモーション2
11. ヘルス プロモーティング スクール
12. 世界におけるヘルスプロモーション
13. 子どもの健康を考える（グループ活動）
14. 子どもの健康を考える（発表）
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席状況:50% (2)授業後の振り返りシート及び課題レポート:50%

担当者：齊藤 理砂子

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

ヘルスプロモーションは現代社会において、自他ともに健康を保持増進していく上で重要な役割を担う。健康の保持増進を図る上での政策、組織的取り組みや地域での活動、個々の適切な生活行動を選択できるための健康教育など、ヘルスプロモーションの基本的な理念と方法を学ぶ。

2. 学びの意義と目標

ヘルスプロモーションの基本的な概念や理論について説明できる。また、わが国の健康課題を理解し、地域や学校におけるヘルスプロモーションの具体的な活動について知り、実践につなげることができる。

受講生に対する要望

自分自身の健康とも結びつけて積極的に授業に参加し、現場に活かせるよう知識を習得してください。

キーワード

(1)ヘルス・プロモーション (2)健康課題 (3)健康の概念

事前学習（予習）

事前に指示される内容について調べておくこと。

復習についての指示

指示された内容について学習すること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 現代社会と健康（健康の概念）
3. 健康社会と健康（健康課題）
4. ヘルスプロモーションの概念
5. ヘルスプロモーションの方法
6. 日本におけるヘルスプロモーション
7. 地域におけるヘルスプロモーション1
8. 地域におけるヘルスプロモーション2
9. 学校教育におけるヘルスプロモーション1
10. 学校教育におけるヘルスプロモーション2
11. ヘルス プロモーティング スクール
12. 世界におけるヘルスプロモーション
13. 子どもの健康を考える（グループ活動）
14. 子どもの健康を考える（発表）
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席状況:50% (2)授業後の振り返りシート及び課題レポート:50%

担当者：石川 由美子，齊藤 理砂子

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：保健必修科目、
中学校教諭一種免許：保健必修科目

講義概要

1. 内容

心身の機能の発達と心の健康との連関について、心身の発達、欲求とストレスの関係の講義から紐とく。その基盤をもとに現代的健康問題について理解を深め、学校という場で過ごす児童・生徒の健康問題についても触れる。最後に、現代的健康問題を題材に、健康を守り（予防を含み）、維持していくための対処方法について討議する。

2. 学びの意義と目標

1. 心身の機能の発達と心の健康の連関が理解できる。2. 現代的健康問題について理解できる。3. 現代的健康問題への対処と健康維持・増進について考えることができる。

受講生に対する要望

子どもの心と体について学びますが、自分自身の健康とも結びつけて積極的に授業に参加してください。

キーワード

(1)発達 (2)欲求 (3)ストレス (4)生活習慣病 (5)健康

事前学習（予習）

事前に指示される内容について調べておくこと。

復習についての指示

指示された内容について学習すること。

授業計画

1. オリエンテーション、健康を保つということ（目標1）（齊藤）
2. 育ちと発達（発達の大原則、発達の個人差）（目標1）（石川 齊藤）
3. 身体機能の発達：身体器官の発達（目標1）（石川 齊藤）
4. 運動機能の発達（目標1）（石川）
5. 精神機能の発達1：認知機能、情動機能、社会性の発達（目標1）（石川）
6. 精神機能の発達2：自己認識の発達過程、ことばの発達（目標1）（石川）
7. 精神機能の発達3：思春期の身体変化、身体変化がもたらす精神的影響（目標1）（石川）
8. 欲求とストレス1：生理的、心理的、社会的欲求について（目標1）（齊藤）
9. 欲求とストレス1：生理的、心理的、社会的欲求について（目標1）（齊藤）
10. 現代的健康問題1：生活習慣と健康（衣・食・住、喫煙、飲酒、薬物、睡眠と休養）（目標2）（齊藤）
11. 現代的健康問題2：生活習慣病について（肥満、糖尿病、高血圧等）（目標2）（齊藤）
12. 現代的健康問題3：学校環境と感染症、学校環境と小児性うつ病（目標2）（齊藤）
13. 保健（健康維持と健康増進）の取り組み：現代の問題への対処（生活習慣、生活習慣病）についてグループ討議（目標2、3）齊藤
14. 保健（健康維持と健康増進）の取り組み：学校環境と感染症、学校環境と小児性うつ病についてグループ討議（目標2、3）齊藤
15. グループ討議発表とまとめ（目標1、2、3）（齊藤）

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)テスト:70% (2)まとめのレポート:30%

ボランティア実践論

PANT-D-200

担当者：渡辺 正人、佐野 正子、助川 征雄

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

こどもの人格と人権を尊重するゆるぎない価値観を持って社会貢献ができることを学ぶ

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本学は2014年1月に岩手県釜石市と復興支援に関する協定を結びました。これまでも釜石市を含めて、埼玉県内外で活動が続けてきましたが、今年はより飛躍が望まれる年となりました。そこで、ボランティア実践論では、「釜石を知る」と題して、釜石市の地域理解、震災から復興まで、これから、と場面を分けて、ワークショップの形で理解を深め、自分たちでできることを考えます。そのプロセスで、どのような場面ではどのような活動が必要かを理解することになるでしょう。まだ、実践経験のない人も、ここで活動の内容に触れることで一歩を踏み出すきっかけがつかめるかもしれませんし、すでに実践経験のある人は自分の活動を見直すきっかけにしてもらいたいと思います。

2. 学びの意義と目標

被災地支援のボランティアに限らず、自分たちの日常レベルでのさまざまなボランティアの実情と意義に触れていきます。あなた自身、将来ボランティアに関わるか、もしかしたらボランティアの支援を必要とする立場になるかもしれません。聞いておく価値はあります。

受講生に対する要望

基礎的なボランティアの知識を身につけるものなので、ボランティアの経験の有無は問いません。グループワークも多くなるので、グループ内での役割を理解し、積極的に参加してください。

キーワード

(1) ボランティア (2) 市民活動 (3) 地域

事前学習（予習）

授業内容に即して、各人の体験や考えをまとめさせるので、指示に従って事前に用意しておくこと。また、基礎的な用語については事前に調べておくこと。

復習についての指示

授業で取り上げた内容に関して、類似の事例を確認しておくこと。ボランティアは、個々の事例に対応してゆく柔軟さが求められるので、その多様な在り方を学んでゆくこと。

授業計画

1. オリエンテーション・ボランティアの定義と活動分野
2. 本学のボランティア活動支援センターとボランティアコーディネーション
3. 大学生とボランティア
4. ワークショップ1「釜石を知る（過去編）」
5. ワークショップ2「釜石を知る（過去編）」
6. ワークショップ3「釜石を知る（過去編）」発表
7. 市民活動・NPO法人とボランティア
8. ワークショップ4「釜石を知る（現在編）」
9. ワークショップ5「釜石を知る（現在編）」
10. ワークショップ6「釜石を知る（現在編）」
11. バリアフリーマップとボランティア
12. ワークショップ7「釜石を知る（未来編）」
13. ワークショップ8「釜石を知る（未来編）」
14. 大学生と地域とボランティア
15. ボランティア実践論のまとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 最終レポート:60% (2) 授業内小レポート:40%

ボランティア論

PANT-D-100

担当者：渡辺 正人、佐野 正子、助川 征雄

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

こどもの人格と人権を尊重するゆるぎない価値観を持って社会貢献ができることを学ぶ

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

ボランティアを論じることは「走る」「生活する」「愛する」ことを論じるくらいに多様であり曖昧であり、そして自由でもある。実際にボランティア活動をすること（「これはボランティア活動に違いない」と自分が思っているものでも可）の中で出会った「ヒト」「キモチ」「ジッター（見えないものも含む）」など様々なことがボランティアを考える上で大きなエッセンスにもなりうる。そのような前提のうえで、「ボランティア」について柔軟に多角的に考え、また時には逆説的に、少し懐疑的にも考えてゆく。

2. 学びの意義と目標

今、ボランティアの意義は増し、また多様化している。ボランティアとは何かということと、ボランティアをするための多角的な視点を理解することが目標である。

受講生に対する要望

ボランティア活動経験の有無にかかわらず、関心を持って学び、できれば実際の活動につなげられる様な意欲がほしい。

キーワード

(1) ボランティア (2) スピリチュアリティとボランティア (3) 福祉とボランティア (4) ボランティアと文化 (5) エンパワメント

事前学習（予習）

授業内容に即して、各人の体験や考えをまとめさせるので、指示に従って事前に用意しておくこと。また、基礎的な用語については事前に調べておくこと。

復習についての指示

授業で取り上げた内容に関して、類似の事例を確認しておくこと。ボランティアは、個々の事例に対応してゆく柔軟さが求められるので、その多様な在り方を学んでゆくこと。

授業計画

1. ガイダンス
2. ボランティアの歴史 1
3. ボランティアの歴史 2
4. ボランティアの歴史 3
5. ボランティア活動のための理論と要点 1
6. ボランティア活動のための理論と要点 2
7. ボランティア活動のための理論と要点 3
8. ボランティア活動のための理論と要点 4
9. ボランティア活動のための理論と要点 5
10. ボランティア活動のための理論と要点 6
11. ボランティア活動の方法 1
12. ボランティア活動の方法 2
13. ボランティアの実際 1
14. ボランティアの実際 2
15. ボランティアの実際 3

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 最終レポート：70% (2) 授業内小レポート：30%

担当者：喜田 敬

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける。
「こども期」の発達に影響する環境や文化を学び、学習と発達を支援する技能を修得する

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

(1)〈内容〉 「見るアート」は、視覚によって認識できるような芸術作品のことであり、絵画・彫刻・版画・写真などが含まれる。こどもは生まれたときから様々な視覚的刺激に囲まれて育つ。こどもが育つ過程で与えられる視覚刺激は、実に多様である。本講義では、様々な時代の人々が残した多様な芸術作品や、芸術作品として耐えうる絵本などを紹介、多角的に解説し、受講生が視覚芸術を味わい楽しめるようになることを目指している。

2. 学びの意義と目標

芸術を生み出した人間理解にはじまり、民族、宗教、年齢の違いと芸術に目を向け、人間と芸術の関係を考える。

受講生に対する要望

絵画が好きな学生の受講を希望する。

キーワード

(1)鑑賞 (2)発見 (3)比較 (4)言語化 (5)共有

事前学習（予習）

配布したプリントを読んでおくこと。

復習についての指示

配布したプリントを再読し、ノートとともにファイルする。

授業計画

1. 宗教とアート「フランコ・カンタブリア」
2. ルネサンス (1) ローマ教会とギリシア哲学
3. ルネサンス (2) プロテスタントと北方ルネサンス
4. 透視画法
5. 浮世絵と印象派 (1)
6. 浮世絵と印象派 (2)
7. Walkabout 鑑賞 (1)
8. Walkabout 鑑賞 (2) ディスカッション
9. ミフィー「モンドリアンとマチス」
10. 子どもの絵と大人の目 (1)
11. 子どもの絵と大人の目 (2)
12. DBAE (1)
13. DBAE (2)
14. 絵本
15. 試験・まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席・試験:80% (2)レポート:20%

担当者：一幅 良利

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：保健必修科目

講義概要

1. 内容

本講義では、まず人の健康に外的に影響する微生物について概説する。次に外的な環境によって人の身体がどのように反応するのかについて免疫学を通して学ぶように構成されている。また、感染症の成立機序と感染予防などについて、栄養や自己免疫等の機能を通して理解できるように構成されている。

2. 学びの意義と目標

1. 微生物について理解できる。2. 微生物と宿主の関係性、感染の機序と対策が理解できる。3. 免疫学から抗原と抗体の関係を理解し、免疫機能をつかさどる細胞に関する理解と免疫機序成立の過程について理解できる。4. アレルギー、栄養と免疫の関連、自己免疫について理解できる。これらを通して、外的環境と内的環境（身体）との相互作用によって人の健康が維持されていることを学び、よりよく生きようとする人の健康に働きかける保健科教諭の基本的知識を身につける。

受講生に対する要望

ノートを用意し、必ずノートをとる。不明な点は質問してほしい。 日常起きている感染症の話題に関心をもってほしい。

キーワード

(1)細菌・ウイルスの構造と増殖 (2)遺伝子の変異と耐性菌の出現 (3)免疫作用・免疫細胞・抗原と抗体 (4)アレルギーとそのタイプ (5)自己免疫と自己免疫疾患

事前学習（予習）

授業計画に沿って、教科書の次回該当箇所を予習のこと。

復習についての指示

当日の講義箇所と関連の教科書部分を参照・復習し、疑問や不明の箇所をノートに記し、次回に質問してほしい。

授業計画

1. 微生物学とは何か（微生物の分類学的位置、原核生物と真核生物、細菌とウイルスの一般性）
2. 細菌学総論（細菌の形態、細菌の構造、細菌の増殖）（目標1）
3. 細菌学総論（遺伝情報の発現、遺伝子の変異）（目標1）
4. ウイルス学総論（ウイルスの構造、ウイルスの増殖）（目標1）
5. 感染と発病、感染対策（感染の経過、宿主と微生物の相互関係、感染防御機構）（目標2）
6. 予防接種と免疫療法（ワクチン、免疫血清、ヒト免疫グロブリン製剤）（目標3）
7. 免疫学とは何か 有用な免疫作用と望ましくない免疫作用について（目標3）
8. 抗原（免疫応答を引き起こす抗原の条件とは何か）、抗体（抗体の構造と機能、抗体の免疫反応における働き）（目標3）
9. 細胞1（マクロファージ、好中球、好酸球、好塩基球の免疫系における働き）（目標3）
10. 細胞2（T細胞・B細胞その他の免疫系における働きとその活性化について）（目標3）
11. 免疫成立の機序と腸管粘膜免疫（細胞の生成の場および免疫反応の場における免疫成立の機序、腸管粘膜局所免疫について）目標3
12. アレルギー（アレルギーとは アレルギーの仕組みについて）（目標4）
13. 栄養と免疫（栄養状態と免疫、種々の栄養成分の免疫への影響について）（目標4）
14. 自己免疫（自己免疫の成立機序、自己免疫病と自己免疫病の発病機構）（目標4）
15. まとめ（これまでの講義についての総括）

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業内レポート:30% (2)レポート・定期試験:70%

担当者：中村 馨男

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

「こども期」のこどもの健康を保持・増進するための基本的知識と技能を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：保健必修科目、
中学校教諭一種免許：保健必修科目

講義概要

1. 内容

本講義は、人類の健康に脅威となった疾病の原因とその予防について概説する。主な分野は、感染症、生活習慣病、環境要因に起因する疾病などである。健康とはなにか、人類はこの数百年に限っても、どのような病の脅威と戦ってきたかについても理解できるように構成されている。

2. 学びの意義と目標

1. 健康を脅かす様々な要因について理解する。2. 感染症とその予防について理解する。3. 生活習慣病の要因と予防について理解する。4. 健康の定義とプライマリーヘルスケアについて説明できる。以上を通して、健康の維持・増進と疾病予防について理解し、子ども期の健康の維持・増進に働きかける保健科教諭の実践的な技能を身につける。

受講生に対する要望

ノートを必ず取ること。遅刻や欠席をしない、教室の前列に着席する、机の上に雑誌、スマートフォン、飲食物は置かないこと。「環境衛生学」、「公衆衛生学」と共通の教科書を、部分的に使用する。教科書は入手してほしい。

キーワード

(1) 感染と免疫 (2) 新興感染症、再興感染症 (3) 平素無害菌、日和見感染 (4) 生活習慣病、メタボリックシンドローム、特定健診 (5) 健康寿命と平均寿命

事前学習（予習）

「環境衛生学」、「公衆衛生学」と共通の教科書を、部分的に使用する。指定箇所は、予め、読んでほしい。その他、予習の課題、次回のキーワードを提示する。

復習についての指示

その日のキーワード、授業の終わりの小テストで疑問の点、返却された前回小テストで誤答の箇所は復習してほしい。

授業計画

1. 健康を脅かす様々な要因（目標1）
2. 感染症とその予防1. 「感染」とはなにか（目標2）
3. 感染症とその予防2. 免疫と予防接種（目標2）
4. 感染症とその予防3. 結核とインフルエンザ（目標2）
5. 感染症とその予防4. コレラ、O157、ノロウイルス（目標2）
6. 感染症とその予防5. AIDS、MRSA （目標2）
7. 電離放射線、紫外線（目標1）
8. 熱中症と体温調節（目標1）
9. 成人病と生活習慣病、一次予防（目標3）
10. 悪性新生物とその予防（目標3）
11. 心疾患とその予防（目標3）
12. 脳血管疾患とその予防（目標3）
13. 糖尿病と合併症、およびその予防（目標3）
14. 健康の定義とプライマリーヘルスケア（目標4）
15. まとめ（目標1～4）

教科書

鈴木 庄亮 『シンプル衛生公衆衛生学 2014』（南江堂）

評価方法

- (1) 受講態度:20%・積極性、着席位置 (2) 毎回の小テスト:30% (3) 期末テスト:50%
- 毎回、授業の終わりに小テストを実施する。

担当者：原 一子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

環境や文化について学び、「こども期」の学習と発達を支援する技能を身につける。
「こども期」の発達に影響する環境や文化を学び、学習と発達を支援する技能を修得する

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

ヨーロッパ文化は、ヘレニズム、ヘブライズム、ケルト・ゲルマン、ローマ帝国などの諸要素から成り立っている。そこでこれら要素についてまず理解を深め、更にヨーロッパ文化に大きな刺激を与えたイスラム教についても学ぶ。講義後半では、修道院、巡礼、教会建築、都市生活、伝説・民話、ヨーロッパ人のメンタリティなどについても取り上げ、生きたヨーロッパ文化を基礎から学ぶことができるように講義を進める。

2. 学びの意義と目標

「世界のこども」「日本文化学」とともに、環境・文化系の選択必修科目である。ヨーロッパ文化について、それを構成する諸要素を基礎から理解することによって、全体としてヨーロッパとは何かを理解することが本講義の目標である。

受講生に対する要望

ヨーロッパ文化の多様な局面に、興味・関心を持つことを期待する。書籍、映画、絵画などに自主的に触れ、大学生に相応しい教養と知性を磨いてほしい。

キーワード

(1)ヘレニズム (2)ヘブライズム (3)ケルト・ゲルマン (4)ローマ帝国 (5)キリスト教文化

事前学習（予習）

- ヨーロッパ文化の背景にある歴史的知識を調べ、整理できるようなサブノートを作成し、世界史の重要項目を自習する。
- 配布された資料を前もって読み、コメントを書いた上で授業に臨む。

復習についての指示

授業に出てきた事項の歴史的背景や重要項目を一層詳しく調べる。

授業計画

- ヨーロッパとは何かーヨーロッパ文化を構成する諸要素
- ヨーロッパ文化の歴史的形成 1ー古代ギリシアの文化 1
- ヨーロッパ文化の歴史的形成 2ー古代ギリシアの文化 2
- ヨーロッパ文化の歴史的形成 3ー古代ギリシアの文化 3
- ヨーロッパ文化の歴史的形成 4ーケルト・ゲルマンの文化 1
- ヨーロッパ文化の歴史的形成 5ーケルト・ゲルマンの文化 2
- ヨーロッパ文化の歴史的形成 6ーヘレニズムとローマ帝国 1
- ヨーロッパ文化の歴史的形成 7ーヘレニズムとローマ帝国 2
- ヨーロッパ文化の歴史的形成 8ーキリスト教・イスラム教
- ヨーロッパ文化の発展 1ー信仰への情熱 修道院
- ヨーロッパ文化の発展 2ー信仰への情熱 巡礼
- ヨーロッパ文化の発展 3ー信仰への情熱 教会建築
- ヨーロッパ文化の発展 4ー合理精神の誕生
- ヨーロッパ文化の発展 5ーヒューマニズムと啓蒙思想
- ヨーロッパ人のメンタリティー

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)試験またはレポート:50% (2)出席率:30% (3)受講態度:20%

期末考査を試験にするかレポートにするかは、履修者数によって、初回の授業時に決定する。

臨床心理学概論

PSYC-D-100

担当者：藤掛 明

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

心理学系科目を主体とした学びを深め、人が備えている人としての特性や特徴を学ぶ、
「こども期」のさまざまな心理と心理的危機を学び、心理学的支援の方法を学ぶ

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(D学科)：基礎科目、
認定心理士認定資格(D学科)：副次科目

講義概要

1. 内容

臨床心理学が、実践の知の学問であることを考慮し、典型事例の検討、グループ討議、模擬カウンセリングなど、体験的な学習を取り入れる。臨床心理学の基本的な事柄を後半に扱うとともに、臨床現場における臨床心理学関連の仕事を概観することに努め、今後の学習のための基礎および、問題意識を与える。※「認定心理士」資格では、「選択科目a」（心理学概論）に区分される科目である。

2. 学びの意義と目標

心理アセスメントや心理療法の全般を理解できるようになり、実際の心理職の活動状況を知ることができる。そのことで、今後、専門科目の学びの土台とすることができる。

受講生に対する要望

心理アセスメントも心理療法も、自分自身に重ね合わせ、体験的に学んでいく姿勢が望まれる。

キーワード

(1)心理アセスメント (2)心理療法 (3)心理職の資格 (4)心理職の実践領域

事前学習（予習）

授業計画や、授業内で行う予告を参考に、インターネットなどで情報を集めたり、関連資料を読むなどしておくこと。

復習についての指示

配付資料を再読するとともに、授業で配布する復習用資料（授業新聞）を使って、授業の中心点を考え、他の学生の意見を読むなどすること。

授業計画

1. 臨床心理学とは①（ストレス評価から考える）
2. 臨床心理学とは②（カップルカウンセリングから考える）
3. 臨床心理学とは③（正常と異常の概念から考える）
4. 心理アセスメント①（質問紙テスト、行動観察、面接）
5. 心理アセスメント②（投影法）
6. 心理療法①（精神分析）
7. 心理療法②（行動療法）
8. 心理療法③（クライエント中心療法）
9. 心理療法④（芸術療法）
10. 心理療法⑤（日本で生まれた心理療法）
11. 心理療法⑥（家族療法）
12. 実践領域①（教育・福祉・司法・矯正）
13. 実践領域②（医療・産業・開業）
14. 臨床心理学の学び方、資格
15. 全体のまとめ

教科書

プリントを配布する
毎回関連資料等を配布する。【参考書】毎回授業内で紹介する。

評価方法

(1)ミニテスト:25%:適宜授業内で行なう (2)授業態度:25% (3)授業内テスト:50%:最終授業内で行なう

担当者：原 一子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

こどもの人格と人権を尊重するゆるぎない価値観を持って社会貢献ができることを学ぶ

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

ソクラテスは、「大切なことは、ただ生きることではなく、より善く生きることだ」（『クリトン』）と語ったが、「倫理学A」では、その「より善く生きる」ことについて、日常、私たちがいかに考え行動しているか、という身近な問題から出発して、それを倫理思想との関わりにおいて理解する。その上で、善悪、義務、価値、幸福など、倫理学の根本問題や倫理的行為の主体である人間とは何かという問題についても考察する。

2. 学びの意義と目標

「より善く生きる」ことについて人々がいかに考えてきたかを学ぶことは、学問的のみならず、われわれ一人ひとりの生き方を考える上でも極めて重要なことである。ましてや、こどもの倫理性を育成するためには、こどもに関わり、寄り添う者自身の倫理観、価値観の確立は不可欠である。

受講生に対する要望

倫理学の問題を、単なる思想としてではなく、我が事として、自分の生き方に引きつけて考えて欲しい。関連する書籍をたくさん読んで、大学生に相応しい思索と自己発見をして欲しい。可能なら「倫理学B」も併せて受講して欲しい。

キーワード

(1) 善く生きる (2) 倫理 (3) 法 (4) 慣習 (5) 善悪

事前学習（予習）

1. 配布資料を前もって読んで上授業に臨む。2. 毎回必ず、次回までの学習課題を出すので、各回ごとの指示に従って課題をこなすこと。

復習についての指示

前回の授業の要旨を纏め、自分の意見や調べたことなどを加え整理して、提出する。

授業計画

1. はじめに 「善く生きる」とは何かー日常の倫理的葛藤
2. 9個の菓子を7人で分けるー「正しい」分け方は？
3. 誰が救命ボートに乗るべきか？ 映画「タイタニック」から
4. 人間の基本的条件ー人権と平等について考える
5. 倫理的行為の主体ー人間とは何か
6. 人間の本性を巡ってーDVD 「ヒューマン」
7. 倫理とは何か 1ー倫理・道徳・法・掟・慣習・契約
8. 倫理とは何か 2ー倫理・道徳・法・掟・慣習・契約
9. 私たちはなぜ盗みや殺人をしないのかー功利主義の考え方
10. 正しい殺人はあるのかーDVD「サンデル教授の白熱授業」
11. 私たちが善いことをするのはなぜかーカントの道徳法則
12. 快・不快と善・悪
13. 善とは何か 悪とは何か
14. 幸福と正義
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 試験またはレポート:50% (2) 出席率:30% (3) 学習態度:20%

期末考査を試験にするかレポートにするかは、履修者数によって、初回の授業時に決定する。

担当者：原 一子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

こどもの人格と人権を尊重するゆるぎない価値観を持って社会貢献ができることを学ぶ

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

「倫理学A」では日常の倫理的場面、倫理的行為の主体である人間の理解、倫理的行為成立の条件などについて考察したが、「倫理学B」では、快・不快、善・悪、価値などの倫理的問題がいかに考えられてきたかを、古今東西の倫理思想史に触れつつ考察する。プラトン、アリストテレス、カント、ベンサム、諸子百家、和辻哲郎などの文献も講読しつつ倫理学への理解を深める。

2. 学びの意義と目標

「より善く生きる」ことについて古来いかに考えられ、それが現代社会にいかにも実現されているかを学ぶことは、学問的のみならず、われわれ一人ひとりの価値観の確立のためにも極めて重要である。ましてや、こどもに寄り添い、倫理性を育成するためには、こどもに関わる者自身の倫理観、価値観の確立は不可欠である。

受講生に対する要望

倫理学の問題を、単なる思想としてではなく、我が事として、自分の生き方に引きつけて考えて欲しい。関連する書籍をたくさん読んで大学生に相応しい思索をして欲しい。可能なら「倫理学A」と併せて受講して欲しい。

キーワード

(1) 倫理学 (2) ソクラテス (3) プラトン (4) アリストテレス (5) 幸福

事前学習（予習）

1. 配布資料を前もって読んで上授業に臨む。2. 毎回必ず、次回までの学習課題を出すので、各回ごとの指示に従って課題をこなすこと。

復習についての指示

先回の授業の要旨を纏め、問題点や、自分で考えたり調べたりしたことを加えて整理し、提出する。

授業計画

1. はじめにー倫理とは何か、倫理学とは何か
2. エトスとエートスーアリストテレス・孟子・和辻哲郎
3. 「べき」と「である」
4. 倫理思想史1ー倫理学の誕生1 ソクラテス以前
5. 倫理思想史2ー倫理学の誕生2 ソクラテス
6. 倫理思想史3ーポリスの正義 プラトン
7. 倫理思想史4ーポリスの正義 アリストテレス
8. 倫理思想史5ー倫理的判断は先天的か イギリス経験論
9. 倫理思想史6ー倫理的判断は先天的か カント
10. 倫理思想史7ー倫理的判断は先天的か 功利主義
11. 私たちはなぜ悪いことをしないのか
12. 倫理思想史8ー価値の序列 シューラー
13. 倫理思想史9ー主体性の倫理学とその問題点
14. 幸福とは何か
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 試験またはレポート:50% (2) 出席率:30% (3) 受講態度:20%

期末考査を試験にするかレポートにするかは、履修者数によって、初回の授業時に決定する。

人間福祉学科

担当者：山本 博之

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

対人支援力：人格を尊重して人とのかかわることのできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

社会福祉主事任用資格：選択科目

講義概要

1. 内容

慢性疾患の時代に入り、「医療と福祉の連携」という言葉がたびたび使われるようになった。しかしながら、人々の傷病や健康にかかわる問題は社会福祉と密接な関係があったといえる。授業では、医療福祉の歴史、医療福祉専門職が習得すべき知識、価値、技術について学ぶとともに、事例を通じて医療福祉実践の現状を学ぶ。

2. 学びの意義と目標

医療ソーシャルワークを行うために必要な基本的内容を学ぶことを目的とする。

受講生に対する要望

授業中のディスカッションには積極的に参加することを期待する。

キーワード

(1)医療ソーシャルワーク (2)保健医療

事前学習（予習）

授業計画にて講義内容を確認し、該当部分の下調べをしてから授業に出席すること。

復習についての指示

授業後は十分な復習を行い、知識の定着をはかること。

授業計画

1. ソーシャルワーク概論
2. 医療福祉を取り巻く背景
3. 医療ソーシャルワークの歴史
4. 日本の医療制度
5. 日本の医療福祉にかかわる制度Ⅰ：医療保険制度の概要
6. 日本の医療福祉にかかわる制度Ⅱ：診療報酬の仕組み
7. 医療ソーシャルワーカーの役割機能Ⅰ：業務指針
8. 急性期医療における医療ソーシャルワーカーの機能
9. 事例を通じた急性期医療における医療ソーシャルワーカーの機能
 10. ターミナル期における医療ソーシャルワーカーの機能
 11. 事例を通じたターミナル期における医療ソーシャルワーカーの機能
 12. 地域連携の現状と課題
 13. 医療福祉の将来的展望
 14. 授業の振り返り
 15. 試験

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業への積極的参加態度:50% (2)試験:50%

衛生学入門

HESC-W-100

担当者：大江 敏江

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1 内容 衛生学は疾病を予防し、健康の保持、増進を目標としている。平均寿命の大幅な伸長は医療の進歩よりも衛生環境の整備、栄養の改善、貧困からの脱却に負うところが大きい。本講では、上下水道、感染症、室内環境、食中毒、国民栄養、生活習慣病など身の回りの問題を取り上げ、健康と環境の関係について学ぶ。（教科書は「衛生学入門」、「公衆衛生学」、「環境衛生学」共通である）

2. 学びの意義と目標

衛生学が「保健」の領域全般に関与し、医療・福祉との関連が深いことを理解する。そして2年次以降の「公衆衛生学」および「環境衛生学」への発展の基礎とする。また衛生学入門は公衆衛生学、環境衛生学とともに社会福祉士国家試験科目「医学一般」の一部でもある。将来保健医療関係者との連携をはかるうえで、基礎となるものである。

受講生に対する要望

衛生学について、真摯に学ぶ意欲のある者の受講を望む。

キーワード

(1) 衛生 (2) 保健 (3) 健康 (4) 環境 (5) 医学一般

事前学習（予習）

次週の教科書の該当箇所を読む。

復習についての指示

(1) 授業ノート、教科書、配布プリントの順に読み返し理解する。
(2) 重要と指摘された箇所はよく復習する。(3) 小テストは返却後復習し、よく理解する。

授業計画

1. 衛生学とは、水と健康1（上水）
2. 水と健康2（下水、水質汚濁）
3. 感染症とその予防1（成り立ち、感染症法）
4. 感染症とその予防2（予防対策、流行防止対策）
5. 感染症とその予防3（疾病予防と予防接種）
6. 感染症とその予防4（国内における感染症）
7. 環境の物理的条件1（温熱）
8. 環境の物理的条件2（感覚温度、不快指数）
9. 環境の化学的条件（酸素、窒素）
10. 室内環境衛生と環境の化学的条件（炭酸ガス、CO）
11. 太陽光線と健康1（赤外線の影響）
12. 太陽光線と健康2（紫外線の影響）
13. 騒音と難聴1（音のしくみと特徴）
14. 騒音と難聴2（音の健康影響と予防対策）
15. 食品衛生1（食中毒発生のしくみ）
16. 食品衛生2（おもな食中毒とその特徴）
17. 食品衛生3（わが国の食中毒の現状）
18. 食品衛生4（わが国の食中毒の予防対策）
19. 健康と栄養1（栄養の基礎知識）
20. 健康と栄養2（食事摂取基準）
21. 国民栄養の現状
22. 国民栄養の課題
23. 生活習慣と疾病（生活習慣病）
24. 循環器疾患の現状と予防1（高血圧性疾患）
25. 循環器疾患の現状と予防2（心疾患、脳血管疾患）
26. 悪性新生物の自然史と現状
27. 悪性新生物の一次予防、二次予防
28. 糖尿病、脂質代謝異常症の現状と予防
29. メタボリック症候群の定義・現状・対策
30. 試験とその解説

教科書

辻 一郎 『シンプル衛生公衆衛生学 2014』（南江堂）

評価方法

(1) 受講態度：20% (2) 授業内小テスト：20% (3) 中間テスト：30% (4) 期末テスト：30%
60%以上を合格とする。

担当者：高山 法子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：福祉必修科目、
社会福祉主事任用資格：選択科目、
社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

・介護の概念や対象・介護過程・介護の技法（住環境の整備を含む。）・認知症ケア・介護予防・終末期ケア

2. 学びの意義と目標

・介護の概念や対象及びその理念等について理解する。
・介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。
・終末期ケアの在り方（人間観や倫理を含む。）について理解する。

受講生に対する要望

授業内容に不明な点や疑問な点がありましたら、極力、その場で質問してください。絶対、隣の人と喋らないで最後まで授業に望んでいただきたい。

キーワード

(1) 自立支援 (2) 介護の専門性 (3) 介護の理念 (4) エンパワメント
(5) 個人の尊厳

事前学習（予習）

今回の授業について口述しますから、いわれた箇所を必ず読んでくること。また、配布したプリントの空白を教科書をみて埋めること。

復習についての指示

A4のノートを準備し、1回受講ごとに、学んだ内容と感想をまとめ、授業終了5分前にその箇所を広げておく。

授業計画

1. 介護の概念や対象 (1) 介護の概念と範囲
2. 介護の概念や対象 (2) 介護の理念
3. 介護の概念や対象 (3) 介護の対象
4. 介護過程
5. 介護の技法 (1) 家事における自立支援
6. 介護の技法 (2) 身支度・移動・睡眠の介護
7. 介護の技法 (3) 食事・口腔衛生の介護
8. 介護の技法 (4) 入浴・清潔・排泄の介護
9. 介護と住環境
10. 認知症ケア (1) 認知症ケアの基本的考え方
11. 認知症ケア (2) 認知症ケアの実際
12. 介護予防 (1) 介護予防の必要性
13. 介護予防 (2) 介護予防プランの実際
14. 終末期ケア (1) 終末期ケアの基本的考え方
15. 終末期ケア (2) 終末期ケアの実際

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会 『新・社会福祉士養成講座〈13〉高齢者に対する支援と介護保険制度』（中央法規出版）

評価方法

(1) 試験:70% (2) 介護過程記録:15% (3) 宿題:10% (4) 出席:5%

担当者：高山 法子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：福祉必修科目

講義概要

1. 内容

寝たきり高齢者や疾病・障害をもつ人々の生命を維持させ、その方々が快適な生活を営むことができるよう支援するための直接的・間接的な介護の技術の理論と方法の基礎を学ぶ。

2. 学びの意義と目標

1. 生活を整えるために必要な介護の技術と技法を理解する。
2. 利用者の立場にたって、安全・安楽を配慮した基礎的な介護の技法を習得する。3. 利用者が自律（自立）するための援助方法および個別への対応の重要性について考えを深める。

受講生に対する要望

授業内容に不明な点や疑問な点がありましたら、極力、その場で質問してください。絶対、隣の人と喋らないで最後まで授業に望んでいただきたい。

キーワード

(1) ジュハリの窓 (2) ボディメカニクス (3) 生活不活発病 (4) 自立性・安全性・安楽性 (5) 自分らしさ

事前学習（予習）

次回行う講義内容や演習内容のプリントを読んでおく。演習に関してはシュミュレーションしておく。

復習についての指示

演習を行って見て、介護者として大切な視点と、利用者の立場から考えたことをA41枚に記録し、翌週提出。

授業計画

1. オリエンテーション
2. コミュニケーションの基本
3. 身支度の介護
4. 身支度の介護演習
5. 移動の介護
6. 移動の介護演習
7. 睡眠の介護
8. 食事の介護
9. 食事の介護演習
10. 入浴・身体の清潔
11. 足浴の演習
12. 排泄の介護
13. 排泄の介護演習
14. 予想される事故とその対応
15. 住環境の整備

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会 『新・社会福祉士養成講座〈13〉高齢者に対する支援と介護保険制度』（中央法規出版）

評価方法

- (1) 試験:60% (2) レポート:20%:宿題含む (3) 出席:20%

担当者：高山 法子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：福祉必修科目

講義概要

1. 内容

寝たきり高齢者や疾病・障害をもつ人々の生命を維持させ、その方々が快適な生活を営むことができるよう支援するための直接的・間接的な介護の技術の理論と方法の基礎を学ぶ。

2. 学びの意義と目標

1. 生活を整えるために必要な介護の技術と技法を理解する。
2. 利用者の立場にたって、安全・安楽を配慮した基礎的な介護の技法を習得する。3. 利用者が自律（自立）するための援助方法および個別への対応の重要性について考えを深める。

受講生に対する要望

講義終了後、夏休みに施設実習が入っていますから、15回の講義・演習は絶対休まないでほしい。

キーワード

(1)自己開示 (2)共感と受容 (3)自立支援 (4)個性（一人ひとりの違いを尊重する）と公平性 (5)専門職

事前学習（予習）

グループで話し合う資料に目を通し、次回の授業までに自分の考えをまとめておく。

復習についての指示

受講した内容と感想をA4のノートにまとめておく。参考文献を何回か提示しますから、文献を熟読し感想をノートにまとめる。

授業計画

1. オリエンテーション
2. コミュニケーション（共感と受容・自己開示）
3. 価値交流学习
4. 事例を通して考える
5. "
6. "
7. "
8. "
9. 利用者理解
10. "
11. スーパービジョン
12. "
13. "
14. 実習準備（1）
15. 実習準備（2）

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)レポート・実習記録:80% (2)出席・授業態度:20%:宿題含む

カウンセリング論

PSYC-W-300

担当者：土屋 瑛美

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(W学科)：選択科目

講義概要

1. 内容

今日カウンセリングは医療・教育・司法・産業領域など様々な領域で応用されている。本講義ではカウンセリングを初めて学ぶ人を対象に、カウンセリングの基礎的な知識や技術、カウンセリングを行う上での基本的な態度を学習する。体験学習や映像視聴を取り入れながら、授業を進めていくこととする。

2. 学びの意義と目標

本講義はカウンセリングを初めて学ぶ人を対象とした入門講座である。体験学習や映像視聴を通して、カウンセリングとはどのようなものなのか肌で感じてもらうことを目標とする。加えて、心理的問題の理解のために必要な基礎的な知識や技術を習得することを目指す。

受講生に対する要望

個人での体験学習、グループでの体験学習、映像視聴など「体験」を重視した授業形式となるため、自らの感性や感覚を大切に、授業に集中し能動的に臨むことが求められる。

キーワード

(1) カウンセリング入門 (2) カウンセリングの基礎的な態度 (3) カウンセリングの基礎知識 (4) 体験学習 (5) 感性を育てる

事前学習（予習）

本講義は、体験を重要視している。体験学習を受けるための心づもりをしてもらうことを準備学習とする。

復習についての指示

授業ごとに配布されたプリントを復習し、知識の習得のための努力をすることを復習とする。

授業計画

1. オリエンテーション
2. カウンセリングの基礎理論
3. カウンセリングの基礎技法 (1) 話の聴き方
4. カウンセリングの基礎技法 (2) 話の聴き方 (ワーク)
5. カウンセリングの基礎技法 (3) 応え方
6. カウンセリングの基礎技法 (4) 応え方 (ワーク)
7. アセスメント (1) アセスメントとは
8. アセスメント (2) 面接法・初回面接の重要性
9. アセスメント (3) 心理検査の用い方
10. アセスメント (4) 知能・発達検査
11. アセスメント (5) 性格検査 (質問紙法)
12. アセスメント (6) 性格検査 (投影法)
13. 心理的問題の理解のために (1)
14. 心理的問題の理解のために (2)
15. 発達臨床心理 (1) 生涯発達とは
16. 発達臨床心理 (2) 乳幼児期・児童期
17. 発達臨床心理 (3) 思春期
18. 発達臨床心理 (4) 青年期
19. 発達臨床心理 (5) 成人期・中年期・老年期
20. 発達臨床心理 (6) 家族の発達
21. 介入 (1) 心理臨床的援助・介入とは
22. 介入 (2) 来談者中心療法
23. 介入 (3) 精神分析療法
24. 介入 (4) 芸術療法
25. 介入 (5) 家族療法
26. 介入 (6) ナラティブ・セラピー
27. 心理的問題の理解のために (3)
28. 心理的問題の理解のために (4)
29. 講義のまとめ (1)
30. 講義のまとめ (2)

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 平常点: 70%: 授業への参加、体験への取り組み、授業内課題などを平常点として評価 (2) 中間・期末テスト: 30%

担当者：横山 麻衣

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

現代社会における、家族をめぐる問題について総合的に学ぶ。

2. 学びの意義と目標

今日、家族はとても多義的な存在となっており、さまざまな社会問題を理解する上でも不可欠のものとなっている。授業を通して家族をめぐる問題についての基礎を学ぶとともに、今後、家族を形成するにあたって役に立つような知識や考え方を身につけてもらいたい。

受講生に対する要望

・「家族」について問題関心を持っていること。・社会学についてある程度知識があることが望ましい。

キーワード

(1)家族 (2)親密性 (3)近代 (4)多様性

事前学習（予習）

毎回の講義終了後、次回講義テーマについて述べるので、そのテーマについて知りたいことやわからないことについて考えておくこと（適宜授業の中で質問するので、可能な範囲で発言することが望ましい）。

復習についての指示

講義終了後、配布プリントを再読し、①自分が興味関心を抱いた事柄、②その理由について考えておくこと（適宜授業の中で質問するので、可能な範囲で発言することが望ましい）。

授業計画

1. 家族とは（1）
2. 家族とは（2）
3. 家族の類型（1）
4. 家族の類型（2）
5. 性と愛（1）
6. 性と愛（2）
7. 配偶者選択（1）
8. 配偶者選択（2）
9. 結婚の意味と機能（1）
10. 結婚の意味と機能（2）
11. 離婚（1）
12. 離婚（2）
13. 家族とライフサイクル（1）
14. 家族とライフサイクル（2）
15. 家族の危機（1）
16. 家族の危機（2）
17. 家族と役割（1）
18. 家族と役割（2）
19. 家族と勢力（1）
20. 家族と勢力（2）
21. 家族と情緒（1）
22. 家族と情緒（2）
23. 家族と子育て（1）
24. 家族と子育て（2）
25. 家族と介護（1）
26. 家族と介護（2）
27. 家族とネットワーク（1）
28. 家族とネットワーク（2）
29. 家族の変動（1）
30. 家族の変動（2）

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:40% (2)期末試験:50% (3)レポートなど:10%

担当者：水本 深喜

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(W学科)：選択科目

講義概要

1. 内容

家族メンバーの「こころ」は、その家族の歴史、現在の家族関係と切り離して考えることはできない。本講義では、個人を家族との関係から捉え、家族が形成されてから発達して行く過程、その過程で生じる家族メンバーの相互作用や心理臨床的問題、その問題への支援法を学ぶ。授業は、基本的には講義形式で進むが、随時、個人ベースでの演習、グループディスカッション、グループ毎のプレゼンテーション等を取り入れる。また、毎回の講義終了時には、各受講生がコメントペーパーに講義内容に関する考察、質問等を書くことで、学習の定着を図る。学生のコメントについては、次回授業開始時に取り上げ、フィードバックする。

2. 学びの意義と目標

本講義の目標は、個人を家族との関係から理解し、支援するための基礎的な知識を得ることである。こうした学びには、福祉の場における支援対象者の理解・支援の手がかりを得ることができるという意義がある。さらに、身近な存在であるがゆえに客観視することが難しい家族との関係について、心理学の理論に基づいて考えていくことは、他者理解のみでなく自己理解を深めることにも繋がると期待される。

受講生に対する要望

新聞、雑誌、書籍、テレビ番組などで取り上げられている現代特有の家族の問題への意識を高めることを期待する。

キーワード

(1)家族心理学 (2)発達心理学 (3)臨床心理学 (4)親子関係 (5)夫婦関係

事前学習（予習）

教科書の該当箇所に目を通しておくことが望ましい。

復習についての指示

講義で扱った内容について、自分なりの考えをまとめることが重要である。

授業計画

1. オリエンテーション
2. ジェノグラム①（演習）
3. 家族システム理論
4. 家族イメージ法（演習）
5. 家族を理解するための鍵概念
6. 家族をシステムから捉え、家族の問題を考える（演習）
7. 独身の若い成人期
8. 結婚による家族の成立期
9. 乳幼児を育てる段階
10. 父親の子育て、子育て不安
11. アタッチメント
12. 小学生の子ども、若者世代とその家族
13. アイデンティティ（演習）
14. 自立とは？（演習）
15. 親からの精神的自立（演習）
16. 老年期の家族
17. 家族への臨床的アプローチ
18. リフレーミング（演習）
19. 夫婦関係の危機と援助
20. 現代における子育ての難しさ
21. 児童虐待
22. 子育て支援
23. 家族が経験するストレスと援助
24. 家族の中のコミュニケーション
25. 今日的な家族の問題
26. 事例検討（演習）：不登校の事例
27. 事例検討（演習）：不登校の事例
28. 事例検討（演習）：不登校の事例
29. まとめ
30. まとめ

教科書

中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子 『家族心理学：家族システムの発達と臨床的援助』（有斐閣ブックス）

評価方法

(1)授業参加態度:20% (2)中間レポート:30% (3)期末試験:50%

担当者：村上 公久

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

私たちの世界の滅亡を人の死に例えて「核戦争による滅亡を心臓発作による死、環境破壊による滅亡をガンの進行による死」とすれば、今日全面核戦争の脅威は軽減されつつあるが、自然・環境破壊は急速に進行中である。心臓発作の急死の危険はやや遠のいたが、ガンが進行し体のあちこちに転移して拡大していることがはっきりしてきた。現在、国際機構、各国、自治体、地域の環境問題における最大の政策課題は、「経済成長か、環境か」のディレンマをめぐる合意形成とその妥当性の検討である。この科目では、まず環境史を学び、次に産業革命以後の環境問題を省みたとで、持続可能な（持続可能な）開発(Sustainable Development)を考える。

2. 学びの意義と目標

教養・総合科目「環境学」の内容を基礎として展開する内容を扱う専門科目。この科目は 総合科目「環境学」、基礎科目「聖書の中の環境問題」の講義内容と関連したテーマをさらに より深く扱っているもので、準備として これらの科目を予め履修しておくことが望ましい。

受講生に対する要望

この科目は 総合科目「環境学」、基礎科目「聖書の中の環境問題」の講義内容と関連したテーマをさらに より深く扱っているもので、準備として これらの科目を予め履修しておくことが望ましい。

キーワード

(1)自然保護と環境保全 (2)自然観の変遷 (3)個体群生態学と環境容量 (4)再生産可能な資源 と 枯渇性資源 (5)保続的（持続的）発展

事前学習（予習）

講義の各回については、事前に配布する講義資料をよく学び考えておくこと。この科目は 総合科目「環境学」、基礎科目「聖書の中の環境問題」の講義内容と関連したテーマをさらに より深く扱っているもので、準備として これらの科目を予め履修しておくことが望ましい。「環境学」「聖書の中の環境問題」履修済みの者は、よく復習しておくこと。

復習についての指示

各回の講義内容について、関係する情報・資料を探して参考にし、講義を受けて自分で考えたことを含めて講義記録のノートに記録する。

授業計画

1. 体系的認識の重要性（「何故 大学で学ぶのか」）
2. 自然と環境
3. エコロジーの重要ないくつかの概念（1）
4. エコロジーの重要ないくつかの概念（2）
5. 自然観の変遷（1）
6. 自然観の変遷（2）
7. 「3つの文化型」 man-in-nature の文化（1）
8. 「3つの文化型」 man-in-nature の文化（2）
9. 〔人間－環境〕系（1）
10. 〔人間－環境〕系（2）
11. 21世紀の環境問題 生命圏の全的壊滅の危機 「突然」はあるか
12. 環境史（1）
13. 環境史（2）
14. 環境問題の歴史
15. 自然保護運動の歴史
16. 無思慮な悲観論とセンチメンタリズムの危険
17. 個体群生態学と環境容量
18. 「地球温暖化問題」（1）
19. 「地球温暖化問題」（2）
20. 「地球温暖化問題」（3）
21. 自然保護と環境保全 「自然破壊」と「自然保護」の対立、第三の立場「環境保全」
22. 保続的（持続的）社会 Sustainable Societyを考える
23. 再生産可能な資源 と 枯渇性資源（1）
24. 再生産可能な資源 と 枯渇性資源（2）
25. 保続的（持続的）発展Sustainable Development（1）
26. 保続的（持続的）発展Sustainable Development（2）
27. 保続する〔人間－環境〕系をめざして
28. 全球化globalization 中の環境問題
29. 「我々の家」としての地球
30. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:40% (2)2回以上の試験と期末試験:60%

欠席回数が講義回数の3分の1を超える者には、単位を認定しない。資料の探索と資料の理解、プレゼンテーション等のための加工、複数回の個人・チームによるプレゼンテーション、討論、ゼミ参加態度、ゼミへの熱意と貢献等 などを総合的に評価する。

担当者：村上 公久

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

私たちの世界の滅亡を人の死に例えて「核戦争による滅亡を心臓発作による死、環境破壊による滅亡をガンの進行による死」とすれば、今日全面核戦争の脅威は軽減されつつあるが、自然・環境破壊は急速に進行中である。心臓発作の急死の危険はやや遠のいたが、ガンが進行し体のあちこちに転移して拡大していることがはっきりしてきた。現在、国際機構、各国、自治体、地域の環境問題における最大の政策課題は、「経済成長か、環境か」のディレンマをめぐる合意形成とその妥当性の検討である。この科目では、まず環境史を学び、次に産業革命以後の環境問題を省みたとで、持続可能な（持続可能な）開発(Sustainable Development)を考える。

2. 学びの意義と目標

教養・総合科目「環境学」の内容を基礎として展開する内容を扱う専門科目。この科目は 総合科目「環境学」、基礎科目「聖書の中の環境問題」の講義内容と関連したテーマをさらに より深く扱っているもので、準備として これらの科目を予め履修しておくことが望ましい。

受講生に対する要望

この科目は 総合科目「環境学」、基礎科目「聖書の中の環境問題」の講義内容と関連したテーマをさらに より深く扱っているもので、準備として これらの科目を予め履修しておくことが望ましい。

キーワード

(1)自然保護と環境保全 (2)自然観の変遷 (3)個体群生態学と環境容量 (4)再生産可能な資源 と 枯渇性資源 (5)保続的（持続的）発展

事前学習（予習）

講義の各回については、事前に配布する講義資料をよく学び考えておくこと。この科目は 総合科目「環境学」、基礎科目「聖書の中の環境問題」の講義内容と関連したテーマをさらに より深く扱っているもので、準備として これらの科目を予め履修しておくことが望ましい。「環境学」「聖書の中の環境問題」履修済みの者は、よく復習しておくこと。

復習についての指示

各回の講義内容について、関係する情報・資料を探して参考にし、講義を受けて自分で考えたことを含めて講義記録のノートに記録する。

授業計画

1. 体系的認識の重要性（「何故 大学で学ぶのか」）
2. 自然と環境
3. エコロジーの重要ないくつかの概念（1）
4. エコロジーの重要ないくつかの概念（2）
5. 自然観の変遷（1）
6. 自然観の変遷（2）
7. 「3つの文化型」 man-in-nature の文化（1）
8. 「3つの文化型」 man-in-nature の文化（2）
9. 〔人間－環境〕系（1）
10. 〔人間－環境〕系（2）
11. 21世紀の環境問題 生命圏の全的壊滅の危機 「突然」はあるか
12. 環境史（1）
13. 環境史（2）
14. 環境問題の歴史
15. 自然保護運動の歴史
16. 無思慮な悲観論とセンチメンタリズムの危険
17. 個体群生態学と環境容量
18. 「地球温暖化問題」（1）
19. 「地球温暖化問題」（2）
20. 「地球温暖化問題」（3）
21. 自然保護と環境保全 「自然破壊」と「自然保護」の対立、第三の立場「環境保全」
22. 保続的（持続的）社会 Sustainable Societyを考える
23. 再生産可能な資源 と 枯渇性資源（1）
24. 再生産可能な資源 と 枯渇性資源（2）
25. 保続的（持続的）発展Sustainable Development（1）
26. 保続的（持続的）発展Sustainable Development（2）
27. 保続する〔人間－環境〕系をめざして
28. 全球化globalization 中の環境問題
29. 「我々の家」としての地球
30. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:40% (2)2回以上の試験と期末試験:60%

欠席回数が講義回数の3分の1を超える者には、単位を認定しない。資料の探索と資料の理解、プレゼンテーション等のための加工、複数回の個人・チームによるプレゼンテーション、討論、ゼミ参加態度、ゼミへの熱意と貢献等 などを総合的に評価する。

担当者：山本 寿子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人と社会の理解：人を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身に付ける

カリキュラム上の位置付け

社会教育主事資格：必修科目、
認定心理士認定資格(W学科)：選択科目

講義概要

1. 内容

教育心理学は、学習能力や発達のメカニズムといった人間の認知活動の基礎を理解すること、それらの知識をよりよい教育活動に活用することを目指している。本授業では、講義によって教育心理学の基礎的な知見を学び、さらに教育に関する問題をテーマにした課題や討論に取り組むことで、活用するという視点から教育心理学の考え方を身に付ける。

2. 学びの意義と目標

学習と発達についての心理学的知見を知識として学び、学んだ知識を用いて教育の諸問題について考える力、それらを他者にわかりやすい形で伝える力を養うことを目標とする。

受講生に対する要望

単に講義を聞くだけでなく、個人およびグループ単位での課題や討論に積極的に参加し、学びの時間を有効に使ってほしい。

キーワード

(1)教育 (2)学習 (3)発達

事前学習（予習）

与えられたテーマについて、次回の授業でグループ活動や討論ができるよう準備をしておくこと。

復習についての指示

各自で授業内容の復習をすること。小テストによる確認を行う。

授業計画

1. ガイダンス
2. 動機づけ
3. 意欲を引き出すために
4. 記憶と学習の仕組み
5. 知識の獲得
6. 問題解決と思考
7. 思考力を育てるには
8. 知覚の発達
9. 子どもの認知特性
10. 社会性の発達
11. 子どものコミュニケーション
12. 言語の発達
13. 文章理解の発達
14. 数と科学概念の発達
15. 認知発達と教科教育
16. 発達障害
17. 発達障害への支援
18. 遺伝と環境
19. 子どものパーソナリティ
20. 教育評価
21. 学習を促進する評価
22. 個人の捉え方
23. 個人差に応じた教育
24. 授業空間における学習
25. 協同学習の効果
26. メタ認知
27. 学習方略
28. メディアと発達
29. デジタルデバイスを用いた教育
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)授業内課題:60%:小テストおよび小レポート (2)期末試験:40%

担当者：阿部 洋治

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

福祉のこころ：福祉のこころを育み、人格を高める

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

この講義においては、パスカルの『パンセ』を読みながら、人間の問題を考察する。

2. 学びの意義と目標

ギリシャ哲学の理性重視の伝統は近代において強調され、啓蒙主義へと引き継がれ、やがて理性万能、人間万能の思想へと流れて行った。しかし、数学者でもあり、物理学者でもあったパスカルは、理性を尊重しつつも、人間の惨めさに向き合う人間理解を提示し、そこにこそ人間の偉大さを見た。人間に向き合うということは、こうした深い人間理解が求められる。福祉を学ぶ学生諸君が人間を深く思索する機会となることを願っている。

受講生に対する要望

人は常に自己の弱さや惨めさに直面させられる。しかし、多くの場合、そこから目をそらすことを求める。しかし、真摯に自己の弱さと向き合うことが、深い意味での他者との関わりを生きる道を開くことになる。こうした理解を深めてほしい。

キーワード

(1) 懐疑論 (2) 楽観的人間理解 (3) ストア派哲学 (4) 人間の墮落
(5) 人間の偉大さ

事前学習（予習）

自分自身の弱さや惨めさに関して、また他者のそうした問題について、冷静に思索する習慣を持ちたい。

復習についての指示

パスカルを読みながら心に響いた点について自分で文章化することをしてほしい。

授業計画

1. ギリシャ哲学の理性の伝統 ソクラテス
2. ギリシャ哲学の理性の伝統 プラトン
3. ギリシャ哲学の理性の伝統 アリストテレス
4. パスカルの時代 理性主義 デカルト
5. パスカルの時代の懐疑主義 モンテーニュ
6. パスカルの 理性と感性の両面性
7. 人間の惨めさと偉大さ
8. 人間の惨めさ 義しさをめぐる不安について
9. 人間の惨めさ 理性の限界について
10. 人間の惨めさ 虚栄について
11. 人間の惨めさ 虚無について
12. 理性による神認識の不可能性
13. 隠れた存在としての神
14. 信仰への道
15. まとめ

教科書

パスカル、前田 陽一、由木 康 『パンセ（中公文庫）』（中央公論新社）

評価方法

(1) 試験：100% (2) 礼拝出席レポート：真摯な優れた内容のものは試験点数に加点、十分でない場合、未提出の場合には減点。(2) 授業出席：皆勤には加点、欠席は減点。

担当者：阿部 洋治

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

福祉のこころ：福祉のこころを育み、人格を高める

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

人間とは何か？人間は弱く、惨めで、限りある存在である。この講義では、聖書に登場する人物たち、歴史上の人々に目を向け、弱く、惨めで、限りある人間がどのように生かされ、かつ大切な働きをするに至ったかに注目したい。

2. 学びの意義と目標

この学びをとおして、弱く、惨めで、限りある人間が生きてはどういうことか。そういう人間が何か役立つ働きができるということはどういうことかを模索したい。

受講生に対する要望

人はしばしば自己を過信して傲慢になり、あるいは自己の弱さや惨めさに打ちのめされて外に向かえなくなるとなる。しかし、そういう自分と真摯に向き合う勇気と自信を持ってほしい。

キーワード

(1) 存在への勇気 (2) 自己肯定 (3) 罪の赦し (4) 神の愛 (5) 求められている存在

事前学習（予習）

聖書の人物についての予習をすること。歴史上の人物については、予習のポイントを授業で示唆する。

復習についての指示

心に残った人物について、自分で調べ、思索を深める努力をしてほしい。

授業計画

1. 信仰に生きた人々の姿 アブラハム
2. 信仰に生きた人々の姿 ヨセフ
3. 信仰に生きた人々の姿 モーセ
4. 信仰に生きた人々の姿 ダビデ
5. 信仰に生きた人々の姿 エレミヤ
6. 信仰に生きた人々の姿 ペテロ
7. 信仰に生きた人々の姿 パウロ
8. 聖書によって変えられた人々 アウグスティヌス
9. 聖書によって変えられた人々 聖フランシスコ
10. 聖書によって変えられた人々 マルティン・ルター
11. 聖書を読んだサムライたち 黒田官兵衛
12. 聖書を読んだサムライたち 高山右近
13. 聖書を読んだサムライたち 坂本龍馬
14. 聖書を読んだサムライたち 新島八重
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 試験：100% (2) 礼拝出席レポート：真摯な優れた内容のものは試験点数に加点、十分でない場合、未提出の場合には減点。(2) 授業出席：皆勤には加点、欠席は減点。

担当者：須川 聡子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人と社会の理解：人を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(W学科)：選択科目

講義概要

1. 内容

健康心理学は、心理学の知見・技術を活用し、心身の健康における諸問題に対して理論と実践の両側面から心理学的アプローチを図る、心理学や健康科学の応用領域です。本講では、1)健康心理学の基礎と、ストレスに関する生物学的メカニズムや理論を紹介し、2)より健康的な価値観、態度、行動や健康回復・健康づくりを自分自身に取り入れること、また、支援に活かすことについて、実習等具体的な課題を盛り込みながら授業を進めます。

2. 学びの意義と目標

健康の維持・増進のための知識と実践、疾病の予防と回復のための知識と実践について、こころ、身体、社会の3つの側面に注目して知識を深めるとともに、考えたり体験したりすることで、実生活や実際の支援に役立てることができるようになることを目標としています。

受講生に対する要望

実習や課題等の提出物は講義を聞かなければできません。全出席を目指すこと、積極的に参加することを求めます。

キーワード

(1)ウェルビーイング (2)ストレッサー (3)ストレスコーピング
(4)栄養・運動・睡眠 (5)健康リスク要因

事前学習（予習）

教科書関連項目に目を通してくること。実習は、その前までの回の授業内容と連動しているため、実習前には内容を再確認すること。

復習についての指示

教科書や、配布するプリントと板書内容を振り返り、理解を定着させること。実習課題を丁寧に取り組み、提出すること。

授業計画

1. 健康とウェルビーイング
2. 健康リスクへのアプローチ
3. 健康な社会づくり（職場のメンタルヘルスの実際の紹介）
4. 現代生活とストレス① 生理学的メカニズム
5. 現代生活とストレス② ストレスマネジメント
6. 【実習】リラクゼーション法と、ボディイメージ
7. 健康な食生活（食事バランスガイドにもとづく食生活チェック）
8. 運動と休養による健康づくり
9. 健康リスク要因とパーソナリティ
10. 健康リスク要因と行動
11. 【実習】自分にとっての健康的な行動
12. 女性と健康、高齢者と健康
13. 健康心理学と臨床心理学、健康心理カウンセリングの基本
14. 健康心理学的アセスメントとこれまでのまとめ
15. テスト

教科書

森 和代，茂木 俊彦，石川 利江 『よくわかる健康心理学（やわらかアカデミズム・わかるシリーズ）』（ミネルヴァ書房）

評価方法

- (1)授業への取り組み:40% (2)実習課題の提出:20% (3)学期末テスト:40%

権利擁護と成年後見制度

CCSW-W-300

担当者：川島 聡

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

対人支援力：人格を尊重して人とのかかわることのできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

社会福祉士国家試験受験資格：選択必修科目、
精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

・相談援助活動と法とのかかわり ・成年後見制度 ・日常生活自立支援事業 ・権利擁護に係る組織、団体の役割と実際 ・権利擁護活動の実際

2. 学びの意義と目標

・相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む）との関わりについて理解する。・相談援助活動において必要となる成年後見制度（後見人等の役割を含む）について理解する。・成年後見制度の実際について理解する。・社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。

受講生に対する要望

事前に履修しておくことが望ましい科目：「法学」

キーワード

(1) 権利擁護 (2) 相談援助 (3) 成年後見制度 (4) 憲法・民法・行政法・社会福祉関連法

事前学習（予習）

今回の内容について、指示されたテキストの該当箇所を読み、用語などを調べておくこと。

復習についての指示

社会・精神保健福祉士の国家試験受験予定者は、講義内容の復習（教科書の重要箇所の理解、ノートの見直しなど）と併せて、受験ワークブックや過去問題集などに目を通し知識を確実に習得すること。

授業計画

1. 相談援助活動と法とのかかわり (1) 相談援助活動において想定される法律問題
2. 相談援助活動と法とのかかわり (2) 日本国憲法の理解
3. 相談援助活動と法とのかかわり (3) 民法の理解
4. 相談援助活動と法とのかかわり (4) 行政法の理解
5. 成年後見制度 (1) 成年後見制度の概要 ①成年後見・保佐・補助の概要
6. 成年後見制度 (2) 成年後見制度の概要 ②任意後見の概要・民法における親権や扶養の概要
7. 成年後見制度 (3) 成年後見制度の概要 ③成年後見制度の最近の動向・成年後見制度利用支援事業の概要
8. 日常生活自立支援事業
9. 権利擁護に係る組織、団体の役割と実際 (1) 家庭裁判所・法務局・市町村の役割
10. 権利擁護に係る組織、団体の役割と実際 (2) 弁護士・司法書士の役割
11. 権利擁護に係る組織、団体の役割と実際 (3) 社会福祉士の役割と活動の実際
12. 権利擁護活動の実際 (1) 認知症高齢者・消費者被害者への支援
13. 権利擁護活動の実際 (2) 被虐待児者・アルコール等依存者への支援
14. 権利擁護活動の実際 (3) 非行少年とホームレスへの支援・障害児者への支援
15. 権利擁護活動の実際 (4) 多問題重複ケースをかかえる者への支援

教科書

福田幸夫・森長秀責任編集（福祉臨床シリーズ編集委員会編）『権利擁護と成年後見制度【第2版】（社会福祉士シリーズ19）』（弘文堂）

評価方法

- (1) 期末試験：60% (2) 毎回の授業のリアクションペーパー：20% (3) 中間レポート：20%

現代社会と福祉

CCSW-W-100

担当者：牛津 信忠

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける、
福祉のこころ：福祉のこころを育み、人格を高める

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：福祉必修科目、
社会福祉主事任用資格：選択科目、
社会福祉士国家試験受験資格：必修科目、
精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

・現代社会における福祉制度と福祉政策・福祉の思想と哲学・福祉制度の発達過程・福祉政策におけるニーズと資源・福祉政策の課題・福祉政策の構成要素・福祉政策の関連領域・福祉政策の国際比較・相談援助活動と福祉政策の関係

2. 学びの意義と目標

・現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。・福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。・福祉政策におけるニーズと資源について理解する。・福祉政策の課題について理解する。・福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。）について理解する。・福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係について理解する。・相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

受講生に対する要望

毎回授業に出席することはいうまでもなく、授業計画に沿って、予習復習をすることを義務付ける。予習については毎回提供するプリントを用いて、二回目より前回プリントの説明を終えていない箇所を読み、その意味をしっかりと調べて授業に臨むこと。復習は、ノート、プリントを読み返し、復習小テストのために準備をして毎回授業に臨むこと[最低3回に一度は小テストを行う]。

キーワード

(1)福祉における理念、政策、技術 (2)社会福祉における狭義・広義 (3)普遍主義的福祉 (4)ノーマライゼーション (5)ワーク・ライフ・バランス

事前学習（予習）

前回授業未終了箇所のレジュメ、授業時に指示する参考文献の該当箇所、福祉小六法の関連箇所を、事前に読み、授業に臨むこと。

復習についての指示

授業のレジュメと参考文献等を照合させ、毎回、必ず復習すること。最低3回に一度は行う終了箇所を範囲とした小テストに備えること。

授業計画

1. 現代社会における福祉制度と福祉政策 (1) わが国における福祉制度の概念と理念
2. 現代社会における福祉制度と福祉政策 (2) 福祉政策の概念と理念
3. 現代社会における福祉制度と福祉政策 (3) 福祉制度と福祉政策の関係
4. 現代社会における福祉制度と福祉政策 (4) 福祉政策と政治の関係
5. 現代社会における福祉制度と福祉政策 (5) 福祉政策の主体と対象
6. 福祉の思想と哲学 (1) 福祉の原理をめぐる哲学と倫理
7. 福祉の思想と哲学 (2) 福祉の原理をめぐる理論
8. 福祉制度の発達過程 (1) 前近代社会と福祉
9. 福祉制度の発達過程 (2) 近代社会と福祉
10. 福祉制度の発達過程 (3) 現代社会と福祉
11. 福祉政策におけるニーズと資源 (1) 需要とニーズの概念
12. 福祉政策におけるニーズと資源 (2) 資源の概念
13. 福祉政策の課題 (1) 福祉政策と社会問題 ①貧困、孤独、失業
14. 福祉政策の課題 (2) 福祉政策と社会問題 ②社会的排除、ヴァルネラビリティ
15. 福祉政策の課題 (3) 福祉政策の現代的課題（社会的包摂、社会連帯、セーフティネット）
16. 福祉政策の構成要素 (1) 福祉政策の論点 ①福祉政策の課題と国際比較
17. 福祉政策の構成要素 (2) 福祉政策の論点 ②効率性と公平性、必要と資源
18. 福祉政策の構成要素 (3) 福祉政策の論点 ③普遍主義と選別主義
19. 福祉政策の構成要素 (4) 福祉政策の論点 ④自立と依存・自己選択とパターナリズム
20. 福祉政策の構成要素 (5) 福祉政策の論点 ⑤参加とエンパワーメント
21. 福祉政策の構成要素 (6) 福祉政策における政府・市場・国民の役割
22. 福祉政策の構成要素 (7) 福祉政策の手法と政策決定過程と政策評価
23. 福祉政策の構成要素 (8) 福祉サービス供給部門
24. 福祉政策の構成要素 (9) 福祉サービスの供給と利用の過程
25. 福祉政策の関連領域 (1) 所得と福祉政策
26. 福祉政策の関連領域 (2) 保健医療と福祉政策
27. 福祉政策の関連領域 (3) 福祉政策と教育・住宅・労働政策
28. 福祉政策の国際比較 (1) 欧米諸国の福祉政策
29. 福祉政策の国際比較 (2) 東アジア諸国の福祉政策
30. 相談援助活動と福祉政策の関係

教科書

授業の中で指示する
主としてスライドショー（パワーポイントによる）授業。加えて関連プリントを毎回配布する。

評価方法

(1) 授業出席率:20%:座席表に名前と番号を書き込む形で出席を取る。(2) 小テストに見る思考力:20%:授業の区切りにあたるたびに20分程度で復習テスト。(3) 授業中の態度:10%:座席表による出席把握により、個人の態度を把握できる。(4) 授業中の質問:10%:授業中に手を挙げて質問することも歓迎する。(5) 期末論文形式のテスト:40%:授業全体を対象とし、知識のみならず、思考の力をも重視する。

担当者：中村 馨男

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

社会福祉主事任用資格：選択科目

講義概要

1. 内容

1) 内容 公衆衛生学の知識と公衆衛生学考え方を学ぶ。すなわち、健康の定義、健康指標、予防医学の概念、保健衛生統計、感染症予防、疫学、成人保健（生活習慣病とその予防）、衛生行政等の範囲を対象とする。2) カリキュラムの中の位置づけ 公衆衛生学は社会医学とも称される。福祉を学ぶ者にとって、公衆衛生学的知識と考え方を学ぶことは必須である。公衆衛生学は、医療関係者（医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・診療放射線技師等）の養成課程では必修科目となっている。1年次に、「衛生学入門」が置かれているが、全員が選択している訳ではない。衛生学入門との重複はなるべくさけ、なお、重要な箇所は繰り返して学びを深めたい。（教科書は「衛生学入門」と共通）国家試験科目である、医学一般（人体の構造と機能及び疾病・保健医療サービス）とも関係づけて講義を進めたい。

2. 学びの意義と目標

福祉分野において、保健・医療・福祉の連携が重要視されている。公衆衛生学は「保健」分野の基礎、保健分野そのものである。国家試験において、人口動態、人口動態、平均寿命、平均余命、健康寿命、メタボリックシンドローム、生活習慣病、二次予防、健康の定義、プライマリヘルスケアなどが出題されている。保健分野と医療や福祉との接点についても理解することを目的とする。

受講生に対する要望

教科書（衛生学入門と共通）を用意すること。座席の前方に着席することを心がけて、積極的な学びを要望したい。

キーワード

(1)健康とは何か・予防医学の概念 (2)生活習慣病とその予防 (3)人口動態・人口動態・疫学 (4)感染症とその予防 (5)衛生行政・医療保障・保健医療サービス

事前学習（予習）

予習：教科書の該当箇所は、目を通し理解できない箇所や語句をメモしておくこと。

復習についての指示

復習：授業の終わりに実施する小テストで疑問の点、また、返却された前回小テスト結果で正答でなかった点は復習してほしい。

授業計画

1. 健康の定義、健康指標、予防医学の概念
2. 生活習慣病とその予防 1. メタボリック・シンドローム
3. 生活習慣病とその予防 2. 糖尿病、循環器疾患、悪性新生物
4. 人口動態・人口動態
5. 出生と死亡の動向
6. 生命表と平均寿命、健康寿命
7. 医の倫理
8. 疫学 疫学とはなにか、記述疫学、分析疫学
9. 感染症とその予防 1. 感染の成立、感染と発症
10. 感染症とその予防 2. 免疫と予防接種、消毒
11. 感染症とその予防 3. AIDSと性感染症
12. 食中毒とその予防 1. 微生物起因食中毒
13. 食中毒とその予防 2. 自然毒・化学物質起因食中毒
14. 地域保健、衛生行政、医療保障、保健医療サービス
15. まとめと試験

教科書

鈴木庄亮・久道茂 『シンプル衛生公衆衛生学』（南江堂）

評価方法

- (1)受講態度：20%：出席状況、受講態度、座席位置 (2)小テスト（毎回）：30%：毎回実施し、次回に返却する (3)期末テスト：50%

更生保護制度

CGSW-W-300

担当者：三澤 孝夫

開設期：春学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

対人支援力：人格を尊重して人とのかかわることのできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

社会福祉士国家試験受験資格：選択必修科目

講義概要

1. 内容

司法福祉論として、社会福祉士の指定科目の1つである「更生保護制度」を中心に講義していく。あわせて、基礎となる司法制度や実際の相談援助活動における司法福祉分野の現状等も紹介していく。・更生保護のあらまし・更生保護の制度・更生保護制度の担い手・更生保護観察制度における関係機関・団体との連携・医療観察制度・更生保護制度の近年の動向と課題

2. 学びの意義と目標

【学びの意義】・更生保護制度と福祉制度の連携は、高齢化社会や障害者の社会復帰において注目されており、近年では新たな仕組みが整えられるなど、大きく進展している。福祉関係の相談機関や施設での業務において、その現状の理解は重要性を増しており、これらの知識は必須であるとともに、社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験の重要な出題領域でもある。また、専門家のみならず、我が国の司法制度や関係機関の役割、保護観察制度などの概要と現状についての知識や理解は、社会人として生活する上でも有用であると言える。

【目標】1. 相談援助活動において必要となる更生保護制度について理解する。2. 更生保護を中心に、司法制度の基本部分、刑事司法・少年司法分野で活動する組織、団体及び専門職について理解する。3. 刑事司法・少年司法分野の他機関等との連携の在り方について理解する。4. 相談援助活動において必要となる医療観察制度の概要と対象者援助の状況を理解する。

受講生に対する要望

講義については、静かに聞くことを受講の最低条件としますが、授業内容に関する疑問、意見については、気軽に積極的に出してください。また、「更生保護制度」という複雑な制度を、集中講義8回の講義枠で理解してもらうため、また、講義中に国家資格試験について、教科書記載部分と照らし、ポイント等を話す予定であるため、教科書の持参については、これを必至とします。

キーワード

(1) 司法福祉と更生保護制度 (2) 司法制度 (3) 社会内処遇 (4) 保護観察制度 (5) 医療観察制度

事前学習（予習）

更生保護制度はその内容が複雑なため、事前に警察、検察、裁判所の違い、裁判における三審制など、司法の基礎的な部分をよく理解しておくこと。また、教科書に沿って、短期間で集中的に講義を行うため、事前にその日の講義予定の教科書の部分を読むしておくこと。

復習についての指示

特に重要な部分については、講義中に教科書内にマークするように指示し、その他「犯罪白書」などにある重要資料などは、別途、配布するので、次の講義までに十分理解しておくこと。

授業計画

1. 更生保護のあらまし
2. 更生保護の制度 (1) 意義・歴史・更生保護法制
3. 更生保護の制度 (2) 保護観察・生活環境の調整
4. 更生保護の制度 (3) 仮釈放・更生緊急保護 等
5. 更生保護制度の担い手
6. 更生保護観察制度における関係機関・団体との連携
7. 医療観察制度
8. 更生保護制度の近年の動向と課題

教科書

森長秀 『「更生保護制度」社会福祉士シリーズ20巻(第2版)』(弘文堂)

評価方法

- (1) 講義出席: 40% (2) 定期試験: 60%

担当者：宮寺 良光

開設期：春学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

対人支援力：人格を尊重して人とのかかわることのできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

社会福祉主事任用資格：選択科目、
社会福祉士国家試験受験資格：必修科目、
精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目、
高等学校教諭一種免許：福祉選択科目

講義概要

1. 内容

・公的扶助の概念・貧困・低所得者問題と社会的排除・公的扶助の歴史・生活保護制度の仕組み・生活保護の運営実施体制と関係機関・生活保護の動向・低所得者対策とホームレス対策・自立支援プログラムの意義と実際

2. 学びの意義と目標

・低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズとその実際について理解する。・相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活保護制度に係る他の法制度について理解する。・自立支援プログラムの意義とその実際について理解する。

受講生に対する要望

・出席を単位修得の条件とするため、3分の2以上は出席するようにしてください。・集中講義であるため、長時間受講するのは苦痛を伴うと思うので、お互いにメリハリを付けて取り組みましょう。

キーワード

(1) 貧困・低所得 (2) 生活保護 (3) 自立支援

事前学習（予習）

(1) 講義内容の予習 → 毎回配付する資料を読解してくる

復習についての指示

(1) 講義内容の復習 → 毎回出題する課題に対して、400文字程度のレポートを提出する

授業計画

1. 公的扶助の概念
2. 貧困・低所得者問題と社会的排除
3. 公的扶助の歴史 (1) 海外の歴史
4. 公的扶助の歴史 (2) 日本の歴史
5. 生活保護制度の仕組み (1) 生活保護法の目的・原理
6. 生活保護制度の仕組み (2) 生活保護法の原則
7. 生活保護制度の仕組み (3) 生活保護の種類と内容
8. 生活保護制度の仕組み (4) 生活保護基準と実施要領
9. 生活保護制度の仕組み (5) 保護施設
10. 生活保護制度の仕組み (6) 被保護者の権利と義務・不服申立てと訴訟
11. 生活保護の運営実施体制と関係機関
12. 生活保護の動向
13. 低所得者対策とホームレス対策
14. 自立支援プログラムの意義と実際
15. 貧困・低所得者に対する相談援助活動

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 出席:30% (2) 小レポート:30% (3) 試験:40%

担当者：宮寺 良光

開設期：春学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

対人支援力：人格を尊重して人とのかかわることのできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

社会福祉主事任用資格：選択科目、
社会福祉士国家試験受験資格：必修科目、
精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目、
高等学校教諭一種免許：福祉選択科目

講義概要

1. 内容

・公的扶助の概念・貧困・低所得者問題と社会的排除・公的扶助の歴史・生活保護制度の仕組み・生活保護の運営実施体制と関係機関・生活保護の動向・低所得者対策とホームレス対策・自立支援プログラムの意義と実際

2. 学びの意義と目標

・低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズとその実際について理解する。・相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活保護制度に係る他の法制度について理解する。・自立支援プログラムの意義とその実際について理解する。

受講生に対する要望

・出席を単位修得の条件とするため、3分の2以上は出席するようにしてください。・集中講義であるため、長時間受講するのは苦痛を伴うと思うので、お互いにメリハリを付けて取り組みましょう。

キーワード

(1) 貧困・低所得 (2) 生活保護 (3) 自立支援

事前学習（予習）

(1) 講義内容の予習 → 毎回配付する資料を読解してくる

復習についての指示

(1) 講義内容の復習 → 毎回出題する課題に対して、400文字程度のレポートを提出する

授業計画

1. 公的扶助の概念
2. 貧困・低所得者問題と社会的排除
3. 公的扶助の歴史 (1) 海外の歴史
4. 公的扶助の歴史 (2) 日本の歴史
5. 生活保護制度の仕組み (1) 生活保護法の目的・原理
6. 生活保護制度の仕組み (2) 生活保護法の原則
7. 生活保護制度の仕組み (3) 生活保護の種類と内容
8. 生活保護制度の仕組み (4) 生活保護基準と実施要領
9. 生活保護制度の仕組み (5) 保護施設
10. 生活保護制度の仕組み (6) 被保護者の権利と義務・不服申立てと訴訟
11. 生活保護の運営実施体制と関係機関
12. 生活保護の動向
13. 低所得者対策とホームレス対策
14. 自立支援プログラムの意義と実際
15. 貧困・低所得者に対する相談援助活動

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 出席:30% (2) 小レポート:30% (3) 試験:40%

担当者：古谷野 亘

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

人生の後半で経験する変化を取り上げ、人が“高齢者”となっていく過程を検討する。そして、個人の高齢化の理解を前提として、高齢者の割合が高い社会（高齢社会）への移行に際して問題となる事象、また特に高齢社会への移行が急速であった場合に深刻になる事象を明らかにする。

2. 学びの意義と目標

人口高齢化のメカニズムを理解し、近未来の日本の高齢者がどのような人々であり、彼（女）らのために求められる施策について考えられるようになる。

受講生に対する要望

関心をもち、休まずに出席すること。

キーワード

事前学習（予習）

授業はおおむね教科書の通りに進むので、次回の部分を読んでおくといよい。

復習についての指示

授業はかなりのスピードで進むので復習が必要。また、その一環として、レポートの作成・提出が義務づけられる。

授業計画

1. 社会老年学とは
2. 高齢者観
3. 人口高齢化の推移
4. 高齢化の原因
5. 人口転換と人口構造の変化
6. 老化と健康・病気
7. 生活機能
8. 高齢期の健康づくり
9. 定年退職と引退
10. 高齢期の収入と年金
11. 高齢期の人間関係
12. 高齢期の家族
13. 近隣と友人
14. サクセスフル・エイジング
15. 高齢社会における高齢者のライフスタイル

教科書

古谷野 亘、安藤 孝敏 『改訂・新社会老年学—シニアライフのゆくえ』（ワールドプランニング）

評価方法

- (1)出席点:30% (2)レポート:30% (3)筆記試験:40%

高齢者福祉論 A

CGSW-W-200

担当者：荒井 浩道

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：福祉必修科目、
社会福祉主事任用資格：選択科目、
社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

・高齢者保健福祉の発展と制度体系・介護保険法の概要・高齢者支援の関係法規・高齢者を支援する組織と役割・専門職の役割と実際・高齢者支援の方法と実際

2. 学びの意義と目標

・高齢者福祉制度の発展過程と現在の制度体系について理解する。
・相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度及び高齢者支援の実際について理解する。

受講生に対する要望

グループワーク&プレゼンテーションを行います。授業への主体的な参加をお願いいたします。

キーワード

(1) 発達と老化 (2) 生活実態 (3) 認知症 (4) ニーズ (5) 少子高齢社会

事前学習（予習）

今回の内容について、テキストの該当箇所を読み、用語などを調べておくこと。

復習についての指示

リアクションペーパーに授業の振り返りを記入すること。

授業計画

1. 高齢者保健福祉の発展と制度体系 (1) 高齢者保健福祉の発展
2. 高齢者保健福祉の発展と制度体系 (2) 高齢者保健福祉の制度体系
3. 介護保険法の概要 (1) 介護保険制度の目的・保険財政
4. 介護保険法の概要 (2) 保険者と被保険者、保険料・要介護認定の仕組みとプロセス
5. 介護保険法の概要 (3) 介護保険サービスの体系
6. 介護保険法の概要 (4) 介護報酬
7. 介護保険法の概要 (5) 介護保険制度の最近の動向
8. 高齢者支援の関係法規 (1) 老人福祉法
9. 高齢者支援の関係法規 (2) 高齢者の医療の確保に関する法律
10. 高齢者支援の関係法規 (3) 高齢者虐待防止法
11. 高齢者支援の関係法規 (11) その他関係法規
12. 高齢者を支援する組織と役割
13. 専門職の役割と実際
14. 高齢者支援の方法と実際
15. 高齢者への生活支援の今後の課題

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座〈13〉高齢者に対する支援と介護保険制度 第3版』（中央法規出版）

評価方法

(1) 試験:90% (2) 平常点:10%:出席、グループワーク&プレゼンテーションなど。

高齢者福祉論 A/B

CGSW-W-200

担当者：荒井 浩道

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

社会福祉主事任用資格：選択科目、
社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

・発達と老化の理解・高齢者の生活実態・認知症の理解・高齢者の福祉ニーズ・少子高齢社会と高齢者・高齢者保健福祉の発展と制度体系・介護保険法の概要・高齢者支援の関係法規・高齢者を支援する組織と役割・専門職の役割と実際・高齢者支援の方法と実際

2. 学びの意義と目標

・発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する。・高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解する。・認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した相談援助活動の視点を習得する。・高齢者の福祉ニーズについて理解する。・高齢者の将来推計、高齢化の速度、人口構成、平均寿命や健康寿命などを把握したうえで、少子高齢社会の課題について理解する。・高齢者福祉制度の発展過程と現在の制度体系について理解する。・相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度及び高齢者支援の実践について理解する。

受講生に対する要望

グループワーク&プレゼンテーションを行います。授業への主体的な参加をお願いいたします。

キーワード

(1)発達と老化 (2)生活実態 (3)認知症 (4)ニーズ (5)少子高齢社会

事前学習（予習）

今回の内容について、テキストの該当箇所を読み、用語などを調べておくこと。

復習についての指示

リアクションペーパーに授業の振り返りを記入すること。

授業計画

1. 発達と老化の理解 (1) 人間の成長と発達の基礎的理解
2. 発達と老化の理解 (2) 老年期の発達と成熟
3. 発達と老化の理解 (3) 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活
4. 発達と老化の理解 (4) 高齢者と健康
5. 高齢者の生活実態 (1) 高齢者を取り巻く社会環境
6. 高齢者の生活実態 (2) 高齢者の世帯状況・経済状況
7. 高齢者の生活実態 (3) 高齢者の総合的理解
8. 認知症の理解 (1) 認知症を取り巻く状況
9. 認知症の理解 (2) 認知症の基礎的理解
10. 認知症の理解 (3) 認知症に伴う心身の変化と日常生活
11. 高齢者の福祉ニーズ (1) 要介護高齢者の介護・福祉ニーズ
12. 高齢者の福祉ニーズ (2) 認知症高齢者の介護・福祉ニーズ
13. 高齢者の福祉ニーズ (3) 高齢者虐待の実態及び福祉ニーズ
14. 高齢者の福祉ニーズ (4) 高齢者の社会参加にかかわる福祉ニーズ
15. 少子高齢社会と高齢者
16. 高齢者保健福祉の発展と制度体系 (1) 高齢者保健福祉の発展
17. 高齢者保健福祉の発展と制度体系 (2) 高齢者保健福祉の制度体系
18. 介護保険法の概要 (1) 介護保険制度の目的・保険財政
19. 介護保険法の概要 (2) 保険者と被保険者、保険料・要介護認定の仕組みとプロセス
20. 介護保険法の概要 (3) 介護保険サービスの体系
21. 介護保険法の概要 (4) 介護報酬
22. 介護保険法の概要 (5) 介護保険制度の最近の動向
23. 高齢者支援の関係法規 (1) 老人福祉法
24. 高齢者支援の関係法規 (2) 高齢者の医療の確保に関する法律
25. 高齢者支援の関係法規 (3) 高齢者虐待防止法
26. 高齢者支援の関係法規 (4) その他関係法規
27. 高齢者を支援する組織と役割
28. 専門職の役割と実際
29. 高齢者支援の方法と実際
30. 高齢者への生活支援の今後の課題

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座〈13〉高齢者に対する支援と介護保険制度 第3版』（中央法規出版）

評価方法

(1)試験:90% (2)平常点:10%:出席、グループワーク&プレゼンテーションなど。

担当者：荒井 浩道

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：福祉必修科目、
社会福祉主事任用資格：選択科目、
社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

・高齢者保健福祉の発展と制度体系・介護保険法の概要・高齢者支援の関係法規・高齢者を支援する組織と役割・専門職の役割と実際・高齢者支援の方法と実際

2. 学びの意義と目標

・高齢者福祉制度の発展過程と現在の制度体系について理解する。
・相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度及び高齢者支援の実際について理解する。

受講生に対する要望

グループワーク&プレゼンテーションを行います。授業への主体的な参加をお願いいたします。

キーワード

(1)発達と老化 (2)生活実態 (3)認知症 (4)ニーズ (5)少子高齢社会

事前学習（予習）

今回の内容について、テキストの該当箇所を読み、用語などを調べておくこと。

復習についての指示

リアクションペーパーに授業の振り返りを記入すること。

授業計画

1. 高齢者保健福祉の発展と制度体系 (1) 高齢者保健福祉の発展
2. 高齢者保健福祉の発展と制度体系 (2) 高齢者保健福祉の制度体系
3. 介護保険法の概要 (1) 介護保険制度の目的・保険財政
4. 介護保険法の概要 (2) 保険者と被保険者、保険料・要介護認定の仕組みとプロセス
5. 介護保険法の概要 (3) 介護保険サービスの体系
6. 介護保険法の概要 (4) 介護報酬
7. 介護保険法の概要 (5) 介護保険制度の最近の動向
8. 高齢者支援の関係法規 (1) 老人福祉法
9. 高齢者支援の関係法規 (2) 高齢者の医療の確保に関する法律
10. 高齢者支援の関係法規 (3) 高齢者虐待防止法
11. 高齢者支援の関係法規 (11) その他関係法規
12. 高齢者を支援する組織と役割
13. 専門職の役割と実際
14. 高齢者支援の方法と実際
15. 高齢者への生活支援の今後の課題

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座〈13〉高齢者に対する支援と介護保険制度 第3版』（中央法規出版）

評価方法

(1)試験:90% (2)平常点:10%:出席、グループワーク&プレゼンテーションなど。

担当者：長谷川 恵美子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(W学科)：選択科目

講義概要

1. 内容

具体的なコミュニティを取り上げ、コンサルテーション、クライシス・インターベンションをはじめ、関連する理論、技法を紹介しながら、それぞれのコミュニティの構成、現状、問題点などについてディスカッションしながら体験的に学ぶ授業である。

2. 学びの意義と目標

コミュニティとは、人々が毎日を生きてゆく場所のことである。人の行動は社会的環境と切り離された状況で発生しているのではなく、人とその置かれた社会的環境との相互作用で成り立っている。本授業は、社会システムや環境面が人間の行動に及ぼす影響についての基礎知識を学び、人間にとって生活しやすい環境を整備するために、どのような環境改善、介入方法があるのかを自ら考えることを目標としている。

受講生に対する要望

各回の課題に積極的に取り組み、その時点での自らの意見や考え方を持って授業に参加すること。

キーワード

事前学習（予習）

配布した資料は熟読したうえで参加することを期待する。

復習についての指示

授業で取り扱ったテーマについて、受講者の興味関心にあわせ、紹介した文献などで知識を深めることを期待する。

授業計画

1. ガイダンス
2. 個別対応から地域援助へ
3. 家族の役割
4. 家族イメージ法
5. 家族療法
6. 学校というシステム
7. 欧米と日本の学校システムの比較
8. スクールカウンセラーとは
9. 気分障害と不安障害
10. 相談援助とは
11. 産業領域での問題
12. EAPとは
13. メンタルヘルスとコラボレーション
14. 老年期とは
15. リハビリテーションを考える

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 平常点:60% (2) レポート:40%

担当者：真船 浩介

開設期：春学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(W学科)：選択科目

講義概要

1. 内容

産業心理学は、生産性の維持向上から、労働者の健康や幸福の保持増進まで、仕事に関する幅広い範囲に心理学の知見を応用する分野である。本講義は、働くことと人を動かすことの2つの視点から、仕事において活用されている心理学の知見を整理する。特に、どのように生産性を高めるのか、どのように健康を守るのか、活発に働くためにはどのようなことが必要か、どのように能力・スキルを伸ばすのか、人を動かすリーダーにはどのようなことが求められるのか等、職場において活用されている心理学の知見を具体的に明らかにする。産業分野に活用されている心理学の知見を学ぶ入門的な位置づけである。

2. 学びの意義と目標

産業分野で応用されている心理学の知見を学び、産業心理学で用いられる用語や方法論を理解できること。健康に働くことに加え、働くことにより、満足や活力を得るための方法の概略を説明できることになること。

受講生に対する要望

講義はスライドを使用し、随時、受講生の意見を求める。また、グループワークを通じて、心理学による知見の具体的な応用方法について議論を求める。積極的な参画を期待したい。

キーワード

(1) 社会心理学 (2) 産業精神保健 (3) 労働安全衛生 (4) 人的資源管理

事前学習（予習）

最終講義「まとめ」では、総合的なディスカッションを予定しているため、全体の講義内容を復習しておくこと

復習についての指示

各回の疑問等をまとめ、次回の講義等で確認すること

授業計画

1. 概論
2. 人事管理
3. キャリア開発
4. リーダーシップ
5. 組織行動
6. モチベーション
7. 仕事のストレス
8. ストレスへの対処
9. 働く活力と健康
10. 労務管理と安全衛生
11. 作業と安全管理
12. 消費者行動
13. マーケティング
14. 組織の変革
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) レポート:70% (2) 出席:10% (3) ディスカッション:20%:講義中に行うディスカッションや質疑応答への積極的な姿勢を重視する

死生学

HMSC-W-100

担当者：横澤 義夫

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

対人支援力：人格を尊重して人とのかかわることのできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

死生学はまだ歴史の浅い領域ですが、ターミナル・ケアの問題などから必然的に生まれた現代的課題そのものです。現代日本人は社会機構や日常生活のパターンに至るまでヨーロッパ化された環境の中で生きていますし、医療技術の発展とともに旧来の生命観や死の観念では対処できない状況に立たされています。そこでこの講義では、ヨーロッパの伝統的な生命観から生と死の問題に入ってゆきます。そこから現代日本人の死生観の混迷に少しでも明かりをあててみます。

2. 学びの意義と目標

死と生という問いは医療と生命科学にも当然関係してきますから、生命倫理とも共通する課題です。共通基本科目のひとつとして、信仰を含めた人間福祉の対象である生命の意味の理解を目標にします。現代では戦国の侘茶はもう成り立たないともいわれます。明日は知れぬ一期一会の中で生死を決しなければならなかった人たちの、その生死の問題そのものが侘茶でした。しかし現代でもわたしたちは突然に脳死状態の家族をもったり、自身が死への告知を受けたりします。これに対処すべく、わたしたち自身の生と死の意味を打ち建て、生死を自身で自身のために決定できる死生観を探ってみたいのです。

受講生に対する要望

1回のレポート以外には課題は出しませんので、じっくりと聴き、ともに考える努力をしてみてください。

キーワード

(1)いのちとはなにか (2)人格とはなにか (3)生老病死 (4)人間的時間とは (5)死を記憶せよ

事前学習（予習）

新聞や定時テレビニュースなどの人間やいのちに関係する報道に関心を払って、場合によっては書きとどめる努力をしてください。

復習についての指示

前週の講義で箇条書きしたノートの大切と思える箇所は自分で文章にしてみる努力をしてください。

授業計画

1. I. 死生問題の現代的状況。なにが課題か
2. II. 生について
 3. 1. 日本人の生命観とその現代的混迷
 4. 2. ヨーロッパ人の生命観とその検討の必要
 5. A. アリストテレス主義の伝統的生命観
 6. 同
 7. B. キリスト教精神の福祉の概念
8. III. 死について
 9. 1. 近代自然科学とデカルト的二元論
 10. 2. 現代の医療倫理・遺伝子工学問題 etc.
 11. 3. 伝統的生命観とどこが対立するのか
12. IV. 総合としての死生観
 13. 1. 発生学といのちの問題
 14. 2. 老について・病について（ターミナル・ケア論）
 15. 同

教科書

プリントを配布する
教科書は使用しません。

評価方法

(1)出席率:30%:欠席理由のある場合には必ず申告のこと (2)レポート:70%:テーマについては講義中に説明します

社会学

SOCI-0-101

担当者：横山 麻衣

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

社会福祉主事任用資格：選択科目、
社会福祉士国家試験受験資格：選択必修科目、
精神保健福祉士国家試験受験資格：選択必修科目

講義概要

1. 内容

・社会学の成立と展開・社会学の研究視点・現代社会の理解・生活の理解・人と社会との関係・社会問題の理解

2. 学びの意義と目標

・社会理論による現代社会の捉え方を理解する。・生活について理解する。・人と社会の関係について理解する。・社会問題について理解する。

受講生に対する要望

「社会」「他人」に対する何らかの興味関心を持っていること。

キーワード

(1)コミュニケーション (2)社会学的想像力 (3)他者理解

事前学習（予習）

毎回の講義終了後、次回講義テーマについて述べるので、そのテーマについて知りたいことやわからないことについて考えておくこと（適宜授業の中で質問するので、可能な範囲で発言することが望ましい）。

復習についての指示

講義終了後、配布プリントを再読し、①興味関心を抱いた事柄と、②その理由について考えておくこと（適宜授業の中で質問するので、可能な範囲で発言することが望ましい）。

授業計画

1. 社会学の成立と展開
2. 社会学の研究視点
3. 現代社会の理解 (1) 社会システム① 社会システムの概念、文化・規範、社会意識
4. 現代社会の理解 (2) 社会システム② 産業と職業、社会階級と社会階層、社会指標
5. 現代社会の理解 (3) 法と社会システム
6. 現代社会の理解 (4) 経済と社会システム
7. 現代社会の理解 (5) 社会変動① 社会変動の概念
8. 現代社会の理解 (6) 社会変動② 近代化、産業化、情報化
9. 現代社会の理解 (7) 人口① 人口の概念、人口構造
10. 現代社会の理解 (8) 人口② 人口問題、少子高齢化
11. 現代社会の理解 (9) 地域① 地域の概念、コミュニティの概念
12. 現代社会の理解 (10) 地域② 都市化と地域社会、過疎化と地域社会
13. 現代社会の理解 (11) 地域③ 地域社会の集団・組織
14. 現代社会の理解 (12) 社会集団① 社会集団の概念、第一次集団、第二次集団
15. 現代社会の理解 (13) 社会集団② ゲゼルシャフト、ゲームインシャフト、アソシエーション
16. 現代社会の理解 (14) 社会集団③ 組織の概念、官僚制
17. 生活の理解 (1) 家族① 家族の概念、世帯の概念、家族の構造や形態
18. 生活の理解 (2) 家族② 家族の変容、家族の機能
19. 生活の理解 (3) 生活の捉え方
20. 人と社会との関係 (1) 社会関係と社会的孤立
21. 人と社会との関係 (2) 社会的行為
22. 人と社会との関係 (3) 社会的役割
23. 人と社会との関係 (4) 社会的ジレンマ
24. 社会問題の理解 (1) 社会問題の捉え方
25. 社会問題の理解 (2) 具体的な社会問題① 貧困、失業
26. 社会問題の理解 (3) 具体的な社会問題② 差別、社会的排除、自殺
27. 社会問題の理解 (4) 具体的な社会問題③ 犯罪、非行
28. 社会問題の理解 (5) 具体的な社会問題④ DV、ハラスメント
29. 社会問題の理解 (6) 具体的な社会問題⑤ 児童虐待、いじめ
30. 社会問題の理解 (7) 具体的な社会問題⑥ 公害、環境破壊

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:40% (2)期末試験:50% (3)レポートなど:10%

担当者：山上 真貴子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(W学科)：選択科目

講義概要

1. 内容

社会心理学と聞いて何を思い浮かべるだろう。人間関係、コミュニケーション、集団関係などのテーマはもちろんだが、人は他者と一緒にいるときにだけ社会と関わっているわけではない。自分について考えるときも、何も考えず自動的に行動するときも、他者は私たちに影響を与えている。この授業では、まず前半に幅広い基礎的な知見を紹介し、後半は具体的なトピック（説得のプロが使うテクニック）を軸に、その知見が実践場面でどう生きるのかについて考えていく。

2. 学びの意義と目標

この授業には、日常生活の中で私たちがどのように考え、感じ、行動しているのかについてのヒントがたくさん含まれている。この授業で学んだことを、自分や他者について考えるとき、人間関係や集団、社会について考えるときに使える知識として、日常に持ち帰ってほしい。

受講生に対する要望

良く分かったつもりでいても、いざ実際に使おうとすると、うまく思い出せなかったりするものです。毎回の課題をきちんとこなしていくことで、使える知識を身につけましょう。

キーワード

事前学習（予習）

毎回配布するプリントの最初に書いてある問いに答えよう。

復習についての指示

毎回の授業で出題される「まとめの問題」に解答（回答）しておくこと。次の授業の最初に解説を行う。

授業計画

1. 社会的生物としての人間（1）
2. 社会的生物としての人間（2）
3. 意識されない過程（1）
4. 意識されない過程（2）
5. 社会の中の私（1）
6. 社会の中の私（2）
7. 他者をとらえる（1）
8. 他者をとらえる（2）
9. さまざまな対人関係（1）
10. さまざまな対人関係（2）
11. コミュニケーション（1）
12. コミュニケーション（2）
13. ソーシャル・ネットワーク（1）
14. ソーシャル・ネットワーク（2）
15. 中間試験
16. 影響力の武器
17. 返報性のルールとは
18. 返報性を使ったテクニック
19. コミットメントと一貫性（1）
20. コミットメントと一貫性（2）
21. 社会的証明とは何か
22. 社会的証明の威力と防衛法
23. 好意—優しい泥棒（1）
24. 好意—優しい泥棒（2）
25. 権威の力（1）
26. 権威の力（2）
27. 希少性（1）
28. 希少性（2）
29. 手っ取り早い影響力
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 平常点:20% (2) 中間試験:40% (3) 期末試験:40%

社会調査の基礎

SOCI-W-200

担当者：鷹野 吉章

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：情報を整理・分析し、説明する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

社会福祉主事任用資格：選択科目、
社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

・社会調査の意義と目的・社会調査の概要・社会調査における倫理と個人情報保護・量的調査の方法・質的調査の方法・社会調査の実施にあたってのITの活用方法

2. 学びの意義と目標

・社会調査の意義と目的及び方法の概要について理解する。・統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護について理解する。・量的調査の方法及び質的調査の方法について理解する。

受講生に対する要望

ソーシャルワーク実践にとって不可欠な科目ですので、社会福祉士を目指す者は是非受講してください。

キーワード

(1)社会調査 (2)量的調査の方法 (3)質的調査の方法 (4)データ分析 (5)個人情報保護

事前学習（予習）

授業計画に示されている次回のタイトルについて、授業で指示する参考書の当該箇所を事前に読み用語などを調べておくこと。

復習についての指示

授業での講義内容と配布プリントを踏まえて、自分なりに重要と思われる要点を整理すること。また練習問題についてはできなかった問題は解説を読み理解するようにすること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 社会調査の意義と目的
3. 社会調査の概要
4. 社会調査における倫理と個人情報保護
5. 量的調査の方法 (1) 量的調査の方法と特徴
6. 量的調査の方法 (2) 調査設計
7. 量的調査の方法 (3) 調査票の作成方法
8. 量的調査の方法 (4) サンプリングと実査
9. 量的調査の方法 (5) 集計・データ解析・発表と報告
10. 質的調査の方法 (1) 質的調査の特徴と種類
11. 質的調査の方法 (2) 調査設計・対象者の選定と調査手続・調査方法
12. 質的調査の方法 (3) 調査の実施
13. 質的調査の方法 (4) データの分析
14. 質的調査の方法 (5) 発表・報告
15. 社会調査の実施にあたってのITの活用方法

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)試験 :70% (2)レポート:30%

出席点について：毎回の出席が大前提となる。それゆえ、出席したからといって成績に出席点が加算されることはない。ただし、欠席は減点の対象となる。

社会福祉運営管理論

CGSW-W-300

担当者：早坂 聡久

開設期：春学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：課題解決を図る力を身につける

カリキュラム上の位置付け

社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

・福祉サービスの特質と理念・福祉サービスに係る組織や団体・福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論・福祉サービス提供組織の経営と実際・福祉サービスの運営管理の方法と実際

2. 学びの意義と目標

・福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など）について理解する。・福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論について理解する。・福祉サービスの運営と管理運営について理解する。

受講生に対する要望

経営・管理運営に関して踏み込んだ検討をするため、双方向の授業となる。問題意識を持ち、積極的な参加を期待します。質問、意見は大歓迎です。

キーワード

(1)社会福祉法人 (2)サービスマネジメント (3)経営に関する基礎理論 (4)財務会計

事前学習（予習）

社会福祉に関する諸制度について、一定の理解を前提に講義が進められることから、事前に準備をしてほしい。

復習についての指示

テキストや授業内に配布した資料等を振り返り、福祉サービスを提供する組織とその経営に関して理解を深めてほしい。

授業計画

1. 福祉サービスの特質と理念
2. 福祉サービスに係る組織や団体 (1) 社会福祉法人制度
3. 福祉サービスに係る組織や団体 (2) 特定非営利活動法人制度
4. 福祉サービスに係る組織や団体 (3) その他の組織や団体
5. 福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論 (1) 組織・経営に関する基礎理論
6. 福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論 (2) 運営管理に関する基礎理論
7. 福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論 (3) 集団の力学・リーダーシップに関する基礎理論
8. 福祉サービス提供組織の経営と実際 (1) 福祉サービス提供組織のコンプライアンスとガバナンス
9. 福祉サービス提供組織の経営と実際 (2) 福祉サービス提供組織における人材の養成と確保
10. 福祉サービス提供組織の経営と実際 (3) 理事会の役割・財源
11. 福祉サービス提供組織の経営と実際 (4) 福祉サービス提供組織の経営の実際
12. 福祉サービスの運営管理の方法と実際 (1) 適切なサービス提供体制の確保 ①スーパービジョン体制ほか
13. 福祉サービスの運営管理の方法と実際 (2) 適切なサービス提供体制の確保 ②苦情対応・リスクマネジメントの方法
14. 福祉サービスの運営管理の方法と実際 (3) 働きやすい労働環境の整備
15. 福祉サービスの運営管理の方法と実際 (4) 福祉サービスの管理運営の実際

教科書

早坂聡久・三田寺裕治編著 『施設経営における会計と税制 2011』（ぎょうせい）

評価方法

(1)出席:40% (2)授業内レポート:15% (3)受講態度:10% (4)試験:35%

社会福祉援助技術演習 A

CGSW-W-200

担当者：田村 綾子、野口 祐子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

本演習では、自己覚知・他者理解、基本的なコミュニケーション技術の習得、基本的な面接技術の習得に関する実技指導を行う。

2. 学びの意義と目標

①自己や他者を客観的に理解し、社会福祉援助技術現場実習で活用することができる。②基本的コミュニケーション技術を習得し、人間関係を円滑に形成することができる。③基本的な面接技術を習得し、社会福祉援助技術現場実習で援助関係を円滑に形成することができる。

受講生に対する要望

演習での学習状況、発言、レポート課題の総合評価。原則として欠席は認めない。また福祉専門職として適格性に著しく問題があると判断される場合は上記以外でも単位が認定されないことがある。

キーワード

(1)自己理解 (2)他者理解 (3)コミュニケーション (4)地域社会 (5)バリア

事前学習（予習）

今回の内容について、指示された文献の該当箇所をよく読んでおくこと。

復習についての指示

演習内容を振り返り、自己の考察について150字程度に要約しておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション 社会福祉援助技術演習の意義
2. 自己覚知のための演習① ふだんの自分を知る
3. 自己覚知のための演習② 援助者としての自分を知る
4. 自己覚知のための演習③ ライフストーリー(1) 自分のライフストーリーから学ぶ
5. 他者理解のための演習① ライフストーリー(2) 当事者のライフストーリーから学ぶ
6. 他者理解のための演習② 相手の立場に立って考える
7. 基本的なコミュニケーション技術の習得① コミュニケーションパターンを知る(1)
8. 基本的なコミュニケーション技術の習得② コミュニケーションパターンを知る(2)
9. 基本的なコミュニケーション技術の習得③ 開かれた態度で相手に接する
10. 基本的なコミュニケーション技術の習得④ 意識的に身体でのコミュニケーションを用いる
11. 基本的な面接技術の習得① 開いた質問と閉じた質問を使い分ける
12. 基本的な面接技術の習得② 要約と具体的な状況説明を使い分ける
13. 基本的な面接技術の習得③ 感情や状況、行動を反射して伝える
14. 基本的な面接技術の習得④ 相談機関での面接（ロールプレイング）
15. 定期試験と総括 事例問題形式による試験及び演習Aの振り返り

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)レポート課題:40% (2)演習での学習状況、発言:30% (3)出席状況:30%;原則として欠席は認めない。特別な事情の場合は関係書類を添付して予め申し出ること。

社会福祉援助技術演習B

CGSW-W-200

担当者：野口 祐子，木下 大生

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

社会福祉援助技術演習Bでは、第一に、具体的な課題別の相談援助事例（集団に対する相談援助事例を含む）を活用し、総合的・包括的な援助について実践的に習得するための演習を行う。第二に、地域福祉の基盤整備と開発に関わる事例を活用した実技指導を行う。

2. 学びの意義と目標

（1）個別具体的な相談事例や地域福祉の基盤整備・開発に関わる事例について、エコシステムの視座に基づき、ミクロ、メゾ、マクロの関係から捉えることができる。（2）個別具体的な相談事例や地域福祉の基盤整備・開発に関わる事例について、適切な支援方法を選択し、実施することができる。

受講生に対する要望

「福祉士資格取得希望者履修ガイダンス」で説明された内容を充分理解したうえで、本科目を受講すること。

キーワード

（1）エコシステム （2）ジェネリック・ソーシャルワーク （3）無縁化
（4）事例検討 （5）地域を基盤とする実践

事前学習（予習）

今回の内容について、指示された文献の該当箇所を読んでおくこと。課題・試験以外でも社会福祉士として適格性に著しく問題があった場合、単位が認定されない。

復習についての指示

配布されたプリントの該当箇所を読むとともに、演習内容を150字程度に要約しておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション ソーシャルワークにおける事例検討の意義
2. 総合的・包括的ソーシャルワーク実践の事例検討（1）在宅における高齢者虐待に対する介入
3. 総合的・包括的ソーシャルワーク実践の事例検討（2）児童虐待通告事例への児童相談所の対応
4. 総合的・包括的ソーシャルワーク実践の事例検討（3）日常生活自立支援事業における知的障害者への支援
5. 総合的・包括的ソーシャルワーク実践の事例検討（4）家庭内暴力（DV）への支援
6. 総合的・包括的ソーシャルワーク実践の事例検討（5）低所得者への支援
7. 総合的・包括的ソーシャルワーク実践の事例検討（6）社会的排除の解決に向けた支援
8. 総合的・包括的ソーシャルワーク実践の事例検討（7）ホームレスへの支援
9. 総合的・包括的ソーシャルワーク実践の事例検討（8）危機介入を活用した支援
10. 地域福祉の基盤整備にかかわる実技指導（1）地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握技法の習得
 11. 地域福祉の基盤整備にかかわる実技指導（2）地域福祉の計画立案技法の習得
 12. 地域福祉の基盤整備にかかわる実技指導（3）ネットワーキングの活用技法の習得
 13. 地域福祉の基盤整備にかかわる実技指導（4）社会資源の活用・調整・開発に関する技法の習得
 14. 地域福祉の基盤整備にかかわる実技指導（5）サービスの評価技法の習得
 15. 定期試験と総括 事例問題形式による試験及び演習Bの振り返り

教科書

授業の中で指示する

評価方法

演習での学習状況、発言、提出課題、期末試験の総合評価。課題・試験以外でも社会福祉士として適格性に著しく問題があった場合、単位が認定されない。

社会福祉援助技術演習 C

CGSW-W-200

担当者：田村 綾子，荒井 浩道

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

社会福祉援助技術演習 C では、相談援助事例を題材として、相談援助の過程や相談援助場面を想定した実技指導を行う。

2. 学びの意義と目標

相談援助の過程に基づいた援助方法を理解し、社会福祉援助技術現場実習において効果的に実践することができる。

受講生に対する要望

「福祉士資格取得希望者履修ガイダンス」で説明された内容を充分理解したうえで、本科目を受講すること。

キーワード

(1) 相談援助の過程 (2) インテーク (3) アセスメント (4) 実施とモニタリング (5) 評価

事前学習（予習）

今回の内容について、指示された文献の該当箇所を読み、わからない語句を調べて自身の考えについて200字程度でまとめること。

復習についての指示

演習内容をもとに、考察を200字程度でまとめること。

授業計画

1. オリエンテーション 相談援助の過程に基づいた演習の意義
2. 相談援助の過程に基づく実技指導①インテーク (1) アウトリーチ技法の習得
3. 相談援助の過程に基づく実技指導②インテーク (2) インテーク面接技法の習得
4. 相談援助の過程に基づく実技指導③アセスメント (1) 情報収集技法の習得
5. 相談援助の過程に基づく実技指導④アセスメント (2) 観察技法の習得
6. 相談援助の過程に基づく実技指導⑤アセスメント (3) 情報分析・生活課題把握技法の習得
7. 相談援助の過程に基づく実技指導⑥プランニング (1) 支援目標設定技法の習得
8. 相談援助の過程に基づく実技指導⑦プランニング (2) 支援プログラム作成技法の習得
9. 相談援助の過程に基づく実技指導⑧支援の実施 (1) 利用者への働きかけ技法の習得
10. 相談援助の過程に基づく実技指導⑨支援の実施 (2) 社会資源の活用・調整・開発に関する技法の習得
11. 相談援助の過程に基づく実技指導⑩モニタリング 実施状況のモニタリング技法の習得
12. 相談援助の過程に基づく実技指導⑪効果測定 評価技法の習得
13. 相談援助の過程に基づく実技指導⑫再アセスメントと支援の強化
14. 相談援助の過程に基づく実技指導⑬終結とアフターケア
15. 定期試験と総括 事例問題形式による試験及び演習 C の振り返り

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 参加姿勢:50% (2) リアクション内容:30% (3) 提出物:20%

演習での学習状況、発言、提出課題の総合評価。原則として欠席は認めない。

社会福祉援助技術演習 D

CGSW-W-200

担当者：浅沼 太郎

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

本演習では、社会福祉援助技術現場実習で得た事例を検討することにより、個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術を習得するため、集団指導・個別指導による実技指導を行う。

2. 学びの意義と目標

個別具体的な相談事例について、事例検討を通して、専門的援助技術として、概念化し理論化し体系立てることができる。

受講生に対する要望

「福祉士資格取得希望者履修ガイダンス」で説明された内容を充分理解したうえで、本科目を受講すること。継続的な学習の方法、ペースを身に付けることを期待します。

キーワード

(1)体験の一般化 (2)記録 (3)事例検討による専門知識の習得 (4)情報管理の活用

事前学習（予習）

次回の内容について、指示された文献の該当事例を読む。事例検討を通して、必要と考える専門知識・技術を調べて整理しておくこと。

復習についての指示

学習した演習内容の整理を行う。関連する法制度、キーワード、想定される援助技術の要約、参照先などをまとめておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション 個別的な実習体験を一般化することの意義(1)
2. 事例検討による実習体験の一般化(1) プロセス・レコードの作成
3. 事例検討による実習体験の一般化(2) プロセス・レコードを活用した個別スーパービジョン・ピアスーパービジョン
4. 事例検討による実習体験の一般化(3) プロセス・レコードを活用したロールプレーイング(1)
5. 事例検討による実習体験の一般化(4) プロセス・レコードを活用したロールプレーイング(2)
6. 事例検討による実習体験の一般化(5) インシデント方式による事例検討の意義・事例検討の準備
7. 事例検討による実習体験の一般化(6) インシデント方式による実習事例検討(1)
8. 事例検討による実習体験の一般化(7) インシデント方式による実習事例検討(2)
9. 事例検討による実習体験の一般化(8) インシデント方式による実習事例検討(3)
10. 事例検討による実習体験の一般化(9) ハーバード方式による事例検討の意義
11. 事例検討による実習体験の一般化(10) ハーバード方式による事例発表の準備
12. 事例検討による実習体験の一般化(11) ハーバード方式による実習事例検討(1)
13. 事例検討による実習体験の一般化(12) ハーバード方式による実習事例検討(2)
14. 事例検討による実習体験の一般化(13) ハーバード方式による実習事例検討(3)
15. 定期試験と総括 事例問題形式による試験及び演習Dの振り返り

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席・参加姿勢:40% (2)準備学習・提出課題:40% (3)期末試験:20%

演習での学習状況、発言、提出課題、期末試験の総合評価。課題・試験以外でも社会福祉士として適格性に著しく問題があった場合、単位が認定されない。

社会福祉援助技術演習 E

CGSW-W-200

担当者：浅沼 太郎

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

本演習では、個別的な実習体験を一般化し、実践的な知識と技術を習得するため、現場実習で作成した支援計画や経過記録をもとに相談援助の過程の振り返りや相談援助の基本的技法の再検討に関する実技指導を行う。

2. 学びの意義と目標

相談援助の過程にもとづく振り返りや相談援助の基本的技法の再検討を通して、個別具体的な相談事例を、専門的援助技術として、概念化し理論化し体系立てることができる。

受講生に対する要望

「福祉士資格取得希望者履修ガイダンス」で説明された内容を充分理解したうえで、本科目を受講すること。継続的な学習の方法、ペースを身に付けることを期待します。

キーワード

(1)実習体験の一般化 (2)相談援助の過程 (3)相談援助の基本的技法 (4)記録

事前学習（予習）

次回の内容について、指示された文献の該当事例を読む。事例検討を通して、必要と考える専門知識・技術を調べて整理しておくこと。

復習についての指示

学習した演習内容の整理を行う。関連する法制度、キーワード、想定される援助技術の要約、参照先などをまとめておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 相談援助の過程に基づく振り返りによる実習体験の一般化（1）インテーク局面の振り返り
3. 相談援助の過程に基づく振り返りによる実習体験の一般化（2）アセスメント局面の振り返り（1）
4. 相談援助の過程に基づく振り返りによる実習体験の一般化（3）アセスメント局面の振り返り（2）
5. 相談援助の過程に基づく振り返りによる実習体験の一般化（4）アセスメント局面の振り返り（3）
6. 相談援助の過程に基づく振り返りによる実習体験の一般化（5）プランニング局面の振り返り（1）
7. 相談援助の過程に基づく振り返りによる実習体験の一般化（6）プランニング局面の振り返り（2）
8. 相談援助の過程に基づく振り返りによる実習体験の一般化（7）インターベンション局面の振り返り（1）
9. 相談援助の過程に基づく振り返りによる実習体験の一般化（8）インターベンション局面の振り返り（2）
10. 相談援助の過程に基づく振り返りによる実習体験の一般化（9）モニタリング局面の振り返り
11. 相談援助の基本的技法の再検討による実習体験の一般化（1）関係づくりの再検討
12. 相談援助の基本的技法の再検討による実習体験の一般化（2）面接技法の再検討
13. 相談援助の基本的技法の再検討による実習体験の一般化（3）記録技法の再検討
14. 相談援助の基本的技法の再検討による実習体験の一般化（4）評価技法の再検討
15. 定期試験と総括・事例問題形式による試験及び演習Eの振り返り

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席・参加姿勢:40% (2)準備学習・提出課題:40% (3)期末試験:20%

演習での学習状況、発言、提出課題、期末試験の総合評価。課題・試験以外でも社会福祉士として適格性に著しく問題があった場合、単位が認定されない。

社会福祉援助技術現場実習

CGSW-W-300

担当者：野口 祐子，木下 大生，牛津 信忠，中谷 茂一

開設期：秋学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：6単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：福祉選択必修科目，
社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

実習指導者の指導のもと、次に掲げる事項について、合計180時間以上に及ぶ実習教育を行う。1つの施設において、集中実習（合計180時間以上）の形態で行う。

2. 学びの意義と目標

①社会福祉実践現場の体験を通して、社会福祉士としての使命と倫理を自覚できる。②社会福祉士として必要な価値・知識・技術を獲得することによって、今後の現場実践で効果的に活用できる。

受講生に対する要望

「福祉士資格取得希望者履修ガイダンス」で説明された内容を充分理解したうえで、本科目を受講すること。本実習における事前事後学習、及び実習中の巡回指導を、社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱとして行う。

キーワード

(1)円滑な援助関係の形成 (2)ニーズ把握と支援計画 (3)アドボカシーとエンパワメント (4)チームアプローチ (5)専門職倫理

事前学習（予習）

毎日、その日の実習課題を設定し、その課題を念頭に置いて実習を行うこと。

復習についての指示

その日の実習が終了したら、実習ノートを記入し、実習課題に対する考察を行うこと。

授業計画

1. 利用者やその関係者、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成
2. 利用者理解とそのニーズの把握及び支援計画の作成
3. 利用者やその関係者との援助関係の形成
4. 利用者やその関係者への権利擁護及び支援とその評価
5. チームアプローチの実際
6. 社会福祉士としての職業倫理、職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
7. 経営やサービスの管理運営の実際
8. 配属実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの理解
9. 具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワークキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)実習内容:100%

社会福祉援助技術現場実習指導 I

CGSW-W-300

担当者：野口 祐子，木下 大生，荒井 浩道

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：福祉選択必修科目，
社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

社会福祉援助技術現場実習指導Iでは、現場実習の目的や意義を理解することによって実習への動機づけを行うとともに、プライバシー保護と守秘義務、専門援助技術に関する知識と技術の再確認、関連業務に関する基本的理解、実習記録ノートの作成方法に関する事前学習を行う。

2. 学びの意義と目標

(1)現場実習の目的や意義、プライバシー保護と守秘義務、介護や保育などの関連業務、実習記録ノートの作成方法について理解し、現場実習において活用することができる。(2)これまで学んだ専門援助技術を再確認し、現場実習において活用することができる。

受講生に対する要望

「福祉士資格取得希望者履修ガイダンス」で説明された内容を充分理解したうえで、本科目を受講すること。

キーワード

(1)価値 (2)知識 (3)技術 (4)守秘義務 (5)実習記録

事前学習（予習）

自身が配属された実習機関・施設の内容を十分に学習しておくこと。

復習についての指示

授業内で行ったことは必ず振り返り、身に着けること。

授業計画

1. 社会福祉援助技術現場実習と実習指導の意義 社会福祉援助技術現場実習の目的及び実習指導における個別指導・集団指導の意義
2. 実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解(1) 個人のプライバシーの保護の必要性(個人情報保護法の理解を含む)
3. 実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解(2) 社会福祉士と守秘義務
4. 現場体験学習及び見学実習 現場体験学習及び見学実習(実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験等を含む)の報告
5. 実習先で必要とされる相談援助に関わる知識と技術の理解(1)実習で求められる専門知識、専門援助技術、及び関連知識
6. 実習先で必要とされる相談援助に関わる知識と技術の理解(2)基本的コミュニケーションや人間関係形成方法の理解
7. 実習先で必要とされる相談援助に関わる知識と技術の理解(3)援助関係形成方法や問題解決能力促進方法の理解
8. 実習先で必要とされる相談援助に関わる知識と技術の理解(4)コミュニティへの働きかけの理解
9. 実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解(1)ケアワークの理解(1)(視聴覚学習)
10. 実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解(2)ケアワークの理解(2)(演習)
11. 実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解(3)感染症の理解とその対策
12. 実習記録ノートへの記録内容と記録方法に関する理解(1)記録の意義と目的
13. 実習記録ノートへの記録内容と記録方法に関する理解(2)実習記録ノートの意義と目的
14. 実習記録ノートへの記録内容と記録方法に関する理解(3)記録技法の修得
15. 実習記録ノートへの記録内容と記録方法に関する理解(4)実践評価記録の方法

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:50% (2)受講態度:50%

社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ

CGSW-W-300

担当者：野口 祐子、木下 大生、藤田 孝典

開設期：通年 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：福祉選択必修科目、
社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

春学期は、配属実習先の施設・機関等の理解、利用者理解、実習計画の作成に関する事前学習を行う。秋学期は、現場実習前に、実習中の諸注意を徹底するとともに、現場実習中に、学内における指導及び自己学習を行う。また、現場実習後に、各自の実習体験を振り返り、実習課題の整理、実習報告書の作成に関する事後学習を進めるとともに、現場実習の総括としての実習報告会を開催する。

2. 学びの意義と目標

【春学期】(1)配属実習先の施設・機関や利用者の全体的特徴・動向等について理解し、現場実習において活用することができる。(2)現場実習を計画的に行い、事後評価を適切なものにするため、各自の配属実習先に応じた実習計画を作成することができる。【秋学期】個別具体的な実践体験を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる。

受講生に対する要望

「福祉士資格取得希望者履修ガイダンス」で説明された内容を充分理解したうえで、本科目を受講すること。

キーワード

(1)配属分野と施設等に関する理解 (2)利用者の理解 (3)実習計画 (4)ふりかえり

事前学習（予習）

今回の内容について、指示された文献の該当箇所を読んでおくこと。

復習についての指示

配布されたプリントの該当箇所を読むとともに、指導内容を150字程度に要約しておくこと。

授業計画

1. 事前学習の目的と意義
2. 配属実習分野と施設等に関する理解①配属実習先の施設・事業者・機関・団体の法的根拠
3. 配属実習分野と施設等に関する理解②配属実習施設を規定する法制度の歴史の変遷と現状
4. 配属実習分野と施設等に関する理解③配属実習施設の歴史の変遷と現行制度における位置づけ
5. 配属実習分野と施設等に関する理解④配属実習施設における職種と期待される資格要件
6. 配属実習分野と施設等に関する理解⑤配属実習施設における他機関・他職種との連携方法
7. 配属実習施設を取り巻く地域社会に関する理解 配属実習施設の地域特性の分析と地域社会の福祉ニーズ
8. 配属実習施設の利用者の理解①利用者の全体的特徴
9. 配属実習施設の利用者の理解②利用者の全体的動向
10. 配属実習施設の利用者の理解③利用者の生活ニーズの把握方法
 11. 実習計画の作成①実習計画の目的と意義
 12. 実習計画の作成②実習計画作成指導(1)
 13. 実習計画の作成③実習計画作成指導(2)
 14. 実習計画の作成④実習計画作成指導(3)
 15. 実習オリエンテーションの目的と意義 実習オリエンテーションの方法
 16. 実習中の諸注意①実習生に求められる態度
 17. 実習中の諸注意②実習にあたっての留意事項
 18. 学内指導（現場実習期間中）①学内における指導及び自己学習(1)
 19. 学内指導（現場実習期間中）②学内における指導及び自己学習(2)
 20. 学内指導（現場実習期間中）③学内における指導及び自己学習(3)
 21. 学内指導（現場実習期間中）④学内における指導及び自己学習(4)
 22. 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理①課題の達成状況の評価(1)
 23. 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理②課題の達成状況の評価(2)
 24. 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理③個別、及びピア・グループ・スーパービジョンによる課題の整理
 25. 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理④グループ・スーパービジョンによる課題の整理
 26. 実習記録や実習体験をふまえた実習報告書の作成①実習報告書（実習総括レポート）の作成指導(1)
 27. 実習記録や実習体験をふまえた実習報告書の作成②実習報告書（実習総括レポート）の作成指導(2)
 28. 実習記録や実習体験をふまえた実習報告書の作成③実習報告書（実習総括レポート）の作成指導(3)
 29. 実習報告会による全体的評価の総括①実習報告会（実習の評価全体総括会）の準備
 30. 実習報告会による全体的評価の総括②実習報告会（実習の評価全体総括会）の開催

教科書

白澤政和・米本秀仁 『社会福祉士相談援助実習』（中央法規）ミネルヴァ書房編集部編 『社会福祉小六法2013〔平成25年版〕』（ミネルヴァ書房）厚生統計協会 『国民の福祉の動向 2013』（厚生統計協会）

評価方法

実習報告会での報告と実習報告書の提出をうけて、それまでのレポート、コメント、および受講態度から総合的に評価する。なお、社会福祉士として適格性に著しく問題があった場合、単位が認定されない。

社会福祉援助技術論 A

CGSW-W-200

担当者：田村 綾子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：福祉必修科目、
社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

・相談援助活動の意義・相談援助の理論と発展・相談援助の対象
・相談援助の構造と機能・相談援助の過程・ケースマネジメント
とケアマネジメント・相談援助のためのアウトリーチ・相談援助
におけるネットワーク・相談援助における社会資源の活用・
調整・開発・相談援助における情報通信技術(IT)の活用

2. 学びの意義と目標

・相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について
理解する。・相談援助の対象について理解する。・相談援助の
過程とそれに係るジェネリック・ソーシャルワークの知識と技術
について理解する。

受講生に対する要望

教科書・ノートを持参すること。授業中は静かに受講し、教員から
の問いかけに対して真面目に考察すること。

キーワード

(1)相談 (2)援助関係 (3)生活 (4)社会

事前学習（予習）

今回の内容について、指示されたテキストの該当箇所を読み、用
語などを調べておくこと。

復習についての指示

講義で配布されたプリントを読み返しておくとともに、講義内容
を150字程度で要約しておくこと。

授業計画

1. 相談援助活動の意義
2. 相談援助の理論と発展 (1) 人と環境の相互作用
3. 相談援助の理論と発展 (2) 相談援助技術体系の発展
4. 相談援助の理論と発展 (3) システム思考に基づくジェネ
リックな援助理論
5. 相談援助の対象 (1) 社会福祉の対象の概念
6. 相談援助の対象 (2) 相談援助の対象の概念と範囲
7. 相談援助の対象 (3) 個人・家族、グループ、地域との相
談援助の視点
8. 相談援助の構造と機能 (1) 相談援助の構造
9. 相談援助の構造と機能 (2) 相談援助の機能
10. 相談援助の過程 (1) 相談援助過程の概観
11. 相談援助の過程 (2) インテーク
12. 相談援助の過程 (3) アセスメント①相談援助における
アセスメントの特徴
13. 相談援助の過程 (4) アセスメント②情報収集の方法
14. 相談援助の過程 (5) アセスメント③情報の分析・生活
課題の確定
15. 相談援助の過程 (6) 支援の計画
16. 相談援助の過程 (7) 支援の実施
17. 相談援助の過程 (8) モニタリングと評価
18. 相談援助の過程 (9) 支援の終結とアフターケア
19. ケースマネジメントとケアマネジメント (1) ケースマ
ネジメントとケアマネジメントの概念
20. ケースマネジメントとケアマネジメント (2) ケアマネ
ジメントの目的と意義
21. ケースマネジメントとケアマネジメント (3) ケアマネ
ジメントの方法と留意点
22. 相談援助のためのアウトリーチ (1) アウトリーチの意
義と目的
23. 相談援助のためのアウトリーチ (2) アウトリーチの方
法と留意点
24. 相談援助におけるネットワーク (1) ネットワー
キングの意義と目的
25. 相談援助におけるネットワーク (2) ネットワー
キングの方法と留意点
26. 相談援助におけるネットワーク (3) ネットワー
キングのためのシステムづくり
27. 相談援助における社会資源の活用・調整・開発 (1) 社
会資源の活用・調整・開発の意義と目的
28. 相談援助における社会資源の活用・調整・開発 (2) 社
会資源の活用・調整開発の方法と留意点
29. 相談援助における社会資源の活用・調整・開発 (3) ソ
ーシャルアクションによるシステムづくり
30. 相談援助における情報通信技術(IT)の活用 IT活用の意義
と留意点及び支援の概要

教科書

『社会福祉学習双書』編集委員会 編 『社会福祉援助技術論 2 相
談援助の理論と方法/就労支援サービス (社会福祉学習双書)』
(全国社会福祉協議会)

評価方法

- (1) 期末試験 :50% (2) 毎回の授業のリアクションペーパー:30%
(3) 提出物:10% (4) 受講態度:10%

社会福祉援助技術論B

CGSW-W-300

担当者：鷹野 吉章

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：福祉選択科目、
社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

・相談援助における援助関係・相談援助のための基本技法・相談援助の実践モデルとアプローチ・集団を活用した相談援助・スーパービジョンとコンサルテーション・相談援助における記録・事例分析

2. 学びの意義と目標

・相談援助に係るクリニカル・ソーシャルワークの知識と技術について理解する。・相談援助にかかわる様々な実践モデルについて理解する。・相談援助における事例分析の意義や方法について理解する。・相談援助の実際（権利擁護活動を含む）について理解する。

受講生に対する要望

ソーシャルワーク実践にとって不可欠な科目ですので社会福祉士を目指す者は是非受講してください。

キーワード

(1) クリニカル・ソーシャルワーク (2) ソーシャルワーク理論モデル (3) グループワーク (4) スーパービジョン (5) 事例分析

事前学習（予習）

授業計画に示されている次回タイトルについて、授業で指示する参考書の当該箇所を事前に読み用語などを調べておくこと。

復習についての指示

授業での講義内容と配布プリントを踏まえて、自分なりに重要と思われる要点を整理すること。また練習問題についてはできなかった問題は解説を読み理解するようにすること。

授業計画

1. 相談援助における援助関係 (1) 援助関係の意義と概念
2. 相談援助における援助関係 (2) 援助関係の形成方法
3. 相談援助のための基本技法 (1) コミュニケーション技法
4. 相談援助のための基本技法 (2) 面接技法① 相談援助における面接の目的
5. 相談援助のための基本技法 (3) 面接技法② 相談援助における面接の展開
6. 相談援助のための基本技法 (4) 面接技法③ 相談援助における面接の形態
7. 相談援助のための基本技法 (5) 契約の意義と目的
8. 相談援助のための基本技法 (6) 契約の方法と留意点
9. 相談援助のための基本技法 (7) 観察技法
10. 相談援助の実践モデルとアプローチ (1) 相談援助の焦点化と視点
11. 相談援助の実践モデルとアプローチ (2) ソーシャルワーク実践のモデル①
12. 相談援助の実践モデルとアプローチ (3) ソーシャルワーク実践のモデル②
13. 相談援助の実践モデルとアプローチ (4) ソーシャルワーク実践のモデル③
14. 相談援助の実践モデルとアプローチ (5) ソーシャルワーク実践のモデル④
15. 相談援助の実践モデルとアプローチ (6) ソーシャルワーク実践のモデル⑤
16. 集団を活用した相談援助 (1) 集団を活用した相談援助の意義と特徴
17. 集団を活用した相談援助 (2) グループワークの原則
18. 集団を活用した相談援助 (3) グループワークの実際
19. スーパービジョンとコンサルテーション (1) スーパービジョンの意義と目的
20. スーパービジョンとコンサルテーション (2) スーパービジョンの内容・形態・機能
21. スーパービジョンとコンサルテーション (3) コンサルテーションの意義と目的
22. 相談援助における記録 (1) 記録の意義と目的
23. 相談援助における記録 (2) 記録の種類と方法
24. 相談援助における記録 (3) 個人情報保護の意義と留意点
25. 事例分析 (1) 事例分析の意義と方法
26. 事例分析 (2) 相談援助活動の実際 ①社会的排除
27. 事例分析 (3) 相談援助活動の実際 ②児童虐待
28. 事例分析 (4) 相談援助活動の実際 ③高齢者虐待
29. 事例分析 (5) 相談援助活動の実際 ④ホームレス
30. 事例分析 (6) 相談援助活動の実際 ⑤家庭内暴力 (D. V)

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 試験:80% (2) レポート:20%

出席点について：毎回の出席が大前提となる。それゆえ、出席したからといって成績に出席点が加算されることはない。ただし、欠席は減点の対象となる。

社会福祉援助実習

CGSW-W-300

担当者：森島 健

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：福祉選択必修科目

講義概要

1. 内容

この授業では、主に地域リハビリテーションにおける援助の方法論を学ぶ。まず地域リハビリテーションの理念を理解し、その活動の枠組みを学習する。またその活動の中で、リハビリテーション専門職が行う実践活動について視覚教材などを通して理解する。加えて2000年よりスタートした介護保険の役割についても概説する。後半は実習を通して、高齢者や障がい者の身体面・心理面について学習する。特に障がい体験を実施する事が、介護される側の心理面を共感するための一助となり、身体状況と環境面との関係を考えていくための、手助けになると考えている。教授方法は講義形式だけでなく、実習やワークショップを用いる。

2. 学びの意義と目標

本講義では、地域リハビリテーションの概要を学ぶことにより、高齢者や障がい者の気持ちを理解し、彼らへの共感への第一歩になると考えている。今後、卒業し社会に出ることにより、様々な人々と接する機会が増えると思うが、そこに対応できる人間形成にもなると考えている。教育目標は、「地域リハビリテーションの理念を理解し、その活動の枠組みを学習する」ことである。行動目標は、以下の5点である。①地域リハビリテーションの理念について説明できる。②地域リハビリテーションにおける介護保険の役割を概説できる。③地域リハビリテーションにおいて対象者の心理面の重要性を説明できる。④障害体験を実施し、環境面との重要性を説明できる。⑤高齢者や障害者の心情を理解することができる。

受講生に対する要望

実習という授業形態からグループワークや実習の時間が多くなります。自ら学ぶという強い気持ちと学生諸君の積極的な取り組みに期待します。

キーワード

(1)地域 (2)リハビリテーション (3)施設 (4)在宅 (5)障がい者

事前学習（予習）

授業計画を参照し、扱われる内容について今まで学習した資料を集めておくこと。

復習についての指示

授業で配布した資料を読み直し、内容を理解し説明できるようにすること。

授業計画

1. リハビリテーションとは何かを考える
2. 地域・コミュニティとは何かを考える
3. 地域リハビリテーションの理念・目的・役割について学ぶ
4. 地域リハビリテーションの歴史的背景について学ぶ
5. 教授方法について、ワークショップなどの考え方について学ぶ
6. 地域の特性について（在宅と施設の違いを考える）
7. 社会福祉資源について考える
8. ケアマネジメントの必要性について学ぶ
9. 介護保険とリハビリテーションについて

教科書

プリントを配布する
教科書は使用しません。必要な資料は授業時に配布します。

評価方法

- (1)試験:100%

社会福祉原論

CHRI-C-331

担当者：牛津 信忠

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける、
福祉のこころ：福祉のこころを育み、人格を高める

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

・現代社会における福祉制度と福祉政策・福祉の思想と哲学・福祉制度の発達過程・福祉政策におけるニーズと資源・福祉政策の課題・福祉政策の構成要素・福祉政策の関連領域・福祉政策の国際比較・相談援助活動と福祉政策の関係

2. 学びの意義と目標

・現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。・福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。・福祉政策におけるニーズと資源について理解する。・福祉政策の課題について理解する。・福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。）について理解する。・福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係について理解する。・相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

受講生に対する要望

毎回授業に出席することはいうまでもなく、授業計画に沿って、予習復習をすることを義務付ける。予習については毎回提供するプリントを用いて、二回目より前回プリントの説明を終えていない箇所を読み、その意味をしっかりと調べて授業に臨むこと。復習は、ノート、プリントを読み返し、復習小テストのために準備をして毎回授業に臨むこと[最低3回に一度は小テストを行う]。

キーワード

(1)福祉における理念、政策、技術 (2)社会福祉における狭義・広義 (3)普遍主義的福祉 (4)ノーマライゼーション (5)ワーク・ライフ・バランス

事前学習（予習）

前回授業未終了箇所のレジュメ、授業時に指示する参考文献の該当箇所、福祉小六法の関連箇所を、事前に読み、授業に臨むこと。

復習についての指示

授業のレジュメと参考文献等を照合させ、毎回、必ず復習すること。最低3回に一度は行う終了箇所を範囲とした小テストに備えること。

授業計画

1. 現代社会における福祉制度と福祉政策 (1) わが国における福祉制度の概念と理念
2. 現代社会における福祉制度と福祉政策 (2) 福祉政策の概念と理念
3. 現代社会における福祉制度と福祉政策 (3) 福祉制度と福祉政策の関係
4. 現代社会における福祉制度と福祉政策 (4) 福祉政策と政治の関係
5. 現代社会における福祉制度と福祉政策 (5) 福祉政策の主体と対象
6. 福祉の思想と哲学 (1) 福祉の原理をめぐる哲学と倫理
7. 福祉の思想と哲学 (2) 福祉の原理をめぐる理論
8. 福祉制度の発達過程 (1) 前近代社会と福祉
9. 福祉制度の発達過程 (2) 近代社会と福祉
10. 福祉制度の発達過程 (3) 現代社会と福祉
11. 福祉政策におけるニーズと資源 (1) 需要とニーズの概念
12. 福祉政策におけるニーズと資源 (2) 資源の概念
13. 福祉政策の課題 (1) 福祉政策と社会問題 ①貧困、孤独、失業
14. 福祉政策の課題 (2) 福祉政策と社会問題 ②社会的排除、ヴァルネラビリティ
15. 福祉政策の課題 (3) 福祉政策の現代的課題（社会的包摂、社会連帯、セーフティネット）
16. 福祉政策の構成要素 (1) 福祉政策の論点 ①福祉政策の課題と国際比較
17. 福祉政策の構成要素 (2) 福祉政策の論点 ②効率性と公平性、必要と資源
18. 福祉政策の構成要素 (3) 福祉政策の論点 ③普遍主義と選別主義
19. 福祉政策の構成要素 (4) 福祉政策の論点 ④自立と依存・自己選択とパターナリズム
20. 福祉政策の構成要素 (5) 福祉政策の論点 ⑤参加とエンパワーメント
21. 福祉政策の構成要素 (6) 福祉政策における政府・市場・国民の役割
22. 福祉政策の構成要素 (7) 福祉政策の手法と政策決定過程と政策評価
23. 福祉政策の構成要素 (8) 福祉サービス供給部門
24. 福祉政策の構成要素 (9) 福祉サービスの供給と利用の過程
25. 福祉政策の関連領域 (1) 所得と福祉政策
26. 福祉政策の関連領域 (2) 保健医療と福祉政策
27. 福祉政策の関連領域 (3) 福祉政策と教育・住宅・労働政策
28. 福祉政策の国際比較 (1) 欧米諸国の福祉政策
29. 福祉政策の国際比較 (2) 東アジア諸国の福祉政策
30. 相談援助活動と福祉政策の関係

教科書

授業の中で指示する
主としてスライドショー（パワーポイントによる）授業。加えて関連プリントを毎回配布する。

評価方法

(1) 授業出席率:20%:出席表に名前と番号を書き込む形で出席を取る。(2) 小テストに見る思考力:20%:授業の区切りにあたるたびに20分程度で行う復習テスト。(3) 授業中の態度:10%:出席表による出席把握により、個人の態度を把握できる。(4) 授業中の質問:10%:授業中に手を挙げて質問することも歓迎する。(5) 期末論文形式のテスト:40%:授業全体を対象とし、知識のみならず、思考の力をも重視する。

社会保障論

ECON-L-200

担当者：宮寺 良光

開設期：春学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

社会福祉主事任用資格：選択科目、
行政コース：応用科目、
コミュニティコース：基幹科目、
社会福祉士国家試験受験資格：必修科目、
精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

・現代社会における社会保障制度の課題・社会保障の概念や対象およびその理念・社会保障の歴史・社会保障の財源と費用・社会保険と社会扶助の関係・社会保障制度の体系・社会保障制度の概要（年金保険・医療保険・介護保険・労働保険・その他社会手当）・公的保険制度と民間保険制度の関係・諸外国における社会保障制度の概要

2. 学びの意義と目標

・現代社会における社会保障制度の課題（少子高齢化と社会保障制度の関係を含む。）について理解する。・社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程も含めて理解する。・公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。・社会保障制度の体系と概要について理解する。・年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容について理解する。・諸外国における社会保障制度の概要について理解する。

受講生に対する要望

・出席を単位修得の条件とするため、3分の2以上は出席するようにしてください。・集中講義であるため、長時間受講するのは苦痛を伴うと思うので、お互いにメリハリを付けて取り組みましょう。

キーワード

(1)人口の少子・高齢化 (2)皆保険・皆年金 (3)介護保険 (4)労働保険 (5)国際比較

事前学習（予習）

(1)講義内容の予習 → テキストを読解してくる

復習についての指示

(1)講義内容の復習 → 毎回出題する課題に対して、400文字程度のレポートを提出する

授業計画

1. 現代社会における社会保障制度の課題 (1) 人口動態の変化、少子・高齢・人口減少社会
2. 現代社会における社会保障制度の課題 (2) 労働・雇用環境の変化
3. 現代社会における社会保障制度の課題 (3) 少子高齢・人口減少社会・政治・経済的な問題と社会保障の課題
4. 社会保障の概念や対象およびその理念
5. 社会保障の歴史 (1) 欧米における歴史的展開
6. 社会保障の歴史 (2) 日本における歴史的展開
7. 社会保障の財源と費用 (1) 社会保障の財源及び給付費
8. 社会保障の財源と費用 (2) 国民負担率と財源・費用に関する国家的課題
9. 社会保険と社会扶助の関係 (1) 社会保険の概念と範囲
10. 社会保険と社会扶助の関係 (2) 社会扶助の概念と範囲
11. 社会保障制度の体系
12. 年金保険制度 (1) 年金保険制度の沿革と概要
13. 年金保険制度 (2) 国民年金
14. 年金保険制度 (3) 厚生年金・共済年金
15. 年金保険制度 (4) 年金制度をめぐる最近の動向
16. 医療保険制度 (1) 医療保険制度の沿革と最近の動向
17. 医療保険制度 (2) 国民健康保険
18. 医療保険制度 (3) 健康保険と共済組合制度
19. 医療保険制度 (4) 後期高齢者医療制度
20. 介護保険制度 (1) 創設の経緯
21. 介護保険制度 (2) 介護保険制度の概要
22. 介護保険制度 (3) 介護保険制度をめぐる最近の動向
23. 労働保険制度 (4) 労働保険制度の沿革と最近の動向
24. 労働保険制度 (1) 労災保険
25. 労働保険制度 (2) 雇用保険
26. 社会手当制度
27. 公的保険制度と民間保険制度の関係 (1) 民間保険に期待される役割
28. 公的保険制度と民間保険制度の関係 (2) 民間保険の概要
29. 諸外国における社会保障制度の概要 (1) 社会保障の国際比較
30. 諸外国における社会保障制度の概要 (2) 先進諸国における社会保障制度の概要

教科書

唐鎌直義 『脱貧困の社会保障』（旬報社）

評価方法

(1)出席:30% (2)小レポート:30% (3)試験:40%

担当者：野口 勝則

開設期：春学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

社会福祉士国家試験受験資格：選択必修科目

講義概要

1. 内容

・自立支援と就労・雇用・就労の動向と労働施策の概要・障害者と就労支援・低所得者と就労支援・就労支援分野との連携と実際

2. 学びの意義と目標

・相談援助活動において必要となる各種の就労支援制度について理解する。・就労支援に係る組織、団体及び専門職について理解する。・就労支援分野との連携について理解する。

受講生に対する要望

就労問題はこれから社会人となる皆さんにとっても重要です。受講者ご自身の職業生活と関連づけた学習が大切です。

キーワード

事前学習（予習）

教科書に目を通しておくとともに、普段から雇用情勢（失業率、高校・大学卒業予定者の内定状況等）、障害者・低所得者等の就労問題について、ニュース等を通じて理解しておくことが望まれます。

復習についての指示

講義では補足資料も配付し、使用します。受講後は、教科書、配付資料、小試験に目をおし、苦手なところをカバーすることが望まれます。

授業計画

1. 自立支援と就労
2. 雇用・就労の動向と労働施策の概要
3. 障害者と就労支援 （1）就労支援制度(1) 障害者福祉制度における就労支援制度
4. 障害者と就労支援 （2）就労支援制度(2) 障害者雇用施策の概要
5. 障害者と就労支援 （3）職業リハビリテーション機関の役割と実際
6. 障害者と就労支援 （4）就労支援に係る専門職の役割と実際
7. 低所得者と就労支援
8. 就労支援分野との連携と実際

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会 『新・社会福祉士養成講座第18巻 就労支援サービス第3版』（中央法規出版）

評価方法

(1)筆記試験:50% (2)出席:50%

2日間の講義です、各日ごとに小試験を行います。その結果と出席率により評価を行います。

障害者福祉論 A

CCSW-W-300

担当者：木下 大生

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：福祉必修科目、
社会福祉主事任用資格：選択科目、
社会福祉士国家試験受験資格：必修科目、
精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

・障害の基礎的理解・障害者福祉の基本理念・生活機能障害の理解・障害者の生活理解・障害者の実態

2. 学びの意義と目標

・障害の概念や障害者福祉に関わる理念について理解する。・障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した相談援助活動の視点を習得する。・障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズについて理解する。

受講生に対する要望

・私語を禁止します。

キーワード

(1)障害 (2)人権 (3)ノーマライゼーション (4)脱施設化

事前学習（予習）

1) シラバスを見て、次回の授業範囲の教科書あるいは資料を必ず読んできて下さい。2) 授業内でとったノート整理を必ず次回の授業までに行ってください。

復習についての指示

講義で行った内容を復習し、理解できていない箇所を明確にし、自身でわかるまで調べて下さい。調べてもわからない場合は質問してください。

授業計画

1. 障害の基礎的理解 (1) 国際的な障害の概念 ①ICIDHからICFへ
2. 障害の基礎的理解 (2) 国際的な障害の概念 ②ICFによる障害のとらえ方
3. 障害者福祉の基本理念 (1) 国際連合「障害者の権利に関する条約」と人権思想
4. 障害者福祉の基本理念 (2) ノーマライゼーションとリハビリテーション
5. 障害者福祉の基本理念 (3) 自立と自立生活
6. 生活機能障害の理解 (1) 身体障害の種類と原因、特性
7. 生活機能障害の理解 (2) 知的障害の原因と特性
8. 生活機能障害の理解 (3) 精神障害の種類と原因、特性
9. 生活機能障害の理解 (4) 発達障害の種類と原因、特性
10. 生活機能障害の理解 (5) 障害疑似体験
11. 生活機能障害の理解 (6) 障害が及ぼす心理的影響と障害の受容
12. 障害者の生活理解 (1) 障害者を取り巻く社会情勢
13. 障害者の生活理解 (2) 事例からみる障害者の生活実態
14. 障害者の生活理解 (3) 事例からみる地域生活の実態と福祉ニーズ
15. 障害者の実態

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会 『障害者に対する支援と障害者自立支援制度』（中央法規出版）

評価方法

(1) 平常点:30%:出席 (2) 試験:70%

障害者福祉論 A/B

CCSW-W-300

担当者：木下 大生

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

社会福祉主事任用資格：選択科目、
社会福祉士国家試験受験資格：必修科目、
精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

・障害の基礎的理解・障害者福祉の基本概念・生活機能障害の理解・障害者の生活理解・障害者の実態・障害者福祉制度の発展過程・障害者にかかわる法体系・障害者自立支援法・組織及び団体の役割と実際・障害者に関連する法律

2. 学びの意義と目標

・障害の概念や障害者福祉に関わる理念について理解する。・障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した相談援助活動の視点を習得する。・障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズについて理解する。・障害者福祉制度の発展過程について理解する。・相談援助活動において必要となる障害者自立支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度及び障害者の支援の実践についてについて理解する。

受講生に対する要望

・私語を禁止します。

キーワード

(1)障害 (2)人権 (3)ノーマライゼーション (4)脱施設化

事前学習（予習）

1) シラバスを見て、次回の授業範囲の教科書あるいは資料を必ず読んできて下さい。2) 授業内でとったノート整理を必ず次回の授業までに行ってください。

復習についての指示

講義で行った内容を復習し、理解できていない箇所を明確にし、自身でわかるまで調べて下さい。調べてもわからない場合は質問してください。

授業計画

1. 障害の基礎的理解 (1) 国際的な障害の概念 ①ICIDHからICFへ
2. 障害の基礎的理解 (2) 国際的な障害の概念 ②ICFによる障害のとらえ方
3. 障害者福祉の基本概念 (1) 国際連合「障害者の権利に関する条約」と人権思想
4. 障害者福祉の基本概念 (2) ノーマライゼーションとリハビリテーション
5. 障害者福祉の基本概念 (3) 自立と自立生活
6. 生活機能障害の理解 (1) 身体障害の種類と原因、特性
7. 生活機能障害の理解 (2) 知的障害の原因と特性
8. 生活機能障害の理解 (3) 精神障害の種類と原因、特性
9. 生活機能障害の理解 (4) 発達障害の種類と原因、特性
10. 生活機能障害の理解 (5) 障害疑似体験
11. 生活機能障害の理解 (6) 障害が及ぼす心理的影響と障害の受容
12. 障害者の生活理解 (1) 障害者を取り巻く社会情勢
13. 障害者の生活理解 (2) 事例からみる障害者の生活実態
14. 障害者の生活理解 (3) 事例からみる地域生活の実態と福祉ニーズ
15. 障害者の実態
16. 障害者福祉制度の発展過程
17. 障害者にかかわる法体系 (1) 障害者基本法の概要
18. 障害者にかかわる法体系 (2) 身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法の概要
19. 障害者自立支援法 (1) 障害者自立支援法の目的
20. 障害者自立支援法 (2) 支給決定の仕組みとプロセス
21. 障害者自立支援法 (3) 自立支援給付・地域生活支援事業等の体系
22. 障害者自立支援法 (4) 障害福祉計画、苦情解決・審査請求
23. 障害者自立支援法 (5) 障害者自立支援制度の動向
24. 組織及び団体の役割と実際
25. 支援サービス提供の実践 (1) サービス提供の実践と専門職の役割
26. 支援サービス提供の実践 (2) 障害者福祉分野の多職種連携、ネットワークの実践
27. 支援サービス提供の実践 (3) 相談支援事業所の役割と活動の実践
28. 障害者に関連する法律 (1) 発達障害者支援法
29. 障害者に関連する法律 (2) 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー新法）等
30. 共生社会をめざして

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会 『障害者に対する支援と障害者自立支援制度』（中央法規出版）

評価方法

(1) 平常点:30%:出席 (2) 試験:70%

障害者福祉論B

CCSW-W-300

担当者：木下 大生

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：福祉必修科目、
社会福祉主事任用資格：選択科目、
社会福祉士国家試験受験資格：必修科目、
精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

・障害者福祉制度の発展過程・障害者にかかわる法体系・障害者自立支援法・組織及び団体の役割と実際・障害者に関連する法律

2. 学びの意義と目標

・障害者福祉制度の発展過程について理解する。・相談援助活動において必要となる障害者自立支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度及び障害者の支援の実際についてについて理解する。【注意事項】「障害者福祉論A」を同時履修すること（どちらか一方のみを履修することは不可）。

受講生に対する要望

私語を禁止します。

キーワード

(1)障害 (2)人権 (3)ノーマライゼーション (4)脱施設化

事前学習（予習）

1) シラバスを見て、次回の授業範囲の教科書あるいは資料を必ず読んできて下さい。2) 授業内でとったノート整理を必ず次回の授業までに行ってください。

復習についての指示

講義で行った内容を復習し、理解できていない箇所を明確にし、自身でわかるまで調べて下さい。調べてもわからない場合は質問してください。

授業計画

1. 障害者福祉制度の発展過程
2. 障害者にかかわる法体系 (1) 障害者基本法の概要
3. 障害者にかかわる法体系 (2) 身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法の概要
4. 障害者総合支援法 (1) 障害者総合支援法の目的
5. 障害者総合支援法 (2) 支給決定の仕組みとプロセス
6. 障害者総合支援法 (3) 自立支援給付・地域生活支援事業等の体系
7. 障害者総合支援法 (4) 障害福祉計画、苦情解決・審査請求
8. 障害者総合支援法 (5) 障害者自立支援制度の動向
9. 組織及び団体の役割と実際
10. 支援サービス提供の実際 (1) サービス提供の実際と専門職の役割
11. 支援サービス提供の実際 (2) 障害者福祉分野の多職種連携、ネットワーキングの実際
12. 支援サービス提供の実際 (3) 相談支援事業所の役割と活動の実際
13. 障害者に関連する法律 (1) 発達障害者支援法他
14. 障害者に関連する法律 (2) 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー新法）等
15. 共生社会をめざして

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会 『障害者に対する支援と障害者自立支援制度』（中央法規出版）

評価方法

(1)出席:30% (2)試験:70%

担当者：堀 恭子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人と社会の理解：人を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける、
論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

社会福祉主事任用資格：選択科目、
社会福祉士国家試験受験資格：選択必修科目、
精神保健福祉士国家試験受験資格：選択必修科目、
認定心理士認定資格(W学科)：基礎科目

講義概要

1. 内容

・心理学の特徴と歴史・人の心理学的理解・人の成長・発達と心理・日常生活と心の健康・心理的支援の方法と実際

2. 学びの意義と目標

・心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する
・人の成長・発達と心理との関係について理解する・日常生活と心の健康との関係について理解する・心理的支援の方法と実際について理解する

受講生に対する要望

講義に加え、心理学という学問の概要を知ってもらいながら、心理学がどのように利用されているか実感してもらいたいと考えています。まじめに心理学を学ぶ気のある方のみ受講してください。講義に参加して提供された話題について考える習慣を身につけてほしいと思っていますので、出席や出席態度を重視します。

キーワード

(1)学習心理学 (2)臨床心理学 (3)発達心理学 (4)性格心理学 (5)社会心理学

事前学習（予習）

講義で扱われる内容に関するプリントを配布します。プリントについて講師が設定した問いに対する回答、疑問に思った事柄、まだよく分からない事柄に関するショートレポートを提出してもらいます。

復習についての指示

講義で扱った内容について、授業内に複数回の小テストを行って講義内容の復習を行い、定着を確認します。

授業計画

1. 心理学の特徴と歴史
2. 人の心理学的理解 (1) 心と脳
3. 人の心理学的理解 (2) 情動・情緒
4. 人の心理学的理解 (3) 欲求・動機づけと行動
5. 人の心理学的理解 (4) 感覚・知覚・認知
6. 人の心理学的理解 (5) 学習・記憶・思考
7. 人の心理学的理解 (6) 知能・創造性
8. 人の心理学的理解 (7) 人格・性格
9. 人の心理学的理解 (8) 集団
10. 人の心理学的理解 (9) 適応
11. 人の心理学的理解 (10) 人と環境
12. 人の成長・発達と心理 (1) 発達の定義、発達段階
13. 人の成長・発達と心理 (2) 発達課題、生涯発達心理
14. 人の成長・発達と心理 (3) アタッチメント、アイデンティティ、喪失体験
15. 日常生活と心の健康 (1) ストレッサー
16. 日常生活と心の健康 (2) コーピング
17. 日常生活と心の健康 (3) ストレス症状（うつ症状、アルコール依存、燃え尽き症候群（バーンアウト）を含む）
18. 日常生活と心の健康 (4) ストレスマネジメント
19. 心理的支援の方法と実際 (1) 心理検査の概要 ①人格検査、発達検査
20. 心理的支援の方法と実際 (1) 心理検査の概要 ①人格検査、発達検査
21. 心理的支援の方法と実際 (3) カウンセリングの概念と範囲
22. 心理的支援の方法と実際 (4) カウンセリングの目的、対象、方法
23. 心理的支援の方法と実際 (5) ピアカウンセリングの目的、方法
24. 心理的支援の方法と実際 (6) 心理療法 ①精神分析、遊戯療法
25. 心理的支援の方法と実際 (7) 心理療法 ②行動療法
26. 心理的支援の方法と実際 (8) 心理療法 ③家族療法
27. 心理的支援の方法と実際 (9) 心理療法 ④ブリーフ・サイコセラピー、心理劇
28. 心理的支援の方法と実際 (10) 心理療法 ⑤動作療法、SST（生活技能訓練
29. 心理的支援の方法と実際 (11) 臨床心理士の役割
30. 心理的支援の方法と実際 (12) カウンセリングとソーシャルワーク との関係

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)講義内課題:30% (2)小テスト:60%:小テストは知識を問うというより、理解度を測るための記述式とします (3)期末レポート:10%

担当者：岡田 いずみ

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：情報を整理・分析し、説明する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(W学科)：基礎科目

講義概要

1. 内容

この講義は大きく分けて2つのパートに分かれています。前半部（1～14回）の記述統計学の部分では、データの特徴の記述の仕方を学びます。後半部（15～30回）の推測統計学の部分では、統計的仮説の検定の仕方や実験計画法について学びます。心理統計は講義を聴いているだけでは理解が進まず、自分で手を動かして計算してみればじめて分かるという部分がありますので、講義と実習（コンピュータ室でのEXCELの操作と電卓）を織り交ぜた授業内容を予定しています。心理学実験演習A,Bを受講することを考えている学生は、事前にこの授業を履修しておくの実験演習の内容をより深く理解できます。

2. 学びの意義と目標

心理学は心の科学です。そのため、心理学では人間の心理をデータにしてわかりやすく分析することが求められます。この授業では、自分でデータを分析できるようになること、統計的な記述の含まれる論文や報告書を正しく読むことができるようになることを目標とします。授業では、手を動かして計算したり、パソコンを使って分析を行います。また、実際にアンケートを取り、グループになって集計を行うなど、授業への積極的な参加が求められます。

受講生に対する要望

講義はもちろん、電卓やパソコンによる計算や、グループワークなどに対して積極的な参加を望みます。

キーワード

(1)心理統計 (2)記述統計 (3)推測統計

事前学習（予習）

毎回講義の最後に、次のテーマについて話しますので、その内容について次回までに調べてきてください。

復習についての指示

その日の講義の内容について復習し、わからないこと、さらに深く学びたいことなどをまとめておいてください。次の講義の冒頭で、前回の内容の復習と質疑応答の時間を設けます。

授業計画

1. イントロダクション・心理統計学とは？
2. 変数の種類
3. 尺度の水準
4. データの図表化
5. 代表値
6. 散布度
7. 標準化・偏差値
8. 共分散・相関
9. 相関係数の性質
10. 質的変数の関連
11. 母集団と標本
12. 正規分布、標本分布
13. 推定と推定量
14. 記述統計のまとめ
15. 統計的仮説検定 基本的な考え方
16. 統計的仮説検定 用語
17. 1つの平均値の検定
18. 相関係数の検定
19. t検定による平均値の比較
20. 2つの平均値の比較
21. 3つ以上の平均を比べる
22. 多重比較
23. 1要因被験者内計画
24. 2要因被験者間計画
25. 2要因被験者内計画
26. 交互作用とは
27. 分析の実際
28. カイ2乗検定（適合性の検定）
29. カイ2乗検定（独立性の検定）
30. 総括

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)中間テスト:20% (2)期末テスト:50% (3)実習課題:15%:講義内容に関する課題を設定し、提出を求めることが多くあります。(4)出席点:15%:授業終了時に、その時間の内容についてまとめることを求めます。これをもって出席点とします。

心理学実験実習 A

PSYC-D-100

担当者：長谷川 恵美子，堀 恭子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(W学科)：基礎科目

講義概要

1. 内容

1. 内容 少人数のグループに分かれ心理学各領域（知覚、学習、記憶、欲求、態度など）の研究実践の基礎を、実習をととして学ぶことを目的としている。実験実施とともに各実験が終わるごとにレポートの提出が求められる。他のグループメンバーに負担がかからないよう欠席・遅刻・レポート期限などは厳しくチェックされる授業である。

2. 学びの意義と目標

基礎的な心理実験・調査を自ら実験者・被験者として体験し、統計的処理などを学び、心理学の実験的な研究方法を習得する。

受講生に対する要望

レポートを書く際に、心理統計の知識が必要となるため、心理学研究法を並行履修することが望ましい。卒業後、「社団法人日本心理学会認定心理士」の資格申請を予定している学生は、春学期の「心理学実験実習B」とあわせて本授業を履修すること。可能なら実験実習A, Bの順に履修することが望ましい。

キーワード

(1) 実験 (2) 調査方法 (3) 心理学研究法 (4) 心理統計

事前学習（予習）

この授業は実習形式の授業である。授業時に配布された資料を熟読するとともに、各テーマに対し自分なりの考えももちながら積極的に取組み、各課題についてレポート形式にまとめ提出すること。

復習についての指示

授業で取り扱ったテーマについて、受講者の興味関心にあわせ、紹介した文献などで知識を深めることを期待する。

授業計画

1. 心理学実験に関するオリエンテーション
2. 心理学実験と倫理 (1)
3. 心理学実験と倫理 (2)
4. 視覚の特徴と錯視 (1)
5. 視覚の特徴と錯視 (2)
6. 視覚の特徴と錯視 (3)
7. 聴覚の特徴 (1)
8. 聴覚の特徴 (2)
9. 記憶の特徴 (1)
10. 記憶の特徴 (2)
11. 記憶の特徴 (3)
12. 学習の特徴 (1)
13. 学習の特徴 (2)
14. 学習の特徴 (3)
15. イメージと測定 (1)
16. イメージと測定 (2)
17. 欲求とフラストレーション (1)
18. 欲求とフラストレーション (2)
19. 印象や態度の測定 (1)
20. 印象や態度の測定 (2)
21. 印象や態度の測定 (3)
22. ソシオメトリー (1)
23. ソシオメトリー (2)
24. ソシオメトリー (3)
25. 心理検査法入門 (1)
26. 心理検査法入門 (2)
27. 質問紙調査とその解釈 (1)
28. 質問紙調査とその解釈 (2)
29. 認知機能と検査法 (1)
30. 認知機能と検査法 (2)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 平常レポート：70% (2) 授業への積極的参加状況：30%

心理学実験実習B

PSYC-D-200

担当者：長谷川 恵美子，堀 恭子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(W学科)：基礎科目

講義概要

1. 内容

留意しなければならない倫理の問題をはじめ、仮説設定、実験デザインの決定などの作業を取り上げながら、心理学各領域（認知心理、社会心理、臨床心理、生理心理など）の研究実践の基礎を実習をととして学ぶことを目的としている。

2. 学びの意義と目標

少人数のグループに分かれ、心理実験・調査を自ら実験者・被験者として体験し、心理学の実験的な研究方法を習得する。

受講生に対する要望

この科目は、人間福祉学科、心理系、「応用科目」であり、できる限り、心理学実験実習Aを履修後に受講することが望ましい。特に心理系で卒業研究を行う学生は受講することが望ましい。卒業後、「社団法人日本心理学会認定心理士」の資格申請を予定している学生は、秋学期の「心理学実験実習A」とあわせて本授業を履修すること。

キーワード

(1)心理学実験 (2)心理アセスメント (3)心理療法 (4)心理学研究方法 (5)生理心理学

事前学習（予習）

授業時に配布された資料を熟読するとともに、各テーマに対し自分なりの考えもちながら積極的に取り組み、各課題についてレポート形式にまとめ提出すること。

復習についての指示

授業で取り扱ったテーマについて、受講者の興味関心にあわせ、紹介した文献などで知識を深めることを期待する。

授業計画

1. 心理学研究と倫理(1)
2. 心理学研究と倫理(2)
3. 実験計画法と報告方法(1)
4. 実験計画法と報告方法(2)
5. 社会心理学的実験(1)
6. 社会心理学的実験(2)
7. 社会心理学的実験(3)
8. 社会心理学的実験(4)
9. 知能と発達の検査(1)
10. 知能と発達の検査(2)
11. 知能と発達の検査(3)
12. 知能と発達の検査(4)
13. 情動と生理測定（心拍数、血圧、皮膚電気活動など）(1)
14. 情動と生理測定（心拍数、血圧、皮膚電気活動など）(2)
15. 情動と生理測定（心拍数、血圧、皮膚電気活動など）(3)
16. 情動と生理測定（心拍数、血圧、皮膚電気活動など）(4)
17. 性格検査(1)
18. 性格検査(2)
19. 性格検査(3)
20. 性格検査(4)
21. 神経心理学的心理検査(1)
22. 神経心理学的心理検査(2)
23. 行動観察(1)
24. 行動観察(2)
25. 認知的葛藤に関する実験(1)
26. 認知的葛藤に関する実験(2)
27. 箱庭療法(1)
28. 箱庭療法(2)
29. まとめ(1)
30. まとめ(2)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 平常レポート:70% (2) 授業への積極的参加:30%

児童福祉論 A

CGSW-W-200

担当者：中谷 茂一

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：福祉必修科目、
社会福祉主事任用資格：選択科目、
社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

・児童・家庭を取り巻く社会環境・児童・家庭福祉の理念とあゆみ・児童・家庭にかかわる法制度

2. 学びの意義と目標

・児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズ（子育て、一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力（D.V.）の実態を含む。）について理解する。・児童・家庭福祉制度の発展過程について理解する。・児童の権利について理解する。・相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉にかかわる他の法制度について理解する。

受講生に対する要望

【注意事項】「児童福祉論B」を同時履修すること（どちらか一方のみを履修することは不可）。

キーワード

(1)子ども (2)家族 (3)虐待 (4)福祉 (5)子育て支援

事前学習（予習）

次回該当箇所のテキストに目を通す

復習についての指示

当日配付資料の復習

授業計画

1. 児童・家庭を取り巻く社会環境 (1) 現代社会と子どもの成長・発達
2. 児童・家庭を取り巻く社会環境 (2) 児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢
3. 児童・家庭を取り巻く社会環境 (3) 児童・家庭の福祉ニーズの実際
4. 児童・家庭福祉の理念とあゆみ (1) 児童家庭福祉の理念および概念
5. 児童・家庭福祉の理念とあゆみ (2) 児童育成責任
6. 児童・家庭福祉の理念とあゆみ (3) 児童の権利保障
7. 児童・家庭福祉の理念とあゆみ (4) 児童家庭福祉制度の発展過程
8. 児童・家庭にかかわる法制度 (1) 児童・家庭福祉の法体系
9. 児童・家庭にかかわる法制度 (2) 児童福祉法の概要
10. 児童・家庭にかかわる法制度 (3) 児童虐待の防止等に関する法律（児童虐待防止法）の概要
11. 児童・家庭にかかわる法制度 (4) DV防止法及び売春防止法の概要
12. 児童・家庭にかかわる法制度 (5) 母子及び寡婦福祉法、母子保健法の概要
13. 児童・家庭にかかわる法制度 (6) 次世代育成支援対策推進法・少子化社会対策基本法の概要
14. 児童・家庭にかかわる法制度 (7) 児童手当法の概要
15. 児童・家庭にかかわる法制度 (8) 児童扶養手当法、特別児童扶養手当制度の概要

教科書

山縣文治 編 『よくわかる子ども家庭福祉 第9版』（ミネルヴァ書房）山縣文治・柏女霊峰 編 『社会福祉用語辞典 第9版』（ミネルヴァ書房）

評価方法

(1)出席:20% (2)テスト:50% (3)ディスカッション参加状況:30%

児童福祉論 A/B

CGSW-W-200

担当者：中谷 茂一

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

社会福祉主事任用資格：選択科目
社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

・児童・家庭を取り巻く社会環境・児童・家庭福祉の理念とあゆみ・児童・家庭にかかわる法制度・児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス・児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際・児童・家庭への相談活動の実際

2. 学びの意義と目標

・児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズ（子育て、一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力（D.V.）の実態を含む。）について理解する。・児童・家庭福祉制度の発展過程や児童の権利について理解する。・相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度について理解する。・相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉に係る福祉・保健サービスについて理解する。・児童・家庭への相談活動の実際について理解する。

受講生に対する要望

キーワード

(1)子ども (2)家族 (3)虐待 (4)福祉 (5)子育て支援

事前学習（予習）

次回該当箇所のテキストに目を通す

復習についての指示

当日配付資料の復習

授業計画

1. 児童・家庭を取り巻く社会環境 （1）現代社会と子どもの成長・発達
2. 児童・家庭を取り巻く社会環境 （2）児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢
3. 児童・家庭を取り巻く社会環境 （3）児童・家庭の福祉ニーズの実際
4. 児童・家庭福祉の理念とあゆみ （1）児童家庭福祉の理念および概念
5. 児童・家庭福祉の理念とあゆみ （2）児童育成責任
6. 児童・家庭福祉の理念とあゆみ （3）児童の権利保障
7. 児童・家庭福祉の理念とあゆみ （4）児童家庭福祉制度の発展過程
8. 児童・家庭にかかわる法制度 （1）児童・家庭福祉の法体系
9. 児童・家庭にかかわる法制度 （2）児童福祉法の概要
10. 児童・家庭にかかわる法制度 （3）児童虐待の防止等に関する法律（児童虐待防止法）の概要
11. 児童・家庭にかかわる法制度 （4）DV防止法及び売春防止法の概要
12. 児童・家庭にかかわる法制度 （5）母子及び寡婦福祉法、母子保健法の概要
13. 児童・家庭にかかわる法制度 （6）次世代育成支援対策推進法・少子化社会対策基本法の概要
14. 児童・家庭にかかわる法制度 （7）児童手当法の概要
15. 児童・家庭にかかわる法制度 （8）児童扶養手当法、特別児童扶養手当制度の概要
16. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス （1）母子保健
17. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス （2）障害・難病のある児童と家族への支援
18. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス （3）児童の社会的養護サービス
19. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス （4）児童虐待対策
20. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス （5）保育
21. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス （6）ひとり親家庭の福祉
22. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス （7）子育て支援
23. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス （8）児童健全育成
24. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス （9）非行・情緒障害児への支援
25. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス （10）女性福祉
26. 児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際 （1）児童・家庭福祉制度における組織及び団体の役割と実際
27. 児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際 （2）児童・家庭福祉制度における専門職の役割と実際
28. 児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際 （3）児童・家庭福祉制度における公私の役割関係
29. 児童・家庭への相談活動の実際 （1）児童相談所による支援
30. 児童・家庭への相談活動の実際 （2）多職種連携、ネットワーク

教科書

山縣文治 編 『よくわかる子ども家庭福祉 第9版』（ミネルヴァ書房）山縣文治・柏女霊峰 編 『社会福祉用語辞典 第9版』（ミネルヴァ書房）

評価方法

(1)出席:20% (2)テスト:50% (3)ディスカッション参加状況:30%

児童福祉論 B

CGSW-W-200

担当者：中谷 茂一

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：福祉必修科目、
社会福祉主事任用資格：選択科目、
社会福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

・児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス・児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際・児童・家庭への相談活動の実際

2. 学びの意義と目標

・児童・家庭にかかわる福祉・保健サービスの現状と課題について理解する。・児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際について理解する。・児童・家族への相談援助活動の実際について理解する。

受講生に対する要望

【注意事項】「児童福祉論 A」を同時履修すること（どちらか一方のみを履修することは不可）。

キーワード

(1)子ども (2)家族 (3)虐待 (4)福祉 (5)子育て支援

事前学習（予習）

次回該当箇所のテキストに目を通す

復習についての指示

当日配付資料の復習

授業計画

1. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (1) 母子保健
2. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (2) 障害・難病のある児童と家族への支援
3. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (3) 児童の社会的養護サービス
4. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (4) 児童虐待対策
5. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (5) 保育
6. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (6) ひとり親家庭の福祉
7. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (7) 子育て支援
8. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (8) 児童健全育成
9. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (9) 非行・情緒障害児への支援
10. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス (10) 女性福祉
11. 児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際 (1) 児童・家庭福祉制度における組織及び団体の役割と実際
12. 児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際 (2) 児童・家庭福祉制度における専門職の役割と実際
13. 児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際 (3) 児童・家庭福祉制度における公私の役割関係
14. 児童・家庭への相談活動の実際 (1) 児童相談所による支援
15. 児童・家庭への相談活動の実際 (2) 多職種連携、ネットワーク

教科書

山縣文治 編 『よくわかる子ども家庭福祉 第9版』 (ミネルヴァ書房) 山縣文治・柏女霊峰 編 『社会福祉用語辞典 第9版』 (ミネルヴァ書房)

評価方法

(1)出席:20% (2)テスト:50% (3)ディスカッション参加状況:30%

人体の構造と機能及び疾病

CCSW-W-100

担当者：森 秀美

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人と社会の理解：人を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：福祉必修科目、
社会福祉主事任用資格：選択科目、
社会福祉士国家試験受験資格：選択必修科目、
精神保健福祉士国家試験受験資格：選択必修科目

講義概要

1. 内容

・人の成長・発達・健康の捉え方・国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方・障害の概要・リハビリテーションの概要・こころとからだのしくみの基本的理解・生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解・疾病の概要

2. 学びの意義と目標

・心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。・国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要について理解する。・リハビリテーションの概要について理解する。・社会福祉実践の根拠となる人体の構造や機能及び福祉サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。

受講生に対する要望

社会福祉に携わる者として、支える対象である人間への関心を持ち、講義に臨んでほしい。

キーワード

(1)健康 (2)人体の構造・機能 (3)疾病・障害 (4)リハビリテーション

事前学習（予習）

テキストを通し予習

復習についての指示

テキスト、プリントを参考に復習

授業計画

1. 人の成長・発達
2. 健康の捉え方・国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方
3. 障害の概要・リハビリテーションの概要
4. こころとからだのしくみ（心理面及び身体面）の基本的理解
こころとからだのしくみの基礎的理解
5. 生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解 (1)身じたくや移動に関するこころとからだのしくみ
6. 生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解 (2)食事に関するこころとからだのしくみ
7. 生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解 (3)入浴・清潔保持や排泄に関するこころとからだのしくみ
8. 生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解 (4)睡眠に関するこころとからだのしくみ
9. 生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解 (5)終末期に関するこころとからだのしくみ
10. 生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解 (6)緊急時に関するこころとからだのしくみ
11. 疾病の概要 (1)悪性腫瘍
12. 疾病の概要 (2)生活習慣病
13. 疾病の概要 (3)感染症
14. 疾病の概要 (4)神経・精神疾患
15. 疾病の概要 (5)先天性・精神疾患、難病

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会 『新・社会福祉士養成講座〈1〉人体の構造と機能及び疾病—医学一般 第2版』（中央法規出版）

評価方法

(1)出席:30% (2)レポート:40% (3)テスト:30%

スクールソーシャルワーク論

CCSW-W-400

担当者：天野 敬子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：課題解決を図る力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

スクールソーシャルワークは教育現場で展開するソーシャルワークである。学校で子どもが抱える諸問題とその背景要因を学び、子どもへの支援の在り方を理解する。

2. 学びの意義と目標

スクールソーシャルワーカーの役割と意義を学び、スクールソーシャルワークの展開過程を具体的にイメージできるようになる。

受講生に対する要望

一方的な講義形式ではなく、双方向にやりとりしながらすすめたいので、積極的に感想や意見を述べてもらいたい。

キーワード

(1) 連携 (2) ネットワーク (3) 子どもの権利

事前学習（予習）

レポート発表をする学生は、事前に調べて発表資料を作成する。

復習についての指示

学んだことを確認し、ニュースや新聞の関連記事を読んで、見識を深める。

授業計画

1. 開講にあたっての注意事項およびシラバスを解説する。
2. DVD「スクールソーシャルワーカーの仕事」を視聴して全体像をつかむ。
3. 子どもの現状1 「児童虐待」について
4. 子どもの現状2 「いじめ」について
5. 子どもの現状3 「不登校」について（1）
6. 子どもの現状4 「不登校」について（2）
7. 子どもの現状5 「非行」について
8. SSWの仕事の流れ
9. 背景にある問題要因1 「発達障害」と「精神障害」
10. 背景にある問題要因2 「子どもの貧困」（1）
11. 背景にある問題要因3 「子どもの貧困」（2）
12. スクールソーシャルワーカーとスクールカウンセラー
13. 問題解決型ケース会議
14. 他機関との連携
15. 総括

教科書

山野則子・野田正人・半羽利美佳 『よくわかるスクールソーシャルワーク』（ミネルヴァ書房）

評価方法

(1) 出席率：40% (2) レポート発表：10% (3) 授業態度：10% (4) テスト：40%

スピリチュアルケア入門

PANT-D-100

担当者：窪寺 俊之、伊能 忠嗣

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

対人支援力：人格を尊重して人とのかかわることのできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

今、スピリチュアルケアに対する看護、介護、医療、教育などの分野で関心が高まっています。高齢者、病人、学生へのケアの質が問われ、従来の身体的病気や障害の治療だけでは十分人々のいのちを守り、高めることができないからです。人間のたましいに触れるケアを通じていのちを守り、支え、励ますことが求められています。スピリチュアルケアは従来の身体的、心理的、社会的ケアに加えて、いのちの深みにふれるケアです。人が人としていきるために全存在を支えることで、人のいのちの質は高まっていきます。この授業はスピリチュアルケアとは何か、どのような歴史的背景をもっているか、実際にどのような形でなされるのかなどについて、入門段階から臨床現場でのケアを紹介します。

2. 学びの意義と目標

スピリチュアルケア入門は受講生にスピリチュアルケアとは何かを最初に理解してもらいます。スピリチュアルケアの入門的知識と理解をもって貰います。また、スピリチュアリティ、ケア、ケアギバーなどの専門用語を丁寧に説明し、受講生にスピリチュアルケアの本質、特徴、必要性、実践方法などを講義します。従来行なわれてきた心理カウンセリング、ソーシャルワークなどの違いを明確にして、スピリチュアルケアの本質を明らかにします。また、ケアギバーが備えるべき資質、教育などについても触れます。この授業の学びは、受講生にスピリチュアルケアの意味をしっかりと理解してもらい、自分もケアに参加したいと願ってもらい、将来、スピリチュアルケアに参加する人を育てたいのが目標です。

受講生に対する要望

1. スピリチュアルケアについての基本的知識を身につける 2. 自分のスピリチュアリティに気づき、人のスピリチュアルペインやニーズへの感性をもつ 3. 人への愛、謙遜、信仰を養う

キーワード

(1) スピリチュアルケア (2) 超越性 (3) 究極性 (4) 愛、謙遜、信仰

事前学習（予習）

教科書を読んでくる。教科書の予習箇所は毎回の授業の時に指示する。

復習についての指示

自分の考えをまとめること、出来るだけ自分自身の考え方を尊重するように務める。

授業計画

1. スピリチュアルケアの必要性、現場からの必要性
2. スピリチュアルケアの内容、本質（臨床現場の視点）
3. スピリチュアルケアの制度（医療制度、病院内での役割）
4. スピリチュアルケアワーカーの資質
5. スピリチュアルケアワーカーの役割
6. スピリチュアルケアワーカーと患者の関係性
7. スピリチュアルケアワーカーの養成
8. スピリチュアルケアと「愛されていること」
9. スピリチュアルケアと「芸術」
10. スピリチュアルケアと「目に見えるもの」
11. スピリチュアルケアと「自分をゆるし、自分を愛すること」
12. スピリチュアルケアと「祈ること」
13. スピリチュアルケアと「楽しいこと」
14. スピリチュアルケアと「愛」
15. 最終回まとめ

教科書

窪寺 俊之 『スピリチュアルケア入門』（三輪書店）

評価方法

(1) 授業出席：50% (2) 提出物：30% (3) 授業中の発言：20%

成績評価全体に対するコメント授業参加が重要です。授業の現場で学ぶことが多いので、欠席しないように注意しましょう。

担当者：須川 聡子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人と社会の理解：人を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(W学科)：選択科目

講義概要

1. 内容

人間の行動や意識の経験は、同じ状況においてでさえ、人によって少なからず異なります。一方、状況が変化しても、その人に特有の、ある程度一貫した行動や意識的経験が認められます。性格とは、このような個人差と個人内の一貫性に関わる概念であり、その人のその人らしさを形作っているものです。本講では、1) 性格研究において重要な役割を果たしてきた概念や理論を紹介し、2) 自己や他者の性格についての理解を深めるため、講義にあわせて、実習等具体的な課題を盛り込みながら授業を進めます。

2. 学びの意義と目標

性格研究において重要な役割を果たしてきた概念や理論について学び、心理学において個人差の問題を取り扱うための基礎知識を習得します。その上で、多面的なアプローチをもとに考えたり体験したりすることで、自己、他者の内面をより深く理解できるようになることを目標としています。

受講生に対する要望

実習や課題等の提出物は講義を聞かなければできません。全出席を目指すこと、積極的に参加することを求めます。

キーワード

(1) 類型論と特性論 (2) 性格検査法 (質問紙法・投映法・作業検査法) (3) 学派ごとの性格の捉え方 (4) 性格の形成 (5) パーソナリティ障害

事前学習 (予習)

実習は、その前までの回の授業内容と連動しているため、実習前には内容を再確認すること。

復習についての指示

毎回配布するプリントと板書内容を振り返り、理解を定着させること。実習課題を丁寧に取り組み、提出すること。

授業計画

1. オリエンテーション (授業の流れ、評価方法について)
2. 性格の定義・研究史
3. 性格の理論：類型論と特性論
4. 性格検査法 (1)：質問紙法・投映法
5. 【実習1】：投映法を体験しよう
6. 性格検査法 (2)：作業検査法とテストバッテリー
7. 学派による捉え方の違い (1)：精神分析から
8. 学派による捉え方の違い (2)：クライアント中心療法と認知行動療法から
9. 【実習2】：自分の認知・感情・行動について考えてみよう
10. 性格の形成
11. 人間関係・家族関係の中で性格を捉える
12. 面接法の技法
13. 【実習3】：パーソナリティ障害に対する理解を深めよう
14. 適応と性格：臨床的問題と支援
15. テスト

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1) 授業への取り組み：40% (2) 実習課題の提出：20% (3) 学期末テスト：40%

担当者：高野 寛

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

対人支援力：人格を尊重して人とのかかわることのできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

社会福祉主事任用資格：選択科目、
精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目、
認定心理士認定資格(W学科)：副次科目

講義概要

1. 内容

① 精神疾患総論（代表的な精神疾患について、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む）② 精神疾患の治療③ 精神科医療機関の治療構造及び専門病棟④ 精神科治療における人権擁護⑤ 精神科病院におけるチーム医療と精神保健福祉士の役割⑥ 精神医療と福祉及び関連機関との間における連携の重要性

2. 学びの意義と目標

① 代表的な精神疾患について、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援といった観点から理解する。② 精神科病院等における専門治療の内容及び特性について理解する。③ 精神保健福祉士が、精神科チーム医療の一員として関わる際に担うべき役割について理解する。④ 精神医療・福祉との連携の重要性と精神保健福祉士がその際に担うべき役割について理解する。

受講生に対する要望

具体的な講義の内容や教科書について、初回の授業で説明します。なお教科書の「マンガで分かる心療内科」については、1巻のみを指定しましたが、授業では全巻の内容を参照しますので、できれば10巻まで購入してください。

キーワード

(1) 神経症・うつ病 (2) 統合失調症 (3) 認知症 (4) 発達障害 (5) パーソナリティ障害・薬物依存

事前学習（予習）

教科書の該当箇所を予習してください。詳細は授業内で説明します。

復習についての指示

教科書の該当箇所を復習してください。詳細は授業内で説明します。

授業計画

1. オリエンテーション/精神医学、精神医療の歴史
2. 精神疾患総論 1) 脳および神経の生理・解剖
3. 精神疾患総論 2) 代表的な疾患種類
4. 精神疾患総論 3) 成因と分類
5. 精神疾患総論 4) 症状と状態像
6. 精神疾患総論 5) 診断法 ① その手順と方法
7. 精神疾患総論 5) 診断法 ② 心理検査と身体的検査
8. 精神疾患総論 6) 治療法、経過、本人や家族への支援
9. 代表的な精神疾患 1) 症状性を含む器質性精神障害（認知症を含む）
 10. 代表的な精神疾患 2) 精神作用物質使用による精神および行動の障害
 11. 代表的な精神疾患 3) 統合失調症、統合失調症様障害および妄想①
 12. 代表的な精神疾患 3) 統合失調症、統合失調症様障害および妄想②
 13. 代表的な精神疾患 4) 気分（感情）障害①
 14. 代表的な精神疾患 4) 気分（感情）障害②
 15. 代表的な精神疾患5) 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害6) 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群
 16. 代表的な精神疾患 7) 成人の人格および行動の障害
 17. 代表的な精神疾患8) 精神遅滞9) 心理的発達の障害10) 児期・青年期に通常発症する行動・情緒の障害・特定不能の精神障害
 18. 代表的な精神疾患 11) 神経系の疾患（てんかんを含む）
 19. 治療法 1) 身体的療法 (1) 薬物療法とその副作用/ (2) 電気けいれん療法
 20. 治療法 2) 精神療法/3) 環境、社会療法 (SST/家族心理教育等)/4) 精神科リハビリテーション
 21. 精神科医療機関の治療構造及び専門病棟 1) 病院精神医療（身体合併症医療、インフォームドコンセントを含む）
 22. 精神科医療機関の治療構造及び専門病棟 2) 精神科救急医療（インフォームドコンセントを含む）
 23. 精神科治療における人権擁護 1) 国際的動向と法的基準
 24. 精神科治療における人権擁護 2) 日本の精神保健福祉の現状と課題
 25. 精神科病院におけるチーム医療と精神保健福祉士の役割
 - 1) 多/超職種チームの意義とチームづくり
 26. 精神科病院におけるチーム医療と精神保健福祉士の役割
 - 2) 多/超職種チームにおける精神保健福祉士の役割
 27. 精神医療と福祉及び関連機関との間における連携の重要性
 - 1) 連携の必要性と意義
 28. 精神医療と福祉及び関連機関との間における連携の重要性
 - 2) 連携における精神保健福祉士の役割
 29. 精神医療と福祉及び関連機関との間における連携の重要性
 - 3) アウトリーチチームと精神保健福祉士
 30. まとめ

教科書

日本精神保健福祉士養成校協会 『新・精神保健福祉士養成講座
(1) 精神疾患とその治療』（中央法規出版）ゆうき ゆう 『マンガで分かる心療内科 1』（ヤングキングコミックス）高野 良英 『対人恐怖と不潔恐怖』（金剛出版）

評価方法

(1) 期末試験：100%

精神科リハビリテーション学

CPSW-W-300

担当者：助川 征雄

開設期：通年 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：課題解決を図る力を身につける

カリキュラム上の位置付け

精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

① 精神保健医療福祉の歴史と動向② 精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識③ 精神科リハビリテーションの概念と構成④ 精神科リハビリテーションのプロセス⑤ 医療機関における精神科リハビリテーション（精神科専門療法を含む。）の展開とチーム医療における精神保健福祉士の役割⑥ 精神障害者の支援モデル⑦ 地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方⑧ 精神障害者のケアマネジメント

2. 学びの意義と目標

① 精神医療の特性（精神医療の歴史・動向や精神科病院の特性の理解を含む。）と、精神障害者に対する支援の基本的考え方について理解する。② 精神科リハビリテーションの概念と構成及びチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割について理解する。③ 精神科リハビリテーションのプロセスと精神保健福祉士が行うリハビリテーション（精神科専門療法を含む。）の知識と技術及び活用の方法について理解する。④ 地域リハビリテーションの構成と社会資源の活用及びケアマネジメント、コミュニティワーク（地域相談援助に係る組織、団体、関係機関及び専門職との連携についての理解を含む。）の実際について理解する。

受講生に対する要望

精神保健福祉士の資格取得希望者には必須科目であることを認識し、積極的な姿勢で受講することを求めます。専門的な科目であるので、精神保健福祉論、社会福祉援助技術論の履修を終えていることが望ましい。

キーワード

(1) リハビリテーションの歴史 (2) 医学モデルからリカバリーモデルへ (3) リハビリテーション技法

事前学習（予習）

シラバスに基づき、該当箇所を教科書で予習しておくこと。

復習についての指示

毎回リアクションペーパーを用いて、授業内容について理解できたこと、考察、疑問点を言語化するので、後日再考して理解を深めるとともに疑問点は各自調べておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 精神保健医療福祉の歴史と動向 1) わが国の精神保健医療福祉の歴史と動向
3. 精神保健医療福祉の歴史と動向 2) 諸外国の精神保健医療福祉制度の変遷
4. 精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識 1) 精神保健福祉士における活動の歴史
5. 精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識 2) 精神障害者支援の理念
6. 精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識 3) 精神保健医療福祉領域における支援対象
7. 精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識 4) 精神障害者の人権
8. 精神科リハビリテーションの概念と構成 1) 精神科リハビリテーションの概念
9. 精神科リハビリテーションの概念と構成 2) 精神科リハビリテーションの理念、意義と基本原則
10. 精神科リハビリテーションの概念と構成 3) 精神科リハビリテーションの構成と展開
11. 精神科リハビリテーションのプロセス 1) リハビリテーションのプロセス
12. 精神科リハビリテーションのプロセス 2) アプローチの方法①
13. 精神科リハビリテーションのプロセス 2) アプローチの方法②
14. 精神科リハビリテーションのプロセス 3) 疾病の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション
15. まとめ
16. オリエンテーション
17. 精神障害者支援の実践モデル 1) 精神障害者支援の実践モデルの意味と内容
18. 精神障害者支援の実践モデル 2) 代表的な精神障害者支援の実践モデル
19. 医療機関における精神科リハビリテーションの展開 1) 精神専門療法 2) 家族教育プログラム
20. 医療機関における精神科リハビリテーションの展開 3) 精神科デイケア
21. 医療機関における精神科リハビリテーションの展開 4) 医療機関のアウトリーチ
22. 医療機関における精神科リハビリテーションの展開 5) チーム医療の概要/6) 医療機関における多職種との協働・連携
23. 精神障害者支援の実践モデル 1) 精神障害者支援の実践モデルの意味と内容
24. 精神障害者支援の実践モデル 2) 代表的な精神障害者支援の実践モデル
25. 地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的な考え方 1) 地域ネットワーク
26. 地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的な考え方 2) アウトリーチ/3) 地域生活支援事業と訪問援助
27. 地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的な考え方 4) 家族会及びセルフヘルプグループ/5) PSWボランティアの育成と活用
28. 精神障害者のケアマネジメント 1) 原則/2) 意義と方法
29. 精神障害者のケアマネジメント 3) 展開過程/4) チームケアとチームワーク/5) 事例による検討
30. まとめ

教科書

新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会、柏木昭 『精神保健福祉士養成セミナー 第5巻 精神保健福祉におけるリハビリテーション』（へるす出版）

評価方法

(1) 試験:60% (2) 出席:15% (3) リアクションペーパー:15% (4) レポート:10%

各評価項目を総合評価

精神科リハビリテーション学A

CPSW-W-200

担当者：助川 征雄

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：課題解決を図る力を身につける

カリキュラム上の位置付け

精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

① 精神保健医療福祉の歴史と動向② 精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識③ 精神科リハビリテーションの概念と構成④ 精神科リハビリテーションのプロセス

2. 学びの意義と目標

① 精神医療の特性（精神医療の歴史・動向や精神科病院の特性の理解を含む。）と、精神障害者に対する支援の基本的考え方について理解する。② 精神科リハビリテーションの概念と構成及びチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割について理解する。

受講生に対する要望

精神保健福祉士の資格取得希望者は必須科目であることを認識し、より専門的な知識を習得するために積極性を持って出席することを求める。

キーワード

(1) 精神保健福祉の歴史 (2) 医学モデルからリカバリーモデルへ
(3) 基礎的リハビリ技法

事前学習（予習）

シラバスを参照し、指定テキストの該当項目を事前に読んでおくこと。

復習についての指示

授業終了時に、リアクションペーパーを用いて授業内容のうち理解できたこと、考察、疑問点を毎回言語化を促す。その内容について各自で再考し、疑問点は自主的に調べておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 精神保健医療福祉の歴史と動向 1) わが国の精神保健医療福祉の歴史と動向
3. 精神保健医療福祉の歴史と動向 2) 諸外国の精神保健医療福祉制度の変遷
4. 精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識 1) 精神保健福祉士における活動の歴史
5. 精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識 2) 精神障害者支援の理念
6. 精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識 3) 精神保健医療福祉領域における支援対象
7. 精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識 4) 精神障害者の人権
8. 精神科リハビリテーションの概念と構成 1) 精神科リハビリテーションの概念
9. 精神科リハビリテーションの概念と構成 2) 精神科リハビリテーションの理念、意義と基本原則
10. 精神科リハビリテーションの概念と構成 3) 精神科リハビリテーションの構成と展開
11. 精神科リハビリテーションのプロセス 1) リハビリテーションのプロセス
12. 精神科リハビリテーションのプロセス 2) アプローチの方法①
13. 精神科リハビリテーションのプロセス 2) アプローチの方法②
14. 精神科リハビリテーションのプロセス 3) 疾病の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション
15. まとめ

教科書

新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会、柏木昭 『精神保健福祉士養成セミナー 第5巻 精神保健福祉におけるリハビリテーション』（へるす出版）

評価方法

(1) 試験: 60% (2) リアクションペーパー: 15% (3) 出席率: 15% (4) レポート: 10%

各評価項目から総合的に評価する。

精神科リハビリテーション学B

CPSW-W-300

担当者：助川 征雄

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：課題解決を図る力を身につける

カリキュラム上の位置付け

精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

① 医療機関における精神科リハビリテーション（精神科専門療法を含む。）の展開とチーム医療における精神保健福祉士の役割② 精神障害者の支援モデル③ 地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方④ 精神障害者のケアマネジメント

2. 学びの意義と目標

① 精神科リハビリテーションのプロセスと精神保健福祉士が行うリハビリテーション（精神科専門療法を含む。）の知識と技術及び活用する方法について理解する。② 地域リハビリテーションの構成と社会資源の活用及びケアマネジメント、コミュニティワーク（地域相談援助に係る組織、団体、関係機関及び専門職との連携についての理解を含む。）の実際について理解する。

受講生に対する要望

精神保健福祉士の資格取得希望者は必須科目であることを認識し、より専門的な知識を習得するために積極性を持って出席することを求める。

キーワード

(1) 医学モデルからリカバリーモデルへ (2) あらたなりハビリテーションの技法 (3) 精神保健福祉士の役割

事前学習（予習）

シラバスを参照し、指定テキストの該当項目を事前に読んでおくこと。

復習についての指示

授業終了時に、リアクションペーパーを用いて授業内容のうち理解できたこと、考察、疑問点を毎回言語化を促す。その内容について各自で再考し、疑問点は自主的に調べておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 精神障害者支援の実践モデル 1) 精神障害者支援の実践モデルの意味と内容
3. 精神障害者支援の実践モデル 2) 代表的な精神障害者支援の実践モデル
4. 医療機関における精神科リハビリテーションの展開 1) 精神専門療法 2) 家族教育プログラム
5. 医療機関における精神科リハビリテーションの展開 3) 精神科デイケア
6. 医療機関における精神科リハビリテーションの展開 4) 医療機関のアウトリーチ
7. 医療機関における精神科リハビリテーションの展開 5) チーム医療の概要/6) 医療機関における多職種との協働・連携
8. 精神障害者支援の実践モデル 1) 精神障害者支援の実践モデルの意味と内容
9. 精神障害者支援の実践モデル 2) 代表的な精神障害者支援の実践モデル
 10. 地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的な考え方1) 地域ネットワーク
 11. 地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的な考え方2) アウトリーチ/3) 地域生活支援事業と訪問援助
 12. 地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的な考え方4) 家族会及びセルフヘルプグループ/5) PSWボランティアの育成と活用
 13. 精神障害者のケアマネジメント 1) 原則/2) 意義と方法
 14. 精神障害者のケアマネジメント 3) 展開過程/4) チームケアとチームワーク/5) 事例による検討
15. まとめ

教科書

新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会、柏木昭 『精神保健福祉士養成セミナー 第5巻 精神保健福祉におけるリハビリテーション』（へるす出版）

評価方法

- (1) 試験:60% (2) リアクションペーパー:15% (3) 出席率:15% (4) レポート:10%

各評価項目から総合的に評価する。

精神障害者の生活支援システム

CPSW-W-300

担当者：田村 綾子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

対人支援力：人格を尊重して人とのかかわることのできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

① 精神障害者の概念② 精神障害者の生活の実際③ 精神障害者の生活と人権④ 精神障害者の居住支援⑤ 精神障害者の就労支援⑥ 精神障害者の生活支援システム⑦ 市町村における相談援助⑧ その他の行政機関における相談援助

2. 学びの意義と目標

① 精神障害者の生活支援の意義と特徴について理解する。② 精神障害者の居住支援に関する制度・施策と相談援助活動について理解する。③ 職業リハビリテーションの概念及び精神障害者の就労支援に関する制度・施策と相談援助活動（その他の日中活動支援を含む。）について理解する。④ 行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動について理解する。

受講生に対する要望

最初の授業の時に、テキストをもとに全体の授業日程を提示しそれに沿って授業を進めていきます。テキストは最初の授業時に購入しておくこと。

キーワード

(1) 精神障害者の生活支援の意義と特徴 (2) 生活者としての精神障害者 (3) 居住支援 (4) 就労支援 (5) 行政機関における相談援助活動

事前学習（予習）

教科書を用いて授業を進行するので、それにあわせて該当するところを熟読して授業に臨むことにより、科目への興味と理解が深まる。

復習についての指示

各授業時に、抄録と関係資料を印刷物として配布して授業を進める。あわせて、参考文献等についても紹介するので、授業後の学習を深めるために有効に活用してもらいたい。

授業計画

1. オリエンテーション/精神障害者の概念 1) 障害の概念/2) 障害者基本法における精神障害者
2. 精神障害者の概念 3) 精神保健福祉法における精神障害/4) 精神障害者の特性
3. 精神障害者の生活の実際 1) 精神障害者の現状/2) 精神障害者と家族の現状
4. 精神障害者の生活の実際 3) 精神障害者と地域社会/4) 海外における地域生活支援モデルの動向
5. 精神障害者の生活と人権 1) 精神障害者の生活支援の理念と概要/2) 地域生活における精神障害者の人権
6. 精神障害者の地域生活支援システム 1) 精神障害者の自立と社会参加のための地域生活支援システム/2) 相談援助
7. 精神障害者の地域生活支援システム 3) 雇用・就業以外の就労/4) 余暇活動
8. 精神障害者の地域生活支援システム 5) ソーシャル・サポート・ネットワーク/6) 地域生活支援システムの実際
9. 精神障害者の居住支援 1) 居住支援制度の歴史的展開/2) 居住の場の確保と精神保健福祉士の役割
10. 精神障害者の居住支援 3) 居住支援の実際と精神保健福祉士の役割/4) 居住支援にかかわる専門職と役割/5) 今後の居住支援
11. 精神障害者の就労支援 1) 雇用・就業支援制度の概要/2) 雇用・就業支援制度の歴史的展開
12. 精神障害者の就労支援 3) 雇用・就業に関わる専門職/4) 雇用・就業支援の実際
13. 精神障害者の就労支援 5) 福祉的就労における支援の実際/6) 雇用・就業支援における近年の動向
14. 行政における相談援助 1) 市町村における相談援助システム/2) その他の行政機関における相談援助
15. まとめ

教科書

新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会、荒田寛『精神保健福祉士養成セミナー 第6巻 精神障害者の生活支援（新版・精神保健福祉士養成セミナー）』（へるす出版）

評価方法

(1) 期末試験の成績：70% (2) 学習意欲に関する評価：30%：授業ごとにコメントカードの提出を求め、出席日数とコメントカードの記述内容によって評価する

期末試験の成績（70%）と授業態度（学習意欲に関する評価）（30%）をあわせて100点満点として全体を評価します。

精神保健学

HLTH-D-200

担当者：高畑 隆

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

対人支援力：人格を尊重して人とのかかわることのできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

社会福祉主事任用資格：選択科目、
精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目、
認定心理士認定資格(W学科)：副次科目

講義概要

1. 内容

① 精神の健康と、精神の健康に関連する要因及び精神保健の概要
② 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ③ 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ④ 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ⑤ 精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ⑥ 精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割⑦ 地域精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題⑧ 精神保健に関する専門職種（保健師等）と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携⑨ 諸外国の精神保健活動の現状及び対策

2. 学びの意義と目標

① 精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について理解する。② 現代社会における精神保健の諸課題と、精神保健の実際及び精神保健福祉士の役割について理解する。③ 精神保健を維持、増進するために機能している、専門機関や関係職種の役割と連携について理解する。④ 国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。

受講生に対する要望

講義形式での授業。学習効果を高めるため、ビデオやスライド等の視聴覚教材を適宜利用する。また、必要に応じて、学習したテーマに関するレポート課題を課し、より深く学習できるように指導する。

キーワード

(1)人と発達 (2)保健予防 (3)ストレス (4)心の健康

事前学習（予習）

自らのセルフケアに留意し、予防の概念を基盤に地域精神保健福祉活動の具体的事例（集団・グループが活動基盤）から、その取り組みの目的を明確にし、プロセスを意識し、多面的視点と支援姿勢を学ぶ授業を進めます。授業内容に関する疑問や意見は気軽にしてください。授業出席率も重視します。参考書籍高校教科書「こころとからだの理解」（実教出版）

復習についての指示

前回の授業について復習することが次回の授業の予習につながる。

授業計画

1. オリエンテーション/精神の健康と、精神の健康に関連する要因及び精神保健の概要 1) 地域保健施策の概要
2. 精神の健康と、精神の健康に関連する要因及び精神保健の概要 2) 関係法規における精神保健
3. 精神の健康と、精神の健康に関連する要因及び精神保健の概要 3) 地域精神保健施策の概要
4. 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ 1) ライフサイクルにおけるメンタルヘルス①胎児期・乳幼児期・学童期
5. 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ 1) ライフサイクルにおけるメンタルヘルス②思春期・青年期・成人期・高齢期
6. 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ 2) ファミリーソーシャルワークと精神保健福祉士
7. 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ 1) 現状と課題
8. 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ 2) 専門機関や関係職種の役割
9. 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ 3) スクールソーシャルワークと精神保健福祉士①
10. 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ 3) スクールソーシャルワークと精神保健福祉士②
11. 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ 1) 現状と課題
12. 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ 2) 専門機関や関係職種の役割
13. 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ 3) 産業ソーシャルワークと精神保健福祉士
14. 精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ 1) 現状と課題
15. 精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ 2) 専門機関や関係職種の役割
16. 精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ 3) 精神保健福祉士の役割
17. 精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割 1) 現状と課題
18. 精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割 2) 専門機関や関係職種の役割と連携
19. 精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割 3) 精神保健福祉士の役割
20. 地域精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題 1) 現状と課題
21. 地域精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題 2) 専門機関や関係職種の役割と連携
22. 地域精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題 3) 地域の社会資源の活用と連携
23. 地域精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題 4) 精神保健福祉士の役割
24. 精神保健に関する専門職種（保健師等）と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携 1) 現状と課題
25. 精神保健に関する専門職種（保健師等）と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携 2) 専門機関や関係職種の役割
26. 精神保健に関する専門職種（保健師等）と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携 3) 専門機関や関係職種との連携
27. 諸外国の精神保健活動の現状及び対策 1) 国際連合の精神保健活動
28. 諸外国の精神保健活動の現状及び対策 2) 欧米諸国の精神保健活動
29. 諸外国の精神保健活動の現状及び対策 3) アジア諸国の精神保健活動
30. まとめ

教科書

精神保健福祉士養成校協会 『新・精神保健福祉士養成講座2精神保健の課題と支援』（中央法規出版）

評価方法

(1)出席・授業態度・リアクションペーパー:30% (2)筆記試験:70%

精神保健福祉演習

CPSW-W-400

担当者：相川 章子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

精神保健福祉援助実習によるかかわりおよび体験を、グループスーパービジョンによってより深め、ソーシャルワークの価値について考察する。また、最新の知見や技術について、ゲストスピーカーによる講演をまじえながらこれからのソーシャルワークについて展望する。

2. 学びの意義と目標

精神保健福祉士を目指す学生を対象に、ソーシャルワークの価値および倫理、最新の知見、技術などについてより実践的に学び、深める。グループワーク中心に行い、個々人の特性を生かしたグループづくりについて学ぶ。

受講生に対する要望

資格取得を目指す仲間同士のつながりを大切に、互いに切磋琢磨し高めあうグループとなるよう協力し合うこと。

キーワード

(1) ソーシャルワークの価値 (2) 実践的な学び (3) グループ・ダイナミクス

事前学習（予習）

授業で指示する内容について予習すること

復習についての指示

授業で指示する内容について復習すること

授業計画

1. オリエンテーション
2. ソーシャルワーク実践演習（1）
3. ソーシャルワーク実践演習（2）
4. ソーシャルワーク実践演習（3）
5. ソーシャルワーク実践演習（4）
6. ソーシャルワーク実践演習（5）
7. ゲストスピーカーによる講演
8. 精神保健福祉実践演習（1）
9. 精神保健福祉実践演習（2）
10. 精神保健福祉実践演習（3）
11. ゲストスピーカーによる講演
12. 講演についての振り返り
13. 精神保健福祉実践演習（4）
14. 精神保健福祉実践演習（5）
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 授業態度：50% (2) レポート等：50%

精神保健福祉援助演習(基礎)

CPSW-W-100

担当者：相川 章子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

ア 自己覚知 イ 基本的なコミュニケーション技術の習得 ウ 基本的な面接技術の習得 エ グループダイナミクス活用技術の習得 オ 情報の収集・整理・伝達の技術の習得 カ 課題の発見・分析・解決の技術の習得 キ 記録の技術の習得 ク 地域福祉の基盤整備に係る事例を活用し、次に掲げる事柄について実技指導を行うこと。
・ 地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握 ・ 地域アセスメント ・ 地域福祉の計画 ・ ネットワーキング ・ 社会資源の活用・調整・開発 ・ サービス評価

2. 学びの意義と目標

精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。① 相談援助に係る基礎的な知識と技術に関する具体的な実技を用いること。② 個別指導並びに集団指導を通して、地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談事例を体系的にとりあげること。

受講生に対する要望

精神保健福祉士受験資格取得のための指定科目の一つです。自分自身を見つめる作業を繰り返しつつ、現場実習に向け真摯に取り組む姿勢が求められます。自分の健康管理も含め学習目標を立て、日常生活を律する自己管理型の学習態度を必要とします。

キーワード

(1) 自己覚知 (2) コミュニケーション技術 (3) グループ・ダイナミクス

事前学習(予習)

あらかじめ指示する宿題をやってくこと。演習形式の本講義では事前学習が重要となる。

復習についての指示

授業内でグループのなかで出された意見等について、ノートに書き留め振り返り、また不確かな知識については調べ、考察を深めること。

授業計画

1. オリエンテーション 精神保健福祉援助演習の意義
2. 自己覚知のための演習①ふだんの自分を知る 援助者としての自分を知る
3. 自己覚知のための演習②ライフストーリー(1) 自分のライフストーリーから学ぶ
4. 基本的なコミュニケーション技術の習得①コミュニケーションの体系的理解
5. 基本的なコミュニケーション技術の習得②コミュニケーションパターンを知る
6. 基本的な面接技術の習得①面接技法の基礎的理解と演習
7. 基本的な面接技術の習得②相談機関での面接(ロールプレイング)
8. グループダイナミクスの活用
9. 情報の収集・整理・伝達の技術の習得
10. 課題の発見・分析・解決の技術
11. 記録の技術の習得
12. 地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握/地域アセスメント
13. 地域福祉の計画/ネットワーキング
14. 社会資源の活用・調整・開発/サービス評価
15. 定期試験と総括

教科書

新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 『新版 精神保健福祉士養成セミナー7巻 精神保健福祉援助演習[基礎][専門]』(へるす出版)

評価方法

- (1) 授業態度:30%:出席日数含む (2) レポート等:30% (3) 期末試験:40%

精神保健福祉援助演習（専門） A

CPSW-W-200

担当者：助川 征雄

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

① 次に掲げる具体的な課題別の精神保健福祉援助の事例（集団に対する事例を含む。）を活用し、実現に向けた精神保健福祉課題を理解し、その解決に向けた総合的かつ包括的な援助について実践的に習得すること。（社会的排除、退院支援、地域移行、地域生活継続、ピアサポート、地域における精神保健（自殺、ひきこもり、児童虐待、薬物・アルコール依存等）、教育、就労（雇用）、貧困、低所得、ホームレス、精神科リハビリテーション、その他の危機状態にある精神保健福祉）② アに掲げる事例を題材として、次に掲げる具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導を行うこと。（インテーク（受理面接）、契約、アセスメント（課題分析）、プランニング（支援の計画）、支援の実施、モニタリング（経過観察）、効果測定と支援の評価、終結とアフターケア）③イの実技指導に当たっては、次に掲げる内容を含めること。（アウトリーチ、ケアマネジメント、チームアプローチ、ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発）

2. 学びの意義と目標

精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。① 総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。② 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする演習形態により行うこと。

受講生に対する要望

実習ガイダンスにおいて説明した受講上の留意点をふまえた上で、4年次の配属実習の事前学習の一環でもあることを自覚すること。

キーワード

(1) 精神保健福祉士の専門性 (2) 精神保健福祉士の価値 (3) 精神保健福祉士としての技術 (4) 主体的に取り組む

事前学習（予習）

事前に指示する課題を必ず提出すること。

復習についての指示

授業内でグループのなかで出された意見等について、ノートに書き留め振り返り、また不確かな知識については調べ、考察を深めること。

授業計画

1. オリエンテーション／精神保健福祉援助における事例検討の意義
2. 総合的・包括的精神保健福祉援助実践の事例検討①社会的排除
3. 総合的・包括的精神保健福祉援助実践の事例検討②退院支援、地域移行、地域生活継続
4. 総合的・包括的精神保健福祉援助実践の事例検討③ピアサポート
5. 総合的・包括的精神保健福祉援助実践の事例検討④地域における精神保健（自殺、ひきこもり、児童虐待、薬物・アルコール依存等）
6. 総合的・包括的精神保健福祉援助実践の事例検討⑤教育、就労（雇用）
7. 総合的・包括的精神保健福祉援助実践の事例検討⑥貧困、低所得、ホームレス
8. 総合的・包括的精神保健福祉援助実践の事例検討⑦ホームレスへの支援
9. 総合的・包括的精神保健福祉援助実践の事例検討⑧精神科リハビリテーション/その他危機状態にある精神保健福祉
10. 相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導①相談援助の過程〔インテーク（受理面接）・契約・アセスメント（課題分析）〕
11. 相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導②アウトリーチ事例を通して相談援助の過程の実技指導
12. 相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導③ケアマネジメント事例を通して相談援助の過程の実技指導
13. 相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導④チームアプローチ/ネットワーク事例を通して相談援助の過程の実技指導
14. 相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導⑤社会資源の活用・調整・開発事例を通して相談援助の過程の実技指導
15. 定期試験と総括／事例問題形式による試験及び本授業の振り返り

教科書

新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 『新版 精神保健福祉士養成セミナー 7巻 精神保健福祉援助演習〔基礎〕〔専門〕』（へるす出版）

評価方法

- (1) 授業態度:30%:出席日数・遅刻等含む (2) レポート等:30% (3) 期末テスト:40%

精神保健福祉援助技術各論

CPSW-W-300

担当者：児玉 照彰

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

① 相談援助の過程及び対象者との援助関係② 相談援助活動のための面接 技術③ 相談援助活動の展開（医療施設、社会復帰施設、地域社会を含む。）④ 家族調整・支援の実際と事例分析⑤ スーパービジョンとコンサルテーション⑥ 地域移行の対象及び支援体制⑦ 地域を基盤にした相談援助の主体と対象（精神障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、医療、福祉の状況を含む。）⑧ 地域を基盤にした支援とネットワーキング⑨ 地域生活を支援する包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と展開

2. 学びの意義と目標

① 精神障害者を対象とした相談援助技術（個別援助、集団援助の過程と、相談援助に係る関連援助や精神障害者と家族の調整及び家族支援を含む。）の展開について理解する。② 精神障害者の地域移行支援及び医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と支援体制の実際について理解する。③ 精神障害者の地域生活の実態とこれらを取り巻く社会情勢及び地域相談援助における基本的な考え方について理解する。④ 地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と展開について理解する。

受講生に対する要望

精神保健福祉士受験資格取得のための指定科目の一つです。ロールプレイやグループディスカッションなどを交えながらすすめていきますので、主体的積極的な参加を望みます。

キーワード

(1) 精神保健福祉士の専門性 (2) 精神保健福祉士の価値・倫理 (3) 精神保健福祉士の技術

事前学習（予習）

次回授業で取り扱う箇所のテキストを一読する。

復習についての指示

授業で気になったところ、疑問に思ったところなどを書き留め、テキストやプリント等で復習する。

授業計画

- オリエンテーション/精神保健福祉援助技術論導入
- 相談援助の過程および対象との援助関係 1) 地域を基盤とした相談援助
- 相談援助の過程および対象との援助関係 2) ケース発見/3) 受理面接と契約
- 相談援助の過程および対象との援助関係 4) 課題分析/5) 支援計画
- 相談援助の過程および対象との援助関係 6) 支援の実施と経過の観察/7) 効果測定と支援の評価/8) 終結とアフターケア
- 相談援助活動のための面接技術 1) 面接を効果的に行う方法
- 相談援助活動のための面接技術 2) 面接技法
- 相談援助活動の展開 1) 個別支援の実際と事例分析
- 相談援助活動の展開 2) 集団を活用した支援の実際と事例分析
- 相談援助活動の展開 3) 事例による相談援助活動の検討
11. 家族調整・支援の実際と事例分析 1) 精神保健福祉士における精神障害者と家族の関係
12. 家族調整・支援の実際と事例分析 2) 家族支援の方法
13. 家族調整・支援の実際と事例分析 3) 事例による家族調整・支援の検討
14. 地域移行の対象および支援体制 1) 地域移行支援の対象/2) 地域移行の体制
15. 地域移行の対象および支援体制 3) 精神保健福祉士の役割と多職種との連携
16. 地域移行の対象および支援体制 4) 地域移行にかかる組織や機関/5) 地域移行を推進する事業の展開
17. 地域移行の対象および支援体制 6) 事例による地域移行支援の検討
18. 地域を基盤にした相談援助の主体と対象 1) 精神障害者をとり巻く社会的状況
19. 地域を基盤にした相談援助の主体と対象 2) 地域相談援助の主体/3) 地域相談援助対象/4) 地域相談援助の体制
20. 地域を基盤にした相談援助の主体と対象 5) 事例による地域を基盤にした相談援助活動の検討
21. 地域を基盤にした支援とネットワーキング 1) 地域を基盤にした支援の概念と基本的性格
22. 地域を基盤にした支援とネットワーキング 2) 地域アセスメントとBSC およびSWOT分析
23. 地域を基盤にした支援とネットワーキング 3) 地域を基盤にした支援の具体的展開
24. 地域を基盤にした支援とネットワーキング 4) 事例による地域を基盤にした支援の検討
25. 地域生活を支援する包括的支援の意義と展開 1) 包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と実際
26. 地域生活を支援する包括的支援の意義と展開 2) 事例による地域生活を支援する包括的な取り組みの検討
27. スーパービジョンとコンサルテーション 1) スーパービジョン 意義・方法
28. スーパービジョンとコンサルテーション 2) コンサルテーション 意義・方法
29. スーパービジョンとコンサルテーション 3) 事例によるスーパービジョンおよびコンサルテーション
30. まとめ

教科書

日本精神保健福祉士養成校協会編集 『新・精神保健福祉士養成講座 第5巻 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ』（中央法規出版）

評価方法

- (1) 授業態度:30%・出席日数・発言・リアクションペーパー含む
(2) レポート等:30% (3) 期末試験:40%

精神保健福祉援助技術総論

CPSW-W-200

担当者：助川 征雄

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

① 精神保健福祉士が行う相談援助活動の対象と相談援助の基本的考え方② 相談援助に係わる専門職（精神科病院、精神科診療所を含む）の概念と範囲③ 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲④ 精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携（チームアプローチを含む。）の意義と内容

2. 学びの意義と目標

① 精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要について理解する。② 精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲について理解する。③ 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。④ 精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。

受講生に対する要望

この科目は、主として、精神保健福祉士を目指す学生のための指定科目である。精神保健福祉は課題の多い領域なので、未来を開拓する熱意と自覚をもって受講してほしい。

キーワード

(1) 精神保健福祉の歴史 (2) 関わり (3) 権利擁護 (4) 社会的包括（ソーシャルインクルージョン） (5) ストレngthモデル

事前学習（予習）

あらかじめ、次回授業の内容を予告するので、教科書または配布資料を読み、要点を押さえ、疑問点などを整理しておくこと。（ボランティアや社会見学などの課題も、暫時、課す予定）

復習についての指示

多様な専門概念や専門用語（キーワード）が出てくるので、毎回、要点を再確認しておくこと。わからないものはその日のうちに必ず確かめておくこと。これらを習慣化し、国家資格受験対策にもつなげることが望ましい。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 精神保健福祉分野における相談援助の概念 1) 基本的な考え方
3. 精神保健福祉分野における相談援助の概念 2) 権利擁護の意義と範囲
4. 精神保健福祉分野における相談援助の体系 1) 精神保健福祉分野における相談援助活動の対象
5. 精神保健福祉分野における相談援助の体系 2) 精神保健福祉分野における相談援助活動の目的と意義
6. 精神保健福祉分野における相談援助の体系 3) 精神保健福祉分野における援助活動の現状と今後の展開
7. 精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲 1) 精神保健福祉士概念
8. 精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲 2) 精神保健福祉分野にかかわる専門職の概念とその業務
9. 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲 1) 精神障害者の権利擁護と精神保健福祉士の役割
10. 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲 2) 専門職倫理と倫理的ジレンマ
11. 精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携 1) 総合的・包括的な援助を支える理論
12. 精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携 2) 総合的・包括的な援助の機能と概要
13. 精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携 3) 多職種連携（チームアプローチ）の意義と概要
14. 精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携 4) 多職種連携における精神保健福祉士の役割
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 期末課題レポート:50% (2) 授業小レポート(毎回):20% (3) 出席率:30%

精神保健福祉援助実習指導 A

CPSW-W-300

担当者：田村 綾子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

次に掲げる事項について個別指導及び集団指導① 精神保健福祉援助実習と精神保健福祉援助実習指導における個別指導及び集団指導の意義② 精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む。）に関する基本的な理解③ 実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な理解④ 現場体験学習及び見学実習⑤ 実習先で必要とされる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解⑥ 精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解⑦ 実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解（個人情報保護法の理解を含む。）⑧ 「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解⑨ 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成

2. 学びの意義と目標

① 精神保健福祉援助実習の意義について理解する。② 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。

受講生に対する要望

自分自身を見つめる作業を繰り返しつつ、現場実習に向け真摯に取り組む姿勢が求められます。自分の健康管理も含め学習目標を立て、日常生活を律する自己管理型の学習態度を必要とします。原則として欠席は認めません。

キーワード

(1) ソーシャルワークの専門性 (2) 自己覚知 (3) 他者理解 (4) 社会性

事前学習（予習）

実習事前学習では、毎回出される課題や書類等を必ず提出すること。また、実習にあたっての書類作成についても同様に提出し、指導を求めること。

復習についての指示

授業内でグループのなかで出された意見等について、ノートに書き留め振り返り、また不確かな知識については調べ、考察を深めること。

授業計画

1. 精神保健福祉援助実習と実習指導の意義① 精神保健福祉援助実習の目的及び実習指導における個別指導・集団指導の意義
2. 精神保健福祉援助実習と実習指導の意義② 実習指導（スーパービジョン）の目的および意義
3. 精神保健医療福祉の現状に関する基本的理解 日本の精神保健福祉の現状のおかれている利用者理解
4. 実習施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的理解
5. 実習に必要な専門的知識と技術に関する理解① [事例を通して学ぶ]
6. 実習に必要な専門的知識と技術に関する理解② [事例を通して学ぶ]
7. 精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解 [事例を通して学ぶ]
8. 実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解 [事例を通して学ぶ]
9. 「実習記録ノート」への記録内容及び方法に関する理解 実習記録の意義、スーパービジョンに必要な内容、方法について学ぶ
10. 現場体験学習及び見学実習の目的および事前学習
11. 現場体験学習及び見学実習 [現場体験学習および見学実習]
12. 現場体験学習及び見学実習の事後学習／現場体験学習及び見学実習に関するグループディスカッション
13. 実習課題及び実習計画の作成① 実習課題および実習計画の作成の意義の理解とその方法(1)
14. 実習課題及び実習計画の作成② 実習課題および実習計画の作成の意義の理解とその方法(2)
15. 実習課題及び実習計画の作成③ 実習課題および実習計画の作成の意義の理解とその方法(3)

教科書

新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 『8巻 精神保健福祉援助実習指導・現場実習』（へるす出版）荒田寛・小田敏雄・田村綾子・川口真知子・相川章子 『PSW実習ハンドブック 実習生のための手引き』（へるす出版）

評価方法

(1) 授業への参加姿勢:50% (2) 提出物:50%

積極的な参加姿勢を特に強く求めます。

精神保健福祉に関する制度とサービス

CPSW-W-300

担当者：相川 章子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

対人支援力：人格を尊重して人とのかかわることのできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

① 精神保健福祉法の意義と内容② 精神障害者の福祉制度の概要と福祉サービス③ 精神障害者に関連する社会保障制度の概要④ 相談援助に係わる組織、団体、関係機関及び専門職や地域住民との協働⑤ 更生保護制度の概要と精神障害者福祉との関係⑥ 更生保護制度における関係機関や団体との連携⑦ 医療観察法の概要⑧ 医療観察法における精神保健福祉士の専門性と役割⑨ 社会資源の調整・開発に係わる社会調査の意義、目的、倫理、方法及び活用

2. 学びの意義と目標

① 精神障害者の相談援助活動と法（精神保健福祉法）との関わりについて理解する。② 精神障害者の支援に関連する制度及び福祉サービスの知識と支援内容について理解する。③ 精神障害者の支援において係わる施設、団体、関連機関等について理解する。④ 更生保護制度と医療観察法について理解する。⑤ 社会資源の調整・開発に係る社会調査の概要と活用について基礎的な知識を理解する。

受講生に対する要望

精神保健福祉士国家試験受験資格の取得に必要な指定科目の一つである。法制度等に関する知識の修得のみならず、その背景や成立プロセス等から精神保健福祉士としての価値観を身につけることを目指している。主体的に「考える」機会として積極的に授業に参加することを望みます。

キーワード

(1) 法制度成立の背景の理解 (2) 精神障害者の福祉サービス (3) 精神保健福祉士としての価値

事前学習（予習）

次の授業でとりあげる箇所のテキストの一読

復習についての指示

授業内で気になったところ、疑問に感じたところなどをノートに書き留め、テキストやプリント等で復習する。

授業計画

- オリエンテーション
- 精神障害者の相談援助活動と精神保健福祉に関する制度とサービス 1) 精神障害者の相談援助活動と精神保健福祉法
- 精神障害者の相談援助活動と精神保健福祉に関する制度とサービス 2) 制度とサービスの相互作用の理解
- 精神保健福祉法の成立までの経緯と意義、その後の変化 1) 精神障害者監護法から精神保健法成立までの経緯
- 精神保健福祉法の成立までの経緯と意義、その後の変化 2) 精神保健法から精神保健福祉法成立までの経緯
- 精神保健福祉法の成立までの経緯と意義、その後の変化 3) 精神保健福祉法成立の意義とその後の変化
- 精神保健福祉法の成立までの経緯と意義、その後の変化 4) 障害者自立支援法成立による変化
- 精神保健福祉法の概要 1) 精神保健福祉法の構成①
- 精神保健福祉法の概要 1) 精神保健福祉法の構成②
- 精神保健福祉法の概要 2) 精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割
- 精神保健福祉法の概要 3) 最近の動向
- 精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス 1) 障害者基本法と精神障害者施策とのかかわり
- 精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス 2) 障害者自立支援法における精神障害者の福祉サービスの実際①
- 精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス 2) 障害者自立支援法における精神障害者の福祉サービスの実際②
- 精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス 3) 精神障害者等を対象とした福祉施策・事業
- 精神障害者に関連する社会保障制度の概要 1) 精神障害者と社会保障制度
- 精神障害者に関連する社会保障制度の概要 2) 医療保険制度/3) 介護保険制度/4) 経済的支援に関する制度
- 相談援助にかかわる組織、団体、関係機関および専門職や地域の支援者 1) 相談援助にかかわる行政組織と民間組織
- 相談援助にかかわる組織、団体、関係機関および専門職や地域の支援者 2) 福祉サービス提供施設・機関の役割
- 相談援助にかかわる組織、団体、関係機関および専門職や地域の支援者 3) インフォーマルな社会資源の役割
- 相談援助にかかわる組織、団体、関係機関および専門職や地域の支援者 4) 専門職や地域住民の役割と実際
- 更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係 1) 刑事司法と更生保護
- 更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係 2) 保護観察所と更生保護の担い手
- 更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係 3) 司法・医療・福祉の連携の必要性と実際
- 医療観察法の概要と実際 1) 医療観察法の意義と内容/2) 医療観察法の審判と精神保健参事員の役割
- 医療観察法の概要と実際 3) 指定入院医療機関における処遇
- 医療観察法の概要と実際 4) 地域処遇/5) 社会復帰調整官の役割と実際
- 社会資源の調整・開発にかかわる社会調査 1) 意義と目的/2) 対象/3) 倫理
- 社会資源の調整・開発にかかわる社会調査 4) 量的調査法と質的調査法/5) ICTの活用方法/6) 事例
- まとめ

教科書

日本精神保健福祉士養成校協会 『新・精神保健福祉士養成講座 (6) 精神保健福祉に関する制度とサービス』 (中央法規出版)

評価方法

(1) 授業態度:30% (2) レポート等:30% (3) 期末試験:40%

担当者：川上 祐美

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

対人支援力：人格を尊重して人とのかかわることのできる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

健康・医療・福祉を生命倫理＜バイオエシックス＞の立場からとらえ、現代の諸問題に対処し得る思考と感性の研鑽によって、豊かな人間観といのちについての深い洞察力が養われることをめざします。

2. 学びの意義と目標

その成果が、日常生活や医療福祉の現場においても実践され、常に社会の中で提言していくことのできる資質を身につけることを期待します。

受講生に対する要望

※ビデオ教材を使用した事例研究を行います。※事例に基づいたテーマでグループディスカッションを行う場合があります。※当日の講義内容について、毎回簡単なミニレポートを教場にて提出して頂きます。

キーワード

(1) 生老病死 (2) 生命倫理 (3) 死生観 (4) 人間・技術・環境 (5) 先端科学の倫理

事前学習（予習）

参考書として『バイオエシックス・ハンドブック』（法研）の該当箇所に目を通してください。

復習についての指示

講義中に関連図書を紹介するので、興味に応じて読んでみてください。

授業計画

1. いのちを考える ～現代の生老病死と医療～
2. 高齢期医療と人間の尊厳 ～老いと生きがい～
3. ターミナルケアの実際 ～死をめぐる自己決定と事前指示～
4. 尊厳死・安楽死 ～痛みと死の意味～
5. 臓器移植と脳死 1 ～法制化と国際的格差～
6. 臓器移植と脳死 2 ～生命の資源化とその配分～
7. 生殖技術と優生思想 1 ～選別されるいのち～
8. 生殖技術と優生思想 2 ～障害とはなにか～
9. ジェンダー・家族・遺伝 ～先端技術と共同体～
10. 医療過誤・薬害 ～社会医療の功罪～
11. エンハンスメント ～人体増強の行方～
12. 研究倫理・環境倫理 ～技術開発の歴史と私たちの未来～
13. 生命観の多様性と幸福 1 ～宗教文化における死生観の伝統と変容～
14. 生命観の多様性と幸福 2 ～宗教的理由による治療拒否～
15. 生老病死再考 ～バイオエシックスの実践～

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1) 毎回のミニレポート：90%：受講者100名以上の場合には評価方法を変更する可能性があります。(2) 学期内レポート：10%

専門演習(カウンセリング論)Ⅰ

SMPW-W-200

担当者：長谷川 恵美子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

心理学など、「ひと」に関する研究テーマの中で、自ら問題意識を持って、この分野に関連するトピックを調べ、まとめて、発表するという研究方法の基礎を身につけることを目的としている。

2. 学びの意義と目標

心理学系の研究方法の基礎を身につけることを目的としている。なお、受講者と相談しながら、また受講者の人数に応じ、文献講読、基本的な心理療法の実習などを適宜行う予定である。

受講生に対する要望

授業で取り扱ったテーマについて、受講者の興味関心にあわせ、紹介した文献などで知識を深めることを期待する。

キーワード

事前学習（予習）

各テーマについて、配布資料を熟読し、積極的に参加することを期待する。

復習についての指示

授業で取り扱ったテーマについて、受講者の興味関心にあわせ、紹介した文献などで知識を深めることを期待する。

授業計画

1. 第1回 オリエンテーション
2. 第2回～ 第一回に受講者と今後の方針について検討しながら、文献講読、実習、研究報告などを行う。
3. 個人発表とディスカッション (1)
4. 個人発表とディスカッション (2)
5. 個人発表とディスカッション (3)
6. 個人発表とディスカッション (4)
7. 個人発表とディスカッション (5)
8. 個人発表とディスカッション (6)
9. 個人発表とディスカッション (7)
10. 個人発表とディスカッション (8)
11. 個人発表とディスカッション (9)
12. 個人発表とディスカッション (10)
13. 個人発表とディスカッション (11)
14. 個人発表とディスカッション (12)
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 平常点:40% (2) 発表:30% (3) ディスカッション:30%

専門演習(カウンセリング論)Ⅱ

SMPW-W-300

担当者：長谷川 恵美子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

心理学など、「ひと」に関する研究テーマの卒業研究をひかえ、自ら問題意識を持って、この分野に関連するトピックを調べ、まとめて、発表するという研究方法を身につけることを目的としている。

2. 学びの意義と目標

心理学系の研究方法の基礎を身につけることを目的としている。なお、受講者と相談しながら、また受講者の人数に応じ、文献講読、基本的な心理療法の実習などを適宜行う予定である。

受講生に対する要望

受講者の興味関心にあわせ、紹介した文献などで知識を深めることを期待する。

キーワード

事前学習（予習）

それぞれのテーマについて配布される資料以外に、自ら資料を集めテーマについての知識を広げつつ積極的に参加することを期待する。

復習についての指示

授業で取り扱ったテーマについて、受講者の興味関心にあわせ、紹介した文献などで知識を深めることを期待する。

授業計画

1. 第1回 オリエンテーション
2. 第2回～ 第一回に受講者と今後の方針について検討しながら、文献講読、実習、研究報告などを行う。
3. 個人発表とディスカッション（1）
4. 個人発表とディスカッション（2）
5. 個人発表とディスカッション（3）
6. 個人発表とディスカッション（4）
7. 個人発表とディスカッション（5）
8. 個人発表とディスカッション（6）
9. 個人発表とディスカッション（7）
10. 個人発表とディスカッション（8）
11. 個人発表とディスカッション（9）
12. 個人発表とディスカッション（10）
13. 個人発表とディスカッション（11）
14. 個人発表とディスカッション（12）
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 平常点:50% (2) 発表:30% (3) ディスカッション:20%

専門演習(高齢社会論) I

SMPW-W-200

担当者：古谷野 亘

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

文献・資料の講読と解釈、討議などを行う。ゼミの運営は互選幹事を中心として、参加者が自主的に行うことを原則とする。

2. 学びの意義と目標

高齢化と高齢社会、高齢者保健福祉の問題を取り上げ、文献・資料の講読と解釈、討議などを通して認識を深めることを目的とする。

受講生に対する要望

関心をもち主体的に参加すること。

キーワード

事前学習（予習）

レポーターになったときはもちろん他の時にも、指定されたテキストの箇所を精読し、授業時間の討議に備える予習が必要。

復習についての指示

授業時には積極的に発言し、授業後には当日の討議を振り返る復習が必要。

授業計画

1. 文献・資料の講読と解釈、討議 (1)
2. 文献・資料の講読と解釈、討議 (2)
3. 文献・資料の講読と解釈、討議 (3)
4. 文献・資料の講読と解釈、討議 (4)
5. 文献・資料の講読と解釈、討議 (5)
6. 文献・資料の講読と解釈、討議 (6)
7. 文献・資料の講読と解釈、討議 (7)
8. 文献・資料の講読と解釈、討議 (8)
9. 文献・資料の講読と解釈、討議 (9)
10. 文献・資料の講読と解釈、討議 (10)
11. 文献・資料の講読と解釈、討議 (11)
12. 文献・資料の講読と解釈、討議 (12)
13. 文献・資料の講読と解釈、討議 (13)
14. 文献・資料の講読と解釈、討議 (14)
15. 文献・資料の講読と解釈、討議 (15)

教科書

古谷野亘・安藤孝敏 『改訂 新社会老年学:シニアライフのゆくえ』 (ワールドプランニング)

評価方法

- (1) 平常点:100%

専門演習(高齢社会論)Ⅱ

SMPW-W-300

担当者：古谷野 亘

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

文献・資料の講読と解釈、討議などを行う。ゼミの運営は互選幹事を中心として、参加者が自主的に行うことを原則とする。

2. 学びの意義と目標

高齢化と高齢社会、高齢者保健福祉の問題を取り上げ、文献・資料の講読と解釈、討議などを通して認識を深めることを目的とする。

受講生に対する要望

関心をもち主体的に参加すること。

キーワード

事前学習（予習）

レポーターになったときはもちろん他の時にも、指定されたテキストの箇所を精読し、授業時間の討議に備える予習が必要。

復習についての指示

授業時には積極的に発言し、授業後には当日の討議を振り返る復習が必要。

授業計画

1. 文献・資料の講読と解釈、討議 (1)
2. 文献・資料の講読と解釈、討議 (2)
3. 文献・資料の講読と解釈、討議 (3)
4. 文献・資料の講読と解釈、討議 (4)
5. 文献・資料の講読と解釈、討議 (5)
6. 文献・資料の講読と解釈、討議 (6)
7. 文献・資料の講読と解釈、討議 (7)
8. 文献・資料の講読と解釈、討議 (8)
9. 文献・資料の講読と解釈、討議 (9)
10. 文献・資料の講読と解釈、討議 (10)
11. 各自の研究テーマについての発表と質疑 (1)
12. 各自の研究テーマについての発表と質疑 (2)
13. 各自の研究テーマについての発表と質疑 (3)
14. 各自の研究テーマについての発表と質疑 (4)
15. 各自の研究テーマについての発表と質疑 (5)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 平常点:100%

専門演習(子ども家庭論) I

SMPW-W-200

担当者：中谷 茂一

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

履修者の興味関心に基づき、児童福祉に関連するテーマをいくつか自分で設定し、学生による発表をしたあと全員でディスカッションを行う。適宜、教員による補足をする。テーマ設定は自由だが、家族社会学関連領域、子ども虐待・ネグレクトに関連する内容が望ましい。個人発表のプロセスは、選択テーマについて複数の図書、論文、資料の収集・検討やボランティア、見学などから導き出された考察をレジュメにまとめた上で発表を行う。「感想」レベルにとどまることなく、根拠を提示しながら論証をすすめてもらう。一人2回以上の発表を予定している。

2. 学びの意義と目標

演習クラスにおける個人発表および他学生との意見交換をとおして、児童福祉領域の理念・制度・諸事象について考察を深める。また、自己の認識の再検討と問題意識の明確化をはかることを目標とする。

受講生に対する要望

単なる「出席」ではなく、積極的に発言・参加することが必須。自分の意見をもつと同時にその考えから一歩離れ相対化することを意識してほしい。

キーワード

(1)家族 (2)子ども

事前学習(予習)

自己のレジュメの作成準備

授業計画

1. オリエンテーション及びテーマ設定・選択
2. 「児童福祉」の領域と研究方法について
3. 発表・ディスカッション及びコメント
4. 発表・ディスカッション及びコメント
5. 発表・ディスカッション及びコメント
6. 発表・ディスカッション及びコメント
7. 発表・ディスカッション及びコメント
8. 発表・ディスカッション及びコメント
9. 発表・ディスカッション及びコメント
10. 発表・ディスカッション及びコメント
11. 発表・ディスカッション及びコメント
12. 発表・ディスカッション及びコメント
13. 発表・ディスカッション及びコメント
14. 発表・ディスカッション及びコメント
15. まとめ

教科書

岩上真珠 『ライフコースとジェンダーで読む家族 第3版』(有斐閣)

復習についての指示

当日の報告で解決しなかった疑問点を調べる

評価方法

(1)出席:20% (2)発表内容:40% (3)ディスカッション参加状況:40%

専門演習(子ども家庭論)Ⅱ

SMPW-W-300

担当者：中谷 茂一

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

自己の興味関心に基づいて設定したテーマについて学生個人による発表をしたあと全員でディスカッションを行う。適宜、教員の講義による補足をする。個人発表のプロセスは、選択テーマについて複数の図書、論文、資料の収集・検討やボランティアなどから導き出された考察をレジュメにまとめた上で発表を行う。「感想」レベルにとどまることなく、科学的根拠を提示しながら論証をすすめてもらう。一人2回以上の発表を予定している。

2. 学びの意義と目標

専門演習Ⅰにおける発表・ディスカッションを経て気づいた課題を再検討し、発展させながら、演習クラスにおける個人発表および他学生との意見交換をととして、児童福祉領域の理念・制度・諸事象について考察を深める。また、自己の認識の再検討と問題意識の明確化をはかると同時に発表レジュメの質を高めることも目標とする。

受講生に対する要望

単なる「出席」ではなく、積極的な発言・参加が必須。関連文献も積極的に探索し読込むことが必要。個性的な発想と科学的な実証による発表を望む。

キーワード

(1)家族 (2)子ども

事前学習（予習）

自己のレジュメの作成準備

授業計画

1. 専門演習Ⅱの達成課題と発表抄録作成について
2. 発表・ディスカッション及びコメント
3. 発表・ディスカッション及びコメント
4. 発表・ディスカッション及びコメント
5. 発表・ディスカッション及びコメント
6. 発表・ディスカッション及びコメント
7. 発表・ディスカッション及びコメント
8. 発表・ディスカッション及びコメント
9. 発表・ディスカッション及びコメント
10. 発表・ディスカッション及びコメント
11. 発表・ディスカッション及びコメント
12. 発表・ディスカッション及びコメント
13. 発表・ディスカッション及びコメント
14. 発表・ディスカッション及びコメント
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

復習についての指示

当日の報告で解決しなかった疑問点を調べる

評価方法

(1)出席:20% (2)発表内容:40% (3)ディスカッション参加状況:40%

専門演習(社会倫理) I

SMPW-W-200

担当者：阿部 洋治

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1、内容 ソーシャルワークに携わる中で、どのように判断し、決断し、行動し、生きるかが問われる局面に遭遇する。その時に生じる倫理的葛藤、そしてそこでなされる倫理的判断基準等について、文献、発表、討論、レポート作成を通して考察する。2、カリキュラム上の位置づけ専門演習

2. 学びの意義と目標

先人の思想に学び、ゼミの仲間との議論を踏まえ、自己の視座を確認し再検討する。

受講生に対する要望

興味や関心をもって追及したいテーマを選択し、各自でリサーチし、白黒ははっきりしない問題について自己の立場を他人にいかに関理的に、的確に伝えられるを考えてみてください。

キーワード

(1) 倫理 (2) グレーゾーン

事前学習（予習）

演習への積極的な参加を望みます。そのために事前の準備を綿密に行い、発表に備えてください。

復習についての指示

事前の調査とゼミでの討論を経た後の思索をレポート用紙5枚前後にまとめて提出してください。

授業計画

1. 序 オリエンテーション（文献資料の探し方など）
2. オリエンテーション（プレゼンテーションやレポート作成の仕方など）
3. テーマ決定
4. 文献講読
5. 文献講読
6. 文献講読
7. 文献講読
8. 発表と討論
9. 発表と討論
10. 発表と討論
11. 発表と討論
12. 発表と討論
13. 発表と討論
14. 発表と討論
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 授業参加：70%：発表、議論参加 (2) 学期末レポート：30%

専門演習(障害者福祉論) I

SMPW-W-200

担当者：木下 大生

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

障害者に関連する社会的課題を確認し、それと照らして自身の関心を明確にしたのち、テーマについて、文献研究、フィールドワーク、ボランティア、自身の経験等から情報を収集、精査、まとめ、発表する、というプロセスを踏む。

2. 学びの意義と目標

目標は、障害者福祉に関して、以下の4点を達成することである。意義は、これらを達成することにより、自身が関心を持つ社会的課題を明確にし、まとめ、プレゼンテーションをする力を身に着けることが出来る。①自身が関心を持つテーマを見つける②テーマに関する情報を収集する③収集した情報を整理しまとめる④テーマについて調査・まとめた内容をプレゼンテーションする

受講生に対する要望

準備学習等の分量と内容自身のテーマが決定するまでは、自分の関心が何にあるのかの明確化することに努めること。テーマが決定してからは、テーマに関連する情報収集のためのアンテナを高く立て、より多くの関連情報を集めることに努めること。

キーワード

(1)障害者福祉 (2)調べる (3)まとめる (4)発表する

事前学習(予習)

自身のテーマが決定するまでは、自分の関心が何にあるのかの明確化することに努めること。テーマが決定してからは、テーマに関連する情報収集のためのアンテナを高く立て、より多くの関連情報を集めることに努めること。

復習についての指示

各自がテーマを決め、調べ、まとめ、発表する、ということを意識し、毎回の授業の内容、他の学生のテーマの決め方、報告の仕方等の振り返りをしておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 障害者福祉の課題(1)
3. 障害者福祉の課題(2)
4. 障害者福祉の課題(3)
5. 障害者福祉の課題において自分の関心を見つける—テーマの見つけ方—
6. テーマの深め方(1)—情報の収集の方法—
7. テーマの深め方(2)—情報の整理の方法—
8. テーマの深め方(3)—情報をまとめる方法—
9. プレゼンテーションの方法
10. 各自のテーマ報告
11. 中間報告(個別指導)
12. 中間報告(個別指導)
13. 発表・ディスカッション・コメント
14. 発表・ディスカッション・コメント
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:30% (2)授業参加態度:30% (3)発表内容:40%

評価方法1. 発表内容2. ディスカッションへの参加姿勢・態度上記2点から評価をする。

専門演習(障害者福祉論)Ⅱ

SMPW-W-300

担当者：木下 大生

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

専門演習Ⅰで学んだことを振り返りながら、各自、障害者の生活や福祉に関連するテーマで、特に興味や関心があるテーマをみつけ、その内容について深めていく。

2. 学びの意義と目標

自身が関心を持てるテーマを見つけることが第一の目標となる。テーマが見つかったからは、その内容について、文献、フィールドワーク等から知見を深め、テーマを出来るだけ具体的にしていくな。それにより、テーマに対する独自の視点を醸成する。

受講生に対する要望

自身のテーマに限らず、他の学生のテーマにも関心を持ち、積極的に発言（疑問や意見）をし、また他の学生の発言にも耳を傾け、学生同志での活発なディスカッションをしてください。

キーワード

(1) 関心のあるテーマの探求 (2) プレゼンテーション (3) ディスカッション (4) 好奇心 (5) 自己覚知

事前学習（予習）

自身が発表する際は、きちんと事前準備をしてくること。

復習についての指示

自身のテーマや内容について、他の学生や教員から寄せられた疑問や質問については、必ず調べる。また、授業内で生じた疑問は自ら調べ解決すること。

授業計画

1. ゼミの進め方についての確認
2. 専門演習Ⅰの振り返り
3. グループディスカッション（障害者福祉全般について）
4. 研究テーマの発表
5. 個人研究発表/質疑/ディスカッション（1）
6. 個人研究発表/質疑/ディスカッション（2）
7. 個人研究発表/質疑/ディスカッション（3）
8. 個人研究発表/質疑/ディスカッション（4）
9. 個人研究発表/質疑/ディスカッション（5）
10. 個人研究発表/質疑/ディスカッション（6）
11. 個人研究発表/質疑/ディスカッション（7）
12. 個人研究発表/質疑/ディスカッション（8）
13. 個人研究発表/質疑/ディスカッション（9）
14. 個人研究発表/質疑/ディスカッション（10）
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 出席:20% (2) 参加態度:30% (3) レポート:20% (4) プレゼンテーション:30%

専門演習(生活支援論) I

SMPW-W-200

担当者：田村 綾子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

・人が生まれてから死ぬまでの各段階（ライフサイクル）における発達課題を軸に、「生きる」ことについて各自のこれまでの体験や各種文献を元に考察する。・学生間での意見交換を通じ、生きることに対する多様な価値観を知り、ソーシャルワーカーとして「人の暮らし」に寄り添う上で大切な理念や姿勢について、自己覚知を深めながら考えることを目指す。・精神保健福祉士や社会福祉士として、実際の支援場面においてどのようなかわりができるか、実践的に考えることを通じて、ソーシャルワーカーになるために必要な知識、技術を習得する。

2. 学びの意義と目標

主体的に自己の学習課題を見出し、人間福祉学科の学生に相応しい学びの基礎を習得することを目指す。ソーシャルワーカーとして必要な「人に対する関心」「社会に対する関心」を醸成し、コミュニケーション能力を高めることを目指す。

受講生に対する要望

授業は、教員からの講義や文献紹介を元に意見交換する他、各学生からのプレゼンテーションに基づく意見交換、学外活動（施設見学、ボランティア等）を活用した意見交換等により進める。

キーワード

(1)生活者 (2)相談援助関係 (3)コミュニケーション

事前学習（予習）

学生からのプレゼンテーションに際しては、事前に指定する文献等の熟読を課す。また、プレゼンテーションの担当者はレジュメ作成を事前におこなう。

復習についての指示

リアクションペーパーを用いて、各自の感想、考察を言語化する時間を設ける。各回の内容について、理解できなかったところを各自で調べて理解しておくこと。

授業計画

1. オリエンテーションと自己紹介
2. グループ演習 1
3. グループ演習 2
4. グループ演習 3
5. 学生からのプレゼンテーションと協議
6. 学生からのプレゼンテーションと協議
7. 学生からのプレゼンテーションと協議
8. 学生からのプレゼンテーションと協議
9. 学生からのプレゼンテーションと協議
10. 学生からのプレゼンテーションと協議
11. 学生からのプレゼンテーションと協議
12. 学生からのプレゼンテーションと協議
13. 学生からのプレゼンテーションと協議
14. ゼミ総括
15. ゼミ総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)参加姿勢:50% (2)プレゼンテーション:30% (3)リアクションペーパー:20%

ゼミでは主体性、積極性を重視するため、出席と参加態度での評価割合が高くなる。

専門演習(生活支援論)Ⅱ

SMPW-W-300

担当者：田村 綾子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

・前学期の内容を踏まえ、人の暮らしを支援することの意義に関する考察を深化させる。・精神保健福祉士や社会福祉士として、実際の支援場面においてどのようなかわりができるか、実践的に考えることを通じて、ソーシャルワーカーになるために必要な知識、技術を習得する。・専門職としてふさわしい価値観、倫理感を習得することを目的として文献購読や意見交換を通じて幅のある人格形成をめざす。

2. 学びの意義と目標

授業は、各学生からのプレゼンテーションに基づく意見交換、学外活動（施設見学、ボランティア等）を活用した意見交換等を中心に進め、随時教員からの講義や文献紹介を行う。

受講生に対する要望

出席することを重視し、毎回話し合われるテーマについて関心をもって積極的に参加、発言すること。自分の頭と心で考え、感じる癖をつけること。

キーワード

(1)生活支援 (2)ライフサイクル (3)福祉課題

事前学習（予習）

学生からのプレゼンテーションを中心に進めるため、事前に指定されるテーマについて文献等を熟読しておくこと。また、プレゼンテーションの担当者はレジュメ作成を事前におこなうこと。

復習についての指示

リアクションペーパーを用いて、各自の感想、考察を言語化する時間を設ける。各回の内容について、理解できなかったところを各自で調べて理解しておくこと。

授業計画

1. 前学期振り返りと研究計画
2. グループ演習 1
3. グループ演習 2
4. 学生からのプレゼンテーション
5. 学生からのプレゼンテーション
6. 学生からのプレゼンテーション
7. 学生からのプレゼンテーション
8. 学生からのプレゼンテーション
9. 学生からのプレゼンテーション
10. 学生からのプレゼンテーション
11. 学生からのプレゼンテーション
12. 学生からのプレゼンテーション
13. 学生からのプレゼンテーション
14. 卒業研究テーマについて
15. 総括

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)参加姿勢:50% (2)プレゼンテーション:30% (3)リアクションペーパー:20%

遅刻無く出席すること、授業内での意欲的な参加態度を発言等を通じて表現すること。プレゼンテーションの担当者は、他者にわかりやすく、意見を出しやすいようにレジュメを作成すること、これらを総合的に評価する。

専門演習(精神保健福祉論) I

SMPW-W-200

担当者：相川 章子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 内容 精神保健福祉およびソーシャルワークに関する基礎的なことを学ぶためにおこなう、わかりやすい基礎的な文献を指定し講読する。文献の読み方、文献から何を学び、疑問を持ち、自らの関心ごとや疑問をどのように広げ、またつなげていくかを学ぶ。また、ゼミ内での発表およびディスカッションを経験することによって自らの意見を表現していくことを学ぶ。2. カリキュラム上の位置づけ 精神保健福祉およびソーシャルワークに関する基礎的なことを学び、それをもとに自らの関心や疑問を表現し、自ら疑問について調べてみる段階。「研究」とはなにかをつかむ。

2. 学びの意義と目標

それぞれがもつ漠然とした関心や疑問を表現していくことが重要な作業となる。そのために広くさまざまな文献を読み、豊かな発想力を養い、それらを表現していくことに慣れていく。

受講生に対する要望

担当者は文献を読み、指示に従いレジメを準備し発表に備える。担当に関わらず全員文献を読むこと。関心のあるテーマについて思いっきり取り組みましょう。

キーワード

(1) あくなき好奇心 (2) あくなき探究心 (3) あくなき問題意識 (4) 知ることの喜び・楽しさ

事前学習(予習)

好きなこと、関心のあること、おかしいと思うこと、疑問におもいうことなどに敏感になり、ノートに書き留めましょう。

復習についての指示

ゼミの仲間からの発言、意見、教員の意見、コメント等で、気になった言葉などをノートに書き留めましょう。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 図書館の利用方法、文献の調べ方
3. 研究とは？
4. 文献講読およびディスカッション(1)
5. 文献講読およびディスカッション(2)
6. 文献講読およびディスカッション(3)
7. 文献講読およびディスカッション(4)
8. 文献講読およびディスカッション(5)
9. ゲストスピーカーを招いて講義とディスカッション
10. 文献講読およびディスカッション(6)
11. 文献講読およびディスカッション(7)
12. 文献講読およびディスカッション(8)
13. 文献講読およびディスカッション(9)
14. 文献講読およびディスカッション(10)
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 授業態度:50% (2) レポート等:50%

専門演習(精神保健福祉論)Ⅱ

SMPW-W-300

担当者：相川 章子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 内容 専門演習Iで深めた学びをもとに、各受講者の関心あるテーマについて文献を収集し先行研究を吟味する。文献講読を通して研究のすすめかた、仮説のたてかた、研究方法などについて学ぶ。また、研究レポートおよび研究活動のいずれかを選択し、各自関心のあるテーマについて取り組む。2. カリキュラム上の位置づけ 専門演習Iにおいて精神保健福祉およびソーシャルワークに関する基礎的なことを学び、それをもとに自らの関心や疑問を具体化させる段階であり、基礎から応用へと展開させる位置づけである。

2. 学びの意義と目標

自分自身の関心のあるテーマをみつけていくことが重要な作業となる。そのためにさまざまな文献を調べ、読み、知識を広げ、豊かな発想力を養う。

受講生に対する要望

担当者は研究テーマに関する文献を読み、レジメを準備し発表に備える。ディスカッションに積極的に参加すること。関心のあるテーマについて思いっきり取り組みましょう。

キーワード

(1)あくなき好奇心 (2)あくなき探究心 (3)あくなき問題意識 (4) 知ることの喜び・楽しさ

事前学習(予習)

日常の中で気になること、好きなこと、関心のあること、おかしいと思うこと、疑問に感じることをノートに書き留めましょう。

復習についての指示

ゼミのなかで、他の受講生の意見やコメント、疑問、教員の意見、コメント等について気になったことをノートに書き留めましょう。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 研究のすすめかた
3. 文献検索と文献講読
4. 研究発表とディスカッション(1)
5. 研究発表とディスカッション(2)
6. 研究発表とディスカッション(3)
7. 研究発表とディスカッション(4)
8. 研究発表とディスカッション(5)
9. ゲストスピーカーによる講義およびディスカッション
10. 研究発表とディスカッション(6)
11. 研究発表とディスカッション(7)
12. 研究発表とディスカッション(8)
13. 研究発表とディスカッション(9)
14. 研究発表とディスカッション(10)
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)授業態度:50% (2)レポート等:50%

専門演習（ソーシャルワーク論）Ⅰ

SMPW-W-200

担当者：助川 征雄

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

基本的な課題解決能力を高めるために、テキストや関連資料などを用いて、考える力、表現する力、傾聴する力、集中する力などに関する演習を行う。具体的には、特定の書籍、新聞記事、小論文などをテキストとし、輪読、ディスカッションを行う。あわせて、社会見学等も行う。

2. 学びの意義と目標

基本的には、読み解く能力、考える能力、表現する能力、行動する能力の習得。

受講生に対する要望

連続性を重視するので欠席しないこと。

キーワード

(1)読み解く (2)考える (3)表現する (4)ポジティブ思考 (5)相互的人格主義

事前学習（予習）

あらかじめ資料を読んで質問を1つ以上準備してくること。

復習についての指示

資料を読み直し、要点を再確認する。またわからないことはその日のうちに資料、参考書、インターネット情報などをもとに再確認しておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション（授業方針等の説明など）
2. 基本的な課題解決能力の演習（1）
3. 基本的な課題解決能力の演習（2）
4. 基本的な課題解決能力の演習（3）
5. 基本的な課題解決能力の演習（4）
6. 基本的な課題解決能力の演習（5）
7. テキストによる演習（1）
8. テキストによる演習（2）
9. テキストによる演習（3）
10. テキストによる演習（4）
11. レポートによる演習（1）
12. レポートによる演習（2）
13. レポートによる演習（3）
14. レポートによる演習（4）
15. 評価とまとめ（後の方向づけ）

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)レポート:50% (2)出席率:50%

専門演習(ソーシャルワーク論)Ⅱ

SMPW-W-300

担当者：助川 征雄

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

授業の前半は、配布資料（身近な情報）をもとに、地力向上のための学びと共有を深めていく。後半は、個別・グループ授業を通して、卒業研究テーマの探求に取り組む。また、社会見学をはじめ様々な機会を設けて、ゼミ生間の交流を積極的すすめていく。

2. 学びの意義と目標

専門演習Ⅰを踏まえ、さらに、社会情勢に対する適切な認識、生き方、価値観、さらには、人間福祉の意義などに対する視座や認識をより適切なものにするための学びをめざす。

受講生に対する要望

連続性を重視するので、欠席しないこと。また、個性（オリジナリティ）を尊重しながら授業を進めるので、積極的に課題に取り組んでほしい。

キーワード

(1) ポジティブ思考 (2) 個性の尊重 (3) 自己覚知 (4) ストレングスモデル (5) 社会情勢を読み解く

事前学習（予習）

資料をあらかじめ配布するので、事前に目を通し、質問（発言）項目を準備してくること。暫時、生レポートも課す。

復習についての指示

解りにくい事項は、必ずその日のうちに、資料、参考書、インターネット情報などを用いて再確認しておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション
2. テーマ学習（いま私たちはどこにいるか）
3. テーマ学習（ポジティブ思考—リフレーミング）
4. テーマ学習（国語表現— レポート・論文の書き方）
5. テーマ学習（生活と生活スキル）
6. テーマ学習（学生生活とメンタルヘルス）
7. 社会見学（地域・社会の再発見と再認識）
8. テーマ学習（モラルハザードの演習1）
9. テーマ学習（モラルハザードの演習2）
10. 社会見学（福祉サービスユーザーから学ぶ）
11. テーマ学習（ストレングスモデルの人間観1）
12. テーマ学習（ストレングスモデルの人間観2）
13. テーマ学習（人間福祉研究法の探求1）
14. テーマ学習（人間福祉研究法の探求2）
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) レポート:60% (2) 出席率:40%

専門演習(地域援助心理学) I

SMPW-W-200

担当者：堀 恭子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

身近な問題を心理学的側面から捉えていくための第1歩として心理学のものの見方・考え方を心理学入門書の輪読から学ぶ。また発表や意見交換を通じて、人の話を聴き、考え、発言する力をつけることを目標とする。研究に向けて論文の読み方や資料の探し方についても学ぶ予定である。

2. 学びの意義と目標

心理学的側面から研究を行うための基礎力を身につけることを目標とする。自分の興味関心から出発し、資料を探し読む経験から、自分の研究を進める足掛かりにしていけることができると考える。

受講生に対する要望

知識を得るだけでなく、自分の興味関心に沿って調べまとめて発表し、互いに考えを発表し合う演習であるため、参加することが重要である。

キーワード

(1)心理学にふれる (2)心理学的視点を持つ (3)聴く (4)まとめる (5)伝える

事前学習(予習)

事前に指示された資料等を熟読して、質問をしたり、意見を述べたりと授業に積極的に参加できるよう、準備すること

復習についての指示

わからなかったことをその都度調べておくこと

授業計画

1. オリエンテーション(ゼミの目的や進め方)
2. 個人発表のための準備について(演習)
3. 個人発表(1)及び意見交換
4. 個人発表(2)及び意見交換
5. 個人発表(3)及び意見交換
6. 個人発表(4)及び意見交換
7. 個人発表(5)及び意見交換
8. 個人発表(6)及び意見交換
9. 個人発表(7)及び意見交換
10. 個人発表(8)及び意見交換
11. 個人発表(9)及び意見交換
12. 論文の読み方演習
13. 資料の探し方演習
14. 研究課題発表
15. まとめ(レポート)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:30% (2)報告:70%

専門演習(地域援助心理学)Ⅱ

SMPW-W-300

担当者：堀 恭子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

自分の中の興味・関心を心理学的側面から捉え、問いとして突き詰めていく作業をする。先行研究や文献にあたり、自分の中の問いが研究となっていくのかを検討する。互いに自分の考えを発表し合うことで相互に新しい発見をする。

2. 学びの意義と目標

身近な問題をどのように問いの形にしていくのか、自分の考えをどうやって他者に伝えるのか、自分の思考の整理でもあり、コミュニケーションの練習でもある。授業を通して思考力、コミュニケーション力双方を訓練してほしい。

受講生に対する要望

準備ができていることが望ましいが、準備がなくても出席し、他者の考えを聞いてディスカッションに参加するだけでも大きな意味があります。できるだけ出席して体験を重ねてほしいと考えています。

キーワード

(1)興味・関心 (2)問いの探求 (3)先行研究の検討 (4)文献検討 (5)ディスカッション

事前学習(予習)

報告・発表の際は十分に準備する

授業計画

1. オリエンテーション
2. ディスカッションについて学ぶ (1)
3. ディスカッションについて学ぶ (2)
4. ディスカッションについて学ぶ (3)
5. ディスカッションについて学ぶ (4)
6. ディスカッションをする (1)
7. ディスカッションをする (2)
8. ディスカッションをする (3)
9. ディスカッションをする (4)
10. ディスカッションをする (5)
11. ディスカッションをする (6)
12. ディスカッションをする (7)
13. ディスカッションをする (8)
14. ディスカッションをする (9)
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

復習についての指示

ディスカッションを通じてさらに必要と思われた検討を先延ばしにせず行うこと

評価方法

(1)出席:20% (2)報告:80%:報告にはディスカッションへの参加も含まれる

専門演習(地域福祉論) I

SMPW-W-200

担当者：牛津 信忠

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

地域の中における社会福祉として身近になった福祉を、毎日の生活の中に感じるとともに、それを地域に本当に根付かせるための方策、政策や技術を考えていく。身近な問題から出発していき、その必要性、今後の展開可能性をも考察しつつ、地域福祉を単なる現実の福祉状況としてのみではなく、その現代における地域という場の意味をも深く解明することに努めたい。それを研究途上の発表として他のゼミ生に聞いてもらうことにより、自らの成長の糧とすること。

2. 学びの意義と目標

地域福祉という現今の地域生活の基軸を形作る方策を様々な角度から、自分の問題意識を見定めながら研究していく。それは身近に自分が感じ・興味を持つ地域課題の解明から始まっていく。この研究によって地域課題への積極的アプローチの糸口を開いてゆこう。

受講生に対する要望

まず地域課題を自らの興味に応じて見出すこと。これをもとに地域生活の具体へ目を向け、次第にそれに主体的に取り組む方策の研究へと歩んでゆく。

キーワード

(1)コミュニティ (2)地域・在宅福祉 (3)コミュニティワーク (4)地域福祉文化 (5)エンパワメント

事前学習(予習)

自分のテーマを決めたら、それに即して教師とともに、参考文献を探し、また現実の諸資料(行政や社協等に関する)を読み解き、自分で地域福祉についての課題を考え進めておくこと。

復習についての指示

先輩の残したゼミ論集を読み、それをベースに、各自に問題意識を継承してもらうためのコメントをもらい、その後その問題意識に沿った発表を次々にしてもらう。これをレポートにまとめる中で他のゼミ生の意見聞くとともにそれに応答をする。

授業計画

1. 現在の地域福祉
2. 興味のある地域福祉の課題を探る
3. 興味のある地域福祉の課題を探る
4. 個別テーマに沿った現在の知識を確認
5. 個別テーマに即した参考資料の検索
6. 参考資料のテーマに沿った理解を発表形式で相互発表
7. 参考資料のテーマに沿った理解を相互発表
8. 参考資料のテーマに沿った理解を相互発表
9. 参考資料のテーマに沿った理解を相互発表
10. 各自のテーマごとにレジュメを作り発表
11. 各自の発表と、聞き手からの質問
12. 各自の発表と、聞き手からの質問
13. 各自の発表と、聞き手からの質問
14. 学期末レポートにまとめる(個別指導)
15. 学期末レポートにまとめる(個別指導)

教科書

授業の中で指示する
自分のテーマを定めそれに合った参考文献を提示する。

評価方法

(1)授業の出席率:20% (2)積極的な発表:20%:自分の意見による発表を積み重ねる。(3)期末レポート:60%:各学期末ごとにレポート提出を課す。

専門演習(地域福祉論)Ⅱ

SMPW-W-300

担当者：牛津 信忠

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

〈内容〉演習(地域福祉論)Ⅰにおける研究テーマをいっそう深め、その研究の地域福祉論上の位置と役割を明確にしていくことを目指し演習を進める。さらに、専門研究の糸口を開く演習(Ⅰ)に基礎付けられ、さらに学びを深め専門研究(Ⅱ)として、選り取った専門課題についての知識と思考力の高度化を図る。

2. 学びの意義と目標

自らの研究が、地域福祉ネットワークの形成及びその質的向上のためにどのようなインパクトを与えることができるかを、それぞれ課題説明を通して具体的に問うてもらう。さらに、自らの研究テーマに関連する知識を書物、官公庁及び各種民間組織・団体の資料の収集と読破により広げ、自らの学びの独善性から離脱していく努力を着実に進めること。そうした努力と共に、自らの研究の価値論上の位置づけにも注意を向け、前提されている価値について学ぶことをも目標にする。

受講生に対する要望

絶えず自らの生活を通して地域生活上の課題と解決策を感じ取ってほしい。それは今諸君が生活している地域にとどまらず、身を置く場所すべてにおいて実行してほしい。その現実に関心した問題意識のもとに資料的支えを得て、思考を進めてほしい。

キーワード

(1)生活世界 (2)排除から包摂へ (3)対立的同一性 (4)共同的自立 (5)コミュニティ

事前学習(予習)

地域生活の日常の中で積極的に福祉観を磨いてほしい。そこで問題意識を培うとともに、それに即して絶えず演習を振り返り、自分の意見を持つよう努力すること。

復習についての指示

授業中のディスカッションの成果を生かして、自己のレポートを追加補正して行くこと。

授業計画

1. 地域福祉の必要性(討論)
2. 地域福祉の現状と課題
3. 地域福祉の展望・その広がり
4. 地域福祉の位置と役割
5. 各自のテーマの設定確認
6. 個別指導 テーマの関連知識の集積
7. 同 個別指導
8. 各自の発表
9. 各自の発表
10. 演習参加者の研究領域の接点
11. 地域福祉ネットワークの可能性を探る
12. 各自の価値前提についての討議
13. レポート作成の個別指導
14. レポート作成の個別指導
15. 個別にまとめの短いコメントを発表

教科書

授業の中で指示する
テーマに合わせた参考文献を各自に提示する。

評価方法

(1)ディスカッション:10%;他のゼミ生の発表を中心に毎回記論を展開する。(2)資料収集力:10%;テーマに沿った資料を各種手段を用いて探し出す。(3)発表力:30%;研究が進むごとに、個人発表を義務付ける。(4)体験力:10%;身近な各種福祉現場での体験を推奨する。(5)期末レポート:40%;学期末にこれまでの発表のまとめとしてのレポートを提出すること。

専門演習(福祉環境論) I

SMPW-W-200

担当者：野口 祐子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

障がい者・高齢者等が直面する諸問題を、まち・住まい・道具等の物理的な環境の視点で捉え、研究を行います。専門演習Iでは小グループでの研究を中心に行います。まずは問題意識を持って、研究テーマを定め、文献研究や調査などを行いながら理解を深め、レポート作成と発表を行います。同時にそれらの研究に必要な情報収集、レポート作成、プレゼンテーション等の基礎的技術の学習も行います。

2. 学びの意義と目標

卒業研究は個人で研究を行いますが、その前段階としてグループで研究を行います。ここでは研究の基礎的な方法を学びます。グループで研究を行うことにより、ゼミの仲間との共同作業やディスカッションに慣れ、研究の進め方全般を理解し、研究の面白さを体験することを目標にします。

受講生に対する要望

専門科目「福祉環境論A」を必ず受講し、そこで学んだことを研究に活かしてください。そして、研究、発表、ディスカッション等ゼミの全般にわたって主体的にかかわることを求めます。

キーワード

(1)障がい者・高齢者 (2)環境整備 (3)バリアフリー (4)ユニバーサルデザイン (5)グループ学習

事前学習(予習)

専門科目「福祉環境論A」を受講し、そこで学んだ各テーマについて、基本的な考え方や知識を理解して専門演習Iに臨んでください。

復習についての指示

関心があるテーマについて、関連する文献を調べるようにしましょう。

授業計画

1. ゼミの進め方について
2. グループによる研究計画の検討
3. 研究の進め方、レポートの書き方(その1)
4. 文献調査方法(図書館の利用方法含む)
5. 研究テーマ決定、グループディスカッション
6. 研究経過報告とグループディスカッション
7. 研究経過報告とグループディスカッション
8. 中間発表
9. プレゼンテーション技法
10. 研究経過報告とグループディスカッション
11. 研究経過報告とグループディスカッション
12. 研究経過報告とグループディスカッション
13. 発表の仕方、レポートの書き方(その2)
14. 研究経過報告、発表準備
15. グループ別研究発表

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席:20% (2)参加姿勢:20% (3)レポート:30% (4)発表:30%
- 出席2/3以上を前提とします。

専門演習(福祉環境論)Ⅱ

SMPW-W-300

担当者：野口 祐子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

障がい者・高齢者等が直面する諸問題を、まち・住まい・道具等の物理的な環境の視点で捉え、研究を行います。小グループで研究テーマを定め、文献研究や資料収集、調査等を実践しながら課題を整理し、考察を行っていきます。また、相互に研究経過を報告し、ディスカッションをすることにより、理解を深めます。そして、研究の成果として、グループによる発表、個人によるレポート作成を行います。

2. 学びの意義と目標

専門演習Ⅰに引き続き、グループで研究を行ないます。専門演習Ⅰで残された課題を振り返りつつ、卒業研究に向けた準備として、研究の枠組みを理解し、より深く考察を行います。個人が自立して研究テーマやその方法を考え、役割を分担し、それを確実に遂行しながら研究を進めていきます。そして、学生同士で主体的にディスカッションを行い、自分の言葉で成果をまとめていくことを目標にします。

受講生に対する要望

発表、ディスカッション等ゼミの全般にわたって主体的にかかわることを求めます。

キーワード

(1)障がい者・高齢者 (2)バリアフリー (3)ユニバーサルデザイン
(4)環境整備 (5)グループ学習

事前学習(予習)

専門演習Ⅰで行った研究を振り返り、課題を明らかにして専門演習Ⅱに臨んでください。

復習についての指示

関心があるテーマについて、関連する文献を調べるようにしましょう。

授業計画

1. 専門演習Ⅰの振り返りとゼミの進め方について
2. 研究テーマについて(発表とディスカッション)
3. 研究目的と研究方法について(発表とディスカッション)
4. 研究計画について(発表とディスカッション)
5. グループディスカッション、研究実施
6. グループディスカッション、研究実施
7. グループディスカッション、研究実施
8. 中間報告
9. 研究計画の確認、再検討
10. グループディスカッション、研究実施
11. グループディスカッション、研究実施
12. グループディスカッション、研究実施
13. 発表準備
14. グループ別研究発表
15. レポート作成技法

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席:20% (2)参加姿勢:20% (3)レポート:30% (4)発表:30%
- 出席2/3以上を前提とします。

相談援助の基盤と専門職

CCSW-W-100

担当者：田村 綾子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

社会福祉士国家試験受験資格：必修科目、
精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

・社会福祉士及び精神保健福祉士に関する基本的理解・相談援助の概念と範囲・相談援助の理念・相談援助に係る専門職の概念と範囲・専門職倫理と倫理的ジレンマ・総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容・総合的かつ包括的な援助を支える理論

2. 学びの意義と目標

・社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む）と意義について理解する。・精神保健福祉士の役割と意義について理解する。・相談援助の概念と範囲について理解する。・相談援助の理念について理解する。・相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。・相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解する。・総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。

受講生に対する要望

テキストを用いるので授業時には持参すること。また授業中の私語は認めないが、授業内で学生同士の話し合いの課題を与える際や発言を求めた場合は、積極的に発言すること。

キーワード

(1)社会福祉士 (2)精神保健福祉士 (3)相談援助 (4)専門性

事前学習（予習）

最初の授業時に授業日程表を配布する。それに沿って各時限の授業を進行するので、それに合わせて指定したテキストの該当するところを熟読して授業に臨むことにより、科目への興味と理解が深まる。

復習についての指示

各授業時に、抄録と関係資料を印刷物として配布して授業を進める。あわせて、参考文献等についても紹介するので、授業後の学習を深めるために有効に活用してもらいたい。また、期末試験については事前に予想問題を通知するので、これを基にさらに確実な知識の蓄積を図ることを期待する。

授業計画

1. 社会福祉士及び精神保健福祉士に関する基本的理解 (1) 社会福祉士及び介護福祉士法
2. 社会福祉士及び精神保健福祉士に関する基本的理解 (2) 社会福祉士の専門性
3. 社会福祉士及び精神保健福祉士に関する基本的理解 (3) 精神保健福祉士法
4. 社会福祉士及び精神保健福祉士に関する基本的理解 (4) 精神保健福祉士の専門性
5. 社会福祉士及び精神保健福祉士に関する基本的理解 (5) 「総合的かつ包括的な相談援助」が求められる背景と制度的動向
6. 相談援助の概念と範囲 (1) ソーシャルワークに係る国際定義
7. 相談援助の概念と範囲 (2) ソーシャルワークの形成過程
 - ① 源流・基礎確立期
 - ② 発展期・批判期
 - ③ 再編期
10. 相談援助の概念と範囲 (5) ソーシャルワークの形成過程
 - ④ 統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク
 11. 相談援助の理念 (1) ソーシャルワーク実践と価値
 12. 相談援助の理念 (2) 自立支援
 13. 相談援助の理念 (3) 利用者の尊厳と自己決定
 14. 相談援助の理念 (4) ノーマライゼーション
 15. 相談援助の理念 (5) 社会的包摂
 16. 相談援助に係る専門職の概念と範囲 (1) 相談援助専門職の概念と範囲
 17. 相談援助に係る専門職の概念と範囲 (2) 福祉行政等における専門職
 18. 相談援助に係る専門職の概念と範囲 (3) 民間の施設・組織における専門職
 19. 相談援助に係る専門職の概念と範囲 (4) 諸外国の動向
20. 相談援助における権利擁護の意義
 21. 専門職倫理と倫理的ジレンマ (1) 専門職倫理の概念
 22. 専門職倫理と倫理的ジレンマ (2) 倫理綱領
 23. 専門職倫理と倫理的ジレンマ (3) 倫理的ジレンマ
 24. 専門職倫理と倫理的ジレンマ (4) 倫理的ジレンマに関する事例検討
 25. 総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容 (1) ジェネラリストの視点に基く総合的かつ包括的な援助の意義と内容
 26. 総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容 (2) ジェネラリストの視点に基く多職種連携（チームアプローチ）の意義と内容
 27. 総合的かつ包括的な援助を支える理論 (1) ニーズ把握
 28. 総合的かつ包括的な援助を支える理論 (2) エンパワメントと社会資源の主体的活用
 29. 総合的かつ包括的な援助を支える理論 (3) 媒介と「影響作用」
 30. 総合的かつ包括的な援助を支える理論 (4) エコシステムとコミュニティ

教科書

福祉臨床シリーズ編集委員会、柳澤 孝主、坂野 憲司 『相談援助の基盤と専門職(社会福祉士シリーズ6)』 (弘文堂)

評価方法

(1) 期末試験の成績: 70% (2) 学習意欲に関する評価: 30% (授業ごとにコメントカードの提出を求め、出席日数とコメントカードの記述内容によって評価する)

期末試験の成績 (70%) と授業態度 (学習意欲に関する評価) (30%) をあわせて100点満点として全体を評価します。

卒業演習(カウンセリング論)

SMPW-W-400

担当者：長谷川 恵美子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 目的、「ひと」に関する卒業研究テーマを多面的にとらえ、調査、実験、ディスカッションを通して理解を深めることを目的とする。さらに近年の研究成果などを踏まえながら、自らの研究をさらに完成度の高いものへと目指す。受講者は、自らの研究テーマ、方法論にそった研究を自主的に行い、その経過と結果を発表し全体で検討する。

2. 学びの意義と目標

心理学系テーマでの卒業研究を完成させること、そして論理的な思考の展開方法をみにつけることが目標である。興味のあることを探し、見つけ、調べ、まとめ、発表するという、それぞれの各過程を楽しみながら学習をすすめる。

受講生に対する要望

受講者の興味関心にあわせ、文献などで知識を深めることを期待する。

キーワード

事前学習（予習）

各自のデータを整理し先行研究と比較しながら資料を準備すること。また各担当者の資料を熟読し、ディスカッションに備えて準備することを期待する。

復習についての指示

授業で取り扱ったテーマについて、受講者の興味関心にあわせ、紹介した文献などで知識を深めることを期待する。

授業計画

1. 授業開始時に受講者の目的と希望にあわせて計画をたてる
2. 研究レポートに基づくディスカッション1
3. 研究レポートに基づくディスカッション2
4. 研究レポートに基づくディスカッション3
5. 研究レポートに基づくディスカッション4
6. 研究レポートに基づくディスカッション5
7. 研究レポートに基づくディスカッション6
8. 研究レポートに基づくディスカッション7
9. 研究レポートに基づくディスカッション8
10. 研究レポートに基づくディスカッション9
11. 研究レポートに基づくディスカッション10
12. まとめ1
13. まとめ2
14. まとめ3
15. 総合討論

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 平常点:50% (2) 発表:30% (3) ディスカッション:20%

卒業演習(学習・教育心理学)

SMPW-W-400

担当者：長谷川 恵美子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

卒業研究で行ったことを踏まえ、さらに質の高い研究を目指す。

2. 学びの意義と目標

研究発表、論文執筆を通して、問題設定スキル、問題解決スキル、自分が発見したことをプレゼンテーションするスキルを身につけることを目標とする。

受講生に対する要望

ゼミの時間外で、自ら図書館で本や論文を調べることが求められる。

キーワード

(1) 卒業研究 (2) プレゼンテーション

事前学習（予習）

卒業研究に関連する資料を配布し、事前に取り組んでくことを課す場合がある。

復習についての指示

授業で行った内容に関して、適宜課題を課し、定着を確かめる場合がある。

授業計画

1. ガイダンス
2. 研究内容のプレゼンテーション&相互批評 (1)
3. 研究内容のプレゼンテーション&相互批評 (2)
4. 研究内容のプレゼンテーション&相互批評 (3)
5. 研究内容のプレゼンテーション&相互批評 (4)
6. 研究内容のプレゼンテーション&相互批評 (5)
7. 研究内容のプレゼンテーション&相互批評 (6)
8. 研究内容のプレゼンテーション&相互批評 (7)
9. 研究内容のプレゼンテーション&相互批評 (8)
10. 研究内容のプレゼンテーション&相互批評 (9)
11. 研究内容のプレゼンテーション&相互批評 (10)
12. 研究内容のプレゼンテーション&相互批評 (11)
13. 研究内容のプレゼンテーション&相互批評 (12)
14. 研究内容のプレゼンテーション&相互批評 (13)
15. 研究内容のプレゼンテーション&相互批評 (14)

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 授業内課題:60% (2) 授業外課題:40%

卒業演習(高齢者福祉論)

SMPW-W-400

担当者：古谷野 亘

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

輪番で卒業研究の結果と反省を報告し、それをもとに皆で討論する。その他のことは、ゼミ参加者と相談して決める。

2. 学びの意義と目標

卒業研究の振り返りをする。

受講生に対する要望

関心をもち主体的に参加すること。

キーワード

事前学習（予習）

卒業研究の結果と反省点をコンパクトにまとめ、輪番で報告できるようにする。

復習についての指示

授業時には積極的に発言し、授業後には当日の討論を振り返る。

授業計画

1. 研究報告と討論 (1)
2. 研究報告と討論 (2)
3. 研究報告と討論 (3)
4. 研究報告と討論 (4)
5. 研究報告と討論 (5)
6. 研究報告と討論 (6)
7. 研究報告と討論 (7)
8. 研究報告と討論 (8)
9. 研究報告と討論 (9)
10. 研究報告と討論 (10)
11. 研究報告と討論 (11)
12. 研究報告と討論 (12)
13. 研究報告と討論 (13)
14. 研究報告と討論 (14)
15. 研究報告と討論 (15)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 平常点:100%

卒業演習(子ども家庭論)

SMPW-W-400

担当者：中谷 茂一

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

自己のテーマについて学生個人による研究経過発表をしたあと全員でディスカッションを行う。適宜、教員の講義による補足をする。卒業研究は、テーマの問題意識を明確化した上で、研究目的を設定し、適切な研究方法を計画する。テーマについて複数の図書、論文、資料の収集・検討やボランティア、見学などから導き出された研究結果を踏まえ、科学的な考察をすすめていく。「感想」レベルにとどまることなく、科学的根拠を提示しながら論証をすすめてもらう。卒業論文提出の選択にかかわらず卒業研究レポートを提出してもらう。

2. 学びの意義と目標

「卒業研究I・II」における発表・ディスカッションを経て気づいた課題を再検討し、発展させながら、研究経過の個人発表および他学生との意見交換をとおして、児童福祉領域の理念・制度・諸事象について考察を深める。また、自己の認識の再検討と問題意識の明確化をはかると同時に卒業研究レポートとして4年間の総仕上げを目標とする。

受講生に対する要望

単なる「出席」ではなく、積極的な発言・参加が必須。関連文献も積極的に探索し読むことが必要。個性的な発想と科学的な実証による研究を望む。

キーワード

(1)家族 (2)子ども

事前学習（予習）

自己のレジュメの作成準備

授業計画

1. 卒業演習の達成課題と研究テーマ設定について
2. 卒業演習の方法について
3. 〈テーマA〉発表・ディスカッション及びコメント
4. 〈テーマB〉発表・ディスカッション及びコメント
5. 〈テーマC〉発表・ディスカッション及びコメント
6. 〈テーマD〉発表・ディスカッション及びコメント
7. 〈テーマE〉発表・ディスカッション及びコメント
8. 〈テーマF〉発表・ディスカッション及びコメント
9. 〈テーマG〉発表・ディスカッション及びコメント
10. 〈テーマH〉発表・ディスカッション及びコメント
11. 〈テーマI〉発表・ディスカッション及びコメント
12. 〈テーマJ〉発表・ディスカッション及びコメント
13. 〈テーマK〉発表・ディスカッション及びコメント
14. 〈テーマL〉発表・ディスカッション及びコメント
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

復習についての指示

当日の報告で解決しなかった疑問点を調べる

評価方法

(1)出席:20% (2)発表内容:40% (3)ディスカッション参加状況:40%

卒業演習(生活支援論)

SMPW-W-400

担当者：田村 綾子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

・卒業に向け、本学人間福祉学科で学んだことの集大成を論文として記述することを目的とし、文献検索、調査研究、プレゼンテーションと意見交換に基づく考察の深化を行う。・専門演習1・2を踏まえ、人の暮らしを支援することの意義に関する自己の価値観を確立させる。・精神保健福祉士や社会福祉士として、実際の支援場面においてどのようなかわりができるか、実践的に考えることを通じて、ソーシャルワーカーになるために必要な知識、技術を習得する。・人間福祉学を学んだ者としてふさわしい価値観、倫理感を習得することを目的として文献購読や意見交換を通じて幅のある人格形成をめざす。

2. 学びの意義と目標

各学生からのプレゼンテーションに基づく意見交換、学外活動（SW実習、施設見学、ボランティア等）を活用した意見交換等を中心に進めることで、主体的に考え、また自己を省察し言語化出来る力を醸成することをめざす。

受講生に対する要望

卒業までに論文を作成することを前提とし、各自の関心に基づく生活支援のテーマを明確化して問題意識を持って主体的に課題探究に取り組むことを求める。

キーワード

(1) ソーシャルワーク (2) 社会福祉

事前学習（予習）

自己の卒業研究テーマを定め、継続的に文献検索や調査研究、レポートの執筆をおこなうこと。

復習についての指示

プレゼンテーションと意見交換を中心に授業を進めることから、協議された内容を反映させて各自の研究テーマについての考察を深化させること。履修修了の時点では、卒業論文（レポート）が完成することを目指す。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 学生からのプレゼンテーションと意見交換①
3. 学生からのプレゼンテーションと意見交換②
4. 学生からのプレゼンテーションと意見交換③
5. 学生からのプレゼンテーションと意見交換④
6. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑤
7. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑥
8. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑦
9. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑧
10. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑨
11. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑩
12. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑪
13. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑫
14. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑬
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 参加姿勢:50% (2) 研究内容:30% (3) 提出物:20%

遅刻無く出席すること、授業内での意欲的な参加態度を、発言を通じて表現すること。プレゼンテーションの担当者は、他者にわかりやすく、意見を出しやすいようにレジュメを作成すること、これらを元に総合的に評価する。

卒業演習(精神保健福祉論)

SMPW-W-400

担当者：相川 章子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

自らの研究テーマについてさらに探求し、成果を発表する。また、これまでの学びのプロセスを後輩へ伝え、共に学び、共に探求することの意義を学ぶ。

2. 学びの意義と目標

卒業研究を終えて、その学びのプロセスを振り返る。そのことを後輩との学びの中で

受講生に対する要望

後輩と共に学ぶ姿勢をもって望んでほしい。くいの残らない学生生活のしめくりとなるよう、それぞれの目標を達成してください。

キーワード

(1) 振り返る (2) 共に学ぶ (3) 再考する (4) 伝える

事前学習（予習）

共に学ぼうとする気持ちの準備。それぞれのテーマに関する事前準備。

復習についての指示

ディスカッションで出されたさまざまな意見に関する情報整理と学びの振り返り。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 中間発表とディスカッション（1）
3. 中間発表とディスカッション（2）
4. 中間発表とディスカッション（3）
5. 中間発表とディスカッション（4）
6. 中間発表とディスカッション（5）
7. フィードバック
8. ゲストスピーカーによる講義およびディスカッション
9. 研究発表とディスカッション（1）
10. 研究発表とディスカッション（2）
11. 研究発表とディスカッション（3）
12. 研究発表とディスカッション（4）
13. 研究発表とディスカッション（5）
14. 研究発表とディスカッション（6）
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 出席:30% (2) 授業態度:30% (3) レポート:40%

卒業演習(ソーシャルワーク論)

SMPW-W-400

担当者：助川 征雄

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

ゆるやかなグループ討議などにより、卒業研究成果の共有と、さらなる深化や進路選択の役に立つ授業を行う。あわせて、2、3年生との研究交流や研究合宿も予定している。

2. 学びの意義と目標

研究テーマの更なる深化と汎化。

受講生に対する要望

卒業を前に就活や資格取得などであわただしくなるが、研究への関心や意欲を絶やさないこと。

キーワード

(1)研究成果の深化 (2)自己覚知 (3)相互的人格主義 (4)リカバリーイノベーション (5)ソーシャルインクルージョン

事前学習(予習)

随時、進路に係る、「インターンシップ、社会福祉施設見学、ボランティア活動、指定書籍の評論」などのいずれかによる小レポートを課す。

復習についての指示

人間福祉に係るキー概念、キーワードの再確認と、国家試験、就活等に対する備えの徹底。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 卒業研究成果による演習と討論(1)
3. 卒業研究成果による演習と討論(2)
4. 卒業研究成果による演習と討論(3)
5. 卒業研究成果による演習と討論(4)
6. 卒業研究成果による演習と討論(5)
7. 2・3年生との合同研究会
8. 自由研究(1)
9. 自由研究(2)
10. 自由研究(3)
11. 自由研究(4)
12. 自由研究(5)
13. 自由研究(6)
14. 研究合宿
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)レポート(複数):80% (2)出席率:20%

卒業演習(地域福祉論)

SMPW-W-400

担当者：牛津 信忠

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

地域福祉の実践について、この研究報告書をベースに自由な討論を行う。その討論の中から、今後の就職した社会福祉領域、それに留まらず地域生活や一般企業の業務においても、地域福祉の発想が、役立ち、かつ重要であることを学んでいく。さらに、各自のテーマを越えて、他の学友のテーマに接し視野を広げて行くとともに、関連領域に関する広い視野を養うことも重視する。

2. 学びの意義と目標

地域福祉という課題を通じて社会生活の準備学習を行う。

受講生に対する要望

できるだけ教員と連絡を取り、社会生活への道を歩んでいる現況の報告を行うこと

キーワード

(1)相互の人格性 (2)相互包摂 (3)潜在的可能性

事前学習（予習）

言葉で明確に語る訓練をしていき、自分の問題意識を発展させていくことを求める。さらにそれが社会生活にも応用できるように訓練を続けてほしい。

復習についての指示

友人、近隣の人々とのコミュニケーションの中で、地域生活上の課題を感じ取り積極的にその解明解決のための働き掛けをする。それを学友と話し合い、解決の糸口を探る。

授業計画

1. 各自の研究テーマ別の報告会
2. 各自の研究テーマ別の報告会
3. 各自の研究テーマ別の報告会
4. 各自の研究テーマ別の報告会
5. テーマの関連領域の研究
6. テーマの関連領域の研究
7. テーマの関連領域の研究
8. 地域福祉と社会生活・ディスカッション
9. 地域福祉と社会生活・ディスカッション
10. 地域福祉と社会生活・ディスカッション
11. 今後の社会生活
12. 今後の社会生活
13. 今後の社会生活
14. 生活と消費と地域福祉
15. 生活と労働と地域福祉

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)現況報告:30%:就職等の現状報告。今までの研究、学習の生かし方。(2)社会性:30%:社会的見識の向上度合。(3)コミュニケーション能力:40%:相互の絆づくりの手段としての対話力の向上。

卒業演習(福祉環境論)

SMPW-W-400

担当者：野口 祐子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

専門演習Iから卒業研究IIで取り組んできた研究でやり残したことや、あるいは、これまでとは異なる角度から研究をとらえ直すなど、各自の関心に沿って研究を行います。教室にとどまらず、これまで取り組んできた研究の応用として、関連施設の見学や体験を取り入れ、研究を深めます。これまで取り組んできた研究活動を振り返り、整理を行うとともに、それにとどまらない広い視野で探求します。

2. 学びの意義と目標

社会に出て行く直前の段階であるため、この卒業演習を通して、社会人として必要とされる、コミュニケーション能力、課題発見力、創造力、実行力、積極性、責任感などをあわせて身につけることができるように授業を進めます。

受講生に対する要望

学生生活最後の半年として、学生だからできる研究や活動を積極的に行ってください。

キーワード

(1)障がい者・高齢者 (2)環境整備 (3)バリアフリー (4)ユニバーサルデザイン

事前学習(予習)

これまで取り組んできた研究を振り返り、整理して授業に臨んで下さい。

復習についての指示

常に自分の研究活動を振り返りながら、足りないところを補足するようにしてください。

授業計画

1. ゼミの進め方について
2. これまでの研究の振り返り
3. 今後の研究テーマ検討
4. 研究活動の具体的な検討
5. 研究テーマ、目的、方法等について（発表とディスカッション）
6. 研究活動
7. 研究経過報告（発表とディスカッション）
8. 中間発表
9. 研究活動
10. 研究経過報告（発表とディスカッション）
11. 研究活動
12. 研究経過報告（発表とディスカッション）
13. 研究活動
14. 発表準備
15. 研究発表

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席:20% (2)参加姿勢:20% (3)レポート:30% (4)発表:30%
- 出席2/3以上を前提とします。

卒業演習(福祉倫理)

SMPW-W-400

担当者：相川 章子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

福祉倫理に関するテーマを各自で探求し、卒業論文、卒業研究の完成に向けて発表、討論を行う。

2. 学びの意義と目標

卒業研究、あるいは卒業論文の完成

受講生に対する要望

演習での研究の集大成を目指して探求を進めてください。

キーワード

(1) 倫理 (2) 死生学 (3) 正義 (4) 環境

事前学習（予習）

探求してきたテーマを論文、および研究としてまとめるために必要な手続きを踏んで発表に臨む。

復習についての指示

討論を経て考察を深め、卒業研究、あるいは卒業論文として総括する。

授業計画

1. 序
2. 発表と討論
3. 発表と討論
4. 発表と討論
5. 発表と討論
6. 発表と討論
7. 発表と討論
8. 発表と討論
9. 発表と討論
10. 発表と討論
11. 発表と討論
12. 発表と討論
13. 発表と討論
14. 発表と討論
15. 総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 演習参加：70%：発表、討論 (2) 学期末レポート：30%

卒業研究(カウンセリング論) I

SMPW-W-300

担当者：長谷川 恵美子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(W学科)：その他

講義概要

1. 内容

どのように人間の心や行動を理解し、どのように検証し、どのように記述するのか。まずは、研究目的、参考文献の検索、先行研究の吟味、そして独自の研究デザインについて具体的に学ぶ。心理学など、「ひと」に関する卒業研究テーマのもと、自らの研究テーマ、方法論にそった研究を自主的に行い、その経過と結果を発表し全体で検討する。

2. 学びの意義と目標

心理学系テーマでの卒業研究を完成させること、そして論理的な思考の展開方法をみにつけることが目標である。興味のあることを探し、見つけ、調べ、まとめ、発表するという、それぞれの各過程を楽しみながら学習をすすめる。

受講生に対する要望

授業で取り扱ったテーマについて、受講者の興味関心にあわせ、紹介した文献などで知識を深めることを期待する。

キーワード

事前学習（予習）

それぞれのテーマや目的に応じての学習であるため、授業外での学習が重要となる。さらに授業時に積極的にディスカッションするとともに、その議論を活かし学習を深めることを期待する。

復習についての指示

授業で取り扱ったテーマについて、受講者の興味関心にあわせ、紹介した文献などで知識を深めることを期待する。

授業計画

1. 授業開始時に受講者の目的と希望にあわせて計画をたてる
2. 個人発表とディスカッション（1）
3. 個人発表とディスカッション（2）
4. 個人発表とディスカッション（3）
5. 個人発表とディスカッション（4）
6. 個人発表とディスカッション（5）
7. 個人発表とディスカッション（6）
8. 個人発表とディスカッション（7）
9. 個人発表とディスカッション（8）
10. 個人発表とディスカッション（9）
11. 個人発表とディスカッション（10）
12. 個人発表とディスカッション（11）
13. 個人発表とディスカッション（12）
14. 個人発表とディスカッション（13）
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 平常点:50% (2) 発表:30% (3) ディスカッション:20%

卒業研究(カウンセリング論)Ⅱ

SMPW-W-400

担当者：長谷川 恵美子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(W学科)：その他

講義概要

1. 内容

心理学など、「ひと」に関する卒業研究テーマのもと、自らの研究テーマ、方法論にそった研究を自主的に行い、その経過と結果を発表し全体で検討する。特に、自らの研究テーマを、どのようにまとめ、ひとに伝えるのかなど、よりよい報告の仕方や発表方法に関してディスカッションすることにより、発表技術の向上をめざす。

2. 学びの意義と目標

心理学系テーマでの卒業研究を完成させること、そして論理的な思考の展開方法をみにつけることが目標である。興味のあることを探し、見つけ、調べ、まとめ、発表するという、それぞれの各過程を楽しみながら学習をすすめる。

受講生に対する要望

受講者の興味関心にあわせ、自ら文献などで知識を深めることを期待する。

キーワード

事前学習（予習）

各担当者によって配布される資料を熟読しディスカッションに備えるとともに、各自のテーマについて自らのデータと文献を照らし合わせながら発表資料を作成することを期待する。

復習についての指示

授業で取り扱ったテーマについて、受講者の興味関心にあわせ、紹介した文献などで知識を深めることを期待する。

授業計画

1. 授業開始時に受講者の目的と希望にあわせて計画をたてる
2. 個人発表とディスカッション (1)
3. 個人発表とディスカッション (2)
4. 個人発表とディスカッション (3)
5. 個人発表とディスカッション (4)
6. 個人発表とディスカッション (5)
7. 個人発表とディスカッション (6)
8. 研究発表 1
9. 研究発表 2
10. 研究発表 3
11. 研究発表 4
12. 研究発表 5
13. 研究発表 6
14. まとめ 1
15. まとめ 2

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 平常点:50% (2) 発表:30% (3) ディスカッション:20%

担当者：堀 恭子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(W学科)：その他

講義概要

1. 内容

履修者がテーマに沿って準備してきた研究を、実験・調査・観察等の手法を用いて、自分の立てた仮説の検証を行います。さらにその結果をほかの人に伝わりやすい形にまとめ、口頭発表を行います。

2. 学びの意義と目標

自分の中にある問いに対する結論を研究の形であらわすこと、自分の考えを他者に伝えることの二つを目標とします。

受講生に対する要望

出席と各報告を重視します。

キーワード

(1) 問いの探求 (2) 仮説の検証 (3) 他者への伝達

事前学習（予習）

本調査、本実験等の準備、調査先への連絡等の手続きを早めにするため余裕を持って取り組んでください。

復習についての指示

授業内外で得たヒントはそのままにせず、すぐに検討して研究に活かしてください

授業計画

1. オリエンテーション
2. 実験・調査・観察デザインの検討 1
3. 実験・調査・観察デザインの検討 2
4. 実験・調査・観察デザインの検討 3
5. 実験・調査・観察デザインの検討 4
6. 実験・調査・観察デザインの検討 5
7. 中間報告 1
8. 中間報告 2
9. 中間報告 3
10. 中間報告 4
11. 中間報告 5
12. 中間報告 6
13. 全体発表会 1
14. 全体発表会 2
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 出席:20% (2) 報告:80%

卒業研究(高齢社会論) I

SMPW-W-300

担当者：古谷野 亘

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

輪番で研究の途中経過を報告し、その報告をもとに皆で議論する。その他のことは、ゼミ参加者と相談して決める。

2. 学びの意義と目標

高齢化と高齢社会、高齢者問題、高齢者保健福祉の領域の課題について卒業研究を進める。

受講生に対する要望

自主的に研究を進めるとともに、授業では積極的に発言する。

キーワード

事前学習（予習）

各自自分の研究を進め、輪番で進捗状況を報告する。

復習についての指示

授業時には積極的に発言し、授業後には当日の討議を振り返り、自分の研究に反映させる。

授業計画

1. 研究の中間発表と討議 (1)
2. 研究の中間発表と討議 (2)
3. 研究の中間発表と討議 (3)
4. 研究の中間発表と討議 (4)
5. 研究の中間発表と討議 (5)
6. 研究の中間発表と討議 (6)
7. 研究の中間発表と討議 (7)
8. 研究の中間発表と討議 (8)
9. 研究の中間発表と討議 (9)
10. 研究の中間発表と討議 (10)
11. 研究の中間発表と討議 (11)
12. 研究の中間発表と討議 (12)
13. 研究の中間発表と討議 (13)
14. 研究の中間発表と討議 (14)
15. 研究の中間発表と討議 (15)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 平常点:100%

卒業研究(高齢者福祉論)Ⅱ

SMPW-W-400

担当者：古谷野 亘

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

輪番で研究の途中経過を報告し、その報告討論をもとにレポートを作成する。その他のことは、ゼミ参加者と相談して決める。

2. 学びの意義と目標

高齢化と高齢社会、高齢者問題、高齢者保健福祉の領域の課題について卒業研究を進め、研究結果をレポートにまとめる。

受講生に対する要望

自主的に研究を進めるとともに、授業では積極的に発言する。

キーワード

事前学習（予習）

各自自分の研究を進め、輪番で進捗状況を報告する。

復習についての指示

授業時には積極的に発言し、授業後には当日の討議を振り返り、自分の研究に反映させる。

授業計画

1. 研究の中間発表と討議 (1)
2. 研究の中間発表と討議 (2)
3. 研究の中間発表と討議 (3)
4. 研究の中間発表と討議 (4)
5. 研究の中間発表と討議 (5)
6. 研究の中間発表と討議 (6)
7. 研究の中間発表と討議 (7)
8. 研究の中間発表と討議 (8)
9. 研究の中間発表と討議 (9)
10. 研究の中間発表と討議 (10)
11. 研究の中間発表と討議 (11)
12. 研究の中間発表と討議 (12)
13. 研究の中間発表と討議 (13)
14. 研究の中間発表と討議 (14)
15. 研究の中間発表と討議 (15)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) レポート:80% (2) 平常点:20%

卒業研究(子ども家庭論)Ⅰ

SMPW-W-300

担当者：中谷 茂一

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

自己のテーマについて学生個人による研究経過発表をしたあと全員でディスカッションを行う。適宜、教員の講義による補足をする。卒業研究は、テーマの問題意識を明確化した上で、研究目的を設定し、適切な研究方法を計画する。テーマについて複数の図書、論文、資料の収集・検討やボランティア、見学などから導き出された研究結果を踏まえ、科学的な考察をすすめていく。「感想」レベルにとどまることなく、科学的根拠を提示しながら論証をすすめてもらう。卒業論文提出の選択にかかわらず卒業研究レポートを提出してもらう。

2. 学びの意義と目標

「専門演習Ⅰ・Ⅱ」における発表・ディスカッションを経て気づいた課題を再検討し、発展させながら、研究経過の個人発表および他学生との意見交換をととして、児童福祉領域の理念・制度・諸事象について考察を深める。また、自己の認識の再検討と問題意識の明確化をはかると同時に卒業研究レポート・卒業論文作成を目標とする。

受講生に対する要望

単なる「出席」ではなく、積極的な発言・参加が必須。関連文献も積極的に探索し読むことが必要。個性的な発想と科学的な実証による研究を望む。

キーワード

(1)家族 (2)子ども

事前学習(予習)

自己のレジュメの作成準備

授業計画

1. 卒業研究の達成課題と研究テーマ設定について
2. 卒業研究の方法について
3. 発表・ディスカッション及びコメント
4. 発表・ディスカッション及びコメント
5. 発表・ディスカッション及びコメント
6. 発表・ディスカッション及びコメント
7. 発表・ディスカッション及びコメント
8. 発表・ディスカッション及びコメント
9. 発表・ディスカッション及びコメント
10. 発表・ディスカッション及びコメント
11. 発表・ディスカッション及びコメント
12. 発表・ディスカッション及びコメント
13. 発表・ディスカッション及びコメント
14. 発表・ディスカッション及びコメント
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

復習についての指示

当日の報告で解決しなかった疑問点を調べる

評価方法

(1)出席:20% (2)発表内容:40% (3)ディスカッション参加状況:40%

卒業研究(子ども家庭論)Ⅱ

SMPW-W-400

担当者：中谷 茂一

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

自己のテーマについて学生個人による研究経過発表をしたあと全員でディスカッションを行う。適宜、教員の講義による補足をする。テーマの問題意識を明確化した上で、研究目的を設定し、適切な研究方法を計画する。テーマについて複数の図書、論文、資料の収集・検討やボランティア、見学などから導き出された研究結果を踏まえ、科学的な考察をすすめていく。「感想」レベルにとどまることなく、科学的根拠を提示しながら論証をすすめてもらう。卒業論文提出の選択にかかわらず卒業研究レポートを提出してもらう。

2. 学びの意義と目標

「卒業研究Ⅰ」における発表・ディスカッションを経て気づいた課題を再検討し、発展させながら、研究経過の個人発表および他学生との意見交換をととして、児童福祉領域の理念・制度・諸事象について考察を深める。また、自己の認識の再検討と問題意識の明確化をはかると同時に卒業研究レポートを目標とする。

受講生に対する要望

単なる「出席」ではなく、積極的な発言・参加が必須。関連文献も積極的に探索し読むことが必要。個性的な発想と科学的な実証による研究を望む。

キーワード

(1)家族 (2)子ども

事前学習（予習）

自己のレジュメの作成準備

授業計画

1. 卒業研究の達成課題と研究テーマ設定について
2. 卒業研究の方法について
3. 〈テーマA〉発表・ディスカッション及びコメント
4. 〈テーマB〉発表・ディスカッション及びコメント
5. 〈テーマC〉発表・ディスカッション及びコメント
6. 〈テーマD〉発表・ディスカッション及びコメント
7. 〈テーマE〉発表・ディスカッション及びコメント
8. 〈テーマF〉発表・ディスカッション及びコメント
9. 〈テーマG〉発表・ディスカッション及びコメント
10. 〈テーマH〉発表・ディスカッション及びコメント
11. 〈テーマI〉発表・ディスカッション及びコメント
12. 〈テーマJ〉発表・ディスカッション及びコメント
13. 〈テーマK〉発表・ディスカッション及びコメント
14. 〈テーマL〉発表・ディスカッション及びコメント
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

復習についての指示

当日の報告で解決しなかった疑問点を調べる

評価方法

(1)出席:20% (2)発表内容:40% (3)ディスカッション参加状況:40%

卒業研究(障害者福祉論)Ⅰ

SMPW-W-300

担当者：木下 大生

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

専門演習Ⅰ・Ⅱにおいて学んだ内容を基にして、卒業研究のテーマを最終決定し、テーマに沿った内容の卒業研究の執筆に取り掛かる。進めている内容の中間発表を行い、他の学生や教員からの指摘や疑問に答えながら、自身のテーマについてより深めていく。

2. 学びの意義と目標

自身が何に、またなぜそれに関心があるのかを繰り返し自問することで明らかにし、その上で内容を論理的にまとめ、文章化し、人に伝えられるようになることが目標である。

受講生に対する要望

卒業研究をまとめることについて、その作業自体に没頭するのも良いが、これが、自身が将来社会に出た際にどのようなところで役に立つのか、どのような仕事に結びつくのか、といったことも意識しながら進めてほしい。

キーワード

(1)研究計画 (2)ディスカッション (3)プレゼンテーション

事前学習(予習)

自身がプレゼンテーションをする際は、必ず事前に準備をすること。

復習についての指示

出された質問等について、必ず調べ、次回同じ質問をされた場合に必ず答えられるようにしておくこと。

授業計画

1. 専門演習Ⅱの振り返り
2. 研究計画の作成の方法
3. 個人研究発表/質疑/ディスカッション (1)
4. 個人研究発表/質疑/ディスカッション (2)
5. 個人研究発表/質疑/ディスカッション (3)
6. 個人研究発表/質疑/ディスカッション (4)
7. 個人研究発表/質疑/ディスカッション (5)
8. 個人研究発表/質疑/ディスカッション (6)
9. 個人研究発表/質疑/ディスカッション (7)
10. 個人研究発表/質疑/ディスカッション (8)
11. 個人研究発表/質疑/ディスカッション (9)
12. 個人研究発表/質疑/ディスカッション (10)
13. ゲストスピーカーによる講義/質疑/ディスカッション
14. まとめ (1)
15. まとめ (2)

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:20% (2)参加態度:30% (3)研究計画:20% (4)プレゼンテーション:30%

卒業研究(生活支援論) I

SMPW-W-300

担当者：田村 綾子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

・専門演習1・2を踏まえ、人の暮らしを支援することの意義に関する考察をより深化させる。・精神保健福祉士や社会福祉士として、実際の支援場面においてどのようなかわりができるか、実践的に考えることを通じて、ソーシャルワーカーになるために必要な知識、技術を習得する。・人間福祉学を学んだ者としてふさわしい価値観、倫理感を習得することを目的として文献購読や意見交換を通じて幅のある人格形成をめざす。

2. 学びの意義と目標

各学生からのプレゼンテーションに基づく意見交換、学外活動（SW実習、施設見学、ボランティア等）を活用した意見交換等を中心に進めることで、主体的に考え、また自己を省察し言語化出来る力を醸成することをめざす。

受講生に対する要望

卒業までに論文を作成することを前提とし、各自の関心に基づく生活支援のテーマを明確化して問題意識を持って主体的に課題探究に取り組むことを求める。

キーワード

(1) ソーシャルワーク (2) 援助関係 (3) 自己洞察

事前学習（予習）

自己の卒業研究テーマを定め、継続的に文献検索と講読、レポートの記載をおこなうこと。

復習についての指示

プレゼンテーションと意見交換を中心に授業を進めることから、協議された内容を反映させて各自の研究テーマについての考察を深化させること。

授業計画

1. 研究テーマについて
2. 文献検索方法
3. グループ演習1
4. グループ演習2
5. グループ演習3
6. 卒業研究レポート発表と意見交換
7. 卒業研究レポート発表と意見交換
8. 卒業研究レポート発表と意見交換
9. 卒業研究レポート発表と意見交換
10. 卒業研究レポート発表と意見交換
11. 卒業研究レポート発表と意見交換
12. 卒業研究レポート発表と意見交換
13. 卒業研究レポート発表と意見交換
14. 卒業研究レポート発表と意見交換
15. 総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 参加姿勢:50% (2) プレゼンテーション:30% (3) 提出物:20%

遅刻無く出席すること、授業内での意欲的な参加態度を発言等を通じて表現すること。プレゼンテーションの担当者は、他者にわかりやすく、意見を出しやすいようにレジュメを作成すること、これらを元に総合的に評価する。

卒業研究(生活支援論)Ⅱ

SMPW-W-400

担当者：田村 綾子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

・卒業に向け、本学人間福祉学科で学んだことの集大成を論文として記述することを目的とし、文献検索、調査研究、プレゼンテーションと意見交換に基づく考察の深化を行う。・専門演習1・2を踏まえ、人の暮らしを支援することの意義に関する自己の価値観を確立させる。・精神保健福祉士や社会福祉士として、実際の支援場面においてどのようなかわりができるか、実践的に考えることを通じて、ソーシャルワーカーになるために必要な知識、技術を習得する。・人間福祉学を学んだ者としてふさわしい価値観、倫理感を習得することを目的として文献購読や意見交換を通じて幅のある人格形成をめざす。

2. 学びの意義と目標

各学生からのプレゼンテーションに基づく意見交換、学外活動（SW実習、施設見学、ボランティア等）を活用した意見交換等を中心に進めることで、主体的に考え、また自己を省察し言語化出来る力を醸成することをめざす。

受講生に対する要望

卒業までに論文を作成することを前提とし、各自の関心に基づく生活支援のテーマを明確化して問題意識を持って主体的に課題探究に取り組むことを求める。

キーワード

(1) ソーシャルワーク (2) 社会福祉

事前学習（予習）

自己の卒業研究テーマを定め、継続的に文献検索や調査研究、レポートの執筆をおこなうこと。

復習についての指示

プレゼンテーションと意見交換を中心に授業を進めることから、協議された内容を反映させて各自の研究テーマについての考察を深化させること。履修修了の時点では、卒業論文（レポート）が完成することを目指す。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 学生からのプレゼンテーションと意見交換①
3. 学生からのプレゼンテーションと意見交換②
4. 学生からのプレゼンテーションと意見交換③
5. 学生からのプレゼンテーションと意見交換④
6. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑤
7. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑥
8. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑦
9. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑧
10. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑨
11. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑩
12. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑪
13. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑫
14. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑬
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 参加姿勢:50% (2) 研究内容:30% (3) 提出物:20%

遅刻無く出席すること、授業内での意欲的な参加態度を、発言を通じて表現すること。プレゼンテーションの担当者は、他者にわかりやすく、意見を出しやすいようにレジュメを作成すること、これらを元に総合的に評価する。

卒業研究(精神保健福祉論) I

SMPW-W-300

担当者：相川 章子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 内容 専門演習IIで深めた学びをもとに、各受講者の関心あるテーマにおいて、研究レポート および研究活動それぞれ選択したことについてまとめる。2. カリキュラム上の位置づけ 自らの感心ごとを具体化させ、まとめる応用的な位置づけである。

2. 学びの意義と目標

自分自身の関心のあるテーマに真剣に取り組み、研究レポートおよび研究活動を仕上げるプロセスの中で、豊かな発想力、想像力、調査力、実行力、実践力を身につけ、知識 を獲得し、自らの視点を身につける。

受講生に対する要望

担当者は研究テーマに関する文献を読み、レジメを準備し発表に備える。ディスカッションに積極的に参加すること。関心のあるテーマについて思いっきり取り組みましょう

キーワード

(1) あくなく探究心 (2) あくなく追求心 (3) 豊かな発想力 (4) 緻密な調査力 (5) 緻密な分析力

事前学習（予習）

卒業研究レポートもしくは活動について、各々の課題にむけて調べ、探求し続ける。

復習についての指示

ゼミのディスカッションで出された意見やコメント等について気になったことを書き留めておき、研究へ活かす。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 研究論文とは？研究論文の書き方、まとめ方について
3. 研究発表とディスカッション（1）
4. 研究発表とディスカッション（2）
5. 研究発表とディスカッション（3）
6. 研究発表とディスカッション（4）
7. 研究発表とディスカッション（5）
8. ゲストスピーカーによる講義およびディスカッション
9. 研究発表とディスカッション（6）
10. 研究発表とディスカッション（7）
11. 研究発表とディスカッション（8）
12. 研究発表とディスカッション（9）
13. 研究発表とディスカッション（10）
14. 研究発表とディスカッション（11）
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 授業態度：50% (2) レポート等：50%

※「卒業研究レポート」もしくは「卒業研究活動」のいずれかを選択し、さらに「個人研究」もしくは「共同研究」を選択することができる。研究レポートの選択者はレポート作成を、卒業研究活動の実践を選択した学生は、卒業研究活動の企画づくりおよび活動実施にむけて準備する。

卒業研究(精神保健福祉論)Ⅱ

SMPW-W-400

担当者：相川 章子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

1. 内容 卒業研究Iでしぼりこんだ各受講者の研究テーマについて、研究レポートおよび研究活動のそれぞれ選択した内容について主体的に調べ、作業をすすめ、まとめ、発表をする。2. カリキュラム上の位置づけ 卒業研究の総仕上げ。

2. 学びの意義と目標

自分自身の関心のあるテーマに真剣に取り組む、研究レポートおよび研究活動を仕上げるプロセスの中で、論理的な考え方や思考の組み立てについて学ぶ。これまでに培った想像力や調査力、実行力に磨きをかけ、それらを整理し、表現することを学ぶ。

受講生に対する要望

担当者は研究の進捗状況についてのレジメを用意し発表する。ディスカッションに積極的に参加すること。関心のあるテーマについて思いっきり取り組みましょう

キーワード

(1)あくなき追求心 (2)豊かな発想力 (3)緻密な調査力 (4)緻密な分析力 (5)確かな文章力

事前学習（予習）

各々が取り組むことを選択した卒業研究について、追求し続ける。

復習についての指示

ゼミのディスカッションで出された意見やコメントで気になったことについて書き留めておきましょう。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 研究テーマと進捗状況報告（1）
3. 研究テーマと進捗状況報告（2）
4. 研究テーマと進捗状況報告（3）
5. 個別指導のフィードバック
6. 中間報告およびディスカッション（1）
7. 中間報告およびディスカッション（2）
8. 中間報告およびディスカッション（3）
9. 中間報告およびディスカッション（4）
10. 中間報告およびディスカッション（5）
11. 中間報告およびディスカッション（6）
12. 中間報告およびディスカッション（7）
13. 卒業研究発表会（1）
14. 卒業研究発表会（2）
15. 卒業研究発表会（3）と総まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)授業態度:50% (2)レポート等:50%

「卒業研究レポート」もしくは「卒業研究活動」を選択し、さらに「個人研究」もしくは「共同研究」を選択することができる。「卒業研究活動」選択者は、研究レポートの提出を、「卒業研究活動」選択者は、卒業研究活動の実践とその振り返りレポートを提出する。 暫時、個別指導を行う。

卒業研究（ソーシャルワーク論）Ⅰ

SMPW-W-300

担当者：助川 征雄

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

まず研究方法の学びから始まり、卒業研究テーマの検索と設定をおこなう。続いて、個別・小グループに分かれた研究テーマの探索推進、さらには全体検討・発表の場を設け、情報共有と研究意欲の向上を図る。最終的には、卒業論文あるいは卒業研究レポート何度の成果を研究集にまとめる（製本）。

2. 学びの意義と目標

個性的なテーマの選定、研究（表現とまとめ）を通して研究の喜びを得ることに重点を置く。同時に、自由に研究テーマを追及することにより、自分のオリジナリティや人間性に気づくことをめざす。なお、それらの研究や分析には福祉的な手法を必ず加える。

受講生に対する要望

自由なテーマ選びを求めるので、あらかじめ一定の事前準備をしておくこと。

キーワード

(1) 独自性 (2) 研究する喜び (3) ストレngths視点 (4) 相互的人格主義 (5) 包括型社会

事前学習（予習）

研究テーマにそい、資料配布や参考書を指定するので、月に2冊程度の参考書読了をめざすこと。

復習についての指示

難解な事項はその日のうちに解明すること、同時に、研究テーマに沿った個別研究は自宅でも継続すること。

授業計画

1. オリエンテーション（研究法について）
2. 研究テーマの検索（1）
3. 研究テーマの検索（2）
4. 研究テーマの検索（3）
5. 研究テーマの検索（4）
6. テーマの確定に向けた合同検討会
7. 研究テーマの探索（1）
8. 研究テーマの探索（2）
9. 研究テーマの探索（3）
10. 研究テーマの探索（4）
11. 研究テーマの探索（5）
12. 研究テーマの探索（6）
13. 研究テーマの探索（7）
14. 研究テーマの探索（8）
15. まとめ—研究成果の中間発表会（1）

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) レポート:80% (2) 出席率:20%

卒業研究(ソーシャルワーク論)Ⅱ

SMPW-W-400

担当者：助川 征雄

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

主に個別・小グループによる研究指導を継続する。同時に中間発表会を開くとともに、卒業論文発表会や学外研究会への参加なども積極的に配慮する。

2. 学びの意義と目標

自由な発想による研究テーマへの取り組みによる、研究の歓びと自己覚知の深化。社会人としての旅立ちへの自覚と準備。

受講生に対する要望

就活、資格取得、社会人への不可欠の課題として、この研究レポート（卒業論文）も必ず完成させること。

キーワード

(1) 独自性 (2) 研究の喜び (3) 自信 (4) 自己覚知 (5) 責任

事前学習（予習）

個別指導に沿った、日常的な資料、参考書等の読了、探索。

復習についての指示

研究レポート（論文）完成に向けた自己チェックの徹底。特に助言指導事項の再チェックの徹底。

授業計画

1. 研究の継続と個別・小グループ指導（1）
2. 研究の継続と個別・小グループ指導（2）
3. 研究の継続と個別・小グループ指導（3）
4. 研究の継続と個別・小グループ指導（4）
5. 研究の継続と個別・小グループ指導（5）
6. 研究の継続と個別・小グループ指導（6）
7. 研究の継続と個別・小グループ指導（7）
8. 研究成果の中間発表
9. 研究レポート（論文）作成指導（1）
10. 研究レポート（論文）作成指導（2）
11. 研究レポート（論文）作成指導（3）
12. 研究レポート（論文）作成指導（4）
13. 研究レポート（論文）作成指導（5）
14. 研究レポート（論文）製本
15. 研究成果の発表

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) レポート:80% (2) 出席率:20%

卒業研究(地域援助心理学) I

SMPW-W-300

担当者：堀 恭子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(W学科)：その他

講義概要

1. 内容

自分がテーマとしたいことをどうやって研究の形にするのかを学んでいく。具体的には各自自分のテーマに関連する先行文献を探し、これまで行われてきた研究を把握したうえで、自身の研究テーマとその研究方法について検討していく

2. 学びの意義と目標

心理学的視点を持った研究に取り掛かる。自身の研究を進めるために、集めた資料から確実に言えること・言えないことを整理したうえで、具体的な研究内容を決定していく。発表においては、他者にも論理的に説明できるようになることを目的とする。

受講生に対する要望

自分の興味・関心を具体的な研究にしていく第1歩を踏み出す重要な時期です。授業外でも必要な時には連絡を取り合って共に進めてゆきたいと考えています。また互いに意見を述べ合うことから新しい学びをつかんでほしいと考えています。

キーワード

(1) 問いの探求 (2) 先行研究の検討 (3) 研究方法の検討

事前学習(予習)

研究を進めるために、各自のテーマに沿った学習が必要とされ、学んだことをまとめて発表する準備を行うなど授業外の学習機会が重要となる

復習についての指示

授業内で議論されたことでわからないこと・気になったことをそのままにせず、すぐに調べるなどして、自身の学習を深めるヒントにすることを期待する

授業計画

1. オリエンテーション
2. 研究内容について発表とディスカッション (1)
3. 研究内容について発表とディスカッション (2)
4. 研究内容について発表とディスカッション (3)
5. 研究内容について発表とディスカッション (4)
6. 研究内容について発表とディスカッション (5)
7. 研究内容について発表とディスカッション (6)
8. 研究内容について発表とディスカッション (7)
9. 研究内容について発表とディスカッション (8)
10. 研究内容について発表とディスカッション (9)
11. 研究経過報告とディスカッション (1)
12. 研究経過報告とディスカッション (2)
13. 研究経過報告とディスカッション (3)
14. 研究経過報告とディスカッション (4)
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 出席:20% (2) 報告:80%

卒業研究(地域福祉論) I

SMPW-W-300

担当者：牛津 信忠

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

専門演習IIでテーマ設定して書き上げたレポートをもとに、それをさらに掘り下げて、専門的な研究領域を持つことを示す卒業レポートを作成して行くための準備を行う。専門演習で研究した内容をさらに質量ともに高度化させて、自分の見解をまとめて行く。

2. 学びの意義と目標

専門演習で研究した地域福祉の課題を体系的に学び進め、章立て、節立てを明確にし、それぞれについて個別指導を受けながら全体のレポート構成を固めていく。そのプロセスで他の受講者からの批判検討を自ら咀嚼して行く努力をし、それによる自己研鑽を図る。

受講生に対する要望

このゼミは、個人の感性を大切にしながら個別テーマを選択し、自らの課題の添いながらも、他のゼミ生との良きコミュニケーションによって、課題内容を共有できる学習を進めていくことを受講生に希望している。個と共同の同時存在の中で自己の研鑽を深めていってほしい。

キーワード

(1) 個・共同 (2) 相互の人格性 (3) 相互包摂 (4) コミュニティ (5) インクルージョン

事前学習(予習)

自分の研究(計画)や将来については、担当教員とEメールを用いて密に連絡をとること。発表内容、レポート資料、就職等、共に相談しながらゼミを進める。

復習についての指示

図書館を用いて資料探しを教員の指導の下に行うので、その際に見出した資料を読みこなしておく。発表課題を他の学友の見解を交えて絶えず纏め研究メモを創っていき、発表時の準備を怠りなく行う。

授業計画

1. 専門演習で設定したテーマ及び概要についての確認。
2. テーマ別グループへの指導及び個別指導
3. テーマ別グループへの指導及び個別指導
4. テーマ別グループへの指導及び個別指導
5. 発表と受講者間討論
6. 発表と受講者間討論
7. 発表と受講者間の討論
8. テーマ別グループへの指導及び個別指導
9. 発表と受講者間の討論
10. 発表と受講者間の討論
11. 全体構成の確認・参考文献のチェック・補足
12. 個別発表と受講者間の討論
13. 個別発表と受講者間の討論
14. 全体構成の確認・参考文献のチェック・補足
15. 現段階におけるまとめとしてのレポート作成(個別指導)

教科書

牛津信忠著 『社会福祉における相互的人格主義II』 (久美出版)
テーマごとに参考文献を紹介する。

評価方法

(1) 研究発表: 40% 専門演習の内容を基礎に段階的に理論的な思考を積み上げる。(2) ディスカッションによる授業貢献: 20% 毎回他のゼミ生の発表を中心に議論する。(3) 学期末レポート: 40% 各学期ごとに自己のテーマに即したレポートを課す。

卒業研究(地域福祉論)Ⅱ

SMPW-W-400

担当者：牛津 信忠

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

卒業研究(地域福祉論)Ⅰにおける研究テーマをいっそう深め、その研究の地域福祉論上の位置と役割を明確にしていくことを目指し研究を進める。専門研究の糸口を開く演習Ⅰに基礎付けられ、さらに学びを深め卒業研究Ⅱとして、選び取った専門課題についての研究レポートをまとめていく。

2. 学びの意義と目標

自らの研究が、地域福祉の形成と質的向上のためにどのようなインパクトを与えることができるかを、それぞれ課題解明を通して具体的に問う。さらに、関連資料の収集と読破により自らの学びを独自性のある研究へと高める努力をする。それと共に、自らの研究の価値論上の位置づけにも注意を向け、前提されている価値についても深く学ぶ。

受講生に対する要望

このゼミは地域福祉の学びを課題としながら、現代社会に生きる生の態度を学んで行くことを基底的に求める。一人一人の人間らしい人格性の育成を人とのかわり方を深基から学んでいってほしい。それが地域に良き市民として生きる基本的態度となるよう希望する。

キーワード

(1)主体的共同 (2)相互的人格主義 (3)相互包摂 (4)トポス (5)Capabilities[潜在力]

事前学習(予習)

地域生活の日常の中で積極的に福祉観を磨いてほしい。そこで問題意識を培うとともに、それに即して絶えず演習を振り返り、自分の意見を持つよう努力すること。

復習についての指示

いつも社会と人を見つめ、相互包摂的にしかし主体手共同の中に生きること忘れずに心掛ける。知識に変調をきたさない、生きる態度の学びを社会に巣立とうとする諸君には求めたい。この基本的視座のもとに知識の時限の資料を読み進めておくこと。

授業計画

1. 自己のテーマの再確認
2. 地域福祉上の位置と役割を考える
3. 各自の発表と討論
4. 各自の発表と討論
5. 各自の発表と討論
6. 個別指導 テーマの関連知識の集積
7. 同 個別指導
8. 各自の発表
9. 各自の発表
10. 演習参加者の研究領域の接点
11. 地域福祉ネットワーキングの可能性を探る
12. 各自の価値前提についての討議
13. レポート作成の個別指導
14. レポート作成の個別指導
15. 個別に自分の研究のまとめの短いコメント[全員]

教科書

授業の中で指示する
最終レポートをまとめるために必要な資料収集について示唆を提供する。

評価方法

(1)授業時の発表:20%;これまでの発表やレポートをまとめていく作業に入る。(2)ディスカッション内容:15%;他のゼミ生の発表を基軸に議論をしつつ、自己の研究に役立てる。(3)資料収集力:15%;できる限りの手段を用いた資料収集力を鍛える。(4)卒業レポート:50%;最終レポートの中にこれまでの発表やレポートを役立て総合化。

卒業研究(福祉環境論) I

SMPW-W-300

担当者：野口 祐子

開設期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

障がい者・高齢者等が直面する諸問題を、まち・住まい・道具等の物理的な環境の視点で捉え、研究を行います。レポート作成、発表、ディスカッションを繰り返し、研究の進め方についての理解をいっそう深めながら、各自の研究を充実させ、卒業研究レポートや卒業論文に向けた基礎固めを行います。これまで専門演習で学んできたことを基礎として、個人で自立して研究を行い、4年生の卒業研究IIや卒業論文まで継続します。

2. 学びの意義と目標

研究の中身を充実させ、着実に研究を進めていきます。そして、学生同士で主体的にディスカッションを行い、自分の言葉で成果をまとめていくことを目標にします。

受講生に対する要望

研究、発表、ディスカッション等ゼミの全般にわたって主体的にかかわることを求めます。

キーワード

(1)障がい者・高齢者 (2)環境整備 (3)バリアフリー (4)ユニバーサルデザイン (5)研究手法の基礎

事前学習(予習)

専門演習IIで行った研究を振り返り、課題を明らかにし、目標を持って卒業研究Iに臨んでください。

復習についての指示

関心があるテーマについて、関連する文献を調べるようにしましょう。

授業計画

1. ゼミの進め方について
2. これまでの研究についての振り返り
3. 研究テーマについて(発表とディスカッション)
4. 研究目的と研究方法について(発表とディスカッション)
5. 研究計画について(発表とディスカッション)
6. 研究経過報告(発表とディスカッション)
7. 研究経過報告(発表とディスカッション)
8. 中間発表 その1
9. 研究経過報告(発表とディスカッション)
10. 研究経過報告(発表とディスカッション)
11. 中間発表 その2
12. 研究経過報告(発表とディスカッション)
13. 研究発表、レポート作成、研究のまとめ方について
14. 研究発表 その1
15. 研究発表 その2

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席:20% (2)参加姿勢:20% (3)レポート:30% (4)発表:30%
- 出席2/3以上を前提とします。

卒業研究(福祉環境論)Ⅱ

SMPW-W-400

担当者：野口 祐子

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

障がい者・高齢者等が直面する諸問題を、まち・住まい・道具等の物理的な環境の視点で捉え、研究を行います。卒業研究Ⅰに引き続き、レポート作成、発表、ディスカッションを繰り返し、研究の進め方についての理解をいっそう深めながら、各自の研究を充実させ、卒業研究レポートの完成または卒業論文の基礎固めを行います。また、各自の研究とは別に、数回グループ研究を行い、学生主体でディスカッションや見学会などの企画を行います。

2. 学びの意義と目標

卒業研究Ⅰで取り組んだ研究をより充実させ、卒業研究、卒業論文としてまとめます。これまで学んできたことを基礎として、スパイラルアップしながら、いっそう研究を充実させて行きます。そして、研究の意義や面白さ、充実感を体験していただきたいと思います。

受講生に対する要望

この授業を通して、自分の言葉で論じ、主体的にディスカッションができるようにしましょう。

キーワード

(1)障がい者・高齢者 (2)環境整備 (3)バリアフリー (4)ユニバーサルデザイン (5)研究手法の習得

事前学習(予習)

これまでの研究を振り返り、研究の完成に向け課題を明らかにし、目標を持って授業に臨んで下さい。

復習についての指示

文献調査やヒアリング調査など、各自が計画にそって研究を進めてください。

授業計画

1. ゼミの進め方について
2. これまでの研究についての振り返り
3. グループ研究の検討
4. 研究テーマ、目的、方法等について（発表とディスカッション）
5. グループ研究 その1
6. 研究経過報告（発表とディスカッション）
7. 研究経過報告（発表とディスカッション）
8. 中間発表
9. グループ研究 その2
10. 研究経過報告（発表とディスカッション）
11. 研究経過報告（発表とディスカッション）
12. グループ研究 その3
13. 発表準備
14. 研究発表 その1
15. 研究発表 その2

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席:20% (2)参加姿勢:20% (3)レポート:30% (4)発表:30%
- 出席2/3以上を前提とします。

卒業研究(福祉倫理)Ⅱ

SMPW-W-400

担当者：阿部 洋治

開設期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

福祉倫理に関するテーマを各自で探求し、卒業論文、卒業研究の作成のために発表と討論を行う。

2. 学びの意義と目標

卒業研究、あるいは卒業論文執筆に向けてリサーチと発表を進める。

受講生に対する要望

追及してきたテーマについて、これまでの研究を踏まえて総括に入ってください。

キーワード

(1) 倫理 (2) 死生学 (3) 正義 (4) 環境

事前学習（予習）

見出したテーマを掘り下げるために図書館を活用して文献にあたり、発表に臨むこと。

復習についての指示

討論を踏まえてレポートにまとめて提出すること。

授業計画

1. 序
2. 発表と討論
3. 発表と討論
4. 発表と討論
5. 発表と討論
6. 発表と討論
7. 発表と討論
8. 発表と討論
9. 発表と討論
10. 発表と討論
11. 発表と討論
12. 発表と討論
13. 発表と討論
14. 発表と討論
15. 総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 演習参加：70%：発表、討論 (2) 学期末レポート：30%

地域福祉論

SWEL-G-361

担当者：牛津 信忠

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：福祉選択科目、
社会福祉主事任用資格：選択科目、
社会福祉士国家試験受験資格：必修科目、
精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

・現代社会における地域福祉の実践・地域福祉の基本的考え方・
地域福祉の主体と対象・地域福祉に係る組織、団体及び専門職や
地域住民・地域福祉の推進方法・地域福祉計画と地域福祉活動計
画

2. 学びの意義と目標

・地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支
援、地域移行、社会的包摂等を含む。）について理解する。・地域福祉の
主体と対象について理解する。・地域福祉に係る組織、団体及び専門職の
役割と実際について理解する。・地域福祉の推進方法（福祉ニーズの把握
方法、ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発、地域トータルケ
アシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む）について理解する。
・地域福祉計画と地域福祉活動計画について理解する。（講義の順番は理
解度に応じて変更されることがある）

受講生に対する要望

生活の場としての地域社会を自らの体験を通じて具体的に見つめ、そこで
課題とされ、或いはされてきた問題状況を念頭に学んでいってほしい。単
なる知識の増大を図るのみではなく実践課題をつかみ、その解決への一市
民としての自覚・取り組みを忘却することなく、学びを進めること。

キーワード

(1) ノーマライゼーション (2) 主体的共同 (3) ネットワーキング
(4) 地域福祉ニーズ (5) トータルケアシステム

事前学習（予習）

各項目ごとの関連文献やマスコミ記事等に触れ、認識を深めてお
くこと。毎回配布するレジュメの未終了箇所を熟読し問題意識を
持って次の授業に出席すること。

復習についての指示

授業時に配布のレジュメを用いて、毎回授業を振り返り、知識の
確実化、関連事項を課題視して思考を深めていくこと。3回に一度
行う終了箇所の小テストの準備を通して行っていくこと。

授業計画

1. 現代社会における地域福祉の実践 (1) 社会の変化と地域
福祉の課題
2. 現代社会における地域福祉の実践 (2) 地域における多様
な福祉課題への対応
3. 地域福祉の基本的考え方 (1) 地域福祉理論の発展と広が
り
4. 地域福祉の基本的考え方 (2) 地域福祉の理念と概念
5. 地域福祉の主体と対象 (1) 地域福祉の主体
6. 地域福祉の主体と対象 (2) 地域福祉の対象
7. 地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民 (1) 行
政組織と民間組織の役割
8. 地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民 (2) 専
門職や地域住民の役割
9. 地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民 (3) ボ
ランティア活動の考え方と推進方法
10. 地域福祉の推進方法 (1) 地域福祉の方法論
11. 地域福祉の推進方法 (2) 地域における福祉ニーズの把
握方法① 地域福祉におけるアウトリーチの意義
12. 地域福祉の推進方法 (3) 地域における福祉ニーズの把
握方法② 質的な福祉ニーズの把握方法と実際
13. 地域福祉の推進方法 (4) 地域における福祉ニーズの把
握方法③ 量的な福祉ニーズの把握方法と実際
14. 地域福祉の推進方法 (5) ネットワーキング①ネットワ
ーキングの意義と方法
15. 地域福祉の推進方法 (6) ネットワーキング②ネットワ
ーキングの実際
16. 地域福祉の推進方法 (7) 社会資源の活用・調整・開発
① 社会資源の概要
17. 地域福祉の推進方法 (8) 社会資源の活用・調整・開発
② 社会資源の活用法とコーディネート
18. 地域福祉の推進方法 (9) 社会資源の活用・調整・開発
③ 福祉サービスの開発
19. 地域福祉の推進方法 (10) 社会資源の活用・調整・開
発④ まちづくりとソーシャルアクション
20. 地域福祉の推進方法 (11) 地域トータルケアシステム
の構築方法と実際①地域トータルケアシステムの必要性と考え方
21. 地域福祉の推進方法 (12) 地域トータルケアシステム
の構築方法と実際②地域トータルケアシステムの展開方法
22. 地域福祉の推進方法 (13) 地域トータルケアシステム
の構築方法と実際③地域トータルケアシステムの事例
23. 地域福祉の推進方法 (14) 地域における福祉サービ
スの評価方法と実際①福祉サービスの評価の意義とそのシステム
24. 地域福祉の推進方法 (15) 地域における福祉サービ
スの評価方法と実際②福祉サービスの評価の方法と実際
25. 地域福祉の推進方法 (16) 地域における福祉サービ
スの評価方法と実際③福祉サービスのプログラム評価の展開
26. 地域福祉の推進方法 (17) 地域福祉の財源
27. 地域福祉計画と地域福祉活動計画 (1) 地域福祉計画の
法制化と策定の意義
28. 地域福祉計画と地域福祉活動計画 (2) 市町村地域福祉
計画・都道府県地域福祉支援計画の策定
29. 地域福祉計画と地域福祉活動計画 (3) 地域福祉活動計
画と地区福祉計画の意義と内容
30. これからの地域福祉のあり方

教科書

授業の中で指示する
スライドショー（パワーポイントによる）を主とするが、関連の
プリントをも配布する。

評価方法

(1) 授業出席率:20% 出席表に名前と番号を書き込む形で出席を取る。(2) 授業内小テスト:20% 授業の区切りにあ
たるときに20分程度で行う復習テスト。(3) 授業受講態度:10% 出席表による出席把握により、個人の態度を把握で
きる。(4) 授業中の質問:10% 授業中に手を挙げて質問することも歓迎する。(5) 期末テスト成績:40% 授業全体
を対象とし、知識のみならず、思考の力を重視する。

担当者：松原 望

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：情報を整理・分析し、説明する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(W学科)：基礎科目、
認定心理士認定資格(W学科)：副次科目

講義概要

1. 内容

統計学は情報の学問です。「最強」などと云われていますが、私たちの日常生活を通して学ぶことでより面白い知的世界が広がります。今の社会を生き抜くために必要な情報の基礎知識を学んで、情報社会で豊かで主体的な人生を築きましょう。初心者歓迎。数学知識不要。

2. 学びの意義と目標

統計学を通じてコンピュータ力を高め、情報社会で生き活躍する能力を育てる。就職用お買い得科目。

受講生に対する要望

USBメモリ持参。できれば自宅で添付ファイル受け取り可能に。テキストは購入して下さい。あと、健脚。

キーワード

(1) エクセル (2) 数字に強くなる (3) 周囲から信頼される知識 (4) データによるディスカッション (5) 就職

事前学習（予習）

テキストを事前に10分だけ見ておいてください。「眺める」だけでも有効。

復習についての指示

レポートおよび復習によって、授業内容を深く理解する。自宅でも可能です。

授業計画

1. 少子・高齢化の統計（見方・考え方）
2. なぜ情報が必要か
3. 環境・資源の統計（見方・考え方）
4. 日常生活と情報
5. 経済統計（見方・考え方）
6. 情報産業
7. 地域の統計（見方・考え方）
8. 足で情報を取る
9. 金融・経営の統計（見方・考え方）
10. 情報化の進展
11. 広告・マーケティングの統計（見方・考え方）
12. 情報モラル
13. 教育・心理の統計（見方・考え方）
14. 情報技術（教育）
15. 社会調査の統計（見方・考え方）
16. 情報技術（社会調査）
17. 医療の統計（見方・考え方）
18. 情報技術（医療）
19. 福祉・介護の統計（見方・考え方）
20. 情報技術（福祉・介護）
21. 体育・スポーツの統計（見方・考え方）
22. 情報技術（エンタテインメント）
23. 統計データの扱い方
24. トピック：情報技術者の業務
25. 平均と分散（見方・考え方）
26. トピック：情報技術者の責任
27. 相関関係と相関係数（見方・考え方）
28. トピック：情報産業と法律
29. 回帰方程式と予測（見方・考え方）
30. トピック：情報技術者と人生

教科書

松原望 『はじめよう！統計学超入門』（技術評論社）

評価方法

(1) 出席:25%; 8割必要 (2) レポート:25%; 簡単なもの数回 (3) 試験:25%; エクセル、ホームページを利用 (4) 熱意:25%; 履修したので熱意はあると判断

人間関係論

SOCI-L-200

担当者：中嶋 励子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(W学科)：選択科目

講義概要

1. 内容

私達は日頃、さまざまな他者と関わりながら、そして、社会の動きに関わる行動をとりながら生活している。このような他者との関係や社会の動きに関わる行動について、実証的データに基づく社会心理分野の研究事例を紹介しながら、授業を進めていく。

2. 学びの意義と目標

・対人関係、コミュニケーション、ストレスとストレス対処、リスク認知、災害心理学などについて、社会心理学の基礎知識を習得する。・先行研究事例で用いられている主な研究方法や測定尺度と分析について、基本的な部分を理解する。

受講生に対する要望

・授業への出席は厳守すること。遅刻・早退・授業中の私語には厳禁。・中間・期末課題は、指示する内容・締切を厳守すること。・授業内で、グループでの話し合いをする場合、積極的に参加することを求める。

キーワード

(1)人間関係 (2)コミュニケーション (3)対人認知 (4)社会心理学 (5)リスクと災害

事前学習（予習）

翌週の授業内容に関連する資料（新聞記事等）を配布する場合、事前に読むこと。翌週の授業内容に関連する身近な事例を考えてくること。

復習についての指示

その週の授業内容の主要な点は、授業内で提出を求めるコメントのテーマとして提示するので、その内容を復習しておくこと。特に、自分自身の経験や、自分の周囲、社会で起きていることと授業内容に関連付けて、まとめること。中間・期末課題レポートには、授業内容の理解度をみるので、授業内容を復習しながら取り組むこと。

授業計画

1. 授業ガイダンス：授業の進め方など講義ガイダンス
2. 人は他者に出会ったときどのように推論するか
3. 人は他者をどのようにタイプ分けするか
4. ステレオタイプの問題点とその低減
5. 魅対人的影響
6. 人間関係が作業に及ぼす影響
7. 作業の能率・疲労
8. ヒューマン・エラー
9. コミュニケーションとは何か・言語によるコミュニケーション
10. 言語によるコミュニケーションの事例
11. 非言語によるコミュニケーション
12. 非言語によるコミュニケーションの事例
13. 説得と態度変容
14. 消費者の心理と行動
15. 消費行動に影響を与える要因
16. 消費行動の測定方法と事例
17. うわさが伝わる背景
18. インターネット・コミュニケーションとうわさの事例
19. パニックとは：集団パニックが起きやすい状況
20. パニックの研究事例
21. リスク認知：人はどのように危険を認知し、行動するのか
22. リスク認知：リスクのものとさしと人々の認知
23. 災害心理学：災害前の心理と行動
24. 災害心理学：災害後の心理と行動
25. 大災害と人々の社会心理
26. ストレスとは何か・ストレス・コーピング
27. 社ストレス・コーピングの具体例
28. 社会心理学の主な研究方法：実験法・観察法
29. 社会心理学の主な研究方法：質問紙法、尺度について
30. 授業のまとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)平常点:40%：・毎回の授業内に提出を求めるコメント・ペーパーの内容により評価 (2)課題レポート:60%:中間レポート及び期末レポートの内容により評価を行う

課題レポートの内容と提出方法、提出期限は授業内で提示することを厳守すること。

人間福祉総論

HMSC-W-100

担当者：助川 征雄

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

福祉のこころ：福祉のこころを育み、人格を高める

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

人間福祉学科1年生を対象に、人間福祉学について総合的に理解させるための科目である。具体的には、社会福祉の仕組み、歴史と入門的実践理論、専門援助技術、社会福祉各領域別の実践紹介、専門資格取得、さらには、進路選択（就職、進学等）、研究法、図書館等の利用の仕方などについても多面的に取り上げる。

2. 学びの意義と目標

人間福祉は、さまざまな社会政治経済情勢の変動の中で、人間尊重を具現化し続け、真の福祉国家の樹立をめざす人類の英知であることを深く認識すること。

受講生に対する要望

1年制にとって、人間福祉を総合的に理解するための最重要科目である。今後の進路選択にも大きく影響するので、全出席と積極的な受講を強く望む。

キーワード

(1)人間福祉 (2)相互的人格主義 (3)援助理論 (4)援助技術 (5)人間福祉研究

事前学習（予習）

各授業ごとに（2回目から）原則としてあらかじめレジメを配布するので、目を通し、疑問点などを洗い出しておくこと。

復習についての指示

授業内容は多岐に分かれているので、必ず、終了後は、資料の読み返しや要点確認を行うこと。また、適宜、指定図書、居住地の福祉情報の把握、ボランティア活動、社会福祉施設見学などを踏まえた自己課題を選択させ、小レポートを課すので、これらに積極的に取り組むこと。

授業計画

1. オリエンテーション（社会福祉の仕組み）
2. 図書館の使い方（演習を含む）
3. 人間福祉とは何か（歴史と視点）
4. 人間福祉とは何か（社会保障と公的扶助制度）
5. 人間福祉とは何か（専門援助の方法）
6. 人間福祉とは何か（児童福祉・家庭福祉）
7. 人間福祉とは何か（高齢者福祉）
8. 人間福祉とは何か（障がい者福祉1）
9. 人間福祉とは何か（障がい者福祉2）
10. 人間福祉とは何か（精神障がい者福祉1）
11. 人間福祉とは何か（精神障がい者福祉2）
12. 人間福祉と心理系の学び（1）
13. 人間福祉と心理系の学び（2）
14. 人間福祉と心理系の学び（3）
15. 人間福祉と心理系の学び（4）
16. 人間福祉と社会生活系の学び（1）
17. 人間福祉と社会生活系の学び（2）
18. 人間福祉と社会生活系の学び（3）
19. 人間福祉と社会生活系の学び（4）
20. 人間福祉と社会生活系の学び（5）
21. 人間福祉と社会生活系の学び（6）
22. 国家試験（専門資格取得）について
23. 社会福祉士とその職域
24. 精神保健福祉士とその職域
25. 心理系専門職とその職域
26. 福祉住環境コーディネーター等資格とその職域
27. 進路ガイダンス（キャリアサポートセンター1）
28. 進路ガイダンス（キャリアサポートセンター2）
29. 特別講義（福祉文化論等）
30. 研究（進学等）について、まとめ（レポート）

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1) 期末レポート:50% (2) 出席:50%

人間福祉の探求

HUWL-G-261

担当者：古谷野 亘

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：情報を整理・分析し、説明する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

大学院人間福祉学研究科の教員が輪番で教壇に立ち、最先端の研究の成果を紹介する。講義は、人間福祉学研究科が扱う「福祉学分野」「児童学分野」「臨床死生学・スピリチュアルケア分野」の中から1回ごとに異なるテーマで行われる。

2. 学びの意義と目標

人間福祉学の最先端の研究の成果を知るとともに、研究することの意味と楽しさを理解する。

受講生に対する要望

毎回講義に出席して、各教員の研究への取り組みを知り、研究することの楽しさにふれてほしい。

キーワード

事前学習（予習）

今回の担当教員の著作に目を通しておくとよい。

復習についての指示

毎回の講義を振り返り、自分の意見をまとめる復習が必要。

授業計画

1. 研究するということ
2. 福祉理論のなかの地域福祉的要素
3. 高齢社会とユニバーサルデザイン
4. 高齢社会の元気高齢者
5. 精神保健福祉研究（イギリスのリカバリーリサーチ）
6. 精神保健福祉における新たな支援関係：プロシューマーの萌芽とうねり
7. 健康と環境
8. 生きにくさを抱える子どもの現代的課題：出生前診断と障がい児
9. 子どもを研究する視座
10. 子ども虐待とネグレクト
11. 近代教育思想家の理論に学ぶ教育哲学
12. 児童文学に見る子どもと他者
13. 対人援助職のメンタルヘルス
14. 自殺予防
15. 死の臨床とスピリチュアルケア

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席点:60% (2)レポート:40%

担当者：山本 寿子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人と社会の理解：人を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(W学科)：選択科目

講義概要

1. 内容

この授業では、ヒトの乳児期から児童期までにおける認知機能の発達を扱う。子どもの目から捉えた世界とはどのようなものか、様々なことができるようになってゆく過程を下支えする要因は何かという観点から、発達心理学の知見を紹介する。

2. 学びの意義と目標

発達心理学を学ぶことは、単に子どもの特性についての知識を得るだけでなく、人間そのものを知ることに繋がる。子どもの姿を通じて、人間がなぜそのような行動を取るか、築かれてきた文化の背後に何があるのかを考える力を養うことを目標とする。

受講生に対する要望

周囲の子どもの行動を観察しながら、あるいは自分が幼かった頃のエピソードを思い出しながら、子どもの見ている世界に関心を持った上で積極的に授業内容に取り組んでほしい。

キーワード

(1)発達 (2)認知 (3)情動

事前学習（予習）

今回の授業で扱うテーマに関する情報を集め、自分の意見を考えておくこと。授業冒頭で小レポートを課することがある。

復習についての指示

小テストによる確認を行うので、ノートやプリントを使って講義内容の復習をしておくこと。

授業計画

1. ガイダンス
2. 認知発達とは
3. 視覚の発達
4. 表情と情動の知覚
5. 音の知覚
6. 言語獲得
7. 数の概念
8. 科学についての素朴概念
9. 心の理論と社会性の発達
10. 自己理解
11. 子どもをめぐるコミュニケーション
12. 発達障害を考える
13. 遺伝と環境
14. メディアと発達
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)授業内課題:40%:小テスト, 小レポート (2)期末試験:60%

担当者：堀 恭子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人と社会の理解：人を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(W学科)：選択科目

講義概要

1. 内容

発達心理学ではヒトが誕生してから死を迎えるまでの心身構造や機能の変化について心理学的側面から検討します。発達のメカニズムについて研究方法の解説も交えながら学び、身近にある問題についても一緒に考えていきます。発達心理学Bでは成人に達してから死に至るまでの発達について、生涯発達の考え方に注目しながら学びます。

2. 学びの意義と目標

個人としての成人理解だけでなく、乳幼児・児童・生徒の家族としての成人や中年と高齢の親子を理解することは、個人理解だけでなく、個人を取り巻く人間関係を理解することになり、ケースをより深く理解することにつながります。講義を通して得た基礎知識とその活用によって、人間関係理解に視点が移動することを目標とします

受講生に対する要望

講義に参加して提供された話題について考える習慣を身につけてほしいと思っていますので、出席や出席態度を重視します。

キーワード

(1)生涯発達 (2)心身構造と機能変化のメカニズム (3)関係性の理解 (4)専門知識と課題解決

事前学習（予習）

講義で扱われる内容に関するプリントを配布します。プリントについて講師が設定した問いに対する回答、疑問に思った事柄、まだよく分からない事柄に関するショートレポートを提出してもらいます。

復習についての指示

講義内容について、ショートレポートを活用して復習と定着をはかり、中間・期末のまとめによって知識の整理を行います。

授業計画

1. オリエンテーション：発達とは何か・生涯発達の考え方
2. 生涯発達心理学の基礎：成人期以降の発達の歴史
3. 生涯発達心理学の基礎：発達理論と発達課題
4. 青年期の発達（1）自立と巣立ちを理解する
5. 青年期の発達（2）ライフサイクルと心身の発達
6. 青年期の課題・まとめ
7. 成人期の発達（1）心身の変化とところ
8. 成人期の発達（2）関係性の変化とところ
9. 成人期の課題・まとめ
10. 老年期の発達（1）老いとは何か①身体の変化
11. 老年期の発達（2）老いとは何か②認知機能の変化
12. 老年期の発達（3）老いとは何か③知的機能の変化
13. 老年期の問題を考える（1）：適応・高齢期の悩み
14. 老年期の問題を考える（2）：DVD視聴
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)講義内課題:30% (2)中間レポート:40% (3)期末レポート:30%

担当者：森 容子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本授業では、体の部位、症状や怪我に関する医療英語及び介護器具などの福祉に関する英単語を学習すると同時に、病院や福祉施設で必要とされる英会話を習得する。

2. 学びの意義と目標

福祉に関する英語を習得することによって、福祉英語検定対策をするとともに、現場で困らない基礎的な英語力を養う。

受講生に対する要望

出席を重視します。

キーワード

事前学習（予習）

その都度授業中に指示する

復習についての指示

その都度授業中に指示する

授業計画

1. 授業を始めるにあたって
2. 基本コミュニケーションに必要な英語表現
3. 体の部位に関する英単語
4. 病状や怪我に関する英単語
5. 診断時の会話
6. リハビリでの会話
7. 介護福祉関連の英単語
8. 福祉英語検定試験対策 1
9. 福祉英語検定対策 2
10. 医療関連の語彙の覚え方
11. 基本動作の会話表現
12. 訪問と訪問予約
13. 個人情報の聞き方
14. 施設内道案内
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席参加度:30% (2)宿題:30% (3)テスト:40%

担当者：森 容子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本授業では、福祉英語 A に続いて、さらに医療英語及び介護・福祉関連の英単語の知識を深めると同時に、病院や福祉施設で必要とされる英会話を習得する。今回はリーディングとリスニングの学習も含める。

2. 学びの意義と目標

福祉に関する英語を習得することによって、福祉英語検定対策をするとともに、現場で困らない基礎的な英語力を養う。

受講生に対する要望

出席を重視します。できれば福祉英語 A をとった学生に引き続き受講してもらいたいが、興味とやる気さえあれば誰でも参加可。

キーワード

事前学習（予習）

その都度授業中に指示する

復習についての指示

その都度授業中に指示する

授業計画

1. 授業を始めるにあたって
2. 福祉関連の英単語
3. 介護関連の英単語
4. 映画やドラマを通して福祉英語を学ぶ 1
5. 映画やドラマを通して福祉英語を学ぶ 2
6. 薬と薬に関連した英会話
7. 福祉施設で使える英語表現
8. 福祉英語検定試験対策 1
9. 福祉英語検定対策 2
10. 福祉関連の語彙の覚え方
11. バイタルサイン
12. 福祉関連の英語情報を読解 1
13. 福祉関連の英語情報を読解 2
14. 介護の説明
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 出席参加度:30% (2) 宿題:30% (3) テスト:40%

担当者：野口 祐子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

本講義では、障がい者、高齢者などが直面する生活上の様々な困難を環境の視点で捉え、障がい者、高齢者を含む全ての人々が豊かに暮らすための環境整備のあり方について学びます。理解を深めるため、講義にあわせ、実習等具体的な課題を盛り込みながら授業を進めていきます。

2. 学びの意義と目標

障がい者や高齢者、さらにはすべての人が豊かに暮らすための環境整備について、その基礎にある考え方や基本的な解決方法の理解を目標とします。すべての授業を受講してはじめて、それらを理解することができますので、全出席を目指してください。

受講生に対する要望

実習は講義を聞かなければできません。また、授業を聞きながらプリントを完成させると、それがノートになります。講義と実習で、知識をしっかり定着させるようにしましょう。

キーワード

(1)障がい者 (2)高齢者 (3)バリアフリー (4)ユニバーサルデザイン (5)福祉のまちづくり

事前学習（予習）

実習等は配布されたプリントやノートで予習し、十分理解してからのぞみましょう。

復習についての指示

毎回、授業中に完成させたプリントを整理し、さらに調べたことを書き込むなどして自分のノートを完成させてください。

授業計画

1. 福祉環境論とは
2. 環境と障がい、ノーマライゼーションと環境整備
3. 街の中のバリアフリー その1
4. 街の中のバリアフリー その2
5. 福祉のまちづくりの歴史と制度
6. 環境と障がいの事例
7. 実習事前学習
8. 実習1：車いす体験、視覚障害体験
9. 実習2：バリアフリー調査
10. バリアフリー調査発表
11. ノーマライゼーションと福祉のまちづくりについてのまとめ
12. ユニバーサルデザインの成り立ちと理念
13. 実習3：ユニバーサルデザイン実習
14. 空間と心理、福祉施設の空間構成
15. 期末試験

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席:30% (2)実習レポート:30% (3)期末試験:30% (4)発表:10%

担当者：山田 義文

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

住まいは、私たちの日々の営みの基本です。乳幼児や高齢の人、障がいを持つなど誰もが快適で安心できる生活を送る続けるためには、その基本となる住環境が十分に整っていることが前提となります。それには、住環境を利用する様々な立場の人の視点に改めて立ち返り、多角的な視点から検討を重ねることが必要になります。福祉環境論Bを学んだ意義を今後も皆さんが抱き続けられるよう、長期的な視点に立った考察を深めてゆきます。

2. 学びの意義と目標

身近な住環境における現状の問題点を的確に把握できる視点を身につけ、それに対する具体的な改善案を示せるようになることを本講義の目標とします。講義では最新のトピックを紹介しながらスライドも活用することで、実際の住環境改善状況や問題点を分かりやすく示し、学生が主体となり、自身の考えを展開してゆけるように配慮します。

受講生に対する要望

数値や専門用語などを暗記するのではなく、講義で紹介した事例を身近な住環境の中で問題意識を持ちながら各自で検証してください。困ったことや質問などが生じた場合は、気軽に相談してください。グループワークも適宜織り交ぜます。学生間で活発に意見交換をしながら相互に高めあえる講義環境づくりに協力してください。

キーワード

(1)高齢者 (2)住宅改修 (3)介護保険制度 (4)バリアフリー (5)ユニバーサルデザイン

事前学習（予習）

シラバスの授業計画の中に含まれる福祉環境に関わる用語の意味や背景を各自で調べ、講義前により深く学びたい部分を明確にしておくこと。

復習についての指示

配布プリント末尾の確認問題を必ず解き、講義で理解できなかった部分を各自で確認し、疑問点は質問すること。また、身近な住環境に対して、講義で学んだ視点を踏まえて検証することも講義の理解を深める上で重要な復習になります。節目ごとにテーマを決め、各自でリアクションペーパーに考察する機会を設けます。その内容を書画カメラを用いて全体にも紹介します。他の学生の考察内容と比較することを通じ、復習と同時に自身の考察をさらに深めること。

授業計画

1. オリエンテーション。スケジュールと講義概要、講義のねらいと成績評価について
2. 福祉環境論Bを学ぶ意義と社会における位置付け
3. 高齢の人や障がいを持つ人の心身機能と行動特性
4. 身近な住環境に潜在する様々な障壁
5. バリアフリーデザインに関する基本的な考え方
6. 出入口・通路・廊下における住環境整備方法
7. 住宅内の居室やサニタリースペースにおける住環境整備方法
8. 福祉用具を用いた住環境改善方法
9. 介護保険制度を利用した高齢者住宅改修の現状と効果
10. 演習 身近な住環境の改善（1）課題説明、身近な住環境に対する評価
11. 演習 身近な住環境の改善（2）プレゼンテーションの作成、指導、質疑応答
12. 演習 身近な住環境の改善（3）プレゼンテーションと講評
13. 高齢者の居住環境における最近の動向
14. 高齢者の居住環境における今後の課題
15. まとめ、定期試験に関する説明

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)平常点:30%:考察の深さ、発表、自主的な検証、グループワークの取組 (2)演習課題に対する取り組み:30%:身近な住環境の分析と改善案の提案 (3)定期試験:40%:暗記ではなく、独自の独自の分析や考え方を見る。

出席が3分の2以下の場合は、単位を認定しません。

福祉行財政と福祉計画

CCSW-W-200

担当者：馬場 康德

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

社会福祉主事任用資格：選択科目、
社会福祉士国家試験受験資格：必修科目、
精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

- ・福祉行政の実施体制・福祉財政の動向・福祉計画の意義と目的
- ・福祉計画の主体と方法・福祉計画の実際

2. 学びの意義と目標

・福祉の行財政の実施体制（国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む）について理解する。・福祉行財政の実際について理解する。・福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解する。

受講生に対する要望

福祉に関する時事問題についての新聞記事を読み、配布資料等を読み直すこと。

キーワード

(1)福祉の体系 (2)福祉行政の実施体制 (3)国と地方自治体の関係、役割 (4)福祉の財源 (5)福祉計画の種類、役割

事前学習（予習）

授業計画を参照し、教科書等を読んでおくこと。

復習についての指示

教科書及び配布資料を読み込むこと。

授業計画

1. オリエンテーション、福祉と法制度
2. 行政の骨格、社会福祉関係法の構造
3. 福祉行政における国と地方公共団体の役割
4. 福祉行政における国と地方公共団体の関係
5. 社会福祉基礎構造改革と社会福祉法
6. 福祉の財源（1）費用と財源の動向
7. 福祉の財源（2）財源と各財源の特徴
8. 福祉行政の組織・団体と専門職の役割
9. 福祉計画の目的と意義
10. 福祉計画の主体と方法
11. 福祉計画の策定方法と留意点・福祉計画の評価方法
12. 福祉計画の実際（1）老人福祉計画・介護保険事業計画
13. 福祉計画の実際（2）障害者計画・障害福祉計画
次世代育成支援行動計画
14. 福祉計画の実際（3）地域福祉計画
15. まとめ

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会 『新・社会福祉士養成講座10福祉福祉行財政と福祉計画』（中央法規出版株式会社）

評価方法

- (1)中間レポート:20% (2)授業内レポート:30%:授業内に3回の小テストを行う。(3)期末試験:40% (4)出席率:10%

担当者：堀 恭子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(W学科)：選択科目

講義概要

1. 内容

対人援助については、専門職としてどのようにあるべきかについて教育がなされるが、「なすべきことができなかったときにどうするか」について学ぶ機会は少ない。福祉心理学では福祉を対人援助と読み解いて、講義の前半では主に援助者に起きることについて学び、後半では具体的な対人援助場面において、援助者・被援助者・援助場面に起きることについて紹介し、受講者と共に対人援助について考えていきたい。

2. 学びの意義と目標

対人援助について、援助者・被援助者・援助場面の各々について考えていくことは、対人援助の質向上と対人援助者のメンタルヘルスに寄与する。受講者が、対人援助について考える時、一方的な視点ではなく、双方向的な視点を持って対人援助場面を捉えることができるように目標を設定する。

受講生に対する要望

話題提供されたことに対して、自分の考えをまとめて記述することが求められます。したがって出席や授業内課題の内容を重視します。

キーワード

(1)心理学的視点 (2)支援を受けることの理解 (3)支援することの理解 (4)相互作用の視点を持った自己理解 (5)相互作用の視点を持った関係理解

事前学習（予習）

講義で扱われる内容に関するプリントを配布する。受講者はプリントについて講師が設定した問いに対する回答、疑問に思った事柄、まだよく分からない事柄に関するショートレポートを提出する。

復習についての指示

講義内容について、ショートレポートを活用して復習と定着をはかり、中間・期末のまとめによって知識と思考整理を行う。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 参考文献解説 (1)
3. 参考文献解説 (2)
4. 参考文献解説 (3)
5. 参考文献解説 (4)
6. 参考文献解説 (5)
7. 参考文献解説 (6)
8. 参考文献解説 (7)
9. まとめ
10. 福祉における心理学
11. 心理学的視点からみた高齢者福祉 (1)
12. 心理学的視点からみた高齢者福祉 (2)
13. 心理学的視点からみた児童・生徒支援
14. 心理学的視点からみた障害支援 (含医療)
15. まとめ／人はなぜ・どのように援助するか

教科書

プリントを配布する
参考文献を適宜紹介します

評価方法

- (1)授業内課題:30% (2)中間レポート:30% (3)期末レポート:40%

担当者：松村 芳明

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

論理的思考・表現力：論理的に物事を考え、表現する力を身につける

カリキュラム上の位置付け

社会福祉主事任用資格：選択科目

講義概要

1. 内容

・社会生活と法・憲法・民法・行政法・利用者の人権と個人情報保護

2. 学びの意義と目標

・社会生活における法の作用や役割について理解する。・憲法、民法及び行政法の基礎を理解する。・基本的人権、権利擁護、成年後見制度等、社会福祉士に必要な内容について理解する。

受講生に対する要望

①社会保障・社会福祉に関連する法規を中心に学ぶ授業ではなく、それらを含め、法学の基礎について全般的に学ぶ授業である点、注意すること。②授業に積極的に参加すること。③分からないことがあれば遠慮なく授業中や授業後などに質問すること。

キーワード

(1)基本的人権 (2)日本国憲法 (3)成年後見制度 (4)近代私法の基本原則

事前学習（予習）

次回の内容について、指示されたプリント等の該当箇所を読み、六法等を参照しておくこと。

復習についての指示

プリント・講義ノートを読み返すことにより講義で得た知識を整理すること。

授業計画

1. 社会生活と法 (1) 社会規範としての法
2. 社会生活と法 (2) 社会福祉士と法のかかわり
3. 憲法 (1) 憲法の基本概念
4. 憲法 (2) 日本国憲法の基本原理 ①国民主権・平和主義
5. 憲法 (3) 日本国憲法の基本原理 ②基本的人権の性質と分類
6. 憲法 (4) 日本国憲法の基本原理 ③基本的人権 i. 自由権
7. 憲法 (5) 日本国憲法の基本原理 ④基本的人権 ii. 社会権
8. 憲法 (6) 日本国憲法の基本原理 ⑤基本的人権 iii. 新しい人権
9. 憲法 (7) 日本国憲法の基本原理 ⑥統治機構・財政
10. 憲法 (8) 日本国憲法の基本原理 ⑦地方自治
11. 民法 (1) 権利能力・意志能力・代理
12. 民法 (2) 契約の成立と有効要件・売買契約
13. 民法 (3) 契約の目的物・債権の担保
14. 民法 (4) 不法行為
15. 民法 (5) 親族 ①婚姻・離婚
16. 民法 (6) 親族 ②親子・扶養
17. 民法 (7) 法定相続・遺言
18. 民法 (8) 成年後見制度 ①成年後見制度の創設・法定後見制度の仕組み
19. 民法 (9) 成年後見制度 ②任意後見制度の仕組み
20. 民法 (10) 成年後見制度 ③成年後見制度の現状と課題
21. 行政法 (1) 行政法の基本・行政行為
22. 行政法 (2) 行政手続き
23. 行政法 (3) 行政不服審査
24. 行政法 (4) 行政訴訟
25. 行政法 (5) 国家賠償
26. 行政法 (6) 情報公開
27. 行政法 (7) 地方行政組織
28. 行政法 (8) 行政契約・社会福祉サービスの利用関係
29. 利用者の人権と個人情報保護 (1) 個人情報保護法の概要
30. 利用者の人権と個人情報保護 (2) 社会福祉サービスと個人情報保護

教科書

井上正仁・能見善久編 『ポケット六法』（有斐閣）

評価方法

(1)課題:40% (2)試験:50% (3)授業への参加状況:10%

担当者：中村 磐男

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

社会福祉士国家試験受験資格：必修科目、
精神保健福祉士国家試験受験資格：必修科目

講義概要

1. 内容

・医学と社会・公衆衛生の動向と対策・医療保険制度（診療報酬を含む）の概要・保健医療サービスの概要・保健医療サービスにおける専門職の役割・保健医療サービス関係者との連携と実際

2. 学びの意義と目標

・相談援助活動において必要となる医療保険制度（診療報酬に関する内容を含む）や保健医療サービスについて理解する。・保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種協働について理解する。

受講生に対する要望

教科書を必ず購入のこと。教科書を全員が持っていることを前提に、授業を進めます。

キーワード

(1)医療保障と公的医療保険 (2)健康保険と国民健康保険 (3)医療費の推移と医療報酬制度 (4)保健医療施設、専門職の役割 (5)関係者・関係機関との連携

事前学習（予習）

予習:教科書を必ず購入のこと。教科書の該当箇所を予め読み、わからない箇所をメモしておく。

復習についての指示

復習:その日のキーワード、返却された前回小テストの誤答箇所を復習・確認する。

授業計画

1. 医学と社会 (1) 疾病と生活問題
2. 医学と社会 (2) 医療技術の発展と生命倫理
3. 公衆衛生の動向と対策 人口静態・人口動態
4. 医療保険制度 (1) 医療保障
5. 医療保険制度 (2) 医療費に関する政策動向
6. 診療報酬 (1) 診療報酬制度の概要・診療報酬と医療機関の関係
7. 診療報酬 (2) 診療報酬制度改正の動向と課題
8. 保健医療サービスの概要 (1) 保健の動向と対策
9. 保健医療サービスの概要 (2) 医療施設の概要
10. 保健医療サービスにおける専門職の役割 (1) 医療従事者とその役割
 11. 保健医療サービスにおける専門職の役割 (2) インフォームド・コンセントの意義と実際
 12. 保健医療サービスにおける専門職の役割 (3) 医療ソーシャルワークの歴史的展開・医療ソーシャルワーカーの業務指針
 13. 保健医療サービスにおける専門職の役割 (4) 医療ソーシャルワークの実際
 14. 保健医療サービス関係者との連携と実際 (1) 医師、看護師、保健師等との連携と実際
 15. 保健医療サービス関係者との連携と実際 (2) 地域の社会資源との連携

教科書

全国社会福祉協議会 『医学一般 改訂版—人体の構造と機能及び疾病、保健医療サービス（社会福祉学習双書 14巻）』（全国社会福祉協議会）

評価方法

(1)受講態度:20%:出席状況、着席位置を含む (2)小テスト:30%:毎回実施する (3)期末テスト:50%

講義の終わりに、毎回、小テストを実施する。

ボランティア論 A

HMSC-W-100

担当者：川田 虎男

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

ボランティア活動をする中で感じる問題意識に焦点を当て、よりよい活動に向けた知識と技術を学びます。具体的には、ボランティア活動を進めるうえで必要となる、知識やスキルについて理解するとともに、実際に活用できるよう毎回参加型のグループディスカッションやワークショップを取り入れ、体験的に学んでいきます。

2. 学びの意義と目標

本講義では、主としてボランティア実践者がその活動をより深め広げられるようにすることを目的としています。受講生同士のグループワークを通して、ボランティア活動の質の向上を図るとともに、ボランティア活動を通して、自分自身が社会とどのような関わることができるのか、それが社会にとってはどのような意味をもつのかについて、自分なりの考えを持ち実践できることを目標とします。

受講生に対する要望

受講する対象者として、現在もボランティア活動を継続しており、団体の役員等（代表・副代表・会計・プロジェクトリーダー・役員・次期役員）を経験しているか、今後経験したいと考えている人。個人ボランティアであれば、現在も継続的な活動を行っている人の受講が望ましい。

キーワード

(1) ボランティア (2) ファシリテーション

事前学習（予習）

ボランティアを実践していることを前提に、その活動の問題点やどうすればより活発になるかについて常に考えてください。また、そのボランティア活動の背景にある、社会的な課題についても目を向けてください。それらを持っていることを全体に授業を進めていきます。

復習についての指示

授業で学んだことをできる限り実践の場で活用してください。実際に活用した際に起きたことや問題点についても全体にフィードバックしていただきたいと思います。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 活動の問題意識についてのワークショップ
3. 優先順位とディスカッション
4. アイスブレイク
5. リーダーシップⅠ
6. リーダーシップⅡ
7. ファシリテーションⅠ（人の思いを引き出す関わり方）
8. ファシリテーションⅡ（会議における進行方法）
9. ファシリテーションⅢ
10. 企画の立て方Ⅰ（思いを形に落とし込む）
11. 企画の立て方Ⅱ（人に思いを伝える広報）
12. 企画の立て方Ⅲ（リスクマネジメント）
13. 企画の立て方Ⅳ（活動の評価と次への活かし方）
14. まとめと発表Ⅰ
15. まとめと発表Ⅱ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 出席：25% (2) 授業への参加度：50% (3) 課題レポート：25%

ボランティア論B

HMSC-W-200

担当者：川田 虎男

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

人と社会の理解：社会を理解し、問題意識を持ちかかわる力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

講義とゲストスピーカーの話を中心とした内容となります。ボランティアについての基礎的な知識、また実際の活動内容について学びます。受講人数によっては、参加者同士のグループワークも複数回実施する予定です。また、課題レポートでは実際の活動に参加した上での感想と考察が求められますので、講義外でのボランティア活動にも参加していただくことになります。基礎的なボランティアの知識を身につけるものですので、ボランティアの経験の有無は問いません。

2. 学びの意義と目標

東日本大震災においても多くのボランティア活動が注目されていますが、自分たちの日常レベルに落として現代社会におけるボランティアの実情と意義を学びます。「ボランティア=いいこと」という理解ではなく、その問題点も理解した上で、受講生一人一人が自分なりの「ボランティア観」を持てることを目標としています。

受講生に対する要望

ボランティアの重要な要素に「自発性」があります。本講義を受講する学生には、積極的な参加を求めます。特にグループワークやワークショップでは、個々の自発的参加が求められます。

キーワード

(1) ボランティア (2) 市民活動 (3) NPO

事前学習（予習）

実際のボランティア活動への参加があるとより学びが深まります。授業でも活動の紹介を行っていきますので、積極的な参加をお願いします。

復習についての指示

授業を受けた後は、各自振り返りを行い授業内での「気づき」や自分なりの考えを深める時間を取ってください。振り返った内容をレポートにまとめる等も効果的です。また、実際に活動を行っている方は、その学びをどう活かせるかを考え、実践していただきたいと思っています。その活動から見てきたものも大切な学びになります。

授業計画

1. オリエンテーション
2. ボランティアの定義と活動分野
3. ボランティア活動者に聞く「バリアフリーマップとボランティア」
4. 市民活動・NPO法人とボランティア
5. 大学生とボランティアI
6. 大学生とボランティアII
7. ワークショップI「ボランティアの種を探す」
8. ボランティアセンターとボランティアコーディネーション
9. 実際のボランティア活動を知るI「災害ボランティア」
10. 実際のボランティア活動を知るII「コミュニティ活動ボランティア」
11. 実際のボランティア活動を知るIII「環境ボランティア」
12. 実際のボランティア活動を知るIV「国際ボランティア」
13. ボランティア活動報告
14. まとめと振り返り
15. 試験

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:25% (2)授業への参加度:25% (3)中間レポート:20%:授業期間中にボランティア体験を実施し、そのレポートを提出していただきます。(4)試験:30%

リハビリテーション論

HMSC-W-300

担当者：長谷川 辰男

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

社会福祉主事任用資格：選択科目

講義概要

1. 内容

講義、配布資料などともに授業を進めます。また、ディスカッションなども取り入れ、リハビリテーションの理解を深めていきます。

2. 学びの意義と目標

リハビリテーションの本来の意味、歴史そして社会制度を理解し、様々な場面におけるリハビリテーションについて考え、関心を高めることを目指します。

受講生に対する要望

授業の復習を十分に行ない、積極的な授業への参加を望みます。

キーワード

(1) リハビリテーション (2) 病気と障害 (3) 社会保障制度

事前学習（予習）

事前に配布する資料を読んでおくこと。

復習についての指示

配布された資料やノートを確認すること。

授業計画

1. リハビリテーションとは
2. 病気と障害
3. 人間活動と発達
4. 障害と心理
5. リハビリテーションの諸段階
6. リハビリテーションの過程（1）
7. リハビリテーションの過程（2）
8. リハビリテーションの過程（3）
9. 機能障害をもたらす主な疾病と外傷、先天性異常および精神障害（1）
10. 機能障害をもたらす主な疾病と外傷、先天性異常および精神障害（2）
11. リハビリテーションを支える社会保障体制（1）
12. リハビリテーションを支える社会保障体制（2）
13. 福祉用具について
14. 事例紹介
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 定期試験：50% (2) レポート：30% (3) 授業態度：20%

担当者：長谷川 恵美子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

認定心理士認定資格(W学科)：選択科目

講義概要

1. 内容

臨床心理学は心理学の一研究分野であるとともに、心理臨床を実践する際の基礎となる心理学でもある。授業では、その歴史、発達理論や人格理論などの基礎理論、心理査定や心理療法などの方法論について、学校、産業、医療、福祉などの視点から、それぞれの領域での事例などを概説し、また時にはディスカッションを通して理解を深める。

2. 学びの意義と目標

臨床心理学の基礎知識を身につけるとともに、上記で紹介した各領域での応用の仕方を学び、実際の臨床、ボランティアの現場にて、統合的な支援を検討することができるようになることを目標とする。

受講生に対する要望

各回の課題に積極的に取り組み、その時点での自らの意見や考え方を持って授業に参加すること。

キーワード

(1)臨床心理学 (2)統合的支援

事前学習（予習）

また配布した資料は熟読し参加することを期待する。

復習についての指示

授業で取り扱ったテーマについて、受講者の興味関心にあわせ、紹介した文献などで知識を深めることを期待する。

授業計画

1. この授業に関するガイダンス
2. 臨床心理学とは
3. 臨床心理学の歴史 1
4. 臨床心理学の歴史 2
5. 臨床心理学の基礎理論（精神分析を中心に）
6. 臨床心理学の基礎理論（イメージの心理学）
7. 臨床心理学の基礎理論（行動論的立場から）
8. 臨床心理学の基礎理論（認知的立場から）
9. 臨床心理学の基礎理論（発達論的立場から）
10. 臨床心理学の基礎理論（統合的心理療法）
11. 心理アセスメントとは
12. 心理アセスメントの実際（診断基準）
13. 心理アセスメントの実際（知的側面の把握）
14. 心理アセスメントの実際（認知的側面の把握）
15. 心理アセスメントの実際（人格的側面の把握）
16. 心理アセスメントの解釈（基礎）
17. 心理アセスメントの解釈（実践編）
18. 臨床心理学的援助とは
19. 臨床心理士による支援とは
20. 心理臨床の実際（幼少期の問題）
21. 心理臨床の実際（思春期を考える）
22. 心理商法の実際（青年期を考える）
23. 心理臨床の実際（中高年を考える）
24. 心理臨床の実際（産業領域のシステム）
25. 心理療法の実際（家族への支援）
26. 心理臨床の実際（医療分野と臨床心理学）
27. 心理臨床の実際（疾患を抱えた人への支援）
28. 心理臨床の実際（高齢者への支援）
29. 心理臨床の実際（最近の心理療法）
30. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)平常点:60% (2)レポート:40%

レクリエーション論

HMSC-W-100

担当者：長谷川 辰男

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

対人支援力：対人支援の実践力を身につける

カリキュラム上の位置付け

講義概要

1. 内容

レクリエーションに関する基礎理論を学び、現代社会におけるレクリエーションの役割や必要性を理解するとともに支援方法等についても理解を深める。

2. 学びの意義と目標

レクリエーションの意義について理解を深め、個人・集団を対象としたレクリエーション活動が展開できるよう、計画・企画・運営・実施・評価ができるようになる事を目標とする。

受講生に対する要望

授業への積極的な参加と意見交換を望む。

キーワード

(1)レクリエーション (2)日常生活 (3)QOL (4)健康

事前学習（予習）

紹介した資料、文献、書籍等について目を通しておくこと。

復習についての指示

資料やノートの確認をすること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. レクリエーションについて
3. 福祉レクリエーションについて
4. セラピューティックレクリエーションについて
5. アセスメントに基づいてのプログラム計画について①
6. アセスメントに基づいてのプログラム計画について②
7. コミュニケーションについて
8. 対象に合わせた支援方法について
9. グループによる創作ゲームの立案①
10. グループによる創作ゲームの実施と評価①
11. グループによる創作ゲームの立案②
12. グループによる創作ゲームの実施と評価②
13. 対象者に合わせたアレンジについて①
14. 対象者に合わせたアレンジについて②
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)試験:50% (2)レポート:30% (3)授業態度:10% (4)出席:10%

教職課程

英語科教育法 I

SUBP-A-201

担当者：東 仁美

開設期：春学期 必修・選択：教職科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：英語必修科目、
中学校教諭一種免許：英語必修科目

講義概要

1. 内容

本講義では、英語教育の意義と目的を考察することを通して、「教師」になるという目的意識を確立する。第二言語習得理論、外国語教授法、学習指導要領、指導技術への理解を深め、理論を実践へつなげていくために、実際の授業についても考察していく。英語教師として必要とされる英語力を身につけ、指導案作成や模擬授業を行う中で、指導に必要な力を確認していく。

2. 学びの意義と目標

コミュニケーション能力育成の重視、小学校外国語活動の必修化など、日本の英語教育が大きな転換期をむかえている中、英語教師に求められる指導力、英語力もより大きくなっている。本講義を通して、英語教育の理論と実践の両面を学ぶことで、英語教育に対する理解を深め、指導者として成長する熱意を高めることを目標とする。

受講生に対する要望

「学生」という立場から「教師」という立場にシフトし、自身の指導に責任を持つあり方で授業に臨んでほしい。

キーワード

(1) 中高英語教育 (2) 第二言語習得理論 (3) 外国語教授法 (4) 学習指導要領 (5) 指導技術

事前学習（予習）

授業計画を確認し、テキストの該当箇所を事前に読んでくる。指導案作成、模擬授業の準備は個別指導を行うので、アポイントメントを取ること。

復習についての指示

講義、模擬授業に対するリフレクションシートを記入して、提出すること。

授業計画

1. オリエンテーション、英語教育の目的と意義（第1章）
2. 国際語としての英語（第2章）
3. 学習指導要領（第3章）
4. 学習者要因（第4章）
5. 英語教員（第5章）
6. 小学校における外国語活動（第6章）
7. 英語教授法（第7章）
8. 第二言語習得理論（第8章）
9. 指導案の作成、教室英語
10. 模擬授業（1）
11. 模擬授業（2）
12. 授業運営（第20章）、オーラルイントロダクション
13. 模擬授業（2）
14. 模擬授業（2）
15. まとめ、試験とその解説

教科書

望月 昭彦、磐崎 弘貞、卯城 祐司、久保田 章 『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』（大修館書店）文部科学省 『中学校学習指導要領解説 外国語編—平成20年9月』（開隆館出版販売）高橋貞雄 『NEW CROWN ENGLISH SERIES 1』（三省堂）高橋貞雄 『NEW CROWN ENGLISH SERIES 2』（三省堂）高橋貞雄 『NEW CROWN ENGLISH SERIES 3』（三省堂）

評価方法

- (1) 出席・授業への貢献:30% (2) レポート:30% (3) 模擬授業:20%
(4) 学期末テスト:20%

英語科教育法Ⅱ

SUBP-A-202

担当者：東 仁美

開設期：秋学期 必修・選択：教職科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：英語必修科目、
中学校教諭一種免許：英語必修科目

講義概要

1. 内容

「英語科教育法Ⅰ」に引き続き、英語教育の意義と目的を考察することを通して、「教師」になるという目的意識を確立することを目指す。さらに中高英語教育で求められる実践的コミュニケーション能力の育成のために聞く・話す・読む・書くの4技能を有機的に関連づけながら指導することを目指す。

2. 学びの意義と目標

コミュニケーション能力育成の重視、小学校外国語活動の必修化など、日本の英語教育が大きな転換期をむかえている中、英語教師に求められる指導力、英語力もより大きくなっている。本講義を通して、英語教育の理論と実践の両面を学ぶことで、英語教育に対する理解を深め、指導者として成長する熱意を高めることを目標とする。

受講生に対する要望

学生」という立場から「教師」という立場にシフトし、自身の指導に責任を持つあり方で授業に臨んでほしい。

キーワード

(1) 中高英語教育 (2) コミュニケーション能力の育成 (3) 語彙・文法指導 (4) 4技能 (5) 評価

事前学習（予習）

授業計画を確認し、テキストの該当箇所を事前に読んでくる。指導案作成、模擬授業の準備は個別指導を行うので、アポイントメントを取ること。

復習についての指示

模擬授業後に自身の授業のDVDを必ず見直す。その上でリフレクションシートを記入して、提出すること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. コミュニケーション能力の育成（第9章）
3. リスニング・スピーキングの指導（第10・11章）
4. リーディング・ライティングの指導（第12・13章）
5. ティームティーチング（第14章）
6. 模擬授業（1）
7. 模擬授業（1）
8. 文法指導（第18章）
9. 語彙指導（第19章）
10. 模擬授業（2）
11. 模擬授業（2）
12. 評価（第15章）
13. 教科書と教材研究（第17章）
14. 模擬授業（3）
15. 模擬授業（3） まとめ

教科書

望月 昭彦、磐崎 弘貞、卯城 祐司、久保田 章『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』（大修館書店）文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編—平成20年9月』（開隆館出版販売）高橋貞雄『NEW CROWN ENGLISH SERIES 1』（三省堂）高橋貞雄『NEW CROWN ENGLISH SERIES 2』（三省堂）高橋貞雄『NEW CROWN ENGLISH SERIES 3』（三省堂）

評価方法

- (1) 出席・授業への貢献：20% (2) レポート：20% (3) 模擬授業：30%
(4) 学期末課題：30%

担当者：小川 隆夫

開設期：春学期 必修・選択：教職科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：英語選択科目、
中学校教諭一種免許：英語必修科目

講義概要

1. 内容

中学校の英語授業のための必須要素を網羅し、授業の展開方法から、4技能を伸ばす指導技術、家庭学習までを学ぶ。また、授業を効果的に行うため、生徒との人間関係づくり、生徒がお互いに協力し合って学習に取り組むクラス、授業のムード作りなど、クラスルーム・マネージメントの方法も取り上げる。

2. 学びの意義と目標

中学校の英語学習は、これから長期間にわたる英語学習に備えるため、生徒たちを自律した学習者に育てる必要がある。この講義を通して、さまざまな指導技術とともに、英語教師としての心構え、生き方を学ぶことを目標とする。

受講生に対する要望

英語教師になるという自覚を持って参加すること。

キーワード

(1)入門期の指導 (2)授業パターン (3)指導技術 (4)クラスルーム・マネージメント (5)自律的学習者

事前学習（予習）

指定されたテキストのページを読んで参加する。

復習についての指示

1～10までの授業のポイントをまとめる。11～14は模擬授業のフィードバックをまとめる。すべてをポートフォリオとして指定日に提出する。

授業計画

1. 入門期の指導・基本の授業パターン - 1時間の授業構成
2. 文法中心の授業・リーディング中心の授業
3. 活動中心の授業
4. 指導技術 ペアワーク・グループワーク・TT
5. 文法指導と語彙指導の技術
6. リスニング指導・リーディング指導の技術
7. スピーキング指導・ライティング指導の技術
8. 文法指導のアプローチと評価
9. 教材・教具 クラスルームマネージメント
10. 自律的学習者に育てるための工夫 - 家庭学習
11. 模擬授業
12. 模擬授業
13. 模擬授業
14. 模擬授業
15. まとめ

教科書

金谷 憲, 太田 洋, 馬場 哲生, 青野 保, 柳瀬 陽介 『大修館 英語授業ハンドブック 中学校編』 (大修館書店)

評価方法

- (1)授業への貢献度:30% (2)模擬授業:30% (3)ポートフォリオ:20%
(4)レポート:20%

担当者：小川 隆夫

開設期：秋学期 必修・選択：教職科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：英語選択科目、
中学校教諭一種免許：英語必修科目

講義概要

1. 内容

本講義では高等学校新学習要領による「コミュニケーション英語基礎・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」と「英語表現Ⅰ・Ⅱ」「英語会話」の7科目構成をどう教えるかを実践DVDを見ながら考えることにする。また、中学校の英語と比較しながら、高等学校では「英語授業は英語で行うことを基本とする」という方針が示されたことにより、これから授業をどう行うかも考える。

2. 学びの意義と目標

高等学校の英語の大きな変化に対応するための方策などを中心に、中学校からの連携を考えるとともに、指導技術から文法まで着実に教えられるようにすることを目指す。

受講生に対する要望

英語教師になるという自覚のもとに授業に臨むこと。

キーワード

(1)高等学校新学習指導要領 (2)中高連携 (3)コミュニケーション英語 (4)英語表現 (5)英語会話

事前学習（予習）

テキストの指定ページを読んで授業に臨む。

復習についての指示

1～11は授業後に内容をまとめる。また、12～14はフィードバックをまとめる。すべてポートフォリオとして指定日に提出すること。

授業計画

1. 高等学校新学習指導要領について
2. 中学校との連携と入学時の指導
3. 「英語で授業」の考え方
4. 基本の授業パターン
5. 「コミュニケーション英語」の指導と授業構成
6. 聞いて理解する活動と読んで理解する活動
7. 「英語表現」の指導と展開
8. 「英語会話」の指導計画と展開
9. ネイティブスピーカーの活用と指導技術（発音指導・語彙指導）
10. リスニング・リーディング・スピーキング・ライティング指導他
11. 文法指導
12. 模擬授業及びプレゼンテーション
13. 模擬授業及びプレゼンテーション
14. 模擬授業及びプレゼンテーション
15. まとめ

教科書

金谷 憲, 久保野 雅史, 高山 芳樹, 阿野 幸一 『大修館英語授業ハンドブック 高校編』（大修館書店）

評価方法

- (1)授業への貢献度:20% (2)ポートフォリオ:30% (3)レポート:20%
(4)プレゼンテーション:30%

介護等体験及び事前事後指導

TEAT-0-404

担当者：吉田 昌義、高山 法子

開設期：通年集中 必修・選択：教職科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：（共通）選択科目、
中学校教諭一種免許：（共通）必修科目、
小学校教諭一種免許：必修科目

講義概要

1. 内容

小学校及び中学校の義務教育の教員免許状を申請しようとするときには、「介護等体験特例法」に基づく介護等の体験に関する証明書の添付が義務づけられた。この法律は「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連携の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者や高齢者等に対する介護、介助や、これらの人達との交流等の体験を行わせること」を目的としている。「介護等体験」において留意しなければならないことは、福祉施設に出かけて介助を行えば、自ずと「思いやり」や「やさしさ」が身につくものではないということである。様々な人びとのかかわりのなかで、常に「相手の立場に立って物事を考える」姿勢が求められている。事前事後指導では、福祉サービス利用者の立場に立った介護の在り方について考えるとともに、人間の尊厳を守るための具体的な介護実践を学ぶ。※2201教室は、土足厳禁であるので、上履きを用意しておくこと。また、介護技術の演習を数回行なう予定である。その際、動きやすい服装で参加すること。

2. 学びの意義と目標

＜学びの意義＞1 教員を目指す者が、介護等体験を行うことにより、視野を拡げ、個人の尊厳及び社会連携に関する認識を深める。2 高齢者や障害者とのかかわりの基本を学び、介護等体験を通して具体的に経験する。＜目標＞①介護等体験を行うに当たって必要とされる、最小限の基本的な知識や技能等を学ぶ。②教員を目指す者が、個人の尊厳及び社会連携の理念に関する認識を深め、教員としての資質を考え、今後の大学生活で身につけておくべきことを追究する。

受講生に対する要望

キーワード

事前学習（予習）

事前に教科書を読み、内容の理解に努めることまた、介護等体験に行く前から、教員（社会人）として、望ましい姿を考え、適切な言動に努めること。

復習についての指示

介護等体験で出会った高齢者・障害者・指導員などの関係者等との関わりを振り返り、介護等体験の意義や、本授業の概要にあるように「個人の尊厳及び社会連携の理念に関する認識を深めること」。

授業計画

1. 社会福祉施設における「介護等体験の意義」 特別支援学校における「介護等体験の意義」（高山）
2. コミュニケーション（高山）
3. 事例を通して考える（受容と共感）（高山）
4. 事例を通して考える（個別性）（高山）
5. 社会福祉施設の目的及び原則（高山）
6. 福祉施設利用者の理解（高山）
7. 高齢者疑似体験（高山）
8. 基本介護技術（移動・食事・着脱）（高山）
9. 介護等体験の始まり 教員に求められるもの（吉田）
10. 障害とは 障害の種類と教育の場・指導内容（吉田）
11. 知的障害の理解と指導（吉田）
12. 自閉症の理解と指導（吉田）
13. 通常の学級における障害児への配慮（吉田）
14. 人権について 介護等体験に行くに当たって（吉田）
15. 介護等体験の振り返り、事後指導（9月）

教科書

全国特別支援学校長会 『フィリア』（ジアース教育新社）全国社会福祉協議会 『よくわかる社会福祉施設』（全国社会福祉協議会出版部）

評価方法

- (1)出席状況・コメント・受講態度:50% (2)実習態度・実習記録:50%

担当者：小川 洋

開設期：秋学期 必修・選択：教職科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教職課程及び指導法に関する基礎的な知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目、
中学校教諭一種免許：（共通）必修科目

講義概要

1. 内容

学習指導要領などの教育課程に関する資料を参考として、授業実践の基盤となる教育課程についての理解を深め、具体的・実践的な学習指導能力の養成に努める。学習指導要領の総則を中心として、教育課程についての考え方がどのように変化してきたか理解を深め、現代の教育課程についての基本的な性格について考えを深める。さらに教育課程を授業実践に具体化するうえで、授業法にどのような工夫が求められているのかなど、多様な授業実践の事例にも触れる機会を提供し、実践的な能力の養成に努める。またいわゆるPISA型学力などに示される学力の考え方に関する国際的な流れについての理解をとおして、教育課程の今後の課題について考察させる。

2. 学びの意義と目標

1) 教育課程の基本的な性格やその構造についての理解を深める。2) 「学習指導要領」の成立と変遷についての基本的な知識を得る。3) 学力観と学習指導要領の関係についての理解を深める。4) 学習の個別化・個性化の流れを、学習指導法の変化について考えを深める。5) 授業の展開と学習環境の在り方について実践的な能力を養成する。6) 日本の教育課程と諸外国の教育課程との比較を通して、今後の課題について考察させる

受講生に対する要望

学習指導要領はほぼ10年毎に書き換えられます。その度に、テーマが変わるように、教育の目標やあるべき授業法なども時代によって変わっていきます。自分の学習経験にこだわることなく、柔軟な考え方ができるようにしてください。

キーワード

(1) 中学校教育課程 (2) 学習指導要領 (3) 総合的な学習の時間

事前学習（予習）

現行の学習指導要領を基本テキストとし、以前の指導要領を必要に応じて部分的に印刷・配布します。事前に授業範囲の資料をよく読んでくること。

復習についての指示

学習指導要領の変更や国際学力調査の結果などによって、学習内容や指導法について、さまざまな議論が行われてきた経緯を確実に理解するため、ひとつの単元が終了するごとに論点をしっかりと整理すること。

授業計画

- 履修上の注意などのガイダンス及び教育課程に関する基本知識
- 学習指導要領の基礎知識と構成についての理解
- 学習指導要領の成立－昭和20年代の試案の性格
- 学習指導要領の変遷①－昭和33年版から平成元年版に至る学習指導要領の変化
- 学習指導要領の変遷②－平成10年版と学力論争
- 学習指導要領の変遷③－平成20年版とその背景（教育基本法改正など）
- 学習指導要領と「ゆとり教育」をめぐる流れと学力観の変化
- 「総合的な学習の時間」の意義と実践例
- 教科外活動の目標と扱い方
- 教育課程の編成原理（教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則など）
 - 学習指導要領と教育評価の考え方の変化と現代の課題
 - 初等教育と前期中等教育との接続の現代的な課題
 - PISAの学力観と学習指導の在り方
 - 先進諸国の教育課程の事例をとおしてこれからの課題を考える
- 講義の総括と今後の教職課程への取組み

教科書

文部科学省 『中学校学習指導要領』（ぎょうせい）文部科学省
『中学校学習指導要領解説 総則編』（教育出版）文部科学省
『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間』（教育出版）

評価方法

(1) 小テスト:教科書の指定した範囲の予習・復習を前提とする:30% (2) レポート
1本:授業で取り上げたテーマから関心をもったことを取り上げて作成:30% (3) 期末テスト:40%

担当者：村上 純一

開設期：秋学期 必修・選択：教職科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教職課程及び指導法に関する基礎的な知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目，
中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目，
社会教育主事資格：選択必修科目

講義概要

1. 内容

本講義では、主に教育行政・政策を捉える視点から、日常の学校の教育活動や学校の経営、教育行政組織の諸活動、昨今の教育行財政改革などについて考えていきます。教育に関わる学校や行政の活動がどのような制度に基づき、どのような計画に従って行われているのか、学校や行政その他教育に携わる諸組織の取り組みをその背景も含めて包括的に考えていくことがこの講義の内容です。

2. 学びの意義と目標

「教育」と「経営」という言葉は、一見するとあまり関連がないようなイメージを持たれるかもしれませんが、日々の学校の活動が何の計画もない「行き当たりばったり」のものであったり、国や自治体の教育政策が目先のできごとへの対応ばかりであったりすると、教育という営みはそもそも成り立たなくなってしまう。児童生徒として学校に通う中では、あるいは日常の社会生活の中ではあまり触れることのない中長期的な政策ビジョンや制度に触れることを通じて、学校や教育行政の活動を俯瞰的に捉えられるようになることが本講義の目標です。また、教育に対する俯瞰的な視点を養うことは、誰もが経験するがゆえに逆に「自分の経験のみに即して」語りがちになってしまう教育という営みに対して、自らの経験を相対化して捉え直すことにもつながります。自らの経験のみに縛られない多角的な視野を養うことが本講義における学びの意義です。

受講生に対する要望

講義の中では毎回時事的な話題も扱っていきますが、新聞やニュース等で扱われる教育の最新のできごとについて、積極的に情報を収集し自分なりの考えをもつようにすることを心掛けてください。

キーワード

(1)教育制度 (2)教育行政・政策 (3)学校教育 (4)行財政改革 (5)教員

事前学習（予習）

日々のニュースや新聞等を通じ、時事的な話題に関する情報収集に努めてください。

復習についての指示

講義時に配布した資料・教材の復習のほか、Moodleにも補助教材をUPしますので、適宜参照しつつ講義内容を振り返るようにしてください。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 教育に携わる組織と教員の養成・研修
3. 教員の勤務実態・給与
4. 学校の管理・経営
5. 教育課程経営と学習指導要領
6. 地域とともにある学校づくり
7. 教員評価・学校教育と「評価」
8. 国の教育行政
9. 地方教育行政と教育委員会制度改革
10. 教育振興基本計画
11. 社会教育・生涯学習政策
12. 「学力」の問題と高等教育行政
13. 教育経営の舞台裏
14. 教育経営に関する今日的諸問題
15. 講義のまとめ

教科書

プリントを配布する
各回のプリントに、講義内容に即した参考文献リストを添付します。

評価方法

(1)学期末試験:50%:試験を予定していますが、受講者数によってはレポートで代える場合もあります。(2)各回のコメントシート:50%

担当者：小川 洋

開設期：秋学期 必修・選択：教職科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教職課程及び指導法に関する基礎的な知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目、
中学校教諭一種免許：（共通）必修科目

講義概要

1. 内容

本科目は教職の入門科目であり、教育についての基礎的知識をひと通り取り扱う。指定の教科書と各回配布のプリント資料などを利用しながら、教育心理、文化人類学、教育制度、教育法規、教育社会学、比較教育、教育史など、広範にわたるテーマを取上げていく。自分が興味をもったテーマについて関連図書などを参考にレポートも作成してもらう。教育を「受ける」立場であった学生が、教育を「ほどこす」立場に立つためには、教育に対する考え方を根本から洗いなおすことが必要となる。これらの学習を通じて、社会にとって不可欠な営みとしての教育を捉え、教育に対して、より豊かな視野を獲得するように努めてもらう。

2. 学びの意義と目標

1) 教育が生物としてのヒトを、人格をもった人に育てる営みであることを理解する（教育の本質および思想）。2) 学校の歴史についての理解を深め、現代の学校の特徴や課題について考察する（学校の歴史と見方）。3) 理性をもった存在としての人間の子どもの心身の成長の在り方についての理解を深める（人間の成長）。4) 教育課程と教科・科目の構造および学習評価の基本知識を体得し、学校教育の性格を理解する（教育課程）。

受講生に対する要望

教職課程の入り口に位置する科目です。ごく基本的な教育法規も掲載されている教科書を使います。受ける立場から教える立場への意識転換を図る必要があります。

キーワード

(1)教育 (2)成長 (3)学校 (4)学力

事前学習（予習）

教科書を指定します。各回、次の授業で扱う範囲を指定しますので、十分に予習して授業に臨んでください。

復習についての指示

各回、前回の授業内容の理解を確認するために授業の初めに小テストを行います。各回の授業で扱った教科書の内容、配布された資料などをもとに確実に復習しておくこと。

授業計画

1. ガイダンス
2. 教育とは何か①
3. 教育とは何か②
4. 学校とは何か① 学校の登場
5. 学校とは何か② 学校の登場-2
6. 学校とは何か③ 日本の学校-1
7. 学校とは何か④ 日本の学校-2
8. 学校とは何か⑤ 日本の学校-3
9. 学力とは何か①
10. 学力とは何か②
11. ころとからだを育てる①
12. ころとからだを育てる②
13. よりよく学ばせ、教えるために
14. 教育評価とはなにか
15. まとめ

教科書

田嶋 一、中野 新之祐、福田 須美子、狩野 浩二 『やさしい教育原理 新版補訂版（有斐閣アルマ）』（有斐閣）

評価方法

(1)小テスト:教科書の指定した範囲の予習・復習を前提とする:30% (2)レポート2本:授業で取り上げたテーマから関心をもったことを取り上げて作成:30% (3)期末テスト:40%
ほぼ毎回の授業で行う小テストでしっかりと知識を定着し、2回のレポートで教育の原理について思考を巡らせる学習をすれば、期末テストも十分な評価が得られるはずです。

担当者：小川 洋

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：教職科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教職課程及び指導法に関する基礎的な知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：保健必修科目，
高等学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目，
中学校教諭一種免許：（共通）選択必修科目，
中学校教諭一種免許：保健必修科目

講義概要

1. 内容

教育に関するさまざまな現象を、質問紙調査、聞き取り調査あるいは統計などを用いて、その背景にあるものを解明しようとする研究分野である。近代以降、教育が学校という組織によって担われるようになると、学校教育の果たす社会的な役割がひじょうに大きくなる。時にそれは、関係者に過剰な期待を持たせたり過剰な負担を与えたりする。その結果しばしば教育には、「問題」が見出され、マスメディアや政治家たちによって争点化される。「問題」をどのように社会的に理解できるのか、研究事例などの紹介をとおして、考えてもらうことを中心とする。

2. 学びの意義と目標

将来、子どもの保育あるいは教育に携わる学生たちには、社会の見方をしっかり身に付けてほしい。一般的な常識とは異なる内容もあるはずだが、自分の見方に拘らず、広い視野に立つように授業を役立ててもらいたい。

受講生に対する要望

高校までの「社会」科の授業とはまったく異なります。先入観を持たずに授業に臨んでください。

キーワード

(1) 家族・家庭 (2) 学歴 (3) 少年非行 (4) 貧困

事前学習（予習）

各テーマで2、3回の授業を構成します。初回の授業を提示する各テーマのキーワードなどについて、予備的な学習をすること。

復習についての指示

ひとつのテーマが終了する度に、学習内容をまとめること。そのなかから一つのテーマを選んでレポートを作成してもらう。

授業計画

1. ガイダンス（教員としての素養としての教育社会学）
2. 教育の見方（1）－経済学と社会学
3. 教育の見方（2）－社会学の理論
4. 学歴と階層移動（1）－努力の報われる社会か
5. 学歴と階層移動（2）－エリート教育
6. 逸脱行為（1）－逸脱の理論
7. 逸脱行為（2）－統計の見方（少年非行を中心に）
8. 教育家族（1）－家族とはなにか
9. 教育家族（2）－戦前から戦後へ
10. 教育家族（3）－教育とジェンダー
11. 貧困と子どもの教育（1）
12. 貧困と子どもの教育（2）
13. 貧困と子どもの教育（3）
14. 学校選択と地域社会
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 通常の学習活動：40%：出席、授業中の作業など (2) レポート：30%：授業中に説明する1本のレポート (3) 期末テスト：30%

担当者：山本 寿子

開設期：春学期 必修・選択：教職科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

生徒の心身の発達及び学習過程に関する知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

小学校教諭一種免許：必修科目、
幼稚園教諭一種免許：必修科目

講義概要

1. 内容

教育心理学は、学習能力や発達のメカニズムといった人間の認知活動の基礎を理解すること、それらの知識をよりよい教育活動に活用することを目指している。本授業では、講義によって教育心理学の基礎的な知見を学び、さらに教育に関する問題をテーマにした課題や討論に取り組むことで、活用するという視点から教育心理学の考え方を身に付ける。

2. 学びの意義と目標

学習と発達についての心理学的知見を知識として学び、学んだ知識を用いて教育の諸問題について考える力、それらを他者にわかりやすい形で伝える力を養うことを目標とする。

受講生に対する要望

単に講義を聞くだけでなく、個人およびグループ単位での課題や討論に積極的に参加し、学びの時間を有効に使ってほしい。

キーワード

(1)教育 (2)学習 (3)発達

事前学習（予習）

与えられたテーマについて、次回の授業でグループ活動や討論ができるよう準備をしておくこと。

復習についての指示

各自で授業内容の復習をすること。小テストによる確認を行う。

授業計画

1. ガイダンス
2. 動機づけ
3. 意欲を引き出すために
4. 記憶と学習の仕組み
5. 知識の獲得
6. 問題解決と思考
7. 思考力を育てるには
8. 知覚の発達
9. 子どもの認知特性
10. 社会性の発達
11. 子どものコミュニケーション
12. 言語の発達
13. 文章理解の発達
14. 数と科学概念の発達
15. 認知発達と教科教育
16. 発達障害
17. 発達障害への支援
18. 遺伝と環境
19. 子どものパーソナリティ
20. 教育評価
21. 学習を促進する評価
22. 個人の捉え方
23. 個人差に応じた教育
24. 授業空間における学習
25. 協同学習の効果
26. メタ認知
27. 学習方略
28. メディアと発達
29. デジタルデバイスを用いた教育
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)授業内課題:60%:小テストおよび小レポート (2)期末試験:40%

教育相談(カウンセリングを含む。)

TEAT-0-209

担当者：山田 麻有美

開設期：春学期 必修・選択：教職科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目、
中学校教諭一種免許：(共通)必修科目

講義概要

1. 内容

児童・生徒の教育上の諸問題や対人的な悩み、いじめ問題などを解決し、よく適応させ、人格の成長を援助するために教師が行なう教育相談活動のための基本的な態度(カウンセリング・マインド)を実践的に習得できるよう計画されている。具体的には、教育相談の意義や現状を踏まえた上で、受講生が、サイコドラマの手法を用いて生徒や保護者に対する態度やコミュニケーションスキルを実践的且つ段階的に身につけられるようにする。

2. 学びの意義と目標

教師が児童・生徒に助言や援助を行う時、一方的に指導するという態度ではなく、児童生徒の様々な心の動きを察知し、適切に対応しようとするカウンセリングマインドが重要である。受講生は、本講義を通してカウンセリングマインドを習得し、いじめを防ぎ、よりよい指導のできる教師、また保護者や地域社会からは信頼される教師となることが期待される。

受講生に対する要望

①教職を目指す学生、という意識を持った受講姿勢②積極的に発言するだけでなく、他の受講生の発言に耳を傾ける主体的な授業態度

キーワード

(1)カウンセリングマインド (2)教師の自己理解 (3)発達の多様性
(4)いじめ (5)不登校

事前学習(予習)

予習は、授業終了時に指示する課題に沿って行ってください。

復習についての指示

復習は、授業開始時に前回の授業内容の確認を行いますので準備してください。

授業計画

1. 講義の概略と進め方
2. 教育相談の意義とカウンセリングマインド
3. 教育相談を行うための教師の自己理解
4. 児童・生徒の問題行動1
5. 児童・生徒の問題行動2
6. 児童・生徒の問題行動3
7. 児童・生徒の問題行動4
8. 児童・生徒の問題行動への対応1
9. 児童・生徒の問題行動への対応2
10. 児童・生徒の問題行動への対応3
11. 児童・生徒の問題行動への対応4
12. 日常の教育相談活動1
13. 日常の教育相談活動2
14. 日常の教育相談活動3
15. 理解度の確認

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業への参加度:40% (2)理解度:50% (3)出席状況:10%

担当者：小川 洋

開設期：秋学期 必修・選択：教職科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教職課程及び指導法に関する基礎的な知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目、
中学校教諭一種免許：（共通）必修科目

講義概要

1. 内容

この授業では、まず学習と学力をめぐる現状と問題点、また学校という場の特徴について、講義形式の授業を通して学ぶ。その後は、学習指導において必要となる「伝える」スキルや「理解させる」スキルを学習する。受講生には、情報機器を利用した資料の集め方やプレゼンテーション機器の利用方法などについても積極的に取り組んでもらう。その後、生徒を評価および教育計画について講義を行う。これらを通して得た知識および技能を、教育活動の向上に役立たせられることを目指していく。

2. 学びの意義と目標

1) 学習と学力をめぐる今日の問題について理解できる。2) オープンスペースなど、新しい学習空間の考え方についての知識を身に付け、自由な発想で授業を組み立てる力を養う。3) 学習指導に効果的な独自の教材づくりを身近なところから見つけ出し、実際に授業で利用できる形の教材を開発する経験をする。4) 限られたスペース・時間で、生徒にどの程度の情報を伝えられるか、学生同士のグループ学習で経験し、教授法に必要な身体感覚を育てる。5) 生徒の学習評価に関する基本的な考え方を確認した上で、目的に適したテスト問題の在り方などについて考えさせ、実際に問題の作成を経験する。

受講生に対する要望

授業方法の実践的な学習を中心に取り組んでももらいます。提出課題も多くなります。授業出席はもちろんのこと授業参加が前提です。

キーワード

(1) 授業実践 (2) 授業内容 (3) 深い理解

事前学習（予習）

ひとつのテーマで2、3時間ずつ進みます。課題の準備など必要になります。

復習についての指示

授業中に出された課題は復習のなかで完成することが必要です。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 学習をめぐる現状と問題点
3. 学力をめぐる現状と問題点
4. 学校という場（1）オープンスペースの考え方と利用法
5. 学校という場（2）教科教室制の環境と授業法
6. 学校という場（3）新しい学習環境を考える
7. 魅力的な教材を作る（1）さまざまな形式の教材
8. 魅力的な教材を作る（2）新しい情報（NIE など）を利用した教材
9. 新しい技術ーデジタル機器の利用を前提とした教材
10. 新しい技術の利用ーデジタル機器の利用法
11. 生徒を評価する（1）テストとは何か
12. 生徒を評価する（2）倫理的配慮
13. 教育計画とは（1）年間計画を考える
14. 教育計画とは（2）単元ごとの計画を考える
15. まとめ

教科書

文部科学省 『中学校学習指導要領』（文部科学省）

評価方法

(1) 授業への参加状況と課題作成：40% (2) 課題レポートの内容：60%

教職実践演習(中等)

TEAT-0-401

担当者：小川 洋，東 仁美，熊谷 芳郎，木下 大生

開設期：秋学期 必修・選択：教職科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：(共通)必修科目、
中学校教諭一種免許：(共通)必修科目

講義概要

1. 内容

教職課程の最後の科目です。教育実習から実際の教師としての仕事の間に位置付けられます。教職課程で学んできたこと、教育実習で経験し学んできたことを踏まえて、実践的な能力を養います。

2. 学びの意義と目標

卒業後、ただちに教壇に立つことを想定して、より実践的な能力を養うことを目標とします。教職員の一人として他の教職員からの信頼、生徒・保護者からの信頼を得ることが最初の一步となります。そのためには、あらゆる場面を想定した学びが求められます。

受講生に対する要望

卒業後に教壇に立つことを考えながら、真剣に取り組んでください。

キーワード

事前学習(予習)

毎回、テーマを設定して、さまざまな仕事、さまざまな場面を想定した実践的な学習をしていきます。指定された内容にそった事前準備が求められます。

復習についての指示

授業中に取り組んだ課題には、必ず不十分な点に気付くはずで
す。必要に応じて追加的な課題への取り組みを求めます。

授業計画

1. ガイダンス
2. 教師の仕事(1) 職員室での仕事
3. 教師の仕事(2) 教室での仕事
4. 教師の仕事(3) 現職の先生の経験から
5. 教師の仕事(4) 地域・保護者との関係づくり
6. 授業に取り組む(1)
7. 授業に取り組む(2)
8. 授業に取り組む(3) 現職の先生の経験から
9. 授業に取り組む(4)
10. 特別活動を計画する(1)
11. 特別活動を計画する(2)
12. 特別活動を計画する(3) 現職の先生の経験から
13. 教師の身体的・精神的健康を維持するために
14. 教師としてのキャリアを考える
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 授業中の学習活動:70% (2) 学校での実習活動:30%

担当者：小川 洋

開設期：秋学期 必修・選択：教職科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教職課程及び指導法に関する基礎的な知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目、
中学校教諭一種免許：（共通）必修科目

講義概要

1. 内容

教職課程の授業の多くは、教員になるための技術や知識を習得するためのものだが、「教師論」の目的は、技術や知識の習得ではなく、教師という仕事に求められる資質や能力などについて考え、教職を目指すものが確かな考えをもつようになることを目標とする。教師の社会的な役割とは何か、教師に必要な資質や能力とはどのようなものかなど、教職の意義について考えるための授業である。そのためには、教師が歴史的にどのような立場（役割）にあったのか、とくに近代以降の日本ではどのような役割を期待され、果たしてきたのかを考える。また、諸外国では教員はどのような立場に置かれているのか、日本の場合と比較して考え、今後の日本の教師のあり方を考える上での参考としたい。その上で、現代の教員が抱える諸問題について、いくつかの視点から見ていく。さらに現在、世界的に政治情勢や経済情勢が変化するなかで教育も大きな変化を求められているが、そのなかで、教師はどのように対応していくべきかを考えていきたい。

2. 学びの意義と目標

1) 教師に求められる資質・能力について、学生たち自身の経験から考えさせ、資質・能力が多岐にわたること、また生徒や保護者あるいは同僚など、立場によって求めるものに違いがあることに気付かせ、教職について深い考察を促す（教職の意義・教員の役割）。2) 地方公務員法、教育公務員特例法など、教員の地位に関する法令についての正確な知識を身に付け、教師の権利・義務について理解を深める（教員の職務内容と身分）。3) 戦前期の教員身分および免許制度などについて概観し、現在の教員免許法の有り様と現在、課題とされる点についての理解を深め、教員として必要な資格について考えさせる（進路選択）。4) 近年の教員を取り巻く学校内外の環境の変化について事例を取り上げながら理解を深め、これからの教員に求められる姿勢や能力について深い考えを育てる（教員の環境）。

受講生に対する要望

教師に必要な資質・能力について十分に考えてもらいます。自分に足りないところを補う契機としてください。

キーワード

事前学習（予習）

各回、教師として必要な能力・態度・適性などについてと取りあげ議論します。シラバスにしたがってそれぞれのテーマについて自分がどのように考えているのか、議論のシュミレーションをして参加してください。

復習についての指示

ときどき授業の最後に、扱ったテーマに関する短い論作文などの宿題をだします

授業計画

1. オリエンテーション
2. 教職課程履修上の注意点
3. 教師に求められるもの①
4. 教師に求められるもの②
5. 教師になるためにーその実現に向けて
6. 教師の適性とは
7. 教師になるためにーその適性
8. 私立学校の教員採用について
9. ある元校長の学校・教員論①
10. ある元校長の学校・教員論②
11. 教師の地位に関する法律①
12. 教師の地位に関する法律②
13. 組織のなかの教師ー教育活動の環境
14. 教師と地域社会・保護者
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 授業への参加状況:40% (2) 指定したテーマについての調査レポート:30% (3) 期末テスト:30%

担当者：中谷 茂一

開設期：春学期 必修・選択：教職科目 授業回数：1 単位数：3単位

学部教育の関連目標

教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目

講義概要

1. 内容

教育実習の意義と心構え、事前準備、教育実習中の諸注意、実習日誌の留意点について学ぶ。並行して実際に教壇に立って授業を行う指導案作成、教材準備を行い、模擬授業をととして最終的な授業内容の練り上げを実施する。

2. 学びの意義と目標

福祉科教育法Ⅰ・Ⅱで学習した内容を応用し、高等学校における実際の2週間の教育実習とその事前・事後指導を行い、教育法の涵養を目標とする。

受講生に対する要望

実習生といえども生徒から見れば一個の教師である。教育者としての倫理と責任をよく認識して教育実習の準備と実施に臨んでほしい。

キーワード

(1) 教育実習

事前学習（予習）

自己の模擬講義の作成準備

授業計画

1. 教育実習の意義と心構え
2. 事前準備
3. 教育実習中の諸注意
4. 実習日誌の留意点
5. 学習指導案の作成
6. 学習指導案の作成
7. 学習指導案の作成
8. 学習指導案の作成
9. 学習指導案の作成
10. 教育実習
11. 教育実習
12. 教育実習
13. ふりかえりと評価～その1
14. ふりかえりと評価～その2
15. ふりかえりと評価～その3

教科書

教育実習研究会 編 『中学・高等学校教育実習ノート』（協同出版）

復習についての指示

当日の報告で解決しなかった疑問点を調べること

評価方法

(1) 出席:20% (2) 模擬講義内容:50% (3) ディスカッション参加状況:30%

高等学校教育実習

TEAT-0-403

担当者：小川 洋

開設期：春学期 必修・選択：教職科目 授業回数：1 単位数：3単位

学部教育の関連目標

教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目

講義概要

1. 内容

1. 内容:実際に実習校において教壇に立つ直前の準備と2週間の学校での実習そして反省、とからなる。実習が実り豊かな経験となるように十分な準備を行う。そのため、今まで学習した「教科教育法」などの知識を生かしてより実践的な教科指導、生徒指導のあり方について具体的な用意や気持ちの準備をする。2. カリキュラム上の位置づけ:「教育原理」から始まった教職課程の仕上げの科目である。この科目では学校での実習指導者からの評価を参考に評価がつくことになる。あらゆる意味で、それまでに学校現場で十分に通用する能力・知識・技術が身につけていることが前提になる。

2. 学びの意義と目標

教職課程の総仕上げです。2週間の実習は体力、精神力とも非常に厳しいものがあります。これを達成して初めて教員免許の取得がほぼ確実なものになります。

受講生に対する要望

実習が近づくと、不安も強くなるものです。準備は、これで十分ということはありませんが、準備に取り組めば取り組むほど、自信は着いてくるものです。

キーワード

事前学習（予習）

実習が近づくにつれて、実習内容がじょじょに具体化してくる。どう対応するのか、各自が不足する知識や技術について補うこと。

復習についての指示

実習で必要となる教材準備などは、授業時間外の活動になる。時間を十分に確保すること。

授業計画

1. 教育実習の意義と目的
2. 教育実習の展開—事前研究、教育実習の心得
3. 教育実習の形態—観察、参加、授業、事後研究
4. 教育実習の内容(1)—学校経営
5. 教育実習の内容(2)—教育課程、学習指導
6. 教育実習の内容(3)—生活指導、学級経営、特別活動
7. さまざまな教科指導
8. 教科外活動のあり方
9. 直前指導
10. 教育実習の実際(1)—教材研究、学習指導
11. 教育実習の実際(2)—授業参観、記録、授業分析
12. 実習記録の観点と内容
13. 教育実習の反省と評価
14. 実習記録の整理
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)実習校からの評価:70%:実習校からの評価 (2)通常授業の活動:30%:実習前後の授業での学習活動

高等学校教育実習

TEAT-0-403

担当者：東 仁美

開設期：春学期 必修・選択：教職科目 授業回数：1 単位数：3単位

学部教育の関連目標

教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目

講義概要

1. 内容

本講義は（1）教育実習において適切な指導ができるように準備を行う（2）実習を体験する（3）実習を振り返りレポートを書き、英語教職課程の学生全体に対して体験報告をすることから構成される。そのために、まず教育実習の流れを把握し、次に教育実習で使用する教科書を使って教材研究、指導案の作成、模擬授業を行い、実習前にできるだけの準備をしていく。実習後は、今後の自分の教育活動・就職活動に活かせるよう、実習体験を振り返りまとめること、また、これから実習に臨む後輩のために報告を行うことを求める。

2. 学びの意義と目標

英語科教育法や教職課程のこれまでの講義で学んできた知識・知見と模擬授業で培ってきた経験を基に、実際の教育現場で「教師」として適切な指導を行うことが目的である。実習を通して様々な教育活動に携わり、現場を観察をし、生徒と接することにより、中学校・高等学校教育現場の日々の実態を知る。またその経験の中で、教師としての自分の適性を見極め不足していると思う部分は努力して改善していく。

受講生に対する要望

教師になる、という強い意識を持って、教育実習に臨んでほしい。

キーワード

（1）教育実習 （2）教材研究 （3）模擬授業

事前学習（予習）

実習で使用する教科書の教材研究を行う。

復習についての指示

実習前：授業でのフィードバックを受けて指導案の修正を行う。実習後：教員採用試験対策に取り組む。

授業計画

1. オリエンテーション・教育実習の流れ
2. 教育実習で行う範囲の教材研究・模擬授業（1）
3. 教育実習で行う範囲の教材研究・模擬授業（2）
4. 教育実習で行う範囲の教材研究・模擬授業（3）
5. 教育実習で行う範囲の教材研究・模擬授業（4）
6. 教育実習で行う範囲の教材研究・模擬授業（5）
7. 教育実習で行う範囲の教材研究・模擬授業（6）
8. 教育実習日誌のまとめ・教育実習報告（1）・文集原稿作成
9. 教育実習日誌のまとめ・教育実習報告（2）・文集原稿作成
10. 教育実習日誌のまとめ・教育実習報告（3）・文集原稿作成
11. 教育実習日誌のまとめ・教育実習報告（4）・文集原稿作成
12. 教員採用試験対策（1）
13. 教員採用試験対策（2）
14. 教員採用試験対策（3）
15. 総括

教科書

青木昭六、田中誠 『英語科教育実習生のためのミニマム・エッセンシャルズ』（現代教育社）

評価方法

- （1）出席：20% （2）指導案、模擬授業：30% （3）実習レポート、報告：20% （4）教育実習日誌：30%

高等学校教育実習

TEAT-0-403

担当者：熊谷 芳郎

開設期：春学期 必修・選択：教職科目 授業回数：1 単位数：3単位

学部教育の関連目標

教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目

講義概要

1. 内容

本講義は、本番の「教育実習」に備えて、実習の具体的内容、実習生としての心得、学校、また、学習の場をどう作るか、どう支援しどう指導するのかといった実践方法についての演習も行う。同時に、卒業後の教育職に就くための具体的な準備や手続きについても具体的に扱う。

2. 学びの意義と目標

「教育実習」において、学校教育の現場に入り、「教師」として子どもたちの前に立つ。「実習」とはいえ、学校は、子どもたち一人ひとりにとってはかけがえのない学びの場であり、成長の場である。そのようなときに「教師」としてどのように出会い、その学習活動に携わったらよいのかをつかみとってほしい。

受講生に対する要望

教職につくという「志」と、子どもを育て育むという「理想」とをもって授業に参加してほしい

キーワード

(1)生徒 (2)向き合う (3)学習支援 (4)指導 (5)学び

事前学習（予習）

教科書は既に配布済みなので、全体を読み、実習の意義を意識しつづけること。

復習についての指示

授業後には教科書で内容を確認し、次回までに学習内容を整理しておくこと。

授業計画

1. 教育実習の意義と目的
2. 教育実習の内容 1 学校経営、学校の組織、施設環境
3. 教育実習の内容 2 教育課程、学習指導
4. 教育実習の内容 3 生徒指導、学級経営、特別活動
5. 教育実習の実際 授業参観の視点、記録、授業分析
6. 模擬授業と研究討議 1
7. 模擬授業と研究討議 2
8. 模擬授業と研究討議 3
9. 模擬授業と研究討議 4
10. 中間まとめ
11. 実習体験報告 記録の作成 1
12. 実習体験報告 記録の作成 2
13. 実習体験報告 記録の作成 3
14. 実習体験報告 記録の作成 4
15. まとめ

教科書

教育実習を考える会 『新編 教育実習の常識—事例にもとづく必須66項』（蒼丘書林）

評価方法

(1)実習前の準備活動:20% (2)実習校からの評価:60% (3)実習後のレポート:20%

担当者：小川 洋

開設期：春学期 必修・選択：教職科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：公民必修科目

講義概要

1. 内容

1. 内容：まず「公民」教科の構成について、学習指導要領の変遷および現在の指導要領の内容について学習する。基本的知識として求められる。基本を抑えたうえで、実際の授業を前提とした学習を進める。そのため、授業の初期の段階で、模擬授業で扱いたいテーマを報告し、早い時期から十分な教材研究に努めてもらう。年間計画の作成、学期単位の授業計画、単元単位の授業計画などの計画作成をすすめる。後半の授業では、模擬授業を行うとともに考查問題の試作などもする。2. カリキュラム上の位置付け：高等学校の「公民」の教育職員免許状取得に必要な必修科目であり、基本的に3年次に履修し、教育実習の準備の性格も持つ。

2. 学びの意義と目標

高校の公民の範囲は広い。科目としては「政治・経済」「倫理」「現代社会」があるわけだが、それぞれの標準的な教科書を利用しながら、授業方法について目標設定から一コマの授業計画まで、実践的な力をつけることを目標とします。

受講生に対する要望

教育実習の前年の科目でもあり、真剣勝負で臨んでほしい。

キーワード

事前学習（予習）

教科の中の科目ごとに授業計画から模擬授業までこなしてもらうので、不足する知識などは事前に幅広く吸収すること。

復習についての指示

単元計画や授業計画を授業中に完成させることは時間的にも不可能です。課題の作業内容について指摘された問題点など、丁寧に振り返って、よりよいものとする。

授業計画

1. 「学習指導要領」の「公民科」の変遷と構成
2. 「政治・経済」の教育目標など
3. 「政治・経済」の学習指導法(1) 政治分野(1)
4. 「政治・経済」の学習指導法(2) 政治分野(2)
5. 「政治・経済」の学習指導法(3) 経済分野(1)
6. 「政治・経済」の学習指導法(4) 経済分野(2)
7. 「政治・経済」の学習指導法(5) 国際政治など
8. 「倫理」の教育目標など
9. 「倫理」の学習指導法(1) 現代の課題(1)
10. 「倫理」の学習指導法(2) 現代の課題(2)
11. 「倫理」の学習指導法(3) 在り方生き方(1)
12. 「倫理」の学習指導法(4) 在り方生き方(2)
13. 教材開発
14. 教材の利用法
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 授業中の学習活動：100%：単元計画、授業計画などの作成・提出、模擬授業など。

国語科教育法Ⅰ

SUBP-J-201

担当者：熊谷 芳郎

開設期：春学期 必修・選択：教職科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：国語必修科目、
中学校教諭一種免許：国語必修科目

講義概要

1. 内容

「国語科教育法Ⅰ」と「国語科教育法Ⅱ」とが設定されているが、前者は主に「理論編」、後者は主に「実践編」という棲み分けがある。したがって、この科目は主に国語科教育の理論を主眼とした内容を扱うことになる。中学校で2012年度から、高等学校では2013年度から全面实施となる学習指導要領に注目が集まるいま、学校教育現場では多様な課題が浮かび上がりつつある。授業を一方的な知識伝達の場合から、相互交流による「学び」の場合へと、大きく転換することが必要である。授業では、国語科教育が抱える今日的課題について受講者とともに考え、国語科教育とは何かについて一人ひとりがアプローチすることを目指す。その上で、実践を視野にした授業構想を練ることを通じて、効果的な国語科教育の実践者をめざす。

2. 学びの意義と目標

国語の教師として、高等学校あるいは中学校の教壇に立つとはどういうことであるのか、どうあるべきなのかを考える基礎を作っていきたい。本科目の目標は、次のとおりである。1 国語科教育の今日的課題に対する理解を深める。2 学習指導要領に対する知見を得る。3 検定教科書に対する知見を得る。4 教材に関する読書経験を広げる。5 具体的な授業構想を展開する。

受講生に対する要望

国語科の指導者になる、というはっきりとした目的意識をもって授業に参加すること。したがって、授業に関する課題は必ずすべて提出すること。なお単位取得の最低条件として、全授業の2/3以上の出席を必要とする。大学公認の理由以外は、サークル活動・試合等も含めてすべて「欠席」扱いとなるので注意されたい。また、遅刻も慎んでいただきたい。授業に欠席した場合には、必ず自分で補充しておくことを求めたい。

キーワード

(1)国語科教育 (2)学習指導要領 (3)「学び」の場 (4)指導法 (5)理論

事前学習（予習）

授業計画を参照し、課題に関する準備は早め早めに行うこと。

復習についての指示

配布プリントを参考にしながら、教科書の該当部分の内容を次回までに確認しておくこと。

授業計画

1. 授業に関するガイダンス、および国語科教育の現状と課題に関する討議。
2. 前回の討議の重点整理と討議。
3. 文学における「発見」の意味について研究討議。
4. 文学における「語り手」の意味について研究討議 1。
5. 文学における「語り手」の意味について研究討議 2。
6. 文学における「ファンタジー」の意味について研究討議 1。
7. 文学における「ファンタジー」の意味について研究討議 2。
8. 文学における「作者」の意味について研究討議。
9. 国語科の制度について研究討議。
10. 発問・指示の意味と方法について研究討議。
11. 板書・ノート指導・ワークシートについて研究討議。
12. 「話すこと・聞くこと」の授業について研究討議。
13. 「書くこと」の授業について研究討議。
14. 「読むこと」の授業について研究討議。
15. 授業の総括と試験

教科書

町田守弘、岩崎 淳、吉田 茂、李 軍、犬塚大蔵、古井純士、澤本和子、桑原 隆、大貫真弘、熊谷芳郎、高野光男、佐野正俊、平野孝子、町田守弘『実践国語科教育法―「楽しく、力のつく」授業の創造』（学文社）宮川 健郎『物語もっと深読み教室（岩波ジュニア新書）』（岩波書店）

評価方法

- (1)課題レポート:30% (2)授業への参加状況:20% (3)期末試験:50%

国語科教育法Ⅱ

SUBP-J-202

担当者：熊谷 芳郎

開設期：秋学期 必修・選択：教職科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：国語必修科目、
中学校教諭一種免許：国語必修科目

講義概要

1. 内容

「国語科教育法Ⅰ」と「国語科教育法Ⅱ」とが設定されているが、前者は「理論編」、後者は主に「実践編」という棲み分けがある。したがって、この科目は主に国語科教育の実践を主眼とした内容を扱うことになる。新しい学習指導要領において「言語活動」が重視されていることを踏まえ、この科目では、国語科における様々な言語活動の魅力的な扱いを工夫していきたい。国語科教育法は実践を基盤とするということに配慮して、授業そのものをテキストとした実践的な授業構造にすることにより、効果的な国語科教育指導者の育成を目指す。特に、後半は受講者による模擬授業を実施して、実践的な内容を中心とした授業を展開する。

2. 学びの意義と目標

教材研修の進め方について理解することは、学習指導に対する自信を生みだし、その自信が教育という職業に対する新たな情熱を生むであろう。ただし、教えるということは、大きな責任も伴うものである。この授業を通して、そのことも自覚してほしい。本科目の目標は、次のとおりである。1 学習指導案の書き方を理解し、実際に作成できる。2 授業構想を具体化し、国語科の授業創りに向けての準備ができる。3 模擬授業を通して、発問や板書など、様々な授業創りの要素が理解できる。4 目標に準拠した評価を理解した上で、学習者の学習活動について適切な評価ができる。

受講生に対する要望

国語科の指導者になる、というはっきりとした自覚をもって授業に参加すること。したがって、授業に関する課題は必ずすべて提出すること。なお単位取得の最低条件として、全授業の2/3以上の出席を必要とする。大学公認の理由以外は、サークル活動・試合等も含めてすべて「欠席」扱いとなるので注意されたい。また、遅刻も慎んでいただきたい。授業に欠席した場合には、必ず自分で補充しておくことを求めたい。

キーワード

(1)学習指導案 (2)授業構想 (3)言語活動 (4)模擬授業 (5)目標に準拠した評価

事前学習（予習）

夏休み中に古典に関する課題があり、その後も2週間に1冊のペースで読書課題を提出するなど、ほぼ毎週何らかの提出課題がある。最初の授業で、授業計画の詳細を示すので、早め早めに準備すること。

復習についての指示

配布資料や教科書を参考にして、授業内容を次回までに理解しておくこと。

授業計画

1. 授業に関するガイダンス、および国語科教育の現状と課題に関する討議。
2. 前回の討議の重点整理と、詩歌の授業について研究討議。
3. 古典の授業について研究討議。
4. 漢字・語彙指導について研究討議。
5. グループ学習の進め方について研究討議。
6. 国語科の評価について講義
7. 指導計画・学習指導案の作成について講義と実習1。
8. 指導計画・学習指導案の作成について講義と実習2。
9. 受講者による模擬授業（評論・説明文教材による）と、その研究討議1。
10. 受講者による模擬授業（評論・説明文教材による）と、その研究討議2。
11. 受講者による模擬授業（小説教材による）と、その研究討議1。
12. 受講者による模擬授業（小説教材による）と、その研究討議2。
13. 受講者による模擬授業（古文教材による）と、その研究討議1。
14. 受講者による模擬授業（古文教材による）と、その研究討議2。
15. 授業の総括と国語教育に関する今日的課題の整理。

教科書

文部科学省、文科省=『高等学校学習指導要領解説 国語編』（教育出版）文部科学省、文科省=『中学校学習指導要領解説 国語編（平成20年9月）』（東洋館出版社）
国語科教育法Ⅰで使用した教科書『実践国語科教育法―「楽しく、力のつく」授業の創造』は引き続いて使用する。

評価方法

- (1)提出課題:20% (2)模擬授業への参加状況:50% (3)最終レポート:30%

この科目では、筆記試験は行わない。何を知っているかだけでなく、その知識をいかに生かし、以下に授業実践に結びつけるかを問う。

担当者：熊谷 芳郎

開設期：春学期 必修・選択：教職科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：国語選択科目、
中学校教諭一種免許：国語必修科目

講義概要

1. 内容

最初に言語の教育とは何かについて討議によって認識を深め、その後は国語科教育法IIで使用した教科書を引き続き使用しながら、国語科指導の進め方を実践的に学ぶ。さらに、『学習指導要領』における国語科の位置づけについて確認し、「評価規準」の考え方を学ぶ。

2. 学びの意義と目標

教材研究の実際と学習指導における計画性について、この授業を通して体系的に理解して欲しい。さらに、『学習指導要領』および「評価規準」の考え方を単に知識として頭に入れるのではなく、具体的体験的に身につけていくことができるようになることをめざす。

受講生に対する要望

教育実習に向けて実践的な力を身に付けるという自覚のもと、研究討議に積極的に参加するとともに、討議内容を踏まえた研究と工夫を求めたい。教科書は国語科教育法IIで使用したものを継続して使用する。

キーワード

(1)学習指導要領 (2)実践的 (3)評価規準 (4)指導力 (5)授業創り

事前学習（予習）

特に教材研究については、自分の納得するまでの取組を期待する。

復習についての指示

配布資料やテキストにより、授業内容を次回までに理解しておくこと。

授業計画

1. 授業に関するガイダンス、および国語科教育の現状と課題に関する討議。
2. 前回の討議の重点整理と、具体的な改善策の提案および提案に基づく研究討議。
3. 中学校国語科における「話すこと・聞くこと」の学習指導について講義と討議。
4. 中学校国語科における「書くこと」の学習指導について講義と討議。
5. 中学校国語科における「読むこと」の学習指導について講義と討議 1。
6. 中学校国語科における「読むこと」の学習指導について講義と討議 2。
7. 中学校国語科における「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の学習指導について講義と討議。
8. 学習指導案の作成と、学習指導案に即した授業展開の要点の整理。
9. 国語科指導の実際（小説）について研究と討議 1。
10. 国語科指導の実際（小説）について研究と討議 2。
11. 国語科指導の実際（詩歌）について研究と討議 1。
12. 国語科指導の実際（詩歌）について研究と討議 2。
13. 単元学習の実際について研究と討議 1。
14. 単元学習の実際について研究と討議 2。
15. 授業の総括と「国語科教育法Ⅳ」に向けての留意事項の確認。

教科書

田近 洵一、鳴島 甫他 『中学校・高等学校 国語科教育法研究』（東洋館出版社）

評価方法

- (1)課題レポート:30% (2)模擬授業への参加状況:40% (3)最終レポート:30%

担当者：熊谷 芳郎

開設期：秋学期 必修・選択：教職科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：国語選択科目、
中学校教諭一種免許：国語必修科目

講義概要

1. 内容

◆内容◆ 各自が交代で模擬授業を行い、それを撮影したビデオをもとに、授業の展開の仕方や指導方法などについて相互評価を行い、その後討論を行う。

2. 学びの意義と目標

『学習指導要領』および「評価規準」の考え方、あるいは様々な指導方法を学んできたが、それらを知識として頭に入れるのではなく、具体的体験的に身につけていくことができるようになることをめざす。

受講生に対する要望

研究討議でのやり取りの踏まえた工夫と研究を常に欠かさぬ態度を望む。

キーワード

(1)指導目標 (2)学習目標 (3)評価規準 (4)教材研究 (5)指導技術

事前学習（予習）

教材は前もって渡すので、その教材研究は早め早めに行うこと。

復習についての指示

研究討議で指摘された点についての改善策を次回の模擬授業までに整理すること。

授業計画

1. 授業に関するガイダンス、および教育機器に関する解説。
2. 受講者による模擬授業（言語教材による）と、研究討議 1。
3. 受講者による模擬授業（言語教材による）と、研究討議 2。
4. 受講者による模擬授業（言語教材による）と、研究討議 3。
5. 受講者による模擬授業（言語教材による）と、研究討議 4。
6. 受講者による模擬授業（古典教材による）と、研究討議 1。
7. 受講者による模擬授業（古典教材による）と、研究討議 2。
8. 受講者による模擬授業（古典教材による）と、研究討議 3。
9. 受講者による模擬授業（古典教材による）と、研究討議 4。
10. 過去の実践事例に学ぶ
 11. 受講者による模擬授業（小説教材による）と、研究討議 1。
 12. 受講者による模擬授業（小説教材による）と、研究討議 2。
 13. 受講者による模擬授業（評論文教材による）と、研究討議 1。
 14. 受講者による模擬授業（評論文教材による）と、研究討議 2。
 15. 授業の総括と教育実習に向けた留意事項の確認

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 模擬授業への参加状況：70% (2) 研究討議への参加状況：30%:moodleへの投稿を含む。

社会科公民的分野教育法

SUBP-P-203

担当者：石井 昇

開設期：秋学期 必修・選択：教職科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：公民必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目

講義概要

1. 内容

戦後、新教育の花形として登場した社会科は幾多の変遷を経て、今日に至っている。中学校社会科においては、地理的・歴史的・公民的分野に統合され、高校では社会科の名が消え、「地歴科」と「公民科」の2教科となった。本講義は高校の公民科も視野に入れながら、中学校における「公民的分野」の内容について考察する。本講義はこのことをふまえ、次の点を重点とする。○戦前の「公民教育」と戦後の社会科教育の関係について理解する。○「公民的資質」の概念、公民的分野の内容について理解する。○「政治」的単元、「経済」的単元、「国際政治・経済学習、現代社会」的単元について学習指導案を作成し、そのスキルを獲得する。

2. 学びの意義と目標

この講義は中学校社会科の教員免許を得ようとする学生のために開設した。＜学びの目標＞○「公民」「公民的資質」における「公民」の概念を理解できる。○公民的分野の内容と学習方法を理解できる。○公民的分野の学習指導案を作成することができる。

受講生に対する要望

○休まずに出席するように努めて欲しい。○新聞に載っている教育関連の記事に関心を持って欲しい。○必ず「レジュメ」（前時に配布する）を読んで欲しい。○レポートは必ず提出するようにして欲しい。

キーワード

(1)新聞発表を通して、「プレゼンテーション」能力をつけよう。
(2)学習指導案作成を通じて、指導案作成のスキルを身に付けよう。
(3)政治・経済・社会の動きに興味・関心を持つ。

事前学習（予習）

最初の講義の際、学生にファイルを配布する。そのファイルに必ずレジュメを綴じる。それぞれの講義の終わり5分前に次の講義のレジュメと予習課題を説明する。講義の際、生徒の予習課題を取り入れた講義を行う。最後に予習課題の提出をする。

復習についての指示

本講義は予習に重点を置き実践する。レジュメがきちんとファイルの綴じているかどうかを確認する。

授業計画

1. シラバスと本講義の説明—本講義後の導入として、位置づけ意欲づけを図る。
2. 「生きる力」と戦前の公民教育—戦前の公民教育、戦後の公民科、社会科へ至る経緯について理解する。
3. 戦後の社会科教育の推移と社会科の目標—現在に至るまでの社会科教育の推移、目標の内容とその推移を理解する。
4. 公民的分野の目標と学習内容（1）—公民・公民的資質の概念、現在までの公民的分野の内容・目標の推移を理解する。
5. 公民的分野の目標と学習内容（2）—公民的分野の内容とその推移について理解する。
6. 公民的内容の指導計画と指導事例—指導計画の作成方法を理解するとともに、中項目を選択し、指導計画を作成する。
7. 「政治」的単元の扱い—政治的単元の内容を理解するとともに、学習指導案作成の方法を知る。
8. 「政治」的単元の学習指導案の作成—＜演習＞教材を選択し、学習指導案を作成するとともに、発問計画もたてる。
9. 「経済」的単元の扱い—経済的単元の内容を理解するとともに、学習指導案作成の方法を知る。
10. 「経済」的単元の学習指導案の作成—＜演習＞教材を選択し、学習指導案を作成するとともに、板書計画もたてる。
11. 「国際政治・経済学習、現代社会」的単元の扱い—「国際政治・経済学習、現代社会」的単元の内容を理解する。
12. 「国際政治・経済学習、現代社会」的単元の学習指導案の作成—＜演習＞学習指導案を作成、発問・板書計画をてる。
13. 公民的分野の授業評価と方法—評価規準について具体的に理解するとともに、評価方法について知る。
14. テスト問題の作成と実践例の紹介—テスト問題の作成の方法を理解するとともに、先進的な実践事例について知る。
15. 講義のまとめ—公民的な見方・考え方についてまとめる。

教科書

文部科学省、文科省=『中学校学習指導要領解説 社会編』（日本文教出版）五味 文彦、斎藤 功、高橋 進『新編新しい社会公民』（東京書籍）

評価方法

(1)出席:35% (2)新聞発表、レポート、テスト:65%

必ず指示された提出物は提出すること。

担当者：石井 昇

開設期：春学期 必修・選択：教職科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

中学校教諭一種免許：社会必修科目

講義概要

1. 内容

中学校社会科3分野の教育法の発展として、本講義を位置づける。本講義表の内容は小・中の社会科・高の「地歴科」「公民科」の関連に注目するとともに、地理・歴史・公民的各分野で「地域」にこだわり、「身近な地域」のフィールドワークを実施する。○戦前に実践された「社会科」学習の内容を理解する。○歴史的分野における「郷土」・「人物」・「生活文化」、地理的分野における「身近な地域」、公民的分野における「消費者文化」・「法教育」、等の実践について理解する。○地理的分野における二万五千分の一の地形図の読図を行う。○教育実習をすることを考えて、「社会科」3分野のいずれかを選択し、学習指導案を作成し、そのスキルを獲得する。

2. 学びの意義と目標

この講義は中学校社会科の教員免許を得ようとする学生のために開設した。＜学びの目標＞○中学校社会科は講義ではなく、学習であること理解する。そのために生徒の住んでいる「地域」に注目することが生徒の興味・関心を喚起できることに気づく。○フィールドワークの重要性を理解できる。○地域にこだわった学習指導案を作成することができる。

受講生に対する要望

○休まずに出席するように努めて欲しい。○新聞に載っている教育関連の記事に関心を持って欲しい。○必ず「レジュメ」（前時に配布する）を読んできて欲しい。○レポートは必ず提出して欲しい。

キーワード

- (1)新聞発表を通して、「プレゼンテーション」能力をつけよう。
- (2)学習指導案作成を通じて、指導案作成のスキルを身に付けよう。
- (3)社会科は道具教科であることを認識しよう。

事前学習（予習）

第一回の講義の際、ファイルを学生に配布する。そのファイルに講義のレジュメを綴るようにする。講義の終了5分前目に予習課題を説明する。講義ではその予習課題を生かしながら実践にする。講義の後、予習課題を提出する。

復習についての指示

本講義は予習に重点を置き、ファイルにレジュメが綴じてあるかを確認する。

授業計画

1. シラバスと本講義の説明—本講義後の導入として、位置づけ意欲づけを図る。
2. 社会科教育の沿革と教科構造—戦前の「地理・歴史」学習、戦後の社会科教育の推移、社会科の構造を理解する。
3. 現代における社会科教育の役割—「同和教育」を通じて社会科教育の果たす役割を理解する。
4. 中学校社会科の目標と内容—社会科の目標と内容を理解するとともに、「総合的学習の時間」との関連について知る。
5. 小学校社会科・高等学校「地歴科」「公民科」との関連—小・中・高の関連について理解する。
6. 地理的分野「身近な地域の学習」—二万五千分の一の地形図について理解する。
7. 地理的分野「身近な地域の学習」—＜演習＞地形図をもとにフィールドワークを行う。
8. 歴史的分野「郷土」の扱い—「郷土」の扱いの変遷と「郷土」を扱う意義について理解する。
9. 歴史的分野「生活文化」の学習と博物館—「生活文化」の概念を理解するとともに、博学連携について知る。
10. 歴史的分野「人物」の扱い—歴史における人物の果たす役割について理解する。
11. 公民的分野「消費者教育」—消費者教育の変遷と消費者教育の意義について理解する。
12. 公民的分野「法教育」—法教育の内容と意義を理解するとともに、裁判員制度について知る。
13. 「学習指導案」の作成—＜演習＞地域にこだわった学習指導案を作成する。
14. 「考古学の利用」・補遺—考古学を利用する意義について理解するとともに、実践例を紹介する。
15. 講義のまとめ—社会科教育では「地域」が重要であることを理解する。

教科書

文部科学省、文科省=『中学校学習指導要領解説 社会編』（日本文教出版）東京書籍『新しい社会 地理』（東京書籍）東京書籍『新しい社会 歴史』（東京書籍）東京書籍『新しい社会 公民』（東京書籍）

評価方法

- (1)出席:35% (2)新聞発表、レポート、テスト:65%
- 必ず指示された提出物は提出すること。

担当者：石井 昇

開設期：秋学期 必修・選択：教職科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

中学校教諭一種免許：社会必修科目

講義概要

1. 内容

中学校社会科3分野の教育法の発展として、さらに「社会科授業研究Ⅰ」をふまえて本講義を位置づける。本講義の内容は社会科の資料論、指導論を中心に構成した。○学習方法について、「問題解決学習」、「検証学習」をはじめ多様な方法論を理解する。○学習過程の多様な方法論と評価論について理解する。○実物資料による体験、古文書資料の読解などを行う。○地理的分野における地図帳、歴史的分野における年表、公民的分野における新聞、等の扱いについて理解する。○教育実習をすることを考えて、「社会科」3分野のいずれかを選択し、学習指導案を作成し、そのスキルを獲得する。

2. 学びの意義と目標

この講義は中学校社会科の教員免許を得ようとする学生のために開設した。＜学びの目標＞○中学校社会科は講義ではなく、学習であること理解する。そのために一斉画一指導を克服して多様な学習方法があることに気づく。○「診断的評価」・「形成的評価」・「総括的評価」の内容・方法について理解する。○学習指導案を作成することができる。

受講生に対する要望

○休まずに出席するように努めて欲しい。○新聞に載っている教育関連の記事に関心を持って欲しい。○必ず「レジュメ」（前時に配布する）を読んで来て欲しい。○レポートを必ず提出して欲しい。

キーワード

- (1)新聞発表を通して、「プレゼンテーション」能力をつけよう。
- (2)学習指導案作成を通じて、指導案作成のスキルを身に付けよう。
- (3)社会科は道具教科であることを認識しよう。

事前学習（予習）

第一回の講義の際、ファイルを学生に配布する。レジュメを必ずそのファイルに綴じる。講義の終了5分前に予習課題を説明する。講義はその予習課題を生かしながら実践する。授業後予習課題を提出する。

復習についての指示

本講義は予習を中心に行う。ファイルにレジュメが綴じてあるかどうかを確認する。

授業計画

1. シラバスと本講義の説明—本講義後の導入として、位置づけ意欲づけを図る。
2. 指導計画の作成と教材研究—アメリカ社会科の変遷を理解する。あわせて単元学習のありようについて知る。
3. 学習指導過程の工夫—「オープンマインド」・「オープンプロセス」・「オープンエンド」の3つのオープンを理解する。
4. 学習指導の評価と方法—「診断的評価」・「形成的評価」・「総括的評価」の3つの評価を理解する。
5. 学習方法の工夫—「問題解決学習」、「発見学習」をはじめ多様な学習方法を理解する。
6. 授業過程の工夫—「受容的課題」、「選択的課題」、「発見的課題」について理解する。
7. 学習資料の開発—実物資料、加工資料の実際に触れ、資料の重要性を理解する。
8. 地図帳と地理的分野の授業—地理的分野の学習において、空間的認識の育成と地図帳の関連を理解する。
9. 年表と歴史的分野の授業—歴史的歴分野の学習において、時間的認識を育成するには年表が大きな役割を果たすことについて理解する。
10. 新聞と公民的分野の授業—公民的分野は現実の政治・経済・社会を扱うために新聞が大きな役割を果たしていることについて理解する。
11. 統計の活用—3分野の教科書には多くの統計が掲載されている。この統計の見方について理解する。
12. 学習指導案の作成—＜演習＞卒論としての社会科学学習指導案作成を2時間にわたって行う。
13. 「学習指導案」の作成—同上
14. 授業研究と教師のありかた—社会科実践家の事例を紹介し、教材研究の重要性を理解する。
15. 講義のまとめ—教育実習への意欲を喚起する。

教科書

文部科学省、文科省=『中学校学習指導要領解説 社会編』（日本文芸出版）帝国書院編集部『中学校社会科地図（Teikoku's Atlas）』（帝国書院）東京書籍『新しい社会 地理』（東京書籍）東京書籍『新しい社会 歴史』（東京書籍）東京書籍『新しい社会 公民』（東京書籍）

評価方法

- (1)出席:35% (2)新聞発表、レポート、テスト:65%

必ず指示された提出物は提出すること

社会科地理・歴史的分野教育法

SUBP-P-204

担当者：石井 昇

開設期：春学期 必修・選択：教職科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目、
中学校教諭一種免許：社会必修科目

講義概要

1. 内容

戦後、新教育の花形として登場した社会科は幾多の変遷を経て、今日に至っている。中学校社会科においては、地理的・歴史的・公民的分野に統合され、高校では社会科の名が消え、「地歴科」と「公民科」の2教科となった。本講義は高校の地歴科も視野に入れながら、中学校における「地理的分野」、「歴史的分野」の内容について考察する。本講義はこのことをふまえ、次の点を重点とする。○戦前の「地理教育」「歴史教育」のねらいを知るとともに、戦後の社会教育の変遷を理解する。○社会科の教科構造について理解する。○「歴史的分野」、「地理的分野」について学習指導案を作成し、そのスキルを獲得する。

2. 学びの意義と目標

この講義は中学校社会科の教員免許を得ようとする学生のために開設した。＜学びの目標＞○「公民的資質」の概念を理解できる。○地理的分野・歴史的分野の内容と学習方法を理解できる。○日本・世界の略図を描きことができ、地理的分野・歴史的分野の学習指導案を作成することができる。

受講生に対する要望

○休まずに出席するように努めて欲しい。○新聞に載っている教育関連の記事に関心を持って欲しい。○必ず「レジュメ」（前時に配布する）を読んできて欲しい。○レポートは必ず提出して欲しい。

キーワード

(1)新聞発表を通して、「プレゼンテーション」能力をつけよう。
(2)学習指導案作成を通じて、指導案作成のスキルを身に付けよう。
(3)略図を描くスキルを獲得する。

事前学習（予習）

第一回の講義の際、ファイルを学生に配布する。そのファイルにレジュメを綴じるように指示する。講義の終了5分前に予習課題を説明する。講義は予習課題を生かしながら実践する。講義後、予習課題を提出する。

復習についての指示

本講義は予習を中心に行う。ファイルにレジュメが綴じてあるかどうかを確認する。

授業計画

1. シラバスと本講義の説明—本講義後の導入として、位置づけ意欲づけを図る。
2. 地理・歴史教育の沿革（戦前期）—戦前の地理・歴史教育の内容とそのねらいについて理解する。
3. 戦後の社会科教育の変遷と社会科の目標—現在に至るまでの社会科教育の推移、目標の推移とその内容を理解する。
4. 歴史的分野教育法（歴史的分野の目標）—歴史的分野の目標の推移とその内容について理解する。
5. 歴史的分野教育法（歴史的分野の内容）—歴史分野の内容とその推移について理解する。
6. 歴史的分野教育法（指導計画と指導事例）—＜演習＞指導計画の方法を知るとともに中項目を選択し、指導計画を作成する。
7. 歴史的分野教育法（学習指導案の作成）—学習指導案（細案）を作成する方法について理解する。
8. 歴史的分野教育法（学習指導案の作成）—＜演習＞教材を選択し、学習指導案を作成する。
9. 地理的分野教育法（地理的分野の目標）—地理的分野の目標の推移その内容について理解する。
10. 地理的分野教育法（地理的分野の内容）—地理的分野の内容とその推移について理解する。
11. 地理的分野教育法（指導計画と指導事例）—地理的分野の指導計画を知り、学習指導案（略案）の書き方を理解する。
12. 地理的分野教育法（学習指導案の作成）—＜演習＞教材を選択し、学習指導案（略案）を作成する。
13. 地理的分野教育法（略図の作成）—＜演習＞日本、世界の略図を作成する。
14. 地理的分野教育法（略図を用いた板書・テスト問題の作成）—テスト問題の作成の方法、略図を用いた板書を理解する。
15. 講義のまとめ—地理的・歴史的分野の見方・考え方についてまとめる。

教科書

文部科学省、文科省=『中学校学習指導要領解説 社会編』（日本文教出版）東京書籍『新しい社会 地理』（東京書籍）東京書籍『新しい社会 歴史』（東京書籍）

評価方法

(1)出席:35% (2)新聞発表、レポート、テスト:65%

必ず指示された提出物は提出すること。

担当者：国分 道雄

開設期：春学期 必修・選択：教職科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：情報必修科目

講義概要

1. 内容

本講義は高等学校の「情報」の教員免許を取得し、将来情報科の科目を担当使用と志す学生のための授業である。したがって教員免許取得を目指す学生に対する授業として、授業で担当する各科目の指導目標や、教科の特徴、および関連する教育活動についての法的根拠などについてもあわせて学習することを目的とする。

2. 学びの意義と目標

普通教科「情報」および専門教科「情報」の担当者としてふさわしい生徒指導ができるための基本的な事柄の理解と態度を養うことを目標とする。

受講生に対する要望

教職につくものとして、専門科目の内容は当然のことながら、教育問題にも深い関心を持って授業に臨むこと。

キーワード

事前学習（予習）

次回のテキストの箇所を読んでくること。

授業計画

1. 教師としての心構え
2. 高等学校学習指導要領と教育関係法規
3. 生徒理解と授業
4. 普通教科「情報」
5. 専門教科「情報」
6. 学習指導要領解説1
7. 学習指導要領解説2
8. 学習指導要領解説3
9. 学習指導要領解説4
10. 学習指導要領解説5
11. 実際の授業1
12. 実際の授業2
13. 授業実習と教材
14. 授業実習と教材
15. 授業実習と教材

教科書

文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 情報編』（開隆堂出版）

復習についての指示

授業の内容に基づき、指導案の作成を行うこと。

評価方法

(1) 授業での課題:60% (2) レポート:40%

担当者：国分 道雄

開設期：秋学期 必修・選択：教職科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：情報必修科目

講義概要

1. 内容

本講義は高等学校の「情報」の教員免許を取得し、将来情報科の科目を担当使用と志す学生のための授業である。したがって教員免許取得を目指す学生に対する授業として、授業で担当する各科目の指導目標や、教科の特徴、および関連する教育活動についての法的根拠などについてもあわせて学習することを目的とする。

2. 学びの意義と目標

普通教科「情報」および専門教科「情報」の担当者としてふさわしい生徒指導ができるための基本的な事柄の理解と態度を養うことを目標とする。

受講生に対する要望

教職につくものとして、専門科目の内容は当然のことながら、教育問題にも深い関心を持って授業に臨むこと。

キーワード

事前学習（予習）

次回のテキストの箇所を読んでくること。

復習についての指示

授業の内容に基づき、指導案の作成を行うこと。

授業計画

1. 学習指導要領解説1
2. 学習指導要領解説2
3. 学習指導要領解説3
4. 学習指導要領解説4
5. 教材作成1
6. 教材作成2
7. 教材作成3
8. 教材作成4
9. 教材作成5
10. 模擬授業1
11. 模擬授業2
12. 模擬授業3
13. 模擬授業4
14. 模擬授業5
15. まとめ

教科書

文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 情報編』（開隆堂出版）

評価方法

(1) 授業での課題:60% (2) レポート:40%

生徒指導論（進路指導を含む。）

TEAT-0-208

担当者：小川 洋

開設期：春学期 必修・選択：教職科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目、
中学校教諭一種免許：（共通）必修科目

講義概要

1. 内容

子どもたちを取り巻く社会環境は、時代とともに大きく変化している。生徒指導は学校教育現場において教科指導とともに大切な教育活動であり、子どもの素質・能力・興味を引き出し、成長を援助する指導である。この授業では、生徒指導一般と進路指導とを扱う。生徒指導では、生徒の精神的な発達に関する知識やそれぞれの発達に応じた、教育相談や問題行動などに際しての適切な指導法について学ぶ。進路指導においては、職業選択にとどまらず、より高次のキャリア選択の観点からの生徒を指導する必要性を理解させるとともに、近年の雇用環境の変化についても正確な知識を吸収することによって、より確実な指導能力を養成する。

2. 学びの意義と目標

1) 生徒指導に必要な青年期の心理について、多くの具体的な事例を上げて、実際の場面を考えながら深い理解を促す。2) 学校生活上、問題となる生徒の行動について、不登校や薬物利用などを始めとして、いくつかに類型化し、その実態についての理解を深めさせる。3) 生徒指導が教科学習指導を始めとする学校生活全体で考えるべきものと位置づけられている意味について理解を確実なものとする。4) 進路選択が生徒にとって将来の自己実現につながるものであることを十分に認識し、適切な指導方法について、どのようなものがあるのか理解を深める。5) 現代社会の職業や雇用の環境の変化についての理解を深めさせ、これからの子どもたちの進路選択には、どのような情報や判断力が求められているか、考察する。

受講生に対する要望

知らないことを教えたり指導したりすることはできません。生徒指導上で知らなければならないことを確実に理解してもらいます。

キーワード

(1) 生徒理解 (2) 雇用環境 (3) 青年期

事前学習（予習）

各回の授業は1時間ずつ異なったテーマを取り上げていきます。事前にテーマについての基礎知識を収集しておくこと。

復習についての指示

レポートも課します。授業で取り上げた問題を各自、深い理解をする努力を求めます。

授業計画

1. 生徒指導の意義と概念
2. 生徒指導におけるパーソナリティーの発達の理解
3. 生徒指導の原理と方法
4. 生徒理解と生徒指導
5. 生徒指導における教育相談
6. 生徒の問題行動とその対応
7. 性・健康教育と生徒指導
8. 心身の不適応を有する生徒への対応
9. キャリア教育と職業教育（進路指導1）
10. キャリア選択と学校教育・各種資格（進路指導2）
11. 職業教育と職業選択（進路指導3）
12. 雇用環境の変化とこれからの働き方・生き方（進路指導4）
13. 障害理解と生徒指導
14. 地域や他機関との連携による生徒指導
15. 教師になるための生徒指導論

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 授業への積極性及び貢献度:30% (2) レポート提出2回:30% (3) 期末試験:40%

中学校教育実習

TEAT-0-402

担当者：小川 洋

開設期：春学期 必修・選択：教職科目 授業回数：1 単位数：5単位

学部教育の関連目標

教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

中学校教諭一種免許：（共通）必修科目

講義概要

1. 内容

1. 内容:実際に実習校において教壇に立つ直前の準備と3週間の学校での実習そして反省、とからなる。実習が実り豊かな経験となるように十分な準備を行う。そのため、今まで学習した「教科教育法」などの知識を生かしてより実践的な教科指導、生徒指導のあり方について具体的な用意や気持ちの準備をする。2. カリキュラム上の位置づけ:「教育原理」から始まった教職課程の仕上げの科目である。この科目では学校での実習指導者からの評価を参考に評価がつくことになる。あらゆる意味で、それまでに学校現場で十分に通用する能力・知識・技術が身につけていることが前提になる。

2. 学びの意義と目標

教職課程の総仕上げです。3週間の実習は体力、精神力とも非常に厳しいものがあります。これを達成して初めて教員免許の取得がほぼ確実なものになります。

受講生に対する要望

大学の授業に並行して、実習校との連絡を密に取りながら、より万全の実習態勢が取れるように努力すること。

キーワード

事前学習（予習）

実習が近づくにつれて、実習内容がじょじょに具体化してくる。どう対応するのか、各自が不足する知識や技術について補うこと。

復習についての指示

実習で必要となる教材準備などは、授業時間外の活動になる。時間を十分に確保すること。

授業計画

1. 教育実習の意義と目的
2. 教育実習の展開—事前研究、教育実習の心得
3. 教育実習の形態—観察、参加、授業、事後研究
4. (4) 教育実習の内容(1)—学校経営
5. 教育実習の内容(2)—教育課程、学習指導
6. 教育実習の内容(3)—生活指導、学級経営、特別活動
7. 教育実習に備えて(1)—さまざまな授業
8. 教育実習に備えて(2)—さまざまな教科外活動
9. 直前指導
10. 教育実習の実際(1)—教材研究、学習指導
11. 教育実習の実際(2)—授業参観、記録、授業分析
12. 実習記録の観点と内容
13. 教育実習の反省と評価
14. 実習記録の整理
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 授業中の学習活動:30% (2) 実習校の評価:70%

中学校教育実習

TEAT-0-402

担当者：東 仁美

開設期：春学期 必修・選択：教職科目 授業回数：1 単位数：5単位

学部教育の関連目標

教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

中学校教諭一種免許：(共通)必修科目

講義概要

1. 内容

本講義は(1)教育実習において適切な指導ができるように準備を行う(2)実習を体験する(3)実習を振り返りレポートを書き、英語教職課程の学生全体に対して体験報告をすることから構成される。そのために、まず教育実習の流れを把握し、次に教育実習で使用する教科書を使って教材研究、指導案の作成、模擬授業を行い、実習前にできるだけの準備をしていく。実習後は、今後の自分の教育活動・就職活動に活かせるよう、実習体験を振り返りまとめること、また、これから実習に臨む後輩のために報告を行うことを求める。

2. 学びの意義と目標

英語科教育法や教職課程のこれまでの講義で学んできた知識・知見と模擬授業で培ってきた経験を基に、実際の教育現場で「教師」として適切な指導を行うことが目的である。実習を通して様々な教育活動に携わり、現場を観察をし、生徒と接することにより、中学校・高等学校教育現場の日々の実態を知る。またその経験の中で、教師としての自分の適性を見極め不足していると思う部分は努力して改善していく。

受講生に対する要望

教師になる、という強い意識を持って、教育実習に臨んでほしい。

キーワード

(1)教育実習 (2)教材研究 (3)模擬授業

事前学習(予習)

実習で使用する教科書の教材研究を行う。

復習についての指示

実習前:授業でのフィードバックを受けて指導案の修正を行う。実習後:教員採用試験対策に取り組む。

授業計画

1. オリエンテーション・教育実習の流れ
2. 教育実習で行う範囲の教材研究・模擬授業(1)
3. 教育実習で行う範囲の教材研究・模擬授業(2)
4. 教育実習で行う範囲の教材研究・模擬授業(3)
5. 教育実習で行う範囲の教材研究・模擬授業(4)
6. 教育実習で行う範囲の教材研究・模擬授業(5)
7. 教育実習で行う範囲の教材研究・模擬授業(6)
8. 教育実習日誌のまとめ・教育実習報告(1)・文集原稿作成
9. 教育実習日誌のまとめ・教育実習報告(2)・文集原稿作成
10. 教育実習日誌のまとめ・教育実習報告(3)・文集原稿作成
11. 教育実習日誌のまとめ・教育実習報告(4)・文集原稿作成
12. 教員採用試験対策(1)
13. 教員採用試験対策(2)
14. 教員採用試験対策(3)
15. 総括

教科書

青木昭六、田中誠 『英語科教育実習生のためのミニマム・エッセンシャルズ』(現代教育社)

評価方法

(1)出席:20% (2)指導案、模擬授業:30% (3)実習レポート、報告:20% (4)教育実習日誌:30%

中学校教育実習

TEAT-0-402

担当者：熊谷 芳郎

開設期：春学期 必修・選択：教職科目 授業回数：1 単位数：5単位

学部教育の関連目標

教職に関する知識・技能を教育現場等の実習・体験を通して実践的に身につける

カリキュラム上の位置付け

中学校教諭一種免許：（共通）必修科目

講義概要

1. 内容

本講義は、本番の「教育実習」に備えて、実習の具体的内容、実習生としての心得、学校、また、学習の場をどう作るか、どう支援しどう指導するのかといった実践方法についての演習も行う。同時に、卒業後の教育職に就くための具体的な準備や手続きについても具体的に扱う。

2. 学びの意義と目標

「教育実習」において、学校教育の現場に入り、「教師」として子どもたちの前に立つ。「実習」とはいえ、学校は、子どもたち一人ひとりにとってはかけがえのない学びの場であり、成長の場である。そのようなときに「教師」としてどのように出会い、その学習活動に携わったらよいのかをつかみとってほしい。

受講生に対する要望

教職につくという「志」と、子どもを育て育むという「理想」とをもって授業に参加してほしい

キーワード

(1)生徒 (2)向き合う (3)学習支援 (4)指導 (5)学び

事前学習（予習）

教科書は既に配布済みなので、全体を読み、実習の意義を意識しつづけること。

復習についての指示

授業後には教科書で内容を確認し、次回までに学習内容を整理しておくこと。

授業計画

1. 教育実習の意義と目的
2. 教育実習の内容 1 学校経営、学校の組織、施設環境
3. 教育実習の内容 2 教育課程、学習指導
4. 教育実習の内容 3 生徒指導、学級経営、特別活動
5. 教育実習の実際 授業参観の視点、記録、授業分析
6. 模擬授業と研究討議 1
7. 模擬授業と研究討議 2
8. 模擬授業と研究討議 3
9. 模擬授業と研究討議 4
10. 中間まとめ
11. 実習体験報告 記録の作成 1
12. 実習体験報告 記録の作成 2
13. 実習体験報告 記録の作成 3
14. 実習体験報告 記録の作成 4
15. まとめ

教科書

教育実習を考える会 『新編 教育実習の常識—事例にもとづく必須66項』（蒼丘書林）

評価方法

(1)実習前の準備活動:20% (2)実習校からの評価:60% (3)実習後のレポート:20%

担当者：小川 洋

開設期：秋学期 必修・選択：教職科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：地理歴史必修科目

講義概要

1. 内容

1. 内容:まず「地理」・「日本史」・「世界史」の3科目からなる「地理歴史」教科の構成について、「学習指導要領」の変遷および現在の指導要領の構成・内容について学習する。これは基本的な知識として求められる。これらの基本を抑えたうえで、実際の授業を前提とした学習を進める。そのため、授業の初期の段階で、模擬授業で扱いたいテーマを決めて、早い時期から十分な教材研究に努めてもらう。年間計画の作成、学期単位の授業計画、単元単位の授業計画などの計画作成も行う。後半の授業では模擬授業を行う。2. カリキュラム上の位置づけ:高等学校の「地理歴史」の教育職員免許状取得に必要な必修科目であり、教育実習準備の性格も持つ。したがって、より実践的な学習に取り組むことを通じて、教科指導に必要な知識と技術などを習得することを目指す。

2. 学びの意義と目標

地歴科の科目を一通り、授業ができるように指導します。高校で履修していない学生もありますが、その部分については自助努力に期待することになります。十分な知識が教授法の前提となります。自分にどのような知識が足りないかを常に意識して取り組み、ある程度の自信をもってもらうことが目標です。

受講生に対する要望

教授法に必要な知識は授業では補えません。知識の部分は個人差も大きいので、自ら積極的に取り組むこと。

キーワード

事前学習（予習）

各科目ごとに作業を進めるので、あらかじめ自分に知識が不足している科目・単元については自発的に学習準備をすること。

復習についての指示

授業で指摘された不十分な箇所や内容については次の授業までに確実に修正しておくこと。

授業計画

1. 「学習指導要領」の「地理歴史科」の変遷と構成
2. 地歴科の教育目標など
3. 「日本史」科目の教育目標など
4. 「日本史」の学習指導法(1) 前近代史
5. 「日本史」の学習指導法(2) 近現代史
6. 「世界史」の教育目標など
7. 「世界史」の学習指導法(1) 前近代史
8. 「世界史」の学習指導法(2) 近現代史
9. 「地理」の教育目標など
10. 「地理」の学習指導法(1) 系統地理分野
11. 「地理」の学習指導法(2) 地誌分野
12. 教材づくり
13. 教材の活用法
14. 授業の技術
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業中の学習活動:100%:単元計画から一コマの授業計画あるいは模擬授業を課します。

特別活動の理論と方法

TEAT-0-302

担当者：石井 昇

開設期：秋学期 必修・選択：教職科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：（共通）必修科目、
中学校教諭一種免許：（共通）必修科目

講義概要

1. 内容

中学校では、生徒の人間関係や連帯感、集団の一員としての自覚や責任感の希薄化等が問題になる中で、「特別活動」は最も大事な教育活動である。本講義はそのことをふまえ、次の点を重点とする。○「特別活動」の学校教育に占める役割では、生徒の「生きる力」を育成ために「特別活動」のあり方について考察する。○「特別活動」の沿革では、昭和22年の発足以降どのように推移して現在に至っているのかについて考察する。○「特別活動」の内容の「学級活動」・「生徒会活動」・「学校行事」については現在学校で行われている活動に即しながら考察する。また「生徒指導」・「いじめ」・「進路指導」と「学級活動」の関係について考察する。○教育実習をすることを考えて、「学級活動」の時間の学習指導案を作成し、そのスキルを獲得する。

2. 学びの意義と目標

この講義は中学校、高等学校の教員免許を得ようとする学生のために開設した。＜学びの目標＞教育課程のなかで、「特別活動」が大きな役割を占めていることを理解できる。○「学級活動」の時間の学習指導案を作成することができる。

受講生に対する要望

○休まずに出席するように努めて欲しい。○新聞に載っている教育関連の記事に関心を持って欲しい。○必ず「レジュメ」（前時に配布する）を読んで欲しい。○レポートを必ず提出するようにして欲しい。

キーワード

(1)新聞発表を通して、「プレゼンテーション」能力をつけよう。
(2)学習指導案作成を通じて、指導案作成のスキルを身に付けよう。
(3)担任にとって特別活動が重要であることを認識しよう。

事前学習（予習）

第一回の講義の際、ファイルを学生に配布する。レジュメを必ずファイルに綴じるように指示する。講義の終了5分前に予習課題を説明する。講義ではその予習課題を生かしながら実践する。講義終了後予習課題を提出する。

復習についての指示

本講義は予習を中心に行う。ファイルにレジュメが綴じてあるかどうかを確認する。

授業計画

1. シラバスと本講義の説明—本講義後の導入として、位置づけ意欲づけを図る。
2. 「生きる力」と「特別活動」—「特別活動」の意義について中学生の作文を通して理解する。
3. 「特別活動」の沿革—昭和22年の発足以降、現在に至るまでの「特別活動」の推移を理解する。
4. 「特別活動」のねらい—昭和22年の発足以降、現在に至るまでの「特別活動」の目標の内容とその推移を理解する。
5. 「学級活動」の内容とその指導—「学級活動」の前提である「学級」の概念を知るとともに、「学級活動」の内容について理解する。
6. 「学級活動」の内容（進路指導）とその指導—「学級活動」における「進路指導」の指導なありかたについて理解する。
7. 「学級活動」の内容（生徒指導）とその指導—「非行生徒」指導と「学級活動」の関連について理解する。
8. 「学級活動」の内容（いじめ・学級崩壊）とその指導—いじめの実態・克服した実践を踏まえ「学級活動」の必要性を理解する。
9. 「生徒会活動」の意義とその活動—「生徒会活動」の内容・推移を知るとともに、現在の課題について理解する。
10. 「学校行事」のねらいとその活動—「学校行事」のねらいと「学級活動」・「生徒会」との関係について理解する。
11. 戦前の「生徒の活動」（運動会・修学旅行・自治会）—アメリカの特別活動・戦前の「生徒の活動」を理解する。
12. 「特別活動」の指導計画の作成—「特別活動」の指導計画はどのように作成するかについて理解する。
13. 「学習指導案」の作成—＜演習＞題材を選び、学習指導案を作成する。
14. 「特別活動」の評価と方法—「特別活動」の評価はどのように行われるか、実態に即して理解する。
15. まとめと実践事例の紹介—特別活動の重要性について理解する。

教科書

文部科学省、文科省= 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』（ぎょうせい）

評価方法

(1)出席:35% (2)新聞発表、レポート、テスト:65%

必ず指示された提出物は提出すること。

道徳教育指導法

TEAT-D-200

担当者：細戸 一佳

開設期：春学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：（共通）選択科目、
中学校教諭一種免許：（共通）必修科目

講義概要

1. 内容

本講義では、まず道徳の本質とその基礎的理論について講義を行う。その後、学校教育の中で道徳教育がどのように位置づけられているか、その歴史的変遷について理解するとともに、道徳教育の意義・目的・内容・方法等について実践事例をもとに考察する。また指導資料を開発しそれをもとに学習指導案を作成する。

2. 学びの意義と目標

1) 道徳の本質とその基礎的理論について理解できる。2) 道徳教育の変遷について理解できる。3) 指導資料をもとに学習指導案を作成することができる。

受講生に対する要望

授業（特にグループ活動場面）への積極的な参加を望みます。

キーワード

(1) 道徳教育 (2) 学習指導要領 (3) 指導法

事前学習（予習）

教育課程及び教育史関係の科目を受講済みの方は内容を復習しておいてください。またインターネットや文献等を通じて「道徳の時間」の学習指導案を参照しておいてください。

復習についての指示

授業で紹介する参考文献を読むことが望ましい。

授業計画

1. シラバスと本講義の意図の説明
2. 道徳の本質とその基礎理論
3. コールバーグの道徳判断の発達段階
4. トーマス・ゴードンの教師学
5. 道徳教育の歴史的変遷
6. 学習意欲と学習スキルを向上させる道徳教育実践の試み（1）ほめ方と叱り方
7. 学習意欲と学習スキルを向上させる道徳教育実践の試み（2）教師学の応用
8. 道徳教育の目標と内容
9. 道徳教育推進教師の役割および年間指導計画について
10. ①職場・自然体験学習、ボランティア活動を生かした指導、②伝記、自然、伝統と文化、スポーツ題材を生かした指導（グループ学習）
11. 『道徳の時間』の指導（1）指導資料の開発（情報機器を生かした指導内容を含む）（グループ学習）
12. 『道徳の時間』の指導（2）学習指導案の作成とその手順（グループ学習）
13. 『道徳の時間』の指導（3）学習指導案の立案（グループ学習）
14. 『道徳の時間』の模擬授業（グループごとの発表）
15. 道徳教育の評価の方法

教科書

文部科学省、文科省= 『中学校学習指導要領解説 道徳編』（日本文教出版）

評価方法

- (1) 評価ポイントは課題発表・学習指導案の作成、期末テスト：70%
- (2) 授業態度を重視する：30%

道徳教育の研究

TEAT-0-206

担当者：石井 昇

開設期：春学期 必修・選択：教職科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：（共通）選択科目、
中学校教諭一種免許：（共通）必修科目

講義概要

1. 内容

本講義は中学校教育の中で、道徳教育がどのように位置づけられているか、その歴史的変遷について理解するとともに、道徳教育の意義・目的・内容・方法について実践事例をもとに考察する。指導資料を発掘し、それをもとに学習指導案を作成する。○「道徳教育」は、生徒の「生きる力」を育成するために重要な領域であることを理解する。○戦前の道徳教育で「修身」の果たした役割を知るとともに、戦後の道徳教育の変遷について理解する。○道徳の内容「1主として自分自身に関すること」、「2主として他の人との関わりに関すること」、「3主として自然や崇高なものとの関わりに関すること」、「4主として集団や社会との関わりに関すること」の内容を理解するとともに、その関連を知る。○教育実習をすることを考えて、「道徳の時間」の学習指導案を作成し、そのスキルを獲得する。

2. 学びの意義と目標

この講義は中学校の教員免許を得ようとする学生のために開設した。＜学びの目標＞○教育課程のなかで、「道徳」が大きな役割を占めていることが理解できる。○「道徳の時間」の学習指導案を作成することができる。

受講生に対する要望

○休まずに出席するように努めて欲しい。○新聞に載っている教育関連の記事に関心を持って欲しい。○必ず「レジュメ」（前時に配布する）を読んで欲しい。○レポートは必ず提出するようにして欲しい。

キーワード

- (1)新聞発表を通して、「プレゼンテーション」能力をつけよう。
- (2)学習指導案作成を通じて、指導案作成のスキルを身に付けよう。
- (3)担任にとって道徳教育が重要であることを認識しよう。

事前学習（予習）

第一回の際、学生にファイルを配布する。そのファイルにレジュメを綴じて置くように指示する。講義終了5分前に予習課題の説明をする。講義では予習課題を生かしながら実践する。講義終了の際、予習課題を提出する。

復習についての指示

本講義は予習を中心に行う。ファイルにレジュメが綴じてあるかどうかを確認する。

授業計画

1. シラバスと本講義の説明—本講義後の導入として、位置づけ意欲づけを図る。
2. 道徳及び道徳教育の本質—「道徳」の概念と道徳教育の本質を理解する。
3. 現代社会と道徳教育—現代社会における道徳教育の必要性について理解する。
4. 戦前の道徳教育の展開—教育勅語と修身、修身と「新教育運動」の関わりについて理解する。
5. 戦前の道徳教育の展開—戦間期に修身の果たした役割について理解する。
6. 戦後の道徳教育の展開—「道徳の時間」が設置された理由とその後の推移について理解する。
7. 学校の教育課程と道徳教育—「道徳性」の概念を理解するとともに、道徳教育の発達に尽した人々について知る。
8. 道徳教育の目標と内容—道徳教育の目標の変遷とその内容を理解する。
9. 「道徳の時間」の目標と道徳の授業—「道徳の時間」の目標の内容・「道徳的実践力」の概念を理解する。
10. 指導計画の作成—「全体計画」と「道徳の時間」の指導計画の内容、「道徳教育推進教師」の果たす役割について理解する。
11. 「道徳の時間」の指導Ⅰ（指導資料の開発）—資料選択・開発の方法、道徳資料の可否を判断する力を育成する。
12. 「道徳の時間」の指導Ⅱ（学習指導案の作成とその手順）—学習指導案の作成方法について理解する。
13. 「道徳の時間」の指導Ⅲ（学習指導案の作成）—＜演習＞題材を選び、学習指導案を作成する。
14. 道徳教育の評価—道徳教育の評価の方法について理解するとともに、教科と違って評価の難しさについて知る。
15. 本講義のまとめ—道徳教育の重要性について理解する。

教科書

文部科学省、文科省=『中学校学習指導要領解説 道徳編』（日本文教出版）

評価方法

- (1)出席:35% (2)新聞発表、レポート、テスト:65%

必ず指示された提出物は提出すること。

担当者：石津 靖大

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：教職科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教職課程及び指導法に関する基礎的な知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：（共通）選択科目、
中学校教諭一種免許：（共通）選択科目

講義概要

1. 内容

学校と教育の歴史について、ヨーロッパの古典思想から近代の教育思想までを概観し、近代の学校、とくに義務教育の成り立ちについての理解を深める。ついで、日本における教育思想と学校制度について概観する。教育のありようは、それぞれの地域の政治・経済・文化など社会的環境に深く根ざしている。講義では、教育の思想や制度、学校教育について、それぞれの社会的背景を視野に入れ、教育について多様な観点からその有りようを考えていく能力を養う。

2. 学びの意義と目標

1) ギリシア・ローマの思想と教育及びキリスト教成立の意義とその後の影響を理解できる。2) 西洋近代の学校教育の歴史及びルソーなどの近代教育思想について理解する。3) 日本の教育史の流れを理解し、近代日本の学校教育の成り立ちを理解する。4) 我が国の教育の諸課題について、思想的及び制度的な観点から考えを深められる。5) 現代の教育思想と教育制度について理解できる。学校と教育の歴史における基本的事項の理解が得られることを目指す。そして、それらの事項の整理をすることによって、世界と日本の教育の流れと現代の課題を知ることを目指す。

受講生に対する要望

教職科目なので、教育の資質向上に関心を持って、授業に臨んでほしい。

キーワード

(1) 教育思想 (2) 学校教育 (3) 学習指導要領

事前学習（予習）

授業計画を参照し扱われる内容の章節について、教職教養の教育図書や教育新聞等によって知識を得ておく。

復習についての指示

授業での教材を再読し基本的で重要な用語・人名について、教職教養用の教育用語集等によって確認しノート整理する。

授業計画

1. 古典時代と教育（ギリシア・ローマの哲学と教育）
2. 中世ヨーロッパの思想と教育（大学教育の始まりとルネッサンスの思想）
3. 啓蒙思想と教育（ルソーとペスタロッチを中心に）
4. 近代の学校教育（義務教育制度の成立を中心に）
5. 新しい教育思想と学校教育（デューイを中心に）
6. 日本近世社会と教育（藩校と寺子屋教育）
7. 近世後期の教育（幕末の蘭学・国学を中心に）
8. 明治期の西欧教育制度と思想の需要
9. 明治公教育の完成と教育勅語体制
10. 新しい教育運動（大正期の学校教育）
11. 戦時下の学校教育（国家主義の台頭から学校教育の崩壊まで）
12. 戦後の教育改革（アメリカ教育使節団報告と学校教育改革）
13. 高度経済成長と学校教育（四六答申などを中心に）
14. 現代学校教育の課題（新しい学力観を中心に）
15. これからの学校と教育（学習指導要領などを中心に）

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 授業への参加状況:30% (2) 提出課題:30% (3) 定期試験:40%

福祉科教育法Ⅰ

SUBP-W-301

担当者：中谷 茂一

開設期：春学期 必修・選択：教職科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：福祉必修科目

講義概要

1. 内容

高等学校における「福祉」教科創設の趣旨と内容を理解し、実際の学習指導ができるよう模擬授業を通して教育法の研鑽を行う。学習指導要領の内容を理解・検討しながら、福祉科授業の構造、教材の作成と提示、課題と評価について講義し、受講者とのディスカッションをとおして深めていく。

2. 学びの意義と目標

模擬授業案を作成し実際に受講生の前で教えてもらうので人前で話すことが苦手であると受講は難しい。積極的な発言・参加が必須。主体的に参加しない者は単位修得できない。自分の教育方法を謙虚に自己点検する作業を通して福祉科教育の技術と自分なりの哲学を模索する時間としたい。

受講生に対する要望

教員免許状は実際に自治体や私学の教員採用試験を通らなければ活用することはできない。試験をパスする意志がある学生のみ受講して欲しい。自分の頭で考え積極的に発言しなければ単位修得はできない。

キーワード

(1) 福祉科教育

事前学習（予習）

自己の模擬講義の作成準備

復習についての指示

当日の報告で解決しなかった疑問点を調べる

授業計画

- 1 「福祉」教科創設の背景と経緯・基本方針
- 2 福祉教育の意義と福祉に関する学科設置の基本的な考え方
- 3 社会福祉学と「福祉」教科
- 4 「福祉」教科の科目関連と構造
- 5 教育観と福祉科教育
- 6 「福祉」の内容と解説 目標・社会福祉基礎・社会福祉制度・社会福祉援助技術
- 7 基礎介護・社会福祉実習
- 8 社会福祉演習・福祉情報処理
- 9 指導計画の作成と内容の取扱い
- 10 模擬授業(1)
- 11 模擬授業(2)
- 12 模擬授業(3)
- 13 模擬授業(4)
- 14 模擬授業(5)
- 15 模擬授業(6)

教科書

保住 芳美 『高等学校新学習指導要領の展開 福祉科編』（明治図書出版）教育実習を考える会 編 『教育実習用学習指導案作成教本（社会 地・歴 公民科）』（蒼丘書林）桐原宏行 編著 『福祉科教育法』（三和書籍）

評価方法

(1) 出席:20% (2) 模擬講義内容:50% (3) ディスカッション参加状況:30%

担当者：中谷 茂一

開設期：秋学期 必修・選択：教職科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：福祉必修科目

講義概要

1. 内容

福祉科教育法Ⅰで学習したことを展開させ、さらにレベルアップした指導案と模擬授業を行ってもらい、教育実習へとつなげていくことを目標とする。 高等学校における「福祉」教科創設の趣旨と内容を理解し、実際の学習指導ができるよう模擬授業を通して教育法の研鑽を行う。 学習指導要領の内容を理解・検討しながら、福祉科授業の構造、教材の作成と提示、課題と評価について講義し、受講者とのディスカッションをとおして深めていく。

2. 学びの意義と目標

模擬授業案を作成し実際に受講生の前で教えてもらうので人前で話すことが苦手であると受講は難しい。積極的な発言・参加が必須。主体的に参加しない者は単位修得できない。自分の教育方法を謙虚に自己点検する作業を通して福祉科教育の技術と自分なりの哲学を模索する時間としたい。

受講生に対する要望

教員免許状は実際に自治体や私学の教員採用試験を通らなければ活用することはできない。試験をパスする意志がある学生のみ受講して欲しい。

キーワード

(1)福祉科教育

事前学習（予習）

自己の模擬講義の作成準備

授業計画

1. 1 社会福祉基礎
2. 2 社会福祉制度
3. 3 社会福祉援助技術
4. 4 基礎介護
5. 5 社会福祉実習
6. 6 社会福祉演習
7. 7 福祉情報処理
8. 8 指導計画の作成と内容の取扱い
9. 模擬授業（1）
10. 模擬授業（2）
11. 模擬授業（3）
12. 模擬授業（4）
13. 模擬授業（5）
14. 模擬授業（6）
15. 模擬授業（7）

教科書

授業の中で指示する

復習についての指示

当日の報告で解決しなかった疑問点を調べること

評価方法

(1)出席:20% (2)模擬講義内容:50% (3)ディスカッション参加状況:30%

保健科教育法 I

SUBP-D-100

担当者：藤田 和也

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：保健必修科目、
中学校教諭一種免許：保健必修科目

講義概要

1. 内容

保健科教育の意義と必要性、目標および内容を把握し指導案を作成することにより、保健科教育の実際を考える。

2. 学びの意義と目標

1) 現行制度下における保健科教育の性格と位置づけについて学び、保健科教育の意義と目的を理解する。2) 中学校における保健科教育の内容を理解する。3) 保健科における学習指導の特質を理解する。4) 保健科における指導計画を作成し授業を展開することができる。以上により、保健科教諭としての実践的な技能を身に付け、こども期の健康を維持・増進に働きかける教育者としての価値観と人格の形成を図る。

受講生に対する要望

小・中・高時代に受けてきた保健科教育についての記憶を呼び戻し、その経験と照らし合わせながら講義の内容を理解し、保健科教育のあり方を自分なりに考えながら授業に参加してほしい。

キーワード

(1) 現代社会における保健的教養 (2) 保健科教育の独自性 (3) 保健科で育てる保健の学力 (4) 保健の授業（保健学習）の特質

事前学習（予習）

指定のテキストの該当箇所（その都度指定する）を事前に読む。

復習についての指示

提示した宿題に取り組み、翌週にその成果を提出する。

授業計画

1. オリエンテーション（講義内容と授業の進め方、教員免許について）
2. 教科保健の目的と性格(1)（現行制度下の保健科教育）（目標1）
3. 教科保健の目的と性格(2)（保健科教育の意義と目的）（目標1）
4. 中学校における保健科教育の内容（1）心身の機能と発達、心の健康（目標2）
5. 中学校における保健科教育の内容（2）健康と環境（目標2）
6. 中学校における保健科教育の内容（3）傷害の防止（目標2）
7. 中学校における保健科教育の内容（4）健康な生活と疾病の予防（目標2）
8. 保健科教育に利用される教材（教材研究とCAIの活用）（目標3）
9. 保健科における学習指導の特質（1）中学校における保健学習のねらい（目標3）
10. 保健科における学習指導の特質（2）中学校における保健科学習指導案（目標3）
11. 保健科における学習指導の特質（3）中学校における保健学習指導案の作成と留意点（目標3）
12. テーマに基づいた指導案の作成（グループワーク）（目標4）
13. 学習指導案に基づいた模擬授業（目標4）
14. 学習指導案に基づいた模擬授業の振り返り（目標4）
15. まとめ

教科書

森昭三・和唐正勝編 『新版 保健の授業づくり入門』（大修館書店）
文部科学省 『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（東山書房）
文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育篇』（東山書房）

評価方法

(1) 授業に対する取り組みを参加度（関心・意欲・態度）で評価する：30% (2) 時々の宿題レポートで知識の理解度を評価する。：20% (3) 最終の課題レポートで理解と技法の習得度を評価する。：50%

保健科教育法Ⅱ

SUBP-D-200

担当者：藤田 和也

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

道徳・特別活動・生徒指導・教育相談ならびに各教科の指導法を身につける

カリキュラム上の位置付け

高等学校教諭一種免許：保健必修科目、
中学校教諭一種免許：保健必修科目

講義概要

1. 内容

保健科教育法Ⅰで学んだ保健科教育の意義と必要性をさらに深め、Ⅱでは、授業設計、教材研究などの教育における意義を知る。さらに高等学校保健学習指導案をテーマにロールプレイングを行い授業の具体化と実践に関するイメージをもつことができるように授業の構成を行なっている。

2. 学びの意義と目標

1) 授業方法・授業設計についての理解を深める 2) 高等学校における保健科教育の内容を理解する 3) 教材研究から教材の教育についての意味を理解できる 4) ロールプレイングによる授業実践演習から実際の授業イメージをもつことができる

受講生に対する要望

保健科教育法Ⅰで習得した内容をもとに、さらに高度な保健授業論を学び、高校の保健科の目標・内容について関心と理解を深めてほしい。

キーワード

(1) 保健授業の型 (2) 教授行為と学習活動 (3) 高校保健科のねらいと内容 (4) 教材研究と授業構想

事前学習（予習）

指定のテキストの該当箇所を事前に読む。

復習についての指示

時折出される宿題に取り組み、成果のレポートを提出する。

授業計画

1. 保健科学習指導の進め方：授業形態、保健授業の型（目標1）
2. 保健科学習指導の進め方：授業展開と教授法（目標1）
3. 保健科の授業設計：教材研究から授業構想へ、学習指導案の作成（目標1）
4. 高等学校における保健科の目標と内容体系（目標1）
5. 高等学校における保健科教育の内容（1）現代社会と健康（目標2）
6. 高等学校における保健科教育の内容（2）生涯を通じる健康（目標2）
7. 高等学校における保健科教育の内容（3）社会生活と健康（目標2）
8. 実験を取り入れた保健科学習の方法（教材研究を含む）（目標3）
9. 情報機器を利用した保健科学習の方法（教材研究を含む）（目標3）
10. 授業研究の実際（1）「生涯の各段階における健康」をテーマにした模擬授業（ロールプレイング）（目標4）
11. 授業研究の実際（2）「新しい生命の誕生」をテーマにした模擬授業（ロールプレイング）（目標4）
12. 授業研究の実際（3）「幸せで健康な家庭づくり」をテーマにした模擬授業（ロールプレイング）（目標4）
13. それぞれのテーマの模擬授業（ロールプレイング）についての討議（1）授業設計の視点から（目標4）
14. それぞれのテーマの模擬授業（ロールプレイング）についての討議（2）役割分担の視点から（目標4）
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する
保健科教育法Ⅰで使用した教科書をそのまま利用する。

評価方法

(1) 模擬授業に関する準備（指導案作成、教材準備）と模擬授業での取り組み、役割分担での取り組み:50% (2) 課題レポート:50%

図書館情報学課程

学習指導と学校図書館

TEAT-0-212

担当者：米谷 茂則

開設期：秋学期 必修・選択：資格課程 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

学校図書館司書教諭資格：必修科目

講義概要

1. 内容

学習指導と学校図書館とのかかわりを考えていくとともに、児童生徒の情報活用能力育成のための指導の基本を理解する。司書教諭資格取得に資する5科目のうちの1科目である。

2. 学びの意義と目標

児童生徒自らが学習テーマを設定し、学校図書館機能を駆使してテーマに適したメディアを収集、選択して調べ、まとめ、自分の考えをも含めて発表までできる能力を育成することができるような指導能力を身につけることが目標である。

受講生に対する要望

小学校免許取得の場合は国語科又は社会科の指導法科目を、中学・高校免許取得の場合は免許教科指導法科目を先に履修しているか、この科目と並行して履修していることが望ましい。

キーワード

(1)教育課程の展開 (2)情報活用能力の育成 (3)調べ学習の学習過程 (4)学校図書館機能 (5)司書教諭の創造性

事前学習（予習）

調べ学習の体験について、プリントにもとづいて、想起し発表できるようにすること。構想メモにもとづいて学習指導案を作成し、検討会にて発表できるようにしておくこと。

復習についての指示

毎回の授業内容をふりかえり、自分で考えたことをメモしておくこと。振り返り記録の提出あり。

授業計画

1. 「学習指導と学校図書館」科目の学習内容およびアクティブラーニング要素についてのガイダンス
2. 教育課程の展開と学校図書館
3. 教育方法としての調べ学習、課題学習、課題研究
4. 情報活用能力の育成、その計画と方法
5. 調べ学習、課題学習、課題研究の学習過程
6. 小学校、中学校、高等学校における調べ学習の実践例および体験の発表
7. 調べ学習において自分の考えをどのように形成させるのか【授業の振り返り記録の提出1回目】
8. 調べ学習、課題学習、課題研究の学習指導案の作成
9. 情報活用能力の育成に対応した学校図書館メディアの選択
10. 情報サービス／読書学習の課題
 11. 学校図書館機能と司書教諭の創造性
 12. 学校図書館へのいざないから教科や総合学習にて使うようになるまで
 13. 学習指導案の検討会：履修者全員分の学習指導案を話し合いによって検討していく
 14. マンガ読書からマンガ読書学習へ
 15. 講義全体のまとめ【授業の振り返り記録の提出2回目】【学習指導案の提出】

教科書

プリントを配布する
必要に応じてプリントを配布するので整理しておき、次回以後の授業に持参すること。プリントの解説については、メモなどを記しておくこと。

評価方法

- (1)発表等:20%:授業への積極的対応 (2)振り返り記録:20%:2回の提出 (3)学習指導案:60%

第1回は必ず出席のこと。第1回を含め12回以上の出席が最終レポート・学習指導案提出の条件である。遅刻をしないこと。3回の遅刻で1回の欠席とみなす。出席条件を満たし、最終課題を提出したことで単位が認定されるということではない。評価方法3項目の内容が重要である。

学校経営と学校図書館

TEAT-0-210

担当者：小川 三和子

開設期：春学期 必修・選択：資格課程 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を受け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

学校図書館司書教諭資格：必修科目

講義概要

1. 内容

司書教諭資格取得の必修5科目のうちの1つ。学校図書館の理念、教育行政と学校図書館、学校図書館経営、司書教諭の任務、学校図書館メディアの構成と管理、学校図書館活動等について理解し、司書教諭として学校図書館経営をする上での課題を考察する。

2. 学びの意義と目標

学校図書館の意義と役割を理解し、司書教諭として学校図書館経営の方針をもち、学校図書館に関する諸計画を策定し、勤務校の学校図書館活用や読書指導の推進役になるための資質を養う。

受講生に対する要望

講義が中心となるが、作業や討論も取り入れるので、進んで学習に取り組んで欲しい。欠席した場合は、出席者に授業内容を聞いておくこと。

キーワード

(1) 学習・情報センター (2) 読書センター (3) 学校図書館経営 (4) 学校図書館メディア (5) 知識基盤社会

事前学習（予習）

学習指導要領を読んだり学校図書館や教育に関する書籍や新聞記事を読んだりして、今日の教育課題に関心をもち学校図書館経営の素地を養う。

復習についての指示

ノートを整理し、知識として理解したことと、今後も考察していくべきこととを明確にする。

授業計画

1. 学校図書館の意義と理念、役割
2. 学校図書館の歴史
3. 学校図書館の国際的な動向
4. 教育行政と学校図書館
5. 図書館ネットワーク
6. 学校図書館経営
7. 学校図書館経営
8. 学校図書館の施設・設備
9. 司書教諭の任務と職務
10. 学校図書館メディアの構成
11. 学校図書館メディアの選択・収集
12. 学校図書館メディアの管理・提供
13. 学校図書館活動
14. 評価試験
15. さまざまな図書館・まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1) 提出物: 60% (2) 評価テスト: 40%: 14回目に行い、最終回に解説をする。

出席が本学の規定に満たない者は、単位取得不可。提出物と評価試験とを併せ、総合的に評価する。

学校図書館メディアの構成

TEAT-0-211

担当者：若松 昭子

開設期：秋学期 必修・選択：資格課程 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を受け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

学校図書館司書教諭資格：必修科目

講義概要

1. 内容

1. 内容 学校図書館の利用者が必要としている様々な情報メディアの特性とその効果的な収集方法、また、日本十進分類法、件名標目表、日本目録規則、書誌ユーティリティ、オンライン目録などを用いた効率的な資料組織化の理論と方法を学ぶ。2. カリキュラム上の位置づけ 学校図書館司書教諭の資格科目・児童学科の専門科目

2. 学びの意義と目標

学校図書館における適切な資料の選択・収集とその体系化は、学校教育の中心となりうる充実した学校図書館を創造するための基盤である。授業では、学校教育に必要とされる多様な情報メディアの特性を理解し、資料選択の理念と効果的な収集の方法、さらにそれらを有効に活用するための組織化の理論について理解する。また、実際に組織化を体験することによって、資料組織化の具体的な技法を体得できるようにする。

受講生に対する要望

授業は演習的な要素も含まれているため課題は必ずやってくる事が重要です。

キーワード

(1)学校図書館 (2)学校図書館メディア (3)メディア構成 (4)資料組織

事前学習（予習）

教科書によく目を通し、与えられた課題はきちんとこなすこと。

復習についての指示

与えられた課題をきちんとやってくること。

授業計画

1. 学校図書館メディアの種類
2. メディアの選択と収集
3. 開架式と配列
4. 分類（1）NDCの構成と特徴
5. 分類（2）補助表とその働き-1
6. 分類（3）補助表とその働き-2
7. 分類（4）分類規程
8. 図書記号と別置記号
9. 件名標目表
10. 目録（1）目録の歴史と種類
11. 目録（2）アクセスポイント
12. 目録（3）NCRと記述の実際
13. 機械化と標準化
14. 書誌ユーティリティとネットワーク
15. まとめと総合演習

教科書

「シリーズ学校図書館学」編集委員会 『学校図書館メディアの構成（シリーズ学校図書館学 第2巻）』（全国学校図書館協議会）

評価方法

(1)試験:40%:試験に代わるレポートになる場合もあり (2)小課題:30% (3)授業参加状況:30%:授業態度、授業への取り組み姿勢や積極性など

毎回の出席は前提であり、遅刻や欠席な大幅な原点となるので注意すること。

生涯学習概論

LIS-0-201

担当者：小池 茂子

開設期：春学期 必修・選択：資格課程/必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を受け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

司書資格：必修科目

講義概要

1. 内容

2006年に改正された教育基本法には生涯学習に関する条項が新設された。生涯学習という言葉がようやく市民権を得られてきたようにも思える一方で、それがどのような理念で、どのような背景から提唱されてきたかについては十分に認知されているとはいえない。そこで、本講義では生涯教育の理念について、どのような背景から理念が提唱され、教育政策に反映されるに至ったか、その社会背景を詳細に取り上げる。また、今日の教育改革の方向性、さらには生涯学習社会とは、どのような社会の実現を目指そうとしているのか、講義を通じて論じることとする。

2. 学びの意義と目標

生涯学習の理念、理念提唱の社会的背景、今日の教育改革と生涯学習推進施策展開における生涯学習施設運営の課題など、広くテーマを設定し、社会教育や生涯学習行政の現場で働く社会教育主事や生涯学習施設の一つである公共図書館に勤務する図書館司書といった、有資格者の専門性につながる事項の理解を目指す。

受講生に対する要望

前回の講義内容を、きっちり復習しながら次週の講義に臨むように準備を行うこと。資格関連科目であるが、積極的な学びを期待する。

キーワード

(1) 社会教育の理念 (2) 生涯教育・生涯学習 (3) 生涯発達論 (4) 発達課題 (5) 学歴社会の是正

事前学習（予習）

毎回、授業時に指定する配布資料を事前に読み込んで授業に臨むこと。

復習についての指示

授業時に配布したプリント等を、その時限のノートと照合させ、各時限の学びの定着化を図ること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 教育の領域(家庭教育、社会教育、学校教育)
3. 社会教育の定義(教育基本法、社会教育法)
4. 生涯教育の理念(1)
5. 生涯教育の理念(2)
6. 生涯教育の理念と社会背景(1)(社会の高齢化、平均余命の伸長)
7. 生涯教育の理念と社会背景(2)(生涯にわたる発達課題の解決に向けて)
8. 生涯教育の理念と社会背景(3)(教育改革と生涯学習体系への移行)
9. 生涯教育の理念と社会背景(4)(急激な社会変化への適応)
10. 生涯教育の理念と社会背景(5)(学校教育をめぐる問題、学歴主義は必要悪か？戦後の青少年の非行など)
11. 生涯教育の理念への批判
12. 今日の教育政策にみる生涯学習振興策
13. 生涯学習時代における社会教育施設の機能と課題(1)
14. 生涯学習時代における社会教育施設の機能と課題(2)
15. まとめ

教科書

鈴木眞理 『生涯学習概論』(樹村房)

評価方法

(1) 出席点:30% (2) 試験:70%

生涯学習概論

LIS-0-201

担当者：小池 茂子

開設期：春学期 必修・選択：資格課程 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を受け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

司書資格：必修科目

講義概要

1. 内容

2006年に改正された教育基本法には生涯学習に関する条項が新設された。生涯学習という言葉がようやく市民権を得られてきたようにも思える一方で、それがどのような理念で、どのような背景から提唱されてきたかについては十分に認知されているとはいえない。そこで、本講義では生涯教育の理念について、どのような背景から理念が提唱され、教育政策に反映されるに至ったか、その社会背景を詳細に取り上げる。また、今日の教育改革の方向性、さらには生涯学習社会とは、どのような社会の実現を目指そうとしているのか、講義を通じて論じることとする。

2. 学びの意義と目標

生涯学習の理念、理念提唱の社会的背景、今日の教育改革と生涯学習推進施策展開における生涯学習施設運営の課題など、広くテーマを設定し、社会教育や生涯学習行政の現場で働く社会教育主事や生涯学習施設の一つである公共図書館に勤務する図書館司書といった、有資格者の専門性につながる事項の理解を目指す。

受講生に対する要望

前回の講義内容を、きっちり復習しながら次週の講義に臨むように準備を行うこと。資格関連科目であるが、積極的な学びを期待する。

キーワード

(1) 社会教育の理念 (2) 生涯教育・生涯学習 (3) 生涯発達論 (4) 発達課題 (5) 学歴社会の是正

事前学習（予習）

毎回、授業時に指定する配布資料を事前に読み込んで授業に臨むこと。

復習についての指示

授業時に配布したプリント等を、その時限のノートと照合させ、各時限の学びの定着化を図ること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 教育の領域(家庭教育、社会教育、学校教育)
3. 社会教育の定義(教育基本法、社会教育法)
4. 生涯教育の理念(1)
5. 生涯教育の理念(2)
6. 生涯教育の理念と社会背景(1)(社会の高齢化、平均余命の伸長)
7. 生涯教育の理念と社会背景(2)(生涯にわたる発達課題の解決に向けて)
8. 生涯教育の理念と社会背景(3)(教育改革と生涯学習体系への移行)
9. 生涯教育の理念と社会背景(4)(急激な社会変化への適応)
10. 生涯教育の理念と社会背景(5)(学校教育をめぐる問題、学歴主義は必要悪か？戦後の青少年の非行など)
11. 生涯教育の理念への批判
12. 今日の教育政策にみる生涯学習振興策
13. 生涯学習時代における社会教育施設の機能と課題(1)
14. 生涯学習時代における社会教育施設の機能と課題(2)
15. まとめ

教科書

鈴木眞理 『生涯学習概論』(樹村房)

評価方法

(1) 出席点:30% (2) 試験:70%

資料組織演習(分類)

LIS-0-214

担当者：河島 茂生

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：資格課程/必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を受け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

司書資格：必修科目

講義概要

1. 内容

本演習では、「情報資源組織論(分類)」「資料組織概説(分類)」で学んだ知見をもとにして、具体的な分類作業の演習を行うこととする。日本の代表的図書分類ツールである『日本十進分類法(NDC)』新訂9版および『基本件名標目表(BSH)』第4版を使用し、またネットワーク情報資源の組織化で用いられている技法を採用し、数多くの演習例題や演習問題を通して分類作業を学ぶ。

2. 学びの意義と目標

情報資源の組織化とは、ある一定の秩序に基づいて資料を編成することであり、そのなかで分類作業は、図書館資料の主題をもとにして体系的に整理することを指す。本演習では、多くの演習を通じて、利用者の要求に資する資料組織法の体得を目指す。

受講生に対する要望

受講生には、「情報資源組織概説(分類)」「資料組織概説(分類)」を前もって履修済みであることを求める。また、この授業は、司書課程の科目のなかでもっとも難解な授業の一つであるので、できるかぎり出席を心がけたい。

キーワード

事前学習(予習)

毎回与えられた課題をこなし、授業に臨みたい。

復習についての指示

授業で触れた内容をテキスト等で読み返し、思考を整理することを求める。

授業計画

1. 日本十進分類法(NDC)の概要
2. 一般補助表(形式区分)を使った分類記号付与の概要
3. 一般補助表(形式区分)を使った分類記号付与の演習
4. 一般補助表(地理区分、海洋区分)を使った分類記号付与の概要
5. 一般補助表(地理区分、海洋区分)を使った分類記号付与の演習
6. 一般補助表(言語区分、言語共通区分、文学共通区分)を使った分類記号付与の概要
7. 一般補助表(言語区分、言語共通区分、文学共通区分)を使った分類記号付与の演習
8. 分類規程の説明とその演習
9. 基本件名標目表(BSH)の概要・演習
10. 細目を使った件名標目付与の概要とその演習
11. 件名規程の説明とその演習
12. XMLの概要とその演習
13. RDFの概要とその演習
14. Dublin Coreの概要とその演習
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)試験:100%

ただし、単位修得にあたっては出席数が授業回数の3分の2以上であることを条件とする。

資料組織演習(目録)

LIS-0-213

担当者：榎本 裕希子

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：資格課程/必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を受け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

司書資格：必修科目

講義概要

1. 内容

「情報資源組織論（目録）」で得た知識をもとに、『日本目録規則（NCR）1987年版改訂3版』を用いた図書館資料の目録作成を行う。対象資料は図書資料を中心に解説を行う。記述目録法として、書誌記述の作成、標目の選定と標目指示の記載法等の作成演習を行い、適切な目録記入作成への理解を深める。

2. 学びの意義と目標

『日本目録規則（NCR）』の仕組みや使用法を理解し、正確な書誌データ（記述や標目指示など）の作成ができるようになること。目録作業を学ぶことで図書館における情報資源組織化の役割を理解すること。

受講生に対する要望

事前に情報資源組織論（目録）を受講済みであることが望ましい。

キーワード

(1)日本目録規則 (2)記述 (3)標目 (4)標目指示

事前学習（予習）

授業計画を確認し、テキストの該当箇所を一読しておくことが望ましい。

復習についての指示

板書とテキストを再読し、目録規則の内容を確認しておくこと。
その際、実際の資料をもとに復習するのがより効果的である。

授業計画

1. ガイダンス（講義概要）
2. 記述に関する総則（1）
3. 記述に関する総則（2）
4. 図書の記述（1）タイトルと責任表示に関する事項①
5. 図書の記述（2）タイトルと責任表示に関する事項②
6. 図書の記述（3）タイトルと責任表示に関する事項③
7. 図書の記述（4）版に関する事項、出版・頒布等に関する事項
8. 図書の記述（5）形態に関する事項、シリーズに関する事項
9. 図書の記述（6）注記に関する事項
10. 図書の記述（7）標準番号・入手条件に関する事項
11. 演習問題
12. 標目および標目指示（1）標目総則、タイトル標目
13. 標目および標目指示（2）著者標目、件名標目、分類標目
14. 演習問題
15. まとめ

教科書

吉田憲一編 『資料組織演習』（日本図書館協会）

評価方法

(1)試験:90% (2)出席:10%

資料組織概説(分類)

LIS-0-212

担当者：長谷川 幸代

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：資格課程/必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を受け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

司書資格：必修科目

講義概要

1. 内容

図書館における分類作業とは、印刷資料や電子資料などの様々な資料をその内容に基づいて区分し分けることである。分類作業の意義、方法、歴史、そして業務の実際などについて講義する。分類や主題組織については、具体例をもとに解説を行う。

2. 学びの意義と目標

必要な情報を探し出すために資料が秩序立てて分類されているという点は図書館の強みであり、利用者にとっての大きなメリットである。情報を組織することの意義を理解し、利用者が的確な情報を探し出せるような分類作業ができる基礎的な力を身につけることを目標とする。

受講生に対する要望

図書館が利用者にいかにサービスを行うかという意識を大事にしてください。また、教科書に複数回目を通し、用語などに慣れるようにしてください。

キーワード

(1) 資料組織 (2) 情報資源組織 (3) 分類

事前学習（予習）

教科書に目を通す。

復習についての指示

教科書、レジュメを読みなおす。指定された課題をこなす。

授業計画

1. 情報資源組織の意義
2. 主題組織法の意義
3. ファセット分析
4. 索引法
5. 分類法の原理と意義
6. 分類法の種類
7. 日本十進分類法（NDC）概要
8. 日本十進分類法（NDC）構成要素
9. 分類規定
10. 分類作業と所在記号
11. 自然語と統制語
12. シソーラス
13. 基本件名標目表（BSH）
14. ウェブページの組織化
15. まとめ

教科書

田窪直規 編 『情報資源組織論（現代図書館情報学シリーズ9）』（樹村房）

評価方法

(1) レポート:30% (2) 試験:70%

3分の2以上の出席が必須です。

資料組織概説(目録)

LIS-0-211

担当者：榎本 裕希子

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：資格課程/必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を受け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

司書資格：必修科目

講義概要

1. 内容

本講では、図書館情報資源（印刷資料・非印刷資料・電子資料・ネットワーク情報資源などからなる）の組織化の理論を解説する。書誌記述法、書誌コントロール等について解説し、図書館における情報資源組織化の意義や機能について学習する。

2. 学びの意義と目標

図書館における情報資源組織法の意義や機能について理解し、「情報資源組織演習」に必要な目録作業等に必要の基礎知識を身につけることを目標とする。

受講生に対する要望

図書館の目録について関心がある者が受講することが望ましい。少なくとも、聖学院大学附属図書館のOPACを利用し、その機能を把握したうえで受講してほしい。

キーワード

(1) 目録規則 (2) 記述目録法 (3) 日本目録規則 (4) 書誌情報 (5) 書誌コントロール

事前学習（予習）

授業計画を確認し、テキストの該当箇所を一読しておくこと。必要に応じて、図書館に行き現状を確認することが望ましい。

復習についての指示

板書と配布資料、授業中に指定したテキストの解説箇所を再読し、理解を深めておく。特に新しく取り上げられた用語について整理しておくこと。

授業計画

1. ガイダンス・図書館業務と情報資源組織法
2. 情報資源組織化の意義と理論
3. 書誌記述法（主要な書誌記述規則）
4. 目録規則の歴史と動向 西洋編
5. 目録規則の歴史と動向 日本編
6. 目録法と目録規則（1）記入の構成要素ほか
7. 目録法と目録規則（2）記述とその標準化（ISBDを中心に）
8. 目録法と目録規則（3）標目とその標準化（パリ原則を中心に）
9. 日本目録規則（1）基本記入方式・等価標目方式ほか
10. 日本目録規則（2）各書誌の事項について
11. 書誌コントロールと標準化
12. 書誌情報の作成と流通（1）（MARC、集中目録作業）
13. 書誌情報の作成と流通（2）（書誌ユーティリティ、共同目録作業）
14. 書誌情報の提供（OPACの管理と運用）
15. まとめ

教科書

田窪直規編集 『情報資源組織論』（樹村房）

評価方法

(1) 試験：80% (2) 出席：20%

児童サービス論

LIS-0-207

担当者：黒沢 克朗

開設期：秋学期 必修・選択：資格課程/必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を受け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

司書資格：必修科目

講義概要

1. 内容

1. 内容児童サービス論は、子どものための図書館サービスについて学ぶ科目である。図書館における児童サービスの意義や課題、図書館における児童サービスの具体的な方法などについて学んでいく。2. カリキュラム上の位置づけ児童サービスについての基礎的な科目である。3. 学びの意義と目標児童サービスの意義と課題について理解することができるようになること。また、児童サービスの方法にはどのようなものがあるかについての認識をもち、図書館員の専門性について理解を深める。

2. 学びの意義と目標

子どもを取り巻く環境を少しでも良くしようと、多方面から試行を重ねている現状。読書の面においても、国を挙げて力を入れている。2000年「子ども読書年」を境にし、児童サービスが大きく変わってきている。子ども読書推進活動、朝の読書、絵本の読み聞かせ、ブックスタート、読書のアニメーション、調べ学習、といろいろなことが行われている。本講義では、これらのことに触れることは勿論のこと、公共図書館における児童サービスの意義や目的など、基本的なことを講義したい。

受講生に対する要望

子どもにとって読書がどんなに大切なものかを学習していくなかで、読書の重要性を把握してほしい

キーワード

事前学習（予習）

課題については、事前に調査をし、締切日を厳守

復習についての指示

講義の中で紹介した本は、目を通すこと

授業計画

1. 児童サービスとは 児童サービスの意義と目的 いま、公立図書館は
2. 児童図書館の歩み 子どもの読書活動の推進
3. 朝の読書 ブックスタート
4. 児童サービスの業務 集会・行事活動 展示・PR
5. 児童サービスの業務 調べ学習・レファレンス
6. 子どもと本を結びつける1 絵本の読み聞かせとは
7. 子どもと本を結びつける2 おはなし会とは
8. 子どもと本を結びつける3絵本の読み聞かせをしてみよう 1
9. 子どもと本を結びつける4絵本の読み聞かせをしてみよう 2
10. 子どもと本を結びつける5ストーリーテリングとは
11. 子どもと本を結びつける6ブックトークとは ブックトークのプログラムを作る
12. 子どもと本を結びつける7ブックトークを見てみよう 読書のアニメーション
13. 各種機関との連携
14. ヤングアダルト、障がいをもった子ども、多文化サービス
15. 児童サービス担当者の役割 まとめ

教科書

堀川 照代 『児童サービス論（JLA図書館情報学テキストシリーズ 2-11）』（日本図書館協会）

評価方法

(1)出席:50% (2)課題:20% (3)科目修得試験:30%

児童サービス論

LIS-0-207

担当者：黒沢 克朗

開設期：秋学期 必修・選択：資格課程 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を受け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

司書資格：必修科目

講義概要

1. 内容

1. 内容児童サービス論は、子どものための図書館サービスについて学ぶ科目である。図書館における児童サービスの意義や課題、図書館における児童サービスの具体的な方法などについて学んでいく。2. カリキュラム上の位置づけ児童サービスについての基礎的な科目である。3. 学びの意義と目標児童サービスの意義と課題について理解することができるようになること。また、児童サービスの方法にはどのようなものがあるかについての認識をもち、図書館員の専門性について理解を深める。

2. 学びの意義と目標

子どもを取り巻く環境を少しでも良くしようと、多方面から試行を重ねている現状。読書の面においても、国を挙げて力を入れている。2000年「子ども読書年」を境にし、児童サービスが大きく変わってきている。子ども読書推進活動、朝の読書、絵本の読み聞かせ、ブックスタート、読書のアニメーション、調べ学習、といろいろなことが行われている。本講義では、これらのことに触れることは勿論のこと、公共図書館における児童サービスの意義や目的など、基本的なことを講義したい。

受講生に対する要望

子どもにとって読書がどんなに大切なものかを学習していくなかで、読書の重要性を把握してほしい

キーワード

事前学習（予習）

課題については、事前に調査をし、締切日を厳守

復習についての指示

講義の中で紹介した本は、目を通すこと

授業計画

1. 児童サービスとは 児童サービスの意義と目的 いま、公立図書館は
2. 児童図書館の歩み 子どもの読書活動の推進
3. 朝の読書 ブックスタート
4. 児童サービスの業務 集会・行事活動 展示・PR
5. 児童サービスの業務 調べ学習・レファレンス
6. 子どもと本を結びつける1 絵本の読み聞かせとは
7. 子どもと本を結びつける2 おはなし会とは
8. 子どもと本を結びつける3絵本の読み聞かせをしてみよう 1
9. 子どもと本を結びつける4絵本の読み聞かせをしてみよう 2
10. 子どもと本を結びつける5ストーリーテリングとは
11. 子どもと本を結びつける6ブックトークとは ブックトークのプログラムを作る
12. 子どもと本を結びつける7ブックトークを見てみよう 読書のアニメーション
13. 各種機関との連携
14. ヤングアダルト、障がいをもった子ども、多文化サービス
15. 児童サービス担当者の役割 まとめ

教科書

堀川 照代 『児童サービス論（JLA図書館情報学テキストシリーズ 2-11）』（日本図書館協会）

評価方法

(1)出席:50% (2)課題:20% (3)科目修得試験:30%

担当者：黒沢 克朗

開設期：春学期 必修・選択：資格課程/必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

司書資格：必修科目

講義概要

1. 内容

子どもの本の現状、選書の重要性を柱として実践体験を基にして講義を展開させたい。

2. 学びの意義と目標

授業では、読書の意義や読書観の変遷を振り返るとともに、時代を超えて長い間読み継がれてきた児童書の種類や特性、また児童書の新しい試みや出版動向などを分析し、実際に絵本を手にとり選定を行うなどの体験を通して、現在に生きる子どもの要望を組み入れた蔵書構成の考え方について学ぶ。

受講生に対する要望

子どもの本の現状、選書の重要性、について受講生の子ども時代と照らし合わせながら、理解してほしい。

キーワード

事前学習（予習）

課題については、事前に調査し、締切日を厳守すること

復習についての指示

講義のなかで紹介した本は、目を通すこと

授業計画

1. 児童資料とは 「図書館の自由に関する宣言」について児童資料では
2. 児童図書の出版状況 最近の児童書の特徴
3. 児童書の種類と特性 絵本
4. 児童書の種類と特性 児童文学 幼年
5. 児童書の種類と特性 ことば遊び・詩の本
6. 児童書の種類と特性 ノンフィクション
7. 児童書の種類と特性 視聴覚資料 その他
8. 児童の収集方針 蔵書構成
9. 絵本を選ぶ
10. 絵本を評価してみよう 1
11. 絵本を評価してみよう 2
12. レビュースリップを書いてみよう
13. 図書館の日常業務と資料
14. 資料提供サービス
15. まとめ

教科書

堀川 照代 『児童サービス論（JLA図書館情報学テキストシリーズ 2-11）』（日本図書館協会）

評価方法

(1) 出席:50% (2) 課題:20% (3) 科目修得試験:30%

担当者：坂内 悟

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：資格課程/必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を受け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

司書資格：必修科目

講義概要

1. 内容

二次情報をはじめとする各種情報資源を対象とする情報検索の基礎知識を身に付ける。電子ジャーナルを含むデータベース等の各種情報源について、その特性を理解し代表的な図書検索や雑誌記事検索等の検索システムの操作方法、活用方法を演習により習得する。インターネット検索について、サーチエンジンの基礎知識を身に付け、情報検索における活用方法を理解する。また、パスファインダー作成演習を通じ様々な情報源を活用した情報サービス提供の基本を習得する。

2. 学びの意義と目標

図書館司書として仕事をするための情報サービスについて理解する。情報サービスにおける情報検索についてその特性を理解し、演習を通じ実践的な情報検索能力を身につける。

受講生に対する要望

WindowsおよびInternet Explorerが操作できることを前提とした講義を行う。漢字、英字や記号の半角入力等を含めWindowsおよびInternet Explorerの基本的操作をできるようにしておくこと。教科書を毎回持参すること。

キーワード

(1) 二次情報 (2) 索引 (3) 論理演算 (4) OPAC (5) 雑誌記事

事前学習（予習）

次回講義に予定している内容に該当する教科書のUNITについて一読し、不明点を明らかにしておくこと。

復習についての指示

演習については、同様の課題についての的確に資料を探すことができるように、講義で指導した方法で特に難しいと感じた課題については、可能な限り類似の課題で演習を行うこと。

授業計画

1. 情報検索とは何か
2. データベースの構造と索引作成
3. 検索の基本方針、検索語とフィールド
4. 論理演算、様々な検索機能（トランケーション等）、検索結果の出力と評価
5. 図書検索システム演習
6. 図書検索システム演習
7. 図書検索システム演習
8. 図書検索システム演習
9. 雑誌記事検索システム演習
10. 雑誌記事検索システム演習
11. 雑誌記事検索システム演習
12. 雑誌記事検索システム演習
13. インターネット検索（サーチエンジン）
14. パスファインダー演習
15. パスファインダー演習

教科書

安形 輝, 大谷 康晴 『情報検索演習（JLA図書館情報学テキストシリーズ 2-6）』（日本図書館協会）

評価方法

- (1) 期末試験：70% (2) 出席点＋平常点：30%

担当者：吉田 隆

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：資格課程 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

司書資格：必修科目

講義概要

1. 内容

図書館利用者サービスを情報検索サービス、レファレンスサービスの基本的なプロセスから考える。

2. 学びの意義と目標

図書館所蔵の情報資源とWeb情報源を駆使して回答するための演習です、図書館・類縁機関の職域だけでなく企業の職域でも活かすことができる情報検索の技能を習得することを目指します。果敢に本演習に挑んでください。

受講生に対する要望

紙媒体資料と電子媒体資料について熟知することが大切です。図書館の蔵書構成について理解を深めてください。

キーワード

(1)レファレンス質問 (2)レファレンスブック (3)印刷資料 (4)電子資料

事前学習（予習）

あらかじめ教科書を読んで出席してください。

授業計画

1. ガイダンス・情報サービスのプロセス
2. 図書情報についての設問
3. 雑誌についての設問
4. 雑誌記事についての設問
5. 新聞記事についての設問
6. 言葉・事柄についての設問
7. 統計についての設問
8. 歴史・日時についての設問
9. 法律についての設問
10. 判例についての設問
11. 特許についての設問
12. 人物・団体についての設問
13. ウィキペディアを検証する
14. レファレンスブックを評価する
15. 発信型情報サービスについて

教科書

原田智子編著 『情報サービス演習』（樹村房）

復習についての指示

課題については、印刷物のレファレンスブックとWeb情報源の両方を併用して回答してください。

評価方法

- (1)出席:20% (2)課題:40% (3)試験:40%

担当者：坂内 悟

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：資格課程 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を受け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

司書資格：必修科目

講義概要

1. 内容

二次情報をはじめとする各種情報資源を対象とする情報検索の基礎知識を身に付ける。電子ジャーナルを含むデータベース等の各種情報源について、その特性を理解し代表的な図書検索や雑誌記事検索等の検索システムの操作方法、活用方法を演習により習得する。インターネット検索について、サーチエンジンの基礎知識を身に付け、情報検索における活用方法を理解する。また、パスファインダー作成演習を通じ様々な情報源を活用した情報サービス提供の基本を習得する。

2. 学びの意義と目標

図書館司書として仕事をするための情報サービスについて理解する。情報サービスにおける情報検索についてその特性を理解し、演習を通じ実践的な情報検索能力を身につける。

受講生に対する要望

WindowsおよびInternet Explorerが操作できることを前提とした講義を行う。漢字、英字や記号の半角入力等を含めWindowsおよびInternet Explorerの基本的操作をできるようにしておくこと。教科書を毎回持参すること。

キーワード

(1) 二次情報 (2) 索引 (3) 論理演算 (4) OPAC (5) 雑誌記事

事前学習（予習）

次回講義に予定している内容に該当する教科書のUNITについて一読し、不明点を明らかにしておくこと。

復習についての指示

演習については、同様の課題についての的確に資料を探すことができるように、講義で指導した方法で特に難しいと感じた課題については、可能な限り類似の課題で演習を行うこと。

授業計画

1. 情報検索とは何か
2. データベースの構造と索引作成
3. 検索の基本方針、検索語とフィールド
4. 論理演算、様々な検索機能（トランケーション等）、検索結果の出力と評価
5. 図書検索システム演習
6. 図書検索システム演習
7. 図書検索システム演習
8. 図書検索システム演習
9. 雑誌記事検索システム演習
10. 雑誌記事検索システム演習
11. 雑誌記事検索システム演習
12. 雑誌記事検索システム演習
13. インターネット検索（サーチエンジン）
14. パスファインダー演習
15. パスファインダー演習

教科書

安形 輝, 大谷 康晴 『情報検索演習（JLA図書館情報学テキストシリーズ 2-6）』（日本図書館協会）

評価方法

- (1) 期末試験：70% (2) 出席点＋平常点：30%

情報サービス概説

LIS-0-206

担当者：吉田 隆

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：資格課程/必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

司書資格：必修科目

講義概要

1. 内容

図書館における情報サービスの意義・理論・方法を考える。

2. 学びの意義と目標

「演習」にむけての技能を習得する。

受講生に対する要望

授業＜経営＞に積極的に挑んでください。

キーワード

(1)情報サービス (2)情報源 (3)利用者 (4)図書館司書 (5)著作権法

事前学習（予習）

あらかじめ教科書を読んで授業に出席してください。

復習についての指示

板書・配布資料の要点を自筆のノートに整理してください。

授業計画

1. ガイダンス・情報社会と図書館の情報サービス
2. 図書館における情報サービスの理論的展開
3. 図書館における情報サービスの理論的展開
4. レファレンスサービスの理論と実践
5. レファレンスサービスの実践
6. 情報サービスの理論と方法
7. 各種情報源の特質と利用法（1）：情報メディア・文献を探す
8. 各種情報源の特質と利用法（2）：論文・記事を探す
9. 各種情報源の特質と利用法（3）：事項・事実の検索
10. 各種情報源の評価と解説
11. 各種情報源の組織化
12. 発信型情報サービスの意義と方法
13. 情報サービスにかかわる知的財産権の基礎知識
14. 図書館利用教育と情報リテラシーの育成
15. 展望：IT社会と図書館・図書館司書

教科書

竹之内禎編著 『情報サービス論』（学文社）

評価方法

(1)出席:20% (2)レポート:20% (3)試験:60%

担当者：吉田 隆

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：資格課程 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

司書資格：必修科目

講義概要

1. 内容

図書館における情報サービスの意義・理論・方法を考える。

2. 学びの意義と目標

「演習」にむけての技能を習得する。

受講生に対する要望

授業＜経営＞に積極的に挑んでください。

キーワード

(1)情報サービス (2)情報源 (3)利用者 (4)図書館司書 (5)著作権法

事前学習（予習）

あらかじめ教科書を読んで授業に出席してください。

授業計画

1. ガイダンス・情報社会と図書館の情報サービス
2. 図書館における情報サービスの理論的展開
3. 図書館における情報サービスの理論的展開
4. レファレンスサービスの理論と実践
5. レファレンスサービスの実践
6. 情報サービスの理論と方法
7. 各種情報源の特質と利用法（1）：情報メディア・文献を探す
8. 各種情報源の特質と利用法（2）：論文・記事を探す
9. 各種情報源の特質と利用法（3）：事項・事実の検索
10. 各種情報源の評価と解説
11. 各種情報源の組織化
12. 発信型情報サービスの意義と方法
13. 情報サービスにかかわる知的財産権の基礎知識
14. 図書館利用教育と情報リテラシーの育成
15. 展望：IT社会と図書館・図書館司書

教科書

竹之内禎編著 『情報サービス論』（学文社）

復習についての指示

板書・配布資料の要点を自筆のノートに整理してください。

評価方法

(1)出席:20% (2)レポート:20% (3)試験:60%

情報資源組織演習(分類)

LIS-0-214

担当者：河島 茂生

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：資格課程 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を受け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

司書資格：必修科目

講義概要

1. 内容

本演習では、「情報資源組織論(分類)」「資料組織概説(分類)」で学んだ知見をもとにして、具体的な分類作業の演習を行うこととする。日本の代表的図書分類ツールである『日本十進分類法(NDC)』新訂9版および『基本件名標目表(BSH)』第4版を使用し、またネットワーク情報資源の組織化で用いられている技法を採用し、数多くの演習例題や演習問題を通して分類作業を学ぶ。

2. 学びの意義と目標

情報資源の組織化とは、ある一定の秩序に基づいて資料を編成することであり、そのなかで分類作業は、図書館資料の主題をもとにして体系的に整理することを指す。本演習では、多くの演習を通じて、利用者の要求に資する資料組織法の体得を目指す。

受講生に対する要望

受講生には、「情報資源組織概説(分類)」「資料組織概説(分類)」を前もって履修済みであることを求める。また、この授業は、司書課程の科目のなかでもっとも難解な授業の一つであるので、できるかぎり出席を心がけたい。

キーワード

事前学習(予習)

毎回与えられた課題をこなし、授業に臨みたい。

復習についての指示

授業で触れた内容をテキスト等で読み返し、思考を整理することを求める。

授業計画

1. 日本十進分類法(NDC)の概要
2. 一般補助表(形式区分)を使った分類記号付与の概要
3. 一般補助表(形式区分)を使った分類記号付与の演習
4. 一般補助表(地理区分、海洋区分)を使った分類記号付与の概要
5. 一般補助表(地理区分、海洋区分)を使った分類記号付与の演習
6. 一般補助表(言語区分、言語共通区分、文学共通区分)を使った分類記号付与の概要
7. 一般補助表(言語区分、言語共通区分、文学共通区分)を使った分類記号付与の演習
8. 分類規程の説明とその演習
9. 基本件名標目表(BSH)の概要・演習
10. 細目を使った件名標目付与の概要とその演習
11. 件名規程の説明とその演習
12. XMLの概要とその演習
13. RDFの概要とその演習
14. Dublin Coreの概要とその演習
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)試験:100%

ただし、単位修得にあたっては出席数が授業回数の3分の2以上であることを条件とする。

情報資源組織演習(目録)

LIS-0-213

担当者：榎本 裕希子

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：資格課程 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を受け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

司書資格：必修科目

講義概要

1. 内容

「情報資源組織論（目録）」で得た知識をもとに、『日本目録規則（NCR）1987年版改訂3版』を用いた図書館資料の目録作成を行う。対象資料は図書資料を中心に解説を行う。記述目録法として、書誌記述の作成、標目の選定と標目指示の記載法等の作成演習を行い、適切な目録記入作成への理解を深める。

2. 学びの意義と目標

『日本目録規則（NCR）』の仕組みや使用法を理解し、正確な書誌データ（記述や標目指示など）の作成ができるようになること。目録作業を学ぶことで図書館における情報資源組織化の役割を理解すること。

受講生に対する要望

事前に情報資源組織論（目録）を受講済みであることが望ましい。

キーワード

(1)日本目録規則 (2)記述 (3)標目 (4)標目指示

事前学習（予習）

授業計画を確認し、テキストの該当箇所を一読しておくことが望ましい。

復習についての指示

板書とテキストを再読し、目録規則の内容を確認しておくこと。
その際、実際の資料をもとに復習するのがより効果的である。

授業計画

1. ガイダンス（講義概要）
2. 記述に関する総則（1）
3. 記述に関する総則（2）
4. 図書の記述（1）タイトルと責任表示に関する事項①
5. 図書の記述（2）タイトルと責任表示に関する事項②
6. 図書の記述（3）タイトルと責任表示に関する事項③
7. 図書の記述（4）版に関する事項，出版・頒布等に関する事項
8. 図書の記述（5）形態に関する事項，シリーズに関する事項
9. 図書の記述（6）注記に関する事項
10. 図書の記述（7）標準番号・入手条件に関する事項
11. 演習問題
12. 標目および標目指示（1）標目総則，タイトル標目
13. 標目および標目指示（2）著者標目，件名標目，分類標目
14. 演習問題
15. まとめ

教科書

吉田憲一編 『資料組織演習』（日本図書館協会）

評価方法

(1)試験:90% (2)出席:10%

情報資源組織論(分類)

LIS-0-212

担当者：長谷川 幸代

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：資格課程 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を受け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

司書資格：必修科目

講義概要

1. 内容

図書館における分類作業とは、印刷資料や電子資料などの様々な資料をその内容に基づいて区分し分けることである。分類作業の意義、方法、歴史、そして業務の実際などについて講義する。分類や主題組織については、具体例をもとに解説を行う。

2. 学びの意義と目標

必要な情報を探し出すために資料が秩序立てて分類されているという点は図書館の強みであり、利用者にとっての大きなメリットである。情報を組織することの意義を理解し、利用者が的確な情報を探し出せるような分類作業ができる基礎的な力を身につけることを目標とする。

受講生に対する要望

図書館が利用者にいかにサービスを行うかという意識を大事にしてください。また、教科書に複数回目を通し、用語などに慣れるようにしてください。

キーワード

(1) 資料組織 (2) 情報資源組織 (3) 分類

事前学習（予習）

教科書に目を通す。

復習についての指示

教科書、レジュメを読みなおす。指定された課題をこなす。

授業計画

1. 情報資源組織の意義
2. 主題組織法の意義
3. ファセット分析
4. 索引法
5. 分類法の原理と意義
6. 分類法の種類
7. 日本十進分類法（NDC）概要
8. 日本十進分類法（NDC）構成要素
9. 分類規定
10. 分類作業と所在記号
11. 自然語と統制語
12. シソーラス
13. 基本件名標目表（BSH）
14. ウェブページの組織化
15. まとめ

教科書

田窪直規 編 『情報資源組織論（現代図書館情報学シリーズ9）』（樹村房）

評価方法

(1) レポート:30% (2) 試験:70%

3分の2以上の出席が必須です。

情報資源組織論(目録)

LIS-0-211

担当者：榎本 裕希子

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：資格課程 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を受け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

司書資格：必修科目

講義概要

1. 内容

本講では、図書館情報資源（印刷資料・非印刷資料・電子資料・ネットワーク情報資源などからなる）の組織化の理論を解説する。書誌記述法、書誌コントロール等について解説し、図書館における情報資源組織化の意義や機能について学習する。

2. 学びの意義と目標

図書館における情報資源組織法の意義や機能について理解し、「情報資源組織演習」に必要な目録作業等に必要な基礎知識を身につけることを目標とする。

受講生に対する要望

図書館の目録について関心がある者が受講することが望ましい。少なくとも、聖学院大学附属図書館のOPACを利用し、その機能を把握したうえで受講してほしい。

キーワード

(1) 目録規則 (2) 記述目録法 (3) 日本目録規則 (4) 書誌情報 (5) 書誌コントロール

事前学習（予習）

授業計画を確認し、テキストの該当箇所を一読しておくこと。必要に応じて、図書館に行き現状を確認することが望ましい。

復習についての指示

板書と配布資料、授業中に指定したテキストの解説箇所を再読し、理解を深めておく。特に新しく取り上げられた用語について整理しておくこと。

授業計画

1. ガイダンス・図書館業務と情報資源組織法
2. 情報資源組織化の意義と理論
3. 書誌記述法（主要な書誌記述規則）
4. 目録規則の歴史と動向 西洋編
5. 目録規則の歴史と動向 日本編
6. 目録法と目録規則（1）記入の構成要素ほか
7. 目録法と目録規則（2）記述とその標準化（ISBDを中心に）
8. 目録法と目録規則（3）標目とその標準化（パリ原則を中心に）
9. 日本目録規則（1）基本記入方式・等価標目方式ほか
10. 日本目録規則（2）各書誌の事項について
11. 書誌コントロールと標準化
12. 書誌情報の作成と流通（1）（MARC、集中目録作業）
13. 書誌情報の作成と流通（2）（書誌ユーティリティ、共同目録作業）
14. 書誌情報の提供（OPACの管理と運用）
15. まとめ

教科書

田窪直規編集 『情報資源組織論』（樹村房）

評価方法

(1) 試験：80% (2) 出席：20%

担当者：若松 昭子

開設期：秋学期 必修・選択：資格課程 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を受け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

司書資格：選択必修科目

講義概要

1. 内容

情報メディアの変遷と歴史を概観し、それらの変化が人々の知的活動や社会の状況にどのような影響を与えてきたかを考える。また、知識の体系化を担う図書館が、「知識は一部の人の所有物」という考え方から、「知識は万人の公共財産」という理念に向かって、どのような展開をとげてきたのかを各時代の社会的状況や文化的役割との関わりで考察する。

2. 学びの意義と目標

情報メディアの歴史と変遷は人間の思考パターンやコミュニケーションのあり様をどのように変化させたのか、また様々なメディアを収集・保存し、利用に供する市民のための図書館はどのような発展を経たのかなどに注目し、メディアと人間のかかわりについて理解を深める。

受講生に対する要望

授業への積極的な参加を望む

キーワード

(1)情報メディア (2)図書 (3)図書館 (4)書物

事前学習（予習）

教科書に目を通し、課題をきちんとこなすこと。

復習についての指示

授業内容の理解に努め、与えられた課題をきちんとこなすこと。

授業計画

1. 情報メディア史の意義
2. 文字・記録のはじまり
3. 粘土板と古代の図書館
4. パピルスからパーチメントへ
5. 中世の書物文化と修道院図書館
6. 大学の誕生と書物
7. 印刷術の発明と普及
8. 読書様式の変化
9. 国家形成と国立図書館
10. コーヒーハウスと貸本屋
11. 公共図書館の誕生
12. コンピュータと図書館
13. 日本の図書館と書物文化（1）
14. 日本の図書館と書物文化（2）
15. まとめとディスカッション

教科書

ブリュノ ブラセル、荒俣 宏、Bruno Blasselle、木村 恵一 『本の歴史（「知の再発見」双書）』（創元社）

評価方法

(1)試験:50%:試験に代わるレポートあり (2)小課題:20% (3)授業参加状況:30%:授業態度、授業への取り組みや、ディスカッション時の積極性など

毎回の出席は前提であり、遅刻や欠席は大幅な原点となる

担当者：長谷川 幸代

開設期：秋学期 必修・選択：資格課程 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

学校図書館司書教諭資格：必修科目

講義概要

1. 内容

学校図書館における、さまざまな資料活用の意義と方法について学ぶ。

2. 学びの意義と目標

現在、多様な情報メディアがあふれ、何を選択しどのように扱うかという教育は非常に重要なものである。情報メディアについての歴史や特性を理解し、教育に必要な資料の活用方法を身につけ、学校図書館司書として効果的な情報提供ができることを目標とする。

受講生に対する要望

身の回りの情報メディアに興味をもってほしい。情報を上手に選択するスキルを身につけてほしい。

キーワード

(1) 学校図書館 (2) 情報メディア (3) 司書教諭

事前学習（予習）

教科書に目を通す。

復習についての指示

授業のキーワードや紹介されたメディアに目を通す。課題が出た場合は、課題をこなす。

授業計画

1. 情報メディアの概要と歴史
2. 学校教育における情報メディアの活用
3. 情報メディアの種類と特性
4. 情報メディアの選択と管理
5. コンピュータの教育利用（1）
6. コンピュータの教育利用（2）
7. インターネットの教育利用
8. 情報メディアの活用事例（1）
9. 情報メディアの活用事例（2）
10. 司書教諭とその他の連携
11. 支援を要する児童生徒への活用
12. 情報メディアの活用と知的財産権
13. 情報モラルと個人情報保護
14. 情報メディアにかかわるトラブルと対策
15. まとめ

教科書

シリーズ学校図書館学編集委員会・編 『情報メディアの活用（シリーズ学校図書館学5）』（全国学校図書館協議会）

評価方法

(1) レポート:50% (2) 試験:50%

3分の2以上の出席が必須です。

担当者：岡谷 大

開設期：秋学期 必修・選択：資格課程/選択必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を受け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

司書資格：必修科目

講義概要

1. 内容

専門資料の意義や学術コミュニケーションの構造、電子情報・検索などのインフラを説明し、具体的に人文、社会、自然科学のそれぞれの情報や資料について説明する。カリキュラム的には「図書館資料論」の具体版である。情報検索との関連や学術論、科学社会学、計量書誌学等との関連もあり、抽象的で難解なところもあるかもしれない。

2. 学びの意義と目標

目標としては人文、社会、自然科学の学問的・科学社会的な構造の理解のもとに、具体的に各分野の主要な情報・資料が理解できること、電子情報・資料・データベースが理解できることを望んでいる。

受講生に対する要望

情報資源概論の受講を望む。

キーワード

(1) 専門資料 (2) 学術コミュニケーション (3) オンラインデータベース (4) インターネット (5) 書誌コントロール

事前学習（予習）

事前のシラバス確認。

復習についての指示

配布資料の再読と整理。

授業計画

1. 専門資料の定義、構造
2. 専門資料の種類と構成
3. 学術コミュニケーションの社会的構造、学術コミュニケーションシステム
4. 学術コミュニケーションへのアクセスと利用、書誌コントロール
5. オンラインデータベース、電子出版、電子ジャーナル
6. インターネットと学術情報
7. 人文科学の諸分野、情報生産・流通
8. 人文社会科学分野の情報資料の特性、書誌コントロール、アクセスと利用
9. 社会科学の諸分野、情報生産・流通
10. 社会科学分野の情報資料の特性、書誌コントロール、アクセスと利用
11. 自然科学の諸分野、情報生産・流通
12. 自然科学の情報資料の特性、書誌コントロール、アクセスと利用
13. 生活の諸分野、情報生産・流通
14. 生活分野の情報資料の特性、書誌コントロール、アクセスと利用
15. まとめ

教科書

三浦 逸雄, 野末 俊比古 『専門資料論（JLA図書館情報学テキストシリーズ 2-8）』（日本図書館協会）

評価方法

(1) 試験:50% (2) 出席:40% (3) レポート:10%

担当者：若松 昭子

開設期：秋学期 必修・選択：資格課程/選択必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を受け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

司書資格：選択必修科目

講義概要

1. 内容

情報メディアの変遷と歴史を概観し、それらの変化が人々の知的活動や社会の状況にどのような影響を与えてきたかを考える。また、知識の体系化を担う図書館が、「知識は一部の人の所有物」という考え方から、「知識は万人の公共財産」という理念に向かって、どのような展開をとげてきたのかを各時代の社会的状況や文化的役割との関わりで考察する。

2. 学びの意義と目標

情報メディアの歴史と変遷は人間の思考パターンやコミュニケーションのあり様をどのように変化させたのか、また様々なメディアを収集・保存し、利用に供する市民のための図書館はどのような発展を経たのかなどに注目し、メディアと人間のかかわりについて理解を深める。

受講生に対する要望

授業への積極的な参加を望む

キーワード

(1)情報メディア (2)図書 (3)図書館 (4)書物

事前学習（予習）

教科書に目を通し、課題をきちんとこなすこと。

復習についての指示

授業内容の理解に努め、与えられた課題をきちんとこなすこと。

授業計画

1. 情報メディア史の意義
2. 文字・記録のはじまり
3. 粘土板と古代の図書館
4. パピルスからパーチメントへ
5. 中世の書物文化と修道院図書館
6. 大学の誕生と書物
7. 印刷術の発明と普及
8. 読書様式の変化
9. 国家形成と国立図書館
10. コーヒーハウスと貸本屋
11. 公共図書館の誕生
12. コンピュータと図書館
13. 日本の図書館と書物文化（1）
14. 日本の図書館と書物文化（2）
15. まとめとディスカッション

教科書

ブリュノ ブラセル、荒俣 宏、Bruno Blasselle、木村 恵一 『本の歴史（「知の再発見」双書）』（創元社）

評価方法

(1)試験:50%:試験に代わるレポートあり (2)小課題:20% (3)授業参加状況:30%:授業態度、授業への取り組みや、ディスカッション時の積極性など

毎回の出席は前提であり、遅刻や欠席は大幅な原点となる

担当者：若松 昭子

開設期：春学期 必修・選択：資格課程/必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を受け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

司書資格：必修科目

講義概要

1. 内容

図書館の発生から現代への発展の経過を辿ると共に、図書館の理念、制度、現状、課題、図書館を取り巻く様々な社会状況について学ぶ。また、資料・情報の提供機関である図書館の機能や類型について解説し、これからの図書館のあり方について日本における関連施策の動向などを概観しながら考える。

2. 学びの意義と目標

情報の蓄積・保存・提供の社会的機関である図書館の歴史と現状、図書館の法体系、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係を学び、図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図ると共に、今後の課題と展望について考究する。

受講生に対する要望

積極的な授業参加を望む。

キーワード

(1)図書館 (2)情報社会

事前学習（予習）

教科書、課題プリントや配布した新聞記事等によく目を通し質問などを用意しておくこと。

復習についての指示

授業時に課す小課題をきちんとこなすこと。

授業計画

1. 図書館の定義
2. 図書館の種類
3. 図書館の理念
4. 情報社会と図書館
5. 図書館の自由に関する宣言
6. 図書館員の倫理綱領
7. 図書館に関する法規
8. 公立図書館の制度と機能 1
9. 公立図書館の制度と機能 2
10. 学校図書館の制度と機能
11. 大学図書館の制度と機能
12. 専門図書館の制度と機能
13. 国立図書館の制度と機能
14. 図書館間の相互協力
15. まとめ

教科書

塩見 昇 『図書館概論（JLA図書館情報学テキストシリーズ 2-1）』（日本図書館協会）

評価方法

(1)試験またはレポート:40% (2)各授業時の課題:35% (3)出席状況:25%:単なる出席点ではなく平常の授業態度
毎回の出席は前提であり、遅刻や欠席は大幅な原点となる。

担当者：若松 昭子

開設期：通年 必修・選択：資格課程/選択科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を受け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

司書資格：選択必修科目

講義概要

1. 内容

多種多様なメディアが存在する今日では、従来の資料枠組みを越えた広範な知識や、多角度からの情報特性の把握が必要である。授業では、毎年、受講生自らがアイデアを持ち寄って一年間のテーマを決め、情報社会や図書館に関する調査研究を行うとともに、見学会や講演会等を組み合わせ総合的な演習を行う。

2. 学びの意義と目標

司書課程で学んだ知識・技能を基に、自由なアプローチで図書館や情報について考察を行うことで、創造性と独創性を養いながら図書館情報学への総合的な理解を深める。

受講生に対する要望

図書館や情報メディアに興味を持つ学生であればだれでも歓迎。ただし積極的に課題に取り組むことができる熱意のある学生を希望。できれば図書館実習もセットで受講することが望ましい。

キーワード

事前学習（予習）

課題に関する情報収集をよく行うこと

復習についての指示

授業時のディスカッションについて整理しまとめること

授業計画

1. 課題設定にむけて
2. 討議：課題についての話し合い1
3. 資料検索ガイダンス
4. 予備調査
5. 討議：課題についての話し合い2
6. 資料輪読
7. 資料輪読
8. 討議：課題についての話し合い3
9. 課題研究
10. 課題研究
11. 課題研究
12. 課題研究
13. 課題研究
14. 中間発表会
15. 中間まとめ
16. 課題研究
17. 課題研究
18. 課題研究
19. 課題研究
20. 課題研究
21. 課題研究
22. 課題研究
23. 課題研究
24. 課題研究
25. 課題研究
26. 課題研究
27. 課題研究
28. 最終発表会1
29. 最終発表会2
30. 総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 平常点:50% (2) 課題:50%

担当者：黒沢 克朗

開設期：春学期 必修・選択：資格課程 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

司書資格：選択必修科目

講義概要

1. 内容

子どもの本の現状、選書の重要性を柱として実践体験を基にして講義を展開させたい。

2. 学びの意義と目標

授業では、読書の意義や読書観の変遷を振り返るとともに、時代を超えて長い間読み継がれてきた児童書の種類や特性、また児童書の新しい試みや出版動向などを分析し、実際に絵本を手にとり選定を行うなどの体験を通して、現在に生きる子どもの要望を組み入れた蔵書構成の考え方について学ぶ。

受講生に対する要望

子どもの本の現状、選書の重要性、について受講生の子ども時代と照らし合わせながら、理解してほしい。

キーワード

事前学習（予習）

課題については、事前に調査し、締切日を厳守すること

復習についての指示

講義のなかで紹介した本は、目を通すこと

授業計画

1. 児童資料とは 「図書館の自由に関する宣言」について児童資料では
2. 児童図書の出版状況 最近の児童書の特徴
3. 児童書の種類と特性 絵本
4. 児童書の種類と特性 児童文学 幼年
5. 児童書の種類と特性 ことば遊び・詩の本
6. 児童書の種類と特性 ノンフィクション
7. 児童書の種類と特性 視聴覚資料 その他
8. 児童の収集方針 蔵書構成
9. 絵本を選ぶ
10. 絵本を評価してみよう 1
11. 絵本を評価してみよう 2
12. レビュースリップを書いてみよう
13. 図書館の日常業務と資料
14. 資料提供サービス
15. まとめ

教科書

堀川 照代 『児童サービス論（JLA図書館情報学テキストシリーズ2-11）』（日本図書館協会）

評価方法

(1) 出席:50% (2) 課題:20% (3) 科目修得試験:30%

担当者：河島 茂生

開設期：秋学期 必修・選択：資格課程/必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を受け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

司書資格：必修科目

講義概要

1. 内容

図書館は、情報資源を収集・管理する組織であって現代社会における情報基盤として重要な役割を果たしている。本授業では、よりよい図書館運営のために、その経営のあり方について議論していく。

2. 学びの意義と目標

本科目の履修を通じて、管理者（館長など）でなくとも、図書館で働くにあたって最低限身につけなければならない経営の知識が習得できると考えられる。

受講生に対する要望

特になし

キーワード

事前学習（予習）

毎回与えられた課題をこなし、授業に臨みたい。

復習についての指示

授業で触れた内容をテキスト等で読み返し、思考を整理することを求める。

授業計画

1. 図書館経営の意義
2. 図書館業務の概要
3. 図書館の目的策定
4. 図書館の計画策定（予算関係を含む）
5. 図書館評価の概要
6. 図書館評価の指標（調査法を含む）
7. 図書館評価のレッスン
8. 図書館のマーケティング
9. 図書館の組織・職員
10. New Public Management
11. 多様化する図書館運営
12. Private Finance Initiative
13. 図書館法
14. 図書館関連の法規（図書館政策を含む）
15. まとめ

教科書

安藤 友張 『図書館制度・経営論：ライブラリー・マネジメントの現在（講座・図書館情報学）』（ミネルヴァ書房）

評価方法

(1) 試験：100%

ただし、単位修得にあたっては出席数が授業回数の3分の2以上であることを条件とする。

図書館サービス概論

LIS-0-205

担当者：岡谷 大

開設期：秋学期 必修・選択：資格課程 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を受け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

司書資格：必修科目

講義概要

1. 内容

サービスの具体面では、資料提供による来館者へのサービス、近年定着してきたフロア・サービス、貸出、リクエストなどのサービスの展開、情報・コンピュータによるサービス、課題解決サービス、児童・障害者・高齢者・多文化サービスなど利用者の類型に応じたサービス、さらには最近活発になっている、図書館における集会・行事などのサービスや利用者のモラルなどの利用者との交流を考える。

2. 学びの意義と目標

図書館サービスの意義を強調し、マネージメントとの関係、特にサービスにおけるコンピュータの役割とその限界などを説明する。

受講生に対する要望

図書館における実際のサービスについて理解を深めること。

キーワード

(1) 図書館サービス (2) 図書館とマネージメント (3) 利用空間 (4) 図書館ネットワーク (5) 利用者サービスの多様性

事前学習（予習）

事前のシラバス確認を行うこと。

復習についての指示

配布資料を再読しまとめること。

授業計画

1. 図書館サービスの考え方と構造
2. 図書館サービスとマネージメント
3. 来館者へのサービス
4. 利用空間の整備
5. 貸出、予約サービスの構造
6. レファレンスなどの資料提供
7. 利用案内、セミナーなどの展開
8. 図書館ネットワークによる情報提供
9. 障害者へのサービス
10. 高齢者、多文化サービス
11. 課題解決支援サービス
12. 多様な利用者サービス
13. 利用者との接遇、コミュニケーション、広報活動
14. 図書館サービスと著作権
15. まとめ

教科書

小田 光宏 『図書館サービス論（JLA図書館情報学テキストシリーズ2）』（日本図書館協会）

評価方法

- (1) 試験：50% (2) 出席：40% (3) レポート：10%

担当者：岡谷 大

開設期：秋学期 必修・選択：資格課程/必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を受け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

司書資格：必修科目

講義概要

1. 内容

サービスの具体面では、資料提供による来館者へのサービス、近年定着してきたフロア・サービス、貸出、リクエストなどのサービスの展開、情報・コンピュータによるサービス、課題解決サービス、児童・障害者・高齢者・多文化サービスなど利用者の類型に応じたサービス、さらには最近活発になっている、図書館における集会・行事などのサービスや利用者のモラルなどの利用者との交流を考える。

2. 学びの意義と目標

図書館サービスの意義を強調し、マネージメントとの関係、特にサービスにおけるコンピュータの役割とその限界などを説明する。

受講生に対する要望

図書館における実際のサービスについて理解を深めること。

キーワード

(1) 図書館サービス (2) 図書館とマネージメント (3) 利用空間 (4) 図書館ネットワーク (5) 利用者サービスの多様性

事前学習（予習）

事前のシラバス確認を行うこと。

復習についての指示

配布資料を再読しまとめること。

授業計画

1. 図書館サービスの考え方と構造
2. 図書館サービスとマネージメント
3. 来館者へのサービス
4. 利用空間の整備
5. 貸出、予約サービスの構造
6. レファレンスなどの資料提供
7. 利用案内、セミナーなどの展開
8. 図書館ネットワークによる情報提供
9. 障害者へのサービス
10. 高齢者、多文化サービス
11. 課題解決支援サービス
12. 多様な利用者サービス
13. 利用者との接遇、コミュニケーション、広報活動
14. 図書館サービスと著作権
15. まとめ

教科書

小田 光宏 『図書館サービス論（JLA図書館情報学テキストシリーズ2）』（日本図書館協会）

評価方法

- (1) 試験：50% (2) 出席：40% (3) レポート：10%

担当者：岡谷 大

開設期：春学期 必修・選択：資格課程/必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を受け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

司書資格：必修科目

講義概要

1. 内容

図書館資料に関してその意義や類型（印刷資料、非印刷資料、特殊資料など）を概説し、とくに図書館の自由との関係や、蔵書構成、資料選択など図書館・情報学の中核となる理論について紹介、考察する。さらに出版と販売、資料の受け入れ、書庫管理などの具体面も説明する。カリキュラム上の位置づけとしては「専門資料論」の基礎分野となるほか、図書館の内と外（出版、販売など）の關係にふれている。

2. 学びの意義と目標

意義と目標としては図書館資料に関してその類型や構造が理解でき、さらに出版と販売、資料の受入など具体的な側面も理解できること、蔵書構成と資料選択といった理論面の理解がなされることを望んでいる。

受講生に対する要望

図書館資料の類型、構造、成り立ちに関心をもってほしい。

キーワード

(1) 図書館資料 (2) インターネット系資料 (3) 選書 (4) 蔵書構成
(5) 資料の管理

事前学習（予習）

事前にシラバスを確認してほしい。

復習についての指示

配布資料の再読と整理。

授業計画

1. 図書館情報資源
2. 印刷資料（1）
3. 印刷資料（2）
4. 非印刷資料
5. 電子資料
6. 資料特論（1）
7. 資料特論（2）
8. 出版流通システム
9. 図書館の「知的自由」
10. 蔵書論
11. 収集と選択
12. 蔵書管理
13. 資料の組織化
14. 書庫管理
15. まとめ

教科書

馬場俊明 『図書館情報資源概論（JLA図書館情報学テキストシリーズ）』（日本図書館協会）

評価方法

(1) 試験:50% (2) 出席:40% (3) レポート:10%

担当者：若松 昭子

開設期：通年 必修・選択：資格課程/選択科目 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を受け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

司書資格：選択必修科目

講義概要

1. 内容

図書館情報学の理論を図書館業務にいかす為に主として身近な公共図書館において2週間の実習を行う。実習期間のみならず、自ら実習館を選び、実習依頼から実習許可を得る等の一連の経験を通して基本的なコミュニケーション態度を学ぶ。実習に入る前に、現代の図書館における課題から、各自テーマを選び掘り下げる。実習終了後にはそれぞれの研究課題を整理分析して、その成果をまとめ発表する。

2. 学びの意義と目標

図書館実習は、利用者の立場と司書の立場の両方の経験を得て司書としての使命を確認することにある。実際の図書館現場を体験することで知識を生きたものとし、図書館をより身近に感じることで、生涯学習社会における賢い情報利用者としての、また情報のよきアドバイザーとしての実践力を身につけることを目指す。

受講生に対する要望

図書館に興味を持つすべての学生が対象となりますが、実際の図書館で2週間の実習を遂行できる責任感と体力を持っていることが必要。できれば図書館情報学演習もセットで受講することが望ましい。

キーワード

(1) 公共図書館

事前学習（予習）

実習を希望する図書館の調査と情報収集

授業計画

1. 実習の目的と意義
2. 実習館の概要
3. 図書館の意義と目的
4. 図書館学文献検索1 新聞
5. 図書館学文献検索2 論文
6. 研究課題1 実習時のテーマを探す
7. 研究課題2 実習時のテーマを設定する
8. 研究課題3 夫々のテーマを検討する
9. 実習前指導1 ブックトーク
10. 実習前指導2 ブックトーク
11. 実習前指導3 読み聞かせ
12. 実習前指導4 読み聞かせ
13. 実習前指導5 レファレンス
14. 実習期間
15. 実習期間
16. 実習期間
17. 実習報告（実習が終わって）
18. 実習報告会用資料作成
19. 実習報告会用資料作成
20. 実習報告会1 各人の実習報告発表
21. 実習報告会2 各人の実習報告発表
22. 実習報告会3 各人の実習報告発表
23. 実習報告会4 各人の実習報告発表
24. 報告書の作成・検討1
25. 報告書の作成・検討2
26. 報告書の作成・検討3
27. 実習報告書をもとに1
28. 実習報告書をもとに2
29. 実習報告書をもとに3
30. 総括

教科書

プリントを配布する

復習についての指示

実習体験の報告書作成

評価方法

(1) 実習:70% (2) 事前学習:15% (3) 事後報告:15%

担当者：若松 昭子

開設期：通年 必修・選択：資格課程 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を受け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

司書資格：選択必修科目

講義概要

1. 内容

図書館情報学の理論を図書館業務にいかす為に主として身近な公共図書館において2週間の実習を行う。実習期間のみならず、自ら実習館を選び、実習依頼から実習許可を得る等の一連の経験を通して基本的なコミュニケーション態度を学ぶ。実習に入る前に、現代の図書館における課題から、各自テーマを選び掘り下げる。実習終了後にはそれぞれの研究課題を整理分析して、その成果をまとめ発表する。

2. 学びの意義と目標

図書館実習は、利用者の立場と司書の立場の両方の経験を得て司書としての使命を確認することにある。実際の図書館現場を体験することで知識を生きたものとし、図書館をより身近に感じることで、生涯学習社会における賢い情報利用者としての、また情報のよきアドバイザーとしての実践力を身につけることを目指す。

受講生に対する要望

図書館に興味を持つすべての学生が対象となりますが、実際の図書館で2週間の実習を遂行できる責任感と体力を持っていることが必要。できれば図書館情報学演習もセットで受講することが望ましい。

キーワード

(1) 公共図書館

事前学習（予習）

実習を希望する図書館の調査と情報収集

授業計画

1. 実習の目的と意義
2. 実習館の概要
3. 図書館の意義と目的
4. 図書館学文献検索1 新聞
5. 図書館学文献検索2 論文
6. 研究課題1 実習時のテーマを探す
7. 研究課題2 実習時のテーマを設定する
8. 研究課題3 夫々のテーマを検討する
9. 実習前指導1 ブックトーク
10. 実習前指導2 ブックトーク
11. 実習前指導3 読み聞かせ
12. 実習前指導4 読み聞かせ
13. 実習前指導5 レファレンス
14. 実習期間
15. 実習期間
16. 実習期間
17. 実習報告（実習が終わって）
18. 実習報告会用資料作成
19. 実習報告会用資料作成
20. 実習報告会1 各人の実習報告発表
21. 実習報告会2 各人の実習報告発表
22. 実習報告会3 各人の実習報告発表
23. 実習報告会4 各人の実習報告発表
24. 報告書の作成・検討1
25. 報告書の作成・検討2
26. 報告書の作成・検討3
27. 実習報告書をもとに1
28. 実習報告書をもとに2
29. 実習報告書をもとに3
30. 総括

教科書

プリントを配布する

復習についての指示

実習体験の報告書作成

評価方法

(1) 実習:70% (2) 事前学習:15% (3) 事後報告:15%

担当者：若松 昭子

開設期：通年 必修・選択：資格課程 授業回数：2 単位数：2単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を受け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

司書資格：選択必修科目

講義概要

1. 内容

多種多様なメディアが存在する今日では、従来の資料枠組みを越えた広範な知識や、多角度からの情報特性の把握が必要である。授業では、毎年、受講生自らがアイデアを持ち寄って一年間のテーマを決め、情報社会や図書館に関する調査研究を行うとともに、見学会や講演会等を組み合わせ総合的な演習を行う。

2. 学びの意義と目標

司書課程で学んだ知識・技能を基に、自由なアプローチで図書館や情報について考察を行うことで、創造性と独創性を養いながら図書館情報学への総合的な理解を深める。

受講生に対する要望

図書館や情報メディアに興味を持つ学生であればだれでも歓迎。ただし積極的に課題に取り組むことができる熱意のある学生を希望。できれば図書館実習もセットで受講することが望ましい。

キーワード

事前学習（予習）

課題に関する情報収集をよく行うこと

復習についての指示

授業時のディスカッションについて整理しまとめること

授業計画

1. 課題設定にむけて
2. 討議：課題についての話し合い1
3. 資料検索ガイダンス
4. 予備調査
5. 討議：課題についての話し合い2
6. 資料輪読
7. 資料輪読
8. 討議：課題についての話し合い3
9. 課題研究
10. 課題研究
11. 課題研究
12. 課題研究
13. 課題研究
14. 中間発表会
15. 中間まとめ
16. 課題研究
17. 課題研究
18. 課題研究
19. 課題研究
20. 課題研究
21. 課題研究
22. 課題研究
23. 課題研究
24. 課題研究
25. 課題研究
26. 課題研究
27. 課題研究
28. 最終発表会1
29. 最終発表会2
30. 総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1) 平常点:50% (2) 課題:50%

担当者：若松 昭子

開設期：春学期 必修・選択：資格課程 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を受け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

司書資格：必修科目、
社会教育主事資格：選択必修科目

講義概要

1. 内容

図書館の発生から現代への発展の経過を辿ると共に、図書館の理念、制度、現状、課題、図書館を取り巻く様々な社会状況について学ぶ。また、資料・情報の提供機関である図書館の機能や類型について解説し、これからの図書館のあり方について日本における関連施策の動向などを概観しながら考える。

2. 学びの意義と目標

情報の蓄積・保存・提供の社会的機関である図書館の歴史と現状、図書館の法体系、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係を学び、図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図ると共に、今後の課題と展望について考究する。

受講生に対する要望

積極的な授業参加を望む。

キーワード

(1)図書館 (2)情報社会

事前学習（予習）

教科書、課題プリントや配布した新聞記事等によく目を通し質問などを用意しておくこと。

復習についての指示

授業時に課す小課題をきちんとこなすこと。

授業計画

1. 図書館の定義
2. 図書館の種類
3. 図書館の理念
4. 情報社会と図書館
5. 図書館の自由に関する宣言
6. 図書館員の倫理綱領
7. 図書館に関する法規
8. 公立図書館の制度と機能 1
9. 公立図書館の制度と機能 2
10. 学校図書館の制度と機能
11. 大学図書館の制度と機能
12. 専門図書館の制度と機能
13. 国立図書館の制度と機能
14. 図書館間の相互協力
15. まとめ

教科書

塩見 昇 『図書館概論（JLA図書館情報学テキストシリーズ 2-1）』（日本図書館協会）

評価方法

(1)試験またはレポート:40% (2)各授業時の課題:35% (3)授業態度や授業への参加度:25%

毎回の出席は前提であり、遅刻や欠席は大幅な原点となる。

担当者：河島 茂生

開設期：春学期 必修・選択：資格課程 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を受け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

司書資格：必修科目

講義概要

1. 内容

コンピュータ技術やインターネット技術の基礎、図書館の業務システム、サーチエンジンやデータベースの仕組み、電子資料（電子ジャーナル、電子書籍）などについて解説し、必要に応じて演習を行う。

2. 学びの意義と目標

情報社会のなかにあつて、図書館と情報技術は切っても切り離せない関係になっている。情報技術の影響で図書館業務は効率化した。しかし、技術を知らなければ使いこなせず、技術の領域はブラックボックス化する。結果として、配慮の行き届かないサービスにつながってしまいかねない。本授業を通じて、図書館の業務に欠かせない情報技術の知識の修得を目指す。

受講生に対する要望

授業では、コンピュータ技術や図書館情報学の用語が多数紹介される。参考図書で用語を調べるなどして、みずからの理解を補うことが要される。

キーワード

事前学習（予習）

毎回与えられた課題をこなし、授業に臨みたい。

復習についての指示

授業で触れた内容をテキスト等で読み返し、思考を整理することを求める。

授業計画

1. 情報社会のなかでの図書館の役割
2. 図書館における情報技術の変遷
3. 図書館における情報機器の役割と実際
4. コンピュータの仕組みとその歴史
5. インターネットの仕組みとその歴史
6. 情報検索の基礎：情報とはなにか、検索とはなにか
7. 情報検索の実際（1）サーチエンジン
8. 情報検索の実際（2）データベース
9. インターネット上の情報発信（1）(X)HTML／CSS, CMS,
10. インターネット上の情報発信（2）ウェブユーザビリティ, ウェブアクセシビリティ
11. 電子資料
12. コンピュータシステムの管理
13. デジタルアーカイブ
14. 最新の情報技術と図書館
15. まとめ

教科書

河島茂生（編）『図書館情報技術論』（ミネルヴァ書房）

評価方法

(1) 試験：100%

ただし、単位修得にあたっては、出席数が授業回数の3分の2以上であることを条件とする。

担当者：岡谷 大

開設期：春学期 必修・選択：資格課程 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を受け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

司書資格：必修科目

講義概要

1. 内容

図書館資料に関してその意義や類型（印刷資料、非印刷資料、特殊資料など）を概説し、とくに図書館の自由との関係や、蔵書構成、資料選択など図書館・情報学の中核となる理論について紹介、考察する。さらに出版と販売、資料の受け入れ、書庫管理などの具体面も説明する。カリキュラム上の位置づけとしては「専門資料論」の基礎分野となるほか、図書館の内と外（出版、販売など）の關係にふれている。

2. 学びの意義と目標

意義と目標としては図書館資料に関してその類型や構造が理解でき、さらに出版と販売、資料の受入など具体的な側面も理解できること、蔵書構成と資料選択といった理論面の理解がなされることを望んでいる。

受講生に対する要望

図書館資料の類型、構造、成り立ちに関心をもってほしい。

キーワード

(1) 図書館資料 (2) インターネット系資料 (3) 選書 (4) 蔵書構成
(5) 資料の管理

事前学習（予習）

事前にシラバスを確認してほしい。

復習についての指示

配布資料の再読と整理。

授業計画

1. 図書館情報資源
2. 印刷資料（1）
3. 印刷資料（2）
4. 非印刷資料
5. 電子資料
6. 資料特論（1）
7. 資料特論（2）
8. 出版流通システム
9. 図書館の「知的自由」
10. 蔵書論
11. 収集と選択
12. 蔵書管理
13. 資料の組織化
14. 書庫管理
15. まとめ

教科書

馬場俊明 『図書館情報資源概論（JLA図書館情報学テキストシリーズ）』（日本図書館協会）

評価方法

(1) 試験：50% (2) 出席：40% (3) レポート：10%

担当者：岡谷 大

開設期：秋学期 必修・選択：資格課程 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を受け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

司書資格：選択必修科目

講義概要

1. 内容

専門資料の意義や学術コミュニケーションの構造、電子情報・検索などのインフラを説明し、具体的に人文、社会、自然科学のそれぞれの情報や資料について説明する。カリキュラム的には「図書館資料論」の具体版である。情報検索との関連や学術論、科学社会学、計量書誌学等との関連もあり、抽象的で難解なところもあるかもしれない。

2. 学びの意義と目標

目標としては人文、社会、自然科学の学問的・科学社会的な構造の理解のもとに、具体的に各分野の主要な情報・資料が理解できること、電子情報・資料・データベースが理解できることを望んでいる。

受講生に対する要望

情報資源概論の受講を望む。

キーワード

(1) 専門資料 (2) 学術コミュニケーション (3) オンラインデータベース (4) インターネット (5) 書誌コントロール

事前学習（予習）

事前のシラバス確認。

復習についての指示

配布資料の再読と整理。

授業計画

1. 専門資料の定義、構造
2. 専門資料の種類と構成
3. 学術コミュニケーションの社会的構造、学術コミュニケーションシステム
4. 学術コミュニケーションへのアクセスと利用、書誌コントロール
5. オンラインデータベース、電子出版、電子ジャーナル
6. インターネットと学術情報
7. 人文科学の諸分野、情報生産・流通
8. 人文社会科学分野の情報資料の特性、書誌コントロール、アクセスと利用
9. 社会科学の諸分野、情報生産・流通
10. 社会科学分野の情報資料の特性、書誌コントロール、アクセスと利用
11. 自然科学の諸分野、情報生産・流通
12. 自然科学の情報資料の特性、書誌コントロール、アクセスと利用
13. 生活の諸分野、情報生産・流通
14. 生活分野の情報資料の特性、書誌コントロール、アクセスと利用
15. まとめ

教科書

三浦 逸雄, 野末 俊比古 『専門資料論（JLA図書館情報学テキストシリーズ 2-8）』（日本図書館協会）

評価方法

(1) 試験:50% (2) 出席:40% (3) レポート:10%

担当者：河島 茂生

開設期：秋学期 必修・選択：資格課程 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を受け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

司書資格：必修科目、
社会教育主事資格：選択必修科目

講義概要

1. 内容

図書館は、情報資源を収集・管理する組織であって現代社会における情報基盤として重要な役割を果たしている。本授業では、よりよい図書館運営のために、その経営のあり方について議論していく。

2. 学びの意義と目標

本科目の履修を通じて、管理者（館長など）でなくとも、図書館で働くにあたって最低限身につけなければならない経営の知識が習得できると考えられる。

受講生に対する要望

特になし

キーワード

事前学習（予習）

毎回与えられた課題をこなし、授業に臨みたい。

復習についての指示

授業で触れた内容をテキスト等で読み返し、思考を整理することを求める。

授業計画

1. 図書館経営の意義
2. 図書館業務の概要
3. 図書館の目的策定
4. 図書館の計画策定（予算関係を含む）
5. 図書館評価の概要
6. 図書館評価の指標（調査法を含む）
7. 図書館評価のレッスン
8. 図書館のマーケティング
9. 図書館の組織・職員
10. New Public Management
11. 多様化する図書館運営
12. Private Finance Initiative
13. 図書館法
14. 図書館関連の法規（図書館政策を含む）
15. まとめ

教科書

安藤 友張 『図書館制度・経営論：ライブラリー・マネジメントの現在（講座・図書館情報学）』（ミネルヴァ書房）

評価方法

(1) 試験：100%

ただし、単位修得にあたっては出席数が授業回数の3分の2以上であることを条件とする。

読書と豊かな人間性

TEAT-0-213

担当者：小川 三和子

開設期：春学期 必修・選択：資格課程 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を受け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

学校図書館司書教諭資格：必修科目

講義概要

1. 内容

司書教諭資格取得の必修5科目のうちの1つ。読書の意義と目的、発達段階に応じた読書指導、子どもと本を結ぶための方法、各教科等における読書指導などについて考察したり、様々な読書活動を体験したりする。講義だけでなく、作業や体験、実習、討論などを取り入れた学習を展開する予定である。

2. 学びの意義と目標

読書センターとしての学校図書館の役割を理解し、勤務校の読書指導計画を策定し、読書活動推進の要となる司書教諭としての資質を身に付ける。また、さまざまな読書活動を率先垂範できる実践力を養う。

受講生に対する要望

作業や体験、実習、討論などを多く取り入れるので、進んで学習に取り組み、欠席した場合は、出席者に必ず授業内容や次の授業の準備等を確認しておくこと。

キーワード

(1)読書センター (2)読書指導 (3)読書活動 (4)学習・情報センター (5)司書教諭の役割

事前学習（予習）

多くの児童書に親しんで欲しい。児童書を選択して持参することを課す授業が何回かあるので、その都度必要な児童書を準備すること。

復習についての指示

ノートを整理し、知識として学んだことと今後も考察していくべきことを明確にする。

授業計画

1. 読書の意義と目的・多様な読書資料
2. 発達段階に応じた読書指導
3. 読書環境の整備と読書材の提供・紹介
4. 読書環境の整備と読書材の提供・紹介・ポップ作り
5. 子どもと本を結ぶための方法・ブックトーク等
6. 子どもと本を結ぶための方法・読み聞かせ
7. 子どもと本を結ぶための方法・アニメーション・読書会
8. 子どもと本を結ぶための方法・ビブリオバトル
9. 子どもと本を結ぶための方法・全校で取り組む読書活動
10. 各教科等における読書指導
11. 各教科等における読書指導
12. 個に応じた読書と指導
13. 学校経営と読書教育・年間計画・司書教諭の役割
14. 評価試験
15. 地域社会との連携・まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)学習の準備:30% (2)提出物:30% (3)評価試験:40%

出席が本学の規定に満たない者は、単位取得不可。提出物、実習の準備、評価試験とを併せ、総合的に評価する。

レファレンスサービス演習

LIS-0-208

担当者：吉田 隆

開設期：春学期/秋学期 必修・選択：資格課程/必修科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を授け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

司書資格：必修科目

講義概要

1. 内容

図書館利用者サービスを情報検索サービス、レファレンスサービスの基本的なプロセスから考える。

2. 学びの意義と目標

図書館所蔵の情報資源とWeb情報源を駆使して回答するための演習です、図書館・類縁機関の職域だけでなく企業の職域でも活かすことができる情報検索の技能を習得することを目指します。果敢に本演習に挑んでください。

受講生に対する要望

紙媒体資料と電子媒体資料について熟知することが大切です。図書館の蔵書構成について理解を深めてください。

キーワード

(1)レファレンス質問 (2)レファレンスブック (3)印刷資料 (4)電子資料

事前学習（予習）

あらかじめ教科書を読んで出席してください。

復習についての指示

課題については、印刷物のレファレンスブックとWeb情報源の両方を併用して回答してください。

授業計画

1. ガイダンス・情報サービスのプロセス
2. 図書情報についての設問
3. 雑誌についての設問
4. 雑誌記事についての設問
5. 新聞記事についての設問
6. 言葉・事柄についての設問
7. 統計についての設問
8. 歴史・日時についての設問
9. 法律についての設問
10. 判例についての設問
11. 特許についての設問
12. 人物・団体についての設問
13. ウィキペディアを検証する
14. レファレンスブックを評価する
15. 発信型情報サービスについて

教科書

原田智子編著 『情報サービス演習』（樹村房）

評価方法

- (1)出席:20% (2)課題:40% (3)試験:40%

社会教育主事課程

担当者：村上 純一

開設期：秋学期 必修・選択：教職科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

教職課程及び指導法に関する基礎的な知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

社会教育主事資格：選択必修科目

講義概要

1. 内容

本講義では、主に教育行政・政策を捉える視点から、日常の学校の教育活動や学校の経営、教育行政組織の諸活動、昨今の教育行財政改革などについて考えていきます。教育に関わる学校や行政の活動がどのような制度に基づき、どのような計画に従って行われているのか、学校や行政その他教育に携わる諸組織の取り組みをその背景も含めて包括的に考えていくことがこの講義の内容です。

2. 学びの意義と目標

「教育」と「経営」という言葉は、一見するとあまり関連がないようなイメージを持たれるかもしれませんが、しかし、日々の学校の活動が何の計画もない「行き当たりばったり」のものであったり、国や自治体の教育政策が目先のできごとへの対応ばかりであったりすると、教育という営みはそもそも成り立たなくなってしまう。児童生徒として学校に通う中では、あるいは日常の社会生活の中ではあまり触れることのない中長期的な政策ビジョンや制度に触れることを通じて、学校や教育行政の活動を俯瞰的に捉えられるようになることが本講義の目標です。また、教育に対する俯瞰的な視点を養うことは、誰もが経験するがゆえに逆に「自分の経験のみに即して」語りがちになってしまう教育という営みに対して、自らの経験を相対化して捉え直すことにもつながります。自らの経験のみに縛られない多角的な視野を養うことが本講義における学びの意義です。

受講生に対する要望

講義の中では毎回時事的な話題も扱っていきますが、新聞やニュース等で扱われる教育の最新のできごとについて、積極的に情報を収集し自分なりの考えをもつようにすることを心掛けてください。

キーワード

(1)教育制度 (2)教育行政・政策 (3)学校教育 (4)行財政改革 (5)教員

事前学習（予習）

日々のニュースや新聞等を通じ、時事的な話題に関する情報収集に努めてください。

復習についての指示

講義時に配布した資料・教材の復習のほか、Moodleにも補助教材をUPしますので、適宜参照しつつ講義内容を振り返るようにしてください。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 教育に携わる組織と教員の養成・研修
3. 教員の勤務実態・給与
4. 学校の管理・経営
5. 教育課程経営と学習指導要領
6. 地域とともにある学校づくり
7. 教員評価・学校教育と「評価」
8. 国の教育行政
9. 地方教育行政と教育委員会制度改革
10. 教育振興基本計画
11. 社会教育・生涯学習政策
12. 「学力」の問題と高等教育行政
13. 教育経営の舞台裏
14. 教育経営に関する今日的諸問題
15. 講義のまとめ

教科書

プリントを配布する
各回のプリントに、講義内容に即した参考文献リストを添付します。

評価方法

(1)学期末試験:50%:試験を予定していますが、受講者数によってはレポートで代える場合もあります。(2)各回のコメントシート:50%

担当者：鎌原 雅彦

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：1単位

学部教育の関連目標

子どもの発達・心理についての知識を身につける

カリキュラム上の位置付け

社会教育主事資格：必修科目

講義概要

1. 内容

子どもの学習と発達に関する教育心理学の基礎的な知識について、学習する。特に学ぶ主体としての子どもの視点から教育心理学的知見を整理する。授業中に簡単なデモンストレーションや調査、話し合いを行い、その結果についてや小レポートの提出を求める。

2. 学びの意義と目標

教育的な仕事をする上で必要となる知識を獲得するだけでなく、教育心理学的なものの見方を習得することを目標とする。

受講生に対する要望

授業時、模擬実験、小グループでの討論等を行うので積極的な参加を望む。

キーワード

(1)教育心理学 (2)学習

事前学習（予習）

次回テーマについて、テキスト該当部分をみるなりして、自分なりの考えをまとめる。

復習についての指示

授業の内容について、疑問点を明確にする。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 学習の基礎としての記憶 1
3. 学習の基礎としての記憶 2
4. 知識獲得としての学習
5. 問題解決としての学習
6. 学習の基礎としての条件づけ 1
7. 学習の基礎としての条件づけ 2
8. 学習への動機づけ
9. 学習の評価
10. 個人差と人格
11. 成熟と学習
12. 初期学習
13. 認知発達と学習
14. 自己の発達と学習
15. 総括と試験

教科書

鎌原雅彦・竹綱誠一郎 『やさしい教育心理学第3版』（有斐閣）

評価方法

- (1)試験:70% (2)出席と小レポート:30%

担当者：小池 茂子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

社会教育を推進する教育行政の専門職員の育成、
多様な分野・領域における社会教育や生涯学習に関する専門的な
知識の習得

カリキュラム上の位置付け

社会教育主事資格：選択必修科目

講義概要

1. 内容

1. 内容 本講義では、高齢者を対象とする教育について取り上げる。子どもの学習を支援する教育原理に対して、1970年代から提唱され始めてきた成人教育学なかんずく高齢者の教育学（gerogogy）理論について論じることとする。尚、本講義で扱う高齢者の範囲は、病的及び加齢によって著しい知的な退行現象を呈している高齢者を除く高齢者とする。2. カリキュラム上の位置づけ 資格取得を目指さない学生の受講ももちろん歓迎する。

2. 学びの意義と目標

成人の生涯発達の実践から高齢の特性を理解しそれを踏まえた高齢者を対象とする学習支援の方策について理解する。専門職として（或いは一個人として）、高齢者教育の現代的意義と高齢者に接する際の配慮の視点を受講生が理解することを本講義の目標とする。

受講生に対する要望

遅刻、無断欠席は厳禁とする。

キーワード

(1) 少子高齢化 (2) 老年学 (3) 成人の学習理論 (4) ジェロロジー
(5) 加齢と知能

事前学習（予習）

講義の中で紹介する、文献、資料等に事前に目を通して講義に臨むこと。

復習についての指示

毎回、授業の講義ノートの整理をすること。

授業計画

1. 日本社会の高齢化の状況と将来推計
2. 戦前の高齢者の社会的地位（家長制度、尊属優位の民法規定）
3. 1960年代以降のわが国の高齢者を対象とする政策の変遷
4. 高齢期の幸せな生活をめぐる主張（活動理論と離脱理論等）
5. 生涯発達理論について
6. 加齢と知的能力
7. 成人教育学（andragogy）理論—子どもの学習支援とどこが違うのか—
8. 成人後期の発達と危機（高齢期の発達課題・生活課題）
9. 高齢者の特性を活かした教育学（gerogogy）の理論
 10. 高齢者の特性を活かした、有効な学習方法
 11. 高齢者の学習関心・学習要求（1）
 12. 高齢者の学習関心・学習要求（2）
 13. 具体的な教育実践の紹介
 14. 活躍する高齢者紹介
 15. まとめ

教科書

堀薫夫・三輪建二 『生涯学習と自己実現』（放送大学教育振興会）

評価方法

(1) 出席点:25% (2) 平常点:25% (3) 試験:50%

担当者：小池 茂子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

社会教育を推進する教育行政の専門職員の育成、
多様な分野・領域における社会教育や生涯学習に関する専門的な
知識の習得

カリキュラム上の位置付け

社会教育主事資格：選択必修科目

講義概要

1. 内容

1. 内容 第1に、今日問題になっている青少年の自立と社会性の育成をどのようにするかを巡って展開されている「奉仕活動」の学校教育や社会教育政策の中での奨励をめぐる議論について取り上げる。第2に、人間がよりよく生きていくためには、生にまつわる否定的側面の課題（死・病、対象喪失などをめぐる課題）を直視し考えることの必要を説く「生と死の準備教育」がある。「生と死の準備教育」提唱者たちの理念、教育目的、教育内容を紹介し、生涯教育としての「いのち」を考える教育の可能性について考えていきたい。2. カリキュラム上の位置づけ 資格取得を目的としない学生の受講も歓迎する。

2. 学びの意義と目標

青年期を生きる人間の生をよきものとするため、どのような教育が必要なのかを受講生が自らの課題として考察することを目標とする。

受講生に対する要望

本講義では現代社会の中に存在する青年期の教育を取り巻く課題について取り上げる。そして、そこには正答というものがない。したがって受講生が、あるいは受講生同士が意見の交換を通じて一つ一つの課題について、自分の問題として考えることを期待したい。

キーワード

(1) 青少年非行 (2) ポストモダン (3) 奉仕活動の義務化 (4) シティズンシップ教育 (5) 生と死の準備教育

事前学習（予習）

講義では、教科書を使用しないため、事前に資料を配布して講義を進めていく。そこで毎回の講義に際し、事前に資料に目を通し資料の内容を理解した上で講義に臨むこと。

復習についての指示

講義の中で小レポート課し、学生諸君の意見を求めることが間々ある。課題レポート作成に際しては自分で主体的に問題と向き合い、自分の意見を根拠を示して表明することを常に心がけてほしい。

授業計画

1. オリエンテーション：教育政策の保守化と青少年教育の動向
2. 青少年問題（戦後の青少年非行の変遷）・社会のアノミー化
3. 青少年問題審議会答申に見る青少年問題の今日的動向と教育的課題
4. 教育改革国民会議の中間報告「学校教育における奉仕活動の義務化」をめぐる議論
5. 学校教育における「奉仕活動」の是非をめぐる議論
6. イギリスにおけるシティズンシップ教育
7. 「新しい公共」について～公共哲学の議論にみる「公共」とは～
8. 青少年教育における奉仕活動をめぐる議論のまとめ
9. 「死生学」、「死の準備教育」、「いのちの教育」とは何か
10. わが国における「死の準備教育」
11. 子どもの「死」をめぐる問題に関する意識調査・結果（1）
12. 子どもの「死」をめぐる問題に関する意識調査・結果（2）
13. 学校教育におけるいのちをめぐる教育の理念、目的、カリキュラム
14. 初等・中等教育学校段階における「死の準備教育－実践事例の紹介－」
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する
講義の中で扱うテーマに関する資料を事前に配布し、それに基づいて講義を行う。

評価方法

- (1) 出席点：25% (2) 平常点：25% (3) レポート点：50%

社会教育課題研究 A

ADED-L-200

担当者：安斎 聡子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

社会教育を推進する教育行政の専門職員の育成、
多様な分野・領域における社会教育や生涯学習に関する専門的な
知識の習得

カリキュラム上の位置付け

社会教育主事資格：選択必修科目

講義概要

1. 内容

この授業では、生涯学習支援のための社会教育施設を概観した
上で、各施設における活動や運営における課題について把握す
る。

2. 学びの意義と目標

社会教育主事任用資格取得を目指す受講生においては、社会教
育主事の職務上必要となる事項を身につけることを目標とする。
すべての受講生においては、社会教育をめぐる現状を把握し、
それらの諸問題について自ら考えられるようになることを目標と
する。

受講生に対する要望

授業の一部にグループ討議などを取り入れるので、積極的な参加
を希望する。

キーワード

(1)生涯学習 (2)社会教育

事前学習（予習）

受講前の予備知識は特に問わないが、各回授業の範囲の教科書
該当ページに目を通し、概要と不明点を確認しておくこと。

復習についての指示

各回の授業内容と、教育・学習活動に関する自分の経験を結び
つけて理解を深めること。

授業計画

1. ガイダンス
2. 社会教育における施設の体系
3. 社会教育における施設の作られ方
4. 社会教育における施設（1）
5. 社会教育における施設（2）
6. 社会教育における施設（3）
7. 社会教育における施設（4）
8. 社会教育における施設（5）
9. 社会教育における施設（6）
10. 社会教育における施設（7）
11. 社会教育における施設（8）
12. 社会教育施設をめぐる環境（1）
13. 社会教育施設をめぐる環境（2）
14. 社会教育施設をめぐる環境（3）
15. まとめ

教科書

鈴木 真理、守井 典子 『生涯学習の計画・施設論（シリーズ・生
涯学習社会における社会教育）』（学文社）

評価方法

- (1) 授業内応答：40% (2) 期末試験：60%

担当者：安斎 聡子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

社会教育を推進する教育行政の専門職員の育成、
多様な分野・領域における社会教育や生涯学習に関する専門的な
知識の習得

カリキュラム上の位置付け

社会教育主事資格：選択必修科目

講義概要

1. 内容

春学期の「社会教育課題研究A」をふまえ、社会教育施設にお
ける学習機会とそれぞれの特徴、課題を整理する。 また、それ
らの具体的な活動について、受講者自身で資料収集、現地見学等
を行い報告をしてもらう。

2. 学びの意義と目標

社会教育主事任用資格取得を目指す受講生においては、社会教
育主事の職務上必要となる事項を身につけることを目標とする。
すべての受講生においては、社会教育をめぐる現状を把握し、
それらの諸問題について自ら考えられるようになることを目標と
する。

受講生に対する要望

受講者自身がそれぞれの視点で社会教育施設における学習機会を確認す
るとともに、自らの学習・教育活動の経験とあわせて、各施設で展開され
ている活動の意義を考えられるようになることを希望する。

キーワード

(1)生涯学習 (2)社会教育

事前学習（予習）

受講前の予備知識は特に問わない。授業内報告にあたり、事前
に資料収集や現地見学を行い発表内容をまとめること（具体的な
方法については授業内で説明する）。

復習についての指示

各回の授業内容と、教育・学習活動に関する自分の経験を結び
つけて理解を深めること。

授業計画

1. 前期のまとめと後期のガイダンス
2. 社会教育施設における学習機会（1）
3. 社会教育施設における学習機会（2）
4. 社会教育施設における学習機会（3）
5. 社会教育施設における学習機会（4）
6. 社会教育施設における学習機会（5）
7. 授業内報告（1）
8. 授業内報告（2）
9. 授業内報告（3）
10. 授業内報告（4）
11. 授業内報告（5）
12. 授業内報告（6）
13. 授業内報告（7）
14. 授業内報告（8）
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)授業内応答:10% (2)授業内報告:40%:原則1人1回の報告とす
る。(3)期末試験:50%:15回目の授業内で実施する。
出席を前提とする。

社会教育計画 A

ADED-L-200

担当者：安斎 聡子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

社会教育を推進する教育行政の専門職員の育成、
多様な分野・領域における社会教育や生涯学習に関する専門的な
知識の習得

カリキュラム上の位置付け

社会教育主事資格：必修科目

講義概要

1. 内容

この授業では、秋学期の「社会教育計画B」とあわせて、社会教育計画に関する基本的な事項を解説する。社会教育の基本的な理解、社会教育行政の仕組みや施策の現状に関する理解など、社会教育計画に関するさまざまな事項を見ていくこととする。

2. 学びの意義と目標

社会教育主事任用資格取得を目指す受講生においては、社会教育計画の策定にあたり、必要となる事項を身につけることを目標とする。すべての受講生においては、社会教育計画に関する基本事項を理解するとともに、社会教育をめぐる諸問題について自ら考えられるようになることを目標とする。

受講生に対する要望

授業の一部にグループ討議などを取り入れるので、積極的な参加を希望する。

キーワード

(1)生涯学習 (2)社会教育

事前学習（予習）

受講前の予備知識は特に問わないが、各回授業の範囲の教科書該当ページに目を通し、概要と不明点を確認しておくこと。

復習についての指示

各回の授業内容と、教育・学習活動に関する自分の経験を結びつけて理解を深めること。

授業計画

1. ガイダンス
2. 社会教育の概念
3. 社会教育計画の概念（1）
4. 社会教育計画の概念（1）
5. 社会教育における地域
6. 社会教育における施設
7. 社会教育における集団（1）
8. 社会教育における集団（2）
9. 社会教育におけるボランティア（1）
10. 社会教育におけるボランティア（2）
11. 社会教育における参加（1）
12. 社会教育における参加（2）
13. 社会教育における学習プログラム（1）
14. 社会教育における学習プログラム（2）
15. まとめ

教科書

鈴木 真理、熊谷 慎之輔、山本 珠美 『社会教育計画の基礎』（学文社）
各回の授業内容と、教育・学習活動に関する自分の経験を結びつけて理解を深めること。

評価方法

(1)授業内応答：40% (2)期末試験：60%：15回目の授業内で実施する。

社会教育計画B

ADED-L-200

担当者：安斎 聡子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

社会教育を推進する教育行政の専門職員の育成、
多様な分野・領域における社会教育や生涯学習に関する専門的な
知識の習得

カリキュラム上の位置付け

社会教育主事資格：必修科目

講義概要

1. 内容

この授業では、春学期の「社会教育計画A」とあわせて、社会教育計画に関する基本的な事項を解説する。社会教育の基本的な理解、社会教育行政の仕組みや施策の現状に関する理解など、社会教育計画に関するさまざまな事項を見ていくこととする。

2. 学びの意義と目標

社会教育主事任用資格取得を目指す受講生においては、社会教育計画の策定にあたり、必要となる事項を身につけることを目標とする。すべての受講生においては、社会教育計画に関する基本事項を理解するとともに、社会教育をめぐる諸問題について自ら考えられるようになることを目標とする。

受講生に対する要望

授業の一部にグループ討議などを取り入れるので、積極的な参加を希望する。

キーワード

(1)生涯学習 (2)社会教育

事前学習（予習）

受講前の予備知識は特に問わないが、各回授業の範囲の教科書該当ページに目を通し、概要と不明点を確認しておくこと。

復習についての指示

各回の授業内容と、学習・教育活動に関する自分の経験を結びつけて理解を深めること。

授業計画

1. 社会教育における学習者（1）
2. 社会教育における学習者（2）
3. 社会教育における学習支援（1）
4. 社会教育における学習支援（2）
5. 社会教育における学習情報
6. 社会教育における大学
7. 社会教育における連携（1）
8. 社会教育における連携（2）
9. 社会教育における評価（1）
10. 社会教育における評価（2）
11. 社会教育行政の変遷
12. 社会教育計画をめぐる課題（1）
13. 社会教育計画をめぐる課題（2）
14. 社会教育計画をめぐる課題（3）
15. まとめ

教科書

鈴木 真理、熊谷 慎之輔、山本 珠美 『社会教育計画の基礎』（学文社）

評価方法

(1)授業内応答:40% (2)期末試験:60%:15回目の授業内で実施する。

社会教育実習

CREE-0-101

担当者：小池 茂子

開設期：通年 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

社会教育を推進する教育行政の専門職員の育成、
多様な分野・領域における社会教育や生涯学習に関する専門的な
知識の習得

カリキュラム上の位置付け

社会教育主事資格：必修科目

講義概要

1. 内容

社会教育行政機関や社会教育施設など生涯学習と関連のある機関・施設において、それら機関・施設の専門職員の直接的な指導もとで、機関・施設の管理、運営、事業の実施などについて参加体験を行い、それらの経験を通して社会教育主事に求められる資質と能力の基礎を培うことを目的とする。本実習の単位は、社会教育関係施設・機関において、原則として1～2週間の実習を行い、かつ、大学での授業（講義、施設見学）を受講し、所定の要件を満たした者に与えられる。授業の内容は1. ガイダンス（1回）2. 事前指導（4回－社会教育施設運営・職員論を中心とした講義）3. 現場実習（1～2週間）4. 事後指導（1回）5. 報告会から構成する。

2. 学びの意義と目標

1. 社会教育行政機関や社会教育施設など生涯学習と関連のある機関・施設において、それら機関・施設の専門職員の直接的な指導もとで、機関・施設の管理、運営、事業の実施などについて参加体験を行い、生涯学習推進の具体的施策について学ぶ。2. 実習を通して社会教育主事に求められる専門能力の基礎を培うことを目標とする。

受講生に対する要望

実習では生涯学習・社会教育の現場で行政職員の直接的な指導を受けて実習に取り組ませていただくことになるので、学生気分を捨て社会人としての責任、言葉づかい、態度などを自らに課して、実習に取り組むこと。

キーワード

(1)生涯学習推進 (2)社会教育施設 (3)まちづくりと生涯学習 (4)社会教育主事の専門性 (5)教育委員会

事前学習（予習）

つぎの授業で取り扱うテーマに関する宿題を課すので、それをして授業に臨むこと。

復習についての指示

生涯学習推進について、実際どのような施策が展開されているか、自らの日常生活の中で注意を払いつつ生活し、現場での実習に向けた準備を行うようにする。

授業計画

1. ガイダンス
2. 事前指導
3. 事前指導
4. 事前指導
5. 事前指導
6. 現場実習1～2週間
7. 事後指導（各1回ずつ）
8. 実習報告会
9. 実習報告書の作成
10. 実習報告書の作成
11. 実習報告書の作成
12. 実習報告書の作成
13. 実習報告書の発表と検討（1）
14. 実習報告書の発表と検討（2）
15. まとめ

教科書

鈴木眞理 『生涯学習概論』（樹村房）

評価方法

- (1)出席点：40% (2)平常点：20% (3)実習の評価：40%

生涯学習概論 A

ADED-L-200

担当者：小池 茂子

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

社会教育を推進する教育行政の専門職員の育成、
多様な分野・領域における社会教育や生涯学習に関する専門的な
知識の習得

カリキュラム上の位置付け

社会教育主事資格：必修科目

講義概要

1. 内容

2006年に改正された教育基本法には生涯学習に関する条項が新設された。生涯学習という言葉がようやく市民権を得られてきたようにも思える一方で、それがどのような理念で、どのような背景から提唱されてきたかについては十分に認知されているとはいえない。そこで、本講義では生涯教育の理念について、どのような背景から理念が提唱され、教育政策に反映されるに至ったか、その社会背景を詳細に取り上げる。また、今日の教育改革の方向性、さらには生涯学習社会とは、どのような社会の実現を目指そうとしているのか、講義を通じて論じることとする。

2. 学びの意義と目標

生涯学習の理念、理念提唱の社会的背景、今日の教育改革と生涯学習推進施策展開における生涯学習施設運営の課題など、広くテーマを設定し、社会教育や生涯学習行政の現場で働く社会教育主事や生涯学習施設の一つである公共図書館に勤務する図書館司書といった、有資格者の専門性につながる事項の理解を目指す。

受講生に対する要望

前回の講義内容を、きっちり復習しながら次週の講義に臨むように準備を行うこと。資格関連科目であるが、積極的な学びを期待する。

キーワード

(1) 社会教育の理念 (2) 生涯教育・生涯学習 (3) 生涯発達論 (4) 発達課題 (5) 学歴社会の是正

事前学習（予習）

毎回、授業時に指定する配布資料を事前に読み込んで授業に臨むこと。

復習についての指示

授業時に配布したプリント等を、その時限のノートと照合させ、各時限の学びの定着化を図ること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 教育の領域(家庭教育、社会教育、学校教育)
3. 社会教育の定義(教育基本法、社会教育法)
4. 生涯教育の理念(1)
5. 生涯教育の理念(2)
6. 生涯教育の理念と社会背景(1)(社会の高齢化、平均余命の伸長)
7. 生涯教育の理念と社会背景(2)(生涯にわたる発達課題の解決に向けて)
8. 生涯教育の理念と社会背景(3)(教育改革と生涯学習体系への移行)
9. 生涯教育の理念と社会背景(4)(急激な社会変化への適応)
10. 生涯教育の理念と社会背景(5)(学校教育をめぐる問題、学歴主義は必要悪か？戦後の青少年の非行など)
11. 生涯教育の理念への批判
12. 今日の教育政策にみる生涯学習振興策
13. 生涯学習時代における社会教育施設の機能と課題(1)
14. 生涯学習時代における社会教育施設の機能と課題(2)
15. まとめ

教科書

鈴木眞理 『生涯学習概論』(樹村房)

評価方法

(1) 出席点:30% (2) 試験:70%

担当者：小池 茂子

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

社会教育を推進する教育行政の専門職員の育成、
多様な分野・領域における社会教育や生涯学習に関する専門的な
知識の習得

カリキュラム上の位置付け

社会教育主事資格：必修科目

講義概要

1. 内容

1. 内容本講義では第1に、我が国戦後の社会教育の理念について学ぶ。第2に、生涯学習の理念が教育政策に反映されていく過程を1960年代半ば以降の教育答申等の内容を通して捉える。第3に、社会教育施設として設置された、公民館、公共図書館、博物館活動について成り立ちと機能について取り上げ、生涯学習時代、多様化・高度化する人々の学習ニーズや、まちづくりとの関連において21世紀に求められる諸機能と課題について展望する。2. カリキュラム上の位置付け社会教育主事資格取得の選択必修科目として位置づけられている。(勿論、資格取得を目指さない学生の受講も歓迎する。)

2. 学びの意義と目標

社会教育から生涯学習の時代へと、今日いわれるところの生涯学習振興政策がどのような経緯から生まれて来たのか、また生涯学習社会の実現に向けて、今日の社会教育施設に求められる教育的機能について理解する。

受講生に対する要望

今日の社会の中にある、生涯学習の現場に関心を注ぎながら講義に臨んでほしい。

キーワード

(1) 社会教育 (2) 生涯学習 (3) 公民館 (4) 公共図書館 (5) 博物館

事前学習（予習）

配布資料を事前に読みこんで、毎回の授業に臨むこと。

授業計画

1. 教育の民主化と社会教育
2. 教育基本法・社会教育法と社会教育
3. 社会教育から生涯学習の理念へ (1) 何が新たな展開として出現したか
4. 社会教育から生涯学習の理念へ (2) 生涯学習と社会教育の違いとは？
5. 生涯学習振興と公民館 (1) 公民館の成り立ちから今日へ
6. 生涯学習振興と公民館 (2) 公民館とコミュニティセンターをめぐる議論
7. まちづくりと公民館活動 (特色ある公民館活動の紹介)
8. 生涯学習振興と公共図書館
9. まちづくりと公共図書館 (指定管理者制度の導入をめぐる議論)
10. まちづくりと図書館 (特色ある図書館活動の紹介)
11. 生涯学習振興と博物館 (1) 博物館の成り立ち
12. 生涯学習振興と博物館 (2) 博物館・学校・地域との連携事業
13. まちづくりと博物館 (特色ある博物館活動の紹介)
14. 指定管理者の導入と社会教育施設をめぐる議論
15. まとめ

教科書

鈴木真理 『生涯学習概論』 (樹村房)

復習についての指示

授業時に配布した資料を、講義終了後ノートと照合し、学びの内容を定着させること。

評価方法

(1) 出席点:30% (2) 平常点:20% (3) 試験:50%

ジェンダー論(女性学)

ADED-L-200

担当者：加藤 敦也

開設期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

社会教育を推進する教育行政の専門職員の育成、
多様な分野・領域における社会教育や生涯学習に関する専門的な
知識の習得

カリキュラム上の位置付け

社会教育主事資格：選択必修科目

講義概要

1. 内容

女／男という性別の区分は、生物学や医学、脳科学などの説明に
還元しきれるものではなく、性差を定める社会的背景に応じて意
味が変わると考えるのがジェンダー論である。いいかえれば、ジ
ェンダー論は性差に関する認知の枠組みによって編成されている
社会を念頭に置き、性差を決め、それを有効にしている権力のあ
り方を固定的・絶対的なものと見ないとする視点を持つ学問領域
である。本講義では、主に現代社会における女性の問題に焦点を
当て、それをジェンダー研究の知見から説明していく。

2. 学びの意義と目標

ジェンダー論の視座を理解することにより、女性に対する性差別
の問題と現代社会におけるジェンダーに基づく不平等問題、また
は女性が志向するライフコースの在り方を理解してもらうことを
目標とする。

受講生に対する要望

授業内容を理解するためには、配布資料に目を通すだけでなく、概念に
関する説明を聴き、またノートに説明された内容を整理しておくことが望
まれる。したがって、授業に参加するにあたって、意欲的な態度で臨んで
ほしい。

キーワード

(1) ジェンダー (2) フェミニズム (3) 性差別 (4) 性暴力 (5) ジェン
ダー・フリー

事前学習（予習）

開講時に指示する。シラバスのキーワードに従い、関連する書籍
や資料に当たることが望ましい。

復習についての指示

各授業時に紹介する女性とジェンダーの問題について、配布資料
に沿い、関連する書籍などで調べることが望ましい。

授業計画

1. イントロダクション：ジェンダーとは何か
2. 女性学の歴史①第1次フェミニズムから第2次フェミニズムま
で
3. 女性学の歴史②第2次フェミニズムから現代の論点まで
4. 教育とジェンダー：女性と教育
5. 性別役割分業の問題点①家事・育児など再生産労働の問題
6. 性別役割分業の問題点②女性と就労
7. ポルノグラフィと性差別
8. セクシュアルハラスメント
9. DVとデートDV（暴力被害について）
10. 恋愛と女性（若年女性の恋愛意識）
11. セクシュアルマイノリティ
12. 美しさとジェンダー：美の二重基準
13. ファッションと女性（女性向けファッション雑誌の変遷
史）
14. ジェンダー・フリーとは何か
15. まとめ

教科書

プリントを配布する
レジュメ、補助資料を配布いたします。

評価方法

- (1) 出席：30% (2) 定期試験：70%

毎回の授業終了時に授業に関するコメントペーパーを提出してもらう。優
れたコメントペーパーを書いたものには加点して評価する。

担当者：渡辺 英人

開設期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：2 単位数：4単位

学部教育の関連目標

社会教育を推進する教育行政の専門職員の育成、
多様な分野・領域における社会教育や生涯学習に関する専門的な
知識の習得

カリキュラム上の位置付け

社会教育主事資格：選択必修科目

講義概要

1. 内容

「情報と職業」高等学校普通教科「情報」教員免許取得を目的とする学生の必修科目である。現代社会におけるさまざまな「活動」にとり「情報」はもっとも重要な要素であると考えられている。この授業では公的機関と情報、民間企業、個人事業における情報など、さまざまな職業と情報について解説し、理解してもらう。授業は毎回マルチメディア教室で行う。受講者全員が一斉に授業を開始し、一斉に終了する。けっして遅刻、欠席しないこと。

2. 学びの意義と目標

社会と情報との関係を具体的な例を使いながら、詳しく説明する。社会の中で生きるために必要不可欠な知識となるように学ぶ。

受講生に対する要望

各種資格試験、就職試験でも必ず役に立つ内容である。積極的に学ぶこと。

キーワード

(1)社会における情報 (2)情報化社会に生きる (3)法、政治、経済、生活と情報

事前学習（予習）

社会教育主事資格、および情報教職免許取得を目的とする学生の必修科目である。評価は教職目的の学生と同じく厳しいものとなる。前週までにテーマと資料を提供するので、復習および予習をすること。

復習についての指示

授業で使用了資料と、授業中に記述したノートに基づいて、清書ノートを作ること。

授業計画

1. 現代社会と情報(1)
2. 現代社会と情報(2)
3. 情報と職業(国内)(1)
4. 情報と職業(国内)(2)
5. 行政と情報(1)
6. 行政と情報(2)
7. 企業活動と情報(1)
8. 企業活動と情報(2)
9. 情報の収集、蓄積、再利用(1)
10. 情報の収集、蓄積、再利用(2)
11. インターネット・ビジネス(1)
12. インターネット・ビジネス(2)
13. 情報化社会と労働環境、労働感(1)
14. 情報化社会と労働環境、労働感(2)
15. 課題作成(1)
16. 課題作成(2)
17. 情報と職業(海外)(1)
18. 情報と職業(海外)(2)
19. 情報化社会の諸問題2(1)
20. 情報化社会の諸問題2(2)
21. 情報化社会の諸問題(1)
22. 情報化社会の諸問題(2)
23. 情報化社会の将来予測(1)
24. 情報化社会の将来予測(2)
25. 課題作成(1)
26. 課題作成(2)
27. 情報化社会とマスメディア(1)
28. 情報化社会とマスメディア(2)
29. 課題作成(1)
30. 課題作成(2)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業参加:40% (2)課題作成:30% (3)試験:30%

図書館概論

ADED-L-200

担当者：若松 昭子

開設期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を受け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

社会教育主事資格：選択必修科目

講義概要

1. 内容

図書館の発生から現代への発展の経過を辿ると共に、図書館の理念、制度、現状、課題、図書館を取り巻く様々な社会状況について学ぶ。また、資料・情報の提供機関である図書館の機能や類型について解説し、これからの図書館のあり方について日本における関連施策の動向などを概観しながら考える。

2. 学びの意義と目標

情報の蓄積・保存・提供の社会的機関である図書館の歴史と現状、図書館の法体系、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係を学び、図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図ると共に、今後の課題と展望について考究する。

受講生に対する要望

積極的な授業参加を望む。

キーワード

(1) 図書館 (2) 情報社会

事前学習（予習）

教科書、課題プリントや配布した新聞記事等によく目を通し質問などを用意しておくこと。

復習についての指示

授業時に課す小課題をきちんとこなすこと。

授業計画

1. 図書館の定義
2. 図書館の種類
3. 図書館の理念
4. 情報社会と図書館
5. 図書館の自由に関する宣言
6. 図書館員の倫理綱領
7. 図書館に関する法規
8. 公立図書館の制度と機能 1
9. 公立図書館の制度と機能 2
10. 学校図書館の制度と機能
11. 大学図書館の制度と機能
12. 専門図書館の制度と機能
13. 国立図書館の制度と機能
14. 図書館間の相互協力
15. まとめ

教科書

塩見 昇 『図書館概論（JLA図書館情報学テキストシリーズ 2-1）』（日本図書館協会）

評価方法

(1) 試験またはレポート：40% (2) 各授業時の課題：35% (3) 出席状況：25%：単なる出席点ではなく平常の授業態度
毎回の出席は前提であり、遅刻や欠席は大幅な原点となる。

担当者：河島 茂生

開設期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を受け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

社会教育主事資格：選択必修科目

講義概要

1. 内容

図書館は、情報資源を収集・管理する組織であって現代社会における情報基盤として重要な役割を果たしている。本授業では、よりよい図書館運営のために、その経営のあり方について議論していく。

2. 学びの意義と目標

本科目の履修を通じて、管理者（館長など）でなくとも、図書館で働くにあたって最低限身につけなければならない経営の知識が習得できると考えられる。

受講生に対する要望

特になし

キーワード

事前学習（予習）

毎回与えられた課題をこなし、授業に臨みたい。

復習についての指示

授業で触れた内容をテキスト等で読み返し、思考を整理することを求める。

授業計画

1. 図書館経営の意義
2. 図書館業務の概要
3. 図書館の目的策定
4. 図書館の計画策定（予算関係を含む）
5. 図書館評価の概要
6. 図書館評価の指標（調査法を含む）
7. 図書館評価のレッスン
8. 図書館のマーケティング
9. 図書館の組織・職員
10. New Public Management
11. 多様化する図書館運営
12. Private Finance Initiative
13. 図書館法
14. 図書館関連の法規（図書館政策を含む）
15. まとめ

教科書

安藤 友張 『図書館制度・経営論：ライブラリー・マネジメントの現在（講座・図書館情報学）』（ミネルヴァ書房）

評価方法

(1) 試験：100%

ただし、単位修得にあたっては出席数が授業回数の3分の2以上であることを条件とする。

担当者：若松 昭子

開設期：春学期 必修・選択：資格課程 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を受け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

社会教育主事資格：選択必修科目

講義概要

1. 内容

図書館の発生から現代への発展の経過を辿ると共に、図書館の理念、制度、現状、課題、図書館を取り巻く様々な社会状況について学ぶ。また、資料・情報の提供機関である図書館の機能や類型について解説し、これからの図書館のあり方について日本における関連施策の動向などを概観しながら考える。

2. 学びの意義と目標

情報の蓄積・保存・提供の社会的機関である図書館の歴史と現状、図書館の法体系、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係を学び、図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図ると共に、今後の課題と展望について考究する。

受講生に対する要望

積極的な授業参加を望む。

キーワード

(1)図書館 (2)情報社会

事前学習（予習）

教科書、課題プリントや配布した新聞記事等によく目を通し質問などを用意しておくこと。

復習についての指示

授業時に課す小課題をきちんとこなすこと。

授業計画

1. 図書館の定義
2. 図書館の種類
3. 図書館の理念
4. 情報社会と図書館
5. 図書館の自由に関する宣言
6. 図書館員の倫理綱領
7. 図書館に関する法規
8. 公立図書館の制度と機能 1
9. 公立図書館の制度と機能 2
10. 学校図書館の制度と機能
11. 大学図書館の制度と機能
12. 専門図書館の制度と機能
13. 国立図書館の制度と機能
14. 図書館間の相互協力
15. まとめ

教科書

塩見 昇 『図書館概論（JLA図書館情報学テキストシリーズ 2-1）』（日本図書館協会）

評価方法

(1)試験またはレポート:40% (2)各授業時の課題:35% (3)授業態度や授業への参加度:25%

毎回の出席は前提であり、遅刻や欠席は大幅な原点となる。

担当者：河島 茂生

開設期：秋学期 必修・選択：資格課程 授業回数：1 単位数：2単位

学部教育の関連目標

司書職員としての知識を受け、応用的能力を養うこと、
社会（職場）において情報を管理する能力を養うこと、
家庭において読書指導ができる能力を養うこと

カリキュラム上の位置付け

社会教育主事資格：選択必修科目

講義概要

1. 内容

図書館は、情報資源を収集・管理する組織であって現代社会における情報基盤として重要な役割を果たしている。本授業では、よりよい図書館運営のために、その経営のあり方について議論していく。

2. 学びの意義と目標

本科目の履修を通じて、管理者（館長など）でなくとも、図書館で働くにあたって最低限身につけなければならない経営の知識が習得できると考えられる。

受講生に対する要望

特になし

キーワード

事前学習（予習）

毎回与えられた課題をこなし、授業に臨みたい。

復習についての指示

授業で触れた内容をテキスト等で読み返し、思考を整理することを求める。

授業計画

1. 図書館経営の意義
2. 図書館業務の概要
3. 図書館の目的策定
4. 図書館の計画策定（予算関係を含む）
5. 図書館評価の概要
6. 図書館評価の指標（調査法を含む）
7. 図書館評価のレッスン
8. 図書館のマーケティング
9. 図書館の組織・職員
10. New Public Management
11. 多様化する図書館運営
12. Private Finance Initiative
13. 図書館法
14. 図書館関連の法規（図書館政策を含む）
15. まとめ

教科書

安藤 友張 『図書館制度・経営論：ライブラリー・マネジメントの現在（講座・図書館情報学）』（ミネルヴァ書房）

評価方法

(1) 試験：100%

ただし、単位修得にあたっては出席数が授業回数の3分の2以上であることを条件とする。



2014 年度シラバス 聖学院大学

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎 1 番 1 号

TEL 048-780-1801 (教務課)